人間総合学群 2025 年度　開講シラバス

〈教養教育科目〉 1
基礎ｾﾞﾐⅠ 1
基礎ｾﾞﾐⅠ 3
基礎ｾﾞﾐⅠ 5
基礎ｾﾞﾐⅠ 7
基礎ｾﾞﾐⅠ 9
基礎ｾﾞﾐⅠ 11
基礎ｾﾞﾐⅠ 13
基礎ｾﾞﾐⅠ 15
基礎ｾﾞﾐⅠ 17
基礎ｾﾞﾐⅠ 19
基礎ｾﾞﾐⅠ 21
基礎ｾﾞﾐⅠ 23
基礎ｾﾞﾐⅠ 25
基礎ｾﾞﾐⅠ 27
基礎ｾﾞﾐⅡ 29
基礎ｾﾞﾐⅡ 31
基礎ｾﾞﾐⅡ 33
基礎ｾﾞﾐⅡ 35
基礎ｾﾞﾐⅡ 37
基礎ｾﾞﾐⅡ 39
基礎ｾﾞﾐⅡ 41
基礎ｾﾞﾐⅡ 43
基礎ｾﾞﾐⅡ 45
基礎ｾﾞﾐⅡ 47
基礎ｾﾞﾐⅡ 49
基礎ｾﾞﾐⅡ 51
仏教学Ⅰ 53
仏教学Ⅰ 55
仏教学Ⅰ 57
仏教学Ⅱ 59
仏教学Ⅱ 61
仏教学Ⅱ 63
仏教学Ⅲ 65
仏教学Ⅳ 67
日本文化入門Ⅰ 69
人間関係入門Ⅰ 71
英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ入門Ⅰ 73
英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ入門Ⅱ 75
観光文化入門Ⅰ 77

観光文化入門Ⅱ 79
心理学入門（心理学概論）Ⅰ／心理学入門Ⅰ 81
心理学入門（心理学概論）Ⅱ／心理学入門Ⅱ 83
住空間ﾃﾞｻﾞｲﾝ入門Ⅰ 85
住空間ﾃﾞｻﾞｲﾝ入門Ⅱ 87
人間と思想Ⅰ 89
人間と思想Ⅱ 91
人間と文化Ⅰ 93
人間と文化Ⅱ 95
生命の科学 97
倫理学 99
人権の基礎 101
女性の人権 103
心理学Ⅰ 105
心理学Ⅰ 107
心理学Ⅱ 109
生涯学習論Ⅰ 111
生涯学習論Ⅱ 113
社会福祉概論Ⅰ 115
社会福祉概論Ⅱ 117
日本の歴史 119
世界の歴史 121
戦争と平和の歴史Ⅰ 123
戦争と平和の歴史Ⅱ 125
西洋文化史 127
日本美術史 129
比較文化 131
日本の文化 133
☆日本文学／日本の文学 135
日本の政治 137
世界の政治 139
政治と市民参加 141
日本の経済 143
世界の経済 146
新聞と報道 148
法学 150
法と社会 152
日本国憲法Ⅰ 154
日本国憲法Ⅱ 156
社会学Ⅰ 158
社会学Ⅱ 160
数学の世界 162

物理の世界 164
生物と生命 166
地球と宇宙 168
物質と化学 170
情報と科学 172
色彩と科学 175
ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ実習Ⅰ 177
ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ実習Ⅱ 178
海外英語研修Ⅰ 179
海外英語研修Ⅱ 180
国際協力実習 181
進路設計 183
進路設計 185
進路設計 187
進路設計 189
☆ｷｬﾘｱと教養演習 A／社会と教養演習 A 191
☆ｷｬﾘｱと教養演習 C／社会と教養演習 C 193
ﾋﾞｼﾞﾈｽとｷｬﾘｱ／ｷｬﾘｱﾘﾃﾗｼｰ 195
女性と健康Ⅰ 197
女性と健康Ⅱ 199
ｽﾎﾟｰﾂⅠ 201
ｽﾎﾟｰﾂⅠ 203
ｽﾎﾟｰﾂⅡ 205
ｽﾎﾟｰﾂⅡ 207
言語表現演習Ⅰ 209
言語表現演習Ⅰ 211
言語表現演習Ⅰ 213
言語表現演習Ⅰ 215
言語表現演習Ⅰ 217
言語表現演習Ⅱ 219
言語表現演習Ⅱ 221
言語表現演習Ⅱ 223
言語表現演習Ⅱ 225
言語表現演習Ⅱ 227
英語ＡⅠ 229
英語ＡⅠ 231
英語ＡⅠ 233
英語ＡⅠ 235
英語ＡⅠ 237
英語ＡⅠ 239
英語ＡⅠ 241
英語ＡⅠ 243

英語ＡⅠ 245
英語ＡⅠ 247
英語ＡⅡ 249
英語ＡⅡ 251
英語ＡⅡ 253
英語ＡⅡ 255
英語ＡⅡ 257
英語ＡⅡ 259
英語ＡⅡ 261
英語ＡⅡ 263
英語ＡⅡ 265
英語ＡⅡ 267
英語ＡⅢ 269
英語ＡⅢ 271
英語ＡⅢ 273
英語ＡⅢ 275
英語ＡⅢ 277
英語ＡⅢ 279
英語ＡⅢ 281
英語ＡⅢ 283
英語ＡⅢ 285
英語ＡⅢ 287
英語ＡⅣ 289
英語ＡⅣ 291
英語ＡⅣ 293
英語ＡⅣ 295
英語ＡⅣ 297
英語ＡⅣ 299
英語ＡⅣ 301
英語ＡⅣ 303
英語ＡⅣ 305
英語ＡⅣ 307
英語ＢⅠ 309
英語ＢⅠ 311
英語ＢⅠ 313
英語ＢⅠ 315
英語ＢⅠ 317
英語ＢⅠ 319
英語ＢⅠ 321
英語ＢⅠ 323
英語ＢⅠ 325
英語ＢⅠ 327

英語 BⅡ 329
英語 BⅡ 331
英語 BⅡ 333
英語 BⅡ 335
英語 BⅡ 337
英語 BⅡ 339
英語 BⅡ 341
英語 BⅡ 343
英語 BⅡ 345
英語 BⅡ 347
英語 BⅢ 349
英語 BⅢ 351
英語 BⅢ 353
英語 BⅢ 355
英語 BⅢ 357
英語 BⅢ 359
英語 BⅢ 361
英語 BⅢ 363
英語 BⅢ 365
英語 BⅣ 367
英語 BⅣ 369
英語 BⅣ 371
英語 BⅣ 373
英語 BⅣ 375
英語 BⅣ 377
英語 BⅣ 379
英語 BⅣ 381
英語 BⅣ 383
英会話Ⅰ 385
英会話Ⅰ 387
英会話Ⅱ 389
英会話Ⅱ 391
☆英会話Ⅲ 393
☆英会話Ⅳ 395
Receptive English Ⅰ 397
Receptive English Ⅱ 399
Productive English Ⅰ 401
Productive English Ⅱ 403
English Summer Seminar 405
ﾌﾗﾝｽ語Ⅰ 406
ﾌﾗﾝｽ語Ⅰ 408
ﾌﾗﾝｽ語Ⅱ 410

ﾌﾗﾝｽ語Ⅱ 412
ﾌﾗﾝｽ語Ⅲ 414
ﾌﾗﾝｽ語Ⅳ 416
ﾄﾞｲﾂ語Ⅰ 418
ﾄﾞｲﾂ語Ⅱ 420
ﾄﾞｲﾂ語Ⅲ 422
ﾄﾞｲﾂ語Ⅳ 424
ｽﾍﾟｲﾝ語Ⅰ 426
ｽﾍﾟｲﾝ語Ⅱ 428
ｽﾍﾟｲﾝ語Ⅲ 430
ｽﾍﾟｲﾝ語Ⅳ 432
中国語Ⅰ 434
中国語Ⅰ 436
中国語Ⅱ 438
中国語Ⅱ 440
中国語Ⅲ 442
中国語Ⅲ 444
中国語Ⅳ 446
中国語Ⅳ 448
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ演習Ⅰ 450
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ演習Ⅰ 452
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ演習Ⅰ 454
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ演習Ⅰ 456
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ演習Ⅰ 458
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ演習Ⅱ 460
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ演習Ⅱ 462
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ演習Ⅱ 464
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ演習Ⅱ 466
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ演習Ⅱ 468
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ演習Ⅲ 470
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ演習Ⅳ 472
日本語ＡⅠ 474
日本語ＢⅠ 476
日本語ＡⅡ 478
日本語ＢⅡ 481
日本語ＡⅢ 483
日本語ＢⅢ 485
日本語ＡⅣ 487
日本語ＢⅣ 489
日本事情Ⅰ 491
日本事情Ⅱ 493
日本事情Ⅲ 495

日本事情Ⅳ 497
〈人間文化学類　日本文化専攻　専門教育科目〉 499
日本語表現Ⅰ 499
日本語表現Ⅱ 501
日本語表現の実践Ⅰ 503
日本語表現の実践Ⅱ 505
日本の文化と歴史Ⅰ 507
日本の文化と歴史Ⅱ 509
日本の文化と歴史Ⅲ 511
日本の文化と歴史Ⅳ 513
☆古典文学概論 515
近代文学概論 517
日本語学概論Ⅰ 519
日本語学概論Ⅱ 521
古典文学Ⅰ(上代･中古) 523
古典文学Ⅱ(中世･近世) 525
近現代文学Ⅰ(近代) 527
近現代文学Ⅱ(現代) 529
日本語学Ⅰ 531
日本語学Ⅱ 533
日本文学史Ⅰ 535
日本文学史Ⅱ 537
中国文学Ⅰ(漢文学) 539
中国文学Ⅱ(漢文学) 541
日本史Ⅰ(古代) 543
日本史Ⅱ(中世) 545
日本史Ⅲ(近世) 547
日本史Ⅳ(近現代) 549
日本文化史Ⅰ 551
日本文化史Ⅱ 553
☆地域文化概論 555
歴史資料論 557
民俗資料論 559
歴史考古学 561
歴史地理学 563
仏教文学 565
児童文学 567
日本の詩歌 569
国語教育概論Ⅰ 571
国語教育概論Ⅱ 573
書道実習Ⅰ 575
書道実習Ⅱ 577

日本の文化財Ⅰ 579
日本の文化財Ⅱ 581
文化交流史Ⅰ 583
文化交流史Ⅱ 585
日本文化ｾﾞﾐⅠ 587
日本文化ｾﾞﾐⅠ 589
日本文化ｾﾞﾐⅠ 591
日本文化ｾﾞﾐⅡ 593
日本文化ｾﾞﾐⅡ 595
日本文化ｾﾞﾐⅡ 597
日本文化ｾﾞﾐⅢ 599
日本文化ｾﾞﾐⅢ 601
日本文化ｾﾞﾐⅢ 603
日本文化ｾﾞﾐⅢ 605
日本文化ｾﾞﾐⅣ 607
日本文化ｾﾞﾐⅣ 609
日本文化ｾﾞﾐⅣ 611
日本文化ｾﾞﾐⅣ 613
卒業論文 615
卒業論文 616
卒業論文 617
卒業論文 618
〈人間文化学類　人間関係専攻　専門教育科目〉 619
人間関係の基礎 619
人間関係の基礎 621
人間関係の基礎 623
化粧の文化史 625
ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝの心理学 627
ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝの社会学 629
現代社会の論点 631
国際社会への誘い 633
企画と表現 635
身体文化論Ⅰ 637
身体文化論Ⅱ 639
化粧文化論 641
服装と文化Ⅰ／服装の美意識Ⅰ 643
☆服装と文化Ⅱ／服装の美意識Ⅱ 645
和装の文化Ⅰ 647
和装の文化Ⅱ 649
☆流行論 651
ﾋﾞｭｰﾃｨｰﾋﾞｼﾞﾈｽ 653
☆恋愛の心理学 655

家族関係の心理学 657
自己分析の心理学 659
ﾋﾞｼﾞﾈｽと心理学 661
ｾﾙﾌﾌﾟﾛﾃﾞｭｰｽ 663
ﾁｰﾑﾋﾞﾙﾃﾞｨﾝｸﾞ 665
自己表現法Ⅰ 667
自己表現法Ⅱ 669
ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ実習Ⅰ 671
ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ実習Ⅱ 673
報道とﾒﾃﾞｨｱ 675
☆ﾒﾃﾞｨｱと社会／情報技術と人間関係 677
広告の研究／映像広告の研究 679
☆表現活動とﾒﾃﾞｨｱ／表現活動とﾋﾞｼﾞﾈｽ 681
☆文化人類学 683
社会学研究Ⅰ／文化社会学Ⅰ 685
社会学研究Ⅱ／文化社会学Ⅱ 687
家族と現代社会 689
環境問題と市民 691
国際社会論／現代国際社会 693
ｸﾞﾛｰﾊﾞﾘｽﾞﾑ論 695
社会学特論 697
職業の世界 699
組織ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ 701
経済とﾋﾞｼﾞﾈｽⅠ 703
経済とﾋﾞｼﾞﾈｽⅡ 705
哲学と思想 707
ｱﾝｹｰﾄ調査法 709
ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸの技法 711
人間関係学実習Ⅰ 713
人間関係学実習Ⅱ 715
☆現代社会総合講座Ⅰ 717
☆現代社会総合講座Ⅱ 719
人間関係ｾﾞﾐⅠ 721
人間関係ｾﾞﾐⅠ 723
人間関係ｾﾞﾐⅠ 725
人間関係ｾﾞﾐⅠ 727
人間関係ｾﾞﾐⅠ 729
人間関係ｾﾞﾐⅠ 731
人間関係ｾﾞﾐⅡ 733
人間関係ｾﾞﾐⅡ 735
人間関係ｾﾞﾐⅡ 737
人間関係ｾﾞﾐⅡ 739

人間関係ｾﾞﾐⅡ 741
人間関係ｾﾞﾐⅡ 743
人間関係ｾﾞﾐⅢ 745
人間関係ｾﾞﾐⅢ 747
人間関係ｾﾞﾐⅢ 749
人間関係ｾﾞﾐⅢ 751
人間関係ｾﾞﾐⅢ 753
人間関係ｾﾞﾐⅢ 755
人間関係ｾﾞﾐⅣ 757
人間関係ｾﾞﾐⅣ 759
人間関係ｾﾞﾐⅣ 761
人間関係ｾﾞﾐⅣ 763
人間関係ｾﾞﾐⅣ 765
人間関係ｾﾞﾐⅣ 767
卒業論文 769
卒業論文 771
卒業論文 773
卒業論文 775
卒業論文 777
卒業論文 779
〈人間文化学類　英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ専攻　専門教育科目〉 781
English Workshop Ⅰ 781
English Workshop Ⅱ 783
English Workshop Ⅲ 785
English Workshop Ⅳ 787
Academic Reading Ⅰ 789
Academic Reading Ⅱ 791
Academic Reading Ⅲ 793
Academic Reading Ⅳ 795
Academic Speaking Ⅰ 797
Academic Speaking Ⅱ 799
Academic Speaking Ⅲ 801
Academic Speaking Ⅳ 803
ﾗｲﾃｨﾝｸﾞ・使える英作文Ⅰ 805
ﾗｲﾃｨﾝｸﾞ・使える英作文Ⅱ 807
☆Academic WritingⅡ／ﾗｲﾃｨﾝｸﾞ・使える英作文Ⅲ 809
☆Academic WritingⅠ／ｸﾞﾗﾏｰ・使える英文法Ⅲ 811
☆日本と英文学／英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ専攻研究 A／Core Studies (Basic) Ⅰ 813
☆英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ専攻研究 B／Core Studies (Basic) Ⅱ 815
英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ専攻研究 D 817
英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ専攻研究 E 819
英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ専攻研究 F 821

英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ専攻研究 G 823
Core Studies Ⅰ 825
Core Studies Ⅱ 827
Core Studies Ⅲ 829
Core Studies Ⅳ 831
ｲｷﾞﾘｽ文学Ⅰ 833
ｲｷﾞﾘｽ文学Ⅱ 835
ｱﾒﾘｶ文学Ⅰ 837
ｱﾒﾘｶ文学Ⅱ 839
英語学概論Ⅰ 841
英語学概論Ⅱ 843
英語教育学概論Ⅰ 845
英語教育学概論Ⅱ 847
ｱﾒﾘｶの文化と歴史Ⅰ 849
ｱﾒﾘｶの文化と歴史Ⅱ 851
異文化理解Ⅰ 853
異文化理解Ⅱ 855
☆時事英語Ⅰ 857
☆時事英語Ⅱ 859
英語音声学Ⅰ 861
英語音声学Ⅱ 863
☆映画の英語Ⅰ 865
☆映画の英語Ⅱ 867
ことばの世界Ⅰ 869
ことばの世界Ⅱ 871
英語圏文化Ⅰ 873
英語圏文化Ⅱ 875
☆国際社会と法／国際法Ⅰ 877
国際法Ⅱ 879
ｷｬﾘｱ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭⅠ 881
ｷｬﾘｱ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭⅡ 883
ｷｬﾘｱ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭⅢ 885
ｷｬﾘｱ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭⅣ 887
☆英語で日本文化／通訳・ｶﾞｲﾄﾞⅠ 889
通訳・ｶﾞｲﾄﾞⅡ 891
日本紹介の英語 893
☆英語でﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ／ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ英語 895
Japan StudiesⅠ 897
Japan StudiesⅡ 899
英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｾﾞﾐⅠ 901
英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｾﾞﾐⅠ 903
英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｾﾞﾐⅠ 905

英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｾﾞﾐⅠ 907
英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｾﾞﾐⅠ 909
英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｾﾞﾐⅠ 911
英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｾﾞﾐⅡ 913
英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｾﾞﾐⅡ 915
英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｾﾞﾐⅡ 917
英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｾﾞﾐⅡ 919
英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｾﾞﾐⅡ 921
英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｾﾞﾐⅡ 923
英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｾﾞﾐⅢ 925
英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｾﾞﾐⅢ 927
英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｾﾞﾐⅢ 929
英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｾﾞﾐⅢ 931
英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｾﾞﾐⅢ 933
英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｾﾞﾐⅢ 935
英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｾﾞﾐⅣ 937
英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｾﾞﾐⅣ 939
英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｾﾞﾐⅣ 941
英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｾﾞﾐⅣ 943
英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｾﾞﾐⅣ 945
英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｾﾞﾐⅣ 947
卒業論文 949
卒業論文 951
卒業論文 953
卒業論文 955
卒業論文 957
卒業論文 959
〈人間文化学類　学類共通科目〉 961
☆京都文化体験実習／日本文化実習 961
☆江戸文化体験実習／仏教文化実習 963
日本文化研修 965
☆身体文化実習Ⅰ 967
☆身体文化実習Ⅱ／日本文化体験実習／身体文化実習Ⅱ 969
ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ実習／ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ実習Ⅰ 971
ｸﾞﾗﾏｰ・使える英文法Ⅰ 973
ｸﾞﾗﾏｰ・使える英文法Ⅱ 975
〈観光文化学類　専門教育科目〉 977
観光学 977
観光政策論 979
観光ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ論 981
☆観光の PR とﾒﾃﾞｨｱ／観光ﾒﾃﾞｨｱ 983
ﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨ概論 985

ﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ 987
観光社会学 989
観光人類学 991
宿泊業・飲食業実務論 993
航空・空港業実務論 995
広告・ﾒﾃﾞｨｱ業実務論 997
ｴﾝﾀｰﾃｲﾝﾒﾝﾄ業実務論 999
ﾗｲﾌｲﾍﾞﾝﾄﾃﾞｻﾞｲﾝ実務論 1001
☆短期ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ実習 A／ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ実習 A 1003
☆短期ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ実習 B／ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ実習 B 1005
☆中期ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ実習／ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ実習 C 1007
海外ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ実習 1009
長期ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ実習 1011
国内旅行研修 1013
海外旅行研修 1015
世界遺産研究 1017
地域観光資源研究 1020
国内観光資源研究 A(東京・首都圏) 1022
国内観光資源研究 B(東日本) 1024
国内観光資源研究 C(西日本) 1026
海外観光資源研究 A(ﾖｰﾛｯﾊﾟ 1) 1028
海外観光資源研究 B(ﾖｰﾛｯﾊﾟ 2) 1030
海外観光資源研究 C(ｱｼﾞｱ 1) 1032
海外観光資源研究 D(ｱｼﾞｱ 2) 1034
海外観光資源研究 E (ｱｼﾞｱ 3) 1036
☆ﾐｭｰｼﾞｱﾑ研究／日本のﾐｭｰｼﾞｱﾑ 1038
☆西洋美術の旅／西洋美術の旅Ⅰ 1040
異文化交流Ⅰ 1042
異文化交流Ⅱ 1044
☆文化交流論／文化交流論 B(日本とｱﾒﾘｶ) 1046
世界の文化と国際接遇 1048
ｲｽﾗｰﾑ文化論 1050
ｷﾘｽﾄ教文化論 1052
旅行法規Ⅰ 1054
旅行法規Ⅱ 1056
国内旅行実務論Ⅰ 1058
国内旅行実務論Ⅱ 1060
海外旅行実務論Ⅰ 1062
海外旅行実務論Ⅱ 1064
旅行業務取扱管理者試験特講 1066
☆観光の英語／観光の英語Ⅰ 1068
☆観光の英語／観光の英語Ⅰ 1070

☆観光ｶﾞｲﾄﾞﾌﾞｯｸ講読／観光の英語Ⅱ 1072
観光のﾌﾗﾝｽ語 1074
観光のﾄﾞｲﾂ語 1076
観光のｽﾍﾟｲﾝ語 1078
観光の中国語 1080
観光の韓国語 1082
観光ｻｰﾋﾞｽの英語Ⅰ／ﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨ英語Ⅰ 1084
観光ｻｰﾋﾞｽの英語Ⅱ／ﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨ英語Ⅱ 1086
観光文化ｾﾞﾐⅠ 1088
観光文化ｾﾞﾐⅠ 1090
観光文化ｾﾞﾐⅠ 1092
観光文化ｾﾞﾐⅠ 1094
観光文化ｾﾞﾐⅠ 1096
観光文化ｾﾞﾐII 1098
観光文化ｾﾞﾐII 1100
観光文化ｾﾞﾐII 1102
観光文化ｾﾞﾐII 1104
観光文化ｾﾞﾐII 1106
観光文化ｾﾞﾐⅢ 1108
観光文化ｾﾞﾐⅢ 1110
観光文化ｾﾞﾐⅢ 1112
観光文化ｾﾞﾐⅣ 1114
観光文化ｾﾞﾐⅣ 1116
観光文化ｾﾞﾐⅣ 1118
卒業研究 1120
卒業研究 1121
卒業研究 1123
卒業研究 1125
〈心理学類　専門教育科目〉 1127
☆心理学ﾌﾟﾚｾﾞﾐ／心理学の基礎 1127
☆心理学ﾌﾟﾚｾﾞﾐ／心理学の基礎 1129
☆心理学ﾌﾟﾚｾﾞﾐ／心理学の基礎 1131
☆心理学ﾌﾟﾚｾﾞﾐ／心理学の基礎 1133
心理学実験Ⅰ 1135
心理学実験Ⅰ 1137
心理学実験Ⅰ 1139
心理学実験Ⅱ 1141
心理学実験Ⅱ 1143
心理学実験Ⅱ 1145
心理学研究法Ⅰ 1147
心理学研究法Ⅱ 1149
☆臨床心理学概論 1151

☆心理学統計法 1153
☆心理ﾃﾞｰﾀ解析法 1155
☆心理学英語講読 1157
知覚・認知心理学 1160
学習・言語心理学 1162
感情・人格心理学 1164
神経・生理心理学 1166
☆社会・集団心理学(社会・集団・家族心理学Ⅱ)／社会・集団心理学(社会・集団・家族心理学Ⅰ) 1168
☆家族心理学(社会・集団・家族心理学Ⅰ)／家族心理学(社会・集団・家族心理学Ⅱ) 1170
発達心理学Ⅰ 1172
発達心理学Ⅱ(高齢者心理学) 1174
障害者・障害児心理学 1176
比較行動学 1178
発達臨床 1180
対人関係論 1182
心理的ｱｾｽﾒﾝﾄⅠ 1184
心理的ｱｾｽﾒﾝﾄⅡ 1186
心理学的支援法Ⅰ 1188
心理学的支援法Ⅱ 1190
心理療法論Ⅰ 1192
心理療法論Ⅱ 1194
☆心理学研究実践実習／臨床心理学実習 1196
健康・医療心理学 1198
福祉心理学 1200
教育・学校心理学 1202
司法・犯罪心理学 1204
産業・組織心理学 1206
消費者心理学 1208
☆ｺﾐｭﾆﾃｨ心理学 1210
ｽﾎﾟｰﾂ心理学 1212
人体の構造と機能及び疾病 1214
精神疾患とその治療 1216
教育相談 1218
☆ｱｰﾄと心理療法／文芸と心理 1220
☆言葉と心理 1222
心理学ｾﾞﾐⅠ 1224
心理学ｾﾞﾐⅠ 1226
心理学ｾﾞﾐⅠ 1228
心理学ｾﾞﾐⅠ 1230
心理学ｾﾞﾐⅠ 1232
心理学ｾﾞﾐⅠ 1234
心理学ｾﾞﾐⅠ 1236

心理学ｾﾞﾐⅠ 1238
心理学ｾﾞﾐⅠ 1240
心理学ｾﾞﾐⅡ 1242
心理学ｾﾞﾐⅡ 1244
心理学ｾﾞﾐⅡ 1246
心理学ｾﾞﾐⅡ 1248
心理学ｾﾞﾐⅡ 1250
心理学ｾﾞﾐⅡ 1252
心理学ｾﾞﾐⅡ 1254
心理学ｾﾞﾐⅡ 1256
心理学ｾﾞﾐⅡ 1258
心理学ｾﾞﾐⅢ 1260
心理学ｾﾞﾐⅢ 1262
心理学ｾﾞﾐⅢ 1264
心理学ｾﾞﾐⅢ 1266
心理学ｾﾞﾐⅢ 1268
心理学ｾﾞﾐⅢ 1270
心理学ｾﾞﾐⅢ 1272
心理学ｾﾞﾐⅢ 1274
心理学ｾﾞﾐⅣ 1276
心理学ｾﾞﾐⅣ 1278
心理学ｾﾞﾐⅣ 1280
心理学ｾﾞﾐⅣ 1282
心理学ｾﾞﾐⅣ 1284
心理学ｾﾞﾐⅣ 1286
心理学ｾﾞﾐⅣ 1288
心理学ｾﾞﾐⅣ 1290
卒業論文 1292
卒業論文 1293
卒業論文 1295
卒業論文 1297
卒業論文 1299
卒業論文 1301
公認心理師の職責 1303
関係行政論 1305
心理演習 1307
心理実習 1309
〈住空間ﾃﾞｻﾞｲﾝ学類　専門教育科目〉 1311
☆空間ﾃﾞｻﾞｲﾝの基礎Ⅰ／住空間ﾃﾞｻﾞｲﾝの基礎Ⅰ 1311
☆空間ﾃﾞｻﾞｲﾝの基礎Ⅰ／住空間ﾃﾞｻﾞｲﾝの基礎Ⅰ 1313
☆空間ﾃﾞｻﾞｲﾝの基礎Ⅰ／住空間ﾃﾞｻﾞｲﾝの基礎Ⅰ 1315
☆空間ﾃﾞｻﾞｲﾝの基礎Ⅰ／住空間ﾃﾞｻﾞｲﾝの基礎Ⅰ 1317

☆空間ﾃﾞｻﾞｲﾝの基礎Ⅱ／住空間ﾃﾞｻﾞｲﾝの基礎Ⅱ 1319
☆空間ﾃﾞｻﾞｲﾝの基礎Ⅱ／住空間ﾃﾞｻﾞｲﾝの基礎Ⅱ 1321
☆空間ﾃﾞｻﾞｲﾝの基礎Ⅱ／住空間ﾃﾞｻﾞｲﾝの基礎Ⅱ 1323
☆空間ﾃﾞｻﾞｲﾝの基礎Ⅱ／住空間ﾃﾞｻﾞｲﾝの基礎Ⅱ 1325
平面と立体表現の基礎 1327
平面と立体表現の基礎 1329
製図の基礎 1331
製図の基礎 1333
図学と透視画の基礎 1335
図学と透視画の基礎 1337
建築・ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ入門 1339
ﾌﾟﾛﾀﾞｸﾄﾃﾞｻﾞｲﾝ入門 1341
設計製図Ⅰ 1343
設計製図Ⅱ 1345
設計製図Ⅱ 1347
ｸﾞﾗﾌｨｯｸﾃﾞｻﾞｲﾝ 1349
福祉住環境ﾃﾞｻﾞｲﾝ 1351
環境ﾃﾞｻﾞｲﾝ 1353
色彩ﾃﾞｻﾞｲﾝ 1355
CADⅠ 1357
CADⅠ 1359
CADⅡ 1361
CADⅢ 1363
ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ技法 1365
ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ技法 1367
ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ入門 1369
☆ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ実習／学外実習 1371
ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ 1373
ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ 1375
ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ 1377
ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ論 1379
☆ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ計画 A(住居・店舗)／ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ計画 A 1381
☆ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ計画 B(商業・宿泊施設)／ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ計画 B 1383
☆ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ計画 C(福祉施設)／ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ計画 C 1385
家具ﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ 1387
家具ﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ 1389
☆ﾌﾟﾛﾀﾞｸﾄﾃﾞｻﾞｲﾝ研究／家具ﾃﾞｻﾞｲﾝⅢ 1391
☆家具ﾃﾞｻﾞｲﾝ論／家具ﾃﾞｻﾞｲﾝ研究 1393
☆陶芸ﾃﾞｻﾞｲﾝ入門／陶芸ﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ 1395
☆陶芸ﾃﾞｻﾞｲﾝA／陶芸ﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ 1397
☆陶芸ﾃﾞｻﾞｲﾝB／陶芸ﾃﾞｻﾞｲﾝⅢ 1399
☆ﾃｷｽﾀｲﾙﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ／ﾃｷｽﾀｲﾙﾃﾞｻﾞｲﾝ入門／立体織ﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ 1401

☆ﾃｷｽﾀｲﾙﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ／ﾃｷｽﾀｲﾙﾃﾞｻﾞｲﾝA／立体織ﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ 1403
☆ﾃｷｽﾀｲﾙﾃﾞｻﾞｲﾝB／立体織ﾃﾞｻﾞｲﾝⅢ 1405
☆ｲﾝﾃﾘｱ・ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ／空間演出B 1407
☆ｲﾝﾃﾘｱ材料学／加工・材料学 1409
☆芸術論 1411
工芸ﾃﾞｻﾞｲﾝ論 1413
空間演出A 1415
ｲﾝﾃﾘｱﾌﾟﾛﾀﾞｸﾄ論／住空間とｲﾝﾃﾘｱﾌﾟﾛﾀﾞｸﾄ 1417
☆ﾃﾞｻﾞｲﾝと心理 1419
☆ｲﾝﾃﾘｱ・ｸﾞﾗﾌｨｯｸｽ／ｸﾞﾗﾌｨｯｸ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学 1421
ｲﾝﾃﾘｱの知識と技術Ⅰ 1423
ｲﾝﾃﾘｱの知識と技術Ⅱ 1425
建築ﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ 1427
建築ﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ 1429
建築ﾃﾞｻﾞｲﾝ論 1431
☆建築計画A(独立住宅)／建築計画A 1433
☆建築計画B(集合住宅)／建築計画B 1435
☆建築計画C(公共建築)／建築計画C 1437
☆建築計画D(計画総合)／建築計画D 1439
構造力学Ⅰ 1441
構造力学Ⅱ 1443
建築構造Ⅰ 1445
建築構造Ⅱ 1447
日本建築史 1449
西洋建築史 1451
☆ﾗﾝﾄﾞｽｹｰﾌﾟ論 1453
建築環境設備 1455
環境工学 1457
建築材料 1459
建築生産 1461
都市ﾃﾞｻﾞｲﾝ論 1463
☆建築法規／建築法規Ⅰ 1465
建築法規Ⅱ 1467
☆ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｾﾞﾐⅠ／ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅠ 1469
☆ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｾﾞﾐⅠ／ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅠ 1471
☆ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｾﾞﾐⅠ／ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅠ 1473
☆ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｾﾞﾐⅠ／ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅠ 1475
☆ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｾﾞﾐⅠ／ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅠ 1477
☆ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｾﾞﾐⅠ／ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅠ 1479
☆ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｾﾞﾐⅡ／ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅡ 1481
☆ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｾﾞﾐⅡ／ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅡ 1483
☆ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｾﾞﾐⅡ／ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅡ 1485

☆ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｾﾞﾐⅡ／ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅡ 1487
☆ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｾﾞﾐⅡ／ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅡ 1489
☆ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｾﾞﾐⅡ／ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅡ 1491
☆ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｾﾞﾐⅢ／ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅢ 1493
☆ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｾﾞﾐⅢ／ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅢ 1495
☆ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｾﾞﾐⅢ／ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅢ 1497
☆ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｾﾞﾐⅢ／ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅢ 1499
☆ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｾﾞﾐⅢ／ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅢ 1501
☆ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｾﾞﾐⅢ／ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅢ 1503
☆ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｾﾞﾐⅣ／ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅣ 1505
☆ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｾﾞﾐⅣ／ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅣ 1507
☆ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｾﾞﾐⅣ／ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅣ 1509
☆ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｾﾞﾐⅣ／ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅣ 1511
☆ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｾﾞﾐⅣ／ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅣ 1513
☆ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｾﾞﾐⅣ／ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅣ 1515
☆建築ﾃﾞｻﾞｲﾝｾﾞﾐⅠ／建築ﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅠ 1517
☆建築ﾃﾞｻﾞｲﾝｾﾞﾐⅠ／建築ﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅠ 1519
☆建築ﾃﾞｻﾞｲﾝｾﾞﾐⅠ／建築ﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅠ 1521
☆建築ﾃﾞｻﾞｲﾝｾﾞﾐⅠ／建築ﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅠ 1523
☆建築ﾃﾞｻﾞｲﾝｾﾞﾐⅠ／建築ﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅠ 1525
☆建築ﾃﾞｻﾞｲﾝｾﾞﾐⅠ／建築ﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅠ 1527
☆建築ﾃﾞｻﾞｲﾝｾﾞﾐⅡ／建築ﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅡ 1529
☆建築ﾃﾞｻﾞｲﾝｾﾞﾐⅡ／建築ﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅡ 1531
☆建築ﾃﾞｻﾞｲﾝｾﾞﾐⅡ／建築ﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅡ 1533
☆建築ﾃﾞｻﾞｲﾝｾﾞﾐⅡ／建築ﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅡ 1535
☆建築ﾃﾞｻﾞｲﾝｾﾞﾐⅡ／建築ﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅡ 1537
☆建築ﾃﾞｻﾞｲﾝｾﾞﾐⅡ／建築ﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅡ 1539
☆建築ﾃﾞｻﾞｲﾝｾﾞﾐⅢ／建築ﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅢ 1541
☆建築ﾃﾞｻﾞｲﾝｾﾞﾐⅢ／建築ﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅢ 1543
☆建築ﾃﾞｻﾞｲﾝｾﾞﾐⅢ／建築ﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅢ 1545
☆建築ﾃﾞｻﾞｲﾝｾﾞﾐⅢ／建築ﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅢ 1547
☆建築ﾃﾞｻﾞｲﾝｾﾞﾐⅣ／建築ﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅣ 1549
☆建築ﾃﾞｻﾞｲﾝｾﾞﾐⅣ／建築ﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅣ 1551
☆建築ﾃﾞｻﾞｲﾝｾﾞﾐⅣ／建築ﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅣ 1553
☆建築ﾃﾞｻﾞｲﾝｾﾞﾐⅣ／建築ﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅣ 1555
家具･陶芸･ﾃｷｽﾀｲﾙﾃﾞｻﾞｲﾝ入門 ..... エラー! ブックマークが定義されていません。
卒業研究 1557
卒業研究 1559
卒業研究 1561
卒業研究 1563
卒業研究 1565
卒業研究 1567

卒業研究 1569
卒業研究 1571
卒業研究 1573
卒業研究 1575
〈教育職員養成課程科目〉 1577
☆国語科教育法Ⅰ 1577
国語科教育法Ⅱ 1579
国語科教育法Ⅲ 1581
国語科教育法Ⅳ 1583
☆英語科教育法Ⅰ 1585
英語科教育法Ⅱ 1587
英語科教育法Ⅲ 1589
英語科教育法Ⅳ 1591
介護等の体験 1593
☆視聴覚教育ﾒﾃﾞｨｱ論 1595
☆教育原理 1597
教職入門 1599
教育制度論 1601
発達心理学 1603
特別支援教育概論 1605
教育課程論 1607
☆道徳教育の指導法／道徳教育の研究 1609
総合的な学習の時間の指導法 1611
☆特別活動の指導法 1613
☆教育方法・技術／教育ﾒﾃﾞｨｱの研究 1615
ICT 活用の理論と方法 1617
☆生徒指導論（進路指導を含む）／生徒指導の研究 1619
教育実習指導 1621
教育実習Ⅰ(中学校) 1623
☆教育実習Ⅱ(高等学校)／教育実習(高等学校) 1625
教職実践演習（中・高） 1627
〈学校図書館司書教諭課程科目〉 1629
学校経営と学校図書館 1629
学校図書館ﾒﾃﾞｨｱの構成 1631
読書と豊かな人間性 1633
学習指導と学校図書館 1635
☆情報ﾒﾃﾞｨｱの活用 1637
〈博物館学芸員養成課程科目〉 1639
☆博物館概論 1639
☆博物館資料論 1641
博物館展示論 1643
博物館資料保存論 1645

博物館経営論 1647
博物館教育論 1649
博物館情報･ﾒﾃﾞｨｱ論 1651
☆博物館実習 A(見学実習)／博物館実習 A 1653
☆博物館実習 B(実務実習)／博物館実習 B 1655
☆博物館実習 C(館園実習)／博物館実習 C 1657

科目分類（2025 年～入学者）	GJ-M-112 HR-M-112 PS-M-112 CT-L-112	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-21	授業コード	F00011
科目名称	基礎ｾﾞﾐⅠ			単位数	1.0 単位
英文名称	Freshmen Seminar Ⅰ			授業区分	演習
科目責任者	工藤　俊			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	工藤･松山･安井			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	本授業は、大学におけるさまざまなタイプの授業に対応するための基礎的な学習方法を学ぶ。自ら問題意識をもって講義に参加し、さまざまな課題に対して主体的に取り組む姿勢を養うことを目的とする。大学でなにを学ぶか、どのような大学生活を過ごし、どのような将来を切り拓くかを考え、個々の学生が自分の目的を発見する手助けをする。言語・文学・思想・風習など多岐にわたる日本文化や、国際社会における日本の立場等について、広く基礎知識を習得することもあわせて行う。この学びを通じて、日本文化にこめられた意味と、現代的意義、そして未来への継承を考えるための基礎力を身につける。				
到達目標	大学での学びについて理解し、学び取った基本的学修スキルを自分なりに用いることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	工藤　俊	【第 1 回】 予習　：シラバスを熟読し、質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業　：前期ガイダンス、履修登録の方法 復習　：授業で習ったことをもう一度復習しておいてください。
2	工藤　俊	【第 2 回】 予習　：質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業　：大学での学び、社会人へのステップ 復習　：授業で習ったことをもう一度復習しておいてください。
3	工藤　俊	【第 3 回】 予習　：質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業　：学内ツアー 復習　：授業で習ったことをもう一度復習しておいてください。
4	工藤　俊	【第 4 回】 予習　：質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業　：メールのマナーとルール 復習　：授業で習ったことをもう一度復習しておいてください。
5	工藤　俊	【第 5 回】 予習　：質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業　：講義の聞き方、メモ・ノートの取り方、学習ポートフォリオ 復習　：授業で習ったことをもう一度復習しておいてください。
6	工藤　俊	【第 6 回】 予習　：質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業　：自己分析の意義と方法 復習　：授業で習ったことをもう一度復習しておいてください。
7	工藤　俊	【第 7 回】 予習　：質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業　：図書館を活用しよう 復習　：授業で習ったことをもう一度復習しておいてください。
8	工藤　俊	【第 8 回】 予習　：質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業　：本を読もう 1 復習　：授業で習ったことをもう一度復習しておいてください。
9	工藤　俊	【第 9 回】 予習　：質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業　：　本を読もう 2 復習　：授業で習ったことをもう一度復習しておいてください。

10	工藤　俊	【第 10 回】 予習　：質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業　：論理的に考える、問いを立てる、Web を活用した情報検索 復習　：授業で習ったことをもう一度復習しておいてください。
11	工藤　俊	【第 11 回】 予習　：質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業　：レポートの書き方 1 復習　：授業で習ったことをもう一度復習しておいてください。
12	工藤　俊	【第 12 回】 予習　：質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業　：レポートの書き方 2 復習　：授業で習ったことをもう一度復習しておいてください。
13	工藤　俊	【第 13 回】 予習　：質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業　：レポートの書き方 3 復習　：授業で習ったことをもう一度復習しておいてください。
14	工藤　俊	【第 14 回】 予習　：質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業　：レポートの書き方 4 復習　：授業で習ったことをもう一度復習しておいてください。
15	工藤　俊	【第 15 回】 予習　：質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業　：前期の振り返り 復習　：授業で習ったことをもう一度復習しておいてください。

授業開始前学習	
授業内課題のフィードバックの方法	提出された毎回の授業に関する質問などについては、次回授業の冒頭において適宜講評および説明を行います。
テキスト・教材	各回プリントを配布します。
参考書	授業を通じて適時紹介します。
評価の基準と方法	授業への参加度 70%、および提出課題 30%により総合的に評価します。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	◎	○				

関連科目	
その他	臨時に合同授業を実施する場合があります。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	GJ-M-112 HR-M-112 PS-M-112 CT-L-112	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-21	授業コード	F00021
科目名称	基礎ｾﾞﾐⅠ			単位数	1.0 単位
英文名称	Freshmen Seminar Ⅰ			授業区分	演習
科目責任者	榎本 環			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	榎本 環			開講時期	1 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 10:40～12:10			研究室	10-716
授業概要	初年次の基礎科目として 4 年間の学びの原点となる内容です。大学生活の入り口に立った皆さんが次の課題を達成することを指導・支援します。1. 知性や教養の本質と大学で学ぶことの意義を理解し、自己の学修課題を見出す。2. 大学での学びに求められる基礎的なリテラシーと、他者との協働・コミュニケーションのスキルを深める。3. 充実した学生生活を送るための知識と基本的態度を身に付ける。発表やディスカッションなどを多く取り入れ積極的に授業に参加するマインドを養います。				
到達目標	・大学での学びについて理解し、学び取った基本的学修スキルを自分なりに用いることができる。 ・人間関係学科について理解し、その研究分野について自ら進んで学ぼうとすることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	榎本 環	【第 1 回】 予習 ：シラバス該当ページを熟読し、質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業 ：前期ガイダンス（教科書 第 1 章 pp.2-3） （発表） 復習 ：教科書第 1 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
2	榎本 環	【第 2 回】 予習 ：教科書第 2 章を熟読し、不明点を確認しておいてください。 授業 ：学内ツアー（教科書 第 2 章 pp.4-5） （フィールドワーク） 復習 ：各部署の名称・担当業務・位置を「学生生活ガイド」等で再確認してください。課題（感想・質問）を提出してください。
3	榎本 環	【第 3 回】 予習 ：教科書第 3 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：大学での学び（教科書 第 3 章 p.6） 復習 ：教科書第 3 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
4	榎本 環	【第 4 回】 予習 ：教科書第 4 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：人間関係学科の学び（全体授業） （教科書 第 3 章 pp.10-15） 復習 ：教科書第 4 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。また Web メールの「署名設定」「転送設定」「プロフィール管理」を実施してください
5	榎本 環	【第 5 回】 予習 ：教科書第 5 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：図書館の使い方、文献・資料の探し方（教科書 第 5 章 pp.16-20） （フィールドワーク） 復習 ：教科書第 5 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
6	榎本 環	【第 6 回】 予習 ：教科書第 6 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：レポートの書き方 1：講義の聞き方、メモ・ノートの取り方（教科書 第 6 章 pp.21-22） （実習） 復習 ：教科書第 6 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
7	榎本 環	【第 7 回】 予習 ：教科書第 7 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：レポートの書き方 2：論理的に考える、問いを立てる（教科書 第 7 章 pp.23-26） （ディスカッション） 復習 ：教科書第 7 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
8	榎本 環	【第 8 回】 予習 ：教科書第 8 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：レポートの書き方 3：レポートとは（教科書 第 8 章 pp.27-32） 復習 ：教科書第 8 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
9	榎本 環	【第 9 回】 予習 ：教科書第 9 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ： レポートの書き方 4：アウトライン（教科書 第 9 章 pp.33-38） 復習 ：教科書第 9 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。

10	榎本 環	【第 10 回】 予習 ：教科書第 10 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：レポートの書き方 5：書式・引用 （教科書 第 10 章 ｐp.39-45） 復習 ：教科書第 10 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
11	榎本 環	【第 11 回】 予習 ： 教科書第 11 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：レポートの書き方 6：レポートの意義 （教科書 第 11 章 pp.46-47） 復習 ：教科書第 11 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。またレポート課題未提出の方は完成させてください。
12	榎本 環	【第 12 回】 予習 ：教科書第 12 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：ミニレポートのふりかえり （教科書 第 12 章 p.48） 復習 ：教科書第 12 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
13	榎本 環	【第 13 回】 予習 ：教科書第 13 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：学術的文章に親しむ 1：本との出会い（教科書 第 13 章 pp.49-52）（ディスカッション） 復習 ：教科書第 13 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
14	榎本 環	【第 14 回】 予習 ：教科書第 14 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：学術的文章に親しむ 2：読書の意義（教科書 第 14 章 p.53）（ディスカッション） 復習 ：教科書第 14 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
15	榎本 環	【第 15 回】 予習 ：前期中の自分の“成長”を書き出してみてください。 授業 ：前期ふりかえり（教科書 第 15 章 p.54） 復習 ：前期の成果をふりかえりましょう。

授業開始前学習	教科書該当ページ（および事前配布資料）を熟読してください。
授業内課題のフィードバックの方法	提出された毎回の授業に関する質問などについては、次回授業の冒頭において適宜講評および説明を行います。
テキスト・教材	人間関係学科編『基礎ゼミⅠ』（駒沢女子大学教科書シリーズ）
参考書	授業を通じて適時紹介します。
評価の基準と方法	各回の課題（70%：授業の感想・質問等）および課題提出物（30%：ミニレポート・作文等）により総合的に評価します。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	◎	○				

関連科目	
その他	臨時に合同授業を実施する場合があります。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	GJ-M-112 HR-M-112 PS-M-112 CT-L-112	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-21	授業コード	F00022
科目名称	基礎ｾﾞﾐⅠ			単位数	1.0 単位
英文名称	Freshmen Seminar Ⅰ			授業区分	演習
科目責任者	倉住 友恵			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	倉住 友恵			開講時期	1 年
オフィスアワー	前期 月曜日 10:40～12:10 金曜日 16:20～17:50 後期 月曜日 10:40～12:10 金曜日 16:20～17:50			研究室	10-618
授業概要	初年次の基礎科目として 4 年間の学びの原点となる内容です。大学生活の入り口に立った皆さんが次の課題を達成することを指導・支援します。1. 知性や教養の本質と大学で学ぶことの意義を理解し、自己の学修課題を見出す。2. 大学での学びに求められる基礎的なリテラシーと、他者との協働・コミュニケーションのスキルを深める。3. 充実した学生生活を送るための知識と基本的態度を身に付ける。発表やディスカッションなどを多く取り入れ積極的に授業に参加するマインドを養います。				
到達目標	・大学での学びについて理解し、学び取った基本的学修スキルを自分なりに用いることができる。 ・人間関係学科について理解し、その研究分野について自ら進んで学ぼうとすることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	倉住 友恵	【第 1 回】 予習 ：シラバス該当ページを熟読し、質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業 ：前期ガイダンス（教科書 第 1 章 pp.2-3） （発表） 復習 ：教科書第 1 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
2	倉住 友恵	【第 2 回】 予習 ：教科書第 2 章を熟読し、不明点を確認しておいてください。 授業 ：学内ツアー（教科書 第 2 章 pp.4-5） （フィールドワーク） 復習 ：各部署の名称・担当業務・位置を「学生生活ガイド」等で再確認してください。課題（感想・質問）を提出してください。
3	倉住 友恵	【第 3 回】 予習 ：教科書第 3 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：大学での学び（教科書 第 3 章 p.6） 復習 ：教科書第 3 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
4	倉住 友恵	【第 4 回】 予習 ：教科書第 4 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：人間関係学科の学び（全体授業） （教科書 第 3 章 pp.10-15） 復習 ：教科書第 4 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。また Web メールの「署名設定」「転送設定」「プロフィール管理」を実施してください
5	倉住 友恵	【第 5 回】 予習 ：教科書第 5 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：図書館の使い方、文献・資料の探し方（教科書 第 5 章 pp.16-20） （フィールドワーク） 復習 ：教科書第 5 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
6	倉住 友恵	【第 6 回】 予習 ：教科書第 6 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：レポートの書き方 1：講義の聞き方、メモ・ノートの取り方（教科書 第 6 章 pp.21-22） （実習） 復習 ：教科書第 6 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
7	倉住 友恵	【第 7 回】 予習 ：教科書第 7 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：レポートの書き方 2：論理的に考える、問いを立てる（教科書 第 7 章 pp.23-26） （ディスカッション） 復習 ：教科書第 7 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
8	倉住 友恵	【第 8 回】 予習 ：教科書第 8 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：レポートの書き方 3：レポートとは（教科書 第 8 章 pp.27-32） 復習 ：教科書第 8 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
9	倉住 友恵	【第 9 回】 予習 ：教科書第 9 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ： レポートの書き方 4：アウトライン（教科書 第 9 章 pp.33-38） 復習 ：教科書第 9 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。

10	倉住　友恵	【第 10 回】 予習　：教科書第 10 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業　：レポートの書き方 5：書式・引用　（教科書　第 10 章　p p.39-45） 復習　：教科書第 10 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
11	倉住　友恵	【第 11 回】 予習　：　教科書第 11 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業　：レポートの書き方 6：レポートの意義　（教科書　第 11 章　pp.46-47） 復習　：教科書第 11 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。またレポート課題未提出の方は完成させてください。
12	倉住　友恵	【第 12 回】 予習　：教科書第 12 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業　：ミニレポートのふりかえり　（教科書　第 12 章　p.48） 復習　：教科書第 12 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
13	倉住　友恵	【第 13 回】 予習　：教科書第 13 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業　：学術的文章に親しむ 1：本との出会い（教科書　第 13 章　pp.49-52）（ディスカッション） 復習　：教科書第 13 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
14	倉住　友恵	【第 14 回】 予習　：教科書第 14 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業　：学術的文章に親しむ 2：読書の意義（教科書　第 14 章　p.53）（ディスカッション） 復習　：教科書第 14 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
15	倉住　友恵	【第 15 回】 予習　：前期中の自分の“成長”を書き出してみてください。 授業　：前期ふりかえり（教科書　第 15 章　p.54） 復習　：前期の成果をふりかえりましょう。

授業開始前学習	教科書該当ページ（および事前配布資料）を熟読してください。
授業内課題のフィードバックの方法	提出された毎回の授業に関する質問などについては、次回授業の冒頭において適宜講評および説明を行います。
テキスト・教材	人間関係学科編『基礎ゼミⅠ』（駒沢女子大学教科書シリーズ）
参考書	授業を通じて適時紹介します。
評価の基準と方法	各回の課題（70%：授業の感想・質問等）および課題提出物（30%：ミニレポート・作文等）により総合的に評価します。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	◎	○				

関連科目	
その他	臨時に合同授業を実施する場合があります。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	GJ-M-112 HR-M-112 PS-M-112 CT-L-112	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-21	授業コード	F00023
科目名称	基礎ｾﾞﾐⅠ			単位数	1.0 単位
英文名称	Freshmen Seminar Ⅰ			授業区分	演習
科目責任者	小菅 清香			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小菅 清香			開講時期	1 年
オフィスアワー	前期 水曜日 14:40～16:10 金曜日 14:40～16:10 後期 水曜日 14:40～17:50			研究室	10-503
授業概要	初年次の基礎科目として 4 年間の学びの原点となる内容です。大学生活の入り口に立った皆さんが次の課題を達成することを指導・支援します。1. 知性や教養の本質と大学で学ぶことの意義を理解し、自己の学修課題を見出す。2. 大学での学びに求められる基礎的なリテラシーと、他者との協働・コミュニケーションのスキルを深める。3. 充実した学生生活を送るための知識と基本的態度を身に付ける。発表やディスカッションなどを多く取り入れ積極的に授業に参加するマインドを養います。				
到達目標	・大学での学びについて理解し、学び取った基本的学修スキルを自分なりに用いることができる。 ・人間関係学科について理解し、その研究分野について自ら進んで学ぼうとすることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	小菅 清香	【第 1 回】 予習 ：シラバス該当ページを熟読し、質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業 ：前期ガイダンス（教科書 第 1 章 pp.2-3） （発表） 復習 ：教科書第 1 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
2	小菅 清香	【第 2 回】 予習 ：教科書第 2 章を熟読し、不明点を確認しておいてください。 授業 ：学内ツアー（教科書 第 2 章 pp.4-5） （フィールドワーク） 復習 ：各部署の名称・担当業務・位置を「学生生活ガイド」等で再確認してください。課題（感想・質問）を提出してください。
3	小菅 清香	【第 3 回】 予習 ：教科書第 3 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：大学での学び（教科書 第 3 章 p.6） 復習 ：教科書第 3 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
4	小菅 清香	【第 4 回】 予習 ：教科書第 4 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：人間関係学科の学び（全体授業） （教科書 第 3 章 pp.10-15） 復習 ：教科書第 4 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。また Web メールの「署名設定」「転送設定」「プロフィール管理」を実施してください
5	小菅 清香	【第 5 回】 予習 ：教科書第 5 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：図書館の使い方、文献・資料の探し方（教科書 第 5 章 pp.16-20） （フィールドワーク） 復習 ：教科書第 5 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
6	小菅 清香	【第 6 回】 予習 ：教科書第 6 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：レポートの書き方 1：講義の聞き方、メモ・ノートの取り方（教科書 第 6 章 pp.21-22） （実習） 復習 ：教科書第 6 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
7	小菅 清香	【第 7 回】 予習 ：教科書第 7 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：レポートの書き方 2：論理的に考える、問いを立てる（教科書 第 7 章 pp.23-26） （ディスカッション） 復習 ：教科書第 7 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
8	小菅 清香	【第 8 回】 予習 ：教科書第 8 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：レポートの書き方 3：レポートとは（教科書 第 8 章 pp.27-32） 復習 ：教科書第 8 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
9	小菅 清香	【第 9 回】 予習 ：教科書第 9 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ： レポートの書き方 4：アウトライン（教科書 第 9 章 pp.33-38） 復習 ：教科書第 9 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。

10	小菅 清香	【第 10 回】 予習 ：教科書第 10 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：レポートの書き方 5：書式・引用 （教科書 第 10 章 ｐp.39-45） 復習 ：教科書第 10 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
11	小菅 清香	【第 11 回】 予習 ： 教科書第 11 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：レポートの書き方 6：レポートの意義 （教科書 第 11 章 pp.46-47） 復習 ：教科書第 11 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。またレポート課題未提出の方は完成させてください。
12	小菅 清香	【第 12 回】 予習 ：教科書第 12 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：ミニレポートのふりかえり （教科書 第 12 章 p.48） 復習 ：教科書第 12 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
13	小菅 清香	【第 13 回】 予習 ：教科書第 13 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：学術的文章に親しむ 1：本との出会い（教科書 第 13 章 pp.49-52）（ディスカッション） 復習 ：教科書第 13 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
14	小菅 清香	【第 14 回】 予習 ：教科書第 14 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：学術的文章に親しむ 2：読書の意義（教科書 第 14 章 p.53）（ディスカッション） 復習 ：教科書第 14 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
15	小菅 清香	【第 15 回】 予習 ：前期中の自分の“成長”を書き出してみてください。 授業 ：前期ふりかえり（教科書 第 15 章 p.54） 復習 ：前期の成果をふりかえりましょう。

授業開始前学習	教科書該当ページ（および事前配布資料）を熟読してください。
授業内課題のフィードバックの方法	提出された毎回の授業に関する質問などについては、次回授業の冒頭において適宜講評および説明を行います。
テキスト・教材	人間関係学科編『基礎ゼミⅠ』（駒沢女子大学教科書シリーズ）
参考書	授業を通じて適時紹介します。
評価の基準と方法	各回の課題（70%：授業の感想・質問等）および課題提出物（30%：ミニレポート・作文等）により総合的に評価します。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	◎	○				

関連科目	
その他	臨時に合同授業を実施する場合があります。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	GJ-M-112 HR-M-112 PS-M-112 CT-L-112	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-21	授業コード	F00031
科目名称	基礎ｾﾞﾐⅠ			単位数	1.0 単位
英文名称	Freshmen Seminar Ⅰ			授業区分	演習
科目責任者	明田川 紀彦			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	明田川 紀彦			開講時期	1 年
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～12:10 水曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 09:00～12:10 水曜日 13:00～14:30			研究室	10-707
授業概要	基礎ゼミは、1 年次に開講されるゼミです。ゼミは、主に 3 年次や 4 年次に開講される専門性の高い授業であり、大学で開講されるさまざまな授業の中でも、その大学の特徴が最も表れる重要な授業です。現在では多くの大学で 1 年次にゼミが開講されていますが、本学では 1993 年の開学以来開講している大切な授業です。 基礎ゼミでは、大学での学びを充実させるための基礎的な学習方法や技術、姿勢を養い、個々のテーマをめぐって発表や議論を行うことを通じて、大学で学ぶ意義についての理解を深めます。また、自ら問題意識を持って講義に参加し、さまざまな課題に主体的に取り組む姿勢を養います。さらに、自己理解と認識を深めるとともに、少人数クラスでの対話を通じて、調査・整理・他者への的確な伝達技術を習得することも目指します。				
到達目標	大学生として、大学の学びについて理解し、学んだ学修スキルをさまざまな科目や今後の大学生活に活かすことができるようになる				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	明田川 紀彦	【第 1 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料確認しておく 授業：ガイダンス（自己紹介・大学の学び・ノートの取り方） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
2	明田川 紀彦	【第 2 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：ガイダンス（学生生活とトラブルについて） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
3	明田川 紀彦	【第 3 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：ガイダンス（学内紹介） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
4	明田川 紀彦	【第 4 回】（合同授業） 予習：予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：心理学の学び①（～学生生活と学生相談について～） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
5	明田川 紀彦	【第 5 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：テーマ決め（論理的に考える・問いを立てる）（グループディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
6	明田川 紀彦	【第 6 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：図書館の使い方（資料文献の探し方） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
7	明田川 紀彦	【第 7 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：テーマ決め（文献・資料の探し方）（グループディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
8	明田川 紀彦	【第 8 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：テーマ決め（AI の活用）（グループディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
9	明田川 紀彦	【第 9 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：心理学の学び②（～子供から大人へ～） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる

10	明田川　紀彦	【第 10 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：発表準備（レポートの書き方①）（グループディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
11	明田川　紀彦	【第 11 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：発表準備（レポートの書き方②）（グループディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
12	明田川　紀彦	【第 12 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：発表準備（レポートの書き方③・発表の仕方） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
13	明田川　紀彦	【第 13 回】 予習：各グループで発表内容を調整する 授業：発表 復習：発表内容をコメント用紙にまとめる
14	明田川　紀彦	【第 14 回】 予習：各グループで発表内容を調整する 授業：発表 復習：発表内容をコメント用紙にまとめる
15	明田川　紀彦	【第 15 回】 予習：この半期の授業内容を振り返っておく 授業：前期の振り返り（期末レポートの説明） 復習：期末レポート作成に向け、発表内容を含めまとめる

授業開始前学習	シラバスや学生生活ガイドを熟読しておく
授業内課題のフィードバックの方法	授業に関する質問などについては、次回の授業において適宜講評および説明する
テキスト・教材	GWE（Google Workspace for Education）のクラスルームに掲載する
参考書	適時紹介する
評価の基準と方法	課題点６０％（レポートおよび提出物）および平常点４０％（発表を含む）により総合的に評価する
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	◎	○				

関連科目	基礎ゼミⅡ、心理学概論Ⅰ、心理学概論Ⅱ
その他	ガイダンスや心理学の学びにおいて合同授業を実施する
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	GJ-M-112 HR-M-112 PS-M-112 CT-L-112	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-21	授業コード	F00032
科目名称	基礎ｾﾞﾐⅠ			単位数	1.0 単位
英文名称	Freshmen Seminar Ⅰ			授業区分	演習
科目責任者	奥野 真之			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	奥野 真之			開講時期	1 年
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10 後期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10			研究室	10-713
授業概要	基礎ゼミは、1 年次に開講されるゼミです。ゼミは、主に 3 年次や 4 年次に開講される専門性の高い授業であり、大学で開講されるさまざまな授業の中でも、その大学の特徴が最も表れる重要な授業です。現在では多くの大学で 1 年次にゼミが開講されていますが、本学では 1993 年の開学以来開講している大切な授業です。 基礎ゼミでは、大学での学びを充実させるための基礎的な学習方法や技術、姿勢を養い、個々のテーマをめぐって発表や議論を行うことを通じて、大学で学ぶ意義についての理解を深めます。また、自ら問題意識を持って講義に参加し、さまざまな課題に主体的に取り組む姿勢を養います。さらに、自己理解と認識を深めるとともに、少人数クラスでの対話を通じて、調査・整理・他者への的確な伝達技術を習得することも目指します。				
到達目標	大学生として、大学の学びについて理解し、学んだ学修スキルをさまざまな科目や今後の大学生活に活かすことができるようになる				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	奥野 真之	【第 1 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料確認しておく 授業：ガイダンス（自己紹介・大学の学び・ノートの取り方） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
2	奥野 真之	【第 2 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：ガイダンス（学生生活とトラブルについて） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
3	奥野 真之	【第 3 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：ガイダンス（学内紹介） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
4	奥野 真之	【第 4 回】（合同授業） 予習：予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：心理学の学び①（～学生生活と学生相談について～） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
5	奥野 真之	【第 5 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：テーマ決め（論理的に考える・問いを立てる）（グループディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
6	奥野 真之	【第 6 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：図書館の使い方（資料文献の探し方） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
7	奥野 真之	【第 7 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：テーマ決め（文献・資料の探し方）（グループディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
8	奥野 真之	【第 8 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：テーマ決め（AI の活用）（グループディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
9	奥野 真之	【第 9 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：心理学の学び②（～子供から大人へ～） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる

10	奥野　真之	【第 10 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：発表準備（レポートの書き方①）（グループディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
11	奥野　真之	【第 11 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：発表準備（レポートの書き方②）（グループディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
12	奥野　真之	【第 12 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：発表準備（レポートの書き方③・発表の仕方） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
13	奥野　真之	【第 13 回】 予習：各グループで発表内容を調整する 授業：発表 復習：発表内容をコメント用紙にまとめる
14	奥野　真之	【第 14 回】 予習：各グループで発表内容を調整する 授業：発表 復習：発表内容をコメント用紙にまとめる
15	奥野　真之	【第 15 回】 予習：この半期の授業内容を振り返っておく 授業：前期の振り返り（期末レポートの説明） 復習：期末レポート作成に向け、発表内容を含めまとめる

授業開始前学習	シラバスや学生生活ガイドを熟読しておく
授業内課題のフィードバックの方法	授業に関する質問などについては、次回の授業において適宜講評および説明する
テキスト・教材	GWE（Google Workspace for Education）のクラスルームに掲載する
参考書	適時紹介する
評価の基準と方法	課題点６０％（レポートおよび提出物）および平常点４０％（発表を含む）により総合的に評価する
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	◎	○				

関連科目	基礎ゼミⅡ、心理学概論Ⅰ、心理学概論Ⅱ
その他	ガイダンスや心理学の学びにおいて合同授業を実施する
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	GJ-M-112 HR-M-112 PS-M-112 CT-L-112	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-21	授業コード	F00033
科目名称	基礎ｾﾞﾐⅠ			単位数	1.0 単位
英文名称	Freshmen Seminar Ⅰ			授業区分	演習
科目責任者	米金 孝雄			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	米金 孝雄			開講時期	1 年
オフィスアワー	前期 水曜日 10:10～10:40 木曜日 10:30～13:00 後期 水曜日 10:00~10:40～12:10~13:00 木曜日 10:00～10:40～12:10～13:00			研究室	10-711
授業概要	基礎ゼミは、1 年次に開講されるゼミです。ゼミは、主に 3 年次や 4 年次に開講される専門性の高い授業であり、大学で開講されるさまざまな授業の中でも、その大学の特徴が最も表れる重要な授業です。現在では多くの大学で 1 年次にゼミが開講されていますが、本学では 1993 年の開学以来開講している大切な授業です。 基礎ゼミでは、大学での学びを充実させるための基礎的な学習方法や技術、姿勢を養い、個々のテーマをめぐって発表や議論を行うことを通じて、大学で学ぶ意義についての理解を深めます。また、自ら問題意識を持って講義に参加し、さまざまな課題に主体的に取り組む姿勢を養います。さらに、自己理解と認識を深めるとともに、少人数クラスでの対話を通じて、調査・整理・他者への的確な伝達技術を習得することも目指します。				
到達目標	大学生として、大学の学びについて理解し、学んだ学修スキルをさまざまな科目や今後の大学生活に活かすことができるようになる				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	米金 孝雄	【第 1 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料確認しておく 授業：ガイダンス（自己紹介・大学の学び・ノートの取り方） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
2	米金 孝雄	【第 2 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：ガイダンス（学生生活とトラブルについて） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
3	米金 孝雄	【第 3 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：ガイダンス（学内紹介） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
4	米金 孝雄	【第 4 回】（合同授業） 予習：予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：心理学の学び①（～学生生活と学生相談について～） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
5	米金 孝雄	【第 5 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：テーマ決め（論理的に考える・問いを立てる）（グループディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
6	米金 孝雄	【第 6 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：図書館の使い方（資料文献の探し方） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
7	米金 孝雄	【第 7 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：テーマ決め（文献・資料の探し方）（グループディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
8	米金 孝雄	【第 8 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：テーマ決め（AI の活用）（グループディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
9	米金 孝雄	【第 9 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：心理学の学び②（～子供から大人へ～） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる

10	米金　孝雄	【第 10 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：発表準備（レポートの書き方①）（グループディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
11	米金　孝雄	【第 11 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：発表準備（レポートの書き方②）（グループディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
12	米金　孝雄	【第 12 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：発表準備（レポートの書き方③・発表の仕方） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
13	米金　孝雄	【第 13 回】 予習：各グループで発表内容を調整する 授業：発表 復習：発表内容をコメント用紙にまとめる
14	米金　孝雄	【第 14 回】 予習：各グループで発表内容を調整する 授業：発表 復習：発表内容をコメント用紙にまとめる
15	米金　孝雄	【第 15 回】 予習：この半期の授業内容を振り返っておく 授業：前期の振り返り（期末レポートの説明） 復習：期末レポート作成に向け、発表内容を含めまとめる

授業開始前学習	シラバスや学生生活ガイドを熟読しておく
授業内課題のフィードバックの方法	授業に関する質問などについては、次回の授業において適宜講評および説明する
テキスト・教材	GWE（Google Workspace for Education）のクラスルームに掲載する
参考書	適時紹介する
評価の基準と方法	課題点６０％（レポートおよび提出物）および平常点４０％（発表を含む）により総合的に評価する
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	◎	○				

関連科目	基礎ゼミⅡ、心理学概論Ⅰ、心理学概論Ⅱ
その他	ガイダンスや心理学の学びにおいて合同授業を実施する
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	GJ-M-112 HR-M-112 PS-M-112 CT-L-112	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-21	授業コード	F00041
科目名称	基礎ｾﾞﾐⅠ			単位数	1.0 単位
英文名称	Freshmen Seminar Ⅰ			授業区分	演習
科目責任者	ゼイヤー ウィン			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	ゼイヤー ウィン			開講時期	1 年
オフィスアワー	前期 月曜日 10:40～12:10 水曜日 10:40～12:10 後期 水曜日 10:40～12:10 木曜日 10:40～12:10			研究室	10-604
授業概要	初年次の基礎科目として 4 年間の学びの原点となる内容です。大学生活の入り口に立った皆さんが次の課題を達成することを指導・支援します。1. 知性や教養の本質と大学で学ぶことの意義を理解し、自己の学修課題を見出す。2. 大学での学びに求められる基礎的なリテラシーと、他者との協働・コミュニケーションのスキルを深める。3. 充実した学生生活を送るための知識と基本的態度を身に付ける。発表やディスカッションなどを多く取り入れ積極的に授業に参加するマインドを養います。				
到達目標	・大学での学びについて理解し、学び取った基本的学修スキルを自分なりに用いることができる。 ・観光文化学部（観光文化学科）について理解し、その研究分野について自ら進んで学ぼうとすることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	ゼイヤー ウィン	【第 1 回】 予習 ：シラバス該当ページを熟読し、質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業 ：前期ガイダンス（教科書 第 1 章 pp.2-4）（発表） 復習 ：教科書第 1 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
2	ゼイヤー ウィン	【第 2 回】 予習 ：教科書第 2 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：大学での学び（教科書 第 2 章 pp.5-8） 復習 ：教科書第 2 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。また Web メールの「署名設定」「転送設定」「プロフィール管理」を実施してください
3	ゼイヤー ウィン	【第 3 回】 予習 ：教科書第 3 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：観光文化学部の学び（全体授業）（教科書 第 3 章 pp.9-14） 復習 ：教科書第 3 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
4	ゼイヤー ウィン	【第 4 回】 予習 ：教科書第 4 章を熟読し、不明点を確認しておいてください。 授業 ：学内ツアー、図書館の使い方（教科書 第 4 章 p.15-20）（フィールドワーク） 復習 ：各部署の名称・担当業務・位置を「学生生活ガイド」等で再確認してください。課題（感想・質問）を提出してください。
5	ゼイヤー ウィン	【第 5 回】 予習 ：教科書第 5 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：防犯セミナーの開催（共同授業） 復習 ：教科書第 5 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
6	ゼイヤー ウィン	【第 6 回】 予習 ：教科書第 6 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：講義の聞き方、メモ・ノートのとり方（教科書 第 6 章 pp.21-24）（実習） 復習 ：教科書第 6 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
7	ゼイヤー ウィン	【第 7 回】 予習 ：教科書第 7 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：論理的に考える、問いを立てる（教科書 第 7 章 pp.25-28） （ディスカッション） 復習 ：教科書第 7 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
8	ゼイヤー ウィン	【第 8 回】 予習 ：教科書第 8 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：レポートの書き方 1 ：レポートとは（教科書 第 8 章 pp.29-34） 復習 ：教科書第 8 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
9	ゼイヤー ウィン	【第 9 回】 予習 ：教科書第 9 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ： レポートの書き方 2：アウトライン（教科書 第 9 章 ｐｐ.35-40） 復習 ：教科書第 9 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
10	ゼイヤー ウィン	【第 10 回】 予習 ：教科書第 10 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：レポートの書き方 3：書式・引用 （教科書 第 10 章 ｐp.41-47） 復習 ：教科書第 10 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。

11	ゼイヤー ウィン	【第 11 回】 予習 ： 教科書第 11 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：レポートの書き方 4：レポートの意義 （教科書 第 11 章 pp.48-49） 復習 ：教科書第 11 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。またレポート課題未提出の方は完成させてください。
12	ゼイヤー ウィン	【第 12 回】 予習 ：教科書第 12 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：ミニレポートのふりかえり （教科書 第 12 章 p.50） 復習 ：教科書第 12 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
13	ゼイヤー ウィン	【第 13 回】 予習 ：教科書第 13 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：学術的文章に親しむ 1：本との出会い（教科書 第 13 章 pp.51-54）（ディスカッション） 復習 ：教科書第 13 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
14	ゼイヤー ウィン	【第 14 回】 予習 ：教科書第 14 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：学術的文章に親しむ 2：読書の意義（教科書 第 14 章 p.55）（ディスカッション） 復習 ：教科書第 14 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
15	ゼイヤー ウィン	【第 15 回】 予習 ：前期中の自分の“成長”を書き出してみてください。 授業 ：前期ふりかえり（教科書 第 15 章 p.56） 復習 ：前期の成果をふりかえりましょう。

授業開始前学習	教科書該当ページ（および事前配布資料）を熟読してください。
授業内課題のフィードバックの方法	提出された毎回の授業に関する質問などについては、次回授業の冒頭において適宜講評および説明を行います。
テキスト・教材	観光文化学部（編）『基礎ゼミⅠ』（駒沢女子大学教科書シリーズ）
参考書	授業を通じて適時紹介します。
評価の基準と方法	各回の課題（70%：授業の感想・質問等）および課題提出物（30%：ミニレポート・作文等）により総合的に評価します。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	◎	○				

関連科目	
その他	臨時に合同授業を実施する場合があります。防犯セミナーについては他学科との日程調整結果により実施回が変更になる場合があります。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	GJ-M-112 HR-M-112 PS-M-112 CT-L-112	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-21	授業コード	F00042
科目名称	基礎ｾﾞﾐⅠ			単位数	1.0 単位
英文名称	Freshmen Seminar Ⅰ			授業区分	演習
科目責任者	渡邉 光章			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	渡邉 光章			開講時期	1 年
オフィスアワー	前期 水曜日 16:20～17:50 金曜日 10:40～12:10 後期 水曜日 16:20～17:50 金曜日 10:40～12:10			研究室	10-501
授業概要	初年次の基礎科目として 4 年間の学びの原点となる内容です。大学生活の入り口に立った皆さんが次の課題を達成することを指導・支援します。1. 知性や教養の本質と大学で学ぶことの意義を理解し、自己の学修課題を見出す。2. 大学での学びに求められる基礎的なリテラシーと、他者との協働・コミュニケーションのスキルを深める。3. 充実した学生生活を送るための知識と基本的態度を身に付ける。発表やディスカッションなどを多く取り入れ積極的に授業に参加するマインドを養います。				
到達目標	・大学での学びについて理解し、学び取った基本的学修スキルを自分なりに用いることができる。 ・観光文化学部（観光文化学科）について理解し、その研究分野について自ら進んで学ぼうとすることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	渡邉 光章	【第 1 回】 予習 ：シラバス該当ページを熟読し、質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業 ：前期ガイダンス（教科書 第 1 章 pp.2-4）（発表） 復習 ：教科書第 1 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
2	渡邉 光章	【第 2 回】 予習 ：教科書第 2 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：大学での学び（教科書 第 2 章 pp.5-8） 復習 ：教科書第 2 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。また Web メールの「署名設定」「転送設定」「プロフィール管理」を実施してください
3	渡邉 光章	【第 3 回】 予習 ：教科書第 3 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：観光文化学部の学び（全体授業）（教科書 第 3 章 pp.9-14） 復習 ：教科書第 3 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
4	渡邉 光章	【第 4 回】 予習 ：教科書第 4 章を熟読し、不明点を確認しておいてください。 授業 ：学内ツアー、図書館の使い方（教科書 第 4 章 p.15-20）（フィールドワーク） 復習 ：各部署の名称・担当業務・位置を「学生生活ガイド」等で再確認してください。課題（感想・質問）を提出してください。
5	渡邉 光章	【第 5 回】 予習 ：教科書第 5 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：防犯セミナーの開催（共同授業） 復習 ：教科書第 5 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
6	渡邉 光章	【第 6 回】 予習 ：教科書第 6 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：講義の聞き方、メモ・ノートのとり方（教科書 第 6 章 pp.21-24）（実習） 復習 ：教科書第 6 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
7	渡邉 光章	【第 7 回】 予習 ：教科書第 7 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：論理的に考える、問いを立てる（教科書 第 7 章 pp.25-28） （ディスカッション） 復習 ：教科書第 7 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
8	渡邉 光章	【第 8 回】 予習 ：教科書第 8 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：レポートの書き方 1 ：レポートとは（教科書 第 8 章 pp.29-34） 復習 ：教科書第 8 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
9	渡邉 光章	【第 9 回】 予習 ：教科書第 9 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ： レポートの書き方 2 ：アウトライン（教科書 第 9 章 ｐｐ.35-40） 復習 ：教科書第 9 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。

10	渡邉　光章	【第 10 回】 予習　：教科書第 10 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業　：レポートの書き方 3：書式・引用　（教科書　第 10 章　pp.41-47） 復習　：教科書第 10 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
11	渡邉　光章	【第 11 回】 予習　：　教科書第 11 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業　：レポートの書き方 4：レポートの意義　（教科書　第 11 章　pp.48-49） 復習　：教科書第 11 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。またレポート課題未提出の方は完成させてください。
12	渡邉　光章	【第 12 回】 予習　：教科書第 12 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業　：ミニレポートのふりかえり　（教科書　第 12 章　p.50） 復習　：教科書第 12 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
13	渡邉　光章	【第 13 回】 予習　：教科書第 13 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業　：学術的文章に親しむ 1：本との出会い（教科書　第 13 章　pp.51-54）（ディスカッション） 復習　：教科書第 13 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
14	渡邉　光章	【第 14 回】 予習　：教科書第 14 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業　：学術的文章に親しむ 2：読書の意義（教科書　第 14 章　p.55）（ディスカッション） 復習　：教科書第 14 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
15	渡邉　光章	【第 15 回】 予習　：前期中の自分の“成長”を書き出してみてください。 授業　：前期ふりかえり（教科書　第 15 章　p.56） 復習　：前期の成果をふりかえりましょう。

授業開始前学習	教科書該当ページ（および事前配布資料）を熟読してください。
授業内課題のフィードバックの方法	提出された毎回の授業に関する質問などについては、次回授業の冒頭において適宜講評および説明を行います。
テキスト・教材	観光文化学部（編）『基礎ゼミⅠ』（駒沢女子大学教科書シリーズ）
参考書	授業を通じて適時紹介します。
評価の基準と方法	各回の課題（70%：授業の感想・質問等）および課題提出物（30%：ミニレポート・作文等）により総合的に評価します。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	◎	○				

関連科目	
その他	臨時に合同授業を実施する場合があります。防犯セミナーについては他学科との日程調整結果により実施回が変更になる場合があります。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	GJ-M-112 HR-M-112 PS-M-112 CT-L-112	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-21	授業コード	F00043
科目名称	基礎ｾﾞﾐⅠ			単位数	1.0 単位
英文名称	Freshmen Seminar Ⅰ			授業区分	演習
科目責任者	田代 真人			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田代 真人			開講時期	1 年
オフィスアワー	前期 火曜日 10:30～12:00 木曜日 10:30～12:00 後期 火曜日 10:30～12:00 木曜日 10:30～12:00			研究室	10-613
授業概要	初年次の基礎科目として 4 年間の学びの原点となる内容です。大学生活の入り口に立った皆さんが次の課題を達成することを指導・支援します。1. 知性や教養の本質と大学で学ぶことの意義を理解し、自己の学修課題を見出す。2. 大学での学びに求められる基礎的なリテラシーと、他者との協働・コミュニケーションのスキルを深める。3. 充実した学生生活を送るための知識と基本的態度を身に付ける。発表やディスカッションなどを多く取り入れ積極的に授業に参加するマインドを養います。				
到達目標	・大学での学びについて理解し、学び取った基本的学修スキルを自分なりに用いることができる。 ・観光文化学部（観光文化学科）について理解し、その研究分野について自ら進んで学ぼうとすることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	田代 真人	【第 1 回】 予習 ：シラバス該当ページを熟読し、質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業 ：前期ガイダンス（教科書 第 1 章 pp.2-4）（発表） 復習 ：教科書第 1 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
2	田代 真人	【第 2 回】 予習 ：教科書第 2 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：大学での学び（教科書 第 2 章 pp.5-8） 復習 ：教科書第 2 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。また Web メールの「署名設定」「転送設定」「プロフィール管理」を実施してください
3	田代 真人	【第 3 回】 予習 ：教科書第 3 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：観光文化学部の学び（全体授業）（教科書 第 3 章 pp.9-14） 復習 ：教科書第 3 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
4	田代 真人	【第 4 回】 予習 ：教科書第 4 章を熟読し、不明点を確認しておいてください。 授業 ：学内ツアー、図書館の使い方（教科書 第 4 章 p.15-20）（フィールドワーク） 復習 ：各部署の名称・担当業務・位置を「学生生活ガイド」等で再確認してください。課題（感想・質問）を提出してください。
5	田代 真人	【第 5 回】 予習 ：教科書第 5 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：防犯セミナーの開催（共同授業） 復習 ：教科書第 5 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
6	田代 真人	【第 6 回】 予習 ：教科書第 6 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：講義の聞き方、メモ・ノートのとり方（教科書 第 6 章 pp.21-24）（実習） 復習 ：教科書第 6 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
7	田代 真人	【第 7 回】 予習 ：教科書第 7 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：論理的に考える、問いを立てる（教科書 第 7 章 pp.25-28） （ディスカッション） 復習 ：教科書第 7 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
8	田代 真人	【第 8 回】 予習 ：教科書第 8 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：レポートの書き方 1 ：レポートとは（教科書 第 8 章 pp.29-34） 復習 ：教科書第 8 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
9	田代 真人	【第 9 回】 予習 ：教科書第 9 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ： レポートの書き方 2：アウトライン（教科書 第 9 章 pp.35-40） 復習 ：教科書第 9 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
10	田代 真人	【第 10 回】 予習 ：教科書第 10 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：レポートの書き方 3：書式・引用 （教科書 第 10 章 pp.41-47） 復習 ：教科書第 10 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。

11	田代　真人	【第 11 回】 予習　：　教科書第 11 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業　：レポートの書き方 4：レポートの意義　（教科書　第 11 章　pp.48-49） 復習　：教科書第 11 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。またレポート課題未提出の方は完成させてください。
12	田代　真人	【第 12 回】 予習　：教科書第 12 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業　：ミニレポートのふりかえり　（教科書　第 12 章　p.50） 復習　：教科書第 12 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
13	田代　真人	【第 13 回】 予習　：教科書第 13 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業　：学術的文章に親しむ 1：本との出会い（教科書　第 13 章　pp.51-54）（ディスカッション） 復習　：教科書第 13 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
14	田代　真人	【第 14 回】 予習　：教科書第 14 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業　：学術的文章に親しむ 2：読書の意義（教科書　第 14 章　p.55）（ディスカッション） 復習　：教科書第 14 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
15	田代　真人	【第 15 回】 予習　：前期中の自分の"成長"を書き出してみてください。 授業　：前期ふりかえり（教科書　第 15 章　p.56） 復習　：前期の成果をふりかえりましょう。

授業開始前学習	教科書該当ページ（および事前配布資料）を熟読してください。
授業内課題のフィードバックの方法	提出された毎回の授業に関する質問などについては、次回授業の冒頭において適宜講評および説明を行います。
テキスト・教材	観光文化学部（編）『基礎ゼミⅠ』（駒沢女子大学教科書シリーズ）
参考書	授業を通じて適時紹介します。
評価の基準と方法	各回の課題（70%：授業の感想・質問等）および課題提出物（30%：ミニレポート・作文等）により総合的に評価します。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	◎	○				

関連科目	
その他	臨時に合同授業を実施する場合があります。防犯セミナーについては他学科との日程調整結果により実施回が変更になる場合があります。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	GJ-M-112 HR-M-112 PS-M-112 CT-L-112	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-21	授業コード	F00044
科目名称	基礎ｾﾞﾐⅠ			単位数	1.0 単位
英文名称	Freshmen Seminar Ⅰ			授業区分	演習
科目責任者	薬師 英子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	薬師 英子			開講時期	1 年
オフィスアワー	前期 火曜日 10:00～13:00 後期 火曜日 10:00～13:00			研究室	10-55
授業概要	初年次の基礎科目として 4 年間の学びの原点となる内容です。大学生活の入り口に立った皆さんが次の課題を達成することを指導・支援します。1. 知性や教養の本質と大学で学ぶことの意義を理解し、自己の学修課題を見出す。2. 大学での学びに求められる基礎的なリテラシーと、他者との協働・コミュニケーションのスキルを深める。3. 充実した学生生活を送るための知識と基本的態度を身に付ける。発表やディスカッションなどを多く取り入れ積極的に授業に参加するマインドを養います。				
到達目標	・大学での学びについて理解し、学び取った基本的学修スキルを自分なりに用いることができる。 ・観光文化学部（観光文化学科）について理解し、その研究分野について自ら進んで学ぼうとすることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	薬師 英子	【第 1 回】 予習 ：シラバス該当ページを熟読し、質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業 ：前期ガイダンス（教科書 第 1 章 pp.2-4）（発表） 復習 ：教科書第 1 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
2	薬師 英子	【第 2 回】 予習 ：教科書第 2 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：大学での学び（教科書 第 2 章 pp.5-8） 復習 ：教科書第 2 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。また Web メールの「署名設定」「転送設定」「プロフィール管理」を実施してください
3	薬師 英子	【第 3 回】 予習 ：教科書第 3 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：観光文化学部の学び（全体授業）（教科書 第 3 章 pp.9-14） 復習 ：教科書第 3 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
4	薬師 英子	【第 4 回】 予習 ：教科書第 4 章を熟読し、不明点を確認しておいてください。 授業 ：学内ツアー、図書館の使い方（教科書 第 4 章 p.15-20）（フィールドワーク） 復習 ：各部署の名称・担当業務・位置を「学生生活ガイド」等で再確認してください。課題（感想・質問）を提出してください。
5	薬師 英子	【第 5 回】 予習 ：教科書第 5 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：防犯セミナーの開催（共同授業） 復習 ：教科書第 5 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
6	薬師 英子	【第 6 回】 予習 ：教科書第 6 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：講義の聞き方、メモ・ノートのとり方（教科書 第 6 章 pp.21-24）（実習） 復習 ：教科書第 6 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
7	薬師 英子	【第 7 回】 予習 ：教科書第 7 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：論理的に考える、問いを立てる（教科書 第 7 章 pp.25-28）（ディスカッション） 復習 ：教科書第 7 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
8	薬師 英子	【第 8 回】 予習 ：教科書第 8 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：レポートの書き方 1 ：レポートとは（教科書 第 8 章 pp.29-34） 復習 ：教科書第 8 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
9	薬師 英子	【第 9 回】 予習 ：教科書第 9 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ： レポートの書き方 2 ：アウトライン（教科書 第 9 章 ｐｐ.35-40） 復習 ：教科書第 9 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。

10	薬師　英子	【第 10 回】 予習　：教科書第 10 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業　：レポートの書き方 3：書式・引用　（教科書　第 10 章　p p.41-47） 復習　：教科書第 10 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
11	薬師　英子	【第 11 回】 予習　：　教科書第 11 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業　：レポートの書き方 4：レポートの意義　（教科書　第 11 章　pp.48-49） 復習　：教科書第 11 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。またレポート課題未提出の方は完成させてください。
12	薬師　英子	【第 12 回】 予習　：教科書第 12 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業　：ミニレポートのふりかえり　（教科書　第 12 章　p.50） 復習　：教科書第 12 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
13	薬師　英子	【第 13 回】 予習　：教科書第 13 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業　：学術的文章に親しむ 1：本との出会い（教科書　第 13 章　pp.51-54）（ディスカッション） 復習　：教科書第 13 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
14	薬師　英子	【第 14 回】 予習　：教科書第 14 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業　：学術的文章に親しむ 2：読書の意義（教科書　第 14 章　p.55）（ディスカッション） 復習　：教科書第 14 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
15	薬師　英子	【第 15 回】 予習　：前期中の自分の“成長”を書き出してみてください。 授業　：前期ふりかえり（教科書　第 15 章　p.56） 復習　：前期の成果をふりかえりましょう。

授業開始前学習	教科書該当ページ（および事前配布資料）を熟読してください。
授業内課題のフィードバックの方法	提出された毎回の授業に関する質問などについては、次回授業の冒頭において適宜講評および説明を行います。
テキスト・教材	観光文化学部（編）『基礎ゼミⅠ』（駒沢女子大学教科書シリーズ）
参考書	授業を通じて適時紹介します。
評価の基準と方法	各回の課題（70%：授業の感想・質問等）および課題提出物（30%：ミニレポート・作文等）により総合的に評価します。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	◎	○				

関連科目	
その他	臨時に合同授業を実施する場合があります。防犯セミナーについては他学科との日程調整結果により実施回が変更になる場合があります。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	100-110-21	授業コード	F00051
科目名称	基礎ｾﾞﾐⅠ			単位数	1.0 単位
英文名称	Freshmen Seminar Ⅰ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	橋本 衆宝			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	橋本 衆宝			開講時期	1 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～16:00 後期 火曜日 13:00～16:00			研究室	10-616
授業概要	初年次の基礎科目として 4 年間の学びの原点となる内容です。大学生活の入り口に立った皆さんが次の課題を達成することを指導・支援します。1. 知性や教養の本質と大学で学ぶことの意義を理解し、自己の学修課題を見出す。2. 大学での学びに求められる基礎的なリテラシーと、他者との協働・コミュニケーションのスキルを深める。3. 充実した学生生活を送るための知識と基本的態度を身に付ける。発表やディスカッションなどを多く取り入れ積極的に授業に参加するマインドを養います。				
到達目標	・大学での学びについて理解し、学び取った基本的学修スキルを自分なりに用いることができる。 ・2 年次に所属する学類（専攻）について理解し、その研究分野について自ら進んで学ぼうとすることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	橋本 衆宝	【第 1 回】 予習 ：シラバス該当ページを熟読し、質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業 ：前期ガイダンス（教科書 第 1 章 pp.2-4）（発表） 復習 ：教科書第 1 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
2	橋本 衆宝	【第 2 回】 予習 ：教科書第 2 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：大学での学び（教科書 第 2 章 pp.5-8） 復習 ：教科書第 2 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。また Web メールの「署名設定」「転送設定」「プロフィール管理」を実施してください
3	橋本 衆宝	【第 3 回】 予習 ：教科書第 3 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：人間総合学群の学び（全体授業）（教科書 第 3 章 pp.9-14） 復習 ：教科書第 3 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
4	橋本 衆宝	【第 4 回】 予習 ：教科書第 4 章を熟読し、不明点を確認しておいてください。 授業 ：学内ツアー（教科書 第 4 章 p.15）（フィールドワーク） 復習 ：各部署の名称・担当業務・位置を「学生生活ガイド」等で再確認してください。課題（感想・質問）を提出してください。
5	橋本 衆宝	【第 5 回】 予習 ：教科書第 5 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：図書館の使い方、文献・資料の探し方（教科書 第 5 章 pp.17-20）（フィールドワーク） 復習 ：教科書第 5 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
6	橋本 衆宝	【第 6 回】 予習 ：教科書第 6 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：講義の聞き方、メモ・ノートのとり方（教科書 第 6 章 pp.21-24）（実習） 復習 ：教科書第 6 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
7	橋本 衆宝	【第 7 回】 予習 ：教科書第 7 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：論理的に考える、問いを立てる（教科書 第 7 章 pp.25-28） （ディスカッション） 復習 ：教科書第 7 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
8	橋本 衆宝	【第 8 回】 予習 ：教科書第 8 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：レポートの書き方 1 ：レポートとは（教科書 第 8 章 pp.29-34） 復習 ：教科書第 8 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
9	橋本 衆宝	【第 9 回】 予習 ：教科書第 9 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ： レポートの書き方 2：アウトライン（教科書 第 9 章 ｐｐ.35-40） 復習 ：教科書第 9 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
10	橋本 衆宝	【第 10 回】 予習 ：教科書第 10 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：レポートの書き方 3：書式・引用 （教科書 第 10 章 ｐｐ.41-47） 復習 ：教科書第 10 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。

11	橋本　衆宝	【第 11 回】 予習　：　教科書第 11 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業　：レポートの書き方 4：レポートの意義　（教科書　第 11 章　pp.48-49） 復習　：教科書第 11 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。またレポート課題未提出の方は完成させてください。
12	橋本　衆宝	【第 12 回】 予習　：教科書第 12 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業　：ミニレポートのふりかえり　（教科書　第 12 章　p.50） 復習　：教科書第 12 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
13	橋本　衆宝	【第 13 回】 予習　：教科書第 13 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業　：学術的文章に親しむ 1：本との出会い（教科書　第 13 章　pp.51-54）（ディスカッション） 復習　：教科書第 13 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
14	橋本　衆宝	【第 14 回】 予習　：教科書第 14 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業　：学術的文章に親しむ 2：読書の意義（教科書　第 14 章　p.55）（ディスカッション） 復習　：教科書第 14 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
15	橋本　衆宝	【第 15 回】 予習　：前期中の自分の"成長"を書き出してみてください。 授業　：前期ふりかえり（教科書　第 15 章　p.56） 復習　：前期の成果をふりかえりましょう。

授業開始前学習	教科書該当ページ（および事前配布資料）を熟読してください。
授業内課題のフィードバックの方法	提出された毎回の授業に関する質問などについては、次回授業の冒頭において適宜講評および説明を行います。
テキスト・教材	人間総合学群編『基礎ゼミⅠ』（駒沢女子大学教科書シリーズ）
参考書	授業を通じて適時紹介します。
評価の基準と方法	各回の課題（70%：授業の感想・質問等）および課題提出物（30%：ミニレポート・作文等）により総合的に評価します。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	◎	○				

関連科目	
その他	臨時に合同授業を実施する場合があります。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	100-110-21	授業コード	F00054
科目名称	基礎ｾﾞﾐⅠ			単位数	1.0 単位
英文名称	Freshmen Seminar Ⅰ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	鈴木 利彦			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鈴木 利彦			開講時期	1 年
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～12:10 後期 火曜日 09:00～12:10			研究室	10-509
授業概要	初年次の基礎科目として 4 年間の学びの原点となる内容です。大学生活の入り口に立った皆さんが次の課題を達成することを指導・支援します。1. 知性や教養の本質と大学で学ぶことの意義を理解し、自己の学修課題を見出す。2. 大学での学びに求められる基礎的なリテラシーと、他者との協働・コミュニケーションのスキルを深める。3. 充実した学生生活を送るための知識と基本的態度を身に付ける。発表やディスカッションなどを多く取り入れ積極的に授業に参加するマインドを養います。				
到達目標	・大学での学びについて理解し、学び取った基本的学修スキルを自分なりに用いることができる。 ・2 年次に所属する学類（専攻）について理解し、その研究分野について自ら進んで学ぼうとすることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	鈴木 利彦	【第 1 回】 予習 ：シラバス該当ページを熟読し、質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業 ：前期ガイダンス（教科書 第 1 章 pp.2-4）（発表） 復習 ：教科書第 1 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
2	鈴木 利彦	【第 2 回】 予習 ：教科書第 2 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：大学での学び（教科書 第 2 章 pp.5-8） 復習 ：教科書第 2 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。また Web メールの「署名設定」「転送設定」「プロフィール管理」を実施してください
3	鈴木 利彦	【第 3 回】 予習 ：教科書第 3 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：人間総合学群の学び（全体授業）（教科書 第 3 章 pp.9-14） 復習 ：教科書第 3 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
4	鈴木 利彦	【第 4 回】 予習 ：教科書第 4 章を熟読し、不明点を確認しておいてください。 授業 ：学内ツアー（教科書 第 4 章 p.15）（フィールドワーク） 復習 ：各部署の名称・担当業務・位置を「学生生活ガイド」等で再確認してください。課題（感想・質問）を提出してください。
5	鈴木 利彦	【第 5 回】 予習 ：教科書第 5 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：図書館の使い方、文献・資料の探し方（教科書 第 5 章 pp.17-20）（フィールドワーク） 復習 ：教科書第 5 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
6	鈴木 利彦	【第 6 回】 予習 ：教科書第 6 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：講義の聞き方、メモ・ノートのとり方（教科書 第 6 章 pp.21-24）（実習） 復習 ：教科書第 6 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
7	鈴木 利彦	【第 7 回】 予習 ：教科書第 7 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：論理的に考える、問いを立てる（教科書 第 7 章 pp.25-28）（ディスカッション） 復習 ：教科書第 7 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
8	鈴木 利彦	【第 8 回】 予習 ：教科書第 8 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：レポートの書き方 1 ：レポートとは（教科書 第 8 章 pp.29-34） 復習 ：教科書第 8 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
9	鈴木 利彦	【第 9 回】 予習 ：教科書第 9 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ： レポートの書き方 2：アウトライン（教科書 第 9 章 pp.35-40） 復習 ：教科書第 9 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
10	鈴木 利彦	【第 10 回】 予習 ：教科書第 10 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：レポートの書き方 3：書式・引用 （教科書 第 10 章 pp.41-47） 復習 ：教科書第 10 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。

11	鈴木　利彦	【第 11 回】 予習　：　教科書第 11 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業　：レポートの書き方 4：レポートの意義　（教科書　第 11 章　pp.48-49） 復習　：教科書第 11 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。またレポート課題未提出の方は完成させてください。
12	鈴木　利彦	【第 12 回】 予習　：教科書第 12 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業　：ミニレポートのふりかえり　（教科書　第 12 章　p.50） 復習　：教科書第 12 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
13	鈴木　利彦	【第 13 回】 予習　：教科書第 13 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業　：学術的文章に親しむ 1：本との出会い（教科書　第 13 章　pp.51-54）（ディスカッション） 復習　：教科書第 13 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
14	鈴木　利彦	【第 14 回】 予習　：教科書第 14 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業　：学術的文章に親しむ 2：読書の意義（教科書　第 14 章　p.55）（ディスカッション） 復習　：教科書第 14 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
15	鈴木　利彦	【第 15 回】 予習　：前期中の自分の"成長"を書き出してみてください。 授業　：前期ふりかえり（教科書　第 15 章　p.56） 復習　：前期の成果をふりかえりましょう。

授業開始前学習	教科書該当ページ（および事前配布資料）を熟読してください。
授業内課題のフィードバックの方法	提出された毎回の授業に関する質問などについては、次回授業の冒頭において適宜講評および説明を行います。
テキスト・教材	人間総合学群編『基礎ゼミⅠ』（駒沢女子大学教科書シリーズ）
参考書	授業を通じて適時紹介します。
評価の基準と方法	各回の課題（70%：授業の感想・質問等）および課題提出物（30%：ミニレポート・作文等）により総合的に評価します。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	◎	○				

関連科目	
その他	臨時に合同授業を実施する場合があります。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	100-110-21	授業コード	F00052
科目名称	基礎ｾﾞﾐⅠ			単位数	1.0 単位
英文名称	Freshmen Seminar Ⅰ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	渡邉 光章			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	渡邉 光章			開講時期	1 年
オフィスアワー	前期 水曜日 16:20～17:50 金曜日 10:40～12:10 後期 水曜日 16:20～17:50 金曜日 10:40～12:10			研究室	10-501
授業概要	初年次の基礎科目として 4 年間の学びの原点となる内容です。大学生活の入り口に立った皆さんが次の課題を達成することを指導・支援します。1. 知性や教養の本質と大学で学ぶことの意義を理解し、自己の学修課題を見出す。2. 大学での学びに求められる基礎的なリテラシーと、他者との協働・コミュニケーションのスキルを深める。3. 充実した学生生活を送るための知識と基本的態度を身に付ける。発表やディスカッションなどを多く取り入れ積極的に授業に参加するマインドを養います。				
到達目標	・大学での学びについて理解し、学び取った基本的学修スキルを自分なりに用いることができる。 ・観光文化学部（観光文化学科）について理解し、その研究分野について自ら進んで学ぼうとすることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	渡邉 光章	【第 1 回】 予習 ：シラバス該当ページを熟読し、質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業 ：前期ガイダンス（教科書 第 1 章 pp.2-4）（発表） 復習 ：教科書第 1 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
2	渡邉 光章	【第 2 回】 予習 ：教科書第 2 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：大学での学び（教科書 第 2 章 pp.5-8） 復習 ：教科書第 2 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。また Web メールの「署名設定」「転送設定」「プロフィール管理」を実施してください
3	渡邉 光章	【第 3 回】 予習 ：教科書第 3 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：観光文化学部の学び（教科書 第 3 章 pp.9-14） 復習 ：教科書第 3 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
4	渡邉 光章	【第 4 回】 予習 ：教科書第 4 章を熟読し、不明点を確認しておいてください。 授業 ：学内ツアー、図書館の使い方（教科書 第 4 章 p.15-20）（フィールドワーク） 復習 ：各部署の名称・担当業務・位置を「学生生活ガイド」等で再確認してください。課題（感想・質問）を提出してください。
5	渡邉 光章	【第 5 回】 予習 ：教科書第 5 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：防犯セミナーの開催（共同授業） 復習 ：教科書第 5 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
6	渡邉 光章	【第 6 回】 予習 ：教科書第 6 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：講義の聞き方、メモ・ノートのとり方（教科書 第 6 章 pp.21-24）（実習） 復習 ：教科書第 6 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
7	渡邉 光章	【第 7 回】 予習 ：教科書第 7 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：論理的に考える、問いを立てる（教科書 第 7 章 pp.25-28） （ディスカッション） 復習 ：教科書第 7 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
8	渡邉 光章	【第 8 回】 予習 ：教科書第 8 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：レポートの書き方 1 ：レポートとは（教科書 第 8 章 pp.29-34） 復習 ：教科書第 8 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
9	渡邉 光章	【第 9 回】 予習 ：教科書第 9 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ： レポートの書き方 2：アウトライン（教科書 第 9 章 ｐｐ.35-40） 復習 ：教科書第 9 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
10	渡邉 光章	【第 10 回】 予習 ：教科書第 10 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業 ：レポートの書き方 3：書式・引用 （教科書 第 10 章 ｐｐ.41-47） 復習 ：教科書第 10 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。

11	渡邉　光章	【第 11 回】 予習　：　教科書第 11 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業　：レポートの書き方 4：レポートの意義　（教科書　第 11 章　pp.48-49） 復習　：教科書第 11 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。またレポート課題未提出の方は完成させてください。
12	渡邉　光章	【第 12 回】 予習　：教科書第 12 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業　：ミニレポートのふりかえり　（教科書　第 12 章　p.50） 復習　：教科書第 12 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
13	渡邉　光章	【第 13 回】 予習　：教科書第 13 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業　：学術的文章に親しむ 1：本との出会い（教科書　第 13 章　pp.51-54）（ディスカッション） 復習　：教科書第 13 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
14	渡邉　光章	【第 14 回】 予習　：教科書第 14 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業　：学術的文章に親しむ 2：読書の意義（教科書　第 14 章　p.55）（ディスカッション） 復習　：教科書第 14 章と授業ノートを再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
15	渡邉　光章	【第 15 回】 予習　：前期中の自分の"成長"を書き出してみてください。 授業　：前期ふりかえり（教科書　第 15 章　p.56） 復習　：前期の成果をふりかえりましょう。

授業開始前学習	教科書該当ページ（および事前配布資料）を熟読してください。
授業内課題のフィードバックの方法	提出された毎回の授業に関する質問などについては、次回授業の冒頭において適宜講評および説明を行います。
テキスト・教材	観光文化学部（編）『基礎ゼミⅠ』（駒沢女子大学教科書シリーズ）
参考書	授業を通じて適時紹介します。
評価の基準と方法	各回の課題（70%：授業の感想・質問等）および課題提出物（30%：ミニレポート・作文等）により総合的に評価します。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	◎	○				

関連科目	
その他	防犯セミナーについては他学部との日程調整結果により実施回が変更になる場合があります。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	GJ-M-112 HR-M-112 PS-M-112 CT-L-112	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-21	授業コード	F00071
科目名称	基礎ｾﾞﾐⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	Freshmen Seminar Ⅱ			授業区分	演習
科目責任者	榎本 環			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	榎本 環			開講時期	1 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 10:40～12:10			研究室	10-716
授業概要	「基礎ゼミⅠ」に続き、初年次の基礎科目として 4 年間の学びの原点となる内容です。皆さんが次の課題を達成することを指導・支援します。1. 知性や教養の本質と大学で学ぶことの意義を理解し、自己の学修課題を見出す。2. 大学での学びに求められる基礎的なリテラシーと、他者との協働・コミュニケーションのスキルを深める。3. 充実した学生生活を送るための知識と基本的態度を身に付ける。ディスカッションやグループワーク、プレゼンテーションなどに取り組んでもらいます。				
到達目標	・大学での学びについて理解し、学び取った基本的学修スキルを自分なりに用いることができる。 ・人間関係学科での学びついて理解し、その研究分野について自ら進んで学ぼうとすることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	榎本 環	【第 1 回】 予習：教科書第 1 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：後期ガイダンスと夏休みふりかえり（教科書 第 1 章）（ディスカッション） 復習：教科書第 1 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
2	榎本 環	【第 2 回】 予習：教科書第 2 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：ICT メディアの活用（教科書 第 2 章） 復習：教科書第 2 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
3	榎本 環	【第 3 回】 予習：教科書第 3 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：ディスカッション 1 ：準備（教科書 第 3 章）（ディスカッション） 復習：教科書第 3 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
4	榎本 環	【第 4 回】 予習：教科書第 4 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：ディスカッション 2 ：実施 1 （教科書 第 4 章）（ディスカッション） 復習：教科書第 4 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
5	榎本 環	【第 5 回】 予習：教科書第 5 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：ディスカッション 3 ：実施 2 （教科書 第 5 章）（ディスカッション） 復習：教科書第 5 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
6	榎本 環	【第 6 回】 予習：教科書第 6 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：文献の読み方（全体授業）（教科書 第 6 章） 復習：教科書第 6 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
7	榎本 環	【第 7 回】 予習：教科書第 7 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：文献の読み方 1（教科書 第 7 章） 復習：教科書第 7 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
8	榎本 環	【第 8 回】 予習：教科書第 8 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：文献の読み方 2（教科書 第 8 章） 復習：教科書第 8 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
9	榎本 環	【第 9 回】 予習：教科書第 9 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：文献の読み方 3（教科書 第 9 章） 復習：教科書第 9 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
10	榎本 環	【第 10 回】 予習：教科書第 10 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：プレゼンテーション 1：グループ・テーマの設定（教科書 第 10 章）（グループワーク） 復習：プレゼンテーションの準備を進めてください。教科書第 10 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。

11	榎本　環	【第 11 回】 予習：教科書第 11 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：プレゼンテーション 2：資料収集（教科書　第 11 章）（グループワーク） 復習：プレゼンテーションの準備を進めてください。教科書第 11 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
12	榎本　環	【第 12 回】 予習：教科書第 12 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：　プレゼンテーション 3：スライド等の作成（教科書　第 12 章）（グループワーク） 復習：プレゼンテーションの準備を進めてください。教科書第 12 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
13	榎本　環	【第 13 回】 予習：教科書第 13 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：プレゼンテーション 4 ：発表原稿の準備（教科書　第 13 章）（グループワーク・プレゼンテーション） 復習：プレゼンテーションの準備を進めてください。教科書第 13 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
14	榎本　環	【第 14 回】 予習：教科書第 14 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：プレゼンテーション発表（教科書　第 14 章）（プレゼンテーション） 復習：プレゼンテーションを振り返り、課題（感想・質問）を提出してください。
15	榎本　環	【第 15 回】 予習：1 年間の自分の“進化”“成長”を書き出してみてください。 授業：後期ふりかえり（教科書　第 15 章） 復習：教科書全体と授業ノートを再読してください。

授業開始前学習	教科書該当ページ（および事前配布資料）を熟読してください。
授業内課題のフィードバックの方法	提出された毎回の授業に関する質問などについては、次回授業の冒頭において適宜講評および説明を行います。
テキスト・教材	共創文化学部　人間関係学科編『基礎ゼミ II』（駒沢女子大学教科書シリーズ）
参考書	授業を通じて随時紹介します。
評価の基準と方法	各回の課題（70％：授業の感想・質問等）および課題提出物（30％：プレゼンテーション資料・作文等）により総合的に評価します。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	◎	○				

関連科目	
その他	臨時に合同授業を実施する場合があります。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	GJ-M-112 HR-M-112 PS-M-112 CT-L-112	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-21	授業コード	F00072
科目名称	基礎ｾﾞﾐⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	Freshmen Seminar Ⅱ			授業区分	演習
科目責任者	倉住 友恵			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	倉住 友恵			開講時期	1 年
オフィスアワー	前期 月曜日 10:40～12:10 金曜日 16:20～17:50 後期 月曜日 10:40～12:10 金曜日 16:20～17:50			研究室	10-618
授業概要	「基礎ゼミⅠ」に続き、初年次の基礎科目として 4 年間の学びの原点となる内容です。皆さんが次の課題を達成することを指導・支援します。1. 知性や教養の本質と大学で学ぶことの意義を理解し、自己の学修課題を見出す。2. 大学での学びに求められる基礎的なリテラシーと、他者との協働・コミュニケーションのスキルを深める。3. 充実した学生生活を送るための知識と基本的態度を身に付ける。ディスカッションやグループワーク、プレゼンテーションなどに取り組んでもらいます。				
到達目標	・大学での学びについて理解し、学び取った基本的学修スキルを自分なりに用いることができる。 ・人間関係学科での学びついて理解し、その研究分野について自ら進んで学ぼうとすることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	倉住 友恵	【第 1 回】 予習：教科書第 1 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：後期ガイダンスと夏休みふりかえり（教科書 第 1 章）（ディスカッション） 復習：教科書第 1 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
2	倉住 友恵	【第 2 回】 予習：教科書第 2 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：ICT メディアの活用（教科書 第 2 章） 復習：教科書第 2 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
3	倉住 友恵	【第 3 回】 予習：教科書第 3 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：ディスカッション 1 ：準備（教科書 第 3 章）（ディスカッション） 復習：教科書第 3 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
4	倉住 友恵	【第 4 回】 予習：教科書第 4 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：ディスカッション 2 ：実施 1（教科書 第 4 章）（ディスカッション） 復習：教科書第 4 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
5	倉住 友恵	【第 5 回】 予習：教科書第 5 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：ディスカッション 3 ：実施 2（教科書 第 5 章）（ディスカッション） 復習：教科書第 5 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
6	倉住 友恵	【第 6 回】 予習：教科書第 6 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：文献の読み方（全体授業）（教科書 第 6 章） 復習：教科書第 6 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
7	倉住 友恵	【第 7 回】 予習：教科書第 7 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：文献の読み方 1（教科書 第 7 章） 復習：教科書第 7 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
8	倉住 友恵	【第 8 回】 予習：教科書第 8 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：文献の読み方 2（教科書 第 8 章） 復習：教科書第 8 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
9	倉住 友恵	【第 9 回】 予習：教科書第 9 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：文献の読み方 3（教科書 第 9 章） 復習：教科書第 9 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
10	倉住 友恵	【第 10 回】 予習：教科書第 10 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：プレゼンテーション 1：グループ・テーマの設定（教科書 第 10 章）（グループワーク） 復習：プレゼンテーションの準備を進めてください。教科書第 10 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。

11	倉住　友恵	【第 11 回】 予習：教科書第 11 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：プレゼンテーション 2：資料収集（教科書　第 11 章）（グループワーク） 復習：プレゼンテーションの準備を進めてください。教科書第 11 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
12	倉住　友恵	【第 12 回】 予習：教科書第 12 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：　プレゼンテーション 3：スライド等の作成（教科書　第 12 章）（グループワーク） 復習：プレゼンテーションの準備を進めてください。教科書第 12 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
13	倉住　友恵	【第 13 回】 予習：教科書第 13 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：プレゼンテーション 4 ：発表原稿の準備（教科書　第 13 章）（グループワーク・プレゼンテーション） 復習：プレゼンテーションの準備を進めてください。教科書第 13 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
14	倉住　友恵	【第 14 回】 予習：教科書第 14 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：プレゼンテーション発表（教科書　第 14 章）（プレゼンテーション） 復習：プレゼンテーションを振り返り、課題（感想・質問）を提出してください。
15	倉住　友恵	【第 15 回】 予習：1 年間の自分の“進化”“成長”を書き出してみてください。 授業：後期ふりかえり（教科書　第 15 章） 復習：教科書全体と授業ノートを再読してください。

授業開始前学習	教科書該当ページ（および事前配布資料）を熟読してください。
授業内課題のフィードバックの方法	提出された毎回の授業に関する質問などについては、次回授業の冒頭において適宜講評および説明を行います。
テキスト・教材	共創文化学部　人間関係学科編『基礎ゼミ II』（駒沢女子大学教科書シリーズ）
参考書	授業を通じて随時紹介します。
評価の基準と方法	各回の課題（70%：授業の感想・質問等）および課題提出物（30%：プレゼンテーション資料・作文等）により総合的に評価します。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	◎	○				

関連科目	
その他	臨時に合同授業を実施する場合があります。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	GJ-M-112 HR-M-112 PS-M-112 CT-L-112	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-21	授業コード	F00073
科目名称	基礎ｾﾞﾐⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	Freshmen Seminar Ⅱ			授業区分	演習
科目責任者	小菅 清香			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小菅 清香			開講時期	1 年
オフィスアワー	前期 水曜日 14:40～16:10 金曜日 14:40～16:10 後期 水曜日 14:40～17:50			研究室	10-503
授業概要	「基礎ゼミⅠ」に続き、初年次の基礎科目として 4 年間の学びの原点となる内容です。皆さんが次の課題を達成することを指導・支援します。1. 知性や教養の本質と大学で学ぶことの意義を理解し、自己の学修課題を見出す。2. 大学での学びに求められる基礎的なリテラシーと、他者との協働・コミュニケーションのスキルを深める。3. 充実した学生生活を送るための知識と基本的態度を身に付ける。ディスカッションやグループワーク、プレゼンテーションなどに取り組んでもらいます。				
到達目標	・大学での学びについて理解し、学び取った基本的学修スキルを自分なりに用いることができる。 ・人間関係学科での学びついて理解し、その研究分野について自ら進んで学ぼうとすることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	小菅 清香	【第 1 回】 予習：教科書第 1 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：後期ガイダンスと夏休みふりかえり（教科書 第 1 章）（ディスカッション） 復習：教科書第 1 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
2	小菅 清香	【第 2 回】 予習：教科書第 2 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：ICT メディアの活用（教科書 第 2 章） 復習：教科書第 2 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
3	小菅 清香	【第 3 回】 予習：教科書第 3 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：ディスカッション 1 ：準備（教科書 第 3 章）（ディスカッション） 復習：教科書第 3 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
4	小菅 清香	【第 4 回】 予習：教科書第 4 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：ディスカッション 2 ：実施 1（教科書 第 4 章）（ディスカッション） 復習：教科書第 4 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
5	小菅 清香	【第 5 回】 予習：教科書第 5 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：ディスカッション 3 ：実施 2（教科書 第 5 章）（ディスカッション） 復習：教科書第 5 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
6	小菅 清香	【第 6 回】 予習：教科書第 6 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：文献の読み方（全体授業）（教科書 第 6 章） 復習：教科書第 6 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
7	小菅 清香	【第 7 回】 予習：教科書第 7 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：文献の読み方 1（教科書 第 7 章） 復習：教科書第 7 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
8	小菅 清香	【第 8 回】 予習：教科書第 8 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：文献の読み方 2（教科書 第 8 章） 復習：教科書第 8 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
9	小菅 清香	【第 9 回】 予習：教科書第 9 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：文献の読み方 3（教科書 第 9 章） 復習：教科書第 9 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
10	小菅 清香	【第 10 回】 予習：教科書第 10 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：プレゼンテーション 1：グループ・テーマの設定（教科書 第 10 章）（グループワーク） 復習：プレゼンテーションの準備を進めてください。教科書第 10 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。

11	小菅　清香	【第 11 回】 予習：教科書第 11 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：プレゼンテーション 2：資料収集（教科書　第 11 章）（グループワーク） 復習：プレゼンテーションの準備を進めてください。教科書第 11 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
12	小菅　清香	【第 12 回】 予習：教科書第 12 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：　プレゼンテーション 3：スライド等の作成（教科書　第 12 章）（グループワーク） 復習：プレゼンテーションの準備を進めてください。教科書第 12 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
13	小菅　清香	【第 13 回】 予習：教科書第 13 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：プレゼンテーション 4 ：発表原稿の準備（教科書　第 13 章）（グループワーク・プレゼンテーション） 復習：プレゼンテーションの準備を進めてください。教科書第 13 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
14	小菅　清香	【第 14 回】 予習：教科書第 14 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：プレゼンテーション発表（教科書　第 14 章）（プレゼンテーション） 復習：プレゼンテーションを振り返り、課題（感想・質問）を提出してください。
15	小菅　清香	【第 15 回】 予習：1 年間の自分の"進化""成長"を書き出してみてください。 授業：後期ふりかえり（教科書　第 15 章） 復習：教科書全体と授業ノートを再読してください。

授業開始前学習	教科書該当ページ（および事前配布資料）を熟読してください。
授業内課題のフィードバックの方法	提出された毎回の授業に関する質問などについては、次回授業の冒頭において適宜講評および説明を行います。
テキスト・教材	共創文化学部　人間関係学科編『基礎ゼミ II』（駒沢女子大学教科書シリーズ）
参考書	授業を通じて随時紹介します。
評価の基準と方法	各回の課題（70%：授業の感想・質問等）および課題提出物（30%：プレゼンテーション資料・作文等）により総合的に評価します。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	◎	○				

関連科目	
その他	臨時に合同授業を実施する場合があります。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	GJ-M-112 HR-M-112 PS-M-112 CT-L-112	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-21	授業コード	F00081
科目名称	基礎ｾﾞﾐⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	Freshmen Seminar Ⅱ			授業区分	演習
科目責任者	明田川 紀彦			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	明田川 紀彦			開講時期	1 年
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～12:10 水曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 09:00～12:10 水曜日 13:00～14:30			研究室	10-707
授業概要	「基礎ゼミⅠ」に引き続き、少人数の対話型議論を通じて、大学での主体的・協働的な学びに関わる方法・技術・姿勢を培うことを目指します。さらに、特にキャリア形成能力の育成を目指し、キャリア形成に関する基本的な知識の習得や、さまざまな先達の歩みに関する学びを通じて、自身のキャリアについて自律的に設計することを促します。				
到達目標	大学生として、大学の学びについて理解し、学んだ学修スキルをさまざまな科目や今後の大学生活に活かすことができるようになる				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	明田川 紀彦	【第 1 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料確認しておく 授業：ガイダンス（成績について・専門の授業の履修について） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
2	明田川 紀彦	【第 2 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：ガイダンス（ICT と大学の学び・映像表現と心理） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
3	明田川 紀彦	【第 3 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：心理学の学び③（～学生生活と学校～） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
4	明田川 紀彦	【第 4 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：ガイダンス（大学生メイクのこころえ） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
5	明田川 紀彦	【第 5 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：テーマ決め（テレビ番組と心理表現）（グループディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
6	明田川 紀彦	【第 6 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：テーマ決め（文献の読み方①）（グループディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
7	明田川 紀彦	【第 7 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：研究活動（文献の読み方②）（グループディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
8	明田川 紀彦	【第 8 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：研究活動（文献の読み方③）（グループディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
9	明田川 紀彦	【第 9 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：心理学の学び④（～組織とハラスメント～） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
10	明田川 紀彦	【第 10 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：発表準備（プレゼンテーションの方法①）（グループディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる

11	明田川　紀彦	【第 11 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：発表準備（プレゼンテーションの方法②）（グループディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
12	明田川　紀彦	【第 12 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：発表準備（プレゼンテーションの方法③）（グループディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
13	明田川　紀彦	【第 13 回】 予習：各グループで発表内容を調整する 授業：発表 復習：発表内容をコメント用紙にまとめる
14	明田川　紀彦	【第 14 回】 予習：各グループで発表内容を調整する 授業：発表 復習：発表内容をコメント用紙にまとめる
15	明田川　紀彦	【第 15 回】 予習：この半期の授業内容を振り返っておく 授業：１年間のふりかえり（期末レポートの説明） 復習：期末レポート作成に向け、発表内容を含めまとめる

授業開始前学習	「基礎ゼミⅠ」を振り返っておく
授業内課題のフィードバックの方法	授業に関する質問などについては、次回の授業において適宜講評および説明する
テキスト・教材	GWE（Google Workspace for Education）のクラスルームに掲載する
参考書	適時紹介する
評価の基準と方法	課題点６０％（レポートおよび提出物）および平常点４０％（発表を含む）により総合的に評価する
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	◎	○				

関連科目	基礎ゼミⅠ、心理学概論Ⅰ、心理学概論Ⅱ
その他	ガイダンスや心理学の学びにおいて合同授業を実施する
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	GJ-M-112 HR-M-112 PS-M-112 CT-L-112	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-21	授業コード	F00082
科目名称	基礎ｾﾞﾐⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	Freshmen Seminar Ⅱ			授業区分	演習
科目責任者	奥野 真之			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	奥野 真之			開講時期	1 年
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10 後期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10			研究室	10-713
授業概要	「基礎ゼミⅠ」に引き続き、少人数の対話型議論を通じて、大学での主体的・協働的な学びに関わる方法・技術・姿勢を培うことを目指します。さらに、特にキャリア形成能力の育成を目指し、キャリア形成に関する基本的な知識の習得や、さまざまな先達の歩みに関する学びを通じて、自身のキャリアについて自律的に設計することを促します。				
到達目標	大学生として、大学の学びについて理解し、学んだ学修スキルをさまざまな科目や今後の大学生活に活かすことができるようになる				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	奥野 真之	【第 1 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料確認しておく 授業：ガイダンス（成績について・専門の授業の履修について） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
2	奥野 真之	【第 2 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：ガイダンス（ICT と大学の学び・映像表現と心理） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
3	奥野 真之	【第 3 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：心理学の学び③（～学生生活と学校～） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
4	奥野 真之	【第 4 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：ガイダンス（大学生メイクのこころえ） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
5	奥野 真之	【第 5 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：テーマ決め（テレビ番組と心理表現）（グループディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
6	奥野 真之	【第 6 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：テーマ決め（文献の読み方①）（グループディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
7	奥野 真之	【第 7 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：研究活動（文献の読み方②）（グループディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
8	奥野 真之	【第 8 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：研究活動（文献の読み方③）（グループディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
9	奥野 真之	【第 9 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：心理学の学び④（～組織とハラスメント～） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
10	奥野 真之	【第 10 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：発表準備（プレゼンテーションの方法①）（グループディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる

11	奥野　真之	【第 11 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：発表準備（プレゼンテーションの方法②）（グループディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
12	奥野　真之	【第 12 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：発表準備（プレゼンテーションの方法③）（グループディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
13	奥野　真之	【第 13 回】 予習：各グループで発表内容を調整する 授業：発表 復習：発表内容をコメント用紙にまとめる
14	奥野　真之	【第 14 回】 予習：各グループで発表内容を調整する 授業：発表 復習：発表内容をコメント用紙にまとめる
15	奥野　真之	【第 15 回】 予習：この半期の授業内容を振り返っておく 授業：１年間のふりかえり（期末レポートの説明） 復習：期末レポート作成に向け、発表内容を含めまとめる

授業開始前学習	「基礎ゼミⅠ」を振り返っておく
授業内課題のフィードバックの方法	授業に関する質問などについては、次回の授業において適宜講評および説明する
テキスト・教材	GWE（Google Workspace for Education）のクラスルームに掲載する
参考書	適時紹介する
評価の基準と方法	課題点６０％（レポートおよび提出物）および平常点４０％（発表を含む）により総合的に評価する
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	◎	○				

関連科目	基礎ゼミⅠ、心理学概論Ⅰ、心理学概論Ⅱ
その他	ガイダンスや心理学の学びにおいて合同授業を実施する
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	GJ-M-112 HR-M-112 PS-M-112 CT-L-112	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-21	授業コード	F00083
科目名称	基礎ｾﾞﾐⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	Freshmen Seminar Ⅱ			授業区分	演習
科目責任者	米金　孝雄			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	米金　孝雄			開講時期	1 年
オフィスアワー	前期　水曜日 10:10～10:40　木曜日 10:30～13:00 後期　水曜日 10:00~10:40～12:10~13:00　木曜日 10:00～10:40～12:10～13:00			研究室	10-711
授業概要	「基礎ゼミⅠ」に引き続き、少人数の対話型議論を通じて、大学での主体的・協働的な学びに関わる方法・技術・姿勢を培うことを目指します。さらに、特にキャリア形成能力の育成を目指し、キャリア形成に関する基本的な知識の習得や、さまざまな先達の歩みに関する学びを通じて、自身のキャリアについて自律的に設計することを促します。				
到達目標	大学生として、大学の学びについて理解し、学んだ学修スキルをさまざまな科目や今後の大学生活に活かすことができるようになる				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	米金　孝雄	【第 1 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料確認しておく 授業：ガイダンス（成績について・専門の授業の履修について） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
2	米金　孝雄	【第 2 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：ガイダンス（ICT と大学の学び・映像表現と心理） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
3	米金　孝雄	【第 3 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：心理学の学び③（～学生生活と学校～） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
4	米金　孝雄	【第 4 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：ガイダンス（大学生メイクのこころえ） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
5	米金　孝雄	【第 5 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：テーマ決め（テレビ番組と心理表現）（グループディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
6	米金　孝雄	【第 6 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：テーマ決め（文献の読み方①）（グループディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
7	米金　孝雄	【第 7 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：研究活動（文献の読み方②）（グループディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
8	米金　孝雄	【第 8 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：研究活動（文献の読み方③）（グループディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
9	米金　孝雄	【第 9 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：心理学の学び④（～組織とハラスメント～） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
10	米金　孝雄	【第 10 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：発表準備（プレゼンテーションの方法①）（グループディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる

11	米金　孝雄	【第 11 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：発表準備（プレゼンテーションの方法②）（グループディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
12	米金　孝雄	【第 12 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：発表準備（プレゼンテーションの方法③）（グループディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
13	米金　孝雄	【第 13 回】 予習：各グループで発表内容を調整する 授業：発表 復習：発表内容をコメント用紙にまとめる
14	米金　孝雄	【第 14 回】 予習：各グループで発表内容を調整する 授業：発表 復習：発表内容をコメント用紙にまとめる
15	米金　孝雄	【第 15 回】 予習：この半期の授業内容を振り返っておく 授業：１年間のふりかえり（期末レポートの説明） 復習：期末レポート作成に向け、発表内容を含めまとめる

授業開始前学習	「基礎ゼミⅠ」を振り返っておく
授業内課題のフィードバックの方法	授業に関する質問などについては、次回の授業において適宜講評および説明する
テキスト・教材	GWE（Google Workspace for Education）のクラスルームに掲載する
参考書	適時紹介する
評価の基準と方法	課題点６０％（レポートおよび提出物）および平常点４０％（発表を含む）により総合的に評価する
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	◎	○				

関連科目	基礎ゼミⅠ、心理学概論Ⅰ、心理学概論Ⅱ
その他	ガイダンスや心理学の学びにおいて合同授業を実施する
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	GJ-M-112 HR-M-112 PS-M-112 CT-L-112	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-21	授業コード	F00091
科目名称	基礎ｾﾞﾐⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	Freshmen Seminar Ⅱ			授業区分	演習
科目責任者	ゼイヤー ウィン			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	ゼイヤー ウィン			開講時期	1 年
オフィスアワー	前期 月曜日 10:40～12:10 水曜日 10:40～12:10 後期 水曜日 10:40～12:10 木曜日 10:40～12:10			研究室	10-604
授業概要	「基礎ゼミⅠ」に続き、初年次の基礎科目として 4 年間の学びの原点となる内容です。皆さんが次の課題を達成することを指導・支援します。1. 知性や教養の本質と大学で学ぶことの意義を理解し、自己の学修課題を見出す。2. 大学での学びに求められる基礎的なリテラシーと、他者との協働・コミュニケーションのスキルを深める。3. 充実した学生生活を送るための知識と基本的態度を身に付ける。ディスカッションやグループワーク、プレゼンテーションなどに取り組んでもらいます。				
到達目標	・大学での学びについて理解し、学び取った基本的学修スキルを自分なりに用いることができる。 ・観光文化学部（観光文化学科）について理解し、その研究分野について自ら進んで学ぼうとすることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	ゼイヤー ウィン	【第 1 回】 予習：教科書第 1 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：後期ガイダンス（教科書 第 1 章 pp.1 ）（ディスカッション） 復習：教科書第 1 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
2	ゼイヤー ウィン	【第 2 回】 予習：教科書第 2 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：ICT メディアの活用（教科書 第 2 章 pp.2-7） 復習：教科書第 2 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
3	ゼイヤー ウィン	【第 3 回】 予習：教科書第 3 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：ディスカッション 1 ：準備（教科書 第 3 章 pp.8-11）（ディスカッション） 復習：教科書第 3 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
4	ゼイヤー ウィン	【第 4 回】 予習：教科書第 4 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：ディスカッション 2 ：実施 1 （教科書 第 4 章 p.12-15）（ディスカッション） 復習：教科書第 4 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
5	ゼイヤー ウィン	【第 5 回】 予習：教科書第 5 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：ディスカッション 3 ：実施 2 （教科書 第 5 章 p.16）（ディスカッション） 復習：教科書第 5 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
6	ゼイヤー ウィン	【第 6 回】 予習：教科書第 6 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：メイクアップセミナーの開催（共同授業） 復習：教科書第 6 章およびガンダンス資料を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
7	ゼイヤー ウィン	【第 7 回】 予習：教科書第 7 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：文献の読み方 1（教科書 第 7 章 pp.18-24） 復習：教科書第 7 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
8	ゼイヤー ウィン	【第 8 回】 予習：教科書第 8 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：文献の読み方 2（教科書 第 8 章 pp.25-28） 復習：教科書第 8 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
9	ゼイヤー ウィン	【第 9 回】 予習：教科書第 9 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：文献の読み方 3（教科書 第 9 章 pp.29-30） 復習：教科書第 9 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
10	ゼイヤー ウィン	【第 10 回】 予習：教科書第 10 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：プレゼンテーション 1：グループ・テーマの設定（教科書 第 10 章 pp.31-41）（グループワーク） 復習：プレゼンテーションの準備を進めてください。教科書第 10 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。

11	ゼイヤー ウィン	【第 11 回】 予習：教科書第 11 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：プレゼンテーション 2：資料収集（教科書 第 11 章 pp.42）（グループワーク） 復習：プレゼンテーションの準備を進めてください。教科書第 11 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
12	ゼイヤー ウィン	【第 12 回】 予習：教科書第 12 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業： プレゼンテーション 3：スライド等の作成（教科書 第 12 章 pp.43-48）（グループワーク） 復習：プレゼンテーションの準備を進めてください。教科書第 12 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
13	ゼイヤー ウィン	【第 13 回】 予習：教科書第 13 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：プレゼンテーション 4 ：発表原稿の準備（教科書 第 13 章 pp.49-52）（グループワーク・プレゼンテーション） 復習：プレゼンテーションの準備を進めてください。教科書第 13 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
14	ゼイヤー ウィン	【第 14 回】 予習：教科書第 14 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：プレゼンテーション発表（教科書 第 14 章 pp.53-54）（プレゼンテーション） 復習：プレゼンテーションを振り返り、課題（感想・質問）を提出してください。
15	ゼイヤー ウィン	【第 15 回】 予習：1 年間の自分の“進化”“成長”を書き出してみてください。 授業：後期ふりかえり（教科書 第 15 章 p.55） 復習：教科書全体と授業ノートを再読してください。

授業開始前学習	教科書該当ページ（および事前配布資料）を熟読してください。
授業内課題のフィードバックの方法	提出された毎回の授業に関する質問などについては、次回授業の冒頭において適宜講評および説明を行います。
テキスト・教材	観光文化学部（編）『基礎ゼミ II』（駒沢女子大学教科書シリーズ）
参考書	授業を通じて随時紹介します。
評価の基準と方法	各回の課題（70%：授業の感想・質問等）および課題提出物（30%：プレゼンテーション資料・作文等）により総合的に評価します。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	◎	○				

関連科目	
その他	臨時に合同授業を実施する場合があります。メイクアップセミナーについては他学科との日程調整結果により実施回が変更になる場合があります。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	GJ-M-112 HR-M-112 PS-M-112 CT-L-112	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-21	授業コード	F00092
科目名称	基礎ｾﾞﾐⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	Freshmen Seminar Ⅱ			授業区分	演習
科目責任者	渡邉　光章			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	渡邉　光章			開講時期	1 年
オフィスアワー	前期　水曜日 16:20～17:50　金曜日 10:40～12:10 後期　水曜日 16:20～17:50　金曜日 10:40～12:10			研究室	10-501
授業概要	「基礎ゼミⅠ」に続き、初年次の基礎科目として 4 年間の学びの原点となる内容です。皆さんが次の課題を達成することを指導・支援します。1．知性や教養の本質と大学で学ぶことの意義を理解し、自己の学修課題を見出す。2．大学での学びに求められる基礎的なリテラシーと、他者との協働・コミュニケーションのスキルを深める。3．充実した学生生活を送るための知識と基本的態度を身に付ける。ディスカッションやグループワーク、プレゼンテーションなどに取り組んでもらいます。				
到達目標	・大学での学びについて理解し、学び取った基本的学修スキルを自分なりに用いることができる。 ・観光文化学部（観光文化学科）について理解し、その研究分野について自ら進んで学ぼうとすることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	渡邉　光章	【第 1 回】 予習：教科書第 1 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：後期ガイダンス（教科書 第 1 章 pp.1 ）（ディスカッション） 復習：教科書第 1 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
2	渡邉　光章	【第 2 回】 予習：教科書第 2 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：ICT メディアの活用（教科書 第 2 章 pp.2-7） 復習：教科書第 2 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
3	渡邉　光章	【第 3 回】 予習：教科書第 3 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：ディスカッション 1 ：準備（教科書 第 3 章 pp.8-11）（ディスカッション） 復習：教科書第 3 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
4	渡邉　光章	【第 4 回】 予習：教科書第 4 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：ディスカッション 2 ：実施 1（教科書 第 4 章 p.12-15）（ディスカッション） 復習：教科書第 4 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
5	渡邉　光章	【第 5 回】 予習：教科書第 5 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：ディスカッション　3 ：実施 2（教科書 第 5 章 p.16）（ディスカッション） 復習：教科書第 5 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
6	渡邉　光章	【第 6 回】 予習：教科書第 6 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：メイクアップセミナーの開催（共同授業） 復習：教科書第 6 章およびガンダンス資料を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
7	渡邉　光章	【第 7 回】 予習：教科書第 7 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：文献の読み方 1（教科書 第 7 章 pp.18-24） 復習：教科書第 7 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
8	渡邉　光章	【第 8 回】 予習：教科書第 8 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：文献の読み方 2（教科書 第 8 章 pp.25-28） 復習：教科書第 8 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
9	渡邉　光章	【第 9 回】 予習：教科書第 9 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：文献の読み方 3（教科書 第 9 章 pp.29-30） 復習：教科書第 9 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
10	渡邉　光章	【第 10 回】 予習：教科書第 10 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：プレゼンテーション 1：グループ・テーマの設定（教科書 第 10 章 pp.31-41）（グループワーク） 復習：プレゼンテーションの準備を進めてください。教科書第 10 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。

11	渡邉　光章	【第 11 回】 予習：教科書第 11 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：プレゼンテーション 2：資料収集（教科書　第 11 章　pp.42）（グループワーク） 復習：プレゼンテーションの準備を進めてください。教科書第 11 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
12	渡邉　光章	【第 12 回】 予習：教科書第 12 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：　プレゼンテーション 3：スライド等の作成（教科書　第 12 章　pp.43-48）（グループワーク） 復習：プレゼンテーションの準備を進めてください。教科書第 12 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
13	渡邉　光章	【第 13 回】 予習：教科書第 13 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：プレゼンテーション 4：発表原稿の準備（教科書　第 13 章　pp.49-52）（グループワーク・プレゼンテーション） 復習：プレゼンテーションの準備を進めてください。教科書第 13 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
14	渡邉　光章	【第 14 回】 予習：教科書第 14 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：プレゼンテーション発表（教科書　第 14 章　pp.53-54）（プレゼンテーション） 復習：プレゼンテーションを振り返り、課題（感想・質問）を提出してください。
15	渡邉　光章	【第 15 回】 予習：1 年間の自分の"進化""成長"を書き出してみてください。 授業：後期ふりかえり（教科書　第 15 章　p.55） 復習：教科書全体と授業ノートを再読してください。

授業開始前学習	教科書該当ページ（および事前配布資料）を熟読してください。
授業内課題のフィードバックの方法	提出された毎回の授業に関する質問などについては、次回授業の冒頭において適宜講評および説明を行います。
テキスト・教材	観光文化学部（編）『基礎ゼミ II』（駒沢女子大学教科書シリーズ）
参考書	授業を通じて随時紹介します。
評価の基準と方法	各回の課題（70%：授業の感想・質問等）および課題提出物（30%：プレゼンテーション資料・作文等）により総合的に評価します。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	◎	○				

関連科目	
その他	臨時に合同授業を実施する場合があります。メイクアップセミナーについては他学科との日程調整結果により実施回が変更になる場合があります。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	GJ-M-112 HR-M-112 PS-M-112 CT-L-112	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-21	授業コード	F00093
科目名称	基礎ｾﾞﾐⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	Freshmen Seminar Ⅱ			授業区分	演習
科目責任者	田代　真人			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田代　真人			開講時期	1 年
オフィスアワー	前期　火曜日 10:30～12:00　木曜日 10:30～12:00 後期　火曜日 10:30～12:00　木曜日 10:30～12:00			研究室	10-613
授業概要	「基礎ゼミⅠ」に続き、初年次の基礎科目として 4 年間の学びの原点となる内容です。皆さんが次の課題を達成することを指導・支援します。1．知性や教養の本質と大学で学ぶことの意義を理解し、自己の学修課題を見出す。2．大学での学びに求められる基礎的なリテラシーと、他者との協働・コミュニケーションのスキルを深める。3．充実した学生生活を送るための知識と基本的態度を身に付ける。ディスカッションやグループワーク、プレゼンテーションなどに取り組んでもらいます。				
到達目標	・大学での学びについて理解し、学び取った基本的学修スキルを自分なりに用いることができる。 ・観光文化学部（観光文化学科）について理解し、その研究分野について自ら進んで学ぼうとすることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	田代　真人	【第 1 回】 予習：教科書第 1 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：後期ガイダンス（教科書 第 1 章 pp.1 ）（ディスカッション） 復習：教科書第 1 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
2	田代　真人	【第 2 回】 予習：教科書第 2 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：ICT メディアの活用（教科書 第 2 章 pp.2-7） 復習：教科書第 2 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
3	田代　真人	【第 3 回】 予習：教科書第 3 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：ディスカッション 1 ：準備（教科書 第 3 章 pp.8-11）（ディスカッション） 復習：教科書第 3 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
4	田代　真人	【第 4 回】 予習：教科書第 4 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：ディスカッション 2 ：実施 1（教科書 第 4 章 p.12-15）（ディスカッション） 復習：教科書第 4 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
5	田代　真人	【第 5 回】 予習：教科書第 5 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：ディスカッション 3 ：実施 2（教科書 第 5 章 p.16）（ディスカッション） 復習：教科書第 5 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
6	田代　真人	【第 6 回】 予習：教科書第 6 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：メイクアップセミナーの開催（共同授業） 復習：教科書第 6 章およびガンダンス資料を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
7	田代　真人	【第 7 回】 予習：教科書第 7 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：文献の読み方 1（教科書 第 7 章 pp.18-24） 復習：教科書第 7 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
8	田代　真人	【第 8 回】 予習：教科書第 8 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：文献の読み方 2（教科書 第 8 章 pp.25-28） 復習：教科書第 8 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
9	田代　真人	【第 9 回】 予習：教科書第 9 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：文献の読み方 3（教科書 第 9 章 pp.29-30） 復習：教科書第 9 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
10	田代　真人	【第 10 回】 予習：教科書第 10 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：プレゼンテーション 1：グループ・テーマの設定（教科書 第 10 章 pp.31-41）（グループワーク） 復習：プレゼンテーションの準備を進めてください。教科書第 10 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。

11	田代　真人	【第 11 回】 予習：教科書第 11 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：プレゼンテーション 2：資料収集（教科書　第 11 章　pp.42）（グループワーク） 復習：プレゼンテーションの準備を進めてください。教科書第 11 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
12	田代　真人	【第 12 回】 予習：教科書第 12 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：　プレゼンテーション 3：スライド等の作成（教科書　第 12 章　pp.43-48）（グループワーク） 復習：プレゼンテーションの準備を進めてください。教科書第 12 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
13	田代　真人	【第 13 回】 予習：教科書第 13 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：プレゼンテーション 4：発表原稿の準備（教科書　第 13 章　pp.49-52）（グループワーク・プレゼンテーション） 復習：プレゼンテーションの準備を進めてください。教科書第 13 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
14	田代　真人	【第 14 回】 予習：教科書第 14 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：プレゼンテーション発表（教科書　第 14 章　pp.53-54）（プレゼンテーション） 復習：プレゼンテーションを振り返り、課題（感想・質問）を提出してください。
15	田代　真人	【第 15 回】 予習：1 年間の自分の"進化""成長"を書き出してみてください。 授業：後期ふりかえり（教科書　第 15 章　p.55） 復習：教科書全体と授業ノートを再読してください。

授業開始前学習	教科書該当ページ（および事前配布資料）を熟読してください。
授業内課題のフィードバックの方法	提出された毎回の授業に関する質問などについては、次回授業の冒頭において適宜講評および説明を行います。
テキスト・教材	観光文化学部（編）『基礎ゼミ II』（駒沢女子大学教科書シリーズ）
参考書	授業を通じて随時紹介します。
評価の基準と方法	各回の課題（70%：授業の感想・質問等）および課題提出物（30%：プレゼンテーション資料・作文等）により総合的に評価します。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	◎	○				

関連科目	
その他	臨時に合同授業を実施する場合があります。メイクアップセミナーについては他学科との日程調整結果により実施回が変更になる場合があります。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	GJ-M-112 HR-M-112 PS-M-112 CT-L-112	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-21	授業コード	F00094
科目名称	基礎ｾﾞﾐⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	Freshmen Seminar Ⅱ			授業区分	演習
科目責任者	薬師　英子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	薬師　英子			開講時期	1 年
オフィスアワー	前期　火曜日 10:00～13:00 後期　火曜日 10:00～13:00			研究室	10-55
授業概要	「基礎ゼミⅠ」に続き、初年次の基礎科目として 4 年間の学びの原点となる内容です。皆さんが次の課題を達成することを指導・支援します。1．知性や教養の本質と大学で学ぶことの意義を理解し、自己の学修課題を見出す。2．大学での学びに求められる基礎的なリテラシーと、他者との協働・コミュニケーションのスキルを深める。3．充実した学生生活を送るための知識と基本的態度を身に付ける。ディスカッションやグループワーク、プレゼンテーションなどに取り組んでもらいます。				
到達目標	・大学での学びについて理解し、学び取った基本的学修スキルを自分なりに用いることができる。 ・観光文化学部（観光文化学科）について理解し、その研究分野について自ら進んで学ぼうとすることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	薬師　英子	【第 1 回】 予習：教科書第 1 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：後期ガイダンス（教科書 第 1 章 pp.1 ）（ディスカッション） 復習：教科書第 1 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
2	薬師　英子	【第 2 回】 予習：教科書第 2 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：ICT メディアの活用（教科書 第 2 章 pp.2-7） 復習：教科書第 2 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
3	薬師　英子	【第 3 回】 予習：教科書第 3 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：ディスカッション 1 ：準備（教科書 第 3 章 pp.8-11）（ディスカッション） 復習：教科書第 3 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
4	薬師　英子	【第 4 回】 予習：教科書第 4 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：ディスカッション 2 ：実施 1（教科書 第 4 章 p.12-15）（ディスカッション） 復習：教科書第 4 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
5	薬師　英子	【第 5 回】 予習：教科書第 5 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：ディスカッション 3 ：実施 2（教科書 第 5 章 p.16）（ディスカッション） 復習：教科書第 5 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
6	薬師　英子	【第 6 回】 予習：教科書第 6 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：メイクアップセミナーの開催（共同授業） 復習：教科書第 6 章およびガンダンス資料を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
7	薬師　英子	【第 7 回】 予習：教科書第 7 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：文献の読み方 1（教科書 第 7 章 pp.18-24） 復習：教科書第 7 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
8	薬師　英子	【第 8 回】 予習：教科書第 8 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：文献の読み方 2（教科書 第 8 章 pp.25-28） 復習：教科書第 8 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
9	薬師　英子	【第 9 回】 予習：教科書第 9 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：文献の読み方 3（教科書 第 9 章 pp.29-30） 復習：教科書第 9 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
10	薬師　英子	【第 10 回】 予習：教科書第 10 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：プレゼンテーション 1：グループ・テーマの設定（教科書 第 10 章 pp.31-41）（グループワーク） 復習：プレゼンテーションの準備を進めてください。教科書第 10 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。

11	薬師　英子	【第 11 回】 予習：教科書第 11 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：プレゼンテーション 2：資料収集（教科書　第 11 章　pp.42）（グループワーク） 復習：プレゼンテーションの準備を進めてください。教科書第 11 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
12	薬師　英子	【第 12 回】 予習：教科書第 12 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：　プレゼンテーション 3：スライド等の作成（教科書　第 12 章　pp.43-48）（グループワーク） 復習：プレゼンテーションの準備を進めてください。教科書第 12 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
13	薬師　英子	【第 13 回】 予習：教科書第 13 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：プレゼンテーション 4：発表原稿の準備（教科書　第 13 章　pp.49-52）（グループワーク・プレゼンテーション） 復習：プレゼンテーションの準備を進めてください。教科書第 13 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
14	薬師　英子	【第 14 回】 予習：教科書第 14 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：プレゼンテーション発表（教科書　第 14 章　pp.53-54）（プレゼンテーション） 復習：プレゼンテーションを振り返り、課題（感想・質問）を提出してください。
15	薬師　英子	【第 15 回】 予習：1 年間の自分の"進化""成長"を書き出してみてください。 授業：後期ふりかえり（教科書　第 15 章　p.55） 復習：教科書全体と授業ノートを再読してください。

授業開始前学習	教科書該当ページ（および事前配布資料）を熟読してください。
授業内課題のフィードバックの方法	提出された毎回の授業に関する質問などについては、次回授業の冒頭において適宜講評および説明を行います。
テキスト・教材	観光文化学部（編）『基礎ゼミ II』（駒沢女子大学教科書シリーズ）
参考書	授業を通じて随時紹介します。
評価の基準と方法	各回の課題（70%：授業の感想・質問等）および課題提出物（30%：プレゼンテーション資料・作文等）により総合的に評価します。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	◎	○				

関連科目	
その他	臨時に合同授業を実施する場合があります。メイクアップセミナーについては他学科との日程調整結果により実施回が変更になる場合があります。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	100-110-21	授業コード	F00101
科目名称	基礎ｾﾞﾐⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	Freshmen Seminar Ⅱ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	橋本 衆宝			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	橋本 衆宝			開講時期	1 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～16:00 後期 火曜日 13:00～16:00			研究室	10-616
授業概要	「基礎ゼミⅠ」に続き、初年次の基礎科目として 4 年間の学びの原点となる内容です。皆さんが次の課題を達成することを指導・支援します。1. 知性や教養の本質と大学で学ぶことの意義を理解し、自己の学修課題を見出す。2. 大学での学びに求められる基礎的なリテラシーと、他者との協働・コミュニケーションのスキルを深める。3. 充実した学生生活を送るための知識と基本的態度を身に付ける。ディスカッションやグループワーク、プレゼンテーションなどに取り組んでもらいます。				
到達目標	・大学での学びについて理解し、学び取った基本的学修スキルを自分なりに用いることができる。 ・2 年次に所属する学期（専攻）について理解し、その研究分野について自ら進んで学ぼうとすることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	橋本 衆宝	【第 1 回】 予習：教科書第 1 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：後期ガイダンス（教科書 第 1 章 pp.1 ）（ディスカッション） 復習：教科書第 1 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
2	橋本 衆宝	【第 2 回】 予習：教科書第 2 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：ICT メディアの活用（教科書 第 2 章 pp.2-7） 復習：教科書第 2 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
3	橋本 衆宝	【第 3 回】 予習：教科書第 3 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：ディスカッション 1 ：準備（教科書 第 3 章 pp.8-11）（ディスカッション） 復習：教科書第 3 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
4	橋本 衆宝	【第 4 回】 予習：教科書第 4 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：ディスカッション 2 ：実施 1（教科書 第 4 章 p.12-15）（ディスカッション） 復習：教科書第 4 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
5	橋本 衆宝	【第 5 回】 予習：教科書第 5 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：ディスカッション 3 ：実施 2（教科書 第 5 章 p.16）（ディスカッション） 復習：教科書第 5 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
6	橋本 衆宝	【第 6 回】 予習：教科書第 6 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：学類進級ガイダンス（教科書 第 6 章 pp.17） 復習：教科書第 6 章およびガンダンス資料を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
7	橋本 衆宝	【第 7 回】 予習：教科書第 7 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：文献の読み方 1（教科書 第 7 章 pp.18-24） 復習：教科書第 7 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
8	橋本 衆宝	【第 8 回】 予習：教科書第 8 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：文献の読み方 2（教科書 第 8 章 pp.25-28） 復習：教科書第 8 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
9	橋本 衆宝	【第 9 回】 予習：教科書第 9 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：文献の読み方 3（教科書 第 9 章 pp.29-30） 復習：教科書第 9 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
10	橋本 衆宝	【第 10 回】 予習：教科書第 10 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：プレゼンテーション 1：グループ・テーマの設定（教科書 第 10 章 pp.31-41）（グループワーク） 復習：プレゼンテーションの準備を進めてください。教科書第 10 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
11	橋本 衆宝	【第 11 回】 予習：教科書第 11 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：プレゼンテーション 2：資料収集（教科書 第 11 章 pp.42）（グループワーク） 復習：プレゼンテーションの準備を進めてください。教科書第 11 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。

12	橋本　衆宝	【第 12 回】 予習：教科書第 12 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：　プレゼンテーション 3：スライド等の作成（教科書　第 12 章　pp.43-48）（グループワーク） 復習：プレゼンテーションの準備を進めてください。教科書第 12 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
13	橋本　衆宝	【第 13 回】 予習：教科書第 13 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：プレゼンテーション 4 ：発表原稿の準備（教科書　第 13 章　pp.49-52）（グループワーク・プレゼンテーション） 復習：プレゼンテーションの準備を進めてください。教科書第 13 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
14	橋本　衆宝	【第 14 回】 予習：教科書第 14 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：プレゼンテーション発表（教科書　第 14 章　pp.53-54）（プレゼンテーション） 復習：プレゼンテーションを振り返り、課題（感想・質問）を提出してください。
15	橋本　衆宝	【第 15 回】 予習：1 年間の自分の"進化""成長"を書き出してみてください。 授業：後期ふりかえり（教科書　第 15 章　p.55） 復習：教科書全体と授業ノートを再読してください。

授業開始前学習	教科書該当ページ（および事前配布資料）を熟読してください。
授業内課題のフィードバックの方法	提出された毎回の授業に関する質問などについては、次回授業の冒頭において適宜講評および説明を行います。
テキスト・教材	人間総合学群編『基礎ゼミ II』（駒沢女子大学教科書シリーズ）
参考書	授業を通じて随時紹介します。
評価の基準と方法	各回の課題（70%：授業の感想・質問等）および課題提出物（30%：プレゼンテーション資料・作文等）により総合的に評価します。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	◎	○				

関連科目	
その他	臨時に合同授業を実施する場合があります。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	100-110-21	授業コード	F00104
科目名称	基礎ｾﾞﾐⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	Freshmen Seminar Ⅱ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	鈴木　利彦			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鈴木　利彦			開講時期	1 年
オフィスアワー	前期　火曜日 09:00～12:10 後期　火曜日 09:00～12:10			研究室	10-509
授業概要	「基礎ゼミⅠ」に続き、初年次の基礎科目として 4 年間の学びの原点となる内容です。皆さんが次の課題を達成することを指導・支援します。1．知性や教養の本質と大学で学ぶことの意義を理解し、自己の学修課題を見出す。2．大学での学びに求められる基礎的なリテラシーと、他者との協働・コミュニケーションのスキルを深める。3．充実した学生生活を送るための知識と基本的態度を身に付ける。ディスカッションやグループワーク、プレゼンテーションなどに取り組んでもらいます。				
到達目標	・大学での学びについて理解し、学び取った基本的学修スキルを自分なりに用いることができる。 ・2 年次に所属する学類（専攻）について理解し、その研究分野について自ら進んで学ぼうとすることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	鈴木　利彦	【第 1 回】 予習：教科書第 1 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：後期ガイダンス（教科書　第 1 章 pp.1 ）（ディスカッション） 復習：教科書第 1 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
2	鈴木　利彦	【第 2 回】 予習：教科書第 2 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：ICT メディアの活用（教科書　第 2 章　pp.2-7） 復習：教科書第 2 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
3	鈴木　利彦	【第 3 回】 予習：教科書第 3 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：ディスカッション 1 ：準備（教科書　第 3 章　pp.8-11）（ディスカッション） 復習：教科書第 3 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
4	鈴木　利彦	【第 4 回】 予習：教科書第 4 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：ディスカッション 2 ：実施 1 （教科書　第 4 章　p.12-15）（ディスカッション） 復習：教科書第 4 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
5	鈴木　利彦	【第 5 回】 予習：教科書第 5 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：ディスカッション　3 ：実施 2 （教科書　第 5 章　p.16）（ディスカッション） 復習：教科書第 5 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
6	鈴木　利彦	【第 6 回】 予習：教科書第 6 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：学類進級ガイダンス（教科書　第 6 章　pp.17） 復習：教科書第 6 章およびガンダンス資料を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
7	鈴木　利彦	【第 7 回】 予習：教科書第 7 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：文献の読み方 1（教科書　第 7 章　pp.18-24） 復習：教科書第 7 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
8	鈴木　利彦	【第 8 回】 予習：教科書第 8 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：文献の読み方　2（教科書　第 8 章　pp.25-28） 復習：教科書第 8 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
9	鈴木　利彦	【第 9 回】 予習：教科書第 9 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：文献の読み方　3（教科書　第 9 章　pp.29-30） 復習：教科書第 9 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
10	鈴木　利彦	【第 10 回】 予習：教科書第 10 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：プレゼンテーション 1：グループ・テーマの設定（教科書　第 10 章　pp.31-41）（グループワーク） 復習：プレゼンテーションの準備を進めてください。教科書第 10 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
11	鈴木　利彦	【第 11 回】 予習：教科書第 11 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：プレゼンテーション 2：資料収集（教科書　第 11 章　pp.42）（グループワーク） 復習：プレゼンテーションの準備を進めてください。教科書第 11 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。

12	鈴木　利彦	【第 12 回】 予習：教科書第 12 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：　プレゼンテーション 3：スライド等の作成（教科書　第 12 章　pp.43-48）（グループワーク） 復習：プレゼンテーションの準備を進めてください。教科書第 12 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
13	鈴木　利彦	【第 13 回】 予習：教科書第 13 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：プレゼンテーション 4 ：発表原稿の準備（教科書　第 13 章　pp.49-52）（グループワーク・プレゼンテーション） 復習：プレゼンテーションの準備を進めてください。教科書第 13 章を再読し、課題（感想・質問）を提出してください。
14	鈴木　利彦	【第 14 回】 予習：教科書第 14 章を熟読し、不明点や質問事項を確認しておいてください。 授業：プレゼンテーション発表（教科書　第 14 章　pp.53-54）（プレゼンテーション） 復習：プレゼンテーションを振り返り、課題（感想・質問）を提出してください。
15	鈴木　利彦	【第 15 回】 予習：1 年間の自分の"進化""成長"を書き出してみてください。 授業：後期ふりかえり（教科書　第 15 章　p.55） 復習：教科書全体と授業ノートを再読してください。

授業開始前学習	教科書該当ページ（および事前配布資料）を熟読してください。
授業内課題のフィードバックの方法	提出された毎回の授業に関する質問などについては、次回授業の冒頭において適宜講評および説明を行います。
テキスト・教材	人間総合学群編『基礎ゼミ II』（駒沢女子大学教科書シリーズ）
参考書	授業を通じて随時紹介します。
評価の基準と方法	各回の課題（70%：授業の感想・質問等）および課題提出物（30%：プレゼンテーション資料・作文等）により総合的に評価します。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	◎	○				

関連科目	
その他	臨時に合同授業を実施する場合があります。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）	CS-L-111 CT-L-111 （J）	科目分類（～2024年入学者）	100-110-11 （J）	授業コード	F00111
科目名称	仏教学Ⅰ			単位数	2.0単位
英文名称	Buddhism Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	廣瀬 良文			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	廣瀬 良文			開講時期	1年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	本講義では、駒沢女子大学の建学の精神「行学一如」「正念」と、その基底にある仏教の開祖・釈尊の教えと人間観について概説する。また、本学園の創立者・山上曹源先生の教育観についても建学の精神と関連付けながら講じる。本学での学びの礎となる建学の精神、および仏教の人間観が今を生きる私たちにどのように関わり合ってくるのか、本科の学びを現代社会に活かす視点をもって授業をすすめる。本講義の学びを通じて、今後の人生の指針となる教養と作法を身につけるとともに、仏教の観点から「人間」をより深く理解する契機とする。授業では課題解決型学習を行う。				
到達目標	1．仏教の開祖・釈尊の教えや仏教の人間観、山上曹源先生の教育観を理解することができる。 2．建学の精神を礎にした駒沢女子大学での学びの意義をみずから説明することができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	廣瀬 良文	【第1回】 予習 ：建学の精神「行学一如」「正念」について調べておく 授業 ：ガイダンス、建学の精神と仏教 復習 ：建学の精神をこれからの学生生活に照らし合わせまとめる
2	廣瀬 良文	【第2回】 予習 ：駒澤学園の歴史について調べておく 授業 ：山上曹源先生の教育観 駒澤学園の歴史 復習 ：山上先生の教育観についてまとめる
3	廣瀬 良文	【第3回】 予習 ：「花まつり」について調べておく 授業 ：釈尊の誕生（花まつり） 復習 ：「命の尊さ」についてみずからの考えをまとめる
4	廣瀬 良文	【第4回】 予習 ：「四苦八苦」について調べておく 授業 ：青年期の釈尊（課題解決型授業） 復習 ：「四苦八苦」を自分自身に引き合わせ、感じたことをまとめる
5	廣瀬 良文	【第5回】 予習 ：「中道」について調べておく 授業 ：6年間の苦行と「中道」の教え 復習 ：「中道」の教えの要点をまとめる
6	廣瀬 良文	【第6回】 予習：坐禅の意義と作法について調べておく 授業 ：坐禅実習 建学の精神「正念」の実践 復習 ：坐禅の三つの心得、身体と心の関係についてまとめる
7	廣瀬 良文	【第7回】 予習 ：「縁起」について調べておく 授業 ：釈尊の悟り（成道）と「縁起」の教え 復習 ：駒澤学園の仏教行事「成道会」「摂心会」の意義をまとめる
8	廣瀬 良文	【第8回】 予習 ：「四諦八正道」の意味を調べておく 授業 ：初転法輪と「四諦八正道」の教え 復習 ：「四諦八正道」の教えの要点をまとめる
9	廣瀬 良文	【第9回】 予習 ：「祇園精舎」「竹林精舎」について調べておく 授業 ：釈尊の伝道とさまざまな「対機説法」 復習 ：「応病与薬」と「対機説法」についてまとめる
10	廣瀬 良文	【第10回】 予習 ：「諸行無常」について調べておく 授業 ：釈尊の入滅（涅槃）と「諸行無常」の教え 復習 ：駒澤学園の仏教行事「涅槃会」の意義をまとめる

11	廣瀬　良文	【第 11 回】 予習：坐禅の作法と心得（調身・調息・調心）について復習しておく 授業　：坐禅実習　建学の精神「正念」の実践 復習　：「正念」を実践して身心に感じたことをまとめる
12	廣瀬　良文	【第 12 回】 予習　：「菩薩」について調べておく 授業　：釈尊滅後の仏教の展開（結集から大乗仏教へ） 復習　：大乗仏教と「菩薩」についてまとめる
13	廣瀬　良文	【第 13 回】 予習　：身のまわりの仏教（文化）について調べておく 授業　：仏教と日常生活（課題解決型授業） 復習　：仏教を日常生活でどのように生かし得るか、考えをまとめる
14	廣瀬　良文	【第 14 回】 予習　：みずからの学びと仏教の関連について調べておく 授業　：仏教の学際的な学び 復習　：みずからの学びと仏教の関連について考えをまとめる
15	廣瀬　良文	【第 15 回】 予習　：建学の精神と仏教Ⅰで学んだ事項の要点を振り返る 授業　：建学の精神など本科の学びの総括 復習　：建学の精神を礎とした駒沢女子大学での学びの意義をまとめる

授業開始前学習	担当教員の指示に基づき、指定された用語（語句）、配付資料を読んでおくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	授業で課した提出物（レポート等）は次回の授業で総評する。また、必要に応じて個別にフィードバックする。
テキスト・教材	必要に応じてプリントを配付する。
参考書	『英文対訳　道元禅師の典座教訓』（駒沢学園）　その他、必要に応じて指示する。
評価の基準と方法	授業での提出物（30%）とテスト・レポート（70%）で総合的に評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				△

関連科目	
その他	照心館での坐禅実習（2 回）は予定が変更される場合があるので、授業時に日程を確認し、服装を整えて参加すること。 建学の精神の学びの場である学校行事には積極的に参加し、幅広い教養を身につけてほしい。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	曹洞宗の僧侶としての実務経験有り。その経験を生かして建学の精神と仏教・禅の教えについて講じる。

科目分類（2025年～入学者）	CS-L-111 CT-L-111 （J）	科目分類（～2024年入学者）	100-110-11 （J）	授業コード	F00113
科目名称	仏教学Ⅰ			単位数	2.0単位
英文名称	Buddhism Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	山本　元隆			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	山本　元隆			開講時期	1年
オフィスアワー	前期　月曜日 14:40～16:10　金曜日 09:00～10:30 後期　月曜日 14:40～16:10　金曜日 09:00～10:30			研究室	10-506
授業概要	本講義では、駒沢女子大学の建学の精神「行学一如」「正念」と、その基底にある仏教の開祖・釈尊の教えと人間観について概説する。また、本学園の創立者・山上曹源先生の教育観についても建学の精神と関連付けながら講じる。本学での学びの礎となる建学の精神、および仏教の人間観が今を生きる私たちにどのように関わり合ってくるのか、本科の学びを現代社会に活かす視点をもって授業をすすめる。本講義の学びを通じて、今後の人生の指針となる教養と作法を身につけるとともに、仏教の観点から「人間」をより深く理解する契機とする。授業では課題解決型学習を行う。				
到達目標	1．仏教の開祖・釈尊の教えや仏教の人間観、山上曹源先生の教育観を理解することができる。 2．建学の精神を礎にした駒沢女子大学での学びの意義をみずから説明することができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	山本　元隆	【第1回】 予習　：建学の精神「行学一如」「正念」について調べておく 授業　：ガイダンス、建学の精神と仏教 復習　：建学の精神をこれからの学生生活に照らし合わせまとめる
2	山本　元隆	【第2回】 予習　：駒澤学園の歴史について調べておく 授業　：山上曹源先生の教育観　駒澤学園の歴史 復習　：山上先生の教育観についてまとめる
3	山本　元隆	【第3回】 予習　：「花まつり」について調べておく 授業　：釈尊の誕生（花まつり） 復習　：「命の尊さ」についてみずからの考えをまとめる
4	山本　元隆	【第4回】 予習　：「四苦八苦」について調べておく 授業　：青年期の釈尊（課題解決型授業） 復習　：「四苦八苦」を自分自身に引き合わせ、感じたことをまとめる
5	山本　元隆	【第5回】 予習　：「中道」について調べておく 授業　：6年間の苦行と「中道」の教え 復習　：「中道」の教えの要点をまとめる
6	山本　元隆	【第6回】 予習：坐禅の意義と作法について調べておく 授業　：坐禅実習　建学の精神「正念」の実践 復習　：坐禅の三つの心得、身体と心の関係についてまとめる
7	山本　元隆	【第7回】 予習　：「縁起」について調べておく 授業　：釈尊の悟り（成道）と「縁起」の教え 復習　：駒澤学園の仏教行事「成道会」「摂心会」の意義をまとめる
8	山本　元隆	【第8回】 予習　：「四諦八正道」の意味を調べておく 授業　：初転法輪と「四諦八正道」の教え 復習　：「四諦八正道」の教えの要点をまとめる
9	山本　元隆	【第9回】 予習　：「祇園精舎」「竹林精舎」について調べておく 授業　：釈尊の伝道とさまざまな「対機説法」 復習　：「応病与薬」と「対機説法」についてまとめる
10	山本　元隆	【第10回】 予習　：「諸行無常」について調べておく 授業　：釈尊の入滅（涅槃）と「諸行無常」の教え 復習　：駒澤学園の仏教行事「涅槃会」の意義をまとめる

11	山本　元隆	【第 11 回】 予習：坐禅の作法と心得（調身・調息・調心）について復習しておく 授業　：坐禅実習　建学の精神「正念」の実践 復習　：「正念」を実践して身心に感じたことをまとめる
12	山本　元隆	【第 12 回】 予習　：「菩薩」について調べておく 授業　：釈尊滅後の仏教の展開（結集から大乗仏教へ） 復習　：大乗仏教と「菩薩」についてまとめる
13	山本　元隆	【第 13 回】 予習　：身のまわりの仏教（文化）について調べておく 授業　：仏教と日常生活（課題解決型授業） 復習　：仏教を日常生活でどのように生かし得るか、考えをまとめる
14	山本　元隆	【第 14 回】 予習　：みずからの学びと仏教の関連について調べておく 授業　：仏教の学際的な学び 復習　：みずからの学びと仏教の関連について考えをまとめる
15	山本　元隆	【第 15 回】 予習　：建学の精神と仏教Ⅰで学んだ事項の要点を振り返る 授業　：建学の精神など本科の学びの総括 復習　：建学の精神を礎とした駒沢女子大学での学びの意義をまとめる

授業開始前学習	担当教員の指示に基づき、指定された用語（語句）、配付資料を読んでおくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	授業で課した提出物（レポート等）は次回の授業で総評する。また、必要に応じて個別にフィードバックする。
テキスト・教材	必要に応じてプリントを配付する。
参考書	『英文対訳　道元禅師の典座教訓』（駒沢学園）　その他、必要に応じて指示する。
評価の基準と方法	授業での提出物（30%）とテスト・レポート（70%）で総合的に評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				△

関連科目	
その他	照心館での坐禅実習（2 回）は予定が変更される場合があるので、授業時に日程を確認し、服装を整えて参加すること。 建学の精神の学びの場である学校行事には積極的に参加し、幅広い教養を身につけてほしい。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	曹洞宗の僧侶としての実務経験有り。その経験を生かして建学の精神と仏教・禅の教えについて講じる。

科目分類（2025年～入学者）	CS-L-111 CT-L-111 （J）	科目分類（～2024年入学者）	100-110-11 （J）	授業コード	F00114
科目名称	仏教学Ⅰ			単位数	2.0単位
英文名称	Buddhism Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	小早川 浩大			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小早川 浩大			開講時期	1年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	本講義では、駒沢女子大学の建学の精神「行学一如」「正念」と、その基底にある仏教の開祖・釈尊の教えと人間観について概説する。また、本学園の創立者・山上曹源先生の教育観についても建学の精神と関連付けながら講じる。本学での学びの礎となる建学の精神、および仏教の人間観が今を生きる私たちにどのように関わり合ってくるのか、本科の学びを現代社会に活かす視点をもって授業をすすめる。本講義の学びを通じて、今後の人生の指針となる教養と作法を身につけるとともに、仏教の観点から「人間」をより深く理解する契機とする。授業では課題解決型学習を行う。				
到達目標	1．仏教の開祖・釈尊の教えや仏教の人間観、山上曹源先生の教育観を理解することができる。 2．建学の精神を礎にした駒沢女子大学での学びの意義をみずから説明することができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	小早川 浩大	【第1回】 予習 ：建学の精神「行学一如」「正念」について調べておく 授業 ：ガイダンス、建学の精神と仏教 復習 ：建学の精神をこれからの学生生活に照らし合わせまとめる
2	小早川 浩大	【第2回】 予習 ：駒澤学園の歴史について調べておく 授業 ：山上曹源先生の教育観 駒澤学園の歴史 復習 ：山上先生の教育観についてまとめる
3	小早川 浩大	【第3回】 予習 ：「花まつり」について調べておく 授業 ：釈尊の誕生（花まつり） 復習 ：「命の尊さ」についてみずからの考えをまとめる
4	小早川 浩大	【第4回】 予習 ：「四苦八苦」について調べておく 授業 ：青年期の釈尊（課題解決型授業） 復習 ：「四苦八苦」を自分自身に引き合わせ、感じたことをまとめる
5	小早川 浩大	【第5回】 予習 ：「中道」について調べておく 授業 ：6年間の苦行と「中道」の教え 復習 ：「中道」の教えの要点をまとめる
6	小早川 浩大	【第6回】 予習：坐禅の意義と作法について調べておく 授業 ：坐禅実習 建学の精神「正念」の実践 復習 ：坐禅の三つの心得、身体と心の関係についてまとめる
7	小早川 浩大	【第7回】 予習 ：「縁起」について調べておく 授業 ：釈尊の悟り（成道）と「縁起」の教え 復習 ：駒澤学園の仏教行事「成道会」「摂心会」の意義をまとめる
8	小早川 浩大	【第8回】 予習 ：「四諦八正道」の意味を調べておく 授業 ：初転法輪と「四諦八正道」の教え 復習 ：「四諦八正道」の教えの要点をまとめる
9	小早川 浩大	【第9回】 予習 ：「祇園精舎」「竹林精舎」について調べておく 授業 ：釈尊の伝道とさまざまな「対機説法」 復習 ：「応病与薬」と「対機説法」についてまとめる
10	小早川 浩大	【第10回】 予習 ：「諸行無常」について調べておく 授業 ：釈尊の入滅（涅槃）と「諸行無常」の教え 復習 ：駒澤学園の仏教行事「涅槃会」の意義をまとめる

11	小早川 浩大	【第 11 回】 予習：坐禅の作法と心得（調身・調息・調心）について復習しておく 授業 ：坐禅実習 建学の精神「正念」の実践 復習 ：「正念」を実践して身心に感じたことをまとめる
12	小早川 浩大	【第 12 回】 予習 ：「菩薩」について調べておく 授業 ：釈尊滅後の仏教の展開（結集から大乗仏教へ） 復習 ：大乗仏教と「菩薩」についてまとめる
13	小早川 浩大	【第 13 回】 予習 ：身のまわりの仏教（文化）について調べておく 授業 ：仏教と日常生活（課題解決型授業） 復習 ：仏教を日常生活でどのように生かし得るか、考えをまとめる
14	小早川 浩大	【第 14 回】 予習 ：みずからの学びと仏教の関連について調べておく 授業 ：仏教の学際的な学び 復習 ：みずからの学びと仏教の関連について考えをまとめる
15	小早川 浩大	【第 15 回】 予習 ：建学の精神と仏教Ⅰで学んだ事項の要点を振り返る 授業 ：建学の精神など本科の学びの総括 復習 ：建学の精神を礎とした駒沢女子大学での学びの意義をまとめる

授業開始前学習	担当教員の指示に基づき、指定された用語（語句）、配付資料を読んでおくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	授業で課した提出物（レポート等）は次回の授業で総評する。また、必要に応じて個別にフィードバックする。
テキスト・教材	必要に応じてプリントを配付する。
参考書	『英文対訳 道元禅師の典座教訓』（駒沢学園） その他、必要に応じて指示する。
評価の基準と方法	授業での提出物（30%）とテスト・レポート（70%）で総合的に評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				△

関連科目	
その他	照心館での坐禅実習（2 回）は予定が変更される場合があるので、授業時に日程を確認し、服装を整えて参加すること。 建学の精神の学びの場である学校行事には積極的に参加し、幅広い教養を身につけてほしい。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	曹洞宗の僧侶としての実務経験有り。その経験を生かして建学の精神と仏教・禅の教えについて講じる。

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-111 CT-L-111 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-11 （Ｊ）	授業コード	F00121
科目名称	仏教学Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	BuddhismⅡ			授業区分	講義
科目責任者	廣瀬 良文			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	廣瀬 良文			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	本講義では、駒沢女子大学の建学の精神「行学一如」「正念」と、その基底にある曹洞宗の開祖・道元の教えと禅の人間観について概説する。本学での学びの礎となる建学の精神、および禅の人間観が今を生きる私たちにどのように関わり合ってくるのか、本科の学びを現代社会に活かす視点をもって授業をすすめる。本講義の学びを通じて、今後の人生の指針となる教養と作法を身につけるとともに、禅の観点から「人間」をより深く理解する契機とする。授業では課題解決型学習を行う。				
到達目標	１．曹洞宗の開祖・道元の教えや禅の人間観を理解することができる。 ２．建学の精神を礎にした駒沢女子大学での学びの意義をみずから説明することができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	廣瀬 良文	【第１回】 予習 ：建学の精神と仏教Ⅰで学んだことを振り返る 授業 ：ガイダンス 建学の精神と禅 復習 ：建学の精神をこれからの学生生活に照らし合わせまとめる
2	廣瀬 良文	【第２回】 予習 ：「禅」について調べておく 授業 ：ダルマと達磨 禅宗の歴史と教え 復習 ：禅宗の特徴についてまとめる
3	廣瀬 良文	【第３回】 予習 ：日本に伝来した仏教について調べておく 授業 ：日本仏教の歴史と展開（仏教伝来～鎌倉時代） 復習 ：日本に伝来した仏教の特徴についてまとめる
4	廣瀬 良文	【第４回】 予習 ：日本に伝来した禅宗（曹洞宗・臨済宗）について調べておく 授業 ：鎌倉時代の禅宗 道元の誕生と出家 復習 ：駒澤学園の仏教行事「誕生記念日」の意義をまとめる
5	廣瀬 良文	【第５回】 予習 ：「比叡山」（天台宗）と「建仁寺」（臨済宗）について調べておく 授業 ：比叡山と建仁寺での修行（課題解決型授業） 復習 ：「本覚法門」に対する道元の疑念をまとめる
6	廣瀬 良文	【第６回】 予習 ：坐禅の意義と作法について調べておく 授業 ：坐禅実習 建学の精神「正念」の実践 復習 ：坐禅の三つの心得、身体と心の関係についてまとめる
7	廣瀬 良文	【第７回】 予習 ：「典座」の意味を調べておく 授業 ：道元の入宋求法 典座の教え（典座教訓） 復習 ：典座の教えと禅修行の要点をまとめる
8	廣瀬 良文	【第８回】 予習 ：「身心脱落」の意味を調べておく 授業 ：天童山での修行 道元の大悟 復習 ：「身心脱落」の教えの要点をまとめる
9	廣瀬 良文	【第９回】 予習 ：「普観坐禅儀」について調べておく 授業 ：帰朝後の教化と「普観坐禅儀」の教え 復習 ：「只管打坐」の教えの要点をまとめる
10	廣瀬 良文	【第 10 回】 予習 ：道元の禅の教えと実践について調べておく 授業 ：道元の教えと実践 復習 ：禅の教えと実践（道元の修行観）について要点をまとめる
11	廣瀬 良文	【第 11 回】 予習：坐禅の作法と心得（調身・調息・調心）について復習しておく 授業 ：坐禅実習 建学の精神「正念」の実践 復習 ：「正念」を実践して身心に感じたことをまとめる

12	廣瀬　良文	【第 12 回】 予習　：永平寺について調べておく 授業　：道元の永平寺創建と示寂 復習　：駒澤学園の仏教行事「追善記念日」の意義をまとめる
13	廣瀬　良文	【第 13 回】 予習　：身のまわりの禅（文化）について調べておく 授業　：禅と日常生活（課題解決型授業） 復習　：禅の教えを日常生活にどのように生かし得るか、考えをまとめる
14	廣瀬　良文	【第 14 回】 予習　：建学の精神（行学一如・正念）について復習しておく 授業　：建学の精神と仏教（釈尊）・禅（道元）の教え 復習　：建学の精神と仏教・禅の生き方について、みずからに引き合わせて考えをまとめる
15	廣瀬　良文	【第 15 回】 予習　：建学の精神と仏教Ⅱで学んだ要点を振り返る 授業　：本科の学びの総括 復習　：建学の精神を礎にした駒沢女子大学での学びの意義をまとめる

授業開始前学習	担当教員の指示に基づき、指定された用語（語句）、ならびに配付資料を読んでおくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	授業で課した提出物（レポート等）は次回の授業で総評する。また、必要に応じて個別にフィードバックする。
テキスト・教材	必要に応じてプリントを配付する。
参考書	『英文対訳　道元禅師の典座教訓』（駒沢学園）　その他、必要に応じて指示する。
評価の基準と方法	授業での提出物（30%）とテスト・レポート（70%）で総合的に評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				△

関連科目	
その他	照心館での坐禅実習（2 回）は予定が変更される場合があるので、授業時に日程を確認し、服装を整えて参加すること。 建学の精神の学びの場である学校行事には積極的に参加し、幅広い教養を身につけてほしい。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	曹洞宗の僧侶としての実務経験有り。その経験を生かして建学の精神と仏教・禅の教えについて講じる。

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-111 CT-L-111 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-11 （J）	授業コード	F00123
科目名称	仏教学Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	BuddhismⅡ			授業区分	講義
科目責任者	山本 元隆			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	山本 元隆			開講時期	1 年
オフィスアワー	前期 月曜日 14:40～16:10 金曜日 09:00～10:30 後期 月曜日 14:40～16:10 金曜日 09:00～10:30			研究室	10-506
授業概要	本講義では、駒沢女子大学の建学の精神「行学一如」「正念」と、その基底にある曹洞宗の開祖・道元の教えと禅の人間観について概説する。本学での学びの礎となる建学の精神、および禅の人間観が今を生きる私たちにどのように関わり合ってくるのか、本科の学びを現代社会に活かす視点をもって授業をすすめる。本講義の学びを通じて、今後の人生の指針となる教養と作法を身につけるとともに、禅の観点から「人間」をより深く理解する契機とする。授業では課題解決型学習を行う。				
到達目標	1．曹洞宗の開祖・道元の教えや禅の人間観を理解することができる。 2．建学の精神を礎にした駒沢女子大学での学びの意義をみずから説明することができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	山本 元隆	【第 1 回】 予習 ：建学の精神と仏教Ⅰで学んだことを振り返る 授業 ：ガイダンス 建学の精神と禅 復習 ：建学の精神をこれからの学生生活に照らし合わせまとめる
2	山本 元隆	【第 2 回】 予習 ：「禅」について調べておく 授業 ：ダルマと達磨 禅宗の歴史と教え 復習 ：禅宗の特徴についてまとめる
3	山本 元隆	【第 3 回】 予習 ：日本に伝来した仏教について調べておく 授業 ：日本仏教の歴史と展開（仏教伝来～鎌倉時代） 復習 ：日本に伝来した仏教の特徴についてまとめる
4	山本 元隆	【第 4 回】 予習 ：日本に伝来した禅宗（曹洞宗・臨済宗）について調べておく 授業 ：鎌倉時代の禅宗 道元の誕生と出家 復習 ：駒澤学園の仏教行事「誕生記念日」の意義をまとめる
5	山本 元隆	【第 5 回】 予習 ：「比叡山」（天台宗）と「建仁寺」（臨済宗）について調べておく 授業 ：比叡山と建仁寺での修行（課題解決型授業） 復習 ：「本覚法門」に対する道元の疑念をまとめる
6	山本 元隆	【第 6 回】 予習 ：坐禅の意義と作法について調べておく 授業 ：坐禅実習 建学の精神「正念」の実践 復習 ：坐禅の三つの心得、身体と心の関係についてまとめる
7	山本 元隆	【第 7 回】 予習 ：「典座」の意味を調べておく 授業 ：道元の入宋求法 典座の教え（典座教訓） 復習 ：典座の教えと禅修行の要点をまとめる
8	山本 元隆	【第 8 回】 予習 ：「身心脱落」の意味を調べておく 授業 ：天童山での修行 道元の大悟 復習 ：「身心脱落」の教えの要点をまとめる
9	山本 元隆	【第 9 回】 予習 ：「普観坐禅儀」について調べておく 授業 ：帰朝後の教化と「普観坐禅儀」の教え 復習 ：「只管打坐」の教えの要点をまとめる
10	山本 元隆	【第 10 回】 予習 ：道元の禅の教えと実践について調べておく 授業 ：道元の教えと実践 復習 ：禅の教えと実践（道元の修行観）について要点をまとめる
11	山本 元隆	【第 11 回】 予習：坐禅の作法と心得（調身・調息・調心）について復習しておく 授業 ：坐禅実習 建学の精神「正念」の実践 復習 ：「正念」を実践して身心に感じたことをまとめる

12	山本　元隆	【第 12 回】 予習　：永平寺について調べておく 授業　：道元の永平寺創建と示寂 復習　：駒澤学園の仏教行事「追善記念日」の意義をまとめる
13	山本　元隆	【第 13 回】 予習　：身のまわりの禅（文化）について調べておく 授業　：禅と日常生活（課題解決型授業） 復習　：禅の教えを日常生活にどのように生かし得るか、考えをまとめる
14	山本　元隆	【第 14 回】 予習　：建学の精神（行学一如・正念）について復習しておく 授業　：建学の精神と仏教（釈尊）・禅（道元）の教え 復習　：建学の精神と仏教・禅の生き方について、みずからに引き合わせて考えをまとめる
15	山本　元隆	【第 15 回】 予習　：建学の精神と仏教Ⅱで学んだ要点を振り返る 授業　：本科の学びの総括 復習　：建学の精神を礎にした駒沢女子大学での学びの意義をまとめる

授業開始前学習	担当教員の指示に基づき、指定された用語（語句）、ならびに配付資料を読んでおくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	授業で課した提出物（レポート等）は次回の授業で総評する。また、必要に応じて個別にフィードバックする。
テキスト・教材	必要に応じてプリントを配付する。
参考書	『英文対訳　道元禅師の典座教訓』（駒沢学園）　その他、必要に応じて指示する。
評価の基準と方法	授業での提出物（30%）とテスト・レポート（70%）で総合的に評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				△

関連科目	
その他	照心館での坐禅実習（2 回）は予定が変更される場合があるので、授業時に日程を確認し、服装を整えて参加すること。 建学の精神の学びの場である学校行事には積極的に参加し、幅広い教養を身につけてほしい。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	曹洞宗の僧侶としての実務経験有り。その経験を生かして建学の精神と仏教・禅の教えについて講じる。

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-111 CT-L-111 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-11 （J）	授業コード	F00124
科目名称	仏教学Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	BuddhismⅡ			授業区分	講義
科目責任者	小早川 浩大			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小早川 浩大			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	本講義では、駒沢女子大学の建学の精神「行学一如」「正念」と、その基底にある曹洞宗の開祖・道元の教えと禅の人間観について概説する。本学での学びの礎となる建学の精神、および禅の人間観が今を生きる私たちにどのように関わり合ってくるのか、本科の学びを現代社会に活かす視点をもって授業をすすめる。本講義の学びを通じて、今後の人生の指針となる教養と作法を身につけるとともに、禅の観点から「人間」をより深く理解する契機とする。授業では課題解決型学習を行う。				
到達目標	1．曹洞宗の開祖・道元の教えや禅の人間観を理解することができる。 2．建学の精神を礎にした駒沢女子大学での学びの意義をみずから説明することができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	小早川 浩大	【第 1 回】 予習 ：建学の精神と仏教Ⅰで学んだことを振り返る 授業 ：ガイダンス 建学の精神と禅 復習 ：建学の精神をこれからの学生生活に照らし合わせまとめる
2	小早川 浩大	【第 2 回】 予習 ：「禅」について調べておく 授業 ：ダルマと達磨 禅宗の歴史と教え 復習 ：禅宗の特徴についてまとめる
3	小早川 浩大	【第 3 回】 予習 ：日本に伝来した仏教について調べておく 授業 ：日本仏教の歴史と展開（仏教伝来～鎌倉時代） 復習 ：日本に伝来した仏教の特徴についてまとめる
4	小早川 浩大	【第 4 回】 予習 ：日本に伝来した禅宗（曹洞宗・臨済宗）について調べておく 授業 ：鎌倉時代の禅宗 道元の誕生と出家 復習 ：駒澤学園の仏教行事「誕生記念日」の意義をまとめる
5	小早川 浩大	【第 5 回】 予習 ：「比叡山」（天台宗）と「建仁寺」（臨済宗）について調べておく 授業 ：比叡山と建仁寺での修行（課題解決型授業） 復習 ：「本覚法門」に対する道元の疑念をまとめる
6	小早川 浩大	【第 6 回】 予習 ：坐禅の意義と作法について調べておく 授業 ：坐禅実習 建学の精神「正念」の実践 復習 ：坐禅の三つの心得、身体と心の関係についてまとめる
7	小早川 浩大	【第 7 回】 予習 ：「典座」の意味を調べておく 授業 ：道元の入宋求法 典座の教え（典座教訓） 復習 ：典座の教えと禅修行の要点をまとめる
8	小早川 浩大	【第 8 回】 予習 ：「身心脱落」の意味を調べておく 授業 ：天童山での修行 道元の大悟 復習 ：「身心脱落」の教えの要点をまとめる
9	小早川 浩大	【第 9 回】 予習 ：「普観坐禅儀」について調べておく 授業 ：帰朝後の教化と「普観坐禅儀」の教え 復習 ：「只管打坐」の教えの要点をまとめる
10	小早川 浩大	【第 10 回】 予習 ：道元の禅の教えと実践について調べておく 授業 ：道元の教えと実践 復習 ：禅の教えと実践（道元の修行観）について要点をまとめる
11	小早川 浩大	【第 11 回】 予習：坐禅の作法と心得（調身・調息・調心）について復習しておく 授業 ：坐禅実習 建学の精神「正念」の実践 復習 ：「正念」を実践して身心に感じたことをまとめる

12	小早川 浩大	【第 12 回】 予習 ：永平寺について調べておく 授業 ：道元の永平寺創建と示寂 復習 ：駒澤学園の仏教行事「追善記念日」の意義をまとめる
13	小早川 浩大	【第 13 回】 予習 ：身のまわりの禅（文化）について調べておく 授業 ：禅と日常生活（課題解決型授業） 復習 ：禅の教えを日常生活にどのように生かし得るか、考えをまとめる
14	小早川 浩大	【第 14 回】 予習 ：建学の精神（行学一如・正念）について復習しておく 授業 ：建学の精神と仏教（釈尊）・禅（道元）の教え 復習 ：建学の精神と仏教・禅の生き方について、みずからに引き合わせて考えをまとめる
15	小早川 浩大	【第 15 回】 予習 ：建学の精神と仏教Ⅱで学んだ要点を振り返る 授業 ：本科の学びの総括 復習 ：建学の精神を礎にした駒沢女子大学での学びの意義をまとめる

授業開始前学習	担当教員の指示に基づき、指定された用語（語句）、ならびに配付資料を読んでおくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	授業で課した提出物（レポート等）は次回の授業で総評する。また、必要に応じて個別にフィードバックする。
テキスト・教材	必要に応じてプリントを配付する。
参考書	『英文対訳 道元禅師の典座教訓』（駒沢学園） その他、必要に応じて指示する。
評価の基準と方法	授業での提出物（30%）とテスト・レポート（70%）で総合的に評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				△

関連科目	
その他	照心館での坐禅実習（2 回）は予定が変更される場合があるので、授業時に日程を確認し、服装を整えて参加すること。 建学の精神の学びの場である学校行事には積極的に参加し、幅広い教養を身につけてほしい。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	曹洞宗の僧侶としての実務経験有り。その経験を生かして建学の精神と仏教・禅の教えについて講じる。

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	100-130-12（Ｊ）	授業コード	F00130
科目名称	仏教学Ⅲ			単位数	2.0 単位
英文名称	BuddhismⅢ			授業区分	講義
科目責任者	佐々木　俊道			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	佐々木　俊道			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期　月曜日 09:00～10:30　月曜日 14:40～16:10 後期　月曜日 09:00～10:30　月曜日 14:40～16:10			研究室	10-504
授業概要	本講義では多種多様な仏教文化について、思想や歴史、芸術や人間、文化遺産などさまざまな分野からその特質を考察し、あわせて現代社会における仏教文化の意義について考えていく。仏教の観点から日本文化を説明し日々の生活の中で、その影響を確認し見直す作業を行なう。日本文化に多大な影響を与えた仏教文化を中心に授業を進めて行く。誰でも挨拶という言葉を知っており日常生活で実践し無意識に文化として身に付けている。しかし、それが仏教・禅から派生した言葉であることは、ほとんどの人が知らない。よって挨拶のように自然に身に付いている日本における日常の「かたち」や「こころ」の歴史的背景を理解する。さらに無意識に行っている様々な行為を意識下に置く事により自分自身の文化的背景を見直す事が出来るようになることを目標とする。この授業では、この日のテーマについて趣意説明を丁寧にレクチャーする。次に課題解決型学習として対話およびディスカッションを行う。最後に必ず、その日に学修した成果を 800 字程度にまとめたレポートを提出していただく。				
到達目標	日本の文化に大きな影響を与えた仏教文化について広く理解し、その特質を説明することができるようになる。さらに、その中で生まれ育った自分自身が仏教の影響を受けて無意識のうちに思考し行動していることを自覚することが出来る。それにより自分自身を客観的に見つめることが出来るようになる。その結果受け継ぐべき伝統と変えていかなければならないことの自分なりの基準を確立することが出来るようになる。建学の精神「行学一如」を理解し、日々の生活で実践することができるようになる。仏教葬祭について専門的な知識を得ることが出来る。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	佐々木　俊道	【第 1 回】 予習　：仏教学の授業の復習 授業　：仏教学を通じて学んだことを確認し意見交換を行なう 復習　：授業で提出したレポートの修正と確認テストの復習
2	佐々木　俊道	【第 2 回】 予習　：釈尊が生きた時代におけるインドの宗教文化を調べておくこと 授業　：釈尊出現の歴史的存在意義について確認し意見交換を行なう 復習　：授業で提出したレポートの修正と確認テストの復習
3	佐々木　俊道	【第 3 回】 予習　：釈尊の生まれに関するお話を調べておくこと 授業　：教養としての釈尊伝とは何かを学び意見交換を行なう 復習　：授業で提出したレポートの修正と確認テストの復習
4	佐々木　俊道	【第 4 回】 予習　：釈尊の少年時代の出来事を調べておくこと 授業　：釈尊の慈悲について考察し意見交換を行なう 復習　：授業で提出したレポートの修正と確認テストの復習
5	佐々木　俊道	【第 5 回】 予習　：釈尊の四門出遊について調べておくこと 授業　：釈尊は生老病死の問題をどのように解決したのかを学び意見交換を行なう 復習　：授業で提出したレポートの修正と確認テストの復習
6	佐々木　俊道	【第 6 回】 予習　：坐禅に意味について調べておくこと 授業　：釈尊の成道の意義について学び意見交換を行なう 復習　：授業で提出したレポートの修正と確認テストの復習
7	佐々木　俊道	【第 7 回】 予習　：仏教教団の成立について調べておくこと 授業　：仏教教団と寺院の役割について学び意見交換を行なう 復習　：授業で提出したレポートの修正と確認テストの復習
8	佐々木　俊道	【第 8 回】 予習　：涅槃について調べておくこと 授業　：釈尊の涅槃と仏身論について学び意見交換を行なう 復習　：授業で提出したレポートの修正と確認テストの復習
9	佐々木　俊道	【第 9 回】 予習　：霊魂について調べておくこと 授業　：日本人の霊魂観について学び意見交換を行う 復習　：授業で提出したレポートの修正と確認テストの復習

10	佐々木　俊道	【第 10 回】 予習　：原始宗教について調べておくこと 授業　：アニミズム仏教について考察し意見交換を行なう 復習　：授業で提出したレポートの修正と確認テストの復習
11	佐々木　俊道	【第 11 回】 予習　：日本仏教の宗派について調べておくこと 授業　：教相判釈について学び意見交換を行なう 復習　：授業で提出したレポートの修正と確認テストの復習
12	佐々木　俊道	【第 12 回】 予習　：日本への仏教の伝来について調べておくこと 授業　：日本の土着思想と外来の仏教との出会いを学び意見交換を行なう 復習　：授業で提出したレポートの修正と確認テストの復習
13	佐々木　俊道	【第 13 回】 予習　：課題レポートを作成しておくこと 授業　：課題レポートの内容を発表する 復習　：授業で提出したレポートの修正と確認テストの復習
14	佐々木　俊道	【第 14 回】 予習　：日本文化に果たした仏教の役割を自分の経験に照らし合わせ説明できるようにしておく 授業　：日本文化における仏教の役割について考える（課題解決型授業） 復習　：授業で提出したレポートの修正と確認テストの復習
15	佐々木　俊道	【第 15 回】 予習　：授業内容の要点を振り返る 授業　：授業内容を振り返りを行い自らの課題を解決する 復習　：レポートの修正・成果物の作成

授業開始前学習	中学・高校時代の国語・日本史の授業や、大学での仏教文化に関する興味・関心を深め、それに関連する書籍に目を通しておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	授業の感想に対して、次回の授業で教員がコメントする。またグループ討論を行い学びを深め得られた意見に対して総評を行うこともある。
テキスト・教材	特定のテキストは使用せず、必要に応じて資料を配付する。
参考書	必要に応じて指示する。
評価の基準と方法	レポートと確認テストで総合的に評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				△

関連科目	日本の文化 仏教学Ⅰ・Ⅱ
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	100-130-12（Ｊ）	授業コード	F00140
科目名称	仏教学Ⅳ			単位数	2.0 単位
英文名称	BuddhismⅣ			授業区分	講義
科目責任者	佐々木　俊道			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	佐々木　俊道			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期　月曜日 09:00～10:30　月曜日 14:40～16:10 後期　月曜日 09:00～10:30　月曜日 14:40～16:10			研究室	10-504
授業概要	中国で禅宗として花開いた禅思想は、栄西や道元らによって日本に伝えられた。日本では茶道・芸術・庭園・建築空間などにおよぶ日本独自の禅文化として花開く。近代には日本の禅文化は「ＺＥＮ」として世界に広まり、現代国際社会においては ZEN は「クール（cool ・格好よい）」で理想的なあり方や日本文化を象徴するものとして、世界の人々に受け入れられている。本講義では多種多様な禅文化について、思想や歴史、芸術や人間、文化遺産などさまざまな分野からその特質を考察し、あわせて現代社会における禅文化の意義について知り、考え、自ら生かすことができるようになることを目標とする。仏教の観点から日本文化を説明し日々の生活の中で、その影響を確認し見直す作業を行なう。日本文化に多大な影響を与えた仏教文化を中心に授業を進めて行く。誰でも挨拶という言葉を知っており日常生活で実践し無意識に文化として身に付けている。しかし、それが仏教・禅から派生した言葉であることは、ほとんどの人が知らない。よって挨拶のように自然に身に付いている日本における日常の「かたち」や「こころ」の歴史的背景を理解する。さらに無意識に行っている様々な行為を意識下に置く事により自分自身の文化的背景を見直す事が出来るようになることを目標とする。この授業では、この日のテーマについて趣意説明を丁寧にレクチャーする。次に課題解決型学習として対話およびディスカッションを行う。最後に必ず、その日に学修した成果を 800 字程度にまとめたレポートを提出していただく。				
到達目標	日本の文化に大きな影響を与えた仏教文化について広く理解し、その特質を説明することができるようになる。さらに、その中で生まれ育った自分自身が仏教の影響を受けて無意識のうちに思考し行動していることを自覚することが出来る。それにより自分自身を客観的に見つめることが出来るようになる。その結果受け継ぐべき伝統と変えていかなければならないことの自分なりの基準を確立することが出来るようになる。建学の精神「行学一如」を理解し、日々の生活で実践することができるようになる。仏教葬祭について専門的な知識を得ることが出来る。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	佐々木　俊道	【第 1 回】 予習　：中学・高校の社会や大学での授業で仏教について学んだことを振り返る 授業　：仏教と建学の精神「正念」の復習を si 意見交換を行なう 復習　：授業で提出したレポートの修正と確認テストの復習
2	佐々木　俊道	【第 2 回】 予習　：釈尊の坐禅について調べておく 授業　：釈尊の坐禅を学び意見交換を行う 復習　：授業で提出したレポートの修正と確認テストの復習
3	佐々木　俊道	【第 3 回】 予習　：道元禅師の生い立ちについて復習をしておくこと 授業　：道元禅師の生い立ちについて再度学び意見交換を行なう 復習　：授業で提出したレポートの修正と確認テストの復習
4	佐々木　俊道	【第 4 回】 予習　：「本来本法性・天然自性身」について復習すること 授業　：道元禅師と天台本覚思想について学び意見交換を行なう 復習　：授業で提出したレポートの修正と確認テストの復習
5	佐々木　俊道	【第 5 回】 予習　：道元禅師の入宋求法について復習すること 授業　：道元禅師の『典座教訓』を学び意見交換を行なう 復習　：授業で提出したレポートの修正と確認テストの復習
6	佐々木　俊道	【第 6 回】 予習　：道元禅師と天童如浄禅師との関係を復習すること 授業　：道元禅師の修証観と正伝の仏法とは何かを学び意見交換を行なう 復習　：授業で提出したレポートの修正と確認テストの復習
7	佐々木　俊道	【第 7 回】 予習　：『正法眼蔵随聞記』「学道の人後日を待ちて行道することなかれ」の部分を読み単語の意味を調べておくこと 授業　：道元の人生観とは何かを学び意見交換を行なう 復習　：授業で提出したレポートの修正と確認テストの復習
8	佐々木　俊道	【第 8 回】 予習　：『正法眼蔵随聞記』「海中の龍門」の部分を読み単語の意味を調べておくこと 授業　：道元禅師の「優しさ」と「厳しさ」とは何かを学び意見交換を行なう 復習　：授業で提出したレポートの修正と確認テストの復習

9	佐々木　俊道	【第 9 回】 予習　：曹洞宗で読まれる『修証義』の成立について調べておくこと 授業　：『修証義』の意味を学び意見交換を行う 復習　：授業で提出したレポートの修正と確認テストの復習
10	佐々木　俊道	【第 10 回】 予習　：日本人の基本的な仏事について調べておくこと 授業　：日本人の祖霊観を学び意見交換を行う 復習　：授業で提出したレポートの修正と確認テストの復習
11	佐々木　俊道	【第 11 回】 予習　：日本の葬祭儀礼について特に通夜・葬式について調べておくこと 授業　：「没後作僧」について学び意見交換を行なう 復習　：授業で提出したレポートの修正と確認テストの復習
12	佐々木　俊道	【第 12 回】 予習　：これまで授業で取り上げてきた内容について興味ある項目を調べて研究発表の準備を進めること 授業　：研究発表・前半 復習　：発表によって得られた成果を自らの小論文としてまとめる
13	佐々木　俊道	【第 13 回】 予習　：発表の準備を再び進める 授業　：研究発表・後半 復習　：その成果を再び小論文としてまとめる
14	佐々木　俊道	【第 14 回】 予習　：発表の準備を再び進める 授業　：小論文の振り返りと最終確認 復習　：その成果を再び小論文としてまとめる
15	佐々木　俊道	【第 15 回】 予習　：論文集の編集 授業　：それぞれの評価を行う 復習　：今後の研究に役立てる

授業開始前学習	仏教文化に関する興味・関心を深め、それに関連する書籍に目を通しておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	授業で課題もしくは感想を提出してもらった場合、次回の授業で総評する。またグループ討論を行うこともある。
テキスト・教材	特定のテキストは使用せず、必要に応じて資料を配付する。
参考書	必要に応じて指示する。
評価の基準と方法	レポートと確認テストで総合的に評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				△

関連科目	「仏教学」や日本文化に関する授業などは仏教文化・禅文化と仏教との関係を考える上ですべて関連するものである。
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	GJ-M-111	科目分類（～2024 年入学者）	100-120-11	授業コード	F00310
科目名称	日本文化入門Ⅰ			単位数	2.0 単位
英文名称	Introduction to Japanese Cultural Studies Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	下川　雅弘			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	下川　雅弘			開講時期	1 年
オフィスアワー	前期　月曜日 13:00～14:30　水曜日 13:00～14:30 後期　月曜日 13:00～14:30　水曜日 13:00～14:30			研究室	10-706
授業概要	この授業では、日本の文化の専門的学習を行うために必要な基礎知識と方法を身に付ける。具体的には、文化的景観（地域の人々の生活・生業や風土により形成された景観）の価値が評価された日本各地の世界遺産を事例とし、これらを通して日本のさまざまな文化事象及び日本人の物の考え方について考察する。この授業によって、日本の文化に対する考えを深めるきっかけとする。授業では課題解決型学習・発表を行う。				
到達目標	1．日本の世界遺産や文化的景観に関する自分の調査内容を適切にまとめることができる。 2．日本の文化を育んできた日本人の特質について自分なりの考えを説明することができる。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	下川　雅弘	【第 1 回】 予習　：シラバスを読み、学習内容を確認する 授業　：日本文化入門Ⅰの学習内容（教科書 1 頁）／法隆寺から考える日本の木造建築文化（教科書 2～4 頁） 復習　：授業内容の整理課題と考察課題をフォームで提出する（6 点）
2	下川　雅弘	【第 2 回】 予習　：「京町家は未来に伝えられるか」の部分について教科書を読んでおく 授業　：未来に伝えたい日本の文化（課題解決型学習）／京町家は未来に伝えられるか（教科書 5 頁） 復習　：授業内容の整理課題をフォームで提出する（6 点）
3	下川　雅弘	【第 3 回】 予習　：「世界遺産と無形文化遺産」の部分について教科書を読んでおく 授業　：世界遺産と無形文化遺産（教科書 6～7 頁）／世界遺産「白川郷・五箇山の合掌造り集落」 復習　：授業内容の整理課題をフォームで提出する（6 点）
4	下川　雅弘	【第 4 回】 予習　：「世界遺産と文化的景観」の部分について教科書を読んでおく 授業　：世界遺産と文化的景観（教科書 8～9 頁）／世界遺産レジュメによる発表について（教科書 12 頁） 復習　：授業内容の整理課題と考察課題 1 をフォームで提出する（6 点）
5	下川　雅弘	【第 5 回】 予習　：ブルーノ・タウト『日本美の再発見』についてプリントを読んでおく 授業　：ブルーノ・タウト『日本美の再発見』を読む（課題解決型学習）／世界遺産「白川郷・五箇山の合掌造り集落」から考える文化的景観とその保存（教科書 10～11 頁） 復習　：授業内容の整理課題と考察課題 2 をフォームで提出する（6 点）
6	下川　雅弘	【第 6 回】 予習　：「文化的景観を守る意義」の部分について教科書を読んでおく 授業　：文化的景観を守る意義（教科書 16～17 頁） 復習　：授業内容の整理課題をフォームで提出する（6 点）
7	下川　雅弘	【第 7 回】 予習　：世界遺産レジュメ（世界遺産の概要部分）を提出する 授業　：世界遺産レジュメの参考文献について（教科書 13～15 頁）／世界遺産レジュメ考察部分の執筆とアドバイス 復習　：世界遺産レジュメ（世界遺産の考察部分）を書き進める
8	下川　雅弘	【第 8 回】 予習　：「里地・里山という文化的景観」の部分について教科書を読んでおく 授業　：里地・里山という文化的景観（教科書 18～19 頁） 復習　：授業内容の整理課題をフォームで提出する（6 点）
9	下川　雅弘	【第 9 回】 予習　：「谷戸と棚田の文化的景観」の部分について教科書を読んでおく 授業　：谷戸と棚田の文化的景観（教科書 20～22 頁） 復習　：授業内容の整理課題をフォームで提出する（6 点）
10	下川　雅弘	【第 10 回】 予習　：「文化的景観を未来にどう伝えるか」の部分について教科書を読んでおく 授業　：正課学外活動【地元発見プロジェクト】「大学付近の谷戸田を歩く」／文化的景観を未来にどう伝えるか（教科書 22 頁） 復習　：考察課題をフォームで提出する（6 点）

11	下川　雅弘	【第 11 回】 予習　：世界遺産レジュメを提出する（30 点）／「世界文化遺産と世界自然遺産」の部分について教科書を読んでおく 授業　：世界文化遺産と世界自然遺産（教科書 23～24 頁）／世界遺産レジュメの修正とアドバイス 復習　：授業内容の整理課題をフォームで提出する（6 点）／世界遺産レジュメを完成させ、発表に使用する写真をアップする
12	下川　雅弘	【第 12 回】 予習　：世界遺産レジュメ集を読んでおく 授業　：世界遺産レジュメ集を読む①（世界遺産「宗像・沖ノ島と関連遺産群」）（発表） 復習　：発表にコメントを寄せる
13	下川　雅弘	【第 13 回】 予習　：世界遺産レジュメ集を読んでおく 授業　：世界遺産レジュメ集を読む②（世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」）（発表） 復習　：発表にコメントを寄せる
14	下川　雅弘	【第 14 回】 予習　：世界遺産レジュメ集を読んでおく 授業　：世界遺産レジュメ集を読む③（世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」）（発表） 復習　：発表にコメントを寄せる
15	下川　雅弘	【第 15 回】 予習：ミニレポートをフォームで提出する（10 点） 授業：世界遺産から考える日本文化の学びの総括（課題解決型学習） 復習：ミニレポートの感想をフォームで提出する

授業開始前学習	
授業内課題のフィードバックの方法	毎回の課題に対して、次回の授業時に受講者からの回答を紹介し、コメント・講評を行う。
テキスト・教材	授業中に教科書やプリントを配付する。
参考書	授業中に指示する。
評価の基準と方法	課題６０%、発表レジュメ３０%、ミニレポート１０%により評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○	△					

関連科目	
その他	授業の進捗状況等によって、内容を変更することがある。 この授業では、稲城市内の文化的景観を体感するため、授業時間内に正課学外活動（大学付近の谷戸田を歩く）を行う可能性がある。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）	HR-M-131	科目分類（～2024年入学者）	100-120-11	授業コード	F00330
科目名称	人間関係入門Ⅰ			単位数	2.0単位
英文名称	Introduction to Human Relations Studies Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	小菅 清香			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	榎本・楠田・倉住・小菅・福王			開講時期	1年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	テーマ：人間関係研究への招待 共創文化学部人間関係学科の学問分野のうち「応用心理学」「メディア論」「現代社会学」「キャリア心理学」「法律学」について、それぞれの分野のエッセンスを紹介する。人間・文化・社会をめぐるさまざまな現象や諸課題を5分野ではどのように捉えることができるのか、どのような理解と発想が可能なのか、それぞれの学問的特徴を理解するとともに、学的魅力にふれてもらいたい。				
到達目標	「応用心理学」「メディア論」「現代社会学」「キャリア心理学」「法律学」の各分野について、研究の対象・方法・基本的な考え方を理解し、人間・文化・社会に対する各分野のアプローチの違いをイメージできるようになることを目標とする。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	オムニバス

授業回数	担当者	授業の内容
1	倉住 友恵	【第1回】 予習：シラバスを熟読し、質問や相談事項があれば整理しておく 授業：応用心理学1：人間関係学科の学び／コミュニケーションを考える 復習：コミュニケーションに関する気付きを実生活に活かしてみる
2	倉住 友恵	【第2回】 予習：コロナ禍に自分はどのように行動したか振り返っておく 授業：応用心理学2：コロナと心理学 復習：不安から引き起こされる日常的な行動を考えてみる
3	倉住 友恵	【第3回】 予習：「ストレス」について辞書等を使用して調べる 授業：応用心理学3：ストレスとうまく付き合う 復習：ストレス対処方略とポジティブリフレーミングを実践してみる
4	楠田 恵美	【第4回】 予習：「近代化」、「メディア」とは何か調べる 授業：メディア論 1：近代化とメディア 復習：近代化にメディアが果たした役割について考える
5	楠田 恵美	【第5回】 予習：「グローバル化」とは何か調べる 授業：メディア論 2：グローバル化とメディア 復習：グローバル化にメディアが果たした役割について考える
6	楠田 恵美	【第6回】 予習：身の回りの空間に広がるメディアをリストアップする 授業：メディア論 3：都市とメディア 復習：予習で作成したリストをバージョンアップさせる
7	榎本 環	【第7回】 予習：社会学とはどのような学問か、入門書・Web等でリサーチしてみる 授業：現代社会学1：「社会学」という学問 復習：質問・コメント・感想等をClassroomコメント欄に投稿する
8	榎本 環	【第8回】 予習：「ロードサイドビジネス」「ショッピングモール」について調べておく 授業：現代社会学2：郊外社会と消費文化 復習：質問・コメント・感想等をClassroomコメント欄に投稿する
9	榎本 環	【第9回】 予習：「自由」の概念について百科事典等で調べておく 授業：現代社会学3：人間関係と「自由」（ディスカッション） 復習：コメント・感想・質問等をClassroomコメント欄に投稿する
10	小菅 清香	【第10回】 予習：「キャリア」という言葉からイメージするものを自由に書き出す 授業：キャリア心理学 1：心理学からみる「キャリア」 復習：配付資料および参考文献 （https://www.jil.go.jp/institute/zassi/backnumber/2017/04/pdf/073-074.pdf）をもとに自身の考えをまとめる

11	小菅　清香	【第 11 回】 予習：「キャリア」に関するニュースや事例を調べる 授業：キャリア心理学　2：研究からみる「キャリア」 復習：配布資料をもとに、興味のある「キャリア」関連トピックでの研究例を挙げる
12	小菅　清香	【第 12 回】 予習：中学校や高校等での進路選択に関わる活動を、他者に説明できるようにまとめる 授業：キャリア心理学　3：実践からみる「キャリア」 復習：配布資料をもとに、「キャリア」関連トピックでの研究案を考え、実践にどう役立つか説明する
13	福王　守	【第 13 回】 予習：授業レジュメ・資料の購読およびキーワードの確認 授業：法律学の基礎 1 ：私たちの市民社会と「人間の尊厳」 復習：授業レジュメ・資料の再読と内容整理
14	福王　守	【第 14 回】 予習：授業レジュメ・資料の購読およびキーワードの確認 授業：法律学の基礎 2 ：憲法に基づく国内社会と「個人の尊厳」 復習：授業レジュメ・資料の再読と内容整理
15	福王　守	【第 15 回】 予習：授業レジュメ・資料の購読およびキーワードの確認 授業：法律学の基礎 3 ：国際法に基づく国際社会と「人権」 復習：授業レジュメ・資料の再読と内容整理

授業開始前学習	各領域についての入門書を読んでおくと授業が理解しやすい。
授業内課題のフィードバックの方法	課題提出を求める場合は、次回授業以降に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。
テキスト・教材	とくに指定しない。必要に応じて適宜、資料を配布する。
参考書	授業内で適宜、紹介する。
評価の基準と方法	平常点（受講取組みの積極性・課題提出）（50 %）、各担当者（5 名）による課題（50 %）をもとに総合的に評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	△	○	○	◎			

関連科目	教養教育科目の「心理学Ⅰ Ⅱ」「社会学Ⅰ Ⅱ」「法学」と関連し、「現代社会の論点」「メディアと社会」「人間関係ﾌﾟﾚｾﾞﾐ／人間関係の基礎」（2 年前期、学科必修科目）をはじめ、人間関係学科の各専門教育科目への橋渡しとなる科目である。
その他	「コミュニケーション」を共通の具体的研究事例に含めながら、5 名の教員によるオムニバス形式で進める。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）		科目分類（～2024年入学者）	100-120-11	授業コード	F00350
科目名称	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ入門Ⅰ			単位数	2.0単位
英文名称	Introduction to English Communication Studies Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	工藤 俊			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	工藤(俊)・福王・ﾌﾞﾗｳﾝ・ﾌﾟﾗｻﾞ・松山			開講時期	1年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	本講義では、英語に関連する様々な学問領域の基礎を学ぶ。具体的には、英語学・英語教育・英語圏文化・英語圏文学・英語の多様性・国際社会研究といった、英語に関連する学問分野の基礎を学ぶ。同時に、聞く・読む・書く・話すといった、総合的な英語力を身につけることも目指す。				
到達目標	英語に関連する様々な学問分野の基礎知識を習得できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態	共同				

授業回数	担当者	授業の内容
1	工藤(俊)・福王・ﾌﾞﾗｳﾝ・ﾌﾟﾗｻﾞ・松山	【第1回】 予習：英語コミュニケーション専攻の科目について調べる 授業：教員自己紹介・オリエンテーション 復習：各教員の専門分野で興味を持った分野について調べる
2	工藤(俊)・福王・ﾌﾞﾗｳﾝ・ﾌﾟﾗｻﾞ・松山	【第2回】 予習：テーマに沿って質問事項をまとめる 授業：英語関連学問分野に関するレクチャー1 復習：学習した内容についてのまとめを行う
3	工藤(俊)・福王・ﾌﾞﾗｳﾝ・ﾌﾟﾗｻﾞ・松山	【第3回】 予習：テーマに沿って質問事項をまとめる 授業：英語関連学問分野に関するレクチャー2 復習：学習した内容についてのまとめを行う
4	工藤(俊)・福王・ﾌﾞﾗｳﾝ・ﾌﾟﾗｻﾞ・松山	【第4回】 予習：レポートおよび論文の書き方を調べる 授業：レポートおよび論文についての説明 復習：学習した内容についてのまとめを行う
5	工藤(俊)・福王・ﾌﾞﾗｳﾝ・ﾌﾟﾗｻﾞ・松山	【第5回】 予習：テーマに沿って質問事項をまとめる 授業：英語関連学問分野に関するレクチャー3 復習：学習した内容についてのまとめを行う
6	工藤(俊)・福王・ﾌﾞﾗｳﾝ・ﾌﾟﾗｻﾞ・松山	【第6回】 予習：テーマに沿って質問事項をまとめる 授業：英語関連学問分野に関するレクチャー4 復習：学習した内容についてのまとめを行う
7	工藤(俊)・福王・ﾌﾞﾗｳﾝ・ﾌﾟﾗｻﾞ・松山	【第7回】 予習：テーマに沿って質問事項をまとめる 授業：英語関連学問分野に関するレクチャー5 復習：学習した内容についてのまとめを行う
8	工藤(俊)・福王・ﾌﾞﾗｳﾝ・ﾌﾟﾗｻﾞ・松山	【第8回】 予習：テーマに沿って質問事項をまとめる 授業：英語関連学問分野に関するレクチャー6 復習：学習した内容についてのまとめを行う
9	工藤(俊)・福王・ﾌﾞﾗｳﾝ・ﾌﾟﾗｻﾞ・松山	【第9回】 予習：テーマに沿って質問事項をまとめる 授業：英語関連学問分野に関するレクチャー7 復習：学習した内容についてのまとめを行う
10	工藤(俊)・福王・ﾌﾞﾗｳﾝ・ﾌﾟﾗｻﾞ・松山	【第10回】 予習：テーマに沿って質問事項をまとめる 授業：英語関連学問分野に関するレクチャー8 復習：学習した内容についてのまとめを行う
11	工藤(俊)・福王・ﾌﾞﾗｳﾝ・ﾌﾟﾗｻﾞ・松山	【第11回】 予習：テーマに沿って質問事項をまとめる 授業：英語関連学問分野に関するレクチャー9 復習：学習した内容についてのまとめを行う

12	工藤(俊)・福王・ﾌﾞﾗｳﾝ・ﾌﾟﾗｻﾞ・松山	【第 12 回】 予習：テーマに沿って質問事項をまとめる 授業：英語関連学問分野に関するレクチャー10 復習：学習した内容についてのまとめを行う
13	工藤(俊)・福王・ﾌﾞﾗｳﾝ・ﾌﾟﾗｻﾞ・松山	【第 13 回】 予習：テーマに沿って質問事項をまとめる 授業：英語関連学問分野に関するレクチャー11 復習：学習した内容についてのまとめを行う
14	工藤(俊)・福王・ﾌﾞﾗｳﾝ・ﾌﾟﾗｻﾞ・松山	【第 14 回】 予習：テーマに沿って質問事項をまとめる 授業：英語関連学問分野に関するレクチャー12 復習：学習した内容についてのまとめを行う
15	工藤(俊)・福王・ﾌﾞﾗｳﾝ・ﾌﾟﾗｻﾞ・松山	【第 15 回】 予習：前期の授業で学んだことを振り返る 授業：前期の総括と後期に向けて 復習：前期のまとめをする

授業開始前学習	事前に与えられた課題について、書籍や各種メディアを適切に使用し、授業内容理解のための準備を行う。
授業内課題のフィードバックの方法	毎時、学生が提出した課題を担当した教員がチェックし、個別の質問に回答する。
テキスト・教材	授業中に適宜参考資料を配布する
参考書	授業中に適宜参考資料を配布する
評価の基準と方法	授業参加度：15%、各教員より課される課題：85%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	
その他	各回の授業に、積極的に参加すること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	100-120-11	授業コード	F00360
科目名称	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ入門Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	Introduction to English Communication Studies Ⅱ			授業区分	講義
科目責任者	工藤　俊			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	工藤(俊)・福王・ﾌﾞﾗｳﾝ・ﾌﾟﾗｻﾞ・松山			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	本講義では、「英語コミュニケーション入門Ⅰ」に引き続き、英語に関連する様々な学問領域についてさらに深く学ぶ。具体的には、英語学・英語教育・英語圏文化・英語圏文学・英語の多様性・国際社会研究といった、英語に関連する学問分野を学ぶ。また、総合的な英語力を身につけることも継続して目指す。				
到達目標	英語に関連する様々な学問分野の深い知識を習得できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態	共同				

授業回数	担当者	授業の内容
1	工藤(俊)・福王・ﾌﾞﾗｳﾝ・ﾌﾟﾗｻﾞ・松山	【第 1 回】 予習：英語コミュニケーション専攻の科目について調べる 授業：教員自己紹介・オリエンテーション 復習：各教員の専門分野で興味を持った分野について調べる
2	工藤(俊)・福王・ﾌﾞﾗｳﾝ・ﾌﾟﾗｻﾞ・松山	【第 2 回】 予習：テーマに沿って質問事項をまとめる 授業：英語関連学問分野に関するレクチャー1 復習：学習した内容についてのまとめを行う
3	工藤(俊)・福王・ﾌﾞﾗｳﾝ・ﾌﾟﾗｻﾞ・松山	【第 3 回】 予習：テーマに沿って質問事項をまとめる 授業：英語関連学問分野に関するレクチャー2 復習：学習した内容についてのまとめを行う
4	工藤(俊)・福王・ﾌﾞﾗｳﾝ・ﾌﾟﾗｻﾞ・松山	【第 4 回】 予習：テーマに沿って質問事項をまとめる 授業：英語関連学問分野に関するレクチャー3 復習：学習した内容についてのまとめを行う
5	工藤(俊)・福王・ﾌﾞﾗｳﾝ・ﾌﾟﾗｻﾞ・松山	【第 5 回】 予習：テーマに沿って質問事項をまとめる 授業：英語関連学問分野に関するレクチャー4 復習：学習した内容についてのまとめを行う
6	工藤(俊)・福王・ﾌﾞﾗｳﾝ・ﾌﾟﾗｻﾞ・松山	【第 6 回】 予習：テーマに沿って質問事項をまとめる 授業：英語関連学問分野に関するレクチャー5 復習：学習した内容についてのまとめを行う
7	工藤(俊)・福王・ﾌﾞﾗｳﾝ・ﾌﾟﾗｻﾞ・松山	【第 7 回】 予習：テーマに沿って質問事項をまとめる 授業：英語関連学問分野に関するレクチャー6 復習：学習した内容についてのまとめを行う
8	工藤(俊)・福王・ﾌﾞﾗｳﾝ・ﾌﾟﾗｻﾞ・松山	【第 8 回】 予習：テーマに沿って質問事項をまとめる 授業：英語関連学問分野に関するレクチャー7 復習：学習した内容についてのまとめを行う
9	工藤(俊)・福王・ﾌﾞﾗｳﾝ・ﾌﾟﾗｻﾞ・松山	【第 9 回】 予習：テーマに沿って質問事項をまとめる 授業：英語関連学問分野に関するレクチャー8 復習：学習した内容についてのまとめを行う
10	工藤(俊)・福王・ﾌﾞﾗｳﾝ・ﾌﾟﾗｻﾞ・松山	【第 10 回】 予習：テーマに沿って質問事項をまとめる 授業：英語関連学問分野に関するレクチャー9 復習：学習した内容についてのまとめを行う
11	工藤(俊)・福王・ﾌﾞﾗｳﾝ・ﾌﾟﾗｻﾞ・松山	【第 11 回】 予習：テーマに沿って質問事項をまとめる 授業：英語関連学問分野に関するレクチャー10 復習：学習した内容についてのまとめを行う

12	工藤(俊)・福王・ﾌﾞﾗｳﾝ・ﾌﾟﾗｻﾞ・松山	【第 12 回】 予習：テーマに沿って質問事項をまとめる 授業：英語関連学問分野に関するレクチャー11 復習：学習した内容についてのまとめを行う
13	工藤(俊)・福王・ﾌﾞﾗｳﾝ・ﾌﾟﾗｻﾞ・松山	【第 13 回】 予習：テーマに沿って質問事項をまとめる 授業：英語関連学問分野に関するレクチャー12 復習：学習した内容についてのまとめを行う
14	工藤(俊)・福王・ﾌﾞﾗｳﾝ・ﾌﾟﾗｻﾞ・松山	【第 14 回】 予習：テーマに沿って質問事項をまとめる 授業：英語関連学問分野に関するレクチャー13 復習：学習した内容についてのまとめを行う
15	工藤(俊)・福王・ﾌﾞﾗｳﾝ・ﾌﾟﾗｻﾞ・松山	【第 15 回】 予習：後期の授業で学んだことを振り返る 授業：後期の総括と次年度に向けて 復習：後期のまとめをする

授業開始前学習	事前に与えられた課題について、書籍や各種メディアを適切に使用し、授業内容理解のための準備を行う。
授業内課題のフィードバックの方法	毎時、学生が提出した課題を担当した教員がチェックし、個別の質問に回答する。
テキスト・教材	授業中に適宜参考資料を配布する
参考書	授業中に適宜参考資料を配布する
評価の基準と方法	授業参加度：15%、各教員より課される課題：85%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	
その他	各回の授業に、積極的に参加すること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CT-L-111 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	100-120-11 （Ｊ）	授業コード	F00370
科目名称	観光文化入門Ⅰ			単位数	2.0 単位
英文名称	Introduction to Culture and Tourism Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	ゼイヤー ウィン			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鮫島・張・ゼイヤーウィン・高須・田代・羽鳥・松岡・薬師・渡邉(光)			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	人間総合学群、観光文化学類の「観光文化入門Ⅰ」科目は、観光・文化・産業という３つのキーワードを柱に、講義を構成している。受講生には、国と国を結ぶ「観光」を通じて国際人になって、さらに国境を越えた問題意識を「異文化理解」という観点から共有できるグローバルな人材として成長してほしいと願っている。その思いを込めた「観光文化入門Ⅰ」は、1 年次の教養教育でありながら 2～4 年次の専門教育へと橋渡しをする、輪講形式の人間総合学群の共通専門科目である。				
到達目標	本講義を通じて、2 年次に所属する学類と研究分野を自ら進んで学べる力を養う。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態	オムニバス				

授業回数	担当者	授業の内容
1	ゼイヤー ウィン	【第 1 回】担当 教員全員 予習 ：シラバスを読んでおく 授業 ：授業概要・観光文化入門Ⅰの全体内容・評価方法の説明 復習 ：配布された授業資料を復習する。
2	張 景泰	【第 2 回】担当 張 予習 ：シラバスの該当ページと事前配布資料を熟読する。 授業 ：観光学入門－駒沢女子大学で学ぶ「観光学」－ 復習 ：配布された授業資料を復習する。
3	渡邉 光章	【第 3 回】担当 渡邉 予習 ：シラバスの該当ページと事前配布資料を熟読する。 授業 ：観光の PR メディアと視覚効果-伝え方ひとつで変わるイメージ＆真実- 復習 ：配布された授業資料を復習する。
4	渡邉 光章	【第 4 回】担当 渡邉 予習 ：事前課題に取り組む。 授業 ：観光の PR メディアと心理－観光地で行列のできる飲食店はホントに美味いの？－ 復習 ：配布された授業資料を復習する。
5	田代 真人	【第 5 回】担当 田代 予習 ：シラバスの該当ページと事前配布資料を熟読する。 授業 ：広告・メディア業実務論入門－観光メディアの作られ方－ 復習 ：配布された授業資料を復習する。
6	田代 真人	【第 6 回】担当 田代 予習 ：シラバスの該当ページと事前配布資料を熟読する。 授業 ：広告・メディア業実務論入門－観光メディアの編集とは－ 復習 ：配布された授業資料を復習する。
7	薬師 英子	【第 7 回】担当 薬師 予習 ：シラバスの該当ページと事前配布資料を熟読する。 授業 ：身近な教材で英語を学ぶ観光英語入門① 復習 ：配布された授業資料を復習する。
8	薬師 英子	【第 8 回】担当 薬師 予習 ：シラバスの該当ページと事前配布資料を熟読する。 授業 ：身近な教材で英語を学ぶ観光英語入門② 復習 ：配布された授業資料を復習する。
9	高須 直子	【第 9 回】担当 高須 予習 ：シラバスの該当ページと事前配布資料を熟読する。 授業 ：観光と SDGs 復習 ：配布された授業資料を復習する。
10	鮫島 卓	【第 10 回】担当 鮫島 予習 ：シラバスの該当ページと事前配布資料を熟読する。 授業 ：観光マーケティング論入門－ディズニーリゾートから学ぶ観光サービスの特性－ 復習 ：配布された授業資料を復習する。
11	鮫島 卓	【第 11 回】担当 鮫島 予習 ：シラバスの該当ページと事前配布資料を熟読する。 授業 ：変革的旅行経験研究の最前線 復習 ：配布された授業資料を復習する。

12	松岡 友子	【第 12 回】担当　松岡 予習　：シラバスの該当ページと事前配布資料を熟読する。 授業　：航空空港業実務論入門－日本を中心とした旅客航空事業の歴史から 復習　：配布された授業資料を復習する。
13	ゼイヤー　ウィン	【第 13 回】担当　ゼイヤー 予習　：シラバスの該当ページと事前配布資料を熟読する。 授業　：観光人類学入門（学術と実践のフィールドワーク） 復習　：配布された授業資料を復習する。
14	ゼイヤー　ウィン	【第 14 回】担当　ゼイヤー 予習　：シラバスの該当ページと事前配布資料を熟読する。 授業　：海外観光資源研究（東南アジア）入門 復習　：配布された授業資料を復習する。
15	張　景泰	【第 15 回】担当　張 予習　：シラバスの該当ページと事前配布資料を熟読する。 授業　：ホスピタリティ概論入門ーブライダル業社員による講義ー 復習　：配布された授業資料を復習する。

授業開始前学習	シラバスの該当ページおよび事前配布資料を熟読する。
授業内課題のフィードバックの方法	毎回の授業において作成・提出される授業課題レポートに対し、次回の授業で講評と質問に対する回答を行う。
テキスト・教材	各講義担当教員が個別に指定（配布プリントなど）
参考書	授業の中で、適宜紹介する。
評価の基準と方法	各教員が担当する全 14 回の授業で、授業レポート 70 点(各回 5 点×14 回)、期末レポート 30 点、合計 100 点で評価する。10 回以上の出席と、レポート評価が 60%以上であることが単位取得の条件である。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎			△

関連科目	「観光文化入門Ⅱ」
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	本科目は複数の担当者がオムニバス形式で指導する科目であり、担当教員のうち、田代は広告・出版編集者の実務経験を、渡邉はメディア業の実務経験を、鮫島・本間は旅行業の実務経験を、高須・ゼイヤーは国際開発協力分野の実務経験を、松岡は航空業の実務経験を有している。本科目では、その経験を活かして講義を行う予定である。

科目分類（2025年～入学者）	CT-L-111 （J）	科目分類（～2024年入学者）	100-120-11 （J）	授業コード	F00380
科目名称	観光文化入門Ⅱ			単位数	2.0単位
英文名称	Introduction to Culture and Tourism Ⅱ			授業区分	講義
科目責任者	鮫島 卓			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鮫島・張・ゼイヤーウィン・高須・田代・羽鳥・松岡・薬師・渡邉(光)			開講時期	1年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	この科目は2部構成からなる。第1部（第1回～第5回、第13回～第15回）は観光文化学類専任教員によるオムニバス授業。観光文化学類の専門科目の橋渡しとなる授業を行う。第2部（第6回～第12回）は観光ホスピタリティ産業の最前線で活躍する実務家による授業を行う。ゲスト講師から業界の仕組みや仕事内容を学び、学生諸君の将来の進路設計の一助とすることを目的とする。2年次以降に観光文化学類を選択する学生は履修することを勧める。				
到達目標	①観光文化学類の専門科目を理解する ②観光ホスピタリティ産業の仕組みと仕事を学ぶ ③レポート類を通して調べる力・考える力・文章力を向上させる				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	オムニバス

授業回数	担当者	授業の内容
1	鮫島 卓、張 景泰、ゼイヤー ウィン、高須 直子、田代 真人、羽鳥 修、松岡 友子、薬師 英子、渡邉 光章、	【第1回】担当：専任教員全員 予習 ：シラバスを読んでおく 授業 ：授業の概要と方針・評価方法の説明 復習 ：授業を振り返り、授業レポートを提出する
2	張 景泰	【第2回】担当：張 予習 ：シラバスの該当ページと事前配布資料を熟読する 授業 ：海外観光資源研究（韓国）入門 復習 ：授業を振り返り、授業レポートを提出する
3	羽鳥 修	【第3回】担当：羽鳥 予習 ：シラバスの該当ページと事前配布資料を熟読する 授業 ：海外観光資源研究入門ー政治と文化の街としてのワシントンDCー 復習 ：授業を振り返り、授業レポートを提出する
4	渡邉 光章	【第4回】担当：渡邉 予習 ：シラバスの該当ページと事前配布資料を熟読する 授業 ：地域観光資源研究入門－地名も重要な観光資源（読めなければ案内もできない）－ 復習 ：授業を聞いて授業レポートを提出する
5	田代 真人	【第5回】担当：田代 予習 ：シラバスの該当ページと事前配布資料を熟読する 授業 ：国内インターンシップ実習入門－コマジョのインターンシップで学ぶこと－ 復習 ：授業を振り返り、授業レポートを提出する
6	鮫島 卓	【第6回】担当：鮫島 予習 ：シラバスの該当ページと事前配布資料を熟読する 授業 ：旅行業入門ー旅行会社社員による講義ー 復習 ：授業を振り返り、授業レポートを提出する
7	鮫島 卓	【第7回】担当：鮫島 予習 ：ゲスト企業ホームページや記事を読み質問を考える 授業 ：宿泊業入門①ー宿泊施設社員による講義ー《ディスカッション》 復習 ：授業を振り返り、授業レポートを提出する
8	松岡 友子	【第8回】担当：松岡 予習 ：ゲスト企業ホームページや記事を読み質問を考える 授業 ：航空業入門ー航空会社社員による講義ー《ディスカッション》 復習 ：授業を振り返り、授業レポートを提出する
9	鮫島 卓	【第9回】担当：鮫島 予習 ：ゲスト企業ホームページや記事を読み質問を考える 授業 ：テーマパーク業入門ーテーマパーク社員による講義ー《ディスカッション》 復習 ：授業を振り返り、授業レポートを提出する
10	鮫島 卓	【第10回】担当：鮫島 予習 ：ゲスト企業ホームページや記事を読み質問を考える 授業 ：観光メディア業入門ー出版業社員による講義ー《ディスカッション》 復習 ：授業を振り返り、授業レポートを提出する

11	松岡 友子	【第 11 回】担当：松岡 予習 ：ゲスト企業ホームページや記事を読み質問を考える 授業 ：宿泊業入門②ー宿泊施設社員による講義ー《ディスカッション》 復習 ：授業を振り返り、授業レポートを提出する
12	ゼイヤー・ウイン	【第 12 回】担当：ゼイヤー 予習 ：ゲスト企業ホームページや記事を読み質問を考える 授業 ：ブライダル業入門ーブライダル業社員による講義ー《ディスカッション》 復習 ：授業を振り返り、授業レポートを提出する
13	高須 直子	【第 13 回】担当：高須 予習 ：シラバスの該当ページと事前配布資料を熟読する 授業 ：異文化交流入門①ー訪日観光客の国・文化・社会を知る：タイー《ディスカッション》 復習 ：授業を振り返り、授業レポートを提出する
14	高須 直子	【第 14 回】担当：高須 予習 ：シラバスの該当ページと事前配布資料を熟読する 授業 ：異文化交流入門②ー訪日観光客の国・文化・社会を知る：フィリピンー 復習 ：授業を振り返り、授業レポートを提出する
15	薬師 英子	【第 15 回】担当：薬師 予習 ：シラバスの該当ページと事前配布資料を熟読する 授業 ：観光英語検定・TOEIC 入門 《ディスカッション》 復習 ：授業を振り返り、授業レポートを提出する ※講師の業務上の都合により登壇者の変更または回が変更になる場合がある。

授業開始前学習	シラバスをよく読み、観光文化入門Ⅱの授業内容を理解する
授業内課題のフィードバックの方法	毎回、授業終了時に授業レポートの提出を義務付ける。次回授業時に講評を行い、個別の質問に回答する。
テキスト・教材	授業の中で配付する。
参考書	青木義英・廣岡裕一・神田孝治『観光入門～観光の仕事・学習・研究をつなぐ』新曜社
評価の基準と方法	毎回授業時に提出する小レポート１回４点×15 回（60%）、期末レポート（40%）の２つから総合点として評価する。期末レポートのテーマ及び提出期限は授業内で指示する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	△		○

関連科目	本科目は、教養教育科目として位置づけられているので１年次から履修できる。観光関連実務科目の入門として活用すれば有意義な内容である。また２年次に観光文化学類を選択希望する学生は履修することを勧める。
その他	第 6 回から第 12 回のゲスト講師の具体的な会社名と氏名は第 1 回授業時に紹介する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	第 1 部は観光文化学類の専任教員の実務経験に基づいた講義を行う。また第 2 部は観光ホスピタリティ産業で活躍する実務家による講義を行う。

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-111	科目分類（～2024 年入学者）	100-121-11（2022 年～入学者） 100-120-11（～2021 年入学者）	授業コード	F00390
科目名称	心理学入門（心理学概論）Ⅰ／心理学入門Ⅰ			単位数	2.0 単位
英文名称	Introduction to Psychology(Introduction to Psychology）Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	奥野 真之			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	奥野 真之			開講時期	1 年
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10 後期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10			研究室	10-713
授業概要	私たちの認知や行動のメカニズムを明らかにするために、心理学はどのような貢献ができるのだろうか。本授業の目標は、「こころ」について科学的に探究してきた心理学という学問の歴史、およびその基本的な知識や概念について学ぶことである。そのために、感覚、知覚、学習、記憶、発達といった心理学の領域の、基礎的なトピックを取り上げる。				
到達目標	心理学の歴史や研究方法について、基礎的な知識を身につける。 日常的に経験している「こころ」の性質や能力について、心理学との関係を理解し専門用語を用いて説明できるようになる。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	奥野 真之	【第 1 回】 予習 ：心理学について書籍やネットを利用して調べる 授業 ：心理学が扱う「こころ」とは何か（初回のイントロダクションとして講義の概要・評価方法などの説明も行う） 復習 ：配布資料を読み返し自身が心理学を学ぶ目的や意義について振り返る
2	奥野 真之	【第 2 回】 予習 ：教科書 p.3-18 までを読んでくること 授業 ：「こころ」を科学する方法 復習 ：教科書の該当ページおよび配布資料を読み返し、心理学の研究方法について整理する
3	奥野 真之	【第 3 回】 予習 ：教科書 p.19-27 までを読んでくること 授業 ：さまざまな行動の分類 復習 ：教科書の該当ページおよび配布資料を読み返し、各行動の特徴について整理する
4	奥野 真之	【第 4 回】 予習 ：教科書 p.27-37 までを読んでくること 授業 ：シンボル機能と行動 復習 ：教科書の該当ページおよび配布資料を読み返し、シンボルやその働きについて整理する
5	奥野 真之	【第 5 回】 予習 ：教科書 p.37-45 までを読んでくること 授業 ：意識の成立と心の理論 復習 ：教科書の該当ページおよび配布資料を読み返し、意識や心の理論の発達について整理する
6	奥野 真之	【第 6 回】 予習 ：第 1～5 回の内容について復習する（教科書 p.3-45） 授業 ：小テスト 1 （第 1～5 回の範囲）の実施と解説 復習 ：小テストの問題を見直し、復習する
7	奥野 真之	【第 7 回】 予習 ：教科書 p.47-61 までを読んでくること 授業 ：発達――遺伝と環境 復習 ：教科書の該当ページおよび配布資料を読み返し、行動や心の発達の要因について整理する
8	奥野 真之	【第 8 回】 予習 ：教科書 p.65-80 までを読んでくること 授業 ：学習 復習 ：教科書の該当ページおよび配布資料を読み返し、学習の種類と特徴について整理する
9	奥野 真之	【第 9 回】 予習 ：教科書 p.80-100 までを読んでくること 授業 ：記憶 復習 ：教科書の該当ページおよび配布資料を読み返し、記憶の種類や性質について整理する
10	奥野 真之	【第 10 回】 予習 ：第 7～9 回の内容について復習する（教科書 p.47-100） 授業 ：小テスト 2 （第 7～9 回の範囲）の実施と解説 復習 ：小テストの問題を見直し、復習する

11	奥野　真之	【第 11 回】 予習　：教科書 p.101-117 を読んでくること 授業　：感覚・知覚（１）　感覚の種類と視知覚 復習　：教科書の該当ページおよび配布資料を読み返し、精神物理学や視知覚について整理する
12	奥野　真之	【第 12 回】 予習　：教科書 p.117-132 を読んでくること 授業　：感覚・知覚（２）形・奥行・運動の知覚 復習　：教科書の該当ページおよび配布資料を読み返し、形・奥行・運動の知覚について整理する
13	奥野　真之	【第 13 回】 予習　：教科書 p.132-150 を読んでくること 授業　：感覚・知覚（３）視知覚と脳損傷 復習　：教科書の該当ページおよび配布資料を読み返し、視知覚と脳損傷の関わりについて整理する
14	奥野　真之	【第 14 回】 予習　：教科書 p.150-164 を読んでくること 授業　：感覚・知覚（４）聴知覚と触覚 復習　：教科書の該当ページおよび配布資料を読み返し、聴知覚と触覚について整理する
15	奥野　真之	【第 15 回】 予習　：教科書と配布資料を使って、第 11～14 回の内容について復習する（教科書 p.101-164） 授業　：小テスト３（第 11～14 回の範囲）の実施と解説 復習　：小テストの問題を見直し、復習する

授業開始前学習	新書や文庫サイズで良いので、心理学に関する入門書を読んでおくと授業をより理解しやすくなる。
授業内課題のフィードバックの方法	課題に対する補足や解説といったフィードバックは授業時間内に行う。
テキスト・教材	鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃・河内十郎（編）『心理学　第 5 版補訂版』（東京大学出版会）
参考書	授業内で適宜、紹介する。
評価の基準と方法	小テスト（15%）×３回と、各回の授業中および授業後に出題される課題の提出物（55%）の配分で評価する。 単位取得には、全体の３分の２以上の出席が必要となる。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	△	○		○	△		

関連科目	心理学に関連する科目はすべて。
その他	本授業は、「心理学概論Ⅱ（後期科目）」に続いていくように構成されている。 教科書を用いた予習や復習が重要となるため、授業の開始時期にあわせて忘れずに購入してほしい。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-111	科目分類（～2024 年入学者）	100-121-11（2022 年～入学者） 100-120-11（～2021 年入学者）	授業コード	F00400
科目名称	心理学入門（心理学概論）Ⅱ／心理学入門Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	Introduction to Psychology(Introduction to Psychology) Ⅱ			授業区分	講義
科目責任者	飯田　敏晴			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	飯田･冨士原			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	心理学概論 I で学んだ基礎的知識を踏まえて、心理学が社会生活の中でどのように生かされているのか、教育・医療・福祉・司法・産業などの領域に焦点を当てる。出来る限り具体例を交えながら解説するとともに適宜レポートを課していく。また、心理学の研究領域は学際的であり。隣接する他の学問との相互連携が不可欠であるため、必要な知識や心構えなどについても言及していく				
到達目標	1）心理学が社会生活の中でどのように生かされているのか、教育・医療・福祉・司法・産業などの領域において、どのように生かされているのかを述べることができる。 2）心理学に隣接する他の学問との連携に必要な知識や心構えを知ることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態	オムニバス				

授業回数	担当者	授業の内容
1	冨士原　光洋	【第 1 回】 予習　：心理学概論 I の学習を整理しておく。 授業　：学習のガイダンス 復習　：思考と言語に関する心理学研究史を調べる。
2	冨士原　光洋	【第 2 回】 予習　：第 1 回で指示したテキストの精読と下調べ 授業　：問題解決、問題解決と認知的発達（テキスト pp１６５-１７３） 復習　：認知の発達に関する理論を調べる。
3	冨士原　光洋	【第 3 回】 予習　：第 2 回で指示したテキストの精読と下調べ 授業　：知識、推論と発見（テキスト pp１７４-１８６） 復習　：論理的推論を妨害する要因についてまとめる。
4	冨士原　光洋	【第 4 回】 予習　：第 3 回で指示したテキストの精読と下調べ 授業　：非言語的・言語的コミュニケーション、言語の特性（テキスト pp１８７-２００） 復習　：人のコミュニケーションの特徴をまとめる。
5	冨士原　光洋	【第 5 回】 予習　：第 4 回で指示したテキストの精読と下調べ 授業　：脳損傷と高次機能の障害（テキスト pp２００-２０８） 復習　：大脳半球機能差について調べる。
6	冨士原　光洋	【第 6 回】 予習　：第 5 回で指示したテキストの精読と下調べ 授業　：食と性の動機づけ、基本的情動（テキスト pp２０９-２２２） 復習　：情動に関する理論を調べる。
7	冨士原　光洋	【第 7 回】 予習　：第 6 回で指示したテキストの精読と下調べ 授業　：親和動機づけなど（テキスト pp２２２-２３４）　単元テスト(1 回から 7 回) 復習　：第 1 回～第 7 回授業内容に関する感想レポートを作成する。
8	飯田　敏晴	【第 8 回】 予習　：テキスト（pp244-251）の精読と下調べ 授業　：『個人差』①パーソナリティの分類（類型論と特性論）と検査法（テキスト pp244-251） 復習　：類型論と特性論の違いについてまとめる。
9	飯田　敏晴	【第 9 回】 予習　：テキスト（pp251-263）の精読と下調べ 授業　：『個人差』②パーソナリティの発達と不適応・障害（テキスト pp251-263） 復習　：パーソナリティの不適応・障害について、理論による違いについてまとめる。
10	飯田　敏晴	【第 10 回】 予習　：テキスト（pp235-244）の精読と下調べ 授業　：『個人差』③知能の測定、知能の因子（テキスト pp235-244） 復習　：ビネー式知能検査とウェクスラー式の知能検査の違いについてまとめる。

11	飯田　敏晴	【第 11 回】 予習　：第 8～10 回の重要ポイントの復習（テキスト pp235-263） 授業　：『個人差』まとめと確認（小テスト）（テキスト pp235-263） 復習　：小テストの復習
12	飯田　敏晴	【第 12 回】 予習　：テキスト（pp265-275）の精読と下調べ 授業　：『社会行動』①社会行動の発達と社会的認知（テキスト pp265-275） 復習　：自我と自己の違いについてまとめる。
13	飯田　敏晴	【第 13 回】 予習　：テキスト（pp275-279）の精読と下調べ 授業　：『社会行動』②態度と説得、社会的影響（テキスト pp275-279） 復習　：　認知的不協和の例を考える。
14	飯田　敏晴	【第 14 回】 予習　：テキスト（pp279-294）の精読と下調べ 授業　：『社会行動』③対人魅力と対人関係（テキスト　pp279-294） 復習　：集団になることによってどのような問題があるかまとめる。
15	飯田　敏晴	【第 15 回】 予習　：第 12～14 回の重要ポイントの復習（テキスト pp265-294） 授業　：『社会行動』まとめと確認（小テスト）（テキスト pp265-294） 復習　：小テストの復習

授業開始前学習	心理学概論Ⅰの授業で学んだ知識を整理しておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	レポートや小テストを課した場合には，適宜，当該テーマのポイントを解説していく。
テキスト・教材	鹿取廣人，杉本敏夫，鳥居修晃　編『心理学』(東京大学出版会)
参考書	
評価の基準と方法	前半（冨士原）が 50%（授業内課題・復習課題 25%・単元テスト 25%）、後半（飯田）が 50%（小テスト 20%、レポート 20%、コメント点 10%）の配分で総合評価する。出席 3 分の 2 以上が単位取得の前提条件である。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	△	○		○			

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）	SD-L-111	科目分類（～2024年入学者）	100-120-11	授業コード	F00410
科目名称	住空間ﾃﾞｻﾞｲﾝ入門Ⅰ			単位数	2.0単位
英文名称	Introduction to Living Space Design Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	佐藤 勉			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	李・佐藤(勉)・堀邉・茂木・山崎			開講時期	1年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	住宅から店舗、公共施設、まちづくりといった、建物の内観から外観までの空間デザインに関わる基本的な知識を養います。将来の自分が専門性を持って社会とどのように向き合っていくかをイメージしながら、空間を総合的にデザインし提案するための初歩的な技術を学びます。また、見学会や共同作業などの実践の場を通してデザインの基礎を学び、自分の考えを表現する力や人に伝達する力、批判する力を身に付け、主体的な学習方法を体得します。				
到達目標	自分の考えの表現、伝達、他者への批評を行えるよう、主体的な学習方法を体得すること。またこれらを通じて自己の能力を発見し、高められるようになる。建築、インテリア分野が目指す基礎的なデザイン内容と領域を理解しイメージできるようになる。同時にそれぞれの分野の特徴と差異を理解する事を目標とする。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	共同

授業回数	担当者	授業の内容
1	李、佐藤、堀邉、茂木、山崎	【第1回】 予習：履修ガイド学科該当ページの熟読 授業：ガイダンス 復習：ガイダンスのふりかえり
2	李、佐藤、堀邉、茂木、山崎	【第2回】 予習：学生生活ガイド該当ページの熟読 授業：学内ツアー、図書館の使い方 復習：学内ツアー、図書館の使い方のふりかえり
3	李、佐藤、堀邉、茂木、山崎	【第3回】 予習：「空間デザイン入門交流会」予備調査 授業：「空間デザイン入門交流会」課題説明（グループワーク） 復習：「空間デザイン入門交流会」企画準備
4	李、佐藤、堀邉、茂木、山崎	【第4回】 予習：「空間デザイン入門交流会」準備 授業：「空間デザイン入門交流会」実施（グループワーク） 復習：「空間デザイン入門交流会」報告レポート作成
5	李、佐藤、堀邉、茂木、山崎	【第5回】 予習：建築デザインについて考える 授業：「空間と建築デザイン（講義）」、「日本のくらし」課題出題 復習：配布資料のふりかえり
6	李、佐藤、堀邉、茂木、山崎	【第6回】 予習：「日本のくらし」事前準備 授業：「日本のくらし」資料作成、レポートの書き方 復習：「日本のくらし」調査資料のまとめ
7	李、佐藤、堀邉、茂木、山崎	【第7回】 予習：「日本のくらし」発表内容の整理 授業：「日本のくらし」見学時調査項目発表（グループ発表）、文献の調査方法と文献の読み方 復習：「日本のくらし」見学時調査項目の整理
8	李、佐藤、堀邉、茂木、山崎	【第8回】 予習：「日本のくらし」見学会事前準備 授業：「日本のくらし」江戸東京たてもの園見学会実施（フィールドワーク） 復習：「日本のくらし」見学会調査結果まとめ
9	李、佐藤、堀邉、茂木、山崎	【第9回】 予習：「日本のくらし」プレゼン資料準備 授業：「日本のくらし」プレゼン制作作業 復習：「日本のくらし」プレゼン資料作成、レポート作成
10	李、佐藤、堀邉、茂木、山崎	【第10回】 予習：「日本のくらし」クラス発表資料作成 授業：「日本のくらし」プレゼンテーション発表会（グループ発表・プレゼンテーション） 復習：「日本のくらし」クラス発表整理、レポート作成
11	李、佐藤、堀邉、茂木、山崎	【第11回】 予習：インテリアデザインについて考える 授業：「空間とインテリアデザイン（講義）」、「店舗のインテリアを考える」課題出題 復習：配布資料のふりかえり

12	李、佐藤、堀邉、茂木、山崎	【第 12 回】 予習：「店舗のインテリアを考える」事前準備 授業：「店舗のインテリアを考える」調査資料作成、「空間と家具デザイン（講義）」 復習：「店舗のインテリアを考える」調査資料のまとめ
13	李、佐藤、堀邉、茂木、山崎	【第 13 回】 予習：「店舗のインテリアを考える」事前準備 授業：「店舗のインテリアを考える」発表資料作成 復習：「店舗のインテリアを考える」発表資料のまとめ
14	李、佐藤、堀邉、茂木、山崎	【第 14 回】 予習：「店舗のインテリアを考える」クラス発表資料作成 授業：「店舗のインテリアを考える」プレゼンテーション発表会（プレゼンテーション） 復習：「店舗のインテリアを考える」クラス発表整理、レポート作成
15	李、佐藤、堀邉、茂木、山崎	【第 15 回】 予習：前期のふりかえり 授業：夏休み課題出題、前期のふりかえり 復習：夏休み課題

授業開始前学習	大学で学ぶための基本的な姿勢や心構えやについて、履修ガイドの該当する項目を熟読すること。 日本人のくらしや住まいについて、書籍やインターネットを通して基本的な知識を得ること。
授業内課題のフィードバックの方法	各課題の実施後に講評を行う。
テキスト・教材	資料・プリント等を適宜配布する。
参考書	資料等を適宜配布・紹介する。
評価の基準と方法	提出物、受講態度などにより評価する。 評価は提出物 70%、受講態度など 30%。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	◎		△			

関連科目	
その他	「日本のくらし」江戸東京たてもの園　見学会は 3 時間程度行われる。 見学会を実施するかどうかは、その時の状況に応じて判断する。 見学会の交通費は自己負担となる。見学先での記録道具としてスマートフォンやデジタルカメラなどを用意すること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	SD-L-111	科目分類（～2024 年入学者）	100-120-11	授業コード	F00420
科目名称	住空間ﾃﾞｻﾞｲﾝ入門Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	Introduction to Living Space Design Ⅱ			授業区分	講義
科目責任者	佐藤　勉			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	李・佐藤(勉)・堀邉・茂木・山崎			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	住宅から店舗、公共施設、まちづくり、プロダクトデザイン、グラフィックデザインといった、建物の内観から外観までの空間デザインについて、幅広く客観的な視点から学びます。また、見学会や共同作業などの実践の場を通してデザインの基礎を学び、自分の考えを表現する力や人に伝達する力、批判する力を身に付け、主体的な学習方法を習得するとともに、将来の自分が専門性を持って社会と向き合っていくために必要な調査力や分析力、表現力も体得します。				
到達目標	自分の考えの表現、伝達、他者への批評を行えるよう、主体的な学習方法を体得すること。またこれらを通じて自己の能力を発見し、高められるようになる。 与えられた課題に対して調査を行い、その結果を分析して独自の結論を導き出せるようになる。またその結論をプレゼンテーションして他者に伝えることを目標とする。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態	共同				

授業回数	担当者	授業の内容
1	李、佐藤、堀邉、茂木、山崎	【第 1 回】 予習：夏休み課題の確認 授業：ガイダンス、「看護学科・健康栄養学科との協同学習」課題説明、KJ 法の説明と練習 復習：配布資料のふりかえり
2	李、佐藤、堀邉、茂木、山崎	【第 2 回】 予習：「看護学科・健康栄養学科との協同学習」事前準備 授業：「看護学科・健康栄養学科との協同学習」実施（グループワーク） 復習：「看護学科・健康栄養学科との協同学習」調査資料のまとめ
3	李、佐藤、堀邉、茂木、山崎	【第 3 回】 予習：「看護学科・健康栄養学科との協同学習」事前準備 授業：「看護学科・健康栄養学科との協同学習」発表資料作成（グループワーク、プレゼンテーション） 復習：「看護学科・健康栄養学科との協同学習」発表資料のまとめ
4	李、佐藤、堀邉、茂木、山崎	【第 4 回】 予習：「りんどう祭展示」運営の事前準備 授業：「りんどう祭展示」運営 復習：「りんどう祭展示」のふりかえり
5	李、佐藤、堀邉、茂木、山崎	【第 5 回】 予習：「日本の住まい（団地とは何か）」予備調査 授業：「日本の住まい（団地とは何か）」課題出題 復習：「日本の住まい（団地とは何か）」事前調査レポート
6	李、佐藤、堀邉、茂木、山崎	【第 6 回】 予習：「日本の住まい（団地とは何か）」事前調査レポート発表準備 授業：「日本の住まい（団地とは何か）」事前調査レポート発表（プレゼンテーション） 復習：「日本の住まい（団地とは何か）」発表のふりかえり
7	李、佐藤、堀邉、茂木、山崎	【第 7 回】 予習：「日本の住まい（団地とは何か）」見学準備 授業：「日本の住まい（団地とは何か）」見学会 復習：「日本の住まい（団地とは何か）」見学会ふりかえり
8	李、佐藤、堀邉、茂木、山崎	【第 8 回】 予習：「日本の住まい（団地とは何か）」プレゼンシート準備 授業：「日本の住まい（団地とは何か）」プレゼンシート制作作業 復習：「日本の住まい（団地とは何か）」レポート作成
9	李、佐藤、堀邉、茂木、山崎	【第 9 回】 予習：「日本の住まい（団地とは何か）」プレゼンシート制作準備 授業：「日本の住まい（団地とは何か）」プレゼンシート制作作業 復習：「日本の住まい（団地とは何か）」レポート作成
10	李、佐藤、堀邉、茂木、山崎	【第 10 回】 予習：「日本の住まい（団地とは何か）」発表準備 授業：「日本の住まい（団地とは何か）」発表会（グループ発表・プレゼンテーション） 復習：「日本の住まい（団地とは何か）」発表のふりかえり

11	李、佐藤、堀邉、茂木、山崎	【第 11 回】 予習：「まち歩き」予備調査 授業：「まち歩き」課題出題 復習：「まち歩き」事前調査レポート
12	李、佐藤、堀邉、茂木、山崎	【第 12 回】 予習：「フィールドワーク」とは何か調べる 授業：「フィールドワーク」の案内、プレゼンテーションについて（講義） 復習： 講義のふりかえり
13	李、佐藤、堀邉、茂木、山崎	【第 13 回】 予習：「まち歩き」事前調査レポート発表準備 授業：「まち歩き」事前調査レポート発表（グループ発表）、冬休み課題出題 復習：「まち歩き」事前調査レポート発表のふりかえり、冬休み課題
14	李、佐藤、堀邉、茂木、山崎	【第 14 回】 予習：「まち歩き」発表準備 授業：「まち歩き」発表会（プレゼンテーション） 復習：「まち歩き」発表会ふりかえり
15	李、佐藤、堀邉、茂木、山崎	【第 15 回】 予習：これまでの学修内容をふりかえる 授業：「まち歩き」発表会、春休み課題出題、後期授業アンケート実施、後期のふりかえり 復習：春休み課題

授業開始前学習	前期の住空間デザイン入門Ⅰで出題された夏休み課題を見直しておくこと。 現在居住しているの地域や歴史について、書籍やインターネットを通して基本的な知識を得ること。
授業内課題のフィードバックの方法	各課題の実施後に講評を行う。
テキスト・教材	資料・プリント等を適宜配布する。
参考書	資料等を適宜紹介する。
評価の基準と方法	提出物、受講態度などにより評価する。 評価は提出物 70%、受講態度など 30%。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	◎		△			

関連科目	
その他	正課学外活動として見学会が土日または祝日のいずれかに実施される。 見学会を実施するかどうかは、その時の状況に応じて判断する。 交通費は自己負担、見学先によっては入場料がかかる場合がある。 見学先での記録道具としてスマートフォンやデジタルカメラなどを用意すること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）	CS-L-121 CT-L-121	科目分類（～2024年入学者）	100-120-11	授業コード	F00610
科目名称	人間と思想Ⅰ			単位数	2.0単位
英文名称	Humans and Thought Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	鈴木　由加里			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鈴木　由加里			開講時期	1年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	人間とはどのような存在なのか、人間の本質はどのようなものなのか、を考察することがテーマである。古代ギリシアから中世までの哲学的知識を講義する予定である。学んだ学説や概念を使って、現代的な問題についての考察、演習問題を行う予定である。				
到達目標	考える材料として西洋哲学を歴史的に学び、かつ現代社会の情報を踏まえつつ、学生が自分で考察ができるようになることが達成目標。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	鈴木　由加里	【第1回】 予習：シラバスの内容を吟味し、自分の興味対象がどこにあるのかを考えてくる 授業：人間と思想を学ぶということについて　授業の進め方評価基準などについて資料を配付 論述課題を実施 復習：自分がすでにもっている「人間」についてのイメージをまとめる
2	鈴木　由加里	【第2回】 予習：人間とはどのような存在であるか 授業：人間学と哲学　（映像資料を利用） 復習：授業で扱ったテーマについて考察を深めておく
3	鈴木　由加里	【第3回】 予習：ギリシアの歴史について調べておく 授業：ギリシア哲学Ⅰ古代ギリシアの世界 復習：自然学とは何かをまとめておく
4	鈴木　由加里	【第4回】 予習：アテネの民主制について調べておく 授業：ギリシア哲学Ⅱ　自然哲学からソクラテスへ 復習：ソクラテスの刑死の意味を考えよう
5	鈴木　由加里	【第5回】 予習：プラトンの時代のギリシア世界について調べておく 授業：プラトンの思想 復習：イデア論について問題点をまとめておく
6	鈴木　由加里	【第6回】 予習：マケドニアとギリシアについての歴史を調べておく 授業：ヘレニズム期の哲学と文化 復習：アリストテレスと学問についてまとめる
7	鈴木　由加里	【第7回】 予習：コスモポリタンの意味を調べておく 授業：ヘレニズム期の思想 復習：ストア派についてまとめる
8	鈴木　由加里	【第8回】 予習：ヨーロッパ文化の特性を自分なりに語れるようにしておく 授業：ヘレニズムとヘブライズム 復習：文化論の意義について考えておく
9	鈴木　由加里	【第9回】 予習：『創世記』第一章の内容を調べておく 授業：原始キリスト教　宗教と人間について 復習：贖い、福音という言葉を説明できるようにする
10	鈴木　由加里	【第10回】 予習：宗教の力について考えておく 授業：キリスト教とローマ帝国　人生と哲学について 復習：布教活動の意味について再考しておく
11	鈴木　由加里	【第11回】 予習：中世の定義を調べておく 授業：中世ヨーロッパの人間観 復習：歴史区分の意味について再考しておく

12	鈴木　由加里	【第 12 回】 予習：現代における宗教の意義について考えてくる 授業：宗教と死について 復習：死の概念の違いを再解釈する
13	鈴木　由加里	【第 13 回】 予習：キリスト教と世俗権力について調べておく 授業：中世キリスト教神学と哲学 復習：キリスト教の多様さを再確認すること
14	鈴木　由加里	【第 14 回】 予習：「近代」という概念を調べておく 授業：古代・中世の人間観と現代の人間観について考察をする 復習：人文主義の意義について考えておく。
15	鈴木　由加里	【第 15 回】 予習：各自ノート及びレジメ参考文献などを味読しておくこと 授業　1 回から 14 回までの　授業内容確認レポートあるいはテスト形式での質問に答える （授業内でレポート作成） 復習：授業内容について不十分なところを補っておく ＊学生の知識レベル興味関心に応じて内容を変更する可能性もある。

授業開始前学習	課題提出などで、GWE(Google Workspace for Education)など PC 操作を必要とするシステムを使用予定である。パソコンの基本的な知識（Web の閲覧、メールの送受信、ファイルの種類についての知識など）を学んでおいて欲しい。 授業内容に関しては、西洋の哲学史についての話になるので、常識のレベルでの西洋の歴史について学んでおいてもらいたい。
授業内課題のフィードバックの方法	基本的に、フィードバックは、GWE(Google Workspace for Education)を利用。 レポート課題は、Google Classroom を利用して、出題、回収。また、連絡も Google Classroom を利用。遠隔授業になった場合、GWE(Google Workspace for Education)を通じてオンデマンドで行う。クラス記号など詳細は「クラスプロファイル」を通じて連絡をする予定。「クラスプロファイル」の使い方を確認しておくこと。
テキスト・教材	GWE(Google Workspace for Education)Google Classroom にて、授業に必要な講義内容のレジュメと資料を PDF 形式ファイルで配付。各資料を DL したものをプリントアウトするか、PC やタブレットなどデジタル機器でノートテイクをするか、各自の学習方法にあわせて使用すること。
参考書	熊野 純彦 『西洋哲学史　古代から中世へ』岩波新書　2006 その他　授業中に適宜指示する
評価の基準と方法	GWE(Google Workspace for Education)において、課題を提出していただきます。課題を全部提出することが単位取得の前提条件。全て提出した場合のみ、各回の点数と授業内容確認テストの点数を合計し、100 点換算の上成績評価を行います。たとえば、 授業内で行う授業内容確認テストの点数 100 点とレポート課題が 4 回の場合、10 点×４＝40 点となり、合計 140 点中、総合して 85 点（100 点換算にすると 60 点）とれないと単位の認定にいたりません。課題の詳細は授業時に説明します。不備のあるレポー
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△		○		

関連科目	人間と思想
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-121 CT-L-121 SD-L-121	科目分類（～2024 年入学者）	100-120-11	授業コード	F00620
科目名称	人間と思想Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	Humans and Thought Ⅱ			授業区分	講義
科目責任者	鈴木　由加里			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鈴木　由加里			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	近代以降の西洋哲学についての知識を深めつつ、人間はどのような存在として考えられてきたかということを考える。倫理や道徳に関する現代的なテーマについてもとりあげて、知識を増やし、哲学的知識を実践で役立てる方法を講義する予定である。				
到達目標	哲学史を覚えるだけでなく、その知識を活用して、現代社会における様々な事象や社会問題との関連の中で人間について考察を深めていくことができるようになること。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	鈴木　由加里	【第 1 回】 予習：シラバスの内容を吟味し、自分の興味対象がどこにあるのかを考えてくる 授業：現代的視点で人間について考えることについて及び授業説明 授業の進め方評価基準などについて資料を配付　授業内で論述課題を行う 復習：自分がすでにもっている「人間」についてのイメージをまとめる
2	鈴木　由加里	【第 2 回】 予習：近代という言葉からイメージするものを考えてくる 授業：近代とは何か 復習：日本語で西洋のことについて学ぶことの意味について考える
3	鈴木　由加里	【第 3 回】 予習：自分が考える「科学的」ということの意味を考えること 授業：科学革命と人間 復習：現代の科学は人間の何を明らかにしているのかを考える
4	鈴木　由加里	【第 4 回】 予習：人権とは何か、箇条書きにしてくる 授業：近代市民社会の成立　歴史的経緯と「市民」「社会」の意味 復習：現代社会における人権侵害の事例を調べること
5	鈴木　由加里	【第 5 回】 予習：人間にとって許されないこととは何かを考えてくる 授業：人間と悪についての小論文作成 復習：自分が言葉にできなかったことをもう一度考えてみよう
6	鈴木　由加里	【第 6 回】 予習：17 世紀のヨーロッパ史について調べてくる 授業：デカルトと理性的存在としての人間について 復習：理性とは何かを考えてみよう
7	鈴木　由加里	【第 7 回】 予習：30 年戦争の原因と結果を説明できるようにしておく 授業：17 世紀ヨーロッパの哲学について　パスカルについて 復習：人間の弱さと強さについて考える
8	鈴木　由加里	【第 8 回】 予習：17 世紀のイギリスのことを調べておく 授業：イギリスの経験論　思考の方法 復習：授業内で学んだ概念を原語と日本語訳を覚え、活用できるようにしておくこと
9	鈴木　由加里	【第 9 回】 予習：「啓蒙」という漢字の意味を調べておくこと 授業：啓蒙主義　①「百科全書派」とヴォルテール 復習：「リスボン大地震」について調べてみよう
10	鈴木　由加里	【第 10 回】 予習：権力と啓蒙について考えておく 授業：啓蒙主義　②　啓蒙専制君主について 復習：ルソーの思想についてまとめておく
11	鈴木　由加里	【第 11 回】 予習：人間の定義と自分の違いについて考えてみること 授業：18 世紀から 19 世紀の思想　自由と平等を中心に 復習：ジェンダーという概念を正しく理解しておこう

12	鈴木　由加里	【第 12 回】 予習：「女性」の権利について調べておこう 授業：「人間と女性」について 復習：「人間」＝女性なのか、ということを考えてみる
13	鈴木　由加里	【第 13 回】 予習：日本の社会について考えてこよう 授業：現代の人間観　①ジェンダー概念について 復習：自分と全く異なった人間観を持つ人たちとどうやって向き合うかを考える
14	鈴木　由加里	【第 14 回】 予習：マイノリティという言葉について調べておく 授業：現代の人間観　②「性的マイノリティ」について 復習：小テストで答えられなかったところを復習しておく
15	鈴木　由加里	【第 15 回】 予習：これまでのノート及び資料の味読をしておく 授業：授業内容確認レポートもしくはテスト形式での質問（授業内でレポート作成）返却 動画視聴あるいは資料の読解とミニレポート作成 復習：授業内容について不十分なところを補っておく ＊学生の知識レベル興味関心理解度に応じて内容と講義の日程を変更する可能性がある。

授業開始前学習	ルネサンス以降の西洋の歴史について概略を学んでおくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	基本的に、フィードバックは、GWE(Google Workspace for Education)を利用。 対面授業の場合は、リアクションペーパーは手書き。授業時に回収し、返却はなし。 レポート課題は、Google Classroom を利用して、出題、回収。また、連絡も Google Classroom を利用。遠隔授業の場合の場合は、GWE(Google Workspace for Education)を通じて行う。クラス記号など詳細は「クラスプロファイル」を通じて連絡をする予定。
テキスト・教材	GWE(Google Workspace for Education)Google Classroom にて、授業に必要な講義内容のレジュメと資料を PDF 形式ファイルで配付。各資料を DL したものをプリントアウトするか、PC やタブレットなどデジタル機器でノートテイクをするか、各自の学習方法にあわせて使用すること。
参考書	授業概要のレジメやスライドで指示
評価の基準と方法	GWE(Google Workspace for Education)において、課題を提出していただきます。課題を全部提出することが単位取得の前提条件。全て提出した場合のみ、各回の点数と授業内容確認テストの点数を合計し、100 点換算の上成績評価を行います。たとえば、 授業内で行う授業内容確認テストの点数 100 点とレポート課題が 4 回の場合、10 点×４＝40 点となり、合計 140 点中、総合して 85 点（100 点換算にすると 60 点）とれないと単位の認定にいたりません。課題の詳細は授業時に説明します。不備のあるレポー
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△		○		

関連科目	哲学／人間と思想Ⅰ
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）	CS-L-121 CT-L-121	科目分類（～2024年入学者）	100-120-11	授業コード	F00630
科目名称	人間と文化Ⅰ			単位数	2.0単位
英文名称	Humans and Culture Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	石田 仁志			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	石田 仁志			開講時期	1年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	明治維新から始まったとされる日本の近代社会というのは、一言で言えば、西欧の都市文化を移入することであった。この授業では、明治から昭和にかけての日本近代の短編小説を読解することを通じて、日本近代における都市化と文学との関連、そして、そこに描かれる「人間」の喜怒哀楽、幸福、孤独、家族意識、死生観などを捉えていく。そのことを通して、日本近代における「人間」の価値観の変容を学んでいく。				
到達目標	日本近代の都市化と日本人の価値観の変容について、具体的テクストを挙げて、その基本的な変遷と相互関係について理解し、説明できるようになる。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	石田 仁志	【第1回】ガイダンス（都市と文学との関係） 予習：指定した教科書の末尾の「〈都市論〉へのいざない」を読んでくる。 授業：教科書に収録された短編小説を概観する。 復習：授業内容をまとめ直す。
2	石田 仁志	【第2回】明治期の都市と文学1 予習：泉鏡花「夜行巡査」を読んで、自分なりの感想を考えてくる。 授業：泉鏡花「夜行巡査」読解 復習：授業で紹介した小説を読み直す。
3	石田 仁志	【第3回】明治期の都市と文学2 予習：樋口一葉「十三夜」を読んで、自分なりの感想を考えてくる。 授業：樋口一葉「十三夜」読解 復習：授業で紹介した小説を読み直す。
4	石田 仁志	【第4回】明治期の都市と文学3 予習：田山花袋「少女病」を読んで、自分なりの感想を考えてくる。 授業：田山花袋「少女病」読解 復習：授業で紹介した小説を読み直す。
5	石田 仁志	【第5回】明治期の都市と文学4 予習：国木田独歩「窮死」を読んで、自分なりの感想を考えてくる。 授業：国木田独歩「窮死」読解 復習：授業で紹介した小説を読み直す。
6	石田 仁志	【第6回】明治期の都市と文学5 予習：谷崎潤一郎「秘密」を読んで、自分なりの感想を考えてくる。 授業：谷崎潤一郎「秘密」読解 復習：授業で紹介した小説を読み直す。
7	石田 仁志	【第7回】大正期の都市と文学1 予習：志賀直哉「小僧の神様」を読んで、自分なりの感想を考えてくる。 授業：志賀直哉「小僧の神様」読解 復習：授業で紹介した小説を読み直す。
8	石田 仁志	【第8回】大正期の都市と文学2 予習：芥川龍之介「舞踏会」を読んで、自分なりの感想を考えてくる。 授業：芥川龍之介「舞踏会」読解 復習：授業で紹介した小説を読み直す。
9	石田 仁志	【第9回】昭和期の都市と文学1 予習：横光利一「街の底」を読んで、自分なりの感想を考えてくる。 授業：横光利一「街の底」読解 復習：授業で紹介した小説を読み直す。
10	石田 仁志	【第10回】昭和期の都市と文学2 予習：中野重治「交番前」を読んで、自分なりの感想を考えてくる。 授業：中野重治「交番前」読解 復習：授業で紹介した小説を読み直す。
11	石田 仁志	【第11回】昭和期の都市と文学3 予習：堀辰雄「水族館」を読んで、自分なりの感想を考えてくる。 授業：堀辰雄「水族館」読解 復習：授業で紹介した小説を読み直す。

12	石田　仁志	【第 12 回】昭和期の都市と文学４ 予習：江戸川乱歩「目羅博士」を読んで、自分なりの感想を考えてくる。 授業：江戸川乱歩「目羅博士」読解 復習：授業で紹介した小説を読み直す。
13	石田　仁志	【第 13 回】昭和期の都市と文学５ 予習：織田作之助「木の都」を読んで、自分なりの感想を考えてくる。 授業：織田作之助「木の都」読解 復習：授業で紹介した小説を読み直す。
14	石田　仁志	【第 14 回】昭和期の都市と文学６ 予習：三島由紀夫「橋づくし」を読んで、自分なりの感想を考えてくる。 授業：三島由紀夫「橋づくし」読解 復習：授業で紹介した小説を読み直す。
15	石田　仁志	【第 15 回】まとめ 予習：第 2 回から第 14 回の授業内容を振り返る。 授業：日本近代文学における都市と文学、日本人の価値観の変化 復習：授業内容をまとめる。

授業開始前学習	教科書に指定した本に収録されている小説をさっと目を通しておく。近代社会における都市化の影響について、自分なりに調べてみる。
授業内課題のフィードバックの方法	授業終了後に、毎回、小レポートを提出してもらいます。また、そのレポートにうち、優れた内容のものや興味深い視点を有するものなどは授業を通じて内容を紹介し、学生たちの理解度の深まりを確認していきます。
テキスト・教材	東郷克己・吉田司雄編『〈都市〉文学を読む』（鼎書房、2,000 円＋税） ISBN978-4-907282-28-8
参考書	
評価の基準と方法	授業での小レポート等の課題成績（70%）、授業への参加状況（30%）の総合評価による。単位認定は、総合評価で60%以上の成績をとった者に限る。提出物を 5 回以上未提出の場合は失格。提出物の遅刻提出は減点する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	100-120-11	授業コード	F00640
科目名称	人間と文化Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	Humans and Culture Ⅱ			授業区分	講義
科目責任者	石田 仁志			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	石田 仁志			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	日本の近代・現代社会の家族関係や東日本大震災と文学文化との関連について、具体的な小説の中にそれらがどのように描かれているかを学ぶ。				
到達目標	日本の近代・現代社会におけるトピックスと文学テクストとの関連について、理解して説明できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	石田 仁志	【第 1 回】ガイダンス；〈家族〉小説とは？ 予習：自分にとって〈家族〉とは何かを考える。 授業：〈家族〉の社会的な定義、戦後日本社会における家族意識の変化を講義する。 復習：授業内容をまとめる。
2	石田 仁志	【第 2 回】日本の家族小説（介護小説） 1 予習：有吉佐和子『恍惚の人』を読んでくる。 授業：老人介護と文学 復習：授業内容をまとめ、小レポートを執筆する。
3	石田 仁志	【第 3 回】日本の家族小説（介護小説） 2 予習：現代の母娘の関係の在り方について調べる。 授業：篠田節子『長女たち』・中島京子『長いお別れ』を読む 復習：授業内容をまとめ、小レポートを執筆する。
4	石田 仁志	【第 4 回】日本の家族小説（高度経済成長） 3 予習：山田太一『岸辺のアルバム』（前半）を読んでくる。 授業：高度経済成長と家族小説：家族意識の解体 復習：授業内容をまとめ、小レポートを執筆する。
5	石田 仁志	【第 5 回】日本の家族小説（高度経済成長） 4 予習：山田太一『岸辺のアルバム』（後半）を読んでくる。 授業：高度経済成長と家族小説：情緒的家族の再編 復習：授業内容をまとめ、小レポートを執筆する。
6	石田 仁志	【第 6 回】日本の家族小説（離婚・いじめ） 5 予習：干刈あがた『ウホッホ探検隊』『黄色い髪』を読んでくる。 授業：いじめ問題と家族小説 復習：授業内容をまとめ、小レポートを執筆する。
7	石田 仁志	【第 7 回】日本の家族小説（再婚・ステップファミリー） 6 予習：ステップファミリーについて調べる。 授業：重松清『幼子われらに生まれ』を読む（映画も取り扱う） 復習：授業内容をまとめ、小レポートを執筆する。
8	石田 仁志	【第 8 回】日本の家族小説（引きこもり） 7 予習：村上龍『最後の家族』を読んでくる。 授業：戦後家族の転換点 復習：授業内容をまとめ、小レポートを執筆する。
9	石田 仁志	【第 9 回】日本の家族小説（まとめ） 8 予習：第 2 回から第 8 回までの授業内容を振り返る。 授業：戦後・現代の日本の家族小説は何かということについて、グループ・ディスカッションをおこなう。（ディスカッション） 復習：授業内容をまとめ、小レポートを執筆する。
10	石田 仁志	【第 10 回】震災後文学 1 予習：川上弘美『神様 2011』を読んでくる。 授業：震災への怒り、変貌する物語世界。 復習：震災後文学 1 についてまとめる。
11	石田 仁志	【第 11 回】震災後文学 2 予習：和合亮一『詩の礫』を読んでくる。 授業：新しい詩歌の形式、地震と言葉。 復習：震災後文学 2 についてまとめる。

12	石田　仁志	【第 12 回】震災後文学３ 予習：多和田葉子『献灯使』を読んでくる。 授業：震災後のディストピア小説 復習：震災後文学３についてまとめる。
13	石田　仁志	【第 13 回】震災後文学４ 予習：いとうせいこう『想像ラジオ』を読んでくる。 授業：震災の死・鎮魂と文学 復習：震災後文学４についてまとめる。
14	石田　仁志	【第 14 回】震災後文学５ 予習：垣谷美雨『女たちの避難所』を読んでくる。 授業：震災とジェンダー、同調圧力 復習：震災後文学５についてまとめる。
15	石田　仁志	【第 15 回】まとめ 予習：家族、震災と文学との関係について整理する。森絵都・吉田尚令『希望の牧場』を読んでくる。 授業：震災が日本の社会や文学文化に与えた影響について、グループ・ディスカッションを行う。（ディスカッション） 復習：人間社会と文学文化との相関的関係についてまとめる。

授業開始前学習	予習として提示した小説を読んでおく。読めない場合でもどのような小説家は調べておく。
授業内課題のフィードバックの方法	基本的には、テーマに合わせた課題レポート（家族、震災）を提出してもらう。ただし、授業の進行状況を鑑みて、回数は調整することがあります。フィードバックについては、可能な限り、毎回行いますが、できない場合はまとめて行います。
テキスト・教材	特定の教科書はありません。取り上げる小説については、各自で文庫本や単行本を入手するようにしてください。
参考書	
評価の基準と方法	テーマごとの課題レポート（50～70%）、授業内での発言など発言（20%）、期末レポート(10～30%)とする。学生の履修状況によっては、期末レポートを省略することもありうる。詳しくは業内で説明する。課題レポートや授業感想を 1/3 以上未提出の場合、もしくは欠席が 1/3 の場合は、失格とする。単位認定は総合評価において 60%以上の成績を得た者に与える。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				

関連科目	
その他	読んでくるように指示する小説類は各自で揃える。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-121 CT-L-121 SD-L-121	科目分類（～2024 年入学者）	100-120-11	授業コード	F00650
科目名称	生命の科学			単位数	2.0 単位
英文名称	Life Science			授業区分	講義
科目責任者	鞠子　典子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鞠子　典子			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	生命は環境の中から偶然に生まれ，今日まで生物は環境と深く関りながら進化を繰り返してきました。その結果，ＤＮＡによる巧妙な遺伝のしくみ，バクテリアから人間までの多様な生物世界，人間の複雑極まりない脳神経系がつくられてきました。ところが，人間の脳は DNA やゲノムを編集する技術を開発するまで高度に発達し，その結果，遺伝子改変や生殖医療などの問題を引き起こすようになりました。私たちはそうした時代に生きており，皆さん一人ひとりが生命倫理に関わる様々な選択が求められているのです。こうした認識のもとに，この授業では，様々な視点から生物や生命について取り上げ，最新の話題を紹介していきます。後半の授業では，女性に特有な問題を切り抜いて，様々なテーマで講義していきます。授業は，パワポを使用し，画像や動画を取り入れながら，分かり易い言葉で進めていきます。				
到達目標	生命とは何かを生物学的に学び，生命の科学に関する科学リテラシーの向上を目指し，生命の操作に関する諸問題について自分の意見をもてるようになること。またヒトや女性について生物学的に理解し，自分の生き方に自信と責任をもてるようになること。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	鞠子　典子	【第 1 回】 授業：なぜ今，生命科学なのか（ガイダンス） 予習：「生命」に関する話題についてネットで検索してみよう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する
2	鞠子　典子	【第 2 回】 授業：生物と無生物の違いは何か 予習：「生命の条件」について調べてみよう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する
3	鞠子　典子	【第 3 回】 授業：DNA の遺伝情報が生命現象を支配するたんぱく質に置き換えられる流れ 予習：今回のキーワードである「セントラルドグマ」について調べておこう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する
4	鞠子　典子	【第 4 回】 授業：同じ遺伝子をもつはずの双子の指紋が違うのはなぜ？ 予習：今回のキーワードである「エピジェネティクス」について調べおこう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する
5	鞠子　典子	【第 5 回】 授業：ウイルスがもたらした生物の根源的進化とは何か 予習：今回のキーワードである「レトロウイルス」について調べおこう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する
6	鞠子　典子	【第 6 回】 授業：遺伝子組み換え大豆を使った納豆をあなたは食べますか？ 予習：「GM 作物・食品」の利用の是非ついて家族や身近な人に尋ねてみよう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する
7	鞠子　典子	【第 7 回】 授業：童話『人魚姫』は現実のものになるのか！？ 予習：「ゲノム編集技術」に関する話題について調べてみよう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する
8	鞠子　典子	【第 8 回】 授業：科学と倫理の狭間で　～いのちを操作する技術の利用～ 予習：「生命倫理」に関する話題について調べてみよう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する
9	鞠子　典子	【第 9 回】 授業：ヒトの誕生から死まで　～誕生・成長・生殖・老化・死～ 予習：生物学的なヒトの一生について，受精から死までまとめてみよう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する

10	鞠子　典子	【第 10 回】 授業：女性のための生命科学　～知ってほしい子宮頸がんとワクチンの話～ 予習：「子宮頸がんとワクチン」に関する話題について調べてみよう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する
11	鞠子　典子	【第 11 回】 授業：女性のための生命科学　～知ってほしいピルのはなし～ 予習：「低用量ピル」に関する話題について調べてみよう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する
12	鞠子　典子	【第 12 回】 授業：女性のための生命科学　～知ってほしいダイエットの話～ 予習：厚生労働省の HP に掲載されている「低出生体重児保健指導マニュアル」に目を通しておこう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する
13	鞠子　典子	【第 13 回】 授業：女性のための生命科学　～染色体が教えてくれる子どもの未来～ 予習：「出生前診断」について調べておこう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する
14	鞠子　典子	【第 14 回】 授業：あなたの一番関心のある「生命の科学」に関する疑問にお答えします！ 予習：「生命の科学」に関する話題にアンテナを張ろう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する
15	鞠子　典子	【第 15 回】 授業：生命の科学　総括と試験範囲の説明 予習：「生命の科学」で学んだことを復習し，生命の科学リテラシーの必要性について自分の意見をまとめる 復習：試験に向けた勉強をする

授業開始前学習	常日頃から，授業と関連する話題に強い関心をもってニュースや新聞記事と接すること。
授業内課題のフィードバックの方法	ワンポイントで復習できる課題の講評及び解答は講義内で行います。
テキスト・教材	教科書は指定せず，資料を配布します。
参考書	「生命科学の静かなる革命 」福岡伸一著(インターナショナル新書) 「好きになる人間生物学」吉田邦久著（講談社サイエンティフィク） この他，講義の中で適宜書籍を紹介します。
評価の基準と方法	試験７０%，平常点（授業に臨む姿勢・提出物） ３０%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				

関連科目	
その他	授業の理解度などを勘案し，授業テーマの順序や内容を多少変更することがあります。 講義で分からないことがある場合は，そのままにせず，いつでも質問してください。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-121 CT-L-121 SD-L-121	科目分類（～2024 年入学者）	100-120-11	授業コード	F00660
科目名称	倫理学			単位数	2.0 単位
英文名称	Ethics			授業区分	講義
科目責任者	鈴木　由加里			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鈴木　由加里			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	本講義では、倫理学の概要と現代における倫理的テーマを考察する。現代社会に生きる個々人が直面する倫理的な判断をしなければならない具体的な諸問題を紹介し、それぞれに対して論議できるようになることを目的としたい。				
到達目標	平等や正義に関する哲学的知識を身につけ、現実的な問題について議論できるようになることが到達目標。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	鈴木　由加里	【第 1 回】 予習：シラバスの内容を吟味し、自分の興味対象がどこにあるのかを考えてくる 授業：倫理学を学ぶにあたって。レポートの書き方や単位取得条件及び勉強の仕方について説明する。 論述課題を実施 復習：配布したレジメを読む
2	鈴木　由加里	【第 2 回】 予習：配布した資料を読む 授業：倫理学の課題 復習：問題群を確認
3	鈴木　由加里	【第 3 回】 予習：配付資料を読んでくる 授業：倫理学の歴史　①古代ギリシア 復習：倫理学の歴史について知識を確認する
4	鈴木　由加里	【第 4 回】 予習：配布資料を読んでくる 授業：倫理学の歴史　②近代 復習：倫理学の歴史についての知識を確認する
5	鈴木　由加里	【第 5 回】 予習：自由の価値について自分の考えをまとめてくる 授業：自由について①　J・S・ミルの『自由論』を読む 復習：ミルとハリエット・テイラーについて確認する
6	鈴木　由加里	【第 6 回】 予習：ミル自由主義の問題点を確認する 授業：自由について② 復習：自由が批判されるケースの確認
7	鈴木　由加里	【第 7 回】 予習：功利主義という言葉を調べてくる 授業：功利主義について 復習：功利主義と倫理の関係について確認
8	鈴木　由加里	【第 8 回】 予習：19 世紀以降の歴史を確認してくる 授業：倫理学の現代的展開　科学と倫理 復習：科学の中立性について考える
9	鈴木　由加里	【第 9 回】 予習：技術なしの生活を考えてみる 授業：科学技術と倫理 復習：科学技術の問題点を確認
10	鈴木　由加里	【第 10 回】 予習：医療に対する不満を考えてくる 授業：医療と倫理①　医療の課題 復習：医療における課題の具体像を確認
11	鈴木　由加里	【第 11 回】 予習：終末期に何をしたいか考える 授業：医療と倫理②　人間の尊厳について 復習：尊厳ある死について確認

12	鈴木　由加里	【第 12 回】 予習：日本における法的な自由の定義を調べる 授業：再び自由の問題について 復習：自由の価値について確認する
13	鈴木　由加里	【第 13 回】 予習：意見の対立についての具体的なケースを考えてくる 授業：相対主義という問題 復習：倫理的に生きることについて考察する
14	鈴木　由加里	【第 14 回】 予習：ノートと配布した資料、参考文献を読んで理解しておく 授業　補足　授業内容確認小テスト（授業内答案作成） 復習：授業内容について不十分なところを補っておく
15	鈴木　由加里	【第 15 回】 予習：ノートと配布した資料、参考文献を読んで理解しておく 授業：授業内容確認小テスト　（ノート　レジメ　持ち込み可）返却予定 　　動画資料の視聴とミニレポート作成 復習：小テストで答えられなかったところを復習しておく

授業開始前学習	この授業では、課題の提出などで GWE(Google Workspace for Education)を使用する可能性がある。使用法を各自学習しておくこと。基本的なパソコンの操作を学んでおくこと。Web の閲覧、ファイルの種類の違いや、ワープロソフトの使用法、メールの送受信など基本的な操作ができるようにしておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	基本的に、フィードバックは、GWE(Google Workspace for Education)を利用。 対面授業の場合は、リアクションペーパーは手書き。授業時に回収し、返却はなし。 レポート課題は、Google Classroom を利用して、出題、回収。また、連絡も Google Classroom を利用。クラス記号など詳細は「クラスプロファイル」を通じて連絡をする予定。「クラスプロファイル」の使い方を確認しておくこと。 生成 AI による文章作成は認めない。自分の考察を論述したものをレポートとして
テキスト・教材	授業概要についてのレジメと資料を授業項目ごとに配布。参考文献や必要な資料は授業時に配布もしくはデジタル版へのリンクを指示する。
参考書	各テーマごとにレジメで指示。ブックリスト配布を配布するので、図書館などを利用し、より多くの参考文献に目を通して欲しい。
評価の基準と方法	GWE(Google Workspace for Education)において、課題を提出していただきます。課題を全部提出することが単位取得の前提条件。全て提出した場合のみ、各回の点数と授業内容確認テストの点数を合計し、100 点換算の上成績評価を行います。たとえば、 授業内で行う授業内容確認テストの点数 100 点とレポート課題が 4 回の場合、10 点×４＝40 点となり、合計 140 点中、総合して 85 点（100 点換算にすると 60 点）とれないと単位の認定にいたりません。課題の詳細は授業時に説明します。不備のあるレポー
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△		○		

関連科目	特になし
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	HR-M-221	科目分類（～2024 年入学者）	100-120-11	授業コード	F00670
科目名称	人権の基礎			単位数	2.0 単位
英文名称	Introduction to Human Rights			授業区分	講義
科目責任者	福王　守			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	福王　守			開講時期	1 年
オフィスアワー	前期　月曜日 13:00～14:30　木曜日 13:00～14:30 後期　月曜日 13:00～14:30　木曜日 13:00～14:30			研究室	10-614
授業概要	今日の日本の法社会は、ヨーロッパの近代市民社会を模範としています。一人ひとりの個人を人格の担い手として尊重すること、すなわち「人間の尊厳」は市民社会の実現目標かつ基本的な価値観として捉えられてきました。特に、「自由」や「平等」は人間の尊厳の具体的内容をなす基本的な「人権」として捉えられ、今日に至っています。このことを踏まえ、本講義ではまず人権の本質と内容について理解します。その上で、今日における様々な人権問題を国内社会と国際社会を比較しつつ法的な観点から考察します。				
到達目標	市民社会における客観的な判断基準としての「法」の役割を踏まえ、異なる意見を踏まえつつ筋道を立てて未解決の人権問題を考える力を身につけることを目標とします。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	福王　守	※ 毎回の授業後には、「問題解決型学習」の手段として課題レポートを作成してもらい、次回授業時にこれに対する解説と質問への回答を行います。 【第 1 回】 予習　：本科目シラバスおよびテキスト目次 1-11 頁の講読 授業　：「人権の基礎」とは：授業の目的・内容・学習方法について【テキスト　目次 1-11 頁】 復習　：テキスト目次 1-11 頁の再読、【第 1 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
2	福王　守	【第 2 回】 予習　：テキスト 3 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：市民社会と法：法の役割と日本の法体系の起源　　【テキスト　3 頁】 復習　：テキスト 3 頁の再読、【第 2 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
3	福王　守	【第 3 回】 予習　：テキスト 11-12 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：人権の背景：近代市民社会と人間の尊厳　【テキスト　11-12 頁】 復習　：テキスト　11-12 頁の再読、【第 3 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
4	福王　守	【第 4 回】 予習　：テキスト　12-13 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：人権の背景：近代市民国家と個人の尊厳　【テキスト　12-13 頁】 復習　：テキスト　12-13 頁の再読、【第 4 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
5	福王　守	【第 5 回】 予習　：テキスト　17-22、27-30 頁の講読およびキーワードの確認 授業：国内社会と人権　：日本国憲法と基本的人権　　【テキスト　17-22、27-30 頁】 復習　：テキスト　17-22、27-30 頁の再読、【第 5 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
6	福王　守	【第 6 回】 予習　：テキスト　53-54、103-106 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：国内社会と人権：自由権　【テキスト　53-54、103-106 頁】 復習　：テキスト 53-54、103-106 頁の再読、【第 6 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
7	福王　守	【第 7 回】 予習　：テキスト　161-175 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：国内社会と人権：社会権　【テキスト　161-175 頁】 復習　：テキスト　161-175 頁の再読、【第 7 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
8	福王　守	【第 8 回】 予習　：テキスト　73-81、167-168 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：国内社会と人権：環境と人権　【テキスト　73-81、167-168 頁】 復習　：テキスト　73-81、167-168 頁の再読、【第 8 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
9	福王　守	【第 9 回】 予習　：テキスト　54-58、288-289 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：国内社会と人権：外国人の人権　【テキスト　54-58、288-289 頁】 復習　：テキスト　54-58、288-289 頁の再読、【第 9 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
10	福王　守	【第 10 回】 予習　：第 2 回-9 回までのテキスト全学習頁の講読およびキーワードの確認 授業　：これまでの授業の総括と発展学習の手引：授業全体の体系的整理と論証に向けて【テキスト全学習頁】 復習　：テキスト全学習頁の再読、【第 10 回】授業ノートおよび配布プリントの整理

11	福王　守	【第 11 回】 予習　：テキスト 281-282 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：国際社会と人権：国際社会の構造的特徴　【テキスト 281-282 頁】 復習　：テキスト 281-282 頁の再読、【第 11 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
12	福王　守	【第 12 回】 予習　：テキスト 282-283 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：国際社会と人権：国際人権保障のあゆみと国連の役割　【テキスト 282-283 頁】 復習　：テキスト 282-283 頁の再読、【第 12 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
13	福王　守	【第 13 回】 予習　：テキスト 283-286 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：国際社会と人権：国際人権章典　【テキスト 283-286 頁】 復習　：テキスト 283-286 頁の再読、【第 13 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
14	福王　守	【第 14 回】 予習　：テキスト 291-294 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：国際社会と人権：国際人権保障をめぐる課題と日本　【テキスト　291-294 頁】 復習　：　291-294 頁の再読、【第 14 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
15	福王　守	【第 15 回】 予習　：テキスト目次 1-11 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：「人権の基礎」の総括と発展学習の手引：授業全体の体系的整理と論証に向けて【テキスト全学習頁】 復習　：テキスト全学習頁の再読、【第 15 回】授業ノートおよび配布プリントの整理

授業開始前学習	テレビや新聞の社会面・政治面の報道に、少しでも多く接する機会をもって下さい。必ずどこかで授業理解の助けになります。
授業内課題のフィードバックの方法	適宜次回の授業冒頭において課題レポートに対する講評と質問への回答を述べます。また第 10 回および 15 回目において、レポート課題全般に関する講評と個々の問題解決に向けた助言等を行います。
テキスト・教材	古野豊秋・畑尻剛編『新・スタンダード憲法（第 4 版補訂版）』（ 尚学社、2016 年） 『ポケット六法（令和 7 年版）』（有斐閣、2024 年）
参考書	授業を通じて適宜紹介します。
評価の基準と方法	・15 回のレポートの総合点で評価します（10 点×15 回＝150 点を 100 点満点に換算）。 ・単位取得の前提として、すべての授業回数のうち出席に基づく 10 回以上の提出が必要です。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	◎		△				

関連科目	「法学」、「法と社会」および「日本国憲法Ⅰ・Ⅱ」と関連させながら、「人権の基礎」授業が組み立てられています。また、2 年次以降に受講できる科目として「国際法Ⅰ・Ⅱ」があります。
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-121 CT-L-121	科目分類（～2024 年入学者）	100-120-11	授業コード	F00680
科目名称	女性の人権			単位数	2.0 単位
英文名称	Human Rights for Women			授業区分	講義
科目責任者	佐藤　美由紀			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	佐藤　美由紀			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	人が社会生活を営む上で最も基本的な人と人との関係を規定する規範としての法学を通して、市民と法との関わり方、という観点から、日本の法のあり方について検討する。日常の社会生活での具体的問題、特に「女性の権利」に関わる問題を素材に、法的なものの考え方（リーガルマインド）を説明し、現代の法がどのようなことを定めているのか、またそれはどのように形成されてきたのか、さらには、どのように評価するべきかを考察する。				
到達目標	①憲法の基本的な考え方を理解する。 ②社会における法律の役割を理解する。 ③自分の考え思考を他者に説明できる。 ④「女性と人権」に関する問題についての法律問題を発見し、その法的解釈を自分の言葉で説明できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	佐藤　美由紀	【第 1 回】 テーマ「民主主義と基本的人権」 授業の目的、内容、学習方法についての説明 （予習）講義の時間を使ってこの授業でのルールを作ります。①授業中の私語の禁止は授業中のルールとしますので、それ以外のルールを授業開始までに一つ考えていてください。 （復習）多数決による法決定の問題点について各自検討し自分の言葉で意見を述べられるようにする。
2	佐藤　美由紀	【第 2 回】近代憲法における女性に関する人権の位置づけ （予習）授業中に適示指示します。 （復習）立憲主義について授業の内容を自分なりに整理する。
3	佐藤　美由紀	【第 3 回】近代憲法における女性に関する人権の位置づけ （予習）授業中に適示指示します。 （復習）立憲主義における女性の権利の問題点について、ノートにまとめ、自分なりに説明をできるようにする。
4	佐藤　美由紀	【第 4 回】日本国憲法における女性に関する人権保障の形成 （予習）授業中に適示指示します。 （復習）日本国憲法において形成された女性に関する人権保障の規定について、ノートにまとめ、自分なりに説明ができるようにする。
5	佐藤　美由紀	【第 5 回】女性の人権救済と、合理的差別論における女性差別の認容 （予習）教科書 15 章を熟読する （復習）「合理的区別」と「差別」の違いについて、自分なりに説明ができるようにする。
6	佐藤　美由紀	【第 6 回】政治的平等（憲法４４条） （予習）教科書第 3 章を熟読する （復習）女性の政治参加の問題点について、自分なりの考えを述べられるようにする。
7	佐藤　美由紀	【第 7 回】家族関係における平等：（家庭内暴力） （予習）教科書第 13 章を熟読する （復習）家庭内暴力の問題を自分なりに整理して、自分の考えを述べられるようにする。
8	佐藤　美由紀	【第 8 回】家族関係における平等（離婚・再婚禁止期間） （予習）教科書第 11 勝を熟読する （復習）再婚禁止期間についての問題を自分なりに理解し、自分の考えを述べられるようにする。
9	佐藤　美由紀	【第 9 回】家族関係における平等（夫婦別姓制） （予習）教科書第 10 章を熟読する （復習）夫婦別姓制についての問題を自分なりに理解し、自分の考えを述べられるようにする。
10	佐藤　美由紀	【第 10 回】表現活動と女性の権利 （予習）授業中に適示指示します。 （復習）表現の自由の重要性を自分の言葉で説明できるようにする。
11	佐藤　美由紀	【第 11 回】職場環境における平等 （予習）教科書第 6 章、第 14 章を熟読する。 （復習）職場環境に関する問題点を自分なりに整理できるようにする。

12	佐藤　美由紀	【第 12 回】職業選択と女性 （予習）教科書第 8 章　第 16 章を熟読する （復習）授業中に適示指示します。
13	佐藤　美由紀	【第 13 回】刑事被害者と女性 （予習）教科書第 7 章を熟読する （復習）授業中に適示指示します。
14	佐藤　美由紀	【第 14 回】刑事事件と女性 （予習）授業中に適示指示します。 （復習）授業中に適示指示します。
15	佐藤　美由紀	【第 15 回】女性の人権と女性の権利：授業全体の体系的整理・レポートの講評 （予習）授業中に適示指示します。 （復習）授業中に適示指示します。

授業開始前学習	テレビや新聞の社会面、政治面、インターネットニュース等の報道に、少しでも多く接するようにしてください。時々時事ネタのお話をしますので。
授業内課題のフィードバックの方法	不定期に、授業内容の理解等の確認のため、ミニテスト、授業内レポートを実施し、翌週以降で解説します。
テキスト・教材	六法 『ポケット六法』有斐閣、『デイリー六法』三省堂、『法学六法』信山社のいずれか 安西文雄/巻美矢紀/宍戸常寿・著『憲法学読本』有斐閣
参考書	『憲法判例百選 I』（第 7 版）有斐閣 『憲法判例百選Ⅱ』（第 7 版）有斐閣 ■講義の中で適時指定する。 ■学習方法について 横田明美著『カフェパウゼで法学を～対話で見つける〈学び方〉』弘文堂 ⇒法学部生向けの本ですが、大学での講義の受け方、時間の使い方、メールの作成方法、レポートや卒業論文の作成方法、自習の仕方等が説明されている本ですので、ぜひ一度、通読してみてください。
評価の基準と方法	単位取得の前提としてすべての授業日数のうち 60%以上の出席が必要です。評価については、授業態度（30%）、授業内レポート（20%）、レポート課題の評価（50%）とします。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	◎		△				

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）	CS-L-121 CT-L-121 SD-L-121 （J）	科目分類（～2024年入学者）	100-120-11 （J）	授業コード	F00691
科目名称	心理学Ⅰ			単位数	2.0単位
英文名称	Psychology Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	田口 香代子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田口 香代子			開講時期	1年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	本授業では、心理学の基礎となる知識や諸理論について概説する。「心理学」では主に認知、学習等の基礎的な領域と、発達及びパーソナリティについて学習する。はじめに人は外界からどのように情報を得ているのか（第2回）、情報はどのように整理されるのか（第3回）、人の行動の成り立ちについて学ぶ（第4回、5回）。次に乳幼児から高齢期までの心身の成長や変化の特徴（第6回、9-10回）及び発達障害（第7回、8回）について学ぶ。その後、人の個性や特徴の捉え方について学び（第11-13回）、授業全体を通して人の心や行動に関する理解を深める。その他、第14回では心理療法の1つである「認知行動療法」について学ぶ。				
到達目標	心理学の基本的な知識を習得することを目標とする。また、人の心や行動について心理学的観点から理解し、説明することができるようになる。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	田口 香代子	【第1回】 予習： 授業スケジュールを確認しておく 授業： ガイダンス、心理学とは（第1章）※pp.8-20「心理学の歴史」を除く 復習： ガイダンスの振り返り、キーワードの確認
2	田口 香代子	【第2回】 予習： テキスト pp.169-170 及び pp.187-188 の「PSYCHOLOGY」を読んでおく 授業： 感覚と知覚 －人は外界からどのように情報を得ているのか－（第10章、第11章） 復習： キーワードの確認
3	田口 香代子	【第3回】 予習： テキスト pp.205-206 の「PSYCHOLOGY」を読んでおく 授業： 記憶のメカニズム －過去の経験を保持する仕組み－（第12章） 復習： キーワードの確認
4	田口 香代子	【第4回】 予習： テキスト p.221 の「PSYCHOLOGY」を読んでおく 授業： 学習と言語 －新しい行動の学習と言語の獲得－（第13章） 復習： キーワードの確認
5	田口 香代子	【第5回】 予習： テキスト p.87 の「PSYCHOLOGY」を読んでおく 授業： 動機づけと情動 －何が人を動かすのか－（第5章） 復習： キーワードの確認
6	田口 香代子	【第6回】 予習： テキスト p.51 の「PSYCHOLOGY」を読んでおく 授業： 心の発達 －乳幼児期の心理－（第3章）※pp.67-68「発達障害とその支援」を除く 復習： キーワードの確認
7	田口 香代子	【第7回】 予習： 注意欠如・多動症、限局性学習症について調べておく 授業： 発達障害の理解と支援1：注意欠如・多動症、限局性学習症（第3章の pp.67-68） 復習： キーワードの確認
8	田口 香代子	【第8回】 予習： 自閉スペクトラム症について調べておく 授業： 発達障害の理解と支援2：自閉スペクトラム症（第3章の pp.67-68） 復習： キーワードの確認
9	田口 香代子	【第9回】 予習： テキスト p.72「人間は一生発達する」、p.80「ケース2」を読んでおく 授業： 児童期・青年期の心理（第4章の pp.71-81） 復習： キーワードの確認
10	田口 香代子	【第10回】 予習： テキスト p.84「本章のサマリー」を読んでおく 授業： 成人期・高齢期の心理（第4章の pp.81-84） 復習： キーワードの確認

11	田口　香代子	【第 11 回】 予習：　テキスト p.120「本章のサマリー」を読んでおく 授業：　パーソナリティの理解と測定 1：質問紙法（第 6 章の pp.106-107、pp.112-113） 復習：　キーワードの確認
12	田口　香代子	【第 12 回】 予習：　テキスト p.105 の「PSYCHOLOGY」を読んでおく 授業：　パーソナリティの理解と測定 2：投映法（第 6 章の p.111-112「投映法で性格をはかる」） 復習：　キーワードの確認
13	田口　香代子	【第 13 回】 予習：　テキスト p.119「健康な性格とは何だろうか」を読んでおく 授業：　パーソナリティの理論（第 6 章の pp.106-107、pp.113-120） 復習：　キーワードの確認
14	田口　香代子	【第 14 回】 予習：　テキスト pp.156-159「ベックと認知療法」を読んでおく 授業：　認知行動療法（資料配付） 復習：　キーワードの確認
15	田口　香代子	【第 15 回】 予習：　これまで学んだ内容を復習しておく 授業：　キーワードの確認 復習：　配付資料の振り返り

授業開始前学習	
授業内課題のフィードバックの方法	授業の最後にリアクションペーパーの提出を求めます。提出されたリアクションペーパーについては、次の授業で数名分を紹介し、全体に向けてコメントを返します。
テキスト・教材	・テキスト：長谷川寿一・東條正城・大島尚・丹野義彦・廣中直行 著『はじめて出会う心理学 第 3 版』2020 年発行（有斐閣） ・テキストの他に適宜資料を配布します
参考書	
評価の基準と方法	レポート 70%、授業態度及びリアクションペーパーの提出 30%を基準とし、総合的に評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				

関連科目	
その他	・人の心や行動に関心を持ち、積極的な姿勢で受講することを期待します。 ・必要に応じて授業計画の一部を変更して講義を行うことがあります。 ・【2024 年度以前入学者】心理学Ⅰ-a（前期）と心理学Ⅱ（後期）を履修することにより、心理学について、より広く学ぶ構成となっている。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	心理臨床に関わる講義内容については、教育機関、医療機関における実務経験を活かし、講義を行う。

科目分類（2025年～入学者）	CS-L-121 CT-L-121 SD-L-121	科目分類（～2024年入学者）	100-120-11	授業コード	F00692
科目名称	心理学Ⅰ			単位数	2.0単位
英文名称	Psychology Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	朴　建映			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	朴　建映			開講時期	1年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	心理学は、さまざまな科学的方法を駆使して、心についての研究を行う学問である。この授業では、心理学の基礎となる知識や諸理論について概説する。主に、認知、学習等の基礎的な領域と、発達及びパーソナリティについて学習する。				
到達目標	この授業では、主に人間の発達について学び、赤ちゃんがさまざまな経験を通して心身ともに発達し大人になっていく過程を理解し、自分の言葉で説明できるようになることを目標とする。受講者は子どもの発達において大切なことは何であるか、自分の意見を述べることができるようになることが求められる。また、心の働きを知ることを通して、自分自身のストレスやメンタルヘルスについて考える。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	朴　建映	【第1回】 予習：シラバス及びClassroomの資料1を確認する 授業：心理学とは（ガイダンス） 復習：Classroomの資料をもとにテキストを読み直し、心理学について自分の考えや意見を整理する
2	朴　建映	【第2回】 予習：Classroomの資料2を確認する 授業：感覚 復習：Classroomの資料をもとにテキストを読み直し、様々な感覚の働きについて整理する
3	朴　建映	【第3回】 予習：Classroomの資料3を確認する 授業：知覚 復習：Classroomの資料をもとにテキストを読み直し、知覚とその恒常性について理解する
4	朴　建映	【第4回】 予習：Classroomの資料4を確認する 授業：学習1（古典的条件づけを中心に） 復習：Classroomの資料をもとにテキストを読み直し、古典的条件づけについて整理する
5	朴　建映	【第5回】 予習：Classroomの資料5を確認する 授業：学習2（オペラント条件づけを中心に） 復習：Classroomの資料をもとにテキストを読み直し、オペラント条件づけについて整理する
6	朴　建映	【第6回】 予習：Classroomの資料6を確認する 授業：心の発達1（新生児期の特徴を中心に） 復習：Classroomの資料をもとにテキストを読み直し、人間の赤ちゃんの特徴について考える
7	朴　建映	【第7回】 予習：Classroomの資料7を確認する 授業：心の発達2（乳幼児期の特徴を中心に） 復習：Classroomの資料をもとにテキストを読み直し、乳幼児期の発達について確認し、身近な子どもを観察する
8	朴　建映	【第8回】 予習：Classroomの資料8を確認する 授業：愛着 復習：Classroomの資料をもとにテキストを読み直し、愛着の重要性について確認する
9	朴　建映	【第9回】 予習：Classroomの資料9を確認する 授業：発達障害とその支援 復習：Classroomの資料をもとにテキストを読み直し、発達障害にはどのような種類があるのか整理する
10	朴　建映	【第10回】 予習：Classroomの資料10を確認する 授業：ライフサイクル 復習：Classroomの資料をもとにテキストを読み直し、ライフサイクルについて理解する

11	朴　建映	【第 11 回】 予習：Classroom の資料 11 を確認する 授業：性格とその測定 復習：Classroom の資料をもとにテキストを読み直し、それぞれの性格の違いについて考える
12	朴　建映	【第 12 回】 予習：Classroom の資料 12 を確認する 授業：知能 復習：Classroom の資料をもとにテキストを読み直し、知能についての疑問点を整理する
13	朴　建映	【第 13 回】 予習：Classroom の資料 13 を確認する 授業：ストレスとメンタルヘルス 復習：Classroom の資料をもとにテキストを読み直し、日常生活におけるストレスについて考える
14	朴　建映	【第 14 回】 予習：Classroom の資料 14 を確認する 授業：カウンセリングと心理療法 復習：Classroom の資料をもとにテキストを読み直し、認知行動療法やクライエント中心療法について調べてみる
15	朴　建映	【第 15 回】 予習：1 回~14 回の授業で扱った内容について、教科書と Classroom の資料で復習する 授業：前期の授業を通してどんなことを学んできたのかふりかえる 復習：理解が十分でない部分について確認し、興味がある内容についてはさらに調べてみる

授業開始前学習	
授業内課題のフィードバックの方法	授業に関してはフィードバック課題を提出してもらい、次の授業の最初に質問への回答や興味深い意見の紹介を行う。
テキスト・教材	長谷川寿一・東條正城・大島尚・丹野義彦・廣中直行著『はじめて出会う心理学　第 3 版』有斐閣アルマ この他に、Classroom の資料を参照
参考書	
評価の基準と方法	フィードバック課題（45 点）、学期末レポート(55 点)をもとに総合的に評価する
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	100-120-11（J）	授業コード	F00701
科目名称	心理学Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	PsychologyⅡ			授業区分	講義
科目責任者	田口　香代子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田口　香代子			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	本授業では、心理学の基礎となる知識や諸理論について概説する。心理学Ⅱでは主に臨床及び社会心理学の領域について学習する。心の問題と心理学的援助の方法について理解を深めた後（第 2 回-9 回）、他者の理解や他者からの影響、心と社会の関係について学び（第 10 回、13 回、14 回）、授業全体を通して人の心や行動に関する理解を深める。 その他、ストレスへの対処法（第 3 回）や円滑な人間関係を築くコミュニケーション（第 11 回、12 回）等、日常生活で実際に役立つ応用的なテーマを取り上げる。				
到達目標	心理学の基本的な知識を習得することを目標とする。また、人の心や行動について心理学的観点から理解し、説明することができるようになる。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	田口　香代子	【第 1 回】 予習：　授業スケジュールを確認しておく 授業：　ガイダンス、心理学とは（第 1 章）※pp.8-20「心理学の歴史」を中心に講義 復習：　ガイダンスの振り返り、キーワードの確認
2	田口　香代子	【第 2 回】 予習：　テキスト pp.137-138 の「PSYCHOLOGY」を読んでおく 授業：　ストレスとメンタルヘルス（第 8 章）※pp.143-149 を除く 復習：　キーワードの確認
3	田口　香代子	【第 3 回】 予習：　自分のストレスについて整理しておく 授業：　ストレスマネジメント　－ストレスへの対処－（資料配布） 復習：　キーワードの確認、ワークを実践する
4	田口　香代子	【第 4 回】 予習：　精神疾患について調べておく 授業：　精神疾患（資料配布） 復習：　キーワードの確認
5	田口　香代子	【第 5 回】 予習：　テキスト p.164「本章のサマリー」を読んでおく 授業：　心理療法 1：精神分析療法（第 8 章の pp.143-147、第 9 章の pp.152-155） 復習：　キーワードの確認
6	田口　香代子	【第 6 回】 予習：　テキスト pp.151-152「あなたはカウンセラー」を読んでおく 授業：　心理療法 2：クライエント中心療法（第 9 章の pp.159-162） 復習：　キーワードの確認
7	田口　香代子	【第 7 回】 予習：　テキスト p.164「本章のサマリー」を読んでおく 授業：　心理療法 3：行動療法、認知療法（第 8 章の pp.147-149、第 9 章の pp.155-159） 復習：　キーワードの確認
8	田口　香代子	【第 8 回】 予習：　箱庭療法について調べておく 授業：　心理療法 4：箱庭療法（資料配布） 復習：　キーワードの確認
9	田口　香代子	【第 9 回】 予習：　治療的家庭教師について調べておく 授業：　治療的関係とは（資料配布） 復習：　キーワードの確認
10	田口　香代子	【第 10 回】 予習：　テキスト p.317（「本章のサマリー」）の 2 行目以降を読んでおく 授業：　対人認知　－他者の理解と他者への好意－（第 17 章の pp.309-316） 復習：　キーワードの確認

11	田口　香代子	【第 11 回】 予習：　コミュニケーションの種類について調べておく 授業：　コミュニケーション（資料配布） 復習：　キーワードの確認
12	田口　香代子	【第 12 回】 予習：　自身の自己表現の特徴や傾向について整理しておく 授業：　アサーション・トレーニング　－円滑な人間関係を築くコミュニケーション－（資料配布） 復習：　キーワードの確認
13	田口　香代子	【第 13 回】 予習：　テキスト p.303 の「PSYCHOLOGY」を読んでおく 授業：　他者の存在と心　－人の行動は他者からどのような影響を受けるのか－（第 17 章の pp.303-309, pp.312-313） 復習：　キーワードの確認
14	田口　香代子	【第 14 回】 予習：　テキスト pp.319-320 の「PSYCHOLOGY」を読んでおく 授業：　心と社会（第 18 章） 復習：　キーワードの確認
15	田口　香代子	【第 15 回】 予習：　これまで学んだ内容を確認しておく 授業：　キーワードの確認 復習：　配付資料の振り返り

授業開始前学習	
授業内課題のフィードバックの方法	授業の最後にリアクションペーパーの提出を求めます。提出されたリアクションペーパーについては、次の授業で数名分を紹介し、全体に向けてコメントを返します。
テキスト・教材	・テキスト：長谷川寿一・東條正城・大島尚・丹野義彦・廣中直行　著『はじめて出会う心理学　第 3 版』2020 年発行（有斐閣） ・テキストの他に適宜資料を配付します
参考書	
評価の基準と方法	レポート 70%、授業態度及びリアクションペーパーの提出 30%を基準とし、総合的に評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				

関連科目	
その他	・人の心や行動に関心を持ち、積極的な姿勢で受講することを期待します。 ・必要に応じて授業計画の一部を変更して講義を行うことがあります。 ・心理学Ⅰ-a（前期）と心理学Ⅱ（後期）を履修することにより、心理学について、より広く学ぶ構成となっている。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	心理臨床に関わる講義内容については、教育機関、医療機関における実務経験を活かし、講義を行う。

科目分類（2025年～入学者）	CS-L-121 CT-L-121 SD-L-121 （J）	科目分類（～2024年入学者）	100-121-11 （J）	授業コード	F00710
科目名称	生涯学習論Ⅰ			単位数	2.0単位
英文名称	Life-Long Education Studies Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	氏家 祥美			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	氏家 祥美			開講時期	1年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	この授業では、すべての発達段階の人を対象とする、すそ野の広い学び「生涯学習」について学習する。生涯学習の基礎理論、現在に至るまでの歴史的背景、関連する法律、多様な学びのスタイルや学びのリソース、講座設計の基本について学んでいく。				
到達目標	本授業では、生涯学習の意義や目的を学ぶとともに、歴史的背景、目的に合わせた生涯学習スタイルや講座設計の仕方などを幅広く学習する。授業は、学んだことや気づいたことを記録する時間、生涯学習社会の実現についてディスカッションする時間を多く持ち、知識のインプットと学び合いの時間としていく。生涯学習について学びながら、生涯にわたって主体的に「学修」する力を身につけていく。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	氏家 祥美	【第1回】 予習 ：シラバスに目を通し、授業に対する疑問点をまとめておく 授業 ：ガイダンス 大学での学びと生涯学習 復習 ：自身にとって生涯学習の学びがどう役立てるか、目的や課題を考察する
2	氏家 祥美	【第2回】 予習 ：生涯学習と社会教育の違いについて、自分なりに調べてくる 授業 ：生涯学習と社会教育 復習 ：生涯学習と社会教育の意味、共通点、違いについて整理する
3	氏家 祥美	【第3回】 予習 ：戦前の社会教育について自分なりに調べる 授業 ：生涯学習と社会教育の歴史 復習 ：生涯学習の発達過程や歴史的反省を振り返る
4	氏家 祥美	【第4回】 予習 ：ユネスコ、OECDについて調べる 授業 ：生涯教育論 復習 ：リカレント教育、リスキリングについて最近の動向を調べる
5	氏家 祥美	【第5回】 予習 ：生涯学習と学校教育の違いについて調べる 授業 ：生涯学習と学校教育 復習 ：生涯学習と学校教育の領域の違いや傾向を身近なケースで考察する
6	氏家 祥美	【第6回】 予習 ：生涯学習施設の講座情報を対象者、学習スタイルに注目して調べる 授業 ：生涯学習の方法と内容①（討論、パネルディスカッション、ワークショップ、独習、通信教育など） 復習 ：それぞれの学習方法の違いや使い分けについて整理する
7	氏家 祥美	【第7回】 予習 ：ファシリテーションについて調べる 授業 ：生涯学習の方法と内容②ファシリテーション 復習 ：ファシリテーションのコツを振り返り、日常に活用する
8	氏家 祥美	【第8回】 予習 ：生涯学習施設の講座の年間計画を調べる 授業 ：生涯学習と社会教育の計画。計画、実施、評価、改善 復習 ：生涯学習推進計画の流れを理解する
9	氏家 祥美	【第9回】 予習 ：講座チラシを探して複数比較する 授業 ：学習プログラムの編成 復習 ：学習プログラム作成の流れと型を知る
10	氏家 祥美	【第10回】 予習 ：大学の公開講座を複数調べて比較する 授業 ：生涯学習関連行政の仕組み 復習 ：国、都道府県、市区町村の役割、社会教育関連団体について整理する

11	氏家　祥美	【第 11 回】 予習　：生涯学習と社会教育について整理する 授業　：生涯学習と社会教育職員 復習　：社会教育主事制度、社会教育士について整理する
12	氏家　祥美	【第 12 回】 予習　：図書館や博物館に足を運んで新たな気づきを探す 授業　：生涯学習と社会教育施設 復習　：生涯学習における公民館、図書館、博物館の役割や課題を知る
13	氏家　祥美	【第 13 回】 予習　：青少年教育と成人教育の違いを考察する 授業　：青少年教育と成人教育（ペタゴジー、アンドラゴジー） 復習　：青少年教育と成人教育の特徴や課題を整理する
14	氏家　祥美	【第 14 回】 予習　：女性教育に必要な要素や課題を考える 授業　：高齢者教育と女性教育 復習　：少子高齢化社会における高齢者教育、女性教育の意義と課題を考察する
15	氏家　祥美	【第 15 回】 予習　：生涯学習についての学習を振り返り、疑問点や感動をまとめておく 授業　：生涯学習と社会教育をめぐる課題 復習　：生涯学習についての学びを振り返る

授業開始前学習	・生涯学習とは何か。社会教育、リカレント教育、リスキリングとの違いなどに注目して、自分なりに調べておく。
授業内課題のフィードバックの方法	講義毎に小レポートを実施する（翌週の講義内にて、適宜、講評する）。
テキスト・教材	佐藤晴雄著『生涯学習概論』第３次改訂版　学陽書房
参考書	
評価の基準と方法	講義毎の小レポート（60%），最終レポート（40%）
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎				○	○		

関連科目	学芸員養成課程と教職課程に位置づく本科目は、他の博物館に関する科目や教職科目と関連している。特に、生涯学習の意義・目的、生涯学習社会の理念を踏まえた学びが展開される科目との有機的関連性は高い。
その他	図書館や博物館など、生涯学習の拠点となる身近な施設を訪れること 学習ツールの活用や対話を通じて、日常の生活の中から湧き出た疑問を解決するクセをつけること
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	お金やキャリア教育の専門家として大学のエクステンションセンターや、東京都や市区町村などが主催する講座で豊富な講師経験がある。講座の企画者、受講生とのコミュニケーション経験から、近年の実情に即した話題を提供できる。

科目分類（2025年～入学者）	CS-L-121 CT-L-121 SD-L-121	科目分類（～2024年入学者）	100-121-11	授業コード	F00720
科目名称	生涯学習論Ⅱ			単位数	2.0単位
英文名称	Life-Long Education StudiesⅡ			授業区分	講義
科目責任者	山本　双葉			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	山本　双葉			開講時期	1年
オフィスアワー	前期　曜日～　曜日～ 後期　木曜日 13:00～14:30　金曜日 10:30～12:00			研究室	16-305
授業概要	本授業では、生涯学習に関する法制度や行政による振興政策、生涯学習を支える施設や職員の役割を学びながら、グループで課題を設定し、生涯学習を進める事業計画案（生涯学習プログラム）を開発し実践する（グループによる課題解決型学習とプレゼンテーション）。 特に、生涯学習における「青少年教育」を題材とした講義では、生涯学習支援者としての役割の理解を深めるため、体験活動の意義や青少年教育施設の役割を学び、学習成果の評価や振り返る方法についても学ぶ。				
到達目標	本授業では、生涯学習に関する法制度や行政の振興政策を学びながら、生涯学習支援者としての役割を自覚することを目指す。具体的な到達目標として、以下の4点を挙げる。 1．生涯学習を支える制度（法律や行政の取り組み）に関する知識を修得することができる 2．生涯学習を支える施設や職員の役割に関する知識を修得することができる 3．生涯学習における青少年教育の重要性を理解することができる 4．生涯学習プログラムの開発を通して、生涯学習支援者としての役割を自覚することができる				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	山本　双葉	【第1回】 予習：「生涯学習論Ⅰ」を振り返り、疑問点をノートにまとめる 授業：人生100年時代における生涯学習の意義や目的とは（ライフサイクル、生涯設計） 復習：生涯学習が今の時代になぜ必要なのか自分の言葉でまとめる
2	山本　双葉	【第2回】 予習：生涯学習、リカレント教育、リスキリングの違いを調べておく 授業：生涯学習における学習の特性と方法を俯瞰する 復習：生涯学習の学びの種類、学習方法を整理する
3	山本　双葉	【第3回】 予習：興味を持てそうな講演会やワークショップの情報を探してみる 授業：生涯学習における多様な学習方法を学ぶ①（講演会、討論、ワークショップ） 復習：講演会やワークショップの告知情報を参加者目線、主催者目線で分析する
4	山本　双葉	【第4回】 予習：オンライン講座と対面講座のメリット・デメリットを考える 授業：生涯学習における多様な学習方法を学ぶ②（オンライン、メディア活用など、学びの多様化） 復習：時間や場所を選ばずに学習できるオンライン講座、通信講座の情報を集めてみる
5	山本　双葉	【第5回】 予習：社会教育主事について調べる 授業：日本の法律と社会教育行政（日本国憲法、教育基本法、社会教育法、生涯学習振興法） 復習：生涯学習にかかわる法律について整理する
6	山本　双葉	【第6回】 予習：公民館の活動情報を調べる 授業：生涯学習施設の種類と詳細①公民館、生涯学習センター 復習：公民館や生涯学習センター主催の講座情報を主催者目線で読み解く
7	山本　双葉	【第7回】 予習：興味のある博物館について調べる 授業：生涯学習施設の種類と詳細②図書館、博物館 復習：図書館や博物館について調べ、足を運んでみる
8	山本　双葉	【第8回】 予習：女性教育施設（女性センター）での講座や活動を調べて、気づいたことや疑問点をまとめる 授業：生涯学習施設の種類と詳細③青少年教育施設、女性教育施設、体育施設 復習：地域にどのような施設があるのか調べる
9	山本　双葉	【第9回】 予習：職業訓練について調べ、疑問点をまとめておく 授業：公的な職業能力開発（雇用保険、ハローワークの役割、職業訓練など） 復習：最寄りのハローワークや、ハローワークのウェブサイトで職業訓練について調べる

10	山本　双葉	【第 10 回】 予習：大学の公開講座を調べて、気づいたことや疑問点をまとめる 授業：大学、大学院と生涯学習（公開講座、大学院、放送大学など） 復習：大学の公開講座を複数比較して、その特徴や気づきをまとめる
11	山本　双葉	【第 11 回】 予習：生涯学習と社会教育について整理する 授業：生涯学習に関わる人的資源（社会教育主事、社会教育士、司書、学芸員、専門職員、ボランティア） 復習：生涯学習に関わる資格や仕事の中で、興味を持ったものについて調べてまとめておく
12	山本　双葉	【第 12 回】 予習：教育訓練給付金の概要を調べて、疑問点をまとめておく 授業：生涯学習に関わる経済的支援（教育訓練給付金、助成金、企業の制度ほか） 復習：生涯学習を始めたい人、生涯学習の場づくりをしたい人目線で、利用できる制度をまとめる
13	山本　双葉	【第 13 回】 予習：生涯学習プログラムの構想を練っておく 授業：生涯学習プログラムを開発する①プログラムの構成、制度（グループワーク） 復習：生涯学習プログラムの詳細を考える
14	山本　双葉	【第 14 回】 予習：生涯学習講座の募集チラシなどから、集客のヒントを集める 授業：生涯学習プログラムを開発する②プログラムの告知、宣伝、集客（グループワーク） 復習：生涯学習プログラムの告知文を考える
15	山本　双葉	【第 15 回】 予習：生涯学習についての学習を振り返り、疑問点や感動をまとめておく 授業：作成した生涯学習プログラムを発表する（グループワーク） 復習：発表を振り返り、生涯学習プログラムをブラッシュアップする

授業開始前学習	前期に「生涯学習論Ⅰ」を履修した者は、「生涯学習論Ⅰ」の学習内容を振り返る 自身の興味・関心の高い事柄について調べる
授業内課題のフィードバックの方法	・生涯学習プログラム（事業計画）作成を課す（講義内にて適宜講評する）。 ・講義毎に小レポートを実施する（翌週の講義内にて適宜講評する）。
テキスト・教材	授業内で適宜資料を配布する。
参考書	関口礼子・小池源吾・西岡正子・鈴木志元・堀薫夫著『新しい時代の生涯学習』（有斐閣アルマ） 香川正弘・鈴木眞理・佐々木英和編『よくわかる生涯学習』（ミネルヴァ書房）
評価の基準と方法	講義毎の小レポート（50%），生涯学習プログラム（50%）
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎				○	○		

関連科目	本科目は、博物館に関する科目や教職科目と関連している。特に、生涯学習を支える制度や生涯学習プログラム作成による学びは、「教育制度」や「生徒指導（進路指導）」等の科目との有機的関連性が高い。
その他	図書館や博物館など、生涯学習の拠点となる身近な施設を訪れること。 日常の生活の中から湧き出た疑問に着目するクセをつけること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）	CS-L-121 CT-L-121 （J）	科目分類（～2024年入学者）	100-120-11 （J）	授業コード	F00730
科目名称	社会福祉概論Ⅰ			単位数	2.0単位
英文名称	Introduction to Social Welfare Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	森鳶 由紀子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	森鳶 由紀子			開講時期	1年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	社会福祉概論Ⅰでは、社会福祉論という領域の基本を学習します。授業では、まず、社会福祉論の基本的視点を紹介し、次に、社会福祉の歴史として、イギリスやアメリカを中心に学び、日本については、古代から現在に至るまでの流れを押さえます。そして、女性福祉、児童福祉、障害者福祉、高齢者福祉といった個別の福祉分野について、制度的な歴史や現代的問題について取り上げます。				
到達目標	社会福祉論の基本的理解を学習課題とし、社会福祉の諸現象に対して、その社会的要因や背景を探り、その改善や解決につながる働きかけを考察できることを目標とします。欧米や日本の社会福祉の大きな流れや個別分野の制度的な歴史をしっかりと押さえたうえで、現代の課題について理解し、改善・解決の道を考察する力を養います。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	森鳶 由紀子	【第1回】 予習 ：シラバスの授業のテーマ・目標、授業内容の確認 授業 ：オリエンテーション 復習 ：授業のテーマ・目標、授業内容、授業の進め方の確認
2	森鳶 由紀子	【第2回】 予習 ：資料1の講読 授業 ：社会福祉とは何か： 社会福祉論の基本的視点 復習 ：社会福祉論の基本的視点のまとめ
3	森鳶 由紀子	【第3回】 予習：資料2の講読 授業：社会福祉の歴史－欧米： イギリスの社会福祉の歴史 復習：イギリスの社会福祉のキーワードの確認
4	森鳶 由紀子	【第4回】 予習 ：資料2と参考資料の講読 授業 ：社会福祉の歴史－欧米： アメリカ、その他の社会福祉の歴史 復習 ：欧米の社会福祉の歴史のまとめ
5	森鳶 由紀子	【第5回】 予習 ：資料3の講読 授業 ：社会福祉の歴史－日本： 古代から昭和初期 復習 ：昭和初期までの社会福祉のキーワードの確認
6	森鳶 由紀子	【第6回】 予習 ：資料3と参考資料の講読 授業 ：社会福祉の歴史－日本： 戦後から現在 復習 ：日本の社会福祉の歴史のまとめ
7	森鳶 由紀子	【第7回】 予習 ：資料4の講読 授業 ：女性福祉1： 女性福祉の基本的視覚 復習 ：女性福祉のキーワードの確認
8	森鳶 由紀子	【第8回】 予習 ：女性福祉の参考資料の講読、視聴 授業 ：女性福祉2： 女性福祉の現代的問題 復習 ：女性福祉の課題について自分の考えをまとめる
9	森鳶 由紀子	【第9回】 予習 ：資料5の講読 授業 ：児童福祉1： 児童福祉の歴史 復習 ：児童福祉のキーワードの確認
10	森鳶 由紀子	【第10回】 予習 ：児童福祉の参考資料の講読、視聴 授業 ：児童福祉2： 児童福祉の現代的問題 復習 ：児童福祉の課題について自分の考えをまとめる
11	森鳶 由紀子	【第11回】 予習 ：資料6の講読 授業 ：障害者福祉1： 障害者福祉の歴史 復習 ：障害者福祉のキーワードの確認

12	森鳶　由紀子	【第 12 回】 予習　：障害者福祉の参考資料の講読、視聴 授業　：障害者福祉２：　障害者福祉の現代的問題 復習　：障害者福祉の課題について自分の考えをまとめる
13	森鳶　由紀子	【第 13 回】 予習　：資料７の講読 授業　：高齢者福祉１：　高齢者福祉の歴史 復習　：高齢者福祉のキーワードの確認
14	森鳶　由紀子	【第 14 回】 予習　：高齢者福祉の参考資料の講読、視聴 授業　：高齢者福祉２：　高齢者福祉の現代的問題 復習　：高齢者福祉の課題について自分の考えをまとめる
15	森鳶　由紀子	【第 15 回】 予習　：今までの資料の講読、視聴 授業　：これからの社会福祉 復習　：これからの社会福祉の課題について自分の考えをまとめる

授業開始前学習	社会福祉の入門または概論について、本を読んでおくと授業が理解しやすい。
授業内課題のフィードバックの方法	授業後半の個別福祉分野ではリアクションペーパーを課すが、翌週に何人かの意見・感想を紹介しながら講評を行い、個別の質問には回答します。
テキスト・教材	特に指定しません。授業時に資料を配付します。
参考書	
評価の基準と方法	定期試験（９０%）、授業態度・リアクションペーパー（１０%）
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	△		△	○	○		

関連科目	
その他	講義資料は前週までに配付しますので、予習に活用してください。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	介護サービス相談員の実務経験を活かして、高齢者福祉の現状や課題について講義で触れます。また、社会福祉士の国家資格を有しているため、資格取得を目指す学生の相談にのります。

科目分類（2025年～入学者）	CS-L-121 CT-L-121 （J）	科目分類（～2024年入学者）	100-120-11 （J）	授業コード	F00740
科目名称	社会福祉概論Ⅱ			単位数	2.0単位
英文名称	Introduction to Social Welfare Ⅱ			授業区分	講義
科目責任者	森鳶 由紀子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	森鳶 由紀子			開講時期	1年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	社会福祉概論Ⅱでは、社会福祉の理念や倫理を学び、ソーシャルワークの実際として、社会福祉の実施体制や社会福祉援助技術について理解します。授業後半では、各自がソーシャルワーカーの立場に立って、個別援助技術（ケースワーク）および集団援助技術（グループワーク）の具体的な事例に取り組み、発表とディスカッションを行います。				
到達目標	社会福祉概論Ⅱでは、社会福祉援助技術に関する知識や技術を習得し、社会福祉援助活動に活用できる能力と態度を育てることを目標とします。各自がケースワークの事例とグループワークの事例に取組み、発表とディスカッションを行うことで、社会福祉援助技術を実践的にとらえ、主体的に考えられるようにします。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	森鳶 由紀子	【第1回】 予習 ：シラバスの授業のテーマ・目標、授業内容の確認 授業 ：オリエンテーション 復習 ：授業のテーマ・目標、授業内容の確認
2	森鳶 由紀子	【第2回】 予習 ：資料1の講読 授業 ：社会福祉の理念： 社会福祉の歴史と理念 復習 ：社会福祉の歴史や理念のキーワードの確認
3	森鳶 由紀子	【第3回】 予習 ：資料2の講読 授業 ：社会福祉の実施体制 復習 ：社会福祉の実施体制の整理とまとめ
4	森鳶 由紀子	【第4回】 予習 ：資料3の講読 授業 ：社会福祉援助の方法 復習 ：社会福祉援助方法のキーワードの確認
5	森鳶 由紀子	【第5回】 予習 ：資料4の講読 授業 ：社会福祉援助の倫理 復習 ：社会福祉援助の倫理のキーワードの確認
6	森鳶 由紀子	【第6回】 予習 ：資料5の講読 授業 ：個別援助技術（ケースワーク）とは―原則と過程 復習 ：原則・過程のキーワードの確認、ケースワークの方法についてまとめる
7	森鳶 由紀子	【第7回】 予習 ：資料6の事例講読と質問への回答 授業 ：ケースワークの実際1― 受理面接（発表とディスカッション） 復習 ：受理面接のキーワードの確認、他の学生の意見と比較しながら自分の考えをまとめる
8	森鳶 由紀子	【第8回】 予習 ：資料6の事例講読と質問への回答 授業 ：ケースワークの実際2―事前評価（発表とディスカッション） 復習 ：事前評価のキーワードの確認、他の学生の意見と比較しながら自分の考えをまとめる
9	森鳶 由紀子	【第9回】 予習 ：資料6の事例講読と質問への回答 授業 ：ケースワークの実際3―援助計画（発表とディスカッション） 復習 ：援助計画のキーワードの確認、他の学生の意見と比較しながら自分の考えをまとめる
10	森鳶 由紀子	【第10回】 予習 ：資料6の事例講読と質問への回答 授業 ：ケースワークの実際4―介入・実践評価、終結（発表とディスカッション） 復習 ：介入・実践評価・終結のキーワードの確認、他の学生の意見と比較しながら自分の考えをまとめる
11	森鳶 由紀子	【第11回】 予習 ：資料7の講読 授業 ：集団援助技術（グループワーク）とは―原則と過程 復習 ：原則・過程のキーワードの確認、グループワークの方法についてまとめる

12	森鳶　由紀子	【第 12 回】 予習　：資料８の事例講読と質問への回答 授業　：グループワークの実際１－準備期（発表とディスカッション） 復習　：準備期のキーワードの確認、他の学生の意見と比較しながら自分の考えをまとめる
13	森鳶　由紀子	【第 13 回】 予習　：資料８の事例講読と質問への回答 授業：グループワークの実際２－開始期（発表とディスカッション） 復習　：開始期のキーワードの確認、他の学生の意見と比較しながら自分の考えをまとめる
14	森鳶　由紀子	【第 14 回】 予習　：資料８の事例講読と質問への回答 授業　：グループワークの実際３－作業期（発表とディスカッション） 復習　：作業期のキーワードの確認、他の学生の意見と比較しながら自分の考えをまとめる
15	森鳶　由紀子	【第 15 回】 予習　：資料８の事例講読と質問への回答 授業　：グループワークの実際４－終結期（発表とディスカッション） 復習　：終結期のキーワードの確認、他の学生の意見と比較しながら自分の考えをまとめる

授業開始前学習	社会福祉の入門または概論について、本を読んでおくと授業が理解しやすい。社会福祉概論Ⅰの履修者は配付資料を復習してください。
授業内課題のフィードバックの方法	授業後半では各自が具体的な事例に取り組み、回答を板書してもらいますが、回答内容についてコメントします。
テキスト・教材	特に指定しません。授業時に資料を配付します。
参考書	
評価の基準と方法	レポート（９０％）、事例発表・ディスカッション（１０％）
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	△		△	○	○		

関連科目	
その他	講義資料は事前に配付しますので、予習で講読（質問には回答）してください。受講者数によって事例の発表とディスカッションの方法を検討します。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	介護サービス相談員の実務経験を活かして、社会福祉の理念、実施体制、援助におけるソーシャルワーカーの役割などについて、講義で触れます。また、社会福祉士の国家資格を有しているため、資格取得を目指す学生の相談にのります。

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-121 CT-L-121 SD-L-121	科目分類（～2024 年入学者）	100-120-11	授業コード	F00750
科目名称	日本の歴史			単位数	2.0 単位
英文名称	Japanese Culture and History／Japanese History			授業区分	講義
科目責任者	市川　理恵			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	市川　理恵			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	日本の古代から近世までの各時代の政治・社会・経済が、文化の形成にどのような影響を与えたのかを探る。歴史書や日記、絵画、彫刻、建築など具体的な文化遺産を掲示し、日本文化そのものへの理解を深める。				
到達目標	歴史的なものの見方を身に着け、現代社会における諸問題を考察できるようになる。日本の文化がどのような歴史的背景のもとに成立したかを理解できるようになる。多様な視角・視点から「文化」を捉えられるようになる。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	市川　理恵	【第 1 回】 予習　：大森貝塚について調べる 授業　：縄文時代の文化と歴史 復習　：教科書の「縄文時代の文化と歴史」を復習する
2	市川　理恵	【第 2 回】 予習　：板付遺跡について調べる 授業　：弥生時代の文化と歴史 復習　：教科書の「弥生時代の文化と歴史」を復習する
3	市川　理恵	【第 3 回】 予習　：大仙陵古墳について調べる 授業　：古墳時代の文化と歴史 復習　：教科書の「古墳時代の文化と歴史」を復習する
4	市川　理恵	【第 4 回】 予習　：法隆寺について調べる 授業　：　飛鳥時代の文化と歴史 復習　：教科書の「 飛鳥時代の文化と歴史」を復習する
5	市川　理恵	【第 5 回】 予習　：東大寺について調べる 授業　：奈良時代の文化と歴史 復習　：教科書の「奈良時代の文化と歴史」を復習する
6	市川　理恵	【第 6 回】 予習　：平等院について調べる 授業　：平安時代の文化と歴史 復習　：教科書の「平安時代の文化と歴史」を復習する
7	市川　理恵	【第 7 回】 予習　：鶴岡八幡宮について調べる 授業　：鎌倉時代 の文化と歴史 復習　：教科書の「鎌倉時代 の文化と歴史」を復習する
8	市川　理恵	【第 8 回】 予習　：金閣寺について調べる 授業　：南北朝時代の文化と歴史 復習　：教科書の「南北朝時代の文化と歴史」を復習する
9	市川　理恵	【第 9 回】 予習　：天龍寺について調べる 授業　：室町時代の文化と歴史 復習　：教科書の「室町時代の文化と歴史」を復習する
10	市川　理恵	【第 10 回】 予習　：安土城について調べる 授業　：戦国時代の文化と歴史 復習　：教科書の「戦国時代の文化と歴史」を復習する
11	市川　理恵	【第 11 回】 予習　：大阪城について調べる 授業　：安土桃山時代の文化と歴史 復習　：教科書の「安土桃山時代の文化と歴史」を調べる

12	市川　理恵	【第 12 回】 予習　：日光東照宮について調べる 授業　：江戸時代初期の文化と歴史 復習　：教科書の「江戸時代初期の文化と歴史」を復習する
13	市川　理恵	【第 13 回】 予習　：桂離宮について調べる 授業　：　江戸時代中期の文化と歴史 復習　：教科書の「　江戸時代中期の文化と歴史」を復習する
14	市川　理恵	【第 14 回】 予習　：浅草寺について調べる 授業　：江戸時代後期の文化と歴史 復習　：教科書の「江戸時代後期の文化と歴史」について調べる
15	市川　理恵	【第 15 回】 予習　：教科書を一通り復習する 授業　：日本の文化と歴史の総括 復習　：日本の文化について時代ごとにまとめる

授業開始前学習	縄文時代から江戸時代までの歴史を学習しておくと理解しやすい。
授業内課題のフィードバックの方法	毎回、「授業の感想・質問」を提出する。質問は次回の授業で回答する。
テキスト・教材	授業開始時にテキスト（駒沢女子大学教科書シリーズ）を指示する。
参考書	
評価の基準と方法	定期試験の結果（７０％）と授業態度（30%）で評価を行う。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-121 CT-L-121 SD-L-121	科目分類（～2024 年入学者）	100-120-11	授業コード	F00760
科目名称	世界の歴史			単位数	2.0 単位
英文名称	World History			授業区分	講義
科目責任者	山本　興一郎			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	山本　興一郎			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	本講義のテーマは、古代地中海世界からフランス革命前夜までのヨーロッパにおける、人々の政治参加に関わる文化や概念・諸制度について学ぶことです。（近代以降の日本を含む）近現代の人々が参照し、更には影響を受けることとなる概念・諸制度揺籃の地であるヨーロッパにおいて、当時の人々がどのようにそれらを獲得し或いはある者を対象から排除したのか、またどのように認識し、運用していたのか。これらの疑問を考えることにより、本講義は受講生自身が持っている或いは利用している、権利概念や諸制度について、改めて考える機会を提供していきます。				
到達目標	人々の政治参加や諸制度をめぐる世界の歴史を正確に理解し、それらに関して自分の考えを述べることができるようになる。また、同じ名称の概念・用語・制度であっても、時代・場所・状況により相違点があることに気づき、その意味を理解することで、歴史的事実・認識に対する自身の考えを、多角的視点を踏まえたうえで表明できるようにすることを目標とする。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	山本　興一郎	【第 1 回】 予習：高等学校で使用した世界史・世界史探求の教科書を熟読しておくこと 授業：【地中海世界・ヨーロッパ世界とは】この授業の前提になる知識を学びます。また、次回以降の授業実施方法および評価方法を説明します。 復習：課題を中心に復習を行うことで、「前近代の歴史」に関して大枠の理解を深める
2	山本　興一郎	【第 2 回】 予習：事前学習用リード文を読み該当する時代・地域・用語について大まかに理解しておくこと 授業：【古代地中海世界の展開 1】古代ギリシアのポリス社会と古代西アジア諸文明の関係について学びます 復習：課題を中心に復習を行うことで、古代のギリシアと西アジア諸文明の関係性に関して理解を深める
3	山本　興一郎	【第 3 回】 予習：事前学習用リード文を読み該当する時代・地域・用語について大まかに理解しておくこと 授業：【古代地中海世界の展開 2】：共和政ローマの成立と国制について学びます 復習：課題を中心に復習を行うことで、政治参加とローマ市民権に関して理解を深めること
4	山本　興一郎	【第 4 回】 予習：事前学習用リード文を読み該当する時代・地域・用語について大まかに理解しておくこと 授業：【古代地中海世界の展開 3】：古代地中海世界の代表的勢力の特徴とローマの地中海世界への拡大について学びます 復習：課題を中心に復習を行うことで、諸勢力とローマ支配のあり方に関して理解を深めること
5	山本　興一郎	【第 5 回】 予習：事前学習用リード文を読み該当する時代・地域・用語について大まかに理解しておくこと 授業：【古代地中海世界の展開 4】：ローマの内乱と帝政の成立について学びます 復習：課題を中心に復習を行うことで、帝政の成立に関して理解を深めること
6	山本　興一郎	【第 6 回】 予習：事前学習用リード文を読み該当する時代・地域・用語について大まかに理解しておくこと 授業：【古代地中海世界の展開 5】：帝政ローマの展開と「市民」の関係について学びます 復習：課題を中心に復習を行うことで、帝政と市民権の位置づけに関して理解を深めること
7	山本　興一郎	【第 7 回】 予習：事前学習用リード文を読み該当する時代・地域・用語について大まかに理解しておくこと 授業：【古代末期の展開】：古代と中世の断絶ではない、「古代末期」世界について概要を学びます 復習：課題を中心に復習を行うことで、後期帝政と市民権の位置づけ、そして一神教の発展に関して理解を深めること
8	山本　興一郎	【第 8 回】 予習：事前学習用リード文を読み該当する時代・地域・用語について大まかに理解しておくこと 授業：【中世の展開 1】：中世前期の概要について学びます 復習：課題を中心に復習を行うことで、ポスト・ローマ世界に関して理解を深めること
9	山本　興一郎	【第 9 回】 予習：事前学習用リード文を読み該当する時代・地域・用語について大まかに理解しておくこと 授業：【中世の展開 2】：中世ヨーロッパ世界の前提となる聖俗の関係について学びます 復習：課題を中心に復習を行うことで、古代とは異なる中世の政治参加に関して理解を深めること

10	山本　興一郎	【第 10 回】 予習：事前学習用リード文を読み該当する時代・地域・用語について大まかに理解しておくこと 授業：【中世の展開 3】：中世を特徴づける封建社会と貴族・騎士について学びます 復習：課題を中心に復習を行うことで、封建社会とそこに生きる貴族・騎士という存在に関して理解を深めること
11	山本　興一郎	【第 11 回】 予習：事前学習用リード文を読み該当する時代・地域・用語について大まかに理解しておくこと 授業：【中世の展開 4】：封建社会における都市の重要性について学びます 復習：課題を中心に復習を行うことで、王権と都市の関係に関して理解を深めること
12	山本　興一郎	【第 12 回】 予習：事前学習用リード文を読み該当する時代・地域・用語について大まかに理解しておくこと 授業：【近世の展開 1】：近世初期の貴族の変容と教会大分裂の影響について学びます 復習：課題を中心に復習を行うことで、近世の政治参加に関して理解を深めること
13	山本　興一郎	【第 13 回】 予習：事前学習用リード文を読み該当する時代・地域・用語について大まかに理解しておくことと 授業：【近世の展開 2】：危機の時代における三部会（身分制議会）の活動について学びます 復習：課題を中心に復習を行うことで、百年戦争や宗教戦争等の危機の時代における王権・三部会の関係に関して理解を深めること
14	山本　興一郎	【第 14 回】 予習：事前学習用リード文を読み該当する時代・地域・用語について大まかに理解しておくこと 授業：【近世の展開 3】：近世社会の王権と社団の関係と「主権論」について学びます。また【レポート課題】を提示します 復習：課題を中心に復習を行うことで、主権論に基づく絶対王政と社団の関係性に関して理解を深めること
15	山本　興一郎	【第 15 回】 予習：【第 1 回】から【第 14 回】までの授業を復習しておくこと 授業：【ヨーロッパ世界の特徴と近現代の胎動】 復習：配布資料を熟読しておくこと

授業開始前学習	高等学校で使用した世界史・世界史探求の教科書や便覧・用語集等で、本シラバスの「授業の内容」で示した範囲を熟読しておいてください。
授業内課題のフィードバックの方法	小課題については、提出締切日の 1,2 週後を目途に採点結果と適宜総評を Google Classroom 登録メールアドレスへ送信します。 課題・総評提示日等は、授業形態・学習状況により日程を変更する可能性があります。変更する場合は事前に受講者に伝達いたします。
テキスト・教材	適宜資料を事前配布します。
参考書	服部良久・南川高志・山辺規子（編著）（2007）『大学で学ぶ西洋史［古代・中世］』ミネルヴァ書房. 小山哲・上垣豊・山田史郎・杉本淑彦（編著）（2011）『大学で学ぶ西洋史［近現代］』ミネルヴァ書房. 池上俊一著（2021）『ヨーロッパ史入門―原型から近代への胎動』岩波ジュニア文庫. 池上俊一著（2022）『ヨーロッパ史入門―市民革命から現代へ』岩波ジュニア文庫.
評価の基準と方法	レポート課題の成績 50%と平常点 50%（平常点は、適宜実施する小課題の点数で評価する）
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				

関連科目	
その他	受講者数により授業の予定を変更することもあります。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）	CS-L-121 CT-L-121	科目分類（～2024年入学者）	100-120-11	授業コード	F00770
科目名称	戦争と平和の歴史Ⅰ			単位数	2.0単位
英文名称	History of Peace and War Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	野崎　孝弘			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	野崎　孝弘			開講時期	1年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	戦前の日本は、交戦国としてさまざまな戦争に関わり、多大な影響を国際関係に与えてきた。それは同時に、開国まもないこの国の前途にとって、重大な影響を及ぼすものでもあったと言える。この講義では、戦争の背景に働くさまざまな政治力学を確認し、戦争や紛争への理解を深めるために、三つの戦争（日露戦争と第一次世界大戦／シベリア出兵、満州事変）を主に取り上げ、分析していくことにする。				
到達目標	（１）どのような政治力学が働いて戦争が起きるのか（あるいは、終結するのか）を、具体的に説明することができるようになる。 （２）なぜ「あること」は起きて「別のこと」は起きなかったのか、もしあのとき別の道が選択されていたら、どのような未来に直面することになったのかを考える「歴史に学ぶことの意味と面白さ」を体感することができる。 （３）自らの考えを論理的にまとめ、発表することができる論理構成力を磨き上げることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	野崎　孝弘	【第１回】 予習　：授業のスケジュールを確認しておく 授業　：ガイダンス、前史（１）―条約改正―（課題解決型学習） 復習　：イギリスが条約改正に応じる姿勢を見せはじめた理由について説明してみる
2	野崎　孝弘	【第２回】 予習　：日清戦争とはどのような戦争であったのかを思い出してみる 授業　：前史（２）―日清戦争と義和団事件―（課題解決型学習） 復習　：日清戦争が清と朝鮮に与えた影響について説明してみる
3	野崎　孝弘	【第３回】 予習　：日露戦争とはどのような戦争であったのかを思い出してみる 授業　：日露戦争（１）　―戦争の推移と外交努力―（課題解決型学習） 復習　：黄禍論が日露戦争に与えた影響について説明してみる
4	野崎　孝弘	【第４回】 予習　：講和会議に臨むにあたって日本側がまとめた講和条件がいかに考え抜かれたものであったのかを確認してみる 授業　：日露戦争（２）　―ポーツマス会議―（課題解決型学習） 復習　：ポーツマス講和会議で日本は何を獲得し、何を失ったのかを説明してみる
5	野崎　孝弘	【第５回】 予習　：日露戦争後の日米関係についてはどのような理解の仕方が一般的かを確認してみる 授業　：日露戦争（３）　―国際関係の再編―（課題解決型学習） 復習：日露戦争後の日米関係に関する通説的な理解の仕方の問題点を指摘してみる
6	野崎　孝弘	【第６回】 予習　：第一次世界大戦とはどのような戦争であったのかを思い出してみる 授業　：第一次世界大戦（１）―戦争の勃発―（課題解決型学習） 復習　：アメリカが日本に対してどのような懸念を抱いていたのかを説明してみる
7	野崎　孝弘	【第７回】 予習　：日本が第一次世界大戦に参戦した理由について思い出してみる 授業　：第一次世界大戦（２）―日本の参戦と21か条の要求―（課題解決型学習） 復習　：二十一か条の要求に対する中国側の反応とイギリス・ロシア・アメリカの反応について整理してみる
8	野崎　孝弘	【第８回】 予習　：適宜指示する 授業　：第一次世界大戦（３）―加藤外交と石井外交の同異点―（課題解決型学習） 復習　：加藤外交と石井外交の共通点と相違点について説明してみる
9	野崎　孝弘	【第９回】 予習　：アメリカが第一次世界大戦に参戦した理由について思い出してみる 授業　：第一次世界大戦（４）―アメリカの参戦―（課題解決型学習） 復習　：アメリカの参戦が日米関係に与えた影響について説明してみる
10	野崎　孝弘	【第10回】 予習　：日本がシベリアに出兵した本当のねらいについて思い出してみる 授業　：第一次世界大戦（５）―シベリア出兵―（課題解決型学習） 復習　：アメリカが日本との共同出兵に応じた理由について説明してみる

11	野崎　孝弘	【第 11 回】 予習　：山東半島の位置を確認しておく 授業　：パリ講和会議と日米関係（課題解決型学習） 復習　：講和会議に際して日本が重視した「山東問題」とは何かを説明してみる
12	野崎　孝弘	【第 12 回】 予習　：統帥権とは何かを調べておく 授業　：ワシントン体制の成立（課題解決型学習） 復習　：「統帥権干犯問題」に現れた国内政治情勢の変容について説明してみる
13	野崎　孝弘	【第 13 回】 予習　：満州事変とはどのような事件のことだったのかを思い出してみる 授業　：ワシントン体制の動揺 ―満州事変の勃発―（課題解決型学習） 復習　：アヘンとの絡みから、「満蒙における日本の特殊権益」について考察してみる
14	野崎　孝弘	【第 14 回】 予習　：適宜指示する 授業　：満州事変の推移（課題解決型学習） 復習　：満州事変に対するアメリカ側の対応について説明してみる
15	野崎　孝弘	【第 15 回】 予習　：国際連盟が第二次世界大戦の勃発を阻止できなかった 授業　：満州事変と国際連盟（課題解決型学習） 復習　：リットン調査団の報告書を分析し、その内容が日本にとって受け入れがたいものであったのかを検討してみる

授業開始前学習	
授業内課題のフィードバックの方法	自らの考えを論理的にまとめ、発表することができる論理構成力は、文章レベルでの自覚的な訓練の中でこそ効果的に習得することができる。そこで、この能力の育成をねらいとした授業内課題を実施するに際しては、その翌週に講評を行い、どこに難点があるのかを全員で考えていく。具体的には、文章の書き方を指導するというかたちで、個人情報を伏せた複数の答案をサンプルとして提示し、関係づけができている箇所とできていない箇所を全員であぶり出す作業を行う。
テキスト・教材	毎回授業時にレジュメを配布する。
参考書	
評価の基準と方法	計２回の小テスト（合計３５点分）と授業内課題（合計６５点分）の累計で評価を行う。合格点は６０点以上とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				

関連科目	戦争と平和の歴史Ⅱ、国際社会の論点（国際社会への誘い）
その他	（１）あらためて言うまでもないことですが、授業中の私語は厳禁とします。 （２）授業内課題は不定期に、しかも頻繁に実施します。 （３）配布したプリントはクリアファイルなどに入れて毎回持参するようにしましょう。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）	CS-L-121 CT-L-121	科目分類（～2024年入学者）	100-120-11	授業コード	F00780
科目名称	戦争と平和の歴史Ⅱ			単位数	2.0単位
英文名称	History of Peace and WarⅡ			授業区分	講義
科目責任者	野崎　孝弘			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	野崎　孝弘			開講時期	1年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	戦後の日本は、交戦国として戦争に直接関わることはなかったが、数々の戦争に関わり、多大な影響を受けてきた。この講義では、戦争の背景に働くさまざまな政治力学を確認し、戦争や紛争への理解を深めるために、四つの戦争（朝鮮戦争とベトナム戦争、第四次中東戦争、湾岸戦争）を取り上げ、分析していくことにする。なお、この講義の目的から見て有用と思われる世界的な出来事についても、分析の対象とすることをあらかじめ断っておく。				
到達目標	（１）戦後の国際関係の流れをおおまかに説明することができる。 （２）どのような政治力学が働いて戦争が起きるのか（あるいは、終結するのか）を、具体的に説明することができるようになる。 （３）自らの考えを論理的にまとめ、発表することができる論理構成力を磨き上げることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目		複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	野崎　孝弘	【第１回】 予習：なし 授業：ガイダンス、戦後の国際関係史（１）―朝鮮戦争が勃発した背景―（問題解決型学習） 復習：「朝鮮国連軍」が、国連憲章に定められた「正規の国連軍」ではない理由について説明してみる
2	野崎　孝弘	【第２回】 予習：キューバ危機とはどのような事件だったのかを思い出してみる 授業：戦後の国際関係史（２）―第二次ベルリン危機とキューバ危機―（問題解決型学習） 復習：「巻き返し政策」と「封じ込め政策」の違いについて説明してみる
3	野崎　孝弘	【第３回】 予習：ドミノ理論について事前に調べておく 授業：戦後の国際関係史（３）―ベトナム戦争にアメリカが介入した背景―（問題解決型学習） 復習：フランスがＮＡＴＯの軍事機構から脱退した理由について説明してみる
4	野崎　孝弘	【第４回】 予習：ゴルバチョフの登場が国際情勢に与えた影響について思い出してみる 授業：　戦後の国際関係史（４）―湾岸戦争が勃発した背景―（問題解決型学習） 復習：どのような考え方のもとにイラクはクウェートに侵攻したのかを説明してみる
5	野崎　孝弘	【第５回】 予習：第二次世界大戦の末期に連合国間で検討された「日本の分割統治計画」について調べてみる 授業：朝鮮戦争（１）―アメリカの介入と中国の動き―（問題解決型学習） 復習：アメリカと中国が朝鮮戦争に介入した理由について簡潔に説明してみる
6	野崎　孝弘	【第６回】 予習：アメリカが対日政策を変更した理由について説明してみる 授業：朝鮮戦争（２）―日本に与えた影響―（問題解決型学習） 復習：朝鮮戦争が日本に与えた影響について簡潔に説明してみる
7	野崎　孝弘	【第７回】 予習：キューバ危機のおおまかな流れを確認しておく 授業：キューバ危機　―危機をどう回避したか―（問題解決型学習） 復習：キューバ危機からどのような教訓を得られるかについて引き続き考えてみる
8	野崎　孝弘	【第８回】 予習：インドシナ戦争のおおまかな流れについて事前に調べておく 授業：ベトナム戦争（１）―インドシナ戦争からベトナム戦争へ―（問題解決型学習） 復習：トンキン湾事件をめぐるアメリカの公式のストーリーの問題点を指摘してみる
9	野崎　孝弘	【第９回】 予習：ベトナム戦争のおおまかな流れについて確認しておく 授業：ベトナム戦争（２）―和平に向けた試み―（問題解決型学習） 復習：アメリカがベトナム戦争に介入した理由について説明してみる
10	野崎　孝弘	【第10回】 予習：ベトナム戦争のおおまかな流れについて確認しておく 授業：ベトナム戦争（３）―ニクソン政権の登場とベトナム和平―（問題解決型学習） 復習：ベトナム戦争が日米関係に与えた影響について簡潔に説明してみる

11	野崎　孝弘	【第 11 回】 予習：第一次石油危機が日本経済に与えた影響について思い出してみる 授業：第四次中東戦争（１）―国際的な文脈で見た中東戦争と石油危機―（問題解決型学習） 復習：日本の中東政策の特色をわかりやすく整理してみる
12	野崎　孝弘	【第 12 回】 予習：適宜指示する 授業：第四次中東戦争（２）―国際エネルギー機関の設立―（問題解決型学習） 復習：日本から見たこの機関の意義について簡潔に説明してみる
13	野崎　孝弘	【第 13 回】 予習： 授業：第四次中東戦争（３）―日本に与えた影響―（問題解決型学習） 復習：第四次中東戦争が日米関係に与えた影響について簡潔に説明してみる
14	野崎　孝弘	【第 14 回】 予習：イラク軍によるクウェート侵攻から湾岸戦争が終結するまでの過程を事前に確認しておく 授業：湾岸戦争（１）―日本はどう関わったか―（問題解決型学習） 復習：湾岸戦争における日本の役割について簡潔に説明してみる
15	野崎　孝弘	【第 15 回】 予習：適宜指示する 授業：湾岸戦争（２）―日本が受けたトラウマ―（問題解決型学習） 復習：その後日本が辿ってきた道を、このトラウマの観点から説明してみる

授業開始前学習	
授業内課題のフィードバックの方法	自らの考えを論理的にまとめ、発表することができる論理構成力は、文章レベルでの自覚的な訓練の中でこそ効果的に習得することができる。そこで、この能力の育成をねらいとした授業内課題を実施するに際しては、その翌週に講評を行い、どこに難点があるのかを全員で考えていく。具体的には、文章の書き方を指導するというかたちで、個人情報を伏せた複数の答案をサンプルとして提示し、関係づけができている箇所とできていない箇所を全員であぶり出す作業を行う。
テキスト・教材	毎回授業時にレジュメを配布する。レジュメは２種類（本編と補足資料編）。
参考書	
評価の基準と方法	計２回の小テスト（合計３５点分）と授業内課題（合計６５点分）の累計で評価を行う。合格点は６０点以上とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				

関連科目	戦争と平和の歴史Ⅰ、国際社会の論点／国際社会への誘い
その他	（１）あらためて言うまでもないことですが、授業中の私語は厳禁とします。 （２）授業内課題は不定期に、しかも頻繁に実施します。 （３）配布したプリントはクリアファイルなどに入れて毎回持参するようにしましょう。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-121 CT-L-121 SD-L-121	科目分類（～2024 年入学者）	100-120-11（2022 年～入学者） 100-121-11（～2021 年入学者）	授業コード	F00790
科目名称	西洋文化史			単位数	2.0 単位
英文名称	History of the Occidental Culture			授業区分	講義
科目責任者	河合　恵美			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	河合　恵美			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	ルネサンス以降の西洋文化を衣・食・住の観点より学び、研究する。文化・生活に関連した装飾美術・工芸の分野にて、大国でありその発信地的役割を果たしたイギリス、フランスを中心に、バロック期から 20 世紀ミッド・センチュリーにおける装飾の歴史を俯瞰し、食であるテーブルウェア（陶磁器・銀器・ガラス）、住である建築と家具、衣であるモード（服飾）、ジュエリー、装飾小物などについて、映像・画像と共に、ものの見方、鑑定眼を身につけられるように研究し、現代の生活文化への影響やルーツを学ぶ。				
到達目標	西洋工芸品・西洋装飾美術品の様式や特徴に関し、その歴史と背景、代表的な建築・美術・工芸について理解できるようになる。7 月に実施される西洋アンティーク鑑定検定試験協会主催「アンティーク検定試験」3 級の合格を目標とする。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	河合　恵美	【第 1 回】 予習　：シラバス全体を読み、装飾美術工芸とは何かを調べる 授業　：美術（純粋美術）と装飾美術（応用美術）の定義、共通点と相違点について理解する 復習　：西洋装飾美術工芸の世界を理解する
2	河合　恵美	【第 2 回】 予習　：教科書 P12-21 を読み、「様式とは何か」について調べておく 授業　：バロックからモダニズムまでの装飾様式の特徴を俯瞰する 復習　：各様式の特徴について時代背景と共に理解する
3	河合　恵美	【第 3 回】 予習　：教科書 P24-37 を読み、西洋の家具（椅子）について調べておく 授業　：西洋家具の成り立ち、変遷と歴史について学ぶ 復習　：西洋家具の歴史と各時代の特徴について理解する
4	河合　恵美	【第 4 回】 予習　：教科書 P66-71 を読み、陶磁器について調べておく 授業　：西洋陶磁について、陶器・磁器それぞれの誕生の歴史と特徴を学ぶ 復習　：陶磁器の歴史や種類について理解する
5	河合　恵美	【第 5 回】 予習　：教科書 P110-115 を読み、ガラスについて調べておく 授業　：ヴェネツィアガラス、ボヘミアガラス、クリスタルガラスについて学ぶ 復習　：ガラスの歴史と種類、製法について理解する
6	河合　恵美	【第 6 回】 予習　：教科書 P140-143 および P218-219 を読み、銀器について調べておく 授業　：イギリスとフランスの銀器の刻印の読み方について学ぶ 復習　：西洋における銀器の歴史、刻印について理解する
7	河合　恵美	【第 7 回】 予習　：教科書 P180-183 を読み、また宝飾品（ジュエリー）について調べておく 授業　：貴石の種類とジュエリーの歴史について学ぶ 復習　：ジュエリーの歴史、ダイヤモンドの世界を理解する
8	河合　恵美	【第 8 回】 予習　：モード（服飾）とジェンダーについて調べておく 授業　：西洋モードの歴史と変遷について学ぶ　第 1 回レポート課題 復習　：生活様式の中でのモードの歴史を理解する
9	河合　恵美	【第 9 回】 予習　：教科書 P19 を読みアール・ヌーヴォーについて調べておく 授業　：アール・ヌーヴォー芸術と、その工芸品について学ぶ 復習　：アール・ヌーヴォーの芸術様式を理解する
10	河合　恵美	【第 10 回】 予習　：教科書 P20 を読みアール・デコについて調べておく 授業　：アール・デコ様式と、その工芸品について学ぶ　第 1 回のレポート講評 復習　：アール・デコの芸術様式を理解する

11	河合　恵美	【第 11 回】 予習　：教科書 P21 を読み北欧デザインについて調べておく 授業　：ミッド・センチュリーの家具工芸品について学ぶ　第 2 回レポート 復習　：ミッド・センチュリーの家具工芸品を理解する
12	河合　恵美	【第 12 回】 予習　：19 世紀後半の万博について調べておく 授業　：1851 年のロンドン博から 1900 年のパリ万博までを俯瞰する 復習　：19 世紀後半の万博について、その意義と役割を理解する
13	河合　恵美	【第 13 回】 予習　：第 12 回までの授業につき復習をする 授業　：アンティーク検定対策 復習　：アンティーク検定試験に向けての総復習をする
14	河合　恵美	【第 14 回】 予習　：テーブルウェアの歴史について調べておく 授業　：テーブルコーディネートの変遷について学ぶ 復習　：テーブルウェアの種類、テーブルコーディネートの歴史を理解する
15	河合　恵美	【第 15 回】 予習　：「アンティーク」とは何か、について調べておく 授業　：アンティーク、ヴィンテージ、コレクタブルなどの定義、その価値基準について学ぶ　第 2 回レポート講評 復習　：アートマーケットにおける実情を理解する

授業開始前学習	本授業にて触れる時代・地域は 17 世紀～20 世紀のヨーロッパの生活文化史であるため、ルネサンス以降の世界史、西洋美術史の通史を読み、基本的知識を学んでおくと、授業が理解しやすい。
授業内課題のフィードバックの方法	授業 8 回目、11 回目に提出するレポートについては、それぞれ授業 10 回目、15 回目に講評を行う。
テキスト・教材	「西洋骨董鑑定の教科書」ジュディス・ミラー著　（パイ インターナショナル）
参考書	「ヨーロッパの装飾と文様」海野弘著（パイ インターナショナル） 「アール・ヌーヴォーの美術」岡部昌幸著（東京美術） 「世界服飾史」深井晃子監修（美術出版社） 「ヨーロッパの宝飾芸術」山口遼著（東京美術） 「フランステーブルウェアの教科書」イネス・ウージェル著（パイ インターナショナル）
評価の基準と方法	試験期間内の定期試験は実施せず、授業内に行うリアクションペーパー、授業態度に加え 2 回の課題レポート（60%）および外部検定試験「アンティーク検定試験 3 級」（40%)とする。成績は絶対評価で加点方式となる。 出席（授業中終始寝ている場合は出席としない）が 3 分の 2 以下の場合、また出席の改ざんが発覚した場合は成績にかかわらず単位取得不可となるので注意すること。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○						

関連科目	
その他	「西洋骨董鑑定の教科書」：3600 円＋税 アンティーク検定試験 3 級：受験料未定（学生割引あり）　7 月 6 日（日）に実施予定、本受験（任意）は、成績評価の対象となる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-121 CT-L-121 SD-L-121 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	100-121-11 （Ｊ）	授業コード	F00800
科目名称	日本美術史			単位数	2.0 単位
英文名称	Japanese Art History			授業区分	講義
科目責任者	遠山　元浩			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	遠山　元浩			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	日本に於ける美術の流れを追えば、日本という文化の独自性が見えてくる。信仰や各種儀式から生まれた美、装飾性の多様さ、建築や工芸に見るデザインなど、日本人としての意識を、代表的な日本美術の作品を用いて解説しつつ、日本美術を紐解いていく。				
到達目標	まず、日本美術の変遷を時代ごとに理解する。そして、時代ごとに取り上げた美術品の分野、形態、その特徴や技法などを己の知識として身につける。併せて解説に使用した作品の意味や本質を理解する。日本美術の基礎を理解した上で、自分の中にある「日本の美」とは何なのか？を、導き出す事ができるようになる。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	遠山　元浩	【第 1 回】 予習　：関心がある日本美術とは何か考察する。 授業　：ガイダンス　日本美術とは 復習　：日本美術にどのような特徴が顕著かまとめる。
2	遠山　元浩	【第 2 回】 予習　：美術の種類にはどんなものがあるのか確認する。 授業　：美術品の分類と文化財 復習　：美術の分類特徴をまとめる。
3	遠山　元浩	【第 3 回】 予習　：古代の美術についてどんなものがあるのか確認する。 授業　：古代の美術（縄文・弥生・古墳） 復習　：古代の美術の特徴をまとめる。
4	遠山　元浩	【第 4 回】 予習　：飛鳥の宗教美術についてどんなものがあるのか確認する。 授業　：飛鳥の宗教美術（信仰と美術） 復習　：飛鳥の宗教美術の特徴をまとめる。
5	遠山　元浩	【第 5 回】 予習　：仏像についてどんなものがあるのか確認する。 授業　：仏像の伝来（宗教美術） 復習　：宗教美術としての仏像の特徴をまとめる。
6	遠山　元浩	【第 6 回】 予習　：飛鳥から奈良の美術についてどんなものがあるのか確認する。 授業　：飛鳥から奈良時代の美術 復習　：飛鳥から奈良の美術の特徴をまとめる。
7	遠山　元浩	【第 7 回】 予習　：奈良から平安の歴史についてどんなものがあるのか確認する。 授業　：奈良から平安時代の美術（浄土美術） 復習　：奈良から平安の美術の特徴をまとめる
8	遠山　元浩	【第 8 回】 予習　：平安から鎌倉についてどんなものがあるのか確認する。 授業　：平安から鎌倉時代の美術（やまと絵） 復習　：平安から鎌倉のやまと絵の特徴をまとめる
9	遠山　元浩	【第 9 回】 予習　：平安から鎌倉時代の美術についてどんなものがあるのか確認する。 授業　：平安から鎌倉時代の美術（絵巻） 復習　：平安から鎌倉時代の絵巻の特徴をまとめる。
10	遠山　元浩	【第 10 回】 予習　：鎌倉時代の美術についてどんなものがあるのか確認する。 授業　：鎌倉から室町時代の美術（垂迹絵画） 復習　：鎌倉から室町時代の美術の特徴をまとめる。

11	遠山　元浩	【第 11 回】 予習　：中近世移行期についての歴史を確認する。 授業　：中近世移行期の美術 復習　：中近世移行期の美術の特徴を整理する。
12	遠山　元浩	【第 12 回】 予習　：江戸時代の歴史を確認する。 授業　：技法から見る江戸時代の美術（截金・蒔絵など） 復習　：江戸時代の美術技法の特徴をまとめる。
13	遠山　元浩	【第 13 回】 予習　：美本美術の技法についてどんなものがあるのか確認する。 授業　：彫刻・工芸からみる日本美術の技術（仏像・刀・刀装具など） 復習　：江戸の彫刻や工芸の特徴をまとめる。
14	遠山　元浩	【第 14 回】 予習　：近世から近代の歴史について確認する。 授業　：江戸から明治時代の美術（浮世絵など） 復習　：江戸から明治の美術の特徴をまとめる
15	遠山　元浩	【第 15 回】 予習　：各時代の美術の特徴についてどんなものがあるのか確認する。 授業　：学びの総括 復習　：日本の美術の特徴をまとめる。

授業開始前学習	授業テキストや美術全集などでなるべく多くの日本美術作品を見ておくこと
授業内課題のフィードバックの方法	授業中必要と思われるタイミングに質疑応答時間を設ける 随時その内容に対して研究意欲を掘り下げられるよう、参考文献や実際の史料画像などを提示する
テキスト・教材	『日本美術史 JAPANESE ART HISTORY』(美術出版ライブラリー 歴史編) 山下裕二・高岸輝（監修） 美術出版社発行 これ以外に適宜プリント資料等を配付する事もある。
参考書	講義中に参考資料等を紹介、配付資料には参考文献等を掲載する。
評価の基準と方法	授業の平常点（30%）、課題レポート（70%）で総合的に評価する。 課題レポートは、指定された方法のみで受け付ける。 提出方法などの詳細は、授業終盤に授業の中で提示する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				

関連科目	美術に関する講義、または日本史に関する講義は、日本美術史を理解する為に参考となる。
その他	各回パワーポイントを使用しての授業となるが、授業中に用いた美術作品や史料等は、図版集などを見て毎回確認をすること。また専門用語はその都度解説する。余裕のある時に、博物館・美術館・寺社仏閣などを訪れ、美術に接する機会を増やす努力をして欲しい。授業内容によっては必要と思われる最新史料の紹介、ＤＶＤや動画などを用いた視覚授業を実施することがあるので、予定がずれることも想定される。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	遊行寺宝物館の現役館長である。収蔵品は国宝『一遍聖絵』重要文化財『後醍醐天皇御像』など多数。専門は日本美術。特に日本仏教美術中の時宗美術と得意とする。保存担当学芸員の資格を有して文化財保護活動にも従事する。これらの経験を活かして日本美術史を紐解いて行く。

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-121 CT-L-121	科目分類（～2024 年入学者）	100-120-11	授業コード	F00810
科目名称	比較文化			単位数	2.0 単位
英文名称	Comparative Culture			授業区分	講義
科目責任者	安井　裕司			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	安井　裕司			開講時期	1 年
オフィスアワー	前期　火曜日 13:00～14:30　水曜日 13:00～14:30 後期　火曜日 13:00～14:30　水曜日 13:00～14:30			研究室	16-306
授業概要	前半は、文化中心主義・文化相対主義、文化帝国主義、アメリカナイゼーション、グローバリゼーション、オリエンタリズム、カルチュラル・スタディーズ、文化的ステレオタイプ等、理論的な側面から「比較文化」を捉えていきます。 後半は、具体的なケーススタディとして、『マイ・フェア・レディ』、『大草原の小さな家』、『フランダースの犬』、『西遊記』、『アルプスの少女ハイジ』、『ムーミン』、『ベルサイユのばら』などを例に、国を越えて作品が享受されることによって、重なり合いながらも顕在化する日本及び諸外国のそれぞれの「文化性」を分析していきます。				
到達目標	自分がどのような文化圏に所属しても、自分及び他者が帰属する「文化」を客観的に捉えられるようになることを目標とします。 「文化」を比較することで、国境を越える「文化」のダイナミズムを理解できるようになることもターゲットとします。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	安井　裕司	【第 1 回】 予習　：「文化」について自分なりに調べてくる 授業　：文化とは何か。文化を比較することの意味 復習　：自分で予習していた「文化」と講義における「文化」の意味が同じかどうかを考え、「文化」を比較する意義を再考すること
2	安井　裕司	【第 2 回】 予習　：なぜ、人は自分の所属する集団の「文化」を、他よりも優位（中心）であると考える傾向があるのかを考える。『ナショナリズム論の名著 50』（平凡社）、M.バーリー, W.ヴィッパー　マン『人種主義国家ドイツ: 1933-45』等のナショナリズム関連書からエスノセントリズムに関する部分を読んでおく 授業　：「自文化中心主義」（エスノセントリズム）・「文化相対主義」とは何か 復習　：講義を踏まえて、「自文化中心主義」と「文化相対主義」について把握し、まとめておくこと
3	安井　裕司	【第 3 回】 予習　：エドワード・サイード『文化と帝国主義』等を読んで「文化帝国主義」について調べておくこと 授業　：「文化帝国主義」とは何か 復習　：講義を踏まえて、「帝国」と「文化」について纏めておく
4	安井　裕司	【第 4 回】 予習　：米国発で世界に広がった「米国文化」を調べる。また、米国発ではなく世界に広まった「グローバル文化」を調べておく 授業　：「文化」のアメリカナイゼーションとグローバリゼーション 復習　：授業を踏まえて強制的ではなく国境を越えて広がる「文化」を考える。時間があれば、映画『ファウンダー　ハンバーガー帝国のヒミツ』、映画『幸せの経済学』、映画『コカコーラ・キッド』等を観ておく
5	安井　裕司	【第 5 回】 予習　：エドワード・サイード『オリエンタリズム』を読んでおく 授業　：「オリエンタリズム」とは何か 復習　：授業を踏まえて、「オリエンタリズム」について纏めておく
6	安井　裕司	【第 6 回】 予習：「カルチュラル・スタディーズ」についてのスチュアート・ホール他『カルチュラル・アイデンティティの諸問題』等の学術書を読んでおく 授業：カルチュラル・スタディーズとは何か 復習：授業を踏まえてカルチュラル・スタディーズについて纏めておく
7	安井　裕司	【第 7 回】 予習：山本七平（イザヤ・ベンダサン）『日本人とユダヤ人』を読んでおく 授業：比較者の「中立性」「客観性」への問い 復習：日本人とユダヤ人比較が、ユダヤ人から発せられた場合と日本人から発せられた場合、受け手側の受け止め方が異なる理由は何なのかを考える
8	安井　裕司	【第 8 回】 予習　：映画『将軍 SHŌGUN』（1980 年）,映画『SAYURI』,映画『ガン・ホー』等を観ておく 授業　：文化的ステレオタイプ：米国で消費される「日本文化」と「日本人性」 復習　：授業を纏め、ステレオタイプについて米国の「日本人」以外のケースも考える
9	安井　裕司	【第 9 回】 予習　：ローラ・インガルス・ワイルダー『大草原の小さな家』を読んでおく 授業　：日本で享受されたアメリカの家族物語：ドラマ『大草原の小さな家』 復習　：講義を纏め、可能ならばドラマ『大草原の小さな家』を観ておく

10	安井　裕司	【第 10 回】 予習　：ギリシャ神話『変身物語』の「ピグマリオン」を読んでおく 授業　：英国・米国で分岐する価値：『ピグマリオン』（1939 年）,『マイ・フェア・レディ』（1964 年）,『Pygmalion』（1973 年）,『リタと大学教授』（1983 年）,『プリティ・ウーマン』（1990 年）,『ルビー・スパークス』（2012 年）を例に考える 復習　：授業で紹介した映画作品をできるだけ見ておく
11	安井　裕司	【第 11 回】 予習　：ウィーダ『フランダースの犬』を読んでおく 授業　：日本で受け入れられたベルギーの悲劇：『フランダースの犬』 復習　：講義を踏まえて、なぜ同作品が日本人の心を掴んだのかを纏め、可能ならばアニメ『フランダースの犬』を観ておく
12	安井　裕司	【第 12 回】 予習　：1979 年に英国 BBC で「Monkey」として放送された大ヒットした日本のドラマ『西遊記』（1978 年）がどのように海外で評価されているかを事前に英文記事で調べておく 授業　：日本化されて英国に受け入れられた中国の古典：ドラマ『西遊記』（1979 年） 復習　：授業を踏まえて、可能ならばドラマ『西遊記』（1978 年）を観ておく
13	安井　裕司	【第 13 回】 予習：ヨハンナ・シュピリ『アルプスの少女ハイジ』を読んでおく 授業：日本アニメとして再創出されたスイスの『アルプスの少女ハイジ』 復習：日本の TV アニメ『アルプスの少女ハイジ』（1974 年,日本）を観ておく。可能ならば、『Heidi』（1937 年,米国）,『アルプスの少女ハイジ』（1952 年,スイス）,『アルプスの少女ハイジ』（1965 年,西ドイツ）,『ハイジ』（2005 年,英国）『ハイジアルプスの物語』（2015 年,スイス）等も観ておく
14	安井　裕司	【第 14 回】 予習　：トーベ・ヤンソン『ムーミン全集』をできるだけ読んでおく 授業：日本で生き続ける北欧の妖精『ムーミン』 復習：講義を踏まえ、可能ならば TV アニメ『楽しいムーミン一家』を観て、瀬戸一夫『ムーミンの哲学』、冨原眞弓『ムーミンを読む』も読んでおく
15	安井　裕司	【第 15 回】 予習　：池田理代子『ベルサイユのばら』を読んでおくこと 授業　：日本化した「フランス革命」：漫画・アニメ『ベルサイユのばら』、宝塚歌劇『ベルサイユのばら』そして『Lady Oscar』は何を問うのか 復習　：授業を踏まえて、可能ばならば、アニメ『ベルサイユのばら』、宝塚歌劇『ベルサイユのばら』を観てみる

授業開始前学習	紹介する学術書、一般書、漫画を全て読み、映像作品（映画、ドラマ）を全て鑑賞することを義務化しませんが、事前に多くの関連書を読んで、沢山の映画を観たほうがより授業が分かり易く、何よりも楽しくなります。
授業内課題のフィードバックの方法	授業内で課題をフィードバックする時間を設けます。
テキスト・教材	特にありません。
参考書	毎回、授業において紹介します。
評価の基準と方法	授業参加態度　30% 定期試験　　70%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	△		○				

関連科目	異文化理解 I、異文化理解 II、多文化共生論
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	100-120-11	授業コード	F00820
科目名称	日本の文化			単位数	2.0 単位
英文名称	Japanese Culture			授業区分	講義
科目責任者	佐々木　俊道			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	佐々木　俊道			開講時期	1 年
オフィスアワー	前期　月曜日 09:00～10:30　月曜日 14:40～16:10 後期　月曜日 09:00～10:30　月曜日 14:40～16:10			研究室	10-504
授業概要	日本文化に多大な影響を与えた仏教文化を中心に授業を進めて行く。誰でも挨拶という言葉を知っており日常生活で実践し無意識に文化として身に付けている。しかし、それが仏教・禅から派生した言葉であることは、ほとんどの人が知らない。よって挨拶のように自然に身に付いている日本における日常の「かたち」や「こころ」の歴史的背景を理解する。さらに無意識に行っている様々な行為を意識下に置く事により自分自身の文化的背景を見直す事が出来るようになることを目標とする。この授業では、この日のテーマについて趣意説明を丁寧にレクチャーする。次に課題解決型学習として対話およびディスカッションを行う。最後に必ず、その日に学修した成果を 800 字程度にまとめたレポートを提出していただく。				
到達目標	日本の文化に関わる目に見える「かたち」と、その背景にある「こころ」の本質を理解するすることができるようになる。こうした能力は、それぞれの問題意識に合わせて民俗学・歴史学・社会学といった個々の学問領域における方法論を駆使して様々な事象を分析することができるようになる。将来、理性と知性を身につけた心豊かな教養人として未来に向けて「受け継いでいくべきもの」と「変えていかなければならないもの」を判断出来る人材となれることを目標とする。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	佐々木　俊道	【第 1 回】 予習　：文化という言葉を国語辞典で調べておくこと。 授業　：文化とは何か（文化の定義）・日本文化を学ぶことの意義を確認 復習　：自分自身が無意識に学習して来た個別文化を確認しノートにまとめること。
2	佐々木　俊道	【第 2 回】 予習　：日本という言葉を国語辞典で調べておくこと。 授業　：「日本」とは。なぜ我が国は日本と呼ぶのか、また倭、大和とは何か 復習　：日本の国を示す様々な言葉の違いを明確にしノートにまとめること。
3	佐々木　俊道	【第 3 回】 予習　：仏教の影響を受けた個別文化について、文献で調べて箇条書きにメモしておくこと。 授業　：日本文化と仏教の関係 復習　：日常の仏教文化を確認しノートにまとめること。
4	佐々木　俊道	【第 4 回】 予習　：縄文時代と弥生時代・古墳時代の個別文化を調べておくこと。 授業　：仏教伝来以前の日本の信仰・カミとは何か・日本的アニミズム 復習　：授業の要点をノートにまとめること。
5	佐々木　俊道	【第 5 回】 予習　：文化人類学における原始宗教（マナ、アニミズム、シャーマニズム）について調べておくこと。 授業　：仏教伝来以前の日本の信仰・シャーマニズム論から日本文化を考える、レポート提出（課題解決型学習） 復習　：原始宗教とは何かをあらためてノートにまとめること。
6	佐々木　俊道	【第 6 回】 予習　：日本の神道について『古事記』を中心に調べておくこと。 授業　：仏教の伝来と飛鳥文化・日本人は外来の宗教である仏教をどのように受容したか 復習　：日本人が外来文化をどのように需要してきたかを確認、ノートにまとめること。
7	佐々木　俊道	【第 7 回】 予習　：奈良時代の仏教美術について調べておくこと。 授業　：奈良仏教・国家仏教・鎮護国家の仏教・白鳳文化と天平文化 復習　：この時代の好きな仏教美術についてノートにまとめること。さらに、それを口頭で説明出来るようにすること。
8	佐々木　俊道	【第 8 回】 予習　：最澄の伝記を調べておくこと。 授業　：日本天台宗・最澄の生涯と教え 復習　：最澄の思想と日本文化史上の意義をノートにまとめること。
9	佐々木　俊道	【第 9 回】 予習　：空海の伝記を調べておくこと。 授業　：真言宗・空海の生涯と教え 復習　：空海の思想とその文化史上の意義をノートにまとめること。
10	佐々木　俊道	【第 10 回】 予習　：平安初期の仏教美術について調べておくこと。 授業　：平安初期の文化・弘仁貞観文化 復習　：この時代の好きな仏教美術について口頭で説明出来るようにしておくこと。

11	佐々木　俊道	【第 11 回】 予習　：平安中期の仏教美術について調べておくこと。 授業　：平安中期の文化・国風文化 復習　：この時代の好きな仏教美術について口頭で説明出来るようにしておくこと。
12	佐々木　俊道	【第 12 回】 予習　：平安末期の仏教美術について調べておくこと。 授業　：平安末期の文化・末法思想と浄土思想、レポート提出（課題解決型学習） 復習　：この時代の好きな仏教美術について口頭で説明出来るようにしておくこと。
13	佐々木　俊道	【第 13 回】 予習：鎌倉仏教における浄土系について調べておくこと。 授業：法然・親鸞の生涯と教え 復習：浄土系思想の特徴を口頭で説明出来るようにしておくこと。
14	佐々木　俊道	【第 14 回】 予習：鎌倉仏教における禅宗・日蓮宗について調べしておくこと。 授業：栄西・道元・日蓮の生涯と教え 復習：禅宗と日蓮宗の思想につい口頭て説明出来るようにしておくこと。
15	佐々木　俊道	【第 15 回】 予習：仏教と祖先崇拝について調べしておくこと。 授業：仏教と祖先崇拝、課題レポート提出（課題解決型学習） 復習：日本の葬祭儀礼とその背景について口頭で説明出来るようにしておくこと。

授業開始前学習	高校で使用した『日本史』の教科書・資料集・年表等で江戸時代までの日本史の流れを特に文化を中心に復習しておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	授業にて生じた疑問点等をレポートに記入させる。それを適宜、クラスルームにて公開し個別の質問に回答しフィードバックする。
テキスト・教材	『日本の文化』（駒沢女子大学講義ノートシリーズ）をテキストとして用い、その他、適宜、プリントを配付する。
参考書	高校で使用した『日本史』教科書、資料集、年表。
評価の基準と方法	課題レポート（30%）と確認テスト（70%）を行い、それぞれ 10 点満点とした合計点で順位を出し GPA に合わせて総合的に評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○						

関連科目	必修科目「仏教学Ⅰ・Ⅱ」 選択科目「仏教学Ⅲ・Ⅳ」
その他	とにかく理解しやすいように、懇切丁寧に専門用語の解説をする。関連動画等を用いて視覚的にも興味を持たせる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	100-120-11	授業コード	F00851
科目名称	☆日本文学／日本の文学			単位数	2.0 単位
英文名称	Japanese Literature			授業区分	講義
科目責任者	松村　良			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松村　良			開講時期	1 年
オフィスアワー	前期　水曜日 16:20～17:50　金曜日 14:40～16:10 後期　水曜日 14:40～16:10　金曜日 14:40～16:10			研究室	10-617
授業概要	芥川龍之介の短編小説「鼻」「芋粥」と、太宰治の短編小説「魚服記」「道化の華」を読み、それぞれの作家についての基礎的な知識と、小説の読み方、作品へのアプローチの仕方について学ぶ。芥川と太宰の小説テクストの分析を通して、単なる感想に留まらない、文学研究の基礎と教養を身につけることを目的とする。この授業では課題解決型学習を行う。				
到達目標	文学研究の基礎である、作品の典拠との比較や、先行研究における問題点を把握できるようになる。登場人物の人間性や社会との関わり、小説の構成や語りについて、独自の論点を見つけ出せるようになる。さらに小説の読解を通して、自分の考えを論理的に説明できるようになる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	松村　良	【第 1 回】 予習　：芥川龍之介と太宰治について知っていることをまとめておく 授業　：授業の進め方について・芥川龍之介と太宰治に関する質問 復習　：授業の進め方を理解し、質問に答える
2	松村　良	【第 2 回】 予習　：芥川龍之介について調べておく 授業　：芥川龍之介の生涯と作品について 復習　：芥川龍之介について学んだことをまとめる
3	松村　良	【第 3 回】 予習　：「鼻」を読み、内容を把握する 授業　：「鼻」を読む１（教科書２０～３０頁、小説の内容と構成・典拠について・課題１提出）（課題解決型学習） 復習　：小説の内容と構成、典拠について学んだことをまとめ、課題１に取り組む
4	松村　良	【第 4 回】 予習　：前回の授業で学んだことを読み返す 授業　：「鼻」を読む２（人物造型と語りの特徴） 復習　：人物造型と語りの特徴について学んだことをまとめる
5	松村　良	【第 5 回】 予習　：前回の授業で学んだことを読み返す 授業　：「鼻」を読む３（小説の結末部の問題・課題１解説） 復習　：「鼻」についての自分の意見をまとめる
6	松村　良	【第 6 回】 予習　：「芋粥」を読み、内容を理解しておく 授業　：「芋粥」を読む１（教科書３２～５９頁、小説の内容と構成・典拠について・課題２提出）（課題解決型学習） 復習　：小説の内容と構成、典拠について学んだことをまとめ、課題２に取り組む
7	松村　良	【第 7 回】 予習　：前回の授業で学んだことを読み返す 授業　：「芋粥」を読む２（人物造型と語りの特徴） 復習　：人物造型と語りの特徴について学んだことをまとめる
8	松村　良	【第 8 回】 予習　：前回の授業で学んだことを読み返す 授業　：「芋粥」を読む３（小説の結末部の問題・課題２解説） 復習　：「芋粥」についての自分の意見をまとめる
9	松村　良	【第 9 回】 予習　：太宰治について調べておく 授業　：太宰治の生涯と作品について 復習　：太宰治について学んだことをまとめる
10	松村　良	【第 10 回】 予習　：「魚服記」を読み、内容を把握する 授業　：「魚服記」を読む１（教科書８４～９５頁、小説の構成と語り・典拠について・課題３提出）（課題解決型学習） 復習　：小説の構成と語り、典拠について学んだことをまとめ、課題３に取り組む

11	松村　良	【第 11 回】 予習　：一章・二章を読み返し、内容について考える 授業　：「魚服記」を読む２（一章・二章の特徴と内容読解） 復習　：一章・二章について学んだことをまとめる
12	松村　良	【第 12 回】 予習　：三章・四章を読み返し、内容について考える 授業　：「魚服記」を読む３（三章・四章の特徴と内容読解・課題３解説） 復習　：「魚服記」についての自分の意見をまとめる
13	松村　良	【第 13 回】 予習　：「道化の華」を読み、内容を把握する 授業　：「道化の華」を読む１（教科書１３５～２０６頁、私小説的手法と語りの問題・課題４提出）（課題解決型学習） 復習　：私小説的手法と語りの問題について学んだことをまとめ、課題４に取り組む
14	松村　良	【第 14 回】 予習　：前半部を読み直し、内容について考える 授業　：「道化の華」を読む２（前半部の特徴と内容読解） 復習　：前半部について学んだことをまとめる
15	松村　良	【第 15 回】 予習　：後半部を読み直し、内容について考える 授業　：「道化の華」を読む３（後半部の特徴と内容読解・課題４解説） 復習　：「道化の華」についての自分の意見をまとめる

授業開始前学習	授業で扱う作品は事前に必ず読んでおくこと。文庫本に収録されている他の作品や、解説、年譜なども読んでおくと授業の理解に役立つ。
授業内課題のフィードバックの方法	授業で取り上げる４つの作品については、それぞれ授業内課題を提出してもらう。それをもとに解説を行い、個別の質問に回答する。
テキスト・教材	芥川龍之介『羅生門・鼻』（新潮文庫）・太宰治『晩年』（新潮文庫）
参考書	授業内で適宜紹介する。
評価の基準と方法	授業内課題（40%）と、学期末レポート（60%）で評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○						

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-121 CT-L-121	科目分類（～2024 年入学者）	100-120-11	授業コード	F00870
科目名称	日本の政治			単位数	2.0 単位
英文名称	Japanese Politics			授業区分	講義
科目責任者	弥久保　宏			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	弥久保　宏			開講時期	1 年
オフィスアワー	前期　水曜日 14:40～16:10　金曜日 13:00～14:30 後期　水曜日 14:40～16:10　金曜日 13:00～14:30			研究室	10-703
授業概要	日本の政治を戦後から今日まで、国会、政党、議員、官僚、政権交代にスポットライトを当て、その軌跡から日本政治の特徴を探ることが、この講義の目標です。私達の日常生活は、様々な局面で政治と密接に結びついています。ただ、そのことに気が付いているか、どうかの違いです。政治に対する無関心は、政治家や官僚任せの人生を送ることになります。未来に希望の持てる日本にする為に、今何をすべきかを受講生の皆さんと一緒に考えたいと思います。同時に、学生として知っておくべき時事問題力を養います。				
到達目標	現在の日本の政治を戦後政治史から俯瞰できるようにする。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	弥久保　宏	【第 1 回】 予習　：シラバスを読んでおくこと 授業　：日本政治の見方とガイダンス（講義の進め方、試験と単位評価、受講にあたっての諸注意など） 復習　：ガイダンスのポイントメモを作成
2	弥久保　宏	【第 2 回】 予習　：テキストの該当部分を読んでおく 授業　：戦前の政治と戦争① 復習　：講義のポイントメモを作成
3	弥久保　宏	【第 3 回】 予習　：テキストの該当部分を読んでおく 授業　：戦前の政治と戦争② 復習　：講義のポイントメモを作成
4	弥久保　宏	【第 4 回】 予習　：テキストの該当部分を読んでおく 授業　：占領と民主化① 復習　：講義のポイントメモを作成
5	弥久保　宏	【第 5 回】 予習　：テキストの該当部分を読んでおく 授業　：占領と民主化② 復習　：講義のポイントメモを作成
6	弥久保　宏	【第 6 回】 予習　：テキストの該当部分を読んでおく 授業　：敗戦後の再出発① 復習　：講義のポイントメモを作成
7	弥久保　宏	【第 7 回】 予習　：テキストの該当部分を読んでおく 授業　：敗戦後の再出発② 復習　：講義のポイントメモを作成
8	弥久保　宏	【第 8 回】 予習　：テキストの該当部分を読んでおく 授業　：戦後政治モデルの形成ー「５５年体制」と６０年安保① 復習　：講義のポイントメモを作成
9	弥久保　宏	【第 9 回】 予習　：テキストの該当部分を読んでおく 授業　：戦後政治モデルの形成ー「５５年体制」と６０年安保② 復習　：講義のポイントメモを作成
10	弥久保　宏	【第 10 回】 予習　：テキストの該当部分を読んでおく 授業　：高度成長の時代ー５０年代後半から７０年代後半① 復習　：講義のポイントメモを作成
11	弥久保　宏	【第 11 回】 予習　：テキストの該当部分を読んでおく 授業　：高度成長の時代ー５０年代後半から７０年代後半② 復習　：講義のポイントメモを作成

12	弥久保　宏	【第 12 回】 予習　：テキストの該当部分を読んでおく 授業　：戦後保守政治の再編① 復習　：講義のポイントメモを作成
13	弥久保　宏	【第 13 回】 予習　：テキストの該当部分を読んでおく 授業　：戦後保守政治の再編② 復習　：講義のポイントメモを作成
14	弥久保　宏	【第 14 回】 予習　：テキストの該当部分を読んでおく 授業　：混迷の時代から新しい政治へ－９０年代後半から現在 復習　：講義のポイントメモを作成
15	弥久保　宏	【第 15 回】 予習　：これまでの講義ポイントメモに目を通しておく 授業　：前期の総括 復習　：これまでの講義メモをまとめる

授業開始前学習	新聞などのニュースメディアに日常的に接し、時事問題に対するアンテナを磨いておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	予習学習の成果を授業で確認する。
テキスト・教材	五十嵐仁『１８歳から考える日本の政治（第３版）』（法律文化社）
参考書	随時紹介する。
評価の基準と方法	単位の評価は、受講意欲（授業中の質疑など）４割。定期試験６割。６回以上の欠席や出席で不正行為を行った場合は、単位取得は認めない。遅刻は３回で１回の欠席扱いにする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				

関連科目	「世界の政治」、「政治と市民参加」
その他	＜重要事項＞ 履修登録は、ガイダンスの出席を義務づける。事情によりガイダンスを受けなかった場合は、研究室を訪ねて、ガイダンスの内容を了解した上で履修登録を行うこと。講義の録音は認めない。勝手に録音した場合は、機材を没収する。講義中のスマフォや携帯電話の使用は厳禁。見つけ次第、没収し退室を命じる。また授業中に講義と関係のない他の作業を行った者も退出を命じる。履修登録にあたって、これらの事項を了解したうえで登録すること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-121 CT-L-121	科目分類（～2024 年入学者）	100-120-11	授業コード	F00880
科目名称	世界の政治			単位数	2.0 単位
英文名称	World Politics			授業区分	講義
科目責任者	弥久保　宏			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	弥久保　宏			開講時期	1 年
オフィスアワー	前期　水曜日 14:40～16:10　金曜日 13:00～14:30 後期　水曜日 14:40～16:10　金曜日 13:00～14:30			研究室	10-703
授業概要	国際社会における諸問題や日本のポジションを探るのがこの講義の目標です。国際社会で日本は"異質な国家"とみなされるケースが多々ありますが、なぜ日本は"異質"に思われるのか？日本が"異質"と思われる構造を国際政治における日本政治の特徴や日本国憲法の特徴から検証します。また、日本を取り巻く国際社会のアップトゥデイトな問題も取り上げるのでシラバスの内容と変わる場合がある。				
到達目標	国内外で起こる様々なニュースの基本的な知識を身につけ、事件の本質を見抜く力をつける。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	弥久保　宏	【第 1 回】 予習　：シラバスを読んでおく、特に【その他】の重要事項を熟読のこと。 授業　：世界の政治の学習方法とガイダンス（講義の進め方、試験や単位について、その他注意事項） 復習　：学習方法やガイダンスの諸注意の理解
2	弥久保　宏	【第 2 回】 予習　：日本国憲法の前文と第 9 条に目を通しておくこと 授業　：世界の政治と日本国憲法の特殊性 復習　：講義のポイントメモの作成
3	弥久保　宏	【第 3 回】 予習　：日米安保条約を読んでおくこと。 授業　：日本の安全保障　日米安保条約 復習　：講義のポイントメモの作成
4	弥久保　宏	【第 4 回】 予習　：配布資料を読んでおく 授業　：核兵器問題 復習　：講義のポイントメモの作成
5	弥久保　宏	【第 5 回】 予習　：配布資料を読んでおく 授業　：日韓関係 復習　：講義のポイントメモの作成
6	弥久保　宏	【第 6 回】 予習　：配布資料を読んでおく 授業　：日本の領土問題①北方領土問題 復習　：講義のポイントメモの作成
7	弥久保　宏	【第 7 回】 予習　：配布資料を読んでおくこと 授業　：日本の領土問題②竹島問題 復習　：講義のポイントメモの作成
8	弥久保　宏	【第 8 回】 予習　：配布資料を読んでおくこと 授業　：日本の領土問題③尖閣諸島問題 復習　：講義のポイントメモの作成
9	弥久保　宏	【第 9 回】 予習　：配布資料を読んでおくこと 授業　：パレスチナ問題 復習　：講義のポイントメモの作成
10	弥久保　宏	【第 10 回】 予習　：配布資料を読んでおくこと 授業　：G7　サミット 復習　：講義のポイントメモの作成
11	弥久保　宏	【第 11 回】 予習　：配布資料を読んでおくこと 授業　：FTA と EPA 復習　：講義のポイントメモの作成

12	弥久保　宏	【第 12 回】 予習　：拉致問題を調べておくこと 授業　：北朝鮮による拉致問題 復習　：講義のポイントメモの作成
13	弥久保　宏	【第 13 回】 予習　：配布資料を読んでおくこと 授業　：男女格差（国際比較） 復習　：講義のポイントメモの作成
14	弥久保　宏	【第 14 回】 予習　：配布資料を読んでおくこと 授業　：ロシアのウクライナ侵攻 復習　：講義のポイントメモの作成
15	弥久保　宏	【第 15 回】 予習　：これまでの講義のポイントメモをまとめる 授業　：世界の政治での学習を深める方法 復習　：定期試験に向けての準備

授業開始前学習	新聞などのニュースメディアに日常的に接し、時事問題に対するアンテナを磨いておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	予習学習の成果を授業で確認する。
テキスト・教材	適宜、資料を配布する
参考書	随時紹介する。
評価の基準と方法	単位の評価は、受講意欲（授業中の質疑など）４割。定期試験６割。６回以上の欠席や出席で不正行為を行った場合は、単位取得は認めない。遅刻は３回で１回の欠席扱いにする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				

関連科目	「日本の政治」,「政治と市民参加」
その他	＜重要事項＞ 履修登録は、ガイダンスの出席を義務づける。事情によりガイダンスを受けなかった場合は、研究室を訪ねて、ガイダンスの内容を了解した上で履修登録を行うこと。講義の録音は認めない。勝手に録音した場合は、機材を没収する。講義中のスマフォや携帯電話の使用は厳禁。見つけ次第、没収し退室を命じる。また授業中に講義と関係のない他の作業を行った者も退出を命じる。履修登録にあたって、これらの事項を了解したうえで登録すること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-121 CT-L-121	科目分類（～2024 年入学者）	100-120-11	授業コード	F00890
科目名称	政治と市民参加			単位数	2.0 単位
英文名称	Politics and Citizenship			授業区分	講義
科目責任者	東　裕			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	東　裕			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	政治と市民参加について、日本の戦後政治と今日の日本政治を素材にして、憲法的な視点から考えてみたい。戦後政治の中で、国民が「市民」としてどのように関わってきたか、またグローバル化が進む国際社会の中で日本の政治はどこに向かおうとしているのか。それに対して、国民は「市民」としてどう考え、政治に向き合って行くべきか。そのような問題意識をもって、憲法的視点から日本政治を考察し、各人が自律性を備えた「市民」として、日々生起する政治上の諸問題について分析し、判断し、そして自分自身の意見を形成する力を身につけることを目的とする。その前提として、日本国憲法で保障されている参政権などの諸権利や統治機構を市民参加の視点から把握し、権利や制度の理解を深め、政治と市民参加に関する権利および制度の活用と問題点についても考察していく。				
到達目標	大学生として恥ずかしくない程度の政治に関する知識と教養を身につけ、日々生起する政治上の諸問題について、分析し、判断し、自分自身の意見が形成できる力を身につけることを目的とする。併せて、責任ある主権者としての自覚をもち、国政選挙や地方選挙において、各種メディアの報道を参考に、自らの判断で政党や候補者を選択し、積極的に投票する「市民」となることをも目的とする。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	東　裕	【第 1 回】 予習　：シラバスおよびテキスト（82-84 頁）を読んでおくこと。 授業　：憲法と「市民」の誕生―近代市民革命から現代へ 復習　：講義のポイントメモの整理
2	東　裕	【第 2 回】 予習　：テキスト（25-31 頁）を読んでおくこと。 授業　：国民主権と民主主義－日本国憲法前文について 復習　：講義のポイントメモの整理
3	東　裕	【第 3 回】 予習　：テキスト（180-184 頁）を読んでおくこと 授業　：参政権とは？―選挙権・被選挙権 復習　：講義のポイントメモの整理
4	東　裕	【第 4 回】 予習　：テキスト（184-186 頁）を読んでおくこと 授業　：選挙の基本原則－普通・平等・秘密・直接・自由 復習　：講義のポイントメモの整理
5	東　裕	【第 5 回】 予習　：テキスト（114-119 頁）を読んでおくこと 授業　：選挙権の平等―投票価値の平等と最高裁判例 復習　：講義のポイントメモの整理
6	東　裕	【第 6 回】 予習　：テキスト（187-191 頁）を読んでおくこと 授業　：選挙の方法と選挙運動―国政選挙と選挙運動の制限 復習　：　講義のポイントメモの整理
7	東　裕	【第 7 回】 予習　：　テキスト（192-195 頁）を読んでおくこと 授業　：直接民主制―日本国憲法と直接民主制の制度 復習　：　講義のポイントメモの整理
8	東　裕	【第 8 回】 予習　：テキスト（320-322 頁）を読んでおくこと 授業　：地方自治における団体自治と住民自治（1）―地方公共団体の統治機構 復習　：講義のポイントメモの整理
9	東　裕	【第 9 回】 予習　：テキスト（329－330 頁）を読んでおくこと 授業　：地方自治における団体自治と住民自治（2）―住民投票 復習　：講義のポイントメモの整理
10	東　裕	【第 10 回】 予習　：テキスト（330-331 頁）を読んでおくこと 授業：地方自治における団体自治と住民自治（3）―直接請求 復習　：講義のポイントメモの整理

11	東　裕	【第 11 回】 予習：テキスト（196-201 頁）を読んでおくこと 授業　：国務請求権―請願権 復習　：講義のポイントメモの整理
12	東　裕	【第 12 回】 予習　：テキスト（281-285 頁）を読んでおくこと 授業　：司法権と市民参加―裁判員制度・検察審査会 復習　：講義のポイントメモの整理
13	東　裕	【第 13 回】 予習　：テキスト（340 – 343 頁）を読んでおくこと 授業　：憲法改正と国民投票－憲法 96 条と憲法改正国民投票法 復習　：講義のポイントメモの整理
14	東　裕	【第 14 回】 予習　：テキスト（132-140 頁）を読んでおくこと 授業　：「表現の自由」と民主主義－メディアと政治 復習　：講義のポイントメモの整理
15	東　裕	【第 15 回】 予習　：　これまでの講義の総復習 授業　：これまでの授業の総括 復習　：講義のポイントメモの整理

授業開始前学習	今、政治の世界で論議されている事柄、そしてそのことがなぜ問題になり、問題の核心は何なのかと考えながら、日頃のニュースや事件に関心をもち、一定の情報を得ておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	課題について講評するとともに、授業内での質疑応答を通じて確認し、不十分なところや誤ったところを明らかにし、正確な知識と問題意識をもてるようにする。
テキスト・教材	下條芳明・東　裕編著『新・テキストブック日本国憲法』（嵯峨野書院・2024 年・第 1 版第 6 刷）定価（本体 2,900 円＋税）
参考書	随時、授業の中で紹介する。
評価の基準と方法	単位の評価は、受講意欲（授業中の質疑応答など） 2 割。定期試験 8 割。6 回以上の欠席や出席について不正行為を行った場合は、単位取得は認めない。遅刻は 3 回で 1 回の欠席扱いとする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				

関連科目	「日本の政治」
その他	＜重要事項＞ 履修登録は、ガイダンス（第 1 回授業）の出席を義務づける。事情によりガイダンスを受けなかった場合は、担当者に連絡し、ガイダンスの内容を了解した上で履修登録を行うこと。講義中のスマートホン等の無断使用は禁止する。また授業中に私語や講義と関係のない他の授業の予習等を行った者には退出を命じることがある。履修登録にあたって、これらの事項を了解したうえで登録すること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-121 CT-L-121	科目分類（～2024 年入学者）	100-120-11	授業コード	F00900
科目名称	日本の経済			単位数	2.0 単位
英文名称	Japanese Economy			授業区分	講義
科目責任者	羽田　翔			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	羽田　翔			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	日本経済の現状について、財政・金融面、産業まで幅広く、そして歴史、制度、経済理論、データによって多角的に捉え、日本経済が抱える課題について学修する。主に、最近特に注目されている格差問題や少子高齢化、環境問題と経済・産業との関係について取り上げる。				
到達目標	日本経済の現状について幅広く、そして歴史、制度、経済理論、データによって多角的に理解する能力を修得する。そして、現代の日本経済が抱える課題を認識することができるようになる。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	羽田　翔	【第 1 回】 予習：シラバスに目を通しておきましょう．新聞，ニュースなどで経済の問題に触れるようにしてください． 授業：履修上の注意点．なぜ日本の経済について学ぶのか． 復習：シラバスを読み直し，履修に向けて必要なことを確認しましょう．
2	羽田　翔	【第 2 回】 予習：新聞，ニュースなどで経済の問題に触れるようにしてください． 授業：経済のルールを身に付けましょう． ・稀少性，トレード・オフ，機会費用，限界，インセンティブ，取引，神の見えざる手，政府の介入，インフレーション，失業 復習：経済のルールを再確認してください．
3	羽田　翔	【第 3 回】 予習：需要とは何かを調べておきましょう． 授業：世の中の財やサービスの価格と取引量の決まり方を学びましょう．（1） ・経済の三主体の関係． ・需要曲線とシフト要因． 復習：価格と取引量の決まり方を見直しておいてください．
4	羽田　翔	【第 4 回】 予習：供給とは何かを調べておきましょう． 授業：世の中の財やサービスの価格と取引量の決まり方を学びましょう．（2） ・供給曲線の導出とシフト要因． 復習：価格と取引量の決まり方を見直しておいてください．
5	羽田　翔	【第 5 回】 予習：政府の介入の市場への影響を調べておきましょう． 授業：世の中の財やサービスの価格と取引量の決まり方を学びましょう．（3） ・均衡価格，均衡取引量，政府の介入（租税）と死荷重． 復習：租税の影響を整理しておいてください．
6	羽田　翔	【第 6 回】 予習：GDP とは何か調べておきましょう． 授業：国同士の経済を比較する基準を知りましょう． ・GDP，構成要素，名目 GDP，実質 GDP 復習：GDP を構成する要素を整理しておきましょう．
7	羽田　翔	【第 7 回】 予習：経済成長とは何か調べておきましょう． 授業：景気が「良い」，「悪い」と判断される理由を知りましょう． ・経済成長率，名目経済成長率，実質経済成長率 復習：経済成長率を求められるようにしておきましょう．

8	羽田 翔	【第 8 回】 予習：貨幣とは何か調べておきましょう. 授業：景気を良くする方法を考えてみましょう. （1） ・貨幣の機能. 金融政策. 復習：金融政策を整理しておきましょう.
9	羽田 翔	【第 9 回】 予習：公債とは何か調べてみましょう. 授業：景気を良くする方法を考えてみましょう. （2） ・財政の仕組み，財政政策 ・公債発行の問題 復習：財政健全化の方法を考えてみましょう.
10	羽田 翔	【第 10 回】 予習：租税とは何か調べておきましょう. 授業：日本が抱える問題について知りましょう. （1） ・租税の仕組み. ・所得税の計算方法. 復習：所得税の計算方法を復習しておきましょう.
11	羽田 翔	【第 11 回】 予習：賦課方式と積立方式とは何か調べておきましょう. 授業：日本が抱える問題について知りましょう. （2） ・少子高齢化，年金の仕組み，世代会計 復習：年金は持続可能か考えてみましょう.
12	羽田 翔	【第 12 回】 予習：自分の住む地域の人口推移を調べておきましょう. 授業：日本が抱える問題について知りましょう. （3） ・地域間格差，地方分権，補助金政策 復習：地域活性化の方法を考えてみましょう.
13	羽田 翔	【第 13 回】 予習：日本の CO2 排出目標について調べておきましょう. 授業：日本が抱える問題について知りましょう. （4） ・CO2 排出目標，ESG 投資，原子力発電 復習：環境問題と経済の両立を考えてみましょう.
14	羽田 翔	【第 14 回】 予習：第 1 回～第 13 回の内容を復習しておきましょう. 授業：授業のまとめと復習 ・テストの練習，説明 復習：注意事項を確認し，テストの準備をしましょう.
15	羽田 翔	【第 15 回】 予習：第 1 回～第 14 回の内容を再確認・復習しておきましょう. 授業：授業内試験 復習：Classroom に掲示された解答例をもとに復習しておきましょう.

授業開始前学習	最近注目される社会現象や経済問題を多く取り上げます。そのため、日常より新聞やニュースに触れ、興味関心を持つよう心がけてください。
授業内課題のフィードバックの方法	授業内で小テストなど課題を課した場合は、次回授業以降に解答例を Classroom に掲示します.
テキスト・教材	特に教科書は指定しませんが、初歩的な経済学の入門書の中から気に入ったものを購入することをおすすめします。
参考書	講義内で適宜紹介します。
評価の基準と方法	講義内課題：40% 期末試験 ：60%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				

関連科目	後期開講の「世界の経済」と合わせて受講することで、日本と世界における経済に関する諸問題について、理解がより深まります。そのため、「日本の経済」を受講後に「世界の経済」を受講することをおすすめします。どちらかを単独で受講しても問題ありません。

その他	経済や経済学についての専門知識は必要ありませんが、各回の内容には継続性があるため、毎回の講義へ参加することが重要になります。また、受講生の人数などによっては講義内容を変更する可能性があります。
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした 教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-121 CT-L-121	科目分類（～2024 年入学者）	100-120-11	授業コード	F00910
科目名称	世界の経済			単位数	2.0 単位
英文名称	World Economy			授業区分	講義
科目責任者	羽田　翔			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	羽田　翔			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	世界経済の現状について、経済学の基礎的手法や統計データなどを用いることにより学修する。最終的に、貿易政策や他国との関係、時事問題を理解する力を養う。				
到達目標	世界経済の現状について幅広く、歴史、制度、経済理論、データによって多角的に理解する能力を修得する。そして、現代の世界経済が抱える課題を認識することができるようになる。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	羽田　翔	【第 1 回】 予習：シラバスに目を通しておきましょう．新聞，ニュースなどで経済の問題に触れるようにしてください． 授業：履修上の注意点．なぜ世界の経済について学ぶのか． ・稀少性，トレード・オフ，機会費用，限界，インセンティブ，取引，神の見えざる手，政府の介入，インフレーション，失業 復習：シラバスを読み直し，履修に向けて必要なことを確認しましょう．
2	羽田　翔	【第 2 回】 予習：需要と供給とは何かを調べておきましょう． 授業：世の中の財やサービスの価格と取引量の決まり方を学びましょう．（1） ・経済の三主体の関係 ・需要曲線とシフト要因 ・供給曲線の導出とシフト要因 復習：価格と取引量の決まり方を見直しておいてください．
3	羽田　翔	【第 3 回】 予習：政府の介入の市場への影響を調べておきましょう． 授業：世の中の財やサービスの価格と取引量の決まり方を学びましょう．（2） ・均衡価格，均衡取引量，政府の介入（租税）と死荷重 復習：租税の影響を整理しておいてください．
4	羽田　翔	【第 4 回】 予習：GDP とは何か調べておきましょう． 授業：国同士の経済を比較する基準を知りましょう． ・GDP，構成要素，名目 GDP，実質 GDP，経済成長率，名目経済成長率，実質経済成長率 復習：GDP を構成する要素を整理しておきましょう．
5	羽田　翔	【第 5 回】 予習：比較優位とは何か調べておきましょう． 授業：貿易の利益について知りましょう．（1） ・比較優位．貿易の利益 復習：貿易の利益を整理しておきましょう．
6	羽田　翔	【第 6 回】 予習：どのような企業が輸出しているか調べておきましょう． 授業：貿易の利益について知りましょう．（2） ・輸出企業の特徴 復習：輸出企業の特徴を整理しておきましょう．
7	羽田　翔	【第 7 回】 予習：TPP と RCEP について調べておきましょう． 授業：アジア地域の貿易について． ・地域経済統合，ASEAN，TPP，RCEP，中国，生産ネットワーク 復習：アジア地域の貿易協定について整理しておきましょう
8	羽田　翔	【第 8 回】 予習：日本と EU 諸国の主要な貿易取引について調べておきましょう． 授業：ヨーロッパ・北米諸国との貿易について． ・EU，EPA，USMCA 復習：日本と EU の EPA について整理しておきましょう

9	羽田　翔	【第 9 回】 予習：外国為替レートについて調べておきましょう. 授業：通貨と国際資金循環について. ・国際通貨，外国為替レート，国際資金循環，通貨危機 復習：国際資金循環について整理しておきましょう
10	羽田　翔	【第 10 回】 予習：世界金融危機について調べておきましょう. 授業：世界経済が抱える問題について知りましょう.　（１） ・サブプライムローン問題，リーマンショック，世界金融危機 復習：リーマンショック発生の理由について整理しておきましょう.
11	羽田　翔	【第 11 回】 予習：SDGs について調べておきましょう. 授業：世界経済が抱える問題について知りましょう.　（２） ・発展途上国，貧困，経済開発，SDGs 復習：発展途上国への支援の方法を考えてみましょう.
12	羽田　翔	【第 12 回】 予習：デジタル課税について調べておきましょう. 授業：世界経済が抱える問題について知りましょう.　（３） ・デジタル課税，海外進出，海外直接投資，法人税 復習：企業の海外進出について整理しておきましょう.
13	羽田　翔	【第 13 回】 予習：世界における COVID-19 の状況について調べておきましょう. 授業：世界経済が抱える問題について知りましょう.　（４） ・COVID-19，ヒト・モノの移動，ワクチン 復習：自由貿易の利益についてもう一度考えてみましょう.
14	羽田　翔	【第 14 回】 予習：第 1 回～第 13 回の内容を復習しておきましょう. 授業：授業のまとめと復習 ・テストの練習，説明 復習：注意事項を確認し，テストの準備をしましょう.
15	羽田　翔	【第 15 回】 予習：第 1 回～第 14 回の内容を再確認・復習しておきましょう. 授業：授業内試験 復習：Classroom に掲示された解答例をもとに復習しておきましょう.

授業開始前学習	最近注目される社会現象や経済問題を多く取り上げます。そのため、日常より新聞やニュースに触れ、興味関心を持つよう心がけてください。
授業内課題のフィードバックの方法	授業内で小テストなど課題を課した場合は、次回授業以降に解答例を Classroom に掲示します.
テキスト・教材	特に教科書は指定しませんが、初歩的な国際経済学の入門書の中から気に入ったものを購入することをおすすめします。
参考書	必要に応じて講義内で適宜紹介します。
評価の基準と方法	講義内課題：40% 期末試験　：60%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				

関連科目	前期開講の「日本の経済」と合わせて受講することで、日本と世界における経済に関する諸問題について、理解がより深まります。そのため、「日本の経済」を受講後に「世界の経済」を受講することをおすすめします。どちらかを単独で受講しても問題ありません。
その他	経済や経済学についての専門知識は必要ありませんが、各回の内容には継続性があるため、毎回の講義へ参加することが重要になります。また、受講生の人数などによっては講義内容を変更する可能性があります。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	100-120-11（Ｊ）	授業コード	F00920
科目名称	新聞と報道			単位数	2.0 単位
英文名称	Newspaper and Media			授業区分	講義
科目責任者	佐々木 竜介			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	佐々木 竜介			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	新聞を題材に、ニュース報道の読み方、報道の背景、意義を理解する。記事を「読む」、報道の背景を「考える」、考察を「書く」ことを通じて、メディアリテラシーの第一歩とする。				
到達目標	記事ジャンルごとの文脈を理解することで新聞のリテラシー能力を身につけるとともに、新聞報道の意義と社会における役割を再確認、他のメディアのリテラシー能力の礎とする。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	佐々木 竜介	【第 1 回】 予習：新聞やインターネットにてニュースに接すること 授業：新聞とインターネットの特性の違いについて 復習：講義ノート P1-5 の読み返し、「新聞とインターネット」に関する課題を再考する
2	佐々木 竜介	【第 2 回】 予習：講義ノート P6-10 および配布資料の閲読、新聞の歴史について考察する 授業：新聞の歴史 復習：講義ノート P6-10 の読み返し、「新聞の歴史」に関する課題を再考する
3	佐々木 竜介	【第 3 回】 予習：講義ノート P11-13 および配布資料の閲読、新聞とはについて考察する 授業：新聞とは 復習：講義ノート P11-13 の読み返し、「ジャーナリズム」に関する課題を再考する
4	佐々木 竜介	【第 4 回】 予習：講義ノート P14-18 および配布資料の閲読、新聞の事件・事故報道について考察する 授業：新聞の事件・事故報道 復習：講義ノート P14-18 の読み返し、「事件・事故と新聞」に関する課題を再考する
5	佐々木 竜介	【第 5 回】 予習：講義ノート P19-24 および配布資料の閲読、配布資料にある記事について考察する 授業：新聞の社会問題報道 復習：講義ノート P19-24 の読み返し、「新聞の議題設定機能」に関する課題を再考する
6	佐々木 竜介	【第 6 回】 予習：講義ノート P25-29 および配布資料の閲読、配布資料の記事について考察する 授業：新聞の政治報道 復習：講義ノート P25-29 の読み返し、「新聞と政治」に関する課題を再考する
7	佐々木 竜介	【第 7 回】 予習：講義ノート P30-35 および配布資料の閲読、配布資料の記事について考察する 授業：新聞の生活報道 復習：講義ノート P30-35 の読み返し、「生活報道のジャーナリズム」に関する課題を再考する
8	佐々木 竜介	【第 8 回】 予習：講義ノート P36-37 および配布資料の閲読、新聞の経済報道について考察する 授業：新聞の経済報道 復習：講義ノート P36-37 の読み返し、「経済記事」に関する課題を再考する
9	佐々木 竜介	【第 9 回】 予習：講義ノート P38-43 および配布資料の閲読、新聞の国際報道について考察する 授業：新聞の国際報道 復習：講義ノート P38-43 の読み返し、「国際報道の意義」に関する課題を再考する
10	佐々木 竜介	【第 10 回】 予習：講義ノート P44-52 および配布資料の閲読、新聞、テレビ、インターネットのスポーツ報道の違いについて考察する 授業：新聞のスポーツ報道 復習：講義ノート P44-52 の読み返し、「新聞のスポーツ報道」に関する課題を再考する
11	佐々木 竜介	【第 11 回】 予習：講義ノート P53-56 および配布資料の閲読、新聞の書評の意義について考察する 授業：新聞の文化報道 復習：講義ノート P53-56 の読み返し、「文化報道の意義」に関する課題を再考する

12	佐々木　竜介	【第 12 回】 予習：講義ノート P57-64 および配布資料の閲読、新聞の科学報道について考察する 授業：新聞の科学報道 復習：講義ノート P57-64 の読み返し、「科学報道の難しさ」に関する課題を再考する
13	佐々木　竜介	【第 13 回】 予習：講義ノート P65-70 および配布資料の閲読、配布資料の記事について考察する 授業：新聞報道の問題点 復習：講義ノート P65-70 の読み返し、「記事に関する外部のチェック機関の意義」に関する課題を再考する
14	佐々木　竜介	【第 14 回】 予習：講義ノート P71-79 および配布資料の閲読、新聞の取材活動について考察する 授業：新聞の取材活動 復習：講義ノート P71-79 の読み返し、「新聞記者と取材」に関する課題を再考する
15	佐々木　竜介	【第 15 回】 予習：講義ノート P80-81 の閲読、メディア・リテラシーと新聞について考察する 授業：１年間の新聞報道を振り返る 復習：課題（講義の最後に提示）の考察

授業開始前学習	どのメディアに限らず、日常生活において主体的にニュースに接していると、講義の内容が理解しやすくなります。新聞に普段接していない人でも、興味を持つきっかけとして受講してほしい。
授業内課題のフィードバックの方法	毎回講義の冒頭と途中に記述式の課題を出題。 Classroom を通じて評価を戻すとともに、次回講義時に、解答をいくつか選び紹介、講評します。
テキスト・教材	講義ノートを使用（初回講義時に配布） また毎回を新聞記事を配布し、そちらを次回の講義に使用します。配布した新聞記事は Google Classroom にもアップします。
参考書	講義ノートの最終ページに記載
評価の基準と方法	講義参加の積極性 40%、課題（毎回講義中に出題） 40%、期末レポート 20%で評価 単位取得には講義の 2 / 3 以上の出席と指定数以上の課題の提出、期末レポートの提出が必要
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				

関連科目	「マス・メディア論／報道とメディア」は、新聞単体から 5 マスメディアに拡げたメディアリテラシー講義の応用編であり、次年度以降に合わせて受講して欲しい。
その他	Google Classroom に本講義のクラスを作るので、受講の際は必ず登録してください。 Classroom では伝達事項の掲示や、課題の受け付けなどを行う他、個別質問も受け付け、回答もここで行います。授業録画や配布資料も Classroom にアップをしますので、授業を欠席した際は活用してください。 初回の講義にて評価や出席など、受講の注意事項を説明します。欠席した場合は、終了後に Classroom に録画および配布資料をアップさせるので、そちらを確認してください。 また、内容は変更されることがあり
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	現在新聞社に勤務しており、豊富な事例を生かして講義を行う。

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-121 CT-L-121 SD-L-121	科目分類（～2024 年入学者）	100-120-11	授業コード	F00940
科目名称	法学			単位数	2.0 単位
英文名称	Law			授業区分	講義
科目責任者	福王　守			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	福王　守			開講時期	1 年
オフィスアワー	前期　月曜日 13:00～14:30　木曜日 13:00～14:30 後期　月曜日 13:00～14:30　木曜日 13:00～14:30			研究室	10-614
授業概要	私たちの生活は、法によって規律されています。法は社会をよりよく営んでいくための手段です。その一方で、時にこれは私たちの生活を厳しく制限します。ゆえに、「秩序」と「正義」という相矛盾しがちな 2 つの目的について、いかに妥協点を模索するかが法の責務であるといわれます。前期の授業では、近代以降の市民社会のあゆみを踏まえて、「法とは何か」ということをていねいに伝えたいと思います。できるだけ、身近な裁判例なども紹介します。様々な報道から伝えられる社会問題について、結論を急がずに考えるためのきっかけとなれば幸いです。				
到達目標	市民社会における客観的な判断基準としての「法」の役割を踏まえて、異なる意見を踏まえつつ筋道を立てて未解決の社会問題を考える力を身につけることを目標とします。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	福王　守	※ 毎回の授業後には、「問題解決型学習」の手段として課題レポートを作成してもらい、次回授業時にこれに対する解説と質問への回答を行います。 【第 1 回】 予習　：本科目シラバスおよびテキストiii - X 頁の講読 授業　：法学とは：この授業の目的・内容・学習方法について 【テキストiii - X 頁】 復習　：テキストiii - X 頁の再読、【第 1 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
2	福王　守	【第 2 回】 予習　：テキスト 7 -21 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：市民社会と法：法の特性と日本の法体系【テキスト　7 -21 頁】 復習　：テキスト 7 -21 頁の再読、【第 2 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
3	福王　守	【第 3 回】 予習　：テキスト 210-219 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：市民社会と法：　近代市民社会の特徴と法的要請 【テキスト　210-219 頁】 復習　：テキスト 210-219 頁の再読、【第 3 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
4	福王　守	【第 4 回】 予習　：テキスト 21-32 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：市民社会と法：法目的としての「秩序と正義」【テキスト　21-32 頁】 復習　：テキスト　21-32 頁の再読、【第 4 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
5	福王　守	【第 5 回】 予習　：テキスト 49-59 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：法のあり方：実定法の意義と問題点【テキスト　49-59 頁】 復習　：テキスト 49-59 頁の再読、【第 5 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
6	福王　守	【第 6 回】 予習　：テキスト 59、130-132 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：法のあり方：判例法と裁判　【テキスト　59、130-132 頁】 復習　：テキスト 59、130-132 頁の再読、【第 6 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
7	福王　守	【第 7 回】 予習　：テキスト 64-65 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：法のあり方：条理と裁判 【テキスト　64-65 頁】 復習　：テキスト 64-65 頁の再読、【第 7 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
8	福王　守	【第 8 回】 予習　：テキスト 66-69 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：法の適用：事実認定 【テキスト　66-69 頁】 復習　：テキスト　66-69 頁の再読、【第 8 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
9	福王　守	【第 9 回】 予習　：テキスト 69-75 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：法の適用：法解釈における学説の対立 【テキスト　69-75 頁】 復習　：テキスト　69-75 頁の再読、【第 9 回】授業ノートおよび配布プリントの整理

10	福王　守	【第 10 回】 予習　：第 2 回-9 回までのテキスト全学習頁の講読およびキーワードの確認 授業　：これまでの授業の総括と発展学習の手引：授業全体の体系的整理と論証に向けて【テキスト全学習頁】 復習　：テキスト全学習頁の再読、【第 10 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
11	福王　守	【第 11 回】 予習　：テキスト 83-85 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：法の体系：公法と私法の区分 【テキスト 83-85 頁】 復習　：テキスト 83-85 頁の再読、【第 11 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
12	福王　守	【第 12 回】 予習　：テキスト 85-88、219-221 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：法の体系：公法と私法の分離と融合　【テキスト 85-88、219-221 頁】 復習　：テキスト 85-88、219-221 頁の再読、【第 12 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
13	福王　守	【第 13 回】 予習　：テキスト 157-179 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：法の体系：社会法の特徴と種類　【テキスト 157-179 頁】 復習　：テキスト 157-179 頁の再読、【第 13 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
14	福王　守	【第 14 回】 予習　：テキスト 7 157-179 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：法の体系：社会法をめぐる今日的問題　【テキスト 157-179 頁】 復習　：テキスト 157-179 頁の再読、【第 14 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
15	福王　守	【第 15 回】 予習　：テキストⅲ-Ｘ頁の講読およびキーワードの確認 授業　：「法学」の総括と発展学習の手引き：授業全体の体系的整理と論証に向けて（問題解決型学習）【テキスト　全学習頁】 復習　：テキスト全学習頁の再読、【第 15 回】授業ノートおよび配布プリントの整理

授業開始前学習	テレビや新聞の社会面・政治面の報道に、少しでも多く接する機会をもって下さい。必ずどこかで授業理解の助けになります。
授業内課題のフィードバックの方法	適宜次回の授業冒頭において課題レポートに対する講評と質問への回答を述べます。また第 10 回および 15 回目において、レポート課題全般に関する講評と個々の問題解決に向けた助言等を行います。
テキスト・教材	伊藤正巳・加藤一郎編『現代法学入門（第 4 版）』（有斐閣、2005 年） 『ポケット六法（令和 7 年版）』（有斐閣、2024 年）
参考書	授業を通じて適宜紹介します。
評価の基準と方法	・15 回のレポートの総合点で評価します（10 点×15 回＝150 点を 100 点満点に換算）。 ・単位取得の前提として、すべての授業回数のうち出席に基づく 10 回以上の提出が必要です。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	△		◎				

関連科目	法律学を学ぶ上で、最も基礎となる入門科目です。この授業に基づいて、発展科目としての「法と社会」が組み立てられています。また、日本国憲法Ⅰ・Ⅱも関連性をもって構成されています。なお、2 年次以降に受講できる科目として「国際法」があります。
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-121 CT-L-121	科目分類（～2024 年入学者）	100-120-11	授業コード	F00950
科目名称	法と社会			単位数	2.0 単位
英文名称	Law and Society			授業区分	講義
科目責任者	福王　守			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	福王　守			開講時期	1 年
オフィスアワー	前期　月曜日 13:00～14:30　木曜日 13:00～14:30 後期　月曜日 13:00～14:30　木曜日 13:00～14:30			研究室	10-614
授業概要	法は、人々が社会生活をよりよく営むための手段です。また一方で、法は私たちの生活を強く制約することがあります。あるべき法の姿を方向づけていくのは、私たち一人ひとりの考えに裏づけられた、世論です。この授業では、法と社会の関わりについて基本的な知識を伝えます。未解決な社会問題を考える際に、ひとつの手がかりを提供できれば幸いです。後期の授業では、個々の法のあり方（法の体系）を具体的に紹介した上で、後半において現代社会の抱える高齢社会の問題について考えます。				
到達目標	市民社会における客観的な判断基準としての「法」の役割を踏まえて、異なる意見を踏まえつつ筋道を立てて未解決の社会問題を考える力を身につけることを目標とします。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	福王　守	※ 毎回の授業後には、「問題解決型学習」の手段として課題レポートを作成してもらい、次回授業時にこれに対する解説と質問への回答を行います。 【第 1 回】 予習　：本科目シラバスおよびテキストiii - X 頁の講読 授業　：法学とは：この授業の目的・内容・学習方法について　【テキストiii - X 頁】 復習　：テキストiii - X 頁の再読、【第 1 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
2	福王　守	【第 2 回】 予習　：テキスト 7-21、83-85、210 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：市民社会と法：日本法体系の今日的起源と特徴 【テキスト 7-21、83-85、210-219 頁】 復習　：テキスト 7-21、83-85、210-219 頁の再読、【第 2 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
3	福王　守	【第 3 回】 予習　：テキスト 94-110 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：国家の基本法：日本国憲法制定の背景 【テキスト 94-110 頁】 復習　：テキスト 94-110 頁の再読、【第 3 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
4	福王　守	【第 4 回】 予習　：テキスト 94-110 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：国家の基本法：日本憲法の抱える今日的問題　【テキスト 94-110 頁】 復習　：テキスト 94-110 頁の再読、【第 4 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
5	福王　守	【第 5 回】 予習　：テキスト 141-156 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：財産と家族：民法（財産法）について　【テキスト 141-156 頁】 復習　：テキスト 141-156 頁の再読、【第 5 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
6	福王　守	【第 6 回】 予習　：テキスト 128-140 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：財産と家族：民法（家族法）について　【テキスト 128-140 頁】 復習　：テキスト 128140 頁の再読、【第 6 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
7	福王　守	【第 7 回】 予習　：テキスト 111-127 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：犯罪と刑罰：刑法について　【テキスト 111-127 頁】 復習　：テキスト 111-127 頁の再読、【第 7 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
8	福王　守	【第 8 回】 予習　：テキスト 118-119 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：犯罪と刑罰：未成年者の犯罪と処遇　【テキスト 118-119 頁】 復習　：テキスト 118-119 頁の再読、【第 8 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
9	福王　守	【第 9 回】 予習　：テキスト 180-204 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：国家と国際機構：国際法について　【テキスト 180-204 頁】 復習　：テキスト 180-204 頁の再読、【第 9 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
10	福王　守	【第 10 回】 予習　：第 2 回-9 回までのテキスト全学習頁の講読およびキーワードの確認 授業　：これまでの授業の総括と発展学習の手引：授業全体の体系的整理と論証に向けて【テキスト全学習頁】 復習　：テキスト全学習頁の再読、【第 10 回】授業ノートおよび配布プリントの整理

11	福王　守	【第 11 回】 予習　：テキスト 200-201 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：国家と国際機構：国連と UNICEF　【テキスト 200-201 頁】 復習　：テキスト 200-201 頁の再読、【第 11 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
12	福王　守	【第 12 回】 予習　：テキスト 157-179 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：福祉と法：社会法の意義　【テキスト 157-179 頁】 復習　：テキスト 157-179 頁の再読、【第 12 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
13	福王　守	【第 13 回】 予習　：テキスト 157-161 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：高齢社会と法：少子高齢社会と社会保障法　【テキスト 157-161 頁】 復習　：テキスト 157-161 頁の再読、【第 13 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
14	福王　守	【第 14 回】 予習　：テキスト 160-161 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：高齢社会と法：高齢者福祉のあゆみと課題　【テキスト 160-161 頁】 復習　：テキスト 160-161 頁の再読、【第 14 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
15	福王　守	【第 15 回】 予習　：テキストⅲ-Ｘ頁の講読およびキーワードの確認 授業　：「法と社会」の総括と発展学習の手引：授業全体の体系的整理と論証に向けて【テキスト　全学習頁】 復習　：テキスト全学習頁の再読、【第 15 回】授業ノートおよび配布プリントの整理

授業開始前学習	テレビや新聞の社会面・政治面の報道に、少しでも多く接する機会をもって下さい。必ずどこかで授業理解の助けになります。
授業内課題のフィードバックの方法	適宜次回の授業冒頭において課題レポートに対する講評と質問への回答を述べます。また第 10 回および 15 回目において、レポート課題全般に関する講評と個々の問題解決に向けた助言等を行います。
テキスト・教材	伊藤正巳・加藤一郎編『現代法学入門（第 4 版）』（有斐閣、2005 年） 『ポケット六法（令和 7 年版）』（有斐閣、2024 年）
参考書	授業を通じて適宜紹介します。
評価の基準と方法	・15 回のレポートの総合点で評価します（10 点×15 回=150 点を 100 点満点に換算）。 ・単位取得の前提として、15 回の授業のうち出席に基づく 10 回以上の提出が必要です。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	△		◎				

関連科目	「法学」を基礎として、授業が組み立てられています。関連科目として「日本国憲法Ⅰ・Ⅱ」および「人権の基礎」があります。また、2 年次以降に受講できる科目として「国際法Ⅰ・Ⅱ」があります。
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-121 CT-L-121	科目分類（～2024 年入学者）	100-121-11	授業コード	F00960
科目名称	日本国憲法Ⅰ			単位数	2.0 単位
英文名称	Japanese Constitution Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	福王 守			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	福王 守			開講時期	1 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30			研究室	10-614
授業概要	日本国憲法とは、日本国のあり方を定めた基本法を意味します。これは、一人ひとりの国民を人格の担い手として尊重するという、例外を許さない価値観の下に作られました。なぜ、第二次世界大戦後にこの憲法は制定されたのでしょうか。そして、なぜ「基本的人権の尊重」、「国民主権」、および「平和主義」という 3 つの柱が立てられたのでしょうか。この授業では、はじめにこのような基本的な仕組みを歴史的に検証します。その上で、第 1 の柱である「基本的人権の尊重」について、急がずに具体例を踏まえつつ理解を深めたいと思います。				
到達目標	日本国における基本法である「日本国憲法」の役割を踏まえ、異なる意見を踏まえつつ筋道を立てて未解決の社会問題を考える力を身につけることを目標とします。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	福王 守	※ 毎回の授業後には、「問題解決型学習」の手段として課題レポートを作成してもらい、次回授業時にこれに対する解説と質問への回答を行います。 【第 1 回】 予習 ：本科目シラバスおよびテキスト目次 1-11 頁の講読 授業 ：「日本国憲法」とは：授業の目的・内容・学習方法について【テキスト 目次 1-11 頁】 復習 ：テキスト目次 1-11 頁の再読、第 1 回授業ノートおよび配布プリントの整理
2	福王 守	【第 2 回】 予習 ：テキスト 3 頁の講読およびキーワードの確認 授業 ：市民社会と法：法の役割と憲法の意義 【テキスト 3 頁】 復習 ：テキスト 3 頁の再読、第 2 回授業ノートおよび配布プリントの整理
3	福王 守	【第 3 回】 予習 ：テキスト 13-16 頁の講読およびキーワードの確認 授業 ：日本国憲法の背景：立憲主義と個人の尊厳 【テキスト 13-16 頁】 復習 ：テキスト 13-16 頁の再読、第 3 回授業ノートおよび配布プリントの整理
4	福王 守	【第 4 回】 予習 ：テキスト 17-26 頁の講読およびキーワードの確認 授業 ：日本国憲法の背景：戦後憲法制定の背景 【テキスト 17-26 頁】 復習 ：テキスト 17-26 頁の再読、第 4 回授業ノートおよび配布プリントの整理
5	福王 守	【第 5 回】 予習 ：テキスト 27-31 頁の講読およびキーワードの確認 授業 ：憲法の目的と趣旨：日本国憲法前文の意味 【テキスト 27-31 頁】 復習 ：テキスト 27-31 頁の再読、第 5 回授業ノートおよび配布プリントの整理
6	福王 守	【第 6 回】 予習 ：テキスト 32-43 頁の講読およびキーワードの確認 授業 ：憲法の目的と趣旨：平和主義原理と平和的生存権 【テキスト 32-43 頁】 復習 ：テキスト 32-43 頁の再読、第 6 回授業ノートおよび配布プリントの整理
7	福王 守	【第 7 回】 予習 ：テキスト 15、29、53 頁の講読およびキーワードの確認 授業 ：憲法の目的と趣旨：基本的人権尊重原理と人権の類型 【テキスト 15、29、53 頁】 復習 ：テキスト 15、29、53 頁の再読、第 7 回授業ノートおよび配布プリントの整理
8	福王 守	【第 8 回】 予習 ：テキスト 73-81 頁の講読およびキーワードの確認 授業 ：人権の基本：包括的基本権としての幸福追求権 【テキスト 73-81 頁】 復習 ：テキスト 73-81 頁の再読、第 8 回授業ノートおよび配布プリントの整理
9	福王 守	【第 9 回】 予習 ：テキスト 81-88 頁の講読およびキーワードの確認 授業 ：人権の基本：法の下の平等 【テキスト 81-88 頁】 復習 ：テキスト 81-88 頁の再読、第 9 回授業ノートおよび配布プリントの整理
10	福王 守	【第 10 回】 予習 ：第 2 回-9 回までのテキスト全学習頁の講読およびキーワードの確認 授業 ：これまでの授業の総括と発展学習の手引：授業全体の体系的整理と論証に向けて【テキスト全学習頁】 復習 ：テキスト全学習頁の再読、【第 10 回】授業ノートおよび配布プリントの整理

11	福王　守	【第 11 回】 予習　：テキスト 134-150 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：人身の自由：奴隷的拘束からの自由・適正手続と刑罰　　【テキスト 134-150 頁】 復習　：テキスト 134-150 頁の再読、第 11 回授業ノートおよび配布プリントの整理
12	福王　守	【第 12 回】 予習　：テキスト 161-168 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：社会権：福祉国家思想と社会権　　【テキスト 161-168 頁】 復習　：テキスト 161-168 頁の再読、第 12 回授業ノートおよび配布プリントの整理
13	福王　守	【第 13 回】 予習　：テキスト 162-168 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：社会権：生存権　　【テキスト 162-168 頁】 復習　：テキスト 162-168 頁の再読、第 13 回授業ノートおよび配布プリントの整理
14	福王　守	【第 14 回】 予習　：テキスト 168-172 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：社会権：教育を受ける権利　　【テキスト 168-172 頁】 復習　：168-172 頁の再読、第 14 回授業ノートおよび配布プリントの整理
15	福王　守	【第 15 回】 予習　：テキスト目次 1-11 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：「日本国憲法Ⅰ」の総括と発展学習の手引き：授業全体の体系的整理と論証に向けて【テキスト全学習頁】 復習　：テキスト全学習頁の再読、第 15 回授業ノートおよび配布プリントの整理

授業開始前学習	テレビや新聞の社会面・政治面の報道に、少しでも多く接する機会をもって下さい。必ずどこかで授業理解の助けになります。
授業内課題のフィードバックの方法	適宜次回の授業冒頭において課題レポートに対する講評と質問への回答を述べます。また第 10 回および 15 回目において、レポート課題全般に関する講評と個々の問題解決に向けた助言等を行います。
テキスト・教材	古野豊秋・畑尻剛編『新・スタンダード憲法（第 4 版補訂版）』（尚学社、2016 年） 『ポケット六法（令和 7 年版）』（有斐閣、2024 年）
参考書	授業を通じて適宜紹介します。
評価の基準と方法	・15 回のレポートの総合点で 100%評価します（10 点×15 回＝150 点を 100 点満点に換算）。 ・単位取得のためには、すべての授業回数のうち出席に基づく 10 回以上の提出が必要です。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	△		◎				

関連科目	「法学」、「法と社会」および「人権の基礎」と関連させながら「日本国憲法Ⅰ・Ⅱ」授業が組み立てられています。また、2 年次以降に受講できる科目として「国際法Ⅰ・Ⅱ」があります。
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-121 CT-L-121	科目分類（～2024 年入学者）	100-121-11	授業コード	F00970
科目名称	日本国憲法Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	Japanese Constitution Ⅱ			授業区分	講義
科目責任者	福王　守			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	福王　守			開講時期	1 年
オフィスアワー	前期　月曜日 13:00～14:30　木曜日 13:00～14:30 後期　月曜日 13:00～14:30　木曜日 13:00～14:30			研究室	10-614
授業概要	現在の日本国憲法は、戦前に対する深い反省の下で制定されました。一人ひとりの国民を人格の担い手として尊重するために、憲法は国家の政治のあり方を定めています。この授業では、こうした国家統治の仕組みを中心に学びます。さらに、現在憲法をめぐって議論されている問題点についても触れていきます。結論を急がずに、私たちの社会における基本法かつ最高法規のあり方を考えていきましょう。				
到達目標	日本国における基本法である「日本国憲法」の役割を踏まえ、異なる意見を踏まえつつ筋道を立てて未解決の社会問題を考える力を身につけることを目標とします。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	福王　守	※ 毎回の授業後には、「問題解決型学習」の手段として課題レポートを作成してもらい、次回授業時にこれに対する解説と質問への回答を行います。 【第 1 回】 予習　：本科目シラバスおよびテキスト目次 1-11 頁の講読 授業　：「日本国憲法」とは：この授業の目的･内容･学習方法 【テキスト　目次 1-11 頁】 復習　：テキスト目次 1-11 頁の再読、【第 1 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
2	福王　守	【第 2 回】 予習　：テキスト 3 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：市民社会と法：法の役割と憲法の意義 【テキスト　3 頁】 復習　：テキスト 3 頁の再読、【第 2 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
3	福王　守	【第 3 回】 予習　：テキスト 13-16 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：日本国憲法の背景：立憲主義と個人の尊厳 【テキスト　13-16 頁】 復習　：テキスト 13-16 頁の再読、【第 3 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
4	福王　守	【第 4 回】 予習　：テキスト 17-26 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：日本国憲法の背景：戦後憲法制定の背景　【テキスト　17-26 頁】 復習　：テキスト 17-26 頁の再読、【第 4 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
5	福王　守	【第 5 回】 予習　：テキスト 27-29 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：日本国憲法の目的と趣旨：憲法前文の意味　【テキスト　27-29 頁】 復習　：テキスト 27-29 頁の再読、【第 5 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
6	福王　守	【第 6 回】 予習　：テキスト 9-10、27-29 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：国民主権について：立憲民主主義と権力分立との関わりから　【テキスト　9-10、27-29 頁】 復習　：テキスト 9-10、27-29 頁の再読、【第 6 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
7	福王　守	【第 7 回】 予習　：テキスト 187-193 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：国会：立法機関としての地位と役割　【テキスト　187-193 頁】 復習　：テキスト 187-193 頁の再読、【第 7 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
8	福王　守	【第 8 回】 予習　：テキスト 193-207 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：国会：国会と議院の権能　【テキスト　193-207 頁】 復習　：テキスト 193-207 頁の再読、【第 8 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
9	福王　守	【第 9 回】 予習　：テキスト 208-214 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：内閣：行政機関としての地位と役割　【テキスト　208-214 頁】 復習　：テキスト 208-214 頁の再読、【第 9 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
10	福王　守	【第 10 回】 予習　：第 2 回-9 回までのテキスト全学習頁の講読およびキーワードの確認 授業　：これまでの授業の総括と発展学習の手引：授業全体の体系的整理と論証に向けて【テキスト全学習頁】 復習　：テキスト全学習頁の再読、【第 10 回】授業ノートおよび配布プリントの整理

11	福王　守	【第 11 回】 予習　：テキスト 218-227 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：裁判所：司法機関としての地位と役割　【テキスト 218-227 頁】 復習　：テキスト 218-227 頁の再読、【第 11 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
12	福王　守	【第 12 回】 予習　：テキスト 227-234 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：裁判所：司法権の独立と民主的統制　【テキスト 227-234 頁】 復習　：テキスト 227-234 頁の再読、【第 12 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
13	福王　守	【第 13 回】 予習　：テキスト 234 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：裁判所：裁判員制度　　【テキスト 234 頁】 復習　：テキスト 234 頁の再読、【第 13 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
14	福王　守	【第 14 回】 予習　：テキスト 235-248 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：違憲審査制：憲法の保障と付随的違憲審査制【テキスト　235-248 頁】 復習　：テキスト 235-248 頁の再読、【第 14 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
15	福王　守	【第 15 回】 予習　：テキスト目次 1-11 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：「日本国憲法Ⅱ」の総括と発展学習の手引き：授業全体の体系的整理と論証に向けて【テキスト全学習頁】 復習　：テキスト全学習頁の再読、【第 15 回】授業ノートおよび配布プリントの整理

授業開始前学習	テレビ・新聞・インターネット等における社会面・政治面の報道に、少しでも多く接する機会をもって下さい。必ずどこかで授業理解の助けになります。
授業内課題のフィードバックの方法	適宜次回の授業冒頭において課題レポートに対する講評と質問への回答を述べます。また第 10 回および 15 回目において、レポート課題全般に関する講評と個々の問題解決に向けた助言等を行います。
テキスト・教材	古野豊秋・畑尻剛編『新・スタンダード憲法（第 4 版補訂版）』（尚学社、2016 年） 『ポケット六法（令和 7 年版）』（有斐閣、2024 年）
参考書	授業を通じて適宜紹介します。
評価の基準と方法	・15 回のレポートの総合点で 100%評価します（10 点×15 回＝150 点を 100 点満点に換算）。 ・単位取得の前提として、すべての授業回数のうち出席に基づく 10 回以上の提出が必要です。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	△		◎				

関連科目	「法学」、「法と社会」、「日本国憲法Ⅰ」および「人権の基礎」と関連させながら、「日本国憲法Ⅱ」授業が組み立てられています。また、2 年次以降に受講できる科目として「国際法Ⅰ・Ⅱ」があります。
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-121 CT-L-121	科目分類（～2024 年入学者）	100-120-11	授業コード	F00981
科目名称	社会学Ⅰ			単位数	履修ガイド参照
英文名称	Sociology Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	平野　直子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	平野　直子			開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	「近代社会」という言葉は単に最近の社会ということではなく、社会の特定の様式のことを指している。社会学はこの「近代」を深く考察することから生まれたものであり、その基本的な考え方や方法を学ぶことで、われわれが普段当たり前と見なしている 21 世紀日本社会のあり方や諸問題を新たな視点で考えることができる。前期（「社会学Ⅰ」）はこの社会学の基本的な考え方を、「再帰性」をキーワードに、伝統や宗教などの具体的なトピックを上げながら解説していく。				
到達目標	社会学的な視点や方法の特徴を理解する。またそれを用いて「近代社会」としての現代日本社会の諸問題を理解し、深く考察する力を得る。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	平野　直子	【第 1 回】 予習：「社会」とは何か、授業前の自分の考えをまとめておく。 授業：授業の目的と進め方、社会学の関心について 復習：「社会」とは何か、授業をもとに自分なりにまとめる
2	平野　直子	【第 2 回】 予習：配布資料「「近代社会」の誕生と社会学」を読む 授業：「近代社会」の誕生と社会学 復習：近代社会の成り立ちについて、授業をもとにまとめる
3	平野　直子	【第 3 回】 予習：配布資料「「近代」の特質についての諸議論」を読む 授業：「近代」の特質についての諸議論 復習：「近代」の特質についての諸議論を、授業をもとにまとめる
4	平野　直子	【第 4 回】 予習：配布資料「社会学の関心（1）デュルケム『自殺論』より　その 1 」を読む 授業：社会学の関心（1）デュルケム『自殺論』より　その 1 復習：『自殺論』の関心と方法についてまとめる
5	平野　直子	【第 5 回】 予習：配布資料「社会学の関心（2）デュルケム『自殺論』より　その 2 」を読む 授業：社会学の関心（2）デュルケム『自殺論』より　その 2 復習：『自殺論』の中の社会学的視点についてまとめる
6	平野　直子	【第 6 回】 予習：配布資料「社会学の関心（3）ウェーバー『プロテスタンティズムの精神と資本主義の精神』より　その 1 」を読む 授業：社会学の関心（3）ウェーバー『プロテスタンティズムの精神と資本主義の精神』より　その 1 復習：ウェーバー社会学の特徴についてまとめる
7	平野　直子	【第 7 回】 予習：配布資料「社会学の関心（4）ウェーバー『プロテスタンティズムの精神と資本主義の精神』より　その 2 」を読む 授業：社会学の関心（4）ウェーバー『プロテスタンティズムの精神と資本主義の精神』より　その 2 復習：『プロテスタンティズムの精神と資本主義の精神』の中の社会学的視点についてまとめる
8	平野　直子	【第 8 回】 予習：配布資料「「伝統社会」と「近代」」を読む 授業：「伝統社会」と「近代」 復習：「近代」についての議論をもとに、「そうではない社会」を考察しまとめる
9	平野　直子	【第 9 回】 予習：配布資料「「ハイモダニティ」とは」を読む 授業：「ハイモダニティ」とは 復習：「ハイモダニティ」の社会の特徴についてまとめる
10	平野　直子	【第 10 回】 予習：配布資料「社会学から見た宗教」を読む 授業：社会学から見た宗教 復習：社会学における宗教についての諸議論をまとめる

11	平野　直子	【第 11 回】 予習：配布資料「新宗教と日本の 20 世紀」を読む 授業：新宗教と日本の 20 世紀 復習：新宗教の歩みと日本社会の変化についてまとめる
12	平野　直子	【第 12 回】 予習：配布資料「現代社会と「宗教っぽいもの」（１）セラピー文化、心理学化」を読む 授業：現代社会と「宗教っぽいもの」（１）セラピー文化、心理学化 復習：周囲にセラピー的な言説を見つけ、そのはたらきを考える
13	平野　直子	【第 13 回】 予習：配布資料「現代社会と「宗教っぽいもの」（２）消費社会と「スピリチュアル」」を読む 授業：現代社会と「宗教っぽいもの」（２）消費社会と「スピリチュアル」 復習：周囲で消費されている「宗教っぽいもの」を見つけ、そのはたらきを考える
14	平野　直子	【第 14 回】 予習：配布資料「「再帰的近代」とは」を読む 授業：「再帰的近代」とは 復習：近代社会における「再帰性」についての諸議論をまとめる
15	平野　直子	【第 15 回】 予習：これまでの教材をすべて再読する 授業：「近代社会」としての現代日本 復習：「近代」についてのこれまでの議論をもとに、現代日本社会のあり方を考察する

授業開始前学習	「近代」とはどのようなものか、授業前の自分の考えをまとめておく。
授業内課題のフィードバックの方法	提出された授業内課題の回答とそれへのリプライは、文書にまとめて次の授業までに Google classroom にアップロードする。授業内でも紹介と解説を行い、受講者間で共有する。
テキスト・教材	特に指定しない。適宜、教場で資料を配布する。
参考書	授業中に随時紹介する。
評価の基準と方法	原則として学期末の最終レポート（100%）によって評価するが、授業内課題の回答状況・提出状況を加味する場合がある。なお単位の取得には全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を必要とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				

関連科目	
その他	・講義は、原則として【授業内容】に記載したとおりに進める予定であるが、講義の進捗状況や社会情勢等の都合から変更する場合がある。 ・授業中の私語は禁止する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-121 CT-L-121	科目分類（～2024 年入学者）	100-120-11	授業コード	F00991
科目名称	社会学Ⅱ			単位数	履修ガイド参照
英文名称	SociologyⅡ			授業区分	講義
科目責任者	平野　直子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	平野　直子			開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	「近代社会」という言葉は単に最近の社会ということではなく、社会の特定の様式のことを指している。社会学はこの「近代」を深く考察することから生まれたものであり、その基本的な考え方や方法を学ぶことで、われわれが普段当たり前と見なしている 21 世紀日本社会のあり方や諸問題を新たな視点で考えることができる。後期（「社会学Ⅱ」）は前期（「社会学Ⅰ」）に登場した「再帰性」というキーワードをもとに、家族、身体、医療をめぐる現代社会の問題について論じていく。				
到達目標	社会学的な視点や方法の特徴を理解する。またそれを用いて「近代社会」としての現代日本社会の諸問題を理解し、深く考察する力を得る。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	平野　直子	【第 1 回】 予習：家族、身体、医療をめぐる近年の問題に関心を向けておく 授業：授業の目的と進め方、社会の変化と家族、身体、医療 復習：家族や医療、身体観が時代により変化しているか、どのような変化か、身近な人から話を聞く
2	平野　直子	【第 2 回】 予習：配布資料「社会学における「家族」」を読む 授業：社会学における「家族」 復習：社会学史における家族について、授業をもとにまとめる
3	平野　直子	【第 3 回】 予習：配布資料「「近代家族」をめぐる諸議論」を読む 授業：「近代家族」をめぐる諸議論 復習：近代家族をめぐる諸分野の議論について、授業をもとにまとめる
4	平野　直子	【第 4 回】 予習：配布資料「日本における「近代家族」」を読む 授業：日本における「近代家族」 復習：日本における「近代家族」の変遷についてまとめ、自分の家族観と比較する
5	平野　直子	【第 5 回】 予習：配布資料「恋愛と結婚の現在」を読む 授業：恋愛と結婚の現在 復習：授業で示された図表とそれに関する議論をもとに、現代日本社会における恋愛と結婚についてまとめる
6	平野　直子	【第 6 回】 予習：配布資料「「親になること」の現在」を読む 授業：「親になること」の現在 復習：授業で示された図表を見直し、現代日本社会で「子どもを持つこと」の現状についてまとめる
7	平野　直子	【第 7 回】 予習：配布資料「ジェンダーと現代家族（１）」を読む 授業：ジェンダーと現代家族（１） 復習：授業で示された図表から、ジェンダーと現代家族をめぐる諸問題についてまとめる
8	平野　直子	【第 8 回】 予習：配布資料「ジェンダーと現代家族（２）」を読む 授業：ジェンダーと現代家族（２） 復習：ジェンダーと現代家族をめぐる諸問題を、労働と家族という側面から考える
9	平野　直子	【第 9 回】 予習：配布資料「高齢社会と家族／消費社会と家族」を読む 授業：高齢社会と家族／消費社会と家族 復習：家族をめぐる情報やサービスの現代家族生活への影響についてまとめる
10	平野　直子	【第 10 回】 予習：配布資料「社会学における身体」を読む 授業：社会学における身体 復習：社会学における身体をめぐる議論の特徴についてまとめる
11	平野　直子	【第 11 回】 予習：配布資料「消費社会と身体（１）ライフスタイルの選択と消費」を読む 授業：消費社会と身体（１）ライフスタイルの選択と消費 復習：衣・食などライフスタイル選択に関わる消費と身体への影響について、自分の経験をもとに考え、まとめる

12	平野　直子	【第 12 回】 予習：配布資料「消費社会と身体（２）消費の舞台としての身体」」を読む 授業：消費社会と身体（２）消費の舞台としての身体 復習：ダイエットや健康などをめぐる消費活動とその身体への影響について、自分の経験をもとに考え、まとめる
13	平野　直子	【第 13 回】 予習：配布資料「専門家の知と身体（１）「近代」における専門家の役割」を読む 授業：専門家の知と身体（１）「近代」における専門家の役割 復習：「近代社会」における専門家の役割についてまとめる
14	平野　直子	【第 14 回】 予習：配布資料「専門家の知と身体（２）挑戦にあう専門知」を読む 授業：専門家の知と身体（２）挑戦にあう専門知 復習：「ハイモダニティ」のもとで専門家の知が問い直される仕組みについてまとめ、自分の考えを書き出す
15	平野　直子	【第 15 回】 予習：これまでの教材をすべて再読する 授業：後期近代社会としての現代日本社会 復習：これまでの議論をもとに、後期近代社会としての現代日本社会のあり方を考察する

授業開始前学習	「近代」の特質に関する社会学の諸議論について、前期授業プリントもしくは社会学の入門書で確認しておく。
授業内課題のフィードバックの方法	提出された授業内課題の回答とそれへのリプライは、文書にまとめて次の授業までに Google classroom にアップロードする。授業内でも紹介と解説を行い、受講者間で共有する。
テキスト・教材	特に指定しない。適宜、教場で資料を配布する。
参考書	授業中に随時紹介する。
評価の基準と方法	原則として学期末の最終レポート（100%）によって評価するが、授業内課題の回答状況・提出状況を加味する場合がある。なお単位の取得には全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を必要とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				

関連科目	
その他	・講義は、原則として【授業内容】に記載したとおりに進める予定であるが、講義の進捗状況や社会情勢等の都合から変更する場合がある。 ・授業中の私語は禁止する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-121 CT-L-121 SD-L-121	科目分類（～2024 年入学者）	100-120-11	授業コード	F01001
科目名称	数学の世界			単位数	2.0 単位
英文名称	World of Mathematics			授業区分	講義
科目責任者	川村　翔			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	川村　翔			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	本講義は共創文化学部・観光文化学部（人間総合学群）の授業の一環として、後の専門分野の修得に不可欠な数学的な基礎知識、また社会生活における数学的知識を活用する応用力を身につける講義である。				
到達目標	高校までに学習した数学の内容について、他の専門授業や社会生活に求められる数学的知識を円滑に使用できるようになる。電卓の使用に慣れ、日常的に計算できるようになる。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	川村　翔	【第 1 回】 予習　：　シラバスを確認し、中学・高校の授業での未修・既修について各自把握しておく。 授業　：　ガイダンス 復習　：　ガイダンスで示された履修、課題提出方法等を確認しておく。
2	川村　翔	【第 2 回】 予習　：　数と式について、一般参考書等で予習しておく。 授業　：　数と式（整式・因数分解） 復習　：　講義内容について確実な理解ができるようにしておく。
3	川村　翔	【第 3 回】 予習　：　とくに前回の講義と密接に関連しているので、疑問点は解決しておく。 授業　：　数と式（一次方程式・連立方程式） 復習　：　講義内容について確実な理解ができるようにしておく。
4	川村　翔	【第 4 回】 予習　：　関数について、一般参考書等で予習しておく。 授業　：　関数（一次関数、二次関数） 復習　：　講義内容について確実な理解ができるようにしておく。
5	川村　翔	【第 5 回】 予習　：　とくに前回の講義と密接に関連しているので、疑問点は解決しておく。 授業　：　関数（二次方程式） 復習　：　講義内容について確実な理解ができるようにしておく。
6	川村　翔	【第 6 回】 予習　：　図形の性質について、一般参考書等で予習しておく。 授業　：　図形の性質（合同・相似・三平方の定理） 復習　：　講義内容について確実な理解ができるようにしておく。
7	川村　翔	【第 7 回】 予習　：　とくに前回の講義と密接に関連しているので、疑問点は解決しておく。 授業　：　図形の性質（円の性質） 復習　：　講義内容について確実な理解ができるようにしておく。
8	川村　翔	【第 8 回】 予習　：　三角比の性質について、一般参考書等で予習しておく。 授業　：　図形と計量（三角比、三角関数） 復習　：　講義内容について確実な理解ができるようにしておく。
9	川村　翔	【第 9 回】 予習　：　とくに前回の講義と密接に関連しているので、疑問点は解決しておく。 授業　：　図形と計量（三角形への応用） 復習　：　講義内容について確実な理解ができるようにしておく。
10	川村　翔	【第 10 回】 予習　：　場合の数について、一般の参考書等で予習する。 授業　：　場合の数（順列・組合せ） 復習　：　講義内容について確実な理解ができるようにしておく。
11	川村　翔	【第 11 回】 予習　：　確率について、一般の参考書等で予習する。 授業　：　確率 復習　：　講義内容について確実な理解ができるようにしておく。

12	川村　翔	【第 12 回】 予習　：　整数の性質について、一般の参考書等で予習する。 授業　：　整数の性質（約数と倍数） 復習　：　講義内容について確実な理解ができるようにしておく。
13	川村　翔	【第 13 回】 予習　：　第 1 回から第 12 回までに学習した内容を各自通読しておく。 授業　：　設計活動における計算演習 復習　：　講義内容について身近な環境から理解・計算をできるようにする。
14	川村　翔	【第 14 回】 予習　：　第 1 回から第 12 回までに学習した内容を各自通読しておく。 授業　：　社会活動における計算演習 1 復習　：　講義内容について身近な環境から理解・計算をできるようにする。
15	川村　翔	【第 15 回】 予習　：　第 1 回から第 12 回までに学習した内容を各自通読しておく。 授業　：　社会活動における計算演習 2 復習　：　講義全体を通して疑問点が残らないように、学習内容を確認しておく。

授業開始前学習	毎週の講義内容について予め予習資料を各自視聴・通読し予習する。
授業内課題のフィードバックの方法	講義内の内容を復習や課題を通して確実に習得できるようにしておく。 課題提出の際に質疑事項を記載する項目を用意するので疑問点があれば記載すること。
テキスト・教材	講義内で PDF 資料等、適宜資料を配布する。
参考書	『サンダイヤル　基本チェックノート　高校数学の基本』啓林館
評価の基準と方法	各講義の出席状況、講義後の課題提出、定期試験にて評価を行う。 配点比率は「出席【2】：課題【3】：定期試験【5】」とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○						

関連科目	
その他	テキスト、方眼ノート、電卓（千円以下でよい）を用意すること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-121 CT-L-121 SD-L-121	科目分類（～2024 年入学者）	100-120-11	授業コード	F01010
科目名称	物理の世界			単位数	2.0 単位
英文名称	World of Physics			授業区分	講義
科目責任者	手塚　貴史			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	手塚　貴史			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	本講義は共創文化学部・観光文化学部（人間総合学群）の授業の一環として、日常生活や身近な環境における物理現象を理解し、物理学を身近に感じる視点を身に着ける、また後の専門分野の修得に必要な物理学の基礎知識を学習する講義である。				
到達目標	物理学を身近な現象として捉えられるようになる。 電卓の使用に慣れ、日常的に計算できるようになる。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	手塚　貴史	【第 1 回】 予習　：　シラバスを確認し、中学・高校の授業での未修・既修について各自把握しておく。 授業　：　ガイダンス 復習　：　ガイダンスで示された履修、課題提出方法等を確認しておく。
2	手塚　貴史	【第 2 回】 予習　：　思いつく単位記号を書き出す 授業　：　物理学で扱う単位と数学的知識 復習　：　物理学における数学的知識をテキストなどで復習し不明点を解決しておく。
3	手塚　貴史	【第 3 回】 予習　：　日常的な移動、時間について考察しておく。 授業　：　物体の運動（速さ・速度・変位・合成・相対） 復習　：　講義を基に、テキストを通読して復習する。
4	手塚　貴史	【第 4 回】 予習　：　とくに前回の講義と密接に関連しているので、疑問点は解決しておく。 授業　：　物体の運動（加速度・重力加速度） 復習　：　講義を基に、テキストを通読して復習する。
5	手塚　貴史	【第 5 回】 予習　：　身の回りの物に対する重さや移動について考察しておく。 授業　：　力学（力と運動） 復習　：　講義を基に、テキストを通読して復習する。
6	手塚　貴史	【第 6 回】 予習　：　とくに前回の講義と密接に関連しているので、疑問点は解決しておく。 授業　：　力学（運動方程式・摩擦） 復習　：　講義を基に、テキストを通読して復習する。
7	手塚　貴史	【第 7 回】 予習　：　日常的に物を動かす際の力について考察しておく。 授業　：　仕事とエネルギー（仕事の正負・仕事率） 復習　：　講義を基に、テキストを通読して復習する。
8	手塚　貴史	【第 8 回】 予習　：　とくに前回の講義と密接に関連しているので、疑問点は解決しておく。 授業　：　仕事とエネルギー（運動エネルギー・保存） 復習　：　講義を基に、テキストを通読して復習する。
9	手塚　貴史	【第 9 回】 予習　：　身の回りの環境で熱を感じる、与えることについて考察しておく。 授業　：　熱とエネルギー（熱量・比熱・保存） 復習　：　講義を基に、テキストを通読して復習する。
10	手塚　貴史	【第 10 回】 予習　：　とくに前回の講義と密接に関連しているので、疑問点は解決しておく。 授業　：　熱とエネルギー（物質の三態・熱膨張・仕事） 復習　：　講義を基に、テキストを通読して復習する。

11	手塚　貴史	【第 11 回】 予習　：　日常生活における音の高さ低さ、大きさについて考察しておく。 授業　：　音とは何か(波・音) 復習　：　講義を基に、テキストを通読して復習する。
12	手塚　貴史	【第 12 回】 予習　：　身の回りの電気や電磁波を活用している物について考察しておく。 授業　：　電気とは何か(電気・電磁波) 復習　：　講義を基に、テキストを通読して復習する。
13	手塚　貴史	【第 13 回】 予習　：　これまでに講義で学習したエネルギーに関わる事について考察しておく。 授業　：　身の回りの物理学（エネルギーの利用と生活） 復習　：　講義を基に、テキストを通読して復習する。
14	手塚　貴史	【第 14 回】 予習　：　日常生活の中で目にする建物の構造について考察しておく。 授業　：　身の回りの物理学（構造物や防災技術） 復習　：　講義を基に、テキストを通読して復習する。
15	手塚　貴史	【第 15 回】 予習　：　第 1 回から第 14 回の講義内容を各自復習しておく。 授業　：　まとめ 復習　：　テキスト、参考書の再読。とくに講義内で強調した点などを後の専門分野の講義に照らし合わせ独習する。

授業開始前学習	毎週に講義内容について予めテキストで各自通読し予習する。
授業内課題のフィードバックの方法	講義内の内容を復習や課題を通して確実に習得できるようにしておく。 課題提出の際に質疑事項を記載する項目を用意するので疑問点があれば記載すること。
テキスト・教材	三浦登・前田京剛共著　シグマベスト　理解しやすい　物理基礎，文英堂，2022
参考書	
評価の基準と方法	各講義の出席状況、講義後の課題提出、定期試験にて評価を行う。 配点比率は「出席【2】：課題【3】：定期試験【5】」とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○						

関連科目	
その他	テキスト、方眼ノート、電卓（千円以下でよい）を用意すること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-121 CT-L-121 SD-L-121	科目分類（～2024 年入学者）	100-120-11	授業コード	F01020
科目名称	生物と生命			単位数	2.0 単位
英文名称	Biology and Life			授業区分	講義
科目責任者	鞠子 典子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鞠子 典子			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	私たち人間は生物の一員と言われていますが，“あなた”という人間は，生物的，社会的にどのような存在なのでしょうか？私たちは自然の恵みを受けて生活していますが，私たちの発達した脳は高度な科学技術を発達させ，私たちが恩恵を受けているはずの環境を破壊するに至っています。現代に生きる私たちには，将来世代に対してこの環境を残す責任があるでしょうか？この授業では環境，生命，生物としてのヒト，社会的存在としての人間に関する様々なテーマを設定し，最新の話題を盛り込みながら講義していきます。さらに，生物としての女性，社会的存在としての女性という視点でも講義をしていきます。授業の進め方としては，パワポによる講義だけでなく，教室内で行える簡単な実験・実習などを交えながら，講義内容を具体的に理解できるように工夫していきます。				
到達目標	ヒトとは何か，人間とは何かを理解し，人間の活動によって生じた環境問題の理解と解決に資する科学リテラシーを身に着け，持続可能なライフスタイルを大胆に発する能力を身につけます。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	鞠子 典子	【第 1 回】 授業：生物学を学ぶ意味（ガイダンス） 予習：「人間とは何か」について考えてみよう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する
2	鞠子 典子	【第 2 回】 授業：私たち生物は星のかけらでできているの？ 予習：「生命の起源」に関する話題をインターネットで検索してみよう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する
3	鞠子 典子	【第 3 回】 授業：あなたは「環境」について説明できますか？ 予習：今回のキーワードとなる「主体環境系の概念」について調べておこう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する
4	鞠子 典子	【第 4 回】 授業：あなたとあなたのペットの似ているところと似ていないところ 予習：今回のキーワードとなる「生物の共通性と多様性」についてを調べておこう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する
5	鞠子 典子	【第 5 回】 授業：桜の開花予想はなぜ当たる？ ～日本の四季と自然～ 予習：気象庁のホームページを利用してみよう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する
6	鞠子 典子	【第 6 回】 授業：自然の恵みのお値段は？ 予習：今回のキーワードとなる「生態系サービス」についてを調べておこう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する
7	鞠子 典子	【第 7 回】 授業：映画から水俣病について考えてみよう 予習：「水俣病」に関する話題について調べてみよう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する
8	鞠子 典子	【第 8 回】 授業：マスコミが取り上げる気候変動における真実とフェイク 予習：「気候変動」に関する話題を検索してみよう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する定
9	鞠子 典子	【第 9 回】 授業：AI と SDGs 予習：環境問題に関する AI のポジティブ効果とネガティブ効果を考えてみよう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する

10	鞠子　典子	【第 10 回】 授業：ヒトはどこから来たのか 予習：私たち「ホモ・サピエンス」について調べてみよう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する
11	鞠子　典子	【第 11 回】 授業：ヒトはどこへ向かうのか 予習：私たち「ホモ・サピエンス」の将来について考えてみよう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する
12	鞠子　典子	【第 12 回】 授業：未来世代に対して現代世代は責任を持つべきか 予習：今回のキーワードとなる「世代間倫理」について調べておこう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する
13	鞠子　典子	【第 13 回】 授業：生物学的性差とジェンダー性差 予習：女と男はどう違うのか？生物学的視点と社会学的視点と分けて考えてみよう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する
14	鞠子　典子	【第 14 回】 授業：あなたの一番関心のある「生物と生命」に関する疑問にお答えします！ 予習：「生物と生命」に関する話題にアンテナを張ろう 復習：ワンポイント・レビューで知識を固定する
15	鞠子　典子	【第 15 回】 授業：生物と生命　総括と試験範囲の説明 予習：「生物と生命」で学んだことを復習し，生物や生命に関する科学リテラシーの必要性について自分の意見をまとめる 復習：試験に向けた勉強をする

授業開始前学習	常日頃から，授業と関連する話題に強い関心をもってニュースや新聞記事と接すること。
授業内課題のフィードバックの方法	ワンポイントで復習できる課題の講評及び解答は講義内で行います。
テキスト・教材	教科書は指定せず，資料を配布します。
参考書	「好きになる生物学」 吉田邦久著　（講談社サイエンティフィク） 「面白くてよくわかる！エコロジー」 吉田久義著　（アスペクト） この他講義の中で適宜書籍を紹介します。
評価の基準と方法	試験７０%，平常点（授業に臨む姿勢・提出物） ３０%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○						

関連科目	
その他	授業の理解度などを勘案し，授業テーマの順序や内容を多少変更することがあります。 講義で分からないことがある場合は，そのままにせず，いつでも質問してください。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-121 CT-L-121 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	100-120-11 （J）	授業コード	F01030
科目名称	地球と宇宙			単位数	2.0 単位
英文名称	Earth and Planetary Science			授業区分	講義
科目責任者	鈴木 絢子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鈴木 絢子			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	このコースでは、地球や太陽系の現在の姿やそのでき方を紹介し、我々人類がそれをどのように理解してきたのかを解説します。みなさんは、自分が地球という惑星に生きていることを意識したのは何歳ごろでしたか？我々人類が地球に生きていることや、地球がとても稀有なシステムであるという理解は、グローバル社会で生きる我々にとって欠かせない視点です。また日本では自然災害が多く発生するため、日本社会の構成員として地球惑星科学の基礎知識は必須です。 講義では、教員から知識を伝達するだけでなく、考えを表明したり、簡単な数式やグラフを用いて論理的に考える練習もします。				
到達目標	・私たちが生きている地球や太陽系の現在の姿や、それがどのようにしてできたと考えられるのかを、自身の言葉で説明できる。 ・概算やべき演算を用いる地球惑星科学的な物事の考え方を実践できる。 ・自分自身や地球を、太陽系・銀河系・宇宙全体の中に位置付けて考え、自分が「地球人」であり「宇宙人」であるという自覚を持つことができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	鈴木 絢子	【第 1 回：人類の宇宙観・地球観の変遷】 予習 ：中学・高校理科の内容を見直しておくこと 授業 ：バックグラウンドアンケート 人類の宇宙観・地球観の変遷（グループワーク含む） 復習 ：地球の取り扱いの変化について、自身の言葉で説明できるようにしておくこと
2	鈴木 絢子	【第 2 回：地球惑星科学の広がり】 予習 ：中学・高校理科の内容を見直しておくこと 授業 ：地球惑星科学分野が包含するもの フェルミ推定（グループワーク） 復習 ：地球惑星科学分野の空間的・時間的広がりについて、自身の言葉で説明できるようにしておくこと
3	鈴木 絢子	【第 3 回：ドレイクの式】 予習 ：フェルミ推定のコンセプトを理解し、実践できるようにしておくこと 授業 ：指数計算を含むフェルミ推定（グループワーク） ドレイクの式（グループワーク） 太陽系の外側の構造 復習 ：ドレイクの式の値を各自で計算しておくこと
4	鈴木 絢子	【第 4 回：ハビタブルとは】 予習 ：ドレイクの式の見積もりの根拠について、自身の言葉で説明できるようにしておくこと 授業 ：我々を構成している要素 対数グラフを描く（実習） ハビタブルとは何か 復習 ：対数グラフを描けるようにしておくこと
5	鈴木 絢子	【第 5 回：宇宙の大規模構造】 予習 ：対数グラフを見て、スケールの違いをイメージできるようにしておくこと 授業 ：電磁波の種類と大気の窓 天文学・地球惑星科学でよく用いる単位、接頭辞（グループワーク） 宇宙の距離はしご 復習 ：日常生活で用いる単位と接頭辞をリストアップしておくこと
6	鈴木 絢子	【第 6 回：太陽系と系外惑星】 予習 ：銀河とその外側の構造のサイズについて、自身の言葉で説明できるようにしておくこと 授業 ：太陽系の構造（実習） 系外惑星の分類（実習） 系外惑星の観測手法 復習 ：系外惑星の観測手法の種類とそれぞれの得手不得手について、自身の言葉で説明できるようにしておくこと
7	鈴木 絢子	【第 7 回：惑星と地球の構造 1】 予習 ：系外惑星の種類について、自身の言葉で説明できるようにしておくこと 授業 ：地球の大気の構造 惑星の大気の構造と地球との相違点 惑星の放射平衡温度（実習） 復習 ：惑星の地表温度のグラフを描き、自身の言葉で説明できるようにしておくこと

8	鈴木　絢子	【第 8 回：惑星と地球の構造】 予習　：惑星と地球の大気構造の違いについて、自身の言葉で説明できるようにしておくこと 授業　：地球の内部の構造 　　惑星の内部の構造と地球との相違点（実習） 　　活動的な惑星・衛星 復習　：地球以外の天体の内部構造を推定した方法について、自身の言葉で説明できるようにしておくこと
9	鈴木　絢子	【第 9 回：宇宙の成り立ち】 予習　：中学・高校理科の内容、第 7 回までの内容を見直しておくこと 授業　：現在考えられている宇宙の進化過程と、それを制約する観測について（グループワーク含む） 復習　：宇宙の進化過程の根拠を、自身の言葉で説明できるようにしておくこと
10	鈴木　絢子	【第 10 回：恒星の一生】 予習　：宇宙の進化過程を見直しておくこと 授業　：恒星の種類、進化過程（実習含む） 復習　：HR 図を自身の言葉で説明できるようにしておくこと
11	鈴木　絢子	【第 11 回：太陽系の成り立ち】 予習　：恒星の進化過程について見直しておくこと 授業　：太陽系の進化過程（実習含む） 復習　：太陽系の進化過程とその根拠について、自身の言葉で説明できるようにしておくこと
12	鈴木　絢子	【第 12 回：地球の歴史】 予習　：太陽系の進化過程について見直しておくこと 授業　：地球の歴史（実習含む） 復習　：地球の地質時代とその境界について、自身の言葉で説明できるようにしておくこと
13	鈴木　絢子	【第 13 回：月の成り立ちと天体衝突】 予習　：太陽系と地球の進化過程について、見直しておくこと 授業　：月形成モデルとその根拠の紹介（実習含む） 復習　：月形成のモデルとその根拠について、自身の言葉で説明できるようにしておくこと
14	鈴木　絢子	【第 14 回：火星の歴史】 予習　：太陽系と地球の進化過程について、見直しておくこと 授業　：火星の歴史（グループワーク含む） 復習　：火星の進化史について、地球と比較しながら、自身の言葉で説明できるようにしておくこと
15	鈴木　絢子	【第 15 回：地球惑星科学の未来】 予習　：第 8 回～第 14 回の内容を見直しておくこと 授業　：現在の惑星探査（実習含む） 復習　：現在の惑星探査の状況とそれぞれが明らかにしたい目標について、自身の言葉で説明できるようにしておくこと

授業開始前学習	中学・高校の理科を復習しておくことが望ましい。
授業内課題のフィードバックの方法	毎回の授業内で、グループワーク、または、個人で取り組む実習を行う。成果は授業内で発表し、その場でコメントする。履修人数が多い場合は、GWE で回収・フィードバックを行うこともある。
テキスト・教材	必要に応じて，講義内で適宜資料を配布する。
参考書	必要に応じて，講義内で参考図書を紹介する。
評価の基準と方法	毎回の授業内でのグループワーク、または、個人で取り組む実習の、提出率、内容、取り組み態度で評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○						

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	100-120-11	授業コード	F01040
科目名称	物質と化学			単位数	2.0 単位
英文名称	Substance and Chemistry			授業区分	講義
科目責任者	髙橋　大介			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	髙橋　大介			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	現代の私たちが日常生活を送る際、多くの科学技術の恩恵を受けている。スマートフォンに代表される電子機器だけでなく、医薬品や化粧品、食料品や服などほぼ全てのモノには、何らかの科学技術が使われている。科学技術の中でも「化学」は身近な分野の一つである。先に挙げた物品だけでなく、自然界のほぼ全てのモノは化学物質の集合体でできている。この講義では「化学」とはどういうものなのかを、化学の歴史に始まり、原子とはどういうものなのか、どんな風につながることで様々な物質ができているのかを解説し、日常生活とどのように繋がりがあるかを考えながら学ぶ。				
到達目標	化学に関連する知識を学び、客観的に物事を見る力や説明力を養うことで、実生活で多視点的に物事をみることができるようになり、新たな智慧やヒントを得ることを到達目標とする。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	髙橋　大介	【第 1 回】 予習：科学と化学の違い（1 時間） 授業：「科学」と「化学」 復習：科学と化学の類似点と違いを理解しまとめる（1 時間）
2	髙橋　大介	【第 2 回】 予習：化学はどのように発展したか（1 時間） 授業：化学の歴史 復習：火の発見から周期表の完成までをまとめる（1 時間）
3	髙橋　大介	【第 3 回】 予習：物質はどんなもので構成されているか（1 時間） 授業：原子とは何か 復習：原子の種類と特長についてまとめる（1 時間）
4	髙橋　大介	【第 4 回】 予習：原子の種類と組み合わせ方について調査（1 時間） 授業：原子の組み換え 1 復習：純物質と混合物についてまとめる（1 時間）
5	髙橋　大介	【第 5 回】 予習：原子の番号と表現方法はどのようなものがあるか（1 時間） 授業：原子の組み換え 2 復習：元素記号と化学式についてまとめる（1 時間）
6	髙橋　大介	【第 6 回】 予習：周期表とはどういうものか（1 時間） 授業：周期表 1 復習：原子核や電子殻についてまとめる（1 時間）
7	髙橋　大介	【第 7 回】 予習：化学結合とは（1 時間） 授業：周期表 2 復習：化学結合とイオンについてまとめる（1 時間）
8	髙橋　大介	【第 8 回】 予習：無機とはどういう意味か（1 時間） 授業：無機物質 1 復習：基本的な 6 つの非金属元素についてまとめる（1 時間）
9	髙橋　大介	【第 9 回】 予習：非金属と金属とは（1 時間） 授業：無機物質 2 復習：代表的な 7 つの金属元素についてまとめる（1 時間）
10	髙橋　大介	【第 10 回】 予習：原子を量る方法（1 時間） 授業：物質量 1 復習：原子密度や単位などについてまとめる（1 時間）
11	髙橋　大介	【第 11 回】 予習：物質を量る方法（1 時間） 授業：物質量 2 復習：モル(mol)濃度、理想気体や実体気体についてまとめる（1 時間）

12	髙橋　大介	【第 12 回】 予習：「錆びる」とはどういう状態（1 時間） 授業：酸・塩基 復習：酸化や還元、pH についてまとめる（1 時間）
13	髙橋　大介	【第 13 回】 予習：生物とは何か（1 時間） 授業：有機物 1 復習：無機物と有機物の違いについてまとめる（1 時間）
14	髙橋　大介	【第 14 回】 予習：有機的で複雑な化学物質について（1 時間） 授業：有機物 2 復習：エタノールや水、炭素骨格や立体化学についてまとめる（1 時間）
15	髙橋　大介	【第 15 回】 予習：これまでの「化学」ついて見直しておく（1 時間） 授業：化学全体の壮観 復習：現在の化学技術や応用事例についてまとめる（1 時間）

授業開始前学習	高校までの基本的な化学知識があると理解しやすいが、初めて化学に触れる前提で講義を進めていくため、必須ではない。
授業内課題のフィードバックの方法	課題の解答例は次回の講義の中で解説する。 質問等は毎回の課題時もしくはガイダンス時に説明する質問方法より適宜受け付ける。 質問の回答は講義中もしくは個別に返信する。
テキスト・教材	講義資料は電子データや紙媒体で配布するため、特に指定はしない。 講義受講前に化学や物理の教科を履修したことがある場合は、事前に復習しておくと理解しやすくなる。
参考書	基本的に講義資料および補助資料と講義中の解説および質問で対応可能であり、 "購入不要"だが、初めてで不安な人は以下の本が参考になる。 左巻健男著『一度読んだら絶対に忘れない化学の教科書』,SB クリエイティブ ISBN：978-4-8156-1747-9　定価 1,760 円
評価の基準と方法	課題点：70[%]　レポートもしくは試験：30[%] ※課題はほぼ毎回出題する ※「レポートもしくは試験」は 1 回もしくは 2 回の予定 出席：3/4 以上の出席必須 　　正当理由のない「遅刻早退は 0.5 回、欠席は 1 回」と欠席にカウントする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○						

関連科目	
その他	覚えなければいけないものは、最低限に留める。 実社会でほとんどの場合は資料を見て良いように、暗記するのではなく、「理解」を重視する。 できるだけ受講者がわかりやすいような実例を交え、専門用語は極力使わずに進める。 また、高校等で「化学」を履修しておらず、事前知識が無い人でも安心して受講してもらえるよう構成する。 講義の中で生じた質問や意見はいつでも歓迎する。 状況により、授業内容や順序、方法等を変更する可能性がある。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	100-120-11	授業コード	F01051
科目名称	情報と科学			単位数	2.0 単位
英文名称	Information Science			授業区分	講義
科目責任者	髙橋　大介			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	髙橋　大介			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	近年における AI 活用による発展は、かつてないほどに急激なものである。これを受け、いかなる分野においても AI 利用の需要があり、知識と技術の必要性が増してきている。しかし、便利になる一方で、各種 AI の利点欠点、倫理、法律上の問題などは議論が絶えず、クリエイティブな分野を中心に大きな問題となっている。本講義では、卒業後も見据えて AI の利点欠点や各種法規、倫理だけでなく、作業ごとに適切な AI の選定や、より良い結果を得られるようにするための知識を概説するとともに一部を実際に体験してもらう。人間の感性から生じる「発想力」と AI の膨大なデータから生じる「提案力」を利用し、生成系 AI による簡単なテーマに則した制作を通して、AI 活用基礎能力の取得を目指す。				
到達目標	各種 AI を利用して、業務、創作作業の簡素化や別視点での提案を受け、より良い作品等を制作するためのツールとして活用できるスキルの取得を目指す。また、著作権や個人情報保護などの観点からも、安全に AI を利用できる知識を習得する。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	髙橋　大介	【第 1 回】 予習：人工知能：AI（Artificial Intelligence）と自動処理について事前調査を行う。 授業：[AI (Artificial Intelligence）とは何か] 自動処理、人工知能（AI）および AL(Artificial Life)の違いやそれぞれの利点、欠点について解説する。 復習：一般的な AI とはどのようなものであったか再確認する。 （1 時間程度）
2	髙橋　大介	【第 2 回】 予習：トイプロブレムの種類やニューラルネットワークとは何かを調べておく。 授業：[AI 開発の歴史と主流の AI] 人工知能の歴史を通し、トイプロブレム（簡単な 2 択等の問題）への対応から、現在盛んに使われているニューラルネットワークやディープラーニングを利用した AI について解説するとともに、使われるデータと情報の変遷について解説する。 復習：ニューラルネットワークやディープラーニングという技術について再確認する。 （1 時間程度）
3	髙橋　大介	【第 3 回】 予習：データと情報の違いを確認しておくこと。 授業：[データと情報の違い] データ・AI を扱う上での留意事項やデータを守る上での留意事項について解説する。 復習：AI が扱えるデータの種類について再確認する。 （1 時間程度）
4	髙橋　大介	【第 4 回】 予習：個人情報保護法やコンピュータ関係の法規について調べておくこと。 授業：[情報倫理] 個人情報保護法（参考：ディープラーニング協会のガイドラインなど）について解説する。 また、AI を扱う上での留意事項をデータや倫理、法令を通して理解する。 復習：留意事項や法令について再確認する。 （1 時間程度）
5	髙橋　大介	【第 5 回】 予習：AI が現在どのような変化を社会に与えているか調査しておくこと。 授業：[社会で起きている変化] 社会で活用されているデータやデータ・AI の活用領域について解説する。 人間が行う作業（マニュアル）から、自動化を経て、AI がどのような変化を社会に与えているかについて理解する。 復習：AI により、人間と機械の領分がどのように変化していくか再確認する。 （1 時間程度）
6	髙橋　大介	【第 6 回】 予習：AI が実際の現場でどのような使われ方をしているか調査しておくこと。 授業：[データ・AI 利活用のための技術] データ・AI 利活用の現場やデータ・AI 利活用の最新動向について解説する。 AI 利用の現場での活用や最新動向を通し、実際にどんな分野でどんな利用がされているかを理解する。 復習：AI が使いやすい分野や作業、使いにくい分野や作業について再確認する。 （1 時間程度）

7	髙橋　大介	【第 7 回】 予習：AI の種類の一種、「教師あり学習」と「教師なし学習」について調べておくこと。 授業：[基本的な AI 構築の流れ] 「教師あり学習」および「教師なし学習」について解説する。 基本的な AI の学習方法の仕組みである、「教師あり学習」と「教師なし学習」を理解することで、利用したい内容に合わせた AI の選別や長所を生かした生成等ができるようにする。 復習：「教師あり学習」の利用分野、「教師なし学習」の利用分野について再確認する。 （１時間程度）
8	髙橋　大介	【第 8 回】 予習：AI の種類の一種、「強化学習」とはどのようなものか調査しておくこと。 授業：[強化学習とディープラーニング] AI の判断が、より適切になるための仕組みである「強化学習」と「ディープラーニング」について理解する。 復習：「強化学習」を使う分野や利点、欠点について再確認する。 （１時間程度）
9	髙橋　大介	【第 9 回】 予習：「時系列データ」とはどのようなものか調査しておくこと。 授業：[時系列データとテキスト解析] 株価や気温変化といった時間によって連続的に変化するデータや文章の構成や意味理解、翻訳などのテキスト解析について解説する。 また、応用事例として実際の AI サービスを利用し、基本的な利用方法や注意点について理解する。 復習：「時系列データ」解析を行うことで、どのような分野で活用されるか再確認する。 （１時間程度）
１０	髙橋　大介	【第 10 回】 予習：生成系 AI とはどのようなものか調査しておくこと。 授業：[ジェネレーティブ AI 基礎] 生成系 AI は多種多様にあるが、文書作成 AI と仕組みについて解説する。 実際に複数の AI を利用しながら、生成系 AI の基本である「プロンプト（命令語）」を利用して文書を作成する方法について理解する。 復習：プロンプトの効率的な選定方法やその結果の判断方法について、再確認する。 （１時間程度）
１１	髙橋　大介	【第 11 回】 予習：画像生成系 AI について調査しておくこと。 授業：[ジェネレーティブ AI 応用] 一般的に多く使われている画像生成 AI と仕組みについて解説する。 文章生成 AI と同様に実際の AI を複数利用しながら、画像生成 AI の利用方法について理解するとともに、倫理や法令に関する注意事項を理解する。 復習：よく使われる画像生成の手法（Diffusion モデル）と使用方法について再確認する。 （１時間程度）
１２	髙橋　大介	【第 12 回】 予習：テキストや画像を主にした生成系 AI についてどのような種類があるか調査しておくこと。 授業：[テーマによるジェネレティブ AI 活用１] 各自もしくは班でごく簡単なテーマを決め、AI を活用しながら制作を行う。 テーマに関する調査方法や使用できるデータの収集、プロンプトの選定、生成結果の選別や修正作業について理解する。 復習：AI と共に作業を行う上で注意する点、データの選定方法、記録方法について再確認する。 （１時間程度）
１３	髙橋　大介	【第 13 回】 予習：各種 AI を効率よく使うためのプロンプトや使用方法、データの種類について調査しておくこと。 授業：[テーマによるジェネレティブ AI 活用２] 各自もしくは班でより複雑な新しいテーマを決め、AI を活用しながら制作を行う。 テーマに関する調査方法や使用できるデータの収集、プロンプトの選定、生成結果の選別や修正作業について理解する。 復習：AI が提示（作成）したものと自分たちの考えや作成したものとどういう点が主に異なっているか再確認する。
１４	髙橋　大介	【第 14 回】 予習：作品を完成させるためにどのような作業が必要か確認しておくこと。 授業：[テーマによるジェネレティブ AI 活用３] 作品制作の続きを行う。AI が提案した内容の修正作業や各自（班）での制作物の解説および考察を行い成果物のまとめを行う。 また、制作した作品について、当初の考えから実際の制作物への考察を通し、AI を使うことでどのような利点・欠点があったのかを理解する。 復習：完成した作品について、各自もしくは班にてどのような点が良く（期待通り）、どのような点が悪い（期待通りでない）かを
１５	髙橋　大介	【第 15 回】 予習：14 回までに作成した作品と資料について、再度確認しておくこと。 授業：[各自（班）ごとに制作物の発表を行う] 他の学生作品への批評や感想を通し、AI を使うことでどのような利点・欠点があるのかを理解する。 AI に関する知識・技術の総まとめとして講義内容の知識の確認を行う。 復習：今後の社会は AI と共にあることが普通なものとなると考えられる。AI に関する様々な知識だけでなく、各自が AI とどのように歩んでいくか再確認すると共に、より豊かな生活を送れるよう新技術への感度を持つことにつ
授業開始前学習	AI（人工知能）について、どのようなところで使われているか、どのような種類があるかを予習しておくことを勧める。（各回１時間程度） なお、個々人での AI の構築などの作業は極力行わず、できるだけ既存のサービスの利用を基本とする。	

授業内課題のフィードバックの方法	授業内で出した課題もしくは作業については、 基本的に次週の講義中に課題や質問等の解説を行う。 なお、何か質問や連絡事項がある場合は以下を用いること。 担当：高橋大介 Classroom：質問掲示板 メール：d0000970@komajo.ac.jp
テキスト・教材	特に指定しない ※各講義の資料は別途配布する
参考書	特に指定しない
評価の基準と方法	評価基準：課題（知識確認）70%・成果物 20%・授業に対する積極性 10% ※課題はほぼ毎回出題する 出席：3/4 以上の出席必須 正当理由のない「遅刻早退は 0.5 回、欠席は 1 回」と欠席にカウントする。 課題はクラスルームのフォームもしくはレポート等で行う。 また、実体験のため、Web 上の AI システムを活用する。 成果物とは、各自もしくはグループワークにて作成する、 各種レポートや作業工程表、作業報告書等のことである。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○						

関連科目	
その他	対象学生：AI に興味があり、自分でも利用したいと考える学生 自宅や自分の所持している PC で作業をしても構わない ※所持している電子機器がスマートフォンのみでも構わない。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-121 CT-L-121 SD-L-121 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	100-120-11 （Ｊ）	授業コード	F01060
科目名称	色彩と科学			単位数	2.0 単位
英文名称	Chromatics and Science			授業区分	講義
科目責任者	稲葉　隆			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	稲葉　隆			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	色彩と人の関わりを、伝達・文化・創造・生活・産業・社会という多面的な視点でとらえ、学ぶ。そのために、知覚・認知心理学をベースとした色彩に関する知識を得るための講義と、実践的な表現技術として身につけるための演習とを毎回繰り返す。				
到達目標	色彩に関する基礎的な知識を学び、配色表現の技術を身につける。それらを生活、創作、実務の場において実践的に活用できるようになる。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	稲葉　隆	【第 1 回】 予習　：日常生活においてカラー・デザインがどのような役割を果たしているのかを考える。色が見える条件の 1 つとして、光の性質ついて調べておく。 授業　：色が見えるしくみ 1（光と色） テキスト p142（混色）、 p52（光と色） 復習　：自分自身の色彩感覚を客観的に把握する。
2	稲葉　隆	【第 2 回】 予習　：色が認知できる条件を考える。 授業　：色が見えるしくみ 2（目と色）。 テキスト p86（目の働き）　【実習】 復習　：光の性質、物の表面の性質、さらに視覚系と脳による認知という一連の流れを理解する。
3	稲葉　隆	【第 3 回】 予習　：色の名前にはどのようなものがあるかを調べる。 授業　：色彩の伝え方（色名） テキスト p21（色名）、p9 などの「主なパレット」【実習】 復習　：色名によるコミュニケーションの長所短所を理解する。
4	稲葉　隆	【第 4 回】 予習　：色を整理し記録するための客観的な方法を考える。 授業　：色彩の分類と表記（表色系） テキスト p21（色相とトーン）、p97（清色と濁色①）、p136-138（色彩の見方）　【実習】 復習　：マンセル表色系（色相・明度・彩度）の成り立ちを理解する。
5	稲葉　隆	【第 5 回】 予習　：色に関するイリュージョンの事例を調べる。 授業　：色による視覚的・生理的効果 テキスト p5（進出色と後退色）、p84（グレア錯視）　【実習】 復習　：色による視覚的効果（対比、同化、恒常性）を整理して理解する。
6	稲葉　隆	【第 6 回】 予習　：色によって気持ちが左右されることがあるかを考える。 授業　：色彩の心理的効果（色彩感情） テキスト p116（清色と濁色②）、p134-135（配色を印象によって整理する）　【実習】 復習　：色が喚起する情緒的な印象を色の 3 属性との関連で考察する。
7	稲葉　隆	【第 7 回】 予習　：自然の中に見られる美しく、心地よい色の秩序について調べる。 授業　：色彩構成の基礎（配色調和） テキスト p28（ナチュラルハーモニー）、p29（色相対比）、p128（色相同士の関係）、p142（配色調和の原理）　【実習】 復習　：色彩が調和する基本条件を整理する。
8	稲葉　隆	【第 8 回】 予習　：複数の色相、あるいは複数のトーンで構成された配色の事例を探す。 授業　：配色表現の基本技法①色相とトーン テキスト p35（配色の色数）、p140（カラーパレットを作る）　【実習】 復習　：配色のための色の選択方法の原則を理解し、実際に配色を作成する。

9	稲葉　隆	【第 9 回】 予習　：色相あるいはトーンが徐々に変化するように並べられた配色の事例を探す。 授業　：配色表現の基本技法②セパレーションとグラデーション テキスト p10（2 つのグラデーション）、p20（グラデーション×セパレーション）、141（色を配列・構成する） 【実習】 復習　：選択した色の配置方法の原則を理解し、実際に配色を作成する。
10	稲葉　隆	【第 10 回 】 予習　：ポスターやパッケージの色使いからどのような感性的な印象が感じられるかを考える。 授業　：配色表現の基本技法③イメージ表現 総合演習課題として配色作成を中心とした演習をおこなう。 テキスト p24（季節を配色で表現する）、p40（感情と配色）、p134-135（配色を印象によって整理する） 【実習】 復習　：配色によるイメージ表現の重要性を認識し、テーマ別に配色を作成する。
11	稲葉　隆	【第 11 回】 予習　：自分と他者（家族や友人）の色の好みの共通点と相違点を考える。 授業　：色彩嗜好 テキスト p133（イラスト作品に学ぶ配色構成の考え方）　【実習】 復習　：グローバルにみた日本人の色彩嗜好の特徴を整理し考察する。
12	稲葉　隆	【第 12 回】 予習　：ファッションにおける魅力的なカラー表現の事例を探す。 授業　：カラー・コーディネート(ファッション) テキスト p129（色と形の調和によるエレガントさ）、p132（人物と背景の対比と同化）　【実習】 復習　：カラー・コーディネートの基本的な考え方を理解し、実際に試みる。
13	稲葉　隆	【第 13 回】 予習　：身近な製品で用いられているカラー・バリエーションの事例を調べる。 授業　：カラー・バリエーション（プロダクト） テキスト p51（カラーバリエーションの狙い）、p78（清潔感溢れる質感の表現）　【実習】 復習　：目的に適した製品の色ぞろえの方法を理解した上で、色と質感・素材感の関係について整理する。
14	稲葉　隆	【第 14 回】 予習　：自宅や店舗の室内空間が、どのような色の製品によって構成されているかを調べる。 授業　：カラープランニング（インテリア・建築・景観） テキスト p14（面積比率を考慮した配色計画）　【実習】 復習　：暮らしを豊かにするインテリア空間のスタイルを整理し考察する。
15	稲葉　隆	【第 15 回】 予習　：日本らしい色彩について調べる。 授業　：文化としてのカラー・デザイン テキスト p45（色で情報を伝える）、p86（目の働き）　【実習】 復習　：カラー・ユニバーサル・デザインの事例を探し、その効果が有効か否かを考える。

授業開始前学習	生活の中で、普段は何気なく目にしている「色」をできるだけ意識して見ること。
授業内課題のフィードバックの方法	色彩教材『配色用色紙ロング（195mm）』を使った 演習課題などについて随時講評する。
テキスト・教材	『人気絵師の作品から学ぶ配色で生み出す物語』（玄光社） 『配色用色紙ロング（195mm）』（日本カラーデザイン研究所）
参考書	『配色手帳 増補・新版』（玄光社） 『人気絵師の作品から学ぶ配色のヒミツ』（玄光社）
評価の基準と方法	各回の講義への積極的な参加と演習課題　65%、総合演習課題（第 10 回を予定）　35%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○						

関連科目	
その他	1）色彩教材『配色用色紙ロング（195mm）』は教科書販売期間に必ず入手しておくこと。基本的に個人向け販売されていない教材であり、これがないと演習課題が作成できないので注意する。 2）以下のものを毎回授業で使用するので準備すること。①色彩教材『配色用色紙ロング（195mm）』、②はさみ、③スティックタイプの固形のり、④筆記具（多色のボールペン、色鉛筆、マーカーなど）、⑥教科書『人気絵師の作品から学ぶ配色で生み出す物語』
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	プロダクト、建築、ブランドなど様々な分野の色彩計画業務をおこなっている。それらの実務経験を生かした講義と実践的な演習をおこなう。

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-133 CT-L-133	科目分類（～2024 年入学者）	100-131-21	授業コード	F01610
科目名称	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ実習Ⅰ			単位数	1.0 単位
英文名称	Volunteer Practice Ⅰ			授業区分	実験・実習
科目責任者	臼井　実稲子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	臼井　実稲子			開講時期	1・2 年
オフィスアワー	前期　水曜日 09:00～12:10 後期　水曜日 09:00～12:10			研究室	10-705
授業概要	学外に人の輪を広げよう 国内（地域）ボランティア：駒沢学園女子中学・高等学校において教育ボランティア、稲城市および近隣地域の施設などで、地元密着型のボランティア活動をおこなう。				
到達目標	履修者が将来、国際社会、地域社会において有用な人材になる第一歩となることを目標とする。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	1 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	臼井　実稲子	本実習に該当する海外・地域ボランティアは以下を想定している。 海外ボランティア：休暇中に、履修者自身で選んだ学外の団体が行う海外ボランティアに 2 週間以上参加する。 地域ボランティア：地域に貢献するボランティアに定期的もしくは複数回参加する（45 時間以上） 課題学習と単位取得条件 海外ボランティア：①事前に担当教員と面談 ②事前にボランティア活動届を学生支援課に提出 ③参加証明書の提出 ④危機管理ガイダンスへの参加 ⑤ボランティア活動記録（ポータルサイトよりダウンロード）もしくは４００

授業開始前学習	ポータルサイトの学生支援課のボランティア活動に関する注意事項を必ず確認すること
授業内課題のフィードバックの方法	科目の性質上、通常の講義科目とは異なるため、提出されるボランティア活動記録によることになる
テキスト・教材	ポータルサイトの学生支援課のボランティアに関する注意事項
参考書	適宜指示する
評価の基準と方法	単位取得条件を全てクリアした上で、活動記録（海外ボランティア活動の場合はレポートも可）により評価
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	△	○	△			△		○

関連科目	特になし
その他	【重要】 ・科目登録を確定した時点で必ず、臼井研究室（１０-７０５）を訪ねてください。 ・ボランティア活動届を学生支援課にボランティア活動開始前に必ず提出してください。 ・ボランティア活動届およびボランティア活動記録については、大学のポータルサイトに書式があります。 ・履修者のボランティ活動中の事故等について、責任を負うものではありません。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）	CT-L-233	科目分類（～2024年入学者）	100-131-22	授業コード	F01620
科目名称	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ実習Ⅱ			単位数	2.0単位
英文名称	Volunteer Practice Ⅱ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	臼井　実稲子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	臼井　実稲子			開講時期	2年
オフィスアワー	前期　水曜日 09:00～12:10 後期　水曜日 09:00～12:10			研究室	10-705
授業概要	本科目はボランティア実習Ⅰの履修後、さらに同種の活動を行おうとする学生が対象である。 海外ボランティア 海外におけるボランティア活動を通して、履修者が多種多様な文化や習慣の違いを受け入れ、将来、国際社会のなかで生き抜く術を学ぶ。 国内ボランティア 稲城市および近隣地域の施設などで、地元と密着型のボランティア活動を中心に行う。				
到達目標	履修者が将来、国際社会、地域社会において有用な人材になる第一歩になることを目標とする				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	1回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	臼井　実稲子	本実習に該当する海外・地域ボランティアは以下を想定している。 海外ボランティア：休暇中に、履修者自身で選んだ学外の団体が行う海外ボランティアに2週間以上参加する。 地域ボランティア：地域に貢献するボランティアに定期的もしくは複数回参加する（45時間以上） 課題学習と単位取得条件 海外ボランティア：　①事前に担当教員と面談 ②事前にボランティア活動届を学生支援課に提出 ③参加証明書の提出 ④危機管理ガイダンスへの参加 ⑤ボランティア活動記録（ポータルサイトよりダウンロード）もしくは４０

授業開始前学習	ポータルサイトの学生支援課のボランティア活動に関する注意事項を必ず確認すること。
授業内課題のフィードバックの方法	科目の性質上、ボランティア活動記録を活用する
テキスト・教材	ポータルサイトの学生支援課のボランティア活動に関する注意事項
参考書	特になし
評価の基準と方法	単位取得条件を全てクリアした上で、活動記録（海外ボランティア活動の場合はレポートも可）により評価
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	△	○	△			△		○

関連科目	
その他	【重要】科目登録を確定した時点で必ず、臼井研究室（１０-７０５）を訪ねてください。 ボランティア実習Ⅰの単位取得者を対象とします。（段階科目） ボランティア活動届を学生支援課にボランティア活動開始前に必ず提出してください。 ボランティア活動届およびボランティア活動記録については、大学のポータルサイトに書式があります。 履修者のボランティア活動中の事故等について、責任を負うものではありません。
予習・復習の所要時間	講義時間60時間＋予習・復習時間30時間（2時間×15週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）	CS-L-133 CT-L-133	科目分類（～2024年入学者）	100-130-21	授業コード	F01630
科目名称	海外英語研修Ⅰ			単位数	2.0単位
英文名称	English Training Abroad Ⅰ			授業区分	実験・実習
科目責任者	松山　響子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	工藤(俊)・中野・ﾌﾞﾗｳﾝ・ﾌﾟﾗｻﾞ・松山			開講時期	1年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	本授業では、研修を通して海外での生活や異文化に触れ、言語ばかりでなく総合的なコミュニケーションスキルの習得を目標にする。ホームスティをしながら、大学しての語学学校に通学し英語の語学研修を受講する。英語のみで行われる授業を受講することで、日本の授業との違いを実地で学ぶことができる。またホームスティをすることで全く違う習慣や文化を持つ人々の中で必要とするコミュニケーション能力を改めて考えることができる。体験を通して英語学習に対する動機を学生が問い直し、語学習得に引き続き臨めるようにする。英語専任教員が共同して、エージェントとの打ち合わせ、事前説明会、科目申請を行う。				
到達目標	英語の環境に身を置くことで、運用能力を高める。相手の意図を聞き取り、自分の意思を伝えることができる。 ホームステイにより、現地の生活を実際に体験し、異文化を知る。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	浅川・工藤(俊)・中野・福王・ﾌﾞﾗｳﾝ・ﾌﾟﾗｻﾞ・松山	研修そのものの実施は2月中旬以降を予定しています。 ・南半球における2月は夏であるため、充実した海外体験が可能であると考えています。 ・1家庭につき日本人学生1名のみで2週間ホームスティすることになっています。 ・大学や語学学校へ通学しながら異文化を体験することとなります。 ・尚、帰国後レポート提出が求められます。

授業開始前学習	数回にわたり実施される説明会に必ず出席すること。
授業内課題のフィードバックの方法	語学学校の指定に従って授業課題を終了すること。
テキスト・教材	現地の語学学校にて配布されます。
参考書	
評価の基準と方法	説明会への出席、現地の学校の成績、そして帰国後に提出されるレポートで成績を判断します。 特に後期に開催される説明会には必ず出席のこと、出席が難しい場合は担当教員と要相談をしてください。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎				△	○

関連科目	必修科目「英語（会話表現）、英語（読解）」（人間総合学群は英語 A・B）：海外での英語研修において必要とされる総合的な英語力を、当該授業で修得するため。 英会話Ⅰ・Ⅱ：海外生活で必要とされる英語でのコミュニケーション能力を、当該授業で修得するため。
その他	参加にあたっては別途費用がかかります。受け身ではなく、自分から積極的に行動することが、海外研修を成功に導くカギです。 履修対象：1年生～3年生
予習・復習の所要時間	講義時間60時間＋予習・復習時間30時間（2時間×15週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-233 CT-L-233	科目分類（～2024 年入学者）	100-130-22	授業コード	F01640
科目名称	海外英語研修Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	English Training Abroad Ⅱ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	松山　響子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	工藤(俊)・中野・ﾌﾞﾗｳﾝ・ﾌﾟﾗｻﾞ・松山			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	オーストラリアないしはニュージーランドにおいてホームステイをしながら、大学あるいは語学学校に通学し、英語の研修を受けます。研修を通して海外での生活や異文化に触れ、言語ばかりでなく総合的なコミュニケーションスキルの習得を目標にしています。こうした体験を通してあらためて英語学習に対する動機を自分に問い直し、帰国後も語学習得に興味関心をもって臨めるようにしましょう。				
到達目標	英語の環境に身を置くことで、運用能力を高める。相手の意図を聞き取り、自分の意思を伝えることができる。 ホームステイにより、現地の生活を実際に体験し、異文化を知る。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	浅川・工藤(俊)・中野・福王・ﾌﾞﾗｳﾝ・ﾌﾟﾗｻﾞ・松山	研修そのものの実施は 2 月中旬以降を予定しています。 ・南半球における 2 月は夏であるため、充実した海外体験が可能であると考えています。 ・1 家庭につき日本人学生 1 名のみで 2 週間ホームステイすることになっています。 ・大学や語学学校へ通学しながら異文化を体験することとなります。 ・尚、帰国後レポート提出が求められます。

授業開始前学習	数回にわたり実施される説明会に必ず出席すること。
授業内課題のフィードバックの方法	語学学校の指定に従って授業課題を終了すること。
テキスト・教材	現地の語学学校にて配布されます。
参考書	
評価の基準と方法	説明会への出席、現地の学校の成績、そして帰国後に提出されるレポートで成績を判断します。 特に後期に開催される説明会には必ず出席のこと、出席が難しい場合は担当教員と要相談をしてください。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎				△	○

関連科目	必修英語 A・B：海外での英語研修において必要とされる総合的な英語力を、当該授業で修得するため。 英会話Ⅰ・Ⅱ：海外生活で必要とされる英語でのコミュニケーション能力を、当該授業で修得するため。
その他	参加にあたっては別途費用がかかります。受け身ではなく、自分から積極的に行動することが、海外研修を成功に導くカギです。 履修対象：1 年生～3 年生
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間＋予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-233 CT-L-233	科目分類（～2024 年入学者）	100-130-22	授業コード	F01650
科目名称	国際協力実習			単位数	1.0 単位
英文名称	International Cooperation Practice			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	臼井　実稲子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	臼井　実稲子			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期　水曜日 09:00～12:10 後期　水曜日 09:00～12:10			研究室	10-705
授業概要	グローバル化が進展し、世界が緊密になりつつある昨今、国際協力は幅広い意味を持ち、その手法も多様化している。国際協力実習では、特に途上国での開発支援を念頭に、協力の現場である現地を訪ね、社会・経済状況を視察し、人々と交流を行いながら、自ら国際協力を実践し、国際協力の難しさや意義などを体感することを目的とする。 前期は訪問国についての情報収集、実習の準備と実習を中心とし、ディスカッションやプレゼンテーションによりコミュニケーション力を高め、国際協力への理解を深めます。				
到達目標	①訪問国について、歴史や社会・経済情勢、日本との関係など基本的な知識を得る。 ②訪問国の人々と積極的に交流する。 ③国際協力実習後は、引率なしでスタディツアーや海外ボランティアなどに参加することができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	7 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	臼井　実稲子	【第 1 回】 予習　：国際協力実習に参加する目的を明確にする。 授業　：実習についての説明と各種準備の作業工程の確認 復習　：授業を踏まえ、自分なりの実習目的・目標を設定する。
2	臼井　実稲子	【第 2 回】 予習　：海外ボランティアなどに関する情報を収集する。 授業　：学生ができる国際協力 復習　：授業を参考に国際協力実習で取り入れたい活動を考える。
3	臼井　実稲子	【第 3 回】 予習　：これまでの「国際協力実習」の記録を読む。 授業　：実習内容・各種視察報告を検討（ディスカッション） 復習　：実習の具体的イメージをつかむ。
4	臼井　実稲子	【第 4 回】 予習　：訪問国についての情報を収集する。 授業：訪問国に関する調査 復習：調査内容をまとめる。
5	臼井　実稲子	【第 5 回】 予習　：発表の準備をする。 授業：訪問国についてのプレゼンテーション 復習：プレゼンテーション資料を読み直し、訪問先についての理解を深める。
6	臼井　実稲子	【第 6 回】 予習　：交流を具体的にイメージし、どのような準備をすべきか考える。 授業：交流活動の準備 復習：必要な資機材を調達する。
7	臼井　実稲子	【第 7 回】 予習　：日程案・活動内容を確認する。 授業：実習の最終打ち合わせ（役割分担の確認など） 復習：実習の最終準備を行う。

授業開始前学習	政府開発援助（ODA）のしくみや途上国の現状などに関心を持ち、ニュースや新聞に日ごろから触れておく。
授業内課題のフィードバックの方法	リアクションペーパーを用い、個別の質問等に回答する。
テキスト・教材	プリントなどを配布する。
参考書	適宜指示する。大学図書館にモンゴル本コーナーがある。
評価の基準と方法	事前課題及びプレゼンテーションへの取組み（20%）、準備やスタディーツアー中の知的貢献・積極的な取組み（50%）、実習報告書（30%）などにより総合的に判断する。

ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照							
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	△	○	△			△		
関連科目	ボランティア実習							
その他	（注意）新型コロナウイルス感染症の感染（日本及び訪問先）などで人の移動に制限がある場合は、参加者の安全が確保できないため、実習は行わない（授業を開講しない）。 最初の授業と事前説明会（授業と異なる曜日・時間の場合あり）に必ず出席すること。 実習実施国はモンゴルとし、8 月下旬～9 月上旬の 6 日間の実施予定する。旅行費用は 18～20 万円程度の予定（為替変動・航空運賃で異なる）。 海外での実習が目的のため、実習不参加の場合は単位は付与しない。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-111 SD-L-111 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-11 （J）	授業コード	F01671
科目名称	進路設計			単位数	2.0 単位
英文名称	Career Planning			授業区分	講義
科目責任者	民部田 駒子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	民部田 駒子			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	本授業は、学生が自分らしい人生を歩むためのキャリア形成能力と、社会で活躍するための就業力を養うことを目的とする。具体的には、ジェンダーギャップなどの社会課題や変化する社会の動向を学びながら、自己理解を深め、多様な価値観に触れることで必要な能力を身につける。これらの学びを通じて、将来の目標を設計して大学での学びとの関連性を意識するとともに、就職活動への不安を軽減し前向きに行動する力を育むことも目標とする。 授業はアクティブ・ラーニング形式で、「講義」→「個人ワーク」→「ペア・グループワーク」→「ディスカッション・発表」のように活動を組合せて進める。 上記を通じて、キャリア教育における「基礎的・汎用的能力」のうち、特に「キャリアプランニング能力」と「人間関係形成能力」を育成する。				
到達目標	①社会を知る：過去・現在・未来の社会の在り様を理解する ②自分を知る：自分の興味・強み・価値観を理解する ③仕事を知る：業界・企業・職業など多様な働き方を理解する ④社会で求められる力を身につける：コミュニケーション能力や文章力等を養う ⑤大学生活および将来に向けた目標設定ができる				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	民部田 駒子	【第 1 回】 予習 ：学科シラバスとテキスト第 1 章を読む 授業 ：授業全体のガイダンス（進め方、評価方法、約束事）、キャリアデザインの考え方、大学生の直面するキャリアデザイン 復習 ：キャリアデザインの必要性について理解したことと今後なすべきことを整理する
2	民部田 駒子	【第 2 回】 予習 ：テキスト第 2 章、13 章を読む 授業 ：社会で求められる「社会人基礎力」とコミュニケーションの方法について（グループワーク） 復習 ：自身がすでに身につけている／これから身につけたい社会人基礎力を確認し、それらを伸ばすための方法を考える
3	民部田 駒子	【第 3 回】 予習 ：テキスト第 3 章を読む 授業 ：社会におけるジェンダーギャップ、ライフイベント、お金について（グループワーク） 復習 ：現状の社会について自身の考えを整理し、自分はどのような人生を歩みたいかについて考える
4	民部田 駒子	【第 4 回】 予習 ：テキスト第 4 章を読む 授業 ：これまでの自分の振り返りと相手への伝え方について（グループワーク） 復習 ：自身の経験を整理して、様々な方法（エントリーシート作成や面接での会話等）で相手に伝えられるようにする
5	民部田 駒子	【第 5 回】 予習 ：テキスト第 5 章、第 11 章を読む 授業 ：客観的な自己理解としてのアセスメントツールの活用について（検査実施、グループワーク） 復習 ：アセスメントツールを通して理解した自分を、様々な方法（エントリーシート作成や面接での会話等）で相手に伝えられるようにする
6	民部田 駒子	【第 6 回】 予習 ：テキスト第 6 章を読む 授業 ：仕事についての価値観の把握について（グループワーク） 復習 ：アセスメントツールを通して理解した自分を、様々な方法（エントリーシート作成や面接での会話等）で相手に伝えられるようにする
7	民部田 駒子	【第 7 回】 予習 ：テキスト第 7 章を読む 授業 ：業種、職種、職業について（グループワーク）※第 5・6 回で実施したアセスメントツールを持参すること 復習 ：アセスメントツールで興味をもった職業について、職業分類の観点から理解する

8	民部田　駒子	【第 8 回】 予習　：興味のある業界・企業・職種について調べる 授業　：調べた業界・企業・職種についての発表（プレゼンテーション） 復習　：プレゼンテーションの振り返り
9	民部田　駒子	【第 9 回】 予習　：テキスト第 8 章を読んでおく 授業　：社会を知る意味とその方法（グループワーク） 復習　：社会の中で問題であると思う内容や興味関心がある内容を選び、自分なりの意見をもつ
10	民部田　駒子	【第 10 回】 予習　：テキスト第 9 章を読む 授業　：働く上での法とルールについて（グループワーク） 復習　：自身の経験や周囲の働く人の経験をふまえ、自分の身を守るために心がけたいことを挙げる
11	民部田　駒子	【第 11 回】 予習　：先輩たちに聴いてみたい質問を考えておく 授業　：先輩から進路選択の経験や大学生活の過ごし方を聴く 復習　：学生生活をどう過ごすかについて考える
12	民部田　駒子	【第 12 回】 予習　：社会人の話を聞くにあたり事前に質問を考えておく 授業　：社会人の話を聴く 復習　：社会人の話を聴いて考えたことをまとめる
13	民部田　駒子	【第 13 回】 予習　：これまでの授業を振り返り、新たに気付いたこと、不明点を整理しておく（授業時間内に説明） 授業　：近い将来についての目標を立て、自身の大学生活を点検する（グループワーク） 復習　：授業時間内に明示
14	民部田　駒子	【第 14 回】 予習　：プレゼンテーションの準備をする 授業　：今後の大学生活から将来に向けての目標発表（グループ内プレゼンテーション） 復習　：プレゼンテーションの振り返り、設定した目標に向けて実際に取り組みを始める
15	民部田　駒子	【第 15 回】 予習　：プレゼンテーションの準備をする 授業　：今後の大学生活から将来に向けての目標発表（代表者プレゼンテーション、グループワーク） 復習　：プレゼンテーションの振り返り、設定した目標に向けて実際に取り組みを始める

授業開始前学習	テキストに目を通す
授業内課題のフィードバックの方法	毎回の授業で得た気づき、感想、質問などをリアクションペーパーにまとめて提出。 提出されたリアクションペーパーに対して講師が次の授業にてコメントする。
テキスト・教材	『大学生のキャリアデザイントレーニング第 2 版』（晃洋書房）
参考書	必要に応じて授業内で紹介する。
評価の基準と方法	平常点（授業態度及び各回のリアクションペーパー内容の評価：60%）と提出課題 4 つ（① 自己 PR 作成、②職業調べ、③社会課題に関する意見、④キャリアプラン）（40%）を基準とし、総合的に判断する。リアクションペーパーとは別に提示する 4 つの課題全てが提出されていることを単位取得の条件とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		○	◎			○	

関連科目	相手に自分を伝えるための具体的な方法論を学ぶ、1 年次前後期の必修科目「言語表現演習Ⅰ」「言語表現演習Ⅱ」と関連する（例えばエントリーシートの書き方を学ぶ回等とは強く関連する）。また 2 年次前期の必修科目の「ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ／ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ／進路設計」に連携する。
その他	・本授業は社会に出る準備の場として、基本的なマナーを守ること（例えば授業の始めと終わりを含めたあいさつ、事前準備、課題・提出物の期限厳守など） ・30 分以上の遅刻は欠席とする。ただし遅延証明書が発行されている場合、学籍番号および氏名を書いた遅延証明書を提出することで考慮する。 ・全講義（15 回）の 2/3 以上の出席がない場合は評価対象外となる。「履修ガイド」に該当する欠席事由については同ガイドに準じて対処する（補習等）。 ・毎回テキストのワークに取り組むため、必ず指定のテキストを手元に準備すること
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	民間企業での社会人経験、行政・産業・教育・地域領域での相談業務や研修・講演や研究業務経験、国家資格キャリアコンサルタントといった各教員の有する専門性を授業に活かす。

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-111 SD-L-111 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-11 （Ｊ）	授業コード	F01672
科目名称	進路設計			単位数	2.0 単位
英文名称	Career Planning			授業区分	講義
科目責任者	小菅 清香			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小菅 清香			開講時期	1 年
オフィスアワー	前期 水曜日 14:40～16:10 金曜日 14:40～16:10 後期 水曜日 14:40～17:50			研究室	10-503
授業概要	本授業は、学生が自分らしい人生を歩むためのキャリア形成能力と、社会で活躍するための就業力を養うことを目的とする。具体的には、ジェンダーギャップなどの社会課題や変化する社会の動向を学びながら、自己理解を深め、多様な価値観に触れることで必要な能力を身につける。これらの学びを通じて、将来の目標を設計して大学での学びとの関連性を意識するとともに、就職活動への不安を軽減し前向きに行動する力を育むことも目標とする。 授業はアクティブ・ラーニング形式で、「講義」→「個人ワーク」→「ペア・グループワーク」→「ディスカッション・発表」のように活動を組合せて進める。 上記を通じて、キャリア教育における「基礎的・汎用的能力」のうち、特に「キャリアプランニング能力」と「人間関係形成能力」を育成する。				
到達目標	①社会を知る：過去・現在・未来の社会の在り様を理解する ②自分を知る：自分の興味・強み・価値観を理解する ③仕事を知る：業界・企業・職業など多様な働き方を理解する ④社会で求められる力を身につける：コミュニケーション能力や文章力等を養う ⑤大学生活および将来に向けた目標設定ができる				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	小菅 清香	【第 1 回】 予習 ：学科シラバスとテキスト第 1 章を読む 授業 ：授業全体のガイダンス（進め方、評価方法、約束事）、キャリアデザインの考え方、大学生の直面するキャリアデザイン 復習 ：キャリアデザインの必要性について理解したことと今後なすべきことを整理する
2	小菅 清香	【第 2 回】 予習 ：テキスト第 2 章、13 章を読む 授業 ：社会で求められる「社会人基礎力」とコミュニケーションの方法について（グループワーク） 復習 ：自身がすでに身につけている／これから身につけたい社会人基礎力を確認し、それらを伸ばすための方法を考える
3	小菅 清香	【第 3 回】 予習 ：テキスト第 3 章を読む 授業 ：社会におけるジェンダーギャップ、ライフイベント、お金について（グループワーク） 復習 ：現状の社会について自身の考えを整理し、自分はどのような人生を歩みたいかについて考える
4	小菅 清香	【第 4 回】 予習 ：テキスト第 4 章を読む 授業 ：これまでの自分の振り返りと相手への伝え方について（グループワーク） 復習 ：自身の経験を整理して、様々な方法（エントリーシート作成や面接での会話等）で相手に伝えられるようにする
5	小菅 清香	【第 5 回】 予習 ：テキスト第 5 章、第 11 章を読む 授業 ：客観的な自己理解としてのアセスメントツールの活用について（検査実施、グループワーク） 復習 ：アセスメントツールを通して理解した自分を、様々な方法（エントリーシート作成や面接での会話等）で相手に伝えられるようにする
6	小菅 清香	【第 6 回】 予習 ：テキスト第 6 章を読む 授業 ：仕事についての価値観の把握について（グループワーク） 復習 ：アセスメントツールを通して理解した自分を、様々な方法（エントリーシート作成や面接での会話等）で相手に伝えられるようにする
7	小菅 清香	【第 7 回】 予習 ：テキスト第 7 章を読む 授業 ：業種、職種、職業について（グループワーク）※第 5・6 回で実施したアセスメントツールを持参すること 復習 ：アセスメントツールで興味をもった職業について、職業分類の観点から理解する

8	小菅　清香	【第 8 回】 予習　：興味のある業界・企業・職種について調べる 授業　：調べた業界・企業・職種についての発表（プレゼンテーション） 復習　：プレゼンテーションの振り返り
9	小菅　清香	【第 9 回】 予習　：テキスト第 8 章を読んでおく 授業　：社会を知る意味とその方法（グループワーク） 復習　：社会の中で問題であると思う内容や興味関心がある内容を選び、自分なりの意見をもつ
10	小菅　清香	【第 10 回】 予習　：テキスト第 9 章を読む 授業　：働く上での法とルールについて（グループワーク） 復習　：自身の経験や周囲の働く人の経験をふまえ、自分の身を守るために心がけたいことを挙げる
11	小菅　清香	【第 11 回】 予習　：先輩たちに聴いてみたい質問を考えておく 授業　：先輩から進路選択の経験や大学生活の過ごし方を聴く 復習　：学生生活をどう過ごすかについて考える
12	小菅　清香	【第 12 回】 予習　：社会人の話を聞くにあたり事前に質問を考えておく 授業　：社会人の話を聴く 復習　：社会人の話を聴いて考えたことをまとめる
13	小菅　清香	【第 13 回】 予習　：これまでの授業を振り返り、新たに気付いたこと、不明点を整理しておく（授業時間内に説明） 授業　：近い将来についての目標を立て、自身の大学生活を点検する（グループワーク） 復習　：授業時間内に明示
14	小菅　清香	【第 14 回】 予習　：プレゼンテーションの準備をする 授業　：今後の大学生活から将来に向けての目標発表（グループ内プレゼンテーション） 復習　：プレゼンテーションの振り返り、設定した目標に向けて実際に取り組みを始める
15	小菅　清香	【第 15 回】 予習　：プレゼンテーションの準備をする 授業　：今後の大学生活から将来に向けての目標発表（代表者プレゼンテーション、グループワーク） 復習　：プレゼンテーションの振り返り、設定した目標に向けて実際に取り組みを始める

授業開始前学習	テキストに目を通す
授業内課題のフィードバックの方法	毎回の授業で得た気づき、感想、質問などをリアクションペーパーにまとめて提出。 提出されたリアクションペーパーに対して講師が次の授業にてコメントする。
テキスト・教材	『大学生のキャリアデザイントレーニング第 2 版』（晃洋書房）
参考書	必要に応じて授業内で紹介する。
評価の基準と方法	平常点（授業態度及び各回のリアクションペーパー内容の評価：60%）と提出課題 4 つ（① 自己 PR 作成、②職業調べ、③社会課題に関する意見、④キャリアプラン）（40%）を基準とし、総合的に判断する。リアクションペーパーとは別に提示する 4 つの課題全てが提出されていることを単位取得の条件とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		○	◎			○	

関連科目	相手に自分を伝えるための具体的な方法論を学ぶ、1 年次前後期の必修科目「言語表現演習Ⅰ」「言語表現演習Ⅱ」と関連する（例えばエントリーシートの書き方を学ぶ回等とは強く関連する）。また 2 年次前期の必修科目の「ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ／ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ／進路設計」に連携する。
その他	・本授業は社会に出る準備の場として、基本的なマナーを守ること（例えば授業の始めと終わりを含めたあいさつ、事前準備、課題・提出物の期限厳守など） ・30 分以上の遅刻は欠席とする。ただし遅延証明書が発行されている場合、学籍番号および氏名を書いた遅延証明書を提出することで考慮する。 ・全講義（15 回）の 2/3 以上の出席がない場合は評価対象外となる。「履修ガイド」に該当する欠席事由については同ガイドに準じて対処する（補習等）。 ・毎回テキストのワークに取り組むため、必ず指定のテキストを手元に準備すること
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	民間企業での社会人経験、行政・産業・教育・地域領域での相談業務や研修・講演や研究業務経験、国家資格キャリアコンサルタントといった各教員の有する専門性を授業に活かす。

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-111 SD-L-111 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-11 （Ｊ）	授業コード	F01673
科目名称	進路設計			単位数	2.0 単位
英文名称	Career Planning			授業区分	講義
科目責任者	小林　幸夫			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小林　幸夫			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	本授業は、学生が自分らしい人生を歩むためのキャリア形成能力と、社会で活躍するための就業力を養うことを目的とする。具体的には、ジェンダーギャップなどの社会課題や変化する社会の動向を学びながら、自己理解を深め、多様な価値観に触れることで必要な能力を身につける。これらの学びを通じて、将来の目標を設計して大学での学びとの関連性を意識するとともに、就職活動への不安を軽減し前向きに行動する力を育むことも目標とする。 授業はアクティブ・ラーニング形式で、「講義」→「個人ワーク」→「ペア・グループワーク」→「ディスカッション・発表」のように活動を組合せて進める。 上記を通じて、キャリア教育における「基礎的・汎用的能力」のうち、特に「キャリアプランニング能力」と「人間関係形成能力」を育成する。				
到達目標	①社会を知る：過去・現在・未来の社会の在り様を理解する ②自分を知る：自分の興味・強み・価値観を理解する ③仕事を知る：業界・企業・職業など多様な働き方を理解する ④社会で求められる力を身につける：コミュニケーション能力や文章力等を養う ⑤大学生活および将来に向けた目標設定ができる				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	小林　幸夫	【第 1 回】 予習　：学科シラバスとテキスト第 1 章を読む 授業　：授業全体のガイダンス（進め方、評価方法、約束事）、キャリアデザインの考え方、大学生の直面するキャリアデザイン 復習　：キャリアデザインの必要性について理解したことと今後なすべきことを整理する
2	小林　幸夫	【第 2 回】 予習　：テキスト第 2 章、13 章を読む 授業　：社会で求められる「社会人基礎力」とコミュニケーションの方法について（グループワーク） 復習　：自身がすでに身につけている／これから身につけたい社会人基礎力を確認し、それらを伸ばすための方法を考える
3	小林　幸夫	【第 3 回】 予習　：テキスト第 3 章を読む 授業　：社会におけるジェンダーギャップ、ライフイベント、お金について（グループワーク） 復習　：現状の社会について自身の考えを整理し、自分はどのような人生を歩みたいかについて考える
4	小林　幸夫	【第 4 回】 予習　：テキスト第 4 章を読む 授業　：これまでの自分の振り返りと相手への伝え方について（グループワーク） 復習　：自身の経験を整理して、様々な方法（エントリーシート作成や面接での会話等）で相手に伝えられるようにする
5	小林　幸夫	【第 5 回】 予習　：テキスト第 5 章、第 11 章を読む 授業　：客観的な自己理解としてのアセスメントツールの活用について（検査実施、グループワーク） 復習　：アセスメントツールを通して理解した自分を、様々な方法（エントリーシート作成や面接での会話等）で相手に伝えられるようにする
6	小林　幸夫	【第 6 回】 予習　：テキスト第 6 章を読む 授業　：仕事についての価値観の把握について（グループワーク） 復習　：アセスメントツールを通して理解した自分を、様々な方法（エントリーシート作成や面接での会話等）で相手に伝えられるようにする
7	小林　幸夫	【第 7 回】 予習　：テキスト第 7 章を読む 授業　：業種、職種、職業について（グループワーク）※第 5・6 回で実施したアセスメントツールを持参すること 復習　：アセスメントツールで興味をもった職業について、職業分類の観点から理解する

8	小林　幸夫	【第 8 回】 予習　：興味のある業界・企業・職種について調べる 授業　：調べた業界・企業・職種についての発表（プレゼンテーション） 復習　：プレゼンテーションの振り返り
9	小林　幸夫	【第 9 回】 予習　：テキスト第 8 章を読んでおく 授業　：社会を知る意味とその方法（グループワーク） 復習　：社会の中で問題であると思う内容や興味関心がある内容を選び、自分なりの意見をもつ
10	小林　幸夫	【第 10 回】 予習　：テキスト第 9 章を読む 授業　：働く上での法とルールについて（グループワーク） 復習　：自身の経験や周囲の働く人の経験をふまえ、自分の身を守るために心がけたいことを挙げる
11	小林　幸夫	【第 11 回】 予習　：先輩たちに聴いてみたい質問を考えておく 授業　：先輩から進路選択の経験や大学生活の過ごし方を聴く 復習　：学生生活をどう過ごすかについて考える
12	小林　幸夫	【第 12 回】 予習　：社会人の話を聞くにあたり事前に質問を考えておく 授業　：社会人の話を聴く 復習　：社会人の話を聴いて考えたことをまとめる
13	小林　幸夫	【第 13 回】 予習　：これまでの授業を振り返り、新たに気付いたこと、不明点を整理しておく（授業時間内に説明） 授業　：近い将来についての目標を立て、自身の大学生活を点検する（グループワーク） 復習　：授業時間内に明示
14	小林　幸夫	【第 14 回】 予習　：プレゼンテーションの準備をする 授業　：今後の大学生活から将来に向けての目標発表（グループ内プレゼンテーション） 復習　：プレゼンテーションの振り返り、設定した目標に向けて実際に取り組みを始める
15	小林　幸夫	【第 15 回】 予習　：プレゼンテーションの準備をする 授業　：今後の大学生活から将来に向けての目標発表（代表者プレゼンテーション、グループワーク） 復習　：プレゼンテーションの振り返り、設定した目標に向けて実際に取り組みを始める

授業開始前学習	テキストに目を通す
授業内課題のフィードバックの方法	毎回の授業で得た気づき、感想、質問などをリアクションペーパーにまとめて提出。 提出されたリアクションペーパーに対して講師が次の授業にてコメントする。
テキスト・教材	『大学生のキャリアデザイントレーニング第 2 版』（晃洋書房）
参考書	必要に応じて授業内で紹介する。
評価の基準と方法	平常点（授業態度及び各回のリアクションペーパー内容の評価：60%）と提出課題 4 つ（① 自己 PR 作成、②職業調べ、③社会課題に関する意見、④キャリアプラン）（40%）を基準とし、総合的に判断する。リアクションペーパーとは別に提示する 4 つの課題全てが提出されていることを単位取得の条件とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		○	◎			○	

関連科目	相手に自分を伝えるための具体的な方法論を学ぶ、1 年次前後期の必修科目「言語表現演習Ⅰ」「言語表現演習Ⅱ」と関連する（例えばエントリーシートの書き方を学ぶ回等とは強く関連する）。また 2 年次前期の必修科目の「ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ／ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ／進路設計」に連携する。
その他	・本授業は社会に出る準備の場として、基本的なマナーを守ること（例えば授業の始めと終わりを含めたあいさつ、事前準備、課題・提出物の期限厳守など） ・30 分以上の遅刻は欠席とする。ただし遅延証明書が発行されている場合、学籍番号および氏名を書いた遅延証明書を提出することで考慮する。 ・全講義（15 回）の 2/3 以上の出席がない場合は評価対象外となる。「履修ガイド」に該当する欠席事由については同ガイドに準じて対処する（補習等）。 ・毎回テキストのワークに取り組むため、必ず指定のテキストを手元に準備すること
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	民間企業での社会人経験、行政・産業・教育・地域領域での相談業務や研修・講演や研究業務経験、国家資格キャリアコンサルタントといった各教員の有する専門性を授業に活かす。

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-111 SD-L-111 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-11 （J）	授業コード	F01674
科目名称	進路設計			単位数	2.0 単位
英文名称	Career Planning			授業区分	講義
科目責任者	新井　香子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	新井　香子			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	本授業は、学生が自分らしい人生を歩むためのキャリア形成能力と、社会で活躍するための就業力を養うことを目的とする。具体的には、ジェンダーギャップなどの社会課題や変化する社会の動向を学びながら、自己理解を深め、多様な価値観に触れることで必要な能力を身につける。これらの学びを通じて、将来の目標を設計して大学での学びとの関連性を意識するとともに、就職活動への不安を軽減し前向きに行動する力を育むことも目標とする。 授業はアクティブ・ラーニング形式で、「講義」→「個人ワーク」→「ペア・グループワーク」→「ディスカッション・発表」のように活動を組合せて進める。 上記を通じて、キャリア教育における「基礎的・汎用的能力」のうち、特に「キャリアプランニング能力」と「人間関係形成能力」を育成する。				
到達目標	①社会を知る：過去・現在・未来の社会の在り様を理解する ②自分を知る：自分の興味・強み・価値観を理解する ③仕事を知る：業界・企業・職業など多様な働き方を理解する ④社会で求められる力を身につける：コミュニケーション能力や文章力等を養う ⑤大学生活および将来に向けた目標設定ができる				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	新井　香子	【第 1 回】 予習　：学科シラバスとテキスト第 1 章を読む 授業　：授業全体のガイダンス（進め方、評価方法、約束事）、キャリアデザインの考え方、大学生の直面するキャリアデザイン 復習　：キャリアデザインの必要性について理解したことと今後なすべきことを整理する
2	新井　香子	【第 2 回】 予習　：テキスト第 2 章、13 章を読む 授業　：社会で求められる「社会人基礎力」とコミュニケーションの方法について（グループワーク） 復習　：自身がすでに身につけている／これから身につけたい社会人基礎力を確認し、それらを伸ばすための方法を考える
3	新井　香子	【第 3 回】 予習　：テキスト第 3 章を読む 授業　：社会におけるジェンダーギャップ、ライフイベント、お金について（グループワーク） 復習　：現状の社会について自身の考えを整理し、自分はどのような人生を歩みたいかについて考える
4	新井　香子	【第 4 回】 予習　：テキスト第 4 章を読む 授業　：これまでの自分の振り返りと相手への伝え方について（グループワーク） 復習　：自身の経験を整理して、様々な方法（エントリーシート作成や面接での会話等）で相手に伝えられるようにする
5	新井　香子	【第 5 回】 予習　：テキスト第 5 章、第 11 章を読む 授業　：客観的な自己理解としてのアセスメントツールの活用について（検査実施、グループワーク） 復習　：アセスメントツールを通して理解した自分を、様々な方法（エントリーシート作成や面接での会話等）で相手に伝えられるようにする
6	新井　香子	【第 6 回】 予習　：テキスト第 6 章を読む 授業　：仕事についての価値観の把握について（グループワーク） 復習　：アセスメントツールを通して理解した自分を、様々な方法（エントリーシート作成や面接での会話等）で相手に伝えられるようにする
7	新井　香子	【第 7 回】 予習　：テキスト第 7 章を読む 授業　：業種、職種、職業について（グループワーク）※第 5・6 回で実施したアセスメントツールを持参すること 復習　：アセスメントツールで興味をもった職業について、職業分類の観点から理解する

8	新井　香子	【第 8 回】 予習　：興味のある業界・企業・職種について調べる 授業　：調べた業界・企業・職種についての発表（プレゼンテーション） 復習　：プレゼンテーションの振り返り
9	新井　香子	【第 9 回】 予習　：テキスト第 8 章を読んでおく 授業　：社会を知る意味とその方法（グループワーク） 復習　：社会の中で問題であると思う内容や興味関心がある内容を選び、自分なりの意見をもつ
10	新井　香子	【第 10 回】 予習　：テキスト第 9 章を読む 授業　：働く上での法とルールについて（グループワーク） 復習　：自身の経験や周囲の働く人の経験をふまえ、自分の身を守るために心がけたいことを挙げる
11	新井　香子	【第 11 回】 予習　：先輩たちに聴いてみたい質問を考えておく 授業　：先輩から進路選択の経験や大学生活の過ごし方を聴く 復習　：学生生活をどう過ごすかについて考える
12	新井　香子	【第 12 回】 予習　：社会人の話を聞くにあたり事前に質問を考えておく 授業　：社会人の話を聴く 復習　：社会人の話を聴いて考えたことをまとめる
13	新井　香子	【第 13 回】 予習　：これまでの授業を振り返り、新たに気付いたこと、不明点を整理しておく（授業時間内に説明） 授業　：近い将来についての目標を立て、自身の大学生活を点検する（グループワーク） 復習　：授業時間内に明示
14	新井　香子	【第 14 回】 予習　：プレゼンテーションの準備をする 授業　：今後の大学生活から将来に向けての目標発表（グループ内プレゼンテーション） 復習　：プレゼンテーションの振り返り、設定した目標に向けて実際に取り組みを始める
15	新井　香子	【第 15 回】 予習　：プレゼンテーションの準備をする 授業　：今後の大学生活から将来に向けての目標発表（代表者プレゼンテーション、グループワーク） 復習　：プレゼンテーションの振り返り、設定した目標に向けて実際に取り組みを始める

授業開始前学習	テキストに目を通す
授業内課題のフィードバックの方法	毎回の授業で得た気づき、感想、質問などをリアクションペーパーにまとめて提出。 提出されたリアクションペーパーに対して講師が次の授業にてコメントする。
テキスト・教材	『大学生のキャリアデザイントレーニング第 2 版』（晃洋書房）
参考書	必要に応じて授業内で紹介する。
評価の基準と方法	平常点（授業態度及び各回のリアクションペーパー内容の評価：60%）と提出課題 4 つ（① 自己 PR 作成、②職業調べ、③社会課題に関する意見、④キャリアプラン）（40%）を基準とし、総合的に判断する。リアクションペーパーとは別に提示する 4 つの課題全てが提出されていることを単位取得の条件とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		○	◎			○	

関連科目	相手に自分を伝えるための具体的な方法論を学ぶ、1 年次前後期の必修科目「言語表現演習Ⅰ」「言語表現演習Ⅱ」と関連する（例えばエントリーシートの書き方を学ぶ回等とは強く関連する）。また 2 年次前期の必修科目の「ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ／ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ／進路設計」に連携する。
その他	・本授業は社会に出る準備の場として、基本的なマナーを守ること（例えば授業の始めと終わりを含めたあいさつ、事前準備、課題・提出物の期限厳守など） ・30 分以上の遅刻は欠席とする。ただし遅延証明書が発行されている場合、学籍番号および氏名を書いた遅延証明書を提出することで考慮する。 ・全講義（15 回）の 2/3 以上の出席がない場合は評価対象外となる。「履修ガイド」に該当する欠席事由については同ガイドに準じて対処する（補習等）。 ・毎回テキストのワークに取り組むため、必ず指定のテキストを手元に準備すること
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	民間企業での社会人経験、行政・産業・教育・地域領域での相談業務や研修・講演や研究業務経験、国家資格キャリアコンサルタントといった各教員の有する専門性を授業に活かす。

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	100-130-22（Ｊ）	授業コード	F01680
科目名称	☆ｷｬﾘｱと教養演習 A／社会と教養演習 A			単位数	1.0 単位
英文名称	Career and Liberal Arts Exercises A／Seminar on Career A			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	守屋　裕子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	守屋　裕子			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	本授業のテーマは、社会へ出ていく準備です。そのために「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」で構成される「社会人基礎力（＝3 の能力／12 の能力要素／ 3 の視点）」に取り組みます。「ペアワーク」「グループワーク」「プレゼンテーション」などの演習を通じ、社会人として必要になる心構えと能力について学び、広く社会の課題についても考えます。変化の激しい時代に、自ら考え、答えを見つけていく「課題解決プロジェクト」にチームで取り組みます。視野を広げ、自己理解を深め、多様な人たちと関わるコミュニケーションスキルを高め、大学生活をさらに充実させていきましょう。				
到達目標	■社会で必要とされている「社会人基礎力」について理解を深め、身につけるためのコツを獲得する。 ■多様性を活かし合うコミュニケーションの意識とスキルを高める。 ■チームでプロジェクトに取り組み、課題解決力を身につける。 ■社会で起きている出来事に目を向けるようになる。 ■自分への自信を高める。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	守屋　裕子	【第 1 回】 予習：シラバスに目を通す 授業：授業ガイダンス、キャリアとは、社会人基礎力とは 復習：社会人基礎力の内容を振り返る
2	守屋　裕子	【第 2 回】 予習：自分のことを伝える準備をする 授業：自己理解：自分を知り、自分についての取り扱い説明書を作る 復習：授業で作成したワークシートの見直し
3	守屋　裕子	【第 3 回】 予習：日常の自身のコミュニケーションを振り返り、得意や苦手な場面をイメージする 授業：アサーティブコミュニケーション：周囲との効果的なかかわり方について考える 復習：日常生活でアサーティブコミュニケーションを試みる
4	守屋　裕子	【第 4 回】 予習：日常のストレスやストレス解消法について考える 授業：ストレスコントロール：レジリエンスを高める方法を知る 復習：日常生活で学んだことを実践する
5	守屋　裕子	【第 5 回】 予習：過去のチームワーク経験について振り返る 授業：チームワーク体験や、過去の経験を振り返り、自分らしいチームへの貢献方法を知る 復習：チームワークについての授業の振り返り
6	守屋　裕子	【第 6 回】 予習：前回のチームへの自分なりの貢献方法について見直す 授業：グループディスカッション：進め方やポイントを知る 復習：グループディスカッションについて授業を振り返る
7	守屋　裕子	【第 7 回】 予習：気になるニュースについて調べる 授業：ＳＤＧｓを通して、社会課題について考える 復習：授業で新たに興味を持った社会課題を調べる
8	守屋　裕子	【第 8 回】 予習：プロジェクトとして取り組みたい社会課題を調べてみる 授業：私たちの課題解決プロジェクト①：情報収集 復習：情報収集が不十分な点を調べる
9	守屋　裕子	【第 9 回】 予習：どのような解決すべき課題がありそうか検討する 授業：私たちの課題解決プロジェクト②：課題の特定 復習：課題の具体化をするにあたり不足する情報があれば調べる

10	守屋　裕子	【第 10 回】 予習：課題解決のための打ち手の候補を考える 授業：私たちの課題解決プロジェクト③：解決方法の検討 復習：解決方法の要素で不足する点があれば調べる
11	守屋　裕子	【第 11 回】 予習：プレゼンテーションの準備 授業：私たちの課題解決プロジェクト④：プレゼンテーションの準備 復習：プレゼンテーションの完成
12	守屋　裕子	【第 12 回】 予習：プレゼンテーションで担当する分を練習する 授業：私たちの課題解決プロジェクト⑤：プレゼンテーションの実施及び振り返り 復習：プレゼンテーションの良かった点と課題点を振り返る
13	守屋　裕子	【第 13 回】 予習：興味のある仕事について調べてみる 授業：業界・職種理解：世の中の仕事について知り、自分の適性を考える 復習：授業をきっかけに興味を持った仕事をさらに調べる
14	守屋　裕子	【第 14 回】 予習：今後の大学生活でチャレンジしたいことを考える 授業：目標設定：世の中の仕事を踏まえ、今後の大学以降の目標を考える 復習：作成したワークシートの見直し
15	守屋　裕子	【第 15 回】 予習：第 1 回で学んだ社会人基礎力の内容を振り返る 授業：行動計画：授業全体を振り返り、社会人基礎力を伸ばすための行動計画を立てる 復習：行動計画を実践に移していく

授業開始前学習	新聞やテレビ、ネットなどのニュースを通して、社会で起きている出来事に目を向けてください。 さらにその出来事に対して、自分なりの考えを持つようにしてください。 SDGs についても関心を寄せましょう。
授業内課題のフィードバックの方法	毎回、授業終了時に振り返りシートを提出していただきます。次の授業で皆さんの学びや質問への回答を共有します。
テキスト・教材	毎回、資料を配布します。
参考書	
評価の基準と方法	平常点（授業態度など）（60%）と 最終プレゼンテーション（40%）を基本に総合評価をします。毎回の授業で記入する振り返りシートも評価の対象です。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎		○	○			○	

関連科目	一年次必修「進路設計」
その他	社会人になる準備をするための授業です。基本的なマナー（挨拶、身だしなみ、言葉遣い、立ち振舞い等）に気を配り、主体的に取り組みましょう。遅刻・私語厳禁です。 毎回、ペアやグループで演習や話し合いに取り組み、体験学習で学びを深めます。コミュニケーションにチャレンジし、楽しみましょう。 学生の人数や希望を踏まえ、シラバスの内容が変更する場合があります。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	公務員、民間企業、キャリアコンサルタント、研修講師等の実務経験があり、社会や企業で求められる心構え・能力について講義し、体験学習による学びを促進する。

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	100-130-22（Ｊ）	授業コード	F01700
科目名称	☆ｷｬﾘｱと教養演習 C／社会と教養演習 C			単位数	1.0 単位
英文名称	Career and Liberal Arts Exercises C／Seminar on Career C			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	新井　香子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	新井　香子			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	本授業は、自分らしい生き方をみつけることを目的とし、ディスカッション，グループワーク，プレゼンテーションを用いて授業を展開します。自分の「キャリア」を考えるうえで大切な、皆さんを取りまく社会についての理解を深め、未来の自分に必要なスキルを身につけることで大学生活をさらに充実させていくことを目指します。また、グループディスカッションなどを通して、多様な人たちと関わるコミュニケーションスキルを高めていきます。				
到達目標	① 自分らしい生き方をみつける：自分らしさとは？自分にとってのキャリアとは？を考え、働く意味とやりがいを可視化する（Will をみつける） ② これから生きていく社会環境を理解する：日本社会の現状を知る。 仕事の未来を考える。多様な働き方(生き方）を理解する（Must を知る） ③ 社会で求められる力を身につける：「変化対応力を鍛える」「考える」「前に踏み出す」「チームで働く」とはどういうとかを確認し、コミュニケーションを通して身につける(Can を増やす)				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	新井　香子	【第 1 回】 予習　：学科シラバスに目を通す 授業　：授業全体のガイダンス（進め方、評価方法、約束事）、自分らしさについて考えてみよう。この授業に期待することを話してみよう 復習　：これまで学んだ「キャリア」について纏める
2	新井　香子	【第 2 回】 予習　：自分らしさについてを伝える準備をする 授業　：相互理解のコミュニケーションのバリエーションを増やす（グループワーク）～アサーティブコミュニケーションを理解し実践する(ペアワーク) 復習　：自分のコミュニケーションスタイルを振り返る
3	新井　香子	【第 3 回】 予習　：大学入学前と今の自分の変化についてを話す準備をする。身近な社会人に仕事のやりがいをきいてみる。 授業　：「生きる」にまつわる色々な意味を考えてみる（ペアワーク・グループワーク）～大学で学ぶとは、働く目的、やりがいはどこから生まれるのか？ 復習　：大学の図書館で自分が専攻する分野の蔵書数を調べる。読みたいと思った書籍を 3 冊選び、卒業までに何冊読むか考えてみよう
4	新井　香子	【第 4 回】 予習　：社会を知る方法を調べておく 授業　：社会を知る 1 （グループディスカッション）～社会を見る目を養う方法を探る 復習　：授業内で分かった方法を活用して気になる社会課題を二つ以上あげ、自分にとっての影響を考える
5	新井　香子	【第 5 回】 予習　：「会社」と「企業」の違い、、BtoB、BtoC の定義をしらべておく 授業　：会社で働くとは？日本の会社組織の仕組みを理解しよう（グループディスカッション）　～組織で働く上で大切なことは何か？ 復習　：BtoB、BtoC それぞれの企業を各 3 社調べ、働いてみたい会社と、その理由を考える
6	新井　香子	【第 6 回】 予習　：昔あって今はない仕事をしらべてくる 授業　：仕事の未来を考える（グループディスカッション）～15 年先の社会とは、働きかたの多様性を知る、まずは 10 年先の仕事をイメージしよう 復習　：AI にとってかわられそうな仕事をリストアップしてみよう（あなたの周りの働いいている人・先輩や家族）にも聞いてみよう
7	新井　香子	【第 7 回】 予習　：ジェンダーギャップに関する考えを纏めておく 授業　：ライフキャリアと職業キャリア（ペアワーク、グループディスカッション）～ジェンダーギャップが仕事と家庭に与える影響を理解し自分らしい生き方について考えてみる 復習　：正社員と非正規社員との働き方や生涯所得の違いを比べてみよう。女性労働率が高い都道府県はどこか？その理由を考えてみる

8	新井　香子	【第 8 回】 予習　：これまでのキャリアの授業（高校、大学 1 年次）に学んだ社会人基礎力についてを整理しておく 授業　：社会に求められるスキルとは？（ペアワーク・グループディスカッション）～「変化に対応する力」「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」はどのような場面で活かせるかを知る。 復習　：スキルの高い人をイメージしてみる。自分の経験と結び付けてみる。
9	新井　香子	【第 9 回】 予習　：チームワークとは何か考えておく 授業　：チームで働く力とは（グループディスカッション）～働く上で必要なチームワークとは～チームビルディング、コンセンサスについて知る 復習　：自分がチーム内でどのような関わり（役割）をしたか振り返る
10	新井　香子	【第 10 回】 予習　：前回までの学びをプレゼンテーションする準備をする 授業　：プレゼンテーション基礎編(グループディスカッション、ペアワーク）～効果的なプレゼンテーションの手法を理解し、プレゼンテーションに挑戦してみる～ペアの発表にフィードバックする 復習　：自分のプレゼンテーションの課題を振り返る
11	新井　香子	【第 11 回】 予習　：自己 PR 文章を作成する 授業　：プレゼンテーション実践編(プレゼンテーション）～前回のプレゼンテーションのでフィードバックを参考にし自己 PR をする 復習　：プレゼンテーションを更にブラッシュアップするにはどうするか？どのような場面で活かせそうか？を考える
12	新井　香子	【第 12 回】 予習　：あなた自身が変化に気づけた例を思い出す 授業　：変化に対応する力とは？（グループディスカッション）～なぜ必要なのか？どのような場面で活かせるかを話してみる。 復習　：100 年以上の社歴を持つ企業を 1 社取り上げ、なぜその企業が生き残ってこられたのかを考える
13	新井　香子	予習　：See-Tink-Plan-Do の手法を使って、現在あなたが抱えている課題の解決策を考えてみよう 授業　：考える力を高める（グループディスカッション）～高めるためにはまずは何から始めるかを話してみよう 復習　：「できること」を大きくしていくためにこれから取り組むことを考える
14	新井　香子	【第 14 回】 予習　：前年度の進路設計で考えた大学生活における目標と行動計画を確認する 授業　：目標設定と行動計画を見直す（ペアワーク）～自分の強味とこれから身につけたいスキルを整理し行動計画を見直す 復習　：自分らしく生きるための行動計画を整理する
15	新井　香子	【第 15 回】 予習　：　14 回までの学びを活か「自分らしい生き方」のプレゼンテーションの準備をする 授業　：　自分らしい生き方（プレゼンテーション）～自分らしいい生き方とは（自分らしさ、こんな風に働きたい、その理由、その為にできること）を伝える 復習　：　授業全体の振り返りを行い、今後の大学生活に活かしていく

授業開始前学習	なし
授業内課題のフィードバックの方法	毎回の授業で得た気づき、感想、質問などをリアクションペーパーにまとめて提出。 提出されたリアクションペーパーに対して講師が次の授業にてコメントする。
テキスト・教材	考える力を高めるキャリアデザイン入門　なぜ大学で学ぶのか　ISBN-978-4-641-16576-2
参考書	必要に応じて授業内で紹介します。
評価の基準と方法	平常点（授業態度及び各回のリアクションペーパー内容の評価：60%）とプレゼンテーション・提出課題（40%）を基準とし、総合的に判断します。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎		○	○			○	

関連科目	一年次必修「進路設計」
その他	①　本授業は社会に出る準備の場です。基本的なマナー（あいさつ、言葉遣い、立ち振る舞い等）を守り、受け身ではなく、主体的に取り組みましょう。 ②　毎回、ペアやグループで演習やディスカッションに取り組み、体験学習で学びを深めます。 ③主体的にワークに取り組むことがより自分の成長に繋がります。遅刻や欠席は共に学ぶメンバーに迷惑が掛かります。 ④学生の希望を授業内容に取り入れるため、履修人数によってシラバスの変更も生じます。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	民間企業で 20 年以上の社会人経験、行政・産業・学校・地域領域においてキャリアコンサルティングの面談や研修・ワークショップ・講演等の実務経験あり。国家資格キャリアコンサルタント。 社会や企業で求められる心構え・能力について講義し、体験学習による学びを促進する。

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-331 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	100-130-13 （Ｊ）	授業コード	F01720
科目名称	ﾋﾞｼﾞﾈｽとｷｬﾘｱ／ｷｬﾘｱﾘﾃﾗｼｰ			単位数	2.0 単位
英文名称	Business and Career／Career Literacy			授業区分	講義
科目責任者	守屋　裕子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	守屋　裕子			開講時期	3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	就活を取り巻く環境が変化する中、本授業では就活の不安を緩和し、前向きな気持ちで行動していくことを目指し、自分の「軸」を見出すプロセスを学びます。個人やチームで企業や社会について調べ、考え、「グループワーク」「相互フィードバック」「課題解決」「プレゼンテーション」などの演習中心で授業を進め、経験を通して社会に出てから役立つ意識やスキルを習得していきます。知らなかった業界や職種にも視野を広げ、自分の可能性を広げ、納得感のある就職活動にチャレンジしていきましょう。そして自分の未来を明るく思い描いていきましょう。				
到達目標	■就活に関する知識と情報を習得し、不安が緩和されることで、就活への意識が高まり前向きになる。 ■就活を取り巻く環境が変化する時だからこそ、自分の軸をしっかりと作る。 ■対人関係やチーム活動に必要な要素を体験しながら学び、人と関わることに自信が持てるようになる。 ■自分に向き合うことで自己認識を深め、就活に向けてさまざまな葛藤を乗り越えるコツを得る。 ■自分の将来を前向きに考えられるようになる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	守屋　裕子	【第 1 回】 予習：授業のシラバスを読む 授業　：授業ガイダンス＆就職活動の流れ／キャリアについて考える 復習　：就職活動の流れと、本授業への取り組み方をイメージする
2	守屋　裕子	【第 2 回】 予習　：自己紹介をイメージする。 授業　：様々なワークを通して自分自身の強みや特徴を知る 復習　：授業の振り返り　ワークシート未記入分を記入
3	守屋　裕子	【第 3 回】 予習　：これまでの自分のチームにおける役割を振り返る 授業　：ゲームを通してチームワークを体験する 復習　：チームワークにおける自分の強みと課題を振り返る
4	守屋　裕子	【第 4 回】 予習　：気になるニュースを調べる 授業　：世界の中の日本、現状と課題を知る 復習　：興味を持ったテーマについて調べる
5	守屋　裕子	【第 5 回】 予習　：気になる業界について考える 授業　：業界とは、企業とは、会社研究の方法 復習　：興味を持った企業について HP を調べる
6	守屋　裕子	【第 6 回】 予習　：気になる職種を考える 授業　：職種とは、世の中の職種について知る 復習　：興味を持った職種について調べる
7	守屋　裕子	【第 7 回】 予習　：身近にある求人情報を調べる 授業　：仕事情報の探し方、読み取り方を知る 復習　：新たに知った求人の探し方を試してみる
8	守屋　裕子	【第 8 回】 予習　：企業のエントリシートを調べる 授業　：応募書類の書き方を知る①自分の学生生活のエピソードを整理する 復習　：ワークシートの未記入分を完成させる
9	守屋　裕子	【第 9 回】 予習　：企業のエントリーシートを調べる 授業　：応募書類の書き方を知る②志望動機、自己 PR を作成する 復習　：ワークシートの未記入分を完成させる

10	守屋　裕子	【第 10 回】 予習　：インターンシップのサイトを見る 授業　：インターンシップの目的、概要、調べ方を知る 復習　：チャレンジしたい企業があれば追加で調べる
11	守屋　裕子	【第 11 回】 予習　：就活サイトに書かれているマナーを読む 授業　：就職活動に必要なマナーを知り実践する 復習　：マナーについて授業を振り返る
12	守屋　裕子	【第 12 回】 予習　：就活サイトの面接情報を読む 授業　：面接の流れを学び、私らしい面接を実践する 復習　：面接について授業を振り返る
13	守屋　裕子	【第 13 回】 予習　：就活サイトのグループディスカッションの情報を読む 授業　：グループディスカッションを体験し、自分らしい取り組み方に気付く 復習　：グループディスカッションの実践の振り返り
14	守屋　裕子	【第 14 回】 予習：長期的な人生のありたい姿を想像する 授業：就職活動など人生に役立つキャリア理論を知る 復習：理論を振り返る
15	守屋　裕子	【第 15 回】 予習　：夏休み以降にチャレンジしたいことをリストアップする 授業　：残りの大学生活の行動計画を立て、仲間と共有する 復習：計画を実践していく

授業開始前学習	新聞やネットなどのニュースに目を向け、社会で起きている出来事に目を向けるようにしてください。
授業内課題のフィードバックの方法	毎回、振り返りシートを提出していただきます。次の授業で学びや質問への回答を共有します。
テキスト・教材	プリントを毎回、配布します。
参考書	
評価の基準と方法	チーム活動への参加態度（60%）、振り返りシート・課題成果物（40%）を目途に総合評価。振り返りシートは毎回提出。授業中盤に発表、後半に 1 回レポート提出あり。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		○	○			◎	

関連科目	「進路設計」、「キャリアと教養演習」、正課外「進路支援プログラム」。キャリア形成へ向けての関連性があります。
その他	この授業では就職活動に関わる知識とスキルを実践的に学びます。何をどれだけ得られるかは、自分次第です。主体的に取り組み、経験をしっかり振り返ることで学びを深め、就活や将来に役立つ考えやスキルを習得し、モチベーションを高めていきましょう。さらに、人と関わるワークが多い授業です。それらの活動を積み重ねることで、対人関係に自信をつけていきましょう。真摯に取り組めば、必ず成長できます。また、この授業は社会人になる準備をしていく実践的なプログラムです。基本的なマナー（あいさつ、身だしなみ、言葉遣い、立ち居振る舞い）は
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	公務員、民間企業、さらに約 20 年間のキャリアコンサルタントとしての若年層支援の実務経験があり、社会や企業で求められる心構え・能力について講義し、体験学習による学びを促進する。

科目分類（2025年～入学者）	CS-L-131 CT-L-131	科目分類（～2024年入学者）	100-130-11	授業コード	F01750
科目名称	女性と健康Ⅰ			単位数	2.0単位
英文名称	Women and Wellbeing Ⅰ／Women and Health Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	丸山 麻子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	丸山 麻子			開講時期	1年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	本授業では女性が生涯を通じて健康で明るく、充実した日々を自立して過ごすための能力を養うことを目的とする。具体的には女性の各ライフステージにおける様々な健康問題の特徴について取り上げ、その問題の予防や改善のための知識について演習・実技も含めた講義とする。 女性と健康Ⅰでは、健康に関する基礎知識と「成人期」に起こりやすい健康課題を取り上げる。 女性と健康Ⅱでは、「思春期」「妊娠・出産」「更年期」「老年期」に起こりやすい健康課題を取り上げる。				
到達目標	1．女性のライフサイクルの視点からみた健康について理解できる。 2．女性の心身の健康ケアへのアプローチについて理解できる 3．女性がよりよく生きることができる状態を計画・実践できる				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	丸山 麻子	【第1回】 予習 ：健康とは何か、なぜ健康が必要なのかについて考える 授業 ：健康の定義、女性の健康とは 復習 ：授業で学んだ事項をノートにまとめる
2	丸山 麻子	【第2回】 予習 ：様々な女性の生き方について調べる 授業 ：女性のライフステージの種類と特徴について 復習 ：授業で学んだ事項をノートにまとめる
3	丸山 麻子	【第3回】 予習 ：自分の体力の状態を考える 授業 ：健康と身体活動・運動 復習 ：授業で学んだ事項をノートにまとめる
4	丸山 麻子	【第4回】 予習 ：体力改善のための運動を実践する 授業 ：女性と身体活動・運動1 復習 ：授業で学んだ事項をノートにまとめる
5	丸山 麻子	【第5回】 予習 ：体力改善のための運動を実践する 授業 ：女性と身体活動・運動2 復習 ：授業で学んだ事項をノートにまとめる
6	丸山 麻子	【第6回】 予習 ：普段の食生活を振り返り、食生活について意識していることをまとめる 授業 ：女性と栄養・食生活1 復習 ：授業で学んだ事項をノートにまとめる
7	丸山 麻子	【第7回】 予習 ：自分の食生活の問題点を整理し、見直す 授業 ：女性と栄養・食生活2 復習 ：授業で学んだ事項をノートにまとめる
8	丸山 麻子	【第8回】 予習 ：お酒を飲むことで起こる健康への悪影響を調べる 授業 ：女性と飲酒 復習 ：授業で学んだ事項をノートにまとめる
9	丸山 麻子	【第9回】 予習 ：タバコを吸うことで起こる健康への悪影響を調べる 授業 ：女性と喫煙 復習 ：授業で学んだ事項をノートにまとめる
10	丸山 麻子	【第10回】 予習 ：自分の睡眠状況を調べ、把握する 授業 ：女性の睡眠・休養 復習 ：授業で学んだ事項をノートにまとめる

11	丸山　麻子	【第 11 回】 予習　：自分の心の状態を考える 授業　：女性のメンタルヘルス 復習　：授業で学んだ事項をノートにまとめる
12	丸山　麻子	【第 12 回】 予習　：自分の月経状況を把握し、まとめる 授業　：女性ホルモンと月経 復習　：授業で学んだ事項をノートにまとめる
13	丸山　麻子	【第 13 回】 予習　：婦人科系疾患について調べる 授業　：女性特有の疾病１ 復習　：授業で学んだ事項をノートにまとめる
14	丸山　麻子	【第 14 回】 予習　：【第 1 回】から【第 13 回】までの内容を振り返る 授業　：女性と健康の基本要素に関するテスト 復習　：自分の考えをレポートにまとめる
15	丸山　麻子	【第 15 回】 予習　：AYA 世代の婦人科系疾患について調べる 授業　：女性特有の疾病２、女性と健康Ⅰ 総括 復習　：授業で学んだ事項をレポートにまとめる

授業開始前学習	新聞やニュースに掲載された女性の健康に関する記事を読んでおくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	授業内で実施した小テスト・レポートについては、次回以降の授業にて返却・回答を行う。
テキスト・教材	適宜、授業内に資料を使用する。
参考書	授業中に適宜、紹介する。
評価の基準と方法	小テスト・レポート 40 点、授業内テスト 50 点・最終提出課題 10 点　※定期テストは行わない。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○	△					

関連科目	
その他	講義に対する質問や個別連絡については、メールを使用すること。 なお、受講者数や授業の進捗状況、また、社会情勢により講義の予定を変更することがある。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-131 CT-L-131	科目分類（～2024 年入学者）	100-130-11	授業コード	F01760
科目名称	女性と健康Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	Women and Wellbeing Ⅰ／Women and Health Ⅱ			授業区分	講義
科目責任者	丸山 麻子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	丸山 麻子			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	本授業では女性が生涯を通じて健康で明るく、充実した日々を自立して過ごすための能力を養うことを目的とする。具体的には女性の各ライフステージにおける様々な健康問題の特徴について取り上げ、その問題の予防や改善のための知識について演習・実技も含めた講義とする。 女性と健康Ⅰでは、健康に関する基礎知識と「成人期」に起こりやすい健康課題を取り上げる。 女性と健康Ⅱでは、「思春期」「妊娠・出産」「更年期」「老年期」に起こりやすい健康課題を取り上げる。				
到達目標	1．女性のライフサイクルの視点からみた健康について理解できる。 2．女性の心身の健康ケアへのアプローチについて理解できる 3．女性がよりよく生きることができる状態を計画・実践できる				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	丸山 麻子	【第 1 回】 予習 ：健康とは何か、なぜ健康が必要なのかについて考える 授業 ：オリエンテーション 女性と健康Ⅰの総復習 復習 ：授業で学んだ事項をノートにまとめる
2	丸山 麻子	【第 2 回】 予習 ：自らのこれまでに生じた心身の問題を振り返る 授業 ：女性の思春期に生じやすい問題 1 復習 ：授業で学んだ事項をノートにまとめる
3	丸山 麻子	【第 3 回】 予習 ：自らのこれまでに生じた心身の問題を振り返る 授業 ：女性の思春期に生じやすい問題 2 復習 ：授業で学んだ事項をノートにまとめる
4	丸山 麻子	【第 4 回】 予習 ：妊娠と出産について中学校・高等学校等で学んだことをまとめる 授業 ：妊娠と出産 1 女性ホルモンの役割 復習 ：授業で学んだ事項をノートにまとめる
5	丸山 麻子	【第 5 回】 予習 ：妊娠と出産に関する最近の情報を調べる 授業 ：妊娠と出産 2 妊娠・出産時期特有の疾患 復習 ：授業で学んだ事項をノートにまとめる
6	丸山 麻子	【第 6 回】 予習 ：不妊治療に関する最近の情報を調べる 授業 ：妊娠と出産 3 妊孕性と不妊治療 復習 ：授業で学んだ事項をノートにまとめる
7	丸山 麻子	【第 7 回】 予習 ：自分の今後のキャリアについて考える 授業 ：女性と仕事 復習 ：授業で学んだ事項をノートにまとめる
8	丸山 麻子	【第 8 回】 予習 ：更年期障害について調べる 授業 ：更年期障害 復習 ：授業で学んだ事項をノートにまとめる
9	丸山 麻子	【第 9 回】 予習 ：更年期の婦人科系疾患について調べる 授業 ：更年期に生じやすい疾患 1 がん 復習 ：授業で学んだ事項をノートにまとめる
10	丸山 麻子	【第 10 回】 予習 ：更年期の婦人科系疾患について調べる 授業 ：更年期に生じやすい疾患 2 うつ、生活習慣病 復習 ：授業で学んだ事項をノートにまとめる

11	丸山　麻子	【第 11 回】 予習　：老年期の疾患について調べる 授業　：老年期に生じやすい疾患１　骨粗鬆症、フレイル 復習　：授業で学んだ事項をノートにまとめる
12	丸山　麻子	【第 12 回】 予習　：認知症について調べる 授業　：老年期に生じやすい疾患２　認知症 復習　：授業で学んだ事項をノートにまとめる
13	丸山　麻子	【第 13 回】 予習　：アンチエイジングについて調べる 授業　：女性とアンチエイジング 復習　：授業で学んだ事項をノートにまとめ、実践する
14	丸山　麻子	【第 14 回】 予習　：【第 1 回】から【第 13 回】までの内容を振り返る 授業　：女性と健康に関するテスト 復習　：自分の考えをレポートにまとめる
15	丸山　麻子	【第 15 回】 予習　：自身のこれからの人生を考える 授業　：自身の人生設計、女性と健康Ⅱ　総括 復習　：授業で学んだ事項をレポートにまとめる

授業開始前学習	新聞やニュースに掲載された女性の健康に関する記事を読んでおくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	授業内で実施した小テスト・レポートについては、次回以降の授業にて返却・回答を行う。
テキスト・教材	適宜、授業内に資料を使用する。
参考書	授業中に適宜、紹介する。
評価の基準と方法	小テスト・レポート 30%、授業内テスト 60%・最終提出課題 10%　※定期テストは行わない。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○	△					

関連科目	
その他	講義に対する質問や個別連絡については、メールを使用すること。 なお、受講者数や授業の進捗状況、また、社会情勢により講義の予定を変更することがある。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-132 CT-L-132 SD-L-132	科目分類（～2024 年入学者）	100-131-21	授業コード	F01771
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ Ⅰ			単位数	1.0 単位
英文名称	Physical Education Ⅰ			授業区分	演習
科目責任者	丸山　麻子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	丸山　麻子			開講時期	1･2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	生涯にわたり健康的な生活を送る上で、自分自身の身体に関する知識・関心を持つことは重要である。そして、心身の健康を維持・増進するためには、運動を取り入れることが望ましい。しかし、誤った方法での運動は効果がないばかりか、心身を害することもあるため、正しい運動の実施方法を理解し、修得することが必要である。 本授業では様々な種類のスポーツを行うことにより、生涯を通して続けられるようなスポーツ・運動を見つけ、上達する方法について探究する。				
到達目標	本授業では様々なスポーツについて調べたうえで体験し、健やかな心身を形成するための運動に関する知識を得るとともに、様々な人と関わりながら互いに協力し合う力を身につけることを目的とする。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	丸山　麻子	【第 1 回】 予習　：体育実技にふさわしい服装の準備 授業　：オリエンテーション、スポーツを行う上での注意点 復習　：伝達事項ポイントの復習
2	丸山　麻子	【第 2 回】 予習　：ニュースポーツ（ピロポロなど）のルールを調べる 授業　：ニュースポーツ（ピロポロなど） 復習　：伝達事項ポイントの復習
3	丸山　麻子	【第 3 回】 予習　：ドッジボールのルールを調べる 授業　：ドッジボール（球技系スポーツ１）（実習） 復習　：プレー・ポイントの復習
4	丸山　麻子	【第 4 回】 予習　：卓球（シングルス）のルールを調べる 授業　：卓球（シングルス）（ラケット系スポーツ１）（実習） 復習　：プレー・ポイントの復習
5	丸山　麻子	【第 5 回】 予習　：卓球（ダブルス）のルールを調べる 授業　：卓球（ダブルス）（ラケット系スポーツ２）（実習） 復習　：プレー・ポイントの復習
6	丸山　麻子	【第 6 回】 予習　：卓球（団体戦）のルールを調べる 授業　：卓球（団体戦）（ラケット系スポーツ３）（実習） 復習　：プレー・ポイントの復習
7	丸山　麻子	【第 7 回】 予習　：バドミントン（シングルス）のルールを調べる 授業　：バドミントン（シングルス）（ラケット系スポーツ４）（実習） 復習　：プレー・ポイントの復習
8	丸山　麻子	【第 8 回】 予習　：バドミントン（ダブルス）のルールを調べる 授業　：バドミントン（ダブルス）（ラケット系スポーツ５）（実習） 復習　：プレー・ポイントの復習
9	丸山　麻子	【第 9 回】 予習　：ティーボールのルールを調べる 授業　：ティーボール（球技系スポーツ２）（実習） 復習　：プレー・ポイントの復習
10	丸山　麻子	【第 10 回】 予習　：バスケットボールのルールを調べる 授業　：バスケットボール（球技系スポーツ３）（実習） 復習　：プレー・ポイントの復習

11	丸山　麻子	【第 11 回】 予習　：戦略を考える 授業　：バスケットボール（球技系スポーツ４）（実習） 復習　：プレー・ポイントの復習
12	丸山　麻子	【第 12 回】 予習　：レクリエーションスポーツ（バドポン等）のルールを調べる 授業　：レクリエーションスポーツ（バドポン等）（実習） 復習　：プレー・ポイントの復習
13	丸山　麻子	【第 13 回】 予習　：ソフトバレーボールのルールを調べる 授業　：ソフトバレーボール（球技系スポーツ５）（実習） 復習　：プレー・ポイントの復習
14	丸山　麻子	【第 14 回】 予習　：シッティングバレーボールのルールを調べる 授業　：シッティングバレーボール（球技系スポーツ５）（実習） 復習　：プレー・ポイントの復習
15	丸山　麻子	【第 15 回】 予習　：ルールを調べる 授業　：バレーボール（球技系スポーツ７）（実習） 復習　：プレー・ポイントの復習

授業開始前学習	日ごろから体を動かす習慣を作り、自らの体をよく知ること。また、受講前に行うスポーツを見るなどして事前にルール等の知識を得てから受講すること。
授業内課題のフィードバックの方法	毎授業において回収するレポートに対しては、理解度の確認および適宜個別にコメントし、授業内にて全体の講評等を行う。
テキスト・教材	なし
参考書	
評価の基準と方法	小テスト・レポート課題（60%）、授業参加態度（20%）、最終レポート（20%）を総合して評価を行う。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	○	○				

関連科目	なし
その他	受講の際には、ジャージ等運動着、靴下、運動靴（外履き不可）にて臨むこと。運動を行うために適していないと判断される服装の場合には、受講を認めない。また、筆記用具および水分補給のための飲み物を持参すること。 また授業内容については、参加人数で適宜変更して行うこともある。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-132 CT-L-132 SD-L-132 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	100-131-21 （Ｊ）	授業コード	F01772
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ Ⅰ			単位数	1.0 単位
英文名称	Physical Education Ⅰ			授業区分	演習
科目責任者	塩嶋　理恵			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	塩嶋　理恵			開講時期	1･2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	健康・体力づくりは、国民全体の大きな課題となっている。この科目の目標は、スポーツその他の身体運動（体操・バドミントン・バレーボール）を通して継続できるスポーツを選択しながら、健康志向への動機付けを図り、それらの実践に関する知識や技術を得ると共に、その方法を自分自身に当てはめ、応用展開する能力を体験して養ってもらうことである。スポーツ文化に親しむとともに、健康維持のため、スポーツに楽しく取り組む姿勢を作ることが最大のねらいである。 スポーツⅠの実技種目は、インドア（体育館）で体操・バドミントン・バレーボールなどを行う。				
到達目標	各種スポーツにおけるルールの理解・個々のスキルアップを目指す。 またチームプレイを通して協調性を養う。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	塩嶋　理恵	【第 1 回】 予習　：体育実技にふさわしい服装の準備 授業　：ガイダンス（授業説明・注意事項） 復習　：高等学校で使用した体育館専用シューズの確認
2	塩嶋　理恵	【第 2 回】 予習　：体育実技にふさわしい服装と体育館専用シューズの準備 授業　：ゆがみ修正体操（実習） 復習　：ゆがみ修正体操　復習
3	塩嶋　理恵	【第 3 回】 予習　：服装とシューズの準備 授業　：バドミントン（基本練習・サーブ）（実習） 復習　：バドミントンのサーブの復習
4	塩嶋　理恵	【第 4 回】 予習　：バドミントンのルール確認。服装とシューズの準備 授業　：バドミントン（ゲーム・ルール説明）（実習） 復習　：バドミントンのルールの復習
5	塩嶋　理恵	【第 5 回】 予習　：バドミントンのゲーム方法の確認。服装とシューズの準備 授業　：バドミントン（ゲーム・マナー）（実習） 復習　：バドミントンのゲームとマナーの復習
6	塩嶋　理恵	【第 6 回】 予習　：バドミントンのゲーム方法の確認。服装とシューズの準備 授業　：バドミントン（ゲーム・フォーメーション）（実習） 復習　：バドミントンのゲームとフォーメーションの復習
7	塩嶋　理恵	【第 7 回】 予習　：バドミントンのシングルスゲーム方法の確認。服装とシューズの準備 授業　：バドミントン（ゲーム・フォーメーション）（実習） 復習　：バドミントンのゲームとフォーメーションの復習
8	塩嶋　理恵	【第 8 回】 予習　：バドミントンのダブルスゲーム方法の確認。服装とシューズの準備 授業　：バドミントン（ゲーム・フォーメーション）（実習） 復習　：バドミントンのゲームとフォーメーションの復習
9	塩嶋　理恵	【第 9 回】 予習　：バレーボールのオーバー・アンダーハンドパスの予習 授業　：バレーボール（基本練習、オーバー・アンダーハンドパス）（実習） 復習　：バレーボールのオーバー・アンダーハンドパスの復習
10	塩嶋　理恵	【第 10 回】 予習　：バレーボールのアンダーサーブ・オーバーサーブの予習 授業　：バレーボール（基本練習・サーブ）（実習） 復習　：バレーボールのアンダー・オーバーサーブの復習

11	塩嶋　理恵	【第 11 回】 予習　：バレーボールのサーブとレシーブの予習 授業　：バレーボール（基本練習・サーブとレシーブ）（実習） 復習　：バレーボールのサーブとレシーブの復習
12	塩嶋　理恵	【第 12 回】 予習　：バレーボールのゲーム・ルールの予習 授業　：バレーボール（ゲーム・ルール説明）（実習） 復習　：バレーボールのゲーム・ルールの復習
13	塩嶋　理恵	【第 13 回】 予習　：バレーボールのルールとマナーの予習 授業　：バレーボール（ゲーム・ルールとマナー説明）（実習） 復習　：バレーボールのルールとマナーの復習
14	塩嶋　理恵	【第 14 回】 予習　：バレーボールのルールとマナーの予習 授業　：バレーボール（ゲーム・ルールとマナー説明）（実習） 復習　：バレーボールのルールとマナーの復習
15	塩嶋　理恵	【第 15 回】 予習　：バスケットボールのドリブルの予習 授業　：バスケットボール（基本練習・ドリブル）（実習） 復習　：バスケットボールのドリブルの復習

授業開始前学習	体育実技にふさわしい服装の準備と高等学校で使用した体育館専用シューズの確認
授業内課題のフィードバックの方法	授業８回目、１４回目に各種目ごとのゲーム結果を発表し、個人、チーム全体の講評を行う。 個別の質問に回答する。
テキスト・教材	特にありません
参考書	
評価の基準と方法	実技態度 70%、技術・試合評価 30%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	○	○				

関連科目	スポーツⅡ
その他	人数調整等により卓球などの他のスポーツを並行して実施することもある。 体操　では各自バスタオルを準備すること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	競技チアリーディング上級指導資格・審査員資格をもち、幼児から大学生までを指導してきた経験を活かし、体のストレッチングや柔軟性を高めるよう授業に取り入れて行う。

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-132 CT-L-132 SD-L-132	科目分類（～2024 年入学者）	100-131-21	授業コード	F01781
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	Physical EducationⅡ			授業区分	演習
科目責任者	三辻　浩子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三辻　浩子			開講時期	1･2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	自分の身体とは一生つきあって行かねばなりません。そして健康を維持する事が Happy につながります。ストレスの多い日々の中で、音楽を使った運動で心も身体もリフレッシュしましょう。J-pop や K-pop も含め楽しい曲に合わせて動きます。初心者でも問題なく動ける STEP の組み合わせなので安心して参加してください。また、トレーニングの中にはヨガやストレッチ、レジスタンス（筋トレ）の要素も織り交ぜ、バランスよく楽しく運動を進めて行きましょう。毎回、スポーツクラブの 1 レッスン（60 分）が受けられるのと同様のイメージをしてください。最後は横になってヒーリング音楽で安らぎましょう。					
到達目標	・体力向上やシェイプアップできる運動を学ぶ ・身体に良い食事のアドバイス ・基本的な STEP を習得し楽しく動く事を学ぶ ・正しい姿勢を習得することを学ぶ				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	三辻　浩子	【第 1 回】 授業　：エアロビクスとは　実技 1（フレックスクッション導入）（実習） ＊健康を考える 予習：エアロビクスについて調べておく 復習：本日の STEP を合致させておく
2	三辻　浩子	【第 2 回】 授業　：ウオームアップについて　実技 2（実習） ＊自己管理法 予習：ウォームアップについて調べておく 復習：本日の STEP を覚える
3	三辻　浩子	【第 3 回】 授業　：メインエクササイズについて　実技 3（実習） ＊H.R（脈拍の変化について） 予習：本日の STEP を合致させておく 復習　：本日のＳＴＥＰを覚える
4	三辻　浩子	【第 4 回】 授業　：筋肉強化エクササイズついて　実技 4（ダンベル導入）（実習） ＊筋肉をつけるための食事について 予習：本日の STEP を合致させておく 復習　：本日のＳＴＥＰを覚える
5	三辻　浩子	【第 5 回】 授業　：クールダウンについて　実技 5　（実習） ＊食事についてアドバイス 予習：本日の STEP を合致させておく 復習　：本日の STEP を覚える
6	三辻　浩子	【第 6 回】 授業　：（1）STEP のコンビネーションについて　実技 6（実習） ＊Step の組み合わせ方について 予習：今までの STEP 名を合致させておく 復習　：本日の STEP コンビネーションを復習
7	三辻　浩子	【第 7 回】 授業　：（2）アームス導入　実技 7（実習） ＊Step の組み合わせと腕の動きについて 予習　：今までの STEP 名を合致させておく 復習　：本日の STEP コンビネーションを復習
8	三辻　浩子	【第 8 回】 授業　：（3）フォーメーション・方向の導入　実技 8（実習） ＊Step の組み合わせと重心の移動について（運動量を上げる方法） 予習　：今までの STEP 名を合致させておく 復習　：フォーメーションの種類を復習

9	三辻　浩子	【第 9 回】 授業　：（4）　キューイングの導入　実技 9（実習） 　　＊Step の組み合わせと声出しについて 予習　：自分で 32 カウントの創作をしてみる（STEP のみ） 復習　：32 カウントの創作したものを復習
10	三辻　浩子	【第 10 回】 授業　：（1）自分で組み合わせてみる　実技 10　（実習） 　　＊Lesson の途中に 32 カウント創作の発表 予習　：自分で 32 カウントの創作をしてみる（アームス入れ） 復習：自分で創作したものを好きな曲で復習
11	三辻　浩子	【第 11 回】 授業　：（2）自分で組み合わせてみる　実技 11（実習） 予習：自分で 32 カウントの創作をしてみる（方向入れ） 復習：自分で創作したものを好きな曲で復習
12	三辻　浩子	【第 12 回】 授業　：（3）自分で組み合わせてみる　実技 12（実習） 予習：自分で 32 カウントの創作をしてみる（シンメトリー） 復習　：自分で創作したものを好きな曲で復習
13	三辻　浩子	【第 13 回】 授業　：（4）自分で組み合わせてみる　実技 13（実習） 予習：自分で創作してみる 復習　：自分で創作したものを好きな曲で復習
14	三辻　浩子	【第 14 回】 授業　：（5）自分で組み合わせてみる　実技 14（実習） 予習：今までのまとめ 復習　：自分で創作したものを好きな曲で復習
15	三辻　浩子	【第 15 回】 授業　：まとめ　　実技 15（実習） 予習：提出物の見直し（ステップシート） 復習：今後の自分なりの健康管理を考える

授業開始前学習	『エアロビクス』が生まれた背景を調べておく。ケネス・H・クーパー、ジャッキー・ソーレンセン、ジェーン・フォンダの 3 人物を調べておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	少しずつ学び覚えた Step を組み合わせ創作を行う。その Step Sheet（用紙あり）を提出する。それに対してコメント（フィードバック）を行う。
テキスト・教材	プリント配布
参考書	
評価の基準と方法	実技＋授業態度（片付け・協力度・楽しく動いているか）・・・(80%) 提出物（ステップシート）・・・(20%)
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	○	○				

関連科目	
その他	シューズ・ソックス・ウエアー（動ける用意）・筆記用具・タオル・飲料（水分補給）を持参のこと
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）	CS-L-132 CT-L-132 SD-L-132 （Ｊ）	科目分類（～2024年入学者）	100-131-21 （Ｊ）	授業コード	F01782
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂⅡ			単位数	1.0単位
英文名称	Physical EducationⅡ			授業区分	演習
科目責任者	塩嶋　理恵			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	塩嶋　理恵			開講時期	1･2年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	自分の身体とは一生つきあっていかねばならない。そして健康を維持する事が幸せにつながる。更になりたい自分の身体づくりをすることは楽しさにもつながる。脂肪燃焼の仕方、筋肉の適正な付け方、きれいな姿勢など身体を意識していく。本授業では、ソフトバレーボール・卓球・軽スポーツなどを行う。スポーツ文化に親しむとともに、健康維持のため、スポーツに楽しく取り組む姿勢を作ることが最大のねらいである。 スポーツⅡの実技種目は、インドア（体育館）でソフトバレーボール・卓球・軽スポーツなどを行う。				
到達目標	各種スポーツにおけるルールの理解・個々のスキルアップを目指す。 またチームプレイを通して協調性を養う。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	塩嶋　理恵	【第1回】 予習　：体育実技にふさわしい服装の準備 授業　：ガイダンス（授業説明・注意事項） 復習　：高等学校で使用した体育館専用シューズの確認
2	塩嶋　理恵	【第2回】 予習　：体育実技にふさわしい服装と体育館専用シューズの準備 授業　：リラックスヨガ（実習） 復習　：リラックスヨガの復習
3	塩嶋　理恵	【第3回】 予習　：服装とシューズの準備 授業　：ソフトバレーボール（基本練習・サーブ）（実習） 復習　：ソフトバレーボールサーブの復習
4	塩嶋　理恵	【第4回】 予習　：ソフトバレーボールのルール確認。服装とシューズの準備 授業　：ソフトバレーボール（ゲーム・ルール説明）（実習） 復習　：ソフトバレーボールのルールの復習
5	塩嶋　理恵	【第5回】 予習　：ソフトバレーボールのゲーム方法の確認。服装とシューズの準備 授業　：ソフトバレーボール（ゲーム・マナー）（実習） 復習　：ソフトバレーボールのゲームとマナーの復習
6	塩嶋　理恵	【第6回】 予習　：ソフトバレーボールのゲーム方法の確認。服装とシューズの準備 授業　：ソフトバレーボール（ゲーム・フォーメーション）（実習） 復習　：ソフトバレーボールのゲームとフォーメーションの復習
7	塩嶋　理恵	【第7回】 予習　：ソフトバレーボールゲーム方法の確認。服装とシューズの準備 授業　：ソフトバレーボール（ゲーム・フォーメーション）（実習） 復習　：ソフトバレーボールのフォーメーションの復習
8	塩嶋　理恵	【第8回】 予習　：ソフトバレーボールゲーム方法の確認。服装とシューズの準備 授業　：ソフトバレーボール（ゲーム・フォーメーション）（実習） 復習　：ソフトバレーボールのゲームとフォーメーションの復習
9	塩嶋　理恵	【第9回】 予習　：卓球のフォア・バックの予習 授業　：卓球（基本練習、フォア・バック）（実習） 復習：卓球のフォア・バックの復習
10	塩嶋　理恵	【第10回】 予習　：卓球のサーブの予習 授業　：卓球（基本練習・サーブ）（実習） 復習　：卓球のサーブの復習

11	塩嶋　理恵	【第 11 回】 予習　：卓球のサーブとレシーブの予習 授業　：卓球（基本練習・サーブとレシーブ）（実習） 復習　：卓球のサーブとレシーブの復習
12	塩嶋　理恵	【第 12 回】 予習　：卓球のゲーム・ルールの予習 授業　：卓球（ゲーム・ルール説明）（実習） 復習　：卓球のゲーム・ルールの復習
13	塩嶋　理恵	【第 13 回】 予習　：卓球のルールとマナーの予習 授業　：卓球（ゲーム・ルールとマナー説明）（実習） 復習　：卓球のルールとマナーの復習
14	塩嶋　理恵	【第 14 回】 予習　：卓球のルールとマナーの予習 授業　：卓球（ゲーム・ルールとマナー説明）（実習） 復習　：卓球のルールとマナーの復習
15	塩嶋　理恵	【第 15 回】 予習　：卓球のゲームとルールの予習 授業　：卓球（ゲーム・ルールの説明）（実習） 復習　：卓球のゲームとルールの復習

授業開始前学習	体育実技にふさわしい服装の準備と高等学校で使用した体育館専用シューズの確認
授業内課題のフィードバックの方法	授業８回目、１４回目に各種目ごとのゲーム結果を発表し、個人、チーム全体の講評を行う。 個別の質問に回答する。
テキスト・教材	特にありません
参考書	
評価の基準と方法	実技態度 70%、技術・試合評価 30%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	○	○				

関連科目	スポーツⅠ
その他	人数に応じて、バドミントンや軽スポーツなどの他のスポーツを並行して実施することもあります。 リラックスヨガでは各自バスタオルを準備すること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	競技チアリーディング上級指導資格・審査員資格をもち、幼児から大学生までを指導してきた経験を活かし、体のストレッチングや柔軟性を高めるよう授業に取り入れて行う。

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-21	授業コード	F02011
科目名称	言語表現演習 I			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on Japanese Representation I			授業区分	演習
科目責任者	松村 良			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松村 良			開講時期	1 年
オフィスアワー	前期 水曜日 16:20～17:50 金曜日 14:40～16:10 後期 水曜日 14:40～16:10 金曜日 14:40～16:10			研究室	10-617
授業概要	ふだん意識せずに使っている日本語の特徴や、自分の日本語に関する知識を確認しながら、コミュニケーションツールとしての日本語を適切に使いこなすための基礎的な技術を学ぶ。敬語の使い方、文法上問題のある表現、文章の形式や構成などについて、教科書の問題を考え、実際に文章を書いて理解を深めていく。この授業では課題解決型学習を行う。				
到達目標	大学生として、また社会人として必要な日本語の運用能力を養うことや、様々な文章表現に親しみ、各自の言語生活を豊かなものにしながら、大学生にふさわしい文章を書けるようになること、日本語についての知識と教養を深め、専門分野での発表やレポート作成に必要な日本語力を身につけることを目標とする。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	松村 良	【第 1 回】 予習 ：教科書 2 冊（a と b）を準備して目を通す。教科書 a の 12～14 頁を読んでおく。 授業 ：前期の授業の進め方について説明する。教科書 a「敬語の種類と使い分け」（12～14 頁）について説明する。 復習 ：教科書 a の 12～14 頁を復習する。
2	松村 良	【第 2 回】 予習 ：教科書 a の 15～17 頁の練習・応用問題を予習する。 授業 ：教科書 a「敬語の種類と使い分け」の練習・応用問題（15～17 頁）の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。 復習 ：教科書 a の 15～17 頁を復習する。
3	松村 良	【第 3 回】 予習 ：教科書 a の 18～20 頁を読み、21～23 頁の練習・応用問題を予習しておく。 授業 ：教科書 a「注意すべき敬語」（18～20 頁）について説明し、練習・応用問題（21～23 頁）の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。 復習 ：教科書 a の 18～23 頁を復習する
4	松村 良	【第 4 回】 予習 ：教科書 a の 24～26 頁と、教科書 b の 39～46 頁を読んでおく。 授業 ：教科書 a「配慮を示す言葉」（24～26 頁）について説明する。教科書 b「手紙を書こう」（39～46 頁）について説明する。 復習 ：教科書 a の 24～26 頁と、教科書 b の 39～46 頁を復習する。
5	松村 良	【第 5 回】 予習 ：教科書 b の 39～46 頁を読み直す。 授業 ：教科書 b「手紙を書こう」（39～46 頁）の知識が身に付いているかを小テスト 1 で確認する。作文課題 1（手紙文）を授業時間内に書いて提出する（課題解決型学習）。 復習 ：手紙文の書き方を復習する。
6	松村 良	【第 6 回】 予習 ：教科書 a の 27～29 頁の練習・応用問題を予習しておく。 授業 ：作文課題 1 を返却し、解説する。教科書 a「配慮を示す言葉」の練習・応用問題（27～29 頁）の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。 復習 ：教科書 a の 27～29 頁を復習する。
7	松村 良	【第 7 回】 予習 ：教科書 a の 32～34 頁を読み、35～36 頁の練習問題を予習しておく。 授業 ：教科書 a「品詞・活用の種類」（32～34 頁）について説明してから、練習問題（35～36 頁）の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。 復習 ：教科書 a の 32～36 頁を復習する。
8	松村 良	【第 8 回】 予習 ：教科書 a の 37 頁の応用問題を予習しておく。教科書 b の 5～10 頁を読んでおく。 授業 ：教科書 a「品詞・活用の種類」の応用問題（37 頁）の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。教科書 b「まずは書いてみよう」（5～10 頁）について説明する。 復習 ：教科書 a の 37 頁と、教科書 b の 5～10 頁を復習する。
9	松村 良	【第 9 回】 予習 ：教科書 b の 11～18 頁を読んでおく。 授業 ：教科書 b「よい文章を書くために」（11～18 頁）の「（1）「文」を書くときの注意点」（11～13 頁）について説明してから、作文課題 2（原稿用紙に書く）を授業時間内に書いて提出する（課題解決型学習）。 復習 ：「文」を書くときの注意点と、原稿用紙の使い方を復習する。

10	松村　良	【第 10 回】 予習　：教科書 b の 11～18 頁を読み直す。 授業　：作文課題 2 を返却し、解説する。教科書 b「よい文章を書くために」（11～18 頁）の「(2)「文」から「文章」へ」以降（13～18 頁）について説明する。 復習　：教科書 b の 11～18 頁を復習する。
11	松村　良	【第 11 回】 予習　：教科書 a の 38～40 頁を読んでおく。教科書 b の 5～18 頁を読み直す。 授業　：教科書 b「まずは書いてみよう」（5～10 頁）・「よい文章を書くために」（11～18 頁）の知識が身に付いているかを小テスト 2 で確認する。教科書 a「ら抜き言葉・レタス言葉・さ入れ言葉」（38～40 頁）について説明する。 復習　：教科書 a の 38～40 頁と、教科書 b の 5～18 頁を復習する。
12	松村　良	【第 12 回】 予習　：教科書 a の 41～43 頁の練習・応用問題を予習し、44～46 頁を読んでおく。 授業　：教科書 a「ら抜き言葉・レタス言葉・さ入れ言葉」の練習・応用問題（41～43 頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、「文のねじれと言葉の係り受け・あいまい文」（44～46 頁）について説明する。 復習　：教科書 a の 41～46 頁を復習する。
13	松村　良	【第 13 回】 予習　：教科書 b の 19～21 頁を読んでおく。 授業　：教科書 b「さあ文章を書いてみよう」（19～21 頁）を説明してから、作文課題 3（論理的な文章）の下書き（構成）を考えさせた上で、宿題にする（課題解決型学習）。 復習　：教科書 b の 19～21 頁を復習する。作文課題 3 を書いて Classroom に提出する。
14	松村　良	【第 14 回】 予習　：教科書 a の 47～49 頁の練習・応用問題を予習する。 授業　：教科書 a「文のねじれと言葉の係り受け・あいまい文」の練習・応用問題（47～49 頁）の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。教科書 a で前期に学んだことを振り返る。 復習　：教科書 a の 47～49 頁と、教科書 a で前期に学んだことを復習する。
15	松村　良	【第 15 回】 予習　：教科書 b の 19～21 頁を読み直す。前期の授業内容を振り返る。 授業　：教科書 b の「さあ文章を書いてみよう」（19～21 頁）の知識が身に付いているかを小テスト 3 で確認する。作文課題 3 を解説する。教科書 b で前期に学んだことを振り返る。 復習　：教科書 b で前期の授業で学んだことを復習する。

授業開始前学習	教科書に目を通して、どんなことを学ぶのか内容を確認しておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	日本語についての基礎的な問題や、作文課題、授業内テストを実施する。課題は返却後講評を行い、個別の質問に回答する。
テキスト・教材	a『スキルアップ! 日本語力』名古屋大学日本語研究会 GK 7 著（東京書籍） b『日本語表現法　新訂版』庄司達也・山岸郁子・小野美典・安達原達晴著（翰林書房） 教科書は必ず 2 冊とも買うこと。
参考書	
評価の基準と方法	定期試験（60%）と作文課題・授業内テスト（40%）で評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				○	

関連科目	
その他	毎回、国語辞典（電子辞書可）を持ってくること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-21	授業コード	F02013
科目名称	言語表現演習 I			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on Japanese Representation I			授業区分	演習
科目責任者	木内 英実			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	木内 英実			開講時期	1 年
オフィスアワー	前期 火曜日 10:40～12:10 水曜日 14:40～16:10 後期 火曜日 16:20～17:50 水曜日 16:20～17:50			研究室	10-620
授業概要	ふだん意識せずに使っている日本語の特徴や、自分の日本語に関する知識を確認しながら、コミュニケーションツールとしての日本語を適切に使いこなすための基礎的な技術を学ぶ。敬語の使い方、文法上問題のある表現、文章の形式や構成などについて、教科書の問題を考え、実際に文章を書いて理解を深めていく。この授業では課題解決型学習を行う。				
到達目標	大学生として、また社会人として必要な日本語の運用能力を養うことや、様々な文章表現に親しみ、各自の言語生活を豊かなものにしながら、大学生にふさわしい文章を書けるようになること、日本語についての知識と教養を深め、専門分野での発表やレポート作成に必要な日本語力を身につけることを目標とする。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	−	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	木内 英実	【第 1 回】 予習 ：教科書 2 冊（a と b）を準備して目を通す。教科書 a の 12～14 頁を読んでおく。 授業 ：前期の授業の進め方について説明する。教科書 a「敬語の種類と使い分け」（12～14 頁）について説明する。 復習 ：教科書 a の 12～14 頁を復習する。
2	木内 英実	【第 2 回】 予習 ：教科書 a の 15～17 頁の練習・応用問題を予習する。 授業 ：教科書 a「敬語の種類と使い分け」の練習・応用問題（15～17 頁）の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。 復習 ：教科書 a の 15～17 頁を復習する。
3	木内 英実	【第 3 回】 予習 ：教科書 a の 18～20 頁を読み、21～23 頁の練習・応用問題を予習しておく。 授業 ：教科書 a「注意すべき敬語」（18～20 頁）について説明し、練習・応用問題（21～23 頁）の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。 復習 ：教科書 a の 18～23 頁を復習する
4	木内 英実	【第 4 回】 予習 ：教科書 a の 24～26 頁と、教科書 b の 39～46 頁を読んでおく。 授業 ：教科書 a「配慮を示す言葉」（24～26 頁）について説明する。教科書 b「手紙を書こう」（39～46 頁）について説明する。 復習 ：教科書 a の 24～26 頁と、教科書 b の 39～46 頁を復習する。
5	木内 英実	【第 5 回】 予習 ：教科書 b の 39～46 頁を読み直す。 授業 ：教科書 b「手紙を書こう」（39～46 頁）の知識が身に付いているかを小テスト 1 で確認する。作文課題 1（手紙文）を授業時間内に書いて提出する（課題解決型学習）。 復習 ：手紙文の書き方を復習する。
6	木内 英実	【第 6 回】 予習 ：教科書 a の 27～29 頁の練習・応用問題を予習しておく。 授業 ：作文課題 1 を返却し、解説する。教科書 a「配慮を示す言葉」の練習・応用問題（27～29 頁）の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。 復習 ：教科書 a の 27～29 頁を復習する。
7	木内 英実	【第 7 回】 予習 ：教科書 a の 32～34 頁を読み、35～36 頁の練習問題を予習しておく。 授業 ：教科書 a「品詞・活用の種類」（32～34 頁）について説明してから、練習問題（35～36 頁）の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。 復習 ：教科書 a の 32～36 頁を復習する。
8	木内 英実	【第 8 回】 予習 ：教科書 a の 37 頁の応用問題を予習しておく。教科書 b の 5～10 頁を読んでおく。 授業 ：教科書 a「品詞・活用の種類」の応用問題（37 頁）の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。教科書 b「まずは書いてみよう」（5～10 頁）について説明する。 復習 ：教科書 a の 37 頁と、教科書 b の 5～10 頁を復習する。
9	木内 英実	【第 9 回】 予習 ：教科書 b の 11～18 頁を読んでおく。 授業 ：教科書 b「よい文章を書くために」（11～18 頁）の「（1）「文」を書くときの注意点」（11～13 頁）について説明してから、作文課題 2（原稿用紙に書く）を授業時間内に書いて提出する（課題解決型学習）。 復習 ：「文」を書くときの注意点と、原稿用紙の使い方を復習する。

10	木内　英実	【第 10 回】 予習　：教科書 b の 11～18 頁を読み直す。 授業　：作文課題 2 を返却し、解説する。教科書 b「よい文章を書くために」（11～18 頁）の「(2)「文」から「文章」へ」以降（13～18 頁）について説明する。 復習　：教科書 b の 11～18 頁を復習する。
11	木内　英実	【第 11 回】 予習　：教科書 a の 38～40 頁を読んでおく。教科書 b の 5～18 頁を読み直す。 授業　：教科書 b「まずは書いてみよう」（5～10 頁）・「よい文章を書くために」（11～18 頁）の知識が身に付いているかを小テスト 2 で確認する。教科書 a「ら抜き言葉・レタス言葉・さ入れ言葉」（38～40 頁）について説明する。 復習　：教科書 a の 38～40 頁と、教科書 b の 5～18 頁を復習する。
12	木内　英実	【第 12 回】 予習　：教科書 a の 41～43 頁の練習・応用問題を予習し、44～46 頁を読んでおく。 授業　：教科書 a「ら抜き言葉・レタス言葉・さ入れ言葉」の練習・応用問題（41～43 頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、「文のねじれと言葉の係り受け・あいまい文」（44～46 頁）について説明する。 復習　：教科書 a の 41～46 頁を復習する。
13	木内　英実	【第 13 回】 予習　：教科書 b の 19～21 頁を読んでおく。 授業　：教科書 b「さあ文章を書いてみよう」（19～21 頁）を説明してから、作文課題 3（論理的な文章）の下書き（構成）を考えさせた上で、宿題にする（課題解決型学習）。 復習　：教科書 b の 19～21 頁を復習する。作文課題 3 を書いて Classroom に提出する。
14	木内　英実	【第 14 回】 予習　：教科書 a の 47～49 頁の練習・応用問題を予習する。 授業　：教科書 a「文のねじれと言葉の係り受け・あいまい文」の練習・応用問題（47～49 頁）の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。教科書 a で前期に学んだことを振り返る。 復習　：教科書 a の 47～49 頁と、教科書 a で前期に学んだことを復習する。
15	木内　英実	【第 15 回】 予習　：教科書 b の 19～21 頁を読み直す。前期の授業内容を振り返る。 授業　：教科書 b の「さあ文章を書いてみよう」（19～21 頁）の知識が身に付いているかを小テスト 3 で確認する。作文課題 3 を解説する。教科書 b で前期に学んだことを振り返る。 復習　：教科書 b で前期の授業で学んだことを復習する。

授業開始前学習	教科書に目を通して、どんなことを学ぶのか内容を確認しておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	日本語についての基礎的な問題や、作文課題、授業内テストを実施する。課題は返却後講評を行い、個別の質問に回答する。
テキスト・教材	a『スキルアップ! 日本語力』名古屋大学日本語研究会 GK 7 著（東京書籍） b『日本語表現法　新訂版』庄司達也・山岸郁子・小野美典・安達原達晴著（翰林書房） 教科書は必ず 2 冊とも買うこと。
参考書	
評価の基準と方法	定期試験（60%）と作文課題・授業内テスト（40%）で評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				○	

関連科目	
その他	毎回、国語辞典（電子辞書可）を持ってくること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-21	授業コード	F02015
科目名称	言語表現演習 I			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on Japanese Representation I			授業区分	演習
科目責任者	大内 瑞恵			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	大内 瑞恵			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	ふだん意識せずに使っている日本語の特徴や、自分の日本語に関する知識を確認しながら、コミュニケーションツールとしての日本語を適切に使いこなすための基礎的な技術を学ぶ。敬語の使い方、文法上問題のある表現、文章の形式や構成などについて、教科書の問題を考え、実際に文章を書いて理解を深めていく。この授業では課題解決型学習を行う。				
到達目標	大学生として、また社会人として必要な日本語の運用能力を養うことや、様々な文章表現に親しみ、各自の言語生活を豊かなものにしながら、大学生にふさわしい文章を書けるようになること、日本語についての知識と教養を深め、専門分野での発表やレポート作成に必要な日本語力を身につけることを目標とする。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	大内 瑞恵	【第 1 回】 予習 ：教科書 2 冊（a と b）を準備して目を通す。教科書 a の 12～14 頁を読んでおく。 授業 ：前期の授業の進め方について説明する。教科書 a「敬語の種類と使い分け」（12～14 頁）について説明する。 復習 ：教科書 a の 12～14 頁を復習する。
2	大内 瑞恵	【第 2 回】 予習 ：教科書 a の 15～17 頁の練習・応用問題を予習する。 授業 ：教科書 a「敬語の種類と使い分け」の練習・応用問題（15～17 頁）の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。 復習 ：教科書 a の 15～17 頁を復習する。
3	大内 瑞恵	【第 3 回】 予習 ：教科書 a の 18～20 頁を読み、21～23 頁の練習・応用問題を予習しておく。 授業 ：教科書 a「注意すべき敬語」（18～20 頁）について説明し、練習・応用問題（21～23 頁）の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。 復習 ：教科書 a の 18～23 頁を復習する
4	大内 瑞恵	【第 4 回】 予習 ：教科書 a の 24～26 頁と、教科書 b の 39～46 頁を読んでおく。 授業 ：教科書 a「配慮を示す言葉」（24～26 頁）について説明する。教科書 b「手紙を書こう」（39～46 頁）について説明する。 復習 ：教科書 a の 24～26 頁と、教科書 b の 39～46 頁を復習する。
5	大内 瑞恵	【第 5 回】 予習 ：教科書 b の 39～46 頁を読み直す。 授業 ：教科書 b「手紙を書こう」（39～46 頁）の知識が身に付いているかを小テスト 1 で確認する。作文課題 1（手紙文）を授業時間内に書いて提出する（課題解決型学習）。 復習 ：手紙文の書き方を復習する。
6	大内 瑞恵	【第 6 回】 予習 ：教科書 a の 27～29 頁の練習・応用問題を予習しておく。 授業 ：作文課題 1 を返却し、解説する。教科書 a「配慮を示す言葉」の練習・応用問題（27～29 頁）の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。 復習 ：教科書 a の 27～29 頁を復習する。
7	大内 瑞恵	【第 7 回】 予習 ：教科書 a の 32～34 頁を読み、35～36 頁の練習問題を予習しておく。 授業 ：教科書 a「品詞・活用の種類」（32～34 頁）について説明してから、練習問題（35～36 頁）の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。 復習 ：教科書 a の 32～36 頁を復習する。
8	大内 瑞恵	【第 8 回】 予習 ：教科書 a の 37 頁の応用問題を予習しておく。教科書 b の 5～10 頁を読んでおく。 授業 ：教科書 a「品詞・活用の種類」の応用問題（37 頁）の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。教科書 b「まずは書いてみよう」（5～10 頁）について説明する。 復習 ：教科書 a の 37 頁と、教科書 b の 5～10 頁を復習する。
9	大内 瑞恵	【第 9 回】 予習 ：教科書 b の 11～18 頁を読んでおく。 授業 ：教科書 b「よい文章を書くために」（11～18 頁）の「（1）「文」を書くときの注意点」（11～13 頁）について説明してから、作文課題 2（原稿用紙に書く）を授業時間内に書いて提出する（課題解決型学習）。 復習 ：「文」を書くときの注意点と、原稿用紙の使い方を復習する。

10	大内　瑞恵	【第 10 回】 予習　：教科書 b の 11～18 頁を読み直す。 授業　：作文課題 2 を返却し、解説する。教科書 b「よい文章を書くために」（11～18 頁）の「(2)「文」から「文章」へ」以降（13～18 頁）について説明する。 復習　：教科書 b の 11～18 頁を復習する。
11	大内　瑞恵	【第 11 回】 予習　：教科書 a の 38～40 頁を読んでおく。教科書 b の 5～18 頁を読み直す。 授業　：教科書 b「まずは書いてみよう」（5～10 頁）・「よい文章を書くために」（11～18 頁）の知識が身に付いているかを小テスト 2 で確認する。教科書 a「ら抜き言葉・レタス言葉・さ入れ言葉」（38～40 頁）について説明する。 復習　：教科書 a の 38～40 頁と、教科書 b の 5～18 頁を復習する。
12	大内　瑞恵	【第 12 回】 予習　：教科書 a の 41～43 頁の練習・応用問題を予習し、44～46 頁を読んでおく。 授業　：教科書 a「ら抜き言葉・レタス言葉・さ入れ言葉」の練習・応用問題（41～43 頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、「文のねじれと言葉の係り受け・あいまい文」（44～46 頁）について説明する。 復習　：教科書 a の 41～46 頁を復習する。
13	大内　瑞恵	【第 13 回】 予習　：教科書 b の 19～21 頁を読んでおく。 授業　：教科書 b「さあ文章を書いてみよう」（19～21 頁）を説明してから、作文課題 3（論理的な文章）の下書き（構成）を考えさせた上で、宿題にする（課題解決型学習）。 復習　：教科書 b の 19～21 頁を復習する。作文課題 3 を書いて Classroom に提出する。
14	大内　瑞恵	【第 14 回】 予習　：教科書 a の 47～49 頁の練習・応用問題を予習する。 授業　：教科書 a「文のねじれと言葉の係り受け・あいまい文」の練習・応用問題（47～49 頁）の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。教科書 a で前期に学んだことを振り返る。 復習　：教科書 a の 47～49 頁と、教科書 a で前期に学んだことを復習する。
15	大内　瑞恵	【第 15 回】 予習　：教科書 b の 19～21 頁を読み直す。前期の授業内容を振り返る。 授業　：教科書 b の「さあ文章を書いてみよう」（19～21 頁）の知識が身に付いているかを小テスト 3 で確認する。作文課題 3 を解説する。教科書 b で前期に学んだことを振り返る。 復習　：教科書 b で前期の授業で学んだことを復習する。

授業開始前学習	教科書に目を通して、どんなことを学ぶのか内容を確認しておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	日本語についての基礎的な問題や、作文課題、授業内テストを実施する。課題は返却後講評を行い、個別の質問に回答する。
テキスト・教材	a『スキルアップ! 日本語力』名古屋大学日本語研究会 GK 7 著（東京書籍） b『日本語表現法　新訂版』庄司達也・山岸郁子・小野美典・安達原達晴著（翰林書房） 教科書は必ず 2 冊とも買うこと。
参考書	
評価の基準と方法	定期試験（60%）と作文課題・授業内テスト（40%）で評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				○	

関連科目	
その他	毎回、国語辞典（電子辞書可）を持ってくること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-21	授業コード	F02017
科目名称	言語表現演習 I			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on Japanese Representation I			授業区分	演習
科目責任者	何　芸芃			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	何　芸芃			開講時期	1 年
オフィスアワー	前期　火曜日 10:40～12:10　水曜日 14:40～16:10 後期　火曜日 10:40～12:10　水曜日 14:40～16:10			研究室	16-307
授業概要	ふだん意識せずに使っている日本語の特徴や、自分の日本語に関する知識を確認しながら、コミュニケーションツールとしての日本語を適切に使いこなすための基礎的な技術を学ぶ。敬語の使い方、文法上問題のある表現、文章の形式や構成などについて、教科書の問題を考え、実際に文章を書いて理解を深めていく。この授業では課題解決型学習を行う。				
到達目標	大学生として、また社会人として必要な日本語の運用能力を養うことや、様々な文章表現に親しみ、各自の言語生活を豊かなものにしながら、大学生にふさわしい文章を書けるようになること、日本語についての知識と教養を深め、専門分野での発表やレポート作成に必要な日本語力を身につけることを目標とする。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	何　芸芃	【第 1 回】 予習　：教科書 2 冊（a と b）を準備して目を通す。教科書 a の 12～14 頁を読んでおく。 授業　：前期の授業の進め方について説明する。教科書 a「敬語の種類と使い分け」（12～14 頁）について説明する。 復習　：教科書 a の 12～14 頁を復習する。
2	何　芸芃	【第 2 回】 予習　：教科書 a の 15～17 頁の練習・応用問題を予習する。 授業　：教科書 a「敬語の種類と使い分け」の練習・応用問題（15～17 頁）の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。 復習　：教科書 a の 15～17 頁を復習する。
3	何　芸芃	【第 3 回】 予習　：教科書 a の 18～20 頁を読み、21～23 頁の練習・応用問題を予習しておく。 授業　：教科書 a「注意すべき敬語」（18～20 頁）について説明し、練習・応用問題（21～23 頁）の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。 復習　：教科書 a の 18～23 頁を復習する
4	何　芸芃	【第 4 回】 予習　：教科書 a の 24～26 頁と、教科書 b の 39～46 頁を読んでおく。 授業　：教科書 a「配慮を示す言葉」（24～26 頁）について説明する。教科書 b「手紙を書こう」（39～46 頁）について説明する。 復習　：教科書 a の 24～26 頁と、教科書 b の 39～46 頁を復習する。
5	何　芸芃	【第 5 回】 予習　：教科書 b の 39～46 頁を読み直す。 授業　：教科書 b「手紙を書こう」（39～46 頁）の知識が身に付いているかを小テスト 1 で確認する。作文課題 1（手紙文）を授業時間内に書いて提出する（課題解決型学習）。 復習　：手紙文の書き方を復習する。
6	何　芸芃	【第 6 回】 予習　：教科書 a の 27～29 頁の練習・応用問題を予習しておく。 授業　：作文課題 1 を返却し、解説する。教科書 a「配慮を示す言葉」の練習・応用問題（27～29 頁）の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。 復習　：教科書 a の 27～29 頁を復習する。
7	何　芸芃	【第 7 回】 予習　：教科書 a の 32～34 頁を読み、35～36 頁の練習問題を予習しておく。 授業　：教科書 a「品詞・活用の種類」（32～34 頁）について説明してから、練習問題（35～36 頁）の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。 復習　：教科書 a の 32～36 頁を復習する。
8	何　芸芃	【第 8 回】 予習　：教科書 a の 37 頁の応用問題を予習しておく。教科書 b の 5～10 頁を読んでおく。 授業　：教科書 a「品詞・活用の種類」の応用問題（37 頁）の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。教科書 b「まずは書いてみよう」（5～10 頁）について説明する。 復習　：教科書 a の 37 頁と、教科書 b の 5～10 頁を復習する。
9	何　芸芃	【第 9 回】 予習　：教科書 b の 11～18 頁を読んでおく。 授業　：教科書 b「よい文章を書くために」（11～18 頁）の「（1）「文」を書くときの注意点」（11～13 頁）について説明してから、作文課題 2（原稿用紙に書く）を授業時間内に書いて提出する（課題解決型学習）。 復習　：「文」を書くときの注意点と、原稿用紙の使い方を復習する。

10	何　芸芃	【第 10 回】 予習　：教科書 b の 11～18 頁を読み直す。 授業　：作文課題 2 を返却し、解説する。教科書 b「よい文章を書くために」（11～18 頁）の「(2)「文」から「文章」へ」以降（13～18 頁）について説明する。 復習　：教科書 b の 11～18 頁を復習する。
11	何　芸芃	【第 11 回】 予習　：教科書 a の 38～40 頁を読んでおく。教科書 b の 5～18 頁を読み直す。 授業　：教科書 b「まずは書いてみよう」（5～10 頁）・「よい文章を書くために」（11～18 頁）の知識が身に付いているかを小テスト 2 で確認する。教科書 a「ら抜き言葉・レタス言葉・さ入れ言葉」（38～40 頁）について説明する。 復習　：教科書 a の 38～40 頁と、教科書 b の 5～18 頁を復習する。
12	何　芸芃	【第 12 回】 予習　：教科書 a の 41～43 頁の練習・応用問題を予習し、44～46 頁を読んでおく。 授業　：教科書 a「ら抜き言葉・レタス言葉・さ入れ言葉」の練習・応用問題（41～43 頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、「文のねじれと言葉の係り受け・あいまい文」（44～46 頁）について説明する。 復習　：教科書 a の 41～46 頁を復習する。
13	何　芸芃	【第 13 回】 予習　：教科書 b の 19～21 頁を読んでおく。 授業　：教科書 b「さあ文章を書いてみよう」（19～21 頁）を説明してから、作文課題 3（論理的な文章）の下書き（構成）を考えさせた上で、宿題にする（課題解決型学習）。 復習　：教科書 b の 19～21 頁を復習する。作文課題 3 を書いて Classroom に提出する。
14	何　芸芃	【第 14 回】 予習　：教科書 a の 47～49 頁の練習・応用問題を予習する。 授業　：教科書 a「文のねじれと言葉の係り受け・あいまい文」の練習・応用問題（47～49 頁）の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。教科書 a で前期に学んだことを振り返る。 復習　：教科書 a の 47～49 頁と、教科書 a で前期に学んだことを復習する。
15	何　芸芃	【第 15 回】 予習　：教科書 b の 19～21 頁を読み直す。前期の授業内容を振り返る。 授業　：教科書 b の「さあ文章を書いてみよう」（19～21 頁）の知識が身に付いているかを小テスト 3 で確認する。作文課題 3 を解説する。教科書 b で前期に学んだことを振り返る。 復習　：教科書 b で前期の授業で学んだことを復習する。

授業開始前学習	教科書に目を通して、どんなことを学ぶのか内容を確認しておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	日本語についての基礎的な問題や、作文課題、授業内テストを実施する。課題は返却後講評を行い、個別の質問に回答する。
テキスト・教材	a『スキルアップ! 日本語力』名古屋大学日本語研究会 GK 7 著（東京書籍） b『日本語表現法　新訂版』庄司達也・山岸郁子・小野美典・安達原達晴著（翰林書房） 教科書は必ず 2 冊とも買うこと。
参考書	
評価の基準と方法	定期試験（60%）と作文課題・授業内テスト（40%）で評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				○	

関連科目	
その他	毎回、国語辞典（電子辞書可）を持ってくること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-21	授業コード	F02019
科目名称	言語表現演習 I			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on Japanese Representation I			授業区分	演習
科目責任者	中尾　真樹			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	中尾　真樹			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	ふだん意識せずに使っている日本語の特徴や、自分の日本語に関する知識を確認しながら、コミュニケーションツールとしての日本語を適切に使いこなすための基礎的な技術を学ぶ。敬語の使い方、文法上問題のある表現、文章の形式や構成などについて、教科書の問題を考え、実際に文章を書いて理解を深めていく。この授業では課題解決型学習を行う。				
到達目標	大学生として、また社会人として必要な日本語の運用能力を養うことや、様々な文章表現に親しみ、各自の言語生活を豊かなものにしながら、大学生にふさわしい文章を書けるようになること、日本語についての知識と教養を深め、専門分野での発表やレポート作成に必要な日本語力を身につけることを目標とする。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	中尾　真樹	【第 1 回】 予習　：教科書 2 冊（a と b）を準備して目を通す。教科書 a の 12～14 頁を読んでおく。 授業　：前期の授業の進め方について説明する。教科書 a「敬語の種類と使い分け」（12～14 頁）について説明する。 復習　：教科書 a の 12～14 頁を復習する。
2	中尾　真樹	【第 2 回】 予習　：教科書 a の 15～17 頁の練習・応用問題を予習する。 授業　：教科書 a「敬語の種類と使い分け」の練習・応用問題（15～17 頁）の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。 復習　：教科書 a の 15～17 頁を復習する。
3	中尾　真樹	【第 3 回】 予習　：教科書 a の 18～20 頁を読み、21～23 頁の練習・応用問題を予習しておく。 授業　：教科書 a「注意すべき敬語」（18～20 頁）について説明し、練習・応用問題（21～23 頁）の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。 復習　：教科書 a の 18～23 頁を復習する
4	中尾　真樹	【第 4 回】 予習　：教科書 a の 24～26 頁と、教科書 b の 39～46 頁を読んでおく。 授業　：教科書 a「配慮を示す言葉」（24～26 頁）について説明する。教科書 b「手紙を書こう」（39～46 頁）について説明する。 復習　：教科書 a の 24～26 頁と、教科書 b の 39～46 頁を復習する。
5	中尾　真樹	【第 5 回】 予習　：教科書 b の 39～46 頁を読み直す。 授業　：教科書 b「手紙を書こう」（39～46 頁）の知識が身に付いているかを小テスト 1 で確認する。作文課題 1（手紙文）を授業時間内に書いて提出する（課題解決型学習）。 復習　：手紙文の書き方を復習する。
6	中尾　真樹	【第 6 回】 予習　：教科書 a の 27～29 頁の練習・応用問題を予習しておく。 授業　：作文課題 1 を返却し、解説する。教科書 a「配慮を示す言葉」の練習・応用問題（27～29 頁）の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。 復習　：教科書 a の 27～29 頁を復習する。
7	中尾　真樹	【第 7 回】 予習　：教科書 a の 32～34 頁を読み、35～36 頁の練習問題を予習しておく。 授業　：教科書 a「品詞・活用の種類」（32～34 頁）について説明してから、練習問題（35～36 頁）の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。 復習　：教科書 a の 32～36 頁を復習する。
8	中尾　真樹	【第 8 回】 予習　：教科書 a の 37 頁の応用問題を予習しておく。教科書 b の 5～10 頁を読んでおく。 授業　：教科書 a「品詞・活用の種類」の応用問題（37 頁）の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。教科書 b「まずは書いてみよう」（5～10 頁）について説明する。 復習　：教科書 a の 37 頁と、教科書 b の 5～10 頁を復習する。
9	中尾　真樹	【第 9 回】 予習　：教科書 b の 11～18 頁を読んでおく。 授業　：教科書 b「よい文章を書くために」（11～18 頁）の「（1）「文」を書くときの注意点」（11～13 頁）について説明してから、作文課題 2（原稿用紙に書く）を授業時間内に書いて提出する（課題解決型学習）。 復習　：「文」を書くときの注意点と、原稿用紙の使い方を復習する。

10	中尾　真樹	【第 10 回】 予習　：教科書 b の 11～18 頁を読み直す。 授業　：作文課題 2 を返却し、解説する。教科書 b「よい文章を書くために」（11～18 頁）の「(2)「文」から「文章」へ」以降（13～18 頁）について説明する。 復習　：教科書 b の 11～18 頁を復習する。
11	中尾　真樹	【第 11 回】 予習　：教科書 a の 38～40 頁を読んでおく。教科書 b の 5～18 頁を読み直す。 授業　：教科書 b「まずは書いてみよう」（5～10 頁）・「よい文章を書くために」（11～18 頁）の知識が身に付いているかを小テスト 2 で確認する。教科書 a「ら抜き言葉・レタス言葉・さ入れ言葉」（38～40 頁）について説明する。 復習　：教科書 a の 38～40 頁と、教科書 b の 5～18 頁を復習する。
12	中尾　真樹	【第 12 回】 予習　：教科書 a の 41～43 頁の練習・応用問題を予習し、44～46 頁を読んでおく。 授業　：教科書 a「ら抜き言葉・レタス言葉・さ入れ言葉」の練習・応用問題（41～43 頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、「文のねじれと言葉の係り受け・あいまい文」（44～46 頁）について説明する。 復習　：教科書 a の 41～46 頁を復習する。
13	中尾　真樹	【第 13 回】 予習　：教科書 b の 19～21 頁を読んでおく。 授業　：教科書 b「さあ文章を書いてみよう」（19～21 頁）を説明してから、作文課題 3（論理的な文章）の下書き（構成）を考えさせた上で、宿題にする（課題解決型学習）。 復習　：教科書 b の 19～21 頁を復習する。作文課題 3 を書いて Classroom に提出する。
14	中尾　真樹	【第 14 回】 予習　：教科書 a の 47～49 頁の練習・応用問題を予習する。 授業　：教科書 a「文のねじれと言葉の係り受け・あいまい文」の練習・応用問題（47～49 頁）の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。教科書 a で前期に学んだことを振り返る。 復習　：教科書 a の 47～49 頁と、教科書 a で前期に学んだことを復習する。
15	中尾　真樹	【第 15 回】 予習　：教科書 b の 19～21 頁を読み直す。前期の授業内容を振り返る。 授業　：教科書 b の「さあ文章を書いてみよう」（19～21 頁）の知識が身に付いているかを小テスト 3 で確認する。作文課題 3 を解説する。教科書 b で前期に学んだことを振り返る。 復習　：教科書 b で前期の授業で学んだことを復習する。

授業開始前学習	教科書に目を通して、どんなことを学ぶのか内容を確認しておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	日本語についての基礎的な問題や、作文課題、授業内テストを実施する。課題は返却後講評を行い、個別の質問に回答する。
テキスト・教材	a『スキルアップ! 日本語力』名古屋大学日本語研究会 GK 7 著（東京書籍） b『日本語表現法　新訂版』庄司達也・山岸郁子・小野美典・安達原達晴著（翰林書房） 教科書は必ず 2 冊とも買うこと。
参考書	
評価の基準と方法	定期試験（60%）と作文課題・授業内テスト（40%）で評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				○	

関連科目	
その他	毎回、国語辞典（電子辞書可）を持ってくること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024年入学者）	100-110-21	授業コード	F02061
科目名称	言語表現演習Ⅱ			単位数	1.0単位
英文名称	Seminar on Japanese Representation Ⅱ			授業区分	演習
科目責任者	松村　良			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松村　良			開講時期	1年
オフィスアワー	前期　水曜日 16:20～17:50　金曜日 14:40～16:10 後期　水曜日 14:40～16:10　金曜日 14:40～16:10			研究室	10-617
授業概要	言語表現演習Ⅰを受け、自分の日本語に関する知識を確認しながら、多くの語彙やさまざまな表現に触れることで、コミュニケーションツールとしての日本語力を高めるための技術を学んでいく。正確な表記で各種の文章を作成できる能力を身につけるために、文の構造や文体、表記の仕方、文章の形式や構成などについて、教科書の問題を考えたり、実際に文章を書いたりしながら理解を深めていく。この授業では課題解決型学習を行う。				
到達目標	日本語の正しい語法に習熟し、日本語の運用能力を高めることを目指す。文体、言葉の意味、表記などの日本語の基礎を学んだうえで、専門分野での発表やレポート作成に必要な日本語力を習得し、状況に応じて適切な文章を書けるようになる。日本語についての知識と教養を深め、社会人にふさわしいコミュニケーション力を身につけることを目標とする。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	松村　良	【第1回】 予習　：教科書2冊（aとb）を準備して目を通す。教科書aの50～52頁を読み、53～54頁の練習問題を予習する。 授業　：後期の授業の進め方について説明する。教科書a「接続語・指示語と文章」（50～52頁）について説明し、53～54頁の練習問題の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。 復習　：教科書aの50～54頁を復習する。
2	松村　良	【第2回】 予習　：教科書aの55頁の応用問題を予習し、58～60頁を読んでおく。 授業　：教科書a「接続語・指示語と文章」の応用問題（55頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、「類義語・対義語」（58～60頁）について説明する。 復習　：教科書aの55頁、58～60頁を復習する。
3	松村　良	【第3回】 予習　：教科書aの61～63頁の練習・応用問題を予習する。教科書bの47～52頁を読んでおく。 授業　：教科書a「類義語・対義語」の練習・応用問題（61～63頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、教科書bの「効果的な電子メールとは？」（47～52頁）について説明する。作文課題1（電子メールの文章）を宿題にする（課題解決型学習）。 復習　：教科書aの61～63頁、教科書bの47～52頁を復習し、作文課題1を書いてClassroomに提出する。
4	松村　良	【第4回】 予習　：教科書bの23～27　頁を読んでおく。 授業　：作文課題1について解説する。教科書bの「インターネットとデジタル機器を用いた文章作成」（23～27頁）について説明する。 復習　：電子メールの書き方と、教科書bの23～27頁を復習する。
5	松村　良	【第5回】 予習　：教科書aの64～66　頁を読んでおく。教科書bの23～27　頁と47～52頁を読み直す。 授業　：教科書b「効果的な電子メールとは？」（47～52頁）と「インターネットとデジタル機器を用いた文章作成」（23～27　頁）の知識が身に付いているかを小テスト1で確認する。教科書aの「動詞の自他・視点」（64～66頁）について説明する。 復習　：教科書aの64～66　頁を復習する。
6	松村　良	【第6回】 予習　：教科書aの67～69頁の練習・応用問題を予習し、70～72頁を読んでおく。 授業　：教科書a「動詞の自他・視点」の練習・応用問題（67～69頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、「文体・話し言葉・書き言葉」（70～72頁）について説明する。 復習　：教科書aの67～72頁を復習する。
7	松村　良	【第7回】 予習　：教科書aの73～75頁の練習・応用問題を予習する。教科書bの53～57頁を読んでおく。 授業　：教科書a「文体・話し言葉・書き言葉」の練習・応用問題（73～75頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、教科書b「効果的な文書作成」（53～57頁）について説明する。 復習　：教科書aの73～75頁、教科書bの53～57頁を復習する。
8	松村　良	【第8回】 予習　：教科書bの53～57頁を読み直す。 授業　：教科書b「効果的な文書作成」（53～57頁）の知識が身に付いているかを小テスト2で確認する。作文課題2（履歴書・エントリーシート）を授業時間内に書いて提出する（課題解決型学習）。 復習　：履歴書・エントリーシートの書き方について復習する。

9	松村 良	【第 9 回】 予習 ：教科書 a の 76～78 頁を読んでおく。 授業 ：作文課題 2 を返却し、解説する。教科書 a「コロケーション」（76～78 頁）について説明する。 復習 ：教科書 a の 76～78 頁を復習する。
10	松村 良	【第 10 回】 予習 ：教科書 a の 79～81 頁の練習・応用問題を予習し、84～86 頁を読んでおく。 授業 ：教科書 a「コロケーション」の練習・応用問題（79～81 頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、「部首・音訓・熟語」（84～86 頁）について説明する。 復習 ：教科書 a の 79～81 頁と 84～86 頁を復習する。
11	松村 良	【第 11 回】 予習 ：教科書 a の 87～89 頁の練習・応用問題を予習し、教科書 b の 59～63 頁を読んでおく。 授業 ：教科書 a「部首・音訓・熟語」の練習・応用問題（87～89 頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、教科書 b の「冠婚葬祭・贈答のしきたり」（59～63 頁）について説明する。 復習 ：教科書 a の 87～89 頁と、教科書 b の 59～63 頁を復習する。
12	松村 良	【第 12 回】 予習 ：教科書 b の 59～63 頁を読み直す。教科書 a の 90～92 頁を読んでおく。 授業 ：教科書 b「冠婚葬祭・贈答のしきたり」（59～63 頁）の知識が身に付いているかを小テスト 3 で確認する。教科書 a「仮名遣い・送り仮名」（90～92 頁）について説明する。 復習 ：冠婚葬祭について復習する。教科書 a の 90～92 頁を復習する。
13	松村 良	【第 13 回】 予習 ：教科書 a の 93～95 頁の練習・応用問題を予習する。 授業 ：教科書 a「仮名遣い・送り仮名」の練習・応用問題（93～95 頁）の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。作文課題 3（授業で学んだこと）を宿題にする（課題解決型学習）。 復習 ：教科書の 93～95 頁を復習する。作文課題 3 を書いて Classroom に提出する。
14	松村 良	【第 14 回】 予習 ：教科書 b の 29～31 頁と 33～38 頁を読んでおく。 授業 ：教科書 b「プレゼンテーションをより効果的に」（29～31 頁）と「敬語を適切に使おう」（33～38 頁）について説明する。 復習 ：教科書 b の 29～31 頁と 33～38 頁を復習する。
15	松村 良	【第 15 回】 予習 ：教科書 b の 33～38 頁を読んでおく。 授業 ：教科書 b の「敬語を適切に使おう」（33～38 頁）の内容を理解しているか問題を出して確認する。教科書 a・b で後期の授業で学んだことを振り返る。 復習 ：後期の授業で学んだことを復習する。

授業開始前学習	教科書に目を通して、どんなことを学ぶのか内容を確認しておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	日本語についての基礎的な問題や、作文課題、授業内テストを実施する。課題は返却後講評を行い、個別の質問に回答する。
テキスト・教材	a『スキルアップ! 日本語力』名古屋大学日本語研究会 GK 7 著（東京書籍） b『日本語表現法 新訂版』庄司達也・山岸郁子・小野美典・安達原達晴著（翰林書房） 教科書は必ず 2 冊とも買うこと。
参考書	
評価の基準と方法	定期試験（60 %）と作文課題・授業内テスト（40%）で評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				○	

関連科目	
その他	毎回、国語辞典（電子辞書可）を持ってくること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024年入学者）	100-110-21	授業コード	F02063
科目名称	言語表現演習Ⅱ			単位数	1.0単位
英文名称	Seminar on Japanese Representation Ⅱ			授業区分	演習
科目責任者	木内　英実			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	木内　英実			開講時期	1年
オフィスアワー	前期　火曜日 10:40～12:10　水曜日 14:40～16:10 後期　火曜日 16:20～17:50　水曜日 16:20～17:50			研究室	10-620
授業概要	言語表現演習Ⅰを受け、自分の日本語に関する知識を確認しながら、多くの語彙やさまざまな表現に触れることで、コミュニケーションツールとしての日本語力を高めるための技術を学んでいく。正確な表記で各種の文章を作成できる能力を身につけるために、文の構造や文体、表記の仕方、文章の形式や構成などについて、教科書の問題を考えたり、実際に文章を書いたりしながら理解を深めていく。この授業では課題解決型学習を行う。				
到達目標	日本語の正しい語法に習熟し、日本語の運用能力を高めることを目指す。文体、言葉の意味、表記などの日本語の基礎を学んだうえで、専門分野での発表やレポート作成に必要な日本語力を習得し、状況に応じて適切な文章を書けるようになる。日本語についての知識と教養を深め、社会人にふさわしいコミュニケーション力を身につけることを目標とする。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	木内　英実	【第1回】 予習　：教科書2冊（aとb）を準備して目を通す。教科書aの50～52頁を読み、53～54頁の練習問題を予習する。 授業　：後期の授業の進め方について説明する。教科書a「接続語・指示語と文章」（50～52頁）について説明し、53～54頁の練習問題の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。 復習　：教科書aの50～54頁を復習する。
2	木内　英実	【第2回】 予習　：教科書aの55頁の応用問題を予習し、58～60頁を読んでおく。 授業　：教科書a「接続語・指示語と文章」の応用問題（55頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、「類義語・対義語」（58～60頁）について説明する。 復習　：教科書aの55頁、58～60頁を復習する。
3	木内　英実	【第3回】 予習　：教科書aの61～63頁の練習・応用問題を予習する。教科書bの47～52頁を読んでおく。 授業　：教科書a「類義語・対義語」の練習・応用問題（61～63頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、教科書bの「効果的な電子メールとは？」（47～52頁）について説明する。作文課題1（電子メールの文章）を宿題にする（課題解決型学習）。 復習　：教科書aの61～63頁、教科書bの47～52頁を復習し、作文課題1を書いてClassroomに提出する。
4	木内　英実	【第4回】 予習　：教科書bの23～27　頁を読んでおく。 授業　：作文課題1について解説する。教科書bの「インターネットとデジタル機器を用いた文章作成」（23～27頁）について説明する。 復習　：電子メールの書き方と、教科書bの23～27頁を復習する。
5	木内　英実	【第5回】 予習　：教科書aの64～66　頁を読んでおく。教科書bの23～27　頁と47～52頁を読み直す。 授業　：教科書b「効果的な電子メールとは？」（47～52頁）と「インターネットとデジタル機器を用いた文章作成」（23～27　頁）の知識が身に付いているかを小テスト1で確認する。教科書aの「動詞の自他・視点」（64～66頁）について説明する。 復習　：教科書aの64～66　頁を復習する。
6	木内　英実	【第6回】 予習　：教科書aの67～69頁の練習・応用問題を予習し、70～72頁を読んでおく。 授業　：教科書a「動詞の自他・視点」の練習・応用問題（67～69頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、「文体・話し言葉・書き言葉」（70～72頁）について説明する。 復習　：教科書aの67～72頁を復習する。
7	木内　英実	【第7回】 予習　：教科書aの73～75頁の練習・応用問題を予習する。教科書bの53～57頁を読んでおく。 授業　：教科書a「文体・話し言葉・書き言葉」の練習・応用問題（73～75頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、教科書b「効果的な文書作成」（53～57頁）について説明する。 復習　：教科書aの73～75頁、教科書bの53～57頁を復習する。
8	木内　英実	【第8回】 予習　：教科書bの53～57頁を読み直す。 授業　：教科書b「効果的な文書作成」（53～57頁）の知識が身に付いているかを小テスト2で確認する。作文課題2（履歴書・エントリーシート）を授業時間内に書いて提出する（課題解決型学習）。 復習　：履歴書・エントリーシートの書き方について復習する。

9	木内　英実	【第 9 回】 予習　：教科書 a の 76～78 頁を読んでおく。 授業　：作文課題 2 を返却し、解説する。教科書 a「コロケーション」（76～78 頁）について説明する。 復習　：教科書 a の 76～78 頁を復習する。
10	木内　英実	【第 10 回】 予習　：教科書 a の 79～81 頁の練習・応用問題を予習し、84～86 頁を読んでおく。 授業　：教科書 a「コロケーション」の練習・応用問題（79～81 頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、「部首・音訓・熟語」（84～86 頁）について説明する。 復習　：教科書 a の 79～81 頁と 84～86 頁を復習する。
11	木内　英実	【第 11 回】 予習　：教科書 a の 87～89 頁の練習・応用問題を予習し、教科書 b の 59～63 頁を読んでおく。 授業　：教科書 a「部首・音訓・熟語」の練習・応用問題（87～89 頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、教科書 b の「冠婚葬祭・贈答のしきたり」（59～63 頁）について説明する。 復習　：教科書 a の 87～89 頁と、教科書 b の 59～63 頁を復習する。
12	木内　英実	【第 12 回】 予習　：教科書 b の 59～63 頁を読み直す。教科書 a の 90～92 頁を読んでおく。 授業　：教科書 b「冠婚葬祭・贈答のしきたり」（59～63 頁）の知識が身に付いているかを小テスト 3 で確認する。教科書 a「仮名遣い・送り仮名」（90～92 頁）について説明する。 復習　：冠婚葬祭について復習する。教科書 a の 90～92 頁を復習する。
13	木内　英実	【第 13 回】 予習　：教科書 a の 93～95 頁の練習・応用問題を予習する。 授業　：教科書 a「仮名遣い・送り仮名」の練習・応用問題（93～95 頁）の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。作文課題 3（授業で学んだこと）を宿題にする（課題解決型学習）。 復習　：教科書の 93～95 頁を復習する。作文課題 3 を書いて Classroom に提出する。
14	木内　英実	【第 14 回】 予習　：教科書 b の 29～31 頁と 33～38 頁を読んでおく。 授業　：教科書 b「プレゼンテーションをより効果的に」（29～31 頁）と「敬語を適切に使おう」（33～38 頁）について説明する。 復習　：教科書 b の 29～31 頁と 33～38 頁を復習する。
15	木内　英実	【第 15 回】 予習　：教科書 b の 33～38 頁を読んでおく。 授業　：教科書 b の「敬語を適切に使おう」（33～38 頁）の内容を理解しているか問題を出して確認する。教科書 a・b で後期の授業で学んだことを振り返る。 復習　：後期の授業で学んだことを復習する。

授業開始前学習	教科書に目を通して、どんなことを学ぶのか内容を確認しておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	日本語についての基礎的な問題や、作文課題、授業内テストを実施する。課題は返却後講評を行い、個別の質問に回答する。
テキスト・教材	a『スキルアップ! 日本語力』名古屋大学日本語研究会 GK 7 著（東京書籍） b『日本語表現法　新訂版』庄司達也・山岸郁子・小野美典・安達原達晴著（翰林書房） 教科書は必ず 2 冊とも買うこと。
参考書	
評価の基準と方法	定期試験（60 %）と作文課題・授業内テスト（40%）で評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				○	

関連科目	
その他	毎回、国語辞典（電子辞書可）を持ってくること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024年入学者）	100-110-21	授業コード	F02065
科目名称	言語表現演習Ⅱ			単位数	1.0単位
英文名称	Seminar on Japanese Representation Ⅱ			授業区分	演習
科目責任者	大内　瑞恵			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	大内　瑞恵			開講時期	1年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	言語表現演習Ⅰを受け、自分の日本語に関する知識を確認しながら、多くの語彙やさまざまな表現に触れることで、コミュニケーションツールとしての日本語力を高めるための技術を学んでいく。正確な表記で各種の文章を作成できる能力を身につけるために、文の構造や文体、表記の仕方、文章の形式や構成などについて、教科書の問題を考えたり、実際に文章を書いたりしながら理解を深めていく。この授業では課題解決型学習を行う。				
到達目標	日本語の正しい語法に習熟し、日本語の運用能力を高めることを目指す。文体、言葉の意味、表記などの日本語の基礎を学んだうえで、専門分野での発表やレポート作成に必要な日本語力を習得し、状況に応じて適切な文章を書けるようになる。日本語についての知識と教養を深め、社会人にふさわしいコミュニケーション力を身につけることを目標とする。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	大内　瑞恵	【第1回】 予習　：教科書2冊（aとb）を準備して目を通す。教科書aの50～52頁を読み、53～54頁の練習問題を予習する。 授業　：後期の授業の進め方について説明する。教科書a「接続語・指示語と文章」（50～52頁）について説明し、53～54頁の練習問題の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。 復習　：教科書aの50～54頁を復習する。
2	大内　瑞恵	【第2回】 予習　：教科書aの55頁の応用問題を予習し、58～60頁を読んでおく。 授業　：教科書a「接続語・指示語と文章」の応用問題（55頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、「類義語・対義語」（58～60頁）について説明する。 復習　：教科書aの55頁、58～60頁を復習する。
3	大内　瑞恵	【第3回】 予習　：教科書aの61～63頁の練習・応用問題を予習する。教科書bの47～52頁を読んでおく。 授業　：教科書a「類義語・対義語」の練習・応用問題（61～63頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、教科書bの「効果的な電子メールとは？」（47～52頁）について説明する。作文課題1（電子メールの文章）を宿題にする（課題解決型学習）。 復習　：教科書aの61～63頁、教科書bの47～52頁を復習し、作文課題1を書いてClassroomに提出する。
4	大内　瑞恵	【第4回】 予習　：教科書bの23～27　頁を読んでおく。 授業　：作文課題1について解説する。教科書bの「インターネットとデジタル機器を用いた文章作成」（23～27頁）について説明する。 復習　：電子メールの書き方と、教科書bの23～27頁を復習する。
5	大内　瑞恵	【第5回】 予習　：教科書aの64～66　頁を読んでおく。教科書bの23～27　頁と47～52頁を読み直す。 授業　：教科書b「効果的な電子メールとは？」（47～52頁）と「インターネットとデジタル機器を用いた文章作成」（23～27　頁）の知識が身に付いているかを小テスト1で確認する。教科書aの「動詞の自他・視点」（64～66頁）について説明する。 復習　：教科書aの64～66　頁を復習する。
6	大内　瑞恵	【第6回】 予習　：教科書aの67～69頁の練習・応用問題を予習し、70～72頁を読んでおく。 授業　：教科書a「動詞の自他・視点」の練習・応用問題（67～69頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、「文体・話し言葉・書き言葉」（70～72頁）について説明する。 復習　：教科書aの67～72頁を復習する。
7	大内　瑞恵	【第7回】 予習　：教科書aの73～75頁の練習・応用問題を予習する。教科書bの53～57頁を読んでおく。 授業　：教科書a「文体・話し言葉・書き言葉」の練習・応用問題（73～75頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、教科書b「効果的な文書作成」（53～57頁）について説明する。 復習　：教科書aの73～75頁、教科書bの53～57頁を復習する。
8	大内　瑞恵	【第8回】 予習　：教科書bの53～57頁を読み直す。 授業　：教科書b「効果的な文書作成」（53～57頁）の知識が身に付いているかを小テスト2で確認する。作文課題2（履歴書・エントリーシート）を授業時間内に書いて提出する（課題解決型学習）。 復習　：履歴書・エントリーシートの書き方について復習する。

9	大内　瑞恵	【第 9 回】 予習　：教科書 a の 76～78 頁を読んでおく。 授業　：作文課題 2 を返却し、解説する。教科書 a「コロケーション」（76～78 頁）について説明する。 復習　：教科書 a の 76～78 頁を復習する。
10	大内　瑞恵	【第 10 回】 予習　：教科書 a の 79～81 頁の練習・応用問題を予習し、84～86 頁を読んでおく。 授業　：教科書 a「コロケーション」の練習・応用問題（79～81 頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、「部首・音訓・熟語」（84～86 頁）について説明する。 復習　：教科書 a の 79～81 頁と 84～86 頁を復習する。
11	大内　瑞恵	【第 11 回】 予習　：教科書 a の 87～89 頁の練習・応用問題を予習し、教科書 b の 59～63 頁を読んでおく。 授業　：教科書 a「部首・音訓・熟語」の練習・応用問題（87～89 頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、教科書 b の「冠婚葬祭・贈答のしきたり」（59～63 頁）について説明する。 復習　：教科書 a の 87～89 頁と、教科書 b の 59～63 頁を復習する。
12	大内　瑞恵	【第 12 回】 予習　：教科書 b の 59～63 頁を読み直す。教科書 a の 90～92 頁を読んでおく。 授業　：教科書 b「冠婚葬祭・贈答のしきたり」（59～63 頁）の知識が身に付いているかを小テスト 3 で確認する。教科書 a「仮名遣い・送り仮名」（90～92 頁）について説明する。 復習　：冠婚葬祭について復習する。教科書 a の 90～92 頁を復習する。
13	大内　瑞恵	【第 13 回】 予習　：教科書 a の 93～95 頁の練習・応用問題を予習する。 授業　：教科書 a「仮名遣い・送り仮名」の練習・応用問題（93～95 頁）の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。作文課題 3（授業で学んだこと）を宿題にする（課題解決型学習）。 復習　：教科書の 93～95 頁を復習する。作文課題 3 を書いて Classroom に提出する。
14	大内　瑞恵	【第 14 回】 予習　：教科書 b の 29～31 頁と 33～38 頁を読んでおく。 授業　：教科書 b「プレゼンテーションをより効果的に」（29～31 頁）と「敬語を適切に使おう」（33～38 頁）について説明する。 復習　：教科書 b の 29～31 頁と 33～38 頁を復習する。
15	大内　瑞恵	【第 15 回】 予習　：教科書 b の 33～38 頁を読んでおく。 授業　：教科書 b の「敬語を適切に使おう」（33～38 頁）の内容を理解しているか問題を出して確認する。教科書 a・b で後期の授業で学んだことを振り返る。 復習　：後期の授業で学んだことを復習する。

授業開始前学習	教科書に目を通して、どんなことを学ぶのか内容を確認しておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	日本語についての基礎的な問題や、作文課題、授業内テストを実施する。課題は返却後講評を行い、個別の質問に回答する。
テキスト・教材	a『スキルアップ! 日本語力』名古屋大学日本語研究会 GK 7 著（東京書籍） b『日本語表現法　新訂版』庄司達也・山岸郁子・小野美典・安達原達晴著（翰林書房） 教科書は必ず 2 冊とも買うこと。
参考書	
評価の基準と方法	定期試験（60 %）と作文課題・授業内テスト（40%）で評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				○	

関連科目	
その他	毎回、国語辞典（電子辞書可）を持ってくること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024年入学者）	100-110-21	授業コード	F02067
科目名称	言語表現演習Ⅱ			単位数	1.0単位
英文名称	Seminar on Japanese Representation Ⅱ			授業区分	演習
科目責任者	何　芸芃			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	何　芸芃			開講時期	1年
オフィスアワー	前期　火曜日 10:40～12:10　水曜日 14:40～16:10 後期　火曜日 10:40～12:10　水曜日 14:40～16:10			研究室	16-307
授業概要	言語表現演習Ⅰを受け、自分の日本語に関する知識を確認しながら、多くの語彙やさまざまな表現に触れることで、コミュニケーションツールとしての日本語力を高めるための技術を学んでいく。正確な表記で各種の文章を作成できる能力を身につけるために、文の構造や文体、表記の仕方、文章の形式や構成などについて、教科書の問題を考えたり、実際に文章を書いたりしながら理解を深めていく。この授業では課題解決型学習を行う。				
到達目標	日本語の正しい語法に習熟し、日本語の運用能力を高めることを目指す。文体、言葉の意味、表記などの日本語の基礎を学んだうえで、専門分野での発表やレポート作成に必要な日本語力を習得し、状況に応じて適切な文章を書けるようになる。日本語についての知識と教養を深め、社会人にふさわしいコミュニケーション力を身につけることを目標とする。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	何　芸芃	【第1回】 予習　：教科書2冊（aとb）を準備して目を通す。教科書aの50～52頁を読み、53～54頁の練習問題を予習する。 授業　：後期の授業の進め方について説明する。教科書a「接続語・指示語と文章」（50～52頁）について説明し、53～54頁の練習問題の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。 復習　：教科書aの50～54頁を復習する。
2	何　芸芃	【第2回】 予習　：教科書aの55頁の応用問題を予習し、58～60頁を読んでおく。 授業　：教科書a「接続語・指示語と文章」の応用問題（55頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、「類義語・対義語」（58～60頁）について説明する。 復習　：教科書aの55頁、58～60頁を復習する。
3	何　芸芃	【第3回】 予習　：教科書aの61～63頁の練習・応用問題を予習する。教科書bの47～52頁を読んでおく。 授業　：教科書a「類義語・対義語」の練習・応用問題（61～63頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、教科書bの「効果的な電子メールとは？」（47～52頁）について説明する。作文課題1（電子メールの文章）を宿題にする（課題解決型学習）。 復習　：教科書aの61～63頁、教科書bの47～52頁を復習し、作文課題1を書いてClassroomに提出する。
4	何　芸芃	【第4回】 予習　：教科書bの23～27　頁を読んでおく。 授業　：作文課題1について解説する。教科書bの「インターネットとデジタル機器を用いた文章作成」（23～27頁）について説明する。 復習　：電子メールの書き方と、教科書bの23～27頁を復習する。
5	何　芸芃	【第5回】 予習　：教科書aの64～66　頁を読んでおく。教科書bの23～27　頁と47～52頁を読み直す。 授業　：教科書b「効果的な電子メールとは？」（47～52頁）と「インターネットとデジタル機器を用いた文章作成」（23～27　頁）の知識が身に付いているかを小テスト1で確認する。教科書aの「動詞の自他・視点」（64～66頁）について説明する。 復習　：教科書aの64～66　頁を復習する。
6	何　芸芃	【第6回】 予習　：教科書aの67～69頁の練習・応用問題を予習し、70～72頁を読んでおく。 授業　：教科書a「動詞の自他・視点」の練習・応用問題（67～69頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、「文体・話し言葉・書き言葉」（70～72頁）について説明する。 復習　：教科書aの67～72頁を復習する。
7	何　芸芃	【第7回】 予習　：教科書aの73～75頁の練習・応用問題を予習する。教科書bの53～57頁を読んでおく。 授業　：教科書a「文体・話し言葉・書き言葉」の練習・応用問題（73～75頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、教科書b「効果的な文書作成」（53～57頁）について説明する。 復習　：教科書aの73～75頁、教科書bの53～57頁を復習する。
8	何　芸芃	【第8回】 予習　：教科書bの53～57頁を読み直す。 授業　：教科書b「効果的な文書作成」（53～57頁）の知識が身に付いているかを小テスト2で確認する。作文課題2（履歴書・エントリーシート）を授業時間内に書いて提出する（課題解決型学習）。 復習　：履歴書・エントリーシートの書き方について復習する。

9	何　芸芃	【第 9 回】 予習　：教科書 a の 76～78 頁を読んでおく。 授業　：作文課題 2 を返却し、解説する。教科書 a「コロケーション」（76～78 頁）について説明する。 復習　：教科書 a の 76～78 頁を復習する。
10	何　芸芃	【第 10 回】 予習　：教科書 a の 79～81 頁の練習・応用問題を予習し、84～86 頁を読んでおく。 授業　：教科書 a「コロケーション」の練習・応用問題（79～81 頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、「部首・音訓・熟語」（84～86 頁）について説明する。 復習　：教科書 a の 79～81 頁と 84～86 頁を復習する。
11	何　芸芃	【第 11 回】 予習　：教科書 a の 87～89 頁の練習・応用問題を予習し、教科書 b の 59～63 頁を読んでおく。 授業　：教科書 a「部首・音訓・熟語」の練習・応用問題（87～89 頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、教科書 b の「冠婚葬祭・贈答のしきたり」（59～63 頁）について説明する。 復習　：教科書 a の 87～89 頁と、教科書 b の 59～63 頁を復習する。
12	何　芸芃	【第 12 回】 予習　：教科書 b の 59～63 頁を読み直す。教科書 a の 90～92 頁を読んでおく。 授業　：教科書 b「冠婚葬祭・贈答のしきたり」（59～63 頁）の知識が身に付いているかを小テスト 3 で確認する。教科書 a「仮名遣い・送り仮名」（90～92 頁）について説明する。 復習　：冠婚葬祭について復習する。教科書 a の 90～92 頁を復習する。
13	何　芸芃	【第 13 回】 予習　：教科書 a の 93～95 頁の練習・応用問題を予習する。 授業　：教科書 a「仮名遣い・送り仮名」の練習・応用問題（93～95 頁）の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。作文課題 3（授業で学んだこと）を宿題にする（課題解決型学習）。 復習　：教科書の 93～95 頁を復習する。作文課題 3 を書いて Classroom に提出する。
14	何　芸芃	【第 14 回】 予習　：教科書 b の 29～31 頁と 33～38 頁を読んでおく。 授業　：教科書 b「プレゼンテーションをより効果的に」（29～31 頁）と「敬語を適切に使おう」（33～38 頁）について説明する。 復習　：教科書 b の 29～31 頁と 33～38 頁を復習する。
15	何　芸芃	【第 15 回】 予習　：教科書 b の 33～38 頁を読んでおく。 授業　：教科書 b の「敬語を適切に使おう」（33～38 頁）の内容を理解しているか問題を出して確認する。教科書 a・b で後期の授業で学んだことを振り返る。 復習　：後期の授業で学んだことを復習する。

授業開始前学習	教科書に目を通して、どんなことを学ぶのか内容を確認しておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	日本語についての基礎的な問題や、作文課題、授業内テストを実施する。課題は返却後講評を行い、個別の質問に回答する。
テキスト・教材	a『スキルアップ! 日本語力』名古屋大学日本語研究会 GK 7 著（東京書籍） b『日本語表現法　新訂版』庄司達也・山岸郁子・小野美典・安達原達晴著（翰林書房） 教科書は必ず 2 冊とも買うこと。
参考書	
評価の基準と方法	定期試験（60 %）と作文課題・授業内テスト（40%）で評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				○	

関連科目	
その他	毎回、国語辞典（電子辞書可）を持ってくること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024年入学者）	100-110-21	授業コード	F02069
科目名称	言語表現演習Ⅱ			単位数	1.0単位
英文名称	Seminar on Japanese Representation Ⅱ			授業区分	演習
科目責任者	中尾　真樹			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	中尾　真樹			開講時期	1年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	言語表現演習Ⅰを受け、自分の日本語に関する知識を確認しながら、多くの語彙やさまざまな表現に触れることで、コミュニケーションツールとしての日本語力を高めるための技術を学んでいく。正確な表記で各種の文章を作成できる能力を身につけるために、文の構造や文体、表記の仕方、文章の形式や構成などについて、教科書の問題を考えたり、実際に文章を書いたりしながら理解を深めていく。この授業では課題解決型学習を行う。				
到達目標	日本語の正しい語法に習熟し、日本語の運用能力を高めることを目指す。文体、言葉の意味、表記などの日本語の基礎を学んだうえで、専門分野での発表やレポート作成に必要な日本語力を習得し、状況に応じて適切な文章を書けるようになる。日本語についての知識と教養を深め、社会人にふさわしいコミュニケーション力を身につけることを目標とする。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	中尾　真樹	【第1回】 予習　：教科書2冊（aとb）を準備して目を通す。教科書aの50～52頁を読み、53～54頁の練習問題を予習する。 授業　：後期の授業の進め方について説明する。教科書a「接続語・指示語と文章」（50～52頁）について説明し、53～54頁の練習問題の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。 復習　：教科書aの50～54頁を復習する。
2	中尾　真樹	【第2回】 予習　：教科書aの55頁の応用問題を予習し、58～60頁を読んでおく。 授業　：教科書a「接続語・指示語と文章」の応用問題（55頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、「類義語・対義語」（58～60頁）について説明する。 復習　：教科書aの55頁、58～60頁を復習する。
3	中尾　真樹	【第3回】 予習　：教科書aの61～63頁の練習・応用問題を予習する。教科書bの47～52頁を読んでおく。 授業　：教科書a「類義語・対義語」の練習・応用問題（61～63頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、教科書bの「効果的な電子メールとは？」（47～52頁）について説明する。作文課題1（電子メールの文章）を宿題にする（課題解決型学習）。 復習　：教科書aの61～63頁、教科書bの47～52頁を復習し、作文課題1を書いてClassroomに提出する。
4	中尾　真樹	【第4回】 予習　：教科書bの23～27　頁を読んでおく。 授業　：作文課題1について解説する。教科書bの「インターネットとデジタル機器を用いた文章作成」（23～27頁）について説明する。 復習　：電子メールの書き方と、教科書bの23～27頁を復習する。
5	中尾　真樹	【第5回】 予習　：教科書aの64～66　頁を読んでおく。教科書bの23～27　頁と47～52頁を読み直す。 授業　：教科書b「効果的な電子メールとは？」（47～52頁）と「インターネットとデジタル機器を用いた文章作成」（23～27　頁）の知識が身に付いているかを小テスト1で確認する。教科書aの「動詞の自他・視点」（64～66頁）について説明する。 復習　：教科書aの64～66　頁を復習する。
6	中尾　真樹	【第6回】 予習　：教科書aの67～69頁の練習・応用問題を予習し、70～72頁を読んでおく。 授業　：教科書a「動詞の自他・視点」の練習・応用問題（67～69頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、「文体・話し言葉・書き言葉」（70～72頁）について説明する。 復習　：教科書aの67～72頁を復習する。
7	中尾　真樹	【第7回】 予習　：教科書aの73～75頁の練習・応用問題を予習する。教科書bの53～57頁を読んでおく。 授業　：教科書a「文体・話し言葉・書き言葉」の練習・応用問題（73～75頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、教科書b「効果的な文書作成」（53～57頁）について説明する。 復習　：教科書aの73～75頁、教科書bの53～57頁を復習する。
8	中尾　真樹	【第8回】 予習　：教科書bの53～57頁を読み直す。 授業　：教科書b「効果的な文書作成」（53～57頁）の知識が身に付いているかを小テスト2で確認する。作文課題2（履歴書・エントリーシート）を授業時間内に書いて提出する（課題解決型学習）。 復習　：履歴書・エントリーシートの書き方について復習する。

9	中尾　真樹	【第 9 回】 予習　：教科書 a の 76～78 頁を読んでおく。 授業　：作文課題 2 を返却し、解説する。教科書 a「コロケーション」（76～78 頁）について説明する。 復習　：教科書 a の 76～78 頁を復習する。
10	中尾　真樹	【第 10 回】 予習　：教科書 a の 79～81 頁の練習・応用問題を予習し、84～86 頁を読んでおく。 授業　：教科書 a「コロケーション」の練習・応用問題（79～81 頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、「部首・音訓・熟語」（84～86 頁）について説明する。 復習　：教科書 a の 79～81 頁と 84～86 頁を復習する。
11	中尾　真樹	【第 11 回】 予習　：教科書 a の 87～89 頁の練習・応用問題を予習し、教科書 b の 59～63 頁を読んでおく。 授業　：教科書 a「部首・音訓・熟語」の練習・応用問題（87～89 頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、教科書 b の「冠婚葬祭・贈答のしきたり」（59～63 頁）について説明する。 復習　：教科書 a の 87～89 頁と、教科書 b の 59～63 頁を復習する。
12	中尾　真樹	【第 12 回】 予習　：教科書 b の 59～63 頁を読み直す。教科書 a の 90～92 頁を読んでおく。 授業　：教科書 b「冠婚葬祭・贈答のしきたり」（59～63 頁）の知識が身に付いているかを小テスト 3 で確認する。教科書 a「仮名遣い・送り仮名」（90～92 頁）について説明する。 復習　：冠婚葬祭について復習する。教科書 a の 90～92 頁を復習する。
13	中尾　真樹	【第 13 回】 予習　：教科書 a の 93～95 頁の練習・応用問題を予習する。 授業　：教科書 a「仮名遣い・送り仮名」の練習・応用問題（93～95 頁）の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。作文課題 3（授業で学んだこと）を宿題にする（課題解決型学習）。 復習　：教科書の 93～95 頁を復習する。作文課題 3 を書いて Classroom に提出する。
14	中尾　真樹	【第 14 回】 予習　：教科書 b の 29～31 頁と 33～38 頁を読んでおく。 授業　：教科書 b「プレゼンテーションをより効果的に」（29～31 頁）と「敬語を適切に使おう」（33～38 頁）について説明する。 復習　：教科書 b の 29～31 頁と 33～38 頁を復習する。
15	中尾　真樹	【第 15 回】 予習　：教科書 b の 33～38 頁を読んでおく。 授業　：教科書 b の「敬語を適切に使おう」（33～38 頁）の内容を理解しているか問題を出して確認する。教科書 a・b で後期の授業で学んだことを振り返る。 復習　：後期の授業で学んだことを復習する。

授業開始前学習	教科書に目を通して、どんなことを学ぶのか内容を確認しておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	日本語についての基礎的な問題や、作文課題、授業内テストを実施する。課題は返却後講評を行い、個別の質問に回答する。
テキスト・教材	a『スキルアップ! 日本語力』名古屋大学日本語研究会 GK 7 著（東京書籍） b『日本語表現法　新訂版』庄司達也・山岸郁子・小野美典・安達原達晴著（翰林書房） 教科書は必ず 2 冊とも買うこと。
参考書	
評価の基準と方法	定期試験（60 %）と作文課題・授業内テスト（40%）で評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				○	

関連科目	
その他	毎回、国語辞典（電子辞書可）を持ってくること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-21	授業コード	F02111
科目名称	英語ＡＩ			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishA Ⅰ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	バラダッドリチャード			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	R.バラダッド			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	インタラクティブな練習を通じて英語の聞き取りと会話を体感します。英語会話表現Ⅰでは、英語の基礎的な運用能力の習得のために「リスニング」「スピーキング」「リーディング」「ライティング」の４技能を効果的に統合したグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動を行う。英語のコミュニケーションスキルを高めることを目的とする				
到達目標	この授業では、さまざまな楽しく興味深いリスニングや発音、スピーキングアクティビティー（個人、ペア、グループアクティビティーなど）を通して、英語を話す力、および理解力を向上させることに焦点を当てます。基本的な構文を使って、英文を書いたり英語を話したりできる。基本的な英語表現を使って、日常的なトピックについて自分の考えを述べたり、やりとりをすることができる。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	R.バラダッド	【第 1 回】 予習　：Read pp. 8-11 授業　：Self-Introductions/Course goals, Q&A, get to know other 復習　：Review notes/ Do homework
2	R.バラダッド	【第 2 回】 予習　：Read pp. 12-15 授業　：Hobbies, Interests, pair work 復習　：Review notes/ Do homework
3	R.バラダッド	【第 3 回】 予習　：Read pp. 16-19 授業　：Personal Questions, group work 復習　：Review notes/ Do homework/ Do GC video presentation 1
4	R.バラダッド	【第 4 回】 予習　：Read pp. 20-23 授業　：Appearance adjectives, pair work, Unit 1 Quiz 復習　：Review notes/ Do homework
5	R.バラダッド	【第 5 回】 予習　：Read pp. 24-27 授業　：Describing friends, group work 復習　：Review notes/ Do homework/ Do GC video presentation 2
6	R.バラダッド	【第 6 回】 予習　：Read pp. 28-31 授業　：Describing routines and schedules, pair work, Unit 2 Quiz 復習　：Review notes/ Do homework
7	R.バラダッド	【第 7 回】 予習　：Read pp. 32-35 授業　：Talking about things you do, group work 復習　：Review notes/ Do homework
8	R.バラダッド	【第 8 回】 予習　：Prepare for quiz 授業　：Quiz for units 1-3 / Speaking exercise in pairs 復習　：Preview Unit 4 / Do homework
9	R.バラダッド	【第 9 回】 予習　：Read pp. 36-39 授業　：Talking about locations, furniture and household furnishings, pair work 復習　：Review notes/ Do homework
10	R.バラダッド	【第 10 回】 予習　：Read pp. 40-43 授業　：Describing a place that is special for you, group work 復習　：Review notes/ Do homework
11	R.バラダッド	【第 11 回】 予習　：Read pp. 44-47 授業　：Giving directions; stores and services, pair work, Unit 4 Quiz 復習　：Review notes/ Do homework

12	R.バラダッド	【第 12 回】 予習　：Read pp. 48-51 授業　：Giving and understanding map directions, group work 復習　：Review notes/ Do homework
13	R.バラダッド	【第 13 回】 予習　：Read pp. 52-55 授業　：Talking about important life events and past activities, pair work, Unit 5 Quiz 復習　：Review notes/ Do homework / Do GC video presentation 3
14	R.バラダッド	【第 14 回】 予習　：Read pp. 56-59 授業　：Talking about your experiences, group work 復習　：Review notes/ Do homework
15	R.バラダッド	【第 15 回】 予習　：Prepare for quiz 授業　：Quiz for units 4 - 6 / Speaking exercise in pairs 復習　：Do Portal evaluations in class (after quiz)

授業開始前学習	映画・音楽・テレビ・新聞など、英語に触れる機会を多く持つこと。興味がある文章や単語を、辞書で調べる
授業内課題のフィードバックの方法	毎時間授業冒頭で小テストを行い、返却時に確認する。授業７回目、１３回目に提出するまとめについては、２週間後（授業９回目、１５回目）に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。
テキスト・教材	English Firsthand 1, 5th Edition (Marc Helgesen), Pearson
参考書	
評価の基準と方法	平常点 40%（小テスト、課題提出、Presentation、授業態度等）および定期試験 60%を総合して評価する
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	
その他	出席を重視する。全授業数の３分の１以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻３回で欠席１回とみなす。講義開始３０分以上の遅刻は欠席をみなす。その他、１回目の授業で説明する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-21	授業コード	F02112
科目名称	英語 A I			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishA I			授業区分	演習･実習･実技
科目責任者	R.ヨシダ			必修･選択	履修ガイド参照
担当教員	R.ヨシダ			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	Required English (Conversational Expressions) I lessons are aimed at integrating the four skills (listening, speaking, reading and writing) through group works, discussions, presentations, etc. to develop basic functional ability in English. English (Conversational Expressions) I has a particular focus on improving the productive skills of speaking and writing. The lessons are designed to help develop students' confidence and fluency in communicating in English through the use of various vocabulary, essential grammar and engaging topics. In principle, lessons are conducted in English.				
到達目標	English (Conversational Expressions) I aims to improve students' confidence and proficiency in their spoken and written English. With the guidance of the teacher, students speak and write English using basic syntax. Each student will have many opportun				

アクティブ･ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	R.ヨシダ	【第 1 回】 予習 ： Don't forget your textbook! 授業 ： Class orientation; Unit 0 (pp.8-11); Unit 1 (pp.12-14): Personal information - vocabulary; listening; conversation 復習 ： Vocabulary review
2	R.ヨシダ	【第 2 回】 予習 ： preparation for Review quiz 授業 ： Unit 1 (pp.15-18): Personal information - grammar; pair/group work; discussions 復習 ： Grammar review
3	R.ヨシダ	【第 3 回】 予習 ： preparation for Review quiz 授業 ： Unit 2 (pp.20-22): Appearance - vocabulary; listening; conversation 復習 ： Vocabulary review
4	R.ヨシダ	【第 4 回】 予習 ： preparation for Review quiz 授業 ： Unit 2 (pp.23-26): Appearance - grammar; pair/group work; discussions 復習 ： Grammar review
5	R.ヨシダ	【第 5 回】 予習 ： preparation for Review quiz 授業 ： Unit 3 (pp.28-30): Daily activities - vocabulary; listening; conversation 復習 ： Vocabulary review
6	R.ヨシダ	【第 6 回】 予習 ： preparation for Review quiz 授業 ： Unit 3 (pp.31-35): Daily activities - grammar; pair/group work; discussions 復習 ： Vocabulary review
7	R.ヨシダ	【第 7 回】 予習 ： preparation for Midterm Task 1 授業 ： Midterm Task 1: Students submit a review of content learned in Units 0-3; Preparation for Midterm Task 2 復習 ： Grammar & Vocabulary review
8	R.ヨシダ	【第 8 回】 予習 ：preparation for Midterm Task 2 授業 ： Midterm Task 2 (speaking): Students give individual presentations 復習 ： Grammar & Vocabulary review

9	R.ヨシダ	【第 9 回】 予習 ： Vocabulary 授業 ： Students receive feedback on Midterm Task 1 (writing) and Task 2 (speaking); Unit 4 (pp.36-38): Locations - vocabulary; listening; conversation 復習 ： Vocabulary review
10	R.ヨシダ	【第 10 回】 予習 ： preparation for Review quiz 授業 ： Unit 4 (pp.39-42): Locations - grammar; pair/group work; discussions 復習 ： Grammar review
11	R.ヨシダ	【第 11 回】 予習 ： preparation for Review quiz 授業 ： Unit 5 (pp.44-46): Directions - vocabulary; listening; conversation 復習 ： Vocabulary review
12	R.ヨシダ	【第 12 回】 予習 ： preparation for Review quiz 授業 ： Unit 5 (pp.47-51): Directions - grammar; pair/group work; discussions 復習 ： Grammar review
13	R.ヨシダ	【第 13 回】 予習 ： preparation for Review quiz 授業 ： Unit 6 (pp.52-59): Past events - vocabulary; listening; grammar; pair/group work; discussions 復習 ： Grammar & Vocabulary review
14	R.ヨシダ	【第 14 回】 予習 ： preparation for Final Task 1 授業 ： Final Task 1: Students submit a review of content learned in Units 4-6; Preparation for Final Task 2 復習 ： Grammar & Vocabulary review
15	R.ヨシダ	【第 15 回】 予習 ： preparation for Final Task 2 授業 ： Final Task 2 (speaking): Students give individual presentations 復習 ：Self reflection

授業開始前学習	Take every opportunity to encounter and enjoy English through movies, music, TV, the Internet, etc.
授業内課題のフィードバックの方法	- Each "Review Quiz" (weekly quiz given at the beginning of each class) will be marked and returned in the following week. - A written feedback will be provided for each Midterm and Final task.
テキスト・教材	English Firsthand 1 (Pearson)　ISBN: 978-981-313-022-7
参考書	Information will be given in class
評価の基準と方法	Students are evaluated on a total of class participation points 40% (review quizzes, submitted assignments, effort & attitude) and midterm and final tasks 60% (midterm 30% & final 30%).
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	
その他	出席重視。最低限必要な出席率: 2/3 It is important for students to attend each class. Credit will not be given to students who miss more than a third of the classes. 3 late arrivals will be counted as 1 absence. Arrival 30 minutes or more after the class has started
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-21	授業コード	F02113
科目名称	英語ＡＩ			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishA Ⅰ			授業区分	演習･実習･実技
科目責任者	M.オーズランド			必修･選択	履修ガイド参照
担当教員	M.オーズランド			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	Required English AI is aimed at integrating the four skills (listening, speaking, reading and writing) through group work, discussions, presentations etc. to develop basic functional ability in English. English AI has a particular focus on improving the productive skills of writing and speaking.				
到達目標	Students speak and write basic English using basic syntax.				
アクティブ･ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	M.オーズランド	【第 1 回】 予習　: Overview unit 1. Prepare a short introductory speech (2 minutes). 授業　: Unit 1; Where are you from? Introductions and greetings. pp.2-4. Pair-work, groupwork. 復習　: Review unit pp.2-4
2	M.オーズランド	【第 2 回】 予習　: Overview unit 1 pp. 5-7 授業　: Unit 1 continued; pp.5-7. Pair-work, groupwork, writing exercise. 復習　: Review unit 1.
3	M.オーズランド	【第 3 回】 予習　: Overview Unit 2. 授業　: Unit 2; What do you do? Asking for and giving opinions. pp.8-10. Pair-work, groupwork, discussions. 復習　: Review unit 2 pp.8-10.
4	M.オーズランド	【第 4 回】 予習　: Overview unit 2 pp.11-13 授業　: Unit 2 continued. pp.11-13. Pair-work, groupwork, writing exercise. 復習　: Review unit 2.
5	M.オーズランド	【第 5 回】 予習　: Overview Unit 3. 授業　: Unit 3; How much are these? Shopping and prices. pp.16-18. Pair-work, groupwork, discussion. 復習　: Review unit 3 pp.16-18
6	M.オーズランド	【第 6 回】 予習　:　Overview Unit 3 pp.19-21 授業　:　Unit 3 continued. Pp.19-21. Pair-work, groupwork, writing exercise, short presentation. 復習　:　Review Unit 3.
7	M.オーズランド	【第 7 回】 予習　:　Review units 1-3. Prepare a short, written report. 授業　:　General Comprehension exercises. 復習　:　Reflect on personal performance and skills that need more work.
8	M.オーズランド	【第 8 回】 予習　:　Overview Unit 4. 授業　:　Unit 4; Do you play the guitar? Likes and dislikes. pp.22-24. Pair-work, groupwork. 復習　:　Review Unit 4 pp.22-24
9	M.オーズランド	【第 9 回】 予習　:　Overview Unit 4 pp.25-27. 授業　:　Unit 4 continued. pp25-27. Pair-work, groupwork, writing exercise. 復習　:　Review Unit 4
10	M.オーズランド	【第 10 回】 予習　:　Overview Unit 6. 授業　:　Unit 6; How often do you run? Describing routines, discussing exercise/sports. pp.36-38. Pair-work, groupwork. 復習　:　Review Unit 6 pp.36-38

11	M.オーズランド	【第 11 回】 予習　：　Overview Unit 6 pp.39-41. 授業　：　Unit 6 continued; pp.39-41. Pair-work, groupwork, writing exercise. 復習　：　Review Unit 6.
12	M.オーズランド	【第 12 回】 予習　：　Overview Unit 7. 授業　：　We went dancing; Talking about past events and experiences. pp.44-46. Pair-work, groupwork. 復習　：　Review pp.44-46
13	M.オーズランド	【第 13 回】 予習　：　Overview Unit 7 pp.47-49. 授業　：　Unit 7 continued; pp47-49. Pair-work, groupwork, writing exercise. 復習　：　Review Unit 7.
14	M.オーズランド	【第 14 回】 予習　：　Overview Unit 8. 授業　：　Unit 8; How's the neighbourhood? Asking about and describing locations pp.50-52. Pair-work, groupwork. 復習　：　Review unit 8.
15	M.オーズランド	【第 15 回】 予習　：　Review units 4,6,7 and 8. Prepare a short, written report. 授業　：　General comprehension exercises. 復習　：　Reflect on personal performance and skills that need more work.

授業開始前学習	Prepare yourself to actively participate in classes in English. Consider your strong points and those that need improvement. Focus on topics that interest you, review vocabulary and listen to as much English as possible before the course.
授業内課題のフィードバックの方法	Students take a quiz at the beginning of every class or submit assignments and comprehensive feedback on these will be provided. Any questions from individual students will be answered.
テキスト・教材	Richards, R.C, Hull, J., Proctor, S., Interchange 1 Students Book (Cambridge: C.U.P., 2020) ISBN: 978-1-316-62031-1
参考書	
評価の基準と方法	Students are evaluated on a total of class participation points 40% (mini tests, submitted coursework, presentations, class participation etc.) and regular examination 60%.
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	
その他	It is important for students to attend each class.　Credit will not be given to students who miss more than a third of the classes.　3 late arrivals will be counted as 1 absence.　Arrival 30 minutes or more after the class has started will be counted as a
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-21	授業コード	F02114
科目名称	英語 A I			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishA I			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	W.ミラー			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	W.ミラー			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	Required English AI is aimed at integrating the four skills (listening, speaking, reading, and writing) through group work, discussions, presentations, etc., to develop basic functional ability in English. English AI has a particular focus on improving the productive skills of writing and speaking. In principle, classes will be conducted entirely in English.				
到達目標	Students speak and write basic English using basic syntax.				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	W.ミラー	【第 1 回】 予習： Read Unit 0 'Welcome to English Firsthand 1', p.8-11 授業： Course goals and structure will be explained. Q & A activities (pair work) 復習： Review notes
2	W.ミラー	【第 2 回】 予習 ： Read Unit 1 'It's nice to meet you.', p.12-16 授業 ： Build vocabulary about hobbies, interests, and occupations to use in dialogues (pair work) 復習 ： Review notes
3	W.ミラー	【第 3 回】 予習 ： Finish Reading Unit 1 'It's nice to meet you.', p.17-19 授業 ： Grammar: Q & A using simple present form / Group work / Real Stories: 'My Introduction' 復習 ： Review notes / Do homework: Unit 1 Assignment in Google Classroom
4	W.ミラー	【第 4 回】 予習 ： Read Unit 2 'Who are they talking about?', p.20-24 授業 ： Build vocabulary about appearance to use in model dialogues (pair work) 復習 ： Review notes
5	W.ミラー	【第 5 回】 予習 ： Finish Reading Unit 2 'Who are they talking about?', p.25-27 授業 ： Grammar: Using simple present: be vs. have / Group work / Real Stories: 'My Family' 復習 ： Review notes / Do homework: Unit 2 Assignment in Google Classroom
6	W.ミラー	【第 6 回】 予習 ： Read Unit 3 'When do you start?', p.28-32 授業 ： Build vocabulary about daily activities to use in model dialogues (pair work) 復習 ： Review notes
7	W.ミラー	【第 7 回】 予習 ： Finish Reading Unit 3 'When do you start?', p.33-35 授業 ： Grammar: Using adverbs of frequency / Group work / Real Stories: 'My Routine' 復習 ： Review notes / Do homework: Unit 3 Assignment in Google Classroom
8	W.ミラー	【第 8 回】 予習 ： Review all homework assignments and textbook p. 12-35 授業 ： Midterm Quiz of Unit 1 ~ Unit 3 復習 ： Reread textbook p. 36-40
9	W.ミラー	【第 9 回】 予習 ： Read Unit 4 'Where does this go?', p.36-40 授業 ： Build vocabulary about locations to use in model dialogues (pair work) 復習 ： Review notes
10	W.ミラー	【第 10 回】 予習 ： Finish Reading Unit 4 'Where does this go?', p.41-43 授業 ： Grammar: Using to, at, from, on, in, with directions / Group work / Real Stories: 'My Room' 復習 ： Review notes / Do homework: Unit 4 Assignment in Google Classroom

11	W.ミラー	【第 11 回】 予習 ： Read Unit 5 'How do I get there?', p.44-48 授業 ： Build vocabulary about directions to use in model dialogues (pair work) 復習 ： Review notes
12	W.ミラー	【第 12 回】 予習 ： Finish Reading Unit 5 'How do I get there?', p.49-51 授業 ： Grammar: Using prepositions with there is and there are / Group work / Real Stories: 'My Farewell Party 復習 ： Review notes / Do homework: Unit 5 Assignment in Google Classroom
13	W.ミラー	【第 13 回】 予習 ： Read Unit 6 'What happened?', p.52-56 授業 ： Build vocabulary about important life events, leisure activities to use in model dialogues (pair work) 復習 ： Review notes
14	W.ミラー	【第 14 回】 予習 ： Finish Reading Unit 6 'What happened?', p.57-59 授業 ： Grammar: Using the past tense: Irregular verbs / Group work / Real Stories: 'My Trip' 復習 ： Review notes / Do homework: Unit 6 Assignment in Google Classroom
15	W.ミラー	【第 15 回】 予習 ： Review all homework assignments and textbook p. 36-59 授業 ： Final Quiz of Unit 4 ~ Unit 6 復習 ： Complete course Questionnaire on the Komajo Portal.

授業開始前学習	Practice listening to spoken English through videos or audio recordings and read English books, magazines, or comics. Look up unknown words in a dictionary.
授業内課題のフィードバックの方法	Both written and oral feedback will be provided to all students for tasks and assignments. Students are encouraged to ask questions, which the teacher will answer.
テキスト・教材	English Firsthand 1 (Fifth Edition), Pearson Longman, by Helgesen et al
参考書	
評価の基準と方法	Students are evaluated on total class participation, which is 40% of grade (quizzes, submitted coursework, presentations, class participation etc.) and regular examinations are 60% of grade.
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	
その他	It is important for students to attend each class. Credit will not be given to students who miss more than a third of the classes. 3 late arrivals will be counted as 1 absence. Arrival 30 minutes or more after the class has started will be counted as a
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-21	授業コード	F02115
科目名称	英語ＡＩ			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishA Ⅰ			授業区分	演習･実習･実技
科目責任者	K.バーンズ			必修･選択	履修ガイド参照
担当教員	K.バーンズ			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	The emphasis of this class will be on speaking. However, listening, reading and writing will also be developed. This class though, focuses on improving the productive skills of speaking. In principle, lessons are conducted in English. If we are online we will still do speaking using software.				
到達目標	After this class, students will be able to communicate more freely in English. They will be able to have a basic conversation in English.				
アクティブ･ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	K.バーンズ	The topics of the class will follow the text book. 【第 1 回】予習 ：Read pp. 8 -11 in the textbook 授業 ：Self-Introductions/Course goals/Pairwork-Q&A activites to get to know each other 復習 ：Review notes/ Do homework
2	K.バーンズ	【第 2 回】 予習 ：Read pp. 12-19 授業 ：Hobbies and Interests/Pairwork 復習 ：Review notes/ Do homework
3	K.バーンズ	【第 3 回】 予習 ：Read pp. 20-24 授業 ：Appearance adjectives/Pairwork 復習 ：Review notes/ Do homework
4	K.バーンズ	【第 4 回】 予習 ：Read pp. 25 -27 授業 ：Simple Present Pairwork and Group work 復習 ：Review notes/ Do homework
5	K.バーンズ	【第 5 回】 予習 ：Read pp. 28-32 授業 ：Daily activities and routines Pairwork and Discussion 復習 ：Review notes/ Do homework
6	K.バーンズ	【第 6 回】 予習 ：Read pp. 33-35 授業 ：Adverbs of Frequency Pairwork 復習 ：Review notes/ Do homework
7	K.バーンズ	【第 7 回】 予習 ：Review all homework assignments 授業 ：General review - Pairwork 復習 ：Reread textbook pp.8 -24
8	K.バーンズ	【第 8 回】 予習 ：Review all homework assignments 授業 ：General review/Group Work prepare a Group Presentation (Project Based Learning) 復習 ：Reread textbook pp.25-35
9	K.バーンズ	【第 9 回】 予習 ：Read pp. 36-39 授業 ：Furniture, household furnishing,and locations/Group Work - Prepare a Presentation (Project Based Learning) 復習 ：Review notes/ Do homework
10	K.バーンズ	【第 10 回】 予習 ：Read pp. 40-43 授業 ：Prepositions-There is and There are/ Pairwork / Groupwork - Perform Presentations (Project Based Learning) 復習 ：Review notes/ Do homework

11	K.バーンズ	【第 11 回】 予習　：Read pp. 44-47 授業　：Giving Directions - Pairwork 復習　：Review notes/ Do homework
12	K.バーンズ	【第 12 回】 予習　：Read pp. 48-51 授業　：To,at,from,on,in with directions - Pairwork and Discussion 復習　：Review notes/ Do homework
13	K.バーンズ	【第 13 回】 予習　：Read pp. 52-55 授業　：Important life events,past activities Pairwork and Group work 復習　：Review notes/ Do homework
14	K.バーンズ	【第 14 回】 予習　：Read pp. 56-59 授業　：Talk about a trip you took - Pairwork 復習　：Review notes/ Do homework
15	K.バーンズ	【第 15 回】 予習　：Review all homework assignments 授業　：General review 復習　：Reread textbook pp.36-59

授業開始前学習	Before the class starts students can prepare by listening to English recordings and reading English books, magazines or comics.　Look up words in the dictionary.
授業内課題のフィードバックの方法	Comprehensive feedback will be provided on coursework. Once class starts, evaluated homework assignments will be provided after each class to help students review and better understand the material.
テキスト・教材	English Firsthand 1 by Helgesen et al　(Pearson Longman)
参考書	
評価の基準と方法	Students are evaluated on a total of class participation points of 40% (mini tests, submitted coursework, presentations, class participation etc.)　and regular examinations 60%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	English Conversation
その他	It is important for students to attend each class.　Credit will not be given to students who miss more than a third of the classes.　3 late arrivals will be counted as 1 absence.　Arrival after 30 minutes or more after the start of class will be counted a
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-21	授業コード	F02116
科目名称	英語ＡⅠ			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishAⅠ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	鈴木　悠理			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鈴木　悠理			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	本科目では、英語の基礎的な運用能力の習得のために、「リスニング」「スピーキング」「リーディング」「ライティング」の４技能を効果的に統合したペア・グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動を行う。特に「ライティング」と「スピーキング」を中心に英語を発信する能力の向上を目標とする。				
到達目標	基本的な構文を使って、英文を書いたり英語を話したりできる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	鈴木　悠理	【第 1 回】 予習：シラバスを確認する。今までの英語学習を振り返り、復習する。 授業：ガイダンス（授業概要、到達目標、授業の進め方について） 復習：ガイダンスをもとに、前期の目標を立てる。テキストを用意する。Google Classroom に登録する。
2	鈴木　悠理	【第 2 回】 予習：Unit 1 の音声を聞き、音読する。Unit 1 全体を通して分からない単語や表現を調べる。 授業：Unit 1（前半）ライティング、ペア・グループワーク 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。
3	鈴木　悠理	【第 3 回】 予習：Unit 1 の音声を聞き、音読する。小テストの準備をする。 授業：Unit 1（後半）ライティング、ペア・グループワーク、Unit 1（全体）小テスト 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。小テストを振り返る。
4	鈴木　悠理	【第 4 回】 予習：Unit 2 の音声を聞き、音読する。Unit 2 全体を通して分からない単語や表現を調べる。 授業：Unit 2（前半）ライティング、ペア・グループワーク 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。
5	鈴木　悠理	【第 5 回】 予習：Unit 2 の音声を聞き、音読する。小テストの準備をする。 授業：Unit 2（後半）ライティング、ペア・グループワーク、Unit 2（全体）小テスト 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。小テストを振り返る。
6	鈴木　悠理	【第 6 回】 予習：Unit 3 の音声を聞き、音読する。Unit 3 全体を通して分からない単語や表現を調べる。 授業：Unit 3（前半）ライティング、ペア・グループワーク 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。
7	鈴木　悠理	【第 7 回】 予習：Unit 3 の音声を聞き、音読する。 授業：Unit 3（後半）ライティング、ペア・グループワーク、Unit 3（全体）小テスト 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。小テストを振り返る。
8	鈴木　悠理	【第 8 回】 予習：Unit 1～3 を振り返り、分からない単語の調べ直しや間違えた問題の解き直しをする。 授業：Unit 1～3 振り返り 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。間違えた問題を解き直す。
9	鈴木　悠理	【第 9 回】 予習：Unit 4 の音声を聞き、音読する。Unit 4 全体を通して分からない単語や表現を調べる。 授業：Unit 4（前半）ライティング、ペア・グループワーク 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。
10	鈴木　悠理	【第 10 回】 予習：Unit 4 の音声を聞き、音読する。小テストの準備をする。 授業：Unit 4（後半）ライティング、ペア・グループワーク、Unit 4（全体）小テスト 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。小テストを振り返る。

11	鈴木　悠理	【第 11 回】 予習：Unit 5 の音声を聞き、音読する。Unit 5 全体を通して分からない単語や表現を調べる。 授業：Unit 5（前半）ライティング、ペア・グループワーク 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。
12	鈴木　悠理	【第 12 回】 予習：Unit 5 の音声を聞き、音読する。 授業：Unit 5（後半）ライティング、ペア・グループワーク、Unit 5（全体）小テスト 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。小テストを振り返る。
13	鈴木　悠理	【第 13 回】 予習：Unit 6 の音声を聞き、音読する。Unit 6 全体を通して分からない単語や表現を調べる。 授業：Unit 6（全体）ライティング、ペア・グループワーク 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。
14	鈴木　悠理	【第 14 回】 予習：Unit 4～6 を振り返り、分からない単語の調べ直しや間違えた問題の解き直しをする。 授業：Unit 4～6 振り返り 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。間違えた問題を解き直す。
15	鈴木　悠理	【第 15 回】 予習：Unit 1～6 を振り返り、分からない単語の調べ直しや間違えた問題の解き直しをする。 授業：Unit 1～6 振り返り 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。間違えた問題を解き直す。

授業開始前学習	時事ニュースや文化（映画・音楽・ファッションなど）を通して英語に触れる機会を持つこと。 これまでの英語学習を振り返ること。
授業内課題のフィードバックの方法	約 2 週に 1 回、各 Unit の学習を終えたところで小テストを行う。翌週、返却時に解説を行う。授業 8 回目、15 回目に授業内容の復習を行い、クラスおよび個別の質問に回答する。
テキスト・教材	VELC 研究会教育開発グループ（編）『AMBITIONS Beginner 4 技能統合型で学ぶ英語コース：入門編』金星堂
参考書	英和辞典・和英辞典があるとよい（電子辞典可）。その他は授業内で適宜紹介する。
評価の基準と方法	平常点 40%（授業参加態度、小テスト、課題提出など）および定期試験 60%を総合して評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	
その他	出席を重視する。全授業の 3 分の 1 以上を欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。その他、公欠についてなどは第 1 回の授業で説明する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-21	授業コード	F02117
科目名称	英語ＡＩ			単位数	履修ガイド参照
英文名称	EnglishA Ⅰ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	中川　優一			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	中川　優一			開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	高校までの英語学習を基に、基礎的な英語力の向上を目指す。基本的な英語表現を用いて、質問したり、答えたりできるようにする。日常生活において、数字や品物の値段の確認、日付、曜日等の、必要であると同時に重要な情報を正確に聞き取ったり、伝えたりできるようにする。簡単な単語やフレーズを使って、自分の気持ちや意見を相手に伝えられるかを意識しながら、会話や英作文での表現の幅を広げる。また、積極的にコミュニケーションを図る態度も育成する。				
到達目標	基本的な構文を使って、英文を書いたり英語を話したりできる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	中川　優一	第 1 回 予習：教科書や辞書の確認をする。自分の今までの英語学習を振り返り、今学期の目標を考える。 授業：オリエンテーション　（授業のねらいと課題解決型学習について）。 復習：授業の内容を振り返る。ワークシート。
2	中川　優一	第 2 回 予習：教科書の該当箇所に目を通す（pp. 5-7）。 授業：ワークシートの解き直し。Scene 1 It's So Nice to Meet You! 復習：授業の内容を振り返り、ワークシートを使って文法、表現を確認する。
3	中川　優一	第 3 回 予習：教科書の該当箇所に目を通す（pp. 8-10）。 授業：ワークシートの解き直し。Scene 1 It's So Nice to Meet You! 復習：授業の内容を振り返り、ワークシートを使って単語、表現を確認する。
4	中川　優一	第 4 回 予習：教科書の該当箇所に目を通す（pp. 11-13）。 授業：ワークシートの解き直し。Scene 2 Is He a Popular Professor? 復習：授業の内容を振り返り、ワークシートを使って文法、表現を確認する。
5	中川　優一	第 5 回 予習：教科書の該当箇所に目を通す（pp. 14-16）。 授業：ワークシートの解き直し。Scene 2 Is He a Popular Professor? 復習：授業の内容を振り返り、ワークシートを使って単語、表現を確認する。
6	中川　優一	第 6 回 予習：教科書の該当箇所に目を通す（pp. 17-19）。 授業：ワークシートの解き直し。Scene 3 He Showed Me “a” Way 復習：授業の内容を振り返り、ワークシートを使って文法、表現を確認する。
7	中川　優一	第 7 回 予習：教科書の該当箇所に目を通す（pp. 20-22）。 授業：ワークシートの解き直し。Scene 3 He Showed Me "a" Way 復習：授業の内容を振り返り、ワークシートを使って単語、表現を確認する。
8	中川　優一	第 8 回 予習：これまでの授業を総復習する。 授業：前期前半のまとめを行う。 復習：まとめでわからなかったところを確認する。
9	中川　優一	第 9 回 予習：教科書の該当箇所に目を通す（pp. 23-25）。 授業：前期前半のまとめの講評、及び Scene 4 For Here or To Go? 復習　：授業の内容を振り返り、ワークシートを使って文法、表現を確認する。
10	中川　優一	第 10 回 予習：教科書の該当箇所に目を通す（pp. 26-28）。 授業：ワークシートの解き直し。Scene 4 For Here or To Go? 復習：授業の内容を振り返り、ワークシートを使って単語、表現を確認する。

11	中川　優一	第 11 回 予習：教科書の該当箇所に目を通す（pp. 29-31）。 授業：ワークシートの解き直し。Scene 5 She is So Beautiful 復習：授業の内容を振り返り、ワークシートを使って文法、表現を確認する。
12	中川　優一	第 12 回 予習：教科書の該当箇所に目を通す（pp. 32-34）。 授業：ワークシートの解き直し。Scene 5 She is So Beautiful 復習：授業の内容を振り返り、ワークシートを使って単語、表現を確認する。
13	中川　優一	第 13 回 予習：教科書の該当箇所に目を通す（pp. 35-37）。 授業：ワークシートの解き直し。Scene 6 Catching a Cab 復習：授業の内容を振り返り、ワークシートを使って文法、表現を確認する。
14	中川　優一	第 14 回 予習：これまでの授業を総復習する。 授業：前期後半のまとめを行う。 復習：まとめでわからなかったところを確認する。
15	中川　優一	第 15 回 予習：教科書の該当箇所に目を通す（pp. 38-40）。 授業：前期後半のまとめの講評、及び Scene 6 Catching a Cab 復習：まとめの内容を振り返り、自分の課題を見つける。

授業開始前学習	映画・音楽・テレビ・新聞など、英語に触れる機会を多く持つこと。興味がある文章や単語を、辞書で調べる。
授業内課題のフィードバックの方法	毎時間授業冒頭で小テストを行い、返却時に確認する。
テキスト・教材	土屋武久他著『Hello New York! (映像で学ぶはじめての NY ホームステイ）』（金星堂）
参考書	
評価の基準と方法	平常点 40%（小テスト、課題提出、Presentation、授業態度等）および定期試験 60%を総合して評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	
その他	出席を重視する。全授業数の３分の１以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻３回で欠席１回とみなす。講義開始後３０分以上の遅刻は欠席とみなす。その他、１回目の授業で説明する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-21	授業コード	F02118
科目名称	英語ＡＩ			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishＡＩ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	佐々木　千恵			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	佐々木　千恵			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	英語会話表現Ⅰでは、英語の基礎的な運用能力の習得のために、「リスニング」「スピーキング」「リーディング」「ライティング」の４技能を効果的に統合したグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動を行う。英語のコミュニケーションスキルを高めることを目的とする。				
到達目標	基本的な英語表現を使って、日常的なトピックについて自分の考えを述べたり、やりとりをすることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	佐々木　千恵	【第 1 回】 予習：とくにありません。 授業：オリエンテーション。今後の授業の進め方等の説明。プリントを使用して学習。 復習：授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。
2	佐々木　千恵	【第 2 回】 予習　：　p11-13 の中で知らない単語は意味調べをしておく。 授業　：　p11　写真を見ながらスピーキング練習。単語と文章を音読。12p リスニング＆ディクテーション。p 13 をグループワークによりスピーキング練習。その表現を用いてライティング練習。 復習　：授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。
3	佐々木　千恵	【第 3 回】 予習　：　p14-16 の中で知らない単語は意味調べをしておく。 授業　：前回の単語チェックテスト。p14 の表現を用いて暗唱スピーキング練習。p15 写真を見ながらスピーキング練習。単語と文章を音読。p 16 リスニング＆ディクテーション。 復習　：授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。
4	佐々木　千恵	【第 4 回】 予習　：　p17-19 の中で知らない単語は意味調しておく。 授業　：前回の単語チェックテスト。p 17 をグループワークによりスピーキング練習。その表現を用いてライティング練習。p18 の表現を用いて暗唱スピーキング練習。p 19 の写真を見ながらスピーキング練習。単語と文章を音読。 復習　：授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。
5	佐々木　千恵	【第 5 回】 予習　：p20-22 の中で知らない単語は意味調しておく。 授業　：前回の単語チェックテスト。p 20 リスニング＆ディクテーション。p 21 をグループワークによりスピーキング練習。その表現を用いてライティング練習。p 22 の表現を用いて暗唱スピーキング練習。 復習　：授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。
6	佐々木　千恵	【第 6 回】 予習 p23-25 の中で知らない単語は意味調べをしておく。 授業　：前回の単語チェックテスト。p23 写真を見ながらスピーキング練習。単語と文章を音読。p24 リスニング＆ディクテーション。p 25 をグループワークによりスピーキング練習。その表現を用いてライティング練習。 復習　：授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。
7	佐々木　千恵	【第 7 回】 予習　：p26-28 の中で知らない単語は意味調しておく。 授業　：前回の単語チェックテスト。 p26 の表現を用いて暗唱スピーキング練習。p27 写真を見ながらスピーキング練習。単語と文章を音読。p 28 リスニング＆ディクテーション。 復習　：授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。
8	佐々木　千恵	【第 8 回】 予習　：ここまでの授業を総復習する。 授業　：前期前半の振り返り。 復習　：自分の弱点を見極めて重点的に復習をする。
9	佐々木　千恵	【第 9 回】 予習　：p29-31 の中で知らない単語は意味調しておく。 授業：ｐ29 をグループワークによりスピーキング練習。その表現を用いてライティング練習。 p30 の表現を用いて暗唱スピーキング練習。ｐ31 の写真を見ながらスピーキング練習。単語と文章を音読。 復習　：授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。

10	佐々木　千恵	【第 10 回】 予習　：p32-34 の中で知らない単語は意味調しておく。 授業　：前回の単語チェックテスト。 p 32 リスニング＆ディクテーション。p 33 をグループワークによりスピーキング練習。その表現を用いてライティング練習。p 34 の表現を用いて暗唱スピーキング練習。 復習　：授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。
11	佐々木　千恵	【第 11 回】 予習　：p35-37 の中で知らない単語は意味調しておく。 授業　：前回の単語チェックテスト。p35 写真を見ながらスピーキング練習。単語と文章を音読。p36 リスニング＆ディクテーション。p 37 をグループワークによりスピーキング練習。その表現を用いてライティング練習。 復習　：授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。
12	佐々木　千恵	【第 12 回】 予習　：p38-40 の中で知らない単語は意味調しておく。 授業　：前回の単語チェックテスト。p38 の表現を用いて暗唱スピーキング練習。p39 写真を見ながらスピーキング練習。単語と文章を音読。p 40 リスニング＆ディクテーション。 復習　：授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。
13	佐々木　千恵	【第 13 回】 予習：p41-43 の中で知らない単語は意味調しておく。 授業：前回の単語チェックテスト。p 41 をグループワークによりスピーキング練習。その表現を用いてライティング練習。 p42 の表現を用いて暗唱スピーキング練習。p 43 の写真を見ながらスピーキング練習。単語と文章を音読。 復習：授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。
14	佐々木　千恵	【第 14 回】 予習：p44-46 の中で知らない単語は意味調しておく。 授業：前回の単語チェックテスト。 p 44 リスニング＆ディクテーション。p 45 をグループワークによりスピーキング練習。その表現を用いてライティング練習。p 46 の表現を用いて暗唱スピーキング練習。 復習：授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。
15	佐々木　千恵	【第 15 回】 予習　：ここまでの授業を総復習する。 授業　：前期後半の振り返り。 復習　：自分の課題を見つけ今後の対策を立てる。

授業開始前学習	映画・音楽・テレビ・新聞など、英語に触れる機会を多く持つこと。興味がある文章や単語を、辞書で調べる。
授業内課題のフィードバックの方法	授業中に予習の確認、あるいは復習のための小テストを適宜行い、返却時に解説し復習を促す。
テキスト・教材	Andrew E. Bennett 著『English Listening and Speaking Patterns　1　』 南雲堂
参考書	特にありません。
評価の基準と方法	平常点 40%（小テスト、課題提出、Presentation、授業態度等）および定期試験 60%を総合して評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	
その他	出席を重視する。全授業数の 3 分の 1 以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。講義開始後 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。その他、1 回目の授業で説明する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-21	授業コード	F02134
科目名称	英語ＡＩ			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishＡＩ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	薬師　英子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	薬師　英子			開講時期	1 年
オフィスアワー	前期　火曜日 10:00～13:00 後期　火曜日 10:00～13:00			研究室	10-55
授業概要	英語ＡＩでは、英語の基礎的な運用能力の習得のために、「リスニング」「スピーキング」「リーディング」「ライティング」の４技能を効果的に統合したグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動を行う。特に「ライティング」と「スピーキング」という英語を発信する能力の向上を目標とする。				
到達目標	基本的な構文で書かれた英文を、複数回にわたり聞き取りをすると、理解できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	薬師　英子	【第１回】 予習　：自分の英語学習を振り返る 授業　：オリエンテーション（授業のねらい、授業の進め方等について）グループワーク 復習　：家庭学習を考える
2	薬師　英子	【第２回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：Unit 1 Icebreaking (pp.16~18) Unit の Dialogue を活用したグループワークとディスカッション 復習　：授業中の活動を振り返る
3	薬師　英子	【第３回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：Unit 1 Icebreaking (pp.19~21) Review & Activity　前週のディスカッションをふまえた発表 復習　：授業中の活動を振り返る
4	薬師　英子	【第４回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：Unit 2 Describing People (Character) (pp.22~24)　Unit の Dialogue を活用したグループワークとディスカッション 復習　：授業中の活動を振り返る
5	薬師　英子	【第５回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：Unit 2 Describing People (Character) (pp.25~27) Review & Activity　前週のディスカッションをふまえた発表 復習　：授業中の活動を振り返る
6	薬師　英子	【第６回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：Unit 3 Describing People (Appearance) (pp.28~30)　Unit の Dialogue を活用したグループワーク 復習　：授業中の活動を振り返る
7	薬師　英子	【第７回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：Unit 3 Describing People (Appearance) (pp.31~33) Review & Activity、これまで学んできたUnit1~3(pp.16~33)についてのまとめ提出 復習　：授業中の活動を振り返る
8	薬師　英子	【第８回】 予習　：ここまでの授業を総復習する 授業　：前期前半のまとめをする 復習　：まとめを振り返る
9	薬師　英子	【第９回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：Unit 4 Inviting People (pp.34~36)、これまで学んできた Unit1~4(pp.16~36)についてのまとめの講評 復習　：授業中の活動を振り返る

10	薬師　英子	【第 10 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：Unit 4 Inviting People (pp.37~39) Review & Activity　Unit の Dialogue を活用したグループワーク 復習　：授業中の活動を振り返る
11	薬師　英子	【第 11 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：Unit 5 Giving Directions (pp.40~42)　Unit の Dialogue を活用したグループワークとディスカッション 復習　：授業中の活動を振り返る
12	薬師　英子	【第 12 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：Unit 5 Giving Directions (pp.43~45) Review & Activity　前週のディスカッションをふまえた発表 復習　：授業中の活動を振り返る
13	薬師　英子	【第 13 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：Unit 6 Complaining & Apologizing (pp.46~48)、これまで学んできた Unit1~6(pp.16~48)についてのまとめ提出 復習　：授業中の活動を振り返る
14	薬師　英子	【第 14 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：Unit 6 Complaining & Apologizing (pp.49~51) Review & Activity　グループワーク 復習　：授業中の活動を振り返る
15	薬師　英子	【第 15 回】 予習　：今まで授業で学んだことを振り返る 授業　：Review of Unit 1 Icebreaking ~ Unit 6 Complaining & Apologizing (pp.16~51)、これまで学んできた Unit1~6(pp.16~51)についてのまとめの講評 復習　：自分の課題を見つけ対策を立てる

授業開始前学習	学習予定の Unit の内容・単語の予習と小テストに向けての学習を必ず行うこと。映画・音楽・テレビ・新聞記事など、英語に触れる機会を多く持ち、国際的な事柄に積極的に興味を持つこと。
授業内課題のフィードバックの方法	毎時間授業の冒頭で小テストを行う。授業 7 回目、13 回目に提出するまとめについては、2 週間後（授業 9 回目、15 回目）に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。
テキスト・教材	吉富　昇著『Communication Builder　-Revised Edition』（南雲堂）
参考書	授業中に紹介する。
評価の基準と方法	試験 60%、平常点 40%（小テスト、課題提出、Presentation、授業参加意欲）
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	
その他	出席を重視する。単位認定には全授業数の 3 分の 2 以上の出席が必須とする。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。講義開始後 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。テキスト忘れ、授業内での携帯使用等は授業参加意欲の減点対象とする。その他、1 回目の授業で説明する。欠席した回の学習内容はシラバス、配信資料等に確認し、各自でフォローアップする。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024 年入学者）		授業コード	F02151
科目名称	英語ＡＩ			単位数	1.0 単位
英文名称	English (Conversational Expressions) Ⅰ／EnglishAⅠ			授業区分	演習
科目責任者	佐々　うらら			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	佐々　うらら			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	高校までの英語学習を基に、基礎的な英語力の向上を目指す。基本的な英語表現を用いて、質問したり、答えたりできるようにする。日常生活において、必要かつ重要な情報を正確に聞き取ったり、伝えたりできるようにする。簡単な単語やフレーズを使って、自分の気持ちや意見を相手に伝えられるかを意識しながら、会話や英作文での表現の幅を広げる。また、積極的にコミュニケーションを図る態度も育成する。				
到達目標	基礎的な英会話能力を習得する。また、TOEIC の得点アップを目指す。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	佐々　うらら	【第 1 回】 予習：　シラバスを読んでおく。テキスト購入。 　　これまでに学習してきた英語（ボキャブラリー・文法）の見直し。 授業　：ガイダンス（今後の授業方針、成績評価基準の説明等） 復習　：今後の学習内容の確認。
2	佐々　うらら	【第 2 回】 予習　：教科書 p.12-14 (概観。わからない単語を調べる。) 授業　：Unit1 Jobs & Careers p.12-14 ロールプレイなど 復習　：第 2 回の学習内容
3	佐々　うらら	【第 3 回】 予習　：教科書 p.15-17 (概観。わからない単語を調べる。) 授業　：Unit1 Jobs & Careers p.15-17 ロールプレイなど 復習　：第 3 回の学習内容
4	佐々　うらら	【第 4 回】 予習　：教科書 p.18-20 (概観。わからない単語を調べる。) 授業　：Unit2 Entertainment p.18-20 ロールプレイなど 復習　：第 4 回の学習内容
5	佐々　うらら	【第 5 回】 予習　：教科書 p.21-23 (概観。わからない単語を調べる。) 授業　：Unit2 Entertainment p.21-23 ロールプレイなど 復習　：第 5 回の学習内容
6	佐々　うらら	【第 6 回】 予習　：教科書 p.24-26 (概観。わからない単語を調べる。) 授業　：Unit3 Work Schedule p.24-26 ロールプレイなど 復習　：第 6 回の学習内容
7	佐々　うらら	【第 7 回】 予習　：教科書 p.27-29 (概観。わからない単語を調べる。) 授業　：Unit3 Work Schedule p.27-29 ロールプレイなど 復習　：第 7 回の学習内容
8	佐々　うらら	【第 8 回】 予習　：教科書 p.30-32 (概観。わからない単語を調べる。) 授業　：Unit4 Health & Fitness p.30-32 ロールプレイなど 復習　：第 8 回の学習内容
9	佐々　うらら	【第 9 回】 予習　：教科書 p.33-35 (概観。わからない単語を調べる。) 授業　：Unit4 Health & Fitness p.33-35 ロールプレイなど 復習　：第 9 回の学習内容
10	佐々　うらら	【第 10 回】 予習　：教科書 p.36-38 (概観。わからない単語を調べる。) 授業　：Unit5 Shopping p.36-38 ロールプレイなど 復習　：第 10 回の学習内容

11	佐々　うらら	【第 11 回】 予習　：教科書　p.39-41 (概観。わからない単語を調べる。) 授業　：Unit5 Shopping p.39-41　ロールプレイなど 復習　：第 11 回の学習内容
12	佐々　うらら	【第 12 回】 予習　：教科書　p.42-44 (概観。わからない単語を調べる。) 授業　：Unit6 Business Meeting p.42-44　ロールプレイなど 復習　：第 12 回の学習内容
13	佐々　うらら	【第 13 回】 予習　：教科書　p.45-47 (概観。わからない単語を調べる。) 授業　：Unit6 Business Meeting p.45-47　ロールプレイなど 復習　：第 13 回の学習内容
14	佐々　うらら	【第 14 回】 予習　：教科書　p.48-50 (概観。わからない単語を調べる。) 授業　：Unit7 Recruitment p.48-50　ロールプレイなど 復習　：第 14 回の学習内容
15	佐々　うらら	【第 15 回】 予習　：教科書　p.51-53 (概観。わからない単語を調べる。) 授業　：Unit7 Shopping p.51-53　ロールプレイなど 復習　：第 15 回の学習内容

授業開始前学習	今までに学んできた英語（特に単語・文法）を復習しておく。 テキストを購入しておく。
授業内課題のフィードバックの方法	毎回の課題については、翌週の冒頭で小テストを実施する。 各ユニット終了後、内容に関連したレポートの提出や口頭試問を実施（基本的には講義中）。 提出物については、評価基準を明確にした上で採点し返却する。
テキスト・教材	①Robert Hickling / Misato Usukura 著『English Switch』(金星堂) ②濵﨑潤之輔著『中学英語からやり直す TOEIC®L&R テスト超入門』（ask） ※①②の 2 冊を通年使用する。
参考書	
評価の基準と方法	小テスト 20%、平常点(課題提出、Presentation、授業態度等)80%で評価。 定期試験は実施しない。 出席を重視する。 その他、第 1 回の授業で説明する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	
その他	講義ではシラバスに沿って、①English Switch を使って会話表現を学びつつ、確かな英語力を身に着けるため、 ②TOEIC®L&R テスト超入門を使って文法の確認も実施する。毎回、①②両方のテキストを持参すること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-21	授業コード	F02161
科目名称	英語 AⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishAⅡ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	バラダッドリチャード			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	R.バラダッド			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	インタラクティブな練習を通じて英語の聞き取りと会話を体感します．英語会話表現Ⅱでは、英語の基礎的な運用能力の習得のために、「リスニング」「スピーキング」「リーディング」「ライティング」の 4 技能を効果的に統合したグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動を行う。特に「ライティング」と「スピーキング」という英語を発信する能力のさらなる向上を目標とする。				
到達目標	この授業では、さまざまな楽しく興味深いリスニングや発音、スピーキングアクティビティー（個人、ペア、グループアクティビティーなど）を通して、英語を話す力、および理解力を向上させることに焦点を当てます。標準的な構文を使って、英文を書いたり英語を話したりできる。標準的な英語表現を使って、さまざまなトピックについて自分の考えを述べたり、やりとりをすることができる。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	R.バラダッド	【第 1 回】 予習　：Come prepared to talk about your summer vacation 授業　：Introduction/ Course goals/ talking about summer vacation, Q&A activities 復習　：Review notes/ Do homework
2	R.バラダッド	【第 2 回】 予習　：Read pp. 60-63 授業　：Talking about types of jobs and job skills, pair work 復習　：Review notes/ Do homework
3	R.バラダッド	【第 3 回】 予習　：Read pp. 64-67 授業　：Exchanging job skill information, group work 復習　：Review notes/ Do homework/ do GC video presentation Unit 7
4	R.バラダッド	【第 4 回】 予習　：Read pp. 68-71 授業　：Talking about entertainment, pair work, Unit 7 quiz 復習　：Review notes/ Do homework
5	R.バラダッド	【第 5 回】 予習　：Read pp. 72-75 授業　：Inviting and suggesting, group work 復習　：Review notes/ Do homework/ do GC video presentation Unit 8
6	R.バラダッド	【第 6 回】 予習　：Read pp. 76-79 授業　：Talking about the future, pair work, Unit 8 Quiz 復習　：Review notes/ Do homework
7	R.バラダッド	【第 7 回】 予習　：Read pp. 80-83 授業　：Talking about your partner's future, group work 復習　：　Do homework/review 64-83 for mid-term quiz
8	R.バラダッド	【第 8 回】 予習　：Prepare for quiz 授業　：Quiz for units 7-9 / Speaking exercise in pairs 復習　：Preview Unit 10/ Do homework
9	R.バラダッド	【第 9 回】 予習　：Read pp. 84-87 授業　：Talking about shopping, clothing, and electronics, pair work 復習　：Review notes/ Do homework
10	R.バラダッド	【第 10 回】 予習　：Read pp. 88-91 授業　：Talking about shopping experiences, group work 復習　：Review notes/ Do homework
11	R.バラダッド	【第 11 回】 予習　：Read pp. 92-95 授業　：Describing processes, pair work, Unit 10 Quiz 復習　：Review notes/ Do homework

12	R.バラダッド	【第 12 回】 予習　：Read pp. 96-99 授業　：Grammar focus: Using sequence markers and imperatives, group work 復習　：Review notes/ Do homework/ do GC video presentation Unit 11
13	R.バラダッド	【第 13 回】 予習　：Read pp. 100-103 授業　：Talking about and giving opinions about music, pair work, Unit 11 Quiz 復習　：Review notes/ Do homework
14	R.バラダッド	【第 14 回】 予習　：Read pp. 104-107 授業　：Talking about a personal story or series of events, group work 復習　：　Do homework/ review 84-107 for final quiz
15	R.バラダッド	【第 15 回】 予習　：Prepare for quiz 授業　：Quiz for units 10-12 / Speaking exercise in pairs 復習　：Do Portal evaluations in class (after quiz)

授業開始前学習	映画・音楽・テレビ・新聞など、英語に触れる機会を多く持つこと。興味がある文章や単語を、辞書で調べる。
授業内課題のフィードバックの方法	毎時間授業冒頭で小テストを行い、返却時に確認する。授業７回目、１３回目に提出するまとめについては、２週間後（授業９回目、１５回目）に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。
テキスト・教材	English Firsthand 1, 5th Edition (Marc Helgesen) Pearson
参考書	
評価の基準と方法	平常点 40%（小テスト、課題提出、Presentation、授業態度等）および定期試験 60%を総合して評価する
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	
その他	出席を重視する。全授業数の３分の１以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻３回で欠席１回とみなす。講義開始３０分以上の遅刻は欠席をみなす。その他、１回目の授業で説明する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-21	授業コード	F02162
科目名称	英語 AⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishAⅡ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	R.ヨシダ			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	R.ヨシダ			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	Required English (Conversational Expressions) II continues to integrate the four skills (listening, speaking, reading and writing), based on what students learned in AI. We focus on group works, discussions, presentations etc. to further develop functional ability in English. English (Conversational Expressions) II has a particular focus on improving the productive skills of speaking and writing. The lessons are designed to help develop students' confidence and fluency in communicating in English.				
到達目標	English (Conversational Expressions) II aims to improve students' confidence and proficiency in their spoken and written English. Students speak and write English using basic syntax, receiving guidance where necessary. Each student will have many oppor				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	R.ヨシダ	【第 1 回】 予習 ： Don't forget your textbook! 授業 ： Unit 7 (pp.60-62): Jobs - vocabulary; listening; conversation 復習 ： Vocabulary review
2	R.ヨシダ	【第 2 回】 予習 ： preparation for Review quiz 授業 ： Unit 7 (pp.63-67): Jobs - grammar; pair/group work; discussions 復習 ： Grammar review
3	R.ヨシダ	【第 3 回】 予習 ： preparation for Review quiz 授業 ： Unit 8 (pp.68-70): Entertainment - vocabulary; listening; conversation 復習 ： Vocabulary review
4	R.ヨシダ	【第 4 回】 予習 ： preparation for Review quiz 授業 ： Unit 8 (pp.71-75): Entertainment - grammar; pair/group work; discussions 復習 ： Grammar review
5	R.ヨシダ	【第 5 回】 予習 ： preparation for Review quiz 授業 ： Unit 9 (pp.76-78): Plans & activities - vocabulary; listening; conversation 復習 ：Vocabulary review
6	R.ヨシダ	【第 6 回】 予習 ： preparation for Review quiz 授業 ： Unit 9 (pp.79-83): Plans & activities - grammar; pair/group work; discussions 復習 ：Grammar review
7	R.ヨシダ	【第 7 回】 予習 ： preparation for Midterm Task 1 授業 ： Midterm Task 1: Students submit a review of content learned in Units 7-9; Preparation for Midterm Task 2 復習 ： Grammar & Vocabulary review
8	R.ヨシダ	【第 8 回】 予習 ：preparation for Midterm Task 2 授業 ： Midterm Task 2 (speaking): Students give individual presentations 復習 ： Grammar & Vocabulary review
9	R.ヨシダ	【第 9 回】 予習 ： Vocabulary 授業 ： Students receive feedback on Midterm Task 1 (writing) and Task 2 (speaking); Unit 10 (pp.84-86): Shopping - vocabulary; listening; conversation 復習 ： Vocabulary review

10	R.ヨシダ	【第 10 回】 予習 ： preparation for Review quiz 授業 ： Unit 10 (pp.87-91): Shopping - grammar; pair/group work; discussions 復習 ： Grammar review
11	R.ヨシダ	【第 11 回】 予習 ： preparation for Review quiz 授業 ： Unit 11 (pp.92-94): Giving instructions - vocabulary; listening; conversation 復習 ： Vocabulary review
12	R.ヨシダ	【第 12 回】 予習 ： preparation for Review quiz 授業 ： Unit 11 (pp.92-94): Giving instructions - grammar; pair/group work; discussions 復習 ：Grammar review
13	R.ヨシダ	【第 13 回】 予習 ： preparation for Review quiz 授業 ： Unit 12 (pp.95-99): Opinions - vocabulary; listening; grammar; pair/group work; discussions 復習 ： Grammar & Vocabulary review
14	R.ヨシダ	【第 14 回】 予習 ： preparation for Final Task 1 授業 ： Final Task 1: Students submit a review of content learned in Units 10-12 復習 ： Grammar & Vocabulary review
15	R.ヨシダ	【第 15 回】 予習 ： preparation for Final Task 2 授業 ： Final Task 2 (speaking): Students give individual presentations 復習 ： Self reflection

授業開始前学習	Take every opportunity to encounter and enjoy English through movies, music, TV, the Internet, etc.
授業内課題のフィードバックの方法	- Each "Review Quiz" (weekly quiz given at the beginning of each class) will be marked and returned in the following week. - A written feedback will be provided for each Midterm and Final task.
テキスト・教材	English Firsthand 1 (Pearson) ISBN: 978-981-313-022-7
参考書	Information will be given in class
評価の基準と方法	Students are evaluated on a total of class participation points 40% (review quizzes, submitted assignments, effort & attitude) and midterm and final tasks 60% (midterm 30% & final 30%).
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	
その他	出席重視。最低限必要な出席率: 2/3 It is important for students to attend each class. Credit will not be given to students who miss more than a third of the classes. 3 late arrivals will be counted as 1 absence. Arrival 30 minutes or more after the class has started
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-21	授業コード	F02163
科目名称	英語 AⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishAⅡ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	M.オーズランド			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	M.オーズランド			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	Required English AII continues to integrate the four skills (listening, speaking, reading and writing), based on what students learned in AI. We focus on group works, discussions, presentations etc. to further develop functional ability in English. English AII has a particular focus on improving the productive skills of writing and speaking.				
到達目標	Students speak and write various kinds of English using basic syntax.				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	M.オーズランド	【第 1 回】 予習　: Overview unit 10. Prepare a short speech about your summer vacation (2 minutes). 授業　: Unit 10; Have you ever been there? Describing past experiences. pp.64-66. Pair-work, groupwork, discussions. 復習　: Review unit 10 pp.64-66.
2	M.オーズランド	【第 2 回】 予習　: Overview unit 10 pp.67-69 授業　: Unit 10 continued. pp.67-69. Pair-work, groupwork, writing exercise. 復習　: Review unit 10.
3	M.オーズランド	【第 3 回】 予習　: Overview Unit 11. 授業　: Unit 11; It's a really nice city. Describing cities. Giving suggestions. pp.72-74. Pair-work, groupwork. 復習　: Review Unit 11 pp.72-74.
4	M.オーズランド	【第 4 回】 予習　: Overview Unit 11 pp.74-76 授業　: Unit 11 continued. pp.74-76. Pair-work, groupwork, discussions. 復習　: Review Unit 11.
5	M.オーズランド	【第 5 回】 予習　: Overview Unit 12. 授業　: Unit 12; It's important to get rest. Talking about health. pp.78-80. Pair-work, groupwork, discussion. 復習　: Review unit 12 pp.78-80
6	M.オーズランド	【第 6 回】 予習　:　Overview Unit 12 pp.81-83 授業　:　Unit 12 continued. Pp.81-83. Pair-work, groupwork, writing exercise, short presentation. 復習　:　Review Unit 12.
7	M.オーズランド	【第 7 回】 予習　:　Review units 10-12. Prepare a short, written report. 授業　:　General Comprehension exercises. 復習　:　Reflect on personal performance and skills that need more work.
8	M.オーズランド	【第 8 回】 予習　:　Overview Unit 13. 授業　:　Unit 13; What would you like? Food and restaurants. Likes and dislikes. pp.86-88. Pair-work, groupwork. 復習　:　Review Unit 13 pp.86-88
9	M.オーズランド	【第 9 回】 予習　:　Overview Unit 13 pp.89-91. 授業　:　Unit 13 continued. pp89-91. Pair-work, groupwork, writing exercise. 復習　:　Review Unit 13

10	M.オーズランド	【第 10 回】 予習　：　Overview Unit 14. 授業　：　Unit 14; It's the coldest city. Describing countries. Expressing opinions. pp.92-94. Pair-work, groupwork. 復習　：　Review Unit 14 pp.92-94
11	M.オーズランド	【第 11 回】 予習　：　Overview Unit 14 pp.95-97. 授業　：　Unit 14 continued; pp95-97. Pair-work, groupwork, writing exercise. 復習　：　Review Unit 14.
12	M.オーズランド	【第 12 回】 予習　：　Overview Unit 15. 授業　：　Unit 15; What are you doing later?; Talking about plans. Accepting/refusing. pp.100-102. Pair-work, groupwork. 復習　：　Review pp.100-102
13	M.オーズランド	【第 13 回】 予習　：　Overview Unit 15 pp.103-105. 授業　：　Unit 15 continued; pp103-105. Pair-work, groupwork, writing exercise. 復習　：　Review Unit 15.
14	M.オーズランド	【第 14 回】 予習　：　Overview Unit 16. 授業　：　Unit 16; How have you changed? Describing change and plans for the future. pp.106-111. Pair-work, groupwork. 復習　：　Review unit 16.
15	M.オーズランド	【第 15 回】 予習　：　Review units 13-16. Prepare a short, written report. 授業　：　General comprehension exercises. 復習　：　Reflect on personal performance and skills that need more work.

授業開始前学習	Prepare yourself to actively participate in classes in English. Consider your strong points and those that need improvement. Focus on topics that interest you, review vocabulary and listen to as much English as possible before the course.
授業内課題のフィードバックの方法	Students take a quiz at the beginning of every class or submit assignments and comprehensive feedback on these will be provided. Any questions from individual students will be answered.
テキスト・教材	Richards, R.C, Hull, J., Proctor, S., Interchange 1 Students Book (Cambridge: C.U.P., 2020) ISBN: 978-1-316-62031-1
参考書	
評価の基準と方法	Students are evaluated on a total of class participation points 40% (mini tests, submitted coursework, presentations, class participation etc.) and regular examination 60%.
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	This course follows on from the first semester course Required English AI-f and uses the same textbook.
その他	It is important for students to attend each class.　Credit will not be given to students who miss more than a third of the classes.　3 late arrivals will be counted as 1 absence.　Arrival 30 minutes or more after the class has started will be counted as a
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-21	授業コード	F02164
科目名称	英語 AⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishAⅡ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	W.ミラー			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	W.ミラー			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	Required English AII continues to integrate the four skills (listening, speaking, reading, and writing) based on what students learned in AI. We focus on group work, discussions, presentations, etc., to further develop functional ability in English. English AII has a particular focus on improving the productive skills of writing and speaking. In principle, classes will be conducted entirely in English.				
到達目標	Students speak and write various kinds of English using basic syntax.				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	W.ミラー	【第 1 回】 予習： Read Unit 0 ‘Welcome to English Firsthand 1’, p.8-11 授業： Course goals and structure will be explained. Q & A activities to get to know others. (pair work) 復習： Review notes
2	W.ミラー	【第 2 回】 予習 ： Read Unit 7 ‘I’d love that job.’, p.60-64 授業 ： Build vocabulary about different occupations to use in model dialogues (pair work) 復習 ： Review notes
3	W.ミラー	【第 3 回】 予習 ： Finish Reading Unit 7 ‘I’d love that job.’, p.65-67 授業 ： Grammar: Use enjoy…, like …, good at … / Group work / Real Stories: ‘My Hobby’ 復習 ： Review notes / Do homework: Unit 7 Assignment in Google Classroom
4	W.ミラー	【第 4 回】 予習 ： Read Unit 8 ‘What’s playing?’, p.68-72 授業 ： Build vocabulary about entertainment to use in model dialogues (pair work) 復習 ： Review notes
5	W.ミラー	【第 5 回】 予習 ： Finish Reading Unit 8 ‘What’s playing?’, p.73-75 授業 ： Grammar: Use various verb patterns for invitations / Group work / Real Stories: ‘My Special Place’ 復習 ： Review notes / Do homework: Unit 8 Assignment in Google Classroom
6	W.ミラー	【第 6 回】 予習 ： Read Unit 9 ‘What are you going to do?’, p.76-80 授業 ： Build vocabulary about plans and activities to use in model dialogues (pair work) 復習 ： Review notes
7	W.ミラー	【第 7 回】 予習 ： Finish Reading Unit 9 ‘What are you going to do?’, p.81-83 授業 ： Grammar: Use will and be going to for future events / Group work / Real Stories: ‘Our One-Year Plan’ 復習 ： Review notes / Do homework: Unit 9 Assignment in Google Classroom
8	W.ミラー	【第 8 回】 予習 ： Review all homework assignments and textbook p. 60-83 授業 ： Midterm Quiz of Unit 7 ~ Unit 9 復習 ： Review notes
9	W.ミラー	【第 9 回】 予習 ： Read Unit 10 ‘How much is this?’, p.84-88 授業 ： Build vocabulary about shopping to use in model dialogues (pair work) 復習 ： Review notes
10	W.ミラー	【第 10 回】 予習 ： Finish Reading Unit 10 ‘How much is this?’, p.89-91 授業 ： Grammar: Use comparative adjectives + intensifiers / Group work / Real Stories: ‘My Way’ 復習 ： Review notes / Do homework: Unit 10 Assignment in Google Classroom

11	W.ミラー	【第 11 回】 予習 ： Read Unit 11 'How do you make it?', p.92-96 授業 ： Build vocabulary about instructions to use in model dialogues (pair work) 復習 ： Review notes
12	W.ミラー	【第 12 回】 予習 ： Finish Reading Unit 11 'How do you make it?', p.97-99 授業 ： Grammar: Use sequence markers and imperatives / Group work / Real Stories: 'My Passion' 復習 ： Review notes / Do homework: Unit 11 Assignment in Google Classroom
13	W.ミラー	【第 13 回】 予習 ： Read Unit 12 'Listen to the music.', p.100-104 授業 ： Build vocabulary about opinions to use in model dialogues (pair work) 復習 ： Review notes
14	W.ミラー	【第 14 回】 予習 ： Finish Reading Unit 12 'Listen to the music.', p.105-107 授業 ： Grammar: Use simple past vs. present perfect / Group work / Real Stories: 'My Favorite Trend' 復習 ： Review notes / Do homework: Unit 12 Assignment in Google Classroom
15	W.ミラー	【第 15 回】 予習 ： Review all homework assignments and textbook p. 81-107 授業 ： Final Quiz of Unit 10 ~ Unit 12 復習 ： Complete course Questionnaire on the Komajo Portal.

授業開始前学習	Practice listening to spoken English through videos or audio recordings and read English books, magazines, or comics. Look up unknown words in a dictionary.
授業内課題のフィードバックの方法	Both written and oral feedback will be provided to all students for tasks and assignments. Students are encouraged to ask questions, which the teacher will answer.
テキスト・教材	English Firsthand 1 (Fifth Edition), Pearson Longman, by Helgesen et al
参考書	
評価の基準と方法	Students are evaluated on total class participation, which is 40% of grade (quizzes, submitted coursework, presentations, class participation etc.) and regular examinations are 60% of grade.
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	
その他	It is important for students to attend each class. Credit will not be given to students who miss more than a third of the classes. 3 late arrivals will be counted as 1 absence. Arrival 30 minutes or more after the class has started will be counted as a
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-21	授業コード	F02165
科目名称	英語 AⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishAⅡ			授業区分	演習･実習･実技
科目責任者	K.バーンズ			必修･選択	履修ガイド参照
担当教員	K.バーンズ			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	The emphasis of this class will be on speaking. However, listening, reading and writing will also be developed. This class though, focuses on improving the productive skills of speaking. In principle, lessons are conducted in English. If we are online we will still do speaking using software.				
到達目標	After this class, students will be able to communicate more freely in English.				
アクティブ･ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	K.バーンズ	【第 1 回】 予習 ：Come prepared to talk about your summer vacation 授業 ：Introduction/ Course goals/Talking about summer vacation -Pairwork 復習 ：Review notes/ Do homework
2	K.バーンズ	【第 2 回】 予習 ：Read pp. 64-67 授業 ：Occupations Pairwork and Discussion 復習 ：Review notes/ Do homework
3	K.バーンズ	【第 3 回】 予習 ：Read pp. 68-71 授業 ：Enjoy, like, good at and good with Pairwork and Group work 復習 ：Review notes/ Do homework
4	K.バーンズ	【第 4 回】 予習 ：Read pp. 72-75 授業 ：Entertainment Pairwork and Group work 復習 ：Review notes/ Do homework
5	K.バーンズ	【第 5 回】 予習 ：Read pp. 76-79 授業 ：Plan a Perfect Day Out Pairwork and Discussion 復習 ：Review notes/ Do homework
6	K.バーンズ	【第 6 回】 予習 ：Read pp. 80-83 授業 ：Future Plans and activities Pairwork and Group work 復習 ：Review notes/ Do homework
7	K.バーンズ	【第 7 回】 予習 ：Read pp. 84-87 授業 ：Future Tense 復習 ：Review notes/ Do homework
8	K.バーンズ	【第 8 回】 予習 ：Review all homework assignments 授業 ：General review - Project Based Learning/Group work 復習 ：Reread textbook pp.64-87
9	K.バーンズ	【第 9 回】 予習 ：Read pp. 88-91 授業 ：Clothing, electronics, and personal items -Pairwork, Project Based Learning 復習 ：Review notes/ Do homework
10	K.バーンズ	【第 10 回】 予習 ：Read pp. 92-95 授業 ：Buy and Sell things at a Flea Market (Presentations) 復習 ：Review notes/ Do homework

11	K.バーンズ	【第 11 回】 予習　: Read pp. 96-99 授業　: Processes - Pairwork 復習　: Review notes/ Do homework
12	K.バーンズ	【第 12 回】 予習　: Read pp. 100-103 授業　: Learn and teach origami paper folding -Pairwork and Group work 復習　: Review notes/ Do homework
13	K.バーンズ	【第 13 回】 予習　: Read pp. 104-107 授業　: Opinions and Music - Pairwork and Discussion 復習　: Review notes/ Do homework
14	K.バーンズ	【第 14 回】 予習　: Read pp. 107-111 授業　: Talk about your musical history - Pairwork 復習　: Review notes/ Do homework
15	K.バーンズ	【第 15 回】 予習　: Review all homework assignments 授業　: General review 復習　: Reread textbook pp.64-111

授業開始前学習	Before the class starts students can prepare by listening to English recordings and reading English books, magazines or comics.　Look up words in the dictionary.
授業内課題のフィードバックの方法	Comprehensive feedback will be provided on coursework. Once class starts, evaluated homework assignments will be provided after each class to help students review and better understand the material.
テキスト・教材	English Firsthand 1 by Helgesen et al　(Pearson Longman)
参考書	
評価の基準と方法	Students are evaluated on a total of class participation points of 40% (mini tests, submitted coursework, presentations, class participation etc.)　and regular examinations 60%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	English Conversation
その他	It is important for students to attend each class.　Credit will not be given to students who miss more than a third of the classes.　3 late arrivals will be counted as 1 absence.　Arrival after 30 minutes or more after the start of class will be counted a
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-21	授業コード	F02166
科目名称	英語 AⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishAⅡ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	鈴木　悠理			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鈴木　悠理			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	本科目では、前期に引き続き、英語の標準的な運用能力の習得のために、「リスニング」「スピーキング」「リーディング」「ライティング」の４技能を効果的に統合したペア・グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動を行う。特に「ライティング」と「スピーキング」を中心に英語を発信する能力の向上を目標とする。				
到達目標	標準的な構文を使って、英文を書いたり英語を話したりできる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	鈴木　悠理	【第 1 回】 予習：シラバスを確認する。今までの英語学習を振り返り、復習する。 授業：ガイダンス（授業概要、到達目標、授業の進め方について）、前期の復習（特に Unit 6） 復習：ガイダンスをもとに、前期の目標を立てる。テキストを用意する。Google Classroom に登録する。
2	鈴木　悠理	【第 2 回】 予習：Unit 7 の音声を聞き、音読する。Unit 7 全体を通して分からない単語や表現を調べる。 授業：Unit 7（前半）ライティング、ペア・グループワーク 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。
3	鈴木　悠理	【第 3 回】 予習：Unit 7 の音声を聞き、音読する。小テストの準備をする。 授業：Unit 7（後半）ライティング、ペア・グループワーク、Unit 7（全体）小テスト 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。小テストを振り返る。
4	鈴木　悠理	【第 4 回】 予習：Unit 8 の音声を聞き、音読する。Unit 8 全体を通して分からない単語や表現を調べる。 授業：Unit 8（前半）ライティング、ペア・グループワーク 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。
5	鈴木　悠理	【第 5 回】 予習：Unit 8 の音声を聞き、音読する。小テストの準備をする。 授業：Unit 8（後半）ライティング、ペア・グループワーク、Unit 8（全体）小テスト 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。小テストを振り返る。
6	鈴木　悠理	【第 6 回】 予習：Unit 9 の音声を聞き、音読する。Unit 9 全体を通して分からない単語や表現を調べる。 授業：Unit 9（前半）ライティング、ペア・グループワーク 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。
7	鈴木　悠理	【第 7 回】 予習：Unit 9 の音声を聞き、音読する。 授業：Unit 9（後半）ライティング、ペア・グループワーク、Unit 9（全体）小テスト 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。小テストを振り返る。
8	鈴木　悠理	【第 8 回】 予習：Unit 7～9 を振り返り、分からない単語の調べ直しや間違えた問題の解き直しをする。 授業：Unit 7～9 振り返り 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。間違えた問題を解き直す。
9	鈴木　悠理	【第 9 回】 予習：Unit 10 の音声を聞き、音読する。Unit 10 全体を通して分からない単語や表現を調べる。 授業：Unit 10（前半）ライティング、ペア・グループワーク 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。
10	鈴木　悠理	【第 10 回】 予習：Unit 10 の音声を聞き、音読する。小テストの準備をする。 授業：Unit 10（後半）ライティング、ペア・グループワーク、Unit 10（全体）小テスト 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。小テストを振り返る。

11	鈴木　悠理	【第 11 回】 予習：Unit 12 の音声を聞き、音読する。Unit 12 全体を通して分からない単語や表現を調べる。 授業：Unit 12（前半）ライティング、ペア・グループワーク 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。
12	鈴木　悠理	【第 12 回】 予習：Unit 12 の音声を聞き、音読する。 授業：Unit 12（後半）ライティング、ペア・グループワーク、Unit 12（全体）小テスト 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。小テストを振り返る。
13	鈴木　悠理	【第 13 回】 予習：Unit 13 の音声を聞き、音読する。Unit 13 全体を通して分からない単語や表現を調べる。 授業：Unit 13（全体）ライティング、ペア・グループワーク 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。
14	鈴木　悠理	【第 14 回】 予習：Unit 10, 12～13 を振り返り、分からない単語の調べ直しや間違えた問題の解き直しをする。 授業：Unit 10, 12～13 振り返り 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。間違えた問題を解き直す。
15	鈴木　悠理	【第 15 回】 予習：Unit 7～13 を振り返り、分からない単語の調べ直しや間違えた問題の解き直しをする。 授業：Unit 7～13 振り返り 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。間違えた問題を解き直す。

授業開始前学習	時事ニュースや文化（映画・音楽・ファッションなど）を通して英語に触れる機会を持つこと。 これまでの英語学習を振り返ること。
授業内課題のフィードバックの方法	約 2 週に 1 回、各 Unit の学習を終えたところで小テストを行う。翌週、返却時に解説を行う。授業 8 回目、15 回目に授業内容の復習を行い、クラスおよび個別の質問に回答する。
テキスト・教材	VELC 研究会教育開発グループ（編）『AMBITIONS Beginner 4 技能統合型で学ぶ英語コース：入門編』金星堂 *前期と同じテキスト
参考書	英和辞典・和英辞典があるとよい（電子辞典可）。その他は授業内で適宜紹介する。
評価の基準と方法	平常点 40%（授業参加態度、小テスト、課題提出など）および定期試験 60%を総合して評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	
その他	出席を重視する。全授業の 3 分の 1 以上を欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。その他、公欠についてなどは第 1 回の授業で説明する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-21	授業コード	F02167
科目名称	英語 AⅡ			単位数	履修ガイド参照
英文名称	EnglishAⅡ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	中川　優一			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	中川　優一			開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	英語（会話表現）Ⅰを基に、基礎的な英語力の向上を目指す。基礎的な英語力の向上を目指す。基本的な英語表現を用いて、質問したり、答えたりできるようにする。自分の身の回りのトピックについて、場所や時間といった具体的な情報を聞き取ったり、自分の趣味や興味のあることなどを伝えたりできるようにする。簡単な単語やフレーズを使って、自分の気持ちや意見を相手に伝えることを意識させ、会話や英作文での表現の幅を広げていく。また、積極的にコミュニケーションを図る態度も育成する。				
到達目標	標準的な構文を使って、英文を書いたり英語を話したりできる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	中川　優一	第 1 回 予習：今学期の目標を考える。教科書の該当箇所に目を通す（pp. 41-43）。 授業：オリエンテーション。Scene 7 How Romantic! 復習：授業の内容を振り返り、ワークシートを使って文法、表現を確認する。
2	中川　優一	第 2 回 予習：教科書の該当箇所に目を通す（pp. 44-46）。 授業：ワークシートの解き直し。Scene 7 How Romantic! 復習：授業の内容を振り返り、ワークシートを使って単語、表現を確認する。
3	中川　優一	第 3 回 予習：教科書の該当箇所に目を通す（pp. 47-49）。 授業：ワークシートの解き直し。Scene 8 I'm Not Feeling Well 復習：授業の内容を振り返り、ワークシートを使って文法、表現を確認する。
4	中川　優一	第 4 回 予習：教科書の該当箇所に目を通す（pp. 50-52）。 授業：ワークシートの解き直し。Scene 8 I’m Not Feeling Well 復習：授業の内容を振り返り、ワークシートを使って単語、表現を確認する。
5	中川　優一	第 5 回 予習：教科書の該当箇所に目を通す（pp. 53-55）。 授業：ワークシートの解き直し。Scene 9 Tickets for a Yankees Game 復習：授業の内容を振り返り、ワークシートを使って文法、表現を確認する。
6	中川　優一	第 6 回 予習：教科書の該当箇所に目を通す（pp. 56-58）。 授業：ワークシートの解き直し。Scene 9 Tickets for a Yankees Game 復習：授業の内容を振り返り、ワークシートを使って単語、表現を確認する。
7	中川　優一	第 7 回 予習：教科書の該当箇所に目を通す（pp. 59-61）。 授業：ワークシートの解き直し。Scene 10 What's on the Shopping List? 復習：授業の内容を振り返り、ワークシートを使って文法、表現を確認する。
8	中川　優一	第 8 回 予習：これまでの授業を総復習する。 授業：後期前半のまとめを行う。 復習：まとめでわからなかったところを確認する。
9	中川　優一	第 9 回 予習：教科書の該当箇所に目を通す（pp. 62-64）。 授業：後期前半のまとめの講評、及び Scene 10 What's on the Shopping List? 復習：授業の内容を振り返り、ワークシートを使って単語、表現を確認する。
10	中川　優一	第 10 回 予習：教科書の該当箇所に目を通す（pp. 65-67）。 授業：ワークシートの解き直し。Scene 11 MoMA is Fun! 復習：授業の内容を振り返り、ワークシートを使って文法、表現を確認する。

11	中川 優一	第 11 回 予習：教科書の該当箇所に目を通す（pp. 68-70）。 授業：ワークシートの解き直し。Scene 11 MoMA is Fun! 復習：授業の内容を振り返り、ワークシートを使って単語、表現を確認する。
12	中川 優一	第 12 回 予習：教科書の該当箇所に目を通す（pp. 71-73）。 授業：ワークシートの解き直し。Scene 12 The "Fourth of July" Is Coming Up 復習：授業の内容を振り返り、ワークシートを使って文法、表現を確認する。
13	中川 優一	第 13 回 予習：教科書の該当箇所に目を通す（pp. 74-76）。 授業：ワークシートの解き直し。Scene 12 The "Fourth of July" Is Coming Up 復習：授業の内容を振り返り、ワークシートを使って単語、表現を確認する。
14	中川 優一	第 14 回 予習：これまでの授業を総復習する。 授業：後期後半のまとめを行う。 復習：まとめでわからなかったところを確認する。
15	中川 優一	第 15 回 予習：教科書の該当箇所に目を通す（pp. 77-79）。 授業：後期後半のまとめの講評、及び Scene 13 Who Is That Guy? 復習：まとめの内容を振り返り、自分の課題を見つける。

授業開始前学習	映画・音楽・テレビ・新聞など、英語に触れる機会を多く持つこと。興味がある文章や単語を、辞書で調べる。
授業内課題のフィードバックの方法	毎時間授業冒頭で小テストを行い、返却時に確認する。
テキスト・教材	土屋武久他著『Hello New York! (映像で学ぶはじめての NY ホームステイ）』（金星堂）
参考書	
評価の基準と方法	平常点 40%（小テスト、課題提出、Presentation、授業態度等）および定期試験 60%を総合して評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	
その他	出席を重視する。全授業数の３分の１以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻３回で欠席１回とみなす。講義開始後３０分以上の遅刻は欠席とみなす。その他、１回目の授業で説明する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-21	授業コード	F02168
科目名称	英語 A Ⅱ			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishA Ⅱ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	佐々木　千恵			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	佐々木　千恵			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	英語会話表現Ⅱでは、英語の基礎的な運用能力の習得のために、「リスニング」「スピーキング」「リーディング」「ライティング」の 4 技能を効果的に統合したグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動を行う。英語のコミュニケーションスキルを高めることを目的とする。				
到達目標	標準的な構文を使って、さまざまなトピックについて自分の考えを述べたり、やりとりをすることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	佐々木　千恵	【第 1 回】 予習　：　p47-49 の中で知らない単語は意味調べをしておく。 授業　：　p47　写真を見ながらスピーキング練習。単語と文章を音読。48p リスニング＆ディクテーション。p 49 をグループワークによりスピーキング練習。その表現を用いてライティング練習。 復習　：授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。
2	佐々木　千恵	【第 2 回】 予習　：　p50-52 の中で知らない単語は意味調べをしておく。 授業　：前回の単語チェックテスト。p50 の表現を用いて暗唱スピーキング練習。p51 写真を見ながらスピーキング練習。単語と文章を音読。p 52 リスニング＆ディクテーション。 復習　：授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。
3	佐々木　千恵	【第 3 回】 予習　：　p53-55 の中で知らない単語は意味調しておく。 授業　：前回の単語チェックテスト。p 53 をグループワークによりスピーキング練習。その表現を用いてライティング練習。p54 の表現を用いて暗唱スピーキング練習。p 55 の写真を見ながらスピーキング練習。単語と文章を音読。 復習　：授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。
4	佐々木　千恵	【第 4 回】 予習　：p56-58 の中で知らない単語は意味調しておく。 授業　：前回の単語チェックテスト。p 56 リスニング＆ディクテーション。p 57 をグループワークによりスピーキング練習。その表現を用いてライティング練習。p 58 の表現を用いて暗唱スピーキング練習。 復習　：授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。
5	佐々木　千恵	【第 5 回】 予習　：p59-61 の中で知らない単語は意味調べをしておく。 授業　：前回の単語チェックテスト。p59 写真を見ながらスピーキング練習。単語と文章を音読。p60 リスニング＆ディクテーション。p 61 をグループワークによりスピーキング練習。その表現を用いてライティング練習。 復習　：授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。
6	佐々木　千恵	【第 6 回】 予習　：p62-64 の中で知らない単語は意味調しておく。 授業　：前回の単語チェックテスト。 p62 の表現を用いて暗唱スピーキング練習。p63 写真を見ながらスピーキング練習。単語と文章を音読。p 64 リスニング＆ディクテーション。 復習　：授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。
7	佐々木　千恵	【第 7 回】 予習　：p65-67 の中で知らない単語は意味調しておく。 授業：p 65 をグループワークによりスピーキング練習。その表現を用いてライティング練習。p66 の表現を用いて暗唱スピーキング練習。p 67 の写真を見ながらスピーキング練習。単語と文章を音読。 復習　：授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。
8	佐々木　千恵	【第 8 回】 予習　：ここまでの授業を総復習する。 授業　：後期前半の振り返り。 復習　：自分の弱点を見極めて重点的に復習をする。
9	佐々木　千恵	【第 9 回】 予習　：p68-70 の中で知らない単語は意味調しておく。 授業　：p 68 リスニング＆ディクテーション。p 69 をグループワークによりスピーキング練習。その表現を用いてライティング練習。p 70 の表現を用いて暗唱スピーキング練習。 復習　：授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。

10	佐々木　千恵	【第 10 回】 予習　：p71-73 の中で知らない単語は意味調しておく。 　授業　：前回の単語チェックテスト。p71 写真を見ながらスピーキング練習。単語と文章を音読。p72 リスニング＆ディクテーション。p 73 をグループワークによりスピーキング練習。その表現を用いてライティング練習。 復習　：授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。
11	佐々木　千恵	【第 11 回】 予習　：p74-76 の中で知らない単語は意味調しておく。 授業　：前回の単語チェックテスト。p74 の表現を用いて暗唱スピーキング練習。p75 写真を見ながらスピーキング練習。単語と文章を音読。p 76 リスニング＆ディクテーション。 復習　：授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。
12	佐々木　千恵	【第 12 回】 予習：p77-79 の中で知らない単語は意味調しておく。 授業：前回の単語チェックテスト。p 77 をグループワークによりスピーキング練習。その表現を用いてライティング練習。p78 の表現を用いて暗唱スピーキング練習。p 79 の写真を見ながらスピーキング練習。単語と文章を音読。 復習：授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。
13	佐々木　千恵	【第 13 回】 予習：p80-82 の中で知らない単語は意味調しておく。 授業：前回の単語チェックテスト。　p 80 リスニング＆ディクテーション。p 81 をグループワークによりスピーキング練習。その表現を用いてライティング練習。p 82 の表現を用いて暗唱スピーキング練習。 復習：授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。
14	佐々木　千恵	【第 14 回】 予習　：p83-85 の中で知らない単語は意味調べをしておく。 授業　：前回の単語チェックテスト。p83 写真を見ながらスピーキング練習。単語と文章を音読。p84 リスニング＆ディクテーション。p 85 をグループワークによりスピーキング練習。その表現を用いてライティング練習。 復習　：授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。
15	佐々木　千恵	【第 15 回】 予習　：ここまでの授業を総復習する。 授業　：後期後半の振り返り。 復習　：自分の課題を見つけ今後の対策を立てる。

授業開始前学習	映画・音楽・テレビ・新聞など、英語に触れる機会を多く持つこと。興味がある文章や単語を、辞書で調べる。
授業内課題のフィードバックの方法	授業中に予習の確認、あるいは復習のための小テストを適宜行い、返却時に解説し、復習を促す。
テキスト・教材	Andrew E. Bennett 著『English Listening and Speaking Patterns 1 』南雲堂
参考書	特にありません。
評価の基準と方法	平常点 40%（小テスト、課題提出、Presentation、授業態度等）および定期試験 60%を総合して評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	
その他	出席を重視する。全授業数の 3 分の 1 以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。講義開始後 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。その他、1 回目の授業で説明する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-21	授業コード	F02184
科目名称	英語 AⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishAⅡ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	薬師　英子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	薬師　英子			開講時期	1 年
オフィスアワー	前期　火曜日 10:00～13:00 後期　火曜日 10:00～13:00			研究室	10-55
授業概要	英語 AⅡでは、英語 A Ⅰで修得した英語の運用能力をさらに向上させるために、「リスニング」「スピーキング」「リーディング」「ライティング」の 4 技能を効果的に統合したグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動を行う。特に「ライティング」と「スピーキング」という英語を発信する能力のさらなる向上を目標とする。				
到達目標	標準的な構文を使って、英文を書いたり話したりできる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	薬師　英子	【第 1 回】 予習　：自分の英語学習を振り返る 授業　：Talk about Summer Vacation / Review of the first term & Introduction　ペアワーク 復習　：家庭学習を考える
2	薬師　英子	【第 2 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：　Unit 7 Giving Advice (pp.52~54)　Unit の Dialogue を活用したグループワークとディスカッション 復習　：授業中の活動を振り返る
3	薬師　英子	【第 3 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：　Unit 7 Giving Advice (pp.55~57) Review & Activity　前週のディスカッションをふまえた発表 復習　：授業中の活動を振り返る
4	薬師　英子	【第 4 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：　Unit 8 Getting Information (pp.58~60)　Unit の Dialogue を活用したグループワークとディスカッション 復習　：授業中の活動を振り返る
5	薬師　英子	【第 5 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：　Unit 8 Getting Information (pp.61~63) Review & Activity　前週のディスカッションをふまえた発表 復習　：授業中の活動を振り返る
6	薬師　英子	【第 6 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：　Unit 9 Comparing & Contrasting (pp.64~66)　Unit の Dialogue を活用したグループワークとディスカッション 復習　：授業中の活動を振り返る
7	薬師　英子	【第 7 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：　Unit 9 Comparing & Contrasting (pp.67~69) Review & Activity、これまで学んできた Unit7~9(pp.52~69)についてのまとめ提出 復習　：授業中の活動を振り返る
8	薬師　英子	【第 8 回】 予習　：ここまでの授業を総復習する 授業　：後期前半のまとめをする 復習　：まとめを振り返る
9	薬師　英子	【第 9 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：　Unit 10 Talking about Experiences (pp.70~72)、これまで学んできた Unit7~10(pp.52~72)についてのまとめの講評 復習　：授業中の活動を振り返る

10	薬師　英子	【第 10 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：　Unit 10 Talking about Experiences (pp.73~75) Review & Activity　グループワーク 復習　：授業中の活動を振り返る
11	薬師　英子	【第 11 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：　Unit 11 Interviewing (pp.76~78)　Unit の Dialogue を活用したグループワークとディスカッション 復習　：授業中の活動を振り返る
12	薬師　英子	【第 12 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：　Unit 11 Interviewing (pp.79~81) Review & Activity　前週のディスカッションをふまえた発表 復習　：授業中の活動を振り返る
13	薬師　英子	【第 13 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：Prepare for Presentation、これまで学んできた Unit7~11(pp.52~81)についてのまとめ提出 復習　：授業中の活動を振り返る
14	薬師　英子	【第 14 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：Presentation 復習　：授業中の活動を振り返る
15	薬師　英子	【第 15 回】 予習　：今までの授業で学んだことを振り返る 授業　：Review of Unit 7 Giving Advice ~ Unit 11 Interviewing (pp.52~81) 、これまで学んできた Unit7~11(pp.52~81)についてのまとめの講評 復習　：自分の課題を見つけ対策を立てる

授業開始前学習	学習予定の Unit の内容・単語の予習と小テストに向けての学習を必ず行うこと。映画・音楽・テレビ・新聞記事など、英語に触れる機会を多く持ち、国際的な事柄に積極的に興味を持つこと。
授業内課題のフィードバックの方法	毎時間授業の冒頭で小テストを行う。授業 7 回目、13 回目に提出するまとめについては、2 週間後（授業 9 回目、15 回目）に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。
テキスト・教材	吉富　昇著『Communication Builder　-Revised Edition』（南雲堂）
参考書	授業中に紹介する。
評価の基準と方法	試験 60%、平常点 40%（小テスト、課題提出、Presentation、授業参加意欲）
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	
その他	出席を重視する。単位認定には全授業数の 3 分の 2 以上の出席を必須とする。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。講義開始後 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。テキスト忘れ、授業内での携帯使用等は授業参加意欲の減点対象とする。その他、1 回目の授業で説明する。欠席した回の授業内容はシラバスや配信資料等を確認し、各自フォローアップする。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024 年入学者）		授業コード	F02201
科目名称	英語 AⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	English (Conversational Expressions) Ⅱ／EnglishAⅡ			授業区分	演習
科目責任者	佐々 うらら			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	佐々 うらら			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	英語（会話表現） Ⅰを基に、基礎的な英語力の向上を目指す。基本的な英語表現を用いて、質問したり、答えたりできるようにする。自分の身の回りのトピックについて、具体的な情報を聞き取ったり、自分の言いたいことを伝えられるようにする。簡単な単語やフレーズを使い、会話や英作文での表現の幅を広げていく。また、積極的にコミュニケーションを図る態度も育成する。				
到達目標	基礎的な英会話能力を習得する。また、TOEIC の得点アップを目指す。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	佐々 うらら	【第 1 回】 予習 ：教科書 p.54-56 (概観。わからない単語を調べる。) 授業 ：Unit8 Customer Needs p.54-56 ロールプレイなど 復習 ：第 1 回の学習内容
2	佐々 うらら	【第 2 回】 予習 ：教科書 p.57-59 (概観。わからない単語を調べる。) 授業 ：Unit8 Customer Needs p.57-59 ロールプレイなど 復習 ：第 2 回の学習内容
3	佐々 うらら	【第 3 回】 予習 ：教科書 p.60-62 (概観。わからない単語を調べる。) 授業 ：Unit9 Business Trip p.60-62 ロールプレイなど 復習 ：第 3 回の学習内容
4	佐々 うらら	【第 4 回】 予習 ：教科書 p.63-65 (概観。わからない単語を調べる。) 授業 ：Unit9 Business Trip p.63-65 ロールプレイなど 復習 ：第 4 回の学習内容
5	佐々 うらら	【第 5 回】 予習 ：教科書 p.66-68 (概観。わからない単語を調べる。) 授業 ：Unit10 Advertising p.66-68 ロールプレイなど 復習 ：第 5 回の学習内容
6	佐々 うらら	【第 6 回】 予習 ：教科書 p.69-71 (概観。わからない単語を調べる。) 授業 ：Unit10 Advertising p.69-71 ロールプレイなど 復習 ：第 6 回の学習内容
7	佐々 うらら	【第 7 回】 予習 ：教科書 p.72-74 (概観。わからない単語を調べる。) 授業 ：Unit11 Factory Tour p.72-74 ロールプレイなど 復習 ：第 7 回の学習内容
8	佐々 うらら	【第 8 回】 予習 ：教科書 p.75-77 (概観。わからない単語を調べる。) 授業 ：Unit11 Factory Tour p.75-77 ロールプレイなど 復習 ：第 8 回の学習内容
9	佐々 うらら	【第 9 回】 予習 ：教科書 p.78-80 (概観。わからない単語を調べる。) 授業 ：Unit12 Money Matters p.78-80 ロールプレイなど 復習 ：第 9 回の学習内容
10	佐々 うらら	【第 10 回】 予習 ：教科書 p.81-83 (概観。わからない単語を調べる。) 授業 ：Unit12 Money Matters p.81-83 ロールプレイなど 復習 ：第 10 回の学習内容

11	佐々　うらら	【第 11 回】 予習　：教科書　p.84-86 (概観。わからない単語を調べる。) 授業　：Unit13 Leisure p.84-86　ロールプレイなど 復習　：第 11 回の学習内容
12	佐々　うらら	【第 12 回】 予習　：教科書　p.87-89 (概観。わからない単語を調べる。) 授業　：Unit13 Leisure p.87-89　ロールプレイなど 復習　：第 12 回の学習内容
13	佐々　うらら	【第 13 回】 予習　：教科書　p.90-92 (概観。わからない単語を調べる。) 授業　：Unit14 Environment p.90-92　ロールプレイなど 復習　：第 13 回の学習内容
14	佐々　うらら	【第 14 回】 予習　：教科書　p.93-95 (概観。わからない単語を調べる。) 授業　：Unit14 Environment p.93-95　ロールプレイなど 復習　：第 14 回の学習内容
15	佐々　うらら	【第 15 回】 予習　：教科書　p.96-98 (概観。わからない単語を調べる。) 授業　：Unit15 Business Tie-Up p.96-98　ロールプレイなど 復習　：第 15 回の学習内容

授業開始前学習	前期の学習内容（特に単語・文法、フレーズ）を復習しておく。
授業内課題のフィードバックの方法	毎回の課題については、翌週の冒頭で小テストを実施する。 各ユニット終了後、内容に関連したレポートの提出や口頭試問を実施（基本的には講義中）。 提出物については、評価基準を明確にした上で採点し返却する。
テキスト・教材	※前期と同じテキストを使用。 ①Robert Hickling / Misato Usukura 著『English Switch』(金星堂) ②濵﨑潤之輔著『中学英語からやり直す TOEIC®L&R テスト超入門』（ask）
参考書	
評価の基準と方法	小テスト 20%、平常点(課題提出、Presentation、授業態度等)80%で評価。 定期試験は実施しない。 その他、第 1 回の授業で説明する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-232 CT-L-232	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-22	授業コード	F02211
科目名称	英語 AⅢ			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishAⅢ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	W.ミラー			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	W.ミラー			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	Required English AIII is aimed at integrating the four skills (listening, speaking, reading, and writing) through group work, discussions, presentations etc., to develop advanced functional ability in English. English AIII has a particular focus on further improving the productive skills of writing and speaking. In principle, classes will be conducted entirely in English.				
到達目標	Students speak and write English using more complex syntax.				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	W.ミラー	【第 1 回】 予習： Read Unit 0 'Welcome to English Firsthand 2', p.8-11 授業： Course goals and structure will be explained. Q & A activities (pair work) 復習： Review notes
2	W.ミラー	【第 2 回】 予習 ： Read Unit 1 'Have you two met?', p.12-16 授業 ： Build vocabulary about relationships to use in dialogues (pair work) 復習 ： Review notes
3	W.ミラー	【第 3 回】 予習 ： Finish Reading Unit 1 'Have you two met?', p.17-19 授業 ： Grammar: review verb tenses / Group work / Real Stories: 'My Personal Statement' 復習 ： Review notes / Do homework: Unit 1 Assignment in Google Classroom
4	W.ミラー	【第 4 回】 予習 ： Read Unit 2 'You must be excited!', p.20-24 授業 ： Build vocabulary about emotions to use in model dialogues (pair work) 復習 ： Review notes
5	W.ミラー	【第 5 回】 予習 ： Finish Reading Unit 2 'You must be excited!', p.25-27 授業 ： Grammar: Using real conditionals for present, future / Group work / Real Stories: 'My Unusual Club' 復習 ： Review notes / Do homework: Unit 2 Assignment in Google Classroom
6	W.ミラー	【第 6 回】 予習 ： Read Unit 3 'Where should I go?', p.28-32 授業 ： Build vocabulary about descriptions to use in model dialogues (pair work) 復習 ： Review notes
7	W.ミラー	【第 7 回】 予習 ： Finish Reading Unit 3 'Where should I go?', p.33-35 授業 ： Grammar: Using comparatives, superlatives / Group work / Real Stories: 'My Trip to Asia' 復習 ： Review notes / Do homework: Unit 3 Assignment in Google Classroom
8	W.ミラー	【第 8 回】 予習 ： Review all homework assignments and textbook p. 12-35 授業 ： Midterm Quiz of Unit 1 ~ Unit 3 復習 ： Reread textbook p. 36-40
9	W.ミラー	【第 9 回】 予習 ： Read Unit 4 'I love that!', p.36-40 授業 ： Build vocabulary about opinions to use in model dialogues (pair work) 復習 ： Review notes
10	W.ミラー	【第 10 回】 予習 ： Finish Reading Unit 4 'I love that!', p.41-43 授業 ： Grammar: Use cause and result clauses / Group work / Real Stories: 'My Students' Excuses' 復習 ： Review notes / Do homework: Unit 4 Assignment in Google Classroom

11	W.ミラー	【第 11 回】 予習 ： Read Unit 5 'How do I get there?', p.44-48 授業 ： Build vocabulary about directions to use in model dialogues (pair work) 復習 ： Review notes
12	W.ミラー	【第 12 回】 予習 ： Finish Reading Unit 5 'How do I get there?', p.49-51 授業 ： Grammar: Using prepositions with there is and there are / Group work / Real Stories: 'My Farewell Party 復習 ： Review notes / Do homework: Unit 5 Assignment in Google Classroom
13	W.ミラー	【第 13 回】 予習 ： Read Unit 6 'What's it like there?', p.52-56 授業 ： Build vocabulary about symbols and traditions to use in model dialogues (pair work) 復習 ： Review notes
14	W.ミラー	【第 14 回】 予習 ： Finish Reading Unit 6 'What's it like there?', p.57-59 授業 ： Grammar: Use relative pronouns in adjective clauses / Group work / Real Stories: 'My Band' 復習 ： Review notes / Do homework: Unit 6 Assignment in Google Classroom
15	W.ミラー	【第 15 回】 予習 ： Review all homework assignments and textbook p. 36-59 授業 ： Final Quiz of Unit 4 ~ Unit 6 復習 ： Complete course Questionnaire on the Komajo Portal.

授業開始前学習	Practice listening to spoken English through videos or audio recordings and read English books, magazines, or comics. Look up unknown words in a dictionary.
授業内課題のフィードバックの方法	Both written and oral feedback will be provided to all students for tasks and assignments. Students are encouraged to ask questions, which the teacher will answer.
テキスト・教材	English Firsthand 2 (Fifth Edition), Pearson Longman, by Helgesen et al
参考書	
評価の基準と方法	Students are evaluated on total class participation, which is 40% of grade (quizzes, submitted coursework, presentations, class participation etc.) and regular examinations are 60% of grade.
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	
その他	It is important for students to attend each class. Credit will not be given to students who miss more than a third of the classes. 3 late arrivals will be counted as 1 absence. Arrival 30 minutes or more after the class has started will be counted as a
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-232 CT-L-232	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-22	授業コード	F02212
科目名称	英語 AⅢ			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishAⅢ			授業区分	演習･実習･実技
科目責任者	R.ヨシダ			必修･選択	履修ガイド参照
担当教員	R.ヨシダ			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	Required English AIII is aimed at integrating the four skills (listening, speaking, reading and writing) through group works, discussions, presentations etc. to develop advanced functional ability in English.　English AIII has a particular focus on further improving the productive skills of speaking and writing.				
到達目標	English AIII aims to improve students' confidence and proficiency in their spoken and written English. With the guidance of the teacher, students speak and write English using more complex syntax. Each student will have many opportunities to: - give a				

アクティブ･ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	R.ヨシダ	【第 1 回】 予習 ： Don't forget your textbook! 授業 ： Class orientation; Unit 0 (pp.8-11); Unit 1 (pp.12-14): Relationships - vocabulary; listening; conversation 復習 ： Vocabulary review
2	R.ヨシダ	【第 2 回】 予習 ： preparation for Review quiz 授業 ： Unit 1 (pp.15-19): Relationships - grammar; pair/group work; discussions 復習 ： Grammar review
3	R.ヨシダ	【第 3 回】 予習 ： preparation for Review quiz 授業 ： Unit 2 (pp.20-22): Emotions - vocabulary; listening; conversation 復習 ： Vocabulary review
4	R.ヨシダ	【第 4 回】 予習 ： preparation for Review quiz 授業 ： Unit 2 (pp.23-27): Emotions - grammar; pair/group work; discussions 復習 ： Grammar review
5	R.ヨシダ	【第 5 回】 予習 ： preparation for Review quiz 授業 ： Unit 3 (pp.28-30): Descriptions - vocabulary; listening; conversation 復習 ： Vocabulary review
6	R.ヨシダ	【第 6 回】 予習 ： preparation for Review quiz 授業 ： Unit 3 (pp.31-35): Descriptions - grammar; pair/group work; discussions 復習 ： Vocabulary review
7	R.ヨシダ	【第 7 回】 予習 ： preparation for Midterm Task 1 授業 ： Midterm Task 1: Students submit a review of content learned in Units 0-3; Preparation for Midterm Task 2 復習 ： Grammar & Vocabulary review
8	R.ヨシダ	【第 8 回】 予習 ：preparation for Midterm Task 2 授業 ： Midterm Task 2 (speaking): Students give individual presentations 復習 ： Grammar & Vocabulary review
9	R.ヨシダ	【第 9 回】 予習 ： Vocabulary 授業 ： Students receive feedback on Midterm Task 1 (writing) and Task 2 (speaking); Unit 4 (pp.36-38): Opinions - vocabulary; listening; conversation 復習 ： Vocabulary review

10	R.ヨシダ	【第 10 回】 予習 ： preparation for Review quiz 授業 ： Unit 4 (pp.39-43): Locations - grammar; pair/group work; discussions 復習 ： Grammar review
11	R.ヨシダ	【第 11 回】 予習 ： preparation for Review quiz 授業 ： Unit 5 (pp.44-46): Apologies and Problems - vocabulary; listening; conversation 復習 ： Vocabulary review
12	R.ヨシダ	【第 12 回】 予習 ： preparation for Review quiz 授業 ： Unit 5 (pp.47-51): Apologies and Problems - grammar; pair/group work; discussions 復習 ： Grammar review
13	R.ヨシダ	【第 13 回】 予習 ： preparation for Review quiz 授業 ： Unit 6 (pp.52-59); Symbols and Traditions - vocabulary; listening; grammar; pair/group work; discussions 復習 ： Grammar & Vocabulary review
14	R.ヨシダ	【第 14 回】 予習 ： preparation for Final Task 1 授業 ： Final Task 1: Students submit a review of content learned in Units 4-6; Preparation for Final Task 2 復習 ： Grammar & Vocabulary review
15	R.ヨシダ	【第 15 回】 予習 ：preparation for Final Task 2 授業 ： Final Task 2 (speaking): Students give individual presentations 復習 ： Self reflection

授業開始前学習	Take every opportunity to encounter and enjoy English through movies, music, TV, the Internet, etc.
授業内課題のフィードバックの方法	- Each "Review Quiz" (weekly quiz given at the beginning of each class) will be marked and returned in the following week. - A written feedback will be provided for each Midterm and Final task.
テキスト・教材	English Firsthand 2 (Pearson) ISBN: 978-981-313-023-4
参考書	Information will be given in class
評価の基準と方法	Students are evaluated on a total of class participation points 40% (review quizzes, submitted assignments, effort & attitude) and midterm and final tasks 60% (midterm 30% & final 30%).
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	
その他	出席重視。最低限必要な出席率: 2/3 It is important for students to attend each class. Credit will not be given to students who miss more than a third of the classes. 3 late arrivals will be counted as 1 absence. Arrival 30 minutes or more after the class has started
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-232 CT-L-232	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-22	授業コード	F02213
科目名称	英語 AⅢ			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishAⅢ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	バラダッドリチャード			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	R.バラダッド			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	この授業では、さまざまな楽しく興味深いリスニングや発音、スピーキングアクティビティー（個人、ペア、グループアクティビティーなど）を通して、英語を話す力、および理解力を向上させることに焦点を当てます。英語 A Ⅲでは、英語の発展的な運用能力の習得のために、「リスニング」「スピーキング」「リーディング」「ライティング」の 4 技能を効果的に統合したグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動を行う。特に「ライティング」と「スピーキング」という英語を発信する能力の向上を目標とする。				
到達目標	インタラクティブな練習を通じて英語の聞き取りと会話を体感します。複雑な構文を使って、英文を書いたり英語を話したりできる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	R.バラダッド	【第 1 回】 予習 ：Purchase Textbook 授業 ：Self-Introductions/Course goals, Q&A, get to know other (pp. 8-11) 復習 ：Review notes / Do homework
2	R.バラダッド	【第 2 回】 予習 ：New vocabulary 授業 ：Unit 1: Relationships (pp. 12-15), pair work 復習 ：Review notes / Do homework
3	R.バラダッド	【第 3 回】 予習 ：Review vocabulary 授業 ：Meeting People (pp. 16-19), group work 復習 ：Review notes / Do homework/ Do GC video presentation 1
4	R.バラダッド	【第 4 回】 予習 ：New vocabulary 授業 ：Unit 2: Emotions (pp. 20-23), pair work, Unit 1 Quiz 復習 ：Review notes / Do homework / GC short writing 1
5	R.バラダッド	【第 5 回】 予習 ： Review vocabulary 授業 ：Unit 2: Discussing emotions (pp. 24-27), group work 復習 ：Review notes / Do homework
6	R.バラダッド	【第 6 回】 予習 ： New vocabulary 授業 ：Unit 3: Places & travel (pp. 28-31) pair work, Unit 2 Quiz 復習 ：Review notes / Do homework / GC short writing 2
7	R.バラダッド	【第 7 回】 予習 ：Review vocabulary 授業 ：Unit 3: Planning a vacation (pp. 32-35), group work 復習 ：Review Unit 1 - 3 notes / Do homework / Do GC video presentation 2
8	R.バラダッド	【第 8 回】 予習 ：Prepare for quiz 授業 ：Quiz for units 1-3 / Speaking exercise in pairs 復習 ：Preview Unit 4 / Do homework
9	R.バラダッド	【第 9 回】 予習 ：New vocabulary 授業 ：Unit 4: Interests and opinions (pp. 36-39), pair work 復習 ：Review notes / Do homework
10	R.バラダッド	【第 10 回】 予習 ：Review vocabulary 授業 ：Unit 4: Describing an experience (pp. 40-43), group work 復習 ：Review notes / Do homework / GC short writing 3
11	R.バラダッド	【第 11 回】 予習 ：New vocabulary 授業 ：Unit 5: Problems and reasons (pp. 44-47), pair work 復習 ：Review notes / Do homework / Language check 5

12	R.バラダッド	【第 12 回】 予習　：Review vocabulary 授業　：Unit 5: Giving excuses (pp. 47-51), group work 復習　：Review notes / Do homework / GC short writing 4
13	R.バラダッド	【第 13 回】 予習　：New vocabulary 授業　：Unit 6: Cultural symbols & traditions (pp. 52-56), pair work 復習　：Review notes / Do homework / Do GC video presentation 3
14	R.バラダッド	【第 14 回】 予習　：Review vocabulary / Final speaking exercise 授業　：Customs and Culture (pp. 57-59), group work, Speaking exercise in pairs 復習　：Review Unit 4 - 6 notes / Do homework
15	R.バラダッド	【第 15 回】 予習　：Prepare for quiz 授業　：Quiz for units 4 - 6 復習　：Do Portal course evaluations in class (after quiz)

授業開始前学習	映画・音楽・テレビ・新聞など、英語に触れる機会を多く持つこと。興味がある文章や単語を、辞書で調べる。
授業内課題のフィードバックの方法	毎時間授業冒頭で小テストを行い、返却時に確認する。授業７回目、１３回目に提出するまとめについては、２週間後（授業９回目、１５回目）に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。
テキスト・教材	English Firsthand 2, 5th Edition (Marc Helgesen) Pearson
参考書	
評価の基準と方法	平常点 40%（小テスト、課題提出、プレゼンテイション、授業態度など）及び定期試験 60%を総合して評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	
その他	出席を重視する。全授業数の３分の１以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻３回で欠席１回とみなす。講義開始３０分以上の遅刻は欠席をみなす。その他、１回目の授業で説明する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-232 CT-L-232	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-22	授業コード	F02214
科目名称	英語 AⅢ			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishAⅢ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	K.バーンズ			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	K.バーンズ			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	The emphasis of this class will be on speaking. However, listening, reading and writing will also be developed. This class though, focuses on improving the productive skills of speaking. In principle, lessons are conducted in English. If we are online we will still do speaking using software.				
到達目標	After this class, students will be able to communicate more freely in English.				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	K.バーンズ	The topics of the class will follow the text book. 【第 1 回】予習 ：Read pp. 8 -11 in the textbook 授業 ：Self-Introductions/Course goals Q&A Getting to Know Each other - Pairwork 復習 ：Review notes/ Do homework
2	K.バーンズ	【第 2 回】 予習 ：Read pp. 12-19 授業 ：Hobbies and Interests - Pairwork 復習 ：Review notes/ Do homework
3	K.バーンズ	【第 3 回】 予習 ：Read pp. 20-24 授業 ：Describe your feelings - Pairwork 復習 ：Review notes/ Do homework
4	K.バーンズ	【第 4 回】 予習 ：Read pp. 25 -27 授業 ：Express Empathy - Pairwork and Group work 復習 ：Review notes/ Do homework
5	K.バーンズ	【第 5 回】 予習 ：Read pp. 28-32 授業 ：Talk about a trip - Discussion and Pairwork 復習 ：Review notes/ Do homework
6	K.バーンズ	【第 6 回】 予習 ：Read pp. 33-35 授業 ：Make recommendations - Pairwork and Group Work 復習 ：Review notes/ Do homework
7	K.バーンズ	【第 7 回】 予習 ：Review all homework assignments 授業 ：General review - Pairwork 復習 ：Reread textbook pp.8 -24
8	K.バーンズ	【第 8 回】 予習 ：Review all homework assignments 授業 ：General review -Project Based Learning 復習 ：Reread textbook pp.25-35
9	K.バーンズ	【第 9 回】 予習 ：Read pp. 36-39 授業 ：Share opinions - Project Based Learning 復習 ：Review notes/ Do homework
10	K.バーンズ	【第 10 回】 予習 ：Read pp. 40-43 授業 ：Express agreement and disagreement - Presentations 復習 ：Review notes/ Do homework
11	K.バーンズ	【第 11 回】 予習 ：Read pp. 44-47 授業 ：Make requests - Pairwork 復習 ：Review notes/ Do homework

12	K.バーンズ	【第 12 回】 予習　: Read pp. 48-51 授業　: Accept and refuse offers - Pairwork and Group Work 復習　: Review notes/ Do homework
13	K.バーンズ	【第 13 回】 予習　: Read pp. 52-55 授業　: Talk about traditions in your country - Discussion and Pairwork 復習　: Review notes/ Do homework
14	K.バーンズ	【第 14 回】 予習　: Read pp. 56-59 授業　: Talk about symbols and traditions of other countries - Pairwork 復習　: Review notes/ Do homework
15	K.バーンズ	【第 15 回】 予習　: Review all homework assignments 授業　: General review 復習　: Reread textbook pp.36-59

授業開始前学習	Before the class starts students can prepare by listening to English recordings and reading English books, magazines or comics.　Look up words in the dictionary.
授業内課題のフィードバックの方法	Comprehensive feedback will be provided on coursework. Once class starts, evaluated homework assignments will be provided after each class to help students review and better understand the material.
テキスト・教材	English Firsthand 2 by Helgesen et al　(Pearson Longman)
参考書	
評価の基準と方法	Students are evaluated on a total of class participation points of 40% (mini tests, submitted coursework, presentations, class participation etc.)　and regular examinations 60%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	English Conversation
その他	It is important for students to attend each class.　Credit will not be given to students who miss more than a third of the classes.　3 late arrivals will be counted as 1 absence.　Arrival after 30 minutes or more after the start of class will be counted a
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-232 CT-L-232	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-22	授業コード	F02215
科目名称	英語 AⅢ			単位数	履修ガイド参照
英文名称	EnglishAⅢ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	江連 成美			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	江連 成美			開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	英語 A Ⅲでは、英語の発展的な運用能力の習得のために、「リスニング」「スピーキング」「リーディング」「ライティング」の 4 技能を効果的に統合したグループワーク、プレゼンテーション等の活動を行う。特に「ライティング」と「スピーキング」という英語を発信する能力の向上を目標とする。				
到達目標	複雑な構文を使って、英文を書いたり英語を話したりできる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	江連 成美	【第 1 回】 予習： テキストの「本書の構成と特徴」に目を通しておく 授業： オリエンテーション（授業の進め方などについての説明） 復習： オリエンテーションの内容を確認する（Google Classroom の登録が終わっていない場合は、第 2 回までに必ず登録を終わらせておく）
2	江連 成美	【第 2 回】 予習： Unit 1 - Vocabulary 1 授業： Unit 1 : Tell me something about yourself. (pp.13-19) (ペアワーク) 復習： Unit 1 - Review (Google Classroom)
3	江連 成美	【第 3 回】 予習： Unit 1 - Vocabulary 2 授業： Unit 1 : Tell me something about yourself. (pp.20-24)（ペアワーク） 復習： Unit 1 - Memorize your speech (p.24)
4	江連 成美	【第 4 回】 予習： Talking about your past (1) - Vocabulary 1 授業： Talking about your past (1) (ペアワーク) 復習： Unit 2 - Review (Google Classroom)
5	江連 成美	【第 5 回】 予習： Talking about your past (2) - Vocabulary 2 授業： Talking about your past (2)（ペアワーク） 復習： Mermorize your speech
6	江連 成美	【第 6 回】 予習： Talking about your plans (1) - Vocabulary 1 授業： Talking about your plans (1)（ペアワーク） 復習： Review (Google Classroom)
7	江連 成美	【第 7 回】 予習： Talking about your plans (2) - Vocabulary 2 授業： Talking about your plans (2)（ペアワーク） 復習： Memorize your speech
8	江連 成美	【第 8 回】 予習： 前期前半に学習した語彙や文法を復習する 授業： 前期前半の振り返り 復習： 理解できていなかった点を整理しておく
9	江連 成美	【第 9 回】 予習： Talking about how you feel (1) - Vocabulary 1 授業： Talking about how you feel (1)（ペアワーク） 復習： Review (Google Classroom)
10	江連 成美	【第 10 回】 予習： Talking about how you feel (2) - Vocabulary 2 授業： Talking about how you feel (2)（ペアワーク） 復習： Memorize your speech
11	江連 成美	【第 11 回】 予習： Unit 2 - Vocabulary 1 授業： Unit 2 : Could you hand in your homework by Friday? (pp. 25-30)（ペアワーク） 復習： Unit 2 - Review (Google Classroom)

12	江連 成美	【第 12 回】 予習： Unit 2 - Vocabulary 2 授業： Unit 2 : Could you hand in your homework by Friday? (pp. 31-35)（ペアワーク） 復習： Memorize your speech (p.35)
13	江連 成美	【第 13 回】 予習： Talking about the past event (1) - Vocabulary 1 授業： Talking about the past event (1)（ペアワーク） 復習： Review (Google Classroom)
14	江連 成美	【第 14 回】 予習： Talking about the past event (2) - Vocabulary 2 授業： Talking about the past event (2)（ペアワーク） 復習： Memorize your speech
15	江連 成美	【第 15 回】 予習：前期後半に学習した語彙や文法を復習する 授業：前期後半の振り返り 復習：前期に学習した項目を整理し、後期に備える

授業開始前学習	映画・音楽・テレビ・新聞など、英語に触れる機会を多く持つこと。
授業内課題のフィードバックの方法	隔週で授業冒頭で小テストを行い、返却時に確認する。
テキスト・教材	テキスト名：コミュニケーションのための実践英語３［準中級編］ 出版社：三修社
参考書	特になし。
評価の基準と方法	平常点 40%（小テスト、課題提出、Presentation、授業態度等）および定期試験 60%を総合して評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	
その他	出席を重視する。全授業数の３分の１以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻３回で欠席１回とみなす。講義開始後３０分以上の遅刻は欠席とみなす。その他、１回目の授業で説明する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-232 CT-L-232	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-22	授業コード	F02216
科目名称	英語 AⅢ			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishAⅢ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	M.オーズランド			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	M.オーズランド			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	This is a four skills Integrated General English course with a particular emphasis on developing productive speaking and writing skills. Students explore a variety of topics, participate in pair-work, small-group work, and produce short written reports.				
到達目標	By the end of the course students should have: 1. Enhanced their productive speaking and writing skills using more complex syntax. 2. Gained further confidence in using General English for daily communication.				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	M.オーズランド	【第 1 回】 予習　: Overview unit 1. Prepare a short introductory speech (2 minutes). 授業　: Unit 1; Good memories. Introductions and exchanging personal information. pp.2-4. Pair-work, groupwork. 復習　: Review unit pp.2-4.
2	M.オーズランド	【第 2 回】 予習　: Overview unit 1 pp. 5-7 授業　: Unit 1 continued; pp.5-7. Pair-work, groupwork, writing exercise. 復習　: Review unit 1.
3	M.オーズランド	【第 3 回】 予習　: Overview Unit 2. 授業　: Unit 2; Life in the city. Evaluating services. pp.8-10. Pair-work, groupwork, discussions. 復習　: Review unit 2 pp.8-10.
4	M.オーズランド	【第 4 回】 予習　: Overview unit 2 pp.11-13 授業　: Unit 2 continued. pp.11-13. Pair-work, groupwork, writing exercise. 復習　: Review unit 2.
5	M.オーズランド	【第 5 回】 予習　: Overview Unit 3. 授業　: Unit 3; Making Changes. Describing positive and negative features. pp.16-18. Pair-work, groupwork, discussion. 復習　: Review unit 3 pp.16-18.
6	M.オーズランド	【第 6 回】 予習　:　Overview Unit 3 pp.19-21 授業　:　Unit 3 continued. Pp.19-21. Pair-work, groupwork, writing exercise, short presentation. 復習　:　Review Unit 3.
7	M.オーズランド	【第 7 回】 予習　:　Review units 1-3. Prepare a short, written report. 授業　:　General Comprehension exercises. 復習　:　Reflect on personal performance and skills that need more work.
8	M.オーズランド	【第 8 回】 予習　:　Overview Unit 4. 授業　:　Unit 4; Have you ever tried it? Talking about food. pp.22-24. Pair-work, groupwork. 復習　:　Review Unit 4 pp.22-24.
9	M.オーズランド	【第 9 回】 予習　:　Overview Unit 4 pp.25-27. 授業　:　Unit 4 continued. pp25-27. Pair-work, groupwork, writing exercise. 復習　:　Review Unit 4.
10	M.オーズランド	【第 10 回】 予習　:　Overview Unit 5 授業　:　Unit 5; Hit the road! Talking about travel, vacations, plans. pp.30-32 復習　:　Review Unit 5 pp.30-32.

11	M.オーズランド	【第 11 回】 予習　：　Overview Unit 5 pp.33-35. 授業　：　Unit 5 continued; pp.33-35. Pair-work, groupwork, writing exercise. 復習　：　Review Unit 5.
12	M.オーズランド	【第 12 回】 予習　：　Overview Unit 6. 授業　：　Unit 6; Sure, I'll do it! Making/refusing requests, complaining, apologizing pp.36-38. Pair-work, groupwork. 復習　：　Review Unit 6 pp.36-38.
13	M.オーズランド	【第 13 回】 予習　：　Overview Unit 6 pp.39-41. 授業　：　Unit 6 continued; pp.39-41. Pair-work, groupwork, writing exercise. 復習　：　Review Unit 6.
14	M.オーズランド	【第 14 回】 予習　：　Overview Unit 8 授業　：　Unit 8; Time to celebrate! Describing customs, festivals, special events. pp.50-55 復習　：　Review Unit 8.
15	M.オーズランド	【第 15 回】 予習　：　Review units 4,5,6 and 8. Prepare a short, written report. 授業　：　General comprehension exercises. 復習　：　Reflect on personal performance and skills that need more work.

授業開始前学習	Prepare yourself to actively participate in classes in English. Consider your strong points and those that need improvement. Focus on topics that interest you, review vocabulary and listen to as much English as possible before the course.
授業内課題のフィードバックの方法	Students take a quiz at the beginning of every class or submit assignments and comprehensive feedback on these will be provided. Any questions from individual students will be answered.
テキスト・教材	Richards, R.C, Hull, J., Proctor, S., Interchange 2 Students Book (Cambridge: C.U.P., 2020) ISBN: 978-1-316-62032-6
参考書	
評価の基準と方法	Students are evaluated on a total of class participation points 40% (mini tests, submitted coursework, presentations, class participation etc.) and regular examination 60%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	This course continues on from Required English AII-f. Please note the textbook is different from the first year.
その他	It is important for students to attend each class.　Credit will not be given to students who miss more than a third of the classes.　3 late arrivals will be counted as 1 absence.　Arrival 30 minutes or more after the class has started will be counted as a
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-232 CT-L-232	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-22	授業コード	F02217
科目名称	英語 AⅢ			単位数	履修ガイド参照
英文名称	EnglishAⅢ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	佐々木　千恵			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	佐々木　千恵			開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	英語 AⅢでは、英語の発展的な運用能力の習得のために、「リスニング」「スピーキング」「リーディング」「ライティング」の４技能を効果的に統合したグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動を行う。特に「ライティング」と「スピーキング」という英語を発信する能力の向上を目標とする。				
到達目標	複雑な構文を使って、英文を書いたり英語を話したりできる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	佐々木　千恵	【第 1 回】 予習　：シラバスとテキスト（既に持っていれば）を読んで全体の流れを把握しておく。 授業　：オリエンテーション（授業のねらい、授業の進め方等について）。 復習　：とくにありません。
2	佐々木　千恵	【第 2 回】 予習　：Lesson1 p6 の文章を音読し、p6-8 の知らない単語は意味調しておく。 授業　：Lesson1 p6 を CD で聞き、音読。p7、8 の語彙チェック、文法確認、内容把握、リスニング、ライティング。 復習　：授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。
3	佐々木　千恵	【第 3 回】 予習　：Lesson1 p9-11 の知らない単語は意味調しておく。 授業　：前回のチェックテスト。Lesson1 9-10 の exercise をやる。p11 の Activities でペアワーク、ライティング練習。 復習　：授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。
4	佐々木　千恵	【第 4 回】 予習　：Lesson2 p12 の文章を音読し、p12-14 の知らない単語は意味調しておく。 授業　：前回のチェックテスト。Lesson2 p12 を CD で聞き、音読。p13、14 の語彙チェック、文法確認、内容把握、リスニング、ライティング。 復習　：授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。
5	佐々木　千恵	【第 5 回】 予習　：Lesson2 p15-17 の知らない単語は意味調しておく。 授業　：前回のチェックテスト。Lesson2 p15-16 の exercise をやる。p17 の Activities でペアワーク、ライティング練習。 復習　：授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。
6	佐々木　千恵	【第 6 回】 予習　：Lesson3 p18 を音読し、p18-20 の知らない単語は意味調しておく。 授業　：前回のチェックテスト。Lesson3p18 を CD で聞き、音読。p19、20 の語彙チェック、文法確認、内容把握、リスニング、ライティング。 復習　：授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。
7	佐々木　千恵	【第 7 回】 予習　：Lesson3 p21-23 の知らない単語は意味調しておく。 授業　：前回のチェックテスト返却・解説。p21-22 の exercise をやる。p23 の Activities でペアワーク、ライティング練習。 復習　：授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。
8	佐々木　千恵	【第 8 回】 予習　：ここまでの授業を総復習する。 授業　：前期前半の振り返り。 復習　：自分の弱点を見極めて重点的に復習をする。
9	佐々木　千恵	【第 9 回】 予習　：Lesson4 p24 の文章を音読し、p24-26 の知らない単語は意味調しておく。 授業　：Lesson4 p24 を CD で聞き、音読。p25、26 の語彙チェック、文法確認、内容把握、リスニング、ライティング。 復習　：授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。

10	佐々木　千恵	【第 10 回】 予習　：Lesson4 p27-29 の知らない単語は意味調しておく。 授業　：前回のチェックテスト。Lesson4 p27-28 の exercise をやる。p29 の Activities でペアワーク、ライティング練習。 復習　：授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。
11	佐々木　千恵	【第 11 回】 予習　：Lesson5 p30 を音読し、p30-31 の知らない単語は意味調しておく。 授業　：前回のチェックテスト。Lesson5p30 を CD で聞き、音読。p31、32 の語彙チェック、文法確認、内容把握、リスニング、ライティング。 復習　：授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。
12	佐々木　千恵	【第 12 回】 予習　：Lessonr5 p33-35 の知らない単語は意味調しておく。 授業　：前回のチェックテスト。Lesson5 p33-34 の exercise をやる。p35 の Activities でペアワーク、ライティング練習。 復習　：授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。
13	佐々木　千恵	【第 13 回】 予習　：Lesson6 p36 の文章を音読し、p36-38 の知らない単語は意味調しておく。 授業　：前回のチェックテスト。Lesson6 p36 を CD で聞き、音読。p37、38 の語彙チェック、文法確認、内容把握、リスニング、ライティング。 復習　：授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。
14	佐々木　千恵	【第 14 回】 予習　：Lesson p39-41 の知らない単語は意味調しておく。 授業　：前回のチェックテスト。Lesson6 p39-40 の exercise をやる。p41 の Activities でペアワーク、ライティング練習。 復習　：授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。
15	佐々木　千恵	【第 15 回】 予習　：今まで授業で学んだことを振り返る 授業　：前期後半の振り返り。 復習　：自分の課題を見つけ対策を立てる

授業開始前学習	映画・音楽・テレビ・新聞など、英語に触れる機会を多く持つこと。興味がある文章や単語を、辞書で調べる。
授業内課題のフィードバックの方法	適宜小テストを行い、知識の定着を図る。それを次の授業で返却するさいに、各自が弱点を認識できるように指導する。
テキスト・教材	Kazuko Morita 他著『Make it simple 』三修社
参考書	特にありません。
評価の基準と方法	平常点 40%（小テスト、課題提出、Presentation、授業態度等）および定期試験 60%を総合して評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	
その他	出席を重視する。全授業数の 3 分の 1 以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。講義開始後 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。その他、1 回目の授業で説明する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-232 CT-L-232	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-22	授業コード	F02218
科目名称	英語 AⅢ			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishAⅢ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	鈴木　悠理			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鈴木　悠理			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	本科目では、英語の標準的および発展的な運用能力の習得のために、「リスニング」「スピーキング」「リーディング」「ライティング」の４技能を効果的に統合したペア・グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動を行う。特に「ライティング」と「スピーキング」を中心に英語を発信する能力の向上を目標とする。				
到達目標	標準的および発展的な構文を使って、英文を書いたり英語を話したりできる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	鈴木　悠理	【第 1 回】 予習：シラバスを確認する。今までの英語学習を振り返り、復習する。 授業：ガイダンス（授業概要、到達目標、授業の進め方について） 復習：ガイダンスをもとに、前期の目標を立てる。テキストを用意する。Google Classroom に登録する。
2	鈴木　悠理	【第 2 回】 予習：Unit 1 の音声を聞き、音読する。Unit 1 全体を通して分からない単語や表現を調べる。 授業：Unit 1（前半）ライティング、ペア・グループワーク 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。
3	鈴木　悠理	【第 3 回】 予習：Unit 1 の音声を聞き、音読する。小テストの準備をする。 授業：Unit 1（後半）ライティング、ペア・グループワーク、Unit 1（全体）小テスト 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。小テストを振り返る。
4	鈴木　悠理	【第 4 回】 予習：Unit 2 の音声を聞き、音読する。Unit 2 全体を通して分からない単語や表現を調べる。 授業：Unit 2（前半）ライティング、ペア・グループワーク 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。
5	鈴木　悠理	【第 5 回】 予習：Unit 2 の音声を聞き、音読する。小テストの準備をする。 授業：Unit 2（後半）ライティング、ペア・グループワーク、Unit 2（全体）小テスト 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。小テストを振り返る。
6	鈴木　悠理	【第 6 回】 予習：Unit 3 の音声を聞き、音読する。Unit 3 全体を通して分からない単語や表現を調べる。 授業：Unit 3（前半）ライティング、ペア・グループワーク 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。
7	鈴木　悠理	【第 7 回】 予習：Unit 3 の音声を聞き、音読する。 授業：Unit 3（後半）ライティング、ペア・グループワーク、Unit 3（全体）小テスト 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。小テストを振り返る。
8	鈴木　悠理	【第 8 回】 予習：Unit 1～3 を振り返り、分からない単語の調べ直しや間違えた問題の解き直しをする。 授業：Unit 1～3 振り返り 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。間違えた問題を解き直す。
9	鈴木　悠理	【第 9 回】 予習：Unit 4 の音声を聞き、音読する。Unit 4 全体を通して分からない単語や表現を調べる。 授業：Unit 4（前半）ライティング、ペア・グループワーク 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。
10	鈴木　悠理	【第 10 回】 予習：Unit 4 の音声を聞き、音読する。小テストの準備をする。 授業：Unit 4（後半）ライティング、ペア・グループワーク、Unit 4（全体）小テスト 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。小テストを振り返る。
11	鈴木　悠理	【第 11 回】 予習：Unit 5 の音声を聞き、音読する。Unit 5 全体を通して分からない単語や表現を調べる。 授業：Unit 5（前半）ライティング、ペア・グループワーク 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。

12	鈴木　悠理	【第 12 回】 予習：Unit 5 の音声を聞き、音読する。 授業：Unit 5（後半）ライティング、ペア・グループワーク、Unit 5（全体）小テスト 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。小テストを振り返る。
13	鈴木　悠理	【第 13 回】 予習：Unit 6 の音声を聞き、音読する。Unit 6 全体を通して分からない単語や表現を調べる。 授業：Unit 6（全体）ライティング、ペア・グループワーク 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。
14	鈴木　悠理	【第 14 回】 予習：Unit 4～6 を振り返り、分からない単語の調べ直しや間違えた問題の解き直しをする。 授業：Unit 4～6 振り返り 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。間違えた問題を解き直す。
15	鈴木　悠理	【第 15 回】 予習：Unit 1～6 を振り返り、分からない単語の調べ直しや間違えた問題の解き直しをする。 授業：Unit 1～6 振り返り 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。間違えた問題を解き直す。

授業開始前学習	時事ニュースや文化（映画・音楽・ファッションなど）を通して英語に触れる機会を持つこと。 これまでの英語学習を振り返ること。
授業内課題のフィードバックの方法	約 2 週に 1 回、各 Unit の学習を終えたところで小テストを行う。翌週、返却時に解説を行う。授業 8 回目、15 回目に授業内容の復習を行い、クラスおよび個別の質問に回答する。
テキスト・教材	VELC 研究会教育開発グループ（編）『AMBITIONS Elementary 4 技能統合型で学ぶ英語コース：初級編』金星堂
参考書	英和辞典・和英辞典があるとよい（電子辞典可）。その他は授業内で適宜紹介する。
評価の基準と方法	平常点 40%（授業参加態度、小テスト、課題提出など）および定期試験 60%を総合して評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	
その他	出席を重視する。全授業の 3 分の 1 以上を欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。その他、公欠についてなどは第 1 回の授業で説明する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-232 CT-L-232	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-22	授業コード	F02219
科目名称	英語 AⅢ			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishAⅢ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	中川　優一			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	中川　優一			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	英語 A Ⅲでは、英語の発展的な運用能力の習得のために、「リスニング」「スピーキング」「リーディング」「ライティング」の４技能を効果的に統合したグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動を行う。特に「ライティング」と「スピーキング」という英語を発信する能力の向上を目標とする。				
到達目標	複雑な構文を使って、英文を書いたり英語を話したりできる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	中川　優一	【第 1 回】 予習：今まで学習した英語（特に単語と英文法）を見直しておく。 授業：オリエンテーション（今後の授業方針について、成績評価基準の説明等）。 復習：　今後の学習の確認
2	中川　優一	【第 2 回】 予習：Unit 1 (I Commute by Train, p.10-11) を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 1 (I Commute by Train, p.10-11)およびそれに付随したグループワーク。 復習：　第 2 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。
3	中川　優一	【第 3 回】 予習：Unit 1 (I Commute by Train, p.12-13) を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 1 (I Commute by Train, p.12-13)およびそれに付随したグループワーク。 復習：　第 3 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。
4	中川　優一	【第 4 回】 予習：Unit 2 (What Are You Going to Do This Weekend?, p.14-15) を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 2 (What Are You Going to Do This Weekend?, p.14-15)およびそれに付随したグループワーク。 復習：　第 4 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。
5	中川　優一	【第 5 回】 予習：Unit 2 (What Are You Going to Do This Weekend?, p.16-17) を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 2 (What Are You Going to Do This Weekend?, p.16-17)およびそれに付随したグループワーク。 復習：　第 5 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。
6	中川　優一	【第 6 回】 予習：Unit 3 (Have You Ever Volunteered?, p.18-19) を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 3 (Have You Ever Volunteered?, p.18-19)およびそれに付随したグループワーク。 復習：　第 6 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。
7	中川　優一	【第 7 回】 予習：Unit 3 (Have You Ever Volunteered?, p.20-21) を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 3 (Have You Ever Volunteered?, p.20-21)およびそれに付随したグループワーク。 復習：　第 7 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。
8	中川　優一	【第 8 回】 予習：　第 1 回から第 7 回までの復習。 授業：前期前半のまとめを行う。 復習：　まとめでわからなかったところの確認。
9	中川　優一	【第 9 回】 予習：Unit 4 (Is There a Bank Near Here?, p.22-23) を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 4 (Is There a Bank Near Here?, p.22-23)およびそれに付随したグループワーク。 復習：　第 9 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。
10	中川　優一	【第 10 回】 予習：Unit 4 (Is There a Bank Near Here?, p.24-25) を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 4 (Is There a Bank Near Here?, p.24-25)およびそれに付随したグループワーク。 復習：　第 10 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。

11	中川 優一	【第 11 回】 予習：Unit 5 (Could I Join Your Class?, p.26-27) を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 5 (Could I Join Your Class?, p.26-27) およびそれに付随したグループワーク。 復習： 第 11 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。
12	中川 優一	【第 12 回】 予習：Unit 5 (Could I Join Your Class?, p.28-29) を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 5 (Could I Join Your Class?, p.28-29) およびそれに付随したグループワーク。 復習： 第 12 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。
13	中川 優一	【第 13 回】 予習：Unit 6 (You Should Apply for the Program, p.30-31) を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 6 (You Should Apply for the Program, p.30-31) およびそれに付随したグループワーク。 復習： 第 13 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。
14	中川 優一	【第 14 回】 予習： 第 9 回から第 13 回までの復習。 授業：前期後半のまとめを行う。 復習： まとめでわからなかったところの確認。
15	中川 優一	【第 15 回】 予習：Unit 6 (You Should Apply for the Program, p.32-33) を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 6 (You Should Apply for the Program, p.32-33) およびそれに付随したグループワーク。 復習： 第 15 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。

授業開始前学習	映画・音楽・テレビ・新聞など、英語に触れる機会を多く持つこと。興味がある文章や単語を、辞書で調べる。
授業内課題のフィードバックの方法	授業内で小テストを行う。また、課題提出を適宜行い、返却時に確認する。
テキスト・教材	Say It Now! Grammar for Communication, Tomoko Takada and Diane H. Nagatomo, 2017, 金星堂
参考書	
評価の基準と方法	平常点 40%（小テスト、課題提出、Presentation、授業態度等）および定期試験 60%を総合して評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	
その他	出席を重視する。全授業数の 3 分の 1 以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。講義開始後 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。その他、1 回目の授業で説明する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-232 CT-L-232	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-22	授業コード	F02234
科目名称	英語 AⅢ			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishAⅢ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	薬師　英子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	浅川・薬師			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	英語 A Ⅲでは、英語の発展的な運用能力の習得のために、「リスニング」「スピーキング」「リーディング」「ライティング」の４技能を効果的に統合したグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動を行う。特に「ライティング」と「スピーキング」という英語を発信する能力の向上を目標とする。				
到達目標	複雑な構文を使って、英文を書いたり英語を話したりできる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	浅川　真知子、薬師　英子	【第 1 回】 予習　：自分の英語学習を振り返る 授業　：オリエンテーション（授業のねらい、授業の進め方等について）　グループワーク 復習　：家庭学習を考える
2	薬師　英子	【第 2 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：Unit 1 What's your major? (pp.6~11)　〈be 動詞〉話しかける／自己紹介をする　グループワーク 復習　：授業中の活動を振り返る
3	薬師　英子	【第 3 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：Unit 2 How do you like your new school? (pp.12~17)〈一般動詞（現在形）〉人を誘う／別れ際の挨拶 復習　：授業中の活動を振り返る
4	薬師　英子	【第 4 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：Unit 2 How do you like your new school? (pp.12~17) Review & Group Activities 復習　：授業中の活動を振り返る
5	薬師　英子	【第 5 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：Unit 3 Let me introduce a new member to you.　(pp.18~23)〈一般動詞（過去形）〉グループワーク 復習　：授業中の活動を振り返る
6	薬師　英子	【第 6 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：Unit 3 Let me introduce a new member to you. (pp.18~23) Review & Group Activities 復習　：授業中の活動を振り返る
7	浅川　真知子、薬師　英子	【第 7 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：Unit 4 How was your Golden Week? (pp.24~29)〈未来形〉予定を述べる／説明する　グループワーク、これまで学んできた Unit1~4(pp.6~29)についてのまとめ提出 復習　：授業中の活動を振り返る
8	浅川　真知子、薬師　英子	【第 8 回】 予習　：ここまでの授業を総復習する 授業　：前期前半のまとめをする 復習　：まとめを振り返る
9	薬師　英子	【第 9 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：Unit 5 I'm looking for a part-time job. (pp.30~35)〈進行形〉詳細を尋ねる／理由を述べるグループワーク、これまで学んできた Unit1~5(pp.6~35)についてのまとめの講評 復習　：授業中の活動を振り返る
10	薬師　英子	【第 10 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：Unit 5 I'm looking for a part-time job. (pp.30~35) Review & Activity 復習　：授業中の活動を振り返る

11	薬師　英子	【第 11 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：Unit 6 What do you call this in Japanese? (pp.36~41)〈受動態〉意向を尋ねる／好みを述べる　グループワーク 復習　：授業中の活動を振り返る
12	薬師　英子	【第 12 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：Unit 6 What do you call this in Japanese? (pp.36~41) Review & Activities 復習　：授業中の活動を振り返る
13	薬師　英子	【第 13 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：Unit 7 Have you been there? (pp.42~47)、これまで学んできた Unit1~7(pp.6~47)についてのまとめ提出 復習　：授業中の活動を振り返る
14	薬師　英子	【第 14 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：Unit 7 Have you been there? (pp.42~47) Review & Activities 復習　：授業中の活動を振り返る
15	薬師　英子	【第 15 回】 予習　：今まで授業で学んだことを振り返る 授業　：Review of Unit 1 What's your major? ~ Unit 7 Have you been there? (pp.6~47)、これまで学んできた Unit1~7(pp.6~47)についてのまとめの講評 復習　：自分の課題を見つけ対策を立てる

授業開始前学習	学習予定の Unit の内容・単語の予習と小テストに向けての学習を必ず行うこと。映画・音楽・テレビ・新聞記事など、英語に触れる機会を多く持ち、国際的な事柄に積極的に興味を持つこと。
授業内課題のフィードバックの方法	毎時間授業の冒頭で小テストを行う。授業 7 回目、13 回目に提出するまとめについては、2 週間後（授業 9 回目、15 回目）に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。
テキスト・教材	角山　照彦、Simon Capper、『Let's Read Aloud & Learn English : On Campus』（成美堂）
参考書	授業中に紹介する。
評価の基準と方法	試験 60%、平常点 40%（小テスト、課題提出、Presentation、授業参加意欲）
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	
その他	出席を重視する。単位認定には全授業数の 3 分の 2 以上の出席を必須とする。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。講義開始後 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。テキスト忘れ、授業内での携帯使用等は授業参加意欲の減点対象とする。その他、1 回目の授業で説明する。欠席した回の授業内容はシラバスや配信資料等を確認し、各自フォローアップする。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-232 CT-L-232	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-22	授業コード	F02261
科目名称	英語 AIV			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishAIV			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	W.ミラー			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	W.ミラー			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	Required English AIV continues to integrate the four skills (listening, speaking, reading, and writing), based on what students learned in AIII. We focus on group work, discussions, presentations, etc., to develop advanced functional ability in English. English AIV has a particular focus on further improving the productive skills of writing and speaking. In principle, classes will be conducted entirely in English.				
到達目標	Students speak and write various kinds of English using more complex syntax.				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	W.ミラー	【第 1 回】 予習： Read Unit 0 'Welcome to English Firsthand 2', p.8-11 授業： Course goals and structure will be explained. Q & A activities to get to know others. (pair work) 復習： Review notes
2	W.ミラー	【第 2 回】 予習 ： Read Unit 7 'Do you remember when...?', p.60-64 授業 ： Build vocabulary about life events to use in model dialogues (pair work) 復習 ： Review notes
3	W.ミラー	【第 3 回】 予習 ： Finish Reading Unit 7 'Do you remember when...?', p.65-67 授業 ： Grammar: Use irregular past tense verbs / Group work / Real Stories: 'My Gratitude Letter' 復習 ： Review notes / Do homework: Unit 7 Assignment in Google Classroom
4	W.ミラー	【第 4 回】 予習 ： Read Unit 8 'Let's have a get-together!', p.68-72 授業 ： Build vocabulary about social events to use in model dialogues (pair work) 復習 ： Review notes
5	W.ミラー	【第 5 回】 予習 ： Finish Reading Unit 8 'Let's have a get-together!', p.73-75 授業 ： Grammar: Use modal auxiliary verbs / Group work / Real Stories: 'How I Spend My Day' 復習 ： Review notes / Do homework: Unit 8 Assignment in Google Classroom
6	W.ミラー	【第 6 回】 予習 ： Read Unit 9 'What should I do?', p.76-80 授業 ： Build vocabulary about problems and advice to use in model dialogues (pair work) 復習 ： Review notes
7	W.ミラー	【第 7 回】 予習 ： Finish Reading Unit 9 'What should I do?', p.81-83 授業 ： Grammar: Use unreal conditionals / Group work / Real Stories: 'The Science of Happiness' 復習 ： Review notes / Do homework: Unit 9 Assignment in Google Classroom
8	W.ミラー	【第 8 回】 予習 ： Review all homework assignments and textbook p. 60-83 授業 ： Midterm Quiz of Unit 7 ~ Unit 9 復習 ： Review notes
9	W.ミラー	【第 9 回】 予習 ： Read Unit 10 'Tell me a story.', p.84-88 授業 ： Build vocabulary about telling stories to use in model dialogues (pair work) 復習 ： Review notes
10	W.ミラー	【第 10 回】 予習 ： Finish Reading Unit 10 'Tell me a story.', p.89-91 授業 ： Grammar: Use simple past, past continuous / Group work / Real Stories: 'What Does My Dream Mean' 復習 ： Review notes / Do homework: Unit 10 Assignment in Google Classroom

11	W.ミラー	【第 11 回】 予習 ： Read Unit 11 'In my opinion...', p.92-96 授業 ： Build vocabulary about world issues to use in model dialogues (pair work) 復習 ： Review notes
12	W.ミラー	【第 12 回】 予習 ： Finish Reading Unit 11 'In my opinion...', p.97-99 授業 ： Grammar: Use present perfect / Group work / Real Stories: 'Grave Apartments' 復習 ： Review notes / Do homework: Unit 11 Assignment in Google Classroom
13	W.ミラー	【第 13 回】 予習 ： Read Unit 12 'It's my dream!', p.100-104 授業 ： Build vocabulary about dreams and goals to use in model dialogues (pair work) 復習 ： Review notes
14	W.ミラー	【第 14 回】 予習 ： Finish Reading Unit 12 'It's my dream!', p.105-107 授業 ： Grammar: Talk about future using will, be going to / Group work / Real Stories: 'My Five-Year Plan' 復習 ： Review notes / Do homework: Unit 12 Assignment in Google Classroom
15	W.ミラー	【第 15 回】 予習 ： Review all homework assignments and textbook p. 81-107 授業 ： Final Quiz of Unit 10 ~ Unit 12 復習 ： Complete course Questionnaire on the Komajo Portal.

授業開始前学習	Practice listening to spoken English through videos or audio recordings and read English books, magazines, or comics. Look up unknown words in a dictionary.
授業内課題のフィードバックの方法	Both written and oral feedback will be provided to all students for tasks and assignments. Students are encouraged to ask questions, which the teacher will answer.
テキスト・教材	English Firsthand 2 by Helgesen et al (Pearson Longman)
参考書	
評価の基準と方法	Students are evaluated on a total of class participation points of 40% (mini tests, submitted coursework, presentations, class participation etc.) and regular examinations 60%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	
その他	It is important for students to attend each class. Credit will not be given to students who miss more than a third of the classes. 3 late arrivals will be counted as 1 absence. Arrival 30 minutes or more after the class has started will be counted as a
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-232 CT-L-232	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-22	授業コード	F02262
科目名称	英語 AIV			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishAIV			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	R.ヨシダ			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	R.ヨシダ			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	Required English AIV continues to integrate the four skills (listening, speaking, reading and writing), based on what students learned in AIII. Emphasis is placed on group works, discussions, presentations etc. to develop advanced functional ability in English. English AIV has a particular focus on further improving the productive skills of speaking and writing.				
到達目標	English AIV aims to improve students' confidence and proficiency in their spoken and written English. Students speak and write various kinds of English using more complex syntax, receiving guidance where necessary. Each student will have many opportuni				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	R.ヨシダ	【第 1 回】 予習 ： Don't forget your textbook! 授業 ： Unit 7 (pp.60-62): Life Events - vocabulary; listening; conversation 復習 ： Vocabulary review
2	R.ヨシダ	【第 2 回】 予習 ： preparation for Review quiz 授業 ： Unit 7 (pp.63-67): Life Events - grammar; pair/group work; discussions 復習 ： Grammar review
3	R.ヨシダ	【第 3 回】 予習 ： preparation for Review quiz 授業 ：Unit 8 (pp.68-70): Social Events - vocabulary; listening; conversation 復習 ： Vocabulary review
4	R.ヨシダ	【第 4 回】 予習 ： preparation for Review quiz 授業 ：Unit 8 (pp.71-75): Social Events - grammar; pair/group work; discussions 復習 ： Grammar review
5	R.ヨシダ	【第 5 回】 予習 ： preparation for Review quiz 授業 ： Unit 9 (pp.76-78): Problems and Advice - vocabulary; listening; conversation 復習 ： Vocabulary review
6	R.ヨシダ	【第 6 回】 予習 ： preparation for Review quiz 授業 ： Unit 9 (pp.79-83): Problems and Advice - grammar; pair/group work; discussions 復習 ： Grammar review
7	R.ヨシダ	【第 7 回】 予習 ： preparation for Midterm Task 1 授業 ： Midterm Task 1: Students submit a review of content learned in Units 7-9; Preparation for Midterm Task 2 復習 ： Grammar & Vocabulary review
8	R.ヨシダ	【第 8 回】 予習 ：preparation for Midterm Task 2 授業 ： Midterm Task 2 (speaking): Students give individual presentations 復習 ： Grammar & Vocabulary review
9	R.ヨシダ	【第 9 回】 予習 ： Vocabulary 授業 ： Students receive feedback on Midterm Task 1 (writing) and Task 2 (speaking); Unit 10 (pp.84-86): Telling Stories - vocabulary; listening; conversations 復習 ： Vocabulary review
10	R.ヨシダ	【第 10 回】 予習 ： preparation for Review quiz 授業 ： Unit 10 (pp.87-91): Telling Stories - grammar; pair/group work; discussions 復習 ： Grammar review

11	R.ヨシダ	【第 11 回】 予習 ： preparation for Review quiz 授業 ： Unit 11 (pp.92-94): World Issues - vocabulary; listening; conversation 復習 ： Vocabulary review
12	R.ヨシダ	【第 12 回】 予習 ： preparation for Review quiz 授業 ： Unit 11 (pp.95-100): World Issues - grammar; group work; discussions 復習 ： Grammar review
13	R.ヨシダ	【第 13 回】 予習 ： preparation for Review quiz 授業 ： Unit 12 (pp.100-107): Dreams and Goals - vocabulary; listening; grammar; pair/group work; discussions 復習 ： Grammar & Vocabulary review
14	R.ヨシダ	【第 14 回】 予習 ： preparation for Final Task 1 授業 ： Final Task 1: Students submit a review of content learned in Units 10-12 復習 ： Grammar & Vocabulary review
15	R.ヨシダ	【第 15 回】 予習 ： preparation for Final Task 2 授業 ： Final Task 2 (speaking): Students give individual presentations 復習 ： Self reflection

授業開始前学習	Take every opportunity to encounter and enjoy English through movies, music, TV, the Internet, etc.
授業内課題のフィードバックの方法	- Each "Review Quiz"(weekly quiz given at the beginning of each class) will be marked and returned in the following week. - A written feedback will be provided for each Midterm and Final task.
テキスト・教材	English Firsthand 2 (Pearson) ISBN: 978-981-313-023-4
参考書	Information will be given in class
評価の基準と方法	Students are evaluated on a total of class participation points 40% (review quizzes, submitted assignments, effort & attitude) and midterm and final tasks 60% (midterm 30%& final 30%).
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	
その他	出席重視。最低限必要な出席率: 2/3 It is important for students to attend each class. Credit will not be given to students who miss more than a third of the classes. 3 late arrivals will be counted as 1 absence. Arrival 30 minutes or more after the class has started
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-232 CT-L-232	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-22	授業コード	F02263
科目名称	英語 AⅣ			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishAⅣ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	バラダッドリチャード			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	R.バラダッド			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	インタラクティブな練習を通じて英語の聞き取りと会話を体感します。英語ＡⅣでは、英語ＡⅢで身につけた発展的な英語運用能力をさらに向上させるために、「リスニング」「スピーキング」「リーディング」「ライティング」の４技能を効果的に統合したグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動を行う。特に「ライティング」と「スピーキング」という英語を発信する能力のさらなる向上を目標とする。				
到達目標	この授業では、さまざまな楽しく興味深いリスニングや発音、スピーキングアクティビティー（個人、ペア、グループアクティビティーなど）を通して、英語を話す力、および理解力を向上させることに焦点を当てます。複雑な構文を使って、主体的に英文を書いたり英語を話したりできる。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	R.バラダッド	【第 1 回】 予習　：Purchase textbook / Prepare to talk about summer 授業　：Introductions and course overview / Talking about summer vacation, Q&A activities 復習　：Review classmate introductions / Preview new vocabulary
2	R.バラダッド	【第 2 回】 予習　：New vocabulary 授業　：Unit 7: Past experiences (pp. 60-64) 復習　：Review notes / Do homework
3	R.バラダッド	【第 3 回】 予習　：Review vocabulary 授業　：Unit 7: A meaningful experience (pp. 65-67), group work 復習　：GC short writing 1 / do GC video presentation Unit 7
4	R.バラダッド	【第 4 回】 予習　：New vocabulary 授業　：Unit 8: Making plans (pp. 68-72), pair work, Unit 7 quiz 復習　：Review notes/ Do homework
5	R.バラダッド	【第 5 回】 予習　：Review vocabulary 授業　：Unit 8: Obligations (pp. 73-75), group work 復習　：GC Short writing 2 / do GC video presentation Unit 8
6	R.バラダッド	【第 6 回】 予習　：New vocabulary 授業　：Unit 9: Talking about possibilities (pp. 76-79), pair work, Unit 8 quiz 復習　：Review notes/ Do homework
7	R.バラダッド	【第 7 回】 予習　：Review vocabulary / Review 授業　：Unit 9: Giving advice (pp. 80-83), group work 復習　：　Do homework/review 64-83 for mid-term quiz
8	R.バラダッド	【第 8 回】 予習　：Prepare for quiz 授業　：Quiz for units 7-9 / Speaking exercise in pairs 復習　：Preview Unit 10/ Do homework
9	R.バラダッド	【第 9 回】 予習　：　New vocabulary 授業　：Unit 10: Telling stories (pp. 84-88), pair work 復習　：Review notes/ Do homework
10	R.バラダッド	【第 10 回】 予習　：Review vocabulary 授業　：Unit 10: Talking about the past (pp. 89-91), group work 復習　：GC short writing 3

11	R.バラダッド	【第 11 回】 予習　: New vocabulary 授業　: Unit 11: Agreeing and disagreeing (pp. 92-96), Unit 10 quiz 復習　: Review notes/ Do homework
12	R.バラダッド	【第 12 回】 予習　: Review vocabulary 授業　: Unit 11: Discussing a controversial issue (pp. 97-99), group work 復習　: GC short writing 4
13	R.バラダッド	【第 13 回】 予習　: New vocabulary 授業　: Unit 12: Talking about dreams & goals (pp. 100-104), pair work, Unit 11 Quiz 復習　: Review notes / Do homework / Do GC video presentation Unit 12
14	R.バラダッド	【第 14 回】 予習　: Review vocabulary 授業　: Unit 12 Predictions (pp.105-107), group work 復習　:　Do homework / review pp. 84-107 for quiz
15	R.バラダッド	【第 15 回】 予習　: Prepare for quiz 授業　: Quiz for units 10-12 / Speaking exercise in pairs 復習　: Do Portal evaluations in class (after quiz)

授業開始前学習	映画・音楽・テレビ・新聞など、英語に触れる機会を多く持つこと。興味がある文章や単語を、辞書で調べる。
授業内課題のフィードバックの方法	毎時間授業冒頭で小テストを行い、返却時に確認する。授業７回目、１３回目に提出するまとめについては、２週間後（授業９回目、１５回目）に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。
テキスト・教材	English Firsthand 2, 5th Edition, (Marc Helgesen) Pearson
参考書	
評価の基準と方法	平常点 40%（小テスト、課題提出、プレゼンテイション、授業態度など）及び定期試験 60%を総合して評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	
その他	出席を重視する。全授業数の３分の１以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻３回で欠席１回とみなす。講義開始３０分以上の遅刻は欠席をみなす。その他、１回目の授業で説明する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-232 CT-L-232	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-22	授業コード	F02264
科目名称	英語 AⅣ			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishAⅣ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	K.バーンズ			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	K.バーンズ			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	The emphasis of this class will be on speaking. However, listening, reading and writing will also be developed. This class though, focuses on improving the productive skills of speaking. In principle, lessons are conducted in English. If we are online we will still do speaking using software.				
到達目標	Goal: Students will be able to communicate more freely in English at the end of this class.				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	K.バーンズ	【第 1 回】 予習　: Come prepared to talk about your summer vacation 授業　: Introduction/ Course goals/Talking about summer vacation - Pairwork 復習　: Review notes/ Do homework
2	K.バーンズ	【第 2 回】 予習　: Read pp. 60-64 授業　: Life Events - Pairwork 復習　: Review notes/ Do homework
3	K.バーンズ	【第 3 回】 予習　: Read pp. 65-67 授業　: Past Events - Pairwork and Discussion 復習　: Review notes/ Do homework
4	K.バーンズ	【第 4 回】 予習　: Read pp. 68-71 授業　: Social Events - Pairwork and Group work 復習　: Review notes/ Do homework
5	K.バーンズ	【第 5 回】 予習　: Read pp. 72-75 授業　: Obligations - Pairwork 復習　: Review notes/ Do homework
6	K.バーンズ	【第 6 回】 予習　: Read pp. 76-79 授業　: Problems and Advice - Pairwork and Discussion 復習　: Review notes/ Do homework
7	K.バーンズ	【第 7 回】 予習　: Read pp. 80-83 授業　: Possibilities - Pairwork and Discussion 復習　: Review notes/ Do homework
8	K.バーンズ	【第 8 回】 予習　: Review all homework assignments 授業　: General review - Project Based Learning 復習　: Reread textbook pp.60-83
9	K.バーンズ	【第 9 回】 予習　: Read pp. 84-86 授業　: Telling Stories - Project Based Learning 復習　: Review notes/ Do homework
10	K.バーンズ	【第 10 回】 予習　: Read pp. 87-91 授業　: Talking about the past - Presentations 復習　: Review notes/ Do homework
11	K.バーンズ	【第 11 回】 予習　: Read pp. 92-94 授業　: World Issues - Pairwork 復習　: Review notes/ Do homework

12	K.バーンズ	【第 12 回】 予習　: Read pp. 95-99 授業　: Talking about the present - Pairwork and Group Work 復習　: Review notes/ Do homework
13	K.バーンズ	【第 13 回】 予習　: Read pp. 100-103 授業　: Dreams and Goals - Pairwork and Discussion 復習　: Review notes/ Do homework
14	K.バーンズ	【第 14 回】 予習　: Read pp. 104-107 授業　: Predictions - Pairwork 復習　: Review notes/ Do homework
15	K.バーンズ	【第 15 回】 予習　: Review all homework assignments 授業　: General review 復習　: Reread textbook pp.60-107

授業開始前学習	Before the class starts students can prepare by listening to English recordings and reading English books, magazines or comics.　Look up words in the dictionary.
授業内課題のフィードバックの方法	Comprehensive feedback will be provided on coursework. Once class starts, evaluated homework assignments will be provided after each class to help students review and better understand the material.
テキスト・教材	English Firsthand 2 by Helgesen et al　(Pearson Longman)
参考書	
評価の基準と方法	Students are evaluated on a total of class participation points of 40% (mini tests, submitted coursework, presentations, class participation etc.)　and regular examinations 60%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	English Conversation
その他	t is important for students to attend each class.　Credit will not be given to students who miss more than a third of the classes.　3 late arrivals will be counted as 1 absence.　Arrival after 30 minutes or more after the start of class will be counted as
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-232 CT-L-232	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-22	授業コード	F02265
科目名称	英語 AⅣ			単位数	履修ガイド参照
英文名称	EnglishAⅣ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	江連 成美			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	江連 成美			開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	英語ＡⅣでは、英語ＡⅢで身につけた発展的な英語運用能力をさらに向上させるために、「リスニング」「スピーキング」「リーディング」「ライティング」の４技能を効果的に統合したグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動を行う。特に「ライティング」と「スピーキング」という英語を発信する能力のさらなる向上を目標とする。				
到達目標	複雑な構文を使って、主体的に英文を書いたり英語を話したりできる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	江連 成美	【第 1 回】 予習： 前期に学習した語彙や表現などを確認しておく 授業： 前期に学習した語彙や表現を使った会話活動（ペアワーク） 復習： Review (Google Classroom)
2	江連 成美	【第 2 回】 予習： Unit 3 - Vocabulary 1 授業： Unit 3 : Where were you when the earthquake happened? (pp.36-40) (ペアワーク) 復習： Unit 3 - Review (Google Classroom)
3	江連 成美	【第 3 回】 予習： Unit 3 - Vocabulary 2 授業： Unit 3 : Where were you when the earthquake happened? (pp.41-44) (ペアワーク) 復習： Unit 3 - Memorize your speech
4	江連 成美	【第 4 回】 予習： Unit 4 - Vocabulary 1 授業： Unit 4 : Where were you when the earthquake happened? (pp.52-59) (ペアワーク) 復習： Unit 4 - Review (Google Classroom)
5	江連 成美	【第 5 回】 予習： Unit 4 - Vocabulary 2 授業： Unit 4 : Where were you when the earthquake happened? (pp.60-64) (ペアワーク) 復習： Mermorize your speech (p.64)
6	江連 成美	【第 6 回】 予習： Review (pp. 45 - 51)の中の問題を解いておく 授業： Review (pp. 45 - 51)を使った会話活動 復習： Review (Google Classroom)
7	江連 成美	【第 7 回】 予習： 後期前半に学習した語彙や文法を復習する 授業： 後期前半の振り返り 復習： 理解できていなかった点を整理しておく
8	江連 成美	【第 8 回】 予習： Unit 4 - Vocabulary 1 授業： Have you ever been snowboarding? (pp. 52-59)（ペアワーク） 復習： Review (Google Classroom)
9	江連 成美	【第 9 回】 予習： Unit 4 - Vocabulary 2 授業： Have you ever been snowboarding? (pp. 60-64)（ペアワーク） 復習： Memorize your speeck (p. 64)
10	江連 成美	【第 10 回】 予習： Unit 5 - Vocabulary 1 授業： Is it much bigger than Japan? (pp. 65-71)（ペアワーク） 復習： Memorize your speech
11	江連 成美	【第 11 回】 予習： Unit 5 - Vocabulary 2 授業： Is it much bigger than Japan? (pp. 72-76) (（ペアワーク） 復習： Memorize your speech (p. 76)

12	江連 成美	【第 12 回】 予習： Unit 6 - Vocabulary 1 授業： Unit 6 : Are you ready to order? (pp. 77-81)（ペアワーク） 復習： Review (Google Classroom)
13	江連 成美	【第 13 回】 予習： Unit 6 - Vocabulary 2 授業： Unit 6 : Are you ready to order? (pp. 82-87)（ペアワーク） 復習： Memorize your speech (p. 87)
14	江連 成美	【第 14 回】 予習： Review (pp. 88 - 93)の中の問題を解いておく 授業： Review (pp. 88 - 93)を使った会話活動 復習： Review (Google Classroom)
15	江連 成美	【第 15 回】 予習：後期後半に学習した語彙や文法を復習する 授業：後期後半の振り返り 復習：後期に学習した項目を整理し振り返る

授業開始前学習	映画・音楽・テレビ・新聞など、英語に触れる機会を多く持つこと。
授業内課題のフィードバックの方法	隔週で授業冒頭で小テストを行い、返却時に確認する。
テキスト・教材	テキスト名：コミュニケーションのための実践英語３［準中級編］ 出版社：三修社
参考書	特になし。
評価の基準と方法	平常点 40%（小テスト、課題提出、Presentation、授業態度等）および定期試験 60%を総合して評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	
その他	出席を重視する。全授業数の３分の１以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻３回で欠席１回とみなす。講義開始後３０分以上の遅刻は欠席とみなす。その他、１回目の授業で説明する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-232 CT-L-232	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-22	授業コード	F02266
科目名称	英語 AIV			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishAIV			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	M.オーズランド			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	M.オーズランド			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	Required English AIV continues to integrate the four skills (listening, speaking, reading and writing), based on what students learned in AIII. We focus on group works, discussions, presentations etc. to develop advanced functional ability in English. English AIV has a particular focus on further improving the productive skills of writing and speaking.				
到達目標	Students speak and write various kinds of English using more complex syntax.				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	M.オーズランド	【第 1 回】 予習　: Overview unit 9. Prepare a short speech about your summer vacation (2 minutes). 授業　: Unit 9; Only time will tell. Talking about change. pp.58-60. Pair-work, groupwork, discussions. 復習　: Review unit 9 pp.58-60.
2	M.オーズランド	【第 2 回】 予習　: Overview unit 9 pp.61-63. 授業　: Unit 9 continued. pp.61-63. Pair-work, groupwork, writing exercise. 復習　: Review unit 9.
3	M.オーズランド	【第 3 回】 予習　: Overview Unit 11 授業　: Unit 11; It's really worth seeing. Landmarks and world knowledge pp.72-74. Pair-work, groupwork, discussions. 復習　: Review Unit 11 pp.72-74.
4	M.オーズランド	【第 4 回】 予習　: Overview Unit 11 pp.75-77 授業　: Unit 11 continued. pp.75-77. Pair-work, groupwork, discussions. 復習　: Review Unit 11
5	M.オーズランド	【第 5 回】 予習　: Overview Unit 12. 授業　: Unit 12; It's a long story. Storytelling, unexpected past events. pp.78-80. Pair-work, groupwork, discussion. 復習　: Review unit 12 pp.78-80
6	M.オーズランド	【第 6 回】 予習　:　Overview Unit 12 pp.81-83 授業　:　Unit 12 continued. Pp.81-83. Pair-work, groupwork, writing exercise, short presentation. 復習　:　Review Unit 12.
7	M.オーズランド	【第 7 回】 予習　:　Review units 9,11-12. Prepare a short, written report. 授業　:　General Comprehension exercises. 復習　:　Reflect on personal performance and skills that need more work.
8	M.オーズランド	【第 8 回】 予習　:　Overview Unit 13. 授業　:　Unit 13; That's entertainment! Describing movies and books. pp.86-88. Pair-work, groupwork. 復習　:　Review Unit 13 pp.86-88
9	M.オーズランド	【第 9 回】 予習　:　Overview Unit 13 pp.89-91. 授業　:　Unit 13 continued. pp.89-91. Pair-work, groupwork, writing exercise. 復習　:　Review Unit 13
10	M.オーズランド	【第 10 回】 予習　:　Overview Unit 14. 授業　:　Unit 14; Now I get it! Interpreting body language. Describing behavior. pp.92-94. Pair-work, groupwork. 復習　:　Review Unit 14 pp.92-94

11	M.オーズランド	【第 11 回】 予習　：　Overview Unit 14 pp.95-97. 授業　：　Unit 14 continued; pp95-97. Pair-work, groupwork, writing exercise. 復習　：　Review Unit 14.
12	M.オーズランド	【第 12 回】 予習　：　Overview Unit 15. 授業　：　Unit 15; I wouldn't have done that. Speculating about past and future. pp.100-102. Pair-work, groupwork. 復習　：　Review pp.100-102
13	M.オーズランド	【第 13 回】 予習　：　Overview Unit 15 pp.103-105. 授業　：　Unit 15 continued; pp103-105. Pair-work, groupwork, writing exercise. 復習　：　Review Unit 15.
14	M.オーズランド	【第 14 回】 予習　：　Overview Unit 16. 授業　：　Unit 16; Making Excuses. Reported speech, requests and statements. pp.106-111. Pair-work, groupwork. 復習　：　Review unit 16.
15	M.オーズランド	【第 15 回】 予習　：　Review units 13-16. Prepare a short, written report. 授業　：　General comprehension exercises. 復習　：　Reflect on personal performance and skills that need more work.

授業開始前学習	Prepare yourself to actively participate in classes in English. Consider your strong points and those that need improvement. Focus on topics that interest you, review vocabulary and listen to as much English as possible before the course.
授業内課題のフィードバックの方法	Students take a quiz at the beginning of every class or submit assignments and comprehensive feedback on these will be provided. Any questions from individual students will be answered.
テキスト・教材	Richards, R.C, Hull, J., Proctor, S., Interchange 2 Students Book (Cambridge: C.U.P., 2020) ISBN: 978-1-316-62032-6
参考書	
評価の基準と方法	Students are evaluated on a total of class participation points 40% (mini tests, submitted coursework, presentations, class participation etc.) and regular examination 60%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	This course follows on from the first semester course Required English AIII-f and uses the same textbook.
その他	It is important for students to attend each class.　Credit will not be given to students who miss more than a third of the classes.　3 late arrivals will be counted as 1 absence.　Arrival 30 minutes or more after the class has started will be counted as a
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-232 CT-L-232	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-22	授業コード	F02267
科目名称	英語 AⅣ			単位数	履修ガイド参照
英文名称	EnglishAⅣ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	佐々木　千恵			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	佐々木　千恵			開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	英語 AⅣでは、英語 AⅢで身につけた発展的な英語運用能力をさらに向上させるために、「リスニング」「スピーキング」「リーディング」「ライティング」の４技能を効果的に統合したグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動を行う。特に「ライティング」と「スピーキング」という英語を発信する能力のさらなる向上を目標とする。				
到達目標	複雑な構文を使って、主体的に英文を書いたり英語を話したりできる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	佐々木　千恵	【第 1 回】 予習　：Lesson7 p42-44 の知らない単語は意味調しておく。 授業　：Lesson7 p42-44 を CD で聞き、語彙チェック、文法確認、内容把握、リスニング、ライティング。 復習　：授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。
2	佐々木　千恵	【第 2 回】 予習　：Lesson7 p45-47 の知らない単語は意味調しておく。 授業　：前回のチェックテスト。Lesson7 p45-46 の exercise をやる。p47 の Activities でペアワーク、ライティング練習。 復習　：授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。
3	佐々木　千恵	【第 3 回】 予習　：Lesson8 p48-50 の知らない単語は意味調しておく。 授業　：前回のチェックテスト。Lesson7 のチェックテスト。Lesson8 p48-50 を CD で聞き、語彙チェック、文法確認、内容把握、リスニング、ライティング。 復習　：授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。
4	佐々木　千恵	【第 4 回】 予習　：Lesson8 p51-53 の知らない単語は意味調しておく。 授業　：前回のチェックテスト。Lesson8 p51-52 の exercise をやる。p53 の Activities でペアワーク、ライティング練習。 復習　：授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。
5	佐々木　千恵	【第 5 回】 予習　：Lesson9 p54 を音読し、p54-56 の知らない単語は意味調しておく。 授業　：前回のチェックテスト。Lesson9p54 を CD で聞き、音読。p19、20 の語彙チェック、文法確認、内容把握、リスニング、ライティング。 復習　：授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。
6	佐々木　千恵	【第 6 回】 予習　：Lesson9 p57-59 の知らない単語は意味調しておく。 授業　：前回のチェックテスト返却・解説。Lessonp57-58 の exercise をやる。p59 の Activities でペアワーク、ライティング練習。 復習　：授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。
7	佐々木　千恵	【第 7 回】 予習　：Lesson10 p60--62 の知らない単語は意味調しておく。 授業　：前回のチェックテスト。Lesson10 p60-62 を CD で聞き、語彙チェック、文法確認、内容把握、リスニング、ライティング。 復習　：授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。
8	佐々木　千恵	【第 8 回】 予習：ここまでの授業を総復習する。 授業：後期前半の振り返り。 復習：自分の弱点を見極めて重点的に復習をする。
9	佐々木　千恵	【第 9 回】 予習　：Lesson10 p63-65 の知らない単語は意味調しておく。 授業　：Lesson10 p63-64 の exercise をやる。p65 の Activities でペアワーク、ライティング練習。 復習　：授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。
10	佐々木　千恵	【第 10 回】 予習　：Lesson11 p66-68 の知らない単語は意味調しておく。 授業　：前回のチェックテスト。Lesson11 p66-68 を CD で聞き、語彙チェック、文法確認、内容把握、リスニング、ライティング。 復習　：授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。

11	佐々木　千恵	【第 11 回】 予習　：Lesson11 p69-71 の知らない単語は意味調しておく。 授業　：前回のチェックテスト返却・解説。Lesson11 p69-70 の exercise をやる。p71 の Activities でペアワーク、ライティング練習。 復習　：授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。
12	佐々木　千恵	【第 12 回】 予習　：Lesson12 p72-75 の知らない単語は意味調しておく。 授業　：前回のチェックテスト。Lesson12p72-75 の語彙チェック、文法確認、内容把握、リスニング、ライティング。 復習　：授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。
13	佐々木　千恵	【第 13 回】 予習　：Lesson12 p76-77 の知らない単語は意味調しておく。 授業　：前回のチェックテスト返却・解説。Lesson12 p76-77 でペアワーク、ライティング練習。 復習　：授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。
14	佐々木　千恵	【第 14 回】 予習　：Lesson 13p78-82 の知らない単語は意味調しておく。 授業　：前回のチェックテスト。Lesson13 p78-82 の語彙チェック、文法確認、内容把握、リスニング、ライティング。 復習　：授業で扱った文を繰り返し音読しフレーズの定着を図る。
15	佐々木　千恵	【第 15 回】 予習　：今まで授業で学んだことを振り返る 授業　：後期後半の振り返り。 復習　：自分の課題を見つけ対策を立てる

授業開始前学習	映画・音楽・テレビ・新聞など、英語に触れる機会を多く持つこと。興味がある文章や単語を、辞書で調べる。
授業内課題のフィードバックの方法	適宜小テストを行い、知識の定着を図る。それを次の授業で返却するさいに、各自が弱点を認識できるように指導する。
テキスト・教材	Kazuko Morita 他著『Make it simple』三修社
参考書	特にありません。
評価の基準と方法	平常点 40%（小テスト、課題提出、Presentation、授業態度等）および定期試験 60%を総合して評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	
その他	出席を重視する。全授業数の３分の１以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻３回で欠席１回とみなす。講義開始後３０分以上の遅刻は欠席とみなす。その他、１回目の授業で説明する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-232 CT-L-232	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-22	授業コード	F02268
科目名称	英語 AⅣ			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishAⅣ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	鈴木　悠理			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鈴木　悠理			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	本科目では、前期に引き続き、英語の発展的な運用能力の習得のために、「リスニング」「スピーキング」「リーディング」「ライティング」の４技能を効果的に統合したペア・グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動を行う。特に「ライティング」と「スピーキング」を中心に英語を発信する能力の向上を目標とする。				
到達目標	発展的な構文を使って、英文を書いたり英語を話したりできる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	鈴木　悠理	【第 1 回】 予習：シラバスを確認する。今までの英語学習を振り返り、復習する。 授業：ガイダンス（授業概要、到達目標、授業の進め方について）、前期の復習（特に Unit 6） 復習：ガイダンスをもとに、前期の目標を立てる。テキストを用意する。Google Classroom に登録する。
2	鈴木　悠理	【第 2 回】 予習：Unit 7 の音声を聞き、音読する。Unit 7 全体を通して分からない単語や表現を調べる。 授業：Unit 7（前半）ライティング、ペア・グループワーク 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。
3	鈴木　悠理	【第 3 回】 予習：Unit 7 の音声を聞き、音読する。小テストの準備をする。 授業：Unit 7（後半）ライティング、ペア・グループワーク、Unit 7（全体）小テスト 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。小テストを振り返る。
4	鈴木　悠理	【第 4 回】 予習：Unit 8 の音声を聞き、音読する。Unit 8 全体を通して分からない単語や表現を調べる。 授業：Unit 8（前半）ライティング、ペア・グループワーク 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。
5	鈴木　悠理	【第 5 回】 予習：Unit 8 の音声を聞き、音読する。小テストの準備をする。 授業：Unit 8（後半）ライティング、ペア・グループワーク、Unit 8（全体）小テスト 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。小テストを振り返る。
6	鈴木　悠理	【第 6 回】 予習：Unit 9 の音声を聞き、音読する。Unit 9 全体を通して分からない単語や表現を調べる。 授業：Unit 9（前半）ライティング、ペア・グループワーク 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。
7	鈴木　悠理	【第 7 回】 予習：Unit 9 の音声を聞き、音読する。 授業：Unit 9（後半）ライティング、ペア・グループワーク、Unit 9（全体）小テスト 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。小テストを振り返る。
8	鈴木　悠理	【第 8 回】 予習：Unit 7～9 を振り返り、分からない単語の調べ直しや間違えた問題の解き直しをする。 授業：Unit 7～9 振り返り 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。間違えた問題を解き直す。
9	鈴木　悠理	【第 9 回】 予習：Unit 10 の音声を聞き、音読する。Unit 10 全体を通して分からない単語や表現を調べる。 授業：Unit 10（前半）ライティング、ペア・グループワーク 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。
10	鈴木　悠理	【第 10 回】 予習：Unit 10 の音声を聞き、音読する。小テストの準備をする。 授業：Unit 10（後半）ライティング、ペア・グループワーク、Unit 10（全体）小テスト 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。小テストを振り返る。
11	鈴木　悠理	【第 11 回】 予習：Unit 12 の音声を聞き、音読する。Unit 12 全体を通して分からない単語や表現を調べる。 授業：Unit 12（前半）ライティング、ペア・グループワーク 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。

12	鈴木　悠理	【第 12 回】 予習：Unit 12 の音声を聞き、音読する。 授業：Unit 12（後半）ライティング、ペア・グループワーク、Unit 12（全体）小テスト 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。小テストを振り返る。
13	鈴木　悠理	【第 13 回】 予習：Unit 13 の音声を聞き、音読する。Unit 13 全体を通して分からない単語や表現を調べる。 授業：Unit 13（全体）ライティング、ペア・グループワーク 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。
14	鈴木　悠理	【第 14 回】 予習：Unit 10, 12～13 を振り返り、分からない単語の調べ直しや間違えた問題の解き直しをする。 授業：Unit 10, 12～13 振り返り 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。間違えた問題を解き直す。
15	鈴木　悠理	【第 15 回】 予習：Unit 7～13 を振り返り、分からない単語の調べ直しや間違えた問題の解き直しをする。 授業：Unit 7～13 振り返り 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。間違えた問題を解き直す。

授業開始前学習	時事ニュースや文化（映画・音楽・ファッションなど）を通して英語に触れる機会を持つこと。 これまでの英語学習を振り返ること。
授業内課題のフィードバックの方法	約 2 週に 1 回、各 Unit の学習を終えたところで小テストを行う。翌週、返却時に解説を行う。授業 8 回目、15 回目に授業内容の復習を行い、クラスおよび個別の質問に回答する。
テキスト・教材	VELC 研究会教育開発グループ（編）『AMBITIONS Elementary 4 技能統合型で学ぶ英語コース：初級編』金星堂 *前期と同じテキスト
参考書	英和辞典・和英辞典があるとよい（電子辞典可）。その他は授業内で適宜紹介する。
評価の基準と方法	平常点 40%（授業参加態度、小テスト、課題提出など）および定期試験 60%を総合して評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	
その他	出席を重視する。全授業の 3 分の 1 以上を欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。その他、公欠についてなどは第 1 回の授業で説明する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-232 CT-L-232	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-22	授業コード	F02269
科目名称	英語 AⅣ			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishAⅣ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	中川　優一			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	中川　優一			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	英語ＡⅣでは、英語ＡⅢで身につけた発展的な英語運用能力をさらに向上させるために、「リスニング」「スピーキング」「リーディング」「ライティング」の４技能を効果的に統合したグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動を行う。特に「ライティング」と「スピーキング」という英語を発信する能力のさらなる向上を目標とする。				
到達目標	複雑な構文を使って、主体的に英文を書いたり英語を話したりできる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	中川　優一	【第 1 回】 予習：Unit 7 (What Do the Plans Include?, p.34-35)を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 7 (What Do the Plans Include?, p.34-35)およびそれに付随したグループワーク。 復習：　第 1 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。
2	中川　優一	【第 2 回】 予習：Unit 7 (What Do the Plans Include?, p.36-37)を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 7 (What Do the Plans Include?, p.36-37)およびそれに付随したグループワーク。 復習：　第 2 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。
3	中川　優一	【第 3 回】 予習：Unit 8 (My New Apartment Is Safer Than My Old One, p.38-39)を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 8 (My New Apartment Is Safer Than My Old One, p.38-39)およびそれに付随したグループワーク。 復習：　第 3 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。
4	中川　優一	【第 4 回】 予習：Unit 8 (My New Apartment Is Safer Than My Old One, p.40-41)を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 8 (My New Apartment Is Safer Than My Old One, p.40-41)およびそれに付随したグループワーク。 復習：　第 4 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。
5	中川　優一	【第 5 回】 予習：Unit 9 (Typing Is Easy for Me!, p.42-43)を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 9 (Typing Is Easy for Me!, p.42-43)およびそれに付随したグループワーク。 復習：　第 5 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。
6	中川　優一	【第 6 回】 予習：Unit 9 (Typing Is Easy for Me!, p.44-45)を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 9 (Typing Is Easy for Me!, p.44-45)およびそれに付随したグループワーク。 復習：　第 6 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。
7	中川　優一	【第 7 回】 予習：第 1 回から第 6 回までの復習 授業：後期前半のまとめを行う。 復習：まとめでわからなかったところの確認。
8	中川　優一	【第 8 回】 予習：Unit 10 (I Have Many Things to Learn, p.46-47)を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 10 (I Have Many Things to Learn, p.46-47)およびそれに付随したグループワーク。 復習：　第 8 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。
9	中川　優一	【第 9 回】 予習：Unit 10 (I Have Many Things to Learn, p.48-49)を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 10 (I Have Many Things to Learn, p.48-49)およびそれに付随したグループワーク。 復習：　第 9 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。
10	中川　優一	【第 10 回】 予習：Unit 11 (If I Travel Abroad, I'll Take a Group Tour, p.50-51)を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 11 (If I Travel Abroad, I'll Take a Group Tour, p.50-51)およびそれに付随したグループワーク。 復習：　第 10 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。

11	中川　優一	【第 11 回】 予習：Unit 11 (If I Travel Abroad, I'll Take a Group Tour, p.52-53)を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 11 (If I Travel Abroad, I'll Take a Group Tour, p.52-53)およびそれに付随したグループワーク。 復習：　第 11 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。
12	中川　優一	【第 12 回】 予習：Unit 12 (Osamu Tezuka Is Admired by Many People, p.54-55)を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 12 (Osamu Tezuka Is Admired by Many People, p.54-55)およびそれに付随したグループワーク。 復習：　第 12 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。
13	中川　優一	【第 13 回】 予習：Unit 12 (Osamu Tezuka Is Admired by Many People, p.56-57)を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 12 (Osamu Tezuka Is Admired by Many People, p.56-57)およびそれに付随したグループワーク。 復習：　第 13 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。
14	中川　優一	【第 14 回】 予習：　第 8 回から第 13 回までの復習。 授業：後期後半のまとめを行う。 復習：　まとめでわからなかったところの確認。
15	中川　優一	【第 15 回】 予習：　一年間の学習の振り返り。 授業：一年を通して振り返り、及びフィードバック。 復習：　今後に向けて必要な内容を振り返る。

授業開始前学習	映画・音楽・テレビ・新聞など、英語に触れる機会を多く持つこと。興味がある文章や単語を、辞書で調べる。
授業内課題のフィードバックの方法	授業内で小テストを行う。また、課題提出を適宜行い、返却時に確認する。
テキスト・教材	Say It Now! Grammar for Communication, Tomoko Takada and Diane H. Nagatomo, 2017, 金星堂
参考書	
評価の基準と方法	平常点 40%（小テスト、課題提出、Presentation、授業態度等）および定期試験 60%を総合して評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	
その他	出席を重視する。全授業数の 3 分の 1 以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。講義開始後 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。その他、1 回目の授業で説明する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-232 CT-L-232	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-22	授業コード	F02284
科目名称	英語 AⅣ			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishAⅣ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	薬師　英子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	浅川・薬師			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	英語ＡⅣでは、英語ＡⅢで身につけた発展的な英語運用能力をさらに向上させるために、「リスニング」「スピーキング」「リーディング」「ライティング」の４技能を効果的に統合したグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動を行う。特に「ライティング」と「スピーキング」という英語を発信する能力のさらなる向上を目標とする。				
到達目標	複雑な構文を使って、主体的に英文を書いたり話したりできる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	浅川　真知子、薬師　英子	【第 1 回】 予習　：自分の英語学習を振り返る 授業　：Talk About Summer Vacation / Review of the first term & Introduction　グループワーク 復習　：家庭学習を考える
2	薬師　英子	【第 2 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：Unit 8 Could you tell me how to get there? (pp.48~53)〈助動詞〉道順を尋ねる／感謝する　グループワーク 復習　：授業中の活動を振り返る
3	薬師　英子	【第 3 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：Unit 8 Could you tell me how to get there? (pp.48~53) Review & Activity 復習　：授業中の活動を振り返る
4	薬師　英子	【第 4 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：Unit 9 What do you want me to do? (pp.54~59)〈不定詞〉問題点を述べる／依頼する　グループワーク 復習　：授業中の活動を振り返る
5	薬師　英子	【第 5 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：Unit 9 What do you want me to do? (pp.54~59) Review & Activity 復習　：授業中の活動を振り返る
6	薬師　英子	【第 6 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：Unit 10 I'm on a tight budget. (pp.60~65)〈関係詞〉理由を述べる／理解を示す　グループワーク 復習　：授業中の活動を振り返る
7	薬師　英子	【第 7 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：Unit 11 What do you think of this program? (pp.66~71)〈形容詞・副詞〉意見を尋ねる／励ます　グループワーク、これまで学んできた Unit 8~11(pp.48~71)についてのまとめ提出 復習　：授業中の活動を振り返る
8	薬師　英子	【第 8 回】 予習　：ここまでの授業を総復習する 授業　：後期前半のまとめをする 復習　：まとめを振り返る
9	薬師　英子	【第 9 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：Unit 12 I'm reviewing what I studied. (pp.72~77)〈接続詞・前置詞〉近況を尋ねる／確信を示す、これまで学んできた Unit 8 Could you tell me how to get there? ~Unit 12 I'm reviewing what I studied. (pp.48~77)についてのまとめの講評 復習　：授業中の活動を振り返る

10	薬師　英子	【第 10 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：Unit 12 I'm reviewing what I studied (pp.72~77) Review & Activity 復習　：授業中の活動を振り返る
11	薬師　英子	【第 11 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：Unit 13 Final exam week is so stressful! (pp.78~83)〈動名詞〉賛同する／不安を示す 復習　：授業中の活動を振り返る
12	薬師　英子	【第 12 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：Unit 13 Final exam week is so stressful!　(pp.78~83) Review & Activity 復習　：授業中の活動を振り返る
13	薬師　英子	【第 13 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：Unit 14 Is this your first trip abroad? (pp.84~89)〈分詞〉相槌を打つ／予定を尋ねる　グループワーク、これまで学んできた Unit 8 Could you tell me how to get there? ~ Unit 14 Is this your first trip abroad?(pp.48~89)についてのまとめ提出 復習　：授業中の活動を振り返る
14	薬師　英子	【第 14 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：Unit 15 What would you like to order? (pp.90~95)〈比較〉希望を尋ねる／注文する　グループワーク 復習　：授業中の活動を振り返る
15	浅川　真知子、薬師　英子	【第 15 回】 予習　：今まで授業で学んだことを振り返る 授業　：Overall Review、これまで学んできた Unit 8~15(pp.48~95)についてのまとめの講評 復習　：自分の課題を見つけ対策を立てる

授業開始前学習	学習予定の Unit の内容・単語の予習と小テストに向けての学習を必ず行うこと。映画・音楽・テレビ・新聞記事など、英語に触れる機会を多く持ち、国際的な事柄に積極的に興味を持つこと。
授業内課題のフィードバックの方法	毎時間授業の冒頭で小テストを行う。授業 7 回目、13 回目に提出するまとめについては、2 週間後（授業 9 回目、15 回目）に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。
テキスト・教材	角山　照彦、Simon Capper、『Let's Read Aloud & Learn English : On Campus』（成美堂）
参考書	授業中に紹介する。
評価の基準と方法	試験 60%、平常点 40%（小テスト、課題提出、Presentation、授業参加意欲）
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	
その他	出席を重視する。単位認定には全授業数の 3 分の 2 以上の出席を必須とする。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。講義開始後 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。テキスト忘れ、授業内での携帯電話使用等は授業参加意欲の減点対象とする。その他、1 回目の授業で説明する。欠席した回の授業内容はシラバスや配信資料等を確認し、各自フォローアップする。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-21	授業コード	F02311
科目名称	英語ＢⅠ			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishBⅠ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	中川　優一			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	中川　優一			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	これまで学んできた英語の基礎力をもとに、英語の運用能力を育成することを目指す授業である。英語運用能力が身についたかどうかを測定するために、TOEIC 等の資格試験を活用する。毎年、受講開始時と受講終了時に同一資格試験を受験することにより、成績を比較し、自己分析する。自身の英語力の得意分野と不得意分野を特定し、以後の学習に活用する機会とする。授業後半では毎時間演習に取り組む。本授業では、主に「語彙・文法」について学ぶ。				
到達目標	基本的な構文で書かれた英文を、複数回にわたり聞き取りをすると、理解できる。基本的な構文で書かれた英文を、時間をかけて読むと理解できる。身近な話題について、書いたり話したりすることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	中川　優一	【第 1 回】 予習：今まで学習した英語（特に単語と英文法）を見直しておく。 授業：オリエンテーション（今後の授業方針について、成績評価基準の説明等） 復習：今後の学習の確認。
2	中川　優一	【第 2 回】 予習：Unit 1 (Traveling, p.15-17)を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 1 (Traveling, p.15-17) およびそれに付随したグループワーク。 復習：第 2 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。
3	中川　優一	【第 3 回】 予習：Unit 1 (Traveling, p.18-21)を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 1 (Traveling, p.18-21) およびそれに付随したグループワーク。 復習：第 3 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。
4	中川　優一	【第 4 回】 予習：Unit 2 (Daily Life & Shopping, p.23-25)を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 2 (Daily Life & Shopping, p.23-25) およびそれに付随したグループワーク。 復習：第 4 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。
5	中川　優一	【第 5 回】 予習：Unit 2 (Daily Life & Shopping, p.26-29)を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 2 (Daily Life & Shopping, p.26-29)およびそれに付随したグループワーク。 復習：第 5 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。
6	中川　優一	【第 6 回】 予習：Unit 3 (At Restaurants, p.31-33)を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 3 (At Restaurants, p.31-33)およびそれに付随したグループワーク。 復習：第 6 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。
7	中川　優一	【第 7 回】 予習：Unit 3 (At Restaurants, p.34-37)を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 3 (At Restaurants, p.34-37) およびそれに付随したグループワーク。 復習：第 7 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。
8	中川　優一	【第 8 回】 予習：第 1 回から第 7 回までの復習。 授業：前期前半のまとめを行う。 復習：まとめでわからなかったところの確認。
9	中川　優一	【第 9 回】 予習：Unit 4 (Job Hunting, p.39-41)を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：前期前半のまとめのフィードバック及び Unit 4 (Job Hunting, p.39-41) およびそれに付随したグループワーク。 復習：第 9 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。
10	中川　優一	【第 10 回】 予習：Unit 4 (Job Hunting, p.42-47)を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 4 (Job Hunting, p.42-47) およびそれに付随したグループワーク。 復習：第 10 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。

11	中川　優一	【第 11 回】 予習：Unit 5 (At the office, p.49-51)を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 5 (At the office, p.49-51)およびそれに付随したグループワーク。 復習：第 11 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。
12	中川　優一	【第 12 回】 予習：Unit 5 (At the office, p.52-55) を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 5 (At the office, p.52-55) およびそれに付随したグループワーク。 復習：第 12 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。
13	中川　優一	【第 13 回】 予習：Unit 6 (At the office 2, p.57-59) を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 6 (At the office 2, p.57-59) およびそれに付随したグループワーク。 復習：第 13 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。
14	中川　優一	【第 14 回】 予習：第 9 回から第 13 回までの復習。 授業：前期後半のまとめを行う。 復習：まとめでわからなかったところの確認。
15	中川　優一	【第 15 回】 予習：Unit 6 (At the office 2, p.60-63) を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：前期後半のまとめのフィードバック及び Unit 6 (At the office 2, p.60-63) およびそれに付随したグループワーク。 復習：後期に向けて、前期でわからなかったところの再確認。

授業開始前学習	高校までの英単語、英文法をできるだけ見直しておくこと。映画・音楽・テレビ・新聞など、英語に触れる機会を多く持ち、興味がある文章や単語を、辞書で調べること。
授業内課題のフィードバックの方法	毎時間授業内で小テストを行う。また、課題提出を適宜行い、返却時に確認する。
テキスト・教材	Illuminating the Path to the TOEIC L&R Test, (2022)　Michiko Ueki, et al.,　金星堂
参考書	
評価の基準と方法	平常点 40%（小テスト、課題提出、Presentation、授業態度等）および定期試験 60%を総合して評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	
その他	出席を重視する。全授業数の３分の１以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻３回で欠席１回とみなす。講義開始後３０分以上の遅刻は欠席とみなす。その他、１回目の授業で説明する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-21	授業コード	F02312
科目名称	英語 B I			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishB I			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	境　奈津希			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	境　奈津希			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	英語読解 I は、基礎的な英語を読むために必要な力を養うことを目的としている。ただし読解力に限らず、英語の基礎的な運用能力向上のために、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動を行い総合的な英語力を養う。				
到達目標	基本的な構文で書かれた英文を読み、内容やその意図を理解することができる。読んだ文章をもとに、基礎的な表現を使って、書いたり話したりすることができる。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	境　奈津希	【第 1 回】 予習：　中学、高校で学んだことの整理 授業：　オリエンテーション、Prologue（教科書 p.5-6）（グループワーク・ディスカッション） 復習：　授業で学んだ文法、語彙を復習する
2	境　奈津希	【第 2 回】 予習：　Get Ready for the Story（教科書 p.7） 授業：　Chapter 1（教科書 p.7-10）（グループワーク・ディスカッション） 復習：　授業で学んだ文法、語彙を復習する
3	境　奈津希	【第 3 回】 予習：　Get Ready for the Story（教科書 p.11） 授業：　Chapter 2（教科書 p.11-14）（グループワーク・ディスカッション） 復習：　授業で学んだ文法、語彙を復習する
4	境　奈津希	【第 4 回】 予習：　Get Ready for the Story（教科書 p.7,11） 授業：　Chapter 1,2（教科書 p.7-14）（グループワーク・ディスカッション） 復習：　授業で学んだ文法、語彙を復習する
5	境　奈津希	【第 5 回】 予習：　Get Ready for the Story（教科書 p.7,11） 授業：　Chapter 1,2（教科書 p.7-14）（グループワーク・ディスカッション） 復習：　授業で学んだ文法、語彙を復習する
6	境　奈津希	【第 6 回】 予習：　Get Ready for the Story（教科書 p.15） 授業：　Chapter 3（教科書 p.15-18）（グループワーク・ディスカッション） 復習：　授業で学んだ文法、語彙を復習する
7	境　奈津希	【第 7 回】 予習：　Get Ready for the Story（教科書 p.19） 授業：　Chapter 4（教科書 p.19-22）（グループワーク・ディスカッション） 復習：　授業で学んだ文法、語彙を復習する
8	境　奈津希	【第 8 回】 予習：　前期前半の授業で学んだことを復習する 授業：　前期前半の振り返り 復習：　前期前半の授業で学んだことを復習する
9	境　奈津希	【第 9 回】 予習：　Get Ready for the Story（教科書 p.15,19） 授業：　Chapter 3,4（教科書 p.15-22）（グループワーク・ディスカッション） 復習：　授業で学んだ文法、語彙を復習する
10	境　奈津希	【第 10 回】 予習：　Get Ready for the Story（教科書 p.15,19） 授業：　Chapter 3,4（教科書 p.15-22）（グループワーク・ディスカッション） 復習：　授業で学んだ文法、語彙を復習する
11	境　奈津希	【第 11 回】 予習：Get Ready for the Story（教科書 p.23） 授業：　Chapter 5（教科書 p.23-26）（グループワーク・ディスカッション） 復習：　授業で学んだ文法、語彙を復習する

12	境　奈津希	【第 12 回】 予習：Get Ready for the Story（教科書 p.27） 授業：　Chapter 6（教科書　p.27-30）（グループワーク・ディスカッション） 復習：　授業で学んだ文法、語彙を復習する
13	境　奈津希	【第 13 回】 予習：　Get Ready for the Story（教科書 p.23,27） 授業：　Chapter 5,6（教科書　p.23-30）（グループワーク・ディスカッション） 復習：　授業で学んだ文法、語彙を復習する
14	境　奈津希	【第 14 回】 予習：　Get Ready for the Story（教科書 p.23,27） 授業：　Chapter 5,6（教科書　p.23-30）（グループワーク・ディスカッション） 復習：　授業で学んだ文法、語彙を復習する
15	境　奈津希	【第 15 回】 予習：　前期後半の授業で学んだことを復習する 授業：　前期後半のふりかえり 復習：　この授業を通して学んだことを復習する

授業開始前学習	中学校、高等学校で学んだことを再確認しておきましょう。
授業内課題のフィードバックの方法	授業冒頭で小テストを行い、返却時に確認する。
テキスト・教材	Atsuko Uemura, Irene Iwasaki『Mystery Break』（センゲージラーニング）
参考書	授業内で適宜配布します。
評価の基準と方法	平常点 40%（小テスト 20%、授業への取り組み 20%）および定期試験 60%を総合して評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	
その他	出席を重視する。全授業数の 3 分の 1 以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。講義開始後 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。その他、1 回目の授業で説明する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-21	授業コード	F02313
科目名称	英語 B I			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishB I			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	鈴木　悠理			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鈴木　悠理			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	本科目では、基礎的な英語を読むのに必要な力を養うことを目標とする。ただし、リーディングに特化するのではなく、英語の基礎的な運用能力向上のために、ペア・グループワークやディスカッション等の活動も行う。				
到達目標	基本的な構文で書かれた英文を、複数回にわたり聞き取りをすると理解できる。基本的な構文で書かれた英文を、時間をかけて読むと理解できる。身近な話題について、書いたり話したりすることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	鈴木　悠理	【第 1 回】 予習：シラバスを確認する。これまでの英語学習を振り返る。 授業：ガイダンス（授業概要、到達目標、授業の進め方について） 復習：授業で説明を受けたガイダンスをもとに、前期の目標を立てる。テキストと辞書（電子辞書可）を用意する。
2	鈴木　悠理	【第 2 回】 予習：Vocabulary パートの問題を解く。Reading パートの音声を聞き、音読をする。 授業：Unit 1（前半）リーディング、ペア・グループワーク 復習：間違えた問題を解き直す。ペア・グループワークを振り返る。
3	鈴木　悠理	【第 3 回】 予習：Reading パートの音声を聞き、音読をする。小テストの準備をする。 授業：Unit 1（後半）リーディング、ペア・グループワーク、Unit 1（全体）小テスト 復習：ペア・グループワークを振り返る。小テストを振り返る。
4	鈴木　悠理	【第 4 回】 予習：Vocabulary パートの問題を解く。Reading パートの音声を聞き、音読をする。 授業：Unit 2（前半）リーディング、ペア・グループワーク 復習：間違えた問題を解き直す。ペア・グループワークを振り返る。
5	鈴木　悠理	【第 5 回】 予習：Reading パートの音声を聞き、音読をする。小テストの準備をする。 授業：Unit 2（後半）リーディング、ペア・グループワーク、Unit 2（全体）小テスト 復習：ペア・グループワークを振り返る。小テストを振り返る。
6	鈴木　悠理	【第 6 回】 予習：Vocabulary パートの問題を解く。Reading パートの音声を聞き、音読をする。 授業：Unit 3（前半）リーディング、ペア・グループワーク 復習：間違えた問題を解き直す。ペア・グループワークを振り返る。
7	鈴木　悠理	【第 7 回】 予習：Reading パートの音声を聞き、音読をする。小テストの準備をする。 授業：Unit 3（後半）リーディング、ペア・グループワーク、Unit 3（全体）小テスト、前期前半の振り返り 復習：ペア・グループワークを振り返る。小テストを振り返る。
8	鈴木　悠理	【第 8 回】 予習：Unit 1～3 の学習を振り返り、分からない単語の調べ直しや間違えた問題の解き直しをする。 授業：Unit 1～3 の学習 振り返り 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。間違えた問題を解き直す。
9	鈴木　悠理	【第 9 回】 予習：Vocabulary パートの問題を解く。Reading パートの音声を聞き、音読をする。 授業：Unit 4（前半）リーディング、ペア・グループワーク 復習：間違えた問題を解き直す。ペア・グループワークを振り返る。
10	鈴木　悠理	【第 10 回】 予習：Reading パートの音声を聞き、音読をする。小テストの準備をする。 授業：Unit 4（後半）リーディング、ペア・グループワーク、Unit 4（全体）小テスト 復習：ペア・グループワークを振り返る。小テストを振り返る。
11	鈴木　悠理	【第 11 回】 予習：Vocabulary パートの問題を解く。Reading パートの音声を聞き、音読をする。 授業：Unit 5（前半）リーディング、ペア・グループワーク 復習：間違えた問題を解き直す。ペア・グループワークを振り返る。

12	鈴木　悠理	【第 12 回】 予習：Reading パートの音声を聞き、音読をする。小テストの準備をする。 授業：Unit 5（後半）リーディング、ペア・グループワーク、Unit 5（全体）小テスト 復習：ペア・グループワークを振り返る。小テストを振り返る。
13	鈴木　悠理	【第 13 回】 予習：Vocabulary パートの問題を解く。Reading パートの音声を聞き、音読をする。 授業：Unit 6（前半）リーディング、ペア・グループワーク 復習：間違えた問題を解き直す。ペア・グループワークを振り返る。
14	鈴木　悠理	【第 14 回】 予習：Reading パートの音声を聞き、音読をする。小テストの準備をする。 授業：Unit 6（後半）リーディング、ペア・グループワーク、Unit 6（全体）小テスト、前期後半の振り返り 復習：ペア・グループワークを振り返る。小テストを振り返る。
15	鈴木　悠理	【第 15 回】 予習：前期の学習を振り返り、分からない単語の調べ直しや間違えた問題の解き直しをする。 授業：前期の学習　振り返り 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。間違えた問題を解き直す。

授業開始前学習	時事ニュースや文化（映画・音楽・ファッションなど）を通して英語に触れる機会を持つこと。 これまでの英語学習を振り返ること。
授業内課題のフィードバックの方法	約 2 週に 1 回、各 Unit の学習を終えたところで小テストを行う。翌週、返却時に解説を行う。授業 8 回目、15 回目に授業内容の復習を行い、クラスおよび個別の質問に回答する。
テキスト・教材	木村博是、三原京『Answers to Everyday Questions 1〈High-beginning〉身近な不思議を英語で学ぶ〈初級〉』（南雲堂）
参考書	英和辞典・和英辞典は必須（電子辞典可）。その他は授業内で適宜紹介する。
評価の基準と方法	平常点 40%（授業参加態度、小テスト、課題提出など）および定期試験 60%を総合して評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	
その他	出席を重視する。全授業の 3 分の 1 以上を欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。その他、公欠についてなどは第 1 回の授業で説明する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024年入学者）	100-110-21	授業コード	F02314
科目名称	英語ＢⅠ			単位数	1.0単位
英文名称	EnglishBⅠ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	池上　俊彦			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	池上　俊彦			開講時期	1年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	本授業では、実践的英語力の育成のために、TOEIC試験で一定の得点を取得できる英語力を身につけることを目指す。ただし、問題演習に終始するのではなく、英語の基礎的な運用能力向上のために、「リスニング」「スピーキング」「リーディング」「ライティング」の４技能を効果的に統合したグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動を行う。				
到達目標	基本的な構文で書かれた英文を、複数回にわたり聞き取りをすると、理解できる。基本的な構文で書かれた英文を、時間をかけて読むと理解できる。身近な話題について、書いたり話したりすることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	池上　俊彦	毎時間ペアワーク等を適宜行う 【第１回】 予習：シラバスを確認しておく 授業：Introduction 復習：新出単語と文法項目の暗記
2	池上　俊彦	【第２回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Chapter 1: The Beatles & Strawberry Fields ビートルズ：ストロベリーではなくアップル（pp. 2-3） 復習：新出単語と文法項目の暗記
3	池上　俊彦	【第３回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Chapter 1: The Beatles & Strawberry Fields ビートルズ：ストロベリーではなくアップル（pp. 4-5） 復習：新出単語と文法項目の暗記
4	池上　俊彦	【第４回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Chapter 2: Fuzjko Hemming & Potato Pancakes フジコ・ヘミング：ポテトパンケーキは思い出の味（pp. 6-7） 復習：新出単語と文法項目の暗記
5	池上　俊彦	【第５回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Chapter 2: Fuzjko Hemming & Potato Pancakes フジコ・ヘミング：ポテトパンケーキは思い出の味（pp. 8-9） 復習：新出単語と文法項目の暗記
6	池上　俊彦	【第６回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Chapter 3: Mozart & the Beef Tongue モーツァルト：懐かしい故郷ザルツブルクの牛タン(pp. 10-11) 復習：新出単語と文法項目の暗記
7	池上　俊彦	【第７回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Chapter 3: Mozart & the Beef Tongue モーツァルト：懐かしい故郷ザルツブルクの牛タン(pp. 12-13)、課題提出 復習：新出単語と文法項目の暗記
8	池上　俊彦	【第８回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：前期前半の振り返り 復習：新出単語と文法項目の暗記
9	池上　俊彦	【第９回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Chapter 4: Mozart & Fashionable Foods モーツァルト：最先端の食べ物でおもてなし(pp. 14-15)、提出課題のおさらい（グループワーク） 復習：新出単語と文法項目の暗記

10	池上　俊彦	【第 10 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Chapter 4: Mozart & Fashionable Foods モーツァルト：最先端の食べ物でおもてなし(pp. 16-17) 復習：新出単語と文法項目の暗記
11	池上　俊彦	【第 11 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Chapter 5: Beethoven & his Particular Viands ベートーヴェン：こだわりの食べ物(pp. 18-19) 復習：新出単語と文法項目の暗記
12	池上　俊彦	【第 12 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Chapter 5: Beethoven & his Particular Viands ベートーヴェン：こだわりの食べ物(pp. 20-21) 復習：新出単語と文法項目の暗記
13	池上　俊彦	【第 13 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Chapter 6: Rentaro Taki & Fukujinzuke 滝廉太郎：ドイツで食べた福神漬け(pp. 22-23)、課題提出 復習：新出単語と文法項目の暗記
14	池上　俊彦	【第 14 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Chapter 6: Rentaro Taki & Fukujinzuke 滝廉太郎：ドイツで食べた福神漬け(pp. 24-25) 復習：新出単語と文法項目の暗記
15	池上　俊彦	【第 15 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：前期後半の振り返り、提出課題のおさらい（グループワーク） 復習：新出単語と文法項目の暗記

授業開始前学習	英語に触れる機会を多く持つこと。興味がある文章や単語を辞書で調べる。教科書のリーディングセクションの音読。
授業内課題のフィードバックの方法	授業 7 回目、13 回目に提出する課題については、2 週間後（授業 9、15 回目）に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。
テキスト・教材	堀越ウェンディ、松井真帆 、本山ふじ子 『音楽家たちが奏でる食文化 At the Musician's Table : Food and Music』朝日出版社、2024 年。（ISBN: 978-4-255-15722-1） 適宜プリント
参考書	
評価の基準と方法	授業態度と課題提出 40% テスト 60%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	
その他	出席を重視する。全授業数の 3 分の 1 以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。講義開始後 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。その他、1 回目の授業で説明する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024年入学者）	100-110-21	授業コード	F02315
科目名称	英語ＢⅠ			単位数	1.0単位
英文名称	EnglishBⅠ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	長谷　陸			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	長谷　陸			開講時期	1年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	英語ＢⅠでは、基礎的な英語を読むのに必要な力を養うことを目標とする。ただし、リーディングに特化するのではなく、英語の基礎的な運用能力向上のために、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動も行う。				
到達目標	基本的な構文で書かれた英文を、複数回にわたり聞き取りをすると、理解できる。基本的な構文で書かれた英文を、時間をかけて読むと理解できる。身近な話題について、書いたり話したりすることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	長谷　陸	【第1回】 予習　：これまでの英語学習を振り返る。シラバスを確認する。 授業　：ガイダンス(授業の進め方の説明、評価の基準と方法など) 復習　：授業の内容を振り返る。
2	長谷　陸	【第2回】 予習　：教科書の文法解説を予習する。 授業　：Unit1　ペア・グループワーク 復習　：授業の内容を振り返る。
3	長谷　陸	【第3回】 予習　：教科書の文法解説を予習する。 授業　：Unit2　ペア・グループワーク 復習　：授業の内容を振り返る。
4	長谷　陸	【第4回】 予習　：教科書の文法解説を予習する。 授業　：Unit3　ペア・グループワーク 復習　：授業の内容を振り返る。
5	長谷　陸	【第5回】 予習　：教科書の文法解説を予習する。 授業　：Unit4　ペア・グループワーク 復習　：授業の内容を振り返る。
6	長谷　陸	【第6回】 予習　：教科書の文法解説を予習する。 授業　：Unit5　ペア・グループワーク 復習　：授業の内容を振り返る。
7	長谷　陸	【第7回】 予習　：教科書の文法解説を予習する。 授業　：Unit6　ペア・グループワーク 復習　：授業の内容を振り返る。
8	長谷　陸	【第8回】 予習　：第2～7回の授業を振り返る。 授業　：前期前半の授業のまとめ 復習　：授業の内容を振り返る。
9	長谷　陸	【第9回】 予習　：教科書の文法解説を予習する。 授業　：Unit7　ペア・グループワーク 復習　：授業の内容を振り返る
10	長谷　陸	【第10回】 予習　：教科書の文法解説を予習する。 授業　：Unit8　ペア・グループワーク 復習　：授業の内容を振り返る。
11	長谷　陸	【第11回】 予習　：教科書の文法解説を予習する。 授業　：Unit9　ペア・グループワーク 復習　：授業の内容を振り返る。

12	長谷 陸	【第 12 回】 予習 ：教科書の文法解説を予習する。 授業 ：Unit10 ペア・グループワーク 復習 ：授業の内容を振り返る。
13	長谷 陸	【第 13 回】 予習 ：教科書の文法解説を予習する。 授業 ：Unit11 ペア・グループワーク 復習 ：授業の内容を振り返る。
14	長谷 陸	【第 14 回】 予習 ：教科書の文法解説を予習する。 授業 ：Unit12 ペア・グループワーク 復習 ：授業の内容を振り返る。
15	長谷 陸	【第 15 回】 予習 ：第 9～14 回の授業を振り返る。 授業 ：前期後半の授業のまとめ 復習 ：前期の授業を振り返る。

授業開始前学習	国際的なニュースや自分の興味のある文化(映画、音楽、スポーツなど)を通して英語に触れること。
授業内課題のフィードバックの方法	授業の冒頭で小テストを行い、翌週の返却時に解説を行う。第 8 回、第 15 回の授業で振り返りを行う。
テキスト・教材	佐藤哲三、愛甲ゆかり著『English Primer〈Revised Edition〉 大学生の英語入門〈改訂新版〉』(南雲堂)
参考書	英和辞典、和英辞典(電子辞書可)
評価の基準と方法	平常点 40%（小テスト、課題提出、授業態度等）および定期試験 60%を総合して評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	
その他	出席を重視する。全授業数の 3 分の 1 以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。講義開始後 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。その他、1 回目の授業で説明する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-21	授業コード	F02316
科目名称	英語 B I			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishB I			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	江連 成美			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	江連 成美			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	英語読解 I は、基礎的な英語を読むために必要な力を養うことを目的としている。ただし読解力に限らず、英語の基礎的な運用能力向上のために、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動を行い総合的な英語力を養う。				
到達目標	基本的な構文で書かれた英文を読み、内容やその意図を理解することができる。読んだ文章をもとに、基礎的な表現を使って、書いたり話したりすることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	江連 成美	【第 1 回】 予習：テキストの「はじめに」「本書の使い方」「CONTENTS」に目を通しておく 授業：オリエンテーション（授業の進め方などについての説明） 復習：オリエンテーションの内容を理解する（Google Classroom の登録が終わっていない場合は、第 2 回までに必ず登録を終わらせておく）
2	江連 成美	【第 2 回】 予習：Unit 1: Vocabulary 授業：Unit 1: Shared Housing vs. Living Alone - 読解 復習：語彙や表現の復習
3	江連 成美	【第 3 回】 予習：Unit 1: Comprehension & Listening 授業：Unit 1: Shared Housing vs. Living Alone - Writing & Speaking 復習：語彙や表現の復習
4	江連 成美	【第 4 回】 予習：Unit 2: Vocabulary 授業：Unit 2: Studying in a Café vs. Home - 読解 復習：語彙や表現の復習
5	江連 成美	【第 5 回】 予習：Unit 2: Comprehension & Listening 授業：Unit 2: Studying in a Café vs. Home - Writing & Speaking 復習：語彙や表現の復習
6	江連 成美	【第 6 回】 予習：Unit 5: Vocabulary 授業：Unit 5: 24/7 Convenience Stores - 読解 復習：語彙や表現の復習
7	江連 成美	【第 7 回】 予習：Unit 5: Comprehension & Listening 授業：Unit 5: 24/7 Convenience Stores - Writing & Speaking 復習：語彙や表現の復習
8	江連 成美	【第 8 回】 予習：前期前半に学習した語彙や文法を復習する 授業：前期前半の振り返り 復習：理解できていなかった点を整理しておく
9	江連 成美	【第 9 回】 予習：Unit 7: Vocabulary 授業：Unit 7: Point Cards - 読解 復習：語彙や表現の復習
10	江連 成美	【第 10 回】 予習：Unit 7: Comprehension & Listening 授業：Unit 7: Point Cards - Writing & Speaking 復習：語彙や表現の復習
11	江連 成美	【第 11 回】 予習：Unit 9: Vocabulary 授業：Unit 9: Domestic Trip vs. Abroad - 読解 復習：語彙や表現の復習

12	江連　成美	【第 12 回】 予習：Unit 9: Comprehension & Listening 授業：Unit 9: Domestic Trip vs. Abroad - Writing & Speaking 復習：語彙や表現の復習
13	江連　成美	【第 13 回】 予習：Unit 10: Vocabulary 授業：Unit 10: Studying English Abroad - 読解 復習：語彙や表現の復習
14	江連　成美	【第 14 回】 予習：Unit 10: Comprehension & Listening 授業：Unit 10: Studying English Abroad - Writing & Speaking 復習：語彙や表現の復習
15	江連　成美	【第 15 回】 予習：前期後半に学習した語彙や文法を復習する 授業：前期後半の振り返り 復習：前期に学習した項目を整理し、後期に備える

授業開始前学習	映画・音楽・テレビ・新聞など、英語に触れる機会を多く持つこと。興味がある文章や単語を、辞書で調べる。
授業内課題のフィードバックの方法	毎時間授業冒頭で小テストを行い、返却時に確認する。
テキスト・教材	テキスト名：Two Sides to Every Discussion 2（英語で考え、英語で発信する 2） 出版社：成美堂
参考書	特になし。
評価の基準と方法	平常点 40%（小テスト、課題提出、Presentation、授業態度等）および定期試験 60%を総合して評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	出席を重視する。全授業数の 3 分の 1 以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。講義開始後 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。その他、1 回目の授業で説明する。
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-21	授業コード	F02317
科目名称	英語ＢⅠ			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishBⅠ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	本村　万喜子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	本村　万喜子			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	英語読解Ⅰは、基礎的な英語を読むために必要な力を養うことを目的としている。ただし読解力に限らず、英語の基礎的な運用能力向上のために、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動を行い総合的な英語力を養う。				
到達目標	基本的な構文で書かれた英文を、複数回にわたり聞き取りをすると、理解できる。基本的な構文で書かれた英文を、時間をかけて読むと理解できる。身近な話題について、書いたり話したりすることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	本村　万喜子	※ペアワークやディスカッションを含む回がある。 【第 1 回】 予習：これまでの英語学習を振り返る 授業：オリエンテーション（授業のすすめ方について）、Unit1 前半 復習：課題に取り組む
2	本村　万喜子	【第 2 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit1 後半 復習：課題に取り組む
3	本村　万喜子	【第 3 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit2 前半 復習：課題に取り組む
4	本村　万喜子	【第 4 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit2 後半 復習：課題に取り組む
5	本村　万喜子	【第 5 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit3 前半 復習：課題に取り組む
6	本村　万喜子	【第 6 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit3 後半 復習：課題に取り組む
7	本村　万喜子	【第 7 回】 予習：Unit1-3 の内容を確認する 授業：Unit1-3 の振り返り 復習：前期前半の学習を振り返り、前期後半の学習計画を立てる
8	本村　万喜子	【第 8 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit4 前半 復習：課題に取り組む
9	本村　万喜子	【第 9 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit4 後半 復習：課題に取り組む
10	本村　万喜子	【第 10 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit5 前半 復習：課題に取り組む
11	本村　万喜子	【第 11 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit5 後半 復習：課題に取り組む

12	本村　万喜子	【第 12 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit6 前半 復習：課題に取り組む
13	本村　万喜子	【第 13 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit6 後半 復習：課題に取り組む
14	本村　万喜子	【第 14 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit7 復習：課題に取り組む
15	本村　万喜子	【第 15 回】 予習：前期の学習内容を確認する 授業：前期の学習についての講評 復習：苦手な学習内容等、自分の課題を見つけ、前期の学習を分析する

授業開始前学習	映画・音楽・テレビ・新聞など、英語に触れる機会を多く持つこと。興味がある文章や単語を、辞書で調べる。
授業内課題のフィードバックの方法	小テスト、課題提出を適宜行い、返却時に確認する。
テキスト・教材	Alison Kitzman/三原　京/田中　善紀/木村　博是　著　『TOEIC Bridge L&R テストで英語演習 - Practical TOEIC Bridge L&R Tests』（南雲堂）　ISBN：　9784523179085
参考書	
評価の基準と方法	平常点 40%（小テスト、課題提出）および定期試験 60%を総合して評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	
その他	出席を重視する。全授業数の 3 分の 1 以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。講義開始後 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。その他、1 回目の授業で説明する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-21	授業コード	F02318
科目名称	英語ＢⅠ			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishBⅠ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	遠藤　玲奈			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	遠藤　玲奈			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	英語読解Ⅰは、基礎的な英語を読むために必要な力を養うことを目的としている。ただし読解力に限らず、英語の基礎的な運用能力向上のために、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動を行い総合的な英語力を養う。				
到達目標	基本的な構文で書かれた英文を読み、内容やその意図を理解することができる。読んだ文章をもとに、基礎的な表現を使って、書いたり話したりすることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	遠藤　玲奈	【第 1 回】 予習：シラバスを読んでおく。テキストと辞書（電子辞書可）を用意する 授業：オリエンテーション（授業概要、到達目標、授業の進め方について）、グループワーク 復習：授業中に説明を受けた授業概要、到達目標、授業の進め方をもとに、今学期の目標を立てる
2	遠藤　玲奈	【第 2 回】 予習：Unit 1（全体）を読み、分からない単語を調べておく 授業：Unit 1（前半）、グループワーク 復習：授業中の活動を振り返る
3	遠藤　玲奈	【第 3 回】 予習：前回の復習をし、授業内で行う小テストの準備をする 授業：Unit 1（後半）、グループワーク、Unit 1（全体）の小テスト 復習：授業中の活動を振り返る
4	遠藤　玲奈	【第 4 回】 予習：Unit 2（全体）を読み、分からない単語を調べておく 授業：Unit 2（前半）、グループワーク 復習：授業中の活動を振り返る。返却された小テストの復習をする
5	遠藤　玲奈	【第 5 回】 予習：前回の復習をし、授業内で行う小テストの準備をする 授業：Unit 2（後半）、グループワーク、Unit 2（全体）の小テスト 復習：授業中の活動を振り返る
6	遠藤　玲奈	【第 6 回】 予習：Unit 3（全体）を読み、分からない単語を調べておく 授業：Unit 3（前半）、グループワーク 復習：授業中の活動を振り返る。返却された小テストの復習をする
7	遠藤　玲奈	【第 7 回】 予習：前回の復習をし、授業内で行う前期前半の振り返りの準備をする 授業：Unit 3（後半）、グループワーク、前期前半の振り返り 復習：授業中の活動を振り返る
8	遠藤　玲奈	【第 8 回】 予習：Unit 4（全体）を読み、分からない単語を調べておく 授業：Unit 4（前半）、グループワーク 復習：授業中の活動を振り返る
9	遠藤　玲奈	【第 9 回】 予習：前回の復習をし、授業内で行う小テストの準備をする 授業：Unit 4（後半）、グループワーク、Unit 4（全体）の小テスト 復習：授業中の活動を振り返る
10	遠藤　玲奈	【第 10 回】 予習：Unit 5（全体）を読み、分からない単語を調べておく 授業：Unit 5（前半）、グループワーク 復習：授業中の活動を振り返る。返却された小テストの復習をする
11	遠藤　玲奈	【第 11 回】 予習：前回の復習をし、授業内で行う小テストの準備をする 授業：Unit 5（後半）、グループワーク、Unit 5（全体）小テスト 復習：授業中の活動を振り返る

12	遠藤　玲奈	【第 12 回】 予習：Unit 6（全体）を読み、分からない単語を調べておく 授業：Unit 6（前半）、グループワーク 復習：授業中の活動を振り返る。返却された小テストの復習をする
13	遠藤　玲奈	【第 13 回】 予習：前回の復習をし、授業内で行う小テストの準備をする 授業：Unit 6（後半）、グループワーク、Unit 6（全体）小テスト 復習：授業中の活動を振り返る
14	遠藤　玲奈	【第 14 回】 予習：Unit 7（全体）を読み、分からない単語を調べておく 授業：Unit 7（前半）、グループワーク 復習：授業中の活動を振り返る。返却された小テストの復習をする
15	遠藤　玲奈	【第 15 回】 予習：前回の復習をし、授業内で行う前期後半の振り返りの準備をする 授業：Unit 7（後半）、グループワーク、前期後半の振り返り 復習：自分の課題を見つけ対策を立てる

授業開始前学習	映画・音楽・テレビ・新聞など、英語に触れる機会を多く持つこと。また、学習予定の Unit の内容・単語の予習と小テストの準備を必ず行うこと。
授業内課題のフィードバックの方法	2 週に 1 回、各 Unit の学習を終えたところで小テストを行う。翌週、返却時に解説を行う。授業 7 回目、15 回目に授業内容の振り返りを行い、クラスおよび個別の質問に回答する。
テキスト・教材	Arnold Arao, Kei Mihara, Yoshinori Miwa, Hiroshi Kimura『Answers to Everyday Questions 1【High-beginning】』（南雲堂）
参考書	授業内で適宜紹介する。
評価の基準と方法	平常点 40%（小テスト、課題提出、授業態度等）および定期試験 60%を総合して評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○
関連科目								

その他	出席を重視する。全授業数の 3 分の 1 以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。講義開始後 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。その他、1 回目の授業で説明する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-21	授業コード	F02334
科目名称	英語ＢⅠ			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishBⅠ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	薬師　英子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	薬師　英子			開講時期	1 年
オフィスアワー	前期　火曜日 10:00～13:00 後期　火曜日 10:00～13:00			研究室	10-55
授業概要	英語Ｂ Ⅰでは、基礎的な英語を読むのに必要な力を養うことを目標とする。ただし、リーディングに特化するのではなく、英語の基礎的な運用能力向上のために、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動を行う。				
到達目標	基本的な構文で書かれた英文を、複数回にわたり聞き取りをすると、理解できる。基本的な構文で書かれた英文を、時間をかけて読むと理解できる。身近な話題について、書いたり話したりすることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	薬師　英子	【第 1 回】 予習：自分の英語学習を振り返る 授業：ガイダンス：（授業についての説明や事前指導）　Pre-Test 復習：授業の活動を振り返る
2	薬師　英子	【第 2 回】 予習：教科書の該当箇所を予習する 授業：Unit 1 ① Home Appliances　(P1-9)　写真問題：Part 1　写真の見方を強化する　グループワーク 復習：授業の活動を振り返る
3	薬師　英子	【第 3 回】 予習：教科書の該当箇所を予習する 授業：Unit 1 ② Home Appliances (P1-9)　疑問詞・代名詞を学ぶ 復習：授業の活動を振り返る
4	薬師　英子	【第 4 回】 予習：教科書の該当箇所を予習する 授業：Unit 2 ① Recreation (P10-18) 会話問題：Part 3　会話問題の設問の種類を知る　グループワーク 復習：授業の活動を振り返る
5	薬師　英子	【第 5 回】 予習：教科書の該当箇所を予習する 授業：Unit 2 ② Recreation (P10-18)　長文穴埋め問題：Part 6　読み物のジャンルと流れを知る。 復習：授業の活動を振り返る
6	薬師　英子	【第 6 回】 予習：教科書の該当箇所を予習する 授業：Unit 3 ①　Restaurants(P19-27)　説明文問題：Part 4　設問の先読みをする。 グループワーク 復習：授業の活動を振り返る
7	薬師　英子	【第 7 回】 予習：教科書の該当箇所を予習する 授業：Unit 3 ②：Restaurants　(P19-27)　読解問題：Part 7　頻出の読み物の特徴と流れを知る。 これまで学んできた TOEIC の問題についてのまとめの提出 復習：授業の活動を振り返る
8	薬師　英子	【第 8 回】 予習：教科書の該当箇所を予習する 授業：【第 1 回】～【第 7 回】の学習のまとめ 復習：授業の活動を振り返る
9	薬師　英子	【第 9 回】 予習：教科書の該当箇所を予習する 授業：Unit 4 ①：Supermarket Shopping　(P28-36) 応答問題：Part 2　疑問詞の応答に慣れる。グループワーク これまで学んできた TOEIC の問題についてのまとめの講評。 復習：授業の活動を振り返る
10	薬師　英子	【第 10 回】 予習：教科書の該当箇所を予習する 授業：Unit 4 ②：Supermarket Shopping　(P28-36)　接続詞を学ぶ。 復習：授業の活動を振り返る

11	薬師　英子	【第 11 回】 予習：教科書の該当箇所を予習する 授業：Unit　5 ①: Housing　(P37-45) 問題提起と問題解決のための提案を知る。 グループワーク 復習：授業の活動を振り返る
12	薬師　英子	【第 12 回】 予習：教科書の該当箇所を予習する 授業：Unit 5 ②: Housing　(P37-45) ストーリーの流れと逆接の表現を学ぶ。 復習：授業の活動を振り返る
13	薬師　英子	【第 13 回】 予習：教科書の該当箇所を予習する 授業：Unit 6　①: Business (P46-55) 会話の種類と電話メッセージ　グループワーク これまで学んできた TOEIC の問題についてのまとめの提出 復習：授業の活動を振り返る
14	薬師　英子	【第 14 回】 予習：教科書の該当箇所の予習をする 授業：Unit　6 ②: Business (P46-55) ストーリーの流れと逆接の追加表現を学ぶ。 復習：授業の活動を振り返る
15	薬師　英子	【第 15 回】 予習：教科書の該当箇所の予習をする 授業：【第 8 回】～【第 14 回】の学習のまとめ　これまで学んできた TOEIC の問題についてのまとめの講評。 復習：授業の活動を振り返る

授業開始前学習	学習予定の Unit の内容・単語の予習と小テストに向けての学習を必ず行うこと。映画・音楽・テレビ・新聞記事など、英語に触れる機会を多く持ち、国際的な事柄に積極的に興味を持つこと。
授業内課題のフィードバックの方法	毎時間授業の冒頭で小テストを行う。授業 7 回目、13 回目に提出するまとめについては、2 週間後（授業 9 回目、15 回目）に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。
テキスト・教材	"AN AMAZING APPROACH TO THE TOEIC L&R TEST"、蘊　寛美、Eleanor Smith、福井　美奈子、中井　達也、倉田　誠　著、成美堂
参考書	授業中に紹介する。
評価の基準と方法	試験 60%、平常点 40%（小テスト、課題提出、Presentation、授業参加意欲）
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	
その他	出席を重視する。単位認定には全授業数の 3 分の 2 以上の出席を必須とする。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。講義開始後 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。テキスト忘れ、授業内での携帯電話使用等は授業参加意欲の減点対象とする。その他、1 回目の授業で説明する。欠席した回の授業内容はシラバスや配信資料等を確認し、各自フォローアップする。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024 年入学者）		授業コード	F02351
科目名称	英語 B Ⅰ			単位数	1.0 単位
英文名称	English (Reading Comprehension) Ⅰ／EnglishB Ⅰ			授業区分	演習
科目責任者	加藤　久子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	加藤　久子			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	これまで学んできた英語の基礎力をもとに、英語の運用能力を育成することを目指す授業である。英語運用能力がみについたかどうかを測定するために、TOEIC 等の資格試験を活用する。毎年、受講開始時と受講終了時に同一資格試験を受験することにより、成績を比較し、自己分析する。自身の英語力の得意分野と不得意分野を特定し、以後の学習に活用する機会とする。授業後半では毎時間演習問題に取り組む。本授業では、主に「語彙・語法」について学ぶ。				
到達目標	基本的な構文で書かれた英文を複数回にわたり聞き取りをすると、理解できる。基本的な構文で書かれた英文を時間をかけて読むと理解できる。身近な話題について、書いたり話したりすることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	加藤　久子	【第 1 回】 予習：今まで学習した英語（特に単語と文法）を見直しておく 授業：オリエンテーション（授業概要、到達目標、成績評価基準の説明等） 復習：授業中に説明を受けた授業概要、到達目標、成績評価基準の説明等を確認する
2	加藤　久子	【第 2 回】 予習：Unit1 ①Critical cartoons、②Core vocabulary を読み、分からない単語を調べておく。 授業：Unit 1 前半およびグループワーク 復習：第 2 回で学んだ内容を振り返る。
3	加藤　久子	【第 3 回】 予習：Unit 1 ⑤Reading skills を読み、分からない単語を調べておく。 授業：Unit 1 後半およびグループワーク、Unit1 小テスト 復習：第 3 回で学んだ内容を振り返る。
4	加藤　久子	【第 4 回】 予習：Unit 2①Critical cartoons、②Core vocabulary を読み、分からない単語を調べておく。 授業：Unit 2 前半およびペアワーク 復習：第 4 回で学んだ内容を振り返る。返却された小テストの復習をする。
5	加藤　久子	【第 5 回】 予習：Unit 2⑤Reading skills を読み、分からない単語を調べておく。 授業：Unit 2 後半およびグループワーク、Unit 2 小テスト 復習：第 3 回で学んだ内容を振り返る。
6	加藤　久子	【第 6 回】 予習：Unit 3 ①Critical cartoons、②Core vocabulary を読み、分からない単語を調べておく。 授業：Unit 3 前半およびグループワーク 復習：第 6 回で学んだ内容を振り返る。返却された小テストの復習をする。
7	加藤　久子	【第 7 回】 予習：Unit 3 ⑤Reading skills を読み、分からない単語を調べておく。 授業：Unit 3 後半およびグループワーク、Unit3 小テスト 復習：第 7 回で学んだ内容を振り返る。
8	加藤　久子	【第 8 回】 予習：Unit 4 ①Critical cartoons、②Core vocabulary を読み、分からない単語を調べておく。 授業：Unit 4 前半およびグループワーク 復習：第 8 回で学んだ内容を振り返る。返却された小テストの復習をする。
9	加藤　久子	【第 9 回】 予習：Unit 4 ⑤Reading skills を読み、分からない単語を調べておく。 授業：Unit 4 後半およびグループワーク、Unit4 小テスト 復習：第 9 回で学んだ内容を振り返る。
10	加藤　久子	【第 10 回】 予習：Unit 5 ①Critical cartoons、②Core vocabulary を読み、分からない単語を調べておく。 授業：Unit 5 前半およびグループワーク 復習：第 10 回で学んだ内容を振り返る。返却された小テストの復習をする。

11	加藤　久子	【第 11 回】 予習：Unit 5 ⑤Reading skills を読み、分からない単語を調べておく。 授業：Unit 5 後半およびグループワーク、Unit5 小テスト 復習：第 11 回で学んだ内容を振り返る。
12	加藤　久子	【第 12 回】 予習：Unit 6 ①Critical cartoons、②Core vocabulary を読み、分からない単語を調べておく。 授業：Unit 6 前半およびグループワーク 復習：第 1 2 回で学んだ内容を振り返る。返却された小テストの復習をする。
13	加藤　久子	【第 13 回】 予習：Unit 6 ⑤ Reading skills を読み、分からない単語を調べておく。 授業：Unit 6 後半およびグループワーク、Unit6 小テスト 復習：第 13 回で学んだ内容を振り返る。
14	加藤　久子	【第 14 回】 予習：Unit 7 ①Critical cartoons、②Core vocabulary を読み、分からない単語を調べておく。 授業：Unit 7 前半およびグループワーク 復習：第 14 回で学んだ内容を振り返る。返却された小テストの復習をする。
15	加藤　久子	【第 15 回】 予習：Unit 7 ⑤Reading skills を読み、分からない単語を調べておく。 授業：Unit 7 後半およびグループワーク、Unit7 小テスト 復習：第 15 回で学んだ内容を振り返る。

授業開始前学習	高校までの英単語、英文法をできるだけ見直しておくこと。映画・音楽・テレビ・新聞など、英語に触れる機会を多く持ち、興味のある文章や単語を辞書で調べること。
授業内課題のフィードバックの方法	毎時間授業内で小テストを行う。また、課題提出を適宜行い、返却時に確認する。
テキスト・教材	①Charles Browne /Brent Culligan / Joseph Phillips 著『IN FOCUS INTRO』(金星堂) ②Robert Hickling 著『FIRST TRY FOR THE TOEIC®L&R テスト』（金星堂） ※①②の 2 冊を通年使用する。
参考書	
評価の基準と方法	小テスト 20%および平常点(課題提出、Presentation、授業態度等)80%を総合して評価する。 定期試験は実施しない。 出席を重視する。 その他、第 1 回の授業で説明する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	
その他	①授業前半に『IN FOCUS INTRO』を使用し、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動も行いながら語彙、語法を身につける。 ②授業後半には、『FIRST TRY FOR THE TOEIC®L&RTEST』を使って演習問題を実践し、自身の英語力を向上させる。 毎回、①②両方のテキストを持参すること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-21	授業コード	F02361
科目名称	英語 BⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishBⅡ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	中川 優一			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	中川 優一			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	これまで学んできた英語の基礎力をもとに、英語の運用能力を育成することを目指す授業である。英語運用能力が身についたかどうかを測定するために、TOEIC 等の資格試験を活用する。毎年、受講開始時と受講終了時に同一資格試験を受験することにより、成績を比較し、自己分析する。自身の英語力の得意分野と不得意分野を特定し、以後の学習に活用する機会とする。授業後半では毎時間演習に取り組む。本授業では、主に「文法」について学ぶ。				
到達目標	標準的な構文で書かれた英文を聞き取り、理解することができる。標準的な構文で書かれた英文を読むと理解することができる。身近な話題について、書いたり話したりすることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	中川 優一	【第 1 回】 予習：Unit 8 (Doing Business Online, p.75-77) を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 8 (Doing Business Online, p.75-77)およびそれに付随したグループワーク。 復習：第 1 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。
2	中川 優一	【第 2 回】 予習：Unit 8 (Doing Business Online, p.78-81)を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 8 (Doing Business Online, p.78-81)およびそれに付随したグループワーク。 復習：第 2 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。
3	中川 優一	【第 3 回】 予習：Unit 9 (Housing, p.83-85)を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 9 (Housing, p.83-85)およびそれに付随したグループワーク。 復習：第 3 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。
4	中川 優一	【第 4 回】 予習：Unit 9 (Housing, p.86-91)を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 9 (Housing, p.86-91)およびそれに付随したグループワーク。 復習：第 4 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。
5	中川 優一	【第 5 回】 予習：Unit 10 (Making Deals & Contracts, p.93-95) を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 10 (Making Deals & Contracts, p.93-95) およびそれに付随したグループワーク。 復習：第 5 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。
6	中川 優一	【第 6 回】 予習：Unit 10 (Making Deals & Contracts, p.96-99)を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 10 (Making Deals & Contracts, p.96-99) およびそれに付随したグループワーク。 復習：第 6 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。
7	中川 優一	【第 7 回】 予習：第 1 回から第 6 回までの復習 授業：後期前半のまとめを行う。 復習：まとめでわからなかったところの確認。
8	中川 優一	【第 8 回】 予習：Unit 11 (Public Service, p.101-103)を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：後期前半のまとめのフィードバック及び Unit 11 (Public Service, p.101-103) およびそれに付随したグループワーク。 復習：第 8 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。
9	中川 優一	【第 9 回】 予習：Unit 11 (Public Service, p.104-109) を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 11 (Public Service, p.104-109) およびそれに付随したグループワーク。 復習：第 9 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。
10	中川 優一	【第 10 回】 予習：Unit 12 (Banking & Finance, p.111-113) を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 12 (Banking & Finance, p.111-113)およびそれに付随したグループワーク。 復習：第 10 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。

11	中川　優一	【第 11 回】 予習：Unit 12 (Banking & Finance, p.114-117) を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 12 (Banking & Finance, p.114-117)およびそれに付随したグループワーク。 復習：第 11 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。
12	中川　優一	【第 12 回】 予習：Unit 13 (At Seminars & Workshops, p.119-121)を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 13 (At Seminars & Workshops, p.119-121)およびそれに付随したグループワーク。 復習：第 12 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。
13	中川　優一	【第 13 回】 予習：Unit 13 (At Seminars & Workshops, p.122-125)を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 13 (At Seminars & Workshops, p.122-125)およびそれに付随したグループワーク。 復習：第 13 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。
14	中川　優一	【第 14 回】 予習：第 8 回から第 13 回までの復習。 授業：後期後半のまとめを行う。 復習：まとめでわからなかったところの確認。
15	中川　優一	【第 15 回】 予習：　一年間の学習の振り返り。 授業：一年を通して振り返り、及びフィードバック。 復習：　今後に向けて必要な内容を振り返る。

授業開始前学習	高校までの英単語、英文法をできるだけ見直しておくこと。映画・音楽・テレビ・新聞など、英語に触れる機会を多く持ち、興味がある文章や単語を、辞書で調べること。
授業内課題のフィードバックの方法	毎時間授業の冒頭で小テストを行う。また、課題提出を適宜行い、返却時に確認する。
テキスト・教材	Illuminating the Path to the TOEIC L&R Test, (2022)　Michiko Ueki, et al.,　金星堂
参考書	
評価の基準と方法	平常点 40%（小テスト、課題提出、Presentation、授業態度等）および定期試験 60%を総合して評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	
その他	出席を重視する。全授業数の３分の１以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻３回で欠席１回とみなす。講義開始後３０分以上の遅刻は欠席とみなす。その他、１回目の授業で説明する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-21	授業コード	F02362
科目名称	英語 B Ⅱ			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishB Ⅱ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	境　奈津希			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	境　奈津希			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	英語読解 Ⅱ は、標準的な英語を読むために必要な力を養うことを目的としている。ただし読解力に限らず、英語の基礎的な運用能力向上のために、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動を行い総合的な英語力を養う。				
到達目標	標準的な構文で書かれた英文を読み、内容やその意図を理解することができる。読んだ文章をもとに、標準的な表現を使って、書いたり話したりすることができる。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	境　奈津希	【第 1 回】 予習：　Get Ready for the Story（教科書 p.31） 授業：　オリエンテーション、Chapter 7（教科書　p.31-34）（グループワーク・ディスカッション） 復習：　授業で学んだ文法、語彙を復習する
2	境　奈津希	【第 2 回】 予習 : Get Ready for the Story（教科書 p.35） 授業：　Chapter 8（教科書　p.35-38）（グループワーク・ディスカッション） 復習：　授業で学んだ文法、語彙を復習する
3	境　奈津希	【第 3 回】 予習：　Get Ready for the Story（教科書 p.31,35） 授業：　Chapter 7,8（教科書　p.31-38）（グループワーク・ディスカッション） 復習：　授業で学んだ文法、語彙を復習する
4	境　奈津希	【第 4 回】 予習：　Get Ready for the Story（教科書 p.31,35） 授業：　Chapter 7,8（教科書　p.31-38）（グループワーク・ディスカッション） 復習：　授業で学んだ文法、語彙を復習する
5	境　奈津希	【第 5 回】 予習：　Get Ready for the Story（教科書 p.39） 授業：　Chapter 9（教科書　p.39-42）（グループワーク・ディスカッション） 復習：　授業で学んだ文法、語彙を復習する
6	境　奈津希	【第 6 回】 予習：　Get Ready for the Story（教科書 p.43） 授業：　Chapter 10（教科書　p.43-46）（グループワーク・ディスカッション） 復習：　授業で学んだ文法、語彙を復習する
7	境　奈津希	【第 7 回】 予習：　Get Ready for the Story（教科書 p.39,43） 授業：　Chapter 9,10（教科書　p.39-46）（グループワーク・ディスカッション） 復習：　授業で学んだ文法、語彙を復習する
8	境　奈津希	【第 8 回】 予習：　後期前半の授業で学んだことを復習する 授業：　後期前半の振り返り 復習：　後期前半の授業で学んだことを復習する
9	境　奈津希	【第 9 回】 予習：　Get Ready for the Story（教科書 p.39,43） 授業：　Chapter 9,10（教科書　p.39-46）（グループワーク・ディスカッション） 復習：　授業で学んだ文法、語彙を復習する
10	境　奈津希	【第 10 回】 予習：　Get Ready for the Story（教科書 p.47） 授業：　Chapter 11（教科書　p.47-50）（グループワーク・ディスカッション） 復習：　授業で学んだ文法、語彙を復習する
11	境　奈津希	【第 11 回】 予習：　Get Ready for the Story（教科書 p.51） 授業：　Chapter 12（教科書　p.51-54）（グループワーク・ディスカッション） 復習：　授業で学んだ文法、語彙を復習する

12	境　奈津希	【第 12 回】 予習：　Get Ready for the Story（教科書 p.47,51） 授業：　Chapter 11,12（教科書　p.47-54）（グループワーク・ディスカッション） 復習：　授業で学んだ文法、語彙を復習する
13	境　奈津希	【第 13 回】 予習：　Get Ready for the Story（教科書 p.47,51） 授業：　Chapter 11,12（教科書　p.47-54）（グループワーク・ディスカッション） 復習：　授業で学んだ文法、語彙を復習する
14	境　奈津希	【第 14 回】 予習：　前期前半の授業で学んだことを復習する 授業：　Epilogue（教科書　p.55-57）（グループワーク・ディスカッション） 復習：　授業で学んだ文法、語彙を復習する
15	境　奈津希	【第 15 回】 予習：　後期後半の授業で学んだことを復習する 授業：　後期後半のふりかえり 復習：　この授業を通して学んだことを復習する

授業開始前学習	中学校、高等学校で学んだこと、及び英語 I で学んだことを再確認しておきましょう。
授業内課題のフィードバックの方法	授業冒頭で小テストを行い、返却時に確認する。
テキスト・教材	Atsuko Uemura, Irene Iwasaki『Mystery Break』（センゲージラーニング）
参考書	授業内で適宜配布します。
評価の基準と方法	平常点 40%（小テスト 20%、授業への取り組み 20%）および定期試験 60%を総合して評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	
その他	出席を重視する。全授業数の 3 分の 1 以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。講義開始後 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。その他、1 回目の授業で説明する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-21	授業コード	F02363
科目名称	英語 B Ⅱ			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishB Ⅱ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	鈴木　悠理			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鈴木　悠理			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	本科目では前期に引き続き、標準的な英語を読むのに必要な力を養うことを目標とする。ただし、リーディングに特化するのではなく、英語の基礎的な運用能力向上のために、ペア・グループワークやディスカッション等の活動も行う。				
到達目標	標準的な構文で書かれた英文を聞き取り、理解することができる。標準的な構文で書かれた英文を読み、理解することができる。身近な話題について、書いたり話したりすることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	鈴木　悠理	【第 1 回】 予習：シラバスを確認する。Vocabulary パートの問題を解く。Reading パートの音声を聞き、音読をする。 授業：Unit 7（前半）リーディング、ペア・グループワーク 復習：間違えた問題を解き直す。ペア・グループワークを振り返る。後期の目標を立てる。
2	鈴木　悠理	【第 2 回】 予習：Reading パートの音声を聞き、音読をする。小テストの準備をする。 授業：Unit 7（後半）リーディング、ペア・グループワーク、Unit 7（全体）小テスト 復習：ペア・グループワークを振り返る。小テストを振り返る。
3	鈴木　悠理	【第 3 回】 予習：Vocabulary パートの問題を解く。Reading パートの音声を聞き、音読をする。 授業：Unit 8（前半）リーディング、ペア・グループワーク 復習：間違えた問題を解き直す。ペア・グループワークを振り返る。
4	鈴木　悠理	【第 4 回】 予習：Reading パートの音声を聞き、音読をする。小テストの準備をする。 授業：Unit 8（後半）リーディング、ペア・グループワーク、Unit 8（全体）小テスト 復習：ペア・グループワークを振り返る。小テストを振り返る。
5	鈴木　悠理	【第 5 回】 予習：Vocabulary パートの問題を解く。Reading パートの音声を聞き、音読をする。 授業：Unit 9（前半）リーディング、ペア・グループワーク 復習：間違えた問題を解き直す。ペア・グループワークを振り返る。
6	鈴木　悠理	【第 6 回】 予習：Reading パートの音声を聞き、音読をする。小テストの準備をする。 授業：Unit 9（後半）リーディング、ペア・グループワーク、Unit 9（全体）小テスト、後期前半の振り返り 復習：ペア・グループワークを振り返る。小テストを振り返る。
7	鈴木　悠理	【第 7 回】 予習：Unit 7～9 の学習を振り返り、分からない単語の調べ直しや間違えた問題の解き直しをする。 授業：Unit 7～9 の学習 振り返り 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。間違えた問題を解き直す。
8	鈴木　悠理	【第 8 回】 予習：Vocabulary パートの問題を解く。Reading パートの音声を聞き、音読をする。 授業：Unit 10（前半）リーディング、ペア・グループワーク 復習：間違えた問題を解き直す。ペア・グループワークを振り返る。
9	鈴木　悠理	【第 9 回】 予習：Reading パートの音声を聞き、音読をする。小テストの準備をする。 授業：Unit 10（後半）リーディング、ペア・グループワーク、Unit 10（全体）小テスト 復習：ペア・グループワークを振り返る。小テストを振り返る。
10	鈴木　悠理	【第 10 回】 予習：Vocabulary パートの問題を解く。Reading パートの音声を聞き、音読をする。 授業：Unit 11（前半）リーディング、ペア・グループワーク 復習：間違えた問題を解き直す。ペア・グループワークを振り返る。
11	鈴木　悠理	【第 11 回】 予習：Reading パートの音声を聞き、音読をする。小テストの準備をする。 授業：Unit 11（後半）リーディング、ペア・グループワーク、Unit 11（全体）小テスト 復習：ペア・グループワークを振り返る。小テストを振り返る。

12	鈴木　悠理	【第 12 回】 予習：Vocabulary パートの問題を解く。Reading パートの音声を聞き、音読をする。 授業：Unit 13（前半）リーディング、ペア・グループワーク 復習：間違えた問題を解き直す。ペア・グループワークを振り返る。
13	鈴木　悠理	【第 13 回】 予習：Reading パートの音声を聞き、音読をする。小テストの準備をする。 授業：Unit 13（後半）リーディング、ペア・グループワーク、Unit 13（全体）小テスト 復習：ペア・グループワークを振り返る。小テストを振り返る。
14	鈴木　悠理	【第 14 回】 予習：Vocabulary パートの問題を解く。Reading パートの音声を聞き、音読をする。 授業：Unit 14（全体）リーディング、ペア・グループワーク、後期後半の振り返り 復習：間違えた問題を解き直す。ペア・グループワークを振り返る。
15	鈴木　悠理	【第 15 回】 予習：後期の学習を振り返り、分からない単語の調べ直しや間違えた問題の解き直しをする。 授業：後期の学習　振り返り 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。間違えた問題を解き直す。

授業開始前学習	時事ニュースや文化（映画・音楽・ファッションなど）を通して英語に触れる機会を持つこと。
授業内課題のフィードバックの方法	約 2 週に 1 回、各 Unit の学習を終えたところで小テストを行う。翌週、返却時に解説を行う。授業 7 回目、15 回目に授業内容の復習を行い、クラスおよび個別の質問に回答する。
テキスト・教材	木村博是、三原京『Answers to Everyday Questions 1〈High-beginning〉身近な不思議を英語で学ぶ〈初級〉』（南雲堂） ＊前期と同じテキスト
参考書	英和辞典・和英辞典は必須（電子辞典可）。その他は授業内で適宜紹介する。
評価の基準と方法	平常点 40%（授業参加態度、小テスト、課題提出など）および定期試験 60%を総合して評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	
その他	出席を重視する。全授業の 3 分の 1 以上を欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。その他、公欠についてなどは第 1 回の授業で説明する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-21	授業コード	F02364
科目名称	英語 B Ⅱ			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishB Ⅱ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	池上　俊彦			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	池上　俊彦			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	本授業では、実践的英語力のさらなる育成のために、TOEIC 試験で一定の得点を取得できる英語力を身につけることを目指す。ただし、問題演習に終始するのではなく、英語の運用能力向上のために、「リスニング」「スピーキング」「リーディング」「ライティング」の４技能を効果的に統合したグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動を行う。				
到達目標	標準的な構文で書かれた英文を聞き取り、理解することができる。標準的な構文で書かれた英文を読むと理解することができる。身近な話題について、書いたり話したりすることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	池上　俊彦	毎時間ペアワーク等を適宜行う 【第 1 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Chapter 7: Chopin & Pot-au-feu ショパン：ジョルジュ・サンドお手製のポトフ(pp. 26-27) 復習：新出単語と文法項目の暗記
2	池上　俊彦	【第 2 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Chapter 7: Chopin & Pot-au-feu ショパン：ジョルジュ・サンドお手製のポトフ(pp. 28-29) 復習：新出単語と文法項目の暗記
3	池上　俊彦	【第 3 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Chapter 8: Dvorak & his Last Dinner ドヴォルザーク：家族と囲んだ最後の食卓(pp. 30-31) 復習：新出単語と文法項目の暗記
4	池上　俊彦	【第 4 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Chapter 8: Dvorak & his Last Dinner ドヴォルザーク：家族と囲んだ最後の食卓(pp. 32-33) 復習：新出単語と文法項目の暗記
5	池上　俊彦	【第 5 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Chapter 9: Elvis Presley & the Elvis Sandwich エルビスプレスリー：エルビス・サンドイッチはおふくろの味(pp. 34-35) 復習：新出単語と文法項目の暗記
6	池上　俊彦	【第 6 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：hapter 9: Elvis Presley & the Elvis Sandwich エルビスプレスリー：エルビス・サンドイッチはおふくろの味(pp. 36-37) 復習：新出単語と文法項目の暗記
7	池上　俊彦	【第 7 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Chapter 10: Aretha Franklin & Soul Food アレサ・フランクリン：ソウルの女王のソウルフード(pp. 38-39)、課題提出 復習：新出単語と文法項目の暗記
8	池上　俊彦	【第 8 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：後期前半の振り返り 復習：新出単語と文法項目の暗記
9	池上　俊彦	【第 9 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Chapter 10: Aretha Franklin & Soul Food アレサ・フランクリン：ソウルの女王のソウルフード(pp. 40-41)、提出課題のおさらい（グループワーク） 復習：新出単語と文法項目の暗記

10	池上　俊彦	【第 10 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Chapter 11: Seiji Ozawa & Nostalgic Nibbles 小澤征爾：海外にいると恋しくなる和食(pp. 42-43) 復習：新出単語と文法項目の暗記
11	池上　俊彦	【第 11 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Chapter 11: Seiji Ozawa & Nostalgic Nibbles 小澤征爾：海外にいると恋しくなる和食(pp. 44-45) 復習：新出単語と文法項目の暗記
12	池上　俊彦	【第 12 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Chapter 12: Bob Dylan & Country Pie ボブ・ディラン：答えはパイの中(pp. 46-47) 復習：新出単語と文法項目の暗記
13	池上　俊彦	【第 13 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Chapter 12: Bob Dylan & Country Pie ボブ・ディラン：答えはパイの中(pp. 48-49))、課題提出 復習：新出単語と文法項目の暗記
14	池上　俊彦	【第 14 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Chapter 13: Taylor Swift & her Shake Shake Shake テイラー・スウィフト：歌姫のお気に入りはシェイク・シェイク・シェイク(pp. 50-51) 復習：新出単語と文法項目の暗記
15	池上　俊彦	【第 15 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：後期後半の振り返り、提出課題のおさらい（グループワーク） 復習：新出単語と文法項目の暗記

授業開始前学習	英語に触れる機会を多く持つこと。興味がある文章や単語を、辞書で調べる。教科書のリーディングセクションの音読。
授業内課題のフィードバックの方法	授業 7 回目、13 回目に提出する課題については、2 週間後（授業 9、15 回目）に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。
テキスト・教材	堀越ウェンディ、松井真帆 、本山ふじ子 『音楽家たちが奏でる食文化 At the Musician's Table : Food and Music』朝日出版社、2024 年。（ISBN: 978-4-255-15722-1） 適宜プリント
参考書	
評価の基準と方法	授業態度と課題提出 40% テスト 60%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	
その他	出席を重視する。全授業数の 3 分の 1 以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。講義開始後 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。その他、1 回目の授業で説明する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024年入学者）	100-110-21	授業コード	F02365
科目名称	英語ＢⅡ			単位数	1.0単位
英文名称	EnglishBⅡ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	長谷　陸			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	長谷　陸			開講時期	1年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	英語ＢⅠに引き続き、英語ＢⅡでは、標準的な英語を読むのに必要な力を養うことを目標とする。ただし、リーディングに特化するのではなく、英語の運用能力向上のために、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動も行う。				
到達目標	標準的な構文で書かれた英文を聞き取り、理解することができる。標準的な構文で書かれた英文を読むと理解することができる。身近な話題について、書いたり話したりすることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	長谷　陸	【第1回】 予習：　前期の振り返り 授業：　授業の目標と評価の説明 復習：　教科書の進め方の確認
2	長谷　陸	【第2回】 予習　：教科書の文法解説を予習する。 授業　：Unit13　ペア・グループワーク 復習　：授業の内容を振り返る。
3	長谷　陸	【第3回】 予習　：教科書の文法解説を予習する。 授業　：Unit14　ペア・グループワーク 復習　：授業の内容を振り返る。
4	長谷　陸	【第4回】 予習　：教科書の文法解説を予習する。 授業　：Unit15　ペア・グループワーク 復習　：授業の内容を振り返る。
5	長谷　陸	【第5回】 予習　：教科書の文法解説を予習する。 授業　：Unit16　ペア・グループワーク 復習　：授業の内容を振り返る。
6	長谷　陸	【第6回】 予習　：教科書の文法解説を予習する。 授業　：Unit17　ペア・グループワーク 復習　：授業の内容を振り返る。
7	長谷　陸	【第7回】 予習　：教科書の文法解説を予習する。 授業　：Unit18　ペア・グループワーク 復習　：授業の内容を振り返る。
8	長谷　陸	【第8回】 予習　：第2～7回の授業を振り返る。 授業　：後期前半の授業のまとめ 復習　：授業の内容を振り返る。
9	長谷　陸	【第9回】 予習　：教科書の文法解説を予習する。 授業　：Unit19　ペア・グループワーク 復習　：授業の内容を振り返る。
10	長谷　陸	【第10回】 予習　：教科書の文法解説を予習する。 授業　：Unit20　ペア・グループワーク 復習　：授業の内容を振り返る。
11	長谷　陸	【第11回】 予習　：教科書の文法解説を予習する。 授業　：Unit21　ペア・グループワーク 復習　：授業の内容を振り返る。

12	長谷 陸	【第 12 回】 予習 ：教科書の文法解説を予習する。 授業 ：Unit22 ペア・グループワーク 復習 ：授業の内容を振り返る。
13	長谷 陸	【第 13 回】 予習 ：教科書の文法解説を予習する。 授業 ：Unit23 ペア・グループワーク 復習 ：授業の内容を振り返る。
14	長谷 陸	【第 14 回】 予習 ：教科書の文法解説を予習する。 授業 ：Unit24 ペア・グループワーク 復習 ：授業の内容を振り返る。
15	長谷 陸	【第 15 回】 予習 ：第 9～14 回の授業を振り返る。 授業 ：後期後半の授業のまとめ 復習 ：授業の内容を振り返る。

授業開始前学習	国際的なニュースや自分の興味のある文化(映画、音楽、スポーツなど)を通して英語に触れること。
授業内課題のフィードバックの方法	授業の冒頭で小テストを行い、翌週の返却時に解説を行う。第 8 回、第 15 回の授業で振り返りを行う。
テキスト・教材	佐藤哲三、愛甲ゆかり著『English Primer〈Revised Edition〉 大学生の英語入門〈改訂新版〉』(南雲堂)
参考書	英和辞典、和英辞典(電子辞書可)
評価の基準と方法	平常点 40%（小テスト、課題提出、Presentation、授業態度等）および定期試験 60%を総合して評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	
その他	出席を重視する。全授業数の 3 分の 1 以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。講義開始後 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。その他、1 回目の授業で説明する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-21	授業コード	F02366
科目名称	英語 BⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishBⅡ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	江連 成美			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	江連 成美			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	英語読解Ⅱは、標準的な英語を読むために必要な力を養うことを目的としている。ただし読解力に限らず、英語の基礎的な運用能力向上のために、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動を行い総合的な英語力を養う。				
到達目標	標準的な構文で書かれた英文を読み、内容やその意図を理解することができる。読んだ文章をもとに、標準的な表現を使って、書いたり話したりすることができる。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	江連 成美	【第 1 回】 予習：Unit 14: Vocabulary 授業：Unit 14: Summer-Vacation Assignments - 読解 復習：語彙や表現の復習
2	江連 成美	【第 2 回】 予習：Unit 14: Comprehension & Listening 授業：Unit 14: Summer-Vacation Assignments - Writing & Speaking 復習：語彙や表現の復習
3	江連 成美	【第 3 回】 予習：Unit 15: Vocabulary 授業：Unit 15: Halloween Is Best! - 読解 復習：語彙や表現の復習
4	江連 成美	【第 4 回】 予習：Unit 15: Comprehension & Listening 授業：Unit 15: Halloween Is Best! - Writing & Speaking 復習：語彙や表現の復習
5	江連 成美	【第 5 回】 予習：Unit 16: Vocabulary 授業：Unit 16: Valentine’s Day in Japan - 読解 復習：語彙や表現の復習
6	江連 成美	【第 6 回】 予習：Unit 16: Comprehension & Listening 授業：Unit 16: Valentine’s Day in Japan - Writing & Speaking 復習：語彙や表現の復習
7	江連 成美	【第 7 回】 予習：後期前半に学習した語彙や文法を復習する 授業：後期前半の振り返り 復習：理解できていなかった点を整理しておく
8	江連 成美	【第 8 回】 予習：Unit 18: Vocabulary 授業：Unit 18: YouTube vs. Normal TV - 読解 復習：語彙や表現の復習
9	江連 成美	【第 9 回】 予習：Unit 18: Comprehension & Listening 授業：Unit 18: YouTube vs. Normal TV - Writing & Speaking 復習：語彙や表現の復習
10	江連 成美	【第 10 回】 予習：Unit 19: Vocabulary 授業：Unit 19: Internet vs. Bricks-and-Mortar - 読解 復習：語彙や表現の復習
11	江連 成美	【第 11 回】 予習：Unit 19: Comprehension & Listening 授業：Unit 19: Internet vs. Bricks-and-Mortar - Writing & Speaking 復習：語彙や表現の復習

12	江連　成美	【第 12 回】 予習：Unit 20: Vocabulary 授業：Unit 20: Translation Software - 読解 復習：語彙や表現の復習
13	江連　成美	【第 13 回】 予習：Unit 20: Comprehension & Listening 授業：Unit 20: Translation Software - Writing & Speaking 復習：語彙や表現の復習
14	江連　成美	【第 14 回】 予習：発表の準備 授業：自分のテーマについて発表する 復習：授業中のフィードバックを基に、自分の発表内容について振り返る
15	江連　成美	【第 15 回】 予習：後期後半に学習した語彙や文法を復習する 授業：後期後半の振り返り 復習：後期に学習した項目を整理し振り返る

授業開始前学習	映画・音楽・テレビ・新聞など、英語に触れる機会を多く持つこと。興味がある文章や単語を、辞書で調べる。
授業内課題のフィードバックの方法	毎時間授業冒頭で小テストを行い、返却時に確認する。
テキスト・教材	テキスト名：Two Sides to Every Discussion 2（英語で考え、英語で発信する 2） 出版社：成美堂
参考書	特になし。
評価の基準と方法	平常点 40%（小テスト、課題提出、Presentation、授業態度等）および定期試験 60%を総合して評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	出席を重視する。全授業数の 3 分の 1 以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。講義開始後 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。その他、1 回目の授業で説明する。
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-21	授業コード	F02367
科目名称	英語 BⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishBⅡ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	本村　万喜子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	本村　万喜子			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	英語読解Ⅱは、標準的な英語を読むために必要な力を養うことを目的としている。ただし読解力に限らず、英語の基礎的な運用能力向上のために、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動を行い総合的な英語力を養う。				
到達目標	標準的な構文で書かれた英文を聞き取り、理解することができる。標準的な構文で書かれた英文を読むと理解することができる。身近な話題について、書いたり話したりすることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	本村　万喜子	※ペアワークやディスカッションを含む回がある。 【第 1 回】 予習：これまでの英語学習を振り返る 授業：オリエンテーション（授業のすすめ方について）、Unit8 前半 復習：課題に取り組む
2	本村　万喜子	【第 2 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit8 後半 復習：課題に取り組む
3	本村　万喜子	【第 3 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit9 前半 復習：Unit19 の課題に取り組む
4	本村　万喜子	【第 4 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit9 後半 復習：課題に取り組む
5	本村　万喜子	【第 5 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit10 前半 復習：課題に取り組む
6	本村　万喜子	【第 6 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit10 後半 復習：課題に取り組む
7	本村　万喜子	【第 7 回】 予習：Unit8-10 の内容を確認する 授業：Unit8-10 の振り返り 復習：後期前半の学習を振り返り、後期後半の学習計画を立てる
8	本村　万喜子	【第 8 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit11 前半 復習：課題に取り組む
9	本村　万喜子	【第 9 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit11 後半 復習：課題に取り組む
10	本村　万喜子	【第 10 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit12 前半 復習：課題に取り組む
11	本村　万喜子	【第 11 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit12 後半 復習：課題に取り組む

12	本村　万喜子	【第 12 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit13 復習：課題に取り組む
13	本村　万喜子	【第 13 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit14 復習：課題に取り組む
14	本村　万喜子	【第 14 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit15 復習：課題に取り組む
15	本村　万喜子	【第 15 回】 予習：Unit11-15 の内容を確認する 授業：Unit11-15 の振り返り 復習：苦手な学習内容等、自分の課題を見つけ、後期の学習を分析する

授業開始前学習	映画・音楽・テレビ・新聞など、英語に触れる機会を多く持つこと。興味がある文章や単語を、辞書で調べる。
授業内課題のフィードバックの方法	小テスト、課題提出を適宜行い、返却時に確認する。
テキスト・教材	Alison Kitzman/三原　京/田中　善紀/木村　博是　著　『TOEIC Bridge L&R テストで英語演習 - Practical TOEIC Bridge L&R Tests』（南雲堂）　ISBN：　9784523179085
参考書	
評価の基準と方法	平常点 40%（小テスト、課題提出）および定期試験 60%を総合して評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	
その他	出席を重視する。全授業数の 3 分の 1 以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。講義開始後 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。その他、1 回目の授業で説明する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-21	授業コード	F02368
科目名称	英語 B Ⅱ			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishB Ⅱ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	遠藤　玲奈			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	遠藤　玲奈			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	英語読解 Ⅱ は、標準的な英語を読むために必要な力を養うことを目的としている。ただし読解力に限らず、英語の基礎的な運用能力向上のために、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動を行い総合的な英語力を養う。				
到達目標	標準的な構文で書かれた英文を読み、内容やその意図を理解することができる。読んだ文章をもとに、標準的な表現を使って、書いたり話したりすることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	遠藤　玲奈	【第 1 回】 予習：Unit 8（全体）を読み、分からない単語を調べておく 授業：Unit 8（前半）、グループワーク 復習：授業中の活動を振り返る
2	遠藤　玲奈	【第 2 回】 予習：前回の復習をし、授業内で行う小テストの準備をする 授業：Unit 8（後半）、グループワーク、Unit 8（全体）の小テスト 復習：授業中の活動を振り返る
3	遠藤　玲奈	【第 3 回】 予習：Unit 9（全体）を読み、分からない単語を調べておく 授業：Unit 9（前半）、グループワーク 復習：授業中の活動を振り返る。返却された小テストの復習をする
4	遠藤　玲奈	【第 4 回】 予習：前回の復習をし、授業内で行う小テストの準備をする 授業：Unit 9（後半）、グループワーク、Unit 9（全体）の小テスト 復習：授業中の活動を振り返る
5	遠藤　玲奈	【第 5 回】 予習：Unit 10（全体）を読み、分からない単語を調べておく 授業：Unit 10（前半）、グループワーク 復習：授業中の活動を振り返る。返却された小テストの復習をする
6	遠藤　玲奈	【第 6 回】 予習：前回の復習をし、授業内で行う前期前半の振り返りの準備をする 授業：Unit 10（後半）、グループワーク、前期前半の振り返り 復習：授業中の活動を振り返る
7	遠藤　玲奈	【第 7 回】 予習：Unit 11（全体）を読み、分からない単語を調べておく 授業：Unit 11（前半）、グループワーク 復習：授業中の活動を振り返る
8	遠藤　玲奈	【第 8 回】 予習：前回の復習をし、授業内で行う小テストの準備をする 授業：Unit 11（後半）、グループワーク、Unit 11（全体）の小テスト 復習：授業中の活動を振り返る
9	遠藤　玲奈	【第 9 回】 予習：Unit 12（全体）を読み、分からない単語を調べておく 授業：Unit 12（前半）、グループワーク 復習：授業中の活動を振り返る。返却された小テストの復習をする
10	遠藤　玲奈	【第 10 回】 予習：前回の復習をし、授業内で行う小テストの準備をする 授業：Unit 12（後半）、グループワーク、Unit 12（全体）小テスト 復習：授業中の活動を振り返る
11	遠藤　玲奈	【第 11 回】 予習：Unit 13（全体）を読み、分からない単語を調べておく 授業：Unit 13（前半）、グループワーク 復習：授業中の活動を振り返る。返却された小テストの復習をする

12	遠藤　玲奈	【第 12 回】 予習：前回の復習をし、授業内で行う小テストの準備をする 授業：Unit 13（後半）、グループワーク、Unit 13（全体）小テスト 復習：授業中の活動を振り返る
13	遠藤　玲奈	【第 13 回】 予習：Unit 14（全体）を読み、分からない単語を調べておく 授業：Unit 14（前半）、グループワーク 復習：授業中の活動を振り返る。返却された小テストの復習をする
14	遠藤　玲奈	【第 14 回】 予習：前回の復習をし、授業内で行う前期後半の振り返りの準備をする 授業：Unit 14（後半）、グループワーク、前期後半の振り返り 復習：自分の課題を見つけ対策を立てる
15	遠藤　玲奈	【第 15 回】 予習：今まで授業で学んだことを振り返る 授業：一年間のまとめ 復習：自分の課題を見つけ対策を立てる

授業開始前学習	映画・音楽・テレビ・新聞など、英語に触れる機会を多く持つこと。また、学習予定の Unit の内容・単語の予習と小テストの準備を必ず行うこと。
授業内課題のフィードバックの方法	2 週に 1 回、各 Unit の学習を終えたところで小テストを行う。翌週、返却時に解説を行う。授業 7 回目、15 回目に授業内容の振り返りを行い、クラスおよび個別の質問に回答する。
テキスト・教材	Arnold Arao, Kei Mihara, Yoshinori Miwa, Hiroshi Kimura『Answers to Everyday Questions 1【High-beginning】』（南雲堂）
参考書	授業内で適宜紹介する。
評価の基準と方法	平常点 40%（小テスト、課題提出、授業態度等）および定期試験 60%を総合して評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○
関連科目								

その他	出席を重視する。全授業数の 3 分の 1 以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。講義開始後 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。その他、1 回目の授業で説明する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-21	授業コード	F02384
科目名称	英語 BⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishBⅡ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	薬師　英子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	薬師　英子			開講時期	1 年
オフィスアワー	前期　火曜日 10:00～13:00 後期　火曜日 10:00～13:00			研究室	10-55
授業概要	英語 BⅠに引き続き、英語 BⅡでは、標準的な英語を読むのに必要な力を養うことを目標とする。ただし、リーディングに特化するのではなく、英語の運用能力向上のために、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動を行う。				
到達目標	標準的な構文で書かれた英文を聞き取り理解できる。標準的な構文で書かれた英文を、読むと理解できる。身近な話題について、主体的に書いたり話したりすることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	薬師　英子	【第 1 回】 予習　：自分の英語学習を振り返る 授業　：ガイダンス（授業についての説明や事前指導）　TOEIC Pre-Test 復習：授業で学んだ語彙・文法・活動を振り返る
2	薬師　英子	【第 2 回】 予習：教科書の該当箇所を読む 授業：Unit 7 ①：Bank & Post office (P57-65) 人間や物の位置関係を表す表現を学ぶ。 復習　：授業中の活動を振り返る
3	薬師　英子	【第 3 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：　Unit 7 ②：Bank & Post office (P57-65) 不定詞と動名詞　グループワーク 復習　：授業中の活動を振り返る
4	薬師　英子	【第 4 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：　Unit 8　①：Job Hunting (P66-74)　会話の詳細な情報を聞き取る　グループワーク 復習　：授業中の活動を振り返る
5	薬師　英子	【第 5 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：　Unit 8 ②：Job Hunting (P66-74) ストーリーの流れ：例示、追加表現の使い方 復習　：授業中の活動を振り返る
6	薬師　英子	【第 6 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：　Unit 9 ① Health (P75-86) 全体把握のための鍵を知る。 グループワーク 復習　：授業中の活動を振り返る
7	薬師　英子	【第 7 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：　Unit 9 ② Health (P75-86)　これまで学んできた TOEIC の問題についてのまとめ提出。 復習　：授業中の活動を振り返る
8	薬師　英子	【第 8 回】 予習　：ここまでの授業を総復習する 授業　：【第 1 回】～【第 7 回】の学習のまとめ 復習　：まとめを振り返る
9	薬師　英子	【第 9 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：　Unit 10 ①：　Tourism：Travel by Lnad (P87-95) 物が主語になる受動態の表現　これまで学んできた Unit7~9(pp.67~86)についてのまとめの講評・ 復習　：授業中の活動を振り返る
10	薬師　英子	【第 10 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：Unit 10 ②：Tourism：Travel by Land (P87-95)　比較表現を学ぶ　グループワーク 復習　：授業中の活動を振り返る
11	薬師　英子	【第 11 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：　Unit 11 ①：Tourism：Travel by Air (P96-104)　意図問題：文の真意を理解する　グループワーク 復習　：授業中の活動を振り返る

12	薬師　英子	【第 12 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：　Unit 11 ②：Tourism：Travel by Air (P96-104)　ストーリーの流れ：結論を述べる表現を学ぶ 復習　：授業中の活動を振り返る
13	薬師　英子	【第 13 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：　Unit 12 ①：Tourism: Hotels (P105-115)　図表問題：グラフの見方と情報を聞き取る これまで学んできた TOEIC の問題についてのまとめ提出。 復習　：授業中の活動を振り返る
14	薬師　英子	【第 14 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：　Unit 12 ②：Tourism: Hotels (P105-115)　ストーリーの流れ：追加・結論の表現を学ぶ 復習　：授業中の活動を振り返る
15	薬師　英子	【第 15 回】 予習　：今までの授業で学んだことを振り返る 授業　：【第 8 回】～【第 14 回】の学習のまとめ　これまで学んできた TOEIC の問題につてのまとめの講評。 復習　：自分の課題を見つけ対策を立てる

授業開始前学習	学習予定の Unit の内容・単語の予習と小テストに向けての学習を必ず行うこと。映画・音楽・テレビ・新聞記事など、英語に触れる機会を多く持ち、国際的な事柄に積極的に興味を持つこと。
授業内課題のフィードバックの方法	毎時間授業の冒頭で小テストを行う。授業 7 回目、13 回目に提出するまとめについては、2 週間後（授業 9 回目、15 回目）に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。
テキスト・教材	"AN AMAZING APPROACH TO THE TOEIC L&R TEST"、蘆　寛美、Eleanor Smith、福井　美奈子、中井　達也、倉田　誠　著、成美堂
参考書	授業中に紹介する。
評価の基準と方法	試験 60%、平常点 40%（小テスト、課題提出、Presentation、授業参加意欲）
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	
その他	出席を重視する。単位認定には全授業数の 3 分の 2 以上の出席を必須とする。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。講義開始後 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。テキスト忘れ、授業内での携帯電話の使用等は授業参加意欲の減点対象とする。その他、1 回目の授業で説明する。欠席した回の授業内容はシラバスや配信資料等を確認し、各自フォローアップする。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024 年入学者）		授業コード	F02401
科目名称	英語 B Ⅱ			単位数	1.0 単位
英文名称	English (Reading Comprehension) Ⅰ／EnglishB Ⅱ			授業区分	演習
科目責任者	加藤 久子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	加藤 久子			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	これまで学んできた英語の基礎力をもとに、英語の運用能力を育成することを目指す授業である。英語運用能力がみについたかどうかを測定するために、TOEIC 等の資格試験を活用する。毎年、受講開始時と受講終了時に同一資格試験を受験することにより、成績を比較し、自己分析する。自身の英語力の得意分野と不得意分野を特定し、以後の学習に活用する機会とする。授業後半では毎時間演習問題に取り組む。本授業では、主に「文法」について学ぶ。				
到達目標	基本的な構文で書かれた英文を複数回にわたり聞き取りをすると、理解できる。基本的な構文で書かれた英文を時間をかけて読むと理解できる。身近な話題について、書いたり話したりすることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	加藤 久子	【第 1 回】 予習：Unit 8 ①Critical cartoons、②Core vocabulary を読み、分からない単語を調べておく。 授業：Unit 8 前半およびグループワーク 復習：第 1 回で学んだ内容を振り返る。
2	加藤 久子	【第 2 回】 予習：Unit 8 ⑤Reading skills を読み、分からない単語を調べておく。 授業：Unit 8 後半およびグループワーク、Unit 8 小テスト 復習：第 2 回で学んだ内容を振り返る。
3	加藤 久子	【第 3 回】 予習：Unit 9 ①Critical cartoons、②Core vocabulary を読み、分からない単語を調べておく。 授業：Unit 9 前半およびペアワーク 復習：第 3 回で学んだ内容を振り返る。返却された小テストの復習をする。
4	加藤 久子	【第 4 回】 予習：Unit 9 ⑤Reading skills を読み、分からない単語を調べておく。 授業：Unit 9 後半およびグループワーク、Unit 9 小テスト 復習：第 4 回で学んだ内容を振り返る。
5	加藤 久子	【第 5 回】 予習：Unit 10 ①Critical cartoons、②Core vocabulary を読み、分からない単語を調べておく。 授業：Unit 10 前半およびペアワーク 復習：第 5 回で学んだ内容を振り返る。返却された小テストの復習をする。
6	加藤 久子	【第 6 回】 予習：Unit 10 ⑤Reading skills を読み、分からない単語を調べておく。 授業：Unit 10 後半およびグループワーク、Unit 10 小テスト 復習：第 6 回で学んだ内容を振り返る。
7	加藤 久子	【第 7 回】 予習：Unit 11 ①Critical cartoons、②Core vocabulary を読み、分からない単語を調べておく。 授業：Unit 11 前半およびペアワーク 復習：第 7 回で学んだ内容を振り返る。返却された小テストの復習をする。
8	加藤 久子	【第 8 回】 予習：Unit 11 ⑤Reading skills を読み、分からない単語を調べておく。 授業：Unit 11 後半およびグループワーク、Unit 11 小テスト 復習：第 8 回で学んだ内容を振り返る。
9	加藤 久子	【第 9 回】 予習：Unit 12 ①Critical cartoons、②Core vocabulary を読み、分からない単語を調べておく。 授業：Unit 12 前半およびペアワーク 復習：第 9 回で学んだ内容を振り返る。返却された小テストの復習をする。
10	加藤 久子	【第 10 回】 予習：Unit 12 ⑤Reading skills を読み、分からない単語を調べておく。 授業：Unit 12 後半およびグループワーク、Unit 12 小テスト 復習：第 10 回で学んだ内容を振り返る。

11	加藤　久子	【第 11 回】 予習：配布プリントに従ってプレゼンテーションの準備をする。 授業：各自原稿を考える。小テスト 復習：第 11 回で学んだ内容を振り返る。返却された小テストの復習をする。
12	加藤　久子	【第 12 回】 予習：プレゼンテーション原稿を準備をする。 授業：各自原稿を再考し、発表練習を行う。小テスト 復習：第 12 回で学んだ内容を振り返る。返却された小テストの復習をする。
13	加藤　久子	【第 13 回】 予習：プレゼンテーションの準備をする。 授業：プレゼンテーション発表。小テスト 復習：第 13 回で学んだ内容を振り返る。返却された小テストの復習をする。
14	加藤　久子	【第 14 回】 予習：配布プリントに従ってディスカッションの準備をする。 授業：テーマについて各自意見を準備する。小テスト 復習：第 14 回で学んだ内容を振り返る。返却された小テストの復習をする。
15	加藤　久子	【第 15 回】 予習：ディスカッションの準備 授業：ディスカッション 復習：第 15 回で学んだ内容を振り返る。返却された小テストの復習をする。

授業開始前学習	前期の学習内容（特に語彙、語法）を復習しておく。
授業内課題のフィードバックの方法	毎時間授業内で小テストを行う。また、課題提出を適宜行い、返却時に確認する。
テキスト・教材	①Charles Browne /Brent Culligan / Joseph Phillips 著『IN FOCUS INTRO』(金星堂) ②Robert Hickling 著『FIRST TRY FOR THE TOEIC®L&R テスト』（金星堂） ※①②の 2 冊を通年使用する。
参考書	
評価の基準と方法	小テスト 20%、平常点(課題提出、Presentation、授業態度等)80%で評価。 定期試験は実施しない。 出席を重視する。 その他、第 1 回の授業で説明する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	
その他	①授業前半に『IN FOCUS INTRO』を使用し、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動も行いながら語彙、語法を身につける。 ②授業後半には、『FIRST TRY FOR THE TOEIC®L&RTEST』を使って演習問題を実践し、自身の英語力を向上させる。 毎回、①②両方のテキストを持参すること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-232 CT-L-232	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-22	授業コード	F02411
科目名称	英語 BⅢ			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishBⅢ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	池上　俊彦			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	池上　俊彦			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	本授業では、実践的英語力の育成のために、TOEIC 試験で一定の得点を取得できる英語力を身につけることを目指す。ただし、問題演習に終始するのではなく、英語の基礎的な運用能力向上のために、「リスニング」「スピーキング」「リーディング」「ライティング」の４技能を効果的に統合したグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動を行う。				
到達目標	基本的な構文で書かれた英文を、複数回にわたり聞き取りをすると、理解できる。基本的な構文で書かれた英文を、時間をかけて読むと理解できる。身近な話題について、書いたり話したりすることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	池上　俊彦	毎時間ペアワーク等を適宜行う 【第 1 回】 予習：シラバスを確認しておく 授業：Introduction 復習：新出単語と文法項目の暗記
2	池上　俊彦	【第 2 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Johannes Vermeer & The Milkmaid pp. 2-3 復習：新出単語と文法項目の暗記
3	池上　俊彦	【第 3 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Johannes Vermeer & The Milkmaid pp. 4-5 復習：新出単語と文法項目の暗記
4	池上　俊彦	【第 4 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Jean-Francois Millet & Woman Baking Bread pp. 6-7 復習：新出単語と文法項目の暗記
5	池上　俊彦	【第 5 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Jean-Francois Millet & Woman Baking Bread pp. 8-9 復習：新出単語と文法項目の暗記
6	池上　俊彦	【第 6 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Vincent van Gogh & The Potato Eaters pp. 10-11 復習：新出単語と文法項目の暗記
7	池上　俊彦	【第 7 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Vincent van Gogh & The Potato Eaters pp. 12-13、課題提出 復習：新出単語と文法項目の暗記
8	池上　俊彦	【第 8 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：前期前半の振り返り 復習：新出単語と文法項目の暗記
9	池上　俊彦	【第 9 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Paul Gauguin & Where Do We Come From? What Are We? Where Are We Going? pp. 14-15、提出課題のおさらい（グループワーク） 復習：新出単語と文法項目の暗記
10	池上　俊彦	【第 10 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Paul Gauguin & Where Do We Come From? What Are We? Where Are We Going? pp. 16-17 復習：新出単語と文法項目の暗記

11	池上　俊彦	【第 11 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Michelangelo Merisi da Caravaggio & Supper at Emmaus pp. 18-19 復習：新出単語と文法項目の暗記
12	池上　俊彦	【第 12 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Michelangelo Merisi da Caravaggio & Supper at Emmaus pp. 20-21 復習：新出単語と文法項目の暗記
13	池上　俊彦	【第 13 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Jean-Baptiste Simeon Chardin & The Prayer before Meal pp. 22-23、課題提出 復習：新出単語と文法項目の暗記
14	池上　俊彦	【第 14 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Jean-Baptiste Simeon Chardin & The Prayer before Meal pp. 24-25 復習：新出単語と文法項目の暗記
15	池上　俊彦	【第 15 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：前期後半の振り返り、提出課題のおさらい（グループワーク） 復習：新出単語と文法項目の暗記

授業開始前学習	英語に触れる機会を多く持つこと。興味がある文章や単語を辞書で調べる。教科書のリーディングセクションの音読。
授業内課題のフィードバックの方法	授業 7 回目、13 回目に提出する課題については、2 週間後（授業 9、15 回目）に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。
テキスト・教材	Josh Norman、松井真帆、本山ふじ子 『A View From Painters' Palettes :　Food And Culture　絵画を彩る食文化』 朝日出版社、2010 年。 (ISBN: 9784255156446) 適宜プリント
参考書	
評価の基準と方法	授業態度と課題提出 40% テスト 60%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	
その他	出席を重視する。全授業数の 3 分の 1 以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。講義開始後 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。その他、1 回目の授業で説明する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-232 CT-L-232	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-22	授業コード	F02412
科目名称	英語 BⅢ			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishBⅢ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	本村　万喜子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	本村　万喜子			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	英語 B Ⅲでは、どのような英文にも対応できる発展的読解力を養うことを目標とする。ただし、リーディングに特化するのではなく、英語の運用能力向上のために、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動も行う。				
到達目標	複雑な構文で書かれた英文を、複数回にわたり聞き取りをすると理解できる。複雑な構文で書かれた英文を、時間をかけて読むと理解できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	本村　万喜子	※ペアワークやディスカッションを含む回がある。 【第 1 回】 予習：これまでの英語学習を振り返る 授業：オリエンテーション（授業のすすめ方について）、Unit1 Part1&2 復習：課題に取り組む
2	本村　万喜子	【第 2 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit1 Part3&4 復習：課題に取り組む
3	本村　万喜子	【第 3 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit2 Part1&2 復習：課題に取り組む
4	本村　万喜子	【第 4 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit2 Part3&4 復習：課題に取り組む
5	本村　万喜子	【第 5 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit3 Part1&2 復習：課題に取り組む
6	本村　万喜子	【第 6 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit3 Part3&4 復習：課題に取り組む
7	本村　万喜子	【第 7 回】 予習：Unit1～3 の内容を確認する 授業：Unit1～3 の振り返り 復習：前期前半の学習を振り返り、前期後半の学習計画を立てる
8	本村　万喜子	【第 8 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit4 Part1&2 復習：課題に取り組む
9	本村　万喜子	【第 9 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit4 Part3&4 復習：課題に取り組む
10	本村　万喜子	【第 10 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit5 Part1&2 復習：課題に取り組む
11	本村　万喜子	【第 11 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit5 Part3&4 復習：課題に取り組む

12	本村　万喜子	【第 12 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit6 Part1&2 復習：課題に取り組む
13	本村　万喜子	【第 13 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit6 Part3&4 復習：課題に取り組む
14	本村　万喜子	【第 14 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit7 復習：課題に取り組む
15	本村　万喜子	【第 15 回】 予習：Unit4-7 の内容を確認する 授業：Unit4-7 の振り返り 復習：苦手な学習内容等、自分の課題を見つけ、前期の学習を分析する

授業開始前学習	映画・音楽・テレビ・新聞など、英語に触れる機会を多く持つこと。興味がある文章や単語を、辞書で調べる。
授業内課題のフィードバックの方法	小テスト、課題提出を適宜行い、返却時に確認する。
テキスト・教材	Alison Kitzman/三原京/塩谷直史/木村博是 著『エース TOEIC400 - Simply 400: Acing the TOEIC Listening & Reading Test』（南雲堂）ISBN： 9784523185246
参考書	
評価の基準と方法	平常点 40%（小テスト、課題提出）および定期試験 60%を総合して評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	
その他	出席を重視する。全授業数の 3 分の 1 以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。講義開始後 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。その他、1 回目の授業で説明する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-232 CT-L-232	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-22	授業コード	F02413
科目名称	英語 BⅢ			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishBⅢ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	中川　優一			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	中川　優一			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	英語 B Ⅲでは、どのような英文にも対応できる発展的読解力を養うことを目標とする。ただし、リーディングに特化するのではなく、英語の運用能力向上のために、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動も行う。				
到達目標	複雑な構文で書かれた英文を複数回にわたり聞き取りをすると理解ができる。複雑な構文で書かれた英文を、時間をかけて読むと理解できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	中川　優一	【第 1 回】 予習：今まで学習した英語（特に単語と英文法）を見直しておく。 授業：オリエンテーション（今後の授業方針について、成績評価基準の説明等） 復習：今後の学習の確認
2	中川　優一	【第 2 回】 予習：Unit 1 (Travel, pp. 16-19)を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 1 (Travel, pp. 16-19)およびそれに付随したグループワーク。 復習：【第 2 回】で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。
3	中川　優一	【第 3 回】 予習：Unit 1 (Travel, pp. 20-23)を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 1 (Travel, pp. 20-23)およびそれに付随したグループワーク。 復習：第 3 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。
4	中川　優一	【第 4 回】 予習：Unit 2 (Meeting, pp.24-27)を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 2 (Meeting, pp.24-27) およびそれに付随したグループワーク。 復習：第 4 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。
5	中川　優一	【第 5 回】 予習：Unit 2 (Meeting, pp.28-32)を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 2 (Meeting, pp.28-32)およびそれに付随したグループワーク。 復習：第 5 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。
6	中川　優一	【第 6 回】 予習：Unit 3 (Personnel, pp. 33-36)を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 3 (Personnel, pp. 33-36)およびそれに付随したグループワーク。 復習：第 6 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。
7	中川　優一	【第 7 回】 予習：Unit 3 (Personnel, pp. 37-41)を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 3 (Personnel, pp. 37-41)およびそれに付随したグループワーク。 復習：第 7 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。
8	中川　優一	【第 8 回】 予習：第 1 回から第 7 回までの復習 授業：前期前半のまとめを行なう。 復習：まとめでわからなかったところの確認。
9	中川　優一	【第 9 回】 予習：Unit 4 (Office, pp.42-45)を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：前期前半のまとめのフィードバック及び Unit 4 Unit 4 (Office, pp.42-45)およびそれに付随したグループワーク。 復習：第 9 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。
10	中川　優一	【第 10 回】 予習：Unit 4 (Office, pp.46-50)を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 4 (Office, pp.46-50)およびそれに付随したグループワーク。 復習：第 10 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。
11	中川　優一	【第 11 回】 予習：Unit 5 (Eating Out, pp.51-54)を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 5 (Eating Out, pp.51-54)およびそれに付随したグループワーク。 復習：第 11 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。

12	中川　優一	【第 12 回】 予習：Unit 5 (Eating Out, pp.55-58)を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 5 (Eating Out, pp.55-58)およびそれに付随したグループワーク。 復習：第 12 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。
13	中川　優一	【第 13 回】 予習：Unit 6 (Advertisement, pp.59-62)を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 6 (Advertisement, pp.59-62)およびそれに付随したグループワーク。 復習：第 13 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。
14	中川　優一	【第 14 回】 予習：第 9 回から第 13 回までの復習 授業：前期後半のまとめを行なう。 復習：まとめでわからなかったところの確認。
15	中川　優一	【第 15 回】 予習：試験の復習。 授業：前期後半のまとめのフィードバック。 復習：後期に向けて、前期でわからなかったところの再確認。

授業開始前学習	高校までの英単語、英文法をできるだけ見直しておくこと。映画・音楽・テレビ・新聞など、英語に触れる機会を多く持ち、興味がある文章や単語を、辞書で調べること。
授業内課題のフィードバックの方法	毎時間授業内で小テストを行う。また、課題提出を適宜行い、返却時に確認する。
テキスト・教材	POSITIVE STEPS TO THE TOEIC® L&R TEST TOEIC® L&R テスト：スコアアップのための能動型学習、 本田美邦里 / 駒井亜紀子 著 、 2025 年、金星堂
参考書	
評価の基準と方法	平常点 40%（小テスト、課題提出、Presentation、授業態度等）および定期試験 60%を総合して評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	
その他	出席を重視する。全授業数の３分の１以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻３回で欠席１回とみなす。講義開始後３０分以上の遅刻は欠席とみなす。その他、１回目の授業で説明する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-232 CT-L-232	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-22	授業コード	F02414
科目名称	英語 BⅢ			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishBⅢ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	長谷 陸			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	長谷 陸			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	英語 B Ⅲでは、どのような英文にも対応できる発展的読解力を養うことを目標とする。ただし、リーディングに特化するのではなく、英語の運用能力向上のために、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動も行う。				
到達目標	複雑な構文で書かれた英文を、複数回にわたり聞き取りをすると理解できる。複雑な構文で書かれた英文を、時間をかけて読むと理解できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	長谷 陸	【第 1 回】 予習 ：これまでの英語学習を振り返る。シラバスを確認する。 授業 ：ガイダンス(授業の進め方の説明、評価の基準と方法など) 復習 ：授業の内容を振り返る。
2	長谷 陸	【第 2 回】 予習 ：教科書の単語を予習する。 授業 ：Unit1 ペア・グループワーク 復習 ：授業の内容を振り返る。
3	長谷 陸	【第 3 回】 予習 ：教科書の本文を予習する。 授業 ：Unit1 続き ペア・グループワーク 復習 ：授業の内容を振り返る。
4	長谷 陸	【第 4 回】 予習 ：教科書の単語を予習する。 授業 ：Unit2 ペア・グループワーク 復習 ：授業の内容を振り返る。
5	長谷 陸	【第 5 回】 予習 ：教科書の本文を予習する。 授業 ：Unit2 続き ペア・グループワーク 復習 ：授業の内容を振り返る。
6	長谷 陸	【第 6 回】 予習 ：教科書の単語を予習する。 授業 ：Unit3 ペア・グループワーク 復習 ：授業の内容を振り返る。
7	長谷 陸	【第 7 回】 予習 ：教科書の本文を予習する。 授業 ：Unit3 続き ペア・グループワーク 復習 ：授業の内容を振り返る。
8	長谷 陸	【第 8 回】 予習 ：第 2 ～7 回の授業を振り返る。 授業 ：前期前半の授業のまとめ 復習 ：授業の内容を振り返る。
9	長谷 陸	【第 9 回】 予習 ：教科書の単語を予習する。 授業 ：Unit4 ペア・グループワーク 復習 ：授業の内容を振り返る。
10	長谷 陸	【第 10 回】 予習 ：教科書の本文を予習する。 授業 ：Unit4 続き ペア・グループワーク 復習 ：授業の内容を振り返る。
11	長谷 陸	【第 11 回】 予習 ：教科書の単語を予習する。 授業 ：Unit5 ペア・グループワーク 復習 ：授業の内容を振り返る。

12	長谷 陸	【第 12 回】 予習 ：教科書の本文を予習する。 授業 ：Unit5 続き ペア・グループワーク 復習 ：授業の内容を振り返る。
13	長谷 陸	【第 13 回】 予習 ：教科書の本文を予習する。 授業 ：Unit6 ペア・グループワーク 復習 ：授業の内容を振り返る。
14	長谷 陸	【第 14 回】 予習 ：教科書の文法解説を予習する。 授業 ：Unit6 続き ペア・グループワーク 復習 ：授業の内容を振り返る。
15	長谷 陸	【第 15 回】 予習 ：第 9～14 回の授業を振り返る。 授業 ：前期後半の授業のまとめ 復習 ：授業の内容を振り返る。

授業開始前学習	国際的なニュースや自分の興味のある文化(映画、音楽、スポーツなど)を通して英語に触れること。
授業内課題のフィードバックの方法	授業の冒頭で小テストを行い、翌週の返却時に解説を行う。第 8 回、第 15 回の授業で振り返りを行う。
テキスト・教材	ジョノ・デイビッド編著『What's That You Say?　自ら発信するための英語力養成講座』(南雲堂)
参考書	英和辞典、和英辞典(電子辞書可)
評価の基準と方法	平常点 40%（小テスト、課題提出、授業態度等）および定期試験 60%を総合して評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	
その他	出席を重視する。全授業数の 3 分の 1 以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。講義開始後 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。その他、1 回目の授業で説明する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-232 CT-L-232	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-22	授業コード	F02415
科目名称	英語 BⅢ			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishBⅢ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	遠藤　玲奈			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	遠藤　玲奈			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	英語 B Ⅲでは、どのような英文にも対応できる発展的読解力を養うことを目標とする。ただし、リーディングに特化するのではなく、英語の運用能力向上のために、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動も行う。				
到達目標	複雑な構文で書かれた英文を、複数回にわたり聞き取りをすると理解できる。複雑な構文で書かれた英文を、時間をかけて読むと理解できる。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	遠藤　玲奈	【第 1 回】 予習：シラバスを読んでおく。テキストと辞書（電子辞書可）を用意する 授業：オリエンテーション（授業概要、到達目標、授業の進め方について）、グループワーク 復習：授業中に説明を受けた授業概要、到達目標、授業の進め方をもとに、今学期の目標を立てる
2	遠藤　玲奈	【第 2 回】 予習：Unit 1（全体）を読み、分からない単語を調べておく 授業：Unit 1（前半）、グループワーク 復習：授業中の活動を振り返る
3	遠藤　玲奈	【第 3 回】 予習：前回の復習をし、授業内で行う小テストの準備をする 授業：Unit 1（後半）、グループワーク、Unit 1（全体）の小テスト 復習：授業中の活動を振り返る
4	遠藤　玲奈	【第 4 回】 予習：Unit 2（全体）を読み、分からない単語を調べておく 授業：Unit 2（前半）、グループワーク 復習：授業中の活動を振り返る。返却された小テストの復習をする
5	遠藤　玲奈	【第 5 回】 予習：前回の復習をし、授業内で行う小テストの準備をする 授業：Unit 2（後半）、グループワーク、Unit 2（全体）の小テスト 復習：授業中の活動を振り返る
6	遠藤　玲奈	【第 6 回】 予習：Unit 3（全体）を読み、分からない単語を調べておく 授業：Unit 3（前半）、グループワーク 復習：授業中の活動を振り返る。返却された小テストの復習をする
7	遠藤　玲奈	【第 7 回】 予習：前回の復習をし、授業内で行う前期前半の振り返りの準備をする 授業：Unit 3（後半）、グループワーク、前期前半の振り返り 復習：授業中の活動を振り返る
8	遠藤　玲奈	【第 8 回】 予習：Unit 4（全体）を読み、分からない単語を調べておく 授業：Unit 4（前半）、グループワーク 復習：授業中の活動を振り返る
9	遠藤　玲奈	【第 9 回】 予習：前回の復習をし、授業内で行う小テストの準備をする 授業：Unit 4（後半）、グループワーク、Unit 4（全体）の小テスト 復習：授業中の活動を振り返る
10	遠藤　玲奈	【第 10 回】 予習：Unit 5（全体）を読み、分からない単語を調べておく 授業：Unit 5（前半）、グループワーク 復習：授業中の活動を振り返る。返却された小テストの復習をする
11	遠藤　玲奈	【第 11 回】 予習：前回の復習をし、授業内で行う小テストの準備をする 授業：Unit 5（後半）、グループワーク、Unit 5（全体）小テスト 復習：授業中の活動を振り返る

12	遠藤　玲奈	【第 12 回】 予習：Unit 6（全体）を読み、分からない単語を調べておく 授業：Unit 6（前半）、グループワーク 復習：授業中の活動を振り返る。返却された小テストの復習をする
13	遠藤　玲奈	【第 13 回】 予習：前回の復習をし、授業内で行う小テストの準備をする 授業：Unit 6（後半）、グループワーク、Unit 6（全体）小テスト 復習：授業中の活動を振り返る
14	遠藤　玲奈	【第 14 回】 予習：Unit 7（全体）を読み、分からない単語を調べておく 授業：Unit 7（前半）、グループワーク 復習：授業中の活動を振り返る。返却された小テストの復習をする
15	遠藤　玲奈	【第 15 回】 予習：前回の復習をし、授業内で行う前期後半の振り返りの準備をする 授業：Unit 7（後半）、グループワーク、前期後半の振り返り 復習：自分の課題を見つけ対策を立てる

授業開始前学習	映画・音楽・テレビ・新聞など、英語に触れる機会を多く持つこと。また、学習予定の Unit の内容・単語の予習と小テストの準備を必ず行うこと。
授業内課題のフィードバックの方法	2 週に 1 回、各 Unit の学習を終えたところで小テストを行う。翌週、返却時に解説を行う。授業 7 回目、15 回目に授業内容の振り返りを行い、クラスおよび個別の質問に回答する。
テキスト・教材	Kameyama Hiroyuki, Esther Waer『English Communication for Creatives』（南雲堂）
参考書	授業内で適宜紹介する。
評価の基準と方法	平常点 40%（小テスト、課題提出、授業態度等）および定期試験 60%を総合して評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	
その他	出席を重視する。全授業数の 3 分の 1 以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。講義開始後 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。その他、1 回目の授業で説明する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-232 CT-L-232	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-22	授業コード	F02416
科目名称	英語 BⅢ			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishBⅢ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	鈴木　悠理			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鈴木　悠理			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	本科目では、どのような英文にも対応できる発展的読解力を目標とする。ただし、リーディングに特化するのではなく、英語の基礎的な運用能力向上のために、ペア・グループワークやディスカッション等の活動も行う。				
到達目標	複雑な構文で書かれた英文を、複数回にわたり聞き取りをすると理解できる。複雑な構文で書かれた英文を、時間をかけて読むと理解できる。身近な話題について、書いたり話したりすることができる。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	鈴木　悠理	【第 1 回】 予習：これまでの英語学習を振り返る。シラバスを確認する。 授業：ガイダンス（授業概要、到達目標、授業の進め方について） 復習：授業で説明を受けたガイダンスをもとに、前期の目標を立てる。テキストと辞書（電子辞書可）を用意する。
2	鈴木　悠理	【第 2 回】 予習：Vocabulary パートの問題を解く。Reading パートの音声を聞き、音読をする。 授業：Unit 1（前半）リーディング、ペア・グループワーク 復習：間違えた問題を解き直す。ペア・グループワークを振り返る。
3	鈴木　悠理	【第 3 回】 予習：Reading パートの音声を聞き、音読をする。小テストの準備をする。 授業：Unit 1（後半）リーディング、ペア・グループワーク、Unit 1（全体）小テスト 復習：ペア・グループワークを振り返る。小テストを振り返る。
4	鈴木　悠理	【第 4 回】 予習：Vocabulary パートの問題を解く。Reading パートの音声を聞き、音読をする。 授業：Unit 2（前半）リーディング、ペア・グループワーク 復習：間違えた問題を解き直す。ペア・グループワークを振り返る。
5	鈴木　悠理	【第 5 回】 予習：Reading パートの音声を聞き、音読をする。小テストの準備をする。 授業：Unit 2（後半）リーディング、ペア・グループワーク、Unit 2（全体）小テスト 復習：間違えた問題を解き直す。ペア・グループワークを振り返る。
6	鈴木　悠理	【第 6 回】 予習：Vocabulary パートの問題を解く。Reading パートの音声を聞き、音読をする。 授業：Unit 3（前半）リーディング、ペア・グループワーク 復習：間違えた問題を解き直す。ペア・グループワークを振り返る。
7	鈴木　悠理	【第 7 回】 予習：Reading パートの音声を聞き、音読をする。小テストの準備をする。 授業：Unit 3（後半）リーディング、ペア・グループワーク、Unit 3（全体）小テスト、前期前半の振り返り 復習：ペア・グループワークを振り返る。小テストを振り返る。
8	鈴木　悠理	【第 8 回】 予習：Unit 1～3 を振り返り、分からない単語の調べ直しや間違えた問題の解き直しをする。 授業：Unit 1～3 振り返り 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。間違えた問題を解き直す。
9	鈴木　悠理	【第 9 回】 予習：Vocabulary パートの問題を解く。Reading パートの音声を聞き、音読をする。 授業：Unit 4（前半）リーディング、ペア・グループワーク 復習：間違えた問題を解き直す。ペア・グループワークを振り返る。
10	鈴木　悠理	【第 10 回】 予習：Reading パートの音声を聞き、音読をする。小テストの準備をする。 授業：Unit 4（後半）リーディング、ペア・グループワーク、Unit 4（全体）小テスト 復習：ペア・グループワークを振り返る。小テストを振り返る。
11	鈴木　悠理	【第 11 回】 予習：Vocabulary パートの問題を解く。Reading パートの音声を聞き、音読をする。 授業：Unit 5（前半）リーディング、ペア・グループワーク 復習：間違えた問題を解き直す。ペア・グループワークを振り返る。

12	鈴木　悠理	【第 12 回】 予習：Reading パートの音声を聞き、音読をする。小テストの準備をする。 授業：Unit 5（後半）リーディング、ペア・グループワーク、Unit 5（全体）小テスト 復習：ペア・グループワークを振り返る。小テストを振り返る。
13	鈴木　悠理	【第 13 回】 予習：Vocabulary パートの問題を解く。Reading パートの音声を聞き、音読をする。 授業：Unit 6（前半）リーディング、ペア・グループワーク 復習：間違えた問題を解き直す。ペア・グループワークを振り返る。
14	鈴木　悠理	【第 14 回】 予習：Reading パートの音声を聞き、音読をする。小テストの準備をする。 授業：Unit 6（後半）リーディング、ペア・グループワーク、Unit 6（全体）小テスト、前期後半の振り返り 復習：ペア・グループワークを振り返る。小テストを振り返る。
15	鈴木　悠理	【第 15 回】 予習：前期の学習を振り返り、分からない単語の調べ直しや間違えた問題の解き直しをする。 授業：前期の学習　振り返り 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。間違えた問題を解き直す。

授業開始前学習	時事ニュースや文化（映画・音楽・ファッションなど）を通して英語に触れる機会を持つこと。 これまでの英語学習を振り返ること。
授業内課題のフィードバックの方法	約 2 週に 1 回、各 Unit の学習を終えたところで小テストを行う。翌週、返却時に解説を行う。授業 8 回目、15 回目に授業内容の復習を行い、クラスおよび個別の質問に回答する。
テキスト・教材	Arnold Arano、三原京、巳波義典、木村博是『Answers to Everyday Questions 2〈Pre-Intermediate〉身近な不思議を英語で学ぶ〈準中級〉』（南雲堂）
参考書	英和辞典・和英辞典は必須（電子辞典可）。その他は授業内で適宜紹介する。
評価の基準と方法	平常点 40%（授業参加態度、小テスト、課題提出など）および定期試験 60%を総合して評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	
その他	出席を重視する。全授業の 3 分の 1 以上を欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。その他、公欠についてなどは第 1 回の授業で説明する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-232 CT-L-232	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-22	授業コード	F02417
科目名称	英語 BⅢ			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishBⅢ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	境　奈津希			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	境　奈津希			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	英語 B Ⅲでは、どのような英文にも対応できる発展的読解力を養うことを目標とする。ただし、リーディングに特化するのではなく、英語の運用能力向上のために、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動も行う。				
到達目標	複雑な構文で書かれた英文を、複数回にわたり聞き取りをすると理解できる。複雑な構文で書かれた英文を、時間をかけて読むと理解できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	境　奈津希	【第 1 回】 予習：　これまで英語 A・B で学んだことの復習 授業：　オリエンテーション 復習：　これまで英語 A・B で学んだことの復習
2	境　奈津希	【第 2 回】 予習：Unit 1 Vocabulary に取り組む 授業：Unit 1 be 動詞（教科書 p.1-6）（グループワーク、ディスカッション） 復習：Unit 1 Grammar Practice に取り組む
3	境　奈津希	【第 3 回】 予習：Unit 2 Vocabulary に取り組む 授業：Unit 2 一般動詞(1)（教科書 p.7-12）（グループワーク、ディスカッション） 復習：Unit 2 Grammar Practice に取り組む
4	境　奈津希	【第 4 回】 予習：Unit 3 Vocabulary に取り組む 授業：Unit 3 一般動詞(2)（教科書 p.13-18）（グループワーク、ディスカッション） 復習：Unit 3 Grammar Practice に取り組む
5	境　奈津希	【第 5 回】 予習：Unit 4 Vocabulary に取り組む 授業：Unit 4 人称代名詞（教科書 p.19-24）（グループワーク、ディスカッション） 復習：Unit 4 Grammar Practice に取り組む
6	境　奈津希	【第 6 回】 予習：Unit 5 Vocabulary に取り組む 授業：Unit 5 Wh-疑問文（教科書 p.25-30）（グループワーク、ディスカッション） 復習：Unit 5 Grammar Practice に取り組む
7	境　奈津希	【第 7 回】 予習：Unit 1-5 Vocabulary を確認する 授業：Unit 1-5 の復習（教科書 p.1-30）（グループワーク、ディスカッション） 復習：Unit 1-5 Grammar Practice を確認する
8	境　奈津希	【第 8 回】 予習：　前期前半に学習したことを復習する 授業：　前期前半の振り返り 復習：　前期前半に学習したことを確認する
9	境　奈津希	【第 9 回】 予習：Unit 6 Vocabulary に取り組む 授業：Unit 6 過去形（教科書 p.31-36）（グループワーク、ディスカッション） 復習：Unit 6 Grammar Practice に取り組む
10	境　奈津希	【第 10 回】 予習：Unit 9 Vocabulary に取り組む 授業：Unit 9 進行形（教科書 p.49-54）（グループワーク、ディスカッション） 復習：Unit 9 Grammar Practice に取り組む
11	境　奈津希	【第 11 回】 予習：Unit 11 Vocabulary に取り組む 授業：Unit 11 助動詞(1)（教科書 p.61-66）（グループワーク、ディスカッション） 復習：Unit 11 Grammar Practice に取り組む

12	境　奈津希	【第 12 回】 予習：Unit 12 Vocabulary に取り組む 授業：Unit 12　助動詞(2)（教科書　p.67-72）（グループワーク、ディスカッション） 復習：Unit 12 Grammar Practice に取り組む
13	境　奈津希	【第 13 回】 予習：Unit 10 Vocabulary に取り組む 授業：Unit 10　未来表現（教科書　p.55-60）（グループワーク、ディスカッション） 復習：Unit 10 Grammar Practice に取り組む
14	境　奈津希	【第 14 回】 予習：Unit 6-12 Vocabulary を確認する 授業：Unit 6-12 の復習（教科書　p.31-72）（グループワーク、ディスカッション） 復習：Unit 6-12 Grammar Practice を確認する
15	境　奈津希	【第 15 回】 予習：　前期後半に学習したことを復習する 授業：　前期後半の振り返り 復習：　前期に学習したことを確認する

授業開始前学習	中学校、高等学校、昨年度の英語の授業で学んだことを再確認しておきましょう。
授業内課題のフィードバックの方法	授業冒頭で小テストを行い、返却時に確認する。
テキスト・教材	Atsuko Yamamoto, Naoko Osuka, Chikako Mano, Kyoko Okamoto, Benedict Rowlett『Living Grammar —New Edition—』（成美堂）
参考書	授業内で適宜配布します。
評価の基準と方法	平常点 40%（小テスト 20%、授業への取り組み 20%）および定期試験 60%を総合して評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	
その他	出席を重視する。全授業数の 3 分の 1 以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。講義開始後 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。その他、1 回目の授業で説明する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-232 CT-L-232	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-22	授業コード	F02419
科目名称	英語 BⅢ			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishBⅢ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	浅川　真知子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	浅川　真知子			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期　火曜日 09:00～10:30　木曜日 13:00～14:30 後期　火曜日 09:00～10:30　木曜日 13:00～14:30			研究室	10-603
授業概要	英語 BⅢは、標準的な英語を読むために必要な力を養うことを目的としている。ただし読解力に限らず、英語の基礎的な運用能力向上のために、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動を行い総合的な英語力を養う。				
到達目標	標準的な構文で書かれた英文を読み、内容やその意図を理解することができる。読んだ文章をもとに、標準的な表現を使って、書いたり話したりすることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	浅川　真知子	【第 1 回】 予習　：自分の英語学習を振り返る 授業　：ガイダンス（授業の進め方等について）、Unit 1 "Resellers -Good or Bad?" 復習　：今後の学習の確認
2	浅川　真知子	【第 2 回】 予習　：単語練習、Unit 1 Reading Passage 授業　：Vocabulary quiz、Unit 1 "Resellers -Good or Bad?"（p.10-11）、be 動詞 復習　：　テキストを解き直す
3	浅川　真知子	【第 3 回】 予習　：Unit 2 Vocabulary Task（p.15） 授業　：Unit 2　"About Earphones" (p.18-19)、一般動詞 復習　：学んだ語句・表現を復習する
4	浅川　真知子	【第 4 回】 予習　：単語練習、Unit 2 Reading Passage (p.16-17) 授業　：Vocabulary quiz、Unit 2　"About Earphones" (p.16-17)、グループワーク 復習　：　テキストを解き直す
5	浅川　真知子	【第 5 回】 予習　：Unit 3 Vocabulary Task（p.21） 授業　：Unit 3　"Cash Registers" (p.24-25)、名詞・代名詞 復習　：学んだ語句・表現を復習する
6	浅川　真知子	【第 6 回】 予習　：単語練習、Unit 3 Reading Passage (p.22-23) 授業　：Vocabulary quiz、Unit 3　"Cash Registers" (p.22-23)、グループワーク 復習　：　テキストを解き直す
7	浅川　真知子	【第 7 回】 予習　：Unit 1 ～ 3 の復習 授業　：第 1 回～第 6 回の学習のまとめ 復習　：前期前半の学習を振り返り、課題点を明らかにする
8	浅川　真知子	【第 8 回】 予習　：Unit 4 Vocabulary Task（p.27） 授業　：Unit 4　"Funny Happenings During Online Lessons" (p.30-31)、過去形 復習　：学んだ語句・表現を復習する
9	浅川　真知子	【第 9 回】 予習　：単語練習、Unit 4 Reading Passage (p.28-29) 授業　：Vocabulary quiz、Unit 4 "Funny Happenings During Online Lessons" (p.28-29)、グループワーク 復習　：　テキストを解き直す
10	浅川　真知子	【第 10 回】 予習　：Unit 5 Vocabulary Task（p.33） 授業　：Unit 5　"Loose-Fitting Clothing" (p.36-37)、進行形 復習　：学んだ語句・表現を復習する
11	浅川　真知子	【第 11 回】 予習　：単語練習、Unit 5 Reading Passage (p.34-35) 授業　：Vocabulary quiz、Unit 5 "Loose-Fitting Clothing" (p.34-35)、グループワーク 復習　：　テキストを解き直す

12	浅川　真知子	【第 12 回】 予習　：Unit 6 Vocabulary Task（p.39） 授業　：Unit 6　"Shrinkflation" (p.42-43)、疑問文 復習　：学んだ語句・表現を復習する
13	浅川　真知子	【第 13 回】 予習　：単語練習、Unit 6 Reading Passage (p.40-41) 授業　：Vocabulary quiz、Unit 6 "Shrinkflation" (p.40-41)、グループワーク 復習　：　テキストを解き直す
14	浅川　真知子	【第 14 回】 予習　：Unit 7 Vocabulary Task（p.45） 授業　：Unit 7　"Living in the Countryside" (p.48-49)、ミニプレゼンテーション 復習　：学んだ語句・表現を復習する
15	浅川　真知子	【第 15 回】 予習　：Unit 4 ～ 7 の復習 授業　：第 8 回～第 14 回の学習のまとめ 復習　：前期の学習を振り返り、課題点を明らかにする

授業開始前学習	映画・音楽・テレビ・新聞など、英語に触れる機会を多く持つこと。
授業内課題のフィードバックの方法	小テスト・活動・課題に対するフィードバックはその都度授業中や返却時に行う。
テキスト・教材	『Trend Scope / 読んで発信、社会のいま』, Jonathan Lynch, Kotaro Shitori, 成美堂（ISBN:9784791972654）
参考書	授業で適宜紹介する。
評価の基準と方法	平常点 40%（授業への参加度・課題提出・小テスト等）、および定期試験 60%を総合して評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	
その他	出席を重視する。全授業数の 3 分の 1 以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。講義開始後 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。その他、1 回目の授業で説明する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-232 CT-L-232	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-22	授業コード	F02434
科目名称	英語 BⅢ			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishBⅢ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	薬師　英子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	薬師　英子			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期　火曜日 10:00～13:00 後期　火曜日 10:00～13:00			研究室	10-55
授業概要	英語 B Ⅲでは、どのような英文にも対応できる発展的読解力を養うことを目標とする。ただし、リーディングに特化するのではなく、英語の運用能力向上のために、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動を行う。				
到達目標	複雑な構文で書かれた英文を、複数回にわたり聞き取りをすると、理解できる。複雑な構文で書かれた英文を、時間をかけて読むと理解できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	薬師　英子	【第 1 回】 予習　：自分の英語学習を振り返る 授業　：オリエンテーション（授業のねらい、授業の進め方等について）（グループワーク） 復習　：家庭学習を考える
2	薬師　英子	【第 2 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：Unit 1 Hungry Cat (pp.1~4) 復習　：Unit 1 Hungry Cat の新出単語・重要熟語・文法事項の復習
3	薬師　英子	【第 3 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：Unit 2 Chocolate Chip Cookies (pp.5~8) 復習　：Unit 2 Chocolate Chip Cookies の新出単語・重要熟語・文法事項の復習
4	薬師　英子	【第 4 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：Review of Unit 1 & 2　（グループワーク） 復習　：Unit 1 Hungry Cat・Unit 2 Chocolate Chip Cookies の英語要約と文法 Exercise
5	薬師　英子	【第 5 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：Unit 3 Hollywood's Hero (pp.9~12) 復習　：Unit 3 Hollywood's Hero の新出単語・重要熟語・文法事項の復習
6	薬師　英子	【第 6 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：Unit 4 Miscommunication (pp.13~16) 復習　：Unit 4 Miscommunication の新出単語・重要熟語・文法事項の復習
7	薬師　英子	【第 7 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：Review of Unit 3 & Unit 4　（グループワーク＆プレゼンテーション） 復習　：Unit 3 Hollywood's Hero・Unit 4 Miscommunication の英語要約と文法 Exercise
8	薬師　英子	【第 8 回】 予習　：ここまでの授業を総復習する 授業　：中間のまとめ 復習　：まとめを振り返る
9	薬師　英子	【第 9 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：Unit 5 The Lucky Ride (pp.17~19) 復習　：Unit 5 The Lucky Ride の新出単語・重要熟語・文法事項の復習
10	薬師　英子	【第 10 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：Unit 5 The Lucky Ride (p.20) Review & Activity（グループワーク） 復習　：Unit 5 The Lucky Ride の英語要約と文法 Exercise
11	薬師　英子	【第 11 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：Unit 6 A Real Monster (pp.21~23) 復習　：Unit 6 A Real Monster の新出単語・重要熟語・文法事項の復習

12	薬師　英子	【第 12 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：Unit 6 A Real Monster (p.24) Review & Activity（グループワーク） 復習　：Unit 6 A Real Mosnter の英語要約と文法 Exercise
13	薬師　英子	【第 13 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：Unit 7 Lunchbox Revolution (pp.25~27) 復習　：Unit 7 Lunchbox Revolution の新出単語・重要熟語・文法事項の復習
14	薬師　英子	【第 14 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：Unit 7 Lunchbox Revolution (p.28) Review & Activity（グループワーク） 復習　：Unit 7 Lunchbox Revolution の英語要約と文法 Exercise
15	薬師　英子	【第 15 回】 予習　：今まで授業で学んだことを振り返る 授業　：Review of Unit 1 The Hunry Cat ~ Unit 7 Lunchbox Revolution　（プレゼンテーション） 復習　：自分の課題を見つけ対策を立てる

授業開始前学習	学習予定の Unit の内容・単語の予習と小テストに向けての学習を必ず行うこと。映画・音楽・テレビ・新聞記事など、英語に触れる機会を多く持ち、国際的な事柄に積極的に興味を持つこと。
授業内課題のフィードバックの方法	毎時間授業の冒頭で小テストを行う。授業 8 回目、15 回目に提出するまとめについては、全体の講評を行い、個別の質問に回答する。
テキスト・教材	Robert Juppe, 馬場　幸雄『Premium Reader ~Elementary~』（金星堂）
参考書	授業中に紹介する。
評価の基準と方法	試験 60%、平常点 40%（小テスト、課題提出、Presentation、授業態度）
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	英語
その他	出席を重視する。単位認定には全授業数の 3 分の 2 以上の出席を必須とする。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。講義開始後 30 分以上の遅刻、早退は欠席とみなす。テキスト忘れ、授業内での携帯電話使用等は授業参加意欲の減点対象とする。その他、1 回目の授業で説明する。欠席した回の授業内容はシラバスや配信資料等を確認し、各自フォローアップする。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-232 CT-L-232	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-22	授業コード	F02461
科目名称	英語 BⅣ			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishBⅣ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	池上　俊彦			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	池上　俊彦			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	本授業では、実践的かつ応用的な英語力のさらなる育成のために、TOEIC 試験で高得点を取得できる英語力の習得を目指す。同時に、英語の発展的かつ主体的な運用能力の習得のために、「リスニング」「スピーキング」「リーディング」「ライティング」の４技能を効果的に統合したグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動を行う。				
到達目標	複雑な構文で書かれた英文を聞き取り、理解することができる。複雑な構文で書かれた英文を読むと理解できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	池上　俊彦	毎時間ペアワーク等を適宜行う 【第 1 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Edouard Manet & The Luncheon on the Grass pp. 30-31 復習：新出単語と文法項目の暗記
2	池上　俊彦	【第 2 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Edouard Manet & The Luncheon on the Grass pp. 32-33 復習：新出単語と文法項目の暗記
3	池上　俊彦	【第 3 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Pierre-Auguste Renoir & Luncheon of the Boating Party pp. 34-35 復習：新出単語と文法項目の暗記
4	池上　俊彦	【第 4 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Pierre-Auguste Renoir & Luncheon of the Boating Party pp. 36-37 復習：新出単語と文法項目の暗記
5	池上　俊彦	【第 5 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Utagawa Kuniyoshi & Enchu hassen ka pp. 38-39 復習：新出単語と文法項目の暗記
6	池上　俊彦	【第 6 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Utagawa Kuniyoshi & Enchu hassen ka pp. 40-41 復習：新出単語と文法項目の暗記
7	池上　俊彦	【第 7 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Alfons Maria Mucha & Biscuits LeFevre-Utile pp. 42-43、課題提出 復習：新出単語と文法項目の暗記
8	池上　俊彦	【第 8 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：後期前半の振り返り 復習：新出単語と文法項目の暗記
9	池上　俊彦	【第 9 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Alfons Maria Mucha & Biscuits LeFevre-Utile pp. 44-45、提出課題のおさらい（グループワーク） 復習：新出単語と文法項目の暗記
10	池上　俊彦	【第 10 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Marc Chagall & Birthday pp. 46-47 復習：新出単語と文法項目の暗記

11	池上　俊彦	【第 11 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Marc Chagall & Birthday pp. 48-49 復習：新出単語と文法項目の暗記
12	池上　俊彦	【第 12 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Edward Hopper & Nighthawks pp. 50-51 復習：新出単語と文法項目の暗記
13	池上　俊彦	【第 13 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Edward Hopper & Nighthawks pp. 52-53、課題提出 復習：新出単語と文法項目の暗記
14	池上　俊彦	【第 14 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：Andy Warhol & Campbell's Soup Cans pp. 54-55 復習：新出単語と文法項目の暗記
15	池上　俊彦	【第 15 回】 予習：リーディングセクションの音読 授業：後期後半の振り返り、提出課題のおさらい（グループワーク） 復習：新出単語と文法項目の暗記

授業開始前学習	英語に触れる機会を多く持つこと。興味がある文章や単語を、辞書で調べる。教科書のリーディングセクションの音読。
授業内課題のフィードバックの方法	授業 7 回目、13 回目に提出する課題については、2 週間後（授業 9、15 回目）に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。
テキスト・教材	Josh Norman、松井真帆、本山ふじ子『A View From Painters' Palettes： Food And Culture 絵画を彩る食文化』朝日出版社、2010 年。 (ISBN: 9784255156446) 適宜プリント
参考書	
評価の基準と方法	授業態度と課題提出 40% テスト 60%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	
その他	出席を重視する。全授業数の 3 分の 1 以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。講義開始後 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。その他、1 回目の授業で説明する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-232 CT-L-232	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-22	授業コード	F02462
科目名称	英語 BⅣ			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishBⅣ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	本村　万喜子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	本村　万喜子			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	英語ＢⅢに引き続き、英語ＢⅣではあらゆる英文に対応できる発展的読解力のさらなる育成を目指す。ただし、リーディングに特化するのではなく、英語の運用能力向上のために、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動も行う。				
到達目標	複雑な構文で書かれた英文を聞き取り、理解することができる。複雑な構文で書かれた英文を読むと理解できる。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	本村　万喜子	※ペアワークやディスカッションを含む回がある。 【第 1 回】 予習：これまでの英語学習を振り返る 授業：オリエンテーション（授業のすすめ方について）、Unit8 Part1&2 復習：課題に取り組む
2	本村　万喜子	【第 2 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit8 Part3&4 復習：課題に取り組む
3	本村　万喜子	【第 3 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit9 Part1&2 復習：課題に取り組む
4	本村　万喜子	【第 4 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit9 Part3&4 復習：課題に取り組む
5	本村　万喜子	【第 5 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit10 Part1&2 復習：課題に取り組む
6	本村　万喜子	【第 6 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit10 Part3&4 復習：課題に取り組む
7	本村　万喜子	【第 7 回】 予習：Unit8-10 の内容を確認する 授業：Unit8-10 の振り返り 復習：後期前半の学習を振り返り、後期後半の学習計画を立てる
8	本村　万喜子	【第 8 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit11 Part1&2 復習：課題に取り組む
9	本村　万喜子	【第 9 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit11 Part3&4 復習：課題に取り組む
10	本村　万喜子	【第 10 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit12 Part1&2 復習：課題に取り組む
11	本村　万喜子	【第 11 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit12 Part3&4 復習：課題に取り組む

12	本村　万喜子	【第 12 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit13 復習：課題に取り組む
13	本村　万喜子	【第 13 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit14 復習：課題に取り組む
14	本村　万喜子	【第 14 回】 予習：予習用課題を提出しておく 授業：Unit15 復習：課題に取り組む
15	本村　万喜子	【第 15 回】 予習：Unit11-15 の内容を確認する 授業：Unit11-15 の振り返り 復習：苦手な学習内容等、自分の課題を見つけ、後期の学習を分析する

授業開始前学習	映画・音楽・テレビ・新聞など、英語に触れる機会を多く持つこと。興味がある文章や単語を、辞書で調べる。
授業内課題のフィードバックの方法	小テスト、課題提出を適宜行い、返却時に確認する。
テキスト・教材	Alison Kitzman/三原京/塩谷直史/木村博是 著『エース TOEIC400 - Simply 400: Acing the TOEIC Listening & Reading Test』（南雲堂）ISBN： 9784523185246
参考書	
評価の基準と方法	平常点 40%（小テスト、課題提出）および定期試験 60%を総合して評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	
その他	出席を重視する。全授業数の 3 分の 1 以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。講義開始後 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。その他、1 回目の授業で説明する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-232 CT-L-232	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-22	授業コード	F02463
科目名称	英語 BⅣ			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishBⅣ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	中川　優一			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	中川　優一			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	英語 B Ⅲに引き続き、英語 BⅣではあらゆる英文に対応できる発展的読解力のさらなる育成を目指す。ただし、リーディングに特化するのではなく、英語の運用能力向上のために、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動も行う。				
到達目標	複雑な構文で書かれた英文を複数回にわたり聞き取りをすると理解ができる。複雑な構文で書かれた英文を、時間をかけて読むと理解できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	中川　優一	【第 1 回】 予習：Unit 8 (Event & Workshop, pp. 80-83)を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 8 (Event & Workshop, pp. 80-83)およびそれに付随したグループワーク。 復習：【第 1 回】で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。
2	中川　優一	【第 2 回】 予習：Unit 8 (Event & Workshop, pp. 84-87)を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 8 (Event & Workshop, pp. 84-87)およびそれに付随したグループワーク。 復習：【第 2 回】で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。
3	中川　優一	【第 3 回】 予習：Unit 9 (Daily Life, pp.88-91)を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 9 (Daily Life, pp.88-91)およびそれに付随したグループワーク。 復習：【第 3 回】で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。
4	中川　優一	【第 4 回】 予習：Unit 9 (Daily Life, pp.92-95)を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 9 (Daily Life, pp.92-95)およびそれに付随したグループワーク。 復習：【第 4 回】で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。
5	中川　優一	【第 5 回】 予習：Unit 10 (Shopping, pp.96-99)を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 10 (Shopping, pp.96-99)およびそれに付随したグループワーク。 復習：【第 5 回】で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。
6	中川　優一	【第 6 回】 予習：Unit 10 (Shopping, pp.100-103)を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 10 (Shopping, pp.100-103)およびそれに付随したグループワーク。 復習：【第 6 回】で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。
7	中川　優一	【第 7 回】 予習：第 1 回から第 6 回までの復習 授業：後期前半のまとめを行なう。 復習：まとめでわからなかったところの確認。
8	中川　優一	【第 8 回】 予習：Unit 11 (Entertainment & Going Out, pp.104-107)を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：後期前半のまとめのフィードバック及び Unit 11 (Entertainment & Going Out, pp.104-107)およびそれに付随したグループワーク。 復習：【第 8 回】で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。
9	中川　優一	【第 9 回】 予習：Unit 11 (Entertainment & Going Out, pp.108-111)を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 11 (Entertainment & Going Out, pp.108-111)およびそれに付随したグループワーク。 復習：第 9 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。
10	中川　優一	【第 10 回】 予習：Unit 12 (Recruiting, pp.112-115)を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 12 (Recruiting, pp.112-115)およびそれに付随したグループワーク。 復習：【第 10 回】で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。
11	中川　優一	【第 11 回】 予習：Unit 12 (Recruiting, pp.116-120)を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 12 (Recruiting, pp.116-120)およびそれに付随したグループワーク。 復習：【第 11 回】で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。

12	中川　優一	【第 12 回】 予習：Unit 13 (Media, pp.121-124)を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 13 (Media, pp.121-124)およびそれに付随したグループワーク。 復習：第 12 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。
13	中川　優一	【第 13 回】 予習：Unit 13 (Media, pp.125-128)を概観し、わからない単語等を調べておく。 授業：Unit 13 (Media, pp.125-128)およびそれに付随したグループワーク。 復習：第 13 回で学んだ内容（特に単語と文法）を見直す。
14	中川　優一	【第 14 回】 予習：第 9 回から第 13 回までの復習 授業：後期後半のまとめを行なう。 復習：まとめでわからなかったところの確認。
15	中川　優一	【第 15 回】 予習：試験の復習。 授業：まとめのフィードバック。 復習：今後に向けて、不十分な点を確認。

授業開始前学習	高校までの英単語、英文法をできるだけ見直しておくこと。映画・音楽・テレビ・新聞など、英語に触れる機会を多く持ち、興味がある文章や単語を、辞書で調べること。
授業内課題のフィードバックの方法	毎時間授業内で小テストを行う。また、課題提出を適宜行い、返却時に確認する。
テキスト・教材	POSITIVE STEPS TO THE TOEIC® L&R TEST TOEIC® L&R テスト：スコアアップのための能動型学習、 本田美邦里 / 駒井亜紀子 著 、 2025 年、金星堂
参考書	
評価の基準と方法	平常点 40%（小テスト、課題提出、Presentation、授業態度等）および定期試験 60%を総合して評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	
その他	出席を重視する。全授業数の３分の１以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻３回で欠席１回とみなす。講義開始後３０分以上の遅刻は欠席とみなす。その他、１回目の授業で説明する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-232 CT-L-232	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-22	授業コード	F02464
科目名称	英語 BⅣ			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishBⅣ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	長谷 陸			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	長谷 陸			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	英語ＢⅢに引き続き、英語ＢⅣではあらゆる英文に対応できる発展的読解力のさらなる育成を目指す。ただし、リーディングに特化するのではなく、英語の運用能力向上のために、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動も行う。				
到達目標	複雑な構文で書かれた英文を聞き取り、理解することができる。複雑な構文で書かれた英文を読むと理解できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	長谷 陸	【第 1 回】 予習 ：前期の英語学習を振り返る。シラバスを確認する。 授業 ：ガイダンス(授業の進め方の説明、評価の基準と方法など) 復習 ：授業の内容を振り返る。
2	長谷 陸	【第 2 回】 予習 ：教科書の単語を予習する。 授業 ：Unit7 ペア・グループワーク 復習 ：授業の内容を振り返る。
3	長谷 陸	【第 3 回】 予習 ：教科書の本文を予習する。 授業 ：Unit7 続き ペア・グループワーク 復習 ：授業の内容を振り返る。
4	長谷 陸	【第 4 回】 予習 ：教科書の単語を予習する。 授業 ：Unit8 ペア・グループワーク 復習 ：授業の内容を振り返る。
5	長谷 陸	【第 5 回】 予習 ：教科書の単語を予習する。 授業 ：Unit8 続き ペア・グループワーク 復習 ：授業の内容を振り返る。
6	長谷 陸	【第 6 回】 予習 ：教科書の単語を予習する。 授業 ：Unit9 ペア・グループワーク 復習 ：授業の内容を振り返る。
7	長谷 陸	【第 7 回】 予習 ：教科書の本文を予習する。 授業 ：Unit9 続き ペア・グループワーク 復習 ：授業の内容を振り返る。
8	長谷 陸	【第 8 回】 予習 ：第 2 ～7 回の授業を振り返る。 授業 ：後期前半の授業のまとめ 復習 ：授業の内容を振り返る。
9	長谷 陸	【第 9 回】 予習 ：教科書の単語を予習する。 授業 ：Unit10 ペア・グループワーク 復習 ：授業の内容を振り返る。
10	長谷 陸	【第 10 回】 予習 ：教科書の本文を予習する。 授業 ：Unit10 続き ペア・グループワーク 復習 ：授業の内容を振り返る。
11	長谷 陸	【第 11 回】 予習 ：教科書の単語を予習する。 授業 ：Unit11 ペア・グループワーク 復習 ：授業の内容を振り返る。

12	長谷 陸	【第 12 回】 予習 ：教科書の本文を予習する。 授業 ：Unit11 続き ペア・グループワーク 復習 ：授業の内容を振り返る。
13	長谷 陸	【第 13 回】 予習 ：教科書の単語を予習する。 授業 ：Unit12 ペア・グループワーク 復習 ：授業の内容を振り返る。
14	長谷 陸	【第 14 回】 予習 ：教科書の本文を予習する。 授業 ：Unit24 ペア・グループワーク 復習 ：授業の内容を振り返る。
15	長谷 陸	【第 15 回】 予習 ：第 9～14 回の授業を振り返る。 授業 ：後期後半の授業のまとめ 復習 ：後期の授業を振り返る。

授業開始前学習	国際的なニュースや自分の興味のある文化(映画、音楽、スポーツなど)を通して英語に触れること。
授業内課題のフィードバックの方法	授業の冒頭で小テストを行い、翌週の返却時に解説を行う。第 8 回、第 15 回の授業で振り返りを行う。
テキスト・教材	ジョノ・デイビッド編著『What's That You Say?　自ら発信するための英語力養成講座』(南雲堂)
参考書	英和辞典、和英辞典(電子辞書可)
評価の基準と方法	平常点 40%（小テスト、課題提出、授業態度等）および定期試験 60%を総合して評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	
その他	出席を重視する。全授業数の 3 分の 1 以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。講義開始後 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。その他、1 回目の授業で説明する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-232 CT-L-232	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-22	授業コード	F02465
科目名称	英語 BⅣ			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishBⅣ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	遠藤　玲奈			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	遠藤　玲奈			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	英語ＢⅢに引き続き、英語ＢⅣではあらゆる英文に対応できる発展的読解力のさらなる育成を目指す。ただし、リーディングに特化するのではなく、英語の運用能力向上のために、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動も行う。				
到達目標	複雑な構文で書かれた英文を聞き取り、理解することができる。複雑な構文で書かれた英文を読むと理解できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	遠藤　玲奈	【第 1 回】 予習：Unit 8（全体）を読み、分からない単語を調べておく 授業：Unit 8（前半）、グループワーク 復習：授業中の活動を振り返る
2	遠藤　玲奈	【第 2 回】 予習：前回の復習をし、授業内で行う小テストの準備をする 授業：Unit 8（後半）、グループワーク、Unit 8（全体）の小テスト 復習：授業中の活動を振り返る
3	遠藤　玲奈	【第 3 回】 予習：Unit 9（全体）を読み、分からない単語を調べておく 授業：Unit 9（前半）、グループワーク 復習：授業中の活動を振り返る。返却された小テストの復習をする
4	遠藤　玲奈	【第 4 回】 予習：前回の復習をし、授業内で行う小テストの準備をする 授業：Unit 9（後半）、グループワーク、Unit 9（全体）の小テスト 復習：授業中の活動を振り返る
5	遠藤　玲奈	【第 5 回】 予習：Unit 10（全体）を読み、分からない単語を調べておく 授業：Unit 10（前半）、グループワーク 復習：授業中の活動を振り返る。返却された小テストの復習をする
6	遠藤　玲奈	【第 6 回】 予習：前回の復習をし、授業内で行う前期前半の振り返りの準備をする 授業：Unit 10（後半）、グループワーク、前期前半の振り返り 復習：授業中の活動を振り返る
7	遠藤　玲奈	【第 7 回】 予習：Unit 11（全体）を読み、分からない単語を調べておく 授業：Unit 11（前半）、グループワーク 復習：授業中の活動を振り返る
8	遠藤　玲奈	【第 8 回】 予習：前回の復習をし、授業内で行う小テストの準備をする 授業：Unit 11（後半）、グループワーク、Unit 11（全体）の小テスト 復習：授業中の活動を振り返る
9	遠藤　玲奈	【第 9 回】 予習：Unit 12（全体）を読み、分からない単語を調べておく 授業：Unit 12（前半）、グループワーク 復習：授業中の活動を振り返る。返却された小テストの復習をする
10	遠藤　玲奈	【第 10 回】 予習：前回の復習をし、授業内で行う小テストの準備をする 授業：Unit 12（後半）、グループワーク、Unit 12（全体）小テスト 復習：授業中の活動を振り返る
11	遠藤　玲奈	【第 11 回】 予習：Unit 13（全体）を読み、分からない単語を調べておく 授業：Unit 13（前半）、グループワーク 復習：授業中の活動を振り返る。返却された小テストの復習をする

12	遠藤　玲奈	【第 12 回】 予習：前回の復習をし、授業内で行う小テストの準備をする 授業：Unit 13（後半）、グループワーク、Unit 13（全体）小テスト 復習：授業中の活動を振り返る
13	遠藤　玲奈	【第 13 回】 予習：Unit 14（全体）を読み、分からない単語を調べておく 授業：Unit 14（前半）、グループワーク 復習：授業中の活動を振り返る。返却された小テストの復習をする
14	遠藤　玲奈	【第 14 回】 予習：前回の復習をし、授業内で行う前期後半の振り返りの準備をする 授業：Unit 14（後半）、グループワーク、前期後半の振り返り 復習：自分の課題を見つけ対策を立てる
15	遠藤　玲奈	【第 15 回】 予習：今まで授業で学んだことを振り返る 授業：一年間のまとめ 復習：自分の課題を見つけ対策を立てる

授業開始前学習	映画・音楽・テレビ・新聞など、英語に触れる機会を多く持つこと。また、学習予定の Unit の内容・単語の予習と小テストの準備を必ず行うこと。
授業内課題のフィードバックの方法	2 週に 1 回、各 Unit の学習を終えたところで小テストを行う。翌週、返却時に解説を行う。授業 7 回目、15 回目に授業内容の振り返りを行い、クラスおよび個別の質問に回答する。
テキスト・教材	Kameyama Hiroyuki, Esther Waer『English Communication for Creatives』（南雲堂）
参考書	授業内で適宜紹介する。
評価の基準と方法	平常点 40%（小テスト、課題提出、授業態度等）および定期試験 60%を総合して評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	
その他	出席を重視する。全授業数の 3 分の 1 以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。講義開始後 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。その他、1 回目の授業で説明する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-232 CT-L-232	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-22	授業コード	F02466
科目名称	英語 BⅣ			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishBⅣ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	鈴木　悠理			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鈴木　悠理			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	本科目では前期に引き続き、あらゆる英文に対応できる発展的読解力のさらなる育成を目指す。ただし、リーディングに特化するのではなく、英語の基礎的な運用能力向上のために、ペア・グループワークやディスカッション等の活動も行う。				
到達目標	複雑な構文で書かれた英文を聞き取り、理解することができる。複雑な構文で書かれた英文を読み、理解することができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	鈴木　悠理	【第 1 回】 予習：シラバスを確認する。Vocabulary パートの問題を解く。Reading パートの音声を聞き、音読をする。 授業：Unit 7（前半）リーディング、ペア・グループワーク 復習：間違えた問題を解き直す。ペア・グループワークを振り返る。後期の目標を立てる。
2	鈴木　悠理	【第 2 回】 予習：Reading パートの音声を聞き、音読をする。小テストの準備をする。 授業：Unit 7（後半）リーディング、グループワーク、Unit 7（全体）小テスト 復習：ペア・グループワークを振り返る。小テストを振り返る。
3	鈴木　悠理	【第 3 回】 予習：Vocabulary パートの問題を解く。Reading パートの音声を聞き、音読をする。 授業：Unit 8（前半）リーディング、ペア・グループワーク 復習：間違えた問題を解き直す。ペア・グループワークを振り返る。
4	鈴木　悠理	【第 4 回】 予習：Reading パートの音声を聞き、音読をする。小テストの準備をする。 授業：Unit 8（後半）リーディング、ペア・グループワーク、Unit 8（全体）小テスト 復習：ペア・グループワークを振り返る。小テストを振り返る。
5	鈴木　悠理	【第 5 回】 予習：Vocabulary パートの問題を解く。Reading パートの音声を聞き、音読をする。 授業：Unit 9（全体）リーディング、ペア・グループワーク 復習：間違えた問題を解き直す。ペア・グループワークを振り返る。
6	鈴木　悠理	【第 6 回】 予習：Vocabulary パートの問題を解く。Reading パートの音声を聞き、音読をする。 授業：Unit 10（前半）リーディング、ペア・グループワーク 復習：間違えた問題を解き直す。ペア・グループワークを振り返る。
7	鈴木　悠理	【第 7 回】 予習：Reading パートの音声を聞き、音読をする。小テストの準備をする。 授業：Unit 10（後半）リーディング、ペア・グループワーク、Unit 10（全体）小テスト 復習：ペア・グループワークを振り返る。小テストを振り返る。
8	鈴木　悠理	【第 8 回】 予習：Unit 7～10 を振り返り、分からない単語の調べ直しや間違えた問題の解き直しをする。 授業：Unit 7～10 振り返り 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。間違えた問題を解き直す。
9	鈴木　悠理	【第 9 回】 予習：Vocabulary パートの問題を解く。Reading パートの音声を聞き、音読をする。 授業：Unit 11（前半）リーディング、ペア・グループワーク 復習：間違えた問題を解き直す。ペア・グループワークを振り返る。
10	鈴木　悠理	【第 10 回】 予習：Reading パートの音声を聞き、音読をする。小テストの準備をする。 授業：Unit 11（後半）リーディング、ペア・グループワーク、Unit 11（全体）小テスト 復習：ペア・グループワークを振り返る。小テストを振り返る。
11	鈴木　悠理	【第 11 回】 予習：Vocabulary パートの問題を解く。Reading パートの音声を聞き、音読をする。 授業：Unit 13（前半）リーディング、ペア・グループワーク 復習：間違えた問題を解き直す。ペア・グループワークを振り返る。

12	鈴木　悠理	【第 12 回】 予習：Reading パートの音声を聞き、音読をする。小テストの準備をする。 授業：Unit 13（後半）リーディング、ペア・グループワーク、Unit 13（全体）小テスト 復習：ペア・グループワークを振り返る。小テストを振り返る。
13	鈴木　悠理	【第 13 回】 予習：Vocabulary パートの問題を解く。Reading パートの音声を聞き、音読をする。 授業：Unit 14（前半）リーディング、ペア・グループワーク 復習：間違えた問題を解き直す。ペア・グループワークを振り返る。
14	鈴木　悠理	【第 14 回】 予習：Reading パートの音声を聞き、音読をする。小テストの準備をする。 授業：Unit 14（後半）リーディング、ペア・グループワーク、Unit 14（全体）小テスト 復習：ペア・グループワークを振り返る。小テストを振り返る。
15	鈴木　悠理	【第 15 回】 予習：後期の学習を振り返り、分からない単語の調べ直しや間違えた問題の解き直しをする。 授業：後期の学習　振り返り 復習：学習した語句・表現・文法を振り返る。間違えた問題を解き直す。

授業開始前学習	時事ニュースや文化（映画・音楽・ファッションなど）を通して英語に触れる機会を持つこと。
授業内課題のフィードバックの方法	約 2 週に 1 回、各 Unit の学習を終えたところで小テストを行う。翌週、返却時に解説を行う。授業 8 回目、15 回目に授業内容の復習を行い、クラスおよび個別の質問に回答する。
テキスト・教材	Arnold Arano、三原京、巳波義典、木村博是『Answers to Everyday Questions 2〈Pre-Intermediate〉身近な不思議を英語で学ぶ〈準中級〉』（南雲堂） *前期と同じテキスト
参考書	英和辞典・和英辞典は必須（電子辞典可）。その他は授業内で適宜紹介する。
評価の基準と方法	平常点 40%（授業参加態度、小テスト、課題提出など）および定期試験 60%を総合して評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	
その他	出席を重視する。全授業の 3 分の 1 以上を欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。その他、公欠についてなどは第 1 回の授業で説明する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-232 CT-L-232	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-22	授業コード	F02467
科目名称	英語 BⅣ			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishBⅣ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	境　奈津希			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	境　奈津希			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	英語ＢⅢに引き続き、英語ＢⅣではあらゆる英文に対応できる発展的読解力のさらなる育成を目指す。ただし、リーディングに特化するのではなく、英語の運用能力向上のために、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動も行う。				
到達目標	複雑な構文で書かれた英文を聞き取り、理解することができる。複雑な構文で書かれた英文を読むと理解できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	境　奈津希	【第 1 回】 予習：Unit 13 Vocabulary に取り組む 授業：オリエンテーション、Unit 13 接続詞(1)（教科書 p.73-78）（グループワーク、ディスカッション） 復習：Unit 13 Grammar Practice に取り組む
2	境　奈津希	【第 2 回】 予習：Unit 14 Vocabulary に取り組む 授業：Unit 14 受動態（教科書 p.79-84）（グループワーク、ディスカッション） 復習：Unit 14 Grammar Practice に取り組む
3	境　奈津希	【第 3 回】 予習：Unit 15 Vocabulary に取り組む 授業：Unit 15 頻度を表す副詞（教科書 p.85-90）（グループワーク、ディスカッション） 復習：Unit 15 Grammar Practice に取り組む
4	境　奈津希	【第 4 回】 予習：Unit 16 Vocabulary に取り組む 授業：Unit 16 形容詞（教科書 p.91-96）（グループワーク、ディスカッション） 復習：Unit 16 Grammar Practice に取り組む
5	境　奈津希	【第 5 回】 予習：Unit 17 Vocabulary に取り組む 授業：Unit 17 原級、比較級、最上級（教科書 p.97-102）（グループワーク、ディスカッション） 復習：Unit 17 Grammar Practice に取り組む
6	境　奈津希	【第 6 回】 予習：Unit 17 Vocabulary に取り組む 授業：Unit 17 原級、比較級、最上級（教科書 p.97-102）（グループワーク、ディスカッション） 復習：Unit 17 Grammar Practice に取り組む
7	境　奈津希	【第 7 回】 予習：Unit 13-17 Vocabulary を確認する 授業：Unit 13-17 の復習（教科書 p.97-102）（グループワーク、ディスカッション） 復習：Unit 13-17 Grammar Practice を確認する
8	境　奈津希	【第 8 回】 予習： 後期前半に学習したことを復習する 授業： 後期前半の振り返り 復習： 後期前半に学習したことを確認する
9	境　奈津希	【第 9 回】 予習：Unit 18 Vocabulary に取り組む 授業：Unit 18 前置詞（教科書 p.103-108）（グループワーク、ディスカッション） 復習：Unit 18 Grammar Practice に取り組む
10	境　奈津希	【第 10 回】 予習：Unit 19 Vocabulary に取り組む 授業：Unit 19 接続詞(2)（教科書 p.109-114）（グループワーク、ディスカッション） 復習：Unit 19 Grammar Practice に取り組む
11	境　奈津希	【第 11 回】 予習：Unit 20 Vocabulary に取り組む 授業：Unit 20 不定詞と動名詞（教科書 p.115-120）（グループワーク、ディスカッション） 復習：Unit 20 Grammar Practice に取り組む

12	境　奈津希	【第 12 回】 予習：Unit 20 Vocabulary に取り組む 授業：Unit 20　不定詞と動名詞（教科書 p.115-120）（グループワーク、ディスカッション） 復習：Unit 20 Grammar Practice に取り組む
13	境　奈津希	【第 13 回】 予習：Unit 21 Vocabulary に取り組む 授業：Unit 21　関係詞（教科書 121-126）（グループワーク、ディスカッション） 復習：Unit 21 Grammar Practice に取り組む
14	境　奈津希	【第 14 回】 予習：Unit 18-21 Vocabulary を確認する 授業：Unit 18-21 の復習（教科書 p.103-126）（グループワーク、ディスカッション） 復習：Unit 18-21 Grammar Practice を確認する
15	境　奈津希	【第 15 回】 予習：　後期後半に学習したことを復習する 授業：　後期後半の振り返り 復習：　後期に学習したことを確認する

授業開始前学習	中学校、高等学校、英語Ⅲの授業で学んだことを再確認しておきましょう。
授業内課題のフィードバックの方法	授業冒頭で小テストを行い、返却時に確認する。
テキスト・教材	Atsuko Yamamoto, Naoko Osuka, Chikako Mano, Kyoko Okamoto, Benedict Rowlett『Living Grammar —New Edition—』（成美堂）
参考書	授業内で適宜配布します。
評価の基準と方法	平常点 40%（小テスト 20%、授業内での取り組み 20%）および定期試験 60%を総合して評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	
その他	出席を重視する。全授業数の 3 分の 1 以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。講義開始後 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。その他、1 回目の授業で説明する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-232 CT-L-232	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-22	授業コード	F02469
科目名称	英語 BⅣ			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishBⅣ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	浅川　真知子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	浅川　真知子			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期　火曜日 09:00～10:30　木曜日 13:00～14:30 後期　火曜日 09:00～10:30　木曜日 13:00～14:30			研究室	10-603
授業概要	英語 BⅣは、標準的な英語を読むために必要な力を養うことを目的としている。ただし読解力に限らず、英語の基礎的な運用能力向上のために、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動を行い総合的な英語力を養う。				
到達目標	標準的な構文で書かれた英文を読み、内容やその意図を理解することができる。読んだ文章をもとに、標準的な表現を使って、書いたり話したりすることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	浅川　真知子	【第 1 回】 予習　：後期の目標を確認する 授業　：Unit 8 "Hanging Out in Streets and Parks" 復習　：学んだ語句・表現を復習する
2	浅川　真知子	【第 2 回】 予習　：単語練習、Unit 8 Reading Passage（p.52-53） 授業　：Vocabulary quiz、Unit 8 "Hanging Out in Streets and Parks"（p.52-53）、接続詞 復習　：　テキストを解き直す
3	浅川　真知子	【第 3 回】 予習　：Unit 9 Vocabulary Task（p.57） 授業　：Unit 9　"Plant Burgers Are Popular in America" (p.60-61)、現在完了形 復習　：学んだ語句・表現を復習する
4	浅川　真知子	【第 4 回】 予習　：単語練習、Unit 9 Reading Passage (p.58-59) 授業　：Vocabulary quiz、Unit 9　"Plant Burgers Are Popular in America" (p.58-59)、グループワーク 復習　：　テキストを解き直す
5	浅川　真知子	【第 5 回】 予習　：Unit 10 Vocabulary Task（p.63） 授業　：Unit 10 "South Korean Culture Is Popular Worldwide" (p.66-67)、未来表現 復習　：学んだ語句・表現を復習する
6	浅川　真知子	【第 6 回】 予習　：単語練習、Unit 10 Reading Passage (p.64-65) 授業　：Vocabulary quiz、Unit 10 "South Korean Culture Is Popular Worldwide" (p.64-65)、グループワーク 復習　：　テキストを解き直す
7	浅川　真知子	【第 7 回】 予習　：Unit 8 ～ 1 0の復習 授業　：第 1 回～第 6 回の学習のまとめ 復習　：後期前半の学習を振り返り、課題点を明らかにする
8	浅川　真知子	【第 8 回】 予習　：Unit 11 Vocabulary Task（p.69） 授業　：Unit 11 "Doxing" (p.72-73)、助動詞 復習　：学んだ語句・表現を復習する
9	浅川　真知子	【第 9 回】 予習　：単語練習、Unit 11 Reading Passage (p.70-71) 授業　：Vocabulary quiz、Unit 11 "Doxing" (p.70-71)、グループワーク 復習　：　テキストを解き直す
10	浅川　真知子	【第 10 回】 予習　：Unit 12 Vocabulary Task（p.75） 授業　：Unit 12 "Fast Movies" (p.78-79)、受動態 復習　：学んだ語句・表現を復習する
11	浅川　真知子	【第 11 回】 予習　：単語練習、Unit 12 Reading Passage (p.76-77) 授業　：Vocabulary quiz、Unit 12 "Fast Movies" (p.76-77)、グループワーク 復習　：　テキストを解き直す

12	浅川　真知子	【第 12 回】 予習　：Unit 13 Vocabulary Task（p.81） 授業　：Unit 13 "Do We Need a Dislike Button on Social Media?" (p.84-85)、形容詞・副詞 復習　：学んだ語句・表現を復習する
13	浅川　真知子	【第 13 回】 予習　：単語練習、Unit 13 Reading Passage (p.82-83) 授業　：Vocabulary quiz、Unit 13 "Do We Need a Dislike Button on Social Media?" (p.82-83)、グループワーク 復習　：　テキストを解き直す
14	浅川　真知子	【第 14 回】 予習　：プレゼンテーション準備 授業　：Unit 8 ～13 のトピックについてプレゼンテーション・ピアフィードバック① 復習　：後期の学習を振り返る
15	浅川　真知子	【第 15 回】 予習　：プレゼンテーション準備 授業　：Unit 8 ～13 のトピックについてプレゼンテーション・ピアフィードバック② 復習　：後期の学習を振り返る

授業開始前学習	映画・音楽・テレビ・新聞など、英語に触れる機会を多く持つこと。
授業内課題のフィードバックの方法	小テスト・活動・課題に対するフィードバックはその都度授業中や返却時に行う。
テキスト・教材	『Trend Scope / 読んで発信、社会のいま』, Jonathan Lynch, Kotaro Shitori, 成美堂（ISBN:9784791972654）
参考書	授業で適宜紹介する。
評価の基準と方法	平常点 40%（授業への参加度・課題提出・小テスト等）、および定期試験 60%を総合して評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	
その他	出席を重視する。全授業数の 3 分の 1 以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。講義開始後 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。その他、1 回目の授業で説明する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-232 CT-L-232	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-22	授業コード	F02484
科目名称	英語 BⅣ			単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishBⅣ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	薬師　英子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	薬師　英子			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期　火曜日 10:00～13:00 後期　火曜日 10:00～13:00			研究室	10-55
授業概要	英語 BⅢに引き続き、英語 B Ⅳではあらゆる英文に対応できる発展的読解力のさらなる育成を目指す。ただし、リーディングに特化するのではなく、英語の運用能力向上のために、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等の活動を行う。				
到達目標	複雑な構文で書かれた英文を、聞き取り理解できる。複雑な構文で書かれた英文を、読むと理解できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	薬師　英子	【第 1 回】 予習　：自分の英語学習を振り返る 授業　：Talk about your Summer Vacation / Reveiw of the first term & Introduction（グループワーク） 復習　：家庭学習を考える
2	薬師　英子	【第 2 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：Unit 8 How English Grew & Grows (pp.29~32) 復習　：Unit 8 How English Grew & Grows の新出単語・重要熟語・文法事項の復習
3	薬師　英子	【第 3 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：Unit 9 Hudson River Miracle (pp.33~36) 復習　：Unit 9 Hudson River Miracle の新出単語・重要熟語・文法事項の復習
4	薬師　英子	【第 4 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：Review of Unit 8 & Unit 9（グループワーク） 復習　：Unit 8 How English Grew & Grows・Unit 9 Hudson River Miracle の英語要約と文法 Exercise
5	薬師　英子	【第 5 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：Unit 10 Odd Crimes (pp.37~40) 復習　：Unit 10 Odd Crimes の新出単語・重要熟語・文法事項の復習
6	薬師　英子	【第 6 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：Unit 11 The Lucky Traveler (pp.41~44) 復習　：Unit 11 The Lucky Traveler の新出単語・重要熟語・文法事項の復習
7	薬師　英子	【第 7 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：Review of Unit 10 & 11　（グループワーク＆プレゼンテーション） 復習　：Unit 10 Odd Crimes・Unit 11 The Lucky Traveler の英語要約と文法 Exercise
8	薬師　英子	【第 8 回】 予習　：ここまでの授業を総復習する 授業　：中間のまとめ 復習　：まとめを振り返る
9	薬師　英子	【第 9 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：Unit 12 Are Men Losing? (pp.45~48) 復習　：Unit 12 Are Men Losing?の新出単語・重要熟語・文法事項の復習
10	薬師　英子	【第 10 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：Unit 13 Super-Sized Dream (pp.49~52) 復習　：Unit 13 Super-Sized Dream の新出単語・重要熟語・文法事項の復習
11	薬師　英子	【第 11 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：Review of Unit 12 & 13（グループワーク） 復習　：Unit 12 Are Men Losing?・Unit 13 Super-Sized Dream の英語要約と文法 Exercise

12	薬師　英子	【第 12 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：Unit 14 It's Against the Law (pp.53~54) 復習　：Unit 14 It's Against the Law の新出単語・重要熟語・文法事項の復習
13	薬師　英子	【第 13 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：Unit 15 Black Sunday (pp.55~56) 復習　：Unit 15 Black Sunday の新出単語・重要熟語・文法事項の復習
14	薬師　英子	【第 14 回】 予習　：教科書の該当箇所を読む 授業　：Review of Unit 14 &15　（グループワーク） 復習　：Unit 14 It's Against the Law・Unit 15 Black Sunday の英語要約と文法 Exercise
15	薬師　英子	【第 15 回】 予習　：今まで授業で学んだことを振り返る 授業　：Overall Review（プレゼンテーション） 復習　：自分の課題を見つけ対策を立てる

授業開始前学習	学習予定の Unit の内容・単語の予習と小テストに向けての学習を必ず行うこと。映画・音楽・テレビ・新聞記事など、英語に触れる機会を多く持ち、国際的な事柄に積極的に興味を持つこと。
授業内課題のフィードバックの方法	毎時間授業の冒頭で小テストを行う。授業 8 回目、15 回目に提出するまとめについては、全体の講評を行い、個別の質問に回答する。
テキスト・教材	Robert Juppe、馬場　幸雄『Premium Reader ~Elementary~』（金星堂）
参考書	授業中に紹介する。
評価の基準と方法	試験 60%、平常点 40%（小テスト、課題提出、Presentation、授業態度）
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	英語
その他	出席を重視する。単位認定には全授業数の 3 分の 2 以上の出席を必須とする。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。講義開始後 30 分以上の遅刻、早退は欠席とみなす。テキスト忘れ、授業内での携帯電話使用等は授業参加の減点対象とする。その他、1 回目の授業で説明する。欠席した回の授業内容はシラバスや配信資料等を確認し、各自フォローアップする。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）	CS-L-132 CT-L-132 SD-L-132	科目分類（～2024年入学者）	100-131-21	授業コード	F02611
科目名称	英会話Ⅰ			単位数	1.0単位
英文名称	English Conversation Ⅰ			授業区分	演習
科目責任者	K.バーンズ			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	K.バーンズ			開講時期	1・2年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	The emphasis of this class will be on speaking. However, listening, reading and writing will also be developed. This class though, focuses on improving the productive skills of speaking. In principle, lessons are conducted in English. If we are online we will still do speaking using software.				
到達目標	After this class, students will be able to communicate more freely in English. They will be able to have a basic conversation in English.				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	K.バーンズ	【第1回】 予習　：Read pp. 9-12 in the textbook/ Listen to CD, tracks 3-7 授業　：Self-Introductions/Course goals 復習　：Review notes/ Do homework
2	K.バーンズ	【第2回】 予習　：Read pp. 13-16/ Listen to tracks 10-14 授業　：Talking about entertainment ? movies and music 復習　：Review notes/ Do homework
3	K.バーンズ	【第3回】 予習　：Read pp. 17-20/ Listen to tracks 17-21 授業　：Talking about art and impressions 復習　：Review notes/ Do homework
4	K.バーンズ	【第4回】 予習　：Read pp. 21-24 /Listen to tracks 24-28 授業　：Talking about family members 復習　：Review notes/ Do homework p. 84
5	K.バーンズ	【第5回】 予習　：Prepare a short talk about your family 授業　：Talking about family customs and traditions 復習　：Review　notes/ Do homework
6	K.バーンズ	【第6回】 予習　：Prepare any questions you have about class material 授業　：Consolidation and review 復習　：Reread textbook pp.9-24
7	K.バーンズ	【第7回】 予習　：Prepare several topics you want to talk about 授業　：Conversation advice and coaching 復習　：Write self-evaluation for your conversation practice
8	K.バーンズ	【第8回】 予習　：Review all homework assignments 授業　：General review 復習　：Reread textbook pp.9-24
9	K.バーンズ	【第9回】 予習　：Read pp. 25-28/ Listen to tracks 31-35 授業　：Talking about beliefs and fears 復習　：Review notes/ Do homework
10	K.バーンズ	【第10回】 予習　：Read pp. 29-32/ Listen to tracks 38-43 授業　：Talking about experiences 復習　：Review notes/ Do homework

11	K.バーンズ	【第 11 回】 予習　: Read pp. 33-36/ Listen to tracks 46-48 授業　: Telling stories 復習　: Review notes/ Do homework
12	K.バーンズ	【第 12 回】 予習　: Prepare some sentences about your plans for summer vacation 授業　: Talking about future plans 復習　: Review　notes/ Do homework
13	K.バーンズ	【第 13 回】 予習　: Prepare any questions you have about class material 授業　: Consolidation and review 復習　: Reread textbook pp.25-36
14	K.バーンズ	【第 14 回】 予習　: Prepare several topics you want to talk about 授業　: Conversation advice and coaching 復習　: Write self-evaluation for your conversation practice
15	K.バーンズ	【第 15 回】 予習　: Review all homework assignments 授業　: General review 復習　: Reread textbook pp.9-36

授業開始前学習	Before the class starts students can prepare by listening to English recordings and reading English books, magazines or comics.　Look up words in the dictionary.
授業内課題のフィードバックの方法	Once class starts, homework assignments will be provided after each class to help students review and better understand the material.
テキスト・教材	Impact Conversation 1　Kirsten Sullivan, Todd Beuckens (Pearson Longman)
参考書	
評価の基準と方法	Students are evaluated on a total of class participation points of 40% (mini tests, submitted coursework, presentations, class participation etc.)　and regular examinations 60%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎				△	○

関連科目	English Conversation
その他	It is important for students to attend each class.　Credit will not be given to students who miss more than a third of the classes.　3 late arrivals will be counted as 1 absence.　Arrival after 30 minutes or more after the start of class will be counted a
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-132 CT-L-132 SD-L-132	科目分類（～2024 年入学者）	100-131-21	授業コード	F02612
科目名称	英会話 I			単位数	1.0 単位
英文名称	English Conversation I			授業区分	演習
科目責任者	D.バートレイ			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	D.バートレイ			開講時期	1・2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	This course aims at enjoyment & interest. When you are interested in something, you will enjoy doing it, so this class is based on enjoyment & interest. The key to success in anything you do depends on how interesting it is & how much you enjoy doing it. Through interest & enjoyment, you will improve your ability to speak English.				
到達目標	The goal of this class is a purely practical one: to get you to speak English better. To do this, we must find out what you are interested in because when you are interested in something, you will want to talk about it. So our lessons are designed to be i				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	D.バートレイ	【第 1 回】 予習 : Getting settled in 授業 : Course Introduction: I will explain the policies (attendance, participation & assignments) & protocols (contact, feedback & evaluation) of this course. 復習 : generally assess the English you have studied from high school unt
2	D.バートレイ	【第 2 回】 予習 : Checking class materials (paper, dictionary, writing implements). 授業 : Preparation: What things interest you? 復習 : Take stock of the English you have studied up until now.
3	D.バートレイ	【第 3 回】 予習 : Review all class notes from the previous lesson, Q&A 授業 : Practice: talking about what interests you with your classmates & I will explain how to prepare your class notes so that you can express your thoughts more easily. 復習 : Review today’s exp
4	D.バートレイ	【第 4 回】 予習 : Study your class notes in preparation for our discussion of the 1st topic. 授業 : Begin our first group discussion on the 1st topic. 復習 : Review & revise your class in preparation for our next discussion.
5	D.バートレイ	【第 5 回】 予習 : Review class notes by going over the important points we discussed in the last lesson, Q&A 授業 : Continue the discussion of the 1st topic. 復習 : Review & revise your class in preparation for our next discussion.
6	D.バートレイ	【第 6 回】 予習 : Review class notes by going over the important points we discussed in the last lesson 授業 : Conclude our discussion of the 1st topic by presenting your final points or arguments to the group. 復習 : Review & revise your class note in order to write y
7	D.バートレイ	【第 7 回】 予習 : Prepare to announce & decide the 2nd topic of discussion. 授業 : Decide the 2nd topic & have a free discussion on the second most popular topic decided by your group. 復習 : Prepare your class notes by gathering information about the topic so that yo
8	D.バートレイ	【第 8 回】 予習 : Review the class notes you prepared for today's discussion. 授業 : Begin your group's discussion on the 2nd topic. 復習 : Review & revise your class in preparation for our next discussion.
9	D.バートレイ	【第 9 回】 予習 : Review class notes by going over the important points we discussed in the last discussion, Q&A 授業 : Continue the discussion of the 2nd topic. 復習 : Review & revise your class in preparation for our next discussion.

10	D.バートレイ	【第 10 回】 予習：Review class notes by going over the important points we discussed in the last lesson, Q&A. 授業：Conclude our discussion of the 2nd topic by presenting your final points or arguments to the group. 復習：Review & revise your class note in order to
11	D.バートレイ	【第 11 回】 予習：Prepare to announce & decide the 3rd topic of discussion. 授業：Decide the 3rd topic & have a free discussion on the second most popular topic decided by your group. 復習：Prepare your class notes by gathering information about the topic so that y
12	D.バートレイ	【第 12 回】 予習：Review the class notes you prepared for today's discussion. 授業：Begin your group's discussion on the 3rd topic. 復習：Review & revise your class in preparation for our next discussion.
13	D.バートレイ	【第 13 回】 予習：Review class notes by going over the important points we discussed in the last discussion, Q&A 授業：Continue the discussion of the 2nd topic. 復習：Review & revise your class in preparation for our next discussion.
14	D.バートレイ	【第 14 回】 予習：Review class notes by going over the important points we discussed in the last lesson, Q&A. 授業：Conclude our discussion of the 3rd topic by presenting your final points or arguments to the group. 復習：Review & revise your class note in order to
15	D.バートレイ	【第 15 回】 予習：Prepare to submit all post-discussion rewrites (optional activity). 授業：We will have a general assessment of our progress this semester. 復習：Students will complete their final reports & submit them to me by email.

授業開始前学習	Students are encouraged to encounter English in their daily lives whenever & wherever possible whether it be watching TV, listening to music, or reading English newspapers.
授業内課題のフィードバックの方法	Feedback is an essential part of the course & is embedded in every lesson. A thorough review of the previous lesson is assessed in the daily lesson activities which provide ample opportunities for both the student & the teacher to appraise her level of pr
テキスト・教材	No textbook is assigned for this course. All necessary & relevant materials will be provided by the teacher. However, every student is required to bring paper, a dictionary, & writing implements to every lesson.
参考書	notebook, dictionary, pen & pencil
評価の基準と方法	continuous assessment based on attendance, participation & post-discussion reports（100%）.
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎				△	○

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）	CS-L-132 CT-L-132 SD-L-132	科目分類（～2024年入学者）	100-131-21	授業コード	F02621
科目名称	英会話Ⅱ			単位数	1.0単位
英文名称	English ConversationⅡ			授業区分	演習
科目責任者	K.バーンズ			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	K.バーンズ			開講時期	1・2年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	The emphasis of this class will be on speaking. However, listening, reading and writing will also be developed. This class though, focuses on improving the productive skills of speaking. In principle, lessons are conducted in English. If we are online we will still do speaking using software.				
到達目標	After this class, students will be able to communicate more freely in English. They will be able to have a basic conversation in English.				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	K.バーンズ	【第1回】 予習　：Read pp. 37-40 in the textbook/ Listen to CD, tracks 51-55 授業　：Self-Introductions/Course goals 復習　：Review notes/ Do homework
2	K.バーンズ	【第2回】 予習　：Read pp. 45-48/ Listen to tracks 58-59 授業　：Taking about health and habits 復習　：Review notes/ Do homework
3	K.バーンズ	【第3回】 予習　：Read pp. 49-52/ Listen to track 62 授業　：Talking about friends and relationships 復習　：Review notes/ Do homework
4	K.バーンズ	【第4回】 予習　：Read pp. 53-56/ Listen to tracks 65-69 授業　：Talking about family members 復習　：Review notes/ Do homework p. 84
5	K.バーンズ	【第5回】 予習　：Prepare a short talk about a travel experience 授業　：Talking about travel and studying abroad 復習　：Review notes/ Do homework
6	K.バーンズ	【第6回】 予習　：Prepare any questions you have about class material 授業　：Consolidation and review 復習　：Reread textbook pp.37-40,45-56
7	K.バーンズ	【第7回】 予習　：Prepare several topics you want to talk about 授業　：Conversation advice and coaching 復習　：Write self-evaluation for your conversation practice
8	K.バーンズ	【第8回】 予習　：Review all homework assignments 授業　：General review 復習　：Reread textbook pp.37-40,45-56
9	K.バーンズ	【第9回】 予習　：Read pp. 57-60/ Listen to tracks 72-73 授業　：Talking about behavior and qualities in people 復習　：Review notes/ Do homework
10	K.バーンズ	【第10回】 予習　：Read pp. 61-64/ Listen to tracks 76-77 授業　：Talking about cultural stereotypes 復習　：Review notes/ Do homework

11	K.バーンズ	【第 11 回】 予習　：Read pp. 65-68/ Listen to tracks 80-84 授業　：Talking about cooking and food 復習　：Review notes/ Do homework
12	K.バーンズ	【第 12 回】 予習　：Prepare some sentences about something interesting you have done recently 授業　：Talking about past experiences 復習　：Review notes/ Do homework
13	K.バーンズ	【第 13 回】 予習　：Prepare any questions you have about class material 授業　：Consolidation and review 復習　：Reread textbook pp.57-68
14	K.バーンズ	【第 14 回】 予習　：Prepare several topics you want to talk about 授業　：Conversation advice and coaching 復習　：Write self-evaluation for your conversation practice
15	K.バーンズ	【第 15 回】 予習　：Review all homework assignments 授業　：General review 復習　：Reread textbook pp. 37-40,45-68

授業開始前学習	Before the class starts students can prepare by listening to English recordings and reading English books, magazines or comics.　Look up words in the dictionary.
授業内課題のフィードバックの方法	Once class starts, homework assignments will be provided after each class to help students review and better understand the material.
テキスト・教材	Impact Conversation 1　Kirsten Sullivan, Todd Beuckens (Pearson Longman)
参考書	
評価の基準と方法	Students are evaluated on a total of class participation points of 40% (mini tests, submitted coursework, presentations, class participation etc.)　and regular examinations 60%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎				△	○

関連科目	English Conversation
その他	It is important for students to attend each class.　Credit will not be given to students who miss more than a third of the classes.　3 late arrivals will be counted as 1 absence.　Arrival after 30 minutes or more after the start of class will be counted a
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）	CS-L-132 CT-L-132 SD-L-132	科目分類（～2024年入学者）	100-131-21	授業コード	F02622
科目名称	英会話Ⅱ			単位数	1.0単位
英文名称	English Conversation Ⅱ			授業区分	演習
科目責任者	D.バートレイ			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	D.バートレイ			開講時期	1･2年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	This course builds upon the foundation of the previous course & also aims at enjoyment & interest. When you are interested in something, you will enjoy doing it, so this class is based on enjoyment & interest. The key to success in anything you do depends on how interesting it is & how much you enjoy doing it. Through interest & enjoyment, you will improve your ability to speak English.				
到達目標	As in the previous course, this course, the goal of this class is a purely practical one: to get you to speak English better. To do this, we must find out what you are interested in because when you are interested in something, you will want to talk about				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	D.バートレイ	【第1回】 予習：Getting settled in 授業：Course Introduction: I will explain the policies (attendance, participation & assignments) & protocols (contact, feedback & evaluation) of this course. 復習：generally assess the English you have studied from high school unt
2	D.バートレイ	【第2回】 予習：Checking class materials (paper, dictionary, writing implements). 授業：Preparation: What things interest you? 復習：Take stock of the English you have studied up until now.
3	D.バートレイ	【第3回】 予習：Review all class notes from the previous lesson, Q&A 授業：Practice: talking about what interests you with your classmates & I will explain how to prepare your class notes so that you can express your thoughts more easily. 復習：Review today’s exp
4	D.バートレイ	【第4回】 予習：Study your class notes in preparation for our discussion of the 1st topic. 授業：Begin our first group discussion on the 1st topic. 復習：Review & revise your class in preparation for our next discussion.
5	D.バートレイ	【第5回】 予習：Review class notes by going over the important points we discussed in the last lesson, Q&A 授業：Continue the discussion of the 1st topic. 復習：Review & revise your class in preparation for our next discussion.
6	D.バートレイ	【第6回】 予習：Review class notes by going over the important points we discussed in the last lesson 授業：Conclude our discussion of the 1st topic by presenting your final points or arguments to the group. 復習：Review & revise your class note in order to write y
7	D.バートレイ	【第7回】 予習：Prepare to announce & decide the 2nd topic of discussion. 授業：Decide the 2nd topic & have a free discussion on the second most popular topic decided by your group. 復習：Prepare your class notes by gathering information about the topic so that yo
8	D.バートレイ	【第8回】 予習：Review the class notes you prepared for today's discussion. 授業：Begin your group's discussion on the 2nd topic. 復習：Review & revise your class in preparation for our next discussion.
9	D.バートレイ	【第9回】 予習：Review class notes by going over the important points we discussed in the last discussion, Q&A 授業：Continue the discussion of the 2nd topic. 復習：Review & revise your class in preparation for our next discussion.

10	D.バートレイ	【第 10 回】 予習：Review class notes by going over the important points we discussed in the last lesson, Q&A. 授業：Conclude our discussion of the 2nd topic by presenting your final points or arguments to the group. 復習：Review & revise your class note in order to
11	D.バートレイ	【第 11 回】 予習：Prepare to announce & decide the 3rd topic of discussion. 授業：Decide the 3rd topic & have a free discussion on the second most popular topic decided by your group. 復習：Prepare your class notes by gathering information about the topic so that y
12	D.バートレイ	【第 12 回】 予習：Review the class notes you prepared for today's discussion. 授業：Begin your group's discussion on the 3rd topic. 復習：Review & revise your class in preparation for our next discussion.
13	D.バートレイ	【第 13 回】 予習：Review class notes by going over the important points we discussed in the last discussion, Q&A 授業：Continue the discussion of the 2nd topic. 復習：Review & revise your class in preparation for our next discussion.
14	D.バートレイ	【第 14 回】 予習：Review class notes by going over the important points we discussed in the last lesson, Q&A. 授業：Conclude our discussion of the 3rd topic by presenting your final points or arguments to the group. 復習：Review & revise your class note in order to
15	D.バートレイ	【第 15 回】 予習：Prepare to submit all post-discussion rewrites (optional activity). 授業：We will have a general assessment of our progress this semester. 復習：Students will complete their final reports & submit them to me by email.

授業開始前学習	Students are encouraged to encounter English in their daily lives whenever & where-ever possible whether it be watching TV, listening to music or reading English newspapers.
授業内課題のフィードバックの方法	Feedback is an essential part of the course & is embedded in every lesson. A thorough review of the previous lesson is assessed in the daily lesson activities which provide ample opportunities for both the student & the teacher to appraise her level of pr
テキスト・教材	No textbook is assigned for this course. All necessary & relevant materials will be provided by the teacher. However, every student is required to bring paper, a dictionary, & writing implements to every lesson.
参考書	notebook, dictionary, pen & pencil
評価の基準と方法	continuous assessment based on attendance, participation & module tests（100%）.
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎				△	○

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-132 CT-L-132	科目分類（～2024 年入学者）	100-131-22	授業コード	F02630
科目名称	☆英会話Ⅲ			単位数	1.0 単位
英文名称	English ConversationⅢ			授業区分	演習
科目責任者	W.ミラー			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	W.ミラー			開講時期	1・2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	The main emphasis of this course will be speaking. However, listening, reading, and writing will also be developed. This class will focus on speaking strategies and improving the skills of speaking. In principle, lessons will be conducted entirely in English.				
到達目標	After this class, students increased listening and speaking skills will allow them to participate in conversations more actively.				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	W.ミラー	【第 1 回】 予習：Read p.9-12 授業：Self-introductions / Course goals 復習：Review notes / Do homework
2	W.ミラー	【第 2 回】 予習　：Read p.13-16 授業　：Interview classmates 復習　：Review notes / Do homework
3	W.ミラー	【第 3 回】 予習　：Read p.17-20 授業　：Living Situations 復習　：Prepare for 1st Dialog Task
4	W.ミラー	【第 4 回】 予習　：Read p.21-24 授業　：Favorite Foods:　Expressing likes / dislikes and 1st Dialog Task 復習　：Reflect on 1st Dialog Task
5	W.ミラー	【第 5 回】 予習　：Read p.25-28 授業　：Fashion:　Expressing importance 復習　：Review notes / Do homework
6	W.ミラー	【第 6 回】 予習　：Read p.29-32 授業　：Work experience:　Expressing suitability 復習　：Prepare for 2nd Dialog Task
7	W.ミラー	【第 7 回】 予習　：Prepare for 2nd Dialog Task 授業　：2nd Dialog Task 復習　：Reflect on 2nd Dialog Task
8	W.ミラー	【第 8 回】 予習　：Review all homework assignments 授業　：General review 復習　：Review notes / Do homework
9	W.ミラー	【第 9 回】 予習　：Read p. 33-36 授業　：Travel Advice / Recommending 復習　：Review notes / Do homework
10	W.ミラー	【第 10 回】 予習　：Read p. 37-40 授業　：Weather Conditions:　Expressing concern 復習　：Prepare for 3rd Dialog Task
11	W.ミラー	【第 11 回】 予習　：Prepare for 3rd Dialog Task 授業　：Dealing with Stress:　Expressing a need for a change 3rd Dialog Task 復習　：Reflect on 3rd Dialog Task

12	W.ミラー	【第 12 回】 予習　：Read p. 71-79 授業　：Review Unit 1 / Conversation starters / Building fluency / Express yourself 復習　：Review notes / Do homework
13	W.ミラー	【第 13 回】 予習　：Read p. 80-84 授業　：Conversation activity 復習　：Prepare for 4th Dialog Task
14	W.ミラー	【第 14 回】 予習　：Prepare for 4th Dialog Task 授業　：4th Dialog Task 復習　：Reflect on 4th Dialog Task
15	W.ミラー	【第 15 回】 予習　：Complete Questionnaire on Komajo Portal 授業　：Take care of old business and discuss pros and cons of this course 復習　：Complete Questionnaire on Komajo Portal (if not completed yet)

授業開始前学習	Watch movies and listen to the dialogues. Read comics in English. Look up unknown words in a dictionary. Seek opportunities to speak in English.
授業内課題のフィードバックの方法	Both written and oral feedback will be provided to all students.
テキスト・教材	Impact Conversation 2, Pearson Longman, by Sullivan and Beuckens
参考書	
評価の基準と方法	Participation 20%, 1st Dialogue Task 20%, 2nd Dialogue Task 20%, 3rd Dialogue Task 20%, 4th Dialogue Task 20%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎				△	○

関連科目	
その他	It is important for students to attend each class.　Credit will not be given to students who miss more than a third of the classes.　3 late arrivals will be counted as 1 absence.　Arrival 30 minutes or more after the class has started will be counted as a
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-132 CT-L-132	科目分類（～2024 年入学者）	100-131-22	授業コード	F02640
科目名称	☆英会話Ⅳ			単位数	1.0 単位
英文名称	English ConversationⅣ			授業区分	演習
科目責任者	W.ミラー			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	W.ミラー			開講時期	1・2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	The main emphasis of this course will be speaking. However, listening, reading, and writing will also be developed. This class will focus on speaking strategies and improving the skills of speaking. In principle, lessons will be conducted entirely in English.				
到達目標	After this class, students increased listening and speaking skills will allow them to participate in conversations more actively.				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	W.ミラー	【第 1 回】 予習：Read p.45-48 授業：Self-introductions / Course goals 復習：Review notes / Do homework
2	W.ミラー	【第 2 回】 予習　：Read p.49-52 授業　：Family Stories 復習　：Review notes / Do homework
3	W.ミラー	【第 3 回】 予習　：Read p.53-56 授業　：Cleaning Habits 復習　：Prepare for 1st Dialogue Task
4	W.ミラー	【第 4 回】 予習　：Read p.57-60 授業　：Strange Stories and 1st Dialogue Task 復習　：Reflect on 1st Dialogue Task
5	W.ミラー	【第 5 回】 予習　：Read p.61-64 授業　：Relationship Problems 復習　：Review notes / Do homework
6	W.ミラー	【第 6 回】 予習　：Review all homework assignments 授業　：General review 復習　：Prepare for 2nd Dialogue Task
7	W.ミラー	【第 7 回】 予習　：Prepare for 2nd Dialogue Task 授業　：2nd Dialogue Task 復習　：Reflect on 2nd Dialogue Task
8	W.ミラー	【第 8 回】 予習　：Review all homework assignments 授業　：General review 復習　：Review notes / Do homework
9	W.ミラー	【第 9 回】 予習　：Read p. 61-64 授業　：Learning a Language 復習　：Review notes / Do homework
10	W.ミラー	【第 10 回】 予習　：Read p. 65-68 授業　：School Memories 復習　：Prepare for 3rd Dialogue Task
11	W.ミラー	【第 11 回】 予習　：Read p. 69-72 授業　：Special Events and 3rd Dialogue Task 復習　：Reflect on 3rd Dialogue Task

12	W.ミラー	【第 12 回】 予習　：Read p. 73-76 授業　：Review Unit 1 / Conversation starters / Building fluency / Express yourself 復習　：Review notes / Do homework
13	W.ミラー	【第 13 回】 予習　：Read p. 80-84 授業　：Conversation activity 復習　：Prepare for 4th Dialogue Task
14	W.ミラー	【第 14 回】 予習　：Prepare for 4th Dialogue Task 授業　：4th Dialogue Task 復習　：Reflect on 4th Dialogue Task
15	W.ミラー	【第 15 回】 予習　：Complete Questionnaire on Komajo Portal 授業　：Take care of old business and discuss pros and cons of this course 復習　：Complete Questionnaire on Komajo Portal (if not completed yet)

授業開始前学習	Watch movies and listen to the dialogues. Read comics in English. Look up unknown words in a dictionary. Seek opportunities to speak in English.
授業内課題のフィードバックの方法	Both written and oral feedback will be provided to all students.
テキスト・教材	Impact Conversation 2, Pearson Longman, by Sullivan and Beuckens
参考書	
評価の基準と方法	Participation 20%, 1st Dialogue Task 20%, 2nd Dialogue Task 20%, 3rd Dialogue Task 20%, 4th Dialogue Task 20%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎				△	○

関連科目	
その他	It is important for students to attend each class.　Credit will not be given to students who miss more than a third of the classes.　3 late arrivals will be counted as 1 absence.　Arrival 30 minutes or more after the class has started will be counted as a
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	100-130-21	授業コード	F02710
科目名称	Receptive English Ⅰ			単位数	1.0 単位
英文名称	Receptive English Ⅰ			授業区分	演習･実習･実技
科目責任者	D.バートレイ			必修･選択	履修ガイド参照
担当教員	D.バートレイ			開講時期	1･2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	This course is based on interest & enjoyment. It is a slightly more intensive course that will, likewise, consist of lively group discussions on various topics of your interest. The course will focus on improving skills both in listening & speaking as well as in reading & writing. This will be a thoroughly active course based on your interest & enjoyment. Through your interest, this course will instill practical language skills in an open forum. That means a free & unrestricted way.				
到達目標	This course aims to provide every student maximal freedom of expression. To do this, the lessons will be conducted in a casual manner, like friendly gatherings at which students will talk about topics of interest to them. The students will, therefore, dec				
アクティブ･ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	D.バートレイ	【第 1 回】 予習 : Getting settled in 授業 : Course Introduction: I will explain the policies (attendance, participation & assignments) & protocols (contact, feedback & evaluation) of this course. 復習 : generally assess the English you have studied from high school unt
2	D.バートレイ	【第 2 回】 予習 : Checking class materials (paper, dictionary, writing implements). 授業 : Preparation: What things interest you? 復習 : Take stock of the English you have studied up until now.
3	D.バートレイ	【第 3 回】 予習 : Review all class notes from the previous lesson, Q&A 授業 : Practice: talking about what interests you with your classmates & I will explain how to prepare your class notes so that you can express your thoughts more easily. 復習 : Review today’s exp
4	D.バートレイ	【第 4 回】 予習 : Study your class notes in preparation for our discussion of the 1st topic. 授業 : Begin our first group discussion on the 1st topic. 復習 : Review & revise your class in preparation for our next discussion.
5	D.バートレイ	【第 5 回】 予習 : Review class notes by going over the important points we discussed in the last lesson, Q&A 授業 : Continue the discussion of the 1st topic. 復習 : Review & revise your class in preparation for our next discussion.
6	D.バートレイ	【第 6 回】 予習 : Review class notes by going over the important points we discussed in the last lesson 授業 : Conclude our discussion of the 1st topic by presenting your final points or arguments to the group. 復習 : Review & revise your class note in order to write y
7	D.バートレイ	【第 7 回】 予習 : Prepare to announce & decide the 2nd topic of discussion. 授業 : Decide the 2nd topic & have a free discussion on the second most popular topic decided by your group. 復習 : Prepare your class notes by gathering information about the topic so that yo
8	D.バートレイ	【第 8 回】 予習 : Review the class notes you prepared for today's discussion. 授業 : Begin your group's discussion on the 2nd topic. 復習 : Review & revise your class in preparation for our next discussion.
9	D.バートレイ	【第 9 回】 予習 : Review class notes by going over the important points we discussed in the last discussion, Q&A 授業 : Continue the discussion of the 2nd topic. 復習 : Review & revise your class in preparation for our next discussion.

10	D.バートレイ	【第 10 回】 予習：Review class notes by going over the important points we discussed in the last lesson, Q&A. 授業：Conclude our discussion of the 2nd topic by presenting your final points or arguments to the group. 復習：Review & revise your class note in order to
11	D.バートレイ	【第 11 回】 予習：Prepare to announce & decide the 3rd topic of discussion. 授業：Decide the 3rd topic & have a free discussion on the second most popular topic decided by your group. 復習：Prepare your class notes by gathering information about the topic so that y
12	D.バートレイ	【第 12 回】 予習：Review the class notes you prepared for today's discussion. 授業：Begin your group's discussion on the 3rd topic. 復習：Review & revise your class in preparation for our next discussion.
13	D.バートレイ	【第 13 回】 予習：Review class notes by going over the important points we discussed in the last discussion, Q&A 授業：Continue the discussion of the 2nd topic. 復習：Review & revise your class in preparation for our next discussion.
14	D.バートレイ	【第 14 回】 予習：Review class notes by going over the important points we discussed in the last lesson, Q&A. 授業：Conclude our discussion of the 3rd topic by presenting your final points or arguments to the group. 復習：Review & revise your class note in order to
15	D.バートレイ	【第 15 回】 予習：Prepare to submit all post-discussion rewrites (optional activity). 授業：We will have a general assessment of our progress this semester. 復習：Students will complete their final reports & submit them to me by email.

授業開始前学習	Students are encouraged to encounter English in their daily lives whenever & where-ever possible whether it be watching TV, listening to music or reading English newspapers.
授業内課題のフィードバックの方法	Feedback is an essential part of the course & is embedded in every lesson. A thorough review of the previous lesson is assessed in the daily lesson activities which provide ample opportunities for both the student & the teacher to appraise her level of pr
テキスト・教材	No textbook is assigned for this course. All necessary & relevant materials will be provided by the teacher. However, every student is required to bring paper, a dictionary, & writing implements to every lesson.
参考書	notebook, dictionary, pen & pencil
評価の基準と方法	continuous assessment based on attendance, participation & reports（100%）.
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	△		◎	○				

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	100-130-21	授業コード	F02720
科目名称	Receptive English Ⅱ			単位数	1.0 単位
英文名称	Receptive English Ⅱ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	D.バートレイ			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	D.バートレイ			開講時期	1・2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	This course is based on interest & enjoyment. It is a slightly more intensive course that will, likewise, consist of lively group discussions on various topics of your interest. The course will focus on improving skills both in listening & speaking as well as in reading & writing. This will be a thoroughly active course based on your interest & enjoyment. Through your interest, this course will instill practical language skills in an open forum.　That means a free & unrestricted way.				
到達目標	This course aims to provide every student maximal freedom of expression. To do this, the lessons will be conducted in a casual manner, like friendly gatherings at which students will talk about topics of interest to them. The students will, therefore, dec				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	D.バートレイ	【第 1 回】 予習 : Getting settled in 授業 : Course Introduction: I will explain the policies (attendance, participation & assignments) & protocols (contact, feedback & evaluation) of this course. 復習 : generally assess the English you have studied from high school unt
2	D.バートレイ	【第 2 回】 予習 : Checking class materials (paper, dictionary, writing implements). 授業 : Preparation: What things interest you? 復習 : Take stock of the English you have studied up until now.
3	D.バートレイ	【第 3 回】 予習 : Review all class notes from the previous lesson, Q&A 授業 : Practice: talking about what interests you with your classmates & I will explain how to prepare your class notes so that you can express your thoughts more easily. 復習 : Review today’s exp
4	D.バートレイ	【第 4 回】 予習 : Study your class notes in preparation for our discussion of the 1st topic. 授業 : Begin our first group discussion on the 1st topic. 復習 : Review & revise your class in preparation for our next discussion.
5	D.バートレイ	【第 5 回】 予習 : Review class notes by going over the important points we discussed in the last lesson, Q&A 授業 : Continue the discussion of the 1st topic. 復習 : Review & revise your class in preparation for our next discussion.
6	D.バートレイ	【第 6 回】 予習 : Review class notes by going over the important points we discussed in the last lesson 授業 : Conclude our discussion of the 1st topic by presenting your final points or arguments to the group. 復習 : Review & revise your class note in order to write y
7	D.バートレイ	【第 7 回】 予習 : Prepare to announce & decide the 2nd topic of discussion. 授業 : Decide the 2nd topic & have a free discussion on the second most popular topic decided by your group. 復習 : Prepare your class notes by gathering information about the topic so that yo
8	D.バートレイ	【第 8 回】 予習 : Review the class notes you prepared for today's discussion. 授業 : Begin your group's discussion on the 2nd topic. 復習 : Review & revise your class in preparation for our next discussion.
9	D.バートレイ	【第 9 回】 予習 : Review class notes by going over the important points we discussed in the last discussion, Q&A 授業 : Continue the discussion of the 2nd topic. 復習 : Review & revise your class in preparation for our next discussion.

10	D.バートレイ	【第 10 回】 予習：Review class notes by going over the important points we discussed in the last lesson, Q&A. 授業：Conclude our discussion of the 2nd topic by presenting your final points or arguments to the group. 復習：Review & revise your class note in order to
11	D.バートレイ	【第 11 回】 予習：Prepare to announce & decide the 3rd topic of discussion. 授業：Decide the 3rd topic & have a free discussion on the second most popular topic decided by your group. 復習：Prepare your class notes by gathering information about the topic so that y
12	D.バートレイ	【第 12 回】 予習：Review the class notes you prepared for today's discussion. 授業：Begin your group's discussion on the 3rd topic. 復習：Review & revise your class in preparation for our next discussion.
13	D.バートレイ	【第 13 回】 予習：Review class notes by going over the important points we discussed in the last discussion, Q&A 授業：Continue the discussion of the 2nd topic. 復習：Review & revise your class in preparation for our next discussion.
14	D.バートレイ	【第 14 回】 予習：Review class notes by going over the important points we discussed in the last lesson, Q&A. 授業：Conclude our discussion of the 3rd topic by presenting your final points or arguments to the group. 復習：Review & revise your class note in order to
15	D.バートレイ	【第 15 回】 予習：Prepare to submit all post-discussion rewrites (optional activity). 授業：We will have a general assessment of our progress this semester. 復習：Students will complete their final reports & submit them to me by email.

授業開始前学習	Students are encouraged to encounter English in their daily lives whenever & where-ever possible whether it be watching TV, listening to music or reading English newspapers.
授業内課題のフィードバックの方法	Feedback is an essential part of the course & is embedded in every lesson. A thorough review of the previous lesson is assessed in the daily lesson activities which provide ample opportunities for both the student & the teacher to appraise her level of pr
テキスト・教材	No textbook is assigned for this course. All necessary & relevant materials will be provided by the teacher. However, every student is required to bring paper, a dictionary, & writing implements to every lesson.
参考書	notebook, dictionary, pen & pencil
評価の基準と方法	continuous assessment based on attendance, participation & reports（100%）.
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	△		◎	○				

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	100-130-21	授業コード	F02730
科目名称	Productive English Ⅰ			単位数	1.0 単位
英文名称	Productive English Ⅰ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	K.バーンズ			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	K.バーンズ			開講時期	1・2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	This course is designed to get students writing and speaking. The focus is on paragraph writing however speaking and listening skills are utilised in order for students to express their ideas during pair and group work. Thereby encouraging development of a well-balanced natural style of interactive communication.				
到達目標	By the end of this course students will be able to confidently plan, structure and write a paragraph as well as discuss its content. This will be achieved by studying the components of paragraph writing; Topic sentences; main idea; supporting sentences; c				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	K.バーンズ	【第 1 回】 予習 ：Pre-read the syllabus 授業 ：Orientation: Syllabus review; Class guidelines. Review - What is a paragraph & topic sentence? What are supporting and concluding sentences; Fluency versus Accuracy 復習 ：Review class notes
2	K.バーンズ	【第 2 回】 予習 ：Pre-read unit 9 Pages 73-77 授業 ：Warm Up; Fluency: Free writing: your typical day; Practicing summarizing I (partner's day) 復習 ：HW 1 Find a paragraph on the internet (news article, magazine article) bring to class
3	K.バーンズ	【第 3 回】 予習 ：Pre-read unit 9 continued 授業 ：Fluency: Summarizing II (a paragraph on the internet) 復習 ：HW 2 Reflecting page 78
4	K.バーンズ	【第 4 回】 予習 ：Pre-read unit 10 Pages 79-86 授業 ：Warm Up; Accuracy: Analyzing a typical day paragraph; Practicing summarizing sentence by sentence 復習 ：HW 3 Choose a paragraph to summarize see page 84 (Units 2 & 4 only)
5	K.バーンズ	【第 5 回】 予習 ：Pre-read unit 10 continued 授業 ：Accuracy: Check partner's summary & revise your summary; Summarizing & writing a paragraph 復習 ：HW 4 Submit 1st Assignment 10% (Review & Feedback)
6	K.バーンズ	【第 6 回】 予習 ：Pre-read unit 1 Pages 11-15 授業 ：Warm Up; Fluency: Free writing I; Researching; Free writing II 復習 ：HW 5 Prepare 10 Questions for interviewing partner about interesting things about them (Page 15)
7	K.バーンズ	【第 7 回】 予習 ：Pre-read unit 1 continued 授業 ：Fluency: Interview partner (use HW Questions); Free writing III 復習 ：HW 6 Reflecting page 16
8	K.バーンズ	【第 8 回】 予習 ：Pre-read unit 2 Pages 17-23 授業 ：Warm Up; Accuracy: Analyzing a narrative paragraph; Mind mapping 復習 ： HW 7 Mind Map: A great memory (see page 21)
9	K.バーンズ	【第 9 回】 予習 ：Pre-read unit 2 continued 授業 ：Accuracy: Draft writing: A great memory (use HW mind map); Introduction to structuring; Find 15 mistakes (Page 24) 復習 ：HW 8 Submit 2nd Assignment 10% (Review & Feedback)

10	K.バーンズ	【第 10 回】 予習　: Pre-read unit 3 Pages 25-29 授業　: Warm Up; Fluency: Free writing I; Researching; Free writing II 復習　: HW 9 Prepare 10 Questions for interviewing partner about their friend (Page 29)
11	K.バーンズ	【第 11 回】 予習　: Pre-read unit 3 continued 授業　: Fluency: Interview partner (use HW questions); Free writing III 復習　: HW 10 Reflecting page 30
12	K.バーンズ	【第 12 回】 予習　: Pre-read unit 4 Pages 31-37 授業　: Warm Up; Accuracy: Analyzing a descriptive paragraph; Mind Mapping 復習　: HW 11 Mind map: Your favourite place (Page 35)
13	K.バーンズ	【第 13 回】 予習　: Pre-read unit 4 continued 授業　: Accuracy: Draft writing: Your favourite place (use your HW mind map); Find 15 mistakes 復習　: HW 12 Submit 3rd Assignment 10% (Review & Feedback)
14	K.バーンズ	【第 14 回】 予習 :　Review Units 2,4,10 授業 :　Review previous assignments. How could you improve them? 復習 :　Review Units　2,4,10
15	K.バーンズ	【第 15 回】 予習　: Review Units　2,4,10 授業　: Assessment 復習　: Consider continuing in Productive English II and use skills learnt here in other classes

授業開始前学習	Read over the syllabus. If you do not understand please ask questions in the first class and every class. Do the pre-reading before each class and review after each class. If you do not understand something it is your responsibility to ask the teacher for
授業内課題のフィードバックの方法	Students will receive feedback on class participation, homework (HW) & assignments in class or on Google Classroom. Assignments should be handed in on time. If you are sick, have transport or internet problems please email the teacher as soon as possible.
テキスト・教材	Andy Boon. (2017) Writing for Fluency and Accuracy (CENGAGE Learning)
参考書	
評価の基準と方法	Written assignments: 30%; participation & interaction: 20%; general homework: 20%; end of semester assessment: 30%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎	○				△

関連科目	
その他	Attendance: Students should arrive before class starts and do their best to attend all classes. Do not disturb others if you are late. Late passes (for example Train) are acceptable as long as they are filled out correctly. If you are absent it is your re
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	100-130-21	授業コード	F02740
科目名称	Productive English Ⅱ			単位数	1.0 単位
英文名称	Productive English Ⅱ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	K.バーンズ			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	K.バーンズ			開講時期	1・2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	This course builds on the skills learnt in Productive English I. Students will further develop their writing and communicative ability. While the focus is on writing more challenging paragraphs/essays there will also be scope for fine-tuning and strengthening existing skills.				
到達目標	After the completion of this course students will be more at ease with not only writing paragraphs that reflect their own ideas and opinions but they will be able to verbally express them as well.				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	K.バーンズ	【第 1 回】 予習　: Pre-read syllabus 授業　: Orientation: Syllabus review; Class guidelines. Review - What is a paragraph & topic sentence? What are supporting and concluding sentences; Fluency versus Accuracy 復習　: Review class notes
2	K.バーンズ	【第 2 回】 予習　: Pre-read unit 5 Pages 39-44 授業　: Warm Up; Fluency: Free writing I; Researching; Free writing II 復習　: HW 1 Prepare 10 Questions for interviewing partner
3	K.バーンズ	【第 3 回】 予習　: Pre-read unit 5 continued 授業　: Fluency: Interview partner (use HW questions); Free writing III 復習　: HW 2 Reflecting page 44
4	K.バーンズ	【第 4 回】 予習　: Pre-read unit 6 Pages 45-51 授業　: Warm Up; Accuracy: Analyzing a compare and contrast paragraph; Venn diagram Video 復習　: HW 3 Compare and contrast your high school and your university. Create a Venn diagram (See page 48)
5	K.バーンズ	【第 5 回】 予習　: Pre-read unit 6 continued 授業　: Accuracy: Draft writing in class (use HW Venn diagram); plan & write a draft paragraph; Find 15 mistakes 復習　: HW 4 Submit 1st Assignment 10% (Review & Feedback)
6	K.バーンズ	【第 6 回】 予習　: Pre-read unit 7 Pages 59-64 授業　: Warm Up; Fluency: Free writing I; Researching; Free writing II 復習　: HW 5 Prepare 10 Questions for interviewing partner about their habits
7	K.バーンズ	【第 7 回】 予習　: Pre-read unit 7 continued 授業　: Fluency: Interview partner (use HW Questions); Free writing III 復習　: HW 6 Reflecting page 64
8	K.バーンズ	【第 8 回】 予習　: Pre-read unit 8 Pages 65-72 授業　: Warm Up; Accuracy: Analyzing a cause and effect paragraph: Listing 復習　: HW 7 Choose a topic; Make a list (See page 68)
9	K.バーンズ	【第 9 回】 予習　: Pre-read unit 8 continued 授業　: Accuracy: Draft writing in class (use HW list): Relationships between people; Find 15 mistakes 復習　: HW 8 Submit 2nd Assignment 10% (Review & Feedback)
10	K.バーンズ	【第 10 回】 予習　: Pre-read unit 11 Pages 87-92 授業　: Warm Up; Fluency: Free writing I, Researching, Free writing II 復習　: HW 9 Think of 3 topics. Write 3 opinion sentences about chosen topics.

11	K.バーンズ	【第 11 回】 予習　: Pre-read unit 11 continued 授業　: Fluency: Exchange topic opinions with partner, Free writing III 復習　: HW 10 Reflecting page 92
12	K.バーンズ	【第 12 回】 予習　: Pre-read unit 12 Pages 93-102 授業　: Warm Up; Accuracy: Analyzing an opinion paragraph; Mind mapping 復習　: HW 11 What's your opinion? Prepare a mind map
13	K.バーンズ	【第 13 回】 予習　: Pre-read unit 12 continued 授業　: Accuracy: Draft writing your opinion in class: Find 15 mistakes 復習　: HW 12 Submit 3rd Assignment 10% (Review & Feedback)
14	K.バーンズ	【第 14 回】 予習　: Review units 6,8,12 授業　: Revision: Review your previous assignments. How could you improve them? 復習　: Review units 6,8,12
15	K.バーンズ	【第 15 回】 予習　: Review units 6,8,12 授業　: In class Assessment 復習　: Use writing skills you have learnt here in other classes.

授業開始前学習	Read over the syllabus. If you do not understand please ask questions in the first class and every class. Do the pre-reading before each class and review after each class. If you do not understand something it is your responsibility to ask the teacher fo
授業内課題のフィードバックの方法	Students will receive feedback on class participation, homework (HW) & assignments in class or on Google Classroom. Assignments should be handed in on time. If you are sick, have transport or internet problems please email the teacher as soon as possible.
テキスト・教材	Andy Boon. (2017) Writing for Fluency and Accuracy (CENGAGE Learning)
参考書	
評価の基準と方法	Written assignments: 30% (3x10%); participation & interaction: 20%; general homework: 20%; End of semester assessment: 30%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎	○				△

関連科目	
その他	Attendance: Students should arrive before class starts and do their best to attend all classes. Do not disturb others if you are late. Late passes are acceptable as long as they are filled out correctly. If you are absent it is your responsibility to cont
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-233 CT-L-233	科目分類（～2024 年入学者）	100-130-22	授業コード	F02750
科目名称	English Summer Seminar			単位数	1.0 単位
英文名称	English Summer Seminar			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	Ｔ．プラザ			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	ﾌﾟﾗｻﾞ・ﾌﾞﾗｳﾝ			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	This three-day, residential seminar has been designed to give you many opportunities to use English. Types of activities are pair and group work, peer-teaching and English activities and games. この授業は 2 泊 3 日の宿泊を伴う 3 日間のワークショップです。				
到達目標	The English summer seminar gives you many opportunities to become users of English outside of the classroom. The whole course is student-centered, interactive, and conducted entirely in English by both teachers and students. At the end of this intensive c				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	1 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	共同

授業回数	担当者	授業の内容
1	Ｔ．プラザ・M.ブラウン	Contents of the English Summer Seminar *"Peer Teaching" sessions to be held for use of explanatory English practice. *"General Talk" sessions to be held for multipurpose English conversation practice. *"Seminar" sessions to be held for small group di

授業開始前学習	Prepare your 'Peer Teaching' activity so that everyone participates in the activity on the day (not lecture/presentation based).
授業内課題のフィードバックの方法	Students will be given individual feedback from the teachers on their "Peer Teaching" activities. Students will also submit a written self-reflection on their experiences.
テキスト・教材	Teacher handouts
参考書	
評価の基準と方法	Student peer teaching 50% Participation in activities 50%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎				△	○

関連科目	
その他	This will be a three day workshop and we will stay together for the three days. There will also be some meetings before we go. It is important to attend all meetings before going to the seminar. The first meeting will be announced at orientation. この授業は
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-132 CT-L-132 SD-L-132	科目分類（～2024 年入学者）	100-130-21	授業コード	F02811
科目名称	ﾌﾗﾝｽ語 I			単位数	1.0 単位
英文名称	French I			授業区分	演習
科目責任者	松村　悠子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松村　悠子			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	基礎的な会話練習を主体にフランス語の学修を行う。会話から出発して、発音、文法、語彙、表現を学ぶ。文法解説・練習問題、発話練習、聞き取り、テキスト読解、作文を通して、文法学習と、話す・聞く・読む・書く、の 4 技能の訓練をバランスよく行う。				
到達目標	基礎的な文法、語彙、表現を習得して、初歩的な会話を理解し遂行できるようになる。これらの文法、語彙、表現を用いた短い文を読み、簡単な文が書けるようになる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	松村　悠子	【第 1 回】 予習　：フランス語やフランスについて調べる 授業　：前期授業ガイダンス、辞書の紹介、自己紹介 復習　：身の回りにあるフランス語とアルファベについての課題に取り組む
2	松村　悠子	【第 2 回】 予習　：フランス語の挨拶表現について調べる 授業　：フランス語の挨拶。フランス語が話されている地域、アルファベ、フランス語に特有の音（教科書 6 から 7 頁）（発見学習） 復習　：挨拶表現、フランス語に特有の音の練習、アルファベの復習
3	松村　悠子	【第 3 回】 予習　：複母音字、鼻母音について調べる 　　レッスン 1 の会話音声を聴く 授業　：綴り字の読み方（プリント）（発見学習） 　　レッスン 1：挨拶、自分の名前を言う。国籍を言う。（教科書 8 から 9 頁）（ペアワーク） 復習　：綴り字の読み方の復習 　　挨拶、名前を言う表現の反復練習
4	松村　悠子	【第 4 回】 予習　：レッスン 1 の会話音声を聴く 授業　：レッスン 1：挨拶、自分の名前を言う。国籍を言う、聞く、数字 1 から 5、練習問題。（教科書 10 から 11 頁）（ペアワーク） 復習　：挨拶、名前・国籍を言う表現の反復練習
5	松村　悠子	【第 5 回】 予習　：レッスン 2 の音声教材を聴く 授業　：語彙の練習、練習問題、会話練習（教科書 12 から 13 頁）（ペアワーク） 復習　：授業で扱った語彙・表現の復習
6	松村　悠子	【第 6 回】 予習　：レッスン 2 の音声教材を聴く 授業　：職業を言う、数字 6 から 10、練習問題（教科書 14 から 15 頁） 復習　：読解・作文したテキストの再考、復習
7	松村　悠子	【第 7 回】 予習　：レッスン 3 の音声教材を聴く 授業　：第 1 回目から第 6 回目授業内容の復習 　　名前を言う、聞く　（教科書 16 頁）（ペアワーク） 復習　：授業で扱った語彙・表現の復習
8	松村　悠子	【第 8 回】 予習　：第 1 回目から第 6 回目授業内容の復習（小テスト 1 の準備） 授業　：小テスト 1 　　住んでいるところを言う、聞く（教科書 17 頁）（ペアワーク） 復習　：小テスト 1 の問題再考
9	松村　悠子	【第 9 回】 予習　：レッスン 3 の音声教材を聴く 授業　：国籍、名前、住んでいる場所を言う・聞く、練習問題（教科書 18 から 19 頁）（ペアワーク） 復習　：授業で扱った語彙・表現の復習

10	松村　悠子	【第 10 回】 予習　：レッスン 4 の音声教材を聴く 授業　：第 7 回目から第 9 回目授業内容の復習 　　だれかについてやりとりする、だれかの職業を言う（教科書 20 頁）（ペアワーク） 復習　：授業で扱った語彙・表現の復習
11	松村　悠子	【第 11 回】 予習　：第 7 回目から第 9 回目授業内容の復習（小テスト 2 の準備） 授業　：小テスト 2 　　だれかについてやりとりする、だれかの住んでいる所を言う（教科書 21 頁）（ペアワーク） 復習　：授業で扱った語彙・表現の復習 復習　：小テスト 2 の問題再考
12	松村　悠子	【第 12 回】 予習　：レッスン 4 の音声教材を聴く 授業　：自分が話せる言語について言う、相手の話せる言語についてきく、だれかが話せる言語について言う（教科書 22 頁）（ペアワーク） 　　数字 11 から 15 復習　：授業で扱った語彙・表現の復習
13	松村　悠子	【第 13 回】 予習　：レッスン 4 の音声教材を聴く 授業　：第 10 回目から第 12 回目授業内容の復習 　　レッスン 4 の練習問題（教科書 23 頁） 復習　：授業で扱った語彙・表現の復習
14	松村　悠子	【第 14 回】 予習　：第 10 回目から第 12 回目授業内容の復習（小テスト 3 の準備） 授業　：小テスト 3 　フランスの街の場所をきく、言う（教科書 24 から 25 頁）（ペアワーク） 復習　：小テスト 3 の問題再考
15	松村　悠子	【第 15 回】 予習　：第 14 回目までの授業内容を振り返る 授業　：前期授業のまとめ 復習　：授業で扱った項目の復習

授業開始前学習	
授業内課題のフィードバックの方法	課題、小テストを返却後、問題を再考させ解説を行う。
テキスト・教材	ロイク・ホゲス 著『プティットゥ・コンヴェルサスィオン』駿河台出版社（定価：2,300 円＋税） 仏和辞書（主要なものを第 1 回目授業で紹介）
参考書	
評価の基準と方法	小テスト 75 点、平常点（授業態度・課題提出）25 点
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎	○			△	

関連科目	海外観光資源研究 A（ヨーロッパ 1） 海外観光資源研究 B（ヨーロッパ 2） 言葉と心理 観光のフランス語
その他	単位取得には 3 分の 2 以上の出席が必要です。遅刻 1 回、あるいは早退 1 回を欠席 3 分の 1 回とみなします。つまり遅刻ないし早退 3 回で欠席 1 回と数えます。授業開始時刻より 30 分以上遅れて到着した場合、授業終了時刻より 30 分以上早く早退した場合は欠席扱いです。出席数配慮は原則として証明書類の提出により検討します。 宿題を出すことがあります。 全 15 回の授業計画を上に示していますが、受講者やクラスの特性、また社会状況など諸々の都合に応じて若干変更になる場合があります。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-132 CT-L-132 SD-L-132	科目分類（～2024 年入学者）	100-130-21	授業コード	F02812
科目名称	ﾌﾗﾝｽ語 I			単位数	1.0 単位
英文名称	French I			授業区分	演習
科目責任者	米金　孝雄			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	米金　孝雄			開講時期	1 年
オフィスアワー	前期　水曜日 10:10～10:40　木曜日 10:30～13:00 後期　水曜日 10:00~10:40～12:10~13:00　木曜日 10:00～10:40～12:10～13:00			研究室	10-711
授業概要	基礎的なフランス語の表現・成句を通して、様々なシチュエーションを想定した日常会話の修得を目指す（氏名、職業、国籍、挨拶の仕方、自己紹介、住んでいる場所の表現、tu と vous,　性数の一致、アルファベ、冠詞の縮約形、など）。また、Etre 動詞や ER 動詞（parler,　habiter,　s'appeler、など)を学習し、基本的な文の構造を理解する。特に、フランス語特有の音に慣れ親しむため、R の発音、重母音、鼻母音などを理解し、練習を重ね、単に文を暗誦するだけでなく、現実的なインターラクション（「ロール・プレイ」、「シュミレーション」など）に即したコミュニケーションのための言語使用に重点を置いた授業である。				
到達目標	初歩的なフランス語運用能力（話す・聞く・読む・書く）を習得することが目標である。 フランス語特有のアルファベの発音・基本的な挨拶の仕方・綴り字などを学び、積極的に使用する。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	米金　孝雄	【第 1 回】 予習：自分の知っているフランス語、フランス文化の紹介 1 授業：自己紹介、授業概要、授業の進め方、勉強の仕方、教科書、辞書の紹介、注意点など 復習：アルファベの復習
2	米金　孝雄	【第 2 回】 予習：自分の知っているフランス語、フランス文化を紹介する 2 授業：特有の音、フランス語の使われている国、フランス語に慣れ親しむ（テキスト 6 -7 頁） 復習：基本的なフランス語表現、アルファベの復習
3	米金　孝雄	【第 3 回】 予習：レッスン 1 の音声を聴くこと 授業：綴り字と発音の仕方、挨拶の仕方、名前を言う、国籍を言う、男性形と女性形（8-9 頁）（ペアワーク） 復習：主語人称代名詞、s 'appeler 動詞、Etre 動詞、国籍の表現
4	米金　孝雄	【第 4 回】 予習：レッスン 1 の音声を聴くこと 授業：国籍、数の数え方、職業、名前、数字、アルファベの練習（10-11 頁）（ペアワーク） 復習：職業名詞、　形容詞性数に一致
5	米金　孝雄	【第 5 回】 予習：レッスン 1 ,1+の音声を聴くこと 授業：名前・国籍、数字、アルファベの練習,　基本表現、アクサン記号（11 頁、76-77 頁）（ペアワーク） 復習：名前の言い方、対話練習
6	米金　孝雄	【第 6 回】 予習：レッスン 2 の音声を聴くこと 授業：綴り字と発音の仕方、国籍、職業（12-13 頁）（ペアワーク） 復習：質問と答え
7	米金　孝雄	【第 7 回】 予習：レッスン 2 の音声を聴くこと 授業：数の数え方、職業（14-15 頁）（ペアワーク） 復習：女性形、自己紹介、職業
8	米金　孝雄	【第 8 回】 予習：レッスン 2 ,2+の音声を聴くこと 授業：国籍、職業、tu と vous の表現（78 頁）（ペアワーク） 復習：女性形、自己紹介
9	米金　孝雄	【第 9 回】 予習：レッスン 3 の音声を聴くこと 授業：発音の仕方、アポストロフ、名前・職業・国籍を言う、住んでいる場所を尋ねる、国名、都市、 人称代名詞強制形、En＋国籍、冠詞の縮約形　（16-17 頁）（ペアワーク） 復習：Etre,Habiter, S'appeler 動詞の活用、対話練習、En＋国籍、冠詞の縮約形
10	米金　孝雄	【第 10 回】 予習：レッスン 3,3+の音声を聴くこと 授業：否定文の答え方、名前、職業、国籍、住んでいる場所の質問と答え。（18 頁、79 頁）（ペアワーク） 復習：対話練習

11	米金　孝雄	【第 11 回】 予習：レッスン 3,3+の音声を聴くこと 授業：練習問題（19,79,91 頁）（ペアワーク） 復習：練習問題の確認と再考
12	米金　孝雄	【第 12 回】 予習：レッスン 4 の音声を聴くこと 授業：アンシェンヌマン、この人は誰？、場所を示す疑問文、Parler,habiter,etre 動詞活用の確認（20-21 頁）（ペアワーク） 復習：人・場所を示す質問と答え、Parler,habiter,etre 動詞活用
13	米金　孝雄	【第 13 回】 予習：レッスン 4 の音声を聴くこと 授業：parler 動詞を使った質問と答え、数字、紹介と質問の仕方、練習問題（22-23 頁）（ペアワーク） 復習：「名前、国籍、職業、住んでいる場所、話せる言語」についての質問と答え
14	米金　孝雄	【第 14 回】 予習：レッスン 4,4+の音声を聴くこと 授業：er 動詞の確認、quel を使った疑問文、練習問題（80 頁）（ペアワーク） 復習：er 動詞(aimer,preferer…),quel の用法、練習問題の確認と再考
15	米金　孝雄	【第 15 回】 予習：フランス語を話す国・フランス語に慣れ親しむ・特有の音の確認と再考 授業：前期授業の復習と確認（Dans la classe1 から lecon4/4+）、場所の表現と都市（C'est ou？）（6-25 頁,77-80 頁）（ペアワーク） 復習：前期学習事項を再考し、自分の弱点を克服すること

授業開始前学習	前回の学習事項の復習と、次回の学習事項の予習をすること。
授業内課題のフィードバックの方法	課題(レポート・練習問題・小テスト等)を提出後、内容を再考させ、各人の弱点を把握させ、確実な学習事項の修得へと導く。
テキスト・教材	Petites Conversations(プティットゥ・コンヴェルサスィオン）（駿河台出版社）
参考書	適宜、授業内で資料を配布する。
評価の基準と方法	【配点】：小テスト・提出課題・レポート 80 点，　平常点(授業態度)20 点
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎	○			△	

関連科目	海外観光資源研究 A(ヨーロッパ 1） 言葉と心理 観光のフランス語
その他	注意事項： 3 回の遅刻で 1 回欠席とみなす 予習・復習を怠らないこと
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-132 CT-L-132 SD-L-132	科目分類（～2024 年入学者）	100-130-21	授業コード	F02821
科目名称	フランス語Ⅱ			単位数	1.0 単位
英文名称	FrenchⅡ			授業区分	演習
科目責任者	松村　悠子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松村　悠子			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	基礎的な会話練習を主体にフランス語の学修を行う。会話から出発して、発音、文法、語彙、表現を学ぶ。文法解説・練習問題、発話練習、聞き取り、テキスト読解、作文を通して、文法学習と、話す・聞く・読む・書く、の 4 技能の訓練をバランスよく行う。				
到達目標	基礎的な文法、語彙、表現を習得して、初歩的な会話を理解し遂行できるようになる。これらの文法、語彙、表現を用いた短い文を読み、簡単な文が書けるようになる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	松村　悠子	【第 1 回】 予習　：前期に学習した項目の要点をまとめる 授業　：後期授業ガイダンス、前期の復習 復習　：授業で扱った文法、語彙、表現の復習
2	松村　悠子	【第 2 回】 予習　：レッスン 5 の音声教材を聴く 授業　：レッスン 5、国籍、話せる言語について否定形を用いて表現する（教科書 26 頁）（ペアワーク） 復習　：授業で扱った語彙・表現の復習
3	松村　悠子	【第 3 回】 予習　：レッスン 5 の音声教材を聴く 授業　：レッスン 5、だれかについて聞く、だれかの国籍、話せる言語について否定形を用いて表現する（教科書 27 頁）（ペアワーク） 復習　：授業で扱った語彙・表現の復習
4	松村　悠子	【第 4 回】 予習　：レッスン 5 の音声教材を聴く 授業　：レッスン 5、だれかについて聞く、だれかの国籍、職業について名詞と形容詞を組み合わせて表現する、数字 16 から 20、練習問題（教科書 28 から 29 頁）（ペアワーク） 復習　：授業で扱った語彙・表現の復習
5	松村　悠子	【第 5 回】 予習　：レッスン 6 の音声教材を聴く 授業　：第 1 回目から第 4 回目授業内容の復習 レッスン 6、年齢を言う、きく、動詞 avoir（教科書 30 頁）（ペアワーク） 復習　：授業で扱った語彙・表現の復習
6	松村　悠子	【第 6 回】 予習　：第 1 回目から第 4 回目授業内容の復習（小テスト 1 の準備） 授業　：小テスト 1 だれかの年齢を言う、きく、数字 21 から 30（教科書 31 頁） 復習　：小テスト 1 の問題再考
7	松村　悠子	【第 7 回】 予習　：レッスン 6 の音声教材を聴く 授業　：曜日と 1 週間の時間割を言う、きく、練習問題（教科書 32 から 33 頁） 復習　：授業で扱った語彙・表現の復習
8	松村　悠子	【第 8 回】 予習　：レッスン 7 の音声教材を聴く 授業　：第 5 回目から第 7 回目授業内容の復習 レッスン 7、動詞 avoir を使った熟語（お腹が空いた等）、tu（君）と vous（あなた、君たち、あなたたち）、on（私たち）（教科書 36 から 37 頁）（ペアワーク） 復習　：授業で扱った語彙・表現の復習
9	松村　悠子	【第 9 回】 予習　：第 5 回目から第 7 回目授業内容の復習（小テスト 2 の準備） 授業　：小テスト 2 レッスン 7、数字 31 から 40、動詞 etre を使った表現（疲れた等）（教科書 37 から 38 頁）（ペアワーク） 復習　：授業で扱った語彙・表現の復習 復習　：小テスト 2 の問題再考

10	松村　悠子	【第 10 回】 予習　：レッスン 7 の音声教材を聴く 授業　：レッスン 7、動詞 etre を使った表現（疲れた等）、練習問題（教科書 38 から 39 頁） 復習　：授業で扱った語彙・表現の復習
11	松村　悠子	【第 11 回】 予習　：レッスン 8 の音声教材を聴く 授業　：第 8 回目から第 10 回目授業内容の復習 レッスン 8、物の名前、名詞の性、不定冠詞（教科書 40 頁）（ペアワーク） 復習　：授業で扱った語彙・表現の復習
12	松村　悠子	【第 12 回】 予習　：第 8 回目から第 10 回目授業内容の復習（小テスト 3 の準備） 授業　：小テスト 3 物を指し示す、物についてきく（教科書 41 頁）（ペアワーク） 復習　：小テスト 3 の問題再考
13	松村　悠子	【第 13 回】 予習　：レッスン 8 の音声教材を聞く 授業　：第 11 回目から第 12 回目授業内容の復習 レッスン 8、数字 41 から 50、物の値段を言う、きく（教科書 42）（ペアワーク） 復習　：授業で扱った語彙・表現の復習
14	松村　悠子	【第 14 回】 予習　：第 11 回目から第 12 回目授業内容の復習（小テスト 4 の準備） 授業　：小テスト 4 レッスン 8 の練習問題（教科書 43 頁） 復習　：授業で扱った語彙・表現の復習 復習　：小テスト 4 の問題再考
15	松村　悠子	【第 15 回】 予習　：第 14 回目までの授業を振り返る。 授業　：後期授業のまとめ 復習　：授業で扱った項目の復習

授業開始前学習	
授業内課題のフィードバックの方法	課題、小テストを返却後、問題を再考させ解説を行う。
テキスト・教材	ロイク・ホゲス　著『プティットゥ・コンヴェルサスィオン』駿河台出版社（定価：2,300 円＋税） 仏和辞書
参考書	
評価の基準と方法	小テスト 80 点、平常点（授業態度・課題提出）20 点
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎	○			△	

関連科目	海外観光資源研究 A（ヨーロッパ 1） 海外観光資源研究 B（ヨーロッパ 2） 言葉と心理 観光のフランス語
その他	単位取得には 3 分の 2 以上の出席が必要です。遅刻 1 回、あるいは早退 1 回を欠席 3 分の 1 回とみなします。つまり遅刻ないし早退 3 回で欠席 1 回と数えます。授業開始時刻より 30 分以上遅れて到着した場合、授業終了時刻より 30 分以上早く早退した場合は欠席扱いです。出席数配慮は原則として証明書類の提出により検討します。 宿題を出すことがあります。 全 15 回の授業計画を上に示していますが、受講者やクラスの特性、また社会状況など諸々の都合に応じて若干変更になる場合があります。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-132 CT-L-132 SD-L-132	科目分類（～2024 年入学者）	100-130-21	授業コード	F02822
科目名称	ﾌﾗﾝｽ語 Ⅱ			単位数	1.0 単位
英文名称	French Ⅱ			授業区分	演習
科目責任者	米金　孝雄			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	米金　孝雄			開講時期	1 年
オフィスアワー	前期　水曜日 10:10～10:40　木曜日 10:30～13:00 後期　水曜日 10:00~10:40～12:10~13:00　木曜日 10:00～10:40～12:10～13:00			研究室	10-711
授業概要	基礎的なフランス語の表現・成句を通して、様々なシチュエーションを想定した日常会話の修得を目指す(否定形、年齢を言う、疑問詞、日時、曜日、科目名の表現、c'est の表現、体調を伝える、不定冠詞の用法、など)。フランス語 I で学んだ基本的な音（R の発音、重母音、鼻母音）や文の構造（Etre 動詞、ER 動詞を使用した構文、新たに、Avoir 動詞や人称代名詞 On を用いた構文）の理解を深める。さらに、「音の連鎖や音の省略」(リエゾン、アンシェンヌマン、エリジオン、など)の練習を重ね、フランス語の音に慣れ親しむ。 特に、現実的なインターラクション（「ロール・プレイ」、「シュミレーション」など）に即した実践的なコミュニケーションのための言語使用に重点を置いた授業である。				
到達目標	初歩的なフランス語運用能力（話す・聞く・読む・書く）を習得することが目標である。 フランス語特有のアルファベの発音・基本的な挨拶の仕方・綴り字などを学び、積極的に使用する。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	米金　孝雄	【第 1 回】 予習：前期の復習(レッスン 1-4)とレッスン 5 の音声を聴くこと 授業：前期の復習、前期課題の確認、否定形の作り方と答え方、エリズィオン（26-27 頁,80 頁）（ペアワーク） 復習：国籍名詞、habiter の練習
2	米金　孝雄	【第 2 回】 予習：レッスン 5 の音声を聴くこと 授業：どこに住んでるの、否定形、名前、職業　数字、不定冠詞、男性名詞、女性名詞（27-28 頁）（ペアワーク） 復習：職業名詞、　いいえの答え方、1-20 の数字、C'est　＋名詞の練習
3	米金　孝雄	【第 3 回】 予習：レッスン 5 ,5+の音声を聴くこと 授業：練習問題（女性形、否定文）、Etre de ＋ 地名、対話練習（29 頁、81 頁）（ペアワーク） 復習：地図、国籍と名前の言い方
4	米金　孝雄	【第 4 回】 予習：レッスン 6 の音声を聴くこと 授業：発音、年齢を言う、数字、リエゾン（30-31 頁）（ペアワーク） 復習：1-30 の数字、年齢表現
5	米金　孝雄	【第 5 回】 予習：レッスン 6 の音声を聴くこと 授業：年号、曜日、科目名詞、練習問題（31-33 頁）（ペアワーク） 復習：年号、曜日、科目名を言う
6	米金　孝雄	【第 6 回】 予習：レッスン 6 ,6+の音声を聴くこと 授業：前回の復習、自己紹介、会話練習（34 頁、82 頁）（ペアワーク） 復習：自己紹介の練習
7	米金　孝雄	【第 7 回】 予習：レッスン 5, 6 の復習と確認 授業：レッスン 5, 6 の課題（27-34 頁、81-82 頁）（ペアワーク） 復習：レッスン 5, 6 の課題再考
8	米金　孝雄	【第 8 回】 予習：レッスン 7 の音声を聴くこと 授業：中間試験再考、フランス語圏、体調を伝える、On の用法、Avoir 動詞の疑問文と答え（35-36 頁）（ペアワーク） 復習：on の用法、Aoir 動詞の確認、
9	米金　孝雄	【第 9 回】 予習：レッスン 7 の音声を聴くこと 授業：数字、形容詞の質問と答え、Etre の否定文（37-38 頁）（ペアワーク） 復習：1-40 の数字、形容詞を使った表現

10	米金　孝雄	【第 10 回】 予習：レッスン 7,7+の音声を聴くこと 授業：練習問題（形容詞の用法と avoir/etre 動詞）（39 頁、83 頁）（ペアワーク） 復習：練習問題、レッスン 5-7 の復習
11	米金　孝雄	【第 11 回】 予習：レッスン 8 の音声を聴くこと 授業：不定冠詞の種類と用法、「C'est?」表現（40-41 頁）（ペアワーク） 復習：不定冠詞の練習、C'est?の練習
12	米金　孝雄	【第 12 回】 予習：レッスン 8 の音声を聴くこと 授業：数字 1-50、「C'est combien ?」表現 , 練習問題（42-43 頁）（ペアワーク） 復習：数字表現の練習、C'est?の練習
13	米金　孝雄	【第 13 回】 予習：レッスン 8,8+の音声を聴くこと 授業：Revisions 会話表現, 練習問題（44-45 頁）（ペアワーク） 復習：聞き取り練習、応答練習
14	米金　孝雄	【第 14 回】 予習：レッスン 8,8+の音声を聴くこと 授業：「Qu'est-ce que c'est ? 」の応答練習（84 頁）（ペアワーク） 復習：「Qu'est-ce que c'est ? 」の練習、課題
15	米金　孝雄	【第 15 回】 予習：後期授業の復習 授業：1 年次授業内容・重要事項の確認 復習：1 年次授業内容再考

授業開始前学習	前回の学習事項の復習と、次回の学習事項の予習をすること。
授業内課題のフィードバックの方法	小テスト・課題・レポート等提出後、内容を再考させ、各人の弱点を把握させ、確実な学習事項の習得へと導く。
テキスト・教材	Petites Conversations(プティットゥ・コンヴェルサスィオン)（駿河台出版社）
参考書	適宜、授業内で資料を配布する。
評価の基準と方法	配点：小テスト・提出課題・レポート 80 点,　平常点(授業態度)20 点
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎	○			△	

関連科目	海外観光資源研究 A(ヨーロッパ 1) 言葉と心理 観光のフランス語
その他	注意事項： 3 回の遅刻で 1 回欠席とみなす 予習・復習を怠らないこと
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-232 CT-L-232	科目分類（～2024 年入学者）	100-130-22	授業コード	F02830
科目名称	ﾌﾗﾝｽ語Ⅲ			単位数	1.0 単位
英文名称	FrenchⅢ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	米金　孝雄			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	米金　孝雄			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期　水曜日 10:10～10:40　木曜日 10:30～13:00 後期　水曜日 10:00~10:40～12:10~13:00　木曜日 10:00～10:40～12:10～13:00			研究室	10-711
授業概要	フランス語Ⅰ・Ⅱで修得した知識を活用しながら、更なるフランス語の向上を目指す。 特に、Ⅰ・Ⅱで学習したフランス語特有の発音練習（R の発音、重母音、鼻母音、リエゾン、アンシェンヌマン、エリジオン、等)や聞き取り練習を繰り返し行い、現実的なインターラクション、コミュニケーション（「ロール・プレイ」「シュミレーション」）に慣れ親しみ、実践的な言語運用能力を身につける。特に、高度な音の連鎖やリズムを修得するためには、フランスの歌(シャンソン)を聴き、発話することが非常に有効である。簡単な歌を通して、実践会話のリズムを学ぶ。また、特殊な動詞の活用や用法（aller, faire 動詞など）、さらに、所有形容詞、指示形容詞、好き嫌いの表現、四季の表現、成句 il y a、などを学習し、発話能力を高める。				
到達目標	中級フランス語運用能力（話す･聞く･読む･書く）を修得し、積極的なフランス語での授業参加を目指す。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	米金　孝雄	【第 1 回】 予習：1 年次の復習、レッスン 9 の音声を聴くこと 授業：不定冠詞と定冠詞，冠詞の練習（46 頁） 復習：冠詞の確認
2	米金　孝雄	【第 2 回】 予習：レッスン 9 の音声を聴くこと 授業：il y a 表現と前置詞、数量の質問と答え（47-48 頁）（ペアワーク） 復習：il y a と前置詞
3	米金　孝雄	【第 3 回】 予習：レッスン 9 と 9+の音声を聴くこと 授業：仏文和訳、絵を描く、疑問詞の練習、指示形容詞、練習問題（49,85 頁）（ペアワーク） 復習：指示形容詞の復習
4	米金　孝雄	【第 4 回】 予習：レッスン 10 の音声を聞くこと 授業：好き･嫌いの表現、疑問詞 Est-ce que と応答（50-51 頁）（ペアワーク） 復習：食事の名詞、Est-ce que の練習
5	米金　孝雄	【第 5 回】 予習：レッスン 10 の音声を聴くこと 授業：質問と応答、聞き取り練習、数字（51-60 頁）、対話練習（52-53 頁）（ペアワーク） 復習：好き嫌い表現、疑問文と応答の練習
6	米金　孝雄	【第 6 回】 予習：レッスン 10,10+の音声を聴くこと 授業：faire 動詞と用法、聞き取り、指示形容詞の練習、疑問文と応答の練習（86 頁）（ペアワーク） 復習：faire 動詞と疑問文の確認
7	米金　孝雄	【第 7 回】 予習：レッスン 11 の音声を聞く 授業：中間試験問題再考、スポーツ名詞と preferer 動詞（35 頁、54 頁）（ペアワーク） 復習：スポーツ名詞と preferer 動詞
8	米金　孝雄	【第 8 回】 予習：レッスン 11 の音声を聴くこと 授業：基礎的な er 動詞と faire 動詞　質問と答え、mais の用法（55 頁）（ペアワーク） 復習：er 動詞と faire 動詞の練習
9	米金　孝雄	【第 9 回】 予習：レッスン 11 の音声を聴くこと 授業：相手に質問をする、er 動詞の演習、街を紹介する（56-57 頁）（ペアワーク） 復習：動詞と名詞の関係の確認
10	米金　孝雄	【第 10 回】 予習：レッスン 11,11+の音声を聴くこと 授業：aller 動詞と縮約、manger 動詞、質問と答え（87 頁）（ペアワーク） 復習：aller 動詞と縮約、manger 動詞

11	米金　孝雄	【第 11 回】 予習：レッスン 12 の音声を聴くこと 授業：家族を紹介する（年齢・職業・好きこと・嫌いなこと）、数字（61-70 頁）、質問と答え（58-59 頁）（ペアワーク） 復習：数字、質問と答え
12	米金　孝雄	【第 12 回】 予習：レッスン 12 の音声を聴くこと 授業：兄弟はいますか、所有形容詞、家族を紹介する、練習問題（60-61 頁）（ペアワーク） 復習：所有形容詞の練習、家族の紹介の仕方
13	米金　孝雄	【第 13 回】 予習：レッスン 12,12+の音声を聴くこと 授業：会話練習、er 動詞の確認、Quel est~の表現、四季、練習問題（62-63 頁, 88 頁）（ペアワーク） 復習：会話練習、er 動詞の活用、Quel est~の表現、四季
14	米金　孝雄	【第 14 回】 予習：レッスン 12,12+の音声を聴くこと 授業：Quel est ~?, 四季を表す表現、会話練習、練習問題の確認（88 頁）、歌の聴き取り・発話練習①（ペアワーク） 復習：lecon12/12+の学習事項の確認と再考、歌の発話練習①
15	米金　孝雄	【第 15 回】 予習：後期学習事項（Lecon9/9+~lecon12/12+）を復習すること 授業：1 年次・2 年次前期の学習事項の再確認と再考、動詞活用表（7-63 頁）（77-88 頁）、歌の聴き取り・発話練習②（ペアワーク） 復習：1 年次・2 年次前期学習事項の復習と再考、歌の発話練習②

授業開始前学習	前回の学習事項の復習と、次回の学習事項の予習をすること。
授業内課題のフィードバックの方法	課題(小テスト、レポート、練習問題等）を提出後、内容を再考させ、各人の弱点を把握させ、確実な学習事項の修得へと導く。
テキスト・教材	Petites Conversations(プティットゥ・コンヴェルサスィオン)（駿河台出版社）
参考書	適宜、授業内で資料を配布する。
評価の基準と方法	【配点】：小テスト・提出課題・レポート 80 点,　平常点(授業態度)20 点
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎	○			△	

関連科目	海外観光資源研究 A(ヨーロッパ 1） 言葉と心理 観光のフランス語
その他	注意事項： 3 回の遅刻で 1 回欠席とみなす 予習・復習を怠らないこと
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-232 CT-L-232	科目分類（～2024 年入学者）	100-130-22	授業コード	F02840
科目名称	ﾌﾗﾝｽ語Ⅳ			単位数	1.0 単位
英文名称	FrenchⅣ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	米金　孝雄			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	米金　孝雄			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期　水曜日 10:10～10:40　木曜日 10:30～13:00 後期　水曜日 10:00～10:40～12:10～13:00　木曜日 10:00～10:40～12:10～13:00			研究室	10-711
授業概要	フランス語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで修得した知識を活用しながら、更なるフランス語の向上を目指す。 特に、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学習したフランス語特有の発音練習（R の発音、重母音、鼻母音、リエゾン、アンシェンヌマン、エリジオン、歌特有の音、など）や聞き取り練習を繰り返し行い、現実的なインターラクション、コミュニケーション（「ロール・プレイ」「シュミレーション」）に慣れ親しみ、上級レベルでの実践的な言語運用能力の向上に努める（レストランやカフェでの対話練習、夢や希望を語る、、特殊な動詞活用と用法（vouloir, partir, など)を使った構文、など)。 さらに、難解な音の連鎖やリズムを修得するためには、フランスの歌(シャンソン)を聴き、発話練習を繰り返すことが有効である。新たな歌を通して、実践会話のリズムや歌特有の発音、押韻を学ぶ。				
到達目標	中級フランス語運用能力（話す･聞く･読む･書く）を修得し、積極的なフランス語での授業参加を目指す。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	米金　孝雄	【第 1 回】 予習：前期の復習、レッスン 13 の音声を聴くこと 授業：前期の復習、時間を言う、時間を質問する（64-65 頁）（ペアワーク） 復習：時間の質問と答え
2	米金　孝雄	【第 2 回】 予習：レッスン 13 の音声を聴くこと 授業：フランス新幹線に乗る、科目と曜日と時間を表現する、数字（71-80 頁）、練習問題（66 頁）（ペアワーク） 復習：数字、時間、科目、曜日の復習
3	米金　孝雄	【第 3 回】 予習：レッスン 13,13+の音声を聴くこと 授業：穴埋め練習（形容詞、疑問詞、動詞）、電車の時刻表・スケージュールの聞き取り、質問と答え（67 頁） arriver 動詞、partir 動詞の活用と用法（89 頁）（ペアワーク） 復習：arriver, partir の活用と用法
4	米金　孝雄	【第 4 回】 予習：レッスン 14 の音声を聴くこと 授業：レストランやカフェにて（食べ物・飲み物の語彙、注文する）（68-69 頁）（ペアワーク） 復習：食べ物・飲み物の語彙、注文の表現の復習
5	米金　孝雄	【第 5 回】 予習：レッスン 14 の音声を聴くこと 授業：質問と応答、疑問詞 Qu'est-ce que…?, 数字（81-90）、聞き取り・会話を完成させる練習、数字（51-60 頁）（70-71 頁）（ペアワーク） 復習：数字の復習、疑問文と応答の練習
6	米金　孝雄	【第 6 回】 予習：レッスン 14,14+の音声を聴くこと 授業：質問を作る、文を完成させる、将来の夢や願望を語る（vouloir 動詞条件法、近接未来の用法）（71、90 頁）（ペアワーク） 復習：Vouloir 動詞、近接未来の復習
7	米金　孝雄	【第 7 回】 予習：レッスン 13,14 の復習と確認 授業：レッスン 13,14 の課題（27-34 頁、81-82 頁）（ペアワーク） 復習：レッスン 13, 14 の課題再考
8	米金　孝雄	【第 8 回】 予習：レッスン 15 の音声を聴くこと，課題 授業：食べ物の材料の語彙、不定冠詞と部分冠詞の種類・用法・否定形、acheter 動詞（72-73 頁）（ペアワーク） 復習：食べ物の材料の語彙と avoir 動詞、不定冠詞・部分冠詞の復習

9	米金　孝雄	【第 9 回】 予習：レッスン 15 の音声を聴くこと 授業：数字（91-100 頁）、faire 動詞の活用と用法、メモを取る、聞き取り・発話練習（74-75 頁）（ペアワーク） 復習：数字、対話練習
10	米金　孝雄	【第 10 回】 予習：レッスン 15 の音声を聴くこと 授業：否定文・和文仏訳の練習、基礎的な日常表現（75-76 頁）（ペアワーク） 復習：否定形と食べ物の材料語彙の確認
11	米金　孝雄	【第 11 回】 予習：Lecon13,14,15 の音声を聴くこと 授業：Lecon13,14,15 の作成、前期の復習（ペアワーク） 復習：1 年次からの授業内容の復習
12	米金　孝雄	【第 12 回】 予習：1 年次からの授業内容の復習、動詞活用の確認 授業：1 年次からの授業内容の復習、「動詞活用表」の確認（プリント）（ペアワーク） 復習：動詞活用の復習
13	米金　孝雄	【第 13 回】 予習：近い未来・近い過去の用法について調べておく 授業：近い未来・近い過去の用法と練習、前置詞と定冠詞の縮約と練習（プリント）（ペアワーク） 復習：近い未来・近い過去の練習、前置詞と定冠詞の縮約練習
14	米金　孝雄	【第 14 回】 予習：レッスン 1 ,2, 3・4, 5 ,6、7,8,9 を予習すること（91、92、93 頁） 授業：フランス語 I からⅣまでの復習、歌の聴き取り・発話練習① 復習：レッスン 1 ,2, 3・4, 5 ,6、7,8,9 の確認と再考、歌の発話練習
15	米金　孝雄	【第 15 回】 予習：後期授業の復習 授業：2 年次授業内容・重要事項の確認、歌の聴き取り・発話練習② 復習：2 年次授業内容再考、歌の発話練習②

授業開始前学習	前回の学習事項の復習と、次回の学習事項の予習をすること。
授業内課題のフィードバックの方法	小テスト・課題・レポート等提出後、内容を再考させ、各人の弱点を把握させ、確実な学習事項の習得へと導く。
テキスト・教材	Petites Conversations(プティットゥ　コンヴェルサスィオン）（駿河台出版社）
参考書	適宜、授業内で資料を配布する。
評価の基準と方法	配点：小テスト・提出課題・レポート 80 点、平常点(授業態度)20 点
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎	○			△	

関連科目	海外観光資源研究 A（ヨーロッパ 1） 言葉と心理 観光のフランス語
その他	注意事項： 3 回の遅刻で 1 回欠席とみなす 予習・復習を怠らないこと
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-132 CT-L-132 SD-L-132	科目分類（～2024 年入学者）	100-130-21	授業コード	F02850
科目名称	ﾄﾞｲﾂ語 I			単位数	1.0 単位
英文名称	German I			授業区分	演習
科目責任者	岡野 史			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	岡野 史			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	ドイツ語初学者を対象とし、ドイツ語初級文法の修得を目指す。具体的な文法事項としては、ドイツ語の読み方、発音からはじめ、人称代名詞、動詞の現在形活用、名詞の性と格変化、ドイツ語の語順、様々な冠詞類や並列接続詞の習得を目標とする。合わせて基本的な挨拶などの表現や、ドイツ語圏における様々な都市や文化について触れていく。各課において短いドイツ語の文章読解や、ドイツ語作文に取り組み、初級ドイツ語の基礎を確実に身につける。さらに動画資料や文学作品、時事的なニュースなど実際に用いられているドイツ語表現を紹介し、ドイツ語圏文化に対する関心をさらに高めていくことができるよう進めていく。				
到達目標	基本的なドイツ語の読み方、発音ができるようになることをはじめ、ドイツ語学習の基礎となる人称代名詞の変化、動詞の現在形、冠詞の格変化や語順のルールなどを理解し、簡単な文章読解、ドイツ語作文のなかで用いることができるようになることを目標とする。また基本的な挨拶や自己紹介などの会話表現を学び、短くともドイツ語でコミュニケーションをとることができるようになる。同時に、第二外国語としてドイツ語を学ぶ意義や目標を各々が見つけられるよう、ドイツ語圏への文化理解を深めていく。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	岡野 史	【第 1 回】 予習：シラバスの内容を確認。 授業：ガイダンス・ドイツ語とは：ヨーロッパにおけるドイツ語圏。アルファベート 復習：授業計画の内容確認。配布資料の確認。
2	岡野 史	【第 2 回】 予習：テキスト p.1-3「アルファベート」「つづりと発音」の予習。前回の授業での配布資料を確認。 授業：アルファベート、つづりと発音① 復習：テキスト p.1-3 までの範囲で不明点を再チェック。配布資料の確認。
3	岡野 史	【第 3 回】 予習：テキスト p.1-3「アルファベート」「つづりと発音」の確認。テキスト p.4-5「あいさつ」p.9「数字」の確認。前回の授業での配布資料を確認。 授業：つづりと発音②、簡単な挨拶と数字 復習 ： テキスト p.1-3, 4-5, 9 までの内容を確認。配布資料の確認。
4	岡野 史	【第 4 回】 予習：テキスト p.10「主語になる人称代名詞、動詞の現在人称変化」の確認。 授業：Lektion1： 主語になる人称代名詞、動詞の現在人称変化（規則変化） 復習：テキスト p.10-11 の文法事項と単語を確認すること。配布資料の確認。
5	岡野 史	【第 5 回】 予習：テキスト p.12-15 の確認。 授業：Lektion1： 自己紹介 復習：テキスト p . 12-15 の表現と単語の確認、確認テストの準備。
6	岡野 史	【第 6 回】 予習：確認テスト（Lektion1）の準備。p.80: Freut mich!の確認。 授業：確認テスト（Lektion1）、p.80: Freut mich!、Lektion2：名詞の性・冠詞 復習：テキスト p.80 の文法事項と単語の確認をすること。
7	岡野 史	【第 7 回】 予習：テキスト p.16-17「名詞の性・冠詞、名詞の格変化」の予習。 授業：Lektion2： 名詞の性・冠詞、名詞の格変化 復習：テキスト p. 16-17 の文法事項と単語の確認をすること。配布資料の確認。
8	岡野 史	【第 8 回】 予習：テキスト p.18-19「疑問代名詞の格変化、並列の接続詞」の予習。 授業：Lektion2: 疑問代名詞の格変化、並列の接続詞 復習：テキスト p.18-19 の表現と単語の確認、確認テストの準備。
9	岡野 史	【第 9 回】 予習：確認テスト（Lektion2）の準備。p.80: Werner Adam, Fotograf の確認。 授業：確認テスト（Lektion2）、p.20-21：職業、p.80: Werner Adam, Fotograf 復習：テキスト p.20-23, 80 の文法事項と単語の確認をすること。配布資料の確認。
10	岡野 史	【第 10 回】 予習：テキスト p.24「動詞の現在人称変化 2 、命令形」の予習。 授業：Lektion3： 動詞の現在人称変化 2 、命令形 復習：テキスト p.24-25 の文法事項と単語の確認をすること。配布資料の確認。

11	岡野 史	【第 11 回】 予習：テキスト p.26「名詞の複数形、人称代名詞の 3・4 格、語順」の予習。 授業：Lektion3： 名詞の複数形、人称代名詞の 3・4 格、語順 復習：テキスト p.26-27 の文法事項と単語の確認をすること。配布資料の確認。
12	岡野 史	【第 12 回】 予習：テキスト p.28-29, p.81: Pierre in Köln の確認。 授業：趣味、 p.81: Pierre in Köln 復習：テキスト p.28-29, p.81 の文法事項と単語の確認をすること。配布資料の確認。
13	岡野 史	【第 13 回】 予習：第 12 回までの文法事項確認 授業：Lektion1 復習 復習：テキスト p.15 の文法事項と単語の確認をすること。配布資料の確認。
14	岡野 史	【第 14 回】 予習：第 12 回までの文法事項確認 授業：Lektion2 復習 復習：テキスト p.23 まで全体の復習。
15	岡野 史	【第 15 回】 予習：ドイツ語 I で扱った内容について、不明点がないか確認。全体の復習。 授業：Lektion3 復習、ドイツ語 I で扱った内容の確認 復習：Lektion1-3 の内容を確認、これまでの配布資料の確認。

授業開始前学習	ドイツ語がどのような言語であるのかを知るために、教科書などに目を通しておくこと。 ドイツ文学、映画、音楽などにふれ、ドイツ語文化圏への理解を深めておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	授業内で確認小テストを行う。次週までに返却し、解説を行う。
テキスト・教材	小野寿美子、中川明博『アー・ツェット 楽しく学ぶドイツ語 改訂版』(朝日出版社)
参考書	授業内で適宜紹介。 独和辞典については紙でも電子でも可
評価の基準と方法	平常点（授業内での課題への取り組み、確認テスト）50%、期末試験 50%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎	○			△	

関連科目	観光のドイツ語、海外観光資源研究 B（ヨーロッパ 2）
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）	CS-L-132 CT-L-132 SD-L-132	科目分類（～2024年入学者）	100-130-21	授業コード	F02860
科目名称	ﾄﾞｲﾂ語Ⅱ			単位数	1.0単位
英文名称	GermanⅡ			授業区分	演習
科目責任者	岡野　史			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	岡野　史			開講時期	1年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	ドイツ語Ⅰでの学習内容を復習しつつ、基礎文法についてさらに学習を進める。文法事項や単語などを繰り返し確認することで、初級ドイツ語の知識の定着を目指していく。前置詞・話法の助動詞・未来形・不定代名詞などの文法事項を新たに学び、ドイツ語の表現の幅を広げていく。また同時に、様々な資料を通してドイツ語圏の文化に対する理解を深める。動画や音声などを利用した学習により、ドイツ語の音に親しみ、自然なドイツ語の表現を学んでいく。				
到達目標	ドイツ語の初級文法を理解し、ドイツ語でさらに幅広い表現ができるようになる。ドイツ語の音に慣れ親しむことで、簡単な会話を聞き取り、さらにそれに答えることができるようになる。またドイツ語圏についての知識を得ることで、言葉だけでなくドイツ文化の理解も深める。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	岡野　史	【第1回】 予習：シラバスの内容を確認。ドイツ語Ⅰでの既習事項について、復習と確認をすること。 授業：ガイダンス・Lektion 3までの復習と確認 復習：授業計画の内容確認。Lektion 3までの範囲で不明点があるか確認。
2	岡野　史	【第2回】 予習：Lektion 3 までの復習と確認。前回の授業での配布資料を確認。 授業：Lektion 3までの復習と確認、発音の確認 復習：Lektion 3までの範囲で不明点の再チェック。
3	岡野　史	【第3回】 予習：テキストp.30「冠詞類」の予習。 授業：Lektion 4:　冠詞類 復習　:テキストp.30-31の文法事項の確認をすること。配布資料の確認。
4	岡野　史	【第4回】 予習：テキストp.32「否定冠詞、否定疑問文、非人称のes」の予習。 授業：Lektion4:　否定冠詞、否定疑問文、非人称のes 復習：テキストp.32-33の文法事項と単語を確認すること。配布資料の確認。
5	岡野　史	【第5回】 予習：テキストp.34単語の意味を調べておく。 授業：Lektion4:　買い物、p.81「Anna und Familie Müller」 復習：テキストp.34,p.81の表現と単語の確認、確認テストの準備。
6	岡野　史	【第6回】 予習：テキストp.38-39「前置詞」の予習。 授業：確認テスト（Lektion4）、Lektion 5:　前置詞 復習：テキストp.38-39の文法事項と単語の確認をすること。配布資料の確認。
7	岡野　史	【第7回】 予習：テキストp.40「前置詞と定冠詞の融合形、時を表す表現」の予習。 授業：Lektion5:　前置詞と定冠詞の融合形、時を表す表現 復習：テキストp.40-41の文法事項と単語の確認をすること。配布資料の確認。
8	岡野　史	【第8回】 予習：テキストp.42単語の性と意味を確認しておく。 授業：Lektion5:どう行けばいいですか？、p.82「Mozartstadt」 復習：テキストp.42, p.82の表現と単語の確認、確認テストの準備。
9	岡野　史	【第9回】 予習：テキストp.44「話法の助動詞、未来形」の予習。 授業：確認テスト（Lektion5）、Lektion6:　話法の助動詞、未来形 復習：テキストp.44-45の文法事項と単語の確認をすること。配布資料の確認。
10	岡野　史	【第10回】 予習：テキストp.46「従属の接続詞と副文」の予習。 授業：Lektion6:　従属の接続詞と副文 復習：テキストp.46-47の文法事項と単語の確認をすること。配布資料の確認。

11	岡野　史	【第 11 回】 予習：テキスト p.48 の単語の性と意味を確認しておく。 授業：Lektion6:誕生日おめでとう、p.83「Geburtstagsbräuche in Deutschland」 復習：テキスト p.48, p.83 の表現と単語の確認、確認テストの準備。
12	岡野　史	【第 12 回】 予習：確認テストの準備。 授業：確認テスト（Lektion6）、冠詞類まとめ 復習：配布資料の確認。
13	岡野　史	【第 13 回】 予習：動詞（現在形）についてこれまでの内容を復習 授業：動詞（現在形）まとめ 復習：配布資料の確認。
14	岡野　史	【第 14 回】 予習：前置詞についてこれまでの内容を復習 授業：前置詞まとめ 復習：配布資料の確認。Lektion6 まで全体の復習。
15	岡野　史	【第 15 回】 予習：ドイツ語 II で扱った内容について、不明点がないか確認。全体の復習。 授業：理解度の確認、ドイツ語 II で扱った内容、理解度の確認 復習：Lektion4-6 の内容を確認、これまでの配布資料の確認。

授業開始前学習	ドイツ語 I で学習した内容を確認しておくこと。 またドイツ文学、映画、音楽などにふれ、ドイツ語文化圏への理解を深めておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	授業内にて確認小テストを行う。次週までに返却し、解説を行う。
テキスト・教材	小野寿美子、中川明博ほか『アー・ツェット　楽しく学ぶドイツ語　改訂版』(朝日出版社)
参考書	授業内で適宜紹介 独和辞典を持参すること（紙、電子など媒体は問わず）
評価の基準と方法	平常点（授業内での課題への取り組み、確認テスト）50%、期末試験 50%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎	○			△	

関連科目	観光のドイツ語、海外観光資源研究 B(ﾖｰﾛｯﾊﾟ 2)
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-232 CT-L-232	科目分類（～2024 年入学者）	100-130-22	授業コード	F02870
科目名称	ﾄﾞｲﾂ語Ⅲ			単位数	1.0 単位
英文名称	GermanⅢ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	岡野　史			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	岡野　史			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	ドイツ語Ⅰ・Ⅱでの学習内容を復習しつつ、基礎文法についてさらに学習を進める。文法事項や単語などを繰り返し確認することで、初級ドイツ語の知識の定着を目指していく。zu 不定詞や過去形、現在完了形などの文法事項を新たに学び、ドイツ語の表現の幅を広げていく。また同時に、様々な資料を通してドイツ語圏の文化に対する理解を深める。動画や音声などを利用した学習により、ドイツ語の音に親しみ、自然なドイツ語の表現を学んでいく。				
到達目標	ドイツ語の初級文法を理解し、ドイツ語でさらに幅広い表現ができるようになる。ドイツ語の音に慣れ親しむことで、簡単な会話を聞き取り、さらにそれに答えることができるようになる。またドイツ語圏についての知識を得ることで、言葉だけでなくドイツ文化の理解も深める。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	岡野　史	予習：シラバスの内容を確認。ドイツ語Ⅱまでの既習事項について、復習と確認をすること。 授業：ガイダンス・Lektion 6 までの復習と確認 復習：授業計画の内容確認。Lektion 6 までの範囲で不明点があるか確認。
2	岡野　史	【第 2 回】 予習：テキスト p.52「形容詞の格変化」の予習。 授業：Lektion7:　形容詞の用法、格変化 復習：テキスト p.52-53 の文法事項と単語の確認をすること。配布資料の確認。
3	岡野　史	【第 3 回】 予習：テキスト p.54「形容詞・副詞の比較」の予習。 授業：Lektion7 :形容詞・副詞の比較 復習：テキスト p.54-55 の文法事項と単語の確認をすること。配布資料の確認。
4	岡野　史	【第 4 回】 予習：テキスト p.56 単語の性と意味を確認しておく。 授業：Lektion7:レストランで、p.83.「Restaurants in Deutschland」 復習：テキスト p.56, p.83 の表現と単語の確認。Lektion7 まで全体の復習。
5	岡野　史	【第 5 回】 予習：テキスト p.58「分離動詞、非分離動詞」の予習。 授業：Lektion8：　分離動詞、非分離動詞 復習：テキスト p .58-59 の文法事項と単語の確認をすること。配布資料の確認。
6	岡野　史	【第 6 回】 予習：テキスト p.60「zu 不定詞・zu 不定詞句」の予習。 授業：Lektion9：zu 不定詞・zu 不定詞句 復習：テキスト p.60-61 の文法事項と単語の確認をすること。配布資料の確認。
7	岡野　史	【第 7 回】 予習：テキスト p.62、p.83: Oktoberfest の予習。 授業：Lektion9：　週末の予定は？、p.83: Oktoberfest 復習：テキスト p.62、p.83 の文法事項と単語の確認をすること。配布資料の確認。
8	岡野　史	【第 8 回】 予習：テキスト p.66「動詞の 3 基本形、過去分詞に ge-をつけない動詞」の予習。 授業：Lektion10 :動詞の 3 基本形、過去分詞に ge-をつけない動詞 復習：テキスト p.66-67 の文法事項と単語の確認をすること。配布資料の確認。
9	岡野　史	【第 9 回】 予習：テキスト p.68「過去表現（1）現在完了形」の予習。 授業：Lektion9 :過去表現（1）現在完了形 復習：テキスト p.68-69 の文法事項と単語の確認をすること。配布資料の確認、確認テスト
10	岡野　史	【第 10 回】 予習：確認テストの準備（動詞の時制について） 授業：確認テスト（動詞の時制について）、Lektion9 までの不明点の確認 復習：配布資料の確認。
11	岡野　史	【第 11 回】 予習：テキスト p.70、p.84: Emis Wochenende の予習。 授業：Lektion9:　週末に何をしたの？p.84: Emis Wochenende 復習：テキスト p.70、p.84 の文法事項と単語の確認をすること。配布資料の確認。

12	岡野　史	【第 12 回】 予習：テキスト p.72「過去表現（２）過去形」の予習。 授業：Lektion10 :過去表現（２）過去形 復習：テキスト p.72-73 の文法事項と単語の確認をすること。配布資料の確認
13	岡野　史	【第 13 回】 予習：テキスト p.74「再帰代名詞と再帰動詞」の予習。 授業：Lektion10 :再帰代名詞と再帰動詞 復習：テキスト p.74-75 の文法事項と単語の確認をすること。配布資料の確認
14	岡野　史	【第 14 回】 予習：テキスト p.76、p.84: Der Fuchs und die Trauben の予習。 授業：Lektion9: 週末に何をしたの？p.84: Der Fuchs und die Trauben 復習：テキスト p.76、p.84 の文法事項と単語の確認をすること。配布資料の確認。
15	岡野　史	【第 15 回】 予習：ドイツ語Ⅲで扱った内容について、不明点がないか確認。全体の復習。 授業：Lektion7-10 について理解度の確認、ドイツ語Ⅲで扱った内容の確認 復習：Lektion7-10 の内容を確認、これまでの配布資料の確認。

授業開始前学習	ドイツ語Ⅰ・Ⅱで学習した内容を確認しておくこと。 またドイツ文学、映画、音楽などにふれ、ドイツ語文化圏への理解を深めておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	授業内で確認小テストを行う。次週までに返却し、解説を行う。
テキスト・教材	小野寿美子、中川明博『アー・ツェット　楽しく学ぶドイツ語　改訂版』(朝日出版社)
参考書	授業内で適宜紹介 独和辞典を持参すること（紙、電子など媒体は問わず）
評価の基準と方法	平常点（授業内での課題への取り組み、確認テスト）50%、期末試験 50%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎	○			△	

関連科目	観光のドイツ語、海外観光資源研究 B(ﾖｰﾛｯﾊﾟ 2)
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-232 CT-L-232	科目分類（～2024 年入学者）	100-130-22	授業コード	F02880
科目名称	ﾄﾞｲﾂ語Ⅳ			単位数	1.0 単位
英文名称	GermanⅣ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	岡野 史			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	岡野 史			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	ドイツ語Ⅰ・II・Ⅲでの学習内容を復習しつつ、基礎文法についてさらに学習を進める。文法事項や単語などを繰り返し確認することで、初級ドイツ語の知識の定着を目指していく。時制や関係代名詞についての全体的な確認と受動態・仮定法などの文法事項を新たに学び、ドイツ語の表現の幅を広げていく。また同時に、様々な資料を通してドイツ語圏の文化に対する理解を深める。ドイツ語で書かれた文章に多く触れることで、初級ドイツ語文法の総括的な習得を目指す。				
到達目標	ドイツ語の基礎的な文法事項についての習得を一通り完了させる。過去や未来・もしもの話など、表現できるドイツ語の幅を広げる。これまで学んだ基礎知識を用いることで、多少複雑なドイツ語でも読解が可能になる。さらに映像や音声を通し、ドイツ語圏についての様々な知識を得ることで、言葉だけでなくドイツ文化の理解も深める。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	岡野 史	【第 1 回】 予習：シラバスの内容を確認。ドイツ語Ⅰ・II・Ⅲでの既習事項について復習。 授業：ガイダンス・既習の文法事項について確認 復習：授業計画の内容確認。Lektion 10 までの範囲で不明点があるか確認。
2	岡野 史	【第 2 回】 予習：Lektion 9 までの復習と確認。前回の授業での配布資料を確認。 授業：Lektion 9 の復習と確認、「動詞の 3 基本形と現在完了」 復習：Lektion 9 までの範囲で不明点の再チェック。配布資料の確認。
3	岡野 史	【第 3 回】 予習：Lektion 10 の復習と確認。前回の授業での配布資料を確認。 授業：Lektion 10 の復習と確認、「過去形、再帰代名詞と再帰動詞」 復習 ：Lektion 10 までの範囲で不明点の再チェック。配布資料の確認。
4	岡野 史	【第 4 回】 予習：Lektion 9・10 の復習と確認。前回の授業での配布資料を確認。 授業：これまでの動詞の時制の総復習 復習：Lektion9・10 の文法事項の確認。配布資料の確認。確認テストの準備。
5	岡野 史	【第 5 回】 予習：これまでに学んだ動詞の時制について復習。 授業：確認テスト（動詞の時制）。名詞の性についての確認 復習：テキスト p.88-89「名詞の性の見分け方」、配布資料の確認。
6	岡野 史	【第 6 回】 予習：テキスト p.95「受動形（1）動作受動」の予習。 授業：受動形の基本的用法 復習：テキスト p.95「受動形（1）動作受動」の文法事項の確認をすること。配布資料の確認。
7	岡野 史	【第 7 回】 予習：テキスト p.96「受動形（2）状態受動（3）自動詞の受動」の予習。 授業：状態受動、自動詞の受動について 復習：テキスト p.96「受動形（2）状態受動（3）自動詞の受動」の文法事項の確認をすること。配布資料の確認。
8	岡野 史	【第 8 回】 予習：前 2 回の授業で扱った受動形について復習。 授業：その他の受動形、受動形の使い分け 復習：テキスト p.95-96 の文法事項、配布資料の確認。確認テストの準備。
9	岡野 史	【第 9 回】 予習：これまでに学んだ受動形について復習。 授業：確認テスト（受動形）、形容詞の格変化の確認 復習：形容詞の格変化について確認。配布資料の確認。
10	岡野 史	【第 10 回】 予習：テキスト p.96「分詞」の予習。 授業：現在分詞、過去分詞 復習：テキスト p.96 の文法事項の確認をすること。配布資料の確認。

11	岡野　史	【第 11 回】 予習：テキスト p.97-99「接続法」の予習。 授業：接続法の用法、時制 復習：テキスト p.97-99 の文法事項の確認をすること。配布資料の確認。
12	岡野　史	【第 12 回】 予習：テキスト p.97-99「接続法」の予習。前回配布資料の確認。 授業：接続法第一式　（要求話法、間接話法） 復習：テキスト p.97-99 の文法事項の確認をすること。配布資料の確認。
13	岡野　史	【第 13 回】 予習：テキスト p.97-99「接続法」の予習。前回配布資料の確認。 授業：接続法第二式（仮定法） 復習：テキスト p.97-99 の文法事項の確認をすること。配布資料の確認。
14	岡野　史	【第 14 回】 予習：前 3 回の授業で扱った接続法について復習。 授業：接続法についての確認、接続法のヴァリエーション 復習：テキスト p.98-99 の文法事項、配布資料の確認。確認テストの準備。
15	岡野　史	【第 15 回】 予習：ドイツ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲでこれまで学んだ文法事項について復習。 授業：全体を通した不明点の確認 復習：Lektion1-10 の内容を確認、「受動態」「接続法」を中心にテキストとこれまでの配布資料の確認。

授業開始前学習	ドイツ語Ⅰ・II・Ⅲで学習した内容を確認しておくこと。 またドイツ文学、映画、音楽などにふれ、ドイツ語文化圏への理解を深めておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	授業内で確認小テストを行う。次週までに返却し、解説を行う。
テキスト・教材	小野寿美子、中川明博『アー・ツェット　楽しく学ぶドイツ語　改訂版』(朝日出版社)
参考書	授業内で適宜紹介 独和辞典を持参すること（紙、電子など媒体は問わず）
評価の基準と方法	平常点（授業内での課題への取り組み、確認テスト）50%、期末試験 50%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎	○			△	

関連科目	観光のドイツ語、海外観光資源研究 B(ﾖｰﾛｯﾊﾟ 2)
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	100-130-21	授業コード	F02890
科目名称	ｽﾍﾟｲﾝ語 I			単位数	1.0 単位
英文名称	Spanish I			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	西田　恭子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	西田　恭子			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	スペイン語初心者のためのクラスで、基礎文法、語彙、表現を、ペアやグループでのアクティビティを通じて学ぶ。スペイン語に慣れ、「聞く・話す・読む・書く」の４技能をバランス良く身につける。文法は、英語の be 動詞にあたる ser と estar 動詞の現在形を扱い、コミュニケーションに必要な語彙を順次学んでいく。それらを使って自己紹介や、友人や家族の紹介をしたり、大学や住んでいる場所などについて話す。スペイン語圏についての知識など、文化的なポイントも扱う。				
到達目標	スペイン語の基礎的知識を身につけ、自己紹介や、自分の生活について話すなどの単純な会話ができるようになることを目標とする。授業を通して、スペイン語の学習がスペイン語圏の人々の理解と、文化的な多様性の認識につながることに気づくことが重要である。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	西田　恭子	【第 1 回】 予習：　シラバスを読む。教科書の構成を見る。はじめのページの言葉を読む。 授業：　Introducción　自己紹介をする　（グループワーク） 復習：「その他」欄に記載のとおり p.1 の復習をする。
2	西田　恭子	【第 2 回】 予習：　教科書 p.2-3 に目を通す。 授業：　Unidad 1: Hola, ¿Cómo te llamas? 1（グループワーク） 復習：「その他」欄に記載のとおり p.2-3 の復習をする。
3	西田　恭子	【第 3 回】 予習：　教科書 p.4-5 に目を通す。 授業：　Unidad 1: Hola, ¿Cómo te llamas? 2（グループワーク） 復習：「その他」欄に記載のとおり p.4-5 の復習をする。
4	西田　恭子	【第 4 回】 予習：　教科書 p.6-7 に目を通す。 授業：　Unidad 1: Hola, ¿Cómo te llamas? 3（グループワーク） 復習：「その他」欄に記載のとおり p.6-7 の復習をする。
5	西田　恭子	【第 5 回】 予習：　教科書 p.8-9 に目を通す。 授業：　Unidad 1: Hola, ¿Cómo te llamas? 4（グループワーク） 復習：「その他」欄に記載のとおり p.8-9 の復習をする。
6	西田　恭子	【第 6 回】 予習：　教科書 p.11-13 に目を通す。 授業：　Unidad 2: Soy japonés, de Tokio 1（グループワーク） 復習：「その他」欄に記載のとおり p.11-13 の復習をする。
7	西田　恭子	【第 7 回】 予習：　教科書 p.14-15 に目を通す。 授業：　Unidad 2: Soy japonés, de Tokio 2（グループワーク） 復習：「その他」欄に記載のとおり p.14-15 の復習をする。
8	西田　恭子	【第 8 回】 予習：　教科書 p.16-17 に目を通す。 授業：　Unidad 2: Soy japonés, de Tokio 3（グループワーク） 復習：「その他」欄に記載のとおり p.16-17 の復習をする。
9	西田　恭子	【第 9 回】 予習：　教科書 p.18-19 に目を通す。 授業：　Unidad 2: Soy japonés, de Tokio 4（グループワーク） 復習：「その他」欄に記載のとおり p.18-19 の復習をする。
10	西田　恭子	【第 10 回】 予習：　教科書 p.21-23 に目を通す。 授業：　Unidad 3: Mi universidad 1（グループワーク） 復習：「その他」欄に記載のとおり p.21-23 の復習をする。
11	西田　恭子	【第 11 回】 予習：　教科書 p.24-25 に目を通す。 授業：　Unidad 3: Mi universidad 2（グループワーク） 復習：「その他」欄に記載のとおり p.24-25 の復習をする。

12	西田　恭子	【第 12 回】 予習：　教科書 p.26-27 に目を通す。 授業：　Unidad 3: Mi universidad 3（グループワーク） 復習：「その他」欄に記載のとおり p.26-27 の復習をする。
13	西田　恭子	【第 13 回】 予習：　教科書 p.28-29 に目を通す。 授業：　Unidad 3: Mi universidad 4（グループワーク） 復習：「その他」欄に記載のとおり p.28-29 の復習をする。
14	西田　恭子	【第 14 回】 予習：　プレゼンテーションの準備、練習を行う。 授業：　最終プレゼンテーション　Unidad 1-3 学習内容の復習 1（プレゼンテーション） 復習：　定期試験に向けてこれまでの授業で学んだ内容の復習を行う。
15	西田　恭子	【第 15 回】 予習：　口答試験の準備、練習を行う。 授業：　口答試験 Unidad 1-3 学習内容の復習 2（課題解決型学習） 復習：　定期試験に向けてこれまでの授業で学んだ内容の復習を行う。

授業開始前学習	身のまわりにあるスペイン語を探し、書き留め、意味を調べてみる。
授業内課題のフィードバックの方法	授業の始めに小テストを行い、その場あるいは翌週に返却します。 作文の課題、プレゼンテーションを実施し、授業内で口答でのフィードバック、または添削して返却します。
テキスト・教材	フアン・カルロス・モヤノ・ロペス /カルロス・ガルシア・ルイス・カスティージョ /廣康好美著 『いいね！スペイン語 1 第 2 版 ¡Muy bien! 1 –Segunda edición–』（朝日出版社）
参考書	
評価の基準と方法	授業参加 20%　小テスト 10%　作文課題 10%　口答試験 20%　定期試験 40%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎	○			△	

関連科目	観光のスペイン語　（学習内容が部分的に重複します）
その他	予習と復習が必要だが復習を中心に行う。復習では次のことを確認する。 1．新たに学んだ文法事項など授業で扱った内容が完全に理解できたかを確認する。理解できていない内容がある場合は、次の授業で質問できるようにメモをしておく。 2．新出、既出に関わらず覚えていない語彙や表現の使い方を再確認し、すべて暗記する。 3．授業で扱ったオーディオを教科書を見ないでも理解できるよう復習する。 4．教科書を見ずに授業で使った文を書いてみて、教科書で確認する。 5．作文課題に取り組む。 6．その他教員が
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	100-130-21	授業コード	F02900
科目名称	ｽﾍﾟｲﾝ語Ⅱ			単位数	1.0 単位
英文名称	SpanishⅡ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	西田　恭子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	西田　恭子			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	スペイン語Ⅰを履修した人を対象としたクラスで、基礎文法、語彙、表現を、ペアやグループでのアクティビティを通じて学ぶ。スペイン語に慣れ、「聞く・話す・読む・書く」の４技能をバランス良く身につける。文法は、英語の be 動詞にあたる ser と estar 動詞の復習に加え、規則動詞、不規則動詞の現在形を扱い、その他コミュニケーションに必要な語彙を順次学んでいく。それらを使ってスペイン語Ⅰより詳細な自己紹介や、大学や住んでいる場所などについて話し、尋ねる。スペイン語圏の文化的項目も扱う。				
到達目標	スペイン語の基礎的知識を身につけ、初対面の人との会話や、大学や住んでいる場所について話すなどの単純な会話ができるようになることを目標とする。授業を通して、スペイン語の学習がスペイン語圏の人々の理解と、文化的な多様性の認識につながることに気づくことが重要である。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	西田　恭子	【第１回】 予習：　教科書 p.30 までの復習。 授業：　スペイン語Ⅰで学んだ内容の復習（グループワーク） 復習：　動詞 SER と ESTAR の活用と用法を復習する。
2	西田　恭子	【第２回】 予習：教科書 p.31-33 に目を通す。 授業：Unidad 4: Estudio en la universidad de Salamanca 1　（グループワーク） 復習：「その他」欄に記載のとおり p.31-33 の復習をする。
3	西田　恭子	【第３回】 予習：教科書 p.34-35 に目を通す。 授業：Unidad 4: Estudio en la universidad de Salamanca 2　（グループワーク） 復習：「その他」欄に記載のとおり p.34-35 の復習をする。
4	西田　恭子	【第４回】 予習：教科書 p.36-37 に目を通す。 授業：Unidad 4: Estudio en la universidad de Salamanca 3　（グループワーク） 復習：「その他」欄に記載のとおり p.36-37 の復習をする。
5	西田　恭子	【第５回】 予習：教科書 p.38-39 に目を通す。 授業：Unidad 4: Estudio en la universidad de Salamanca 4　（グループワーク） 復習：「その他」欄に記載のとおり p.38-39 の復習をする。
6	西田　恭子	【第６回】 予習：教科書 p.41-43 に目を通す。 授業：Unidad 5: La familia 1　（グループワーク） 復習：「その他」欄に記載のとおり p.41-43 の復習をする。
7	西田　恭子	【第７回】 予習：教科書 p.44-45 に目を通す。 授業：Unidad 5: La familia 2　（グループワーク） 復習：「その他」欄に記載のとおり p.44-45 の復習をする。
8	西田　恭子	【第８回】 予習：教科書 p.46-47 に目を通す。 授業：Unidad 5: La familia 3　（グループワーク） 復習：「その他」欄に記載のとおり p.46-47 の復習をする。
9	西田　恭子	【第９回】 予習：教科書 p.48-49 に目を通す。 授業：Unidad 5: La familia 4　（グループワーク） 復習：「その他」欄に記載のとおり p.48-49 の復習をする。
10	西田　恭子	【第 10 回】 予習：教科書 p.51-53 に目を通す。 授業：Unidad 6: En vacaciones voy a ir a Barcelona 1　（グループワーク） 復習：「その他」欄に記載のとおり p.51-53 の復習をする。
11	西田　恭子	【第 11 回】 予習：教科書 p.54-55 に目を通す。 授業：Unidad 6: En vacaciones voy a ir a Barcelona 2　（グループワーク） 復習：「その他」欄に記載のとおり p.54-55 の復習をする。

12	西田　恭子	【第 12 回】 予習：教科書 p.56-57 に目を通す。 授業：Unidad 6: En vacaciones voy a ir a Barcelona 3　（グループワーク） 復習：「その他」欄に記載のとおり p.56-57 の復習をする。
13	西田　恭子	【第 13 回】 予習：教科書 p.58-59 に目を通す。 授業：Unidad 6: En vacaciones voy a ir a Barcelona 4　（グループワーク） 復習：「その他」欄に記載のとおり p.58-59 の復習をする。
14	西田　恭子	【第 14 回】 予習：　プレゼンテーションの準備、練習を行う。 授業：　最終プレゼンテーション　Unidad 4-6 学習内容の復習 1（プレゼンテーション） 復習：　定期試験に向けてこれまでの授業で学んだ内容の復習を行う。
15	西田　恭子	【第 15 回】 予習：　口答試験の準備、練習を行う。 授業：　口答試験 Unidad 4-6 学習内容の復習 2（課題解決型学習） 復習：　定期試験に向けてこれまでの授業で学んだ内容の復習を行う。

授業開始前学習	スペイン語 I の学習内容を復習する。
授業内課題のフィードバックの方法	授業の始めに小テストを行い、その場あるいは翌週に返却します。 作文の課題、プレゼンテーションを実施し、授業内で口答でのフィードバック、または添削して返却します。
テキスト・教材	フアン・カルロス・モヤノ・ロペス /カルロス・ガルシア・ルイス・カスティージョ /廣康好美著 『いいね！スペイン語 1 第 2 版 ¡Muy bien! 1 –Segunda edición–』（朝日出版社）
参考書	
評価の基準と方法	授業参加 20%　小テスト 10%　作文課題 10%　口答試験 20%　定期試験 40%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎	○			△	

関連科目	観光のスペイン語　（学習内容が部分的に重複します）
その他	予習と復習が必要だが復習を中心に行う。復習では次のことを確認する。 1．新たに学んだ文法事項など授業で扱った内容が完全に理解できたかを確認する。理解できていない内容がある場合は、次の授業で質問できるようにメモをしておく。 2．新出、既出に関わらず覚えていない語彙や表現の使い方を再確認し、すべて暗記する。 3．授業で扱ったオーディオを教科書を見ないでも理解できるよう復習する。 4．教科書を見ずに授業で使った文を書いてみて、教科書で確認する。 5．作文課題に取り組む。 6．その他教員が
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	100-130-22	授業コード	F02911
科目名称	ｽﾍﾟｲﾝ語Ⅲ			単位数	1.0 単位
英文名称	SpanishⅢ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	西田　恭子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	西田　恭子			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	スペイン語 I, II に引き続き、基礎文法、語彙、表現を、ペアやグループでコミュニケーションするアクティビティを通じて学んでいき、総合的なコミュニケーション能力を身につける。文法は、基本的な動詞と再帰動詞の現在形及び、目的語代名詞の使い方を学ぶ。コミュニケーションに必要な語彙は順次導入される。それらを使って、日常生活や、好みなどについて話す。スペインやラテンアメリカの食べ物など、文化的なポイントも扱う。授業で扱った文法を理解し、語彙や表現を確実に覚えていくことが必要である。				
到達目標	スペイン語の基礎的知識を身につけ、自分自身について話す等の単純なコミュニケーションや日常会話ができるようになることを目標とする。授業を通して、スペイン語の学習がスペイン語圏の人々に対する理解と、文化的多様性の認識につながることに気づくことが重要である。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	西田　恭子	【第 1 回】 予習：教科書 p.60 までの内容を確認する。 授業：スペイン語 I, II で学んだ内容の確認と復習。（グループワーク） 復習：規則動詞、不規則動詞の活用を復習する。
2	西田　恭子	【第 2 回】 予習：教科書 p.61-63 に目を通す。 授業：Unidad 7: Me gusta mucho la música pop. ¿Y a ti? 1 復習：「その他」欄に記載のとおり p.61-63 の復習をする。
3	西田　恭子	【第 3 回】 予習：教科書 p.64-65 に目を通す。 授業：Unidad 7: Me gusta mucho la música pop. ¿Y a ti? 2 復習：「その他」欄に記載のとおり p.64-65 の復習をする。
4	西田　恭子	【第 4 回】 予習：教科書 p.66-67 に目を通す。 授業：Unidad 7: Me gusta mucho la música pop. ¿Y a ti? 3 復習：「その他」欄に記載のとおり p.66-67 の復習をする。
5	西田　恭子	【第 5 回】 予習：教科書 p.68-69 に目を通す。 授業：Unidad 7: Me gusta mucho la música pop. ¿Y a ti? 4 復習：「その他」欄に記載のとおり p.68-69 の復習をする。
6	西田　恭子	【第 6 回】 予習：教科書 p.71-73 に目を通す。 授業：Unidad 8: De compras 1 復習：「その他」欄に記載のとおり p.71-73 の復習をする。
7	西田　恭子	【第 7 回】 予習：教科書 p.74-75 に目を通す。 授業：Unidad 8: De compras 2 復習：「その他」欄に記載のとおり p.74-75 の復習をする。
8	西田　恭子	【第 8 回】 予習：教科書 p.76-77 に目を通す。 授業：Unidad 8: De compras 3 復習：「その他」欄に記載のとおり p.76-77 の復習をする。
9	西田　恭子	【第 9 回】 予習：教科書 p.78-79 に目を通す。 授業：Unidad 8: De compras 4 復習：「その他」欄に記載のとおり p.78-79 の復習をする。
10	西田　恭子	【第 10 回】 予習：教科書 p.81-83 に目を通す。 授業：Unidad 9: ¡A comer! 1 復習：「その他」欄に記載のとおり p.81-83 の復習をする。
11	西田　恭子	【第 11 回】 予習：教科書 p.84-85 に目を通す。 授業：Unidad 9: ¡A comer! 2 復習：「その他」欄に記載のとおり p.84-85 の復習をする。

12	西田　恭子	【第 12 回】 予習：教科書 p.86-87 に目を通す。 授業：Unidad 9: ¡A comer! 3 復習：「その他」欄に記載のとおり p.86-87 の復習をする。
13	西田　恭子	【第 13 回】 予習：教科書 p.88-89 に目を通す。 授業：Unidad 9: ¡A comer! 4 復習：「その他」欄に記載のとおり p.88-89 の復習をする。
14	西田　恭子	【第 14 回】 予習：　プレゼンテーションの準備、練習を行う。 授業：　最終プレゼンテーション　Unidad 7-9 学習内容の復習 1（プレゼンテーション） 復習：　定期試験に向けてこれまでの授業で学んだ内容の復習を行う。
15	西田　恭子	【第 15 回】 予習：　口答試験の準備、練習を行う。 授業：　口答試験 Unidad 7-9 学習内容の復習 2（課題解決型学習） 復習：　定期試験に向けてこれまでの授業で学んだ内容の復習を行う。

授業開始前学習	スペイン語 I,II で学習した内容を復習する。
授業内課題のフィードバックの方法	授業の始めに小テストを行い、その場あるいは翌週に返却します。 作文の課題、プレゼンテーションを実施し、授業内で口答でのフィードバック、または添削して返却します。
テキスト・教材	フアン・カルロス・モヤノ・ロペス /カルロス・ガルシア・ルイス・カスティージョ /廣康好美著 『いいね！スペイン語 1 第 2 版 ¡Muy bien! 1 –Segunda edición–』（朝日出版社）
参考書	
評価の基準と方法	授業参加 20%　小テスト 10%　作文課題 10%　口答試験 20%　定期試験 40%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎	○			△	

関連科目	観光のスペイン語　（学習内容が部分的に重複します）
その他	予習と復習が必要だが復習を中心に行う。復習では次のことを確認する。 1．新たに学んだ文法事項など授業で扱った内容が完全に理解できたかを確認する。理解できていない内容がある場合は、次の授業で質問できるようにメモをしておく。 2．新出、既出に関わらず覚えていない語彙や表現の使い方を再確認し、すべて暗記する。 3．授業で扱ったオーディオを教科書を見ないでも理解できるよう復習する。 4．教科書を見ずに授業で使った文を書いてみて、教科書で確認する。 5．作文課題に取り組む。 6．その他教員が
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	100-130-22	授業コード	F02921
科目名称	ｽﾍﾟｲﾝ語Ⅳ			単位数	1.0 単位
英文名称	SpanishⅣ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	西田　恭子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	西田　恭子			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	スペイン語は約 4 億人の人々が話す世界で最も使用人口が多い言語の一つです。20 か国に及ぶスペイン語圏の人々の文化は多様性に富み、魅力にあふれています。この授業はスペイン語Ⅲを終了した人を対象とし、さらにスペイン語の読み・書き・話す力を伸ばすことをテーマとします。スペイン語Ⅳでは、再帰動詞や 2 人称の肯定命令を学び、動詞の直説法現在の学習を終了し、過去形の学習に進みます。				
到達目標	再帰動詞を使って日常の行為について話せるようになる。 2 人称の肯定命令を使って親しい人に指示をしたり、お願いできるようになる。 動詞の直説法現在を使って多様な表現ができるようになる。 直説法点過去を使って過去に起こった出来事を伝えることができるようになる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	西田　恭子	【第 1 回】 予習：教科書 p.90 までの内容を確認する。 授業：スペイン語 I, II, III で学んだ内容の確認と復習。（グループワーク） 復習：規則動詞、不規則動詞の活用、好みについての表現を復習する。
2	西田　恭子	【第 2 回】 予習：教科書 p.91-93 に目を通す。 授業：Unidad 10: Los mexicanos se levantan pronto 1 復習：「その他」欄に記載のとおり p. 91-93 の復習をする。
3	西田　恭子	【第 3 回】 予習：教科書 p.94-95 に目を通す。 授業：Unidad 10: Los mexicanos se levantan pronto 2 復習：「その他」欄に記載のとおり p. 94-95 の復習をする。
4	西田　恭子	【第 4 回】 予習：教科書 p.96-97 に目を通す。 授業：Unidad 10: Los mexicanos se levantan pronto 3 復習：「その他」欄に記載のとおり p. 96-97 の復習をする。
5	西田　恭子	【第 5 回】 予習：教科書 p.98-99 に目を通す。 授業：Unidad 10: Los mexicanos se levantan pronto 4 復習：「その他」欄に記載のとおり p. 98-99 の復習をする。
6	西田　恭子	【第 6 回】 予習：教科書 p.101-103 に目を通す。 授業：Unidad 11: Estoy muy contenta 1 復習：「その他」欄に記載のとおり p. 101-103 の復習をする。
7	西田　恭子	【第 7 回】 予習：教科書 p.104-105 に目を通す。 授業：Unidad 11: Estoy muy contenta 2 復習：「その他」欄に記載のとおり p. 104-105 の復習をする。
8	西田　恭子	【第 8 回】 予習：教科書 p.106-107 に目を通す。 授業：Unidad 11: Estoy muy contenta 3 復習：「その他」欄に記載のとおり p. 106-107 の復習をする。
9	西田　恭子	【第 9 回】 予習：教科書 p.108-109 に目を通す。 授業：Unidad 11: Estoy muy contenta 4 復習：「その他」欄に記載のとおり p. 108-109 の復習をする。
10	西田　恭子	【第 10 回】 予習：教科書 p.111-113 に目を通す。 授業：Unidad 12: De viaje 1 復習：「その他」欄に記載のとおり p. 111-113 の復習をする。

11	西田　恭子	【第 11 回】 予習：教科書 p.114-115 に目を通す。 授業：Unidad 12: De viaje 2 復習：「その他」欄に記載のとおり p. 114-115 の復習をする。
12	西田　恭子	【第 12 回】 予習：教科書 p.116-117 に目を通す。 授業：Unidad 12: De viaje 3 復習：「その他」欄に記載のとおり p. 116-117 の復習をする。
13	西田　恭子	【第 13 回】 予習：教科書 p.118-119 に目を通す。 授業：Unidad 12: De viaje 4 復習：「その他」欄に記載のとおり p. 118-119 の復習をする。
14	西田　恭子	【第 14 回】 予習：プレゼンテーションの準備、練習を行う。 授業：最終プレゼンテーション　Unidad 10-12 学習内容の復習 1（プレゼンテーション） 復習：定期試験に向けてこれまでの授業で学んだ内容の復習を行う。
15	西田　恭子	【第 15 回】 予習：　口答試験の準備、練習を行う。 授業：　口答試験 Unidad 10-12 学習内容の復習 2（課題解決型学習） 復習：　定期試験に向けてこれまでの授業で学んだ内容の復習を行う。

授業開始前学習	スペイン語 I, II, III で学習した内容を復習する。
授業内課題のフィードバックの方法	授業の始めに小テストを行い、その場あるいは翌週に返却します。 作文の課題、プレゼンテーションを実施し、授業内で口答でのフィードバック、または添削して返却します。
テキスト・教材	フアン・カルロス・モヤノ・ロペス /カルロス・ガルシア・ルイス・カスティージョ /廣康好美著 『いいね！スペイン語 1 第 2 版 ¡Muy bien! 1 −Segunda edición−』（朝日出版社）
参考書	
評価の基準と方法	授業参加 20%　小テスト 10%　作文課題 10%　口答試験 20%　定期試験 40%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎	○			△	

関連科目	観光のスペイン語　（学習内容が部分的に重複します）
その他	予習と復習が必要だが復習を中心に行う。復習では次のことを確認する。 1．新たに学んだ文法事項など授業で扱った内容が完全に理解できたかを確認する。理解できていない内容がある場合は、次の授業で質問できるようにメモをしておく。 2．新出、既出に関わらず覚えていない語彙や表現の使い方を再確認し、すべて暗記する。 3．授業で扱ったオーディオを教科書を見ないでも理解できるよう復習する。 4．教科書を見ずに授業で使った文を書いてみて、教科書で確認する。 5．作文課題に取り組む。 6．その他教員が
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）	CS-L-132 CT-L-132 SD-L-132	科目分類（～2024年入学者）	100-130-21	授業コード	F02931
科目名称	中国語Ⅰ			単位数	1.0単位
英文名称	Chinese Ⅰ			授業区分	演習
科目責任者	保坂　律子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	保坂　律子			開講時期	1年
オフィスアワー	前期　水曜日 10:00～13:00 後期　水曜日 10:00～13:00			研究室	10-709
授業概要	隣国中国は歴史的、地理的、文化的に日本と関わりが深い。さらに中国市場の開放や、経済的躍進などによって、中国に対する関心がますます高まっている。中国語は日本語と同様に漢字で表記されることもあり親しみやすいが、同じ漢字でも意味も発音も全く異なることが少なくないため、誤解を生むことも多々ある。授業では中国語と日本語の相違点なども取り上げながら、中国語の文法ルールを中国語の発想と共に学ぶ。				
到達目標	中国語のピンイン表記の規則を理解し、４つの声調と母音、子音が正しく発音できる。中国語で基本的な挨拶ができる。基本的な文法ルールを身につけ、中国語で簡単な意思疎通ができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	保坂　律子	【第１回】 予習　：テキスト８頁～９頁の講読 授業　：中国語入門オリエンテーション、中国語の発音表記 復習　：テキスト８～９頁の音読
2	保坂　律子	【第２回】 予習　：テキスト10頁～12頁の講読 授業　：４つの声調、単母音(テキスト10頁～12頁）（ペア・グループワーク） 復習　：４つの声調、単母音の発音練習
3	保坂　律子	【第３回】 予習　：テキスト13頁～15頁の講読 授業　：複母音３タイプ(テキスト13頁～15頁）（ペア・グループワーク） 復習　：複母音３タイプの発音練習
4	保坂　律子	【第４回】 予習　：テキスト16頁～19頁の講読 授業　：子音、無気音と有気音、そり舌音(テキスト16頁～19頁）（ペア・グループワーク） 復習　：子音、無気音と有気音、そり舌音の発音練習
5	保坂　律子	【第５回】 予習　：テキスト20頁～22頁の講読 授業　：鼻音を伴う母音、声調変化の規則(テキスト20頁～22頁）（ペア・グループワーク） 復習　：鼻音を伴う母音、声調変化の発音練習
6	保坂　律子	【第６回】 予習　：テキスト23頁～25頁の講読 授業　：ピンイン表記の規則、数字の読み方(テキスト23頁～25頁）（ペア・グループワーク） 復習　：数字の読み方の発音練習
7	保坂　律子	【第７回】 予習　：テキスト26頁～29頁の講読 授業　：声調の組み合わせ、挨拶言葉(テキスト26頁～29頁）（ペア・グループワーク） 復習　：声調の組み合わせ、挨拶言葉の発音練習
8	保坂　律子	【第８回】 予習　：テキスト29頁までの復習 授業　：中間テストと問題解説 復習　：中間テストの解き直し
9	保坂　律子	【第９回】 予習　：テキスト30頁～32頁の講読、単語の復習 授業　：人称代名詞、動詞述語文（テキスト30頁～32頁）（ペア・グループワーク） 復習　：人称代名詞、動詞述語文のドリル
10	保坂　律子	【第10回】 予習　：テキスト33頁～35頁の講読 授業　：諾否疑問文、名前の聞き方(テキスト33頁～35頁）（ペア・グループワーク） 復習　：諾否疑問文、名前の聞き方のドリル

11	保坂　律子	【第 11 回】 予習　：テキスト 36 頁～38 頁の講読 授業　：指示代詞、連体修飾語(テキスト 36 頁～38 頁）（ペア・グループワーク） 復習　：指示代詞、連体修飾語のドリル
12	保坂　律子	【第 12 回】 予習　：テキスト 39 頁～41 頁の講読 授業：経験の表し方（テキスト 39 頁～41 頁）（ペア・グループワーク） 復習　：疑問詞疑問文のドリル
13	保坂　律子	【第 13 回】 予習　：テキスト 42 頁～44 頁の講読 授業　：モノの数え方、所有の表し方(テキスト 42 頁～44 頁）（ペア・グループワーク） 復習　：モノの数え方、所有の表し方のドリル
14	保坂　律子	【第 14 回】 予習　：テキスト 45 頁～47 頁の講読 授業　：数、数量のたずね方(テキスト 45 頁～47 頁）（ペア・グループワーク） 復習　：数、数量のたずね方のドリル
15	保坂　律子	【第 15 回】 予習　：挨拶言葉の暗唱、単語のまとめ 授業　：前期ポイントのまとめ 復習　：前期ポイント構文の音読

授業開始前学習	身の回りにみられる中国語表記や街中で耳にする中国語、中国に関するニュースに関心を持つように心がける。
授業内課題のフィードバックの方法	授業内で実施する中間テストは採点の上返却し、弱点の補強とステップアップのためのポイントについてアドバイスする。また適宜実施する小テストについても都度解説する。
テキスト・教材	『ケンタくんの中国語』（朝日出版社）
参考書	辞書も含め授業内で適宜紹介する。
評価の基準と方法	中間テスト 40 点、小テスト 30 点、平常点（授業態度・課題提出等）30 点とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎	○			△	

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）	CS-L-132 CT-L-132 SD-L-132	科目分類（～2024年入学者）	100-130-21	授業コード	F02932
科目名称	中国語Ⅰ			単位数	1.0単位
英文名称	Chinese Ⅰ			授業区分	演習
科目責任者	盧　尤			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	盧　尤			開講時期	1年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	隣国中国は歴史的、地理的、文化的に日本と関わりが深い。さらに中国市場の開放や、経済的躍進などによって、中国に対する関心がますます高まっている。中国語は日本語と同様に漢字で表記されることもあり親しみやすいが、同じ漢字でも意味も発音も全く異なることが少なくないため、誤解を生むことも多々ある。授業では中国語と日本語の相違点なども取り上げながら、中国語の文法ルールを中国語の発想と共に学ぶ。				
到達目標	中国語のピンイン表記の規則を理解し、４つの声調と母音、子音が正しく発音できる。中国語で基本的な挨拶ができる。基本的な文法ルールを身につけ、中国語で簡単な意思疎通ができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	盧　尤	【第1回】 予習　：テキスト8頁～9頁の講読 授業　：中国語入門オリエンテーション、中国語の発音表記 復習　：テキスト8～9頁の音読
2	盧　尤	【第2回】 予習　：テキスト10頁～12頁の講読 授業　：４つの声調、単母音(テキスト10頁～12頁）（ペア・グループワーク） 復習　：４つの声調、単母音の発音練習
3	盧　尤	【第3回】 予習　：テキスト13頁～15頁の講読 授業　：複母音３タイプ(テキスト13頁～15頁）（ペア・グループワーク） 復習　：複母音３タイプの発音練習
4	盧　尤	【第4回】 予習　：テキスト16頁～19頁の講読 授業　：子音、無気音と有気音、そり舌音(テキスト16頁～19頁）（ペア・グループワーク） 復習　：子音、無気音と有気音、そり舌音の発音練習
5	盧　尤	【第5回】 予習　：テキスト20頁～22頁の講読 授業　：鼻音を伴う母音、声調変化の規則(テキスト20頁～22頁）（ペア・グループワーク） 復習　：鼻音を伴う母音、声調変化の発音練習
6	盧　尤	【第6回】 予習　：テキスト23頁～25頁の講読 授業　：ピンイン表記の規則、数字の読み方(テキスト23頁～25頁）（ペア・グループワーク） 復習　：数字の読み方の発音練習
7	盧　尤	【第7回】 予習　：テキスト26頁～29頁の講読 授業　：声調の組み合わせ、挨拶言葉(テキスト26頁～29頁）（ペア・グループワーク） 復習　：声調の組み合わせ、挨拶言葉の発音練習
8	盧　尤	【第8回】 予習　：テキスト29頁までの復習 授業　：中間テストと問題解説 復習　：中間テストの解き直し
9	盧　尤	【第9回】 予習　：テキスト30頁～32頁の講読、単語の復習 授業　：人称代名詞、動詞述語文（テキスト30頁～32頁） 復習　：人称代名詞、動詞述語文のドリル
10	盧　尤	【第10回】 予習　：テキスト33頁～35頁の講読 授業　：諾否疑問文、名前の聞き方(テキスト33頁～35頁）（ペア・グループワーク） 復習　：諾否疑問文、名前の聞き方のドリル

11	盧 尤	【第 11 回】 予習 ：テキスト 36 頁～38 頁の講読 授業 ：指示代詞、連体修飾語(テキスト 36 頁?38 頁) 復習 ：指示代詞、連体修飾語のドリル
12	盧 尤	【第 12 回】 予習 ：テキスト 39 頁～41 頁の講読 授業：経験の表し方（テキスト 39 頁～41 頁） 復習 ：疑問詞疑問文のドリル
13	盧 尤	【第 13 回】 予習 ：テキスト 42 頁～44 頁の講読 授業 ：モノの数え方、所有の表し方(テキスト 42 頁～44 頁) （ペア・グループワーク） 復習 ：モノの数え方、所有の表し方のドリル
14	盧 尤	【第 14 回】 予習 ：テキスト 45 頁～47 頁の講読 授業 ：数、数量のたずね方(テキスト 45 頁～47 頁) （ペア・グループワーク） 復習 ：数、数量のたずね方のドリル
15	盧 尤	【第 15 回】 予習 ：挨拶言葉の暗唱、単語のまとめ 授業 ：前期ポイントのまとめ 復習 ：前期ポイント構文の音読

授業開始前学習	身の回りにみられる中国語表記や、中国に関するニュースに関心を持つように心がける。
授業内課題のフィードバックの方法	授業内で実施する中間テストは採点の上返却し、弱点の補強とステップアップのためのポイントについてアドバイスする。また適宜実施する小テスト（クイズ）についても都度解説する。
テキスト・教材	『ケンタくんの中国語』（朝日出版社）
参考書	辞書も含め授業内で適宜紹介する。
評価の基準と方法	中間テスト 40 点、小テスト 30 点、平常点（授業態度・課題提出等）30 点とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎	○			△	

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-132 CT-L-132 SD-L-132	科目分類（～2024 年入学者）	100-130-21	授業コード	F02941
科目名称	中国語Ⅱ			単位数	1.0 単位
英文名称	ChineseⅡ			授業区分	演習
科目責任者	保坂　律子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	保坂　律子			開講時期	1 年
オフィスアワー	前期　水曜日 10:00～13:00 後期　水曜日 10:00～13:00			研究室	10-709
授業概要	隣国中国は歴史的、地理的、文化的に日本と関わりが深い。さらに中国市場の開放や、経済的躍進などによって、中国に対する関心はますます高まっている。中国語は日本語と同様に漢字で表記されることもあり親しみやすいが、同じ漢字でも意味も発音も全く異なることが少なくないため、誤解を生むことも多々ある。授業では中国語と日本語の相違点なども取り上げながら、中国語の文法ルールを中国語の発想と共に学ぶ。				
到達目標	中国語の基本文法を理解し、正しく簡体字を書くことができる。中国語の語彙を増やし、単文の基本文型が理解できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	保坂　律子	【第 1 回】 予習　：テキスト 48 頁～49 頁の講読 授業　：形容詞述語文、程度を表す副詞（テキスト 48 頁～49 頁） 復習　：形容詞述語文、程度を表す副詞のドリル
2	保坂　律子	【第 2 回】 予習　：テキスト 50 頁～52 頁の講読 授業　：反復疑問文、名詞＋"?"疑問文(テキスト 50 頁～52 頁）（ペア・グループワーク） 復習　：反復疑問文、名詞＋"?"疑問文のドリル
3	保坂　律子	【第 3 回】 予習　：テキスト 53 頁～55 頁の講読 授業　：場所を表す指示代詞、存在の表し方（テキスト 53 頁～55 頁）（ペア・グループワーク） 復習　：場所を表す指示代詞、存在の表し方のドリル
4	保坂　律子	【第 4 回】 予習　：テキスト 56 頁～58 頁の講読 授業　：願望を表す助動詞(テキスト 56 頁～58 頁）（ペア・グループワーク） 復習　：願望を表す助動詞のドリル
5	保坂　律子	【第 5 回】 予習　：テキスト 59 頁～60 頁の講読 授業　：日付・時を表す言葉（テキスト 59 頁～60 頁）（ペア・グループワーク） 復習：日付・時を表す言葉のドリル
6	保坂　律子	【第 6 回】 予習　：テキスト 61 頁～62 頁の講読 授業　：名詞述語文(テキスト 61 頁～62 頁）（ペア・グループワーク） 復習　：名詞述語文のドリル
7	保坂　律子	【第 7 回】 予習　：テキスト 63 頁～64 頁の講読 授業　：提案、推量の表し方(テキスト 63 頁～64 頁）（ペア・グループワーク） 復習　：提案、推量の表し方のドリル
8	保坂　律子	【第 8 回】 予習　：テキスト 64 頁までの復習 授業　：中間テストと問題解説 復習　：中間テストの解き直し
9	保坂　律子	【第 9 回】 予習　：テキスト 65 頁～66 頁の講読 授業　：連動文（テキスト 65 頁～66 頁）（ペア・グループワーク） 復習　：連動文のドリル
10	保坂　律子	【第 10 回】 予習　：テキスト 67 頁～68 頁の講読 授業　：時間量、介詞（テキスト 67 頁～68 頁）（ペア・グループワーク） 復習　：時間量、介詞のドリル

11	保坂　律子	【第 11 回】 予習　：テキスト 69 頁～70 頁の講読 授業　：どれくらい～？のたずね方(テキスト 69 頁～70 頁)　(ペア・グループワーク) 復習　：どれくらい～？のドリル
12	保坂　律子	【第 12 回】 予習　：テキスト 71 頁～72 頁の講読 授業　：経験の表し方（テキスト 71 頁～72 頁）　(ペア・グループワーク) 復習　：経験の表し方のドリル
13	保坂　律子	【第 13 回】 予習　：テキスト 73～74 頁の講読 授業　：動詞の繰り返し型（テキスト 73 頁～74 頁）　(ペア・グループワーク) 復習　：動詞の繰り返し型のドリル
14	保坂　律子	【第 14 回】 予習　：テキスト 75 頁～77 頁の講読 授業　：選択疑問文(テキスト 75 頁～77 頁)　(ペア・グループワーク) 復習　：選択疑問文のドリル
15	保坂　律子	【第 15 回】 予習：挨拶言葉の暗誦、単語のまとめ 授業　：後期ポイントのまとめ 復習　：後期ポイント構文の音読

授業開始前学習	身の回りにみられる中国語表記や、中国に関するニュースに関心を持つようにしておく。
授業内課題のフィードバックの方法	授業内に実施する中間テストは返却時に全体の講評を行い、弱点補強とステップアップのためのポイントについてアドバイスする。 また適宜実施する小テスト（クイズ）についても都度解説する。
テキスト・教材	『ケンタくんの中国語』（朝日出版社）
参考書	辞書も含め授業内で適宜紹介する。
評価の基準と方法	中間テスト 40 点、小テスト 30 点、平常点（授業態度・課題提出）30 点とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎	○			△	

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-132 CT-L-132 SD-L-132	科目分類（～2024 年入学者）	100-130-21	授業コード	F02942
科目名称	中国語Ⅱ			単位数	1.0 単位
英文名称	ChineseⅡ			授業区分	演習
科目責任者	盧　尤			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	盧　尤			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	隣国中国は、歴史的、地理的、文化的に日本と関わりが深い。さらに中国市場の開放や、経済的躍進などによって、中国に対する関心が高まっている。中国語は日本語と同様に、漢字で表記されることもあり、親しみやすいが、同じ漢字でも意味も発音も全く異なることが少なくないため、誤解を生むことも多々ある。授業では中国語と日本語の相違点なども取り上げながら、中国語の文法ルールを中国語の発想と共に学ぶ。				
到達目標	中国語の基本文法を理解し、正しく簡体字を書くことができる。中国語の語彙を増やし、単文の基本文型が理解できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	盧　尤	【第 1 回】 予習　：テキスト 48 頁～49 頁の講読 授業　：形容詞述語文、程度を表す副詞（テキスト 48 頁～49 頁） 復習　：形容詞述語文、程度を表す副詞のドリル
2	盧　尤	【第 2 回】 予習　：テキスト 50 頁～52 頁の講読 授業　：反復疑問文、名詞＋“?”疑問文(テキスト 50 頁～52 頁）（ペア・ワーク） 復習　：反復疑問文、名詞＋“?”疑問文のドリル
3	盧　尤	【第 3 回】 予習　：テキスト 53 頁～55 頁の講読 授業　：場所を表す指示代詞、存在の表し方（テキスト 53 頁～55 頁） 復習　：場所を表す指示代詞、存在の表し方のドリル
4	盧　尤	【第 4 回】 予習　：テキスト 56 頁～58 頁の講読 授業　：願望を表す助動詞(テキスト 56 頁～58 頁）（ペア・ワーク） 復習　：願望を表す助動詞のドリル
5	盧　尤	【第 5 回】 予習　：テキスト 59 頁～60 頁の講読 授業　：日付・時を表す言葉（テキスト 59 頁～60 頁）
6	盧　尤	【第 6 回】 予習　：テキスト 61 頁～62 頁の講読 授業　：名詞述語文(テキスト 61 頁～62 頁）（ペア・ワーク） 復習　：名詞述語文のドリル
7	盧　尤	【第 7 回】 予習　：テキスト 63 頁～64 頁の講読 授業　：提案、推量の表し方(テキスト 63 頁～64 頁） 復習　：提案、推量の表し方
8	盧　尤	【第 8 回】 予習　：テキスト 64 頁までの復習 授業　：小テストと問題解説 復習　：小テストの解き直し
9	盧　尤	【第 9 回】 予習　：テキスト 65 頁～66 頁の講読 授業　：連動文（テキスト 65 頁～66 頁）（ペア・ワーク） 復習　：連動文のドリル
10	盧　尤	【第 10 回】 予習　：テキスト 67 頁～68 頁の講読 授業　：時間量、介詞（テキスト 67 頁～68 頁） 復習　：時間量、介詞のドリル
11	盧　尤	【第 11 回】 予習　：テキスト 69 頁～70 頁の講読 授業　：どれくらい?　?のたずね方(テキスト 69 頁～70 頁）（ペア・ワーク） 復習　：どれくらい?　?のドリル

12	盧 尤	【第 12 回】 予習 ：テキスト 71 頁～72 頁の講読 授業 ：経験の表し方（テキスト 71 頁～72 頁） 復習 ：経験の表し方のドリル
13	盧 尤	【第 13 回】 予習 ：テキスト 73 頁～74 頁の講読 授業 ：動詞の繰り返し型（テキスト 73 頁～74 頁）（ペア・ワーク） 復習 ：動詞の繰り返し型のドリル
14	盧 尤	【第 14 回】 予習 ：テキスト 75 頁～77 頁の講読 授業 ：選択疑問文(テキスト 75 頁～77 頁） 復習 ：選択疑問文のドリル
15	盧 尤	【第 15 回】 予習：挨拶言葉の暗誦、単語のまとめ 授業 ：後期ポイントのまとめ 復習 ：後期ポイント構文の音読

授業開始前学習	身の回りにみられる中国語表記や、中国に関するニュースに関心を持つようにしておく。
授業内課題のフィードバックの方法	授業内に適宜実施する小テストおよび中間テストは採点の上翌週返却し、弱点の補強とステップアップのポイントについてアドバイスする。
テキスト・教材	『ケンタくんの中国語』（朝日出版社）
参考書	辞書も含め授業内で適宜紹介する。
評価の基準と方法	中間テスト 40 点、小テスト 30 点、平常点（授業態度・課題提出）30 点とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎	○			△	

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-232 CT-L-232	科目分類（～2024 年入学者）	100-130-22	授業コード	F02951
科目名称	中国語Ⅲ			単位数	1.0 単位
英文名称	ChineseⅢ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	保坂　律子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	保坂　律子			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期　水曜日 10:00～13:00 後期　水曜日 10:00～13:00			研究室	10-709
授業概要	初級で習得した中国語文法を基礎とし、中国語検定も視野に入れて学習する。コミュニケーションの道具、手段として使える中国語へのレベルアップを目標に、言葉と同時に日中を取り巻く社会状況への理解を深め、コミュニケーション能力の強化を図る。				
到達目標	中国語の語彙、文法規則を学び、やや難易度の高い文章を正確に読み取り、聞き取ることができるようになる。また、身近な事柄について口頭および書面で表現することができるようになる。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	保坂　律子	【第 1 回】 予習　：テキスト 8 頁～15 頁の講読 授業　：発音編（一）（二）（テキスト 8 頁～15 頁）（ペア・グループワーク） 復習　：発音編（一）（二）の音読
2	保坂　律子	【第 2 回】 予習　：テキスト 16 頁～23 の講読 授業　：発音編（三）（四）（テキスト 16 頁～23 頁）（ペア・グループワーク） 復習　：発音編（三）（四)の音読
3	保坂　律子	【第 3 回】 予習　：テキスト 24 頁～27 頁の講読 授業　：発音編（五）挨拶言葉（テキスト 24 頁～27 頁）（ペア・グループワーク） 復習　：発音編（五）挨拶言葉の音読
4	保坂　律子	【第 4 回】 予習　：テキスト 78 頁～81 頁の購読 授業　：比較文、二重目的語文（テキスト 78 頁～81 頁）（ペア・グループワーク） 復習　：比較文、二重目的語のドリル
5	保坂　律子	【第 5 回】 予習　：テキスト 82 頁～83 頁の講読 授業　：様態補語、お金の数え方、もののたずね方（テキスト 81 頁～83 頁）（ペア・グループワーク） 復習　：様態補語、お金の数え方、もののたずね方のドリル
6	保坂　律子	【第 6 回】 予習　：テキスト 84 頁～87 頁の購読 授業　：動作の完了と完成（テキスト 84 頁～86 頁）（ペア・グループワーク） 復習　：動作の完了と完成のドリル
7	保坂　律子	【第 7 回】 予習　：テキスト 88 頁～89 頁の講読 授業　：可能表現（テキスト 88 頁～89 頁）（ペア・グループワーク） 復習　：可能表現のドリル
8	保坂　律子	【第 8 回】 予習　：テキスト 89 頁までの単語、構文の復習 授業　：中間テスト及び問題解説 復習　：中間テストの解き直し
9	保坂　律子	【第 9 回】 予習　：テキスト 90 頁～91 頁の講読 授業　：動作の進行表現（テキスト 90 頁～91 頁）（ペア・グループワーク） 復習　：動作の進行表現のドリル
10	保坂　律子	【第 10 回】 予習　：テキスト 92 頁～93 頁の講読 授業　：動作の持続表現（テキスト 92 頁～93 頁）（ペア・グループワーク） 復習　：動作の持続表現のドリル
11	保坂　律子	【第 11 回】 予習　：テキスト 94 頁～95 頁の講読 授業　：動作を促す表現（テキスト 94 頁～95 頁）（ペア・グループワーク） 復習　：動作を促す表現のドリル

12	保坂　律子	【第 12 回】 予習　：テキスト 96 頁～97 頁の講読 授業　：移動方向を表す補語（テキスト 96 頁～97 頁）（ペア・グループワーク） 復習　：移動方向を表す補語のドリル
13	保坂　律子	【第 13 回】 予習　：テキスト 98 頁～99 頁の講読 授業　：結果補語（テキスト 98 頁～99 頁）（ペア・グループワーク） 復習　：結果補語のドリル
14	保坂　律子	【第 14 回】 予習　：テキスト 100 頁～101 頁の講読 授業　：動作量を表す補語（テキスト 100 頁～101 頁）（ペア・グループワーク） 復習　：動作量を表す補語のドリル
15	保坂　律子	【第 15 回】 予習　：挨拶言葉の暗誦、単語帳のまとめ 授業　：前期ポイントのまとめ 復習　：前期ポイント構文の音読

授業開始前学習	身の回りに見られる中国語表記や、中国に関するニュースに関心を持つようにしておく。
授業内課題のフィードバックの方法	授業内で実施する中間テストは採点の上返却し、弱点の補強とステップアップのためのポイントについてアドバイスする。また適宜する小テスト（クイズ）についても都度解説する。
テキスト・教材	『ケンタくんの中国語』（朝日出版社）
参考書	辞書も含め授業内で適宜紹介する。
評価の基準と方法	中間テスト 40 点、小テスト 30 点、平常点（授業態度・課題提出）30 点とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎	○			△	

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-232 CT-L-232	科目分類（～2024 年入学者）	100-130-22	授業コード	F02952
科目名称	中国語Ⅲ			単位数	1.0 単位
英文名称	ChineseⅢ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	盧　尤			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	盧　尤			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	初級で習得した中国語文法を基礎とし、中国語検定も視野に入れて学習する。コミュニケーションの道具、手段として使える中国語へのレベルアップを目標に、言葉と同時に日中を取り巻く社会状況への理解を深め、コミュニケーション能力の強化を図る。				
到達目標	中国語の語彙、文法規則を学び、やや難易度の高い文章を正確に読み取り、聞き取ることができるようになる。また、身近な事柄について口頭および書面で表現することができるようになる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	盧　尤	【第 1 回】 予習　：テキスト 8 頁～15 頁の講読 授業　：発音編（一）（二）（テキスト 8 頁～15 頁）（ペア・ワーク） 復習　：発音編（一）（二）の音読
2	盧　尤	【第 2 回】 予習　：テキスト 16 頁～23 の講読 授業　：発音編（三）（四）（テキスト 16 頁～23 頁）（ペア・ワーク） 復習　：発音編（三）（四)の音読
3	盧　尤	【第 3 回】 予習　：テキスト 24 頁～27 頁の講読 授業　：発音編（五）挨拶言葉（テキスト 24 頁～27 頁）（ペア・ワーク） 復習　：発音編（五）挨拶言葉の音読
4	盧　尤	【第 4 回】 予習　：テキスト 78 頁～81 頁の購読 授業　：比較文、二重目的語文（テキスト 78 頁～81 頁）（ペア・ワーク） 復習　：比較文、二重目的語のドリル
5	盧　尤	【第 5 回】 予習　：テキスト 82 頁～83 頁の講読 授業　：様態補語、お金の数え方、もののたずね方（テキスト 81 頁～83 頁）（ペア・ワーク） 復習　：様態補語、お金の数え方、もののたずね方のドリル
6	盧　尤	【第 6 回】 予習　：テキスト 84 頁～87 頁の購読 授業　：動作の完了と完成（テキスト 84 頁～86 頁）（ペア・ワーク） 復習　：動作の完了と完成のドリル
7	盧　尤	【第 7 回】 予習　：テキスト 88 頁～89 頁の講読 授業　：可能表現（テキスト 88 頁～89 頁）（ペア・ワーク） 復習　：可能表現のドリル
8	盧　尤	【第 8 回】 予習　：テキスト 89 頁までの単語、構文の復習 授業　：中間テスト及び問題解説 復習　：中間テストの解き直し
9	盧　尤	【第 9 回】 予習　：テキスト 90 頁～91 頁の講読 授業　：動作の進行表現（テキスト 90 頁～91 頁）（ペア・ワーク） 復習　：動作の進行表現のドリル
10	盧　尤	【第 10 回】 予習　：テキスト 92 頁～93 頁の講読 授業　：動作の持続表現（テキスト 92 頁～93 頁）（ペア・ワーク） 復習　：動作の持続表現のドリル
11	盧　尤	【第 11 回】 予習　：テキスト 94 頁～95 頁の講読 授業　：動作を促す表現（テキスト 94 頁～95 頁）（ペア・ワーク） 復習　：動作を促す表現のドリル

12	盧 尤	【第 12 回】 予習 ：テキスト 96 頁～97 頁の講読 授業 ：移動方向を表す補語（テキスト 96 頁～97 頁）（ペア・ワーク） 復習 ：移動方向を表す補語のドリル
13	盧 尤	【第 13 回】 予習 ：テキスト 98 頁～99 頁の講読 授業 ：結果補語（テキスト 98 頁～99 頁）（ペア・ワーク） 復習 ：結果補語のドリル
14	盧 尤	【第 14 回】 予習 ：テキスト 100 頁～101 頁の講読 授業 ：動作量を表す補語（テキスト 100 頁～101 頁）（ペア・ワーク） 復習 ：動作量を表す補語のドリル
15	盧 尤	【第 15 回】 予習 ：挨拶言葉の暗誦、単語帳のまとめ 授業 ：前期ポイントのまとめ 復習 ：前期ポイント構文の音読

授業開始前学習	身の回りに見られる中国語表記や、中国に関するニュースに関心を持つようにしておく。
授業内課題のフィードバックの方法	授業内で実施する中間テストは採点の上返却し、弱点の補強とステップアップのためのポイントについてアドバイスする。また適宜する小テスト（クイズ）についても都度解説する。
テキスト・教材	『ケンタくんの中国語』（朝日出版社）
参考書	辞書も含め授業内で適宜紹介する。
評価の基準と方法	中間テスト 40 点、小テスト 30 点、平常点（授業態度・課題提出）30 点とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎	○			△	

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-232 CT-L-232	科目分類（～2024 年入学者）	100-130-22	授業コード	F02961
科目名称	中国語Ⅳ			単位数	1.0 単位
英文名称	ChineseⅣ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	保坂　律子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	保坂　律子			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期　水曜日 10:00～13:00 後期　水曜日 10:00～13:00			研究室	10-709
授業概要	初級で習得した中国語文法を基礎とし、中国語検定も視野に入れて学習する。コミュニケーションの道具、手段として使える中国語へのレベルアップを目標に、言葉と同時に日中を取り巻く社会状況への理解を深め、コミュニケーション能力の強化を図る。				
到達目標	中国語の語彙、文法規則を学び、やや難易度の高い文章を正確に読み取り、聞き取ることができるようになる。また、身近な事柄について口頭および書面で表現することができるようになる。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	保坂　律子	【第 1 回】 予習　：テキスト 102 頁～103 頁の講読 授業　：自然現象を表す無主語文（テキスト 102 頁～103 頁）　（ペアワーク） 復習　：自然現象を表す無主語文のドリル
2	保坂　律子	【第 2 回】 予習　：テキスト 104 頁～105 頁の講読 授業　：呼応表現（一）（テキスト 104 頁～105 頁）（ペアワーク） 復習　：呼応表現（一）のドリル
3	保坂　律子	【第 3 回】 予習　：テキスト 106 頁～107 頁の講読 授業　：呼応表現（二）（テキスト 106 頁～107 頁）（ペアワーク） 復習　：呼応表現（二）のドリル
4	保坂　律子	【第 4 回】 予習　：テキスト 108 頁～109 頁の講読 授業　：たとえの表現（テキスト 108 頁～109 頁）（ペアワーク） 復習　：たとえの表現のドリル
5	保坂　律子	【第 5 回】 予習　：テキスト 110 頁～111 頁の講読 授業　：禁止表現、不本意を表す「少し」（テキスト 110 頁～111 頁）（ペアワーク） 復習　：禁止表現、不本意を表す「少し」のドリル
6	保坂　律子	【第 6 回】 予習　：テキスト 112 頁～113 頁の講読 授業　：同時進行の表現（テキスト 112 頁～13 頁）（ペアワーク） 復習　：同時進行の表現のドリル
7	保坂　律子	【第 7 回】 予習　：テキスト 114 頁～115 頁の講読 授業　：いろいろな動詞述語文（テキスト 114 頁～115 頁）（ペアワーク） 復習　：いろいろな動詞述語文のドリル
8	保坂　律子	【第 8 回】 予習　：テキスト 115 頁までの単語、構文の復習 授業　：中間テスト及び問題解説 復習　：中間テストの解き直し
9	保坂　律子	【第 9 回】 予習　：テキスト 116 頁～117 頁の講読 授業　：形容詞述語文、名詞述語文、いろいろな疑問文（テキスト 116 頁～117 頁）（ペアワーク） 復習　：形容詞述語文、名詞述語文、いろいろな疑問文のドリル
10	保坂　律子	【第 10 回】 予習　：テキスト 118 頁～119 頁の講読 授業　：助動詞を中心とした文型、補語を中心とした文型（テキスト 118 頁～119 頁）（ペアワーク） 復習　：助動詞を中心とした文型、補語を中心とした文型のドリル
11	保坂　律子	【第 11 回】 予習　：テキスト 119 頁までの単語の復習 授業　：検定試験チャレンジ問題（準 4 級） 復習　：検定試験チャレンジ問題の解き直し

12	保坂　律子	【第 12 回】 予習　：検定試験チャレンジ問題の単語調べ 授業　：検定試験チャレンジ問題及びステップアップポイントの解説 復習　：自分に合ったステップアップのための学習方法を考える
13	保坂　律子	【第 13 回】 予習　：テキスト 119 頁までの構文の復習 授業　：検定試験チャレンジ問題（4 級） 復習　：検定試験チャレンジ問題の解き直し
14	保坂　律子	【第 14 回】 予習　：検定試験チャレンジ問題の単語調べ 授業　：検定試験チャレンジ問題及びステップアップポイントの解説 復習　：自分に合ったステップアップのための学習計画を立案
15	保坂　律子	【第 15 回】 予習　：1 年間の学習の振り返り 授業　：中国映画鑑賞 復習　：映画の感想を簡単な中国語でまとめる

授業開始前学習	身の周りで見られる中国語表記や、中国に関するニュースに関心を持つようにすること。
授業内課題のフィードバックの方法	授業内に実施する中間テストは返却時に全体の講評を行い、弱点補強とステップアップのためのポイントについてアドバイスする。また適宜実施する小テスト（クイズ）についても都度解説する。
テキスト・教材	『ケンタくんの中国語』（朝日出版社）
参考書	辞書も含め授業内で適宜紹介する。
評価の基準と方法	試験 40 点、小テスト 30 点、平常点（授業態度・課題提出）30 点とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎	○			△	

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-232 CT-L-232	科目分類（～2024 年入学者）	100-130-22	授業コード	F02962
科目名称	中国語Ⅳ			単位数	1.0 単位
英文名称	ChineseⅣ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	盧　尤			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	盧　尤			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	初級で習得した中国語文法を基礎とし、中国語検定も視野に入れて学習する。コミュニケーションの道具、手段として使える中国語へのレベルアップを目標に、言葉と同時に日中を取り巻く社会状況への理解を深め、コミュニケーション能力の強化を図る。				
到達目標	中国語の語彙、文法規則を学び、やや難易度の高い文章を正確に読み取り、聞き取ることができるようになる。また、身近な事柄について口頭および書面で表現することができるようになる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	盧　尤	【第 1 回】 予習　：テキスト 102 頁～103 頁の講読 授業　：自然現象を表す無主語文（テキスト 102 頁～103 頁）　（ペア・ワーク） 復習　：自然現象を表す無主語文のドリル
2	盧　尤	【第 2 回】 予習　：テキスト 104 頁～105 頁の講読 授業　：呼応表現（一）（テキスト 104 頁～105 頁）（ペア・ワーク） 復習　：呼応表現（一）のドリル
3	盧　尤	【第 3 回】 予習　：テキスト 106 頁～107 頁の講読 授業　：呼応表現（二）(テキスト 106 頁～107 頁）（ペア・ワーク） 復習　：呼応表現（二）のドリル
4	盧　尤	【第 4 回】 予習　：テキスト 108 頁～109 頁の講読 授業　：たとえの表現（テキスト 108 頁～109 頁）（ペア・ワーク） 復習　：たとえの表現のドリル
5	盧　尤	【第 5 回】 予習　：テキスト 110 頁～111 頁の講読 授業　：禁止表現、不本意を表す「少し」（テキスト 110 頁～111 頁）（ペア・ワーク） 復習　：禁止表現、不本意を表す「少し」のドリル
6	盧　尤	【第 6 回】 予習　：テキスト 112 頁～113 頁の講読 授業　：同時進行の表現（テキスト 112 頁～113 頁）（ペア・ワーク） 復習　：同時進行の表現のドリル
7	盧　尤	【第 7 回】 予習　：テキスト 114 頁～115 頁の講読 授業　：いろいろな動詞述語文（テキスト 114 頁～115 頁）（ペア・ワーク） 復習　：いろいろな動詞述語文のドリル
8	盧　尤	【第 8 回】 予習　：テキスト 115 頁までの単語、構文の復習 授業　：中間テスト及び問題解説 復習　：中間テストの解き直し
9	盧　尤	【第 9 回】 予習　：テキスト 116 頁～117 頁の講読 授業　：形容詞述語文、名詞述語文、いろいろな疑問文（テキスト 116 頁～117 頁）（ペア・ワーク） 復習　：形容詞述語文、名詞述語文、いろいろな疑問文のドリル
10	盧　尤	【第 10 回】 予習　：テキスト 118 頁～119 頁の講読 授業　：助動詞を中心とした文型、補語を中心とした文型（テキスト 118 頁～119 頁）（ペア・ワーク） 復習　：助動詞を中心とした文型、補語を中心とした文型のドリル
11	盧　尤	【第 11 回】 予習　：テキスト 119 頁までの単語の復習 授業　：検定試験チャレンジ問題（準 4 級） 復習　：検定試験チャレンジ問題の解き直し

12	盧 尤	【第 12 回】 予習 ：検定試験チャレンジ問題の単語調べ 授業 ：検定試験チャレンジ問題及びステップアップポイントの解説 復習 ：自分に合ったステップアップのための学習方法を考える
13	盧 尤	【第 13 回】 予習 ：テキスト 119 頁までの構文の復習 授業 ：検定試験チャレンジ問題（4 級） 復習 ：検定試験チャレンジ問題の解き直し
14	盧 尤	【第 14 回】 予習 ：検定試験チャレンジ問題の単語調べ 授業 ：検定試験チャレンジ問題及びステップアップポイントの解説 復習 ：自分に合ったステップアップのための学習計画立案
15	盧 尤	【第 15 回】 予習 ：1 年間の学習の振り返り 授業 ：中国映画鑑賞 復習 ：映画の感想を簡単な中国語でまとめる

授業開始前学習	身の回りに見られる中国語表記や、中国に関するニュースに関心を持つようにしておく。
授業内課題のフィードバックの方法	授業内で実施する中間テストは返却時に全体の講評を行い、弱点補強とステップアップのためのポイントについてアドバイスする。 また適宜実施する小テスト（クイズ）についても都度解説する。
テキスト・教材	『ケンタくんの中国語』（朝日出版社）
参考書	辞書も含め授業内で適宜紹介する。
評価の基準と方法	中間テスト 40 点、小テスト 30 点、平常点（授業態度・課題提出）30 点とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎	○			△	

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024 年入学者）	100-111-21	授業コード	F03110
科目名称	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ演習Ⅰ			単位数	1.0 単位
英文名称	Computer Laboratory Ⅰ			授業区分	演習
科目責任者	髙橋 大介			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	髙橋 大介			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	ここ数年、情報を取り巻く環境とそれを取り扱う情報機器の変化は著しいものがあります。コンピュータ中心だった情報処理から、スマートフォンやタブレット端末が主流となる情報共有へと変化し、情報そのものも複雑化してきました。コロナ禍における社会の変化はすさまじく、テレワークや遠隔授業などが私たちの生活を一変させました。また、小中高等学校においても、情報活用能力の育成と ICT 活用が新学習指導要領のもとで全面的に実施されました。こうした中で、ICT リテラシーの基礎および応用では、ICT（情報通信技術）を中心とした情報リテラシーを身につけるために、基礎理論の講義とその演習を中心に広範囲にわたって授業を行います。前期の ICT リテラシーの基礎では、オフィス系ソフトのワープロとプレゼンテーションを中心に、基礎ゼミや専門ゼミ、2 年次以降の授業で活かせるよう、課題解決型学習に準じた演習を行います。併せて、情報リテラシーを理解できるよう、簡単な講義も行います。				
到達目標	コンピュータとスマートフォン（タブレット）を連携し、適切な情報収集および情報処理ができるようになる。具体的には、オフィス系ソフトを駆使して今後社会人として求められる文書を作成できるようになる。併せてメールやクラウドの概念を理解し、倫理観を持った情報のやり取りができるようになる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	髙橋 大介	予習 ：履修ガイド・学生生活ガイドを読んでおくこと 授業 ：コンピュータの仕組みと起動／KOMAJO ポータルの使い方／Google クラスルームの使い方／メールの使い方 復習 ：KOMAJO ポータルのログインやメールの送受信などおさらいして慣れておくこと
2	髙橋 大介	予習 ：教科書 P10 から P13 を読んでおくこと 授業 ：ワープロ演習：タイピング（課題２－１－１） 復習 ：タイピングのホームポジションを振り返っておくこと
3	髙橋 大介	予習 ：教科書 P14 から P15 を読んでおくこと 授業 ：ワープロ演習：四字熟語・慣用句の入力（課題２－１－２・課題２－１－３） 復習 ：四字熟語・慣用句の意味を振り返っておくこと
4	髙橋 大介	予習 ：教科書 P16 から P17 を読んでおくこと 授業 ：ワープロ演習：文書作成とレイアウト（課題２－１－４・課題２－２－１・課題２－２－５）（課題解決型課題） 復習 ：さまざまな文章のレイアウトを確認すること
5	髙橋 大介	予習 ：教科書 P18 から P21 を読んでおくこと 授業 ：ワープロ演習：罫線処理とレイアウト処理（時間割）（課題２－３－１）（課題解決型課題） 復習 ：作成した時間割から操作方法を振り返ること
6	髙橋 大介	予習 ：教科書 P22 から P23 を読んでおくこと 授業 ：ワープロ演習：罫線処理とレイアウト処理（履歴書）（課題２－３－２）（課題解決型課題） 復習 ：作成した履歴書から操作方法を振り返ること
7	髙橋 大介	予習 ：教科書 P24 から P25 を読んでおくこと 授業 ：ワープロ演習：罫線処理とレイアウト処理（レシピ）（課題２－３－３）（課題解決型課題） 復習 ：作成したレシピから操作方法を振り返ること
8	髙橋 大介	予習 ：教科書 P26 から P27 を読んでおくこと 授業 ：ワープロ演習：罫線処理とレイアウト処理（レシピ）（課題２－３－３）（課題解決型課題） 復習 ：作成したレシピから画像の取り扱いを振り返ること
9	髙橋 大介	予習 ：教科書 P28 から P30 を読んでおくこと 授業 ：ワープロ演習：ビジネス文書の作成（見積書）（課題２－３－４） 復習 ：さまざまな表組みと文章を組み合わせた文書を確認すること
10	髙橋 大介	予習 ：教科書 P31 から P32 を読んでおくこと 授業 ：ワープロ演習：図形描画（キャラクタ）（課題２－４－１）（課題解決型課題） 復習 ：図形描画の操作方法を振り返ること
11	髙橋 大介	予習 ：教科書 P33 から P35 を読んでおくこと 授業 ：ワープロ演習：図形描画（地図）（課題２－４－２）（課題解決型課題） 復習 ：さまざまな表組みと文章を組み合わせた文書を確認すること

12	髙橋　大介	予習　：教科書 P36 から P40 を読んでおくこと 授業　：ワープロ演習：ビジネス文書の作成（クラス会）（課題２－４－３）（課題解決型課題） 復習　：文字データと図形データが混在した書類等を確認すること
13	髙橋　大介	予習　：教科書 P41 から P42 を読んでおくこと 授業　：プレゼン演習：シナリオメイキングと情報収集（旅行計画）（課題解決型課題） 復習　：シナリオ（ストーリー）を何度も振り返ること
14	髙橋　大介	予習　：教科書 P43 から P44 を読んでおくこと 授業　：プレゼン演習：情報の構造化と構成（旅行計画）（課題解決型課題） 復習　：さまざまなプレゼン資料を確認すること
15	髙橋　大介	予習　：教科書 P45 から P46 を読んでおくこと 授業　：プレゼン演習：プレゼンテーションと演出（旅行計画）（課題解決型課題） 復習　：全体の流れの振り返りをすること

授業開始前学習	高校の教科「情報」の教科書を読んでおくと全体像をつかみやすい。
授業内課題のフィードバックの方法	全体には、次の回に復習として解説を行う。個別には、課題返却時にクラスルームのコメントを通してアドバイスを行う。
テキスト・教材	『講義と演習　情報のこころえ』ポラーノ出版
参考書	
評価の基準と方法	毎回出される課題 40%、課題の内容および出来ばえ 40%と授業に対する取り組み（授業態度）20%で評価を決める。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				○	

関連科目	ICT リテラシーの応用
その他	GWE(Google Workspace for Education)を中心に、Microsoft オフィスもしくは、Google ドキュメント、スプレッドシート、スライドにて課題作成を行う。 課題の提出および資料の配布は、GWE を通して行う。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024年入学者）	100-111-21	授業コード	F03112
科目名称	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ演習Ⅰ			単位数	1.0単位
英文名称	Basics of ICT Literacy／Computer Laboratory Ⅰ			授業区分	演習
科目責任者	星野 好晃			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	星野 好晃			開講時期	1年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	ここ数年、情報を取り巻く環境とそれを取り扱う情報機器の変化は著しいものがあります。コンピュータ中心だった情報処理から、スマートフォンやタブレット端末が主流となる情報共有へと変化し、情報そのものも複雑化してきました。コロナ禍における社会の変化はすさまじく、テレワークや遠隔授業などが私たちの生活を一変させました。また、小中高等学校においても、情報活用能力の育成とICT活用が新学習指導要領のもとで全面的に実施されました。こうした中で、ICTリテラシーの基礎および応用では、ICT（情報通信技術）を中心とした情報リテラシーを身につけるために、基礎理論の講義とその演習を中心に広範囲にわたって授業を行います。前期のICTリテラシーの基礎では、オフィス系ソフトのワープロとプレゼンテーションを中心に、基礎ゼミや専門ゼミ、2年次以降の授業で活かせるよう、課題解決型学習に準じた演習を行います。併せて、情報リテラシーを理解できるよう、簡単な講義も行います。					
到達目標	コンピュータとスマートフォン（タブレット）を連携し、適切な情報収集および情報処理ができるようになる。具体的には、オフィス系ソフトを駆使して今後社会人として求められる文書を作成できるようになる。併せてメールやクラウドの概念を理解し、倫理観を持った情報のやり取りができるようになる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	星野 好晃	予習 ：履修ガイド・学生生活ガイドを読んでおくこと 授業 ：コンピュータの仕組みと起動／KOMAJOポータルの使い方／Googleクラスルームの使い方／メールの使い方 復習 ：KOMAJOポータルのログインやメールの送受信などおさらいして慣れておくこと
2	星野 好晃	予習 ：教科書P10からP13を読んでおくこと 授業 ：ワープロ演習：タイピング（課題２－１－１） 復習 ：タイピングのホームポジションを振り返っておくこと
3	星野 好晃	予習 ：教科書P14からP15を読んでおくこと 授業 ：ワープロ演習：四字熟語・慣用句の入力（課題２－１－２・課題２－１－３） 復習 ：四字熟語・慣用句の意味を振り返っておくこと
4	星野 好晃	予習 ：教科書P16からP17を読んでおくこと 授業 ：ワープロ演習：文書作成とレイアウト（課題２－１－４・課題２－２－１・課題２－２－５）（課題解決型課題） 復習 ：さまざまな文章のレイアウトを確認すること
5	星野 好晃	予習 ：教科書P18からP21を読んでおくこと 授業 ：ワープロ演習：罫線処理とレイアウト処理（時間割）（課題２－３－１）（課題解決型課題） 復習 ：作成した時間割から操作方法を振り返ること
6	星野 好晃	予習 ：教科書P22からP23を読んでおくこと 授業 ：ワープロ演習：罫線処理とレイアウト処理（履歴書）（課題２－３－２）（課題解決型課題） 復習 ：作成した履歴書から操作方法を振り返ること
7	星野 好晃	予習 ：教科書P24からP25を読んでおくこと 授業 ：ワープロ演習：罫線処理とレイアウト処理（レシピ）（課題２－３－３）（課題解決型課題） 復習 ：作成したレシピから操作方法を振り返ること
8	星野 好晃	予習 ：教科書P26からP27を読んでおくこと 授業 ：ワープロ演習：罫線処理とレイアウト処理（レシピ）（課題２－３－３）（課題解決型課題） 復習 ：作成したレシピから画像の取り扱いを振り返ること
9	星野 好晃	予習 ：教科書P28からP30を読んでおくこと 授業 ：ワープロ演習：ビジネス文書の作成（見積書）（課題２－３－４） 復習 ：さまざまな表組みと文章を組み合わせた文書を確認すること
10	星野 好晃	予習 ：教科書P31からP32を読んでおくこと 授業 ：ワープロ演習：図形描画（キャラクタ）（課題２－４－１）（課題解決型課題） 復習 ：図形描画の操作方法を振り返ること
11	星野 好晃	予習 ：教科書P33からP35を読んでおくこと 授業 ：ワープロ演習：図形描画（地図）（課題２－４－２）（課題解決型課題） 復習 ：さまざまな表組みと文章を組み合わせた文書を確認すること

12	星野　好晃	予習　：教科書 P36 から P40 を読んでおくこと 授業　：ワープロ演習：ビジネス文書の作成（クラス会）（課題２－４－３）（課題解決型課題） 復習　：文字データと図形データが混在した書類等を確認すること
13	星野　好晃	予習　：教科書 P41 から P42 を読んでおくこと 授業　：プレゼン演習：シナリオメイキングと情報収集（旅行計画）（課題解決型課題） 復習　：シナリオ（ストーリー）を何度も振り返ること
14	星野　好晃	予習　：教科書 P43 から P44 を読んでおくこと 授業　：プレゼン演習：情報の構造化と構成（旅行計画）（課題解決型課題） 復習　：さまざまなプレゼン資料を確認すること
15	星野　好晃	予習　：教科書 P45 から P46 を読んでおくこと 授業　：プレゼン演習：プレゼンテーションと演出（旅行計画）（課題解決型課題） 復習　：全体の流れの振り返りをすること

授業開始前学習	高校の教科「情報」の教科書を読んでおくと全体像をつかみやすい。
授業内課題のフィードバックの方法	全体には、次の回に復習として解説を行う。個別には、課題返却時にクラスルームのコメントを通してアドバイスを行う。
テキスト・教材	『講義と演習　情報のこころえ』ポラーノ出版
参考書	
評価の基準と方法	毎回出される課題 40%、課題の内容および出来ばえ 40%と授業に対する取り組み（授業態度）20%で評価を決める。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				○	

関連科目	ICT リテラシーの応用
その他	GWE(Google Workspace for Education)を中心に、Microsoft オフィスもしくは、Google ドキュメント、スプレッドシート、スライドにて課題作成を行う。 課題の提出および資料の配布は、GWE を通して行う。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024 年入学者）	100-111-21	授業コード	F03114
科目名称	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ演習 Ⅰ			単位数	1.0 単位
英文名称	Computer Laboratory Ⅰ			授業区分	演習
科目責任者	明田川 紀彦			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	明田川 紀彦			開講時期	1 年
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～12:10 水曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 09:00～12:10 水曜日 13:00～14:30			研究室	10-707
授業概要	ここ数年、情報を取り巻く環境とそれを取り扱う情報機器の変化は著しいものがあります。コンピュータ中心だった情報処理から、スマートフォンやタブレット端末が主流となる情報共有へと変化し、情報そのものも複雑化してきました。コロナ禍における社会の変化はすさまじく、テレワークや遠隔授業などが私たちの生活を一変させました。また、小中高等学校においても、情報活用能力の育成と ICT 活用が新学習指導要領のもとで全面的に実施されました。こうした中で、ICT リテラシーの基礎および応用では、ICT（情報通信技術）を中心とした情報リテラシーを身につけるために、基礎理論の講義とその演習を中心に広範囲にわたって授業を行います。前期の ICT リテラシーの基礎では、オフィス系ソフトのワープロとプレゼンテーションを中心に、基礎ゼミや専門ゼミ、2 年次以降の授業で活かせるよう、課題解決型学習に準じた演習を行います。併せて、情報リテラシーを理解できるよう、簡単な講義も行います。				
到達目標	コンピュータとスマートフォン（タブレット）を連携し、適切な情報収集および情報処理ができるようになる。具体的には、オフィス系ソフトを駆使して今後社会人として求められる文書を作成できるようになる。併せてメールやクラウドの概念を理解し、倫理観を持った情報のやり取りができるようになる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	明田川 紀彦	予習 ：履修ガイド・学生生活ガイドを読んでおくこと 授業 ：コンピュータの仕組みと起動／KOMAJO ポータルの使い方／Google クラスルームの使い方／メールの使い方 復習 ：KOMAJO ポータルのログインやメールの送受信などおさらいして慣れておくこと
2	明田川 紀彦	予習 ：教科書 P10 から P13 を読んでおくこと 授業 ：ワープロ演習：タイピング（課題２－１－１） 復習 ：タイピングのホームポジションを振り返っておくこと
3	明田川 紀彦	予習 ：教科書 P14 から P15 を読んでおくこと 授業 ：ワープロ演習：四字熟語・慣用句の入力（課題２－１－２・課題２－１－３） 復習 ：四字熟語・慣用句の意味を振り返っておくこと
4	明田川 紀彦	予習 ：教科書 P16 から P17 を読んでおくこと 授業 ：ワープロ演習：文書作成とレイアウト（課題２－１－４・課題２－２－１・課題２－２－５）（課題解決型課題） 復習 ：さまざまな文章のレイアウトを確認すること
5	明田川 紀彦	予習 ：教科書 P18 から P21 を読んでおくこと 授業 ：ワープロ演習：罫線処理とレイアウト処理（時間割）（課題２－３－１）（課題解決型課題） 復習 ：作成した時間割から操作方法を振り返ること
6	明田川 紀彦	予習 ：教科書 P22 から P23 を読んでおくこと 授業 ：ワープロ演習：罫線処理とレイアウト処理（履歴書）（課題２－３－２）（課題解決型課題） 復習 ：作成した履歴書から操作方法を振り返ること
7	明田川 紀彦	予習 ：教科書 P24 から P25 を読んでおくこと 授業 ：ワープロ演習：罫線処理とレイアウト処理（レシピ）（課題２－３－３）（課題解決型課題） 復習 ：作成したレシピから操作方法を振り返ること
8	明田川 紀彦	予習 ：教科書 P26 から P27 を読んでおくこと 授業 ：ワープロ演習：罫線処理とレイアウト処理（レシピ）（課題２－３－３）（課題解決型課題） 復習 ：作成したレシピから画像の取り扱いを振り返ること
9	明田川 紀彦	予習 ：教科書 P28 から P30 を読んでおくこと 授業 ：ワープロ演習：ビジネス文書の作成（見積書）（課題２－３－４） 復習 ：さまざまな表組みと文章を組み合わせた文書を確認すること
10	明田川 紀彦	予習 ：教科書 P31 から P32 を読んでおくこと 授業 ：ワープロ演習：図形描画（キャラクタ）（課題２－４－１）（課題解決型課題） 復習 ：図形描画の操作方法を振り返ること
11	明田川 紀彦	予習 ：教科書 P33 から P35 を読んでおくこと 授業 ：ワープロ演習：図形描画（地図）（課題２－４－２）（課題解決型課題） 復習 ：さまざまな表組みと文章を組み合わせた文書を確認すること

12	明田川　紀彦	予習　：教科書 P36 から P40 を読んでおくこと 授業　：ワープロ演習：ビジネス文書の作成（クラス会）（課題２－４－３）（課題解決型課題） 復習　：文字データと図形データが混在した書類等を確認すること
13	明田川　紀彦	予習　：教科書 P41 から P42 を読んでおくこと 授業　：プレゼン演習：シナリオメイキングと情報収集（旅行計画）（課題解決型課題） 復習　：シナリオ（ストーリー）を何度も振り返ること
14	明田川　紀彦	予習　：教科書 P43 から P44 を読んでおくこと 授業　：プレゼン演習：情報の構造化と構成（旅行計画）（課題解決型課題） 復習　：さまざまなプレゼン資料を確認すること
15	明田川　紀彦	予習　：教科書 P45 から P46 を読んでおくこと 授業　：プレゼン演習：プレゼンテーションと演出（旅行計画）（課題解決型課題） 復習　：全体の流れの振り返りをすること

授業開始前学習	高校の教科「情報」の教科書を読んでおくと全体像をつかみやすい。
授業内課題のフィードバックの方法	全体には、次の回に復習として解説を行う。個別には、課題返却時にクラスルームのコメントを通してアドバイスを行う。
テキスト・教材	『講義と演習　情報のこころえ』ポラーノ出版
参考書	
評価の基準と方法	毎回出される課題 40%、課題の内容および出来ばえ 40%と授業に対する取り組み（授業態度）20%で評価を決める。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				○	

関連科目	ICT リテラシーの応用
その他	GWE(Google Workspace for Education)を中心に、Microsoft オフィスもしくは、Google ドキュメント、スプレッドシート、スライドにて課題作成を行う。 課題の提出および資料の配布は、GWE を通して行う。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024 年入学者）	100-111-21	授業コード	F03116
科目名称	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ演習Ⅰ			単位数	1.0 単位
英文名称	Computer Laboratory Ⅰ			授業区分	演習
科目責任者	中澤 美奈			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	中澤 美奈			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	ここ数年、情報を取り巻く環境とそれを取り扱う情報機器の変化は著しいものがあります。コンピュータ中心だった情報処理から、スマートフォンやタブレット端末が主流となる情報共有へと変化し、情報そのものも複雑化してきました。コロナ禍における社会の変化はすさまじく、テレワークや遠隔授業などが私たちの生活を一変させました。また、小中高等学校においても、情報活用能力の育成と ICT 活用が新学習指導要領のもとで全面的に実施されました。こうした中で、ICT リテラシーの基礎および応用では、ICT（情報通信技術）を中心とした情報リテラシーを身につけるために、基礎理論の講義とその演習を中心に広範囲にわたって授業を行います。前期の ICT リテラシーの基礎では、オフィス系ソフトのワープロとプレゼンテーションを中心に、基礎ゼミや専門ゼミ、2 年次以降の授業で活かせるよう、課題解決型学習に準じた演習を行います。併せて、情報リテラシーを理解できるよう、簡単な講義も行います。				
到達目標	コンピュータとスマートフォン（タブレット）を連携し、適切な情報収集および情報処理ができるようになる。具体的には、オフィス系ソフトを駆使して今後社会人として求められる文書を作成できるようになる。併せてメールやクラウドの概念を理解し、倫理観を持った情報のやり取りができるようになる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	中澤 美奈	予習 ：履修ガイド・学生生活ガイドを読んでおくこと 授業 ：コンピュータの仕組みと起動／KOMAJO ポータルの使い方／Google クラスルームの使い方／メールの使い方 復習 ：KOMAJO ポータルのログインやメールの送受信などおさらいして慣れておくこと
2	中澤 美奈	予習 ：教科書 P10 から P13 を読んでおくこと 授業 ：ワープロ演習：タイピング（課題２－１－１） 復習 ：タイピングのホームポジションを振り返っておくこと
3	中澤 美奈	予習 ：教科書 P14 から P15 を読んでおくこと 授業 ：ワープロ演習：四字熟語・慣用句の入力（課題２－１－２・課題２－１－３） 復習 ：四字熟語・慣用句の意味を振り返っておくこと
4	中澤 美奈	予習 ：教科書 P16 から P17 を読んでおくこと 授業 ：ワープロ演習：文書作成とレイアウト（課題２－１－４・課題２－２－１・課題２－２－５）（課題解決型課題） 復習 ：さまざまな文章のレイアウトを確認すること
5	中澤 美奈	予習 ：教科書 P18 から P21 を読んでおくこと 授業 ：ワープロ演習：罫線処理とレイアウト処理（時間割）（課題２－３－１）（課題解決型課題） 復習 ：作成した時間割から操作方法を振り返ること
6	中澤 美奈	予習 ：教科書 P22 から P23 を読んでおくこと 授業 ：ワープロ演習：罫線処理とレイアウト処理（履歴書）（課題２－３－２）（課題解決型課題） 復習 ：作成した履歴書から操作方法を振り返ること
7	中澤 美奈	予習 ：教科書 P24 から P25 を読んでおくこと 授業 ：ワープロ演習：罫線処理とレイアウト処理（レシピ）（課題２－３－３）（課題解決型課題） 復習 ：作成したレシピから操作方法を振り返ること
8	中澤 美奈	予習 ：教科書 P26 から P27 を読んでおくこと 授業 ：ワープロ演習：罫線処理とレイアウト処理（レシピ）（課題２－３－３）（課題解決型課題） 復習 ：作成したレシピから画像の取り扱いを振り返ること
9	中澤 美奈	予習 ：教科書 P28 から P30 を読んでおくこと 授業 ：ワープロ演習：ビジネス文書の作成（見積書）（課題２－３－４） 復習 ：さまざまな表組みと文章を組み合わせた文書を確認すること
10	中澤 美奈	予習 ：教科書 P31 から P32 を読んでおくこと 授業 ：ワープロ演習：図形描画（キャラクタ）（課題２－４－１）（課題解決型課題） 復習 ：図形描画の操作方法を振り返ること
11	中澤 美奈	予習 ：教科書 P33 から P35 を読んでおくこと 授業 ：ワープロ演習：図形描画（地図）（課題２－４－２）（課題解決型課題） 復習 ：さまざまな表組みと文章を組み合わせた文書を確認すること

12	中澤　美奈	予習　：教科書 P36 から P40 を読んでおくこと 授業　：ワープロ演習：ビジネス文書の作成（クラス会）（課題２－４－３）（課題解決型課題） 復習　：文字データと図形データが混在した書類等を確認すること
13	中澤　美奈	予習　：教科書 P41 から P42 を読んでおくこと 授業　：プレゼン演習：シナリオメイキングと情報収集（旅行計画）（課題解決型課題） 復習　：シナリオ（ストーリー）を何度も振り返ること
14	中澤　美奈	予習　：教科書 P43 から P44 を読んでおくこと 授業　：プレゼン演習：情報の構造化と構成（旅行計画）（課題解決型課題） 復習　：さまざまなプレゼン資料を確認すること
15	中澤　美奈	予習　：教科書 P45 から P46 を読んでおくこと 授業　：プレゼン演習：プレゼンテーションと演出（旅行計画）（課題解決型課題） 復習　：全体の流れの振り返りをすること

授業開始前学習	高校の教科「情報」の教科書を読んでおくと全体像をつかみやすい。
授業内課題のフィードバックの方法	全体には、次の回に復習として解説を行う。個別には、課題返却時にクラスルームのコメントを通してアドバイスを行う。
テキスト・教材	『講義と演習　情報のこころえ』ポラーノ出版
参考書	
評価の基準と方法	毎回出される課題 40%、課題の内容および出来ばえ 40%と授業に対する取り組み（授業態度）20%で評価を決める。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				○	

関連科目	ICT リテラシーの応用
その他	GWE(Google Workspace for Education)を中心に、Microsoft オフィスもしくは、Google ドキュメント、スプレッドシート、スライドにて課題作成を行う。 課題の提出および資料の配布は、GWE を通して行う。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-112 CT-L-112 SD-L-112	科目分類（～2024 年入学者）		授業コード	F03118
科目名称	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ演習 Ⅰ			単位数	1.0 単位
英文名称	Computer Laboratory Ⅰ			授業区分	演習
科目責任者	鈴木利彦			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鈴木 利彦			開講時期	1 年
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～12:10 後期 火曜日 09:00～12:10			研究室	10-509
授業概要	ここ数年の情報を取り巻く環境とそれを取り扱う情報機器の変化は著しく、コンピュータ、スマートフォン、タブレット端末を使ってテレワークや遠隔授業などを行うようになりました。こうした中、ICT リテラシーでは ICT（情報通信技術）を中心とした情報リテラシーを身につけるため、基礎理論の講義とその演習を中心に広範囲にわたって授業を行います。授業では、社会的に多用しているオフィス系ソフト（ドキュメント、スプレッドシート、スライド）の基礎的な操作技術と、1 年後期以降の授業で生かせるよう課題解決型学習に準じて演習を行います。				
到達目標	コンピュータとスマートフォン（タブレット）を連携し、適切な情報収集および情報処理ができるようになる。具体的には、オフィス系ソフトを駆使して今後社会人として求められる文書や図表、スライド資料を作成できるようになる。併せてメールやクラウドの概念を理解し、倫理観を持った情報のやり取りができるようになる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	−	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	鈴木 利彦	予習 ：履修ガイド・学生生活ガイドを読んでおくこと／使用するノート PC を各自用意すること 授業 ：コンピュータの仕組みと起動①／Wi-Fi の接続方法／KOMAJO ポータルの使い方／Google クラスルームの使い方／メールの使い方 復習 ：KOMAJO ポータルのログインやメールの送受信などおさらいして慣れておくこと
2	鈴木 利彦	予習 ：使用するノート PC を各自用意すること／クラスルームに掲出の授業予定と資料を確認すること 授業 ：コンピュータの仕組みと起動②／ワープロ演習：タイピングのホームポジション 復習 ：PC のキーボード入力とフリック入力の違いを振り返っておくこと
3	鈴木 利彦	予習 ：使用するノート PC を各自用意すること／クラスルームに掲出の授業予定と資料を確認すること 授業 ：ワープロ演習：四字熟語・慣用句の入力 復習 ：四字熟語・慣用句の意味を振り返っておくこと
4	鈴木 利彦	予習 ：使用するノート PC を各自用意すること／クラスルームに掲出の授業予定と資料を確認すること 授業 ：ワープロ演習：文書作成とレイアウト 復習 ：さまざまな文章のレイアウトを確認すること
5	鈴木 利彦	予習 ：使用するノート PC を各自用意すること／クラスルームに掲出の授業予定と資料を確認すること 授業 ：ワープロ演習：罫線処理とレイアウト処理①「料理レシピ作成（１）」 復習 ：作成した料理レシピから操作方法を振り返ること
6	鈴木 利彦	予習 ：使用するノート PC を各自用意すること／クラスルームに掲出の授業予定と資料を確認すること 授業 ：ワープロ演習：罫線処理とレイアウト処理②「料理レシピ作成（２）」 復習 ：作成した料理レシピから画像の取り扱いを振り返ること
7	鈴木 利彦	予習 ：使用するノート PC を各自用意すること／クラスルームに掲出の授業予定と資料を確認すること 授業 ：表計算演習：計算とグラフの基本① セル入力と四則計算 復習 ：ワープロソフトと表計算ソフトの操作方法の相違を振り返ること
8	鈴木 利彦	予習 ：使用するノート PC を各自用意すること／クラスルームに掲出の授業予定と資料を確認すること 授業 ：表計算演習：計算とグラフの基本② 代表的な関数計算 復習 ：作成した表から操作方法を振り返ること
9	鈴木 利彦	予習 ：使用するノート PC を各自用意すること／クラスルームに掲出の授業予定と資料を確認すること 授業 ：表計算演習：計算とグラフの基本③ 特殊な関数計算 復習 ：作成した表から操作方法や関数計算を振り返ること
10	鈴木 利彦	予習 ：使用するノート PC を各自用意すること／クラスルームに掲出の授業予定と資料を確認すること 授業 ：表計算演習：計算とグラフの基本④ 歳入・歳出の概要（１） 復習 ：それぞれの区分について理解すること
11	鈴木 利彦	予習 ：使用するノート PC を各自用意すること／クラスルームに掲出の授業予定と資料を確認すること 授業 ：表計算演習：計算とグラフの基本⑤ 歳入・歳出の概要（２） 復習 ：財政状況と時事問題を理解すること
12	鈴木 利彦	予習 ：使用するノート PC を各自用意すること／クラスルームに掲出の授業予定と資料を確認すること／ドキュメントで作成した料理レシピの内容を確認すること 授業 ：スライド演習：スライド資料の作成①「料理レシピ紹介」スライド作成のための操作練習 復習 ：作成した料理レシピの内容をわかりやすく伝えるスライドを検討すること

13	鈴木　利彦	予習　：使用するノート PC を各自用意すること／クラスルームに掲出の授業予定と資料を確認すること／ 授業　：スライド演習：スライド資料の作成②「料理レシピ紹介」スライド作成の実行 復習　：作成した料理レシピの内容をわかりやすく伝えるために、追加の図や画像を収集すること
14	鈴木　利彦	予習　：使用するノート PC を各自用意すること／クラスルームに掲出の授業予定と資料を確認すること 授業　：スライド演習：スライド資料の作成③「料理レシピ紹介」図や画像の挿入 復習　：作成した料理レシピから画像の取り扱いを振り返ること
15	鈴木　利彦	予習　：使用するノート PC を各自用意すること／クラスルームに掲出の授業予定と資料を確認すること 授業　：スライド演習：スライド資料の作成④「料理レシピ紹介」さまざまな出力 復習　：ドキュメント、スプレッドシート、スライドのそれぞれについて、出力操作を振り返ること

授業開始前学習	高校の教科「情報」の教科書を読んでおくと全体像をつかみやすい。
授業内課題のフィードバックの方法	全体には、次の回に復習として解説を行う。個別には、課題返却時にクラスルームのコメントを通してアドバイスを行う。
テキスト・教材	GWE（Google クラスルーム）で適宜配布する。
参考書	
評価の基準と方法	授業内提出の課題 40%、課題の内容および出来ばえ 40%、授業に対する取り組み（授業態度）20%で評価を決める。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				○	

関連科目	空間デザインと ICT CADI
その他	・授業では毎回ノートパソコンを各自で持参すること。充電は授業前までに十分に行っておくこと。 ・初回授業までにノート PC が用意できなかった場合は、初回授業で申し出ること。 ・GWE(Google Workspace for Education)＝Google クラスルームを中心に、Microsoft オフィスもしくは、Google ドキュメント、スプレッドシート、スライドにて課題作成を行う。 ・課題の提出および資料の配布は、GWE を通して行う。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-112 CT-L-112	科目分類（～2024 年入学者）	100-111-21	授業コード	F03121
科目名称	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ演習 Ⅱ			単位数	1.0 単位
英文名称	Computer Laboratory Ⅱ			授業区分	演習
科目責任者	髙橋 大介			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	髙橋 大介			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	ICT リテラシーの基礎と同様に、総合的に ICT（情報通信技術）を活用する知識とリテラシーを身につけるために、基礎理論の講義とその演習を広範囲にわたって行います。本演習では、オフィス系ソフトのエクセル（スプレッドシート）を中心に、特に数値処理や統計処理など、基礎ゼミや専門ゼミ、2 年次以降の授業で活かせるよう、課題解決型学習に準じた実務的な演習を行います。また、演習で用いるデータについては、国内外のオープンデータにアクセスして最新のデータを収集します。				
到達目標	コンピュータとスマートフォン（タブレット）を連携し、国内外のオープンデータのアクセス・情報収集および情報処理ができるようになる。具体的には、オフィス系ソフトを駆使して今後社会人として求められる文書を作成できるようになる。併せてメールやクラウドの概念を理解し、倫理観を持った情報のやり取りができるようになる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	髙橋 大介	予習 ：教科書 P45 から P46 を読んでおくこと 授業 ：表計算演習：作表（データ入力と罫線処理）（課題３－１－１） 復習 ：時間割、カレンダーなど格子状のデータを確認すること
2	髙橋 大介	予習 ：教科書 P47 から P48 を読んでおくこと 授業 ：表計算演習：作表（複雑な罫線処理）（課題３－１－２） 復習 ：フロアマップや料金表など複雑な表形式のデータを確認すること
3	髙橋 大介	予習 ：教科書 P49 から P50、P53 から 54 を読んでおくこと 授業 ：表計算演習：計算とグラフの基本（前期成績表の作成） 復習 ：構造化された情報を紙に書き起こして見返すこと
4	髙橋 大介	予習 ：教科書 P51 から P52 を読んでおくこと 授業 ：表計算演習：世界の人口分布（課題３－３－１）（課題解決型課題） 復習 ：総務省統計局のさまざまなデータを確認すること
5	髙橋 大介	予習 ：教科書 P56 から P57 を読んでおくこと 授業 ：表計算演習：世界の主要都市の平均気温（課題３－３－２）（課題解決型課題） 復習 ：気象庁のさまざまなデータを確認すること
6	髙橋 大介	予習 ：教科書 P58 から P59 を読んでおくこと 授業 ：表計算演習：世界の所得ランキング（課題解決型課題） 復習 ：国連統計局のさまざまなデータを確認すること
7	髙橋 大介	予習 ：教科書 P60 から P62 を読んでおくこと 授業 ：表計算演習：ジェンダーギャップ指数（課題解決型課題） 復習 ：世界経済フォーラムのさまざまなデータを確認すること
8	髙橋 大介	予習 ：教科書 P63 から P64 を読んでおくこと 授業 ：表計算演習：企業研究（課題解決型課題） 復習 ：注目した企業の活動をニュースメディアを通して確認すること
9	髙橋 大介	予習 ：教科書 P65 から P66 を読んでおくこと 授業 ：表計算演習：レシート（課題３－４－１） 復習 ：さまざまなレシートを確認すること
10	髙橋 大介	予習 ：教科書 P67 から P68 を読んでおくこと 授業 ：表計算演習：成績表（課題３－３－３） 復習 ：基本統計量（その１）を振り返ること
11	髙橋 大介	予習 ：教科書 P69 から P71 を読んでおくこと 授業 ：表計算演習：身体測定表（課題３－３－４）（課題解決型課題） 復習 ：基本統計量（その２）を振り返ること
12	髙橋 大介	予習 ：教科書 P72 から P73 を読んでおくこと 授業 ：表計算演習：レシピ（課題３－４－７）（課題解決型課題） 復習 ：栄養管理について確認すること
13	髙橋 大介	予習 ：教科書 P75 から P77 を読んでおくこと 授業 ：表計算演習：歳入・歳出の概要（課題３－４－２）（課題解決型課題） 復習 ：それぞれの区分について理解すること

14	髙橋　大介	予習　：次年度予算関連のニュース記事を確認すること 授業　：表計算演習：歳入・歳出の概要（課題３－４－２）（課題解決型課題） 復習　：財政状況と時事問題を理解すること
15	髙橋　大介	予習　：いままでの課題について振り返ること 授業　：表計算演習：見積書（課題３－４－３）（課題解決型課題） 復習　：それぞれの課題について振り返ること

授業開始前学習	高校の教科「情報」の教科書を読んでおくと全体像をつかみやすい。ICT リテラシーの基礎の内容をおさらいしておくこと
授業内課題のフィードバックの方法	全体には、次の回に復習として解説を行う。個別には、課題返却時にクラスルームのコメントを通してアドバイスを行う。
テキスト・教材	『講義と演習　情報のこころえ』ポラーノ出版
参考書	
評価の基準と方法	毎時間出される課題 40%、課題の内容および出来映え 40%と授業に対する取り組み（授業態度）20%で評価を決める。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				○	

関連科目	ICT リテラシーの基礎
その他	GWE(Google Workspace for Education)を中心に、Microsoft オフィスもしくは、Google ドキュメント、スプレッドシート、スライドにて課題作成を行う。 課題の提出および資料の配布は、GWE を通して行う。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-112 CT-L-112	科目分類（～2024 年入学者）	100-111-21	授業コード	F03123
科目名称	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ演習 Ⅱ			単位数	1.0 単位
英文名称	Computer Laboratory Ⅱ			授業区分	演習
科目責任者	星野 好晃			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	星野 好晃			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	ICT リテラシーの基礎と同様に、総合的に ICT（情報通信技術）を活用する知識とリテラシーを身につけるために、基礎理論の講義とその演習を広範囲にわたって行います。本演習では、オフィス系ソフトのエクセル（スプレッドシート）を中心に、特に数値処理や統計処理など、基礎ゼミや専門ゼミ、2 年次以降の授業で活かせるよう、課題解決型学習に準じた実務的な演習を行います。また、演習で用いるデータについては、国内外のオープンデータにアクセスして最新のデータを収集します。				
到達目標	コンピュータとスマートフォン（タブレット）を連携し、国内外のオープンデータのアクセス・情報収集および情報処理ができるようになる。具体的には、オフィス系ソフトを駆使して今後社会人として求められる文書を作成できるようになる。併せてメールやクラウドの概念を理解し、倫理観を持った情報のやり取りができるようになる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	星野 好晃	予習 ：教科書 P45 から P46 を読んでおくこと 授業 ：表計算演習：作表（データ入力と罫線処理）（課題３－１－１） 復習 ：時間割、カレンダーなど格子状のデータを確認すること
2	星野 好晃	予習 ：教科書 P47 から P48 を読んでおくこと 授業 ：表計算演習：作表（複雑な罫線処理）（課題３－１－２） 復習 ：フロアマップや料金表など複雑な表形式のデータを確認すること
3	星野 好晃	予習 ：教科書 P49 から P50、P53 から 54 を読んでおくこと 授業 ：表計算演習：計算とグラフの基本（前期成績表の作成） 復習 ：構造化された情報を紙に書き起こして見返すこと
4	星野 好晃	予習 ：教科書 P51 から P52 を読んでおくこと 授業 ：表計算演習：世界の人口分布（課題３－３－１）（課題解決型課題） 復習 ：総務省統計局のさまざまなデータを確認すること
5	星野 好晃	予習 ：教科書 P56 から P57 を読んでおくこと 授業 ：表計算演習：世界の主要都市の平均気温（課題３－３－２）（課題解決型課題） 復習 ：気象庁のさまざまなデータを確認すること
6	星野 好晃	予習 ：教科書 P58 から P59 を読んでおくこと 授業 ：表計算演習：世界の所得ランキング（課題解決型課題） 復習 ：国連統計局のさまざまなデータを確認すること
7	星野 好晃	予習 ：教科書 P60 から P62 を読んでおくこと 授業 ：表計算演習：ジェンダーギャップ指数（課題解決型課題） 復習 ：世界経済フォーラムのさまざまなデータを確認すること
8	星野 好晃	予習 ：教科書 P63 から P64 を読んでおくこと 授業 ：表計算演習：企業研究（課題解決型課題） 復習 ：注目した企業の活動をニュースメディアを通して確認すること
9	星野 好晃	予習 ：教科書 P65 から P66 を読んでおくこと 授業 ：表計算演習：レシート（課題３－４－１） 復習 ：さまざまなレシートを確認すること
10	星野 好晃	予習 ：教科書 P67 から P68 を読んでおくこと 授業 ：表計算演習：成績表（課題３－３－３） 復習 ：基本統計量（その１）を振り返ること
11	星野 好晃	予習 ：教科書 P69 から P71 を読んでおくこと 授業 ：表計算演習：身体測定表（課題３－３－４）（課題解決型課題） 復習 ：基本統計量（その２）を振り返ること
12	星野 好晃	予習 ：教科書 P72 から P73 を読んでおくこと 授業 ：表計算演習：レシピ（課題３－４－７）（課題解決型課題） 復習 ：栄養管理について確認すること
13	星野 好晃	予習 ：教科書 P75 から P77 を読んでおくこと 授業 ：表計算演習：歳入・歳出の概要（課題３－４－２）（課題解決型課題） 復習 ：それぞれの区分について理解すること

14	星野　好晃	予習　：次年度予算関連のニュース記事を確認すること 授業　：表計算演習：歳入・歳出の概要（課題３－４－２）（課題解決型課題） 復習　：財政状況と時事問題を理解すること
15	星野　好晃	予習　：いままでの課題について振り返ること 授業　：表計算演習：見積書（課題３－４－３）（課題解決型課題） 復習　：それぞれの課題について振り返ること

授業開始前学習	高校の教科「情報」の教科書を読んでおくと全体像をつかみやすい。ICT リテラシーの基礎の内容をおさらいしておくこと
授業内課題のフィードバックの方法	全体には、次の回に復習として解説を行う。個別には、課題返却時にクラスルームのコメントを通してアドバイスを行う。
テキスト・教材	『講義と演習　情報のこころえ』ポラーノ出版
参考書	
評価の基準と方法	毎時間出される課題 40%、課題の内容および出来映え 40%と授業に対する取り組み（授業態度）20%で評価を決める。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				○	

関連科目	ICT リテラシーの基礎
その他	GWE(Google Workspace for Education)を中心に、Microsoft オフィスもしくは、Google ドキュメント、スプレッドシート、スライドにて課題作成を行う。 課題の提出および資料の配布は、GWE を通して行う。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-112 CT-L-112	科目分類（～2024 年入学者）	100-111-21	授業コード	F03125
科目名称	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ演習 Ⅱ			単位数	1.0 単位
英文名称	Computer Laboratory Ⅱ			授業区分	演習
科目責任者	明田川 紀彦			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	明田川 紀彦			開講時期	1 年
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～12:10 水曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 09:00～12:10 水曜日 13:00～14:30			研究室	10-707
授業概要	ICT リテラシーの基礎と同様に、総合的に ICT（情報通信技術）を活用する知識とリテラシーを身につけるために、基礎理論の講義とその演習を広範囲にわたって行います。本演習では、オフィス系ソフトのエクセル（スプレッドシート）を中心に、特に数値処理や統計処理など、基礎ゼミや専門ゼミ、2 年次以降の授業で活かせるよう、課題解決型学習に準じた実務的な演習を行います。また、演習で用いるデータについては、国内外のオープンデータにアクセスして最新のデータを収集します。				
到達目標	コンピュータとスマートフォン（タブレット）を連携し、国内外のオープンデータのアクセス・情報収集および情報処理ができるようになる。具体的には、オフィス系ソフトを駆使して今後社会人として求められる文書を作成できるようになる。併せてメールやクラウドの概念を理解し、倫理観を持った情報のやり取りができるようになる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	明田川 紀彦	予習 ：教科書 P45 から P46 を読んでおくこと 授業 ：表計算演習：作表（データ入力と罫線処理）（課題３－１－１） 復習 ：時間割、カレンダーなど格子状のデータを確認すること
2	明田川 紀彦	予習 ：教科書 P47 から P48 を読んでおくこと 授業 ：表計算演習：作表（複雑な罫線処理）（課題３－１－２） 復習 ：フロアマップや料金表など複雑な表形式のデータを確認すること
3	明田川 紀彦	予習 ：教科書 P49 から P50、P53 から 54 を読んでおくこと 授業 ：表計算演習：計算とグラフの基本（前期成績表の作成） 復習 ：構造化された情報を紙に書き起こして見返すこと
4	明田川 紀彦	予習 ：教科書 P51 から P52 を読んでおくこと 授業 ：表計算演習：世界の人口分布（課題３－３－１）（課題解決型課題） 復習 ：総務省統計局のさまざまなデータを確認すること
5	明田川 紀彦	予習 ：教科書 P56 から P57 を読んでおくこと 授業 ：表計算演習：世界の主要都市の平均気温（課題３－３－２）（課題解決型課題） 復習 ：気象庁のさまざまなデータを確認すること
6	明田川 紀彦	予習 ：教科書 P58 から P59 を読んでおくこと 授業 ：表計算演習：世界の所得ランキング（課題解決型課題） 復習 ：国連統計局のさまざまなデータを確認すること
7	明田川 紀彦	予習 ：教科書 P60 から P62 を読んでおくこと 授業 ：表計算演習：ジェンダーギャップ指数（課題解決型課題） 復習 ：世界経済フォーラムのさまざまなデータを確認すること
8	明田川 紀彦	予習 ：教科書 P63 から P64 を読んでおくこと 授業 ：表計算演習：企業研究（課題解決型課題） 復習 ：注目した企業の活動をニュースメディアを通して確認すること
9	明田川 紀彦	予習 ：教科書 P65 から P66 を読んでおくこと 授業 ：表計算演習：レシート（課題３－４－１） 復習 ：さまざまなレシートを確認すること
10	明田川 紀彦	予習 ：教科書 P67 から P68 を読んでおくこと 授業 ：表計算演習：成績表（課題３－３－３） 復習 ：基本統計量（その１）を振り返ること
11	明田川 紀彦	予習 ：教科書 P69 から P71 を読んでおくこと 授業 ：表計算演習：身体測定表（課題３－３－４）（課題解決型課題） 復習 ：基本統計量（その２）を振り返ること
12	明田川 紀彦	予習 ：教科書 P72 から P73 を読んでおくこと 授業 ：表計算演習：レシピ（課題３－４－７）（課題解決型課題） 復習 ：栄養管理について確認すること
13	明田川 紀彦	予習 ：教科書 P75 から P77 を読んでおくこと 授業 ：表計算演習：歳入・歳出の概要（課題３－４－２）（課題解決型課題） 復習 ：それぞれの区分について理解すること

14	明田川　紀彦	予習　：次年度予算関連のニュース記事を確認すること 授業　：表計算演習：歳入・歳出の概要（課題３－４－２）（課題解決型課題） 復習　：財政状況と時事問題を理解すること
15	明田川　紀彦	予習　：いままでの課題について振り返ること 授業　：表計算演習：見積書（課題３－４－３）（課題解決型課題） 復習　：それぞれの課題について振り返ること

授業開始前学習	高校の教科「情報」の教科書を読んでおくと全体像をつかみやすい。ICT リテラシーの基礎の内容をおさらいしておくこと
授業内課題のフィードバックの方法	全体には、次の回に復習として解説を行う。個別には、課題返却時にクラスルームのコメントを通してアドバイスを行う。
テキスト・教材	『講義と演習　情報のこころえ』ポラーノ出版
参考書	
評価の基準と方法	毎時間出される課題 40%、課題の内容および出来映え 40%と授業に対する取り組み（授業態度）20%で評価を決める。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				○	

関連科目	ICT リテラシーの基礎
その他	GWE(Google Workspace for Education)を中心に、Microsoft オフィスもしくは、Google ドキュメント、スプレッドシート、スライドにて課題作成を行う。 課題の提出および資料の配布は、GWE を通して行う。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-112 CT-L-112	科目分類（～2024 年入学者）	100-111-21	授業コード	F03127
科目名称	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ演習 Ⅱ			単位数	1.0 単位
英文名称	Computer Laboratory Ⅱ			授業区分	演習
科目責任者	中澤 美奈			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	中澤 美奈			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	ICT リテラシーの基礎と同様に、総合的に ICT（情報通信技術）を活用する知識とリテラシーを身につけるために、基礎理論の講義とその演習を広範囲にわたって行います。本演習では、オフィス系ソフトのエクセル（スプレッドシート）を中心に、特に数値処理や統計処理など、基礎ゼミや専門ゼミ、2 年次以降の授業で活かせるよう、課題解決型学習に準じた実務的な演習を行います。また、演習で用いるデータについては、国内外のオープンデータにアクセスして最新のデータを収集します。				
到達目標	コンピュータとスマートフォン（タブレット）を連携し、国内外のオープンデータのアクセス・情報収集および情報処理ができるようになる。具体的には、オフィス系ソフトを駆使して今後社会人として求められる文書を作成できるようになる。併せてメールやクラウドの概念を理解し、倫理観を持った情報のやり取りができるようになる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	中澤 美奈	予習 ：教科書 P45 から P46 を読んでおくこと 授業 ：表計算演習：作表（データ入力と罫線処理）（課題３－１－１） 復習 ：時間割、カレンダーなど格子状のデータを確認すること
2	中澤 美奈	予習 ：教科書 P47 から P48 を読んでおくこと 授業 ：表計算演習：作表（複雑な罫線処理）（課題３－１－２） 復習 ：フロアマップや料金表など複雑な表形式のデータを確認すること
3	中澤 美奈	予習 ：教科書 P49 から P50、P53 から 54 を読んでおくこと 授業 ：表計算演習：計算とグラフの基本（前期成績表の作成） 復習 ：構造化された情報を紙に書き起こして見返すこと
4	中澤 美奈	予習 ：教科書 P51 から P52 を読んでおくこと 授業 ：表計算演習：世界の人口分布（課題３－３－１）（課題解決型課題） 復習 ：総務省統計局のさまざまなデータを確認すること
5	中澤 美奈	予習 ：教科書 P56 から P57 を読んでおくこと 授業 ：表計算演習：世界の主要都市の平均気温（課題３－３－２）（課題解決型課題） 復習 ：気象庁のさまざまなデータを確認すること
6	中澤 美奈	予習 ：教科書 P58 から P59 を読んでおくこと 授業 ：表計算演習：世界の所得ランキング（課題解決型課題） 復習 ：国連統計局のさまざまなデータを確認すること
7	中澤 美奈	予習 ：教科書 P60 から P62 を読んでおくこと 授業 ：表計算演習：ジェンダーギャップ指数（課題解決型課題） 復習 ：世界経済フォーラムのさまざまなデータを確認すること
8	中澤 美奈	予習 ：教科書 P63 から P64 を読んでおくこと 授業 ：表計算演習：企業研究（課題解決型課題） 復習 ：注目した企業の活動をニュースメディアを通して確認すること
9	中澤 美奈	予習 ：教科書 P65 から P66 を読んでおくこと 授業 ：表計算演習：レシート（課題３－４－１） 復習 ：さまざまなレシートを確認すること
10	中澤 美奈	予習 ：教科書 P67 から P68 を読んでおくこと 授業 ：表計算演習：成績表（課題３－３－３） 復習 ：基本統計量（その１）を振り返ること
11	中澤 美奈	予習 ：教科書 P69 から P71 を読んでおくこと 授業 ：表計算演習：身体測定表（課題３－３－４）（課題解決型課題） 復習 ：基本統計量（その２）を振り返ること
12	中澤 美奈	予習 ：教科書 P72 から P73 を読んでおくこと 授業 ：表計算演習：レシピ（課題３－４－７）（課題解決型課題） 復習 ：栄養管理について確認すること
13	中澤 美奈	予習 ：教科書 P75 から P77 を読んでおくこと 授業 ：表計算演習：歳入・歳出の概要（課題３－４－２）（課題解決型課題） 復習 ：それぞれの区分について理解すること

14	中澤　美奈	予習　：次年度予算関連のニュース記事を確認すること 授業　：表計算演習：歳入・歳出の概要（課題３－４－２）（課題解決型課題） 復習　：財政状況と時事問題を理解すること
15	中澤　美奈	予習　：いままでの課題について振り返ること 授業　：表計算演習：見積書（課題３－４－３）（課題解決型課題） 復習　：それぞれの課題について振り返ること

授業開始前学習	高校の教科「情報」の教科書を読んでおくと全体像をつかみやすい。ICT リテラシーの基礎の内容をおさらいしておくこと
授業内課題のフィードバックの方法	全体には、次の回に復習として解説を行う。個別には、課題返却時にクラスルームのコメントを通してアドバイスを行う。
テキスト・教材	『講義と演習　情報のこころえ』ポラーノ出版
参考書	
評価の基準と方法	毎時間出される課題 40%、課題の内容および出来映え 40%と授業に対する取り組み（授業態度）20%で評価を決める。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				○	

関連科目	ICT リテラシーの基礎
その他	GWE(Google Workspace for Education)を中心に、Microsoft オフィスもしくは、Google ドキュメント、スプレッドシート、スライドにて課題作成を行う。 課題の提出および資料の配布は、GWE を通して行う。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	100-111-21	授業コード	F03167
科目名称	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ演習 Ⅱ			単位数	1.0 単位
英文名称	Computer Laboratory Ⅱ			授業区分	演習
科目責任者	明田川 紀彦			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	明田川 紀彦			開講時期	1 年
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～12:10 水曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 09:00～12:10 水曜日 13:00～14:30			研究室	10-707
授業概要	ICT リテラシーの基礎と同様に、総合的に ICT（情報通信技術）を活用する知識とリテラシーを身につけるために、基礎理論の講義とその演習を広範囲にわたって行います。本演習では、オフィス系ソフトのエクセル（スプレッドシート）を中心に、特に数値処理や統計処理など、基礎ゼミや専門ゼミ、2 年次以降の授業で活かせるよう、課題解決型学習に準じた実務的な演習を行います。また、演習で用いるデータについては、国内外のオープンデータにアクセスして最新のデータを収集します。				
到達目標	コンピュータとスマートフォン（タブレット）を連携し、国内外のオープンデータのアクセス・情報収集および情報処理ができるようになる。具体的には、オフィス系ソフトを駆使して今後社会人として求められる文書を作成できるようになる。併せてメールやクラウドの概念を理解し、倫理観を持った情報のやり取りができるようになる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	明田川 紀彦	予習 ：教科書 P45 から P46 を読んでおくこと 授業 ：表計算演習：作表（データ入力と罫線処理）（課題３－１－１） 復習 ：時間割、カレンダーなど格子状のデータを確認すること
2	明田川 紀彦	予習 ：教科書 P47 から P48 を読んでおくこと 授業 ：表計算演習：作表（複雑な罫線処理）（課題３－１－２） 復習 ：フロアマップや料金表など複雑な表形式のデータを確認すること
3	明田川 紀彦	予習 ：教科書 P49 から P50、P53 から 54 を読んでおくこと 授業 ：表計算演習：計算とグラフの基本（前期成績表の作成） 復習 ：構造化された情報を紙に書き起こして見返すこと
4	明田川 紀彦	予習 ：教科書 P51 から P52 を読んでおくこと 授業 ：表計算演習：世界の人口分布（課題３－３－１）（課題解決型課題） 復習 ：総務省統計局のさまざまなデータを確認すること
5	明田川 紀彦	予習 ：教科書 P56 から P57 を読んでおくこと 授業 ：表計算演習：世界の主要都市の平均気温（課題３－３－２）（課題解決型課題） 復習 ：気象庁のさまざまなデータを確認すること
6	明田川 紀彦	予習 ：教科書 P58 から P59 を読んでおくこと 授業 ：表計算演習：世界の所得ランキング（課題解決型課題） 復習 ：国連統計局のさまざまなデータを確認すること
7	明田川 紀彦	予習 ：教科書 P60 から P62 を読んでおくこと 授業 ：表計算演習：ジェンダーギャップ指数（課題解決型課題） 復習 ：世界経済フォーラムのさまざまなデータを確認すること
8	明田川 紀彦	予習 ：教科書 P63 から P64 を読んでおくこと 授業 ：表計算演習：企業研究（課題解決型課題） 復習 ：注目した企業の活動をニュースメディアを通して確認すること
9	明田川 紀彦	予習 ：教科書 P65 から P66 を読んでおくこと 授業 ：表計算演習：レシート（課題３－４－１） 復習 ：さまざまなレシートを確認すること
10	明田川 紀彦	予習 ：教科書 P67 から P68 を読んでおくこと 授業 ：表計算演習：成績表（課題３－３－３） 復習 ：基本統計量（その１）を振り返ること
11	明田川 紀彦	予習 ：教科書 P69 から P71 を読んでおくこと 授業 ：表計算演習：身体測定表（課題３－３－４）（課題解決型課題） 復習 ：基本統計量（その２）を振り返ること
12	明田川 紀彦	予習 ：教科書 P72 から P73 を読んでおくこと 授業 ：表計算演習：レシピ（課題３－４－７）（課題解決型課題） 復習 ：栄養管理について確認すること
13	明田川 紀彦	予習 ：教科書 P75 から P77 を読んでおくこと 授業 ：表計算演習：歳入・歳出の概要（課題３－４－２）（課題解決型課題） 復習 ：それぞれの区分について理解すること

14	明田川　紀彦	予習　：次年度予算関連のニュース記事を確認すること 授業　：表計算演習：歳入・歳出の概要（課題３－４－２）（課題解決型課題） 復習　：財政状況と時事問題を理解すること
15	明田川　紀彦	予習　：いままでの課題について振り返ること 授業　：表計算演習：見積書（課題３－４－３）（課題解決型課題） 復習　：それぞれの課題について振り返ること

授業開始前学習	高校の教科「情報」の教科書を読んでおくと全体像をつかみやすい。ICT リテラシーの基礎の内容をおさらいしておくこと
授業内課題のフィードバックの方法	全体には、次の回に復習として解説を行う。個別には、課題返却時にクラスルームのコメントを通してアドバイスを行う。
テキスト・教材	『講義と演習　情報のこころえ』ポラーノ出版
参考書	
評価の基準と方法	毎時間出される課題 40%、課題の内容および出来映え 40%と授業に対する取り組み（授業態度）20%で評価を決める。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				○	

関連科目	ICT リテラシーの基礎
その他	GWE(Google Workspace for Education)を中心に、Microsoft オフィスもしくは、Google ドキュメント、スプレッドシート、スライドにて課題作成を行う。 課題の提出および資料の配布は、GWE を通して行う。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	100-130-22	授業コード	F03131
科目名称	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ演習Ⅲ			単位数	1.0 単位
英文名称	Computer Laboratory Ⅲ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	星野　好晃			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	星野　好晃			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	情報機器の普及や情報共有環境の発達により、誰もが情報処理と発信を身近に扱うことができる時代となっている。コンピュータ演習 I/II では基礎的な情報の処理について学んだが、本演習ではコンピュータについてシステムの理解からより広い利活用の範囲までを取り扱う。システム理解については、ローカルシステム及びクラウドシステムでのファイルの管理・運用及びアプリケーション利用の同異点を取り扱い、現代のコンピュータシステムをより理解することを狙う。コンピュータ利活用については、より専門的な情報処理の一つとしてデジタルグラフィックスツールを取り扱う。いくつかの制作課題を通じて、グラフィックスツールの活用方法を体験的に学習し、画像素材や作品を自分で出力する技能を習得することを目的とする。				
到達目標	ローカルシステムとクラウドシステムでのファイルの管理・運用及びアプリケーション利用の同異点について実践的に学ぶ。またグラフィックスツールと画像処理について、素材の撮影、写真の修整や加工といった一連の編集工程を、作品制作を通じて実習することで、さまざまな目的やメディアに対応可能な画像作成・加工編集技能を身につける。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	星野　好晃	【第 1 回】 予習　：コンピュータ演習 I ／ II の内容を復習しておくこと 授業　：ローカルシステムとクラウドシステム 復習　：ローカル上のデータとクラウド上のデータの同異点を理解する
2	星野　好晃	【第 2 回】 予習　：デジタルとアナログの違いについて調べておく 授業　：ペイント系ツール入門 1 - ペイント系ツールの環境構築と基本操作 復習　：写真データの扱い方を確認しておく
3	星野　好晃	【第 3 回】 予習　：写真の色調補正・明るさ・コントラストについて調べておく 授業　：ペイント系ツール入門 2 - 修整機能・フィルターの使用 復習　：画像加工機能について確認しておく
4	星野　好晃	【第 4 回】 予習　：デジタルカメラの機構について調べておく 授業　：デジタルカメラとデジタル写真データの取り扱い 復習　：デジタルカメラとデータについて確認しておく
5	星野　好晃	【第 5 回】 予習　：写真の切り抜きについて調べておく 授業　：ペイント系ツール入門 3 - 切り取り・切り抜き 1 復習　：画像の切り抜きの仕組みを理解しておく
6	星野　好晃	【第 6 回】 予習　：写真の切り抜きについて調べておく 授業　：ペイント系ツール入門 3 - 切り取り・切り抜き 2 復習　：画像の切り抜きの仕組みを理解しておく
7	星野　好晃	【第 7 回】 予習　：制作の完成イメージを持ち、必要な素材の準備を始める 授業　：ペイント系ツール入門 4 - レイヤー・合成機能 復習　：レイヤー機能による画像編集の役割について理解する
8	星野　好晃	【第 8 回】 予習　：デジタル写真の撮り方について調べておく 授業　：デジタルカメラによる写真撮影技能概説 復習　：デジタルカメラの機能を理解しておく
9	星野　好晃	【第 9 回】 予習　：授業で取り扱ってきた写真編集の機能について復習しておく 授業　：実習・制作課題 1 - コラージュ写真制作 1 復習　：必要な画像編集作業を進めておく
10	星野　好晃	【第 10 回】 予習　：制作の完成イメージを確認しておく 授業　：実習・制作課題 1 - コラージュ写真制作 2 復習　：制作課題を進め、完成の目処を立てる

11	星野　好晃	【第 11 回】 予習　：制作の完成イメージと必要な工程を確認しておく 授業　：実習・制作課題 1 - コラージュ写真制作 3 復習　：制作課題を進め、完成させる
12	星野　好晃	【第 12 回】 予習　：写真素材を用意しておく 授業　：実習・制作課題 2 - フォトキューブ制作 1 復習　：制作の意図を理解し、作品に反映する
13	星野　好晃	【第 13 回】 予習　：写真素材の編集・加工をしておく 授業　：実習・制作課題 2 - フォトキューブ制作 2 復習　：制作を進めておくこと
14	星野　好晃	【第 14 回】 予習　：制作課題を完了させておく 授業　：実習・制作課題 2 - フォトキューブ発表 復習　：自分が制作したもの、ほかの学生が制作したものを相互に評価する
15	星野　好晃	【第 15 回】 予習　：これまでの学習内容を復習しておく 授業　：まとめ 復習　：学習内容をふりかえり、まとめておくこと

授業開始前学習	基本的なコンピュータの使い方、コンピュータ演習 I および同 II の内容を復習しておくこと
授業内課題のフィードバックの方法	次の回に復習として全体に解説を行う。返却時、個別にアドバイスを行う。
テキスト・教材	適宜指示する
参考書	
評価の基準と方法	毎時間出される課題 80%と授業態度 20%で評価を決める。課題に関しては、内容や出来映えも評価対象とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				○	

関連科目	コンピュータ演習 I 、コンピュータ演習 II
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	100-130-22	授業コード	F03141
科目名称	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ演習Ⅳ			単位数	1.0 単位
英文名称	Computer Laboratory Ⅳ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	星野　好晃			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	星野　好晃			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	コンピュータ演習 IV ではより広くコンピュータの仕組みについて取り扱う。次世代のコンピュータシステムの基盤となる生成 AI の利活用を実践し、非プログラミングでのプログラム作成について体験的に学ぶ。また、コンピュータシステムを利活用することによってさまざまなメディアへ対応する技能の一つとして、制作課題を通じてドロー系グラフィックスツールの基本を取り扱う。ドロー系ツールの活用方法を体験的に学習する中で出力するメディアの特性を理解し、さまざまなメディアに対応して自分で制作・出力する技能を習得する。				
到達目標	生成 AI の基礎及びグラフィックスツールの基本を学ぶ。生成 AI の基礎では、生成 AI を利活用するための基礎的な仕組みと要素を知り、非プログラミングでのプログラム作成を実践する。グラフィックツールの基本では、素材の撮影、グラフィックの作成、コンテンツのレイアウト作業といった一連の編集工程について作品制作を通じて習得することで、デジタル・アナログに依らない幅広い情報発信の技能を身につける。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	星野　好晃	【第 1 回】 予習　：生成 AI について基本を確認しておくこと 授業　：生成 AI 利活用基礎 1 復習　：生成 AI の基礎と要素を確認・理解しておく
2	星野　好晃	【第 2 回】 予習　：生成 AI について基本と要素を理解しておくこと 授業　：生成 AI 利活用基礎 2 復習　：生成 AI の仕組みを確認し、作成するプログラムの動作を設計する
3	星野　好晃	【第 3 回】 予習　：生成 AI について基本と要素を理解しておくこと 授業　：生成 AI 利活用課題 復習　：生成 AI を用いて簡単なプログラムを作らせ、生成 AI 利活用の基礎を理解すること
4	星野　好晃	【第 4 回】 予習　：ペンツールの機能について調べておく 授業　：ドロー系ツール入門 1 - ペンツール 復習　：ベジェ曲線の特徴と扱い方について復習しておくこと
5	星野　好晃	【第 5 回】 予習　：トレースの手順について調べておく 授業　：ドロー系ツール入門 2 - イラストレーションのトレース 復習　：下絵からペンツールでトレースしてイラストレーションを描けるよう練習しておくこと
6	星野　好晃	【第 6 回】 予習　：デジタル写真の撮り方について調べておく 授業　：デジタルカメラによる写真撮影技能概説 復習　：デジタルカメラの機能を理解しておく
7	星野　好晃	【第 7 回】 予習　：オープンパスとクローズパスについて調べておく 授業　：ドロー系ツール入門 3 - パスの連結と塗りつぶし 復習　：ペンツールで自由にオブジェクトを描けるよう練習しておくこと
8	星野　好晃	【第 8 回】 予習　：イラストレーションの構造について調べておく 授業　：ドロー系ツール入門 4 - オブジェクトの組み合わせ 復習　：オブジェクトの組み合わせてのイラストレーション構築について理解すること
9	星野　好晃	【第 9 回】 予習　：イラストレーションについて調べておく 授業　：ドロー系ツール課題 1 - アイコンのイラストレーション制作 復習　：ドロー系ツールの使い方について確認しておく
10	星野　好晃	【第 10 回】 予習　：イラストレーションについて調べておく 授業　：ドロー系ツール課題 1 - アイコンのイラストレーション制作 復習　：ドロー系ツールの使い方について確認しておく

11	星野　好晃	【第 11 回】 予習　：デジタル写真の撮り方について調べておく 授業　：デジタルカメラによる写真撮影技能概説 復習　：デジタルカメラの機能を理解しておく
12	星野　好晃	【第 12 回】 予習　：イラストレーションについて調べておく 授業　：ドロー系ツール課題 1 - アイコンのイラストレーション制作 復習　：ドロー系ツールの使い方について確認しておく
13	星野　好晃	【第 13 回】 予習　：コンテンツのアイデアを考えておくこと 授業　：実習・制作課題 - ブックレット制作 復習　：必要な作業を進め完成の目処を立てておくこと
14	星野　好晃	【第 14 回】 予習　：写真素材を用意しておく 授業　：実習・制作課題 - ブックレット制作 復習　：仕上げをおこない、制作を完成させておくこと
15	星野　好晃	【第 15 回】 予習　：これまでの授業をふりかえっておくこと 授業　：ふりかえり 復習　：これまでの学習内容まとめ、理解すること

授業開始前学習	履修者はコンピュータ演習Ⅰ、Ⅱ及びコンピュータ演習 III の内容を復習しておくこと
授業内課題のフィードバックの方法	次の回に復習として全体に解説を行う。返却時、個別にアドバイスを行う。
テキスト・教材	適宜指示する
参考書	
評価の基準と方法	毎時間出される課題 80%と授業態度 20%で評価を決める。課題に関しては、内容や出来映えも評価対象とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				○	

関連科目	コンピュータ演習Ⅰ、コンピュータ演習Ⅱ、コンピュータ演習Ⅲ
その他	本演習は実習的に授業を進めます。コンピュータ演習Ⅲを修得していなくても履修できます。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	100-110-21	授業コード	F03610
科目名称	日本語ＡＩ			単位数	1.0 単位
英文名称	Japanese ＡＩ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	中尾　真樹			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	中尾　真樹			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	大学で授業を受けるための総合的な日本語能力を身につけることを目標とする。「読む・書く・聞く・話す」という４技能の習得を目指す。 特に講義を聞くための聴解力と、ゼミや研究発表のための口頭表現能力を養うことに重点を置く。同時に日本語能力試験Ｎ１レベルの語彙・文型を身につけ、表現力の向上を図る。 聞きやすく分かりやすい発音で話せるようになること、人前で話すことに慣れること、そして論理的な表現ができるようになることを目指す。この授業では発表とディスカッションを行う。				
到達目標	1 日本語能力試験Ｎ１レベルの語彙・文型を身につける 2 あるテーマについて、自分の考えをまとめ、聞き手に伝わるように話せるようになる 3 口頭発表のための資料を、分かりやすく作成することができるようになる 4 他者のスピーチを聞いて要点を理解し、質問できるようになる				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	中尾　真樹	【第１回】 予習　：印象に残る自己紹介を考えておく。 授業　：自己紹介（１）：スピーチをするときの段取りを身につける。（発表） 「時間・時期に関する文型」の学習。 復習　：授業で学習した文型を使って文を作る。
2	中尾　真樹	【第２回】 予習　：前回配布したプリントの内容を見直す。 授業　：自己紹介（２）：聞き手が聞きとりやすい発声やスピードを身につける。（発表） 「立場・状況・場合に関する文型」の学習。 復習　：立場・状況・場合に関する文型を使って文を作る。
3	中尾　真樹	【第３回】 予習　：前回配布したプリントの内容を見直す。 授業　：時事問題を扱った新聞記事を読み、内容について話し合う。（ディスカッション） 「限定に関する文型」の学習。 復習　：授業で取り上げた時事問題について、自分の意見を文章にまとめる。限定の文型を使って文を作る。
4	中尾　真樹	【第４回】 予習　：前回とりあげた時事問題についてまとめた文章を、発表できるように準備する。 授業　：前回取り上げた時事問題について、各自意見を発表する。（発表） 「例示・比喩に関する文型」の学習。 復習　：例示・比喩に関する文型を使って文を作る。
5	中尾　真樹	【第５回】 予習　：ニュースや新聞を見て、時事問題を調べる。 授業　：時事問題を扱った新聞記事を読み、内容について話し合う。（ディスカッション） 「対比に関する文型」の学習。 復習　：授業で取り上げた時事問題について、自分の意見を文章にまとめる。 対比に関する文型を使って文を作る。
6	中尾　真樹	【第６回】 予習　：これまでに学習した文型について復習する。 前回とりあげた時事問題についてまとめた文章を、発表できるように準備する。 授業　：文型に関する小テスト。 前回取り上げた時事問題について、各自意見を発表する。（発表） 復習　：小テストで出題された文型を使って文を作る。
7	中尾　真樹	【第７回】 予習　：自分の出身地について、情報をまとめる。 授業　：出身地紹介（１）：聞き手が興味をもつようなテーマ選びを考える。（発表） 「同時・２つの事柄を述べる文型」の学習。 復習　：同時・２つの事柄を述べる文型を使って文を作る。
8	中尾　真樹	【第８回】 予習　：前回学んだ発表の仕方について復習する。 授業　：出身地紹介（２）：発表に際してはポイントを絞り、分かりやすく伝える工夫をする。（発表） 「不変・無関係に関する文型」の学習。 復習　：不変・無関係に関する文型を使って文を作る

9	中尾　真樹	【第 9 回】 予習　：ニュースや新聞を見て、時事問題を調べる。 授業　：時事問題を扱った新聞記事を読み、内容について話し合う。（ディスカッション） 「強調・繰り返しに関する文型」の学習。 復習　：授業で取り上げた時事問題について、自分の意見を文章にまとめる。 強調・繰り返しに関する文型を使って文を作る。
10	中尾　真樹	【第 10 回】 予習　：前回とりあげた時事問題についてまとめた文章を、発表できるように準備する。 授業　：前回取り上げた時事問題について、各自意見を発表する。（発表） 「逆接・意外な気持ちに関する文型」の学習。 復習　：逆接・意外な気持ちに関する文型を使って文を作る。
11	中尾　真樹	【第 11 回】 予習　：ニュースや新聞を見て、時事問題を調べる。 授業　：時事問題を扱った新聞記事を読み、内容について話し合う。（ディスカッション） 「結果に関する文型」の学習。 復習　：授業で取り上げた時事問題について、自分の意見を文章にまとめる。 結果に関する文型を使って文を作る。
12	中尾　真樹	【第 12 回】 予習　：前回とりあげた時事問題についてまとめた文章を、発表できるように準備する。 授業　：前回取り上げた時事問題について、各自意見を発表する。（発表） 「条件に関する文型」の学習。 復習　：条件に関する文型を使って文を作る。
13	中尾　真樹	【第 13 回】 予習　：ニュースや新聞を見て時事問題を調べる。 授業　：時事問題を扱った新聞記事を読み、内容について話し合う。（ディスカッション） 「基準に関する文型」の学習 復習　：授業で取り上げた時事問題について、自分の意見を文章にまとめる。 基準に関する文型を使って文を作る。
14	中尾　真樹	【第 14 回】 予習　：前回とりあげた時事問題についてまとめた文章を、発表できるように準備する。 これまでに学習した文型を見直す。 授業　：文型に関する小テスト。 前回取り上げた時事問題について、各自意見を発表する。（発表） 復習　：小テストで取り上げた文型を使って、文を作る。
15	中尾　真樹	【第 15 回】 予習　：ニュースや新聞を見て時事問題について調べる。 授業　：時事問題について、問題点を明確にしながらディスカッションする。（ディスカッション） 復習　：授業で取り上げた時事問題について、自分の意見を文章にまとめる。 これまでに学んだ発表の仕方を復習する。

授業開始前学習	N2,N3 の語彙・文法などを復習しておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	受講者の発表について、直すべきところなどを指摘する。随時小テストを実施して、次の授業でフィードバックする。また、提出された意見文を添削して返却する。
テキスト・教材	テキストは使用しない。授業時にプリントを配布する。
参考書	三浦香苗ほか『最初の一歩から始める日本語学習者と日本人学生のための　アカデミックプレゼンテーション入門』ひつじ書房,2006 年 12 月 その他、随時指示する。
評価の基準と方法	課題への取り組みと到達度を総合的に評価する。発表・作文 60%、ディスカッション 20%、小テスト 20%。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎	○			△	

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	100-110-21	授業コード	F03620
科目名称	日本語ＢＩ			単位数	1.0 単位
英文名称	Japanese ＢＩ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	橋本　衆宝			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	橋本　衆宝			開講時期	1 年
オフィスアワー	前期　月曜日 13:00～16:00 後期　火曜日 13:00～16:00			研究室	10-616
授業概要	日本語を読む力と書く力をつける。 授業は日本語を読む活動が中心で、課題として作文を課す。 読む活動では、日本語の語彙や表現について学ぶ。そして、内容に関して、 情報や意見を交換する。漢字を読む力を強化するために、読み物の中に出てきた 言葉を使って、漢字クイズを行う。 基本的に日本語ＢＩ→日本語ＢⅡ→日本語ＢⅢ→日本語ＢⅣと、レベルが上がる。 必要性、関心、実力に応じた課題が設定されることがある。 日本語ＢＩでは、主に短く平易なニュース記事を読む。 書く活動としては、人物紹介文、報告文などに取り組む。				
到達目標	・身の回りの日本語や短いニュース記事が楽に読める ・短い分量で簡単な内容なら、適切な表現で文法を間違わずに書ける ・日本語を読んだり書いたりすることが楽しくなる				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	橋本　衆宝	【第 1 回】 予習：意味が分からない日本語を集めておく 授業：集めてきた日本語を紹介する（発表） 復習：分かるようになった日本語を確認する
2	橋本　衆宝	【第 2 回】 予習：自己紹介文を書く 授業：短いニュース記事（人物紹介）を読む（ディスカッション） 復習：人物を描写するための語彙を増やす
3	橋本　衆宝	【第 3 回】 予習：自己紹介文を仕上げる 授業：短いニュース記事（人物紹介）を読む（ディスカッション）／短文理解（設問形式。N3~N2 レベル） 復習：既習の文法を確認する
4	橋本　衆宝	【第 4 回】 予習：自己紹介文を読む練習をしておく 授業：自己紹介文（作文）を読む（発表／ディスカッション） 復習：クラスメートの自己紹介文を再読し、語彙・文法を確認する
5	橋本　衆宝	【第 5 回】 予習：人物紹介文を書く 授業：短いニュース記事（人物紹介）を読む（ディスカッション） 復習：人物を描写するための語彙を増やす
6	橋本　衆宝	【第 6 回】 予習：人物紹介文を仕上げる 授業：短いニュース記事（人物紹介）を読む（ディスカッション）／短文理解（設問形式。N3~N2 レベル） 復習：既習の文法を確認する
7	橋本　衆宝	【第 7 回】 予習：人物紹介文を読む練習をしておく 授業：人物紹介文（作文）を読む（発表／ディスカッション） 復習：クラスメートの人物紹介文を再読し、語彙・文法を確認する
8	橋本　衆宝	【第 8 回】 予習：身近な出来事を伝える作文を書く 授業：短いニュース記事（出来事）を読む（ディスカッション） 復習：出来事を伝えるための語彙を増やす

9	橋本　衆宝	【第 9 回】 予習：身近な出来事を伝える作文を仕上げる 授業：短いニュース記事（出来事）を読む（ディスカッション）／短文理解（設問形式。N3~N2 レベル） 復習：既習の文法を確認する
10	橋本　衆宝	【第 10 回】 予習：身近な出来事を伝える作文を読む練習をしておく 授業：身近な出来事を伝える作文を読む（発表／ディスカッション） 復習：身近な出来事を伝えるクラスメートの作文を再読し、語彙・文法を確認する
11	橋本　衆宝	【第 11 回】 予習：社会での出来事を伝える作文を書く 授業：短いニュース記事（出来事）を読む（ディスカッション） 復習：出来事を伝えるための語彙を増やす
12	橋本　衆宝	【第 12 回】 予習：社会での出来事を伝える作文を仕上げる 授業：短いニュース記事（出来事）を読む（ディスカッション）／短文理解（設問形式。N3~N2 レベル） 復習：既習の文法を確認する
13	橋本　衆宝	【第 13 回】 予習：社会での出来事を伝える作文を読む練習をしておく 授業：社会での出来事を伝える作文を読む（発表／ディスカッション） 復習：社会での出来事を伝えるクラスメートの作文を再読し、語彙・文法を確認する
14	橋本　衆宝	【第 14 回】 予習：様々なニュース記事を読んでおく 授業：ニュースを紹介する（発表／ディスカッションー前半） 復習：新出語彙を理解する
15	橋本　衆宝	【第 15 回】 予習：様々なニュース記事を読んでおく 授業：ニュースを紹介する（発表／ディスカッションー後半） 復習：新出語彙を理解する

授業開始前学習	これまでに学習した日本語の文字・語彙・文法について復習しておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	課題（作文）は、提出の翌週に、添削して返却する。
テキスト・教材	教科書は使用しない。適宜、プリントを配布する。
参考書	授業時に、適宜紹介する。
評価の基準と方法	エッセイ・作文 30%、漢字クイズ 30%、授業時の日本語力評価（発表・ディスカッション・ニュース記事音読・設問解答等）20%、平常点 20%（授業への取り組み、課題（作文等）提出）
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎	○			△	

関連科目	「日本語ＡⅠ」「日本事情Ⅰ」。日本語科目は、それぞれが「聞く・話す」「読む・書く」を中心に授業を進めながら、４技能の力を高めていく。日本事情を知ることは、新聞記事等の内容理解に役立つ。
その他	授業の進め方やプリント教材の内容は、学生の人数や日本語の力によって変更になる場合がある。学生からの提案も歓迎する。「遅刻３回で、欠席１回分」「３０分以上の遅刻は、欠席扱い」とする。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）		科目分類（～2024年入学者）	100-110-21	授業コード	F03630
科目名称	日本語ＡⅡ			単位数	1.0単位
英文名称	Japanese ＡⅡ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	中尾　真樹			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	中尾　真樹			開講時期	1年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	大学で授業を受けるための総合的な日本語能力を身につけることを目標とする。「読む・書く・聞く・話す」という４技能の習得を目指す。特に講義を聴くための聴解力と、ゼミや研究発表のための口頭表現能力を養うことに重点を置く。同時に日本語能力試験Ｎ１レベルの語彙・文型を身につけ、表現力の向上を図る。 また、身近な題材について文章を書くことによって、文を書くことに慣れるとともに、文法的に正しい文を書けるようにする。				
到達目標	1 日本語能力試験Ｎ１レベルの語彙・文型を身につける 2 あるテーマについて、自分の考えを論理的な文章にまとめることができるようになる 3 口頭発表のための資料を、分かりやすく作成することができるようになる 4 他者のスピーチを聞いて要点を理解し、質問できるようになる				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	中尾　真樹	【第１回】 予習　：ニュースや新聞を見て時事問題について調べる。 授業　：時事問題を扱った新聞記事を読み、内容について話し合う。（ディスカッション） 「方法に関する文型」の学習。 復習　：授業で取り上げた時事問題について、自分の意見を文章にまとめる。 方法に関する文型を使って文を作る。
2	中尾　真樹	【第２回】 予習　：前回とりあげた時事問題についてまとめた文章を、発表できるように準備する。 授業　：前回取り上げた時事問題について、各自意見を発表する。（発表） スピーチの導入について、言葉遣いや決まり文句を確認する。 「様子に関する文型」を学習する。 復習　：様子に関する文型を使って文を作る。
3	中尾　真樹	【第３回】 予習　：ニュースや新聞を見て時事問題について調べる。 授業　：時事問題を扱った新聞記事を読み、内容について話し合う。（ディスカッション） スピーチをする際に、声の大きさや姿勢などが重要であることを確認する。 「傾向に関する文型（１）」を学習する。 復習　：授業で取り上げた時事問題について、自分の意見を文章にまとめる。 傾向に関する文型を使って文を作る。
4	中尾　真樹	【第４回】 予習　：前回とりあげた時事問題についてまとめた文章を、発表できるように準備する。 授業　：前回取り上げた時事問題について、各自意見を発表する。（発表） 予期せぬ質問などへの対応方法を考える。 「傾向に関する文型（２）」を学習する。 復習　：傾向に関する文型を使って文を作る。
5	中尾　真樹	【第５回】 予習　：ニュースや新聞を見て時事問題について調べる。 授業　：時事問題を扱った新聞記事を読み、内容について話し合う。（ディスカッション） パワーポイントなどの資料は、情報の読み取りやすさが重要であることを確認する。 「話題・対象に関する文型」を学習する。 復習　：授業で取り上げた時事問題について、自分の意見を文章にまとめる。 話題・対象に関する文型を使って文を作る。
6	中尾　真樹	【第６回】 予習　：これまでに学習した文型を見直す。 前回とりあげた時事問題についてまとめた文章を、発表できるように準備する。 授業　：小テスト（これまでに学習した文型について） 前回取り上げた時事問題について、各自意見を発表する。（発表） スピーチはテーマを絞り、問題点を明確にする必要があることを確認する。 復習　：小テストで扱った文型を使って文を作る。

7	中尾　真樹	【第 7 回】 予習　：ニュースや新聞を見て時事問題について調べる。 授業　：時事問題を扱った新聞記事を読み、内容について話し合う。（ディスカッション） スピーチの内容を考える際には、聞き手が何を求めているかを考える必要があることを確認する。 「意思・意向に関する文型」を学習する。 復習　：授業で取り上げた時事問題について、自分の意見を文章にまとめる。 意思・意向に関する文型を使って文を作る。
8	中尾　真樹	【第 8 回】 予習　：前回とりあげた時事問題についてまとめた文章を、発表できるように準備する。 授業　：前回取り上げた時事問題について、各自意見を発表する。（発表） 日頃から時事問題に接しておくことの必要性を考える。 「理由・根拠に関する文型」を学習する。 復習　：理由・根拠に関する文型を使って文を作る。
9	中尾　真樹	【第 9 回】 予習　：ニュースや新聞を見て時事問題について調べる。 授業　：時事問題を扱った新聞記事を読み、内容について話し合う。（ディスカッション） SNS 以外の情報に目配りすることの重要性を考える。 「目的に関する文型」を学習する。 復習　：授業で取り上げた時事問題について、自分の意見を文章にまとめる。 目的に関する文型を使って文を作る。
10	中尾　真樹	【第 10 回】 予習　：前回とりあげた時事問題についてまとめた文章を、発表できるように準備する。 授業　：前回取り上げた時事問題について、各自意見を発表する。（発表） 時事問題の情報源には信頼性に差があることを確認する。 「可能・不可能に関する文型」を学習する。 復習　：可能・不可能に関する文型を使って文を作る。
11	中尾　真樹	【第 11 回】 予習　：ニュースや新聞を見て時事問題について調べる。 授業　：時事問題を扱った新聞記事を読み、内容について話し合う。（ディスカッション） 情報源の信頼性をどのように見分けるかを考える。 「評価に関する文型」を学習する。 復習　：授業で取り上げた時事問題について、自分の意見を文章にまとめる。 評価に関する文型を使って文を作る。
12	中尾　真樹	【第 12 回】 予習　：前回とりあげた時事問題についてまとめた文章を、発表できるように準備する。 授業　：前回取り上げた時事問題について、各自意見を発表する。（発表） 特定の時事問題について、いくつかの視点を設定して論じる練習をする。 「感想に関する文型」を学習する。 復習　：感想に関する文型を使って文を作る。
13	中尾　真樹	【第 13 回】 予習　：ニュースや新聞を見て時事問題について調べる。 授業　：時事問題を扱った新聞記事を読み、内容について話し合う。（ディスカッション） 意見を述べる際には、まず問題点を明確にする必要があることを確認する。 「見方・考え方に関する文型」を学習する。 復習　：授業で取り上げた時事問題について、自分の意見を文章にまとめる。 見方・考え方に関する文型を使って文を作る。
14	中尾　真樹	【第 14 回】 予習　：前回とりあげた時事問題についてまとめた文章を、発表できるように準備する。 これまでに学んだ文型を見直す。 授業　：小テスト：これまでに学習した文型について 前回取り上げた時事問題について、各自意見を発表する。（発表） 特定の時事問題について、各自が設定した視点を比較する。 「禁止に関する文型」を学習する。 復習　：禁止に関する文型を使って文を作る。
15	中尾　真樹	【第 15 回】 予習　：ニュースや新聞を見て時事問題について調べる。 授業　：時事問題を扱った新聞記事を読み、内容について話し合う。（ディスカッション） 復習　：授業で取り上げた時事問題について、自分の意見を文章にまとめる。 授業で行ったディスカッションで、他者が設定した視点からあらためて問題を見直す。

授業開始前学習	N2、N3 の学習内容を確認しておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	受講者の発表について、直すべきところなどを指摘する。随時小テストを実施して、次の授業でフィードバックする。また、提出された意見文を添削して返却する。
テキスト・教材	テキストは使用しない。授業時にプリントを配布する。
参考書	三浦香苗ほか『最初の一歩から始める日本語学習者と日本人学生のための　アカデミックプレゼンテーション入門』ひつじ書房,2006 年 12 月 その他、随時指示する。
評価の基準と方法	課題への取り組みと到達度を総合的に評価する。発表・作文 60%、ディスカッション 20%、小テスト 20%。

ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照							
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎	○			△	
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	100-110-21	授業コード	F03640
科目名称	日本語 BⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	Japanese BⅡ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	橋本　衆宝			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	橋本　衆宝			開講時期	1 年
オフィスアワー	前期　月曜日 13:00～16:00 後期　火曜日 13:00～16:00			研究室	10-616
授業概要	日本語を読む力と書く力をつける。 授業は日本語を読む活動が中心で、課題として作文を課す。 読む活動では、日本語の語彙や表現について学ぶ。そして、内容に関して、 情報や意見を交換する。漢字を読む力を強化するために、読み物の中に出てきた 言葉を使って、漢字クイズを行う。 基本的に日本語 BⅠ→日本語 BⅡ→日本語 BⅢ→日本語 BⅣと、レベルが上がる。 必要性、関心、実力に応じた課題が設定されることがある。 日本語 BⅡでは、レベル相当の読解問題を解くことにより、読解力の定着を図る。 また、様々なテキストに触れることで、読む楽しみを広げる。 書くことに関しては、意見文、解説文に取り組む。				
到達目標	・初級、中級の語彙・文法を用いた読解問題が解けるようになる。 ・テキストの種類に応じて読む進めることができるようになる。 ・論理的で説得力のある文章が書けることを目標とする。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	橋本　衆宝	【第 1 回】 予習：N3~N2 レベルの語彙・文法を見直しておく 授業：長文理解（設問形式。N3~N2 レベル） 復習：間違った箇所について、納得がいくまで理解を進める
2	橋本　衆宝	【第 2 回】 予習：作文「日本語について気づいたこと」を書く 授業：長めのニュース記事（言語関連）を読む（ディスカッション） 復習：言語関連の語彙を増やす
3	橋本　衆宝	【第 3 回】 予習：作文「日本語について気づいたこと」を仕上げる 授業：長めのニュース記事（言語関連）を読む（ディスカッション）／長文理解（設問形式。N3~N2 レベル） 復習：既習の文法を確認する
4	橋本　衆宝	【第 4 回】 予習：作文「日本語について気づいたこと」を読む練習をしておく 授業：作文「日本語について気づいたこと」を読む（発表／ディスカッション） 復習：クラスメートの作文「日本語について気づいたこと」を再読し、語彙・文法を確認する
5	橋本　衆宝	【第 5 回】 予習：作文「教育について」を書く 授業：長めのニュース記事（教育関連）を読む（ディスカッション） 復習：教育関連の語彙を増やす
6	橋本　衆宝	【第 6 回】 予習：作文「教育について」を仕上げる 授業：長めのニュース記事（教育関連）を読む（ディスカッション）／長文理解（設問形式。N3~N2 レベル） 復習：既習の文法を確認する
7	橋本　衆宝	【第 7 回】 予習：作文「教育について」を読む練習をしておく 授業：作文「教育について」を読む（発表／ディスカッション） 復習：クラスメートの作文「教育について」を再読し、語彙・文法を確認する
8	橋本　衆宝	【第 8 回】 予習：作文「ニュース＆コメント」を書く 授業：長めのニュース記事（時事問題）を読む（ディスカッション） 復習：時事問題の語彙を増やす

9	橋本　衆宝	【第 9 回】 予習：作文「ニュース＆コメント」を仕上げる 授業：長めのニュース記事（時事問題）を読む（ディスカッション）／長文理解（設問形式。N3~N2 レベル） 復習：既習の文法を確認する
10	橋本　衆宝	【第 10 回】 予習：作文「ニュース＆コメント」を読む練習をしておく 授業：作文「ニュース＆コメント」を読む（発表／ディスカッション） 復習：クラスメートの作文「ニュース＆コメント」を再読し、語彙・文法を確認する
11	橋本　衆宝	【第 11 回】 予習：作文「私の意見」を書く 授業：長めのニュース記事（論説）を読む（ディスカッション） 復習：意見を述べるための語彙を増やす
12	橋本　衆宝	【第 12 回】 予習：作文「私の意見」を仕上げる 授業：長めのニュース記事（論説）を読む（ディスカッション）／長文理解（設問形式。N3~N2 レベル） 復習：既習の文法を確認する
13	橋本　衆宝	【第 13 回】 予習：作文「私の意見」を読む練習をしておく 授業：作文「私の意見」を読む（発表／ディスカッション） 復習：クラスメートの作文「私の意見」を再読し、語彙・文法を確認する
14	橋本　衆宝	【第 14 回】 予習：様々な主張や意見を知っておく 授業：主張や意見を紹介する（発表／ディスカッションー前半） 復習：新出語彙を理解する
15	橋本　衆宝	【第 15 回】 予習：様々な主張や意見を知っておく 授業：主張や意見を紹介する（発表／ディスカッションー後半） 復習：新出語彙を理解する

授業開始前学習	日本語ＢＩで学習した内容を復習しておく。
授業内課題のフィードバックの方法	課題（作文）は、提出の翌週に、添削して返却する。
テキスト・教材	教科書は使用しない。適宜、プリントを配布する。
参考書	授業時に、適宜紹介する。
評価の基準と方法	エッセイ・作文 30%、漢字クイズ 30%、授業時の日本語力評価（発表・ディスカッション・ニュース記事音読・設問解答等）20%、平常点 20%（授業への取り組み、課題（作文等）提出）
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎	○			△	

関連科目	「日本語ＡⅡ」「日本事情Ⅱ」。日本語科目は、それぞれが「聞く・話す」「読む・書く」を中心に授業を進めながら、４技能の力を高めていく。日本事情を知ることは、新聞記事等の内容理解に役立つ。
その他	授業の進め方やプリント教材の内容は、学生の人数や日本語の力によって変更になる場合がある。学生からの提案も歓迎する。「遅刻３回で、欠席１回分」「３０分以上の遅刻は、欠席扱い」とする。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	100-110-22	授業コード	F03650
科目名称	日本語 AⅢ			単位数	1.0 単位
英文名称	Japanese AⅢ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	中尾　真樹			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	中尾　真樹			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	総合的な日本語力の向上を目指すが、特に日本人学生の中でも臆せず自己表現できるよう、聴解力と口頭表現能力を伸ばすことに重点を置く。口頭要約表現や意見表明および論理的に相手を説得する方法を身につける。この授業では発表とディスカッションを行う。				
到達目標	1）語彙を増やし、話の内容に即した表現ができるようになる。 2）時事ニュースに親しむことで、広い視野が身につく。 3）日中間のさまざまな問題について、日本語で討論できるようになる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	中尾　真樹	【第 1 回】 予習：日本のニュースを見て疑問に思ったことを挙げておく。 授業：今年に入ってから気になったニュースについてコメントする。（発表・ディスカッション） 復習：授業で挙げられたニュースの中で、とくに気になったものをノートにまとめる。
2	中尾　真樹	【第 2 回】 予習：日本の成人年齢について調べる。 授業：日本の成人年齢について 母国の成人年齢と比較し、問題点を話し合う。（ディスカッション） 復習：ディスカッションで挙がった問題点をノートにまとめる。
3	中尾　真樹	【第 3 回】 予習：母国のネットで紹介されている日本の観光地を調べる。 授業：日本の有名観光地について 日本の観光地の人気ランキングをまとめ、理由を考察する。（発表・ディスカッション） 復習：神社仏閣、温泉など有名観光地の人気ランキングをノートにまとめる。
4	中尾　真樹	【第 4 回】 予習：母国のブログなどで紹介されている日本の穴場的観光地を調べる。 授業：日本の穴場的観光地について 母国からの観光客が訪れる観光地が、近年どう変わってきたかを話し合う。（発表・ディスカッション） 復習：母国からの観光客が訪れる観光地が、近年どう変わってきたかをノートにまとめる。
5	中尾　真樹	【第 5 回】 予習：自分の発表内容について、あらためて見直す。 授業：各自、日本に関するテーマを決めて発表を行う。（発表・ディスカッション） 復習：ディスカッションの内容をノートにまとめる。
6	中尾　真樹	【第 6 回】 予習：母国のネットで紹介されている日本人の生活習慣を調べる。 授業：日本人の生活習慣について（入浴・挨拶など） 日本の生活習慣が母国でどのように評価さているかを話し合う。（発表・ディスカッション） 復習：日本の生活習慣が母国でどのように評価さているかをノートにまとめる。
7	中尾　真樹	【第 7 回】 予習：母国のネットで紹介されている日本人の公共意識を調べる。 授業：日本人の公共意識（マナーなど）について 日本と母国の公（おおやけ）意識の違いを話し合う。（発表・ディスカッション） 復習：日本と母国の公（おおやけ）意識の違いをノートにまとめる。
8	中尾　真樹	【第 8 回】 予習：母国人がもつ日本の会社のイメージを調べる。 授業：日本人の労働に対する意識について 日本と母国の「仕事」に対する考え方の違いを話し合う。（発表・ディスカッション） 復習：日本と母国の「仕事」に対する考え方の違いをノートにまとめる。
9	中尾　真樹	【第 9 回】 予習：日本と中国でそれぞれ人気のあるスポーツを調べる。 授業：日本人とスポーツについて 社会におけるスポーツの意味・重要性が、母国と日本で違うのかどうか話し合う。（発表・ディスカッション） 復習：社会におけるスポーツの意味・重要性が、母国と日本でどう違うかノートにまとめる。

10	中尾　真樹	【第 10 回】 予習：日本の家族の形態について調べる。 授業：恋愛・結婚意識について 　　日本と母国における結婚の条件について、共通点と相違点を話し合う。（発表・ディスカッション） 復習：日本と母国における結婚の条件について、共通点と相違点をノートにまとめる。
11	中尾　真樹	【第 11 回】 予習：日本の少子化問題について調べる。 授業：少子化について 　　日本の少子化の原因と解決策について話し合う。（発表・ディスカッション） 復習：日本の少子化の原因と解決策についてノートにまとめる。
12	中尾　真樹	【第 12 回】 予習：高齢化社会について調べる。 授業：高齢化社会について 　　日本と母国における高齢化問題の共通点と相違点を話し合う。（発表・ディスカッション） 復習：日本と母国における高齢化問題の共通点と相違点をノートにまとめる。
13	中尾　真樹	【第 13 回】 予習：日本の格差問題について調べる。 授業：格差問題 　　日本と母国における格差問題の共通点と相違点を話し合う。（発表・ディスカッション） 復習：日本と母国における格差問題の共通点と相違点をノートにまとめる。
14	中尾　真樹	【第 14 回】 予習：日本の学歴意識について調べる。 授業：学歴社会について 　　日本と母国における学歴意識の共通点と相違点を話し合う。（発表・ディスカッション） 復習：日本と母国における学歴意識の共通点と相違点をノートにまとめる。
15	中尾　真樹	【第 15 回】 予習：自分の発表内容について、あらためて見直す。 授業：各自、日本に関するテーマを決めて発表を行う。（発表・ディスカッション） 復習：ディスカッションの内容をノートにまとめる。

授業開始前学習	N1,N2 の知識を復習しておく。
授業内課題のフィードバックの方法	毎回のディスカッションについて授業中にフィードバックする。また、期間中、学生によるプレゼンテーションを 2 回実施し、内容、発表方法などについてコメントする。随時小テストを実施し、次回授業にてフィードバックする。
テキスト・教材	三浦香苗ほか『最初の一歩から始める日本語学習者と日本人学生のための　アカデミックプレゼンテーション入門』ひつじ書房、2006 年 12 月
参考書	随時指示する。
評価の基準と方法	総合的に評価する。発表 70%、ディスカッション 30%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎	○			△	

関連科目	
その他	クラスの人数、レベルによって授業内容が変わることもある。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	100-110-22	授業コード	F03660
科目名称	日本語 BⅢ			単位数	1.0 単位
英文名称	Japanese BⅢ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	何　芸芃			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	何　芸芃			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期　火曜日 10:40～12:10　水曜日 14:40～16:10 後期　火曜日 10:40～12:10　水曜日 14:40～16:10			研究室	16-307
授業概要	本授業では、日本語能力を向上させるために、読解力と作文力を中心に強化する。読む力では、新聞、エッセイ、小説、学術的な文章など、さまざまなテキストを通じて語彙力や読解スキルを高める。内容に関して、情報や意見を交換する。書く力では、論文や感想文、エッセイなどの文章を作成する力を養う。授業を通じて、文章の構成、表現方法、文法を実践的に学び、実生活や学業に役立つ日本語力を向上させることを目指す。 基本的に日本語 BⅠ→日本語 BⅡ→日本語 BⅢ→日本語 BⅣと、レベルが上がる。必要性、関心、実力に応じた課題が設定されることがある。				
到達目標	日本語の文章を正確に読解し、内容を把握することができる。 自分の考えを論理的に整理し、日本語で効果的に書くことができる。 読み書きの際に必要な語彙力や文法を強化し、スムーズに表現できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	何　芸芃	【第 1 回】 予習：自己紹介（学部・学科、卒業論文テーマ、卒業後のことなど）の準備、春休みに取り組んだことについて話せるようにしておく 授業：授業説明、自己紹介、春休みに取り組んだことについて発表、ディスカッション 復習：新出語彙・表現について確認する
2	何　芸芃	【第 2 回】 予習：指定された論文を読む 授業：日本語の文章構造と論理展開、専門分野の文章の概論、専門分野で使われる文章構造の解説、ペアワークで段落ごとの要点把握、ディスカッションで専門分野の興味深い点を共有する 復習：論理的に展開された短いエッセイを執筆する
3	何　芸芃	【第 3 回】 予習：より良い文章を書くための校正方法を調べる、読みやすい文章の要素を理解する 授業：文章の構成を整えるための校正技法、より効果的な表現方法と文法のチェック方法、文章修正演習 復習：文章修正演習での意見を再確認する
4	何　芸芃	【第 4 回】 予習：発表練習をしておく 授業：自分が執筆したエッセイを発表する、ディスカッション 復習：クラスメートのエッセイを再読し、自分のエッセイを見直して改良する
5	何　芸芃	【第 5 回】 予習：最新の新聞記事をいくつか読み、その要点をまとめる 授業：新聞記事と報道の分析について、新聞記事の構成（見出し、リード、本文）について学ぶ、記事で使われる表現技法（引用、事実の強調）についてグループで分析 復習：新聞記事 1 本を選んで記事の構成を確認し、記事で使われる表現技法をまとめる
6	何　芸芃	【第 6 回】 予習：新聞の書き方や視点の偏りについて調べる 授業：指定された新聞記事を読む、内容確認（設問形式）、記事を基にグループディスカッション、文章構造の要点を調査、新聞記事と報道の分析 復習：授業に出てきた語彙・文法を確認する 新聞記事を 1 本選び、要約と感想文を執筆する
7	何　芸芃	【第 7 回】 予習：自分が選んだ新聞記事の発表練習をしておく 授業：新聞内容の紹介、執筆した要約と感想文を発表する、ディスカッション 復習：クラスメートの発表内容をまとめ、自分のエッセイを見直して改良する
8	何　芸芃	【第 8 回】 予習：自分の専門分野に関連する論文を 1 本読む 授業：学術論文の構成と書き方（基礎）、学術論文の各パート（序論、本論、結論）の役割とその書き方、学術的な表現方法、自分の専門分野に関連する論文をグループで分析 復習：自分の専門分野に関連する短い論文を執筆する

9	何　芸芃	【第 9 回】 予習：学術的な議論の進め方を調べる（反論・議論の展開方法） 授業：指定された学術論文を読む、内容確認（設問形式）、議論を進める際の論理的な展開方法と反論の仕方について、グループディスカッションで意見交換を行う 復習：授業に出てきた語彙・文法を確認する、自分の論文を修正する
10	何　芸芃	【第 10 回】 予習：自分の論文の発表練習をしておく 授業：自分の論文を発表する、ディスカッション 復習：クラスメートの論文を再読し、語彙・表現を確認する 　　自分の論文を見直して修正する
11	何　芸芃	【第 11 回】 予習：異文化間の言語的表現方法について調べる 授業：比較文化論における表現方法の違い、異文化理解の重要性と文化間で異なる表現方法の考察、日本語と他言語における表現方法の違いをグループでディスカッション 復習：授業で取り上げた表現の違いを基に、自分の文化的背景を反映したエッセイを作成する
12	何　芸芃	【第 12 回】 予習：自国の文化や他国の文化における独自の表現方法がどのような文化的背景に基づいているかを考える 授業：指定された比較文化論に関する資料を読む、内容確認（設問形式）、比較文化をテーマにした作文の作成、文章修正演習（グループディスカッション） 復習：授業に出てきた語彙・文法を確認する、作文の内容を修正する
13	何　芸芃	【第 13 回】 予習：作成した作文を基に、発表練習をしておく 授業：各自、比較文化における表現の違いについて発表する、ディスカッションを通じて、異文化間の表現に対する新たな視点を発見する 復習：発表で得た他者の意見を基に、自分の作文や発表内容を振り返る 　　最終発表のテーマを選ぶ
14	何　芸芃	【第 14 回】 予習：これまでの授業で学んだ日本語表現や読解力を活かして、800～1000 字の作文を完成させる 　　作文に基づいた 5～10 分の発表スライドを作成する。 授業：最終発表の前半（半数）のプレゼンテーションを実施、各発表後に質疑応答とフィードバックを行う、プレゼンテーションの構成や表現方法について改善点を共有。 復習：授業で得たフィードバックを基に、自分の発表内容やスライドを修正する。
15	何　芸芃	【第 15 回】 予習：前回のフィードバックを基に発表内容を再確認し、修正したプレゼンテーションを完成させる 　　発表時の話し方、表現方法、発表時間を守る練習を行う。 授業：発表の後半グループのプレゼンテーションを実施、各発表後に質疑応答とクラス全体でのフィードバックを行う 　　全員の発表が終わった後、授業全体の振り返りを行う 復習：発表やフィードバックを基に、全員自分の作文を最終的に見直し、授業後に提出する。

授業開始前学習	中級レベルの語彙・文法を身につけておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	課題（作文）の提出、コメントシートの提出
テキスト・教材	教科書は使用しない。適宜、プリントを配布する。
参考書	授業時に、適宜紹介する。
評価の基準と方法	エッセイ・作文 30%、授業時の日本語力評価（発表・ディスカッション・ニュース記事等の音読・設問解答等）20%、平常点 20%（授業への取り組み、課題（作文等）提出）、最終発表 30%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎	○			△	

関連科目	「日本語ＡⅢ」「日本事情Ⅲ」。日本語科目は、それぞれが「聞く・話す」「読む・書く」を中心に授業を進めながら、４技能の力を高めていく。日本事情を知ることは、新聞記事等の内容理解に役立つ。
その他	授業の進め方やプリント教材の内容は、学生の人数や日本語の力によって変更になる場合がある。学生からの提案も歓迎する。 「遅刻３回で、欠席１回分」「３０分以上の遅刻は、欠席扱い」とする。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	100-110-22	授業コード	F03670
科目名称	日本語 AIV			単位数	1.0 単位
英文名称	Japanese AIV			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	中尾　真樹			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	中尾　真樹			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	パネルディスカッション、グラフを使った意見表明のスピーチ、ディベート（１対１）を通して、聴解力と口頭表現能力をさらに伸ばすことを目標とする。また、資料の読解、原稿やレポートの作成によって、総合的に日本語力が向上することを目指す。この授業ではディスカッションを行う。				
到達目標	１）語彙を増やし、話の内容に即した表現ができるようになる。 ２）時事ニュースに親しみ、視野を広くすることができるようになる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	中尾　真樹	【第 1 回】 予習：夏期休業中のニュースを見て疑問に思ったことを挙げておく。 授業：夏期休業中、気になったニュースについてコメントする。（発表・ディスカッション） 復習：授業で挙げられたニュースの中で、とくに気になったものをノートにまとめる。
2	中尾　真樹	【第 2 回】 予習：母国のネットで紹介されている日本のインフラ事情を調べる。 授業：日本のインフラが母国でどのように評価されているかを話し合う。（発表・ディスカッション） 復習：日本のインフラが母国でどのように評価されているかをノートにまとめる。
3	中尾　真樹	【第 3 回】 予習：日本の自然災害について調べる。 授業：日本の火山活動と災害について。（ディスカッション） 復習：火山活動に関して、母国と日本の事情の相違をまとめる。
4	中尾　真樹	【第 4 回】 予習：東日本大震災について調べる。 授業：東日本大震災の発生と被害について。（ディスカッション） 復習：東日本大震災の発生当時、海外にどのように情報が伝えられたのかまとめる。
5	中尾　真樹	【第 5 回】 予習：防災について調べる。 授業：日本の防災意識について。（ディスカッション） 復習：身近なところにみられる災害対策を探してみる。
6	中尾　真樹	【第 6 回】 予習：自分の発表内容について、あらためて見直す。 授業：各自、日本に関するテーマを決めて発表を行う。（発表・ディスカッション） 復習：ディスカッションの内容をノートにまとめる。
7	中尾　真樹	【第 7 回】 予習：日本の少子化について調べる。 授業：少子化について。（ディスカッション） 復習：日本の少子化の原因と対策を考える。
8	中尾　真樹	【第 8 回】 予習：日本の高齢化について調べる。 授業：高齢化社会について。（ディスカッション） 復習：日本と母国における高齢者の生活を比較する。
9	中尾　真樹	【第 9 回】 予習：「公私」という概念を調べる。 授業：新聞記事「自分の子供の入学式のために仕事を休む教師」について。（ディスカッション） 復習：日本と母国における公私の概念の共通点と相違点を考える。
10	中尾　真樹	【第 10 回】 予習：日本における夫婦別姓について。 授業：新聞記事「夫婦同姓は合憲」について。（ディスカッション） 復習：夫婦の姓について、各国の実情をまとめる。
11	中尾　真樹	【第 11 回】 予習：日本の子育てに関する問題を調べる。 授業：新聞記事「子供に無断で触らないで」について。（ディスカッション） 復習：地域社会と子育ての関係について考える。

12	中尾　真樹	【第 12 回】 予習：放送の公平性に関する政府見解を調べる。 授業：「放送の政治的公平性」について。（ディスカッション） 復習：日本と諸外国のジャーナリズムの政治性を比較する。
13	中尾　真樹	【第 13 回】 予習：日本における英語の早期教育について調べる。 授業：「小学校における英語教育」について。（ディスカッション） 復習：日本と母国の外国語教育を比較する。
14	中尾　真樹	【第 14 回】 予習：日本におけるインターネットの普及率を調べる。 授業：若者の生活と IT の関係について。（ディスカッション） 復習：日本と母国の若者の IT 利用の実態を比較する。
15	中尾　真樹	【第 15 回】 予習：自分の発表内容について、あらためて見直す。 授業：各自、日本に関するテーマを決めて発表を行う。（発表・ディスカッション） 復習：ディスカッションの内容をノートにまとめる。

授業開始前学習	N1,N2 の知識を復習しておくこと。また、日頃からニュースや新聞を見て、社会問題に興味を持つこと。
授業内課題のフィードバックの方法	毎回のディスカッションについて授業中にフィードバックする。また、期間中、学生によるプレゼンテーションを 2 回実施し、内容、発表方法などについてコメントする。随時小テストを実施し、次回授業にてフィードバックする。
テキスト・教材	三浦香苗ほか『最初の一歩から始める日本語学習者と日本人学生のための　アカデミックプレゼンテーション入門』ひつじ書房、2006 年 12 月
参考書	
評価の基準と方法	総合的に評価する。発表 70%、ディスカッション 30%。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎	○			△	

関連科目	
その他	クラスの人数、レベルによって授業内容が変わることもある。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	100-110-22	授業コード	F03680
科目名称	日本語 BⅣ			単位数	1.0 単位
英文名称	Japanese BⅣ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	何　芸芃			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	何　芸芃			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期　火曜日 10:40～12:10　水曜日 14:40～16:10 後期　火曜日 10:40～12:10　水曜日 14:40～16:10			研究室	16-307
授業概要	本授業は、留学生を対象に、日本語の読解力と作文力を向上させることを目的としている。テーマごとに設定された専門的な文章を読み、現代社会の問題や文化的なトピックについて多角的に考察する。また、作文や発表を通じて表現力を鍛え、論理的な構成や適切な語彙の使い方を身につけることを目指す。授業は 3 回 1 セットのテーマごとに進行し、最終的には自身の意見を的確に伝える表現スキルを育成する。				
到達目標	読解力の向上：専門的な内容を含む文章を正確に読み取り、内容を的確に理解できる。 作文力の向上：自分の考えを論理的に整理し、明確な日本語で表現できる。 発表力の向上：　読んだ内容を基に、口頭で自信を持って意見を述べ、質疑応答に対応できる。 批判的思考の習得：異なる視点から文章の内容を分析し、自分の意見を深めることができる。 多様な表現の習得：文体や語彙のバリエーションを身につけ、表現の幅を広げることができる。 比較文化的視点の習得：　異文化理解を深め、さまざまな表現方法の違いを分析し、日本語を文化				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	何　芸芃	【第 1 回】 予習：「日本語Ⅲ」で学んだ知識を確認する 授業：社会問題（環境、人口、テクノロジーなど）に関する日本語記事を 2 つ読む、要点を箇条書きにする 　　文章内の語彙・表現を共有する、社会問題の視点から要約・解説を行う 復習：新出語彙・表現について確認する 　　授業で得た知識をもとに、同じテーマで別の日本語記事を読み、簡単な要約を書く
2	何　芸芃	【第 2 回】 予習：自分の関心のある社会問題を選び、賛成・反対の立場で資料を集める 授業：社会問題に関する意見文の作成、賛成・反対の視点で文章を作成、グループ内でお互いにフィードバック 復習：作文を修正し、600 字程度の完成版を作成する
3	何　芸芃	【第 3 回】 予習：完成した意見文をもとに発表スクリプトを作成 授業：社会問題に関する発表、クラス内でディスカッションを行い、発表内容に対して意見交換 復習：発表とフィードバックをもとに、総括のレポートを作成する
4	何　芸芃	【第 4 回】 予習：日本の伝統文化（茶道、俳句、歌舞伎など）に関する文章を読んで要点をまとめる 授業：日本の文化と表現について、伝統文化に関する文章の読解、キーワードを基にグループディスカッション 復習：新出語彙・表現を確認する、別の伝統文化に関する文章を読んで要約する
5	何　芸芃	【第 5 回】 予習：自分の興味のある日本文化をテーマに資料を集める 授業：伝統文化に関する 500 字程度の説明文を作成、ペアワークで読み合い、表現方法を修正する 復習：説明文を仕上げ、発表用スクリプトを作成する
6	何　芸芃	【第 6 回】 予習：完成した説明文をもとに発表の準備をしておく 授業：伝統文化に関する発表と質疑応答、ディスカッション、フィードバックを通じて表現の改善 復習：発表をもとにレポートを作成する
7	何　芸芃	【第 7 回】 予習：ビジネスメールや報告書を 2 つ読み、表現方法をまとめる 授業：ビジネス文書の読解、ビジネスで使われる定型表現の学習、例文を用いてペアワーク 復習：新出語彙・表現を確認する、授業で使った表現を使い、簡単なビジネスメールを作成する
8	何　芸芃	【第 8 回】 予習：ビジネスのテーマに関する資料を集め、レポート案を作成する 授業：ビジネスレポートの書き方を学び、レポートを作成する、グループでお互いにフィードバック 復習：完成したレポートを 400 字に仕上げる
9	何　芸芃	【第 9 回】 予習：完成したレポートを発表用スクリプトにする 授業：レポートの発表、質疑応答とフィードバック 復習：発表を基にレポートを仕上げ、最終版を提出する

10	何　芸芃	【第 10 回】 予習：異文化コミュニケーションに関する文章を読み、要点を整理 授業：比較文化に関する文章の読解、文化による表現の違いの分析、異文化理解についてグループディスカッション 復習：新出語彙・文法を確認する、似たテーマの別の文章を読み、内容を簡単に要約する
11	何　芸芃	【第 11 回】 予習：異文化体験や興味のある文化をテーマに資料を集める 授業：異文化に関するエッセイの作成、自分のテーマで 500 字のエッセイを作成、グループでフィードバック 復習：エッセイを完成させ、発表の準備をしておく
12	何　芸芃	【第 12 回】 予習：完成したエッセイをもとに発表用スクリプトを作成する 授業：異文化に関するエッセイの発表と質疑応答、クラス全体でフィードバックを共有する 復習：発表内容をもとに最終レポートを作成する
13	何　芸芃	【第 13 回】 予習：現在の新語・流行語に関する記事を読み、リストアップしてみる 授業：新語・流行語の読解と分析、新語・流行語の成り立ちと背景の分析、グループで例文を作成する 復習：新出語彙・文法を確認する、流行語を使った短い文章を作成する
14	何　芸芃	【第 14 回】 予習：流行語や新語をテーマに、その言葉が反映している社会現象や価値観について自分の意見を 300 字にまとめる 授業：選んだ新語や流行語をグループで共有、ディスカッション内容を基に、新たな切り口を見つける 400 字程度のエッセイを作成し、グループでフィードバック 復習：授業で受けたフィードバックを基にエッセイを修正する
15	何　芸芃	【第 15 回】 予習：「日本語の未来 - 新語・流行語の進化とその影響」というテーマで発表スクリプトを作成する 授業：前回のエッセイの内容を基に、総合発表（新語や流行語の背景・価値観、言葉の変化が日本語社会に与える影響、自分なりの日本語表現の未来予測）を行う、ディスカッション 授業全体の振り返りシートに記入し、今後の学習目標を設定する 復習：発表内容やディスカッションの要点を基に、最終的な総括レポート（500 字）を作成する

授業開始前学習	日本語 BⅢで学習した内容を復習しておく。
授業内課題のフィードバックの方法	課題（作文）の提出、発表のコメントシートの提出
テキスト・教材	教科書は使用しない。適宜、プリントを配布する。
参考書	授業時に、適宜紹介する。
評価の基準と方法	エッセイ・作文 30%、授業時の日本語力評価（発表・ディスカッション・ニュース記事等の音読・設問解答等） 20%、平常点 20%（授業への取り組み、課題（作文等）提出）、総合発表 30%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎	○			△	

関連科目	「日本語ＡⅣ」「日本事情Ⅳ」。日本語科目は、それぞれが「聞く・話す」「読む・書く」を中心に授業を進めながら、４技能の力を高めていく。日本事情を知ることは、新聞記事等の内容理解に役立つ。
その他	授業の進め方やプリント教材の内容は、学生の人数や日本語の力によって変更になる場合がある。学生からの提案も歓迎する。 「遅刻３回で、欠席１回分」「３０分以上の遅刻は、欠席扱い」とする。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-111 CT-L-111 SD-L-111	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-11	授業コード	F03690
科目名称	日本事情Ⅰ			単位数	2.0 単位
英文名称	Studies of Japanese Society Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	安井 裕司			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	安井 裕司			開講時期	1 年
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30			研究室	16-306
授業概要	日本の伝統行事や日本文化を学術文献を押さえながら、学問的フレームワークを確認し、その上で、アニメ、映画、ドラマ、漫画、小説作品を用いて、日常的な視点から「日本文化」を相対化していく。また、毎回、冒頭においてできるだけ日本社会の時事問題を取り上げ、解説し、アクティブラーニングの一環として履修した皆さんと議論していきたい。				
到達目標	日本の社会や文化、習慣、伝統行事を、学術書、小説、漫画、映画、ドラマなどを通じて、「日本学」として捉え直し、履修者のそれぞれの専門に役立てることを目標とする。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	安井 裕司	【第 1 回】 予習：お花見に関して書籍、学術論文を調べる。白幡三郎『花見と桜』（2000 年）等もできれば読んでおく。 授業：日本の伝統行事(1)：お花見（桜） 復習：映画『秒速 5 センチメートル』（2007 年）等、桜がテーマの映画や小説を読む。
2	安井 裕司	【第 2 回】 予習：日本の暦を再確認する。時ネットや図書館で時間と文化についても調べる。 授業：日本の暦 復習：映画『天地明察』（2012 年）等の暦に関する映画、ドラマを観る。漫画、小説などを読む。
3	安井 裕司	【第 3 回】 予習：桃の節句、ひな祭りについてネットや図書館で記事、学術文献、学術書を読んでおく。 授業：日本の伝統行事(2)：桃の節句・ひな祭り 復習：映画『夢』（1990 年）、映画『時をかける少女』（1983 年）等、ひな祭りがテーマや重要やシーンとなっている映画、ドラマ、アニメ作品を観る。小説、漫画を読む。
4	安井 裕司	【第 4 回】 予習：端午の節句、子どもの日、鯉のぼりについてネットや図書館で調べる。柳田國男『年中行事覚書』（1977 年）、是澤博昭『子供を祝う端午の節句と雛祭』（2015 年）等の学術書も読む。 授業：日本の伝統行事(3)：端午の節句 復習：映画『二十四の瞳』（1954 年）と「二十四の瞳映画村」のニュース。鯉のぼりや端午の節句がテーマやイメージになっている映画、アニメを観る。小説、漫画を読む。
5	安井 裕司	【第 5 回】 予習：三重大学国際忍者研究センターの「忍者学」の研究業績を調べておく。 授業：忍者 復習：アニメ『NARUTO』（2002 年）、アニメ『忍者ハットリくん』（1981 年）を忍者学の観点から考察する。
6	安井 裕司	【第 6 回】 予習：将棋のルールを確認し、その歴史を調べ、今日の日本人と将棋の関係を考えておく。 授業：日本の伝統遊戯(1)：将棋 復習：アニメ『3 月のライオン』（2016 年）等の将棋がテーマのアニメ、映画作品などを観る。
7	安井 裕司	【第 7 回】 予習：碁のルールを確認し、その歴史を調べ、今日の日本人と碁の関係を考えておく。 授業：日本の伝統遊戯(2)：碁 復習：映画『碁盤斬り』（2024 年）等の碁がテーマの映画作品を観る。
8	安井 裕司	【第 8 回】 予習：かるた/競技かるたについてネットや書籍を調べる。できれば、楠木早紀『瞬間の記憶力』（2012 年）も読んでおく。 授業：日本の伝統遊戯(3)：かるた 復習：アニメ『ちはやふる』（2011 年）等の競技かるたがテーマのアニメ、漫画作品を観てかるたを考える。
9	安井 裕司	【第 9 回】 予習：日本人と俳句についてネット、図書館、調べる。 授業：俳句 復習：映画『サイダーのように言葉が湧き上がる』（2021 年）等、映画、漫画、小説で俳句がテーマとなっている作品を観る、読む。

10	安井　裕司	【第 10 回】 予習：三味線についてネット、図書館で調べる。大條和雄『津軽三味線の誕生　新装版－民俗芸能の生成と隆盛』（2024 年）等の三味線研究を読んでおく。 授業：日本の伝統音楽；三味線 復習：映画『ましろのおと』（2021 年）等の三味線がテーマの映像作品を観る。小説、漫画などを読む。
11	安井　裕司	【第 11 回】 予習：梅雨あるいは日本人と雨の関係、日本文化と雨についてネットや書籍、論文を読んで調べる。 授業：日本人と梅雨 復習：映画『天気の子』（2019 年）、映画『言の葉の庭』（2013 年）等、雨や梅雨がテーマの映画、アニメ、ドラマを観る。
12	安井　裕司	【第 12 回】 予習：ネットや書籍、学術論文で日本の妖怪について調べる。井上円了『妖怪学とは何か』（2023 年）、小松和彦『妖怪学新考　妖怪からみる日本人の心』（2013 年）柳田　国男『新訂　妖怪談義』（2013 年）などを読む。 授業：日本人と妖怪 復習：アニメ『妖怪ウォッチ』（2014 年）、アニメ『夏目友人帳』（2008 年）、アニメ『ゲゲゲの鬼太郎』（1968 年、1971 年）、を妖怪学の視点から観る。
13	安井　裕司	【第 13 回】 予習：七夕に関してネットや図書館で調べておく。七夕に関する学術論文を読む。 授業：日本の伝統行事（4）　七夕 復習：七夕がテーマとなっている映画、アニメ、ドラマ作品を観る。小説、漫画を読む。
14	安井　裕司	【第 14 回】 予習：　花火と日本人の関係する情報をネットや図書館を使って調べる。吉田　忠雄/丁　大玉『花火学入門』（2006 年）等の書籍に目を通す。 授業　日本の伝統行事（5）　夏祭りと花火 復習：映画『君の名は。』（2016 年）等、夏祭り、花火がテーマや重要やシーンとなっている映画、アニメ作品を観る。小説、漫画を読む。
15	安井　裕司	【第 15 回】 予習：ネットや書籍、学術論文でお盆について調べる。お盆に関する学術書を読む。 授業：日本の伝統行事（6）　お盆 復習：お盆がテーマの映画、アニメ作品。小説、漫画を読む。

授業開始前学習	シラバスに記載されている映画、ドラマ、小説、学術論文などに可能な限りに目を通す。
授業内課題のフィードバックの方法	課題を出した場合は、次の回の授業時にフィードバックを行う。課題や授業に関する質問は、G.Classroom 内で随時受け付ける。
テキスト・教材	
参考書	毎回、講義前にリーディングリスト、ウォッチングリストを紹介していく。
評価の基準と方法	平常点（授業態度・課題）30%、レポートを 70%とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		○	◎				△

関連科目	日本事情Ⅱ、日本事情Ⅲ、日本事情Ⅳ
その他	受講者数や受講者の日本滞在年数によって、授業内容は変更になる場合がある。PPT を用いてのプレゼンテーションを課すケースがある。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-111 CT-L-111 SD-L-111	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-11	授業コード	F03700
科目名称	日本事情Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	Studies of Japanese Society Ⅱ			授業区分	講義
科目責任者	安井　裕司			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	安井　裕司			開講時期	1 年
オフィスアワー	前期　火曜日 13:00～14:30　水曜日 13:00～14:30 後期　火曜日 13:00～14:30　水曜日 13:00～14:30			研究室	16-306
授業概要	日本の季節の伝統行事や日本文化を学術文献を押さえながら、学問的フレームワークを確認し、その上で、アニメ、映画、ドラマ、漫画、小説作品を用いて、日常的な視点から「日本文化」を相対化していく。また、毎回、冒頭においてできるだけ日本社会の時事問題を取り上げ、解説し、アクティブラーニングの一環として履修した皆さんと議論していきたい。				
到達目標	日本の社会や文化、習慣、伝統行事を、学術書、小説、漫画、映画、ドラマなどを通じて、「日本学」として捉え直し、履修者のそれぞれの専門に役立てることを目標とする。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	安井　裕司	【第 1 回】 予習：日本の月見についてネット、図書館にて新聞記事や学術書を調べる。『新版　竹取物語　』（2001 年）を読んでおく。 授業：日本の文化的行事（1）：　月見 復習：映画『かぐや姫』等の月見や竹取物語がテーマとなっている映像作品を観る。あるいは小説、漫画等を読む。
2	安井　裕司	【第 2 回】 予習：寿司についてネットや図書館で新聞記事を調べる。大川智彦『現代すし学：すしの歴史と、すしの今がわかる』（2007 年）、王昊凡『グローバル化する寿司の社会学』（2023 年）、学術論文、学術書を読む。 授業：日本の飲食文化(1)：寿司 復習：ドラマ「エピソード 5,第 5 話」『孤独のグルメ』（2017 年）、映画『二郎は鮨の夢を見る』（2011 年）、アニメ「寿司の心」『美味しんぼ』（1988 年）等の映像作品をすし学の観点から観る。漫画『江戸前の旬』（2000 年)を同様の観点から読む。
3	安井　裕司	【第 3 回】 予習：日本のラーメンについてネットや図書館で新聞記事を調べる。バラク・クシュナー『ラーメンの歴史学――ホットな国民食からクールな世界食へ』（2018 年）等のラーメンに関する学術書、学術論文を読む。 授業：日本の飲食文化(2):ラーメン 復習：ラーメンがテーマの映画、ドラマ、アニメ、漫画などを鑑賞する。
4	安井　裕司	【第 4 回】 予習：日本酒についてネットや図書館で新聞記事や学術文献を調べる。新潟大学日本酒学センターの研究蓄積を調べる。 授業：日本の飲食文化（3）：日本酒 復習：漫画『夏子の酒』（1988 年）等、日本酒がテーマである映画、漫画、ドラマを学術的観点から見る。
5	安井　裕司	【第 5 回】 予習：茶道に関してネットや図書館で調べる。学術論文、研究書を探して読む。 授業：茶道 復習：映画『日日是好日』（2018 年）等の茶道がテーマの映画、ドラマを観る。小説、漫画等を読む。
6	安井　裕司	【第 6 回】 予習：舞妓・芸妓についてネットや書籍、論文を読んで調べる。可能ならば西尾久美子『舞妓の言葉』（2012 年）等の書籍を読んでおく。 授業：舞妓・芸妓 復習：映画『舞妓はレディ』（2014 年）等の舞妓が主役の映画、小説を観る。
7	安井　裕司	【第 7 回】 予習：落語についてネット、図書館で調べる。野村雅昭『落語のレトリック』（1996 年）等、落語に関する学術書も読む。 授業：落語 復習：アニメ『昭和元禄落語心中』（2016 年）、ドラマ『タイガー&ドラゴン』（2005 年）等の落語がテーマの映画、ドラマを観る。小説、漫画を読む
8	安井　裕司	【第 8 回】 予習：弓道についてネット、図書館で調べる。小笠原清信・白石暁　著『弓道　増補版』（1971 年）等弓道に関する専門書を読む。 授業：弓道 復習：アニメ『ツルネ　-風舞高校弓道部-』（2018 年）等、弓道に関する映画、アニメを観る。小説、漫画を読む。

9	安井　裕司	【第 9 回】 予習：日本人と紅葉の関係をネットや図書館で新聞記事や学術文献を調べる。紅葉の研究書を読む。 授業：日本の文化的な行事（2）： 紅葉 復習：紅葉がテーマとなっている映画、ドラマ、小説を観る、読む。
10	安井　裕司	【第 10 回】 予習：日本人とお風呂の関係についてネット、図書館で新聞記事や学術書、学術文献を調べる。別府大学の温泉学の研究蓄積を調べる。 授業：温泉・銭湯 復習：映画『テルマエ・ロマエ』（2012 年）を温泉学の観点から見る。
11	安井　裕司	【第 11 回】 予習：富士山に関してネットや図書館で、新聞記事、学術書を調べる。富士学会の学会誌『富士学研究』、静岡県富士山世界遺産センター発行の『富士山学』等に掲載された学術論文も読む。 授業：日本人と富士山 復習：富士山がテーマである映画、ドラマを観る。富士山がテーマや背景にある小説、漫画などを読む。
12	安井　裕司	【第 12 回】 予習：日本のクリスマスをネット、図書館で新聞記事や学術書を調べる。日本のクリスマスに関する学術文献を読む。 授業：日本の文化的な行事（3）：日本のクリスマス 復習：クリスマスがテーマとなっている映画、ドラマなどの映像作品を観る、同じく楽曲を聴き、小説、漫画を読む。
13	安井　裕司	【第 13 回】 予習：『NHK 紅白歌合戦』についてネットや図書館で新聞記事、学術論文を探す。太田省一『紅白歌合戦と日本人 』（2013 年） 授業：NHK 紅白歌合戦 復習：過去の『NHK 紅白歌合戦』を可能な限り、観る。
14	安井　裕司	【第 14 回】 予習：日本のお正月に関して、ネットや図書館で新聞記事や学術文献を調べる。お正月に関する学術書を読む。 授業：日本の文化的な行事を考える（4）： お正月 復習：お正月がテーマである映画、ドラマを観て、小説、漫画などを読む。
15	安井　裕司	【第 15 回】 予習：節分や日本の鬼についてネットや図書館で日本の暦について調べる。 授業：日本の文化的な行事を考える（5）： 節分 復習：節分や鬼に関する映画、ドラマを観る。漫画、小説などを読む。

授業開始前学習	紹介する学術書、一般書、漫画を読み、映像作品（映画、ドラマ）を鑑賞することを勧める。
授業内課題のフィードバックの方法	課題を出した場合は、次の回の授業時にフィードバックを行う。課題や授業に関する質問は、Google Classroom 内で随時受け付ける。
テキスト・教材	1 冊の教科書ではなく、毎回、講義前に Google Classroom を通じてリーディングリスト、ウォッチングリストを紹介する形式となる。
参考書	講義前に Google Classroom を通じてリーディングリスト、ウォッチングリストを紹介する。
評価の基準と方法	平常点（授業態度・課題）30%、最終回のレポートを 70%とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		○	◎				△

関連科目	日本事情 I、日本事情Ⅲ、日本事情Ⅳ
その他	講義内容を踏まえ、日本の文化、社会をテーマに独自に調べ、講義中に短時間のプレゼンテーションを課す場合がある。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-211 CT-L-211	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-12	授業コード	F03710
科目名称	日本事情Ⅲ			単位数	2.0 単位
英文名称	Studies of Japanese Society Ⅲ			授業区分	講義
科目責任者	安井　裕司			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	安井　裕司			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期　火曜日 13:00～14:30　水曜日 13:00～14:30 後期　火曜日 13:00～14:30　水曜日 13:00～14:30			研究室	16-306
授業概要	日本事情について日本学の基本書・古典を用いて、学問的に把握し、また、今日、日本が直面している様々な課題について時事問題を取り上げ、分析します。 講義では、授業内容についてそれぞれの母国（留学生の出身国）との比較を含め、議論していきます。 授業内容に沿って各自が更に深く調べ、短時間のプレゼンテーションもして頂きます。				
到達目標	日本学の文脈から日本の特徴を把握し、同時にその普遍性も考えられるようになることを目標にします。 日本の特徴を母国（留学生の出身国）の社会や民族文化と比較し、日本と母国、両方を客観的にみられるようになることもターゲットとします。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	安井　裕司	予習：R.ベネディクトの『菊と刀』の「恩」と「義理」のパートについて読む。 授業：『菊と刀』にみる日本人の【恩】と【義理】 復習：授業を纏め、母国や日本以外の国の人々の考え方に「恩」と「義理」に相当するものがあるかを考える。
2	安井　裕司	予習：R.ベネディクトの『菊と刀』の「恥」のパートについて読む。 授業：『菊と刀』にみる日本人の【恥】と【罪】 復習：「恥」を重んずる人々（社会）と「罪」を重んずる人々（社会）の違いに自国がどちらに近いか考えておく。
3	安井　裕司	予習：R.ベネディクトの『菊と刀』の「徳」と「人情」のパートについて読む。 授業：『菊と刀』にみる日本人の【徳】と【人情】 復習：日本人の「徳」と「人情」に関して漫画や映画作品を通じて見直してみる。
4	安井　裕司	予習：土居健郎『甘えの構造』を読む。 授業：日本人と「甘えの構造」 復習：授業を纏め、自国の社会に「甘え」の構造があるかどうかを考える。
5	安井　裕司	予習：中根千枝『タテ社会の人間関係』を読んでおく。 授業：日本人と「タテ社会」の過去・現在・未来 復習：講義を纏め、自国の社会が「タテ社会」なのかどうかを考える。
6	安井　裕司	予習：山本七平『空気の研究』を読んでおく。 授業：日本社会の「空気」とは何か 復習：授業の内容を纏め、それぞれの母国における社会的な意味の「空気」が日本と異なるかどうかを考えておく。
7	安井　裕司	予習：阿部謹也『「世間」とは何か』を読む。 授業：日本における「世間」とは何か 復習：授業を纏め、それぞれの母国に「世間」的なものがあるかどうかを考えておく。
8	安井　裕司	予習：エズラ・ヴォーゲル『ジャパン・アズ・ナンバーワン』を読んでおく。 授業：「ジャパン・アズ・ナンバーワン」と日本型経営論 復習：1980 年代の日本の経済と「日本型経営」を調べておく。
9	安井　裕司	予習：カレル・G・ファン・ウォルフレン『日本　権力構造の謎』、ポール・ボネ『不思議の国ニッポン』論を読んでおく。 授業：政治・社会における日本特殊論 復習：日本特殊論を語る著作を図書館で調べて読んでおく。
10	安井　裕司	予習：内田樹『日本辺境論』を読んでおく。 授業：日本人の「中心性」の考察 復習：講義を纏め、それぞれの母国の自民族中心主義を考える。
11	安井　裕司	予習：杉本良夫『日本人をやめる方法』 授業：「日本人をやめる方法」で著者が主張したい内容を抽出し、日本人とは何かを考える 復習：授業を纏め、それぞれの母国の〇〇人であることは何かを考える。
12	安井　裕司	予習：D.ドーア『江戸時代の教育』、R.N.ベラー『徳川時代の教育』を読んでおく。 授業：近代化と日本の教育 復習：それぞれの母国の近代化と教育の関係を考える。
13	安井　裕司	予習：吉田裕『日本の軍隊』を読んでおく。 授業：「侍」精神と日本の近代 復習：授業を纏め、今日の日本人にある「侍」意識を考える。

14	安井　裕司	予習：小林慶一郎『日本の経済政策』を読んでおく。 授業：グローバル化と日本経済の停滞：バブル経済崩壊後の「失われた 30 年」 復習：なぜ、日本では 30 年間も経済停滞が続いているのか授業からそれぞれ考えておく。
15	安井　裕司	予習：日本の少子高齢化問題と外国人労働者の受け入れについて調べておく。 授業：日本における少子高齢化と多文化共生 復習：15 回の授業を復習し、定期試験に備える。

授業開始前学習	各回の関連文献、書籍を読んでおいて下さい。
授業内課題のフィードバックの方法	課題の成果を授業での質疑応答で確認します。
テキスト・教材	特になし。
参考書	随時紹介します。
評価の基準と方法	受講意欲・態度 30%、定期試験 70%。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		○	◎				△

関連科目	特になし
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-211 CT-L-211	科目分類（～2024 年入学者）	100-110-12	授業コード	F03720
科目名称	日本事情Ⅳ			単位数	2.0 単位
英文名称	Studies of Japanese Society Ⅳ			授業区分	講義
科目責任者	安井　裕司			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	安井　裕司			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期　火曜日 13:00～14:30　水曜日 13:00～14:30 後期　火曜日 13:00～14:30　水曜日 13:00～14:30			研究室	16-306
授業概要	日本社会、日本文化について研究書、新聞記事、映像作品、漫画などを通じて学びます。 講義では、授業内容についてそれぞれの母国（留学生の出身国）との比較を含め、議論していきます。 授業内容に沿って各自が更に深く調べ、短時間のプレゼンテーションも行って頂きます。				
到達目標	学術書や代表的な映像作品や漫画を通じて日本の文化、社会を理解し、説明できるようになることを目標にします。 日本が直面している社会的課題を深く理解し、客観的に把握できるようになることもターゲットとします。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	安井　裕司	【第 1 回】 予習：ロバート ホワイティング『菊とバット』を読んでおく。 授業：日本人とスポーツ(1)：武道としての野球：『菊とバット』論 復習：映画『ミスター・ベースボール』（1992 年）、アニメ『巨人の星』（1968 年）等、野球に関する映画、ドラマ、小説漫画等を観てみる。読んでみる。
2	安井　裕司	【第 2 回】 予習：西尾克洋『スポーツとしての相撲論』；内館牧子『女はなぜ土俵にあがれないのか』等、相撲に関する本を読んでおく。 授業：日本人とスポーツ(2)：ウィンブルドン化する「相撲」 復習：映画『サンクチュアリ -聖域-』（2023 年）、映画『シコふんじゃった。』（1992 年）等、相撲に関する映画、ドラマ、小説などを観てみる。読んでみる。
3	安井　裕司	【第 3 回】 予習：日本のサッカーに関する学術論文や新聞記事を読んでおく。 授業：日本人とスポーツ(3)：『キャプテン翼』とサッカー日本代表「侍」 復習：アニメ『キャプテン翼』（1983 年）等、日本サッカーに関するアニメ、映画、小説、漫画などを講義の観点から観てみる。読んでみる。
4	安井　裕司	【第 4 回】 予習：黒澤明監督作品の映画『七人の侍』を観ておく。 授業：映画から日本社会を考える(1):黒澤明作品の「侍」の普遍性 復習：授業を振り返り、映画『七人の侍』（1954 年）の米国版リメイク映画『荒野の七人』（1960 年）を観る。
5	安井　裕司	【第 5 回】 予習：小津安二郎監督の映画『東京物語』（1953 年）を観ておく。 授業：映画から日本社会を考える(2):小津安二郎作品にみる「結婚」と「家族」 復習：授業を纏め、『東京物語』（1953 年）以外の小津作品も観ておく。
6	安井　裕司	【第 6 回】 予習：映画『男はつらいよ』のシリーズ作品を一作品は観ておく。 授業：映画から日本社会を考える(3):『男はつらいよ』の義理人情 復習：講義を振り返り、映画『男はつらいよ』に描かれる日本人性を考える。
7	安井　裕司	【第 7 回】 予習：宮崎駿監督の映画作品のうち日本が舞台のもの（例えば『千と千尋の神隠し』（2001 年）、『となりのトトロ』（1988 年））と、日本以外が舞台となっているもの（例えば『魔女の宅急便』（1989 年）からそれぞれ 1 作品ずつ観ておく。 授業：宮崎駿が描く世界と日本 復習：講義の内容を振り返り、更に宮崎監督作品を観ておく。
8	安井　裕司	【第 8 回】 予習：野坂昭如の小説『火垂るの墓』(1968 年）を読む。 授業：映画『火垂るの墓』にみる第二次世界大戦下の「戦争と世間」 復習：高畑勲監督の映画『火垂るの墓』（1988 年）を観る（先に映画を観て、復習として小説を読んでもよい）。
9	安井　裕司	【第 9 回】 予習：手塚治虫の漫画作品を読むか、アニメ作品（例えば『鉄腕アトム』（1963 年））を観ておく。 授業：漫画から TV アニメへ：手塚治虫作品と日本 復習：授業の内容を纏め、更に手塚の漫画作品を読む（あるいは TV アニメ作品を観る）。

10	安井　裕司	【第 10 回】 予習：白石さや『グローバル化した日本のマンガとアニメ』（2013 年）を読んでおく。 授業：ドラえもんから昭和の普遍性を考える 復習：漫画『ドラえもん』（1969 年～）を読む、あるいはアニメ『ドラえもん』（1973 年～）を観る。
11	安井　裕司	【第 11 回】 予習：長谷川町子『「サザエさん」の昭和図鑑』（2024 年）、鶴見俊輔，齋藤愼爾『サザエさんの〈昭和〉』（2006 年）等、「サザエさん」に関する文献を読んでおく。 授業：シンボルとしての大家族：少子化時代の「サザエさん」の家族像 復習：講義を纏め、TV アニメ『サザエさん』を観る。
12	安井　裕司	【第 12 回】 予習：日本の出生率の変化について調べておく。 授業：ジェンダーと日本社会(1)：女性の社会進出と出生率 復習：授業を纏め、何が日本の女性の社会進出の妨げになっているかを考える。
13	安井　裕司	【第 13 回】 予習：ワークライフバランスについて調べておく。 授業：ジェンダーと日本社会(2)：ワークライフバランス 復習：授業を纏め、何が日本のワークライフバランスの課題になっているか自分自身で考える。
14	安井　裕司	【第 14 回】 予習：日本の過去の大地震について調べておく。 授業：震災国としての日本：阪神淡路大震災、東日本大震災が日本社会へ与えた影響 復習：講義を受けて、日本でどのような防災対策が考えられているかを纏めておく。
15	安井　裕司	【第 15 回】 予習：コロナ前の日本とコロナ後の日本がどのように変化したかを調べておく。 授業：コロナ後の日本社会 復習：過去 15 回の講義を纏め、定期試験に備える。

授業開始前学習	新聞、テレビやインターネットで話題になっている日本のニュースを見て考える習慣を身に着けて下さい。 日本の映画を観る、小説、漫画を読む際に社会的な背景を考察するようにして下さい。
授業内課題のフィードバックの方法	予習学習の成果を授業での質疑応答で確認します。
テキスト・教材	なし。
参考書	随時紹介します。
評価の基準と方法	受講意欲・態度 30%、定期試験 70%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		○	◎				△

関連科目	特になし
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

日本語表現Ⅰ

科目分類（2025年～入学者）	GJ-M-211	科目分類（～2024年入学者）	111-310-12	授業コード	FA0010
科目名称	日本語表現Ⅰ			単位数	2.0単位
英文名称	Japanese Phraseology Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	木内　英実			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	木内　英実			開講時期	2年
オフィスアワー	前期　火曜日 10:40～12:10　水曜日 14:40～16:10 後期　火曜日 16:20～17:50　水曜日 16:20～17:50			研究室	10-620
授業概要	日本語に関する基礎知識を修得するとともに、状況に応じて適切に使いこなす能力を修得することを目的とする。具体的には、日本文化専攻における研究活動のため、文や文章の組み立て、語句の意味、用法や表記などについての知識を再確認したうえで、自らが作成した文章を見返し、さらに磨き上げることで言語感覚を磨いていく。社会人として必要な言葉のマナーや「伝わる日本語」を身につけ、言語生活を豊かなものにするための表現力を修得する。				
到達目標	・研究活動に必要な学術情報を適切に収集・引用することができる。 ・大学生・社会人としてふさわしい表現で話したり書いたりできる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態	共同				

授業回数	担当者	授業の内容
1	木内　英実	【第1回】 予習：1年次の振り返りと2年次の展望を文章にする。テキスト第1章「人を紹介する」「課題1」を行う。 授業：テキスト第1章「人を紹介する」・「自分を紹介する」（グループワーク）・「日本文化専攻共通テキスト」説明 復習：トレーニングシート第1章「課題3」を行う。
2	木内　英実	【第2回】 予習：テキスト第2章「説明をする」・第3章「議事録をとる　流れと要点をまとめる技術」、両章の「課題1」を行う。 授業：テキスト第2章「説明をする」・第3章「議事録をとる　流れと要点をまとめる技術」 復習：トレーニングシート第2章・第3章、両章の「課題3」・を行う。
3	木内　英実	【第3回】 予習：テキスト第5章「上手な意見交換の方法を学ぶ」「課題1」を行う。 授業：テキスト第5章「上手な意見交換の方法を学ぶ」（グループワーク） 復習：トレーニングシート第5章「課題3」を行う。
4	木内　英実	【第4回】 予習：テキスト第6章「文章を読解する　アカデミックリーディング」「課題1」を行う。 授業：テキスト第6章「文章を読解する　アカデミックリーディング」 復習：トレーニングシート「課題3」を行う。
5	木内　英実	【第5回】 予習：テキスト第7章「文章を要約する　パラグラフの分析」「課題1」を行う。 授業：テキスト第7章「文章を要約する　パラグラフの分析」 復習：トレーニングシート第7章「課題2」を行う。
6	木内　英実	【第6回】 予習：テキスト第8章「データを集めて解釈する　リサーチ・リテラシー入門」「課題1」を行う。 授業：テキスト第8章「データを集めて解釈する　リサーチ・リテラシー入門」 復習：トレーニングシート第8章「課題5」を行う。
7	木内　英実	【第7回】 予習：テキスト第9章「インターネットを用いて調査する　メリットとデメリット」・第10章「図書館を利用する」、両章の「課題1」を行う。 授業：テキスト第9章「インターネットを用いて調査する　メリットとデメリット」・第10章「図書館を利用する」（グループワーク） 復習：トレーニングシート第9章「課題4」・第10章「課題5」を行う。
8	木内　英実	【第8回】 予習：テキスト第11章「堅実なレポートの書き方を学ぶ1」・第12章「堅実なレポートの書き方を学ぶ2」、両章「課題1」を行う。 授業：テキスト第11章「堅実なレポートの書き方を学ぶ1」・第12章「堅実なレポートの書き方を学ぶ2」・「日本文化専攻共通テキスト」 復習：トレーニングシート第11章「課題3」・第12章「課題4」を行う。

9	木内　英実	【第 9 回】 予習：駒沢女子大学の歴史・施設・授業・カリキュラム・行事・課外活動などの中からもっと関心のある事項 5 点をマッピングをもとに考えてくる。 授業：PBL の方法に従い、自分の考えを発表し、関心分野に則してグルーピングする。グループ活動として関心事項に関してインターネット及び図書館で調査に取り組む。 復習：調査結果をグループ内で共有し、自分が発見した資料をグループの他のメンバーにも共有する。
10	木内　英実	【第 10 回】 予習：テキスト第 13 章「プレゼンテーションを行う」・第 14 章「視覚資料を作成する」、両章「課題 1 」を行う。 授業：テキスト第 13 章「プレゼンテーションを行う」・第 14 章「視覚資料を作成する」をもとに発表準備 復習：グループごとに第 9 回授業で調査した情報を整理し、プレゼン資料を作成する（パワポもしくはレジュメ資料どちらでも可）。
11	木内　英実	【第 11 回】 予習：グループごとに 20 分（原則メンバー全員が発表する）形式で発表資料（パワポもしくはレジュメ資料どちらでも可） 授業：グループごとに 20 分間で関心事項について第 9 回授業で調査した結果をプレゼンする。 復習：プレゼンを振り返り、発表の筋道の改善点及び個人レポートテーマを考える。
12	木内　英実	【第 12 回】 予習：個人レポートテーマを再度マッピングして明確化する。 授業：個人レポートテーマのグループ内発表および調整（他者のレポートテーマと重複しないように）。「日本文化専攻共通テキスト」に基づき、参考文献収集。 復習：収集した参考文献を読み、レポートに用いる文献を要約する。
13	木内　英実	【第 13 回】 予習：参考文献を要約して、レポートにまとめる。 授業：個人レポート完成(1500 字程度)。誤字脱字及び論理的展開を確認し、教員に提出。 復習：レポートを読み直し、改善点を発見する。
14	木内　英実	【第 14 回】 予習：作成レポートを 2 部印刷してくる。 授業：ペアの学生同士、レポートを読みあい、誤字脱字、論理的展開の不備、日本語表現において不明な点を相互に伝え合う。 復習：教員からのレポートへの修正点の指導、ペアとなった学生からの修正の指摘をもとにレポートを修正する。
15	木内　英実	【第 15 回】 予習：修正レポートを 2 部印刷してくる。 授業：レポートの要点、要約、要旨、題名の作成及び発表。教員より修正点の指導を受ける。 復習：レポートの要点、要約、要旨、題名、レポート自体の最終確認。→期末課題として提出。

授業開始前学習	言語表現演習 Ⅰ・Ⅱ 及び基礎ゼミで学んだ文章作成・コミュニケーションの技術を復習しておく。
授業内課題のフィードバックの方法	授業の予習・復習用の課題を実施する。課題は翌週以降に返却して全体の講評を行う。
テキスト・教材	福嶋健伸/橋本修/安部朋世編著『大学生のための日本語表現トレーニング』＜実践編＞ 三省堂、2009.9 「2024 年度入学者用 日本文化専攻共通テキスト」
参考書	橋本修/安部朋世/福嶋健伸編著『大学生のための日本語表現トレーニング』＜スキルアップ編＞ 三省堂、2008.9 筒井 洋一/向後 千春/荒木晶子著『自己表現力の教室』情報センター出版局、2000.4 言語表現演習 Ⅰ・Ⅱ 指定テキスト
評価の基準と方法	授業内課題 70%、期末レポート 30%で評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	

関連科目	言語表現演習 Ⅰ・言語表現演習 Ⅱ・日本語表現 Ⅱ・日本の文化と歴史 Ⅰ・日本の文化と歴史 Ⅱ
その他	毎回、国語辞典（電子辞書可）を持ってくること。 授業の進捗状況等により、内容を変更することがある。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	GJ-M-211	科目分類（～2024 年入学者）	111-310-12	授業コード	FA0020
科目名称	日本語表現Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	Japanese Phraseology Ⅱ			授業区分	講義
科目責任者	木内　英実			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	木内　英実			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期　火曜日 10:40～12:10　水曜日 14:40～16:10 後期　火曜日 16:20～17:50　水曜日 16:20～17:50			研究室	10-620
授業概要	学術的な情報を適切に収集・引用するための方法を習得し、また学術的な文章の構成を理解することで、日本文化専攻における学びの成果となるゼミ論文・卒業論文を執筆するための能力を身につける。論理的に、かつ読みやすい文章を書くための作文課題に取り組むほか、『日本の文化と歴史 I』の授業において執筆したレポートを校正し、自分で学術的な文章を書き、見直し、改める手続きを行えるようにする。また、仕上げとして自分が 3 年次以降に研究したいテーマについてのレポートを作成し、日本文化ゼミに参加するための準備を行う。授業ではグループワークや発表を行う。				
到達目標	・専門ゼミにおける研究レポートや論文を執筆できる。 ・適切な日本語で、学術的内容を含む文章を書くことができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	木内　英実	【第 1 回】 予習：「日本語表現 I」のレポート集を通読する。 授業：「日本語表現 I 」の成果を振り返る。 復習：レポート集における、自分たちの文章の問題点を考える。
2	木内　英実	【第 2 回】 予習：予習プリント（読みにくい文章・正確な読解が困難な文章）に取り組む。 授業：学術的な文章の構成(1)――論の展開 復習：課題フォーム（段落間の関係）に取り組む。
3	木内　英実	【第 3 回】 予習：予習プリント（不確実な情報に基づく文章・デマや扇動を含む文章）に取り組む。 授業：学術的な文章の構成(2)――事実の提示 復習：課題フォーム（データの読み取り）に取り組む。
4	木内　英実	【第 4 回】 予習：論理の飛躍に関するプリントに取り組む。 授業：学術的な文章の構成(3)――事実に基づく考察 復習：課題フォーム（事実の整理と自分の意見）に取り組む。
5	木内　英実	【第 5 回】 予習：『日本文化専攻共通テキスト』の研究書式に関する節を確認する。 授業：自分たちの文章をあらためる(1)――研究書式の再確認 復習：復習プリント（不適切な書式）に取り組む。
6	木内　英実	【第 6 回】 予習：予習プリント（文章の体裁のあやまり・誤字等を指摘する）に取り組む。 授業：自分たちの文章をあらためる(2)――校正の基本（グループワーク） 復習：復習プリント（校正記号の理解）に取り組む。
7	木内　英実	【第 7 回】 予習：「日本の文化と歴史 I」で執筆したレポートを確認する。 授業：自分たちの文章をあらためる(3)――他者の文章を校正する（グループワーク） 復習：自分のレポートに入れられた赤字を確認する。
8	木内　英実	【第 8 回】 予習：自分のレポートの体裁・内容に関する問題点を整理する。 授業：自分たちの文章をあらためる(4)――文章を修正する・前半 復習：レポートの書式を見直し、適切に整える。
9	木内　英実	【第 9 回】 予習：論述の修正に必要な資料を集める。 授業：自分たちの文章をあらためる(5)――文章を修正する・後半 復習：レポートの論説を見直し、適切に整える。
10	木内　英実	【第 10 回】 予習：レポートの内容について、修正の要点を説明するための準備をする。 授業：自分たちの文章をあらためる(6)――修正の成果を共有する（グループワーク） 復習：履修生のレポートに関する意見・アドバイスをフォームに提出する。

11	木内　英実	【第 11 回】 予習：3 年次以降に研究したいテーマについて考える。 授業：ゼミ研究に向けて(1)――テーマ設定・参考文献 復習：課題プリント（参考文献リスト）に取り組む。
12	木内　英実	【第 12 回】 予習：テーマの中心的内容を整理する。 授業：ゼミ研究に向けて(2)――アウトラインの作成 復習：論述内容の素案を作成する。
13	木内　英実	【第 13 回】 予習：序論を執筆する。 授業：ゼミ研究に向けて(3)――論述 復習：本論を完成させる。
14	木内　英実	【第 14 回】 予習：参考文献の書誌情報を整理する。 授業：ゼミ研究に向けて(4)――体裁を整える 復習：論述内容と体裁の見直しを行う。
15	木内　英実	【第 15 回】 予習：『日本文化専攻共通テキスト』の「日本文化ゼミの学び・流れ」の節を確認する。テキスト第 16 章「卒業論文の執筆計画を立てる」を読んでくる。 授業：ゼミ研究に向けて(5)――学士（日本文化）に向けて・テキスト第 16 章「卒業論文の執筆計画を立てる」 復習：次年度ゼミにおける研究計画を立てる。

授業開始前学習	『日本文化専攻共通テキスト』を通読した上で、「日本語表現 Ⅰ」で執筆したレポート、「日本の文化と歴史 Ⅰ」で執筆したレポートを読み返しておく。
授業内課題のフィードバックの方法	授業の予習・復習用の課題を実施する。課題は翌週以降に返却して全体の講評を行う。
テキスト・教材	福嶋健伸/橋本修/安部朋世編著『大学生のための日本語表現トレーニング』＜実践編＞ 三省堂、2009.9 「2024 年度入学者用 日本文化専攻共通テキスト」
参考書	橋本修/安部朋世/福嶋健伸編著『大学生のための日本語表現トレーニング』＜スキルアップ編＞ 三省堂、2008.9 筒井洋一/向後千春/荒木晶子著『自己表現力の教室』情報センター出版局、2000.4 言語表現Ⅰ・Ⅱ指定テキスト
評価の基準と方法	授業内課題 70%、期末レポート 30%で評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	

関連科目	言語表現演習Ⅰ・Ⅱ、基礎ゼミ、日本語表現Ⅰ、日本語表現の実践Ⅰ・Ⅱ、日本の文化と歴史Ⅰ・Ⅱ
その他	国語辞典（電子辞書可）を手元に用意することが望ましい。 授業の進捗状況等により、内容を変更することがある。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）		科目分類（～2024年入学者）	111-310-13	授業コード	FA0031
科目名称	日本語表現の実践Ⅰ			単位数	2.0単位
英文名称	Japanese Practice Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	三田　誠司			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三田　誠司			開講時期	3年
オフィスアワー	前期　水曜日 14:40～16:10　木曜日 10:40～12:10 後期　水曜日 14:40～16:10　木曜日 10:40～12:10			研究室	10-611
授業概要	これまでに培った日本語能力を活用して、口頭表現や文章を作成する場合の留意点について学修する。言葉の持つ力を実感しつつ、各自の言語生活を豊かなものにすることを目標とする。この授業では特に、社会人として必要な言語に関する知識についても考察を深める。授業では発表やディスカッションなどを行う。				
到達目標	1．言葉のマナーを学び、目的や場面にふさわしい話し方で話すことができる。 2．社会人として必要な日本語能力を身につけ、各種文章の作成に生かすことができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	三田　誠司	【第1回】 予習　：日本語の特性について考えておく 授業　：オリエンテーション（授業の目的）　社会人にふさわしい日本語力とは 復習　：自分にとって日本語力を磨くために必要なことをまとめる
2	三田　誠司	【第2回】 予習　：スピーチの内容を考える 授業　：スピーチ1　スピーチ原稿を作成する 復習　：原稿内容を確認する
3	三田　誠司	【第3回】 予習　：スピーチの練習をしておく 授業　：スピーチ2　スピーチをする（発表） 復習　：スピーチ内容を検討する
4	三田　誠司	【第4回】 予習　：配布資料を確認しておく 授業　：スピーチ3　友人に聞き取り調査（ディスカッション） 復習　：友人紹介の文章として聞き取りをまとめる
5	三田　誠司	【第5回】 予習　：配布資料を確認しておく 授業　：手紙文1　手紙の構成 復習　：手紙文の構成について学んだことをまとめておく
6	三田　誠司	【第6回】 予習　：手紙文の書き直しを行う 授業　：手紙文2　封筒・葉書の書き方 復習　：葉書の構成について学んだことをまとめておく
7	三田　誠司	【第7回】 予習　：ビジネス文書について調べておく 授業　：案内文・ビジネス文書1　案内文の種類と作成 復習　：案内文の要点についてまとめておく
8	三田　誠司	【第8回】 予習　：作成中の文書を完成させる 授業　：案内文・ビジネス文書2　ビジネス文書の留意点 復習　：ビジネス文書の留意点についてまとめておく
9	三田　誠司	【第9回】 予習　：自分の長所や短所についてあらためて考えておく 授業　：履歴書の作成1　形式の理解 復習　：履歴書の意義と注意点をまとめておく
10	三田　誠司	【第10回】 予習　：前回作成の部分を再確認しておく 授業　：履歴書の作成2　各項目の作成 復習　：履歴などの項目の記載を完成させる
11	三田　誠司	【第11回】 予習　：前回作成部分を完成させる 授業　：履歴書の作成4　記述項目作成 復習　：履歴書を完成させる

12	三田　誠司	【第 12 回】 予習　：エントリーシートなどを確認しておく 授業　：履歴書の作成４　カバーレター・エントリーシート等 復習　：カバーレターを作成し、課題のエントリーシートを完成させる
13	三田　誠司	【第 13 回】 予習　：過去に行ったグループディスカッションについて考えておく 授業　：グループディスカッション１　（ディスカッション） 復習　：課題（目的や相手に応じて説明する）を行う
14	三田　誠司	【第 14 回】 予習　：配布資料を読んでおく 授業　：グループディスカッション２　実践１（ディスカッション） 復習　：課題（目的や相手に応じて説明する）を行う
15	三田　誠司	【第 15 回】 予習　：グループディスカッションの準備をする 授業　：グループディスカッション３　実践２（ディスカッション） 復習　：ディスカッションの反省点をまとめる

授業開始前学習	「日本語表現Ⅰ・Ⅱ」の授業内容を確認しておく
授業内課題のフィードバックの方法	授業内の課題（提出物）は翌週以降にコメントを付して返却する。
テキスト・教材	授業内で適宜プリントを配付する。
参考書	授業時に指示する。
評価の基準と方法	授業内の課題（70%）および学期末のレポート（30%）により評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	
その他	授業の進捗状況により、内容（実施回数）を変更することがある。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）		科目分類（～2024年入学者）	111-310-13	授業コード	FA0041
科目名称	日本語表現の実践Ⅱ			単位数	2.0単位
英文名称	Japanese PracticeⅡ			授業区分	講義
科目責任者	三田　誠司			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三田　誠司			開講時期	3年
オフィスアワー	前期　水曜日 14:40～16:10　木曜日 10:40～12:10 後期　水曜日 14:40～16:10　木曜日 10:40～12:10			研究室	10-611
授業概要	これまでに培った日本語能力を活用して、各種の文章を作成する場合の留意点について学習する。言葉の持つ力を実感しつつ、文章表現を楽しみ、各自の言語生活を豊かなものにする。特にこの授業では、各自の研究テーマをレポートや論文に纏める上で留意すべき点についての再確認も行うとともに、社会人として必要な言語に関する知識についても考察を深める。この授業では発表およびプレゼンテーションを行う。				
到達目標	１．様々なスタイルの文章表現を学び、文章作成に活かすことができる。 ２．社会人として必要な日本語の知識を実際に活用することができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	三田　誠司	【第１回】 予習　：「日本語表現の実践Ⅰ」で学んだ内容を確認しておく 授業　：オリエンテーション　創作：短歌を作成する 復習　：日本語能力アップのために必要なことをまとめる
2	三田　誠司	【第２回】 予習　：短歌の鑑賞について考えておく 授業　：創作：短歌を発表する（発表） 復習　：短歌作成から学んだことをまとめる
3	三田　誠司	【第３回】 予習　：スピーチの準備を行う 授業　：スライドをつかったスピーチ１（原稿等の作成） 復習　：スピーチ原稿やスライド資料を完成させる
4	三田　誠司	【第４回】 予習　：スピーチ原稿の見直し 授業　：スライドを使ったスピーチ２（原稿・スライドの完成） 復習　：スピーチ評価表を完成させる
5	三田　誠司	【第５回】 予習　：スピーチ原稿の見直し 授業　：スライドを使ったスピーチ３（プレゼンテーション） 復習　：スピーチ評価表を完成させる
6	三田　誠司	【第６回】 予習　：スピーチ原稿の見直し 授業　：スライドを使ったスピーチ４（プレゼンテーション） 復習　：スピーチの留意点についてまとめる
7	三田　誠司	【第７回】 予習　：これまで作成したレポートについてふりかえっておく 授業　：レポート・論文１　レポート・論文の留意点をあらためて考える 復習　：レポート作成の要点をまとめる
8	三田　誠司	【第８回】 予習　：これまで作成したレポートをふりかえっておく 授業　：レポート・論文２　レポート・論文の構成と文章 復習　：論文の構成について要点をまとめておく
9	三田　誠司	【第９回】 予習　：これまで作成したレポートをふりかえっておく 授業　：レポート・論文３　レポート・論文にふさわしい表現について１ 復習　：論文における根拠の重要性についてあらためて考える
10	三田　誠司	【第10回】 予習　：これまで作成したレポートをふりかえっておく 授業　：レポート・論文４　レポート・論文にふさわしい表現について２ 復習　：論文における表現についてあらためて考える
11	三田　誠司	【第11回】 予習　：創作課題についてかんがえておく 授業　：エッセイを書く１（エッセイを書く意味を学ぶ） 復習　：エッセイの内容を考える

12	三田　誠司	【第 12 回】 予習　：エッセイを書き進める 授業　：エッセイを書く２（構成を考える） 復習　：エッセイ全体の構成を考える
13	三田　誠司	【第 13 回】 予習：エッセイを書き進める 授業：エッセイを書く３（効果的な表現について考える） 復習：書き終えた部分を校正する。
14	三田　誠司	【第 14 回】 予習　：創作課題を完成させる 授業　：エッセイを書く４（発表） 復習　：創作課題の振り返りを行う
15	三田　誠司	【第 15 回】 予習　：後期の学修内容をふりかえる 授業　：これまでの日本語表現に関する授業内容を振り返る 復習　：表現力アップのためのポイントを確認しておく

授業開始前学習	日本語の表現方法に関する文章を読んでおく。
授業内課題のフィードバックの方法	授業内での課題については適宜コメントを付し翌週以降に返却する。
テキスト・教材	授業内で適宜プリントを配付する。
参考書	授業時に指示する。
評価の基準と方法	授業内の課題によって評価する。内訳は、スピーチの評価 30%（原稿とスライド）、レポート論文に関する課題の評価 30%、エッセイの評価 40%とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	○

関連科目	
その他	受講者人数により、プレゼンテーションの回を短縮・あるいは延長することもある。また、エッセイの創作については冬季休業期間の日程により、回数の調整をおこなうことがある。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）	GJ-M-211	科目分類（～2024年入学者）	111-310-12	授業コード	FA0050
科目名称	日本の文化と歴史Ⅰ			単位数	2.0単位
英文名称	Japanese Culture and History Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	下川　雅弘			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	下川　雅弘			開講時期	2年
オフィスアワー	前期　月曜日 13:00～14:30　水曜日 13:00～14:30 後期　月曜日 13:00～14:30　水曜日 13:00～14:30			研究室	10-706
授業概要	自分がこれまでに一度は経験したことのある年中行事といった身近な素材から、日本の文化の特徴を考える。具体的には、論文集『年中行事から考える日本の文化』に掲載する小論文の執筆や発表を通して、日本の文化の特徴を主体的に考察し、自らの見解を最終レポートとしてまとめる。授業では課題解決型学習・発表を行う。				
到達目標	1．日本の文化の特徴について、信憑性の高い情報を適切に収集・理解し、自らの考えを論理的に構築することができる。 2．自らが考えた日本の文化の特徴について、文章や発表を通して他者に正しく伝達することができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	下川　雅弘	【第1回】 予習：シラバスを読み、学修内容を確認する 授業：日本文化専攻の学び／年中行事から考える日本文化（現在のお年玉のスタイルはいつ・どのように定着したのか） 復習：自分の考えを整理して提出する
2	下川　雅弘	【第2回】 予習：正月の行事の考察課題をフォームで提出する（5点） 授業：年中行事①　正月の行事の考察（課題解決型学習） 復習：自分の考えを整理して提出する
3	下川　雅弘	【第3回】 予習：春から夏への行事の考察課題をフォームで提出する（5点） 授業：年中行事②　春から夏への行事の考察（課題解決型学習） 復習：自分の考えを整理して提出する
4	下川　雅弘	【第4回】 予習：盆の行事の考察課題をフォームで提出する（5点） 授業：年中行事③　盆の行事の考察（課題解決型学習） 復習：自分の考えを整理して提出する
5	下川　雅弘	【第5回】 予習：秋から冬への行事の考察課題をフォームで提出する（5点）／「小論文課題について」のプリントを読んでおく 授業：年中行事④　秋から冬への行事の考察（課題解決型学習）／小論文課題について 復習：自分の考えを整理して提出する／小論文で取り上げたい年中行事についてのアンケートに回答する
6	下川　雅弘	【第6回】 予習：「小論文の参考文献について」のプリントを読んでおく 授業：小論文の参考文献について／辞典と参考文献の複写 復習：小論文の参考文献と考察課題についてのアンケートに回答する
7	下川　雅弘	【第7回】 予習：「小論文執筆の進め方」のプリントを読んでおく 授業：小論文執筆の進め方 復習：小論文のタイトルについてのアンケートに回答する
8	下川　雅弘	【第8回】 予習：「日本人の自然観と信仰」のプリントを読んでおく 授業：日本人の自然観と信仰 復習：「日本人の自然観と信仰」を踏まえて小論文の内容を検討する
9	下川　雅弘	【第9回】 予習：「小論文校正のチェックポイント」のプリントを読んでおく 授業：小論文についての再確認／小論文校正のチェックポイント 復習：小論文（仮）を提出する
10	下川　雅弘	【第10回】 予習：論文集を読んでおく 授業：論文集『年中行事から考える日本の文化』を読む①（発表） 復習：発表にコメントを寄せる
11	下川　雅弘	【第11回】 予習：論文集を読んでおく 授業：論文集『年中行事から考える日本の文化』を読む②（発表）

		復習：発表にコメントを寄せる
12	下川　雅弘	【第 12 回】 予習：論文集を読んでおく 授業：論文集『年中行事から考える日本の文化』を読む③（発表） 復習：発表にコメントを寄せる
13	下川　雅弘	【第 13 回】 予習：論文集を読んでおく 授業：論文集『年中行事から考える日本の文化』を読む④（発表） 復習：発表にコメントを寄せる
14	下川　雅弘	【第 14 回】 予習：論文集を読んでおく 授業：論文集『年中行事から考える日本の文化』を読む⑤（発表） 復習：発表にコメントを寄せる
15	下川　雅弘	【第 15 回】 予習：ミニレポートをフォームで提出する（20 点） 授業：年中行事から考える日本文化の学びの総括（課題解決型学習）／後期の小論文と参考文献について 復習：ミニレポートの振り返りをフォームで提出する（10 点）／小論文の完成版を提出する（50 点）

授業開始前学習	
授業内課題のフィードバックの方法	予習課題・アンケート等に対して、次回の授業時に受講者からの回答を紹介し、コメント・講評を行う。
テキスト・教材	特定のテキストは使用せず、必要に応じてプリントを配付する。
参考書	適宜、授業に沿って推薦図書を紹介する。
評価の基準と方法	予習課題２０%、小論文５０%、ミニレポート３０%により評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		○	◎			◎	

関連科目	
その他	授業の進捗状況などによって、内容を変更することがある。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	GJ-M-211	科目分類（～2024 年入学者）	111-310-12	授業コード	FA0060
科目名称	日本の文化と歴史Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	International Japanese Studies Workshop Ⅱ／Japanese Culture and History Ⅱ			授業区分	講義
科目責任者	下川 雅弘			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	下川 雅弘			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30			研究室	10-706
授業概要	自分にゆかりのある地域の祭といった身近な素材から、日本の文化の特徴を考える。具体的には、論文集『祭りから考える日本の文化』に掲載する小論文の執筆や発表を通して、日本の文化の特徴を主体的に考察し、自らの見解を最終レポートとしてまとめる。授業では課題解決型学習・発表を行う。				
到達目標	１．日本の文化の特徴について、信憑性の高い情報を適切に収集・理解し、自らの考えを論理的に構築することができる。 ２．自らが考えた日本の文化の特徴について、文章や発表を通して他者に正しく伝達することができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	下川 雅弘	【第 1 回】 予習：シラバスを読み、学修内容を確認する 授業：祭りから考える日本文化（京都市上御霊神社の御霊祭における剣鉾の役割）／稲城市内に伝わる祭り 復習：自分の考えを整理して提出する／小論文で取り上げたい祭りと郷土資料についてのアンケートに回答する
2	下川 雅弘	【第 2 回】 予習：神と信仰の考察課題をフォームで提出する（5 点） 授業：祭り① 神と信仰の考察（課題解決型学習） 復習：自分の考えを整理して提出する
3	下川 雅弘	【第 3 回】 予習 ：「稲城市内に伝わる祭り」のプリントを読んでおく 授業 ：正課学外活動【地元発見プロジェクト】「青渭神社例大祭の獅子舞見学」（フィールドワーク） 復習 ：正課学外活動の感想をフォームで提出する
4	下川 雅弘	【第 4 回】 予習：農村の祭りの考察課題をフォームで提出する（5 点） 授業：祭り② 農村の祭りの考察（課題解決型学習） 復習：自分の考えを整理して提出する
5	下川 雅弘	【第 5 回】 予習：都市の祭り①の考察課題をフォームで提出する（5 点） 授業：祭り③ 都市の祭り①の考察（課題解決型学習） 復習：自分の考えを整理して提出する
6	下川 雅弘	【第 6 回】 予習：都市の祭り②の考察課題をフォームで提出する（5 点）／「小論文課題について」のプリントを読んでおく 授業：祭り④ 都市の祭り②の考察（課題解決型学習）／小論文課題について 復習：自分の考えを整理して提出する／小論文の考察課題についてのアンケートに回答する
7	下川 雅弘	【第 7 回】 予習：「小論文の参考文献について」のプリントを読んでおく 授業：小論文の参考文献について／辞典と参考文献の複写 復習：小論文の参考文献についてのアンケートに回答する
8	下川 雅弘	【第 8 回】 予習：「小論文執筆の進め方」のプリントを読んでおく 授業：小論文執筆の進め方 復習：小論文のタイトルについてのアンケートに回答する
9	下川 雅弘	【第 9 回】 予習：「小論文校正のチェックポイント」のプリントを読んでおく 授業：小論文についての再確認／小論文校正のチェックポイント 復習：小論文（仮）を提出する
10	下川 雅弘	【第 10 回】 予習：論文集を読んでおく 授業：論文集『祭りから考える日本の文化』を読む①（発表） 復習：発表にコメントを寄せる
11	下川 雅弘	【第 11 回】 予習：論文集を読んでおく 授業：論文集『祭りから考える日本の文化』を読む②（発表） 復習：発表にコメントを寄せる

12	下川　雅弘	【第 12 回】 予習：論文集を読んでおく 授業：論文集『祭りから考える日本の文化』を読む③（発表） 復習：発表にコメントを寄せる
13	下川　雅弘	【第 13 回】 予習：論文集を読んでおく 授業：論文集『祭りから考える日本の文化』を読む④（発表） 復習：発表にコメントを寄せる
14	下川　雅弘	【第 14 回】 予習：論文集を読んでおく 授業：論文集『祭りから考える日本の文化』を読む⑤（発表） 復習：発表にコメントを寄せる
15	下川　雅弘	【第 15 回】 予習：ミニレポートをフォームで提出する（20 点） 授業：祭りから考える日本文化の学びの総括（課題解決型学習）／3 年以降の「日本文化ゼミ」について 復習：ミニレポートの振り返りをフォームで提出する（10 点）／小論文の完成版を提出する（50 点）

授業開始前学習	
授業内課題のフィードバックの方法	予習課題・アンケート等に対して、次回の授業時に受講者からの回答を紹介し、コメント・講評を行う。
テキスト・教材	特定のテキストは使用せず、必要に応じてプリントを配付する。
参考書	適宜、授業に沿って推薦図書を紹介する。
評価の基準と方法	予習課題２０%、小論文５０%、ミニレポート３０%により評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		○	◎			◎	

関連科目	
その他	授業の進捗状況などによって、内容を変更することがある。 この授業では、稲城市内の祭りを体感するため、祭礼のある日曜日（10 月の第 1 日曜日を予定）などに正課学外活動を行う可能性がある。若干の交通費の負担が必要な場合がある。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	GJ-M-311	科目分類（～2024 年入学者）	111-310-13	授業コード	FA0070
科目名称	日本の文化と歴史Ⅲ			単位数	2.0 単位
英文名称	Japanese Culture and HistoryⅢ			授業区分	講義
科目責任者	皆川　義孝			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	皆川　義孝			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期　火曜日 13:00～16:00 後期　火曜日 13:00～16:00			研究室	10-507
授業概要	日本の文化や歴史を学ぶ上で、それぞれの時代に作成された原資料を読み解くことが必須である。そこで、江戸時代の庶民の旅日記を読み解き、そこから日本の文化の特徴を考えたい。具体的には、江戸時代の庶民の旅日記を順番に輪読し、そこから見えてくる日本文化の特徴を主体的に考察し、自らの見解を最終レポートとしてまとめる。				
到達目標	1．日本の文化の特徴について、信憑性の高い情報を適切に収集・理解し、自らの考えを論理的に構築することができる。 2．自らが考えた日本の文化の特徴について、発表や文章を通して他者に正しく伝達することができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	皆川　義孝	【第 1 回】 予習：江戸時代の旅について参考書等を読んでおく 授業：授業で対象とする江戸時代の旅について 復習：課題をフォームで提出する
2	皆川　義孝	【第 2 回】 予習：江戸時代の旅について参考書等を読んでおく 授業：江戸時代の庶民の旅日記について（課題解決型学習） 復習：課題をフォームで提出する
3	皆川　義孝	【第 3 回】 予習：江戸時代の旅について参考図書等を読んでおく 授業：江戸時代の庶民の旅日記の読解① 復習：読解内容を整理する
4	皆川　義孝	【第 4 回】 予習：第 3 回の旅日記の読解内容を振り返る 授業：江戸時代の庶民の旅日記の読解② 復習：読解内容を整理する
5	皆川　義孝	【第 5 回】 予習：第 4 回までの読解内容を振り返る 授業：江戸時代の庶民の旅日記の読解をまとめる（課題解決型学習） 復習：旅日記の読解をまとめた資料を提出する
6	皆川　義孝	【第 6 回】 予習：読解内容をまとめた論文集を読んでおく 授業：レジュメ集『江戸時代の庶民の旅日記から日本文化を探る』を読む①（発表） 復習：発表にコメントを寄せる
7	皆川　義孝	【第 7 回】 予習：読解内容をまとめた論文集を読んでおく 授業：レジュメ集『江戸時代の庶民の旅日記から日本文化を探る』を読む②（発表） 復習：発表にコメントを寄せる
8	皆川　義孝	【第 8 回】 予習：読解内容をまとめた論文集を読んでおく 授業：レジュメ集『江戸時代の庶民の旅日記から日本文化を探る』を読む③（発表） 復習：発表にコメントを寄せる
9	皆川　義孝	【第 9 回】 予習：読解内容をまとめた論文集を読んでおく 授業：レジュメ集『江戸時代の庶民の旅日記から日本文化を探る』を読む④（発表） 復習：発表にコメントを寄せる
10	皆川　義孝	【第 10 回】 予習：読解内容をまとめた論文集を読んでおく 授業：レジュメ集『江戸時代の庶民の旅日記から日本文化を探る』を読む⑤（発表） 復習：発表にコメントを寄せる
11	皆川　義孝	【第 11 回】 予習：読解内容をまとめた論文集を読んでおく 授業：レジュメ集『江戸時代の庶民の旅日記から日本文化を探る』を読む⑥（発表） 復習：発表にコメントを寄せる

12	皆川　義孝	【第 12 回】 予習：読解内容をまとめた論文集を読んでおく 授業：レジュメ集『江戸時代の庶民の旅日記から日本文化を探る』を読む⑦（発表） 復習：発表にコメントを寄せる
13	皆川　義孝	【第 13 回】 予習：読解内容をまとめた論文集を読んでおく 授業：レジュメ集『江戸時代の庶民の旅日記から日本文化を探る』から日本文化の特徴を考える①（課題解決型学習） 復習：考察内容を整理する
14	皆川　義孝	【第 14 回】 予習：読解内容をまとめた論文集を読んでおく 授業：レジュメ集『江戸時代の庶民の旅日記から日本文化を探る』から日本文化の特徴を考える②（課題解決型学習） 復習：考察内容を整理する
15	皆川　義孝	【第 15 回】 予習：日本の文化と歴史Ⅲの学びを振り返る 授業：『江戸時代の庶民の旅から考える日本の文化』（最終レポート）（課題解決型学習） 復習：日本の文化と歴史Ⅲの学びを総括する

授業開始前学習	深井甚三『江戸の旅人たち』（歴史文化ライブラリー９）吉川弘文館、1997 年、金森敦子『江戸庶民の旅ー旅のかたち・関所と女』（平凡社新書 146）平凡社、2002 年、神崎宣武『江戸の旅文化』岩波新書 884、岩波書店、2009 年、金森敦子『きよのさんと歩く 大江戸道中記－日光・江戸・伊勢・京都・新潟…六百里』ちくま文庫、2012 年等を読んでおくことが望ましい。
授業内課題のフィードバックの方法	事前学習課題等に対して、次回の授業時に受講者からの回答を紹介し、コメント・講評を行う。
テキスト・教材	特定のテキストは使用せず、必要に応じてプリントを配付する。
参考書	深井甚三『江戸の旅人たち』（歴史文化ライブラリー９）吉川弘文館、1997 年、金森敦子『江戸庶民の旅ー旅のかたち・関所と女』（平凡社新書 146）平凡社、2002 年、神崎宣武『江戸の旅文化』岩波新書 884、岩波書店、2009 年、金森敦子『きよのさんと歩く 大江戸道中記－日光・江戸・伊勢・京都・新潟…六百里』ちくま文庫、2012 年、桜井正信『現代訳 旅行用心集』八坂書房、2009 年等。
評価の基準と方法	事前学習課題３０%、小論文５０%、最終レポート２０%により評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		○	◎			◎	

関連科目	
その他	授業の進捗状況などによって、内容を変更することがある。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	GJ-M-311	科目分類（～2024 年入学者）	111-310-13	授業コード	FA0080
科目名称	日本の文化と歴史Ⅳ			単位数	2.0 単位
英文名称	Japanese Culture and HistoryⅣ			授業区分	講義
科目責任者	皆川　義孝			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	皆川　義孝			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期　火曜日 13:00～16:00 後期　火曜日 13:00～16:00			研究室	10-507
授業概要	日本への強い関心を持つ外国人によって近代以降に書かれた来日した外国人の紀行文や日記等の日本論に関する名著から、日本の文化の特徴を考える。具体的には、論文集『外国人が書いた日本論の名著から考える日本の文化』に掲載する小論文の執筆や発表を通して、日本の文化の特徴を主体的に考察し、自らの見解を最終レポートとしてまとめる。				
到達目標	1．日本の文化の特徴について、信憑性の高い情報を適切に収集・理解し、自らの考えを論理的に構築することができる。 2．自らが考えた日本の文化の特徴について、文章や発表を通して他者に正しく伝達することができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	皆川　義孝	【第 1 回】 予習：授業で対象とする外国人の日本論の名著について参考書等で確認しておく 授業：授業で対象とする外国人の日本論の名著について 復習：考察課題をフォームで提出する
2	皆川　義孝	【第 2 回】 予習：アーネスト・サトウ『一外交官の見た明治維新』について参考書等を読んでおく 授業：アーネスト・サトウ『一外交官の見た明治維新』の解題（課題解決型学習） 復習：考察課題をフォームで提出する
3	皆川　義孝	【第 3 回】 予習：イザベラ・バード『日本奥地紀行』について参考書等を読んでおく 授業：イザベラ・バード『日本奥地紀行』の解題（課題解決型学習） 復習：考察課題をフォームで提出する
4	皆川　義孝	【第 4 回】 予習：エドワード・S・モース『日本その日その日』について参考書等を読んでおく 授業：エドワード・S・モース『日本その日その日』の解題（課題解決型学習） 復習：考察課題をフォームで提出する
5	皆川　義孝	【第 5 回】 予習：E・ベルツ『日記』について参考書等を読んでおく 授業：E・ベルツ『日記』の改題（課題解決型学習） 復習：考察課題をフォームで提出する
6	皆川　義孝	【第 6 回】 予習：論文集を読んでおく 授業：論文集『外国人が書いた日本論の名著から考える日本の文化』の作成①（課題解決型学習） 復習：執筆した部分を推敲する
7	皆川　義孝	【第 7 回】 予習：論文集を読んでおく 授業：論文集『外国人が書いた日本論の名著から考える日本の文化』の作成②（課題解決型学習） 復習：執筆した部分を推敲する
8	皆川　義孝	【第 8 回】 予習：論文集を読んでおく 授業：論文集『外国人が書いた日本論の名著から考える日本の文化』の作成③（課題解決型学習） 復習：論文集の小論文を提出する
9	皆川　義孝	【第 9 回】 予習：論文集を読んでおく 授業：論文集『外国人が書いた日本論の名著から考える日本の文化』を読む①（発表） 復習：発表にコメントを寄せる
10	皆川　義孝	【第 10 回】 予習：論文集を読んでおく 授業：論文集『外国人が書いた日本論の名著から考える日本の文化』を読む②（発表） 復習：発表にコメントを寄せる
11	皆川　義孝	【第 11 回】 予習：論文集を読んでおく 授業：論文集『外国人が書いた日本論の名著から考える日本の文化』を読む③（発表） 復習：発表にコメントを寄せる

12	皆川　義孝	【第 12 回】 予習：論文集を読んでおく 授業：論文集『外国人が書いた日本論の名著から考える日本の文化』を読む④（発表） 復習：発表にコメントを寄せる
13	皆川　義孝	【第 13 回】 予習：論文集を読んでおく 授業：論文集『外国人が書いた日本論の名著から考える日本の文化』を読む⑤（発表） 復習：発表にコメントを寄せる
14	皆川　義孝	【第 14 回】 予習：論文集を読んでおく 授業：論文集『外国人が書いた日本論の名著から考える日本の文化』を読む⑥（発表） 復習：発表にコメントを寄せる
15	皆川　義孝	【第 15 回】 予習：日本の文化と歴史Ⅳの学びを振り返る 授業：外国人が書いた日本論の名著から考える日本の文化（最終レポート）（課題解決型学習） 復習：日本の文化と歴史Ⅳの学びを総括する

授業開始前学習	佐伯彰一・芳賀徹『外国人による日本論の名著』（中央公論新社）を読んでおくことが望ましい。
授業内課題のフィードバックの方法	事前学習課題等に対して、次回の授業時に受講者からの回答を紹介し、コメント・講評を行う。
テキスト・教材	特定のテキストは使用せず、必要に応じてプリントを配付する。
参考書	佐伯彰一・芳賀徹『外国人による日本論の名著』（中央公論新社）
評価の基準と方法	事前学習課題３０%、小論文５０%、最終レポート２０%により評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		○	◎			◎	

関連科目	
その他	授業の進捗状況などによって、内容を変更することがある。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	111-331-11（2022 年～入学者） 111-331-12（～2021 年入学者）	授業コード	FA0210
科目名称	☆古典文学概論			単位数	2.0 単位
英文名称	Survey of Japanese Classical Literature			授業区分	講義
科目責任者	三田　誠司			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三田　誠司			開講時期	1・2 年
オフィスアワー	前期　水曜日 14:40～16:10　木曜日 10:40～12:10 後期　水曜日 14:40～16:10　木曜日 10:40～12:10			研究室	10-611
授業概要	本講義は主要な古典文学作品を読み味わいながら、古典を読むときに必要な基礎的知識を再確認し、古典文学研究の基礎作りを行うことを目的とする。具体的には、上代から近世までの主要な日本の古典文学作品を取り上げ、作品の概要や基礎的な事項を解説しながら、近世までの文学の流れについて概観する。				
到達目標	・授業で扱った事項に関する簡単な質問に正しく答えることができる。 ・様々なジャンルの古典文学作品の概要を簡潔に説明することができる。 ・文学にあらわれたものの見方や考え方などについて、自分なりの言葉で表現することができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	三田　誠司	【第 1 回】 予習　：古典文学作品のうち、一番興味を持っている作品は何か考えておく 授業　：「古典」の意義（授業の目的と内容に関するオリエンテーション） 復習　：本授業の目的を理解し、要点をまとめる
2	三田　誠司	【第 2 回】 予習　：『古事記』の成立年次を調べておく 授業　：『古事記』を読む 復習　：『古事記』について感想等をまとめる
3	三田　誠司	【第 3 回】 予習　：『万葉集』の歌をインターネットを使って探してみる 授業　：『万葉集』を読む 復習　：『万葉集』について感想等をまとめる
4	三田　誠司	【第 4 回】 予習　：『竹取物語』の冒頭部を読んでおく 授業　：『竹取物語』を読む 復習　：『竹取物語』について感想等をまとめる
5	三田　誠司	【第 5 回】 予習　：『伊勢物語』の成立について調べておく 授業　：『伊勢物語』を読む 復習　：『伊勢物語』について感想等をまとめる
6	三田　誠司	【第 6 回】 予習　：『古今和歌集』の成立年次について調べる 授業　：『古今和歌集』を読む 復習　：『古今和歌集』について感想等をまとめる
7	三田　誠司	【第 7 回】 予習　：『落窪物語』の冒頭部を読んでおく 授業　：『落窪物語』を読む 復習　：『落窪物語』について感想等をまとめる
8	三田　誠司	【第 8 回】 予習：『源氏物語』と紫式部について調べておく 授業　：『源氏物語』を読む 復習　：『源氏物語』について感想等をまとめる
9	三田　誠司	【第 9 回】 予習　：『新古今和歌集』の成立年次を調べておく 授業　：『新古今和歌集』を読む 復習　：『新古今和歌集』について感想等をまとめる
10	三田　誠司	【第 10 回】 予習　：『今昔物語集』の成立年次について調べておく 授業　：『今昔物語集』を読む 復習　：『今昔物語集』について感想等をまとめる

11	三田　誠司	【第 11 回】 予習　：『徒然草』と兼好法師について調べておく 授業　：『徒然草』を読む 復習　：『徒然草』について感想等をまとめる
12	三田　誠司	【第 12 回】 予習　：『雨月物語』と上田秋成について調べておく 授業　：『雨月物語』を読む 復習　：『雨月物語』について感想等をまとめる
13	三田　誠司	【第 13 回】 予習　：『南総里見八犬伝』と曲亭馬琴について調べておく 授業　：『南総里見八犬伝』を読む 復習　：『南総里見八犬伝』について感想等をまとめる
14	三田　誠司	【第 14 回】 予習　：「連歌」について調べておく 授業　：「連歌」と「俳諧」について 復習　：連歌について感想等をまとめる
15	三田　誠司	【第 15 回】 予習　：これまでの授業内容を振り返っておく 授業　：「俳諧」について補足、およびその他の古典文学作品について 復習　：これまで取り上げた作品のなかから自分の好きな作品について調べる

授業開始前学習	なるべく多くの古典文学作品にふれておく（現代語訳のものでもかまわない）。
授業内課題のフィードバックの方法	毎回の授業内容に関して質問・感想を記す課題を課す。課題は次回授業時までに適宜コメントをつけて返却する。
テキスト・教材	授業担当者が作成した資料を配付する。
参考書	池田亀鑑『古典学入門』（岩波文庫）、同『平安朝の生活と文学』（ちくま学芸文庫） 田辺聖子『文車日記』（新潮文庫） この他、適宜授業内で紹介する。
評価の基準と方法	毎回の課題（70%）、レポート（30%）によって判断する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	◎		△	◎			

関連科目	「日本文学史」「古典文学」
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	GJ-M-111	科目分類（～2024 年入学者）	111-331-12	授業コード	FA0220
科目名称	☆近現代文学入門／近代文学概論			単位数	2.0 単位
英文名称	Introduction to Modern Literature			授業区分	講義
科目責任者	木内　英実			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	木内　英実			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期　火曜日 10:40～12:10　水曜日 14:40～16:10 後期　火曜日 16:20～17:50　水曜日 16:20～17:50			研究室	10-620
授業概要	日本の近現代文学に関する基礎的な知識を学び、文学を研究するための基礎的な概念を理解することを目的とする。近現代の文学史について概説したうえで、具体的には中学校や高等学校の国語教材としてもよく知られている作品群を取り上げる。典拠との比較や語りの分析など、文学研究としてのアプローチの方法を説明する。先行研究における問題点等を理解することにより、中学・高校の授業とは異なる観点から近現代の文学作品をとらえる力を修得する。				
到達目標	明治期において小説及び近代詩歌というジャンルがどのように形成され、現代の小説や詩歌の形式につながるのか、その概要を説明できるようになる。小説を中心とした「文学」が、近代から現代へと至る文化の変遷の中でどのような役割を果たしたのかを理解し、それをもとに具体的な作品を論じるための能力を身につける。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	木内　英実	【第 1 回】 予習：日本近代文学についての自分の知識を確認しておく 授業：授業の進め方について・日本近代文学という枠組みについて（キーワード：近代、欧米の文学、小説、出版メディア、ビルドゥングスロマン） 復習：授業の進め方を理解し、授業で学んだことをまとめる
2	木内　英実	【第 2 回】 予習：教科書「明治文学」pp.6-46、配付資料「硝子戸の中」を読んでおく 授業：文明開化と「文学」の変容（教科書「明治文学」前半 pp.6-46）（キーワード：文明開化、江戸から東京へ、翻訳小説）（課題解決型学習） 復習：文明開化と文学について学んだことをまとめる
3	木内　英実	【第 3 回】 予習：教科書「明治文学」pp.6-46、配付資料「硝子戸の中」を読み直す 授業：「小説」とノベル（教科書「明治文学」後半 pp.6-46）（キーワード：ロマンスとノベル、夏目漱石「硝子戸の中」） 復習：夏目漱石について学んだことをまとめる
4	木内　英実	【第 4 回】 予習：教科書「明治文学」pp.6-46、配付資料「銀の匙」を読んでおく 授業：明治後期の小説文体（教科書教科書「明治文学」pp.6-46 まとめ）（キーワード：言文一致、文体、自然観察、子ども歳時記） 復習：中勘助について学んだことをまとめる
5	木内　英実	【第 5 回】 予習：教科書「明治文学」pp.6-46、配付資料「銀の匙」を読み直す 授業：自然主義文学と漱石（教科書「明治文学」pp.6-46 発展）（キーワード：自然主義、夏目漱石、木曜会、）（課題解決型学習） 復習：自然主義文学と夏目漱石・中勘助について学んだことをまとめる
6	木内　英実	【第 6 回】 予習：配付資料「天寵」を読んでおく 授業：「大正文壇の成立」と鴎外（DVD『1910 年の文学』視聴）（キーワード：森鴎外、「明星」「スバル」、耽美派、谷崎潤一郎、白樺派、志賀直哉） 復習：「大正文壇」と森鴎外について学んだことをまとめる
7	木内　英実	【第 7 回】 予習：教科書「大正文学」pp47-70 を読んでおく 授業：「大正文壇の成立」（DVD『1910 年の文学』視聴）（キーワード：耽美派、谷崎潤一郎、白樺派、志賀直哉） 復習：「大正文壇」について学んだことをまとめる『新思潮』と大正期教養主義について学んだことをまとめる
8	木内　英実	【第 8 回】 予習：教科書「児童文学における<近代>」pp.66-70 を読んでおく 授業：賢治童話・未明童話・南吉童話と「赤い鳥」、教科書 pp.66-70（キーワード：御伽噺・文部省唱歌から童謡童話へ）（課題解決型学習） 復習：童謡童話運動・「トロッコ」・「風の又三郎」・「久助君の話」について学んだことをまとめる
9	木内　英実	【第 9 回】 予習：教科書「昭和文学」pp.70-127 を読んでおく 授業：教科書「昭和文学」前半（キーワード：戦争文学、「文芸時代」、「女人芸術」） 復習：「昭和文学」前半について学んだことをまとめる

10	木内　英実	【第 10 回】 予習：教科書「昭和文学」pp.70-127 を読んでおく 授業：教科書「昭和文学」後半（キーワード：文芸復興、純粋小説、転向文学、太宰治） 復習：「昭和文学」後半について学んだことをまとめる
11	木内　英実	【第 11 回】 予習：教科書「戦後文学」pp.127-156 を読んでおく 授業：教科書「戦後文学」pp.127-156（キーワード：女性作家の活躍、言論統制、第三の新人） 復習：「戦後文学」について学んだことをまとめる
12	木内　英実	【第 12 回】 予習：教科書「Ⅱ近代詩歌の流れ」pp.158-228 を読んでおく 授業：近現代の詩歌（教科書「Ⅱ近代詩歌の流れ」前半）（キーワード：「新体詩抄」、「明星」「スバル」、童謡詩） 復習：近現代の詩歌について学んだことをまとめる
13	木内　英実	【第 13 回】 予習：教科書「Ⅱ近代詩歌の流れ」pp.158-228 を読んでおく 授業：近現代の詩歌（教科書「Ⅱ近代詩歌の流れ」後半）（キーワード：第二芸術論、抒情から思想へ、戦後詩歌） 復習：近現代の詩歌について学んだことをまとめる
14	木内　英実	【第 14 回】 予習：配付プリント「世界文学としての日本近現代文学-川端康成・大江健三郎・村上春樹-」を読んでおく 授業：カズオ・イシグロ、村上春樹の文学（DVD『カズオ・イシグロ文学白熱教室』視聴　課題提出 ）（キーワード：「日本」という概念、グローバリズム） 復習：世界文学としての日本文学について学んだことをまとめる
15	木内　英実	【第 15 回】 予習：現代の文学について考える 授業：現代における「文学」の位置づけ（キーワード：映像文化、メディアミックス、文学概念の変容）/振り返りレポート作成 復習：これまでの学習内容をもとに日本の近現代文学史について考える

授業開始前学習	授業に関連する日本の近現代文学作品を出来るだけ読んでおくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	授業内容に関連した授業内課題を提出してもらう。それをもとに解説を行い、個別の質問に回答する。
テキスト・教材	三好行雄『日本の近代文学』（はなわ新書）
参考書	安藤宏『日本近代小説史』（中公選書）、外村彰編『昭和の文学を読む』（ひつじ書房）
評価の基準と方法	授業内課題（20%）、GW 等授業受講姿勢（20%）、学期末レポート（60%）で総合評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	◎		△	◎			

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	GJ-M-221 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	111-331-12（J）	授業コード	FA0230
科目名称	日本語学概論 I			単位数	2.0 単位
英文名称	Survey of Japanese Linguistics I			授業区分	講義
科目責任者	柏野 和佳子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	柏野 和佳子			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	日本語の特徴、音声、文字、語彙、文法、談話、敬語や待遇表現など、日本語を教える際に必須な基本的な事項について学ぶ。また、この授業では、PC を用いた実習を行う。実習のタイミングは授業時に指示する。				
到達目標	(1)日本語に関する基本的な知識を身につける。 (2)日本語全体に関心を持ち、観察し、分析する視点を獲得する。 (3)学んだ日本語の知識を日常の言語行動や教育に活用できる。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	柏野 和佳子	【第 1 回】 予習：シラバスを熟読する。テキスト第 1 章を読み、課題を整理しておく。 授業：イントロダクション、学習者の誤用を含む日本語から日本語について考える、効率的で創造的な日本語教育を行うために、学習管理や教材作成等に必要となる ICT 活用方法について理解する。 復習：授業内容を復習し、小テストに取り組み、国立国語研究所のコーパスを使う。
2	柏野 和佳子	【第 2 回】 予習：テキスト第 2 章を読み、声に出すときの舌の位置や口の開け閉めなどを確認してみる。 授業：音声（1）―母音・子音、音声と音韻、調音点、音素、異音について理解する。 復習：授業内容を復習し、小テストに取り組み、発声に気を付け早口言葉を練習する。
3	柏野 和佳子	【第 3 回】 予習：テキスト第 3 章を読み、共通語と方言や、世代によってアクセントの異なる語の例を見つけてみる。 授業：音声（2）―拍、特殊拍、アクセント、高低アクセント、イントネーションについて理解する。 復習：授業内容を復習し、小テストに取り組み、アクセントと拍に気を付けて文章を音読してみる。
4	柏野 和佳子	【第 4 回】 予習：テキスト第 4 章を読み、身の回りにあるカタカナで書かれている語を見つけてみる。 授業：文字表記（1） ―文字の種類、ひらがな、カタカナ、漢字、表語（表意）文字、現代仮名遣いについて理解する。 復習：授業内容を復習し、小テストに取り組み、身の回りの表記を文字種に着目して観察する
5	柏野 和佳子	【第 5 回】 予習：テキスト第 5 章を読み、日本語を母語としない人向けの文章を探してどのような漢字が使われているのか確認してみる。 授業：文字表記（2）―漢字に関する基礎知識、漢字学習、常用漢字、画数、書き順・筆順、成り立ち・字源、部首、パターン、音符、六書、日本語能力試験について理解する。 復習：授業内容を復習し、小テストに取り組み、漢字学習の工夫について考えてみる。
6	柏野 和佳子	【第 6 回】 予習：テキスト第 6 章を読み、身の回りにある外来語を見つけてみる。 授業：語彙・意味（1）―語の定義、語彙量、語構成（派生語・複合語・合成語）、語種（和語・漢語・外来語・混種語）について理解する。形態素解析ツール『Web 茶まめ』の活用を学ぶ。 復習：授業内容を復習し、小テストに取り組み、形態素解析ツール『Web 茶まめ』を使って語種を計量する。
7	柏野 和佳子	【第 7 回】 予習：テキスト第 7 章を読み、国語辞典を引いて意味の多い言葉を探し、その語の説明を読んでくる。 授業：語彙・意味（2）―語と語の関係、類義語、対義語、上位語と下位語、多義語と同音異義語、言語間の意味のずれとそれによって生じる誤用、オノマトペ、シソーラスについて理解する。『分類語彙表』の活用を学ぶ。 復習：授業内容を復習し、小テストに取り組み、『分類語彙表』を用いて興味のあるカテゴリに入る語を確認する。
8	柏野 和佳子	【第 8 回】 予習：テキスト第 8 章を読み、テキストの課題 3 の、「外来語＋な＋名詞」となっている例や「外来語＋する」となっている語見つけてみる。 授業：文法（1）―学校文法と日本語教育文法、自立語・付属語、品詞、活用、文型について理解する。 復習：授業内容を復習し、小テストに取り組み、形態素解析ツール『Web 茶まめ』を使って品詞を計量する。
9	柏野 和佳子	【第 9 回】 予習：テキスト第 9 章を読み、新聞などの文章で「は」が使われているところと「が」が使われているところを見比べてみる。 授業：文法（2）―日本語の文の種類、文型、動詞文、形容詞文、名詞文、格助詞、「は」と「が」、主語、主題、対比について理解する。 復習：授業内容を復習し、小テストに取り組み、国語辞典で「は」と「が」を引いて読んでみる。

10	柏野　和佳子	【第 10 回】 予習：テキスト第１０章を読み、ブログ記事などで「だろう」「かもしれない」などの書き手の主観が現れていると思う文末表現を確認してみる。 授業：文法（3）―時間に関わる表現、テンス、アスペクト、モダリティ、文法カテゴリー、ル形、タ形、進行中、結果残存について理解する。 復習：授業内容を復習し、小テストに取り組み、身近にある文章でテンス・アスペクト・モダリティの使用例を確認する。
11	柏野　和佳子	【第 11 回】 予習：テキスト第１１章を読み、新聞記事などに受動文がどれくらい使われているかを確認する。 授業：文法（4）―視点に関わる表現、受動（受け身）、能動文、受動文、視点、ヴォイス（態）、自動詞・他動詞、授受（やりもらい）について理解する。 復習：授業内容を復習し、小テストに取り組み、身近にある文章で受動文・使役文の使用例を確認する。
12	柏野　和佳子	【第 12 回】 予習：テキスト第１２章を読み、課題３の日本語学習者の作文のチェックに取り組む。 授業：文法（5）―文末表現、単文、複文、主節、従属節、「みたいだ」と「かもしれない」について理解する。 復習：授業内容を復習し、小テストに取り組み、身近にある文章にはどのような文末表現が使われているのかを確認する。
13	柏野　和佳子	【第 13 回】 予習：テキスト第１３章を読み、課題１でグループ分けされている談話の違いについて考えてみる。 授業：文章・談話、談話のさまざまな種類、結束性のある談話、指示表現、接続表現、文体について理解する。 復習：授業内容を復習し、小テストに取り組み、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の検索結果より、レジスターの違いにある文体差を確認してみる。
14	柏野　和佳子	【第 14 回】 予習：テキスト第１４章を読み、課題１にある、日本語教育ではなぜ「です・ます」体を先に教えるのかについて考えてくる。 授業：ことばと社会（1）―敬語・待遇表現、丁寧体、普通体、「です・ます」体、「タメ口」、スタイルシフトについて理解する。 復習：授業内容を復習し、小テストに取り組み、テレビ番組などでどのような場合に、どのようなスタイルがとられているのかを確認してみる。
15	柏野　和佳子	【第 15 回】 予習：テキスト第１５章を読み、男女差や世代差があると思う言葉を考えてみる。 授業：ことばと社会（2）―日本語のバリエーション、男女差、世代差、地域差、社会方言、地域方言、共通語について理解する。また、やさしい日本語について考える。また、学期をとおして学んだことを振り返る。 復習：授業内容を復習し、小テストに取り組み、授業で学んだことをまとめて提出する。

授業開始前学習	日頃から国語辞典（形態は問わない）を引くよう習慣づけるとよい。また、日本語・日本語学に関わる新書等を読んでおくことが望ましい。
授業内課題のフィードバックの方法	課題は主にネットワーク経由のアンケート方式で配付・回収する。授業時に、個別の質問・意見等への回答を含め、結果全体について講評する。
テキスト・教材	太田陽子編著(2021)『超基礎・日本語教育のための 日本語学』（くろしお出版）、ほか、Google Classroom にて資料を配付する。
参考書	沖森卓也ほか(2024)『図解 日本語 第２版』／(2011)『図解 日本の文字』／(2011)『図解 日本の語彙』（三省堂）、伊坂淳一(2016)『新ここからはじまる日本語学』（ひつじ書房）、滝浦真人著(2020)『日本語学入門 』（NHK 出版）
評価の基準と方法	平常点（授業への参加状況等）40%、小テスト（毎時）30%、期末レポート 30%によって、評価を行う。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	◎		△	◎			

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	国立国語研究所の実務経験あり。日本語の基本的な事項について講義する。

科目分類（2025年～入学者）	GJ-M-221 （J）	科目分類（～2024年入学者）	111-331-12 （J）	授業コード	FA0240
科目名称	日本語学概論Ⅱ			単位数	2.0単位
英文名称	Survey of Japanese LinguisticsⅡ			授業区分	講義
科目責任者	柏野 和佳子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	柏野 和佳子			開講時期	2年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	日本語の語彙論、意味論、位相、社会とことば、及び応用分野の基本的な事項について学ぶ。 また、この授業では、PCを用いた実習を行う。実習のタイミングは授業時に指示する。				
到達目標	(1)日本語の語彙・意味に関する基本的な知識を身につける。 (2)日本語の全体に関心を持ち、観察し、分析する視点を獲得する。 (3)学んだ語彙・意味の知識を日常の言語行動や教育に活用できる。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	柏野 和佳子	【第1回】 予習：シラバスを熟読する。 授業：語と語彙、基本語彙、基礎語彙、異なり語数・延べ語数、語彙のカバー率を理解する。効率的で創造的な日本語教育を行うために、学習管理や教材作成等に必要となるICT活用方法について理解する。 復習：授業内容を復習し、国立国語研究所のコーパスを使う。
2	柏野 和佳子	【第2回】 予習：長い単語を見つけ、その構成を考えてみる。 授業：語構成と語形成、合成語、複合語、畳語、派生語、造語法（合成・借用・縮約・転成）、変音現象（連濁・転音・音便）を理解する。 復習：授業内容を復習し、身の回りにある語の語構成や語形成を確認する。
3	柏野 和佳子	【第3回】 予習：身の回りからオノマトペ表現を見つけてみる。 授業：擬音語・擬態語、オノマトペ、音象徴語について理解する。 復習：授業内容を復習し、オノマトペ表現が多用されているものを探して確認してみる。
4	柏野 和佳子	【第4回】 予習：類義語のペアを見つけ、その共通する部分と、異なる部分とを考える。 授業：意味（1）同義語・類義語・対義語、類義関係、対義関係について理解する。『分類語彙表』の活用を学ぶ。 復習：授業内容を復習し、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』で類義語を検索して用例を比較する。
5	柏野 和佳子	【第5回】 予習：意味がたくさんありそうな語を国語辞典で引く。 授業：意味（2）多義語、比喩、慣用句、連語、コロケーションについて理解する。 復習：授業内容を復習し、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』で多義語の用例を確認する。
6	柏野 和佳子	【第6回】 予習：気になる方言を1つ以上見つけておく。 授業：位相（1）方言と共通語について理する。方言地図や方言調査について学ぶ。 復習：授業内容を復習し、方言が広く使われている例を確認する。
7	柏野 和佳子	【第7回】 予習：性別や世代による言葉使いの違いを考えてみる。 授業：位相（2）性別差・世代差・役割語について理解する。 復習：授業内容を復習し、『日本語日常会話コーパス』で性別差・世代差のありそうな語の用例を確認する。
8	柏野 和佳子	【第8回】 予習：性別や世代による言葉使いの違いを考えてみる。 授業：位相（2）性別差・世代差・役割語について理解する。 復習：授業内容を復習し、『日本語日常会話コーパス』で性別差・世代差のありそうな語の用例を確認する。
9	柏野 和佳子	【第9回】 予習：気になる新語・流行語を1つ以上見つけておく。 授業：社会と言葉（1）新語・流行語について理解し、その変遷を学ぶ。 復習：授業内容を復習し、身の回りで新語・流行語の用例を確認する。
10	柏野 和佳子	【第10回】 予習：身の回りにある製品の中でうまいと思う命名を見つけておく。 授業：社会と言葉（2）命名の方法や効果について理解する。 復習：授業内容を復習し、身の回りにある物に対し自分でも命名をしてみる。

11	柏野　和佳子	【第 11 回】 予習：集団語・若者語の例を確認する。 授業：社会と言葉（３）さまざまな集団語や若者語について理解する。難しい言葉の言い換えについて学ぶ。 復習：授業内容を復習し、コーパス等で集団語・若者語の用例を確認する。
12	柏野　和佳子	【第 12 回】 予習：気になる語について国語辞典を引いて意味を確認する。 授業：社会と言葉（４）辞書について理解しその活用方法を理解する。また、意味変化が辞書にどのように反映されているのかを学ぶ。 復習：授業内容を復習し、気になる語の新しい語釈を考えてみる。
13	柏野　和佳子	【第 13 回】 予習：語数、語種、品詞の計量をしてみたいテキストを用意する。 授業：応用（１）テキストを形態素解析する方法と、語数、語種、品詞の集計方法を理解する。 復習：授業内容を復習し、授業とは別のテキストで同じように集計してみる。
14	柏野　和佳子	【第 14 回】 予習：語種や品詞の計量をしてみたいテキストを用意する。 授業：応用（２）『日本語日常会話コーパス』を用いて、用例の集計方法を学ぶ。 復習：授業内容を復習し、授業とは別の語を検索し、同じように集計してみる。
15	柏野　和佳子	【第 15 回】 予習：学んだ中で疑問点、さらに知りたい点を挙げる。 授業：まとめとして、学期をとおして学んだことを振り返る。特に、語彙学習における ICT 活用方法について確認する。 復習：授業内容を復習し、授業で学んだことをまとめて提出する。

授業開始前学習	日頃から国語辞典（形態は問わない）を引くよう習慣づけるとよい。また、日本語・日本語学に関わる新書等を読んでおくことが望ましい。
授業内課題のフィードバックの方法	課題は主に、Google Classroom にて指示する。授業時に、個別の質問・意見等への回答を含め、結果全体について講評する。
テキスト・教材	Google Classroom にて資料を配付する。
参考書	沖森卓也ほか(2024)『図解 日本語 第２版』／(2011)『図解 日本の文字』／(2011)『図解 日本の語彙』（三省堂）、小椋秀樹編(2020)『日本語の語彙・表記』（朝倉書店）、秋元美晴(2010)『日本語教育能力試験に合格するための語彙 12』（ココ出版）
評価の基準と方法	平常点（授業への参加状況等）40%と、レポート 60%によって、評価を行う。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	◎		△	◎			

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	国立国語学研究所の実務経験あり。日本語の応用分野の基本的な事項を講義する。

科目分類（2025 年～入学者）	GJ-M-221	科目分類（～2024 年入学者）	111-331-12	授業コード	FA0250
科目名称	古典文学Ⅰ(上代･中古)			単位数	2.0 単位
英文名称	Classical Literature Ⅰ （Ancient times･Middle Ages）			授業区分	講義
科目責任者	三田 誠司			必修･選択	履修ガイド参照
担当教員	三田 誠司			開講時期	2･3 年
オフィスアワー	前期 水曜日 14:40～16:10 木曜日 10:40～12:10 後期 水曜日 14:40～16:10 木曜日 10:40～12:10			研究室	10-611
授業概要	日本の詩歌の特質について学ぶことを目的とする。上代の和歌を中心とし、中古の和歌についても考察する。以降の詩歌については略述する。日本文学における詩歌の意義について理解し、作品に表れたものの見方や考え方、現代における詩歌の意義などについて、各受講者なりの考えを持つことができるようにする。そのため、受講生の意見･感想を課題とし、必要に応じて質疑応答の機会を設ける。				
到達目標	･日本の詩歌の特質について、自分なりの考えを説明することができる。 ･日本の主要な詩歌作品について簡潔に説明することができる。				
アクティブ･ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	三田 誠司	【第 1 回】 予習 ：日本の詩歌に関する入門書を読んでおく 授業 ：万葉集第 1 期の和歌 額田王の作品 復習 ：課題に取り組む
2	三田 誠司	【第 2 回】 予習 ：万葉集について調べる 授業 ：万葉集第 1 期の和歌 皇子･皇女の作品 復習 ：課題に取り組む
3	三田 誠司	【第 3 回】 予習 ：人麻呂について調べる 授業 ：万葉集第 2 期の和歌 柿本人麻呂の雑歌 復習 ：課題に取り組む
4	三田 誠司	【第 4 回】 予習 ：人麻呂について調べる 授業 ：万葉集第 2 期の和歌 柿本人麻呂の相聞 復習 ：課題に取り組む
5	三田 誠司	【第 5 回】 予習 ：人麻呂について調べる 授業 ：万葉集第 2 期の和歌 柿本人麻呂の挽歌 復習 ：課題に取り組む
6	三田 誠司	【第 6 回】 予習 ：赤人について調べる 授業 ：万葉集第 3 期の和歌 山部赤人の作品 復習 ：課題に取り組む
7	三田 誠司	【第 7 回】 予習：高橋虫麻呂について調べる 授業：万葉集第 3 期の和歌 高橋虫麻呂の作品 復習：課題に取り組む
8	三田 誠司	【第 8 回】 予習：大伴旅人について調べる 授業：万葉集第 3 期の和歌 大伴旅人の作品 復習：課題に取り組む
9	三田 誠司	【第 9 回】 予習 ：山上憶良について調べる 授業 ：万葉集第 3 期の和歌 山上憶良の作品 復習 ：課題に取り組む
10	三田 誠司	【第 10 回】 予習 ：坂上郎女について調べる 授業 ：万葉集第 4 期の和歌 大伴坂上郎女の作品 復習 ：課題に取り組む
11	三田 誠司	【第 11 回】 予習 ：大伴家持について調べる 授業 ：万葉集第 4 期の和歌 大伴家持の作品

		復習　：課題に取り組む
12	三田　誠司	【第 12 回】 予習　：和歌の技法について調べる 授業　：平安時代の和歌１　和歌の技法 復習　：課題に取り組む
13	三田　誠司	【第 13 回】 予習　：古今集について調べる 授業　：平安時代の和歌２　和歌の「危機」をめぐって 復習　：課題に取り組む
14	三田　誠司	【第 14 回】 予習　：新古今和歌集について調べる 授業　：鎌倉時代から江戸初期の和歌 復習　：課題に取り組む
15	三田　誠司	【第 15 回】 予習　：近世の和歌について調べる 授業　：江戸中期から近代の和歌 復習　：課題に取り組む

授業開始前学習	百人一首など身近な和歌に触れておく。
授業内課題のフィードバックの方法	毎回の課題（授業の感想・質問等）は、適宜コメント等を付し次回以降に返却する。
テキスト・教材	教員作成のプリント（資料）を配付する。
参考書	授業時に指示する。
評価の基準と方法	授業時の課題（70%）とレポート（30%）により判断する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎			◎	○		

関連科目	古典文学概論　日本文学史など
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	GJ-M-221	科目分類（～2024 年入学者）	111-331-12	授業コード	FA0260
科目名称	古典文学Ⅱ(中世･近世)			単位数	2.0 単位
英文名称	Classical LiteratureⅡ （Middle Ages･Early Modern Period）			授業区分	講義
科目責任者	大内 瑞恵			必修･選択	履修ガイド参照
担当教員	大内 瑞恵			開講時期	2･3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	江戸時代の俳諧師、芭蕉の『おくのほそ道』を通して、江戸時代の歴史、地理的感覚、文化、文学を原典資料の画像や絵画･絵図･地図を用いて講義します。 元禄２年（1689)、芭蕉は門人曽良とともに江戸を旅立ち、東北･北陸を巡り、大垣に着き、再び旅立つところで紀行は結ばれます。 この名所･歌枕を訪ね、発句および文を記した本作は、名作として知られています。 俳諧は、「象潟や料理何食ふ神祭（曽良）」のように、各地の行事や風俗を読みこみます。 この授業では、俳諧･紀行文をさまざまな視点から読みことによって、日本の歴史と社会、江戸時代の文化や、その文学に親しむことを目標とします。				
到達目標	文学作品を読み、日本語の表現と歴史･社会･文化的背景を理解することができる。 原典資料の画像や絵画･絵図･地図などを見て楽しむことができる。 （１） 季節感と四季の行事 （２） 江戸の文化と旅の風俗 （３） 和歌や古典文学の知識 （４） 俳諧の表現（言葉）				
アクティブ･ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	大内 瑞恵	【第１回】 予習： 『おくのほそ道』全文を通読し、シラバスの内容を確認する 授業： ガイダンス 講義の目的と概要、テキストと参考文献の解説 復習： 図書館等で参考文献･データベースの使い方を確認しておく
2	大内 瑞恵	【第２回】 予習： テキスト全体に目を通し、その構成を確認する 授業： 『おくのほそ道』を知るための基礎知識（1）俳諧の歴史 復習： 連歌･俳諧の展開を整理する
3	大内 瑞恵	【第３回】 予習： テキストの解説を読んでおく 授業： 『おくのほそ道』を知るための基礎知識（2）旅の目的と創作意識 復習： 芭蕉の奥羽行脚の目的と俳文･紀行の執筆意図を確認する
4	大内 瑞恵	【第４回】 予習： テキストの「旅立ち」の章段を読み、内容を把握する 授業： 『おくのほそ道』旅立ちの条の読解 復習： テキスト･資料を読み直し、小テストで確認する
5	大内 瑞恵	【第５回】 予習： テキストの「千住」の章段を読み、内容を把握する 授業： 『おくのほそ道』「千住」の読解 復習： テキスト･資料を読み直し、小テストで確認する
6	大内 瑞恵	【第６回】 予習： テキストの「室の八島」の章段を読み、内容を把握する 授業： 『おくのほそ道』「室の八島」の読解 復習： テキスト･資料を読み直し、小テストで確認する
7	大内 瑞恵	【第７回】 予習： テキストの「日光」の章段を読み、内容を把握する 授業： 『おくのほそ道』の読解 復習： テキスト･資料を読み直し、小テストで確認する
8	大内 瑞恵	【第８回】 予習： テキストの「那須野･黒羽」の章段を読み、内容を把握する 授業： 『おくのほそ道』の読解 復習： テキスト･資料を読み直し、小テストで確認する
9	大内 瑞恵	【第９回】 予習： テキストの「殺生石･遊行柳」の章段を読み、内容を把握する 授業： 『おくのほそ道』の読解 復習： テキスト･資料を読み直し、小テストで確認する

10	大内　瑞恵	【第 10 回】 予習：　テキストの「白河の関」の章段を読み、内容を把握する 授業：『おくのほそ道』の読解 復習：　テキスト・資料を読み直し、小テストで確認する
11	大内　瑞恵	【第 11 回】 予習：　テキストの「宮城野」の章段を読み、内容を把握する 授業：『おくのほそ道』の読解 復習：　テキスト・資料を読み直し、小テストで確認する
12	大内　瑞恵	【第 12 回】 予習：　テキストの「松島」の章段を読み、内容を把握する 授業：『おくのほそ道』の読解 復習：　テキスト・資料を読み直し、小テストで確認する
13	大内　瑞恵	【第 13 回】 予習：　テキストの「平泉」の章段を読み、内容を把握する 授業：『おくのほそ道』の読解 復習：　テキスト・資料を読み直し、小テストで確認する
14	大内　瑞恵	【第 14 回】 予習：　テキストの「立石寺」の章段を読み、内容を把握する 授業：『おくのほそ道』の読解 復習：　テキスト・資料を読み直し、小テストで確認する
15	大内　瑞恵	【第 15 回】 予習：　テキストの「象潟・大垣」の章段を読み、内容を把握する 授業：『おくのほそ道』の読解 復習：　テキスト・資料を読み直し、小テストで確認する

授業開始前学習	テキスト以外の書籍・媒体でも構わないので、『おくのほそ道』全体を読んでおく。
授業内課題のフィードバックの方法	リアクションペーパー：毎時間、授業内でコメント。 到達度確認テスト：毎時間の小テスト
テキスト・教材	潁原退蔵・尾形仂訳注『新版 おくのほそ道』（角川ソフィア文庫・KADOKAWA 2003 年） ほか、授業時にプリントを配布する。
参考書	尾形仂ほか編『俳文学大辞典』角川書店、1995 年 ※同内容の普及版（2008 年刊）もある。 井本農一ほか校注訳『新編日本古典文学全集 松尾芭蕉集②』小学館、1997 年 堀切実編『『おくのほそ道』解釈事典』東京堂出版、2003 年 西野春雄校注『新日本古典文学大系 謡曲百番』岩波書店、1998 年 等
評価の基準と方法	・到達度確認テストの成績（40%） ・リアクションペーパー・質疑応答（30%） ・レポート（30%）
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎			◎	○		

関連科目	
その他	・毎回の授業時にリアクションペーパーを配布し、授業に対する質問・感想を記入。 ・記載内容は予定であり、開講時の状況や受講者の関心・理解度に応じて変更する可能性がある。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）	GJ-M-221	科目分類（～2024年入学者）	111-331-12	授業コード	FA0270
科目名称	近現代文学Ⅰ(近代)			単位数	2.0単位
英文名称	Modern and contemporary literature Ⅰ （Modern）			授業区分	講義
科目責任者	木内 英実			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	木内 英実			開講時期	2・3年
オフィスアワー	前期 火曜日 10:40～12:10 水曜日 14:40～16:10 後期 火曜日 16:20～17:50 水曜日 16:20～17:50			研究室	10-620
授業概要	明治期から昭和初期にかけて活躍した作家の小説を通して、近代の文学の特質を探ることを目的とする。具体的には夏目漱石、田山花袋、志賀直哉、谷崎潤一郎等の小説作品を取り上げ、作家の概要、作品の内容などを学修するとともに、各作品の時代背景についても考察し、小説作品の同時代的意義を深く考察する。その上で人物の造形や心理、小説の文体や描写、語りの構造などについての考察を通して受講者自身の意見形成を重視した授業展開を行う。				
到達目標	明治期から昭和戦前期の小説を読んでその内容を理解し、当時の小説の文体や描写の特徴を読み取ることができる。夏目漱石、田山花袋、志賀直哉、谷崎潤一郎といった当時の作家たちに関する知識を学び、その作品の傾向や、どのように評価されてきたかを説明できるようになる。小説についての自分の意見を、根拠を示しながら論理的に説明する能力を身につける。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	木内 英実	【第1回】 予習：明治期・大正期・昭和戦前期の日本近代文学について自分の知識を確認しておく 授業：授業の進め方について・日本の近代小説についての説明（キーワード：近代小説、言文一致、自然主義、大正文壇、マルキシズムとモダニズム、十五年戦争） 復習：授業の進め方を理解し、授業で学んだことをまとめる
2	木内 英実	【第2回】 予習：「坊っちゃん」を読んでおく 授業：夏目漱石「坊っちゃん」を読む1（教科書 142～155頁、夏目漱石について・英国留学との関わり・小説家になるまで）（キーワード：夏目漱石、英国留学、「文学論」） 復習：夏目漱石と「坊っちゃん」について、授業で学んだことをまとめる
3	木内 英実	【第3回】 予習：前回の授業で学んだことを振り返る 授業：夏目漱石「坊っちゃん」を読む2（内容の説明と構成・課題1提出）（キーワード：松山、正岡子規、「ホトトギス」）（課題解決型学習） 復習：「坊っちゃん」の内容と構成について、授業で学んだことをまとめ、課題1に取り組む
4	木内 英実	【第4回】 予習：前回の授業で学んだことを振り返る 授業：夏目漱石「坊っちゃん」を読む3（人物の造型や心理に関する分析）（キーワード：「おれ」の人物造型、「清」・「赤シャツ」の人物像系） 復習：人物の造型や心理について、授業で学んだことをまとめる
5	木内 英実	【第5回】 予習：前回の授業で学んだことを振り返る 授業：夏目漱石「坊っちゃん」を読む4（小説の文体や描写・本文異同・語りの構造に関する分析・課題1解説）（キーワード：文体の特徴、語りの構造、歴史と創作） 復習：授業で学んだことをもとに、「坊っちゃん」についての自分の意見をまとめる
6	木内 英実	【第6回】 予習：「少女病」を読んでおく 授業：田山花袋「少女病」を読む1（教科書 83～97頁、田山花袋について・内容の説明と構成・課題2提出）（キーワード：田山花袋、自然主義、平面描写、日露戦争、都市空間）（課題解決型学習） 復習：田山花袋と「少女病」について、授業で学んだことをまとめ、課題2に取り組む
7	木内 英実	【第7回】 予習：前回の授業で学んだことを振り返る 授業：田山花袋「少女病」を読む2（人物の造型や心理に関する分析）（キーワード：「かれ」の人物造型、「かれ」の心理、「かれ」の死） 復習：人物の造型や心理について、授業で学んだことをまとめる
8	木内 英実	【第8回】 予習：前回の授業で学んだことを振り返る 授業：田山花袋「少女病」を読む3（小説の文体や描写・語りの構造に関する分析・課題2解説）（キーワード：平面描写による文体、語りの構造、無理想無解決） 復習：授業で学んだことをもとに、「少女病」についての自分の意見をまとめる
9	木内 英実	【第9回】 予習：「小僧の神様」を読んでおく 授業：志賀直哉「小僧の神様」を読む1（教科書 9～19頁、志賀直哉について・内容の説明と構成・課題3提出）（キーワード：志賀直哉、白樺派、理想主義とリアリズム、小説の神様）（課題解決型学習） 復習：志賀直哉と「小僧の神様」について、授業で学んだことをまとめ、課題3に取り組む

10	木内　英実	【第 10 回】 予習：前回の授業で学んだことを振り返る 授業：志賀直哉「小僧の神様」を読む２（人物の造型や心理に関する分析）（キーワード：「仙吉」及び「A」の人物造型、「B」及び「細君」の人物造型、） 復習：人物の造型や心理について、授業で学んだことをまとめる
11	木内　英実	【第 11 回】 予習：前回の授業で学んだことを振り返る 授業：志賀直哉「小僧の神様」を読む３（小説の文体や描写・語りの構造に関する分析・課題３解説）（キーワード：簡潔な文体、テキスト論、メタフィクション） 復習：授業で学んだことをもとに、「小僧の神様」についての自分の意見をまとめる
12	木内　英実	【第 12 回】 予習：「蓼喰ふ蟲」を読んでおく 授業：谷崎潤一郎「蓼喰ふ蟲」を読む１（教科書 185～201 頁、谷崎潤一郎について・内容の説明と構成・課題４提出）（キーワード：谷崎潤一郎、耽美派、新聞小説、上方文化）（課題解決型学習） 復習：谷崎潤一郎と「蓼喰ふ蟲」について、授業で学んだことをまとめ、課題４に取り組む
13	木内　英実	【第 13 回】 予習：前回の授業で学んだことを読み返す 授業：谷崎潤一郎「蓼喰ふ蟲」を読む２（人物の造型や心理に関する分析）（キーワード：語り手の「要」、「美佐子」「お久」「老人」の人物造型） 復習：人物の造型や心理について、授業で学んだことをまとめる
14	木内　英実	【第 14 回】 予習：前回の授業で学んだことを読み返す 授業：谷崎潤一郎「蓼喰ふ蟲」を読む３（小説の文体や描写・語りの構造に関する分析・課題４解説）（キーワード：文体の特徴、語りの構造、挿絵、メディア） 復習：授業で学んだことをもとに、「蓼喰ふ蟲」についての自分の意見をまとめる
15	木内　英実	【第 15 回】 予習：これまでの授業で学んだことを振り返る 授業：明治期・大正期・昭和戦前期における作家・作品の位置づけについて補足説明　期末レポート作成 復習：近現代期の小説について授業で学んだことをまとめる

授業開始前学習	授業で扱う文学作品を事前に読んでおくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	授業で取り上げる４つの作品について、それぞれ授業内課題を提出してもらう。それをもとに解説を行い、個別の質問に回答する。
テキスト・教材	『大学生のための文学トレーニング　近代編』河野龍也、佐藤淳一、古川裕佳、山根龍一、山本良編著（三省堂）
参考書	『大学生のための文学トレーニング　現代編』浅野麗、小野祥子、河野龍也、佐藤淳一、山根龍一、山本良編著（三省堂） 『日本近代小説史』安藤宏（中央公論社） 『日本の近代文学』三好行雄（はなわ新書）
評価の基準と方法	授業内課題（40%）、GW 等授業参加姿勢（20%）、学期末レポート（40%）で総合評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎			◎	○		

関連科目	近現代文学（現代）　近代文学概論
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）	GJ-M-221	科目分類（～2024年入学者）	111-331-12	授業コード	FA0280
科目名称	近現代文学Ⅱ(現代)			単位数	2.0単位
英文名称	Modern and contemporary literatureⅡ （Present Day）			授業区分	講義
科目責任者	木内　英実			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	木内　英実			開講時期	2・3年
オフィスアワー	前期　火曜日 10:40～12:10　水曜日 14:40～16:10 後期　火曜日 16:20～17:50　水曜日 16:20～17:50			研究室	10-620
授業概要	第二次世界大戦後から現在までの小説について、世界の文学の中での日本文学、インターネット時代の日本の文学といった現代的視点を意識しつつ深く考察することを目的とする。具体的には、戦後日本の文学を領導した諸作家の作品の概要を理解したうえで、現代の小説にも考察の範囲を広げる。外国人が日本の小説をどのようにとらえているか、インターネットの時代を迎え日本文学はどのような道をたどるか、など現代を生きる自分自身の観点を確立して作品に向かい合う姿勢を養う。				
到達目標	第二次世界大戦後のいわゆる「戦後文学」と呼ばれる小説を読んでその内容を理解し、当時の小説の文体や描写の特徴を読み取ることができる。 石川淳、三島由紀夫、深沢七郎、石牟礼道子といった当時の作家たちに関する知識を学び、その作品の傾向や、どのように評価されてきたかを説明できるようになる。 小説についての自分の意見を、根拠を示しながら論理的に説明する能力を身につける。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	木内　英実	【第１回】 予習：第二次世界大戦後の「戦後文学」について自分の知識を確認しておく 授業：授業の進め方の説明・第二次世界大戦後の「戦後文学」についての説明（キーワード：敗戦、ＧＨＱの占領政策、価値観の変容、雑誌の創刊・復刊） 復習：授業の進め方を理解し、授業で学んだことをまとめる
2	木内　英実	【第２回】 予習：「焼跡のイエス」を読んでおく 授業：石川淳「焼跡のイエス」を読む１（『大学生のための文学トレーニング　近代編』128～140頁、石川淳について・内容の説明と語釈・課題１出題）（キーワード：石川淳、フランス文学、芥川賞、無頼派、闇市、浮浪児）（課題解決型学習） 復習：授業で学んだことをまとめ、課題１に取り組む
3	木内　英実	【第３回】 予習：前回学んだことをもとに「焼跡のイエス」を振り返る 授業：石川淳「焼跡のイエス」を読む２（人物の造型や心理に関する分析）（キーワード：闇市の中の「わたし」、上野の闇市の描写、少年の行動） 復習：人物の造型や心理について、授業で学んだことをまとめる
4	木内　英実	【第４回】 予習：前回学んだことをもとに「焼跡のイエス」を振り返る 授業：石川淳「焼跡のイエス」を読む３（小説の文体や描写・語りの構造に関する分析・課題１解説）（キーワード：「わたし」の語り口、SCAP、言論統制） 復習：授業で学んだことをもとに、「焼跡のイエス」について自分の意見をまとめる
5	木内　英実	【第５回】 予習：「卒塔婆小町」を読んでおく 授業：三島由紀夫「卒塔婆小町」を読む１（教科書２４～３７頁、三島由紀夫について・内容の説明と語釈・課題２出題）（キーワード：三島由紀夫、「近代能楽集」、卒都婆小町）（課題解決型学習） 復習：授業で学んだことをまとめ、課題２に取り組む
6	木内　英実	【第６回】 予習：前回学んだことをもとに「卒塔婆小町」を振り返る 授業：三島由紀夫「卒塔婆小町」を読む２（人物の造型や心理に関する分析）（キーワード：詩人の美的体験、老婆の美的体験） 復習：人物の造型や心理について、授業で学んだことをまとめる
7	木内　英実	【第７回】 予習：前回学んだことをもとに「卒塔婆小町」を振り返る 授業：三島由紀夫「卒塔婆小町」を読む３（小説の文体や描写・語りの構造に関する分析・課題２解説）（キーワード：美の認識、間テクスト性、言葉の力） 復習：授業で学んだことをもとに、「卒塔婆小町」について自分の意見をまとめる
8	木内　英実	【第８回】 予習：「楢山節考」を読んでおく 授業：深沢七郎「楢山節考」を読む１（教科書７６～１０１頁、深沢七郎について・内容の説明と語釈・課題３出題）（キーワード：深沢七郎、説話的設定、オリエンタリズム）（課題解決型学習） 復習：授業で学んだことをまとめ、課題３に取り組む

9	木内　英実	【第９回】 予習：前回学んだことをもとに「楢山節考」を振り返る 授業：深沢七郎「楢山節考」を読む２（人物の造型や心理に関する分析）（キーワード：オリエンタリズムとジェンダー、自己犠牲、他者） 復習：人物の造型や心理について、授業で学んだことをまとめる
10	木内　英実	【第 10 回】 予習：前回学んだことをもとに「楢山節考」を振り返る 授業：深沢七郎「楢山節考」を読む３（小説の文体や描写・語りの構造に関する分析・課題３解説）（キーワード：説話的な語り、オリエンタリズム、グロテスクと神聖） 復習：授業で学んだことをもとに、「楢山節考」について自分の意見をまとめる
11	木内　英実	【第 11 回】 予習：「ゆき女きき書き」を読んでおく 授業：石牟礼道子「ゆき女きき書き」を読む１（教科書１０２～１２３頁、石牟礼道子について・「苦海浄土」について・課題４出題）（キーワード：石牟礼道子、水俣病患者、「苦海浄土」）（課題解決型学習） 復習：授業で学んだことをまとめ、課題４に取り組む
12	木内　英実	【第 12 回】 予習：前回学んだことをもとに「ゆき女きき書き」を振り返る 授業：石牟礼道子「ゆき女きき書き」を読む２（内容の説明と語釈）（キーワード：水俣病患者、坂上ゆきの語り、サバルタン研究） 復習：作品の内容について授業で学んだことをまとめる
13	木内　英実	【第 13 回】 予習：前回学んだことをもとに「ゆき女きき書き」を振り返る 授業：石牟礼道子「ゆき女きき書き」を読む３（人物の造型や心理に関する分析・課題４解説）（キーワード：他者を語ることの困難さ、環境問題、自然観） 復習：人物の造型や心理について、授業で学んだことをまとめる
14	木内　英実	【第 14 回】 予習：前回学んだことをもとに「ゆき女きき書き」を振り返る 授業：石牟礼道子「ゆき女きき書き」と映画「Minamata」におけるスミス夫妻の視点とを比較する（水俣病患者へのアプローチや彼らを描写する方法論の相違）（キーワード：生命力の描写、共感性） 復習：授業で学んだことをもとに、「ゆき女きき書き」について自分の意見をまとめる
15	木内　英実	【第 15 回】 予習：これまで授業で学んだことを振り返る 授業：「戦後文学」における作家・作品の位置づけ（キーワード：価値観の変容、戦争体験、時代状況との関わり）・学期末レポート提出 復習：「戦後文学」について授業で学んだことをまとめる

授業開始前学習	授業で扱う文学作品を事前に読んでおくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	授業で取り上げる 4 つの作品について、それぞれ授業内課題を提出してもらう。それをもとに解説を行い、個別の質問に回答する。
テキスト・教材	『大学生のための文学トレーニング　現代編』浅野麗、小野祥子、河野龍也、佐藤淳一、山根龍一、山本良編著（三省堂）
参考書	『大学生のための文学トレーニング　近代編』河野龍也、佐藤淳一、古川裕佳、山根龍一、山本良編著（三省堂）、『昭和の文学を読む』外村彰編（ひつじ書房）、『日本の文学とことば』麻原美子編（東京堂出版）
評価の基準と方法	授業内課題（40%）、GW 等授業参加姿勢（20%）、学期末レポート（40%）で総合評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎			◎	○		

関連科目	近現代文学Ⅰ（近代）　近代文学概論
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）	GJ-M-211	科目分類（～2024年入学者）	111-331-13	授業コード	FA0290
科目名称	日本語学Ⅰ			単位数	2.0単位
英文名称	Japanese Linguistics Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	何　芸芃			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	何　芸芃			開講時期	3年
オフィスアワー	前期　火曜日 10:40～12:10　水曜日 14:40～16:10 後期　火曜日 10:40～12:10　水曜日 14:40～16:10			研究室	16-307
授業概要	小中高等学校で扱う学校文法について概観するとともに、現代の日本語文法について歴史的な言語変化という観点から理解を深める。品詞の分類、動詞・形容詞の活用、助詞・助動詞の使い方など、文法の基本的な要素を再確認し、理解を深める。また、現代日本語の特徴やその進化についても学び、実際の言語使用にどのように影響を与えているのかを考察する。				
到達目標	現代の学校文法の基礎を理解し、古典文法との関わりや日本語文法が抱える諸問題について、論理的に説明できるようになる。日本語文法の主要な項目について理解を深めることができる。日本語の歴史的な変化について理解し、その変化が現代日本語に与えた影響を説明できるようになる。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	何　芸芃	【第1回】 予習　：シラバスを熟読・学習内容を確認する 授業　：日本語学の概要、文法の基本的な概念を説明、日本語史の時代区分と古典語・現代語、現代日本語と中央語・共通語・方言 復習　：講義内容・配布資料の復習、日本語学の目的と重要性を理解する
2	何　芸芃	【第2回】 予習　：品詞分類の基本の概念を調べておく 授業　：学校文法における品詞分類と品詞名について 復習　：講義内容・配布資料の復習 学んだ品詞分類を再確認し、授業で扱った品詞を使った例文を作成してみる
3	何　芸芃	【第3回】 予習　：動詞、形容詞、助動詞の活用形の基本的なパターンを確認する 授業　：学校文法における活用と活用形、日本語の活用形の種類とその変化 復習　：講義内容・配布資料の復習 授業で学んだ活用形を整理し、実際の例文で活用の使い方を確認する
4	何　芸芃	【第4回】 予習　：提供された文章を読み、文節、単語、形態素を分けてみる 授業　：文章・文・文節・単語・形態素の定義と役割、文節・単語・形態素を分ける練習 復習　：講義内容・配布資料の復習 各単位の特徴を整理し、実際の例文を作成してみる
5	何　芸芃	【第5回】 予習　：各品詞の定義と特徴を復習する 授業　：学校文法における各品詞の概要、日本語文法における品詞の役割とその使い方の基本 復習　：講義内容・配布資料の復習 各品詞の役割を再確認し、授業中に扱った例文の品詞を識別して復習する。
6	何　芸芃	【第6回】 予習　：五段動詞、一段動詞、サ行変格動詞、カ行変格動詞の特徴と活用パターンについて調べておく。 授業　：現代語の動詞（1）―動詞の分類について、動詞の分類方法、動詞の種類や活用の特徴 復習　：講義内容・配布資料の復習 例文を使って動詞の分類と活用を再確認する
7	何　芸芃	【第7回】 予習　：古典日本語の動詞活用の基本について確認しておく 授業　：現代語の動詞（2）―活用の歴史について、古典語における動詞活用の特徴、活用の変化の流れ、古典語の動詞活用と現代語の動詞活用の比較 復習　：講義内容・配布資料の復習 古典語の動詞活用を復習し、現代語との違いを再確認する 動詞活用の歴史的な変化の流れを整理する
8	何　芸芃	【第8回】 予習　：形容詞の特徴と活用方法について確認しておく 授業　：現代語の形容詞について、形容詞の分類、形容詞の活用パターン・小テスト 復習　：講義内容・配布資料の復習 形容詞が文中でどのように機能するかを実践的に考える

9	何　芸芃	【第 9 回】 予習　：形容動詞の特徴と活用パターンについて確認しておく 授業　：現代語の形容動詞について、形容動詞の特徴と活用、形容動詞と形容詞の違い 復習　：講義内容・配布資料の復習 　　形容動詞と形容詞を使った文を作成し、その違いを説明する
10	何　芸芃	【第 10 回】 予習　：名詞と代名詞を使って文を作成しておく 授業　：現代語の名詞・代名詞について、名詞の分類、代名詞の種類、名詞・代名詞の基本的な使い方と注意点 復習　：講義内容・配布資料の復習 　　名詞と代名詞の基本的な使い方と注意点を再確認する
11	何　芸芃	【第 11 回】 予習　：副詞と連体詞の基本的な役割を確認しておく 授業　：現代語の副詞・連体詞について、副詞・連体詞の種類や使い方 復習　：講義内容・配布資料の復習 　　実践的な例文を作成し、副詞と連体詞を適切に使いこなせるようにする
12	何　芸芃	【第 12 回】 予習　：接続詞と感動詞の基本的な役割を確認しておく 授業　：現代語の接続詞・感動詞について、接続詞と感動詞の定義と種類および使い方 復習　：講義内容・配布資料の復習 　　接続詞と感動詞の集類と使い方を再確認、正しい文脈で接続詞と感動詞を使いこなせるようにする。
13	何　芸芃	【第 13 回】 予習　：助動詞とは何か、その役割について考える 授業　：現代語の助動詞について、助動詞の主要な分類、助動詞の活用と変化 復習　：講義内容・配布資料の復習 　　助動詞の活用形に注目し、それぞれのニュアンスの違いを整理する
14	何　芸芃	【第 14 回】 予習　：助詞の基本的な役割について考える 授業　：現代語の助詞（１）ー助詞の分類について、格助詞の詳細（役割とその使い方）、接続助詞・終助詞・係助詞の使い分け 復習　：講義内容・配布資料の復習 　　助詞の使い分けを復習し、文法的な視点から理解を深める。
15	何　芸芃	【第 15 回】 予習　：これまでの講義内容・配布資料の復習 授業　：日本語文法の総復習と現代日本語の特徴について・小テスト 復習　：講義全体の復習 　　日本語の変化や、言語としての進化についての理解を深める

授業開始前学習	中学校・高等学校の時に使用した口語文法・古典文法の教科書を通読すること。
授業内課題のフィードバックの方法	授業時に実施するコメントシートは、次週に解説および個別質問への回答を行う。
テキスト・教材	特定のテキストは使用せず、必要に応じてプリントを配布する。
参考書	森山卓郎『ここからはじまる日本語文法』ひつじ書房。他、授業時に適宜紹介する。
評価の基準と方法	授業内における小テスト２回（80%）、各回のコメントシート（20%）
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎			◎	○		

関連科目	日本語学Ⅱ
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）	GJ-M-221	科目分類（～2024年入学者）	111-331-13	授業コード	FA0300
科目名称	日本語学Ⅱ			単位数	2.0単位
英文名称	Japanese Linguistics Ⅱ			授業区分	講義
科目責任者	何　芸芃			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	何　芸芃			開講時期	3年
オフィスアワー	前期　火曜日 10:40～12:10　水曜日 14:40～16:10 後期　火曜日 10:40～12:10　水曜日 14:40～16:10			研究室	16-307
授業概要	本授業では、日本語の語と語彙について、さまざまな観点から取り上げる。語の音声、意味、語構成、文法、位相の違い等について、現代における指針・規則や国語教育における扱いなどを紹介するとともに、過去から現在にかけてどのような変遷をたどってきたのか、各時代の文学作品や国語辞書等の用例を示しながら具体的に解説する。				
到達目標	①日本語の単語の語種や語構成、アクセント等について正しく理解できる。②年代、性別、地域、文法、文体などを根拠として語を分類し、それぞれの語群の特性について説明できる。③国語辞書の特色や歴史を理解し、適切に辞書を使いこなせる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	何　芸芃	【第1回】 予習　：教科書の概要を読む 授業　：授業の概要説明、語彙研究の基本概念や日本語の語彙に関する歴史的背景について、参考文献の紹介 復習　：授業で取り上げた参考文献を再読する
2	何　芸芃	【第2回】 予習　：英語と日本語の「アクセント」の違いについて考える。 授業　：語の音声（音節・拍、アクセント等）とことばの意味（語義、語感等）について（教科書10頁から15頁）、日本語の音声の歴史的な変遷について（グループワーク） 復習　：日本語の共通語アクセントの規則を整理する
3	何　芸芃	【第3回】 予習　：日本語の語の構成に関する基礎的な知識を調べておく 授業　：日本語の単語の語構成について（教科書16頁から21頁）、語の形成のメカニズム（教科書22頁から25頁）、語源と語史（教科書28頁から30頁） 復習　：日常で使われている略語や新語を5つ調べ、それぞれの語源や形成の過程を整理する
4	何　芸芃	【第4回】 予習　：国立国語研究所編『分類語彙表ー増補改定版ー』を読む 授業　：日本語の語彙体系について（教科書44頁から47頁）、日本語の親族語彙・色彩語彙・身体語彙や感情語彙について（教科書48頁から55頁） 復習　：他言語と日本語の表現の違いを考え、次回の授業で共有できるようにする
5	何　芸芃	【第5回】 予習　：数詞と助数詞の使い分けと現代日本語におけるオノマトペの役割について考える 授業　：日本語の数詞・助数詞について（教科書56頁から59頁）、日本語のオノマトペについて（教科書60頁から63頁） 復習　：他言語と比較して、助数詞やオノマトペの文化的特徴を簡単に考察する
6	何　芸芃	【第6回】 予習　：「日本語Ⅰ」で学んだ日本語の品詞の基本的な特徴を再確認し、例をいくつか挙げてみる 授業　：語の分類（使い方による分類・出自による分類・文法機能による分類）について（教科書32頁から42頁） 復習　：語の分類が文法理解や語彙の運用にどのように役立つかを整理する
7	何　芸芃	【第7回】 予習　：語同士の意味関係の基本を調べる 授業　：ことばの意味について、語同士の意味関係（類義語・対義語・多義語、上位語・下位語等）について（教科書68頁から80頁）、実践問題 復習　：類義語と多義語を使った文をそれぞれ3つずつ作成し、意味や使い方の違いを再確認する
8	何　芸芃	【第8回】 予習　：文化庁「国語に関する世論調査」を読む 授業　：ことばの意味や語形が変化する原理、および語の言い換えについて（教科書82頁から93頁）意味変化・語形変化・語の交代の具体例を検討する（グループワーク） 復習　：言語の変化が文化や社会の進化とどのように関連しているかを考察する
9	何　芸芃	【第9回】 予習　：日本語における語種の変遷とその歴史的背景について簡単に調べておく 授業　：語種の変遷、和語・漢語の歴史について（教科書94頁から118頁）、和製漢語・近代新漢語の概要、実践問題 復習　：和製漢語と近代新漢語の定義と代表的な例を復習し、その歴史的背景について自分なりにまとめる

10	何　芸芃	【第 10 回】 予習　：現代日本語における外来語の定義と、どのように日本語に入ってきたのかを調べておく 授業　：外来語・混種語の概要とその歴史について（教科書 119 頁から 125 頁）、参考文献を読んで考察する（グループワーク） 復習　：外来語と混種語の特徴、歴史的背景、使われ方の違いを再確認する
11	何　芸芃	【第 11 回】 予習　：「全国方区画」について調べておく 授業　：方言と方言の歴史的背景について（教科書 126 頁から 129 頁）、集団のことば（職業語、挨拶語等）について（教科書 148 頁から 151 頁）（グループワーク） 復習　：地域のことばと集団のことばの特徴、言語的変化を再確認する
12	何　芸芃	【第 12 回】 予習　：若者言葉や女性語、男性語の特徴について調べておく、敬語の基本的な分類を確認する 授業　：年齢やジェンダーとことばの関係（若者言葉、女性語・男性語等）について（教科書 130 頁から 135 頁）、敬語のことば（敬語の分類）について（教科書 136 頁から 139 頁） 復習　：年齢やジェンダーに応じた敬語の使い分けについて考える
13	何　芸芃	【第 13 回】 予習　：日本語における名前や命名の歴史、特に人名や地名、商品名、ブランド名などにおける命名の慣習や傾向について調べておく 授業　：日本語における命名や、文芸のことばについて（教科書 152 頁から 157 頁）、新語・流行語（教科書 144 頁から 147 頁）と諺・熟語（教科書 162 頁から 164 頁）について 復習　：近現代の文学作品を読み、そこで使われた言葉や表現の特徴について再確認する 新語や流行語の意味と使い方、諺や熟語の文化的背景について復習する
14	何　芸芃	【第 14 回】 予習　：国語辞書の種類について調べる 授業　：現代の国語辞書の特色について（教科書 158 頁から 161 頁）、国語辞書の編纂方法と語の意味の変遷について（グループワーク） 復習　：語の意味が時代とともにどう変わったか、辞書の記載をもとに考察する
15	何　芸芃	【第 15 回】 予習　：近代の国語辞書「言海」について調べておく 授業　：日本における辞書の歴史について（教科書 115 頁から 117 頁、158 頁から 161 頁）、近代の国語辞書（見出しと語釈の特徴、近代国語辞書の進化）について 復習　：近代の国語辞書がどのように語釈を行うかを確認し、辞書が反映する言葉の変遷や時代背景を把握する

授業開始前学習	テキスト・参考書を通読し、不明な点を授業前に整理しておくことが望ましい。
授業内課題のフィードバックの方法	各回の授業においてコメントシートを配布し、学生から寄せられた質問や意見について、次回の授業内で紹介・回答する。
テキスト・教材	沖森卓也・木村義之・田中牧郎・陳力衛・前田直子『図解　日本の語彙』（三省堂、2011 年）
参考書	沖森卓也編著、木村一・鈴木功眞・吉田光浩著『日本語ライブラリー　語と語彙』（朝倉書店、2012 年） 他、適宜に紹介する。
評価の基準と方法	平常点（予習・復習プリントへの取り組み・30%）と定期試験の成績（70%）によって評価を行う。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎			◎	○		

関連科目	日本語学 I
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）		科目分類（～2024年入学者）	111-331-12	授業コード	FA0310
科目名称	日本文学史Ⅰ			単位数	2.0単位
英文名称	History of Japanese Literature Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	三田 誠司			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三田 誠司			開講時期	2･3･4年
オフィスアワー	前期 水曜日 14:40～16:10 木曜日 10:40～12:10 後期 水曜日 14:40～16:10 木曜日 10:40～12:10			研究室	10-611
授業概要	本講義は上代から中古までの日本の文学について通時的に学び、基礎的な知識を修得し、文学の史的展開について理解することを目的とする。具体的には『古今和歌集』などの和歌文学や『竹取物語』『源氏物語』などの物語文学など、各時代を代表するジャンルの作品を取り上げ、作品・作者について概説しながら、基礎的な知識を身につけさせるとともに、時代と作品との関連性や、文学形態の発展過程等、文学の史的展開について考察していく。				
到達目標	・各時代における主要な作品名・作者名・成立時等を正しく答えることができる。 ・上代から中古に至る文学史の流れを、各ジャンルを意識しつつ総括的に論述することができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	三田 誠司	【第1回】 予習 ：日本史の時代区分について再確認しておく 授業 ：文学史に求められるもの（授業の内容と目的に関するオリエンテーション） 復習 ：授業内容を整理し、要点をまとめる
2	三田 誠司	【第2回】 予習 ：前回配付の資料を一読しておく 授業 ：奈良時代以前の漢文系作品 復習 ：本時の内容について概要をまとめる
3	三田 誠司	【第3回】 予習 ：ミニテストに備える 授業 ：奈良時代以前の和歌とその周辺 復習 ：万葉集について概要をまとめる
4	三田 誠司	【第4回】 予習 ：ミニテストに備える 授業 ：平安時代初期の漢詩と漢文 復習 ：勅撰漢詩集や六国史について概要をまとめる
5	三田 誠司	【第5回】 予習 ：ミニテストに備える 授業 ：平安時代初期の和歌 復習 ：平安時代初期の歌人について概要をまとめる
6	三田 誠司	【第6回】 予習 ：ミニテストに備える 授業 ：平安時代初期の物語・日記 復習 ：歌物語と作り物語について概要をまとめる
7	三田 誠司	【第7回】 予習 ：ミニテストに備える 授業 ：平安時代中期の漢詩と漢文 復習 ：平安時代中期の漢詩集などについて概要をまとめる
8	三田 誠司	【第8回】 予習 ：ミニテストに備える 授業 ：平安時代中期の和歌 復習 ：平安時代中期のおもな歌人について概要をまとめる
9	三田 誠司	【第9回】 予習 ：ミニテストに備える 授業 ：平安時代中期の物語・日記（前編） 復習 ：村上朝から一条朝の物語類について概要をまとめる
10	三田 誠司	【第10回】 予習 ：ミニテストに備える 授業 ：平安時代中期の物語・日記（後編） 復習 ：一条朝以降の物語類の概要をまとめる
11	三田 誠司	【第11回】 予習 ：ミニテストに備える 授業 ：平安時代後期の漢詩・漢文 復習 ：後期の漢詩・漢文の流れを整理する

12	三田　誠司	【第 12 回】 予習　：ミニテストに備える 授業　：平安時代後期の和歌 復習　：平安時代後期の和歌について概要をまとめる
13	三田　誠司	【第 13 回】 予習　：ミニテストに備える 授業　：平安時代後期の物語・日記 復習　：平安時代後期の物語類ついて概要をまとめる
14	三田　誠司	【第 14 回】 予習　：ミニテストに備える 授業　：平安時代後期の説話・歴史物語 復習　：平安時代後期の説話作品と歴史物語の主要な作品について概要をまとめる
15	三田　誠司	【第 15 回】 予習　：ミニテストに備える 授業　：上代から中古の文学的展開（まとめ） 復習　：平安時代の文学状況全体を整理し、重要な作品の特色と意義をまとめる

授業開始前学習	様々な日本の文学作品に広く触れておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	授業内容に関するミニテストを実施、または課題を提出させ、次回以降返却する。
テキスト・教材	『日本古典文学史』乾安代ほか編　暁印書館 ほか、授業時にプリントを配布する。
参考書	
評価の基準と方法	授業内の課題（70%）、期末試験またはレポート（30%）による。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎			◎	○	○	

関連科目	古典文学概論
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）		科目分類（～2024年入学者）	111-331-12	授業コード	FA0320
科目名称	日本文学史Ⅱ			単位数	2.0単位
英文名称	History of Japanese Literature Ⅱ			授業区分	講義
科目責任者	大内 瑞恵			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	大内 瑞恵			開講時期	2・3・4年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	この授業は、中世から近世までの日本の文学作品を、読み楽しむことができることを目的とする。歴史的な流れ、作品を読解するための基本的な知識を身につけて、古典文学がいかに現代の生活に影響しているかを考察する。古代から続く「和歌」・「物語」を基本として、中世・近世において広まった「連歌」「俳諧」のおもしろさを味わっていただきたい。そして、「能」「浄瑠璃・歌舞伎」といった芸能や、近世の「小説」に至る流れを把握し、理解し、楽しむものである。				
到達目標	・中世から近世にかけての主要な作品・作者について簡潔に説明できること。 ・現代の文学・芸能への影響関係を理解し、楽しむことができること。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	大内 瑞恵	【第1回】 予習：日本の中世から近世の歴史について書籍等で概観しておく 授業：ガイダンス 講義の目的と概要、参考文献の解説、本講義に関する課題の案内 復習：課題への回答作成
2	大内 瑞恵	【第2回】 予習：勅撰和歌集、とくに『新古今和歌集』について調べておく 授業：鎌倉時代の和歌と連歌 ―連歌とは何か― 復習：鎌倉時代の和歌と連歌の歴史について整理する
3	大内 瑞恵	【第3回】 予習：鎌倉時代の主な物語などについて調べておく 授業：鎌倉時代の物語・随筆・日記 ―方丈記・十六夜日記― 復習：主な物語・日記類について概要をまとめておく
4	大内 瑞恵	【第4回】 予習：室町時代について概要を調べておく 授業：室町時代の和歌と連歌 ―宗祇・正風連歌と俳諧連歌― 復習：連衆と付合の文芸について考えたことをまとめておく
5	大内 瑞恵	【第5回】 予習：室町時代後期、戦国時代について調べておく 授業：室町時代の物語・日記・紀行・芸能 ―能・狂言・連歌師の紀行文― 復習：中世文芸の特色についてまとめる
6	大内 瑞恵	【第6回】 予習：江戸時代の歴史について概要を調べておく 授業：江戸時代前期の和歌と俳諧 ―後水尾院・堂上歌壇・貞門俳諧・談林俳諧― 復習：貞門俳諧、談林俳諧の特色についてまとめておく
7	大内 瑞恵	【第7回】 予習：江戸時代の出版事情について調べておく 授業：江戸時代前期の物語・小説 ―仮名草子・浮世草子― 復習：井原西鶴についてまとめておく
8	大内 瑞恵	【第8回】 予習：貞門俳諧・談林俳諧について特色を再確認しておく 授業：江戸時代中期の和歌と俳諧 1 ―堂上歌学批判・芭蕉の俳諧 1― 復習：芭蕉の俳風の変遷を整理する
9	大内 瑞恵	【第9回】 予習：元禄時代に活躍した芭蕉以外の俳人について調べておく 授業：江戸時代中期の和歌と俳諧 2 ―芭蕉の俳諧 2・蕉門十哲・蕉風その後・雑俳 復習：「前句付」課題に取り組む
10	大内 瑞恵	【第10回】 予習：前句付け課題に取り組む 授業：江戸時代中期の小説・芸能 ―黄表紙・洒落本など― 「前句付」課題発表（発表） 復習：江戸時代中期の小説類についてまとめておく
11	大内 瑞恵	【第11回】 予習：浄瑠璃について調べておく 授業：浄瑠璃―近松門左衛門 復習：浄瑠璃などについてまとめておく

12	大内　瑞恵	【第 12 回】 予習：歌舞伎について調べておく 授業：歌舞伎 復習：歌舞伎などについてまとめておく
13	大内　瑞恵	【第 13 回】 予習：馬琴など江戸時代後期の戯作者について調べておく 授業：江戸時代後期の小説類　ー読本・人情本・滑稽本・合巻などー 復習：江戸時代後期の小説類について要点をまとめておく
14	大内　瑞恵	【第 14 回】 予習：到達度確認テストにむけて準備する 授業：到達度確認テストと中世・近世の文学に関する意見交換 復習：テスト問題とプリントを照らし合わせ、出題箇所を確認する
15	大内　瑞恵	【第 15 回】 予習：自己のテスト解答を確認しておく 授業：到達度確認テストの講評、返却、質疑応答 復習：学修内容全体を振り返り、自己の理解度を確認する

授業開始前学習	
授業内課題のフィードバックの方法	各回の授業に対する質問・感想、第 1 回課題：次回以降の授業内で適宜言及。 前句付：第 10 回の発表時にコメント。 到達度確認テスト：第 15 回授業において講評・解説。
テキスト・教材	『日本古典文学史』乾安代ほか編　暁印書館 ほか、授業時にプリントを配布する。
参考書	授業内で適宜紹介する。
評価の基準と方法	・到達度確認テストの成績（60%） ・リアクションペーパー・前句付等の小課題（40%）
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎			◎	○	○	

関連科目	
その他	・各回の授業時、リアクションペーパーに授業を通して理解した点、質問・感想を記入。 ・記載内容は予定であり、開講時の状況や聴講者の関心・理解度に応じて変更する可能性がある。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）	GJ-M-221	科目分類（～2024年入学者）	111-331-13	授業コード	FA0330
科目名称	中国文学Ⅰ(漢文学)			単位数	2.0単位
英文名称	Chinese Literature Ⅰ (Written Chinese)			授業区分	講義
科目責任者	長谷川 清貴			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	長谷川 清貴			開講時期	3年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	中国文学（漢文学）で用いられる漢字・漢語は、日本語の必須構成要素である。日本人は文字獲得に漢字を採用し、漢字漢語を学び取り入れつつ日本語を発展させた。また、日本人の教育・教養において中国文学は長く重要な地位を占め、知識のみならず人生や政治の指針を得る対象であった。現代では相対的に地位は低下しているが、今なお中国文学を学ぶことは、日本語を見つめる上でも、生き方を考える上でも大切である。本授業は、漢字漢語・中国文学の基本内容と訓読法、あわせて教科教育としての国語・漢文に必要な知識について解説する。				
到達目標	1、漢字・漢語の特徴について理解し、正しい訓読ができる力を身につける。 2、中国の文学・歴史・思想について基本的な知識を獲得する。 3、日本語・日本文学と漢語・中国文学の関係について理解する。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	長谷川 清貴	【第1回】 予習：教科書『精講 漢文』第一章「漢文入門」第一節「漢字」を熟読する 授業：中国文学の特質と日本との関係 復習：授業内容についてまとめる
2	長谷川 清貴	【第2回】 予習：教科書『精講 漢文』第一章第二節「音韻」・第三節「文法」を熟読する 授業：漢語・中国語と日本語とのちがい ／ 訓読の基礎 （グループワーク有り） 復習：漢語の特徴・日本語とのちがいについてまとめる
3	長谷川 清貴	【第3回】 予習：教科書『精講 漢文』第三章「詩文」第一節「詩の形式」を読む 授業：詩の意義 ／『詩経』1 （グループワーク有り） 復習：『詩経』の作品の内容についてまとめる
4	長谷川 清貴	【第4回】 予習：教科書『精講 漢文』第三章「詩文」第四節一「詩経」を読む 授業：『詩経』2 （ディスカッション有り） 復習：『詩経』の作品の内容についてまとめる
5	長谷川 清貴	【第5回】 予習：教科書『精講 漢文』第二章「歴史」第一節「王朝の交替」一・二を読む 授業：春秋戦国時代と諸子百家の文章(1)『論語』1 （グループワーク有り） 復習：春秋戦国時代の特徴についてまとめる
6	長谷川 清貴	【第6回】 予習：教科書『精講 漢文』第五章「思想」第一節「孔子の思想」三・四を読む 授業：諸子百家の文章(2)『論語』2 （ディスカッション有り） 復習：『論語』の内容についてまとめる
7	長谷川 清貴	【第7回】 予習：教科書『精講 漢文』第五章第二節「諸子百家」一・二を読む 授業：諸子百家の文章(3)『孟子』『荀子』 （ディスカッション有り） 復習：『孟子』『荀子』についてまとめる
8	長谷川 清貴	【第8回】 予習：中間試験対策 授業：中間試験 ／ 諸子百家の文章(4)『韓非子』 復習：『韓非子』についてまとめる
9	長谷川 清貴	【第9回】 予習：教科書『精講 漢文』第五章第二節「諸子百家」三・七を読む 授業：諸子百家の文章(5)『老子』『荘子』『墨子』 （ディスカッション有り） 復習：『老子』『荘子』『墨子』についてまとめる
10	長谷川 清貴	【第10回】 予習：教科書『精講 漢文』第三章第五節「漢魏の詩文」・第六節「六朝の詩文」を読む 授業：統一国家の到来と「古詩十九首」 復習：「古詩十九首」の特徴についてまとめる

11	長谷川 清貴	【第 11 回】 予習：教科書『精講 漢文』第二章第二節「中国史の知識」を読む 授業：唐詩(1) 近体詩の規則と特徴 （グループワーク有り） 復習：唐詩の規則・科挙についてまとめる
12	長谷川 清貴	【第 12 回】 予習：教科書『精講 漢文』第三章第七節「唐の詩文」一を読む 授業：唐詩(2) 詩の主要テーマ （ディスカッション有り） 復習：鑑賞した唐詩についてまとめる
13	長谷川 清貴	【第 13 回】 予習：教科書『精講 漢文』第三章第七節「唐の詩文」二を読む 授業：唐詩(3) 李白と杜甫 （ディスカッション有り） 復習：李白と杜甫の作品の特徴・安史の乱についてまとめる
14	長谷川 清貴	【第 14 回】 予習：教科書『精講 漢文』第三章第七節「唐の詩文」三を読む 授業：唐詩(4) 白居易 （ディスカッション有り） 復習：白居易の作品と特徴についてまとめる
15	長谷川 清貴	【第 15 回】 予習：教科書『精講 漢文』第六章「日本の漢文学」第二節「平安時代の漢文学」を読む 授業：日本の漢詩文 平安時代の漢文学 （ディスカッション有り） 復習：平安時代の漢文学の特徴についてまとめる

授業開始前学習	基本的に「教科書によるテーマ概要の理解 → 掲出資料で具体的に作品を読み、考え、議論する」サイクルで進める。指定された教科書本文や掲出資料を読み込んだ上で臨んでほしい。
授業内課題のフィードバックの方法	授業時に実施する小テスト・課題については、採点・評価して次回授業時に返却する。
テキスト・教材	・前野直彬『精講 漢文』ちくま学芸文庫 ※その他、教科書指定はしないが、漢和辞典を持参のこと。電子辞書・スマホアプリ等手段は問わないが、漢字情報だけでなく、付録も収録されているものが望ましい。詳しくは初回授業時に説明する。
参考書	・戸川芳郎他『全訳 漢辞海（第四版）』三省堂（漢和辞典で推薦するもの） ・興膳宏『中国名文選』岩波書店（岩波新書） ・川合康三『漢詩のレッスン』 岩波書店（岩波ジュニア新書） ・一海知義『漢詩一日一首 春』平凡社（平凡社ライブラリー）
評価の基準と方法	小テスト・授業課題 25 点、中間試験 25 点、授業態度 15 点、定期試験 35 点
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎			◎		○	

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	111-331-13	授業コード	FA0340
科目名称	中国文学Ⅱ(漢文学)			単位数	2.0 単位
英文名称	Chinese LiteratureⅡ（Written Chinese）			授業区分	講義
科目責任者	長谷川 清貴			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	長谷川 清貴			開講時期	3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	前期「中国文学Ⅰ（漢文学）」に引き続き、中国文学の基本的内容を解説する（「中国文学Ⅰ」の内容はごく要約して示すが、履修しておくことが望ましい）が、後期ではそれに加えて、教科教育としての国語・漢文において、これまでの学修内容をいかに活用して漢字・漢文を教えるかについても探究する。実際の教材に即して調査し、読解・鑑賞することを通して、基礎知識を応用し、総合的に発展させることを目指す。				
到達目標	1、中国の文学・歴史・思想について基本的な知識を獲得し、その関係を理解する。 2、教科教育における漢字・漢文の活用の方法を考え、修得する。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	長谷川 清貴	【第 1 回】 予習：教科書『精講 漢文』第二章「歴史」第三節二「史記」を読む 授業：司馬遷と『史記』 復習：授業内容についてまとめる
2	長谷川 清貴	【第 2 回】 予習：掲出資料を熟読する 授業：『史記』で史伝を読む(1) （グループワーク有り） 復習：授業内容についてまとめる
3	長谷川 清貴	【第 3 回】 予習：掲出資料を熟読する 授業：『史記』で史伝を読む(2) （ディスカッション有り） 復習：授業内容についてまとめる
4	長谷川 清貴	【第 4 回】 予習：掲出資料を熟読する 授業：『史記』で史伝を読む(3) （ディスカッション有り） 復習：授業内容についてまとめる
5	長谷川 清貴	【第 5 回】 予習：掲出資料を熟読する 授業：『史記』で史伝を読む(4) （グループワーク有り） 復習：授業内容についてまとめる
6	長谷川 清貴	【第 6 回】 予習：掲出資料を熟読する 授業：『史記』で史伝を読む(5) （グループワーク有り） 復習：授業内容についてまとめる
7	長谷川 清貴	【第 7 回】 予習：掲出資料を熟読する 授業：『史記』で史伝を読む(6) （ディスカッション有り） 復習：授業内容についてまとめる
8	長谷川 清貴	【第 8 回】 予習：掲出資料を熟読する 授業：『史記』で史伝を読む(7) （ディスカッション有り） 復習：授業内容についてまとめる
9	長谷川 清貴	【第 9 回】 予習：教科書『精講 漢文』第五章「思想」第一節「孔子の思想」を読む 授業：『論語』を考える (1) （グループワーク有り） 復習：授業内容についてまとめる
10	長谷川 清貴	【第 10 回】 予習：掲出資料を熟読する 授業：『論語』を考える (2) （グループワーク有り） 復習：授業内容についてまとめる
11	長谷川 清貴	【第 11 回】 予習：掲出資料を熟読する 授業：『論語』を考える (3) （ディスカッション有り） 復習：授業内容についてまとめる

12	長谷川　清貴	【第 12 回】 予習：掲出資料を熟読する 授業：『論語』を考える (4)　（ディスカッション有り） 復習：授業内容についてまとめる
13	長谷川　清貴	【第 13 回】 予習：教科書『精講　漢文』第六章「日本の漢文学」第三・四節を読む 授業：日本の漢文学(1)　（グループワーク有り） 復習：授業内容についてまとめる
14	長谷川　清貴	【第 14 回】 予習：掲出資料を熟読する 授業：日本の漢文学(2)　（ディスカッション有り） 復習：授業内容についてまとめる
15	長谷川　清貴	【第 15 回】 予習：掲出資料を熟読する 授業：漢文・漢文学と現代日本　（ディスカッション有り） 復習：授業内容についてまとめる

授業開始前学習	基本的に「教科書によるテーマ概要の理解　→　掲出資料で具体的に作品を読み、考え、議論する」サイクルで進める。指定された教科書本文や掲出資料を読み込んだ上で臨んでほしい。
授業内課題のフィードバックの方法	授業時に実施する小テスト・課題については、採点・評価して次回授業時に返却する。
テキスト・教材	前野直彬『精講　漢文』ちくま学芸文庫 ※その他、教科書指定はしないが、漢和辞典を持参のこと。電子辞書・スマホアプリ等手段は問わないが、漢字情報だけでなく、付録も収録されているものが望ましい。詳しくは初回授業時に説明する。
参考書	・戸川芳郎他『全訳　漢辞海（第四版）』三省堂（漢和辞典で推薦するもの） ・興膳宏『中国名文選』岩波書店（岩波新書） ・宮崎市定『史記を語る』岩波書店（岩波文庫） ・下村湖人『論語物語』講談社（講談社学術文庫）
評価の基準と方法	小テスト 30 点、授業課題 30 点、授業態度 40 点
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎			◎		○	

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	GJ-M-221	科目分類（～2024 年入学者）	111-331-12（2022 年～入学者） 111-330-12（～2021 年入学者）	授業コード	FA0350
科目名称	日本史Ⅰ(古代)			単位数	2.0 単位
英文名称	Japanese History Ⅰ （Ancient）			授業区分	講義
科目責任者	市川 理恵			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	市川 理恵			開講時期	2･3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	奈良・平安時代の歴史を六国史や古記録、木簡、正倉院文書などを用いて解説します。長屋王の変や天然痘の大流行、平城上皇の変・菅原道真の左遷など政治史上、有名な事件を取り上げ、これらの事件が奈良・平安時代の政治史のなかで、どのように位置づけられるのかを解説します。				
到達目標	史料が読めるようになること、さらに史料を引用して論述できるようになる。 また古代の政治史に関する知識を、一通り習得できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	市川 理恵	【第 1 回】 予習：厩戸皇子について調べる 授業：厩戸皇子とその政治 復習：配布資料「厩戸皇子とその政治」を読む
2	市川 理恵	【第 2 回】 予習：長屋王について調べる 授業：長屋王の変と『長屋王家木簡』 復習：配布資料「長屋王の変と『長屋王家木簡』」を読む
3	市川 理恵	【第 3 回】 予習：天然痘について調べる 授業：天然痘流行と奈良時代の医療 復習：配布資料「天然痘流行と奈良時代の医療」を読む
4	市川 理恵	【第 4 回】 予習：防人について調べる 授業：農民の暮らし 復習：配布資料「農民の暮らし」を読む
5	市川 理恵	【第 5 回】 予習：聖武天皇について調べる 授業：大仏開眼会と正倉院宝物 復習：配布資料「大仏開眼会と正倉院宝物」を読む
6	市川 理恵	【第 6 回】 予習：藤原仲麻呂について調べる 授業：正倉院文書の世界 復習：配布資料「正倉院文書の世界」を読む
7	市川 理恵	【第 7 回】 予習：桓武天皇について調べる 授業：桓武朝の遷都と征夷 復習：配布資料「桓武朝の遷都と征夷」を読む
8	市川 理恵	【第 8 回】 予習：藤原薬子について調べる 授業：平城上皇の変 復習：配布資料「平城上皇の変」を読む
9	市川 理恵	【第 9 回】 予習：藤原基経について調べる 授業：藤原良房・基経の権力掌握 復習：配布資料「藤原良房・基経の権力掌握」を読む
10	市川 理恵	【第 10 回】 予習：菅原道真について調べる 授業：菅原道真と藤原時平 復習：配布資料「菅原道真と藤原時平」を読む

11	市川　理恵	【第 11 回】 予習：藤原道長について調べる 授業：摂関政治と儀式書 復習：配布資料「摂関政治と儀式書」を読む
12	市川　理恵	【第 12 回】 予習：赤染衛門について調べる 授業：『大鏡』『栄花物語』と摂関政治 復習：配布資料「『大鏡』『栄花物語』と摂関政治」を読む
13	市川　理恵	【第 13 回】 予習：安倍晴明について調べる 授業：　陰陽道・末法思想と浄土信仰 復習：配布資料「末法思想と浄土信仰」を読む
14	市川　理恵	【第 14 回】 予習：藤原頼通について調べる 授業：院政の成立 復習：配布資料「院政の成立」を読む
15	市川　理恵	【第 15 回】 予習：これまでの配布資料を一通り読む 授業：日本古代の政治・社会・文化の統括 復習：授業の内容を回ごとにまとめておく

授業開始前学習	奈良・平安時代の歴史を学習しておくと授業が理解しやすい。
授業内課題のフィードバックの方法	毎回、「授業の感想・質問」を提出する。質問は次回の授業で回答する。
テキスト・教材	毎回、資料を配付する。
参考書	
評価の基準と方法	定期試験の成績（70%）と授業態度（30%）で評価を行う。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			◎	◎		

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	GJ-M-221	科目分類（～2024 年入学者）	111-331-12（2022 年～入学者） 111-330-12（～2021 年入学者）	授業コード	FA0360
科目名称	日本史Ⅱ(中世)			単位数	2.0 単位
英文名称	Japanese History Ⅱ （Middle Ages）			授業区分	講義
科目責任者	今野 慶信			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	今野 慶信			開講時期	2･3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	日本中世社会の諸相について、近年の研究動向を紹介しつつ、様々な視点と切り口から講義していく。				
到達目標	日本の中世社会について理解を深め、日本中世社会の特質について説明できるようになる。同時に歴史学の醍醐味と可能性を知り、現代社会との比較を意識した自分なりの興味と関心を身に付ける。				

アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	今野 慶信	【第 1 回】 予習 ：日本の中世社会について調べ、自分なりに考えておく。 授業 ：中世の日本社会とは 復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、日本の中世社会について参考書等から捕捉しておく。
2	今野 慶信	【第 2 回】 予習 ：中世の国家権力を握る朝廷・幕府・大寺社など中世の「権門」について調べ、自分なりに考えておく。 授業 ：中世国家論 復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、日本中世の国家について参考書等から捕捉しておく。
3	今野 慶信	【第 3 回】 予習 ：手工業者を始め、分業が進んだ中世の職人について調べ、自分なりに考えておく。 授業 ：中世の職人たち 復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、中世の職人たちについて参考書等から捕捉しておく。
4	今野 慶信	【第 4 回】 予習 ：中世の武士について調べ、自分なりに考えておく。 授業 ：中世武士論 復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、中世の武士について参考書等から捕捉しておく。
5	今野 慶信	【第 5 回】 予習 ：中世の合戦について調べ、自分なりに考えておく。 授業 ：いくさの作法 復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、中世の合戦について参考書等から捕捉しておく。
6	今野 慶信	【第 6 回】 予習 ：日本の家族の歴史、中世の女性の歴史について調べ、自分なりに考えておく。 授業 ：中世の家族・女性 復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、中世の女性・婚姻について参考書等から捕捉しておく。
7	今野 慶信	【第 7 回】 予習 ：中世武士団の内部構造について調べ、自分なりに考えておく。 授業 ：総領制 復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、武士団の構造について参考書等から捕捉しておく。
8	今野 慶信	【第 8 回】 予習 ：現代の人生儀礼について調べ、自分なりに考えておく。 授業 ：中世人の人生儀礼 復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、武士を始めとする中世人の一生について参考書等から捕捉しておく。
9	今野 慶信	【第 9 回】 予習 ：現代の年中行事について、その由来などを調べ、自分なりに考えておく。 授業 ：中世武家の年中行事 復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、中世武家の年中行事について参考書等から捕捉しておく。
10	今野 慶信	【第 10 回】 予習 ：中世の法律・裁判について調べ、自分なりに考えておく。 授業 ：中世の罪と罰 復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、中世の法思想について参考書等から捕捉しておく。

11	今野　慶信	【第 11 回】 予習　：中世の宗教について調べ、自分なりに考えておく。 授業　：中世宗教史 復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、中世人の信仰生活について参考書等から捕捉しておく。
12	今野　慶信	【第 12 回】 予習　：中世に起源を持つ古典芸能等について調べ、自分なりに考えておく。 授業　：中世芸能史 復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、中世の女性芸能人について参考書等から捕捉しておく。
13	今野　慶信	【第 13 回】 予習　：地域的特徴を持つ風習や慣習等について調べ、自分なりに考えておく。 授業　：東国の風習 復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、中世東国の歴史的風土について参考書等から捕捉しておく。
14	今野　慶信	【第 14 回】 予習　：「武士道」について調べ、自分なりに考えておく。 授業　：「武士道」と中世 復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、中世武士の思想について参考書等から捕捉しておく。
15	今野　慶信	【第 15 回】 予習　：武士の名前について調べ、自分なりに考えておく。 授業　：武士の名字と名乗り 復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、名字と名乗りについて参考書等から捕捉しておく。

授業開始前学習	中学・高校で学んだ日本中世史（平安末期～戦国時代）について復習しておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	出席を兼ねたレポートについては、実施の 1 週後に講評を行う。
テキスト・教材	プリントを配布する。
参考書	その都度、紹介する。
評価の基準と方法	授業内のレポート等で評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			◎	◎		

関連科目	
その他	授業の進捗状況などによって、内容を変更することがある。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	GJ-M-221 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	111-331-12（2022 年～入学者） （Ｊ） 111-330-12（～2021 年入学者）（Ｊ）	授業コード	FA0370
科目名称	日本史Ⅲ(近世)			単位数	2.0 単位
英文名称	Japanese HistoryⅢ（recent times）			授業区分	講義
科目責任者	鍋本 由徳			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鍋本 由徳			開講時期	2･3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	この講義は，日本史，特に近世史について学びます。時間を追いながら学ぶ箇所もありますが，各回にトピックを設け，人々の生活や考え方，政治や外交，社会変化や経済の特徴，文化の特質などを扱います。幕府史料や地方史料だけではなく，絵画などを利用してさまざまな角度から近世を読み解きます。近世という時代がどのような時代か，私たちが生きる今との違いを理解しながら，江戸時代の人々の生き様や考え方などを学びます。基本的に全ての授業でインターネットアンケートを利用した意見交換（投稿者非表示）を実施して情報共有します。				
到達目標	日本近世史を知るために必要な基本的な用語・制度を身につけ，説明できるようになる。近代を導く前提としての時代を考えるために，歴史資料を読み解く力を身につけ，解釈の多様性を理解できるようになる。身につけた知識と技能・学びの姿勢を活用して，さまざまな歴史的なできごとに関する「原因→経過→結果，意義」を意識化し、批判的視点を持って歴史を把握できるようになる。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	鍋本 由徳	【第１回】 予習：近世史の時期範囲と，どこに画期があるのかを調べる。 授業：近世とはどのような時代か –中世から近世へ– 復習：講義全体の概要を振り返り，今後の自身の学修イメージをつくる。
2	鍋本 由徳	【第２回】 予習：教科書第２章を読み，事前配付の学修シートに取り組む。 授業：関ヶ原合戦から徳川政権樹立の課題 –豊臣 VS 徳川からの脱却– 復習：徳川家康の意図を整理し，小テスト・事後学修シートにて理解を深める。
3	鍋本 由徳	【第３回】 予習：教科書第３章を読み，事前配付の学修シートに取り組む。 授業：豊臣と徳川との二重公儀体制 –主家としての豊臣家– 復習：二重公儀論の問題を整理し，小テスト・事後学修シートにて理解を深める。
4	鍋本 由徳	【第４回】 予習：教科書第４章を読み，事前配付の学修シートに取り組む。 授業：徳川政権初期と西洋人 –西洋人の権力認識– 復習：外国人による政権認識を整理し，小テスト・事後学修シートにて理解を深める。
5	鍋本 由徳	【第５回】 予習：教科書第５章を読み，事前配付の学修シートに取り組む。 授業：司法からみる江戸時代の特質 –法令の特徴と裁判– 復習：法令や裁判の特徴を整理し，小テスト・事後学修シートにて理解を深める。
6	鍋本 由徳	【第６回】 予習：教科書第６章を読み，事前配付の学修シートに取り組む。 授業：身分制度と社会 –「士農工商」の誤解– 復習：江戸時代の身分を整理し，小テスト・事後学修シートにて理解を深める。
7	鍋本 由徳	【第７回】 予習：教科書第７章を読み，事前配付の学修シートに取り組む。 授業：「老中制」にみる組織化 –武家官僚の性格– 復習：「老中制」形成過程を整理し，小テスト・事後学修シートにて理解を深める。
8	鍋本 由徳	【第８回】 予習：教科書第８章を読み，事前配付の学修シートに取り組む。 授業：江戸時代の金銭認識 –両替問題と通貨統一– 復習：三貨制度を整理し，小テスト・事後学修シートにて理解を深める。
9	鍋本 由徳	【第９回】 予習：教科書第９章を読み，事前配付の学修シートに取り組む。 授業：三大改革の特徴と内憂外患 –幕府政治の矛盾– 復習：三大改革の流れと特徴を整理し，小テスト・事後学修シートにて理解を深める。

10	鍋本　由徳	【第 10 回】 予習：教科書第 10 章を読み，事前配付の学修シートに取り組む。 授業：伝説・伝承が導く民衆の社会　–地域形成のあり方– 復習：佐倉惣五郎にみられる伝承の歴史化を整理し，小テスト・事後学修シートにて理解を深める。
11	鍋本　由徳	【第 11 回】 予習：教科書第 11 章を読み，事前配付の学修シートに取り組む。 授業：江戸時代における情報と文化　–出版と行動– 復習：出版事情と行動（旅や物見遊山）を整理し，小テスト・事後学修シートにて理解を深める。
12	鍋本　由徳	【第 12 回】 予習：教科書第 12 章を読み，事前配付の学修シートに取り組む。 授業：外国人の旅と「観光」 –17 世紀西洋人の日本観– 復習：西洋人の観た日本観を整理し，小テスト・事後学修シートにて理解を深める。
13	鍋本　由徳	【第 13 回】 予習：教科書第 13 章を読み，事前配付の学修シートに取り組む。 授業：「鎖国」と日本型華夷秩序の成立　–西洋史との対比– 復習：「鎖国」論の成立と内容を整理し，小テスト・事後学修シートにて理解を深める。
14	鍋本　由徳	【第 14 回】 予習：教科書第 14 章を読み，事前配付の学修シートに取り組む。 授業：江戸時代の女性　–春日局と奥の世界– 復習：女性の政治参画と春日局の活動を整理し，小テスト・事後学修シートにて理解を深める。
15	鍋本　由徳	【第 15 回】 予習：教科書第 15 章を読み，かつ第 1 回から第 14 回までの要点をまとめておく。 授業：武家社会の歴史認識　–御恩と奉公の再認識– 復習：幕府や大名家の歴史編纂過程を整理し，全 15 回講義全体の理解を深める。

授業開始前学習	岩波新書『シリーズ日本近世史』などの概説書を読んでおくと授業内容にアプローチしやすくなる。大学入学までに日本史を充分に学習していない受講生は、高校教科書（日本史 B）の内容を一読しておきたい。
授業内課題のフィードバックの方法	1 回から 14 回に実施する小テストの解説は，小テスト（Google フォーム）提出後にフィードバックが送られます。小テストの正答率と，各回 5 項目の到達度（自己評価）の平均値を，次回授業冒頭で示し，理解度の低い箇所を補説します。最終回にて、1 回から 14 回までの小テスト・理解度を示したプリントを配布し，自身の理解を振り返ることができるようにします。
テキスト・教材	駒沢女子大学教科書シリーズ『日本史Ⅲ（近世）』を利用します。
参考書	『シリーズ日本近世史』（岩波新書　全 5 冊　2015 年） 『日本近世の歴史』（吉川弘文館　全 6 冊　2011～13 年）
評価の基準と方法	定期試験 60%，平常点 40%、合計 100%で評価します（合計で 100%の評価は、原則として欠席がないことを前提としています）。なお，平常点は、Classroom 上でおこなう理解度チェック（小テスト）と授業への参加度（リアクション）に相当します。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			◎	◎		

関連科目	歴史的なできごとに関する解釈・方法や歴史的意義などを学ぶため，日本文化や歴史に関わる科目に関連する。
その他	毎回の講義終了後に，Google フォームを使った当該講義にかかる小テスト（理解度チェック）をおこないます。設定した締切を過ぎると採点対象外となりますから、授業当日にテストを受けてください。 学界上の研究状況変化により，教科書での内容や講義内容が若干変更する場合もあります。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	自治体史専門調査員としての経験を活かし，日本の近世史について講義する。

科目分類（2025 年～入学者）	GJ-M-221 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	111-331-12（2022 年～入学者） （Ｊ） 111-330-12（～2021 年入学者）（Ｊ）	授業コード	FA0380
科目名称	日本史Ⅳ(近現代)			単位数	2.0 単位
英文名称	Japanese HistoryⅣ（Modern）			授業区分	講義
科目責任者	鍋本 由徳			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鍋本 由徳			開講時期	2･3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	この講義は，日本史のなかの特に近現代史について学びます。原則として，1～12 回は明治～戦後の主要トピックを時系列に沿って，13～15 回をテーマ史として展開します。政治や外交，社会運動や文化などから多角的に考えます。近代史資料の特性を活かし，文字資料のほかに，絵画資料・映像資料・音声資料などの視聴覚資料を多用して近現代を読み解きます。明治維新から戦後にかけた 150 年で日本は大きく変化します。前近代と異なる明治・大正・昭和の複雑さやおもしろさを知り，現代日本が抱える問題の背景を考えます。基本的に全ての授業でインターネットアンケートを利用した意見交換（投稿者非表示）を実施して情報共有します。					
到達目標	日本近現代史を知るために必要な基本的な用語・制度を身につけ，説明できるようになる。現代につながる近代国家形成ならびに展開を考えるために，各種資料を使う力を身につけ，解釈の多様性を理解できるようになる。身につけた知識と技術・態度を活用して，できごとに関わる「原因、経過、結果」「意義」を意識化し、批判的視点を持って歴史を把握できるようになる。					
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	鍋本 由徳	【第 1 回】 予習：江戸時代（19 世紀以後）の流れを事前に調べておく。 授業：幕末・維新期の混乱 －王政復古－ 復習：倒幕をめぐる諸階層の理解を整理し，小テスト・事後学修シートにて理解を深める。
2	鍋本 由徳	【第 2 回】 予習：教科書第 2 章を読み，事前配付の学修シートに取り組む。 授業：近代日本の成立と自由民権運動 －江戸時代の払拭－ 復習：民権運動の画期と特徴を整理し，小テスト・事後学修シートにて理解を深める。
3	鍋本 由徳	【第 3 回】 予習：教科書第 3 章を読み，事前配付の学修シートに取り組む。 授業：帝国議会の開設と対外関係問題 －条約改正－ 復習：条約改正の流れを整理し，小テスト・事後学修シートにて理解を深める。
4	鍋本 由徳	【第 4 回】 予習：教科書第 4 章を読み，事前配付の学修シートに取り組む。 授業：日清・日露戦争 －政権と政党との対立・協調－ 復習：両戦争に対する国民理解を整理し，小テスト・事後学修シートにて理解を深める。
5	鍋本 由徳	【第 5 回】 予習：教科書第 5 章を読み，事前配付の学修シートに取り組む。 授業：明治における文化と教育 －唱歌の成立と変容－ 復習：唱歌成立の契機と転換を整理し，小テスト・事後学修シートにて理解を深める。
6	鍋本 由徳	【第 6 回】 予習：教科書第 6 章を読み，事前配付の学修シートに取り組む。 授業：近代における女性像 －「イエ」制度と教育との関わり－ 復習：男女同権の理念と明治教育を整理し，小テスト・事後学修シートにて理解を深める。
7	鍋本 由徳	【第 7 回】 予習：教科書第 7 章を読み，事前配付の学修シートに取り組む。 授業：大正デモクラシーと護憲運動 復習：護憲運動の展開を整理し，小テスト・事後学修シートにて理解を深める。
8	鍋本 由徳	【第 8 回】 予習：教科書第 8 章を読み，事前配付の学修シートに取り組む。 授業：第一次世界大戦前後の国民 －米騒動と都市問題－ 復習：米騒動が起こった背景を整理し，小テスト・事後学修シートにて理解を深める。
9	鍋本 由徳	【第 9 回】 予習：教科書第 9 章を読み，事前配付の学修シートに取り組む。 授業：大日本帝国が抱える矛盾 －英米関係と立憲君主制度－ 復習：日本の対英米理解を整理し，小テスト・事後学修シートにて理解を深める。

10	鍋本　由徳	【第 10 回】 予習：教科書第 10 章を読み，事前配付の学修シートに取り組む。 授業：戦時中の国民生活　–メディアとの関わり– 復習：国民が知り得た情報を整理し，小テスト・事後学修シートにて理解を深める。
11	鍋本　由徳	【第 11 回】 予習：教科書第 11 章を読み，事前配付の学修シートに取り組む。 授業：終戦　–戦争末期から占領へ– 復習：占領政策と日本政府の対応を整理し，小テスト・事後学修シートにて理解を深める。
12	鍋本　由徳	【第 12 回】 予習：教科書第 12 章を読み，事前配付の学修シートに取り組む。 授業：戦後日本の民主化　–民主化への道– 復習：主に経済政策を整理し，小テスト・事後学修シートにて理解を深める。
13	鍋本　由徳	【第 13 回】 予習：教科書第 13 章を読み，事前配付の学修シートに取り組む。 授業：高度経済成長　–住宅・都市開発の観点– 復習：鉄道建設と土地開発の関係を整理し，小テスト・事後学修シートにて理解を深める。
14	鍋本　由徳	【第 14 回】 予習：教科書第 14 章を読み，事前配付の学修シートに取り組む。 授業：映画による近現代史理解と課題　–刷り込み–　（ミニディスカッション予定） 復習：映画がもたらす歴史理解の問題点を整理し，小テスト・事後学修シートにて理解を深める。
15	鍋本　由徳	【第 15 回】 予習：教科書第 15 章を読み，事前配付の学修シートに取り組む。 授業：戦後日本の歴史観　–皇国史観からの脱却– 復習：科学的歴史学による影響を整理し，小テスト・事後学修シートにて理解を深める。

授業開始前学習	岩波新書『シリーズ日本近現代史』などの概説書を読んでおくと授業内容にアプローチしやすくなる。大学入学までに日本史を充分に学習していない受講生は，授業計画（１～12 回）については高校教科書（日本史 B）の内容を一読しておきたい。13～15 回のテーマ史は，東京急行電鉄（東急）や大学が所在する稲城を走る京王電鉄の歴史，戦後間もなく制作された戦争映画や日本軍のことについて描いた中国映画，高校教科書問題について事前に調べておくとよい。
授業内課題のフィードバックの方法	1 回から 14 回に実施する小テストの解説は，小テスト（Google フォーム）からのフィードバックでおこないます。小テストの正答率と，各回 5 項目の到達度（自己評価）の平均値を，次回授業時に公開し、理解度の低い箇所を補説します。最終回にて，1 回から 14 回までの小テスト・理解度全体を示したプリントを配布し，本科目の振り返りをおこないます。
テキスト・教材	駒沢女子大学教科書シリーズ『日本史Ⅳ（近現代）』を利用します。
参考書	『シリーズ日本近現代史』（岩波新書　全 10 冊　2006～2010 年） 『日本近代の歴史』（吉川弘文館　全 6 冊　2016～17 年）
評価の基準と方法	定期試験 60%，平常点 40%、合計 100%で評価します（合計で 100%の評価は、原則として欠席がないことを前提としています）。なお，平常点は、Classroom 上でおこなう理解度チェック（小テスト）と授業への参加度（リアクション）に相当します。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			◎	◎		

関連科目	歴史的なできごとに関する解釈・方法や歴史的意義などを学ぶため，日本文化や歴史に関わる科目に関連する。
その他	毎回の授業終了時に、フォームを使った当該講義の小テスト（理解度確認）をおこないます。 学界上の研究状況変化により，教科書での内容や講義内容が変わる場合があります。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	自治体史専門調査員としての経験を活かし，日本の近現代史について講義する。

科目分類（2025年～入学者）	GJ-M-221 （J）	科目分類（～2024年入学者）	111-331-12 （J）	授業コード	FA0390
科目名称	日本文化史Ⅰ			単位数	2.0単位
英文名称	History of Japanese Culture Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	亀川 泰照			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	亀川 泰照			開講時期	2年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	本講義では、文化が表れる場や人々の関係に着目しながら、日本の文化に関する基礎的事象を学ぶ。各回、神仏に関わる文化（現象）に関するキーワードを挙げながら通史的に紹介していく。あわせて文化を捉えるための方法や基本的な考え方も紹介していく。				
到達目標	1.文化を理解するための視座を修得する。 2.日本文化の歴史知識を身につける。 3.宗教と文化と人間の関係について歴史的に理解する。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	亀川 泰照	【第1回】 予習 ：「文化」・「文明」・「宗教」の語句を調べる 授業 ：文化と文明と宗教 復習 ：配布されたプリントを再読し、授業内容を確認する。
2	亀川 泰照	【第2回】 予習 ：「風流」（ふりゅう）・「過差」（かさ）という言葉について調べる 授業 ：風流・過差 日本文化を通底する風流という価値観、またしばしばみられる過剰さについて学ぶ 復習 ：配布されたプリントを再読し、授業内容を確認する。
3	亀川 泰照	【第3回】 予習 ：「祭」・「祭礼」という言葉について調べる 授業 ：祭礼 日本文化を考えるにあたって、比較的資料が残っており、事例としやすい祭礼について学ぶ 復習 ：配布されたプリントを再読し、授業内容を確認する。
4	亀川 泰照	【第4回】 予習 ：「神話」という言葉について調べる 授業 ：神話 神が現実社会でどのように受容されていたのか、神楽や山車人形を通じて学ぶ。また目に見えないものと人間社会について検討するとともに他者（外国人）の目と文化の変容についても考える。 復習 ：配布されたプリントを再読し、授業内容を確認する。
5	亀川 泰照	【第5回】 予習 ：「芸能」という語句についてリサーチし、考える。 授業 ：芸能 それぞれの時代にとける芸能の社会的位置付けや芸能の場が成立する諸条件など、権力関係を視野に収めながら考える。 復習 ：配布されたプリントを再読し、授業内容を確認する。
6	亀川 泰照	【第6回】 予習 ：「場」という語句について調べ、考えてくる 授業 ：「場」の考え方 前近代社会に存在していた空間について考える。また現在の状況も紹介する。 復習 ：配布されたプリントを再読し、授業内容を確認する。
7	亀川 泰照	【第7回】 予習 ：道の諸機能について調べ、考えてくる 授業 ：空間の文化史 道の利用方法の諸類型を通じて、空間や「仮設」という概念について考える。 復習 ：配布されたプリントを再読し、授業内容を確認する。
8	亀川 泰照	【第8回】 予習 ：「飾り」という語句について調べ、考えてくる。 授業 ：仮設の文化史 飾りの機能について考える。また、「仮設」という概念についても学ぶ。 復習 ：配布されたプリントを再読し、授業内容を確認する。
9	亀川 泰照	【第9回】 予習 ：「造り物」という語句について調べ、考える。 授業 ：仮設の文化史 造り物が現れる時と場、その機能を通じて、「仮設」という概念を考える 復習 ：配布されたプリントを再読し、授業内容を確認する。
10	亀川 泰照	【第10回】 予習 ：「境界」という語句について調べ、考える。 授業 ：空間の文化史 鳥居などの境界装置を通じて、空間認識を歴史的について考える。 復習 ：配布されたプリントを再読し、授業内容を確認する。

11	亀川　泰照	【第 11 回】 予習　：「娯楽」という語句を調べる。宗教と娯楽の関係について考える 授業　：娯楽の文化史　本音と建て前、宗教と娯楽の混ざり合いとその捉え方について考える。 復習　：配布されたプリントを再読し、授業内容を確認する。
12	亀川　泰照	【第 12 回】 予習：「予祝」という語句について調べ、考える。 授業：祝い事の文化史　人が祝う行為の諸側面について考える。またその表象や媒介物についても学ぶ。
13	亀川　泰照	【第 13 回】 予習　：「祈願」「願掛け」という言葉についてリサーチし考える 授業　：神仏と社会　奉納物等を通じて、人と神仏の関係を学ぶ。また、人びとの願いの変遷を捉える。 復習　：配布されたプリントを再読し、授業内容を確認する。
14	亀川　泰照	【第 14 回】 予習　：「不思議」という語句について調べ、考える 授業　：不思議の文化史　妖怪や不可解な現象の説明方法と社会の折り合いについて学ぶ 復習　：配布されたプリントを再読し、授業内容を確認する。
15	亀川　泰照	【第 15 回】 予習　：「薬」という語句をリサーチし、考える 授業　：まとめ　神仏と社会　薬の効き目が何に保証されているのかについての歴史的変遷から、社会常識について考えることを通じて、講義全体をまとめると共に、文化を歴史的に捉える際、課題となる事項（集団と個人の関係、常識、モノの概念〈言葉／機能／形〉）について整理する。 復習　：この授業を通じて学んだことを反芻し総括する。

授業開始前学習	日ごろから、文化に関するニュースをチェックする。
授業内課題のフィードバックの方法	毎回リアクションペーパーを記入してもらい、適宜質問への回答や授業の補足を行う。
テキスト・教材	講義時に適宜資料を配布する。
参考書	鹿島　萬兵衛『江戸の夕栄』（中公文庫、2005 年） 大隅和雄『日本文化史講義』（吉川弘文館、2017 年） 大谷栄一・ 菊地暁・ 永岡崇　編著『日本宗教史のキーワード ： 近代主義を超えて』（慶應義塾大学出版会、2018 年） その他、講義の中で適宜紹介する。
評価の基準と方法	レポート７０%、平常点（リアクションペーパー・授業内課題）３０% で評価
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			◎	◎	○	

関連科目	
その他	講義中で紹介する行事やモノをなるべく実際に見に行くこと。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	区立の地域博物館での実務経験をふまえ、市民が担い手となっている地域における文化を視野に入れ、その捉え方も含めて講義する。

科目分類（2025 年～入学者）	GJ-M-221 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	111-331-12 （Ｊ）	授業コード	FA0400
科目名称	日本文化史Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	History of Japanese CultureⅡ			授業区分	講義
科目責任者	黒滝　香奈			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	黒滝　香奈			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	本講義は日本の伝統芸能の歴史について学び、伝統芸能の特色を理解することを目的とする。日本の伝統芸能は江戸時代にその到達点を見せた。本授業では、まず江戸時代の人々が日々の暮らしのなかでどれほど伝統芸能を受容していたのかを把握する。そのうえで、特に受容されていたとみられる能楽・歌舞伎・人形浄瑠璃の歴史を辿っていく。その際、伝統芸能は主に都市で隆盛していたかのように思われがちであるが、決してそうではない。よって、江戸時代の村に生きた人々と芸能との関係性を知ることも目標とする。 なお、必要に応じて映像鑑賞を行い、各種芸能への理解を深める。鑑賞を伴う授業では、グループワークを行い、受講生からの意見を募り、日本の伝統芸能についての理解の共有を図りたい。				
到達目標	1. 日本の 伝統芸能に関する基礎知識を身につける。 2.「都市」と「村」、「民衆」という観点から、日本の伝統芸能の特色を理解する。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	黒滝　香奈	【第 1 回】 予習　：日本の伝統文化にはどのようなものがあるか調べておく。 授業　：日本の伝統芸能と現在（ガイダンス） 復習　：配信された資料を再読し、授業内容の確認を行う。
2	黒滝　香奈	【第 2 回】 予習　：江戸時代の都市のイメージをつかんでおく。 授業　：江戸時代の都市・村における芸能受容 復習　：江戸時代の都市においてどのような芸能が受容されていたかを整理しておく。
3	黒滝　香奈	【第 3 回】 予習　：農耕社会と芸能の結びつきを調べておく。 授業　：稲作と芸能 復習　：配信された資料を再読し、授業内容の確認を行う。
4	黒滝　香奈	【第 4 回】 予習　：猿楽の起源を調べる。 授業　：猿楽の成立と展開 復習　：配信された資料を再読し、授業内容の確認を行う。
5	黒滝　香奈	【第 5 回】 予習　：能楽の起源を調べておく。 授業　：能楽の展開 復習　：配信された資料を再読し、授業内容の確認を行う。
6	黒滝　香奈	【第 6 回】 予習　：事前に知らされた能楽の演目のストーリーを調べておく。 授業　：能楽鑑賞（前半） 復習　：能楽鑑賞後、グループワークを行うので、情報を整理しておく。
7	黒滝　香奈	【第 7 回】 予習　：事前に知らされた能楽の演目のストーリーを調べておく。 授業　：能楽鑑賞（後半）（グループワーク） 復習　：グループワークで出た意見を振り返る。
8	黒滝　香奈	【第 8 回】 予習　：歌舞伎の前史について調べておく。 授業　：風流芸能から歌舞伎へ 復習　：配信された資料を再読し、授業内容の確認を行う。
9	黒滝　香奈	【第 9 回】 予習　：歌舞伎の発展について調べておく。 授業　：歌舞伎の発展 復習　：配信された資料を再読し、授業内容の確認を行う。
10	黒滝　香奈	【第 10 回】 予習　：事前に知らされた歌舞伎の演目のストーリーを理解しておく。 授業　：歌舞伎鑑賞（グループワーク） 復習　：グループワークで出た意見を整理しておく。

11	黒滝　香奈	【第 11 回】 予習　：人形浄瑠璃の起源について調べておく。 授業　：人形浄瑠璃の成立と発展 復習　：配信された資料を再読し、授業内容の確認を行う。
12	黒滝　香奈	【第 12 回】 予習　：事前に知らされた人形浄瑠璃のストーリーを理解しておく。 授業　：人形浄瑠璃鑑賞　前半 復習　：グループワークで出た意見を整理しておく。
13	黒滝　香奈	【第 13 回】 予習　：事前に知らされた人形浄瑠璃のストーリーを理解しておく。 授業　：人形浄瑠璃鑑賞　後半　これまでの作品鑑賞を振り返って（グループワーク） 復習　：グループワークで出た意見を整理しておく。
14	黒滝　香奈	【第 14 回】 予習　：江戸時代の芸能に関する情報がどのように広まっていたか調べておく。 授業　：江戸時代の芸能と情報 復習　：配信された資料を再読し、授業内容の確認を行う。
15	黒滝　香奈	【第 15 回】 予習　：これまでの講義内容を復習しておくこと。 授業　：レポート課題へのフィードバックと本授業で学んだことの要点整理 復習　：この授業を通して学んだことを総括する。

授業開始前学習	伝統芸能に関する書籍や映像記録などに目を通しておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	毎回リアクションペーパーを記入してもらい、適宜質問への回答や授業の補足を行う。
テキスト・教材	適宜、資料を配付する。
参考書	藝能史研究會編『日本芸能史』2 ～ 6 巻（法政大学出版局、1983 年） このほか参考となる書籍について、適宜紹介する。
評価の基準と方法	平常点（授業への参画度・課題提出）50%、レポート課題 50%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			◎	◎	○	

関連科目	
その他	講義中に紹介する文献のうち、少なくとも一つは精読すること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	自治体史編纂や自治体の文化財取扱の実務経験あり。その経験を活かし、日本の伝統芸能の歴史などについて講義する。

科目分類（2025 年～入学者）	GJ-M-121 SD-L-121 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	111-331-11（2022 年～入学者） （Ｊ） 111-331-12（～2021 年入学者）（Ｊ）	授業コード	FA0410
科目名称	☆地域文化概論			単位数	2.0 単位
英文名称	Survey of Regional Culture			授業区分	講義
科目責任者	下川 雅弘			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	下川 雅弘			開講時期	1･2 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30			研究室	10-706
授業概要	この授業では、おもに稲城市を事例として、地域文化の調べ方や史料の読み方について概説し、その調査、読解を行うための基礎知識を修得する。また、各自の地元を事例として、隠れた地域文化を発見し、その魅力を発表する。授業では課題解決型学習・発表・フィールドワークを行う。				
到達目標	１．地域文化の調べ方や史料の読み方を身に付けることができる。 ２．地域に伝わる民俗資料について、その調査・整理方法を理解できる。 ３．史料に基づいて各地の地域文化の魅力を発見し、そこから日本文化の特徴を考察できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	下川 雅弘	【第 1 回】 予習：シラバスを読み、学修内容を確認する 授業：地域文化から考える日本文化（登戸浅間神社の富士塚から考える日本人の富士信仰）（教科書 6～8 頁） 復習：授業内容の整理課題をフォームで提出する（5 点）
2	下川 雅弘	【第 2 回】 予習：「地域文化レジュメによる発表について」の部分について教科書を読んでおく 授業：地域文化レジュメによる発表について（教科書 9～10 頁）／『日本歴史地名大系』にみる稲城市の歴史と文化（原始・古代～近現代） 復習：図書館で『日本歴史地名大系』をコピーする
3	下川 雅弘	【第 3 回】 予習：「地域文化レジュメの参考文献について」の部分について教科書を読んでおく 授業：地域文化レジュメの参考文献について（教科書 11～13 頁）／『日本歴史地名大系』にみる稲城市の歴史と文化（矢野口村）／『稲城市の歴史と文化財』にみる穴澤天神社 復習：図書館で『新編武蔵風土記稿』『新編相模国風土記稿』をコピーする
4	下川 雅弘	【第 4 回】 予習：『新編武蔵風土記稿』「菅村」（小沢城址）の現代語訳（5 点） 授業：『新編武蔵風土記稿』「菅村」（小沢城址）の読解と考察（課題解決型学習）／小沢城をめぐる伝承と城の構造・特徴（教科書 14～21 頁） 復習：授業内容の整理課題をフォームで提出する（5 点）
5	下川 雅弘	【第 5 回】 予習：『新編武蔵風土記稿』「金程村」（旧跡小沢原古戦場）の現代語訳（5 点） 授業：『新編武蔵風土記稿』「金程村」（旧跡小沢原古戦場）の読解と考察（課題解決型学習）／小沢原合戦の伝承と古戦場の故地（教科書 22～29 頁） 復習：授業内容の整理課題をフォームで提出する（5 点）
6	下川 雅弘	【第 6 回】 予習：『新編武蔵風土記稿』「矢野口村」（妙覚寺）の現代語訳（5 点） 授業：『新編武蔵風土記稿』「矢野口村」（妙覚寺）の読解と考察（課題解決型学習）／妙覚寺の宝物と小沢蔵屋敷の伝承（教科書 30～34 頁）／訪問する史跡の解説（教科書 43～46 頁） 復習：授業内容の整理課題をフォームで提出する（5 点）
7	下川 雅弘	【第 7 回】 予習：「民俗資料の調査・整理方法」の部分について教科書を読んでおく 授業：民俗資料の調査・整理方法（教科書 35～39 頁） 復習：授業内容の整理課題をフォームで提出する（5 点）
8	下川 雅弘	【第 8 回】 予習：「有形民俗資料調査の実践（中世・近世の石造物）」の部分について教科書を読んでおく 授業：有形民俗資料調査の実践（中世・近世の石造物）（教科書 40～43 頁） 復習：授業内容の整理課題をフォームで提出する（5 点）

9	下川　雅弘	【第 9 回】 予習：「有形民俗資料調査の実践（石造物調査の方法）」の部分について教科書を読んでおく 授業：有形民俗資料調査の実践（石造物調査の方法）（教科書 47～53 頁）／学内の六地蔵による石造物調査の練習 復習：石造物調査の練習用の方眼紙を提出する
10	下川　雅弘	【第 10 回】 予習　：「ありがた山の石造物調査」の部分について教科書を読んでおく 授業　：正課学外活動【地元発見プロジェクト】「ありがた山の石造物調査」（フィールドワーク） 復習　：正課学外活動の感想をフォームで提出する（5 点）／調査報告書と方眼紙を提出する（5 点）
11	下川　雅弘	【第 11 回】 予習　：地域文化レジュメを提出する（30 点）／地域文化レジュメ集を読んでおく 授業　：地域文化レジュメによる発表①（発表） 復習　：発表にコメントを寄せる
12	下川　雅弘	【第 12 回】 予習　：地域文化レジュメ集を読んでおく 授業　：地域文化レジュメによる発表②（発表） 復習　：発表にコメントを寄せる
13	下川　雅弘	【第 13 回】 予習　：地域文化レジュメ集を読んでおく 授業　：地域文化レジュメによる発表③（発表） 復習　：発表にコメントを寄せる
14	下川　雅弘	【第 14 回】 予習　：地域文化レジュメ集を読んでおく 授業　：地域文化レジュメによる発表④（発表） 復習　：発表にコメントを寄せる
15	下川　雅弘	【第 15 回】 予習：ミニレポートをフォームで提出する（10 点） 授業：地域文化から考える日本文化の学びの総括（課題解決型学習）（教科書 54 頁） 復習：ミニレポートの感想をフォームで提出する（5 点）

授業開始前学習	
授業内課題のフィードバックの方法	毎回の課題に対して、次回の授業時に受講者からの回答を紹介し、コメント・講評を行う。発表に対しては、授業内で補足解説・コメントを行う。
テキスト・教材	駒沢女子大学講義ノートシリーズ『地域文化概論』 必要に応じてプリントを配付する。
参考書	適宜、授業に沿って推薦図書を紹介する。 また、予習課題や発表の準備に際しては、以下の辞書を必ず参照すること。 『日本歴史地名大系』（平凡社）、『国史大辞典』（吉川弘文館）
評価の基準と方法	予習課題１５%、復習課題４０%、発表（レジュメ）３０%、調査報告書５%、ミニレポート１０%により評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○		○	◎	◎		

関連科目	
その他	授業の進捗状況や受講者数などによって、内容を変更することがある。 この授業では、11～12 月中の土曜日に正課学外活動（ありがた山の石造物調査）を行う予定である。若干の交通費の負担が必要な場合がある。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	自治体史編纂の実務経験あり。地域文化の調べ方や魅力などを講義する。

科目分類（2025 年～入学者）	GJ-M-221 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	111-331-12 （J）	授業コード	FA0420
科目名称	歴史資料論			単位数	2.0 単位
英文名称	Historical Materials			授業区分	講義
科目責任者	下川 雅弘			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	下川 雅弘			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30			研究室	10-706
授業概要	この授業では、日本文化を学ぶ上で基本となる歴史資料について概説し、その読解・調査・整理を行うための基礎知識を修得する。具体的には、古代から近代までの代表的な古文書・古記録・古典籍といった文献史料をはじめとする史資料の概要を学んだ上で、稲城市に伝わる近世以降の古文書・古記録・古典籍といった原本資料を事例として、その読解方法や文献史料から日本の文化を考察する方法について学習する。授業では課題解決型学習・フィールドワークを行う。				
到達目標	1．歴史資料について、その特質を理解できる。 2．歴史資料の扱い方と読み方を身に付けることができる。 3．歴史資料を根拠として、日本の文化を考察することができる。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	下川 雅弘	【第 1 回】 予習：シラバスを読み、学修内容を確認する 授業：歴史資料とは何か（教科書 6～11 頁） 復習：授業内容の整理課題をフォームで提出する（3 点）
2	下川 雅弘	【第 2 回】 予習：「文献史料の調査・整理方法」の部分について教科書を読んでおく 授業：文献史料の調査・整理方法（教科書 12～17 頁） 復習：授業内容の整理課題をフォームで提出する（3 点）
3	下川 雅弘	【第 3 回】 予習：「輪読する文献史料の解題」の部分について教科書を読んでおく 授業：輪読する文献史料の解題（史料の読解練習）（教科書 18～23 頁） 復習：授業内容の整理課題をフォームで提出する（3 点）
4	下川 雅弘	【第 4 回】 予習：『鈴木家文書』「村の志るべ拾遺鈔」（御座松塚）の翻刻（5 点） 授業：『鈴木家文書』「村の志るべ拾遺鈔」（御座松塚）の読解と考察（教科書 24～25 頁）（課題解決型学習） 復習：読解史料の考察課題をフォームで提出する（3 点）
5	下川 雅弘	【第 5 回】 予習：『鈴木家文書』「村の志るべ拾遺鈔」（入定塚）の翻刻（5 点） 授業：『鈴木家文書』「村の志るべ拾遺鈔」（入定塚・十三塚）の読解と考察（教科書 26～28 頁）（課題解決型学習） 復習：読解史料の考察課題をフォームで提出する（3 点）
6	下川 雅弘	【第 6 回】 予習：「平尾入定塚の再検討」の部分について教科書を読んでおく 授業：平尾入定塚の再検討（教科書 29～38 頁） 復習：授業内容の整理課題をフォームで提出する（3 点）
7	下川 雅弘	【第 7 回】 予習：「訪問する史跡の解説」の部分について教科書を読んでおく 授業：『神社明細帳』『寺院明細帳』の読解と訪問する史跡の解説（教科書 39～41 頁） 復習：授業内容の整理課題をフォームで提出する（3 点）
8	下川 雅弘	【第 8 回】 予習：「大学付近の歴史資料を訪ねる」の部分について教科書を読んでおく 授業：正課学外活動【地元発見プロジェクト】「大学付近の歴史資料を訪ねる」（教科書 42 頁）（フィールドワーク） 復習：正課学外活動の整理課題をフォームで提出する（3 点）
9	下川 雅弘	【第 9 回】 予習：『鈴木家文書』「農事日記」明治 37 年 1 月 1 日～4 日の翻刻（5 点） 授業：『鈴木家文書』「農事日記」明治 37 年 1 月 1 日～4 日の読解と考察（教科書 43 頁）（課題解決型学習） 復習：読解史料の考察課題をフォームで提出する（3 点）
10	下川 雅弘	【第 10 回】 予習：『鈴木家文書』「農事日記」明治 37 年 2 月 6 日・7 日の翻刻（5 点） 授業：『鈴木家文書』「農事日記」明治 37 年 2 月 6 日・7 日の読解と考察（教科書 44～45 頁）（課題解決型学習） 復習：読解史料の考察課題をフォームで提出する（3 点）

11	下川　雅弘	【第 11 回】 予習：『鈴木家文書』「農事日記」明治 37 年 3 月 1 日・2 日の翻刻（5 点） 授業：『鈴木家文書』「農事日記」明治 37 年 3 月 1 日・2 日の読解と考察（教科書 46 頁）（課題解決型学習） 復習：読解史料の考察課題をフォームで提出する（3 点）
12	下川　雅弘	【第 12 回】 予習：『鈴木家文書』「農事日記」明治 39 年 3 月 9 日・10 日の翻刻（5 点） 授業：『鈴木家文書』「農事日記」明治 39 年 3 月 9 日・10 日の読解と考察（教科書 47～49 頁）（課題解決型学習） 復習：読解史料の考察課題をフォームで提出する（3 点）
13	下川　雅弘	【第 13 回】 予習：『鈴木家文書』「農事日記」明治 39 年 3 月 15 日・18 日の翻刻（5 点） 授業：『鈴木家文書』「農事日記」明治 39 年 3 月 15 日・18 日の読解と考察（教科書 50 頁）（課題解決型学習） 復習：読解史料の考察課題をフォームで提出する（3 点）
14	下川　雅弘	【第 14 回】 予習：『鈴木家文書』「刀・麻上下・八木拝領のこと」年未詳 12 月の翻刻（5 点） 授業：『鈴木家文書』「刀・麻上下・八木拝領のこと」年未詳 12 月の読解と考察（教科書 51 頁）（課題解決型学習） 復習：読解史料の考察課題をフォームで提出する（3 点）
15	下川　雅弘	【第 15 回】 予習：ミニレポートをフォームで提出する（5 点）（10 点） 授業：歴史資料論の学びの総括（教科書 52 頁） 復習：ミニレポートの感想をフォームで提出する（3 点）

授業開始前学習	
授業内課題のフィードバックの方法	毎回の課題に対して、次回の授業時に受講者からの回答を紹介し、コメント・講評を行う。
テキスト・教材	駒沢女子大学講義ノートシリーズ『歴史資料論』 必要に応じてプリントを配付する。
参考書	適宜、授業に沿って推薦図書を紹介する。
評価の基準と方法	予習課題４０%、復習課題４５%、ミニレポート１５%により評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			◎	◎	○	

関連科目	
その他	授業の進捗状況や受講者数などによって、内容を変更することがある。 この授業では、5～6 月中の土曜日に正課学外活動（大学付近の歴史資料を訪ねる）を行う予定である。若干の交通費の負担が必要な場合がある。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	自治体史編纂の実務経験あり。古文書などの歴史資料の読解、取扱方法などを講義する。

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-221 CT-L-221 SD-L-221 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	111-331-12 （Ｊ）	授業コード	FA0430
科目名称	民俗資料論			単位数	2.0 単位
英文名称	Folklore／Folklore Materials			授業区分	講義
科目責任者	市田　雅崇			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	市田　雅崇			開講時期	2･3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	昨今、文化に関するさまざまなニュースを目にする。世界遺産や文化財を問題、ジェンダーや動物愛護などの見地から祭りのあり方を問うもの、そしてそれにともなう地域社会の変化など。この授業ではこうした文化をとりまく現代的な状況を念頭におきつつ、（1）日本の民俗学の概要を学び、（2）祭り・伝説・信仰・芸能・民具といったテーマを通して文化について考えてゆく。（3）折にふれて稲城市域および周辺地域の民俗資料を事例としてとりあげる。				
到達目標	民俗資料について基礎知識を学び、その特質を理解できる。 文化財、文化資源といった民俗資料をとりまく情勢を学び、現代の文化を理解し、他者と会話して問題を解決する姿勢を身に着けることを目標とする。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	市田　雅崇	【第 1 回】 予習：シラバスを読み、学修内容を確認する 授業：イントロダクション：民俗資料および民俗学とは 復習：授業課題の提出
2	市田　雅崇	【第 2 回】 予習：事前に配布する資料を読んでおく 授業：民俗調査と民俗資料 復習：授業課題の提出
3	市田　雅崇	【第 3 回】 予習：事前に配布する資料を読んでおく 授業：祭りと信仰（1） 復習：授業課題の提出
4	市田　雅崇	【第 4 回】 予習：事前に配布する資料を読んでおく 授業：祭りと信仰（2） 復習：授業課題の提出
5	市田　雅崇	【第 5 回】 予習：事前に配布する資料を読んでおく 授業：祭りと信仰（3） 復習：授業課題の提出
6	市田　雅崇	【第 6 回】 予習：事前に配布する資料を読んでおく 授業：祈りと流行り神（1） 復習：授業課題の提出
7	市田　雅崇	【第 7 回】 予習：事前に配布する資料を読んでおく 授業：祈りと流行り神（2） 復習：授業課題の提出
8	市田　雅崇	【第 8 回】 予習：事前に配布する資料を読んでおく 授業：怪異伝承と妖怪 復習：授業課題の提出
9	市田　雅崇	【第 9 回】 予習：事前に配布する資料を読んでおく 授業：妖怪の世界 復習：授業課題の提出
10	市田　雅崇	【第 10 回】 予習：資料を読んでおく 授業：現代の妖怪 復習：授業課題の提出

11	市田　雅崇	【第 11 回】 予習：資料を読んでおく 授業：山への祈り（1） 復習：授業課題の提出
12	市田　雅崇	【第 12 回】 予習：資料を読んでおく 授業：山への祈り（2） 復習：授業課題の提出
13	市田　雅崇	【第 13 回】 予習：資料を読んでおく 授業：山への祈り（3） 復習：授業課題の提出
14	市田　雅崇	【第 14 回】 予習：資料を読んでおく 授業：稲城市と周辺地域の民俗 復習：授業課題の提出
15	市田　雅崇	【第 15 回】 予習：民俗資料論のレビュー 授業：まとめ 復習：レポート課題の提出

授業開始前学習	民俗資料に関する書籍を 1 冊読んでおくことが望ましい。 新聞などに目を通し、現代文化に関する記事に目を通しておく。
授業内課題のフィードバックの方法	毎回の事前学習課題に対して、次回の授業時に受講者からの回答を紹介し、コメント・講評を行う。
テキスト・教材	必要に応じて資料を配付する。
参考書	授業に沿って推薦図書を紹介する。
評価の基準と方法	授業内課題 50%、期末レポート 50%で総合的に評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			◎	◎	○	

関連科目	
その他	授業の進捗状況や受講者数などによって、内容を変更することがある。 稲城市または周辺地域の民俗誌を講読する場合がある。 期末レポートでは課題にもとづき現地調査を行ったうえでレポートを提出する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-221 CT-L-221 SD-L-221	科目分類（～2024 年入学者）	111-331-12	授業コード	FA0440
科目名称	歴史考古学			単位数	2.0 単位
英文名称	Archaeology／Historical Archaeology			授業区分	講義
科目責任者	今野 慶信			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	今野 慶信			開講時期	2･3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	考古学のなかでも歴史考古学、とりわけ近年進展の著しい中世考古学について、最新の研究動向を紹介しつつも、なるべく身近な事例を取り上げて講義していく。				
到達目標	中世考古学について理解を深め、日本中世社会の特質について説明できるようになる。同時に考古学の醍醐味と可能性を知り、日本中世社会への自分なりの興味と視点を身に付ける。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	今野 慶信	【第 1 回】 予習 ：考古学について調べ、自分なりに考えておく。 授業 ：中世考古学とは 復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、中世考古学について参考書等から捕捉しておく。
2	今野 慶信	【第 2 回】 予習 ：前近代における日本の貨幣について調べ、自分なりに考えておく。 授業 ：モノから見た中世経済 復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、中世の社会経済史について参考書等から捕捉しておく。
3	今野 慶信	【第 3 回】 予習 ：現代に流通している陶磁器類について調べ、自分なりに考えておく。 授業 ：モノから見た中世物流 復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、中世の物流について参考書等から捕捉しておく。
4	今野 慶信	【第 4 回】 予習 ：呪い（まじない）について調べ、自分なりに考えておく。 授業 ：モノから見た中世の信仰 復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、経塚などの中世特有の信仰遺物について参考書等から捕捉しておく。
5	今野 慶信	【第 5 回】 予習 ：現在の葬送儀礼について調べ、自分なりに考えておく。 授業 ：中世の葬送 復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、中世の葬送関係遺物について参考書等から捕捉しておく。
6	今野 慶信	【第 6 回】 予習 ：古代寺院の伽藍配置や現在の鎌倉五山の伽藍配置などについて調べ、自分なりに考えておく。 授業 ：中世のお寺 復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、中世寺院とその遺構について参考書等から捕捉しておく。
7	今野 慶信	【第 7 回】 予習 ：近隣の中世前期の武士の本拠地について調べ、自分なりに考えておく。 授業 ：中世の城① 復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、中世前期の武士の本拠地について参考書等から捕捉しておく。
8	今野 慶信	【第 8 回】 予習 ：近隣の室町時代の武士の城について調べ、自分なりに考えておく。 授業 ：中世の城② 復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、中世の城館について参考書等から捕捉しておく。
9	今野 慶信	【第 9 回】 予習 ：近隣の戦国時代の城について調べ、自分なりに考えておく。 授業 ：中世の城③ 復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、戦国時代の城について参考書等から捕捉しておく。
10	今野 慶信	【第 10 回】 予習 ：古代以来の政治都市について調べ、自分なりに考えておく。 授業 ：中世都市① 復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、中世の政治都市について参考書等から捕捉しておく。
11	今野 慶信	【第 11 回】 予習 ：東国の首都・鎌倉について調べ、自分なりに考えておく。 授業 ：中世都市② 復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、鎌倉の都市空間について参考書等から捕捉しておく。

12	今野　慶信	【第 12 回】 予習　：中世の農村について調べ、自分なりに考えておく。 授業　：中世の村 復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、中世の農村について参考書等から捕捉しておく。
13	今野　慶信	【第 13 回】 予習　：近隣の「鎌倉街道」などの古道について調べ、自分なりに考えておく。 授業　：中世のみち 復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、中世古道について参考書等から捕捉しておく。
14	今野　慶信	【第 14 回】 予習　：稲城市・川崎市周辺の中世史について調べ、自分なりに考えておく。 授業　：あしもとの中世 復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、自分の足元の地域史について考えてみる。
15	今野　慶信	【第 15 回】 予習　：江戸時代の人々が使った様々な道具について調べ、自分なりに考えておく。 授業　：江戸考古へ 復習：ノート・配布資料で半年間の授業を振り返り、歴史考古学について整理してみる。

授業開始前学習	中学・高校で学んだ日本中世史（平安末期～戦国時代）について復習しておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	出席を兼ねたレポートについては、実施の 1 週後に講評を行う。
テキスト・教材	プリントを配布する。
参考書	その都度、紹介する。
評価の基準と方法	授業内のレポート等で評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			◎	◎	○	

関連科目	
その他	授業の進捗状況などによって、内容を変更することがある。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CS-L-221 CT-L-221 SD-L-221	科目分類（～2024 年入学者）	111-331-12	授業コード	FA0450
科目名称	歴史地理学			単位数	2.0 単位
英文名称	Historical Geography			授業区分	講義
科目責任者	武廣　亮平			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	武廣　亮平			開講時期	2･3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	東京多摩地域の特色を歴史地理学的観点から学ぶ。多摩地域の先史時代から近現代までの歴史と地理的な特徴について、さまざまなテーマを設定して考える。				
到達目標	駒沢女子大学が立地する多摩地域を中心とした地理や歴史を学ぶことで、当該地域の地理的・歴史的意義や特徴を再認識することができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	武廣　亮平	【第 1 回】 予習　：シラバスによる授業内容の確認 授業　：オリエンテーション（「多摩」を概観する） 復習　：各授業テーマと要点の確認
2	武廣　亮平	【第 2 回】 予習　：多摩の地形図からその特徴を調べる 授業　：多摩の地形とその成り立ち 復習　：授業内容のノート整理と要点の確認
3	武廣　亮平	【第 3 回】 予習　：縄文～古墳時代の文化とその特徴を調べる 授業　：先史時代の多摩地域 復習　：授業内容のノート整理と要点の確認
4	武廣　亮平	【第 4 回】 予習　：律令国家の政治と地方統治について調べる 授業　：武蔵国の成立と多摩郡 復習　：授業内容のノート整理と要点の確認
5	武廣　亮平	【第 5 回】 予習　：古代の交通制度について調べる 授業　：古代・中世の交通路と多摩 復習　：授業内容のノート整理と要点の確認
6	武廣　亮平	【第 6 回】 予習　：『万葉集』の東歌と防人歌について調べる 授業　：『万葉集』に詠まれた古代の東国と多摩 復習　：授業内容のノート整理と要点の確認 要件等
7	武廣　亮平	【第 7 回】 予習　：穴沢天神社（京王読売ランド駅から徒歩 5 分）に行ってみる（可能な範囲で） 授業　：大國魂神社と多摩の神社 復習　：授業内容のノート整理と要点の確認
8	武廣　亮平	【第 8 回】 予習　：鎌倉・室町時代を概観する 授業　：鎌倉幕府と中世多摩の武士団 復習　：授業内容のノート整理と要点の確認
9	武廣　亮平	【第 9 回】 予習　：鎌倉公方と関東管領について調べる 授業　：戦国時代の多摩ー後北条氏の支配を中心にー 復習　：授業内容のノート整理と要点の確認
10	武廣　亮平	【第 10 回】 予習　：江戸幕府の成立について調べる 授業　：江戸時代の地誌や絵図に見られる多摩 復習　：授業内容のノート整理と要点の確認

11	武廣　亮平	【第 11 回】 予習　：開国から幕末までの政治について調べる 授業　：幕末の多摩と「新選組」の活動 復習　：授業内容のノート整理と要点の確認
12	武廣　亮平	【第 12 回】 予習　：自由民権運動の展開までの近代日本の歴史を調べる　太平洋戦争の開戦から敗戦までをまとめる 授業　：「絹の道」と多摩の自由民権運動 復習　：授業内容のノート整理と要点の確認
13	武廣　亮平	【第 13 回】 予習　：現在の東京都の行政区分を確認する 授業　：神奈川県から東京府へ－近代における「多摩」の変遷－ 復習　：授業内容のノート整理と要点の確認
14	武廣　亮平	【第 14 回】 予習　：各自の家庭で行っている年中行事を確認する 授業　：多摩の年中行事 復習　：授業内容のノート整理と要点の確認
15	武廣　亮平	【第 15 回】 予習　：授業内容のノートの整理 授業　：授業の総括 復習　：多摩の地理と歴史を自分なりにまとめる

授業開始前学習	
授業内課題のフィードバックの方法	授業内のレポートや課題は次回の授業時に講評を行う。個別の質問についても毎回授業終了時に対応する。
テキスト・教材	テキストは特に指定せず、毎回プリントを配布する。
参考書	
評価の基準と方法	平常点（授業時の提出物）６０点、レポート４０点
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			◎	◎	○	

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	GJ-M-111	科目分類（～2024 年入学者）	111-330-13	授業コード	FA0710
科目名称	仏教文学			単位数	2.0 単位
英文名称	Buddhist literature			授業区分	講義
科目責任者	山本　元隆			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	山本　元隆			開講時期	3･4 年
オフィスアワー	前期　月曜日 14:40～16:10　金曜日 09:00～10:30 後期　月曜日 14:40～16:10　金曜日 09:00～10:30			研究室	10-506
授業概要	本科目では、仏教に関する説話や民話、あるいは随筆などをひろく講読し、文学に描かれた仏教思想および文化について解説する。具体的には、平安期の『日本霊異記』『今昔物語集』、鎌倉期の『沙石集』をはじめとする仏教説話と、江戸期の『夫婦宗論物語』『続沙石集』など文学作品を取り上げ、重要と思われる箇所を講じる。また、履修者にゆかりのある地元の昔話についても調べてもらい、日本の各地域に溶け込んだ仏教（文化）についても関心を深めるきっかけとする。				
到達目標	・仏教を受容した日本がどのような文学を築き上げたかを理解し、その概要を説明することができる。 ・仏教思想を受容した文学作品を講読するための仏教用語の基礎知識を身つける。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	山本　元隆	【第 1 回】 予習　：　シラバスをよみ、授業の概要を確認する。 授業　：　ガイダンス　授業の進め方と「仏教」と「文学」「古典」について 復習　：　仏教文学について学んだことをノートにまとめる。
2	山本　元隆	【第 2 回】 予習　：　平安時代の仏教文学について調べておく。 授業　：　平安時代の仏教文学概説　『万葉集』を読む 復習　：　平安時代の仏教と文学の特徴をノートにまとめる。
3	山本　元隆	【第 3 回】 予習　：　『日本霊異記』について調べておく。 授業　：　『日本霊異記』を読む（1） 復習　：　『日本霊異記』と仏教の関連についてノートにまとめる。
4	山本　元隆	【第 4 回】 予習　：　『日本霊異記』に出てくる仏教用語を調べておく。 授業　：　『日本霊異記』を読む（2） 復習　：　『日本霊異記』に見る仏教思想の特徴をノートにまとめる。
5	山本　元隆	【第 5 回】 予習　：　『今昔物語集』について調べておく。 授業　：　『今昔物語集』を読む（1） 復習　：　『今昔物語集』と仏教の関連についてノートにまとめる
6	山本　元隆	【第 6 回】 予習　：　『今昔物語集』に出てくる仏教用語を調べておく。 授業　：　『今昔物語集』を読む（2） 復習　：　『今昔物語集』に見る仏教思想の特徴をノートにまとめる。
7	山本　元隆	【第 7 回】 予習　：　『今昔物語集』に出てくる仏教用語を調べておく。 授業　：　『今昔物語集』を読む（3） 復習　：　『今昔物語集』に見る極楽往生の諸相をノートにまとめる。
8	山本　元隆	【第 8 回】 予習　：　鎌倉・室町時代の仏教文学について調べておく。 授業　：　鎌倉・室町時代の仏教文学概説　『平家物語』を読む 復習　：　鎌倉・室町時代の仏教と文学の特徴をノートにまとめる。
9	山本　元隆	【第 9 回】 予習　：　『沙石集』について調べておく。 授業　：　『沙石集』を読む（1） 復習　：　『沙石集』と仏教の関連についてノートにまとめる。
10	山本　元隆	【第 10 回】 予習　：　『沙石集』に出てくる仏教用語を調べておく。 授業　：　『沙石集』を読む（2） 復習　：　『沙石集』に見る仏教思想の特徴をノートにまとめる。
11	山本　元隆	【第 11 回】 予習　：　「和歌陀羅尼説」について調べておく。 授業　：　『沙石集』を読む（3） 復習　：　和歌と仏教の関連性についてノートにまとめる。

12	山本　元隆	【第 12 回】 予習　：『発心集』について調べておく。 授業　：『発心集』を読む 復習　：『発心集』と仏教の関連についてノートにまとめる。
13	山本　元隆	【第 13 回】 予習　：　近世の仏教文学について調べておく。 授業　：　近世の仏教文学概説　『夫婦宗論物語』を読む。 復習　：『夫婦宗論物語』と仏教の関連についてノートにまとめる。
14	山本　元隆	【第 14 回】 予習　：　近現代の仏教文学について調べておく。 授業　：　近現代の仏教文学概説　芥川龍之介『鼻』を読む。 復習　：　芥川作品と仏教説話の関係をノートにまとめる。
15	山本　元隆	【第 15 回】 予習　：　授業のノートから 14 回の授業内容を振り返る。 授業　：　総括　日本の文学と仏教について考える（ディスカッション） 復習　：仏教を受容した日本がどのような文学を築き上げたか、レポートにまとめる。

授業開始前学習	授業に関連する作品にふれておくこと。（現代語訳のものでもかまわない）
授業内課題のフィードバックの方法	授業で課題もしくは感想を提出した場合、次回の授業で総評する。また、必要に応じて個別にフィードバックする。
テキスト・教材	特定のテキストは使用せず、必要に応じて資料を配付する。
参考書	武石彰夫編著『仏教文学を読む事典』（佼成出版社）　その他、適宜授業で紹介する。
評価の基準と方法	授業での提出物（30%）とテスト・レポート（70%）で総合的に評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	◎			◎			

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	GJ-M-321	科目分類（～2024 年入学者）	111-331-13	授業コード	FA0720
科目名称	児童文学			単位数	2.0 単位
英文名称	Children and Japanese Culture／Children's Literature			授業区分	講義
科目責任者	木内　英実			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	木内　英実			開講時期	3･4 年
オフィスアワー	前期　火曜日 10:40～12:10　水曜日 14:40～16:10 後期　火曜日 16:20～17:50　水曜日 16:20～17:50			研究室	10-620
授業概要	近代以降の児童文学史の特質と歴史性を考察し、子どもの文化における児童文学の意義と役割について理解することを目的とする。具体的には、日本の近代児童文学に重要な影響を与えた『大正期の雑誌『赤い鳥』をはじめとする児童雑誌等を取り上げ、昭和期の戦争と敗戦を経て、児童文学がどのように変化しながら現代へと続いていくのかを考察する。あわせて各時代の子どもをめぐる文化事象（子ども向けとされる映像作品や遊戯等）にも目を向け現代人としての興味、関心をもって子供の文化に向かい合う姿勢を養う。				
到達目標	日本の児童文学と、近現代の日本と世界における「子どもの概念」との関わりについての理解を深める。 児童文学作品について自分なりの考えをまとめ、先行研究を踏まえて論じることができるようになる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	木内　英実	【第 1 回】 予習：日本の児童文学について、知っていることをまとめておく 授業：日本の近代文学と児童文学との関係性、児童文学史の起点について 復習：授業で学んだことをまとめる
2	木内　英実	【第 2 回】 予習：前回の授業で学んだことを読み返す 授業：日本の文明開化およびキリスト教、科学読み物、翻訳との関わり（明治期 1 ） 復習：授業で学んだことをまとめる
3	木内　英実	【第 3 回】 予習：前回の授業で学んだことを読み返す 授業：創作児童文学の始まり、巌谷小波について（明治期 2 ） 復習：授業で学んだことをまとめる
4	木内　英実	【第 4 回】 予習：前回の授業で学んだことを読み返す 授業：児童文学における明治期のおとぎ話、科学読み物作品等について議論を深め考察する（課題解決型学習） 復習：授業で学んだことをまとめ、課題 1 に取り組む
5	木内　英実	【第 5 回】 予習：前回の授業で学んだことを読み返す 授業：大正期「童謡童話作品」について学ぶ 復習：授業で学んだことをまとめる
6	木内　英実	【第 6 回】 予習：前回の授業で学んだことを読み返す 授業：雑誌『赤い鳥』とその影響（大正期 1 ） 復習：授業で学んだことをまとめる
7	木内　英実	【第 7 回】 予習：前回の授業で学んだことを読み返す 授業：芥川龍之介「蜘蛛の糸」を読み、課題 2 を行う（課題解決型学習） 復習：授業で学んだことをまとめ、課題 2 に取り組む
8	木内　英実	【第 8 回】 予習：前回の授業で学んだことを読み返す 授業：「児童」の発見と「童心主義」について（大正期 2 ）・課題 2 解説 復習：授業で学んだことをまとめる
9	木内　英実	【第 9 回】 予習：前回の授業で学んだことを読み返す 授業：児童文学冬の時代・プロレタリア児童文学と生活童話（昭和戦前期 1 ） 復習：授業で学んだことをまとめる
10	木内　英実	【第 10 回】 予習：前回の授業で学んだことを読み返す 授業：宮沢賢治「雪渡り」を読み、課題 3 を書く（課題解決型学習） 復習：授業で学んだことをまとめ、課題 3 に取り組む

11	木内　英実	【第 11 回】 予習：前回の授業で学んだことを読み返す 授業：言論統制と戦時下の児童文学について（昭和戦前期２）・課題３解説 復習：授業で学んだことをまとめる
12	木内　英実	【第 12 回】 予習：前回の授業で学んだことを読み返す 授業：新美南吉「手袋を買いに」を読み、課題４を書く（課題解決型学習） 復習：授業で学んだことをまとめ、課題４に取り組む
13	木内　英実	【第 13 回】 予習：前回の授業で学んだことを読み返す 授業：「童話伝統批判」と戦後の児童文学の成立（戦後から現代へ１）・課題４解説 復習：授業で学んだことをまとめる
14	木内　英実	【第 14 回】 予習：前回の授業で学んだことを読み返す 授業：児童文学のタブーの崩壊、ラノベ等児童文学の多様化、子どもの本の現在（戦後から現代へ２） 復習：授業で学んだことをまとめる
15	木内　英実	【第 15 回】 予習：前回の授業で学んだことを読み返す 授業：日本の児童文学の特徴と歴史性、ジャンルの意義と役割について（全体のまとめ） 復習：授業全体を振り返り、整理しておく

授業開始前学習	指定テキストをはじめ児童文学に関する文献を図書館等で探し、目を通しておく。
授業内課題のフィードバックの方法	授業で取り上げる児童文学作品について、それぞれ授業内課題を書いて提出してもらう。それをもとに作品の説明を行い、個別の質問に回答する。
テキスト・教材	『児童文学の教科書』川端有子著（玉川大学出版部）
参考書	『子ども観の近代－「赤い鳥」と「童心」の理想－』河原和枝著（中公新書）、『はじめて学ぶ日本児童文学史』鳥越信編著（ミネルヴァ書房）
評価の基準と方法	授業内課題（40%）、GW 等授業参加姿勢（20%)、、学期末レポート（40%）で総合評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	◎			◎			

関連科目	近現代文学Ⅰ（近代）、近現代文学Ⅱ（現代）、近代文学概論
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	111-331-13	授業コード	FA0731
科目名称	日本の詩歌			単位数	2.0 単位
英文名称	Japanese Poetry			授業区分	講義
科目責任者	三田　誠司			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三田　誠司			開講時期	3・4 年
オフィスアワー	前期　水曜日 14:40～16:10　木曜日 10:40～12:10 後期　水曜日 14:40～16:10　木曜日 10:40～12:10			研究室	10-611
授業概要	日本の詩歌の特質について学ぶことを目的とする。上代の和歌を中心とし、中古・中世から近世の和歌についても考察する。近代以降の詩歌については正岡子規の改革運動を中心として略述する。日本文学における詩歌の意義について理解し、作品に表れたものの見方や考え方、現代における詩歌の意義などについて、各受講者なりの考えを持つことができるようにする。そのため、受講生の意見・感想を課題とし、必要に応じて質疑応答の機会を設ける。				
到達目標	・日本の詩歌の特質について、自分なりの考えを説明することができる。 ・日本の主要な詩歌作品について簡潔に説明することができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	三田　誠司	【第 1 回】 予習　：日本の詩歌に関する入門書を読んでおく 授業　：万葉集第 1 期の和歌　額田王の作品 復習　：課題に取り組む
2	三田　誠司	【第 2 回】 予習　：万葉集について調べる 授業　：万葉集第 1 期の和歌　皇子・皇女の作品 復習　：課題に取り組む
3	三田　誠司	【第 3 回】 予習　：人麻呂について調べる 授業　：万葉集第 2 期の和歌　柿本人麻呂の雑歌 復習　：課題に取り組む
4	三田　誠司	【第 4 回】 予習　：人麻呂について調べる 授業　：万葉集第 2 期の和歌　柿本人麻呂の相聞 復習　：課題に取り組む
5	三田　誠司	【第 5 回】 予習　：人麻呂について調べる 授業　：万葉集第 2 期の和歌　柿本人麻呂の挽歌 復習　：課題に取り組む
6	三田　誠司	【第 6 回】 予習　：赤人について調べる 授業　：万葉集第 3 期の和歌　山部赤人の作品 復習　：課題に取り組む
7	三田　誠司	【第 7 回】 予習：高橋虫麻呂について調べる 授業：万葉集第 3 期の和歌　高橋虫麻呂の作品 復習：課題に取り組む
8	三田　誠司	【第 8 回】 予習：大伴旅人について調べる 授業：万葉集第 3 期の和歌　大伴旅人の作品 復習：課題に取り組む
9	三田　誠司	【第 9 回】 予習　：山上憶良について調べる 授業　：万葉集第 3 期の和歌　山上憶良の作品 復習　：課題に取り組む
10	三田　誠司	【第 10 回】 予習　：坂上郎女について調べる 授業　：万葉集第 4 期の和歌　大伴坂上郎女の作品 復習　：課題に取り組む
11	三田　誠司	【第 11 回】 予習　：大伴家持について調べる 授業　：万葉集第 4 期の和歌　大伴家持の作品 復習　：課題に取り組む

12	三田　誠司	【第 12 回】 予習　：和歌の技法について調べる 授業　：平安時代の和歌１　和歌の技法 復習　：課題に取り組む
13	三田　誠司	【第 13 回】 予習　：古今集について調べる 授業　：平安時代の和歌２　和歌の「危機」をめぐって 復習　：課題に取り組む
14	三田　誠司	【第 14 回】 予習　：新古今和歌集について調べる 授業　：鎌倉時代から江戸初期の和歌 復習　：課題に取り組む
15	三田　誠司	【第 15 回】 予習　：近世の和歌について調べる 授業　：江戸中期から近代の和歌 復習　：課題に取り組む

授業開始前学習	百人一首など身近な和歌に触れておく。
授業内課題のフィードバックの方法	毎回の課題（授業の感想・質問等）は、適宜コメント等を付し次回以降に返却する。
テキスト・教材	教員作成のプリント（資料）を配付する。
参考書	授業時に指示する。
評価の基準と方法	授業時の課題（70%）とレポート（30%）により判断する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	◎			◎		△	

関連科目	古典文学概論　日本文学史など
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）		科目分類（～2024年入学者）	111-331-12（J）	授業コード	FA0740
科目名称	国語教育概論Ⅰ			単位数	2.0単位
英文名称	Introduction to Japanese Teaching Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	八百板 真弓			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	八百板 真弓			開講時期	2年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	中学校及び高等学校国語科の学習指導の目標，内容，方法，教材，国語科教育の歴史などを学ぶ。学習指導要領の改訂に向けて,文部科学大臣から中央教育審議会への諮問が令和6年12月に行われた。国語科教育の今とこれからについて理解を深め，授業をデザインする。 なお，授業においてペアワーク，グループワークを行う。				
到達目標	・高等学校学習指導要領（平成30年告示），中学校学習指導要領（平成29年告示）について，改訂の経緯及び基本方針，国語科改訂の趣旨及び要点，国語科の目標，内容，高等学校国語科の科目編成，中学校各学年の内容を理解している。 ・学習指導要領に基づいて授業をデザインすることができるようになる。 ・国語科の教員を目指し，主体的に学びに向かう力等を高める。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	八百板 真弓	【第1回】 予習：学習指導要領解説国語編中学校 p.11~14，高等学校 p.21~25を読む。 授業：中学校及び高等学校国語科において育成を目指す資質・能力，教科の目標等を理解する。 復習：国語科の目標を確認する。
2	八百板 真弓	【第2回】 予習：学習指導要領解説国語編中学校 p.1～5，高等学校 p.1～5を読む。 授業：学習指導要領改訂の経緯及び基本方針を理解する。 復習：時代，社会的背景を確認する。
3	八百板 真弓	【第3回】 予習：学習指導要領解説国語編中学校 p.6～10，高等学校 p.6～14を読む。 授業：学習指導要領国語科改訂の趣旨及び要点を理解する。 復習：国語科改訂の趣旨及び要点を確認する。
4	八百板 真弓	【第4回】 予習：言葉の教育の歴史について調べる。 授業：言葉の教育の歴史について知る。 復習：言葉の教育の歴史を確認する。
5	八百板 真弓	【第5回】 予習：学習指導要領解説国語編高等学校 p.6~14を読み,平成21年告示学習指導要領と平成30年告示学習指導要領との違いを把握する。 授業：学習指導要領の変遷について知る。 復習：学習指導要領の変遷を確認する。 課題提出①（中学校,高等学校どちらかを選択）国語科教育の課題
6	八百板 真弓	【第6回】 予習：学習指導要領解説国語編中学校 p.3~4，p.131~132，高等学校 p.3~4，p.274～275を読む。 授業：「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進について理解する。 小テスト① 復習：授業改善の視点，留意点を確認する。
7	八百板 真弓	【第7回】 予習：学習指導要領解説国語編中学校 p.17~26，高等学校 p.29~40を読む。 授業：〔知識及び技能〕の内容を理解する。 復習：(3領域)3事項を確認する。
8	八百板 真弓	【第8回】 予習：学習指導要領解説国語編高等学校 p.82~91，p.219～231を読む。 授業：〔思考力，判断力，表現力等〕話すこと・聞くこと (1)指導事項，(2)言語活動例 を理解する。 復習：「話すこと・聞くこと」に関する指導の改善・充実について考察する。
9	八百板 真弓	【第9回】 予習：学習指導要領解説国語編高等学校 p.92~98，p.122~126，p.154～164，p.187～194，p.231～241を読む。 授業：〔思考力，判断力，表現力等〕書くこと (1)指導事項，(2)言語活動例を理解する。 復習：「書くこと」に関する指導の改善・充実について考察する。

10	八百板　真弓	【第 10 回】 予習：学習指導要領解説国語編中学校 p.13, 14, 16,　高等学校 p.8, 24, 25, 28, 29, 70, 110, 111, 145, 146, 179, 180, 210, 211, 247, 248 を読む。 授業：〔学びに向かう力，人間性等〕について理解する。 復習：〔学びに向かう力，人間性等〕を確認する。 課題提出②（中学校，高等学校どちらかを選択）国語科教育に求められていること
11	八百板　真弓	【第 11 回】 予習：中学校及び高等学校国語科における学習評価について調べる。 授業：目標に準拠した評価の充実について理解する。 復習：観点別学習状況の評価について確認する。
12	八百板　真弓	【第 12 回】 予習：学習指導要領解説国語編高等学校 p.12, p.14~20 を読む。 授業：学習過程の明確化，「考えの形成」の重視，探究的な学びの重視について理解する。 小テスト② 復習：選択科目に位置付けられた探究的な学びの要素を含む指導事項を確認する。
13	八百板　真弓	【第 13 回】 予習：高大接続改革について調べる。大学入学共通テストについて知る。 授業：高大接続改革について理解する。大学入学共通テスト問題を解く。 復習：三者の一体的な改革について確認する。大学入学共通テスト問題作成の方針等を確認する。
14	八百板　真弓	【第 14 回】 予習：大学入学者選抜改革について調べる。 授業：大学入学者選抜における多面的・総合的な評価，多様な取組について理解する。 復習：入試区分，各区分の在り方の見直し・改善等を確認する。 学期末レポート提出　高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）に基づいた魅力ある国語の授業
15	八百板　真弓	【第 15 回】 予習：ＯＥＣＤ・ＰＩＳＡ調査について調べる。 授業：ＯＥＣＤ・ＰＩＳＡ調査について理解する。 復習：ＯＥＣＤ・ＰＩＳＡ調査について考察する。

授業開始前学習	
授業内課題のフィードバックの方法	小テスト①②については，次時の授業で返却する。 課題①②については，随時授業時に発表する。 学期末レポート（第 14 回授業時提出）については，第 15 回授業時に講評を行う。
テキスト・教材	『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　国語編（平成 29 年 7 月）』（東洋館出版社） 『高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説　国語編（平成 30 年 7 月）』（東洋館出版社）
参考書	大滝一登『高等学校新学習指導要領　国語の授業づくり』（明治図書） 必要に応じて，事前に文献，資料等を紹介する。
評価の基準と方法	授業における取組（発表を含む）30%，小テスト 30%，課題提出 20%及び学期末レポート 20%。 大学の規定により GPA が 1.5～2.5 の範囲で評価をつける。 欠席 6 回以上は，原則として単位が与えられない。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	◎			◎		○	

関連科目	
その他	ペアワーク，グループワークは授業において随時行う。 なお，受講者の数，発表内容等により，授業予定を変更することがある。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	高等学校の教員，高等学校教育指導課の指導主事として，国語科教育を実践，指導してきた経験を生かし，理論と実践のバランスのとれた国語科教員を育成すべく，授業を計画・実施・評価する。

科目分類（2025年～入学者）		科目分類（～2024年入学者）	111-331-12（J）	授業コード	FA0750
科目名称	国語教育概論Ⅱ			単位数	2.0単位
英文名称	Introduction to Japanese Teaching Ⅱ			授業区分	講義
科目責任者	八百板　真弓			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	八百板　真弓			開講時期	2年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	教育政策に関する国内外の動向を視野に，持続可能な社会の創り手の育成，日本社会に根差したウェルビーイングの向上に向けて，国語科教育に求められていることへの理解を深め，組織的なカリキュラム・マネジメントに力を発揮することを目指す。 なお，授業においてペアワーク，グループワークを行う。				
到達目標	・授業改善の視点,配慮事項及び不断の授業改善の重要性を理解している。 ・学習指導要領，教育課程に基づいて,組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図ることができるようになる。 ・国語科の教員を目指し，使命感，責任感等を高める。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	八百板　真弓	【第1回】 予習：令和6年12月25日付文部科学大臣の中央教育審議会への諮問について調べる。 授業：初等中等教育の教育課程の基準等の在り方について（諮問）の理由等を理解する。 復習：顕在化している課題及びその解決に向けて今,できることを確認する。
2	八百板　真弓	【第2回】 予習：令和3年1月26日付中央教育審議会答申について調べる。 授業：新しい時代の学校教育の実現に向けて考察する。 復習：日本型学校教育の成り立ちと成果，直面する課題と新たな動き等について確認する。
3	八百板　真弓	【第3回】 予習：「教育振興基本計画」（令和5年6月16日付閣議決定）について調べる。 授業：「教育振興基本計画」について理解する。 復習：今後の教育政策に関する基本的な方針等を確認する。
4	八百板　真弓	【第4回】 予習：OECD Education2030 プロジェクト及び OECD ラーニング・コンパス（学びの羅針盤）について調べる。 授業：OECD Education2030 プロジェクト及び OECD ラーニング・コンパス（学びの羅針盤）について理解する。 復習：生徒エージェンシー，共同エージェンシー，コンピテンシー等について確認する。
5	八百板　真弓	【第5回】 予習：国際バカロレア（IB）の教育について調べる。 授業：国際バカロレア（IB）の教育について理解する。 復習：国際バカロレア（IB）の学習者像等について確認する。 課題提出①「令和の日本型学校教育」の構築に向けて重要なこと
6	八百板　真弓	【第6回】 予習：学習指導要領解説国語編中学校 p.15，16，高等学校 p.26～28，p.63～67を読む。 授業：中学校学年の目標，高等学校科目の目標について理解する。 小テスト① 復習：高等学校各科目の要点 p.14～20を確認する。
7	八百板　真弓	【第7回】 予習：学習指導要領解説国語編中学校 p.27～31，高等学校 p.41～47を読む。 授業：〔思考力，判断力，表現力等〕話すこと・聞くことの指導 復習：学習指導要領解説高等学校 p.102～108，p.242～245，話すこと・聞くことの指導について確認する。
8	八百板　真弓	【第8回】 予習：学習指導要領解説国語編中学校 p.32～35，高等学校 p.48～54を読む。 授業：〔思考力，判断力，表現力等〕書くことの指導 復習：学習指導要領解説高等学校 p.102～108，p.134～143，p.173～177，p.205～208，p.242～245，書くことの指導について確認する。
9	八百板　真弓	【第9回】 予習：学習指導要領解説国語編中学校 p.36～39，高等学校 p.55～62を読む。 授業：〔思考力，判断力，表現力等〕読むことの指導　論理的な文章 復習：学習指導要領解説高等学校 p.102～108，p.134～143，p.173～177，読むことの指導について確認する。
10	八百板　真弓	【第10回】 予習：学習指導要領解説国語編中学校 p.36～39，高等学校 p.55～62を読む。 授業：〔思考力，判断力，表現力等〕読むことの指導　文学的な文章 復習：高等学校において文学的な文章を「読むこと」の指導が位置付けられている科目等を確認する。 課題提出②私は古典の学習指導　をこう実践する

11	八百板　真弓	【第 11 回】 予習：令和 7 年度大学入学共通テスト「国語」本試験,追試験の問題を解く。 授業：〔思考力，判断力，表現力等〕読むことの指導　実用的な文章 復習：令和 7 年度大学入学共通テスト国語問題を活用して,実用的な文章を読むことの指導について考察する。
12	八百板　真弓	【第 12 回】 予習：学習指導要領解説国語編高等学校 p.126～134 を読む。 授業：〔思考力，判断力，表現力等〕読むことの指導　古文 小テスト② 復習：学習指導要領解説国語編中学校における，古典を教材として取り扱う指導の位置付け等を確認する。
13	八百板　真弓	【13 回】 予習：学習指導要領解説国語編高等学校 p.126～134 を読む。 授業：〔思考力，判断力，表現力等〕読むことの指導　漢文 復習：高等学校において古典を「読むこと」に関する指導が位置付けられている科目，「言語文化」読むこと・古典に関する指導での古文と漢文の割合等を確認する。
14	八百板　真弓	【第 14 回】 予習：カリキュラム・マネジメントについて調べる。 授業：各学校におけるカリキュラム・マネジメントの推進について理解する。 復習：各学校におけるカリキュラム・マネジメント推進の重要性を確認する。 学期末レポート提出　私は「読むこと」の指導をこう行う
15	八百板　真弓	【第 15 回】 予習：学習指導要領改訂に向けた検討状況について調べる。 授業：学習指導要領改訂に向けた検討内容を知る。 復習：これからの国語科教育において大切なこと,求められていることを整理，確認する。

授業開始前学習	
授業内課題のフィードバックの方法	小テスト①②については，次時の授業で返却する。 課題①②については，随時授業時に発表する。 学期末レポート（第 14 回授業時提出）については，第 15 回授業時に講評を行う。
テキスト・教材	『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　国語編（平成 29 年 7 月）』（東洋館出版社） 『高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説　国語編（平成 30 年 7 月）』（東洋館出版社）
参考書	大滝一登『高等学校新学習指導要領　国語の授業づくり』（明治図書） 必要に応じて，事前に文献，資料等を紹介する。
評価の基準と方法	授業における取組（発表を含む）30%，小テスト 30%，課題提出 20%及び学期末レポート 20%。 大学の規定によりＧＰＡが 1.5～2.5 の範囲で評価をつける。 欠席が 6 回以上は，原則として単位が与えられない。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	◎			◎		○	

関連科目	
その他	ペアワーク，グループワークは，授業において随時行う。 なお，受講者の数，発表内容等により，授業予定を変更することがある。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	高等学校の教員，高等学校教育指導課の指導主事として，国語科教育を実践，指導してきた経験を生かし，理論と実践のバランスのとれた国語科教員を育成すべく，授業を計画・実施・評価する。

科目分類（2025年～入学者）		科目分類（～2024年入学者）	111-331-23	授業コード	FA0760
科目名称	書道実習Ⅰ			単位数	1.0単位
英文名称	Calligraphy Practice Ⅰ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	日向　雅之			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	日向　雅之			開講時期	3年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	1）　道具を用意する・片付けるといった、書道の実習を行う。 2）　基本的な楷書課題について、分析・理解し、実技と添削指導により、提出作品を完成させる。 3）　学生自身による実習を行い、氏名点呼・範書を経験する。 4）　中学校書写の指導理論について、教科書『国語科書写の理論と実践！』（萱原書房）を用いて講義を聞きレポートを作成する。				
到達目標	1）　書道の実技の実施において、準備・揮毫・片付けまでを確実に行うことができる。 2）　基礎的な楷書・行書の課題について、分析と理解を深め、書技を高める。 3）　学生自身の実習で、氏名点呼・範書を経験することで、教師としての資質を高める。 4）　中学書写の指導理論を、課題レポートにより習得する。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	日向　雅之	【第1回】 予習：授業のテーマ・到達目標を事前に読了し、理解しておくこと。 授業：講座案内、書写指導の意義と概論（テキスト4ｐ～5ｐ）・テーマに沿った硬筆課題を行う。鉛筆、消しゴムを持参すること。 復習：実技をするために必要な内容について確認する。
2	日向　雅之	【第2回】 予習：テキスト34、35ｐの楷書に調和するひらがなの欄を読んで、予習しておくこと。 授業：実技-楷書に調和するひらがな。書道用具一式を持参すること。 復習：楷書に調和するひらがなについて再確認し、実技を習得し理解を深める。
3	日向　雅之	【第3回】 予習：テキスト36、37ｐの楷書に調和する片仮名の欄を読んで、予習しておくこと。 授業：実技-楷書に調和する片仮名 復習：楷書に調和する片仮名について再確認し、実技を習得し理解を深める。
4	日向　雅之	【第4回】 予習：テキスト38、39ｐの楷書と字形を読み予習しておくこと。 授業：実技-楷書と字形 復習：楷書と字形について再確認し、実技を習得し理解を深める。
5	日向　雅之	【第5回】 予習：テキスト44ｐ～45ｐの筆順について、予習しておくこと。 授業：実技-楷書基本点画に複数のバリエーションがあることを理解する。課題「左右」 復習：基本点画の変化について再確認し、実技を習得し理解を深める。
6	日向　雅之	【第6回】 予習：テキスト46ｐ～47ｐ点画の長短について、予習しておくこと。 授業：実技-課題「山寺」 復習：楷書の筆順について再確認し、実技を習得し理解を深める。
7	日向　雅之	【第7回】 予習：テキスト48ｐ、49ｐの点画の方向について、予習しておくこと。 授業：実技-課題「友人」 復習：点画の方向について再確認し、実技を習得し理解を深める。
8	日向　雅之	【第8回】 予習：テキスト50ｐ～51ｐの点画の接し方について、予習しておくこと。 授業：実技-課題「日光」 復習：点画の接し方について再確認し、実技を習得し理解を深める。
9	日向　雅之	【第9回】 予習：テキスト52ｐ～53ｐ点画の交わり方について、予習しておくこと。 授業：実技-課題「文武」 復習：点画の交わり方について再確認し、実技を習得し理解を深める。
10	日向　雅之	【第10回】 予習：テキスト54ｐ～55ｐの左右から成る文字の組み立て方について、予習しておくこと。 授業：実技-課題「金銀」 復習：左右から成る文字の組み立て方について再確認し、実技を習得し理解を深める。

11	日向　雅之	【第 11 回】 予習：テキスト 56ｐ～57ｐ上下から成る文字の組み立て方について、予習しておくこと。 授業：実技-課題「竹笛」 復習上下から成る文字の組み立て方について再確認し、実技を習得し理解を深める。
12	日向　雅之	【第 12 回】 予習：テキスト 58ｐ～59ｐの内外から成る文字の組み立て方について、予習しておくこと。 授業：実技-「進展」 復習：内外から成る文字の組み立て方について再確認し、実技を習得し理解を深める。
13	日向　雅之	【第 13 回】 予習：テキスト 60ｐ文字の大きさと配列について、予習しておくこと。 授業：実技-課題「美しい山の緑」 復習：文字の大きさと配列について再確認し、実技を習得し理解を深める。
14	日向　雅之	【第 14 回】 予習：テキスト 61ｐ点画のつながりについて、予習しておくこと。 授業：実技-課題「うさぎ追いし･･･」 復習：点画のつながりについて再確認し、実技を習得し理解を深める。
15	日向　雅之	【第 15 回】 予習：テキスト 62ｐの硬筆縦書きについて、予習しておくこと。 授業：実技-課題「学習のステップ･･･」 復習：硬筆縦書きについて再確認し、実技を習得し理解を深める。

授業開始前学習	
授業内課題のフィードバックの方法	提出した作品を授業内で添削し、各回のテーマ習得に添うよう適宜指導します。 模擬実習を行い、より効果が高い指導が出来るよう検討し、適宜指導します。
テキスト･教材	『国語科書写の理論と実践！』（萱原書房） 書道用具一式 硬筆用－２Ｂ以上の鉛筆と消しゴム
参考書	
評価の基準と方法	提出課題（70%）・模擬実習及び授業態度（30%）を点数化したものの合計にて評価します。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			△		◎	

関連科目	
その他	
予習･復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習･復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）		科目分類（～2024年入学者）	111-331-23	授業コード	FA0770
科目名称	書道実習Ⅱ			単位数	1.0単位
英文名称	Calligraphy PracticeⅡ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	日向　雅之			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	日向　雅之			開講時期	3年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	1）　道具を用意する・片付けるといった、書道の実習を行う。 2）　基本的な楷書課題について、分析・理解し、実技と添削指導により、提出作品を完成させる。 3）　学生自身による実習を行い、氏名点呼・範書を経験する。 4）　中学校書写の指導理論について、教科書『国語科書写の理論と実践！』（萱原書房）を用いて講義を聞きレポートを作成する。				
到達目標	1）　書道の実技の実施において、準備・揮毫・片付けまでを確実に行うことができる。 2）　基礎的な楷書・行書の課題について、分析と理解を深め、書技を高める。 3）　学生自身の実習で、氏名点呼・範書を経験することで、教師としての資質を高める。 4）　中学書写の指導理論を、課題により習得する。				

アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	日向　雅之	【第1回】 タイトル：【第1回】 授業：行書と楷書の違いとテキスト64pの内容に沿って確認する。テーマに沿った硬筆実技を行うので、鉛筆・消しゴムを持参すること。 復習：行書と楷書の違いを再確認する。
2	日向　雅之	【第2回】 タイトル：【第2回】「点画の丸み、方向や形の変化1」『大木』 予習：テキスト65pの点画の丸み方向の変化を読んで、予習しておくこと。 授業：実技-「大木」 復習：点画の丸み方向の変化①について再確認し、実技を習得し理解を深める。
3	日向　雅之	【第3回】 タイトル：【第3回】「点画の丸み、方向や形の変化3」『北西』 予習：テキスト66pの点画の丸み方向の変化②を読んで、予習しておくこと。 授業：実技-課題「北西」 復習：点画の丸み方向の変化②について再確認し、実技を習得し理解を深める。
4	日向　雅之	【第4回】 タイトル：【第4回】「点画の連続1筆脈の実線化」『清心』 予習：テキスト68pの筆脈の実線化を読んで、予習しておくこと。 授業：実技-課題「清心」 復習：筆脈の実線化について再確認し、実技を習得し理解を深める。
5	日向　雅之	【第5回】 タイトル：【第5回】「点画の連続2直接連続」『元気』 予習：テキスト69pの点画の連続直接連続を読み、予習しておくこと。 授業：実技-課題「元気」 復習：点画の連続直接連続について再確認し、実技を習得し理解を深める。
6	日向　雅之	【第6回】 タイトル：【第6回】「点画の省略」『秋霜』 予習：テキスト71pの点画の省略について、予習しておくこと。 授業：実技-課題「秋霜」 復習：点画の省略について再確認し、実技を習得し理解を深める。
7	日向　雅之	【第7回】 タイトル：【第7回】「筆順の変化」『書聖』 予習：テキスト72p筆順の変化について、予習しておくこと。 授業：実技-課題「書聖」 復習：筆順の変化について再確認し、実技を習得し理解を深める。
8	日向　雅之	【第8回】 タイトル：【第8回】「行書に調和する仮名」『はれやかな朝』 予習：テキスト74pの「行書に調和する仮名」について、予習しておくこと。 授業：実技-課題「はれやかな朝」 復習：「行書に調和する仮名」について再確認し、実技を習得し理解を深める。

9	日向　雅之	【第 9 回】 タイトル：【第 9 回】「文字の大きさと配列行書 1 」『赤とんぼ‥』 予習：テキスト 76p 文字の大きさと配列について、予習しておくこと。 授業：実技-課題「赤とんぼ･･･」 復習：文字の大きさと配列について再確認し、実技を習得し理解を深める。
10	日向　雅之	【第 10 回】 タイトル：【第 10 回】「文字の大きさと配列行書 2 」『自然との調和』 予習：テキスト 77 p の文字の大きさと配列のポイントについて、予習しておくこと。 授業：実技-課題「自然との調和」 復習：文字の大きさと配列のポイントについて再確認し、実技を習得し理解を深める。
11	日向　雅之	【第 11 回】 タイトル：【第 11 回】「実用書式　封筒」 予習：テキスト 78 p の「実用書式」について、予習しておくこと。 授業：実技-課題「佐藤‥」 復習：「実用書式」について再確認し、実技を習得し理解を深める。
12	日向　雅之	【第 12 回】 タイトル：【第 12 回】「実用書式　葉書」 予習：テキスト 79p の「はがきの書き方」について、予習しておくこと。 授業：実技-課題「佐藤‥」 復習：「はがきの書き方」について再確認し、実技を習得し理解を深める。
13	日向　雅之	【第 13 回】 タイトル：【第 13 回】「実用書式　手紙」 予習：テキスト 80 p「手紙文を書く」をよく読んでおく。 授業：実技-「拝「手紙文を書く」啓･･･」 復習：「手紙文を書く」について再確認し、実技を習得し理解を深める。
14	日向　雅之	【第 14 回】 タイトル：【第 14 回】「原稿用紙を書く」 予習：テキスト 81 p 上段の原稿用紙に書く(縦書き) について、予習しておくこと。 授業：実技-「私たち･･･」の課題 復習：原稿用紙に書く(縦書き) について再確認し、実技を習得し理解を深める。
15	日向　雅之	【第 15 回】 タイトル：【第 15 回】「書き初めを書く」 予習：テキスト 82 p の書き初め課題について、予習しておくこと。 授業：実技-書き初めの筆課題 復習：書き初めの実践と指導について再確認し、実技を習得し理解を深める。

授業開始前学習	
授業内課題のフィードバックの方法	提出した作品を授業内で添削し、各回のテーマ習得に添うよう適宜指導します。 模擬実習を行い、より効果が高い指導が出来るよう検討し、適宜指導します。
テキスト･教材	『国語科書写の理論と実践！』（萱原書房） 書道用具一式 硬筆用－２Ｂ以上の鉛筆と消しゴム
参考書	
評価の基準と方法	提出課題（70%）･模擬実習及び授業態度（30%）を点数化したものの合計にて評価します。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			△		◎	

関連科目	
その他	
予習･復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習･復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）	GJ-M-221 SD-L-221 （J）	科目分類（～2024年入学者）	111-331-12 （J）	授業コード	FA0780
科目名称	日本の文化財Ⅰ			単位数	2.0単位
英文名称	Cultural Properties of Japan Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	小山 貴子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小山 貴子			開講時期	2・3年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	文化財を後世に伝えることは，博物館の重要な責務である。近年、文化財・文化遺産については、保存と活用が要求されており、博物館学芸員には、文化財保存・保護に関する基礎的事項を理解し、それらの活用が求められている。本授業では，文化財の保護やさまざまな文化財に関する歴史を振り返りながら、その見方や活用方法などを学ぶ。				
到達目標	文化財への理解を図り、その保存・活用の方法を考えることができるようになる。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	小山 貴子	【第1回】 予習：この授業のシラバスを通読しておく。 授業：オリエンテーション。この授業および文化財の見方・考え方について説明する。 復習：授業の内容を確認する。
2	小山 貴子	【第2回】 予習：文化財とは何か、文化財にはどのようなものがあるか調べる 授業：文化財の種類や文化財保護の歴史について概説 復習：文化財の種類、歴史を確認する
3	小山 貴子	【第3回】 予習：文化財保護および博物館の役割を調べる 授業：文化財保護法改正と文化財・博物館行政について概説 復習：文化財保護法と博物館行政について確認する
4	小山 貴子	【第4回】 予習：古代の史跡・遺跡にはどのようなものがあるか調べる 授業：古代の史跡・遺跡について概説 復習：古代の史跡・遺跡について確認する
5	小山 貴子	【第5回】 予習：中世の史跡・遺跡にはどのようなものがあるか調べる 授業：中世の史跡・遺跡について概説 復習：中世の史跡・遺跡について確認する
6	小山 貴子	【第6回】 予習：中世の史跡・遺跡にはどのようなものがあるか調べる 授業：中世の史跡・遺跡について概説 復習：中世の史跡・遺跡について確認する
7	小山 貴子	【第7回】 予習：近世の史跡・遺跡と文化財にはどのようなものがあるか調べる 授業：近世の史跡・遺跡と文化財について概説 復習：近世の史跡・遺跡と文化財について確認する
8	小山 貴子	【第8回】 予習：近現代の史跡・遺跡と文化財にはどのようなものがあるか調べる 授業：近現代の史跡・遺跡と文化財について概説 復習：近現代の史跡・遺跡と文化財について確認する
9	小山 貴子	【第9回】 予習：建造物（寺院・寺社）にはどのようなものがあるか調べる 授業：建造物（寺院・寺社）について概説 復習：建造物（寺院・寺社）について確認する
10	小山 貴子	【第10回】 予習：建造物（城郭）にはどのようなものがあるか調べる 授業：建造物（城郭）について概説 復習：建造物（城郭）について確認する
11	小山 貴子	【第11回】 予習：住宅の歴史（中世まで）について調べる 授業：住宅の歴史（中世まで）について概説 復習：住宅の歴史（中世まで）について確認する

12	小山　貴子	【第 12 回】 予習：住宅の歴史（近世）について調べる 授業：住宅の歴史（近世）について概説 復習：住宅の歴史（近世）について確認する
13	小山　貴子	【第 13 回】 予習：住宅の歴史（庶民の住宅）について調べる 授業：住宅の歴史（庶民の住宅）について概説 復習：住宅の歴史（庶民の住宅）について確認する
14	小山　貴子	【第 14 回】 予習：石造物にはどのようなものがあるか調べる 授業：石造物について概説 復習：石造物について確認する
15	小山　貴子	【第 15 回】 予習：石造物にはどのようなものがあるか調べる 授業：石造物について概説 復習：石造物について確認する

授業開始前学習	
授業内課題のフィードバックの方法	次回授業開始時にコメントに関する講評（主に質問への回答、フィードバック）を行う。
テキスト・教材	授業時に適宜プリントを配布する。
参考書	参考書としては『新版　図説　歴史散歩事典』（山川出版社、２０１９年）などを使用する。
評価の基準と方法	レポートで評価を行う。配点（100 点満点における）は平常点（授業態度・課題提出）40 点、レポート 60 点の配分とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎		○	◎	○		

関連科目	
その他	授業の進捗状況などによって、内容を変更することがある。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	博物館学芸員としての実務経験を活かし、文化財について講義をおこなう。

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	111-331-12（J）	授業コード	FA0790
科目名称	日本の文化財Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	Cultural Properties of Japan Ⅱ			授業区分	講義
科目責任者	小山 貴子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小山 貴子			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	文化財を後世に伝えることは，博物館の重要な責務である。近年、文化財・文化遺産については、保存と活用が要求されており、博物館学芸員には、文化財保存・保護に関する基礎的事項を理解し、それらの活用が求められている。本授業では，文化財の保護やさまざまな文化財に関する歴史を振り返りながら、その見方や活用方法などを学ぶ。				
到達目標	文化財への理解を図り、その保存・活用の方法を考えることができるようになる。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	小山 貴子	【第 1 回】 予習：絵画（中世まで）の歴史について調べる 授業：絵画（中世まで）の歴史について概説 復習：絵画（中世まで）の歴史を確認する
2	小山 貴子	【第 2 回】 予習：絵画（近世）の歴史について調べる 授業：絵画（近世）の歴史について概説 復習：絵画（近世）の歴史を確認する
3	小山 貴子	【第 3 回】 予習：絵画（近世前期の浮世絵）にはどのようなものがあるか調べる 授業：絵画（近世前期の浮世絵）の歴史について概説 復習：絵画（近世前期の浮世絵）の歴史を確認する
4	小山 貴子	【第 4 回】 予習：絵画（近世後期の浮世絵）にはどのようなものがあるか調べる 授業：絵画（近世後期の浮世絵）の歴史について概説 復習：絵画（近世後期の浮世絵）の歴史を確認する予習：書籍・典籍について調べる
5	小山 貴子	【第 5 回】 予習：絵画（近代の浮世絵）にはどのようなものがあるか調べる 授業：絵画（近代の浮世絵）の歴史について概説 復習：絵画（近代の浮世絵）の歴史を確認する
6	小山 貴子	【第 6 回】 予習：絵画（浮世絵の役割と機能）にはどのようなものがあるか調べる 授業：絵画（浮世絵の役割と機能）の歴史について概説 復習：絵画（浮世絵の役割と機能）の歴史を確認する
7	小山 貴子	【第 7 回】 予習：書跡について調べる 授業：書跡について概説 復習：書跡について確認する
8	小山 貴子	【第 8 回】 予習：典籍（中世まで）について調べる 授業：典籍（中世まで）について概説 復習：典籍（中世まで）について確認する
9	小山 貴子	【第 9 回】 予習：典籍（近世）について調べる 授業：典籍（近世）について概説 復習：典籍（近世）について確認する
10	小山 貴子	【第 10 回】 予習：古文書について調べる 授業：古文書について概説 復習：古文書について確認する
11	小山 貴子	【第 11 回】 予習：古文書について調べる 授業：古文書について概説 復習：古文書について確認する

12	小山　貴子	【第 12 回】 予習：古文書について調べる 授業：古文書について概説 復習：古文書について確認する
13	小山　貴子	【第 13 回】 予習：古文書について調べる 授業：古文書について概説 復習：古文書について確認する
14	小山　貴子	【第 14 回】 予習：地域資料とは何か調べる 授業：地域資料について概説 復習：地域資料について確認する
15	小山　貴子	【第 15 回】 予習：地域資料とは何か調べる 授業：地域資料について概説 復習：地域資料について確認する

授業開始前学習	
授業内課題のフィードバックの方法	次回授業開始時にコメントに関する講評（主に質問への回答、フィードバック）を行う。
テキスト・教材	授業時に適宜プリントを配布する。
参考書	参考書としては『新版　図説　歴史散歩事典』（山川出版社、２０１９年）などを使用する。
評価の基準と方法	レポートで評価を行う。配点（100 点満点における）は平常点（授業態度・課題提出）40 点、レポート 60 点の配分とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎		○	◎	○		

関連科目	
その他	授業の進捗状況などによって、内容を変更することがある。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	博物館学芸員としての実務経験を活かし、文化財について講義をおこなう。

科目分類（2025年～入学者）	GJ-M-221	科目分類（～2024年入学者）	111-331-12	授業コード	FA0800
科目名称	文化交流史Ⅰ			単位数	2.0単位
英文名称	History of Cultural Exchange Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	市川　理恵			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	市川　理恵			開講時期	2・3年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	日本と海外との文化交流の歴史について、旧石器時代から鎌倉時代までを取り上げます。海外から何がもたらされたのか、そしてこのうち日本は、何を受容したのかを解説します。さらにそれが日本の文化や歴史に、どのような影響を与えたのかを論じていきます。				
到達目標	1　日本の文化・歴史を、海外との交流史のなかで捉え直すことができる。 2　海外の文化が、日本の文化・歴史にどのような影響を与えたかを理解することができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	市川　理恵	【第1回】 予習：旧石器遺跡捏造事件について調べる。 授業：旧石器時代の文化交流 復習：教科書の「旧石器時代の文化交流」を読む。
2	市川　理恵	【第2回】 予習：三内丸山遺跡について調べる。 授業：縄文から弥生へ 復習：教科書の「縄文から弥生へ」を読む。
3	市川　理恵	【第3回】 予習：邪馬台国について調べる。 授業：倭人と中国王朝 復習：教科書の「倭人と中国王朝」を読む。
4	市川　理恵	【第4回】 予習：欠史八代について調べる。 授業：神話から歴史へ 復習：教科書の「神話から歴史へ」を読む。
5	市川　理恵	【第5回】 予習：蘇我馬子について調べる。 授業：六世紀の国際関係と仏教伝来 復習：教科書の「六世紀の国際関係と仏教伝来」を読む。
6	市川　理恵	【第6回】 予習：天智天皇について調べる。 授業：大化の改新と白村江の戦い 復習：教科書の「大化の改新と白村江の戦い」を読む。
7	市川　理恵	【第7回】 予習：持統天皇について調べる。 授業：律令の導入と古代国家の成立 復習：教科書の「律令の導入と古代国家の成立」を読む。
8	市川　理恵	【第8回】 予習：光明皇后について調べる。 授業：聖武天皇・光明皇后と国家仏教 復習：教科書の「聖武天皇・光明皇后と国家仏教」を読む。
9	市川　理恵	【第9回】 予習：大伴古麻呂について調べる。 授業：遣唐使がもたらしたもの 復習：教科書の「遣唐使がもたらしたもの」を読む。
10	市川　理恵	【第10回】 予習：道鏡について調べる。 授業：国家仏教の行く末 復習：教科書の「国家仏教の行く末」を読む。
11	市川　理恵	【第11回】 予習：空海について調べる。 授業：最澄・空海とその後の仏教 復習：教科書の「最澄・空海とその後の仏教」を読む。

12	市川　理恵	【第 12 回】 予習：円仁について調べる。 授業：入唐八家と聖地巡礼 復習：教科書の「入唐八家と聖地巡礼」を読む。
13	市川　理恵	【第 13 回】 予習：藤原隆家について調べる。 授業：遣唐使廃止後の対外交流と国風文化 復習：教科書の「遣唐使廃止後の対外交流と国風文化」を読む。
14	市川　理恵	【第 14 回】 予習：平清盛について調べる。 授業：日宋貿易と禅宗の伝来 復習：教科書の「日宋貿易と禅宗の伝来」を読む。
15	市川　理恵	【第 15 回】 予習：教科書を一通り読む。 授業：旧石器時代から鎌倉時代における文化交流の総括 復習：日本が海外から受容した文化について時代ごとにまとめておく。

授業開始前学習	鎌倉時代までの日本の歴史を学習しておくと授業が理解しやすい。
授業内課題のフィードバックの方法	毎回、「授業の感想・質問」を提出する。質問は次回の授業で回答する。
テキスト・教材	授業開始時にテキスト（駒沢女子大学教科書シリーズ）を指示する。
参考書	
評価の基準と方法	定期試験の結果（７０％）と授業態度（30%）で評価を行う。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎			◎	○		

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	GJ-M-221	科目分類（～2024 年入学者）	111-331-12	授業コード	FA0810
科目名称	文化交流史Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	History of Cultural ExchangeⅡ			授業区分	講義
科目責任者	市川　理恵			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	市川　理恵			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	日本と海外との文化交流の歴史について、鎌倉時代から明治時代までを取り上げます。日本が海外から何を受容し、何を排除したのかを解説するとともに、このことが日本の文化や歴史にどのような影響を与えたのかを論じていきます。				
到達目標	1　日本の文化・歴史を、海外との交流史のなかで捉え直すことができる。 2　海外の文化が、日本の文化・歴史にどのような影響を与えたかを理解することができる。				

アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	市川　理恵	【第 1 回】 予習：元寇について調べる。 授業：蒙古襲来と鎌倉幕府 復習：教科書の「蒙古襲来と鎌倉幕府」を読む。
2	市川　理恵	【第 2 回】 予習：足利尊氏について調べる。 授業：日明貿易と室町幕府 復習：教科書の「日明貿易と室町幕府」を読む。
3	市川　理恵	【第 3 回】 予習：足利義満について調べる。 授業：14・15 世紀の中国・朝鮮と琉球 復習：教科書の「14・15 世紀の中国・朝鮮と琉球」を読む。
4	市川　理恵	【第 4 回】 予習：織田信長について調べる。 授業：戦国大名と鉄砲伝来 復習：教科書の「戦国大名と鉄砲伝来」を読む。
5	市川　理恵	【第 5 回】 予習：豊臣秀吉について調べる。 授業：キリスト教の伝来と弾圧 復習：教科書の「キリスト教の伝来と弾圧」を読む。
6	市川　理恵	【第 6 回】 予習：徳川家康について調べる。 授業：江戸幕府と鎖国政策 復習：教科書の「江戸幕府と鎖国政策」を読む。
7	市川　理恵	【第 7 回】 予習：徳川家光について調べる。 授業：長崎貿易と洋学 復習：教科書の「長崎貿易と洋学」を読む。
8	市川　理恵	【第 8 回】 予習：高野長英について調べる。 授業：アヘン戦争とアジア 復習：教科書の「アヘン戦争とアジア」を読む。
9	市川　理恵	【第 9 回】 予習：黒船について調べる。 授業：黒船来航と開国 復習：教科書の「黒船来航と開国」を読む。
10	市川　理恵	【第 10 回】 予習：井伊直弼について調べる。 授業：「万国公法」と世界 復習：教科書の「「万国公法」と世界」を読む。
11	市川　理恵	【第 11 回】 予習：新選組について調べる 授業：国際化のなかの幕府と薩長 復習：教科書の「国際化のなかの幕府と薩長」を読む。

12	市川　理恵	【第 12 回】 予習：岩倉使節団について調べる。 授業：明治維新と文明開化 復習：教科書の「明治維新と文明開化」を読む。
13	市川　理恵	【第 13 回】 予習：江華島事件について調べる。 授業：朝鮮半島情勢と日本の領土確定 復習：教科書の「朝鮮半島情勢と日本の領土確定」を読む。
14	市川　理恵	【第 14 回】 予習：大久保利通について調べる。 授業：殖産興業 復習：教科書の「殖産興業」を読む。
15	市川　理恵	【第 15 回】 予習：教科書を一通り読む。 授業：鎌倉時代から明治時代までの文化交流の総括 復習：日本が海外から受容した文化、排除した文化について時代ごとにまとめておく。

授業開始前学習	鎌倉時代から明治時代までの日本の歴史を学習しておくと授業が理解しやすい。
授業内課題のフィードバックの方法	毎回、「授業の感想・質問」を提出する。質問は次回の授業で回答する。
テキスト・教材	授業開始時にテキスト（駒沢女子大学教科書シリーズ）を指示する。
参考書	
評価の基準と方法	定期試験の結果（70%）と授業態度（30%）で評価を行う。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎			◎	○		

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	111-310-23	授業コード	FA1012
科目名称	日本文化ｾﾞﾐⅠ			単位数	1.0 単位
英文名称	Japanese Culture Seminar Ⅰ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	皆川 義孝			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	皆川 義孝			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～16:00 後期 火曜日 13:00～16:00			研究室	10-507
授業概要	日本文化の特徴について考察するための研究テーマを自ら設定し、主体的に調査・研究を深め、独自性のある研究成果をまとめていく。また、ゼミごとに、①歴史、②信仰・風習、③文学、④言語、それぞれの学問分野の視点から日本文化の特徴を考える。授業では発表を行う。				
到達目標	・根拠として信憑性の高い情報を、適切に収集することができる。 ・収集した情報を正確に理解し、問題点を客観的に分析して、自分の考えを論理的に構築することができる。 ・構築した自分の考えをまとめ、発表やレポートなどを通して他者に正しく伝達することができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	共同

授業回数	担当者	授業の内容
1	松村 良	【第 1 回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：研究テーマの設定 復習：参考文献を収集する。
2	皆川 義孝	【第 2 回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：文献リストの作成 復習：先行研究を整理する。
3	皆川 義孝	【第 3 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
4	皆川 義孝	【第 4 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
5	皆川 義孝	【第 5 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
6	皆川 義孝	【第 6 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
7	皆川 義孝	【第 7 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
8	皆川 義孝	【第 8 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
9	皆川 義孝	【第 9 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
10	皆川 義孝	【第 10 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
11	皆川 義孝	【第 11 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。

12	皆川　義孝	【第 12 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
13	皆川　義孝	【第 13 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
14	皆川　義孝	【第 14 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
15	皆川　義孝	【第 15 回】 予習：輪読資料を振り返る。 授業：輪読資料から考える日本の文化 復習：研究発表を振り返り、今後の課題を考える。

授業開始前学習	各自の研究テーマについての関連文献を読むなどの準備学習を行う。
授業内課題のフィードバックの方法	発表者の発表内容については、授業時および授業終了後に適宜指導を行う。質問・アドバイスをまとめた受講生のメモに対しては、授業担当教員より適宜コメントを行う。
テキスト・教材	日本文化専攻作成のオリジナル共通テキストを使用する。
参考書	
評価の基準と方法	平常点１０%、発表４０%、レポート３０%、テスト２０%により評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		○		◎	◎

関連科目	
その他	・「各回の授業内容」は準備段階（第１回～第２回）と資料輪読・研究発表（第３回以降）とに分かれる。履修人数などに応じて、準備段階の回数を増やし、資料輪読・研究発表の回数を減らす場合がある。 ・日本文化ゼミⅠ・Ⅱのいずれかで正課学外活動（首都圏の博物館や史跡等の見学）を１回行う予定である。交通費および入場料 1000 円程度の負担が必要となる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	111-310-23	授業コード	FA1013
科目名称	日本文化ｾﾞﾐⅠ			単位数	1.0 単位
英文名称	Japanese Culture Seminar Ⅰ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	松村 良			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松村 良			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 水曜日 16:20～17:50 金曜日 14:40～16:10 後期 水曜日 14:40～16:10 金曜日 14:40～16:10			研究室	10-617
授業概要	日本文化の特徴について考察するための研究テーマを自ら設定し、主体的に調査・研究を深め、独自性のある研究成果をまとめていく。また、ゼミごとに、①歴史、②信仰・風習、③文学、④言語、それぞれの学問分野の視点から日本文化の特徴を考える。授業では発表を行う。				
到達目標	・根拠として信憑性の高い情報を、適切に収集することができる。 ・収集した情報を正確に理解し、問題点を客観的に分析して、自分の考えを論理的に構築することができる。 ・構築した自分の考えをまとめ、発表やレポートなどを通して他者に正しく伝達することができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	共同

授業回数	担当者	授業の内容
1	皆川 義孝	【第 1 回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：研究テーマの設定 復習：参考文献を収集する。
2	松村 良	【第 2 回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：文献リストの作成 復習：先行研究を整理する。
3	松村 良	【第 3 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
4	松村 良	【第 4 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
5	松村 良	【第 5 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
6	松村 良	【第 6 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
7	松村 良	【第 7 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
8	松村 良	【第 8 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
9	松村 良	【第 9 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
10	松村 良	【第 10 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
11	松村 良	【第 11 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。

12	松村　良	【第 12 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
13	松村　良	【第 13 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
14	松村　良	【第 14 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
15	松村　良	【第 15 回】 予習：輪読資料を振り返る。 授業：輪読資料から考える日本の文化 復習：研究発表を振り返り、今後の課題を考える。

授業開始前学習	各自の研究テーマについての関連文献を読むなどの準備学習を行う。
授業内課題のフィードバックの方法	発表者の発表内容については、授業時および授業終了後に適宜指導を行う。質問・アドバイスをまとめた受講生のメモに対しては、授業担当教員より適宜コメントを行う。
テキスト・教材	日本文化専攻作成のオリジナル共通テキストを使用する。
参考書	
評価の基準と方法	平常点１０%、発表４０%、レポート３０%、テスト２０%により評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		○		◎	◎

関連科目	
その他	・「各回の授業内容」は準備段階（第１回～第２回）と資料輪読・研究発表（第３回以降）とに分かれる。履修人数などに応じて、準備段階の回数を増やし、資料輪読・研究発表の回数を減らす場合がある。 ・日本文化ゼミⅠ・Ⅱのいずれかで正課学外活動（首都圏の博物館や史跡等の見学）を１回行う予定である。交通費および入場料 1000 円程度の負担が必要となる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	111-310-23	授業コード	FA1014
科目名称	日本文化ｾﾞﾐⅠ			単位数	1.0 単位
英文名称	Japanese Culture Seminar Ⅰ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	山本　元隆			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	山本　元隆			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期　月曜日 14:40～16:10　金曜日 09:00～10:30 後期　月曜日 14:40～16:10　金曜日 09:00～10:30			研究室	10-506
授業概要	日本文化の特徴について考察するための研究テーマを自ら設定し、主体的に調査・研究を深め、独自性のある研究成果をまとめていく。また、ゼミごとに、①歴史、②信仰・風習、③文学、④言語、それぞれの学問分野の視点から日本文化の特徴を考える。授業では発表を行う。				
到達目標	・根拠として信憑性の高い情報を、適切に収集することができる。 ・収集した情報を正確に理解し、問題点を客観的に分析して、自分の考えを論理的に構築することができる。 ・構築した自分の考えをまとめ、発表やレポートなどを通して他者に正しく伝達することができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態	共同				

授業回数	担当者	授業の内容
1	山本　元隆	【第 1 回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：研究テーマの設定 復習：参考文献を収集する。
2	山本　元隆	【第 2 回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：文献リストの作成 復習：先行研究を整理する。
3	山本　元隆	【第 3 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
4	山本　元隆	【第 4 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
5	山本　元隆	【第 5 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
6	山本　元隆	【第 6 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
7	山本　元隆	【第 7 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
8	山本　元隆	【第 8 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
9	山本　元隆	【第 9 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
10	山本　元隆	【第 10 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
11	山本　元隆	【第 11 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。

12	山本　元隆	【第 12 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
13	山本　元隆	【第 13 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
14	山本　元隆	【第 14 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
15	山本　元隆	【第 15 回】 予習：輪読資料を振り返る。 授業：輪読資料から考える日本の文化 復習：研究発表を振り返り、今後の課題を考える。

授業開始前学習	各自の研究テーマについての関連文献を読むなどの準備学習を行う。
授業内課題のフィードバックの方法	発表者の発表内容については、授業時および授業終了後に適宜指導を行う。質問・アドバイスをまとめた受講生のメモに対しては、授業担当教員より適宜コメントを行う。
テキスト・教材	日本文化専攻作成のオリジナル共通テキストを使用する。
参考書	
評価の基準と方法	平常点１０%、発表４０%、レポート３０%、テスト２０%により評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		○		◎	◎

関連科目	
その他	・「各回の授業内容」は準備段階（第１回～第２回）と資料輪読・研究発表（第３回以降）とに分かれる。履修人数などに応じて、準備段階の回数を増やし、資料輪読・研究発表の回数を減らす場合がある。 ・日本文化ゼミⅠ・Ⅱのいずれかで正課学外活動（首都圏の博物館や史跡等の見学）を１回行う予定である。交通費および入場料 1000 円程度の負担が必要となる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	111-310-23	授業コード	FA1022
科目名称	日本文化ｾﾞﾐⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	Japanese Culture Seminar Ⅱ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	皆川　義孝			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	皆川　義孝			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期　火曜日 13:00～16:00 後期　火曜日 13:00～16:00			研究室	10-507
授業概要	日本文化の特徴について考察するための研究テーマを自ら設定し、主体的に調査・研究を深め、独自性のある研究成果をまとめていく。また、ゼミごとに、①歴史、②信仰・風習、③文学、④言語、それぞれの学問分野の視点から日本文化の特徴を考える。授業では発表を行う。				
到達目標	・根拠として信憑性の高い情報を、適切に収集することができる。 ・収集した情報を正確に理解し、問題点を客観的に分析して、自分の考えを論理的に構築することができる。 ・構築した自分の考えをまとめ、発表やレポートなどを通して他者に正しく伝達することができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態	共同				

授業回数	担当者	授業の内容
1	松村　良	【第 1 回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：文献リストの作成 復習：文献リストを更新する。
2	皆川　義孝	【第 2 回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：先行研究の整理 復習：先行研究の整理を更新する。
3	皆川　義孝	【第 3 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
4	皆川　義孝	【第 4 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
5	皆川　義孝	【第 5 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
6	皆川　義孝	【第 6 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
7	皆川　義孝	【第 7 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
8	皆川　義孝	【第 8 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
9	皆川　義孝	【第 9 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
10	皆川　義孝	【第 10 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
11	皆川　義孝	【第 11 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。

12	皆川　義孝	【第 12 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
13	皆川　義孝	【第 13 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
14	皆川　義孝	【第 14 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
15	皆川　義孝	【第 15 回】 予習：輪読資料を振り返る。 授業：輪読資料から考える日本の文化 復習：研究発表を振り返り、今後の課題を考える。

授業開始前学習	各自の研究テーマについての関連文献を読むなどの準備学習を行う。
授業内課題のフィードバックの方法	発表者の発表内容については、授業時および授業終了後に適宜指導を行う。質問・アドバイスをまとめた受講生のメモに対しては、授業担当教員より適宜コメントを行う。
テキスト・教材	日本文化専攻作成のオリジナル共通テキストを使用する。
参考書	
評価の基準と方法	平常点１０%、発表４０%、レポート３０%、テスト２０%により評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		○		◎	◎

関連科目	
その他	・「各回の授業内容」は準備段階（第１回～第２回）と資料輪読・研究発表（第３回以降）とに分かれる。履修人数などに応じて、準備段階の回数を増やし、資料輪読・研究発表の回数を減らす場合がある。 ・日本文化ゼミⅠ・Ⅱのいずれかで正課学外活動（首都圏の博物館や史跡等の見学）を１回行う予定である。交通費および入場料 1000 円程度の負担が必要となる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	111-310-23	授業コード	FA1023
科目名称	日本文化ｾﾞﾐⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	Japanese Culture Seminar Ⅱ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	松村　良			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松村　良			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期　水曜日 16:20～17:50　金曜日 14:40～16:10 後期　水曜日 14:40～16:10　金曜日 14:40～16:10			研究室	10-617
授業概要	日本文化の特徴について考察するための研究テーマを自ら設定し、主体的に調査・研究を深め、独自性のある研究成果をまとめていく。また、ゼミごとに、①歴史、②信仰・風習、③文学、④言語、それぞれの学問分野の視点から日本文化の特徴を考える。授業では発表を行う。				
到達目標	・根拠として信憑性の高い情報を、適切に収集することができる。 ・収集した情報を正確に理解し、問題点を客観的に分析して、自分の考えを論理的に構築することができる。 ・構築した自分の考えをまとめ、発表やレポートなどを通して他者に正しく伝達することができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	共同

授業回数	担当者	授業の内容
1	三田　誠司	【第 1 回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：文献リストの作成 復習：文献リストを更新する。
2	松村　良	【第 2 回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：先行研究の整理 復習：先行研究の整理を更新する。
3	松村　良	【第 3 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
4	松村　良	【第 4 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
5	松村　良	【第 5 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
6	松村　良	【第 6 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
7	松村　良	【第 7 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
8	松村　良	【第 8 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
9	松村　良	【第 9 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
10	松村　良	【第 10 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
11	松村　良	【第 11 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。

12	松村　良	【第 12 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
13	松村　良	【第 13 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
14	松村　良	【第 14 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
15	松村　良	【第 15 回】 予習：輪読資料を振り返る。 授業：輪読資料から考える日本の文化 復習：研究発表を振り返り、今後の課題を考える。

授業開始前学習	各自の研究テーマについての関連文献を読むなどの準備学習を行う。
授業内課題のフィードバックの方法	発表者の発表内容については、授業時および授業終了後に適宜指導を行う。質問・アドバイスをまとめた受講生のメモに対しては、授業担当教員より適宜コメントを行う。
テキスト・教材	日本文化専攻作成のオリジナル共通テキストを使用する。
参考書	
評価の基準と方法	平常点１０%、発表４０%、レポート３０%、テスト２０%により評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		○		◎	◎

関連科目	
その他	・「各回の授業内容」は準備段階（第１回～第２回）と資料輪読・研究発表（第３回以降）とに分かれる。履修人数などに応じて、準備段階の回数を増やし、資料輪読・研究発表の回数を減らす場合がある。 ・日本文化ゼミⅠ・Ⅱのいずれかで正課学外活動（首都圏の博物館や史跡等の見学）を１回行う予定である。交通費および入場料 1000 円程度の負担が必要となる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	111-310-23	授業コード	FA1024
科目名称	日本文化ｾﾞﾐⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	Japanese Culture Seminar Ⅱ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	山本　元隆			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	山本　元隆			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期　月曜日 14:40～16:10　金曜日 09:00～10:30 後期　月曜日 14:40～16:10　金曜日 09:00～10:30			研究室	10-506
授業概要	日本文化の特徴について考察するための研究テーマを自ら設定し、主体的に調査・研究を深め、独自性のある研究成果をまとめていく。また、ゼミごとに、①歴史、②信仰・風習、③文学、④言語、それぞれの学問分野の視点から日本文化の特徴を考える。授業では発表を行う。				
到達目標	・根拠として信憑性の高い情報を、適切に収集することができる。 ・収集した情報を正確に理解し、問題点を客観的に分析して、自分の考えを論理的に構築することができる。 ・構築した自分の考えをまとめ、発表やレポートなどを通して他者に正しく伝達することができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	共同

授業回数	担当者	授業の内容
1	山本　元隆	【第 1 回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：文献リストの作成 復習：文献リストを更新する。
2	山本　元隆	【第 2 回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：先行研究の整理 復習：先行研究の整理を更新する。
3	山本　元隆	【第 3 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
4	山本　元隆	【第 4 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
5	山本　元隆	【第 5 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
6	山本　元隆	【第 6 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
7	山本　元隆	【第 7 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
8	山本　元隆	【第 8 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
9	山本　元隆	【第 9 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
10	山本　元隆	【第 10 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
11	山本　元隆	【第 11 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。

12	山本　元隆	【第 12 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
13	山本　元隆	【第 13 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
14	山本　元隆	【第 14 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
15	山本　元隆	【第 15 回】 予習：輪読資料を振り返る。 授業：輪読資料から考える日本の文化 復習：研究発表を振り返り、今後の課題を考える。

授業開始前学習	各自の研究テーマについての関連文献を読むなどの準備学習を行う。
授業内課題のフィードバックの方法	発表者の発表内容については、授業時および授業終了後に適宜指導を行う。質問・アドバイスをまとめた受講生のメモに対しては、授業担当教員より適宜コメントを行う。
テキスト・教材	日本文化専攻作成のオリジナル共通テキストを使用する。
参考書	
評価の基準と方法	平常点１０%、発表４０%、レポート３０%、テスト２０%により評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		○		◎	◎

関連科目	
その他	・「各回の授業内容」は準備段階（第１回～第２回）と資料輪読・研究発表（第３回以降）とに分かれる。履修人数などに応じて、準備段階の回数を増やし、資料輪読・研究発表の回数を減らす場合がある。 ・日本文化ゼミⅠ・Ⅱのいずれかで正課学外活動（首都圏の博物館や史跡等の見学）を１回行う予定である。交通費および入場料 1000 円程度の負担が必要となる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	111-310-24	授業コード	FA1031
科目名称	日本文化ｾﾞﾐⅢ			単位数	1.0 単位
英文名称	Japanese Culture Seminar Ⅲ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	三田　誠司			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三田　誠司			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　水曜日 14:40～16:10　木曜日 10:40～12:10 後期　水曜日 14:40～16:10　木曜日 10:40～12:10			研究室	10-611
授業概要	日本文化の特徴について考察するための研究テーマを自ら設定し、主体的に調査・研究を深め、独自性のある研究成果をまとめていく。また、ゼミごとに、①歴史、②信仰・風習、③文学、④言語、それぞれの学問分野の視点から日本文化の特徴を考える。授業では発表を行う。				
到達目標	・根拠として信憑性の高い情報を、適切に収集することができる。 ・収集した情報を正確に理解し、問題点を客観的に分析して、自分の考えを論理的に構築することができる。 ・構築した自分の考えをまとめ、発表やレポートなどを通して他者に正しく伝達することができる。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	皆川　義孝	【第 1 回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：文献リストの作成 復習：文献リストを更新する。
2	三田　誠司	【第 2 回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：先行研究の整理 復習：先行研究の整理を更新する。
3	三田　誠司	【第 3 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
4	三田　誠司	【第 4 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
5	三田　誠司	【第 5 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
6	三田　誠司	【第 6 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
7	三田　誠司	【第 7 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
8	三田　誠司	【第 8 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
9	三田　誠司	【第 9 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
10	三田　誠司	【第 10 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
11	三田　誠司	【第 11 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。

12	三田　誠司	【第 12 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
13	三田　誠司	【第 13 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
14	三田　誠司	【第 14 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
15	三田　誠司	【第 15 回】 予習：輪読資料を振り返る。 授業：輪読資料から考える日本の文化 復習：研究発表を振り返り、今後の課題を考える。

授業開始前学習	各自の研究テーマについての関連文献を読むなどの準備学習を行う。
授業内課題のフィードバックの方法	発表者の発表内容については、授業時および授業終了後に適宜指導を行う。質問・アドバイスをまとめた受講生のメモに対しては、授業担当教員より適宜コメントを行う。
テキスト・教材	日本文化専攻作成のオリジナル共通テキストを使用する。
参考書	
評価の基準と方法	平常点１０%、発表４０%、レポート３０%、テスト２０%により評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		○		◎	◎

関連科目	
その他	・「各回の授業内容」は準備段階（第１回～第２回）と資料輪読・研究発表（第３回以降）とに分かれる。履修人数などに応じて、準備段階の回数を増やし、資料輪読・研究発表の回数を減らす場合がある。 ・日本文化ゼミⅢ・Ⅳのいずれかで正課学外活動（首都圏の博物館や史跡等の見学）を１回行う予定である。交通費および入場料 1000 円程度の負担が必要となる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	111-310-24	授業コード	FA1032
科目名称	日本文化ｾﾞﾐⅢ			単位数	1.0 単位
英文名称	Japanese Culture Seminar Ⅲ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	皆川　義孝			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	皆川　義孝			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　火曜日 13:00～16:00 後期　火曜日 13:00～16:00			研究室	10-507
授業概要	日本文化の特徴について考察するための研究テーマを自ら設定し、主体的に調査・研究を深め、独自性のある研究成果をまとめていく。また、ゼミごとに、①歴史、②信仰・風習、③文学、④言語、それぞれの学問分野の視点から日本文化の特徴を考える。授業では発表を行う。				
到達目標	・根拠として信憑性の高い情報を、適切に収集することができる。 ・収集した情報を正確に理解し、問題点を客観的に分析して、自分の考えを論理的に構築することができる。 ・構築した自分の考えをまとめ、発表やレポートなどを通して他者に正しく伝達することができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	松村　良	【第 1 回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：文献リストの作成 復習：文献リストを更新する。
2	皆川　義孝	【第 2 回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：先行研究の整理 復習：先行研究の整理を更新する。
3	皆川　義孝	【第 3 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
4	皆川　義孝	【第 4 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
5	皆川　義孝	【第 5 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
6	皆川　義孝	【第 6 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
7	皆川　義孝	【第 7 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
8	皆川　義孝	【第 8 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
9	皆川　義孝	【第 9 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
10	皆川　義孝	【第 10 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
11	皆川　義孝	【第 11 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。

12	皆川　義孝	【第 12 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
13	皆川　義孝	【第 13 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
14	皆川　義孝	【第 14 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
15	皆川　義孝	【第 15 回】 予習：輪読資料を振り返る。 授業：輪読資料から考える日本の文化 復習：研究発表を振り返り、今後の課題を考える。

授業開始前学習	各自の研究テーマについての関連文献を読むなどの準備学習を行う。
授業内課題のフィードバックの方法	発表者の発表内容については、授業時および授業終了後に適宜指導を行う。質問・アドバイスをまとめた受講生のメモに対しては、授業担当教員より適宜コメントを行う。
テキスト・教材	日本文化専攻作成のオリジナル共通テキストを使用する。
参考書	
評価の基準と方法	平常点１０%、発表４０%、レポート３０%、テスト２０%により評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		○		◎	◎

関連科目	
その他	・「各回の授業内容」は準備段階（第１回～第２回）と資料輪読・研究発表（第３回以降）とに分かれる。履修人数などに応じて、準備段階の回数を増やし、資料輪読・研究発表の回数を減らす場合がある。 ・日本文化ゼミⅢ・Ⅳのいずれかで正課学外活動（首都圏の博物館や史跡等の見学）を１回行う予定である。交通費および入場料 1000 円程度の負担が必要となる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	111-310-24	授業コード	FA1033
科目名称	日本文化ｾﾞﾐⅢ			単位数	1.0 単位
英文名称	Japanese Culture Seminar Ⅲ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	松村　良			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松村　良			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　水曜日 16:20～17:50　金曜日 14:40～16:10 後期　水曜日 14:40～16:10　金曜日 14:40～16:10			研究室	10-617
授業概要	日本文化の特徴について考察するための研究テーマを自ら設定し、主体的に調査・研究を深め、独自性のある研究成果をまとめていく。また、ゼミごとに、①歴史、②信仰・風習、③文学、④言語、それぞれの学問分野の視点から日本文化の特徴を考える。授業では発表を行う。				
到達目標	・根拠として信憑性の高い情報を、適切に収集することができる。 ・収集した情報を正確に理解し、問題点を客観的に分析して、自分の考えを論理的に構築することができる。 ・構築した自分の考えをまとめ、発表やレポートなどを通して他者に正しく伝達することができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	三田　誠司	【第 1 回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：文献リストの作成 復習：文献リストを更新する。
2	松村　良	【第 2 回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：先行研究の整理 復習：先行研究の整理を更新する。
3	松村　良	【第 3 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
4	松村　良	【第 4 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
5	松村　良	【第 5 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
6	松村　良	【第 6 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
7	松村　良	【第 7 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
8	松村　良	【第 8 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
9	松村　良	【第 9 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
10	松村　良	【第 10 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
11	松村　良	【第 11 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。

12	松村　良	【第 12 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
13	松村　良	【第 13 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
14	松村　良	【第 14 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
15	松村　良	【第 15 回】 予習：輪読資料を振り返る。 授業：輪読資料から考える日本の文化 復習：研究発表を振り返り、今後の課題を考える。

授業開始前学習	各自の研究テーマについての関連文献を読むなどの準備学習を行う。
授業内課題のフィードバックの方法	発表者の発表内容については、授業時および授業終了後に適宜指導を行う。質問・アドバイスをまとめた受講生のメモに対しては、授業担当教員より適宜コメントを行う。
テキスト・教材	日本文化専攻作成のオリジナル共通テキストを使用する。
参考書	
評価の基準と方法	平常点１０%、発表４０%、レポート３０%、テスト２０%により評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		○		◎	◎

関連科目	
その他	・「各回の授業内容」は準備段階（第１回～第２回）と資料輪読・研究発表（第３回以降）とに分かれる。履修人数などに応じて、準備段階の回数を増やし、資料輪読・研究発表の回数を減らす場合がある。 ・日本文化ゼミⅢ・Ⅳのいずれかで正課学外活動（首都圏の博物館や史跡等の見学）を１回行う予定である。交通費および入場料 1000 円程度の負担が必要となる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	111-310-24	授業コード	FA1034
科目名称	日本文化ｾﾞﾐⅢ			単位数	1.0 単位
英文名称	Japanese Culture Seminar Ⅲ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	山本　元隆			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	山本　元隆			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　月曜日 14:40～16:10　金曜日 09:00～10:30 後期　月曜日 14:40～16:10　金曜日 09:00～10:30			研究室	10-506
授業概要	日本文化の特徴について考察するための研究テーマを自ら設定し、主体的に調査・研究を深め、独自性のある研究成果をまとめていく。また、ゼミごとに、①歴史、②信仰・風習、③文学、④言語、それぞれの学問分野の視点から日本文化の特徴を考える。授業では発表を行う。				
到達目標	・根拠として信憑性の高い情報を、適切に収集することができる。 ・収集した情報を正確に理解し、問題点を客観的に分析して、自分の考えを論理的に構築することができる。 ・構築した自分の考えをまとめ、発表やレポートなどを通して他者に正しく伝達することができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	山本　元隆	【第 1 回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：文献リストの作成 復習：文献リストを更新する。
2	山本　元隆	【第 2 回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：先行研究の整理 復習：先行研究の整理を更新する。
3	山本　元隆	【第 3 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
4	山本　元隆	【第 4 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
5	山本　元隆	【第 5 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
6	山本　元隆	【第 6 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
7	山本　元隆	【第 7 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
8	山本　元隆	【第 8 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
9	山本　元隆	【第 9 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
10	山本　元隆	【第 10 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
11	山本　元隆	【第 11 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。

12	山本　元隆	【第 12 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
13	山本　元隆	【第 13 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
14	山本　元隆	【第 14 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
15	山本　元隆	【第 15 回】 予習：輪読資料を振り返る。 授業：輪読資料から考える日本の文化 復習：研究発表を振り返り、今後の課題を考える。

授業開始前学習	各自の研究テーマについての関連文献を読むなどの準備学習を行う。
授業内課題のフィードバックの方法	発表者の発表内容については、授業時および授業終了後に適宜指導を行う。質問・アドバイスをまとめた受講生のメモに対しては、授業担当教員より適宜コメントを行う。
テキスト・教材	日本文化専攻作成のオリジナル共通テキストを使用する。
参考書	
評価の基準と方法	平常点１０%、発表４０%、レポート３０%、テスト２０%により評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		○		◎	◎

関連科目	
その他	・「各回の授業内容」は準備段階（第１回～第２回）と資料輪読・研究発表（第３回以降）とに分かれる。履修人数などに応じて、準備段階の回数を増やし、資料輪読・研究発表の回数を減らす場合がある。 ・日本文化ゼミⅢ・Ⅳのいずれかで正課学外活動（首都圏の博物館や史跡等の見学）を１回行う予定である。交通費および入場料 1000 円程度の負担が必要となる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	111-310-24	授業コード	FA1041
科目名称	日本文化ｾﾞﾐⅣ			単位数	1.0 単位
英文名称	Japanese Culture Seminar Ⅳ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	三田　誠司			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三田　誠司			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　水曜日 14:40～16:10　木曜日 10:40～12:10 後期　水曜日 14:40～16:10　木曜日 10:40～12:10			研究室	10-611
授業概要	日本文化の特徴について考察するための研究テーマを自ら設定し、主体的に調査・研究を深め、独自性のある研究成果をまとめていく。また、ゼミごとに、①歴史、②信仰・風習、③文学、④言語、それぞれの学問分野の視点から日本文化の特徴を考える。授業では発表を行う。				
到達目標	・根拠として信憑性の高い情報を、適切に収集することができる。 ・収集した情報を正確に理解し、問題点を客観的に分析して、自分の考えを論理的に構築することができる。 ・構築した自分の考えをまとめ、発表やレポートなどを通して他者に正しく伝達することができる。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	−	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	皆川　義孝	【第 1 回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：文献リストの作成 復習：文献リストを更新する。
2	三田　誠司	【第 2 回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：先行研究の整理 復習：先行研究の整理を更新する。
3	三田　誠司	【第 3 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
4	三田　誠司	【第 4 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
5	三田　誠司	【第 5 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
6	三田　誠司	【第 6 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
7	三田　誠司	【第 7 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
8	三田　誠司	【第 8 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
9	三田　誠司	【第 9 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
10	三田　誠司	【第 10 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
11	三田　誠司	【第 11 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。

12	三田　誠司	【第 12 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
13	三田　誠司	【第 13 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
14	三田　誠司	【第 14 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
15	三田　誠司	【第 15 回】 予習：輪読資料を振り返る。 授業：輪読資料から考える日本の文化 復習：研究発表を振り返り、ゼミ論文をまとめる。

授業開始前学習	各自の研究テーマについての関連文献を読むなどの準備学習を行う。
授業内課題のフィードバックの方法	発表者の発表内容については、授業時および授業終了後に適宜指導を行う。質問・アドバイスをまとめた受講生のメモに対しては、授業担当教員より適宜コメントを行う。
テキスト・教材	日本文化専攻作成のオリジナル共通テキストを使用する。
参考書	
評価の基準と方法	平常点１０％、発表４０％、レポート（ゼミ論文）３０％、テスト２０％により評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		○		◎	◎

関連科目	
その他	・「各回の授業内容」は準備段階（第１回～第２回）と資料輪読・研究発表（第３回以降）とに分かれる。履修人数などに応じて、準備段階の回数を増やし、資料輪読・研究発表の回数を減らす場合がある。 ・日本文化ゼミⅢ・Ⅳのいずれかで正課学外活動（首都圏の博物館や史跡等の見学）を１回行う予定である。交通費および入場料 1000 円程度の負担が必要となる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	111-310-24	授業コード	FA1042
科目名称	日本文化ｾﾞﾐⅣ			単位数	1.0 単位
英文名称	Japanese Culture Seminar Ⅳ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	皆川　義孝			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	皆川　義孝			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　火曜日 13:00～16:00 後期　火曜日 13:00～16:00			研究室	10-507
授業概要	日本文化の特徴について考察するための研究テーマを自ら設定し、主体的に調査・研究を深め、独自性のある研究成果をまとめていく。また、ゼミごとに、①歴史、②信仰・風習、③文学、④言語、それぞれの学問分野の視点から日本文化の特徴を考える。授業では発表を行う。				
到達目標	・根拠として信憑性の高い情報を、適切に収集することができる。 ・収集した情報を正確に理解し、問題点を客観的に分析して、自分の考えを論理的に構築することができる。 ・構築した自分の考えをまとめ、発表やレポートなどを通して他者に正しく伝達することができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	松村　良	【第 1 回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：文献リストの作成 復習：文献リストを更新する。
2	皆川　義孝	【第 2 回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：先行研究の整理 復習：先行研究の整理を更新する。
3	皆川　義孝	【第 3 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
4	皆川　義孝	【第 4 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
5	皆川　義孝	【第 5 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
6	皆川　義孝	【第 6 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
7	皆川　義孝	【第 7 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
8	皆川　義孝	【第 8 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
9	皆川　義孝	【第 9 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
10	皆川　義孝	【第 10 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
11	皆川　義孝	【第 11 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。

12	皆川　義孝	【第 12 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
13	皆川　義孝	【第 13 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
14	皆川　義孝	【第 14 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
15	皆川　義孝	【第 15 回】 予習：輪読資料を振り返る。 授業：輪読資料から考える日本の文化 復習：研究発表を振り返り、ゼミ論文をまとめる。

授業開始前学習	各自の研究テーマについての関連文献を読むなどの準備学習を行う。
授業内課題のフィードバックの方法	発表者の発表内容については、授業時および授業終了後に適宜指導を行う。質問・アドバイスをまとめた受講生のメモに対しては、授業担当教員より適宜コメントを行う。
テキスト・教材	日本文化専攻作成のオリジナル共通テキストを使用する。
参考書	
評価の基準と方法	平常点１０％、発表４０％、レポート（ゼミ論文）３０％、テスト２０％により評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		○		◎	◎

関連科目	
その他	・「各回の授業内容」は準備段階（第１回～第２回）と資料輪読・研究発表（第３回以降）とに分かれる。履修人数などに応じて、準備段階の回数を増やし、資料輪読・研究発表の回数を減らす場合がある。 ・日本文化ゼミⅢ・Ⅳのいずれかで正課学外活動（首都圏の博物館や史跡等の見学）を１回行う予定である。交通費および入場料 1000 円程度の負担が必要となる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	111-310-24	授業コード	FA1043
科目名称	日本文化ｾﾞﾐⅣ			単位数	1.0 単位
英文名称	Japanese Culture Seminar Ⅳ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	松村　良			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松村　良			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　水曜日 16:20～17:50　金曜日 14:40～16:10 後期　水曜日 14:40～16:10　金曜日 14:40～16:10			研究室	10-617
授業概要	日本文化の特徴について考察するための研究テーマを自ら設定し、主体的に調査・研究を深め、独自性のある研究成果をまとめていく。また、ゼミごとに、①歴史、②信仰・風習、③文学、④言語、それぞれの学問分野の視点から日本文化の特徴を考える。授業では発表を行う。				
到達目標	・根拠として信憑性の高い情報を、適切に収集することができる。 ・収集した情報を正確に理解し、問題点を客観的に分析して、自分の考えを論理的に構築することができる。 ・構築した自分の考えをまとめ、発表やレポートなどを通して他者に正しく伝達することができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	三田　誠司	【第 1 回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：文献リストの作成 復習：文献リストを更新する。
2	松村　良	【第 2 回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：先行研究の整理 復習：先行研究の整理を更新する。
3	松村　良	【第 3 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
4	松村　良	【第 4 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
5	松村　良	【第 5 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
6	松村　良	【第 6 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
7	松村　良	【第 7 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
8	松村　良	【第 8 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
9	松村　良	【第 9 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
10	松村　良	【第 10 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
11	松村　良	【第 11 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。

12	松村　良	【第 12 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
13	松村　良	【第 13 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
14	松村　良	【第 14 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
15	松村　良	【第 15 回】 予習：輪読資料を振り返る。 授業：輪読資料から考える日本の文化 復習：研究発表を振り返り、ゼミ論文をまとめる。

授業開始前学習	各自の研究テーマについての関連文献を読むなどの準備学習を行う。
授業内課題のフィードバックの方法	発表者の発表内容については、授業時および授業終了後に適宜指導を行う。質問・アドバイスをまとめた受講生のメモに対しては、授業担当教員より適宜コメントを行う。
テキスト・教材	日本文化専攻作成のオリジナル共通テキストを使用する。
参考書	
評価の基準と方法	平常点１０％、発表４０％、レポート（ゼミ論文）３０％、テスト２０％により評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		○		◎	◎

関連科目	
その他	・「各回の授業内容」は準備段階（第１回～第２回）と資料輪読・研究発表（第３回以降）とに分かれる。履修人数などに応じて、準備段階の回数を増やし、資料輪読・研究発表の回数を減らす場合がある。 ・日本文化ゼミⅢ・Ⅳのいずれかで正課学外活動（首都圏の博物館や史跡等の見学）を１回行う予定である。交通費および入場料 1000 円程度の負担が必要となる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	111-310-24	授業コード	FA1044
科目名称	日本文化ｾﾞﾐⅣ			単位数	1.0 単位
英文名称	Japanese Culture Seminar Ⅳ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	山本　元隆			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	山本　元隆			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　月曜日 14:40～16:10　金曜日 09:00～10:30 後期　月曜日 14:40～16:10　金曜日 09:00～10:30			研究室	10-506
授業概要	日本文化の特徴について考察するための研究テーマを自ら設定し、主体的に調査・研究を深め、独自性のある研究成果をまとめていく。また、ゼミごとに、①歴史、②信仰・風習、③文学、④言語、それぞれの学問分野の視点から日本文化の特徴を考える。授業では発表を行う。				
到達目標	・根拠として信憑性の高い情報を、適切に収集することができる。 ・収集した情報を正確に理解し、問題点を客観的に分析して、自分の考えを論理的に構築することができる。 ・構築した自分の考えをまとめ、発表やレポートなどを通して他者に正しく伝達することができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	山本　元隆	【第 1 回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：文献リストの作成 復習：文献リストを更新する。
2	山本　元隆	【第 2 回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：先行研究の整理 復習：先行研究の整理を更新する。
3	山本　元隆	【第 3 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
4	山本　元隆	【第 4 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
5	山本　元隆	【第 5 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
6	山本　元隆	【第 6 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
7	山本　元隆	【第 7 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
8	山本　元隆	【第 8 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
9	山本　元隆	【第 9 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
10	山本　元隆	【第 10 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
11	山本　元隆	【第 11 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。

12	山本　元隆	【第 12 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
13	山本　元隆	【第 13 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
14	山本　元隆	【第 14 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。
15	山本　元隆	【第 15 回】 予習：輪読資料を振り返る。 授業：輪読資料から考える日本の文化 復習：研究発表を振り返り、ゼミ論文をまとめる。

授業開始前学習	各自の研究テーマについての関連文献を読むなどの準備学習を行う。
授業内課題のフィードバックの方法	発表者の発表内容については、授業時および授業終了後に適宜指導を行う。質問・アドバイスをまとめた受講生のメモに対しては、授業担当教員より適宜コメントを行う。
テキスト・教材	日本文化専攻作成のオリジナル共通テキストを使用する。
参考書	
評価の基準と方法	平常点１０％、発表４０％、レポート（ゼミ論文）３０％、テスト２０％により評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		○		◎	◎

関連科目	
その他	・「各回の授業内容」は準備段階（第１回～第２回）と資料輪読・研究発表（第３回以降）とに分かれる。履修人数などに応じて、準備段階の回数を増やし、資料輪読・研究発表の回数を減らす場合がある。 ・日本文化ゼミⅢ・Ⅳのいずれかで正課学外活動（首都圏の博物館や史跡等の見学）を１回行う予定である。交通費および入場料 1000 円程度の負担が必要となる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	GJ-M-432	科目分類（～2024 年入学者）	111-330-24	授業コード	FA9901
科目名称	卒業論文			単位数	4.0 単位
英文名称	Graduation Thesis			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	三田　誠司			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三田　誠司			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　水曜日 14:40～16:10　木曜日 10:40～12:10 後期　水曜日 14:40～16:10　木曜日 10:40～12:10			研究室	10-611
授業概要	日本文化の特徴を考察するために相応しい研究テーマを必ず取り上げ、①歴史学、②民俗学、③文学、④言語学といった学問手法を用いて、先行研究を踏まえた課題（目的）を設定し、原典資料の分析に基づき独自性のある研究成果（主張）を論文としてまとめる。日本文化専攻の卒業論文は、400 字詰め原稿用紙で 50 枚（20000 字）以上を要件とする。				
到達目標	・根拠として信憑性の高い情報（先行研究と原典資料）を、適切に収集・読解することができる。 ・収集・読解した情報を基に課題（目的）を明確化し、客観的な分析により独自の考えを論理的に構築することができる。 ・構築した独自の考え（主張）を、論文として相応しい文章で表現し、他者に正しく伝達することができる。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	1 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	三田　誠司	日本文化専攻の卒業論文履修者は、別途配付する「卒業論文の執筆スケジュール」に沿って、各自で卒業論文の主査（指導担当教員）に相談して、執筆スケジュールを決定し、これに沿って随時必要な指導を受けなければならない。以下に「卒業論文の執筆スケジュール」の要点を列記する。 ・5 月末には「予定題目・目次案・概要（卒論の目的と方法）・参考文献一覧」を、8 月末（2～3 割程度以上）・10 月末（5～6 割程度以上）・12 月中旬（7～8 割程度以上）の各時期には執筆途中の卒業論文を、必ず指導担当教員に提出しなければならない。

授業開始前学習	指導担当教員と相談すること。
授業内課題のフィードバックの方法	卒業論文では、履修生は指導担当教員に進行状況を報告し、その都度必要な指導・フィードバックを受けること。
テキスト・教材	指導担当教員と相談すること。
参考書	指導担当教員と相談すること。
評価の基準と方法	主査（指導担当教員）と副査が、以下の基準で評価し採点する。 ・日本文化の特徴を考察するために相応しい研究テーマを設定している（20%） ・主題（目的）およびそれに対する結論（主張）が明瞭で、どちらにも独自性がある（20%） ・自己の主張を事実と根拠（原典資料）に基づき、客観的に論述している（20%） ・適切な先行研究を参照し、出典を明示している（20%） ・構成・分量・書式が適切である（10%） ・誤字脱字がなく、文章表現も適切である（10%）
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					○	◎	○	◎

関連科目	日本文化専攻のすべての専門教育科目
その他	・『履修ガイド』に記載された「卒業論文の履修について」を参照し、手続きを遵守すること。 ・日本文化専攻では、卒業論文を提出した者に対して、1 月中（予定）の所定の日時に、主査・副査を中心とした数名の日本文化専攻専任教員による口頭試問を実施する。公欠およびこれに相当する理由なく口頭試問を遅刻・欠席した場合、卒業論文の単位は認定しない。
予習・復習の所要時間	
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	GJ-M-432	科目分類（～2024 年入学者）	111-330-24	授業コード	FA9903
科目名称	卒業論文			単位数	4.0 単位
英文名称	Graduation Thesis			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	皆川　義孝			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	皆川　義孝			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　火曜日 13:00～16:00 後期　火曜日 13:00～16:00			研究室	10-507
授業概要	日本文化の特徴を考察するために相応しい研究テーマを必ず取り上げ、①歴史学、②民俗学、③文学、④言語学といった学問手法を用いて、先行研究を踏まえた課題（目的）を設定し、原典資料の分析に基づき独自性のある研究成果（主張）を論文としてまとめる。日本文化専攻の卒業論文は、400 字詰め原稿用紙で 50 枚（20000 字）以上を要件とする。				
到達目標	・根拠として信憑性の高い情報（先行研究と原典資料）を、適切に収集・読解することができる。 ・収集・読解した情報を基に課題（目的）を明確化し、客観的な分析により独自の考えを論理的に構築することができる。 ・構築した独自の考え（主張）を、論文として相応しい文章で表現し、他者に正しく伝達することができる。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	1 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	皆川　義孝	日本文化専攻の卒業論文履修者は、別途配付する「卒業論文の執筆スケジュール」に沿って、各自で卒業論文の主査（指導担当教員）に相談して、執筆スケジュールを決定し、これに沿って随時必要な指導を受けなければならない。以下に「卒業論文の執筆スケジュール」の要点を列記する。 ・5 月末には「予定題目・目次案・概要（卒論の目的と方法）・参考文献一覧」を、8 月末（2～3 割程度以上）・10 月末（5～6 割程度以上）・12 月中旬（7～8 割程度以上）の各時期には執筆途中の卒業論文を、必ず指導担当教員に提出しなければならない。

授業開始前学習	指導担当教員と相談すること。
授業内課題のフィードバックの方法	卒業論文では、履修生は指導担当教員に進行状況を報告し、その都度必要な指導・フィードバックを受けること。
テキスト・教材	指導担当教員と相談すること。
参考書	指導担当教員と相談すること。
評価の基準と方法	主査（指導担当教員）と副査が、以下の基準で評価し採点する。 ・日本文化の特徴を考察するために相応しい研究テーマを設定している（20%） ・主題（目的）およびそれに対する結論（主張）が明瞭で、どちらにも独自性がある（20%） ・自己の主張を事実と根拠（原典資料）に基づき、客観的に論述している（20%） ・適切な先行研究を参照し、出典を明示している（20%） ・構成・分量・書式が適切である（10%） ・誤字脱字がなく、文章表現も適切である（10%）
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					○	◎	○	◎

関連科目	日本文化専攻のすべての専門教育科目
その他	・『履修ガイド』に記載された「卒業論文の履修について」を参照し、手続きを遵守すること。 ・日本文化専攻では、卒業論文を提出した者に対して、1 月中（予定）の所定の日時に、主査・副査を中心とした数名の日本文化専攻専任教員による口頭試問を実施する。公欠およびこれに相当する理由なく口頭試問を遅刻・欠席した場合、卒業論文の単位は認定しない。
予習・復習の所要時間	
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	GJ-M-432	科目分類（～2024 年入学者）	111-330-24	授業コード	FA9904
科目名称	卒業論文			単位数	4.0 単位
英文名称	Graduation Thesis			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	山本　元隆			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	山本　元隆			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　月曜日 14:40～16:10　金曜日 09:00～10:30 後期　月曜日 14:40～16:10　金曜日 09:00～10:30			研究室	10-506
授業概要	日本文化の特徴を考察するために相応しい研究テーマを必ず取り上げ、①歴史学、②民俗学、③文学、④言語学といった学問手法を用いて、先行研究を踏まえた課題（目的）を設定し、原典資料の分析に基づき独自性のある研究成果（主張）を論文としてまとめる。日本文化専攻の卒業論文は、400 字詰め原稿用紙で 50 枚（20000 字）以上を要件とする。				
到達目標	・根拠として信憑性の高い情報（先行研究と原典資料）を、適切に収集・読解することができる。 ・収集・読解した情報を基に課題（目的）を明確化し、客観的な分析により独自の考えを論理的に構築することができる。 ・構築した独自の考え（主張）を、論文として相応しい文章で表現し、他者に正しく伝達することができる。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	1 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	山本　元隆	日本文化専攻の卒業論文履修者は、別途配付する「卒業論文の執筆スケジュール」に沿って、各自で卒業論文の主査（指導担当教員）に相談して、執筆スケジュールを決定し、これに沿って随時必要な指導を受けなければならない。以下に「卒業論文の執筆スケジュール」の要点を列記する。 ・5 月末には「予定題目・目次案・概要（卒論の目的と方法）・参考文献一覧」を、8 月末（2～3 割程度以上）・10 月末（5～6 割程度以上）・12 月中旬（7～8 割程度以上）の各時期には執筆途中の卒業論文を、必ず指導担当教員に提出しなければならない。

授業開始前学習	指導担当教員と相談すること。
授業内課題のフィードバックの方法	卒業論文では、履修生は指導担当教員に進行状況を報告し、その都度必要な指導・フィードバックを受けること。
テキスト・教材	指導担当教員と相談すること。
参考書	指導担当教員と相談すること。
評価の基準と方法	主査（指導担当教員）と副査が、以下の基準で評価し採点する。 ・日本文化の特徴を考察するために相応しい研究テーマを設定している（20%） ・主題（目的）およびそれに対する結論（主張）が明瞭で、どちらにも独自性がある（20%） ・自己の主張を事実と根拠（原典資料）に基づき、客観的に論述している（20%） ・適切な先行研究を参照し、出典を明示している（20%） ・構成・分量・書式が適切である（10%） ・誤字脱字がなく、文章表現も適切である（10%）
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					○	◎	○	◎

関連科目	日本文化専攻のすべての専門教育科目
その他	・『履修ガイド』に記載された「卒業論文の履修について」を参照し、手続きを遵守すること。 ・日本文化専攻では、卒業論文を提出した者に対して、1 月中（予定）の所定の日時に、主査・副査を中心とした数名の日本文化専攻専任教員による口頭試問を実施する。公欠およびこれに相当する理由なく口頭試問を遅刻・欠席した場合、卒業論文の単位は認定しない。
予習・復習の所要時間	
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	GJ-M-432	科目分類（～2024 年入学者）	111-330-24	授業コード	FA9905
科目名称	卒業論文			単位数	4.0 単位
英文名称	Graduation Thesis			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	松村　良			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松村　良			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　水曜日 16:20～17:50　金曜日 14:40～16:10 後期　水曜日 14:40～16:10　金曜日 14:40～16:10			研究室	10-617
授業概要	日本文化の特徴を考察するために相応しい研究テーマを必ず取り上げ、①歴史学、②民俗学、③文学、④言語学といった学問手法を用いて、先行研究を踏まえた課題（目的）を設定し、原典資料の分析に基づき独自性のある研究成果（主張）を論文としてまとめる。日本文化専攻の卒業論文は、400 字詰め原稿用紙で 50 枚（20000 字）以上を要件とする。				
到達目標	・根拠として信憑性の高い情報（先行研究と原典資料）を、適切に収集・読解することができる。 ・収集・読解した情報を基に課題（目的）を明確化し、客観的な分析により独自の考えを論理的に構築することができる。 ・構築した独自の考え（主張）を、論文として相応しい文章で表現し、他者に正しく伝達することができる。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	1 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	松村　良	日本文化専攻の卒業論文履修者は、別途配付する「卒業論文の執筆スケジュール」に沿って、各自で卒業論文の主査（指導担当教員）に相談して、執筆スケジュールを決定し、これに沿って随時必要な指導を受けなければならない。以下に「卒業論文の執筆スケジュール」の要点を列記する。 ・5 月末には「予定題目・目次案・概要（卒論の目的と方法）・参考文献一覧」を、8 月末（2～3 割程度以上）・10 月末（5～6 割程度以上）・12 月中旬（7～8 割程度以上）の各時期には執筆途中の卒業論文を、必ず指導担当教員に提出しなければならない。

授業開始前学習	指導担当教員と相談すること。
授業内課題のフィードバックの方法	卒業論文では、履修生は指導担当教員に進行状況を報告し、その都度必要な指導・フィードバックを受けること。
テキスト・教材	指導担当教員と相談すること。
参考書	指導担当教員と相談すること。
評価の基準と方法	主査（指導担当教員）と副査が、以下の基準で評価し採点する。 ・日本文化の特徴を考察するために相応しい研究テーマを設定している（20%） ・主題（目的）およびそれに対する結論（主張）が明瞭で、どちらにも独自性がある（20%） ・自己の主張を事実と根拠（原典資料）に基づき、客観的に論述している（20%） ・適切な先行研究を参照し、出典を明示している（20%） ・構成・分量・書式が適切である（10%） ・誤字脱字がなく、文章表現も適切である（10%）
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					○	◎	○	◎

関連科目	日本文化専攻のすべての専門教育科目
その他	・『履修ガイド』に記載された「卒業論文の履修について」を参照し、手続きを遵守すること。 ・日本文化専攻では、卒業論文を提出した者に対して、1 月中（予定）の所定の日時に、主査・副査を中心とした数名の日本文化専攻専任教員による口頭試問を実施する。公欠およびこれに相当する理由なく口頭試問を遅刻・欠席した場合、卒業論文の単位は認定しない。
予習・復習の所要時間	
実務経験を活かした教育内容	

人間関係の基礎

科目分類（2025 年～入学者）	HR-M-212	科目分類（～2024 年入学者）	112-310-12	授業コード	FB0011
科目名称	人間関係の基礎			単位数	2.0 単位
英文名称	The Basics of Human Relationships			授業区分	講義
科目責任者	倉住　友恵			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	倉住　友恵			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期　月曜日 10:40～12:10　金曜日 16:20～17:50 後期　月曜日 10:40～12:10　金曜日 16:20～17:50			研究室	10-618
授業概要	「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」の学修成果を踏まえ、大学での学びに必要な基礎的スキルの定着を図るとともに、人間関係専攻における専門的な学術研究に向けて、それらのブラッシュアップに取り組む。専攻の学びについて理解を深め、学生相互および教員とのコミュニケーション・ネットワークを深耕し、3～4 年次に向けて各自の展望と目標を明確化してほしい。演習形式を基本とし、授業回に応じてディスカッション、プレゼンテーション、グループワークなどに取り組んでもらう。				
到達目標	到達目標は、以下の 4 点である。 (1) 専攻の教員と友人を知る (2) 専攻の学びを理解し、各自が自身の今後 3 年間の学びをイメージできるようになる (3) 専攻のさまざまな専門分野の相違と連関を理解する (4) 専門知識の修得（インプット）の方法を知り（リサーチや文献読解の手法を学ぶ）、適切に自身の考えを表現（アウトプット）できるようになる（文章作成、ディスカッション、資料作成やプレゼンを学ぶ）				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	倉住　友恵	【第 1 回】 予習：シラバスに目を通す 授業：イントロダクション：人間関係専攻の学び【教科書第 1 章】（ディスカッション） 復習：卒業までの 3 年間の専攻の学びをイメージする
2	倉住　友恵	【第 2 回】 予習：自己紹介を準備する 授業：クラス・ガイダンス：自己紹介およびインタビュー計画【教科書第 2 章】（プレゼンテーション） 復習：教員インタビュー事前調査
3	倉住　友恵	【第 3 回】 予習：インタビューの質問内容と役割分担を整理する 授業：教員インタビュー1：　問いを立てる【教科書第 3 章】（グループワーク） 復習：インタビュー結果をメモし、グループで共有する
4	倉住　友恵	【第 4 回】 予習：前回インタビュー結果を踏まえ、さらに質問内容を精緻化する 授業：教員インタビュー2：　本質を探る【教科書第 4 章】（グループワーク） 復習：インタビューの反省点と課題をまとめる
5	倉住　友恵	【第 5 回】 予習：教科書第 5 章を読む 授業：ディスカッションの基礎知識【教科書第 5 章】 復習：ディスカッションにおける自分の強みと弱みを理解する
6	倉住　友恵	【第 6 回】 予習：「コミュニケーションとは〇〇である」の〇〇に入る言葉とその根拠を考える 授業：コミュニケーションとは 1：　各専門分野の知見から学ぶ【教科書第 6 章】（ディスカッション） 復習：講義から得た気づきを整理する
7	倉住　友恵	【第 7 回】 予習：前回講義とディスカッションの内容を整理、確認する 授業：コミュニケーションとは 2：　グループで意見をまとめる【教科書第 7 章】（ディスカッション） 復習：講義とディスカッションから得た発見についてレポートを作成する
8	倉住　友恵	【第 8 回】 予習：教員配布の資料を読む 授業：文献を読んで考える 1：　文章を読み、わからない語句や文章などをチェックする【教科書第 8 章】 復習：不明な用語や概念を調べる
9	倉住　友恵	【第 9 回】 予習：文献を読んだうえで、自分の考えを整理し、ディスカッションに備える 授業：文献を読んで考える 2：　文献をもとにディスカッション【教科書第 9 章】（ディスカッション） 復習：文献を読んで考えたことについてレポートを作成する

10	倉住　友恵	【第 10 回】 予習：10 年後の社会と自分をイメージする 授業：プレゼンテーション資料の作成 1：「10 年後の〇〇」テーマとアウトラインの作成【教科書第 10 章】（グループワーク） 復習：グループで今後の作業計画を立て、共有する
11	倉住　友恵	【第 11 回】 予習：グループ内の作業分担にしたがって、自身の作業を進めておく 授業：プレゼンテーション資料の作成 2：　プレゼン資料の完成【教科書第 11 章】（グループワーク） 復習：プレゼン資料を見直し、情報の正確さ、誤字脱字等を確認する
12	倉住　友恵	【第 12 回】 予習：プレゼンテーションに備え、事前練習する 授業：プレゼンテーションの実践 1：　クラス内プレゼン【教科書第 12 章】（プレゼンテーション） 復習：聴衆からのフィードバックを活かし、プレゼン資料を見直し、修正する
13	倉住　友恵	【第 13 回】 予習：修正したプレゼン資料で再度練習する 授業：プレゼンテーションの実践 2：　全体プレゼン【教科書第 13 章】（プレゼンテーション） 復習：プレゼンを通して得た、今後の自身の課題を整理する
14	倉住　友恵	【第 14 回】 予習：教科書第 14 章を読み、ゼミに関する質問を準備する 授業：専門ゼミ紹介 1【教科書第 14 章】 復習：各教員を訪ね、ゼミに関する不明点を質問する
15	倉住　友恵	【第 15 回】 予習：教科書第 15 章を読み、ゼミに関する質問を準備する 授業：専門ゼミ紹介 2・進級に向けて【教科書第 15 章】 復習：各教員を訪ね、ゼミに関する不明点を質問する。2 年次後期のスケジュールと課題を確認する

授業開始前学習	「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」教科書を復習しておく。
授業内課題のフィードバックの方法	課題提出を求める場合は、次回授業以降に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。
テキスト・教材	人間関係専攻編『人間関係の基礎』（駒沢女子大学教科書シリーズ）
参考書	授業を通じて適宜、紹介する。
評価の基準と方法	受講取組みの積極性（55 %）、課題提出物（45 %）にもとづいて総合的に評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○	○	△				

関連科目	「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」および「人間関係入門Ⅰ・Ⅱ」
その他	個別クラスによる演習活動を基本とし、全体授業を数回実施する。主体的な取り組みと積極的な発言・質問が期待される。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	HR-M-212	科目分類（～2024 年入学者）	112-310-12	授業コード	FB0012
科目名称	人間関係の基礎			単位数	2.0 単位
英文名称	The Basics of Human Relationships			授業区分	講義
科目責任者	小菅 清香			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小菅 清香			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 水曜日 14:40～16:10 金曜日 14:40～16:10 後期 水曜日 14:40～17:50			研究室	10-503
授業概要	「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」の学修成果を踏まえ、大学での学びに必要な基礎的スキルの定着を図るとともに、人間関係専攻における専門的な学術研究に向けて、それらのブラッシュアップに取り組む。専攻の学びについて理解を深め、学生相互および教員とのコミュニケーション・ネットワークを深耕し、3～4 年次に向けて各自の展望と目標を明確化してほしい。演習形式を基本とし、授業回に応じてディスカッション、プレゼンテーション、グループワークなどに取り組んでもらう。				
到達目標	到達目標は、以下の 4 点である。 (1) 専攻の教員と友人を知る (2) 専攻の学びを理解し、各自が自身の今後 3 年間の学びをイメージできるようになる (3) 専攻のさまざまな専門分野の相違と連関を理解する (4) 専門知識の修得（インプット）の方法を知り（リサーチや文献読解の手法を学ぶ）、適切に自身の考えを表現（アウトプット）できるようになる（文章作成、ディスカッション、資料作成やプレゼンを学ぶ）				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	小菅 清香	【第 1 回】 予習：シラバスに目を通す 授業：イントロダクション：人間関係専攻の学び【教科書第 1 章】（ディスカッション） 復習：卒業までの 3 年間の専攻の学びをイメージする
2	小菅 清香	【第 2 回】 予習：自己紹介を準備する 授業：クラス・ガイダンス：自己紹介およびインタビュー計画【教科書第 2 章】（プレゼンテーション） 復習：教員インタビュー事前調査
3	小菅 清香	【第 3 回】 予習：インタビューの質問内容と役割分担を整理する 授業：教員インタビュー1： 問いを立てる【教科書第 3 章】（グループワーク） 復習：インタビュー結果をメモし、グループで共有する
4	小菅 清香	【第 4 回】 予習：前回インタビュー結果を踏まえ、さらに質問内容を精緻化する 授業：教員インタビュー2： 本質を探る【教科書第 4 章】（グループワーク） 復習：インタビューの反省点と課題をまとめる
5	小菅 清香	【第 5 回】 予習：教科書第 5 章を読む 授業：ディスカッションの基礎知識【教科書第 5 章】 復習：ディスカッションにおける自分の強みと弱みを理解する
6	小菅 清香	【第 6 回】 予習：「コミュニケーションとは〇〇である」の〇〇に入る言葉とその根拠を考える 授業：コミュニケーションとは 1： 各専門分野の知見から学ぶ【教科書第 6 章】（ディスカッション） 復習：講義から得た気づきを整理する
7	小菅 清香	【第 7 回】 予習：前回講義とディスカッションの内容を整理、確認する 授業：コミュニケーションとは 2： グループで意見をまとめる【教科書第 7 章】（ディスカッション） 復習：講義とディスカッションから得た発見についてレポートを作成する
8	小菅 清香	【第 8 回】 予習：教員配布の資料を読む 授業：文献を読んで考える 1： 文章を読み、わからない語句や文章などをチェックする【教科書第 8 章】 復習：不明な用語や概念を調べる
9	小菅 清香	【第 9 回】 予習：文献を読んだうえで、自分の考えを整理し、ディスカッションに備える 授業：文献を読んで考える 2： 文献をもとにディスカッション【教科書第 9 章】（ディスカッション） 復習：文献を読んで考えたことについてレポートを作成する
10	小菅 清香	【第 10 回】 予習：10 年後の社会と自分をイメージする 授業：プレゼンテーション資料の作成 1：「10 年後の〇〇」テーマとアウトラインの作成【教科書第 10 章】（グループワーク） 復習：グループで今後の作業計画を立て、共有する

11	小菅　清香	【第 11 回】 予習：グループ内の作業分担にしたがって、自身の作業を進めておく 授業：プレゼンテーション資料の作成 2：　プレゼン資料の完成【教科書第 11 章】（グループワーク） 復習：プレゼン資料を見直し、情報の正確さ、誤字脱字等を確認する
12	小菅　清香	【第 12 回】 予習：プレゼンテーションに備え、事前練習する 授業：プレゼンテーションの実践 1：　クラス内プレゼン【教科書第 12 章】（プレゼンテーション） 復習：聴衆からのフィードバックを活かし、プレゼン資料を見直し、修正する
13	小菅　清香	【第 13 回】 予習：修正したプレゼン資料で再度練習する 授業：プレゼンテーションの実践 2：　全体プレゼン【教科書第 13 章】（プレゼンテーション） 復習：プレゼンを通して得た、今後の自身の課題を整理する
14	小菅　清香	【第 14 回】 予習：教科書第 14 章を読み、ゼミに関する質問を準備する 授業：専門ゼミ紹介 1【教科書第 14 章】 復習：各教員を訪ね、ゼミに関する不明点を質問する
15	小菅　清香	【第 15 回】 予習：教科書第 15 章を読み、ゼミに関する質問を準備する 授業：専門ゼミ紹介 2・進級に向けて【教科書第 15 章】 復習：各教員を訪ね、ゼミに関する不明点を質問する。2 年次後期のスケジュールと課題を確認する

授業開始前学習	「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」教科書を復習しておく。
授業内課題のフィードバックの方法	課題提出を求める場合は、次回授業以降に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。
テキスト・教材	人間関係専攻編『人間関係の基礎』（駒沢女子大学教科書シリーズ）
参考書	授業を通じて適宜、紹介する。
評価の基準と方法	受講取組みの積極性（55 %）、課題提出物（45 %）にもとづいて総合的に評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○	○	△				

関連科目	「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」および「人間関係入門Ⅰ・Ⅱ」
その他	個別クラスによる演習活動を基本とし、全体授業を数回実施する。主体的な取り組みと積極的な発言・質問が期待される。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	HR-M-212	科目分類（～2024 年入学者）	112-310-12	授業コード	FB0013
科目名称	人間関係の基礎			単位数	2.0 単位
英文名称	The Basics of Human Relationships			授業区分	講義
科目責任者	田澤　秀司			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田澤　秀司			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期　火曜日 09:00～16:00　水曜日 09:00～14:00 後期　火曜日 09:00～16:00　水曜日 09:00～14:00			研究室	10-502
授業概要	「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」の学修成果を踏まえ、大学での学びに必要な基礎的スキルの定着を図るとともに、人間関係専攻における専門的な学術研究に向けて、それらのブラッシュアップに取り組む。専攻の学びについて理解を深め、学生相互および教員とのコミュニケーション・ネットワークを深耕し、3～4 年次に向けて各自の展望と目標を明確化してほしい。演習形式を基本とし、授業回に応じてディスカッション、プレゼンテーション、グループワークなどに取り組んでもらう。				
到達目標	到達目標は、以下の 4 点である。 (1) 専攻の教員と友人を知る (2) 専攻の学びを理解し、各自が自身の今後 3 年間の学びをイメージできるようになる (3) 専攻のさまざまな専門分野の相違と連関を理解する (4) 専門知識の修得（インプット）の方法を知り（リサーチや文献読解の手法を学ぶ）、適切に自身の考えを表現（アウトプット）できるようになる（文章作成、ディスカッション、資料作成やプレゼンを学ぶ）				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	田澤　秀司	【第 1 回】 予習：シラバスに目を通す 授業：イントロダクション：人間関係専攻の学び【教科書第 1 章】（ディスカッション） 復習：卒業までの 3 年間の専攻の学びをイメージする
2	田澤　秀司	【第 2 回】 予習：自己紹介を準備する 授業：クラス・ガイダンス：自己紹介およびインタビュー計画【教科書第 2 章】（プレゼンテーション） 復習：教員インタビュー事前調査
3	田澤　秀司	【第 3 回】 予習：インタビューの質問内容と役割分担を整理する 授業：教員インタビュー1：　問いを立てる【教科書第 3 章】（グループワーク） 復習：インタビュー結果をメモし、グループで共有する
4	田澤　秀司	【第 4 回】 予習：前回インタビュー結果を踏まえ、さらに質問内容を精緻化する 授業：教員インタビュー2：　本質を探る【教科書第 4 章】（グループワーク） 復習：インタビューの反省点と課題をまとめる
5	田澤　秀司	【第 5 回】 予習：教科書第 5 章を読む 授業：ディスカッションの基礎知識【教科書第 5 章】 復習：ディスカッションにおける自分の強みと弱みを理解する
6	田澤　秀司	【第 6 回】 予習：「コミュニケーションとは〇〇である」の〇〇に入る言葉とその根拠を考える 授業：コミュニケーションとは 1：　各専門分野の知見から学ぶ【教科書第 6 章】（ディスカッション） 復習：講義から得た気づきを整理する
7	田澤　秀司	【第 7 回】 予習：前回講義とディスカッションの内容を整理、確認する 授業：コミュニケーションとは 2：　グループで意見をまとめる【教科書第 7 章】（ディスカッション） 復習：講義とディスカッションから得た発見についてレポートを作成する
8	田澤　秀司	【第 8 回】 予習：教員配布の資料を読む 授業：文献を読んで考える 1：　文章を読み、わからない語句や文章などをチェックする【教科書第 8 章】 復習：不明な用語や概念を調べる
9	田澤　秀司	【第 9 回】 予習：文献を読んだうえで、自分の考えを整理し、ディスカッションに備える 授業：文献を読んで考える 2：　文献をもとにディスカッション【教科書第 9 章】（ディスカッション） 復習：文献を読んで考えたことについてレポートを作成する
10	田澤　秀司	【第 10 回】 予習：10 年後の社会と自分をイメージする 授業：プレゼンテーション資料の作成 1：「10 年後の〇〇」テーマとアウトラインの作成【教科書第 10 章】（グループワーク） 復習：グループで今後の作業計画を立て、共有する

11	田澤　秀司	【第 11 回】 予習：グループ内の作業分担にしたがって、自身の作業を進めておく 授業：プレゼンテーション資料の作成 2：　プレゼン資料の完成【教科書第 11 章】（グループワーク） 復習：プレゼン資料を見直し、情報の正確さ、誤字脱字等を確認する
12	田澤　秀司	【第 12 回】 予習：プレゼンテーションに備え、事前練習する 授業：プレゼンテーションの実践 1：　クラス内プレゼン【教科書第 12 章】（プレゼンテーション） 復習：聴衆からのフィードバックを活かし、プレゼン資料を見直し、修正する
13	田澤　秀司	【第 13 回】 予習：修正したプレゼン資料で再度練習する 授業：プレゼンテーションの実践 2：　全体プレゼン【教科書第 13 章】（プレゼンテーション） 復習：プレゼンを通して得た、今後の自身の課題を整理する
14	田澤　秀司	【第 14 回】 予習：教科書第 14 章を読み、ゼミに関する質問を準備する 授業：専門ゼミ紹介 1【教科書第 14 章】 復習：各教員を訪ね、ゼミに関する不明点を質問する
15	田澤　秀司	【第 15 回】 予習：教科書第 15 章を読み、ゼミに関する質問を準備する 授業：専門ゼミ紹介 2・進級に向けて【教科書第 15 章】 復習：各教員を訪ね、ゼミに関する不明点を質問する。2 年次後期のスケジュールと課題を確認する

授業開始前学習	「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」教科書を復習しておく。
授業内課題のフィードバックの方法	課題提出を求める場合は、次回授業以降に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。
テキスト・教材	人間関係専攻編『人間関係の基礎』（駒沢女子大学教科書シリーズ）
参考書	授業を通じて適宜、紹介する。
評価の基準と方法	受講取組みの積極性（55 %）、課題提出物（45 %）にもとづいて総合的に評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○	○	△				

関連科目	「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」および「人間関係入門Ⅰ・Ⅱ」
その他	個別クラスによる演習活動を基本とし、全体授業を数回実施する。主体的な取り組みと積極的な発言・質問が期待される。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	HR-M-221 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	112-310-12 （Ｊ）	授業コード	FB0020
科目名称	化粧の文化史			単位数	2.0 単位
英文名称	History of Beauty			授業区分	講義
科目責任者	石田 かおり			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	石田 かおり			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	前期 木曜日 11:00～14:30 後期 木曜日 11:00～14:30			研究室	10-701
授業概要	人類は原始時代から化粧をし続けている。人はなぜ化粧をするのか。特定の時代や地域の化粧はなぜそのような形になったのか。各化粧の背景にある美意識はどのようにして出来上がったのか。こうした化粧の歴史を通じて、今現在自分が行っている化粧はなぜその形なのか。自分の美意識はどこから来たのか。これらを考えることがこの授業の目的である。 授業では、始めに、考える前提になる知識として、特定の時代と地域の化粧を学習する。その後で、なぜそうした美意識が生まれたのか、なぜそうした化粧になったのかを考える課題に取り組む。単純に知識伝授型の授業ではないので、その点誤解のないよう留意してほしい。 課題は、課題の出た回の授業だけなく、それまでの授業全体を大きな視野でとらえる必要があり、授業や教材やインターネット等を調べるだけで解答の出るものではない。自身のさまざまな知識や能力を駆使して考えを深める性質の課題である。AI が不得手とする問題発見力と考え続ける力を養うことを目的とした課題である。 なお、この科目は、歴史上の時間が後期の「身体文化論Ⅱ/化粧文化論 b」に続いており、通史上の前半部分が学修範囲である。				
到達目標	①化粧の変遷と美意識の変遷について大きな流れを把握する。 ②歴史上の事柄といま自分が生きている社会を関連付けてとらえることで、自分がどのような美意識にとらわれ、どのような化粧行動をしているかを自覚し、問題を発見する。 ③節目節目で課題を出すが、それは教科書やノートを復習すれば答えが見つかる、調べればすぐに答えが見つかるかるようなものは少ない。AI と共存する時代を生き抜くために、AI が不得手とする問題発見力と考え続ける力を養うような課題である。それゆえ、複数回の授業、他の科目、さらには自分で調べて得た情				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	石田 かおり	【第 1 回】 予習 ：高校までの日本史（室町時代まで）の流れを簡単に復習 授業 ：科目の説明・履修上の諸注意（教科書頁 1?2,83?85）, 課題 1 復習 ：教科書 1?2 頁,83?85 頁の再読,課題の提出
2	石田 かおり	【第 2 回】 予習 ：紫外線について自分で調べる 授業 ：紫外線の基礎知識（教科書頁 86?89） 復習 ：教科書 86?89 頁の再読・生活の中での紫外線の確認,課題の提出,課題 2
3	石田 かおり	【第 3 回】 予習 ：「化粧とは何か」について自分で考え、調べておく 授業 ：「化粧とは何か」を法律・言葉の意味から考える（教科書頁 90?91）,課題 3 復習 ：教科書 90?91 頁の再読・家の中の化粧品・医薬部外品の確認,課題の提出
4	石田 かおり	【第 4 回】 予習 ：世界各地に伝承されている化粧の風習と意味を調べる 授業 ：世界の民族化粧から化粧の意味を考え、「人はなぜ化粧をするか」のまとめ（教科書頁 9?10,91）,課題 4 復習 ：教科書 9?10 頁,91 頁の再読・自分はなぜ化粧をするか考える,課題の提出
5	石田 かおり	【第 5 回】 予習 ：高校までの歴史（4 大文明）の復習 授業 ：化粧の起源・4 大文明の化粧（教科書頁 27?34,92） 復習 ：教科書 27?34 頁,92 頁の再読・4 大文明での化粧の意味の確認,課題の提出,課題 5
6	石田 かおり	【第 6 回】 予習 ：高校までの日本史（縄文・弥生時代）の復習 授業 ：原始の化粧（縄文時代・弥生時代）（教科書頁 35?37,93?94）,課題 6 復習 ：教科書 35?37 頁,93?94 頁の再読・縄文時代と弥生時代の美意識と化粧の意味の確認,課題の提出
7	石田 かおり	【第 7 回】 予習 ：高校までの日本史（古墳時代）の復習 授業 ：古代の化粧：古墳時代（教科書頁 95?96）,課題 7 復習 ：教科書 95?96 頁の再読・古墳時代の美意識と化粧の意味の確認,課題の提出
8	石田 かおり	【第 8 回】 予習 ：高校までの日本史（飛鳥・奈良・平安初期と当時の文化）の復習 授業 ：古代の化粧：飛鳥・奈良・平安初期（教科書頁 38?42,54?55,97?100）,課題 8 復習 ：教科書 38?42 頁,54?55 頁,97?100 頁の再読・飛鳥時代?平安時代初期の美意識と化粧の意味の確認,課題の提出

9	石田　かおり	【第 9 回】 予習　：高校までの日本史（平安中後期と当時の文化）の復習 授業　：古代の化粧：平安中期?後期の貴族男性の暮らし（教科書頁 101?102）,課題 9 復習　：教科書 101?102 頁の再読,課題の提出
10	石田　かおり	【第 10 回】 予習　：高校までの日本史（平安中後期と当時の文化）の復習 授業　：古代の化粧：平安中期?後期の貴族女性の暮らし（教科書頁 101?102）,課題 10 復習　：教科書 101?102 頁の再読,課題の提出
11	石田　かおり	【第 11 回】 予習　：高校までの日本史（平氏の政権と源平の戦い）の復習 授業　：古代の化粧：平安中期?後期の貴族と武士の化粧（教科書頁 45?46,56?62,65?67,103?105）,課題 11 復習　：教科書 45?46 頁,56?62 頁,65?67 頁,103?105 頁の再読・貴族と武士の化粧の意味と美意識の確認,課題の提出
12	石田　かおり	【第 12 回】 予習　：高校までの日本史（鎌倉・室町時代と当時の文化）の復習 授業　：中世の化粧：鎌倉・室町・戦国時代の女性の化粧(教科書頁 106?107）,課題 12 復習　：教科書 106?107 頁の再読・中世の女性の美意識と化粧の意味の確認,課題の提出
13	石田　かおり	【第 13 回】 予習　：高校までの日本史（鎌倉?室町時代と当時の文化）の復習 授業　：中世の化粧：鎌倉・南北朝時代の男性の化粧（教科書頁 68?69,107?108）,課題 13 復習　：教科書 68?69 頁,107?108 頁の再読・中世の武士の美意識と化粧の意味の確認,　課題の提出
14	石田　かおり	【第 14 回】 予習　：高校までの日本史（北山文化と東山文化）の復習 授業　：中世の化粧：香道（教科書頁 69?71,109?111,119）,課題 14 復習　：教科書 69?71 頁,109?111 頁,119 頁の再読・世界の化粧文化の中の香道の特徴の確認,課題の提出
15	石田　かおり	【第 15 回】 予習　：高校までの西洋史（古代ギリシャ?ルネッサンス）の流れの復習 授業　：比較としての世界の化粧（西洋の化粧）（教科書頁 112?116）,課題 15 復習　：これまでの授業全体の振り返り,課題の提出

授業開始前学習	中学校程度の歴史（日本と世界）の復習
授業内課題のフィードバックの方法	授業内で出た課題については出期限の後の授業の中で解説する。
テキスト・教材	石田かおり『化粧の文化史』駒沢女子大学教科書シリーズ
参考書	久下司『化粧』法政大学出版局，石田かおり『おしゃれの哲学』理想社,高橋雅夫『化粧ものがたり』雄山閣,他は授業中に案内する
評価の基準と方法	出席回数が全授業回数の 3 分の 2 以上を前提とし、GWE を用いた課題の合計点が 100%である。評価は課題の合計点に基づいて、絶対的相対評価をする。各課題の配点は授業の中で案内する。なお課題は、特別な事情がない限り提出期限を守らない場合は 0 点とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			◎	△		

関連科目	後期の「化粧文化論」の前提となる内容であるので、「化粧文化論」の履修より先にこの科目を履修することをお奨めする。 そのほかに内容が密接な科目は、人間関係ゼミ a,和装の文化論Ⅰ・Ⅱ,服装の美意識Ⅰ・Ⅱである。
その他	人間関係専攻 2 年生は必修科目である。。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	化粧品企業と美容関係の社団法人の研究開発・広報活動・人材育成などの経験もいかした研究内容を基に授業を実施。

科目分類（2025 年～入学者）	HR-M-221	科目分類（～2024 年入学者）	112-310-12	授業コード	FB0030
科目名称	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝの心理学			単位数	2.0 単位
英文名称	Psychology of Communication			授業区分	講義
科目責任者	倉住 友恵			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	倉住 友恵			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	前期 月曜日 10:40～12:10 金曜日 16:20～17:50 後期 月曜日 10:40～12:10 金曜日 16:20～17:50			研究室	10-618
授業概要	人はコミュニケーションを通じて仲間や友人、恋人を得て、対人関係を形成していく。本授業では、人と人との相互作用において重要な役割を果たすコミュニケーションの心理的メカニズムを学ぶ。特に、コミュニケーションの種類や機能・発達、攻撃や差別などの特定のコミュニケーション、話の聴き方などのコミュニケーションスキルについて取り扱う。授業は講義だけでなく、ディスカッションや実践的な演習も行うことで、理論と実践の両面について学んでいく。				
到達目標	到達目標は以下の通りである。 1．コミュニケーションの種類と機能について説明できる 2．効果的な自己表現方法と話の聴き方を身につけ、対人関係において適切に活用できる 3．コミュニケーションの発達と障害について正しく理解する 4．攻撃や差別が起こるメカニズムについて説明できる				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	倉住 友恵	予習 ：シラバスに目を通す、コミュニケーションが成立する時、しない時について考える 授業 ：オリエンテーション、コミュニケーションとは 復習 ：本日学んだ授業を振り返り、まとめる
2	倉住 友恵	予習：人が他者とコミュニケーションできるようになる年齢とその方法について考えてみる 授業 ：コミュニケーションの発達と障害 復習 ：本日学んだ授業を振り返り、まとめる
3	倉住 友恵	予習 ：コミュニケーションにおいて最も重要な要素は何か考える 授業 ：コミュニケーションの種類、非言語的コミュニケーション①ジェスチャー、しぐさ、視線、姿勢 復習 ：本日学んだ授業を振り返り、まとめる
4	倉住 友恵	予習 ：感情の変化と身体の結びつきについて考える 授業 ：非言語的コミュニケーション②表情と感情（グループワーク） 復習 ：本日学んだ授業を振り返り、まとめる
5	倉住 友恵	予習 ：普段どのような席に着席することが多いのか考えてみる 授業 ：非言語的コミュニケーション③パーソナルスペース、着席行動、身体接触 復習 ：本日学んだ授業を振り返り、まとめる
6	倉住 友恵	予習 ：化粧がもたらす心理的影響について考えてみる 授業 ：非言語的コミュニケーション④化粧や装い 復習 ：本日学んだ授業を振り返り、まとめる
7	倉住 友恵	予習 ：どのような色、空間にいるときに最も落ち着くか考える 授業 ：非言語的コミュニケーション⑤色と物理的空間、パラ言語 復習 ：本日学んだ授業を振り返り、まとめる
8	倉住 友恵	予習 ：どのように話せば人を説得することができるか考える 授業 ：言語的コミュニケーション、説得する、説得技法（ペアワーク） 復習 ：本日学んだ授業を振り返り、まとめる
9	倉住 友恵	予習 ：普段使用している SNS でどのような対人トラブルが生じているか考える 授業 ：CMC（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰ・ﾒﾃﾞｨｴｲﾃｨｯﾄﾞ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ）、SNS の特徴と弊害 復習 ：本日学んだ授業を振り返り、まとめる
10	倉住 友恵	予習 ：人はどのようなときに相手を攻撃してしまうのか考える 授業 ：攻撃行動と援助行動 復習 ：本日学んだ授業を振り返り、まとめる
11	倉住 友恵	予習 ：差別はなぜ起こるのか考えてみる 授業 ：差別と偏見 復習 ：本日学んだ授業を振り返り、まとめる
12	倉住 友恵	予習 ：聞き上手な人の特徴を考える 授業 ：ソーシャルスキルトレーニング① 聞き上手になる、アクティブリスニング（グループワーク） 復習 ：本日学んだ授業を振り返り、まとめる

13	倉住　友恵	予習　：主張が上手な人の特徴を考える 授業　：ソーシャルスキルトレーニング②自分の意見を言う（アサーション），Ｉメッセージ、DESC 法（ペアワーク） 復習　：本日学んだ授業を振り返り、まとめる
14	倉住　友恵	予習　：これまでの授業を振り返り自分の得意な・苦手なコミュニケーションを考える 授業　：身に着けたコミュニケーションスキルを実践する、コンセンサス法（グループワーク） 復習　：本日学んだ授業を振り返り、まとめる
15	倉住　友恵	予習　：すべての授業を振り返り、不明点を挙げておく 授業　：これまでの授業内容のまとめ 復習　：すべての授業を振り返り、まとめる

授業開始前学習	対人心理学，社会心理学に関する書籍を読むことが授業理解の一助となる。
授業内課題のフィードバックの方法	授業課題は目を通したうえで、翌週以降に返却する。 Google フォームなどで質問を受け付けた場合には、翌週授業内で回答する。
テキスト・教材	特に定めない。
参考書	授業内で適宜紹介する。
評価の基準と方法	授業への取り組み 60%、学期末試験 40%として評価を行う。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	△	◎		○			

関連科目	心理学に関連する諸科目
その他	知的好奇心をもち、積極的に授業参加することを望む。 グループワークの時間を設ける回が複数あるため、協力し合う姿勢をもち、自分から相手へ話しかけることを心がけてほしい。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	HR-M-221	科目分類（～2024 年入学者）	112-310-12	授業コード	FB0040
科目名称	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝの社会学			単位数	2.0 単位
英文名称	Sociology of Communication			授業区分	講義
科目責任者	長野　慎一			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	長野　慎一			開講時期	2･3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	本講義は、記号やメディアを介して行われる相互行為について、社会学的観点から解説を行う。講義全体は主に４つの議論からなる。（１）相互行為に関するミクロ社会学、（２）相互行為を言語的行為として説明する議論、（３）身体的な相互行為に焦点を当てる議論、（４）メディアに焦点を当てる議論である。 取り上げる議論には、聞きなれない用語があるかもしれないが、具体的場面に即してかみ砕いて説明していきます。人と関わるときに、皆さんは、何を目指して、どのように関わりますか。その場をやりすごしたい、互いに分かり合いたい、でも、自分の世界に踏み込んでほしくないなど、求めるものは様々でしょう。そして、あえて目をあわせない、言葉を尽くす、尽くす言葉もないときに感情に訴え体を震わせる、テレビや SNS などを通じて見知らぬ人に思いを馳せるなど、方法も様々でしょう。この講義では、コミュニケーションを様々な側面を理解していただきたいと思っています。 受講者のみなさんは、コミュニケーションに関連して、学問的に解明したい現象、自らが取り組んでみたい実践を意識して受講してください。それが講義が各受講者にとって有意義になるためには必要です。授業では、Gooogle Classroom で予めレジュメを配布するので、それを読んで予習して授業に臨んでください。授業後には、小レポを作成し、Google Classroom で提出をしていただきたいと思います。				
到達目標	・コミュニケーションの様々の側面を、事実に即して理解し、その理解を表現できる。 ・コミュニケーションを理解するための社会学的視点（理論）を活用して、具体的現象を理解し、それを表現できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	長野　慎一	【第１回】 予習：シラバスを読む 授業：授業全体の流れを説明する。学問において自らが解明したい現象、学問を生かしたい実践を考え、それとコミュニケーションとの関係を考えてみる。 復習：授業で何を学びたいか文章化してみる。
2	長野　慎一	【第２回】 予習：予め配信したレジュメを読んでおく。レジュメは端末に DL するか、自分で印刷するかして、各自授業にもってきてください。 授業：ジンメルの視点：見知らぬ他者同士はどのような相互行為をどのような条件のもとで行うのか。 復習：授業内容を振り返り、レジュメをもういちど読み、授業内で提示された演習課題について、小レポートを作成する。
3	長野　慎一	【第３回】 予習：予め配信したレジュメを読んでおく。レジュメは端末に DL するか、自分で印刷するかして、各自授業にもってきてください。 授業：ゴフマンがいう「儀礼」：相手の面子を維持する相互行為とはどのようなものであり、それはなぜ社会的に要請されるのか。 復習：授業内容を振り返り、レジュメをもういちど読み、授業内で提示された演習課題について、小レポートを作成する。
4	長野　慎一	【第４回】 予習：予め配信したレジュメを読んでおく。レジュメは端末に DL するか、自分で印刷するかして、各自授業にもってきてください。 授業：ミードがいう「I」と「me」：自己の自己に対する関係が、相互行為を通じていかに構成されるのか。 復習：授業内容を振り返り、レジュメをもういちど読み、授業内で提示された演習課題について、小レポートを作成する。
5	長野　慎一	【第５回】 予習：予め配信したレジュメを読んでおく。レジュメは端末に DL するか、自分で印刷するかして、各自授業にもってきてください。 授業：ゴフマンいう「役割距離」と「裏局域」：社会的に期待する自己のあり方とは異質な自己がどのように生み出されるか 復習：授業内容を振り返り、レジュメをもういちど読み、授業内で提示された演習課題について、小レポートを作成する。
6	長野　慎一	【第６回】 予習：予め配信したレジュメを読んでおく。レジュメは端末に DL するか、自分で印刷するかして、各自授業にもってきてください。 授業：エスノメソドロジーの視点：日常生活における言語的カテゴリーや非言語的やり取りがいかにミクロな秩序の形成に寄与しているか 復習：授業内容を振り返り、レジュメをもういちど読み、授業内で提示された演習課題について、小レポートを作成する。
7	長野　慎一	【第７回】 予習：予め配信したレジュメを読んでおく。レジュメは端末に DL するか、自分で印刷するかして、各自授業にもってきてください。 授業：ギデンズがいう「再帰性」：相互行為／自己のあり方は、新しい状況に接することでどのように変容するのか。 復習：授業内容を振り返り、レジュメをもういちど読み、授業内で提示された演習課題について、小レポートを作成する。

8	長野　慎一	【第 8 回】 予習：予め配信したレジュメを読んでおく。レジュメは端末に DL するか、自分で印刷するかして、各自授業にもってきてください。 授業：ハーバマスのいう「コミュニケーション的行為」：人々は言葉を介し互いに関わり、いかに「共通の了解」を生み出すか。 復習：授業内容を振り返り、レジュメをもういちど読み、授業内で提示された演習課題について、小レポートを作成する。
9	長野　慎一	【第 9 回】 予習：予め配信したレジュメを読んでおく。レジュメは端末に DL するか、自分で印刷するかして、各自授業にもってきてください。 授業：ハーバマスの視点の批判的検討：コミュニケーションの目的は互いに「分かり合うこと」だけなのか、そして、「私」は「私」自身のことを語りつくせるのか？ 復習：授業内容を振り返り、レジュメをもういちど読み、授業内で提示された演習課題について、小レポートを作成する。
10	長野　慎一	【第 10 回】 予習：予め配信したレジュメを読んでおく。レジュメは端末に DL するか、自分で印刷するかして、各自授業にもってきてください。 授業：フーコーの「言説-権力」：私たちが自分を語るカテゴリーはいかに権力関係を基盤に生み出され、権力関係を生み出すのか？ 復習：授業内容を振り返り、レジュメをもういちど読み、授業内で提示された演習課題について、小レポートを作成する。
11	長野　慎一	【第 11 回】 予習：予め配信したレジュメを読んでおく。レジュメは端末に DL するか、自分で印刷するかして、各自授業にもってきてください。 授業：フーコーのいの「倫理的実践」としての「パレーシア」：権力関係に抗して自分自身を誠実に語るとはどのような実践か？ 復習：授業内容を振り返り、レジュメをもういちど読み、授業内で提示された演習課題について、小レポートを作成する。
12	長野　慎一	【第 12 回】 予習：予め配信したレジュメを読んでおく。レジュメは端末に DL するか、自分で印刷するかして、各自授業にもってきてください。 授業：ブルデュの「ハビトゥス」：言語化されない身体の感覚をもとに私たちはいかに相互行為を行うか、その相互行為はいかに社会的に作られるか。 復習：授業内容を振り返り、レジュメをもういちど読み、授業内で提示された演習課題について、小レポートを作成する。
13	長野　慎一	【第 13 回】 予習：予め配信したレジュメを読んでおく。レジュメは端末に DL するか、自分で印刷するかして、各自授業にもってきてください。 授業：バトラーの言う「語る身体」：既存の言葉の秩序に対する違和感をもとに人々は己の身体を通じてどのように相互行為を束ねていくのか 復習：授業内容を振り返り、レジュメをもういちど読み、授業内で提示された演習課題について、小レポートを作成する。
14	長野　慎一	【第 14 回】 予習：予め配信したレジュメを読んでおく。レジュメは端末に DL するか、自分で印刷するかして、各自授業にもってきてください。 授業：ハーバマスのいう「公共圏」を捉え直す：メディアを通じて広がる言論空間が社会に果たす機能は何か、その空間は、いかに社会的に排除された他者との関係で変容しうるのか。 復習：授業内容を振り返り、レジュメをもういちど読み、授業内で提示された演習課題について、小レポートを作成する。
15	長野　慎一	【第 15 回】 予習：これまでに配布したレジュメを読んでおく 授業：期末テスト（持ち込み可）とテスト内容の解説 復習：テストの解答内容について自ら振り返る（提出物はなし）

授業開始前学習	レジュメを読む。必要に応じて文献を配るのでそれを読む。
授業内課題のフィードバックの方法	①授業内でリアクションペーパーを書いてもらう。それに対してその場でコメントを行う。 ②授業後に、小レポートを Google Classroom で提出してもらう。それについて次回の授業でコメントを行う。
テキスト・教材	なし。
参考書	配布するレジュメで指示。
評価の基準と方法	①期末テスト（100 点）、「紙」のものは、持ち込み「可」 ／電子機器は「不可」、②小レポは期末テストに最大 20 点まで加点する。期末テストと小レポの素点の合計が 101 点を超えた段階で 100 点扱い。③単位取得には 3 分の 2 以上の出席が必要。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎		○	△		

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	HR-M-221	科目分類（～2024 年入学者）	112-310-12	授業コード	FB0050
科目名称	現代社会の論点			単位数	2.0 単位
英文名称	Issues in Contemporary Society			授業区分	講義
科目責任者	榎本 環			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	榎本 環			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 10:40～12:10			研究室	10-716
授業概要	若者世代をとりまく社会環境について近年の論評やメディア情報をいくつか取り上げ、論点や問題提起を整理しながら解説するとともに、受講者間で議論・検討を行います。皆さん自身が日常生活のなかで身近に接している経験や社会的現象を手がかりに、そこから、「社会について考察する」という学的思考へと展開する方法を実践的に習得してもらうことを目指します。				
到達目標	読むこと（精確な理解） 考えること（論理的思考・ロジカルシンキング） 話すこと（対話的コミュニケーション） の 3 つのスキルを高めることが具体的な学修目標です。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	榎本 環	【第 1 回】 予習 ：シラバスを熟読し、質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業 ：ガイダンスとイントロダクション（ディスカッション） 復習 ：Classroom にアクセスし、コンテンツや操作方法について確認してください。
2	榎本 環	【第 2 回】 予習 ：第 1 回の配布資料を再読し、授業運営についての質問があればまとめてください。 授業 ：論理トレーニング 復習 ：授業で紹介する例題問題に取り組んでください。
3	榎本 環	【第 3 回】 予習 ：「公共性」の概念についてリサーチしてください。 授業 ：規範・道徳・公共性（ディスカッション） 復習 ：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。
4	榎本 環	【第 4 回】 予習 ：いくつかの高校の校則の事例について情報収集してください。 授業 ：教育 1 ――校則と自由（ディスカッション） 復習 ：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。
5	榎本 環	【第 5 回】 予習 ：『下流志向』（内田樹、2007）について、内容紹介や書評などの情報を集めてください（インターネット等で（以下同様））。 授業 ：教育 2 ――学びからの逃走（ディスカッション） 復習 ：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。
6	榎本 環	【第 6 回】 予習 ：『コミュニケーション不全症候群』（中島梓、1995）について、内容紹介や書評などの情報を集めてください。 授業 ：「仲間以外はみな風景」（ディスカッション） 復習 ：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。
7	榎本 環	【第 7 回】 予習 ：『友だち地獄』（土井隆義、2008）について、内容紹介や書評などの情報を集めてください。 授業 ：窒息する友人関係（ディスカッション） 復習 ：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。
8	榎本 環	【第 8 回】 予習 ：『オレ様化する子どもたち』（諏訪哲二、2005）について、内容紹介や書評などの情報を集めてください。 授業 ：自分らしさと個性（ディスカッション） 復習 ：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。
9	榎本 環	【第 9 回】 予習 ：「自由」とは何か、その概念にはどのようなバリエーションがあるかについてリサーチしてください。 授業 ：社会への帰属と自由（ディスカッション） 復習 ：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。
10	榎本 環	【第 10 回】 予習 ：幸福の条件について自己イメージをまとめてください。 授業 ：幸福について 1 ――選択と幸福（ディスカッション） 復習 ：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。

11	榎本　環	【第 11 回】 予習　：「幸福」とは何か、その概念にはどのようなバリエーションがあるかについてリサーチしてください。 授業　：幸福について 2 ――自由と幸福（ディスカッション） 復習　：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。
12	榎本　環	【第 12 回】 予習　：就職活動に求められる準備検討作業についてリサーチしてください。 授業　：キャリア形成とグローバリズム（ディスカッション） 復習　：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。
13	榎本　環	【第 13 回】 予習　：日本の生活保護の仕組みについてリサーチしてください。 授業　：社会保障とコスト（ディスカッション） 復習　：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。
14	榎本　環	【第 14 回】 予習　：晩婚化・未婚化現象についてリサーチしてください。 授業　：家族機能の変容（ディスカッション） 復習　：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。
15	榎本　環	【第 15 回】 予習　：全回の内容を総復習し、不明点・疑問点を整理してください。 授業　：総括討論（ディスカッション） 復習　：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。

授業開始前学習	まさに皆さん自身の日頃の生活体験と問題関心が事前学習の起点となります。視野を広げ、社会問題や若者文化に関する話題について、ふだんから積極的にマスコミ情報をウォッチする習慣をつけておくことを勧めます。
授業内課題のフィードバックの方法	Classroom へのコメント・質問等の投稿内容に対しては、次回の授業冒頭でリプライと補足説明を行います。課題提出を求める場合は次回に全体の講評を行い、個別の質問に回答します。
テキスト・教材	とくに指定しません。毎回、レジュメを配布する予定です。
参考書	授業を通じて随時、指示します。
評価の基準と方法	平常点（受講取組みの積極性）（60 %）、期末レポート（40 %）により評価します。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○			○		◎		△

関連科目	「社会学Ⅰ Ⅱ」で紹介される概念や視座は内容理解に役立つと思います。
その他	毎回、授業の後半に意見交換・ディスカッションの時間を設ける予定です。積極的な参加と発言を期待します。受講者諸姉の生活実感や柔軟な発想から、私自身も大いに学びたいと考えています。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	112-310-12	授業コード	FB0060
科目名称	国際社会への誘い			単位数	2.0 単位
英文名称	Invitation to the International Society			授業区分	講義
科目責任者	野崎　孝弘			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	野崎　孝弘			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	この講義の目的は、（１）国際政治に関する基本的な知識を身につけていくこと、（２）自らの考えを論理的にまとめ、発表することができる論理構成力を身につけていくことの二点にある。「戦後の国際関係史」から「軍縮・軍備管理」、「世界経済」を経て「南北問題」にいたるまで、幅広い題材を扱っていきたい。				
到達目標	（１）国際政治に関する基本的な知識を習得することができる。 （２）自らの考えを論理的にまとめ、発表することができる論理構成力を磨き上げることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	野崎　孝弘	【第１回】 予習　：授業のスケジュールを確認する 授業　：ガイダンス、戦後の国際関係史（１）―冷戦の始まり―（問題解決型学習） 復習　：チェコスロバキア政変が国際情勢に与えた影響について説明してみる
2	野崎　孝弘	【第２回】 予習　：フルシチョフによるスターリン批判が社会主義陣営に与えた影響について思い出してみる 授業　：戦後の国際関係史（２）―ベルリンの壁の構築まで―（問題解決型学習） 復習　：フルシチョフ政権がベルリンの壁を構築した理由について説明してみる
3	野崎　孝弘	【第３回】 予習　：制限主権論とはどのような考え方のことだったのかを思い出してみる 授業　：戦後の国際関係史（３）―キューバ危機と多極化―（問題解決型学習） 復習　：中ソ対立が激化した理由について説明してみる
4	野崎　孝弘	【第４回】 予習　：ソ連軍によるアフガニスタン侵攻が国際情勢に与えた影響について思い出してみる 授業　：戦後の国際関係史（４）―新冷戦の開始と冷戦の終結―（問題解決型学習） 復習　：新冷戦が終結するにいたった理由について説明してみる
5	野崎　孝弘	【第５回】 予習　：適宜指示する 授業　：軍縮・軍備管理（１）―核抑止とアメリカの核戦略の変遷―（問題解決型学習） 復習　：核抑止とはどのような考え方のことなのかを説明してみる
6	野崎　孝弘	【第６回】 予習　：戦略核兵器と戦術核兵器の違いについて復習しておく 授業　：軍縮・軍備管理（２）―米ソ間の核制限交渉と核削減交渉―（問題解決型学習） 復習　：米ソがＡＢＭ制限条約を締結するにいたった理由について説明してみる
7	野崎　孝弘	【第７回】 予習　：「包括する」という言葉の意味を調べておく 授業　：軍縮・軍備管理（３）―多国間の核交渉―（問題解決型学習） 復習　：ＮＰＴが不平等条約だと言われる理由について説明してみる
8	野崎　孝弘	【第８回】 予習　：クラスター爆弾とはどのような兵器なのかを調べておく 授業　：軍縮・軍備管理（４）―生物・化学兵器、通常兵器の規制―（問題解決型学習） 復習　：対人地雷全面禁止条約にアメリカが署名していない理由について説明してみる
9	野崎　孝弘	【第９回】 予習　：「持続可能な開発」とはどのような考え方のことなのかを思い出してみる 授業　：環境問題（１）　―三つの会議を中心に―（問題解決型学習） 復習　：アメリカ議会が生物多様性条約への批准に応じない理由について説明してみる
10	野崎　孝弘	【第 10 回】 予習　：パリ協定の内容について印象に残っていることを箇条書きにしてみる 授業　：環境問題（２）　―気候変動枠組み条約―（問題解決型学習） 復習　：京都議定書の問題点について説明してみる
11	野崎　孝弘	【第 11 回】 予習　：自由貿易と保護貿易の違いについて思い出しておく 授業　：世界経済（１）　―ブレトン・ウッズ体制とＧＡＴＴ／ＷＴＯ体制―（問題解決型学習） 復習　：「最恵国待遇」とは何かを説明してみる

12	野崎　孝弘	【第 12 回】 予習　：ＦＴＡとＥＰＡの違いについて思い出してみる 授業　：世界経済（２）　―日本と経済連携協定―（問題解決型学習） 復習　：ＴＰＰとＲＣＥＰの特色についてそれぞれ説明してみる
13	野崎　孝弘	【第 13 回】 予習　：「南北問題」とはどのような問題のことなのかを思い出してみる 授業　：南北問題（１）―資源ナショナリズムの高揚―（問題解決型学習） 復習　：ＯＰＥＣの結成に対して国際石油資本（メジャーズ）がとった対抗措置について説明してみる
14	野崎　孝弘	【第 14 回】 予習　：「南南問題」とはどのような問題のことなのかを思い出してみる 授業　：　南北問題（２）―南南問題の登場まで―（問題解決型学習） 復習　：構造調整プログラムの問題点について説明してみる
15	野崎　孝弘	【第 15 回】 予習　：「人間開発」とはどのような考え方のことなのかを調べてみる 授業　：南北問題（３）―格差の是正に向けた取り組み―（問題解決型学習） 復習　：「持続可能な人間開発」と「人間の安全保障」の関係について考えてみる

授業開始前学習	
授業内課題のフィードバックの方法	自らの考えを論理的にまとめ、発表することができる論理構成力は、文章レベルでの自覚的な訓練の中でこそ効果的に習得することができる。そこで、この能力の育成をねらいとした授業内課題を実施するに際しては、その翌週に講評を行い、どこに難点があるのかを全員で考えていく。具体的には、文章の書き方を指導するというかたちで、個人情報を伏せた複数の答案をサンプルとして提示し、関係づけができている箇所とできていない箇所を全員であぶり出す作業を行う。
テキスト・教材	授業時にレジュメを配布する。レジュメは２種類（本編と補足資料編）。
参考書	
評価の基準と方法	計３回の小テストと授業内課題の累計で評価を行う。合格点は 60 点以上とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○			○	◎			

関連科目	戦争と平和の歴史Ⅰ・Ⅱ
その他	（１）あらためて言うまでもないことですが、授業中の私語は厳禁とします。 （２）授業内課題は不定期に、しかも頻繁に実施します。 （３）配布したプリントは、クリアファイルなどに入れて毎回持参するようにしましょう。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	112-310-12（Ｊ）	授業コード	FB0070
科目名称	企画と表現			単位数	2.0 単位
英文名称	Planning and Expression			授業区分	講義
科目責任者	田澤　秀司			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田澤　秀司			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	前期　火曜日 09:00～16:00　水曜日 09:00～14:00 後期　火曜日 09:00～16:00　水曜日 09:00～14:00			研究室	10-502
授業概要	【私の日常を編集する】 ウェブを使って誰もが情報を発信できる現代では、歴史のなかで形づくられてきた編集の概念が変化しつつある。自分の日常を編集したり、イベントやプロジェクトを編集したりするなど、広範囲に展開するようになった編集の未来を考える。また、授業では、ディスカッションや発表などのグループワークを行う。				
到達目標	社会に出ると、自分なりの解き方で答えを導き、誰にでも理解できる言葉で、論理的に説明することが求められる。個人やグループで、商品、イベント、プロジェクトなどの企画と発表を行い、「考え抜く力」を身につける。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	田澤　秀司	【第 1 回】 予習　：「未来」について調べる 授業　：企画と表現「みなさんは、どんな未来を生きるのか」 復習　：プロジェクトの例から 1 つを選んでレポートにまとめる
2	田澤　秀司	【第 2 回】 予習　：「企画」について調べる 授業　：企画と表現「企画をたて、人をあつめ、ものをつくる」 復習　：プロジェクトの例から 1 つを選んでレポートにまとめる
3	田澤　秀司	【第 3 回】 予習　：「自分の日常」を記録する 授業　：プロジェクト「私の日常／アイデア」1 復習　：アイデアを文章にする
4	田澤　秀司	【第 4 回】 予習　：アイデアを視覚化する 授業　：プロジェクト「私の日常／アイデア」2 復習　：アイデアをデータ化する
5	田澤　秀司	【第 5 回】 予習　：企画書にまとめる 授業　：プロジェクト「私の日常／企画書」 復習　：企画書を仕上げる
6	田澤　秀司	【第 6 回】 予習　：発表の準備をする 授業　：発表と質疑応答（発表） 復習　：意見を参考に企画書を仕上げ、提出する
7	田澤　秀司	【第 7 回】 予習　：「ベストセラー商品」を具体的に調べる 授業　：商品、イベント「2023 年夏発売／アイデア」1 復習　：アイデアを文章にする
8	田澤　秀司	【第 8 回】 予習　：アイデアを視覚化する 授業　：商品、イベント「2023 年夏発売／アイデア」2 復習　：アイデアをデータ化する
9	田澤　秀司	【第 9 回】 予習　：企画書にまとめる 授業　：商品、イベント「2023 年夏発売／企画書」 復習　：企画書を仕上げる
10	田澤　秀司	【第 10 回】 予習　：発表の準備をする 授業　：発表と質疑応答（発表） 復習　：意見を参考に企画書を仕上げ、提出する

11	田澤　秀司	【第 11 回】 予習　：「未来の“なにか”」について具体的に調べる 授業　：商品、イベント「10 年後の未来／アイデア」1 復習　：アイデアを文章にする
12	田澤　秀司	【第 12 回】 予習　：アイデアを視覚化する 授業　：商品、イベント「10 年後の未来／アイデア」2 復習　：アイデアをデータ化する
13	田澤　秀司	【第 13 回】 予習　：企画書にまとめる 授業　：商品、イベント「10 年後の未来／企画書」 復習　：企画書を仕上げる
14	田澤　秀司	【第 14 回】 予習　：発表の準備をする 授業　：発表と質疑応答（発表） 復習　：意見を参考に企画書を仕上げ、提出する
15	田澤　秀司	【第 15 回】 予習　：自分の将来を考える 授業　：プロジェクト「私の予定表」 復習　：「私の予定表」を仕上げ、提出する

授業開始前学習	ニュースなどで日々の出来事を確認しておくと、授業が理解しやすい。
授業内課題のフィードバックの方法	出席確認で個別に回答し、発表で総括する。
テキスト・教材	授業で適宜、配布する。
参考書	授業で適宜、紹介する。
評価の基準と方法	配点は、予習・復習などの平常点 60 点、課題 40 点の配分とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	△		○	◎

関連科目	後期の「表現活動とﾒﾃﾞｨｱ／表現活動とﾋﾞｼﾞﾈｽ」を学ぶことで、「考え抜く力、チームで働く力」がバランスよく身につく。
その他	課題学習（予習・復習）については、各回の授業の後半に具体的な例を提示する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	幼児向け月刊誌 10 誌の編集責任者、教材の開発者として数多くの人とかかわり、さまざまな商品を担当してきた経験と、その過程で得た資料をもとに、「社会で求められる力」を「出版“で”教育する」という取り組みを実践している。

科目分類（2025年～入学者）		科目分類（～2024年入学者）	112-330-12（J）	授業コード	FB0211
科目名称	身体文化論Ⅰ			単位数	2.0単位
英文名称	Body Theory Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	石田 かおり			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	石田 かおり			開講時期	2・3年
オフィスアワー	前期 木曜日 11:00～14:30 後期 木曜日 11:00～14:30			研究室	10-701
授業概要	この授業では、化粧のおもな目的である外見的価値を入口にして、社会の構造と問題について徹底的に「哲学的思考」と「哲学対話」を実施する。知識の伝授や答えのある問題を解く授業ではない。そもそも問題を見つけることから始めて、問い続け、考え続けることの連続で、結論を出すことは敢えてしない。 AIと共存する時代は、知識獲得や速く正解にたどり着くことはAIにかなわないので、人間はAIが不得手なこと、すなわち問題を発見する力、考え続ける力、考えを洗練させる力が問われる。この授業ではそうした力を鍛えることが目的である。 ①日常にありふれていて当たり前に受け止めてきたことに対して問題意識を持つ。 ②発見した問題を言語化する。 ③考えたことを他の人々と共有し、互いに刺激し合いながら、考えに考えを重ねる作業をひたすら続ける。 これら3つの作業を15回続ける覚悟がある学生には向いている。反対に、調べて答えを見つけてスッキリしたい、結論を性急に求めて教員の解釈を早く聞きたい、教員から毎回新たなノウハウを伝授してほしい、という学生は期待を裏切られる。 グループワークが15回の過半数を占めるため、欠席するとグループメンバーに迷惑がかかることから。ゼミのように全回出席が当然の授業であることも留意が必要だ。				
到達目標	①日常にありふれている当たり前に受け止めてきたことに対して問題意識を持つ。 ②発見した問題を言語化する。 ③考えたことを他の人々と共有し、互いに刺激し合いながら、考えに考えを重ねる作業をひたすら続ける。 ④毎回出席して、グループ内での自分の役割を果たす。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	石田 かおり	【第1回】 予習 ：西洋哲学の歴史を高校倫理の教科書や参考書で復習したり、書物から概要を掴む 授業 ：授業の進め方と心構え,哲学の流れと理論についての説明 復習 ：授業で聞いた教科書ページとノートの再読
2	石田 かおり	【第2回】 予習 ：西洋哲学の歴史の中から自分に合っていると思われる理論を選んでそれを使って毎日の出来事を分析する 授業 ：私たちはどのように人を把握するのか 復習 ：授業で話し合ったことを日常の各種の場面で思い出しながら自分の考えを進める
3	石田 かおり	【第3回】 予習 ：前回の授業で話し合ったことを日常の各種の場面で思い出しながら自分の考えを進める 授業 ：服装・髪型・化粧の意味について考える 復習 ：授業で話し合ったことを日常の各種の場面で思い出しながら自分の考えを進める
4	石田 かおり	【第4回】 予習 ：前回の授業で話し合ったことを日常の各種の場面で思い出しながら自分の考えを進める 授業 ：『人は見た目が9割』はなぜ巨大ベストセラーになったか(1)各自の考えを基にした全員での考察 復習 ：授業で聞いたさまざまな発言を思い出し、それらを予習で選んだ哲学理論を使って分析してみる
5	石田 かおり	【第5回】 予習 ：前回の授業で他の履修者の発言を聞いて自分が考えたことを思い出して記すことで授業を受けるためのメモを作る 授業 ：『人は見た目が9割』はなぜ巨大ベストセラーになったか(2) 背景の深堀を全員で実施 復習 ：授業中に出された課題を行いながら「なぜ」を考え続け、気づいたことがあればメモをしておく
6	石田 かおり	【第6回】 予習 ：前回の授業課題を実施して自分が考えたことを見直して、社会背景からとらえ直し、気づいたことがあればメモしておく 授業 ：『人は見た目が9割』はなぜ巨大ベストセラーになったか(3) 前回の課題となった社会の時代的背景を発表し、それに基づく全員での考察 復習 ：現在の社会の特質と現在の美容を結び付けて考え、気づいたことがあればメモしておく
7	石田 かおり	【第7回】 予習 ：人の社会的位置づけと人の外見との関わりについて、これまで自分が見聞きしてきたことを思い出してメモしておく 授業 ：『人は見た目が9割』はなぜ巨大ベストセラーになったか(4) 人の社会的位置づけと人の外見との関わりについて全員で考察 復習 ：授業で出された課題を実施し自分が考えたことを見直して、女性の社会的状況からとらえ直し、気づいたことがあればメモしておく

8	石田　かおり	【第 8 回】 予習　：近代社会（その延長の現代社会も含む）にはどのような社会的原理が働いているのか、近代人や現代人は社会から何が求められているのかを考え、調べ、メモしておく 授業　：『人は見た目が 9 割』はなぜ巨大ベストセラーになったか(5)　近代原理が求める人間とはどのようなものか、そこに問題はないかについて全員で考える 復習　：授業を通じて気づいた近現代社会の問題点を洗い出してメモしておく
9	石田　かおり	【第 9 回】 予習　：前回の授業で気づいた問題点はないか、あるならどのような解決策か、これらについて考えて、結果だけでなく考える過程もメモしておく 授業　：『人は見た目が 9 割』はなぜ巨大ベストセラーになったか(6)　近代原理が求める人間像の由来と問題点の解説 復習　：授業聞いて気付いたこと・発見したことの視点から日常生活を送り、気付いたことをメモしておく
10	石田　かおり	【第 10 回】 予習　：日常生活の中で近代原理に由来するものを洗い出す 授業　：いま世界を席巻しつつある最大の美容について考える 復習　：授業で考えた美容がなぜ世界を覆うようになったのかをこれまでの授業を基に考える
11	石田　かおり	【第 11 回】 予習　：前回の授業の内容をしっかり復習する 授業　：前回の美容と近代原理の関係について考える 復習　：近代原理に由来する美の価値を毎日の生活の中で意識する
12	石田　かおり	【第 12 回】 予習　：前回の授業の内容をしっかり復習する 授業　：問題解決策としての美的価値観の提案例「スロービューティー」についての説明 復習　：授業で聞いた解決策のほかに解決策がないか考えて、考えた結果だけでなく過程もメモしておく
13	石田　かおり	【第 13 回】 予習　：自分が考えた解決策を披露できるよう準備しておく 授業　：　授業で取り上げた問題のほかにも近代原理に由来する問題がほかにないかグループワークを通じて考える 復習：　授業で聞いた他の人の考えを振り返り、自分の考えを広め深める
14	石田　かおり	【第 14 回】 予習　：前回の内容を復習する 授業　：どんな社会をめざせばよいかグループワークを通じて討論する 復習　：授業で考えた社会が実現するために自分にできることを考えて実行に移す
15	石田　かおり	【第 15 回】 予習　：これまでの授業全体を振り返る 受業　：これまでの授業全体を振り返り、未来を生きるために必要なことと未来の社会のありかたについて全員で話し合って考える 復習　：授業で考えたことを反映してレポートにして提出する

授業開始前学習	①化粧・美容の流行や傾向と、現在進行形で世の中が進んでいるを方向を把握する。 ②①の背にある人々の意識や社会のありように関心を持ち、ニュースを解説した専門家のコメントや書物、新聞など多様な情報源から得た情報を使って自分で考える。
授業内課題のフィードバックの方法	ほとんど毎時間、学生間で、学生と教員間で、討論をしながら授業を進める。それゆえ毎回授業の中でフィードバックが繰り返されることになる。 グループワークを実施する予定であるが、新型コロナウィルス等の感染状況によって変更の可能性がある。
テキスト・教材	なし
参考書	必要がある場合は授業の中で紹介する。
評価の基準と方法	全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を前提に、討論への参加度（発表）50%,レポート 50%。レポート提出は期日厳守で、遅れたらレポート点は 0 点になる。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○			○	◎			

関連科目	人間関係入門Ⅱの石田の講義部分、人間関係ゼミａ（石田ゼミ）
その他	【重要な注意事項】 グループワークが 15 回の過半数を占めるため、欠席するとグループメンバーに迷惑がかかる。それゆえ全回出席の必要がある。 この授業は哲学対話の方法をとり、ほぼ毎時間「発言する」と「考える」のループである。発言しない人は授業に参加していないとみなす。発言しないことは授業進行の妨げになるので、発言を避けたい人には向かない。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	化粧や美容の実態を把握し、その実態の背景を探り、なぜ人々がそうした意識を持つようになったのかを考える際に、社会の基層に存在する思考法や構造原理まで深堀する。そこから解決策を考えて、世の中にまだないような提案をする。これら一連の作業はすべて企業での実務経験を反映している。

科目分類（2025 年～入学者）	HR-M-221	科目分類（～2024 年入学者）	112-330-12	授業コード	FB0220
科目名称	身体文化論Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	Body Culture StudiesⅡ			授業区分	講義
科目責任者	鈴木　由加里			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鈴木　由加里			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	身体は、社会・文化の中で意味づけられている。それ故、身体は自分のものであるにも関わらず、自分以外のものが押しつけてくる意味とともに私たちは生きているということになる。この授業では、「身体」の意味はどのような場で生成されているのか、その仕組みはどのようなものなのか、ということを講義する。具体的には、身体を意味づけている様々な表象文化ー美術作品、宣伝広告、ポップカルチャーの作品などーを分析し、私たちは「身体」とどのように向き合う必要があるのか、ということを学んでいく予定である。なお、この授業では「身体文化」では避けて通れない性的な身体についての表象を扱う予定である。性的な情報については人によって価値観が異なり、文化現象とはいえ観たり聞いたり分析したりすることを望まない人もいると思われる。また、そのような情報・知識に触れることで PTSD、フラッシュバックなどが生じる可能性のある人も想定される。ご自身の価値観、健康を考えて履修をするかどうか検討をして欲しい。				
到達目標	①身体について分析するための概念を理解する。 ②身体に関する文化現象について具体的な知識を得る。 ③正しい概念理解に基づき、具体的な文化現象を分析することができる。 ④①から③を踏まえた独自の考察を口頭及び文章で表現することができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	鈴木　由加里	【第 1 回】 予習:シラバスを読み、授業内容を確認しておく。 授業:身体の意味づけについて考えるために、ドキュメンタリ映像を視聴してコメントを書く。 復習:授業時に視聴したドキュメンタリ作品についてコメントを考える。
2	鈴木　由加里	【第 2 回】 予習:事前にアップロードされているレジュメの内容を確認したあとに DL し、プリントアウトあるいはタブレット PC などで授業時に利用できるようにしておく。 授業:「身体文化論」についての枠組の講義 復習:　各自が記録した授業ノートを確認し、不備を埋めておくこと。
3	鈴木　由加里	【第 3 回】 予習:西洋の歴史について確認しておく。 授業:西洋の美術における女性のイメージについて 復習:各自が記録した授業ノートを確認し、不備を埋めておくこと。
4	鈴木　由加里	【第 4 回】 予習:西洋の美術史について学んだことを整理しておく。 授業:西洋の美術における女性の「裸体画」について 復習:各自が記録した授業ノートを確認し、不備を埋めておくこと。
5	鈴木　由加里	【第 5 回】 予習:自分の生活環境の中にどのようなパブリックアートがあるかを確認する。 授業:パブリックアートにおける女性の「裸体」あるいはイメージについて 復習:自分の生活環境の中にどれほど多くの女性裸体彫刻があるのかを確認する。
6	鈴木　由加里	【第 6 回】 予習:事前にアップロードされているレジュメの内容を確認したあとに DL し、プリントアウトあるいはタブレット PC などで授業時に利用できるようにしておく。 授業:身体をめぐる文化現象を分析するための知識①　フェミニズムとは何か？ 復習:これまでに出題されている課題について確認をしておく。
7	鈴木　由加里	【第 7 回】 予習:事前にアップロードされているレジュメの内容を確認したあとに DL し、プリントアウトあるいはタブレット PC などで授業時に利用できるようにしておく。 授業:身体をめぐる文化現象を分析するための知識②　ジェンダー概念とは何か？ 復習:ジェンダー概念を正しく理解できているか再確認しておく。
8	鈴木　由加里	【第 8 回】 予習:事前にアップロードされているレジュメの内容を確認したあとに DL し、プリントアウトあるいはタブレット PC などで授業時に利用できるようにしておく。 授業:フェミニズムが批判してきた女性のイメージ①性的対象としての女性 復習:授業で説明した内容をまとめておく。

9	鈴木　由加里	【第 9 回】 予習:性別役割分業について調べておく。 授業:フェミニズムが批判してきた女性のイメージ②母性と性別役割分業 復習:母性の意味について再考する。
10	鈴木　由加里	【第 10 回】 予習:事前にアップロードされているレジュメの内容を確認したあとに DL し、プリントアウトあるいはタブレット PC などで授業時に利用できるようにしておく。 授業:現代社会における「女性の身体イメージ」が引き起こす問題について①　女性の身体管理 復習:授業内容のまとめをノートに書いておく。
11	鈴木　由加里	【第 11 回】 予習:女性の身体に関する身近な広告事例を集めておく。 授業:現代社会における「女性の身体イメージ」が引き起こす問題について②　女性の広告メディアの炎上について 復習:授業内容のまとめをノートに書いておく。
12	鈴木　由加里	【第 12 回】 予習:事前にアップロードされているレジュメの内容を確認したあとに DL し、プリントアウトあるいはタブレット PC などで授業時に利用できるようにしておく。 授業:「美しさ」と身体の問題 復習:授業内容のまとめをノートに書いておく。
13	鈴木　由加里	【第 13 回】 予習:事前にアップロードされているレジュメの内容を確認したあとに DL し、プリントアウトあるいはタブレット PC などで授業時に利用できるようにしておく。 授業:　ポルノグラフィーと女性の身体　性的身体再考 復習:　これまでの課題について見直しをして、これまでの課題提出を完了しておく。
14	鈴木　由加里	【第 14 回】 予習:これまでの授業ノートなどをプリントアウトし、内容をよく読んでおく。 授業:身体文化論に関する実践的課題①　これまでの授業内容理解度確認をテスト形式で行う。ノート持ち込み可。ただしプリントアウトした物のみ。 復習:質問事項などを自己採点し理解度をチェックする。
15	鈴木　由加里	【第 15 回】 予習:ノートなどを読み返し、テストで分からなかったところを再確認しておく。 授業:身体文化に関する実践的課題②第十四回の成果を踏まえて、追加講義と課題作成を行う。 復習:全授業をふり返り、未提出の課題がないか確認し不備がないようにしておく。

授業開始前学習	課題提出などで、GWE(Google Workspace for Education)など PC 操作を必要とするシステムを使用予定である。パソコンの基本的な知識（Web の閲覧、メールの送受信、ファイルの種類についての知識など）を学んでおいて欲しい。「クラスプロファイル」で GoogleClassroom への登録などについての情報を公開するので確認すること。
授業内課題のフィードバックの方法	GWE(Google Workspace for Education)Google Classroom で提出された課題については、授業期間終了時までに採点返却予定。
テキスト・教材	GWE(Google Workspace for Education)Google Classroom にて、授業に必要な講義内容のレジュメと資料を PDF 形式ファイルで配付。各資料を DL したものをプリントアウトするか、PC やタブレットなどデジタル機器でノートテイクをするか、各自の学習方法にあわせて使用すること。
参考書	『ヌードと愛国』池川玲子　講談社新書　2014 『禁断の果実　女性の身体と性のタブー』リーヴ ストロームクヴィスト　　相川 千尋 訳　花伝社 2018 『生理用品の社会史』田中ひかる　角川書店　2019 『月経と犯罪』田中ひかる　平凡社　2020
評価の基準と方法	GWE(Google Workspace for Education)GoogleClassroom において、課題を出題。課題を全部提出することが単位取得の前提条件。全て提出した場合のみ、各回の点数と授業内容確認テストの点数を合計し、100 点換算の上成績評価を行う。たとえば、 授業内で行う授業内容確認テストの点数 100 点とレポート課題が 4 回の場合、10 点×４＝40 点となり、合計 140 点中、総合して 85 点（100 点換算にすると 60 点）とれないと単位の認定にいたりません。課題の詳細は授業時に説明します。不備
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○			○	◎			

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	HR-M-221 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	112-330-12 （Ｊ）	授業コード	FB0235
科目名称	化粧文化論			単位数	履修ガイド参照
英文名称	Beauty Culture Studies			授業区分	講義
科目責任者	石田 かおり			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	石田 かおり			開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 木曜日 11:00～14:30 後期 木曜日 11:00～14:30			研究室	10-701
授業概要	人類は原始時代から化粧をし続けている。人はなぜ化粧をするのか。特定の時代や地域の化粧はなぜそのような形になったのか。各化粧の背景にある美意識はどのようにして出来上がったのか。今現在自分が行っている化粧はなぜその形なのか。自分の美意識はどこから来たのか。これらを考えることがこの授業の目的である。 始めに、考える前提になる知識として、特定の時代と地域の化粧を学習する。その後で、なぜそうした美意識が生まれたのか、なぜそうした化粧になったのかを考える課題に取り組む。単純に知識伝授型の授業ではないので、誤解のないよう留意してほしい。 課題は、課題の出た回の授業だけなく、それまでの授業全体を大きな視野でとらえる必要があり、多くが授業や教材やインターネット等を調べるだけで解答の出るものではない。自身のさまざまな知識や能力を駆使して考えを深める性質の課題である。AI が不得手とする問題発見力と考え続ける力を養うことを目的とした課題である。 なお、この科目は、歴史上の時間が前期の「化粧の文化史」に続く通史上の後半部分である。				
到達目標	①化粧の変遷と美意識の変遷について大きな流れを把握する。 ②歴史上の事柄といま自分が生きている社会を関連付けてとらえることで、自分がどのような美意識にとらわれ、どのような化粧行動をしているかを自覚し、問題を発見する。 ③節目節目で課題を出すが、それは教科書やノートを復習すれば答えが見つかる、調べればすぐに答えが見つかるかるようなものは少ない。AI と共存する時代を生き抜くために、AI が不得手とする問題発見力と考え続ける力を養うような課題である。それゆえ、複数回の授業、他の科目、さらには自分で調べて得た情				

アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	石田 かおり	【第 1 回】 予習 ：中学・高校の日本史全体の流れ 授業 ：授業内容についての説明・履修上の諸注意（教科書頁 1～2,17～19,85～87） 復習 ：教科書頁 1～2,17～19,85～87 の再読
2	石田 かおり	【第 2 回】 予習 ：中学・高校の日本史（戦国時代）の確認 授業 ：戦国時代の武士の化粧（教科書頁 55～58,88～89） 復習 ：教科書頁 55～58,88～89 の再読
3	石田 かおり	【第 3 回】 予習 ：中学・高校の日本史（桃山時代～江戸時代初期）の確認 授業 ：桃山時代・江戸時代初期の化粧（教科書頁 19～21,58～59,90～92） 復習 ：教科書頁 19～21,58～59,90～92 の再読
4	石田 かおり	【第 4 回】 予習 ：中学・高校の日本史（江戸時代中期）の確認 授業 ：江戸時代中期の化粧（教科書頁 60～62,93～97） 復習 ：教科書頁 60～62,93～97 の再読
5	石田 かおり	【第 5 回】 予習 ：中学・高校の日本史（江戸時代中期）の確認 授業 ：江戸時代中期の化粧（教科書頁 60～62,93～97） 復習 ：教科書頁 60～62,93～97 の再読
6	石田 かおり	【第 6 回】 予習 ：中学・高校の日本史（江戸時代後期～幕末）の確認 授業 ：江戸時代後期～幕末の化粧（教科書頁 43～45,50～53,98～101） 復習 ：教科書頁 43～45,50～53,98～101 の復習
7	石田 かおり	【第 7 回】 予習 ：中学・高校の日本史（明治維新）の確認 授業 ：明治時代の化粧（教科書頁 62～65,102～109） 復習 ：教科書頁 62～65,102～109 の再読
8	石田 かおり	【第 8 回】 予習 ：中学・高校の日本史（明治時代）の確認 授業 ：明治時代の化粧（教科書頁 102～109） 復習 ：教科書頁 102～109 の再読

9	石田　かおり	【第 9 回】 予習　：中学・高校の日本史（大正時代～太平洋戦争直前）の確認 授業　：大正～昭和初期の化粧（教科書頁 26～28,65～66,110～113） 復習　：教科書頁 26～28,65～66,110～113 の再読
10	石田　かおり	【第 10 回】 予習　：中学・高校の日本史（太平洋戦争）の確認 授業　：太平洋戦争時の化粧（教科書頁 10～15,114～116），外見操作の問題点 復習　：教科書頁 10～15,114～116 の再読,現在の社会での組織による個人の外見への介入例を考える
11	石田　かおり	【第 11 回】 予習　：中学・高校の日本史（1945～60 年）の確認 授業　：戦後復興期と 1950 年代の化粧（教科書頁 117～121） 復習　：教科書頁 117～121 の再読
12	石田　かおり	【第 12 回】 予習　：中学・高校の日本史（1961～72 年）の確認 授業　：1960 年代の化粧（教科書頁 122～123） 復習　：教科書頁 122～123 の再読
13	石田　かおり	【第 13 回】 予習　：中学・高校の日本史（1973～79 年）の確認 授業　：1970 年代の化粧（教科書頁 124～136） 復習　：教科書頁 124～136 の再読
14	石田　かおり	【第 14 回】 予習　：中学・高校の日本史（1980 年以降）の確認 授業　：1980～90 年代と現在までの化粧（教科書頁 127～134） 復習　：教科書頁 127～134 の再読
15	石田　かおり	【第 15 回】 予習　：現代社会での美意識と化粧の意味と、自分自身の美意識と化粧の意味を考える 授業　：化粧の未来と美意識の今後のあるべき姿（教科書頁 69～80,135～139） 復習　：教科書頁 69～80,135～139 の再読,自分の美意識を反省し、今後どのような化粧生活をするか考える

授業開始前学習	中学校程度の歴史（日本と世界）の復習
授業内課題のフィードバックの方法	授業内で出た課題については次回以降の授業の中で解説する。
テキスト・教材	石田かおり『化粧文化論』駒沢女子大学教科書シリーズ
参考書	久下司『化粧』法政大学出版局，廣澤榮『黒髪と化粧の昭和史』岩波書店，資生堂ビューティーサイエンス研究所『化粧心理学』フレグランスジャーナル社，モリス・石田『「裸のサル」は化粧好き』求龍堂
評価の基準と方法	出席回数が全授業回数の 3 分の 2 以上を前提とし、GWE を用いた課題の合計点が 100%である。評価は課題の合計点に基づいて、絶対的相対評価をする。各課題の配点は授業の中で案内する。なお課題は、特別な事情がない限り提出期限を守らない場合は 0 点とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎				○			

関連科目	【重要】人間関係ゼミａ（石田ゼミ）希望者はゼミの内容上前提になる科目で、それゆえ 2 年次に履修しておく必要がある。 ●前期の「化粧の文化史」の続きの内容である。 ●そのほかに内容が密接な科目は、和装の文化論Ⅰ・Ⅱ,服装の美意識Ⅰ・Ⅱ,ビューティービジネス論
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	化粧品企業と美容関係の社団法人の研究開発・広報活動・人材育成などの経験もいかした研究内容を基に授業を実施。

科目分類（2025 年～入学者）	HR-M-131	科目分類（～2024 年入学者）	112-330-12	授業コード	FB0240
科目名称	服装と文化Ⅰ／服装の美意識Ⅰ			単位数	2.0 単位
英文名称	Fashion and Culture／Clothing and Culture Ⅰ／Aesthetic sense of clothing Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	三宅　真未			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三宅　真未			開講時期	2･3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	人々が何を「美しい」と捉えるのかは時代・文化・風習によって様々である。本授業では、主に西洋における古代から 19 世紀までの服飾の変遷を辿りながら、服飾が持つ社会的・文化的な意味を学び、衣服と美意識との関係性を探る。				
到達目標	多角的な視野から服飾の歴史を学び、服飾を学問として深めるための様々な切り口を知ることができる。また古代から 19 世紀までの西洋の服飾の歴史について、各時代の社会構造や文化を踏まえながら時系列的に説明することができるとともに、今日の身近な服飾に関わる事象についても分析する姿勢を身につけることを目標とする。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	三宅　真未	【第 1 回】 予習：「ファッション」とは何か考える 授業：オリエンテーション 復習：　服飾にまつわる展覧会を調べる
2	三宅　真未	【第 2 回】 予習：衣服の起源について考える 授業：衣服の起源 復習：授業内で扱った民族衣装をファッション辞典で引く
3	三宅　真未	【第 3 回】 予習：「オートクチュール」の言葉の意味を調べておく 授業：オートクチュールとは 復習：オートクチュールのコレクションショーを調べる
4	三宅　真未	【第 4 回】 予習：古代オリエント、ギリシャ、ローマの歴史や文化を把握しておく 授業：古代の服飾 復習：各地域の服装の形態・装飾を振り返り、整理する
5	三宅　真未	【第 5 回】 予習：中世ヨーロッパの歴史を把握しておく 授業：中世の服飾 復習：中世ヨーロッパの衣服の形の変遷を振り返る
6	三宅　真未	【第 6 回】 予習：身の回りにあるレースについて注意深く観察する 授業：ヨーロッパの手工レース 復習：　授業内容を踏まえた上でレース装飾について再考する
7	三宅　真未	【第 7 回】 予習：16 世紀のヨーロッパ史（主にスペイン・イギリス・フランス）を概観しておく 授業：　近世ルネサンスの服飾① 復習：文化・思想とファッションの関わりについて再考する
8	三宅　真未	【第 8 回】 予習：エリザベス 1 世の肖像画を調べる、エリザベス 1 世が統治していた時代のイギリス史を把握しておく 授業：近世ルネサンスの服飾② 復習：ルネサンス期に見られる特有の装飾をまとめる
9	三宅　真未	【第 9 回】 予習：17 世紀のヨーロッパ史（主にオランダ・フランス）を概観しておく 授業：17 世紀バロックの服飾 復習：バロック期に見られる特有の服飾や美意識をまとめ、整理する
10	三宅　真未	【第 10 回】 予習：18 世紀のヨーロッパ史（主にフランス）を概観しておく 授業：18 世紀ロココの服飾① 復習：ロココ様式の特徴を振り返り、服飾との関わりについて整理する
11	三宅　真未	【第 11 回】 予習：マリー・アントワネットの肖像画を調べる、マリー・アントワネットにまつわる歴史上の出来事を把握しておく 授業：18 世紀ロココの服飾② 復習：18 世紀フランスの美意識とファッションを整理する

12	三宅　真未	【第 12 回】 予習：世界各地でどのようなファッション誌があるかを調べておく、またそれらの特徴を把握しておく 授業：ファッション誌の起源から現代 復習：ファッション誌の変遷を振り返る、これからの雑誌のあり方について考察する
13	三宅　真未	【第 13 回】 予習：19 世紀前期～中期のヨーロッパ史（主にフランス・イギリス）について概観する 授業：19 世紀前期～中期の服飾 復習：ロマンティック・スタイル、ダンディズムについて整理する
14	三宅　真未	【第 14 回】 予習：19 世紀中期～後期のヨーロッパ史（主にフランス・イギリス）について概観する 授業：19 世紀中期～後期の服飾 復習：19 世紀中期～後期の女性服のシルエットの変遷、補正下着の意味について確認する
15	三宅　真未	【第 15 回】 予習：これまでに配布した資料および授業内容を振り返っておく 授業：前期授業のまとめ 復習：「ファッション」とは何かを再考する

授業開始前学習	授業内容をより理解するため、図書館所蔵の「西洋服飾史」関連図書を読んでおくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	最終レポートまでに全体で 2～3 回程度課題の提出を求める。課題の実施後には講評を行う。
テキスト・教材	資料・プリントなどは、授業の中で適宜配布する。 また授業前にクラスルームであらかじめ資料をアップロードしておく場合もあるため、クラスルームへの登録が必須となる。
参考書	深井晃子監修『カラー版　世界服飾史』（美術出版社） 深井晃子監修『ファッション辞典』（文化出版局）
評価の基準と方法	提出物、授業態度などにより評価する。 最終レポート 60%、平常点（授業態度・課題提出）40%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎		○	

関連科目	
その他	教科書を使用しないため、各回の配布物やパワーポイントが授業の資料となる。そのため毎回、パワーポイントの内容を各自で工夫してノートにまとめることが必要となる。そして課題や最終レポートの作成に役立てるようにすること。 また適宜、発言や簡単なディスカッションの機会を設ける。主体的かつ積極的に服飾事象について考えて欲しい。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	112-330-12	授業コード	FB0250
科目名称	☆服装と文化Ⅱ／服装の美意識Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	Clothing and CultureⅡ／Fashion Literacy Ⅱ			授業区分	講義
科目責任者	三宅 真未			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三宅 真未			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	人々がどのような衣服を必要とするのか（どのような衣服を着たいと思うのか）は時代と共に移り変わっていく。本授業では、主に西洋における 20 世紀初頭から現代までの服装の変遷や各時代に活躍したファッション・デザイナーの功績を辿り、そこに表された意識を学び、衣服と社会構造との関係性について考えを深めていく。				
到達目標	多角的な視野から服飾の歴史を学び、服飾に対する様々な学問的アプローチを知ることができる。そして 20 世紀から現代までの西洋の服飾の歴史について、各時代の社会構造や文化を踏まえながら時系列的に説明することができると同時に、今日の身近な服飾に関わる事象についても分析する姿勢を身につけることを目標とする。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	三宅 真未	【第 1 回】 予習 ：著名なデザイナーやいくつかの（身の回りの）ブランドを調べてみる 授業 ：オリエンテーション 復習 ：「ファッション（fashion）」を辞書で引き、意味を正しく理解する
2	三宅 真未	【第 2 回】 予習 ：衣服を着る上で重要視していることは何かを考える 授業 ：衣服の機能論 復習 ：自分にとって最も重要な衣服の機能とは何かを確認する
3	三宅 真未	【第 3 回】 予習 ：「パリコレ」について調べてみる 授業 ：「パリコレ」の源流 復習 ：「パリコレ」を正しく認識する、近年のファッション業界の動向を確認する
4	三宅 真未	【第 4 回】 予習 ：19 世紀末～1910 年代の欧米の歴史を把握しておく 授業 ：19 世紀末～1910 年代の服飾 復習 ：アール・ヌーヴォー様式と服飾との関わりから当時の服飾流行を整理する
5	三宅 真未	【第 5 回】 予習 ：1914 年～1920 年代の欧米の歴史を把握しておく 授業 ：1914 年～1920 年代の服飾 復習 ：アール・デコ様式と服飾との関わりから当時の服飾流行を整理する
6	三宅 真未	【第 6 回】 予習 ：1930 年代～1945 年の欧米の歴史を把握しておく 授業 ：1930 年代～1945 年の服飾 復習 ：ファッションとアートの接近の意味を確認する
7	三宅 真未	【第 7 回】 予習 ：第一次世界大戦～第二次世界大戦までのアメリカの歴史を把握しておく 授業 ：アメリカン・ファッションの台頭 復習 ：アメリカの服飾産業が興隆する歴史を振り返り、主なデザイナーを確認する
8	三宅 真未	【第 8 回】 予習 ：1945 年～1950 年代の欧米の歴史を把握しておく 授業 ：1945 年～1950 年代の服飾 復習 ：戦後のファッションの特徴、ストリートファッションの背景を振り返る
9	三宅 真未	【第 9 回】 予習 ：ディオールというブランドについて把握しておく 授業 ：クリスチャン・ディオールの功績 復習 ：現代まで受け継がれている創業者の思想や作品について整理する
10	三宅 真未	【第 10 回】 予習 ：1960 年代の欧米の歴史を把握しておく 授業 ：1960 年代の服飾 復習 ：女性の社会進出とファッションの関係性を再確認する
11	三宅 真未	【第 11 回】 予習 ：1970 年代の欧米および日本の歴史を把握しておく 授業 ：1970 年代の服飾 復習 ：オートクチュールからプレタポルテへの移行の流れを再確認する

12	三宅 真未	【第 12 回】 予習 ：1980 年代の欧米および日本の歴史を把握しておく 授業 ：1980 年代の服飾 復習 ：著名な日本人デザイナーの活躍を確認し、現在のブランドの動向についても調べる
13	三宅 真未	【第 13 回】 予習 ：1990 年代～2000 年代の欧米および日本の歴史を把握しておく 授業 ：1990 年代～2000 年代の服飾 復習 ：ファストファッションの利点・問題点を整理し、これからのファストファッションの在り方について考察する
14	三宅 真未	【第 14 回】 予習 ：近年の日本の服飾の動向、流行しているものについて調べる 授業 ：現代のファッション 復習 ：衣服の色と着衣との関係性について再確認する
15	三宅 真未	【第 15 回】 予習 ：これまでに配布した資料および授業内容を振り返っておく 授業 ：後期授業のまとめ 復習 ：「ファッション」の多様性を再考する

授業開始前学習	授業内容をより理解するため、図書館所蔵の「西洋服飾史」関連図書を読んでおくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	最終レポートまでに全体で 2～3 回程度課題の提出を求める。課題の実施後には講評を行う。
テキスト・教材	資料・プリントなどは、授業の中で適宜配布する。 また授業前にクラスルームであらかじめ資料をアップロードしておく場合もあるため、クラスルームへの登録が必須となる。
参考書	深井晃子監修『カラー版　世界服飾史』（美術出版社） 深井晃子監修『ファッション辞典』（文化出版局）
評価の基準と方法	提出物、授業態度などにより評価する。 最終レポート 60%、平常点（授業態度・課題提出）40%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎		○	

関連科目	
その他	教科書を使用しないため、各回の配布物やパワーポイントが授業の資料となる。そのため毎回、パワーポイントの内容を各自で工夫してノートにまとめることが必要となる。そして課題や最終レポートの作成に役立てるようにすること。 また適宜、発言や簡単なディスカッションの機会を設ける。主体的かつ積極的に服飾事象について考えて欲しい。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	HR-M-231 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	112-330-12 （J）	授業コード	FB0260
科目名称	和装の文化Ⅰ			単位数	2.0 単位
英文名称	Kimono Culture Ⅰ／The culture of Japanese clothing Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	石田 かおり			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	石田 かおり			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	前期 木曜日 11:00～14:30 後期 木曜日 11:00～14:30			研究室	10-701
授業概要	非言語コミュニケーションの中の身体によるコミュニケーション科目の 1 つである。 講義形式により和装文化のもっとも基本的な知識を身に着けることで、日本の身体文化の特質を知り、日本の伝統的な身体文化から現代社会を生きるために有効な知を得ることを目的にしている。 後期まで履修し、すべて習得すれば、「きもの文化検定」5 級程度の内容である。				
到達目標	きもの（小袖）についての一通りの知識を身に着ける前半部分で、衣類の 2 大分類,原料,染・織の種類と産地による特色の習得が目標である。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	石田 かおり	【第 1 回】 予習 ：毎日着ている衣類はどのように作られているのか考えたり調べたりする 授業 ：授業の進め方の説明と履修上の注意点 衣類をどうやって入手するか 復習 ：講義内容の復習をし、身の回りの各種の衣類がどのように制作されているか考える
2	石田 かおり	【第 2 回】 予習 ：洋服の原料と作り方を調べる 授業 ：普段着ている洋服の作られ方 復習：授業を思い出しながら女性や男性のテーラードカラーのジャケットを見る
3	石田 かおり	【第 3 回】 予習：自分が毎日送っている生活様式について振り返る 授業：着物のイメージ 生活様式と衣服の関係性 復習 ：自分の生活空間に授業で聞いたものがないか調べる
4	石田 かおり	【第 4 回】 予習 ：着物の原料と作り方を調べる 授業 ：着物はどうやって作られるか 復習：授業で聞いた話を見直して疑問が残っていないか確認する（疑問があれば次回の授業の始めに質問する）
5	石田 かおり	【第 5 回】 予習：着物に使われる糸は何からできているか調べる 授業：絹糸ができるまで 復習：家の中にある絹織物を探して風合いや手触りを確認する
6	石田 かおり	【第 6 回】 予習：さまざまな自分の衣類の産地（国）を調べる 授業：衣服はどこで作られるのか 衣服の 2 大分類（教科書 p.143,146-147） 復習：海外で生産される衣類に問題点がないか調べる
7	石田 かおり	【第 7 回】 予習：日本の昔の衣類にはどのようなものがあったか調べる 授業：日本服飾史 衣偏の漢字を覚えよう 復習：衣編の漢字をさらに探す
8	石田 かおり	【第 8 回】 予習：各種の自分の服の柄はどのように作り出されたか調べる 授業：着物に柄をつけるには 三繍 辻が花（教科書 p.172-177） 復習：自分の持っている衣類や近所に売っている衣類の中に授業で習った技法がないか調べる
9	石田 かおり	【第 9 回】 予習：前回の授業内容を復習する 授業：画期的な柄のつけ方 友禅（教科書 p.148-149） 復習：家にある着物や近所で販売されている着物から友禅を探す
10	石田 かおり	【第 10 回】 予習：友禅染の技法を復習する 授業：三大友禅の特色 型友禅 その他の染の技法 加飾（教科書 p.150-171） 復習：家にある着物や近所で販売されている着物は授業で習った友禅の中のどの種類に当たるのか実物で確認する

11	石田　かおり	【第 11 回】 予習：これまで学修した文様のつけかた以外の文様のつけかたはないか考えたり調べたりする 授業：織の着物（１）紬の技法と二大紬（教科書 p.182-187） 復習：紬の技法を復習し、二大紬それぞれの特徴を覚える
12	石田　かおり	【第 12 回】 予習：前回の授業を復習し、紬の技法をしっかり覚える 授業：織の着物（２）紬のいろいろ　木綿と絣　麻（教科書 p.188-201,284-285） 復習：産地別の紬の特色を復習する　木綿と麻の特色を復習する
13	石田　かおり	【第 13 回】 予習：前回の授業を復習し知識の定着を図る 授業：織の着物（３）麻織物各種と芭蕉布（教科書 p.202-207） 復習：家にある麻の衣類や麻製品を探して手触りや風合いを確認する
14	石田　かおり	【第 14 回】 予習：これまでの授業全体を復習する 授業：学修確認問題 復習：できなかった問題を自分で調べて正解を探す
15	石田　かおり	【第 15 回】 予習：これまでの授業全体を復習する 授業：第 14 回のフィードバック（解説） 復習：できなかった箇所を復習して知識を確実なものにする

授業開始前学習	自宅や実家にある着物の種類と着用場面を調べる。街中の着物着用者や店頭の着物、メディアの中の着物など、着物を見る経験を積む。そのときにどのような場面でどのような特徴の着物を着ているかに注意し、着物の多様性に注目する。
授業内課題のフィードバックの方法	課題を出した次以降の授業の中で解説を加えながら正解を説明し、同時にそれまでの授業の復習をする。
テキスト・教材	『決定版きものに強くなる』世界文化社、2016 年（電子書籍も利用可）
参考書	全日本きもの振興会『きものの基本』ｱｼｪｯﾄ婦人画報社（きもの文化検定 4･5 級公式教本），　河上繁樹･藤井健三『織りと染めの歴史ー日本編』昭和堂，　馬場まみ監修『着物の大研究』PHP 研究所
評価の基準と方法	出席回数が全授業回数の 3 分の 2 以上を前提とし、GWE を用いた課題の合計点が 100%である。評価は課題の合計点に基づいて、絶対的相対評価を実施する。各課題の配点は授業の中で案内する。なお、課題は特別な事情がない限り提出期限を守らないものは 0 点とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎		△	

関連科目	化粧の文化史,化粧文化論,身体文化実習Ⅱ
その他	●ほぼ毎回、初めて聞く専門的な用語が大量に登場するので、脱落しないためには欠席しないことが重要である。 ●この授業はすべて講義である。授業で身につけた知識を実際に使う場面に「身体文化実習Ⅱ」がある。両方履修すると、知識が生きたものになり、科目相互の理解が深まる上に、2 科目を履修することではじめて場面に相応しい着物を自分で選択し、着用し、語れるようになると考えられる。 ●着付の習得を目的に履修する見当違いがたまに見られるが、すべて講義である。着付を習得したい者は「身体文化実習Ⅱ」が毎週着物を着るので最適
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	化粧品企業での社員教育にも応用した内容・構成・方法を取り入れている。また、呉服販売企業が社員教育に採用しているものと同じテキストを授業に使用している。

科目分類（2025 年～入学者）	HR-M-231 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	112-330-12 （Ｊ）	授業コード	FB0270
科目名称	和装の文化Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	Kimono Culture Ⅱ／The culture of Japanese clothing Ⅱ			授業区分	講義
科目責任者	石田 かおり			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	石田 かおり			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	前期 木曜日 11:00～14:30 後期 木曜日 11:00～14:30			研究室	10-701
授業概要	非言語コミュニケーションの中の身体によるコミュニケーション科目の 1 つである。 講義形式により和装文化のもっとも基本的な知識を身に着けることで、日本の身体文化の特質を知り、日本の伝統的な身体文化から現代社会を生きるために有効な知を得ることを目的にしている。 後期まで履修し、すべて習得すれば、「きもの文化検定」5 級程度の内容である。				
到達目標	前半は、帯、草履などの和装の履物、バッグなどの和装の持ち物等の基礎知識を身につけることが目標である。 後半は、前期を含めたこれまでの学修内容を総動員して、場面に応じた選択ができることと、見かけたものが何であるか判別できることが目標である。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	石田 かおり	【第 1 回】 予習 ：着物にはどんな文様があるか調べてみる 授業 ：授業の進め方説明 着物の文様（教科書 p.56-65） 復習 ：家にある着物や街で見かけた着物、インターネットで見た着物の文様が何か調べて授業の定着を図る
2	石田 かおり	【第 2 回】 予習 ：日本の伝統色名を調べる 授業 ：着物の色と日本の伝統色名（教科書 p.208-209） 復習 ：家にある着物や街で見かけた着物、インターネットで見た着物の色名が何か調べて授業の定着を図る
3	石田 かおり	【第 3 回】 予習 ：浴衣の帯のほかにどんな帯があるか調べる 授業 ：帯の種類（教科書 p.210-225） 復習 ：家にある帯や街で見かけた帯、インターネットで見た帯の種類や格が何か調べて授業の定着を図る
4	石田 かおり	【第 4 回】 予習 ：前回の授業内容を復習して帯の分類をしっかり身に着ける 授業 ：帯の仕立てによる種類（教科書 p.32-41） 復習 ：第 3 回の帯の種類と今回の授業の内容を組み合わせて帯を総合的にとらえるようにする
5	石田 かおり	【第 5 回】 予習 ：前期に履修した染の着物と織の着物の内容を復習し、着物を見たらわかるようにする 授業 ：着物の種類と格（教科書 p.18-29） 復習 ：家にある着物や街で見かけた着物、インターネットで見た着物が何で、どんな織や染で、どんな場面にふさわしいかわかるように訓練する
6	石田 かおり	【第 6 回】 予習： 織や染で、どんな場面にふさわしいかわかるように訓練する 授業 ：紋と格（教科書 p.30-31） 長襦袢・半衿・伊達衿（教科書 p.240-241,228-229） 復習 ：自分の家や両親の家系の紋を調べて名称や由来を知る
7	石田 かおり	【第 7 回】 予習 ：着物や帯の装飾品にはどのようなものがあるか調べる 授業 ：帯揚げ・帯締め・帯板・帯留めとジュエリー・バッグ・履物（教科書 p.230-237） 復習 ：授業で学んだことを確認する
8	石田 かおり	【第 8 回】 予習：着物の上に着るものに何があるか調べる，伝統的な傘を調べる 授業：羽織・コート，雨雪の装い（教科書 p.54-55） 予習：街やメディアの中で見かける女性の着物の上に着用しているものや傘がわかるくらい授業内容を復習する
9	石田 かおり	【第 9 回】 予習：洋服の場合にどのような季節に応じた着分けがあるか調べる 授業 ：季節に応じた着分け（教科書 p.42-53） 復習 ：街やメディアの中で見かける男女の着物は季節による着分けをしているか、しているとすればどのような生地か、わかるくらい復習する
10	石田 かおり	【第 10 回】 予習 ： 街やメディアの中で見かける着物の人の着物の種類、生地の種類、帯の種類、季節を当てる練習をする 授業 ：ＴＰＯに応じた組み合わせ（教科書 p.67-111,286-287） 復習 ：街やメディアの中で見かける着物の人の着物の種類、生地の種類、帯の種類、季節を当てることを繰り返して、これまでの授業内容を総合的に活用できる訓練をする

11	石田　かおり	【第 11 回】 予習　：街やメディアの中で見かける着物の人の着物の種類、生地の種類、帯の種類、季節を当てる練習をする 授業　：足袋・その他の下着・肌着・着付け紐（教科書 p.238-239,248-249） 復習　：授業で学んだことを家にあるもので確認する
12	石田　かおり	【第 12 回】 予習：家にある着物を拡げてどのような構造か確認する 授業：着物の構造（教科書 p.226,246-247）　下ごしらえ（教科書 p.248-255） 復習：授業内容を家にある着物を使って確認する、特に各部の名称を実物で確認し、その後本だたみを実践して片付ける
13	石田　かおり	【第 13 回】 予習　：街やメディアの中で見かける男性の着物と子どもの着物を観察し、それぞれ女性との違い、大人との違いに着目する 授業　：子どもの着物（教科書 p.84-89）　男性の着物（教科書 p.112-117） 復習　：街やメディアの中で見かける男性や子どもの着物から授業で学んだことを確認する
14	石田　かおり	【第 14 回】 予習　：前期も含めてこれまでの授業全体を復習し、着物の基礎知識を確実なものにしておく 授業　：学修内容の確認問題と「きもの文化検定」模擬問題 復習　：前期も含めてこれまでの授業全体を復習し、着物の基礎知識を確実なものにしておく
15	石田　かおり	【第 15 回】 予習　：前期も含めてこれまでの授業全体を復習し、着物の基礎知識を確実なものにしておく 授業　：前回のフィードバック（解説）　たたみ方・後始末と保管（教科書 p.276-283） 復習　：できなかった箇所を復習して知識を定着させる、本だたみができるよう繰り返し練習する

授業開始前学習	後期は前期の内容を習得していることが前提のため、和装の文化Ⅰの単位取得が履修登録の前提条件である「段階の科目」である。 前期の授業内容をしっかり復習する必要がある。とくに授業内で実施した課題のできなかった点をよく復習することが肝要である。
授業内課題のフィードバックの方法	課題提出期限後の授業の中で解説を加えながら正解を説明し、復習をする。
テキスト・教材	『決定版きものに強くなる』,世界文化社,2016 年（前期と同じ教科書）
参考書	全日本きもの振興会『きものの基本』ｱｼｪｯﾄ婦人画報社（きもの文化検定 4・5 級公式教本），　河上繁樹・藤井健三『織りと染めの歴史ー日本編』昭和堂，　馬場まみ監修『着物の大研究』ＰＨＰ研究所
評価の基準と方法	出席回数が全授業回数の 3 分の 2 以上を前提とし、GWE を用いた課題の合計点が 100%である。評価は課題の合計点に基づいて、絶対的相対評価を実施する。各課題の配点は授業の中で案内する。なお、課題は特別な事情がない限り提出期限を守らないものは 0 点とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎		△	

関連科目	身体文化実習Ⅱがとくに密接な内容である。 さらに、身体文化論Ⅱ,化粧の文化史,化粧文化論も関連がある。
その他	●前期の内容を習得していることが前提であるため、前期の単位取得者だけが履修できる「段階の科目」である。それゆえ履修登録は前期の成績が発表されてからでないとできない。 ●授業内容の確実な定着を図るために、授業終了後に次年度の「きもの文化検定」5 級の受験を推奨する（授業での申込はしない）。 ●前期と同様、初めて聞く用語がたくさん登場するので、脱落しないために欠席しないよう注意する。 ●すべて講義形式で実施する。着物を着る実習を希望する者は「身体文化実習Ⅱ」が毎週着物を着るので、適した科目である。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	化粧品企業での社員教育にも応用した内容・構成・方法を取り入れている。また、呉服販売企業が社員教育に採用しているものと同じテキストを授業に使用している。

科目分類（2025 年～入学者）	HR-M-121	科目分類（～2024 年入学者）	112-330-12	授業コード	FB0280
科目名称	☆流行論			単位数	2.0 単位
英文名称	Trend theory			授業区分	講義
科目責任者	榎本　環			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	榎本　環			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	前期　月曜日 13:00～14:30　火曜日 10:40～12:10 後期　月曜日 13:00～14:30　火曜日 10:40～12:10			研究室	10-716
授業概要	流行は、たんに服飾品・グッズなどのモノや、ブーム、トレンドのみにとどまらず、人びとの行動様式や考え方、嗜好などをも含む幅広い社会現象です。流行はまた、私たちのライフスタイルやアイデンティティ、コミュニケーション行動とも密接なつながりをもっています。その流行現象を、社会学的にはどのように解読できるでしょうか。本講では人びとの日常生活のなかにあふれる流行現象を社会学的観点から考察するとともに、流行をトピックとして、社会のなりたちを理論的に捉え返す思考力を習得してもらうことを目標とします。（個別具体的な流行アイテム（何が流行っているか）についての紹介・研究ではありません。授業の詳細については以下の各項目を熟読してください。）				
到達目標	次の 2 点を目標とします。 1. 流行現象のメカニズムについて理解する 2. 社会現象を理論的に解釈する思考力を身につける				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	榎本　環	【第 1 回】 予習　：シラバスを熟読し、質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業　：ガイダンスとイントロダクション、流行への関心とイメージ 復習　：Classroom にアクセスし、コンテンツや操作方法について確認してください。
2	榎本　環	【第 2 回】 予習　：第 1 回の配布資料を再読し、授業運営についての質問があればまとめてください。 授業　：ファッションをめぐる神話 復習　：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。
3	榎本　環	【第 3 回】 予習　：「ファッション」の語義を調べてください。 授業　：ファッション、トレンド、消費行動　――ファッションの社会的機能（ディスカッション） 復習　：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。
4	榎本　環	【第 4 回】 予習　：「快楽消費」について調べてください。 授業　：＜快楽消費＞する社会 復習　：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。
5	榎本　環	【第 5 回】 予習　：「準拠集団」（社会学用語）について調べてください。 授業　：流行品の意味と機能 復習　：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。
6	榎本　環	【第 6 回】 予習　：前回のレジュメ類、ノート・メモ等を再読してください。 授業　：流行の成立とその特質　1 ――発生と消滅 復習　：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。
7	榎本　環	【第 7 回】 予習　：「ファッド」（社会学用語）について調べてください。 授業　：流行の成立とその特質　2 ――ファッド・サイクル 復習　：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。
8	榎本　環	【第 8 回】 予習　：「集合行動」（社会学用語）について調べてください。 授業　：流行現象と集合行動（グループワーク） 復習　：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。
9	榎本　環	【第 9 回】 予習　：「社会的資源」（社会学用語）について調べてください。 授業　：流行現象とモード　――パターン・機能・意味（課題解決型学習） 復習　：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。
10	榎本　環	【第 10 回】 予習　：H.ブルーマーの「シンボリック相互作用論」（社会学用語）について調べてください。 授業　：モードの集合的操作　1 ――シンボリック相互作用 復習　：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。

11	榎本　環	【第 11 回】 予習　：前回のレジュメ類、ノート・メモ等を再読してください。 授業　：モードの集合的操作 2 ――文化的コード 復習　：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。
12	榎本　環	【第 12 回】 予習　：「構築主義」（社会学用語）について調べてください。 授業　：モード操作とアイデンティティ ――衣服と身体（グループワーク） 復習　：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。
13	榎本　環	【第 13 回】 予習　：「業界団体」についてリサーチしてください。 授業　：流行現象と社会変動 ――モードの社会的構築（課題解決型学習） 復習　：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。
14	榎本　環	【第 14 回】 予習　：「マーケティング」についてリサーチしてください。 授業　：広告とマーケティング 復習　：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。
15	榎本　環	【第 15 回】 予習　：イタリアを代表するファッション・ブランドについてリサーチしてください。 授業　：流行現象と産業システム（ディスカッション） 復習　：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。

授業開始前学習	とくに事前学習の必要はありません。「社会学Ⅰ Ⅱ」と併せて受講すると、授業内容がより理解しやすくなると思います。
授業内課題のフィードバックの方法	Classroom へのコメント・質問等の投稿内容に対しては、次回の授業冒頭でリプライと補足説明を行います。課題提出を求める場合は次回に全体の講評を行い、個別の質問に回答します。
テキスト・教材	とくに指定しません。毎回、レジュメを配布する予定です。
参考書	土屋淳二、2009、『モードの社会学　上・下』（学文社） その他、授業内で随時、指示します。
評価の基準と方法	平常点（受講取組みの積極性）（60 %）、期末筆記試験（40 %）により評価します。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○		

関連科目	本講は、「ファッションと文化／服装と文化Ⅰ Ⅱ」「セルフプロデュース」などで取り上げられる内容に対して、それらを流行現象のメカニズムという理論的視点から補足する位置づけとしても受講可能です。
その他	双方向型の授業運営を基本形式とします。社会現象を理論的に考えることの知的面白さを伝えたいと思っています。できる限り、身の回りの具体例を示しながら、わかりやすい説明を心がけるつもりです。授業内容への質問やコメントなど積極的な参加取組みを期待します。他学科／他学類・他専攻の学生の履修も歓迎します。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	HR-M-331 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	112-330-13 （Ｊ）	授業コード	FB0290
科目名称	ﾋﾞｭｰﾃｨｰﾋﾞｼﾞﾈｽ			単位数	2.0 単位
英文名称	Beauty Business			授業区分	講義
科目責任者	鈴木 節子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鈴木 節子			開講時期	3･4 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	ビューティビジネスは、世相（社会・経済・消費動向・価値観の変化等多岐にわたる時代背景）を色濃く反映しながら発展し続ける成長ビジネスである。時代の美を軸とした広義のビューティビジネスを概説するとともに、日常生活や非日常の場面でも不可欠な化粧・ヘアメイク/ファッションなどの知識を深め、幅広い豊かな創造性と時代にあった美の感性について学ぶ。				
到達目標	日常生活にも関連する広義におけるビューティビジネスへの関心を深め、時代にあった多様な美の価値観を探求し、個の感性で美を理解し表現する事を目指す				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	鈴木 節子	【第 1 回】 予習 ：日常生活の中の美について、また時代の美について考える 授業 ：オリエンテーション・授業の流れ ビューティーの仕事について 人の顔立ちのタイプ・イメージについて 復習 ： 自分の顔立ちのタイプと、自分の好きなメイクイメージについて確認する
2	鈴木 節子	【第 2 回】 予習 ：ビューティーのトレンドについて考える 授業 ：ビューティトレンドとは トレンドの生まれるしくみ ファッションショーにおけるビューティー表現 復習 ：自身のビューティー情報収集源(メディア媒体・SNS など)を確認する
3	鈴木 節子	【第 3 回】 予習 ：自分自身の化粧について考える 授業 ：街頭傾向で見えてくるビューティートレンド(媒体と街中トレンドの関連) 日本と海外の街頭化粧傾向の相違点と類似点 復習 ：街中での身近なビューティートレンドを確認する
4	鈴木 節子	【第 4 回】 予習 ：自分自身の化粧アイテムへのこだわりを確認する 授業 ：化粧品の現トレンドを知って次のニッチを狙う商品開発について(技術展示)(プレゼンテーション) 復習 ：自分自身の化粧品購入動機・心理を考える
5	鈴木 節子	【第 5 回】 予習 ：1950 年代の時代背景・ファッション・ヘアメイク傾向を調べまとめて確認する 授業 ：時代の空気(ムード)と化粧の関係 1950 年代戦後復興期の美 (課題・プレゼンテーション) (化粧の変遷(トレンド)を知り 過去から未来を考察する) 復習 ：1950 年代をまとめ授業内容を復習する
6	鈴木 節子	【第 6 回】 予習 ：1960 年代の時代背景・ファッション・ヘアメイク傾向を調べまとめて確認する 授業 ：時代の空気(ムード)と化粧の関係 1960 年代 高度経済成長期の美(課題・プレゼンテーション) 復習 ：1960 年代をまとめ授業内容を復習する
7	鈴木 節子	【第 7 回】 予習 ：1970 年代の時代背景・ファッション・ヘアメイク傾向を調べまとめて確認する 授業 ：時代の空気(ムード)と化粧の関係 1970 年代 美的価値観の変化の時代から学ぶ(課題・プレゼンテーション) 復習 ：1970 年代をまとめ授業内容を復習する
8	鈴木 節子	【第 8 回】 予習 ：1980 年代からのバブル期の時代背景・ファッション・ヘアメイク傾向を調べまとめて確認する 授業 ：時代の空気(ムード)と化粧の関係 1980 年代～1990 年代初期/バブル期の美の表現に見るマインド(課題・プレゼンテーション) 復習 ：1980 年代からのバブル期をまとめ授業内容を復習する
9	鈴木 節子	【第 9 回】 予習 ：1990 年代(バブル崩壊後)の時代背景・ファッション・ヘアメイク傾向を調べまとめて確認する 授業 ：時代の空気(ムード)と化粧の関係 1990 年代バブル崩壊後 平成不況時代の美の表現に見るマインド(課題・プレゼンテーション) 復習 ：1990 年代バブル崩壊後をまとめ授業内容を復習する

10	鈴木　節子	【第 10 回】 予習　：2000 年代の時代背景・ファッション・ヘアメイク傾向を調べまとめて確認する 授業　：時代の空気(ムード)と化粧の関係 2000 年代の化粧のトレンド　ミレニアル以降の流れを見る(課題・プレゼンテーション) 復習　：2000 年代をまとめ授業内容を復習する
11	鈴木　節子	【第 11 回】 予習　：2010 年代(大震災前後の変化含)の時代背景・ファッション・ヘアメイク傾向を調べまとめて確認する 授業　：時代のムードと化粧の関係 2010 年代の化粧のトレンド　東日本大震災は化粧傾向にどう影響したのか(課題・プレゼンテーション) 復習　：2010 年代をまとめ授業内容を復習する
12	鈴木　節子	【第 12 回】 予習　：2020 年代現在の時代背景・ファッション・ヘアメイク傾向を調べまとめて確認する 授業　：時代の空気(ムード)と化粧の関係　2020 年代の化粧のトレンドを分析してみる 過去から未来を予測(課題・プレゼンテーション)　メイクのゴールデンバランスとは 復習　：2020 年代現在までの流れを確認し、なぜ化粧は時代を反映するのか考察しまとめる
13	鈴木　節子	【第 13 回】 予習　：ビューティの広告表現に目を向け国内外メイクブランドのイメージを調べ確認してみる 授業　：各メイクブランドの広告・PR におけるイメージ表現を考察する (好きなブランドになぜ心惹かれるのか、イメージワードの表現・語彙力を高める)　バランシングメイクとは 【自分自身の化粧ブランドを企画・立案してみる(年度期末提出必須課題)】 復習　：授業内容の復習
14	鈴木　節子	【第 14 回】 予習　：自分自身のライフスタイル化粧動向を振り返る 授業　：毎日の化粧の意味　美意識を高め感性を磨く　ヘアメイク表現のアイデア 復習　：現代のライフスタイルとビューティについて　これからの時代にあった美の表現とは何かをまとめる
15	鈴木　節子	【第 15 回】 予習　：ビューティビジネスの今後を考える 授業　：ライフスタイル/環境変化にともなうビューティビジネスの未来 復習　：授業内容を整理する

授業開始前学習	
授業内課題のフィードバックの方法	授業中にそれぞれの課題について説明し、様々な考えの情報共有を実施しながら、授業内で講評の機会を設ける
テキスト・教材	特になし。必要に応じて授業中に紹介する
参考書	特になし。必要に応じて授業中に紹介する
評価の基準と方法	授業の取組み姿勢 及び 授業毎アンケート回答/課題提出（55%)、年度学期末提出必須課題（45%）をもとに評価する
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎		○	

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	化粧品メーカー「株式会社　資生堂」でのヘアメイクアップアーティストとしての現場経験(パリコレなどのファッションショー・広告撮影などでのヘアメイク、化粧品開発及び情報研究開発・ビューティートレンド研究・マーケティング・ヘアメイク技術教育など)をもとに構成され、実社会での実務と授業内容が関連し合っている

科目分類（2025 年～入学者）	HR-M-321	科目分類（～2024 年入学者）	112-330-12	授業コード	FB0300
科目名称	☆恋愛の心理学			単位数	2.0 単位
英文名称	Psychology of Love			授業区分	講義
科目責任者	倉住　友恵			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	倉住　友恵			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	前期　月曜日 10:40～12:10　金曜日 16:20～17:50 後期　月曜日 10:40～12:10　金曜日 16:20～17:50			研究室	10-618
授業概要	恋愛は憧れの対象にもなりうるものである。しかし、その過程では幸福とは言えない感情や望んでいなかった危機を経験し、場合によっては関係崩壊を迎える。本授業では、恋愛に関する実態調査や心理学研究を学ぶことで、恋愛に関する包括的な理解を深めていく。また、恋愛を通して自己や人間の真理についての考察を促し、今後豊かな人生を築いていくためのヒントの獲得を目指す。				
到達目標	到達目標は以下の通りである。 1.「恋愛」とは何かについて自分なりの答えを見出す 2. 他者に魅力を感じる諸要因について説明できる 3. 恋愛の進展過程で生起する事象や問題を理解し、多様な対処方法を考えられる 4. 恋愛に関連する心理学的概念や心理学による実験研究の結果を説明できる				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	倉住　友恵	予習　：「自分にとって恋愛とは何か？」について考える 授業　：オリエンテーション、恋愛とは、多様な性 復習　：シラバスを再度読み確認する
2	倉住　友恵	予習　：人が他者に好意をもつのはどのような契機からか考える 授業　：人はなぜ恋するのか、自己拡張理論、対人魅力 復習　：本日学んだ授業を振り返り、ノートにまとめる
3	倉住　友恵	予習　：「自己呈示」とは何かについて調べる 授業　：好意の形成要因、自己呈示、単純接触効果、誤帰属 復習　：本日学んだ授業を振り返り、ノートにまとめる
4	倉住　友恵	予習　：人と人とが仲良くなるのはなぜか考える 授業　：恋愛の進展プロセス、自己開示 復習　：本日学んだ授業を振り返り、ノートにまとめる
5	倉住　友恵	予習　：恋愛に関する物語にはどのようなものがあるか考える 授業　：恋愛の色彩理論、愛情の三角理論 復習　：本日学んだ授業を振り返り、ノートにまとめる
6	倉住　友恵	予習　：どのような関係だと恋愛関係は長続きするか考える 授業　：告白と恋愛関係の継続、相手に尽くすことと衡平理論 復習　：本日学んだ授業を振り返り、ノートにまとめる
7	倉住　友恵	予習　：恋人同士が別れる原因にはどのようなものがあるか考える 授業　：恋人間の不和（認知的不協和理論、バランス理論）、恋愛関係の崩壊 復習　：本日学んだ授業を振り返り、ノートにまとめる
8	倉住　友恵	予習　：失恋によって人はどのように変化するか考える 授業　：失恋がもたらす感情と行動、喪失体験 復習　：本日学んだ授業を振り返り、ノートにまとめる
9	倉住　友恵	予習　：「アイデンティティ」とは何か調べておく 授業　：青年心理学から見た恋愛、恋愛と自我形成、親子関係と恋愛 復習　：本日学んだ授業を振り返り、ノートにまとめる
10	倉住　友恵	予習　：「性と恋愛」の関係性について自分の意見を考える 授業　：性と恋愛の原理、性的合意 復習　：本日学んだ授業を振り返り、ノートにまとめる
11	倉住　友恵	予習　：なぜ人は浮気するのか，浮気するのはどのような人なのか考えておく 授業　：浮気に関する心理学的研究 復習　：本日学んだ授業を振り返り、ノートにまとめる
12	倉住　友恵	予習　：「デート DV」とは何か調べておく 授業　：デート DV、恋愛依存（ディスカッション） 復習　：本日学んだ授業を振り返り、ノートにまとめる

13	倉住　友恵	予習　：LGBTQ+の定義について調べる 授業　：同性愛と異性愛の差異、同性愛者のアイデンティティ確立（ディスカッション） 復習　：本日学んだ授業を振り返り、ノートにまとめる
14	倉住　友恵	予習　：恋愛しない若者が増えているのはなぜか考える 授業　：恋愛しないこととその心理 復習　：本日学んだ授業を振り返り、ノートにまとめる
15	倉住　友恵	予習　：授業を振り返り、疑問や不明瞭な点などを書き出す 授業　：改めて恋愛とは何か考える、総括、質疑応答 復習　：これまでの授業内容を復習し、「自分にとっての恋愛とは？」について再度考える

授業開始前学習	心理学関連の科目を履修していると理解しやすい。恋愛に関係する書物を読むと授業理解の助けとなるであろう。
授業内課題のフィードバックの方法	リアクションペーパーやアンケートへの回答を求めた際には、その週または翌週にフィードバックや講評をする。
テキスト・教材	特に指定しない。
参考書	授業内に適宜紹介する。
評価の基準と方法	授業態度および授業内課題（50%）、学期末試験（50%）で評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	△	○		◎			

関連科目	家族関係の心理学、心理学関連科目
その他	恋愛に関して理解を深めるために他者との意見交換を行う場合がある。そのため授業に積極的、主体的に参加することを望む。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	HR-M-221 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	112-330-12 （J）	授業コード	FB0310
科目名称	家族関係の心理学			単位数	2.0 単位
英文名称	The Psychology of Family Relationships			授業区分	講義
科目責任者	小菅 清香			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小菅 清香			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	前期 水曜日 14:40～16:10 金曜日 14:40～16:10 後期 水曜日 14:40～17:50			研究室	10-503
授業概要	ライフコースとは「人生行路」を意味し、個々の人生は「進学」「就職」「結婚」「出産」「介護」等の出来事やそこでの選択を経て様々に枝分かれしていく。その過程は、家族等の本人を取り巻く社会と個人が付き合いながら、生涯にわたり獲得と喪失を繰り返すという発達の過程といえる。本科目では、生涯発達に関する心理学の基礎的な知識をふまえ、ライフコース上の課題や起こりやすい心の問題とその対処法について学ぶ。ひいては得た知識を自身や他者への働きかけに活かせるようにすることを目的とする。 受講生同士の感想共有や人生ゲームの作成・実施の機会を設けることで、家族関係を含めた人の一生の多様性および過去・現在・未来の連続性を、主体的に理解できるように工夫する。				
到達目標	①ライフコース上の課題や起こりやすい心の問題を理解し説明できる ②家族等の本人を取り巻く社会の影響力を理解し説明できる ③人生の多様性と連続性について理解し、自己や他者に対して生涯発達心理学に基づく支援方法を立案できる				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	小菅 清香	予習 ：シラバスを読み、自身の人生で起こりうるライフイベントの具体例を挙げる 授業 ：イントロダクション、関連科目と本科目の位置づけ、ライフコースとライフサイクル 復習 ：授業を振り返り、課題に取り組む
2	小菅 清香	予習 ：これまでに起きた／これから起こりそうな自身の変化について具体例を挙げる 授業 ：支援のための生涯発達心理学 復習 ：授業を振り返り、課題に取り組む
3	小菅 清香	予習 ：自身の葛藤経験について事例を挙げる 授業 ：発達における葛藤の役割 復習 ：授業を振り返り、課題に取り組む
4	小菅 清香	予習 ：自身の思春期について振り返り、自身と周囲とでやりとりした事例を挙げる 授業 ：思春期の発達と問題行動および支援 復習 ：授業を振り返り、課題に取り組む
5	小菅 清香	予習 ：非行について見聞きしたことを挙げてみる 授業 ：非行からの立ち直りとその支援 復習 ：授業を振り返り、課題に取り組む
6	小菅 清香	予習 ：自身の進路や将来設計について考える 授業 ：大学生の進路未決定と支援 復習 ：授業を振り返り、課題に取り組む
7	小菅 清香	予習 ：発達障害について見聞きしたことを挙げてみる 授業 ：発達障害がある若者の支援 復習 ：授業を振り返り、課題に取り組む
8	小菅 清香	予習 ：結婚・出産・育児について見聞きしたことを挙げてみる 授業 ：結婚・出産・育児期の夫婦関係と支援、ジェンダーロール、多様な家族の在り方 復習 ：授業を振り返り、課題に取り組む
9	小菅 清香	予習 ：ワークライフバランスについて見聞きしたことを挙げてみる 授業 ：ワークライフバランスとその支援、ジェンダーロール、多様な家族の在り方 復習 ：授業を振り返り、課題に取り組む
10	小菅 清香	予習 ：中途障害について見聞きしたことを挙げてみる 授業 ：中途障害をえた若者とその家族の人生構築と支援 復習 ：授業を振り返り、課題に取り組む
11	小菅 清香	予習 ：高齢者の介護について見聞きしたことを挙げてみる 授業 ：認知症をかかえる高齢者と支援 復習 ：授業を振り返り、課題に取り組む
12	小菅 清香	予習 ：震災時に起こりうる事態について考える 授業 ：震災後のメンタルヘルスと支援 復習 ：授業を振り返り、課題に取り組む

13	小菅　清香	予習　：これまでの授業内容を振り返り、自身のライフコースでどのようなことが起こりうるかを考える 授業　：試験、オリジナル人生ゲームの作成 1 復習　：オリジナル人生ゲームの作成に取り組む
14	小菅　清香	予習　：オリジナル人生ゲームの完成に向けて必要な作業を考える 授業　：オリジナル人生ゲームの作成 2 復習　：オリジナル人生ゲームを完成させる
15	小菅　清香	予習　：自身のライフコースについて考え、その実現に向けて必要な行動を挙げる 授業　：オリジナル人生ゲームの体験と共有（グループワーク） 復習　：オリジナル人生ゲームの結果と感想をレポートにまとめる

授業開始前学習	「職業選択論」「恋愛の心理学」の履修が本授業の理解の一助となる。
授業内課題のフィードバックの方法	授業毎に課題やコメント（質問・感想）の提出機会を設ける。提出された内容は、翌週の授業冒頭で匿名にて受講者全体にフィードバックする。
テキスト・教材	白井利明編著『生涯発達の理論と支援（シリーズ支援のための発達心理学）』（金子書房） 中釜　洋子ほか著『家族心理学　第 2 版』(有斐閣ブックス)
参考書	講義内で適宜紹介する。
評価の基準と方法	受講毎の課題提出（50%）、試験（20%）、オリジナル人生ゲームおよびレポートの提出（30%）により総合的に評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	△	○		◎			○

関連科目	恋愛の心理学、家族心理学、職業選択論、心理学の諸科目
その他	授業内に実施するワーク（個人・ペア・グループ）への積極的な参加を求める。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	独立行政法人 労働政策研究・研修機構（当時：キャリア支援部門）、国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター（当時：災害時こころの情報支援センター）および厚生労働省委託事業 DPAT 事務局での実務経験がある。これらの経験をふまえて、適宜事例などを紹介しながら講義を行う。

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	112-330-12	授業コード	FB0320
科目名称	自己分析の心理学			単位数	2.0 単位
英文名称	Psychology of Self			授業区分	講義
科目責任者	田代　琴美			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田代　琴美			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	自己分析とは、就職活動を円滑に進めるために行うものというイメージを抱いている人が多いと思われる。しかし、自己分析を通して自己を理解するということは、就職活動だけに留まらず、過去から現在を見つめ直すことによって自己を受容し、未来をより良く生きていくための助けになるのである。本授業では、多角的な視点から自己を見つめ直す時間を取り、ワークシートやグループワーク（ペアワーク）を通して、自己について客観的に捉え、理解を深めていくことを目的とする。				
到達目標	授業を通して、以下の到達目標を目指す。 ①自己にまつわる概念について理解し、説明できるようになる ②様々な角度から現在の自分を形成するものを理解する ③自己理解を深めることによって、将来の自分についても考えていく				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	田代　琴美	【第 1 回】 予習：シラバスを読んでおく 授業：オリエンテーション 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる
2	田代　琴美	【第 2 回】 予習：自己概念について調べる 授業：自己分析を行う理由・自己概念：セルフイメージについて考えよう(グループワーク) 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる
3	田代　琴美	【第 3 回】 予習：記憶について調べる 授業：記憶：セルフイメージが形成された記憶を探ろう(グループワーク) 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる
4	田代　琴美	【第 4 回】 予習：自己開示・自己呈示について調べる 授業：自己開示・自己呈示：他者に見せる姿はそれぞれ異なる！？ 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる
5	田代　琴美	【第 5 回】 予習：自己効力感について調べる 授業：自己効力感：自分に自信があるってどういうこと？(グループワーク) 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる
6	田代　琴美	【第 6 回】 予習：認知について調べる 授業：認知：自分のものの見方の特徴を知ろう(グループワーク) 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる
7	田代　琴美	【第 7 回】 予習：道徳性について調べる 授業：道徳性：あなたは善人？悪人？(グループワーク) 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる
8	田代　琴美	【第 8 回】 予習：知能について調べる 授業：知能：あなたの知的な側面は？ 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる
9	田代　琴美	【第 9 回】 予習：感情について調べる 授業：感情：あなたの感情はどう動く？ 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる
10	田代　琴美	【第 10 回】 予習：ストレスについて調べる 授業：ストレス：どんなことにストレスを感じる？ 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる

11	田代　琴美	【第 11 回】 予習：ソーシャルサポートについて調べる 授業：ソーシャルサポート：困った時はどうする？ 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる
12	田代　琴美	【第 12 回】 予習：社会的スキルについて調べる 授業：社会的スキル：あなたのコミュ力はどれくらい？(グループワーク) 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる
13	田代　琴美	【第 13 回】 予習：親子関係について考える 授業：親子関係：親との関係性はどうだろう？ 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる
14	田代　琴美	【第 14 回】 予習：キャリアについて調べる 授業：キャリア：あなたにとって仕事って何だろう？ 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる
15	田代　琴美	【第 15 回】 予習：今までの授業内容についてまとめる 授業：総括 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる

授業開始前学習	
授業内課題のフィードバックの方法	ワークシートやリアクションペーパーの提出を求めた際には次回の授業内でフィードバックまたは全体講評を行う。
テキスト・教材	教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。
参考書	必要に応じて授業中に紹介する。
評価の基準と方法	ワークシートやリアクションペーパーの提出 60%（4 点×15 回分）、最終レポート課題 40%として評価を行う。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			◎			○

関連科目	セルフプロデュース
その他	グループワークやペアワークなどは受講者数に応じて形式を変更する。 なお、シラバスに記載した各回のテーマは授業進行により適宜、変更することがある。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	112-330-12（Ｊ）	授業コード	FB0330
科目名称	ﾋﾞｼﾞﾈｽと心理学			単位数	2.0 単位
英文名称	Business and Psychology			授業区分	講義
科目責任者	澤田　葉月			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	澤田　葉月			開講時期	2･3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	この講義では社会や職場で起こる様々な出来事について，特に対人関係に関わることに注目しながら，社会心理学，感情心理学，臨床心理学の領域からテーマを選び，その理論と実践を学ぶ。心理学が我々の生活にどのように活かされているのか，また活かされ得るのか，講義とグループディスカッションやグループワークを通して理解を深める。				
到達目標	本講義を通じて以下の 3 点を目標とする。 １．集団における自己あるいは他者の心理・行動・認知への理解を深める ２．日々の生活や職場で生じるストレスについて理解を深め，自分なりの対処ができるようになる ３．日々の生活や職場で，よりよい対人関係を築けるよう，理論を応用できるようになる				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	澤田　葉月	【第 1 回】 予習：シラバスを読んで，質問や確認事項があればまとめておく 授業：ガイダンス（授業内容，講義の進め方，注意事項の確認）と導入 復習：関心のあるテーマについてまとめる
2	澤田　葉月	【第 2 回】 予習：自己意識や自己開示，自己呈示について調べる 授業：自己とは？ 復習：自己呈示の戦術や自己開示の機能について復習し，まとめる
3	澤田　葉月	【第 3 回】 予習：印象形成（例えば，初頭効果やステレオタイプなど）について調べる 授業：印象形成 復習：印象形成や対人認知に関わる理論について，理解したことをまとめる
4	澤田　葉月	【第 4 回】 予習：態度について調べる 授業：態度と行動　（グループワーク） 復習：日々の自身の行動に，本時に学んだ理論をあてはめ，ふり返る
5	澤田　葉月	【第 5 回】 予習：これまでに説得された経験や自分が説得し，成功した経験を書き出しておく 授業：説得（グループディスカッション/グループワーク） 復習：身近な人々に対し，学んだ理論を用いて説得や交渉を行ってみる
6	澤田　葉月	【第 6 回】 予習：これまでの集団行動や集団での葛藤のエピソードを思い出し，書き出しておく 授業：集団行動の特性（グループディスカッション/グループワーク） 復習：集団行動を促進，抑制する心理について，そのポイントを整理する
7	澤田　葉月	【第 7 回】 予習：リーダーシップについて調べる 授業：リーダーシップ（グループディスカッション/グループワーク） 復習：サークルやアルバイトなど，生活の中で学んだ理論を応用してみる
8	澤田　葉月	【第 8 回】 予習：コミュニケーションについて，その種類などを調べる 授業：コミュニケーション（グループワーク） 復習：学んだことを基に，よりよいコミュニケーションを生活の中で実践する
9	澤田　葉月	【第 9 回】 予習：ストレスやバーンアウトについて調べる 授業：ストレスとその影響 復習：ストレスとその影響について，理解したことをまとめる
10	澤田　葉月	【第 10 回】 予習：自分の感情に意識を向け，その変化や特徴的なエピソードを記録する 授業：感情知覚や感情調整の発達 復習：感情について，自身の経験やそれに対する考えをまとめる
11	澤田　葉月	【第 11 回】 予習：感情の制御方略について調べる 授業：ストレスへの対処①（感情コントロール）　（グループワーク） 復習：学んだ手法を生活の中で実践する

12	澤田　葉月	【第 12 回】 予習：認知療法や認知行動療法について調べる 授業：ストレスへの対処②（認知行動療法）　（グループワーク） 復習：学んだ手法を生活の中で実践する
13	澤田　葉月	【第 13 回】 予習：リラクゼーション法やマインドフルネスについて調べる 授業：ストレスへの対処③（漸進的筋弛緩法，マインドフルネス認知行動療法） 復習：学んだ手法を生活の中で実践する
14	澤田　葉月	【第 14 回】 予習：生涯発達理論やキャリア発達について調べる 授業：キャリア発達とワークライフバランス 復習：第 9 回以降の授業内容も踏まえて自身のキャリアや今後の人生について考え，まとめる
15	澤田　葉月	【第 15 回】 予習：これまでの資料をもとに講義をふり返り，わからないところや質問を書き出しておく 授業：これまでの授業の総括 復習：講義の内容や専門用語を再確認する

授業開始前学習	日常生活（大学・アルバイト・サークル等）や過去の様々な経験と問題意識が本講義の起点となる。 特に対人関係に関わる内容が豊富であるため，日頃の行動や自他の感情に注意を払っておくと講義で学ぶ理論と現実での事象が結びつきやすく理解が促されやすい。 さらに心理学の基本的知識（特に社会心理学や感情心理学，臨床心理学）を学習しておくと講義が理解しやすいため，概論書やミネルヴァ書房の「よくわかるシリーズ」，新星出版社の「カラー版徹底図解　社会心理学」等を読んでおくことをおすすめする。
授業内課題のフィードバックの方法	各課題の点数についてはワークシートに記入したり Google Classroom の採点機能を用いて随時，個別に返却する。 コメントペーパーの内容や受講生から寄せられた質問については，基本的に次回の授業冒頭にフィードバックを行う。 ただし，全体に対して共有してほしくないコメントがある場合は配慮し，個別に伝える。
テキスト・教材	教科書は使用しない。講義ごとに資料を配布する。
参考書	適宜，紹介する。
評価の基準と方法	講義への取り組みや課題提出の状況により総合的に評価する。 ・ワークシートやコメントペーパー：60% ・レポート：40% 単位取得のためには，3 分の 2 以上の出席を必要とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	◎			○

関連科目	
その他	・受講生の人数により授業の内容や順番，進度を一部変更する可能性がある。 ・授業の進め方については受講生の希望を聞きながら対応したいと考えているため，特に初回のガイダンスには出来る限り参加してほしい。 ・課題の提出等に Google Classroom を使用することを予定している。 ・レポートの作成に Word が使えると助かる。自分の PC に Word をインストールするなど，できるだけ授業開始までに Word が使えるよう準備をしておいてほしい。 　ただし，強制ではないため諸般の事情で Word の使用が困難な場合
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	小学校相談室での勤務経験ならびに教員研修の実践経験あり。感情労働やストレス対処の方法について講義する。

科目分類（2025 年～入学者）	HR-M-331	科目分類（～2024 年入学者）	112-330-13	授業コード	FB0340
科目名称	ｾﾙﾌﾌﾟﾛﾃﾞｭｰｽ			単位数	2.0 単位
英文名称	Self Produce			授業区分	講義
科目責任者	田代　琴美			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田代　琴美			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	本授業では自分らしさについて考え、自分の強みを見つけながら、それを社会の中でどのように活かしていくかといったセルフプロデュースについて具体的に検討していく。積極的なグループワーク（ペアワーク）を通して、様々な側面からの自己表現や自己演出をいかに他人に伝えられるかといった対人認知や印象形成などの知識を身につける。				
到達目標	授業を通して、自分を理解する・自分に合うものを探す・自分の強みを伸ばすといったセルフプロデュースを考えながら、なりたい自分になるといった自己実現を目指す。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	田代　琴美	【第 1 回】 予習：シラバスを確認しておく 授業：オリエンテーション 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる
2	田代　琴美	【第 2 回】 予習：好きな芸能人はどのような人物なのかを詳しく調べ、まとめてくる 授業：セルフプロデュースをする意味について考える①(グループワーク) 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる
3	田代　琴美	【第 3 回】 予習：選挙ポスターについて検索する 授業：セルフプロデュースをする意味について考える② 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる
4	田代　琴美	【第 4 回】 予習：自分の外見の変化したタイミングを確認し、説明できるようにしておく 授業：自分らしさについて考える①外見への理解（服装やメイク等） 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる
5	田代　琴美	【第 5 回】 予習：自分の内面が変化したと感じた経験を思い出し、説明できるようにしておく 授業：自分らしさについて考える②内面への理解 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる
6	田代　琴美	【第 6 回】 予習：自分らしいこと/ものを挙げておく 授業：自分に合うものを知る① 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる
7	田代　琴美	【第 7 回】 予習：自分が好きなこと/ものの中で他者から似合っていないと言われたこと/ものを探しておく 授業：自分に合うものを知る②(グループワーク) 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる
8	田代　琴美	【第 8 回】 予習：自分はどのような人と仲良くなるのか、仲良くなれない人はどのような人かを考えておく 授業：自分に合うものを知る③ 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる
9	田代　琴美	【第 9 回】 予習：自分自身の魅力を考える 授業：自分の強みを伸ばす① 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる
10	田代　琴美	【第 10 回】 予習：就職活動について調べる 授業：自分の強みを伸ばす②(グループワーク) 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる
11	田代　琴美	【第 11 回】 予習：自己表現方法について考える 授業：自分の強みを伸ばす③(グループワーク) 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる

12	田代　琴美	【第 12 回】 予習：ロールモデルという言葉について調べる 授業：自分の強みを伸ばす④ 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる
13	田代　琴美	【第 13 回】 予習：自分が誰かをプロデュースする場合はどのようなに行うかを考えてみる 授業：プロデュースしてみよう① 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる
14	田代　琴美	【第 14 回】 予習：発表の準備をする 授業：プロデュースしてみよう②(グループワーク) 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる
15	田代　琴美	【第 15 回】 予習：自分自身のセルフプロデュースについてまとめる 授業：総括 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる

授業開始前学習	今の自分について客観的に考え、なりたい自分をイメージしておくと授業内容が理解しやすい。
授業内課題のフィードバックの方法	ワークシートやリアクションペーパーの提出を求めた際には次回の授業内でフィードバックまたは全体講評を行う。
テキスト・教材	教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。
参考書	必要に応じて授業中に紹介する。
評価の基準と方法	ワークシートやリアクションペーパーの提出 60%（4 点×15 回分）、最終レポート課題 40%として評価を行う。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎	○		△		○	

関連科目	自己分析の心理学
その他	グループワークやペアワークなどは受講者数に応じて形式を変更する。 なお、シラバスに記載した各回のテーマは授業進行により適宜、変更することがある。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	HR-M-231 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	112-330-12 （Ｊ）	授業コード	FB0510
科目名称	ﾁｰﾑﾋﾞﾙﾃﾞｨﾝｸﾞ			単位数	2.0 単位
英文名称	Team Building			授業区分	講義
科目責任者	脇田 能宏			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	脇田 能宏			開講時期	2･3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	我々は社会活動において何らかのチームに属し、その中でさまざまな役割を担っている。変化し続け予測困難で複雑化・多様化する社会においては、チームの力を最大化・効率化し、柔軟に対応するための基本的な考え方や行動がますます重要になる。 この授業では身近なチームの事例や現象を分析し、グループワークでの体験を通じてチームビルディングのための実践的なノウハウを学ぶ。 専用授業サイト【Y.Wakita Lecture Note】に講義内容を掲載し、授業、予習、復習のためのツールとする。 URL https://wakita-ln.jimdofree.com/ （事前案内ページの参照パスワードは"komajo"） また、社会組織の中で重要なメールコミュニケーションを実践し学ぶ。				
到達目標	・ケーススタディを通じてチームビルディングの考え方を身に付ける。 ・人が動き、人を動かすコミュニケーション力を身に付ける。 ・チームビルディングの必要条件を理解し行動できるようにする。 ・グループワークを通じて自分がチームに貢献できる自分の長所を知る。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	脇田 能宏	【第 1 回】 予習：シラバスと受講目的を確認する 授業：ガイダンス、チームビルディングとは 復習：チームビルディングの意義を確認する
2	脇田 能宏	【第 2 回】 予習：身近なチームの事例について確認する 授業：チームビルディングの必要性について 復習：身近なチームの 3 要件について確認する
3	脇田 能宏	【第 3 回】 予習：事例資料に掲載されているチームの目的を確認する 授業：チームビルディングの基本 1：目的共有 復習：目的と目標の違いを確認する
4	脇田 能宏	【第 4 回】 予習：自分がチームに迷惑をかけた事例を確認する 授業：チームビルディングの基本 2：情報共有 復習：自分の会話事例について改善案をまとめる
5	脇田 能宏	【第 5 回】 予習：事例資料に掲載されているチームメンバーの行動を確認する 授業：チームビルディングの基本 3：貢献意欲 復習：身近なチームの「のりしろ」について確認する
6	脇田 能宏	【第 6 回】 予習：事例資料につい身近なチームのケースを確認する 授業：チームビルディングの基本 4：個のパフォーマンス 復習：身近なチームにおけるメンバーと役割を確認する
7	脇田 能宏	【第 7 回】 予習：事例資料に掲載されているチームの成果について調べる 授業：チームビルディングの基本 5：チームのパフォーマンス 復習：身近なチームの 3 要素についてそれぞれ評価する
8	脇田 能宏	【第 8 回】 予習：自分の意図が相手に伝わらなかった会話事例について確認する 授業：コミュニケーションの成立条件 復習：コミュニケーションの成立条件を自分の属するチームで確認する
9	脇田 能宏	【第 9 回】 予習：相手を選んで話をした事例について確認する 授業：コミュニケーションの基本 1：言及範囲 復習：言及範囲を決定する要因についてまとめる

10	脇田　能宏	【第 10 回】 予習：優先順位を意識して話をした事例について確認する 授業：コミュニケーションの基本 2：優先順位 復習：過去の会話の優先順位の妥当性について確認する
11	脇田　能宏	【第 11 回】 予習：相手にすぐに話をしなかった事例について確認する 授業：コミュニケーションの基本 3：タイミング 復習：会話のタイミングを決定する要因をまとめる
12	脇田　能宏	【第 12 回】 予習：身近なイベントについて集合日時の決定プロセスについて確認する 授業：コミュニケーションの基本 4：効率 復習：会話効率を上げるためのポイントをまとめる
13	脇田　能宏	【第 13 回】 予習：自分が説得された会話事例について確認する 授業：コミュニケーションの基本 5：魅力 復習：コミュニケーションが魅力的になるポイントをまとめる
14	脇田　能宏	【第 14 回】（期末レポート） 予習：授業で扱った事例を確認する 授業：期末レポート提出：チームビルディングの事例 復習：期末レポートについて自己レビューする
15	脇田　能宏	【第 15 回】 予習：期末レポートの事例を身近な例に置き換え確認する 授業：期末レポートの講評とチームビルディングの要点を確認する 復習：授業で得たチームビルディングに関する成果を再確認する

授業開始前学習	今まで自分が属したチームについて列挙する。
授業内課題のフィードバックの方法	・出席メモについては、毎回個別にポータルでフィードバックし、次回授業内でレビューとして解説する。 ・期末レポートについては、最終回授業にて全体の講評を行う。
テキスト・教材	テキストは使用しない。 必要な資料は授業サイトにて適宜案内する。 テーマによりネット上のビデオ・記事を視聴・閲覧する。
参考書	適宜資料を配布、または Web 上の資料を URL で案内する。
評価の基準と方法	配点は以下のとおりとし、単位取得には 60 点以上の得点を必要とする。 ・毎回の授業活動（出席メモ 15 回分各回 4 点）の合計 60 点 ・期末レポート（第 14 回授業内）20 点 ・質問、関心、貢献など普段の取り組み姿勢の評価　20 点
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○			◎	○

関連科目	後期「リーダーシップ論／組織マネジメント」
その他	身近なテーマを真剣に議論する学生参加型の授業とするため、授業への貢献度を評価基準の一つとする。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	大企業にて研究開発、システムアーキテクト、プロジェクトリーダー、統括課長職、新規事業企画等の職種に携わり、研究所、開発本部、事業会社、新規事業創出部門など多様な職場を経験し、個人企業（現職）に至る 30 年以上の管理職・プロジェクトリーダーとしての経験を元に、チームビルディングにおける要点、考え方、実際的な課題とその解決指針について講義する。

科目分類（2025年～入学者）	HR-M-231	科目分類（～2024年入学者）	112-330-12	授業コード	FB0350
科目名称	自己表現法Ⅰ			単位数	2.0単位
英文名称	Method of Self-Expression Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	郷田　ほづみ			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	郷田　ほづみ			開講時期	2・3年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	自己を表現するとはどういうことか。どういう方法があるのか。また、どういう表現をすると相手にどう理解されるのか。本講義では芸術・芸能関係等、表現の現場における実例や、コミュニケーション技法を中心に、より良い人間関係を築くための方法について研究する。また、演劇や音楽などの感情表現をもとに自己表現について考察する。				
到達目標	より良い人間関係というものを理解する。自分の感情や表現をコントロールし、コミュニケーションに活かせるような知識を身につける。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	郷田　ほづみ	【第1回】 予習　：自分自身について考える 授業　：授業のガイダンス　講義内容の説明 復習　：どういう自分になれるかイメージする
2	郷田　ほづみ	【第2回】 予習　：自己表現について考える 授業　：自己表現とはなにか 復習　：自身の日常に活かせるか考える
3	郷田　ほづみ	【第3回】 予習　：自分の歴史を思い返す 授業　：自分自身を知る 復習　：社会に出た時の自分をイメージする
4	郷田　ほづみ	【第4回】 予習　：自分の緊張の度合いを確認する 授業　：人前であがらないために 復習　：日常の中で実践してみる
5	郷田　ほづみ	【第5回】 予習　：人間の感情について考えておく 授業　：感情表現と自己表現 復習　：人の気持ちについて考える
6	郷田　ほづみ	【第6回】 予習　：自分の人間関係について考えてみる 授業　：より良い人間関係を築く1　相手の気持ちを考える 復習　：苦手な人とコミュニケーションを取る
7	郷田　ほづみ	【第7回】 予習　：前回を踏まえ自分でできることをイメージする 授業　：より良い人間関係を築く2　言葉の使い方を見直す 復習　：自分のコミュニケーションを検証する
8	郷田　ほづみ	【第8回】 予習　：自分の友人について考える 授業　：友人関係について 復習　：どのように付き合っていくかイメージする
9	郷田　ほづみ	【第9回】 予習　：自分の恋愛観について考えておく 授業　：恋愛関係について 復習　：自分自身がどうあるべきか考える
10	郷田　ほづみ	【第10回】 予習　：身近な人とのコミュニケーションについて考えておく 授業　：アサーションの実例1　身近な人に対する自己表現 復習　：自身の人間関係に活かせるようイメージする
11	郷田　ほづみ	【第11回】 予習　：オフィシャルな場でのコミュニケーションについて考えておく 授業　：アサーションの実例2　オフィシャルな場での自己表現 復習　：自分が努力できるポイントを確認する

12	郷田　ほづみ	【第 12 回】 予習　：これまでの人との接し方について考えておく 授業　：初対面の人と打ち解けるには 復習　：改善点があれば実践する
13	郷田　ほづみ	【第 13 回】 予習　：提出したレポートの発表がスムーズにいくよう準備する 授業　：レポートの発表 1 復習　：次回に備え検証する
14	郷田　ほづみ	【第 14 回】 予習　：前回や他の人の発表を参考にイメージする 授業　：レポートの発表 2 復習　：自分の問題点について考える
15	郷田　ほづみ	【第 15 回】 予習　：これまでの授業を振り返っておく 授業　：これまでの復習と疑問点の確認 復習　：どのようにすれば自分に活かせるか考える

授業開始前学習	特に必要としない。
授業内課題のフィードバックの方法	13 週目に提出するレポートについては、翌週に簡単な発表の場を設け、個別の質問にも対応する。
テキスト・教材	特定のテキストや教材は使用しない。
参考書	
評価の基準と方法	授業態度（５０％）およびレポート（５０％）にて成績を評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎	○	△				

関連科目	「コミュニケーション実習Ⅰ、Ⅱ」とリンクする内容があるので、実習でシミュレーションすることにより、理解が深まる。
その他	履修希望者が教室の収容人数を超えた場合には、履修制限を行う可能性もある。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	112-330-12	授業コード	FB0360
科目名称	自己表現法Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	Method of Self-Expression Ⅱ			授業区分	講義
科目責任者	郷田 ほづみ			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	郷田 ほづみ			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	社会に出てからの人間関係や、様々なシチュエーションにおいて、自己を表現することの必要性について理解を深め、よりイメージできるようにすることを目的とする。自分の思考を、または自分自身をより明確に相手に伝えるためのプレゼンテーションについて考えるとともに、面接試験等においての自己アピールの方法について探って行く。				
到達目標	社会生活をおくる上で自己を表現することの必要性を理解し、実践できるようになる。他の人と上手くコミュニケーションを取るということを常に考える習慣を作る。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	郷田 ほづみ	【第 1 回】 予習 ：自己表現について考えておく 授業 ：授業のガイダンス 講義内容の説明 復習 ：どういう表現を身に付けたいかイメージする
2	郷田 ほづみ	【第 2 回】 予習 ：人間のキャラクターについて考えておく 授業 ：人に好かれるキャラクターとは 復習 ：自分のキャラクターを考える
3	郷田 ほづみ	【第 3 回】 予習 ：人間観察をしてみる 授業 ：自己をアピールする 復習 ：様々な場面での自己アピールをイメージする
4	郷田 ほづみ	【第 4 回】 予習 ：プレゼンテーションについて調べておく 授業 ：プレゼンテーションの方法 復習 ：実践できるようイメージしてみる
5	郷田 ほづみ	【第 5 回】 予習 ：気配り・心配りについて考えておく 授業 ：気の利く人とは 復習 ：日常の生活に活かしてみる
6	郷田 ほづみ	【第 6 回】 予習 ：TV などで興味深い会話をする人をチェックする 授業 ：会話術 1　相手を引き付ける会話とは 復習 ：自身の人間関係の中で試してみる
7	郷田 ほづみ	【第 7 回】 予習 ：周りの人の会話をチェックしてみる 授業 ：会話術 2　わかりやすく話すには 復習 ：すぐにできる部分を実践する
8	郷田 ほづみ	【第 8 回】 予習 ：正しい日本語に関して考えておく 授業 ：敬語について 復習 ：自分の敬語が正しいか検証する
9	郷田 ほづみ	【第 9 回】 予習 ：将来就きたい職業について考えておく 授業 ：就職試験と自己表現 1　自分自身を知るために 復習 ：準備できる部分に取り掛かる
10	郷田 ほづみ	【第 10 回】 予習 ：就職に関してより具体的に考える 授業 ：就職試験と自己表現 2　面接試験について 復習 ：実際の面接等をイメージする
11	郷田 ほづみ	【第 11 回】 予習 ：普段の自分の話し方を見つめなおしてみる 授業 ：話し方の裏技 復習 ：実践することで理解を深める

12	郷田　ほづみ	【第 12 回】 予習　：関連する本などを読んでみる 授業　：コミュニケーションと自己表現 復習　：人に伝わる話し方について考える
13	郷田　ほづみ	【第 13 回】 予習　：提出したレポートの発表がスムーズにいくよう準備する 授業　：レポートの発表 1 復習　：次回に備え検証する
14	郷田　ほづみ	【第 14 回】 予習　：前回や他の人の発表を参考にイメージする 授業　：レポートの発表 2 復習　：自分の問題点について考える
15	郷田　ほづみ	【第 15 回】 予習　：これまでの授業を振り返っておく 授業　：これまでの復習と疑問点の確認 復習　：どのようにすれば自分に活かせるか考える

授業開始前学習	特に必要としない。
授業内課題のフィードバックの方法	13 週目に提出するレポートについては、翌週に簡単な発表の場を設け、個別の質問にも対応する。
テキスト・教材	特定のテキストや教材は使用しない。
参考書	
評価の基準と方法	授業態度（５０％）およびレポート（５０％）にて成績を評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎	○	△				

関連科目	「コミュニケーション実習Ⅰ、Ⅱ」とリンクする内容があるので、実習でシミュレーションすることにより、理解が深まる。
その他	履修希望者が教室の収容人数を超えた場合には、履修制限を行う可能性もある。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	HR-M-233	科目分類（～2024 年入学者）	112-330-22	授業コード	FB0370
科目名称	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ実習Ⅰ			単位数	1.0 単位
英文名称	Practice in Communication Ⅰ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	郷田 ほづみ			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	郷田 ほづみ			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	社会生活を営む上で人と人がコミュニケーションを取るということは必要不可欠である。より良いコミュニケーションを取るために、会話中の頭の回転を速くし、相手にどのように伝わっているか常に考えるトレーニングを行う。基礎的な演技レッスンを行うことによって、コミュニケーションを体感し、実生活に応用できる技術を習得する。				
到達目標	コミュニケーションの重要性を理解する。適切な発声、正しい発音ができるようになる。人前で発言することに慣れる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	郷田 ほづみ	【第 1 回】 予習 ：コミュニケーションに対する意識を高めておく 授業 ：授業のガイダンス 講義内容の説明 復習 ：目的意識を持ち、イメージする
2	郷田 ほづみ	【第 2 回】 予習 ：自己紹介できるよう準備する 授業 ：自己紹介 インタビュー（実習） 復習 ：より良い自己紹介を完成させる
3	郷田 ほづみ	【第 3 回】 予習 ：どのくらい声が出せるか確認しておく 授業 ：発声法 1 腹式呼吸 効率の良い声の出し方（実習） 復習 ：練習した事を確認する
4	郷田 ほづみ	【第 4 回】 予習 ：声を出して喉を暖めておく 授業 ：発声法 2 発声・発音練習（実習） 復習 ：練習を習慣づける
5	郷田 ほづみ	【第 5 回】 予習 ：自身の喜怒哀楽について考える 授業 ：感情表現の基礎（実習） 復習 ：イメージした表情ができるよう意識する
6	郷田 ほづみ	【第 6 回】 予習 ：他人の気持ちについて考える 授業 ：感情表現の実践（実習） 復習 ：様々な表現ができるよう試してみる
7	郷田 ほづみ	【第 7 回】 予習 ：軽く身体を動かしておく 授業 ：即興劇 1 会話の基本（実習） 復習 ：問題点を確認して次回に備える
8	郷田 ほづみ	【第 8 回】 予習 ：ストレッチなどをして身体をほぐしておく 授業 ：即興劇 2 臨機応変な対応（実習） 復習 ：他の人の表現などを参考にする
9	郷田 ほづみ	【第 9 回】 予習 ：人間観察をしてみる 授業 ：エチュード 1 頼み事をする（実習） 復習 ：人に気を使えるよう意識する
10	郷田 ほづみ	【第 10 回】 予習 ：人間観察をさらに深める 授業 ：エチュード 2 頼み事を断る（実習） 復習 ：苦手な部分があれば意識する
11	郷田 ほづみ	【第 11 回】 予習 ：声の演技についてイメージする 授業 ：アフレコ実習 1 ラジオドラマ作品等（実習） 復習 ：次回に備え練習する

12	郷田　ほづみ	【第 12 回】 予習　：発声・発音練習をしておく 授業　：アフレコ実習２　アニメーション作品等（実習） 復習　：うまくいかなかった部分を練習する
13	郷田　ほづみ	【第 13 回】 予習　：事前に練習した感情表現を意識しておく 授業　：ミニドラマの準備（実習） 復習　：次回に完成できるよう考える
14	郷田　ほづみ	【第 14 回】 予習　：前回の展開を踏まえイメージする 授業　：ミニドラマの完成（実習） 復習　：さらに良くするためにはどうすればいいか考える
15	郷田　ほづみ	【第 15 回】 予習　：これまでの授業を振り返っておく 授業　：これまでの復習と疑問点の確認 復習　：自分の問題点を整理する

授業開始前学習	正しい日本語の発音・発声がすべての基本となるので、意識しておくことが望ましい。
授業内課題のフィードバックの方法	毎回実技実習を行い、その都度個別の質問に答える。
テキスト・教材	必要に応じて授業時に配布する。
参考書	
評価の基準と方法	実習科目であるため、特に参加度（６０％）を重視し、授業態度（２０％）および実技（２０％）にて成績を評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎	○			○	

関連科目	コミュニケーションを取るには、自分自身を表現することが必要である。「自己表現法Ⅰ、Ⅱ」で論理的に解説している。
その他	本科目は実習であるため履修人数を制限する。規定人数を超えた場合、人間関係専攻学生を優先する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	HR-M-233	科目分類（～2024 年入学者）	112-330-22	授業コード	FB0380
科目名称	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ実習Ⅱ			単位数	1.0 単位
英文名称	Practice in Communication Ⅱ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	郷田 ほづみ			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	郷田 ほづみ			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	より良い人間関係を築くために必要な、自分も相手も大切にした自己表現法の習得を目的とする。即興劇やエチュード等による基礎的な演技レッスンをさらに発展させ、模擬的な番組制作や会議を行うことにより、効果的なコミュニケーションに対する理解を深め、スキルを向上させる。				
到達目標	オフィシャルな場での会話がスムーズにできるようになる。相手に合わせるコミュニケーション能力を身につける。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	郷田 ほづみ	【第 1 回】 予習 ：コミュニケーションに対する意識を高めておく 授業 ：授業のガイダンス 講義内容の説明 復習 ：授業内容を聞いた上でイメージする
2	郷田 ほづみ	【第 2 回】 予習 ：事前に声を出しておく 授業 ：台詞の練習 1 舞台作品の台本より抜粋（実習） 復習 ：練習した台本を覚える
3	郷田 ほづみ	【第 3 回】 予習 ：発声練習をしておく 授業 ：台詞の練習 2 映像作品の台本より抜粋（実習） 復習 ：より自然に言えるよう練習する
4	郷田 ほづみ	【第 4 回】 予習 ：ディベートについて調べておく 授業 ：ディベート実習 1 身近なテーマで（ディベート） 復習 ：授業を振り返り次回に備える
5	郷田 ほづみ	【第 5 回】 予習 ：はっきりとした声が出せるか確認する 授業 ：ディベート実習 2 社会的なテーマで（ディベート） 復習 ：常に自分の意見を持つよう心がける
6	郷田 ほづみ	【第 6 回】 予習 ：プレゼンテーションについて調べておく 授業 ：プレゼンテーション実習 1 内容を決めて組み立てる（プレゼンテーション） 復習 ：問題点を修正する
7	郷田 ほづみ	【第 7 回】 予習 ：プレゼンテーションの方法を考える 授業 ：プレゼンテーション実習 2 実際に人前で説明する（プレゼンテーション） 復習 ：どうすればより良くなるか考える
8	郷田 ほづみ	【第 8 回】 予習 ：どんな質問をするか考える 授業 ：インタビュー実習 1 同世代の相手に聞く（実習） 復習 ：受け答えが適切だったか検証する
9	郷田 ほづみ	【第 9 回】 予習 ：前回の授業を踏まえイメージする 授業 ：インタビュー実習 2 架空の職業人に聞く（実習） 復習 ：日常生活に活かす方法を考える
10	郷田 ほづみ	【第 10 回】 予習 ：声の演技についてイメージする 授業 ：アフレコ実習 1 洋画等（実習） 復習 ：次回に備え練習する
11	郷田 ほづみ	【第 11 回】 予習 ：発声・発音練習をしておく 授業 ：アフレコ実習 2 海外ドラマ等（実習） 復習 ：うまくいかなかった部分を練習する

12	郷田　ほづみ	【第 12 回】 予習　：実際にラジオ番組を聴いておく 授業　：模擬ラジオ番組実習１　複数人数でトーク番組（実習） 復習　：他の人の実演を参考に自身を検証する
13	郷田　ほづみ	【第 13 回】 予習　：声が出るよう身体を動かしておく 授業　：模擬ラジオ番組実習２　１人で語る情報番組（実習） 復習　：人に伝える話し方について考える
14	郷田　ほづみ	【第 14 回】 予習　：自分の不得意な部分を確認する 授業　：質疑応答　コミュニケーションの実践（実習） 復習　：自分の問題点を整理する
15	郷田　ほづみ	【第 15 回】 予習　：これまでの授業を振り返っておく 授業　：これまでの復習と疑問点の確認 復習　：どのようにすれば成長できるか考える

授業開始前学習	正しい日本語の発音・発声がすべての基本となるので、意識しておくことが望ましい。
授業内課題のフィードバックの方法	毎回実技実習を行い、その都度個別の質問に答える。
テキスト・教材	必要に応じて授業時に配布する。
参考書	
評価の基準と方法	実習科目であるため、特に参加度（６０％）を重視し、授業態度（２０％）および実技（２０％）にて成績を評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎	○			○	

関連科目	コミュニケーションを取るには、自分自身を表現することが必要である。「自己表現法Ⅰ、Ⅱ」で論理的に解説している。
その他	本科目は実習であるため履修人数を制限する。規定人数を超えた場合、人間関係専攻学生を優先する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	HR-M-231 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	112-330-12 （Ｊ）	授業コード	FB0390
科目名称	報道とﾒﾃﾞｨｱ			単位数	2.0 単位
英文名称	Mass Media Studies／Press and Media			授業区分	講義
科目責任者	佐々木 竜介			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	佐々木 竜介			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	新聞・テレビ・ラジオ・雑誌・インターネットのマスを中心としたメディアについて、各メディアの歴史や、それを提供するメディア企業の成り立ちを学ぶ。 メディア成立の背景を学ぶことで、メディアが発するメッセージの裏側を読み取り、メディアが発信する情報に対する理解をこれまで以上に深めることを目標とする。				
到達目標	5 マスメディアの違いについて、成り立ち、物理的性質、企業経営など複数の地点からその特性を述べられる知識を得るとともに、メディアの形態とコンテンツの関係を説明するための能力を身につける。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	佐々木 竜介	【第 1 回】 予習：新聞、テレビ、雑誌、インターネットの各メディアへ主体的に接触する 授業：最近の事象をもとにしたメディアに関する考察 復習：配布物の再読、メディアについて再考する
2	佐々木 竜介	【第 2 回】 予習：講義ノート P6-11 の閲読、メディアの機能について考察する 授業：コミュニケーションとメディア 復習：講義ノート P6-11 の読み返し、コミュニケーションとメディアに関する課題を再考する
3	佐々木 竜介	【第 3 回】 予習：講義ノート P12-20 の閲読、新聞の歴史について考察する 授業：新聞メディアの歴史と特性①（新聞の歴史と新聞社の経営） 復習：講義ノート P12-20 の読み返し、新聞社の経営に関する課題を再考する
4	佐々木 竜介	【第 4 回】 予習：講義ノート P21-29 の閲読、新聞を一通り閲読する（日付は問わず） 授業：新聞メディアの歴史と特性②（新聞のメディア特性） 復習：講義ノート P21-29 の読み返し、新聞のメディア特性に関する課題を再考する
5	佐々木 竜介	【第 5 回】 予習：講義ノート P30-37 の閲読、雑誌の歴史について考察する 授業：雑誌メディアの歴史と特性①（雑誌の歴史と雑誌の経営） 復習：講義ノート P30-37 の読み返し、雑誌の歴史に関する課題を再考する
6	佐々木 竜介	【第 6 回】 予習：講義ノート P38-42 の閲読、女性誌を複数誌閲読する 授業：雑誌メディアの歴史と特性②（女性誌の歴史と特性） 復習：講義ノート P38-42 の読み返し、女性誌に関する課題を再考する
7	佐々木 竜介	【第 7 回】 予習：講義ノート P43-51 の閲読、放送の歴史について考察する 授業：放送メディアの歴史と特性①（放送の歴史と放送局の経営） 復習：講義ノート P43-51 の読み返し、放送局の経営に関する課題を再考する
8	佐々木 竜介	【第 8 回】 予習：講義ノート P52-57 の閲読、バラエティー番組を視聴する 授業：放送メディアの歴史と特性②（放送のメディア特性） 復習：講義ノート P52-57 の読み返し、放送のメディア特性に関する課題を再考する
9	佐々木 竜介	【第 9 回】 予習：講義ノート P58-65 の閲読、インターネットの歴史について考察する 授業：インターネットの歴史と特性①（インターネットの歴史とインターネット企業の経営） 復習：講義ノート P58-65 の読み返し、インターネット企業の経営に関する課題を再考する
10	佐々木 竜介	【第 10 回】 予習：講義ノート P66-72 の閲読、インターネットの特性について考察する 授業：インターネットの歴史と特性②（インターネットのメディア特性） 復習：講義ノート P66-72 の読み返し、インターネットのメディア特性に関する課題を再考する

11	佐々木　竜介	【第 11 回】 予習：講義ノート P73-81 の閲読、ソーシャルメディアについて考察する 授業：ソーシャルメディア 復習：講義ノート P73-81 の読み返し、ソーシャルメディアに関する課題を再考する
12	佐々木　竜介	【第 12 回】 予習：講義ノート P82-89 の閲読、各メディア別の特性を再確認する 授業：メディアの報道 復習：講義ノート P82-89 の読み返し、メディアの報道の問題点について考察する
13	佐々木　竜介	【第 13 回】 予習：講義ノート P90-94 の閲読、各メディアの広告に自主的に接触する 授業：広告とメディア 復習：講義ノート P90-94 の読み返し、広告とメディアに関する課題を再考する
14	佐々木　竜介	【第 14 回】 予習：講義ノート P95-99 の閲読、各メディア別の特性を再確認する 授業：インターネット時代のメディア・リテラシー 復習：講義ノート P95-99 の読み返し、現代のメディア・リテラシーあるべき姿について考察する
15	佐々木　竜介	【第 15 回】 予習：講義ノート P100-103 の閲読、インターネットの問題点について考察する 授業：インターネット時代の生き方 復習：講義ノート P100-103 の読み返し、現代のメディア環境について考察する

授業開始前学習	普段の生活において、各種メディアに主体的に接していると、講義内容が理解しやすい。
授業内課題のフィードバックの方法	毎回記述式の課題を出題する。評価は Classroom を通じて戻すとともに、次回の講義時に解答の中から数点を選んで紹介し、講評します。
テキスト・教材	講義ノートを配布
参考書	講義ノートの最終ページに記載
評価の基準と方法	講義参加の積極性 40%、課題 40%、期末試験 20%で評価。毎回出題する課題の回答も、評価の対象とします。 単位取得には講義の 2 / 3 以上の出席と指定数以上の課題の提出、期末試験の受験が必要。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				○	◎		

関連科目	「新聞と報道」はメディア論のイントロダクションであり、また報道に関する深い考察が中心となるので、双方を受講することでより高いメディア・リテラシー能力を身に着けることが出来る。
その他	Google Classroom に本講義のクラスを作るので、受講の際は必ず登録してください。 Classroom では伝達事項の掲示や、課題の受け付けなどを行う他、個別質問も受け付け、回答もここで行います。授業録画や配布資料も Classroom にアップをしますので、授業を欠席した際は活用してください。 初回の講義にて評価や出席など、受講の注意事項を説明ます。欠席した場合は、終了後に Classroom に録画および配布資料をアップさせるので、そちらを確認してください。 また、内容は変更されることがあり
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	現在新聞社に勤務しており、職場環境およびかつてメディア研究の部署にも属していた経験を活かし、大きく変容するメディア環境について、現在進行形で講義をする。

科目分類（2025 年～入学者）	HR-M-221	科目分類（～2024 年入学者）	112-330-12	授業コード	FB0410
科目名称	☆ﾒﾃﾞｨｱと社会／情報技術と人間関係			単位数	2.0 単位
英文名称	Media and Society／Information Technology and Human Relations			授業区分	講義
科目責任者	楠田　恵美			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	楠田　恵美			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	前期　木曜日 13:00～14:30　金曜日 14:40～16:10 後期　木曜日 13:00～14:30　金曜日 14:40～16:10			研究室	10-612
授業概要	メディアとは何か、メディア論の対象と方法、メディアをめぐる社会史、メディアがつくり出す現代社会、をテーマに教科書に沿って授業を進める。				
到達目標	近代以降のメディアの技術的・社会的展開を理解するともに、メディアを研究対象とする場合の問題設定、分析視角、方法等、メディアへのアプローチの仕方を習得することを目標とする。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	楠田　恵美	【第 1 回】 予習：教科書の目次部分を読んでおく 授業：イントロダクション、メディアとは何か（ディスカッション） 復習：その日の授業内容を振り返る
2	楠田　恵美	【第 2 回】 予習：教科書の該当部分を読んでおく 授業：メディア論とは何か、メディア論の出発点（教科書 第 1 章－1、pp.1-12）（ディスカッション） 復習：その日の授業内容を振り返る
3	楠田　恵美	【第 3 回】 予習：教科書の該当部分を読んでおく 授業：授業：メディア論とは何か、メディア論を読み直す（教科書 第 1 章－2、pp.12-22）（ディスカッション） 復習：その日の授業内容を振り返る
4	楠田　恵美	【第 4 回】 予習：第 1 回～第 3 回までの内容を振り返る 授業：私たちとメディア（グループ発表） 復習：その日の授業内容を振り返る
5	楠田　恵美	【第 5 回】 予習：教科書の該当部分を読んでおく 授業：新しいメディア研究の潮流（教科書 第 2 章、pp.23-44）（ディスカッション） 復習：その日の授業内容を振り返る
6	楠田　恵美	【第 6 回】 予習：教科書の該当部分を読んでおく 授業：写真と撮影のメディア史（教科書 第 3 章、pp.45-70）（ディスカッション） 復習：その日の授業内容を振り返る
7	楠田　恵美	【第 7 回】メディアの物質性・歴史性 予習：教科書の該当部分を読んでおく 授業：映画と投影のメディア史（教科書 第 4 章、pp.71-95）（ディスカッション） 復習：その日の授業内容を振り返る
8	楠田　恵美	【第 8 回】 予習：教科書の該当部分を読んでおく 授業：音楽番組とシンセサイザー（教科書 第 5 章、pp.97-122）（ディスカッション） 復習：その日の授業内容を振り返る
9	楠田　恵美	【第 9 回】 予習：教科書の該当部分を読んでおく 授業：ライブ空間とストリーミング（教科書 第 6 章、pp.123-148）（ディスカッション） 復習：その日の授業内容を振り返る
10	楠田　恵美	【第 10 回】 予習：教科書の該当部分を読んでおく 授業：都市と空間のメディア化（教科書 第 7 章、pp.149-172）（ディスカッション） 復習：その日の授業内容を振り返る
11	楠田　恵美	【第 11 回】 予習：教科書の該当部分を読んでおく 授業：情報都市と大規模再開発（教科書 第 8 章、pp.173-197）（ディスカッション） 復習：その日の授業内容を振り返る

12	楠田　恵美	【第 12 回】 予習：教科書の該当部分を読んでおく 授業：横断的な映像文化の形成（教科書　第 9 章、pp.199-224）（ディスカッション） 復習：その日の授業内容を振り返る
13	楠田　恵美	【第 13 回】 予習：教科書の該当部分を読んでおく 授業：ハリウッドとシリコンバレー（教科書　第 10 章、pp.225-249）（ディスカッション） 復習：その日の授業内容を振り返る
14	楠田　恵美	【第 14 回】研究方法　1-13 予習：教科書の該当部分を読んでおく 授業：移動体通信とデータ主導型社会（教科書　第 11 章、pp.251-277）（ディスカッション） 復習：その日の授業内容を振り返る
15	楠田　恵美	【第 15 回】 予習：教科書の該当部分を読んでおく 授業：感染症と新しい日常（教科書　第 12 章、pp.279-305）（ディスカッション） 復習：その日の授業内容を振り返る

授業開始前学習	テキスト『これからのメディア論』の「はじめに」、「目次」に目を通し、授業内容を概観する。
授業内課題のフィードバックの方法	回収した課題に対しては、授業中または次回授業開始前に採点結果を返却するとともに必要に応じて追加指導を行う。
テキスト・教材	大久保遼『これからのメディア論』（有斐閣）2023 年
参考書	必要に応じて授業中に紹介する。
評価の基準と方法	授業態度 20%、授業内課題 30%、テスト（またはレポート）50%により評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎				○	○		

関連科目	広告と消費社会／広告の研究／映像広告の研究
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	HR-M-121	科目分類（～2024 年入学者）	112-330-12	授業コード	FB0400
科目名称	広告の研究／映像広告の研究			単位数	2.0 単位
英文名称	Advertising and Consumer Society／Advertising Research			授業区分	講義
科目責任者	楠田　恵美			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	楠田　恵美			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	前期　木曜日 13:00～14:30　金曜日 14:40～16:10 後期　木曜日 13:00～14:30　金曜日 14:40～16:10			研究室	10-612
授業概要	消費社会を生きる私たちにとって広告とは何だろうか？授業の前半では、広告をつくり公開する目的、広告の種類、広告のもつ影響力など、広告についての基礎知識を身に付ける。授業の後半では、具体例として新聞広告、雑誌広告、フリーペーパー、インターネット広告等様々な種類の広告を取り上げ、それらを読み解いていくとともに、社会のなかで広告がどのように発信され、受容されているかを明らかにする。				
到達目標	広告を受け身で捉えるのではなく、その背景となる製作プロセス、産業構造、送り手と受け手との関係性などを意識しながら多面的に捉える視点を学び、さらには広告から文化や社会を捉える力を養う。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	○	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	楠田　恵美	【第 1 回】 予習：広告について批判的／親和的な意見をそれぞれ書き出す 授業：イントロダクション／広告とは何か（ディスカッション） 復習：広告とは何かを自分なりに説明できるようにする
2	楠田　恵美	【第 2 回】 予習：広告が社会に及ぼす影響について具体例を書き出す 授業：広告の機能（ディスカッション） 復習：広告がもつ 4 つの機能を確認する
3	楠田　恵美	【第 3 回】 予習：広告にはどのような種類があるかできるだけ多くリストアップする 授業：広告の種類・分類（ディスカッション） 復習：広告の種類や分類を確認する
4	楠田　恵美	【第 4 回】 予習：広告戦略の優れている企業を挙げ、その理由を説明する 授業：広告を用いたビジネスモデル（ディスカッション） 復習：広告戦略の優れている企業の経費全体のうちに占める広告費の割合を調べる
5	楠田　恵美	【第 5 回】 予習：広告会社にはどのような会社があるか調べる 授業：広告の製作（ディスカッション） 復習：広告主と広告会社の関係性・分担を理解する
6	楠田　恵美	【第 6 回】 予習：これからの広告業界に求めるものは何か書き出す 授業：広告産業・業界（ディスカッション） 復習：これからの広告業界の課題について整理する
7	楠田　恵美	【第 7 回】 予習：特になし 授業：映画鑑賞（１）『トゥルーマン・ショー』［課題シートあり］ 復習：課題シートを記入するほか、気づいた点、印象深かった点をメモする
8	楠田　恵美	【第 8 回】 予習：前回までのストーリーでわかりづらかった点や疑問点があれば質問の準備をする 授業：映画鑑賞（２）『トゥルーマン・ショー』［課題シートあり］ 復習：広告という切り口から本映画について論じる
9	楠田　恵美	【第 9 回】 予習：新聞広告の特異性について考える 授業：新聞広告の分析を行う（グループワーク） 復習：授業で取り上げた広告や類似する広告の社会的影響を理解する
10	楠田　恵美	【第 10 回】 予習：雑誌広告の特異性について考える 授業：雑誌広告の分析を行う（グループワーク） 復習：授業で取り上げた広告や類似する広告の社会的影響を理解する
11	楠田　恵美	【第 11 回】 予習：フリーペーパーの特異性について考える 授業：フリーペーパーの分析を行う（グループワーク） 復習：授業で取り上げた広告や類似する広告の社会的影響を理解する

12	楠田　恵美	【第 12 回】 予習：交通・屋外広告の特異性について考える 授業：交通・屋外広告の分析を行う（グループワーク） 復習：授業で取り上げた広告や類似する広告の社会的影響を理解する
13	楠田　恵美	【第 13 回】 予習：インターネット広告の特異性について考える 授業：インターネット広告の分析を行う（グループワーク） 復習：授業で取り上げた広告や類似する広告の社会的影響を理解する
14	楠田　恵美	【第 14 回】 予習：SNS を用いた広告の特異性について考える 授業：SNS 広告の分析を行う（グループワーク） 復習：授業で取り上げた広告や類似する広告の社会的影響を理解する
15	楠田　恵美	【第 15 回】 予習：特定の企業・組織の広告戦略について考える 授業：企業・組織の広告戦略 復習：これまでの授業を振り返り、総合的に広告についての理解を深める

授業開始前学習	意識的に身の回りの広告を見つけ、分析する習慣をつけておく。
授業内課題のフィードバックの方法	回収した課題に対しては、授業中または次回授業開始前に採点結果を返却するとともに必要に応じて追加指導を行う。
テキスト・教材	前半は、波田浩之『新版　広告の基礎』（日本実業出版社）2018 年を適宜参考にしながら授業を進める。 後半は、映画『トゥルーマン・ショー』を鑑賞するとともに個別具体的な広告をパワーポイントで映写・上映、分析する。
参考書	必要に応じて授業中に紹介する。
評価の基準と方法	授業態度 20%、授業内課題 40%、授業評価課題 40%により評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○		

関連科目	メディアと社会／情報社会と人間関係
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	112-330-12（Ｊ）	授業コード	FB0420
科目名称	☆表現活動とﾒﾃﾞｨｱ／表現活動とﾋﾞｼﾞﾈｽ			単位数	2.0 単位
英文名称	Expression Activities and Media／Expression Activities and Business			授業区分	講義
科目責任者	田澤　秀司			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田澤　秀司			開講時期	2･3 年
オフィスアワー	前期　火曜日 09:00～16:00　水曜日 09:00～14:00 後期　火曜日 09:00～16:00　水曜日 09:00～14:00			研究室	10-502
授業概要	【私たちの物語を作る】 かつては専門の技術により表現されてきたものが、デジタルの技術の進歩と普及によって身近なものになった。これからは「表現する」ということには「何を言うか、どう言うか、誰に言うか」という発想や感性が必要になる。表現したい題材を見つけ、それを表現するための土台づくりをする。また、授業では、ディスカッションや発表などのグループワークを行う。				
到達目標	メディアの進歩にともない、新しい価値を生み出すビジネスの現場では、よりいっそう対話型コミュニケーションが必要になってくる。グループで物語を 1 つ作り、紙芝居、絵本の順にコンテンツを展開し、「チームで働く力」を身につける。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	田澤　秀司	【第 1 回】 予習　：コマーシャルメッセージについて調べる 授業　：「映像を読む（ポスター、テレビコマーシャルなど）」 復習　：「映像を読む」についてレポートを書く
2	田澤　秀司	【第 2 回】 予習　：表現（作品）のジャンルについて調べる 授業　：「表現の現場（マンガとコンテ、ゲーム制作など）」 復習　：「表現の現場」についてレポートを書く
3	田澤　秀司	【第 3 回】 予習　：設定したテーマでイメージを表現する 授業　：「表現の技術（イメージ、記号化、メッセージなど）」 復習　：「表現の技術」についてレポートを書く
4	田澤　秀司	【第 4 回】 予習　：紙芝居を読む 授業　：紙芝居「紙芝居の読み方」（ディスカッション） 復習　：もう一度、紙芝居を読む
5	田澤　秀司	【第 5 回】 予習　：ストーリーを作る 授業　：紙芝居「紙芝居の作り方」（ディスカッション） 復習　：ストーリーを決める
6	田澤　秀司	【第 6 回】 予習　：ページ構成を考える 授業　：紙芝居「アイデアの出し方」（ディスカッション） 復習　：ページ構成を決める
7	田澤　秀司	【第 7 回】 予習　：紙芝居を作る 授業　：紙芝居「画面の作り方」（ディスカッション） 復習　：レイアウトを決める
8	田澤　秀司	【第 8 回】 予習　：紙芝居を仕上げる 授業　：発表「紙芝居のまとめ方」（ディスカッション） 復習　：紙芝居を校正する
9	田澤　秀司	【第 9 回】 予習　：紙芝居を読む 授業　：発表「紙芝居を演じる」（発表） 復習　：紙芝居を装丁する
10	田澤　秀司	【第 10 回】 予習　：絵本を読む 授業　：絵本「絵本の読み方」 復習　：もう一度、絵本を読む
11	田澤　秀司	【第 11 回】 予習　：ストーリーを作る 授業　：絵本「絵本の作り方」 復習　：ストーリーを決める

12	田澤　秀司	【第 12 回】 予習　：ページ構成を考える 授業　：絵本「アイデアの出し方」 復習　：ページ構成を決める
13	田澤　秀司	【第 13 回】 予習　：絵本を作る 授業　：絵本「画面の作り方」 復習　：レイアウトを決める
14	田澤　秀司	【第 14 回】 予習　：絵本を仕上げる 授業　：発表「絵本のまとめ方」 復習　：絵本を校正する
15	田澤　秀司	【第 15 回】 予習　：絵本を読む 授業　：発表「絵本を読み聞かせる」（発表） 復習　：絵本を装丁する

授業開始前学習	ニュースなどで日々の出来事を確認しておくと、授業が理解しやすい。
授業内課題のフィードバックの方法	グループディスカッションで個別に回答し、プレゼンテーションで総括する。
テキスト・教材	授業で適宜、配布する。
参考書	授業で適宜、紹介する。
評価の基準と方法	配点は、予習・復習などの平常点 60 点、課題 40 点の配分とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△	○	◎		○	

関連科目	前期の「企画と表現」を学ぶことで、「考え抜く力、チームで働く力」がバランスよく身につく。
その他	課題学習（予習・復習）については、各回の授業の後半に具体的な例を提示する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	幼児向け月刊誌 10 誌の編集責任者、教材の開発者として数多くの人とかかわり、さまざまな商品を担当してきた経験と、その過程で得た資料をもとに、「社会で求められる力」を「出版“で”教育する」という取り組みを実践している。

科目分類（2025 年～入学者）	HR-M-131 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	112-330-12 （Ｊ）	授業コード	FB0430
科目名称	☆文化人類学			単位数	2.0 単位
英文名称	Anthropology			授業区分	講義
科目責任者	春日　聡			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	春日　聡			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	文化人類学は、私たちが現在暮らしている社会、人々、共同体、家族、社会構造などの比較を通して、自文化を再考することで固定的な考え方を相対化し、人間の本質を考えていく学問である。 本講義では、文献資料や静止画像（写真）からでは捉えることのできない「連続した時間の体験としての映像」によって、文化人類学の研究対象である「見えないもの」「聞こえないもの」について考える。一例を挙げると、映像は、時間も空間もいま・ここから隔たったものを映し出す。昔撮影された映像は、過去に見えていたものを現在ふたたび見えるようにする。現在見えているものは、やがて見えなくなる可能性がある。映像は、現在を残し、未来にふたたび見ることができるのだ。もう一例を挙げると、文化人類学の研究対象としている宗教儀礼は、神仏霊の存在を中心に置いて行われる。あなたは、カミを見たことがあるだろうか？同じく研究対象にしている年中行事では、容易には目で捉えることのできない自然の変化の中にカミと人間との接点を見出していく。本講義では、おもに「文化人類学における儀礼」に焦点を絞り映像を通して多角的に考察する。				
到達目標	「文化」を、その文化の枠組みで考えること、文化の諸要素の相互関係を重視し全体的にとらえる態度を養うこと、文化の違いをとおして自らの立ち位置を検証できることを、到達目標とする。 すなわち、①イーミック（人々が現象をどう意識・識別しているかを内側から分析すること）な思考能力、②全体論的な思考能力、③文化の相対的な思考能力、以上の 3 点を身につける。 具体的には、おもに儀礼を対象とした映像によって映し出された「自文化」と「異文化」の比較、あるいは、事象の異質性と、背景に潜む普遍性を理解し、語ることができる能力				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	春日　聡	【第 1 回】 予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「文化人類学」 授業：イントロダクション「人間と文化」 復習：授業内配付レジュメ・講義内容の見直し、リアクションペーパーの提出
2	春日　聡	【第 2 回】 予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「ジョン・マーシャル、チャールズ＆レイ・イームズ」 授業：ここではないどこか「映像とは何か、民俗誌とは何か」 復習：授業内配付レジュメ・講義内容の見直し、リアクションペーパーの提出
3	春日　聡	【第 3 回】 予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「サイレント、トーキー」 授業：映像史を映像で学ぶ「動く画、シンクロする音」 復習：授業内配付レジュメ・講義内容の見直し、リアクションペーパーの提出
4	春日　聡	【第 4 回】 予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「日本の神々、一神教、多神教」 授業：日本列島における信仰「神仏習合」 復習：授業内配付レジュメ・講義内容の見直し、リアクションペーパーの提出
5	春日　聡	【第 5 回】 予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「遠藤周作／マーティン・スコセッシ『沈黙』」 授業：日本列島における信仰「キリスト教の受容」 復習：授業内配付レジュメ・講義内容の見直し、リアクションペーパーの提出
6	春日　聡	【第 6 回】 予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「年中行事」 授業：暦・記念的儀礼「農耕儀礼」～日本列島の民俗文化を中心に～・前 復習：授業内配付レジュメ・講義内容の見直し、リアクションペーパーの提出
7	春日　聡	【第 7 回】 予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「年中行事」 授業：暦・記念的儀礼「農耕儀礼」～日本列島の民俗文化を中心に～・後 復習：授業内配付レジュメ・講義内容の見直し、リアクションペーパーの提出
8	春日　聡	【第 8 回】 予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「人生儀礼」 授業：人生における段階「通過儀礼」 復習：授業内配付レジュメ・講義内容の見直し、リアクションペーパーの提出
9	春日　聡	【第 9 回】 予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「婚姻儀礼」 授業：人生における段階「婚姻儀礼」～日本列島の民俗文化を中心に～ 復習：授業内配付レジュメ・講義内容の見直し、リアクションペーパーの提出

10	春日　聡	【第 10 回】 予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「死者儀礼」 授業：人生における段階「葬送儀礼」「送魂儀礼」・前 復習：授業内配付レジュメ・講義内容の見直し、リアクションペーパーの提出
11	春日　聡	【第 11 回】 予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「死者儀礼」 授業：人生における段階「葬送儀礼」「送魂儀礼」・後 復習：授業内配付レジュメ・講義内容の見直し、リアクションペーパーの提出
12	春日　聡	【第 12 回】 予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「シャーマニズム」 授業：治癒と公益の儀礼「シャーマニズム」・前 復習：授業内配付レジュメ・講義内容の見直し、リアクションペーパーの提出
13	春日　聡	【第 13 回】 予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「無意識と創造性」 授業：治癒と公益の儀礼「シャーマニズム」・後 復習：授業内配付レジュメ・講義内容の見直し、リアクションペーパーの提出
14	春日　聡	【第 14 回】 予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「宗教と世界観」 授業：宗教と世界観・前 復習：授業内配付レジュメ・講義内容の見直し、リアクションペーパーの提出
15	春日　聡	【第 15 回】 予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「トランスナショナル時代における宗教と世界観」 授業：宗教と世界観・後 復習：授業内配付レジュメ・講義内容の見直し、期末レポートの提出

授業開始前学習	日常生活で現実的に出会う「異文化」や、テレビやインターネットなどのメディアを通して、自分とは異なる文化、習慣などに気づいたら、メモを取り、そのことについて考えておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	本講義では、Google Classroom を利用し、（1）講義レジュメの各自への配付、（2）講義を受講した後、次回授業前日までに提出するリアクションペーパーの配付と提出、（3）講義で視聴する視聴覚資料の共有、以上をおこなう。提出されたリアクションペーパーの内容による適宜見直しをおこなう。また、必要に応じ記述内容を適宜、講義内で紹介してコメントする。
テキスト・教材	毎回、講義レジュメ（掲示スライドのプリントアウト）を配付する。市販の書籍を教科書としては使用しない。参考資料（文献・Web サイト等）は、適宜配付レジュメに明記する。
参考書	綾部恒雄・桑山敬己『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房 2006 同『詳論 文化人類学 基本と最新のトピックを深く学ぶ』ミネルヴァ書房 2018 祖父江孝男『文化人類学入門 ＜増補改訂版 ＞』中央公論新社（中公新書 ）1990 波平恵美子『文化人類学 ＜カレッジ版 ＞』第２版医学書院 2002
評価の基準と方法	期末レポート(50%)、講義ごとに提出するリアクションペーパー(30%)、受講態度(20%)。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎		○		○			
関連科目								

その他	・講義資料として映像・音声資料を豊富に提示する。批判的に読み解いて欲しい。 ・受講者数や理解度により授業の予定を変更することもある。 ・授業開始時にカードリーダによる出席登録だけで退室することは厳禁。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	担当教員は、フィールドワークに基づく民族誌映画の制作者である。映像と人間の関係および、映像と文化人類学の理論と実践における課題、可能性について講義する。

科目分類（2025 年～入学者）	HR-M-121	科目分類（～2024 年入学者）	112-330-12	授業コード	FB0440
科目名称	社会学研究Ⅰ／文化社会学Ⅰ			単位数	2.0 単位
英文名称	Gender Studies／Sociological Research Ⅰ／Cultural Sociology Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	長野　慎一			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	長野　慎一			開講時期	2･3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	本講義は、近代以降の日本社会を対象地域として、ジェンダーに関わる現象を実証的、かつ、理論的に解説する。講義全体は主に３つの議論からなる。（１）性別分業社会が女性に対して強いる不平等・不自由の実態、（２）そのような状況をただす社会運動や公共政策の実態、（３）これらの実態を批判的に分析するための理論である。 聞きなれない用語などがあるかもしれませんが、かみ砕いて解説します。皆さんは、「女性だから〇〇するのは『当たり前』だ」という物言いに対して、「本当かな？」と感じて生きることができている世代だと思います。ジェンダー研究は、その「当たり前」が、個々の女性の意思を二の次にして、「社会の都合」によって生み出されてきたことを批判的に考える分野です。この講義では、どのように「当たり前」がつくられてきたか、そして、今、「当たり前」がどう修正されつつあるかを学んでいきます。そのことによって皆さんが感じているであろうことについて学問的な裏付けをしていきます。 皆さんは、ジェンダーに関連して、自らが解明したい現象や取り組みたい実践を常に意識してください。それが講義が受講者にとって有意義になるために必要です。授業では、Gooogle Classroom で予めレジュメを配布するので、それを読んで予習して授業に臨んでください。授業後には、小レポを作成し、Google Classroom で提出をしていただきたいと思います。				
到達目標	・ジェンダー・セクシュアリティに関する具体的現象を事実に即して理解し、その理解を表現できる。 ・ジェンダー・セクシュアリティに関する社会学的視点（理論や方法論）を活用して、具体的現象について理解し、その理解を表現できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	長野　慎一	【第１回】 予習：シラバスを読む 授業：授業全体の流れを説明する。ジェンダー・セクシュアリティに関連して、学問において自らが解明したい現象、学問を生かしたい実践を考える。 復習：授業で何を学びたいか文章化してみる。
2	長野　慎一	【第２回】 予習：予め配信したレジュメを読んでおく。レジュメは端末に DL するか、自分で印刷するかして、各自授業にもってきてください。 授業：ジェンダーとしてのセックス：バトラーの理論をもとに、生物学的必然と思われているものが文化・社会的に作られている側面があるということを理解する 復習：授業内容を振り返り、レジュメをもういちど読み、授業内で提示された演習課題について、小レポートを作成する。
3	長野　慎一	【第３回】 予習：家族・親族に焦点を当て、「○○らしさ（男らしさ／女らしさ）」にまつわるエピソードをまとめてくる。 授業：「らしさ」がいかにつくられているかに関して意見交換を行い、家族・親族のあり方にどのような社会規範や社会制度のあり方が反映されているか皆で議論する 復習：授業の討論を踏まえ、自らがまとめたエピソードについて、客観的に分析する。小レポートとして提出する。
4	長野　慎一	【第４回】 予習：労働（職場）に焦点を当て、「○○らしさ（男らしさ／女らしさ）」にまつわるエピソードをまとめてくる。 授業：「らしさ」がいかにつくられているかに関して意見交換を行い、労働（職場）のあり方にどのような社会規範や社会制度のあり方が反映されているか皆で議論する 復習：授業の討論を踏まえ、自らがまとめたエピソードについて、客観的に分析する。小レポートとして提出する。
5	長野　慎一	【第５回】 予習：予め配信したレジュメを読んでおく。レジュメは端末に DL するか、自分で印刷するかして、各自授業にもってきてください。 授業：家族と職域（１）：高度経済成長期にいかに昭和型の性別分業が職場と家族に成立したかを理解する。 復習：授業内容を振り返り、レジュメをもういちど読み、授業内で提示された演習課題について、小レポートを作成する
6	長野慎一	【第６回】 予習：予め配信したレジュメを読んでおく。レジュメは端末に DL するか、自分で印刷するかして、各自授業にもってきてください。 授業：性別分業に抗った女性たち：住友電工訴訟を例に、性別分業が当たり前の時代に職業生活を始めた女性がいかに職域での平等を求めて闘ったかを、理解する。 復習：授業内容を振り返り、レジュメをもういちど読み、授業内で提示された演習課題について、小レポートを作成する
7	長野　慎一	【第７回】 予習：予め配信したレジュメを読んでおく。レジュメは端末に DL するか、自分で印刷するかして、各自授業にもってきてください。 授業：家族と職域（2）：「男女雇用機会均等法」「育児介護休業法」「男女共同参画基本法」などの成立に並行して、家族、教育、職場などにおいて、いかに「ポスト性別分業型の社会」が出現しつつあるかを理解する。 復習：授業内容を振り返り、レジュメをもういちど読み、授業内で提示された演習課題について、小レポートを作成する。

8	長野　慎一	【第 8 回】 予習：予め配信したレジュメを読んでおく。レジュメは端末に DL するか、自分で印刷するかして、各自授業にもってきてください。 授業：ケア・ワーク（１）：現代社会においてもなおケア・ワーク（家族によるもの、社会によるものを問わず）の分担がいかに女性に偏っているかを確認する。 復習：授業内容を振り返り、レジュメをもういちど読み、授業内で提示された演習課題について、小レポートを作成する
9	長野　慎一	【第 9 回】 予習：予め配信したレジュメを読んでおく。レジュメは端末に DL するか、自分で印刷するかして、各自授業にもってきてください。 授業：ケア・ワーク（２）：ケア・ワークに対する公的支援体制（国・自治体による）を理解し、それがない社会を想像し、そのような社会について自ら考える 復習：授業内容を振り返り、レジュメをもういちど読み、授業内で提示された演習課題について、小レポートを作成する
10	長野　慎一	【第 10 回】 予習：予め配信したレジュメを読んでおく。レジュメは端末に DL するか、自分で印刷するかして、各自授業にもってきてください。 授業：理論（１）、マルクス主義フェミニズムの視点：家族内のケア・ワークを、「無償」で「女性」に行わせる社会のあり様を「搾取」として批判する視点を理解する。 復習：授業内容を振り返り、レジュメをもういちど読み、授業内で提示された演習課題について、小レポートを作成する
11	長野　慎一	【第 11 回】 予習：予め配信したレジュメを読んでおく。レジュメは端末に DL するか、自分で印刷するかして、各自授業にもってきてください。 授業：理論（２）、ケア・フェミニズム：子ども、障がい者、高齢者などの必然的に誰かに依存させざるえない人のケアをする人に対して、社会的支援をおこなうべきことを、主張する政治・法哲学の議論を理解する。 復習：授業内容を振り返り、レジュメをもういちど読み、授業内で提示された演習課題について、小レポートを作成する
12	長野　慎一	【第 12 回】 予習：バトラーのいう「ジェンダーとしてのセックス」と「ケア・フェミニズム」のレジュメを再度読んでおく。「ケア」という行為をもっぱら「女性」が行うべき必然性があるのか否かを自分なりに考え、文章化しておく。 授業：皆で意見を交換し、ケアの女性への社会により割り振りの妥当性について議論を行う 復習：授業での討論を振り返り、自分の考えを再吟味する。それを小レポートにする。
13	長野　慎一	【第 13 回】 予習：予め配信したレジュメを読んでおく。レジュメは端末に DL するか、自分で印刷するかして、各自授業にもってきてください。 授業：女性とセクシュアリティ（１）、リプロダクティヴ・ヘルス：妊娠という現象に潜む、女性の身体に対する社会的管理のあり様を学ぶ。 復習：授業内容を振り返り、レジュメをもういちど読み、授業内で提示された演習課題について、小レポートを作成する
14	長野　慎一	【第 14 回】 予習：予め配信したレジュメを読んでおく。レジュメは端末に DL するか、自分で印刷するかして、各自授業にもってきてください。 授業：女性とセクシュアリティ（２）、DV：親密な関係が形成される場で生じる暴力とジェンダーとの関係を理解する 復習：授業内容を振り返り、レジュメをもういちど読み、授業内で提示された演習課題について、小レポートを作成する
15	長野　慎一	【第 15 回】 予習：これまでに配布したレジュメを読んでおく 授業：期末テストとテストの解説 復習：テストの解答内容について自ら振り返る（提出物はなし）

授業開始前学習	レジュメを読む。必要に応じて文献を配るのでそれを読む。
授業内課題のフィードバックの方法	①授業内でリアクションペーパーを書いてもらう。それに対してその場でコメントを行う。 ②授業後に、小レポートを Google Classroom で提出してもらう。それについて次回の授業でコメントを行う。
テキスト・教材	なし。
参考書	配布するレジュメで指示。
評価の基準と方法	①期末テスト（100 点）　②小レポは期末テストに最大 20 点まで加点する。期末テストと小レポの素点の合計が 101 点を超えた段階で 100 点扱い。 ③単位取得には 3 分の 2 以上の出席が必要。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		○	◎	○		

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）	HR-M-221	科目分類（～2024年入学者）	112-330-12	授業コード	FB0450
科目名称	社会学研究Ⅱ／文化社会学Ⅱ			単位数	2.0単位
英文名称	Sociological Research／Sociological ResearchⅡ／Cultural SociologyⅡ			授業区分	講義
科目責任者	長野　慎一			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	長野　慎一			開講時期	2･3年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	本講義で主に扱う性的マイノリティに関する具体的事実とそれを読解するための社会理論を扱う。講義全体は主に３つの議論からなる。（１）いわゆる「同性愛」に関する議論、（２）いわゆる「トランスジェンダー」に関する議論、（３）これらを理解するための理論である。 聞きなれない用語などがあるかもしれませんが、かみ砕いて解説します。今日、性的指向や性自認という言葉は、日常生活の中に入り込むようになっていると思います。LGBTQ＋の人々の姿をメディアを通じて接する機会も増えたのではないでしょうか。そのような状況にかかわらず、今なお、性的マイノリティの暮らしはマジョリティの暮らしと比べ、幾多の社会的障壁に晒されていいます。この講義では、性自認や性的指向の点で、マイノリティに属する人々の暮らしがどのように営まれてきたか（営まれているか）、今、それがどのように変容しつつあるのかを理解してもらうことを目指しています。 皆さんは、性的マイノリティに関連して、自らが解明したい現象や取り組みたい実践を常に意識してください。それが講義が受講者にとって有意義になるために必要です。授業では、Goooogle Classroom で予めレジュメを配布するので、それを読んで予習して授業に臨んでください。授業後には、小レポを作成し、Google Classroom で提出をしていただきたいと思います。				
到達目標	・性的マイノリティに関する具体的現象を事実に即して理解し、それを表現できる。 ・性的マイノリティに関する社会学的視点（理論）を活用して、具体的現象について理解し、それを表現できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	長野　慎一	【第１回】 予習：シラバスを読む 授業：授業全体の流れを説明する。性的マイノリティに関連して、学問において自らが解明したい現象、学問を生かしたい実践を考える。 復習：授業で何を学びたいか文章化してみる。
2	長野　慎一	【第２回】 予習：予め配信したレジュメを読んでおく。レジュメは端末に DL するか、自分で印刷するかして、各自授業にもってきてください。 授業：性的マイノリティ（1）、「病理化」：日本社会では、「性的マイノリティ」を「病理」とみなす近代的言説はどのようなものとして成立し、どう変容してきたのか。 復習：授業内容を振り返り、レジュメをもういちど読み、授業内で提示された演習課題について、小レポートを作成する。
3	長野　慎一	【第３回】 予習：予め配信したレジュメを読んでおく。レジュメは端末に DL するか、自分で印刷するかして、各自授業にもってきてください。 授業：性的マイノリティ（２）、新宿二丁目：地域社会から排除された性的マイノリティはどのように「街」をつくっていたか。その「街」がもつ社会的・歴史的意義とは何か。 復習：授業内容を振り返り、レジュメをもういちど読み、授業内で提示された演習課題について、小レポートを作成する
4	長野　慎一	【第４回】 予習：予め配信したレジュメを読んでおく。レジュメは端末に DL するか、自分で印刷するかして、各自授業にもってきてください。 授業：性的マイノリティ（３）、「府中青年の家」事件：「同性愛」に対する社会的差別に対してカミングアウトという実践を通じて同性愛の人々はいかに対抗したのか。 復習：授業内容を振り返り、レジュメをもういちど読み、授業内で提示された演習課題について、小レポートを作成するかに立ち上がったか。
5	長野　慎一	【第５回】 予習：予め配信したレジュメを読んでおく。レジュメは端末に DL するか、自分で印刷するかして、各自授業にもってきてください。 授業：性的マイノリティ（4）、LGBTQ＋の人々によるパレード： どのような目標をかかげなぜパレードが行われるのか、その社会的意味とは何か。 復習：授業内容を振り返り、レジュメをもういちど読み、授業内で提示された演習課題について、小レポートを作成する。
6	長野　慎一	【第６回】 予習：予め配信したレジュメを読んでおく。レジュメは端末に DL するか、自分で印刷するかして、各自授業にもってきてください。 授業：性的マイノリティ（５）、同性婚：「結婚の自由をすべての人に」訴訟の概要を理解する。 復習：授業内容を振り返り、レジュメをもういちど読み、授業内で提示された演習課題について、小レポートを作成する。
7	長野　慎一	【第７回】 予習：予め配信したレジュメを読んでおく。レジュメは端末に DL するか、自分で印刷するかして、各自授業にもってきてください。 授業：性的マイノリティ（６）、同性婚：「結婚の自由をすべての人に」訴訟の原告の意見陳述書について意見交換を行

		い、原告の生き方が既存の法制度に提起している課題について議論する。 復習：授業内容を振り返り、レジュメをもういちど読み、授業内で提示された演習課題について、小レポートを作成する
8	長野　慎一	【第 8 回】 予習：予め配信したレジュメを読んでおく。レジュメは端末に DL するか、自分で印刷するかして、各自授業にもってきてください。 授業：性的マイノリティ（７）、空間利用とトランスジェンダー：トイレ問題を例にトランスジェンダーの人々がどのような社会的にいかに不安定な位地に置かれているかを理解する。 復習：授業内容を振り返り、レジュメをもういちど読み、授業内で提示された演習課題について、小レポートを作成する
9	長野　慎一	【第 9 回】 予習：予め配信したレジュメを読んでおく。レジュメは端末に DL するか、自分で印刷するかして、各自授業にもってきてください。 授業：性的マイノリティ（８）、リプロダクティブ・ヘルスとトランスジェンダー：「性同一性障害者の性別の取扱いの特例に関する法律」の不妊化要件はなぜ違憲判断がくだされたのか。 復習：授業内容を振り返り、レジュメをもういちど読み、授業内で提示された演習課題について、小レポートを作成する。
10	長野　慎一	【第 10 回】 予習：性的マイノリティに関するテーマで自分にとって最も興味深かったものは何か、その理由は何か、どう関心をもったかに関してメモを作成してくる。 授業：小括（１）：性的マイにリティが置かれているいる立場とその変容について意見を共有する 復習：意見交換の内容を振り返り、授業前に自ら考えていたことについて再吟味する。
11	長野　慎一	【第 11 回】 予習：予め配信したレジュメを読んでおく。レジュメは端末に DL するか、自分で印刷するかして、各自授業にもってきてください。 授業：理論（１）、フーコーの生-権力論：科学的言説を通じたセクシュアリティの管理のもとでいかに「服従する主体」として人が生まれるかを理解する。 復習：授業内容を振り返り、レジュメをもういちど読み、授業内で提示された演習課題について、小レポートを作成する
12	長野　慎一	【第 12 回】 予習：予め配信したレジュメを読んでおく。レジュメは端末に DL するか、自分で印刷するかして、各自授業にもってきてください。 授業：理論（２）、バトラーのジェンダー概念：差別的なセックス概念がいかにジェンダー（文化的・社会的なもの）の結果として生み出されるかを説明する議論を理解する。 復習：授業内容を振り返り、レジュメをもういちど読み、授業内で提示された演習課題について、小レポートを作成する
13	長野　慎一	【第 13 回】 予習：予め配信したレジュメを読んでおく。レジュメは端末に DL するか、自分で印刷するかして、各自授業にもってきてください。 授業：理論（３）、コーネルのイマジナリーな領域：身体把握や身体に関する選択に関して本来付与されるべき自由とはいかなるものかを理解する。 復習：授業内容を振り返り、レジュメをもういちど読み、授業内で提示された演習課題について、小レポートを作成する
14	長野　慎一	【第 14 回】 予習：自分が関心をもった理論（フーコー、バトラー、コーネルのいずれでもよい）をもとに性的マイにリティが置かれているいる状況について分析 授業：小括（２）：自分が関心をもった理論をもとに性的マイにリティが置かれているいる状況について意見交換を行う 復習：意見交換の内容を振り返り、授業前に自ら考えていたことについて再吟味する。
15	長野　慎一	【第 15 回】 予習：これまでに配布したレジュメを読んでおく 授業：期末テストとテストの解説 復習：テストの解答内容について自ら振り返る（提出物はなし）

授業開始前学習	レジュメを読む。必要に応じて文献を配るのでそれを読む。
授業内課題のフィードバックの方法	①授業内でリアクションペーパーを書いてもらう。それに対してその場でコメントを行う。 ②授業後に、小レポートを Google Classroom で提出してもらう。それについて次回の授業でコメントを行う。
テキスト・教材	なし。
参考書	配布するレジュメで指示。
評価の基準と方法	①期末テスト（100 点）　②小レポは期末テストに最大 20 点まで加点する。期末テストと小レポの素点の合計が 101 点を超えた段階で 100 点扱い。 ③単位取得には 3 分の 2 以上の出席が必要。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			◎	○		

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	HR-M-231	科目分類（～2024 年入学者）	112-330-12	授業コード	FB0460
科目名称	家族と現代社会			単位数	2.0 単位
英文名称	Family and Contemporary Society			授業区分	講義
科目責任者	野嵜　由利			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	野嵜　由利			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	私たちは「家族」を語るとき、自らの経験値から近視眼的に、あるいは固定観念で語りがちである。一方で、現代社会における家族は個別であり、多様であり、流動的でもある。そのような現代家族の諸相を俯瞰的に見ることができるように、先行研究や関連する法律等を参照し、客観的データで実態を共有し、新聞記事等から具体例を引いて、講義内での議論を通して考えていく。また、学生が講義内で発表する機会も設ける				
到達目標	現代社会における家族のテーマは、職業上においても、私生活においても重要な課題となることがある。この講義を通して学ぶことにより、家族に関わるテーマに対し客観的な態度で批判し、分析し、考察し、ひいては課題解決の糸口を見つける力を身につける				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	野嵜　由利	【第 1 回】 予習：シラバスをよく読んで、全体像をつかむ 授業：「暮らしと家族の位置づけ」自らの暮らしを通して生活行動全体を俯瞰する 復習：講義内容を振り返り、自分の考えをノートにまとめる
2	野嵜　由利	【第 2 回】 予習：可能な範囲で自分の家族・親戚の範囲を調べる 授業：「家族とは何か」自らの家族関係を通して家族とは何か考える 復習：講義内容を振り返り、自分の考えをノートにまとめる
3	野嵜　由利	【第 3 回】 予習：自分の家族にどのような役割を期待しているか考える 授業：家族を読み解く視点①「家族の役割」家族の役割表を作る 復習：講義内容を振り返り、自分の考えをノートにまとめる
4	野嵜　由利	【第 4 回】 予習：「いえ（家）制度」とは何か検索して調べる 授業：家族を読み解く視点②「時代と社会」 復習：講義内容を振り返り、自分の考えをノートにまとめる
5	野嵜　由利	【第 5 回】 予習：日本国憲法の中で家族に関する条文を調べる 授業：家族を読み解く視点③「家族に関わる法律」 復習：講義内容を振り返り、自分の考えをノートにまとめる
6	野嵜　由利	【第 6 回】 予習：「ライフコース」について検索して調べる 授業：家族を読み解く視点④「ライフコース」 復習：講義内容を振り返り、自分の考えをノートにまとめる
7	野嵜　由利	【第 7 回】 予習：「エンゲル係数」について検索して調べる 授業：家族を読み解く視点⑤「家庭経済」 復習：講義内容を振り返り、自分の考えをノートにまとめる
8	野嵜　由利	【第 8 回】 予習：「ストレス」の定義について検索して調べる 授業：家族を読み解く視点⑥「家族ストレス」 復習：講義内容を振り返り、自分の考えをノートにまとめる
9	野嵜　由利	【第 9 回】 予習：居住地の自治体 HP で「婚姻届」について調べる 授業：現代家族が抱える課題①「結婚、離婚、ワークライフバランス」 復習：講義内容を振り返り、自分の考えをノートにまとめる
10	野嵜　由利	【第 10 回】 予習：出産の費用について検索して調べる 授業：現代家族が抱える課題②「出産、子育て、若もの」 復習：講義内容を振り返り、自分の考えをノートにまとめる
11	野嵜　由利	【第 11 回】 予習：居住地の自治体の 65 歳以上人口の割合について調べる 授業：現代家族が抱える課題③ 「超高齢社会」 復習：講義内容を振り返り、自分の考えをノートにまとめる

12	野嵜　由利	【第 12 回】 予習：「貧困線」について検索して調べる 授業：現代家族が抱える課題④「貧困」 復習：講義内容を振り返り、自分の考えをノートにまとめる
13	野嵜　由利	【第 13 回】 予習：「虐待」の定義について検索して調べる 授業：現代家族が抱える課題⑤「虐待」 復習：講義内容を振り返り、自分の考えをノートにまとめる
14	野嵜　由利	【第 14 回】 予習：現代の葬儀の種類について検索して調べる 授業：現代家族が抱える課題⑥「家族の死と信仰」 復習：講義内容を振り返り、自分の考えをノートにまとめる
15	野嵜　由利	【第 15 回】 予習：「医療保険」と「傷害保険」の違いについて検索して調べる 授業：現代家族が抱える課題⑦「家族とセーフティネットワーク」 復習：講義内容を振り返り、自分の考えをノートにまとめる

授業開始前学習	ニュース、新聞記事、小説（web 小説）、コミック、アニメ、TV ドラマ、映画など、これまでに見聞きしたものから、「家族」がどのように描かれていたかを思い出してメモに残してください。講義内で、その家族例を他の学生と共有することで理解の幅を広げます
授業内課題のフィードバックの方法	授業終了時にワークシートを提出してもらい、次回の授業で講評、返却、質問に答える
テキスト・教材	適宜、講義内で配布する
参考書	日本家政学会編『現代家族を読み解く 12 章』（丸善出版） キム・ジヘ著『家族、この不条理な脚本』（大月書店）
評価の基準と方法	講義内でのワークシート提出（30%）、議論・発表への積極的参加（10%）、最終試験（60%）で行う。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○		

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	HR-M-131 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	112-330-12 （Ｊ）	授業コード	FB0470
科目名称	環境問題と市民			単位数	2.0 単位
英文名称	Sustainability Theory／Environmental issues and citizens			授業区分	講義
科目責任者	浅岡　みどり			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	浅岡　みどり			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	私たちの豊かな暮らしは、自然生態系の破壊と表裏一体です。近年の気候変動の加速は自然災害を多発、激甚化させ、私たちの生活を脅かしています。この先、自然と人間は共生していけるのでしょうか？本講義では、この問いを念頭に置きながら、身近な日常生活に見え隠れする環境問題を深掘りし、持続可能な社会を築いていくための想像力を養います。まず、環境とは何か、身近な環境問題には何があるかを考えます。次に地球環境問題や公害問題、自然災害、グローバルな食や農が抱える問題について知り、その対策として自然保護運動、環境教育、公害問題に関わる住民運動、食農教育などの市民活動・地域活動の事例とその課題を見ていきます。それらの社会の動きを参考に、消費者の立場から衣・食・住に潜む環境問題と持続可能性の課題を再発見し、身近な農業・地域・自然の課題として捉え直します。これら全講義を通して、環境問題やサステナビリティの課題について考え、その解決法を受講者とともに模索していきます。					
到達目標	環境問題をグローバルな視野を持ちつつローカルの視点で、一市民として、また自分事として捉える洞察力を鍛え身につけることが、本講義の到達目標となります。 ・環境問題を多角的に捉えられるようになる ・自らの持続可能性の課題に気づく ・消費者の立場から、生産者やそれを取り巻く自然環境への想像力を養う ・様々な市民活動から学び、自らの日常実践のヒントにする				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	浅岡　みどり	【第 1 回】 予習：身近な環境問題とは何か、自分の課題として何があげられるか考えてくる 授業：イントロダクション－本講義の方向性とねらい－ 復習：　本講義の環境問題へのアプローチの方法について復習しておく
2	浅岡　みどり	【第 2 回】 予習：身近な環境問題の解決方法にどのようなものがあるか調べておく 授業：環境とは何か？環境問題とは何か？その解決法について 復習：自分の課題として捉える環境問題の解決方法の可能性を考える
3	浅岡　みどり	【第 3 回】 予習：地球環境問題とは何か調べてくる 授業：地球環境問題と持続可能性（サステナビリティ） 復習：自分にとって持続可能性とは何か考え、地球環境問題とのかかわりを考える
4	浅岡　みどり	【第 4 回】 予習：公害が人々や地域に与えた影響について調べておく 授業：公害問題と住民運動・農家の試み 復習：公害について知り、公害問題に対する住民運動とその地域の人々の農業を通じた試みについて理解を深めておく
5	浅岡　みどり	【第 5 回】 予習：自然保護運動・環境教育・自然を生かしたビジネスにはそれぞれどのようなものがあるか調べておく 授業：自然保護運動・環境教育・自然を生かしたビジネス 復習：授業で扱った自然保護運動・環境教育の歴史的な流れ、自然を利用したビジネスの可能性について理解を深めておく
6	浅岡　みどり	【第 6 回】 予習：消費と環境問題の関係について調べておく 授業：消費と環境問題 復習：授業で扱った環境教育・市民教育について理解を深めておく
7	浅岡　みどり	【第 7 回】 予習：環境問題として考えられる食について調べておく 授業：食から考える環境問題 復習：食からみる環境問題を社会学的に捉えてみる

8	浅岡　みどり	【第 8 回】 予習：環境問題として考えられるファッションについて調べておく 授業：ファッションから考える環境問題 復習：ファッションからみる環境問題を社会学的に捉えてみる
9	浅岡　みどり	【第 9 回】 予習：環境問題として考えられる住環境について調べておく 授業：住環境から考える環境問題 復習：住環境からみる環境問題を社会学的に捉えてみる
10	浅岡　みどり	【第 10 回】 予習：伝統野菜、遺伝子組み換え種子、ゲノム編集の違いを調べておく 授業：伝統野菜の種と遺伝子組み換え種子・ゲノム編集 復習：農業の歴史と伝統野菜の種、遺伝子組み換え種子・ゲノム編集の現代的課題について復習しておく
11	浅岡　みどり	【第 11 回】 予習：グローバルフードシステムとは何か、またその課題を調べておく 授業：グローバルフードシステムと格差－ファーストフードからオーガニック・フェアトレードまで－ 復習：食をめぐる国際格差、経済格差、人種差について理解を深めておく
12	浅岡　みどり	【第 12 回】 予習：農業が及ぼす環境問題と持続不可能性について調べておく 授業：オルタナティブな農業とアグロエコロジー 復習：アグロエコロジーとはどういう試みか整理しておく
13	浅岡　みどり	【第 13 回】 予習：地域の食と農の試みについて調べておく 授業：学校給食と食農菜園教育という試み 復習：食農教育の可能性について理解を深めておく
14	浅岡　みどり	【第 14 回】 予習：身近な食・農に関係するマーケットと、食の公平性について調べておく 授業：都市における食・農・自然の関係と社会的弱者の課題について考え、公平性とマーケットの機能を考える。 復習：食・農・社会的弱者の課題とマーケットの可能性を確認する。
15	浅岡　みどり	【第 15 回】 予習：これまで学んだ講義について復習しておく 授業：環境問題・サステナビリティの課題の解決と実践にむけて 復習：各講義を踏まえて、身近な環境問題の解決とその実践について考えをまとめておく

授業開始前学習	身近な環境問題・サステナビリティの課題について考え、その解決法としてどのようなものがあるか調べておいてください。
授業内課題のフィードバックの方法	講義の前と後にリアクションペーパーにコメントを記入してもらいます。適宜、講義内で受講生にコメントの発表を求め、それに応答することで双方向性を確保します。
テキスト・教材	適宜、レジュメ及び資料を配布します。
参考書	『講座　環境社会学－自然環境と自然文化』第 3 巻（鳥越皓之編・有斐閣・2001） 『講座　環境社会学－環境運動と政策のダイナミズム』第 4 巻（長谷川公一編・有斐閣・2001） 『環境の社会学』（関礼子・中澤秀雄・丸山康司・田中求著・有斐閣・2009） 『環境教育』（日本環境教育学会編・2012） 『食と農の社会学－生命と地域の視点から』（立川雅司・谷口吉光・桝形俊子著・ミネルヴァ書房・2014） 『食農で教育再生－保育園・学校から社会教育まで－』（鈴木善次（監修）朝岡幸彦・菊池陽子・野村卓（編著
評価の基準と方法	最終レポート（50%）、リアクションペーペー（50%）
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○		

関連科目	
その他	講義でとりあげる課題や事例は、受講者の関心や社会状況等に合わせて、変更する場合があります。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	小・中・高校生に園芸・菜園教育指導の経験があり、実践的な内容を交えた講義をする。過去十年間、米国カリフォルニア州におけるオルタナティブな農業や食の国際的・地域的な実践の参与観察を行い、大学生研修の引率と通訳を行ってきた実務経験から先進的な事例を踏まえて講義を行う。

科目分類（2025 年～入学者）	HR-M-221	科目分類（～2024 年入学者）	112-330-12	授業コード	FB0480
科目名称	国際社会論／現代国際社会			単位数	2.0 単位
英文名称	Ethnicity and Nationalism／International Society／Contemporary international society			授業区分	講義
科目責任者	野崎　孝弘			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	野崎　孝弘			開講時期	2･3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	この講義の目的は、（１）南北問題と世界経済、国際機関に関する基本的な知識を身につけていくこと、（２）自らの考えを論理的にまとめ、発表することができる論理構成力を身につけていくことの二点にある。「南北問題の解決に向けた近年の取り組み」から「国際連盟」や「国際連合」を経て「欧州連合」にいたるまで、幅広い題材を扱っていきたい。				
到達目標	（１）南北問題と世界経済、国際機関に関する基本的な知識を習得することができる。 （２）地域紛争と国際機関との関わりを、実例を通じて理解することができる。 （３）自らの考えを論理的にまとめ、発表することができる論理構成力を磨き上げることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	野崎　孝弘	【第１回】 予習：　なし 授業：　ガイダンス（受講上の諸注意）、南北問題（１）　近年の取り組み　（問題解決型学習） 復習：　ＳＤＧｓの目標５で日本が低評価を受けた理由の一つである「男女間の労働格差」について調べてみる
2	野崎　孝弘	【第２回】 予習：　適宜指示する 授業：　南北問題（２）　日本の開発援助政策　（問題解決型学習） 復習：　日本の開発援助政策の特色について簡潔にまとめてみる
3	野崎　孝弘	【第３回】 予習：　適宜指示する 授業：　世界経済（１）　グローバリゼーションの功罪　（問題解決型学習） 復習：　肯定的見解と否定的見解の双方について引き続き考えてみる
4	野崎　孝弘	【第４回】 予習：　適宜指示する 授業：　世界経済（２）　ファストファッションの光と影　（問題解決型学習） 復習：　他の製品についても同じようなことが言えないか自主的に調べてみる
5	野崎　孝弘	【第５回】 予習：　適宜指示する 授業：　国際連盟、国際連合（１）設立の経緯　（問題解決型学習） 復習：　国際連盟と国際連合の違いについて簡潔にまとめてみる
6	野崎　孝弘	【第６回】 予習：　適宜指示する 授業：　国際連合（２）主要機関と補助機関　（問題解決型学習） 復習：　六つの主要機関の特色について簡潔にまとめてみる
7	野崎　孝弘	【第７回】 予習：　適宜指示する 授業：　国際連合（３）専門機関　（問題解決型学習） 復習：　それぞれがどのような取り組みを行っているのかを自主的に調べてみる
8	野崎　孝弘	【第８回】 予習：　適宜指示する 授業：　国際連合（４）関連機関、国連ＮＧＯ　（問題解決型学習） 復習：　それぞれがどのような取り組みを行っているのかを自主的に調べてみる
9	野崎　孝弘	【第９回】 予習：　適宜指示する 授業：　国際連合（５）　平和維持活動　（問題解決型学習） 復習：　国連による平和維持活動の原則について簡潔にまとめてみる
10	野崎　孝弘	【第 10 回】 予習：　適宜指示する 授業：　国際連合（６）　日本とＰＫＯ　（問題解決型学習） 復習：　ＰＫＯにおける自衛隊の活動の現状について簡潔にまとめてみる
11	野崎　孝弘	【第 11 回】 予習：　適宜指示する 授業：　国際連合（７）　国連のその他の活動　（問題解決型学習） 復習：　興味を持った活動について自主的に調べてみる

12	野崎　孝弘	【第 12 回】 予習：　適宜指示する 授業：　国際連合（８）　国連の財政、憲章改正問題　（問題解決型学習） 復習：　以前に学習した「安保理改革」について自主的に調べてみる
13	野崎　孝弘	【第 13 回】 予習：　適宜指示する 授業：　欧州連合（１）ヨーロッパ統合の歩み　（問題解決型学習） 復習：　ヨーロッパ統合の歴史について簡潔にまとめてみる
14	野崎　孝弘	【第 14 回】 予習：　適宜指示する 授業：　欧州連合（２）ブレグジットとＥＵ　（問題解決型学習） 復習：　ＥＵ離脱後のイギリス社会の現状について自主的に調べてみる
15	野崎　孝弘	【第 15 回】 予習：　適宜指示する 授業：　欧州連合（３）ＥＣ／ＥＵの制度　（問題解決型学習） 復習：　欧州議会の権限が強化されてきた理由について簡潔にまとめてみる

授業開始前学習	
授業内課題のフィードバックの方法	特に、論理構成力の育成をねらいとした授業内課題を実施するに際しては、その翌週に講評を行い、関係づけができている箇所とできていない箇所を全員であぶり出す作業を行う。
テキスト・教材	毎回授業時にレジュメを配布する。
参考書	適宜、授業内で指示する。
評価の基準と方法	計３回の小テストと授業内課題の累計で評価を行う。合格点は 60 点以上とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	△		

関連科目	戦争と平和の歴史Ⅰ、戦争と平和の歴史Ⅱ、国際社会への誘い、日本の政治、世界の政治
その他	（１）あらためて言うまでもないことですが、授業中の私語は厳禁とします。 （２）授業内課題は不定期に、しかも頻繁に実施します。 （３）配布したプリントはクリアファイルなどに入れて毎回持参するようにしましょう。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	HR-M-231 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	112-330-12 （Ｊ）	授業コード	FB0482
科目名称	ｸﾞﾛｰﾊﾞﾘｽﾞﾑ論			単位数	2.0 単位
英文名称	Globalism Theory			授業区分	講義
科目責任者	足立　真理			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	足立　真理			開講時期	2･3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	グローバリズムとは何か、グローバリズムがもたらす影響とはを基本的な仕組みから始まり、世の中がどのようにまわっているのかを考えていく。 日本経済はグローバリズムとは切ってもきれない関係であることを学び、グローバル経済リテラシーを高める。日々の経済ニュースが意味するものが何かを読み解いていく。				
到達目標	世の中の様々なニュースや事象について、その関係性も含めて判断できるようにする。				

アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	足立　真理	【第 1 回】 予習： グローバリズムが使われる場面を事前に調べておく 授業： ガイダンス　グローバリズムを学ぶ意味 復習： グローバリズムの現場とはどういうところかを復習する
2	足立　真理	【第 2 回】 予習： グローバリズムとは何かを調べておく 授業： グローバリズムとは 復習： グローバリズムの現状と課題
3	足立　真理	【第 3 回】 予習： 100 円ショップで売られている商品はどこで作られているかを調べる 授業： 商品・サービスのグローバル化 復習： 100 円ショップに行ってみて、確認する
4	足立　真理	【第 4 回】 予習： 日本企業の海外拠点がどういうところにあるのかを調べる 授業： 企業活動のグローバル化 復習： 多国籍企業について調べる
5	足立　真理	【第 5 回】 予習： 金融市場とは何かを調べておく 授業： 金融、投資のグローバル化 復習： グローバル投資の現状を復習する
6	足立　真理	【第 6 回】 予習： 人の移動について調べておく 授業： 労働のグローバル化 復習： 日本在住の外国人に必要な在留資格とは何かを調べる
7	足立　真理	【第 7 回】 予習： アメリカがグローバルスタンダードとなっていることとは何かを調べておく 授業： 「アメリカ化」としてのグローバル化 復習： ディズニーランドについて調べる
8	足立　真理	【第 8 回】 予習： 海外で人気の日本食とはどういうものがあるのかを調べる 授業： 消費文化のグローバル化 復習： 日本文化が海外でどのように変化しているのかを考える
9	足立　真理	【第 9 回】 予習： 地球規模の環境問題を調べる 授業： 環境問題とグローバリゼーション 復習： 世界的な環境問題の解決策をピックアップする
10	足立　真理	【第 10 回】 予習： 身近なグローバリゼーションを探す 授業： グローバル化を国民生活 復習： 日々の生活に密接な関係を持つグローバリズムを探す

11	足立　真理	【第 11 回】 予習： グローバリズムがもたらすメリットについて事前に調べておく 授業： グローバリズムがもたらすメリット①?豊かさを享受 復習： グローバリズムの好影響についてまとめる
12	足立　真理	【第 12 回】 予習： グローバリズムがもたらすその他のメリットについて事前に調べておく 授業： グローバリズムがもたらすメリット②?多様性の受容 復習： グローバリズムのその他の好影響についてまとめる
13	足立　真理	【第 13 回】 予習： グローバリズムによる貧富の格差とは何かを考えておく 授業： グローバリズムが生み出す課題①?貧富の格差 復習： グローバリズムの課題についてまとめる
14	足立　真理	【第 14 回】 予習： グローバリズムによる多民族社会化とは何かを考えておく 授業： グローバリズムが生み出す課題②?多民族社会の影響 復習： グローバリズムの課題についてまとめる
15	足立　真理	【第 15 回】 予習： これまでのふりかえり、自分の気づきをまとめておく 授業： 総括および理解度の確認 復習： これからの時代に必要なスキルを考える

授業開始前学習	新聞、テレビなどで世界情勢の現状を把握しておく
授業内課題のフィードバックの方法	提出された課題について、実際のペーパー、あるいはオンラインにて個別にフィードバックする
テキスト・教材	インターネット上の動画を観たり、ドキュメントを参考にした課題を出す予定です。ネット環境を確認しておいてください。
参考書	「イノベーションと楽観主義 ～ 特派員が見たアメリカ」（足立真理 著）を参考書として購入して読んでもらえれば、より授業の内容が分かりやすくなります。
評価の基準と方法	毎回の授業への参加と理解度合い（70%）、最終レポート提出（30%）
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○			○	◎			

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	経済ジャーナリストとしてテレビ、新聞を通じて経済を伝えてきた経験から、生徒の皆さんにも親しみやすい世界情勢を分かりやすく解説し、理解促進をはかる。具体的な新聞やテレビのニュースも示しながら授業を進める。

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	112-330-12	授業コード	FB0490
科目名称	社会学特論			単位数	2.0 単位
英文名称	Advanced Lecture on Sociology			授業区分	講義
科目責任者	三津田　悠			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三津田　悠			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	私たちの社会生活を成り立たせている重要なしくみのひとつが「道徳」――ここでは、私たちがもっている「善い／悪い」「正しい／間違っている」といった評価・判断をめぐる考え方や感覚のことを指すものとする――である。道徳は、あるときには社会生活をこれまでと同様に、円滑に進めるし、またあるときには社会生活のあり方を改善し、変革する。しかし、これら２つのはたらきは相反するものであるし、多くの場合、私たちは社会生活のあり方を変えることなど思いつきもしない。そして、その社会生活のあり方に合わせられない自分自身ないし他者を（道徳的に）責めてしまうことすらあるのではないだろうか。 それでは、私たちが自らの道徳を手がかりに社会生活のなかに問題を見出し、それを改善しようとすること――社会を批判すること――はいかにして可能なのだろうか。この講義で取り組みたいのはこの問いである。全 15 回の授業をとおして、受講者の皆さんひとりひとりが（１）私たちが生きている「当たり前」の日常生活はどのように成り立っているのか、そして（２）「当たり前」の日常生活のなかに「問題」を見出し、それを「批判」することはいかにして可能なのか、これら２つの問いに対する自らの思考を深めていくことを目指す。					
到達目標	道徳、日常生活、そして批判をめぐる社会学的な見方・考え方を身につける。 社会学的な見方・考え方を手がかりに、道徳と社会生活との関係について説明できるようになる。 社会学的な見方・考え方を手がかりに、自らの日常生活について、そして自らがそのなかで生きている社会について、批判的に捉えられるようになる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	三津田　悠	【第１回】 予習：　図書館の使い方、文献の調べ方・集め方を確認しておく。 授業：　イントロダクション――講義の進め方・注意事項 復習：　社会学の辞典・事典、および参考文献の利用方法を確認する。
2	三津田　悠	【第２回】 予習：　「ホロコースト」について書籍や辞典・事典で調べる。 授業：　道徳とコミュニケーション（１）――Z. バウマンの道徳論 復習：　授業を振り返り、バウマン道徳論の要点を整理する。
3	三津田　悠	【第３回】 予習：　「通俗道徳」について書籍、論文、辞典・事典を手がかりに調べる。 授業：　道徳とコミュニケーション（２）――バウマン道徳論からの展開 復習：　授業を振り返り、バウマン道徳論に対する批判の要点、およびさらに展開すべき論点を整理する。
4	三津田　悠	【第４回】 予習：　社会学者アルフレッド・シュッツについて書籍、論文、辞典・事典を手がかりに調べる。 授業：　日常生活の構造（１）――「当たり前」はどのように成り立っているのか 復習：　授業を振り返り、日常生活において「当たり前」がどのように成り立っているのかをシュッツの議論に沿って整理する。
5	三津田　悠	【第５回】 予習：　シュッツの「レリヴァンス」概念について書籍、論文、辞典・事典を手がかりに調べる。 授業：　日常生活の構造（２）――「問題」はどのように浮かび上がってくるのか 復習：　授業を振り返り、日常生活において「問題」がどのように浮かび上がってくるのかをシュッツの議論に沿って整理する。
6	三津田　悠	【第６回】 予習：　シュッツの「多元的現実」論について書籍、論文、辞典・事典を手がかりに調べる。 授業：　日常生活の構造（３）――「現実」はどのように構成されているのか 復習：　授業を振り返り、私たちの「現実」がどのように構成されているのかをシュッツの議論に沿って整理する。
7	三津田　悠	【第７回】 予習：　社会学者ピーター・バーガーおよびトーマス・ルックマンについて書籍、論文、辞典・事典を手がかりに調べる。 授業：　日常生活の構造（４）――「現実」はどのように構築されているのか 復習：　授業を振り返り、私たちの「現実」がどのように社会的に構築されているのかをバーガーおよびルックマンの議論に沿って整理する。
8	三津田　悠	【第８回】 予習：　第２回から第７回までの配布資料やプリント（ノート）を見返しながら、授業を振り返る。 授業：　授業の中間まとめ 復習：　授業を振り返りつつ、第２回から第７回までの授業内容を 1600 字（A4 用紙１枚）程度の文章にまとめる。

9	三津田　悠	【第 9 回】 予習：「道徳経験」に関する事前に配布した資料（あるいは事前に指定した参考文献）を熟読する。 授業：道徳と批判（１）――「道徳経験」から社会批判へ 復習：授業を振り返り「道徳経験」とはいかなる経験であるのかを整理する。
10	三津田　悠	【第 10 回】 予習：社会批判に関する事前に配布した資料（あるいは事前に指定した参考文献）を熟読する。 授業：道徳と批判（２）――「即自的批判」から「対自的批判」へ 復習：授業を振り返り「道徳経験」がいかにして「対自的批判」となり得るかを整理する。
11	三津田　悠	【第 11 回】 予習：「初期社会科」について書籍、論文、辞典・事典を手がかりに調べる。 授業：初期社会科の思想と実践（１）――初期社会科とは何か 復習：授業を振り返り、初期社会科のなかで具体的にはどのような取り組みが行なわれていたのかを理解する。
12	三津田　悠	【第 12 回】 予習：戦後日本における社会科教育の変容に関する事前に配布した資料（あるいは事前に指定した参考文献）を熟読する。 授業：初期社会科の思想と実践（２）――戦後教育の変容と初期社会科 復習：授業内容を振り返り、初期社会科がどのような経緯のもとで、どのように変質したのかを理解する。
13	三津田　悠	【第 13 回】 予習：戦後日本の道徳教育に関する事前に配布した資料（あるいは事前に指定した参考文献）を熟読する。 授業：初期社会科の思想と実践（３）――道徳教育としての初期社会科 復習：授業内容を振り返り、初期社会科がどのような道徳教育を目指していたのかを理解する。
14	三津田　悠	【第 14 回】 予習：1950 年代の教育論争に関する事前に配布した資料（あるいは事前に指定した参考文献）を熟読する。 授業：初期社会科の思想と実践（４）――初期社会科が目指したもの 復習：授業内容を振り返り、初期社会科がどのような教育を目指していたのか、特に「社会批判」という文脈のなかで理解する。
15	三津田　悠	【第 15 回】 予習：第 9 回から第 14 回までの配布資料やプリント（ノート）を見返しながら、授業を振り返る。 授業：授業のまとめ 復習：15 回の授業全体を振り返りながら、最終レポートの草稿を作成する。

授業開始前学習	これまで社会学の基礎科目（「社会学 I」「社会学 II」など）を受講したことがない、あるいはまた、これまで一度も社会学の議論に触れたことがない場合は、社会学の教科書や入門書（特に、理論的な考え方――マックス・ウェーバーおよびエミール・デュルケームの社会学方法論――に関する箇所）を大まかにでも読んでおくと、講義内容をスムーズに理解しやすいかもしれない。おすすめはピーター・L・バーガー著『社会学への招待』（水野節夫・村山研一訳、筑摩書房、2017 年）である。 ただし、この講義自体は受講者が社会学の基本的な知
授業内課題のフィードバックの方法	提出された授業内課題に対するリプライを適宜 Google Classroom で行なう。また、学期末レポートについては、希望者に対してのみ、Google Classroom のコメント機能を使ってフィードバック（文章の書き方および授業の理解度に対するコメント）を行なう予定である。
テキスト・教材	テキスト（教科書）は特に指定しない。適宜、教場で資料を配布する。
参考書	適宜、授業内で紹介する。以下に示す文献は参考文献のうち、ごく一部である。 松沢裕作，2018，『生きづらい明治社会――不安と競争の時代』岩波書店. アルフレッド・シュッツ，トーマス・ルックマン，那須壽監訳，2015，『生活世界の構造』筑摩書房. 上田薫，1992，『知られざる教育――抽象への抵抗』上田薫著作集第 1 巻，黎明書房.
評価の基準と方法	学期末のレポートによって評価する（100%）。ただし、出席状況、および授業内課題・追加課題の提出状況に鑑みて加点する場合がある。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			◎	○		

関連科目	特になし
その他	・講義の進捗状況、社会情勢の変化、受講者の関心等々に鑑み、授業計画を変更する場合がある。 ・講義中、長時間にわたる音の発生については口頭で注意し、場合によっては退席を求めることがある。 ・社会学的な見方・考え方を学ぶうえで参考になる本をなるべく多く紹介する予定である。1 冊でも（願わくは 1 冊でも多く）手に取っていただければ幸いです。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	該当なし

科目分類（2025 年～入学者）	HR-M-221	科目分類（～2024 年入学者）	112-330-12	授業コード	FB0500
科目名称	職業の世界			単位数	2.0 単位
英文名称	Career and Workplace			授業区分	講義
科目責任者	榎本 環			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	榎本 環			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 10:40～12:10			研究室	10-716
授業概要	「企業組織における労働を、人びとの日常生活との関わりのなかで捉えることによって、わたしたちにとって身近で切実な問題として社会学的に掘り下げて考察してみよう」というのが本講のねらいです。日本のホワイトカラーの職場をおもな考察対象に取り上げ、その「現場」について具体的に紹介しつつ、職場世界における諸現象、および、オフィス・ワーカーたちの働き方、女性労働をめぐる諸課題、人びとの社会生活と企業との関わりを社会学的・現代社会論的視点から考察します。				
到達目標	次の 3 点が目標です。 1. 日本の職場世界とホワイトカラーの業務について現実的なイメージをつかむ 2. 組織のなかで個人が期待される役割を個人行動との比較の視点で理解する 3. 女性が働く環境とその課題について理解する				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	榎本 環	【第 1 回】 予習：シラバスを熟読し、質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業：ガイダンスとイントロダクション 復習：Classroom にアクセスし、コンテンツや操作方法について確認してください。
2	榎本 環	【第 2 回】 予習：第 1 回の配布資料を再読し、授業運営についての質問があればまとめてください。 授業：ホワイトカラー労働の特質 復習：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。
3	榎本 環	【第 3 回】 予習：「サラリーマン・OL」のイメージについてまとめてください。 授業：日本のカイシャ ――日本企業の職場世界（ディスカッション） 復習：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。
4	榎本 環	【第 4 回】 予習："サラリーマンの一日の仕事"について Web 等で情報収集してみてください。 授業：ホワイトカラーの業務（課題解決型学習・グループワーク） 復習：課題作業（授業で説明）に取り組んでください。
5	榎本 環	【第 5 回】 予習：「日本的経営」についてリサーチしてください。 授業：ホワイトカラーの組織とキャリア形成 復習：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。
6	榎本 環	【第 6 回】 予習：いくつかの企業 Web サイト（「会社概要」欄）から社内の部署・組織構成についてリサーチしてください。 授業：組織における情報伝達（課題解決型学習） 復習：課題作業（授業で説明）に取り組んでください。
7	榎本 環	【第 7 回】 予習：ビジネス文書の書き方についてリサーチしてください。 授業：官僚制と組織コミュニケーション（課題解決型学習） 復習：課題作業（授業で説明）に取り組んでください。
8	榎本 環	【第 8 回】 予習：「事業化調査」（feasibility study）についてリサーチしてください。 授業：企画と執行 ――仕事の段取り（課題解決型学習・グループワーク） 復習：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。
9	榎本 環	【第 9 回】 予習：『管理される心』（ホックシールド、2000）について、内容紹介や書評などの情報を集めてください（インターネット等で（以下同様））。 授業：マクドナルド化と感情マネジメント（ディスカッション） 復習：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。
10	榎本 環	【第 10 回】 予習：日本の産時・育児休業制度の現状についてリサーチしてください。 授業：女性労働の現状と課題（ディスカッション） 復習：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。

11	榎本　環	【第 11 回】 予習：『若者はなぜ 3 年で辞めるのか？』（城繁幸、2006）について、内容紹介や書評などの情報を集めてください。 授業：年功制と成果主義・能力主義（ディスカッション） 復習：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。
12	榎本　環	【第 12 回】 予習：前回のレジュメ類、ノート・メモ等を再読してください。 授業：職場規範と人間関係（課題解決型学習） 復習：課題作業（授業で説明）に取り組んでください。
13	榎本　環	【第 13 回】 予習：『キャリア・ダイナミクス』（シャイン、1991）について、内容紹介や書評などの情報を集めてください。 授業：キャリア・ダイナミクス（課題解決型学習・ディスカッション） 復習：課題作業（授業で説明）に取り組んでください。
14	榎本　環	【第 14 回】 予習：ワークライフバランスについてリサーチしてください。 授業：労働観と働き方の多様化 ――ワークライフバランスをめぐって（ディスカッション） 復習：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。
15	榎本　環	【第 15 回】 予習：前回までのレジュメ類、ノート・メモ等を再読し、質問や疑問点を整理してください。 授業：総括討論 ――働くことの愉しみ（ディスカッション） 復習：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。

授業開始前学習	とくに事前学習の必要はありませんが、企業や労働、職業キャリアなどに関する話題について、ふだんから積極的にマスコミ情報をウォッチする習慣をつけておくことを勧めます。
授業内課題のフィードバックの方法	Classroom へのコメント・質問等の投稿内容に対しては、次回の授業冒頭でリプライと補足説明を行います。課題提出を求める場合は次回以降に全体の講評を行い、個別の質問に回答します。
テキスト・教材	とくに指定しません。毎回、レジュメを配布する予定です。
参考書	城繁幸、2006、『若者はなぜ 3 年で辞めるのか？』（光文社新書） その他、授業内で随時、指示します。
評価の基準と方法	平常点（60 %）（受講取組みの積極性 30%、課題提出ほか 30%）、期末レポート（40 %）により評価します。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○		◎			○	

関連科目	本講の内容は「組織マネジメント」「チームビルディング」「経済とビジネスⅠⅡ」と隣接し、「進路設計」「キャリアリテラシー」などの内容を学術的に捉え返すことになります。
その他	授業では、課題解決型学習、ディスカッション、グループワークなどを行います。視聴覚教材やジャーナリズム文献等も積極的に使用し、アクチュアルな理解と考察の機会を提供することを目指します。ケーススタディやディスカッションなどを交えながら共演形式で授業を進めます。就職活動やインターンシップを控える受講者にとっても有益な内容となるよう、試みるつもりです。他学類・他専攻の学生の履修も歓迎します。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	HR-M-231 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	112-330-12 （Ｊ）	授業コード	FB0520
科目名称	組織ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ			単位数	2.0 単位
英文名称	Organization Management			授業区分	講義
科目責任者	脇田 能宏			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	脇田 能宏			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	我々は社会活動において何らかの組織に属し、その中でさまざまな役割を担っている。変化し続け予測困難で複雑化・多様化する社会においては、組織の力を活性化・集約化し、柔軟に対応するための基本的な考え方や行動がますます重要になる。 この授業では身近なチームの事例や現象を分析し、グループワークでの体験を通じて組織マネジメントのための実践的なノウハウを学ぶ。 専用授業サイト【Y.Wakita Lecture Note】に講義内容を掲載し、授業、予習、復習のためのツールとする。 URL https://wakita-ln.jimdofree.com/ （事前案内ページの参照パスワードは"komajo"） また、社会組織の中で重要なメールコミュニケーションを実践し学ぶ。				
到達目標	・ケーススタディを通じて組織マネジメントの重要性を理解する。 ・人が動き、人を動かすコミュニケーション力を身に付ける。 ・円滑な組織運営に必要な諸条件を理解し、組織内で説明できるようになる。 ・グループワークを通じて自分が組織に対して貢献できる自分の長所を知る。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	脇田 能宏	【第 1 回】 予習：シラバスと受講目的を確認する 授業：ガイダンス、組織マネジメントとは 復習：組織マネジメントの意義を確認する
2	脇田 能宏	【第 2 回】 予習：自分が属している身近な組織を確認する 授業：組織マネジメントの必要性について 復習：自分が属する組織の目的をまとめる
3	脇田 能宏	【第 3 回】 予習：自分が属している組織を確認する 授業：自分と組織との関係、組織のリソース 復習：組織の中での自分の役割をまとめる
4	脇田 能宏	【第 4 回】 予習：事例資料の組織の「人」について確認する 授業：組織マネジメントの基本 1：人 復習：自分が属する組織のリソースとしての「人」を確認する
5	脇田 能宏	【第 5 回】 予習：事例資料の組織の「モノ」について確認する 授業：組織マネジメントの基本 2：モノ 復習：自分が属する組織のリソースとしての「モノ」を確認する
6	脇田 能宏	【第 6 回】 予習：事例資料の組織の「カネ」について確認する 授業：組織マネジメントの基本 3：カネ 復習：自分が属する組織のリソースとしての「カネ」を確認する
7	脇田 能宏	【第 7 回】 予習：事例資料の組織の「情報」について確認する 授業：組織マネジメントの基本 4：情報 復習：自分が属する組織のリソースとしての「情報」を確認する
8	脇田 能宏	【第 8 回】 予習：事例資料の組織の「時間」について確認する 授業：組織マネジメントの基本 5：時間 復習：自分の計画について内容を確認する
9	脇田 能宏	【第 9 回】 予習：事例資料の組織のルールについて確認する 授業：組織マネジメントの基本 6：ルール 復習：自分の属する組織のルールについて確認する

10	脇田　能宏	【第 10 回】 予習：事例資料の組織構造について確認する 授業：組織マネジメントと組織構造 復習：自分の属する組織の階層について確認する
11	脇田　能宏	【第 11 回】 予習：事例資料の組織の運営について確認する 授業：組織マネジメントとオペレーション 復習：自分の属する組織の運営について確認する
12	脇田　能宏	【第 12 回】 予習：事例資料のプロジェクトについて確認する 授業：組織マネジメントとプロジェクト 復習：身近なプロジェクトについて確認する
13	脇田　能宏	【第 13 回】 予習：事例資料の組織のリーダーシップについて確認する 授業：組織マネジメントとリーダーシップ 復習：自分の属する組織のリーダーのタイプについて確認する
14	脇田　能宏	【第 14 回】（期末レポート） 予習：授業で扱った事例を確認する 授業：期末レポート提出：組織マネジメントの事例 復習：期末レポートについて自己レビューする
15	脇田　能宏	【第 15 回】 予習：期末レポートの事例を身近な例に置き換え確認する 授業：期末レポートの講評と組織マネジメントの要点を確認する 復習：授業で得た組織マネジメントに関する成果を再確認する

授業開始前学習	「management」の語源・意味を調べておく。
授業内課題のフィードバックの方法	・出席メモについては、毎回個別にポータルでフィードバックし、次回授業内でレビューとして解説する。 ・期末レポートについては、最終回授業にて全体の講評を行う。
テキスト・教材	テキストは使用しない。 必要な資料は授業サイトにて適宜案内する。 テーマによりネット上のビデオ・記事を視聴・閲覧する。
参考書	適宜資料を配布、または Web 上の資料を URL で案内する。
評価の基準と方法	配点は以下のとおりとし、単位取得には 60 点以上の得点を必要とする。 ・毎回の授業活動（出席メモ 15 回分各回 4 点）の合計 60 点 ・期末レポート（第 14 回授業内）20 点 ・質問、関心、貢献など普段の取り組み姿勢の評価　20 点
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○			◎	○

関連科目	前期「チームビルディング」
その他	身近なテーマを真剣に議論する学生参加型の授業とするため、授業への貢献度を評価基準の一つとする。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	大企業にて研究開発、システムアーキテクト、プロジェクトリーダー、統括課長職、新規事業企画等の職種に携わり、研究所、開発本部、事業会社、新規事業創出部門など多様な職場を経験し、個人企業（現職）に至る 30 年以上の管理職・プロジェクトリーダーとしての経験を元に、リーダーシップの理解と発揮・組織マネジメントにおける要点、考え方、実際的な課題とその解決指針について講義する。

科目分類（2025 年～入学者）	HR-M-231 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	112-330-13（Ｊ）	授業コード	FB0530
科目名称	経済とﾋﾞｼﾞﾈｽⅠ			単位数	2.0 単位
英文名称	Economy and Business／Economy and Business Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	足立　真理			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	足立　真理			開講時期	3･4 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	経済の基本的な仕組みから始まり、世の中のビジネスがどのようにまわっているのかを考えていく。 日本が世界各国といかに密接に関係しているのか、日々の経済ニュースが意味するものは何かを読み解いていく。環境やエネルギー、消費や産業などについて、身近な問題と関連付けながら議論する。				
到達目標	経済の基本概念を理解する。その上で、様々なニュースや事象の意味を自ら考えて、比較し分析できるようにする。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	足立　真理	【第 1 回】 予習：　経済とは何かを事前に調べておく 授業：　経済とは何を示すのか、身の回りすべてが経済活動 復習：　経済の現状と問題点
2	足立　真理	【第 2 回】 予習：　経済とは何かを改めて調べておく 授業：　いまの経済はどういう状態なのか。経済は私たちの行動が決める 復習：　経済の現状と課題
3	足立　真理	【第 3 回】 予習：　景気について調べておく 授業：　景気とはどういうものか。景気をはかる指数は色々とある 復習：　景気の現状と課題
4	足立　真理	【第 4 回】 予習：　物価の意味を調べておく 授業：　物価とは何か、物価指標の見方と推移（物価についてグループディスカッション） 復習：　物価の現状と課題
5	足立　真理	【第 5 回】 予習：　会社のメカニズムについて調べておく 授業：　会社とは何か。株式会社の成り立ちと株式のルーツ（会社を自身で設立するとしたら、というテーマでグループディスカッション） 復習：　株式会社の現状
6	足立　真理	【第 6 回】 予習：　株主について調べておく 授業：　株主の役割とはなにか。株式市場の成り立ち 復習：　株式相場の現状
7	足立　真理	【第 7 回】 予習：　経営とは何かを調べておく 授業：　企業の経営理念とはなにか、日銀短観とはどういうものか。 復習：　企業の経営理念を調べる
8	足立　真理	【第 8 回】 予習：　資産運用の意味 授業：　人生 100 年時代をどう乗り切っていくのか 復習：　資産運用について考える
9	足立　真理	【第 9 回】 予習：　マーケティングについて調べておく 授業：　マーケティングとビジネスの関係（ペアワーク） 復習：　主要企業のマーケティングを考える
10	足立　真理	【第 10 回】 予習：　SNS ビジネスとは何か調べておく 授業：　企業と SNS について学ぶーーe コマース編 復習：　e コマース業界の現状

11	足立　真理	【第 11 回】 予習：　SNS について調べておく 授業：　企業と SNS について学ぶーー食品メーカー編 復習：　食品メーカーの現状
12	足立　真理	【第 12 回】 予習：　SNS に積極的な企業を探しておく 授業：　企業と SNS について学ぶーー家電・自動車メーカー編 復習：　家電・自動車業界の現状
13	足立　真理	【第 13 回】 予習：　環境ビジネスについて調べておく 授業：　環境はこれから重要なビジネスになっていく（環境ビジネスについてグループディスカッション） 復習：　気候変動について考える
14	足立　真理	【第 14 回】 予習：　E コマースのビジネスについて調べておく 授業：　E コマースとは。日本を変える社会的ビジネスとは。（ソーシャルビジネスについてグループディスカッション） 復習：　日本の起業環境について考える
15	足立　真理	【第 15 回】 予習：　これまでに学習した点を確認しておく 授業：　ビジネスでの女性の役割と経済知識の向上についての重要性 復習：　今後の進路について改めて考える

授業開始前学習	新聞、テレビなどで世界経済の現状を把握しておく
授業内課題のフィードバックの方法	提出された課題について、オンラインにて個別にフィードバックする
テキスト・教材	インターネット上の動画を観たり、文書を検索するなどによって課題を出す予定です。ネット環境を確保しておいてください。
参考書	「イノベーションと楽観主義　～　特派員が見たアメリカ」（足立真理　著）を参考書として購入して読んでもらえれば、より授業の内容が分かりやすくなります。
評価の基準と方法	毎回の授業への参加度合いと理解度（70%）、最終レポート提出（30%）
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	◎	△	○	

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	経済ジャーナリストとしてテレビ、新聞を通じて経済を伝えてきた経験から、生徒の皆さんにも親しみやすい経済を分かりやすく解説し、理解促進をはかる。具体的な新聞やテレビのニュースも示しながら授業を進める。

科目分類（2025 年～入学者）	HR-M-231 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	112-330-13 （Ｊ）	授業コード	FB0540
科目名称	経済とﾋﾞｼﾞﾈｽⅡ			単位数	2.0 単位
英文名称	Economy and BusinessⅡ			授業区分	講義
科目責任者	足立　真理			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	足立　真理			開講時期	3･4 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	経済の基本的な仕組みから始まり、世の中のビジネスがどのようにまわっているのかを考えていく。 経済がとても身近なものであることを学び、マネーリテラシーを高める。日々の経済ニュースが意味するものは何かを読み解いていく。				
到達目標	経済のあり方を知り、世の中の様々なニュースや事象について判断できるようにする。その上で、資産管理の概念を持つ。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	足立　真理	【第 1 回】 予習：　経済とは何かを事前に調べておく 授業：　経済とは何を示すのか、価値観の在り方と身の回りの経済活動 復習：　経済の現状と問題点
2	足立　真理	【第 2 回】 予習：　景気とは何かを調べておく 授業：　景気は私たちの行動で決まる。ヒト、モノ、カネの流れ（景気の現状についてグループディスカッション） 復習：　景気の現状と課題
3	足立　真理	【第 3 回】 予習：　物価について調べておく 授業：　さまざまな物価指数と日銀の役割、世界的なデフレとはどういうことか 復習：　物価の現状と課題
4	足立　真理	【第 4 回】 予習：　GDP の意味を調べておく 授業：　GDP とは何か、世界の国の GDP と日本の GDP 復習：　世界の経済の現状と課題
5	足立　真理	【第 5 回】 予習：　貿易のメカニズムについて調べておく 授業：　貿易の基本、輸出と輸入とは 復習：　貿易ビジネスの現状
6	足立　真理	【第 6 回】 予習：　為替について調べておく 授業：　為替市場の仕組みとは（為替についてペアワーク） 復習：　為替相場の現状
7	足立　真理	【第 7 回】 予習：　不動産市場について調べておく 授業：　不動産市場の現状と経済に及ぼす影響 復習：　不動産市場を徹底的に調べる
8	足立　真理	【第 8 回】 予習：　上場企業とは何かを調べておく 授業：　企業の資金調達の方法。上場企業の種類、企業業績について考える 復習：　優良な上場企業を探す
9	足立　真理	【第 9 回】 予習：　経済に影響のありそうなイベントを確認しておく 授業：　イベント経済とは。消費に最も影響を与えるイベントとは。（イベント経済についてグループワーク） 復習：　世界の消費動向をチェックする
10	足立　真理	【第 10 回】 予習：　消費財とは何かを調べておく 授業：　消費をとりまく環境について学ぶーー日用品メーカー編 復習：　景気と日用品メーカー業界の関係
11	足立　真理	【第 11 回】 予習：　消費財の環境を調べておく 授業：　消費をとりまく環境について学ぶーーアパレル編 復習：　景気とアパレル業界の関係

12	足立　真理	【第 12 回】 予習： 消費財と環境について調べておく 授業： 消費をとりまく環境について学ぶーー飲食品メーカー編 復習： 景気と飲食品メーカー業界の関係
13	足立　真理	【第 13 回】 予習： 企業と株価をチェック 授業： 企業と株価の関係、株式市場の仕組みについて学ぶ 復習： 株式市場の現状
14	足立　真理	【第 14 回】 予習： 今起こっている環境問題とは何かを調べておく 授業： SDG s と ESG 投資、環境問題と今後のビジネス展望（ESG 投資についてグループワーク） 復習： 日本の環境課題
15	足立　真理	【第 15 回】 予習： ジェンダーギャップとは何かを調べて置く 授業： 女性活躍と経済発展について（女性活躍のあり方についてグループワーク） 復習： これからの時代に必要なスキルを考える

授業開始前学習	新聞、テレビなどで世界経済の現状を把握しておく
授業内課題のフィードバックの方法	提出された課題について、オンラインにて個別にフィードバックする
テキスト・教材	インターネット上の動画を観たり、ドキュメントを参考にした課題を出す予定です。ネット環境を確認しておいてください。
参考書	「イノベーションと楽観主義 ～ 特派員が見たアメリカ」（足立真理 著）を参考書として購入して読んでもらえれば、より授業の内容が分かりやすくなります。
評価の基準と方法	授業への参加と理解度合い（70%）、最終レポート提出（30%）
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	◎	△	○	

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	経済ジャーナリストとしてテレビ、新聞を通じて経済を伝えてきた経験から、生徒の皆さんにも親しみやすい経済を分かりやすく解説し、理解促進をはかる。具体的な新聞やテレビのニュースも示しながら授業を進める。

科目分類（2025 年～入学者）	HR-M-231	科目分類（～2024 年入学者）	112-330-12	授業コード	FB0080
科目名称	哲学と思想			単位数	2.0 単位
英文名称	Human Studies／Philosophy and Thought			授業区分	講義
科目責任者	鈴木　由加里			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鈴木　由加里			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	医療技術の高度な発達や医療サービスの多様化によって、人間の生命は様々な干渉を受けるようになった。例えば、超音波（エコー）写真によって、生まれるまでは、わからなかった胎児の性別が事前に分かるようになり、遺伝子診断技術により、胎児の障害・疾病の可能性なども分かるようになった。このような技術は、人間の生命に影響を与え、その人生に介入してくるものでもある。本講義では、このような生命に関する技術が、どのような問題を生じさせているのかということを検討し、「生命倫理」の理論を学ぶことを目的としている。				
到達目標	生殖技術の発展やその社会的な需要状況について、具体的で正しい知識を持ち、概念用語を正しく使って議論ができるようになることが目的である。到達目標として、生命の倫理について自分の考えを正確に文章化できるようになることを想定している。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	鈴木　由加里	【第 1 回】 予習：シラバスを読んでくる 授業：生命倫理とはなにか 復習：生命倫理の定義の確認
2	鈴木　由加里	【第 2 回】 予習：医療における倫理的問題を考えてくる 授業：医療と生命倫理　その歴史と問題群 復習：授業で学んだことを確認
3	鈴木　由加里	【第 3 回】 予習：生殖補助医療の現状について調べる 授業：生殖補助医療について 復習：どのような生殖医療技術があるかを確認
4	鈴木　由加里	【第 4 回】 予習：代理母出産について考えてくる 授業：人体の資源化　卵子精子売買 復習：身体パーツの売買について考える
5	鈴木　由加里	【第 5 回】 予習：遺伝子とは何かを調べてくる 授業：遺伝子診断の功罪 復習：遺伝子診断がもたらす問題について確認
6	鈴木　由加里	【第 6 回】 予習：臓器移植の件数について調べてくる 授業：臓器移植の歴史 復習：臓器移植法について確認する
7	鈴木　由加里	【第 7 回】 予習：脳死の判定基準について 授業：脳死と臓器移植 復習：臓器脳死移植にまつわる諸問題を整理する
8	鈴木　由加里	【第 8 回】 予習：医師および医療機関の自分のもっているイメージをまとめておこう 授業：医療と倫理　インフォームドコンセント 復習：医療における自己決定について確認する
9	鈴木　由加里	【第 9 回】 予習：配付資料を読んでくる 授業：QOL 論について 復習：QOL の概念を確認する
10	鈴木　由加里	【第 10 回】 予習：母体保護法について調べておく 授業：人工妊娠中絶論　選択権の問題 復習：生命の選択権はどこにあるのかを考える
11	鈴木　由加里	【第 11 回】 予習：重度障害について調べる 授業：アシュリー事件にみる人間の尊厳 復習：アシュリー療法の問題点を整理する

12	鈴木　由加里	【第 12 回】 予習：救世主兄弟について調べてくる 授業：映像資料視聴（前半） 復習：幹細胞生殖医療について確認
13	鈴木　由加里	【第 13 回】 予習：前回みた資料の確認をしてくる 授業：映像資料視聴（後半） 復習：生命をデザインすることの問題についてレポートを書く
14	鈴木　由加里	【第 14 回】 予習：ノートと配布した資料、参考文献を読んで理解しておく 授業：　補足　授業内容確認レポート（授業内でレポート作成） 復習：授業内容について不十分なところを補っておく
15	鈴木　由加里	【第 15 回】 予習：これまで配布した資料、ノート、レジメを再確認しておく 授業：授業内容確認小テスト　（ノート　レジメ　持ち込み可） 復習：小テストで答えられなかったところを復習しておく *学生の興味関心、最新の情報を踏まえて、授業内用や順序などは変更される可能性がある。

授業開始前学習	特になし
授業内課題のフィードバックの方法	基本的に、フィードバックは、GWE(Google Workspace for Education)を利用。 対面授業の場合は、リアクションペーパーは手書き。授業時に回収し、返却はなし。 レポート課題は、Google Classroom を利用して、出題、回収。また、連絡も Google Classroom を利用。遠隔授業の場合は、GWE(Google Workspace for Education)を通じて行う。クラス記号など詳細は「クラスプロファイル」を通じて連絡をする予定。
テキスト・教材	GWE(Google Workspace for Education)の Google Classroom を利用。Classroom に授業概要のレジメ及び資料をデジタルで配布。各自 DL してプリントアウトするか pc もしくはタブレットなどに DL するなどして授業に持参すること。
参考書	参考文献は、レジュメ授業スライドなどに記載する。
評価の基準と方法	13 回以上の出席が必須 GWE(Google Workspace for Education)において、課題を提出していただきます。課題を全部提出することが単位取得の前提条件。全て提出した場合のみ、各回の点数と授業内容確認テストの点数を合計し、100 点換算の上成績評価を行います。たとえば、 授業内で行う授業内容確認テストの点数 100 点とレポート課題が 4 回の場合、10 点×４＝40 点となり、合計 140 点中、総合して 85 点（100 点換算にすると 60 点）とれないと単位の認定にいたりません。課題の詳細は授業時に
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○			○	○		

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	HR-M-231	科目分類（～2024 年入学者）	112-330-12	授業コード	FB0910
科目名称	ｱﾝｹｰﾄ調査法			単位数	2.0 単位
英文名称	Basics of Data Analysis Ⅰ (Quantitative)／Quantitative date analysis			授業区分	講義
科目責任者	清水 拓			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	清水 拓			開講時期	2･3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	社会調査は量的調査と質的調査に大別される。一般的に「アンケート調査」と呼ばれる調査は、構造化された調査票（質問紙）をもちいた全数調査・標本調査のことを指し、量的調査法のひとつに位置付けられる。この授業では、前半は、量的調査法に関する基礎的な知識と、調査の進め方について講義形式で学ぶ。後半には、授業内での簡単な実習を通して、実査プロセスを学ぶ。				
到達目標	量的調査法に関する基礎的な知識を習得したうえで、アンケート調査とそこで得られたデータの整理・分析に必要な基礎的なスキルを身につける。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	清水 拓	【第 1 回】 予習：シラバスに目を通す 授業：社会調査の考え方 復習：社会調査と私たちのかかわりについて考える
2	清水 拓	【第 2 回】 予習：社会調査の考え方を再確認する 授業：社会調査の種類 復習：量的調査と質的調査の特徴を整理する
3	清水 拓	【第 3 回】 予習：社会調査の種類を再確認する 授業：社会調査における時間デザイン 復習：それぞれの時間デザインの特徴を整理する
4	清水 拓	【第 4 回】 予習：研究倫理規程を大学の Web サイトで閲覧する 授業：社会調査の倫理と責任 復習：「プライバシーの保護」「インフォームド・コンセント」「ラポール」について理解を深める
5	清水 拓	【第 5 回】 予習：第 1 回と第 2 回の配布資料を再読し、社会調査の考え方と種類について再確認する 授業：社会調査の歴史 復習：社会調査の成立・発展の経緯を整理する
6	清水 拓	【第 6 回】 予習：実査には何が必要かについて考える 授業：社会調査のプロセス 復習：調査の全体像について理解を深める
7	清水 拓	【第 7 回】 予習：社会調査のプロセスを再確認する 授業：社会調査のデザイン（実習） 復習：課題作業（授業時に説明する）に取り組む
8	清水 拓	【第 8 回】 予習：社会調査のデザインを再確認する 授業：実査の方法（実習） 復習：課題作業（授業時に説明する）に取り組む
9	清水 拓	【第 9 回】 予習：実査の方法を再確認する 授業：調査票の作成（実習） 復習：課題作業（授業時に説明する）に取り組む
10	清水 拓	【第 10 回】 予習：調査票を再確認する 授業：サンプリング（実習） 復習：課題作業（授業時に説明する）に取り組む

11	清水　拓	【第 11 回】 予習：サンプリングを再確認する 授業：調査の実施（実習） 復習：課題作業（授業時に説明する）に取り組む
12	清水　拓	【第 12 回】 予習：コード表を再確認する 授業：データの基礎的集計（実習） 復習：課題作業（授業時に説明する）に取り組む
13	清水　拓	【第 13 回】 予習：基礎的集計を再確認する 授業：統計的推測・変数間の関連（実習） 復習：課題作業（授業時に説明する）に取り組む
14	清水　拓	【第 14 回】 予習：分析結果を再確認する 授業：報告書の作成（実習） 復習：問いを立てる段階から調査報告書作成までの手順を再確認する
15	清水　拓	【第 15 回】 予習：第 1 回～第 6 回までの配布資料を再読し、量的調査の基礎的知識を再確認する 授業：量的調査の基本的な考え方と取組み方の確認 復習：自身の卒業論文執筆に向けて量的調査の適切な実施方法を検討する

授業開始前学習	この授業では量的調査の方法について学ぶが、もし自分自身が調査をされる側になったらどう感じるか、想像力を働かせておく。
授業内課題のフィードバックの方法	毎回、記名式のコメントシートを配布・回収し、次回以降、適宜フィードバックする。
テキスト・教材	特に定めない。適宜、講義内にて資料を配布する。
参考書	轟亮・杉野勇・平沢和司編，2021，『入門・社会調査法――2 ステップで基礎から学ぶ［第 4 版］』法律文化社.
評価の基準と方法	平常点（授業態度・課題提出）60%、期末レポート 40%。なお、単位取得には全授業回数の 3 分の 2 以上の出席と期末レポートの提出を必要とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	

関連科目	フィールドワークの技法
その他	統計分析ソフトのライセンス数の制約により、最大履修者を 24 名に制限する可能性がある。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	HR-M-231	科目分類（～2024 年入学者）	112-330-12	授業コード	FB0920
科目名称	ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸの技法			単位数	2.0 単位
英文名称	Fieldwork Techniques			授業区分	講義
科目責任者	清水　拓			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	清水　拓			開講時期	2･3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	社会調査は量的調査と質的調査に大別される。フィールドワークは、調査者がフィールド（現地・現場）に入り、インタビューや観察、資料収集を通して、そのフィールドの人々の営みを記録する調査のことを指し、一般的に質的調査法のひとつに位置付けられる。この授業では、前半は、質的調査法に関する基礎的な知識と、調査の進め方について講義形式で学ぶ。後半には、授業内での簡単な実習を通して、インタビュー調査の実査プロセスを学ぶ。				
到達目標	質的調査法に関する基礎的な知識を習得したうえで、フィールドワークの実施とそこで得られたデータの整理・分析に必要な基礎的なスキルを身につける。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	清水　拓	【第 1 回】 予習：シラバスに目を通す 授業：社会調査とは何か 復習：量的調査と質的調査の違いを確認する
2	清水　拓	【第 2 回】 予習：研究倫理規程を大学の Web サイトで閲覧する 授業：社会調査の倫理と責任 復習：「プライバシーの保護」「インフォームド・コンセント」「ラポール」について理解を深める
3	清水　拓	【第 3 回】 予習：第 1 回の配布資料を再読し、量的調査と質的調査の違いを再確認する 授業：調査技法 復習：それぞれの調査技法の特徴を整理する
4	清水　拓	【第 4 回】 予習：第 3 回の配布資料を再読し、質的調査の技法を再確認する 授業：分析技法 復習：それぞれの分析技法の特徴を整理する
5	清水　拓	【第 5 回】 予習：第 3 回と第 4 回の配布資料を再読し、調査・分析技法を再確認する 授業：フィールドワークのプロセス（1）：調査の設計と準備 復習：自分自身の研究関心（卒業論文等）を想定し、調査設計・準備を検討する
6	清水　拓	【第 6 回】 予習：第 5 回の配布資料を再読し、調査設計・準備を再確認する 授業：フィールドワークのプロセス（2）：フィールドでの調査 復習：自分自身の研究関心（卒業論文等）を想定し、調査の進め方を検討する
7	清水　拓	【第 7 回】 予習：第 6 回の配布資料を再読し、フィールドでの調査の進め方を再確認する 授業：フィールドワークのプロセス（3）：調査データの記録と整理 復習：自分自身の研究関心（卒業論文等）を想定し、調査データの記録・整理の方法を検討する
8	清水　拓	【第 8 回】 予習：インタビュー調査のテーマ（第 7 回までに決定する）について調べる 授業：インタビュー調査の実施（1）：問いを立て、先行研究を調べる（実習） 復習：収集した先行研究を読む
9	清水　拓	【第 9 回】 予習：質問項目を複数考えておく 授業：インタビュー調査の実施（2）：質問文を作成する（実習） 復習：質問項目をテーマごとに整理する
10	清水　拓	【第 10 回】 予習：前回作成した質問文を読み込む 授業：インタビュー調査の実施（3）：インタビューを実施する（実習） 復習：インタビュー時のノートを整理する
11	清水　拓	【第 11 回】 予習：インタビュー時のノートを再読する 授業：インタビュー調査の実施（4）：トランスクリプトの作成・整理・加工をする（実習）

		復習：課題作業（授業時に説明する）に取り組む
12	清水　拓	【第 12 回】 予習：トランスクリプトを再読し、気付いた点をメモにする 授業：インタビュー調査の実施（５）：トランスクリプトを分析する（実習） 復習：課題作業（授業時に説明する）に取り組む
13	清水　拓	【第 13 回】 予習：トランスクリプトの分析をおこなう 授業：インタビュー調査の実施（６）：調査報告書を作成する（実習） 復習：分析に基づいてレポートを作成する
14	清水　拓	【第 14 回】 予習：第１回～第７回までの配布資料を再読し、質的調査の基礎的知識を再確認する 授業：質的調査の基本的な考え方と取組み方の確認 復習：自身の卒業論文執筆に向けて質的調査の適切な実施方法を検討する
15	清水　拓	【第 15 回】 予習：第８回～第 13 回までの配布資料を再読し、インタビュー調査の実施プロセスを再確認する 授業：フィールドワークにもとづく研究例の紹介 復習：自身の卒業論文執筆に向けて質的調査の適切な実施方法を検討する

授業開始前学習	この授業では質的調査の方法について学ぶが、もし自分自身が調査をされる側になったらどう感じるか、想像力を働かせておく。
授業内課題のフィードバックの方法	毎回、記名式のリアクションペーパーを配布・回収し、次回以降、適宜フィードバックする。
テキスト・教材	特に定めない。適宜、講義内にて資料を配布する。
参考書	谷富夫・山本努編，2010，『よくわかる質的社会調査 プロセス編』ミネルヴァ書房.
評価の基準と方法	平常点（授業態度・課題提出）60%、期末レポート 40%。なお、単位取得には全授業回数の３分の２以上の出席と期末レポートの提出を必要とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）	HR-M-233 （J）	科目分類（～2024年入学者）	112-330-22 （J）	授業コード	FB0930
科目名称	人間関係学実習Ⅰ			単位数	1.0単位
英文名称	Practice in Human Relations Ⅰ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	竹村 智子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	竹村 智子			開講時期	2年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	社会に出て多くの人とよりよい関係を築いていくための、具体的な身体技能を学ぶ実習です。ビジネスの多くの場面で信頼を得るためのマナーについて広く学びます。立ち居振る舞いや敬語はもちろん、接遇や受付などの場面で「美しくしなやかに」ふるまう演習を行います。言葉遣い、気遣い、心遣い、すべて相手を思い「遣る」の表現です。素敵なビジネスパーソンになるレッスンを始めましょう。秘書検定やサービス接遇検定の「実技」に相当する内容を含みます。さまざまな働くシーンを体験し、将来の職業選択にもつなげてください。また2・3年次のインターンシップなどに向け、「動画自己PR」の作成にも取り組みます。				
到達目標	人間関係を構築するために効果的な「振舞い」について身に着け、実践できるように なる。秘書検定・サービス接遇検定の受験を推奨する。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	竹村 智子	【第1回】 予習 シラバスを読んで参加してください 授業 授業オリエンテーション 立ち居振る舞いの基本 美しい動作「立つ・座る・歩く」基本から(グループワーク) 復習 挨拶、笑顔、基本となる行動を実践しましょう（二回目に実践体験発表をします）
2	竹村 智子	【第2回】 予習 実習のためビジネスパーソンらしい服装、振る舞いで参加してください 授業 ものの手渡し、示し方、相手との距離の取り方、美しきしなやかなふるまいの実践（グループワーク） 復習 立ち振る舞いの実践（次週に体験発表あり）
3	竹村 智子	【第3回】 予習 実習のためビジネスパーソンらしい服装、振る舞いで参加してください 授業 面接試験などでの入退室、プレゼンテーションのマナー 自己PR動画の作成（プレゼンテーション）（グループワーク） 復習 自己PR動画を振り返って反省点を整理する
4	竹村 智子	【第4回】 予習 実習のためビジネスパーソンらしい服装、振る舞いで参加してください 授業 接遇の場面を実際に体験 お迎えから名刺の受け取り、ご案内から商談まで（グループワーク・実習） 復習 学んだことを次週までに振り返っておいてください
5	竹村 智子	【第5回】 予習 実習のためビジネスパーソンらしい服装で参加してください 授業 就活に必要な自己PR動画を作成 印象評価と内容のロジックから自分自身をアピールしましょう 復習 特になし
6	竹村 智子	【第6回】 予習 前半の内容を振り返り、総合演習に備えてください 授業 一日秘書体験 前半のまとめ 上司との一日を疑似体験するシミュレーション演習（すべて実践の場を想定したアクティブラーニング実習形式） 復習 シナリオ（授業紹介動画撮影）の暗記と実践
7	竹村 智子	【第7回】 予習 敬語のプリントを配布します。基本となる用語を頭に入れて参加してください 授業 正しく美しい敬語と言葉遣い 上司への言葉遣いと、ちょっとした言葉の「遣い」かた 復習 次週敬語テストのための復習プリント
8	竹村 智子	【第8回】 予習 前回の復習をしっかりして臨んでください 授業 敬語の実践 ビジネスの場面を想定して正しい敬語で話す演習 復習 次週敬語テストのための復習プリント
9	竹村 智子	【第9回】 予習 前回の復習をしっかりして臨んでください 授業 ビジネスにおける電話会話 見えない相手との会話マナー（プレゼンテーション） 復習 次週電話会話テストのためのプリント
10	竹村 智子	【第10回】 予習 学んだ用語を見直しておいてください 授業 アナウンスとナレーション体験 正しく聞きやすく話す練習（発表・実習） 復習 次週ナレーションテストのためのプリント

11	竹村　智子	【第 11 回】 予習　実習のためビジネスパーソンらしい服装と振る舞いで参加してください 授業　サービス接遇の基本　接客という仕事の疑似体験　おもてなしの姿勢を身体技法で学ぶ（実習） 復習　大学生活で振る舞いの実践をしましょう
12	竹村　智子	【第 12 回】 予習　販売職の実践を行います。身だしなみのルールは事前に説明します 授業　サービス接遇の実践　お客様へのものの勧め方、見せ方、伝え方、ちょっとした表現の工夫を実践（実習・実演） 復習　野菜を売るテストのための販売トーク実践プリント復習
13	竹村　智子	【第 13 回】 予習　総合学習に入ります　実習にふさわしい準備をしてきてください 授業　秘書検定準一級　面接試験を体験します　美しい所作と振る舞いで、ビジネスパーソンらしい身体技法を実践します（実習　実演） 復習　次週総合演習に向けた振る舞いの練習
14	竹村　智子	【第 14 回】 予習　前回の続きです。服装など必要な準備を忘れずに 授業　秘書検定準一級　面接試験を実体験　自らの振る舞いを客観的に見直してみましょう（実習　プレゼンテーション） 復習　次週総合演習に向けた振る舞いの練習
15	竹村　智子	【第 15 回】 予習　実習にふさわしい準備をしてきてください 授業　総合練習　あなたの「目に見える変化」を形にしましょう　授業紹介ビデオ作成（実習　発表）

授業開始前学習	ほぼ演習中心となるため、それにふさわしい服装の指示を出すことがあります。新しいもの を用意する必要はありません。
授業内課題のフィードバックの方法	演習のため、適宜フィードバックを実施。これを評価とします。また授業内で敬語などミニテストを実施します。
テキスト・教材	授業内で適宜レジュメ・確認プリントを配布します。
参考書	秘書検定準一級パーフェクトマスター（実務教育出版）
評価の基準と方法	授業態度（60 パーセント）および授業内の課題・演習（４０パーセント）で評価します。自身の変化を楽しみながら積極的に授業に取り組んでください。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○	○			◎	

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	企業における秘書経験、コンサルタントとして各種企業研修・大学キャリア教育に従事している経験を活かし、ビジネス場面で必要なスキルについて演習を行う。

科目分類（2025 年～入学者）	HR-M-233 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	112-330-22 （Ｊ）	授業コード	FB0940
科目名称	人間関係学実習Ⅱ			単位数	1.0 単位
英文名称	Practice in Human Relations Ⅱ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	竹村　智子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	竹村　智子			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	言葉を用いて人間関係を構築していく上で「書く」ことは重要な手段です。しかし SNS の発達とともに、絵文字やスタンプだけでのやりとりが増え、手紙を書く習慣が減っています。書くことで自分の思いを豊かに伝える方法を学びます。旧暦の季節を大切にした豊かな表現を知り、心に届く手紙を書けるようになりましょう。挨拶状や手紙文の基本ルール、ちょっとした素敵な表現、そしてビジネス場面で必要な文章をもちいた交渉術までを理解します。またポスターや企画書、就職活動にもつながるエントリーシートの「伝わるコツ」を学びます。ロジックを正確に説得力をもって伝える手段を身に着けてください。ビジネス文書検定 2 級、ビジネスマナー検定準 1 級受検を推奨します。				
到達目標	フォーマルな場面、ビジネスの場面で適切な「手紙」を書き分ける力を身に着けることで、効果的な　人間関係構築につなげる。今後の就職活動に必要となる履歴書やエントリーシートにおける、わかりやすく説得力のある文章表現を理解する。さらに社会人生活において必要な企画書・プレゼンテーションスキルの習得を目指す。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	竹村　智子	【第 1 回】 予習　シラバスを読んで参加してください 授業　授業のガイダンス　講義内容の説明　相手に心を伝える文章の基本　メモの基本マナー　短いことばで相手に心を伝える技術を学ぶ 復習　一筆せんで手紙を書く
2	竹村　智子	【第 2 回】 予習　特になし 授業　手紙を書く前に。文章でなく、文字・記号・符号から自分を伝える練習 「世界一短い手紙」相手の心に届く表現のマナーについて練習　感謝の手紙を書いてみよう 復習　一文字、四文字、オノマトペなどで手紙を書く　書く習慣をつけよう
3	竹村　智子	【第 3 回】 予習　あなたを四字熟語でたとえると？ 授業　論理的に書いて伝える技術を習得しよう　エントリーシートに向けて（実習　プレゼンテーション） 復習　あなたを表現するロジック文章を書く
4	竹村　智子	【第 4 回】 予習　あなたの強みを考えてこよう 授業　自己 PR をガクチカを書くための構成手順　論理的に書く、説得するとはどういうことかを文例とともに学ぶ 復習　自己 PR 文を書いてみよう
5	竹村　智子	【第 5 回】 予習　日々の生活の中にある言葉と、その印象について考える 授業　相手の目線を意識したポスターの書き方（演習　一部グループワーク）イラストを使用したポスターの文字の効果について学ぶ 復習　普段の看板、ポスターに隠れた工夫を読み解き考える
6	竹村　智子	【第 6 回】 予習　ポスター制作にあたり、テーマをまとめる 授業　ポスターにおける「見え方」「見せ方」「相手の心を動かす言葉と文字の違い」 復習　ポスターのテーマを決定する
7	竹村　智子	【第 7 回】 予習　身の回りにある、文字や言葉に注目しポスター原案を考える 授業　マルシェのポスターづくり　完成まで 復習　課題提出に向けた振り返りと見直し
8	竹村　智子	【第 8 回】 予習　特になし 授業　SPI における「書く」「考える」スキルの醸成（過去問題から解説） 復習　SPI 問題を解いてみる
9	竹村　智子	【第 9 回】 予習　お礼状の基本用語を再確認しておく 授業　年賀状や寒中お見舞いの書き方の演習（実習）　季節の用語　頭語と結語　手紙文の慣用句などを学ぶ 復習　季節のあいさつ文、お礼状、依頼状などの書き方を振り返る

10	竹村　智子	【第 10 回】 予習　季節の用語、頭語結語などのルールを復習 授業　ビジネス文書の基本ルール　就職活動にも役立つビジネス文書のルール 復習　学んだ用語を整理する（次回ミニテストに向けて）
11	竹村　智子	【第 11 回】 予習　ビジネス用語のミニテスト準備 授業　企業で用いるロジックと、書いて論理を整理する方法についての演習 復習　新しいガリガリ君を考えてみよう
12	竹村　智子	【第 12 回】 予習　学んだ用語を見直しておく 授業　企画書の論理的な構成術（演習）新商品開発の企画書を作成する　新しいガリガリ君を売り出すには 復習　企画書の完成
13	竹村　智子	【第 13 回】 予習　学んだ用語を見直しておく 授業　ビジネス文書での交渉術　報告と折衝の文章を書く（プレゼンテーション） 復習　学んだ用語を整理する
14	竹村　智子	【第 14 回】 予習　学んだ用語を見直しておいてください 授業　あなたをグラフに書く練習　エントリーシートに向けて 復習　いろいろな文書例を見直す
15	竹村　智子	【第 15 回】 予習　エントリーシートの完成準備 授業　エントリーシートの構成確認　ビジネス文書検定の問題を解き、理解の確認を行う 復習　今後の生活で実践することが不可欠です

授業開始前学習	特に必要ありません
授業内課題のフィードバックの方法	授業内にて適宜フィードバック、エントリーシートは個別に添削の上返却します　授業内で多くの課題に取り組んでいただきます。
テキスト・教材	必要に応じて授業時に配布するレジュメ　プリントなどあり
参考書	
評価の基準と方法	授業態度（60 パーセント）および授業内の課題（４０パーセント）で評価します。積極的に授業に取り組んでください。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○	○			◎	

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	企業における秘書経験、コンサルタントとして各種企業研修・大学キャリア教育に従事している経験を活かし、ビジネス場面で必要なスキルについて演習を行う。

科目分類（2025年～入学者）	HR-M-331 （J）	科目分類（～2024年入学者）	112-330-13（2022年～入学者） （J） 112-330-12（～2021年入学者）（J）	授業コード	FB0950
科目名称	☆現代社会総合講座Ⅰ			単位数	2.0単位
英文名称	Interdisciplinary Course on Contemporary Society Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	榎本 環			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	臼井・榎本(環)・楠田・倉住・小菅・田澤			開講時期	3年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	テーマ：映画を題材に現代社会の諸問題を考える 一本の映画を鑑賞し、そこに描かれている、あるいは、そこから読み解くことのできる現代社会の諸相やさまざまな課題について多角的な視点から考察する。作品が取り上げているテーマや私たちに投げかけているメッセージをひも解き、現代社会に生きる人びとの生き方や価値観、それを取り巻く社会環境、歴史のなかでの位置づけなどをめぐって、掘り下げて理解することを目指す。人間関係専攻の教員6名およびビジネス界の第一線で活躍するゲスト講師による共同授業・オムニバス形式の学生参加型・双方向型授業である。それぞれの多角的な視座・アプローチから知的な刺激とヒントを吸収することを期待したい。				
到達目標	現代社会において人びとが直面しているさまざまな現実的課題について理解すること、各担当者による多様な着眼点や発想・思考を吸収すること、それらを参考にしながら自分なりの見解を組み立てる力、それを論理的・客観的に表現するスキルを伸ばすことを目標とする。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	オムニバス

授業回数	担当者	授業の内容
1	榎本 環	【第1回】 予習： シラバスを熟読し、質問や相談事項があれば確認しておく 授業： 対象映画の紹介とイントロダクション 復習： Classroomにアクセスし、コンテンツや操作方法について確認する
2	榎本 環	【第2回】 予習： 課題映画について Web 情報などを利用してリサーチする 授業： 課題映画の鑑賞 1：前半 復習： 登場人物や前半の場面状況・ストーリー展開について不明点を調べておく
3	榎本 環	【第3回】 予習： 課題映画の前半のストーリーとポイントをチェック確認する 授業： 課題映画の鑑賞 2：後半 復習： 全編の内容を再確認し、視聴後の感想と不明点・質問をまとめ、ミニレポートを提出する
4	臼井 実稲子 榎本 環 倉住 友恵 小菅 清香 田澤 秀司	【第4回】 予習： 自分の感想やコメントを整理し、意見交換での発言内容を準備しておく 授業： 意見交換：内容理解と視聴後の感想（グループワーク、ディスカッション） 復習： 今回の意見交換をもとに、自分の発見や疑問点をノートにまとめる
5	小菅 清香	【第5回】 予習： 自分の感想やコメントを整理し、意見交換での発言内容を準備しておく 授業： 担当教員による講義と意見交換 1 復習： 今回の講義内容に関する自分の発見や見解・疑問をまとめ、ミニレポートを提出する
6	倉住 友恵	【第6回】 予習： 前回の担当教員による分析をふり返り、不明点や質問を整理しておく 授業： 担当教員による講義と意見交換 2 復習： 今回の講義内容に関する自分の発見や見解・疑問をまとめ、ミニレポートを提出する
7	田澤 秀司	【第7回】 予習： 前回の担当教員による分析をふり返り、不明点や質問を整理しておく 授業： 担当教員による講義と意見交換 3 復習： 今回の講義内容に関する自分の発見や見解・疑問をまとめ、ミニレポートを提出する
8	臼井 実稲子	【第8回】 予習： 前回の担当教員による分析をふり返り、不明点や質問を整理しておく 授業： 担当教員による講義と意見交換 4 復習： 今回の講義内容に関する自分の発見や見解・疑問をまとめ、ミニレポートを提出する
9	楠田 恵美	【第9回】 予習： 前回の担当教員による分析をふり返り、不明点や質問を整理しておく 授業： 担当教員による講義と意見交換 5 復習： 今回の講義内容に関する自分の発見や見解・疑問をまとめ、ミニレポートを提出する

10	榎本　環	【第 10 回】 予習：　前回の担当教員による分析をふり返り、不明点や質問を整理しておく 授業：　担当教員による講義と意見交換　6 復習：　今回の講義内容に関する自分の発見や見解・疑問をまとめ、ミニレポートを提出する
11	臼井　実稲子 榎本　環 楠田　恵美 倉住　友恵 小菅　清香 田澤　秀司	【第 11 回】 予習：　前回の担当教員による分析をふり返り、不明点や質問を整理しておく 授業：　ゲスト講師による講義と質疑応答　1 復習：　今回の講義内容に関する自分の発見や見解・疑問をまとめる
12	臼井　実稲子 榎本　環 楠田　恵美 倉住　友恵 小菅　清香 田澤　秀司	【第 12 回】 予習：　前回の担当教員による分析をふり返り、不明点や質問を整理しておく 授業：　ゲスト講師による講義と質疑応答　1 復習：　今回の講義内容に関する自分の発見や見解・疑問をまとめる
13	臼井　実稲子 榎本　環 楠田　恵美 倉住　友恵 田澤　秀司	【第 13 回】 予習：　これまでの自分の見解や疑問点を整理し、ディスカッションでの発言内容を準備しておく 授業：　学生による論点整理と意見交換　（グループワーク、ディスカッション） 復習：　今回のディスカッションの内容に関する自分の発見や見解・疑問を整理し、総括討論に向けてミニレポートを提出する
14	臼井　実稲子 榎本　環 楠田　恵美 倉住　友恵 田澤　秀司	【第 14 回】 予習：　前回の意見交換をふり返って自分の見解や疑問点を整理し、ディスカッションでの発言内容を準備しておく 授業：　総括討論　1　（ディスカッション） 復習：　今回のディスカッションの内容に関する自分の発見や見解・疑問を整理し、最終回の全体討論に向けてミニレポートを提出する
15	臼井　実稲子 榎本　環 楠田　恵美 倉住　友恵 田澤　秀司	【第 15 回】 予習：　前回までのディスカッションの内容をふまえ、自分の発言内容を整理・準備しておく 授業：　総括討論　2　（ディスカッション） 復習：　計 3 回の意見交換・ディスカッションをふまえ、自分の発見や学修成果をまとめる

授業開始前学習	とくに事前の準備は不要である。日頃から幅広く見聞を広め、好奇心と観察眼を研ぎ澄ませることを心がけてほしい。
授業内課題のフィードバックの方法	各回の意見交換・ディスカッションやミニレポートを通じて提起された質問に対しては、適宜その都度、リプライする。提出課題については、次回授業以降に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。
テキスト・教材	とくに指定しない。資料は必要に応じて配布する。
参考書	授業内で適宜、紹介する。
評価の基準と方法	受講取組みの積極性（30 %）、全体授業の課題提出（10%）、各担当者による課題評価（60 %）をもとに、総合的に評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○		

関連科目	「総合講座」の性質上、人間関係専攻の全科目および教養教育科目全般がなんらかのかたちで本科目と関連性をもつ関係にある。
その他	人間関係専攻の教員 6 名およびゲスト講師による共同授業・オムニバス形式で実施する。双方向型・学生参加型の授業形式であるので、積極的な発言とディスカッションへの参加が求められる。課題映画については初回授業で指示する。「ミニレポート」は、GWE Classroom の Forms によるコメント投稿を基本形式として予定している。外部講師のスケジュールの都合等により、各授業回の実施順が修正される可能性もある（初回授業で告知する）。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	日本を代表する著名企業の実務経験者をゲスト講師として招き、実社会での現場経験に基づく知見やコメントを提供してもらう予定である（計 2 講）。

科目分類（2025 年～入学者）	HR-M-331 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	112-330-13（2022 年～入学者） （J） 112-330-12（～2021 年入学者）（J）	授業コード	FB0960
科目名称	☆現代社会総合講座Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	Interdisciplinary Course on Contemporary Society Ⅱ			授業区分	講義
科目責任者	小菅 清香			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	臼井・榎本(環)・楠田・倉住・小菅・田澤			開講時期	3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	テーマ：映画を題材に現代社会の諸問題を考える 一本の映画を鑑賞し、そこに描かれている、あるいは、そこから読み解くことのできる現代社会の諸相やさまざまな課題について多角的な視点から考察する。作品が取り上げているテーマや私たちに投げかけているメッセージをひも解き、現代社会に生きる人びとの生き方や価値観、それを取り巻く社会環境、歴史のなかでの位置づけなどをめぐって、掘り下げて理解することを目指す。人間関係専攻の教員 6 名およびビジネス界の第一線で活躍するゲスト講師による共同授業・オムニバス形式の学生参加型・双方向型授業である。それぞれの多角的な視座・アプローチから知的な刺激とヒントを吸収することを期待したい。				
到達目標	現代社会において人びとが直面しているさまざまな現実的課題について理解すること、各担当者による多様な着眼点や発想・思考を吸収すること、それらを参考にしながら自分なりの見解を組み立てる力、それを論理的・客観的に表現するスキルを伸ばすことを目標とする。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	オムニバス

授業回数	担当者	授業の内容
1	小菅 清香	【第 1 回】 予習： シラバスを熟読し、質問や相談事項があれば確認しておく 授業： 対象映画の紹介とイントロダクション 復習： Classroom にアクセスし、コンテンツや操作方法について確認する
2	小菅 清香	【第 2 回】 課題映画の鑑賞 1：前半 予習：課題映画について Web 情報などを利用してリサーチする 復習：登場人物や前半の場面状況・ストーリー展開について不明点を調べておく
3	小菅 清香	【第 3 回】 課題映画の鑑賞 2：後半 予習：課題映画の前半のストーリーとポイントを確認する 復習：全編の内容を再確認し、視聴後の感想と不明点・質問をまとめ、ミニレポートを提出する
4	臼井 実稲子、榎本 環、楠田 恵美、倉住 友恵、小菅 清香、田澤 秀司	【第 4 回】 意見交換：内容理解と視聴後の感想（グループワーク、ディスカッション） 予習：自分の感想やコメントを整理し、意見交換での発言内容を準備しておく 復習：今回の意見交換をもとに、自分の発見や疑問点をノートにまとめる
5	臼井 実稲子	【第 5 回】 担当教員による講義と意見交換 1 予習：自分の感想やコメントを整理し、意見交換での発言内容を準備しておく 復習：今回の講義内容に関する自分の発見や見解・疑問をまとめ、ミニレポートを提出する
6	榎本 環	【第 6 回】 担当教員による講義と意見交換 2 予習：前回の担当教員による分析をふり返り、不明点や質問を整理しておく 復習：今回の講義内容に関する自分の発見や見解・疑問をまとめ、ミニレポートを提出する
7	楠田 恵美	【第 7 回】 担当教員による講義と意見交換 3 予習：前回の担当教員による分析をふり返り、不明点や質問を整理しておく 復習：今回の講義内容に関する自分の発見や見解・疑問をまとめ、ミニレポートを提出する
8	倉住 友恵	【第 8 回】 担当教員による講義と意見交換 4 予習：前回の担当教員による分析をふり返り、不明点や質問を整理しておく 復習：今回の講義内容に関する自分の発見や見解・疑問をまとめ、ミニレポートを提出する
9	田澤 秀司	【第 9 回】 担当教員による講義と意見交換 5 予習：前回の担当教員による分析をふり返り、不明点や質問を整理しておく 復習：今回の講義内容に関する自分の発見や見解・疑問をまとめ、ミニレポートを提出する

10	小菅　清香	【第 10 回】 担当教員による講義と意見交換 6 予習：前回の担当教員による分析をふり返り、不明点や質問を整理しておく 復習：今回の講義内容に関する自分の発見や見解・疑問をまとめ、ミニレポートを提出する
11	臼井　実稲子、榎本　環、楠田　恵美、倉住　友恵、小菅　清香、田澤　秀司	【第 11 回】 ゲスト講師による講義と質疑応答 1 予習：前回の担当教員による分析をふり返り、不明点や質問を整理しておく 復習：今回の講義内容に関する自分の発見や見解・疑問をまとめる
12	臼井　実稲子、榎本　環、楠田　恵美、倉住　友恵、小菅　清香、田澤　秀司	【第 12 回】 ゲスト講師による講義と質疑応答 2 予習：前回のゲスト講師による分析をふり返り、不明点や質問を整理しておく 復習：今回の講義内容に関する自分の発見や見解・疑問をまとめる
13	臼井　実稲子、榎本　環、楠田　恵美、倉住　友恵、小菅　清香、田澤　秀司	【第 13 回】 学生による論点整理と意見交換　（グループワーク、ディスカッション） 予習：これまでの自分の見解や疑問点を整理し、ディスカッションでの発言内容を準備しておく 復習：今回のディスカッションの内容に関する自分の発見や見解・疑問を整理し、総括討論に向けてミニレポートを提出する
14	臼井　実稲子、榎本　環、楠田　恵美、倉住　友恵、小菅　清香、田澤　秀司	【第 14 回】 総括討論 1（ディスカッション） 予習：前回の意見交換をふり返って自分の見解や疑問点を整理し、ディスカッションでの発言内容を準備しておく 復習：今回のディスカッションの内容に関する自分の発見や見解・疑問を整理し、最終回の全体討論に向けてミニレポートを提出する
15	臼井　実稲子、榎本　環、楠田　恵美、倉住　友恵、小菅　清香、田澤　秀司	【第 15 回】 総括討論 2（ディスカッション） 予習：前回のディスカッションの内容をふまえ、自分の発言内容を整理・準備しておく 復習：計 3 回の意見交換・ディスカッションをふまえ、自分の発見や学修成果をまとめる

授業開始前学習	とくに事前の準備は不要である。日頃から幅広く見聞を広め、好奇心と観察眼を研ぎ澄ませることを心がけてほしい。
授業内課題のフィードバックの方法	各回の意見交換・ディスカッションやミニレポートを通じて提起された質問に対しては、適宜その都度、リプライする。提出課題については、次回授業以降に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。
テキスト・教材	とくに指定しない。資料は必要に応じて配布する。
参考書	授業内で適宜、紹介する。
評価の基準と方法	受講取組みの積極性（30 %）、全体授業の課題提出（10%）、各担当者による課題評価（60 %）をもとに、総合的に評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○		

関連科目	「総合講座」の性質上、人間関係専攻の全科目および教養教育科目全般がなんらかのかたちで本科目と関連性をもつ関係にある。
その他	人間関係専攻の教員 6 名およびゲスト講師による共同授業・オムニバス形式で実施する。双方向型・学生参加型の授業形式であるので、積極的な発言とディスカッションへの参加が求められる。課題映画については初回授業で指示する。「ミニレポート」は、GWE Classroom の Forms によるコメント投稿を基本形式として予定している。外部講師のスケジュールの都合等により、各授業回の実施順が修正される可能性もある（初回授業で告知する）。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	日本を代表する著名企業の実務経験者をゲスト講師として招き、実社会での現場経験に基づく知見やコメントを提供してもらう予定である（計 2 講）。

科目分類（2025 年～入学者）	HR-M-312	科目分類（～2024 年入学者）	112-310-23	授業コード	FB1112
科目名称	人間関係ｾﾞﾐⅠ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar of Human Relations Ⅰ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	臼井 実稲子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	臼井 実稲子			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 水曜日 09:00～12:10 後期 水曜日 09:00～12:10			研究室	10-705
授業概要	本ゼミでは国際社会の諸問題から、各ゼミ生が関心のあるテーマを選択し、その問題について考察する。ゼミ科目であり、ディスカッション、プレゼンテーションが中心であることは言うまでもない。 毎回、現在生じている国際問題を、新聞・テレビなどのメディアでチェックする。				
到達目標	（１）思考力を深める （２）口頭発表および文章作成能力の向上 （３）現在生じている国際問題を認識し、多角的視点から分析できるようになる				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	臼井 実稲子	【第１回】 予習 ：自己紹介の準備 授業 ：ゼミ生の自己紹介 ゼミ運営方針の確認 復習 ：ゼミ方針を参考に自身の研究テーマについて考える
2	臼井 実稲子	【第２回】 予習 ：自身の研究テーマ発表準備 授業 ：ゼミ生の研究関心についての発表 復習 ：他のゼミ生の研究関心を参考に自身の研究テーマを深める
3	臼井 実稲子	【第３回】 予習 ：研究関心のある新聞・雑誌記事を準備 授業 ：各ゼミ生の集めた記事の検討(ディスカッション) 復習 ：自身の収集した記事と他のゼミ生のそれらを整理
4	臼井 実稲子	【第４回】 予習 ：研究関心のある新聞・雑誌記事を準備 授業 ：各ゼミ生の集めた記事の検討（ディスカッション）プレゼンテーションについて 復習 ：自身の収集した記事と他のゼミ生のそれらを整理
5	臼井 実稲子	【第５回】 予習 ：発表者のレジュメを読み、質問をメモ書きする 授業 ：時事問題解説(1)学生発表と討論 （1） （プレゼンテーション・ディスカッション） 復習 ：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理、自己の発表の再考
6	臼井 実稲子	【第６回】 予習 ：発表者のレジュメを読み、質問をメモ書きする 授業 ：時事問題解説(2) 学生発表と討論 （２） （プレゼンテーション・ディスカッション） 復習 ：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理、自己の発表の再考
7	臼井 実稲子	【第７回】 予習 ：発表者のレジュメを読み、質問をメモ書きする 授業 ：時事問題解説 （３） 学生発表と討論 （３） （プレゼンテーション・ディスカッション） 復習 ：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理、自己の発表の再考
8	臼井 実稲子	【第８回】 予習 ：発表者のレジュメを読み、質問をメモ書きする 授業 ：時事問題解説 （４） 学生発表と討論 （４） （プレゼンテーション・ディスカッション） 復習 ：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理、自己の発表の再考
9	臼井 実稲子	【第９回】 予習 ：発表者のレジュメを読み、質問をメモ書きする 授業 ：時事問題解説 （５） 学生発表と討論 （５） （プレゼンテーション・ディスカッション） 復習 ：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理、自己の発表の再考
10	臼井 実稲子	【第 10 回】 予習 ：発表者のレジュメを読み、質問をメモ書きする 授業 ：時事問題解説 （６） 学生発表と討論 （６） （プレゼンテーション・ディスカッション） 復習 ：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理、自己の発表の再考
11	臼井 実稲子	【第 11 回】 予習 ：発表者のレジュメを読み、質問をメモ書きする 授業 ：時事問題解説 （７） 学生発表と討論 （７） （プレゼンテーション・ディスカッション） 復習 ：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理、自己の発表の再考

12	臼井　実稲子	【第 12 回】 予習　：発表者のレジュメを読み、質問をメモ書きする 授業　：時事問題解説（８）　学生発表と討論（８）　（プレゼンテーション・ディスカッション） 復習　：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理、自己の発表の再考
13	臼井　実稲子	【第 13 回】 予習　：発表者のレジュメを読み、質問をメモ書きする 授業　：時事問題解説（９）　学生発表と討論（９）　（プレゼンテーション・ディスカッション） 復習　：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理、自己の発表の再考
14	臼井　実稲子	【第 14 回】 予習　：発表者のレジュメを読み、質問をメモ書きする 授業　：時事問題解説（１０）　学生発表と討論（１０）　（プレゼンテーション・ディスカッション） 復習　：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理、自己の発表の再考
15	臼井　実稲子	【第 15 回】 予習　：発表後の自己の研究の進展をまとめる 授業　：ゼミ生による研究の改善点発表　（プレゼンテーション・ディスカッション） 復習　：ゼミを踏まえ、さらなる改善に向けての研究内容の再考

授業開始前学習	自身が関心のあるテーマの著作を最低１冊は読んでおく。
授業内課題のフィードバックの方法	授業を通じて適宜実施する。
テキスト・教材	指定しない。
参考書	適宜指示する。
評価の基準と方法	平常点と発表内容、レジュメ、毎ゼミでの発言により評価する。 レジュメ作成と発表 40%　発言などの積極性　20%　中間報告・レポート 40% 発表担当者が担当日に欠席した場合、マイナス評価は免れない。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	◎		○

関連科目	「戦争と平和の歴史 I.II」を履修済みであることが望ましい。
その他	研究テーマの選択はゼミ生に委ねる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	HR-M-312	科目分類（～2024 年入学者）	112-310-23	授業コード	FB1113
科目名称	人間関係ｾﾞﾐⅠ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar of Human Relations Ⅰ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	榎本 環			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	榎本 環			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 10:40～12:10			研究室	10-716
授業概要	テーマ：社会学で読み解く現代社会 人びとの日常的な行動や態度、意識には、社会的な形成プロセスや構造要因があります。そのメカニズムを理解することが社会学の探究活動です。「世のなか」のしくみと現代社会のさまざまな現象を、社会学ではどのように捉えることができるのか、どのような理解と発想が可能なのか、その問題関心に即して、各自が社会学的な視座を身に付け、主体的に考察する思考力を習得してもらうことを目標とします。受講者によるプレゼンテーションとそれにもとづくディスカッションを基本形式にして進めます。				
到達目標	次の 3 点を目標とします。 1. パソコンや PC メール、Web ツールの基本的な操作・作法に慣れる 2. 一定レベルのプレゼンがこなせる 3.「本の読み方」をマスターする				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	榎本 環	【第 1 回】 予習：シラバスを熟読し、質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業：ガイダンスとイントロダクション 復習：ゼミメンバーの名前を覚え、使用文献の入手を手配してください。
2	榎本 環	【第 2 回】 予習：前回のレジュメ、ノート・メモ類を再読してください。 授業：PC 活用スキル ――Web メールの活用と ML 開設 復習：ML メンバー登録操作を完成させ、課題（名簿シート作成）に取り組んでください。
3	榎本 環	【第 3 回】 予習：ポータルサイト、Web メール、ML の操作方法と初期設定を再確認してください。 授業：Web リソース ――クラウド・ツールの活用法について 復習：授業内容を復習し、ゼミ用クラウド・ページの各操作をひととおり試してください。
4	榎本 環	【第 4 回】 予習：使用文献（研究発表練習用）を一読してください。 授業：前期活動打合せ、研究発表の方法 復習：プレゼン用ファイルを作成し提出してください。
5	榎本 環	【第 5 回】 予習：文献該当頁と報告者のレジュメを一読し、コメント・不明点を整理しておいてください。 授業：研究発表トレーニング（発表） 復習：前期の報告スケジュールをもとに、準備作業の計画を立ててください。
6	榎本 環	【第 6 回】 予習：報告者のレジュメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業：テキスト講読 1【文献・該当頁は別途指示します】（発表、ディスカッション） 復習：討論を通じて学んだ研究発表のヒントをメモに整理してください。
7	榎本 環	【第 7 回】 予習：文献該当頁と報告者のレジュメを一読し、不明点を整理しておいてください。 授業：テキスト講読 2【文献・該当頁は別途指示します】（発表、ディスカッション） 復習：討論を通じて学んだ研究発表のヒントをメモに整理してください。
8	榎本 環	【第 8 回】 予習：文献該当頁と報告者のレジュメを一読し、不明点を整理しておいてください。 授業：テキスト講読 3【文献・該当頁は別途指示します】（発表、ディスカッション） 復習：討論を通じて学んだ研究発表のヒントをメモに整理してください。
9	榎本 環	【第 9 回】 予習：テキスト第 1 章を精読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業：テキスト講読 4【pp.14～23】（発表、ディスカッション） 復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。
10	榎本 環	【第 10 回】 予習：テキスト第 2 章を精読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業：テキスト講読 5【pp.24～33】（発表、ディスカッション） 復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。

11	榎本　環	【第 11 回】 予習：テキスト第 3 章を精読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業：テキスト講読　6【pp.34～43】（発表、ディスカッション） 復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。
12	榎本　環	【第 12 回】 予習：テキスト第 4 章を精読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業：テキスト講読　7【pp.44～53】（発表、ディスカッション） 復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。
13	榎本　環	【第 13 回】 予習：テキスト第 5 章を精読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業：テキスト講読　8【pp.56～65】（発表、ディスカッション） 復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。
14	榎本　環	【第 14 回】 予習：テキスト第 6 章を精読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業：テキスト講読　9【pp.66～75】（発表、ディスカッション） 復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。
15	榎本　環	【第 15 回】 予習：テキスト第 7 章を精読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業：テキスト講読　10【pp.76～85】（発表、ディスカッション） 復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。

授業開始前学習	日頃から幅広く読書し、見聞を広め、好奇心と観察眼を研ぎ澄ませる努力を心がけることを勧めます。
授業内課題のフィードバックの方法	課題提出を求める場合は、次回授業、個別のメール・面談等により講評し、質問への回答に対応します。
テキスト・教材	出口剛司、2019、『大学 4 年間の社会学が 10 時間でざっと学べる』（KADOKAWA） ほか別途指示します。
参考書	長谷川公一ほか、2007、『社会学』（有斐閣） その他、授業を通じて随時、紹介します。
評価の基準と方法	平常点（80 %）（受講取組みの積極性 30%・課題提出ほか 50%）、期末レポート（20 %）により評価します。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	◎		○

関連科目	「社会学ⅠⅡ」および「流行論」「社会学研究ⅠⅡ」「社会学特論」「アンケート調査法」「フィールドワークの技法」を履修しておくことを推奨します。
その他	ゼミ活動の具体的計画については受講者と協議のうえ決定します。テキストの講読（受講者による報告）と討論を基本形式に進めます。報告者のみならず全員があらかじめ指定された範囲を熟読し、疑問点や各自のコメントを整理したうえでゼミでの議論に臨んでください。プレゼン報告の分担や時折の課題など、それなりの負担をこなすことが求められますが、意欲と関心がある限り、授業担当者として最大限のサポートを惜しみません。受講者各位の素朴な疑問と柔軟な発想から、私自身も多くのことを学びたいと考えております。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	HR-M-312	科目分類（～2024 年入学者）	112-310-23	授業コード	FB1115
科目名称	人間関係ｾﾞﾐⅠ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar of Human Relations Ⅰ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	倉住 友恵			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	倉住 友恵			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 月曜日 10:40～12:10 金曜日 16:20～17:50 後期 月曜日 10:40～12:10 金曜日 16:20～17:50			研究室	10-618
授業概要	心理学のテーマおよび研究手法について学ぶ。心理学の主要な研究法、研究倫理について学ぶことで心理学の基礎知識を身に付ける。実際に行われた過去の研究論文を読むことで、どのようにして心理学研究が遂行されるのか学ぶ。心理学の入門書を輪読し、研究テーマの多様性に触れる。本授業は、適宜グループワークやディスカッションを交えて進めていく。				
到達目標	到達目標は以下の通りである。 1.心理学の主要な研究法と研究テーマ、研究倫理を理解する 2.心理学の研究論文を一人で読むことができる 3.適切なレジュメの作成方法ならびに発表方法を身につける 4.他者の発表に対して自ら質問したり意見を述べたりできる				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	倉住 友恵	予習 ：シラバスを読む、関心のある研究テーマ・分野等について考える 授業 ：オリエンテーション、心理学とは、次回に向けたグループ分けおよび役割分担 復習 ：担当の研究法に関連する文献を調べる
2	倉住 友恵	予習 ：調べた文献に目を通す 授業 ：担当の研究法についてグループでまとめる（グループワーク） 復習 ：疑問点についてさらに調べる
3	倉住 友恵	予習 ：発表準備をする 授業 ：担当の研究法に関する発表と質疑応答 1（プレゼンテーション） 復習 ：発表をもとに生じた疑問点についてさらに調べる
4	倉住 友恵	予習 ：発表準備をする 授業 ：担当の研究法に関する発表と質疑応答 2（プレゼンテーション） 復習 ：発表をもとに生じた疑問点についてさらに調べる
5	倉住 友恵	予習 ：指定された研究倫理に関する資料に目を通す 授業 ：研究倫理とは、研究倫理に配慮した心理学研究の例 復習 ：興味のあるテーマについて研究するためにはどのような倫理的配慮が必要か考えておく
6	倉住 友恵	予習 ：担当する章について精読し、レジュメにまとめる 授業 ：課題図書の輪読 1 （プレゼンテーション） 復習 ：特に関心をもったキーワードについて調べる
7	倉住 友恵	予習 ：担当する章について精読し、レジュメにまとめる 授業 ：課題図書の輪読 2 （プレゼンテーション） 復習 ：特に関心をもったキーワードについて調べる
8	倉住 友恵	予習 ：担当する章について精読し、レジュメにまとめる 授業 ：課題図書の輪読 3 （プレゼンテーション） 復習 ：特に関心をもったキーワードについて調べる
9	倉住 友恵	予習 ：担当する章について精読し、レジュメにまとめる 授業 ：課題図書の輪読 4 （プレゼンテーション） 復習 ：特に関心をもったキーワードについて調べる
10	倉住 友恵	予習 ：興味関心のある領域や研究テーマを考える 授業 ：文献とは、論文検索の仕方、論文の読み方、発表論文を選ぶ 復習 ：第 15 回の発表論文を選ぶ
11	倉住 友恵	予習 ：課題論文の問題・方法部分を読み、知らない単語について調べてくる 授業 ：課題論文の問題・方法部分について内容を整理する（ディスカッション） 復習 ：ディスカッションを踏まえ、もう一度論文を読んでおく
12	倉住 友恵	予習 ：課題論文の結果・考察部分を読み，知らない単語について調べてくる 授業 ：課題論文の結果・考察部分について内容を整理する（ディスカッション） 復習 ：ディスカッションを踏まえ、もう一度論文を読んでおく
13	倉住 友恵	予習 ：発表論文の問題・目的・方法部分を精読し、知らない用語について調べる 授業 ：発表用レジュメの作成方法、発表用レジュメの準備 復習 ：問題・目的・方法部分の発表用レジュメを完成させる

14	倉住　友恵	予習　：発表論文の結果・考察部分を精読し、知らない用語について調べる 授業　：結果・考察の読み取り、論文を批判的に読む、発表用レジュメの準備 復習　：結果・考察部分の発表用レジュメを完成させる
15	倉住　友恵	予習　：発表用レジュメを完成させる 授業　：グループに分かれ各自論文を発表する、質疑応答を行う（プレゼンテーション） 復習　：関心をもったテーマについてさらに調べる

授業開始前学習	興味のある心理学の書籍を読むこと。自分や他者に日頃から関心をもち、なぜそのように行動するのか、なぜそのように感じるのか考えてみること。
授業内課題のフィードバックの方法	授業内課題を課した場合には，その授業時間中または次の授業回に講評を行う。
テキスト・教材	特に指定しない。
参考書	授業内で紹介する。
評価の基準と方法	授業への取り組み 30%、課題提出・発表内容 50%、グループワーク・ディスカッションへの参加度 20%とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	◎		○

関連科目	人間関係の基礎、基礎ゼミⅠ・Ⅱ、心理学の諸科目
その他	授業内容は受講生の人数や学生の興味・関心に応じて変更する可能性がある。 専門ゼミであるため、原則全授業回への出席を求める。万が一欠席する場合には、必ず教員へ連絡を入れる。 授業内でグループワークも行う予定のため、互いを尊重し助け合う姿勢を大切にする。 人間関係ゼミⅡ、Ⅲ、Ⅳへと学びを発展させるためにも、日頃生じた素朴な疑問や興味関心を大切にし、自発的に調べるなど積極的な姿勢をもつことが望まれる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	HR-M-312 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	112-310-23 （Ｊ）	授業コード	FB1116
科目名称	人間関係ｾﾞﾐⅠ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar of Human Relations Ⅰ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	田澤 秀司			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田澤 秀司			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～16:00 水曜日 09:00～14:00 後期 火曜日 09:00～16:00 水曜日 09:00～14:00			研究室	10-502
授業概要	【情報を適切に伝える】 「出版物とコミュニケーション」「出版物と情報」などについて研究する。実践として、グループで役割を分担して、情報誌の制作を行う。また、授業では、ディスカッションや発表などのグループワークを行う。適宜、グループまたは個人の面談を行い、進捗を確認する。				
到達目標	グループの課題（前期）と個人の研究（後期）を１つのチームになって進めることで、「チームで働く力」「考え抜く力」を身につける。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	田澤 秀司	【第１回】 予習 ：書店で市販の雑誌を見比べる 授業 ：進行説明「市販雑誌の生原稿を順番に並べて、進行を確認」 復習 ：フリーペーパーを集める
2	田澤 秀司	【第２回】 予習 ：テーマとターゲットを考える 授業 ：編集会議「グループに分かれて、情報誌のテーマとターゲットを検討」（ディスカッション） 復習 ：テーマとターゲットを整理する
3	田澤 秀司	【第３回】 予習 ：コンテンツを考える 授業 ：編集会議「情報誌のテーマとターゲットを設定し、グループごとに発表」（ディスカッション） 復習 ：コンテンツを整理する
4	田澤 秀司	【第４回】 予習 ：サンプル誌を用意する 授業 ：編集会議「情報誌のフォーマットを決めて、レイアウト用紙を設計」（ディスカッション） 復習 ：ページ構成を考える
5	田澤 秀司	【第５回】 予習 ：取材先の下見をする 授業 ：取材撮影「グループ全員で、広い範囲で取材」 復習 ：取材不足がないか確認する
6	田澤 秀司	【第６回】 予習 ：特集ページの構成を考える 授業 ：取材撮影「グループ全員で、範囲を絞って取材」 復習 ：特集ページの構成を固める
7	田澤 秀司	【第７回】 予習 ：追加取材先の下見をする 授業 ：取材撮影「担当に分かれて、不足や追加分を取材」 復習 ：他のページの構成を固める
8	田澤 秀司	【第８回】 予習：全体のページ構成を考える 授業 ：編集会議「ラフレイアウトを作り、グループごとに発表」（ディスカッション） 復習 ：全体のページ構成を固める
9	田澤 秀司	【第９回】 予習 ：取材したデータを確認する 授業 ：原稿整理「画像の加工、テキスト入力」 復習 ：取材したデータの正誤を確認する
10	田澤 秀司	【第 10 回】 予習 ：取材したデータを確認する 授業 ：原稿整理「画像の加工、テキスト入力、レイアウト」 復習 ：取材したデータの正誤を確認する

11	田澤　秀司	【第 11 回】 予習　：取材したデータを確認する 授業　：原稿整理「画像の加工、テキスト入力、レイアウト、校正」 復習　：取材したデータの正誤を確認する
12	田澤　秀司	【第 12 回】 予習　：テーマとターゲット、コンテンツを確認し、発表に備える 授業　：編集会議「出力見本を並べて、グループごとに発表」（ディスカッション、発表） 復習　：意見を参考に、ページ構成を整理する
13	田澤　秀司	【第 13 回】 予習　：制作部数を考えて材料を用意する 授業　：製本作業「プリントアウト、製本加工」1 復習　：製本を仕上げる
14	田澤　秀司	【第 14 回】 予習　：制作部数を考えて材料を用意する 授業　：製本作業「プリントアウト、製本加工」2 復習　：製本を仕上げる
15	田澤　秀司	【第 15 回】 予習　：制作部数を考えて材料を用意する 授業　：製本作業「プリントアウト、製本加工」3 復習　：製本を仕上げる

授業開始前学習	ニュースなどで日々の出来事を確認しておくと、授業が理解しやすい。
授業内課題のフィードバックの方法	毎回、授業の始めに会議を行い、グループの質問に答え、課題を進めていく。
テキスト・教材	授業で適宜、配布する。
参考書	授業で適宜、紹介する。
評価の基準と方法	配点は、予習・復習などの平常点 60 点、課題 40 点の配分とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	◎		○

関連科目	「企画と表現」「表現活動とﾒﾃﾞｨｱ/表現活動とﾋﾞｼﾞﾈｽ」を学ぶことで、本授業のテーマ、到達目標をより深く理解することができる。
その他	課題学習（予習・復習）については、各回の授業の後半に具体的な例を提示する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	幼児向け月刊誌 10 誌の編集責任者、教材の開発者として数多くの人とかかわり、さまざまな商品を担当してきた経験と、その過程で得た資料をもとに、「社会で求められる力」を「出版“で”教育する」という取り組みを実践している。

科目分類（2025 年～入学者）	HR-M-312 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	112-310-23 （Ｊ）	授業コード	FB1117
科目名称	人間関係ｾﾞﾐⅠ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar of Human Relations Ⅰ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	楠田 恵美			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	楠田 恵美			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 木曜日 13:00～14:30 金曜日 14:40～16:10 後期 木曜日 13:00～14:30 金曜日 14:40～16:10			研究室	10-612
授業概要	全体研究と個人研究、論文執筆トレーニングを同時並行で行う。全体研究では、メディアを対象とする技術論、社会論、文化論、表象分析等に関するテクストの輪読を行う。学外活動としてフィールドワークを一回行う。個人研究では、ゼミ論／卒論執筆に向けて研究テーマを設定し、先行研究の収集と精査を行う。各自の進捗状況は適宜ゼミ内で発表し共有する。論文執筆トレーニングでは、学術論文の執筆方法に関するテクストを全体で読み進める。				
到達目標	メディア・スタディーズの射程や方法を理解し、自らが設定したテーマでメディア論を書くことを最終目標としてそのための技術および知識を身につける。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	楠田 恵美	【第 1 回】 予習：メディアに関して関心のあるテーマをリストアップする 授業：イントロダクション、授業計画 復習：３年次の研究目標をたてる
2	楠田 恵美	【第 2 回】 予習：教科書該当部を読む 授業：なぜメディアを研究するのか（教科書①pp.1-10）、文献購読のしかた（教科書②pp.26-27） 復習：その日の授業内容を振り返る
3	楠田 恵美	【第 3 回】 予習：教科書該当部を読む 授業：ネットは「みんなの声」をつたえているか？（教科書①pp.12-20）、批判的に読むには（教科書②pp.28-29） 復習：その日の授業内容を振り返る
4	楠田 恵美	【第 4 回】 予習：教科書該当部を読む 授業：なぜフェイクニュースが生まれるのか？（教科書①pp.21-30）、テクストクリティークのしかた（教科書②pp.30-31） 復習：その日の授業内容を振り返る
5	楠田 恵美	【第 5 回】 予習：フィールドワーク先の情報収集を行い計画を立てる 授業：フィールドワーク（西武園ゆうえんちを予定） 復習：フィールドワークレポートを作成する
6	楠田 恵美	【第 6 回】 予習：教科書該当部を読む 授業：スマートフォンは写真をどう変えたのか？（教科書①pp.31-40）、レポートのしかた（教科書②pp.36-37） 復習：その日の授業内容を振り返る
7	楠田 恵美	【第 7 回】 予習：教科書該当部を読む 授業：美容整形は個人的なことか？（教科書①pp.41-50）、議論が苦手という人のために（教科書②pp.38-39） 復習：その日の授業内容を振り返る
8	楠田 恵美	【第 8 回】 予習：発表資料を準備する 授業：個人研究発表：研究テーマについて 復習：今後の個人研究の計画を立てる
9	楠田 恵美	【第 9 回】 予習：教科書該当部を読む 授業：CM のジェンダー表現はなぜ炎上しがち？（教科書①pp.52-63）、議論のしかた（教科書②pp.40-41） 復習：その日の授業内容を振り返る
10	楠田 恵美	【第 10 回】 予習：教科書該当部を読む 授業：障害者は「がんばる人」なのか？（教科書①pp.64-73）、意見の出し方（教科書②pp.42-43） 復習：その日の授業内容を振り返る

11	楠田　恵美	【第 11 回】 予習：教科書該当部を読む 授業：女性被害者は本当に多いのか？（教科書①pp.74-83）、レポートとどう違うか（教科書②pp.2-3） 復習：その日の授業内容を振り返る
12	楠田　恵美	【12 回】 予習：教科書該当部を読む 授業：健康の不安はメディアで解消されるのか？（教科書①pp.84-92）、何の役に立つか（教科書②pp.4-5） 復習：その日の授業内容を振り返る
13	楠田　恵美	【第 13 回】 予習：教科書該当部を読む 授業：「外国人」選手はなぜ特別視されるのか？（教科書①pp.94-103）、何枚書けばよいか（教科書②pp.6-7） 復習：その日の授業内容を振り返る
14	楠田　恵美	【第 14 回】 予習：教科書該当部を読む 授業：クールジャパンって本当にクールなの？（教科書①pp.104-113）、不合格になることはあるか（教科書②pp.8-9） 復習：その日の授業内容を振り返る
15	楠田　恵美	【第 15 回】 予習：発表資料を準備する 授業：個人研究発表：研究テーマと先行研究について 復習：今後の個人研究の計画を立てる

授業開始前学習	教科書のはじめにと目次に目を通しておく。自らの研究テーマを構想する。
授業内課題のフィードバックの方法	授業内での発表やディスカッションに対して講評を行うとともに、提出された課題や受けた質問に対しては都度評価、回答をする。
テキスト・教材	①石田佐恵子・岡田崇之, 2020,『基礎ゼミメディアスタディーズ』世界思想社. ②白井利明・高橋一郎, 2013,『よくわかる卒論の書き方（第２版）』ミネルヴァ書房.
参考書	授業中に適宜、紹介する。
評価の基準と方法	授業態度 50%、授業内課題 50%で評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	◎		○

関連科目	メディアと社会／情報技術と人間関係、広告と消費社会／広告の研究／映像広告の研究
その他	正課学外活動として、首都圏近郊のテーマパーク等でのフィールドワークを予定している。フィールドワークを実施するかどうかは、その時の状況に応じて判断する。フィールドワークの交通費ならびに入園料は自己負担となる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	HR-M-312 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	112-310-23	授業コード	FB1118
科目名称	人間関係ｾﾞﾐⅠ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar of Human Relations Ⅰ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	小菅 清香			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小菅 清香			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 水曜日 14:40～16:10 金曜日 14:40～16:10 後期 水曜日 14:40～17:50			研究室	10-503
授業概要	本ゼミでは、キャリア（人の一生涯）に関する心理学研究を行うことを目指す。心理学の入門書を輪読し、心理学の主要な研究法、研究倫理について学ぶことで心理学の基礎知識を身に付ける。さらに実際に行われた過去の研究論文を読むことで、どのようにして心理学研究が遂行されるのかを学ぶ。授業では適宜グループワークやディスカッションを交えて進めていく。同時に、ニュース等で取り上げられる現実のキャリア上の問題を知り、解決すべきテーマを検討する。このことは後期の各班に分かれた研究テーマの決定と研究の実施に先立つものである。				
到達目標	到達目標は以下の通りである。 ①心理学の主要な研究法と研究テーマ、研究倫理を理解する ②心理学の研究論文を一人で読むことができる ③適切なレジュメの作成方法ならびに発表方法を身につける ④他者の発表に対して自ら質問したり意見を述べたりできる ⑤キャリア関連トピックについて現在の問題点を説明できる				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	小菅 清香	予習 ：シラバスを読み、関心のある研究テーマ・分野等について考える 授業 ：オリエンテーション、キャリア心理学とは１ 復習 ：授業内容を振り返り、課題に取り組む
2	小菅 清香	予習 ：シラバスを読み、関心のある研究テーマ・分野等について考える 授業 ：オリエンテーション、キャリア心理学とは２ 復習 ：授業内容を振り返り、課題に取り組む
3	小菅 清香	予習 ：シラバスを読み、関心のある研究テーマ・分野等について考える 授業 ：オリエンテーション、キャリア心理学とは３ 復習 ：授業内容を振り返り、課題に取り組む
4	小菅 清香	予習 ：発表準備をする 授業 ：担当章の発表１ 復習 ：授業内容を振り返り、課題に取り組む
5	小菅 清香	予習 ：発表準備をする 授業 ：担当章の発表２ 復習 ：授業内容を振り返り、課題に取り組む
6	小菅 清香	予習 ：発表準備をする 授業 ：担当章の発表３ 復習 ：授業内容を振り返り、課題に取り組む
7	小菅 清香	予習 ：発表準備をする 授業 ：担当章の発表４ 復習 ：授業内容を振り返り、課題に取り組む
8	小菅 清香	予習 ：発表準備をする 授業 ：担当章の発表５ 復習 ：授業内容を振り返り、課題に取り組む
9	小菅 清香	予習 ：発表準備をする 授業 ：担当章の発表６ 復習 ：授業内容を振り返り、課題に取り組む
10	小菅 清香	予習 ：発表準備をする 授業 ：担当章の発表７ 復習 ：授業内容を振り返り、課題に取り組む
11	小菅 清香	予習 ：発表準備をする 授業 ：担当章の発表８ 復習 ：授業内容を振り返り、課題に取り組む
12	小菅 清香	予習 ：発表準備をする 授業 ：担当章の発表９ 復習 ：授業内容を振り返り、課題に取り組む

13	小菅　清香	予習　：発表準備をする 授業　：担当章の発表 10 復習　：授業内容を振り返り、課題に取り組む
14	小菅　清香	予習　：論文を読む 授業　：論文検討 復習　：授業内容を振り返り、課題に取り組む
15	小菅　清香	予習　：論文を読む 授業　：論文検討 復習　：授業内容を振り返り、課題に取り組む

授業開始前学習	「職業選択論」「ライフコースの心理学」や心理関連科目の履修が、本授業の理解に役立つ。
授業内課題のフィードバックの方法	授業内課題を課した場合には，その授業時間中または次の授業回に講評を行う。
テキスト・教材	白井利明・高橋一郎著『よくわかる卒論の書き方』（ミネルヴァ書房） 本郷一夫編著『実践研究の理論と方法』（金子書房）
参考書	授業内で適宜紹介する。
評価の基準と方法	授業への取り組み（30%）、発表内容（50%）、グループワーク（20%）で総合的に評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当								

関連科目	人間関係の基礎、人間関係入門Ⅰ、職業選択論、ライフコースの心理学、心理学の諸科目
その他	授業内容は受講生の人数や学生の興味・関心に応じて変更する可能性がある。 本授業はゼミであるため、原則全授業回への出席を求める。何かしらの事情で欠席をする場合には、必ず教員へ連絡を入れるようにする。 授業外では別途、他大学との合同ゼミなどを予定しているため、希望する者は積極的に参加してほしい。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	EAP 関連会社や独立行政法人 労働政策研究・研修機構（当時：キャリア支援部門）での実務経験、国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター（当時：災害時こころの情報支援センター）および厚生労働省委託事業 DPAT 事務局での多職種連携、国家資格キャリアコンサルタント試験の合格実績がある。これらの経験をふまえて、適宜、各現場での研究例や実践を紹介しながら講義を行う。

科目分類（2025 年～入学者）	HR-M-312	科目分類（～2024 年入学者）	112-310-23	授業コード	FB1122
科目名称	人間関係ｾﾞﾐⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar of Human Relations Ⅱ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	臼井　実稲子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	臼井　実稲子			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期　水曜日 09:00～12:10 後期　水曜日 09:00～12:10			研究室	10-705
授業概要	国際社会の諸問題から、各ゼミ生が関心のあるテーマを選択し、その問題について考察する。ゼミ科目であり、ディスカッション、プレゼンテーションが中心であることは言うまでもない。 毎回、現在生じている国際問題を、新聞・テレビなどのメディアでチェックする。				
到達目標	（１）思考力を深める （２）口頭発表および文章作成能力の向上 （３）現在生じている国際問題を認識し、多角的視点から分析できるようになる思考を深める。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	臼井　実稲子	【第 1 回】 予習　：前期課題の完成 授業　：後期のゼミ運営方針を再確認　各人のゼミ研究テーマについて発表 復習　：研究テーマについて、教員からの指示を参考に再考
2	臼井　実稲子	【第 2 回】 予習　：発表者は研究発表準備　その他ゼミ生は研究関心おある新聞記事を準備 授業　：時事問題解説(1)　学生発表と討議(1)（プレゼンテーション・ディスカッション） 復習　：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理　自己の発表の再考
3	臼井　実稲子	【第 3 回】 予習　：発表者は研究発表準備　その他ゼミ生は研究関心おある新聞記事を準備 授業　：時事問題解説(2)ゼミ生による発表・討議(2)（プレゼンテーション・ディスカッション） 復習　：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理　自己の発表の再考
4	臼井　実稲子	【第 4 回】 予習　：発表者は研究発表準備　その他ゼミ生は研究関心おある新聞記事を準備 授業　：時事問題解説(3)　学生発表と討議　(3)　（プレゼンテーション・ディスカッション） 復習　：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理　自己の発表の再考
5	臼井　実稲子	【第 5 回】 予習　：発表者は研究発表準備　その他ゼミ生は研究関心おある新聞記事を準備 授業　：時事問題解説(4)　学生発表と討議(4)　（プレゼンテーション・ディスカッション） 復習　：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理　自己の発表の再考
6	臼井　実稲子	【第 6 回】 予習　：発表者は研究発表準備　その他ゼミ生は研究関心おある新聞記事を準備 授業　：時事問題解説(5)　学生発表と討議(5)　（プレゼンテーション・ディスカッション） 復習　：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理　自己の発表の再考
7	臼井　実稲子	【第 7 回】 予習　：発表者は研究発表準備　その他ゼミ生は研究関心おある新聞記事を準備 授業　：時事問題解説(6)　学生発表と討議(6)　（プレゼンテーション・ディスカッション） 復習　：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理　自己の発表の再考
8	臼井　実稲子	【第 8 回】 予習　：発表者は研究発表準備　その他ゼミ生は研究関心おある新聞記事を準備 授業　：時事問題解説(7)　学生発表と討議(7)　（プレゼンテーション・ディスカッション） 復習　：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理　自己の発表の再考
9	臼井　実稲子	【第 9 回】 予習　：発表者は研究発表準備　その他ゼミ生は研究関心おある新聞記事を準備 授業　：時事問題解説(8)　学生発表と討議(8)　（プレゼンテーション・ディスカッション） 復習　：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理　自己の発表の再考
10	臼井　実稲子	【第 10 回】 予習　：発表者は研究発表準備　その他ゼミ生は研究関心おある新聞記事を準備 授業　：時事問題解説(9)　学生発表と討議(9)　（プレゼンテーション・ディスカッション） 復習　：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理　自己の発表の再考
11	臼井　実稲子	【第 11 回】 予習　：発表者は研究発表準備　その他ゼミ生は研究関心おある新聞記事を準備 授業　：時事問題解説(10)　学生発表と討議(10)　（プレゼンテーション・ディスカッション） 復習　：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理　自己の発表の再考

12	臼井　実稲子	【第 12 回】 予習　：発表者は研究発表準備　その他ゼミ生は研究関心おある新聞記事を準備 授業　：時事問題解説(11)　学生発表と討議(11)　（プレゼンテーション・ディスカッション） 復習　：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理　自己の発表の再考
13	臼井　実稲子	【第 13 回】 予習　：発表者は研究発表準備　その他ゼミ生は研究関心おある新聞記事を準備 授業　：時事問題解説(12)　学生発表と討議(12)　（プレゼンテーション・ディスカッション） 復習　：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理　自己の発表の再考
14	臼井　実稲子	【第 14 回】 予習　：これまでのゼミ生のレジュメを読み、共同研究の可能性を探る 授業　：４年生に向けての研究の再考を中心に討論（ディスカッション） 復習　：各ゼミ生が【第 14 回】ゼミを踏まえて、自己の研究を再検討
15	臼井　実稲子	【第 15 回】 予習　：前回課題を完成 授業　：４年ゼミに向けての各ゼミ生の研究テーマの最終検討　論文の書き方指導 復習　：指示された課題を完成

授業開始前学習	自身の研究テーマに関する本を読み漁る。
授業内課題のフィードバックの方法	授業を通じて適宜実施する。
テキスト・教材	指定しない。
参考書	適宜指示する。
評価の基準と方法	平常点と発表内容およびレジュメ、毎ゼミでの発言で評価する。 レジュメ作成と発表 40%　発言などの積極性　20%　中間報告・レポート 40% 発表担当者が発表日に欠席した場合、マイナス評価は免れない。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	◎		○

関連科目	「戦争と平和の歴史 I.II」を履修済みであることが望ましい。
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	HR-M-312	科目分類（～2024 年入学者）	112-310-23	授業コード	FB1123
科目名称	人間関係ｾﾞﾐⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar of Human Relations Ⅱ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	榎本 環			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	榎本 環			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 10:40～12:10			研究室	10-716
授業概要	テーマ：社会学で読み解く現代社会 社会学的な発想と視座について理解を深め、それらを実践的に駆使して、問題を主体的かつ多角的に考察するトレーニング活動を展開します。各自の研究活動に必要な基礎的スキルを着実に修得してもらうことを目標とします。				
到達目標	次の 3 点を目標とします。 1.「本の読み方」をマスターする 2. ディスカッションのスキルを高める 3.「問い」を立てるスキルを身につける				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	榎本 環	【第 1 回】 予習：テキスト第 11 章を精読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業：後期ゼミ活動打合せ、テキスト講読 1【pp.118～127】（発表、ディスカッション） 復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。
2	榎本 環	【第 2 回】 予習：テキスト第 12 章を精読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業：テキスト講読 2【pp.128～137】（発表、ディスカッション） 復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。
3	榎本 環	【第 3 回】 予習：テキスト第 15 章を精読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業：テキスト講読 3【pp.160～169】（発表、ディスカッション） 復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。
4	榎本 環	【第 4 回】 予習：各自の個人研究のテーマ候補（複数）をメモに書き出してください。 授業：個人研究の方法と進め方 復習：以後の報告スケジュールをもとに、準備作業の計画を立ててください。
5	榎本 環	【第 5 回】 予習：テキスト第 16 章を精読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業：テキスト講読 4【pp.170～179】（発表、ディスカッション） 復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。
6	榎本 環	【第 6 回】 予習：テキスト第 20 章を精読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業：テキスト講読 5【pp.212～221】（発表、ディスカッション） 復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。
7	榎本 環	【第 7 回】 予習：報告者のレジュメを一読し、コメント・不明点を整理しておいてください。 授業：個人研究発表 1（発表、ディスカッション） 復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。
8	榎本 環	【第 8 回】 予習：報告者のレジュメを一読し、コメント・不明点を整理しておいてください。 授業：個人研究発表 2（発表、ディスカッション） 復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。
9	榎本 環	【第 9 回】 予習：報告者のレジュメを一読し、コメント・不明点を整理しておいてください。 授業：個人研究発表 3（発表、ディスカッション） 復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。
10	榎本 環	【第 10 回】 予習：報告者のレジュメを一読し、コメント・不明点を整理しておいてください。 授業：個人研究発表 4（発表、ディスカッション） 復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。

11	榎本　環	【第 11 回】 予習：報告者のレジュメを一読し、コメント・不明点を整理しておいてください。 授業：個人研究発表 5（発表、ディスカッション） 復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。
12	榎本　環	【第 12 回】 予習：報告者のレジュメを一読し、コメント・不明点を整理しておいてください。 授業：個人研究発表 6（発表、ディスカッション） 復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。
13	榎本　環	【第 13 回】 予習：報告者のレジュメを一読し、コメント・不明点を整理しておいてください。 授業：個人研究発表 7（発表、ディスカッション） 復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。
14	榎本　環	【第 14 回】 予習：報告者のレジュメを一読し、コメント・不明点を整理しておいてください。 授業：個人研究発表 8（発表、ディスカッション） 復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。
15	榎本　環	【第 15 回】 予習：報告者のレジュメを一読し、コメント・不明点を整理しておいてください。 授業：個人研究発表 9（発表、ディスカッション） 復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。

授業開始前学習	日頃から新聞・雑誌に目を通す習慣をつけ、幅広く読書し、見聞を広め、好奇心と観察眼を研ぎ澄ませる努力を心がけることを勧めます。
授業内課題のフィードバックの方法	課題提出を求める場合は、次回授業、個別のメール・面談等により講評し、質問への回答に対応します。
テキスト・教材	出口剛司、2019、『大学 4 年間の社会学が 10 時間でざっと学べる』（KADOKAWA）
参考書	長谷川公一ほか、2007、『社会学』（有斐閣） その他、授業を通じて随時、紹介します。
評価の基準と方法	平常点（80 %）（受講取組みの積極性 30%・課題提出ほか 50%）、期末レポート（20 %）により評価します。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	◎		○

関連科目	「社会学ⅠⅡ」および「流行論」「社会学研究ⅠⅡ」「社会学特論」「アンケート調査法」「フィールドワークの技法」を履修しておくことを推奨します。
その他	前期に引き続き、テキストの講読（受講者による報告）と討論を基本形式に進めます。報告者のみならず全員があらかじめ指定された範囲を熟読し、疑問点や各自のコメントを整理したうえでゼミでの議論に臨んでください。学期後半からは個人研究に取り組んでもらい、プレゼンと討論を行います。意欲的な受講態度を期待します。受講者各位の素朴な疑問と柔軟な発想から、私自身も多くのことを学びたいと考えております。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	HR-M-312	科目分類（～2024 年入学者）	112-310-23	授業コード	FB1125
科目名称	人間関係ｾﾞﾐⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar of Human Relations Ⅱ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	倉住 友恵			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	倉住 友恵			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 月曜日 10:40～12:10 金曜日 16:20～17:50 後期 月曜日 10:40～12:10 金曜日 16:20～17:50			研究室	10-618
授業概要	グループに分かれ心理学的手法を用いた研究を行う。翌年の卒業研究に備えて、研究の手順とノウハウをグループワークにて学ぶ。最終回ではプレゼンテーションを行い、各グループの研究に対して互いに質疑応答を行うことで、他者の研究を理解し、批判的に考えられるようになることを目指す。				
到達目標	到達目標は以下の通りである。 1.心理学研究の手順について理解する 2.統計的分析方法の基礎について理解する 3.相手の視点に立った分かり易いプレゼンテーションができる 5.論文で使用される独特な表現を使って文章を書くことができる 6.一連の活動を通して論理的思考力を培う				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	倉住 友恵	予習 ：研究したいテーマや領域について考える 授業 ：オリエンテーション、関心のあるテーマ別のグループ分け、研究内容の相談【教科書第 1,2 章（pp.1-8）】（グループワーク） 復習 ：本日の内容や決定事項を教科書にまとめる
2	倉住 友恵	予習 ：研究デザインを考える 授業 ：研究テーマと仮説の設定【教科書第 5 章（pp.19-20）】（グループワーク） 復習 ：本日の内容や決定事項を教科書にまとめる
3	倉住 友恵	予習 ：具体的な研究方法について考える 授業 ：研究の具体化、質問項目や実験方法を考える【教科書第 6 章（pp.21-25）】（グループワーク） 復習 ：本日の内容や決定事項を教科書にまとめる
4	倉住 友恵	予習 ：必要な調査材料について考えておく 授業 ：調査材料を考え、作成・準備する【教科書第 7 章（pp.26-30）】（グループワーク） 復習 ：本日の内容や決定事項を教科書にまとめる
5	倉住 友恵	予習 ：分担した調査材料の作成を行う 授業 ：調査材料を作成する、調査実施について相談する【教科書第 8 章（p.31）】（グループワーク） 復習 ：本日の内容や決定事項を教科書にまとめる、調査材料に問題がないか確認する
6	倉住 友恵	予習 ：調査依頼を行い、調査日を決定する 授業 ：調査の実施、プレゼンの問題・方法部分の作成【教科書第 9 章（pp.32-35）、第 28 章（pp.97-101）】（グループワーク） 復習 ：本日の内容や決定事項を教科書にまとめる
7	倉住 友恵	予習 ：調査の進行状況を確認する 授業 ：データ整理、データクリーニング【教科書第 10,11 章（pp.36-43）】（グループワーク） 復習 ：本日の内容を教科書にまとめる
8	倉住 友恵	予習 ：調査で得られたデータをまとめ、持参する 授業 ：基礎統計量の算出【教科書第 11 章（pp.40-43）、第 22 章（pp.73-78）】（グループワーク） 復習 ：本日の内容を教科書にまとめる
9	倉住 友恵	予習 ：仮説を思い返し、どのような分析を行いたいか確認する 授業 ：因子分析の実施【教科書第 12～14 章（pp.44-55）、第 23 章（p.79）】（グループワーク） 復習 ：本日の内容を教科書にまとめる
10	倉住 友恵	予習 ：仮説を思い返し、どのような分析を行いたいか確認する 授業 ：仮説に沿った分析の実施①【教科書第 15～21 章（pp.56-72）、第 24 章（pp.82-87）】（グループワーク） 復習 ：本日の内容を教科書にまとめる
11	倉住 友恵	予習 ：仮説を思い返し、どのような分析を行いたいか確認する 授業 ：仮説に沿った分析の実施②【教科書第 15～21 章（pp.56-72）、第 24 章（pp.82-87）】（グループワーク） 復習 ：本日の内容を教科書にまとめる

12	倉住　友恵	予習　：分析結果を見返し、なぜその結果となったか理由を考える 授業　：分析結果を図表にする、結果を考察する、研究の問題点を考える【教科書第 25,26 章（pp.88-92）】（グループワーク） 復習　：本日の内容を教科書にまとめる
13	倉住　友恵	予習　：プレゼンテーションの流れを考える 授業　：プレゼンテーションの準備、レポートの作成方法【教科書第 27～30 章（pp.93-106）】（グループワーク） 復習　：作業を分担しプレゼンを準備する、個人レポートを作成する
14	倉住　友恵	予習　：プレゼンテーションに向けてグループで相談すべきことについて整理する 授業　：プレゼンテーションの準備・練習、卒業研究に向けて【教科書第 31 章（pp.107-110）】（グループワーク） 復習　：作業を分担しプレゼンを準備する、個人レポートを作成する
15	倉住　友恵	予習　：プレゼンテーションの練習を十分に行う 授業　：グループ別プレゼンテーション、質疑応答（プレゼンテーション） 復習　：質疑応答を踏まえ研究の問題点をさらに考える、卒業研究のテーマについて考え始める

授業開始前学習	研究したいと思うテーマに関連する書籍、論文を読んでおく。自分や他者に日頃から関心をもち、なぜそのように行動するのか，なぜそのように感じるのか考えてみる（素朴な疑問は研究テーマの芽になりうるため）。
授業内課題のフィードバックの方法	授業内課題を課した場合には、提出日にチェックを行いその場でコメントを返す。
テキスト・教材	倉住友恵著『人間関係ゼミⅡ（応用心理学）』駒沢女子大学教科書シリーズ
参考書	授業時間内に紹介する。
評価の基準と方法	グループへの貢献度（出席を含む）40%、プレゼンテーション 30%、レポート 30%とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	◎		○

関連科目	人間関係ゼミⅠ、アンケート調査法、フィールドワークの技法、人間関係の基礎
その他	本授業はゼミであるため、基本的に全授業回への出席を求める。万が一欠席する場合には、必ず教員へ連絡を入れる。 授業はグループワークにて進行するため、グループに貢献できるよう積極的かつ協力的な姿勢をもつようにする。 人間関係ゼミⅢ、Ⅳへと学びを発展させるためにも、日頃生じた素朴な疑問や興味関心を大切にし、自発的に調べるなど積極的な姿勢をもつことが望まれる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	HR-M-312 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	112-310-23 （Ｊ）	授業コード	FB1126
科目名称	人間関係ｾﾞﾐⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar of Human Relations Ⅱ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	田澤　秀司			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田澤　秀司			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期　火曜日 09:00～16:00　水曜日 09:00～14:00 後期　火曜日 09:00～16:00　水曜日 09:00～14:00			研究室	10-502
授業概要	【情報を適切に伝える】 出版物にみられる「テーマや表現の多様性と方法」について研究する。実践として、絵本を制作したり、小冊子にまとめたりする。また、授業では、ディスカッションや発表などのグループワークを行う。適宜、グループまたは個人の面談を行い、進捗を確認する。				
到達目標	グループの課題（前期）と個人の研究（後期）を 1 つのチームになって進めることで、「チームで働く力」「考え抜く力」を身につける。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	田澤　秀司	【第 1 回】 予習　：「絵本とは何か」を具体的に調べる 授業　：絵本編集「絵を読ませるということ、メッセージ」 復習　：「絵本とは何か」をレポートにまとめる
2	田澤　秀司	【第 2 回】 予習　：ストーリーを考える 授業　：絵本編集「ストーリー展開とページめくりへの期待」 復習　：授業を振り返り、ストーリーを見直す
3	田澤　秀司	【第 3 回】 予習　：ページ構成を考える 授業　：絵本編集「起承転結、連続と飛躍、構図と変化」 復習　：授業を振り返り、ページ構成を見直す
4	田澤　秀司	【第 4 回】 予習　：絵コンテを考える 授業　：企画会議「コンテを作る、コンテで語る」（ディスカッション） 復習　：授業を振り返り、絵コンテを見直す
5	田澤　秀司	【第 5 回】 予習　：絵コンテを仕上げる 授業　：企画会議「コンテのプレゼンテーション」（ディスカッション） 復習　：授業を振り返り、絵コンテを修正する
6	田澤　秀司	【第 6 回】 予習　：デザイン案を考える 授業　：企画会議「判型とデザイン計画」（ディスカッション） 復習　：授業を振り返り、デザイン案を見直す
7	田澤　秀司	【第 7 回】 予習　：ページ構成を考える 授業　：原稿制作「画像原稿と文字原稿」1 復習　：授業を振り返り、ページ構成を見直す
8	田澤　秀司	【第 8 回】 予習　：キャラクターを考える 授業　：原稿制作「画像原稿と文字原稿」2 復習　：授業を振り返り、キャラクターを考える
9	田澤　秀司	【第 9 回】 予習　：ストーリーとキャラクターを完成させる 授業　：原稿制作「画像原稿と文字原稿」3 復習　：授業を振り返り、ストーリーとキャラクターを見直す
10	田澤　秀司	【第 10 回】 予習　：すべての原稿を完成させる 授業　：原稿整理「画像の加工、テキスト入力など」 復習　：授業を振り返り、すべての原稿を見直す
11	田澤　秀司	【第 11 回】 予習　：レイアウトを進める 授業　：原稿整理「プリントアウト、校正など」 復習　：授業を振り返り、レイアウトを見直す

12	田澤　秀司	【第 12 回】 予習　：レイアウトを進める 授業　：原稿整理「プリントアウト、校正、追加原稿など」 復習　：授業を振り返り、レイアウトを見直す
13	田澤　秀司	【第 13 回】 予習　：制作部数を考えて材料を用意する 授業　：製本作業「プリントアウト、製本加工」1 復習　：製本を仕上げる
14	田澤　秀司	【第 14 回】 予習　：制作部数を考えて材料を用意する 授業　：製本作業「プリントアウト、製本加工」2 復習　：製本を仕上げる
15	田澤　秀司	【第 15 回】 予習　：制作部数を考えて材料を用意する 授業　：製本作業「プリントアウト、製本加工」3 復習　：製本を仕上げる

授業開始前学習	ニュースなどで日々の出来事を確認しておくと、授業が理解しやすい。
授業内課題のフィードバックの方法	毎回、授業の始めに会議を行い、グループの質問に答え、課題を進めていく。
テキスト・教材	授業で適宜、配布する。
参考書	授業で適宜、紹介する。
評価の基準と方法	配点は、予習・復習などの平常点 60 点、課題 40 点の配分とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	◎		○

関連科目	「企画と表現」「表現活動とﾒﾃﾞｨｱ／表現活動とﾋﾞｼﾞﾈｽ」を学ぶことで、本授業のテーマ、到達目標をより深く理解することができる。
その他	課題学習（予習・復習）については、各回の授業の後半に具体的な例を提示する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	幼児向け月刊誌 10 誌の編集責任者、教材の開発者として数多くの人とかかわり、さまざまな商品を担当してきた経験と、その過程で得た資料をもとに、「社会で求められる力」を「出版“で”教育する」という取り組みを実践している。

科目分類（2025 年～入学者）	HR-M-312 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	112-310-23 （Ｊ）	授業コード	FB1127
科目名称	人間関係ｾﾞﾐⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar of Human Relations Ⅱ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	楠田 恵美			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	楠田 恵美			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 木曜日 13:00～14:30 金曜日 14:40～16:10 後期 木曜日 13:00～14:30 金曜日 14:40～16:10			研究室	10-612
授業概要	全体研究と個人研究、論文執筆トレーニングを同時並行で行う。全体研究では、メディアを対象とする技術論、社会論、文化論、表象分析等に関するテクストの輪読を行う。学外活動としてフィールドワークを一回行う。個人研究では、ゼミ論／卒論執筆に向けて研究テーマを設定し、先行研究の収集と精査し、問題設定を行う。各自の進捗状況は適宜ゼミ内で発表し共有する。論文執筆トレーニングでは、学術論文の執筆方法に関するテクストを全体で読み進める。				
到達目標	メディア・スタディーズの射程や方法を理解し、自らが設定したテーマでメディア論を書くことを最終目標とし、そのための技術および知識を身につける。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	楠田 恵美	【第 1 回】 予習：前期の内容を振り返る 授業：イントロダクション、授業計画 復習：３年次後半の研究目標をたてる
2	楠田 恵美	【第 2 回】 予習：教科書該当部を読む 授業：K-POP は誰のものか？（教科書①pp.114-122）、なぜ早めに始めるか（教科書②pp.10-11） 復習：その日の授業内容を振り返る
3	楠田 恵美	【第 3 回】 予習：教科書該当部を読む 授業：グーグルマップは世界を描いているか？（教科書①pp.124-132）、年間計画の立て方（教科書②pp.12-13） 復習：その日の授業内容を振り返る
4	楠田 恵美	【第 4 回】 予習：教科書該当部を読む 授業：メディア経験から何がわかるのか？（教科書①pp.133-141）、実際の進め方（教科書②pp.14-15） 復習：その日の授業内容を振り返る
5	楠田 恵美	【第 5 回】 予習：フィールドワーク先の情報収集を行い計画を立てる 授業：フィールドワーク（よみうりランドを予定） 復習：フィールドワークレポートを作成する
6	楠田 恵美	【第 6 回】 予習：教科書該当部を読む 授業：地域の記憶は誰のものか？（教科書①pp.142-150）、指導教員とどう付き合うか（教科書②pp.18-19） 復習：その日の授業内容を振り返る
7	楠田 恵美	【第 7 回】 予習：教科書該当部を読む 授業：ソーシャルメディアのコミュニケーションと社会（教科書③pp.8-17）、どんな心構えが必要か（教科書②pp.20-21） 復習：その日の授業内容を振り返る
8	楠田 恵美	【第 8 回】 予習：発表資料を準備する 授業：個人研究発表：研究テーマと先行研究について 復習：今後の個人研究の計画を立てる
9	楠田 恵美	【第 9 回】 予習：教科書該当部を読む 授業：ソーシャルメディアとフェイクニュース・デマ情報の拡散（教科書③pp.20-28）、3,2,1 年次にしておくこと（教科書②pp.22-23） 復習：その日の授業内容を振り返る
10	楠田 恵美	【第 10 回】 予習：教科書該当部を読む 授業：動画視聴は自由な意志でなされているのか？（教科書③pp.29-35）、論文のきまり（教科書②pp.48-49） 復習：その日の授業内容を振り返る

11	楠田　恵美	【第 11 回】 予習：教科書該当部を読む 授業：小説投稿サイトがひらいた読書・創作・コミュニケーション（教科書③pp.36-44）、引用の示し方（教科書②pp.50-51） 復習：その日の授業内容を振り返る
12	楠田　恵美	【12 回】 予習：教科書該当部を読む 授業：ソーシャルメディアと現実空間を横断するあらたな「場所」（教科書③pp.45-52）、引用文献の書き方（教科書②pp.52-58） 復習：その日の授業内容を振り返る
13	楠田　恵美	【第 13 回】 予習：教科書該当部を読む 授業：インターネットは音楽から何を奪ったか？（教科書③pp.54-62）、専門用語の定義のしかた（教科書②pp.58-59） 復習：その日の授業内容を振り返る
14	楠田　恵美	【第 14 回】 予習：教科書該当部を読む 授業：ソーシャルゲームというメディア（教科書③pp.63-70）、事実と意見の分け方（教科書②pp.60-61） 復習：その日の授業内容を振り返る
15	楠田　恵美	【第 15 回】 予習：発表資料を準備する 授業：個人研究発表：研究テーマと先行研究、問いについて 復習：今後の個人研究の計画を立てる

授業開始前学習	前期の授業内容を復習するとともに、自らの研究テーマに関連する文献を読み進めておく。
授業内課題のフィードバックの方法	授業内での発表やディスカッションに対して講評を行うとともに、提出された課題や受けた質問に対しては都度評価、回答をする。
テキスト・教材	①石田佐恵子・岡田崇之, 2020,『基礎ゼミメディアスタディーズ』世界思想社. ②白井利明・高橋一郎, 2013,『よくわかる卒論の書き方（第 2 版）』ミネルヴァ書房. ③松井広志・岡本健, 2021,『ソーシャルメディア・スタディーズ』北樹出版.
参考書	授業中に適宜、紹介する。
評価の基準と方法	授業態度 50%、授業内課題 50%で評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	◎		○

関連科目	メディアと社会／情報技術と人間関係、広告と消費社会／広告の研究／映像広告の研究
その他	正課学外活動として、首都圏近郊のテーマパーク等でのフィールドワークを予定している。フィールドワークを実施するかどうかは、その時の状況に応じて判断する。フィールドワークの交通費ならびに入園料は自己負担となる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	HR-M-312 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	112-310-23 （Ｊ）	授業コード	FB1128
科目名称	人間関係ｾﾞﾐⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar of Human Relations Ⅱ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	小菅 清香			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小菅 清香			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 水曜日 14:40～16:10 金曜日 14:40～16:10 後期 水曜日 14:40～17:50			研究室	10-503
授業概要	翌年の卒業研究に備えて、心理学的手法を用いた研究をグループで実施する。問題設定、データ収集、分析、結果の考察といった心理学における実証的な流れを体験して、卒業論文執筆のための能力を身につけることが目的である。さらに、研究の発表・討論の機会を設けることで、より物事を批判的・多角的に考察する力を身につけることも目指す。				
到達目標	①心理学研究の手順について理解する ②卒業論文作成時に必要とされる論文執筆のスキルとマナーを身に着ける ③統計的分析方法の基礎について理解する ④相手の視点に立ったプレゼンテーションができる ⑤仮説の設定、データの考察、発表での質疑応答等を通じて論理的に考える力を培う				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	小菅 清香	予習 ：研究したいテーマや領域について考える 授業 ：オリエンテーション 復習 ：授業内容の振り返り、課題に取り組む
2	小菅 清香	予習 ：研究したいテーマや領域について考える 授業 ：心理学研究の実施１（研究テーマと仮説の設定） 復習 ：授業内容の振り返り、課題に取り組む
3	小菅 清香	予習 ：研究に必要な作業の実施、検討 授業 ：心理学研究の実施２（研究テーマと仮説の設定） 復習 ：授業内容の振り返り、課題に取り組む
4	小菅 清香	予習 ：研究に必要な作業の実施、検討 授業 ：心理学研究の実施３（研究の方法論の検討） 復習 ：授業内容の振り返り、課題に取り組む
5	小菅 清香	予習 ：研究に必要な作業の実施、検討 授業 ：心理学研究の実施４（研究の方法論の検討） 復習 ：授業内容の振り返り、課題に取り組む
6	小菅 清香	予習 ：研究に必要な作業の実施、検討 授業 ：心理学研究の実施５（データの収集・整理） 復習 ：授業内容の振り返り、課題に取り組む
7	小菅 清香	予習 ：研究に必要な作業の実施、検討 授業 ：心理学研究の実施６（データの分析） 復習 ：授業内容の振り返り、課題に取り組む
8	小菅 清香	予習 ：研究に必要な作業の実施、検討 授業 ：心理学研究の実施７（データの分析） 復習 ：授業内容の振り返り、課題に取り組む
9	小菅 清香	予習 ：研究に必要な作業の実施、検討 授業 ：心理学研究の実施８（データの分析） 復習 ：授業内容の振り返り、課題に取り組む
10	小菅 清香	予習 ：研究に必要な作業の実施、検討 授業 ：心理学研究の実施９（結果のまとめ） 復習 ：授業内容の振り返り、課題に取り組む
11	小菅 清香	予習 ：研究に必要な作業の実施、検討 授業 ：心理学研究の実施 10（結果の解釈） 復習 ：授業内容の振り返り、課題に取り組む
12	小菅 清香	予習 ：研究に必要な作業の実施、検討 授業 ：心理学研究の実施 11（改善点の発見） 復習 ：授業内容の振り返り、課題に取り組む
13	小菅 清香	予習 ：プレゼンテーションの準備 授業 ：プレゼンテーションの作成１ 復習 ：作業を分担しプレゼンを準備する、個人レポートを作成する

14	小菅　清香	予習　：プレゼンテーションの準備 授業　：プレゼンテーションの作成２ 復習　：作業を分担しプレゼンを準備する、個人レポートを作成する
15	小菅　清香	予習　：プレゼンテーションの準備 授業　：プレゼンテーション発表 復習　：個人レポートを作成する、卒業論文でのテーマ決定

授業開始前学習	前期のゼミ内容の復習
授業内課題のフィードバックの方法	授業内課題を課した場合には、提出日にチェックを行いその場でコメントを返す。
テキスト・教材	白井利明・高橋一郎著『よくわかる卒論の書き方』（ミネルヴァ書房） 本郷一夫編著『実践研究の理論と方法』（金子書房）
参考書	授業時間内に適宜紹介する。
評価の基準と方法	授業毎の課題（40%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（30%）とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当								

関連科目	人間関係ゼミⅠ、アンケート調査法、フィールドワークの技法、人間関係の基礎、ライフコースの心理学、職業選択論
その他	授業内容は受講生の人数や学生の興味・関心に応じて変更する可能性がある。 本授業はゼミであるため、原則全授業回への出席を求める。何かしらの事情で欠席をする場合には、必ず教員へ連絡を入れるようにする。 授業外では別途、他大学との合同ゼミなどを予定しているため、希望する者は積極的に参加してほしい。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	EAP 関連会社や独立行政法人 労働政策研究・研修機構（当時：キャリア支援部門）での実務経験、国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター（当時：災害時こころの情報支援センター）および厚生労働省委託事業 DPAT 事務局での多職種連携、国家資格キャリアコンサルタント試験の合格実績がある。これらの経験をふまえて、適宜、各現場での研究例や実践を紹介しながら講義を行う。

科目分類（2025 年～入学者）	HR-M-412 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	112-310-24 （Ｊ）	授業コード	FB1131
科目名称	人間関係ｾﾞﾐⅢ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar of Human Relations Ⅲ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	石田 かおり			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	石田 かおり			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 木曜日 11:00～14:30 後期 木曜日 11:00～14:30			研究室	10-701
授業概要	公私を問わず社会という人間関係の中で生きるために必要な力の強化を最終目標にして、問題発見力、問題分析力、資料探索収集力、論理的構築力、情報共有力、協働力を実践を通じて育成する。このことは同時に 1 人で問題を発見し研究を進める力が必要な個人研究にもつながる。 2 年間を通じて専門ゼミの学生は次の 2 つの作業で研究を進める。 （１） 共通テーマ：ゼミメンバー全員の共通のテーマ （２） 個人研究：最終的には卒業論文またはゼミ論文の形になる個人研究のテーマ 授業で全員が集まるときはほとんど（１）を扱うことになるので、（２）は授業時間外に自ら作業を進め続けなければならない。 3 期目のこの授業では、社会的話題をテーマにその実態と問題点、それらの背景を探ることが入口である。さらに、なぜ人々がそうした行動をとり意識を持つようになったのか、社会の基層に存在する思考法や構造原理まで深堀する。そこから解決策を考えて、世の中にまだないような提案にまで持っていくことをめざす。				
到達目標	（１）共通テーマ 問題発見力、問題分析力、資料探索収集力、論理的構築力、情報共有力、協働力が授業開始前より伸びている状態 （２）個人研究 前年度に設定し着手した個人研究をさに推進し、中間報告で情報交換し、後期に論文執筆にかかれる水準に持ってゆく				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	石田 かおり	【第 1 回】 予習：自分が何についてのどの点に関心があるのか自覚し、詳細に把握しておく 授業：共通テーマ（１）の策定 復習：共通テーマの問題点を考える・個人研究の推進
2	石田 かおり	【第 2 回】 予習：共通テーマについての資料を集める 授業：共通テーマ（１）の問題分析 復習：授業を思い出し問題点について考えを深める・個人研究の推進
3	石田 かおり	【第 3 回】 予習：共通テーマについての資料を集める 授業：共通テーマ（１）の資料を使った問題点の分析 復習：授業を思い出し問題点について考えを深める・個人研究の推進
4	石田 かおり	【第 4 回】 予習：足りない資料を集める 授業：共通テーマ（１）の問題点分析を整理し論理的に構築する 復習：授業を思い出し問題点について考えを深める・個人研究の推進
5	石田 かおり	【第 5 回】 予習：論理的説明について書籍等の資料を読む 授業：共通テーマ（１）を論理的に説明できるようまとめる 復習：授業でまとめたもののプレゼン練習・個人研究の推進
6	石田 かおり	【第 6 回】 予習：授業でまとめたもののプレゼン練習 授業：共通テーマ（１）の問題分析をゼミメンバー全員で共有し、討論する 復習：授業を思い出し問題点について考えを深める・個人研究の推進
7	石田 かおり	【第 7 回】 予習：この時点までの個人研究を発表できるようにまとめる 授業：個人研究の中間報告（１） 復習：他のゼミメンバーの研究や教員アドバイスから得たことを自分の研究に反映させて研究を進める
8	石田 かおり	【第 8 回】 予習：この時点までの個人研究を発表できるようにまとめる 授業：個人研究の中間報告（２） 復習：他のゼミメンバーの研究や教員アドバイスから得たことを自分の研究に反映させて研究を進める 軌道修正をし、さらに推進する予習：

9	石田　かおり	【第 9 回】 予習：この時点までの個人研究を発表できるようにまとめる 授業：個人研究の中間報告（３） 復習：他のゼミメンバーの研究や教員アドバイスから得たことを自分の研究に反映させて研究を進める
10	石田　かおり	【第 10 回】 予習：自分が何についてのどの点に関心があるのか自覚し、詳細に把握しておく 授業：共通テーマ（２）の策定 復習：共通テーマの問題点を考える・個人研究の推進
11	石田　かおり	【第 11 回】 予習：人の外見についての社会問題を調べる 授業：共通テーマ（２）の問題分析 復習：授業を思い出し問題点について考えを深める・個人研究の推進
12	石田　かおり	【第 12 回】 予習：問題点についての資料を集める 授業：共通テーマ（２）の資料を使った問題点の分析 復習：授業を思い出し問題点について考えを深める・個人研究の推進
13	石田　かおり	【第 13 回】 予習：足りない資料を集める 授業：共通テーマ（２）の問題点分析を整理し論理的に構築する 復習：授業を思い出し問題点について考えを深める・個人研究の推進 【第 13 回】 予習：論理的説明について書籍等の資料を読む 授業：共通テーマ（２）を論理的に説明できるようまとめる 復習：授業でまとめたもののプレゼン練習・個人研究の推進
14	石田　かおり	【第 14 回】 予習：授業でまとめたもののプレゼン練習 授業：共通テーマ（２）の問題分析をゼミメンバー全員で共有し、討論する 復習：授業を思い出し問題点について考えを深める・個人研究の推進
15	石田　かおり	【第 15 回】 予習：3 年次も含めてこれまでの共通テーマを振り返る・この時点までの個人研究をレポートにまとめる 授業：共通テーマについての総括・レポートの提出 復習：授業を思い出し内容を個人研究につなげて個人研究を推進する

授業開始前学習	化粧を始め種々の流行（履修者にとって異世代や異性も含む）や、社会情勢、時代風潮、ニュースや事件など、自分が生きる時代と社会の状況に広く関心を持ち、自分なりに日々考え続けることが必要である とくに後期は「化粧の文化史」と「化粧文化論 b」の知識を前提にした内容であるので、できる限り今期までにこれらを履修し、すでに履修した人は復習しておく必要がある とくに個人研究テーマが化粧・美容・ファッション・外見に関連する者は個人研究でも上記の科目が必要になるため、できるだけ早く履修を終える必要がある
授業内課題のフィードバックの方法	レジュメとプレゼンテーションはその場で改善点をアドバイスする 個人研究の中間報告では個人の状況にあった細かなアドバイスをする
テキスト・教材	必要があるときに指示する
参考書	必要があるときに指示する
評価の基準と方法	共通テーマへの参加度 50%、中間報告 15%、レポート 35% 全授業回数の 3 分の 1 を超える欠席の場合、単位は認定しない
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	◎		○

関連科目	現代社会の問題を扱うためおそらく大多数の授業が関連ある
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	化粧品企業と美容社団法人の研究開発・広報活動・人材育成など経験もいかした研究内容を基に授業を実施

科目分類（2025 年～入学者）	HR-M-412	科目分類（～2024 年入学者）	112-310-24	授業コード	FB1132
科目名称	人間関係ｾﾞﾐⅢ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar of Human Relations Ⅲ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	臼井　実稲子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	臼井　実稲子			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　水曜日 09:00～12:10 後期　水曜日 09:00～12:10			研究室	10-705
授業概要	ゼミ生が関心のあるテーマを選択し、その問題について考察する. ゼミ科目であり、ディスカッション、発表が中心であることは言うまでもない。 毎回、現在生じている国際問題を、新聞・テレビなどのメディアでチェックする。				
到達目標	（１）思考力を深める （２）口頭発表および文章作成能力の向上 （３）現在生じている国際問題を認識し、多角的視点から分析できるようになる				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	臼井　実稲子	【第１回】 予習　：研究の進捗状況報告準備 授業　：ゼミ生による研究の進捗状況報告　ゼミ運営方針の確認 復習　：研究についての教員からの指示をまとめる
2	臼井　実稲子	【第２回】 予習　：研究の進捗状況の発表準備 授業　：研究の進捗状況の発表 復習　：発表者は担当教員およびゼミ生からでた質問の整理、自己の研究の再考
3	臼井　実稲子	【第３回】 予習　：自己の研究テーマについての先行研究を準備 授業　：各ゼミ生の集めた先行研究の検討（１）（ディスカッション） 復習　：自身の収集した記事と他の学生のそれらを整理
4	臼井　実稲子	【第４回】 予習　：自己の研究テーマについての最近の先行研究を準備 授業　：各ゼミ生の集めた先行研究の検討（２）　（ディスカッション） 復習　：自身の収集した記事と他の学生のそれを整理
5	臼井　実稲子	【第５回】 予習　：発表者のレジュメを読み、質問をメモ書きする 授業　：学生発表と討論（１）　（プレゼンテーション・ディスカッション） 復習　：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理、自己の発表の再考
6	臼井　実稲子	【第６回】 予習　：発表者のレジュメを読み、質問をメモ書きする 授業　：学生発表と討論（２）　（プレゼンテーション・ディスカッション） 復習　：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理、自己の発表の再考
7	臼井　実稲子	【第７回】 予習　：発表者のレジュメを読み、質問をメモ書きする 授業　：学生発表と討論（３）　（プレゼンテーション・ディスカッション） 復習　：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理、自己の発表の再考
8	臼井　実稲子	【第８回】 予習　：発表者のレジュメを読み、質問をメモ書きする 授業　：　学生発表と討論（４）　（プレゼンテーション・ディスカッション） 復習　：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理、自己の発表の再考
9	臼井　実稲子	【第９回】 予習　：発表者のレジュメを読み、質問をメモ書きする 授業　：学生発表と討論（５）　（プレゼンテーション・ディスカッション） 復習　：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理、自己の発表の再考
10	臼井　実稲子	【第 10 回】 予習　：発表者のレジュメを読み、質問をメモ書きする 授業　：学生発表と討論（６）　（プレゼンテーション・ディスカッション） 復習　：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理、自己の発表の再考

11	臼井　実稲子	【第 11 回】 予習　：発表者のレジュメを読み、質問をメモ書きする 授業　：学生発表と討論（７）　（プレゼンテーション・ディスカッション） 復習　：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理、自己の発表の再考
12	臼井　実稲子	【第 12 回】 予習　：発表者のレジュメを読み、質問をメモ書きする 授業　：学生発表と討論（８）　（プレゼンテーション・ディスカッション） 復習　：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理、自己の発表の再考
13	臼井　実稲子	【第 13 回】 予習　：発表者のレジュメを読み、質問をメモ書きする 授業　：　学生発表と討論（９）　（プレゼンテーション・ディスカッション） 復習　：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理、自己の発表の再考
14	臼井　実稲子	【第 14 回】 予習　：発表者のレジュメを読み、質問をメモ書きする 授業　：学生発表と討論（１０）　（プレゼンテーション・ディスカッション） 復習　：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理、自己の発表の再考
15	臼井　実稲子	【第 15 回】 予習　：発表後の自己の研究の進展をまとめる 授業　：ゼミ生による研究の改善点発表　後期にむけての課題を指示 復習　：提示された課題に着手

授業開始前学習	自身のテーマに関連する文献リストを作成する
授業内課題のフィードバックの方法	授業を通じて、適宜実施する。
テキスト・教材	指定しない。
参考書	適宜指示する。
評価の基準と方法	平常点と発表内容およびレジュメ、ゼミでの発言により評価する。 レジュメ作成と発表 40%　発言などの積極性　20%　中間報告・レポート 40% 発表担当者が担当日に欠席した場合、マイナス評価は免れない。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	◎		○

関連科目	戦争と平和の歴史Ⅰ．Ⅱ，国際社会の論点／国際社会への誘い
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	HR-M-412	科目分類（～2024 年入学者）	112-310-24	授業コード	FB1133
科目名称	人間関係ｾﾞﾐⅢ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar of Human Relations Ⅲ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	榎本　環			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	榎本　環			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　月曜日 13:00～14:30　火曜日 10:40～12:10 後期　月曜日 13:00～14:30　火曜日 10:40～12:10			研究室	10-716
授業概要	社会学的な発想と視座について理解を深め、それらを実践的に駆使して、問題を主体的かつ多角的に考察するトレーニング活動を展開します。本格的な学術研究を志向します。各自、自らの問題関心を掘り下げる作業、問いを立てること、情報を集めその問いにじっくりと考察をめぐらすこと、それらの知的営みに取り組んでもらいます。また、自分の着想を明確に伝え、相手の主張を精確に理解し、それに的確にコメントするためのコミュニケーション・スキルを磨くことも学習課題とします。				
到達目標	次の 3 点を目標とします。 1.「問い」を立てるスキルを高める 2. 文献情報を収集するスキルを高める 3.「本の読み方」をマスターする				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	榎本　環	【第 1 回】 予習　：2 年次後期の個人研究と期末レポートをもとに、各自の研究テーマと問題関心を整理してください。 授業　：前期ゼミ活動打合せ 復習　：前期の報告スケジュールをもとに、準備作業の中期的計画を立ててください。
2	榎本　環	【第 2 回】 予習　：研究テーマ、研究トピック（暫定的で可）を具体的に決めてください。 授業　：文献リサーチの方法（実習） 復習　：授業内容を復習し、各自、文献リストの作成作業を進めてください。
3	榎本　環	【第 3 回】 予習　：報告者のレジュメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業　：個人研究発表 1（発表、ディスカッション） 復習　：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。
4	榎本　環	【第 4 回】 予習　：報告者のレジュメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業　：個人研究発表 2（発表、ディスカッション） 復習　：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。
5	榎本　環	【第 5 回】 予習　：報告者のレジュメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業　：個人研究発表 3（発表、ディスカッション） 復習　：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。
6	榎本　環	【第 6 回】 予習　：報告者のレジュメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業　：個人研究発表 4（発表、ディスカッション） 復習　：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。
7	榎本　環	【第 7 回】 予習　：報告者のレジュメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業　：個人研究発表 5（発表、ディスカッション） 復習　：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。
8	榎本　環	【第 8 回】 予習　：報告者のレジュメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業　：個人研究発表 6（発表、ディスカッション） 復習　：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。
9	榎本　環	【第 9 回】 予習　：報告者のレジュメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業　：個人研究発表 7（発表、ディスカッション） 復習　：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。
10	榎本　環	【第 10 回】 予習　：テキスト第 1～5 章を熟読し、不明点・疑問点を整理しておいてください。 授業　：卒論・ゼミ論の研究計画の立て方【テキスト p.9～p.144】 復習　：テキスト第 6～9 章を読み、論文作成の具体的な作業イメージをつかんでください。

11	榎本　環	【第 11 回】 予習　：報告者のレジュメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業　：個人研究発表 8（発表、ディスカッション） 復習　：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。
12	榎本　環	【第 12 回】 予習　：報告者のレジュメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業　：個人研究発表 9（発表、ディスカッション） 復習　：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。
13	榎本　環	【第 13 回】 予習　：報告者のレジュメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業　：個人研究発表 10（発表、ディスカッション） 復習　：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。
14	榎本　環	【第 14 回】 予習　：報告者のレジュメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業　：個人研究発表 11（発表、ディスカッション） 復習　：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。
15	榎本　環	【第 15 回】 予習　：報告者のレジュメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業　：個人研究発表 12（発表、ディスカッション） 復習　：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。

授業開始前学習	日頃から幅広く読書し、見聞を広め、好奇心と観察眼を研ぎ澄ませる努力を心がけることを勧めます。
授業内課題のフィードバックの方法	課題提出を求める場合は、次回授業、個別のメール・面談等により講評し、質問への回答に対応します。
テキスト・教材	戸田山和久、2022、『最新版　論文の教室：レポートから卒論まで』（NHK ブックス）
参考書	井下千似子、2013、『レポート・論文作成法』（慶應義塾大学出版会） その他、授業を通じて随時、紹介します。
評価の基準と方法	平常点（受講取組みの積極性）（100 %）により評価します。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	◎		○

関連科目	「社会学ⅠⅡ」および「流行論」「文化社会学ⅠⅡ」「社会学特論」および「アンケート調査法」「フィールドワークの技法」を履修しておくことを推奨します。
その他	各自の個人研究の成果発表と討論を基本形式に進めます。アイデアは、読書（著者という他人）やディスカッション（実在の他人）など、つねに他者との意見交換のなかから生まれてきます。ゼミの場を活用し、研究テーマに関して互いに積極的にコミュニケートし合う習慣を身に付けてください。ゼミ担当者として、各自の研究活動を支援する労力は惜しみません。遠慮することなく、いつでも相談してください。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	HR-M-412	科目分類（～2024 年入学者）	112-310-24	授業コード	FB1135
科目名称	人間関係ｾﾞﾐⅢ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar of Human Relations Ⅲ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	倉住 友恵			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	倉住 友恵			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 月曜日 10:40～12:10 金曜日 16:20～17:50 後期 月曜日 10:40～12:10 金曜日 16:20～17:50			研究室	10-618
授業概要	人間関係ゼミⅢ・Ⅳを通して卒業研究を完遂することを目指す。人間関係ゼミⅢでは、心理学的なリサーチクエスチョン（研究に関する問い）を立て、関係する先行研究のレビューを進めていく。複数の先行研究を体系的に理解することで、研究テーマに関する理解を深めていく。研究内容によっては、調査や実験を計画する。自身の研究を他者に説明すること、また他者の発表を理解しコメントすることを通して、論理的思考力とコミュニケーションスキルを高めていく。				
到達目標	以下、6 点を目標とする。 1. 研究テーマに関する先行研究に一定以上精通する 2. 論文を批判的に読むことができる 3. 卒業研究の具体的な内容（リサーチクエスチョン、研究手法）を確定する 4. 発表を通じて他者に自分の考えを分かりやすく説明できる 5. 他者の発表に対して適切なコメント（意見、質問）ができる 6. 投げかけられた質問に適切に応答することができる				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	倉住 友恵	予習 ：卒業研究のテーマについてのレジュメ作成 授業 ：オリエンテーション、卒業論文とは、卒業研究テーマの発表 1（ディスカッション）【教科書第 1～3 章(pp.4～16)】 復習 ：授業で得た意見を参考にしながら、卒業研究のテーマを見直す
2	倉住 友恵	予習 ：研究テーマに関連する先行研究を調べてくる 授業：卒業研究テーマの発表 2（ディスカッション）、先行研究の探し方 復習 ：授業で得た意見を参考にしながら卒業研究のテーマを見直す、先行研究のリサーチ
3	倉住 友恵	予習 ：先輩の研究論文に目を通す 授業 ：卒業論文・ゼミ論文の書き方【教科書第 4～6 章(pp.17～33)】 復習 ：授業内容をもとに、自身の論文についてイメージを膨らませる
4	倉住 友恵	予習 ：先行研究の精読、疑問点・批判点の抽出、発表準備 授業 ：先行研究報告 1、質疑応答（ディスカッション） 復習 ：発表やディスカッションを踏まえた研究内容の再検討
5	倉住 友恵	予習 ：先行研究の精読、疑問点・批判点の抽出、発表準備 授業 ：先行研究報告 2、質疑応答（ディスカッション） 復習 ：発表やディスカッションを踏まえた研究内容の再検討
6	倉住 友恵	予習 ：先行研究の精読、疑問点・批判点の抽出、発表準備 授業 ：先行研究報告 3、質疑応答（ディスカッション） 復習 ：発表やディスカッションを踏まえた研究内容の再検討
7	倉住 友恵	予習 ：先行研究の精読、疑問点・批判点の抽出、発表準備 授業 ：先行研究報告 4、質疑応答（ディスカッション） 復習 ：発表やディスカッションを踏まえた研究内容の再検討
8	倉住 友恵	予習 ：先行研究の精読、疑問点・批判点の抽出、発表準備 授業 ：先行研究報告 5、質疑応答（ディスカッション） 復習 ：発表やディスカッションを踏まえた研究内容の再検討
9	倉住 友恵	予習 ：先行研究の精読、疑問点・批判点の抽出、発表準備 授業 ：先行研究報告 6、質疑応答（ディスカッション） 復習 ：発表やディスカッションを踏まえた研究内容の再検討
10	倉住 友恵	予習 ：研究計画の立案、先行研究のレビュー、発表準備 授業 ：研究計画発表 1、質疑応答（ディスカッション）、質問項目の選定【教科書第 7～8 章(pp.34～40)】 復習 ：発表やディスカッションを踏まえた研究内容の再検討
11	倉住 友恵	予習 ：研究計画の立案、先行研究のレビュー、研究材料の作成、発表準備 授業 ：研究計画発表 2、質疑応答（ディスカッション）、質問紙の作成【教科書第 9 章(pp.41～47)】 復習 ：発表やディスカッションを踏まえた研究内容の再検討

12	倉住　友恵	予習　：研究計画の立案、先行研究のレビュー、研究材料の作成、発表準備 授業　：研究計画発表 3、質疑応答（ディスカッション）、質問紙調査の実施【教科書第 10 章(pp.48～49)】 復習　：発表やディスカッションを踏まえた研究内容の再検討
13	倉住　友恵	予習　：研究計画の立案、先行研究のレビュー、研究材料の作成、発表準備 授業　：研究計画発表 4、質疑応答（ディスカッション）、章立てする・ストーリーを考える【教科書第 5 章(pp.19-22）＆第 6 章(pp.26-27)】 復習　：発表やディスカッションを踏まえた研究内容の再検討、研究材料の改良
14	倉住　友恵	予習　：研究計画の立案、先行研究のレビュー、研究材料の作成、発表準備 授業　：研究計画発表 5、質疑応答（ディスカッション）、序論・問題・方法の書き方【教科書第 5 章(pp.19-22)＆第 6 章(pp.26-31)】 復習　：発表やディスカッションを踏まえた研究内容の再検討、研究材料の改良
15	倉住　友恵	予習　：夏季休暇中の研究計画立案 授業　：夏季休暇中の研究の進め方、夏季休暇中の研究計画発表 復習　：研究計画の遂行

授業開始前学習	「人間関係ゼミⅠ・Ⅱ」における学修内容を復習し、卒業研究のテーマを検討する。関心領域における文献収集と講読を行う。
授業内課題のフィードバックの方法	発表内容や提出課題については、基本的にその授業時間内にフィードバックと必要な指導を行う。
テキスト・教材	倉住友恵著『人間関係ゼミⅢ・Ⅳ（応用心理学）』駒沢女子大学教科書シリーズ
参考書	授業時間内に適宜紹介する。
評価の基準と方法	受講態度・ディスカッションへの参加 50%、発表・課題提出 50%として評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	◎		○

関連科目	人間関係ゼミⅠ・Ⅱ、アンケート調査法、フィールドワークの技法
その他	学生が主体となる演習科目なので、積極的な参加態度をもって臨むよう心掛けてほしい。欠席する場合には必ず教員へ連絡を入れる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	HR-M-412 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	112-310-24 （Ｊ）	授業コード	FB1136
科目名称	人間関係ｾﾞﾐⅢ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar of Human Relations Ⅲ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	田澤 秀司			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田澤 秀司			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～16:00 水曜日 09:00～14:00 後期 火曜日 09:00～16:00 水曜日 09:00～14:00			研究室	10-502
授業概要	【メディアで表現する】 各回を前後半に分けて、会議とワークショップを行う。会議ではイベントやプロジェクトの企画をたて、実践する。ワークショップでは、全員で決めたシリーズに基づいて 1 人 1 テーマの著作をまとめあげる。また、授業では、ディスカッションや発表などのグループワークを行う。適宜、グループまたは個人の面談を行い、進捗を確認する。				
到達目標	「理解力（わかること）」と「表現力（わかってもらうこと）」を高める。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	田澤 秀司	【第 1 回】 予習 ：自分が作りたい本のイメージに近いものを探す 授業 ：前半「会議」、後半「シリーズテーマについて」1 （ディスカッション） 復習 ：テーマを考える
2	田澤 秀司	【第 2 回】 予習 ：自分が作りたい本のイメージに近いものを探す 授業 ：前半「会議」、後半「シリーズテーマについて」2 （ディスカッション） 復習 ：テーマを決める
3	田澤 秀司	【第 3 回】 予習 ：読者対象を設定し、テーマを考える 授業 ：前半「会議」、後半「原案づくり」1 （ディスカッション） 復習 ：仕様を考える
4	田澤 秀司	【第 4 回】 予習 ：読者対象を設定し、テーマを考える 授業 ：前半「会議」、後半「原案づくり」2 （ディスカッション） 復習 ：仕様を決める
5	田澤 秀司	【第 5 回】 予習 ：ページ構成を考え、絵コンテを作る 授業 ：前半「会議」、後半「原案づくり（ページ構成）」1 （ディスカッション） 復習 ：ページ構成を考える
6	田澤 秀司	【第 6 回】 予習 ：ページ構成を考え、絵コンテを作る 授業 ：前半「会議」、後半「原案づくり（ページ構成）」2 （ディスカッション） 復習 ：ページ構成を決める
7	田澤 秀司	【第 7 回】 予習 ：オリジナリティを考え、絵コンテを修正する 授業 ：前半「会議」、後半「原案づくり（オリジナリティ）」1 （ディスカッション） 復習 ：オリジナリティを考える
8	田澤 秀司	【第 8 回】 予習 ：オリジナリティを考え、絵コンテを修正する 授業 ：前半「会議」、後半「原案づくり（オリジナリティ）」2 （ディスカッション） 復習 ：オリジナリティを決める
9	田澤 秀司	【第 9 回】 予習 ：作業の進行計画表を作る 授業 ：前半「会議」、後半「原案発表（進行計画表）」1 （ディスカッション、発表） 復習 ：進行計画を考える
10	田澤 秀司	【第 10 回】 予習 ：作業の進行計画表を作る 授業 ：前半「会議」、後半「原案発表（進行計画表）」2 （ディスカッション、発表） 復習 ：進行計画を決める

11	田澤　秀司	【第 11 回】 予習　：判型を決め、レイアウト台紙を作る 授業　：前半「会議」、後半「原稿制作（文字原稿）」1　（ディスカッション） 復習　：レイアウトを考える
12	田澤　秀司	【第 12 回】 予習　：判型を決め、レイアウト台紙を作る 授業　：前半「会議」、後半「原稿制作（文字原稿）」2　（ディスカッション） 復習　：レイアウトを決める
13	田澤　秀司	【第 13 回】 予習　：レイアウトを進める 授業　：前半「会議」、後半「原稿制作（画像原稿）」1　（ディスカッション） 復習　：レイアウトを見直し、修正する
14	田澤　秀司	【第 14 回】 予習　：レイアウトを進める 授業　：前半「会議」、後半「原稿制作（画像原稿）」2　（ディスカッション） 復習　：レイアウトを見直し、修正する
15	田澤　秀司	【第 15 回】 予習　：原稿を集める 授業　：前半「会議」、後半「原稿制作（追加原稿）」（ディスカッション） 復習　：原稿を確認し、レイアウトを進める　→　後期に続く

授業開始前学習	ニュースなどで日々の出来事を確認しておくと、授業が理解しやすい。
授業内課題のフィードバックの方法	グループディスカッションで講評を行い、個人のワークショップで進捗を確認する。
テキスト・教材	授業で適宜、配布する。
参考書	授業で適宜、紹介する。
評価の基準と方法	配点は、予習・復習などの平常点 60 点、課題 40 点の配分とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	◎		○

関連科目	「企画と表現」「表現活動とビジネス」を履修しておくことが望ましい。
その他	課題学習（予習・復習）については、各回の授業の後半に具体的な例を提示する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	幼児向け月刊誌 10 誌の編集責任者、教材の開発者として数多くの人とかかわり、さまざまな商品を担当してきた経験と、その過程で得た資料をもとに、「社会で求められる力」を「出版“で”教育する」という取り組みを実践している。

科目分類（2025 年～入学者）	HR-M-412	科目分類（～2024 年入学者）	112-310-24	授業コード	FB1137
科目名称	人間関係ｾﾞﾐⅢ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar of Human Relations Ⅲ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	楠田　恵美			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	楠田　恵美			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　木曜日 13:00～14:30　金曜日 14:40～16:10 後期　木曜日 13:00～14:30　金曜日 14:40～16:10			研究室	10-612
授業概要	ゼミ論の完成に向けて各自の研究テーマに関連するテクストの購読を行うとともに研究の進捗報告を行う。学外活動としてフィールドワークを一回行う。				
到達目標	自らが設定したテーマでメディア論を書き上げるためにその準備を行うとともに執筆作業を進めながら論文作成の実践能力を身につける。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	楠田　恵美	【第 1 回】 予習：文献を読み、コメントをまとめておく 授業：文献購読、進捗報告(1) 復習：ゼミ論を進める
2	楠田　恵美	【第 2 回】 予習：文献を読み、コメントをまとめておく 授業：文献購読、進捗報告(2) 復習：ゼミ論を進める
3	楠田　恵美	【第 3 回】 予習：文献を読み、コメントをまとめておく 授業：文献購読、進捗報告(3) 復習：ゼミ論を進める
4	楠田　恵美	【第 4 回】 予習：文献を読み、コメントをまとめておく 授業：文献購読、進捗報告(4) 復習：ゼミ論を進める
5	楠田　恵美	【第 5 回】 予習：フィールドワーク先の情報収集を行い計画を立てる 授業：フィールドワーク（首都圏近郊のテーマパーク等を予定） 復習：フィールドワークレポートを作成する
6	楠田　恵美	【第 6 回】 予習：文献を読み、コメントをまとめておく 授業：文献購読、進捗報告(5) 復習：ゼミ論を進める
7	楠田　恵美	【第 7 回】 予習：文献を読み、コメントをまとめておく 授業：文献購読、進捗報告(6) 復習：ゼミ論を進める
8	楠田　恵美	【第 8 回】 予習：文献を読み、コメントをまとめておく 授業：文献購読、進捗報告(7) 復習：ゼミ論を進める
9	楠田　恵美	【第 9 回】 予習：文献を読み、コメントをまとめておく 授業：文献購読、進捗報告(8) 復習：ゼミ論を進める
10	楠田　恵美	【第 10 回】 予習：文献を読み、コメントをまとめておく 授業：文献購読、進捗報告(9) 復習：ゼミ論を進める
11	楠田　恵美	【第 11 回】 予習：文献を読み、コメントをまとめておく 授業：文献購読、進捗報告(10) 復習：ゼミ論を進める

12	楠田　恵美	【12 回】 予習：文献を読み、コメントをまとめておく 授業：文献購読、進捗報告(11) 復習：ゼミ論を進める
13	楠田　恵美	【第 13 回】 予習：文献を読み、コメントをまとめておく 授業：文献購読、進捗報告(12) 復習：ゼミ論を進める
14	楠田　恵美	【第 14 回】 予習：文献を読み、コメントをまとめておく 授業：文献購読、進捗報告(13) 復習：ゼミ論を進める
15	楠田　恵美	【第 15 回】 予習：文献を読み、コメントをまとめておく 授業：文献購読、進捗報告(14) 復習：ゼミ論を進める

授業開始前学習	ゼミ論の構想を行い、計画をたてる。参考文献を読み進める。
授業内課題のフィードバックの方法	授業内での発表やディスカッションに対して講評を行うとともに、提出された課題や受けた質問に対しては都度評価、回答をする。
テキスト・教材	
参考書	授業中に適宜、紹介する。
評価の基準と方法	授業態度 50%、授業内課題 50%で評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当								

関連科目	メディアと社会／情報技術と人間関係、広告と消費社会／広告の研究／映像広告の研究
その他	正課学外活動として、首都圏近郊のテーマパーク等でのフィールドワークを予定している。フィールドワークを実施するかどうかは、その時の状況に応じて判断する。フィールドワークの交通費ならびに入園料は自己負担となる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	HR-M-412 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	112-310-24 （Ｊ）	授業コード	FB1141
科目名称	人間関係ｾﾞﾐⅣ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar of Human Relations Ⅳ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	石田 かおり			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	石田 かおり			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 木曜日 11:00～14:30 後期 木曜日 11:00～14:30			研究室	10-701
授業概要	公私を問わず社会という人間関係の中で生きるために必要な力の強化を最終目標にして、問題発見力、問題分析力、資料探索収集力、論理的構築力、情報共有力、協働力を実践を通じて育成する。このことは同時に 1 人で問題を発見し研究を進める力が必要な個人研究にもつながる。 2 年間を通じて専門ゼミの学生は次の 2 つの作業で研究を進める。 （1） 共通テーマ：ゼミメンバー全員の共通のテーマ （2） 個人研究：最終的には卒業論文またはゼミ論文の形になる個人研究のテーマ 授業で全員が集まるときはほとんど（1）を扱うことになるので、（2）は授業時間外に自ら作業を進め続けなければならない。				
到達目標	3 年次からここまでの共通テーマで身に着いたスキルや思考力等を駆使して個人研究に注力し、卒業論文またはゼミ論文にまとめて提出する。その後、論文内容を学内公開形式の公聴会にてプレゼンする。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	石田 かおり	【第 1 回】 予習 ：テキスト実施箇所の講読とわからない用語や必要な資料を調べる・当番はレジュメの作成 授業 ：レジュメを用いた発表を通じたテキスト講読と美意識についての討論（問題解決型学習・発表とディスカッション） 復習 ：授業内容を確認しながらのテキスト実施箇所を講読・個人研究の推進と論文執筆
2	石田 かおり	【第 2 回】 予習 ：テキスト実施箇所の講読とわからない用語や必要な資料を調べる・当番はレジュメの作成 授業 ：レジュメを用いた発表を通じたテキスト講読と美意識についての討論（問題解決型学習・発表とディスカッション） 復習 ：授業内容を確認しながらのテキスト実施箇所を講読・個人研究の推進と論文執筆
3	石田 かおり	【第 3 回】 予習 ：テキスト実施箇所の講読とわからない用語や必要な資料を調べる・当番はレジュメの作成 授業 ：レジュメを用いた発表を通じたテキスト講読と美意識についての討論（問題解決型学習・発表とディスカッション） 復習 ：授業内容を確認しながらのテキスト実施箇所を講読・個人研究の推進と論文執筆
4	石田 かおり	【第 4 回】 予習 ：テキスト実施箇所の講読とわからない用語や必要な資料を調べる・当番はレジュメの作成 授業 ：レジュメを用いた発表を通じたテキスト講読と美意識についての討論（問題解決型学習・発表とディスカッション） 復習 ：授業内容を確認しながらのテキスト実施箇所を講読・個人研究の推進と論文執筆
5	石田 かおり	【第 5 回】 予習 ：テキスト実施箇所の講読とわからない用語や必要な資料を調べる・当番はレジュメの作成 授業 ：レジュメを用いた発表を通じたテキスト講読と美意識についての討論（問題解決型学習・発表とディスカッション） 復習 ：授業内容を確認しながらのテキスト実施箇所を講読・個人研究の推進と論文執筆
6	石田 かおり	【第 6 回】 予習 ：テキスト実施箇所の講読とわからない用語や必要な資料を調べる・当番はレジュメの作成 授業 ：レジュメを用いた発表を通じたテキスト講読と美意識についての討論（問題解決型学習・発表とディスカッション） 復習 ：授業内容を確認しながらのテキスト実施箇所を講読・個人研究の推進と論文執筆
7	石田 かおり	【第 7 回】 予習 ：テキスト実施箇所の講読とわからない用語や必要な資料を調べる・当番はレジュメの作成 授業 ：レジュメを用いた発表を通じたテキスト講読と美意識についての討論（問題解決型学習・発表とディスカッション） 復習 ：授業内容を確認しながらのテキスト実施箇所を講読・個人研究の推進と論文執筆
8	石田 かおり	【第 8 回】 予習 ：テキスト実施箇所の講読とわからない用語や必要な資料を調べる・当番はレジュメの作成 授業 ：レジュメを用いた発表を通じたテキスト講読と美意識についての討論（問題解決型学習・発表とディスカッション） 復習 ：授業内容を確認しながらのテキスト実施箇所を講読・個人研究の推進と論文執筆

9	石田　かおり	【第 9 回】 予習　：テキスト実施箇所の講読とわからない用語や必要な資料を調べる・当番はレジュメの作成 授業　：レジュメを用いた発表を通じたテキスト講読と美意識についての討論（問題解決型学習・発表とディスカッション） 復習　：授業内容を確認しながらのテキスト実施箇所を講読・個人研究の推進と論文執筆
10	石田　かおり	【第 10 回】 予習　：テキスト実施箇所の講読とわからない用語や必要な資料を調べる・当番はレジュメの作成 授業　：レジュメを用いた発表を通じたテキスト講読と美意識についての討論（問題解決型学習・発表とディスカッション） 復習　：授業内容を確認しながらのテキスト実施箇所を講読・個人研究の推進と論文執筆
11	石田　かおり	【第 11 回】 予習　：テキスト実施箇所の講読とわからない用語や必要な資料を調べる・当番はレジュメの作成 授業　：レジュメを用いた発表を通じたテキスト講読と美意識についての討論（問題解決型学習・発表とディスカッション） 復習　：授業内容を確認しながらのテキスト実施箇所を講読・個人研究の推進と論文執筆
12	石田　かおり	【第 12 回】 予習　：テキスト実施箇所の講読とわからない用語や必要な資料を調べる・当番はレジュメの作成 授業　：レジュメを用いた発表を通じたテキスト講読と美意識についての討論（問題解決型学習・発表とディスカッション） 復習　：授業内容を確認しながらのテキスト実施箇所を講読・個人研究の推進と論文の仕上げ
13	石田　かおり	【第 13 回】 予習　：テキスト実施箇所の講読とわからない用語や必要な資料を調べる・当番はレジュメの作成 授業　：レジュメを用いた発表を通じたテキスト講読と美意識についての討論（問題解決型学習・発表とディスカッション） 復習　：授業内容を確認しながらのテキスト実施箇所を講読・個人研究の推進と論文の仕上げ
14	石田　かおり	【第 14 回】 予習　：卒業論文またはゼミ論文の内容をプレゼン形式にし、併せて質疑応答の準備もする 授業　：卒論・ゼミ論公聴会にて論文内容をプレゼンし、質疑応答にも応じる 復習　：プレゼント質疑応答を振り返り、改善点を洗い出し、論文作成時の気づきと併せて今後の社会生活・就業生活にいかせるよう記録を残しておく
15	石田　かおり	【第 15 回】 予習　：卒業論文またはゼミ論文の内容をプレゼン形式にし、併せて質疑応答の準備もする 授業　：卒論・ゼミ論公聴会にて論文内容をプレゼンし、質疑応答にも応じる 復習　：プレゼント質疑応答を振り返り、改善点を洗い出し、論文作成時の気づきと併せて今後の社会生活・就業生活にいかせるよう記録を残しておく

授業開始前学習	前期に提出したレポートを論文という最終形にするための準備（足りない部分の資料を集めて読み込む,構成を見直す,結論を固めるなど）
授業内課題のフィードバックの方法	ディスカッションが適切に進むよう授業の中でサポートする ゼミ論文は各自でテーマも内容も書き方も異なるため、本学のテーラーメイド教育の特色の通り個人サポートをする
テキスト・教材	必要がある場合はその都度用意または指示する
参考書	必用がある場合はその都度指示する
評価の基準と方法	共通テーマのディスカッションの参加度 20%、ゼミ論文 60%、公聴会でのプレゼン 20% 全授業回数の 3 分の 1 を超える欠席回数は単位を認定しない
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	◎		○

関連科目	
その他	ゼミ論文の提出と公聴会でのプレゼンの両者が揃って初めて単位が認められる
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	化粧品企業と美容社団法人の研究開発・広報活動・人材育成など経験もいかした研究内容に基づく

科目分類（2025 年～入学者）	HR-M-412	科目分類（～2024 年入学者）	112-310-24	授業コード	FB1142
科目名称	人間関係ｾﾞﾐⅣ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar of Human Relations Ⅳ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	臼井　実稲子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	臼井　実稲子			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　水曜日 09:00～12:10 後期　水曜日 09:00～12:10			研究室	10-705
授業概要	各ゼミ生が関心のあるテーマを選択し、その問題について考察する。 ゼミ科目であり、ディスカッション、プレゼンテーションが中心であることは言うまでもない。 毎回、現在生じている国際問題を、新聞テレビなどのメディアでチェックする。				
到達目標	（１）思考力を深める （２）口頭発表および文章作成能力の向上 （３）現在生じている国際問題を認識し、多角的視点から分析できるようになる				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	臼井　実稲子	【第 1 回】 予習　：前期課題の完成 授業　：後期ゼミ方針の再確認 復習　：引き続き自身の研究の深化をはかる
2	臼井　実稲子	【第 2 回】 予習　：発表者は研究発表準備 授業　：学生発表と討議(1)　(プレゼンテーション・ディスカッション) 復習　：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理　自己の発表の再考
3	臼井　実稲子	【第 3 回】 予習　：発表者は研究発表準備 授業　：学生発表と討議(2)　(プレゼンテーション・ディスカッション) 復習　：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理　自己の発表の再考
4	臼井　実稲子	【第 4 回】 予習　：発表者は研究発表準備 授業　：学生発表と討議(3)　(プレゼンテーション・ディスカッション) 復習　：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理　自己の発表の再考
5	臼井　実稲子	【第 5 回】 予習　：発表者は研究発表準備 授業　：学生発表と討議(4)　(プレゼンテーション・ディスカッション) 復習　：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理　自己の発表の再考
6	臼井　実稲子	【第 6 回】 予習　：発表者は研究発表準備 授業　：学生発表と討議(5)　(プレゼンテーション・ディスカッション) 復習：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理　自己の発表の再考
7	臼井　実稲子	【第 7 回】 予習　：発表者は研究発表準備 授業　：学生発表と討議(6)　(プレゼンテーション・ディスカッション) 復習　：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理　自己の発表の再考
8	臼井　実稲子	【第 8 回】 予習　：発表者は研究発表準備 授業　：学生発表と討議(7)　(プレゼンテーション・ディスカッション) 復習　：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理　自己の発表の再考
9	臼井　実稲子	【第 9 回】 予習　：発表者は研究発表準備 授業　：学生発表と討議(8)　(プレゼンテーション・ディスカッション) 復習　：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理　自己の発表の再考
10	臼井　実稲子	【第 10 回】 予習　：発表者は研究発表準備 授業　：学生発表と討議(9)　(プレゼンテーション・ディスカッション) 復習　：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理　自己の発表の再考

11	臼井　実稲子	【第 11 回】 予習　：発表者は研究発表準備 授業　：学生発表と討議(10)　(プレゼンテーション・ディスカッション) 復習　：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理　自己の発表の再考
12	臼井　実稲子	【第 12 回】 予習　：発表者は研究発表準備 授業　：学生発表と討議(11)　(プレゼンテーション・ディスカッション) 復習　：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理　自己の発表の再考
13	臼井　実稲子	【第 13 回】 予習　：発表者は研究発表準備 授業　：学生発表と討議(12)　(プレゼンテーション・ディスカッション) 復習　：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理　自己の発表の再考
14	臼井　実稲子	【第 14 回】 予習　：ゼミ論完成にむけての最終質問をメモ書きにする 授業　：ゼミ論完成にむけてのアドバイス 復習　：アドバイスの沿った、ゼミ論書き換え
15	臼井　実稲子	【第 15 回】 予習　：ゼミ論を完成 授業　：研究の最終検討 復習　：とくに無し

授業開始前学習	研究テーマに関連したできるだけ多くの著作・論文を読む
授業内課題のフィードバックの方法	授業を通じて適宜実施する。
テキスト・教材	指定しない。
参考書	適宜指示する。
評価の基準と方法	平常点と発表内容およびレジュメ、毎ゼミでの発言で評価する。 レジュメ作成と発表 40%　発言などの積極性　20%　中間報告・レポート 40% 発表担当者が発表日に欠席した場合、マイナス評価は免れない。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	◎		○

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	HR-M-412	科目分類（～2024 年入学者）	112-310-24	授業コード	FB1143
科目名称	人間関係ｾﾞﾐⅣ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar of Human Relations Ⅳ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	榎本　環			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	榎本　環			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　月曜日 13:00～14:30　火曜日 10:40～12:10 後期　月曜日 13:00～14:30　火曜日 10:40～12:10			研究室	10-716
授業概要	社会学的な発想と視座を駆使して、問題を主体的かつ多角的に考察するとともに、それらの研究成果を論文としてまとめるトレーニング活動を展開します。そのために、各自の研究知見と論点をめぐって集中的に議論し合う作業に取り組んでもらいます。互いのコメントから学び合い、また、自分の論考を客観的に読み返して粘り強く推敲を重ねる体験と向き合うことを期待します。				
到達目標	学術的論文に必要な形式要件を理解し、論述・文章表現のスキルをみがくことを目標とします。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	榎本　環	【第 1 回】 予習　：報告者のレジュメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業　：後期ゼミ活動打合せ、研究計画プレゼン 1（発表、ディスカッション） 復習　：後期の報告スケジュールをもとに、研究活動の中期的計画を立ててください。
2	榎本　環	【第 2 回】 予習　：報告者のレジュメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業　：研究計画プレゼン 2（発表、ディスカッション） 復習　：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。
3	榎本　環	【第 3 回】 予習　：報告者のレジュメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業　：研究計画プレゼン 3（発表、ディスカッション） 復習　：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。
4	榎本　環	【第 4 回】 予習　：報告者のレジュメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業　：研究論文中間報告 1（発表、ディスカッション） 復習　：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。
5	榎本　環	【第 5 回】 予習　：報告者のレジュメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業　：研究論文中間報告 2（発表、ディスカッション） 復習　：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。
6	榎本　環	【第 6 回】 予習　：報告者のレジュメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業　：研究論文中間報告 3（発表、ディスカッション） 復習　：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。
7	榎本　環	【第 7 回】 予習　：報告者のレジュメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業　：研究論文中間報告 4（発表、ディスカッション） 復習　：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。
8	榎本　環	【第 8 回】 予習　：報告者のレジュメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業　：研究論文中間報告 5（発表、ディスカッション） 復習　：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。
9	榎本　環	【第 9 回】 予習　：報告者のレジュメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業　：研究論文中間報告 6（発表、ディスカッション） 復習　：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。
10	榎本　環	【第 10 回】 予習　：報告者のレジュメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業　：研究論文中間報告 7（発表、ディスカッション） 復習　：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。
11	榎本　環	【第 11 回】 予習　：報告者のレジュメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業　：研究論文中間報告 8（発表、ディスカッション） 復習　：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。

12	榎本　環	【第 12 回】 予習　：報告者のレジュメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業　：研究論文中間報告 9（発表、ディスカッション） 復習　：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。
13	榎本　環	【第 13 回】 予習　：報告者のレジュメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業　：研究論文中間報告 10（発表、ディスカッション） 復習　：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。
14	榎本　環	【第 14 回】 予習　：報告者のレジュメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業　：研究論文中間報告 11（発表、ディスカッション） 復習　：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。
15	榎本　環	【第 15 回】 予習　：報告者のレジュメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業　：研究論文中間報告 12（発表、ディスカッション） 復習　：2 年間のゼミ活動、4 年間の大学生活を通じて学んだことがらをメモに書き出してみてください。

授業開始前学習	研究論文を幅広く読み、学術論文に必要な構成・論理展開・文章表現に慣れておくことを勧めます。
授業内課題のフィードバックの方法	課題提出を求める場合は、次回授業、個別のメール・面談等により講評し、質問への回答に対応します。
テキスト・教材	使用しません。
参考書	戸田山和久、2022、『最新版　論文の教室：レポートから卒論まで』（NHK ブックス） その他、随時、紹介します。
評価の基準と方法	平常点（50 %）（受講取組みの積極性 30%・課題提出ほか 20%）、研究論文の成果（50 %）により評価します。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	◎		○

関連科目	「社会学Ⅰ Ⅱ」および「流行論」「文化社会学Ⅰ Ⅱ」「社会学特論」および「アンケート調査法」「フィールドワークの技法」を履修しておくことを推奨します。
その他	各自の個人研究の成果発表と討論を基本形式に進めます。学生生活の集大成にふさわしい充実したゼミ活動を目指しましょう。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	HR-M-412	科目分類（～2024 年入学者）	112-310-24	授業コード	FB1145
科目名称	人間関係ｾﾞﾐⅣ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar of Human Relations Ⅳ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	倉住　友恵			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	倉住　友恵			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　月曜日 10:40～12:10　金曜日 16:20～17:50 後期　月曜日 10:40～12:10　金曜日 16:20～17:50			研究室	10-618
授業概要	人間関係ゼミⅢに続き、教員と相談しながら卒業研究を各自遂行する。前半は研究の進捗状況報告の場とし、発表内容に関してディスカッションすることで改善点を明らかにしていく。後半は論文の本文を発表してもらい検討するとともに、論文執筆やデータ分析などの作業時間と教員が指導する時間を設ける。最終回では 3 年生と合同で研究発表会を開催する。卒業研究の成果をパワーポイント等にまとめて発表し、ディスカッションを行う。				
到達目標	以下、5 点を到達目標とする。 1．卒業論文またはゼミ論文を完成させる 2．論文および発表資料において相手に伝わる、論理的な文章が書ける 3．発表を通じて他者に自分の考えを分かりやすく説明できる 4．他者の発表を批判的に聞き、建設的な意見を述べることができる 5．投げかけられた質問に適切に応答することができる				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	倉住　友恵	予習　：夏季休暇中の研究成果をレジュメにまとめる 授業　：オリエンテーション、夏季休暇中の研究成果と今後の研究計画の発表【教科書第 1 章（pp.4-8）】（プレゼンテーション） 復習　：得られたコメントをもとに今後の研究計画を見直す
2	倉住　友恵	予習　：研究計画に従った研究の遂行、発表準備 授業　：研究報告 1、質疑応答、論文の引用【教科書第 25 章（pp.103-107）】（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習　：問題点の改良、課題の遂行
3	倉住　友恵	予習　：研究計画に従った研究の遂行、発表準備 授業　：研究報告 2、質疑応答、本論の書き方、データのダウンロードと入力【教科書第 5 章（pp.19-24）＆第 11 章（pp.50-55）】（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習　：問題点の改良、課題の遂行
4	倉住　友恵	予習　：研究計画に従った研究の遂行、発表準備 授業　：研究報告 3、質疑応答、HAD にデータを取り込む・データクリーニング【教科書第 12-13 章（pp.56-62）】（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習　：問題点の改良、課題の遂行
5	倉住　友恵	予習　：研究計画に従った研究の遂行、論文執筆、発表準備 授業　：研究報告 4、質疑応答、因子分析を行う【教科書第 14 章（pp.63-70）】（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習　：問題点の改良、課題の遂行
6	倉住　友恵	予習　：研究計画に従った研究の遂行、論文執筆、発表準備 授業　：研究報告 5、質疑応答、尺度得点の算出【教科書第 15 章（pp.71-75）】（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習　：問題点の改良、課題の遂行
7	倉住　友恵	予習　：研究計画に従った研究の遂行、論文執筆、発表準備 授業　：研究報告 6、質疑応答、基礎統計量の算出・研究課題をふり返る【教科書第 16-17 章（pp.76-80）】（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習　：分析の遂行
8	倉住　友恵	予習　：研究計画に従った研究の遂行、論文執筆、発表準備 授業　：研究報告 7、質疑応答、仮説に応じた分析①【教科書第 18～22 章（pp.81-97）】（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習　：分析の遂行
9	倉住　友恵	予習　：研究計画に従った研究の遂行、論文執筆、発表準備 授業　：研究報告 8、質疑応答、仮説に応じた分析②、結論の書き方【教科書第 18～22 章（pp.81-97）＆第 5 章(p.23)】（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習　：分析の遂行完了

10	倉住　友恵	予習　：研究計画に従った研究の遂行、論文執筆、発表準備 授業　：研究報告 9、質疑応答、結果を記述し考察する【教科書第 23-24 章（pp.98-102）】（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習　：論文執筆
11	倉住　友恵	予習　：論文執筆 授業　：引用文献の書き方、論文の一貫性と推敲、個人研究活動（論文執筆等）【教科書第 25 章（pp.103-107）】（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習　：論文執筆・推敲
12	倉住　友恵	予習　：論文執筆 授業　：論文添削と提出前の確認事項、個人研究活動（論文執筆等）【教科書第 26 章（pp.108-110）】 復習　：論文執筆・推敲
13	倉住　友恵	予習　：論文執筆・推敲 授業　：ゼミ論文提出、研究発表の仕方、個人研究活動（プレゼン準備）【教科書第 27 章（pp.111-115）】 復習　：発表用スライド・資料の作成
14	倉住　友恵	予習　：発表用スライド・資料の作成 授業　：プレゼン準備・練習（ペアワーク） 復習　：発表用スライド・資料の改良
15	倉住　友恵	予習　：卒業研究の発表準備 授業　：研究発表会、質疑応答（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習　：他者や自身の発表をもとに、人間や人間関係に対する心理学的な考察を深める

授業開始前学習	自身の卒業研究を進める。調査を実施予定の人は調査の準備をして、後期最初に実施できるようにする。
授業内課題のフィードバックの方法	発表内容や提出課題については、原則その授業時間内にフィードバックと必要な指導を行う。 仮提出された卒業論文・ゼミ論文に関しては、添削したうえで翌週の授業時間に返却する。
テキスト・教材	倉住友恵著『人間関係ゼミⅢ・Ⅳ（応用心理学）』駒沢女子大学教科書シリーズ
参考書	授業時間内に適宜紹介する。
評価の基準と方法	ゼミ論文提出者は、受講態度・ディスカッションへの参加 30%、研究論文 40%、研究発表 30%として評価する。 卒業論文提出者は、受講態度・ディスカッションへの参加 40%、研究発表 40%、研究への姿勢 20%として評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	◎		○

関連科目	人間関係ゼミⅠ・Ⅱ・Ⅲ、アンケート調査法、フィールドワークの技法
その他	学生が主体となる演習科目なので、積極的な参加態度をもって臨む。欠席する場合には必ず教員へ連絡を入れる。 卒業研究は各自がタイムスケジュールを設定し、それに従って進めていくことが重要となる。直前に慌てないで済むよう、各自が計画的に研究を進めることを強く望む。また不明点や相談事項がある場合には、自分から教員に連絡する。指示待ちにならないように自分で考えて行動する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	HR-M-412 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	112-310-24 （Ｊ）	授業コード	FB1146
科目名称	人間関係ｾﾞﾐⅣ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar of Human Relations Ⅳ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	田澤 秀司			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田澤 秀司			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～16:00 水曜日 09:00～14:00 後期 火曜日 09:00～16:00 水曜日 09:00～14:00			研究室	10-502
授業概要	【メディアで表現する】 各回を前後半に分けて、会議とワークショップを行う。会議ではイベントやプロジェクトの企画をたて、実践する。ワークショップでは、全員で決めたシリーズに基づいて 1 人 1 テーマの著作をまとめあげる。また、授業では、ディスカッションや発表などのグループワークを行う。適宜、グループまたは個人の面談を行い、進捗を確認する。				
到達目標	「理解力（わかること）」と「表現力（わかってもらうこと）」を高める。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	田澤 秀司	【第 1 回】 予習 ：前期の続き → 原稿を確認し、レイアウトを進める 授業 ：前半「会議」、後半「原稿制作（追加原稿）」（ディスカッション） 復習 ：原稿を確認し、レイアウトを進める
2	田澤 秀司	【第 2 回】 予習 ：プリントアウトをして、中間報告に備える 授業 ：前半「会議」、後半「原稿整理（テキスト入力）」1 （ディスカッション） 復習 ：中間報告をもとに、レイアウトを見直す
3	田澤 秀司	【第 3 回】 予習 ：プリントアウトをして、中間報告に備える 授業 ：前半「会議」、後半「原稿整理（テキスト入力）」2 （ディスカッション） 復習 ：中間報告をもとに、レイアウトを見直す
4	田澤 秀司	【第 4 回】 予習 ：表紙、扉、奥付を考える 授業 ：前半「会議」、後半「原稿整理（画像の加工）」1 （ディスカッション） 復習 ：全ページをプリントし、折り丁を作る
5	田澤 秀司	【第 5 回】 予習 ：表紙、扉、奥付を考える 授業 ：前半「会議」、後半「原稿整理（画像の加工）」2 （ディスカッション） 復習 ：全ページをプリントし、折り丁を作る
6	田澤 秀司	【第 6 回】 予習 ：折り丁を校正し、データを修正する 授業 ：前半「会議」、後半「原稿整理（レイアウト）」1 （ディスカッション） 復習 ：プリントし、校正を繰り返す
7	田澤 秀司	【第 7 回】 予習 ：折り丁を校正し、データを修正する 授業 ：前半「会議」、後半「原稿整理（レイアウト）」2 （ディスカッション） 復習 ：プリントし、校正を繰り返す
8	田澤 秀司	【第 8 回】 予習 ：本紙にプリントし、製本に備える 授業 ：前半「会議」、後半「製本作業（プリントアウト）」1 （ディスカッション） 復習 ：材料を確認し、製本する
9	田澤 秀司	【第 9 回】 予習 ：本紙にプリントし、製本に備える 授業 ：前半「会議」、後半「製本作業（プリントアウト）」2 （ディスカッション） 復習 ：材料を確認し、製本する
10	田澤 秀司	【第 10 回】 予習 ：製本を完了する 授業 ：前半「会議」、後半「製本作業（校正、修正）」1 （ディスカッション） 復習 ：完成した本を見直し、訂正原本を作る

11	田澤　秀司	【第 11 回】 予習　：製本を完了する 授業　：前半「会議」、後半「製本作業（校正、修正）」2　（ディスカッション） 復習　：完成した本を見直し、訂正原本を作る
12	田澤　秀司	【第 12 回】 予習　：データを修正し、本紙にプリントする 授業　：前半「会議」、後半「製本作業（装丁）」1　（ディスカッション） 復習　：2 冊目を製本する
13	田澤　秀司	【第 13 回】 予習　：データを修正し、本紙にプリントする 授業　：前半「会議」、後半「製本作業（装丁）」2　（ディスカッション） 復習　：2 冊目を製本する
14	田澤　秀司	【第 14 回】 予習　：発表に備え、必要な材料を用意する 授業　：前半「会議」、後半「作品発表（講評）」1　（ディスカッション、発表） 復習　：2 冊のうち、1 冊を提出する
15	田澤　秀司	【第 15 回】 予習　：発表に備え、必要な材料を用意する 授業　：前半「会議」、後半「作品発表（講評）」2　（ディスカッション、発表） 復習　：2 冊のうち、1 冊を提出する

授業開始前学習	ニュースなどで日々の出来事を確認しておくと、授業が理解しやすい。
授業内課題のフィードバックの方法	グループディスカッションで講評を行い、個人のワークショップで進捗を確認する。
テキスト・教材	授業で適宜、配布する。
参考書	授業で適宜、紹介する。
評価の基準と方法	配点は、予習・復習などの平常点 60 点、課題 40 点の配分とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	◎		○

関連科目	「企画と表現」「表現活動とビジネス」を履修しておくことが望ましい。
その他	課題学習（予習・復習）については、各回の授業の後半に具体的な例を提示する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	幼児向け月刊誌 10 誌の編集責任者、教材の開発者として数多くの人とかかわり、さまざまな商品を担当してきた経験と、その過程で得た資料をもとに、「社会で求められる力」を「出版“で”教育する」という取り組みを実践している。

科目分類（2025 年～入学者）	HR-M-412	科目分類（～2024 年入学者）	112-310-24	授業コード	FB1147
科目名称	人間関係ｾﾞﾐⅣ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar of Human Relations Ⅳ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	楠田　恵美			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	楠田　恵美			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　木曜日 13:00～14:30　金曜日 14:40～16:10 後期　木曜日 13:00～14:30　金曜日 14:40～16:10			研究室	10-612
授業概要	ゼミ論の完成に向けて各自の研究テーマに関連するテクストの購読を行うとともに研究の進捗報告を行う。学外活動としてフィールドワークを一回行う。				
到達目標	自らが設定したテーマでメディア論を書き上げる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	楠田　恵美	【第 1 回】 予習：ゼミ論を進める 授業：進捗報告、ディスカッション(1) 復習：ゼミ論を進める
2	楠田　恵美	【第 2 回】 予習：ゼミ論を進める 授業：進捗報告、ディスカッション(2) 復習：ゼミ論を進める
3	楠田　恵美	【第 3 回】 予習：ゼミ論を進める 授業：進捗報告、ディスカッション(3) 復習：ゼミ論を進める
4	楠田　恵美	【第 4 回】 予習：ゼミ論を進める 授業：進捗報告、ディスカッション(4) 復習：ゼミ論を進める
5	楠田　恵美	【第 5 回】 予習：フィールドワーク先の情報収集を行い計画を立てる 授業：フィールドワーク（首都圏近郊のテーマパーク等を予定） 復習：フィールドワークレポートを作成する
6	楠田　恵美	【第 6 回】 予習：ゼミ論を進める 授業：進捗報告、ディスカッション(5) 復習：ゼミ論を進める
7	楠田　恵美	【第 7 回】 予習：ゼミ論を進める 授業：進捗報告、ディスカッション(6) 復習：ゼミ論を進める
8	楠田　恵美	【第 8 回】 予習：ゼミ論を進める 授業：進捗報告、ディスカッション(7) 復習：ゼミ論を進める
9	楠田　恵美	【第 9 回】 予習：ゼミ論を進める 授業：進捗報告、ディスカッション(8) 復習：ゼミ論を進める
10	楠田　恵美	【第 10 回】 予習：ゼミ論を進める 授業：進捗報告、ディスカッション(9) 復習：ゼミ論を進める
11	楠田　恵美	【第 11 回】 予習：ゼミ論を進める 授業：進捗報告、ディスカッション(10) 復習：ゼミ論を進める

12	楠田　恵美	【12 回】 予習：ゼミ論を進める 授業：進捗報告、ディスカッション(11) 復習：ゼミ論を進める
13	楠田　恵美	【第 13 回】 予習：ゼミ論を進める 授業：進捗報告、ディスカッション(12) 復習：ゼミ論を進める
14	楠田　恵美	【第 14 回】 予習：ゼミ論を進める 授業：進捗報告、ディスカッション(13) 復習：ゼミ論を進める
15	楠田　恵美	【第 15 回】 予習：ゼミ論を完成させる 授業：進捗報告、ディスカッション(14) 復習：ゼミ論を提出する

授業開始前学習	ゼミ論執筆作業を継続して行う。
授業内課題のフィードバックの方法	授業内での発表やディスカッションに対して講評を行うとともに、提出された課題や受けた質問に対しては都度評価、回答をする。
テキスト・教材	
参考書	授業中に適宜、紹介する。
評価の基準と方法	授業態度 50%、授業内課題 50%で評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当								

関連科目	メディアと社会／情報技術と人間関係、広告と消費社会／広告の研究／映像広告の研究
その他	正課学外活動として、首都圏近郊のテーマパーク等でのフィールドワークを予定している。フィールドワークを実施するかどうかは、その時の状況に応じて判断する。フィールドワークの交通費ならびに入園料は自己負担となる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	HR-M-432	科目分類（～2024 年入学者）	112-330-24	授業コード	FB9901
科目名称	卒業論文			単位数	4.0 単位
英文名称	Graduation Thesis			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	石田　かおり			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	石田　かおり			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　木曜日 11:00～14:30 後期　木曜日 11:00～14:30			研究室	10-701
授業概要	大学で学んだこと、そのなかで特に自分が興味をいだいた事柄を研究対象として選び、深く追究していく。その結果を、体系的、論理的に文章化してまとめたものが卒業論文である。そこでは、専門的な知識の修得をふまえたうえでの、自らの分析の視点と明確な問題意識をもつことが要求される。まさに、大学生活の集大成となりうるものであろう。 具体的な内容に関しては、担当教員と相談のうえ決めること。特に、論文の書き方や論文の構成などは、学問分野によってかなり違いがあるので、十分に留意してほしい。				
到達目標	以下の 4 点である。 1．各専門分野における、体系的・論理的な思考方法を身につける。 2．各専門分野における、論文の書き方（論文構成など）を正確に身につける。 3．専門的な知識をまとめ、独創的発想を表現するための文章力を高める。 4．各専門分野の研究論文として妥当な「卒業論文」を提出する。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	1 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	石田　かおり	卒業論文は、担当教員が指示する時間帯で随時指導を受ける。 授業の内容　全般にわたる諸注意 1．資料の収集、読解、分析は執筆の第一歩である 2．研究対象の先行研究は必ず調べること 3．研究の対象を適切な範囲に絞り込むこと 4．論文全体の構成を常に意識すること 5．なるべく早い段階で書き始めること 6．書いた部分は必ず読み直し修正すること 7．脚註の付け方や引用・参考文献の書き方などは分野により異なるので注意すること 卒業論文の履修手続きは、他の科目と異なる。学生便覧や教務課掲示の指示を
2	石田　かおり	1と同様
3	石田　かおり	1と同様
4	石田　かおり	1と同様
5	石田　かおり	1と同様
6	石田　かおり	1と同様
7	石田　かおり	1と同様
8	石田　かおり	1と同様
9	石田　かおり	1と同様

10	石田　かおり	1と同様
11	石田　かおり	1と同様
12	石田　かおり	1と同様
13	石田　かおり	1と同様
14	石田　かおり	1と同様
15	石田　かおり	1と同様

授業開始前学習	担当教員と相談すること。
授業内課題のフィードバックの方法	履修生は担当教員に進行状況を報告し、その都度必要な指導・フィードバックを受けること。
テキスト・教材	担当教員と相談すること。
参考書	担当教員と相談すること。
評価の基準と方法	主査（担当教員）と副査が評価し採点する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	◎		○

関連科目	各専門教育科目など
その他	履修ガイドに記載された「卒業論文の履修について」を参照し、手続きを遵守すること。 卒業論文は、年間を通した地道な研究作業の積み重ねが大切なので、担当教員と相談のうえ、日時を決めて随時指導を受ける必要がある。 担当教員のなかには、途中経過報告をさせたり、最後に発表会を行なう場合もある。
予習・復習の所要時間	
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	HR-M-432	科目分類（～2024 年入学者）	112-330-24	授業コード	FB9902
科目名称	卒業論文			単位数	4.0 単位
英文名称	Graduation Thesis			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	臼井　実稲子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	臼井　実稲子			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　水曜日 09:00～12:10 後期　水曜日 09:00～12:10			研究室	10-705
授業概要	大学で学んだこと、そのなかで特に自分が興味をいだいた事柄を研究対象として選び、深く追究していく。その結果を、体系的、論理的に文章化してまとめたものが卒業論文である。そこでは、専門的な知識の修得をふまえたうえでの、自らの分析の視点と明確な問題意識をもつことが要求される。まさに、大学生活の集大成となりうるものであろう。 具体的な内容に関しては、担当教員と相談のうえ決めること。特に、論文の書き方や論文の構成などは、学問分野によってかなり違いがあるので、十分に留意してほしい。				
到達目標	以下の 4 点である。 1．各専門分野における、体系的・論理的な思考方法を身につける。 2．各専門分野における、論文の書き方（論文構成など）を正確に身につける。 3．専門的な知識をまとめ、独創的発想を表現するための文章力を高める。 4．各専門分野の研究論文として妥当な「卒業論文」を提出する。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	1 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	臼井　実稲子	卒業論文は、担当教員が指示する時間帯で随時指導を受ける。 授業の内容　全般にわたる諸注意 1．資料の収集、読解、分析は執筆の第一歩である 2．研究対象の先行研究は必ず調べること 3．研究の対象を適切な範囲に絞り込むこと 4．論文全体の構成を常に意識すること 5．なるべく早い段階で書き始めること 6．書いた部分は必ず読み直し修正すること 7．脚註の付け方や引用・参考文献の書き方などは分野により異なるので注意すること 卒業論文の履修手続きは、他の科目と異なる。学生便覧や教務課掲示の指示を
2	臼井　実稲子	1と同様
3	臼井　実稲子	1と同様
4	臼井　実稲子	1と同様
5	臼井　実稲子	1と同様
6	臼井　実稲子	1と同様
7	臼井　実稲子	1と同様
8	臼井　実稲子	1と同様
9	臼井　実稲子	1と同様

10	臼井　実稲子	1と同様
11	臼井　実稲子	1と同様
12	臼井　実稲子	1と同様
13	臼井　実稲子	1と同様
14	臼井　実稲子	1と同様
15	臼井　実稲子	1と同様

授業開始前学習	担当教員と相談すること。
授業内課題のフィードバックの方法	履修生は担当教員に進行状況を報告し、その都度必要な指導・フィードバックを受けること。
テキスト・教材	担当教員と相談すること。
参考書	担当教員と相談すること。
評価の基準と方法	主査（担当教員）と副査が評価し採点する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	◎		○

関連科目	各専門教育科目など
その他	履修ガイドに記載された「卒業論文の履修について」を参照し、手続きを遵守すること。 卒業論文は、年間を通した地道な研究作業の積み重ねが大切なので、担当教員と相談のうえ、日時を決めて随時指導を受ける必要がある。 担当教員のなかには、途中経過報告をさせたり、最後に発表会を行なう場合もある。
予習・復習の所要時間	
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	HR-M-432	科目分類（～2024 年入学者）	112-330-24	授業コード	FB9903
科目名称	卒業論文			単位数	4.0 単位
英文名称	Graduation Thesis			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	榎本　環			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	榎本　環			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　月曜日 13:00～14:30　火曜日 10:40～12:10 後期　月曜日 13:00～14:30　火曜日 10:40～12:10			研究室	10-716
授業概要	大学で学んだこと、そのなかで特に自分が興味をいだいた事柄を研究対象として選び、深く追究していく。その結果を、体系的、論理的に文章化してまとめたものが卒業論文である。そこでは、専門的な知識の修得をふまえたうえでの、自らの分析の視点と明確な問題意識をもつことが要求される。まさに、大学生活の集大成となりうるものであろう。 具体的な内容に関しては、担当教員と相談のうえ決めること。特に、論文の書き方や論文の構成などは、学問分野によってかなり違いがあるので、十分に留意してほしい。				
到達目標	以下の 4 点である。 1．各専門分野における、体系的・論理的な思考方法を身につける。 2．各専門分野における、論文の書き方（論文構成など）を正確に身につける。 3．専門的な知識をまとめ、独創的発想を表現するための文章力を高める。 4．各専門分野の研究論文として妥当な「卒業論文」を提出する。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	1 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	榎本　環	卒業論文は、担当教員が指示する時間帯で随時指導を受ける。 授業の内容　全般にわたる諸注意 1．資料の収集、読解、分析は執筆の第一歩である 2．研究対象の先行研究は必ず調べること 3．研究の対象を適切な範囲に絞り込むこと 4．論文全体の構成を常に意識すること 5．なるべく早い段階で書き始めること 6．書いた部分は必ず読み直し修正すること 7．脚註の付け方や引用・参考文献の書き方などは分野により異なるので注意すること 卒業論文の履修手続きは、他の科目と異なる。学生便覧や教務課掲示の指示を
2	榎本　環	1と同様
3	榎本　環	1と同様
4	榎本　環	1と同様
5	榎本　環	1と同様
6	榎本　環	1と同様
7	榎本　環	1と同様
8	榎本　環	1と同様
9	榎本　環	1と同様

10	榎本　環	1と同様
11	榎本　環	1と同様
12	榎本　環	1と同様
13	榎本　環	1と同様
14	榎本　環	1と同様
15	榎本　環	1と同様

授業開始前学習	担当教員と相談すること。
授業内課題のフィードバックの方法	履修生は担当教員に進行状況を報告し、その都度必要な指導・フィードバックを受けること。
テキスト・教材	担当教員と相談すること。
参考書	担当教員と相談すること。
評価の基準と方法	主査（担当教員）と副査が評価し採点する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	◎		○

関連科目	各専門教育科目など
その他	履修ガイドに記載された「卒業論文の履修について」を参照し、手続きを遵守すること。 卒業論文は、年間を通した地道な研究作業の積み重ねが大切なので、担当教員と相談のうえ、日時を決めて随時指導を受ける必要がある。 担当教員のなかには、途中経過報告をさせたり、最後に発表会を行なう場合もある。
予習・復習の所要時間	
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	HR-M-432	科目分類（～2024 年入学者）	112-330-24	授業コード	FB9905
科目名称	卒業論文			単位数	4.0 単位
英文名称	Graduation Thesis			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	倉住　友恵			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	倉住　友恵			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　月曜日 10:40～12:10　金曜日 16:20～17:50 後期　月曜日 10:40～12:10　金曜日 16:20～17:50			研究室	10-618
授業概要	大学で学んだこと、そのなかで特に自分が興味をいだいた事柄を研究対象として選び、深く追究していく。その結果を、体系的、論理的に文章化してまとめたものが卒業論文である。そこでは、専門的な知識の修得をふまえたうえでの、自らの分析の視点と明確な問題意識をもつことが要求される。まさに、大学生活の集大成となりうるものであろう。 具体的な内容に関しては、担当教員と相談のうえ決めること。特に、論文の書き方や論文の構成などは、学問分野によってかなり違いがあるので、十分に留意してほしい。				
到達目標	以下の 4 点である。 1．各専門分野における、体系的・論理的な思考方法を身につける。 2．各専門分野における、論文の書き方（論文構成など）を正確に身につける。 3．専門的な知識をまとめ、独創的発想を表現するための文章力を高める。 4．各専門分野の研究論文として妥当な「卒業論文」を提出する。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	1 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	倉住　友恵	卒業論文は、担当教員が指示する時間帯で随時指導を受ける。 授業の内容　全般にわたる諸注意 1．資料の収集、読解、分析は執筆の第一歩である 2．研究対象の先行研究は必ず調べること 3．研究の対象を適切な範囲に絞り込むこと 4．論文全体の構成を常に意識すること 5．なるべく早い段階で書き始めること 6．書いた部分は必ず読み直し修正すること 7．脚註の付け方や引用・参考文献の書き方などは分野により異なるので注意すること 卒業論文の履修手続きは、他の科目と異なる。学生便覧や教務課掲示の指示を
2	倉住　友恵	1と同様
3	倉住　友恵	1と同様
4	倉住　友恵	1と同様
5	倉住　友恵	1と同様
6	倉住　友恵	1と同様
7	倉住　友恵	1と同様
8	倉住　友恵	1と同様
9	倉住　友恵	1と同様

10	倉住　友恵	1と同様
11	倉住　友恵	1と同様
12	倉住　友恵	1と同様
13	倉住　友恵	1と同様
14	倉住　友恵	1と同様
15	倉住　友恵	1と同様

授業開始前学習	担当教員と相談すること。
授業内課題のフィードバックの方法	履修生は担当教員に進行状況を報告し、その都度必要な指導・フィードバックを受けること。
テキスト・教材	担当教員と相談すること。
参考書	担当教員と相談すること。
評価の基準と方法	主査（担当教員）と副査が評価し採点する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	◎		○

関連科目	各専門教育科目など
その他	履修ガイドに記載された「卒業論文の履修について」を参照し、手続きを遵守すること。 卒業論文は、年間を通した地道な研究作業の積み重ねが大切なので、担当教員と相談のうえ、日時を決めて随時指導を受ける必要がある。 担当教員のなかには、途中経過報告をさせたり、最後に発表会を行なう場合もある。
予習・復習の所要時間	
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	HR-M-432	科目分類（～2024 年入学者）	112-330-24	授業コード	FB9906
科目名称	卒業論文			単位数	4.0 単位
英文名称	Graduation Thesis			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	田澤　秀司			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田澤　秀司			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　火曜日 09:00～16:00　水曜日 09:00～14:00 後期　火曜日 09:00～16:00　水曜日 09:00～14:00			研究室	10-502
授業概要	大学で学んだこと、そのなかで特に自分が興味をいだいた事柄を研究対象として選び、深く追究していく。その結果を、体系的、論理的に文章化してまとめたものが卒業論文である。そこでは、専門的な知識の修得をふまえたうえでの、自らの分析の視点と明確な問題意識をもつことが要求される。まさに、大学生活の集大成となりうるものであろう。 具体的な内容に関しては、担当教員と相談のうえ決めること。特に、論文の書き方や論文の構成などは、学問分野によってかなり違いがあるので、十分に留意してほしい。				
到達目標	以下の 4 点である。 1．各専門分野における、体系的・論理的な思考方法を身につける。 2．各専門分野における、論文の書き方（論文構成など）を正確に身につける。 3．専門的な知識をまとめ、独創的発想を表現するための文章力を高める。 4．各専門分野の研究論文として妥当な「卒業論文」を提出する。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	1 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	田澤　秀司	卒業論文は、担当教員が指示する時間帯で随時指導を受ける。 授業の内容　全般にわたる諸注意 1．資料の収集、読解、分析は執筆の第一歩である 2．研究対象の先行研究は必ず調べること 3．研究の対象を適切な範囲に絞り込むこと 4．論文全体の構成を常に意識すること 5．なるべく早い段階で書き始めること 6．書いた部分は必ず読み直し修正すること 7．脚註の付け方や引用・参考文献の書き方などは分野により異なるので注意すること 卒業論文の履修手続きは、他の科目と異なる。学生便覧や教務課掲示の指示を
2	田澤　秀司	1と同様
3	田澤　秀司	1と同様
4	田澤　秀司	1と同様
5	田澤　秀司	1と同様
6	田澤　秀司	1と同様
7	田澤　秀司	1と同様
8	田澤　秀司	1と同様
9	田澤　秀司	1と同様

10	田澤　秀司	1と同様
11	田澤　秀司	1と同様
12	田澤　秀司	1と同様
13	田澤　秀司	1と同様
14	田澤　秀司	1と同様
15	田澤　秀司	1と同様

授業開始前学習	担当教員と相談すること。
授業内課題のフィードバックの方法	履修生は担当教員に進行状況を報告し、その都度必要な指導・フィードバックを受けること。
テキスト・教材	担当教員と相談すること。
参考書	担当教員と相談すること。
評価の基準と方法	主査（担当教員）と副査が評価し採点する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	◎		○

関連科目	各専門教育科目など
その他	履修ガイドに記載された「卒業論文の履修について」を参照し、手続きを遵守すること。 卒業論文は、年間を通した地道な研究作業の積み重ねが大切なので、担当教員と相談のうえ、日時を決めて随時指導を受ける必要がある。 担当教員のなかには、途中経過報告をさせたり、最後に発表会を行なう場合もある。
予習・復習の所要時間	
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	HR-M-432	科目分類（～2024 年入学者）	112-330-24	授業コード	FB9907
科目名称	卒業論文			単位数	4.0 単位
英文名称	Graduation Thesis			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	楠田　恵美			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	楠田　恵美			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　木曜日 13:00～14:30　金曜日 14:40～16:10 後期　木曜日 13:00～14:30　金曜日 14:40～16:10			研究室	10-612
授業概要	大学で学んだこと、そのなかで特に自分が興味をいだいた事柄を研究対象として選び、深く追究していく。その結果を、体系的、論理的に文章化してまとめたものが卒業論文である。そこでは、専門的な知識の修得をふまえたうえでの、自らの分析の視点と明確な問題意識をもつことが要求される。まさに、大学生活の集大成となりうるものであろう。 具体的な内容に関しては、担当教員と相談のうえ決めること。特に、論文の書き方や論文の構成などは、学問分野によってかなり違いがあるので、十分に留意してほしい。				
到達目標	以下の 4 点である。 1．各専門分野における、体系的・論理的な思考方法を身につける。 2．各専門分野における、論文の書き方（論文構成など）を正確に身につける。 3．専門的な知識をまとめ、独創的発想を表現するための文章力を高める。 4．各専門分野の研究論文として妥当な「卒業論文」を提出する。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	1 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	楠田　恵美	卒業論文は、担当教員が指示する時間帯で随時指導を受ける。 授業の内容　全般にわたる諸注意 1．資料の収集、読解、分析は執筆の第一歩である 2．研究対象の先行研究は必ず調べること 3．研究の対象を適切な範囲に絞り込むこと 4．論文全体の構成を常に意識すること 5．なるべく早い段階で書き始めること 6．書いた部分は必ず読み直し修正すること 7．脚註の付け方や引用・参考文献の書き方などは分野により異なるので注意すること 卒業論文の履修手続きは、他の科目と異なる。学生便覧や教務課掲示の指示を
2	楠田　恵美	1と同様
3	楠田　恵美	1と同様
4	楠田　恵美	1と同様
5	楠田　恵美	1と同様
6	楠田　恵美	1と同様
7	楠田　恵美	1と同様
8	楠田　恵美	1と同様
9	楠田　恵美	1と同様

10	楠田　恵美	1と同様
11	楠田　恵美	1と同様
12	楠田　恵美	1と同様
13	楠田　恵美	1と同様
14	楠田　恵美	1と同様
15	楠田　恵美	1と同様

授業開始前学習	担当教員と相談すること。
授業内課題のフィードバックの方法	履修生は担当教員に進行状況を報告し、その都度必要な指導・フィードバックを受けること。
テキスト・教材	担当教員と相談すること。
参考書	担当教員と相談すること。
評価の基準と方法	主査（担当教員）と副査が評価し採点する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	◎		○

関連科目	各専門教育科目など
その他	履修ガイドに記載された「卒業論文の履修について」を参照し、手続きを遵守すること。 卒業論文は、年間を通した地道な研究作業の積み重ねが大切なので、担当教員と相談のうえ、日時を決めて随時指導を受ける必要がある。 担当教員のなかには、途中経過報告をさせたり、最後に発表会を行なう場合もある。
予習・復習の所要時間	
実務経験を活かした教育内容	

English Workshop Ⅰ

科目分類（2025年～入学者）		科目分類（～2024年入学者）	113-310-12	授業コード	FC0010
科目名称	English Workshop Ⅰ			単位数	2.0単位
英文名称	English Workshop Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	Ｔ．プラザ			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	浅川･工藤(俊)･ﾌﾟﾗｻﾞ･ﾌﾞﾗｳﾝ			開講時期	2年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	The EWS class is designed with two main objectives. First, to help improve students oral & communicative abilities; secondly to show students how to learn English and become autonomous learners. The first aim involves talking to a native speaker who also teaches conversation strategies. Students also learn how to become autonomous through writing and reflecting on their learning; reading extensively; and getting advice about their learning in class.				
到達目標	English Workshop encourages students to become autonomous learners through learning strategies such as video and voice recordings while improving students overall proficiency.				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	共同

授業回数	担当者	授業の内容
1	浅川・工藤・ブラウン・プラザ	【第1回】 予習　：Think about why you want to learn English 授業　：Orientation: Class aims and procedures: evaluation methods 復習　：Review class aims; reflect on Small Group Conversation (SGC); read graded readers
2	浅川・工藤・ブラウン・プラザ	【第2回】 予習　：Think about how you learn English now and what are your new goals 授業　：Language learning mini-lecture; goal setting　(Group Work), Off-campus class orientation 復習　：Think about your big & small learning goals; write Learning Diary (LD) &　Exten
3	浅川・工藤・ブラウン・プラザ	【第3回】 予習　：Reflect on your goals; write in LD & ER 授業　：Word Quiz; Vocabulary drills; Mini-activity; SGC; Language learning mini-lecture; autonomous study (Group Work) 復習　：Reflect on your vocabulary test.　Write Useful Expressions, Learning Diary, and Ex
4	浅川・工藤・ブラウン・プラザ	【第4回】 予習　：Have SGC topic prepared and ready to discuss with other students - use new language learned 授業　：Word Quiz; Vocabulary drills; Mini-activity; SGC; Language learning mini-lecture; autonomous study (Group Work) 復習　：Reflect on your vocabulary te
5	浅川・工藤・ブラウン・プラザ	【第5回】 予習　：Have SGC topic prepared and ready to discuss with other students - use new language learned 授業　：Word Quiz; Vocabulary drills; Mini-activity; SGC; Language learning mini-lecture; autonomous study (Group Work) 復習　：Reflect on your vocabulary te
6	浅川・工藤・ブラウン・プラザ	【第6回】 予習　：Have SGC topic prepared and ready to discuss with other students - use new language learned 授業　：Word Quiz; Vocabulary drills; Mini-activity; SGC; Language learning mini-lecture; autonomous study (Group Work) 復習　：Reflect on your vocabulary te
7	浅川・工藤・ブラウン・プラザ	【第7回】 予習　：Have SGC topic prepared and ready to discuss with other students - use new language learned 授業　：Word Quiz; Vocabulary drills; Mini-activity; SGC; Language learning mini-lecture; autonomous study (Group Work) 復習　：Reflect on your vocabulary te
8	浅川・工藤・ブラウン・プラザ	【第8回】 予習　：Discuss learning progress in Japanese and in English and prepare for writing an essay 授業　：Reflection on learning so far and write an essay ① 復習　：Reflect on teacher's comments and re-think about how to achieve learning goals (big & small)

9	浅川・工藤・ブラウン・プラザ	【第 9 回】 予習　：Have SGC topic prepared and ready to discuss with other students - use new language learned 授業　：Word Quiz; Vocabulary drills; Mini-activity; SGC; Language learning mini-lecture; autonomous study (Group Work) 復習　：Reflect on your vocabulary te
10	浅川・工藤・ブラウン・プラザ	【第 10 回】 予習　：Have SGC topic prepared and ready to discuss with other students - use new language learned 授業　：Word Quiz; Vocabulary drills; Mini-activity; SGC; Language learning mini-lecture; autonomous study (Group Work) 復習　：Reflect on your vocabulary t
11	浅川・工藤・ブラウン・プラザ	【第 11 回】 予習 Have SGC topic prepared and ready to discuss with other students - use new language learned 授業　：Word Quiz; Vocabulary drills; Mini-activity; SGC; Language learning mini-lecture; autonomous study (Group Work) 復習　：Reflect on your vocabulary te
12	浅川・工藤・ブラウン・プラザ	【第 12 回】 予習　：Have SGC topic prepared and ready to discuss with other students - use new language learned 授業　：Word Quiz; Vocabulary drills; Mini-activity; SGC; Language learning mini-lecture; autonomous study (Group Work) 復習　：Reflect on your vocabulary t
13	浅川・工藤・ブラウン・プラザ	【第 13 回】 予習　：Prepare for interview - use as much new language learned up until now as possible 授業　：Word Quiz; Vocabulary drills; Mini-activity; SGC; Language learning mini-lecture; autonomous study (Group Work) 復習　：Reflect on your vocabulary test.　Writ
14	浅川・工藤・ブラウン・プラザ	【第 14 回】 予習　：Use vocabulary learning strategies for test; have SGC topic prepared - use a new language learned 授業　：Word Quiz; Vocabulary drills; Mini-activity; SGC; Language learning mini-lecture; autonomous study (Group Work) 復習　：Reflect on your vocabu
15	浅川・工藤・ブラウン・プラザ	【第 15 回】 予習　：Discuss learning progress in Japanese and in English and prepare for writing an essay 授業　：Reflection on learning so over the latter half of the semester and write an essay ② 復習　：Reflect on the last 15 weeks and prepare a study plan for the v

授業開始前学習	High motivation and a willingness to work hard while enjoying learning is required. A high level of English language ability is not required.
授業内課題のフィードバックの方法	Students receive feedback on Useful Expressions, Extensive Reading and Learning Diary.
テキスト・教材	
参考書	We use extra handouts
評価の基準と方法	[A] Word Quiz (5%), SGC (15%),UE (15%),　LD (25%), ER(25%), In-class Participation (15%) [B] Essays:　essay 1 (50%), essay 2 (50%) Evaluation will be decided based on these two sets comprehensively.
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎				△	○

関連科目	
その他	Off-campus class will be held on a date which is different from regular classes in this semester.　Details will be announced in class.　Off-campus class may be discontinued due to coronavirus situation.
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-310-12	授業コード	FC0020
科目名称	English Workshop Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	English Workshop Ⅱ			授業区分	講義
科目責任者	Ｔ．プラザ			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	浅川･工藤(俊)･ﾌﾟﾗｻﾞ･ﾌﾞﾗｳﾝ			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	The EWS class is designed with two main objectives. First, to help improve students oral & communicative abilities; secondly to show students how to learn English and become autonomous learners. The first aim involves talking to a native speaker who also teaches conversation strategies. Students also learn how to become autonomous through writing and reflecting on their learning; reading extensively; and getting advice about their learning in class. Groupwork and discussion are key components of the class.				
到達目標	English Workshop encourages students to become autonomous learners through learning strategies such as video and voice recordings while improving students overall proficiency.				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	共同

授業回数	担当者	授業の内容
1	浅川・工藤・ブラウン・プラザ	【第 1 回】 予習 ：Prepare “How was your summer holiday?” 授業 ：Orientation 復習 ：Write Useful Expressions, Learning Diary, and Extensive Reading
2	浅川・工藤・ブラウン・プラザ	【第 2 回】 予習 ： Have Small Group Conversation topic prepared. 授業 ： Small Group Conversation; Introducing Japanese food (regionality, history). 復習 ： Write Useful Expressions, Learning Diary, and Extensive Reading
3	浅川・工藤・ブラウン・プラザ	【第 3 回】 予習 ： Have Small Group Conversation topic prepared. 授業 ： Word Quiz ①; Small Group Conversation; Introducing Japanese food (trending). 復習 ： Write Useful Expressions, Learning Diary, and Extensive Reading
4	浅川・工藤・ブラウン・プラザ	【第 4 回】 予習 ： Have Small Group Conversation topic prepared. 授業 ： Small Group Conversation; Giving a presentation about Japanese food. 復習 ： Write Useful Expressions, Learning Diary, and Extensive Reading
5	浅川・工藤・ブラウン・プラザ	【第 5 回】 予習 ： Have Small Group Conversation topic prepared. 授業 ： Small Group Conversation; Introducing Inagi (regionality, history, products). 復習 ： Write Useful Expressions, Learning Diary, and Extensive Reading
6	浅川・工藤・ブラウン・プラザ	【第 6 回】 予習 ： Have Small Group Conversation topic prepared. 授業 ： Small Group Conversation; Introducing Inagi (shrines, temples, remains, festivals). 復習 ： Write Useful Expressions, Learning Diary, and Extensive Reading
7	浅川・工藤・ブラウン・プラザ	【第 7 回】 予習 ： Have Small Group Conversation topic prepared. 授業 ： Small Group Conversation; Giving a presentation about Inagi. 復習 ： Write Useful Expressions, Learning Diary, and Extensive Reading
8	浅川・工藤・ブラウン・プラザ	【第 8 回】 予習 ： Have Small Group Conversation topic prepared. 授業 ： Small Group Conversation, Writing an essay ①. 復習 ： Write Useful Expressions, Learning Diary, and Extensive Reading
9	浅川・工藤・ブラウン・プラザ	【第 9 回】 予習 ： Have Small Group Conversation topic prepared. 授業 ： Small Group Conversation; Introducing Japan (history, products). 復習 ： Write Useful Expressions, Learning Diary, and Extensive Reading
10	浅川・工藤・ブラウン・プラザ	【第 10 回】 予習 ： Have Small Group Conversation topic prepared. 授業 ： Small Group Conversation; Introducing Japan (sightseeing spots) 復習 ： Write Useful Expressions, Learning Diary, and Extensive Reading

11	浅川・工藤・ブラウン・プラザ	【第 11 回】 予習 ： Have Small Group Conversation topic prepared. 授業 ： Small Group Conversation; Giving a presentation about Japan . 復習 ： Write Useful Expressions, Learning Diary, and Extensive Reading
12	浅川・工藤・ブラウン・プラザ	【第 12 回】 予習 ： Have Small Group Conversation topic prepared. 授業 ： Small Group Conversation; Introducing a foreign country (history, products) . 復習 ： Write Useful Expressions, Learning Diary, and Extensive Reading
13	浅川・工藤・ブラウン・プラザ	【第 13 回】 予習 ： Have Small Group Conversation topic prepared. 授業 ： Word Quiz ②; Small Group Conversation; Introducing a foreign country (sightseeing spots) . 復習 ： Write Useful Expressions, Learning Diary, and Extensive Reading
14	浅川・工藤・ブラウン・プラザ	【第 14 回】 予習 ： Have Small Group Conversation topic prepared. 授業 ： Small Group Conversation; Giving a presentation about a foreign country. 復習 ： Write Useful Expressions, Learning Diary, and Extensive Reading
15	浅川・工藤・ブラウン・プラザ	【第 15 回】 予習 ： Have Small Group Conversation topic prepared. 授業 ： Small Group Conversation; Writing an essay ②. 復習 ： Write Useful Expressions, Learning Diary, and Extensive Reading

授業開始前学習	High motivation and a willingness to work hard while enjoying learning is required. A high level of English language ability is not required.
授業内課題のフィードバックの方法	Students receive feedback on Useful Expressions, Extensive Reading and Learning Diary.
テキスト・教材	
参考書	We use extra handouts.
評価の基準と方法	[A] Word Quiz (5%), SGC (15%),UE (15%), LD (25%), ER(25%), In-class Participation (15%) [B] Essays: essay 1 (50%), essay 2 (50%) Evaluation will be decided based on these two sets comprehensively
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎				△	○

関連科目	
その他	This team taught class is based on small groups and high student participation.
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-330-13	授業コード	FC0030
科目名称	English Workshop Ⅲ			単位数	2.0 単位
英文名称	English Workshop Ⅲ			授業区分	講義
科目責任者	K.バーンズ			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	K.バーンズ			開講時期	3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	The EWIII class is designed with two main objectives. Firstly, to help improve students oral & communicative abilities in English; secondly to show students how to learn English by becoming autonomous learners. The first aim involves talking to a native speaker who also teaches research and discussion strategies as well as presentation techniques. The second aim, focuses on learning through writing (research & homework) and reflecting on achievements weekly. The content includes: 1) research; 2) class discussion; 3) homework for each topic; 4) two presentations (one short and one longer). Students must submit classwork by due dates. If students wish to receive the maximum score they must submit their work even if they are absent. Students will need to be proactive in checking the listings in Google Classroom and following the syllabus.				
到達目標	English workshop encourages students to become autonomous learners while working to improve their overall proficiency. The level itself is more challenging than that of English Workshop I,II.				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	K.バーンズ	【第 1 回】 予習 ：Read Syllabus. Prepare questions to confirm understanding of Syllabus 授業 ：Orientation: Class aims and procedures; Content; Evaluation methods; Burns-Sensei 復習 ：Review syllabus; Check evaluation methods
2	K.バーンズ	【第 2 回】 予習 : Research: summarizing & plagiarism, AI 授業 : Note taking (in point form); summarizing & plagiarism 復習 : Review class notes
3	K.バーンズ	【第 3 回】 予習:　Review: summarising & plagiarism 授業 : Topic 1: Research in class 復習:　HW: Submit Research 1 (English)
4	K.バーンズ	【第 4 回】 予習 : Prepare content and possible questions ready to discuss with other students - use new language learnt 授業 ：　Topic 1: Small Group Discussion (SGD) 復習 ：　HW: Submit Assignment 1 (English)
5	K.バーンズ	【第 5 回】 予習 ：Review class notes 授業 ：Topic 2: Research in class 復習 ：HW: Submit Research 2 (English)
6	K.バーンズ	【第 6 回】 予習 ：Prepare content and possible questions ready to discuss with other students - use new language learnt 授業 ：Topic 2: Small group Discussion (SGD) 復習 ：HW: Submit Assignment 2 (English)
7	K.バーンズ	【第 7 回】 予習 ：Practice presentation script 授業 ：　Presentations & Review for Interviews: English 復習 ：HW Submit Presentation script (no slides)
8	K.バーンズ	【第 8 回】 予習 ：Interview preparation (English) 授業 ：Midterm Interviews: English 復習 ：Reflect on teacher's comments and re-think how to achieve learning objectives.
9	K.バーンズ	【第 9 回】 予習 : Review class notes 授業 : Topic 3: Research in class 復習 : HW: Submit Research 3 (English)

10	K.バーンズ	【第 10 回】 予習：Prepare content and possible questions ready to discuss with other students - use new language learnt 授業： Topic 3: Small group Discussion (SGD) 復習： HW: Submit Assignment 3 (English)
11	K.バーンズ	【第 11 回】 予習：Review class notes 授業：Topic 4: Research in class 復習：HW: Submit Research 4 (English)
12	K.バーンズ	【第 12 回】 予習：Prepare content and possible questions ready to discuss with other students - use new language learnt 授業：Topic 4: Small group Discussion (SGD) 復習：HW: Submit Assignment 4 (English)
13	K.バーンズ	【第 13 回】 予習：Interview preparation (English & Japanese) 授業： Final Interviews: English 復習：Prepare a presentation script & 6 slides (topic of your choice)
14	K.バーンズ	【第 14 回】 予習：Practice your presentation 授業：Presentation practice to peers & Makeup Interviews 復習：Submit corrected scripts & slides
15	K.バーンズ	【第 15 回】 予習：Practice presentations 授業：Final presentations to peers 復習：Reflection on the 1st semester

授業開始前学習	High motivation and a willingness to work hard while enjoying learning is required. A high level of English language ability is not required.
授業内課題のフィードバックの方法	Students will receive a schedule & scoring allocation in the first class. Feedback is given during research & small group discussion classes as well as on returned assignments.
テキスト・教材	Handouts provided when relevant.
参考書	Books and URLs are suggested in class.
評価の基準と方法	English component: Research (20%); Small Group Discussion (SGD 20%); Homework (20%); 2 Presentations (20%); Midterm and Final Interview (20%)
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎				△	○

関連科目	English Workshop I,II, any English related subjects
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-330-13	授業コード	FC0040
科目名称	English Workshop Ⅳ			単位数	2.0 単位
英文名称	English Workshop Ⅳ			授業区分	講義
科目責任者	K.バーンズ			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	K.バーンズ			開講時期	3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	The EWIV class is designed with two main objectives. Firstly, to help improve students oral & communicative abilities; secondly to show students how to learn English by becoming autonomous learners. The first aim involves talking to a native speaker who also teaches research and discussion strategies as well as presentation techniques. The second aim focuses on learning through writing (research & homework) and reflecting on achievements weekly. The content includes: 1) research; 2) class discussion; 3) homework for each topic; 4) & two presentations (one short and one longer). Students must submit classwork by due dates. If students wish to receive the maximum score they must submit their work even if they are absent. Students will need to be proactive in checking the listings in Google Classroom and following the syllabus. The structure and process is basically the same as EWIII. However, the topics are different.				
到達目標	English workshop encourages students to become autonomous learners while working to improve their overall English proficiency. The level itself builds on and reinforces skills developed in English Workshop III.				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	K.バーンズ	【第 1 回】 予習 ：Read Syllabus. Prepare questions to confirm understanding of Syllabus 授業 ：Orientation (English & Japanese): Class aims and procedures; Content; Evaluation methods 復習 ：Review syllabus; Check evaluation methods
2	K.バーンズ	【第 2 回】 予習 : Research: summarizing & plagiarism, AI 授業 : Note taking (in point form); summarizing & plagiarism 復習 : Review class notes
3	K.バーンズ	【第 3 回】 予習:　Review: summarising & plagiarism 授業 : Topic 1: Research in class 復習:　HW: Submit Research 1 (English)
4	K.バーンズ	【第 4 回】 予習 : Prepare content and possible questions ready to discuss with other students - use new language learnt 授業 ：　Topic 1: Small Group Discussion (SGD) 復習 ：　HW: Submit Assignment 1 (English)
5	K.バーンズ	【第 5 回】 予習 ：Review class notes 授業 ：Topic 2: Research in class 復習 ：HW: Submit Research 2 (English)
6	K.バーンズ	【第 6 回】 予習 ：Prepare content and possible questions ready to discuss with other students - use new language learnt 授業 ：Topic 2: Small group Discussion (SGD) 復習 ：HW: Submit Assignment 2 (English)
7	K.バーンズ	【第 7 回】 予習 ：Practice presentation script 授業 ：　Presentations & Review for Interviews: English 復習 ：　HW: Submit Presentation script (no slides)
8	K.バーンズ	【第 8 回】 予習 ：Interview preparation (English & Japanese) 授業 ：Midterm Interviews: English 復習 ：Reflect on teacher's comments and re-think how to achieve learning objectives

9	K.バーンズ	【第 9 回】 予習：Review class notes 授業：Topic 3: Research in class 復習：HW: Submit Research 3 (English)
10	K.バーンズ	【第 10 回】 予習：Prepare content and possible questions ready to discuss with other students - use new language learnt 授業：　Topic 3: Small group Discussion (SGD) 復習：　HW: Submit Assignment 3 (English)
11	K.バーンズ	【第 11 回】 予習：Review class notes 授業：Topic 4: Research in class 復習：HW: Submit Research 4 (English)
12	K.バーンズ	【第 12 回】 予習：Prepare content and possible questions ready to discuss with other students - use new language learnt 授業：Topic 4: Small group Discussion (SGD) 復習：HW: Submit Assignment 4 (English)
13	K.バーンズ	【第 13 回】 予習　：Interview preparation (English & Japanese) 授業：　Final Interviews: English 復習　：Prepare a presentation script & 6 slides (topic of your choice)
14	K.バーンズ	【第 14 回】 予習　：Practice your presentation 授業　：Presentation practice to peers & Makeup Interviews 復習　：Submit corrected scripts & slides
15	K.バーンズ	【第 15 回】 予習　：Practice presentations 授業　：Final presentations to peers in small groups & peer review 復習　：Reflection on the 2nd semester

授業開始前学習	High motivation and a willingness to work hard while enjoying learning is required. Completion of EWIII would be beneficial though not a pre-requisite.
授業内課題のフィードバックの方法	Students will receive a schedule & scoring allocation in the first class. Feedback is given during research & small group discussion classes as well as on returned assignments.
テキスト・教材	Handouts provided when relevant.
参考書	Books and URLs are suggested in the class.
評価の基準と方法	English component: Research (20%); SGD (20%); Homework (20%); Presentations (20%); Midterm and Final Interview (20%)
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎				△	○

関連科目	English Workshop I,II and III, any English related subjects
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）		科目分類（～2024年入学者）	113-330-12	授業コード	FC0050
科目名称	Academic Reading Ⅰ			単位数	2.0単位
英文名称	Academic Reading Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	K.バーンズ			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	K.バーンズ			開講時期	2年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	The aim of this course is to develop reading skills, improve comprehension and build vocabulary. In this class, students will work on; developing reading fluency by reading with targets. As well, students will read out loud in pairs and in groups. Time will be allocated to discuss what has been read by listening to fellow students opinions. Students should take simple notes while reading for reflection later. Comprehension will checked by answering questions during and after each lesson. Students should be proactive about researching unknown words in context, thus building vocabulary. Students will read a book in class and continue reading for homework at their own pace.				
到達目標	At the end of this course students will be able to: read more fluently; improve vocabulary; widen their range of reading strategies (e.g. skimming & scanning); write reports; develop and expand discussion ability; be able to give a short presentation and;				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	K.バーンズ	【第1回】 予習 ： Pre-read syllabus, be prepared to ask questions about points you do not understand 授業 ： Orientation, Review syllabus, Course expectations, Evaluation methods, Vocabulary list 復習 ： Review: Syllabus - Evaluation methods; Reading
2	K.バーンズ	【第2回】 予習 ： Research how to write a book report; What are the main components? 授業 ： How to write a book report; Intensive reading; Learn what to do in Small Group Discussions (SGD) 復習 ： Submit Homework (HW); Review unknown vocabulary (add to word list);
3	K.バーンズ	【第3回】 予習 ： Review class notes 授業 ： Intensive reading; SGD - take notes & answer worksheet questions, Music and the Mind 復習 ： Submit book report 1; Review unknown vocabulary (add to word list); Reading
4	K.バーンズ	【第4回】 予習 ： Review class notes 授業 ： Feedback; Intensive reading; SGD - take notes & answer worksheet questions 復習 ： Submit Homework (HW); Review unknown vocabulary (add to word list); Reading
5	K.バーンズ	【第5回】 予習 ： Review class notes 授業 ： Intensive reading; SGD - take notes & answer worksheet questions, Body Language Across Cultures 復習 ： Submit HW; Review unknown vocabulary (add to word list); Reading
6	K.バーンズ	【第6回】 予習 ： Review class notes 授業 ： Intensive reading; SGD - take notes & answer worksheet questions 復習 ： Submit book report 2; Review unknown vocabulary (add to word list); Reading
7	K.バーンズ	【第7回】 予習 ： Review class notes 授業 ： Feedback; Intensive reading; SGD - take notes & answer worksheet questions, Turning Waste into Wealth 復習 ： Submit HW; Review vocabulary for QUIZ; Reading
8	K.バーンズ	【第8回】 予習 ： Review vocabulary for Quiz 授業 ： Vocabulary Quiz; Intensive reading; SGD - take notes & answer worksheet questions 復習 ： Review vocabulary Quiz answers; Review unknown vocabulary (add to word list); Reading

9	K.バーンズ	【第 9 回】 予習 ： Review class notes 授業 ： Intensive reading; SGD - take notes & answer worksheet questions, The Search for Other Worlds 復習 ： Submit HW; Review unknown vocabulary (add to word list); Reading
10	K.バーンズ	【第 10 回】 予習 ： Review class notes 授業 ： Intensive reading; SGD - take notes & answer worksheet questions 復習 ： Submit HW; Review unknown vocabulary (add to word list); Reading
11	K.バーンズ	【第 11 回】 予習 ： Review class notes 授業 ： Intensive reading; SGD - take notes & answer worksheet questions, Crowdsourcing 復習 ： Submit book report 3; Review unknown vocabulary (add to word list); Reading
12	K.バーンズ	【第 12 回】 予習 ： Review class notes 授業 ： Feedback; Intensive reading; SGD - take notes & answer worksheet questions 復習 ： Submit HW; Think about a part of the book that would be a good topic for a presentation; Review unknown vocabulary (add to word list); R
13	K.バーンズ	【第 13 回】 予習 ： Research presentation techniques 授業 ： Presentation techniques; Planning & mind mapping; Script writing; Slide praparation, Urban Landmarks 復習 ： Prepare a mini presentation (with printed PowerPoint Slides) about a section of the book that im
14	K.バーンズ	【第 14 回】 予習 ： Prepare for presentations 授業 ： Give a short presentation about a section of a book that impressed you; Peer review 復習 ： Reading Review class handouts
15	K.バーンズ	【第 15 回】 予習 ： Reading and reviewing 授業 ： Final - Book review essay in class & Vocabulary Quiz 復習 ： Reflect & evaluate goals

授業開始前学習	Start reading as soon as students get the book, keep a vocabulary list, re-read if necessary.
授業内課題のフィードバックの方法	Students receive feedback (via book reports & class worksheets and SGDs) throughout the course.
テキスト・教材	Reading Fusion 1 (Second Edition), Andrew E. Bennett, Nanun-do Publishing　ISBN 9784523179726
参考書	
評価の基準と方法	Book reports 30%; Vocabulary review 10%; Classwork (discussion; interaction; & completion of handouts) 20%; Presentation; 10%; Comprehension review 30%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎				○		△	

関連科目	
その他	If students are absent it is their responsibility to email the teacher, check the syllabus and check google classroom for lesson information & homework. Students should endeavour to attend all classes (note 2 lates = 1 absence). Students should bring a no
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-330-12	授業コード	FC0060
科目名称	Academic Reading Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	Academic Reading Ⅱ			授業区分	講義
科目責任者	K.バーンズ			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	K.バーンズ			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	The aim of this course is to further develop reading skills learnt in Academic Reading I, improve comprehension and build vocabulary. In this class, students will work on; developing reading fluency by reading with targets. As well, students will read out loud in pairs and in groups. Time will be allocated to discuss what has been read by listening to fellow students opinions. Students should take simple notes while reading for reflection later. Comprehension will checked by answering questions during and after each lesson. Students should be proactive about researching unknown words in context, thus building vocabulary. Students will read a book in class and continue reading for homework at their own pace.				
到達目標	At the end of this course students will be able to: read more fluently; improve vocabulary; widen their range of reading strategies (e.g. skimming & scanning); write short answers and essays; develop and expand discussion ability; be able to give a short				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	K.バーンズ	【第 1 回】 予習 ： Pre-read syllabus, be prepared to ask questions about points you do not understand 授業 ： Orientation, Review syllabus, Course expectations, Evaluation methods, Reading 復習 ： Review: Syllabus - Evaluation methods; Reading
2	K.バーンズ	【第 2 回】 予習 ： Research how to write a book report; What are the main components? 授業 ： How to write a book report; Intensive reading; Learn what to do in Small Group Discussions (SGD) 復習 ： Submit Homework (HW); Review unknown vocabulary (add to word list);
3	K.バーンズ	【第 3 回】 予習 ： Review class notes 授業 ： Intensive reading; SGD - take notes & answer worksheet questions, Food Safety 復習 ： Submit book report 1; Review unknown vocabulary (add to word list); Reading
4	K.バーンズ	【第 4 回】 予習 ： Review class notes 授業 ： Feedback: Intensive reading; SGD - take notes & answer worksheet questions 復習 ： Submit HW; Review unknown vocabulary (add to word list); Reading
5	K.バーンズ	【第 5 回】 予習 ： Review class notes 授業 ： Intensive reading; SGD - take notes & answer worksheet questions, Spending a Fortune 復習 ： Submit HW; Review unknown vocabulary (add to word list); Reading
6	K.バーンズ	【第 6 回】 予習 ： Review class notes 授業 ： Intensive reading; SGD - take notes & answer worksheet 復習 ： Submit book report 2; Review unknown vocabulary (add to word list); Reading
7	K.バーンズ	【第 7 回】 予習 ： Review class notes 授業 ： Feedback; Intensive reading; SGD - take notes & answer worksheet questions, Wonders of the Deep 復習 ： Submit HW; Review vocabulary for QUIZ; Reading
8	K.バーンズ	【第 8 回】 予習 ： Review vocabulary for Quiz 授業 ： Vocabulary Quiz; Intensive reading; SGD - take notes & answer worksheet 復習 ： Review Quiz answers; Review unknown vocabulary (add to word list); Reading
9	K.バーンズ	【第 9 回】 予習 ： Review class notes 授業 ： Intensive reading; SGD - take notes & answer worksheet, Product Placement 復習 ： Submit HW; Review unknown vocabulary (add to word list); Reading

10	K.バーンズ	【第 10 回】 予習 ： Review class notes 授業 ： Intensive reading; SGD - take notes & answer worksheet questions 復習 ： Submit HW; Think about a section of the book that would be a good topic for a presentation; Review unknown vocabulary (add to word list); Reading
11	K.バーンズ	【第 11 回】 予習 ： Review class notes 授業 ： Intensive reading; SGD - take notes & answer worksheet, White-Collar Crime 復習 ： Submit book report 3; Review unknown vocabulary (add to word list); Reading
12	K.バーンズ	【第 12 回】 予習 ： Review class notes 授業 ： Feedback; Intensive reading; SGD - take notes & answer worksheet questions 復習 ： Submit HW; Think about a section of the book that would be a good topic for a presentation. Review unknown vocabulary (add to word list)
13	K.バーンズ	【第 13 回】 予習 ： Research presentation techniques 授業 ： Presentation techniques; Planning & mind mapping; Script writing; Slide preparation, Working Disabled 復習 ： Prepare a mini presentation (with printed PowerPoint Slides) about a section of a book that imp
14	K.バーンズ	【第 14 回】 予習 ： Prepare for the presentations 授業 ： Give a short presentation about a section of the book that impressed you; Peer review 復習 ： Reading and review class handouts
15	K.バーンズ	【第 15 回】 予習 ： Reading and reviewing 授業 ： Final - Book review essay in class & Vocabulary Quiz 復習 ： Reflect & evaluate goals

授業開始前学習	Start reading as soon as students get the book, keep a vocabulary list, re-read if necessary.
授業内課題のフィードバックの方法	Students receive feedback (via book reports & class worksheets and SGDs) throughout the course.
テキスト・教材	Reading Fusion 1 (Second Edition) Andrew E. Bennett, Nanun-do Publishing, ISBN 9784523179726
参考書	
評価の基準と方法	Book reports 30% Vocabulary review 10%; Classwork (discussion; interaction; & completion of handouts) 20%; Presentation 10%; Comprehension review 30%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎				○		△	

関連科目	
その他	If students are absent it is their responsibility to email the teacher, check the syllabus and check google classroom for lesson information & homework. Students should endeavour to attend all classes (note 2 lates = 1 absence). Students should bring a no
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-330-12	授業コード	FC0070
科目名称	Academic Reading Ⅲ			単位数	2.0 単位
英文名称	Academic Reading Ⅲ			授業区分	講義
科目責任者	W.ミラー			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	W.ミラー			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	The main emphasis of this course will be reading. However, speaking, listening, and writing will also be developed. This class will focus on improving the skills of reading. In principle, lessons will be conducted entirely in English.				
到達目標	After this class, students will be able to read faster, and better understand written English.				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	W.ミラー	【第 1 回】 予習：Read p.9 授業：Self-introductions / Course goals 復習：Review notes / Do homework
2	W.ミラー	【第 2 回】 予習 ：Read p.9 授業 ：Unit 1 Pro Gaming 復習 ：Review notes / Do homework
3	W.ミラー	【第 3 回】 予習 ：Read p.15 授業 ：Unit 2 The Blogosphere 復習 ：Review notes / Do homework
4	W.ミラー	【第 4 回】 予習 ：Read p.21 授業 ：Unit 3 Organic Food 復習 ：Review notes / Do homework
5	W.ミラー	【第 5 回】 予習 ：Read p.27 授業 ：Unit 4 Franchises 復習 ：Review notes / Do homework
6	W.ミラー	【第 6 回】 予習 ：Read p. 33 授業 ：Unit 5 Character Culture / Review for Midterm Quiz 復習 ：Prepare for Midterm Quiz
7	W.ミラー	【第 7 回】 予習 ：Review for Midterm Quiz 授業 ：Midterm Quiz 復習 ：Reflect on Midterm Quiz
8	W.ミラー	【第 8 回】 予習 ：Review 授業 ：Classroom Activity 復習 ：Reflect on classroom activity
9	W.ミラー	【第 9 回】 予習 ：Read p. 39 授業 ：Unit 6 Language Change 復習 ：Review notes / Do homework
10	W.ミラー	【第 10 回】 予習 ：Read p. 45 授業 ：Unit 7 Unlocking Motivation 復習 ：Review notes / Do homework
11	W.ミラー	【第 11 回】 予習 ：Read p. 51 授業 ：Unit 8 Yellow Dust Storm 復習 ：Review notes / Do homework

12	W.ミラー	【第 12 回】 予習　：Read p. 57 授業　：Unit 9 The End of Privacy 復習　：Review notes / Do homework
13	W.ミラー	【第 13 回】 予習　：Read p. 63 ¥　　授業　：Unit 10 Going Carbon Neutral 復習　：Prepare for Final Quiz
14	W.ミラー	【第 14 回】 予習　：Prepare for Final Quiz 授業　：Final Quiz 復習　：Reflect on Final Quiz
15	W.ミラー	【第 15 回】 予習　：Complete Course Questionnaire on Komajo Portal 授業　：General review 復習　：Complete Course Questionnaire on Komajo Portal (if not completed yet)

授業開始前学習	Practice reading English books, magazines or comics. Look up unknown words in a dictionary.
授業内課題のフィードバックの方法	Both written and oral feedback will be provided to all students.
テキスト・教材	Reading Pass 3 Second Edition, Nan'un-do, by Andrew E. Bennett
参考書	
評価の基準と方法	Students are evaluated on total class participation, which is 40% of grade (quizzes, submitted coursework, class participation etc.) and regular examinations are 60% of grade.
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎				○			△

関連科目	
その他	It is important for students to attend each class.　Credit will not be given to students who miss more than a third of the classes.　3 late arrivals will be counted as 1 absence.　Arrival 30 minutes or more after the class has started will be counted as a
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-330-12	授業コード	FC0080
科目名称	Academic Reading Ⅳ			単位数	2.0 単位
英文名称	Academic Reading Ⅳ			授業区分	講義
科目責任者	W.ミラー			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	W.ミラー			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	The main emphasis of this course will be reading. However, speaking, listening, and writing will also be developed. This class will focus on improving the skills of reading. In principle, lessons will be conducted entirely in English.				
到達目標	After this class, students will be able to read faster, and better understand written English.				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	W.ミラー	【第 1 回】 予習：Read p.69 授業：Self-introductions / Course goals 復習：Review notes / Do homework
2	W.ミラー	【第 2 回】 予習 ：Read p.69 授業 ：Unit 11 Retro Style 復習 ：Review notes / Do homework
3	W.ミラー	【第 3 回】 予習 ：Read p.75 授業 ：Unit 12 It Pays to be the CEO 復習 ：Review notes / Do homework
4	W.ミラー	【第 4 回】 予習 ：Read p.81 授業 ：Unit 13 London 復習 ：Review notes / Do homework
5	W.ミラー	【第 5 回】 予習 ：Read p.87 授業 ：Unit 14 Web 2.0 復習 ：Review notes / Do homework
6	W.ミラー	【第 6 回】 予習 ：Read p. 93 授業 ：Unit 15 Troubled Stars / Review for Midterm Quiz 復習 ：Prepare for Midterm Quiz
7	W.ミラー	【第 7 回】 予習 ：Review for Midterm Quiz 授業 ：Midterm Quiz 復習 ：Reflect on Midterm Quiz
8	W.ミラー	【第 8 回】 予習 ：Review 授業 ：Classroom Activity 復習 ：Reflect on classroom activity
9	W.ミラー	【第 9 回】 予習 ：Read p. 99 授業 ：Unit 16 Insourcing 復習 ：Review notes / Do homework
10	W.ミラー	【第 10 回】 予習 ：Read p. 105 授業 ：Unit 17 Space Colonies 復習 ：Review notes / Do homework
11	W.ミラー	【第 11 回】 予習 ：Read p. 111 授業 ：Unit 18 Office Gossip 復習 ：Review notes / Do homework

12	W.ミラー	【第 12 回】 予習　：Read p. 117 授業　：Unit 19 Lost Arts 復習　：Review notes / Do homework
13	W.ミラー	【第 13 回】 予習　：Read p. 123 授業　：Unit 20 Stem Cells 復習　：Prepare for Final Quiz
14	W.ミラー	【第 14 回】 予習　：Prepare for Final Quiz 授業　：Final Quiz 復習　：Reflect on Final Quiz
15	W.ミラー	【第 15 回】 予習　：Complete Course Questionnaire on Komajo Portal 授業　：General review 復習　：Complete Course Questionnaire on Komajo Portal (if not completed yet)

授業開始前学習	Practice reading English books, magazines or comics. Look up unknown words in a dictionary.
授業内課題のフィードバックの方法	Both written and oral feedback will be provided to all students.
テキスト・教材	Reading Pass 3 Second Edition, Nan'un-do, by Andrew E. Bennett
参考書	
評価の基準と方法	Students are evaluated on total class participation, which is 40% of grade (quizzes, submitted coursework, class participation etc.) and regular examinations are 60% of grade.
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎				○			△

関連科目	
その他	It is important for students to attend each class.　Credit will not be given to students who miss more than a third of the classes.　3 late arrivals will be counted as 1 absence.　Arrival 30 minutes or more after the class has started will be counted as a
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-330-12	授業コード	FC0090
科目名称	Academic Speaking Ⅰ			単位数	2.0 単位
英文名称	Academic Speaking Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	W.ミラー			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	W.ミラー			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	This presentation course will teach the necessary skills to make a well structured, visual and interactive presentation on various topics.				
到達目標	The main objective of this class is to develop essential speaking skills needed to understand academic English. The course has 2 main aims: to teach academic speaking and improve presentation skills. This course offers a content-based approach where all f				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	W.ミラー	【第 1 回】 予習：Prepare a simple self-introduction / Read p. 2-10 授業：Orientation and goal setting 復習：Review classmates details and syllabus
2	W.ミラー	【第 2 回】 予習　：Read p.11-19 授業　：Brainstorm / plan Unit 1 Power Point Presentation (PPP) on ‘A Good Friend’ 復習　：Review lesson language and content:　Start creating Unit 1 PPP
3	W.ミラー	【第 3 回】 予習　：Finish creating Unit 1 PPP 授業　：Show classmates your Unit 1 PPP (get and give feedback) 復習　：Edit Unit 1 PPP
4	W.ミラー	【第 4 回】 予習　：Use Unit 1 PPP to write speech 授業　：Practice Unit 1 speech with classmates (get and give feedback) 復習　：Finalize Unit 1 PPP and speech
5	W.ミラー	【第 5 回】 予習　：Practice Unit 1 speech 授業　：Give 1st speech to whole class on Unit 1 ‘A Good Friend’ 復習　：Reflect on Unit 1 speech and PPP
6	W.ミラー	【第 6 回】 予習　：Read p. 20-31 授業　：Brainstorm / plan 2nd PPP ‘A Favorite Place’ 復習　：Review lesson language and content:　Start creating Unit 2 PPP
7	W.ミラー	【第 7 回】 予習　：Finish creating Unit 2 PPP 授業　：Show classmates your Unit 2 PPP (get and give feedback) 復習　：Edit Unit 2 PPP
8	W.ミラー	【第 8 回】 予習　：Use Unit 2 PPP to write speech 授業　：Practice Unit 2 speech with classmates (get and give feedback) 復習　：Finalize Unit 2 PPP and speech
9	W.ミラー	【第 9 回】 予習　：Practice Unit 2 speech 授業　：Practice Unit 2 speech with classmates (get and give feedback) 復習　：Finalize Unit 2 PPP and speech
10	W.ミラー	【第 10 回】 予習　：Practice Unit 2 speech 授業　：Give 2nd speech to whole class on Unit 2 ‘A Favorite Place’ 復習　：Reflect on Unit 2 speech and PPP
11	W.ミラー	【第 11 回】 予習　：Read p.32-43 授業　：Brainstorm / plan 3rd PPP ‘A Prized Possession’ 復習　：Review lesson language and content:　Start creating Unit 3 PPP

12	W.ミラー	【第 12 回】 予習　: Finish creating Unit 3 PPP 授業　: Show classmates your Unit 3 PPP (get and give feedback) 復習　: Edit Unit 3 PPP
13	W.ミラー	【第 13 回】 予習　: Use Unit 2 PPP to write speech 授業　: Practice Unit 2 speech with classmates (get and give feedback) 復習　: Finalize Unit 2 PPP and speech
14	W.ミラー	【第 14 回】 予習　: Practice Unit 3 speech 授業　: Give 3rd speech to whole class on Unit 3 'A Prized Possession' 復習　: Reflect on Unit 3 speech and PPP
15	W.ミラー	【第 15 回】 予習　: Course feedback on Komajo Portal 授業　: Finish old business and discuss course 復習　: Course feedback on Komajo Portal (if not already completed)

授業開始前学習	Practice listening to spoken English through videos or audio recordings.
授業内課題のフィードバックの方法	Both written and oral feedback will be provided to all students.
テキスト・教材	Present Yourself 1　Experiences (Second Edition), Cambridge University Press, by Stephen Gershon
参考書	
評価の基準と方法	Participation 10%, 1st Presentation 30%, 2nd Presentation 30%, 3rd Presentation 30%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎			△	△	○

関連科目	
その他	It is important for students to attend each class.　Credit will not be given to students who miss more than a third of the classes.　3 late arrivals will be counted as 1 absence.　Arrival 30 minutes or more after the class has started will be counted as a
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-330-12	授業コード	FC0100
科目名称	Academic Speaking Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	Academic Speaking Ⅱ			授業区分	講義
科目責任者	W.ミラー			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	W.ミラー			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	This presentation course will teach the necessary skills to make a well structured, visual and interactive presentation on various topics.				
到達目標	The main objective of this class is to develop essential speaking skills needed to understand academic English. The course has 2 main aims: to teach academic speaking and improve presentation skills. This course offers a content-based approach where all f				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	W.ミラー	【第 1 回】 予習：Prepare a simple self-introduction / Read p. 2-7 授業：Orientation and goal setting 復習：Review classmates details and syllabus
2	W.ミラー	【第 2 回】 予習　：Read p.44-55 授業　：Brainstorm / plan 1st PPP on Unit 4 ‘A Memorable Experience’ 復習　：Review lesson language and content:　Start creating Unit 4 PPP
3	W.ミラー	【第 3 回】 予習　：Finish creating Unit 4 Power Point Presentation (PPP) 授業　：Show classmates your Unit 4 PPP (get and give feedback) 復習　：Edit Unit 4 PPP
4	W.ミラー	【第 4 回】 予習　：Use Unit 4 PPP to write speech 授業　：Practice Unit 4 speech with classmates (get and give feedback) 復習　：Finalize Unit 4 PPP and speech
5	W.ミラー	【第 5 回】 予習　：Practice Unit 4 speech 授業　：Give 1st speech to whole class on Unit 4 ‘A Memorable Experience’ 復習　：Reflect on Unit 4 speech and PPP
6	W.ミラー	【第 6 回】 予習　：Read p. 56-67 授業　：Brainstorm / plan 2nd PPP on Unit 5 ‘I’ll Show You How’ 復習　：Review lesson language and content:　Start creating Unit 5 PPP
7	W.ミラー	【第 7 回】 予習　：Finish creating Unit 5 PPP 授業　：Show classmates your Unit 5 PPP (get and give feedback) 復習　：Edit Unit 5 PPP
8	W.ミラー	【第 8 回】 予習　：Use Unit 5 PPP to write speech 授業　：Practice Unit 5 speech with classmates (get and give feedback) 復習　：Finalize Unit 5 PPP and speech
9	W.ミラー	【第 9 回】 予習　：Practice Unit 5 speech 授業　：Practice Unit 5 speech with classmates (get and give feedback) 復習　：Finalize Unit 5 PPP and speech
10	W.ミラー	【第 10 回】 予習　：Practice Unit 5 speech 授業　：Give 2nd speech to whole class on Unit 5 ‘I’ll Show You How’ 復習　：Reflect on Unit 5 speech and PPP
11	W.ミラー	【第 11 回】 予習　：Read p.68-79 授業　：Brainstorm / plan 3rd PPP on Unit 6 ‘A Prized Possession’ 復習　：Review lesson language and content:　Start creating Unit 6 PPP

12	W.ミラー	【第 12 回】 予習　：Finish creating Unit 6 PPP 授業　：Show classmates your Unit 6 PPP (get and give feedback) 復習　：Edit Unit 6 PPP
13	W.ミラー	【第 13 回】 予習　：Use Unit 6 PPP to write speech 授業　：Practice Unit 6 speech with classmates (get and give feedback) 復習　：Finalize Unit 6 PPP and speech
14	W.ミラー	【第 14 回】 予習　：Practice Unit 6 speech 授業　：Give 3rd speech to whole class on Unit 6 'A Movie Review' 復習　：Reflect on Unit 6 speech and PPP
15	W.ミラー	【第 15 回】 予習　：Course feedback on Komajo Portal 授業　：Finish old business and discuss course 復習　：Course feedback on Komajo Portal (if not already completed)

授業開始前学習	Practice listening to spoken English through videos or audio recordings.
授業内課題のフィードバックの方法	Both written and oral feedback will be provided to all students.
テキスト・教材	Present Yourself 1 Experiences (Second Edition), Cambridge University Press, by Stephen Gershon
参考書	
評価の基準と方法	Participation 10%, 1st Presentation 30%, 2nd Presentation 30%, 3rd Presentation 30%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎			△	△	○

関連科目	
その他	It is important for students to attend each class.　Credit will not be given to students who miss more than a third of the classes.　3 late arrivals will be counted as 1 absence.　Arrival 30 minutes or more after the class has started will be counted as a
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-330-13	授業コード	FC0110
科目名称	Academic Speaking Ⅲ			単位数	2.0 単位
英文名称	Academic Speaking Ⅲ			授業区分	講義
科目責任者	W.ミラー			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	W.ミラー			開講時期	3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	The main emphasis of this course will be academic speaking and listening. However, reading and writing will also be developed. This class will focus on improving the productive skills of speaking and active listening. In principle, lessons will be conducted entirely in English.				
到達目標	The main objective of this class is to develop essential speaking and listening skills necessary to understand academic English. The course has 2 main aims: to improve academic speaking and academic listening skills.				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	W.ミラー	【第 1 回】 予習：Prepare a simple self-introduction 授業：Orientation and goal setting 復習：Review classmates details and syllabus
2	W.ミラー	【第 2 回】 予習　：Read p.5-8 授業　：The Beauty of the Seasons 復習　：Review lesson language and content:　Evaluate and reflect on speech
3	W.ミラー	【第 3 回】 予習　：Read p.9-12 授業　：The History of the Hamburger 復習　：Prepare for 1st Discussion Task
4	W.ミラー	【第 4 回】 予習　：Read p.13-16 授業　：The Importance of English and 1st Discussion Task 復習　：Evaluate and reflect on 1st Discussion Task
5	W.ミラー	【第 5 回】 予習　：Read p.17-20 授業　：How the Internet Evolved 復習　：Review lesson language and content:　Evaluate and reflect on speech
6	W.ミラー	【第 6 回】 予習　：Read p.21-24 授業　：Liquid Candy 復習　：Prepare for 2nd Discussion Task
7	W.ミラー	【第 7 回】 予習　：Read p.25- 28 授業　：Travel in Japan and 2nd Discussion Task 復習　：Evaluate and reflect on 2nd Discussion Task
8	W.ミラー	【第 8 回】 予習　：Review homework and reread p.13- 24 授業　：General review 復習　：Review lesson language and content:　Evaluate and reflect on speech
9	W.ミラー	【第 9 回】 予習　：Read p.29-32 授業　：The Secret of Happiness 復習　：Prepare for 3rd Discussion Task
10	W.ミラー	【第 10 回】 予習　：Read p.33-36 授業　：Shopping on the Internet and 3rd Discussion Task 復習　：Evaluate and reflect on 3rd Discussion Task
11	W.ミラー	【第 11 回】 予習　：Read p.37-40 授業　：Do Aliens and UFOs Exist? 復習　：Review lesson language and content:　Evaluate and reflect on speech

12	W.ミラー	【第 12 回】 予習　: Read p.41-44 授業　: The Happiest Country in the World 復習　: Review lesson language and content:　Evaluate and reflect on speech
13	W.ミラー	【第 13 回】 予習　: Read p.45-48 授業　: Second Hand Smoke 復習　: Review lesson language and content:　Evaluate and reflect on speech
14	W.ミラー	【第 14 回】 予習　: Prepare for 4th Discussion Task 授業　: 4th Discussion Task 復習　: Evaluate and reflect on 3rd Discussion Task
15	W.ミラー	【第 15 回】 予習　: Complete Komajo Portal Questionnaire 授業　: Take care of old business and discuss the pros and cons of this course 復習　: Complete Komajo Portal Questionnaire (if not completed)

授業開始前学習	Practice listening to spoken English through videos or audio recordings.
授業内課題のフィードバックの方法	Both written and oral feedback will be provided to all students.
テキスト・教材	Life Topics　A Critical Thinking Approach to English Proficiency, NAN'UN-DO
参考書	
評価の基準と方法	Participation 20%, 1st Discussion Task 20%, 2nd Discussion Task 20%, 3rd Discussion Task 20%, 4th Discussion Task 20%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎			△	△	○

関連科目	
その他	It is important for students to attend each class.　Credit will not be given to students who miss more than a third of the classes.　3 late arrivals will be counted as 1 absence.　Arrival 30 minutes or more after the class has started will be counted as a
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-330-13	授業コード	FC0120
科目名称	Academic Speaking Ⅳ			単位数	2.0 単位
英文名称	Academic Speaking Ⅳ			授業区分	講義
科目責任者	W.ミラー			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	W.ミラー			開講時期	3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	The main emphasis of this course will be academic speaking and listening. However, reading and writing will also be developed. This class will focus on improving the productive skills of speaking and active listening. In principle, lessons will be conducted entirely in English.				
到達目標	The main objective of this class is to develop essential speaking and listening skills necessary to understand academic English. The course has 2 main aims: to improve academic speaking and academic listening skills.				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	W.ミラー	【第 1 回】 予習：Prepare a simple self-introduction 授業：Orientation and goal setting 復習：Review classmates details and syllabus
2	W.ミラー	【第 2 回】 予習　：Read p.49-52 授業　：Plastic Surgery 復習　：Review lesson language and content:　Evaluate and reflect on speech
3	W.ミラー	【第 3 回】 予習　：Read p.53-56 授業　：What Colors Tell About You 復習　：Review lesson language and content:　Evaluate and reflect on speech
4	W.ミラー	【第 4 回】 予習　：Prepare for 1st Discussion Task 授業　：Free Music and 1st Discussion Task 復習　：Evaluate and reflect on 1st Discussion Task
5	W.ミラー	【第 5 回】 予習　：Read p.61-64 授業　：Ghosts 復習　：Review lesson language and content:　Evaluate and reflect on speech
6	W.ミラー	【第 6 回】 予習　：Read p.65-68 授業　：Fast Food and Health 復習　：Review lesson language and content:　Evaluate and reflect on speech
7	W.ミラー	【第 7 回】 予習　：Prepare for 2nd Discussion Task 授業　：Artificial Insemination and 2nd Discussion Task 復習　：Evaluate and reflect on 2nd Discussion Task
8	W.ミラー	【第 8 回】 予習　：Review homework and reread p.61- 72 授業　：General review 復習　：Review lesson language and content:　Evaluate and reflect on speech
9	W.ミラー	【第 9 回】 予習　：Read p.73-76 授業　：The Dangers of Credit Cards 復習　：Review lesson language and content:　Evaluate and reflect on speech
10	W.ミラー	【第 10 回】 予習　：Read p.77-80 授業　：Young Men:　No Girls, No Money 復習　：Review lesson language and content:　Evaluate and reflect on speech
11	W.ミラー	【第 11 回】 予習　：Prepare for 3rd Discussion Task 授業　：Old Media and New Media and 3rd Discussion Task 復習　：Evaluate and reflect on 3rd Discussion Task

12	W.ミラー	【第 12 回】 予習　：Read p.85-88 授業　：Women in College 復習　：Review lesson language and content:　Evaluate and reflect on speech
13	W.ミラー	【第 13 回】 予習　：Read p.89-92 授業　：Gene Therapy 復習　：Review lesson language and content:　Evaluate and reflect on speech
14	W.ミラー	【第 14 回】 予習　：Prepare for 4th Discussion Task 授業　：4th Discussion Task 復習　：Evaluate and reflect on 4th Discussion Task
15	W.ミラー	【第 15 回】 予習　：Complete Questionnaire on Komajo Portal 授業　：Take care of old business and discuss pros and cons of this course 復習　：Complete Questionnaire on Komajo Portal (if not completed)

授業開始前学習	Practice listening to spoken English through videos or audio recordings.
授業内課題のフィードバックの方法	Both written and oral feedback will be provided to all students.
テキスト・教材	Life Topics　A Critical Thinking Approach to English Proficiency, NAN'UN-DO
参考書	
評価の基準と方法	Participation 20%, 1st Discussion Task 20%, 2nd Discussion Task 20%, 3rd Discussion Task 20%, 4th Discussion Task 20%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎			△	△	○

関連科目	
その他	It is important for students to attend each class.　Credit will not be given to students who miss more than a third of the classes.　3 late arrivals will be counted as 1 absence.　Arrival 30 minutes or more after the class has started will be counted as a
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）		科目分類（～2024年入学者）	113-330-12	授業コード	FC0130
科目名称	ﾗｲﾃｨﾝｸﾞ・使える英作文Ⅰ			単位数	2.0単位
英文名称	English Composition Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	鈴木 悠理			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鈴木 悠理			開講時期	2年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	英文の構造に関する講義および演習を通して、実践的な英語力の育成を目指す。 さらにアカデミック・ライティングの基礎を身に付け、英語でエッセイ（小論文）を執筆する力を育成する。				
到達目標	英文の構造を理解し、標準的な語彙と文法を活用して英文および英語のエッセイを作成する力を身に付ける。また、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付ける。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	鈴木 悠理	【第1回】 予習 ：シラバスを確認する。今までの英語学習を振り返り、復習する。 授業 ：ガイダンス（授業概要、到達目標、授業の進め方について） 復習 ：ガイダンスをもとに、前期の目標を立てる。テキストを用意する。Google Classroom に登録する。
2	鈴木 悠理	【第2回】 予習 ：Unit 1 を確認し、知らない単語・熟語を調べる。 授業 ：アカデミック・ライティングの概要に関する講義（Lesson 1 前半）、英文の構造に関する講義および演習 復習 ：学習した単語・表現・文法を振り返る。
3	鈴木 悠理	【第3回】 予習 ：Unit 1 の英文を音読する。 授業 ：アカデミック・ライティングの概要に関する講義（Lesson 1 後半）、小テスト 復習 ：学習した単語・表現・文法を振り返る。小テストを振り返る。
4	鈴木 悠理	【第4回】 予習 ：Unit 2 を確認し、知らない単語・熟語を調べる。 授業 ：アカデミック・ライティングの概要に関する講義（Lesson 2 前半）、英文の構造に関する講義および演習 復習 ：学習した単語・表現・文法を振り返る。
5	鈴木 悠理	【第5回】 予習 ：Unit 2 の英文を音読する。 授業 ：アカデミック・ライティングの概要に関する講義（Lesson 2 後半）、小テスト 復習 ：学習した単語・表現・文法を振り返る。小テストを振り返る。
6	鈴木 悠理	【第6回】 予習 ：Unit 3 を確認し、知らない単語・熟語を調べる。 授業 ：アカデミック・ライティングの概要に関する講義（Lesson 3 前半）、英文の構造に関する講義および演習 復習 ：学習した単語・表現・文法を振り返る。
7	鈴木 悠理	【第7回】 予習 ：Unit 3 の英文を音読する。 授業 ：アカデミック・ライティングの概要に関する講義（Lesson 3 後半）、小テスト 復習 ：学習した単語・表現・文法を振り返る。小テストを振り返る。
8	鈴木 悠理	【第8回】 予習 ：これまでに学習した内容を復習する。 授業 ：英作文の実践 復習 ：英作文実践の振り返りを行う。
9	鈴木 悠理	【第9回】 予習 ：Unit 4 を確認し、知らない単語・熟語を調べる。 授業 ：アカデミック・ライティングの概要に関する講義（Lesson 4 前半）、英文の構造に関する講義および演習 復習 ：学習した単語・表現・文法を振り返る。
10	鈴木 悠理	【第10回】 予習 ：Unit 4 の英文を音読する。 授業 ：アカデミック・ライティングの概要に関する講義（Lesson 4 後半）、小テスト 復習 ：学習した単語・表現・文法を振り返る。小テストを振り返る。
11	鈴木 悠理	【第11回】 予習 ：Unit 5 を確認し、知らない単語・熟語を調べる。 授業 ：アカデミック・ライティングの概要に関する講義（Lesson 5 前半）、英文の構造に関する講義および演習 復習 ：学習した単語・表現・文法を振り返る。

12	鈴木　悠理	【第 12 回】 予習　：Unit 5 の英文を音読する。 授業　：アカデミック・ライティングの概要に関する講義（Lesson 5 後半）、小テスト 復習　：学習した単語・表現・文法を振り返る。小テストを振り返る。
13	鈴木　悠理	【第 13 回】 予習　：Unit 6 を確認し、知らない単語・熟語を調べる。 授業　：アカデミック・ライティングの概要に関する講義（Lesson 6 前半）、英文の構造に関する講義および演習 復習　：学習した単語・表現・文法を振り返る。
14	鈴木　悠理	【第 14 回】 予習　：Unit 6 の英文を音読する。 授業　：アカデミック・ライティングの概要に関する講義（Lesson 6 後半）、小テスト 復習　：学習した単語・表現・文法を振り返る。小テストを振り返る。
15	鈴木　悠理	【第 15 回】 予習　：これまでに学習した内容を復習する。 授業　：英作文の実践 復習　：英作文実践の振り返りを行う。

授業開始前学習	高校までに学習した単語や表現・文法等をひととおり復習しておくと授業が理解しやすい。また、映画・音楽・テレビ・新聞など、英語に触れる機会を多く持つこと。興味がある単語や文章を、辞書やインターネットで調べる。
授業内課題のフィードバックの方法	授業資料の解説などを Google Classroom に掲示する。約 2 週に 1 回、各 Unit の学習を終えたところで小テストを行い、返却時に解説を行う。授業 8 回目、15 回目にそれまでの授業内容の復習を行う。
テキスト・教材	石谷由美子　著『Point by Point －Writing Effective Opinion Essays －〈Revised Edition〉』2024 年（南雲堂） その他、必要に応じてプリントを配布する。
参考書	英和辞典・和英辞典があるとよい（電子辞典可）。その他は授業内で適宜紹介する。
評価の基準と方法	平常点（授業参度、小テスト）30%、課題提出 20%、定期試験 50%を総合して評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		△		◎	○

関連科目	
その他	出席を重視する。全授業数の 3 分の 1 以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。その他、公欠についてなどは第 1 回の授業で説明する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）		科目分類（～2024年入学者）	113-330-12	授業コード	FC0140
科目名称	ﾗｲﾃｨﾝｸﾞ・使える英作文Ⅱ			単位数	2.0単位
英文名称	English Composition Ⅱ			授業区分	講義
科目責任者	鈴木　悠理			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鈴木　悠理			開講時期	2年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	英文の構造に関する講義および演習を通して、実践的な英語力の育成を目指す。 さらにアカデミック・ライティングの基礎を身に付け、英語でエッセイ（小論文）を執筆する力を育成する。				
到達目標	英文の構造を理解し、多様な語彙と文法を活用して英文および英語のエッセイを作成する力を身に付ける。また、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付ける。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	鈴木　悠理	【第1回】 予習　：シラバスを確認する。今までの英語学習を振り返り、復習する。 授業　：ガイダンス（授業概要、到達目標、授業の進め方について） 復習　：ガイダンスをもとに、前期の目標を立てる。テキストを用意する。Google Classroom に登録する。
2	鈴木　悠理	【第2回】 予習　：Unit 8 を確認し、知らない単語・熟語を調べる。 授業　：アカデミック・ライティングの概要に関する講義（Lesson 8 前半）、英文の構造に関する講義および演習 復習　：学習した単語・表現・文法を振り返る。
3	鈴木　悠理	【第3回】 予習　：Unit 8 の英文を音読する。 授業　：アカデミック・ライティングの概要に関する講義（Lesson 8 後半）、小テスト 復習　：学習した単語・表現・文法を振り返る。小テストを振り返る。
4	鈴木　悠理	【第4回】 予習　：Unit 9 を確認し、知らない単語・熟語を調べる。 授業　：アカデミック・ライティングの概要に関する講義（Lesson 9 前半）、英文の構造に関する講義および演習 復習　：学習した単語・表現・文法を振り返る。
5	鈴木　悠理	【第5回】 予習　：Unit 9 の英文を音読する。 授業　：アカデミック・ライティングの概要に関する講義（Lesson 9 後半）、小テスト 復習　：学習した単語・表現・文法を振り返る。小テストを振り返る。
6	鈴木　悠理	【第6回】 予習　：Unit 12 を確認し、知らない単語・熟語を調べる。 授業　：アカデミック・ライティングの概要に関する講義（Lesson 12 前半）、英文の構造に関する講義および演習 復習　：学習した単語・表現・文法を振り返る。
7	鈴木　悠理	【第7回】 予習　：Unit 12 の英文を音読する。 授業　：アカデミック・ライティングの概要に関する講義（Lesson 12 後半）、小テスト 復習　：学習した単語・表現・文法を振り返る。小テストを振り返る。
8	鈴木　悠理	【第8回】 予習　：これまでに学習した内容を復習する。 授業　：英作文の実践 復習　：英作文実践の振り返りを行う。
9	鈴木　悠理	【第9回】 予習　：Unit 13 を確認し、知らない単語・熟語を調べる。 授業　：アカデミック・ライティングの概要に関する講義（Lesson 13 前半）、英文の構造に関する講義および演習 復習　：学習した単語・表現・文法を振り返る。
10	鈴木　悠理	【第10回】 予習　：Unit 13 の英文を音読する。 授業　：アカデミック・ライティングの概要に関する講義（Lesson 13 後半）、小テスト 復習　：学習した単語・表現・文法を振り返る。小テストを振り返る。
11	鈴木　悠理	【第11回】 予習　：Unit 14 を確認し、知らない単語・熟語を調べる。 授業　：アカデミック・ライティングの概要に関する講義（Lesson 14 前半）、英文の構造に関する講義および演習 復習　：学習した単語・表現・文法を振り返る。

12	鈴木　悠理	【第 12 回】 予習　：Unit 14　の英文を音読する。 授業　：アカデミック・ライティングの概要に関する講義（Lesson 14　後半）、小テスト 復習　：学習した単語・表現・文法を振り返る。小テストを振り返る。
13	鈴木　悠理	【第 13 回】 予習　：Unit 15　を確認し、知らない単語・熟語を調べる。 授業　：アカデミック・ライティングの概要に関する講義（Lesson 15　前半）、英文の構造に関する講義および演習 復習　：学習した単語・表現・文法を振り返る。
14	鈴木　悠理	【第 14 回】 予習　：Unit 15　の英文を音読する。 授業　：アカデミック・ライティングの概要に関する講義（Lesson 15　後半）、小テスト 復習　：学習した単語・表現・文法を振り返る。小テストを振り返る。
15	鈴木　悠理	【第 15 回】 予習　：これまでに学習した内容を復習する。 授業　：英作文の実践 復習　：英作文実践の振り返りを行う。

授業開始前学習	高校までに学習した単語や表現・文法等をひととおり復習しておくと授業が理解しやすい。また、映画・音楽・テレビ・新聞など、英語に触れる機会を多く持つこと。興味がある単語や文章を、辞書やインターネットで調べる。
授業内課題のフィードバックの方法	授業資料の解説などを Google Classroom に掲示する。約 2 週に 1 回、各 Unit の学習を終えたところで小テストを行い、返却時に解説を行う。授業 8 回目、15 回目にそれまでの授業内容の復習を行う。
テキスト・教材	石谷由美子　著『Point by Point　−Writing Effective Opinion Essays　−〈Revised Edition〉』2024 年（南雲堂） *前期と同じテキスト その他、必要に応じてプリントを配布する。
参考書	英和辞典・和英辞典があるとよい（電子辞典可）。その他は授業内で適宜紹介する。
評価の基準と方法	平常点（授業参度、小テスト）30%、課題提出 20%、定期試験 50%を総合して評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		△		◎	○

関連科目	
その他	出席を重視する。全授業数の 3 分の 1 以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。その他、公欠についてなどは第 1 回の授業で説明する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-330-13（2022 年～入学者） 113-330-12（～2021 年入学者）	授業コード	FC0150
科目名称	☆Academic Writing Ⅱ／ﾗｲﾃｨﾝｸﾞ・使える英作文Ⅲ			単位数	2.0 単位
英文名称	Academic Writing Ⅱ／English Composition Ⅲ			授業区分	講義
科目責任者	本村　万喜子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	本村　万喜子			開講時期	3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	自身の主張を英語で論理的に記述する能力を養う演習を行う。学生は毎週のライティング課題から、文章を英語で論理的に構成・執筆・修正することが求められる。				
到達目標	論理的な思考力を養い、自身の主張を英語で記述する力が高まる。				

アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	本村　万喜子	【第 1 回】 予習：シラバスの確認 授業：オリエンテーション　（授業の目的や進め方、課題について）、第 1～6 章の概要 復習：授業形式についての確認、課題①に取り組む
2	本村　万喜子	【第 2 回】 予習：第 1 章前半を読み、不明な語句を調べておく 授業：第 1 章前半 復習：課題②に取り組む
3	本村　万喜子	【第 3 回】 予習：第 1 章後半を読み、不明な語句を調べておく 授業：第 1 章後半 復習：課題③に取り組む
4	本村　万喜子	【第 4 回】 予習：第 2 章前半を読み、不明な語句を調べておく 授業：第 2 章前半 復習：課題④に取り組む
5	本村　万喜子	【第 5 回】 予習：第 2 章後半を読み、不明な語句を調べておく 授業：第 2 章後半 復習：課題⑤に取り組む
6	本村　万喜子	【第 6 回】 予習：第 3 章前半を読み、不明な語句を調べておく 授業：第 3 章前半 復習：課題⑥に取り組む
7	本村　万喜子	【第 7 回】 予習：第 1 章～第 3 章前半の内容を振り返る 授業：第 1 章～第 3 章前半、中間レポート提出 復習：課題⑦に取り組む
8	本村　万喜子	【第 8 回】 予習：第 3 章後半を読み、不明な語句を調べておく 授業：第 3 章後半 復習：課題⑧に取り組む
9	本村　万喜子	【第 9 回】 予習：第 4 章前半を読み、不明な語句を調べておく 授業：第 4 章前半 復習：課題⑨に取り組む
10	本村　万喜子	【第 10 回】 予習：第 4 章後半を読み、不明な語を調べておく 授業：第章後半 復習：課題⑩に取り組む

11	本村　万喜子	【第 11 回】 予習：第 5 章前半を読み、不明な語句を調べておく 授業：第 5 章前半 復習：課題⑪に取り組む
12	本村　万喜子	【第 12 回】 予習：第 5 章後半を読み、不明な語句を調べておく 授業：第 5 章後半 復習：課題⑫に取り組む
13	本村　万喜子	【第 13 回】 予習：第 6 章前半を読み、不明な語句を調べておく 授業：第 6 章前半 復習：課題⑬に取り組む
14	本村　万喜子	【第 14 回】 予習：第 6 章後半を読み、不明な語句を調べておく 授業：第 6 章後半 復習：課題⑭に取り組む
15	本村　万喜子	【第 15 回】 予習：第 3 章後半～第 6 章の内容を再確認する 授業：第 3 章後半～第 6 章のまとめ 復習：期末レポートを執筆し提出する。

授業開始前学習	その日取り組む章の英文と対訳に目を通す。
授業内課題のフィードバックの方法	毎週のライティング課題、中間レポート、期末レポートは採点をし、コメントを付けて後日返却する。
テキスト・教材	『日本のことを 1 分間英語で話してみる』カラー改訂第 2 版　著者;広瀬　直子　出版社:KADOKAWA ISBN:9784046062604
参考書	
評価の基準と方法	中間レポート（35%）、期末レポート（35%）、毎週のライティング課題（30%）で評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		△		◎	

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-330-13（2022 年～入学者） 113-330-12（～2021 年入学者）	授業コード	FC0180
科目名称	☆Academic Writing Ⅰ／ｸﾞﾗﾏｰ・使える英文法Ⅲ			単位数	2.0 単位
英文名称	Academic Writing Ⅰ／English Grammar Ⅲ			授業区分	講義
科目責任者	本村　万喜子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	本村　万喜子			開講時期	3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	英語での表現力をより高いレベルへ上げるため、主要な英文法項目を確認しながら問題演習を行う。学生は毎週の課題を通して、学習した文法項目を実践的に活用し、自身の意見を表現・記述することが求められる。				
到達目標	・主要な英文法項目を理解し、正確で自然な英語の感覚を習得できる ・その文法を用いて自身の意見を表現・記述できる				

アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	本村　万喜子	【第 1 回】 予習：シラバスの確認 授業：オリエンテーション　（授業の目的や進め方、課題について）、品詞～Plus 文型(pp.6-17) 復習：授業形式についての確認、課題①に取り組む
2	本村　万喜子	【第 2 回】 予習：課題①の答え合わせを終えておく。 授業：第 3 章～第 6 章(pp.18-25) 復習：課題②に取り組む
3	本村　万喜子	【第 3 回】 予習：課題②の答え合わせを終えておく 授業：第 7 章～Output Training1(pp.26-33) 復習：課題③に取り組む
4	本村　万喜子	【第 4 回】 予習：課題③の答え合わせを終えておく 授業：第 10 章～第 11 章(pp.34-37) 復習：課題④に取り組む
5	本村　万喜子	【第 5 回】 予習：課題④の答え合わせを終えておく 授業：第 12 章～第 14 章　（pp.38-43） 復習：課題⑤に取り組む
6	本村　万喜子	【第 6 回】 予習：課題⑤の答え合わせを終えておく 授業：Plus 不定詞～第 16 章（pp.44-49） 復習：課題⑥に取り組む
7	本村　万喜子	【第 7 回】 予習：課題⑥の答え合わせを終えておく 授業：第 17 章～Output Training2（pp.50-57） 復習：課題⑦に取り組む
8	本村　万喜子	【第 8 回】 予習：課題⑦の答え合わせを終えておく 授業：第 19 章～Plus 比較（pp.58-63） 復習：課題⑧に取り組む
9	本村　万喜子	【第 9 回】 予習：課題⑧の答え合わせを終えておく 授業：第 21 章～第 23 章（pp.64-69） 復習：課題⑨に取り組む
10	本村　万喜子	【第 10 回】 予習：課題⑨の答え合わせを終えておく 授業：第 24 章～Output Training3（pp.70-75） 復習：課題⑩に取り組む

11	本村　万喜子	【第 11 回】 予習：課題⑩の答え合わせを終えておく 授業：第 26 章～第 27 章（pp.76-79） 復習：課題⑪に取り組む
12	本村　万喜子	【第 12 回】 予習：課題⑪の答え合わせを終えておく 授業：Option①～Option②（pp.80-83） 復習：課題⑫に取り組む
13	本村　万喜子	【第 13 回】 予習：課題⑫の答え合わせを終えておく 授業：Option③（pp.84-85） 復習：課題⑬に取り組む
14	本村　万喜子	【第 14 回】 予習：課題⑬の答え合わせを終えておく 授業：Option④～Option⑦（pp.86-93） 復習：課題⑭に取り組む
15	本村　万喜子	【第 15 回】 予習：課題⑭の答え合わせを終えておく、授業で習った文法項目を再確認する 授業：文法項目のまとめ 復習：授業で習った文法項目を再確認する

授業開始前学習	「グラマー使える英文法Ⅰ」「グラマー使える英文法Ⅱ」等、英語科目の復習をし、わからない箇所については調べる。
授業内課題のフィードバックの方法	英文法の問題演習については授業内で解説を行う。課題はコメントを付けて後日返却する。
テキスト・教材	桐原書店編集部　編著『総合英語　FACTBOOK English Grammar Standard [NEW EDITION]』桐原書店
参考書	
評価の基準と方法	定期試験（70%）、毎週の課題（30%）で評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		△		◎	

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	GJ-M-221	科目分類（～2024 年入学者）	113-320-12（2022 年～入学者） 113-310-12（～2021 年入学者）	授業コード	FC0410
科目名称	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ専攻研究 A／Core Studies (Basic) Ⅰ			単位数	2.0 単位
英文名称	English Communication Major Research A			授業区分	講義
科目責任者	松山 響子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松山 響子			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 水曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10 後期 水曜日 09:00～10:30 水曜日 13:00～14:30			研究室	10-605
授業概要	英語という言語を通じて学べる内容の内「英語圏文化・文学」は、今までの英語の授業と比べるとあまり馴染みのない内容ではないかと思います。この授業では英語コミュニケーション専攻で学ぶことができる分野の内「英語圏文化・文学」の基礎を『ロミオとジュリエット』の作品を通して学んでいきます。この講義での学習を通じて今後の自分が学びたい方向性を定めていくきっかけとしてほしいです。				
到達目標	この授業を受講すると「英語圏文化・文学」とは、どのようなことを学び追求するのかを理解することができるようになります。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	松山 響子	【第 1 回】 予習 ：授業シラバスに目を通してくること 授業 ：1. オリエンテーション・「英語圏文化・文学」とは・「Romeo and Juliet って？」 復習 ：授業目的の確認
2	松山 響子	【第 2 回】 予習 ：教科書で指定された箇所を読んでくる 授業 ：Romeo and Juliet I, i ～ ii 復習 ：授業内で出された課題を行う、来週の授業箇所を確認する
3	松山 響子	【第 3 回】 予習 ：教科書で指定された箇所を読んでくる 授業 ：Romeo and Juliet I, iii ～ iv 復習 ：授業内で出された課題を行う、来週の授業箇所を確認する
4	松山 響子	【第 4 回】 予習 ：教科書で指定された箇所を読んでくる 授業 ：Romeo and Juliet II, i ～ ii 復習 ：授業内で出された課題を行う、来週の授業箇所を確認する
5	松山 響子	【第 5 回】 予習 ：教科書で指定された箇所を読んでくる 授業 ：Romeo and Juliet II, iii ～ iv 復習 ：授業内で出された課題を行う、来週の授業箇所を確認する
6	松山 響子	【第 6 回】 予習 ：教科書で指定された箇所を読んでくる 授業 ：Romeo and Juliet II, v 復習 ：授業内で出された課題を行う、来週の授業箇所を確認する
7	松山 響子	【第 7 回】 予習 ：教科書で指定された箇所を読んでくる 授業 ：Romeo and Juliet III, i ～ ii 復習 ：授業内で出された課題を行う、来週の授業か書を確認する
8	松山 響子	【第 8 回】 予習 ：教科書で指定された箇所を読んでくる 授業 ：Romeo and Juliet III, iii 復習 ：授業内で出された課題を行う、来週の授業箇所を確認する
9	松山 響子	【第 9 回】 予習 ：教科書で指定された箇所を読んでくる 授業 ：Romeo and Juliet III, iv 復習 ：授業内で出された課題を行う、来週の授業箇所を確認する
10	松山 響子	【第 10 回】 予習 ：教科書で指定された箇所を読んでくる 授業 ：Romeo and Juliet IV, i ～ ii 復習 ：授業内で出された課題を行う、来週の授業箇所を確認する

11	松山　響子	【第 11 回】 予習　：教科書で指定された箇所を読んでくる 授業　：Romeo and Juliet IV, iii 復習　：授業内で出された課題を行う、来週の授業箇所を確認する
12	松山　響子	【第 12 回】 予習　：教科書で指定された箇所を読んでくる 授業　：Romeo and Juliet IV, iv 復習　：授業内で出された課題を行う、来週の授業箇所を確認する
13	松山　響子	【第 13 回】 予習　：教科書で指定された箇所を読んでくる 授業　：Romeo and Juliet V, i 復習　：授業内で出された課題を行う、来週の授業箇所を確認する
14	松山　響子	【第 14 回】 予習　：教科書で指定された箇所を読んでくる 授業　：Romeo and Juliet V, ii 復習　：授業内で出された課題を行う、来週の授業箇所を確認する
15	松山　響子	【第 15 回】 予習　：教科書で指定された箇所を読んでくる 授業　：Romeo and Juliet V, iii 復習　：授業内で出された課題を行う、まとめ

授業開始前学習	各回該当箇所を必ず読み、わからない部分を明らかにしておく。
授業内課題のフィードバックの方法	授業内容についての簡単なまとめを各回授業終了後に期日までに提出をする。授業内で講義をした内容についての質問を毎回受け付ける。質問に関しては次回の授業で無記名での質問回答を行う。提出をしたものに対して採点し返却をする、コメントをつけて返却をする場合もある。
テキスト・教材	教科書 Romeo and Juliet　（Macmillan readers 4. pre-intermediate level）, Macmillan Education, 2006 ISBN:978-1405087308 必ずペーパーバック版を購入のこと
参考書	クラスルームに適宜掲載をする。
評価の基準と方法	授業内で行う課題、最終レポートで評価をします。 ・授業参加度・授業内で行う課題(40%) ・最終レポート(60%) 授業参加度は授業内での活動や課題等で判断します。 出席が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は、単位を認定することはできません。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎			○	◎	△		

関連科目	イギリス文学Ⅰ イギリス文学Ⅱ 英語圏文化Ⅰ
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-320-12（2022 年～入学者） 113-310-12（～2021 年入学者）	授業コード	FC0420
科目名称	☆英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ専攻研究 B／Core Studies (Basic) Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	English Communication Research B／Core Studies (Basic) Ⅱ			授業区分	講義
科目責任者	M.ブラウン			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	M.ブラウン			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	The study of the English language consists of the study of English Education, English Linguistics and English Culture/Literature. This class teaches the basics of those elements as taught on the English Communication course. We will consider the similarities and differences between them through a range of research methodologies. This class provides an opportunity for students to compare various forms of English study and decide which area they want to focus on.				
到達目標	Students will be able to understand and discuss the following three areas: -The basic content and themes relating to the study of English Education -The basic content and themes relating to the study of English Linguistics -The basic content and them				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	M.ブラウン	【第 1 回】 予習：Read the class syllabus. 授業：Orientation, “What is English Education” 1, Groupwork 復習：Confirm the goals of the course
2	M.ブラウン	【第 2 回】 予習：Read the relevant sections of the class handouts. 授業：“What is English Education” 2, Groupwork 復習：Review the handout contents
3	M.ブラウン	【第 3 回】 予習：Read the relevant sections of the class handouts. 授業：“What is English Education” 3, Groupwork 復習：Review the handout contents
4	M.ブラウン	【第 4 回】 予習：Read the relevant sections of the class handouts. 授業：“What is English Education” 4, Groupwork, Submit summary of content in lessons 1-4 復習：Review the handout contents
5	M.ブラウン	【第 5 回】 予習：Read the relevant sections of the class handouts. 授業：“What is English Education” 5, Groupwork and Discussion 復習：Review the handout contents
6	M.ブラウン	【第 6 回】 予習：Read the relevant sections of the class handouts. 授業：”What is English linguistics” 1, Groupwork 復習：Review the handout contents
7	M.ブラウン	【第 7 回】 予習：Read the relevant sections of the class handouts. 授業：”What is English linguistics” 2, Groupwork 復習：Review the handout contents
8	M.ブラウン	【第 8 回】 予習：Read the relevant sections of the class handouts. 授業：”What is English linguistics” 3, Groupwork 復習：Review the handout contents

9	M.ブラウン	【第 9 回】 予習：Read the relevant sections of the class handouts. 授業：”What is English linguistics” 4, Groupwork, Submit summary of content in lessons 6-9 復習：Review the handout contents
10	M.ブラウン	【第 10 回】 予習：Read the relevant sections of the class handouts. 授業：”What is English linguistics” 5, Groupwork and Discussion 復習：Review the handout contents
11	M.ブラウン	【第 11 回】 予習：Read the relevant sections of the class handouts. 授業：”What is English Culture/Literature” 1, Groupwork 復習：Review the handout contents
12	M.ブラウン	【第 12 回】 予習：Read the relevant sections of the class handouts. 授業：”What is English Culture/Literature” 2, Groupwork 復習：Review the handout contents
13	M.ブラウン	【第 13 回】 予習：Read the relevant sections of the class handouts. 授業：”What is English Culture/Literature” 3, Groupwork 復習：Review the handout contents
14	M.ブラウン	【第 14 回】 予習：Read the relevant sections of the class handouts. 授業：”What is English Culture/Literature” 4, Groupwork, Submit a summary of content in lessons 11-14 復習：Review the handout contents
15	M.ブラウン	【第 15 回】 予習：Read the relevant sections of the class handouts. 授業：”What is English Culture/Literature” 5, Groupwork and Discussion 復習：Review the handout contents

授業開始前学習	Do as much introductory reading on English education, English Linguistics, and English Culture/Literature as possible.
授業内課題のフィードバックの方法	Students will receive oral and/or written feedback on all coursework.
テキスト・教材	All materials will be provided by the instructor.
参考書	
評価の基準と方法	-Preparation and Participation (20%) -Classwork and Quizzes (20%) -Content summaries (reports) (60%)
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎			○	◎	△		

関連科目	
その他	Students must attend 2/3 of the classes to receive credit.
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-320-12	授業コード	FC0422
科目名称	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ専攻研究 D			単位数	2.0 単位
英文名称	English Communication Research D			授業区分	講義
科目責任者	福王　守			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	福王　守			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期　月曜日 13:00～14:30　木曜日 13:00～14:30 後期　月曜日 13:00～14:30　木曜日 13:00～14:30			研究室	10-614
授業概要	今日の日本の法社会は、ヨーロッパの近代市民社会を模範としています。一人ひとりの個人を人格の担い手として尊重すること、すなわち「人間の尊厳」は市民社会の実現目標かつ基本的な価値観として捉えられてきました。特に、「自由」や「平等」は人間の尊厳の具体的内容をなす基本的な「人権」として捉えられ、今日に至っています。これを踏まえ、本講義ではまず人権の本質と内容について理解します。その上で、社会的文化的な性である「ジェンダー（gender）」の意味を踏まえ、今日における性差をめぐる問題を国内社会と国際社会を比較しつつ法的な観点から考察します。 ※ 毎回の授業後には、「問題解決型学習」の手段として課題レポートを作成してもらい、次回授業時にこれに対する解説と質問への回答を行います。				
到達目標	市民社会における客観的な判断基準としての「法」の役割を踏まえ、異なる意見を踏まえつつ筋道を立てて未解決の社会問題（ジェンダー格差）を考える力を身につけることを目標とします。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	福王　守	【第 1 回】 予習　：本科目シラバスおよびテキスト目次 1-11 頁の講読 授業　：「人権論Ⅱ」とは：授業の目的・内容・学習方法について【テキスト　目次 1-11 頁】 復習　：テキスト目次 1-11 頁の再読、【第 1 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
2	福王　守	【第 2 回】 予習　：テキスト 3 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：市民社会と法：法の役割と日本の法体系の起源　　【テキスト 3 頁】 復習　：テキスト 3 頁の再読、【第 2 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
3	福王　守	【第 3 回】 予習　：テキスト 11-12 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：女性の人権の背景：近代市民社会と人間の尊厳　【テキスト 11-12 頁】 復習　：テキスト 11-12 頁の再読、【第 3 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
4	福王　守	【第 4 回】 予習　：テキスト 12-13 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：女性の人権の背景：近代市民国家と個人の尊厳　【テキスト 12-13 頁】 復習　：テキスト 12-13 頁の再読、【第 4 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
5	福王　守	【第 5 回】 予習　：テキスト 17-22、27-30 頁の講読およびキーワードの確認 授業：国内社会と女性の人権　：日本国憲法と基本的人権 【テキスト 17-22、27-30 頁】 復習　：テキスト 17-22、27-30 頁の再読、【第 5 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
6	福王　守	【第 6 回】 予習　：テキスト 61、81-86 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：国内社会と女性の人権：労働環境をめぐって　【テキスト　61、81-86 頁】 復習　：テキスト 61、81-86 頁の再読、【第 6 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
7	福王　守	【第 7 回】 予習　：テキスト 84-87 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：国内社会と女性の人権：婚姻関係をめぐって　【テキスト 84-87 頁】 復習　：テキスト　84-87 頁の再読、【第 7 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
8	福王　守	【第 8 回】 予習　：テキスト　85-87 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：国内社会と女性の人権：母子関係をめぐって　【テキスト　85-87 頁】 復習　：テキスト　85-87 頁の再読、【第 8 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
9	福王　守	【第 9 回】 予習　：テキスト 281-282 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：国際社会と女性の人権：国際社会の構造的特徴　【テキスト 281-282 頁】 復習　：テキスト 281-282 頁の再読、【第 10 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
10	福王　守	【第 10 回】 予習　：第 2 回-9 回までのテキスト全学習頁の講読およびキーワードの確認 授業　：これまでの授業の総括と発展学習の手引：授業全体の体系的整理と論証に向けて【テキスト全学習頁】 復習　：テキスト全習頁の再読、【第 10 回】授業ノートおよび配布プリントの整理

11	福王　守	【第 11 回】 予習　：テキスト 282-283 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：国際社会と女性の人権：国際人権保障のあゆみと国連の役割　【テキスト 282-283 頁】 復習　：テキスト 282-283 頁の再読、【第 11 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
12	福王　守	【第 12 回】 予習　：テキスト 283-286 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：国際社会と女性の人権：国際人権章典　【テキスト 283-286 頁】 復習　：テキスト 283-286 頁の再読、【第 12 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
13	福王　守	【第 13 回】 予習　：テキスト 285-289、293-294 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：国際社会と女性の人権：女性差別撤廃条約　【テキスト 285-289、293-294 頁】 復習　：テキスト 285-289、293-294 頁の再読、【第 12 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
14	福王　守	【第 14 回】 予習　：テキスト 293-294 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：国際社会と女性の人権：女性の国際人権保障をめぐる課題と日本　【テキスト 293-294 頁】 復習　：　293-294 頁の再読、【第 14 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
15	福王　守	【第 15 回】 予習　：テキスト目次 1-11 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：「英語コミュニケーション専攻研究 D」の総括と発展学習の手引：授業全体の体系的整理と論証に向けて【テキスト全学習頁】 復習　：テキスト全学習頁の再読、【第 15 回】授業ノートおよび配布プリントの整理

授業開始前学習	テレビや新聞の社会面・政治面の報道に、少しでも多く接する機会をもって下さい。必ずどこかで授業理解の助けになります。
授業内課題のフィードバックの方法	適宜次回の授業冒頭において課題レポートに対する講評と質問への回答を述べます。また第 10 回および 15 回目において、レポート課題全般に関する講評と個々の問題解決に向けた助言等を行います。
テキスト・教材	古野豊秋・畑尻剛編『新・スタンダード憲法（第 4 版補訂版）』（尚学社、2016 年） 『ポケット六法（令和 7 年版）』（有斐閣、2024 年）
参考書	授業を通じて適宜紹介します。
評価の基準と方法	・15 回のレポートの総合点で評価します（10 点×15 回＝150 点を 100 点満点に換算）。 ・単位取得の前提として、すべての授業回数のうち出席に基づく 10 回以上の提出が必要です。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎			○	◎	△		

関連科目	「法学」、「法と社会」、「日本国憲法Ⅰ・Ⅱ」および「人権の基礎」と関連させながら「英語コミュニケーション専攻研究 D」は組み立てられています。また、2 年次以降に受講できる科目として「国際法Ⅰ・Ⅱ」があります。
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-320-12	授業コード	FC0423
科目名称	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ専攻研究 E			単位数	2.0 単位
英文名称	English Communication Research E			授業区分	講義
科目責任者	T．プラザ			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	T．プラザ			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30			研究室	10-608
授業概要	In this class, students will practice their English skills while learning about cultural studies. There will be in-class discussions and presentations about culture. Students will also have the opportunity to focus on cultural topics that they are personally interested in.				
到達目標	The aims of this class are to help students gain confidence and improve their English skills while learning about culture. Students will also be introduced to how to do basic research in preparation for seminar work.				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	T．プラザ	【第 1 回】 予習 ：Prepare a self-introduction 授業 ：Course goals and schedule 復習 ：Review notes/ Do homework
2	T．プラザ	【第 2 回】 予習 ：Do assigned reading 授業 ：Food customs around the world ? Part 1 復習 ：Review notes/ Do homework
3	T．プラザ	【第 3 回】 予習 ：Do assigned reading 授業 ：Food customs around the world ? Part 2 復習 ：Review notes/ Do homework
4	T．プラザ	【第 4 回】 予習 ：Do assigned reading 授業 ：Student research 復習 ：Review notes/ Do homework
5	T．プラザ	【第 5 回】 予習 ：Do assigned reading 授業 ：Festivals and events ? Part 1 復習 ：Review notes/ Do homework
6	T．プラザ	【第 6 回】 予習 ：Do assigned reading 授業 ：Festivals and events ? Part 2 復習 ：Review notes/ Do homework
7	T．プラザ	【第 7 回】 予習 ：Do assigned reading 授業 ：Student research and presentations 復習 ：Review notes/ Do homework
8	T．プラザ	【第 8 回】 予習 ：Do assigned reading 授業 ：Beliefs and values 復習 ：Review notes/ Do homework
9	T．プラザ	【第 9 回】 予習 ：Do assigned reading 授業 ：Student research 復習 ：Review notes/ Do homework
10	T．プラザ	【第 10 回】 予習 ：Do assigned reading 授業 ：Subculture ? Part 1 復習 ：Review notes/ Do homework
11	T．プラザ	【第 11 回】 予習 ：Do assigned reading 授業 ：Subculture ? Part 2 復習 ：Review notes/ Do homework

12	T．プラザ	【第 12 回】 予習 ：Do assigned reading 授業 ：Student research 復習 ：Review notes/ Do homework
13	T．プラザ	【第 13 回】 予習 ：Do assigned reading 授業 ：Global culture ? Part 1 復習 ：Review notes/ Do homework
14	T．プラザ	【第 14 回】 予習 ：Do assigned reading 授業 ：Global culture ? Part 2 復習 ：Review notes/ Do homework
15	T．プラザ	【第 15 回】 予習 ：Do assigned reading 授業 ：Course review and presentations

授業開始前学習	Students can reflect on experiences that they have had with different cultures or in different countries. They can think about how to talk about these experiences in English.
授業内課題のフィードバックの方法	Both written and oral feedback will be provided to all students.
テキスト・教材	Class materials will be provided by the instructor.
参考書	
評価の基準と方法	Participation 40%, Homework 15%, In-class evaluation 45%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎			○	◎	△		

関連科目	
その他	This will be good chance to learn about how to research and present in English. Students will be expected to speak in English as much as possible during the class.
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-320-12	授業コード	FC0424
科目名称	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ専攻研究 F			単位数	2.0 単位
英文名称	English Communication Research F			授業区分	講義
科目責任者	工藤 俊			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	工藤 俊			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 16:20～17:50 後期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 16:20～17:50			研究室	10-607
授業概要	この授業では、英語を中心としたことばの様々な側面を観察し、ことばの奥深さに触れる。具体的には、様々な英語の例文に触れながら、それらはどのような文脈で使われるのか、話し手はどのような意図を持って発話したのか、そして聞き手はその発言をどのように受け止めるのかといったことを、言語学の知見を取り入れながら学んでいく。なお、3 年次以降の「英語コミュニケーションゼミ」につながることを想定しつつ、授業を運営する予定である。				
到達目標	・英語という言語との向き合い方を学ぶことができる。 ・英語がどのような言語であるのかを知ることができる。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	−	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	工藤 俊	【第 1 回】 予習：本授業のシラバスを読んでくる。 授業：本授業の運営方針や成績評価に関するオリエンテーション 復習：授業内容を再確認する。
2	工藤 俊	【第 2 回】 予習：テキスト該当箇所の精読 授業：テキスト講読、意見交換、関連する文法の確認、各自提出した例文の考察、レポート指導（1）（ディスカッション） 復習：授業で学んだことを再確認し、理解できなかった点を洗い出す。
3	工藤 俊	【第 3 回】 予習：テキスト該当箇所の精読 授業：テキスト講読、意見交換、関連する文法の確認、各自提出した例文の考察、レポート指導（2）（ディスカッション） 復習：授業で学んだことを再確認し、理解できなかった点を洗い出す。
4	工藤 俊	【第 4 回】 予習：テキスト該当箇所の精読 授業：テキスト講読、意見交換、関連する文法の確認、各自提出した例文の考察、レポート指導（3）（ディスカッション） 復習：授業で学んだことを再確認し、理解できなかった点を洗い出す。
5	工藤 俊	【第 5 回】 予習：テキスト該当箇所の精読 授業：テキスト講読、意見交換、関連する文法の確認、各自提出した例文の考察、レポート指導（4）（ディスカッション） 復習：授業で学んだことを再確認し、理解できなかった点を洗い出す。
6	工藤 俊	【第 6 回】 予習：テキスト該当箇所の精読または発表準備 授業：テキスト講読、意見交換、関連する文法の確認、各自提出した例文の考察、レポート指導（5）（ディスカッション） 復習：授業で学んだことを再確認し、理解できなかった点を洗い出す。
7	工藤 俊	【第 7 回】 予習：テキスト該当箇所の精読 授業：テキスト講読、意見交換、関連する文法の確認、各自提出した例文の考察、レポート指導（6）（ディスカッション） 復習：授業で学んだことを再確認し、理解できなかった点を洗い出す。
8	工藤 俊	【第 8 回】 予習：テキスト該当箇所の精読 授業：テキスト講読、意見交換、関連する文法の確認、各自提出した例文の考察、レポート指導（7）（ディスカッション） 復習：授業で学んだことを再確認し、理解できなかった点を洗い出す。
9	工藤 俊	【第 9 回】 予習：テキスト該当箇所の精読 授業：テキスト講読、意見交換、関連する文法の確認、各自提出した例文の考察、レポート指導（8）（ディスカッション） 復習：授業で学んだことを再確認し、理解できなかった点を洗い出す。

10	工藤　俊	【第 10 回】 予習：テキスト該当箇所の精読 授業：テキスト講読、意見交換、関連する文法の確認、各自提出した例文の考察、レポート指導（9）（ディスカッション） 復習：授業で学んだことを再確認し、理解できなかった点を洗い出す。
11	工藤　俊	【第 11 回】 予習：テキスト該当箇所の精読 授業：テキスト講読、意見交換、関連する文法の確認、各自提出した例文の考察、レポート指導（10）（ディスカッション） 復習：授業で学んだことを再確認し、理解できなかった点を洗い出す。
12	工藤　俊	【第 12 回】 予習：テキスト該当箇所の精読 授業：テキスト講読、意見交換、関連する文法の確認、各自提出した例文の考察、レポート指導（11）（ディスカッション） 復習：授業で学んだことを再確認し、理解できなかった点を洗い出す。
13	工藤　俊	【第 13 回】 予習：テキスト該当箇所の精読 授業：テキスト講読、意見交換、関連する文法の確認、各自提出した例文の考察、レポート指導（12）（ディスカッション） 復習：授業で学んだことを再確認し、理解できなかった点を洗い出す。
14	工藤　俊	【第 14 回】 予習：テキスト該当箇所の精読 授業：テキスト講読、意見交換、関連する文法の確認、各自提出した例文の考察、レポート指導（13）（ディスカッション） 復習：授業で学んだことを再確認し、理解できなかった点を洗い出す。
15	工藤　俊	【第 15 回】 予習：テキストや授業で学んだことを振り返る。 授業：本授業の振り返り 復習：自身の課題を客観的に見つめ直す。

授業開始前学習	
授業内課題のフィードバックの方法	各自が気になった例文を提出し、それに対して授業内でフィードバックする。
テキスト・教材	倉林秀男、ジェフリー・トランブリー『シンプルで伝わる英語表現－日本語との発想の違いから学ぶ－』（ちくま書房） 2022 年 (ISBN: 978-4-480-07506-2)
参考書	
評価の基準と方法	提出課題：50%、レポート：50%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎			○	◎	△		

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	GJ-M-211	科目分類（～2024 年入学者）	113-320-12	授業コード	FC0425
科目名称	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ専攻研究 G			単位数	2.0 単位
英文名称	English Communication Major Research G			授業区分	講義
科目責任者	浅川　真知子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	浅川　真知子			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期　火曜日 09:00～10:30　木曜日 13:00～14:30 後期　火曜日 09:00～10:30　木曜日 13:00～14:30			研究室	10-603
授業概要	本授業は、3 年次以降の「英語コミュニケーションゼミ」に向けてプレゼミとして位置付けられた授業である。本授業のテーマとして、国際教育を中心に教育全般を扱う。「国際的視野とは何か」「学びとは何か」「教育とは何か」といった問いについて、多角的かつクリティカルに思考し、ディスカッションを通じて自分の考えを深め、効果的に表現する力を養うことを目的とする。授業はディスカッションを中心に行う。				
到達目標	教育に関するテーマについて深く考え、文献やデータに基づいて自分の考えを表現する力を身につける。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	浅川　真知子	【第 1 回】 予習：授業シラバスに目を通す 授業：オリエンテーション・「国際的視野とは」 復習：感想および授業のまとめを書く
2	浅川　真知子	【第 2 回】 予習：テキスト第 1 章①を読み、考えをまとめておく 授業：「なぜ学ぶのか」について議論し、考えを深める（グループワーク・ディスカッション） 復習：授業を振り返り、自分の考えをプロセスジャーナルにまとめる
3	浅川　真知子	【第 3 回】 予習：テキスト第 1 章②を読み、考えをまとめておく 授業：「なぜ学ぶのか」について発表・議論し、考えを深める（発表・ディスカッション） 復習：授業を振り返り、自分の考えをプロセスジャーナルにまとめる
4	浅川　真知子	【第 4 回】 予習：テキスト第 2 章①を読み、考えをまとめておく 授業：「どのように学ぶのか」について議論し、考えを深める（グループワーク・ディスカッション） 復習：授業を振り返り、自分の考えをプロセスジャーナルにまとめる
5	浅川　真知子	【第 5 回】 予習：テキスト第 2 章②を読み、考えをまとめておく 授業：「どのように学ぶのか」について発表・議論し、考えを深める（発表・ディスカッション） 復習：授業を振り返り、自分の考えをプロセスジャーナルにまとめる
6	浅川　真知子	【第 6 回】 予習：テキスト第 3 章①を読み、考えをまとめておく 授業：「かかわりを通じて学ぶ」について議論し、考えを深める（グループワーク・ディスカッション） 復習：授業を振り返り、自分の考えをプロセスジャーナルにまとめる
7	浅川　真知子	【第 7 回】 予習：テキスト第 3 章②を読み、考えをまとめておく 授業：「かかわりを通じて学ぶ」について発表・議論し、考えを深める（発表・ディスカッション） 復習：授業を振り返り、自分の考えをプロセスジャーナルにまとめる
8	浅川　真知子	【第 8 回】 予習：テキスト第 4 章①を読み、考えをまとめておく 授業：「変わるために学ぶ」について議論し、考えを深める（グループワーク・ディスカッション） 復習：授業を振り返り、自分の考えをプロセスジャーナルにまとめる
9	浅川　真知子	【第 9 回】 予習：テキスト第 4 章②を読み、考えをまとめておく 授業：「変わるために学ぶ」について発表・議論し、考えを深める（発表・ディスカッション） 復習：授業を振り返り、自分の考えをプロセスジャーナルにまとめる
10	浅川　真知子	【第 10 回】 予習：テーマに関して自分が気になるところを調べ、メモをしておく 授業：「世界の教育と日本の教育」について議論し、考えを深める（ディスカッション） 復習：授業を振り返り、自分の考えをプロセスジャーナルにまとめる
11	浅川　真知子	【第 11 回】 予習：テーマに関して自分が気になるところを調べ、メモをしておく 授業：さまざまな国際教育プログラム①：テーマについて議論し、考えを深める（ディスカッション） 復習：授業を振り返り、自分の考えをプロセスジャーナルにまとめる

12	浅川　真知子	【第 12 回】 予習：テーマに関して自分が気になるところを調べ、メモをしておく 授業：さまざまな国際教育プログラム②：テーマについて議論し、考えを深める（ディスカッション） 復習：授業を振り返り、自分の考えをプロセスジャーナルにまとめる
13	浅川　真知子	【第 13 回】 予習：発表準備 授業：探究テーマについて発表し、議論をする（発表・ディスカッション） 復習：授業を振り返り、自分の考えをプロセスジャーナルにまとめる
14	浅川　真知子	【第 14 回】 予習：発表準備 授業：探究テーマについて発表し、議論をする（発表・ディスカッション） 復習：授業を振り返り、自分の考えをプロセスジャーナルにまとめる
15	浅川　真知子	【第 15 回】 予習：プロセスジャーナルのまとめ 授業：授業を振り返り、深めてきた自身の考えを発表する（発表・ディスカッション） 復習：3 年次の研究に向けて目標や課題点を明らかにする

授業開始前学習	書籍や各種メディアを適切に使用し、日常的に教育問題について関心を持つ。 課題に取り組み、疑問点を明らかにした上で授業に臨むこと。
授業内課題のフィードバックの方法	課題や活動に対するフィードバックはその都度授業中、また返却時に行う。
テキスト・教材	福田誠治『教育学って何だろう ―受け身を捨てて自律する』（東信堂）2021 年（ISBN：978-4-7989-1715-3）
参考書	授業中に適宜紹介する。
評価の基準と方法	授業参加度・課題提出（50%）最終発表・レポート（50%）
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎			○	◎	△		

関連科目	
その他	ディスカッションや発表に積極的に参加すること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-330-13	授業コード	FC0430
科目名称	Core Studies Ⅰ			単位数	2.0 単位
英文名称	Core Studies Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	Ｔ．プラザ			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	Ｔ．プラザ			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30			研究室	10-608
授業概要	This class will focus on different types of English learning activities and methods. We will look at how people learn languages and also what kind of activities can be used for improving communication skills. This class will be good for anyone who wants to improve their English communication ability. Group work and discussion are key components of the class.				
到達目標	There are two aims in this class. First, students will learn about second language acquisition (SLA). Second, students will learn how to apply SLA theory in a variety of learning situations. Students will gain knowledge that will help them be better at				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	Ｔ．プラザ	【第 1 回】 予習 ：Prepare a self-introduction 授業 ：Course goals and schedule 復習 ：Review notes/ Do homework
2	Ｔ．プラザ	【第 2 回】 予習 ：Do assigned reading 授業 ：Introduction to Communicative Learning part 1 復習 ：Review notes/ Do homework
3	Ｔ．プラザ	【第 3 回】 予習 ：Do assigned reading 授業 ：Introduction to Communicative Learning part 2 復習 ：Review notes/ Do homework
4	Ｔ．プラザ	【第 4 回】 予習 ：Do assigned reading 授業 ：Communicative listening and speaking 復習 ：Review notes/ Do homework
5	Ｔ．プラザ	【第 5 回】 予習 ：Do assigned reading 授業 ：Communicative reading and writing 復習 ：Review notes/ Do homework
6	Ｔ．プラザ	【第 6 回】 予習 ：Do assigned reading 授業 ：Designing communicative activities part 1 復習 ：Review notes/ Do homework
7	Ｔ．プラザ	【第 7 回】 予習 ：Do assigned reading 授業 ：Designing communicative activities part 2. 復習 ：Review notes/ Do homework
8	Ｔ．プラザ	【第 8 回】 予習 ：Prepare for model lessons 授業 ：Student model lessons 復習 ：Review notes/ Do homework
9	Ｔ．プラザ	【第 9 回】 予習 ：Do assigned reading 授業 ：Introduction to Task Based Learning part 1 復習 ：Review notes/ Do homework
10	Ｔ．プラザ	【第 10 回】 予習 ：Do assigned reading 授業 ：Introduction to Task Based Learning part 2 復習 ：Review notes/ Do homework
11	Ｔ．プラザ	【第 11 回】 予習 ：Do assigned reading 授業 ：The four skills in Task Based Learning 復習 ：Review notes/ Do homework

12	T．プラザ	【第 12 回】 予習　：Do assigned reading 授業　：Designing tasks 復習　：Review notes/ Do homework
13	T．プラザ	【第 13 回】 予習　：Do assigned reading 授業　：Individual research 復習　：Review notes/ Do homework
14	T．プラザ	【第 14 回】 予習　：Do assigned reading 授業　：Individual research 復習　：Review notes/ Do homework
15	T．プラザ	【第 15 回】 予習　：Do assigned reading 授業　：Course review and presentations

授業開始前学習	Students can familiarize themselves with SLA in Japanese through various websites and books.　Please talk to the teacher if more advice is desired.
授業内課題のフィードバックの方法	Both written and oral feedback will be provided to all students.
テキスト・教材	Class materials will be provided by the instructor.
参考書	
評価の基準と方法	Participation 30 %, Homework 15%, In class evaluation 55%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	△		○

関連科目	
その他	It will be a good opportunity for students interested in teaching to learn some different methods.　Also, it will be good for anyone wanting to gain confidence in their English ability.
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-330-13	授業コード	FC0440
科目名称	Core Studies Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	Core Studies Ⅱ			授業区分	講義
科目責任者	Ｔ．プラザ			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	Ｔ．プラザ			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30			研究室	10-608
授業概要	This course will look at how current knowledge of second language acquisition (SLA) can be applied in practical English teaching environments. Students will learn a variety of techniques and methodologies that can be applied in various English learning situations. Group work and discussion are key components of the class.				
到達目標	There are two aims in this class. First, students will learn key features of second language acquisition (SLA) theory. Second, students will learn how to apply SLA theory in a variety of learning situations. Various types of practical English teaching				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	Ｔ．プラザ	【第 1 回】 予習 ：Prepare a self-introduction 授業 ：Course goals and schedule 復習 ：Review notes/ Do homework
2	Ｔ．プラザ	【第 2 回】 予習 ：Do assigned reading 授業 ：Introduction to Cooperative Learning part 1 復習 ：Review notes/ Do homework
3	Ｔ．プラザ	【第 3 回】 予習 ：Do assigned reading 授業 ：Introduction to Cooperative Learning part 2 復習 ：Review notes/ Do homework
4	Ｔ．プラザ	【第 4 回】 予習 ：Do assigned reading 授業 ：Topics in Cooperative Learning - Working Together 復習 ：Review notes/ Do homework
5	Ｔ．プラザ	【第 5 回】 予習 ：Do assigned reading 授業 ：Topics in Cooperative Learning - Being Responsible 復習 ：Review notes/ Do homework
6	Ｔ．プラザ	【第 6 回】 予習 ：Do assigned reading 授業 ：Topics in Cooperative Learning - Making Equal Opportunities 復習 ：Review notes/ Do homework
7	Ｔ．プラザ	【第 7 回】 予習 ：Do assigned reading 授業 ：Topics in Cooperative Learning - Maximizing Interactions 復習 ：Review notes/ Do homework
8	Ｔ．プラザ	【第 8 回】 予習 ：Prepare for model lessons 授業 ：Student model lessons 復習 ：Review notes/ Do homework
9	Ｔ．プラザ	【第 9 回】 予習 ：Do assigned reading 授業 ：Introduction to Transformative Learning part 1 復習 ：Review notes/ Do homework
10	Ｔ．プラザ	【第 10 回】 予習 ：Do assigned reading 授業 ：Introduction to Transformative Learning part 2 復習 ：Review notes/ Do homework
11	Ｔ．プラザ	【第 11 回】 予習 ：Do assigned reading 授業 ：Reflective practice part 1 復習 ：Review notes/ Do homework

12	T．プラザ	【第 12 回】 予習　：Do assigned reading 授業　：Reflective practice part 2 復習　：Review notes/ Do homework
13	T．プラザ	【第 13 回】 予習　：Do assigned reading 授業　：Individual research 復習　：Review notes/ Do homework
14	T．プラザ	【第 14 回】 予習　：Do assigned reading 授業　：Individual research 復習　：Review notes/ Do homework
15	T．プラザ	【第 15 回】 予習　：Do assigned reading 授業　：Course review and presentations

授業開始前学習	Review the topics of the previous term.
授業内課題のフィードバックの方法	Both written and oral feedback will be provided to all students.
テキスト・教材	Class materials will be provided by the instructor.
参考書	
評価の基準と方法	Participation 30 %, Homework 15%, In class evaluation 55%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	△		○

関連科目	
その他	It will be a good opportunity for students interested in teaching to learn some different methods.　Also, it will be good for anyone wanting to gain confidence in their English ability.
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-330-14	授業コード	FC0450
科目名称	Core Studies Ⅲ			単位数	2.0 単位
英文名称	Core Studies Ⅲ			授業区分	講義
科目責任者	T．プラザ			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	T．プラザ			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30			研究室	10-608
授業概要	This class will focus on different types of English learning activities and methods. We will look at how people learn languages and also what kind of activities can be used for improving communication skills. This class will be good for anyone who wants to improve their English communication ability. Group work and discussion are key components of the class.				
到達目標	There are two aims in this class. First, students will learn about second language acquisition (SLA). Second, students will learn how to apply SLA theory in a variety of learning situations. Students will gain knowledge that will help them be better at				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	T．プラザ	【第 1 回】 予習 ：Prepare a self-introduction 授業 ：Course goals and schedule 復習 ：Review notes/ Do homework
2	T．プラザ	【第 2 回】 予習 ：Do assigned reading 授業 ：Cooperation and collaboration Part 1 復習 ：Review notes/ Do homework
3	T．プラザ	【第 3 回】 予習 ：Do assigned reading 授業 ：Cooperation and collaboration Part 2 復習 ：Review notes/ Do homework
4	T．プラザ	【第 4 回】 予習 ：Do assigned reading 授業 ：Topics in communicative teaching Part 1 復習 ：Review notes/ Do homework
5	T．プラザ	【第 5 回】 予習 ：Do assigned reading 授業 ：Topics in communicative teaching Part 2 復習 ：Review notes/ Do homework
6	T．プラザ	【第 6 回】 予習 ：Do assigned reading 授業 ：Student model lessons 復習 ：Review notes/ Do homework
7	T．プラザ	【第 7 回】 予習 ：Do assigned reading 授業 ：Student model lessons 復習 ：Review notes/ Do homework
8	T．プラザ	【第 8 回】 予習 ：Prepare for model lessons 授業 ：Student model lessons 復習 ：Review notes/ Do homework
9	T．プラザ	【第 9 回】 予習 ：Do assigned reading 授業 ：Teaching speaking/listening 復習 ：Review notes/ Do homework
10	T．プラザ	【第 10 回】 予習 ：Do assigned reading 授業 ：Teaching reading/writing 復習 ：Review notes/ Do homework
11	T．プラザ	【第 11 回】 予習 ：Do assigned reading 授業 ：Reflective practice part 1 復習 ：Review notes/ Do homework

12	T．プラザ	【第 12 回】 予習　：Do assigned reading 授業　：Reflective practice part 2 復習　：Review notes/ Do homework
13	T．プラザ	【第 13 回】 予習　：Do assigned reading 授業　：Student model lessons 復習　：Review notes/ Do homework
14	T．プラザ	【第 14 回】 予習　：Do assigned reading 授業　：Student model lessons 復習　：Review notes/ Do homework
15	T．プラザ	【第 15 回】 予習　：Do assigned reading 授業　：Course review and model lessons

授業開始前学習	Students can familiarize themselves with SLA in Japanese through various websites and books.　Please talk to the teacher if more advice is desired.
授業内課題のフィードバックの方法	Both written and oral feedback will be provided to all students.
テキスト・教材	Class materials will be provided by the instructor.
参考書	
評価の基準と方法	Participation 30 %, Homework 15%, In class evaluation 55%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	△		○

関連科目	
その他	It will be a good opportunity for students interested in teaching to learn some different methods.　Also, it will be good for anyone wanting to gain confidence in their English ability.
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-330-14	授業コード	FC0460
科目名称	Core Studies Ⅳ			単位数	2.0 単位
英文名称	Core Studies Ⅳ			授業区分	講義
科目責任者	Ｔ．プラザ			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	Ｔ．プラザ			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　月曜日 13:00～14:30　木曜日 13:00～14:30 後期　月曜日 13:00～14:30　木曜日 13:00～14:30			研究室	10-608
授業概要	This course will continue where Core Studies III left off. Students will be exposed to current ideas in second language teaching pedagogy. Students will learn a variety of techniques and methodologies that can be applied in various English learning situations and gain practical experience in designing English language lessons. Group work and discussion are key components of the class.				
到達目標	There are two aims in this class.　First, students will learn key features of second language acquisition (SLA) theory.　Second, students will learn how to apply SLA theory in a variety of learning situations.　Various types of practical English teaching				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	Ｔ．プラザ	【第 1 回】 予習　：Prepare a self-introduction 授業　：Course goals and schedule 復習　：Review notes/ Do homework
2	Ｔ．プラザ	【第 2 回】 予習　：Do assigned reading 授業　：Advanced topics in teaching conversation Part 1 復習　：Review notes/ Do homework
3	Ｔ．プラザ	【第 3 回】 予習　：Do assigned reading 授業　：Advanced topics in teaching conversation Part 2 復習　：Review notes/ Do homework
4	Ｔ．プラザ	【第 4 回】 予習　：Do assigned reading 授業　：Sociocultural theory in practice Part 1 復習　：Review notes/ Do homework
5	Ｔ．プラザ	【第 5 回】 予習　：Do assigned reading 授業　：Sociocultural theory in practice Part 2 復習　：Review notes/ Do homework
6	Ｔ．プラザ	【第 6 回】 予習　：Do assigned reading 授業　：Student model lessons 復習　：Review notes/ Do homework
7	Ｔ．プラザ	【第 7 回】 予習　：Do assigned reading 授業　：Student model lessons 復習　：Review notes/ Do homework
8	Ｔ．プラザ	【第 8 回】 予習　：Prepare for model lessons 授業　：Student model lessons 復習　：Review notes/ Do homework
9	Ｔ．プラザ	【第 9 回】 予習　：Do assigned reading 授業　：Content based teaching Part 1 復習　：Review notes/ Do homework
10	Ｔ．プラザ	【第 10 回】 予習　：Do assigned reading 授業　：Content based teaching Part 2 復習　：Review notes/ Do homework
11	Ｔ．プラザ	【第 11 回】 予習　：Do assigned reading 授業　：Content based teaching Part 3 復習　：Review notes/ Do homework

12	T．プラザ	【第 12 回】 予習　：Do assigned reading 授業　：End of term reflection 復習　：Review notes/ Do homework
13	T．プラザ	【第 13 回】 予習　：Do assigned reading 授業　：Student model lessons 復習　：Review notes/ Do homework
14	T．プラザ	【第 14 回】 予習　：Do assigned reading 授業　：Student model lessons 復習　：Review notes/ Do homework
15	T．プラザ	【第 15 回】 予習　：Do assigned reading 授業　：Course review and model lessons

授業開始前学習	Students can familiarize themselves with SLA in Japanese through various websites and books.　Please talk to the teacher if more advice is desired.
授業内課題のフィードバックの方法	Both written and oral feedback will be provided to all students.
テキスト・教材	Class materials will be provided by the instructor.
参考書	
評価の基準と方法	Participation 30 %, Homework 15%, In class evaluation 55%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	△		○

関連科目	
その他	It will be a good opportunity for students interested in teaching to learn some different methods.　Also, it will be good for anyone wanting to gain confidence in their English ability.
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-331-12	授業コード	FC0470
科目名称	ｲｷﾞﾘｽ文学Ⅰ			単位数	2.0 単位
英文名称	British Literature Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	松山　響子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松山　響子			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期　水曜日 13:00～14:30　木曜日 10:40～12:10 後期　水曜日 09:00～10:30　水曜日 13:00～14:30			研究室	10-605
授業概要	この講義では 7 世紀から 18 世紀までの約千年にわたるイギリス文学史の概要を理解することを目標としています。主要な作家、作品を取り上げながら講義します。スライドや映像などもできるだけ併用しながら、作品や作品を生み出した時代に対するイメージを具体的にとらえることを目標とします。				
到達目標	・文学における様々なジャンルとその変遷を理解することができるようになる ・歴史と文学のかかわりを理解することができるようになる				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	松山　響子	【第 1 回】 予習　：授業シラバスに目を通してくること 授業　：西欧文学を学ぶ前に知っておくべき基礎知識 復習　：授業目的の確認
2	松山　響子	【第 2 回】 予習　：教科書 P.2~P.5 を読む 授業　：古英語の時代と文学作品、現代英語と文字や言語構造の違いを知る 復習　：課題・教科書 P.2~P.5 を読む
3	松山　響子	【第 3 回】 予習　：教科書 P.6~P.10 を読む 授業　：中世英文学、他言語の流入による言語と文学の変化を学ぶ 復習　：課題・教科書 P.6~P.10 を読む
4	松山　響子	【第 4 回】 予習　：教科書 P.11~P.14 を読む 授業　：中世からルネッサンスへの過渡期の言語と文学の関連を学ぶ 復習　：課題・教科書 P.11~P.14 を読む
5	松山　響子	【第 5 回】 予習　：教科書 P.14~P.22 を読む 授業　：イギリス・ルネサンス文学と宮廷詩人による詩の発展 復習　：課題・教科書 P.14~P.22 を読む
6	松山　響子	【第 6 回】 予習　：教科書 P.23~P.31 を読む 授業　：イギリス演劇の誕生、大衆に開かれた文学作品とそれを取り巻く文化 復習　：課題・教科書 P.23~P.31 を読む
7	松山　響子	【第 7 回】 予習　：教科書 P.32~P.38 を読む 授業　：イギリス演劇の発展、洗練される演劇文化と文学作品の言語への影響 復習　：課題・教科書 P.32~P.38 を読む
8	松山　響子	【第 8 回】 予習　：教科書 P.39~P.43 を読む 授業　：シェイクスピアの登場と言語的・文化的影響 復習　：課題・教科書 P.39~P.43 を読む
9	松山　響子	【第 9 回】 予習　：教科書 P.39~P.43 を読む 授業　：シェイクスピアの登場と言語的・文化的影響(1) 復習　：課題・教科書 P.39~P.43 を読む
10	松山　響子	【第 10 回】 予習　：教科書 P.39~P.43 を読む 授業　：シェイクスピアの登場と言語的・文化的影響(2) 復習　：課題・教科書 P.39~P.43 を読む
11	松山　響子	【第 11 回】 予習　：教科書 P.44~P.50 を読む 授業　：ルネッサンス後期の演劇作品と政治・文化(3) 復習　：課題・教科書 P.44~P.50 を読む

12	松山　響子	【第 12 回】 予習　：教科書　P.51~P.58 を読む 授業　：清教徒革命が詩人に与える影響 復習　：課題・教科書　P.51~P.58 を読む
13	松山　響子	【第 13 回】 予習　：教科書　P.59~P.66 を読む 授業　：課題・ジョン・ミルトンと『パラダイス・ロスト』 復習　：課題・教科書　P.59~P.66 を読む
14	松山　響子	【第 14 回】 予習　：教科書　P.66~P.71 を読む 授業　：詩から散文へ、日常使用の言語による文学作品の登場 復習　：課題・教科書　P.66~P.71 を読む
15	松山　響子	【第 15 回】 予習　：教科書　P.72~P.77 を読む 授業　：小説の登場、日常使用の言語による文学作品の発展 復習　：課題・教科書　P.72~P.77 を読む

授業開始前学習	かならず事前に指定をされた教科書の該当箇所を読んでくる。教科書の指定箇所は授業進度に合わせて適宜変更する。
授業内課題のフィードバックの方法	授業内容についての感想を毎回授業終了時に提出をする。授業内で授業中に紹介をした文学作品に関しての質問、あるいは文化的事象についての質問を毎回受け付ける。質問に関しては次回の授業で無記名で回答を行う。
テキスト・教材	川崎寿彦著 『イギリス文学史入門』(研究社)
参考書	石塚久郎編『イギリス文学入門』(三修社) 神山妙子編著『はじめて学ぶイギリス文学史』(ミネルヴァ書房) 白井義昭『読んで愉しむイギリス文学史入門』(春風社)
評価の基準と方法	期末レポート、授業内で行う課題、授業参加態度で評価します。 期末レポート：60% 授業内課題・授業参加:40% 出席が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は、単位を認定することができません。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	△			○			

関連科目	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ専攻研究 A
その他	現在でも様々な場面で使われる英語の「決まり文句」は、大部分この期間に書かれた文学作品から引用されています。期間の長さに驚かず、イギリスの文学作品がどんなものなのかを考えるきっかけにして下さい。 提出物等は Google Classroom を通じて行います。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-331-12	授業コード	FC0480
科目名称	ｲｷﾞﾘｽ文学Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	British LiteratureⅡ			授業区分	講義
科目責任者	松山　響子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松山　響子			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期　水曜日 13:00～14:30　木曜日 10:40～12:10 後期　水曜日 09:00～10:30　水曜日 13:00～14:30			研究室	10-605
授業概要	この講義では 18 世紀から現在までのイギリス文学を解説し、それを通してロマン派、ビクトリア朝、そして現代までのイギリス文学史について、主要な作家、作品を取り上げながら講義します。スライドや映像などもできるだけ併用しながら、作品や時代に対するイメージを具体的にとらえることを目標とします。				
到達目標	・文学における様々なジャンルとその変遷を理解することができるようになる ・歴史と文学のかかわりを理解することができるようになる ・20 世紀における文学の転換とそのきっかけとなった歴史的出来事のつながりを理解することができるようになる				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	松山　響子	【第 1 回】 予習　：教科書 P.81~P.84 を読む 授業　：18 世紀の演劇とヨーロッパから流入してきた演劇文化への対応 復習　：教科書 P.81~P.84 を読む
2	松山　響子	【第 2 回】 予習　：教科書 P.85~P.92 を読む 授業　：18 世紀の小説（1）人気小説の誕生と識字率向上による文化環境の変化 復習　：授業内容を 400 字程度にまとめて提出
3	松山　響子	【第 3 回】 予習　：教科書 P.92~P.98 を読む 授業　：18 世紀の小説（2）女流小説家の誕生と発展、女性を取り巻く文化の変化 復習　：教科書 P.85~P.92 を読む
4	松山　響子	【第 4 回】 予習　：教科書 P.99~P.106 を読む 授業　：ロマン派の詩人たち（1）ワーズワースとコールリッジ 復習　：教科書 P.99~P.106 を読む
5	松山　響子	【第 5 回】 予習　：教科書 P.106~P.112 を読む 授業　：ロマン派の詩人たち（2）キーツ、バイロンとシェリー 復習　：教科書 P.106~P.112 を読む
6	松山　響子	【第 6 回】 予習　：教科書 P.113~P.121 を読む 授業　：ヴィクトリア朝時代の詩と散文、時代的な風潮の文化への影響 復習　：教科書 P.113~P.121 を読む
7	松山　響子	【第 7 回】 予習　：教科書 P.121~P.128 を読む 授業　：ラファエロ前派、文学作品と絵画による相互作用の時代 復習　：教科書 P.121~P.128 を読む
8	松山　響子	【第 8 回】 予習　：教科書 P.129~P.136 を読む 授業　：ヴィクトリア朝時代の小説家たち（1）産業革命と社会運動 復習　：教科書 P.129~P.136 を読む
9	松山　響子	【第 9 回】 予習　：教科書 P.137~P.145 を読む 授業　：ヴィクトリア朝時代の小説家たち（2）進化論の登場と文化への影響 復習　：教科書 P.137~P.145 を読む
10	松山　響子	【第 10 回】 予習　：教科書 P.146~P.158 を読む 授業　：20 世紀の詩と演劇（1）消費される文学作品と過去との差異化 復習　：教科書 P.146~P.158 を読む
11	松山　響子	【第 11 回】 予習　：教科書 P.146~P.158 を読む 授業　：20 世紀の詩と演劇（2）過去との差異化 復習　：教科書 P.146~P.158 を読む

12	松山　響子	【第 12 回】 予習　：教科書　P.159~P.166 を読む 授業　：20 世紀の小説（１）小説とは何か、イギリスへのアメリカ・アイルランドの影響 復習　：教科書　P.159~P.166 を読む
13	松山　響子	【第 13 回】 予習　：教科書　P.167~P.173 を読む 授業　：20 世紀の小説（２）広がる英語圏の文学、オーストラリア・インド・南アフリカの影響 復習　：教科書　P.167~P.173 を読む
14	松山　響子	【第 14 回】 予習　：教科書　P.178~P.173 を読む 授業　：現代の英文学、英語圏の文学と文学の社会における役割 復習　：教科書　P.178~P.173 を読む
15	松山　響子	【第 15 回】 授業　：木間ｔレポート作成時の注意

授業開始前学習	かならず事前に指定をされた教科書の該当箇所を読んでくる。教科書の指定箇所は授業進度に合わせて適宜変更する。
授業内課題のフィードバックの方法	授業内容についての感想を毎回授業終了時に提出をする。授業内で授業中に紹介をした文学作品に関しての質問、あるいは文化的事象についての質問を毎回受け付ける。質問に関しては次回の授業で無記名で回答を行う。
テキスト・教材	川崎寿彦著 『イギリス文学史入門』(研究社)
参考書	石塚久郎編『イギリス文学入門』(三修社) 神山妙子編著『はじめて学ぶイギリス文学史』(ミネルヴァ書房) 白井義昭『読んで愉しむイギリス文学史入門』(春風社)
評価の基準と方法	期末レポート、授業内で行う課題、授業参加態度で評価します。 期末レポート：60% 授業内課題・授業参加:40% 出席が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は、単位を認定することができません。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	△			○			

関連科目	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ専攻研究 A
その他	現在までのイギリス文学を通して、自分の好きな作品を見つけてみてください。同時に２０世紀までの英文学と 20 世紀以降の今につながる英文学との違いを実感してみてください。 提出物等は Google Classroom を通じて行います。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-331-12	授業コード	FC0490
科目名称	ｱﾒﾘｶ文学 I			単位数	2.0 単位
英文名称	American Literature I			授業区分	講義
科目責任者	佐野　陽子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	佐野　陽子			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	この授業では、アメリカの植民地時代から南北戦争までのアメリカ文学の中で、それぞれの時代を代表する作品を取り上げ、原文の抜粋も読みながら、人種、階級、ジェンダー、宗教といったアメリカ文学の重要テーマについて考える。講義を中心とするが、ディスカッションやプレゼンテーションも取り入れる。				
到達目標	アメリカの植民地時代から南北戦争までの文学史を概観した上で、アメリカ文学の重要テーマを学び、また作品を実際に読むことで英文を読む力を身につける。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	佐野　陽子	【第 1 回】 イントロダクション：アメリカ文学を学ぶということ
2	佐野　陽子	【第 2 回】 予習：植民地時代のアメリカの歴史について調べる。（教科書 pp. 2-3） 授業：植民地時代のアメリカの歴史・文学・文化の概説 復習：植民地時代のアメリカの歴史・文学・文化についてまとめる。
3	佐野　陽子	【第 3 回】 予習：ジョナサン・エドワーズとベンジャミン・フランクリンについて調べる。 授業：ジョナサン・エドワーズ「怒れる神の手の中にある罪人」、ベンジャミン・フランクリン『自伝』講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。
4	佐野　陽子	【第 4 回】 予習：独立期から南北戦争までのアメリカの歴史について調べる。（教科書 pp. 4-11） 授業：独立期から南北戦争までのアメリカの歴史・文学・文化の概説 復習：独立期から南北戦争までのアメリカの歴史・文学・文化についてまとめる。
5	佐野　陽子	【第 5 回】 予習：ハナ・ウェブスター・フォスターについて調べる。 授業：ハナ・ウェブスター・フォスター『コケット』講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。
6	佐野　陽子	【第 6 回】 予習：ラルフ・ウォルドー・エマソンについて調べる。（教科書 pp. 60-61） 授業：ラルフ・ウォルドー・エマソン「自然」「自己信頼」講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。
7	佐野　陽子	【第 7 回】 予習：ナサニエル・ホーソーンについて調べる。（教科書 pp. 64-65） 授業：ナサニエル・ホーソーン『緋文字』講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。
8	佐野　陽子	【第 8 回】 予習：エドガー・アラン・ポーについて調べる。（教科書 pp. 58-59） 授業：エドガー・アラン・ポー「アッシャー家の崩壊」講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。
9	佐野　陽子	【第 9 回】 予習：ハリエット・ビーチャー・ストウについて調べる。（教科書 pp. 72-73） 授業：ハリエット・ビーチャー・ストウ『アンクル・トムの小屋』講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。
10	佐野　陽子	【第 10 回】 予習：ハリエット・ジェイコブスについて調べる。 授業：ハリエット・ジェイコブス『ある奴隷少女に起こった出来事』講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。
11	佐野　陽子	【第 11 回】 予習：ヘンリー・デイヴィッド・ソローについて調べる。（教科書 pp. 62-63） 授業：ヘンリー・デイヴィッド・ソロー『ウォールデン』講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。

12	佐野　陽子	【第 12 回】 予習：ハーマン・メルヴィルについて調べる。（教科書 pp. 66-69） 授業：ハーマン・メルヴィル『白鯨』講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。
13	佐野　陽子	【第 13 回】 予習：ウォルト・ホイットマン、エミリー・ディキンソンについて調べる。（教科書 pp. 76-79） 授業：ウォルト・ホイットマン、エミリー・ディキンソン講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。
14	佐野　陽子	【第 14 回】 予習：第 1 回プレゼンテーションの担当者は、前期に読んだ作品の中からひとつもしくは複数選び、テーマを設定して、プレゼンテーションの準備をする。 授業：プレゼンテーション（第 1 回）とディスカッション 復習：前期に読んできた作品を見直し、学んだことを振り返る。
15	佐野　陽子	【第 15 回】 予習：第 2 回プレゼンテーションの担当者は、前期に読んだ作品の中からひとつもしくは複数選び、テーマを設定して、プレゼンテーションの準備をする。 授業：プレゼンテーション（第 2 回）とディスカッション 復習：前期に読んできた作品を見直し、学んだことを振り返る。

授業開始前学習	前期の授業で扱う作品の中からひとつ興味のあるものを選んで、事前に 1 冊読んでおくことが望ましい。
授業内課題のフィードバックの方法	毎回の授業で取り上げる作品についてのコメントと学期末のプレゼンテーションに対して、授業内でフィードバックをします。
テキスト・教材	竹内理矢・山本洋平編著『深まりゆくアメリカ文学　源流と展開』（ミネルヴァ書房）
参考書	授業で扱った作品を、各自、原書や翻訳などで読むことが望ましい。
評価の基準と方法	授業参画度（40%） プレゼンテーション（60%）
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	△			○			

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-331-12	授業コード	FC0500
科目名称	ｱﾒﾘｶ文学Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	American LiteratureⅡ			授業区分	講義
科目責任者	佐野　陽子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	佐野　陽子			開講時期	2 年
ｵﾌｨｽｱﾜｰ	-			研究室	-
授業概要	この授業では、アメリカの南北戦争後から冷戦終結までのアメリカ文学の中で、それぞれの時代を代表する作品を取り上げ、原文の抜粋も読みながら、人種、階級、ジェンダー、宗教といったアメリカ文学の重要テーマについて考える。講義を中心とするが、ディスカッションやプレゼンテーションも取り入れる。				
到達目標	アメリカの南北戦争後から冷戦終結までの文学史を概観した上で、アメリカ文学の重要テーマを学び、また作品を実際に読むことで英文を読む力を身につける。				
ｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞ型授業	有	全授業回数	15 回	ﾒﾃﾞｨｱ科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	佐野　陽子	【第 1 回】 ｲﾝﾄﾛﾀﾞｸｼｮﾝ：ｱﾒﾘｶ文学を学ぶということ
2	佐野　陽子	【第 2 回】 予習：南北戦争後から第 1 次世界大戦までのアメリカの歴史について調べる。（教科書 pp. 12-17） 授業：南北戦争後から第 1 次世界大戦までのアメリカの歴史・文学・文化の概説 復習：南北戦争後から第 1 次世界大戦までのアメリカの歴史・文学・文化についてまとめる。
3	佐野　陽子	【第 3 回】 予習：マーク・トウェインについて調べる。（教科書 pp. 80-81） 授業：マーク・トウェイン『ハックルベリー・フィンの冒険』講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。
4	佐野　陽子	【第 4 回】 予習：ヘンリー・ジェイムズについて調べる。（教科書 pp. 82-83） 授業：ヘンリー・ジェイムズ『ある婦人の肖像』講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。
5	佐野　陽子	【第 5 回】 予習：イーディス・ウォートンについて調べる。（教科書 pp. 92-93） 授業：イーディス・ウォートン『歓楽の家』講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。
6	佐野　陽子	【第 6 回】 予習：シオドア・ドライサーについて調べる。（教科書 pp. 90-91） 授業：シオドア・ドライサー『シスター・キャリー』講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。
7	佐野　陽子	【第 7 回】 予習：第 1 次世界大戦後から第 2 次世界大戦までのアメリカの歴史について調べる。（教科書 pp. 16-31） 授業：第 1 次世界大戦後から第 2 次世界大戦までのアメリカの歴史・文学・文化の概説 復習：第 1 次世界大戦後から第 2 次世界大戦までのアメリカの歴史・文学・文化についてまとめる。
8	佐野　陽子	【第 8 回】 予習：ウィラ・キャザーについて調べる。（教科書 pp. 94-95） 授業：ウィラ・キャザー『私のアントニア』講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。
9	佐野　陽子	【第 9 回】 予習：F・スコット・フィッツジェラルドについて調べる。（教科書 pp. 110-111） 授業：F・スコット・フィッツジェラルド『偉大なるギャツビー』講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。
10	佐野　陽子	【第 10 回】 予習：ウィリアム・フォークナーについて調べる。（教科書 pp. 114-117） 授業：ウィリアム・フォークナー『八月の光』講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。
11	佐野　陽子	【第 11 回】 予習：アーネスト・ヘミングウェイについて調べる。（教科書 pp. 112-113） 授業：アーネスト・ヘミングウェイ『老人と海』講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。

12	佐野　陽子	【第 12 回】 予習：第 2 次世界大戦後から冷戦終結までのアメリカの歴史について調べる。（教科書　pp. 32-41） 授業：第 2 次世界大戦後から冷戦終結までのアメリカの歴史・文学・文化の概説 復習：第 2 次世界大戦後から冷戦終結までのアメリカの歴史・文学・文化についてまとめる。
13	佐野　陽子	【第 13 回】 予習：トルーマン・カポーティについて調べる。（教科書　pp. 132-133） 授業：トルーマン・カポーティ『ティファニーで朝食を』講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。
14	佐野　陽子	【第 14 回】 予習：トニ・モリソンについて調べる。（教科書　pp. 148-149） 授業：トニ・モリソン『青い眼がほしい』講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。
15	佐野　陽子	【第 15 回】 予習：プレゼンテーションの担当者は、後期に読んだ作品の中からひとつもしくは複数選び、テーマを設定して、プレゼンテーションの準備をする。 授業：プレゼンテーションとディスカッション 復習：後期に読んできた作品を見直し、学んだことを振り返る。

授業開始前学習	後期の授業で扱う作品の中からひとつ興味のあるものを選んで、事前に 1 冊読んでおくことが望ましい。
授業内課題のフィードバックの方法	毎回の授業で取り上げる作品についてのコメントと学期末のプレゼンテーションに対して、授業内でフィードバックをします。
テキスト・教材	竹内理矢・山本洋平編著『深まりゆくアメリカ文学　源流と展開』（ミネルヴァ書房）
参考書	授業で扱った作品を、各自、原書や翻訳などで読むことが望ましい。
評価の基準と方法	授業参画度（40%） プレゼンテーション（60%）
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	△			○			

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-331-12	授業コード	FC0510
科目名称	英語学概論 I			単位数	2.0 単位
英文名称	Introduction to English Linguistics I			授業区分	講義
科目責任者	神谷 昇			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	神谷 昇			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	この授業は、英語、日本語あるいは言葉一般に見られるさまざまな特徴について学習しながら、「ことば」とは何か、「ことば」を使用する人間とはどのようなものであるのかについて理解することを目的とする。この授業では、発音、語彙、英語の歴史、英語と社会とのかかわり、文の仕組みについて、基本的事項の修得を目指す。				
到達目標	英語の発音、語彙、英語の歴史、英語と社会とのかかわり、文の仕組みなどについて、重要な概念を具体例を用いて説明できるようになることを目指す。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	神谷 昇	【第 1 回】 予習：（1）オンライン上のシラバスを読み、授業の流れを理解しておくこと （2）『探検！ことばの世界』（大津由紀雄）を読んでおく 授業：授業内容の説明、および、英語学とはどのような分野であるのかの説明 復習：授業で扱った基本的事項の復習
2	神谷 昇	【第 2 回】 予習：教科書 p. 2-p. 9 までを講読 授業：第 1 章「ことばの起源と語族」（教科書 p. 2-p. 9） 復習：教科書 p. 2-p. 9 に掲載されている用語の再確認
3	神谷 昇	【第 3 回】 予習：教科書 p. 10-p. 17 までを講読 授業：第 2 章「人間のことばと言語研究」（教科書 p. 10-p. 17）（発表） 復習：教科書 p. 10-p. 17 に掲載されている用語の再確認
4	神谷 昇	【第 4 回】 予習：教科書 p. 18-p. 25 までを講読 授業：第 3 章「英語の発音とスペリング」（教科書 p. 18-p. 25）（発表） 復習：教科書 p. 18-p. 25 に掲載されている用語の再確認
5	神谷 昇	【第 5 回】 予習：教科書 p. 26-p. 33 までを講読 授業：第 4 章「英語の語彙の多様性」（教科書 p. 26-p. 33）（発表） 復習：教科書 p. 26-p. 33 に掲載されている用語の再確認
6	神谷 昇	【第 6 回】 予習：教科書 p. 34-p. 41 までを講読 授業：第 5 章「標準英語の成立」（教科書 p. 34-p. 41）（発表） 復習：教科書 p. 34-p. 41 に掲載されている用語の再確認
7	神谷 昇	【第 7 回】 予習：教科書 p. 42-p. 49 までを講読 授業：第 6 章「英語のバリエーション」（教科書 p. 42-p. 49）（発表） 復習：教科書 p. 42-p. 49 に掲載されている用語の再確認
8	神谷 昇	【第 8 回】 予習：教科書 p. 50-p. 57 までを講読 授業：第 7 章「ことばの変化」（教科書 p. 50-p. 57）（発表） 復習：教科書 p. 50-p. 57 に掲載されている用語の再確認
9	神谷 昇	【第 9 回】 予習：教科書 p. 58-p. 65 までを講読 授業：第 8 章「ことばと音声」（教科書 p. 58-p. 65）（発表） 復習：教科書 p. 58-p. 65 に掲載されている用語の再確認
10	神谷 昇	【第 10 回】 予習：教科書 p. 66-p. 73 までを講読 授業：第 9 章「音の組み合わせとアクセント」（教科書 p. 66-p. 73）（発表） 復習：教科書 p. 66-p. 73 に掲載されている用語の再確認
11	神谷 昇	【第 11 回】 予習：教科書 p. 74-p. 81 までを講読 授業：第 10 章「単語ができるしくみ」（教科書 p. 74-p. 81）（発表） 復習：教科書 p. 74-p. 81 に掲載されている用語の再確認

12	神谷 昇	【第 12 回】 予習：教科書 p. 82-p. 89 までを講読 授業：第 11 章「文ができるしくみ」（教科書 p. 82-p. 89）（発表） 復習：教科書 p. 82-p. 89 に掲載されている用語の再確認
13	神谷 昇	【第 13 回】 予習：教科書 p. 90-p. 97 までを講読 授業：第 12 章「文の内部構造」（教科書 p. 90-p. 97）（発表） 復習：教科書 p. 90-p. 97 に掲載されている用語の再確認
14	神谷 昇	【第 14 回】 予習：教科書 p. 2-p. 49 までを再講読 授業：教科書 p. 2-p. 49 までの内容に沿った練習問題 復習：教科書 p. 2-p. 49 に掲載されている用語の再確認
15	神谷 昇	【第 15 回】 予習：教科書 p. 50-p. 97 までを再講読 授業：教科書 p. 50-p. 97 までの内容に沿った練習問題 復習：教科書 p. 50-p. 97 に掲載されている用語の再確認

授業開始前学習	各回の授業においては、授業前にテキストを一読し、新規の専門用語について辞典などで調べて授業に臨むことを強く勧める。
授業内課題のフィードバックの方法	課題の内容については授業中に確認と解説を行う。
テキスト・教材	長谷川瑞穂（編著）『はじめての英語学＜改訂版＞』（研究社） ISBN 978-4-327-40165-8
参考書	大津由紀雄『探検！ことばの世界』（ひつじ書房） 斎藤純男、田口善久、西村義樹（編）『明解言語学辞典』（三省堂） この他の参考書については、授業で適宜紹介する。
評価の基準と方法	授業中の演習、期末レポートなどを踏まえ総合的に行う。内訳は、期末課題（40%）、授業中の演習（30%）、授業態度（30%）である。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎				○			△

関連科目	英語音声学 I・II（本授業の第 9 回と第 10 回の学習内容をさらに深める。） グラマー・使える英文法 I・II（本授業の第 12 回と第 13 回の学習内容の基礎となる内容を扱う。）
その他	毎回の授業には必ずパソコンかスマホを持ってくること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）		科目分類（～2024年入学者）	113-331-12	授業コード	FC0520
科目名称	英語学概論Ⅱ			単位数	2.0単位
英文名称	Introduction to English LinguisticsⅡ			授業区分	講義
科目責任者	神谷　昇			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	神谷　昇			開講時期	2年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	この授業は、「英語学概論Ⅰ」に引き続き、英語、日本語あるいは言葉一般に見られる様々な特徴について学習しながら、「ことば」とは何か、「ことば」を使用する人間とはどのようなものであるのかについて理解することを目的とする。この授業では、意味、語用論、英語と文化、英語と社会とのかかわり、英語教育についての基本的事項の修得を目指す。				
到達目標	意味、語用論、英語と文化、英語と社会とのかかわり、英語教育などについて、重要な概念を具体例を用いて説明ができることを目指す。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	神谷　昇	【第1回】 予習：教科書第1章から第12章までの再講読 授業：後期の授業内容の説明と、前期の学習内容の復習 復習：授業で扱った重要概念の復習
2	神谷　昇	【第2回】 予習：教科書 p. 98-p. 105までを講読 授業：第13章「ことばの意味とは何だろう」（教科書 p. 98-p. 105）（発表） 復習：教科書 p. 98-p. 105に掲載されている用語の再確認
3	神谷　昇	【第3回】 予習：教科書 p. 106-p. 113までを講読 授業：第14章「語の間の意味関係」（教科書 p. 106-p. 113）（発表） 復習：教科書 p. 106-p. 113に掲載されている用語の再確認
4	神谷　昇	【第4回】 予習：教科書 p. 114-p. 121までを講読 授業：第15章「意味の拡張」（教科書 p. 114-p. 121）（発表） 復習：教科書 p. 114-p. 121に掲載されている用語の再確認
5	神谷　昇	【第5回】 予習：教科書 p. 122-p. 129までを講読 授業：第16章「ことばの意味に見られる主観性」（教科書 p. 122-p. 129）（発表） 復習：教科書 p. 122-p. 129に掲載されている用語の再確認
6	神谷　昇	【第6回】 予習：教科書 p. 130-p. 137までを講読 授業：第17章「ことばの意味とコンテクスト」（教科書 p. 130-p. 137）（発表） 復習：教科書 p. 130-p. 137に掲載されている用語の再確認
7	神谷　昇	【第7回】 予習：教科書 p. 138-p. 145までを講読 授業：第18章「まとまりのある文章」（教科書 p. 138-p. 145）（発表） 復習：教科書 p. 138-p. 145に掲載されている用語の再確認
8	神谷　昇	【第8回】 予習：教科書 p. 146-p. 153までを講読 授業：第19章「文章中の談話構造」（教科書 p. 146-p. 153）（発表） 復習：教科書 p. 146-p. 153に掲載されている用語の再確認
9	神谷　昇	【第9回】 予習：教科書 p. 154-p. 161までを講読 授業：第20章「ことばのやりとりにおけるルール」（教科書 p. 154-p. 161）（発表） 復習：教科書 p. 154-p. 161に掲載されている用語の再確認
10	神谷　昇	【第10回】 予習：教科書 p. 162-p. 169までを講読 授業：第21章「コミュニケーションの民族誌」（教科書 p. 162-p. 169）（発表） 復習：教科書 p. 162-p. 169に掲載されている用語の再確認
11	神谷　昇	【第11回】 予習：教科書 p. 170-p. 177までを講読 授業：第22章「英語と文化」（教科書 p. 170-p. 177）（発表） 復習：教科書 p. 170-p. 177に掲載されている用語の再確認

12	神谷 昇	【第 12 回】 予習：教科書 p. 178-p. 185 までを講読 授業：第 23 章「ことばと社会」（教科書 p. 178-p. 185）（発表） 復習：教科書 p. 178-p. 185 に掲載されている用語の再確認
13	神谷 昇	【第 13 回】 予習：教科書 p. 186-p. 193 までを講読 授業：第 24 章「ことばと国家」（教科書 p. 186-p. 193）（発表） 復習：教科書 p. 186-p. 193 に掲載されている用語の再確認
14	神谷 昇	【第 14 回】 予習：教科書 p. 194-p. 201 までを講読 授業：第 25 章「日本の英語教育と教授法」（教科書 p. 194-p. 201）（発表） 復習：教科書 p. 194-p. 120 に掲載されている用語の再確認
15	神谷 昇	【第 15 回】 予習：教科書 p. 98-p. 201 までを再講読 授業：教科書 p. 98-p. 201 までの内容に沿った練習問題 復習：教科書 p. 98-p. 201 に掲載されている用語の再確認

授業開始前学習	各回の授業においては、授業前にテキストを一読し、新規の専門用語について辞典などで調べて授業に臨むことを勧める。
授業内課題のフィードバックの方法	課題の内容については授業中に確認と解説を行う。
テキスト・教材	長谷川瑞穂（編著）『はじめての英語学＜改訂版＞』（研究社） ISBN 978-4-327-40165-8
参考書	大津由紀雄『探検！ことばの世界』（ひつじ書房） 斎藤純男、田口善久、西村義樹（編）『明解言語学辞典』（三省堂） この他の参考書については、授業で適宜紹介する。
評価の基準と方法	授業中の演習、期末レポートなどを踏まえ総合的に行う。内訳は、期末課題（40%）、授業中の演習（30%）、授業態度（30%）である。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎				○			△

関連科目	英語学概論Ⅰ（英語学概論Ⅰで学習した内容を踏まえてこの授業を行う。）
その他	毎回の授業には必ずパソコンかスマホを持ってくること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-331-12（J）	授業コード	FC0530
科目名称	英語教育学概論 I			単位数	2.0 単位
英文名称	Introduction to English Teaching I			授業区分	講義
科目責任者	浅川 真知子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	浅川 真知子			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～10:30 木曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 09:00～10:30 木曜日 13:00～14:30			研究室	10-603
授業概要	テキストを読み、ディスカッションや活動実践を通じて英語教育・英語学習の基本的な事項を学ぶ。英語学習者として授業を受けた経験や英語学習経験を踏まえ、「英語の学びはどのように起こるか」「どのように英語を教えることが大切なのか」などの問いについて考えていく。				
到達目標	1．言語習得の基礎的な理論を理解し、説明できる 2．自分の英語学習を授業で学んだ理論を用いて分析できる 3．日本の小中高の英語教育の現状および課題を知る				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	浅川 真知子	【第 1 回】 予習 ：自分が受けてきた英語教育、行ってきた英語学習を振り返る 授業 ：オリエンテーション、自身の英語学習体験について考える（ディスカッション） 復習 ：学習内容の振り返りを提出
2	浅川 真知子	【第 2 回】 予習 ：教科書の該当ページや資料を読み、感想・疑問点をメモする 授業 ：「「第二言語習得」から英語の学び方を考える」（第 1 章）①（グループワーク） 復習 ：学習内容の振り返りを提出
3	浅川 真知子	【第 3 回】 予習 ：教科書の該当ページや資料を読み、感想・疑問点をメモする 授業 ：「「第二言語習得」から英語の学び方を考える」（第 1 章）②（ディスカッション） 復習 ：学習内容の振り返りを提出
4	浅川 真知子	【第 4 回】 予習 ：教科書の該当ページや資料を読み、感想・疑問点をメモする 授業 ：「「第二言語習得」から英語の学び方を考える」（第 1 章）に関する発表・討論（発表・ディスカッション） 復習 ：学習内容の振り返りを提出
5	浅川 真知子	【第 5 回】 予習 ：教科書の該当ページや資料を読み、感想・疑問点をメモする 授業 ：「「第二言語」として目指すべき英語力とは？」（第 2 章）①（グループワーク） 復習 ：学習内容の振り返りを提出
6	浅川 真知子	【第 6 回】 予習 ：教科書の該当ページや資料を読み、感想・疑問点をメモする 授業 ：「「第二言語」として目指すべき英語力とは？」（第 2 章）②（ディスカッション） 復習 ：学習内容の振り返りを提出
7	浅川 真知子	【第 7 回】 予習 ：教科書の該当ページや資料を読み、感想・疑問点をメモする 授業 ：「「第二言語」として目指すべき英語力とは？」（第 2 章）に関する発表・討論（発表・ディスカッション） 復習 ：学習内容の振り返りを提出
8	浅川 真知子	【第 8 回】 予習 ：教科書の該当ページや資料を読み、感想・疑問点をメモする 授業 ：「英語を学ぶモチベーションのメカニズム」（第 3 章）①（グループワーク） 復習 ：学習内容の振り返りを提出
9	浅川 真知子	【第 9 回】 予習 ：教科書の該当ページや資料を読み、感想・疑問点をメモする 授業 ：「英語を学ぶモチベーションのメカニズム」（第 3 章）②（ディスカッション） 復習 ：学習内容の振り返りを提出
10	浅川 真知子	【第 10 回】 予習 ：教科書の該当ページや資料を読み、感想・疑問点をメモする 授業 ：「英語を学ぶモチベーションのメカニズム」（第 3 章）に関する発表・討論（発表・ディスカッション） 復習 ：学習内容の振り返りを提出
11	浅川 真知子	【第 11 回】 予習 ：教科書の該当ページや資料を読み、感想・疑問点をメモする 授業 ：「英語学習のプリンシプル」（第 4 章）①（グループワーク） 復習 ：学習内容の振り返りを提出

12	浅川　真知子	【第 12 回】 予習　：教科書の該当ページや資料を読み、感想・疑問点をメモする 授業　：「英語学習のプリンシプル」（第４章）②（ディスカッション） 復習　：学習内容の振り返りを提出
13	浅川　真知子	【第 13 回】 予習　：教科書の該当ページや資料を読み、感想・疑問点をメモする 授業　：「英語学習のプリンシプル」（第４章）に関する発表・討論（発表・ディスカッション） 復習　：学習内容の振り返りを提出
14	浅川　真知子	【第 14 回】 予習　：これまでの学びを振り返る 授業　：日本の英語教育が抱える問題に関する議論（「習熟度別授業」「早期英語教育」など） 復習　：学習内容の振り返りを提出
15	浅川　真知子	【第 15 回】 予習　：レポート課題を完成させる 授業　：完成したレポート課題をベースにディスカッション・ピアフィードバックを行う（ディスカッション） 復習　：今学期の学びを振り返る

授業開始前学習	自分の英語学習経験を振り返る。
授業内課題のフィードバックの方法	課題や活動に対するフィードバックはその都度授業中、または返却時に行う。
テキスト・教材	新多了『「英語の学び方」入門』（研究社）2019 年（ISBN：978-4-327-45294-0）
参考書	授業中に適宜紹介する。
評価の基準と方法	授業への取り組み（発表・ディスカッションなど）（６０%）、課題・レポート（４０%）を総合的に評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎				○			△

関連科目	
その他	授業中は発表やディスカッションに積極的に参加すること。また、日頃から英語教育に関わる情報を収集するよう心がけること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	中学校・高等学校の教員経験を活かし、英語教育について実践的に考え議論する授業を行う。

科目分類（2025年～入学者）		科目分類（～2024年入学者）	113-331-12（J）	授業コード	FC0540
科目名称	英語教育学概論Ⅱ			単位数	2.0単位
英文名称	Introduction to English TeachingⅡ			授業区分	講義
科目責任者	浅川　真知子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	浅川　真知子			開講時期	2年
オフィスアワー	前期　火曜日 09:00～10:30　木曜日 13:00～14:30 後期　火曜日 09:00～10:30　木曜日 13:00～14:30			研究室	10-603
授業概要	テキストを読み、ディスカッションや活動実践を通じて英語教育・英語学習の基本的な事項を学ぶ。英語学習者として授業を受けた経験や英語学習経験を踏まえ、「英語の学びはどのように起こるか」「どのように英語を教えることが大切なのか」などの問いについて考えていく。				
到達目標	1．言語習得の基礎的な理論を理解し、説明できる 2．自分の英語学習を授業で学んだ理論を用いて分析できる 3．日本の小中高の英語教育の現状および課題を知る				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	浅川　真知子	【第1回】 予習　：自分が受けてきた英語教育、行ってきた英語学習を振り返る 授業　：オリエンテーション、自身の英語学習体験について考える（ディスカッション） 復習　：学習内容の振り返りを提出
2	浅川　真知子	【第2回】 予習　：教科書の該当ページや資料を読み、感想・疑問点をメモする 授業　：「ボキャブラリーの学び方」（第5章）に関する討論（ディスカッション） 復習　：学習内容の振り返りを提出
3	浅川　真知子	【第3回】 予習　：教科書の該当ページや資料を読み、感想・疑問点をメモする 授業　：「ボキャブラリーの学び方」（第5章）　コーパスを使った学習の実践と分析（グループワーク） 復習　：学習内容の振り返りを提出
4	浅川　真知子	【第4回】 予習　：教科書の該当ページや資料を読み、感想・疑問点をメモする 授業　：「英文法の学び方」（第6章）に関する討論（ディスカッション） 復習　：学習内容の振り返りを提出
5	浅川　真知子	【第5回】 予習　：教科書の該当ページや資料を読み、感想・疑問点をメモする 授業　：「英文法の学び方」（第6章）ゲームを通じた文法学習の実践と分析（グループワーク） 復習　：学習内容の振り返りを提出
6	浅川　真知子	【第6回】 予習　：教科書の該当ページや資料を読み、感想・疑問点をメモする 授業　：「リスニング・リーディングの学び方」（第7章）に関する討論（ディスカッション） 復習　：学習内容の振り返りを提出
7	浅川　真知子	【第7回】 予習　：教科書の該当ページや資料を読み、感想・疑問点をメモする 授業　：「リスニング・リーディングの学び方」（第7章）集中型学習・拡大型学習の実践と分析（グループワーク） 復習　：学習内容の振り返りを提出
8	浅川　真知子	【第8回】 予習　：教科書の該当ページや資料を読み、感想・疑問点をメモする 授業　：「スピーキングの学び方」（第8章）に関する討論（ディスカッション） 復習　：学習内容の振り返りを提出
9	浅川　真知子	【第9回】 予習　：教科書の該当ページや資料を読み、感想・疑問点をメモする 授業　：「スピーキングの学び方」（第8章）生成AIを利用した英語学習の実践と分析（グループワーク） 復習　：学習内容の振り返りを提出
10	浅川　真知子	【第10回】 予習　：教科書の該当ページや資料を読み、感想・疑問点をメモする 授業　：「ライティングの学び方」（第9章）に関する討論（ディスカッション） 復習　：学習内容の振り返りを提出
11	浅川　真知子	【第11回】 予習　：教科書の該当ページや資料を読み、感想・疑問点をメモする 授業　：「ライティングの学び方」（第9章）ジャンル準拠指導の実践と分析（グループワーク） 復習　：学習内容の振り返りを提出

12	浅川　真知子	【第 12 回】 予習　：発表準備 授業　：授業の実践発表①（発表・ディスカッション） 復習　：学習内容の振り返りを提出
13	浅川　真知子	【第 13 回】 予習　：発表準備 授業　：授業の実践発表②（発表・ディスカッション） 復習　：学習内容の振り返りを提出
14	浅川　真知子	【第 14 回】 予習　：発表準備 授業　：授業の実践発表③（発表・ディスカッション） 復習　：学習内容の振り返りを提出
15	浅川　真知子	【第 15 回】 予習　：レポート課題を完成させる 授業　：完成したレポート課題をベースにディスカッション・ピアフィードバックを行う（ディスカッション） 復習　：今学期の学びを振り返る

授業開始前学習	自分の英語学習経験を振り返る。
授業内課題のフィードバックの方法	課題や活動に対するフィードバックはその都度授業中、または返却時に行う。
テキスト・教材	新多了『「英語の学び方」入門』（研究社）2019 年（ISBN：978-4-327-45294-0）
参考書	授業中に適宜紹介する。
評価の基準と方法	授業への取り組み（発表・ディスカッションなど）（６０%）、課題・レポート（４０%）を総合的に評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎				○			△

関連科目	
その他	授業中は、発表やディスカッションに積極的に参加すること。また、日頃から英語教育に関わる情報を収集するよう心がけること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	中学校・高等学校の教員経験を活かし、英語教育について実践的に考え議論する授業を行う。

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-331-12	授業コード	FC0550
科目名称	ｱﾒﾘｶの文化と歴史Ⅰ			単位数	2.0 単位
英文名称	American Culture and History Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	羽鳥　修			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	羽鳥　修			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期　金曜日 10:30～14:30 後期　金曜日 10:30～14:30			研究室	10-609
授業概要	アメリカ合衆国の歴史を英領植民地時代に遡って概説します。歴史は、単に「過去」を学ぶことではなく、「現在」を知るために学ぶ学問です。従って、常に現在のアメリカに視点をおいて授業を進めます。この授業を通じて、アメリカを「観る目」を養うとともに、歴史を学ぶ意義と楽しさが伝えられることを目標にします。また、双方向型および課題解決型の授業を行うため、ほぼ毎回の授業でペア・ワークおよびグループワークを行います。				
到達目標	一つひとつの歴史的事象について、事象が起こった要因を歴史的文脈の中で「解釈」するとともに、それがその後の歴史とどのようにかかわっているのかについて「解釈」する能力が身につきます。その際に重要なことは、恣意的な解釈ではなく、しかるべき根拠に基づいて歴史を「解釈」することです。また、授業を通じて主に筆記力、傾聴力、表現力、調べる力などを身につけます。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	羽鳥　修	【第 1 回】 予習　：テキスト「はじめに」を事前に読む 授業　：授業計画・方針、成績評価の基準・方法等を説明し、そのとでアメリカに関する基本的な質疑応答を行う 復習　：ノートの確認後コメントシートを書いて提出する
2	羽鳥　修	【第 2 回】 予習　：テキスト 4 頁~5 頁を講読し、疑問点をチェックする 授業　：西ヨーロッパ諸国による大西洋進出の歴史的背景（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習　：課題 1・2（テキスト 8~9 頁）、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する
3	羽鳥　修	【第 3 回】 予習　：テキスト 5 頁?8 頁を講読し、疑問点をチェックする 授業　：西半球におけるフランスとスペインによる植民活動の特徴（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習　：課題 3･5（テキスト 8~9 頁）、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。
4	羽鳥　修	【第 4 回】 予習　：テキスト 10 頁~15 頁を講読し、疑問点をチェックする。 授業　：イギリス領植民地の建設･･･南部植民地　（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習　：課題 1（テキスト 25~26 頁）、質問事項を記入する。ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。
5	羽鳥　修	【第 5 回】 予習：テキスト 14 頁~18 頁を講読し、疑問点をチェックする 授業　：イギリス領植民地の建設･･･ニューイングランド植民地　（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習　：課題 2~5（テキスト 26~26 頁）、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。
6	羽鳥　修	【第 6 回】 予習　：テキスト 14 頁~18 頁を講読し、疑問点をチェックする 授業　：イギリス領植民地の建設･･･中部植民地　（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習　：課題（テキスト 8~9 頁）、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。
7	羽鳥　修	【第 7 回】 予習　：テキスト 15 頁~18 頁を講読し、疑問点をチェックする。 授業　：英領植民地の文化　（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習　：課題 11~14（テキスト 25~26 頁）、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。
8	羽鳥　修	【第 8 回】 予習　：テキスト 21 頁~22 頁を講読し、疑問点をチェックする 授業　：イギリス本国と北米植民地の経済的関係　（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習　：課題 11･12（テキスト 26 頁）、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。
9	羽鳥　修	【第 9 回】 予習　：テキスト 27 頁~29 頁を講読し、疑問点をチェック 授業　：アメリカ独立革命への道（課税政策を巡る対立）　（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習　：課題 1･2（テキスト 37 頁）、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。
10	羽鳥　修	【第 10 回】 予習　：テキスト頁 29~31 頁を講読し、疑問点をチェックする 授業　：アメリカ独立革命への道･･･課税政策を巡る対立　（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習　：課題 3~5（テキスト 37 頁）、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。
11	羽鳥　修	【第 11 回】 テキスト頁 32~35 頁を講読し、疑問点をチェックする。.また、「独立宣言」を読む。 授業　：独立宣言公布の世界史的意義　（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習　：課題 6･7（テキスト 37 頁）、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。

12	羽鳥　修	【第 12 回】 予習　：テキスト 38 頁~40 頁を講読し、疑問点をチェックする 授業　：新共和国の基礎作り（連合規約）　（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習　：課題 8　（テキスト 44 頁）、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。
13	羽鳥　修	【第 13 回】 予習　：テキスト 40 頁~42 頁を講読し、疑問点をチェックする 授業　：新共和国の形成・・・連合規約と合衆国憲法　（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習　：課題 1・2（テキスト 44 頁）、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。
14	羽鳥　修	【第 14 回】 予習　：テキスト 42 頁~44 頁を講読し、疑問点をチェックする 授業　：新共和国の形成・・・トマス・ジェファソンとアレクサンダー・ハミルトン　（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習　：課題 3（テキスト 44 頁）、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。
15	羽鳥　修	【第 15 回】 予習　：テキスト 42 頁~44 頁を講読し、疑問点をチェックする 授業　：アンテベラム期のアメリカ・・・トクヴィルの観たアメリカ　（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習　：課題 4（テキスト 44 頁）、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。

授業開始前学習	高校で使用されている世界史の教科書（中世以降現代まで）を読んでおいてください。
授業内課題のフィードバックの方法	各回の課題であるコメントシートについて次回の授業冒頭でフィードバックします。また、教科書にある「課題」のほか、調べる課題や DVD の感想など数回のレポート課題を出し、解答例または添削する方法でフィードバックします。
テキスト・教材	『アメリカの文化と歴史Ⅰ』(2012 年・改訂版)
参考書	教科書に記載してある参考文献を参照してください。その他は、授業内で適宜紹介します。
評価の基準と方法	毎回のコメントシート（65%)、レポート課題（20%)、発表など授業への参加姿勢（15%)
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎			○	△			

関連科目	「異文化交流　I・II　」、「文化交流論（日本とアメリカ）」
その他	電子辞書を持っている人は、授業時に持参してください。ただし新規に購入する必要はありません。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-331-12	授業コード	FC0560
科目名称	ｱﾒﾘｶの文化と歴史Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	American Culture and HistoryⅡ			授業区分	講義
科目責任者	羽鳥　修			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	羽鳥　修			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期　金曜日 10:30～14:30 後期　金曜日 10:30～14:30			研究室	10-609
授業概要	「アメリカの文化と歴史Ⅰ」に続き、南北戦争後のアメリカ合衆国の歴史を概説します。歴史は、単に「過去」を学ぶことではなく、「現在」を知るために学ぶ学問です。従って、常に現在のアメリカに視点をおいて授業を進めます。この授業を通じて、アメリカを「観る目」を養うことをも目標にするとともに、歴史を学ぶ意義と楽しさが伝えることを意識して講義します。また、授業形態は双方向型および課題解決型です。なお、同科目は「段階の科目」ではありませんが、「アメリカの文化と歴史Ⅰ」を履修しておくことが望ましい。				
到達目標	一つひとつの歴史的事象について、事象が起こった要因を歴史的文脈の中で「解釈」するとともに、それがその後の歴史とどのようにかかわっているのかについて「解釈」する能力を身に付けます。その際に重要なことは、恣意的な解釈ではなく、しかるべき根拠に基づいて歴史を「解釈」することにあります。また、授業を通じて主に筆記力、傾聴力、表現力、調べる力などを身につけます。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	羽鳥　修	【第 1 回】 予習　：テキスト 17 頁~19 頁を講読し、疑問点をチェックする 授業　：ガイダンス：南北戦争後のアメリカ･･･フロンティアに西進とフロンティア社会の特質　（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習　：課題 1 （テキスト 30 頁）、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。
2	羽鳥　修	【第 2 回】 予習　：テキスト 19 頁~21 頁を講読し、疑問点をチェックする 授業　：南北戦争後のアメリカ･･･独占資本主義の進行① <大企業家出現の概説 DVD 鑑賞と解説>（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習　：ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。
3	羽鳥　修	【第 3 回】 予習　：テキスト 19 頁~21 頁を講読し、バンダービルドについて彼の経歴を調べる 授業　：南北戦争後のアメリカ･･･独占資本主義の進行② <バンダービルド：DVD 鑑賞と解説>（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習　：ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。
4	羽鳥　修	【第 4 回】 予習　：テキスト 19 頁~21 頁を講読し、ロックフェラーの経歴を調べる 授業　：南北戦争後のアメリカ･･･独占資本主義の進行③ <ロックフェラー：DVD 鑑賞と解説>（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習　：ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。
5	羽鳥　修	【第 5 回】 予習　：テキスト 19 頁~21 頁を講読し、カーネギーの経歴を調べる 授業　：南北戦争後のアメリカ･･･独占資本主義の進行④ <カーネギー：DVD 鑑賞と解説>（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習　：ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。
6	羽鳥　修	【第 6 回】 予習　：テキスト 19 頁~21 頁を講読し、モルガンの経歴を調べる 授業　：南北戦争後のアメリカ･･･独占資本主義の進行④ <モルガン：DVD 鑑賞と解説>（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習　：ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。
7	羽鳥　修	【第 7 回】 予習　：テキスト 19 頁~21 頁を講読し、フォードの経歴を調べる 授業　：南北戦争後のアメリカ･･･独占資本主義の進行④ <フォード：DVD 鑑賞と解説>（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習　：ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。
8	羽鳥　修	【第 8 回】 予習　：テキスト 22 頁~26 頁を講読し、疑問点をチェックする 授業　：19 世紀末から 20 世紀への世紀転換期①政治マシーンの機能と役割（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習　：ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。

9	羽鳥　修	【第 9 回】 予習　：テキスト 22 頁~26 頁を講読し、疑問点をチェックする 授業　19 世紀末から 20 世紀への世紀転換期②セツルメントの機能と役割　（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習　：ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。
10	羽鳥　修	【第 10 回】 予習　：テキスト 35 頁~39 頁を講読し、疑問点をチェックする 授業　：農民の「反乱」：人民党の運動と意義　（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習　：ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。
11	羽鳥　修	【第 11 回】 予習　：テキスト 39 頁~43 頁を講読し、疑問点をチェックする 授業　：革新主義期運動・・・市政・連邦レベルでの改革運動　（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習　：ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。
12	羽鳥　修	【第 12 回】 予習　：テキスト 48 頁~55 頁を講読し、疑問点をチェックする 授業　：1920 年代のアメリカ・・・大衆消費社会の実情　（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習　：ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。
13	羽鳥　修	【第 13 回】 予習　：テキスト 43 頁~47 頁を講読し、疑問点をチェックする　（ペア・ワークおよびグループワーク） 授業　：世界大国への歩み 復習　：ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。
14	羽鳥　修	【第 14 回】 予習　：テキスト 55 頁~60 頁を講読し、疑問点をチェックする　（ペア・ワークおよびグループワーク） 授業　：世界恐慌・ニューディール政策および冷戦の時代 復習　：ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。
15	羽鳥　修	【第 15 回】 予習　：テキスト 71 頁~72 頁を講読し、疑問点をチェックする 授業　：1980 年代から現在のアメリカ　（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習　：ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。

授業開始前学習	「アメリカの文化と歴史Ⅰ」のテキストとノートの復習をしておいてください。
授業内課題のフィードバックの方法	各回のコメントシートについては次回の授業冒頭でフィードバックします。また、教科書にある「課題」のほか、調べ学習の課題やDVD の感想など数回のレポート課題を出しますが、解答例または添削する方法でフィードバックします。
テキスト・教材	『アメリカの文化と歴史Ⅱ』(2012 年、改訂版)
参考書	教科書に記載してある参考文献を参照してください。その他は、授業内で適宜紹介します。
評価の基準と方法	毎回のコメントシート（65%）、レポート課題（20%）、授業への参加姿勢(15%)
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎			○	△			

関連科目	「異文化交流 Ⅰ・Ⅱ 」、「文化交流論　（日本とアメリカ）」
その他	電子辞書を持っている人は、授業時に持参してください。ただし、新規に購入する必要はありません。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	GJ-M-221	科目分類（～2024 年入学者）	113-331-12	授業コード	FC0570
科目名称	異文化理解 I			単位数	2.0 単位
英文名称	Intercultural Understanding I			授業区分	講義
科目責任者	安井　裕司			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	安井　裕司			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期　火曜日 13:00～14:30　水曜日 13:00～14:30 後期　火曜日 13:00～14:30　水曜日 13:00～14:30			研究室	16-306
授業概要	「異文化理解」を哲学、社会学、人類学、言語学等のアプローチから捉える。 「異文化理解」を近代化、民族、言語、宗教、ジェンダー、障害などの観点から試みる。				
到達目標	「異文化理解」の社会的な重要性を理解できるようなる。 「異文化」を理解する客観的な偏見なき立脚点を得る。 自分自身が所属する「文化」に対しても客観的な視点を持てるようになる。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	安井　裕司	【第 1 回】 予習：文化の定義、異文化理解について新聞、ネット等で調べておく。 授業：なぜ、異文化を理解する必要があるのか。 復習：講義で言及した各地の紛争の原因を「異文化理解」の欠如の観点から纏める
2	安井　裕司	【第 2 回】 予習：レヴィナス〈他者〉論の関連の文献を読んでおく 授業：「他者」とは誰なのか 復習：他者論の観点から諸文化を問い直してみる
3	安井　裕司	【第 3 回】 予習：レヴィ＝ストロースの『悲しき熱帯』を読んでおく 授業：都市―未開文化論 復習：文化人類学からの「異文化理解」の考え方を纏める
4	安井　裕司	【第 4 回】 予習：サルトルなどの実存主義、ソシュールなどの構造主義の文献を読んでおく 授業：実存主義、構造主義、ポスト構造主義、文化相対主義とは何か 復習：実存主義、構造主義、ポスト構造主義の定義について明確化する
5	安井　裕司	【第 5 回】 予習：少数民族問題に関する文献を読んでおく 授業：民族と異文化(1)：少数民族（ヨーロッパを中心に） 復習：少数民族の問題について講義内容を踏まえて、自分で調べてみる
6	安井　裕司	【第 6 回】 予習：ステイトレスネーションについて新聞、学術文献を調べる 授業：民族と異文化(2)ステイトレス・ネーション（スコットランド、ウェールズ、カタルーニャを中心に） 復習：ステイトレスネーションについて講義内容を踏まえて自分なりに他のケースを調べてみる
7	安井　裕司	【第 7 回】 予習：多民族国家についてどのようなケースがあるのか調べておく 授業：民族と異文化(3)連邦国家の多文化性（スイス、ベルギー） 復習：授業を踏まえて、多民族国家の魅力と課題を自分自身で考える
8	安井　裕司	【第 8 回】 予習：英国について多様性という観点から調べる 授業：民族と文化(4)多民族国家の多文化性（英国） 復習：授業を振り返り、英国の魅力と課題を自分自身で考える
9	安井　裕司	【第 9 回】 予習：フランスについて多様性という観点から調べる 授業：民族と文化(5)多民族国家の多文化性（フランス） 復習：授業を踏まえて、フランスの魅力と課題を自分自身で考える
10	安井　裕司	【第 10 回】 予習：ドイツについて多様性という観点から調べる 授業：民族と文化(6)多民族国家の多文化性（ドイツ） 復習：授業を踏まえて、ドイツの魅力と課題を自分自身で考える
11	安井　裕司	【第 11 回】 予習：「マージナルマン」について調べておく 授業：マージナルマンと異文化理解(1)：　「マージナルマン」という観点から異文化を理解する 復習：アニメ・漫画作品を「マージナルマン」の観点から考えてみる

12	安井　裕司	【第 12 回】 予習：アニメ作品を「マージナルマン」の観点から見てみる 授業：マージナルマンと異文化理解(2)：旅によって「マージナル」になることを考える 復習：ロードムービー（映画）や旅行小説を観たり読むことで、「マージナルマン」を考える
13	安井　裕司	【第 13 回】 予習：ジェンダーに関する学術文献、新聞記事を読む 授業：「異文化理解」としてのジェンダー(1)：「男性文化」「女性文化」の相対化 復習：授業を踏まえて、ジェンダーの視点から日本の現状を自分自身で考えてみる
14	安井　裕司	【第 14 回】 予習：LGBT について新聞記事、学術書を調べる 授業：「異文化理解」としてのジェンダー(2)：映画『ミルク』、映画『ビューティー・インサイド』を手掛かりに考える 復習：ジェンダーがテーマの他の映画作品も観てみる
15	安井　裕司	【第 15 回】 予習：映画『コーダ あいのうた』（2021 年,米国）を観ておく 授業：障害者と異文化理解：映画『コーダあいのうた』を手掛かりに米国の例を考える 復習：米国の障害者への諸政策を調べる

授業開始前学習	シラバスに明記した学術文献を極力読んでおくようにする（映像作品の場合は見ておくようにする）
授業内課題のフィードバックの方法	授業中に前回の課題のフィードバックを行う
テキスト・教材	なし
参考書	毎回の講義で文献や関連書籍を紹介する
評価の基準と方法	授業参加態度（30%） 定期試験（70%）
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				

関連科目	比較文化、多文化共生
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）	GJ-M-221	科目分類（～2024年入学者）	113-331-12	授業コード	FC0580
科目名称	異文化理解Ⅱ			単位数	2.0単位
英文名称	Intercultural UnderstandingⅡ			授業区分	講義
科目責任者	安井　裕司			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	安井　裕司			開講時期	2年
オフィスアワー	前期　火曜日 13:00～14:30　水曜日 13:00～14:30 後期　火曜日 13:00～14:30　水曜日 13:00～14:30			研究室	16-306
授業概要	階級、格差、民族、外国人労働者、移民、食などが形成する「異文化」を説明することで、「異文化理解」の把握に繋げる。 多文化共生社会の重要性を映像資料から考える。				
到達目標	「異文化理解」の社会的な重要性を理解できるようなる。 「異文化」を理解する客観的な偏見なき立脚点を得る。 自分自身が所属する「文化」に対しても客観的な視点を持てるようになる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	安井　裕司	【第1回】 予習：小説や映画において英国の貴族文化がどのように描かれているかを読書・鑑賞することで調べる（例、ドラマ『ダウントン・アビー』、映画『ゴスフォード・パーク』、小説『日の名残り』） 授業：階級と異文化理解（1）：英国における貴族文化 復習：授業を踏まえて、英国の貴族文化を纏める
2	安井　裕司	【第2回】 予習：小説や映画において英国の労働者階級がどのように描かれているかを読書・鑑賞することで調べる（例 ケン・ローチ監督の作品） 授業：階級と異文化理解（2）：英国における労働者階級 復習：英国の労働者階級のアイデンティティを纏める
3	安井　裕司	【第3回】 予習：英国の貴族の没落とミドルクラスに関して、新聞や学術書を読んで調べる 授業：階級と異文化理解（2）：英国における貴族の没落とミドルクラスの台頭 復習：授業を踏まえて、ジェーン・オースティンの小説『高慢と偏見』を読み、映画『ブリジット・ジョーンズの日記』を鑑賞し、比較する
4	安井　裕司	【第4回】 予習：アイヌの文化について調べてくる 授業：日本における文化的多様性(1)：アイヌ文化 復習：漫画『ゴールデンカムイ』等のアイヌをテーマにした作品を読む
5	安井　裕司	【第5回】 予習：沖縄の文化について調べてくる 授業：日本における文化的多様性(2)：沖縄文化 復習：沖縄を舞台にした映画を観る（小説などを読む）
6	安井　裕司	【第6回】 予習：在日韓国人、在日朝鮮人の文化について調べてくる 授業：日本における文化的多様性(3)：特別永住者（在日韓国人・在日朝鮮人） 復習：映画『パッチギ!』を観る
7	安井　裕司	【第7回】 予習：在留外国人について調べてくる 授業：日本における文化的多様性(4)：留学生、外国人労働者など「内なる国際化」を考える 復習：授業を踏まえて、日本に住む外国人の全体像を把握する
8	安井　裕司	【第8回】 予習：国際化する日本料理について調べておく 授業：食からの「異文化理解」(1)：国際化する寿司を考える 復習：映画『イーストサイド・寿司』を観る
9	安井　裕司	【第9回】 予習：ヨーロッパにおける移民の文化を調べる 授業：食からの「異文化理解」(2)：フランスにおけるインド料理を考える 復習：映画『マダム・マロリーと魔法のスパイス』を観る
10	安井　裕司	【第10回】 予習：ユダヤ料理、イスラム料理について調べておく 授業：食からの「異文化理解」(3)：米国におけるユダヤ料理、イスラム料理を考える 復習：映画『エイブのキッチンストーリー』を観る

11	安井　裕司	【第 11 回】 予習：インドの多様性を民族文化と料理から調べておく 授業：食からの「異文化理解」(4)：インドのイラン系少数民族パールシー人料理を考える 復習：映画『マスカ～夢と幸せの味』を観る
12	安井　裕司	【第 12 回】 予習：英国のシーク教徒について考える 授業：移民のマージナル文化の理解(1)：英国の移民映画からの考察（『ベッカムに恋して』等にみる英国シーク教徒のアイデンティティ） 復習：映画『ベッカムに恋して』を鑑賞し、他の移民映画も観てみる
13	安井　裕司	【第 13 回】 予習：英国のイスラム教徒について新聞や学術文献を調べてくる 授業：移民のマージナル文化の理解(2)：英国の移民映画からの考察（『カセットテープ・ダイアリーズ』等にみる英国イスラム教徒のアイデンティティ） 復習：映画『カセットテープ・ダイアリーズ』を鑑賞し、他の移民映画も観てみる
14	安井　裕司	【第 14 回】 予習：イスラエル・パレスチナ問題を新聞や学術文献で調べてくる 授業：多文化共生社会の構築(1)：映画『クレシェンド』等からイスラエル・パレスチナの例を考える 復習：映画『クレシェンド』を鑑賞する
15	安井　裕司	【第 15 回】 予習：米国の黒人問題について新聞や学術文献で調べてくる 授業：多文化共生社会の構築(2)：映画『グリーンブック』等から米国の例を考える 復習：映画『グリーンブック』を観る。定期試験に備える

授業開始前学習	「異文化理解」に関連するニュースや小説を読み、関連映画を観るように心がける
授業内課題のフィードバックの方法	講義中、フィードバックをする時間を設ける
テキスト・教材	なし
参考書	講義内に参考文献や関連の映像資料などを紹介
評価の基準と方法	授業態度、積極性（30 %） 定期試験（70%）
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				

関連科目	比較文化、日本事情Ⅲ、日本事情Ⅳ、異文化理解Ⅰ
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）		科目分類（～2024年入学者）	113-330-11（2022年～入学者） 113-330-12（～2021年入学者）	授業コード	FC0590
科目名称	☆時事英語Ⅰ			単位数	2.0単位
英文名称	Current English Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	川畑　秀樹			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	川畑　秀樹			開講時期	1年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	経済・社会・科学技術・文化・環境・教育・健康といった幅広い分野の英文記事を読み、生きた英語を学ぶ。英文記事を読む行為を通じて、国内外の出来事に対する知見を広げる。記事の内容について、ディスカッションを行い、発信型の英語表現修得をはかる。				
到達目標	英文記事を通じて国内外の出来事について知る。時事問題について英語で議論できるようになる。TOEICスコア450-550点程度をとれるようになる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	川畑　秀樹	【第1回】 予習　：Consult the appropriate sections of the textbook (Chapter 1 Reading p14-15) 授業　：Orientation (aims and content of the course) & Chapter1 Reinvented Kimono for the Reiwa Era　(p11-16)（ディスカッション） 復習　：Read over the material covered in class
2	川畑　秀樹	【第2回】 予習　：Consult the appropriate sections of the textbook (Chapter 2 Reading p20-21) 授業　：Chapter 2 The Rise of Harvesting Robots (p17-22)（ディスカッション） 復習　：Read over the material covered in class
3	川畑　秀樹	【第3回】 予習　：Consult the appropriate sections of the textbook (Chapter 3 Reading p26-27) 授業　：Chapter 3 Talking About Telephobia　(p23-28)（ディスカッション） 復習　：Read over the material covered in class
4	川畑　秀樹	【第4回】 予習　：Consult the appropriate sections of the textbook (Chapter 4 Reading p32-33) 授業　：Chapter 4 Toward　a Carbon-free Society (p29-34)（ディスカッション） 復習　：Read over the material covered in class
5	川畑　秀樹	【第5回】 予習　：Consult the appropriate sections of the textbook (Chapter 5 Reading p38-39) 授業　：Chapter 5　Honoring Ancestors Online　(p35-40)（ディスカッション） 復習　：Read over the material covered in class
6	川畑　秀樹	【第6回】 予習　：Consult the appropriate sections of the textbook (Chapter 6 Reading p44-45) 授業　：Chapter 6 Karakurist!　(p41-46)（ディスカッション） 復習　：Read over the material covered in class
7	川畑　秀樹	【第7回】 予習　：Consult the appropriate sections of the textbook (Chapter 7 Reading p50-51) 授業　：Chapter 7 Creating Community Currencies　(p47-52)（ディスカッション） 復習　：Read over the material covered in class
8	川畑　秀樹	【第8回】 予習　：Consult the appropriate sections of the textbook (Chapter 8 Reading p56-57) 授業　：Chapter 8　Birth of a Wooden Satellite (p53-58)（ディスカッション） 復習　：Read over the material covered in class
9	川畑　秀樹	【第9回】 予習　：Consult the appropriate sections of the textbook (Chapter 9 Reading p62-63) 授業　：Chapter 9 It's Okay to Be Different　(p59-64)（ディスカッション） 復習　：Read over the material covered in class
10	川畑　秀樹	【第10回】 予習　：Consult the appropriate sections of the textbook (Chapter 10 Reading p68-69) 授業　：Chapter 10 Drought Dries the Amazon　(p65-70)（ディスカッション） 復習　：Read over the material covered in class

11	川畑　秀樹	【第 11 回】 予習　：Consult the appropriate sections of the textbook (Chapter 11 Reading p74-75) 授業　：Chapter 11 Japanese Literature Boom in Britain (p71-76)（ディスカッション） 復習　：Read over the material covered in class
12	川畑　秀樹	【第 12 回】 予習　：Consult the appropriate sections of the textbook (Chapter 12 Reading p80-81) 授業　：Chapter 12 Stand Up If You Want to Live Longer　(p77-82)（ディスカッション） 復習　：Read over the material covered in class
13	川畑　秀樹	【第 13 回】 予習　：Consult the appropriate sections of the textbook (Chapter 13 Reading p86-87) 授業　：Chapter 13　Unionizing the Magic of Disney　(p83-88)（ディスカッション） 復習　：Read over the material covered in class
14	川畑　秀樹	【第 14 回】 予習　：Consult the appropriate sections of the textbook (Chapter 14 Reading p92-93) 授業　：Chapter 14 Future-Focused Aquaculture Business (p89-94)（ディスカッション） 復習　：Read over the material covered in class
15	川畑　秀樹	【第 15 回】 予習　：Preparation for the final test 授業　：The Final Test 復習　：Read over the material covered in class

授業開始前学習	インターネットや新聞などで英文記事に触れておくとよい。
授業内課題のフィードバックの方法	授業内の小テストについては全体の講評および個別の質問回答をおこなう。また、授業内でのディスカッションについても口頭でコメントを与える。
テキスト・教材	村尾純子・深山晶子・辻本智子・横山香奈・Christopher Cladis　編著「Insights 2025」(金星堂)　2025 年
参考書	
評価の基準と方法	定期試験：60%　小テストを含めた平常点：40%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎			△	○			

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-330-11（2022 年～入学者） 113-330-12（～2021 年入学者）	授業コード	FC0600
科目名称	☆時事英語Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	Current English Ⅱ			授業区分	講義
科目責任者	川畑　秀樹			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	川畑　秀樹			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	アメリカや世界各国の時事問題を扱ったニュース番組を題材に、映像・音声・英文を通じて、生きた英語を学ぶ。国内外の出来事に対する知見を広げるとともに、その出来事についてディスカッションを行い、発信型の英語表現を身につける。				
到達目標	英語による報道を通じて国内外の出来事について知る。時事問題について英語で議論できるようになる。TOEIC スコア 500-600 点程度をとれるようになる。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	川畑　秀樹	【第 1 回】 予習　：Consult the appropriate sections of the textbook (　News Story 1 The Gist & Warm-up Exercises p8) 授業　：Orientation (aims and content of the course) & News Story 1 Deepfake AI Images (p8-14)（ディスカッション） 復習　：Read over the material covered in clas
2	川畑　秀樹	【第 2 回】 予習　：Consult the appropriate sections of the textbook (News Story 2 The Gist & Warm-up Exercises p15) 授業　：News Story 2 Professional Dog Photos　(p15-20)（ディスカッション） 復習　：Read over the material covered in class
3	川畑　秀樹	【第 3 回】 予習　：Consult the appropriate sections of the textbook (News Story 3 The Gist & Warm-up Exercises p21) 授業　：News Story 3　Columbia Protests Force Remote Classes　(p21-26)（ディスカッション） 復習　：Read over the material covered in class
4	川畑　秀樹	【第 4 回】 予習　：Consult the appropriate sections of the textbook (News Story 4 The Gist & Warm-up Exercises p27) 授業　：News Story 4　Autism Through Broadway　(p27-32)（ディスカッション） 復習　：Read over the material covered in class
5	川畑　秀樹	【第 5 回】 予習　：Consult the appropriate sections of the textbook (News Story 5 The Gist & Warm-up Exercises p33) 授業　：News Story 5　Cleaning Up Our Planet (p33-38)（ディスカッション） 復習　：Read over the material covered in class
6	川畑　秀樹	【第 6 回】 予習　：Consult the appropriate sections of the textbook (News Story 6 The Gist & Warm-up Exercises p39) 授業　：News Story 6　Rosie the Riveters (p39-45)（ディスカッション） 復習　：Read over the material covered in class
7	川畑　秀樹	【第 7 回】 予習　：Consult the appropriate sections of the textbook (News Story 7 The Gist & Warm-up Exercises p46) 授業　：News Story 7　Mission to the Moon　(p46-51)（ディスカッション） 復習　：Read over the material covered in class
8	川畑　秀樹	【第 8 回】 予習　：Consult the appropriate sections of the textbook (News Story 8 The Gist & Warm-up Exercises p52) 授業　：News Story 8　Legendary Tailor　(p52-58)（ディスカッション） 復習　：Read over the material covered in class

9	川畑　秀樹	【第 9 回】 予習　：Consult the appropriate sections of the textbook (News Story 9 The Gist & Warm-up Exercises p59) 授業　：News Story 9　CDC Issues Bird Flu Alert (p59-64)（ディスカッション） 復習　：Read over the material covered in class
10	川畑　秀樹	【第 10 回】 予習　：Consult the appropriate sections of the textbook (News story10 The Gist & Warm-up Exercises p65) 授業　：News Story 10　Driving Toll for New York City (p65-70)（ディスカッション） 復習　：Read over the material covered in class
11	川畑　秀樹	【第 11 回】 予習　：Consult the appropriate sections of the textbook(News Story11 The Gist & Warm-up Exercises p71) 授業　：News Story 11　The Eclipse Across America (p71-77)（ディスカッション） 復習　：Read over the material covered in class
12	川畑　秀樹	【第 12 回】 予習　：Consult the appropriate sections of the textbook(News Story12 The Gist & Warm-up Exercises p78) 授業　：News Story 12　Migrant Crisis (p78-83)（ディスカッション） 復習　：Read over the material covered in class
13	川畑　秀樹	【第 13 回】 予習　：Consult the appropriate sections of the textbook(News Story13 The Gist & Warm-up Exercises p84) 授業　：News Story 13　Made in Americas Christmas Trees　(p84-91)（ディスカッション） 復習　：Read over the material covered in class
14	川畑　秀樹	【第 14 回】 予習　：Consult the appropriate sections of the textbook(News Story14 The Gist & Warm-up Exercises p92) 授業　：News Story 14　First Female Supreme Court Justice (p92-98)（ディスカッション） 復習　：Read over the material covered in class
15	川畑　秀樹	【第 15 回】 予習　：Preparation for the final test 授業　：The Final Test 復習　：Read over the material covered in class

授業開始前学習	インターネットやテレビ、新聞などで英語による報道に触れておくとよい。
授業内課題のフィードバックの方法	授業内の小テストについては全体の講評および個別の質問回答をおこなう。また、授業内でのディスカッションについても口頭でコメントを与える。
テキスト・教材	山根繁・Kathleen Yamane　編著「ABC NEWSROOM 3」（金星堂）2025 年
参考書	
評価の基準と方法	定期試験：60%　小テストを含めた平常点：40%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎			△	○			

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）		科目分類（～2024年入学者）	113-331-12	授業コード	FC0610
科目名称	英語音声学Ⅰ			単位数	2.0単位
英文名称	English Phonetics Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	神谷 昇			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	神谷 昇			開講時期	2年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	英語で使用される様々な音について、発音方法などについて学習しながら、個々の音に対する理解を深める。その上で、単語や文章を用いて発音練習を行い、実際に個々の音が正しく発音できるようになることを目指す。この授業では、主に英語の子音について学習する。				
到達目標	英語の個々の子音について、発音の方法などを習得し、実際に単語や文を正しい発音で読むことができるようになることを目指す。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	神谷 昇	【第1回】 予習：オンライン上のシラバスを読んで、授業の概要と流れを理解する 授業：（1）授業内容の説明 （2）Lesson 1: World Englishes（教科書 p. 2-p. 5） （3）Lesson 2: Speech Organs（教科書 p. 6-p. 7） （4）Lesson 3: Speech Sounds（教科書 p. 8-p. 9） 復習：教科書 p. 2-p. 9 に掲載されている用語の再確認
2	神谷 昇	【第2回】 予習：教科書 p. 18-p. 19 までを自習 授業：Lesson 7: [p]-[b]（教科書 p. 18-p. 19）（実習） 復習：教科書 p. 18-p. 19 に掲載されている語句の発音について復習
3	神谷 昇	【第3回】 予習：教科書 p. 20-p. 21 までを自習 授業：Lesson 8: [t]-[d]（教科書 p. 20-p. 21）（実習） 復習：教科書 p. 20-p. 21 に掲載されている語句の発音について復習
4	神谷 昇	【第4回】 予習：教科書 p. 22-p. 23 までを自習 授業：Lesson 9: [k]など（教科書 p. 22-p. 23）（実習） 復習：教科書 p. 22-p. 23 に掲載されている語句の発音について復習
5	神谷 昇	【第5回】 予習：教科書 p. 24-p. 25 までを自習 授業：Lesson 10: [f]-[v]（教科書 p. 24-p. 25）（実習） 復習：教科書 p. 24-p. 25 に掲載されている語句の発音について復習
6	神谷 昇	【第6回】 予習：教科書 p. 26-p. 27 までを自習 授業：Lesson 11: th などの音（教科書 p. 26-p. 27）（実習） 復習：教科書 p. 26-p. 27 に掲載されている語句の発音について復習
7	神谷 昇	【第7回】 予習：教科書 p. 28-p. 29 までを自習 授業：Lesson 12: [s]-[z]（教科書 p. 28-p. 29）（実習） 復習：教科書 p. 28-p. 29 に掲載されている語句の発音について復習
8	神谷 昇	【第8回】 予習：教科書 p. 30-p. 31 までを自習 授業：Lesson 13: sh などの音（教科書 p. 30-p. 31）（実習） 復習：教科書 p. 30-p. 31 に掲載されている語句の発音について復習
9	神谷 昇	【第9回】 予習：教科書 p. 32-p. 33 までを自習 授業：Lesson 14: ch などの音（教科書 p. 32-p. 33）（実習） 復習：教科書 p. 32-p. 33 に掲載されている語句の発音について復習
10	神谷 昇	【第10回】 予習：教科書 p. 34-p. 35 までを自習 授業：Lesson 15: [m]-[n]などの音（教科書 p. 34-p. 35）（実習） 復習：教科書 p. 34-p. 35 に掲載されている語句の発音について復習

11	神谷 昇	【第 11 回】 予習：教科書 p. 36-p. 37 までを自習 授業：Lesson 16: [r]-[l]（教科書 p. 36-p. 37）（実習） 復習：教科書 p. 36-p. 37 に掲載されている語句の発音について復習
12	神谷 昇	【第 12 回】 予習：教科書 p. 38-p. 42 までを自習 授業：（1）Lesson 17: [h]（教科書 p. 38-p. 39）（実習） （2）Lesson 18: [j]-[w]-[hw]（教科書 p. 40-p. 42）（実習） 復習：教科書 p. 38-p. 42 に掲載されている語句の発音について復習
13	神谷 昇	【第 13 回】 予習：教科書 p. 18-p. 29 までを再講読 授業：Lesson 7 - Lesson 12 の復習と発音の再確認（教科書 p. 18-p. 29）（実習） 復習：教科書 p. 18-p. 29 に掲載されている語句の発音について復習
14	神谷 昇	【第 14 回】 予習：教科書 p. 30-p. 42 までを再講読 授業：Lesson 13 - Lesson 18 の復習と発音の再確認（教科書 p. 30-p. 42）（実習） 復習：教科書 p. 30-p. 42 に掲載されている語句の発音について復習
15	神谷 昇	【第 15 回】 予習：教科書 p. 18-p. 42 までを再講読 授業：Lesson 7 - Lesson 18 の復習と発音の再確認（教科書 p. 18-p. 42）（実習） 復習：教科書 p. 18-p. 42 に掲載されている語句の発音について復習

授業開始前学習	音声学の概論知識を学習しておくと授業が理解しやすい。
授業内課題のフィードバックの方法	授業内課題については、毎回の授業の際に確認と解説を行う。
テキスト・教材	津田塾大学英語英文学科（編）『アメリカ英語の発音教本（四訂版）』（研究社） ISBN　978-4-327-40176-4
参考書	有本純・河内山真理・佐伯林規江・中西のりこ・山本誠子『英語発音の指導―基礎知識からわかりやすい指導法・使いやすい矯正方法まで―』（三修社） ISBN: 978-4-384-05952-6
評価の基準と方法	授業中の演習、期末レポートなど、総合的に行う。内訳は、期末課題（40%）、授業中の演習（30%）、授業態度（30%）である。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎				○			△

関連科目	英語学概論 I（英語学概論 I の第 9 回と第 10 回で本授業に関連する基本的な内容を扱う）
その他	英語の辞書（英和辞典、和英辞典等）を持参すること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）		科目分類（～2024年入学者）	113-331-12	授業コード	FC0620
科目名称	英語音声学Ⅱ			単位数	2.0単位
英文名称	English Phonetics Ⅱ			授業区分	講義
科目責任者	神谷 昇			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	神谷 昇			開講時期	2年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	英語で使用される様々な音について、発音方法などについて学習しながら、個々の音に対する理解を深める。その上で、単語や文章を用いて発音練習を行い、実際に個々の音が正しく発音できるようになることを目指す。この授業では、主に英語の母音、ストレス、リズム、イントネーションについて学習する。				
到達目標	英語の個々の母音などについて、発音の方法を習得し、実際に単語や文を正しい発音で読むことができるようになることを目指す。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	神谷 昇	【第1回】 予習：オンライン上のシラバスを読んで、授業の概要と流れを理解する。また、教科書 p. 2- p. 9 を読み、内容を理解する。 授業：（1）授業内容の説明 （2）前期の復習：世界の英語、発音方法について（教科書 p. 2-p. 9） 復習：教科書 p. 2-p. 9 の内容、および、授業で配布した資料の内容について再確認
2	神谷 昇	【第2回】 予習：教科書 p. 44-p. 45 までを自習 授業：Lesson 19: 前舌高母音について（教科書 p. 44-p. 45）（実習） 復習：教科書 p. 44-p. 45 に掲載されている語句について発音練習
3	神谷 昇	【第3回】 予習：教科書 p. 46-p. 47 までを自習 授業：Lesson 20: 後舌高母音など（教科書 p. 46-p. 47）（実習） 復習：教科書 p. 46-p. 47 に掲載されている語句について発音練習
4	神谷 昇	【第4回】 予習：教科書 p. 48-p. 49 までを自習 授業：Lesson 21: 前舌母音などについて（教科書 p. 48-p. 49）（実習） 復習：教科書 p. 48-p. 49 に掲載されている語句について発音練習
5	神谷 昇	【第5回】 予習：教科書 p. 50-p. 51 までを自習 授業：Lesson 22: [ou]など（教科書 p. 50-p. 51）（実習） 復習：教科書 p. 50-p. 51 に掲載されている語句について発音練習
6	神谷 昇	【第6回】 予習：教科書 p. 52-p. 53 までを自習 授業：Lesson 23: 後舌低母音など（教科書 p. 52-p. 53）（実習） 復習：教科書 p. 52-p. 53 に掲載されている語句について発音練習
7	神谷 昇	【第7回】 予習：教科書 p. 54-p. 55 までを自習 授業：Lesson 24: 二重母音について（教科書 p. 54-p. 55）（実習） 復習：教科書 p. 54-p. 55 に掲載されている語句について発音練習
8	神谷 昇	【第8回】 予習：教科書 p. 56-p. 57 までを自習 授業：Lesson 25: あいまい母音を含む音について（1）（教科書 p. 56-p. 57）（実習） 復習：教科書 p. 56-p. 57 に掲載されている語句について発音練習
9	神谷 昇	【第9回】 予習：教科書 p. 58-p. 59 を自習 授業：Lesson 26: あいまい母音を含む音について（2）（教科書 p. 58-p. 59）（実習） 復習：教科書 p. 58-p. 59 に掲載されている語句について発音練習
10	神谷 昇	【第10回】 予習：教科書 p. 10-p. 11 までを自習 授業：Lesson 4: Word Stress（教科書 p. 10-p. 11）（実習） 復習：教科書 p. 10-p. 11 に掲載されている語句の発音について復習
11	神谷 昇	【第11回】 予習：教科書 p. 12-p. 13 までを自習 授業：Lesson 5: Sentence Rhythm（教科書 p. 12-p. 13）（実習） 復習：教科書 p. 12-p. 13 に掲載されている語句の発音について復習

12	神谷 昇	【第 12 回】 予習：教科書 p. 14-p. 16 までを自習 授業：Lesson 6: Intonation（教科書 p. 14-p. 16）（実習） 復習：教科書 p. 14-p. 16 に掲載されている語句の発音について復習
13	神谷 昇	【第 13 回】 予習：教科書 p. 44-p. 51 までを再講読 授業：Lesson 19 - Lesson 22 の復習と発音の再確認（教科書 p. 44-p. 51）（実習） 復習：教科書 p. 44-p. 51 に掲載されている語句の発音について復習
14	神谷 昇	【第 14 回】 予習：教科書 p. 52-p. 59 までを再講読 授業：Lesson 23 - Lesson 26 の復習と発音の再確認（教科書 p. 52-p. 59）（実習） 復習：教科書 p. 52-p. 59 に掲載されている語句の発音について復習
15	神谷 昇	【第 15 回】 予習：教科書 p. 10-p. 16 までを再講読 授業：Lesson 4 - Lesson 6 の復習と発音の再確認（教科書 p. 10-p. 16）（実習） 復習：教科書 p. 10-p. 16 に掲載されている語句の発音について復習

授業開始前学習	音声学の概論知識を学習しておくと授業が理解しやすい。
授業内課題のフィードバックの方法	授業内課題については、毎回の授業の際に確認と解説を行う。
テキスト・教材	津田塾大学英語英文学科（編）『アメリカ英語の発音教本（四訂版）』（研究社） ISBN　978-4-327-40176-4
参考書	有本純・河内山真理・佐伯林規江・中西のりこ・山本誠子『英語発音の指導―基礎知識からわかりやすい指導法・使いやすい矯正方法まで―』（三修社） ISBN: 978-4-384-05952-6
評価の基準と方法	授業中の演習、期末レポートなど、総合的に行う。内訳は、期末課題（40%）、授業中の演習（30%）、授業態度（30%）である。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎				○			△

関連科目	英語学概論 I（英語学概論 I の第 9 回と第 10 回で本授業に関連する基本的な内容を扱う）
その他	英語の辞書（英和辞典、和英辞典等）を持参すること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）		科目分類（～2024年入学者）	113-330-11（2022年～入学者） 113-330-12（～2021年入学者）	授業コード	FC0630
科目名称	☆映画の英語Ⅰ			単位数	2.0単位
英文名称	Movie English Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	川畑　秀樹			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	川畑　秀樹			開講時期	1年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	１５回の授業を通じて、２本の映画を読み解き、鑑賞します。取り上げる作品は、古典的な名作であり、作品の本質に迫るとともに、これを言語材料に、実践的な英語学習を行っていきます。そのために、①台詞を英語原文で読み解き、聞き取る作業、②映画内の場面に合わせて、俳優と一緒に声に出して英語を語ってみる作業、③配役を決めて、実際に英語で演じてみる作業、などを行います。また、作品の理解のために、背景知識なども、学んでいきたいと考えています。必要に応じて、作品解釈のためのディスカッションも行います。				
到達目標	◆実際に話されている台詞(英語原文)を的確に理解するとともに、人物の心情を理解する。 →英語原文を理解する正確な読解力と、ニュアンスを把握理解する力を身につける。 ◆英語で書かれた台詞を、実際の洋画で話されるスピードとイントネーションで表現できるようになる。 →リアルな英語感覚を身につけることができる。 ◆文法の復習を行いつつ、洋画で用いられる多彩な語彙を学ぶ。 →英語力の根幹を支える文法と単語を強化できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	川畑　秀樹	【第１回】 予習　シラバスを読んでくる。 授業　題材として取り上げる、いわゆる「アメリカの良心」を描いた映画の概要説明、および、アメリカの司法制度の説明を行う。 全編を第１回と第２回にわたって鑑賞するが、適宜説明を行う。第１回の鑑賞は日本語字幕で行う。 復習　授業形式の確認
2	川畑　秀樹	【第２回】 予習　第１回に配布したスクリプト（以下第１スクリプト）の下読み。 授業　残りの部分の上映。スクリプトの内容理解。 復習　第１スクリプトにある英語の重要構文・項目等の確認。
3	川畑　秀樹	【第３回】 予習　第１スクリプトの詳細な理解。 授業　第１スクリプト部分の上映と内容理解、そのためのディスカッション。 復習　各登場人物像の把握。
4	川畑　秀樹	【第４回】 予習　第２スクリプトの下読み。 授業　第２スクリプト部分の上映とスクリプトの内容理解、そのためのディスカッション。該当箇所のシャドウイング。 復習　第２スクリプトにある英語の重要構文・項目等の確認。
5	川畑　秀樹	【第５回】 予習　第３スクリプトの下読み。 授業　第３スクリプト部分の上映とスプリプトの内容理解、そのためのディスカッション。該当箇所のシャドウイング。 復習　第３スクリプトの英語の重要構文・項目の確認。
6	川畑　秀樹	【第６回】 予習　第４スクリプトの下読み 授業　第４スクリプト部分の上映とスクリプトの内容理解、そのためのディスカッション。該当箇所のシャドウイング。 復習　第４スクリプトの英語の重要構文・項目の確認。
7	川畑　秀樹	【第７回】 予習　第５スクリプトの下読み 授業　第５スクリプト部分の上映とスクリプトの内容理解、そのためのディスカッション。該当箇所のシャドウイング。 復習　 第５スクリプトの英語の重要構文・項目の確認。
8	川畑　秀樹	【第８回】 予習　全５回のスクリプトを読み直してくる。 授業　全体の鑑賞（英語字幕）。次回のレポート作成のための必要箇所の説明指導。 復習　本作品のレポート・感想作成。

9	川畑　秀樹	【第 9 回】 予習　スクリプト全体を読み返す。 授業　指示に従い、映画の重要箇所を中心にレポートを作成する。 復習　引き続き本作品 のレポート・感想作成。
10	川畑　秀樹	【第 10 回】 予習　第 9 回に配布された第 2 作品の資料を読んでくる。 授業　第 2 作品として取り上げる名作恋愛映画の概要説明、全編を第 10 回と第 11 回にわたって上映するが、時々説明を入れながら行う。第 1 回上映は日本語字幕で上映する。 復習　授業形式の確認。
11	川畑　秀樹	【第 11 回】 予習　前回に配布した第 1 スクリプトの下読み。 授業　残りの部分の上映。第 1 スクリプトの内容理解、そのためのディスカッション。該当箇所のシャドウイング。 復習　第 1 スクリプトにある英語の重要構文・項目等の確認。
12	川畑　秀樹	【第 12 回】 予習　第 2 スクリプトの下読み。 授業　第 2 スクリプト部分の上映とスクリプトの内容理解、そのためのディスカッション。該当箇所のシャドウイング。 復習　第 2 回スクリプトにある英語の重要構文・項目等の確認。
13	川畑　秀樹	【第 13 回】 予習　第 3 スクリプトの下読み。 授業　第 3 スクリプト部分の上映とスクリプトの内容理解、そのためのディスカッション。該当箇所のシャドウイング。 復習　第 3 スクリプトにある英語の重要構文・項目等の確認。
14	川畑　秀樹	【第 14 回】 予習　全 3 回のスクリプトを読み直してくる。 授業　全体の上映（英語字幕）。最終回に実施するテストの説明。 復習　第 2 作品のレポート・感想作成。
15	川畑　秀樹	【第 15 回】 予習　レポートを含めたテストのための準備。 授業　レポートを含めたテストを行う。 復習　特になし。

授業開始前学習	映画は、様々なことを教えてくれます。特に、ヨーロッパ言語の外国映画を見ることで、我々日本人は「西洋」を学んできました。名作と呼ばれるものを、数多く見ておいてください。
授業内課題のフィードバックの方法	◆音読やシャドウイング活動に伴い、英語らしいリズムやイントネーションのアドバイスを行う。 また、レポート等については、各学生の解釈の妥当性について、丁寧なアドバイスを行う。
テキスト・教材	◆授業内で理解のための注釈を付けたスクリプトをプリントして配布する。
参考書	
評価の基準と方法	◆授業内の活動（音読、シャドウイング、映像・内容についての意見交換、その他）：20% ◆小テスト（台詞のディクテ―ション、暗唱、その他）：30% ◆レポート（映画に対する感想）を含めた試験：50%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	△						◎	○

関連科目	
その他	必ず初回の授業に出席をすること。初回の授業には今後の進行や資料についての重要な話を行うオリエンテーションの役割があるからです。映画を使用して英語学習を行う一方、映画を積極的に分析し、内容を楽しむ必要があります。したがって受講生は、毎回の英語の予習・小テストの準備に加え、映画が表現する事柄と向き合い、クラスメートや講師と話し合う意欲が求められます。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）		科目分類（～2024年入学者）	113-330-11（2022年～入学者） 113-330-12（～2021年入学者）	授業コード	FC0640
科目名称	☆映画の英語Ⅱ			単位数	2.0単位
英文名称	Movie EnglishⅡ			授業区分	講義
科目責任者	川畑　秀樹			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	川畑　秀樹			開講時期	1年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	１５回の授業を通じて、２本の映画を読み解き、鑑賞します。取り上げる作品は、近年の名作であり、作品の本質に迫るとともに、これを言語材料に、実践的な英語学習を行っていきます。そのために、①台詞を英語原文で読み解き、聞き取る作業、②映画内の場面に合わせて、俳優・キャラクターと一緒に声に出して英語を語ってみる作業、③台詞の裏にある心情など自分なりにくみとる作業などを行います。また、作品理解のために、背景知識なども学びます。必要に応じて、作品解釈のためのディスカッションも行います。				
到達目標	◆実際に話されている台詞(英語原文)を的確に理解するとともに、人物の心情を理解する。 →英語原文を理解する正確な読解力と、ニュアンスを把握理解する力を身につける。 ◆英語で書かれた台詞を、実際の洋画で話されるスピードとイントネーションで表現できるようになる。 →リアルな英語感覚を身につけることができる。 ◆文法の復習を行いつつ、洋画で用いられる多彩な語彙を学ぶ。 →英語力の根幹を支える文法と単語を強化できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	川畑　秀樹	【第１回】 予習　シラバスを読んでくる。 授業　題材として取り上げる、過酷な状態にあっても失われない希望とヒューマニズムを描いた作品の概要説明、およびアメリカの社会・制度の説明。 全編を第１回と第２回にわたって鑑賞するが、時々説明を入れながら行う。第１回は日本語字幕で鑑賞する。 復習　授業形式の確認
2	川畑　秀樹	【第２回】 予習　第１回に配布したスクリプト（以下第１スクリプト）の下読み。 授業　残りの部分の鑑賞。スクリプトの内容理解。 復習　第１スクリプトにある英語の重要構文・項目等の確認。
3	川畑　秀樹	【第３回】 予習　第１スクリプトの詳細な理解。 授業　第１スクリプト部分の鑑賞とスクリプトの内容理解、そのためのディスカッション。該当箇所をスピーキング。 復習　各登場人物像の把握。
4	川畑　秀樹	【第４回】 予習　第２スクリプトの下読み。 授業　第２スクリプト部分の鑑賞とスクリプトの内容理解、そのためのディスカッション。該当箇所をスピーキング。 復習　第２スクリプトにある英語の重要構文・項目等の確認。
5	川畑　秀樹	【第５回】 予習　第３スクリプトの下読み。 授業　第３スクリプト部分の鑑賞とスプリプトの内容理解、そのためのディスカッション。該当箇所スピーキング。 復習　第３スクリプトの英語の重要構文・項目の確認。
6	川畑　秀樹	【第６回】 予習　第４スクリプトの下読み 授業　第４スクリプト部分の鑑賞とスクリプトの内容理解、そのためのディスカッション。該当箇所スピーキング。 復習　第４スクリプトの英語の重要構文・項目の確認。
7	川畑　秀樹	【第７回】 予習　第５スクリプトの下読み 授業　第５スクリプト部分の鑑賞とスクリプトの内容理解、そのためのディスカッション。該当箇所をスピーキング。 復習　 第５スクリプトの英語の重要構文・項目の確認。
8	川畑　秀樹	【第８回】 予習　全５回のスクリプトを読み直してくる。 授業　全体の鑑賞（英語字幕）。次回のレポート作成のための必要箇所の説明指導。 復習　本作品のレポート・感想作成。

9	川畑　秀樹	【第 9 回】 予習　スクリプト全体を読み返す。 授業　指示に従い、映画の重要箇所を中心にレポートを作成する。 復習　引き続き本作品　のレポート・感想作成。
10	川畑　秀樹	【第 10 回】 予習　第 9 回に配布された第 2 作品の資料を読んでくる。 授業　題材として取り上げる映画の概要説明、および時代背景の説明。第 2 作品全編を第 10 回と第 11 回にわたって上映するが、時々説明を入れながら行う。第 1 回上映は日本語字幕で鑑賞する。 復習　授業形式の確認。
11	川畑　秀樹	【第 11 回】 予習　前回に配布した第 1 スクリプトの下読み。 授業　残りの部分の上映。第 1 スクリプトの内容理解、そのためのディスカッション。該当箇所のシャドウイング。 復習　第 1 スクリプトにある英語の重要構文・項目等の確認。
12	川畑　秀樹	【第 12 回】 予習　第 2 スクリプトの下読み。 授業　第 2 スクリプト部分の鑑賞とスクリプトの内容理解、そのためのディスカッション。該当箇所のシャドウイング。 復習　第 2 回スクリプトにある英語の重要構文・項目等の確認。
13	川畑　秀樹	【第 13 回】 予習　第 3 スクリプトの下読み。 授業　第 3 スクリプト部分の鑑賞とスクリプトの内容理解、そのためのディスカッション。該当箇所のシャドウイング。 復習　第 3 スクリプトにある英語の重要構文・項目等の確認。
14	川畑　秀樹	【第 14 回】 予習　全 3 回のスクリプトを読み直してくる。 授業　全体の鑑賞。次回のレポート・試験準備のための説明指導。 復習　レポート・試験準備。
15	川畑　秀樹	【第 15 回】 予習　レポート・試験準備 授業　最終試験 復習　特になし

授業開始前学習	映画は、様々なことを教えてくれます。特に、ヨーロッパ言語の外国映画を見ることで、我々日本人は「西洋」を学んできました。名作と呼ばれるものを、数多く見ておいてください。
授業内課題のフィードバックの方法	◆音読やシャドウイング活動に伴い、英語らしいリズムやイントネーションのアドバイスを行う。 また、レポート等については、各学生の解釈の妥当性について、丁寧なアドバイスを行う。
テキスト・教材	◆授業内で理解のための注釈を付けたスクリプトを配布する。
参考書	
評価の基準と方法	◆授業内の活動（音読、シャドウイング、映像・内容についての意見交換、その他）：20% ◆小テスト（台詞のディクテ―ション、暗唱、その他）：30% ◆レポート（映画に対する感想）を含めた試験：50%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	△						◎	○

関連科目	
その他	必ず初回の授業に出席をすること。初回の授業には今後の進行や資料についての重要な話を行うオリエンテーションの役割があるからです。映画を使用して英語学習を行う一方、映画を積極的に分析し、内容を楽しむ必要があります。したがって受講生は、毎回の英語の予習・小テストの準備に加え、映画が表現する事柄と向き合い、クラスメートや講師と話し合う意欲が求められます。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）		科目分類（～2024年入学者）	113-330-12	授業コード	FC0650
科目名称	ことばの世界Ⅰ			単位数	2.0単位
英文名称	World of Language Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	工藤 俊			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	工藤 俊			開講時期	2年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 16:20～17:50 後期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 16:20～17:50			研究室	10-607
授業概要	この授業では、英語ということばに焦点を当て、既習の英文法を違った角度から見直す。そして、英語母語話者がどのように英語を運用しているのかを知ることで、文法的に正しい英語を自らアウトプットできるようになることを目的とする。英語を正しく運用できるようになるためには、英語がどのような原理原則に従っているのかを知ることが必須である。この授業では、個々の文法項目に根付いた感覚、その文法を使用することで伝わる意味・意図、そして相手はその表現をどのように受け止めるかといったことを中心に考える。				
到達目標	・文法的に正しい英語を自らアウトプットできるようになる。 ・英語母語話者の言語感覚を理解できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	工藤 俊	【第1回】 予習 ：Chapter 0：英文法の歩き方を読んでくる。本授業の趣旨を確認する。 授業 ：オリエンテーション、担当決め 復習 ：授業の方針について確認する。
2	工藤 俊	【第2回】 予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。 授業：Chapter 1：主語・動詞・基本文型①（ディスカッション） 復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する。
3	工藤 俊	【第3回】 予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。 授業：Chapter 1：主語・動詞・基本文型②（ディスカッション） 復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する。
4	工藤 俊	【第4回】 予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。 授業：Chapter 2：名詞①（ディスカッション） 復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する。
5	工藤 俊	【第5回】 予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。 授業：Chapter 2：名詞②（ディスカッション） 復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する。
6	工藤 俊	【第6回】 予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。 授業：Chapter 2：名詞③（ディスカッション） 復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する。
7	工藤 俊	【第7回】 予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。 授業：Chapter 3：形容詞（ディスカッション） 復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する。
8	工藤 俊	【第8回】 予習：第7回までの内容をよく理解する。 授業：前期前半のまとめ 復習：理解不足の点を洗い出し、補完する。
9	工藤 俊	【第9回】 予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。 授業：Chapter 4：副詞（ディスカッション） 復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する。
10	工藤 俊	【第10回】 予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。 授業：Chapter 5：比較（ディスカッション） 復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する。
11	工藤 俊	【第11回】 予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。 授業：Chapter 6：否定（ディスカッション） 復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する。

12	工藤　俊	【第 12 回】 予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。 授業：Chapter 7：助動詞（ディスカッション） 復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する。
13	工藤　俊	【第 13 回】 予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。 授業：Chapter 8：前置詞（ディスカッション） 復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する。
14	工藤　俊	【第 14 回】 予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。 授業：Chapter 9：WH 修飾（ディスカッション） 復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する。
15	工藤　俊	【第 15 回】 予習：第 14 回までの内容をよく理解する。 授業：前期後半のまとめ 復習：理解不足の点を洗い出し、補完する。

授業開始前学習	毎時、教科書に沿って演習を行うので該当箇所を必ず読んで理解し、疑問点をまとめておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	授業内でフィードバックする。
テキスト・教材	大西泰斗・ポール・マクベイ『一億人の英文法』（東進ブックス）2011 年（ISBN: 978-4-89085-527-8）
参考書	授業内で適宜紹介する。
評価の基準と方法	プレゼンテーション：40%、定期試験：60%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○	△	○	◎			

関連科目	
その他	Chapter 0 は、この授業のコンセプトを理解するうえで重要な章なので熟読すること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-330-12	授業コード	FC0660
科目名称	ことばの世界Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	World of Language Ⅱ			授業区分	講義
科目責任者	工藤 俊			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	工藤 俊			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 16:20～17:50 後期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 16:20～17:50			研究室	10-607
授業概要	「ことばの世界Ⅰ」に引き続き、この授業では従来の学校英文法を再検討し、文法的に正しいアウトプットとは何かについて考える。英語母語話者が、言語としての英語をどのように認識しているかといった観点に着目しながら英語を学ぶことで、より深い英語力が身につく。この授業では、上記のような観点に基づいて英文法を今一度学び直し、深いレベルで英語を理解することを目指す。				
到達目標	・文法的に複雑な英文でも正しくアウトプットできるようになる。 ・英語母語話者の言語感覚を深く理解できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	工藤 俊	【第 1 回】 予習 ：Chapter 0：英文法の歩き方を読んでくる。本授業の趣旨を確認する。 授業 ：オリエンテーション、担当決め 復習 ：授業の方針について確認する。
2	工藤 俊	【第 2 回】 予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。 授業：Chapter 10：動詞 -ing 形（ディスカッション） 復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する。
3	工藤 俊	【第 3 回】 予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。 授業：Chapter 11：TO 不定詞（ディスカッション） 復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する。
4	工藤 俊	【第 4 回】 予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。 授業：Chapter 12：過去分詞形（ディスカッション） 復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する
5	工藤 俊	【第 5 回】 予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。 授業：Chapter 13：節（ディスカッション） 復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する。
6	工藤 俊	【第 6 回】 予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。 授業：Chapter 14：疑問文①（ディスカッション） 復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する。
7	工藤 俊	【第 7 回】 予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。 授業：Chapter 14：疑問文②（ディスカッション） 復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する。
8	工藤 俊	【第 8 回】 予習：第 7 回までの内容をよく理解する。 授業：後期前半のまとめ 復習：理解不足の点を洗い出し、補完する。
9	工藤 俊	【第 9 回】 予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。 授業：Chapter 15：さまざまな配置転換（ディスカッション） 復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する。
10	工藤 俊	【第 10 回】 予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。 授業：Chapter 16：時表現①（ディスカッション） 復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する。
11	工藤 俊	【第 11 回】 予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。 授業：Chapter 16：時表現②（ディスカッション） 復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する。

12	工藤　俊	【第 12 回】 予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。 授業：Chapter 16：時表現③（ディスカッション） 復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する。
13	工藤　俊	【第 13 回】 予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。 授業：Chapter 17：接続詞（ディスカッション） 復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する。
14	工藤　俊	【第 14 回】 予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。 授業：Chapter 18：流れを整える（ディスカッション） 復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する。
15	工藤　俊	【第 15 回】 予習：第 14 回までの内容をよく理解する。 授業：後期後半のまとめ 復習：理解不足の点を洗い出し、補完する。

授業開始前学習	毎時、教科書に沿って演習を行うので該当箇所を必ず読んで理解し、疑問点をまとめておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	授業内でフィードバックする。
テキスト・教材	大西泰斗・ポール・マクベイ『一億人の英文法』（東進ブックス）2011 年（ISBN: 978-4-89085-527-8）
参考書	授業内で適宜紹介する。
評価の基準と方法	プレゼンテーション：40%、定期試験：60%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○	△	○	◎			

関連科目	
その他	Chapter 0 は、この授業のコンセプトを理解するうえで重要な章なので熟読すること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）		科目分類（～2024年入学者）	113-330-12	授業コード	FC0670
科目名称	英語圏文化Ⅰ			単位数	2.0単位
英文名称	Culture of English Speaking Countries Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	松山　響子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松山　響子			開講時期	2年
オフィスアワー	前期　水曜日 13:00～14:30　木曜日 10:40～12:10 後期　水曜日 09:00～10:30　水曜日 13:00～14:30			研究室	10-605
授業概要	英語圏の文化、主にイギリスについて講義します。現在、英語が世界の共通語の一つとして扱われるきっかけとなったのはイギリスです。そのイギリスを取り巻くあらゆることについて学んでいくことで、現在のイギリスのあり様が見えてくる、そして世界の中のイギリスの立ち位置を知ることができます。				
到達目標	・イギリスについての文化事象やそれを取り巻く環境について理解できるようになる ・理解した情報を元にグローバルな視点を持つことができるようになる				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	松山　響子	【第1回】 予習　：授業シラバスに目を通してくること 授業　：オリエンテーション・西欧を学ぶ前に知っておくべき基礎知識 復習　：授業目的の確認
2	松山　響子	【第2回】 予習　：事前に指定された事項を各自で調べてくる 授業　：イギリスとは何か 復習　：課題・授業内容の確認
3	松山　響子	【第3回】 予習　：事前に指定された事項を各自で調べてくる 授業　：英語と英語圏について 復習　：課題・授業内容の確認
4	松山　響子	【第4回】 予習　：事前に指定された事項を各自で調べてくる 授業　：イギリスの地理と自然環境 復習　：課題・授業内容の確認
5	松山　響子	【第5回】 予習　：事前に指定された事項を各自で調べてくる 授業　：イギリスの歴史① 復習　：課題・授業内容の確認
6	松山　響子	【第6回】 予習　：事前に指定された事項を各自で調べてくる 授業　：イギリスの歴史② 復習　：課題・授業内容の確認
7	松山　響子	【第7回】 予習　：事前に指定された事項を各自で調べてくる 授業　：イギリスの宗教と生活 復習　：課題・授業内容の確認
8	松山　響子	【第8回】 予習　：事前に指定された事項を各自で調べてくる 授業　：イギリスの音楽 復習　：課題・授業内容の確認
9	松山　響子	【第9回】 予習　：事前に指定された事項を各自で調べてくる 授業　：イギリスの美術 復習　：課題・授業内容の確認
10	松山　響子	【第10回】 予習　：事前に指定された事項を各自で調べてくる 授業　：イギリスの映像文化とメディア 復習　：課題・授業内容の確認
11	松山　響子	【第11回】 予習　：事前に指定された事項を各自で調べてくる 授業　：イギリスのスポーツ身体文化、教育と社会階層 復習　：課題・授業内容の確認

12	松山　響子	【第 12 回】 予習　：事前に指定された事項を各自で調べてくる 授業　：イギリスの王室と政治 復習　：課題・授業内容の確認
13	松山　響子	【第 13 回】 予習　：事前に指定された事項を各自で調べてくる 授業　：世界のなかのイギリス 復習　：課題・授業内容の確認
14	松山　響子	【第 14 回】 予習　：事前に指定された事項を各自で調べてくる 授業　：イギリス文化関連映像資料鑑賞① 復習　：課題・授業内容の確認
15	松山　響子	【第 15 回】 予習　：事前に指定された事項を各自で調べてくる 授業　：イギリス文化関連映像資料鑑賞② 復習　：課題・授業内容の確認

授業開始前学習	事前に自習で学修する内容を簡単に説明するので、それらの事項について各自で簡単にネットや SNS、図書資料等に目を通す
授業内課題のフィードバックの方法	授業内容についての簡単なまとめを毎回授業終了時に提出をする。授業に関しての質問を毎回受け付ける。質問に関しては次回の授業で無記名で回答を行う。
テキスト・教材	特に指定せずに配布資料、プリント等を使用する
参考書	指昭博(編著)『初めて学ぶ　イギリスの歴史と文化』ミネルヴァ書房、2012 年 下楠昌哉(編集)『イギリス文化入門』三修社、2010 年 武藤浩史、川端康雄、遠藤不比人、大田信良、木下誠（編）『愛と戦いのイギリス文化史 1900 年−1950 年』慶應義塾大学出版会、2007 年 川端康雄、大貫隆史、河野真太郎、佐藤元状、秦邦生（編）『愛と戦いのイギリス文化史 1951 年−2010 年』慶應義塾大学出版会、2011 年 板倉厳一郎、スーザン・K.バートン、小野原教子『映画でわかるイギリス文化入門 』松柏社、20
評価の基準と方法	期末レポート、授業内で行う課題、授業参加態度で評価します。 期末レポート：60% 授業内課題・授業参加:40% 出席が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は、単位を認定することができません。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△	○			

関連科目	イギリス文学Ⅰ イギリス文学Ⅱ 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ専攻研究 A
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-330-12	授業コード	FC0680
科目名称	英語圏文化Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	Culture of English Speaking Countries Ⅱ			授業区分	講義
科目責任者	松山　響子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松山　響子			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期　水曜日 13:00～14:30　木曜日 10:40～12:10 後期　水曜日 09:00～10:30　水曜日 13:00～14:30			研究室	10-605
授業概要	英語圏の文化、主にアメリカについて講義します。アメリカを取り巻くあらゆることについて学んでいくことで、現在のアメリカのあり様が見えてくる、そして世界の中のアメリカの立ち位置を知ることができます。				
到達目標	・アメリカについての文化事象やそれを取り巻く環境について理解できるようになる ・理解した情報を元にグローバルな視点を持つことができるようになる				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	松山　響子	【第 1 回】 予習　：授業シラバスに目を通してくること 授業　：オリエンテーション・欧米を学ぶ前に知っておくべき基礎知識 復習　：授業目的の確認
2	松山　響子	【第 2 回】 予習　：事前に指定された事項を各自で調べてくる 授業　：アメリカとは何か 復習　：課題・授業内容の確認
3	松山　響子	【第 3 回】 予習　：事前に指定された事項を各自で調べてくる 授業　：アメリカの地理と自然環境 復習　：課題・授業内容の確認
4	松山　響子	【第 4 回】 予習　：事前に指定された事項を各自で調べてくる 授業　：アメリカの歴史① 復習　：課題・授業内容の確認
5	松山　響子	【第 5 回】 予習　：事前に指定された事項を各自で調べてくる 授業　：アメリカの歴史② 復習　：課題・授業内容の確認
6	松山　響子	【第 6 回】 予習　：事前に指定された事項を各自で調べてくる 授業　：アメリカの宗教と生活 復習　：課題・授業内容の確認
7	松山　響子	【第 7 回】 予習　：事前に指定された事項を各自で調べてくる 授業　：アメリカの美術 復習　：課題・授業内容の確認
8	松山　響子	【第 8 回】 予習　：事前に指定された事項を各自で調べてくる 授業　：アメリカの音楽 復習　：課題・授業内容の確認
9	松山　響子	【第 9 回】 予習　：事前に指定された事項を各自で調べてくる 授業　：アメリカの映像文化とメディア 復習　：課題・授業内容の確認
10	松山　響子	【第 10 回】 予習　：事前に指定された事項を各自で調べてくる 授業　：アメリカのスポーツ身体文化 復習　：課題・授業内容の確認
11	松山　響子	【第 11 回】 予習　：事前に指定された事項を各自で調べてくる 授業　：アメリカの大統領と政治経済 復習　：課題・授業内容の確認

12	松山　響子	【第 12 回】 予習　：事前に指定された事項を各自で調べてくる 授業　：アメリカとジェンダー 復習　：課題・授業内容の確認
13	松山　響子	【第 13 回】 予習　：事前に指定された事項を各自で調べてくる 授業　：世界のなかのアメリカ 復習　：課題・授業内容の確認
14	松山　響子	【第 14 回】 予習　：事前に指定された事項を各自で調べてくる 授業　：アメリカ文化関連映像資料鑑賞① 復習　：課題・授業内容の確認
15	松山　響子	【第 15 回】 予習　：事前に指定された事項を各自で調べてくる 授業　：アメリカ文化関連映像資料鑑賞② 復習　：課題・授業内容の確認

授業開始前学習	事前に自習で学修する内容を簡単に説明するので、それらの事項について各自で簡単にネットや SNS、図書資料等に目を通す
授業内課題のフィードバックの方法	授業内容についての簡単なまとめを毎回授業終了時に提出をする。授業に関しての質問を毎回受け付ける。質問に関しては次回の授業で無記名で回答を行う。
テキスト・教材	特に指定せずに配布資料、プリント等を使用する
参考書	遠藤泰生、小田悠生『はじめて学ぶアメリカの歴史と文化』ミネルヴァ書房、2023 年 杉野健太郎(責任編集)『アメリカ文化入門』三修社、2010 年 奥村みさ，スーザン・K．バートン，板倉厳一郎『映画でわかるアメリカ文化入門』松柏社、2007 年
評価の基準と方法	期末レポート、授業内で行う課題、授業参加態度で評価します。 期末レポート：60% 授業内課題・授業参加:40% 出席が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は、単位を認定することができません。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△	○			

関連科目	英語圏文化Ⅰ アメリカ文学Ⅰ アメリカ文学　Ⅱ
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	HR-M-221	科目分類（～2024 年入学者）	113-330-12	授業コード	FC0690
科目名称	国際法 I			単位数	2.0 単位
英文名称	International Law I			授業区分	講義
科目責任者	福王　守			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	福王　守			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期　月曜日 13:00～14:30　木曜日 13:00～14:30 後期　月曜日 13:00～14:30　木曜日 13:00～14:30			研究室	10-614
授業概要	国際法とは、主に国家と国家を結びつける法規則をまとめた呼び方です。それらは、条約と慣習国際法から成ります。変化し続ける国際社会の歴史の中で、様々な要因が国境を越えた法として形成されてきました。この講座は、現代の国際社会を国際法という枠組を通して構造的に把握することを主な目的とします。特に前期においては、近代以降の市民社会の変遷を踏まえながら、基礎知識の習得と問題分析の方法を学びます。この講座をひとつの手がかりとして、未解決の社会問題をより客観的に捉えていく手がかりが伝えられれば幸いです。 ※　毎回の授業後には、「問題解決型学習」の手段として課題レポートを作成してもらい、次回授業時にこれに対する解説と質問への回答を行います。				
到達目標	国際社会における客観的な判断基準としての「国際法」の役割を踏まえて、異なる意見を踏まえつつ筋道を立てて未解決の社会問題を考える力を身につけることを目標とします。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	福王　守	【第 1 回】 予習　：本科目シラバスおよびテキスト 1 頁の講読 授業　：「国際法 I 」とは：この授業の目的・内容・学習方法について【シラバス、テキスト 1 頁】 復習　：テキスト 1 頁の再読、【第 1 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
2	福王　守	【第 2 回】 予習　：テキスト該当頁の講読およびキーワードの確認 授業　：国際社会の変遷と国際法：国際社会と法構造の特徴　【テキスト 2-7 頁】 復習　：テキスト該当頁の再読、【第 2 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
3	福王　守	【第 3 回】 予習　：テキスト該当頁の講読およびキーワードの確認 授業　：国際社会の変遷と国際法：近代市民社会と実定国際法学の確立　【テキスト 13-15 頁】 復習　：テキスト該当頁の再読、【第 3 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
4	福王　守	【第 4 回】 予習　：テキスト該当頁の講読およびキーワードの確認 授業　：国際社会の変遷と国際法（3）：20 世紀から現代までの国際法学の展開　【テキスト 15-21 頁】 復習　：テキスト該当頁の再読、【第 4 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
5	福王　守	【第 5 回】 予習　：テキスト該当頁の講読およびキーワードの確認 授業　：現代国際法の構造：国家間の明示的合意としての「条約」　【テキスト 78-83、128-132 頁】 復習　：テキスト該当頁の再読、【第 5 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
6	福王　守	【第 6 回】 予習　：テキスト該当頁の講読およびキーワードの確認 授業　：現代国際法の構造：条約と国内法の衝突問題　【テキスト 128-132 頁】 復習　：テキスト該当頁の再読、【第 6 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
7	福王　守	【第 7 回】 予習　：テキスト該当頁の講読およびキーワードの確認 授業　：現代国際法の構造：国家間の黙示的慣行に基づく「慣習国際法」　【テキスト 83-89、200-201 頁】 復習　：テキスト該当頁の再読、【第 7 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
8	福王　守	【第 8 回】 予習　：テキスト該当頁の講読およびキーワードの確認 授業　：現代国際法の構造：慣習国際法をめぐる問題　【テキスト 10、50-59、148、239-240、244-245、254-255 頁】 復習　：テキスト該当頁の再読、【第 8 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
9	福王　守	【第 9 回】 予習　：テキスト該当頁の講読およびキーワードの確認 授業　：国際法の主体：国家の成立要件と権利義務　【テキスト 22-23、33-37 頁】 復習　：テキスト該当頁の再読、【第 9 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
10	福王　守	【第 10 回】 予習　：第 2 回-9 回までのテキスト全学習頁の講読およびキーワードの確認 授業　：これまでの授業の総括と発展学習の手引：授業全体の体系的整理と論証に向けて【テキスト全学習頁】 復習　：テキスト全学習頁の再読、【第 10 回】授業ノートおよび配布プリントの整理

11	福王　守	【第 11 回】 予習　：テキスト該当頁の講読およびキーワードの確認 授業　：国際法の主体：国家承認　　【テキスト 22-23 頁】 復習　：テキスト該当頁の再読、【第 11 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
12	福王　守	【第 12 回】 予習　：テキスト該当頁の講読およびキーワードの確認 授業　：国際法の主体：国家承認をめぐる今日的問題　【テキスト 221-23、266-268、370-372 頁】 復習　：テキスト該当頁の再読、【第 12 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
13	福王　守	【第 13 回】 予習　：テキスト該当頁の講読およびキーワードの確認 授業　：国際法の客体：国家の領域と非領域　【テキスト 171-187、211-232 頁】 復習　：テキスト該当頁の再読、【第 13 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
14	福王　守	【第 14 回】 予習　：テキスト該当頁の講読およびキーワードの確認 授業　：国際法の客体：海洋法　【テキスト 188-210 頁】 復習　：テキスト該当頁の再読、【第 14 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
15	福王　守	【第 15 回】 予習　：テキスト 1 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：「国際法Ⅰ」の総括と発展学習の手引：授業全体の体系的整理と論証に向けて【テキスト全学習頁】 復習　：テキスト全学習頁の再読、【第 15 回】授業ノートおよび配布プリントの整理

授業開始前学習	テレビ場新聞の社会面・政治面の報道に、少しでも多く接する機会をもって下さい。必ずどこかで授業理解の助けになります。
授業内課題のフィードバックの方法	適宜次回の授業冒頭において、課題レポートに対する講評と質問への回答を述べます。また第 15 回目において、レポート全般に関する講評等を行います。
テキスト・教材	・中谷和弘・植木俊哉・河野真理子・森田章夫・山本良『国際法（第 5 版）』（有斐閣、2024 年） ・岩澤雄司・植木俊哉・中谷和弘編『国際条約集 2025 年版』（有斐閣、2025 年）
参考書	授業を通じて適宜紹介します。
評価の基準と方法	・15 回のレポートの総合点で評価します（10 点×15 回＝150 点を 100 点満点に換算）。 ・単位取得の前提として、すべての授業回数のうち出席に基づく、10 回以上の提出が必要です。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎			○		△		

関連科目	法律学関連科目である「法学」、「法と社会」、「日本国憲法Ⅰ・Ⅱ」および「人権の基礎」も参考にしていただければ幸いです。
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-330-12	授業コード	FC0700
科目名称	国際法Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	International Law Ⅱ			授業区分	講義
科目責任者	福王　守			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	福王　守			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期　月曜日 13:00～14:30　木曜日 13:00～14:30 後期　月曜日 13:00～14:30　木曜日 13:00～14:30			研究室	10-614
授業概要	国際法とは、主に国家と国家を結びつける法規則をまとめた呼び方です。この講座は、現代の国際社会を国際法という枠組を通して構造的に把握することを主な目的とします。後期の授業においては、具体的な国際問題の分析と検討を試みながら、社会における法の役割をできるだけ丁寧に伝えていきます。特に、国際紛争の平和的解決のためには何が必要なのかを共に考えたいと思います。一つひとつのテーマについて、解答をあせらずに複眼的に分析・検討していきます。 ※ 毎回の授業後には、「問題解決型学習」の手段として課題レポートを作成してもらい、次回授業時にこれに対する解説と質問への回答を行います。				
到達目標	国際社会における客観的な判断基準としての「国際法」の役割を踏まえて、異なる意見を踏まえつつ筋道を立てて未解決の社会問題を考える力を身につけることを目標とします。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	福王　守	【第 1 回】 予習　：本科目シラバスおよびテキスト 1 頁の講読 授業　：「国際法」とは：この授業の目的・内容・学習方法について　【テキスト　1 頁】 復習　：テキスト 1 頁の再読、【第 1 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
2	福王　守	【第 2 回】 予習　：テキスト　該当頁の講読およびキーワードの確認 授業　：現代国際法の構造：国際社会と法構造の特徴　【テキスト　2-7 頁】 復習　：テキスト該当頁の再読、【第 2 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
3	福王　守	【第 3 回】 予習　：テキスト該当頁の講読およびキーワードの確認 授業　：国際法上の私人：戦前から戦後までの国際人権保障のあゆみ　【テキスト　233-242 頁】 復習　：テキスト該当頁の再読、【第 3 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
4	福王　守	【第 4 回】 予習　：テキスト該当頁の講読およびキーワードの確認 授業　：国際法上の私人：国際人権章典の意義　【テキスト　242-252 頁】 復習　：テキスト該当頁の再読、【第 4 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
5	福王　守	【第 5 回】 予習　：テキスト該当頁の講読およびキーワードの確認 授業　：国際法上の私人：国際人権保障をめぐる課題と日本（刑罰問題）　【テキスト 242-252 頁】 復習　：テキスト該当頁の再読、【第 5 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
6	福王　守	【第 6 回】 予習　：テキスト該当頁の講読およびキーワードの確認 授業　：地球環境と法：環境問題の国際化と国際的取組み　【テキスト 172-174、316-317 頁】 復習　：テキスト該当頁の再読、【第 6 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
7	福王　守	【第 7 回】 予習　：テキスト該当頁の講読およびキーワードの確認 授業　：地球環境と法：国際環境会議の進展と国際環境法の形成　【テキスト　316-338 頁】 復習　：テキスト該当頁の再読、【第 7 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
8	福王　守	【第 8 回】 予習　：テキスト該当頁の講読およびキーワードの確認 授業　：国家責任：国際違法行為と国家責任　【テキスト　137-156 頁】 復習　：テキスト該当頁の再読、【第 8 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
9	福王　守	【第 9 回】 予習　：テキスト該当頁の講読およびキーワードの確認 授業　：国際紛争の解決方法：戦争の違法化へのあゆみ　【テキスト　16、386-396 頁】 復習　：テキスト該当頁の再読、【第 9 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
10	福王　守	【第 10 回】 予習　：第 2 回-9 回までのテキスト全学習頁の講読およびキーワードの確認 授業　：これまでの授業の総括と発展学習の手引：授業全体の体系的整理と論証に向けて【テキスト全学習頁】 復習　：テキスト全学習頁の再読、【第 10 回】授業ノートおよび配布プリントの整理

11	福王　守	【第 11 回】 予習　：テキスト 該当頁の講読およびキーワードの確認 授業　：国際紛争の解決方法：紛争の平和的解決方法と裁判　【テキスト　146、339-363 頁】 復習　：テキスト該当頁の再読、【第 11 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
12	福王　守	【第 12 回】 予習　：テキスト該当頁の講読およびキーワードの確認 授業　：国際紛争の解決方法：国際司法裁判例の分析（核兵器使用をめぐって）　【テキスト　360、368、391-394、397-406 頁】 復習　：テキスト該当頁の再読、【第 12 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
13	福王　守	【第 13 回】 予習　：テキスト該当頁の講読およびキーワードの確認 授業　：安全保障：個別的安全保障と集団的安全保障　【テキスト　16-17、360-375 頁】 復習　：テキスト該当頁の再読、【第 13 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
14	福王　守	【第 14 回】 予習　：テキスト該当頁の講読およびキーワードの確認 授業　：安全保障：国連の安全保障の仕組みと課題　【テキスト　67、373-385 頁】 復習　：テキスト該当頁の再読、【第 14 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
15	福王　守	【第 15 回】 予習　：テキスト 1 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：「国際法Ⅱ」の総括と発展学習の手引き：授業全体の体系的整理と論証に向けて【テキスト全学習頁】 復習　：テキスト全学習頁の再読、【第 15 回】授業ノートおよび配布プリントの整理

授業開始前学習	テレビ場新聞の社会面・政治面の報道に、少しでも多く接する機会をもって下さい。必ずどこかで授業理解の助けになります。
授業内課題のフィードバックの方法	適宜次回の授業冒頭において課題レポートに対するコメントを述べます。また第 15 回目において、レポートの全般的な講評と質問に対する回答を行います。
テキスト・教材	・中谷和弘・植木俊哉・河野真理子・森田章夫・山本良『国際法（第 5 版）』（有斐閣、2024 年） ・岩澤雄司・植木俊哉・中谷和弘編『国際条約集 2025 年版』（有斐閣、2025 年）
参考書	授業を通じて適宜紹介します。
評価の基準と方法	・15 回のレポートの総合点で評価します（10 点×15 回＝150 点を 100 点満点に換算）。 ・単位取得の前提として、すべての授業回数のうち出席に基づく 10 回以上の提出が必要です。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎			○		△		

関連科目	法律学関連科目である「法学」、「法と社会」、「日本国憲法Ⅰ・Ⅱ」および「人権の基礎」も参考にしていただければ幸いです。
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-310-12	授業コード	FC0910
科目名称	ｷｬﾘｱ･ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭ Ⅰ			単位数	2.0 単位
英文名称	Career English Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	川畑　秀樹			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	川畑　秀樹			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	本授業は、以下の 2 点を主な内容とする。 1. 総合的な英語力の向上を目指した、英語でのディスカッションやグループワーク。 2. キャリアを意識した TOEIC の対策と模擬問題演習。 1.では、日常生活を意識したトピックをもとに、学生同士が英語を用いて自分の意思を主体的に発信できるようなアクティビティを行う。2.では、テキストに沿って TOEIC の模擬問題を解き、TOEIC で求められるリスニング力およびリーディング力を身につける。				
到達目標	1.「読む・書く・聞く・話す」といった総合的な英語力が身につく。 2. TOEIC において高得点をとることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	川畑　秀樹	※ペアワークやグループワークを含む回がある。 【第 1 回】 予習：シラバスを読んでくる。 授業：本授業の基本ルールを確認し、今後の授業形式と目標を理解できるようになる。 復習：授業形式の再確認
2	川畑　秀樹	【第 2 回】 予習：Unit 1 "Travel (P12-16)"についてわからない単語を調べる。 授業：Unit 1 "Travel (P12-16)"に関する問題演習 復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。
3	川畑　秀樹	【第 3 回】 予習：Unit 1 "Travel (P17-20)"の文法・リーディングの下調べをする。 授業：Unit 1 "Travel (P17-20)"に関する問題演習 復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。
4	川畑　秀樹	【第 4 回】 予習：Unit 2 "Dining Out (P21-25)"についてわからない単語を調べる。 授業：Unit 2 "Dining Out (P21-25)"に関する問題演習 復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。
5	川畑　秀樹	【第 5 回】 予習：Unit 2 "Dining Out (P26-29)"の文法・リーディングの下調べをする。 授業：Unit 2 "Dining Out (P26-29)"に関する問題演習 復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。
6	川畑　秀樹	【第 6 回】 予習：Unit 3 "Media (P30-34)"についてわからない単語を調べる。 授業：Unit 3 "Media (P30-34)"に関する問題演習 復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。
7	川畑　秀樹	【第 7 回】 予習：Unit 3 "Media (P35-38)"の文法・リーディングの下調べをする。 授業：Unit 3 "Media (P35-38)"に関する問題演習 復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。
8	川畑　秀樹	【第 8 回】 予習：Unit 1-3 でわからなかった箇所を復習する。 授業：Unit 1-3 の総復習 復習：授業中にわからなかった問題をもう一度解き直す。
9	川畑　秀樹	【第 9 回】 予習：Unit 4 "Entertainment (P39-43)"についてわからない単語を調べる。 授業：Unit 4 "Entertainment (P39-43)"に関する問題演習 復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。
10	川畑　秀樹	【第 10 回】 予習：Unit 4 "Entertainment (P44-47)"の文法・リーディングの下調べをする。 授業：Unit 4 "Entertainment (P44-47)"に関する問題演習 復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。

11	川畑　秀樹	【第 11 回】 予習：Unit 5 "Purchasing (P48-52)"についてわからない単語を調べる。 授業：Unit 5 "Purchasing (P48-52)"に関する問題演習 復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。
12	川畑　秀樹	【第 12 回】 予習：Unit 5 "Purchasing (P53-57)"の文法・リーディングの下調べをする。 授業：Unit 5 "Purchasing (P53-57)"に関する問題演習 復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。
13	川畑　秀樹	【第 13 回】 予習：Unit 6 "Clients (P58-62)"についてわからない単語を調べる。 授業：Unit 6 "Clients (P58-62)"に関する問題演習 復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。
14	川畑　秀樹	【第 14 回】 予習：Unit 6 "Clients (P63-66)"の文法・リーディングの下調べをする。 授業：Unit 6 "Clients (P63-66)"に関する問題演習 復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。
15	川畑　秀樹	【第 15 回】 予習：Unit 4-6 でわからなかった箇所を復習する。 授業：Unit 4-6 の総復習 復習：授業中にわからなかった問題をもう一度解き直す。

授業開始前学習	
授業内課題のフィードバックの方法	授業内で課題に対するフィードバックを行う。
テキスト・教材	早川幸治・番場直之・中村信子・鈴木顕『THE HIGH ROAD TO THE TOEIC LISTENING AND READING TEST』（金星堂）2017 年 (ISBN: 978-4-7647-4045-7)
参考書	
評価の基準と方法	授業内活動 20%，宿題 20%，試験 60%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○				△	◎

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-310-12	授業コード	FC0920
科目名称	ｷｬﾘｱ･ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭⅡ			単位数	2.0 単位
英文名称	Career EnglishⅡ			授業区分	講義
科目責任者	川畑　秀樹			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	川畑　秀樹			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	本授業は、TOEIC で高得点をとるために、テキストに沿って TOEIC の応用的な模擬問題を解く。そして、TOEIC で求められる高度なリスニング力およびリーディング力を身につける。同時に、より高い英語力を身につけるために、単語・文法・読解などを中心に、総合的な英語力を養う演習を、ペアワーク等の主体的な活動を交えながら行う。				
到達目標	1. TOEIC においてより高い点をとることができる。 2.「読む・書く・聞く・話す」といった総合的な英語力が身につく。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	川畑　秀樹	※ペアワークやグループワークを含む回がある。 【第 1 回】 予習：シラバスを読んでくる。 授業：本授業の基本ルールを確認し、今後の授業形式と目標を理解できるようになる。Unit 7 "Recruiting (P67-71)に関する問題演習 復習：授業形式の再確認。わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。
2	川畑　秀樹	【第 2 回】 予習：Unit 7 "Recruiting (P67-71)"についてわからない単語を調べる。 授業：Unit 7 "Recruiting (P67-71)"に関する問題演習 復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。
3	川畑　秀樹	【第 3 回】 予習：Unit 7 "Recruiting (P72-76)"の文法・リーディングの下調べをする。 授業：Unit 7 "Recruiting (P72-76)"に関する問題演習 復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。
4	川畑　秀樹	【第 4 回】 予習：Unit 8 "Personnel (P77-81)"についてわからない単語を調べる。 授業：Unit 8 "Personnel (P77-81)"に関する問題演習 復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。
5	川畑　秀樹	【第 5 回】 予習：Unit 8 "Personnel (P82-85)"の文法・リーディングの下調べをする。 授業：Unit 8 "Personnel (P82-85)"に関する問題演習 復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。
6	川畑　秀樹	【第 6 回】 予習：Unit 9 "Advertising (P86-90)"についてわからない単語を調べる。 授業：Unit 9 "Advertising (P86-90)"に関する問題演習 復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。
7	川畑　秀樹	【第 7 回】 予習：Unit 9 "Advertising (P91-94)"の文法・リーディングの下調べをする。 授業：Unit 9 "Advertising (P91-94)"に関する問題演習 復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。
8	川畑　秀樹	【第 8 回】 予習：Unit 7-9 でわからなかった箇所を復習する。 授業：Unit 7-9 の総復習 復習：授業中にわからなかった問題をもう一度解き直す。
9	川畑　秀樹	【第 9 回】 予習：Unit 10 "Meetings (P95-99)"についてわからない単語を調べる。 授業：Unit 10 "Meetings (P95-99)"に関する問題演習 復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。
10	川畑　秀樹	【第 10 回】 予習：Unit 10 "Meetings (P100-103)"の文法・リーディングの下調べをする。 授業：Unit 10 "Meetings (P100-103)"に関する問題演習 復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。
11	川畑　秀樹	【第 11 回】 予習：Unit 11 "Finance (P104-108)"についてわからない単語を調べる。 授業：Unit 11 "Finance (P104-108)"に関する問題演習 復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。

12	川畑　秀樹	【第 12 回】 予習：Unit 11 "Finance (P109-112)"の文法・リーディングの下調べをする。 授業：Unit 11 "Finance (P109-112)"に関する問題演習 復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。
13	川畑　秀樹	【第 13 回】 予習：Unit 12 "Offices (P113-117)"についてわからない単語を調べる。 授業：Unit 12 "Offices (P113-117)"に関する問題演習 復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。
14	川畑　秀樹	【第 14 回】 予習：Unit 12 "Offices (P118-121)"の文法・リーディングの下調べをする。 授業：Unit 12 "Offices (P118-121)"に関する問題演習 復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。
15	川畑　秀樹	【第 15 回】 予習：Unit 10-12 でわからなかった箇所を復習する。 授業：Unit 10-12 の総復習 復習：授業中にわからなかった問題をもう一度解き直す

授業開始前学習	
授業内課題のフィードバックの方法	授業内で課題に対するフィードバックを行う。
テキスト・教材	早川幸治・番場直之・中村信子・鈴木顕『THE HIGH ROAD TO THE TOEIC LISTENING AND READING TEST』（金星堂）2017 年 (ISBN: 978-4-7647-4045-7)
参考書	
評価の基準と方法	授業内課題 20%, 宿題 20%, 試験 60%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○				△	◎

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-330-13	授業コード	FC0930
科目名称	ｷｬﾘｱ･ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭⅢ			単位数	2.0 単位
英文名称	Career EnglishⅢ			授業区分	講義
科目責任者	境　奈津希			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	境　奈津希			開講時期	3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	基礎的な英語力を発展させ、TOEIC で要求されるレベルのリスニング・リーディング力を身につけるために模擬試験問題の演習を行う。ただし、TOEIC の演習に終始するのではなく、授業内のグループワークやディスカッションを通じて、より実践的かつ応用的な英語力を身につけ、身近な話題に関する自分の意見を英語で表現できる力を養う。授業を通じて、社会や文化に関する知識を深め、国際的な視点を得ることを目指す。				
到達目標	・英語のリスニング力・リーディング力を伸ばす ・身近な話題についての自分の意見を英語で表現できる				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	境　奈津希	【第 1 回】 予習：シラバスの確認 授業：オリエンテーション（授業の目的や進め方や評価、課題について） 復習：授業形式についての確認
2	境　奈津希	【第 2 回】 予習：Unit 1 Vocabulary Check 授業：Unit 1（pp.6-13）①、適宜、グループワークやディスカッションを行う。 復習：該当個所を振り返る
3	境　奈津希	【第 3 回】 予習：Unit 1 Vocabulary Check 授業：Unit 1（pp.6-13）②、適宜、グループワークやディスカッションを行う。 復習：該当個所を振り返る
4	境　奈津希	【第 4 回】 予習：Unit 2 Vocabulary Check 授業：Unit 2（pp.14-21）①、適宜、グループワークやディスカッションを行う。 復習：該当個所を振り返る
5	境　奈津希	【第 5 回】 予習：Unit 2 Vocabulary Check 授業：Unit 2（pp.14-21）②、適宜、グループワークやディスカッションを行う。 復習：該当個所を振り返る
6	境　奈津希	【第 6 回】 予習：Unit 3 Vocabulary Check 授業：Unit 3（pp.22-29）①、適宜、グループワークやディスカッションを行う。 復習：該当個所を振り返る
7	境　奈津希	【第 7 回】 予習：Unit 3 Vocabulary Check 授業：Unit 3（pp.22-29）②、適宜、グループワークやディスカッションを行う。 復習：該当個所を振り返る
8	境　奈津希	【第 8 回】 予習：Unit 4 Vocabulary Check 授業：Unit 4（pp.30-37）①、適宜、グループワークやディスカッションを行う。 復習：該当個所を振り返る
9	境　奈津希	【第 9 回】 予習：Unit 4 Vocabulary Check 授業：Unit 4（pp.30-37）②、適宜、グループワークやディスカッションを行う。 復習：該当個所を振り返る
10	境　奈津希	【第 10 回】 予習：Unit 5 Vocabulary Check 授業：Unit 5（pp.38-45）①、適宜、グループワークやディスカッションを行う。 復習：該当個所を振り返る
11	境　奈津希	【第 11 回】 予習：Unit 5 Vocabulary Check 授業：Unit 5（pp.38-45）②、適宜、グループワークやディスカッションを行う。 復習：該当個所を振り返る

12	境　奈津希	【第 12 回】 予習：Unit 6 Vocabulary Check 授業：Unit 6（pp.46-53）①、適宜、グループワークやディスカッションを行う。 復習：該当個所を振り返る
13	境　奈津希	【第 13 回】 予習：Unit 6 Vocabulary Check 授業：Unit 6（pp.46-53）②、適宜、グループワークやディスカッションを行う。 復習：該当個所を振り返る
14	境　奈津希	【第 14 回】 予習：Unit 7 Vocabulary Check 授業：Unit 7（pp.54-63）①、適宜、グループワークやディスカッションを行う。 復習：該当個所を振り返る
15	境　奈津希	【第 15 回】 予習：Unit 7 Vocabulary Check 授業：Unit 7（pp.54-63）②、適宜、グループワークやディスカッションを行う。 復習：該当個所を振り返る

授業開始前学習	今まで受講した英語科目で習ったことを復習しておく。
授業内課題のフィードバックの方法	授業冒頭に小テストを行い、返却時に確認する。
テキスト・教材	松本恵美子・西井賢太郎・Sam Little『６００点を目指すＴＯＥＩＣ　Ｌ＆Ｒ　ＴＥＳＴ演習』三修社
参考書	
評価の基準と方法	平常点 40%（小テスト 10%、授業への取り組み 30%）および定期試験 60%を総合して評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○				△	◎

関連科目	
その他	出席を重視する。全授業数の 3 分の 1 以上（つまり、5 回以上）欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とする。講義開始 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。その他については 1 回目の授業で説明する。 なお、授業の進捗状況に応じて内容を変更する場合がある。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-330-13	授業コード	FC0940
科目名称	ｷｬﾘｱ･ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭⅣ			単位数	2.0 単位
英文名称	Career EnglishⅣ			授業区分	講義
科目責任者	境　奈津希			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	境　奈津希			開講時期	3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	基礎的な英語力を発展させ、TOEIC で要求されるレベルのリスニング・リーディング力を身につけるために模擬試験問題の演習を行う。ただし、TOEIC の演習に終始するのではなく、授業内のグループワークやディスカッションを通じて、より実践的かつ応用的な英語力を身につけ、身近な話題に関する自分の意見を英語で表現できる力を養う。授業を通じて、社会や文化に関する知識を深め、国際的な視点を得ることを目指す。				
到達目標	・英語のリスニング力・リーディング力を伸ばす ・身近な話題についての自分の意見を英語で表現できる				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	境　奈津希	【第 1 回】 予習：シラバスの確認 授業：オリエンテーション（授業の目的や進め方や評価、課題について） 復習：授業形式についての確認
2	境　奈津希	【第 2 回】 予習：Unit 8 Vocabulary check 授業：Unit 8（pp.64-71）①、適宜、グループワークやディスカッションを行う。 復習：該当箇所を振り返る
3	境　奈津希	【第 3 回】 予習：Unit 8 Vocabulary check 授業：Unit 8（pp.73-76）②、適宜、グループワークやディスカッションを行う。 復習：該当箇所を振り返る
4	境　奈津希	【第 4 回】 予習：Unit 9 Vocabulary check 授業：Unit 9（pp.72-79）①、適宜、グループワークやディスカッションを行う。 復習：該当箇所を振り返る
5	境　奈津希	【第 5 回】 予習：Unit 9 Vocabulary check 授業：Unit 9（pp.72-79）②、適宜、グループワークやディスカッションを行う。 復習：該当箇所を振り返る
6	境　奈津希	【第 6 回】 予習：Unit 10 Vocabulary check 授業：Unit 10（pp.80-87）①、適宜、グループワークやディスカッションを行う。 復習：該当箇所を振り返る
7	境　奈津希	【第 7 回】 予習：Unit 10 Vocabulary check 授業：Unit 10（pp.80-87）②、適宜、グループワークやディスカッションを行う。 復習：該当箇所を振り返る
8	境　奈津希	【第 8 回】 予習：Unit 11 Vocabulary check 授業：Unit 11（pp.88-95）①、適宜、グループワークやディスカッションを行う。 復習：該当箇所を振り返る
9	境　奈津希	【第 9 回】 予習：Unit 11 Vocabulary check 授業：Unit 11（pp.88-95）②、適宜、グループワークやディスカッションを行う。 復習：該当箇所を振り返る
10	境　奈津希	【第 10 回】 予習：Unit 12 Vocabulary check 授業：Unit 12①（pp.96-103）、適宜、グループワークやディスカッションを行う。 復習：該当箇所を振り返る
11	境　奈津希	【第 11 回】 予習：Unit 12 Vocabulary check 授業：Unit 12②（pp.96-103）、適宜、グループワークやディスカッションを行う。 復習：該当箇所を振り返る

12	境　奈津希	【第 12 回】 予習：Unit 13 Vocabulary check 授業：Unit 13①（pp.104-111）、適宜、グループワークやディスカッションを行う。 復習：該当箇所を振り返る
13	境　奈津希	【第 13 回】 予習：Unit 13 Vocabulary check 授業：Unit 13②（pp.104-111）、適宜、グループワークやディスカッションを行う。 復習：該当箇所を振り返る
14	境　奈津希	【第 14 回】 予習：Unit 14 Vocabulary check 授業：Unit 14①（pp.112-120）、適宜、グループワークやディスカッションを行う。 復習：該当箇所を振り返る
15	境　奈津希	【第 15 回】 予習：Unit 14 Vocabulary check 授業：Unit 14②（pp.112-120）、適宜、グループワークやディスカッションを行う。 復習：該当箇所を振り返る

授業開始前学習	今まで受講した英語科目で習ったことを復習しておく。
授業内課題のフィードバックの方法	授業冒頭で小テストを行い、返却時に確認する。
テキスト・教材	松本恵美子・西井賢太郎・Sam Little『６００点を目指すＴＯＥＩＣ　Ｌ＆Ｒ　ＴＥＳＴ演習』三修社
参考書	授業内で適宜配布する
評価の基準と方法	平常点 40%（小テスト 10%、授業への取り組み 30%）および定期試験 60%を総合して評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○				△	◎

関連科目	
その他	出席を重視する。全授業数の 3 分の 1 以上（つまり、5 回以上）欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とする。講義開始 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。その他については 1 回目の授業で説明する。 なお、授業の進捗状況に応じて内容を変更する場合がある。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	GJ-M-221	科目分類（～2024 年入学者）	113-330-12	授業コード	FC0950
科目名称	☆英語で日本文化／通訳･ｶﾞｲﾄﾞ Ⅰ			単位数	2.0 単位
英文名称	Japanese Culture in English／Interpreter･guide Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	浅川　真知子			必修･選択	履修ガイド参照
担当教員	浅川　真知子			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期　火曜日 09:00～10:30　木曜日 13:00～14:30 後期　火曜日 09:00～10:30　木曜日 13:00～14:30			研究室	10-603
授業概要	本授業は、通訳･ガイドの基礎となる英語コミュニケーション能力の育成を目的とする。日本の社会や文化の理解を深め、わかりやすい英語で紹介する力を養う。受講者には、予習･復習を入念に行い、授業内の活動や課題に積極的に参加することが求められる。				
到達目標	通訳･ガイドの基礎となる知識や英語コミュニケーション能力を身につける。				
アクティブ･ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	浅川　真知子	【第 1 回】 予習：外国人に紹介したい日本の文化や習慣について考える 授業：オリエンテーション、Unit 1 導入 復習：Unit 1 の音読練習
2	浅川　真知子	【第 2 回】 予習：Unit 1 Reading and Listening を読み、その問題に取り組む 授業：Unit 1 に関するディスカッション、グループワーク 復習：学んだ表現を使い、英語で説明する練習をする
3	浅川　真知子	【第 3 回】 予習：トピックについて話す練習 授業：Unit 1 のトピックに関するプレゼンテーション、グループワーク 復習：学んだ表現を使う練習をする
4	浅川　真知子	【第 4 回】 予習：Unit 2 Reading and Listening を読み、その問題に取り組む 授業：Unit 2 に関するディスカッション、グループワーク 復習：学んだ表現を使い、英語で説明する練習をする
5	浅川　真知子	【第 5 回】 予習：トピックについて話す練習 授業：Unit 2 のトピックに関するプレゼンテーション、グループワーク 復習：学んだ表現を使う練習をする
6	浅川　真知子	【第 6 回】 予習：Unit 3 Reading and Listening を読み、その問題に取り組む 授業：Unit 3 に関するディスカッション、グループワーク 復習：学んだ表現を使い、英語で説明する練習をする
7	浅川　真知子	【第 7 回】 予習：トピックについて話す練習 授業：Unit 3 のトピックに関するプレゼンテーション、グループワーク 復習：学んだ表現を使う練習をする
8	浅川　真知子	【第 8 回】 予習：Unit 1 – 3 の復習 授業：第 1 回～第 7 回の学習のまとめ 復習：課題点を明確にする
9	浅川　真知子	【第 9 回】 予習：Unit 4 Reading and Listening を読み、その問題に取り組む 授業：Unit 4 に関するディスカッション、グループワーク 復習：学んだ表現を使い、英語で説明する練習をする
10	浅川　真知子	【第 10 回】 予習：トピックについて話す練習 授業：Unit 4 のトピックに関するプレゼンテーション（実技評価）、グループワーク 復習：学んだ表現を使う練習をする
11	浅川　真知子	【第 11 回】 予習：Unit 5 Reading and Listening を読み、その問題に取り組む 授業：Unit 5 に関するディスカッション、グループワーク 復習：学んだ表現を使い、英語で説明する練習をする

12	浅川　真知子	【第 12 回】 予習：トピックについて話す練習 授業：Unit 5 のトピックに関するプレゼンテーション（実技評価）、グループワーク 復習：学んだ表現を使う練習をする
13	浅川　真知子	【第 13 回】 予習：Unit 6 Reading and Listening を読み、その問題に取り組む 授業：Unit 6 に関するディスカッション、グループワーク 復習：学んだ表現を使い、英語で説明する練習をする
14	浅川　真知子	【第 14 回】 予習：トピックについて話す練習 授業：Unit 6 のトピックに関するプレゼンテーション（実技評価）、グループワーク 復習：学んだ表現を使う練習をする
15	浅川　真知子	【第 15 回】 予習：Unit 4 – 6 の復習 授業：第 9 回～第 1 4 回の学習のまとめ 復習：前期の学びを振り返る

授業開始前学習	通訳・ガイドの仕事内容について調べておく。また、日頃からニュースや本、雑誌などを通じて積極的に英語に触れるようにする。
授業内課題のフィードバックの方法	小テスト・課題・活動に対するフィードバックはその都度授業中に行う。
テキスト・教材	坂部俊行／岡島徳昭／Howard Tarnoff 著『Glances of Japan 日本文化とおもてなし英語』（南雲堂）2020 年（ISBN：978-4-523-17898-9）
参考書	授業で適宜紹介する。
評価の基準と方法	プレゼンテーションなどの授業中の活動（40%）、課題提出（30%）、定期試験（30%）
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎		○	○	△	

関連科目	
その他	出席を重視する。その他の授業のルールは初回授業で説明する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）		科目分類（～2024年入学者）	113-330-12	授業コード	FC0960
科目名称	通訳･ｶﾞｲﾄﾞⅡ			単位数	2.0単位
英文名称	Interpreting･Tour GuidingⅡ			授業区分	講義
科目責任者	浅川　真知子			必修･選択	履修ガイド参照
担当教員	浅川　真知子			開講時期	2年
オフィスアワー	前期　火曜日 09:00～10:30　木曜日 13:00～14:30 後期　火曜日 09:00～10:30　木曜日 13:00～14:30			研究室	10-603
授業概要	本授業は、通訳･ガイドの基礎となる英語コミュニケーション能力の育成を目的とする。日本の社会や文化の理解を深め、わかりやすい英語で紹介する力を養う。受講者には、予習･復習を入念に行い、授業内の活動や課題に積極的に参加することが求められる。				
到達目標	通訳･ガイドの基礎となる知識や英語コミュニケーション能力を身につける。				
アクティブ･ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	浅川　真知子	【第1回】 予習：Unit 8 Reading and Listeningを読み、その問題に取り組む 授業：オリエンテーション、Unit 8に関するディスカッション、グループワーク 復習：学んだ表現を使い、英語で説明する練習をする
2	浅川　真知子	【第2回】 予習：Unit 9 Reading and Listeningを読み、その問題に取り組む 授業：Unit 9に関するディスカッション、グループワーク 復習：学んだ表現を使い、英語で説明する練習をする
3	浅川　真知子	【第3回】 予習：トピックについて話す練習 授業：Unit 9のトピックに関するプレゼンテーション、翻訳練習 復習：学んだ表現を使う練習をする
4	浅川　真知子	【第4回】 予習：Unit１０Reading and Listeningを読み、その問題に取り組む（※Unit 7に変更の可能性あり） 授業：Unit１０に関するディスカッション、グループワーク 復習：学んだ表現を使い、英語で説明する練習をする
5	浅川　真知子	【第5回】 予習：トピックについて話す練習 授業：Unit１０のトピックに関するプレゼンテーション、翻訳練習（※Unit 7に変更の可能性あり） 復習：学んだ表現を使う練習をする
6	浅川　真知子	【第6回】 予習：Unit１１Reading and Listeningを読み、その問題に取り組む 授業：Unit１１に関するディスカッション、グループワーク 復習：学んだ表現を使い、英語で説明する練習をする
7	浅川　真知子	【第7回】 予習：トピックについて話す練習 授業：Unit１１のトピックに関するプレゼンテーション、翻訳練習 復習：学んだ表現を使う練習をする
8	浅川　真知子	【第8回】 予習：Unit８－１１の復習 授業：第1回～第7回の学習のまとめ 復習：課題点を明確にする
9	浅川　真知子	【第9回】 予習：Unit１２Reading and Listeningを読み、その問題に取り組む 授業：Unit１２に関するディスカッション、グループワーク 復習：学んだ表現を使い、英語で説明する練習をする
10	浅川　真知子	【第10回】 予習：トピックについて話す練習 授業：Unit１２のトピックに関するプレゼンテーション（実技評価）、グループワーク 復習：学んだ表現を使う練習をする
11	浅川　真知子	【第11回】 予習：Unit１３Reading and Listeningを読み、その問題に取り組む 授業：Unit１３に関するディスカッション、グループワーク 復習：学んだ表現を使い、英語で説明する練習をする

12	浅川　真知子	【第 12 回】 予習：トピックについて話す練習 授業：Unit１３のトピックに関するプレゼンテーション（実技評価）、グループワーク 復習：学んだ表現を使う練習をする
13	浅川　真知子	【第 13 回】 予習：Unit１４Reading and Listening を読み、その問題に取り組む 授業：Unit１４に関するディスカッション、グループワーク 復習：学んだ表現を使い、英語で説明する練習をする
14	浅川　真知子	【第 14 回】 予習：トピックについて話す練習 授業：Unit１４のトピックに関するプレゼンテーション（実技評価）、グループワーク 復習：学んだ表現を使う練習をする
15	浅川　真知子	【第 15 回】 予習：Unit１２－１４の復習 授業：第９回～第１４回の学習のまとめ 復習：後期の学びを振り返る

授業開始前学習	通訳・ガイドの仕事内容について調べておく。また、日頃からニュースや本、雑誌などを通じて積極的に英語に触れるようにする。
授業内課題のフィードバックの方法	小テスト・課題・活動に対するフィードバックはその都度授業中に行う。
テキスト・教材	坂部俊行／岡島徳昭／Howard Tarnoff 著『Glances of Japan 日本文化とおもてなし英語』（南雲堂）2020 年（ISBN：978-4-523-17898-9）
参考書	授業で適宜紹介する。
評価の基準と方法	プレゼンテーションなどの授業中の活動（40%）、課題提出（30%）、定期試験（30%）
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎		○	○	△	

関連科目	
その他	出席を重視する。その他の授業のルールは初回授業で説明する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-331-12	授業コード	FC0990
科目名称	日本紹介の英語			単位数	2.0 単位
英文名称	Introducing Japan in English			授業区分	講義
科目責任者	M.ブラウン			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	M.ブラウン			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	Students will develop the ability to introduce the places and culture representative of various regions of Japan, and learn to explain things Japanese which may be commonplace to them but unfamiliar to someone visiting Japan for the first time.				
到達目標	This course is designed to enhance the communicative skills necessary to introduce Japan to a foreign visitor. A range of regionally specific and diverse source materials introducing Japan and its culture via English will be presented to students. In addi				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	M.ブラウン	【第 1 回】 予習 ：Think about how you would introduce Japan to a foreign visitor 授業 ：Class introduction. Chapter 1: Japan’s Top Three Castles, pp.6-9 (Active reading and listening on textbook topic with speaking/discussion consolidation)
2	M.ブラウン	【第 2 回】 予習 ：Read next chapter and work on class activity 授業 ：Chapter 2: Japan’s Top Three Festivals, pp.10-13 (Active reading and listening on textbook topic with speaking/discussion consolidation) Activity: Group skit (Speaking, w
3	M.ブラウン	【第 3 回】 予習 ：Read next chapter and work on class activity 授業 ：Chapter 3: Japan’s Top Three Mountains, pp.14-17 (Active reading and listening on textbook topic with speaking/discussion consolidation) Activity: Group skit (Speaking,
4	M.ブラウン	【第 4 回】 予習 ：Read next chapter and work on class activity 授業 ：Chapter 4: Japan’s Top Three Oldest Hot Springs, pp.18-21 (Active reading and listening on textbook topic with speaking/discussion consolidation) Activity: Group task (Re
5	M.ブラウン	【第 5 回】 予習 ：Read next chapter and work on class activity 授業 ：Chapter 5: Japan’s Top Three Gardens, pp.22-25 (Active reading and listening on textbook topic with speaking/discussion consolidation) Activity: Group task (Reading/wri
6	M.ブラウン	【第 6 回】 予習 ：Read next chapter and work on class activity 授業 ：Chapter 6: Japan’s Top Three Pottery Styles, pp. 26-29 (Active reading and listening on textbook topic with speaking/discussion consolidation) Activity: Group task (Rea
7	M.ブラウン	【第 7 回】 予習 ：Read next chapter and work on class activity 授業 ：Chapter 7: Japan’s Top Three Night Views, pp.30-33 (Active reading and listening on textbook topic with speaking/discussion consolidation) Activity: Group skit (Speaking

8	M.ブラウン	【第 8 回】 予習　: Read next chapter and work on class activity 授業　: Chapter 8: Japan's Top Three Famous Foods, pp.34-37 (Active reading and listening on textbook topic with speaking/discussion consolidation) Activity: Group skit (Speaki
9	M.ブラウン	【第 9 回】 予習　: Read next chapter and work on class activity 授業　: Chapter 9: Japan's Top Three Limestone Caves, pp.38-41 (Active reading and listening on textbook topic with speaking/discussion consolidation) Activity: Group skit (Speaking, with written
10	M.ブラウン	【第 10 回】 予習　: Read next chapter and work on class activity 授業　: Chapter 10: Japan's Top Three Scenic Spots, pp. 42-45 (Active reading and listening on textbook topic with speaking/discussion consolidation) Activity: Individual presentations and rep
11	M.ブラウン	【第 11 回】 予習　: Read next chapter and work on class activity 授業　: Chapter 11: Japan's Top Three Waterfalls, pp.46-49 (Active reading and listening on textbook topic with speaking/discussion consolidation) Activity: Individual presentations and reports
12	M.ブラウン	【第 12 回】 予習　: Read next chapter and work on class activity 授業　: Chapter 12: Japan's Top Three Disappointing Places, pp.50-53 (Active reading and listening on textbook topic with speaking/discussion consolidation) Activity: Individual presentations
13	M.ブラウン	【第 13 回】 予習　: Read next chapter and work on class activity 授業　: Chapter 13: Japan's Top Three Ekiben, pp.54-57 (Active reading and listening on textbook topic with speaking/discussion consolidation) Activity: Individual presentations and reports on a
14	M.ブラウン	【第 14 回】 予習　: Read next chapter and work on class activity 授業　: Chapter 14: Japan's Top Three Udon, pp.58-61 (Active reading and listening on textbook topic with speaking/discussion consolidation) Activity: Individual presentations and reports on a
15	M.ブラウン	【第 15 回】 予習　: Practice presentation 授業　: Student presentations: Introducing things Japanese (free topic) (Writing and speaking task) 復習　: Review entire course

授業開始前学習	Please read as widely as possible on the subject of Japanese culture.
授業内課題のフィードバックの方法	Students will receive feedback on all assessed classwork.
テキスト・教材	
参考書	The instructor will provide all class materials and chapters for reading.
評価の基準と方法	Individual class participation (reading, discussion, presentations): 40%, Group work (skits and other group tasks): 20%, Final written report: 40%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		◎				△	

関連科目	
その他	Students must attend at least 2/3 of the lectures to pass the course.
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	GJ-M-221	科目分類（～2024 年入学者）	113-330-12	授業コード	FC1000
科目名称	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ英語			単位数	2.0 単位
英文名称	Volunteer English			授業区分	講義
科目責任者	江連 成美			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	江連 成美			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	この授業では、ボランティア活動に参加するための実践的な英語力を養う。講義や活動を通して、日本の文化や習慣を理解し、日本語や日本文化に馴染みのない人に英語で説明する力、ボランティア活動で起こりうるトラブルへ英語を使って対応する力を養う。				
到達目標	ボランティア活動に参加するために必要な実践的な英語力を身につける。日本の文化や習慣を理解し、英語で相手に説明したり、クラスで意見交換ができるようになる。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	江連 成美	【第 1 回】 予習 ：授業のスケジュールを確認しておく 授業 ：ガイダンス（授業の目的、進め方、使用する資料などについての説明） 復習 ：授業中に配布された資料を読み返しておく
2	江連 成美	【第 2 回】 予習 ：指定された動画を見て Google Classroom で課題に取り組む 授業 ："Omotenashi"って何？ 復習 ：授業中に配布された資料を読み返しておく
3	江連 成美	【第 3 回】 予習 ：指定された動画を見て Google Classroom で課題に取り組む 授業 ：コミュニケーションストラテジーについて（ペアワーク） 復習 ：授業中に配布された資料を読み返しておく
4	江連 成美	【第 4 回】 予習 ：指定された動画を見て Google Classroom で課題に取り組む 授業 ：レストランでの会話（ペアワーク） 復習 ：授業中に配布された資料を読み返し、学習した語彙や表現を復習しておく
5	江連 成美	【第 5 回】 予習 ：指定された動画を見て Google Classroom で課題に取り組む 授業 ：目的地への行き方や公共交通機関の乗り方について説明する（ペアワーク） 復習 ：授業中に配布された資料を読み返し、学習した語彙や表現を復習しておく
6	江連 成美	【第 6 回】 予習 ：指定された動画を見て Google Classroom で課題に取り組む 授業 ：おすすめの観光地について話す（1）発表準備(ペアワーク) 復習 ：各自発表準備を進める
7	江連 成美	【第 7 回】 予習 ：指定された動画を見て Google Classroom で課題に取り組む 授業 ：おすすめの観光地について話す（2）発表(ペアワーク) 復習 ：発表についてのフィードバックを確認し、自分の発表について振り返る
8	江連 成美	【第 8 回】 予習 ：指定された動画を見て Google Classroom で課題に取り組む 授業 ：日本の主な観光地について説明する（ペアワーク） 復習 ：授業中に配布された資料を読み返し、学習した語彙や表現を復習しておく
9	江連 成美	【第 9 回】 予習 ：指定された動画を見て Google Classroom で課題に取り組む 授業 ：お土産についてアドバイスする（ペアワーク） 復習 ：授業中に配布された資料を読み返し、学習した語彙や表現を復習しておく
10	江連 成美	【第 10 回】 予習 ：指定された動画を見て Google Classroom で課題に取り組む 授業 ：緊急事態に対処する（ペアワーク） 復習 ：授業中に配布された資料を読み返し、学習した語彙や表現を復習しておく
11	江連 成美	【第 11 回】 予習 ：指定された動画を見て Google Classroom で課題に取り組む 授業 ：日本食について話す（ペアワーク） 復習 ：授業中に配布された資料を読み返し、学習した語彙や表現を復習しておく

12	江連　成美	【第 12 回】 予習　：指定された動画を見て Google Classroom で課題に取り組む 授業　：最終発表：日本文化について説明する(1)　発表準備 復習　：各自発表準備を進める
13	江連　成美	【第 13 回】 予習　：発表準備を進める 授業　：最終発表：日本文化について説明する(2)　発表準備・練習 復習　：授業時に指摘された箇所を見直し、練習しておく
14	江連　成美	【第 14 回】 予習　：発表ができるよう準備しておく 授業　：最終発表：日本文化について説明する(3)　発表 復習　：発表についてのフィードバックを確認し、自分の発表について振り返る
15	江連　成美	【第 15 回】 予習　：後期の学習内容を復習しておく 授業　：後期授業のまとめ 復習　：後期学習した内容や資料を振り返りまとめる

授業開始前学習	ボランディア活動に参加したり、ボランティアについて書かれた本や新聞記事などを読んでおくことが望ましい。
授業内課題のフィードバックの方法	小テストは行った次の週に返却し、フィードバックする。発表は、当日または後日、その内容について講評する。
テキスト・教材	使用教材はすべて授業内で配布する。
参考書	資料はすべて授業内で紹介・配布する。
評価の基準と方法	期末試験　30%、授業態度　20%、発表　20%、小テスト　20%、提出物　10%をもとに総合的に評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎				△	○

関連科目	
その他	出席を重視する。全授業数の 3 分の 1 以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなし、講義開始後 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-331-12	授業コード	FC1010
科目名称	Japan Studies I			単位数	2.0 単位
英文名称	Japan Studies I			授業区分	講義
科目責任者	M.ブラウン			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	M.ブラウン			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	This English medium course provides an introduction to Anglophone Japan Studies. Basic knowledge of modern and contemporary Japanese Cultural History will be developed through a variety of topic based lectures. A foundational knowledge of Japanese Cultural History will be developed by lectures and set readings on the diversity of society on the Japanese islands, food culture, consumer culture, sleep, family and Buddhism in post-war Japan.				
到達目標	Cultivate a foundational knowledge of Japanese Cultural History through English.				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	M.ブラウン	【第 1 回】 予習 ：Investigate strategies for taking lectures in English 授業 ：Orientation and introductory lecture: 'To The Ends of Japan' Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing tas
2	M.ブラウン	【第 2 回】 予習 ：Reading activity 授業 ：Food (1) Pre-Modern Food Culture Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task. 復習 ：Revise class notes
3	M.ブラウン	【第 3 回】 予習 ：Reading activity 授業 ：Food (2) Modern Food Culture Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task. 復習 ：Revise class notes
4	M.ブラウン	【第 4 回】 予習 ：Reading activity 授業 ：Food and Consumer Culture (3) Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task. 復習 ：Revise class notes
5	M.ブラウン	【第 5 回】 予習 ：Reading activity 授業 ： Sleep Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task. 復習 ：Revise class notes
6	M.ブラウン	【第 6 回】 予習 ：Reading activity 授業 ：Family (1) Gender Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task. 復習 ：Revise class notes
7	M.ブラウン	【第 7 回】 予習 ：Reading activity 授業 ：Family (2) Generations Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task. Students submit a review of content in lessons 1-6 復習 ：Revi
8	M.ブラウン	【第 8 回】 予習 ：Reading activity 授業 ： ‘Japanese Temple Buddhism’ (1) Buddhist Sects Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task. 復習 ：Revise class notes

9	M.ブラウン	【第 9 回】 予習 ：Reading activity 授業 ： ‘Japanese Temple Buddhism’ (2) Current Issues Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task. Students receive feedback on t
10	M.ブラウン	【第 10 回】 予習 ：Reading activity 授業 ： Documentary movie: ‘Souls of Zen’ Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task. 復習 ：Movie review activity
11	M.ブラウン	【第 11 回】 予習 ：Movie review activity 授業 ：3.11 research Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task. 復習 ：Revise class notes
12	M.ブラウン	【第 12 回】 予習 ：Reading activity 授業 ：Law and Order in Japan Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task. 復習 ：Revise class notes
13	M.ブラウン	【第 13 回】 予習 ：Reading activity 授業 ：Securing Japan Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task. Students submit a review of content in lessons 7-13 復習 ：Revise cla
14	M.ブラウン	【第 14 回】 予習 ：Reading activity 授業 ： The Arts (1) Folk Art Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task. 復習 ：Revise class notes
15	M.ブラウン	【第 15 回】 予習 ：Reading activity 授業 ：The Arts (2) Visual Arts Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task. Students receive feedback on their second review of content 復習

授業開始前学習	Read as widely as possible on Japanese cultural history
授業内課題のフィードバックの方法	Students receive feedback on guided reading activities and on report plan.
テキスト・教材	All materials to be provided by instructor.
参考書	
評価の基準と方法	Weekly class participation and homework: 40%. Mini presentation on a guided reading: 10%. Final essay: 50%.
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎		○		△			

関連科目	
その他	Students must attend 2/3 of classes to receive credit for this course.
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-331-12	授業コード	FC1020
科目名称	Japan Studies Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	Japan Studies Ⅱ			授業区分	講義
科目責任者	M.ブラウン			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	M.ブラウン			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	This English medium course builds on the introduction to modern and contemporary Japanese Cultural History provided in Japan Studies I. Basic Japan Studies knowledge will be developed and new concepts introduced. Ongoing lectures will continue to develop the knowledge of Japanese Cultural History necessary for critical thinking on the topics introduced by the instructor, particularly technology and architecture, 3.11, politics, security and defense, education and the arts in postwar Japan.				
到達目標	Cultivate a developing knowledge of Japanese Cultural History through English.				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	M.ブラウン	【第 1 回】 予習 ：Investigate strategies for taking lectures in English 授業 ： Orientation and introductory lecture: Diverse Japan (1): Cultural Diversity Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active re
2	M.ブラウン	【第 2 回】 予習 ：Reading activity 授業 ：Diverse Japan (2): Ethnic Diversity Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task. 復習 ：Revise class notes
3	M.ブラウン	【第 3 回】 予習 ：Reading activity 授業 ：Mass Media in Japan (1): Print Media Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task. 復習 ：Revise class notes
4	M.ブラウン	【第 4 回】 予習 ：Reading activity 授業 ： Mass Media in Japan (2): Broadcast Media Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task. 復習 ：Revise class notes
5	M.ブラウン	【第 5 回】 予習 ：Reading activity 授業 ： Work in Japan Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task. 復習 ：Revise class notes
6	M.ブラウン	【第 6 回】 予習 ：Reading activity 授業 ：Japan in Maps Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task. 復習 ：Revise class notes
7	M.ブラウン	【第 7 回】 予習 ：Reading activity 授業 ：Itinerant Holy Men in the Edo period Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task. Students submit a review of content in lessons
8	M.ブラウン	【第 8 回】 予習 ：Reading activity 授業 ： ‘Assembling Japan’ (Technology and Architecture) (1) Pre-Modern Technology and Architecture Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task.

9	M.ブラウン	【第 9 回】 予習　: Reading activity 授業　:　'Assembling Japan' (Technology and Architecture) (2) Modern Technology and Architecture Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task.
10	M.ブラウン	【第 10 回】 予習　: Reading activity 授業　:　Japanese Movies (1): The Great Directors Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task. 復習　: Movie review activity
11	M.ブラウン	【第 11 回】 予習　: Movie review activity 授業　: Japanese Movies (2): Pop Culture and Subculture Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task. 復習　: Revise class notes
12	M.ブラウン	【第 12 回】 予習　: Reading activity 授業　: Performing Arts (1): Pre-Modern Performing Arts Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task. 復習　: Revise class notes
13	M.ブラウン	【第 13 回】 予習　: Reading activity 授業　: Performing Arts (2): Modern Performing Arts Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task. Students submit a review of content in le
14	M.ブラウン	【第 14 回】 予習　: Reading activity 授業　:　Education (1): Primary and Secondary Education Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task. 復習　: Revise class notes
15	M.ブラウン	【第 15 回】 予習　: Reading activity 授業　: Education (2): Tertiary Education Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task. Students receive feedback on their second review of

授業開始前学習	Students should read as widely as possible about Japanese culture.
授業内課題のフィードバックの方法	Students receive feedback on all assessed classwork.
テキスト・教材	All materials to be provided by instructor.
参考書	
評価の基準と方法	Weekly guided reading assignments: 40%. Presentation on a guided reading: 10%. Final essay: 50%.
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎		○		△			

関連科目	
その他	Students must attend 2/3 of the classes in order to pass the course.
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-310-23	授業コード	FC1212
科目名称	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｾﾞﾐⅠ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on English Communication Ⅰ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	浅川 真知子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	浅川 真知子			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～10:30 木曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 09:00～10:30 木曜日 13:00～14:30			研究室	10-603
授業概要	本ゼミでは、英語教育・国際教育を中心に教育全般を研究テーマとして扱う。ゼミ生各自が問いを立て探究し、議論を通じて深めていくことが求められる。授業はディスカッションを中心に行う。授業中に行うすべての活動を通じて、研究活動を進める上で必要な思考スキル・リサーチスキル・コミュニケーションスキルを養っていく。また、４年次の研究活動に向けて、先行研究の収集と精査を行う。				
到達目標	・論理的に思考する力を深め、教育に関する研究を多角的に分析できる ・自分の考えを筋道を立てて分かりやすく的確に表現することができる ・自分の研究テーマに関する文献を探すことができる ・異なる意見を踏まえながら建設的に議論することができる				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	浅川 真知子	【第１回】 予習：シラバスを確認する 授業：ゼミの目的と進め方、授業計画 復習：三年次の目標を立てる
2	浅川 真知子	【第２回】 予習：自身の関心のあるテーマをリストアップする 授業：「研究を始めるにあたって」関心のあるテーマについて発表し意見交換をする （ディスカッション） （発表） 復習：振り返りをプロセスジャーナルに記入する
3	浅川 真知子	【第３回】 予習：学習文献を読み、疑問点を書き出す 授業：「研究とは何か」問いの立て方について学ぶ （ディスカッション） 復習：振り返りをプロセスジャーナルに記入する
4	浅川 真知子	【第４回】 予習：研究関心のある新聞・雑誌記事を準備する 授業：準備した記事について発表し意見交換をする、文献の探し方を学ぶ （ディスカッション） （発表） 復習：振り返りをプロセスジャーナルに記入する
5	浅川 真知子	【第５回】 予習：研究関心のある新聞・雑誌記事を準備する 授業：準備した記事について発表し意見交換をする （ディスカッション） （発表） 復習：振り返りをプロセスジャーナルに記入する
6	浅川 真知子	【第６回】 予習：学習文献を読み、疑問点を書き出す 授業：「日本の教育の課題」講読・討論、批判的に読む方法を学ぶ（ディスカッション） 復習：振り返りをプロセスジャーナルに記入する
7	浅川 真知子	【第７回】 予習：学習文献を読み、疑問点を書き出す 授業：「日本の英語教育の課題」講読・討論、レジュメの書き方を学ぶ（ディスカッション） 復習：振り返りをプロセスジャーナルに記入する
8	浅川 真知子	【第８回】 予習：学習文献を読み、疑問点を書き出す 授業：「諸外国の教育」講読・討論、論理的な意見の述べ方を学ぶ（ディスカッション） 復習：振り返りをプロセスジャーナルに記入する
9	浅川 真知子	【第９回】 予習：学習文献を読み、疑問点を書き出す 授業：「協働学習と個別最適な学び」講読・討論、建設的な議論の仕方を学ぶ（ディスカッション） 復習：振り返りをプロセスジャーナルに記入する
10	浅川 真知子	【第 10 回】 予習：学習文献を読み、疑問点を書き出す 授業：「多様性を育む教育とは」講読・討論、効果的なプレゼン方法を学ぶ（ディスカッション） 復習：振り返りをプロセスジャーナルに記入する

11	浅川　真知子	【第 11 回】 予習：学習文献を読み、疑問点を書き出す 授業：「さまざまな国際教育プログラム」講読・討論、質疑応答の仕方を学ぶ（ディスカッション） 復習：振り返りをプロセスジャーナルに記入する
12	浅川　真知子	【第 12 回】 予習：発表者は発表準備をし、他の学生は発表者のレジュメを読み質問を用意する 授業：学生発表・討論・指導助言　（１）、レポートの書き方を学ぶ　（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り研究計画を練り直し、他の学生は自身のレジュメを作成する
13	浅川　真知子	【第 13 回】 予習：発表者は発表準備をし、他の学生は発表者のレジュメを読み質問を用意する 授業：学生発表・討論・指導助言　（２）、レポートの書き方を学ぶ　（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り研究計画を練り直し、他の学生は自身のレジュメを作成する
14	浅川　真知子	【第 14 回】 予習：発表者は発表準備をし、他の学生は発表者のレジュメを読み質問を用意する 授業：学生発表・討論・指導助言　（３）、レポートの書き方を学ぶ　（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り研究計画を練り直し、他の学生は自身のレジュメを作成する
15	浅川　真知子	【第 15 回】 予習：前期振り返り 授業：全体の振り返り、今後の研究についての発表、研究レポートの提出（発表）（ディスカッション） 復習：後期への課題確認

授業開始前学習	書籍や各種メディアを適切に使用し、日常的に教育問題に関心を持つ。 自身の中学・高校での学びや教育について振り返る。
授業内課題のフィードバックの方法	授業内での発表やディスカッションに対して講評を行うとともに、提出された課題や受けた質問に対しては都度評価、回答をする。
テキスト・教材	授業中に適宜参考資料を配布する
参考書	・福田誠治『教育学って何だろう ―受け身を捨てて自律する』（東信堂）2021 年 ・奈須 正裕（著，編集），伏木 久始（著，編集）『「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指して』（北大路書房）2023 年 ・御手洗 明佳（編集），赤塚 祐哉（編集），井上 志音（編集），木村 光宏（著）『国際バカロレア教育に学ぶ授業改善』（北大路書房）2023 年 その他適宜指示する
評価の基準と方法	授業参加度・課題提出（50%）発表・レポート（50%）
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎		○	△

関連科目	
その他	出席を重視する。欠席をする場合は必ず事前に連絡をすること。授業では積極的に質問したり意見交換をする姿勢が求められる。発表者は事前にレジュメを提出すること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	中学校・高等学校教員として教科指導・生徒指導・進路指導などの各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、教育に携わる者に求められる資質・能力に関する講義・演習を行う。

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-310-23	授業コード	FC1213
科目名称	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｾﾞﾐⅠ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on English Communication Ⅰ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	松山 響子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松山 響子			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 水曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10 後期 水曜日 09:00～10:30 水曜日 13:00～14:30			研究室	10-605
授業概要	文法や単語を学ぶだけでは、英語を学んだとはいえません。なぜなら、言葉と文化は切っても切り離せない関係にあるからです。そして文化の中で、時間や機器に縛られずに自分の都合のよいときにアクセスできるのが言語文化の代表である文学です。このゼミでは、自分が興味を持った文化事象や文学作品、映画を選び、それについて深く理解していくことを目標としています。				
到達目標	・小説や戯曲、詩、映画などを批判的に読むことができるようになる ・論文を書く際に必要な参考文献を横断的に探せるようになる ・膨大な文章を読んで、自分なりに理解しまとめることができるようになる				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	松山 響子	【第 1 回】 予習 ：シラバスを確認 授業 ：学習目標の確認、発表の予定表作り、発表内容の紹介など 復習 ：自分の研究の方向性確認
2	松山 響子	【第 2 回】 予習 ：自分の研究の方向性について考える 授業 ：文学研究とは何か？ 文学作品や文化事象についての研究方法の説明 復習 ：自分の研究の方向性と作品の内容確認
3	松山 響子	【第 3 回】 予習 ：ゼミ学習文献予習 授業 ：ゼミ学習文献発表（討論・指導）（1） 復習 ：ゼミ学習文献復習
4	松山 響子	【第 4 回】 予習 ：ゼミ学習文献予習 授業 ：ゼミ学習文献発表（討論・指導）（2） 復習 ：ゼミ学習文献復習
5	松山 響子	【第 5 回】 予習 ：ゼミ学習文献予習 授業 ：ゼミ学習文献発表（討論・指導）（3） 復習 ：ゼミ学習文献復習
6	松山 響子	【第 6 回】 予習 ：ゼミ学習文献予習 授業 ：ゼミ学習文献発表（討論・指導）（4） 復習 ：ゼミ学習文献復習
7	松山 響子	【第 7 回】 予習 ：ゼミ学習文献予習 授業 ：ゼミ学習文献発表（討論・指導）（5） 復習 ：ゼミ学習文献復習
8	松山 響子	【第 8 回】 予習 ：ゼミ学習文献予習 授業 ：学生発表（討論・指導）（1） 復習 ：ゼミ学習文献復習
9	松山 響子	【第 9 回】 予習 ：ゼミ学習文献予習 授業 ：学生発表（討論・指導）（2） 復習 ：ゼミ学習文献復習
10	松山 響子	【第 10 回】 予習 ：ゼミ学習文献予習 授業 ：学生発表（討論・指導）（3） 復習 ：ゼミ学習文献復習
11	松山 響子	【第 11 回】 予習 ：ゼミ学習文献予習 授業 ：学生発表（討論・指導）（4） 復習 ：ゼミ学習文献復習

12	松山　響子	【第 12 回】 予習　：ゼミ学習文献予習 授業　：学生発表（討論・指導）（5） 復習　：ゼミ学習文献復習
13	松山　響子	【第 13 回】 予習　：ゼミ学習文献予習 授業　：学生発表（討論・指導）（6） 復習　：ゼミ学習文献復習
14	松山　響子	【第 14 回】 予習　：ゼミ学習文献予習 授業　：学生発表（討論・指導）（7） 復習　：ゼミ学習文献復習
15	松山　響子	【第 15 回】 予習　：前期ふりかえり 授業　：まとめ 復習　：後期に向けての課題確認

授業開始前学習	翌週の学生発表で取り扱われる作品を必ず読んでくること
授業内課題のフィードバックの方法	必ず学期につき 1 回は発表を行い、それに基づいてミニレポートを作成する。ミニレポートは講評をして返却をする。
テキスト・教材	特に一つのものを指定しません。随時紹介するので、図書館で調べてきてください。
参考書	『イギリス文学史入門』 川崎寿彦著　研究社 『イギリス文学史』 斉藤勇著　研究社 『はじめて学ぶアメリカ文学史』 板橋　好枝著　ミネルヴァ書房 『アメリカ文学史』 西田　実著　成美堂
評価の基準と方法	授業参加態度・授業内活動・その他から評価していきます。授業参加態度 40 点、授業内活動 40 点、レポート 20 点。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎		○	△

関連科目	イギリス文学Ⅰ、イギリス文学Ⅱ、アメリカ文学Ⅰ、アメリカ文学Ⅱ
その他	ゼミですので出席を重視します。欠席をする際は必ず事前に連絡を入れてください。 各自のテーマにそって、1 セメスターに少なくとも 1 回は発表することを求められます。発表者は新聞、雑誌、参考図書などから自分の考えにそった資料を探し出してくる努力をしてください。発表者以外の学生も受身的に聞いているだけではなく、意見や質問を活発に述べることが求められます。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-310-23	授業コード	FC1214
科目名称	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｾﾞﾐⅠ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on English Communication Ⅰ			授業区分	演習･実習･実技
科目責任者	Ｔ．プラザ			必修･選択	履修ガイド参照
担当教員	Ｔ．プラザ			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30			研究室	10-608
授業概要	In this seminar of we will explore various topics in cultural studies. We will also consider the connections between culture and language. Students may choose topics of research connected to culture or sociolinguistics. Possible areas include: Issues with living or working overseas, International families within Japan and abroad, Gender in relation to culture and language, National cultures, Subcultures, Bilingualism, Language preservation. Many other topics are also possible.				
到達目標	Students will learn to take a critical approach to cultural studies. Students will develop the ability to find academic materials relevant to their research. Students will improve their ability to give presentations as well as interact with other studen				
アクティブ･ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	Ｔ．プラザ	【第 1 回】 予習 ：Preview the syllabus 授業 ：Guidance and confirmation of course goals. 復習 ：Students think about the direction of their research
2	Ｔ．プラザ	【第 2 回】 予習 ：Students plan the direction of their research 授業 ：Introduction to cultural studies 復習 ：Students establish the direction and subject matter of their research
3	Ｔ．プラザ	【第 3 回】 予習 ：Students work on their own research project 授業 ：Student research presentations（discussion･guidance） (1) （presentation） 復習 ：Students adjust their research work based on feedback received in class
4	Ｔ．プラザ	【第 4 回】 予習 ：Students work on their own research project 授業 ：Student research presentations（discussion･guidance） (2) （presentation） 復習 ：Students adjust their research work based on feedback received in class
5	Ｔ．プラザ	【第 5 回】 予習 ：Students work on their own research project 授業 ：Student research presentations（discussion･guidance） (3) （presentation） 復習 ：Students adjust their research work based on feedback received in class
6	Ｔ．プラザ	【第 6 回】 予習 ：Students work on their own research project 授業 ：Student research presentations（discussion･guidance） (4) （presentation） 復習 ：Students adjust their research work based on feedback received in class
7	Ｔ．プラザ	【第 7 回】 予習 ：Students work on their own research project 授業 ：Student research presentations（discussion･guidance） (5) （presentation） 復習 ：Students adjust their research work based on feedback received in class
8	Ｔ．プラザ	【第 8 回】 予習 ：Students work on their own research project 授業 ：Student research presentations（discussion･guidance） (6) （presentation） 復習 ：Students adjust their research work based on feedback received in class
9	Ｔ．プラザ	【第 9 回】 予習 ：Students work on their own research project 授業 ：Student research presentations（discussion･guidance） (7) （presentation） 復習 ：Students adjust their research work based on feedback received in class
10	Ｔ．プラザ	【第 10 回】 予習 ：Students work on their own research project 授業 ：Student research presentations（discussion･guidance） (8) （presentation） 復習 ：Students adjust their research work based on feedback received in class

11	T．プラザ	【第 11 回】 予習　: Students work on research presentation materials 授業　: Prepare for final presentation (1) 復習　: Students work on research presentation materials
12	T．プラザ	【第 12 回】 予習　: Students work on research presentation materials 授業　: Prepare for final presentation (2) 復習　: Students work on research presentation materials
13	T．プラザ	【第 13 回】 予習　: Students work on research presentation materials 授業　: Prepare for final presentation (3) 復習　: Students work on research presentation materials
14	T．プラザ	【第 14 回】 予習　: Students work on research presentation materials 授業　: Final presentation　(presentation) 復習　: Presentation reflections
15	T．プラザ	【第 15 回】 予習　: Continue working on presentation reflections 授業　: Review and feedback 復習　:　Look at the themes and tasks in the 2nd semester

授業開始前学習	Reflect on your own cultural experiences and be prepared to discuss them in class.
授業内課題のフィードバックの方法	Students receive feedback from their instructor and peers regarding their presentations and reports.
テキスト・教材	There is not set textbook.　Students will find reading material for their chosen topics with the guidance of the instructor.
参考書	
評価の基準と方法	Class participation 30%, class activities (presentations) 40%, research report 30%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎		○	△

関連科目	
その他	Students will be required to make at least one presentation per semester on their research theme. Presenters find materials from newspapers, magazines, academic journals, reference books, etc. Students who are not presenting should actively express their
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-310-23	授業コード	FC1215
科目名称	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｾﾞﾐⅠ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on English Communication Ⅰ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	M.ブラウン			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	M.ブラウン			開講時期	3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	This seminar is for students who are beginning their research about English diversity, in English. We will investigate topics related to the historical development of various kinds of English, the spread of English around the world, the role of English in various social and cultural environments, how various kinds of English are similar or different to one another, variation and change in the English language (both in the past and in the present-day), and the cultures and peoples who use English. The topics, therefore, will be cross-disciplinary and involve linguistics, sociology, and cultural studies, amongst others.				
到達目標	・Students will learn to take a critical approach to the study of English diversity. ・Students will develop their ability to find academic materials relevant to their research. ・Students will develop their ability to read and understand a variety of scho				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	M.ブラウン	【第 1 回】 予習：Look over the syllabus, prepare to talk about the goals of the course 授業：Confirm class aims, introduce the foundations of "English Diversity" 復習：Students consider the possible directions of their research for this semester
2	M.ブラウン	【第 2 回】 予習：Students bring ideas about examples of diversity in English 授業：Research questions and discussion, methodologies 1. 復習：Students adjust their ideas about research based on class notes, discussion, and feedback
3	M.ブラウン	【第 3 回】 予習：Students select a mini-research topic 授業：Research questions and discussion, methodologies 2. 復習：Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback
4	M.ブラウン	【第 4 回】 予習：Students work on their research project 授業：Research questions and discussion, methodologies 3. 復習：Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback
5	M.ブラウン	【第 5 回】 予習：Students work on their research project 授業：Research questions and discussion, presentation guidance 1. 復習：Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback
6	M.ブラウン	【第 6 回】 予習：Students work on their research project 授業：Research questions and discussion, presentation guidance 2. 復習：Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback
7	M.ブラウン	【第 7 回】 予習：Students work on their research project 授業：Research questions and discussion, presentation preparation 1. 復習：Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback
8	M.ブラウン	【第 8 回】 予習：Students work on their research project 授業：Research questions and discussion, presentation preparation 2. 復習：Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback
9	M.ブラウン	【第 9 回】 予習：Students work on their research project 授業：Research questions and discussion, presentation preparation 3. 復習：Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback
10	M.ブラウン	【第 10 回】 予習：Students work on their research project 授業：Research questions and discussion, presentation preparation 4. 復習：Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback

11	M.ブラウン	【第 11 回】 予習：Students work on their research project 授業：Presentations, discussion 復習：Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback
12	M.ブラウン	【第 12 回】 予習：Students work on their research project 授業：Research questions and discussion, Report guidance 1. 復習：Students work on their report
13	M.ブラウン	【第 13 回】 予習：Students work on their research project 授業：Research questions and discussion, Report guidance 2. 復習：Students work on their report
14	M.ブラウン	【第 14 回】 予習：Students finish their report 授業：Research questions and discussion, students submit report 復習：Review class notes
15	M.ブラウン	【第 15 回】 予習：Students work on their research project 授業：Review and feedback 復習：Look at tasks for the next semester

授業開始前学習	Read as widely as possible about the history of English and different kinds of English that exist today.
授業内課題のフィードバックの方法	Students receive oral and written feedback from the instructor regarding presentations and reports, and feedback from their peers regarding presentations.
テキスト・教材	There is no set text. Required readings will be provided by the instructor.
参考書	
評価の基準と方法	Preparation and Participation in class discussions (40%) Presentation (30%) Research report (30%)
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎		○	△

関連科目	
その他	Each student will be required to make at least one presentation per semester on their research theme. A written report will also be submitted. Presenters find materials from newspapers, magazines, academic journals, reference books, etc. Students who a
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-310-23	授業コード	FC1216
科目名称	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｾﾞﾐⅠ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on English Communication Ⅰ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	工藤 俊			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	Ｔ．プラザ			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 16:20～17:50 後期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 16:20～17:50			研究室	10-607
授業概要	英語を軸とした言語全般の研究を行う。具体的には、意思を伝達する手段としての言語と人間の思考の間にはどのような因果関係があるのかについて、様々な事例を考察することで解き明かす。同時に、学術書や研究論文を講読することで、言語に対する向き合い方を学ぶ。また、個人研究発表や討論を通じて自身の考えを言語化すること、そして他者の意見を精査することの大切さも学ぶ。なお、学生が読みたい学術書や研究論文があれば、授業内で共有することもできる。				
到達目標	・言語と思考の関係が理解できる。 ・英語に対する言語直感を養える。 ・個人研究発表や討論を通じて、自身の思考を俯瞰できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	工藤 俊	【第 1 回】 予習：シラバスを読んでくる。自身の研究のブレインストーミングをしておく。 授業：自己紹介・オリエンテーション 復習：授業方針を確認する。
2	工藤 俊	【第 2 回】 予習：自身の興味関心をまとめ、発表の準備をする。 授業：興味関心についての発表および討論（ディスカッション） 復習：個人研究の方針を立てる。
3	工藤 俊	【第 3 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（1）（ディスカッション） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。
4	工藤 俊	【第 4 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（2）（ディスカッション） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。
5	工藤 俊	【第 5 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（3）（ディスカッション） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。
6	工藤 俊	【第 6 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（4）（ディスカッション） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。
7	工藤 俊	【第 7 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（5）（ディスカッション） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。
8	工藤 俊	【第 8 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（6）（ディスカッション） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。
9	工藤 俊	【第 9 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（7）（ディスカッション） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。
10	工藤 俊	【第 10 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（8）（ディスカッション） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。
11	工藤 俊	【第 11 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（9）（ディスカッション） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。

12	工藤　俊	【第 12 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論　個人研究の進捗報告および討論（10）（ディスカッション） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。
13	工藤　俊	【第 13 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論　個人研究の進捗報告および討論（11）（ディスカッション） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。
14	工藤　俊	【第 14 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論　個人研究の進捗報告および討論（12）（ディスカッション） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。
15	工藤　俊	【第 15 回】 予習：自身の研究を概観する。 授業：レポート提出　前期の振り返り　後期に向けて 復習：自身の今後の研究方針を考える。

授業開始前学習	授業で扱う学術書や研究論文の該当箇所は必ず事前に読み、自分なりの意見や疑問点を整理しておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	個人研究発表に対しては、教員からだけでなく学生からも意見を出し、総合的に議論する。 レポートについては個別にフィードバックする。
テキスト・教材	井上逸兵『英語の思考法』（ちくま書房）2021 年（ISBN: 978-4-480-07410-2）
参考書	必要に応じて学術書や論文を紹介し、授業内で講読する。
評価の基準と方法	進捗報告及び発表：40%、レポート：60%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎		○	△

関連科目	
その他	個人研究のために読みたい学術書や研究論文があれば、授業内で講読することが可能ですので、積極的に申し出てください。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-310-23	授業コード	FC1217
科目名称	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｾﾞﾐⅠ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on English Communication Ⅰ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	福王　守			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	福王　守			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期　月曜日 13:00～14:30　木曜日 13:00～14:30 後期　月曜日 13:00～14:30　木曜日 13:00～14:30			研究室	10-614
授業概要	この演習では、未解決な社会問題の解決の糸口を、主に法的な分析を通じて検討します。一人ひとりが人格の担い手として尊重されるための課題を、共に考えていきたいと思います。まずは、近代以降の市民社会の歩みを踏まえて、「法」の役割と問題点を確かめます。つぎに、国家の基本法である憲法と人権保障について、事例を含めて掘り下げます。さらに、国際社会による人権保障のあゆみを踏まえて、世界人権宣言と国際人権規約について学びます。最後に、各受講生が自由な研究テーマを選び、レポート作成と研究報告ができるように指導します。 ※ 毎回の授業後には、「問題解決型学習」の手段として課題レポートを作成してもらい、次回授業時にこれに対する解説と質問への回答を行います。				
到達目標	市民社会における客観的な判断基準としての「法」の役割を踏まえ、異なる意見を踏まえつつ筋道を立てて未解決の社会問題を考える力をつけることを目標とします。第 1 回研究報告および第 1 回レポート作成を目指します。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	福王　守	【第 1 回】 予習　：本授業シラバスの講読および研究希望分野の資料収集 授業　：英コミ専攻における国際社会研究ゼミとして「法」を学ぶ意義：この演習の目的・内容・学習の方法 復習　：第 1 回授業ノートおよび配布プリントの整理
2	福王　守	【第 2 回】 予習　：【第 2 回】授業レジュメ・資料の講読およびキーワードの確認 授業　：法学の基礎：市民社会のあゆみと法の役割　【レジュメおよび資料】「ディスカッション」 復習　：第 2 回授業レジュメの再読、ノートおよび配布プリントの整理
3	福王　守	【第 3 回】 予習　：【第 3 回】レジュメ・資料の講読およびキーワードの確認 授業　：法学の基礎：法における 2 つの目的と責務 【レジュメおよび資料】「ディスカッション」 復習　：第 3 回授業レジュメの再読、ノートおよび配布プリントの整理
4	福王　守	【第 4 回】 予習　：テキスト 3-16 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：日本国憲法の背景：憲法と個人の尊厳　【テキスト 3-16 頁】「ディスカッション」 復習　：テキスト 3-16 頁の再読、第 4 回授業ノートおよび配布プリントの整理
5	福王　守	【第 5 回】 予習　：テキスト 17-26 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：日本国憲法の背景：戦後憲法の制定と「前文」の意味 【テキスト 17-26 頁】「ディスカッション」 復習　：テキスト 17-26 頁の再読、第 5 回授業ノートおよび配布プリントの整理
6	福王　守	【第 6 回】 予習　：テキスト 37-43 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：憲法の目的と趣旨：平和主義原理の意義と今日的問題 【テキスト 37-43 頁】・研究指導（はじめに）「ディスカッション」 復習　：テキスト 37-43 頁の再読、第 6 回授業ノートおよび配布プリントの整理
7	福王　守	【第 7 回】 予習　：テキスト 15、29、53 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：憲法の目的と趣旨：基本的人権尊重原理と人権の類型 【テキスト 15、29、53 頁】・研究指導（第Ⅰ章①）「ディスカッション」 復習　：テキスト 15、29、53 頁の再読、第 7 回授業ノートおよび配布プリントの整理
8	福王　守	【第 8 回】 予習　：テキスト 73-88 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：基本的人権の尊重：包括的基本権について 【テキスト 73-88 頁】・研究指導（第Ⅰ章②）「ディスカッション」 復習　：テキスト 73-88 頁の再読、第 8 回授業ノートおよび配布プリントの整理
9	福王　守	【第 9 回】 予習　：テキスト 161-168 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：基本的人権の尊重：福祉的国家思想と生存権　【テキスト 161-168 頁】・研究指導（第Ⅱ章①）「ディスカッション」 復習　：テキスト 161-168 頁の再読、第 9 回授業ノートおよび配布プリントの整理

10	福王　守	【第 10 回】 予習　：テキスト 281-282 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：国際法の基礎：国際社会の法構造の特殊性 【テキスト 281-282 頁】・研究指導（第Ⅱ章②）「ディスカッション」 復習　：テキスト 281-282 頁の再読、第 10 回授業ノートおよび配布プリントの整理
11	福王　守	【第 11 回】 予習　：テキスト 282-294 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：国際人権法：国連による人権保障のあゆみと国際人権章典【テキスト 282-294 頁】・研究指導（第Ⅲ章）「ディスカッション」 復習　：テキスト 282-294 頁の再読、第 11 回授業ノートおよび配布プリントの整理
12	福王　守	【第 12 回】 予習　：テキスト 134-150 頁の講読およびキーワードの確認 授業　：人権保障と刑罰：国際法と国内法の交錯する問題として 【テキスト 134-150 頁】・研究指導（第Ⅳ章）「ディスカッション」 復習　：テキスト 134-150 頁の再読、第 12 回授業ノートおよび配布プリントの整理
13	福王　守	【第 13 回】 予習　：自己テーマに関する資料の収集 授業　：全体研究指導：研究テーマ選定および文献検索の方法【テキスト 全学習頁】・研究指導（結びにかえて）「ディスカッション」 復習　：第 13 回授業ノートおよび配布プリントの整理、添削事項の見直し
14	福王　守	【第 14 回】 予習　：自己テーマに関する資料の収集およびレポート骨子の作成 授業　：個別研究指導：レジュメおよびレポート作成の方法【テキスト 全学習頁】・研究指導（参考文献について）「ディスカッション」 復習　：第 14 回授業ノートおよび配布プリントの整理、添削事項の見直し
15	福王　守	【第 15 回】 予習　：【第 1 回】研究レポートの完成 授業　：「研究テーマ」発展学習の手引き：【第 1 回】研究レポート提出および前期授業全体の体系的整理 「ディスカッション」 復習　：テキスト全学習頁の再読、第 15 回授業ノートおよび配布プリントの整理

授業開始前学習	テレビ・新聞・インターネット等における社会面・政治面の報道に、少しでも多く接する機会をもって下さい。必ずどこかで授業理解の助けになります。
授業内課題のフィードバックの方法	授業第 1 回目に出されたレポート課題に基づき第 6 回目以降に【第 1 回】研究報告を行い、また第 15 回目に【第 1 回】研究レポートを提出します。これについて第 15 回目に全体の講評と質問に対する回答を行います。
テキスト・教材	古野豊秋・畑尻剛編『新・スタンダード憲法（第 4 版補訂版）』（尚学社、2016 年） 『ポケット六法』（有斐閣）
参考書	授業を通じて適宜紹介します。
評価の基準と方法	単位取得の前提として、全ての授業回数のうち 10 回以上の出席が必要です。 演習への参加状況（50%）、およびレポート（50%）により総合的に評価します。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎		○	△

関連科目	この演習をよりよく運営するために、他の法律学関係の講義も履修してください。 ゼミ生の希望に基づいて、実務見学や懇親会なども行います。
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-310-23	授業コード	FC1222
科目名称	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｾﾞﾐⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on English Communication Ⅱ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	浅川　真知子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	浅川　真知子			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期　火曜日 09:00～10:30　木曜日 13:00～14:30 後期　火曜日 09:00～10:30　木曜日 13:00～14:30			研究室	10-603
授業概要	本ゼミでは、英語教育・国際教育を中心に教育全般を研究テーマとして扱う。ゼミ生各自が問いを立て探究し、議論を通じて深めていくことが求められる。授業はディスカッションを中心に行う。授業中に行うすべての活動を通じて、研究活動に必要な思考スキル・リサーチスキル・コミュニケーションスキルを養っていく。また、４年次の研究活動に向けて、先行研究の収集と精査を行う。各自の進捗状況は適宜ゼミ内で発表し共有する。				
到達目標	・論理的に思考する力を深め、教育に関する研究を多角的に分析できる ・自分の考えを筋道を立てて分かりやすく的確に表現することができる ・自分の研究テーマに関する文献を探すことができる ・異なる意見を踏まえながら建設的に議論することができる				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	浅川　真知子	【第 1 回】 予習：自身の研究の方向性について、現時点の考えをまとめる 授業：授業計画の確認、自身の研究テーマ・問いを発表し、意見交換をする（ディスカッション）（発表） 復習：得たフィードバックをプロセスジャーナルに記入する
2	浅川　真知子	【第 2 回】 予習：自身の研究計画や研究方法について考える 授業：さまざまな研究方法を学ぶ、自身の研究計画や研究方法について、意見交換をする（ディスカッション） 復習：研究計画や方法を整理する
3	浅川　真知子	【第 3 回】 予習：自身の研究テーマに関する文献を用意する 授業：先行研究文献の探し方・文献リストの作り方を学ぶ（グループワーク） 復習：文献リストを作成する
4	浅川　真知子	【第 4 回】 予習：発表者は発表準備をし、他の学生は発表者のレジュメを読み質問を用意する 授業：学生発表・討論・指導助言　（1）　（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り研究計画を練り直し、他の学生は自身のレジュメを作成する
5	浅川　真知子	【第 5 回】 予習：発表者は発表準備をし、他の学生は発表者のレジュメを読み質問を用意する 授業：学生発表・討論・指導助言　（2）　（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り研究計画を練り直し、他の学生は自身のレジュメを作成する
6	浅川　真知子	【第 6 回】 予習：発表者は発表準備をし、他の学生は発表者のレジュメを読み質問を用意する 授業：学生発表・討論・指導助言　（3）　（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り研究計画を練り直し、他の学生は自身のレジュメを作成する
7	浅川　真知子	【第 7 回】 予習：発表者は発表準備をし、他の学生は発表者のレジュメを読み質問を用意する 授業：学生発表・討論・指導助言　（4）　（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り研究計画を練り直し、他の学生は自身のレジュメを作成する
8	浅川　真知子	【第 8 回】 予習：発表者は発表準備をし、他の学生は発表者のレジュメを読み質問を用意する 授業：学生発表・討論・指導助言　（5）　（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り研究計画を練り直し、他の学生は自身のレジュメを作成する
9	浅川　真知子	【第 9 回】 予習：発表者は発表準備をし、他の学生は発表者のレジュメを読み質問を用意する 授業：学生発表・討論・指導助言　（6）　（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り研究計画を練り直し、他の学生は自身のレジュメを作成する
10	浅川　真知子	【第 10 回】 予習：発表者は発表準備をし、他の学生は発表者のレジュメを読み質問を用意する 授業：学生発表・討論・指導助言　（7）　（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り研究計画を練り直し、他の学生は自身のレジュメを作成する

11	浅川　真知子	【第 11 回】 予習：発表者は発表準備をし、他の学生は発表者のレジュメを読み質問を用意する 授業：学生発表・討論・指導助言　（８）　（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り研究計画を練り直し、他の学生は自身のレジュメを作成する
12	浅川　真知子	【第 12 回】 予習：発表者は発表準備をし、他の学生は発表者のレジュメを読み質問を用意する 授業：学生発表・討論・指導助言　（９）　（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り研究計画を練り直し、他の学生は自身のレジュメを作成する
13	浅川　真知子	【第 13 回】 予習：発表者は発表準備をし、他の学生は発表者のレジュメを読み質問を用意する 授業：学生発表・討論・指導助言　（１０）　（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り研究計画を練り直し、他の学生は自身のレジュメを作成する
14	浅川　真知子	【第 14 回】 予習：研究レポートのまとめ 授業：研究レポートを持参し、ピアフィードバックをおこなう 復習：得たフィードバックをもとに、研究レポートを修正する
15	浅川　真知子	【第 15 回】 予習：後期の振り返り 授業：後期の振り返り、研究レポートの提出 復習：次年度の研究計画を練る

授業開始前学習	書籍や各種メディアを適切に使用し、日常的に教育問題に関心を持つ。 自身の中学・高校での学びや教育について振り返る。
授業内課題のフィードバックの方法	授業内での発表やディスカッションに対して講評を行うとともに、提出された課題や受けた質問に対しては都度評価、回答をする。
テキスト・教材	授業中に適宜参考資料を配布する
参考書	各自の研究テーマに応じて適宜指示する
評価の基準と方法	授業参加度・課題提出（40%）プレゼンテーション（30%）　研究レポート（30%）
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎		○	△

関連科目	
その他	出席を重視する。欠席をする場合は必ず事前に連絡をすること。授業では積極的に質問したり意見交換をする姿勢が求められる。発表者は事前にレジュメを提出すること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	中学校・高等学校教員として教科指導・生徒指導・進路指導などの各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、教育に携わる者に求められる資質・能力に関する講義・演習を行う。

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-310-23	授業コード	FC1223
科目名称	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｾﾞﾐⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on English Communication Ⅱ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	松山　響子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松山　響子			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期　水曜日 13:00～14:30　木曜日 10:40～12:10 後期　水曜日 09:00～10:30　水曜日 13:00～14:30			研究室	10-605
授業概要	ゼミⅠで自分が興味を持った文化事象や文学作品、映画に、より深い理解を示すことを求めます。一つの考え方や理論に固執することなく、多くの研究書を参考にする努力を惜しまないでください。できるだけ論理的に文化事象や文学作品を理解するようことを目標としています。				
到達目標	・小説や戯曲、詩、映画などを批判的に読むことができるようになる ・論文を書く際に必要な参考文献を横断的に探せるようになる ・膨大な文章を読んで、自分なりに理解しまとめることができるようになる ・自分の論文を書き上げ、それを批判的に読んで修正することができるようになる				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	松山　響子	【第 1 回】 予習　：シラバスを確認 授業　：学習目標の確認、発表の予定表作り、発表内容の紹介など 復習　：自分の研究の方向性確認
2	松山　響子	【第 2 回】 予習　：自分の研究の方向性について考える 授業　：文学研究とは何か？　文学作品や文化事象についての研究方法の説明 復習　：自分の研究の方向性と作品の内容確認
3	松山　響子	【第 3 回】 予習　：ゼミ学習文献予習 授業　：ゼミ学習文献発表（討論・指導）（1） 復習　：ゼミ学習文献復習
4	松山　響子	【第 4 回】 予習　：ゼミ学習文献予習 授業　：ゼミ学習文献発表（討論・指導）（2） 復習　：ゼミ学習文献復習
5	松山　響子	【第 5 回】 予習　：ゼミ学習文献予習 授業　：ゼミ学習文献発表（討論・指導）（3） 復習　：ゼミ学習文献復習
6	松山　響子	【第 6 回】 予習　：ゼミ学習文献予習 授業　：ゼミ学習文献発表（討論・指導）（4） 復習　：ゼミ学習文献復習
7	松山　響子	【第 7 回】 予習　：ゼミ学習文献予習 授業　：ゼミ学習文献発表（討論・指導）（5） 復習　：ゼミ学習文献復習
8	松山　響子	【第 8 回】 予習　：ゼミ学習文献予習 授業　：学生発表（討論・指導）（1） 復習　：ゼミ学習文献復習
9	松山　響子	【第 9 回】 予習　：ゼミ学習文献予習 授業　：学生発表（討論・指導）（2） 復習　：ゼミ学習文献復習
10	松山　響子	【第 10 回】 予習　：ゼミ学習文献予習 授業　：学生発表（討論・指導）（3） 復習　：ゼミ学習文献復習
11	松山　響子	【第 11 回】 予習　：ゼミ学習文献予習 授業　：学生発表（討論・指導）（4） 復習　：ゼミ学習文献復習

12	松山　響子	【第 12 回】 予習　：ゼミ学習文献予習 授業　：学生発表（討論・指導）（5） 復習　：ゼミ学習文献復習
13	松山　響子	【第 13 回】 予習　：ゼミ学習文献予習 授業　：学生発表（討論・指導）（6） 復習　：ゼミ学習文献復習
14	松山　響子	【第 14 回】 予習　：ゼミ学習文献予習 授業　：学生発表（討論・指導）（7） 復習　：ゼミ学習文献復習
15	松山　響子	【第 15 回】 予習　：後期ふりかえり 授業　：まとめ 復習　：来年度に向けての課題確認

授業開始前学習	翌週の文献学習部分、学生発表で取り扱われる作品を必ず読んでくること
授業内課題のフィードバックの方法	必ず学期につき 1 回は発表を行い、それに基づいてレポートを作成する。レポートは講評をして返却をする。
テキスト・教材	特に一つのものを指定しません。随時紹介するので、図書館で調べてきてください。
参考書	『イギリス文学史入門』 川崎寿彦著　研究社 『イギリス文学史』 斉藤勇著　研究社 『はじめて学ぶアメリカ文学史』 板橋　好枝著　ミネルヴァ書房 『アメリカ文学史』 西田　実著　成美堂
評価の基準と方法	授業参加態度・授業内活動・その他から評価していきます。授業参加態度 40 点、授業内活動 40 点、レポート 20 点。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎		○	△

関連科目	イギリス文学Ⅰ、イギリス文学Ⅱ、アメリカ文学Ⅰ、アメリカ文学Ⅱ
その他	ゼミですので出席を重視します。欠席をする際は必ず事前に連絡を入れてください。 各自のテーマにそって、1 セメスターに少なくとも 1 回は発表することを求められます。発表者は新聞、雑誌、参考図書などから自分の考えにそった資料を探し出してくる努力をしてください。発表者以外の学生も受身的に聞いているだけではなく、意見や質問を活発に述べることが求められます。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-310-23	授業コード	FC1224
科目名称	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｾﾞﾐⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on English Communication Ⅱ			授業区分	演習･実習･実技
科目責任者	Ｔ．プラザ			必修･選択	履修ガイド参照
担当教員	Ｔ．プラザ			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30			研究室	10-608
授業概要	In this second semester, students will further develop their chosen topics of research in cultural studies. Students may choose topics of research connected to culture or sociolinguistics. Possible areas include: Issues with living or working overseas, International families within Japan and abroad, Gender in relation to culture and language, National cultures, Subcultures, Bilingualism, Language preservation. Many other topics are also possible.				
到達目標	Students will learn to take a critical approach to cultural studies. Students will develop the ability to find academic materials relevant to their research. Students will improve their ability to give presentations as well as interact with other studen				
アクティブ･ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	Ｔ．プラザ	【第 1 回】 予習 ：Students prepare to talk about their interests 授業 ：Guidance. Students discuss their research interests. 復習 ：Students work on a research plan
2	Ｔ．プラザ	【第 2 回】 予習 ：Students work on their research project 授業 ：Student research presentations（discussion･guidance）（1）（presentation） 復習 ：Students work on a research plan
3	Ｔ．プラザ	【第 3 回】 予習 ：Students work on their research project 授業 ：Student research presentations（discussion･guidance）（2）（presentation） 復習 ：Students adjust their research work based on feedback received in class
4	Ｔ．プラザ	【第 4 回】 予習 ：Students work on their research project 授業 ：Student research presentations（discussion･guidance）（3）（presentation） 復習 ：Students adjust their research work based on feedback received in class
5	Ｔ．プラザ	【第 5 回】 予習 ：Students work on their research project 授業 ：Student research presentations（discussion･guidance）（4）（presentation） 復習 ：Students adjust their research work based on feedback received in class
6	Ｔ．プラザ	【第 6 回】 予習 ：Students work on their research project 授業 ：Student research presentations（discussion･guidance）（5）（presentation） 復習 ：Students adjust their research work based on feedback received in class
7	Ｔ．プラザ	【第 7 回】 予習 ：Students work on their research project 授業 ：Student research presentations（discussion･guidance）（6）（presentation） 復習 ：Students adjust their research work based on feedback received in class
8	Ｔ．プラザ	【第 8 回】 予習 ：Students work on their research project 授業 ：Student research presentations（discussion･guidance）（7）（presentation） 復習 ：Students adjust their research work based on feedback received in class
9	Ｔ．プラザ	【第 9 回】 予習 ：Students work on their research project 授業 ：Student research presentations（discussion･guidance）（8）（presentation） 復習 ：Students adjust their research work based on feedback received in class
10	Ｔ．プラザ	【第 10 回】 予習 ：Students work on their research project 授業 ：Student research presentations（discussion･guidance）（9）（presentation） 復習 ：Students adjust their research work based on feedback received in class

11	T．プラザ	【第 11 回】 予習 ：Students work on their research project 授業 ：Student research presentations（discussion･guidance） （10） （presentation） 復習 ：Students adjust their research work based on feedback received in class
12	T．プラザ	【第 12 回】 予習 ：Students work on their research project 授業 ：Student research presentations（discussion･guidance） （11） （presentation） 復習 ：Students adjust their research work based on feedback received in class
13	T．プラザ	【第 13 回】 予習 ：Students work on research presentation materials 授業 ： Final presentation workshop 復習 ：Students work on research presentation materials
14	T．プラザ	【第 14 回】 予習 ：Students work on research presentation materials 授業 ：Final presentation （presentation） 復習 ：Final presentation workshop
15	T．プラザ	【第 15 回】 予習 ：Work on presentation reflections 授業 ：Review and feedback 復習 ： Look at the themes and tasks in the following academic year

授業開始前学習	Think about the research you have done in cultural studies until now and prepare to summarize it.
授業内課題のフィードバックの方法	Students receive feedback from their instructor and peers regarding their presentations and reports
テキスト･教材	There is not set textbook. Students will find reading material for their chosen topics with the guidance of the instructor.
参考書	
評価の基準と方法	Class participation 30%, class activities (presentations) 40%, research report 30%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎		○	△

関連科目	
その他	Students will be required to make at least one presentation per semester on their research theme. Presenters find materials from newspapers, magazines, academic journals, reference books, etc. Students who are not presenting should actively express their
予習･復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習･復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-310-23	授業コード	FC1225
科目名称	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｾﾞﾐⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on English Communication Ⅱ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	M.ブラウン			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	M.ブラウン			開講時期	3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	This seminar is for students who are continuing their research about English diversity, in English. We will investigate topics related to the historical development of various kinds of English, the spread of English around the world, the role of English in various social and cultural environments, how various kinds of English are similar or different to one another, variation and change in the English language (both in the past and in the present-day), and the cultures and peoples who use English. The topics, therefore, will be cross-disciplinary and involve linguistics, sociology, and cultural studies, amongst others.				
到達目標	・Students will further learn to take a critical approach to the study of English diversity. ・Students will continue to develop their ability to find academic materials relevant to their research. ・Students will continue to develop their ability to read				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	M.ブラウン	【第 1 回】 予習 : Look over the syllabus, prepare to talk about the goals of the course 授業 : Confirm class aims, re-introduce the foundational aspects of studying and researching "English Diversity" 復習 : Students consider the possible directions of their research f
2	M.ブラウン	【第 2 回】 予習 : Students bring ideas about their research topic for this semester related to diversity in English 授業 : Research questions and discussion, methodologies 1. 復習 : Students adjust their ideas about research based on class notes, discussion, and feedba
3	M.ブラウン	【第 3 回】 予習 : Students select a mini-research topic 授業 : Research questions and discussion, methodologies 2. 復習 : Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback
4	M.ブラウン	【第 4 回】 予習 : Students work on their research project 授業 : Research questions and discussion, methodologies 3. 復習 : Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback
5	M.ブラウン	【第 5 回】 予習 : Students work on their research project 授業 : Research questions and discussion, presentation guidance 1. 復習 : Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback
6	M.ブラウン	【第 6 回】 予習 : Students work on their research project 授業 : Research questions and discussion, presentation guidance 2. 復習 : Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback
7	M.ブラウン	【第 7 回】 予習 : Students work on their research project 授業 : Research questions and discussion, presentation preparation 1. 復習 : Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback
8	M.ブラウン	【第 8 回】 予習 : Students work on their research project 授業 : Research questions and discussion, presentation preparation 2. 復習 : Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback
9	M.ブラウン	【第 9 回】 予習 : Students work on their research project 授業 : Research questions and discussion, presentation preparation 3. 復習 : Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback

10	M.ブラウン	【第 10 回】 予習：Students work on their research project 授業：Research questions and discussion, presentation preparation 4. 復習：Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback
11	M.ブラウン	【第 11 回】 予習：Students work on their research project 授業：Presentations, discussion 復習：Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback
12	M.ブラウン	【第 12 回】 予習：Students work on their research project 授業：Research questions and discussion, Report guidance 1. 復習：Students work on their report
13	M.ブラウン	【第 13 回】 予習：Students work on their research project 授業：Research questions and discussion, Report guidance 2. 復習：Students work on their report
14	M.ブラウン	【第 14 回】 予習：Students finish their report 授業：Research questions and discussion, students submit report 復習：Review class notes
15	M.ブラウン	【第 15 回】 予習：Students work on their research project 授業：Review and feedback 復習：Look at tasks for the next semester, think about research direction for the fourth-year thesis

授業開始前学習	Read as widely as possible about the history of English and different kinds of English that exist today.
授業内課題のフィードバックの方法	Students receive oral and written feedback from the instructor regarding presentations and reports, and feedback from their peers regarding presentations.
テキスト・教材	There is no set text. Required readings will be provided by the instructor.
参考書	
評価の基準と方法	Preparation and Participation in class discussions (40%) Presentation (30%) Research report (30%)
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎		○	△

関連科目	
その他	Each student will be required to make at least one presentation per semester on their research theme. A written report will also be submitted. Presenters find materials from newspapers, magazines, academic journals, reference books, etc. Students who a
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-310-23	授業コード	FC1226
科目名称	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｾﾞﾐⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on English Communication Ⅱ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	工藤 俊			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	工藤 俊			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 16:20～17:50 後期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 16:20～17:50			研究室	10-607
授業概要	「英語コミュニケーションゼミⅠ」に引き続き、英語を中心とした言語全般の研究を行う。特に、言語と思考の関係性を意識しながら事例を考察し、言語直感をさらに精錬させる。同時に、学術書や研究論文の講読も継続して行うことで、言語学的な視座を獲得する。なお、引き続き学生が読みたい学術書や研究論文があれば、授業内で共有することもできる。				
到達目標	・言語と思考の関係をさらに深く理解できる。 ・英語に対する深い言語直感を養える。 ・個人研究発表や討論を通じて、自身の思考を客観的にみることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	工藤 俊	【第 1 回】 予習：シラバスを読んでくる。個人研究について見直しておく。 授業：オリエンテーション 復習：授業方針を確認する。
2	工藤 俊	【第 2 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（1）（ディスカッション） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。
3	工藤 俊	【第 3 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（2）（ディスカッション） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。
4	工藤 俊	【第 4 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（3）（ディスカッション） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。
5	工藤 俊	【第 5 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（4）（ディスカッション） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。
6	工藤 俊	【第 6 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（5）（ディスカッション） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。
7	工藤 俊	【第 7 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（6）（ディスカッション） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。
8	工藤 俊	【第 8 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（7）（ディスカッション） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。
9	工藤 俊	【第 9 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（8）（ディスカッション） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。
10	工藤 俊	【第 10 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（9）（ディスカッション） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。
11	工藤 俊	【第 11 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（10）（ディスカッション） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。

12	工藤　俊	【第 12 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論　個人研究の進捗報告および討論（11）（ディスカッション） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。
13	工藤　俊	【第 13 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論　個人研究の進捗報告および討論（12）（ディスカッション） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。
14	工藤　俊	【第 14 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論　個人研究の進捗報告および討論（13）（ディスカッション） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。
15	工藤　俊	【第 15 回】 予習：自身の研究を概観する。 授業：レポート提出　1 年間の振り返り　来年度に向けて 復習：自身の今後の研究方針を考える。

授業開始前学習	授業で扱う学術書や研究論文の該当箇所は必ず事前に読み、自分なりの意見や疑問点を整理しておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	個人研究発表に対しては、教員からだけでなく学生からも意見を出し、総合的に議論する。 レポートについては個別にフィードバックする。
テキスト・教材	井上逸兵『英語の思考法』（ちくま書房）2021 年（ISBN: 978-4-480-07410-2）
参考書	必要に応じて学術書や論文を紹介し、授業内で講読する。
評価の基準と方法	進捗報告及び発表：40%、レポート：60%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎		○	△

関連科目	
その他	個人研究のために読みたい学術書や研究論文があれば、授業内で講読することが可能ですので、積極的に申し出てください。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-310-23	授業コード	FC1227
科目名称	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｾﾞﾐⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on English Communication Ⅱ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	福王　守			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	福王　守			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期　月曜日 13:00～14:30　木曜日 13:00～14:30 後期　月曜日 13:00～14:30　木曜日 13:00～14:30			研究室	10-614
授業概要	この演習では、未解決な社会問題の解決の糸口を、主に法的な分析を通じて検討します。一人ひとりが人格の担い手として尊重されるための課題を、共に考えていきます。後期演習は、各受講生の前期末レポートに基づいて、具体的な研究報告を中心に進めていきます。はじめに、レジュメの作成の仕方、参考文献の選び方、研究報告の仕方について個別に指導を行います。報告時には、ゼミ生全員に意見や感想を求めます。レジュメは丁寧に添削して返却し、次のレポート作成へとつなげていただきます。各自のテーマへの理解をさらに深めてください。				
到達目標	市民社会における客観的な判断基準としての「法」の役割を踏まえ、異なる意見を踏まえつつ筋道を立てて未解決の社会問題を考える力をつけることを目標とします。第 2 回報告と第 2 回レポート作成を目指します。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	福王　守	※ 毎回の授業後には、「問題解決型学習」の手段として課題レポートを作成してもらい、次回授業時にこれに対する解説と質問への回答を行います。 【第 1 回】 予習　：各研究テーマに関する第 1 回研究レポートに基づいた資料収集 授業　：「英語コミュニケーションゼミⅡ」で学ぶ意義：演習の目的・内容・学習の方法（第 1 回提出レポートを踏まえて） 復習　：第 1 回研究レポートおよび報告レジュメの見直し
2	福王　守	【第 2 回】 予習　：第 2 回研究報告に向けた資料収集 授業　：全体指導：レジュメ作成・参考文献の調べ方・研究報告の方法 復習　：第 2 回授業ノートの整理および添削事項の見直し
3	福王　守	【第 3 回】 予習　：第 2 回研究報告に向けた資料収集と問題点の確認 授業　：個別指導：レジュメ作成・参考文献の調べ方・研究報告の方法（助言および添削指導） 復習　：第 3 回授業ノートの整理および添削事項の見直し
4	福王　守	【第 4 回】 予習　：第 2 回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成（1） 授業　：ゼミ生による第 2 回研究報告：受講生間における討論、研究発展に向けた助言と添削指導（1）「ディスカッション」 復習　：報告者自身による第 2 回レポートの作成、および報告者に対する質問と意見の作成（1）
5	福王　守	【第 5 回】 予習　：第 2 回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成（2） 授業　：ゼミ生による第 2 回研究報告：受講生間における討論、研究発展に向けた助言と添削指導（2）「ディスカッション」 復習　：報告者自身による第 2 回レポートの作成、および報告者に対する質問と意見の作成（2）
6	福王　守	【第 6 回】 予習　：第 2 回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成（3） 授業　：ゼミ生による第 2 回研究報告：受講生間における討論、研究発展に向けた助言と添削指導（3）「ディスカッション」 復習　：報告者自身による第 2 回レポートの作成、および報告者に対する質問と意見の作成（3）
7	福王　守	【第 7 回】 予習　：第 2 回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成（4） 授業　：ゼミ生による第 2 回研究報告：受講生間における討論、研究発展に向けた助言と添削指導（4）「ディスカッション」 復習　：報告者自身による第 2 回レポートの作成、および報告者に対する質問と意見の作成（4）
8	福王　守	【第 8 回】 予習　：第 2 回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成（5） 授業　：ゼミ生による第 2 回研究報告：受講生間における討論、研究発展に向けた助言と添削指導（5）「ディスカッション」 復習　：報告者自身による第 2 回レポートの作成、および報告者に対する質問と意見の作成（5）
9	福王　守	【第 9 回】 予習　：第 2 回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成（6） 授業　：ゼミ生による第 2 回研究報告：受講生間における討論、研究発展に向けた助言と添削指導（6）「ディスカッション」 復習　：報告者自身による第 2 回レポートの作成、および報告者に対する質問と意見の作成（6）

10	福王　守	【第 10 回】 予習　：第 2 回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成（7） 授業　：ゼミ生による第 2 回研究報告：受講生間における討論、研究発展に向けた助言と添削指導（7）「ディスカッション」 復習　：報告者自身による第 2 回レポートの作成、および報告者に対する質問と意見の作成（7）
11	福王　守	【第 11 回】 予習　：第 2 回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成（8） 授業　：ゼミ生による第 2 回研究報告：受講生間における討論、研究発展に向けた助言と添削指導（8）「ディスカッション」 復習　：報告者自身による第 2 回レポートの作成、および報告者に対する質問と意見の作成（8）
12	福王　守	【第 12 回】 予習　：第 2 回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成（9） 授業　：ゼミ生による第 2 回研究報告：受講生間における討論、研究発展に向けた助言と添削指導（9）　「ディスカッション」 復習　：報告者自身による第 2 回レポートの作成、および報告者に対する質問と意見の作成（9）
13	福王　守	【第 13 回】 予習　：第 2 回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成（10） 授業　：ゼミ生による第 2 回研究報告：受講生間における討論、研究発展に向けた助言と添削指導（10）「ディスカッション」 復習　：報告者自身による第 2 回レポートの作成、および報告者に対する質問と意見の作成（10）
14	福王　守	【第 14 回】 予習　：第 2 回レポートの作成に向けた資料収集と問題点の整理 授業　：全体および個別指導：添削済みレジュメに基づく第 2 回レポート作成の手引き「ディスカッション」 復習　：個別指導に基づく各問題点の見直し
15	福王　守	【第 15 回】 予習　：第 2 回研究レポートの完成 授業　：「研究テーマ」発展学習の手引き：第 2 回レポート提出および次回報告に向けた学習指針の提示 復習　：第 15 回授業ノートの整理、および第 3 回研究報告レジュメ作成に向けた資料収集

授業開始前学習	テレビ・新聞・インターネット等における社会面・政治面の報道に、少しでも多く接する機会をもって下さい。必ずどこかで授業理解の助けになります。
授業内課題のフィードバックの方法	授業第 4 回目以降における個別研究報告に対して、第 2 回研究報告レジュメおよび第 2 回研究レポートに基づき講評と質問に対する回答を行います。
テキスト・教材	古野豊秋・畑尻剛編『新・スタンダード憲法（第 4 版補訂版）』（尚学社、2016 年） 『ポケット六法』（有斐閣）
参考書	授業を通じて適宜紹介します。
評価の基準と方法	単位取得の前提として、全ての授業回数のうち 10 回以上の出席が必要です。 演習への参加状況（50%）、およびレポート（50%）により総合的に評価します。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎		○	△

関連科目	この演習をよりよく運営するために、他の法律学関連の講義も履修してください。
その他	後期補講期間中に正課学外活動として実務訪問を予定しております。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-310-24（Ｊ）	授業コード	FC1232
科目名称	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｾﾞﾐⅢ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on English Communication Ⅲ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	中野　達也			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	中野　達也			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　火曜日 10:40～12:10　木曜日 13:00～14:30 後期　火曜日 10:40～12:10　木曜日 13:00～14:30			研究室	10-508
授業概要	教育全般を研究テーマとして扱う。学校教育の中で、いじめ問題や生徒指導、部活指導などを研究テーマとして取り上げることも可能である。また、英語教育に焦点を当て、英語学習の課題や指導方法を取り上げることもできる。あるいは、日本と他国の英語教育を比較することも研究に値する。英語学習の実態を探り、学習者のために何をしたらいいのかを考える機会とする。ゼミはディスカッションを中心に行う。各自の研究テーマに応じて、先行研究を行い、必要に応じて実態調査や実験も実施する。				
到達目標	基本的な研究方法を学び、適切に研究を進めることができるようになる。 自分の考えを適切に伝え、他者の意見に耳を傾け、質問に適切に回答するという、他者とのインタラクションを通してコミュニケーション力を身につけることを目的とする。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	中野　達也	【第 1 回】 予習：自己紹介の準備をする、ゼミの方針について自分の考えをまとめる 授業：自己紹介を行う。ゼミの方針について話し合う　（ディスカッション）（発表） 復習：ゼミの方針と自身の研究について考える
2	中野　達也	【第 2 回】 予習：自身の関心のあるテーマを列挙する 授業：関心のあるテーマについて発表し、意見交換する　（ディスカッション）（発表） 復習：自分の研究テーマを決める
3	中野　達也	【第 3 回】 予習：自分の研究計画を立てる 授業：研究方法について学ぶ　（ディスカッション）（発表） 復習：研究方法に基づいてレジュメを作る
4	中野　達也	【第 4 回】 予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する　（1）例　いじめ問題についての考察　（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る
5	中野　達也	【第 5 回】 予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する　（2）例　生徒指導についての考察　（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る
6	中野　達也	【第 6 回】 予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する　（3）例　生徒名簿、座席についての考察　（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る
7	中野　達也	【第 7 回】 予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する　（4）例　駒女生の英語学習歴についての調査、研究計画についてのレポートの提出　（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る
8	中野　達也	【第 8 回】 予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する　（5）例　日本と海外の入試問題の比較　（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る
9	中野　達也	【第 9 回】 予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する　（6）例　発音記号とカタカナ表記の有効性についての考察、研究計画についてのレポートの講評　（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る

10	中野　達也	【第 10 回】 予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する　（７）例　学習指導要領の変遷について　（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る
11	中野　達也	【第 11 回】 予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する　（８）例　英語の歌を使った文法指導法　（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る
12	中野　達也	【第 12 回】 予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する　（9）例　映画を使った英語学習法　（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る
13	中野　達也	【第 13 回】 予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する　（10）例　語彙サイズと読解スピードの関係（発表）（ディスカッション）、研究の進捗状況についてのレポートの提出 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る
14	中野　達也	【第 14 回】 予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する　（11）例　多読の効果　（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る
15	中野　達也	【第 15 回】 予習：前期発表者のレジュメを再読する 授業：全体の振り返りと、今後の研究について発表する。研究の進捗状況についてのレポートの講評　（発表）（ディスカッション） 復習：これまでの研究をまとめ、今後の研究について考察する

授業開始前学習	書籍や各種メディアを適切に使用し、日常的に教育問題や英語教育等について関心を持つ。 自身の中学・高校で受けてきた教育について振り返る。
授業内課題のフィードバックの方法	授業７回目、13 回目に提出するレポートについては、２週間後（授業９回目、15 回目）に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。
テキスト・教材	授業中に適宜参考資料を配布する
参考書	各自の研究テーマに応じて適宜指示する
評価の基準と方法	授業への参加態度　５０点 発表とレポート　５０点
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎		○	△

関連科目	
その他	発表やディスカッションに積極的に参加すること。 発表者はレジュメを事前に提出すること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	中学校・高等学校教員とし教科指導や生徒指導・進路指導など各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、教員に求められる資質・能力についての講義・演習を行う。

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-310-24	授業コード	FC1233
科目名称	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｾﾞﾐⅢ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on English Communication Ⅲ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	松山　響子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松山　響子			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　水曜日 13:00～14:30　木曜日 10:40～12:10 後期　水曜日 09:00～10:30　水曜日 13:00～14:30			研究室	10-605
授業概要	学生は各自のテーマをもとに、昨年度から引き続いて研究活動行う。英語コミュニケーションゼミ III では、基本文献の講読をベースに、専門的な学術情報の収集方法、報告発表のスキル、ディスカッションの方法、論理的な思考などの指導に重点をおく。				
到達目標	・小説や戯曲、詩、映画などを批判的に読むことができるようになる ・論文を書く際に必要な参考文献を横断的に探せるようになる ・膨大な文章を読んで、自分なりに理解しまとめることができるようになる ・自分の論文を書き上げ、それを批判的に読んで修正することができるようになる ・他者の発表を理解し批判をすることができるようになる				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	松山　響子	【第 1 回】 予習　：シラバスを確認 授業　：学習目標の確認、発表の予定表作り、発表内容の紹介など 復習　：自分の研究の方向性確認
2	松山　響子	【第 2 回】 予習　：自分の研究の方向性について考える 授業　：文学研究とは何か？　文学作品や文化事象についての研究方法の説明 復習　：自分の研究の方向性と作品の内容確認
3	松山　響子	【第 3 回】 予習　：ゼミ学習文献予習 授業　：ゼミ学習文献発表（討論・指導）（1） 復習　：ゼミ学習文献復習
4	松山　響子	【第 4 回】 予習　：ゼミ学習文献予習 授業　：ゼミ学習文献発表（討論・指導）（2） 復習　：ゼミ学習文献復習
5	松山　響子	【第 5 回】 予習　：ゼミ学習文献予習 授業　：ゼミ学習文献発表（討論・指導）（3） 復習　：ゼミ学習文献復習
6	松山　響子	【第 6 回】 予習　：ゼミ学習文献予習 授業　：ゼミ学習文献発表（討論・指導）（4） 復習　：ゼミ学習文献復習
7	松山　響子	【第 7 回】 予習　：ゼミ学習文献予習 授業　：ゼミ学習文献発表（討論・指導）（5） 復習　：ゼミ学習文献復習
8	松山　響子	【第 8 回】 予習　：ゼミ学習文献予習 授業　：学生発表（討論・指導）（1） 復習　：ゼミ学習文献復習
9	松山　響子	【第 9 回】 予習　：ゼミ学習文献予習 授業　：学生発表（討論・指導）（2） 復習　：ゼミ学習文献復習
10	松山　響子	【第 10 回】 予習　：ゼミ学習文献予習 授業　：学生発表（討論・指導）（3） 復習　：ゼミ学習文献復習

11	松山　響子	【第 11 回】 予習　：ゼミ学習文献予習 授業　：学生発表（討論・指導）（4） 復習　：ゼミ学習文献復習
12	松山　響子	【第 12 回】 予習　：ゼミ学習文献予習 授業　：学生発表（討論・指導）（5） 復習　：ゼミ学習文献復習
13	松山　響子	【第 13 回】 予習　：ゼミ学習文献予習 授業　：学生発表（討論・指導）（6） 復習　：ゼミ学習文献復習
14	松山　響子	【第 14 回】 予習　：ゼミ学習文献予習 授業　：学生発表（討論・指導）（7） 復習　：ゼミ学習文献復習
15	松山　響子	【第 15 回】 予習　：前期ふりかえり 授業　：まとめ 復習　：後期に向けての課題確認

授業開始前学習	翌週の文献学習、学生発表で取り扱われる作品を必ず読んでくること
授業内課題のフィードバックの方法	必ず学期につき 1 回は発表を行い、それに基づいてレポートを作成する。レポートは講評をして返却をする。
テキスト・教材	特に一つのものを指定しません。随時紹介するので、図書館で調べてきてください。
参考書	『イギリス文学史入門』 川崎寿彦著　研究社 『イギリス文学史』 斉藤勇著　研究社 『はじめて学ぶアメリカ文学史』 板橋　好枝著　ミネルヴァ書房 『アメリカ文学史』 西田　実著　成美堂
評価の基準と方法	授業参加態度・授業内活動・その他から評価していきます。授業参加態度 40 点、授業内活動 40 点、レポート 20 点。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎		○	△

関連科目	イギリス文学Ⅰ、イギリス文学Ⅱ、アメリカ文学Ⅰ、アメリカ文学Ⅱ
その他	ゼミですので出席を重視します。欠席をする際は必ず事前に連絡を入れてください。 各自のテーマにそって、1 セメスターに少なくとも 1 回は発表することを求められます。発表者は新聞、雑誌、参考図書などから自分の考えにそった資料を探し出してくる努力をしてください。発表者以外の学生も受身的に聞いているだけではなく、意見や質問を活発に述べることが求められます。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-310-24	授業コード	FC1234
科目名称	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｾﾞﾐⅢ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on English Communication Ⅲ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	Ｔ．プラザ			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	Ｔ．プラザ			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30			研究室	10-608
授業概要	Students will deepen their research into their chosen topic in cultural studies. Students will learn methods of conducting research as well as how to report their findings. Students may choose topics of research connected to culture or sociolinguistics. Possible areas include: Issues with living or working overseas, International families within Japan and abroad, Gender in relation to culture and language, National cultures, Subcultures, Bilingualism, Language preservation. Many other topics are also possible.				
到達目標	Students will learn to take a critical approach to cultural studies. Students will develop the ability to find academic materials relevant to their research. Students will improve their ability to give presentations as well as interact with other studen				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	Ｔ．プラザ	【第 1 回】 予習 ：Preview the syllabus 授業 ：Guidance and confirmation of course goals. 復習 ：Students think about the direction of their research
2	Ｔ．プラザ	【第 2 回】 予習 ：Students plan the direction of their research 授業 ：Introduction to cultural studies 復習 ：Students establish the direction and subject matter of their research
3	Ｔ．プラザ	【第 3 回】 予習 ：Students work on their own research project 授業 ：Student research presentations（discussion・guidance）（1）（presentation） 復習 ：Students adjust their research work based on feedback received in class
4	Ｔ．プラザ	【第 4 回】 予習 ：Students work on their own research project 授業 ：Student research presentations（discussion・guidance）（2）（presentation） 復習 ：Students adjust their research work based on feedback received in class
5	Ｔ．プラザ	【第 5 回】 予習 ：Students work on their own research project 授業 ：Student research presentations（discussion・guidance）（3）（presentation） 復習 ：Students adjust their research work based on feedback received in class
6	Ｔ．プラザ	【第 6 回】 予習 ：Students work on their own research project 授業 ：Student research presentations（discussion・guidance）（4）（presentation） 復習 ：Students adjust their research work based on feedback received in class
7	Ｔ．プラザ	【第 7 回】 予習 ：Students work on their own research project 授業 ：Student research presentations（discussion・guidance）（5）（presentation） 復習 ：Students adjust their research work based on feedback received in class
8	Ｔ．プラザ	【第 8 回】 予習 ：Students work on their own research project 授業 ：Student research presentations（discussion・guidance）（6）（presentation） 復習 ：Students adjust their research work based on feedback received in class
9	Ｔ．プラザ	【第 9 回】 予習 ：Students work on their own research project 授業 ：Student research presentations（discussion・guidance）（7）（presentation） 復習 ：Students adjust their research work based on feedback received in class
10	Ｔ．プラザ	【第 10 回】 予習 ：Students work on their own research project 授業 ：Student research presentations（discussion・guidance）（8）（presentation） 復習 ：Students adjust their research work based on feedback received in class

11	T．プラザ	【第 11 回】 予習 ：Students work on research presentation materials 授業 ：Prepare for final presentation (1) 復習 ：Students work on research presentation materials
12	T．プラザ	【第 12 回】 予習 ：Students work on research presentation materials 授業 ：Prepare for final presentation (2) 復習 ：Students work on research presentation materials
13	T．プラザ	【第 13 回】 予習 ：Students work on research presentation materials 授業 ：Prepare for final presentation (3) 復習 ：Students work on research presentation materials
14	T．プラザ	【第 14 回】 予習 ：Students work on research presentation materials 授業 ：Final presentation （presentation） 復習 ：Presentation reflections
15	T．プラザ	【第 15 回】 予習 ：Continue working on presentation reflections 授業 ：Review and feedback 復習 ： Look at the themes and tasks in the 2nd semester

授業開始前学習	Reflect on what you have studied in the seminar so far and be prepared to discuss it in class.
授業内課題のフィードバックの方法	Students receive feedback from their instructor and peers regarding their presentations and reports.
テキスト・教材	There is not set textbook. Students will find reading material for their chosen topics with the guidance of the instructor.
参考書	
評価の基準と方法	Class participation 30%, class activities (presentations) 40%, research report 30%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎		○	△

関連科目	
その他	Students will be required to make at least one presentation per semester on their research theme. Presenters find materials from newspapers, magazines, academic journals, reference books, etc. Students who are not presenting should actively express their
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-310-24	授業コード	FC1235
科目名称	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｾﾞﾐⅢ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on English Communication Ⅲ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	M.ブラウン			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	M.ブラウン			開講時期	4 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	This seminar is for students who are beginning their research about English diversity, in English. We will investigate topics related to the historical development of various kinds of English, the spread of English around the world, the role of English in various social and cultural environments, how various kinds of English are similar or different to one another, variation and change in the English language (both in the past and in the present-day), and the cultures and peoples who use English. The topics, therefore, will be cross-disciplinary and involve linguistics, sociology, and cultural studies, amongst others.				
到達目標	・Students will learn to take a critical approach to the study of English diversity. ・Students will develop their ability to find academic materials relevant to their research. ・Students will develop their ability to read and understand a variety of scho				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	M.ブラウン	【第 1 回】 予習：Look over the syllabus, prepare to talk about the goals of the course 授業：Review and Discuss the contents from I and II 復習：Students consider the possible directions of their research for this semester
2	M.ブラウン	【第 2 回】 予習：Students bring ideas about examples of diversity in English 授業：Review and Discuss the contents from I and II, cont. 復習：Students adjust their ideas about research based on class notes, discussion, and feedback
3	M.ブラウン	【第 3 回】 予習：Prepare draft outline 授業：Research writing strategies 復習：Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback
4	M.ブラウン	【第 4 回】 予習：Revise drafts 授業：Strategies for reading research, with the aim to improve one's one writing 復習：Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback
5	M.ブラウン	【第 5 回】 予習：Prepare research questions and methods 授業：How to conduct surveys and interviews, part 1 復習：Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback
6	M.ブラウン	【第 6 回】 予習：Prepare research questions and methods 授業：How to conduct surveys and interviews, part 2 復習：Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback
7	M.ブラウン	【第 7 回】 予習：Revise research questions and methods 授業：Language attitude research 復習：Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback
8	M.ブラウン	【第 8 回】 予習：Prepare mid-research report 授業：Mid-research reports and peer-feedback 復習：Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback
9	M.ブラウン	【第 9 回】 予習：Revise projects as needed 授業：Strategies for presenting research 復習：Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback
10	M.ブラウン	【第 10 回】 予習：Students work on their research project 授業：How to write a literature review 復習：Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback

11	M.ブラウン	【第 11 回】 予習：Students work on their research project 授業：Discussing literature review exemplars 復習：Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback
12	M.ブラウン	【第 12 回】 予習：Prepare oral literature review 授業：Present literature reviews 復習：Students work on their report
13	M.ブラウン	【第 13 回】 予習：Students work on their research project 授業：Analysis methods and basic stats, part 1 復習：Students work on their report
14	M.ブラウン	【第 14 回】 予習：Students finish their report 授業：Analysis methods and basic stats, part 2 復習：Review class notes
15	M.ブラウン	【第 15 回】 予習：Students work on their research project 授業：Peer- and Instructor-feedback, and discussion, on research projects 復習：Look at tasks for the next semester

授業開始前学習	Read as widely as possible about the history of English and different kinds of English that exist today.
授業内課題のフィードバックの方法	Students receive oral and written feedback from the instructor regarding presentations and reports, and feedback from their peers regarding presentations.
テキスト・教材	There is no set text. Required readings will be provided by the instructor.
参考書	
評価の基準と方法	Preparation and Participation in class discussions (40%) Presentation (30%) Research report (30%)
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎		○	△

関連科目	
その他	Each student will be required to make at least one presentation per semester on their research theme. A written report will also be submitted. Presenters find materials from newspapers, magazines, academic journals, reference books, etc. Students who a
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-310-24	授業コード	FC1236
科目名称	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｾﾞﾐⅢ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on English Communication Ⅲ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	工藤　俊			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	工藤　俊			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　月曜日 13:00～14:30　火曜日 16:20～17:50 後期　月曜日 13:00～14:30　火曜日 16:20～17:50			研究室	10-607
授業概要	「英語コミュニケーションゼミⅠ・Ⅱ」に引き続き、この授業では英語という個別言語を様々な視点から丁寧に観察する。特に言語と思考の関係を意識しながら、学生が関心のある表現をつぶさに観察し、それらに納得のいく説明を与えていくことを目指す。同時に、自身の研究への示唆となるように学術書や研究論文を精読する。また、個人研究発表や討論を通じて自身の考えを言語化すること、そして他者の意見を精査することの大切さも学ぶ。なお、学生が読みたい学術書や研究論文があれば、授業内で共有することもできる。				
到達目標	・言語と思考の関係が深く理解できる。 ・英語に対する言語直感を養える。 ・個人研究発表や討論を通じて、自身の思考を俯瞰できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	工藤　俊	【第 1 回】 予習：シラバスを読んでくる。自身の研究のブレインストーミングをしておく。 授業：オリエンテーション 復習：授業方針を確認する。
2	工藤　俊	【第 2 回】 予習：自身の興味関心をまとめ、発表の準備をする。 授業：興味関心についての発表および討論（ディスカッション） 復習：個人研究の方針を立てる。
3	工藤　俊	【第 3 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論　個人研究の進捗報告および討論（1）（ディスカッション） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。
4	工藤　俊	【第 4 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論　個人研究の進捗報告および討論（2）（ディスカッション） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。
5	工藤　俊	【第 5 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論　個人研究の進捗報告および討論（3）（ディスカッション） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。
6	工藤　俊	【第 6 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論　個人研究の進捗報告および討論（4）（ディスカッション） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。
7	工藤　俊	【第 7 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論　個人研究の進捗報告および討論（5）（ディスカッション） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。
8	工藤　俊	【第 8 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論　個人研究の進捗報告および討論（6）（ディスカッション） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。
9	工藤　俊	【第 9 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論　個人研究の進捗報告および討論（7）（ディスカッション） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。
10	工藤　俊	【第 10 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論　個人研究の進捗報告および討論（8）（ディスカッション） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。

11	工藤　俊	【第 11 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論　個人研究の進捗報告および討論（9）（ディスカッション） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。
12	工藤　俊	【第 12 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論　個人研究の進捗報告および討論（10）（ディスカッション） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。
13	工藤　俊	【第 13 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論　個人研究の進捗報告および討論（11）（ディスカッション） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。
14	工藤　俊	【第 14 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論　個人研究の進捗報告および討論（12）（ディスカッション） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。
15	工藤　俊	【第 15 回】 予習：自身の研究を概観する。 授業：レポート提出　前期の振り返り　後期に向けて 復習：自身の今後の研究方針を考える。

授業開始前学習	授業で扱う学術書や研究論文の該当箇所は必ず事前に読み、自分なりの意見や疑問点を整理しておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	個人研究発表に対しては、教員からだけでなく学生からも意見を出し、総合的に議論する。 レポートについては個別にフィードバックする。
テキスト・教材	井上逸兵『英語の思考法』（ちくま書房）2021 年（ISBN: 978-4-480-07410-2）
参考書	必要に応じて学術書や論文を紹介し、授業内で講読する。
評価の基準と方法	進捗報告及び発表：40%、レポート：60%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎		○	△

関連科目	
その他	個人研究のために読みたい学術書や研究論文があれば、授業内で講読することが可能ですので、積極的に申し出てください。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-310-24	授業コード	FC1237
科目名称	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｾﾞﾐⅢ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on English Communication Ⅲ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	福王　守			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	福王　守			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　月曜日 13:00～14:30　木曜日 13:00～14:30 後期　月曜日 13:00～14:30　木曜日 13:00～14:30			研究室	10-614
授業概要	この演習では、未解決な社会問題の解決の糸口を、主に法的な分析を通じて検討します。一人ひとりが人格の担い手として尊重されるための課題を、受講生と共に考えていきます。すでに、各自のテーマは明確になっていると思います。3 年次の研究成果を踏まえて、さらにレジュメを充実させていきましょう。事前指導とレジュメ作成、研究報告と討論、そしてレポート作成を繰り返しながら、自身のテーマへの理解を深めていってください。				
到達目標	市民社会における客観的な判断基準としての「法」の役割を踏まえ、異なる意見を踏まえつつ筋道を立てて未解決の社会問題を考える力を身につけます。第 3 回報告と第 3 回研究レポート作成を目指します。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	福王　守	※ 毎回の授業後には、「問題解決型学習」の手段として課題レポートを作成してもらい、次回授業時にこれに対する解説と質問への回答を行います。 【第 1 回】 予習　：各研究テーマに関する第 2 回研究レポートに基づいた資料収集 授業　：「英語コミュニケーションゼミⅢ」で学ぶ意義：演習の目的・内容・学習の方法（第 2 回提出レポートを踏まえて） 復習　：第 2 回研究レポートおよび第 2 回報告レジュメの見直し
2	福王　守	【第 2 回】 予習　：第 3 回研究報告に向けた資料収集 授業　：全体指導：レジュメ作成・参考文献の調べ方・第 3 回研究報告の方法 復習　：第 3 回授業ノートの整理および添削事項の見直し
3	福王　守	【第 3 回】 予習　：第 3 回研究報告に向けた資料収集と問題点の確認 授業　：個別指導：レジュメ作成・参考文献の調べ方・第 3 回研究報告の方法（助言および添削指導） 復習　：第 3 回授業ノートの整理および添削事項の見直し
4	福王　守	【第 4 回】 予習　：第 3 回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成（1） 授業　：ゼミ生による第 3 回研究報告：受講生間における討論、研究発展に向けた助言と添削指導（1）「ディスカッション」 復習　：報告者自身による第 3 回レポートの作成、および報告者に対する質問と意見の作成（1）
5	福王　守	【第 5 回】 予習　：第 3 回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成（2） 授業　：ゼミ生による第 3 回研究報告：受講生間における討論、研究発展に向けた助言と添削指導（2）「ディスカッション」 復習　：報告者自身による第 3 回レポートの作成、および報告者に対する質問と意見の作成（2）
6	福王　守	【第 6 回】 予習　：第 3 回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成（3） 授業　：ゼミ生による第 3 回研究報告：受講生間における討論、研究発展に向けた助言と添削指導（3）「ディスカッション」 復習　：報告者自身による第 3 回レポートの作成、および報告者に対する質問と意見の作成（3）
7	福王　守	【第 7 回】 予習　：第 3 回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成（4） 授業　：ゼミ生による第 3 回研究報告：受講生間における討論、研究発展に向けた助言と添削指導（4）「ディスカッション」 復習　：報告者自身による第 3 回レポートの作成、および報告者に対する質問と意見の作成（4）
8	福王　守	【第 8 回】 予習　：第 3 回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成（5） 授業　：ゼミ生による第 3 回研究報告：受講生間における討論、研究発展に向けた助言と添削指導（5）「ディスカッション」 復習　：報告者自身による第 3 回レポートの作成、および報告者に対する質問と意見の作成（5）
9	福王　守	【第 9 回】 予習　：第 3 回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成（6） 授業　：ゼミ生による第 3 回研究報告：受講生間における討論、研究発展に向けた助言と添削指導（6）「ディスカッション」 復習　：報告者自身による第 3 回レポートの作成、および報告者に対する質問と意見の作成（6）

10	福王　守	【第 10 回】 予習　：第 3 回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成（7） 授業　：ゼミ生による第 3 回研究報告：受講生間における討論、研究発展に向けた助言と添削指導（7）「ディスカッション」 復習　：報告者自身による第 3 回レポートの作成、および報告者に対する質問と意見の作成（7）
11	福王　守	【第 11 回】 予習　：第 3 回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成（8） 授業　：ゼミ生による第 3 回研究報告：受講生間における討論、研究発展に向けた助言と添削指導（8）「ディスカッション」 復習　：報告者自身による第 3 回レポートの作成、および報告者に対する質問と意見の作成（8）
12	福王　守	【第 12 回】 予習　：第 3 回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成（9） 授業　：ゼミ生による第 3 回研究報告：受講生間における討論、研究発展に向けた助言と添削指導（9）「ディスカッション」 復習　：報告者自身による第 3 回レポートの作成、および報告者に対する質問と意見の作成（9）
13	福王　守	【第 13 回】 予習　：第 3 回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成（10） 授業　：ゼミ生による第 3 回研究報告：受講生間における討論、研究発展に向けた助言と添削指導（10）「ディスカッション」 復習　：報告者自身による第 3 回レポートの作成、および報告者に対する質問と意見の作成（10）
14	福王　守	【第 14 回】 予習　：第 3 回レポートの作成に向けた資料収集と問題点の整理 授業　：全体および個別指導：添削済みレジュメに基づく第 3 回レポート作成の手引き 復習　：個別指導に基づく各問題点の見直し
15	福王　守	【第 15 回】 予習　：第 3 回レポートの完成 授業　：「研究テーマ」発展学習の手引き：第 3 回レポート提出および次回報告に向けた学習指針の提示 復習　：第 15 回授業ノートの整理、および第 4 回研究報告レジュメ作成に向けた資料収集

授業開始前学習	テレビ・新聞・インターネット等における社会面・政治面の報道に、少しでも多く接する機会をもって下さい。必ずどこかで授業理解の助けになります。
授業内課題のフィードバックの方法	授業第 4 回目以降における個別研究報告に対して、第 3 回提出レジュメおよび第 3 回報告レポートに基づき講評と質問に対する回答を行います。
テキスト・教材	古野豊秋・畑尻剛編『新・スタンダード憲法（第 4 版補訂版）』（尚学社、2016 年） 『ポケット六法』（有斐閣）
参考書	授業を通じて適宜紹介します。
評価の基準と方法	単位取得の前提として、全ての授業回数のうち 10 回以上の出席が必要です。 演習への参加状況（50%）、およびレポート（50%）により総合的に評価します。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎		○	△

関連科目	この演習をよりよく運営するために、他の法律学関連の講義も履修してください。
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-310-24（Ｊ）	授業コード	FC1242
科目名称	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｾﾞﾐⅣ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on English Communication Ⅳ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	中野　達也			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	中野　達也			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　火曜日 10:40～12:10　木曜日 13:00～14:30 後期　火曜日 10:40～12:10　木曜日 13:00～14:30			研究室	10-508
授業概要	教育全般を研究テーマとして扱う。学校教育の中で、いじめ問題や生徒指導、部活指導などを研究テーマとして取り上げることも可能である。また、英語教育に焦点を当て、英語学習の課題や指導方法を取り上げることもできる。あるいは、日本と他国の英語教育を比較することも研究に値する。英語学習の実態を探り、学習者のために何をしたらいいのかを考える機会とする。ゼミはディスカッションを中心に行う。各自の研究テーマに応じて、先行研究を行い、必要に応じて実態調査や実験も実施する。				
到達目標	基本的な研究方法を学び、適切に研究を進めることができるようになる。 自分の考えを適切に伝え、他者の意見に耳を傾け、質問に適切に回答するという、他者とのインタラクションを通してコミュニケーション力を身につけることを目的とする。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	中野　達也	【第 1 回】 予習：自己紹介の準備をする、ゼミの方針について自分の考えをまとめる 授業：自己紹介を行う。ゼミの方針について話し合う　（ディスカッション）（発表） 復習：ゼミの方針と自身の研究について考える
2	中野　達也	【第 2 回】 予習：自身の関心のあるテーマを列挙する 授業：関心のあるテーマについて発表し、意見交換する　（ディスカッション）（発表） 復習：自分の研究テーマを決める
3	中野　達也	【第 3 回】 予習：自分の研究計画を立てる 授業：研究方法について学ぶ　（ディスカッション）（発表） 復習：研究方法に基づいてレジュメを作る
4	中野　達也	【第 4 回】 予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する　（1）例　いじめ問題についての考察　（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る
5	中野　達也	【第 5 回】 予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する　（2）例　生徒指導についての考察　（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る
6	中野　達也	【第 6 回】 予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する　（3）例　生徒名簿、座席についての考察　（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る
7	中野　達也	【第 7 回】 予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する　（4）例　駒女生の英語学習歴についての調査、研究計画についてのレポートの提出　（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る
8	中野　達也	【第 8 回】 予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する　（5）例　日本と海外の入試問題の比較　（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る
9	中野　達也	【第 9 回】 予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する　（6）例　発音記号とカタカナ表記の有効性についての考察、研究計画についてのレポートの講評　（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る

10	中野　達也	【第 10 回】 予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する　（７）例　学習指導要領の変遷について　（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る
11	中野　達也	【第 11 回】 予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する　（８）例　英語の歌を使った文法指導法　（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る
12	中野　達也	【第 12 回】 予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する　（9）例　映画を使った英語学習法　（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る
13	中野　達也	【第 13 回】 予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する　（10）例　語彙サイズと読解スピードの関係（発表）（ディスカッション）、研究の進捗状況についてのレポートの提出 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る
14	中野　達也	【第 14 回】 予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する　（11）例　多読の効果　（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る
15	中野　達也	【第 15 回】 予習：前期発表者のレジュメを再読する 授業：全体の振り返りと、今後の研究について発表する。研究の進捗状況についてのレポートの講評　（発表）（ディスカッション） 復習：これまでの研究をまとめ、今後の研究について考察する

授業開始前学習	書籍や各種メディアを適切に使用し、日常的に教育問題や英語教育等について関心を持つ。 自身の中学・高校で受けてきた教育について振り返る。
授業内課題のフィードバックの方法	授業７回目、13 回目に提出するレポートについては、２週間後（授業９回目、15 回目）に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。
テキスト・教材	授業中に適宜参考資料を配布する
参考書	各自の研究テーマに応じて適宜指示する
評価の基準と方法	授業への参加態度　５０点 発表とレポート　５０点
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎		○	△

関連科目	
その他	発表やディスカッションに積極的に参加すること。 発表者はレジュメを事前に提出すること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	中学校・高等学校教員とし教科指導や生徒指導・進路指導など各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、教員に求められる資質・能力についての講義・演習を行う。

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-310-24	授業コード	FC1243
科目名称	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｾﾞﾐⅣ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on English Communication Ⅳ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	松山　響子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松山　響子			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　水曜日 13:00～14:30　木曜日 10:40～12:10 後期　水曜日 09:00～10:30　水曜日 13:00～14:30			研究室	10-605
授業概要	前期から引き続いて研究活動行う。英語コミュニケーションゼミ Ⅳ では、基本文献の講読をベースに、専門的な学術情報の収集方法、報告発表のスキル、ディスカッションの方法、論理的な思考などの指導に重点をおく。				
到達目標	・小説や戯曲、詩、映画などを批判的に読むことができるようになる ・論文を書く際に必要な参考文献を横断的に探せるようになる ・膨大な文章を読んで、自分なりに理解しまとめることができるようになる ・自分の論文を書き上げ、それを批判的に読んで修正することができるようになる ・他者の発表を理解し批判をすることができるようになる ・他者の発表に対して適切なアドバイスを与えることができるようになる				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	松山　響子	【第 1 回】 予習　：シラバスを確認 授業　：学習目標の確認、発表の予定表作り、発表内容の紹介など 復習　：自分の研究の方向性確認
2	松山　響子	【第 2 回】 予習　：自分の研究の方向性について考える 授業　：文学研究とは何か？　文学作品や文化事象についての研究方法の説明 復習　：自分の研究の方向性と作品の内容確認
3	松山　響子	【第 3 回】 予習　：ゼミ学習文献予習 授業　：ゼミ学習文献発表（討論・指導）（1） 復習　：ゼミ学習文献復習
4	松山　響子	【第 4 回】 予習　：ゼミ学習文献予習 授業　：ゼミ学習文献発表（討論・指導）（2） 復習　：ゼミ学習文献復習
5	松山　響子	【第 5 回】 予習　：ゼミ学習文献予習 授業　：ゼミ学習文献発表（討論・指導）（3） 復習　：ゼミ学習文献復習
6	松山　響子	【第 6 回】 予習　：ゼミ学習文献予習 授業　：ゼミ学習文献発表（討論・指導）（4） 復習　：ゼミ学習文献復習
7	松山　響子	【第 7 回】 予習　：ゼミ学習文献予習 授業　：ゼミ学習文献発表（討論・指導）（5） 復習　：ゼミ学習文献復習
8	松山　響子	【第 8 回】 予習　：ゼミ学習文献予習 授業　：学生発表（討論・指導）（1） 復習　：ゼミ学習文献復習
9	松山　響子	【第 9 回】 予習　：ゼミ学習文献予習 授業　：学生発表（討論・指導）（2） 復習　：ゼミ学習文献復習
10	松山　響子	【第 10 回】 予習　：ゼミ学習文献予習 授業　：学生発表（討論・指導）（3） 復習　：ゼミ学習文献復習

11	松山　響子	【第 11 回】 予習　：ゼミ学習文献予習 授業　：学生発表（討論・指導）（4） 復習　：ゼミ学習文献復習
12	松山　響子	【第 12 回】 予習　：ゼミ学習文献予習 授業　：学生発表（討論・指導）（5） 復習　：ゼミ学習文献復習
13	松山　響子	【第 13 回】 予習　：ゼミ学習文献予習 授業　：学生発表（討論・指導）（6） 復習　：ゼミ学習文献復習
14	松山　響子	【第 14 回】 予習　：ゼミ学習文献予習 授業　：学生発表（討論・指導）（7） 復習　：ゼミ学習文献復習
15	松山　響子	【第 15 回】 予習　：後期ふりかえり 授業　：まとめ 復習　：ゼミ論に向けての課題確認

授業開始前学習	翌週の文献学習、学生発表で取り扱われる作品を必ず読んでくること
授業内課題のフィードバックの方法	必ず学期につき 1 回は発表を行い、それに基づいてレポートを作成する。レポートは講評をして返却をする。
テキスト・教材	特に一つのものを指定しません。随時紹介するので、図書館で調べてきてください。
参考書	『イギリス文学史入門』 川崎寿彦著　研究社 『イギリス文学史』 斉藤勇著　研究社 『はじめて学ぶアメリカ文学史』 板橋　好枝著　ミネルヴァ書房 『アメリカ文学史』 西田　実著　成美堂
評価の基準と方法	授業参加態度・授業内活動・その他から評価していきます。授業参加態度 40 点、授業内活動 40 点、レポート 20 点。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎		○	△

関連科目	イギリス文学Ⅰ、イギリス文学Ⅱ、アメリカ文学Ⅰ、アメリカ文学Ⅱ
その他	ゼミですので出席を重視します。欠席をする際は必ず事前に連絡を入れてください。 各自のテーマにそって、1 セメスターに少なくとも 1 回は発表することを求められます。発表者は新聞、雑誌、参考図書などから自分の考えにそった資料を探し出してくる努力をしてください。発表者以外の学生も受身的に聞いているだけではなく、意見や質問を活発に述べることが求められます。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-310-24	授業コード	FC1244
科目名称	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｾﾞﾐⅣ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on English Communication Ⅳ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	Ｔ．プラザ			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	Ｔ．プラザ			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30			研究室	10-608
授業概要	Students will further deepen their research into their chosen topic in cultural studies. Along with presentations in English, students will focus on preparing a written thesis of their research. Students may choose topics of research connected to culture or sociolinguistics. Possible areas include: Issues with living or working overseas, International families within Japan and abroad, Gender in relation to culture and language, National cultures, Subcultures, Bilingualism, Language preservation. Many other topics are also possible.				
到達目標	Students will learn to take a critical approach to cultural studies. Students will develop the ability to find academic materials relevant to their research. Students will improve their ability to give presentations as well as interact with other studen				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	Ｔ．プラザ	【第 1 回】 予習 ：Students prepare to talk about their interests 授業 ：Guidance. Students discuss their research interests. 復習 ：Students work on a research plan
2	Ｔ．プラザ	【第 2 回】 予習 ：Students work on their research project 授業 ：Student research presentations（discussion・guidance）（1）（presentation） 復習 ：Students work on a research plan
3	Ｔ．プラザ	【第 3 回】 予習 ：Students work on their research project 授業 ：Student research presentations（discussion・guidance）（2）（presentation） 復習 ：Students adjust their research work based on feedback received in class
4	Ｔ．プラザ	【第 4 回】 予習 ：Students work on their research project 授業 ：Student research presentations（discussion・guidance）（3）（presentation） 復習 ：Students adjust their research work based on feedback received in class
5	Ｔ．プラザ	【第 5 回】 予習 ：Students work on their research project 授業 ：Student research presentations（discussion・guidance）（4）（presentation） 復習 ：Students adjust their research work based on feedback received in class
6	Ｔ．プラザ	【第 6 回】 予習 ：Students work on their research project 授業 ：Student research presentations（discussion・guidance）（5）（presentation） 復習 ：Students adjust their research work based on feedback received in class
7	Ｔ．プラザ	【第 7 回】 予習 ：Students work on their research project 授業 ：Student research presentations（discussion・guidance）（6）（presentation） 復習 ：Students adjust their research work based on feedback received in class
8	Ｔ．プラザ	【第 8 回】 予習 ：Students work on their research project 授業 ：Student research presentations（discussion・guidance）（7）（presentation） 復習 ：Students adjust their research work based on feedback received in class
9	Ｔ．プラザ	【第 9 回】 予習 ：Students work on their research project 授業 ：Student research presentations（discussion・guidance）（8）（presentation） 復習 ：Students adjust their research work based on feedback received in class
10	Ｔ．プラザ	【第 10 回】 予習 ：Students work on their research project 授業 ：Student research presentations（discussion・guidance）（9）（presentation） 復習 ：Students adjust their research work based on feedback received in class

11	T．プラザ	【第 11 回】 予習 ：Students work on their research project 授業 ：Student research presentations（discussion･guidance） （10） （presentation） 復習 ：Students adjust their research work based on feedback received in class
12	T．プラザ	【第 12 回】 予習 ：Students work on their research project 授業 ：Student research presentations（discussion･guidance） （11） （presentation） 復習 ：Students adjust their research work based on feedback received in class
13	T．プラザ	【第 13 回】 予習 ：Students work on research presentation materials 授業 ： Final presentation workshop 復習 ：Students work on research presentation materials
14	T．プラザ	【第 14 回】 予習 ：Students work on research presentation materials 授業 ：Final presentation （presentation） 復習 ：Final presentation workshop
15	T．プラザ	【第 15 回】 予習 ：Work on presentation reflections 授業 ：Review and feedback 復習 ： Look at the themes and tasks in the following academic year

授業開始前学習	Reflect on what you have researched in the seminar so far and be prepared to summarize it in class.
授業内課題のフィードバックの方法	Students receive feedback from their instructor and peers regarding their presentations and reports
テキスト･教材	There is not set textbook. Students will find reading material for their chosen topics with the guidance of the instructor.
参考書	
評価の基準と方法	Class participation 30%, class activities (presentations) 40%, research report 30%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎		○	△

関連科目	
その他	Students will be required to make at least one presentation per semester on their research theme. Presenters find materials from newspapers, magazines, academic journals, reference books, etc. Students who are not presenting should actively express their
予習･復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習･復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-310-24	授業コード	FC1245
科目名称	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｾﾞﾐⅣ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on English Communication Ⅳ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	M.ブラウン			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	M.ブラウン			開講時期	4 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	This seminar is for students who are beginning their research about English diversity, in English. We will investigate topics related to the historical development of various kinds of English, the spread of English around the world, the role of English in various social and cultural environments, how various kinds of English are similar or different to one another, variation and change in the English language (both in the past and in the present-day), and the cultures and peoples who use English. The topics, therefore, will be cross-disciplinary and involve linguistics, sociology, and cultural studies, amongst others.				
到達目標	・Students will learn to take a critical approach to the study of English diversity. ・Students will develop their ability to find academic materials relevant to their research. ・Students will develop their ability to read and understand a variety of scho				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	M.ブラウン	【第 1 回】 予習：Look over the syllabus, prepare to talk about the goals of the course 授業：Review and Discuss the contents from III 復習：Students consider the possible directions of their research for this semester
2	M.ブラウン	【第 2 回】 予習：Set writing goals, target deadline 授業：Writing strategies and workshopping 復習：Students adjust their ideas about research based on class notes, discussion, and feedback
3	M.ブラウン	【第 3 回】 予習：Prepare draft outline 授業：Common problems with the presentation of research (lecture) 復習：Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback
4	M.ブラウン	【第 4 回】 予習：Revise drafts 授業：Strategies for reading research, with the aim to improve one's one writing 復習：Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback
5	M.ブラウン	【第 5 回】 予習：Revise drafts 授業：Common expressions and grammar in academic research writing 復習：Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback
6	M.ブラウン	【第 6 回】 予習：Revise drafts 授業：Workshiop: Peer- and instructor-feedback on drafts so far 復習：Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback
7	M.ブラウン	【第 7 回】 予習：Prepare oral presentation 授業：Presentations of basic findings 復習：Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback
8	M.ブラウン	【第 8 回】 予習：Revise drafts 授業：Workshop: dealing with with statistical analysis problems, how to interpret statistics 復習：Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback
9	M.ブラウン	【第 9 回】 予習：Revise drafts as needed 授業：How to situate research 復習：Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback
10	M.ブラウン	【第 10 回】 予習：Revise drafts as needed 授業：Formatting a thesis 復習：Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback

11	M.ブラウン	【第 11 回】 予習：Revise drafts as needed 授業：Results and Interpretation: Writing descriptions and writing interpretations 復習：Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback
12	M.ブラウン	【第 12 回】 予習：Revise drafts as needed 授業：How to write about limitations 復習：Students work on their report
13	M.ブラウン	【第 13 回】 予習：Prepare final manuscripts 授業：Whole-class review 復習：Students work on their report
14	M.ブラウン	【第 14 回】 予習：If any changes to manuscripts are required, take care of it 授業：(Lecture) What it means to contribute to science and knowledge 復習：Review class notes
15	M.ブラウン	【第 15 回】 予習：If any changes to manuscripts are required, take care of it 授業：Final whole-class review, reflections 復習：Review class notes

授業開始前学習	Read as widely as possible about the history of English and different kinds of English that exist today.
授業内課題のフィードバックの方法	Students receive oral and written feedback from the instructor regarding presentations and reports, and feedback from their peers regarding presentations.
テキスト・教材	There is no set text. Required readings will be provided by the instructor.
参考書	
評価の基準と方法	Preparation and Participation in class discussions (40%) Presentation (30%) Research report (30%)
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎		○	△

関連科目	
その他	Each student will be required to make at least one presentation per semester on their research theme. A written report will also be submitted. Presenters find materials from newspapers, magazines, academic journals, reference books, etc. Students who a
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-310-24	授業コード	FC1246
科目名称	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｾﾞﾐⅣ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on English Communication Ⅳ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	工藤　俊			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	工藤　俊			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　月曜日 13:00～14:30　火曜日 16:20～17:50 後期　月曜日 13:00～14:30　火曜日 16:20～17:50			研究室	10-607
授業概要	「英語コミュニケーションゼミⅢ」に引き続き、英語を中心とした言語研究を行う。特にこの授業では、大学生活の集大成としてのゼミ論文を完成させることに主眼を置き、それに向けて引き続き言語と思考の関係性を意識しながら事例をつぶさに観察する。同時に、学術書や研究論文の講読も継続して行うことで、言語学的な視座を獲得する。なお、引き続き学生が読みたい学術書や研究論文があれば、授業内で共有することもできる。				
到達目標	・言語と思考の関係を深く理解し、応用することができる。 ・英語に対する深い言語直感を養える。 ・個人研究発表や討論を通じて、自身の思考を客観的にみることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	工藤　俊	【第 1 回】 予習：シラバスを読んでくる。個人研究について見直しておく。 授業：オリエンテーション 復習：授業方針を確認する。
2	工藤　俊	【第 2 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論　個人研究の進捗報告および討論（1）（ディスカッション） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。
3	工藤　俊	【第 3 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論　個人研究の進捗報告および討論（2）（ディスカッション） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。
4	工藤　俊	【第 4 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論　個人研究の進捗報告および討論（3）（ディスカッション） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。
5	工藤　俊	【第 5 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論　個人研究の進捗報告および討論（4）（ディスカッション） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。
6	工藤　俊	【第 6 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論　個人研究の進捗報告および討論（5）（ディスカッション） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。
7	工藤　俊	【第 7 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論　個人研究の進捗報告および討論（6）（ディスカッション） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。
8	工藤　俊	【第 8 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論　個人研究の進捗報告および討論（7）（ディスカッション） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。
9	工藤　俊	【第 9 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論　個人研究の進捗報告および討論（8）（ディスカッション） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。
10	工藤　俊	【第 10 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論　個人研究の進捗報告および討論（9）（ディスカッション） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。
11	工藤　俊	【第 11 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論　個人研究の進捗報告および討論（10）（ディスカッション） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。

12	工藤　俊	【第 12 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論　個人研究の進捗報告および討論（11）（ディスカッション） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。
13	工藤　俊	【第 13 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論　個人研究の進捗報告および討論（12）（ディスカッション） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。
14	工藤　俊	【第 14 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論　個人研究の進捗報告および討論（13）（ディスカッション） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。
15	工藤　俊	【第 15 回】 予習：自身の研究を概観する。 授業：レポート提出　1 年間の振り返り　来年度に向けて 復習：自身の今後の研究方針を考える。

授業開始前学習	授業で扱う学術書や研究論文の該当箇所は必ず事前に読み、自分なりの意見や疑問点を整理しておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	個人研究発表に対しては、教員からだけでなく学生からも意見を出し、総合的に議論する。 レポートについては個別にフィードバックする。
テキスト・教材	井上逸兵『英語の思考法』（ちくま書房）2021 年（ISBN: 978-4-480-07410-2）
参考書	必要に応じて学術書や論文を紹介し、授業内で講読する。
評価の基準と方法	進捗報告及び発表：40%、レポート：60%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎		○	△

関連科目	
その他	個人研究のために読みたい学術書や研究論文があれば、授業内で講読することが可能ですので、積極的に申し出てください。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-310-24	授業コード	FC1247
科目名称	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｾﾞﾐⅣ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on English Communication Ⅳ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	福王　守			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	福王　守			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　月曜日 13:00～14:30　木曜日 13:00～14:30 後期　月曜日 13:00～14:30　木曜日 13:00～14:30			研究室	10-614
授業概要	この演習では、未解決な社会問題の解決の糸口を、主に法的な分析を通じて検討します。一人ひとりが人格の担い手として尊重されるための課題を、受講生と共に考えていきます。いよいよ研究の総仕上げです。最後の報告に向けて、しっかりとレジュメを作成してください。みなさんは 2 年間にわたり、ご自身のテーマについて真剣にレジュメ作成・報告・レポート作成を行ってきました。その成果を、ぜひゼミ論文として完成させてください。				
到達目標	市民社会における客観的な判断基準としての「法」の役割を踏まえ、異なる意見を踏まえつつ筋道を立てて未解決の社会問題を考える力を身につけます。第 4 回報告とゼミ論文の完成を目指します。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	福王　守	※ 毎回の授業後には、「問題解決型学習」の手段として課題レポートを作成してもらい、次回授業時にこれに対する解説と質問への回答を行います。 【第 1 回】 予習　：各研究テーマに関する第 3 回研究レポートに基づいた資料収集 授業　：「英語コミュニケーション専攻ゼミⅣ」で学ぶ意義：演習の目的・内容・学習の方法（第 3 回提出レポートを踏まえて） 復習　：本日の授業ノートの整理および添削事項の見直し
2	福王　守	【第 2 回】 予習　：第 4 回研究報告に向けた資料収集 授業　：全体指導：レジュメ作成・参考文献の調べ方・第 4 回研究報告の方法 復習　：本日の授業ノートの整理および添削事項の見直し
3	福王　守	【第 3 回】 予習　：第 4 回研究報告に向けた資料収集と問題点の確認 授業　：個別指導：レジュメ作成・参考文献の調べ方・第 4 回研究報告の方法（助言および添削指導） 復習　：本日の授業ノートの整理および添削事項の見直し
4	福王　守	【第 4 回】 予習　：第 4 回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成（1） 授業　：ゼミ生による第 4 回研究報告：受講生間における討論、研究発展に向けた助言と添削指導（1）「ディスカッション」 復習　：報告者自身によるゼミ論文の作成、および報告者に対する質問と意見の作成（1）
5	福王　守	【第 5 回】 予習　：第 4 回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成（2） 授業　：ゼミ生による第 4 回研究報告：受講生間における討論、研究発展に向けた助言と添削指導（2）「ディスカッション」 復習　：報告者自身によるゼミ論文の作成、および報告者に対する質問と意見の作成（2）
6	福王　守	【第 6 回】 予習　：第 4 回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成（3） 授業　：ゼミ生による第 4 回研究報告：受講生間における討論、研究発展に向けた助言と添削指導（3）「ディスカッション」 復習　：報告者自身によるゼミ論文の作成、および報告者に対する質問と意見の作成（3）
7	福王　守	【第 7 回】 予習　：第 4 回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成（4） 授業　：ゼミ生による第 4 回研究報告：受講生間における討論、研究発展に向けた助言と添削指導（4）「ディスカッション」 復習　：報告者自身によるゼミ論文の作成、および報告者に対する質問と意見の作成（4）
8	福王　守	【第 8 回】 予習　：第 4 回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成（5） 授業　：ゼミ生による第 4 回研究報告：受講生間における討論、研究発展に向けた助言と添削指導（5）「ディスカッション」 復習　：報告者自身によるゼミ論文の作成、および報告者に対する質問と意見の作成（5）
9	福王　守	【第 9 回】 予習　：第 4 回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成（6） 授業　：ゼミ生による第 4 回研究報告：受講生間における討論、研究発展に向けた助言と添削指導（6）「ディスカッション」 復習　：報告者自身によるゼミ論文の作成、および報告者に対する質問と意見の作成（6）

10	福王　守	【第 10 回】 予習　：第 4 回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成（7） 授業　：ゼミ生による第 4 回研究報告：受講生間における討論、研究発展に向けた助言と添削指導（7）「ディスカッション」 復習　：報告者自身によるゼミ論文の作成、および報告者に対する質問と意見の作成（7）
11	福王　守	【第 11 回】 予習　：第 4 回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成（8） 授業　：ゼミ生による第 4 回研究報告：受講生間における討論、研究発展に向けた助言と添削指導（8）「ディスカッション」 復習　：報告者自身によるゼミ論文の作成、および報告者に対する質問と意見の作成（8）
12	福王　守	【第 12 回】 予習　：第 4 回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成（9） 授業　：ゼミ生による第 4 回研究報告：受講生間における討論、研究発展に向けた助言と添削指導（9）「ディスカッション」 復習　：報告者自身によるゼミ論文の作成、および報告者に対する質問と意見の作成（9）
13	福王　守	【第 13 回】 予習　：第 4 回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成（10） 授業　：ゼミ生による第 4 回研究報告：受講生間における討論、研究発展に向けた助言と添削指導（10）「ディスカッション」 復習　：報告者自身によるゼミ論文の作成、および報告者に対する質問と意見の作成（10）
14	福王　守	【第 14 回】 予習　：ゼミ論文作成に向けた資料収集と問題点の整理 授業　：全体および個別指導：添削済みレジュメに基づく「ゼミ論文」作成の手引き 復習　：個別指導に基づく各問題点の見直し
15	福王　守	【第 15 回】 予習　：ゼミ論文の完成 授業　：「ゼミ論文」の提出と論文集作成：社会人としての自己研究テーマへの関わり方について（助言） 復習　：ゼミ論文集の製本

授業開始前学習	テレビ・新聞・インターネット等における社会面・政治面の報道に、少しでも多く接する機会をもって下さい。そして、新たに得た知識をご自身の研究報告と論文に活かしてください。
授業内課題のフィードバックの方法	授業第 4 回目以降における個別研究報告に対して、第 4 回提出レジュメおよび第 4 回研究レポートに基づき毎回の講評と質問に対する回答を行います。
テキスト・教材	古野豊秋・畑尻剛編『新・スタンダード憲法（第 4 版補訂版）』（尚学社、2016 年） 『ポケット六法』（有斐閣）
参考書	授業を通じて適宜紹介します。
評価の基準と方法	単位取得の前提として、全ての授業回数のうち 10 回以上の出席が必要です。 演習への参加状況（50%）、および毎回のレポート（50%）により総合的に評価します。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎		○	△

関連科目	この演習をよりよく運営するために、他の法律学関連の講義も履修してください。
その他	後期補講期間中に正課学外活動として実務訪問を予定しております。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-330-24	授業コード	FC9902
科目名称	卒業論文			単位数	4.0 単位
英文名称	Graduation Thesis			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	中野　達也			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	中野　達也			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　火曜日 10:40～12:10　木曜日 13:00～14:30 後期　火曜日 10:40～12:10　木曜日 13:00～14:30			研究室	10-508
授業概要	大学で学んだこと、そのなかで特に自分が興味をいだいた事柄を研究対象として選び、深く追求していく。その結果を、体系的、論理的に文章化してまとめたものが卒業論文である。そこでは、専門的な知識の修得をふまえたうえでの、自らの分析の視点と明確な問題意識をもつことが要求される。まさに、大学生活の集大成となりうるものであろう。 具体的な内容に関しては、担当教員と相談のうえ決めること。特に、論文の書き方や論文の構成などは、学問分野によってかなり違いがあるので、十分に留意してほしい。				
到達目標	各専門分野における、体系的・論理的な思考方法を身につける。 各専門分野における、論文の書き方（論文構成など）を正確に身につける。 専門的な知識をまとめ、独創的発想を表現するための文章力を高める。 各専門分野の研究論文として妥当な「卒業論文」を提出できること				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	中野　達也	概要説明および受講生の研究テーマに沿った個別指導①（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む） 卒業論文は、担当教員が指示する時間帯で随時指導を受ける。 授業の内容　全般にわたる諸注意 １．資料の収集、読解、分析は執筆の第一歩である ２．研究対象の先行研究状況は必ず調べておくこと ３．研究の対象を適切な範囲に絞り込むこと ４．論文全体の構成を常に意識すること ５．なるべく早い段階で書き始めるみること ６．書いた部分は必ず読み直し修正すること ７．脚註の付け方などは分野により異なる
2	中野　達也	受講生の研究テーマに沿った個別指導②（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
3	中野　達也	受講生の研究テーマに沿った個別指導③（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
4	中野　達也	受講生の研究テーマに沿った個別指導④（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
5	中野　達也	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑤（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
6	中野　達也	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑥（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
7	中野　達也	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑦（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
8	中野　達也	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑧（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
9	中野　達也	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑨（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）

10	中野　達也	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑩（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
11	中野　達也	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑪（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
12	中野　達也	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑫（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
13	中野　達也	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑬（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
14	中野　達也	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑭（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
15	中野　達也	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑮（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）

授業開始前学習	担当教員と相談すること。
授業内課題のフィードバックの方法	卒業論文では、履修生は担当教員に進行状況を報告し、その都度必要な指導・フィードバックを受けること。
テキスト・教材	担当教員と相談すること。
参考書	担当教員と相談すること。
評価の基準と方法	主査（所属ゼミ担当教員）と副査が評価して採点する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当								

関連科目	各専門教育科目など
その他	履修ガイドに記載された「卒業論文の履修について」を参照し、手続きを遵守すること。 卒業論文は、年間を通した地道な研究作業の積み重ねが大切なので、担当教員と相談の上、日時を決めて随時指導を受ける必要がある。担当教員の中には、卒業論文執筆者を集めて途中経過報告をさせたり、最後に発表会を行なう場合もある。
予習・復習の所要時間	
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-330-24	授業コード	FC9903
科目名称	卒業論文			単位数	4.0 単位
英文名称	Graduation Thesis			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	松山　響子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松山　響子			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　水曜日 13:00～14:30　木曜日 10:40～12:10 後期　水曜日 09:00～10:30　水曜日 13:00～14:30			研究室	10-605
授業概要	大学で学んだこと、そのなかで特に自分が興味をいだいた事柄を研究対象として選び、深く追求していく。その結果を、体系的、論理的に文章化してまとめたものが卒業論文である。そこでは、専門的な知識の修得をふまえたうえでの、自らの分析の視点と明確な問題意識をもつことが要求される。まさに、大学生活の集大成となりうるものであろう。 具体的な内容に関しては、担当教員と相談のうえ決めること。特に、論文の書き方や論文の構成などは、学問分野によってかなり違いがあるので、十分に留意してほしい。				
到達目標	各専門分野における、体系的・論理的な思考方法を身につける。 各専門分野における、論文の書き方（論文構成など）を正確に身につける。 専門的な知識をまとめ、独創的発想を表現するための文章力を高める。 各専門分野の研究論文として妥当な「卒業論文」を提出できること				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	松山　響子	概要説明および受講生の研究テーマに沿った個別指導①（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む） 卒業論文は、担当教員が指示する時間帯で随時指導を受ける。 授業の内容　全般にわたる諸注意 １．資料の収集、読解、分析は執筆の第一歩である ２．研究対象の先行研究状況は必ず調べておくこと ３．研究の対象を適切な範囲に絞り込むこと ４．論文全体の構成を常に意識すること ５．なるべく早い段階で書き始めるみること ６．書いた部分は必ず読み直し修正すること ７．脚註の付け方などは分野により異なる
2	松山　響子	受講生の研究テーマに沿った個別指導②（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
3	松山　響子	受講生の研究テーマに沿った個別指導③（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
4	松山　響子	受講生の研究テーマに沿った個別指導④（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
5	松山　響子	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑤（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
6	松山　響子	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑥（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
7	松山　響子	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑦（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
8	松山　響子	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑧（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
9	松山　響子	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑨（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）

10	松山　響子	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑩（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
11	松山　響子	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑪（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
12	松山　響子	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑫（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
13	松山　響子	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑬（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
14	松山　響子	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑭（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
15	松山　響子	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑮（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）

授業開始前学習	担当教員と相談すること。
授業内課題のフィードバックの方法	卒業論文では、履修生は担当教員に進行状況を報告し、その都度必要な指導・フィードバックを受けること。
テキスト・教材	担当教員と相談すること。
参考書	担当教員と相談すること。
評価の基準と方法	主査（所属ゼミ担当教員）と副査が評価して採点する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当								

関連科目	各専門教育科目など
その他	履修ガイドに記載された「卒業論文の履修について」を参照し、手続きを遵守すること。 卒業論文は、年間を通した地道な研究作業の積み重ねが大切なので、担当教員と相談の上、日時を決めて随時指導を受ける必要がある。担当教員の中には、卒業論文執筆者を集めて途中経過報告をさせたり、最後に発表会を行なう場合もある。
予習・復習の所要時間	
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-330-24	授業コード	FC9904
科目名称	卒業論文			単位数	4.0 単位
英文名称	Graduation Thesis			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	T．プラザ			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	T．プラザ			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　月曜日 13:00～14:30　木曜日 13:00～14:30 後期　月曜日 13:00～14:30　木曜日 13:00～14:30			研究室	10-608
授業概要	大学で学んだこと、そのなかで特に自分が興味をいだいた事柄を研究対象として選び、深く追求していく。その結果を、体系的、論理的に文章化してまとめたものが卒業論文である。そこでは、専門的な知識の修得をふまえたうえでの、自らの分析の視点と明確な問題意識をもつことが要求される。まさに、大学生活の集大成となりうるものであろう。 具体的な内容に関しては、担当教員と相談のうえ決めること。特に、論文の書き方や論文の構成などは、学問分野によってかなり違いがあるので、十分に留意してほしい。				
到達目標	各専門分野における、体系的・論理的な思考方法を身につける。 各専門分野における、論文の書き方（論文構成など）を正確に身につける。 専門的な知識をまとめ、独創的発想を表現するための文章力を高める。 各専門分野の研究論文として妥当な「卒業論文」を提出できること				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	T．プラザ	概要説明および受講生の研究テーマに沿った個別指導①（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む） 卒業論文は、担当教員が指示する時間帯で随時指導を受ける。 授業の内容 全般にわたる諸注意 1．資料の収集、読解、分析は執筆の第一歩である 2．研究対象の先行研究状況は必ず調べておくこと 3．研究の対象を適切な範囲に絞り込むこと 4．論文全体の構成を常に意識すること 5．なるべく早い段階で書き始めるみること 6．書いた部分は必ず読み直し修正すること 7．脚註の付け方などは分野により異なる
2	T．プラザ	受講生の研究テーマに沿った個別指導②（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
3	T．プラザ	受講生の研究テーマに沿った個別指導③（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
4	T．プラザ	受講生の研究テーマに沿った個別指導④（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
5	T．プラザ	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑤（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
6	T．プラザ	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑥（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
7	T．プラザ	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑦（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
8	T．プラザ	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑧（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
9	T．プラザ	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑨（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）

10	T．プラザ	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑩（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
11	T．プラザ	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑪（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
12	T．プラザ	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑫（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
13	T．プラザ	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑬（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
14	T．プラザ	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑭（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
15	T．プラザ	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑮（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）

授業開始前学習	担当教員と相談すること。
授業内課題のフィードバックの方法	卒業論文では、履修生は担当教員に進行状況を報告し、その都度必要な指導・フィードバックを受けること。
テキスト・教材	担当教員と相談すること。
参考書	担当教員と相談すること。
評価の基準と方法	主査（所属ゼミ担当教員）と副査が評価して採点する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当								

関連科目	各専門教育科目など
その他	履修ガイドに記載された「卒業論文の履修について」を参照し、手続きを遵守すること。 卒業論文は、年間を通した地道な研究作業の積み重ねが大切なので、担当教員と相談の上、日時を決めて随時指導を受ける必要がある。担当教員の中には、卒業論文執筆者を集めて途中経過報告をさせたり、最後に発表会を行なう場合もある。
予習・復習の所要時間	
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-330-24	授業コード	FC9905
科目名称	卒業論文			単位数	4.0 単位
英文名称	Graduation Thesis			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	M.ブラウン			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	M.ブラウン			開講時期	4 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	大学で学んだこと、そのなかで特に自分が興味をいだいた事柄を研究対象として選び、深く追求していく。その結果を、体系的、論理的に文章化してまとめたものが卒業論文である。そこでは、専門的な知識の修得をふまえたうえでの、自らの分析の視点と明確な問題意識をもつことが要求される。まさに、大学生活の集大成となりうるものであろう。 具体的な内容に関しては、担当教員と相談のうえ決めること。特に、論文の書き方や論文の構成などは、学問分野によってかなり違いがあるので、十分に留意してほしい。				
到達目標	各専門分野における、体系的・論理的な思考方法を身につける。 各専門分野における、論文の書き方（論文構成など）を正確に身につける。 専門的な知識をまとめ、独創的発想を表現するための文章力を高める。 各専門分野の研究論文として妥当な「卒業論文」を提出できること				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	M.ブラウン	概要説明および受講生の研究テーマに沿った個別指導①（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む） 卒業論文は、担当教員が指示する時間帯で随時指導を受ける。 授業の内容 全般にわたる諸注意 1．資料の収集、読解、分析は執筆の第一歩である 2．研究対象の先行研究状況は必ず調べておくこと 3．研究の対象を適切な範囲に絞り込むこと 4．論文全体の構成を常に意識すること 5．なるべく早い段階で書き始めるみること 6．書いた部分は必ず読み直し修正すること 7．脚註の付け方などは分野により異なる
2	M.ブラウン	受講生の研究テーマに沿った個別指導②（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
3	M.ブラウン	受講生の研究テーマに沿った個別指導③（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
4	M.ブラウン	受講生の研究テーマに沿った個別指導④（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
5	M.ブラウン	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑤（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
6	M.ブラウン	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑥（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
7	M.ブラウン	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑦（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
8	M.ブラウン	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑧（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
9	M.ブラウン	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑨（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）

10	M.ブラウン	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑩（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
11	M.ブラウン	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑪（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
12	M.ブラウン	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑫（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
13	M.ブラウン	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑬（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
14	M.ブラウン	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑭（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
15	M.ブラウン	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑮（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）

授業開始前学習	担当教員と相談すること。
授業内課題のフィードバックの方法	卒業論文では、履修生は担当教員に進行状況を報告し、その都度必要な指導・フィードバックを受けること。
テキスト・教材	担当教員と相談すること。
参考書	担当教員と相談すること。
評価の基準と方法	主査（所属ゼミ担当教員）と副査が評価して採点する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当								

関連科目	各専門教育科目など
その他	履修ガイドに記載された「卒業論文の履修について」を参照し、手続きを遵守すること。 卒業論文は、年間を通した地道な研究作業の積み重ねが大切なので、担当教員と相談の上、日時を決めて随時指導を受ける必要がある。担当教員の中には、卒業論文執筆者を集めて途中経過報告をさせたり、最後に発表会を行なう場合もある。
予習・復習の所要時間	
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-330-24	授業コード	FC9906
科目名称	卒業論文			単位数	4.0 単位
英文名称	Graduation Thesis			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	福王　守			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	福王　守			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　月曜日 13:00～14:30　木曜日 13:00～14:30 後期　月曜日 13:00～14:30　木曜日 13:00～14:30			研究室	10-614
授業概要	大学で学んだこと、そのなかで特に自分が興味をいだいた事柄を研究対象として選び、深く追求していく。その結果を、体系的、論理的に文章化してまとめたものが卒業論文である。そこでは、専門的な知識の修得をふまえたうえでの、自らの分析の視点と明確な問題意識をもつことが要求される。まさに、大学生活の集大成となりうるものであろう。 具体的な内容に関しては、担当教員と相談のうえ決めること。特に、論文の書き方や論文の構成などは、学問分野によってかなり違いがあるので、十分に留意してほしい。				
到達目標	各専門分野における、体系的・論理的な思考方法を身につける。 各専門分野における、論文の書き方（論文構成など）を正確に身につける。 専門的な知識をまとめ、独創的発想を表現するための文章力を高める。 各専門分野の研究論文として妥当な「卒業論文」を提出できること				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	福王　守	概要説明および受講生の研究テーマに沿った個別指導①（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む） 卒業論文は、担当教員が指示する時間帯で随時指導を受ける。 授業の内容　全般にわたる諸注意 １．資料の収集、読解、分析は執筆の第一歩である ２．研究対象の先行研究状況は必ず調べておくこと ３．研究の対象を適切な範囲に絞り込むこと ４．論文全体の構成を常に意識すること ５．なるべく早い段階で書き始めるみること ６．書いた部分は必ず読み直し修正すること ７．脚註の付け方などは分野により異なる
2	福王　守	受講生の研究テーマに沿った個別指導②（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
3	福王　守	受講生の研究テーマに沿った個別指導③（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
4	福王　守	受講生の研究テーマに沿った個別指導④（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
5	福王　守	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑤（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
6	福王　守	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑥（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
7	福王　守	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑦（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
8	福王　守	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑧（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
9	福王　守	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑨（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）

10	福王　守	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑩（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
11	福王　守	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑪（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
12	福王　守	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑫（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
13	福王　守	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑬（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
14	福王　守	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑭（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
15	福王　守	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑮（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）

授業開始前学習	担当教員と相談すること。
授業内課題のフィードバックの方法	卒業論文では、履修生は担当教員に進行状況を報告し、その都度必要な指導・フィードバックを受けること。
テキスト・教材	担当教員と相談すること。
参考書	担当教員と相談すること。
評価の基準と方法	主査（所属ゼミ担当教員）と副査が評価して採点する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当								

関連科目	各専門教育科目など
その他	履修ガイドに記載された「卒業論文の履修について」を参照し、手続きを遵守すること。 卒業論文は、年間を通した地道な研究作業の積み重ねが大切なので、担当教員と相談の上、日時を決めて随時指導を受ける必要がある。担当教員の中には、卒業論文執筆者を集めて途中経過報告をさせたり、最後に発表会を行なう場合もある。
予習・復習の所要時間	
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-330-24	授業コード	FC9907
科目名称	卒業論文			単位数	4.0 単位
英文名称	Graduation Thesis			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	工藤　俊			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	工藤　俊			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　月曜日 13:00～14:30　火曜日 16:20～17:50 後期　月曜日 13:00～14:30　火曜日 16:20～17:50			研究室	10-607
授業概要	大学で学んだこと、そのなかで特に自分が興味をいだいた事柄を研究対象として選び、深く追求していく。その結果を、体系的、論理的に文章化してまとめたものが卒業論文である。そこでは、専門的な知識の修得をふまえたうえでの、自らの分析の視点と明確な問題意識をもつことが要求される。まさに、大学生活の集大成となりうるものであろう。 具体的な内容に関しては、担当教員と相談のうえ決めること。特に、論文の書き方や論文の構成などは、学問分野によってかなり違いがあるので、十分に留意してほしい。				
到達目標	各専門分野における、体系的・論理的な思考方法を身につける。 各専門分野における、論文の書き方（論文構成など）を正確に身につける。 専門的な知識をまとめ、独創的発想を表現するための文章力を高める。 各専門分野の研究論文として妥当な「卒業論文」を提出できること				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	工藤　俊	概要説明および受講生の研究テーマに沿った個別指導①（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む） 卒業論文は、担当教員が指示する時間帯で随時指導を受ける。 授業の内容　全般にわたる諸注意 １．資料の収集、読解、分析は執筆の第一歩である ２．研究対象の先行研究状況は必ず調べておくこと ３．研究の対象を適切な範囲に絞り込むこと ４．論文全体の構成を常に意識すること ５．なるべく早い段階で書き始めるみること ６．書いた部分は必ず読み直し修正すること ７．脚註の付け方などは分野により異なる
2	工藤　俊	受講生の研究テーマに沿った個別指導②（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
3	工藤　俊	受講生の研究テーマに沿った個別指導③（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
4	工藤　俊	受講生の研究テーマに沿った個別指導④（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
5	工藤　俊	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑤（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
6	工藤　俊	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑥（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
7	工藤　俊	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑦（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
8	工藤　俊	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑧（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
9	工藤　俊	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑨（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）

10	工藤　俊	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑩（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
11	工藤　俊	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑪（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
12	工藤　俊	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑫（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
13	工藤　俊	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑬（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
14	工藤　俊	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑭（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）
15	工藤　俊	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑮（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）

授業開始前学習	担当教員と相談すること。
授業内課題のフィードバックの方法	卒業論文では、履修生は担当教員に進行状況を報告し、その都度必要な指導・フィードバックを受けること。
テキスト・教材	担当教員と相談すること。
参考書	担当教員と相談すること。
評価の基準と方法	主査（所属ゼミ担当教員）と副査が評価して採点する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当								

関連科目	各専門教育科目など
その他	履修ガイドに記載された「卒業論文の履修について」を参照し、手続きを遵守すること。 卒業論文は、年間を通した地道な研究作業の積み重ねが大切なので、担当教員と相談の上、日時を決めて随時指導を受ける必要がある。担当教員の中には、卒業論文執筆者を集めて途中経過報告をさせたり、最後に発表会を行なう場合もある。
予習・復習の所要時間	
実務経験を活かした教育内容	

日本文化実習

科目分類（2025 年～入学者）	GJ-M-333　（ J ）	科目分類（～2024 年入学者）	110-330-23　（ J ）	授業コード	FD0010
科目名称	日本文化実習			単位数	1.0 単位
英文名称	Japanese Culture Training			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	下川　雅弘			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	下川　雅弘			開講時期	3･4 年
オフィスアワー	前期　月曜日 13:00～14:30　水曜日 13:00～14:30 後期　月曜日 13:00～14:30　水曜日 13:00～14:30			研究室	10-706
授業概要	この授業では、江戸時代の京都の名所案内記である『京城勝覧』を翻刻・読解し、『新撰増補　京大絵図』や『掌中雲上抜錦』という古地図で当時の状況を確認の上、これらの史料に記載されていた京都の名所旧跡を 12 月初旬（12 月 6～7 日を予定）に訪問する。事前調査と現況調査により、京都を通じて日本文化の特徴の一端を考察する。授業では課題解決型学習・グループワーク・フィールドワーク・発表を行う。				
到達目標	１．江戸時代の文献史料を実践的に読解することができる。 ２．文献史料に記載された史跡の現況から、日本文化の特徴を理解することができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	10 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	下川　雅弘	【第 1 回】 予習：シラバスを読み、学修内容を確認する 授業：ガイダンス（京都研修のスケジュール、訪問する名所旧跡の解説） 復習：自分の考えを整理して提出する
2	下川　雅弘	【第 2 回】 予習：「輪読史料の解題」「史料翻刻練習①」の部分について教科書を読んでおく 授業：輪読史料の解題／史料翻刻練習①（『京城勝覧』より「内裏」「相国寺」等の翻刻・読解） 復習：自分の考えを整理して提出する
3	下川　雅弘	【第 3 回】 予習：「輪読史料の解題」「史料翻刻練習①」の部分について教科書を読んでおく 授業：史料翻刻練習②（『京城勝覧』より「誓願寺」「六角堂」「御土居」等の翻刻・読解）／翻刻課題の方法 復習：自分の考えを整理して提出する
4	下川　雅弘	【第 4 回】 予習：翻刻課題のレジュメを提出する（30 点） 授業：翻刻課題の発表①（『京城勝覧』より「清水寺」「高台寺」「八坂神社」等の翻刻・読解）（課題解決型学習・発表） 復習：自分の考えを整理して提出する
5	下川　雅弘	【第 5 回】 予習：（翻刻課題のレジュメを提出する） 授業：翻刻課題の発表②（『京城勝覧』より「銀閣寺」「東福寺」「三十三間堂」等の翻刻・読解）（課題解決型学習・発表） 復習：自分の考えを整理して提出する
6	下川　雅弘	【第 6 回】 予習：グループワーク・発表のレジュメを提出する（10 点）／「京都の都市構造の変遷」の部分について教科書を読んでおく 授業：グループ別活動の研修目的とスケジュール発表（グループワーク・発表）／京都の都市構造の変遷 復習：自分の考えを整理して提出する
7	下川　雅弘	【第 7 回】 予習：「京都研修のスケジュール」「訪問する名所旧跡の解説」の部分について教科書を読んでおく 授業：京都研修 1 日目（12 月 7 日〈土〉を予定）／東山周辺の名所旧跡を訪問・調査する（フィールドワーク） 復習：（京都研修の感想をフォームで提出する）
8	下川　雅弘	【第 8 回】 予習：（「京都研修のスケジュール」「訪問する名所旧跡の解説」の部分について教科書を読んでおく） 授業：京都研修 2 日目（12 月 8 日〈日〉を予定）／京都御所周辺の名所旧跡を訪問・調査する（フィールドワーク） 復習：京都研修の感想をフォームで提出する
9	下川　雅弘	【第 9 回】 予習：京都研修の成果を整理する 授業：グループ別活動の成果発表準備（グループワーク） 復習：自分の考えを整理して提出する

10	下川　雅弘	【第 10 回】 予習：グループワーク・発表のスライドを提出する（30 点） 授業：グループ別活動の成果発表準備（グループワーク・発表） 復習：自分の考えを整理して提出する／ミニレポートをフォームで提出する（30 点）

授業開始前学習	
授業内課題のフィードバックの方法	翻刻課題・グループ発表に対して、授業内で解説・コメントを行う。
テキスト・教材	駒沢女子大学講義ノートシリーズ『日本文化実習』 必要に応じてプリントを配付する。
参考書	適宜、授業に沿って推薦図書を紹介する。
評価の基準と方法	翻刻課題３０%、グループワーク・発表４０%、ミニレポート３０%により評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎			○		△		◎

関連科目	
その他	授業の進捗状況や受講者数などによって、内容を変更することがある。 この授業では、正課学外活動として、12 月初旬の土日に 1 泊 2 日で京都を訪問する。現時点では 12 月 6 日（土）・7 日（日）を予定している（変更の可能性あり）。この授業の単位を修得するためには、正課学外活動（京都研修）への参加が必須である。参加費（交通費・宿泊費・食事代等）として、3 万円台程度の負担が必要となる。受講者数によって金額が多少増減する可能性がある。感染症流行等の影響により実習方法が変更される場合もある。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	自治体史編纂の実務経験あり。史料の読解、名所旧跡の見方などを講義する。

科目分類（2025 年～入学者）	GJ-M-133 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	110-330-23 （J）	授業コード	FD0020
科目名称	仏教文化実習			単位数	1.0 単位
英文名称	Buddhist Culture Training			授業区分	実験・実習
科目責任者	皆川 義孝			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	皆川 義孝			開講時期	1・2 年
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～16:00 後期 火曜日 13:00～16:00			研究室	10-507
授業概要	江戸時代には江戸などの大都市を中心に大衆文化が花開いた。江戸時代の文化は現代日本のさまざまな部分に受け継がれ、その中には浮世絵のように世界的にも注目されている文化財もある。そこで、本実習では実際に都内の寺院・神社・史跡などを訪ね、そこにある文化財を調査し、そこから見えてくる江戸時代の文化的特質について考えていく。				
到達目標	1．寺院・神社・史跡の文化財を調査、分析することができる。 2．寺院・神社・史跡の文化財から見えてくる日本文化の特質を考察することができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	8 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	皆川 義孝	【第 1 回】 予習 ：シラバスで授業内容を確認する。 授業 ：江戸時代の文化の特質 復習 ：授業で学んだ事項をノートに整理する
2	皆川 義孝	【第 2 回】 予習 ：文化財の意味について調べる 授業 ：寺院・神社・史跡等の文化財の調査方法① 復習 ：授業で学んだ事項をノートに整理する
3	皆川 義孝	【第 3 回】 予習 ：文化財の役割について調べる 授業 ：寺院・神社・史跡等の文化財の調査方法② 復習 ：授業で学んだ事項をノートに整理する
4	皆川 義孝	【第 4 回】 予習：調査先の寺院・神社・史跡の基礎情報を調べる 授業：調査先の寺院・神社・史跡の歴史と文化財 復習：授業で学んだ事項をノートに整理する
5	皆川 義孝	【第 5 回】 予習：調査先の寺院・神社・史跡の基礎情報を確認する 授業：東京の寺院・神社・史跡の現地調査（グループワーク） 復習：現地調査で調べた事項をノートに整理する
6	皆川 義孝	【第 6 回】 予習：現地調査で調べて考えたことを確認する 授業：現地調査の報告書の作成 復習：現地調査の報告書の校正を行う
7	皆川 義孝	【第 7 回】 予習：現地調査の報告書を読む 授業：現地調査の成果報告（発表） 復習：発表と質疑応答から考えた事項をノートに整理する
8	皆川 義孝	【第 8 回】 予習：東京の寺院・神社・史跡と日本文化の関わりについて考える 授業：「東京の寺院・神社・史跡から見た日本文化の特質」のレポート作成 復習：第 1 回から第 8 回までの授業について振り返る

授業開始前学習	大学の図書館にある日本の歴史と寺院に関する図書を読んでおくと授業が理解しやすい。
授業内課題のフィードバックの方法	授業で提出する課題・レポートについては、適宜、講評を行い、個別の質問等に回答する。
テキスト・教材	特定のテキストは使用しない。適宜、プリントを配付する。
参考書	今泉淑夫編『日本仏教史辞典』吉川弘文館、1999 年等。
評価の基準と方法	配点（100 点満点における）は平常点（提出物） 3 0 点、レポート 50 点、発表 20 点で評価する。レポートは寺院調査を踏まえての提出なので、寺院調査参加を原則義務つける。

ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照							
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎			○		△		◎
関連科目								
その他	都内近郊の寺院・神社・史跡等での現地調査を 1 回行う。交通し 1,000 円程度。実習方法が変更される場合もある。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	担当教員の皆川義孝は各地の寺院調査・文化財保護業務の実務経験を有している。本科目では、その経験を活かし、第 2 回～第 3 回まで東京の寺院・神社・史跡の調査方法と分析方法について講義する。							

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	110-330-23	授業コード	FD0030
科目名称	日本文化研修			単位数	1.0 単位
英文名称	Training in Japanese Culture			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	弥久保　宏			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	弥久保　宏			開講時期	3・4 年
オフィスアワー	前期　水曜日 14:40～16:10　金曜日 13:00～14:30 後期　水曜日 14:40～16:10　金曜日 13:00～14:30			研究室	10-703
授業概要	日本文化について、文献画像や映像を通じて多様な視点から学ぶことを目的とする。主に戦後昭和期の日本文化を家族、生活様式等を読み解くことにする。その上で、正課学外活動として関連施設（昭和館など）を訪れての研修を行い、観察力を養う。この授業では課題解決型学習を行う。				
到達目標	戦後、日本の家族形態や生活様式についての基本知識の習得と複眼的（比較文化的）な考察力を習得する。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	6 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	弥久保　宏	【第 1 回】 予習：シラバスを読んでおく 授業：ガイダンス（授業回数と実施日や学外活動の場所、日時等の説明） 復習：ガイダンスでの要点を確認する
2	弥久保　宏	【第 2 回】 予習：戦後昭和期の家庭を描いた主要な文献や映画をリストアップし時代背景を調べる 授業：戦後昭和期の日本の生活様式の変遷とその背景 復習：戦後昭和期を描いた日本映画や文献資料で当時の生活様式を確認する
3	弥久保　宏	【第 3 回】 予習：ＤＶＤ等で映画「東京物語」を鑑賞しておく 授業：小津安二郎監督「東京物語」にみる日本文化（家族形態、生活様式）の特徴 復習：東京物語に描かれている日本文化の特徴をまとめる
4	弥久保　宏	【第 4 回】 予習：訪問先について調べる 授業：正課学外活動 復習：学外活動のまとめ
5	弥久保　宏	【第 5 回】 予習：研修訪問先で調べた戦後昭和期の家庭や生活様式が変化すきっかけとなった政治、経済、社会的要因を調べる。 授業：研修訪問先で得られた成果の発表 復習：他の発表者の内容を参考にして自分の研修体験に厚みをつける。
6	弥久保　宏	【第 6 回】 予習：レポート関連の資料整理 授業：レポート作成（課題解決型学習） 復習：レポートの推敲

授業開始前学習	戦後昭和期の家族を題材にした映画の鑑賞や文献を読んでおくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	授業毎にミニ・コメントを提出させる。
テキスト・教材	適宜、資料を配布する。
参考書	適宜、授業中に紹介する。
評価の基準と方法	授業での積極性（40 点）、レポート（60 点）の合計点。レポートは現場研修を踏まえての提出なので、現場研修参加を原則義務つける。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎			○			△	◎
関連科目								
その他	(重要事項) 原則として正課学外活動(都内の昭和館）の参加を義務づける。交通費は 1000 円程度。全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を満たさない者は、単位の対象から除外する。ガイダンスで講義日（正課学外活動）の提示を行うので、科目登録には、ガイダンスの出席を義務づける。事情によりガイダンスを欠席をした場合は、研究室を尋ねて了承を得てから科目登録を行うこと。 新型コロナの影響により実習方法が変更される場合もある。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025年～入学者）	HR-M-133 （J）	科目分類（～2024年入学者）	110-330-22 （J）	授業コード	FD0040
科目名称	☆身体文化実習Ⅰ			単位数	1.0単位
英文名称	Physical Culture Training Ⅰ			授業区分	実験・実習
科目責任者	別所 るみ子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	別所 るみ子			開講時期	1・2年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	しなやかな身体で美しく舞うバレエ、その基本的な練習を通して、美しい姿勢、身のこなしを学びます。 日常生活のなかで役立つバレエの美しい要素～立ち方、首・背中の伸ばし方など～を習得します。 実技を中心とした授業。毎回、基礎的な内容を練習し、課題曲では作品を踊る楽しさを大切にします。 バレエの歴史や著名な作品、鑑賞する際に役立つ事柄を学び、バレエの芸術的な要素への理解を深めます。 バレエ未経験者を対象とした授業内容ですが、バレエ経験者の履修も歓迎します。				
到達目標	自分の身体に対する意識を高め、美しい姿勢を日常的に心がけること。 バレエの基本練習と課題曲を踊る経験を通して、また、バレエの歴史や著名な作品を学ぶことで、バレエの芸術的な要素を理解すること。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	別所 るみ子	【第1回】 予習：「バレエ」という言葉からイメージするもの・ことを考える 授業：授業内容の説明と履修上の諸注意。ストレッチ、バレエの基本姿勢、脚・腕の基本ポジション（実習） 復習：ストレッチ、バレエの基本姿勢、脚・腕の基本ポジション
2	別所 るみ子	【第2回】 予習：ストレッチ、脚・腕の基本ポジション 授業：バレエの歴史概要。バーレッスン～脚の使い方を重点的に。日常生活での美しい姿勢・歩き方（実習） 復習：バレエの歴史概要確認。授業内容をエクササイズ名を確認して復習
3	別所 るみ子	【第3回】 予習：ストレッチ、脚・腕の基本ポジション 授業：バレエ作品概要。バーレッスン～腕の使い方を重点的に。センターレッスン～空間・方向（実習） 復習：バレエ作品の動画を観る。授業内容をエクササイズ名を確認して復習
4	別所 るみ子	【第4回】 予習：ストレッチ、脚・腕の基本的な使い方 授業：３大バレエ作品概要。バーレッスン～上体・首の使い方を重点的に。センターレッスン～バランス・方向（実習） 復習：３大バレエ作品動画を観る。授業内容をエクササイズ名を確認して復習
5	別所 るみ子	【第5回】 予習：ストレッチ、脚・腕の基本的な使い方 授業：世界のバレエ団概要。バー＆センターレッスン～ワルツをテーマに（実習） 復習：有名なバレエ団の劇場、バレエ作品動画を観る。授業内容をエクササイズ名を確認して復習。
6	別所 るみ子	【第6回】 予習：ストレッチ、脚・腕の基本的な使い方 授業：バー＆センターレッスン～回転を重点的に。日常生活での美しい姿勢・歩き方（実習） 復習：授業内容を確認して復習、回転の首のつけ方
7	別所 るみ子	【第7回】 予習：ストレッチ、脚・腕の基本的な使い方 授業：課題曲の説明。バー＆センターレッスン～課題曲の前半パート練習（実習） 復習：課題曲の振付、授業内容を確認して復習
8	別所 るみ子	【第8回】 予習：ストレッチ、脚・腕の基本的な使い方 授業：バー＆センターレッスン～課題曲の前半・後半パート練習（実習） 復習：課題曲の振付を覚えるよう練習、授業内容を確認して復習
9	別所 るみ子	【第9回】 予習：ストレッチ、脚・腕の基本的な使い方 授業：バー＆センターレッスン～課題曲の後半パート練習（実習） 復習：課題曲の振付を覚えるよう練習、授業内容を確認して復習
10	別所 るみ子	【第10回】 予習：ストレッチ、課題曲の振付を練習 授業：バー＆センターレッスン～課題曲の細部を丁寧に練習、日常生活での美しい姿勢・歩き方（実習） 復習：課題曲を音楽にのって踊れるよう振付を覚えて練習、授業内容を確認して復習

11	別所　るみ子	【第 11 回】 予習：ストレッチ、課題曲：動く方向、身体の向き、顔の向き、腕の使い方を工夫して練習 授業：バー＆センターレッスン～課題曲の細部を丁寧に練習した後、通して練習（実習） 復習：課題曲を音楽にのって踊れるよう振付を覚えて練習、授業内容を確認して復習
12	別所　るみ子	【第 12 回】 予習：ストレッチ、課題曲：動く方向、身体の向き、顔の向き、腕の使い方を工夫して練習 授業：バー＆センターレッスン～課題曲を通して練習。各自のスマホで動画撮影（実習） 復習：自分の動画を確認、課題曲を音楽とともに表現を深めて踊れるよう練習
13	別所　るみ子	【第 13 回】 予習：ストレッチ、課題曲～動く方向、身体の向き、顔の向き、腕の使い方を確認し練習 授業：バー＆センターレッスン～課題曲を通して練習。発表 1 回目。各自のスマホで動画撮影（実習・発表） 復習：自分の動画を確認、課題曲を音楽とともに表現を深めて踊れるよう練習
14	別所　るみ子	【第 14 回】 予習：発表 1 回目よりも良くなるように、細かい部分～動く方向、身体・顔の向き、腕の使い方を再確認し練習 授業：バー＆センターレッスン～課題曲を通して練習。発表 2 回目。各自のスマホで動画撮影（実習・発表） 復習：自分の動画を観て確認
15	別所　るみ子	【第 15 回】 予習：ストレッチ、授業 1 回～14 回に学んだことをふり返る。 授業：バー＆センターレッスン、日常生活での美しい姿勢・歩き方、授業のまとめ（実習） 復習：バレエから学んだことを日常生活に取り入れ自分のものにする。美しい姿勢を常に心がける

授業開始前学習	Wikipedia「バレエ」を読むと授業の理解が深まる。バレエ作品の動画を YouTube などで観る。
授業内課題のフィードバックの方法	授業内課題は個別にフィードバックし、返却時に全体の講評を行う。
テキスト・教材	授業内容に関連したドキュメントを、GWE クラスルームに掲示、およびプリントして配布する。
参考書	授業期間中に数冊紹介する。
評価の基準と方法	平常点（授業に対する積極性・授業態度）40 点、提出課題 40 点、課題曲 20 点
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△	○			◎	◎

関連科目	
その他	◆バレエシューズが必要。購入希望者は授業 1 回目にサンプルを試したうえで購入を申込み、授業 2 回目に受取る。 ◆バレエ用練習着または体操服など、動きやすい服装、髪型で出席すること。 ◆バレエの上手下手ではなく、真剣に学ぶ姿勢、個人の努力を重視する。 ◆バレエ用語は、日本のバレエクラスで一般的に使われている言葉を使用する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	豪徳寺ダンススクール、毎日新聞カルチャーセンター、企業研修プログラムなどで指導した経験を活かして、初心者から経験者まで楽しく取り組めるよう構成している。舞踊家として国内外で舞台、映画に多数出演、表現に関わる現場の視点も交えて指導にあたる。

科目分類（2025年～入学者）	GJ-M-133 HR-M-133 （J）	科目分類（～2024年入学者）	110-330-22 （J）	授業コード	FD0050
科目名称	身体文化実習Ⅱ			単位数	1.0単位
英文名称	Physical Culture TrainingⅡ			授業区分	実験・実習
科目責任者	藤間　香鳳			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	藤間　香鳳			開講時期	1年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	・和装について基本を学ぶ。 ・着物を美しく身につけ楽しむことができるようにする。 ・着物の着付けの演習を通して日本女性としての品格のある美しい立ち居振る舞いを目指す。 ・着物を着ての日本舞踊の表現を通して日本文化の探求とコミュニケーション力を高める。				
到達目標	・自分自身で着付けとたたみ方を習得する。 ・日本舞踊を通しての美しい立ち居振る舞いを身につけることを目標とする。 ・着物の着付けと動きの基礎を学ぶことで品格のある美しい女性を目指す。 ・日本舞踊を習得し自己表現力を高め発表と鑑賞を学習することでコミュニケーション能力を高める。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	藤間　香鳳	【第1回】 予習　：和服についての知識を確認 授業　：オリエンテーション・着物着付け、たたみ方、帯結びをプリントで確認し実践する 復習　：着付けに必要なゆかたセットの確認
2	藤間　香鳳	【第2回】 予習　：着付けの順序をプリントで確認 授業　：美しい着こなしと正しいたたみ方を知る 復習　：美しく着付ける工夫と美しい仕草を確認
3	藤間　香鳳	【第3回】 予習　：着物の帯の結び方と手直しの確認 授業　：素早く美しく着付け美しい仕草を体験する 復習　：着物のたたみ方をプリントで再確認
4	藤間　香鳳	【第4回】 予習　：着物を着付けての身のこなしと美しい仕草を予習 授業　：舞扇の正しい持ち方、美しい使い方、着物のたたみ方実技テスト 復習　：順番と仕草の確認と着付けの実技テストの準備
5	藤間　香鳳	【第5回】 予習　：着付けの順番を確認し実技テストの準備 授業　：美しい正座の姿勢と扇を使ってのお辞儀や歩き方を学ぶ、着付けのテスト。 復習　：踊りの手順を確認
6	藤間　香鳳	【第6回】 予習　：踊りの手順を確認 授業　：「祇園小唄」を踊る 復習　：踊りの手順を確認
7	藤間　香鳳	【第7回】 予習　：踊りの手順を確認し、美しい動きができるかできているかを確認 授業　：「祇園小唄」を踊る 復習　：挨拶・踊り・終了の挨拶まで一連の流れを確認する
8	藤間　香鳳	【第8回】 予習　：着物に合う和の化粧と髪型について調べる 授業　：「祇園小唄」を踊る。 復習　：和服に相応しい化粧のしかたを確認、着物の身のこなし、舞踊の動きを確認
9	藤間　香鳳	【第9回】 予習　：踊りの手順の確認 授業　：「祇園小唄」実技テスト 復習　：素早い着付けとたたみ方の確認
10	藤間　香鳳	【第10回】 予習　：発表のための踊り込み 授業　：「祇園小唄」グループ発表と鑑賞、相互評価 復習　：グループ学習の反省と自己評価

11	藤間　香鳳	【第 11 回】 予習　：「さくら　さくら」の歌詞を調べる 授業　：「さくら　さくら」を踊る 復習　：踊りの流れと手順の確認
12	藤間　香鳳	【第 12 回】 予習　：扇の使い方について確認 授業　：「さくら　さくら」を踊る 復習　：扇子を使った正式な挨拶の確認
13	藤間　香鳳	【第 13 回】 予習　：踊りの手順を確認 授業　：「さくら　さくら」を踊る。正月に向けて挨拶、お茶の出し方茶の飲み方の実践 復習　：曲想にあった季節感や背景を考えた踊りの復習
14	藤間　香鳳	【第 14 回】 予習　：発表会をイメージする 授業　：「さくら　さくら」実技テスト。 復習　：出来栄えを確認する
15	藤間　香鳳	【第 15 回】 予習　：発表会をイメージする。着物を着ての日常生活の立ち居振る舞いをイメージする 授業　：「さくら　さくら」グループ発表と鑑賞、相互評価 復習　：自己の取り組みと成長を確認し今後の生活に生かす工夫をする

授業開始前学習	・着付けに必要な着物道具についてインターネットで調べておく ・浴衣、半幅帯、足袋、着物用下着、ひも類など用意できる持ち物の確認をしておく
授業内課題のフィードバックの方法	・出題されたプリントをチェックし、質問に答えたものを返却する。 ・身体表現について評価を行う。
テキスト・教材	着物の着付けとたたみ方、帯結びのプリント
参考書	
評価の基準と方法	①正しく手早い着物のたたみ方 10/100 ②正しく美しい着付け 15/100 ③「祇園小唄」実技テスト 25/100 ④「さくらさくら」実技テスト 25/100 ⑤平常点（授業態度、課題提出）25/100 ５項目の 60/100 を合格基準点とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△	○			◎	

関連科目	
その他	・浴衣（着物）に必要な小物セット（浴衣、半襦袢、着物用下着、足袋、ひも類）をなるべく初回の授業に準備して持参することが望ましい。オリエンテーションで着物に必要な持ち物の説明を受けてからでも可。 ・着物（長襦袢が必要）と半幅帯の組み合わせでも可。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	藤間流の名取として多くの舞台を踏んできた経験と、師範として関わった文化センターや海外における舞踊指導経験を活かしながら、我が国の伝統文化の素晴らしさを、若き学生の方々に伝承していきたいと考えています。

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	110-330-22	授業コード	FD0060
科目名称	ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ実習／ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ実習Ⅰ			単位数	1.0 単位
英文名称	Practice of Presentation Skills Ⅰ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	楠田 恵美			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	楠田 恵美			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	前期 木曜日 13:00～14:30 金曜日 14:40～16:10 後期 木曜日 13:00～14:30 金曜日 14:40～16:10			研究室	10-612
授業概要	自己紹介、PR プレゼンテーション、アカデミック・プレゼンテーション、提案型プレゼンテーションの４つのプレゼンテーションの作成、実践、評価を行う。				
到達目標	パワーポイントを用いたプレゼンテーション資料の作成と発表に慣れることを第一とし、そのうえで、よりよいスライド作成と発表技術を身に付けていく。また、クラスメイトのプレゼンテーションを評価しあい、相互にプレゼンテーション技術の向上を図る。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	楠田 恵美	【第 1 回】 予習：インターネットなどでよいプレゼンを見つけ、そのプレゼンの良いところを吸収する 授業：イントロダクション、よいプレゼンテーションとは？ 復習：その日の授業内容を振り返る
2	楠田 恵美	【第 2 回】 予習：自己紹介プレゼンの内容について考える 授業：自己紹介プレゼンの作成 復習：自己紹介プレゼンの作成が授業時間内に終わらない場合、次週までに完成させる
3	楠田 恵美	【第 3 回】 予習：プレゼンテーション評価シートの項目を確認しながらプレゼンの練習を行う 授業：自己紹介プレゼンの実践と評価 復習：プレゼンテーション評価シートを完成させる
4	楠田 恵美	【第 4 回】 予習：自己紹介プレゼンの内容について考える 授業：自己 PR プレゼン作成 復習：自己 PR プレゼンの作成が授業時間内に終わらない場合、次週までに完成させる
5	楠田 恵美	【第 5 回】 予習：プレゼンテーション評価シートの項目を確認しながらプレゼンの練習を行う 授業：自己 PR プレゼンの実践と評価 復習：プレゼンテーション評価シートを完成させる
6	楠田 恵美	【第 6 回】 予習：アカデミックプレゼンの構成を考える 授業：アカデミックプレゼンの作成（１） 復習：アカデミックプレゼンの構成について振り返る
7	楠田 恵美	【第 7 回】 予習：アカデミックプレゼンに掲載するデータを準備する 授業：アカデミックプレゼンの作成（２） 復習：アカデミックプレゼンの効果的なデータ提示について振り返る
8	楠田 恵美	【第 8 回】 予習：アカデミックプレゼンの完成に向けスライド全体の構成と形式を整える 授業：アカデミックプレゼンの作成（３） 復習：アカデミックプレゼンの実践に向けてシナリオを準備する
9	楠田 恵美	【第 9 回】 予習：プレゼンテーション評価シートの項目を確認しながらプレゼンの練習を行う 授業：アカデミックプレゼンの実践（１） 復習：プレゼンテーション評価シートを完成させる
10	楠田 恵美	【第 10 回】 予習：プレゼンテーション評価シートの項目を確認しながらプレゼンの練習を行う 授業：アカデミックプレゼンの実践（２） 復習：プレゼンテーション評価シートを完成させる
11	楠田 恵美	【第 11 回】 予習：提案型プレゼンの構成を考える 授業：提案型プレゼンの作成（１） 復習：提案型プレゼンの構成について振り返る

12	楠田　恵美	【第 12 回】 予習：提案型プレゼンに掲載するデータを準備する 授業：提案型プレゼンの作成（２） 復習：提案型プレゼンの効果的なデータ提示について振り返る
13	楠田　恵美	【第 13 回】 予習：提案型プレゼンの完成に向けスライド全体の構成と形式を整える 授業：提案型プレゼンの作成（３） 復習：提案型プレゼンの実践に向けてシナリオを準備する
14	楠田　恵美	【第 14 回】 予習：プレゼンテーション評価シートの項目を確認しながらプレゼンの練習を行う 授業：提案型プレゼンの実践（１） 復習：プレゼンテーション評価シートを完成させる
15	楠田　恵美	【第 15 回】 予習：プレゼンテーション評価シートの項目を確認しながらプレゼンの練習を行う 授業：提案型プレゼンの実践（２） 復習：プレゼンテーション評価シートを完成させる、これまでの授業を振り返りプレゼン技術の自己評価を行う

授業開始前学習	教科書『基礎ゼミⅡ』プレゼンテーション１～５を読んでおく。
授業内課題のフィードバックの方法	作成したスライドおよび実践した発表に対し、「プレゼンテーション評価シート」を用いてフィードバックを行う。
テキスト・教材	授業中に適宜パワーポイント等で提示する。
参考書	必要に応じて授業中に紹介する。
評価の基準と方法	授業態度 25%、授業内課題 25%、期末課題 50%により評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△	△			◎	○

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	110-330-12（2022 年～入学者） 113-330-12（～2021 年入学者）	授業コード	FC0160
科目名称	ｸﾞﾗﾏｰ・使える英文法Ⅰ			単位数	2.0 単位
英文名称	English Grammar Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	神谷 昇			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	神谷 昇			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	この授業では、基礎的な英語の文法事項や構文について学習する。また、この授業では知識の習得ばかりではなく、実際に学習した文法項目がコミュニケーションの中で使うことができるよう、様々な活動を通して練習も行う。加えて、TOEIC 形式の問題を解きながら、TOEIC のスコアの向上も目指す。				
到達目標	現在時制、過去時制、未来時制、進行形、完了時制、受動態、使役動詞、to 不定詞、動名詞、助動詞について基本的事項を理解し、それらを実際にコミュニケーションで用いることができるようになることを目指す。あわせて、TOEIC のスコアの向上も目標にする。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	神谷 昇	【第 1 回】 予習：『総合英語 Forest（フォレスト）』など、英文法の参考書に目を通しておく（英文法の参考書であればこれ以外の書籍でも可）。 授業：オリエンテーション、および、文法理解度の確認テスト（当日配布）（グループワーク） 復習：文法理解度確認テストを見直す。
2	神谷 昇	【第 2 回】 予習： 教科書 p. 6 を読み、「品詞」について確認する。 授業： 品詞について（当日ハンドアウトを配布）（グループワーク） 復習： 授業で配布したハンドアウトの内容を復習する。
3	神谷 昇	【第 3 回】 予習：教科書 p. 12 の文法事項の説明を読む。また、p. 13 の単語の意味を調べる。 授業：Unit 1 Fashion and Shopping（教科書 pp. 12-15）（演習） 復習：教科書 p. 12 の説明を読み直し、Unit 1 の問題を改めて解く。
4	神谷 昇	【第 4 回】 予習：教科書 p. 16 の文法事項の説明を読む。また、p. 17 の単語の意味を調べる。 授業：Unit 2 Eating Out and Restaurants（教科書 pp. 16-19）（演習） 復習：教科書 p. 16 の説明を読み直し、Unit 2 の問題を改めて解く。
5	神谷 昇	【第 5 回】 予習：教科書 p. 20 の文法事項の説明を読む。また、p. 21 の単語の意味を調べる。 授業：Unit 3 Entertainment and the Movies（教科書 pp. 20-25）（演習） 復習：教科書 p. 20 の説明を読み直し、Unit 3 の問題を改めて解く。
6	神谷 昇	【第 6 回】 予習：教科書 p. 26 の文法事項の説明を読む。また、p. 27 の単語の意味を調べる。 授業：Unit 4 Housing and Family Life（教科書 pp. 26-29）（演習） 復習：教科書 p. 26 の説明を読み直し、Unit 4 の問題を改めて解く。
7	神谷 昇	【第 7 回】 予習：教科書 p. 30 の文法事項の説明を読む。また、p. 31 の単語の意味を調べる。 授業：Unit 5 The Media and the Internet（教科書 pp. 30-35）（演習） 復習：教科書 p. 30 の説明を読み直し、Unit 5 の問題を改めて解く。
8	神谷 昇	【第 8 回】 予習：教科書 Unit 1 から Unit 5 までの内容を十分に復習しておく。 授業：Unit 6 Mini Test 1（教科書 pp. 36-39）（演習） 復習：教科書 Unit 6 の問題を改めて解く。
9	神谷 昇	【第 9 回】 予習：教科書 p. 40 の文法事項の説明を読む。また、p. 41 の単語の意味を調べる。 授業：Unit 7 Travel and Airports（教科書 pp. 40-43）（演習） 復習：教科書 p. 40 の説明を読み直し、Unit 7 の問題を改めて解く。
10	神谷 昇	【第 10 回】 予習：教科書 p. 44 の文法事項の説明を読む。また、p. 45 の単語の意味を調べる。 授業：Unit 8 Hotels and Leisure（教科書 pp. 44-49）（演習） 復習：教科書 p. 44 の説明を読み直し、Unit 8 の問題を改めて解く。

11	神谷 昇	【第 11 回】 予習：教科書 p. 50 の文法事項の説明を読む。また、p. 51 の単語の意味を調べる。 授業：Unit 9 The Weather（教科書 pp. 50-55）（演習） 復習：教科書 p. 50 の説明を読み直し、Unit 9 の問題を改めて解く。
12	神谷 昇	【第 12 回】 予習：教科書 p. 56 の文法事項の説明を読む。また、p. 57 の単語の意味を調べる。 授業：Unit 10 The Environment and Recycling（教科書 pp. 56-59）（演習） 復習：教科書 p. 56 の説明を読み直し、Unit 10 の問題を改めて解く。
13	神谷 昇	【第 13 回】 予習：教科書 p. 60 の文法事項の説明を読む。また、p. 61 の単語の意味を調べる。 授業：Unit 11 Fitness and Health（教科書 pp. 60-65）（演習） 復習：教科書 p. 60 の説明を読み直し、Unit 11 の問題を改めて解く。
14	神谷 昇	【第 14 回】 予習：教科書 Unit 7 から Unit 11 までの内容を十分に復習しておく。 授業：Unit 12 Mini Test 2（教科書 pp. 66-69）（演習） 復習：教科書 Unit 12 の問題を改めて解く。
15	神谷 昇	【第 15 回】 予習：教科書 Unit 1 から Unit 12 を読み直し、問題を再度解く。 授業：Unit 1 から Unit 12 までのまとめ（教科書 pp. 1-69） 復習：教科書 pp. 1-69 の問題を改めて解く。

授業開始前学習	これまで学習してきた英文法と語法を復習しておくと授業が理解しやすい。
授業内課題のフィードバックの方法	授業中に行うアクティビティー、および、小テストについては、こちらで目を通し、次回の授業で返却する。返却の際に、必要に応じ解説を行う。
テキスト・教材	Joshua Cohen, Kei, Miura, Yoshio Nakamura, and Hiroshi Kimura. (2016) Reading Breakthrough for the TOEIC Test、南雲堂. ISBN: 978-4-523-17811-8
参考書	塊タカユキほか『総合英語 Forest（フォレスト） 第７版』（桐原書店） 田中茂範『表現英文法』（コスモピア）
評価の基準と方法	定期試験・授業中の演習など、総合的に行う。内訳は、定期試験（30%）、授業中の演習（20%）、小テスト（20%）、課題提出（10%）、授業態度（20%）である。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		△		◎	○

関連科目	英語学概論Ⅰ（第 12 回と第 13 回でこの授業の内容に基づいた発展的内容を学習する。）
その他	英語の辞書（英和辞典、和英辞典等）を持参すること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	110-330-12（2022 年～入学者） 113-330-12（～2021 年入学者）	授業コード	FC0170
科目名称	ｸﾞﾗﾏｰ・使える英文法Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	English Grammar Ⅱ			授業区分	講義
科目責任者	神谷 昇			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	神谷 昇			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	この授業では、基礎的な英語の文法事項や構文について学習する。また、この授業では知識の習得ばかりではなく、実際に学習した文法項目がコミュニケーションの中で使うことができるよう、様々な活動を通して練習も行う。加えて、TOEIC 形式の問題を解きながら、TOEIC のスコアの向上も目指す。				
到達目標	名詞と代名詞、冠詞、形容詞、副詞、比較、関係詞、仮定法、前置詞、接続詞、数詞について基本的事項を理解し、それらを実際にコミュニケーションで用いることができるようになることを目指す。あわせて、TOEIC のスコアの向上も目標にする。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	神谷 昇	【第 1 回】 予習：『総合英語 Forest（フォレスト）』など、英文法の参考書に目を通しておく（英文法の参考書であればこれ以外の書籍でも可）。 授業：オリエンテーション、および、文法理解度の確認テスト（当日配布） （演習） 復習：文法理解度確認テストを見直す。
2	神谷 昇	【第 2 回】 予習： 教科書 p. 6 を読み、「品詞」について確認する。 授業： 品詞について（当日ハンドアウトを配布） （演習） 復習： 授業で配布したハンドアウトの内容を復習する。
3	神谷 昇	【第 3 回】 予習：教科書 p. 70 の文法事項の説明を読む。また、p. 71 の単語の意味を調べる。 授業：Unit 13 Business Trips and Commuting（教科書 pp. 70-75） （演習） 復習：教科書 p. 70 の説明を読み直し、Unit 13 の問題を改めて解く。
4	神谷 昇	【第 4 回】 予習：教科書 p. 76 の文法事項の説明を読む。また、p. 77 の単語の意味を調べる。 授業：Unit 14 Advertising and Sales（教科書 pp. 76-79） （演習） 復習：教科書 p. 76 の説明を読み直し、Unit 14 の問題を改めて解く。
5	神谷 昇	【第 5 回】 予習：教科書 p. 80 の文法事項の説明を読む。また、p. 81 の単語の意味を調べる。 授業：Unit 15 Getting a Job and Promotions（教科書 pp. 80-85） （演習） 復習：教科書 p. 80 の説明を読み直し、Unit 15 の問題を改めて解く。
6	神谷 昇	【第 6 回】 予習：教科書 p. 86 の文法事項の説明を読む。また、p. 87 の単語の意味を調べる。 授業：Unit 16 Accounting and Office Work（教科書 pp. 86-89） （演習） 復習：教科書 p. 86 の説明を読み直し、Unit 16 の問題を改めて解く。
7	神谷 昇	【第 7 回】 予習：教科書 p. 90 の文法事項の説明を読む。また、p. 91 の単語の意味を調べる。 授業：Unit 17 Personnel and Recruitment（教科書 pp. 90-93） （演習） 復習：教科書 p. 90 の説明を読み直し、Unit 17 の問題を改めて解く。
8	神谷 昇	【第 8 回】 予習：教科書 Unit 13 から Unit 17 までの内容を十分に復習しておく。 授業：Unit 18 Mini Test 3（教科書 pp. 94-97） （演習） 復習：教科書 Unit 18 の問題を改めて解く。
9	神谷 昇	【第 9 回】 予習：教科書 p. 98 の文法事項の説明を読む。また、p. 99 の単語の意味を調べる。 授業：Unit 19 Customer Service and Shipping（教科書 pp. 98-101） （演習） 復習：教科書 p. 98 の説明を読み直し、Unit 19 の問題を改めて解く。
10	神谷 昇	【第 10 回】 予習：教科書 p. 102 の文法事項の説明を読む。また、p. 103 の単語の意味を調べる。 授業：Unit 20 Trading and Ordering（教科書 pp. 102-105） （演習） 復習：教科書 p. 102 の説明を読み直し、Unit 20 の問題を改めて解く。

11	神谷 昇	【第 11 回】 予習：教科書 p. 106 の文法事項の説明を読む。また、p. 107 の単語の意味を調べる。 授業：Unit 21 Negotiations and Contracts（教科書 pp. 106-111）（演習） 復習：教科書 p. 106 の説明を読み直し、Unit 21 の問題を改めて解く。
12	神谷 昇	【第 12 回】 予習：教科書 p. 112 の文法事項の説明を読む。また、p. 113 の単語の意味を調べる。 授業：Unit 22 Presentations and Office Situations（教科書 pp. 112-117）（演習） 復習：教科書 p. 118 の説明を読み直し、Unit 22 の問題を改めて解く。
13	神谷 昇	【第 13 回】 予習：教科書 p. 118 の文法事項の説明を読む。また、p. 119 の単語の意味を調べる。 授業：Unit 23 Marketing and Office Supplies（教科書 pp. 118-121）（演習） 復習：教科書 p. 118 の説明を読み直し、Unit 23 の問題を改めて解く。
14	神谷 昇	【第 14 回】 予習：教科書 Unit 19 から Unit 23 までの内容を十分に復習しておく。 授業：Unit 24 Mini Test 4（教科書 pp. 122-125）（演習） 復習：教科書 Unit 24 の問題を改めて解く。
15	神谷 昇	【第 15 回】 予習：教科書 Unit 13 から Unit 24 を読み直し、問題を再度解く。 授業：Unit 13 から Unit 24 までのまとめ（教科書 pp. 70-125） 復習：教科書 pp. 70-125 の問題を改めて解く。

授業開始前学習	これまで学習してきた英文法と語法を復習しておくと授業が理解しやすい。
授業内課題のフィードバックの方法	授業中に行うアクティビティー、および、小テストについては、こちらで目を通し、次回の授業で返却する。返却の際に、必要に応じ解説を行う。
テキスト・教材	Joshua Cohen, Kei, Miura, Yoshio Nakamura, and Hiroshi Kimura. (2016) Reading Breakthrough for the TOEIC Test、南雲堂. ISBN: 978-4-523-17811-8
参考書	塘タカユキほか『総合英語 Forest（フォレスト） 第７版』（桐原書店） 田中茂範『表現英文法』（コスモピア）
評価の基準と方法	定期試験・授業中の演習など、総合的に行う。内訳は、定期試験（30%）、授業中の演習（20%）、小テスト（20%）、課題提出（10%）、授業態度（20%）である。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		△		◎	○

関連科目	英語学概論Ⅰ（第 12 回と第 13 回でこの授業の内容に基づいた発展的内容を学習する。）
その他	英語の辞書（英和辞典、和英辞典等）を持参すること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

観光学

科目分類（2025 年～入学者）	CT-M-211	科目分類（～2024 年入学者）	120-310-12	授業コード	FE0010
科目名称	観光学			単位数	2.0 単位
英文名称	Tourism			授業区分	講義
科目責任者	張　景泰			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	張　景泰			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期　月曜日 13:00～16:10 後期　水曜日 09:50～13:00			研究室	10-615
授業概要	観光学は歴史が浅い学問でありながら現代社会においてその重要性が増している。なぜならば、観光が人々の余暇活動の中心的位置を占めており、今後観光の果たす役割はますます大きくなっていくと思われる。さらに、観光が国の経済や文化・国民の生活にもたらす効果も高まってきているからである。本授業では、観光学の基礎理論を中心に観光の新たな動きと現場での対応も触れる。観光に関わる基本的なことを広く学び、観光産業分野で起きていることや課題について理解を深める。				
到達目標	①観光の用語・歴史、観光の仕組みを理解する。 ②観光の各要素、各観光産業の内容を理解し、詳細な内容を研究する。 ③与えられたテーマに関しては、自ら調べて自分の考えをレポートにまとめられる。グループワークでは、積極的に話し合い、意見を集約して仕上げることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	張　景泰	【第 1 回】 予習　：シラバス参照 授業　：観光を学ぶ意味、観光学とは？ 復習　：授業の方針を確認する。
2	張　景泰	【第 2 回】 予習　：事前配布のレジュメで予習する。 授業　：観光の定義、現代観光の構造と構成要素、現代観光の特色 復習　：第 2 回授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。
3	張　景泰	【第 3 回】 予習　：事前配布のレジュメで予習する。 授業　：観光の歴史①（欧米を中心に） 復習　：第 3 回授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。
4	張　景泰	【第 4 回】 予習　：事前配布のレジュメで予習する。 授業　：観光の歴史②（欧米を中心に）と新たな観光のあり方について 復習　：第 4 回授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。
5	張　景泰	【第 5 回】 予習　：事前配布のレジュメで予習する。 授業　：観光の歴史③（日本を含め、アジアを中心に） 復習　：第 5 回授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。
6	張　景泰	【第 6 回】 予習　：事前配布のレジュメで予習する。 授業　：観光文化ゼミの紹介 復習　：第 6 回授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。
7	張　景泰	【第 7 回】 予習　：事前配布のレジュメで予習する。 授業　：観光と交通 復習　：第 7 回授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。
8	張　景泰	【第 8 回】 予習　：事前配布のレジュメで予習する。 授業　：観光産業の構成と特徴 復習　：第 8 回授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。
9	張　景泰	【第 9 回】 予習　：事前配布のレジュメで予習する。 授業　：観光政策 復習　：第 9 回授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。
10	張　景泰	【第 10 回】 予習　：事前配布のレジュメで予習する。 授業　：　観光対象と観光資源 復習　：第 10 回授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。

11	張 景泰	【第 11 回】 予習 ：事前配布のレジュメで予習する。 授業 ：魅力を高める観光資源の開発 復習 ：第 11 回授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。
12	張 景泰	【第 12 回】 予習 ：事前配布のレジュメで予習する。 授業 ：観光施設 復習 ：第 12 回授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。
13	張 景泰	【第 13 回】 予習 ：事前配布のレジュメで予習する。 授業 ：世界の観光地と統合型リゾート（IR）を考える。（グループ・ディスカッション） 復習 ：第 13 回授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。
14	張 景泰	【第 14 回】 予習 ：事前配布のレジュメで予習する。 授業 ：世界のリゾートについて 復習 ：第 14 回授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。
15	張 景泰	【第 15 回】 予習 ：事前配布のレジュメで予習する。 授業 ：学習内容の総括 復習 ：授業の全体概要を確認する。

授業開始前学習	観光学概論や観光学総論、観光業界に関する資料を出来るだけ多く読むこと。
授業内課題のフィードバックの方法	授業 11 回目に行うグループワークショップについては 2 週後に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。
テキスト・教材	自前教科書『観光学』 そのほか、適宜プリントを配布します。
参考書	授業中に適宜参考書籍を紹介する。
評価の基準と方法	授業レポート 70 点(各回 5 点×14 回)、期末レポート 30 点、合計 100 点で評価する。 なお 5 回以上欠席した場合はその時点で不合格とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎			△

関連科目	
その他	普段から観光に関わることに興味をもって、マスコミ報道や観光図書に接することが望ましい。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CT-M-221 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	120-320-12 （Ｊ）	授業コード	FE0020
科目名称	観光政策論			単位数	2.0 単位
英文名称	Policy Studies of Tourism			授業区分	講義
科目責任者	鮫島 卓			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鮫島 卓			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30 後期 木曜日 10:40～12:10 月曜日 13:00～14:30			研究室	10-606
授業概要	本科目は、観光学の応用分野のひとつである観光政策ついて学び、社会における観光の重要性について学ぶことを目的としている。授業は 3 部構成となっている。 第 1 部は観光統計から現状を読み解きながら「観光立国を推進する国・地方の役割」について学ぶ。中でもインバウンド観光の恩恵が特定の大都市に集中し、オーバーツーリズム問題が起こるなど様々な対立が顕在化している。このような課題に国や地方自治体がどのように対応しているのかについて検討する。第 2 部は国際機関の役割・平和・国際協力に焦点を当てながら「国際観光と持続可能な観光」について学ぶ。中でも SDGs が観光に及ぼす影響について検討する。第 3 部は「観光と地域振興」をテーマにリゾート・テーマパーク、統合型リゾート、歴史的町並み観光地、温泉地観光地、農村観光地など類型ごとに観光地を紹介しながら、実態、課題、解決策について検討する。 観光の仕事は、旅行業・宿泊業・交通運輸業など狭義の観光産業に留まらず、国や地方行政、観光振興組織（DMO・DMC・観光協会）、まちづくり会社、地域商社、コンサルティング業にも広がっている。民間企業でも国際機関・国・地方自治体の観光政策に関与するビジネスも活発化している。この授業を通じて、観光の仕事の選択肢の広げ、自分の言葉で観光の重要性を説明できるようになってほしい。尚、行政・観光協会・DMO にインターンシップ実習を希望する学生は履修を勧める。				
到達目標	①「観光立国」と「持続可能な観光」を実現するための知識を習得する。 ②将来の選択肢を広げ、観光の重要性について自ら説明できるようになる。 ③自ら調べて自分の考えをレポートにまとめられるようになる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	鮫島 卓	【第 1 回】 予習 ：シラバスを読んでおく 授業 ：授業の概要と方針 観光立国とは何か―観光統計からみる観光の現状と観光政策― 《ディスカッション》 復習 ：授業レポートの提出
2	鮫島 卓	【第 2 回】 予習 ：教科書の該当箇所を読んでおく 授業 ：観光立国を推進する国、地方、DMO の役割《ディスカッション》 復習 ：授業レポートの提出
3	鮫島 卓	【第 3 回】 予習 ：教科書の該当箇所を読んでおく 授業 ：観光の功罪と観光税制ーオーバーツーリズムの解決策ー《ディスカッション》 復習 ：授業レポートの提出
4	鮫島 卓	【第 4 回】 予習 ：教科書の該当箇所を読んでおく 授業 ：SDGs と持続可能な観光ーサステナブルツーリズム誕生の背景ー《ディスカッション》 復習 ：授業レポートの提出
5	鮫島 卓	【第 5 回】 予習 ：教科書の該当箇所を読んでおく 授業 ：国際観光を支える国際機関の役割ーUN Tourism、UNESCOー《ディスカッション》 復習 ：授業レポートの提出
6	鮫島 卓	【第 6 回】 予習 ：教科書の該当箇所を読んでおく 授業 ：観光と平和ー観光は平和へのパスポートの真意ー《ディスカッション》 復習 ：授業レポートの提出
7	鮫島 卓	【第 7 回】 予習 ：教科書の該当箇所を読んでおく 授業 ：観光と国際協力ー国際協力機構（JICA）職員による講義ー 復習 ：授業レポートの提出
8	鮫島 卓	【第 8 回】 予習 ：教科書の該当箇所を読んでおく 授業 ：観光振興と観光開発理論ー外発的開発と内発的開発ー《ディスカッション》 復習 ：授業レポートの提出

9	鮫島 卓	【第 9 回】 予習 ：教科書の該当箇所を読んでおく 授業 ：リゾート・テーマパークと地域振興ーリゾートの特性とリゾート法の失敗に学ぶー《ディスカッション》 復習 ：授業レポートの提出
10	鮫島 卓	【第 10 回】 予習 ：教科書の該当箇所を読んでおく 授業 ：歴史的町並み観光地と地域振興ー景観と伝統的建造物群保存地区制度の利活用ー 《ディスカッション》 復習 ：授業レポートの提出
11	鮫島 卓	【第 11 回】 予習 ：教科書の該当箇所を読んでおく 授業 ：世界の統合型リゾートと日本の観光政策 《ディスカッション》 復習 ：授業レポートの提出
12	鮫島 卓	【第 12 回】 予習 ：教科書の該当箇所を読んでおく 授業 ：日本と世界の温泉観光地と地域振興 《ディスカッション》 復習 ：授業レポートの提出
13	鮫島 卓	【第 13 回】 予習 ：教科書の該当箇所を読んでおく 授業 ：農村観光地と地域振興ーイタリアのアグリツーリズモから学ぶー《ディスカッション》 復習 ：授業レポートの提出
14	鮫島 卓	【第 14 回】 予習 ：教科書の該当箇所を読んでおく 授業 ：交通政策と地域振興ーショートウェイシティ政策と Maasー 《ディスカッション》 復習 ：授業レポートの提出
15	鮫島 卓	【第 15 回】 予習 ：教科書の該当箇所を読んでおく 授業 ：日本の観光政策の課題と展望ーインバウンド観光の地域偏在、需要の季節変動と休暇制度、低い労働生産性ー 《ディスカッション》 復習 ：授業レポートの提出

授業開始前学習	「観光学」で学んだことを復習しておくと授業が理解しやすい。
授業内課題のフィードバックの方法	毎回、授業終了時に授業レポートの提出を義務付ける。次回授業時に講評を行い、個別の質問に回答する。
テキスト・教材	授業の中で、ワークシートを配布する。授業で使用するスライドはクラスルームにて掲示する。
参考書	授業の中で、適宜紹介する。
評価の基準と方法	毎回授業時に提出する授業レポートの小テストの成績 1 回 4 点×15 回（60%）、期末レポートの成績（40%）で総合的に評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	△	

関連科目	観光政策論は、観光学の応用分野であり、観光学の基礎知識として「観光学」と共に履修することを勧める。鮫島ゼミ生及び鮫島ゼミを希望する学生は履修を勧める。
その他	この授業で学んだことを実践するために「行政・観光協会」でのインターンシップ実習の履修を推奨する。また専門ゼミで鮫島ゼミを志望する人は履修するのが望ましい。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	教員は観光政策の地現活動を行っているほか、国際協力機構（JICA）のコンサルタントとしてミャンマー・ブータンでの観光開発計画の策定、稲城市観光協会会長職に従事した経験がある。また実務経験に基づいた授業を行っている。

科目分類（2025 年～入学者）	CT-M-221 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	120-320-12 （Ｊ）	授業コード	FE0030
科目名称	観光ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ論			単位数	2.0 単位
英文名称	Tourism Marketing Theory			授業区分	講義
科目責任者	鮫島 卓			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鮫島 卓			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30 後期 木曜日 10:40～12:10 月曜日 13:00～14:30			研究室	10-606
授業概要	本科目では、航空・宿泊・旅行・テーマパーク・観光地などの観光産業の事例を通してマーケティング理論を学ぶ。マーケテイングとは「企業が顧客のニーズに合わせた価値を提供し、利益を最大化すること」である。マーケティングの知識は、消費者でなく生産者の立場で経済や企業経営の仕組みを観る視点を養うことにもなる。マーケテイングの知識は企業研究や自己分析の方法として就職活動にも有用である。 本学では珍しい社会科学系の学問なので一見難しいと思われるかもしれないが、ディスニーリゾート、LCC、スターバックス、インスタグラムなど身近な事例を取り上げながら理解を深めていくので安心してほしい。特に将来、経営者・管理職・起業家、旅行企画、ブライダルプランナー、コンサルタントを目指す学生には、必須となる有益な知識である。期末には、学生が希望する地域や企業を選び、マーケティング理論を活用してその実態を分析するレポート作成を行う。				
到達目標	① 経済学およびマーケティングの基礎的な理論を習得する。 ② 観光産業のビジネスの仕組みを理解する。 ③ 自ら調べて自分の考えをレポートにまとめられるようになる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	鮫島 卓	【第 1 回】 予習 ：シラバスを読んでおく 授業 ： 授業の概要と方針・評価方法の説明 観光マーケティングと観光サービスの特性－ディズニーリゾートを事例に－ 復習 ：授業レポートの提出
2	鮫島 卓	【第 2 回】 予習 ：教科書の該当箇所を読んでおく 授業 ：観光のニーズとウォンツ－旅行動機の背景－ 《ディスカッション》 復習 ：授業レポートの提出
3	鮫島 卓	【第 3 回】 予習 ：教科書の該当箇所を読んでおく 授業 ：市場調査の方法－旅行者ニーズの見つけ方－《ディスカッション》 復習 ：授業レポートの提出
4	鮫島 卓	【第 4 回】 予習 ：教科書の該当箇所を読んでおく 授業 ：ポジショニング－選ばれる「強み」と「差別化」－《ディスカッション》 復習 ：授業レポートの提出
5	鮫島 卓	【第 5 回】 予習 ：教科書の該当箇所を読んでおく 授業 ：マーケティング・ミックス －商品開発の要素とプロセス－《ディスカッション》 復習 ：授業レポートの提出
6	鮫島 卓	【第 6 回】 予習 ：教科書の該当箇所を読んでおく 授業 ：購買決定プロセス－旅行者のカスタマージャーニー－《ディスカッション》 復習 ：授業レポートの提出
7	鮫島 卓	【第 7 回】 予習 ：教科書の該当箇所を読んでおく 授業 ：価格と流通 －ツアー代金の舞台裏―《ディスカッション》 復習 ：授業レポートの提出
8	鮫島 卓	【第 8 回】 予習 ：教科書の該当箇所を読んでおく 授業 ：価格戦略 －企業会計と価格決定の方法、行動経済学―《ディスカッション》 復習 ：授業レポートの提出
9	鮫島 卓	【第 9 回】 予習 ：授業の復習をしてテスト対策をする 授業 ：中間テスト 《オンデマンド》 復習 ：授業レポートの提出

10	鮫島 卓	【第 10 回】 予習 ：教科書の該当箇所を読んでおく 授業 ：サービス・マネジメント・システムーディズニーリゾートの舞台裏ー《ディスカッション》 復習 ：授業レポートの提出
11	鮫島 卓	【第 11 回】 予習 ：教科書の該当箇所を読んでおく 授業 ：リレーションシップ・マーケティングーリピーターを生み出す仕組みー《ディスカッション》 復習 ：授業レポートの提出
12	鮫島 卓	【第 12 回】 予習 ：教科書の該当箇所を読んでおく 授業 ：観光のデジタル・マーケティングーインターネットと観光の関係ー《ディスカッション》 復習 ：授業レポートの提出
13	鮫島 卓	【第 13 回】 予習 ：教科書の該当箇所を読んでおく 授業 ：マーケティング実践事例紹介・ゲスト講師による講義 《ディスカッション》 復習 ：授業レポートの提出
14	鮫島 卓	【第 14 回】 予習 ：教科書の該当箇所を読んでおく 授業 ：観光地のマーケティングーデスティネーションマーケティングと DMOー《ディスカッション》 復習 ：授業レポートの提出
15	鮫島 卓	【第 15 回】 予習 ：教科書の該当箇所を読んでおく 授業 ：コモディティと観光のブランディング《ディスカッション》 復習 ：授業レポートの提出

授業開始前学習	航空会社・ホテル・パッケージツアー・テーマパークなど様々なサービスを自分のお金で購入してサービスを享受する経験をできるだけ多くしていると授業が理解しやすい。
授業内課題のフィードバックの方法	毎回、授業終了時に授業レポートの提出を義務付ける。次回授業時に講評を行い、個別の質問に回答する。
テキスト・教材	鮫島卓（2021）『観光マーケティング論』駒沢女子大学教科書シリーズ
参考書	授業の中で、適宜紹介する。
評価の基準と方法	毎回授業時に提出する授業レポートの小テスト成績 1 回 4 点×15 回（60%）、中間テストの成績（10%）、期末レポートの成績（30%）で総合的に評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	△	

関連科目	観光マーケティング論は、観光学の基本科目であり、「観光学」と共に履修することを勧める。また観光文化コース専門ゼミで取組むツアープランニングにも有効な専門知識を得ることができる。
その他	観光マーケティングは、マーケティング理論を観光分野に応用させたものである。従って、その理論は、業種を問わずすべての企業で役に立つ知識となる。鮫島ゼミ生及び鮫島ゼミを希望する学生は受講を勧める。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	教員は旅行会社での旅行企画、国際観光イベントの企画運営、ハウステンボスのアトラクション開発など、ツーリズム産業で商品開発や新規事業開発を行ってきた。現在も ANA との学び旅の共同研究、種子島・対馬・稲城・多摩などの観光開発アドバイザーを担っており、実践経験に基づいた講義内容としている。

科目分類（2025 年～入学者）	CT-M-221	科目分類（～2024 年入学者）	120-320-12	授業コード	FE0040
科目名称	☆観光の PR とﾒﾃﾞｨｱ／観光ﾒﾃﾞｨｱ			単位数	2.0 単位
英文名称	Tourism Industry PR and Media／Media of Tourism			授業区分	講義
科目責任者	渡邉　光章			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	渡邉　光章			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期　水曜日 16:20～17:50　金曜日 10:40～12:10 後期　水曜日 16:20～17:50　金曜日 10:40～12:10			研究室	10-501
授業概要	観光客の地域への興味関心を高め、訪問客の増加を目的とする PR の手法について広く語る。購買欲や参加願望をくすぐる情報 PR ツールとしての観光地の土産物、商店街、レジャーランド、祭りなどの他、移動と観光のためのインフラ（旅客機、豪華客船、鉄道、車など）にもスポットを当て、人々を旅に導く効果的な PR 方法について広い角度から多彩な切り口で考察する。 「視覚訴求型」パワーポイントの使用。人間の情報収集能力の中で、「見る」は「読む」の 2 倍の情報を処理でき、取り入れた情報も「読む、聞く」より「見る」方が記憶に残る。更に「聞く＋見る」の両方を使って説明を受けると、2 時間後でも 60%の情報が記憶されているというデータがある。また、マイクロソフトのデータに、普通の人々が一般的な特徴のない 1 枚のパワーポイントに集中できる時間は 10 秒程度という研究結果がある。このことから、授業で使用するパワーポイントは、色彩、レイアウト、若干の動き（ラベルダウンなどのクイズ形式）で受講生が見やすく飽きのこない、また情報を整理し易い画面構成の「視覚訴求型」に設定しており、「見る＋聞く」の特に「見る」だけでも学生の受講意欲を上げるような視覚からの効果的な情報アウトプットによるアプローチを試みている。				
到達目標	「文字情報」は情報の詳細を正確に伝え、「ビジュアル（画像）情報」は情報の概要やイメージを印象的に伝える。数値で伝えれば情報は正確に伝わり、グラフや図にすれば情報の傾向や内容がよりわかりやすくなる。多くの事例から情報伝達の効果的な手法を知ることで、学生は情報の効果的な扱い方について理解を深めることができる。また、より魅力的な観光プランの紹介や発表（４年次のツアープラン発表会など）にも応用することが可能になる。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	渡邉　光章	【第 1 回】 予習：関心のある観光パンフレットや web 広告を見てみる 授業：ガイダンス【「観光の PR メディア」とは：観光業界における PR メディアの効能】 復習：観光の PR メディアとは？の問いかけに、200 字程度で回答する
2	渡邉　光章	【第 2 回】 予習：関心のあるイベントを見てみる 授業：イベントと観光の PR メディア：コンピュータテクノロジーの効果的な利用方法 復習：人気のテクノロジー型 PR イベント例をネットで調べてみる
3	渡邉　光章	【第 3 回】 予習：関心のある観光地の名物グルメを調べてみる 授業：食文化と観光の PR メディア：ミシュランガイドと観光ガストロノミー 復習：どのような観光グルメの人気が高いかを調べ、その根拠も調べてみる
4	渡邉　光章	【第 4 回】 予習：関心のある観光地のレジャーランドを調べてみる 授業：レジャーランドと観光の PR メディア：各地の比較検証：隆盛から廃墟化まで 復習：特定の観光地に誘うレジャーランドの実態を調べてみる
5	渡邉　光章	【第 5 回】 予習：関心のある商店街を調べてみる 授業：商店街と観光の PR メディア：歴史ある魅力的な観光スポットとして紹介 復習：伝統のある息の長い商店街の人気の理由を調べてみる
6	渡邉　光章	【第 6 回】 予習：関心のある観光クルーズを調べてみる 授業：海の旅と観光の PR メディア：豪華客船クルーズの実態と観光情報 復習：人気のあるクルーズの違いを比較検証してみる
7	渡邉　光章	【第 7 回】 予習：関心のある鉄道（列車やトラム）を見てみる 授業：鉄道の旅と観光の PR メディア：ビジュアル情報の効果的な使用方法 復習：観光に貢献した鉄道の例を調べてみる
8	渡邉　光章	【第 8 回】 予習：関心のある航空会社を調べてみる 授業：空の旅と観光の PR メディア：価格から読み解く観光プロモーションの比較と検証 復習：自分が行きたくなる観光地へ誘うポスターの表紙をイメージしてみる
9	渡邉　光章	【第 9 回】 予習：関心のあるドライブ観光のコースを調べてみる 授業：ドライブにまつわる観光事情と交通関連の PR メディア：標識やデザインによる心理的に無理のない危険回避や渋滞防止策とは 復習：自分が気になった交通標識について調べてみる。

10	渡邉　光章	【第 10 回】 予習：関心のある祭りを調べてみる 授業：祭りと観光の PR メディア：参加型イベント（コト消費）から読み解く観光の PR メディア 復習：自分が行ってみたい祭りの歴史と内容を調べてみる
11	渡邉　光章	【第 11 回】 予習：人気の観光土産を調べてみる 授業：土産物と観光の PR メディア 1 ：観光土産の種類と人気ランキング、その背景 復習：インバウンドの出身国による観光土産の人気度を比較してみる
12	渡邉　光章	【第 12 回】 予習：ユニークな自動販売機を調べてみる 授業：土産物と観光の PR メディア 2 ：観光土産から読み解く PR メディアとしての自販機の手法と効果 復習：観光土産を選ぶ理由を検証してみる
13	渡邉　光章	【第 13 回】 予習：話題性のある公衆トイレを探してみる 授業：オフィシャルサービスと観光の PR メディア：訴求対象から読み解く PR メディアの質と量 復習：公衆トイレを国民性やサービスの観点から見直してみる
14	渡邉　光章	【第 14 回】 予習：観光地の案内で人を救うホスピタリティー「ピクトグラム」について考えてみる 授業：観光とプリントメディア：日本の誇る PR メディア「ピクトグラム」のデザイン＆ポスター 復習：観光客へのおもてなし精神について考える
15	渡邉　光章	【第 15 回】 予習：日本全国の難読地名を調べてみる 授業：地名と観光の PR メディア：読めなければ観光地を紹介できない（地名の知識と読解力）、研究全体の整理 復習：魅力的な観光の PR メディアを考えてみる

授業開始前学習	観光に関する PR メディアとして、web 広告だけでなく、駅貼りポスター（デジタルサイネージも含む）、旅行代理店に置いてあるパンフレット、電車など乗り物内の中吊り広告、ネットに出てくる観光旅行の広告などのプリントメディアなどに代表される観光広告全般を意識して見ておくと授業が理解しやすく、PR メディアを通して社会性の涵養にも役立つ準備となる。
授業内課題のフィードバックの方法	講義の最後に、毎回「振り返りレポート」を提出する。このレポート提出により出欠席を判定する。講義で学んだ重要ポイントや発見したこと、よくわからなかったことへの質問事項などを記入してもらい、そのフィードバックは、学生が提出したレポートの内容によって適宜 1 人ずつ個別対応を行い、場合によっては次回講義の冒頭で全体に伝える形式で実施している。
テキスト・教材	授業中に適宜配付する。
参考書	授業を通じて適時紹介する。
評価の基準と方法	毎回提出する課題レポートに書かれた内容に重きを置き、総合的に評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	△		

関連科目	地域観光資源研究（前期）を合わせて履修すると、より理解が深まる。
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）	CT-M-221	科目分類（～2024年入学者）	120-320-12	授業コード	FE0050
科目名称	ﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨ概論			単位数	2.0単位
英文名称	Introduction to Hospitality			授業区分	講義
科目責任者	張　景泰			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	張　景泰			開講時期	2年
オフィスアワー	前期　月曜日 13:00～16:10 後期　水曜日 09:50～13:00			研究室	10-615
授業概要	現在のホスピタリティ産業界は、社会に対して大きな影響力と日々変化を見せており、その正確な情報の把握が今後の展望を担う重要な鍵になると考えられる。本授業はホスピタリティ産業の仕組みを理解したうえで、「関連専門知識の理解」と「ホスピタリティ産業の今後の方向性について議論する」ことで、ホスピタリティの基礎を学ぶ。				
到達目標	①ホスピテリティの用語と関連用語・歴史・ホスピテリティの仕組みを理解する。 ②ホスピテリティ関連産業の仕事内容を理解し、詳細な内容を研究する。 ③与えられたテーマに関しては、自ら調べて自分の考えをレポートにまとめられる。グループワークでは、積極的に話し合い、意見を集約して仕上げることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	張　景泰	【第1回】 予習　：ホスピタリティについて調べ、考える 授業　：授業のイントロダクション　ホスピタリティとは？ 復習　：授業内容の確認、ホスピィタリティについて確認
2	張　景泰	【第2回】 予習　：配布資料を読む 授業　：ホスピテリティ理論（1）「ホスピタリティ」の概念、ホスピタリティの基本的性格 復習　：授業内容をベースに配布資料再読
3	張　景泰	【第3回】 予習　：配布資料を読む 授業　：ホスピテリティ理論（2）ビジネス用語としての「ホスピタリティ」、「インターンシップ」の基本 復習　：授業内容をベースに配布資料再読
4	張　景泰	【第4回】 予習　：配布資料を読む 授業　：ホスピテリティ理論（3）「ホスピタリティ、サービスと観光」 復習　：授業内容をベースに配布資料再読
5	張　景泰	【第5回】 予習　：配布資料を読む 授業　：ホスピテリティ理論（4）「マナーとホスピテリティ」 復習　：授業内容をベースに配布資料再読
6	張　景泰	【第6回】 予習　：配布資料を読む 授業　：ケーススタディー（1）リッツ・カールトンから学ぶホスピタリティ① 復習　：授業内容をベースに配布資料再読
7	張　景泰	【第7回】 予習　：配布資料を読む 授業　：ケーススタディー（1）リッツ・カールトンから学ぶホスピタリティ② 復習　：授業内容をベースに配布資料再読
8	張　景泰	【第8回】 予習　：配布資料を読む 授業　：ケーススタディー（2）医療とホスピタリティ 復習　：授業内容をベースに配布資料再読
9	張　景泰	【第9回】 予習　：配布資料を読む 授業　：ケーススタディー（3）スターバックスから学ぶホスピタリティ 復習　：授業内容をベースに配布資料再読
10	張　景泰	【第10回】 予習　：配布資料を読む 授業　：ケーススタディー（4）「航空・空港業界」から学ぶホスピタリティ 復習　：授業内容をベースに配布資料再読
11	張　景泰	【第11回】 予習　：配布資料を読む 授業　：ケーススタディー（5）ディズニーリゾートから学ぶホスピタリティ① 復習　：授業内容をベースに配布資料再読

12	張 景泰	【第 12 回】 予習 ：配布資料を読む 授業 ：グループディスカッション（事例研究ワークショップ） 復習 ：授業内容をベースに配布資料再読
13	張 景泰	【第 13 回】 予習 ：配布資料を読む 授業 ：ケーススタディー（５）ディズニーリゾートから学ぶホスピタリティ② 復習 ：授業内容をベースに配布資料再読
14	張 景泰	【第 14 回】 予習 ：配布資料を読む 授業 ： ケーススタディー（６）ブライダル産業から学ぶホスピタリティ 復習 ：授業内容をベースに配布資料再読
15	張 景泰	【第 15 回】 予習 ：授業全体をレビューする 授業 ：ホスピテリティ理論（５）ホスピタリティ・コーチング、ホスピタリティの今後の課題と総括 復習 ：授業全体を復習

授業開始前学習	日常生活おけるホスピタリティを考えておく。
授業内課題のフィードバックの方法	毎回の授業において作成・提出される授業課題レポートに対し、次回の授業で講評と質問に対する回答を行う。
テキスト・教材	自前教科書『ホスポタリティ概論』 そのほか、適宜プリントを配布します。
参考書	授業の中で、適宜紹介する。
評価の基準と方法	授業レポート 70 点(各回 5 点×14 回)、期末レポート 30 点、合計 100 点で評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎			△

関連科目	インターンシップ実習科目を履修する学生は本科目を履修することが望ましい。
その他	普段からホスピテリティに関わることに興味をもって、マスコミ報道やホスピテリティ関連書籍に接することが望ましい。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）	CT-M-221 （Ｊ）	科目分類（～2024年入学者）	120-320-12 （Ｊ）	授業コード	FE0060
科目名称	ﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨ･ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ			単位数	2.0 単位
英文名称	Hospitality Management			授業区分	講義
科目責任者	松本　三保			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松本　三保			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	ホスピタリティは近年グローバル化が進む社会や様々な産業において重要視されている。観光学におけるサービス産業の特性を捉え、ホスピタリティ概念を理解し、ホスピタリティ・マネジメントの実現に必要とされる要素について学ぶ。 また、ホスピタリティ概念を適用したホスピタリティ・マネジメントの社会的価値や経済的価値について考察する。後半ではホスピタリティ・マネジメントを実践する企業を紹介し理解深める。本授業ではディスカッションやロールプレイを取り入れ自ら考え発信する力を養う。				
到達目標	1. ホスピタリティ・サービス・おもてなしの特性を理解し説明できる。 2. ホスピタリティ・マネジメントの社会的価値と経済的価値を理解する。 3. ホスピタリティ概念を国際社会で活用できる。 4. ホスピタリティ精神を実務や社会生活で発揮できる人間性を養う。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	松本　三保	【第１回】 予習：シラバスを参照し、授業スケジュールと参考書を確認しておく。 授業：前半はシラバスの確認。授業の概要や注意事項、ディスカッションのポイントを説明。後半は与えられたテーマについてディスカッションを行う。「ディスカッション」 復習：配布資料、注意事項、質問や疑問点の確認。課題を提出する。
2	松本　三保	【第２回】 予習：配布資料とキーワードの確認。ホスピタリティ・サービス・おもてなしの言葉がどのような場面で使われているか調べておく。（参考書 pp.3-23） 授業：ホスピタリティ・サービス・おもてなしの特性１．（定義・語源・歴史について） 復習：授業内容と配布資料、キーワード、質問や疑問点の確認。課題を提出する。
3	松本　三保	【第３回】 予習：配布資料とキーワードの確認。前回の授業をもとにサービスとホスピタリティの特性をまとめる。（参考書 pp.3-23） 授業：ホスピタリティ・サービス・おもてなしの特性２．（概念・顧客価値について） 復習：第２回と第３回の授業内容をまとめておく。キーワード、質問や疑問点の確認。課題を提出する。
4	松本　三保	【第４回】 予習：配布資料とキーワードの確認。マーケティングミックスについて調べておく。（参考書 pp.28-46） 授業：サービスの特性とサービス・マーケティング（サービス・マーケティングミックスとリレーションシップ・マーケティング） 復習：授業内容と配布資料、キーワード、質問や疑問点の確認。課題を提出する。
5	松本　三保	【第５回】 予習：配布資料とキーワードの確認。 自身のクレーム体験をまとめておく。(参考書 pp.52-66) 授業：サービスリカバリーとエンパワーメント（クレーム対応のステップ）「ロールプレイ」 復習：授業内容と配布資料、キーワード、質問や疑問点の確認。課題を提出する。
6	松本　三保	【第６回】 予習：配布資料とキーワードの確認。商品を購買する動機について自身の意見をまとめておく。（参考書 pp.77-95） 授業：顧客満足と経済的効果（顧客の認知と行動、顧客ロイヤリティーとの関わりについて） 復習：授業内容と配布資料、キーワード、質問や疑問点の確認。課題を提出する。
7	松本　三保	【第７回】 予習：配布資料とキーワードの確認。従業員満足の要素について自身の意見をまとめておく。（参考書 pp.103-120） 授業：従業員満足と経済的効果（顧客満足・職務満足との関わり、サービス・プロフィットチェーン、感情労働） 復習：授業内容と配布資料、キーワード、質問や疑問点の確認。課題を提出する。
8	松本　三保	【第８回】 予習：配布資料とキーワードの確認。ホスピタリティ産業に必要なコミュニケーションについて自身の意見をまとめておく。（参考書 pp.128-149） 授業：ホスピタリティ産業の人材と組織　（パーソナリティ、コミュニケーションについて） 復習：授業内容と配布資料、キーワード、質問や疑問点の確認。課題を提出する。

9	松本　三保	【第９回】 予習：配布資料とキーワードの確認。訪日外国人客向けサービスについて調べる。ディスカッションの資料を見直しておく。 授業：国際観光とホスピタリティ（異文化コミュニケーションについて）　「ディスカッション」 復習：授業内容と配布資料、キーワード、質問や疑問点の確認。課題を提出する。
10	松本　三保	【第１０回】 予習：配布資料とキーワードの確認。現代の社会的課題について調べる。ディスカッションの資料を見直しておく。 授業：ホスピタリティ概念と社会的価値（ホスピタリティ概念で解決できる社会的課題について）　「ディスカッション」 復習：授業内容と配布資料、キーワード、質問や疑問点の確認。課題を提出する。
11	松本　三保	【第１１回】 予習：配布資料とキーワードの確認。宿泊産業の概要と特性を調べる。 授業：宿泊産業のホスピタリティ・マネジメント（リッツ・カールトンのミスティーク） 復習：授業内容と配布資料、キーワード、質問や疑問点の確認。課題を提出する。
12	松本　三保	【第１２回】 予習：配布資料とキーワードの確認。ブライダル産業の概要とブライダル商品の構成要素を調べる。ロールプレイの資料を見直しておく。 授業：ブライダル産業のホスピタリティ・マネジメント（ブライダルプランナーのコミュニケーション）「ロールプレイ」 復習：授業内容と配布資料、キーワード、質問や疑問点の確認。課題を提出する。
13	松本　三保	【第１３回】 予習：配布資料とキーワードの確認。興味のあるテーマパーク・レジャー施設の概要を調べる。 授業：テーマパーク・レジャー産業のホスピタリティ・マネジメント（ディズニーランドのホスピタリティ・マネジメント） 復習：授業内容と配布資料、キーワード、質問や疑問点の確認。課題を提出する。
14	松本　三保	【第１４回】 予習：配布資料とキーワードの確認。ホスピタリティ産業界への AI 導入について自身の意見をまとめる。ディスカッションの資料を見直しておく。 授業：ホスピタリティ・マネジメントの課題と展望（AI との共存・価値共創の時代）「ディスカッション」 復習：授業内容と配布資料、キーワード、質問や疑問点の確認。課題を提出する。
15	松本　三保	【第１５回】 予習：全授業の配布資料と課題レポートを見直しておく。疑問点や質問をまとめる。 授業：全授業の振り返りと質疑応答。学期末レポートの提出。 復習：各回のポイントをまとめ、質問や疑問点を明確にする。

授業開始前学習	様々な企業や組織（地域社会、教育機関、ボランティア団体等）の取り組みについて書籍やインターネットを閲覧し自分自身のホスピタリティに対するイメージを持つようにする。特に自分の興味のある業界や企業がどのようにホスピタリティを取り入れているかを調べておく。
授業内課題のフィードバックの方法	1．授業内課題または演習問題に関して、後日の授業初めに補足説明や講評をする。 2．個別質問や相談については学生間で共有できるようなるべく授業内で回答し、必要に応じてメールで補足する。
テキスト・教材	配布資料を予習のためクラスルームにアップロードし、講義内でも配布する。
参考書	山口一美著 『感動経験を創る！ホスピタリティ・マネジメント[第３版]』（創成社）　2020 年
評価の基準と方法	学期末レポート（50%）、ディスカッション等の授業での積極性と貢献度（20%）、課題提出（30%）の総合評価。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	△		○

関連科目	「ホスピタリティ概論」を履修することが望ましい。
その他	常に理論と実践をセットで考える習慣を身につけてほしい。日頃から観光業界に加えて様々なホスピタリティ業界（医療・美容・教育・飲食店等）について意識的に観察し自分の考えや発見をまとめておく。 理解と知識を深めるため、推奨する書籍は授業内で随時、紹介する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	長年の海外駐在とリゾートホテルでの勤務経験を活かし、国際社会における多様なホスピタリティに適応できるグローバルな人材育成を視野に講義を行う。ホスピタリティ理論を実務に活かせる指導を行なう。

科目分類（2025 年～入学者）	CT-M-221 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	120-320-12 （Ｊ）	授業コード	FE0070
科目名称	観光社会学			単位数	2.0 単位
英文名称	Sociology of Tourism			授業区分	講義
科目責任者	佐藤　奈緒子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	佐藤　奈緒子			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	観光社会学は、社会現象としての「観光」の本質を探究し、その成果を手掛かりに社会の本質をも考察することができる学問である。 本授業は、現代社会の成り立ちを観光という観点から捉え、多様な観光現象の事例を通して現代社会における「新たな観光と持続可能な観光」のあり方について学ぶ。 実践的学びを通して、在学中及び卒業後の職業生活や自身のライフスタイルにおいて「新しいツーリズムを創造する」一助となる。				
到達目標	①観光社会学の基礎的な理論を習得する。 ②観光社会学に関する事例を用いて、現代の多様な観光現象を理解する。 ③自ら調べて自分の考えをレポートにまとめ、自身のキャリアを自律的に考えられるようになる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	佐藤　奈緒子	【第 1 回】 予習　：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「観光社会学」 授業　：授業ガイダンス（概要と方針・評価方法の説明） 観光社会学とは/観光が社会に与える影響とは 復習　：授業内配布物の見直し
2	佐藤　奈緒子	【第 2 回】 予習　：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「観光産業の位置付け/観光客数/消費額など」 授業　：データからみる世界と日本の観光産業の現在地《ディスカション》 復習　：授業レポートの提出
3	佐藤　奈緒子	【第 3 回】 予習　：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「観光産業/キャリアなど」 授業　：観光産業に求められる人材像とキャリア《ディスカション》 復習　：授業レポートの提出
4	佐藤　奈緒子	【第 4 回】 予習　：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「観光/地方創生/地域活性化など」 授業　：観光の社会的・文化的意義/観光産業が与える社会的影響①《ディスカション》 復習　：授業レポートの提出
5	佐藤　奈緒子	【第 5 回】 予習　：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「観光/文化交流など」 授業　：観光の社会的・文化的意義/観光産業が与える社会的影響②《ディスカション》 復習　：授業レポートの提出
6	佐藤　奈緒子	【第 6 回】 予習　：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「観光振興施策/持続可能な観光など」 授業　：観光白書から読み解く観光戦略①《ディスカション》 復習　：授業レポートの提出
7	佐藤　奈緒子	【第 7 回】 予習　：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「観光とデジタル化/観光地の競争力向上など」 授業　：観光白書から読み解く観光戦略②《ディスカション》 復習　：授業レポートの提出
8	佐藤　奈緒子	【第 8 回】 予習　：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「オーバーツーリズム/社会課題など」 授業　：日本・海外における観光産業の事例①～観光客と地域住民の共存～《ディスカション》 復習　：授業レポートの提出
9	佐藤　奈緒子	【第 9 回】 予習　：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「エコツーリズム/グリーンツーリズムなど」 授業　：日本・海外における観光産業の事例②～観光とサステナビリティ・ 環境に優しい旅のかたち～《ディスカション》 復習　：授業レポートの提出
10	佐藤　奈緒子	【第 10 回】 予習　：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「パンデミック/観光産業の変化など」 授業　：日本・海外における観光産業の事例③～観光産業の危機管理と再生～《ディスカション》 復習　：授業レポートの提出

11	佐藤　奈緒子	【第 11 回】 予習　：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「観光メディア/SNS/観光マーケティングなど」 授業　：観光とメディア～SNS が変えた観光の形～ 《ディスカション》 復習　：授業レポートの提出
12	佐藤　奈緒子	【第 12 回】 予習　：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「DX（デジタルトランスフォーメーション）、AI エージェントなど」 授業　：次世代観光の到来（観光 DX）～デジタル技術で変わる観光の未来～《ディスカション》 復習　：授業レポートの提出
13	佐藤　奈緒子	【第 13 回】 予習　：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「観光地の国際化/観光産業の海外展開など」 授業　：観光産業のグローバリゼーション 《ディスカション》 復習　：授業レポートの提出
14	佐藤　奈緒子	【第 14 回】 予習　：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「デジタルツーリズム/シェアリングエコノミー/パーソナライズド・ツーリズムなど」 授業　：観光産業のイノベーション 《ディスカション》 復習　：授業レポートの提出
15	佐藤　奈緒子	【第 15 回】 予習　：WEB 検索、書籍による情報検索 授業　：期末レポートフィードバック まとめ　観光社会学の未来～観光業界で働くには？未来のキャリアを考える～ 復習　：授業レポートの提出

授業開始前学習	授業開始前に授業の内容記載のキーワードを検索し、情報を得ておくと授業が理解しやすい。
授業内課題のフィードバックの方法	毎回、授業終了時に授業レポートの提出を義務付ける。次回授業時に講評を行い、個別の質問に回答する。
テキスト・教材	特定の教科書は使用しない。
参考書	安村・堀野・遠藤・寺岡編著 「よくわかる観光社会学」ミネルヴァ書房 2011 その他、授業の中で適宜紹介する。
評価の基準と方法	平常点(出席レポート・授業への貢献) 50%、期末レポート 50%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○			△	◎			

関連科目	特になし。
その他	・受講者数や理解度により授業の予定を変更することもある。 ・オンデマンドでの講義を 2 回含む予定
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	教員は、旅行会社に長らく従事し法人渡航における各種企画・添乗経験（学生向けスタディーツアー、各種海外イベント企画、海外視察コーディネート、海外進出支援等）と、海外支店での法人事業立ち上げの経験を行ってきた実績を持つ。実践経験に基づいた講義内容としている。 ※総合旅行業務取扱管理者の資格有

科目分類（2025 年～入学者）	CT-M-221 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	120-320-12 （Ｊ）	授業コード	FE0080
科目名称	観光人類学			単位数	2.0 単位
英文名称	Anthropology of Tourism			授業区分	講義
科目責任者	ゼイヤー ウィン			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	ゼイヤー ウィン			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 月曜日 10:40～12:10 水曜日 10:40～12:10 後期 水曜日 10:40～12:10 木曜日 10:40～12:10			研究室	10-604
授業概要	新型コロナ感染症の収束に伴い、国際社会における人々の移動（観光を含む）が再び活発になりつつあり、それぞれの国や観光地は観光産業の復興に向けて様々な方針及び政策を打ち出している。しかし、現状的には近年それぞれの観光地が直面したオーバーツーリズムをはじめとする観光開発の様々な課題に対する対策は試行錯誤の段階にあるといえる。本講義は観光開発が対象化された地域社会にもたらす社会・文化変容・環境問題などを歴史的な視点から学習し、観光の場における重層的な人々の関係を中心に観光人類学的視点から読み解くことを目標とする。また観光は学際的な研究分野であり、「学」として観光に関する知識及び基礎的概念や理論を学ぶために、関連するその他の社会科学（社会学・歴史学・開発学等）の既存概念・理論を参照しながら授業を進行する。				
到達目標	本講義は「観光」と「社会・文化」の関係性に関するそれぞれテーマ性の異なる事例及び観光地を学習することによって、社会・文化に対する理解能力と地域社会の課題に対する分析力の向上を目指す。 ＊観光産業の社会的な役割を説明できるようになる。 ＊理論と実例を通して観光と文化の関係性を理解する。 ＊地域社会へ観光開発がもたらす影響の諸側面を理解する。 ＊文化をテーマにした観光の諸活動を理解する。 ＊観光開発を通して、観光地の地元社会が抱える課題に関する分析力向上を目指す。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	ゼイヤー ウィン	【第 1 回】 予習 ：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「観光文化研究」 授業 ：授業趣旨説明＋自己紹介（観光研究×観光開発×東南アジア） 復習 ：授業内配布物・講義内容の見直し
2	ゼイヤー ウィン	【第 2 回】 予習 ：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「観光」 授業 ：観光の概要と構造 復習 ：授業内配布物・講義内容の見直し
3	ゼイヤー ウィン	【第 3 回】 予習 ：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「文化人類学」 授業 ：観光人類学とは：文化人類学と観光研究 復習 ：授業内配布物・講義内容の見直し
4	ゼイヤー ウィン	【第 4 回】 予習 ：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「権力・開発」 授業 ：観光の政治性：観光開発とは 復習 ：授業内配布物・講義内容の見直し
5	ゼイヤー ウィン	【第 5 回】 予習 ：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「文化政策・本質主義」 授業 ：観光の政治性：文化政策と観光開発《これまで授業内容のふりかえり・ディスカッション》 復習 ：授業内配布物・講義内容の見直し
6	ゼイヤー ウィン	【第 6 回】 予習 ：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「世界遺産」 授業 ：世界遺産と観光開発：東南アジアの事例から 復習 ：授業内配布物・講義内容の見直し
7	ゼイヤー ウィン	【第 7 回】 予習 ：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「観光文化」 授業 ：観光と文化変容 観光化による文化創造 復習 ：授業内配布物・講義内容の見直し
8	ゼイヤー ウィン	【第 8 回】 予習 ：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「擬似イベント」 授業 ：観光行動と観光体験 復習 ：授業内配布物・講義内容の見直し

9	ゼイヤー ウィン	【第 9 回】 予習 ：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「イメージ形成」 授業 ：観光とメディア 楽園のイメージ形成 復習 ：授業内配布物・講義内容の見直し
10	ゼイヤー ウィン	【第 10 回】 予習 ：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「社会・記憶」 授業 ：観光とノスタルジア《これまで授業内容のふりかえり・ディスカッション》 復習 ：授業内配布物・講義内容の見直し
11	ゼイヤー ウィン	【第 11 回】 予習 ：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「災害・記憶」 授業 ：ダークツーリズムと防災観光 復習 ：授業内配布物・講義内容の見直し
12	ゼイヤー ウィン	【第 12 回】 予習 ：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「ミャンマ・タイ・少数民族」 授業 ：エスニック・ツーリズムと多民族社会 復習 ：授業内配布物・講義内容の見直し
13	ゼイヤー ウィン	【第 13 回】 予習 ：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「観光資源」 授業 ：観光と人・モノの移動 復習 ：授業内配布物・講義内容の見直し
14	ゼイヤー ウィン	【第 14 回】 予習 ：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「ふるさとの資源化」 授業 ：観光と文化の資源化 復習 ：授業内配布物・講義内容の見直し
15	ゼイヤー ウィン	【第 15 回】 予習 ：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「観光問題」 授業 ：まとめ 観光人類学から観光を再考する 復習 ：授業内配布物の見直し、レポートのコメント・総評

授業開始前学習	参考文献に示している文献などで観光学習の基礎的知識について理解を深めておき、自分自身の過去の観光した経験に関するついて整理しておこう。また、観光に関わるニュースメディア・観光雑誌・インターネットなどで気になることがあったら、メモをとっておこう。
授業内課題のフィードバックの方法	毎回のリアクションペーパー課題内容について、適宜見直しを行う。また、必要に応じて課題の記述内容を適宜授業内で紹介してコメントする。
テキスト・教材	特定の教科書は使用しない。講義の中でプリントを配布する。参考とする文献、WEB サイトは適宜配布プリントの中で提示する。
参考書	市野澤潤平（編）基礎概念から学ぶ観光人類学 2022 須藤廣その他（編）観光コミュニケーション論 2022 市野澤潤平その他（編）観光人類学のフィールドワークーツーリズム現場の質的調査入門 2021
評価の基準と方法	出席回数が学則の条件を満たした者を評価対象とする。 講義ごとに提出するリアクションペーパー課題(45%)、受講態度(30%)、期末レポート（25%）で評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○			△	◎			

関連科目	観光社会学
その他	講義資料として、文献や映像を提示するので批判的に読み解いて欲しい。 なお、受講者数や理解度合いにより授業の予定を変更することもある。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	教員は東南アジアの旅行会社で働いた経験を持つ。また、国際協力機構（JICA）の開発コンサルタントや大学研究機関の研究員として、ベトナム、タイ、ミャンマー、インドネシア等での開発調査や学術調査に従事した経験もあり、これらの実務経験による実際の現場における事例を活用する。

科目分類（2025 年～入学者）	CT-M-221 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	120-320-12 （Ｊ）	授業コード	FE0220
科目名称	宿泊業･飲食業実務論			単位数	2.0 単位
英文名称	Practical Studies in Hotels and Catering Industries			授業区分	講義
科目責任者	松本　三保			必修･選択	履修ガイド参照
担当教員	松本　三保			開講時期	2･3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	本授業はホテル･旅館を主に国内外の宿泊産業の歴史、変遷、分類、定義等の概要を理解し全体像を把握する。 経営形態、運営組織、ホテル関連法規、収益構造等の基礎知識と共に販売促進やマーケティング、ブランド戦略について学ぶ。実務面での理解を深めるため、各部門の業務と役割について紹介する。 飲食業については観光との接点に着目し、ライフスタイルと共に変化する食文化や食の安心･安全、訪日外国人を含めた消費者の多様性とその対応について講義する。宿泊業と飲食業の社会的貢献や責任についても考察する。				
到達目標	1．宿泊業･飲食業の専門知識を修得する。 2．修得した知識や理論を実務に活かせる。 3．国際社会に対応できる応用力を身に着ける。 4．宿泊業･飲食業の社会的貢献と責任を理解し自分の意見が発信できる。				
アクティブ･ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	松本　三保	【第１回】 予習：配布資料とシラバスを参照し、授業スケジュールを確認しておく。 授業：前半はシラバスの確認。授業の概要や注意事項、ディスカッションのポイントを説明。後半は与えられたテーマについてディスカッションを行う。「ディスカッション」 復習：配布資料、注意事項、質問や疑問点の確認。課題を提出する。
2	松本　三保	【第２回】 予習：配布資料とキーワードの確認。ホテルの歴史と変遷を調べる。（参考書･第５章、第９章　） 授業：ホテル･旅館の歴史と変遷。 復習：授業内容と配布資料、キーワード、質問や疑問点の確認。課題を提出する。
3	松本　三保	【第３回】 予習：配布資料とキーワードの確認。宿泊業の種類について調べる。（参考書･第１章 pp.2-11（４）、第４章、第１４章） 授業：宿泊産業の分類と関連法規。企業研究発表の説明。 復習：授業内容と配布資料、キーワード、質問や疑問点の確認。　課題を提出する。
4	松本　三保	【第４回】 予習：配布資料とキーワードの確認。ホテルの施設と業務について調べる。（参考書･第２章、レベニューマネジメントについては第６回に説明） 授業：ホテルの組織と仕事１（組織編制と各部門の役割･業務内容、宿泊部門の実務について） 復習：授業内容と配布資料、キーワード、質問や疑問点の確認。課題を提出する。
5	松本　三保	【第５回】 予習：配布資料とキーワードの確認。ホテルの施設と業務について調べる。（参考書･第２章、レベニューマネジメントについては第６回に説明） 授業：ホテルの組織と仕事２（宴会･婚礼部門の実務について） 復習：授業内容と配布資料、キーワード、質問や疑問点の確認。課題を提出する。
6	松本　三保	【第６回】 予習：配布資料とキーワードの確認。ホテルのホームページを閲覧し、どのような料理を提供しているか調べておく。（参考書･第２章 pp.29-38） 授業：ホテルの料飲とテーブルサービスの基礎知識 復習：授業内容と配布資料、キーワード、質問や疑問点の確認。課題を提出する。
7	松本　三保	【第７回】 予習：配布資料とキーワードの確認。　インターネット等でホテルのホームページを閲覧し、企業情報･会社概要を調べてみる。（参考書･第１章 pp.12-21、第２章 p.27、第１０章、第１１章　） 授業：宿泊産業の経営形態と収益管理（経営･運営･所有の分離、価格の流動性、財務諸表について） 復習：授業内容と配布資料、キーワードの確認。　課題を提出する。
8	松本　三保	【第８回】 予習：配布資料とキーワードの確認。　グローバル展開をしているホテルについてインターネット等で調べる。（参考書･第６章、第７章、第８章） 授業：グローバルオペレーターの概要とブランド戦略 復習：授業内容と配布資料、キーワード、質問や疑問点の確認。課題を提出する。

9	松本　三保	【第９回】 予習：配布資料とキーワードの確認。ホテルのホームページを閲覧し、宿泊プランを調べる。（参考書・第３章） 授業：ホテルのマーケティングと営業部門（付加価値をつけて収益の最大化を図る商品企画） 復習：　授業内容と配布資料、キーワード、質問や疑問点の確認。課題を提出する。
10	松本　三保	【第１０回】 予習：企業研究発表のポイントを整理し期限までに提出する。 授業：企業研究発表と総評。「発表」 復習：発表内容について質問や疑問点の確認。課題を提出する。
11	松本　三保	【第１１回】 予習：配布資料とキーワードの確認。フードサービス産業の種類を調べておく。 授業：フードサービス産業の歴史と領域　（内食・中食・外食産業。市場と産業の特性、ライフスタイルとの関わりについて） 復習：授業内容と配布資料、キーワード、質問や疑問点の確認。課題を提出する。
12	松本　三保	【第１２回】 予習：配布資料とキーワードの確認。ホテルや外食チェーンのホームページを閲覧し、社会貢献について調べておく。（参考書・第１５章） 授業：宿泊業・フードサービス業の社会貢献と責任（安全・安心の確保） 復習：授業内容と配布資料、キーワード、質問や疑問点の確認。課題を提出する。
13	松本　三保	【第１３回】 予習：配布資料とキーワードの確認。顧客が宿泊施設や飲食店を選択する方法や動機について調べる。ディスカッションの資料を見直しておく。 授業：宿泊業・飲食業の宣伝広告活動、DX と AI 導入について。「ディスカッション」 復習：授業内容と配布資料、キーワード、質問や疑問点の確認。　課題を提出する。
14	松本　三保	【第１４回】 予習：配布資料とキーワードの確認。　和食の種類や特徴について調べる。 授業：UNESCO 無形文化遺産。食のダイバシティとフードツーリズムについて。 復習：授業内容と配布資料、キーワード、質問や疑問点の確認。課題を提出する。
15	松本　三保	【第１５回】 予習：全授業の配布資料を再確認し質問や疑問点を記録しておく。 授業：全授業に関する質疑応答と最終確認テスト 復習：最終確認テストを振り返り、自己評価をする。

授業開始前学習	ホテル・旅館・飲食店のホームページを閲覧し、その特徴、企業理念、商品内容等を具体的に理解しておく。 ホテル・旅館・飲食店を訪れた際には、気づいたことや課題点、推奨点等を記録しておく。
授業内課題のフィードバックの方法	1．課題レポートや演習問題に関して、学生と共有しながら補足説明と講評をする。 2．企業研究発表は授業内で講評する。 3．個別質問については学生間で共有できるようなるべく授業内で回答し、必要に応じてメールで補足する。
テキスト・教材	配布資料を予習のためクラスルームにアップロードし、講義内でも配布する。
参考書	徳江　順一郎著『宿泊産業論―ホテル旅館の事業展開―[改訂版]』（創成社）　2023 年
評価の基準と方法	最終確認テスト（６0%）、企業研究発表（２０%）、課題レポートと演習問題（２0%）の総合評価。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎		△	○

関連科目	
その他	ホテルや旅館、飲食店を訪れた際には顧客と経営者の立場から観察し、業績向上に貢献している内的・外的要因を考えてみる。 理解と知識を深めるため推奨する書籍は授業内でも随時、紹介する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	長年のラグジュアリーホテルでの海外駐在経験を活かし、国際社会に対応できるグローバルな人材育成を視野に講義する。実務経験や事例を紹介しながら理論と実践を結び付けた授業を行う。

科目分類（2025 年～入学者）	CT-M-221 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	120-320-12 （Ｊ）	授業コード	FE0230
科目名称	航空・空港業実務論			単位数	2.0 単位
英文名称	Practical Studies in Aviation and Airport Industries			授業区分	講義
科目責任者	松岡　友子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松岡　友子			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	前期　水曜日 14:40～16:10　木曜日 10:40～12:10 後期　水曜日 14:40～16:10　木曜日 10:40～12:10			研究室	10-510
授業概要	まず、航空業務の中で特にエアライン業界の顔ともいえる客室乗務員、グランドスタッフの業務を理解し、その業務に必要な知識を身につける。 次に、そこから航空業界への関心・理解を深める。 さらに空港を取り巻くホスピタリティ産業の一員として、業務を遂行する上での立ち振る舞い、身だしなみ、言葉遣いなど航空業界、空港業務で活躍できる人材となるために必要な接遇を学ぶ。				
到達目標	①空港業務にはどのような職種があるかを具体的に理解する。 ②航空業務の客室乗務員、グランドスタッフの業務を理解する。 ③各航空会社の企業理念、その意図や具体的な展開事例を研究する。 ④航空業界を念頭に、自分の強みをまとめる力を身につける。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	松岡　友子	【第 1 回】 予習：日本の航空会社のホームページを確認する 授業：シラバス確認と、航空会社サービスの概要 復習：授業資料の再読と、航空会社サービスの整理、課題提出
2	松岡　友子	【第 2 回】 予習：日本の航空会社の空港旅客サービス業務をホームページなどで確認する 授業：空港旅客サービスの基礎知識 復習：授業資料の再読と、空港旅客サービスの整理、課題提出
3	松岡　友子	【第 3 回】 予習：日本の航空会社の客室サービス業務をホームページなどで確認する 授業：客室サービス業務の基礎知識 復習：授業資料の再読と、客室サービス業務の整理、課題提出
4	松岡　友子	【第 4 回】 予習：日頃の自分の立ち居振る舞いについて再チェックする 授業：接遇マナー１（立ち居振る舞い） 復習：授業資料の再読と、接遇マナー（立ち居振る舞い）についての整理、課題提出
5	松岡　友子	【第 5 回】 予習：指定した日本の航空会社のアニュアルレポート（統合報告書）を読み、内容を整理する 授業：日本の航空会社の企業理念研究①　（グループワークでディスカッションと発表） 復習：アニュアルレポートの再読と、具体的事例の整理、課題提出
6	松岡　友子	【第 6 回】 予習：指定した日本の航空会社のアニュアルレポート（統合報告書）を読み、内容を整理する 授業：日本の航空会社の企業理念研究②　（グループワークでディスカッションと発表） 復習：アニュアルレポートの再読と、具体的事例の整理、課題提出
7	松岡　友子	【第 7 回】 予習：アニュアルレポート（統合報告書）とこれまでの授業内容を確認する 授業：企業理念と自己分析のすり合わせ（プレゼンテーション実施） 復習：フィードバックをもとに、プレゼンテーション内容をブラッシュアップし、自己分析を深める
8	松岡　友子	【第 8 回】 予習：グランドスタッフの業務について資料を確認しておく 授業：航空旅客業務（搭乗手続き） 復習：旅券・査証・出入国書類・航空券記載内容・座席指定・搭乗券発行などの手順内容の整理、課題提出
9	松岡　友子	【第 9 回】 予習：さまざまな空港サービス業務について、ウェブページや書籍で調べる 授業：空港サービス業務の詳細 復習：ラウンジサービス、搭乗案内業務などを整理、課題提出
10	松岡　友子	【第 10 回】 予習：日頃の言葉遣いについて再チェックする 授業：接遇マナー２（言葉遣い） 復習：授業資料の再読と、接遇マナー（言葉遣い）についての整理、課題提出

11	松岡　友子	【第 11 回】 予習：空港旅客サービス業務の流れを再確認しておく 授業：空港旅客サービスロールプレイング 復習：フィードバックをもとに表現力をブラッシュアップする
12	松岡　友子	【第 12 回】 予習：客室乗務員についてウェブページや書籍で調べておく 授業：保安要員・サービス要員としての客室乗務員 復習：授業資料の再読と、客室乗務員業務の整理、課題提出
13	松岡　友子	【第 13 回】 予習：授業内容で日常生活においても役立っていること、意識していることをまとめておく 授業：航空・空港業務に携わるスタッフとしての基本的な心構えについて（グループワークでディスカッションと発表） 復習：授業内容の整理、課題提出
14	松岡　友子	【第 14 回】 予習：世界の航空業界の動向について、ニュースなどから調べておく 授業：グループワークでディスカッション・発表 復習：授業資料の再読と、世界の航空業界の動向の整理、課題提出
15	松岡　友子	【第 15 回】 予習：自分なりの航空業界志望職種・志望動機を考えておく 授業：グループワーク及び全体発表 復習：フィードバックをもとに志望動機をブラッシュアップする

授業開始前学習	・必ずノートを用意すること。 ・リングファイルを用意すること。クリアファイルによる資料の保存は認めない。 ・必要に応じて課題図書を提示する。
授業内課題のフィードバックの方法	・グループワーク終了後に、質疑応答、教員からのグループワーク内容の評価とアドバイスを行う。 ・自分の強み、志望動機については、授業内、授業後に個別に対応、指導する。 ・エアラインの講師、空港業務に従事する方をゲストスピーカーとして招き、航空・空港実務の現場の声を伝える場合がある。
テキスト・教材	授業資料（プリント等）を適宜配布する。テキストは特に指定しない。
参考書	図書館には航空・空港に関する雑誌や書籍が多数あるので、積極的に利用すること。 その他、適宜授業内で雑誌・書籍を紹介する。
評価の基準と方法	学期末レポートの成績（30%）、授業への積極性・態度・取組み姿勢（40%）、授業内課題(30%)の総合評価。 航空業界従事者は健康管理と時間管理、ホスピタリティ精神の徹底を求められることから、体調不良による授業欠席には十分注意し、グループワークへの積極的参加を心がけ、課題提出の期限は遵守すること。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎		△	○

関連科目	ホスピタリティ・マネジメント
その他	・自ら学ぶ意欲と、自己を高めていく意識をもつこと。 ・授業では、航空業界のみならず、観光業界その他いかなる業種にも必要不可欠な内容を取り上げていく。日頃から航空業界への興味関心を持ちつつ授業に参加すること。 ・必要に応じて授業内容を変更することがある。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	国内航空会社にて客室乗務員・チーフパーサーとして乗務。客室乗務員の生産管理プロジェクト、共同運航便乗務、新人教育などを担当。退職後はエアラインスクール講師、接遇や女性キャリアなどの企業研修講師として１５年間登壇。

科目分類（2025 年～入学者）	CT-M-221 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	120-320-12 （Ｊ）	授業コード	FE0240
科目名称	広告･ﾒﾃﾞｨｱ業実務論			単位数	2.0 単位
英文名称	Practical Studies in Advertising and Media Industries			授業区分	講義
科目責任者	田代 真人			必修･選択	履修ガイド参照
担当教員	田代 真人			開講時期	2･3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 10:30～12:00 木曜日 10:30～12:00 後期 火曜日 10:30～12:00 木曜日 10:30～12:00			研究室	10-613
授業概要	人はみな情報をインプットし、咀嚼して、自分なりの考えや創造物をアウトプットする。そのアウトプットこそが周りから評価されるものである。そのインプット情報は、すべてメディアを通して得られる。それらメディアが、近年大きく変化している。インターネットが登場し、ブログ、動画サイト、フェイスブックなどソーシャルメディアなどネットの進化は留まるところを知らない。この授業では、新聞、雑誌、テレビなど既存メディアやネットメディアの基本とそこで発信される政治経済におけるジャーナリズムの基本を学ぶ。また、広告の役割を含めたメディアや広告代理店などのビジネスモデルを考察する。 ※この授業は毎回以下の３部から構成される。どれも重要度は同じであることを認識しておくこと。 １）毎週、「今週気になったニュース」を発表。※毎週月曜日までにみんなと共有したい「今週のニュース」を提出してもらいます。提出されたニュースからいくつか選んで、そのニュースについての解説。 ２）前週のフィードバック。※毎週授業のリアクションコメントを提出してもらいます。 ３）新規のメディア授業				
到達目標	いろいろなメディアの成り立ち、意味、主義主張などの傾向を知ることができるようになる。 メディアにおける情報の真贋を見極められるようになる。 インスタグラム、フェイスブックやツイッターなど SNS の正しい使い方を学ぶことができるようになる。				
アクティブ･ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	田代 真人	【第１回】 予習 ：自分が接しているメディア（テレビ･新聞･ラジオ･ネット･携帯）の頻度、時間を整理しておく。 授業 ：全般のガイダンスと学生全般のメディアへの接触度調査を元にして現在のメディアの状況を知る。（発表） 復習 ：いろいろなメディアにまんべんなく目を通す。
2	田代 真人	【第２回】 予習 ：メディアの役割を漠然とでかまわないので考えておく。 授業 ：メディアの役割（メディアの種類）。（発表） 復習 ：いろんなメディアを意識して見てみる。
3	田代 真人	【第３回】 予習 ：テレビや新聞などが世の中に広まっていった順番を考える。 授業 ：メディアの変遷（メディアはどう変わっていったのか）。（発表） 復習 ：好きな雑誌はじめとしていろんなメディアを見てみる。
4	田代 真人	【第４回】 予習 ：販売されている女性誌に目を通しておく。 授業 ：ファッション女性誌はどうやって創られるか？ 雑誌編集者の役割。（発表） 復習 ：好きなファッション女性誌を見てみる。
5	田代 真人	【第５回】 予習 ：新聞に目を通して、興味ある記事を読んでおく。 授業 ：新聞はどうやって創られるか？ ジャーナリズムとはなにか？ 新聞記者と書籍ライターとの違い。編集者との違い。（発表） 復習 ：新聞を手にとって、社会面、政治面、外交面など面によって内容の違いを確認する。
6	田代 真人	【第６回】 予習 ：新聞や雑誌に掲載されている広告をチェックしておく。 授業 ：ビジネスとしての出版と新聞メディア（広告との関係）。（発表） 復習 ：新聞や雑誌を手にとって、広告の入り方を見てみる。
7	田代 真人	【第７回】 予習 ：いろいろなブログ、ソーシャルメディアをチェックする。 授業 ：マスコミとブログ、ソーシャルメディア、その違い。（発表） 復習 ：ネットメディアの観察。
8	田代 真人	【第８回】 予習 ：YouTube、Tiktok、ニコニコ動画など動画メディアをチェックする。 授業 ：動画メディアとテレビの違い。（発表） 復習 ：いろいろな動画サイトの観察。

9	田代　真人	【第 9 回】 予習　：人気のあるブログ、ソーシャルメディアをチェックする。 授業　：ブログとはなにか？　ブログメディアの可能性。（発表） 復習　：新たな観点でおもしろいブログを探して見てみる。
10	田代　真人	【第 10 回】 予習　：ネットのニュースメディアをチェックする。 授業　：ネットがなにを変えるのか？　ネットメディアの特徴。（発表） 復習　：いろいろなニュースメディアの Web サイトを見てみる。
11	田代　真人	【第 11 回】 予習　：ネットで著作権違反をしていると思われるサイトをチェックしておく。 授業　：メディアで表現する前に著作権のことを知っておこう。（発表） 復習　：CC（クリエイティブコモンズ）のコンテンツを探してみる。
12	田代　真人	【第 12 回】 予習　：インスタグラム、X（旧ツイッター）など SNS をチェックしておく。 授業　：インスタグラム、X（旧ツイッター）、フェイスブックなどソーシャルメディアの正しい使い方。（発表） 復習　：アカウントを開設して、他人のコンテンツを読んでみよう。
13	田代　真人	【第 13 回】 予習　：ユーチューバーの動画サイトその他をチェックする。 授業　：Youtube その他動画サイトの閲覧法と使い方。（発表） 復習　：Youtube サイトにアカウントを開設してお気に入りを創る。
14	田代　真人	【第 14 回】 予習　：最新ネットメディアを探しておく。 授業　：進化するネットメディアに私たちはなにを考えて向き合うのか？（発表） 復習　：新しいネットメディアを考える。
15	田代　真人	【第 15 回】 予習　：自分の職業としての観点からネットメディアを観察しておく。 授業　：メディアの未来。今後どのように進化していくのか。その他まとめ。（発表） 復習　：クリエイティビティの目で世の中を見る。 ※講義内容は、そのときどきの社会の状況で変更する場合もある。

授業開始前学習	ネットのみならず、新聞や雑誌、テレビなど興味深く接する。それらのメディアを通して、毎日のニュースがどのように報道されているかを確認する。
授業内課題のフィードバックの方法	授業後に毎回振り返りレポートを提出してもらいます。翌週にそれらの講評や質問に対する回答をします。急ぐ場合は各学生直接メールすることもあります。
テキスト・教材	適宜資料を閲覧してもらいます。
参考書	
評価の基準と方法	講義に対しての積極性（20%）、毎週提出するニュースとコメント（20%）、各講義での提出するリアクションコメント（20%）、最終レポート（40%）での総合評価でおこないます。遅刻は遅れた時間にかかわらず 3 回で 1 回の欠席に匹敵する減点となります。※学生証の機器タッチによる出欠を基本とします。機器がない教場の場合はリポートの提出をもって出席に代えることがあります。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎		△	○

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	担当教員は、30 年以上出版・インターネット業界でファッション女性誌・ビジネス誌ほか各種雑誌の編集長、Web サイトのプロデューサーなど実務を行なっており、その経験で得た知見を講義内でフィードバックしていく予定である。

科目分類（2025 年～入学者）	CT-M-221 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	120-320-12 （Ｊ）	授業コード	FE0250
科目名称	エンターテインメント業実務論			単位数	2.0 単位
英文名称	Practical Studies in Entertainment Industries			授業区分	講義
科目責任者	黒澤 行紀			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	黒澤 行紀			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	エンターテインメント産業の構造と概念を観光産業に関わる社会的背景から概観し、具体的な実務の現状を考察します。非日常的な集客施設であるテーマパーク、鑑賞レジャー（ミュージアム、劇場、スポーツ等）や日常的な外食産業や商業施設など各種エンターテイメント産業を事例としながら、その発展プロセスや地域的展開、実務の種類などの現状や課題について把握し可能性や問題点を検討します。授業後半にはグループワーク（エンターテイメントイベントの企画立案）を予定しております。進行状況により授業内容が前後・変更します。				
到達目標	エンターテインメント産業が新しい観光文化の創造や地域活性に与える影響について理解し、観光・エンターテインメント実務に関する基本的な知識を動画などを使用しながら習得します。また、エンターテイメント産業の現状の把握と今後のエンターテメント産業の推測ができるようになることを目標とします。また、グループワーク（イベントの企画立案）は、今後あらゆる発表の場で役立つロジカルシンキングの基礎となる作業を行うことで、自分の意見を相手に理解してもらうための意識の向上に役立つことも目標としております。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	黒澤 行紀	【第 1 回】 予習：観光およびエンターテインメント産業の内容を事前に調べておく 授業：講義内容および観光・エンターテインメント産業の概要と類型（日常と非日常） 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく
2	黒澤 行紀	【第 2 回】 予習：エンターテイメントって何かについて調べておく 授業：遊びの概念とは 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく
3	黒澤 行紀	【第 3 回】 予習：テーマパークの種類について調べておく 授業：テーマパーク産業の類型と現状 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく
4	黒澤 行紀	【第 4 回】 予習：ディズニーリゾートについて調べておく 授業：ディズニーリゾートの誕生と発展プロセス 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく
5	黒澤 行紀	【第 5 回】 予習：USJ について調べておく 授業：TDR と USJ の違い 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく
6	黒澤 行紀	【第 6 回】 予習：ホスピタリティ産業の顧客満足の実態について調べておく 授業：テーマパークの顧客満足：1.動画など参考資料から 2.データ分析から 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく
7	黒澤 行紀	【第 7 回】 予習：クルーズについて調べておく 授業：クルーズ船のエンターテイメントとクルーの役割 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく
8	黒澤 行紀	【第 8 回】 予習：美術館・博物館について調べておく 授業：ミュージアムを事例として 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく
9	黒澤 行紀	【第 9 回】 予習：万博について調べておく 授業：イベント・コンベンションを事例として 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく
10	黒澤 行紀	【第 10 回】 習熟度テスト（ここまでの授業内容を踏まえて確認テスト）

11	黒澤　行紀	【第 11 回】 予習：演劇・コンサートなど舞台芸術について調べておく 授業：舞台芸術（主に演劇）のハードとソフトについて劇団四季を事例として 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく
12	黒澤　行紀	【第 12 回】 第 12~15 回　グループワークと発表 題目：　推し活プロデュース（仮） 予習：昨今の推し活動について調べる 授業：推し活の現状の説明とグループわけ、チームでブレインストーミングを行い、アイデアをリストアップする。 復習：グループ内で話し合いをすすめる
13	黒澤　行紀	【第 13 回】 第 12~15 回　グループワークと発表 題目：　推し活プロデュース（仮） 予習：グループ内で話し合いをすすめる 授業：プランの絞り込みと骨子作成、チームごとにアイデアを 1 つに絞り、プランの骨子(目的、対象、概要)を作成 復習：グループ内で話し合いをすすめる
14	黒澤　行紀	【第 14 回】 第 12~15 回　グループワークと発表 題目：　推し活プロデュース（仮） 予習：グループ内で話し合いをすすめる 授業：成果物作成と練り直し、プレゼン資料やビジュアルデザイン、マーケティング案を作成 復習：グループ内で話し合いをすすめる
15	黒澤　行紀	【第 15 回】 第 12~15 回　グループワークと発表 題目：　推し活プロデュース（仮） 予習：グループ内で話し合いをすすめる 授業：プレゼンテーションと評価、各チームが最終プランを発表。他チームのプランについてディスカッションを行い、相互評価。 復習：グループ内で話し合いをすすめる

授業開始前学習	エンターテイメント産業の基本的知識を学習もしくは体験しておくと授業が理解しやすい。
授業内課題のフィードバックの方法	授業内にてテーマごとの講評を行い、個別の質問に回答する。
テキスト・教材	
参考書	
評価の基準と方法	講義中に確認する出席および授業態度、講義後の授業レポートを 60 点（4 点満点×15 回）、中間テスト・グループ発表および期末レポート （40 点）、合計 100 点で評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎		△	○

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	ブランド企業の顧客向けイベントやツーリズム関連イベント企画・実務経験あり。地域活性や集客の課題、実践について講義する。

科目分類（2025 年～入学者）	CT-M-221	科目分類（～2024 年入学者）	120-320-12	授業コード	FE0252
科目名称	ﾗｲﾌｲﾍﾞﾝﾄﾃﾞｻﾞｲﾝ実務論			単位数	2.0 単位
英文名称	Life Event Design in Practice			授業区分	講義
科目責任者	黒澤　行紀			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	黒澤　行紀			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	ライフイベントをデザインするためには、人々が一生涯の間に経験する人生上の出来事を各段階において知る必要があります。この授業では、ライフコースの概念を学んだうえで、主に出生、結婚、高齢期から死にいたるまでの重要なライフイベントに着目し、ホスピタリティ産業の視点とサービス提供者および消費者行動の視点を実務に沿って理解し、自らのキャリア形成や生き方も考えながらライフイベント 産業の仕組みを考察することを目的とします。ライフイベントの中で関わる産業を動画などを利用しながら理解してもらいますが、主にブライダルビジネスに関する内容が主となります。				
到達目標	本授業の到達目標は、以下の１～３です。 1.ライフイベントをデザインする産業の変化を時代背景と関連させて説明できるようになる 2.「一生に一度のメモリアル」であるライフイベントの特徴を社会的な仕組みと関連させて説明できるようになる 3.ブライダルビジネスに必要な知識と教養を身につけるようになる				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	黒澤　行紀	【第１回】 予習：ライフイベント に付随する産業の内容を事前に調べておく 授業：オリエンテーション：授業の概要や進め方についての説明、授業の目的を確認する 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく
2	黒澤　行紀	【第２回】 予習：ライフイベント とは何かについて調べておく 授業：ライフサイクルからライフコースへ、人生の複雑さと予測不可能性をシンプルなゲーム形式で模倣し、人生の基本的な教訓や洞察を疑似体験する（グループワーク） 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく
3	黒澤　行紀	【第３回】 予習：ライフイベント とは何かについて調べておく 授業：女性のライフコース をニッセイ基礎研究所のレポートを使いながら自分のライフコース を作成 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく
4	黒澤　行紀	【第４回】 予習：出産について調べておく 授業：赤ちゃん関連産業について（出産環境まつわるホスピタリティ産業の取組み）を学ぶ 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく
5	黒澤　行紀	【第５回】 予習：葬祭業のサービスについて調べておく 授業：葬儀・法事に関する知識と教養 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく
6	黒澤　行紀	【第６回～第 11 回:ブライダル概論】 予習：ブライダルについて調べておく 授業：1.ブライダルとは 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく
7	黒澤　行紀	【第６回～第 11 回:ブライダル概論】 予習：ブライダルについて調べておく 授業：2.結婚の歴史と世界の結婚事情 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく
8	黒澤　行紀	【第６回～第 11 回:ブライダル概論】 予習：ブライダルについて調べておく 授業：3.ブライダルにまつわる慣習・由来 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく
9	黒澤　行紀	【第６回～第 11 回:ブライダル概論】 予習：ブライダルについて調べておく 授業：4.ブライダルの分類 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく

10	黒澤　行紀	【第 6 回～第 11 回:ブライダル概論】 予習：ブライダルについて調べておく 授業：5.ホテルの婚礼部門の組織と役割 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく
11	黒澤　行紀	【第 6 回～第 11 回:ブライダル概論】 予習：ブライダルについて調べておく 授業：6.ホテル選び（グループ発表に向けてホテル業態を知る） 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく
12	黒澤　行紀	【第 12 回～第 14 回:ブライダルプランの作成(グループワーク)】 予習：ホテル産業の婚礼事情について調べておく 授業：グループワーク（チーム分けなど） 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく
13	黒澤　行紀	【第 12 回～第 14 回:ブライダルプランの作成(グループワーク)】 予習：ホテル産業の婚礼事情について調べておく 授業：グループワーク 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく
14	黒澤　行紀	【第 12 回～第 14 回:ブライダルプランの作成(グループワーク)】 予習：ホテル産業の婚礼事情について調べておく 授業：グループワーク 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく
15	黒澤　行紀	【第 15 回】 予習：第 1 回から 14 回までの内容について確認をしておく 授業：ブライダルプラン（グループによる）発表会 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく ※ 講義内容が変更になることもあります。

授業開始前学習	ライフイベントやライフコースについての知識を得たり考えさせられたりするようなニュース、新聞・雑誌の記事、書籍などを見つけられるようしてください。
授業内課題のフィードバックの方法	＜授業形態＞ この授業は、グループワークまでは対面で行うことを想定しています。 ＜授業の進め方＞ 講義を中心としますが、受講者のみなさんからトピックを提供してもらったり、発表をしてもらったりします。 ＜授業後＞ 課題レポートの提出を求めます。 ＜課題等に対するフィードバック方法＞ 課題レポートに記載された内容・コメントを次の授業内で抜粋して取り上げ、フィードバックします。
テキスト・教材	
参考書	安藤由美（2003）『現代社会におけるライフコース』日本放送出版協会 嶋崎尚子（2008）『ライフコースの社会学』学文社
評価の基準と方法	課題レポートと授業態度 60 点（４点満点×15 回）、グループワーク・期末レポート 40 点の合計 100 点で評価します。 課題レポートと期末レポートは期限厳守です。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎		△	○

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CT-M-232 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	120-330-22 （Ｊ）	授業コード	FE0260
科目名称	☆短期ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ実習 A／ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ実習 A			単位数	1.0 単位
英文名称	Short Term Internship A／Domestic Internship A			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	鮫島　卓			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鮫島・ゼイヤーウィン・田代・松岡・渡邉(光)			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	観光産業の知識を深めるため、観光業関連会社でのインターンシップ（実習）を実施し、社会人としての素養を育てるとともに、就職活動の準備につなげていく。本インターンシップ実習の履修希望者は「ホスピタリティ概論」、各種「実務論」の履修も推奨する。 当科目では旅行業・宿泊・リゾート・テーマパーク業、航空業の短期インターンシップを行う。 短期の定義は、原則 7 日間未満または実勤務 5 日未満とする。				
到達目標	好奇心の醸成と人前でのコミュニケーション力を身に付けることで、実習先での成果や評価を高める。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	6 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	オムニバス

授業回数	担当者	授業の内容
1	渡邉　光章、田代　真人、鮫島　卓、ゼイヤー　ウィン、高須　直子、松岡　友子	履修希望者は後日発表する【第 1 回】目授業に必ず出席すること。【第 1 回】目に実習内容の説明と実習先の志望を提出する。 ※社会状況や受入れ先企業の事情により中止になる場合、もしくは遠隔方式（オンライン）による実習となる場合がある。 【第 1 回】 予習：希望する業種を各自でインターネット等で調査する 授業：ガイダンス：授業計画・評価方法、実習企業の紹介 復習：授業レポートを提出する（希望業種をエントリー）
2		【第 2 回】 予習：希望実習先企業の情報を下調べする 授業：講義「自己分析と企業研究の技法」 復習：エントリーシートを提出
3	田代　真人	【第 3 回】 予習：社会人としての心構えやマナー等を、自ら考える 授業：講義「履歴書の書き方」 復習：授業レポートを提出する（希望企業をエントリー）
4	松岡　友子	【第 4 回】《実技訓練》 予習：身だしなみ、リクルートスーツを準備する 授業：元客室乗務員講師によるマナーセミナー 復習：学んだことを振り返り改善する
5	渡邉　光章	【第 5 回】 予習：実習先企業の企業研究をする 授業：実習前オリエンテーション：各実習内容の説明、実習日報・レポートの提出について 復習：実習先との面談の準備をする
6	渡邉　光章、田代　真人、鮫島　卓、ゼイヤー　ウィン、高須　直子、松岡　友子	【第 6 回】 予習：アポイントの確認をする 授業：面談の実施 復習：お礼の連絡をする ◆実習は各受入先によって日程・期間・参加条件が異なる。詳しくは事前授業で周知する。 ◆企業によってはオンラインで実施する場合がある。 ◆受入先によっては人数制限がかかる場合がある。

授業開始前学習	実習先の企業や業界に関する資料をできるだけ多く読むこと。
授業内課題のフィードバックの方法	実習前に学習が不足している学生は呼び出し、個別指導する。また、インターンシップ現場の責任者による実習評価を行う。実習生には責任者による現場での指導で、質問や仕事の間違いなどを修正し、フィードバックを実施する予定である。
テキスト・教材	なし。

参考書								
評価の基準と方法	実習先の評価を主とし、実習の取り組み姿勢、「実習レポート・事後報告会」などにより、総合的に評価する。配点（１００点満点）は、実習の取組み姿勢及び成果（実習先の評価が中心）を 50 点、実習日報・実習レポート・事後報告会を 50 点とする。							
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照							
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○			◎
関連科目	この科目は「旅行業実務論」「宿泊業・飲食業実務論」「航空・空港業実務論」「エンターテインメント業実務論」「ホスピタリティ概論」「ホスピタリティ・マネジメント」「広告・メディア業実務論」のいずれかを履修していることが望ましい。							
その他	将来観光業界関連への就職を希望する学生は、履修が望ましい。 履修希望者は、後日発表する第 1 回目授業に必ず出席すること。 また、連絡事項は Google Classroom を使って通知する。履修希望者は Classroom に参加すること。 なお、事前授業及び実習を途中で放棄した場合は、単位を付与しない。 実習に参加した学生は、翌学期の第 1 回授業時に必ず参加し、実習経験を後輩の履修生に伝達する報告会に参加すること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	本科目は複数の実務経験者による指導科目であり、担当教員のうち、田代は広告・出版編集者の実務経験を、渡邉はメディア業の実務経験を、鮫島は旅行業・テーマパーク・DMO の実務経験を、高須・ゼイヤーは国際開発協力分野の実務経験を、松岡は航空業界の実務経験を有している。本科目では、その経験を活かして講義を行う予定である。							

科目分類（2025 年～入学者）	CT-M-232 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	120-330-22 （Ｊ）	授業コード	FE0270
科目名称	☆短期ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ実習 B／ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ実習 B			単位数	1.0 単位
英文名称	Short Term Internship B／Domestic Internship B			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	鮫島　卓			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鮫島・ゼイヤーウィン・田代・松岡・渡邉(光)			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	観光産業の知識を深めるため、観光業関連会社でのインターンシップ（実習）を実施し、社会人としての素養を育てるとともに、就職活動の準備につなげていく。本インターンシップ実習の履修希望者は「ホスピタリティ概論」、各種「実務論」の履修も推奨する。 当科目では A 以外の業種（広告出版・ブライダル・観光協会・DMO・行政・金融等）の短期を行う。 短期の定義は、原則 7 日間未満または実勤務 5 日未満とする。				
到達目標	好奇心の醸成と人前でのコミュニケーション力を身に付けることで、実習先での成果や評価を高める。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	6 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	オムニバス

授業回数	担当者	授業の内容
1	渡邉　光章、田代　真人、鮫島　卓、ゼイヤー　ウィン、高須　直子、松岡　友子	履修希望者は後日発表する【第 1 回】目授業に必ず出席すること。【第 1 回】目に実習内容の説明と実習先の志望を提出する。 ※社会状況や受入れ先企業の事情により中止になる場合、もしくは遠隔方式（オンライン）による実習となる場合がある。 【第 1 回】 予習：希望する業種を各自でインターネット等で調査する 授業：ガイダンス：授業計画・評価方法、実習企業の紹介 復習：授業レポートを提出する（希望業種をエントリー）
2		【第 2 回】 予習：希望実習先企業の情報を下調べする 授業：講義「自己分析と企業研究の技法」 復習：授業レポートを提出
3	田代　真人	【第 3 回】 予習：社会人としての心構えやマナー等を、自ら考える 授業：講義「履歴書の書き方」 復習：授業レポートを提出する（希望企業をエントリー）
4	松岡　友子	【第 4 回】《実技訓練》 予習：身だしなみ、リクルートスーツを準備する 授業：元客室乗務員講師によるマナーセミナー 復習：学んだことをふりかえり改善する
5	渡邉　光章	【第 5 回】 予習：実習先企業の企業研究をする 授業：実習前オリエンテーション：各実習内容の説明、実習日報・レポートの提出について 復習：実習先との面談の準備をする
6	渡邉　光章、田代　真人、鮫島　卓、ゼイヤー　ウィン、高須　直子、松岡　友子	【第 6 回】 予習：アポイントの確認をする 授業：面談の実施 復習：お礼の連絡をする ◆実習は各受入先によって日程・期間・参加条件は異なる。詳しくは事前授業で周知する。 ◆企業によってはオンラインで実施する場合がある。 ◆受入先によっては人数制限がかかる場合がある。

授業開始前学習	実習先の企業や業界に関する資料をできるだけ多く読むこと。
授業内課題のフィードバックの方法	実習前に学習が不足している学生は呼び出し、個別指導する。また、インターンシップ現場の責任者による実習評価を行う。実習生には責任者による現場での指導で、質問や仕事の間違いなどを修正し、フィードバックを実施する予定である。
テキスト・教材	なし。

参考書								
評価の基準と方法	実習先の評価を主とし、実習の取り組み姿勢、「実習レポート・事後報告会」などにより、総合的に評価する。配点（１００点満点）は、実習の取組み姿勢及び成果（実習先の評価が中心）を 50 点、実習日報・実習レポート・事後報告会を 50 点とする。							
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照							
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○			◎
関連科目	この科目は「ホスピタリティ概論」「ホスピタリティ・マネジメント」「広告・メディア実務論」「ライフイベントデザイン実務論」のいずれかを履修していることが望ましい。							
その他	将来観光業界関連への就職を希望する学生は、履修が望ましい。 履修希望者は、後日発表する第１回目授業に必ず出席すること。 また、連絡事項は Google Classroom を使って通知する。履修希望者は Classroom に参加すること。 なお、事前授業及び実習を途中で放棄した場合は、単位を付与しない。 実習に参加した学生は、翌学期の第１回授業時に必ず参加し、実習経験を後輩の履修生に伝達する報告会に参加すること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	本科目は複数の実務経験者による指導科目であり、担当教員のうち、田代は広告・出版編集者の実務経験を、渡邉はメディア業の実務経験を、鮫島は旅行業・テーマパーク・DMO の実務経験を、高須・ゼイヤーは国際開発協力分野の実務経験を、松岡は航空業界の実務経験を有している。本科目では、その経験を活かして講義を行う予定である。							

科目分類（2025 年～入学者）	CT-M-232 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	120-330-22 （Ｊ）	授業コード	FE0280
科目名称	☆中期ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ実習／ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ実習 C			単位数	2.0 単位
英文名称	Medium Term Internship／Domestic Internship C			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	鮫島 卓			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鮫島・ゼイヤーウィン・田代・松岡・渡邉(光)			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	観光産業の知識を深めるため、観光業関連会社でのインターンシップ（実習）を実施し、社会人としての素養を育てるとともに、就職活動の準備につなげていく。本インターンシップ実習の履修希望者は「ホスピタリティ概論」、各種「実務論」の履修もお勧めしておきたい。 当科目では、すべての業種にわたり原則 8 日間以上 30 日間未満または実勤務 21 日未満のインターンシップが対象となる。				
到達目標	好奇心の醸成と人前でのコミュニケーション力を身に付けることで、実習先での成果や評価を高める。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	6 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	オムニバス

授業回数	担当者	授業の内容
1	渡邉 光章、田代 真人、鮫島 卓、ゼイヤー ウィン、高須 直子、松岡 友子	履修希望者は後日発表する【第 1 回】目授業に必ず出席すること。【第 1 回】目に実習内容の説明と実習先の志望を提出する。 ※社会状況や受入れ先企業の事情により中止になる場合、もしくは遠隔方式（オンライン）による実習となる場合がある。 【第 1 回】 予習：希望する業種を各自でインターネット等で調査する 授業：ガイダンス：授業計画・評価方法、実習企業の紹介 復習：授業レポートを提出する（希望業種をエントリー）
2		【第 2 回】 予習：希望実習先企業の情報を下調べする 授業：講義「自己分析と企業研究の技法」 復習：授業レポートを提出
3	田代 真人	【第 3 回】 予習：社会人としての心構えやマナー等を、自ら考える 授業：講義「履歴書の書き方」 復習：授業レポートを提出する（希望企業をエントリー）
4	松岡 友子	【第 4 回】《実技訓練》 予習：身だしなみ、リクルートスーツを準備する 授業：元客室乗務員講師によるマナーセミナー 復習：学んだことをふりかえり改善する
5	渡邉 光章	【第 5 回】 予習：実習先企業の企業研究をする 授業：実習前オリエンテーション：各実習内容の説明、実習日報・レポートの提出について 復習：実習先との面談の準備をする
6	全担当教員	【第 6 回】 予習：アポイントの確認をする 授業：面談の実施 復習：お礼の連絡をする ◆実習は各受入先によって日程・期間・参加条件は異なる。詳しくは事前授業で周知する。 ◆企業によってはオンラインで実施する場合がある。 ◆受入先によっては人数制限がかかる場合がある。

授業開始前学習	実習先の企業や業界に関する資料をできるだけ多く読むこと。
授業内課題のフィードバックの方法	実習前に学習が不足している学生は呼び出し、個別指導する。また、インターンシップ現場の責任者による実習評価を行う。実習生には責任者による現場での指導で、質問や仕事の間違いなどを修正し、フィードバックを実施する予定である。
テキスト・教材	なし。
参考書	

評価の基準と方法	実習先の評価を主とし、実習の取り組み姿勢、「実習レポート・事後報告会」などにより、総合的に評価する。配点（１００点満点）は、実習の取組み姿勢及び成果（実習先の評価が中心）を 50 点・実習日報・実習レポート・事後報告会を 50 点とする。							
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照							
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○			◎
関連科目	この科目は「ホスピタリティ概論」「ホスピタリティ・マネジメント」各種「実務論」のいずれかを履修していることが望ましい。							
その他	将来観光業界関連への就職を希望する学生は、履修が望ましい。 履修希望者は、後日発表する第 1 回目授業に必ず出席すること。 また、連絡事項は Google Classroom を使って通知する。履修希望者は Classroom に参加すること。 なお、事前授業及び実習を途中で放棄した場合は、単位を付与しない。 実習に参加した学生は、翌学期の第 1 回授業時に必ず参加し、実習経験を後輩の履修生に伝達する報告会に参加すること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間＋予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	本科目は複数の実務経験者による指導科目であり、担当教員のうち、田代は広告・出版編集者の実務経験を、渡邉はメディア業の実務経験を、鮫島は旅行業・テーマパーク・DMO の実務経験を、高須・ゼイヤーは国際開発協力分野の実務経験を、松岡は航空業界の実務経験を有している。本科目では、その経験を活かして講義を行う予定である。							

科目分類（2025 年～入学者）	CT-M-232	科目分類（～2024 年入学者）	120-330-22	授業コード	FE0290
科目名称	海外ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ実習			単位数	2.0 単位
英文名称	Overseas Internship			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	張　景泰			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	張・薬師			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	観光ホスピタリティ産業は日本の新たな成長産業となっている。本授業では、観光ホスピタリティ産業の中核的産業である旅行業・ホテル業の実務知識を深めるため、事前学習とハワイでのインターンシップ実習を行う。ハワイでは、通常の旅行では経験できない高級リゾートホテル・旅行会社の舞台裏を体感することができる。また日米交流プログラムにも参加し、日米交流の懸け橋となる体験をする。最終的にコミュニケーションやビジネスマナーなど社会人基礎力を養うことも目的としている。				
到達目標	旅行業務・ホテル業務について実習を通じて理解を深める。また、日本と海外のホスピタリティの違いを学ぶ。さらにビジネスマナー・身だしなみなど社会人基礎力を身に付ける。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	8 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	共同

授業回数	担当者	授業の内容
1	張　景泰、薬師英子	【第 1 回】 予習　：シラバスを読んでおく 授業　：授業概要・インターンシップ実習概要や手続き・評価方法の説明 復習　：配布資料の復習
2	張　景泰、薬師英子	【第 2 回】 予習　：配布資料を読んでおく 授業　：接客実務の基礎知識とビジネスマナー 復習　：配布資料の復習
3	張　景泰、薬師英子	【第 3 回】 予習　：配布資料を読んでおく 授業　：海外渡航のための手続き、旅券・ＥＳＴＡ取得の説明など 復習　：配布資料の復習
4	張　景泰、薬師英子	【第 4 回】 予習　：配布資料を読んでおく 授業　：ハワイ観光資源研究と国際交流の意義 復習　：配布資料の復習
5	張　景泰、薬師英子	【第 5 回】 予習　：リクルートスーツ・身だしなみを準備する 授業　：身だしなみ・マナーセミナー 復習　：学んだことを復習する
6	張　景泰、薬師英子	【第 6 回】 予習　：プレゼンテーションの準備をする 授業　：英語での自己紹介と課題テーマのプレゼンテーション（プレゼンテーション） 復習　：プレゼンテーションのふりかえり
7	張　景泰、薬師英子	【第 7 回】 予習　：リクルートスーツ・身だしなみを準備してプレゼンテーションの準備をする 授業　：東京マリオットホテルと JTB を訪問、旅行説明会と課題テーマのプレゼンテーション（プレゼンテーション） 復習　：学んだことを復習する
8	張　景泰、薬師英子	【第 8 回】 予習　：実習の準備をする 授業　：12 日間のハワイ海外実習 復習　：日々実習レポート作成

授業開始前学習	ホテル業・旅行業に関する資料やハワイのガイドブック等を出来るだけ多く読むこと。
授業内課題のフィードバックの方法	インターンシップ現場の責任者による実習評価を行う。実習生には責任者による現場での指導で、質問や仕事の間違いなどを修正し、フィードバックを実施する予定である。
テキスト・教材	なし。
参考書	

評価の基準と方法	実習先の評価を主とし、実習の取り組み姿勢、「実習ノート」などにより、総合的に評価する。 配点（１００点満点）は、実習の取組み姿勢及び成果（実習先の評価が中心）９０点・実習ノート１０点とする。							
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照							
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○			◎
関連科目	この科目は、「旅行業実務論」、「宿泊業・飲食業実務論」、「ホスピタリティ概論」、その他の「実務論」の中、どれか一つを既に履修又は履修中の学生（観光文化学類）であることが望ましい。							
その他	実習受入先には限度があるので、履修希望者が多数の場合は、学内選抜（面接）を行う。 履修希望者は、初回のオリエンテーションに必ず出席すること。また、連絡事項はその都度掲示するので注意して見ること。さらに研修先はハワイ（ホノルル）とし、１２日間程度の予定で実施する。旅行費用は３３～３５ 万円程度であるが、参加人員の減少、国際情勢の変化、為替の大幅な変動などにより、実施時期・旅行費用の変更及び実施中止もあり得る。なお、海外での研修のため、旅行に不参加の場合は単位を付与しない。							
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間＋予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年～入学者）	CT-M-232 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	120-330-22 （Ｊ）	授業コード	FE0292
科目名称	長期ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ実習			単位数	4.0 単位
英文名称	Long Term Internship			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	鮫島 卓			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鮫島 卓			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30 後期 木曜日 10:40～12:10 月曜日 13:00～14:30			研究室	10-606
授業概要	観光ホスピタリティ産業の知識を深めるため、観光関連会社等でインターンシップを実施し、社会人としての素養を育てるとともに、就職活動の準備につなげていく。本インターンシップ実習の履修者希望者は「ホスピタリティ概論」「ホスピタリティマネジメント」、各種「実務論」の履修を勧めておきたい。 問う科目では該当するすべての業種にわたり、原則 1 ヶ月以上の実勤務のインターンシップが対象となる。尚、本科目は海外実務実習（海外留学）履修者のための科目である。				
到達目標	好奇心の醸成と人前でのコミュニケーションを身につけることで、実習先での成果や評価を高める。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	1 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態	共同				

授業回数	担当者	授業の内容
1	鮫島 卓	本科目は 1 ヶ月以上のインターンシップ実習を想定しており、主に海外実務実習（海外留学）の履修者を対象としている。そのため事前授業は、留学準備となる海外実務実習準備として授業を行う。
2	鮫島 卓	【第 2 回】 予習：希望する業種を各自でインターネット等を用いて調査する 授業：講義：「企業研究の技法」 復習：授業レポートを提出する
3	鮫島 卓	【第 3 回】 予習：志望実習先を検討する 授業：講義：「履歴書の書き方」 復習：授業レポートを提出する（希望実習先エントリー）
4	鮫島 卓	【第 4 回】 予習：身だしなみ、リクルートスーツを準備する 授業：元客室乗務員によるマナーセミナー ‹ペアワーク› 復習：学んだことをふりかえり改善する
5	鮫島 卓	【第 5 回】 予習：実習先企業の企業研究をする 授業：実習前オリエンテーション：各実習内容説明、実習日報・レポートの提出について 復習：実習先企業との面談の準備をする
6	鮫島 卓	【第 6 回】 予習：アポイントの確認をする 授業：面談の実施 復習：お礼を連絡する ◆実習先によっては人数制限がかかる場合がある。

授業開始前学習	実習先企業や業界に関する文献をできるだけ多く読み、自分が希望する業種や企業を選定しておくのが望ましい。
授業内課題のフィードバックの方法	実習前に学修が不足している学生は呼び出し、個別指導を行う。また、インターンシップ現場の責任者による実習評価を行う。実習生には責任者による現場での指導で、質問や仕事の間違いを修正し、フィードバックを実施する予定である。
テキスト・教材	特になし。
参考書	
評価の基準と方法	評価は海外実務実習（海外留学）の一環として評価を一括して行う。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○			◎
関連科目	「ホスピタリティ概論」「ホスピタリティマネジメント」、各種「実務論」のいずれかを履修していることが望ましい。							
その他	将来、観光ホスピタリティ産業に就職希望する学生は履修が望ましい。							
予習・復習の所要時間	講義時間 120 時間＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	本科目は複数の実務経験者による指導科目である。鮫島は旅行業・テーマパーク・ＤＭＯの実務経験を有している。本科目では、その経験を活かして講義を行う予定である。							

科目分類（2025 年～入学者）	CT-M-232 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	120-330-22（Ｊ）	授業コード	FE0300
科目名称	国内旅行研修			単位数	1.0 単位
英文名称	Domestic Travel Management Training			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	鮫島　卓			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鮫島・松岡			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	本授業では、国内観光地での旅行企画の実践を通じて観光産業の仕組みとホスピタリティを学ぶことを目的とする。事前学習では旅行企画の仕方、プレゼンテーションの技法を学びながら、チーム毎に旅行企画と発表を行い、チームワーク力を身につける。チームワーク力は就職活動において最も重視される能力である。 学外実習として旅行会社の視察を行うほか、春休み期間中（2 月予定）に国内観光地での宿泊施設など観光産業の視察、食事作法の実践、観光資源を取り入れた旅行企画の実践を行う 2 泊 3 日～3 泊 4 日の研修旅行を予定している。旅行内容は第 1 回目授業の際に発表する。 一連のプログラムを通じて、多くの社会人との対話の機会がある。初対面の社会人との挨拶、自己紹介、質疑応答など就職活動に欠かせないビジネスマナーや社交力を育む機会となる。将来、観光産業を目指す学生はもちろん、社会人基礎力を養う有意義な機会になるであろう。				
到達目標	① 旅行企画を自らできるようになる。 ② グループワークを通じてコミュニケーション力を向上させる。 ③ 社会人と対話を通じてビジネスマナーや社交力を習得する。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	10 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	共同

授業回数	担当者	授業の内容
1	鮫島　卓、松岡　友子	【第 1 回】 予習　：シラバスを読んでおく 授業　：授業概要・研修旅行内容・評価方法の説明 復習　：授業レポート記入と提出
2	鮫島　卓、松岡　友子	【第 2 回】 予習　：配布資料を読んでおく 授業：（演習）チームビルディング 《ディスカッション》 復習　：授業レポート記入と提出
3	鮫島　卓、松岡　友子	【第 3 回】 予習　：配布資料を読んでおく 授業　：（講義）旅行先の観光資源と地域課題を学ぶ 《ディスカッション》 復習　：授業レポート記入と提出
4	鮫島　卓、松岡　友子	【第 4 回】 予習　：配布資料を読んでおく 授業　：（講義）旅行企画の技法 《グループワーク》 復習　：授業レポート記入と提出
5	鮫島　卓、松岡　友子	【第 5 回】 予習　：配布資料を読んでおく 授業　：（講義）ファシリテーション・プレゼンテーションの技法 《グループワーク》 復習　：授業レポート記入と提出
6	鮫島　卓、松岡　友子	【第 6 回】 予習　：企画の準備 授業　：（演習）旅行企画の実践《グループワーク》 復習　：授業レポート記入と提出
7	鮫島　卓、松岡　友子	【第 7 回】 予習　：発表の準備 授業　：（演習）旅行企画の発表 《プレゼンテーション》 復習　：授業レポート記入と提出
8	鮫島　卓、松岡　友子	【第 8 回】 学外実習 予習　：訪問企業の下調べ 授業　：旅行会社を訪問し、旅行説明会と会社見学 《学外実習》 復習　：授業レポート記入と提出
9	鮫島　卓、松岡　友子	【第 9 回】 学外実習 予習　：旅行の準備をする 授業　：研修旅行の実施《学外実習》 復習　：改善点を修正する

10	鮫島　卓、松岡　友子	【第 10 回】 事後学習 予習　：発表の準備をする 授業　：研修旅行のふりかえり《プレゼンテーション》 復習　：改善点を修正する

授業開始前学習	旅行会社や航空会社のサービスを実際に購入し、サービスを受ける経験があると授業が理解しやすい。
授業内課題のフィードバックの方法	毎回授業時に授業レポートの記入と提出を義務付ける。次回授業で講評を行い、個別の質問に回答する。
テキスト・教材	テキストは使用しないが、資料は適宜配布する。
参考書	授業のなかで適宜紹介する。
評価の基準と方法	グループワーク（50 点）、実習レポート（30 点）、事後学習の発表（20 点）で総合評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○		△		◎

関連科目	観光基本科目「観光学」「ホスピタリティ概論」「観光政策論」「観光マーケティング論」のほか、実務関連科目「旅行業実務論」「宿泊業実務論」「航空・空港業実務論」「ライフイベントデザイン実務論」と合わせて履修するとより理解が深まる。
その他	研修旅行は春休み期間（２月）の 2 泊 3 日～3 泊 4 日を予定している。旅行日程は就職活動が本格化する３月と被らないよう設定しているので 3 年生もぜひ参加してほしい。また企業側に配慮願いを出すので、国内インターンシップ実習希望者も積極的に参加してほしい。尚、本科目は観光文化学類だけではなく人間総合学群であれば履修可能である。人数は最低 10 名としているため希望者数が満たない場合は実施しないことがある。研修旅行内容は第１回目の授業時に提示する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	授業では、実務経験者の担当教員による事前授業がある。また学外実習を通じて多くの社会人との対話がある。就職活動で欠かせないビジネスマナーや社交力を身につける良い機会になる。

科目分類（2025 年～入学者）	CT-M-232	科目分類（～2024 年入学者）	120-330-22	授業コード	FE0310
科目名称	海外旅行研修			単位数	1.0 単位
英文名称	Overseas Travel Management Training			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	張　景泰			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鮫島・張・薬師			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	この授業では、海外旅行の渡航手続などの旅行実務を学ぶと共に韓国の歴史・文化・観光資源・都市政策を学んだ上で研修旅行を実施する。研修旅行では高級ホテル・旅行会社などを舞台裏を視察するほか、学生自ら旅行企画と実践をする。「韓国の過去と未来」をコンセプトとし、日本ではできない体験となる。海外旅行未経験者も観光文化学類ではない人間総合学群の他学類学生も歓迎する。				
到達目標	・自分で海外渡航の手続きができるようになる。 ・自分で旅行プランを企画し実践できるようになる。 ・韓国の歴史や観光資源について学ぶ。 ・グループワークや現地学生との交流でコミュニケーション力を向上する。 ・旅行企画発表でプレゼンテーション力を上げる。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	12 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	共同

授業回数	担当者	授業の内容
1	張　景泰、鮫島　卓	【第 1 回】 予習　：シラバスを読んでおく 授業　：授業概要・評価方法の説明、自己紹介・チームビルディング 復習　：配布資料の復習
2	張　景泰、鮫島　卓	【第 2 回】 予習　：配布資料を読んでおく 授業　：講義「韓国の観光資源と歴史」 復習　：配布資料の復習
3	張　景泰、鮫島　卓	【第 3 回】 予習　：配布資料を読んでおく 授業　：講義「韓国の国際観光実務」（HIS 韓国支店） 復習　：配布資料の復習
4	張　景泰、鮫島　卓	【第 4 回】 予習　：配布資料を読んでおく 授業　：講義「旅行プランの調査法」「プレゼンテーションの技法」 復習　：配布資料の復習
5	張　景泰、鮫島　卓	【第 5 回】 予習　：事前調査をする 授業　：旅行プラン企画 《グループワーク》 復習　：プランの改善をする
6	張　景泰、鮫島　卓	【第 6 回】 予習　：事前調査をする 授業　：旅行プラン企画 《グループワーク》 復習　：プレゼンテーションの準備をする
7	張　景泰、鮫島　卓	【第 7 回】 予習　：プレゼンテーションの準備をする 授業　：旅行プラン全体発表　《プレゼンテーション》 復習　：プレゼンテーションのふりかえりをする
8	張　景泰、鮫島　卓	【第 8 回】 予習　：配布資料を読んでおく 授業　：旅行説明会・渡航手続き 復習　：配布資料の復習
9	張　景泰、鮫島　卓	【第 9 回】 予習　：国際交流テーマの事前調査をする 授業　：国際交流テーマ設定　《グループワーク》 復習　：復習をする
10	張　景泰、鮫島　卓	【第 10 回】 予習　：国際交流テーマの事前調査 授業　：国際交流プレゼンテーション制作 《グループワーク》 復習　：プレゼンテーションの準備をする

11	張　景泰、鮫島　卓	【第 11 回】 予習　：国際交流テーマの事前調査 授業　：国際交流プレゼンテーション発表 《プレゼンテーション》 復習　：プレゼンテーションのふりかえりと改善をする
12	張　景泰、鮫島　卓	【第 12 回】 予習　：訪問企業の研究 授業　：HIS 本社訪問、出発前確認、会社説明など 《学外実習》 復習　：出発の準備をする

授業開始前学習	研修先である韓国に興味を持ち、何らかの資料（図書・ガイドブックなど）を読むこと。
授業内課題のフィードバックの方法	韓国の現地大学でのプレゼンテーションについての準備を行い、旅行研修の前にプレゼンテーションについて意見交換、修正などを実施する予定である。
テキスト・教材	必要に応じて配布する。
参考書	
評価の基準と方法	授業態度（出席状況・意欲など）・レポート内容及び研修旅行での行動などにより総合的に評価する。 配点（１００点満点）は、授業態度３０点・レポート２０点・研修旅行での行動５０点とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○		△		◎

関連科目	なし
その他	第 1 回授業時に授業実施日を告知するので履修を検討している学生は必ず出席する事。研修旅行に向けて９月より事前授業を行う。また、研修旅行先は韓国とし、9 月に実施する。また企業に配慮願を出すので国内インターンシップ実習希望者も積極的に参加してほしい。尚、本科目は観光文化学類だけではなく人間総合学群所属であれば履修可能である。旅行費用は 20 万円程度の予定。新型コロナの感染状況によっては研修旅行を中止または延期する場合もある。また国際情勢の変化・為替の大幅な変動などにより、旅行先・実施時期・旅行費用の変更もあり得る
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CT-M-221 SD-L-221 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	120-321-12 （Ｊ）	授業コード	FE0410
科目名称	世界遺産研究			単位数	2.0 単位
英文名称	World Heritage Research			授業区分	講義
科目責任者	大室　聡志			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	大室　聡志			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	世界遺産は、「顕著な普遍的価値をもつもの」として人類が後世に残すべき人類共通の財産です。 1978 年に最初の世界遺産 12 件が「世界遺産リスト」に記載されて以来その数は増え続け、2024 年 7 月現在 1,223 件の世界遺産（そのうち日本は 26 件）が登録されています。 しかし、世界遺産登録には、経済開発と文化保護の両立という難しい課題があります。 実際、世界遺産登録後に経済開発を優先して世界遺産リストから抹消される遺産があったり、敢えて世界遺産リストに登録しない有名な観光地や遺産もあります。 この講義では、世界遺産のすばらしさを学びつつ、経済開発と文化保護の両立や観光業が抱える観光公害について考えます。 講師は旅行会社に 25 年以上務め、個人的にも 60 ヵ国以上旅をし、世界各国の世界遺産を実際に見てきた経験があります。この講義では、これらの経験を活かし、世界遺産の歴史、意義、価値を考察し、文化や宗教の多様性や歴史の教訓を学ぶとともに、自然の恵みや伝統の重みについても触れていきます。 なお、授業は講師が一方的に話すのではなく、学生との双方向での議論で進め、毎週グループディスカッションを行いグループで考える楽しさも伝えていきます。				
到達目標	目標： １：相互理解の重要性を理解する 世界遺産を学ぶことは、ユネスコ憲章が掲げる「相互理解の促進」に繋がる。 遺産を通じて世界を知り、講義を通じて一緒に授業を受ける仲間を知り、相互理解とはどういうことかを体験する。 ２：世界遺産をテーマに、皆さんが「問い」を立てる（＝研究課題を設定する）力を身につける。 講義は、毎週ファシリテーターを決めて、グループディスカッションを行う。 自分一人で考えるのではなく、グループとして意見をまとめて発表する力を身に付ける。 ３：世界遺産検定 3				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	大室　聡志	「世界遺産を学ぶ＝相互理解促進」を理解する 予習：訪れたことがある世界遺産を調査する 授業：講師のロシア駐在経験を通じて感じる相互理解の重要性について解説 復習：確認のクイズに答える（小課題①）
2	大室　聡志	グループディスカッションに必要な「ファシリテーションスキル」を身に付ける 予習：知っている世界遺産をリストアップする 授業：ファシリテーションについての説明と実践 復習：確認のクイズに答える（小課題②）
3	大室　聡志	世界遺産について考える 予習：自分の知らない世界遺産を調べてリストアップする 授業：世界遺産がなぜ必要なのかグループディスカッション 復習：確認のクイズに答える（小課題③）
4	大室　聡志	世界遺産の概念と登録基準を学ぶ 予習：世界遺産登録基準を事前に覚える 授業：世界遺産の概念を学び、「真正性」についてグループディスカッション 復習：確認のクイズに答える（小課題④）
5	大室　聡志	日本の世界遺産を学ぶ① 予習：日本の世界遺産（文化遺産）について事前に調査する 授業：日本の世界遺産（文化遺産①） 復習：確認のクイズに答える（小課題⑤）
6	大室　聡志	日本の世界遺産を学ぶ② 予習：日本の世界遺産（文化遺産）について事前に調査する 授業：日本の世界遺産（文化遺産②） 復習：確認のクイズに答える（小課題⑥）
7	大室　聡志	日本の世界遺産を学ぶ③ 予習：日本の世界遺産（文化遺産）について事前に調査する 授業：日本の世界遺産（文化遺産③） 復習：確認のクイズに答える（小課題⑦）

8	大室　聡志	日本の世界遺産を学ぶ④ 予習：日本の世界遺産（文化遺産）について事前に調査する 授業：日本の世界遺産（文化遺産④） 復習：確認のクイズに答える（小課題⑧）
9	大室　聡志	日本の世界遺産を学ぶ⑤ 予習：日本の世界遺産（文化遺産）について事前に調査する 授業：日本の世界遺産（文化遺産⑤） 復習：確認のクイズに答える（小課題⑨）
10	大室　聡志	日本の世界遺産を学ぶ⑥ 予習：日本の世界遺産（自然遺産）について事前に調査する 授業：日本の世界遺産（自然遺産①） 復習：確認のクイズに答える（小課題⑩）
11	大室　聡志	世界で最初の世界遺産を学ぶ 予習：世界で最初の世界遺産について事前に調査する 授業：12 個の最初の世界遺産 復習：確認のクイズに答える（小課題⑪）
12	大室　聡志	ヨーロッパの世界遺産を学ぶ 予習：イタリアの世界遺産について事前に調査する 授業：ヨーロッパの歴史　先史時代～近代文明まで 復習：確認のクイズに答える（小課題⑫）
13	大室　聡志	イスラム教の世界遺産を学ぶ 予習：イスラム教の世界遺産について事前に調査する 授業：イスラム教の世界遺産（トルコ・ドバイ・サウジアラビア） 復習：確認のクイズに答える（小課題⑬）
14	大室　聡志	世界遺産についてグループ発表 予習：グループ発表に向けて、発表資料作成 授業：自分たちで選んだ世界遺産についてグループ発表 復習：確認のクイズに答える（小課題⑭）
15	大室　聡志	まとめと最終確認テスト 予習：最終確認テストに向けて準備 授業：15 回の講義の総括のあと、確認テスト

授業開始前学習	日頃から世界遺産や主要な観光地に関心を持つとともに、UNESCO の世界遺産リスト<http://whc.unesco.org/ja/list/>を見ておく。 図書館にある世界遺産の DVD の視聴もお勧めする。
授業内課題のフィードバックの方法	発表（要領は初回授業にて指示する）については、授業後に教員からのフィードバックを行う。 授業後の小課題は、次回の授業の冒頭でコメントする。
テキスト・教材	『くわしく学ぶ世界遺産 300』-世界遺産検定 2 級公式テキスト-（発行：NPO 法人世界遺産アカデミー） ※世界遺産検定受験予定者は特に購入を推奨する。
参考書	『世界遺産検定』公式過去問題集 3・4 級（発行：NPO 法人世界遺産アカデミー） 旅地図世界-世界の名所をめぐる誌上旅行-（発行：昭文社） 旅地図日本-全国の名所をめぐる誌上旅行-（発行：昭文社）
評価の基準と方法	評価に関しては、出席・課題・レポート・テストの総合評価を行います。 ・出席点 2 点 ×１５回 ＝ ３０点 ・毎週の課題 2 点 × １５回 ＝ ３０点 ・課題レポートのチーム発表 ＝１５点 ・期末テスト（世界遺産検定３級レベル）＝２５点 ※既に世界遺産検定３級以上を取得している方は、合格証コピーを提出してください。ボーナス加点します。 授業前に既に合格している方にもボーナス加点を行うので、合格証をご提示ください。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				△		◎	

関連科目	日本・世界の歴史、文化史、宗教史、地理学、芸術、自然、観光学などの知識が身に着けられる科目と関連しています。
その他	この授業では、世界遺産「研究」をするのは受講生の皆さんです。 世界遺産についてはインターネットで様々な情報が入手可能です。以下のサイトなどを参考にしてください。 文化庁 HP <https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/shokai/sekai_isan/ichiran/> 日本の世界遺産一覧 <https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/shokai/sekai_isan/ichiran/pdf/20200806_01.pd
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）

実務経験を活かした教育内容	旅行会社エイチ・アイ・エスに勤務して 25 年。そのうち、海外駐在（ロシア）7 年の経験もあります。趣味も旅行で、5 大陸すべてを網羅し、訪問海外国数は 60 ヵ国を超えました。そこで見てきた世界遺産について理解を深め、世界遺産検定 1 級も取得しています。旅行会社のプロとして捉える「世界遺産」と、一人の旅好きとして捉える「世界遺産」の両方の視点で世界遺産について説明します。また、世界遺産検定取得者として、世界遺産検定資格取得を意識をした解説も交えて話します。「世界遺産」を切り口に受講生の国際感覚を養い、世界がより近くに

科目分類（2025 年～入学者）	CT-M-221	科目分類（～2024 年入学者）	120-320-12	授業コード	FE0420
科目名称	地域観光資源研究			単位数	2.0 単位
英文名称	Regional Tourism Resource Research			授業区分	講義
科目責任者	渡邉　光章			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	渡邉　光章			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	前期　水曜日 16:20～17:50　金曜日 10:40～12:10 後期　水曜日 16:20～17:50　金曜日 10:40～12:10			研究室	10-501
授業概要	※（コロナウイルスによる特殊な環境変化による観光産業への影響は歴史的にも稀有な特例の 1 つとしたうえで）、インバウンド（外国人観光客）の数が再び増加し、日本は将来的に観光立国を目指せるような状況に戻った。本講義では、国内各地に存在する個性溢れる観光地の魅力の中から、ユネスコの無形文化遺産に認定された「和食」の他、「温泉」、「伝統工芸」、「祭り」、「駅弁」、「癒し」などを地域の持つ観光資源と捉え、それらについて理解を深め、観光資源としての現状と将来の可能性、地域の活性回復の為の戦略などについて考察する。また、履修人数にあわせてフレキシブルにディスカッションやグループ発表などのグループ・ワークを行う場合もある。				
到達目標	観光資源を軸にした地域の歴史、現状、復興のための戦略、将来性などについて考察することにより、観光地の置かれた状況を把握できるため、社会と地域の関係性について理解を深めることができる。また、これまで観光客としての視点でしか地域との接点を持たなかった受講生は、客観的な目で冷静に地域を再評価し、復興、発展、隆盛のために必要となる批判的思考力を養うことができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	渡邉　光章	【第 1 回】 予習：関心のある観光地について調べてみる 授業：ガイダンス【「地域観光資源研究」とは：無形文化財としての和食、伝統工芸、祭り、癒しの温泉を事例に解説】 復習：地域の観光資源とは？の問いかけに、200 字程度で回答する
2	渡邉　光章	【第 2 回】 予習：関心のある地域の観光資源は何か調べてみる 授業：地域を代表する観光資源の調査、比較の仕方の基礎 復習：日本を代表する観光資源の写真をネットや本で調べる
3	渡邉　光章	【第 3 回】 予習：インバウンドに人気のある地域の観光資源について調べてみる 授業：地域の主な観光資源と保全について（グループ・ワーク：履修人数による） 復習：インバウンドと人気のある観光資源について、その嗜好性など人気の秘密を探る
4	渡邉　光章	【第 4 回】 予習：世界と日本の危険な観光地について調べてみる 授業：観光客が危険な観光スポットを選んで訪れる理由について考える 復習：人気がある観光スポットの危険度を比較してみる
5	渡邉　光章	【第 5 回】 予習：人気のある地域のグルメについて調べてみる 授業：地域観光と B 級グルメ（伝統食とは異なる食：素材、種類、価格、宣伝、評価） 復習：インバウンドと B 級グルメについて、その嗜好性など人気の秘密を探る
6	渡邉　光章	【第 6 回】 予習：観光地ごとの駅弁について調べてみる 授業：観光資源としてのご当地グルメ「駅弁」 復習：主要な駅ごとにその地域の特産品などを材料にした人気の駅弁について、その人気の理由や背景を調べる
7	渡邉　光章	【第 7 回】 予習：人気のある温泉地について調べてみる 授業：地域観光をリードする温泉と温泉宿 復習：日本を代表する温泉地について、基本レベルの説明ができるようにする
8	渡邉　光章	【第 8 回】 予習：インバウンドが観光目的とする観光地におけるアートとは何か調べてみる 授業：地域観光とインバウンドへの情報メディア戦略としてのアート展示 復習：集客力のあるアート戦略は何か調べる
9	渡邉　光章	【第 9 回】 予習：世界と日本の財政破綻した観光地域について調べてみる 授業：財政破綻した地域の事例から、実情と背景を調査 復習：なぜ破綻したのか、その理由と破綻回避について考える
10	渡邉　光章	【第 10 回】 予習：歴史ある神前祭礼について調べてみる 授業：地域の歴史が培った伝統的観光資源「祭礼」について 復習：日本を代表する祭礼について、基本レベルの説明ができるようにする

11	渡邉　光章	【第 11 回】 予習：インバウンドに人気があり、集客率の高い陶磁器を探してみる 授業：イベント観光資源としての陶磁器市と地域についての解説 復習：有名な陶磁器の生産地域についてまとめる
12	渡邉　光章	【第 12 回】 予習：関心のある伝統工芸品について調べてみる 授業：観光資源として、地域を代表する伝統工芸（地域の歴史が培った芸術）について研究 復習：日本を代表する伝統工芸品の写真をネットや本で確認する
13	渡邉　光章	【第 13 回】 予習：インバウンドに人気の神社・仏閣・古墳・城について調べてみる 授業：歴史ある建造物の紹介と、地域の現状について考える 復習：観光資源としての歴史的建築物や環境などの保全、継承のために地域が抱える問題を調べる
14	渡邉　光章	【第 14 回】 予習：浮世絵とは何か調べてみる 授業：インバウンドが日本の卓越した伝統的技術に驚き、伝統工芸品として成立し得る浮世絵とは何か（グループ・ディスカッション：履修人数による） 復習：土産物として人気のある浮世絵を調べる
15	渡邉　光章	【第 15 回】 予習：世界と日本の巡礼地について調べてみる 授業：巡礼の旅と地域の受け入れ努力を調査 復習：代表的な巡礼の旅について、基本レベルの説明ができるようにする

授業開始前学習	日本国内で関心のある都道府県ごとに、1 ：地域の和食（グルメや駅弁）、2 ：地域の行事（祭礼や舞踊）、3 ：地域の土産物（伝統工芸）、4 ：地域の癒し（温泉や宿）の 4 つのキーワードで事前に少しでも調べておくと授業が理解しやすい。
授業内課題のフィードバックの方法	講義後に、毎回「振り返りレポート」を提出する。このレポート提出によって出欠席を判断する。講義で学んだ重要ポイントや発見したこと、よくわからなかったことへの質問事項などを記入し、そのフィードバックは、学生が提出したレポートの内容（問題の大きさや緊急性など）によって適宜 1 人ずつ対応する場合と、次回講義の冒頭で全体に応える形式で実施する場合の 2 通りの方法で細かく対応している。
テキスト・教材	授業中に適宜配付する。
参考書	授業を通じて適時紹介する。
評価の基準と方法	毎回提出する課題レポートの内容に重きを置き、総合的に評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○			△	◎			

関連科目	観光の PR とメディア（後期）を合わせて履修すると、より理解が深まる。
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CT-M-221	科目分類（～2024 年入学者）	120-321-12（2022 年～入学者） 120-320-12（～2021 年入学者）	授業コード	FE0430
科目名称	国内観光資源研究 A(東京･首都圏)			単位数	2.0 単位
英文名称	Domestic Tourism Resource Research A （Tokyo / Greater Tokyo Area）			授業区分	講義
科目責任者	古本 泰之			必修･選択	履修ガイド参照
担当教員	古本 泰之			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	東京および首都圏は、様々な地理的･社会的特性を持つ多彩な地域で構成される。この講義では、主として歴史の観点から東京を中心に具体的な事例を各回でそれぞれ取り上げ、地域の特性について解説をする。これにより、東京および首都圏には現在どのような観光資源がありうるか、その可能性を考察する。				
到達目標	東京の歴史的な成り立ちと地域の特性を理解し、基礎的な事柄が観光と結び付けて説明できるようになることを到達目標とする。あわせて、東京の観光資源および観光都市としての魅力や課題について考える力を身につけることをめざす。				

アクティブ･ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	古本 泰之	【第 1 回】 予習 ： 東京･首都圏の主要な地名を地図帳などで事前に把握しておく。 授業 ： ガイダンス、観光資源について学ぶ意義とは。（講義） 復習 ： 授業内で配付資料に記入した内容を読み直し、整理しておく。
2	古本 泰之	【第 2 回】 予習 ： 東京 23 区都心部における文化資源の名称やその位置を地図帳などで事前に把握しておく。 授業 ： 観光開発の基礎と観光資源（講義） 復習 ： 授業内で配付資料に記入した内容を読み直し、整理しておく。
3	古本 泰之	【第 3 回】 予習 ： 東京 23 区都心部における自然資源の名称やその位置を地図帳などで事前に把握しておく。 授業 ： 東京 23 区都心部における観光資源と地域特性 1（講義） 復習 ： 授業内で配付資料に記入した内容を読み直し、整理しておく。
4	古本 泰之	【第 4 回】 予習 ： 東京 23 区都心部におけるその他資源の名称やその位置を地図帳などで事前に把握しておく。 授業 ： 東京 23 区都心部における観光資源と地域特性 2（講義） 復習 ： 授業内で配付資料に記入した内容を読み直し、整理しておく。
5	古本 泰之	【第 5 回】 予習 ： 東京 23 区東部･西部における文化資源の名称やその位置を地図帳などで事前に把握しておく。 授業 ： 東京 23 区東部･西部における観光資源と地域特性 1（講義） 復習 ： 授業内で配付資料に記入した内容を読み直し、整理しておく。
6	古本 泰之	【第 6 回】 予習 ： 東京 23 区東部･西部における自然資源の名称やその位置を地図帳などで事前に把握しておく。 授業 ： 東京 23 区東部･西部における観光資源と地域特性 2（講義） 復習 ： 授業内で配付資料に記入した内容を読み直し、整理しておく。
7	古本 泰之	【第 7 回】 予習 ： 東京 23 区南部･北部における文化資源の名称やその位置を地図帳などで事前に把握しておく。 授業 ： 東京 23 区南部･北部における観光資源と地域特性 1（講義） 復習 ： 授業内で配付資料に記入した内容を読み直し、整理しておく。
8	古本 泰之	【第 8 回】 予習 ：東京 23 区南部･北部における文化資源の名称やその位置を地図帳などで事前に把握しておく。 授業 ：東京 23 区南部･北部における観光資源と地域特性 2（講義） 復習 ：授業内で配付資料に記入した内容を読み直し、整理しておく。
9	古本 泰之	【第 9 回】 予習 ： 東京･多摩における文化資源の名称やその位置を地図帳などで事前に把握しておく。 授業 ： 東京･多摩における観光資源と地域特性 1（講義） 復習 ： 授業内で配付資料に記入した内容を読み直し、整理しておく。
10	古本 泰之	【第 10 回】 予習 ： 東京･多摩における自然資源の名称やその位置を地図帳などで事前に把握しておく。 授業 ： 東京･多摩における観光資源と地域特性 2（講義） 復習 ： 授業内で配付資料に記入した内容を読み直し、整理しておく。

11	古本　泰之	【第 11 回】 予習　：　東京・島しょ部における観光資源の名称やその位置を地図帳などで事前に把握しておく。 授業　：　東京・島しょ部およびその他地域における観光資源と地域特性（講義） 復習　：　授業内で配付資料に記入した内容を読み直し、整理しておく。
12	古本　泰之	【第 12 回】 予習　：　東京の観光的魅力について改めて検討し、1 日ツアーのコンセプトを考える。 授業　：　東京を舞台とした 1 日ツアーを造成する 1（グループワーク） 復習　：　議論を元にツアーの作成作業を継続する。
13	古本　泰之	【第 13 回】 予習　：　ツアーの作成作業を継続する。 授業　：　東京を舞台とした 1 日ツアーを造成する 2（グループワーク） 復習　：　議論を元にツアーの作成作業を継続する。
14	古本　泰之	【第 14 回】 予習　：　ツアーの作成作業を継続する。 授業　：　東京を舞台とした 1 日ツアーを造成する 3（発表） 復習　：　発表結果の振り返りとコメントを踏まえ、最終版を提出する。
15	古本　泰之	【第 15 回】 予習　：これまでの学習内容を整理し、まとめるとともに定期試験の準備をする。 授業　：都市観光の特性と課題について理解する。（講義） 復習　：授業内で配付した全ての資料を整理するとともに、内容を熟読して理解を深める。

授業開始前学習	日頃の生活の中や各種メディア等における東京・首都圏の観光資源に関連するトピックを意識的に注視し、地名や観光地理学的な見方・考え方を意識しながら、視野を広げてほしい。
授業内課題のフィードバックの方法	課題など提出後、翌週にはフィードバックできるよう努めていく。
テキスト・教材	特に指定はしないが、毎回記入式のプリントを配布し、常に見直しながら用いていくので、ファイリングし講義の際は常に全て持参すること。
参考書	山村順次編著（2012）『観光地理学(第 2 版)ー観光地域の形成と課題ー』同文舘出版. (公財)日本交通公社（2014）『美しき日本　旅の風光』JTB パブリッシング. (公財)東京観光財団（2023）『新版　江戸東京まち歩きブック』中央経済社.
評価の基準と方法	試験　70%、グループワーク等平常点 30%を基準に、総合的に判断・評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○			△	◎			

関連科目	国内観光資源研究 B(東日本) 国内観光資源研究 C(西日本)
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CT-M-221	科目分類（～2024 年入学者）	120-321-12（2022 年～入学者） 120-320-12（～2021 年入学者）	授業コード	FE0440
科目名称	国内観光資源研究 B(東日本)			単位数	2.0 単位
英文名称	Domestic Tourism Resource Research B （Eastern Japan）			授業区分	講義
科目責任者	古本 泰之			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	古本 泰之			開講時期	2･3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	本講義では、日本国内の地域的特性を概観した後、北海道・東北地方・関東地方・中部地方にかけての東日本でみられる特色的な観光資源の特性、生活や産業等を精選し、地誌的に解説することで、東日本の地域的特性を考察する。				
到達目標	東日本の観光資源に関する基礎的・基本的な知識・能力を修得することを目的とする。特に、歴史・自然・環境との関連性を踏まえて、東日本を対象とした地域的特性や課題などについて考察できるようにする。				

アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	古本 泰之	【第 1 回】 予習：東日本における都道県名および主要地名を地図帳等で事前に把握しておく 授業：観光資源の類型と現状 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく
2	古本 泰之	【第 2 回】 予習：東日本における世界遺産と国立公園の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：東日本における世界遺産と国立公園の地域的展開 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく
3	古本 泰之	【第 3 回】. 予習：北海道地方における温泉地の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：北海道地方の温泉観光資源と地域的特性 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく
4	古本 泰之	【第 4 回】 予習：北海道地方における主要都市の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：北海道地方の歴史文化観光資源と地域的特性 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく
5	古本 泰之	【第 5 回】 予習：北海道地方における自然地形の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：北海道地方の自然観光資源と地域的特性 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく
6	古本 泰之	【第 6 回】 予習：東北地方における温泉地の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：東北地方の温泉観光資源と地域的特性 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく
7	古本 泰之	【第 7 回】 予習：東北地方における主要都市の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：東北地方の歴史文化観光資源と地域的特性 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく
8	古本 泰之	【第 8 回】 予習：東北地方における自然地形の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：東北地方の自然観光資源と地域的特性 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく
9	古本 泰之	【第 9 回】 予習：関東地方における温泉地の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：関東地方の温泉観光資源と地域的特性 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく
10	古本 泰之	【第 10 回】 予習：関東地方における主要都市の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：関東地方の歴史文化観光資源と地域的特性 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく

11	古本　泰之	【第 11 回】 予習：関東地方における自然地形の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：関東地方の自然観光資源と地域的特性 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく
12	古本　泰之	【第 12 回】 予習：中部地方における温泉地の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：中部地方の温泉観光資源と地域的特性 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく
13	古本　泰之	【第 13 回】 予習：中部地方における主要都市の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：中部地方の歴史文化観光資源と地域的特性 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく
14	古本　泰之	【第 14 回】 予習：中部地方における自然地形の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：中部地方の自然観光資源と地域的特性 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく
15	古本　泰之	【第 15 回】 予習：これまでの学習内容（記入したプリント）を整理し、まとめるとともに定期試験の準備をする 授業：観光資源を評価する意義について理解する。 復習：授業内で配布した全ての資料を整理するとともに、内容を熟読し理解を深める。

授業開始前学習	日頃の生活の中や各種メディア等における日本の観光資源に関連するトピックを意識的に注視し、地名や観光地理学的な見方・考え方を意識しながら、視野を広げてほしい。
授業内課題のフィードバックの方法	課題等提出後、翌週にはフィードバックできるよう努めていく。
テキスト・教材	特に指定はしないが、毎回記入式のプリントを配布し、常に見直しながら用いていくので、ファイリングし講義の際は常に全て持参すること。
参考書	山村順次編著（2012）『観光地理学(第 2 版)ー観光地域の形成と課題ー』同文舘出版 (公財)日本交通公社（2014）『美しき日本　旅の風光』JTB パブリッシング
評価の基準と方法	試験 70%、小レポート等平常点 30%を基準に、総合的に判断・評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○			△	◎			

関連科目	国内観光資源研究 A（東京・首都圏） 国内観光資源研究 C(西日本)
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CT-M-221	科目分類（～2024 年入学者）	120-321-12（2022 年～入学者） 120-320-12（～2021 年入学者）	授業コード	FE0450
科目名称	国内観光資源研究 C(西日本)			単位数	2.0 単位
英文名称	Domestic Tourism Resource Research C （Western Japan）			授業区分	講義
科目責任者	小堀 貴亮			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小堀 貴亮			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	本講義では、西日本における観光資源を類型別に概観した後、近畿地方・中国地方・四国地方・九州地方にかけての西日本でみられる特色的な観光資源の特性を地誌的に解説することで、西日本における観光資源の地域的特性を考察する。				
到達目標	西日本の観光資源に関する基礎的・基本的な知識・能力を修得することを目的とする。特に、歴史・自然・環境との関連性を踏まえて、西日本を対象とした地域的特性や課題などについて考察できるようにする。				

アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	小堀 貴亮	【第 1 回】 予習：西日本における府県名および主要地名を地図帳等で事前に把握しておく 授業：西日本における観光資源の類型と現状 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく
2	小堀 貴亮	【第 2 回】 予習：西日本における世界遺産と国立公園の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：西日本における世界遺産と国立公園の地域的展開 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく
3	小堀 貴亮	【第 3 回】 予習：西日本における温泉地の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：西日本における温泉地の地域的特性① 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく
4	小堀 貴亮	【第 4 回】 予習：西日本における温泉地の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：西日本における温泉地の地域的特性② 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく
5	小堀 貴亮	【第 5 回】. 予習：近畿地方における観光資源の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：近畿地方の観光資源と地域的特性① 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく
6	小堀 貴亮	【第 6 回】 予習：近畿地方における観光資源の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：近畿地方の観光資源と地域的特性② 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく
7	小堀 貴亮	【第 7 回】 予習：中国地方における観光資源の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：中国地方の観光資源と地域的特性① 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく
8	小堀 貴亮	【第 8 回】 予習：中国地方における観光資源の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：中国地方の観光資源と地域的特性② 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく
9	小堀 貴亮	【第 9 回】 予習：四国地方における観光資源の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：四国地方の観光資源と地域的特性① 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく
10	小堀 貴亮	【第 10 回】 予習：四国地方における観光資源の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：四国地方の観光資源と地域的特性② 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく

11	小堀　貴亮	【第 11 回】 予習：九州地方における観光資源の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：九州地方の観光資源と地域的特性① 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく
12	小堀　貴亮	【第 12 回】 予習：九州における観光資源の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：九州地方の観光資源と地域的特性② 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく
13	小堀　貴亮	【第 13 回】 予習：沖縄における観光資源の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：沖縄の観光資源と地域的特性 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく
14	小堀　貴亮	【第 14 回】 予習：これまでの学習内容（記入したプリント）を整理し、まとめる。 授業：西日本における観光資源を対象とした着地型観光 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく
15	小堀　貴亮	【第 15 回】 予習：これまでの学習内容（記入したプリント）を整理し、まとめる。 授業：西日本における観光資源の総括 復習：授業内で配布した全ての資料を整理するとともに、内容を熟読し理解を深める。

授業開始前学習	日頃の生活の中や各種メディア等における日本の観光資源に関連するトピックを意識的に注視し、観光地理学的な見方や考え方を意識しながら、視野を広げてほしい。
授業内課題のフィードバックの方法	課題等提出後、翌週にはフィードバックできるよう努めていく。
テキスト・教材	特に指定はしないが、毎回記入式のプリントを配布し、常に見直しながら用いていくので、ファイリングし講義の際は常に全て持参すること。
参考書	山村順次編著（2012）：『観光地理学(第 2 版)ー観光地域の形成と課題ー』同文舘出版
評価の基準と方法	課題 70%、平常点 30%（課題を含む）を基準に、総合的に判断・評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○			△	◎			

関連科目	国内観光資源研究 B(東日本)
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CT-M-321	科目分類（～2024 年入学者）	120-320-13	授業コード	FE0460
科目名称	海外観光資源研究 A(ﾖｰﾛｯﾊﾟ 1)			単位数	2.0 単位
英文名称	Overseas Tourism Resources Research A （Europe1）			授業区分	講義
科目責任者	米金 孝雄			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	米金 孝雄			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 水曜日 10:10～10:40 木曜日 10:30～13:00 後期 水曜日 10:00~10:40～12:10~13:00 木曜日 10:00～10:40～12:10～13:00			研究室	10-711
授業概要	映画・シャンソン・ワイン・自然・地域・都市・言語、など、フランス文化全体を映像を使用しながら講義する予定である。 様々なフランス文化に触れ、西洋文化の中心であるフランスのエッセンスに触れる。				
到達目標	多様なフランス文化に接することにより、その文化・言語に興味を持ち、異文化を学ぶ楽しさを体験し、理解を深める。				

アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	米金 孝雄	【第 1 回】 予習 ：自分の興味あるフランス文化について、調べておくこと 授業 ：自己紹介、授業の概要、授業の進め方、勉強の仕方、評価、注意点など フランスとは ① 復習 ：フランスとは①の復習
2	米金 孝雄	【第 2 回】 予習 ：自分の興味あるフランス文化について,調べておくこと 授業 ：フランスとは ② 復習 ：フランスとは②の復習
3	米金 孝雄	【第 3 回】 予習 ：興味、関心のあるフランス語を調べておくこと 授業 ：フランス語の言語的多様性① 復習 ：フランス語の言語的多様性①の復習
4	米金 孝雄	【第 4 回】 予習 ：興味、関心のあるフランス語を調べておくこと 授業 ：フランス語の言語的多様性② 復習 ：フランス語の言語的多様性②の復習
5	米金 孝雄	【第 5 回】 予習 ：パリについて調べておくこと 授業 ：花の都・パリ 復習 ：花の都・パリの復習
6	米金 孝雄	【第 6 回】 予習 ：興味ある地方や都市について調べておくこと 授業 ：地方都市・フランスの自然① 復習 ：地方都市・フランスの自然①の復習
7	米金 孝雄	【第 7 回】 予習 ：興味ある都市や地方について調べておくこと 授業 ：地方都市・フランスの自然② 復習 ：地方都市・フランスの自然②の復習
8	米金 孝雄	【第 8 回】 予習 ：興味のある都市や地方について調べておくこと 授業 ：地方都市・フランスの自然③ 復習 ：地方都市・フランスの自然③の復習
9	米金 孝雄	【第 9 回】 予習 フランスワインについて調べておくこと 授業 ：フランスワイン① 復習 ：フランスワイン①の復習
10	米金 孝雄	【第 10 回】 予習 ：フランスワインについて調べておくこと 授業 ：フランスワイン② 復習 ：フランスワイン②の復習

11	米金　孝雄	【第 11 回】 予習　：フランス映画について調べておくこと 授業　：フランス映画① 復習　：フランス映画①の復習
12	米金　孝雄	【第 12 回】 予習　：フランス映画について調べておくこと 授業　：フランス映画② 復習　：フランス映画②の復習
13	米金　孝雄	【第 13 回】 予習　：フランス音楽について調べておくこと 授業　：フランス音楽① 復習　：フランス音楽①の復習
14	米金　孝雄	【第 14 回】 予習　：フランス音楽について調べておくこと 授業　：フランス音楽② 復習　：フランス音楽②の復習
15	米金　孝雄	【第 15 回】 予習　：フランス語圏と植民地政策について調べておくこと 授業　：フランス語圏と植民地政策 復習　：フランス語圏と植民地政策の復習

授業開始前学習	前回の学習事項の復習と、自分の興味ある分野を見つけること。
授業内課題のフィードバックの方法	レポート・課題等の内容を熟考させ、自分の興味あるフランス文化について、意見や考えを端的に、また、積極的に表現できるように指導する。
テキスト・教材	別途指示する。
参考書	
評価の基準と方法	配点： 課題・レポート・70 点 平常点(授業態度)・30 点。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○			△	◎			

関連科目	フランス語 言葉と心理 観光のフランス語
その他	遅刻・欠席・課題未提出・授業態度などは評価に響くので、十分注意すること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CT-M-321	科目分類（～2024 年入学者）	120-320-13	授業コード	FE0470
科目名称	海外観光資源研究 B(ﾖｰﾛｯﾊﾟ 2)			単位数	2.0 単位
英文名称	Overseas Tourism Resources Research B （Europe2）			授業区分	講義
科目責任者	山中 慎太郎			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	山中 慎太郎			開講時期	3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	ドイツと日本とは近代以降、様々な分野で切り離しがたい関係を結んできましたが、現在ではドイツという国への関心はそれほど強くないのかもしれません。しかしながらドイツの歴史、音楽や文芸、美術などをはじめとした芸術、スポーツ、政治運動、移民受け入れと多文化社会、環境問題、ファッションや料理を通じて知られる人々の暮らしなど、多くの側面から眺めることで、検討しがいのあるテーマが浮かび上がってくるだろうと思われます。この授業では、毎回トピックを設定し、皆さんがドイツについて知り、考えるための手がかりを紹介したく思います。また皆さんが自身の関心に合わせてドイツについて研究を深め、異国や異文化を知り、理解することのおもしろさと困難を経験することができるだろうと考えています。				
到達目標	ドイツやドイツ語圏の国々に関する、歴史、政治、文化などの背景を理解する。様々な映像、音楽、文献資料に触れ、ドイツ文化への知識を深める。同時に国際社会が今日直面している社会問題についてドイツ語圏という異文化の視点から理解し、日本人の視点と比較する。それぞれの国の抱えている課題に対し考える力を身につけることを目的とする。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	山中 慎太郎	【第 1 回】 予習：シラバス内容の確認 授業：ガイダンス、ドイツについて考えるための手がかり 復習：ガイダンス時に説明した内容、授業計画の確認
2	山中 慎太郎	【第 2 回】 予習: 歴史教科書などでドイツの現代史について確認 授業:ドイツ現代史「壁崩壊と東西統一」 復習: 配布資料の確認
3	山中 慎太郎	【第 3 回】 予習: ドイツ語がどのような言語であるのか調べておく、資料講読 授業: ドイツ語という言葉 復習: 配布資料の確認
4	山中 慎太郎	【第 4 回】 予習：配布資料に目を通しておく 授業：ドイツの食文化 レストラン、スーパーマーケットからヴィーガンまで 復習: 配布資料の確認
5	山中 慎太郎	【第 5 回】 予習：『若きウェルテルの悩み』を読む 授業：ドイツ文学のはじまり ゲーテについて 復習：配布資料の確認
6	山中 慎太郎	【第 6 回】 予習：配布資料に目を通す 授業：ドイツの伝統衣装とモード 復習：配布資料の確認
7	山中 慎太郎	【第 7 回】 予習：配布資料に目を通す 授業：ドイツ社会における移民と極右思想 復習：配布資料の確認
8	山中 慎太郎	【第 8 回】 予習：配布資料に目を通す 授業：ベートーヴェンという天才、ドイツ音楽について 復習：配布資料の確認
9	山中 慎太郎	【第 9 回】 予習：配布資料に目を通す 授業：カスパー・ダーヴィド・フリードリヒ ドイツの美術史入門 復習：資料確認
10	山中 慎太郎	【第 10 回】 予習: 配布資料に目を通す 授業：ドイツにおける環境問題 エコ・アクティヴィズム 復習：配布資料の確認

11	山中　慎太郎	【第 11 回】 予習：配布資料に目を通す 授業：ドイツ社会における性とジェンダー 復習：配布資料の確認
12	山中　慎太郎	【第 12 回】 予習：参考資料の確認 授業：ドイツの建築 復習：配布資料の確認
13	山中　慎太郎	【第 13 回】 予習：身近な「ドイツ」由来のもの、文化、言葉などを調べておく 授業：ドイツにおける「日本」、日本における「ドイツ」 復習：配布資料の確認
14	山中　慎太郎	【第 14 回】 予習：資料に目を通す 授業：首都ベルリンについて　ベルリンを観光する、ベルリンに住む 復習：資料の確認
15	山中　慎太郎	【第 15 回】 予習：　これまでの資料の確認、興味関心をまとめる 授業：ドイツの映画産業　その歴史と現在 復習：配布資料の確認

授業開始前学習	ドイツ・ドイツ語圏の国々の歴史や文化芸術などについて自分の関心のあるトピックを見つけておく。その際〈宮田眞治ほか編著「ドイツ文化　55 のキーワード」（ミネルヴァ書房）2015〉を参考文献として挙げておきます。
授業内課題のフィードバックの方法	提出の翌週に全体あるいは個別の講評を行う
テキスト・教材	『ドイツの実情』ドイツ連邦共和国大使館 （ドイツ総領事館 HP にダウンロード版あり） 宮田眞治ほか編著「ドイツ文化　55 のキーワード」（ミネルヴァ書房）2015
参考書	宮田眞治ほか編著「ドイツ文化　55 のキーワード」（ミネルヴァ書房）2015
評価の基準と方法	レポート 50%と平常点（授業態度・課題提出）50%で評価する
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○			△	◎			

関連科目	ドイツ語、観光のドイツ語
その他	受講者数や受講者の興味に合わせて、授業内容を変更する場合あり
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CT-M-321	科目分類（～2024 年入学者）	120-320-13	授業コード	FE0480
科目名称	海外観光資源研究 C(ｱｼﾞｱ 1)			単位数	2.0 単位
英文名称	Overseas Tourism Resources Research C （Asia1）			授業区分	講義
科目責任者	張 景泰			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	張 景泰			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～16:10 後期 水曜日 09:50～13:00			研究室	10-615
授業概要	近年、様々な韓国ドラマや映画、音楽などの影響で、韓国は日本人にとってより身近な存在となっており、一連の流れで韓国を観光地として選択するなど、その注目度は増す一方である。本講では、韓国の歴史・自然・社会などを中心に韓国の地誌的な知識の理解を深めると同時に、日韓文化の相違点・共通点について学ぶ。さらに観光資源に関する基礎的な知識と専門的な知識を修得することを目的とする。				
到達目標	①韓国の歴史・自然・社会などを中心に地誌的に解説することで、韓国の地域的特性を考察する。 ②日本と韓国の文化の差異・共通点について理解し、説明することができる。 ③韓国の観光資源に関する基礎的な知識と専門的な知識を修得することを目的とする。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	張 景泰	【第 1 回】 予習 ：シラバス参照 授業 ：ガイダンス、韓国に関する全体概要 復習 ：授業の方針を確認する。
2	張 景泰	【第 2 回】 予習 ：事前配布のレジュメで予習する。 授業 ：異文化の理解について（韓国文化を事例として）① 復習 ：【第 2 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。
3	張 景泰	【第 3 回】 予習 ：事前配布のレジュメで予習する。 授業 ：異文化の理解について（韓国文化を事例として）② 復習 ：【第 3 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。
4	張 景泰	【第 4 回】 予習 ：事前配布のレジュメで予習する。 授業 ：朝鮮半島の自然環境と暮らし 復習 ：【第 4 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。
5	張 景泰	【第 5 回】 予習 ：事前配布のレジュメで予習する。 授業 ：韓国と北朝鮮、朝鮮戦争について 復習 ：【第 5 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。
6	張 景泰	【第 6 回】 予習 ：事前配布のレジュメで予習する。 授業 ：韓国の産業構造と地域性 復習 ：【第 6 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。
7	張 景泰	【第 7 回】 予習 ：事前配布のレジュメで予習する。 授業 ：韓国政治と地域性 復習 ：【第 7 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。
8	張 景泰	【第 8 回】 予習 ：事前配布のレジュメで予習する。 授業 ：韓国の行政区域と世界遺産について 復習 ：【第 8 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。
9	張 景泰	【第 9 回】 予習 ：事前配布のレジュメで予習する。 授業 ：「韓流」について①（ドラマ、映画） 復習 ：【第 9 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。
10	張 景泰	【第 10 回】 予習 ：事前配布のレジュメで予習する。 授業 ：「韓流」について②（音楽、アニメ） 復習 ：【第 10 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。
11	張 景泰	【第 11 回】 予習 ：事前配布のレジュメで予習する。 授業 ：日本と韓国の文化の差異・共通点について①（日・韓の結婚式について） 復習 ：【第 11 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。

12	張 景泰	【第 12 回】 予習 ：事前配布のレジュメで予習する。 授業 ：日本と韓国の文化の差異・共通点について②（グループ・ディスカッション） 復習 ：【第 12 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。
13	張 景泰	【第 13 回】 予習 ： 事前配布のレジュメで予習する。 授業 ：韓国の観光地①について 復習 ：【第 13 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。
14	張 景泰	【第 14 回】 予習 ：事前配布のレジュメで予習する。 授業 ：韓国の観光地②について 復習 ：【第 14 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。
15	張 景泰	【第 15 回】 予習 ：事前配布のレジュメで予習する。 授業 ：韓国における観光資源の総括 復習 ：前期授業の全体概要を確認する。

授業開始前学習	韓国関連資料や韓国文化・異文化コミュニケーションに関する書籍を出来るだけ多く読むこと。
授業内課題のフィードバックの方法	毎回の授業において作成・提出される授業課題レポートに対し、次回の授業で講評と質問に対する回答を行う。
テキスト・教材	特に指定する予定はない。教科書を用いる代わりに、毎回、講義資料を配布する。
参考書	
評価の基準と方法	授業レポート 70 点(各回 5 点×14 回)、期末レポート 30 点、合計 100 点で評価する。 なお 5 回以上欠席した場合はその時点で不合格とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○			△	◎			

関連科目	
その他	質問、相談等がある時は、授業の前後に研究室に来ること
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CT-M-321	科目分類（～2024 年入学者）	120-320-13	授業コード	FE0490
科目名称	海外観光資源研究 D(ｱｼﾞｱ 2)			単位数	2.0 単位
英文名称	Overseas Tourism Resources Research D （Asia2）			授業区分	講義
科目責任者	保坂 律子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	保坂 律子			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 水曜日 10:00～13:00 後期 水曜日 10:00～13:00			研究室	10-709
授業概要	中国では 2008 年に北京オリンピック、2010 年に上海万博、2022 年 2 月に北京で冬季オリンピックが開催されました。中国は近年の経済的躍進も相まって、ますます目が離せない隣国になっています。授業では多くの写真や映像、文字資料も利用し、多様性に富む豊かな文化と長い歴史を持つ中国の風土や地理、教育、文化、娯楽、食文化をはじめさまざまな視点から「中国の魅力」を学びます。				
到達目標	中国と日本の文化の共通点と相違点を具体的事例をあげて説明できる。中国の教育制度、風土と地理、交通事情、娯楽と余暇、食生活、建築などについて、日本との違いを指摘し、その理由を説明できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	保坂 律子	【第 1 回】 予習 ：中国と日本の文化の共通点、相違点について身近な事例を考えておく 授業 ：中国概説、オリエンテーション 復習 ：授業内容を振り返り、資料を見返す
2	保坂 律子	【第 2 回】 予習 ：Classroom にアップされる資料に目を通す 授業 ：国家のシンボルでとしての国旗、国歌、モチーフ等にみられる文化的意義。（グループディスカッション） 復習 ：日本の国家のシンボルとは何か中国と比較し自分の言葉でまとめる
3	保坂 律子	【第 3 回】 予習 ：Classroom にアップされる資料に目を通す 授業 ：中国の風土と地理（グループディスカッション） 復習 ：世界各国と比較し中国の風土の特徴をまとめる
4	保坂 律子	【第 4 回】 予習 ：Classroom にアップされる資料に目を通す 授業 ：多民族国家（グループディスカッション） 復習 ：自分にとっての民族とは何かを考え自分の言葉でまとめる
5	保坂 律子	【第 5 回】 予習 ：Classroom にアップされる資料に目を通す 授業 ：中国の様々な交通手段と庶民の「足」の変化（グループディスカッション） 復習 ：中国の交通手段の特徴を自分の言葉でまとめる
6	保坂 律子	【第 6 回】 予習 ：Classroom にアップされる資料に目を通す 授業 ：中国の教育制度と学校生活（グループディスカッション） 復習 ：中国と日本の学生生活の違いと長所、短所について考え自分の言葉でまとめる
7	保坂 律子	【第 7 回】 予習 ：Classroom にアップされる資料に目を通す 授業 ：色のイメージ（グループディスカッション） 復習 ：日中でイメージの異なる色について考え自分の言葉でまとめる
8	保坂 律子	【第 8 回】 予習 ：Classroom にアップされる資料に目を通す 授業 ：外来語とブランド（グループディスカッション） 復習 ：日本語の中にある外来語の起源について考える
9	保坂 律子	【第 9 回】 予習 ：Classroom にアップされる資料に目を通す。 授業 ：人気のアニメと子どもの遊び（グループディスカッション） 復習 ：日中共通の遊びについて自分の言葉でまとめる
10	保坂 律子	【第 10 回】 予習 ：Classroom にアップされる資料に目を通す 授業 ：オリンピックと万博（グループディスカッション） 復習 ：オリンピックや万博が都市に与える影響を日本の場合について考えてみる
11	保坂 律子	【第 11 回】 予習 ：Classroom にアップされる資料に目を通す 授業 ：京劇と中国の伝統芸能。（グループディスカッション） 復習 ：オペラ、歌舞伎と京劇の共通点を探す

12	保坂　律子	【第 12 回】 予習　：Classroom にアップされる資料に目を通す 授業　：消え行く古きよき町並み（グループディスカッション） 復習　：伝統的な町並み保存のメリット、デメリットについてまとめる
13	保坂　律子	【第 13 回】 予習　：Classroom にアップされる資料に目を通す 授業　：伝統の味とファストフード（グループディスカッション） 復習　：中国のファストフードの受容について自分の言葉でまとめる
14	保坂　律子	【第 14 回】 予習　：Classroom にアップされる資料に目を通す 授業　：中国トイレ事情（グループディスカッション） 復習　：トイレと都市の近代化について考えてみる
15	保坂　律子	【第 15 回】 予習　：自分の興味のある中国ドラマ、アニメをさがす 授業　：中国映画鑑賞 復習　：授業を通じて最も印象に残ったことを家族または友人に話して聞かせる

授業開始前学習	街中で見かける中国語、聞こえてくる中国語に注意をはらうようにする。中国に関するニュースに関心を持ち、チャンスを見つけて留学生と交流するように心がける。
授業内課題のフィードバックの方法	授業終了時に提出されたリアクションペーパーに対して、翌週の授業開始時にコメント及び回答する。
テキスト・教材	資料等は適宜配布、Classroom にアップする。
参考書	
評価の基準と方法	各回（全 15 回）のリアクションペーパー60 点、レポート 40 点とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○			△	◎			

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CT-M-221 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	120-320-12 （Ｊ）	授業コード	FE0492
科目名称	海外観光資源研究 E (ｱｼﾞｱ 3)			単位数	2.0 単位
英文名称	Overseas Tourism Resources Research E （Asia3）			授業区分	講義
科目責任者	ゼイヤー ウィン			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	ゼイヤー ウィン			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	前期 月曜日 10:40～12:10 水曜日 10:40～12:10 後期 水曜日 10:40～12:10 木曜日 10:40～12:10			研究室	10-604
授業概要	本科目は東南アジアの観光資源とその背景にある自然地理・生態系・歴史・文化を学ぶことを目的としている。近年、東南アジアは訪日旅行者の増加もあって、私たちにとても身近な存在になりつつある。しかし、私たちが普段見ている東南アジアへのまなざしは、日本からみた狭い視点での理解でしかない。東南アジアとっても、ひとくくりにはできない多様な自然・文化・歴史がある。また東南アジアと日本の関係を知れば、日本文化の形成にも大きな影響を与えていることに驚くだろう。さらに、欧米、中国など大国の狭間にあるこの地域の社会・歴史・文化を学ぶことで、新たな世界観を得ることができる。この授業を受講して、ぜひ一度東南アジアの旅へ出かけてほしい。				
到達目標	① 東南アジアの観光資源とその背景にある自然地理・生態系・文化・歴史を学ぶ。 ② 東南アジアと日本との関係を学び、新たな世界観を得る。 ③ 自分で調べたことをもとに自分の考えを文章にできる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	ゼイヤー ウィン	【第 1 回】 予習 ：シラバスを読んでおく 授業 ：授業の概要と方針 東南アジアを学ぶ意義 復習 ：授業レポートの提出
2	ゼイヤー ウィン	【第 2 回】 予習 ： 前回授業レポートのふりかえりをする 授業 ：東南アジアの気候・地形・地質 《ディスカッション》 復習 ：授業レポートの提出
3	ゼイヤー ウィン	【第 3 回】 予習 ： 前回授業レポートのふりかえりをする 授業 ：東南アジアの宗教と文化《ディスカッション》 復習 ：授業レポートの提出
4	ゼイヤー ウィン	【第 4 回】 予習 ： 前回授業レポートのふりかえりをする 授業 ：東南アジアの歴史と日本の関係《ディスカッション》 復習 ：授業レポートの提出
5	ゼイヤー ウィン	【第 5 回】 予習 ：前回授業レポートのふりかえりをする 授業 ：ミャンマーの観光資源とその背景《ディスカッション》 復習 ：授業レポートの提出
6	ゼイヤー ウィン	【第 6 回】 予習 ：前回授業レポートのふりかえりをする 授業 ：タイの観光資源とその背景 《ディスカッション》 復習 ：授業レポートの提出
7	ゼイヤー ウィン	【第 7 回】 予習 ：前回授業レポートのふりかえりをする 授業 ：ベトナムの観光資源とその背景 《ディスカッション》 復習 ：授業レポートの提出
8	ゼイヤー ウィン	【第 8 回】 予習 ：前回授業レポートのふりかえりをする 授業 ：シンガポールの観光資源とその背景《ディスカッション》 復習 ：授業レポートの提出
9	ゼイヤー ウィン	【第 9 回】 予習 ：前回授業レポートのふりかえりをする 授業 ：マレーシアの観光資源とその背景 《ディスカッション》 復習 ：授業レポートの提出
10	ゼイヤー ウィン	【第 10 回】 予習 ：前回授業レポートのふりかえりをする 授業 ：インドネシアの観光資源とその背景 《ディスカッション》 復習 ：授業レポートの提出

11	ゼイヤー ウィン	【第 11 回】 予習 ：前回授業レポートのふりかえりをする 授業 ：フィリピンの観光資源とその背景 《ディスカッション》 復習 ：授業レポートの提出
12	ゼイヤー ウィン	【第 12 回】 予習 ：前回授業レポートのふりかえりをする 授業 ：カンボジアの観光資源とその背景 《ディスカッション》 復習 ：授業レポートの提出
13	ゼイヤー ウィン	【第 13 回】 予習 ：前回授業レポートのふりかえりをする 授業 ：ラオスの観光資源とその背景 《ディスカッション》 復習 ：授業レポートの提出
14	ゼイヤー ウィン	【第 14 回】 予習 ：前回授業レポートのふりかえりをする 授業 ：東南アジアの中の日本 《ディスカッション》 復習 ：授業レポートの提出
15	ゼイヤー ウィン	【第 15 回】 予習 ：前回授業レポートのふりかえりをする 授業 ：ふりかえり、期末レポートのフィードバック 復習 ：授業レポートの提出

授業開始前学習	東南アジアに関するニュースに触れておくとよい。また実際に東南アジアへの旅行を計画するとこの科目はより有益となる。
授業内課題のフィードバックの方法	毎回、授業終了時に授業レポートの提出を義務付ける。次回授業時に講評を行い、個別の質問に回答する。
テキスト・教材	特になし
参考書	助川成也（2021）『ビジネス教養 東南アジア』新星出版社 今井昭夫編著（2015）『東南アジアを知るための 50 章』明石書店 アンソニー・リード（2021）『世界史のなかの東南アジア』「上巻ー下巻」名古屋大学出版会 信田 敏宏編（2019）『東南アジア文化事典』 丸善出版
評価の基準と方法	毎回授業時に提出する授業レポートの小テストの成績 1 回 5 点×15 回（75%）、期末レポートの成績（25%）で総合的に評価する。期末レポートは東南アジア地域のツアープランを企画することを予定している。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○			△	◎			

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	教員は東南アジアの旅行会社で働いた経験を持つ。また、国際協力機構（JICA）の開発コンサルタントや大学研究機関の研究員として、ベトナム、タイ、ミャンマー、インドネシア等での開発調査や学術調査に従事した経験もある。

科目分類（2025 年～入学者）	CT-M-231 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	120-331-12 （J）	授業コード	FE0520
科目名称	☆ミュージアム研究／日本のミュージアム			単位数	2.0 単位
英文名称	Museum Research／Museums in Japan			授業区分	講義
科目責任者	太田 英伶奈			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	太田 英伶奈			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	本講義は今日の日本におけるミュージアムへの理解を深めるべく、国内の様々なミュージアムについて幅広い知識を得られるよう設計されている。第 1、2 回を除き、毎回テーマに沿って国内から 3 館のミュージアムを取り上げ、沿革、展示内容や事業内容を解説する。必要に応じ、日本のミュージアムが抱える課題を指摘し、より良い展示や運営のあり方を考察する。				
到達目標	日本におけるミュージアムの成立過程と、今日存在する様々なミュージアムの種類を把握し、各ミュージアムの展示内容や事業内容を理解する。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	太田 英伶奈	【第 1 回】 予習：シラバスを通読し、授業内容を確認する。 授業：日本におけるミュージアムの成り立ち（正倉院、ウィーン万博） 復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる。
2	太田 英伶奈	【第 2 回】 予習：博物館法の概要を調べる（主に博物館の定義に関して）。 授業：導入（ミュージアムとは何か、博物館法） 復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる。
3	太田 英伶奈	【第 3 回】 予習：東京国立博物館の沿革と展示内容を調べる。 授業：総合的なミュージアム（東京国立博物館、九州国立博物館、インターメディアテク） 復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる。
4	太田 英伶奈	【第 4 回】 予習：京都国立博物館の沿革と展示内容を調べる。 授業：日本・東洋美術のミュージアム（京都国立博物館、根津美術館、鏑木清方記念美術館） 復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる。
5	太田 英伶奈	【第 5 回】 予習：国立西洋美術館の沿革と展示内容を調べる。 授業：西洋・近代美術のミュージアム（国立西洋美術館、大塚国際美術館、岡本太郎記念館） 復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる。
6	太田 英伶奈	【第 6 回】 予習：国立歴史民俗博物館の沿革と展示内容を調べる。 授業：考古・歴史のミュージアム（国立歴史民俗博物館、静岡市立登呂博物館、熊本県立装飾古墳館） 復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる。
7	太田 英伶奈	【第 7 回】 予習：名古屋市科学館の沿革と展示内容を調べる。 授業：自然科学のミュージアム（名古屋市科学館、地底の森ミュージアム、琵琶湖博物館） 復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる。
8	太田 英伶奈	【第 8 回】 予習：鉄道博物館の沿革と展示内容を調べる。 授業：産業のミュージアム（鉄道博物館、富岡製糸場、世界のタイル博物館） 復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる。
9	太田 英伶奈	【第 9 回】 予習：博物館明治村の沿革と展示内容を調べる。 授業：建築のミュージアム（博物館明治村、国立近現代建築資料館、今治市伊藤豊雄建築ミュージアム） 復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる。
10	太田 英伶奈	【第 10 回】 予習：日本近代文学館の沿革と展示内容を調べる。 授業：文学のミュージアム（世田谷文学館、源氏物語ミュージアム、三島由紀夫文学館） 復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる。
11	太田 英伶奈	【第 11 回】 予習：鈴木大拙館の沿革と展示内容を調べる。 授業：思想・制度のミュージアム（鈴木大拙館、國學院大學博物館、憲政記念館） 復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる。

12	太田　英伶奈	【第 12 回】 予習：民音音楽博物館の沿革と展示内容を調べる。 授業：音楽・演劇・映像のミュージアム（民音音楽博物館、早稲田大学坪内博士記念演劇博物館、国立映画アーカイブ） 復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる。
13	太田　英伶奈	【第 13 回】 予習：日本民藝館の沿革と展示内容を調べる。 授業：工芸・服飾のミュージアム（日本民藝館、文化学園服飾博物館、紅ミュージアム） 復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる。
14	太田　英伶奈	【第 14 回】 予習：国立民族学博物館の沿革と展示内容を調べる。 授業：文化人類系のミュージアム（国立民族学博物館、鳥羽市立海の博物館、国立アイヌ民族博物館） 復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる。
15	太田　英伶奈	【第 15 回】 予習：興味のあるミュージアムを見学し、プレゼンテーション（課題解決型学習）の下準備をする。 授業：自身が見学したミュージアムの展示上の工夫と、改善点をプレゼンテーションで提示する。※受講人数次第でプレゼンテーションからグループワークへの変更の可能性あり 復習：自身や他の受講者のプレゼンテーションを振り返り、今日の日本におけるミュージアムへの理解を深める。

授業開始前学習	「インターネットミュージアム」（https://www.museum.or.jp/）等、日本のミュージアムに関するポータルサイトを閲覧し、国内にどのようなミュージアムがあるかを把握する。その他、日本のミュージアムを取り扱った書籍や映像資料にて事前知識を得るのが望ましい。
授業内課題のフィードバックの方法	履修者は毎授業後に教場にてコメントシートを提出する。次回授業の冒頭にて、興味深いコメントや質問へのフィードバックを行う。
テキスト・教材	適宜レジュメを配布する。
参考書	必要に応じ、参考書を提示する。
評価の基準と方法	毎授業後に提出するコメントの提出率及び内容と、第 15 回授業時に行うプレゼンテーション（受講人数次第ではグループワーク）の内容により評価する。配点（100 点満点における）はコメント 40 点、プレゼンテーション 60 点とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○			△	◎			

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	学芸員資格あり。また、独立行政法人の研究所にて文化財保護事業に携わる。本講義ではこれらの経験を活かし、日本のミュージアムの展示内容や事業内容を解説する。

科目分類（2025年～入学者）	CT-M-231	科目分類（～2024年入学者）	120-331-12	授業コード	FE0530
科目名称	☆西洋美術の旅／西洋美術の旅Ⅰ			単位数	2.0単位
英文名称	Western Art Journey／Western Art Journey Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	太田　英伶奈			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	太田　英伶奈			開講時期	2・3年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	古典ギリシア時代から第2次世界大戦後までの西洋美術を、タイトルに則して「旅」という観点から概観する。毎回ある時代（もしくは美術様式・運動）を取り上げ、その時代の美術に適用できる「旅」という観点から、作品の背景にある歴史的事実や時代精神を考察する。西洋美術の様々な様態を理解できるよう、講義で引用する作例は絵画・彫刻・工芸・建築の4分野に亘る。				
到達目標	「旅」という観点を通じ、古典ギリシア時代から第2次世界大戦後までの西洋美術の様々な様態を大まかに把握する。各時代（もしくは美術様式・運動）に属する美術の特徴を理解する。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	太田　英伶奈	【第1回】神話の旅 予習：シラバスを通読し、授業内容を確認する。 授業：導入、古典ギリシア美術における神話の中の旅 復習：興味を引いた作例を調べ、ノートにまとめておく。
2	太田　英伶奈	【第2回】領土への旅 予習：ローマ美術の作例を調べる。 授業：ローマ美術における普遍性 復習：興味を引いた作例を調べ、ノートにまとめておく。
3	太田　英伶奈	【第3回】死出の旅 予習：初期キリスト教美術の作例を調べる。 授業：初期キリスト教美術における死と来世の表現 復習：興味を引いた作例を調べ、ノートにまとめておく。
4	太田　英伶奈	【第4回】巡礼の旅 予習：ロマネスク美術の作例を調べる。 授業：ロマネスク期における巡礼の興隆と美術への影響 復習：興味を引いた作例を調べ、ノートにまとめておく。
5	太田　英伶奈	【第5回】天上への旅 予習：ゴシック美術の作例を調べる。 授業：ゴシック美術における上昇性 復習：興味を引いた作例を調べ、ノートにまとめておく。
6	太田　英伶奈	【第6回】辺境への旅 予習：ビザンティン美術の作例を調べる。 授業：ビザンティン美術における首都と辺境の関係 復習：興味を引いた作例を調べ、ノートにまとめておく。
7	太田　英伶奈	【第7回】求職の旅 予習：イタリア・ルネサンス美術の作例を調べる。 授業：イタリア・ルネサンス時代の芸術家とパトロン 復習：興味を引いた作例を調べ、ノートにまとめておく。
8	太田　英伶奈	【第8回】アルプスを越える商人の旅 予習：北方ルネサンス美術の作例を調べる。 授業：イタリア商人のベネルスク地方への進出と、北方ルネサンス美術への影響 復習：興味を引いた作例を調べ、ノートにまとめておく。
9	太田　英伶奈	【第9回】逃亡の旅 予習：カラヴァッジョ（ミケランジェロ・ダ・メリージ）作品を調べる。 授業：カラヴァッジョの画業と逃亡生活 復習：興味を引いた作例を調べ、ノートにまとめておく。
10	太田　英伶奈	【第10回】修行の旅 予習：バロック美術の作例を調べる。 授業：バロック美術と都市ローマの求心性 復習：興味を引いた作例を調べ、ノートにまとめておく。
11	太田　英伶奈	【第11回】過去への旅 予習：新古典主義、ラファエル前派の作例を調べる。 授業：新古典主義、ラファエル前派における懐古趣味 復習：興味を引いた作例を調べ、ノートにまとめておく。

12	太田　英伶奈	【第 12 回】機械による旅 予習：印象派の作例を調べる。 授業：印象派と移動手段の変化 復習：興味を引いた作例を調べ、ノートにまとめておく。
13	太田　英伶奈	【第 13 回】内面世界の旅 予習：象徴主義、世紀末美術の作例を調べる。 授業：象徴主義、世紀末美術における内面世界 復習：興味を引いた作例を調べ、ノートにまとめておく。
14	太田　英伶奈	【第 14 回】規範の外への旅 予習：シュルレアリスム、ダダイスムの作例を調べる。 授業：シュルレアリスムとダダイスムの試み 復習：興味を引いた作例を調べ、ノートにまとめておく。
15	太田　英伶奈	【第 15 回】アイデンティティの旅 予習：戦後美術の作例を調べる。 授業：戦後美術における越境性 復習：興味を引いた作例を調べ、ノートにまとめておく。

授業開始前学習	基本的には時代順に講義を進めるが、西洋美術史の概論的な講義ではないため、履修者各自で西洋美術の流れを学習しておくのが望ましい。芳賀満ほか（2021）『西洋美術史』秋山聰・田中正之監修（美術出版ライブラリー　歴史編）（東京：美術出版社）等の西洋美術史概要書にあたること。
授業内課題のフィードバックの方法	履修者は毎授業後に教場でコメントシートを提出する。次回授業の冒頭にて、興味深いコメントや質問へのフィードバックを行う。
テキスト・教材	特に指定しないが、時代区分等は芳賀満ほか（2021 年）（授業開始前学習の欄を参照）に沿う。その他、適宜レジュメを配布する。
参考書	（1992-97）『世界美術大全集　西洋編』（東京：小学館）（全 28 巻＋索引 1 巻）。その他、毎回授業内容に沿った参考書を提示する。
評価の基準と方法	毎授業後に提出するコメントの提出率及び内容と、学期末に提出するレポート（調査学習）の内容により評価する。配点（100 点満点における）はコメント 30 点、レポート 70 点とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○			△	◎			

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CT-M-231	科目分類（～2024 年入学者）	120-330-12	授業コード	FE0550
科目名称	異文化交流 I			単位数	2.0 単位
英文名称	Cross-cultural Commuication I			授業区分	講義
科目責任者	羽鳥　修			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	羽鳥　修			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	前期　金曜日 10:30～14:30 後期　金曜日 10:30～14:30			研究室	10-609
授業概要	アメリカ合衆国（以下、アメリカと略記する）は「移民の国」で、多人種・多民族国家です。従って、アメリカでは、過去から現在に至るまで異なる文化が出会い、交錯するなかで、「アメリカ文化」が形成されてきました。ここでは、アフリカ系アメリカ人が歩んできた歴史を辿りながら、異文化交流の場としてのアメリカを考察し、併せて史跡や観光資源について解説します。また、双方向型および課題解決型の授業を行うため、ほぼ毎回の授業でペア・ワークおよびグループワークを行います。				
到達目標	一つひとつの歴史的事象について、事象が起こった要因を歴史的文脈の中で「解釈」するとともに、それがその後の歴史とどのようにかかわっているのかについて「解釈」する能力の涵養を目標とします。その際に重要なことは、恣意的な解釈ではなく、しかるべき根拠に基づいて歴史を「解釈」することを意味します。また、双方向・課題解決型の授業を通じて主に筆記力、傾聴力、表現力、調べる力とともに、アメリカの地理、歴史、観光資源に関する知識などを身につけることを目標とします。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	羽鳥　修	【第 1 回】 予習　：テキスト「はじめに」を事前に読む 授業　：ガイダンスとして授業計画・方針・成績評価の方法等を説明し、そのあとでアメリカに関する基本的な質疑応答を行う（ペアワークおよびグループワーク） 復習　：ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。
2	羽鳥　修	【第 2 回】 予習　：テキスト 4 頁~5 頁を講読し、疑問点を）をチェックする 授業　：黒人奴隷制の確立（大西洋奴隷貿易）（ペアワークおよびグループワーク） 復習　：課題 1（テキスト 10 頁）、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。
3	羽鳥　修	【第 3 回】 予習　：テキスト 5 頁~8 頁を講読し、疑問点をチェックする 授業　：チェサピーク湾地域の植民地　（ペアワークおよびグループワーク） 復習　：課題 2（テキスト 10 頁）、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。
4	羽鳥　修	【第 4 回】 予習　：テキスト 8 頁~10 頁を講読し、疑問点のチェックする 授業　：新共和国における奴隷制の位置づけ　（ペアワークおよびグループワーク） 復習　：課題 3（テキスト 10 頁）、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。
5	羽鳥　修	【第 5 回】 予習　：テキスト 11 頁~13 頁を講読し、疑問点のチェックする 授業　：２つのアメリカと２つの南部　（ペアワークおよびグループワーク） 復習　：課題 1（テキスト 17 頁）、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。
6	羽鳥　修	【第 6 回】 予習　：テキスト 13 頁~15 頁を講読し、疑問点をチェックする 授業　：白人による奴隷解放運動　（ペアワークおよびグループワーク） 復習　：課題 2（テキスト 17 頁）、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。
7	羽鳥　修	【第 7 回】 予習　：テキスト 15 頁~17 頁を講読し、疑問点をチェックする 授業　：黒人による奴隷解放運動と黒人イメージの創出　（ペアワークおよびグループワーク） 復習　：課題 3・4（テキスト 17 頁）、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。
8	羽鳥　修	【第 8 回】 予習　：テキスト 18 頁を講読し、疑問点をチェックする 授業　：西部への膨張　（ペアワークおよびグループワーク） 復習　：課題 1（テキスト 23 頁）、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。
9	羽鳥　修	【第 9 回】 予習　：テキスト 18 頁~21 頁を講読し、疑問点をチェックする 授業　：奴隷問題の政治化　（ペアワークおよびグループワーク） 復習　：課題 1~4（テキスト 23 頁）、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。
10	羽鳥　修	【第 10 回】 予習　：テキスト 34 頁~29 頁を講読し、疑問点をチェックする 授業　：連邦の分裂と奴隷解放宣言　（ペアワークおよびグループワーク） 復習　：課題 2~3（テキスト 33 頁）、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。

11	羽鳥　修	【第 11 回】 予習　：テキスト 29 頁~33 頁を講読し、疑問点をチェックする。. 授業　：再建の時代　（ペアワークおよびグループワーク） 復習　：課題 4（テキスト 33 頁）、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。
12	羽鳥　修	【第 12 回】 予習　：テキスト 34 頁~39 頁を講読し、疑問点をチェックする 授業　：その後の黒人解放運動　（ペアワークおよびグループワーク） 復習　：課題 1~5（テキスト 51 頁）、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。
13	羽鳥　修	【第 13 回】 予習　：テキスト 40 頁~42 頁を講読し、疑問点をチェックする 授業　：公民権運動　（ペアワークおよびグループワーク） 復習　：課題 6~8（テキスト 51 頁）、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。
14	羽鳥　修	【第 14 回】 予習　：テキスト 42 頁~44 頁を講読し、疑問点をチェックする 授業　：アフリカ系アメリカ人の現状　（ペアワークおよびグループワーク） 復習　：課題（テキスト 69 頁）ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。 、
15	羽鳥　修	【第 15 回】 予習　：テキスト 52 頁~60 頁を講読し、疑問点をチェックする 授業　：アメリカ社会像の変遷と多文化主義　（ペアワークおよびグループワーク） 復習　：課題 1･2（テキスト 69 頁）、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。

授業開始前学習	高校で使われる世界史の教科書、あるいはアメリカ史の入門書（概説書）を読んでおいてください。
授業内課題のフィードバックの方法	各回のコメントシートについては次回の授業冒頭でフィードバックします。また、教科書にある「課題」（各章の最終頁に記載）のほか、数回レポート課題を出しますが、解答例または添削をする方法でフィードバックします。
テキスト･教材	羽鳥修『異文化理解 I』（駒沢女子大学教科書シリーズ）
参考書	教科書の巻末に参考文献一覧があるので参照してください。その他については、授業のなかで適宜紹介します。
評価の基準と方法	毎回のコメントシート（65%）、レポート課題（20%）、発表など授業への参加姿勢（15%）
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				

関連科目	「アメリカの文化と歴史 Ⅰ ･II 」
その他	
予習･復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習･復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）	CT-M-231	科目分類（～2024年入学者）	120-330-12	授業コード	FE0560
科目名称	異文化交流Ⅱ			単位数	2.0単位
英文名称	Cross-cultural Commuication II			授業区分	講義
科目責任者	羽鳥　修			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	羽鳥　修			開講時期	2・3年
オフィスアワー	前期　金曜日 10:30～14:30 後期　金曜日 10:30～14:30			研究室	10-609
授業概要	アメリカ合衆国は「移民の国」で、多人種・多民族国家です。従って、アメリカは、過去から現在に至るまで異なる文化が出会い、交錯するなかで、「アメリカ文化」が形成されてきました。ここでは、幾つかのエスニックグループを取り上げ、彼らが歩んできた歴史を辿りながら、異文化交流の場としてのアメリカを考察し、併せて史跡や観光資源について解説します。また、授業形態は双方向型および課題解決型です。				
到達目標	一つひとつの歴史的事象について、事象が起こった要因を歴史的文脈の中で「解釈」するとともに、それがその後の歴史とどのようにかかわっているのかについて「解釈」する能力の涵養を目標とします。その際に重要なことは、恣意的な解釈ではなく、しかるべき根拠に基づいて歴史を「解釈」することです。また、双方向・課題解決型の授業を通じて主に筆記力、傾聴力、表現力、調べる力とともに、アメリカの地理、歴史、観光資源に関する知識などを身につけることを目標とします。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	羽鳥　修	【第1回】 予習　：アメリカの人種別人口構成について、表を作成する 授業　：授業計画、方針、成績評価の方法等についてを説明する 復習　：アメリカの歴史統計に関するレファランス（授業で紹介する）をもとに予習の内容を修正する
2	羽鳥　修	【第2回】 予習　：イギリス系アメリカ人の文化的貢献について調べる 授業　：イギリスからの移民（プッシュ要因とプル要因）〈アクティブラーニング・課題解決型学習〉 復習　：ノートの確認後コメントシートを書いて提出する
3	羽鳥　修	【第3回】 予習　：イギリス系アメリカ人の文化的貢献について調べる 授業　：イギリス系アメリカ人の文化的貢献 復習　：ノートの確認後コメントシートを書いて提出する
4	羽鳥　修	【第4回】 予習　：ドイツ系アメリカ人の文化的貢献について調べる 授業　：ドイツ系からの移民（プッシュ要因とプル要因） 復習　：ノートの確認後コメントシートを書いて提出する
5	羽鳥　修	【第5回】 予習　：ドイツ系アメリカ人の文化的貢献について調べる 授業　：ドイツ系アメリカ人の文化的貢献 復習　：ノートの確認後コメントシートを書いて提出する
6	羽鳥　修	【第6回】 予習　：アイルランド系アメリカ人の文化的貢献について調べる 授業　：アイルランドからの移民（プッシュ要因とプル要因） 復習　：ノートの確認後コメントシートを書いて提出する
7	羽鳥　修	【第7回】 予習　：アイルランド系アメリカ人の文化的貢献について調べる 授業　：アイルランド系アメリカ人の文化的貢献 復習　：ノートの確認後コメントシートを書いて提出する
8	羽鳥　修	【第8回】 予習　：イタリア系アメリカ人の文化的貢献について調べる 授業　：イタリア系からの移民（プッシュ要因とプル要因） 復習　：ノートの確認後コメントシートを書いて提出する
9	羽鳥　修	【第9回】 予習　：イタリア系アメリカ人の文化的貢献について調べる 授業　：イタリア系アメリカ人の文化的貢献 復習　：ノートの確認後コメントシートを書いて提出する
10	羽鳥　修	【第10回】 予習　：ユダヤ系アメリカ人について調べる 授業　：ユダヤ系移民の種類と渡米の理由 復習　：ノートの確認後コメントシートを書いて提出する

11	羽鳥　修	【第 11 回】 予習　：ユダヤ系アメリカ人の文化的貢献について調べる 授業　：ユダヤ系アメリカ人の文化的貢献 復習　：ノートの確認後コメントシートを書いて提出する
12	羽鳥　修	【第 12 回】 予習　：ヒスパニックの文化的貢献について調べる 授業　：ヒスパニックの種類と渡米の理由 復習　：ノートの確認後コメントシートを書いて提出する
13	羽鳥　修	【第 13 回】 予習　：ヒスパニックの文化的貢献について調べる 授業　：ヒスパニック意の文化的貢献 復習　：ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。
14	羽鳥　修	【第 14 回】 予習　：「アメリカ人とはなにか」について考えてくる 授業　：アメリカ人の「自画像」 復習　：ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。
15	羽鳥　修	【第 15 回】 予習　：多文化主義について調べる 授業　：多文化主義 復習　：ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。

授業開始前学習	高校で使用するレベルの世界史の教科書あるいは概説書を読んでおいてください。
授業内課題のフィードバックの方法	各回のコメントシートについては次回の授業冒頭でフィードバックします。また、教科書にある「課題」（各章の最終頁に記載）のほか、数回のレポート課題を出しますが、解答例または添削する方法でフィードバックします。
テキスト・教材	教科書は使用しません。
参考書	授業のなかで適宜紹介します。
評価の基準と方法	毎回のコメントシート(65%）、レポート課題（20%）、授業への参加姿勢（15%）
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				

関連科目	「アメリカの文化と歴史 Ⅰ・II 」
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

☆文化交流論／文化交流論 B(日本とｱﾒﾘｶ)

科目分類（2025 年～入学者）	CT-M-331	科目分類（～2024 年入学者）	120-330-13	授業コード	FE0580
科目名称	☆文化交流論／文化交流論 B(日本とｱﾒﾘｶ)			単位数	2.0 単位
英文名称	Cultural Exchange Studies B (Japan and United States of America)			授業区分	講義
科目責任者	羽鳥　修			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	羽鳥　修			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期　金曜日 10:30～14:30 後期　金曜日 10:30～14:30			研究室	10-609
授業概要	日本とアメリカの関係は密接で、政治的、経済的、文化的レベルまで及んでいる。本講義では、日米の国家間・政府間の関係の歴史を 19 世紀半ばに来航したペリーの時期から太平洋戦争に突入した時期を中心に日米間の歴史を概観します。続いて、日系アメリカ人の歩んだ歴史、日米文化交流の歴史、北海道開拓の歴史、日米の文化交流の歴史と現状、そして日米の相互認識を概説します。こうしたテーマを解説しながら、併せて日本とアメリカの観光資源についても適宜紹介・解説します。なお、授業形態は双方向型および課題解決型です。				
到達目標	密接な関係にある日本とアメリカの政治的、経済的、文化的交流の学びを通じて、日米の歩んできた歴史の基礎を把握するとともに、歴史的・文化的に注目すべき観光資源についての理解を深めることを目標とします。さらに、授業を通じて、主に傾聴力、筆記力、調べる力などが身に付けられるように授業を行います。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	羽鳥　修	【第 1 回】 予習：テキスト 1 ～ 3 頁を読み、わからない箇所をノートにメモする 授業：授業計画、方針、成績評価等を説明し、日米の基本的知識について質疑を行います 復習：ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。
2	羽鳥　修	【第 2 回】 予習：テキスト 4 ～ 8 頁を読み、わからない箇所をノートにメモする 授業：ペリー来航の背景 復習：課題 1･2（テキスト 24 頁）に取り組む。また、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。
3	羽鳥　修	【第 3 回】 予習：テキスト 4 ～ 8 頁を読み、わからない箇所をノートにメモする 授業：ペリー来航に対する日本の姿勢と 2 つの条約締結（DVD 鑑賞「安部正弘の外交戦略」と解説） 復習：課題 3･4 （テキスト 24 頁）に取り組む。また、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。
4	羽鳥　修	【第 4 回】 予習：テキスト 8 ～11 頁を読み、わからない箇所をノートにメモする 授業：世紀転換期の日米関係 復習：課題 5･6（テキスト 25 頁）に取り組む。また、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。
5	羽鳥　修	【第 5 回】 予習：テキスト 11～18 頁を読み、わからない箇所をノートにメモする 授業：日系アメリカ人 復習：課題 8･9･11（テキスト 25 頁）に取り組む。また、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。
6	羽鳥　修	【第 6 回】 予習：テキスト 11～18 頁を読み、わからない箇所をノートにメモする 授業：日系アメリカ人（DVD 鑑賞と解説） 復習：課題 8･9･11（テキスト 25 頁）に取り組む。また、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。
7	羽鳥　修	【第 7 回】 予習：テキスト 18?24 頁を読み、わからない箇所をノートにメモする 授業：太平洋戦争への道、明治以前の日米人的交流史 復習：ノートの確認後コメントシートを書いて提出する
8	羽鳥　修	【第 8 回】 予習：テキスト 26~34 頁を読み、わからない箇所をノートにメモする 授業：DVD（「ジョン万次郎」と「ジョセフ彦」）鑑賞と解説 復習：課題 1･2･3（テキスト 25 頁）に取り組む。また、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。
9	羽鳥　修	【第 9 回】 予習：テキスト 35~41 頁を読み、わからない箇所をノートにメモする 授業：北海道開拓の歴史 復習：課題 1･2･3（テキスト 55 頁）に取り組む。また、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。
10	羽鳥　修	【第 10 回】 予習：テキスト 35~41 頁を読み、わからない箇所をノートにメモする 授業：北海道開拓の歴史、DVD（「W･クラーク」）鑑賞と解説 復習：課題 4 （テキスト 55 頁）に取り組む。また、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。

11	羽鳥　修	【第 11 回】 予習：テキスト 41~50 頁を読み、わからない箇所をノートにメモする 授業：アメリカ文化の「輸入」 復習：課題 5･6（テキスト 55 頁）に取り組む。また、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。
12	羽鳥　修	【第 12 回】 予習：テキスト 50?55 頁を読み、わからない箇所をノートにメモする 授業：日本文化の「輸出」 復習：課題 7･8･9･10（テキスト 55 頁）に取り組む。また、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。
13	羽鳥　修	【第 13 回】 予習：第 10･11 回の復習課題についての発表準備 授業：日米文化の輸出入の発表（履修者数により変更の可能性あり） 復習：発表の感想（800 字程度）
14	羽鳥　修	【第 14 回】 予習：テキスト 55~61 頁を読み、わからない箇所をノートにメモする 授業：日本人のアメリカ観 復習：課題 1･2･3（テキスト 67 頁）に取り組む。また、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。
15	羽鳥　修	【第 15 回】 予習：テキスト 61~66 頁を読み、わからない箇所をノートにメモする 授業：アメリカ人の日本観 復習：課題 4･5（テキスト 67 頁）に取り組む。また、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。

授業開始前学習	高校で日本史または世界史を履修した人は、教科書を読んでおいてください。
授業内課題のフィードバックの方法	各回のコメントシートについては次回の授業冒頭でフィードバックします。また提出課題については、模範解答もしくは添削によりフィードバックします。
テキスト･教材	羽鳥修『文化交流論 B（日本とアメリカ）』（駒沢女子大学教科書シリーズ、2010 年）
参考書	教科書 69 頁を参照。その他は適宜紹介する。
評価の基準と方法	毎回のコメントシート（65%）、レポート課題（20%）、授業への参加姿勢（15%）
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				

関連科目	「アメリカの文化と歴史 Ⅰ ･II 」
その他	
予習･復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習･復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CT-M-331	科目分類（～2024 年入学者）	120-330-13	授業コード	FE0592
科目名称	世界の文化と国際接遇			単位数	2.0 単位
英文名称	World Culture and International Hospitality			授業区分	講義
科目責任者	太田　啓子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	太田　啓子			開講時期	3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	本授業では、欧米などと比べて比較的情報の少ない中東・アフリカ地域の観光資源を紹介します。特に中東地域には、ローマ帝国時代の遺構やキリスト教に関係する史跡、西欧のルネサンスの基礎となったアラブ・イスラーム文明の歴史遺産が数多く残されている一方、紛争の影響を受けて破壊されたり、アクセスができなくなったりするなど危機的状況にあるものも数多く存在します。観光資源をテーマに中東・アフリカの歴史、文化的多様性、地域の課題も考察します。				
到達目標	中東・アフリカの観光資源について基本的な知識を得ること、またこのような観光資源を生み出した中東・アフリカの歴史や文化的多様性、そして地域の課題についての理解を深めることを目標とします。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	太田　啓子	予習　：　授業のスケジュールを確認しておくこと 授業　：　ガイダンス 復習　：　世界地図を見て、本授業で対象となる国・地域がどこに位置するか確認しておくこと
2	太田　啓子	予習　：　ユネスコ世界遺産がどのようなものか、あらかじめ調べておくこと 授業　：　ユネスコ世界遺産の概要 復習　：　ユネスコ世界遺産とはどのようなものか、歴史や分類、現在直面している課題などについて復習しておくこと
3	太田　啓子	予習　：　中東・アフリカの地理や歴史、文化について、あらかじめ調べておくこと 授業　：　中東・アフリカの概観 復習　：　中東・アフリカの地理や歴史、文化について、その概要を復習しておくこと
4	太田　啓子	予習　：　トルコの観光資源について、あらかじめ調べておくこと 授業　：　中東の観光資源（1)トルコ 復習　：　トルコの観光資源について、地図上の位置を確認し、それぞれの特徴を簡単に説明できるようにしておくこと
5	太田　啓子	予習　：　シリア・レバノンの観光資源について、あらかじめ調べておくこと 授業　：　中東の観光資源（2)シリア・レバノン 復習　：　シリア・レバノンの観光資源について、地図上の位置を確認し、それぞれの特徴を簡単に説明できるようにしておくこと
6	太田　啓子	予習　：　パレスチナ・イスラエル・エルサレムの観光資源について、あらかじめ調べておくこと 授業　：　中東の観光資源（3)パレスチナ・イスラエル・エルサレム 復習　：　パレスチナ・イスラエル・エルサレムの観光資源について、地図上の位置を確認し、それぞれの特徴を簡単に説明できるようにしておくこと
7	太田　啓子	予習　：　イラクの観光資源について、あらかじめ調べておくこと 授業　：　中東の観光資源（4)イラク 復習　：　イラクの観光資源について、地図上の位置を確認し、それぞれの特徴を簡単に説明できるようにしておくこと
8	太田　啓子	予習　：　湾岸諸国の観光資源について、あらかじめ調べておくこと 授業　：　中東の観光資源（5)湾岸諸国（アラブ首長国連邦、バーレーン、カタール） 復習　：　湾岸諸国の観光資源について、地図上の位置を確認し、それぞれの特徴を簡単に説明できるようにしておくこと
9	太田　啓子	予習　：　アラビア半島の観光資源について、あらかじめ調べておくこと 授業　：　中東の観光資源（6)アラビア半島の国々（サウジアラビア・イエメン・オマーン） 復習　：　アラビア半島の観光資源について、地図上の位置を確認し、それぞれの特徴を簡単に説明できるようにしておくこと
10	太田　啓子	予習　：　イラン・アフガニスタンの観光資源について、あらかじめ調べておくこと 授業　：　中東の観光資源（7)イラン・アフガニスタン 復習　：　イラン・アフガニスタンの観光資源について、地図上の位置を確認し、それぞれの特徴を簡単に説明できるようにしておくこと
11	太田　啓子	予習　：　エジプト・エチオピアの観光資源について、あらかじめ調べておくこと 授業　：　アフリカの観光資源（1)エジプト・エチオピア 復習　：　エジプト・エチオピアの観光資源について、地図上の位置を確認し、それぞれの特徴を簡単に説明できるようにしておくこと
12	太田　啓子	予習　：　ケニア・タンザニアの観光資源について、あらかじめ調べておくこと 授業　：　アフリカの観光資源（2)ケニア・タンザニア 復習　：　ケニア・タンザニアの観光資源について、地図上の位置を確認し、それぞれの特徴を簡単に説明できるようにしておくこと

13	太田　啓子	予習　：　ザンビア・マリ・ルワンダの観光資源について、あらかじめ調べておくこと 授業　：　アフリカの観光資源　(3)ザンビア・マリ・ルワンダ 復習　：　ザンビア・マリ・ルワンダの観光資源について、地図上の位置を確認し、それぞれの特徴を簡単に説明できるようにしておくこと
14	太田　啓子	予習　：　チュニジア・モロッコの観光資源について、あらかじめ調べておくこと 授業　：　アフリカの観光資源　(4)チュニジア・モロッコ 復習　：　チュニジア・モロッコの観光資源について、地図上の位置を確認し、それぞれの特徴を簡単に説明できるようにしておくこと
15	太田　啓子	予習　：　これまでの授業のスライド、自分で取ったノート、メモなどを読み返しておくこと 授業　：　授業のふりかえり 復習　：　授業を受講する前と後で、自分の中の中東・アフリカの歴史・文化に対するイメージがどのように変わったのか（または変わっていないのか）考えてみること

授業開始前学習	手元に中東・アフリカの歴史や文化についての書籍、旅行・観光用のガイドブックなどがある方は目を通しておいてください。授業内容が理解しやすくなります。
授業内課題のフィードバックの方法	授業で取り上げた内容について、毎回授業内で課題を出しますので提出してください（提出は必須）。感想、質問がある場合には、課題を提出する際に、一緒に記入してください（こちらの記入は任意）。これらに対して次回の授業で教員より回答・補足説明を行います。
テキスト・教材	NPO 法人世界遺産アカデミー監修『すべてがわかる世界遺産 1500：世界遺産検定 1 級公式テキスト』NPO 法人世界遺産アカデミー・世界遺産検定事務局、2024 年。 ＊テキストがなくても受講可能です（授業はテキストがなくても理解できるように行いますので購入する必要はありません）。
参考書	佐藤次高編『新版世界各国史 8　西アジア史 I　アラブ』山川出版社、2002 年。 永田雄三編『新版世界各国史 9　西アジア史 II　イラン・トルコ』山川出版社、2002 年。 川田順造編『新版世界各国史 10　アフリカ史』山川出版社、2009 年。 ＊参考書がなくても受講可能です（授業は参考書がなくても理解できるように行いますので購入する必要はありません）。
評価の基準と方法	定期試験 100%で評価します。 ＊単位認定には 3 分の 2 以上の授業内課題を提出することが最低条件ですので注意してください。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	◎			△			

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CT-M-231	科目分類（～2024 年入学者）	120-330-12	授業コード	FE0600
科目名称	ｲｽﾗｰﾑ文化論			単位数	2.0 単位
英文名称	Religious Culture (Islam)			授業区分	講義
科目責任者	太田　啓子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	太田　啓子			開講時期	2･3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	イスラーム教は世界三大一神教（ユダヤ教、キリスト教、イスラーム教）のひとつです。その広がりはアジア、アフリカにとどまらず、ヨーロッパ、アメリカなどほぼ世界全体に及んでいます。このように世界規模の広がりを見せるイスラーム教を信奉する人びと、すなわちムスリムたちはさまざまな自然地理条件・社会環境下にある諸地域において多様な文化を育んでいます。そこで本授業では、前半は主に宗教としてのイスラーム教について、後半はイスラーム教を背景に育まれた多様な文化について取り上げます。				
到達目標	宗教としてのイスラーム教について基本的な知識を得ること、またイスラーム教を背景に育まれた多様な文化を知ることを通じて、その宗教的普遍性、文化的多様性についての理解を深めることを目標とします。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	太田　啓子	【第 1 回】 予習：あらかじめ授業のシラバスに目を通しておくこと。 授業：ガイダンス 復習：「イスラーム」という言葉から自分が連想するものを考えておくこと。
2	太田　啓子	【第 2 回】 予習：高校の時に世界史を履修していた人は、教科書、資料集などのイスラームに関連する部分を読み返しておくこと。 授業：イスラームとは何か 復習：なぜイスラーム研究者は「イスラーム教」ではなく、「イスラーム」という呼称を用いるのか考えてみること。
3	太田　啓子	【第 3 回】 予習：イスラーム教とはどういう宗教なのか、簡単に調べておくこと。 授業：イスラームのキーワード 復習：「イスラーム」「アッラー」「六信五行」「ウンマ」などについて復習しておくこと。
4	太田　啓子	【第 4 回】 予習：『クルアーン』の日本語訳に、一部分で良いので、目を通しておくこと。 授業：クルアーンとムハンマド 復習：「クルアーン」「ムハンマド」「ハディース」などについて復習しておくこと。
5	太田　啓子	【第 5 回】 予習：イスラーム法にはどのような規定があるか、いくつか調べておくこと。 授業：イスラーム法 復習：イスラーム法の特徴と各法学派について復習しておくこと。
6	太田　啓子	【第 6 回】 予習：イスラーム神秘主義者（スーフィー）とはどういう人たちか、自分のイメージを考えておくこと。 授業：スーフィズム 復習：スーフィズムの成立過程と果たした役割について復習しておくこと。
7	太田　啓子	【第 7 回】 予習：シーア派とスンナ派の違いについて、いくつか調べておくこと。 授業：シーア派とスンナ派 復習：シーア派とスンナ派が分かれた理由、その違いについて復習しておくこと。
8	太田　啓子	【第 8 回】 予習：イスラーム世界の政治の流れについて、高校の時に世界史を履修していた人は、教科書を読み返しておくこと。 授業：イスラームと政治 復習：7 世紀から現代までのイスラーム世界の政治の流れについて復習しておくこと。
9	太田　啓子	【第 9 回】 予習：アロマショップなどで、乳香（フランキンセンス）の匂いを実際に嗅いでおくこと。 授業：乳香と乳香をめぐる文化 復習：乳香がイスラーム文化とキリスト教文化において果たした役割について復習しておくこと。
10	太田　啓子	【第 10 回】 予習：イスラームのガラス器について調べておくこと。 授業：ガラス器とイスラーム 復習：ガラス器を通じたヨーロッパとイスラーム世界の交流について復習しておくこと。

11	太田　啓子	【第 11 回】 予習：東京ジャーミイの HP（https://tokyocamii.org/ja/）を見ておくこと。 授業：モスク建築の変遷 復習：モスク建築とイスラーム世界の政治状況との結びつきについて復習しておくこと。
12	太田　啓子	【第 12 回】 予習：スターバックス、ドトールなどで、どのような国のコーヒーが扱われているか調べておくこと。 授業：世界飲料としてのコーヒー 復習：コーヒー飲用の習慣がどのように世界中に広がっていったのかを復習しておくこと。
13	太田　啓子	【第 13 回】 予習：イスラーム教徒の家族と女性（ムスリマ）について自分が持っているイメージを考えておくこと。 授業：家族と女性 復習：授業を受ける前に自分が持っていたイスラーム教徒の家族と女性（ムスリマ）についてのイメージと、授業後に持ったイメージを比較してみること。
14	太田　啓子	【第 14 回】 予習：イスラームの住まいについて自分が持っているイメージを考えておくこと。 授業：イスラームの住まい 復習：授業を受ける前に自分が持っていたイスラームの住まいのイメージと、授業後に持ったイメージを比較してみること。
15	太田　啓子	【第 15 回】 予習：第 1 回から第 14 回までの授業のスライドを読み返しておくこと 授業：授業のふりかえり 復習：授業を受講する前と後で、自分の中のイスラームに対するイメージがどのように変わったのか（または変わっていないのか）考えてみること

授業開始前学習	高校の時に世界史を履修していた人は、教科書、資料集などのイスラームに関連する部分を読み返しておいてください。授業内容が理解しやすくなります。
授業内課題のフィードバックの方法	授業で取り上げた内容について、毎回、授業内で課題を出しますので提出してください（提出は必須）。 感想・質問がある場合には、課題を提出する際に、一緒に記入してください（こちらの記入は任意）。これらに対して次回の授業で教員より回答・補足説明を行います。
テキスト・教材	東長靖『イスラームのとらえ方（世界史リブレット 15）』、山川出版社、1996 年。 ＊テキストがなくても受講可能です（授業はテキストがなくても理解できるように行います）。
参考書	各回の授業時に、授業内容に関連する参考文献を紹介します。
評価の基準と方法	定期試験 100%で評価します。 ＊単位認定には 3 分の 2 以上の授業内課題を提出することが最低条件ですので注意してください。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	◎					△	

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CT-M-231	科目分類（～2024 年入学者）	120-330-12	授業コード	FE0610
科目名称	キリスト教文化論			単位数	2.0 単位
英文名称	Religious Culture (Christianity)			授業区分	講義
科目責任者	太田　啓子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	太田　啓子			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	ユダヤ教の影響を受けて成立したキリスト教は、今日、ヨーロッパ、アメリカ、アジア、アフリカなどの世界の諸地域でもっとも信奉される宗教のひとつです。国際交流が加速度的に活発化している現代世界において、キリスト教を理解することはますます重要になってくると思われます。そこで本授業では、前半はキリスト教の成立・発展について、後半は主に日本とキリスト教の関わりについて学びます。				
到達目標	キリスト教の成立・発展の過程について基本的な知識を得ること、そしてキリスト教が日本に対して及ぼした影響を知ることを通じて、その宗教的普遍性、文化的多様性についての理解を深めることを目標とします。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	太田　啓子	【第 1 回】 予習：あらかじめ授業のシラバスに目を通しておくこと。 授業：ガイダンス 復習：「キリスト教」という言葉から自分が連想するものを 3 つ考えておくこと。
2	太田　啓子	【第 2 回】 予習：高校の時に世界史を履修していた人は、教科書、資料集などのキリスト教に関連する部分を読み返しておくこと。 授業：キリスト教とユダヤ教 復習：キリスト教の起源について復習しておくこと。
3	太田　啓子	【第 3 回】 予習：イエスについて自分が知っていることをいくつかピックアップしておくこと。 授業：キリスト教の成立 復習：原始キリスト教会の誕生について復習しておくこと。
4	太田　啓子	【第 4 回】 予習：元々ローマ帝国ではどのような宗教が信仰されていたか調べておくこと。 授業：キリスト教とローマ帝国 復習：キリスト教がローマ帝国の国教となった過程について復習しておくこと。
5	太田　啓子	【第 5 回】 予習：東方教会、西方教会というワードについて、簡単に調べておくこと。 授業：キリスト教界の東西分裂 復習：ゲルマン民族のキリスト教受容と東方教会の歩みについて復習しておくこと。
6	太田　啓子	【第 6 回】 予習：十字軍について自分が知っていることをいくつかピックアップしておくこと。 授業：教皇権と十字軍 復習：十字軍と教皇権の失墜について復習しておくこと。
7	太田　啓子	【第 7 回】 予習：ルターについて、簡単で良いので調べておくこと。 授業：宗教改革の時代① 復習：宗教改革がドイツ、スイスで起きた過程について復習しておくこと。
8	太田　啓子	【第 8 回】 予習：ヘンリ 8 世、エリザベス 1 世について、簡単で良いので調べておくこと。 授業：宗教改革の時代② 復習：宗教改革がイギリス、フランスなどのヨーロッパ諸地域に波及していった過程について復習しておくこと。
9	太田　啓子	【第 9 回】 予習：新島襄について、簡単で良いので調べておくこと。 授業：近代のキリスト教① 復習：アメリカにおけるキリスト教の発展と植民事業との関わりについて復習しておくこと。
10	太田　啓子	【第 10 回】 予習：ダーウィンの進化論について、簡単で良いので調べておくこと。 授業：近代のキリスト教② 復習：近代科学の発達がキリスト教に及ぼした影響について復習しておくこと。
11	太田　啓子	【第 11 回】 予習：「エキュメニカル運動」とは何か、簡単で良いので調べておくこと。 授業：現代のキリスト教 復習：キリスト教の世界的な広がりについて復習しておくこと。

12	太田　啓子	【第 12 回】 予習：ザビエルについて、自分が知っていることをいくつかピックアップしておくこと。 授業：日本へのキリスト教宣教 復習：イエズス会の活動について復習しておくこと。
13	太田　啓子	【第 13 回】 予習：遠藤周作『沈黙』を読んでおくこと。 授業：近世日本のキリスト教政策 復習：キリスト教が禁止されることになった経緯について復習しておくこと。
14	太田　啓子	【第 14 回】 予習：遠藤周作『女の一生（一部）キクの場合』を読んでおくこと。 授業：近代日本とキリスト教 復習：キリスト教を信仰することが認められるようになった経緯について復習しておくこと。
15	太田　啓子	【第 15 回】 予習：第 1 回から第 14 回までの授業のスライドを読み返しておくこと 授業：授業のふりかえり 復習：授業を受講する前と後で、自分の中のキリスト教に対するイメージがどのように変わったのか（または変わっていないのか）考えてみること

授業開始前学習	高校の時に世界史・日本史を履修していた人は、教科書、資料集などのキリスト教に関連する部分を読み返しておいてください。授業内容が理解しやすくなります。
授業内課題のフィードバックの方法	授業で取り上げた内容について、毎回、授業内で課題を出しますので提出してください（提出は必須）。 感想・質問がある場合には、課題を提出する際に、一緒に記入してください（こちらの記入は任意）。これらに対して次回の授業で教員より回答・補足説明を行います。
テキスト・教材	嶺重淑『キリスト教入門：歴史・人物・文学』、日本キリスト教団出版局、2011 年 ＊テキストがなくても受講可能です（授業はテキストがなくても理解できるように行います）。
参考書	各回の授業時に、授業内容に関連する参考文献を紹介します。
評価の基準と方法	定期試験 100%で評価します。 ＊単位認定には 3 分の 2 以上の課題を提出期限内に提出することが最低条件ですので注意してください。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	◎					△	

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CT-M-131 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	120-330-11 （Ｊ）	授業コード	FE0910
科目名称	旅行法規Ⅰ			単位数	2.0 単位
英文名称	Tourism Laws and Regulations Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	武井　智弘			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	武井　智弘			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	旅行業界で働くためには必須となる旅行業法および関連する法令を学習する。 旅行業法の知識は旅行業務取扱管理者試験の必須事項となるため、この試験に合格できるレベルの解説を実施する。				
到達目標	国内旅行業務取扱管理者試験および総合旅行業務取扱管理者試験の「旅行業法及びこれに基づく命令」の科目で、合格に必要な 60 パーセントを得点できる力を身につけることを目標とする。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	○
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	武井　智弘	【第 1 回】 予習　：該当頁を一読する 授業　：旅行業法令の概要と効果的な学習法、第 1 条(目的) 復習　：法令の概要を再確認する
2	武井　智弘	【第 2 回】 予習　：該当頁を一読する 授業　：旅行業等の定義 復習　：旅行業等の定義を理解する
3	武井　智弘	【第 3 回】 予習　：該当頁を一読する 授業　：登録(旅行業及び旅行業者代理業) 復習　：登録制度を理解する
4	武井　智弘	【第 4 回】 予習　：該当頁を一読する 授業　：営業保証金　練習問題 復習　：練習問題を再確認する
5	武井　智弘	【第 5 回】 予習　：該当頁を一読する 授業　：弁済業務保証金 復習　：営業保証金と弁済業務保証金の違いを理解する
6	武井　智弘	【第 6 回】 予習　：該当頁を一読する 授業　：旅行業務取扱管理者 復習　：10 の管理・監督事務を確認する
7	武井　智弘	【第 7 回】 予習　：該当頁を一読する 授業　：料金の掲示・旅行業約款　練習問題 復習　：練習問題を再確認する
8	武井　智弘	【第 8 回】 予習　：該当頁を一読する 授業　：取引条件の説明、書面の交付 復習　：71 頁 72 頁の表示内容を理解する
9	武井　智弘	【第 9 回】 予習　：該当頁を一読する 授業　：外務員の証明書、広告、標識の掲示、旅程管理、禁止行為 復習　：該当頁を再読する
10	武井　智弘	【第 10 回】 予習　：該当頁を一読する 授業　：受託契約、事業の廃止等・業務改善命令・登録の取り消し等　、練習問題 復習　：練習問題を再確認する
11	武井　智弘	【第 11 回】 予習　：該当頁を一読する 授業　：旅行サービス手配業 復習　：旅行業等と旅行サービス手配業の差異を理解する

12	武井　智弘	【第 12 回】 予習　：該当頁を一読する 授業　：旅行業協会 復習　：法定５業務を確認する
13	武井　智弘	【第 13 回】 予習　：該当頁を一読する 授業　：雑則、罰則 復習　：観光庁長官と都道府県知事が行うものを区別する
14	武井　智弘	【第 14 回】 予習　：今までの練習問題を再確認 授業　：小テスト 復習　：解答を再考
15	武井　智弘	【第 15 回】 予習　：テキストの重要点を再確認 授業　：最終テスト 復習　：旅行業務取扱管理者試験受験のスケジュール作成

授業開始前学習	旅行会社の店舗を訪問する。 扱っている商品、掲示されている証明書、店頭職員のつけている証明書等を確認する。
授業内課題のフィードバックの方法	授業内または翌週に回答・解説の実施。 また個別に質問があった内容については翌週の授業において全員に解説を行う。
テキスト・教材	『旅行業実務シリーズ　①旅行業法及びこれに基づく命令』（ＪＴＢ総合研究所）
参考書	
評価の基準と方法	小テスト：40%　最終テスト：50%　平常点：10%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	△		○

関連科目	旅行法規Ⅱ
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	旅行会社勤務で得た知見を活かし、具体例を交えながら解説を実施する。 また業法に定義された事項を実際の事例をもとに具体的な解説も実施する。

科目分類（2025 年～入学者）	CT-M-231 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	120-330-12 （Ｊ）	授業コード	FE0920
科目名称	旅行法規Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	Tourism Laws and Regulations Ⅱ			授業区分	講義
科目責任者	武井　智弘			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	武井　智弘			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	本講義では「約款（やっかん）」について理解を深め、旅行業務取扱管理者試験合格レベルまでの理解を目的とする。 旅行に行く際には様々な事業者を利用することになる。例えば旅行会社、宿泊施設（ホテル・旅館など）、運送サービス会社（貸切バス・航空・フェリー会社など）など複数の事業者が旅行者にサービスを提供するが、旅行者と各事業者の間の約束事項（契約事項）を事前に記したものが約款である。 この「約款」が旅行・宿泊・運送契約等の基本となるものであり、旅行業界で働く人々の、日々発生する様々な事項に関して判断をするための基本となるものであり、この約款を理解することが旅行業界で働くための必須事項となっている。 本講義では旅行会社との契約事項である「標準旅行業約款」を中心に、国内旅行業務取扱管理者試験において出題範囲となっている「貸切バス・国内航空・フェリー・宿泊」に関する約款の解説も実施する。				
到達目標	国内旅行業務管理者試験の「約款」科目において、必要合格レベルである正答率 60%を獲得できる理解力を身に着けることを目標とする。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	武井　智弘	【第１回】 予習　：該当頁を一読 授業　：約款の概要と効果的な学習法　募集型企画旅行　第１章　総則 復習　：国家試験合格のスケジュールを作成する
2	武井　智弘	【第２回】 予習　：該当頁を一読 授業　：募集型企画旅行　第２章　契約の締結、第３章　契約の変更 復習　：契約条件を理解する　契約変更できる場合を理解する
3	武井　智弘	【第３回】 予習　：該当頁を一読 授業　：募集型企画旅行　第４章　契約の解除、第５章　団体・グループ契約 復習　：契約解除はどのような場合にできるかを理解する
4	武井　智弘	【第４回】 予習　：該当頁を一読 授業　：募集型企画旅行　第６章　旅程管理、第７章　責任 復習　：旅程管理とは何かを理解する
5	武井　智弘	【第５回】 予習　：該当頁を一読 授業　：受注型企画旅行　第１章　総則、第２章　契約の締結 復習　：募集型との違いを理解する
6	武井　智弘	【第６回】 予習　：該当頁を一読 授業　：受注型企画旅行　第３章　契約の変更、第４章　契約の解除、第５章　団体・グループ契約、第６章　旅程管理 復習　：募集型との共通点と違いをまとめる
7	武井　智弘	【第７回】 予習　：該当頁を一読 授業　：特別補償規程　第１章　補償金等の支払い、第２章　補償金等を支払わない場合、第３章　補償金等の種類及び支払額、第４章　事故の発生及び補償金等の請求の手続き 復習　：補償金が支払われない場合をまとめる
8	武井　智弘	【第８回】 予習　：該当頁を一読 授業　：特別補償規程　第５章　携帯品損害補償、 手配旅行契約　第１章　総則、第２章　契約の成立 復習　：特別補償と損害賠償の関係を正しく理解する
9	武井　智弘	【第９回】 予習　：該当頁を一読 授業　：手配旅行契約　第３章　契約の変更・解除、第４章　旅行代金、第５章　団体・グループ、第６章　責任 復習　：募集型企画旅行と受注型企画旅行の違いをまとめ、理解する

10	武井　智弘	【第 10 回】 予習　：該当頁を一読 授業　：旅行相談契約　渡航手続代行契約 復習　：練習問題を再確認
11	武井　智弘	【第 11 回】 予習　：該当頁を一読 授業　：国内旅客運送約款 復習　：ポイントをまとめる
12	武井　智弘	【第 12 回】 予習　：該当頁を一読 授業　：国内旅客運送約款 復習　：ポイントをまとめ、練習問題を再確認
13	武井　智弘	【第 13 回】 予習　：該当頁を一読 授業　：一般貸切旅客自動車運送事業標準運送約款　フェリー標準運送約款　練習問題 復習　：運賃・料金計算も意識して理解する
14	武井　智弘	【第 14 回】 予習　：該当頁を一読 授業　：モデル宿泊約款 復習　：ポイントをまとめる
15	武井　智弘	【第 15 回】 予習　：該当頁を一読 授業　：最終テスト 復習　：ポイントをまとめる

授業開始前学習	主要旅行会社の Web サイトを閲覧し、お客様と旅行会社の約束である約款を一読し、どのような約束事が記されているかのイメージを持っておくこと。 特に指定はないが「募集型企画旅行の部」が一番親しみやすいと思われる。（パッケージツアーの約款）
授業内課題のフィードバックの方法	授業内または翌週に回答・解説の実施。 また個別に質問があった内容については翌週の授業において全員に解説を行う。
テキスト・教材	『旅行業実務シリーズ　②旅行業約款、運送・宿泊約款』（ＪＴＢ総合研究所）
参考書	
評価の基準と方法	小テスト：40%　最終テスト：50%　平常点：10%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	△		○

関連科目	旅行法規Ⅰ
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	旅行会社勤務で得た知見を活かし、具体例を交えながら解説を実施する。 またその具体例を示すことにより約款の理解がいかに必要かの解説も実施する。

科目分類（2025年～入学者）	CT-M-131 （J）	科目分類（～2024年入学者）	120-330-11 （J）	授業コード	FE0930
科目名称	国内旅行実務論Ⅰ			単位数	2.0単位
英文名称	Practical Studies in Domestic Travel Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	秋山 友志			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	秋山 友志			開講時期	1年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	「国内旅行業務取扱管理者」、または「総合旅行業務取扱管理者」の資格取得に必要な国内旅行実務科目に関連した基礎知識を得る。 主に、JRの運賃・料金、営業規則などを学び、国内旅行実務に必要な専門的な知識を習得する。 将来、旅行業で活躍したいと考え、「国内旅行業務取扱管理者」または「総合旅行業務取扱管理者」の資格取得を考えている学生、または旅行業に興味を持つ学生を対象とする。				
到達目標	JRの運賃・料金の算出方法、営業規則などを理解し、「国内旅行業務取扱管理者」または「総合旅行業務取扱管理者」の国内旅行実務科目に出題される問題に対応できるようになる。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	秋山 友志	【第1回】 予習：テキストの第1部第1章（P10-P17）の通読 授業：旅客営業規則（テキスト：第1部第1章 P10-P17） 復習：旅客営業規則に関するポイントの整理
2	秋山 友志	【第2回】 予習：テキストの第1部第2章（P18-P25）の通読 授業：JR乗車券類（テキスト：第1部第2章 P18-P25） 復習：JR乗車券類に関するポイントの整理
3	秋山 友志	【第3回】 予習：テキストの第1部第3章（P26-P30）の通読 授業：運賃①運賃計算の原則（テキスト：第1部第3章 P26-P30） 復習：運賃計算の原則に関するポイントの整理
4	秋山 友志	【第4回】 予習：テキストの第1部第3章（P31-P35）の通読 授業：運賃②運賃計算例（テキスト：第1部第3章 P31-P35） 復習：運賃計算例に関するポイントの整理
5	秋山 友志	【第5回】 予習：テキストの第1部第3章（P36-P43）の通読 授業：運賃③連絡運輸、普通乗車券（テキスト：第1部第3章 P36-P43） 復習：連絡運輸、普通乗車券に関するポイントの整理
6	秋山 友志	【第6回】 予習：テキストの第1部第3章（P44-P55）の通読 授業：運賃④運賃計算の特例（テキスト：第1部第3章 P44-P55） 復習：運賃計算の特例に関するポイントの整理
7	秋山 友志	【第7回】 予習：テキストの第1部第3章（P56-P60）の通読 授業：運賃⑤普通乗車券の効力、運賃の割引（テキスト：第1部第3章 P56-P60） 復習：普通乗車券の効力、運賃の割引に関するポイントの整理
8	秋山 友志	【第8回】 予習：テキストの第1部第4章（P61-P65）の通読 授業：料金①料金計算の基本（テキスト：第1部第4章 P61-P65） 復習：料金計算の基本に関するポイントの整理
9	秋山 友志	【第9回】 予習：テキストの第1部第4章（P66-P73）の通読 授業：料金②新幹線の特急料金（テキスト：第1部第4章 P66-P73） 復習：新幹線の特急料金に関するポイントの整理
10	秋山 友志	【第10回】 予習：テキストの第1部第4章（P74-P93）の通読 授業：料金③在来線の特急料金（テキスト：第1部第4章 P74-P93） 復習：在来線の特急料金に関するポイントの整理

11	秋山　友志	【第 11 回】 予習：テキストの第 1 部第 4 章（P94-P112）の通読 授業：その他新幹線の取扱い（テキスト：第 1 部第 4 章 P94～P112） 復習：その他新幹線の取扱いに関するポイントの整理
12	秋山　友志	【第 12 回】 予習：テキストの第 1 部第 5 章（P113-P120）の通読 授業：変更・取り消し・払い戻し、運行不能・遅延（テキスト：第 1 部第 5 章 P113～P120） 復習：変更・取り消し・払い戻し、運行不能・遅延に関するポイントの整理
13	秋山　友志	【第 13 回】 予習：テキストの第 1 部第 6 章（P121-P132）の通読 授業：団体乗車券の発売・団体運賃・料金の計算（テキスト：第 1 部第 6 章 P121～P132） 復習：団体乗車券の発売・団体運賃・料金に関するポイントの整理
14	秋山　友志	【第 14 回】 予習：テキストの第 1 部第 7 章（P133-P136）の通読 授業：特別企画乗車券（テキスト：第 1 部第 7 章 P133～P136） 復習：特別企画乗車券に関するポイントの整理
15	秋山　友志	【第 15 回】 予習：テキストの第 1 部第 8 章（P137-P139）の通読 授業：JR 時刻表の読み方（テキスト：第 1 部第 8 章 P137～P139）/授業理解度の確認 復習：JR 時刻表の読み方に関するポイントの整理

授業開始前学習	
授業内課題のフィードバックの方法	授業項目毎に、理解度チェックを兼ねて授業時間内に演習問題（小テスト）に取り組む。その都度、もしくは次回授業冒頭で答え合わせと解説を行う。
テキスト・教材	JTB 総合研究所編『旅行業実務シリーズ 3　国内運賃・料金』（JTB 総合研究所）※2025 年版は 3 月に出版・発売予定 授業資料は classroom でも配布
参考書	適宜、授業内で紹介
評価の基準と方法	各回の授業内課題 40%、単元ごとの確認テスト 40%、平常点（授業態度など）20%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	△		○

関連科目	
その他	「国内旅行業務取扱管理者」または「総合旅行業務取扱管理者」の資格取得のため、資格試験の受験をめざす学生は履修を勧める。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	旅行会社 2 社での約 4 年間の勤務経験があり、特に H.I.S.では団体旅行（教育旅行）の営業職などを担当。国内・総合旅行業務取扱管理者の資格も取得。旅行業実務の経験から実務面の話も講義に交えて行います。

科目分類（2025年～入学者）	CT-M-231 （J）	科目分類（～2024年入学者）	120-330-12 （J）	授業コード	FE0940
科目名称	国内旅行実務論Ⅱ			単位数	2.0単位
英文名称	Practical Studies in Domestic Travel Ⅱ			授業区分	講義
科目責任者	秋山 友志			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	秋山 友志			開講時期	2年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	「国内旅行業務取扱管理者」、または「総合旅行業務取扱管理者」の資格取得に必要な国内旅行実務科目に関連した基礎知識を得る。 主に、国内の航空・その他運輸機関や宿泊機関の運賃や料金の仕組み、約款等の規則などを学び、国内旅行実務に必要な専門的な知識を習得する。 また、「国内旅行実務論Ⅰ」での JR の運賃・料金、営業規則などの演習問題も行う。 将来、旅行業で活躍したいと考え、「国内旅行業務取扱管理者」または「総合旅行業務取扱管理者」の資格取得を考えている学生、または旅行業に興味を持つ学生を対象とする。				
到達目標	国内の航空・その他運輸機関や宿泊機関の運賃や料金の仕組み、約款等の規則などを理解し、「国内旅行業務取扱管理者」または「総合旅行業務取扱管理者」の国内旅行実務科目に出題される問題に対応できるようになる。				

アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	秋山 友志	【第1回】 予習：テキストの第2部第1章（P164-P169）の通読 授業：航空①航空券販売の概要（テキスト：第2部第1章 P164-P169） 復習：航空券販売の概要に関するポイントの整理
2	秋山 友志	【第2回】 予習：テキストの第2部第2章（P170-P181）の通読 授業：航空②運賃・料金（テキスト：第2部第2章 P170-P181） 復習：航空運賃・料金に関するポイントの整理
3	秋山 友志	【第3回】 予習：テキストの第2部第2章（P182-P200）の通読 授業：航空③変更・取り消し・払い戻し等、航空約款（テキスト：第2部第2章 P182-P200） 復習：航空券の変更・取り消し・払い戻し等、航空約款に関するポイントの整理
4	秋山 友志	【第4回】 予習：テキストの第3部第1章（P202-P207）の通読 授業：貸切バスの運賃・料金、貸切バス約款（テキスト：第3部第1章 P202-P207） 復習：貸切バスの運賃・料金、貸切バス約款に関するポイントの整理
5	秋山 友志	【第5回】 予習：テキストの第3部第2章（P208-P216）の通読 授業：フェリーの運賃・料金、フェリー約款（テキスト：第3部第2章 P208-P216） 復習：フェリーの運賃・料金、フェリー約款に関するポイントの整理
6	秋山 友志	【第6回】 予習：テキストの第4部第1章・第2章（P218-P222）の通読 授業：宿泊料金等、モデル宿泊約款（テキスト：第4部第1章・第2章 P218-P222） 復習：宿泊料金等、モデル宿泊約款に関するポイントの整理
7	秋山 友志	【第7回】 予習：テキストの第1部第1章・第2章（P10-P25）の通読 授業：演習問題①：JR①旅客営業規則 復習：旅客営業規則に関するポイントの整理
8	秋山 友志	【第8回】 予習：テキストの第1部第3章（P26-P43）の通読 授業：演習問題②：JR②運賃計算の原則 復習：運賃計算の原則に関するポイントの整理
9	秋山 友志	【第9回】 予習：テキストの第1部第3章（P44-P60）の通読 授業：演習問題③：JR③運賃計算の特例 復習：運賃計算の特例に関するポイントの整理
10	秋山 友志	【第10回】 予習：テキストの第1部第4章（P61-P93）の通読 授業：演習問題④：JR④料金計算 復習：料金計算に関するポイントの整理

11	秋山　友志	【第 11 回】 予習：テキストの第 1 部第 4 章（P94-P112）の通読 授業：演習問題⑤：JR⑤料金計算 復習：料金計算に関するポイントの整理
12	秋山　友志	【第 12 回】 予習：テキストの第 1 部第 5 章・第 6 章（P113-P120）の通読 授業：演習問題⑥：JR⑥料金計算 復習：取り消し・払い戻しに関するポイントの整理
13	秋山　友志	【第 13 回】 予習：テキストの第 1 部第 7 章・第 8 章（P121-P146）の通読 授業：演習問題⑦：JR⑦団体乗車券等 復習：団体乗車券等に関するポイントの整理
14	秋山　友志	【第 14 回】 予習：第 13 回までの授業資料などを復習 授業：総合演習①：JR・航空・社線・宿泊の理解度総合チェック（模擬テストと解説） 復習：JR・航空・社線・宿泊の約款と運賃・料金計算に関するポイントの整理
15	秋山　友志	【第 15 回】 予習：第 13 回までの授業資料などを復習 授業：総合演習②：授業理解度の確認 復習：JR の営業規則と運賃・料金計算に関するポイントの整理

授業開始前学習	
授業内課題のフィードバックの方法	授業項目毎に、理解度チェックを兼ねて授業時間内に演習問題（小テスト）に取り組む。その都度、もしくは次回授業冒頭で答え合わせと解説を行う。
テキスト・教材	JTB 総合研究所編『旅行業実務シリーズ 3　国内運賃・料金』（JTB 総合研究所） ※昨年度「国内旅行実務論 I 」履修者は、昨年度使用のテキストを使用可 ※2025 年版は 3 月に出版・発売予定 授業資料などは classroom でも配布予定
参考書	適宜、授業内で紹介
評価の基準と方法	単元ごとの小テスト 30%、授業内課題 50%、平常点（授業態度・課題提出）20%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	△		○

関連科目	
その他	「国内旅行業務取扱管理者」または「総合旅行業務取扱管理者」の資格取得のため、資格試験の受験をめざす学生は履修を勧める。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	旅行会社 2 社での約 4 年間の勤務経験があり、特に H.I.S.では団体旅行（教育旅行）の営業職などを担当。国内・総合旅行業務取扱管理者の資格も取得。旅行業実務の経験から実務面の話も講義に交えて行います。

科目分類（2025年～入学者）	CT-M-231 （J）	科目分類（～2024年入学者）	120-330-12 （J）	授業コード	FE0950
科目名称	海外旅行実務論Ⅰ			単位数	2.0単位
英文名称	Practical Studies in Overseas Travel Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	秋山 友志			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	秋山 友志			開講時期	2年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	「総合旅行業務取扱管理者」の資格取得に必要な海外旅行実務科目に関連した基礎知識を得る。 主に、海外旅行業務の基礎知識や関連する運輸機関などの知識、渡航手続や出入国に関する法令など専門的な知識を習得する。 将来、旅行業で活躍したいと考え、「総合旅行業務取扱管理者」の資格取得を考えている学生、または旅行業に興味を持つ学生を対象とする。				
到達目標	海外旅行業務の基礎知識や関連する運輸機関などの知識、渡航手続や出入国に関する法令などを理解し、「総合旅行業務取扱管理者」の海外旅行実務科目に出題される問題に対応できるようになる。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	秋山 友志	【第1回】 予習：テキスト第3部第1章（海外旅行実務）P124-P136の通読 授業：時差の知識（テキスト：海外旅行実務 P124-P136） 復習：時差、時差表、夏時間、時差の計算（2地点間の所要時間）に関するポイントの整理
2	秋山 友志	【第2回】 予習：テキスト第3部第2章（海外旅行実務）P138-P148の通読 授業：航空の知識①航空会社、都市・空港コード、国際航空運賃とその他付加運賃、諸料金（テキスト：海外旅行実務 P138-P148） 復習：航空会社、都市・空港コード、国際航空運賃とその他付加運賃、諸料金に関するポイントの整理
3	秋山 友志	【第3回】 予習：テキスト第3部第3章（海外旅行実務）P149-P159の通読 授業：航空の知識②航空時刻表の見方（テキスト：海外旅行実務 P149-P159） 復習：航空時刻表の見方（OAG）に関するポイントの整理
4	秋山 友志	【第4回】 予習：テキスト第3部第4章（海外旅行実務）P160-P169の通読 授業：鉄道の知識①ヨーロッパの鉄道、ユーレイルパス、鉄道の設備（テキスト：海外旅行実務 P160-P169） 復習：ヨーロッパの鉄道、ユーレイルパス、鉄道の設備に関するポイントの整理
5	秋山 友志	【第5回】 予習：テキスト第3部第4章（海外旅行実務）P170-P178の通読 授業：鉄道の知識②ヨーロッパ鉄道時刻表、アメリカ・カナダ・オーストラリア・アジアの鉄道（テキスト：海外旅行実務 P170-P178） 復習：ヨーロッパ鉄道時刻表、アメリカ・カナダ・オーストラリア・アジアの鉄道に関するポイントの整理
6	秋山 友志	【第6回】 予習：テキスト第3部第5章（海外旅行実務）P179-P184の通読 授業：船舶の知識（テキスト：海外旅行実務 P179-P184） 復習：定期客船航路、クルーズに関するポイントの整理
7	秋山 友志	【第7回】 予習：テキスト第3部第6章（海外旅行実務）P185-P190の通読 授業：ホテルの知識（テキスト：海外旅行実務 P185-P190） 復習：ホテルの種類、客室、料金、朝食に関するポイントの整理
8	秋山 友志	【第8回】 予習：テキスト第3部第7章（海外旅行実務）P191-P201の通読 授業：食事の知識・その他知識（テキスト：海外旅行実務 P191-P201） 復習：レストラン、メニュー、飲み物、各国の名物料理、レンタカー、海外旅行保険に関するポイントの整理
9	秋山 友志	【第9回】 予習：テキスト第1部第1章（出入国法令と実務）P12-P15の通読 授業：海外旅行の基礎知識（テキスト：海外旅行実務 P12-P15） 復習：外国旅行事情、海外危険情報、感染症情報に関するポイントの整理
10	秋山 友志	【第10回】 予習：テキスト第1部第2章（出入国法令と実務）P16-P27の通読 授業：渡航手続①旅券と旅券申請（テキスト：出入国法令と実務 P16-P27） 復習：旅券と旅券申請に関するポイントの整理

11	秋山　友志	【第 11 回】 予習：テキスト第 1 部第 2 章（出入国法令と実務）P28-P41 の通読 授業：渡航手続②その他旅券申請に関する手続き（テキスト：出入国法令と実務 P28-P41） 復習：その他旅券申請に関する手続きに関するポイントの整理
12	秋山　友志	【第 12 回】 予習：テキスト第 1 部第 3 章（出入国法令と実務）P42-P52 の通読 授業：渡航手続③予防接種、査証手続き、外貨手続き（テキスト：出入国法令と実務 P42-P52） 復習：予防接種、査証手続き、外貨手続きに関するポイントの整理
13	秋山　友志	【第 13 回】 予習：テキスト第 2 部第 1 章（出入国法令と実務）P54-P67 の通読 授業：出入国手続①日本の出国手続き、外国での出・入国手続き（テキスト：出入国法令と実務 P54-P67） 復習：日本の出国手続き、外国での出・入国手続きに関するポイントの整理
14	秋山　友志	【第 14 回】 予習：テキスト第 2 部第 1 章（出入国法令と実務）P68-P87 の通読 授業：出入国手続②日本の入国手続き（テキスト：出入国法令と実務 P68-P87） 復習：日本の入国手続き（検疫・動植物検疫・税関）に関するポイントの整理
15	秋山　友志	【第 15 回】 予習：テキスト第 2 部第 2 章（出入国法令と実務）P89-P92 の通読 授業：出入国手続③外国人の日本出入国（テキスト：出入国法令と実務 P89-P92）/授業理解度の確認 復習：外国人の日本入国、日本在留、出国と再入国許可に関するポイントの整理

授業開始前学習	
授業内課題のフィードバックの方法	授業項目毎に、理解度チェックを兼ねて授業時間内に演習問題（小テスト）に取り組む。その都度、もしくは次回授業冒頭で答え合わせと解説を行う。
テキスト・教材	JTB 総合研究所編『旅行業実務シリーズ 5　海外旅行実務−出入国法令と実務、旅行実務』（JTB 総合研究所）※2025 年版は 3 月に出版・発売予定 授業資料は classroom でも配布予定
参考書	適宜、授業内で紹介
評価の基準と方法	各回の授業内課題 40%、単元ごとの確認テスト 40%、平常点（授業態度など）20%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	△		○

関連科目	
その他	「総合旅行業務取扱管理者」の資格取得のため、資格試験の受験をめざす学生は履修を勧める。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	旅行会社 2 社での約 4 年間の勤務経験があり、特に H.I.S.では団体旅行（教育旅行）の営業職などを担当。国内・総合旅行業務取扱管理者の資格も取得。旅行業実務の経験から実務面の話も講義に交えて行います。

科目分類（2025年～入学者）	CT-M-331 （J）	科目分類（～2024年入学者）	120-330-13 （J）	授業コード	FE0960
科目名称	海外旅行実務論Ⅱ			単位数	2.0単位
英文名称	Practical Studies in Overseas Travel Ⅱ			授業区分	講義
科目責任者	秋山 友志			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	秋山 友志			開講時期	3年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	「総合旅行業務取扱管理者」の資格取得に必要な海外旅行実務科目に関連した基礎知識を得る。 主に、国際航空券と国際航空運賃について、その仕組みと規則、運賃計算の基礎など専門的な知識を習得する。 将来、旅行業で活躍したいと考え、「総合旅行業務取扱管理者」の資格取得を考えている学生、または旅行業に興味を持つ学生を対象とする。				
到達目標	国際航空券と国際航空運賃について、その仕組みと規則、運賃計算の基礎などを理解し、「総合旅行業務取扱管理者」の海外旅行実務科目に出題される問題に対応できるようになる。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	秋山 友志	【第1回】 予習：テキストP10-P16の通読 授業：IATAと国際航空運賃①IATAとは、IATA地理区分、GI（テキスト：P10-P16） 復習：IATAとは、IATA地理区分、GI（旅行経路)に関するポイントの整理
2	秋山 友志	【第2回】 予習：テキストP17-P21の通読 授業：IATAと国際航空運賃②運賃の分類、運賃の適用、小児運賃、曜日運賃、有効期間（テキスト：P17-P21） 復習：運賃の分類、運賃の適用、小児運賃、曜日運賃、有効期間に関するポイントの整理
3	秋山 友志	【第3回】 予習：テキストP22-P27の通読 授業：IATAと国際航空運賃③通貨・換算、タリフ、アドオン運賃（テキスト：P22-P27） 復習：通貨・換算、タリフ、アドオン運賃に関するポイントの整理
4	秋山 友志	【第4回】 予習：テキストP28-P35の通読 授業：IATAと国際航空運賃④付加運賃等、航空券の記載内容、eチケットお客様控え（テキスト：P28-P35） 復習：付加運賃等、航空券の記載内容、eチケットお客様控えに関するポイントの整理
5	秋山 友志	【第5回】 予習：テキストP38-P43の通読 授業：運賃計算の基本①運賃計算上の旅程と各地点、通し運賃、フェアコンポーネント、マイレージ計算（テキスト：P38-P43） 復習：運賃計算上の旅程と各地点、通し運賃、フェアコンポーネント、マイレージ計算に関するポイントの整理
6	秋山 友志	【第6回】 予習：テキストP44-P52の通読 授業：運賃計算の基本②旅行形態、運賃計算結果表示（テキスト：P44-P52） 復習：旅行形態、運賃計算結果表示に関するポイントの整理
7	秋山 友志	【第7回】 予習：テキストP54-P67の通読 授業：運賃計算①マイレージ計算と運賃計算（テキスト：P54-P67） 復習：マイレージ計算と運賃計算に関するポイントの整理
8	秋山 友志	【第8回】 予習：テキストP68-P84の通読 授業：運賃計算②マイレージ計算の特例（テキスト：P68-P84） 復習：マイレージ計算の特例に関するポイントの整理
9	秋山 友志	【第9回】 予習：テキストP86-P99の通読 授業：キャリア運賃①キャリア運賃の適用規則（テキスト：P86-P99） 復習：キャリア運賃の適用規則に関するポイントの整理
10	秋山 友志	【第10回】 予習：テキストP100-P106の通読 授業：キャリア運賃②キャリア運賃の計算（テキスト：P100-P106） 復習：キャリア運賃の計算に関するポイントの整理

11	秋山　友志	【第 11 回】 予習：テキスト P107-P117 の通読 授業：キャリア運賃③運賃の結合（テキスト：P107-P117） 復習：運賃の結合に関するポイントの整理
12	秋山　友志	【第 12 回】 予習：テキスト P118-P145 の通読 授業：キャリア運賃④キャリア運賃の理解度チェック（テキスト：P118-P145） 復習：キャリア運賃の理解度チェックに関するポイントの整理
13	秋山　友志	【第 13 回】 予習：第 12 回までの授業資料の復習 授業：演習問題①主に国際航空運賃に関する演習問題 復習：国際航空運賃に関するポイントの整理
14	秋山　友志	【第 14 回】 予習：第 12 回までの授業資料の復習 授業：演習問題②主に海外旅行実務に関する演習問題 復習：運賃の結合に関するポイントの整理
15	秋山　友志	【第 15 回】 予習：第 12 回までの授業資料の復習 授業：演習問題③国家試験などの過去問演習 復習：国家試験などの過去問に関するポイントの整理

授業開始前学習	
授業内課題のフィードバックの方法	授業項目毎に、理解度チェックを兼ねて授業時間内に演習問題（小テスト）に取り組む。その都度、もしくは次回授業冒頭で答え合わせと解説を行う。
テキスト・教材	JTB 総合研究所編『旅行業実務シリーズ 6　海外旅行実務－ 国際航空運賃、旅行業英語』（JTB 総合研究所）※2025 年版は 3 月に出版・発売予定 授業資料は classroom でも配布予定
参考書	適宜、授業内で紹介
評価の基準と方法	単元ごとの小テスト 30%、授業内課題 50%、平常点（授業態度・課題提出）20%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	△		○

関連科目	
その他	「総合旅行業務取扱管理者」の資格取得のため、資格試験の受験をめざす学生は履修を勧める。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	旅行会社 2 社での約 4 年間の勤務経験があり、特に H.I.S.では団体旅行（教育旅行）の営業職などを担当。国内・総合旅行業務取扱管理者の資格も取得。旅行業実務の経験から実務面の話も講義に交えて行います。

科目分類（2025 年～入学者）	CT-M-231 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	120-330-12（Ｊ）	授業コード	FE0970
科目名称	旅行業務取扱管理者試験特講			単位数	2.0 単位
英文名称	National Examination for Certified General Travel Service Supervisors Course			授業区分	講義
科目責任者	佐藤　奈緒子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	佐藤　奈緒子			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	毎年 9 月上旬の日曜日に実施されている国内旅行業務取扱管理者試験に合格するため、既出国家試験問題や練習問題および模擬試験問題を中心に学習する。 今年度の国内旅行業務取扱管理者試験合格を目指す、学習意欲のある学生を対象とする。 10 月上旬の日曜日に行われる総合旅行業務取扱管理者試験の合格も意識し進める。				
到達目標	国内旅行業務取扱管理者試験に合格するため、旅行業法令、旅行関係約款、国内旅行実務(国内観光地理・その他)の試験 3 科目で、各科目とも 60 パーセント以上の得点する力を身につけることを目標とする。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	佐藤　奈緒子	【第 1 回】 予習 :事前配布資料参照 授業 :国内旅行実務 1 復習 :国内観光資源過去問題解答・解説
2	佐藤　奈緒子	【第 2 回】 予習 :事前配布資料参照 授業 :国内旅行実務 2 復習 :国内観光資源練習問題-1
3	佐藤　奈緒子	【第 3 回】 予習 :事前配布資料参照 授業 :国内旅行実務 3 復習 :国内観光資源練習問題-2
4	佐藤　奈緒子	【第 4 回】 予習 :事前配布資料参照 授業 :国内旅行実務 4 復習 :国内観光資源練習問題-3
5	佐藤　奈緒子	【第 5 回】 予習 :事前配布資料参照 授業 :国内旅行実務 5 復習 :国内観光資源練習問題-4
6	佐藤　奈緒子	【第 6 回】 予習 :事前配布資料参照 授業 :国内旅行実務 6 復習 :国内観光資源練習問題-5
7	佐藤　奈緒子	【第 7 回】 予習 :事前配布資料参照 授業 :国内旅行実務 7 復習 :国内運賃・料金練習問題解説
8	佐藤　奈緒子	【第 8 回】 予習 :事前配布資料参照 授業 :国内旅行実務 8 復習 :国内運賃・料金練習問題解説
9	佐藤　奈緒子	【第 9 回】 予習 :事前配布資料参照 授業 :旅行業法 1 復習 :旅行業法練習問題解説
10	佐藤　奈緒子	【第 10 回】 予習 :事前配布練習問題参照 授業 :旅行業法 2 復習 :旅行業法練習問題解説
11	佐藤　奈緒子	【第 11 回】 予習 :事前配布練習問題参照 授業 :旅行業約款 1 復習 :旅行業約款練習問題解説

12	佐藤　奈緒子	【第 12 回】 予習 :事前配布過去問題参照 授業 :旅行業約款 2 復習 :航空約款、運送約款、宿泊約款練習問題解説
13	佐藤　奈緒子	【第 13 回】 予習 :事前配布練習問題参照 授業 :模擬テスト 1 復習 :模擬テストの解答・解説
14	佐藤　奈緒子	【第 14 回】 予習 :事前配布練習問題参照 授業 :模擬テスト 2 復習 :模擬テストの解答・解説
15	佐藤　奈緒子	【第 15 回】 予習 :事前配布練習問題参照 授業 :模擬テスト 3 復習 :模擬テストの解答・解説

授業開始前学習	・関連科目(旅行法規 I、旅行法規 II、国内旅行実務論 I、国内旅行実務論 II)を受講し、特講開始までに内容を講義内容を復習すること。 編入生など事情により関連科目を受講できなかった学生は、必ず自習した上で特講を受講すること。 ・事前に国内観光地理の資料を Classroom にて配布する。合否を分けるのが国内観光地理の学習量となる場合が多いため、特講受講までに国内観光地理に関する知識を増やして欲しい。
授業内課題のフィードバックの方法	特講の授業内に解答・解説を行う。
テキスト・教材	・ユーキャンの国内・総合旅行業務取扱管理者 速習レッスン 2025 年版 (ユーキャンの資格試験シリーズ)を各自用意を推奨。 ・旅行実務シリーズ 1『1 旅行業法及びこれに基づく命令』、2『2 旅行業約款、運送・宿泊約款』、3『3 国内運賃・料金』、4『4 国内観光資源』(いずれも JTB 総合研究所)※最新版を推奨だが他年度版でも可 ・配布資料
参考書	『旅地図 日本』(昭文社)
評価の基準と方法	小テスト:40%、模擬テスト:50%、平常点(授業への貢献)10%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	△		○

関連科目	旅行法規 I、旅行法規 II、国内旅行実務論 I、国内旅行実務論 II、観光地理(国内)
その他	受験手続は各自で行うこと
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	旅行会社勤務および総合旅行業務取扱管理者試験合格歴を生かし、効率的に学習する方法を指導する。

科目分類（2025年～入学者）	CT-M-212 （J）	科目分類（～2024年入学者）	120-310-22 （J）	授業コード	FE1111
科目名称	☆観光の英語／観光の英語Ⅰ			単位数	1.0単位
英文名称	English for Tourism／English for Tourism Ⅰ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	薬師　英子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	薬師　英子			開講時期	2年
オフィスアワー	前期　火曜日 10:00～13:00 後期　火曜日 10:00～13:00			研究室	10-55
授業概要	観光の英語では、学生自身の海外旅行や国際的な観光業務に役立つ英語の運用能力の習得を目的とする。様々な観光の場面で出会う基本的な英語表現を学び、ペアワークやロールプレイで反復練習を多く行い、自ら積極的にコミュニケーションする姿勢も養う。				
到達目標	観光英語検定3級レベルの到達を目標とする。具体的には、海外グループ旅行の自由行動の際に、英語を使って買い物をしたり、食事を頼んだりすることができ、訪日観光客に対し、簡単な道案内などができるようになる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	薬師　英子	【第1回】 予習　：　シラバスを読むとともに、世界の国々の英語名称を調べる。 授業　：　観光の英語とは／Tour 1　国名の英語 復習　：　わからなかった国名を確認し、発音を練習する。
2	薬師　英子	【第2回】 予習　：　教科書（pp.7-9）に取り組む。 授業　：　Tour 2　スモール・トーク 復習　：　授業で学んだ表現を確認する。
3	薬師　英子	【第3回】 予習　：　教科書（p.10）を参照してインタビューの準備をする。 授業　：　Tour 3　英語で交流しよう（グループワーク） 復習　：　活動レポートを作成する（課題①）。
4	薬師　英子	【第4回】 予習　：　教科書の重要単語（p.12）と重要表現（pp.13-14）に取り組む。 授業　：　Tour 4　空港・機内にて 復習　：　授業で学んだ表現を確認する。
5	薬師　英子	【第5回】 予習　：　教科書の重要単語（p.23）と重要表現（p.24）に取り組む。 授業　：　Tour 5　出入国手続 復習　：　授業で学んだ表現を確認する。
6	薬師　英子	【第6回】 予習　：　教科書の重要単語（p.28）と重要表現（pp.28-29）に取り組む。 授業　：　Tour 6　両替・通貨 復習　：　授業で学んだ表現を確認する。
7	薬師　英子	【第7回】 予習　：　教科書の重要単語（p.32）と重要表現（pp.32-34）に取り組む。 授業　：　Tour 7　移動手段を使いこなす 復習　：　授業で学んだ表現を確認する。
8	薬師　英子	【第8回】 予習　：　これまでの授業で学んだ表現などを振り返る。 授業　：　到達度確認のためのアクティビティ（Tours 1-7）/ 模擬試験① 復習　：　まとめでわからなかった部分を確認する。
9	薬師　英子	【第9回】 予習　：　教科書の重要単語（p.40）と重要表現（pp.41-42）に取り組む。 授業　：　Tour 8　道を尋ねる（道案内の英語） 復習　：　授業で学んだ表現を確認する。
10	薬師　英子	【第10回】 予習　：　教科書の重要単語（p.45）と重要表現（pp.46-47）に取り組む。 授業　：　Tour 9　ホテルにて 復習　：　授業で学んだ表現を確認する。
11	薬師　英子	【第11回】 予習　：　教科書の重要単語（p.53）と重要表現（p.55）に取り組む。 授業　：　Tour 10　買い物をしよう 復習　：　授業で学んだ表現を確認する。

12	薬師　英子	【第 12 回】 予習　：　教科書の重要単語（p.60）と重要表現（pp.61-62）に取り組む。 授業　：　Tour 11　食事を楽しむ 復習　：　授業で学んだ表現を確認する。
13	薬師　英子	【第 13 回】 予習　：　教科書の重要単語（p.69）と重要表現（pp.70-72）に取り組む。 授業　：　Tour 12　旅のトラブル 復習　：　授業で学んだ表現を確認する。
14	薬師　英子	【第 14 回】 予習　：　教科書の重要単語（p.73）と重要表現（pp.73-74）に取り組む。 授業　：　Tour 13　観光に出かけよう 復習　：　授業で学んだ表現を確認する。
15	薬師　英子	【第 15 回】 予習　：　これまでの授業で学んだ表現などを振り返っておく。 授業　：　到達度確認のためのアクティビティ（Tours 8-13）/ 模擬試験② 復習　：　まとめでわからなかった部分を確認する。

授業開始前学習	飛行機、電車、地下鉄、バスなどの交通機関での英語のアナウンスや、観光地の英語の案内など、観光の場面での英語に関心を持ち、写真を撮るなど記録するようこころがける。
授業内課題のフィードバックの方法	授業の冒頭に事前学習に基づく小テストを行い、その場で解説する。課題①は翌週の授業で講評し、個別にコメントを付して返却する。
テキスト・教材	駒沢女子大学教科書シリーズ「観光の英語」に基づくプリントを初回授業で配布します。 また、学生の習熟度に応じて、トピックごとに異なる教材を用いる場合は、事前に配布する。
参考書	教科書の参考文献を参照。その他、授業内で紹介する。 「旅行英会話・海外旅行英会話　海外旅行に役立つカンタン英会話フレーズ」（iPhone, iPad)、「旅行英会話　海外旅行に役立つカンタン英会話フレーズ」（アンドロイド）の無料アプリをダウンロードしておくことをお勧めします。
評価の基準と方法	授業内模擬試験（50%）、小テストと課題への取組（40%）及び授業内活動への積極的な貢献（10%）を総合して評価する。模擬試験では、観光英語検定 3 級レベルの運用能力を問う。 なお、観光英語検定の合格者（授業実施前の合格者を含む）には、合格級に応じてボーナス加点を行う。 履修人数と履修者のレベルによって微修正する可能性がある。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○	◎					△

関連科目	観光ガイドの英語、ホスピタリティの英語、通訳・ガイド、日本紹介の英語など
その他	【重要】4 月に 1 泊 2 日の都内研修を行う。羽田空港や都内観光資源の見学等を予定している。 出席と学生の主体的取り組みを重視する。その他の授業のルールは初回の授業で説明する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）	CT-M-212 （J）	科目分類（～2024年入学者）	120-310-22 （J）	授業コード	FE1112
科目名称	☆観光の英語／観光の英語Ⅰ			単位数	1.0単位
英文名称	English for Tourism／English for Tourism Ⅰ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	高須 直子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	高須 直子			開講時期	2年
オフィスアワー	前期 火曜日 14:40～16:10 金曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 13:00～14:30 金曜日 13:00～14:30			研究室	10-505
授業概要	観光の英語では、学生自身の海外旅行や国際的な観光業務に役立つ英語の運用能力の習得を目的とする。様々な観光の場面で出会う基本的な英語表現を学び、ペアワークやロールプレイで反復練習を多く行い、自ら積極的にコミュニケーションする姿勢も養う。				
到達目標	観光英語検定3級レベルの到達を目標とする。具体的には、海外グループ旅行の自由行動の際に、英語を使って買い物をしたり、食事を頼んだりすることができ、訪日観光客に対し、簡単な道案内などができるようになる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	張 景泰	【第1回】 予習 ： シラバスを読むとともに、世界の国々の英語名称を調べる。 授業 ： 観光の英語とは／Tour 1 国名の英語 復習 ： わからなかった国名を確認し、発音を練習する。
2	高須 直子	【第2回】 予習 ： 教科書（pp.7-9）に取り組む。 授業 ： Tour 2 スモール・トーク 復習 ： 授業で学んだ表現を確認する。
3	高須 直子	【第3回】 予習 ： 教科書（p.10）を参照してインタビューの準備をする。 授業 ： Tour 3 英語で交流しよう（グループワーク） 復習 ： 活動レポートを作成する（課題①）。
4	高須 直子	【第4回】 予習 ： 教科書の重要単語（p.12）と重要表現（pp.13-14）に取り組む。 授業 ： Tour 4 空港・機内にて 復習 ： 授業で学んだ表現を確認する。
5	高須 直子	【第5回】 予習 ： 教科書の重要単語（p.23）と重要表現（p.24）に取り組む。 授業 ： Tour 5 出入国手続 復習 ： 授業で学んだ表現を確認する。
6	高須 直子	【第6回】 予習 ： 教科書の重要単語（p.28）と重要表現（pp.28-29）に取り組む。 授業 ： Tour 6 両替・通貨 復習 ： 授業で学んだ表現を確認する。
7	高須 直子	【第7回】 予習 ： 教科書の重要単語（p.32）と重要表現（pp.32-34）に取り組む。 授業 ： Tour 7 移動手段を使いこなす 復習 ： 授業で学んだ表現を確認する。
8	高須 直子	【第8回】 予習 ： これまでの授業で学んだ表現などを振り返る。 授業 ： 到達度確認のためのアクティビティ（Tours 1-7）/ 模擬試験① 復習 ： まとめでわからなかった部分を確認する。
9	高須 直子	【第9回】 予習 ： 教科書の重要単語（p.40）と重要表現（pp.41-42）に取り組む。 授業 ： Tour 8 道を尋ねる（道案内の英語） 復習 ： 授業で学んだ表現を確認する。
10	高須 直子	【第10回】 予習 ： 教科書の重要単語（p.45）と重要表現（pp.46-47）に取り組む。 授業 ： Tour 9 ホテルにて 復習 ： 授業で学んだ表現を確認する。
11	高須 直子	【第11回】 予習 ： 教科書の重要単語（p.53）と重要表現（p.55）に取り組む。 授業 ： Tour 10 買い物をしよう 復習 ： 授業で学んだ表現を確認する。

12	高須　直子	【第 12 回】 予習　：　教科書の重要単語（p.60）と重要表現（pp.61-62）に取り組む。 授業　：　Tour 11　食事を楽しむ 復習　：　授業で学んだ表現を確認する。
13	高須　直子	【第 13 回】 予習　：　教科書の重要単語（p.69）と重要表現（pp.70-72）に取り組む。 授業　：　Tour 12　旅のトラブル 復習　：　授業で学んだ表現を確認する。
14	高須　直子	【第 14 回】 予習　：　教科書の重要単語（p.73）と重要表現（pp.73-74）に取り組む。 授業　：　Tour 13　観光に出かけよう 復習　：　授業で学んだ表現を確認する。
15	高須　直子	【第 15 回】 予習　：　これまでの授業で学んだ表現などを振り返っておく。 授業　：　到達度確認のためのアクティビティ（Tours 8-13）/ 模擬試験② 復習　：　まとめでわからなかった部分を確認する。

授業開始前学習	飛行機、電車、地下鉄、バスなどの交通機関での英語のアナウンスや、観光地の英語の案内など、観光の場面での英語に関心を持ち、写真を撮るなど記録するようこころがける。
授業内課題のフィードバックの方法	授業の冒頭に事前学習に基づく小テストを行い、その場で解説する。課題①は翌週の授業で講評し、個別にコメントを付して返却する。
テキスト・教材	駒沢女子大学教科書シリーズ「観光の英語」に基づくプリントを初回授業で配布します。 また、学生の習熟度に応じて、トピックごとに異なる教材を用いる場合は、事前に配布する。
参考書	教科書の参考文献を参照。その他、授業内で紹介する。 「旅行英会話・海外旅行英会話　海外旅行に役立つカンタン英会話フレーズ」（iPhone, iPad)、「旅行英会話　海外旅行に役立つカンタン英会話フレーズ」（アンドロイド）の無料アプリをダウンロードしておくことをお勧めします。
評価の基準と方法	授業内模擬試験（50%）、小テストと課題への取組（40%）及び授業内活動への積極的な貢献（10%）を総合して評価する。模擬試験では、観光英語検定 3 級レベルの運用能力を問う。 なお、観光英語検定の合格者（授業実施前の合格者を含む）には、合格級に応じてボーナス加点を行う。 履修人数と履修者のレベルによって微修正する可能性がある。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○	◎					△

関連科目	観光ガイドの英語、ホスピタリティの英語、通訳・ガイド、日本紹介の英語など
その他	【重要】4 月に 1 泊 2 日の都内研修を行う。羽田空港や都内観光資源の見学等を予定している。 出席と学生の主体的取り組みを重視する。その他の授業のルールは初回の授業で説明する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）	CT-M-222 （Ｊ）	科目分類（～2024年入学者）	120-330-22 （Ｊ）	授業コード	FE1120
科目名称	☆観光ｶﾞｲﾄﾞﾌﾞｯｸ講読／観光の英語Ⅱ			単位数	1.0単位
英文名称	Reading Tourist Guidebooks／English for Tourism Ⅱ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	高須　直子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	高須　直子			開講時期	2年
オフィスアワー	前期　火曜日 14:40～16:10　金曜日 13:00～14:30 後期　月曜日 13:00～14:30　金曜日 13:00～14:30			研究室	10-505
授業概要	自動翻訳アプリなどが使える時代になりましたが、訪日客は観光地の歴史的な背景、日本の文化や習慣などを日本人から直接聞けることを喜びます。また、どのような場所を訪れればよいか、個々の興味・関心に沿った観光プランを提案して欲しいと求められることもあります。このため、本授業では、グループワークなどを通じて、日本の観光資源や文化・歴史などを英語で説明することで、受講生が観光で必要な英語の語彙力や実践的なコミュニケーション能力を身につけることを目指します。また、本授業では、英語でのコミュニケーション能力を継続して高めるために効果的な方法を自らが考え、周りの学生に共有することにも取り組みます。Students will be asked to communicate in English during the class.				
到達目標	①日本の観光資源、文化や習慣、歴史的背景を理解し、英語で説明できる ②訪日観光客に対し英語で観光プランを作成し、同プランのプレゼンテーションができる ③観光で使う英語でのコミュニケーション能力を高めるために引き続き自主的に学修していけるよう、効果的な方法を考え、周りの学生に共有することができる				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	高須　直子	【第1回】 予習：自己紹介を英語で出来るよう準備をしておく 授業：本授業の範囲と方法、グループワーク「自己紹介と本授業で達成したいこと」 復習：この授業で達成したいことを明確にする
2	高須　直子	【第2回】 予習：テキスト第1章を読んでおく 授業：日本の地形と自然（テキスト第1章）、グループワーク「出身地について説明する」 復習：地形や自然についての説明で必要なことを考える
3	高須　直子	【第3回】 予習：テキスト第2章を読んでおく 授業：日本の年中行事（テキスト第2章）、グループワーク「実際にやっている年中行事について説明する」 復習：グループ発表で担当したいトピックをテキスト第3章～第11章の中から選ぶ
4	高須　直子	【第4回】 予習：テキスト第18章を読んでおく 授業：個人と家族、日本人の対人コミュニケーション（テキスト第18章）、グループワーク「グループ発表の準備」 復習：日本語と英語のコミュニケーションの違いを考える
5	高須　直子	【第5回】 予習：テキスト第12, 13章を読んでおく 授業：西洋との出会い、近代教育の始まり（テキスト第12, 13章）、日本の歴史・文化に関するグループ発表1 復習：発表者以外は、発表で良かった点、取り入れたいと思った点を考える。発表者は、次回改善したい点を考える
6	高須　直子	【第6回】 予習：テキスト第14章を読んでおく 授業：近現代の歩み（テキスト第14章）、日本の歴史・文化に関するグループ発表2 復習：発表者以外は、発表で良かった点、取り入れたいと思った点を考える。発表者は、次回改善したい点を考える
7	高須　直子	【第7回】 予習：テキスト第15章を読んでおく 授業：近現代の日本経済（テキスト第15章）、日本の歴史・文化に関するグループ発表3 復習：発表者以外は、発表で良かった点、取り入れたいと思った点を考える。発表者は、次回改善したい点を考える
8	高須　直子	【第8回】 予習：テキスト第16章を読んでおく 授業：現代日本の政治（テキスト第16章）、日本の歴史・文化に関するグループ発表4 復習：発表者以外は、発表で良かった点、取り入れたいと思った点を考える。発表者は、次回改善したい点を考える
9	高須　直子	【第9回】 予習：テキスト第17章を読んでおく 授業：現代日本の外交・安全保障（テキスト第17章）、日本の歴史・文化に関するグループ発表5 復習：発表者以外は、発表で良かった点、取り入れたいと思った点を考える。発表者は、次回改善したい点を考える

10	高須　直子	【第 10 回】 予習：テキスト第 19 章を読んでおく 授業：教育の諸相（テキスト第 19 章）日本の歴史・文化に関するグループ発表 6 復習：発表者以外は、発表で良かった点、取り入れたいと思った点を考える。発表者は、次回改善したい点を考える
11	高須　直子	【第 11 回】 予習：テキスト第 20 章を読んでおく 授業：現代社会の課題（テキスト第 20 章）、グループワーク「日本の現代社会の課題について説明する」 復習：課題の説明を英語にする際に困難だった点について考える
12	高須　直子	【第 12 回】 予習：発表したい観光地を決めておく 授業：観光地のプラン作成 1、グループワーク「訪日観光客にとって、どんな情報が役に立つか考える」 復習：観光プランを作成する際に必要な情報を明確化する
13	高須　直子	【第 13 回】 予習：最終発表の枠組を考えておく 授業：観光地のプラン作成 2、グループワーク「情報をどのようにプレゼンテーションすべきか考える」 復習：当初の目標がどの程度達成できているか振り返り、今後どのように学修していくべきか考える
14	高須　直子	【第 14 回】 予習：口頭発表の準備 授業：個人の最終口頭発表（観光ガイドプレゼンテーション） 1 復習：発表者以外は、発表で良かった点、取り入れたいと思った点を考える。発表者は、将来改善したい点を考える
15	高須　直子	【第 15 回】 予習：口頭発表の準備 授業：個人の最終口頭発表（観光ガイドプレゼンテーション） 2 復習：発表者以外は、発表で良かった点、取り入れたいと思った点を考える。発表者は、将来改善したい点を考える なお、グループ発表や最終口頭発表の回数は、受講者の人数によって変更の可能性がある。

授業開始前学習	日本の観光地の中から、自分が観光プランを企画したい場所を選び、英語での資料を集めておくことが望ましいです。また、観光地の英語の案内などを記録・収集しておくこともおすすめします。
授業内課題のフィードバックの方法	復習課題は翌週の授業で講評を行い、グループ発表と最終プレゼンテーションに対しては、質疑応答とアドバイスを行います。
テキスト・教材	神田外語大学日本研究所（編）『英語で発信！JAPAN ガイドブック』（神田外語大学出版局）　2018 年
参考書	授業内で紹介します。
評価の基準と方法	授業での貢献（15%）、復習課題（30%）、小テスト(10%)、グループ発表（20%）、最終授業における口頭発表（25%）。なお、履修人数によってグループならびに個人発表の内容・回数を調整するため、評価のパーセンテージは変更の可能性があります。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	△	◎					

関連科目	
その他	履修人数によってグループ・個人発表の内容や回数を調整するため、授業計画の内容や順番は変更する可能性があります。 本授業は、できるだけ英語を使って英語を学ぶ授業であり、授業中のグループワークや全体での議論への貢献、授業時間外の学修に時間を割くことへのコミットメントが欠かせません。英語でのコミュニケーション力を高めたい意欲がある方の受講を期待しています。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CT-M-222	科目分類（～2024 年入学者）	120-330-22	授業コード	FE1140
科目名称	観光のﾌﾗﾝｽ語			単位数	1.0 単位
英文名称	French for Tourism			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	米金　孝雄			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	米金　孝雄			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期　水曜日 10:10～10:40　木曜日 10:30～13:00 後期　水曜日 10:00~10:40～12:10~13:00　木曜日 10:00～10:40～12:10～13:00			研究室	10-711
授業概要	フランスやフランス語圏を旅行(観光)したシチュエーションを想定し、必要な語彙や表現を修得するとともに、写真を参照しながら主にパリの観光地を巡り、文化的教養を身につける。特に、フランス語特有の発音や構文を学び、フランス旅行に必要不可欠な実践的なインターラクション(レストランでの注文の仕方、電車のチケットの購入方法、道を尋ねる、値段を尋ねる、など)を学ぶ。				
到達目標	フランス（フランス語圏）への旅行会話に必要な基礎的なフランス語の表現や発音を修得する。 同時に、基本的なフランス文化にも触れる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	米金　孝雄	【第 1 回】 予習　：フランス語、フランス文化について簡単に調べておく 授業　：自己紹介、授業概要、授業の進め方、勉強の仕方、教科書、辞書の紹介、注意点など 復習　：アルファベの復習
2	米金　孝雄	【第 2 回】 予習　：自分の知っているフランス語、フランス文化を紹介する 1 授業　：特有の音、アルファベット、フランス(パリ)を知る、フランス語の使われている国、フランス語に慣れ親しむ（テキスト 10-17 頁） 復習　：基本的なフランス語表現、アルファベの復習
3	米金　孝雄	【第 3 回】 予習　：レッスン 1 の音声を聞くこと 授業　：綴り字と発音の仕方①、挨拶の仕方、名前を言う（16-19 頁） 復習　：音のルール、挨拶、数字、略語
4	米金　孝雄	【第 4 回】 予習　：レッスン 2 の音声を聴くこと 授業　：パン屋での表現、買い物地ストﾝ、綴り字と発音の仕方、定冠詞・不定冠詞、男性形と女性形、定時の表現 （20-22 頁）（ペアワーク） 復習　：パン屋での表現、挨拶の仕方、定時の表現
5	米金　孝雄	【第 5 回】 予習　：レッスン 3 の音声を聴くこと 授業　：インフォメーションで、タクシーで、国籍、職業、私は?です(avoir 動詞、 Etre 動詞)、数字（23-25 頁）（ペアワーク） 復習　：職業名詞、国籍、avoir,、Etre
6	米金　孝雄	【第 6 回】 予習　：レッスン 3,4 の音声を聴くこと 授業　：主語人称代名詞、自己紹介の仕方、身体の状態をいう、年齢を尋ねる、値段を尋ねる、エッフェル塔と凱旋門、 好みの表現（26~28 頁）（ペアワーク） 復習　：自己紹介、対話練習、国籍、職業、年齢、身体の状態
7	米金　孝雄	【第 7 回】 予習 レッスン 4,5 の音声を聴くこと 授業　：ER 動詞、都市名、言語、好き嫌いの表現、国籍、職業、年齢、身体の状態　（29~31 頁）（ペアワーク） 復習　：質問の仕方と答え
8	米金　孝雄	【第 8 回】 予習　：レッスン 5 の音声を聴くこと 授業　マルシェでの表現、数えられない名詞と部分冠詞。ER 動詞の変則系、否定表現、il y a?　（32~35 頁） （ペアワーク） 復習　：複数形、否定文、冠詞の確認
9	米金　孝雄	【第 9 回】 予習　：レッスン 6 の音声を聴くこと 授業　：パリの美術館、形容詞、支持形容詞、所有形容詞、家族、C'est?（36-38 頁）（ペアワーク） 復習　：色の形容詞、国の形容詞

10	米金　孝雄	【第 10 回】 予習　：レッスン 7 の音声を聴くこと 授業　：映画やカフェに誘う、行く・来るの表現、前置詞と定冠詞の縮約、どこの表現、近接未来・近接過去、人称代名 　　詞強勢形（40-42 頁） 復習　：近接未来、近接過去、en ＋ 乗り物、対話練習
11	米金　孝雄	【第 11 回】 予習　：レッスン 8 の音声を聴くこと 授業　：カフェやレストランで注文する、疑問代名詞、疑問副詞、不規則動詞　（44~47 頁）（ペアワーク） 復習　：メニューの読み方、注文の仕方、疑問文の作り方、不規則動詞
12	米金　孝雄	【第 12 回】 予習　：レッスン 9 の音声を聴くこと 授業　：時間を尋ねる、天候の表現、四季や週を言う、Ir 動詞、疑問形容詞、非人称構文（48~51 頁）（ペアワーク） 復習　：天候、季節、時間の表現
13	米金　孝雄	【第 13 回】 予習　：レッスン 10 の音声を聴く 授業　：買い物での表現、vouloi,、pouvoir、savoir、devoir　動詞、形容詞と副詞の比較級(52~55 頁)（ペアワーク） 復習　：買い物での表現、語彙を確認
14	米金　孝雄	【第 14 回】 予習　：レッスン 11 の音声を聴く 授業　：道を尋ねる（56~57 頁）、connaitre 動詞（ペアワーク） 復習　：道を尋ねる表現、動詞の活用
15	米金　孝雄	【第 15 回】 予習：レッスン 12 の音声を聴きく 授業：過去形と時の表現、　er,ir,re 動詞（60-61 頁）　（ペアワーク） 復習：過去形と時の表現、授業内容全体(Lecon1~lecon15)の復習と確認

授業開始前学習	前回の学習事項の復習と、次回の学習事項の予習をすること
授業内課題のフィードバックの方法	課題(レポート・練習問題・小テスト等)を提出後、内容を再考させ、各人の弱点を把握させ、確実な学習事項の修得へと導く
テキスト・教材	navi.fr (なびふらんせ 1－パリをめぐる－)　朝日出版社
参考書	適宜、授業内で資料を配布する。
評価の基準と方法	【配点】：提出課題・レポート・小テスト 80 点、平常点(授業態度)20 点
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		△	◎					○

関連科目	フランス語 海外観光資源研究 A（ヨーロッパ 1） 言葉と心理
その他	注意事項： フランス語履修者が望ましいが、フランス旅行・フランス文化に興味がある学生も歓迎する。 （前期 15 回の授業ではあるが、相当数の語彙や表現を修得する予定である。積極的な授業参加を期待する） 予習・復習を怠らないこと
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	120-330-22	授業コード	FE1150
科目名称	観光のﾄﾞｲﾂ語			単位数	1.0 単位
英文名称	German for Tourism			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	山中　慎太郎			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	山中　慎太郎			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	ドイツおよびドイツ語圏の国々を観光する際、ドイツ語そして文化、歴史、習慣についての知識があれば、その旅はより意義深いものとなります。この授業ではドイツ語文化圏についての理解を深めながら、観光をメインテーマとしたドイツ語表現を学びます。旅先での場面を想定したドイツ語の表現に触れつつ、多様な角度からドイツという国についての知識を身につけます。ドイツ語については「ドイツ語Ⅰ」「ドイツ語Ⅱ」の授業を既習、または同時並行で受講していることが望ましいですが、未習の方でも授業を通じてドイツ語の知識を少しずつ増やしてゆくことが出来るような時間にしていきたいと考えています。				
到達目標	ドイツ語圏を観光するための会話表現を習得する（挨拶、飲食店でのやりとり、交通機関へのアクセス、宿泊先で用いる表現など）。ドイツ語の音に親しみ、旅先でよく耳にする言葉、表現について聞き取ることができるようになる。観光そしてドイツ語話者との交流のための文化的知識を修得し、ドイツへの興味関心を広げる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	山中　慎太郎	【第 1 回】 予習　：　シラバスの内容を確認。 授業　：　イントロダクション、発表担当者・スケジュールの調整 「ドイツについて考えるために」 復習　：　授業内で扱った資料の確認
2	山中　慎太郎	【第 2 回】 予習　：　ドイツで観光してみたい都市を考える 授業　：　ドイツ語のアルファベート、挨拶の表現 テーマ「首都ベルリン　ベルリンからドイツを知る」 復習　：　授業内で扱った資料の確認、会話の練習
3	山中　慎太郎	【第 3 回】 予習　：　前回の授業での配布プリントを確認 授業　：　数字と時間、疑問詞を用いた表現 テーマ「ドイツの自然と様々なドイツの都市：ハンブルク、フランクフルト、ケルン、デュッセルドルフ、ミュンヒェン、ドレスデン、ライプツィヒ」 復習　：　授業内で扱った資料の確認、会話の練習
4	山中　慎太郎	【第 4 回】 予習　：　前回の授業での配布プリントを確認 授業　：「～に行きたいです。」移動のためのドイツ語、グループワーク 学生発表　テーマ「ドイツのファッション、モード」 復習　：　授業内で扱った資料の確認、会話の練習
5	山中　慎太郎	【第 5 回】 予習　：　前回の授業での配布プリントを確認 授業　：「これはなんですか？」マーケットでのドイツ語、グループワーク 学生発表　テーマ「ドイツ映画　ドイツの映画文化と映像作家」 復習　：　授業内で扱った資料の確認、会話の練習、確認小テストの準備
6	山中　慎太郎	【第 6 回】 予習　：　前回の授業での配布プリントを確認 授業　：「～をください。」スーパーやパン屋、カフェでのドイツ語、グループワーク 学生発表　テーマ「ドイツと食」 復習　：　授業内で扱った資料の確認、会話の練習
7	山中　慎太郎	【第 7 回】 予習　：　前回の授業での配布プリントを確認 授業　：「チケット売り場はどこですか？」博物館、劇場でのドイツ語、グループワーク テーマ「博物館、美術館、図書館、劇場、オペラハウス、ドイツの文化施設」 復習　：　授業内で扱った資料の確認、会話の練習、確認小テストの準備
8	山中　慎太郎	【第 8 回】 予習　：　前回の授業での配布プリントを確認 授業　：「予約してあります」ホテルでのドイツ語、グループワーク 学生発表　テーマ「ドイツにおける移民と亡命」 復習　：　授業内で扱った資料の確認、会話の練習

9	山中　慎太郎	【第 9 回】 予習　：　前回の授業での配布プリントを確認 授業　：「あなたは何を学んでいますか？」大学生のためのドイツ語、グループワーク 　学生発表　テーマ「ドイツの教育制度、ドイツの大学」 復習　：　授業内で扱った資料の確認、会話の練習
10	山中　慎太郎	【第 10 回】 予習　：　前回の授業での配布プリントを確認 授業　：「～が好きです」好みを伝えるドイツ語、グループワーク 　学生発表　テーマ「ドイツの文学」 復習　：　授業内で扱った資料の確認、会話の練習
11	山中　慎太郎	【第 11 回 】 予習　：　前回の授業での配布プリントを確認 授業　：「体調が悪いです」緊急時のドイツ語、グループワーク 　学生発表　テーマ「音楽祭、German-Pop、ドイツの音楽」 復習　：　授業内で扱った資料の確認、会話の練習
12	山中　慎太郎	【第 12 回】 予習　：　前回の授業での配布プリントを確認 授業　：「どうして、どうやって？」理由・方法を尋ねるドイツ語、グループワーク 学生発表　テーマ「ドイツの政治と市民　ネオナチ・環境アクティヴィズム・ガザ　etc」 復習　：授業内で扱った資料の確認、会話の練習
13	山中　慎太郎	【第 13 回】 予習　：前回の授業での配布プリントを確認 授業　：「日本はどんな国？」日本を紹介するためのドイツ語、グループワーク 学生発表　テーマ「ドイツの美術」 復習　：授業内で扱った資料の確認、会話の練習、確認小テストの準備
14	山中　慎太郎	【第 14 回】 予習　：　第１４回までに学んだ表現を復習。 授業　：　確認小テスト「ドイツで生きるための表現」 学生発表　テーマ「ドイツとジェンダー」 復習　：　小テストの振り返り、授業内で扱った資料の確認、会話の練習、発表の準備
15	山中　慎太郎	【第 15 回】 予習　：　観光プランを作成する。 授業　：　ロールプレイイング：「～へ行きたいのですが」「～をください」「～を予約したいのですが」「～のチケットをください」 　　学生発表「わたしの観光プラン」 復習　：　授業内で扱った資料の確認、会話の練習

授業開始前学習	皆さんはドイツに対してそれぞれに異なった興味・関心を抱いていることと思います。世界史で学習した神聖ローマ帝国とその崩壊、ドイツ帝国の誕生といった歴史の怒涛の展開、マルクスの思想から帝政、ナチス、東西分裂、「再統一」から現在にいたる政治状況、クラシックからテクノまで幅広い音楽ジャンルが混在し、デューラーからカスパー・ダーヴィド・フリードリヒのような古典的絵画、ベルリンを中心とした現代アート、市民運動や環境問題、フェミニズム、ジェンダー、ファッション、食文化、映画、ジャーナリズム、そして文学とキーワードをあげ
授業内課題のフィードバックの方法	提出課題については、採点、評価等終了次第、随時返却する。 発表課題については授業の出席者全体の意見や質問を募ったうえで、その場で全体的なフィードバックを行う。
テキスト・教材	随時プリントを配布。初回授業時に発表テーマごとに推薦図書一覧を配布予定。 また映像、音声、写真や現地のパンフレットなどを資料として使用する。
参考書	上記のごとく、参考図書として〈宮田眞治ほか編著「ドイツ文化　55 のキーワード」（ミネルヴァ書房）2015〉を挙げておく。
評価の基準と方法	平常点（授業態度・提出課題）40%、確認小テスト 20%、発表課題 40%で評価を行う。なお発表課題を行うことができなかった場合、別途レポートの提出を求める。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		△	◎					○

関連科目	ドイツ語
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	120-330-22	授業コード	FE1160
科目名称	観光のｽﾍﾟｲﾝ語			単位数	1.0 単位
英文名称	Spanish for Tourism			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	西田　恭子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	西田　恭子			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	スペインやスペイン語圏を観光する際に遭遇する様々な場面を想定し、必要な語彙や表現を学習し、コミュニケーションのための言語を学ぶ。多様な表現のための文法事項も扱う。スペイン語圏を観光する際に留意すべき社会的文化背景についても、日本との違いを比較しながら考察する。またスペイン語圏の観光地について知り、文化的教養を身につける。				
到達目標	スペイン語の音声に慣れ、観光で訪れることを想定した場面において、簡単な会話ができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	西田　恭子	【第 1 回】 予習：　スペイン語圏の観光地について調べる。 授業：　アルファベット、スペイン語が使われる国 復習：【第 1 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。
2	西田　恭子	【第 2 回】 予習：　スペイン語の挨拶について調べる。 授業：　挨拶、基本フレーズ 復習：【第 2 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。
3	西田　恭子	【第 3 回】 予習：　指定の音声を聞く。 授業：　機内で 復習：【第 3 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。
4	西田　恭子	【第 4 回】 予習：　指定の音声を聞く。 授業：　ホテルで 復習：【第 4 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。
5	西田　恭子	【第 5 回】 予習：　指定の音声を聞く。 授業：　出身、職業、自己紹介 復習：【第 5 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。
6	西田　恭子	【第 6 回】 予習：　指定の映像 Barcelona を観る。 授業：　Barcelona　1　男性・女性名詞、冠詞 復習：【第 6 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。
7	西田　恭子	【第 7 回】 予習：　指定の音声を聞く。 授業：　Barcelona　2　SER 動詞、形容詞 復習：【第 7 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。
8	西田　恭子	【第 8 回】 予習：　指定の映像 Pamplona を見る形容詞、SER 動詞の活用 授業：　Pamplona 1　主語の代名詞　ESTAR 動詞 復習：【第 8 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。
9	西田　恭子	【第 9 回】 予習：　指定の音声を聞く。 授業：　Pamplona 2　指示詞　前置詞 復習：【第 9 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。
10	西田　恭子	【第 10 回】 予習：　指定の映像 Oviedo を観る。 授業：　Oviedo 1 復習：【第 10 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。
11	西田　恭子	【第 11 回】 予習：　指定の音声を聞く。 授業：　Oviedo 2 復習：【第 11 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。

12	西田　恭子	【第 12 回】 予習：　指定の映像 Santiago de Compostela を観る。 授業：　Santiago de Compostela 1 復習：【第 12 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。
13	西田　恭子	【第 13 回】 予習：　指定の音声を聞く。 授業：　Santiago de Compostela 2 復習：【第 13 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。
14	西田　恭子	【第 14 回】 予習：　指定の映像 Salamanca を観る。 授業：　Salamanca 復習：【第 14 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。
15	西田　恭子	【第 15 回】 予習：　口答試験のシミュレーションをする。 授業：　第 14 回までの学習内容の復習　口答試験 復習：　授業全体の学習内容を確認する。

授業開始前学習	スペイン語圏の観光地について、どんな場所があるのか、またそれぞれがどのような背景を持つのかを調べる。
授業内課題のフィードバックの方法	授業内または翌週にコメントとともに返却し、学習状況についてフィードバックする。
テキスト・教材	適宜、授業内にてプリントを配布する。
参考書	福嶌教隆　フアン・ロメロ・ディアス著 『世界遺産で学ぶスペイン語』 （朝日出版社）
評価の基準と方法	授業参加 50% (授業内課題を含む) 小テスト 20%　口答試験 30%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		△	◎					○

関連科目	スペイン語
その他	予習・復習が必要であるが、復習を重点的に行う。 授業の最後に、その日に学習した内容をまとめて提出、次の授業のはじめに小テストを行う。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CT-M-222	科目分類（～2024 年入学者）	120-330-22	授業コード	FE1170
科目名称	観光の中国語			単位数	1.0 単位
英文名称	Chinese for Tourism			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	保坂 律子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	保坂 律子			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 水曜日 10:00～13:00 後期 水曜日 10:00～13:00			研究室	10-709
授業概要	観光の中国語入門科目であり、中国語の基礎について学ぶ。将来、日本人のみならず、中国語を使用する人々とコミュニケーションを図り、異文化交流することで多様な価値観（ものの見方・考え方）に触れ、異文化に関心をもつこと、他者を理解する力を高めること、人間性を高めることを期待する。特に同じアジア圏であり、近隣国であるため、本科目を通して簡単な会話ができるようスキルを身につける。本授業では中国語の使用場面を日本国内に想定し、中国語圏からの旅行者に対し、日本の観光スポット、地下鉄、人気商品などを簡単な中国語で紹介し、コミュニケーションの一助となるような中国語を学ぶ.				
到達目標	初対面の中国人と中国語で簡単な挨拶ができ、日本での買い物や観光スポット、交通手段を説明するのに必要なキーワードを中国語で説明できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	保坂 律子	【第 1 回】 予習 ：テキスト 1 頁～13 頁の講読 授業 ：発音第 1 課（テキスト 14 頁～19 頁）、4 つの声調、単母音、複母音、練習問題（ペアワーク） 復習 ：声調、単母音、複母音の発音練習
2	保坂 律子	【第 2 回】 予習 ：テキスト 20 頁～25 頁の講読 授業 ：発音第 2 課(テキスト 20 頁～25 頁）、声母表,無気音,有気音、そり舌音（ペアワーク） 復習 ：声母,無気音,有気音、そり舌音の発音練習
3	保坂 律子	【第 3 回】 予習：テキスト 26 頁～31 頁の購読 授業 ：発音第 3 課(テキスト 26 頁～31 頁）鼻音を伴う母音、e のバリエーション、同じ i でも異なる音（ペアワーク） 復習 ：鼻音を伴う母音の発音練習
4	保坂 律子	【第 4 回】 予習 ：テキスト 32 頁～41 頁の講読 授業 ：発音第 4 課（テキスト 32 頁～41 頁）声調変化、軽音、声調の組み合わせ、隔音記号（ペアワーク） 復習 ：声調変化の発音練習
5	保坂 律子	【第 5 回】 予習 ：テキスト 42 頁～47 頁の講読 授業 ：第 5 課 日本到着ー成田空港（人称代名詞、「～は～です」、「～の」、動詞述語文）（ペアワーク） 復習 ：第 5 課の音読、練習問題
6	保坂 律子	【第 6 回】 予習 ：テキスト 48 頁～53 頁の講読 授業 ：第 6 課 ホテルチェックイン（「～したい」、名前の言い方、動詞「ある、いる」、中国語の「こそあど」（ペアワーク） 復習 ：第 6 課の音読、練習問題
7	保坂 律子	【第 7 回】 予習 ：テキスト 54 頁～59 頁の講読 授業 ：第 7 課 夜景が綺麗（疑問詞の“多”、数の数え方、「～したことがある」、形容詞述語文）（ペアワーク） 復習 ：第 7 課の音読、練習問題
8	保坂 律子	【第 8 回】 予習 ：テキスト 60 頁～67 頁の講読 授業 ：第 8 課 電車で（連動文、量詞、有”、時間量の言い方）（ペアワーク） 復習 ：第 8 課の音読、練習問題
9	保坂 律子	【第 9 回】 予習 ：教科書 67 頁までの単語、構文の復習 授業 ：中間テスト, 第 9 課 化粧品売り場で（疑問詞、中国のお金の単位、“二”と“両”） 復習 ：テストの解き直し
10	保坂 律子	【第 10 回】 予習 ：テキスト 74 頁～79 頁の講読 授業 ：第 10 課 花火大会（年月日、曜日の言い方、「どうして～？」、年齢の言い方）（ペアワーク） 復習 ：第 10 課の音読、練習問題

11	保坂　律子	【第 11 回】 予習　：テキスト 80 頁～85 頁の講読 授業　：第 11 課　日本の雑貨（「～も」、実現の言い方、２つの否定方式、前置詞「～で」）（ペアワーク） 復習　：第 11 課の音読、練習問題
12	保坂　律子	【第 12 回】 予習　：テキスト 86 頁～93 頁の講読 授業　：第 12 課　おいしい和牛をどうぞ（時刻の言い方、完了の言い方、反復疑問文、動詞の重ね型）（ペアワーク） 復習　：第 12 課の音読、練習問題
13	保坂　律子	【第 13 回】 予習　：テキスト 94 頁～99 頁の講読 授業　：第 13 課　日本人の人気デザート（進行の表し方、選択疑問文、「～が好き」）（ペアワーク） 復習　：第 13 課の音読、練習問題
14	保坂　律子	【第 14 回】 予習　：テキスト 100 頁～105 頁の購読 授業　：第 14 課　着物体験（持続の表現、方位詞、「～できる」の表し方 3 種）（ペアワーク） 復習　：第 14 課の音読、練習問題
15	保坂　律子	【第 15 回】 予習　：テキスト 106 頁～105 頁の購読 授業　：第 15 課　温泉に入る（結果補語、方向補語、「～しなければならない」） 復習　：単語、重要構文の確認

授業開始前学習	中国に関するニュースに注意を払うように心がける。身近にみられる中国語表記に注意を払うようにする。街で中国語圏からの観光客をみかけたら、思い切って声をかけてみる。
授業内課題のフィードバックの方法	授業内に実施する中間テスト、小テストは返却時に全体の講評を行い、弱点補強とステップアップのための復習ポイントを提示する。
テキスト・教材	『ニーハオ！ニッポン　ふりむけば中国語』(朝日出版社)
参考書	辞書も含め授業内で適宜紹介する。
評価の基準と方法	中間テスト 40% 小テスト 30% 平常点 30%（課題提出・授業態度）
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		△	◎					○

関連科目	海外観光資源研究 D（アジア２）
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CT-M-222	科目分類（～2024 年入学者）	120-330-22	授業コード	FE1180
科目名称	観光の韓国語			単位数	1.0 単位
英文名称	Korean for Tourism			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	張　景泰			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	張　景泰			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期　月曜日 13:00～16:10 後期　水曜日 09:50～13:00			研究室	10-615
授業概要	近年、様々な韓国ドラマや映画、音楽などの影響で、韓国は日本人にとってより身近な存在となった。実際に近隣諸国である韓国に多くの日本人が観光をする機会が増えており、韓国人が日本に観光客として訪れる機会も増えている。本講では、上記のような背景を踏まえながら、韓国語の基礎であるハングルの仕組みを理解した上で、「観光」の場面を想定した「観光の韓国語」について学ぶ。さらにドラマ、映画、音楽などの映像資料を活用しながら総合的には韓国文化について理解力を高める。				
到達目標	①ハングルの仕組みについて理解でき、簡単な韓国語の会話ができる。 ②韓国語で自己紹介ができる。 ③「観光客側」と「観光産業の従業員側」に想定される会話を、韓国語でマスターする。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	張　景泰	【第 1 回】 予習　：シラバス参照 授業　：オリエンテーション、韓国語、韓国に関する全体概要 復習　：授業の方針を確認する。
2	張　景泰	【第 2 回】 予習　：事前配布のレジュメで予習する。 授業　：簡単な韓国語、ハングルの仕組み 復習　：【第 2 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。
3	張　景泰	【第 3 回】 予習　：事前配布のレジュメで予習する。 授業　：韓国語の子音、母音について 復習　：【第 3 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。
4	張　景泰	【第 4 回】 予習　：事前配布のレジュメで予習する。 授業　：韓国語のパッチムについて、韓国語のあいさつ・基本フレーズ 復習　：【第 4 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。
5	張　景泰	【第 5 回】 予習　：事前配布のレジュメで予習する。 授業　：韓国語の基本文章、K-POP の紹介① 復習　：【第 5 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。
6	張　景泰	【第 6 回】 予習　：事前配布のレジュメで予習する。 授業　：韓国語の疑問文、否定文、助詞、K-POP の紹介② 復習　：【第 6 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。
7	張　景泰	【第 7 回】 予習　：事前配布のレジュメで予習する。 授業　：韓国語で自己紹介①（グループ・ディスカッション、発表） 復習　：【第 7 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。
8	張　景泰	【第 8 回】 予習　：事前配布のレジュメで予習する。 授業　：韓国語で自己紹介②（グループ・ディスカッション、発表） 復習　：【第 8 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。
9	張　景泰	【第 9 回】 予習　：事前配布のレジュメで予習する。 授業　：空港で使う韓国語 復習　：【第 9 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。
10	張　景泰	【第 10 回】 予習　：事前配布のレジュメで予習する。 授業　：交通で使う韓国語 復習　：【第 10 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。
11	張　景泰	【第 11 回】 予習　：事前配布のレジュメで予習する。 授業　：宿泊で使う韓国語 復習　：【第 11 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。

12	張 景泰	【第 12 回】 予習 ：事前配布のレジュメで予習する。 授業 ：ショッピングで使う韓国語 復習 ：【第 12 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。
13	張 景泰	【第 13 回】 予習 ： 事前配布のレジュメで予習する。 授業 ：観光で使う韓国語 復習 ：【第 13 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。
14	張 景泰	【第 14 回】 予習 ：事前配布のレジュメで予習する。 授業 ：その他の観光場面で使う韓国語 復習 ：【第 14 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。
15	張 景泰	【第 15 回】 予習 ：事前配布のレジュメで予習する。 授業 ：：学習内容の総括、観光の韓国語の個人口頭テスト（グループ・ディスカッション、発表） 復習 ：授業の全体概要を確認する。

授業開始前学習	韓国語関連資料や韓国文化に関する書籍を出来るだけ多く読むこと。
授業内課題のフィードバックの方法	韓国語に関するミニテストを行い、その結果について教員によるフィードバックをする。また、グループワークショップについては、1 週後に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。
テキスト・教材	駒沢女子大学の自前教科書シリーズ「観光の韓国語」 その他、適宜プリントを配布します。
参考書	授業中に適宜参考書籍を紹介する。
評価の基準と方法	授業レポート 70 点(各回 5 点×14 回)、中間発表・期末発表 30 点、合計 100 点で評価する。 なお 5 回以上欠席した場合はその時点で不合格とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	△		◎					○

関連科目	
その他	質問、相談等がある時は、授業の前後に研究室に来ること
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）	CT-M-222	科目分類（～2024年入学者）	120-330-22	授業コード	FE1200
科目名称	観光ｻｰﾋﾞｽの英語Ⅰ／ﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨ英語Ⅰ			単位数	1.0単位
英文名称	Hospitality English Ⅰ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	万木 男也			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	万木 男也			開講時期	2・3年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	ホスピタリティ産業の現場で役に立つ英語、特にお客様に対して好印象を与える話し方や、丁寧な接客マナーを基本とした表現方法について学ぶ。 この授業では、リスニング能力とスピーキング能力の向上に有効とされているシャドウイング、暗唱、ディクテーションを中心に進める。 クラスメイトとのスキット・ロールプレイなどを通し、エアラインやホテル等のホスピタリティ関連の職場で役立つ英語表現や言い回しの基礎を身につける。				
到達目標	ホスピタリティ関連業界の現場で実際に使用する英語表現について学び、慣れ親しむことにより、リスニング、スピーキング能力を高め、英語で丁寧な接客対応が行える基礎力を身につけることを目標とする。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	万木 男也	【第1回】 予習：事前にシラバスを読み授業の流れを把握する これまでの英語学習について振り返る 授業：オリエンテーション 授業の進め方について 復習：授業で練習した会話文の一部を暗記
2	万木 男也	【第2回】 予習： 前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業： ホテルフロント・チェックイン・ルーティン対応前半 復習： 授業で学んだ表現、会話文を暗唱
3	万木 男也	【第3回】 予習： 前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業： ホテルフロント・チェックイン・ルーティン対応後半 復習： 授業で学んだ表現、会話文を暗唱
4	万木 男也	【第4回】 予習： 前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業： ホテルチェックアウト・ルーティン対応前半 復習： 授業で学んだ表現、会話文を暗唱
5	万木 男也	【第5回】 予習：前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業：ホテルチェックアウト・ルーティン対応後半 復習：授業で学んだ表現、会話文を暗唱
6	万木 男也	【第6回】 予習： 前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業： レストラン・バー ルーティン対応 復習： 授業で学んだ表現、会話文を暗唱
7	万木 男也	【第7回】 予習： 前半の授業で学んだ内容について振り返り、課題スキットを暗記 授業： 課題スキットのプレゼンテーション 復習： フィードバックで指摘されたポイントを再確認し、今後の対策を立てる
8	万木 男也	【第8回】 予習： 前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業： ゲストサービス対応前半 復習： 授業で学んだ表現、会話文を暗唱
9	万木 男也	【第9回】 予習：前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業：ゲストサービス対応後半 復習：授業で学んだ表現、会話文を暗唱
10	万木 男也	【第10回】 予習： 前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業： レザベーション・ルーティン対応 復習： 授業で学んだ表現、会話文を暗唱

11	万木　男也	【第 11 回】 予習：　前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業：　パッケージツアー参加者への対応 復習：　授業で学んだ表現、会話文を暗唱
12	万木　男也	【第 12 回】 予習：　前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業：　エアライン　リカー、ミールサービス対応 復習：　授業で学んだ表現、会話文を暗唱
13	万木　男也	【第 13 回】 予習：前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業：エアライン　免税品販売対応対応 復習：授業で学んだ表現、会話文を暗唱
14	万木　男也	【第 14 回】 予習：　前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業：　エアライン　お客様へのアナウンス対応 復習：　授業で学んだ表現、会話文を暗唱
15	万木　男也	【第 15 回】 予習：　前期授業で学んだ内容について振り返り、課題スキットを暗記 授業：　課題スキットのプレゼンテーション 復習：　フィードバックで指摘されたポイントを再確認し、今後の対策を立てる

授業開始前学習	前回の授業で学んだスキットの暗記
授業内課題のフィードバックの方法	授業中に実施する小テスト、課題スキットのプレゼンテーションに対して随時講評を行い、 個別の質問に回答する
テキスト・教材	「ホテルの接客英会話」（三修社）＋　授業中に適宜配布、Google Classroom に掲載
参考書	授業中に適宜紹介する 「ホテルの接客英会話」（三修社）
評価の基準と方法	平常点 40%　（授業への取組姿勢、毎回の授業で実施する暗唱テストの点数） 定期課題スキットのプレゼンテーション（暗唱の発表）　及び　筆記テスト 60%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎		△			○

関連科目	
その他	出席を重視する・全授業数の 1/３以上欠席した場合は単位取得不可。 授業開始後 30 分以上の遅刻は欠席扱いとする。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CT-M-222	科目分類（～2024 年入学者）	120-330-22	授業コード	FE1210
科目名称	観光ｻｰﾋﾞｽの英語Ⅱ／ﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨ英語Ⅱ			単位数	1.0 単位
英文名称	Travel Service English Ⅱ／Hospitality English Ⅱ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	万木 男也			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	万木 男也			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	ホスピタリティ産業の現場で役に立つ英語、特にお客様に対して好印象を与える話し方や、丁寧な接客マナーを基本とした表現方法について学ぶ。 この授業では、リスニング能力とスピーキング能力の向上に有効とされているシャドウイング、暗唱、ディクテーションを中心に進める。 クラスメイトとのスキット・ロールプレイなどを通し、エアラインやホテル等のホスピタリティ関連の職場で役立つ英語表現や言い回しの基礎を身につける。				
到達目標	ホスピタリティ関連業界の現場で実際に使用する英語表現について学び、慣れ親しむことにより、リスニング、スピーキング能力を高め、英語で丁寧な接客対応が行える基礎力を身につけることを目標とする。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	万木 男也	【第 1 回】 予習：事前にシラバスを読み授業の流れを把握する これまでの英語学習について振り返る 授業：オリエンテーション 授業の進め方について 復習：授業で練習した会話文の一部を暗記
2	万木 男也	【第 2 回】 予習： 前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業： ホテルフロント・チェックイン・イレギュラー対応前半 復習： 授業で学んだ表現、会話文を暗唱
3	万木 男也	【第 3 回】 予習： 前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業： ホテルフロント・チェックイン・イレギュラー対応後半 復習： 授業で学んだ表現、会話文を暗唱
4	万木 男也	【第 4 回】 予習： 前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業： ホテルチェックアウト・イレギュラー対応前半 復習： 授業で学んだ表現、会話文を暗唱
5	万木 男也	【第 5 回】 予習：前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業：レザベーション・断り方、イレギュラー対応 復習：授業で学んだ表現、会話文を暗唱
6	万木 男也	【第 6 回】 予習： 前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業： レストラン・バー イレギュラー対応 復習： 授業で学んだ表現、会話文を暗唱
7	万木 男也	【第 7 回】 予習： 前半の授業で学んだ内容について振り返り、課題スキットを暗記 授業： 課題スキットのプレゼンテーション 復習： フィードバックで指摘されたポイントを再確認し、今後の対策を立てる
8	万木 男也	【第 8 回】 予習： 前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業： ルームサービス 前半 復習： 授業で学んだ表現、会話文を暗唱
9	万木 男也	【第 9 回】 予習：前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業：ルームサービス後半 復習：授業で学んだ表現、会話文を暗唱
10	万木 男也	【第 10 回】 予習： 前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業： ゲスト対応・病人対応 復習： 授業で学んだ表現、会話文を暗唱

11	万木　男也	【第 11 回】 予習：　前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業：　エアライン・お客様へのサポート 復習：　授業で学んだ表現、会話文を暗唱
12	万木　男也	【第 12 回】 予習：　前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業：　エアライン　入国案内対応 復習：　授業で学んだ表現、会話文を暗唱
13	万木　男也	【第 13 回】 予習：前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業：エアライン　Spot Conversation 復習：授業で学んだ表現、会話文を暗唱
14	万木　男也	【第 14 回】 予習：　前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業：　エアライン　Pattern Practice　重要文型の応用練習 復習：　授業で学んだ表現、会話文を暗唱
15	万木　男也	【第 15 回】 予習：　前期授業で学んだ内容について振り返り、課題スキットを暗記 授業：　課題スキットのプレゼンテーション 復習：　フィードバックで指摘されたポイントを再確認し、今後の対策を立てる

授業開始前学習	前回の授業で学んだスキットの暗記
授業内課題のフィードバックの方法	授業中に実施する小テスト、課題スキットのプレゼンテーションに対して随時講評を行い、 個別の質問に回答する
テキスト・教材	「ホテルの接客英会話」（三修社）＋　授業中に適宜配布、Google Classroom に掲載
参考書	授業中に適宜紹介する 「ホテルの接客英会話」（三修社）
評価の基準と方法	平常点 40%　（授業への取組姿勢、毎回の授業で実施する暗唱テストの点数） 定期課題スキットのプレゼンテーション（暗唱の発表）　及び　筆記テスト 60%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎		△			○

関連科目	
その他	ホスピタリティ英語Ⅰを受講済みであることが望ましい。 出席を重視する・全授業数の 1/3 以上欠席した場合は単位取得不可。 授業開始後 30 分以上の遅刻は欠席扱いとする。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CT-M-312 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	120-310-23 （Ｊ）	授業コード	FE1411
科目名称	観光文化ｾﾞﾐⅠ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on Tourism Culture Ⅰ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	田代 真人			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田代 真人			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 10:30～12:00 木曜日 10:30～12:00 後期 火曜日 10:30～12:00 木曜日 10:30～12:00			研究室	10-613
授業概要	世の中には数々のメディアがあります。観光分野でも各観光地ではメディアを通して、その魅力を外部に伝えようとしています。しかしまとまった量の文章や写真を発表することは簡単ではありません。文章力や撮影力はもとより、それらを編集して世に出す技術や手法が必要です。 このゼミでは基本的な「編集」を学びます。加えて、ものつくりにおける「デザイン思考」の基本を学び、「編集」＋「デザイン思考」という考え方をガイドブック制作に活かすことを目的とします。その中で観光メディアを考察し、この１年間は旅行ガイドブックをつくる技術と手法、つまり、企画・取材・原稿執筆・編集・デザイン・DTP を学び、最終的にグループにわかれてガイドブックを制作・発表します。 また、コミュニケーションの基本を学び、インタビューの方法なども学びます。				
到達目標	１）雑誌という媒体の歴史と特性を知る。２）雑誌としての文章の書き方、デザイン、レイアウトの基本を学ぶ。３）「デザイン思考」の基礎を学ぶ ４）雑誌制作を通して、取材や表現方法などコミュニケーション能力を向上させる。５）想像力と創造力、企画力をつけていく。 ６）毎回の発表を通して、発表力をつけていく。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	田代 真人	【第１回】 予習 ：自分が接しているメディア（テレビ・新聞・ラジオ・ネット・携帯）の頻度、時間を整理しておく。 授業 ：全般のガイダンスと学生全般のメディアへの接触度調査を元にして現在のメディアの状況を知る。 復習 ：いろいろなメディアにまんべんなく目を通す。
2	田代 真人	【第２回】 予習 ：自己分析・自己紹介の準備をする。 授業 ：自己分析・自己紹介 復習 ：授業で行った自己分析・自己紹介を振り返り、再分析する。
3	田代 真人	【第３回】 予習 ：いろいろな雑誌を見ておく 授業 ：雑誌を取り巻く現状を知る（グループ・ディスカッション） 復習 ：授業をうけたあとで改めていろいろな雑誌を見てみる
4	田代 真人	【第４回】 予習 ：いろいろな雑誌を見ておく 授業 ：一般的旅行雑誌やガイドブックの構成について、どのような内容から構成されているか（グループ・ディスカッション） 復習 ：授業をうけたあとで改めていろいろな雑誌を見てみる
5	田代 真人	【第５回】 予習 ：いくつかの旅行雑誌やガイドブックのページ構成を見てみる 授業 ：台割の意味と役割、その作り方 復習 ：授業をうけたあとで改めていろいろな旅行雑誌やガイドブックを見てみる
6	田代 真人	【第６回】 予習 ：配布資料を読んでおく。 授業 ：雑誌における広告の役割について（グループ・ディスカッション） 復習 ：就活の方法、意義などを再認識
7	田代 真人	【第７回】 予習 ：いくつかの旅行雑誌やガイドブックのなかの広告を見てみる 授業 ：雑誌企画の要素と企画の立て方・集め方（グループ・ディスカッション） 復習 ：授業をうけたあとで改めていろいろな旅行雑誌やガイドブックの広告を見てみる
8	田代 真人	【第８回】 予習 ：いくつかの旅行雑誌やガイドブックを見ておく 授業 ：雑誌制作に必要な役割（グループ・ディスカッション） 復習 ：授業をうけたあとで改めていろいろな旅行雑誌やガイドブックを見てみる
9	田代 真人	【第９回】 予習 ：いくつかの旅行雑誌やガイドブックを見ておく 授業 ：就職関連合同ゼミ① 復習 ：授業をうけたあとで改めていろいろな旅行雑誌やガイドブックを見てみる

10	田代　真人	【第 10 回】 予習　：いくつかの旅行雑誌やガイドブックを見ておく 授業　：メディアによって異なる文章・文体を学ぶ 復習　：授業をうけたあとで改めていろいろな旅行雑誌やガイドブックを見てみる
11	田代　真人	【第 11 回】 予習　：いくつかの旅行雑誌やガイドブックを見ておく 授業　：写真についての良し悪しと撮り方を学ぶ（グループ・ディスカッション） 復習　：授業をうけたあとで改めていろいろな旅行雑誌やガイドブックを見てみる
12	田代　真人	【第 12 回】 予習　：いくつかの旅行雑誌やガイドブックを見ておく 授業　：見開きのページデザインの要素を考える（グループ・ディスカッション） 復習　：授業をうけたあとで改めていろいろな旅行雑誌やガイドブックを見てみる
13	田代　真人	【第 13 回】 予習　：いくつかの旅行雑誌やガイドブックを見ておく 授業　：雑誌を制作するソフトウェアとは 復習　：授業をうけたあとで改めていろいろな旅行雑誌やガイドブックを見てみる
14	田代　真人	【第 14 回】 予習　：いくつかの旅行雑誌やガイドブックを見ておく 授業　：自分の制作したいガイドブックの企画を考えてみる（グループ・ディスカッション） 復習　：授業をうけたあとで改めていろいろな旅行雑誌やガイドブックを見てみる
15	田代　真人	【第 15 回】 予習　：いままでの授業を振り返っておく 授業　：前期のまとめ 復習　：改めて前期に学んだことを確認しておく ※講義内容は、そのときどきの状況で変更する場合もある。

授業開始前学習	世の中にあふれる雑誌やネットの情報を日々、注意深く観察しておきます。それらを通して、さまざまなことを自ら考え、自身の雑誌やガイドブックの制作に活かしていきましょう。
授業内課題のフィードバックの方法	授業後に毎回振り返りレポートを提出してもらいます。翌週にそれらの講評や質問に対する回答をします。急ぐ場合は各学生直接メールすることもあります。
テキスト・教材	指定しない
参考書	指定しない
評価の基準と方法	講義に対しての積極性（50%）、各講義での提出レポート（40%）、最終レポート（10%）での総合評価でおこないます。遅刻は遅れた時間にかかわらず 3 回で 1 回の欠席に匹敵する減点となります。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○			◎	△	

関連科目	「広告・ﾒﾃﾞｨｱ業実務論」
その他	ゼミは 2 年間にわたりますが欠席することなく、積極的に参加してください。2 年間を通じて、ゼミ生同士協力し、企画・調査・発表・討論の力をつけてください。また、授業に取り入れたい企画や授業外での企画もプレゼン次第では可能になり、授業の進め方や内容はプレゼン次第で変更する場合もあります。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	担当教員は、30 年以上出版・インターネット業界でファッション女性誌・ビジネス誌ほか各種雑誌の編集長、Web サイトのプロデューサーなど実務を行なっており、その経験で得た知見を講義内でフィードバックしていく予定である。

科目分類（2025 年～入学者）	CT-M-312 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	120-310-23 （Ｊ）	授業コード	FE1412
科目名称	観光文化ｾﾞﾐⅠ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on Tourism Culture Ⅰ			授業区分	演習･実習･実技
科目責任者	ゼイヤー ウィン			必修･選択	履修ガイド参照
担当教員	ゼイヤー ウィン			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 月曜日 10:40～12:10 水曜日 10:40～12:10 後期 水曜日 10:40～12:10 木曜日 10:40～12:10			研究室	10-604
授業概要	＊ゼミの方針としては、学生が観光を学ぶ上で「社会･文化」「行政･政策」「産業」「地域コミュニティ」等の多様な視点からアプローチできるように指導する。 ＊ゼミでの学びはグループワークを中心として、専門書･先行研究の輪読（プレゼンテーション･質疑応答）を通して学術概念や調査手法を学び、観光地でのフィールド調査を経験すること（セミ合宿を想定）で、地域課題や実践的な仕組み･対策を考察する。				
到達目標	質的調査手法であるフィールドワークを初め、開発プロジェクト等で活用されている参加型計画･立案（PCM 手法）等の調査ツールを学び、観光に関わる各自の関心テーマに対する現地調査を実践する。 ①調査結果を報告書･学術論文として纏める技法を習得する。 ②「就職活動」や「社会人」としても継続的に活用できる「表現力」や「課題解決に向けた計画力」等の「実践的な教養」を身につける。				
アクティブ･ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	ゼイヤー ウィン	【第 1 回】 予習：シラバスを事前確認する。 授業：（演習）自己紹介 ･オリエンテーション（授業方針と計画）《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出する。
2	ゼイヤー ウィン	【第 2 回】 予習：自分の関心分野（研究テーマの方向性）を説明できるように準備する。 授業：研究テーマ･調査手法の検討① 復習：１年間の目標を想定し、前期と後期に達成すべきことを考える。
3	ゼイヤー ウィン	【第 3 回】 予習：配布資料を事前確認する。 授業：研究テーマ･調査手法の検討②（文献輪読の準備と発表技法の概説） 復習：グループワークによる議論や自分の関心を踏まえ、研究テーマの方向性を考える。
4	ゼイヤー ウィン	【第 4 回】 予習：発表の準備をする。 授業：各自関心のある研究テーマによる文献輪読① 復習：授業レポートの提出（ふりかえり）する。
5	ゼイヤー ウィン	【第 5 回】 予習：発表の準備をする。 授業：各自関心のある研究テーマによる文献輪読② 復習：授業レポートの提出（ふりかえり）する。
6	ゼイヤー ウィン	【第 6 回】 予習：発表の準備をする。 授業：各自関心のある研究テーマによる文献輪読③ 復習：授業レポートの提出（ふりかえり）する。
7	ゼイヤー ウィン	【第 7 回】 予習：発表の準備をする。 授業：各自関心のある研究テーマによる文献輪読④ 復習：授業レポートの提出（ふりかえり）する。
8	ゼイヤー ウィン	【第 8 回】 予習：授業 4 回～7 回までのグループワークによる議論を復習する。 授業：教員のフィードバックを踏まえ、研究テーマの方向性を再検討 復習：授業レポートの提出（今後の進め方）する。
9	ゼイヤー ウィン	【第 9 回】 予習 ：配布資料を事前確認する。 授業 ：就職関連合同ゼミ 復習 ：合同ゼミで学習したことを復習する。

10	ゼイヤー ウィン	【第 10 回】 予習 ：配布資料を事前確認する。 授業 ：ゼミ研究発表の準備①（グループワークによるアイデア出し） 復習 ：授業レポートの提出する。
11	ゼイヤー ウィン	【第 11 回】 予習 ：配布資料を事前確認する。 授業 ：ゼミ研究発表の準備②（グループワークによる議論の取り纏め） 復習 ：授業レポートの提出する。
12	ゼイヤー ウィン	【第 12 回】 予習 ：配布資料を事前確認する。 授業 ：ゼミ研究発表の調査手法の学習と実践①（文献調査・その他情報収集） 復習 ：授業レポートの提出する。
13	ゼイヤー ウィン	【第 13 回】 予習 ：配布資料を事前確認する。 授業 ：ゼミ研究発表の調査手法の学習と実践②（プレゼンテーションの技法） 復習 ：授業レポートの提出する。
14	ゼイヤー ウィン	【第 14 回】 予習 ：配布資料を事前確認する。 授業 ：ゼミ研究発表の調査手法の学習と実践③（調査結果の取りまとめ方） 復習 ：授業レポートの提出する。
15	ゼイヤー ウィン	【第 15 回】 予習：これまでの授業内容・成果を再確認する 授業：後期に向けての計画に関する再検討（グループワークによる計画立案） 復習：授業レポートの提出する。

授業開始前学習	常時から観光関連ニュースやその他映像資料・番組などを確認し、観光現象の動向を把握しておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	授業毎に発表やレポート提出に対して教員からフィードバックを行う。
テキスト・教材	
参考書	個人の研究テーマに基づき、個別に指示する。
評価の基準と方法	授業への参加度・貢献度 70%。各回の授業レポート 30%。なお 5 回以上欠席した場合はその時点で不合格とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○			◎	△	

関連科目	ゼミで実践していく専門知識を習得する場として「観光人類学」「観光社会学」「海外観光資源研究」等を履修することが望ましい。
その他	学生が主体として各自関心のあるテーマを学習・調査し、またゼミ生同士がお互いの学び合うことで共存関係に基づくゼミ運営の構築を目指したい。夏休み期間中には 2 泊 3 日での観光地調査を、国内における観光地で実施することを想定している。費用は 4 万程度を予定している。実施場所と時期に関しては授業内での協議を通して確定する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	教員は実践人類学及び観光人類学を専門領域としており、主に東南アジアの観光地を調査対象地域としている。観光産業の実務経験としてもツアーオペレーター業務や国際協力分野における開発調査や計画づくりといった実践経験を延べ 16 年間従事してきた。こうした教員の経験をベースに学術と実践の融合した授業を行う。

科目分類（2025 年～入学者）	CT-M-312	科目分類（～2024 年入学者）	120-310-23	授業コード	FE1414
科目名称	観光文化ｾﾞﾐⅠ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on Tourism Culture Ⅰ			授業区分	演習･実習･実技
科目責任者	張 景泰			必修･選択	履修ガイド参照
担当教員	張 景泰			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～16:10 後期 水曜日 09:50～13:00			研究室	10-615
授業概要	本ゼミでは、教員の指導のもとに学生が自主的に研究･発表･討論を行う。日･韓の比較研究を含め、観光と文化を主なテーマにし、文献の探し方、論文の書き方、発表の仕方などを練習する。2 年間のゼミを通して、自分が理解した事象を的確に相手に伝える能力を開発することで、聞き手にその内容を的確に伝達することができる。ゼミで「研究成果を発表する」を目標にして準備する過程で、最終的に「仕事に取り組む姿勢」や「コミュニケーション能力」など、社会人として必要とされる基礎的能力を身に付けられる。				
到達目標	①レポートの書き方をマスターする。 ②プレゼンテーションの技法を向上する。特に表現したい内容を整理して画面構成することで、伝えることができる。 ③社会人として必要とされる基礎的能力、いわゆる課題発見力、コミュニケーション能力などを習得する。				
アクティブ･ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	張 景泰	予習 ：シラバス参照 授業 ：オリエンテーション、大学におけるゼミの意義、観光文化ゼミ D の全体説明 復習 ：授業の方針を確認する。
2	張 景泰	予習 ：興味のある研究テーマを下調べしておく。 授業 ：異文化の理解について（韓国文化を事例として）① 復習 ：【第 2 回】ゼミで学習したことを復習しておく。
3	張 景泰	予習 ：興味のある研究テーマを下調べしておく。 授業 ：異文化の理解について（韓国文化を事例として）② 復習 ：【第 3 回】ゼミで学習したことを復習しておく。
4	張 景泰	予習 ：興味のある研究テーマを下調べしておく。 授業 ：異文化の理解について（韓国文化を事例として）③ 復習 ：【第 4 回】ゼミで学習したことを復習しておく。
5	張 景泰	予習 ：配布資料を読んでおく。 授業 ：グループディスカッション（4 つのテーマから） 復習 ：グループディスカッションの方法、意義などを再認識
6	張 景泰	予習 ：配布資料を読んでおく。 授業 ：「研究」とは？、「研究活動」の一連の流れ 復習 ：【第 6 回】ゼミで学習したことを復習しておく。
7	張 景泰	予習 ：配布資料を読んでおく。 授業 ：自分のテーマを決めよう、書籍の探し方 復習 ：各自研究テーマをもとにし、文献研究、インターネット検索を開始
8	張 景泰	予習 ：配布資料を読んでおく。 授業 ：実際に自分のテーマに関連する書籍を探して読んでみよう 復習 ：各自研究テーマをもとにし、文献研究、インターネット検索を開始
9	張 景泰	予習 ：配布資料を読んでおく。 授業 ：就職関連合同ゼミ① 復習 ：就活の方法、意義などを再認識
10	張 景泰	予習 ：配布資料を読んでおく。 授業 ：プレゼンテーションとは？、プレゼンテーションのやり方 復習 ：プレゼンテーションのやり方について整理し、再確認する。
11	張 景泰	予習 ：発表者はプレゼンテーションを準備し、発表に備える。聞き手は積極的に質疑応答を準備する。 授業 ：自己紹介･研究発表のプレゼンテーション①（プレゼンテーション） 復習 ：報告者によるプレゼンテーション内容を再確認する。
12	張 景泰	予習 ：発表者はプレゼンテーションを準備し、発表に備える。聞き手は積極的に質疑応答を準備する。 授業 ：自己紹介･研究発表のプレゼンテーション②（プレゼンテーション） 復習 ：報告者によるプレゼンテーション内容を再確認する。
13	張 景泰	予習 ：発表者はプレゼンテーションを準備し、発表に備える。聞き手は積極的に質疑応答を準備する。 授業 ：自己紹介･研究発表のプレゼンテーション③（プレゼンテーション） 復習 ：報告者によるプレゼンテーション内容を再確認する。

14	張　景泰	予習　：発表者はプレゼンテーションを準備し、発表に備える。聞き手は積極的に質疑応答を準備する。 授業　：自己紹介・研究発表のプレゼンテーション④（プレゼンテーション） 復習　：報告者によるプレゼンテーション内容を再確認する。
15	張　景泰	予習　：配布資料を読んでおく。 授業　：前期の総括、自己評価・夏休みの課題に関して 復習　：ゼミで半期間に身につけたことを振り返り、今後の学びの方向性を考える。

授業開始前学習	自分に興味がある分野に関して、さらに具体的にテーマを絞り、関連文献を読むように心がけて下さい。
授業内課題のフィードバックの方法	プレゼンテーションの方法、内容を質疑応答や議論を重ねることで、プレゼンテーションを再認識し、改善すべきところは教員がフィードバックする。
テキスト・教材	自前教科書を用いる。そのほかに、必要に応じて講義資料を配布する。
参考書	
評価の基準と方法	授業への参加度・貢献度など 70%。報告 30%。なお 5 回以上欠席した場合はその時点で不合格とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○			◎	△	

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CT-M-312 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	120-310-23 （Ｊ）	授業コード	FE1415
科目名称	観光文化ｾﾞﾐⅠ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on Tourism Culture Ⅰ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	鮫島 卓			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鮫島 卓			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30 後期 木曜日 10:40～12:10 月曜日 13:00～14:30			研究室	10-606
授業概要	前期は３つのことを行う。第１に観光の仕事や観光研究に関する図書を用いて「輪読」を行う。輪読とは、他の学生と専門書を読み、レジュメ作成、発表、議論を進めながら一人で読むよりも深い読解力と批判的思考を獲得できる。批判的思考とは、思い込みや固定観念を超えて物事の真偽や可否を検討し、それに対する自分なりの判定を下すこと。単に反論することではなく、賛成することも批判に含まれる。批判的思考の獲得は、専門学校ではなく大学に４年間通う最大の意味である。また、輪読の過程で調べる力、考える力、書く力、発表する力、議論する力など社会人に必要なコミュニケーション力の向上を図ることができる。また他者とのディスカッションを通じて、自分の興味関心を知ることができる。 第２は、3･4 年生合同で取り組む課題解決型授業（PBL）である。交通・観光資源の調査した上で、夏休みにフィールド調査（ゼミ合宿）を実施する（訪問地は４年生が決定する）。PBL を通じて多くの社会人との接点を持ち、コミュニケーション力の向上、観光地域の現実課題について理解を深めることができる。 第３は、就職活動のための支援である。具体的には、挨拶・敬語、約束を守る、メールの書き方など社会人としてのビジネスマナーを実践しながら習得する。また、学生が関心のある新聞記事をもとにグループディスカッションをする「My News」と本学卒業生が就職活動のアドバイスをする「OG トーク」を行う。My News は社会の仕組みについて知識を増やし、人前でのプレゼンテーションと就職活動におけるグループディスカッションの技術の向上させることを狙いとしている。				
到達目標	①ビジネスマナー（挨拶・敬語、メール、納期）と社交力を向上する ②My News、輪読を通じて自分の興味関心を知る ③フィールド調査対象地域に関して自分でテーマを決めレポートを書く				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	鮫島 卓	【第１回】 予習：シラバスを読んでおく (演習)自己紹介・アイスブレイク《ディスカッション》 (講義)授業方針と計画、メール・ドライブ共有の技法 復習：授業レポートの提出
2	鮫島 卓	【第２回】 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 授業：（講義）映画『ローマの休日』鑑賞《オンデマンド》 復習：授業レポートの提出
3	鮫島 卓	【第３回】 予習：発表の準備をする 授業：（演習）自己紹介ワーク《グループワーク》 （演習）映画のふりかえり《ディスカッション》 （講義）輪読の目的と進め方 復習：授業レポートの提出（ふりかえり）
4	鮫島 卓	【第４回】 予習：該当箇所を読んで準備をする 授業：（演習）輪読《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出
5	鮫島 卓	【第５回】 予習：該当箇所を読んで準備をする 授業：（演習）輪読《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出
6	鮫島 卓	【第６回】 予習：該当箇所を読んで準備をする 授業：（演習）輪読《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出
7	鮫島 卓	【第７回】 予習：該当箇所を読んで準備をする 授業：（演習）輪読《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出

8	鮫島　卓	【第 8 回】 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 授業：（演習）輪読《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出
9	鮫島　卓	【第 9 回】 予習：質問の準備をする 授業：（講義）合同ゼミ：就活 OG トーク《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出
10	鮫島　卓	【第 10 回】 予習：発表の準備をする 授業：(演習）OG トークふりかえり《ディスカッション》 (演習）PBL：調査対象地域の交通・観光資源調査《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出
11	鮫島　卓	【第 11 回】 予習：発表の準備をする 授業：(演習)My News《ディスカッション》 (講義)期末レポート課題提供、レポートの書き方 復習：授業レポートの提出
12	鮫島　卓	【第 12 回】 予習：グループ研究を進める 授業：(演習)My News《ディスカッション》 (演習))研究経過報告《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出
13	鮫島　卓	【第 13 回】 予習：グループ研究を進める 授業：(演習)My News《ディスカッション》 (演習))研究経過報告《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出
14	鮫島　卓	【第 14 回】 予習：グループ研究を進める 授業：（演習）期末レポート発表《プレゼンテーション》 復習：授業レポートの提出
15	鮫島　卓	【第 15 回】 予習：発表の準備をする 授業：（演習）期末レポート発表《プレゼンテーション》 （演習）前期のふりかえりと夏休みの抱負発表《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出

授業開始前学習	第 1 回授業で自己紹介（ニックネーム、高校までの部活・習い事・推し活　）をするので準備をしてほしい。できるだけ多くの人と本に出会い、旅をして、数多くの美しいモノや一流の人に出会って感性を磨いてほしい。人間は知識の範囲でしか世界を見ることはできない。知識があることで、「すごい」「素晴らしい」と思える機会が増え、人生が豊かになる。就活のため、金を稼ぐためだけの知識や技術を得るだけでは人間は幸福になれない。
授業内課題のフィードバックの方法	授業毎に学生が発表や報告を行い、その都度評価をしていく。
テキスト・教材	鮫島卓（2020）：観光文化ゼミ、駒沢女子大学教科書シリーズ（授業で配布する） 青木義英ほか（2011）：観光入門―観光の仕事・学習・研究をつなぐティを歩く、弦書房（購入すること）
参考書	授業内で適宜提示する
評価の基準と方法	My News（20 点）、輪読（30 点）、期末レポートと発表（50 点）で総合的に評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○			◎	△	

関連科目	ゼミで実践していく専門知識を習得する場として「観光学」「観光マーケティング」「観光政策論」を履修することが望ましい。
その他	鮫島ゼミの最大の特徴は、学生が相互に教え・学び合うゼミをつくりあげることにある。ゼミの運営（課題の出題・提出・評価）は Google Classroom を使う。 ※夏休み期間中 9/17（水）～9/19（金）の 2 泊 3 日間で 3・4 年生合同のフィールド調査（ゼミ合宿）を実施する。旅費は 4 万円程度を予定している。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	教員は長年、旅行会社・テーマパーク・観光開発コンサルティングの実務に関わってきた。実際に新卒採用の経験もあるので、将来の進路が旅行会社、航空会社、鉄道会社、テーマパーク、コンサルティング業界を目指す学生に就職活動におけるアドバイスも行う。学生の希望する業界官営者との交流会も設定する。

科目分類（2025 年～入学者）	CT-M-312	科目分類（～2024 年入学者）	120-310-23	授業コード	FE1416
科目名称	観光文化ｾﾞﾐⅠ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on Tourism Culture Ⅰ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	渡邉 光章			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	渡邉 光章			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 水曜日 16:20～17:50 金曜日 10:40～12:10 後期 水曜日 16:20～17:50 金曜日 10:40～12:10			研究室	10-501
授業概要	渡邉ゼミでは３つの力（1：ゼミ論やレポート、エントリーシートのように「文章によって情報を正しくアウトプットする力」、２プレゼン発表などのように人前で、「言葉によって情報を正しくアウトプットする力」、そして、それら２種のアウトプットのための「正確な情報を適切にインプットする力」）にフォーカスし、これらの学びを通じて「問題解決力」の修得を目指します。ゼミに所属する時点で自分が将来やりたい事がわからなくても慌てる必要はありません。ゼミを通じて自分と向き合う時間を作るなかで、自信をつける経験を積み重ねます。学生がマイナスの思い込み（アンコンシャス・バイアス）から解放され、安定した精神状態で学びを続けられるように「心理的安定性」を重視し、チーム研究の中で１人１人が自分に合った様々な可能性を探していきます。自身で未来を切り開く力を付けるための学生主体のゼミです。				
到達目標	従来のチョーク&トーク型の受講姿勢から脱却し、自ら主体的に考えて情報をインプットし、蓄えた情報を自分らしく工夫してアウトプットできるようになるよう目指します。発信型の姿勢を意識し、経済産業省が周知している「前に踏み出す力（働きかけ力、実行力）」「考え抜く力（課題発見力、計画力）」を身につける事が到達目標の１つです。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	渡邉 光章	【第１回】 予習 ：自分がなりたい未来のイメージを思い浮かべる 授業 ：1 年間の計画解説。チェックイン・ワークショップ（グループワーク） 復習 ：自身の苦手と得意について再確認
2	渡邉 光章	【第２回】 予習 ：思い浮かべた未来のイメージを文字にしてみる 授業 ：PBL（問題解決型「Problem-based Learning」）と SBL（科目進行型「Subject Based Learning」）（グループワーク） 復習 ：PBL の再確認
3	渡邉 光章	【第３回】 予習 ：自分がなりたい未来のイメージと現在の自分を比較してみる 授業 ：自己分析と自己啓発（グループワーク） 復習 ：ネット検索の操作に慣れる
4	渡邉 光章	【第４回】 予習 ：調べた情報を大まかに区分けしてみる 授業 ：自身及び企業の SWOT 分析による情報インプット（グループワーク） 復習 ：調べた内容の整理
5	渡邉 光章	【第５回】 予習 ：調べた内容をセグメント化（細分化）してみる 授業 ：自身の適正と関心度の調査 復習 ：セグメントデータの整理
6	渡邉 光章	【第６回】 予習 ： 配布資料をよく読んでおく 授業 ： 自身の適性から今後の学びについて考える 復習 ：学びの方法、意義などを再認識
7	渡邉 光章	【第７回】 予習 ：自分の希望する方向性と相性をセグメント化してみる 授業 ：KJ 法による自己分析 復習 ：セグメントデータの理解
8	渡邉 光章	【第８回】 予習 ：自分の得意と苦手について考える 授業 ：KJ 法データの整理（グループワーク） 復習 ：分析データを整理
9	渡邉 光章	【第９回】 予習 ： 関心のある企業について調べておく 授業 ： 合同ゼミ 復習 ： 合同ゼミの成果の整理
10	渡邉 光章	【第 10 回】 予習 ：関心のある仕事について、ここで初めて考えてみる 授業 ：自分の長所と仕事との距離や相性を分析し、今学ぶべき必要なことを認識する 復習 ：自身の行動や思考の相性について整理する

11	渡邉　光章	【第 11 回】 予習　：関心のある業種や職種について調べてみよう 授業　：日本の企業について行政のデータから学ぶ（グループワーク） 復習　：自身の方向性について整理
12	渡邉　光章	【第 12 回】 予習　：チームで活動している自身を想像する 授業　：チームによる調査と発表準備１（グループワーク） 復習　：コミュニケーションについて整理
13	渡邉　光章	【第 13 回】 予習　：チームで活躍している自身を想像する 授業　：チームによる調査と発表準備２（グループワーク） 復習　：チーム活動について整理
14	渡邉　光章	【第 14 回】 予習　：発表に備え、必要な材料を用意する 授業　：チームで調査データを発表 復習　：発表データを整理
15	渡邉　光章	【第 15 回】 予習　：効果的な発表を考える 授業　：発表とその補足、評価 復習　：足りない点について考える（PDCA）

授業開始前学習	ニュースなどで日々の出来事を確認しておくと授業が理解しやすい。
授業内課題のフィードバックの方法	講義の最後に、毎回「振り返りレポート」を提出する。このレポート提出で出席を確認する。講義で学んだ重要ポイントや発見したこと、よくわからなかったことへの質問事項などを記入してもらい、そのフィードバックは、学生が提出したレポートの内容によって適宜１人ずつ対応または、次回講義の冒頭で全体に応える形式で実施している。状況により、グループディスカッションによる講評や、個人のワークショップで進捗を確認することもある。
テキスト・教材	必要に応じて授業で適宜、配布する。
参考書	必要に応じて授業で適宜、配布する。
評価の基準と方法	授業中の提出物など 50%と、予習・復習などの平常点（受講姿勢や出欠席）50%により総合的に評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○			◎	△	

関連科目	地域観光資源研究（前期）と、観光の PR とメディア（後期）を履修しておくことが望ましい。
その他	課題学習（予習・復習）については、各回の授業中に具体的な指示をする。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CT-M-312 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	120-310-23 （Ｊ）	授業コード	FE1421
科目名称	観光文化ｾﾞﾐII			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on Tourism Culture Ⅱ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	田代 真人			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田代 真人			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 10:30～12:00 木曜日 10:30～12:00 後期 火曜日 10:30～12:00 木曜日 10:30～12:00			研究室	10-613
授業概要	このゼミでは、観光メディアを考察していきます。まずこの１年間は旅行ガイドブックをつくる技術と手法、つまり、企画・取材・原稿執筆・編集・デザイン・DTP を学び、最終的にグループにわかれてガイドブックを制作・発表します。 後期は前期で学んだことを実際にソフトウェア（Word）を使用して実習していきます。ソフトウェアの雑誌を制作する場合の使い方からレイアウトやデザインの方法を学びます。その他、日常的なニュースの中から、女性が解決すべく社会課題に関係するものを選び、随時みんなで発表し討論し合います。				
到達目標	１）雑誌として魅力的な文章を書き、デザイン、レイアウトを実習して学ぶ。２）雑誌制作を通して、取材や表現方法などコミュニケーション能力を向上させる。３）「デザイン思考」という考え方を発展させていく手法を学ぶ。４）雑誌制作を通して、取材や表現方法などコミュニケーション能力を向上させる。５）毎回の発表を通して、発表力をつけていく。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	田代 真人	【第１回】 予習 ：前期の授業を振り返っておく 授業 ：各人の特性を確認し、雑誌制作をするグループを作る 復習 ：改めて企画を考えておく
2	田代 真人	【第２回】 予習 ：雑誌やネットなどを利用して、企画を考えてみる 授業 ：グループにわかれて考えた企画の講評会（グループワーク） 復習 ：決まった企画について情報を収集する
3	田代 真人	【第３回】 予習 ：雑誌やガイドブックを見てどのような要素でページが構成されているか確認しておく 授業 ：各グループで雑誌の要素・素材を考える（グループワーク） 復習 ：授業で考えた以外に要素が必要ないか各自確認しておく
4	田代 真人	【第４回】 予習 ：どのようにして素材を収集するかを考えておく 授業 ：各グループで雑誌素材の収集方法を考える（グループワーク） 復習 ：授業で考えた以外に収集方法が必要ないか各自確認しておく
5	田代 真人	【第５回】 予習 ：各自自分の役割を考えておく 授業 ：各グループ雑誌制作実習（１）（グループワーク） 復習 ：授業中できなかったところをやっておく
6	田代 真人	【第６回】 予習 ：今回やるべきことを各自考えておく 授業 ：各グループ雑誌制作実習（２）（グループワーク） 復習 ：授業中できなかったところをやっておく
7	田代 真人	【第７回】 予習 ：今回やるべきことを各自考えておく 授業 ：各グループ雑誌制作実習（３）（グループワーク） 復習 ：授業中できなかったところをやっておく
8	田代 真人	【第８回】 予習 ：今回やるべきことを各自考えておく 授業 ：各グループ雑誌制作実習（４）（グループワーク） 復習 ：授業中できなかったところをやっておく
9	田代 真人	【第９回】 予習 ：配布資料を読んでおく。 授業 ：就職関連合同ゼミ② 復習 ：就活の方法、意義などを再認識
10	田代 真人	【第 10 回】 予習 ：今回やるべきことを各自考えておく 授業 ：各グループ雑誌制作実習（５）（グループワーク） 復習 ：授業中できなかったところをやっておく

11	田代　真人	【第 11 回】 予習　：今回やるべきことを各自考えておく 授業　：各グループ雑誌制作の途中経過を発表する 復習　：授業中できなかったところをやっておく
12	田代　真人	【第 12 回】 予習　：今回やるべきことを各自考えておく 授業　：各グループ雑誌制作実習（６）（グループワーク） 復習　：授業中できなかったところをやっておく
13	田代　真人	【第 13 回】 予習　：今回やるべきことを各自考えておく 授業　：各グループ雑誌制作実習（７）（グループワーク） 復習　：授業中できなかったところをやっておく
14	田代　真人	【第 14 回】 予習　：今回やるべきことを各自考えておく 授業　：各グループで雑誌を完成させて発表して相互講評会をおこなう 復習　：授業中できなかったところをやっておく
15	田代　真人	【第 15 回】 予習　：各自前期の自己評価をしておく 授業　：完成作品のプリントとまとめ 復習　：改めてグループで作った雑誌の確認と評価を各自でしておく ※講義内容は、そのときどきの状況で変更する場合もある。

授業開始前学習	世の中にあふれる雑誌やネットの情報を日々、注意深く観察しておきます。それらを通して、さまざまなことを自ら考え、自身の雑誌やガイドブックの制作に活かしていきましょう。
授業内課題のフィードバックの方法	授業後に毎回振り返りレポートを提出してもらいます。翌週にそれらの講評や質問に対する回答をします。急ぐ場合は各学生直接メールすることもあります。
テキスト・教材	指定しない
参考書	指定しない
評価の基準と方法	講義に対しての積極性（50%）、各講義での提出レポート（20%）、最終レポート（30%）での総合評価でおこないます。遅刻は遅れた時間にかかわらず 3 回で 1 回の欠席に匹敵する減点となります。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○			◎	△	

関連科目	「広告・ﾒﾃﾞｨｱ業実務論」
その他	ゼミは 2 年間にわたりますが欠席することなく、積極的に参加してください。2 年間を通じて、ゼミ生同士協力し、企画・調査・発表・討論の力をつけてください。また、授業に取り入れたい企画や授業外での企画もプレゼン次第では可能になり、授業の進め方や内容はプレゼン次第で変更する場合もあります。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	担当教員は、30 年以上出版・インターネット業界でファッション女性誌・ビジネス誌ほか各種雑誌の編集長、Web サイトのプロデューサーなど実務を行なっており、その経験で得た知見を講義内でフィードバックしていく予定である。

科目分類（2025 年～入学者）	CT-M-312 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	120-310-23 （Ｊ）	授業コード	FE1422
科目名称	観光文化ｾﾞﾐII			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on Tourism Culture Ⅱ			授業区分	演習･実習･実技
科目責任者	ゼイヤー ウィン			必修･選択	履修ガイド参照
担当教員	ゼイヤー ウィン			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 月曜日 10:40～12:10 水曜日 10:40～12:10 後期 水曜日 10:40～12:10 木曜日 10:40～12:10			研究室	10-604
授業概要	＊ゼミの方針としては、学生が観光を学ぶ上で「社会･文化」「行政･政策」「産業」「地域コミュニティ」等の多様な視点からアプローチできるように指導する。 ＊ゼミでの学びはグループワークを中心として、専門書･先行研究の輪読（プレゼンテーション･質疑応答）を通して学術概念や調査手法を学び、観光地でのフィールド調査を経験すること（セミ合宿を想定）で、地域課題や実践的な仕組み･対策を考察する。				
到達目標	質的調査手法であるフィールドワークを初め、開発プロジェクト等で活用されている参加型計画･立案（PCM 手法）等の調査ツールを学び、観光に関わる各自の関心テーマに対する現地調査を実践する。 ①調査結果を報告書･学術論文として纏める技法を習得する。 ②「就職活動」や「社会人」としても継続的に活用できる「表現力」や「課題解決に向けた計画力」等の「実践的な教養」を身につける。				
アクティブ･ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	ゼイヤー ウィン	【第 1 回】 予習：シラバスを事前確認する。 授業：前期授業のふりかえり《授業の計画と方針の説明、学園祭についての協議》 復習：授業レポートの提出
2	ゼイヤー ウィン	【第 2 回】 予習：前回の講義内容を復習する。 授業：都内（身近な）観光地の調査を実践《調査地の検討》する。 復習：授業レポートの提出
3	ゼイヤー ウィン	【第 3 回】 予習：事前課題の準備をする。 授業：学園祭準備（模擬店準備）を行う。 復習：授業レポートの提出
4	ゼイヤー ウィン	【第 4 回】 予習：事前課題の準備をする。 授業：学園祭のふりかえり（グループワーク）する。 復習：授業レポートの提出
5	ゼイヤー ウィン	【第 5 回】 予習：発表を準備する。 授業：都内（身近な）観光地の調査結果を発表《グループワーク》する。 復習：授業レポートの提出する。
6	ゼイヤー ウィン	【第 6 回】 予習：配布資料を事前確認する。 授業：ゼミ研究の企画①（場所の選定） 復習：授業レポートの提出する。
7	ゼイヤー ウィン	【第 7 回】 予習：配布資料を事前確認する。 授業：ゼミ研究の企画②（情報収集）（合同ゼミの参加） 復習：授業レポートの提出する。
8	ゼイヤー ウィン	【第 8 回】 予習：プレゼンテーションの準備をする。 授業：調査結果の取りまとめ（グループワーク） 復習：授業レポートの提出する。
9	ゼイヤー ウィン	【第 9 回】 予習：プレゼンテーションの準備をする。 授業：調査結果の発表（グループワーク） 復習：授業レポートの提出する。

10	ゼイヤー ウィン	【第 10 回】 予習：個人の研究テーマについての発表の準備をする。 授業：個人の研究テーマ・ゼミ論についての中間報告①（グループワークによる議論） 復習：授業レポートの提出する。
11	ゼイヤー ウィン	【第 11 回】 予習：個人の研究テーマについての発表の準備をする。 授業：個人の研究テーマ・ゼミ論についての中間報告②（グループワークによる議論） 復習：授業レポートの提出する。
12	ゼイヤー ウィン	【第 12 回】 予習：合同研究発表会のポスターを見ておく。 授業：合同研究発表会を見学する。 復習：発表を評価する。
13	ゼイヤー ウィン	【第 13 回】 予習：事前課題を確認・準備する。 授業：中間報告書及び小論文の作成・発表①（グループワークによる議論） 復習：授業レポートの提出する。
14	ゼイヤー ウィン	【第 14 回】 予習：事前課題を確認・準備する。 授業：中間報告書及び小論文の作成・発表①（グループワークによる議論） 復習：授業レポートの提出する。
15	ゼイヤー ウィン	【第 15 回】 予習：事前課題を確認・準備する。 授業：論文の提出・1 年間のふりかえり 復習：授業レポートの提出する。

授業開始前学習	常時から観光関連ニュースやその他映像資料・番組などを確認し、観光現象の動向を把握しておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	授業毎に発表やレポート提出に対して教員からフィードバックを行う。
テキスト・教材	
参考書	個人の研究テーマに基づき、個別に指示する。
評価の基準と方法	授業への参加度・貢献度 70%。各回の授業レポート 30%。なお 5 回以上欠席した場合はその時点で不合格とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○			◎	△	

関連科目	ゼミで実践していく専門知識を習得する場として「観光人類学」「観光社会学」「海外観光資源研究」等を履修することが望ましい。
その他	学生が主体として各自関心のあるテーマを学習・調査し、またゼミ生同士がお互いの学び合うことで共存関係に基づくゼミ運営の構築を目指したい。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	教員は実践人類学及び観光人類学を専門領域としており、主に東南アジアの観光地を調査対象地域としている。観光産業の実務経験としてもツアーオペレーター業務や国際協力分野における開発調査や計画づくりといった実践経験を延べ 16 年間従事してきた。こうした教員の経験をベースに学術と実践の融合した授業を行う。

科目分類（2025 年～入学者）	CT-M-312	科目分類（～2024 年入学者）	120-310-23	授業コード	FE1424
科目名称	観光文化ｾﾞﾐII			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on Tourism Culture Ⅱ			授業区分	演習･実習･実技
科目責任者	張　景泰			必修･選択	履修ガイド参照
担当教員	張　景泰			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期　月曜日 13:00～16:10 後期　水曜日 09:50～13:00			研究室	10-615
授業概要	本ゼミでは、教員の指導のもとに学生が自主的に研究･発表･討論を行う。日･韓の比較研究を含め、観光と文化を主なテーマにし、文献の探し方、論文の書き方、発表の仕方などを練習する。2 年間のゼミを通して、自分が理解した事象を的確に相手に伝える能力を開発することで、聞き手にその内容を的確に伝達することができる。ゼミで「研究成果を発表する」を目標にして準備する過程で、最終的に「仕事に取り組む姿勢」や「コミュニケーション能力」など、社会人として必要とされる基礎的能力を身に付けられる。				
到達目標	①レポートの書き方をマスターする。 ②プレゼンテーションの技法を向上する。特に表現したい内容を整理して画面構成することで、伝えることができる。 ③社会人として必要とされる基礎的能力、いわゆる課題発見力、コミュニケーション能力などを習得する。				
アクティブ･ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	張　景泰	予習　：夏季休暇中の研究活動を整理しておく。 授業　：夏季休暇中の研究活動の報告、観光文化ゼミＤⅡの後期全体説明 復習　：自分の研究課題を再認識し、詳細化しておく。
2	張　景泰	予習　：配布資料を読んでおく。 授業　：異文化の理解について（日･韓の結婚式について）① 復習　：【第 2 回】ゼミで学習したことを復習しておく。
3	張　景泰	予習　：配布資料を読んでおく。 授業　：異文化の理解について（韓国の大衆文化と日本）② 復習　：【第 3 回】ゼミで学習したことを復習しておく。
4	張　景泰	予習　：配布資料を読んでおく。 授業　：アカデミック･ライティング（レジュメーの書き方）① 復習　：【第 4 回】ゼミで学習したことを復習しておく。
5	張　景泰	予習　：配布資料を読んでおく。 授業　：アカデミック･ライティング（レジュメーの書き方）② 復習　：【第 5 回】ゼミで学習したことを復習しておく。
6	張　景泰	予習　：配布資料を読んでおく。 授業　：アカデミック･ライティング（各自レジュメーの発表･提出）③ 復習　：【第 6 回】ゼミで学習したことを復習しておく。
7	張　景泰	予習　：　配布資料を読んでおく。 授業　：就職関連合同ゼミ② 復習　：就活の方法、意義などを再認識
8	張　景泰	予習　：配布資料を読んでおく。 授業　：プレゼンテーションとは？、プレゼンテーションのやり方① 復習　：プレゼンテーションのやり方について整理し、再確認する。
9	張　景泰	予習　：配布資料を読んでおく。 授業　：プレゼンテーションとは？、プレゼンテーションのやり方② 復習　：プレゼンテーションのやり方について整理し、再確認する。
10	張　景泰	予習　：発表者はプレゼンテーションを準備し、発表に備える。聞き手は積極的に質疑応答を準備する。 授業　：研究発表のプレゼンテーション①（プレゼンテーション） 復習　：報告者によるプレゼンテーション内容を再確認する。
11	張　景泰	予習　：発表者はプレゼンテーションを準備し、発表に備える。聞き手は積極的に質疑応答を準備する。 授業　：研究発表のプレゼンテーション②（プレゼンテーション） 復習　：報告者によるプレゼンテーション内容を再確認する。
12	張　景泰	予習　：発表者はプレゼンテーションを準備し、発表に備える。聞き手は積極的に質疑応答を準備する。 授業　：研究発表のプレゼンテーション③（プレゼンテーション） 復習　：報告者によるプレゼンテーション内容を再確認する。
13	張　景泰	予習　：特になし 授業　：4 年生の合同発表会の見学 復習　：4 年生のツアープランのパンフレットを自分で分析してみる。

14	張　景泰	予習　：発表者はプレゼンテーションを準備し、発表に備える。聞き手は積極的に質疑応答を準備する。 授業　：研究発表のプレゼンテーション④（プレゼンテーション） 復習　：報告者によるプレゼンテーション内容を再確認する。
15	張　景泰	予習　：配布資料を読んでおく。 授業　：ゼミナール全体のまとめ、授業評価アンケート 復習　：ゼミで身につけたことを振り返り、今後の活用方法について考える。

授業開始前学習	自分に興味がある分野に関して、さらに具体的にテーマを絞り、関連文献を読むように心がけて下さい。
授業内課題のフィードバックの方法	プレゼンテーションの方法、内容を質疑応答や議論を重ねることで、プレゼンテーションを再認識し、改善すべきところは教員がフィードバックする。
テキスト・教材	自前教科書を用いる。そのほかに、必要に応じて講義資料を配布する。
参考書	
評価の基準と方法	授業への参加度・貢献度など 70%。報告 30%。なお 5 回以上欠席した場合はその時点で不合格とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○			◎	△	

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CT-M-312 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	120-310-23 （Ｊ）	授業コード	FE1425
科目名称	観光文化ｾﾞﾐII			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on Tourism Culture Ⅱ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	鮫島 卓			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鮫島 卓			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30 後期 木曜日 10:40～12:10 月曜日 13:00～14:30			研究室	10-606
授業概要	後期は主に 3 つのことを行う。第 1 は輪読である。観光に関わる専門書を用いて、レジュメ作成、発表、ディスカッションを行いながら自分の興味・関心を知ることができる。また輪読は、批判的思考を獲得できる。批判的思考とは、他人が言う文章や言説など物事の真偽や可否を検討して、それに対する自分なりの判定を下すことである。単に反論することではなく、賛成することも批判に含まれる。批判的思考の獲得は、専門学校ではなく大学に 4 年間通う最大の意味であり、、賢く生きるための技術である。 第 2 は PBL（課題解決型授業）として歴史的町並み観光地である川越を対象に、自分でテーマを決めて研究レポート書く。そのためのフィールド調査を実施する。これらのグループ研究を通じて、多くの社会人と対話をする。社会人として望まれる主体性・社交力・チームワーク力を向上させる。 第 3 は就職活動支援である。前期に続き、時事問題を紹介する「My News」を行う。また第 9 回目には企業の人事担当者をゲスト講師に企業研究セミナーと題して合同ゼミとして実施し就職活動の意識付けを行う。課外活動として 10 月の学園祭では 3・4 年生合同で模擬店に出展してビジネス経験をするほか、学生が希望する企業見学と業界人との交流会を行う。				
到達目標	①社会人として必要なマナー・社交力を身につける ②輪読や My News を通じて、自分の興味関心を知る ③フィールド調査方法を習得してレポートを書けるようになる				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	鮫島 卓	【第 1 回】 予習：シラバスを読んでおく 授業：（演習）合宿ふりかえり《ディスカッション》 （講義）授業の計画と方針、輪読の進め方・当番決定 復習：授業レポートの提出
2	鮫島 卓	【第 2 回】 予習：発表の準備をする 授業：（演習）My News （演習）輪読《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出
3	鮫島 卓	【第 3 回】 予習：発表の準備をする 授業：（演習）My News （演習）輪読《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出 ※学園祭 10/10（土）～10/12（日） 模擬店出展予定（3・4 年生合同）
4	鮫島 卓	【第 4 回】 予習：発表の準備をする 授業：（演習）My News （演習）輪読《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出
5	鮫島 卓	【第 5 回】 予習：発表の準備をする 授業：（演習）My News （演習）輪読《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出
6	鮫島 卓	【第 6 回】 予習：発表の準備をする 授業：（演習）My News （演習）輪読《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出
7	鮫島 卓	【第 7 回】 予習：質問を準備する 授業：合同授業「業界研究セミナー」 企業人事担当者による会社説明会 復習：授業レポートの提出

8	鮫島　卓	【第 8 回】 予習：発表の準備をする 授業：（演習）My News （講義）期末レポート課題提供、レポートの書き方、先行研究レビュー 復習：授業レポートの提出
9	鮫島　卓	【第 9 回】 予習：研究の準備をする 授業：（演習）インタビュー計画発表《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出 ※11/29（土）川越蔵造りの街フィールド調査（NPO 川越蔵の会、ちゃぶだい）
10	鮫島　卓	【第 10 回】 予習：研究の準備をする 授業：インタビュー計画発表《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出 【学外実習】11/29（土）川越フィールドワーク（NPO 川越蔵の会、ゲストハウスちゃぶだい）
11	鮫島　卓	【第 11 回】 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 授業：（演習）フィールド調査ふりかえり・土産交換《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出
12	鮫島　卓	【第 12 回】 予習：質問を想定する 授業：４年生合同発表会（3～4 限） 復習：授業レポートの提出
13	鮫島　卓	【第 13 回】 予習：研究を進め、発表の準備をする 授業：（演習）研究発表順決定、研究経過報告《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出
14	鮫島　卓	【第 14 回】 予習：発表の準備をする 授業：（演習）期末レポート研究発表 《プレゼンテーション》 復習：授業レポートの提出
15	鮫島　卓	【第 15 回】 予習：発表の準備をする 授業：（演習）期末レポート研究発表 《プレゼンテーション》 （演習）後期ふりかえりと春休みの抱負《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出 ※※5 限終了後 4 年生追い出しコンパ予定

授業開始前学習	第 1 回授業で合宿のふりかえりの発表をするので、準備してほしい。できるだけ多くの人と本に出会い、旅をして、数多くの美しいモノや一流の人に出会って感性を磨いてほしい。人間は知識の範囲でしか世界を見ることはできない。知識があることで、「すごい」「素晴らしい」と思える機会が増え、人生が豊かになる。就活のため、金を稼ぐためだけの知識や技術を得るだけでは人間は幸福になれない。
授業内課題のフィードバックの方法	授業毎に学生が発表や報告を行い、その都度評価をしていく。
テキスト・教材	鮫島卓（2022）：観光文化ゼミ、駒沢女子大学教科書シリーズ 山口誠ほか（2021）：観光のレッスン―ツーリズム・リテラシー入門、新曜社
参考書	宗田好史（2020）『インバウンド再生：コロナ後への観光政策をイタリアと京都から考える』学芸出版社
評価の基準と方法	My News（30 点）、期末レポートと発表（70 点）で総合的に評価する。発表内容、発表の仕方、だけではなく授業態度（積極的に学ぼうとする姿勢、質問する力）も評価対象となる。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○			◎	△	

関連科目	ゼミで実践していく専門知識を習得する場として「観光学」「観光マーケティング」「観光政策論」を履修することが望ましい。
その他	尚、ゼミの運営（課題の出題・提出・評価）は Google Classroom を使う。11 月 29 日（土）に日帰りで埼玉県川越市でのフィールドワークを予定している。旅費は 3 千円程度を予定している。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	教員は長年、旅行会社・テーマパーク・観光開発コンサルティングの実務に関わってきた。実際に新卒採用の経験もあるので、将来の進路が旅行会社、航空会社、鉄道会社、テーマパーク、コンサルティング業界を目指す学生に就職活動におけるアドバイスも行う。学生の希望する業界官営者との交流会も設定する。

科目分類（2025 年～入学者）	CT-M-312	科目分類（～2024 年入学者）	120-310-23	授業コード	FE1426
科目名称	観光文化ｾﾞﾐII			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on Tourism Culture Ⅱ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	渡邉　光章			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	渡邉　光章			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期　水曜日 16:20～17:50　金曜日 10:40～12:10 後期　水曜日 16:20～17:50　金曜日 10:40～12:10			研究室	10-501
授業概要	3 年生の後期では、学生に共通した心配事である情報アウトプットへの効果的な対応（ゼミ論の研究対象を絞り込みスタート、ツアープラン発表会準備スタート、課題レポートやエントリーシートの指導など）を行いながら、いくつかの課題を並行して 4 年生になる為の準備に入ります。スタートが早めのため学生は少し忙しいかもしれませんが、前期のゼミで自身が何に関心があるか輪郭が見えてきているので、無理なく自然にゼミ論とツアープラン発表会の内容も決まってきます。総じて、3 年生の 1 年間を通して、情報を書いて伝える技術及び情報を話して伝える技術を身に付け、それと同時に将来どんな職業につきたいかも段階的に可視化できる進行内容になっています。全体の活動を通じて、チーム活動に必須と言われる社会性の 1 つである「心理的安全性」を重視しながら進め、全員がゼミの進行についてくることができるようにしています。				
到達目標	自ら主体的に考えてアウトプットできることを目指します。具体的には発信型の姿勢を意識し、「考え抜く力（課題発見力、計画力）」、「前に踏み出す力（働きかけ力、実行力）」、そして「問題発見力」「問題解決力」を身につけます。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	渡邉　光章	【第 1 回】 予習　：前期の反省と後期の抱負を考える 授業　：後期の進め方についてのガイダンス 復習　：後期に実施する内容の再確認
2	渡邉　光章	【第 2 回】 予習　：ツアープラン発表会用の地域や場所を思い浮かべ、同時に選んだ根拠も明確にする 授業　：チーム分けと調査による情報インプット 復習　：調査内容をまとめる
3	渡邉　光章	【第 3 回】 予習　：思い浮かべた地域や場所の中からベスト案を絞り込む 授業　：調査内容の整理とチーム発表の準備（ブレインストーミング） 復習　：発表内容のまとめ
4	渡邉　光章	【第 4 回】 予習　：発表の準備 授業　：調査内容のプレ発表（グループワーク） 復習　：発表内容の振り返り整理
5	渡邉　光章	【第 5 回】 予習　：旅行したい場所の共通点を調査 授業　：旅行コースのデータまとめ 復習　：データの発表準備
6	渡邉　光章	【第 6 回】 予習　：チーム作業を通じて、役割との相性を大まかに考えてみる 授業　：調査内容の発表（グループワーク） 復習　：分析の方法を整理
7	渡邉　光章	【第 7 回】 予習　：ゼミ論のテーマを自身の関心度に応じていくつか思い浮かべてみる 授業　：前期の KJ 法による自己分析結果を整理し、自分に合ったゼミ論のテーマを考える 復習　：ゼミ論のテーマを絞り込む
8	渡邉　光章	【第 8 回】 予習　：ゼミ論のテーマ発表準備 授業　：ゼミ論のテーマのプレ発表（グループワーク） 復習　：発表内容を整理
9	渡邉　光章	【第 9 回】 予習　：　関心のある企業について調べておく 授業　：　合同ゼミ 復習　：　合同ゼミの成果の整理
10	渡邉　光章	【第 10 回】 予習　：自身の関心のある職業について考える 授業　：自分に合うと思う職業を調査し、現時点で必要な学びを知る 復習　：調査内容について整理する

11	渡邉　光章	【第 11 回】 予習　：自身の関心のある企業について調べてみる 授業　：関心のある企業の理念などを調査 復習　：調査内容について整理する
12	渡邉　光章	【第 12 回】 予習　：ツアープランの事例を web 等で見ておく 授業　：合同発表会見学（2 コマ連続の扱い） 復習　：発表内容について整理
13	渡邉　光章	【第 13 回】 予習　：ツアープランの事例を web 等で見ておく 授業　：合同発表会見学（2 コマ連続の扱い） 復習　：発表内容について検討する
14	渡邉　光章	【第 14 回】 予習　：これまでの学びについて考えてみる 授業　：ゼミ論とツアープランの計画（グループワークを含む） 復習　：改善点を整理
15	渡邉　光章	【第 15 回】 予習　：1 年を通した自身の行動について考える 授業　：各自の発表（チーム発表を含む）とフィードバック 復習　：自身に足りない点について考える（PDCA）

授業開始前学習	ニュースなどで日々の出来事を確認しておくと、授業が理解しやすい。
授業内課題のフィードバックの方法	講義の最後に、毎回「振り返りレポート」を提出する。このレポート提出で出欠席を確認する。講義で学んだ重要ポイントや発見したこと、よくわからなかったことへの質問事項などを記入してもらい、そのフィードバックは、学生が提出したレポートの内容によって適宜 1 人ずつ対応または、次回講義の冒頭で全体に応える形式で実施している。状況により、グループディスカッションによる講評や、ワークショップで進捗を確認することもある。
テキスト・教材	必要に応じて授業で適宜、配布する。
参考書	必要に応じて授業で適宜、配布する。
評価の基準と方法	授業中の提出物など 50%と、予習・復習などの平常点（受講姿勢や出欠席）50%により総合的に評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○			◎	△	

関連科目	地域観光資源研究（前期）と、観光の PR とメディア（後期）を履修しておくことが望ましい。
その他	課題学習（予習・復習）については、各回の授業中に具体的な指示をする。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CT-M-412 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	120-310-24 （Ｊ）	授業コード	FE1431
科目名称	観光文化ｾﾞﾐⅢ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on Tourism Culture Ⅲ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	田代　真人			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田代　真人			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　火曜日 10:30～12:00　木曜日 10:30～12:00 後期　火曜日 10:30～12:00　木曜日 10:30～12:00			研究室	10-613
授業概要	2 年間のゼミを通して、各地の文化、観光資源を研究し、国内外で 300 ホテル計 70,000 室以上を展開しているビジネスホテル「東横 INN」の集客プランを作成、発表します。今期は「デザイン思考」を使った手法でプラン作成の方法を研究し、各自プランを作り、発表します。 並行してゼミ論のテーマ研究も進め、執筆に取り掛かります。最終的には、後期の観光文化学類での合同発表会で、2 年間の研究成果を発表します。※内容は東横インの都合で変更する場合があります。				
到達目標	まず、ゼミ論の執筆と集客プランの作成という 2 年間の目的を達成するための第 3 準備段階として、各自興味関心のある地域をピックアップして、歴史・文化・地理・観光資源などを調査します。これらを通して、調べる力、読む力、書く力、まとめる力、発表する力を身につけることが目標です。また同時に社会人として生きていく力と知恵を身につけていくことを目指します。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	田代　真人	【第 1 回】 予習　：3 年次の自己評価をする 授業　： 【ゼミ論】授業方針と計画を説明し、ゼミ論のテーマを決定する。 【東横 INN】デザイン思考の概要と目的を復習し、ビジネスホテルチェーン「東横 INN」のビジョンやブランドイメージを共有する 復習　：ゼミ論に見直しがないか自己評価する
2	田代　真人	【第 2 回】 予習　：後期に発表する SDGs に関する資料を読んでおく。 授業　：【東横 INN】SDGs とは何か、なぜ重要か、どのように関わることができるかを学ぶ。 復習　：ゼミで学習したことを復習しておく。
3	田代　真人	【第 3 回】 予習　：自分のゼミ論に見直しがある場合、その内容を具体的に見極め、ゼミ論の目次を作って見る 授業　： 【ゼミ論】見直しがある場合、見直しの発表。その後各自目次の発表。お互いにその内容を評価する（グループ・ワーク） 【東横 INN】女子大学生の顧客のニーズや感情を観察し、インタビューし、ペルソナを作成する。 復習　：考えたペルソナを確認する
4	田代　真人	【第 4 回】 予習　：ゼミ論の目次に見直しがある場合、その内容を具体的に見極める。 授業　： 【ゼミ論】再度目次の発表。お互いにその内容を評価する（グループ・ワーク） 【東横 INN】定義のステップを実践し、女子大学生の顧客が抱える問題や課題を明確に定義し、ポイント・オブ・ビューを作成する 復習　：ゼミ論の内容を確認する
5	田代　真人	【第 5 回】 予習　：ゼミ論の目次ごとに調査・研究方法を考える 授業　： 【ゼミ論】目次ごとの調査・研究方法を発表する（グループ・ワーク） 【東横 INN】アイデアのステップを実践し、問題や課題に対する多様な解決策を発想し、ブレーンストーミングやマインドマップなどの手法を用いる 復習　：【ゼミ論】、【東横 INN】ともに授業でやった内容を確認しておく
6	田代　真人	【第 6 回】 予習　：【東横 INN】企画のアイデアを練っておく 授業　：【東横 INN】アイデアのステップを続けて実践し、発想した解決策を評価し、優先順位をつける 復習　：授業でやった内容を確認しておく
7	田代　真人	【第 7 回】 予習　：ゼミ論では各自調査・研究を行なう 授業　：【東横 INN】プロトタイプのステップを実践し、選んだ解決策を具体的な形にする 復習　：授業でやった内容を確認しておく

8	田代　真人	【第 8 回】 予習　：東横 INN の集客プランを具体的に考えておく 授業　：【東横 INN】プロトタイプのステップを続けて実践し、よりリアルなものにするために、デジタルツールやサービスデザインの手法を用いる 復習　：授業でやった内容を確認しておく。ゼミ論は各自調査・研究を進めておく
9	田代　真人	【第 9 回】 予習　：東横 INN プランについて各自より深く考察しておく 授業　：【東横 INN】テストのステップを進めるため、実際にほかの学生にホテルの顧客としての意見を得るために、アンケートやインタビューなどの案を考えて実践する（グループワーク） 復習　：授業でやった内容を確認しておく。ゼミ論は各自調査・研究を進めておく
10	田代　真人	【第 10 回】 予習　：インタビューで得られたフィードバックを整理しておく 授業　：【東横 INN】テストのステップを続けて実践し、得られたフィードバックを分析し、改善点や課題を洗い出す 復習　：授業でやった内容を確認しておく。ゼミ論は各自調査・研究を進めておく
11	田代　真人	【第 11 回】 予習　：フィードバックで得られた改善点や課題を洗い出して整理しておく 授業　：エンパシーからテストまでのプロセスを振り返り、学んだことや気づいたことを共有する（グループ・ワーク） 復習　：授業でやった内容を確認しておく。ゼミ論は各自調査・研究を進めておく
12	田代　真人	【第 12 回】 予習　：整理した内容を発表できるようにしておく 授業　：【東横 INN】改善点や課題に対して、再びデザイン思考のプロセスを繰り返し、解決策を改良する（グループ・ワーク） 復習　：授業でやった内容を確認しておく。ゼミ論は各自調査・研究を進めておく
13	田代　真人	【第 13 回】 予習　：改良した結果を整理する 授業　：改良した解決策を最終的なプロトタイプとして完成させる（グループ・ワーク） 復習　：授業でやった内容を確認しておく。ゼミ論は各自調査・研究を進めておく
14	田代　真人	【第 14 回】 予習　：完成したプロトタイプを見直しておく 授業　：【東横 INN】完成したプロトタイプを授業内でプレゼンテーションする（グループ・ワーク） 復習　：授業でやった内容を確認しておく。ゼミ論は各自調査・研究を進めておく
15	田代　真人	【第 15 回】 予習　：ゼミ論の方向性を整理しておく 授業　：【東横 INN】プレゼンテーションのフィードバックをもとに、解決策の効果や価値、実現可能性などを評価し、今後の展望を考える（グループ・ワーク） 【ゼミ論】進行状況を確認する 復習　：後期に向けて夏休み中にやっておくべきことを確認しておく ※講義内容は、そのときどきの状況で変更する場合もある。

授業開始前学習	今期は、ゼミ論とビジネスホテルの集客プランの作成という 2 つのことに取り組みます。それぞれの構想を各自描くべく、ビジネスホテルのインターネットサイトやいろいろな旅行パンフレットを旅行会社や観光地でもらって目を通しておきましょう。
授業内課題のフィードバックの方法	授業後に毎回振り返りレポートを提出してもらいます。翌週にそれらの講評や質問に対する回答をします。急ぐ場合は各学生直接メールすることもあります。
テキスト・教材	適宜資料を配布します
参考書	
評価の基準と方法	講義に対しての積極性（50%）、各講義での提出レポート（40%）、最終レポート（10%）での総合評価でおこないます。遅刻は遅れた時間にかかわらず 3 回で 1 回の欠席に匹敵する減点となります。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○			◎	△	

関連科目	
その他	2 年間にわたるゼミの後半の 1 年間前期になります。引き続き欠席することなく、積極的に参加してください。最後の 1 年間も、ゼミ生同士協力し、企画・調査・発表・討論の力をつけてください。また、授業に取り入れたい企画や授業外での企画もプレゼン次第では可能になり、授業の進め方や内容はプレゼン次第で変更する場合もあります。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	担当教員は、30 年以上出版・インターネット業界でファッション女性誌・ビジネス誌ほか各種雑誌の編集長、Web サイトのプロデューサー、ビジネスホテルの広報顧問などを行なっており、その経験で得た知見を講義内でフィードバックしていく予定である。

科目分類（2025 年～入学者）	CT-M-412 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	120-310-24 （Ｊ）	授業コード	FE1435
科目名称	観光文化ｾﾞﾐⅢ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on Tourism Culture Ⅲ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	鮫島 卓			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鮫島 卓			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30 後期 木曜日 10:40～12:10 月曜日 13:00～14:30			研究室	10-606
授業概要	前期は主に 2 つことを行う。第 1 は、観光地域の課題解決型授業である。日本の観光政策上の最大の課題は、経済効果が大都市に集中していること、需要の季節変動により非正規雇用が多く労働生産性が低い点である。それを解決するため夏休みにフィールド調査を実施し、観光スポットのプロモーション用ショート動画の制作、および研究発表用のインタビュー記録動画を制作する。具体的には、前期に文献調査やインタビュー調査（質的調査）などの調査方法を学び、調査計画を立て、学生自らアポイントを取る。一連のプロジェクト通じて企業や地域の人びととの対話を予定している。このプロジェクトを通じて、地域の現実課題に向き合うと同時に、社会人に必要な主体性、社交力、チームワーク力などを向上させてほしい。 第 2 は、ゼミ論（研究）を進める。研究とは自らテーマ（問題設定）をつくることから始まる。それは自分の興味関心を客観化することで、新たな自分を知ることにつながる。また研究は批判的思考を獲得できる。批判的思考とは、他人が言う文章や言説など物事の真偽や可否を検討して、それに対する自分なりの判定を下すことである。単に反論することではなく、賛成することも批判に含まれる。批判的思考の獲得は、専門学校ではなく大学に 4 年間通う最大の意味であり、賢く生きるための技術である。研究を通じた学びは、未知に直面したときそれを乗り越える方法の習得につながる。それは長い人生を生きる上で重要な力となるであろう。前期中に研究の進め方や調査方法を学びながら研究計画書（5000 字）を作成することを目標とする。夏休みには、実際の調査を各自で行ってほしい。				
到達目標	① 社会人に必要なマナー・社交力、批判的思考、チームワーク力などを向上させる ② ガイドマップ・動画制作のためのフィールド調査計画を立て、アポイントを取る ③ 研究計画書(5,000 字以上)を作成し、後期のゼミ論の完成につなげる				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	鮫島 卓	【第 1 回】 予習：発表の準備をする 授業：（演習）春休みのふりかえり《ディスカッション》 （講義）授業方針と計画 （演習）ゼミ論課題提供、発表順序 復習：授業レポートの提出
2	鮫島 卓	【第 2 回】 予習：シラバスを読んでおく 授業：（演習）My News《ディスカッション》 （講義）ゼミ論先行研究レビュー発表《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出
3	鮫島 卓	【第 3 回】 予習：発表の準備をする 授業：（演習）My News《ディスカッション》 （演習）ゼミ論先行研究レビュー発表 《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出
4	鮫島 卓	【第 4 回】 予習：発表の準備をする 授業：（演習）My News《プレゼンテーション》 （演習）ゼミ論先行研究レビュー発表《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出
5	鮫島 卓	【第 5 回】 予習：発表の準備をする 授業：（演習）My News《ディスカッション》 （演習）ゼミ論研究テーマ・調査方法発表《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出
6	鮫島 卓	【第 6 回】 予習：発表の準備をする 授業：（演習）My News《ディスカッション》 （演習）ゼミ論研究テーマ・調査方法発表《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出
7	鮫島 卓	【第 7 回】 予習：教科書の該当箇所を読んで予習する 授業：（演習）My News《ディスカッション》 （演習）ゼミ論研究テーマ・調査方法発表《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出

8	鮫島　卓	【第 8 回】 予習：教科書の該当箇所を読む 授業：（演習）My News《ディスカッション》 （演習）ゼミ論研究テーマ・調査方法発表《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出（先行研究文献列挙）
9	鮫島　卓	【第 9 回】 予習：発表の準備をする 授業：（講義）フィールド調査地域の観光資源と課題提供（講師オンライン参加） （演習）質疑応答 《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出
10	鮫島　卓	【第 10 回】 予習：発表の準備をする 授業：（演習）My News《ディスカッション》 （演習）フィールド調査計画《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出（ふりかえり）
11	鮫島　卓	【第 11 回】 予習：教科書の該当箇所を読む 授業：（講義）ゲスト講師による SNS 動画制作の技法を学ぶ講義《ディスカッション》 （演習）フィールド調査計画《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出
12	鮫島　卓	【第 12 回】 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 授業：フィールド調査計画《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出
13	鮫島　卓	【第 13 回】 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 授業：（演習）ゼミ論経過報告、発表順序決定《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出
14	鮫島　卓	【第 14 回】 予習：グループ研究を進める 授業：（演習）ゼミ論研究計画発表 《プレゼンテーション》 復習：論文を提出する
15	鮫島　卓	【第 15 回】 予習：発表の準備をする 授業：（演習）ゼミ論研究計画発表 《プレゼンテーション》 （演習）前期のふりかえり発表と夏休みの抱負 《プレゼンテーション》 復習：授業レポートの提出

授業開始前学習	第 1 回目授業時に春休みのふりかえりをするので準備してほしい。学生時代にできるだけ多くの人と本に出会い、旅をして、数多くの美しいモノや一流の人に出会って感性を磨いてほしい。人間は知識の範囲でしか世界を見ることはできない。本や旅で得た知識・教養があると、「すごい」「素晴らしい」と思える機会が増え、人生が豊かになる。就活のため、金を稼ぐためだけの知識や技術を得るだけでは人間は幸福になれない。
授業内課題のフィードバックの方法	授業毎に学生が発表や報告を行い、その都度評価をしていく。
テキスト・教材	鮫島卓（2022）『観光文化ゼミ』駒沢女子大学教科書シリーズ
参考書	
評価の基準と方法	My News（10 点）、グループ研究（40 点）、ゼミ論研究計画（50 点）から総合的に評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○			◎	△	

関連科目	ゼミで実践していく専門知識を習得する場として「観光学」「観光マーケティング」「観光政策論」を履修することが望ましい。
その他	鮫島ゼミの最大の特徴は、学生が相互に教え・学び合うゼミをつくりあげることにある。文献で知識を習得するだけでなく、学外実習を通じて実践力も養ってほしい。尚、ゼミの運営（課題の出題・提出・評価）は Google Classroom を使う。夏休み期間中の 9 月 17 日（水）～9 月 19 日（金）で国内観光地でのフィールドワークを行う。旅費は 4 万円程度を予定している。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	教員は長年、旅行会社・テーマパーク・観光開発コンサルティングの実務に関わってきた。実際に新卒採用の経験もあるので、将来の進路が旅行会社、航空会社、鉄道会社、テーマパーク、コンサルティング業界を目指す学生に就職活動におけるアドバイスも行う。学生の希望する業界関係者との交流会も設定する。

科目分類（2025 年～入学者）	CT-M-412	科目分類（～2024 年入学者）	120-310-24	授業コード	FE1436
科目名称	観光文化ｾﾞﾐⅢ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on Tourism Culture Ⅲ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	渡邉　光章			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	渡邉　光章			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　水曜日 16:20～17:50　金曜日 10:40～12:10 後期　水曜日 16:20～17:50　金曜日 10:40～12:10			研究室	10-501
授業概要	これまでの様々な学びを通じて修得した「課題を発見する力」、「課題を乗り越える力」を可視化できるように行動し、個々の学生が自分なりの結果を出すことを目指します。3 年次からの継続した学びの中で、4 年生前期の時点ではゼミ論の執筆やツアープランの企画発表の準備を更に進めます。周囲の状況に惑わされず、ゼミを通じて落ち着いて自分と上手に向き合う時間を作るなかで、成果に繋がる行動を更に積み重ねます。不要なアンコンシャス・バイアスから解放される事で、「心理的安定性」を重視し、1 人 1 人が自分に合った方向に進んでいきます。				
到達目標	主体的に様々な学びを通じて「課題を発見する力」、「課題を乗り越える力」を養うことを目指します。そして、具体的な成果に繋がる行動をするために、安定した精神状態で学びを続けられるよう「心理的安定性」を重視し、1 人 1 人が自分に合った進路を見つけることが目標です。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	渡邉　光章	【第 1 回】 予習　：これまでの自身の行動を再チェックする 授業　：4 年次の自己管理と進路について考える（グループワーク） 復習　：これまでしてきたことの再確認
2	渡邉　光章	【第 2 回】 予習　：思い浮かべた未来のイメージを文字にしてみる 授業　：PBL（問題解決型）へのアプローチ再指導 復習　：PBL の再確認
3	渡邉　光章	【第 3 回】 予習　：自分がなりたい未来のイメージを更に調べる 授業　：自分に足りないモノについて考える 復習　：イメージを整理する
4	渡邉　光章	【第 4 回】 予習　：やりたい事と自身のマッチングを考える 授業　：ゼミ論の研究テーマと自身のマッチング分析（グループワーク） 復習　：調べた内容の整理
5	渡邉　光章	【第 5 回】 予習　：調べた内容をセグメント化してみる 授業　：自身の関心がどこにあるのかを再確認 復習　：セグメントデータの整理
6	渡邉　光章	【第 6 回】 予習　：　整理したデータを読み返す 授業　：　自身の関心とゼミ論のマッチングを考察 復習　：　マッチングについて理解する
7	渡邉　光章	【第 7 回】 予習　：ゼミ論テーマと自身の相性をセグメント化してみる 授業　：ゼミ論テーマ決定へのアプローチ 復習　：セグメントデータの理解
8	渡邉　光章	【第 8 回】 予習　：自分の得意と苦手について考える 授業　：ゼミ論データの収集の仕方（グループワーク） 復習　：収集データを整理
9	渡邉　光章	【第 9 回】 予習　：自分の長所を 3 つ探してみる 授業　：ツアープランテーマの選択の仕方 復習　：収集データについて整理する
10	渡邉　光章	【第 10 回】 予習　：関心のあるテーマについて考える 授業　：収集データの利用の仕方（グループワーク） 復習　：テーマとチームの相性について整理する

11	渡邉　光章	【第 11 回】 予習　：ツアープランテーマを再考 授業　：ツアーコースの調査（グループワーク） 復習　：ツアーコースについて整理
12	渡邉　光章	【第 12 回】 予習　：ツアープランを深く考察しておく 授業　：ツアープランの決定（グループワーク） 復習　：ツアープランについて整理
13	渡邉　光章	【第 13 回】 予習　：ツアープランの関連事項についても調べておく 授業　：ツアープランについてまとめて発表する準備 復習　：ツアープランの整理
14	渡邉　光章	【第 14 回】 予習　：ツアープラン発表に備え、必要な材料を用意する 授業　：ツアープランを発表 復習　：ツアープラン発表データを再整理
15	渡邉　光章	【第 15 回】 予習　：効果的な発表について考える 授業　：発表と補足 復習　：自身の発表の足りない点について考える（PDCA）

授業開始前学習	3 年次から学んで積み重ねてきたことをよく思い出し、自身の関心のある事柄や進みたい方向について考えておく。
授業内課題のフィードバックの方法	講義の最後に、毎回「振り返りレポート」を提出する。このレポート提出で出欠席を確認する。講義で学んだ重要ポイントや発見したこと、よくわからなかったことへの質問事項などを記入してもらい、そのフィードバックは、学生が提出したレポートの内容によって適宜 1 人ずつ対応または、次回講義の冒頭で全体に応える形式で実施している。状況により、グループディスカッションによる講評や、個人のワークショップで進捗を確認することもある。
テキスト・教材	必要に応じて適宜配付する。
参考書	必要に応じて適宜紹介する。
評価の基準と方法	授業中の提出物など 50%と、予習・復習などの平常点（受講姿勢や出欠席）50%により総合的に評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○			◎	△	

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CT-M-412 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	120-310-24 （Ｊ）	授業コード	FE1441
科目名称	観光文化ｾﾞﾐⅣ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on Tourism Culture Ⅳ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	田代 真人			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田代 真人			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 10:30～12:00 木曜日 10:30～12:00 後期 火曜日 10:30～12:00 木曜日 10:30～12:00			研究室	10-613
授業概要	2 年間のゼミを通して、各地の文化、観光資源を研究し、国内外で 300 ホテル計 70,000 室以上を展開しているビジネスホテル「東横 INN」の集客プランを作成、発表します。今期は「デザイン思考」を使った手法でプラン作成の方法を研究し、各自プランを作り、発表します。 並行してゼミ論のテーマ研究も進め、執筆に取り掛かります。最終的には、後期の観光文化学類での合同発表会で、2 年間の研究成果を発表します。 ※内容・期日は東横インの都合で変更する場合があります。合同発表会の期日に関しては変更する可能性もあります。				
到達目標	ゼミ論の執筆とビジネスホテルの集客プランの作成という 2 年間の目的を達成するための最終段階です。ゼミ論では各自ピックアップした興味関心のある地域の、歴史・文化・地理・観光資源などを調査してゼミ論を書き進め、完成させます。集客プランの発表は、前期に決定した集客プランの内容を具体的なものに落とし込んで、パンフレットとプレゼン資料を制作、発表します。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	田代 真人	※課題制作は PC およびパワーポイントなどのプレゼンテーション書類制作ソフトが必要です。 【第 1 回】 予習 ：後期のゼミ論執筆計画の概要を考えてくる。 授業 ：後期の活動計画・研究計画を立てる。 復習 ：授業での話し合いを振り返り、後期の計画を立てる。
2	田代 真人	【第 2 回】 予習 ：東横 INN プレゼンテーションについての詳細を考えておく。 授業 ：パンフレット制作について（観光文化ゼミの受講生に対し、全体説明） 復習 ：授業で学習したことを復習しておく。
3	田代 真人	【第 3 回】 予習 ：各自分担に従い準備を進める。パンフレット・パワーポイント・発表原稿を準備する。 授業 ：【東横 INN】プレゼンテーション事前発表（グループ・ワーク） 復習 ：プレゼンテーションを振り返り、修正するところをしておく。
4	田代 真人	【第 4 回】 予習 ：各自プレゼンテーションの内容を見直し、自分の役割を確認しておく。 授業 ：【東横 INN】東横 INN 本社でプレゼンテーションを行い、実際に社長および支配人からのフィードバックを得る（グループ・ワーク） 復習 ：プレゼンテーションの振り返りをしておく。
5	田代 真人	【第 5 回】 予習 ：プレゼンテーションの振り返りをしておく。 授業 ：【合同発表会】東横 INN でのプレゼンテーションを学生向けに修正するポイントを確認する（グループ・ワーク） 復習 ：プレゼンテーションの修正点を再考する。
6	田代 真人	【第 6 回】 予習 ：プレゼンテーションの修正点を再考をしておく。 授業 ：【合同発表会】東横 INN でのプレゼンテーションを学生向けに修正する。（グループ・ワーク） 復習 ：修正したプレゼンテーションを確認しておく。
7	田代 真人	【第 7 回】 予習 ：修正したプレゼンテーションを確認しておく。 授業 ：【合同発表会】修正したプレゼンテーションでの発表内容を確認して改めて担当を決める。（グループ・ワーク） 復習 ：各自担当か所を確認しておく。
8	田代 真人	【第 8 回】 予習 ：ゼミ論中間報告の準備をする。 授業 ：ゼミ論中間報告 復習 ：ゼミ論中間報告を再考し、研究計画を進める。
9	田代 真人	【第 9 回】 予習 ：修正したプレゼンテーションを確認しておく。 授業 ：【合同発表会】プレゼンテーションでの発表練習。（グループ・ワーク） 復習 ：改めて各自担当か所を確認しておく。

10	田代　真人	【第 10 回】 予習　：発表会の最終準備をする。（グループ･ワーク） 授業　：【合同発表会】実際の合同発表会を想定した授業内発表会 復習　：合同発表会に向けて最終調整をする。
11	田代　真人	【第 11 回】 予習　：各自分担に従い準備を進める。パンフレット･パワーポイント･発表原稿を準備する。 授業　：【合同発表会】プレゼンテーション発表練習（グループ･ワーク） 復習　：授業での気付いた点を修正する。
12	田代　真人	【第 12 回】 予習　：合同発表会の最終準備をする。 授業　：観光文化ゼミ合同発表会 復習　：合同発表会･集客プラン作成の過程すべてを振り返り考察する。
13	田代　真人	【第 13 回】 予習　：ゼミ論を完成させる。 授業　：合同発表会の振り返り･ゼミ論提出 復習　：ゼミ論の修正点があれば修正する。
14	田代　真人	【第 14 回】 予習　：ゼミ論を見直す。 授業　：ゼミ論の修正点の指導を受ける。 復習　：ゼミ論の修正点があれば修正する。
15	田代　真人	【第 15 回】 予習　：後期の自己評価を準備しておく。 授業　：後期の振り返り･自己評価･2 年間のゼミ活動の総括 復習　：ゼミ論を完成させ最終版を提出する。 ※講義内容は、そのときどきの状況で変更する場合もある。

授業開始前学習	今期は、ゼミ論とビジネスホテルの集客プランの作成という 2 つのことに取り組みます。それぞれの構想を各自描くべく、ビジネスホテルのインターネットサイトやいろいろな旅行パンフレットを旅行会社や観光地でもらって目を通しておきましょう。
授業内課題のフィードバックの方法	授業後に毎回振り返りレポートを提出してもらいます。翌週にそれらの講評や質問に対する回答をします。急ぐ場合は各学生直接メールすることもあります。
テキスト･教材	適宜資料を配布します
参考書	
評価の基準と方法	講義に対しての積極性（50%）、各講義での提出レポート（20%）、最終レポート（30%）での総合評価でおこないます。遅刻は遅れた時間にかかわらず 3 回で 1 回の欠席に匹敵する減点となります。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○			◎	△	

関連科目	
その他	2 年間にわたるゼミの最後の期になります。引き続き欠席することなく、積極的に参加してください。今期も、ゼミ生同士協力し、企画･調査･発表･討論の力をつけてください。また、授業に取り入れたい企画や授業外での企画もプレゼン次第では可能になり、授業の進め方や内容はプレゼン次第で変更する場合もあります。
予習･復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習･復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	担当教員は、30 年以上出版･インターネット業界でファッション女性誌･ビジネス誌ほか各種雑誌の編集長、Web サイトのプロデューサー、ビジネスホテルの広報顧問などを行なっており、その経験で得た知見を講義内でフィードバックしていく予定である。

科目分類（2025 年～入学者）	CT-M-412 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	120-310-24 （Ｊ）	授業コード	FE1445
科目名称	観光文化ｾﾞﾐⅣ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on Tourism Culture Ⅳ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	鮫島 卓			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鮫島 卓			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30 後期 木曜日 10:40～12:10 月曜日 13:00～14:30			研究室	10-606
授業概要	後期は 4 年間の学びの集大成として 2 つのことを行う。第 1 に学生個人の研究テーマをもとにゼミ論（8000 字以上）を完成させ、研究発表を行う。第 2 に前期から進めてきた PBL（課題解決型授業）のグループ研究の成果として、「観光スポットのプロモーション用 SNS ショート動画」の制作と、「観光コンテンツ事業者のインタビュー記録動画」を制作し、観光文化学類合同発表会（12 月）で研究成果の口頭発表を行う。制作した動画は観光地の DMO に納品し、活用してもらう。 ゼミ論や PBL を通じて、20 年後にも通用する能力（何歳になっても未知なることに挑戦し、失敗にもめげずに訂正しながら学び続ける力）を習得してほしい。				
到達目標	① ゼミ論を完成させ、研究発表を行う（先輩のゼミ論を超える！）。 ② 社会人に必要なマナー・社交力・チームワーク力を向上させる。 ③ 研究を通じて未知の挑戦をして学び続ける姿勢と自信をつける。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	鮫島 卓	【第 1 回】 予習：発表の準備をする 授業：（演習）夏休み・合宿ふりかえり （講義）授業の計画と方針 （演習）PBL ガイドマップ・動画制作《グループワーク》 復習：授業レポートの提出
2	鮫島 卓	【第 2 回】 予習：グループ研究を進める 授業：（演習）PBL ガイドマップ・動画制作《グループワーク》 復習：授業レポートの提出
3	鮫島 卓	【第 3 回】 予習：グループ研究を進める 授業：（演習）PBL ガイドマップ・動画制作《グループワーク》 （演習）学園祭準備（装飾・展示・模擬店準備）《グループワーク》 復習：授業レポートの提出
4	鮫島 卓	【第 4 回】 予習：グループ研究を進める 授業：（演習）PBL ガイドマップ・動画制作《グループワーク》 復習：授業レポートの提出
5	鮫島 卓	【第 5 回】 予習：グループ研究を進める 授業：（演習）PBL ガイドマップ・動画制作（入稿）《グループワーク》 復習：授業レポートの提出
6	鮫島 卓	【第 6 回】 予習：グループ研究を進める 授業：（演習）PBL 研究発表構想検討《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出
7	鮫島 卓	【第 7 回】 予習：発表の準備を進める 授業：（演習）PBL 発表準備（スライド・台本制作）《ディスカッション》 （演習）ゼミ論進捗報告《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出
8	鮫島 卓	【第 8 回】 予習：発表の準備をする 授業：（演習）PBL 発表準備（スライド・台本制作）《ディスカッション》 （演習）ゼミ論進捗報告《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出
9	鮫島 卓	【第 9 回】 予習：企画の準備を進める 授業：（演習）PBL 発表準備（スライド・台本制作）《ディスカッション》 （演習）ゼミ論進捗報告《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出

10	鮫島　卓	【第 10 回】 予習：グループ研究を各自進める 授業：（演習）PBL 発表準備（スライド・台本制作）《ディスカッション》 （演習）ゼミ論進捗報告《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出
11	鮫島　卓	【第 11 回】 予習：グループ研究を進める 授業：（演習）合同発表会準備　模擬プレゼンテーション 復習：授業レポートの提出
12	鮫島　卓	【第 12 回】 予習：発表の準備を進める 授業：観光文化ゼミ合同発表会@記念講堂　※3～4 限 復習：授業レポートの提出
13	鮫島　卓	【第 13 回】 予習：発表の準備をする 授業：（演習）ゼミ論研究発表順序決定、ゼミ論進捗報告 復習：授業レポートの提出
14	鮫島　卓	【第 14 回】 予習：研究を各自で進める 授業：ゼミ論研究発表　《プレゼンテーション》 復習：授業レポートの提出
15	鮫島　卓	【第 15 回】 予習：発表の準備をする 授業：ゼミ論研究発表 《プレゼンテーション》 復習：授業レポートの提出

授業開始前学習	第 1 回授業時に夏休み・合宿のふりかえりをするので、準備をしてほしい。できるだけ多くの人と本に出会い、旅をして、数多くの美しいモノや一流の人に出会って感性を磨いてほしい。人間は知識の範囲でしか世界を見ることはできない。知識があることで、「すごい」「素晴らしい」と思える機会が増え、人生が豊かになる。就活のため、金を稼ぐためだけの知識や技術を得るだけでは人間は幸福になれない。
授業内課題のフィードバックの方法	授業毎に学生が発表や報告を行い、その都度評価をしていく。
テキスト・教材	鮫島卓（2022）『観光文化ゼミ』駒沢女子大学教科書シリーズ
参考書	
評価の基準と方法	PBL グループ研究（50 点）、ゼミ論（50 点）で総合的に判断する
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○			◎	△	

関連科目	ゼミで実践していく専門知識を習得する場として「観光学」「観光マーケティング」「観光政策論」を履修することが望ましい。
その他	鮫島ゼミの最大の特徴は、学生が相互に教え・学び合うゼミをつくりあげることにある。文献で知識を習得するだけでなく、学外実習を通じて実践力も養ってほしい。尚、ゼミの運営（課題の出題・提出・評価）は Google Classroom を使う。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	教員は長年、旅行会社・テーマパーク・観光開発コンサルティングの実務に関わってきた。学生の希望する業界官営者との交流会も設定する。

科目分類（2025 年～入学者）	CT-M-412	科目分類（～2024 年入学者）	120-310-24	授業コード	FE1446
科目名称	観光文化ｾﾞﾐⅣ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on Tourism Culture Ⅳ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	渡邉　光章			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	渡邉　光章			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　水曜日 16:20～17:50　金曜日 10:40～12:10 後期　水曜日 16:20～17:50　金曜日 10:40～12:10			研究室	10-501
授業概要	これまでの様々な学びを通じて修得した「問題を乗り越える力」を結集します。3 年次からの継続した学びの中で、4 年生後期の時点ではゼミ論の執筆やツアープランの企画発表の準備も終えるように進めます。周囲の状況に惑わされず、ゼミを通じて落ち着いて自分と上手に向き合う時間を作るなかで、成果に繋がる行動を更に積み重ねます。不要なアンコンシャス・バイアスから解放される事で、「心理的安定性」を重視し、ゼミ生全員が自分に合った方向に進んでいきます。				
到達目標	これまで継続して「課題を乗り越える力」の修得を目指してきましたが、4 年生後期には具体的な成果を出すことを目標とします。安定した精神状態で学びを続けられるよう「心理的安定性」を重視しつつ、3 年次から培ってきた様々な努力を結集し、1 人 1 人が充実した学生生活を送り、自身の適性を理解した上で、自分に合った学びの方法と進路を見つけることが目標です。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	渡邉　光章	【第 1 回】 予習　：前期までの自身の行動とその結果を再チェックする 授業　：4 年次後期の自己管理の仕方（グループワーク） 復習　：前期までに実施してきたことの再確認
2	渡邉　光章	【第 2 回】 予習　：思い浮かべた未来のイメージを言葉にしてみる 授業　：PBL（問題解決型）へのアプローチ指導（ツアープラン発表とゼミ論の内容確認） 復習　：PBL の再確認
3	渡邉　光章	【第 3 回】 予習　：自分がなりたい未来のイメージを再考 授業　：ゼミ論とツアープラン企画を通じて、自分の得意と苦手について再考する 復習　：考えたポイントをまとめておく
4	渡邉　光章	【第 4 回】 予習　：イメージした内容と自身とのマッチングを考える 授業　：完成したいツアープラン発表とゼミ論のイメージをまとめる（グループワーク） 復習　：調べた内容の整理
5	渡邉　光章	【第 5 回】 予習　：調べた内容をセグメント化してみる 授業　：ゼミ論とツアープラン発表の準備を並行してバランスよく続ける 復習　：セグメントデータの整理
6	渡邉　光章	【第 6 回】 予習　：チームでの活動と個人の活動の両方を多角度から考える 授業　：KJ 法の活用によるゼミ論テーマの最終決定（グループワーク） 復習　：分析の方法を整理
7	渡邉　光章	【第 7 回】 予習　：ツアープラン企画の具体的進行 授業　：ツアープラン企画へのアプローチ 1 復習　：セグメントデータの理解
8	渡邉　光章	【第 8 回】 予習　：失敗と成功の分岐点を考えてみる 授業　：ツアープラン企画 2（役割分担：グループワーク） 復習　：収集データを整理
9	渡邉　光章	【第 9 回】 予習　：ツアープラン発表の準備 授業　：プランデータの読み解き方と利用法（グループワーク） 復習　：収集データについて整理する
10	渡邉　光章	【第 10 回】 予習　：プランについて不足している情報を収集する 授業　：プラン発表のための準備（グループワーク） 復習　：選んだプランについて情報を整理する
11	渡邉　光章	【第 11 回】 予習　：プランのブラッシュアップを考える 授業　：プランの決定とパワポ、パンフレット制作（グループワーク） 復習　：プランについて再チェックする

12	渡邉　光章	【第 12 回】 予習　：発表前の最終チェック 授業　：発表会（２コマ分：グループワーク） 復習　：発表方法について整理
13	渡邉　光章	【第 13 回】 予習　：発表会の準備をする 授業　：合同発表会 復習　：発表の成果について整理する
14	渡邉　光章	【第 14 回】 予習　：これまでの成果について振り返ってみる 授業　：ゼミ論について考察と発表 復習　：これまでの収集データを整理
15	渡邉　光章	【第 15 回】 予習　：卒業後の自身について考える 授業　：ゼミ論の提出と全体整理 復習　：自身の足りない点について考える（PDCA）

授業開始前学習	3 年次から学んで積み重ねてきたことをよく思い出し、自身の関心のある事柄や進みたい方向について考えておく。
授業内課題のフィードバックの方法	講義の最後に、毎回「振り返りレポート」を提出する。このレポートの提出で出席を確認する。講義で学んだ重要ポイントや発見したこと、よくわからなかったことへの質問事項などを記入してもらい、そのフィードバックは、学生が提出したレポートの内容によって適宜 1 人ずつ対応または、次回講義の冒頭で全体に応える形式で実施している。状況により、グループディスカッションによる講評や、個人のワークショップで進捗を確認することもある。
テキスト・教材	必要に応じて適宜配付する。
参考書	必要に応じて適宜紹介する。
評価の基準と方法	授業中の提出物など 50%と、予習・復習などの平常点（受講姿勢や出欠席）50%により総合的に評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○			◎	△	

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CT-M-432	科目分類（～2024 年入学者）	120-330-24	授業コード	FE9901
科目名称	卒業研究			単位数	4.0 単位
英文名称	Graduation Projects			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	田代　真人			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田代　真人			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　火曜日 10:30～12:00　木曜日 10:30～12:00 後期　火曜日 10:30～12:00　木曜日 10:30～12:00			研究室	10-613
授業概要	大学で学んだこと、そのなかで特に自分が興味をいだいた事柄を研究対象として選び、深く追求していく。その結果を、体系的、論理的に文章化してまとめたものが卒業研究である。そこでは、専門的な知識の修得をふまえたうえでの、自らの分析の視点と明確な問題意識をもつことが要求される。まさに、大学生活の集大成となりうるものであろう。 具体的な内容に関しては、担当教員と相談のうえ決めること。特に、論文の書き方や論文の構成などは、学問分野によってかなり違いがあるので、十分に留意してほしい。				
到達目標	各専門分野における、体系的・論理的な思考方法を身につける。 各専門分野における、論文の書き方（論文構成など）を正確に身につける。 専門的な知識をまとめ、独創的発想を表現するための文章力を高める。 各専門分野の研究論文として妥当な「卒業研究」を提出できること				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	1 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	田代　真人	卒業研究は、担当教員が指示する時間帯で随時指導を受ける。 授業の内容　全般にわたる諸注意 １．資料の収集、読解、分析は執筆の第一歩である ２．研究対象の先行研究状況は必ず調べておくこと ３．研究の対象を適切な範囲に絞り込むこと ４．論文全体の構成を常に意識すること ５．なるべくはやい段階で書き始めるみること ６．書いた部分は必ず読み直し修正すること ７．脚註の付け方などは分野により異なるので注意すること 卒業研究の履修手続きは、他の科目と異なる。学生便覧や教務課掲示の指示を厳守するこ

授業開始前学習	担当教員と相談すること。
授業内課題のフィードバックの方法	卒業研究では、履修生は担当教員に進行状況を報告し、その都度必要な指導・フィードバックを受けること。
テキスト・教材	担当教員と相談すること。
参考書	担当教員と相談すること。
評価の基準と方法	主査（担当教員）が評価し採点する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					△	◎	○	

関連科目	各専門教育科目など
その他	履修ガイドに記載された「卒業研究の履修について」を参照し、手続きを遵守すること。 卒業研究は、年間を通した地道な研究作業の積み重ねが大切なので、担当教員と相談のうえ、日時を決めて、随時指導を受ける必要がある。担当教員のなかには、卒業研究執筆者を集めて途中経過報告をさせたり、最後に発表会を行なう場合もある。
予習・復習の所要時間	
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CT-M-432	科目分類（～2024 年入学者）	120-330-24	授業コード	FE9904
科目名称	卒業研究			単位数	4.0 単位
英文名称	Graduation Projects			授業区分	演習･実習･実技
科目責任者	張　景泰			必修･選択	履修ガイド参照
担当教員	張　景泰			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　月曜日 13:00～16:10 後期　水曜日 09:50～13:00			研究室	10-615
授業概要	大学で学んだこと、そのなかで特に自分が興味をいだいた事柄を研究対象として選び、深く追求していく。その結果を、体系的、論理的に文章化してまとめたものが卒業研究である。そこでは、専門的な知識の修得をふまえたうえでの、自らの分析の視点と明確な問題意識をもつことが要求される。まさに、大学生活の集大成となりうるものであろう。 具体的な内容に関しては、担当教員と相談のうえ決めること。特に、論文の書き方や論文の構成などは、学問分野によってかなり違いがあるので、十分に留意してほしい。				
到達目標	各専門分野における、体系的･論理的な思考方法を身につける。 各専門分野における、論文の書き方（論文構成など）を正確に身につける。 専門的な知識をまとめ、独創的発想を表現するための文章力を高める。 各専門分野の研究論文として妥当な「卒業研究」を提出できること				
アクティブ･ラーニング型授業	無	全授業回数	1 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	張　景泰	卒業研究は、担当教員が指示する時間帯で随時指導を受ける。 授業の内容　全般にわたる諸注意 １．資料の収集、読解、分析は執筆の第一歩である ２．研究対象の先行研究状況は必ず調べておくこと ３．研究の対象を適切な範囲に絞り込むこと ４．論文全体の構成を常に意識すること ５．なるべくはやい段階で書き始めるみること ６．書いた部分は必ず読み直し修正すること ７．脚註の付け方などは分野により異なるので注意すること 卒業研究の履修手続きは、他の科目と異なる。学生便覧や教務課掲示の指示を厳守するこ

授業開始前学習	担当教員と相談すること。
授業内課題のフィードバックの方法	卒業研究では、履修生は担当教員に進行状況を報告し、その都度必要な指導･フィードバックを受けること。
テキスト･教材	担当教員と相談すること。
参考書	担当教員と相談すること。
評価の基準と方法	主査（担当教員）が評価し採点する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					△	◎	○	

関連科目	各専門教育科目など
その他	履修ガイドに記載された「卒業研究の履修について」を参照し、手続きを遵守すること。 卒業研究は、年間を通した地道な研究作業の積み重ねが大切なので、担当教員と相談のうえ、日時を決めて、随時指導を受ける必要がある。担当教員のなかには、卒業研究執筆者を集めて途中経過報告をさせたり、最後に発表会を行なう場合もある。

予習・復習の 所要時間	
実務経験を活かした 教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CT-M-432	科目分類（～2024 年入学者）	120-330-24	授業コード	FE9907
科目名称	卒業研究			単位数	4.0 単位
英文名称	Graduation Projects			授業区分	演習･実習･実技
科目責任者	渡邉　光章			必修･選択	履修ガイド参照
担当教員	渡邉　光章			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　水曜日 16:20～17:50　金曜日 10:40～12:10 後期　水曜日 16:20～17:50　金曜日 10:40～12:10			研究室	10-501
授業概要	大学で学んだこと、そのなかで特に自分が興味をいだいた事柄を研究対象として選び、深く追求していく。その結果を、体系的、論理的に文章化してまとめたものが卒業研究である。そこでは、専門的な知識の修得をふまえたうえでの、自らの分析の視点と明確な問題意識をもつことが要求される。まさに、大学生活の集大成となりうるものであろう。 具体的な内容に関しては、担当教員と相談のうえ決めること。特に、論文の書き方や論文の構成などは、学問分野によってかなり違いがあるので、十分に留意してほしい。				
到達目標	各専門分野における、体系的･論理的な思考方法を身につける。 各専門分野における、論文の書き方（論文構成など）を正確に身につける。 専門的な知識をまとめ、独創的発想を表現するための文章力を高める。 各専門分野の研究論文として妥当な「卒業研究」を提出できること				
アクティブ･ラーニング型授業	無	全授業回数	1 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	渡邉　光章	卒業研究は、担当教員が指示する時間帯で随時指導を受ける。 授業の内容　全般にわたる諸注意 １．資料の収集、読解、分析は執筆の第一歩である ２．研究対象の先行研究状況は必ず調べておくこと ３．研究の対象を適切な範囲に絞り込むこと ４．論文全体の構成を常に意識すること ５．なるべくはやい段階で書き始めるみること ６．書いた部分は必ず読み直し修正すること ７．脚註の付け方などは分野により異なるので注意すること 卒業研究の履修手続きは、他の科目と異なる。学生便覧や教務課掲示の指示を厳守するこ

授業開始前学習	担当教員と相談すること。
授業内課題のフィードバックの方法	卒業研究では、履修生は担当教員に進行状況を報告し、その都度必要な指導･フィードバックを受けること。
テキスト･教材	担当教員と相談すること。
参考書	担当教員と相談すること。
評価の基準と方法	主査（担当教員）が評価し採点する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					△	◎	○	

関連科目	各専門教育科目など
その他	履修ガイドに記載された「卒業研究の履修について」を参照し、手続きを遵守すること。 卒業研究は、年間を通した地道な研究作業の積み重ねが大切なので、担当教員と相談のうえ、日時を決めて、随時指導を受ける必要がある。担当教員のなかには、卒業研究執筆者を集めて途中経過報告をさせたり、最後に発表会を行なう場合もある。

予習・復習の 所要時間	
実務経験を活かした 教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	CT-M-432	科目分類（～2024 年入学者）	120-330-24	授業コード	FE9905
科目名称	卒業研究			単位数	4.0 単位
英文名称	Graduation Projects			授業区分	演習･実習･実技
科目責任者	鮫島　卓			必修･選択	履修ガイド参照
担当教員	鮫島　卓			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　月曜日 13:00～14:30　木曜日 13:00～14:30 後期　木曜日 10:40～12:10　月曜日 13:00～14:30			研究室	10-606
授業概要	大学で学んだこと、そのなかで特に自分が興味をいだいた事柄を研究対象として選び、深く追求していく。その結果を、体系的、論理的に文章化してまとめたものが卒業研究である。そこでは、専門的な知識の修得をふまえたうえでの、自らの分析の視点と明確な問題意識をもつことが要求される。まさに、大学生活の集大成となりうるものであろう。 具体的な内容に関しては、担当教員と相談のうえ決めること。特に、論文の書き方や論文の構成などは、学問分野によってかなり違いがあるので、十分に留意してほしい。				
到達目標	各専門分野における、体系的･論理的な思考方法を身につける。 各専門分野における、論文の書き方（論文構成など）を正確に身につける。 専門的な知識をまとめ、独創的発想を表現するための文章力を高める。 各専門分野の研究論文として妥当な「卒業研究」を提出できること				
アクティブ･ラーニング型授業	無	全授業回数	1 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	鮫島　卓	卒業研究は、担当教員が指示する時間帯で随時指導を受ける。 授業の内容　全般にわたる諸注意 １．資料の収集、読解、分析は執筆の第一歩である ２．研究対象の先行研究状況は必ず調べておくこと ３．研究の対象を適切な範囲に絞り込むこと ４．論文全体の構成を常に意識すること ５．なるべくはやい段階で書き始めるみること ６．書いた部分は必ず読み直し修正すること ７．脚註の付け方などは分野により異なるので注意すること 卒業研究の履修手続きは、他の科目と異なる。学生便覧や教務課掲示の指示を厳守するこ

授業開始前学習	担当教員と相談すること。
授業内課題のフィードバックの方法	卒業研究では、履修生は担当教員に進行状況を報告し、その都度必要な指導･フィードバックを受けること。
テキスト･教材	担当教員と相談すること。
参考書	担当教員と相談すること。
評価の基準と方法	主査（担当教員）が評価し採点する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					△	◎	○	

関連科目	各専門教育科目など
その他	履修ガイドに記載された「卒業研究の履修について」を参照し、手続きを遵守すること。 卒業研究は、年間を通した地道な研究作業の積み重ねが大切なので、担当教員と相談のうえ、日時を決めて、随時指導を受ける必要がある。担当教員のなかには、卒業研究執筆者を集めて途中経過報告をさせたり、最後に発表会を行なう場合もある。

予習・復習の 所要時間	
実務経験を活かした 教育内容	

心理学の基礎

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-211	科目分類（～2024 年入学者）	130-310-12	授業コード	FF0011
科目名称	心理学の基礎			単位数	2.0 単位
英文名称	Introductory Psyhcology			授業区分	講義
科目責任者	明田川　紀彦			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	明田川　紀彦			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期　火曜日 09:00～12:10　水曜日 13:00～14:30 後期　火曜日 09:00～12:10　水曜日 13:00～14:30			研究室	10-707
授業概要	大学生活 2 年目となる時期に、改めて大学での学びとは何かということを見つめ直し、1 年次よりもさらに主体性をもって学びを深めていくための姿勢を養うことを目標とします。 主に合同授業を通して、3 年次以降の学びの中心となる専門ゼミの紹介や、卒業生や在校生との懇談会、資格の紹介を通じた進路設計、現場で活躍している外部講師による講義などを行います。これらを通じて、主体性をもって心理学類の学修に取り組み、自身の進路についても具体的なイメージを持てるようにします。				
到達目標	大学での学びの姿勢と目標を改めて見直すことによって、3 年次以降に所属するゼミの選択および将来の進路について理解を深め、より専門的な心理学の学びのイメージを持つことができるようになる				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	明田川　紀彦	【第 1 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：ガイダンス（心理学の学びを見つめ直す・成績について） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
2	明田川　紀彦	【第 2 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：ゼミ紹介① 復習：授業（動画資料）を振り返り、質問なども含めノートにまとめる
3	明田川　紀彦	【第 3 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：ゼミ紹介② 復習：授業（動画資料）を振り返り、質問なども含めノートにまとめる
4	明田川　紀彦	【第 4 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：ゼミ紹介③ 復習：授業（動画資料）を振り返り、質問なども含めノートにまとめる
5	明田川　紀彦	【第 5 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：心理学を生かした進路設計を考える（アドバイザーゼミ事前希望調査） 復習：授業を振り返り、質問なども含めノートにまとめる
6	明田川　紀彦	【第 6 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：先輩（卒業生・在校生）に話を聞く 復習：授業を振り返り、質問なども含めノートにまとめる
7	明田川　紀彦	【第 7 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：ポートフォリオ面談①（ディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
8	明田川　紀彦	【第 8 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：ポートフォリオ面談②（ディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
9	明田川　紀彦	【第 9 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：ポートフォリオ面談③（ディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
10	明田川　紀彦	【第 10 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：ポートフォリオ面談④（ディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる

11	明田川　紀彦	【第 11 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：ポートフォリオ面談⑤（ディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
12	明田川　紀彦	【第 12 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：映像と心理学（ドラマやドキュメンタリーの表現） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
13	明田川　紀彦	【第 13 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：子供の支援と心理学① 復習：授業を振り返り、質問なども含めノートにまとめる
14	明田川　紀彦	【第 14 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：子供の支援と心理学② 復習：授業を振り返り、質問なども含めノートにまとめる
15	明田川　紀彦	【第 15 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：前期のふりかえり（期末レポートの説明・アドバイザーゼミ希望調査） 復習：期末レポート作成に向け、これまでの授業内容をまとめる

授業開始前学習	これまでの心理学類の学びの姿勢を見返し、３年次の学びに向けて自分自身の学びの関心がどのようなものであるのかを改めて確認しておくこと
授業内課題のフィードバックの方法	授業に関する質問などについては、次回の授業において適宜講評および説明する
テキスト・教材	GWE（Google Workspace for Education）のクラスルームに掲載する
参考書	適時紹介する
評価の基準と方法	課題点６０％（レポートおよび提出物）および平常点４０％（授業への積極的な参加を含む）により総合的に評価する
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		△	◎	○				

関連科目	基礎ゼミⅠ、基礎ゼミⅡ、心理学概論Ⅰ、心理学概論Ⅱ
その他	現場で活躍されている外部講師や、心理学類の先輩（卒業生や在校生）、３年次以降の専門ゼミの担当教員の講義や懇談が、多く設定されているため、出席を重視することはもちろんのこと、積極的な参加が必須である。併せて、ポートフォリオ面談も実施する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-211	科目分類（～2024 年入学者）	130-310-12	授業コード	FF0012
科目名称	心理学の基礎			単位数	2.0 単位
英文名称	Introductory Psyhcology			授業区分	講義
科目責任者	奥野 真之			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	奥野 真之			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10 後期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10			研究室	10-713
授業概要	大学生活 2 年目となる時期に、改めて大学での学びとは何かということを見つめ直し、1 年次よりもさらに主体性をもって学びを深めていくための姿勢を養うことを目標とします。 主に合同授業を通して、3 年次以降の学びの中心となる専門ゼミの紹介や、卒業生や在校生との懇談会、資格の紹介を通じた進路設計、現場で活躍している外部講師による講義などを行います。これらを通じて、主体性をもって心理学類の学修に取り組み、自身の進路についても具体的なイメージを持てるようにします。				
到達目標	大学での学びの姿勢と目標を改めて見直すことによって、3 年次以降に所属するゼミの選択および将来の進路について理解を深め、より専門的な心理学の学びのイメージを持つことができるようになる				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	奥野 真之	【第 1 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：ガイダンス（心理学の学びを見つめ直す・成績について） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
2	奥野 真之	【第 2 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：ゼミ紹介① 復習：授業（動画資料）を振り返り、質問なども含めノートにまとめる
3	奥野 真之	【第 3 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：ゼミ紹介② 復習：授業（動画資料）を振り返り、質問なども含めノートにまとめる
4	奥野 真之	【第 4 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：ゼミ紹介③ 復習：授業（動画資料）を振り返り、質問なども含めノートにまとめる
5	奥野 真之	【第 5 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：心理学を生かした進路設計を考える（アドバイザーゼミ事前希望調査） 復習：授業を振り返り、質問なども含めノートにまとめる
6	奥野 真之	【第 6 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：先輩（卒業生・在校生）に話を聞く 復習：授業を振り返り、質問なども含めノートにまとめる
7	奥野 真之	【第 7 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：ポートフォリオ面談①（ディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
8	奥野 真之	【第 8 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：ポートフォリオ面談②（ディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
9	奥野 真之	【第 9 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：ポートフォリオ面談③（ディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
10	奥野 真之	【第 10 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：ポートフォリオ面談④（ディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる

11	奥野　真之	【第 11 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：ポートフォリオ面談⑤（ディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
12	奥野　真之	【第 12 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：映像と心理学（ドラマやドキュメンタリーの表現） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
13	奥野　真之	【第 13 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：子供の支援と心理学① 復習：授業を振り返り、質問なども含めノートにまとめる
14	奥野　真之	【第 14 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：子供の支援と心理学② 復習：授業を振り返り、質問なども含めノートにまとめる
15	奥野　真之	【第 15 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：前期のふりかえり（期末レポートの説明・アドバイザーゼミ希望調査） 復習：期末レポート作成に向け、これまでの授業内容をまとめる

授業開始前学習	これまでの心理学類の学びの姿勢を見返し、３年次の学びに向けて自分自身の学びの関心がどのようなものであるのかを改めて確認しておくこと
授業内課題のフィードバックの方法	授業に関する質問などについては、次回の授業において適宜講評および説明する
テキスト・教材	GWE（Google Workspace for Education）のクラスルームに掲載する
参考書	適時紹介する
評価の基準と方法	課題点６０％（レポートおよび提出物）および平常点４０％（授業への積極的な参加を含む）により総合的に評価する
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		△	◎	○				

関連科目	基礎ゼミⅠ、基礎ゼミⅡ、心理学概論Ⅰ、心理学概論Ⅱ
その他	現場で活躍されている外部講師や、心理学類の先輩（卒業生や在校生）、３年次以降の専門ゼミの担当教員の講義や懇談が、多く設定されているため、出席を重視することはもちろんのこと、積極的な参加が必須である。併せて、ポートフォリオ面談も実施する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-211	科目分類（～2024 年入学者）	130-310-12	授業コード	FF0013
科目名称	心理学の基礎			単位数	2.0 単位
英文名称	Introductory Psyhcology			授業区分	講義
科目責任者	保坂　律子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	保坂　律子			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期　水曜日 10:00～13:00 後期　水曜日 10:00～13:00			研究室	10-709
授業概要	大学生活 2 年目となる時期に、改めて大学での学びとは何かということを見つめ直し、1 年次よりもさらに主体性をもって学びを深めていくための姿勢を養うことを目標とします。 主に合同授業を通して、3 年次以降の学びの中心となる専門ゼミの紹介や、卒業生や在校生との懇談会、資格の紹介を通じた進路設計、現場で活躍している外部講師による講義などを行います。これらを通じて、主体性をもって心理学類の学修に取り組み、自身の進路についても具体的なイメージを持てるようにします。				
到達目標	大学での学びの姿勢と目標を改めて見直すことによって、3 年次以降に所属するゼミの選択および将来の進路について理解を深め、より専門的な心理学の学びのイメージを持つことができるようになる				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	保坂　律子	【第 1 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：ガイダンス（心理学の学びを見つめ直す・成績について） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
2	保坂　律子	【第 2 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：ゼミ紹介① 復習：授業（動画資料）を振り返り、質問なども含めノートにまとめる
3	保坂　律子	【第 3 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：ゼミ紹介② 復習：授業（動画資料）を振り返り、質問なども含めノートにまとめる
4	保坂　律子	【第 4 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：ゼミ紹介③ 復習：授業（動画資料）を振り返り、質問なども含めノートにまとめる
5	保坂　律子	【第 5 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：心理学を生かした進路設計を考える（アドバイザーゼミ事前希望調査） 復習：授業を振り返り、質問なども含めノートにまとめる
6	保坂　律子	【第 6 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：先輩（卒業生・在校生）に話を聞く 復習：授業を振り返り、質問なども含めノートにまとめる
7	保坂　律子	【第 7 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：ポートフォリオ面談①（ディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
8	保坂　律子	【第 8 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：ポートフォリオ面談②（ディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
9	保坂　律子	【第 9 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：ポートフォリオ面談③（ディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
10	保坂　律子	【第 10 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：ポートフォリオ面談④（ディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる

11	保坂　律子	【第 11 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：ポートフォリオ面談⑤（ディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
12	保坂　律子	【第 12 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：映像と心理学（ドラマやドキュメンタリーの表現） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
13	保坂　律子	【第 13 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：子供の支援と心理学① 復習：授業を振り返り、質問なども含めノートにまとめる
14	保坂　律子	【第 14 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：子供の支援と心理学② 復習：授業を振り返り、質問なども含めノートにまとめる
15	保坂　律子	【第 15 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：前期のふりかえり（期末レポートの説明・アドバイザーゼミ希望調査） 復習：期末レポート作成に向け、これまでの授業内容をまとめる

授業開始前学習	これまでの心理学類の学びの姿勢を見返し、３年次の学びに向けて自分自身の学びの関心がどのようなものであるのかを改めて確認しておくこと
授業内課題のフィードバックの方法	授業に関する質問などについては、次回の授業において適宜講評および説明する
テキスト・教材	GWE（Google Workspace for Education）のクラスルームに掲載する
参考書	適時紹介する
評価の基準と方法	課題点６０％（レポートおよび提出物）および平常点４０％（授業への積極的な参加を含む）により総合的に評価する
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		△	◎	○				

関連科目	基礎ゼミⅠ、基礎ゼミⅡ、心理学概論Ⅰ、心理学概論Ⅱ
その他	現場で活躍されている外部講師や、心理学類の先輩（卒業生や在校生）、３年次以降の専門ゼミの担当教員の講義や懇談が、多く設定されているため、出席を重視することはもちろんのこと、積極的な参加が必須である。併せて、ポートフォリオ面談も実施する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-211	科目分類（～2024 年入学者）	130-310-12	授業コード	FF0014
科目名称	心理学の基礎			単位数	2.0 単位
英文名称	Introductory Psyhcology			授業区分	講義
科目責任者	米金　孝雄			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	米金　孝雄			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期　水曜日 10:10～10:40　木曜日 10:30～13:00 後期　水曜日 10:00~10:40～12:10~13:00　木曜日 10:00～10:40～12:10～13:00			研究室	10-711
授業概要	大学生活 2 年目となる時期に、改めて大学での学びとは何かということを見つめ直し、1 年次よりもさらに主体性をもって学びを深めていくための姿勢を養うことを目標とします。 主に合同授業を通して、3 年次以降の学びの中心となる専門ゼミの紹介や、卒業生や在校生との懇談会、資格の紹介を通じた進路設計、現場で活躍している外部講師による講義などを行います。これらを通じて、主体性をもって心理学類の学修に取り組み、自身の進路についても具体的なイメージを持てるようにします。				
到達目標	大学での学びの姿勢と目標を改めて見直すことによって、3 年次以降に所属するゼミの選択および将来の進路について理解を深め、より専門的な心理学の学びのイメージを持つことができるようになる				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	米金　孝雄	【第 1 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：ガイダンス（心理学の学びを見つめ直す・成績について） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
2	米金　孝雄	【第 2 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：ゼミ紹介① 復習：授業（動画資料）を振り返り、質問なども含めノートにまとめる
3	米金　孝雄	【第 3 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：ゼミ紹介② 復習：授業（動画資料）を振り返り、質問なども含めノートにまとめる
4	米金　孝雄	【第 4 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：ゼミ紹介③ 復習：授業（動画資料）を振り返り、質問なども含めノートにまとめる
5	米金　孝雄	【第 5 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：心理学を生かした進路設計を考える（アドバイザーゼミ事前希望調査） 復習：授業を振り返り、質問なども含めノートにまとめる
6	米金　孝雄	【第 6 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：先輩（卒業生・在校生）に話を聞く 復習：授業を振り返り、質問なども含めノートにまとめる
7	米金　孝雄	【第 7 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：ポートフォリオ面談①（ディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
8	米金　孝雄	【第 8 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：ポートフォリオ面談②（ディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
9	米金　孝雄	【第 9 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：ポートフォリオ面談③（ディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
10	米金　孝雄	【第 10 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：ポートフォリオ面談④（ディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる

11	米金　孝雄	【第 11 回】 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：ポートフォリオ面談⑤（ディスカッション） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
12	米金　孝雄	【第 12 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：映像と心理学（ドラマやドキュメンタリーの表現） 復習：授業を振り返り、ノートにまとめる
13	米金　孝雄	【第 13 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：子供の支援と心理学① 復習：授業を振り返り、質問なども含めノートにまとめる
14	米金　孝雄	【第 14 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：子供の支援と心理学② 復習：授業を振り返り、質問なども含めノートにまとめる
15	米金　孝雄	【第 15 回】（合同授業） 予習：シラバス・クラスルームの資料を確認しておく 授業：前期のふりかえり（期末レポートの説明・アドバイザーゼミ希望調査） 復習：期末レポート作成に向け、これまでの授業内容をまとめる

授業開始前学習	これまでの心理学類の学びの姿勢を見返し、３年次の学びに向けて自分自身の学びの関心がどのようなものであるのかを改めて確認しておくこと
授業内課題のフィードバックの方法	授業に関する質問などについては、次回の授業において適宜講評および説明する
テキスト・教材	GWE（Google Workspace for Education）のクラスルームに掲載する
参考書	適時紹介する
評価の基準と方法	課題点６０％（レポートおよび提出物）および平常点４０％（授業への積極的な参加を含む）により総合的に評価する
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		△	◎	○				

関連科目	基礎ゼミⅠ、基礎ゼミⅡ、心理学概論Ⅰ、心理学概論Ⅱ
その他	現場で活躍されている外部講師や、心理学類の先輩（卒業生や在校生）、３年次以降の専門ゼミの担当教員の講義や懇談が、多く設定されているため、出席を重視することはもちろんのこと、積極的な参加が必須である。併せて、ポートフォリオ面談も実施する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）	PS-M-212	科目分類（～2024年入学者）	130-311-22	授業コード	FF0021
科目名称	心理学実験Ⅰ			単位数	2.0単位
英文名称	Experiment in Psychology Ⅰ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	杉原　光雄			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	杉原　光雄			開講時期	2年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	心理学実験に関する知識について学修すると共に、実習を通して実験的研究の基礎的な技術を習得する。実習内容としては、心理学実験室において、感覚・知覚・記憶領域の基礎的実験を行う。そして、問題・仮説の設定から、実験手続きの実施、資料（データ）分析、実験レポート作成に至る、心理学実験の進め方を身につける。毎回の授業に積極的に参加し、心理学実験に要求される正確な手続きを十分理解し、技術として身につけることが重要である。				
到達目標	心理学実験の基本的な進め方を理解し、実験者としての役割を実行できるようになる。 実験で収集した資料を整理して統計的分析を行い、実験レポートを作成する能力を身につける。 実験的研究のロジックを理解し、実験で観察された事象について自身の言葉で考察できるようになる。 他者と協力して研究を進めるために必要なコミュニケーション技術を身につける。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	杉原　光雄	予習　：実験（心理学）について調べる 授業　：授業内容の説明、心理学実験について解説、実験の練習 復習　：配付資料を講読し、心理学実験や実験レポートについて整理する
2	杉原　光雄	予習　：錯視について調べる 授業　：錯視の実験１　実験の説明と実施 復習　：配布資料を講読し、錯視の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する
3	杉原　光雄	予習　：平均値、標準偏差について調べる。ミュラーリヤー錯視の先行研究について文献を調査する 授業　：錯視の実験２　結果分析とレポート作成について解説 復習　：錯視の実験レポート作成
4	杉原　光雄	予習　：学習の理論、学習の転移について調べる 授業　：両側性転移の実験１　実験の説明と実施 復習　：配布資料を講読し、両側性転移の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する
5	杉原　光雄	予習　：両側性転移の先行研究について文献を調査する 授業　：両側性転移の実験２　結果分析とレポート作成について解説 復習　：両側性転移の実験レポート作成
6	杉原　光雄	予習　：触空間弁別閾、極限法について調べる 授業　：触空間２点閾の実験１　実験の説明と実施 復習　：配布資料を講読し、触空間弁別閾の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する
7	杉原　光雄	予習　：触空間弁別閾の先行研究について文献を調査する 授業　：触空間弁別閾の実験２　結果分析とレポート作成について解説 復習　：触空間弁別閾の実験レポート作成
8	杉原　光雄	予習　：感覚尺度、マグニチュード推定法について調べる 授業　：重さの感覚尺度の実験１　実験の説明と実施 復習　：配布資料を講読し、感覚尺度の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する
9	杉原　光雄	予習　：感覚尺度の先行研究について文献を調査する 授業　：重さの感覚尺度の実験２　結果分析とレポート作成について解説 復習　：重さの感覚尺度の実験レポート作成
10	杉原　光雄	予習　：連合学習、学習曲線について調べる 授業　：連合学習の実験１　実験の説明と実施 復習　：配布資料を講読し、連合学習の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する
11	杉原　光雄	予習　：有意味綴り・無意味綴りを用いた連合学習の先行研究について文献を調査する 授業　：連合学習の実験２　結果分析とレポート作成について解説 復習　：連合学習の実験レポート作成
12	杉原　光雄	予習　：質問紙による測定について調べる。社会的態度尺度の先行研究について文献を調査する 授業　：社会的態度尺度の測定　実験の説明と実施。結果分析とレポート作成について解説 復習　：配布資料を講読する。実験の内容を整理する。社会的態度尺度の実験レポート作成
13	杉原　光雄	予習　：グループ実験であつかうテーマについて予備調査をする 授業　：グループ実験１　実験の計画と準備、教示、装置・刺激の作成（グループディスカッション） 復習　：グループ実験の計画を整理する。実験に必要な機材などを確認する

14	杉原　光雄	予習　：グループ実験の実施を準備する 授業　：グループ実験２　実験の実施、データの収集・分析　（グループディスカッション） 復習　：実験の分析結果を整理する
15	杉原　光雄	予習　：実験のテーマに関連する文献を調査する。パワーポイント使用法を確認する 授業　：グループ実験３　発表資料の作成、グループ実験の発表(報告) 復習　：グループ実験レポートの作成

授業開始前学習	実験心理学の基本的な研究（感覚・知覚・記憶・学習）を学んでおくと実習内容が理解しやすくなる。
授業内課題のフィードバックの方法	提出された実験レポートをもとに、実験レポートの書き方について授業内でフィードバックする。また、個別の指導や質問回答を随時行う。
テキスト・教材	各回の授業において実習資料を適宜配付する。
参考書	各回の授業において関連文献を紹介する。
評価の基準と方法	実習状況（授業への参加態度・実習に対する貢献）65%、提出された実験レポート(授業期間内提出）35%の配点で評価する。 単位取得には、少なくとも全体の３分の２以上の出席と、３分の２以上のレポート提出が必要である。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		◎			○

関連科目	心理学概論Ⅰ／心理学入門Ⅰ、心理学概論Ⅱ／心理学入門Ⅱで学ぶ基本的研究の具体的進め方を実習で身につける。
その他	パソコンを使用するので、Word、Excel 等の基本的な操作方法を習得しておくことが望ましい。 各実験終了後に作成する実験レポートの提出については、指定された提出期限から１週間を過ぎた場合は受け取らない。 a～c の各クラスの授業内容は共通だが、それぞれの進行状況に応じて順番等が前後する場合がある。また、実習で使う装置の都合上、授業内容を変更することがある。 原則的に２年次の履修者は指定されたクラスで履修する（指定クラスは掲示を参照）。
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間＋予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）	PS-M-212	科目分類（～2024年入学者）	130-311-22	授業コード	FF0022
科目名称	心理学実験Ⅰ			単位数	2.0単位
英文名称	Experiment in Psychology Ⅰ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	朴 建映			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	朴 建映			開講時期	2年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	心理学実験に関する知識について学修すると共に、実習を通して実験的研究の基礎的な技術を習得する。実習内容としては、心理学実験室において、感覚・知覚・記憶領域の基礎的実験を行う。そして、問題・仮説の設定から、実験手続きの実施、資料（データ）分析、実験レポート作成に至る、心理学実験の進め方を身につける。毎回の授業に積極的に参加し、心理学実験に要求される正確な手続きを十分理解し、技術として身につけることが重要である。				
到達目標	心理学実験の基本的な進め方を理解し、実験者としての役割を実行できるようになる。 実験で収集した資料を整理して統計的分析を行い、実験レポートを作成する能力を身につける。 実験的研究のロジックを理解し、実験で観察された事象について自身の言葉で考察できるようになる。 他者と協力して研究を進めるために必要なコミュニケーション技術を身につける。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	朴 建映	予習 ：実験（心理学）について調べる 授業 ：授業内容の説明、心理学実験について解説、実験の練習 復習 ：配付資料を講読し、心理学実験や実験レポートについて整理する
2	朴 建映	予習 ：錯視について調べる 授業 ：錯視の実験１　実験の説明と実施 復習 ：配布資料を講読し、錯視の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する
3	朴 建映	予習 ：平均値、標準偏差について調べる。ミュラーリヤー錯視の先行研究について文献を調査する 授業 ：錯視の実験２　結果分析とレポート作成について解説 復習 ：錯視の実験レポート作成
4	朴 建映	予習 ：学習の理論、学習の転移について調べる 授業 ：両側性転移の実験１　実験の説明と実施 復習 ：配布資料を講読し、両側性転移の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する
5	朴 建映	予習 ：両側性転移の先行研究について文献を調査する 授業 ：両側性転移の実験２　結果分析とレポート作成について解説 復習 ：両側性転移の実験レポート作成
6	朴 建映	予習 ：触空間弁別閾、極限法について調べる 授業 ：触空間２点閾の実験１　実験の説明と実施 復習 ：配布資料を講読し、触空間弁別閾の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する
7	朴 建映	予習 ：触空間弁別閾の先行研究について文献を調査する 授業 ：触空間弁別閾の実験２　結果分析とレポート作成について解説 復習 ：触空間弁別閾の実験レポート作成
8	朴 建映	予習 ：感覚尺度、マグニチュード推定法について調べる 授業 ：重さの感覚尺度の実験１　実験の説明と実施 復習 ：配布資料を講読し、感覚尺度の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する
9	朴 建映	予習 ：感覚尺度の先行研究について文献を調査する 授業 ：重さの感覚尺度の実験２　結果分析とレポート作成について解説 復習 ：重さの感覚尺度の実験レポート作成
10	朴 建映	予習 ：連合学習、学習曲線について調べる 授業 ：連合学習の実験１　実験の説明と実施 復習 ：配布資料を講読し、連合学習の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する
11	朴 建映	予習 ：有意味綴り・無意味綴りを用いた連合学習の先行研究について文献を調査する 授業 ：連合学習の実験２　結果分析とレポート作成について解説 復習 ：連合学習の実験レポート作成
12	朴 建映	予習 ：質問紙による測定について調べる。社会的態度尺度の先行研究について文献を調査する 授業 ：社会的態度尺度の測定　実験の説明と実施。結果分析とレポート作成について解説 復習 ：配布資料を講読する。実験の内容を整理する。社会的態度尺度の実験レポート作成
13	朴 建映	予習 ：グループ実験であつかうテーマについて予備調査をする 授業 ：グループ実験１　実験の計画と準備、教示、装置・刺激の作成（グループディスカッション） 復習 ：グループ実験の計画を整理する。実験に必要な機材などを確認する

14	朴　建映	予習　：グループ実験の実施を準備する 授業　：グループ実験２　実験の実施、データの収集・分析　（グループディスカッション） 復習　：実験の分析結果を整理する
15	朴　建映	予習　：実験のテーマに関連する文献を調査する。パワーポイント使用法を確認する 授業　：グループ実験３　発表資料の作成、グループ実験の発表(報告) 復習　：グループ実験レポートの作成

授業開始前学習	実験心理学の基本的な研究（感覚・知覚・記憶・学習）を学んでおくと実習内容が理解しやすくなる。
授業内課題のフィードバックの方法	提出された実験レポートをもとに、実験レポートの書き方について授業内でフィードバックする。また、個別の指導や質問回答を随時行う。
テキスト・教材	各回の授業において実習資料を適宜配付する。
参考書	各回の授業において関連文献を紹介する。
評価の基準と方法	実習状況（授業への参加態度・実習に対する貢献）65%、提出された実験レポート(授業期間内提出）35%の配点で評価する。 単位取得には、少なくとも全体の３分の２以上の出席と、３分の２以上のレポート提出が必要である。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		◎			○

関連科目	心理学概論Ⅰ／心理学入門Ⅰ、心理学概論Ⅱ／心理学入門Ⅱで学ぶ基本的研究の具体的進め方を実習で身につける。
その他	パソコンを使用するので、Word、Excel 等の基本的な操作方法を習得しておくことが望ましい。 各実験終了後に作成する実験レポートの提出については、指定された提出期限から１週間を過ぎた場合は受け取らない。 a～c の各クラスの授業内容は共通だが、それぞれの進行状況に応じて順番等が前後する場合がある。また、実習で使う装置の都合上、授業内容を変更することがある。 原則的に２年次の履修者は指定されたクラスで履修する（指定クラスは掲示を参照）。
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間＋予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）	PS-M-212	科目分類（～2024年入学者）	130-311-22	授業コード	FF0023
科目名称	心理学実験Ⅰ			単位数	2.0単位
英文名称	Experiment in Psychology Ⅰ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	奥野 真之			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	奥野 真之			開講時期	2年
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10 後期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10			研究室	10-713
授業概要	心理学実験に関する知識について学修すると共に、実習を通して実験的研究の基礎的な技術を習得する。実習内容としては、心理学実験室において、感覚・知覚・記憶領域の基礎的実験を行う。そして、問題・仮説の設定から、実験手続きの実施、資料（データ）分析、実験レポート作成に至る、心理学実験の進め方を身につける。毎回の授業に積極的に参加し、心理学実験に要求される正確な手続きを十分理解し、技術として身につけることが重要である。				
到達目標	心理学実験の基本的な進め方を理解し、実験者としての役割を実行できるようになる。 実験で収集した資料を整理して統計的分析を行い、実験レポートを作成する能力を身につける。 実験的研究のロジックを理解し、実験で観察された事象について自身の言葉で考察できるようになる。 他者と協力して研究を進めるために必要なコミュニケーション技術を身につける。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	奥野 真之	予習 ：実験（心理学）について調べる 授業 ：授業内容の説明、心理学実験について解説、実験の練習 復習 ：配付資料を講読し、心理学実験や実験レポートについて整理する
2	奥野 真之	予習 ：錯視について調べる 授業 ：錯視の実験１ 実験の説明と実施 復習 ：配布資料を講読し、錯視の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する
3	奥野 真之	予習 ：平均値、標準偏差について調べる。ミュラーリヤー錯視の先行研究について文献を調査する 授業 ：錯視の実験２ 結果分析とレポート作成について解説 復習 ：錯視の実験レポート作成
4	奥野 真之	予習 ：学習の理論、学習の転移について調べる 授業 ：両側性転移の実験１ 実験の説明と実施 復習 ：配布資料を講読し、両側性転移の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する
5	奥野 真之	予習 ：両側性転移の先行研究について文献を調査する 授業 ：両側性転移の実験２ 結果分析とレポート作成について解説 復習 ：両側性転移の実験レポート作成
6	奥野 真之	予習 ：触空間弁別閾、極限法について調べる 授業 ：触空間２点閾の実験１ 実験の説明と実施 復習 ：配布資料を講読し、触空間弁別閾の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する
7	奥野 真之	予習 ：触空間弁別閾の先行研究について文献を調査する 授業 ：触空間弁別閾の実験２ 結果分析とレポート作成について解説 復習 ：触空間弁別閾の実験レポート作成
8	奥野 真之	予習 ：感覚尺度、マグニチュード推定法について調べる 授業 ：重さの感覚尺度の実験１ 実験の説明と実施 復習 ：配布資料を講読し、感覚尺度の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する
9	奥野 真之	予習 ：感覚尺度の先行研究について文献を調査する 授業 ：重さの感覚尺度の実験２ 結果分析とレポート作成について解説 復習 ：重さの感覚尺度の実験レポート作成
10	奥野 真之	予習 ：連合学習、学習曲線について調べる 授業 ：連合学習の実験１ 実験の説明と実施 復習 ：配布資料を講読し、連合学習の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する
11	奥野 真之	予習 ：有意味綴り・無意味綴りを用いた連合学習の先行研究について文献を調査する 授業 ：連合学習の実験２ 結果分析とレポート作成について解説 復習 ：連合学習の実験レポート作成
12	奥野 真之	予習 ：質問紙による測定について調べる。社会的態度尺度の先行研究について文献を調査する 授業 ：社会的態度尺度の測定 実験の説明と実施。結果分析とレポート作成について解説 復習 ：配布資料を講読する。実験の内容を整理する。社会的態度尺度の実験レポート作成
13	奥野 真之	予習 ：グループ実験であつかうテーマについて予備調査をする 授業 ：グループ実験１ 実験の計画と準備、教示、装置・刺激の作成（グループディスカッション） 復習 ：グループ実験の計画を整理する。実験に必要な機材などを確認する

14	奥野　真之	予習　：グループ実験の実施を準備する 授業　：グループ実験２　実験の実施、データの収集・分析　（グループディスカッション） 復習　：実験の分析結果を整理する
15	奥野　真之	予習　：実験のテーマに関連する文献を調査する。パワーポイント使用法を確認する 授業　：グループ実験３　発表資料の作成、グループ実験の発表(報告) 復習　：グループ実験レポートの作成

授業開始前学習	実験心理学の基本的な研究（感覚・知覚・記憶・学習）を学んでおくと実習内容が理解しやすくなる。
授業内課題のフィードバックの方法	提出された実験レポートをもとに、実験レポートの書き方について授業内でフィードバックする。また、個別の指導や質問回答を随時行う。
テキスト・教材	各回の授業において実習資料を適宜配付する。
参考書	各回の授業において関連文献を紹介する。
評価の基準と方法	実習状況（授業への参加態度・実習に対する貢献）65%、提出された実験レポート(授業期間内提出）35%の配点で評価する。 単位取得には、少なくとも全体の３分の２以上の出席と、３分の２以上のレポート提出が必要である。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		◎			○

関連科目	心理学概論Ⅰ／心理学入門Ⅰ、心理学概論Ⅱ／心理学入門Ⅱで学ぶ基本的研究の具体的進め方を実習で身につける。
その他	パソコンを使用するので、Word、Excel 等の基本的な操作方法を習得しておくことが望ましい。 各実験終了後に作成する実験レポートの提出については、指定された提出期限から１週間を過ぎた場合は受け取らない。 a～c の各クラスの授業内容は共通だが、それぞれの進行状況に応じて順番等が前後する場合がある。また、実習で使う装置の都合上、授業内容を変更することがある。 原則的に 2 年次の履修者は指定されたクラスで履修する（指定クラスは掲示を参照）。
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間＋予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-212	科目分類（～2024 年入学者）	130-311-22	授業コード	FF0031
科目名称	心理学実験Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	Experiment in Psychology Ⅱ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	杉原　光雄			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	杉原　光雄			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	心理学実験Ⅰの授業から継続して、心理学実験に関する知識について学修すると共に、実習を通して実験的研究の基礎的な技術を習得する。実習内容としては、心理学実験室において、感覚・知覚・記憶領域の基礎的実験を行う。そして、問題・仮説の設定から、実験手続きの実施、資料（データ）分析、実験レポート作成に至る、心理学実験の進め方を身につける。毎回の授業に積極的に参加し、心理学実験に要求される正確な手続きを十分理解し、技術として身につけることが重要である。				
到達目標	心理学実験の基本的な進め方を理解し、実験者としての役割を実行できるようになる。 実験で収集した資料を整理して統計的分析を行い、実験レポートを作成する能力を身につける。 実験的研究のロジックを理解し、実験で観察された事象について自身の言葉で考察できるようになる。 他者と協力して研究を進めるために必要なコミュニケーション技術を身につける。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	杉原　光雄	予習　：記憶のモデルについて調べる 授業　：自由再生における系列位置効果１　実験の説明と実施 復習　：配布資料を講読し、記憶の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する
2	杉原　光雄	予習　：系列位置効果を扱った先行研究について文献を調査する 授業　：自由再生における系列位置効果２　結果分析とレポート作成について解説 復習　：自由再生における系列位置効果の実験レポート作成
3	杉原　光雄	予習　：一対比較法について調べる 授業　：一対比較法の実験１　実験の説明と実施 復習　：配布資料を講読し、一対比較法の理論について整理する。実験の内容を整理する
4	杉原　光雄	予習　：一対比較法を用いた先行研究について文献を調査する 授業　：一対比較法の実験２　結果分析とレポート作成について解説 復習　：一対比較法の実験レポート作成
5	杉原　光雄	予習　：SD 法について調べる 授業　：SD 法によるイメージの測定１　実験の説明と実施 復習　：配布資料を講読し、SD 法の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する
6	杉原　光雄	予習　：SD 法を用いた先行研究について文献を調査する 授業　：SD 法によるイメージの測定２　結果分析とレポート作成について解説 復習　：SD 法によるイメージの測定レポート作成
7	杉原　光雄	予習　：意志決定に関する情報の影響について調べる 授業　：判断に及ぼす他者情報の影響の実験　実験の説明と実施。結果分析とレポート作成について解説 復習　：配布資料を講読する。実験の内容を整理する。判断に及ぼす他者情報の影響レポート作成
8	杉原　光雄	予習　：性格検査について調べる 授業　：質問紙法による性格の測定１　実験の説明と実施 復習　：配布資料を講読し、性格検査の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する
9	杉原　光雄	予習　：質問紙による性格検査を扱った先行研究について文献を調査する 授業　：質問紙法による性格の測定２　結果分析とレポート作成について解説 復習　：質問紙法による性格の測定レポート作成
10	杉原　光雄	予習　：ストループ効果について調べる 授業　：認知的葛藤の実験１　実験の説明と実施 復習　：配布資料を講読し、ストループ効果の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する
11	杉原　光雄	予習　：ストループ効果を扱った先行研究について文献を調査する 授業　：認知的葛藤の実験２　結果分析とレポート作成について解説 復習　：認知的葛藤の実験レポート作成
12	杉原　光雄	予習　：グループ実験であつかうテーマについて予備調査をする 授業　：グループ実験１　実験の計画と準備、教示、装置・刺激の作成（グループディスカッション） 復習　：グループ実験の計画を整理する。実験に必要な機材などを確認する
13	杉原　光雄	予習　：グループ実験の実施を準備する 授業　：グループ実験２　実験の実施、データの収集　（グループディスカッション） 復習　：実験データを整理する

14	杉原　光雄	予習　：実験のテーマに関連する文献を調査する 授業　：グループ実験３　データの分析　（グループディスカッション） 復習　：実験の分析結果について整理する
15	杉原　光雄	予習　：実験のテーマに関連する文献を調査する。発表の用意をする 授業　：グループ実験４　発表資料の作成、グループ実験の発表　（グループディスカッション） 復習　：グループ実験レポートの作成

授業開始前学習	実験心理学の基本的な研究（感覚・知覚・記憶・学習）を学んでおくと実習内容が理解しやすくなる。
授業内課題のフィードバックの方法	提出された実験レポートをもとに、実験レポートの書き方について授業内でフィードバックする。また、個別の指導や質問回答を随時行う。
テキスト・教材	各回の授業において実習用のテキスト・資料等を適宜配付する。
参考書	各回の授業において関連文献を紹介する。
評価の基準と方法	実習状況（授業への参加態度・実習に対する貢献）65%、提出された実験レポート(授業期間内提出）35%の配点で評価する。 単位取得には、少なくとも全体の３分の２以上の出席と、３分の２以上のレポート提出が必要である。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		◎			○

関連科目	心理学概論Ⅰ／心理学入門Ⅰ、心理学概論Ⅱ／心理学入門Ⅱで学ぶ基本的研究の具体的進め方を実習で身につける。
その他	パソコンを使用するので、Word、Excel 等の基本的な操作方法を習得しておくことが望ましい。 各実験終了後に作成する実験レポートの提出については、指定された提出期限から１週間を過ぎた場合は受け取らない。 a～c の各クラスの授業内容は共通だが、それぞれの進行状況に応じて順番等が前後する場合がある。また、実習で使う装置の都合上、授業内容を変更することがある。 原則的に 2 年次の履修者は指定されたクラスで履修する（指定クラスは掲示を参照）。
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間＋予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-212	科目分類（～2024 年入学者）	130-311-22	授業コード	FF0032
科目名称	心理学実験Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	Experiment in Psychology Ⅱ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	朴　建映			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	朴　建映			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	心理学実験Ⅰの授業から継続して、心理学実験に関する知識について学修すると共に、実習を通して実験的研究の基礎的な技術を習得する。実習内容としては、心理学実験室において、感覚・知覚・記憶領域の基礎的実験を行う。そして、問題・仮説の設定から、実験手続きの実施、資料（データ）分析、実験レポート作成に至る、心理学実験の進め方を身につける。毎回の授業に積極的に参加し、心理学実験に要求される正確な手続きを十分理解し、技術として身につけることが重要である。				
到達目標	心理学実験の基本的な進め方を理解し、実験者としての役割を実行できるようになる。 実験で収集した資料を整理して統計的分析を行い、実験レポートを作成する能力を身につける。 実験的研究のロジックを理解し、実験で観察された事象について自身の言葉で考察できるようになる。 他者と協力して研究を進めるために必要なコミュニケーション技術を身につける。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	朴　建映	予習　：記憶のモデルについて調べる 授業　：自由再生における系列位置効果１　実験の説明と実施 復習　：配布資料を講読し、記憶の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する
2	朴　建映	予習　：系列位置効果を扱った先行研究について文献を調査する 授業　：自由再生における系列位置効果２　結果分析とレポート作成について解説 復習　：自由再生における系列位置効果の実験レポート作成
3	朴　建映	予習　：一対比較法について調べる 授業　：一対比較法の実験１　実験の説明と実施 復習　：配布資料を講読し、一対比較法の理論について整理する。実験の内容を整理する
4	朴　建映	予習　：一対比較法を用いた先行研究について文献を調査する 授業　：一対比較法の実験２　結果分析とレポート作成について解説 復習　：一対比較法の実験レポート作成
5	朴　建映	予習　：SD 法について調べる 授業　：SD 法によるイメージの測定１　実験の説明と実施 復習　：配布資料を講読し、SD 法の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する
6	朴　建映	予習　：SD 法を用いた先行研究について文献を調査する 授業　：SD 法によるイメージの測定２　結果分析とレポート作成について解説 復習　：SD 法によるイメージの測定レポート作成
7	朴　建映	予習　：意志決定に関する情報の影響について調べる 授業　：判断に及ぼす他者情報の影響の実験　実験の説明と実施。結果分析とレポート作成について解説 復習　：配布資料を講読する。実験の内容を整理する。判断に及ぼす他者情報の影響レポート作成
8	朴　建映	予習　：性格検査について調べる 授業　：質問紙法による性格の測定１　実験の説明と実施 復習　：配布資料を講読し、性格検査の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する
9	朴　建映	予習　：質問紙による性格検査を扱った先行研究について文献を調査する 授業　：質問紙法による性格の測定２　結果分析とレポート作成について解説 復習　：質問紙法による性格の測定レポート作成
10	朴　建映	予習　：ストループ効果について調べる 授業　：認知的葛藤の実験１　実験の説明と実施 復習　：配布資料を講読し、ストループ効果の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する
11	朴　建映	予習　：ストループ効果を扱った先行研究について文献を調査する 授業　：認知的葛藤の実験２　結果分析とレポート作成について解説 復習　：認知的葛藤の実験レポート作成
12	朴　建映	予習　：グループ実験であつかうテーマについて予備調査をする 授業　：グループ実験１　実験の計画と準備、教示、装置・刺激の作成（グループディスカッション） 復習　：グループ実験の計画を整理する。実験に必要な機材などを確認する
13	朴　建映	予習　：グループ実験の実施を準備する 授業　：グループ実験２　実験の実施、データの収集　（グループディスカッション） 復習　：実験データを整理する

14	朴　建映	予習　：実験のテーマに関連する文献を調査する 授業　：グループ実験３　データの分析　（グループディスカッション） 復習　：実験の分析結果について整理する
15	朴　建映	予習　：実験のテーマに関連する文献を調査する。発表の用意をする 授業　：グループ実験４　発表資料の作成、グループ実験の発表　（グループディスカッション） 復習　：グループ実験レポートの作成

授業開始前学習	実験心理学の基本的な研究（感覚・知覚・記憶・学習）を学んでおくと実習内容が理解しやすくなる。
授業内課題のフィードバックの方法	提出された実験レポートをもとに、実験レポートの書き方について授業内でフィードバックする。また、個別の指導や質問回答を随時行う。
テキスト・教材	各回の授業において実習用のテキスト・資料等を適宜配付する。
参考書	各回の授業において関連文献を紹介する。
評価の基準と方法	実習状況（授業への参加態度・実習に対する貢献）65%、提出された実験レポート(授業期間内提出）35%の配点で評価する。 単位取得には、少なくとも全体の３分の２以上の出席と、３分の２以上のレポート提出が必要である。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		◎			○

関連科目	心理学概論Ⅰ／心理学入門Ⅰ、心理学概論Ⅱ／心理学入門Ⅱで学ぶ基本的研究の具体的進め方を実習で身につける。
その他	パソコンを使用するので、Word、Excel 等の基本的な操作方法を習得しておくことが望ましい。 各実験終了後に作成する実験レポートの提出については、指定された提出期限から１週間を過ぎた場合は受け取らない。 a～c の各クラスの授業内容は共通だが、それぞれの進行状況に応じて順番等が前後する場合がある。また、実習で使う装置の都合上、授業内容を変更することがある。 原則的に２年次の履修者は指定されたクラスで履修する（指定クラスは掲示を参照）。
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間＋予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-212	科目分類（～2024 年入学者）	130-311-22	授業コード	FF0033
科目名称	心理学実験Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	Experiment in Psychology Ⅱ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	奥野 真之			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	奥野 真之			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10 後期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10			研究室	10-713
授業概要	心理学実験Ⅰの授業から継続して、心理学実験に関する知識について学修すると共に、実習を通して実験的研究の基礎的な技術を習得する。実習内容としては、心理学実験室において、感覚・知覚・記憶領域の基礎的実験を行う。そして、問題・仮説の設定から、実験手続きの実施、資料（データ）分析、実験レポート作成に至る、心理学実験の進め方を身につける。毎回の授業に積極的に参加し、心理学実験に要求される正確な手続きを十分理解し、技術として身につけることが重要である。				
到達目標	心理学実験の基本的な進め方を理解し、実験者としての役割を実行できるようになる。 実験で収集した資料を整理して統計的分析を行い、実験レポートを作成する能力を身につける。 実験的研究のロジックを理解し、実験で観察された事象について自身の言葉で考察できるようになる。 他者と協力して研究を進めるために必要なコミュニケーション技術を身につける。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	奥野 真之	予習 ：記憶のモデルについて調べる 授業 ：自由再生における系列位置効果１ 実験の説明と実施 復習 ：配布資料を講読し、記憶の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する
2	奥野 真之	予習 ：系列位置効果を扱った先行研究について文献を調査する 授業 ：自由再生における系列位置効果２ 結果分析とレポート作成について解説 復習 ：自由再生における系列位置効果の実験レポート作成
3	奥野 真之	予習 ：一対比較法について調べる 授業 ：一対比較法の実験１ 実験の説明と実施 復習 ：配布資料を講読し、一対比較法の理論について整理する。実験の内容を整理する
4	奥野 真之	予習 ：一対比較法を用いた先行研究について文献を調査する 授業 ：一対比較法の実験２ 結果分析とレポート作成について解説 復習 ：一対比較法の実験レポート作成
5	奥野 真之	予習 ：SD 法について調べる 授業 ：SD 法によるイメージの測定１ 実験の説明と実施 復習 ：配布資料を講読し、SD 法の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する
6	奥野 真之	予習 ：SD 法を用いた先行研究について文献を調査する 授業 ：SD 法によるイメージの測定２ 結果分析とレポート作成について解説 復習 ：SD 法によるイメージの測定レポート作成
7	奥野 真之	予習 ：意志決定に関する情報の影響について調べる 授業 ：判断に及ぼす他者情報の影響の実験 実験の説明と実施。結果分析とレポート作成について解説 復習 ：配布資料を講読する。実験の内容を整理する。判断に及ぼす他者情報の影響レポート作成
8	奥野 真之	予習 ：性格検査について調べる 授業 ：質問紙法による性格の測定１ 実験の説明と実施 復習 ：配布資料を講読し、性格検査の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する
9	奥野 真之	予習 ：質問紙による性格検査を扱った先行研究について文献を調査する 授業 ：質問紙法による性格の測定２ 結果分析とレポート作成について解説 復習 ：質問紙法による性格の測定レポート作成
10	奥野 真之	予習 ：ストループ効果について調べる 授業 ：認知的葛藤の実験１ 実験の説明と実施 復習 ：配布資料を講読し、ストループ効果の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する
11	奥野 真之	予習 ：ストループ効果を扱った先行研究について文献を調査する 授業 ：認知的葛藤の実験２ 結果分析とレポート作成について解説 復習 ：認知的葛藤の実験レポート作成
12	奥野 真之	予習 ：グループ実験であつかうテーマについて予備調査をする 授業 ：グループ実験１ 実験の計画と準備、教示、装置・刺激の作成（グループディスカッション） 復習 ：グループ実験の計画を整理する。実験に必要な機材などを確認する
13	奥野 真之	予習 ：グループ実験の実施を準備する 授業 ：グループ実験２ 実験の実施、データの収集 （グループディスカッション） 復習 ：実験データを整理する

14	奥野　真之	予習　：実験のテーマに関連する文献を調査する 授業　：グループ実験３　データの分析　（グループディスカッション） 復習　：実験の分析結果について整理する
15	奥野　真之	予習　：実験のテーマに関連する文献を調査する。発表の用意をする 授業　：グループ実験４　発表資料の作成、グループ実験の発表　（グループディスカッション） 復習　：グループ実験レポートの作成

授業開始前学習	実験心理学の基本的な研究（感覚・知覚・記憶・学習）を学んでおくと実習内容が理解しやすくなる。
授業内課題のフィードバックの方法	提出された実験レポートをもとに、実験レポートの書き方について授業内でフィードバックする。また、個別の指導や質問回答を随時行う。
テキスト・教材	各回の授業において実習用のテキスト・資料等を適宜配付する。
参考書	各回の授業において関連文献を紹介する。
評価の基準と方法	実習状況（授業への参加態度・実習に対する貢献）65%、提出された実験レポート(授業期間内提出）35%の配点で評価する。 単位取得には、少なくとも全体の３分の２以上の出席と、３分の２以上のレポート提出が必要である。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		◎			○

関連科目	心理学概論Ⅰ／心理学入門Ⅰ、心理学概論Ⅱ／心理学入門Ⅱで学ぶ基本的研究の具体的進め方を実習で身につける。
その他	パソコンを使用するので、Word、Excel 等の基本的な操作方法を習得しておくことが望ましい。 各実験終了後に作成する実験レポートの提出については、指定された提出期限から１週間を過ぎた場合は受け取らない。 a～c の各クラスの授業内容は共通だが、それぞれの進行状況に応じて順番等が前後する場合がある。また、実習で使う装置の都合上、授業内容を変更することがある。 原則的に 2 年次の履修者は指定されたクラスで履修する（指定クラスは掲示を参照）。
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間＋予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-311	科目分類（～2024 年入学者）	130-311-13	授業コード	FF0040
科目名称	心理学研究法 I			単位数	2.0 単位
英文名称	Methods in Psychology I			授業区分	講義
科目責任者	冨士原　光洋			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	冨士原　光洋			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期　水曜日 13:00～16:10 後期　水曜日 13:00～16:10			研究室	10-704
授業概要	○ 心理学における実証的研究法（量的研究及び質的研究）、○ データを用いた実証的な思考方法、○研究における倫理、について学修する。そして心理学の研究方法について、基本的な考え方から、具体的実施方法や研究資料の分析方法を学び、身につける。 第 I 期では、実証的研究法（量的研究）として心理学研究に数多く採用されている、実験法と調査法について、その方法論や手続きを学び、理解する。さらに心理学研究における倫理について理解する。				
到達目標	心理学の実証的研究法（量的研究）としての実験法と調査法について、基本的用語と考え方を理解し、説明ができるようになる。 具体的研究課題が設定されたとき、実験法・調査法でその課題を研究する研究計画を作成できるようになる。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	冨士原　光洋	【第 1 回】 予習：心理学で用いられる研究方法について調べる 授業：心理学の研究方法について（教科書 1 頁から 2 頁） 復習：実験法、調査法、観察法を比較する
2	冨士原　光洋	【第 2 回】 予習：実験法の定義について調べる 授業：実験法とは（教科書 3 頁から 6 頁） 復習：実験法の必要性をまとめる
3	冨士原　光洋	【第 3 回】 予習：実験統制（コントロール）について調べる 授業：実験法の手続きと基本事項 1　問題の設定、反応の統制（教科書 7 頁から 10 頁） 復習：２次変数のコントロールを確認する
4	冨士原　光洋	【第 4 回】 予習：実験デザイン（実験計画）について調べる 授業：実験法の手続きと基本事項 2　反応の観察、記録、測定、実験結果の分析（教科書 11 頁から 15 頁） 復習：具体的な「実験者の及ぼす効果」を考えてまとめる
5	冨士原　光洋	【第 5 回】 予習：資料（知覚の実験）を講読する 授業：実験法研究における倫理、実験法研究例（知覚の実験）（教科書 16 頁から 18 頁） 復習：資料（知覚の実験）の実験計画を確認する
6	冨士原　光洋	【第 6 回】 予習：資料（知覚の実験）の問題点、疑問点をまとめる 授業：実験法研究例から発展研究へ（教科書 19 頁から 22 頁） 復習：自分の発展研究（追実験）を作成する　実験法についての資料調べとレポート作成
7	冨士原　光洋	【第 7 回】 予習：質問紙法について調べる 授業：調査法とは（教科書 23 頁から 26 頁　第 1 回テスト（実験法） 復習：社会調査法の具体例を探す
8	冨士原　光洋	【第 8 回】 予習：国勢調査について調べる 授業：調査法の手続きと基本事項 1　分類と調査目標・調査仮説（教科書 27 頁から 31 頁）　実験法のレポート提出 復習：面接調査法と郵送調査法を比較する
9	冨士原　光洋	【第 9 回】 予習：資料の調査項目例を講読する 授業：調査法の手続きと基本事項 2　調査票の構成?調査の実施（教科書 32 頁から 36 頁）　第 1 回テストの講評 復習：調査項目の分類を整理する
10	冨士原　光洋	【第 10 回】 予習：標本抽出について調べる 授業：調査法の統計的知識（教科書 37 頁から 39 頁） 復習：サンプリング誤差に関する問題を解く

11	冨士原　光洋	【第 11 回】 予習：資料（調査法研究）を講読する 授業：調査法研究における倫理、調査法研究例（教科書 40 頁） 復習：資料（調査法研究）のについて方法を整理する
12	冨士原　光洋	【第 12 回】 予習：資料（調査法研究）の問題点、疑問点をまとめる 授業：調査法研究例から発展研究へ（教科書 40 頁） 復習：自分の発展研究（追試験）計画を作成する　調査法についての資料調べとレポート作成
13	冨士原　光洋	【第 13 回】 予習：資料（心理学研究における統計）を講読する 授業：実験法におけるデータの分析（教科書 41 頁から 46 頁） 復習：資料の実験例について集計を行う
14	冨士原　光洋	【第 14 回】 予習：資料（心理学研究における統計）の記述統計について講読する 授業：調査法におけるデータの分析（教科書 47 頁から 53 頁）　第 2 回テスト（調査法） 復習：資料の調査例について集計を行う
15	冨士原　光洋	【第 15 回】 予習：ノートから実験法と調査法のキーワードをピックアップする 授業：実験法と調査法の比較、研究法用語の整理（教科書 54 頁から）　第 2 回テストの講評　調査法のレポート提出 復習：実験法と調査法のキーワードを整理して再確認する

授業開始前学習	心理学の基本的知識を学習しておくと授業が理解しやすい。 (心理学の入門または概論について、本を読んでおくことを勧める)
授業内課題のフィードバックの方法	授業 7 回目、14 回目に実施する単元テスト（第 1 回テスト、第 2 回テスト）については、1,2 週後（授業 9、15 回目）に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。 このほか授業で課す小課題については、その都度全体講評を行う。
テキスト・教材	授業開始時にテキスト（駒沢女子大学教科書シリーズ）を指示する。このほかに適宜資料を配布する。
参考書	中島・子安等（編）、1999、『心理学辞典』（有斐閣） アン・サール著、宮本・渡邉（訳）、2005、『心理学研究法入門』（新曜社）
評価の基準と方法	授業課題(授業内課題、復習課題)の評価(50%)、2 回のテスト成績(50%)による。 履修者全体の評価点平均が 70 点台（成績評価「良」）になるように点数調整を行う。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	△	○	

関連科目	「心理学Ⅰ・Ⅱ」で紹介される研究や「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」で実習する実験等の方法について、具体的な理解を深め、考察する。「卒業論文」などで実証的研究を行う際には、必要になる内容である。
その他	科学的に「こころ」の問題を解き明かすための、正確な手続きを理解すること。 なお、受講者数により授業の予定を変更することもある。 授業の復習課題については、GWE クラスルームへの提出を求める。 授業回数の 3 分の 2 以上の出席がない場合は、単位を認定しない。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）	PS-M-311	科目分類（～2024年入学者）	130-311-13	授業コード	FF0050
科目名称	心理学研究法Ⅱ			単位数	2.0単位
英文名称	Methods in PsychologyⅡ			授業区分	講義
科目責任者	冨士原　光洋			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	冨士原　光洋			開講時期	3年
オフィスアワー	前期　水曜日 13:00～16:10 後期　水曜日 13:00～16:10			研究室	10-704
授業概要	○ 心理学における実証的研究法（量的研究及び質的研究）、○ データを用いた実証的な思考方法、○研究における倫理について学修する。そして心理学の研究方法について、基本的な考え方から、具体的実施方法や研究資料の分析方法を学び、身につける。第Ⅱ期では、実証的研究法として 方法論的価値が見直されている観察法と面接法について、その方法論と手続きを学び、理解する。また、研究によって得られた心理学データ（資料）の分析について、統計的な理解を含め、その分析手続きを理解する。				
到達目標	心理学の実証的研究法である観察法、検査法、面接法、さらに統計的分析について、基本的用語と考え方を理解し、説明ができるようになる。 具体的研究課題を設定し、観察法、検査法で実施する研究計画を作成する能力を身につける。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	冨士原　光洋	【第1回】 予習　：テキスト1頁から3頁の講読 授業　：　観察法とは、観察法の内容と分類の理解　(テキスト1頁から3頁) 復習　：　キーワードの確認、テキスト3頁の課題1，2を自習
2	冨士原　光洋	【第2回】 予習　：テキスト4頁から6頁の講読 授業　：観察法の基本事項1（手続きから記録法まで）　(テキスト4頁から6頁) 復習　：　キーワードの確認、テキスト6頁　課題1，2，3を自習
3	冨士原　光洋	【第3回】 予習　：テキスト7頁から9頁の講読 授業　：観察法の基本事項2（実施から信頼性の検討まで）　(テキスト7頁から9頁) 復習　：キーワードの確認、テキスト9頁　課題1，2を自習
4	冨士原　光洋	【第4回】 予習　：テキスト10頁から13頁の講読 授業　：参加観察法について　(テキスト10頁から13頁) 復習　：キーワードの確認、テキスト12頁　課題1，2を自習
5	冨士原　光洋	【第5回】 予習　：　配付資料　研究例の講読 授業　：観察法研究例　　(テキスト14頁) 復習　：キーワードの確認、テキスト14頁の設問を自習
6	冨士原　光洋	【第6回】 予習　：　テキスト15頁から18頁の講読 授業　：観察法研究例　(テキスト15頁から18頁) 復習　：キーワードの確認、テキスト18頁　発展学習を自習　　観察法についての資料調べとレポート作成
7	冨士原　光洋	【第7回】 予習　：テキスト19頁から23頁の講読 授業　：心理検査法とは　(テキスト19頁から23頁)　　第1回テスト（観察法） 複習　：　キーワードの確認、テキスト23頁　課題1
8	冨士原　光洋	【第8回】 予習　：テキスト24頁から26頁の講読 授業　：心理検査法　2　知能検査について　(テキスト24頁から26頁)　　観察法のレポート提出 復習　：　キーワードの確認
9	冨士原　光洋	【第9回】 予習　：テキスト27頁から29頁の講読 授業　：心理尺度の構成1（測定対象と尺度,尺度の信頼性と妥当性）　(テキスト27頁から29頁)　　第1回テストの講評 復習　：　キーワードの確認、テキスト29頁　課題1，2，3，4を自習
10	冨士原　光洋	【第10回】 予習　：テキスト30頁から32頁の講読 授業　：心理尺度の構成2（構成の手順について）　(テキスト30頁から32頁) 復習　：キーワードの確認、テキスト32頁　発展学習を自習

11	冨士原　光洋	【第 11 回】 予習　：テキスト 33 頁から 35 頁の講読　　心理検査法,面接法の研究例を探す 授業　：面接法とは　(テキスト 33 頁から 35 頁) 復習　：　キーワードの確認、面接法研究例を探す
12	冨士原　光洋	【第 12 回】 予習　：心理検査法,面接法の研究例を探す 授業　：心理検査法,面接法の研究例について　(テキスト 33 頁から 35 頁) 復習　：心理検査法,面接法についての資料調べとレポート作成
13	冨士原　光洋	【第 13 回】 予習　：テキスト 36 頁から 48 頁の講読 授業　：　心理データ分析に必要な統計 1　(記述統計)　統計 2　(統計的検定)　(テキスト 36 頁から 48 頁) 復習　：キーワードの確認、例題、課題を自習
14	冨士原　光洋	【第 14 回】 予習　：テキスト 49 頁から 53 頁の講読 授業　：心理データ分析に必要な統計 3　(テキスト 49 頁から 53 頁)　　第 2 回テスト　(心理検査法、面接法) 復習　：　キーワードの確認、例題、課題を自習
15	冨士原　光洋	【第 15 回】 予習　：テキスト 54 頁からを読む　最重要語の整理　(研究法用語の整理) 授業　：研究法用語の整理　　第 2 回テストの講評 復習　：上記研究法に関わる用語を再チェックする。練習問題を自習する。

授業開始前学習	心理学の基本的知識を学習しておくと授業が理解しやすい。 (心理学の入門または概論について、本を読んでおくことを勧める)
授業内課題のフィードバックの方法	授業 7 回目、14 回目に実施する単元テスト（第 1 回テスト、第 2 回テスト）については、1,2 週後（授業 9、15 回目）に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。 このほか授業で課す小課題については、その都度全体講評を行う。
テキスト・教材	授業開始時にテキスト（駒沢女子大学教科書シリーズ）・教材を指示する。このほかに適宜資料を配布する。
参考書	中島・子安等（編)、1999、『心理学辞典』（有斐閣） アン・サール著、宮本・渡邉（訳）、2005、『心理学研究法入門』（新曜社）
評価の基準と方法	授業課題(授業内課題、復習課題、レポートを含む)の評価(50%)、2 回のテスト成績(50%)による。 履修者全体の評価点平均が 70 点台（成績評価「良」）になるように点数調整を行う。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	△	○	

関連科目	「心理学Ⅰ・Ⅱ」で紹介される研究や「心理学実験実習Ⅰ・Ⅱ」で実習する実験等の方法について、具体的な理解を深め、考察する。「卒業論文」などで実証的研究を行う際には、必要になる内容である。
その他	科学的に「こころ」の問題を解き明かすための、正確な手続きを理解すること。 なお、受講者数により授業の予定を変更することもある。 授業の復習課題については、GWE クラスルームへの提出を求める。 授業回数の 3 分の 2 以上の出席がない場合は、単位を認定しない(授業回数の 3 分の 2 以上の出席者のみを評価対象にする)。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-121 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	130-331-12 （Ｊ）	授業コード	FF0070
科目名称	☆臨床心理学概論			単位数	2.0 単位
英文名称	Introduction to Clinical Psychology			授業区分	講義
科目責任者	藤城　有美子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	藤城　有美子			開講時期	1・2 年
オフィスアワー	前期　金曜日 14:30～17:30 後期　金曜日 14:30～17:30			研究室	10-710
授業概要	臨床心理学は、心理臨床を実践する際の基礎となる心理学であると同時に、より広い意味での自己理解・他者理解を促進するツールでもある。本講では、臨床心理学の基本的な概念について概説する。まず、乳幼児期から老年期に至るライフサイクルの各段階でみられることの多い心理不適応や障害などを扱っていく。さらに、こうした問題を援助技法するための各種アプローチと、臨床心理学的実践の各領域についても理解を深める。				
到達目標	1．臨床心理学の基本的な概念・用語について、説明できる。 2．心理的課題・問題について、ライフサイクルの観点から説明できる。 3．代表的な心理療法の技法の特徴について、基礎的事項を説明できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	○
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	藤城　有美子	【第 1 回】 予習　：テキスト pp.2-17 の購読 授業　：1．臨床心理学入門（ミニ・レポート課題①） 復習　：臨床心理学の歴史的背景と定義、意義
2	藤城　有美子	【第 2 回】 予習　：テキスト pp.20-26 の購読 授業　：2．臨床心理学の対象 1　正常と異常（ミニ・レポート課題②） 復習　：正常・異常の判断基準、心理臨床家の視点（課題解説）
3	藤城　有美子	【第 3 回】 予習　：テキスト pp.27-32 の購読 授業　：3．臨床心理学の対象 2　乳幼児期（ミニ・レポート課題③） 復習　：乳児期・幼児期の特徴と発達課題（課題解説）
4	藤城　有美子	【第 4 回】 予習　：テキスト pp.32-45 の購読 授業　：4．臨床心理学の対象 3　児童期・青年期（ミニ・レポート課題④） 復習　：児童期・青年期の特徴と発達課題（課題解説）
5	藤城　有美子	【第 5 回】 予習　：テキスト pp.45-49 の購読 授業　：5．臨床心理学の対象 4　成人期（ミニ・レポート課題⑤） 復習　：成人期の特徴と発達課題（課題解説）
6	藤城　有美子	【第 6 回】 予習　：テキスト pp.49-54 の購読 授業　：6．臨床心理学の対象 5　老年期（ミニ・レポート課題⑥） 復習　：老年期の特徴と発達課題（課題解説）
7	藤城　有美子	【第 7 回】 予習　：テキスト pp.56-88 の購読 授業　：7．臨床心理学的人間理解（ミニ・レポート課題⑦） 復習　：心理アセスメント、心理面接、心理テスト、行動観察（課題解説）
8	藤城　有美子	【第 8 回】 予習　：テキスト pp.90-100 の購読 授業　：8．臨床心理学的援助の方法 1　環境調整・ガイダンス／精神力動的アプローチ（ミニ・レポート課題⑧） 復習　：環境調整とガイダンス、精神分析療法の特徴（課題解説）
9	藤城　有美子	【第 9 回】 予習　：テキスト pp.100-107 の購読 授業　：9．臨床心理学的援助の方法 2　行動療法・認知行動療法（ミニ・レポート課題⑨） 復習　：行動療法・認知行動療法の特徴（課題解説）
10	藤城　有美子	【第 10 回】 予習　：テキスト pp.107-112 の購読 授業　：10．臨床心理学的援助の方法 3　クライエント中心療法（ミニ・レポート課題⑩） 復習　：クライエント中心療法の特徴（課題解説）

11	藤城　有美子	【第 11 回】 予習　：テキスト pp.113-126 の購読 授業　：11. 臨床心理学的援助の方法 4　遊戯療法・芸術療法（ミニ・レポート課題⑪） 復習　：遊戯療法・芸術療法（表現療法）の特徴（課題解説）
12	藤城　有美子	【第 12 回】 予習　：テキスト pp.170-178 の購読 授業　：12. 臨床心理学的援助の方法 5　家族療法・グループアプローチ（ミニ・レポート課題⑫） 復習　：家族療法・グループアプローチの特徴（課題解説）
13	藤城　有美子	【第 13 回】 予習　：テキスト pp.178-182 の購読 授業　：13. 臨床心理学的援助の方法 6　コミュニティアプローチ（ミニ・レポート課題⑬） 復習　：コミュニティアプローチの特徴（課題解説）
14	藤城　有美子	【第 14 回】 予習　：テキスト pp.184-219 の購読 授業　：14. 臨床心理学的実践の領域（ミニ・レポート課題⑭） 復習　：教育領域、福祉領域、司法・矯正領域、医療領域、産業領域、大学・研究所領域、私設心理相談領域（課題解説）
15	藤城　有美子	【第 15 回】 予習　：テキスト pp.222-234 の購読 授業　：15. 臨床心理学の学び方（ミニ・レポート課題⑮） 復習　：自己理解、スーパーヴィジョン（課題解説）

授業開始前学習	指定されたテキストの目次に目を通し、この科目で必要とされる全体図を把握しておくと良い。
授業内課題のフィードバックの方法	授業時間内に課すミニレポートについては、毎回授業の最初に Classroom の課題提出から提出を求める（次の回の課題は毎回の講義の最後に提示するので、復習を兼ねて文章を用意しておくことが望まれる）。また、ミニレポートから把握された全体的傾向については、翌回の講義で解説を加える。
テキスト・教材	野島一彦編著　2020『臨床心理学への招待　第 2 版』ミネルヴァ書房 その他に、必要に応じて適宜資料を配付する。
参考書	
評価の基準と方法	所定の出席数を満たした者について、授業時間内に毎回課すミニレポート（2 点×15 回＝30 点）と、確認テスト（70 点）の合計 100 点で評価する。 授業時間内のミニレポートの提出を以て、「出席」とカウントする。なお、遅刻早退 3 回で欠席 1 回分として扱う。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		◎	○		

関連科目	心理学概論Ⅰ・Ⅱ、心理療法論Ⅰ・Ⅱ
その他	公認心理師の国家試験の受験資格を得るために必須の科目である。 授業中に口頭で重要性を指摘された点についても、ノートをとれるよう努力すること。 スマートフォン、iPhone、タブレット等の携帯端末あるいはノート PC 等、教場で本科目の Classroom にアクセスできるデバイスを毎回持参することが望ましい。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	心理臨床の実務経験あり。心理臨床の課題、実践、歴史について講義する。

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-121	科目分類（～2024 年入学者）	130-331-12	授業コード	FF0081
科目名称	☆心理学統計法			単位数	2.0 単位
英文名称	Psychological Statistics			授業区分	講義
科目責任者	杉原　光雄			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	杉原　光雄			開講時期	1・2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	心理学を学ぶ上で必要な統計学の基礎を学ぶ。 統計学の知識に基づきデータを分析するスキルを身につける。				
到達目標	記述統計学・推測統計学の基本的な考え方を理解する。 Google スプレッドシートを用いてグラフの作成やデータの分析ができるようになる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	杉原　光雄	【第 1 回】 予習　：統計 WEB　統計学の時間「1．データの集計」「 2．度数分布とヒストグラム」を閲覧する。 授業　：統計データの基本・度数分布 復習　：復習テスト（統計データの基本・度数分布 ）
2	杉原　光雄	【第 2 回】 予習　：統計学の時間 「4．代表値と箱ひげ図」を閲覧する 授業　：代表値と箱ひげ図 復習　：復習テスト（代表値と箱ひげ図）
3	杉原　光雄	【第 3 回】 予習　：統計学の時間「5．データのばらつき」「6．データの標準化」を閲覧する 授業　：分散と標準偏差・標準化 復習　：復習テスト（分散と標準偏差・標準化）
4	杉原　光雄	【第 4 回】 予習　：統計学の時間 「26．相関分析」を閲覧する 授業　：散布図と相関係数 復習　：復習テスト（散布図と相関係数）
5	杉原　光雄	【第 5 回】 予習　：配付資料（第 1～4 回）の購読 授業　：グループ実習（１）　Web アンケートの作成 復習　：レポートの作成
6	杉原　光雄	【第 6 回】 予習　：配付資料（第 1～5 回）の購読 授業　：グループ実習（２）　アンケートデータの分析 復習　：レポートの作成
7	杉原　光雄	【第 7 回】 予習　：統計学の時間 「5．データの集計と表現」を閲覧する 授業　：ピボットテーブル 復習　：復習テスト（ピボットテーブル）
8	杉原　光雄	【第 8 回】 予習　：統計学の時間 「5．データの集計と表現」を閲覧する 授業　：クロス表と連関 復習　：復習テスト（クロス表と連関）
9	杉原　光雄	【第 9 回】 予習　：統計学の時間 「9．確率と期待値」「11．確率変数と確率分布」を閲覧する 授業　：確率と確率分布（１）確率の基礎 復習　：復習テスト（確率と確率分布）
10	杉原　光雄	【第 10 回】 予習　：「13．いろいろな確率分布 1」「14．いろいろな確率分布 2 」「15．いろいろな確率分布 3」を閲覧する 授業　：確率と確率分布（２）二項分布と正規分布 復習　：復習テスト（二項分布と正規分布）
11	杉原　光雄	【第 11 回】 予習　：統計学の時間「23-1．検定とは」「23-2．検定で使う用語」を閲覧する 授業　：統計的仮説検定の考え方（１）二項検定 復習　：　復習テスト（統計的仮説検定の考え方）

12	杉原　光雄	【第 12 回】 予習　：統計学の時間「23．検定の前に」「24-1．母平均の検定（両側ｔ検定）」を閲覧する 授業　：統計的仮説検定の考え方（２）母平均の検定 復習　：　復習テスト（母平均の検定）
13	杉原　光雄	【第 13 回】 予習　：統計学の時間「24-3．2 標本ｔ検定とは」「24-5．対応のある 2 標本ｔ検定」を閲覧する 授業　：統計的仮説検定の考え方（３）　対応のある平均値の差の検定 復習　：　復習テスト（対応のある平均値の差の検定）
14	杉原　光雄	【第 14 回】 予習　：統計学の時間「24-3．2 標本ｔ検定とは」「24-4．対応のない 2 標本ｔ検定」を閲覧する 授業　：統計的仮説検定の考え方（４）対応のない平均値の差の検定 復習　：　復習テスト（対応のない平均値の差の検定）
15	杉原　光雄	【第 15 回】 予習　：配付プリント（第 15 回）の購読 授業　：「パーソナリティ」データの分析・レポート作成 復習　：期末レポートの作成

授業開始前学習	パソコンの基本操作、表計算アプリの使い方（グラフの作成など）を学んでおくとよい。 なお受講にあたって、数学的な知識は一切不要である。
授業内課題のフィードバックの方法	web で復習テストを行い、結果をフィードバックする。
テキスト・教材	web サイト「統計 WEB−統計学の時間」｛https://bellcurve.jp/statistics/course/｝ web サイト「エレベータのブザーは鳴るか―大学生のための統計学入門」｛https://ocw.kyoto-u.ac.jp/course/809/｝ web サイト「jamovi で学ぶ心理統計」｛https://bookdown.org/sbtseiji/lswjamoviJ/｝
参考書	本丸諒（著）『文系でも仕事に使える統計学はじめの一歩』かんき出版（2018） 倉田博史（監修）「文系のためのめっちゃやさしい統計」NEWTON PRESS (2021)
評価の基準と方法	授業への取り組み（出席状況・課題・復習テスト含む）（55%)、レポート課題（20%）、期末テスト（25%)によって評価を行う。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		○		◎	

関連科目	心理学実験Ⅰ・Ⅱ、心理学研究法、心理データ解析法
その他	復習テストは Google のアンケートツールで行います（内容は、統計学の用語や統計量の計算など。 ほぼ毎回の授業内課題及び宿題の提出が課されます。 グループ実習では簡単な web アンケートを作成し、データを収集・分析、その結果をレポートにまとめる課題を行う予定です。 期末試験は、復習テストをもとに作成した対策問題を公開し、その中から出題します。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-121	科目分類（～2024 年入学者）	130-330-12	授業コード	FF0090
科目名称	☆心理ﾃﾞｰﾀ解析法			単位数	2.0 単位
英文名称	Data Analysis in Psychology			授業区分	講義
科目責任者	杉原　光雄			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	杉原　光雄			開講時期	1・2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	心理学を学ぶ上で役立つデータ解析の基本を学ぶ。授業の前半では「心理学統計法」でも取り上げた統計的仮説検定についてより深く学ぶ。授業の後半ではゼミでの論文購読や卒業研究を想定し、質問紙調査の実施・分析方法について学ぶ。				
到達目標	統計的仮説検定のしくみを理解する。 質問紙調査の基本を身に着ける。 因子分析の考え方・使い方を理解する。 統計分析アプリ Jamovi の使い方を理解する。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	杉原　光雄	【第 1 回】 予習　：jamovi 完全攻略ガイド「第 1～4 章」を閲覧する 授業　：記述統計学の復習、jamovi の使い方 復習　：復習テスト（記述統計学）
2	杉原　光雄	【第 2 回】 予習　：統計学の時間「16．標本と抽出法」「18．母平均の点推定」，jamovi 完全攻略ガイド「第 8 章　標本からの未知量の推定」の講読 授業　：母集団からの標本抽出 復習　：復習テスト（母集団からの標本抽出）
3	杉原　光雄	【第 3 回】 予習　：統計学の時間「24．平均値の検定」、jamovi で学ぶ心理統計「第 9 章　仮説検定」の講読 授業　：平均値の検定（1 標本の z 検定） 復習　：復習テスト（平均値の検定　）
4	杉原　光雄	【第 4 回】 予習　：jamovi 完全攻略ガイド　第 5 章　t 検定」、統計学の時間「31-2．効果量 1」「31-3．効果量 2」の講読 授業　：平均値の差の検定（ t 検定） 復習　：復習テスト（平均値の差の検定　）
5	杉原　光雄	【第 5 回】 予習　：統計学の時間「25-5．独立性の検定」、jamovi で学ぶ心理統計「第 10 章　カテゴリーデータの分析」、jamovi 完全攻略ガイド「第 8 章　度数分析」の講読 授業　：独立性の検定（カイ二乗検定） 復習　：復習テスト（独立性の検定）
6	杉原　光雄	【第 6 回】 予習　：jamovi 完全攻略ガイド「第 1～4 章」を閲覧する 授業　：キャリア意識調査の分析・レポートの作成 復習　：レポートの作成
7	杉原　光雄	【第 7 回】 予習　：jamovi で学ぶ心理統計「第 12 章　相関と線形回帰」jamovi 完全攻略ガイド「第 7 章　回帰分析」の講読 授業　：相関と回帰分析 復習　：復習テスト（相関と回帰分析）
8	杉原　光雄	【第 8 回】 予習　：jamovi 完全攻略ガイド「9.1　信頼性分析」の講読 授業　：心理尺度の考え方 復習　：確認テスト（心理尺度）
9	杉原　光雄	【第 9 回】 予習　：jamovi 完全攻略ガイド「9.3　探索的因子分析」の講読 授業　：因子分析の考え方 復習　：復習テスト（因子分析）

10	杉原　光雄	【第 10 回】 予習　：jamovi 完全攻略ガイド「9.3　探索的因子分析」の講読 授業　：因子分析の実際 復習　：小レポートの提出
11	杉原　光雄	【第 11 回】 予習　：jamovi 完全攻略ガイド「9.3　探索的因子分析」の講読 授業　：グループ研究（１）質問紙（web アンケート）の作成 復習　：期末レポートの作成
12	杉原　光雄	【第 12 回】 予習　：jamovi 完全攻略ガイド「9.3　探索的因子分析」の講読 授業　：グループ研究（２）データの収集・データファイルの作成 復習　：期末レポートの作成
13	杉原　光雄	【第 13 回】 予習　：jamovi 完全攻略ガイド「9.3　探索的因子分析」の講読 授業　：グループ研究（３）データの分析 復習　：期末レポートの作成
14	杉原　光雄	【第 14 回】 予習　：jamovi 完全攻略ガイド「9.3　探索的因子分析」の講読 授業　：グループ研究（４）レポートの作成 復習　：期末レポートの作成
15	杉原　光雄	【第 15 回】 予習　：jamovi 完全攻略ガイド「9.3　探索的因子分析」の講読 授業　：グループ研究（５）レポートの作成（個人指導） 復習　：期末レポートの作成

授業開始前学習	「心理学統計法」の授業を受講しておくことが求められる。 なお受講にあたり数学的な知識は一切不要である。
授業内課題のフィードバックの方法	Google Forms を用いて復習テストを実施し、結果をフォードバックする。
テキスト・教材	web サイト『bellcurve 統計 WEB』https://bellcurve.jp/statistics/ web サイト　芝田　征司（著）『jamovi 完全攻略ガイド』{https://bookdown.org/sbtseiji/jamovi_complete_guide/} Danielle J Navarro & Dvid R Foxcroft（著）　芝田征司（訳）『jamovi で学ぶ心理統計』{https://bookdown.org/sbtseiji/lswjamoviJ/}
参考書	小塩真司・西口利文（編）『質問紙調査の手順』ナカニシヤ出版　2007 年 本丸諒 (著)『文系でも仕事に使える統計学はじめの一歩』かんき出版　2018 年 芝田 征司 (著)『数学が苦手でもわかる心理統計法入門―基礎から多変量解析まで 単行本』サイエンス社　2017 年
評価の基準と方法	授業への取り組み（70%　出席状況・宿題・復習テスト含む）、レポート課題（30%）によって評価を行う。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		○		◎	

関連科目	心理学統計法、心理学実験Ⅰ・Ⅱ、心理学研究法Ⅰ・Ⅱ
その他	グループ実習では、web アンケートによる質問紙調査を作成しデータを分析する課題を行う予定である。 ほぼ毎回随時スプレッドシートや統計アプリを用いる課題が課せられる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-221	科目分類（～2024 年入学者）	130-330-13	授業コード	FF0100
科目名称	☆心理学英語講読			単位数	2.0 単位
英文名称	Psychology Readings in English			授業区分	講義
科目責任者	大谷　華			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	大谷　華			開講時期	3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	本科目の目標は、関心のある心理学文献を読んで、理解し、自分の研究に役立てられるようになることです。授業で多くの英文を読みますが、英語を学ぶ授業ではありません。心理学の理解を深めていきましょう。 ・心理学文献の読解に強い意欲を持つ学生と英語文献を読む。心理系大学院進学を考えている 3 年生（4 年生も可）を主な対象とする。 ・翻訳ソフトを用いずに、自力で英文を和訳する。 ・心理学用語の英単語テストを毎週行う。 ・授業は受講生が提出した予習を用い、授業中に指名して発言を求めます。積極的に参加してください。				
到達目標	1．英文の構文読解力と語彙力を高める。成果として、英語文献を自分で選択し読解することに挑戦する。 2．心理学研究の考え方と専門用語を理解する。 3．心理学文献を読んで自らの学びに役立てるための基礎的読解力を身につける。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	大谷　華	第 1 回 予習（1h）：【準備】英文法の復習 【予習課題】個人カードの提出 授業： 【単語テスト】デモテスト（一般）、和訳 8 文テスト（1） 【ガイダンス】評価方法、テキスト配布、等 復習（2h）：【復習】英文法の復習
2	大谷　華	第 2 回 予習（3h）：【準備】『心理院単』p.152-p.159（一般①） 【予習課題】【文献Ⅰ】①Motivation の逐文訳 授業： 【単語テスト】『心理院単』p.152-p.159（一般①） 【文献Ⅰ】①Motivation の和訳 【読解スキル】英文法の復習 復習（1h）：【復習】和訳と心理学概念の復習、英文法の復習 【授業時間外に個人面談】必要に応じて、対面か zoom で面談
3	大谷　華	第 3 回 予習（3h）：【準備】『心理院単』p.160-p.167（一般②） 【予習課題】【文献Ⅰ】②Helping Behavior の逐文訳 授業： 【単語テスト】『心理院単』p.160-p.167（一般②） 【文献Ⅰ】②Helping Behavior の和訳 復習（1h）：【復習】和訳と心理学概念の復習 【文献Ⅱ】配布された社会心理学テキストから、自分が担当したい分野を選ぶ
4	大谷　華	第 4 回 予習（2h）：【準備】『心理院単』p.168-p.175（一般③）、【文献Ⅰ】読解確認テスト準備 【予習課題】【文献検索】関心分野の心理学用語（5 個以上、英和対訳） 授業： 【単語テスト】『心理院単』p.168-p.175（一般③） 【文献Ⅰ】読解確認テスト 【文献検索】指定された日本語文献の検索、書誌情報、抄録。選んだ日本語論文の PDF を提出 復習（2h）： 【復習課題】選んだ日本語論文の書誌情報、見出しリスト、図表リスト、構成と要約（400 字）
5	大谷　華	第 5 回 予習（1h）：【準備】和訳 8 文テスト（2）準備 授業： 【単語テスト】和訳 8 文テスト（2） 【文献検索】指定された英語論文の検索、書誌情報（英語＋和訳）、PDF 復習（3h）： 【復習課題】指定された英語論文の抄録の和訳

6	大谷 華	第 6 回 予習（2h）：【準備】『心理院単』p.92-p.101（社会） 【予習課題】【文献検索】読みたい英語論文の書誌情報 1 本 PC 教室：授業： 【単語テスト】『心理院単』p.92-p.101（社会） 【文献検索】読みたい英語論文 3 本。書誌情報（英語）と PDF を提出する 復習（1h）： 【文献検索】講師の指示に従って、読みたい英語論文のなかから自分の【課題Ⅳ】教材とする論文 1 本を選ぶ
7	大谷 華	第 7 回 予習（3h）：【準備】『心理院単』p.62-p.69（発達①） 【予習課題】【文献Ⅱ】「社会心理学」の担当頁の和訳 PC 教室：授業： 【単語テスト】『心理院単』p.62-p.69（発達①） 【文献Ⅱ】「社会心理学」発表準備（グループワーク） 復習（1h）： 【復習課題】【文献Ⅳ】選んだ英語論文の見出しリスト、図表リスト（英語）＋書誌情報と abstract
8	大谷 華	第 8 回 予習（2h）：【準備】『心理院単』p.70-75（発達） 【予習課題】【文献Ⅱ】「社会心理学」グループ発表のスライド提出 授業： 【単語テスト】『心理院単』p.70-75（発達） 【文献Ⅱ】「社会心理学」グループ発表 復習（2h）： 【復習課題】「社会心理学」担当した章のまとめ提出
9	大谷 華	第 9 回 予習（3h）：【準備】『心理院単』和訳 8 文（3）準備 【予習課題】【文献Ⅳ】英語論文の和訳：見出しリスト、図表リスト、書誌情報、抄録。英和対訳表 授業： 【単語テスト】『心理院単』和訳 8 文（3）＜50%以上合格＞ 【文献Ⅳ】個人面談：英語論文の抄録和訳にコメント、本文和訳箇所の相談
10	大谷 華	第 10 回 予習（3h）：：【準備】『心理院単』p.76-83（研究法） 【予習課題】【文献Ⅲ】ヴィゴツキー論文①の逐文訳 授業： 【単語テスト】『心理院単』p.76-83（研究法） 【文献Ⅲ】ヴィゴツキー論文①の逐文訳 復習（1h）：【復習】和訳と心理学概念の復習
11	大谷 華	第 11 回 予習（3h）：：【準備】『心理院単』p.84-91（研究法） 【予習課題】【文献Ⅲ】ヴィゴツキー論文②の逐文訳 授業： 【単語テスト】『心理院単』p.84-91（研究法） 【文献Ⅲ】ヴィゴツキー論文②の逐文訳 復習（1h）：【復習】和訳と心理学概念の復習
12	大谷 華	第 12 回 予習（3h）：：【準備】『心理院単』p.134-141（性格・知能） 【予習課題】【文献Ⅲ】ヴィゴツキー論文③の逐文訳 授業： 【単語テスト】『心理院単』p.134-141（性格・知能） 【文献Ⅲ】ヴィゴツキー論文③の逐文訳 復習（1h）：【復習】和訳と心理学概念の復習
13	大谷 華	第 13 回 予習（3h）：：【準備】『心理院単』和訳 8 文（4）。【文献Ⅳ】の読解確認テスト準備 【予習課題】【文献Ⅳ】英語論文の決めた和訳範囲の前半和訳 授業： 【単語テスト】『心理院単』和訳 8 文（4）＜50%以上合格＞ 【文献Ⅲ】ヴィゴツキー論文の読解確認テスト 【文献Ⅳ】個人面談：英語論文の前半和訳にコメント、相談 復習（1h）：【復習】和訳と心理学概念の復習
14	大谷 華	第 14 回 予習（3h）：：【準備】『心理院単』p.214-227（キーパーソン） 【予習課題】【文献Ⅳ】英語論文の決めた和訳範囲の後半和訳 授業： 【単語テスト】『心理院単』p.214-227（キーパーソン） 【文献Ⅳ】個人面談：英語論文の指導 復習（1h）：【復習】和訳と心理学概念の復習
15	大谷 華	第 15 回 予習（8h）： 【レポート課題】【文献Ⅳ】最終成果物の提出 授業： 【院試】大学院入試過去問（英語）のテストと解説
授業開始前学習		授業開始前週に事前課題を google classroom にアップするので、回答して、初回授業前日までに提出してください。 この科目の受講は、翻訳ソフトなどを使わずに、基本的な英文読解ができることを前提とします。 英文法の復習をしておいてください。授業では文法的解説は行いません。

授業内課題のフィードバックの方法	授業中の単語テスト、和訳テストなどは、翌週の授業でフィードバックします。
テキスト・教材	英文テキスト、授業プリント：授業内で配布します。 英単語テキスト（購入が必要です）：『心理院単』山崎有紀子、ナツメ社、2014 年初版、ISBN 978-4-8163-5604-9
参考書	『心理英語　読解＆文法マスター』山崎有紀子、ナツメ社、2017 年初版、ISBN 978-4-8163-6236-1
評価の基準と方法	【評価】 授業参加 20%（予習・課題提出、発表、単語・和訳テスト、など） 課題成果物 40%（最終成果物、など） テスト 40%（読解確認テスト、院試英語問題、など） 【単位取得の必須要件】 文献Ⅰ、Ⅲの読解確認テストの受験、文献Ⅱ、Ⅳの最終成果物の提出 3 分の 2 以上の出席 和訳基準テスト合格（正答率 50%以上）。和訳 8 文（3）と（4）の両方が 50%未満の場合は、他の成果に関わらず、単位が取得できません。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		△			

関連科目	
その他	・受講には、長文英語の読解力が必要です。翻訳ソフトは構文読解力を伸ばす役に立たないので、授業では使用禁止。 ・毎週 4 時間の予習時間を生活ルーティンの中に確保してください。読解力等によっては、さらに時間が必要になります。 ・課題は必ず期日までに提出する。授業は、予習を提出した受講生の当日発表に講師がコメントする形式です。予習をしていない受講生は授業中にやることがありません。 ・授業には紙媒体の配布テキストと自分の和訳を必携し、和訳発表と解説の要点をノートを取るなど、記録を残して学んでください。文献の読
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-221	科目分類（～2024 年入学者）	130-331-12	授業コード	FF0210
科目名称	知覚･認知心理学			単位数	2.0 単位
英文名称	Psychology of Perception and Cognition			授業区分	講義
科目責任者	杉原　光雄			必修･選択	履修ガイド参照
担当教員	杉原　光雄			開講時期	2･3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	周囲の環境を知覚する、過去の出来事を思い出す、考えて判断を下すといった心の働きは、「認知」機能と呼ばれるが、そうした「認知」の働きは、どのような性質を持ち、どのような基盤の上に成り立っているのだろうか？この講義では、簡単な実験や観察を行いながら人間の認知機能、特に知覚･記憶･思考の性質やしくみについて体験的に学ぶ。				
到達目標	知覚･記憶･思考の性質･しくみを理解する。				
アクティブ･ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	杉原　光雄	【第 1 回】 予習　：シラバスを読み用語を調べる 授業　：知覚･認知の働きと精神物理学的測定法 復習　：復習テスト（知覚･認知の働きと精神物理学的測定法に関するキーワードの確認）
2	杉原　光雄	【第 2 回】 予習　：レジュメ(明るさと色の知覚)の講読 授業　：明るさと色の知覚 復習　：復習テスト（明るさと色の知覚に関するキーワードの確認）
3	杉原　光雄	【第 3 回】 予習　：レジュメ(運動と空間の知覚）の講読 授業　：運動と空間の知覚 復習　：復習テスト（運動と空間の知覚に関するキーワードの確認）
4	杉原　光雄	【第 4 回】 予習　：レジュメ（聴覚･触覚･身体知覚）の講読 授業　：聴覚･触覚･身体知覚 復習　：復習テスト（聴覚･触覚･身体知覚に関するキーワードの確認）
5	杉原　光雄	【第 5 回】 予習　：レジュメ(形･顔の知覚)の講読 授業　：形･顔の知覚 復習　：復習テスト（形･顔の知覚に関するキーワードの確認）
6	杉原　光雄	【第 6 回】 予習　：レジュメ(知覚の知性･多感覚相互作用）の講読 授業　：知覚の知性･多感覚相互作用 復習　：復習テスト（知覚の知性･多感覚相互作用に関するキーワードの確認）
7	杉原　光雄	【第 7 回】 予習　：レジュメ（注意と知覚）の講読 授業　：注意と知覚 復習　：復習テスト（注意と知覚に関するキーワードの確認）
8	杉原　光雄	【第 8 回】 予習　：レジュメ（記憶の測定と分類）の講読 授業　：記憶の測定と分類 復習　：復習テスト（記憶の測定と分類に関するキーワードの確認）
9	杉原　光雄	【第 9 回】 予習　：レジュメ（ワーキングメモリ･潜在記憶）の講読 授業　：ワーキングメモリ･潜在記憶 復習　：復習テスト（ワーキングメモリ･潜在記憶に関するキーワードの確認）
10	杉原　光雄	【第 10 回】 予習　：レジュメ（記憶の原理と記憶法）の講読 授業　：記憶の原理と記憶法 復習　：復習テスト（記憶の原理と記憶法に関するキーワードの確認）
11	杉原　光雄	【第 11 回】 予習　：レジュメ（記憶の忘却と変容）の講読 授業　：記憶の忘却と変容 復習　：復習テスト（記憶の忘却と変容に関するキーワードの確認）

12	杉原　光雄	【第 12 回】 予習　：レジュメ（判断と意思決定）の講読 授業：判断と意思決定 復習　：復習テスト（判断と意思決定に関するキーワードの確認）
13	杉原　光雄	【第 13 回】 予習　：レジュメ（思考のバイアス）の講読 授業：認知のバイアス 復習　：復習テスト（思考のバイアスに関するキーワードの確認）
14	杉原　光雄	【第 14 回】 予習　：レジュメ（社会的認知・潜在認知）の講読 授業：社会的認知・潜在認知 復習　：復習テスト（社会的認知・潜在認知に関するキーワードの確認）
15	杉原　光雄	【第 15 回】 予習　：レジュメ（問題解決と思考）の講読 授業：問題解決と思考 復習　：復習テスト（問題解決と思考に関するキーワードの確認）

授業開始前学習	特になし
授業内課題のフィードバックの方法	web で復習テストを実施し、結果をフィードバックする。
テキスト・教材	使用しない（毎回 PDF 等を配布する）
参考書	服部雅史ほか『基礎から学ぶ認知心理学－人間の認識の不思議』有斐閣（2015 年）
評価の基準と方法	授業への取り組み（復習テスト・授業内課題含む）（40%）、課題（30%）、期末試験（30%)により評価を行う。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		◎	○		

関連科目	学習・言語心理学、心理学実験Ⅰ・Ⅱ
その他	知覚や記憶などの実験を自分で行う課題を 6～7 回課す予定である（単位取得にあたっては課題を 50%以上提出することが必要）。 毎回授業後に復習テスト・感想など課題を課す予定である。 期末テストは事前に試験対策問題を公開し、その中から出題する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-221	科目分類（～2024 年入学者）	130-331-12	授業コード	FF0220
科目名称	学習･言語心理学			単位数	2.0 単位
英文名称	Psychology of Learning and Language			授業区分	講義
科目責任者	杉原　光雄			必修･選択	履修ガイド参照
担当教員	杉原　光雄			開講時期	2･3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	人や動物には、経験から学習し、行動を適応的に修正する仕組みが備わっている。講義の前半では学習の性質やしくみについて学ぶ。また、人はことばを使って考えたり、複雑な情報を他者に伝達したりすることができる。講義の後半では、言語心理学、発達心理学、動物心理学の知見を交えながら人間の言語能力やコミュニケーションの性質･しくみについて学ぶ。				
到達目標	学習心理学･言語心理学の研究法、基礎的知見を理解する。				
アクティブ･ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	杉原　光雄	【第 1 回】 予習　：シラバスを読み用語を調べる 授業　：学習の分類と古典的条件づけ 復習　：復習テスト（「学習の分類と古典的条件づけ」に関するキーワードの確認）
2	杉原　光雄	【第 2 回】 予習　：レジュメ（道具的条件づけ）の講読 授業　：道具的条件づけ 復習　：復習テスト（「道具的条件づけ」に関するキーワードの確認）
3	杉原　光雄	【第 3 回】 予習　：レジュメ（社会的学習･技能学習）の講読 授業　：社会的学習･技能学習 復習　：復習テスト（「社会的学習･技能学習」に関するキーワードの確認）
4	杉原　光雄	【第 4 回】 予習　：レジュメ（回避学習･動機づけ）の講読 授業　：回避学習･動機づけ 復習　：復習テスト（「回避学習･動機づけ」に関するキーワードの確認）
5	杉原　光雄	【第 5 回】 予習　：レジュメ（弁別学習･動物の知覚･認知）の講読 授業　：弁別学習･動物の知覚･認知 復習　：復習テスト（「弁別学習･動物の知覚･認知」に関するキーワードの確認）
6	杉原　光雄	【第 6 回】 予習　：レジュメ（学習研究の臨床的応用）の講読 授業　：学習研究の臨床的応用 復習　：復習テスト（「学習研究の臨床的応用」に関するキーワードの確認）
7	杉原　光雄	【第 7 回】 予習　：レジュメ（言語能力の起源）の講読 授業　：言語能力の起源 復習　：復習テスト（言語能力の起源」に関するキーワードの確認）
8	杉原　光雄	【第 8 回】 予習　：レジュメ（言語能力の生物学的基盤）の講読 授業　：言語能力の生物学的基盤 復習　：復習テスト（「言語能力の生物学的基盤」に関するキーワードの確認）
9	杉原　光雄	【第 9 回】 予習　：レジュメ（言語の生得説）の講読 授業　：言語の生得説 復習　：復習テスト（「言語の生得説」に関するキーワードの確認）
10	杉原　光雄	【第 10 回】 予習　：レジュメ（文の理解）の講読 授業　：文の理解 復習　：復習テスト（「文の理解」に関するキーワードの確認）
11	杉原　光雄	【第 11 回】 予習　：レジュメ（音声知覚と単語認知）の講読 授業　：音声知覚と単語認知 復習　：復習テスト（「音声知覚と単語認知」に関するキーワードの確認）

12	杉原　光雄	【第 12 回】 予習　：レジュメ（言語と認知）の講読 授業　：言語と認知 復習　：復習テスト（「言語と認知」に関するキーワードの確認）
13	杉原　光雄	【第 13 回】 予習　：レジュメ（メタファとオノマトペ）の講読 授業　：メタファとオノマトペ 復習　：復習テスト（「メタファとオノマトペ」に関するキーワードの確認）
14	杉原　光雄	【第 14 回】 予習　：レジュメ（語用論とコミュニケーション）の講読 授業　：語用論とコミュニケーション 復習　：復習テスト（「語用論とコミュニケーション」に関するキーワードの確認）
15	杉原　光雄	【第 15 回】 予習　：レジュメ（言語の発達）の講読 授業　：言語の発達 復習　：復習テスト（「言語の発達」に関するキーワードの確認）

授業開始前学習	特になし
授業内課題のフィードバックの方法	web で復習テストを実施し、結果をフィードバックする
テキスト・教材	使用しない（毎回レジュメを配布する）
参考書	初回授業時に参考書を紹介する。また授業資料に参考文献を掲載する。
評価の基準と方法	授業への取り組み（復習テスト・授業内課題含む）（45%）、課題（25%）、期末試験（30%)により評価を行う。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		◎	○		

関連科目	知覚・認知心理学、心理学実験Ⅰ・Ⅱ
その他	宿題・レポート課題として学習実験やことばの分析を行う課題を 5 ～7 回課す予定である（単位を取得するには課題を 3 回以上提出する必要がある）。 毎回授業後に復習テストと感想の提出が求められる。 期末テストは、事前に予想問題を公開しその中から出題する予定である。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-221 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	130-331-12（Ｊ）	授業コード	FF0230
科目名称	感情･人格心理学			単位数	2.0 単位
英文名称	Psychology of Emotion and Personality			授業区分	講義
科目責任者	依田 尚也			必修･選択	履修ガイド参照
担当教員	依田 尚也			開講時期	2･3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 14:40～16:10 火曜日 16:20～17:50 後期 火曜日 14:40～16:10 火曜日 16:20～17:50			研究室	10-715
授業概要	私たちは誰もが『感情』と『人格』を持って生きている。それらのありようは人によって異なり、”その人らしさ”を構成している。つまり、『感情』と『人格』について学ぶことは、自分自身への理解の深化につながりうるだろう。 本講義では、『感情』および『人格』に関する心理学的理論について学び、受講生が”自分らしさ”についてより深く考えられるようになることを目指す。				
到達目標	『感情』および『人格』に関する心理学的理論について、基礎的なものを学ぶ。学んだ内容をふまえながら、受講生が自分自身の『感情』や『人格』について振り返り、より理解を深める。				
アクティブ･ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	依田 尚也	【第 1 回】 予習：『感情』および『人格』という言葉の意味を調べておく 授業：イントロダクション（講義の目的･授業の進め方･注意点など） 復習：今後の授業で特に学びたい点についてまとめておく
2	依田 尚也	【第 2 回】 予習：日常的に体験する感情について振り返る 授業：感情が存在する理由 復習：配付資料を見直す
3	依田 尚也	【第 3 回】 予習：感情と身体の関係について考える 授業：感情はいかに生起するのか：感情と身体 復習：配付資料を見直す
4	依田 尚也	【第 4 回】 予習：子どもの頃と現在の感情表現の仕方を比較する 授業：感情の発達 復習：配付資料を見直す
5	依田 尚也	【第 5 回】 予習：印象深い記憶（思い出）にはどのような感情が伴っているか思い返す 授業：感情と記憶 復習：配付資料を見直す
6	依田 尚也	【第 6 回】 予習：『類型』という言葉の意味を調べておく 授業：人格とは何か①：類型論 復習：配付資料を見直す
7	依田 尚也	【第 7 回】 予習：『特性』という言葉の意味を調べておく 授業：人格とは何か②：特性論 復習：配付資料を見直す
8	依田 尚也	【第 8 回】 予習：子どもの頃の自分の人格について思い返す 授業：人格の形成過程①：乳幼児期 復習：配付資料を見直す
9	依田 尚也	【第 9 回】 予習：自らの人格の変化･成長について振り返る 授業：人格の形成過程②：学童期･老年期 復習：配付資料を見直す
10	依田 尚也	【第 10 回】 予習：他者の人格を測る方法についてイメージする 授業：人格の測定①：質問紙法 復習：配付資料を見直す

11	依田　尚也	【第 11 回】 予習：『投映』という言葉の意味について調べておく 授業：人格の測定②：投映法 復習：配付資料を見直す
12	依田　尚也	【第 12 回】 予習：絵を描くことで何が表現されうるのか振り返っておく 授業：人格の測定③：描画法 復習：配付資料を見直す
13	依田　尚也	【第 13 回】 予習：自分の人格の健康な部分とそうでない部分について省みる 授業：人格と病理：パーソナリティ障害 復習：配付資料を見直す
14	依田　尚也	【第 14 回】 予習：『男らしさ』『女らしさ』について自分が抱いているイメージを整理しておく 授業：人格と性別 復習：配付資料を見直す
15	依田　尚也	【第 15 回】 予習：これまでの授業の疑問点を整理する 授業：感情と人格の関わり 復習：期末レポートを作成する

授業開始前学習	特に必要ない。
授業内課題のフィードバックの方法	授業後に寄せられた感想や疑問に対しては、次回以降の授業の中で適宜回答する。
テキスト・教材	適宜、講義内にて資料を配布する。
参考書	『やわらかアカデミズム・＜わかる＞シリーズ　よくわかるパーソナリティ心理学』（ミネルヴァ書房）
評価の基準と方法	授業の取り組み状況（60 点）と期末レポート課題（40 点）をもとに総合的に評価をする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		◎	○		

関連科目	
その他	講義順序が一部変更となる場合がある。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	心理臨床の実務経験あり。臨床現場において質問紙法や投映法を用いてクライエントの感情・人格にアプローチした経験も踏まえ、講義を行う。

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-221 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	130-331-12（Ｊ）	授業コード	FF0240
科目名称	神経･生理心理学			単位数	2.0 単位
英文名称	Neuro- and Physiological Psychology			授業区分	講義
科目責任者	玉木 宗久			必修･選択	履修ガイド参照
担当教員	玉木 宗久			開講時期	2･3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	脳の損傷によって生じる高次脳機能障害の多様な様相を学びながら，心をつくりだしている脳の構造と機能についての理解を深めると共に、近年、著しい進歩を遂げている脳科学の知見を取り上げながら、神経心理学の現状と課題について議論することを目的とする。 なお、各障害の特性については、可能な範囲で疑似体験等を行いながら、体験的に理解できるようする。				
到達目標	高次脳機能障害、及び脳の構造と機能の関係に関する基礎的な知識を習得する。				

アクティブ･ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	玉木 宗久	【第１回】 予習：テキストｐ1-６の確認 授業：オリエンテーション（授業、評価方法等について／神経心理学とは） 復習：テキストｐ1-６の確認
2	玉木 宗久	【第２回】 予習：テキストｐ６-１３の確認 授業：神経心理学の歴史 復習：テキストｐ６-１３の確認
3	玉木 宗久	【第３回】 予習：テキストｐ１４-３７の確認 授業：脳の解剖学的基礎と計測法 復習：テキストｐ１４-３７の確認
4	玉木 宗久	【第４回】 予習：テキストｐ４７-５２の確認 授業：視覚の障害（失認を中心に） 復習：テキストｐ４７-５２の確認
5	玉木 宗久	【第５回】 予習：テキストｐ５３-５８の確認 授業：注意の障害（半側空間無視を中心に） 復習：テキストｐ５３-５８の確認
6	玉木 宗久	【第６回】 予習：テキストｐ５８-６５の確認 授業：記憶の障害（健忘症を中心に） 復習：テキストｐ５８-６５の確認
7	玉木 宗久	【第７回】 予習：テキストｐ６５-７２の確認 授業：行為の障害（失行症を中心に） 復習：テキストｐ６５-７２の確認
8	玉木 宗久	【第８回】 予習：テキストｐ７２-７７の確認 授業：言語の障害（失語症を中心に） 復習：テキストｐ７２-７７の確認
9	玉木 宗久	【第９回】 予習：テキストｐ９５-１０２の確認 授業：発達障害 復習：テキストｐ９５-１０２の確認
10	玉木 宗久	【第 10 回】 予習：テキストｐ１０２-１０８の確認 授業：学習障害（ＬＤ） 復習：テキストｐ１０２-１０８の確認

11	玉木　宗久	【第 11 回】 予習：テキストｐ１０８-１１３の確認 授業：注意欠如多動症（ＡＤＨＤ） 復習：テキストｐ１０８-１１３の確認
12	玉木　宗久	【第 12 回】 予習：テキストｐ９５-１１３の確認 授業：自閉症スペクトラム症（ＡＳＤ） 復習：テキストｐ９５-１１３の確認
13	玉木　宗久	【13 回】 予習：テキストｐ７７-８２、９１-９２の確認 授業：実行機能の障害／社会性の障害 復習：テキストｐ７７-８２、９１-９２の確認
14	玉木　宗久	【第 13 回】 予習：テキストｐ８２-９４、１１４－１１９の確認 授業：半球間離断症候群／認知症 復習：テキストｐ８２-９４、１１４－１１９の確認
15	玉木　宗久	【第 15 回】 予習：テキストｐ１２４－１５５の確認 授業：アセスメントと支援／新しい障害観／まとめ 復習：テキストｐ１－１５５の確認（必要があるところ）

授業開始前学習	認知（心理学）の基礎を学習しておくと授業が理解しやすい。
授業内課題のフィードバックの方法	授業内の課題としては、各授業後に感想を書いてもらう。感想の中で出てきた疑問や質問に対しては、授業の中で説明を加えるようにする。
テキスト・教材	テキスト　柴崎光世・橋本優花里（2021）『手を動かしながら学ぶ神経心理学』朝倉書店（東京）
参考書	河内十郎　著　（2013）『神経心理学ー高次脳機能研究の現状と課題ー』培風館（東京） ※以前授業のテキストとして使っていた本です. その他の資料　適宜、補足資料を配付する
評価の基準と方法	課題レポートの成績で評価を行う。単位修得には試験粗点で 60%以上の得点をとることが必要である。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		◎	○		

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	発達障害等の障害のある児童生徒への教育相談、及び学校コンサルテーションの実務経験があり、 現在も公認心理師、特別支援教育スーパーバイザーとして、それらの活動に従事している。 また、研究においては、NIRS、MRI、脳波、アイトラッキング等による生理指標計測を実施してきた。 また、神経心理学のアセスメント尺度（遂行機能に関わるもの）の開発にも従事している。 これらの経験を生かし、高次脳機能障害及び脳の構造と機能に関する基礎的な知識について講義を行う。

科目分類（2025年～入学者）	PS-M-221	科目分類（～2024年入学者）	130-331-12	授業コード	FF0250
科目名称	社会･集団心理学(社会･集団･家族心理学Ⅰ)			単位数	2.0単位
英文名称	Social, Group and Family Psychology Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	永房 典之			必修･選択	履修ガイド参照
担当教員	永房 典之			開講時期	2･3年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	本授業では、「社会･集団」の心理をテーマに、心理学のなかでも「個人」から「集団」の心理まできわめて広範囲な心理的事象を研究対象とする社会心理学の基礎を概観する。 個人の心理とは「自己」に関連する心理、集団の心理とは、家庭における「家族」、学校･職場といった「組織」、災害時などの「集合行動」、国によって異なる「文化」の心理などである。 このような個人と集団の心理について、対人関係並びに集団における人の意識及び行動についての心の過程、人の態度及び行動、集団及び文化が個人に及ぼす影響を取り上げる。				
到達目標	社会心理学の研究対象に社会･文化、組織･集団、対人関係、個人（自己）の心理があることがわかる。 社会心理学における「社会･文化」、「集団･組織」、「対人関係」の中での個人と他者との相互作用や影響に関わる基礎概念や理論を学び、研究対象ごとに社会的行動のメカニズムを説明でき、自分の考えを明確にできる。				
アクティブ･ラーニング型授業	無	全授業回数	15回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	永房 典之	【第１回】 予習 ： 第１章（テキスト１頁－１８頁）の通読 授業 ：「社会心理学の成立とその独自性」（テキスト１頁－１８頁） 復習 ： 社会心理学における歴史と心理学の中での独自性の確認
2	永房 典之	【第２回】 予習 ： 第２章（テキスト１９頁－４０頁）の通読 授業 ：「社会の見方」（テキスト１９頁－４０頁） 復習 ： 社会的知覚、対人認知の研究の確認
3	永房 典之	【第３回】 予習 ： 第３章（テキスト４１頁－５６頁）の通読 授業 ：「行動の結果と原因についての認知」（テキスト４１頁－５６頁） 復習 ： 社会的認知の概念と原因帰属の研究の確認
4	永房 典之	【第４回】 予習 ： 第４章（テキスト５７頁－７４頁）の通読 授業 ：「個人に特有な行動の一貫性」（テキスト５７頁－７４頁） 復習 ： パーソナリティ認知の概念と研究の確認
5	永房 典之	【第５回】 予習 ： 第５章（テキスト７５頁－７８頁）の通読 授業 ：「自己の見方１（自己意識、自己概念）」（テキスト７５頁－７８頁） 復習 ： 社会心理学における自己意識、自己概念の研究の確認
6	永房 典之	【第６回】 予習 ： 第５章（テキスト７９頁－９０頁）の通読 授業 ：「自己の見方２（自尊心、自己呈示、自己開示）」（テキスト７９頁－９０頁） 復習 ： 社会心理学における自尊心、自己呈示、自己開示の研究の確認
7	永房 典之	【第７回】 予習 ： 第６章（テキスト９１頁－１１０頁）の通読 授業 ：「対人関係の親密化と悩ましさのメカニズム」（テキスト９１頁－１１０頁） 復習 ： 対人魅力と親密な関係の研究の確認
8	永房 典之	【第８回】 予習 ： 第７章（テキスト１１１頁－１２８頁）の通読 授業 ：「他者への攻撃」（テキスト１１１頁－１２８頁） 復習 ： 攻撃行動と反社会的行動の研究の確認
9	永房 典之	【第９回】 予習 ： 第８章（テキスト１２９頁－１４４頁）の通読 授業 ：「他者への援助」（テキスト１２９頁－１４４頁） 復習 ： 援助行動と向社会的行動の研究の確認
10	永房 典之	【第10回】 予習 ： 第９章（テキスト１４５頁－１６２頁）の通読 授業 ：「人との関わり方」（テキスト１４５頁－１６２頁） 復習 ： コミュニケーション、ソーシャルスキル、セルフ･モニタリングの研究の確認

11	永房　典之	【第 11 回】 予習：　第１０章（テキスト１６３頁－１５７頁）の通読 授業：　「集団とリーダーシップ」（テキスト１６３頁－１５７頁） 復習：　集団、リーダーシップ研究の確認
12	永房　典之	【第 12 回】 予習：　第１１章（テキスト１８５頁－２０４頁）の通読 授業：「他者への影響力」（テキスト１８５頁－２０４頁） 復習：　同調行動、権威への服従の研究の確認
13	永房　典之	【第 13 回】 予習：　第１２章（テキスト２０５頁－２２２頁）の通読 授業：「不特定多数の人々の関わりあい －集合行動のしくみ－」（テキスト２０５頁－２２２頁） 復習：　集合行動、流行、世論、流言、パニック研究の確認
14	永房　典之	【第 14 回】 予習：　第１３章（テキスト２２３頁－２４７頁）の通読 授業：「文化と人」　（テキスト２２３頁－２４７頁） 復習：　異文化比較、文化的自己観、集団主義・個人主義の研究の確認
15	永房　典之	【第 15 回】 予習：　授業で学んだことの総復習　（テキスト１頁?２１８頁） 授業：　社会・集団心理学の総括（学習成果の確認・到達度アセスメント） 復習：　社会心理学の研究から自己、対人関係、集団、文化の心理を考察

授業開始前学習	心理学の概論書などを読み、心理学の基礎知識があることが望ましい。受講生自ら、日常生活の心理や社会の心理、自分らしさ、人間関係、集団、社会のあり方、文化に関心をもって講義に参加してほしい。
授業内課題のフィードバックの方法	リアクションペーパーについては次回の授業回、心理テストは実施後の当該または次回の授業回、学習成果の確認テストについては当該授業回または遠隔教育ツールにて解説を行う。
テキスト・教材	中里至正・松井洋・中村真（編著）『新・社会心理学の基礎と展開』（八千代出版）　２０１４年発行 ２，４００円＋税
参考書	授業の中で推薦図書を紹介する。
評価の基準と方法	学習成果の確認テスト（６０点）、平常点（授業態度・リアクションペーパー・心理テストへの参加：４０点）によって総合的に評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○	△	◎	○		

関連科目	「対人関係論」で紹介される研究とは、応用・理論的背景において密接な関連がある。
その他	通常の講義形式である。 理解や関心を高める資料を配布し、社会心理学の体験実習として心理テストも実施する。 授業資料の取り扱いについては授業中に指示する。 授業中は、私語を慎み、携帯電話の扱いに注意すること。 社会心理学は、心理学のなかでも対象範囲が広く（個人から集団まで）、身近な社会現象・対人行動に積極的な問題意識をもって臨んでほしい。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-111 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	130-331-12 （Ｊ）	授業コード	FF0260
科目名称	☆家族心理学(社会･集団･家族心理学Ⅰ)／家族心理学(社会･集団･家族心理学Ⅱ)			単位数	2.0 単位
英文名称	Family Psychology （Social, Group and Family Psychology Ⅰ)／Social, Group and Family Psychology Ⅱ			授業区分	講義
科目責任者	田中 教仁			必修･選択	履修ガイド参照
担当教員	田中 教仁			開講時期	1･2･3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 10:40～12:10 木曜日 10:40～12:10 後期 火曜日 11:00～12:10 火曜日 14:40～16:40			研究室	10-719
授業概要	昨今、家族を巡っては、晩婚化、少子高齢化、核家族化等が指摘されるが、ほかにも児童虐待や DV、離婚と父母の不和に伴う子どもの問題等、家族や家庭が抱える問題がある。また、非行の背景に、家庭の機能不全や家族間の葛藤が生じていることもある。 それぞれに存在する家族について、家族心理学を柱としながら法律学、社会学等の多様な視点からも光を当て、社会とのかかわりや個人にとっての意味を考察していく。特に個人の発達課題とともに、家族も成長と変化を遂げるという家族ライフサイクル論を中心とした上で，家族間のコミュニケーションにも触れながら、家族支援の理論と臨床的問題に関する授業を行う。				
到達目標	家族をシステム的及び力動的に理解する視点を学び，家族のライフサイクルとその中で生じる多様な問題について理解を深める。また，家族関係において生じる諸問題について、概要と支援方法を学ぶ。				
アクティブ･ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	田中 教仁	予習 ：最近 1 箇月にあった家族に関するニュースや報道について調べる。 授業 ：イントロダクション（家族と社会を知る意義、家族を取り巻く状況） 復習 ：参考図書や配布資料を閲読する。
2	田中 教仁	予習 ：民法（家族法）を眺めてくる。 授業 ：家族の定義（家族の様々な定義、戸籍制度と民法から見た家族等） 復習 ：授業の内容を踏まえ、改めて民法や家事事件手続法等の法律を確認する。
3	田中 教仁	予習 ：配布資料を閲読する。 授業 ：家族の特徴を理解するための鍵概念①（ジェノグラム） 復習 ：ジェノグラムに関する資料等を確認する。
4	田中 教仁	予習 ：配布資料を閲読する。 授業 ：家族の特徴を理解するための鍵概念②（家族の構造を中心に） 復習 ：参考図書や配布資料を閲読する。
5	田中 教仁	予習 ：配布資料を閲読する。 授業 ：家族の特徴を理解するための鍵概念③（家族の機能－コミュニケーションを中心に） 復習 ：参考図書や配布資料を閲読する。
6	田中 教仁	予習 ：配布資料を閲読する。 授業 ：家族の特徴を理解するための鍵概念④（家族の発達的側面と家族ライフサイクル論） 復習 ：第 3 回から第 6 回までの内容（鍵概念）をまとめる。
7	田中 教仁	予習 ：配布資料を閲読する。 授業 ：家族のライフサイクル(配偶者選択から結婚へ) 復習 ：アサーションについて振り返り学習を行う。
8	田中 教仁	予習 ：男女共同参画白書等を閲読する。 授業 ：家族のライフサイクル(新婚期の夫婦) 復習 ：授業内に行ったワーク（ペアワーク等）を振り返り、まとめる。
9	田中 教仁	予習 ：出産、育児をめぐる社会問題について調べる。 授業 ：家族のライフサイクル(子どもの出生と育児の段階) 復習 ：授業内に検討した課題について、さらに調べる。
10	田中 教仁	予習 ：児童期･青年期の子どもがいる家族が抱える問題について調べる。 授業 ：家族のライフサイクル(児童期･青年期の子どもとその家族) 復習 ：参考図書や配布資料を閲読する。
11	田中 教仁	予習 ：配布資料を閲読する。 授業 ：家族のライフサイクル（中年期の夫婦） 復習 ：授業内に行った事例研究の問題をまとめる。
12	田中 教仁	予習 ：高齢者を取り巻く家族問題について調べる。 授業 ：家族のライフサイクル(老年期の家族) 復習 ：参考図書や配布資料を閲読する。

13	田中　教仁	予習　：最近の児童虐待に関するニュースや記事を調べる。 授業　：家族が直面する問題①（児童虐待） 復習　：参考図書や配布資料を閲読する。
14	田中　教仁	予習　：配布資料を閲読する。 授業　：家族が直面する問題②（DV をはじめとする家庭内における暴力） 復習　：DV の加害と被害の概要についてまとめる。
15	田中　教仁	予習　：配布資料を閲読する。 授業　：家族が直面する問題③（親の離婚と子どもをめぐる問題） 復習　：参考図書や配布資料を閲読する。

授業開始前学習	家族が直面する問題や家族に関する法制度等に関するニュース、インターネット記事等に関心を持っておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	小レポート等やリアクションペーパーの内容は、次講の冒頭に解説等を行う。
テキスト・教材	適宜、講義内にて資料を配布する。 テキストは特に指定しないが，中釜洋子ほか著『家族心理学』（有斐閣ブックス）を購入しておくのが望ましい。
参考書	
評価の基準と方法	所定の出席回数を踏まえたうえで、レポート課題により 60%、授業で指示する課題（小レポート等）による 40%の配分で総合的に評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○	△	◎	○		

関連科目	
その他	授業内に実施するワーク（個人・ペア・グループ）に積極的に臨むことが求められる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	家庭裁判所調査官として家庭事件の実務経験がある。これらの経験を踏まえて、適宜、事例を紹介しながら講義を行う。

科目分類（2025年～入学者）	PS-M-221	科目分類（～2024年入学者）	130-331-12	授業コード	FF0270
科目名称	発達心理学Ⅰ			単位数	2.0単位
英文名称	Developmental Psychology Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	奥野 真之			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	奥野 真之			開講時期	2・3年
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10 後期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10			研究室	10-713
授業概要	生涯にわたる人間の発達を身体的・心理的・社会的な観点からとらえ、その過程における基本的かつ重要な発達心理学上の知見について講義形式で解説する。中でも特に、乳児期から青年期に至るまでの事柄を中心的に取り上げる。				
到達目標	主に乳幼児期から青年期にかけての身体的・心理的・社会的な発達に関する基礎的な知識を習得する。 自身や他者の発達について、心理学的な視点からとらえて思考する能力を身につける。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	奥野 真之	予習 ：発達心理学について書籍やネットを利用して調べる 授業 ：発達心理学が扱う「発達」とは何か 復習 ：自身が発達心理学を学ぶ目的や意義について振り返る
2	奥野 真之	予習 ：教科書の該当箇所（p.1-22）の講読と疑問点の抽出 授業 ：乳児期Ⅰ：乳児が感じる世界 復習 ：乳児期における認知の特徴と発達、乳児相手の調査方法について整理する
3	奥野 真之	予習 ：教科書の該当箇所（p.23-46）の講読と疑問点の抽出 授業 ：乳児期Ⅱ：他者とのかかわり 復習 ：愛着（アタッチメント）や、共同注意の発達について整理する
4	奥野 真之	予習 ：教科書の該当箇所（p.47-68）の講読と疑問点の抽出 授業 ：幼児期Ⅰ：今、ここの世界からイメージとことばの世界へ 復習 ：表象の操作能力の発達について整理する
5	奥野 真之	予習 ：教科書の該当箇所（p.69-87）の講読と疑問点の抽出 授業 ：幼児期Ⅱ：自己の育ちと他者との関係 復習 ：幼児期における自己の発達や、個性について整理する
6	奥野 真之	予習 ：第1～5回の内容について復習する（教科書 p.1-87） 授業 ：小テスト1（第1～5回の範囲）の実施と解説 復習 ：小テストの問題を見直し、復習する
7	奥野 真之	予習 ：教科書の該当箇所（p.88-96）の講読と疑問点の抽出 授業 ：児童期Ⅰ：論理的思考のはじまり 復習 ：具体的操作期の特徴について整理する
8	奥野 真之	予習 ：教科書の該当箇所（p.97-109）の講読と疑問点の抽出 授業 ：児童期Ⅱ：現実を超えた思考のはじまり 復習 ：形式的操作期の特徴や、最近接発達領域について整理する
9	奥野 真之	予習 ：教科書の該当箇所（p.110-129）の講読と疑問点の抽出 授業 ：児童期Ⅲ：社会性の発達 復習 ：児童期における自己概念の発達、道徳性と向社会性の発達について整理する
10	奥野 真之	予習 ：教科書の該当箇所（p.130-138）の講読と疑問点の抽出 授業 ：青年期Ⅰ：自分らしさへの気づき 復習 ：第二次性徴や、アイデンティティについて整理する
11	奥野 真之	予習 ：教科書の該当箇所（p.138-150）の講読と疑問点の抽出 授業 ：青年期Ⅱ：アイデンティティの確立へ向かって 復習 ：アイデンティティ・ステイタスについて整理する
12	奥野 真之	予習 ：教科書の該当箇所（p.151-168）の講読と疑問点の抽出 授業 ：青年期Ⅲ：他者を通して自分を見る 復習 ：人間関係の発達や青年期の問題行動について整理する
13	奥野 真之	予習 ：第7～12回の内容について復習する（教科書 p.88-168） 授業 ：小テスト2（第7～12回の範囲）の実施と解説 復習 ：小テストの問題を見直し、復習する
14	奥野 真之	予習 ：教科書の該当箇所（p.169-192）の講読と疑問点の抽出 授業 ：成人期：人生の成熟とライフイベント 復習 ：成人期に起こる出来事と、体や心の変化について整理する

15	奥野　真之	予習　：教科書の該当箇所（p.214-233）の講読と疑問点の抽出 授業　：文化と発達：発達と文化の多様性 復習　：ＩＲＥ構造、実践の中での学習について整理する

授業開始前学習	発達心理学や保育に関する入門書や雑誌記事等に目を通しておくことをすすめる。
授業内課題のフィードバックの方法	課題に対する補足や解説といったフィードバックは授業時間内に行う。
テキスト・教材	藤村宣之（編著）『発達心理学：周りの世界とかかわりあいながら人はいかに育つか』［第２版］（ミネルヴァ書房） ※初版と第２版ではページ数等の細かな部分で違いがあるため、購入の際は注意してほしい。
参考書	授業の進行に合わせて参考文献を紹介する。
評価の基準と方法	小テスト 15%×２回、授業中および授業後の課題提出 50%、レポート課題 20%の配分で評価する。 単位取得には、全体の３分の２以上の出席と、レポート課題の提出が必要となる。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		◎	○		

関連科目	
その他	教科書を用いた予習や復習が重要となるため、授業の開始時期にあわせて忘れずに購入してほしい。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-221 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	130-331-12 （J）	授業コード	FF0280
科目名称	発達心理学Ⅱ(高齢者心理学)			単位数	2.0 単位
英文名称	Developmental PsychologyⅡ			授業区分	講義
科目責任者	松永 博子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松永 博子			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	本講義では、生涯発達の視点から老化を理解し、老化に伴う心理機能や身体機能の変化の特徴についての基礎的知識を習得するとともに、高齢者の社会的援助に対する心理社会的な視点を持つことを狙いとする。具体的には、高齢者特有の身体的な問題は、心理的な側面への影響が大きいため、加齢に伴う身体機能の変化や疾病が心理機能にもたらす影響について学ぶ（認知症等）。また、高齢者に至る経緯について自分自身もまたなりうるということを自覚し、主体的に自身の人生に取り組むための素養を養う。				
到達目標	本講義の目標は、心身の構造や機能及び発達段階とその課題について理解し、高齢期の心理的特徴のみならず身体的・社会的側面を含めて統合的に捉えるための知識を身につけることである。高齢期には、加齢による心身機能の変化に加え、障害による影響などによってその状態は異なり、個別的な課題が生じやすい。それぞれの高齢者に合わせた対応や支援を考えることが望ましい。障害への支援という点のみならず、生涯発達の段階で如何に予防していくか、についても取り組む。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	松永 博子	【第 1 回】ガイダンス 予習：高齢者心理学について、学びたいこと・知りたいことを整理する 授業：高齢者および高齢者に関する社会的状況の基礎知識、平均寿命、健康寿命 復習：配布資料を見直す
2	松永 博子	【第 2 回】エイジズム 予習：前回の授業内で指示する 授業：高齢者に対するイメージ、個別ワーク（尺度） 復習：配布資料を見直す
3	松永 博子	【第 3 回】発達と老化(1) 予習：前回の授業内で指示する 授業：発達と発達課題、老化の概念、加齢のメカニズム、サクセスフル・エイジング 復習：配布資料を見直す
4	松永 博子	【第 4 回】発達と老化（2） 予習：前回の授業内で指示する 授業：生涯発達・加齢理論(離脱理論、活動理論、SOC、SST)、高齢者の多様性 復習：配布資料を見直す
5	松永 博子	【第 5 回】パーソナリティと適応 予習：前回の授業内で指示する 授業：高齢期のパーソナリティ、情動・感情（幸福感)、心理的適応 復習：配布資料を見直す
6	松永 博子	【第 6 回】心理機能の変化（1） 予習：前回の授業内で指示する 授業：心理的ウェルビーイング、エイジラングパラドクス、感覚機能の変化とその影響 復習：配布資料を見直す
7	松永 博子	【第 7 回】心理機能の変化(2) 予習：前回の授業内で指示する 授業：認知情報処理(注意、記憶)(ディスカッション) 復習：配布資料を見直す
8	松永 博子	【第 8 回】知能の変化 予習：前回の授業内で指示する 授業：知的機能、日常知能、言語能力、知恵(英知)の加齢変化 ＊グループワークの実施について検討する 復習：配布資料を見直す
9	松永 博子	【第 9 回】認知症(1) 予習：前回の授業内で指示する 授業：ドキュメンタリー視聴＆ワーク 復習：配布資料を見直す
10	松永 博子	【第 10 回】認知症（2） 予習：前回の授業内で指示する 授業：ドキュメンタリー視聴＆ワーク 復習：配布資料を見直す

11	松永　博子	【第 11 回】認知症（3） 予習：前回の授業内で指示する 授業：認知症について医学的説明・若年性認知症 復習：配布資料を見直す
12	松永　博子	【第 12 回】老いの自覚 予習：前回の授業内で指示する 授業：老性自覚、ストレス、うつ、孤独感、自己実現と生きがい 復習：配布資料を見直す
13	松永　博子	【第 13 回】終末期と死 予習：前回の授業内で指示する 授業：高齢期の死、死別、悲嘆のプロセス、スピリチュアリティ 復習：配布資料を見直す
14	松永　博子	【第 14 回】グループワークもしくは個別ワーク 予習：前回の授業内で指示する 授業：発表の準備（グループワークもしくは個別ワーク） ＊グループワークに実施について生徒達と協議する 復習：配布資料を見直す
15	松永　博子	【第 15 回】グループもしくは個別ワーク発表 予習：発表の準備 授業：発表、授業全体のまとめ（プレゼンテーション） 復習：配布資料を見直す

授業開始前学習	毎回の授業内容や配布資料について復習し、日常生活で高齢者と接する機会があれば、授業で得た知識をもとに高齢者心理学的な視点を生かして関わることができると望ましい。
授業内課題のフィードバックの方法	授業内のプレゼンには講評を行い、翌週の講義の際に補足説明及び質疑応答を行う。ワークについても授業内で講評を行うと共に、個別の質問に回答する（小レポートはポータルサイト及びメール等にて提出）。
テキスト・教材	ポータルサイトを通じて、毎回資料を配布する。 授業開始前までに、ダウンロードし、予習・復習に活用してほしい。
参考書	必要に応じて、適宜紹介する。
評価の基準と方法	授業参加の積極度および授業内の小レポート（50%）、ワーク（25×2=50%）により評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	◎	○		

関連科目	
その他	ポータルサイトを通じて、毎回の授業で参考資料を配布する。予習・復習を兼ねて、次回の授業までにすべての配布資料を読んでおくこと。また、ダウンロードした資料は PC 等に本講座のファイルホルダーを設置し、わからなくならないよう格納しておくこと。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	東京都健康長寿医療センター研究所　社会参加とヘルシーエイジング研究チームの研究員として高齢者の就労支援に関する研究を行っております。サクセスフル・エイジングや認知症について、自殺対策についてなどは、実際に行っている研究について皆さんに情報提供したいと考えています。

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-221	科目分類（～2024 年入学者）	130-331-12	授業コード	FF0290
科目名称	障害者･障害児心理学			単位数	2.0 単位
英文名称	Psychology for Adults & Children with Disabilities			授業区分	講義
科目責任者	河合　美千代			必修･選択	履修ガイド参照
担当教員	河合　美千代			開講時期	2･3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	身体障害、知的障害及び精神障害などの概要を理解し、障害者･障害児の心理社会的課題から必要な支援、支援の実際などについて概説する。また、福祉現場あるいは身近な事案などを用いた課題等に取り組むことで理解を深める。 ※グループワークで他者の考えを傾聴する態度を学ぶとともに、事案についてより深く考えることをめざします。				
到達目標	障害の特性などを理解し、適切な支援の実施、必要な支援につなげることができるようになるために、障害者･障害児を取り巻く心理社会的課題や社会資源の内容や機能を理解する。				
アクティブ･ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	河合　美千代	【第 1 回】 予習：自分の持つ権利について調べる 授業：人間の持つ権利と障害者　（グループワーク） 復習：自分の持つ権利と障害者が持つ権利について考える
2	河合　美千代	【第 2 回】 予習：障害の概念について調べる 授業：障害の概念（グループワーク） 復習：障害の概念についてまとめる
3	河合　美千代	【第 3 回】 予習：身体障害について調べる 授業：身体障害（グループワーク） 復習：身体障害についてまとめる
4	河合　美千代	【第 4 回】 予習：精神障害について調べる 授業：精神障害（グループワーク） 復習：精神障害についてまとめる
5	河合　美千代	【第 5 回】 予習：知的障害について調べる 授業：知的障害（グループワーク） 復習：知的障害についてまとめる
6	河合　美千代	【第 6 回】 予習：発達障害（自閉症、アスペルガー症候群など）について調べる 授業：発達障害（自閉症、アスペルガー症候群など）（グループワーク） 復習：発達障害（自閉症、アスペルガー症候群など）についてまとめる
7	河合　美千代	【第 7 回】 予習：発達障害（学習障害、注意欠陥･多動性障害など）について調べる 授業：発達障害（学習障害、注意欠陥･多動性障害など）（グループワーク） 復習：発達障害（学習障害、注意欠陥･多動性障害など）についてまとめる
8	河合　美千代	【第 8 回】 予習：自分のコミュニケーションの特徴をまとめる 授業：社会的コミュニケーション障害　（グループワーク） 復習：社会的コミュニケーション障害についてまとめる
9	河合　美千代	【第 9 回】 予習：自分の得意な家事と苦手な家事についてまとめる 授業：ためこみ症の人への理解と支援 復習：生物･心理･社会モデルについてまとめる
10	河合　美千代	【第 10 回】 予習：障害者虐待について調べる 授業：障害者虐待（グループワーク） 復習：障害者虐待についてまとめる
11	河合　美千代	【第 11 回】 予習：自分が何かを決めるときのプロセスを一つ書く 授業：意思決定支援　（グループワーク） 復習：意思決定の支援をするときの注意点についてまとめる

12	河合　美千代	【第 12 回】 予習：家族の機能について調べる 授業：家族支援　（グループワーク） 復習：家族にとっての危機の意義についてまとめる
13	河合　美千代	【第 13 回】 予習：成年後見制度について調べる 授業：成年後見制度の概要と課題 復習：成年後見制度についてまとめる
14	河合　美千代	【第 14 回】 予習：身近な法律・制度について調べる 授業：障害者に関わる法律、制度（グループワーク） 復習：障害者にかかわる法律・制度についてまとめる
15	河合　美千代	【第 15 回】 予習：障害を持った場合に受けれるサービス、機関と専門職などについて調べる 授業：障害者福祉サービスと関わる機関や専門職（グループワーク） 復習：障害者に関わるサービス、機関と専門職の役割についてまとめる

授業開始前学習	各回のテーマに関して、新聞やテレビ、書籍などから情報収集をし、自分の生活にテーマを引き付けて考えておくことを勧める。
授業内課題のフィードバックの方法	提出する 2 回のレポート（A41 枚以内）については、2 週間後をめどに全体の講評を行い、個別の質問に回答する。
テキスト・教材	小澤温編『よくわかる障害者福祉　第 7 版』（ミネルヴァ書房）
参考書	
評価の基準と方法	小テストまたはミニワーク（40%）、レポート（60%）で評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎	○	○			

関連科目	特になし
その他	特になし
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-221	科目分類（～2024 年入学者）	130-330-12	授業コード	FF0300
科目名称	比較行動学			単位数	2.0 単位
英文名称	Ethology			授業区分	講義
科目責任者	石島　このみ			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	石島　このみ			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	比較行動学とは，ヒトとヒト以外の動物の行動を比較することで，ヒトの動物としての独自性・ヒトの他の動物との共通性を確認し，その存在の特性を理解することを目指す学問領域である。本講義では，行動の発現のしくみ，生存上の機能，発達，進化などを扱う比較行動学の見方を概説するとともに，その関連領域についても紹介していく。それを通じて，我々ヒトがどのような霊長類であるのかについて理解を深めることを狙いとする。				
到達目標	●ヒトとヒト以外の動物の行動を比較することで，我々ヒトがどのような動物（霊長類）であるのかを理解する ●比較行動学的なモノの見方を習得し，それを適用しながら現代のヒトの社会における諸問題について考察する力を身につける				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	石島　このみ	【第 1 回】 予習：シラバスを読み，質問を考えておく 授業：比較行動学とは 復習：【第 1 回】配布プリントの確認
2	石島　このみ	【第 2 回】 予習：「Tinbergen の 4 つのなぜ」について調べる 授業：Tinbergen の 4 つの問い 復習：【第 2 回】配布プリントの確認
3	石島　このみ	【第 3 回】 予習：Tinbergen の 4 つの問いにおける「至近要因」について確認する 授業：行動の因果 復習：【第 3 回】配布プリントの確認
4	石島　このみ	【第 4 回】 予習：Tinbergen の 4 つの問いにおける「究極要因」について確認する 授業：行動の機能 復習：【第 4 回】配布プリントの確認
5	石島　このみ	【第 5 回】 予習：Tinbergen の 4 つの問いにおける「発達要因」について確認する 授業：行動の発達 復習：【第 5 回】配布プリントの確認
6	石島　このみ	【第 6 回】 予習：Tinbergen の 4 つの問いにおける「系統進化要因」について確認する 授業：行動の進化 復習：【第 6 回】配布プリントの確認
7	石島　このみ	【第 7 回】 予習：ボノボ，チンパンジーにおける社会・行動について調べる 授業：霊長類の社会・行動 復習：【第 7 回】配布プリントの確認
8	石島　このみ	【第 8 回】 予習：「なわばり」について調べる 授業：空間と行動 復習：【第 8 回】配布プリントの確認
9	石島　このみ	【第 9 回】 予習：「性選択」について調べる 授業：性と行動 復習：【第 9 回】配布プリントの確認
10	石島　このみ	【第 10 回】 予習：ヒト以外の動物における子育てについて，関心があることを調べる 授業：子育て（1） 復習：【第 10 回】配布プリントの確認
11	石島　このみ	【第 11 回】 予習：ヒトにおける子育てについて，関心があることを調べる 授業：子育て（2） 復習：【第 11 回】配布プリントの確認

12	石島　このみ	【第 12 回】 予習：「心の理論」について調べる 授業：心の理論 復習：【第 12 回】配布プリントの確認
13	石島　このみ	【第 13 回】 予習：「儀式的闘争」について調べる 授業：攻撃性 復習：【第 13 回】配布プリントの確認
14	石島　このみ	【第 14 回】 予習：集団内あるいは集団間のコミュニケーションについて，関心があることを調べる 授業：集団とコミュニケーション 復習：【第 14 回】配布プリントの確認
15	石島　このみ	【第 15 回】 予習：【第 1 回】から【第 14 回】の内容の復習 授業：総括 復習：全配布プリントの確認

授業開始前学習	
授業内課題のフィードバックの方法	授業内課題として，毎回リアクションペーパーを課す。翌週の講義にて，リアクションペーパーにより得られた意見を紹介すると共に，質問に回答する。
テキスト・教材	スライド・配布資料
参考書	授業の中で適宜紹介する。
評価の基準と方法	リアクションペーパー（40%）と定期試験（60%）により評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		◎	○		

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-221 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	130-330-12（Ｊ）	授業コード	FF0310
科目名称	発達臨床			単位数	2.0 単位
英文名称	Developmental Clinical Psyhology			授業区分	講義
科目責任者	永房 典之			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	永房 典之			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	発達臨床における「子ども家庭支援の心理学」として、子育てにおける発達相談、現代社会の家庭や家族の理解と子育て支援をテーマに学ぶ。 また「発達障害」「児童虐待」「不登校」「いじめ」「非行」など、発達臨床における子どもや保護者の家庭支援、家族・親子関係について取り上げる。				
到達目標	生涯発達心理学における各発達段階が理解できる。 現代社会の子育て家庭と家族の問題がわかる。 発達障害や子育て支援について考えることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	永房 典之	【第１回】 予習 ： テキストの「まえがき」と「目次」と「本書の特徴と構成」の通読 授業 ：「発達臨床と子ども家庭支援の心理学」 （テキスト１頁－９頁） 復習 ：発達臨床における「子育て支援」の重要性を確認する
2	永房 典之	【第２回】 予習 ：１章（テキスト１０頁－１９頁）の通読 授業 ：「生涯発達の心理学と子ども家庭支援」 （テキスト１０頁－１９頁） 復習 ：生涯発達、子どもの愛着と大人の愛着、心理学と子ども家庭支援の確認、トピックス１「子ども家庭庁」の通読
3	永房 典之	【第３回】 予習 ：２章（テキスト２０頁－３１頁）の通読 授業 ：「胎児期・新生児期・乳児期・幼児期の発達と支援」 （テキスト２０頁－３１頁） 復習 ：胎児期・新生児期、乳児期（０歳児）、乳児期（1・2 歳児）、幼児期（３・４・５歳児）の確認、トピックス２「乳幼児健診と発達検査」の通読
4	永房 典之	【第４回】 予習 ： ３章（テキスト３２頁－４１頁）の通読 授業 ：「学童期・青年期の発達と支援」 （テキスト３２頁－４１頁） 復習 ： 学童期（小学生）、思春期（小学校高学年・中学生・高校生）、青年期の確認の確認、トピックス３「心理検査（知能検査、社会性検査）」の通読
5	永房 典之	【第５回】 予習 ： ４章（テキスト４２頁－５１頁）の通読 授業 ：「成人期・中年期・老年期（高齢期）の発達と支援」 （テキスト４２頁－５１頁） 復習 ： 成人期、中年期、老年期（高齢期）の確認、トピックス４「８０５０問題」の通読
6	永房 典之	【第６回】 予習 ： ５章（テキスト５２頁－６３頁）の通読 授業 ：「家族・家庭の意義と機能・支援 －家族・家庭とは、日本の家族の変遷、日本の少子化と少子化対策、出産・子育ての意識－」（テキスト５２頁－６３頁） 復習 ： 家族・家庭の意義と機能、家族・家庭への支援の確認、トピックス５「幸福感と主観的幸福感」の通読
7	永房 典之	【第７回】 予習 ： ６章（テキスト６４頁－７７頁）の通読 授業 ：「親子関係・家族関係の理解と支援 －親子関係、家族関係、家族システム、円環的因果律、家族のライフサイクル－」 （テキスト６４頁－７７頁） 復習 ： 親子関係・家族関係の理解、親子関係・家族関係への支援の確認、トピックス６「家族心理学と家族療法」の通読
8	永房 典之	【第８回】 予習 ： ７章（テキスト７８頁－８７頁）の通読 授業 ：「子育て経験と親としての育ちの理解と支援 －乳児・幼児の親と養育行動－」 （テキスト７８頁－８７頁） 復習 ： 親性の発達、親としての育ちの理解と支援の確認、トピックス７「親の脳と神経生理学」の通読
9	永房 典之	【第９回】 予習 ： ８章（テキスト８８頁－９７頁）の通読 授業 ：「子育ての社会的状況と支援（ライフコースと仕事・子育て） －女性のライフコース、ライフコースにおける子育てと仕事・キャリア、子育て期のワーク・ライフ・バランス」 （テキスト８８頁－９７頁） 復習 ： 子育ての社会的状況の理解、子育てと仕事の両立への支援の確認、トピックス８「産休育休・男性の子育て・孤立育児」の通読

10	永房　典之	【第 10 回】 予習　：　9章　（テキスト９８頁－１０９頁）の通読 授業　：「多様な家庭への理解と支援　－ひとり親家庭、育児サポートのない共働き家庭、育児不安の高い家庭－」　（テキスト９８頁－１０９頁） 復習　：　多様な家庭への理解、多様な家庭への支援の確認、トピックス９「里親家庭・LGBT 家庭」の通読
11	永房　典之	【第 11 回】 予習　：　１０章（テキスト１１０頁－１２３頁）の通読 授業　：「特別な配慮を要する家庭への理解と支援　－貧困家庭、児童虐待のある家庭、不適切な養育家庭、外国につながる家庭、医療的ケアが必要な家庭－」　（テキスト１１０頁－１２３頁） 復習　：　特別な配慮を要する家庭への理解、特別な配慮を要する家庭への支援の確認、トピックス１０「ヤングケアラーと保育者の子ども家庭支援」の通読
12	永房　典之	【第 12 回】 予習　：　１１章（テキスト１２４頁－１３９頁）の購読 授業　：「子どもの障害・発達障害への理解と支援　－身体障害、知的障害、自閉症スペクトラム障害（ASD）、注意欠如・多動性障害（AD/HD）、限局性学習障害（SLD）、トゥレット障害、発達性協調運動障害（DCD）、二次障害－」　（テキスト１２４頁－１３９頁） 復習　：　子どもの障害の種類と支援、発達障害への理解と支援、子どもの発達障害と保護者への子育て支援の確認、トピックス１１「発達障害児の療育」の通読
13	永房　典之	【第 13 回】 予習　：　１２章（テキスト１４０頁－１４９頁）の通読 授業　：「子どもの生活・生育環境とその影響・支援　－ 貧困、ＤＶ、児童虐待、不登校、いじめ、ひきこもり、子どもの犯罪・非行・問題行動－」（テキスト１４０頁－１４９頁） 復習　：　子どもの生活・生育環境とその影響、特別な配慮を要する子どもへの援助・支援の確認、トピックス１２「ACE s （小児期逆境体験）とレジリエンス」の通読
14	永房　典之	【第 14 回】 予習　：１３章（テキスト１５０頁－１６３頁）の通読 授業　：「精神保健・子どもの心の健康とその課題・支援　－不安障害・強迫性障害・PTSD・抑うつ・反応性愛着障害・脱抑制型対人交流障害・場面緘黙・夜尿症・吃音・チック－」　（テキスト１３０頁?１４１頁） 復習　：子どもの精神障害の種類、子どもの心の健康とその課題と支援の確認、トピックス１３「かかわりが難しい保護者とのコミュニケーション」の通読
15	永房　典之	【第 15 回】 予習　：テキスト（１章－１３章）、トピックス（１－１３）の確認 授業　：発達臨床の総括（学習成果の確認・到達度アセスメント） 復習　：乳児期から高齢期までの各発達段階の特徴を確認する。現代社会の子育て家庭の現状を確認する。発達臨床の専門を生かした子ども家庭支援（子どもと保護者への支援）について考える。

授業開始前学習	「発達心理学」または「生涯発達心理学」に関する本を読んで各年齢の発達段階を調べておくこと。 「保育」、「子育て」、「発達障害」、「児童虐待」、「不登校」、「いじめ」、「ひきこもり」、「非行」、「DV」に関する本を読んでおくことが望ましい。
授業内課題のフィードバックの方法	リアクションペーパーについては次回の授業回、心理テストについては実施後の当該または次回の授業回、学習成果の確認テストは当該授業回または遠隔教育ツールにて解説を行う。
テキスト・教材	永房典之（編著）『新・子ども家庭支援の心理学－発達・家族の理解と子育て支援－』 教育情報出版　２０２３年発行　２，０００円＋税
参考書	American Psychiatric Association（著）　日本精神神経学会（監修）　高橋三郎・大野裕（監訳）　『DSM-5 精神疾患の分類と診断の手引き』（医学書院）　２０１４年発行　４，５００円＋税
評価の基準と方法	学習成果の確認テスト（６０点）、平常点（授業態度・リアクションペーパー・心理テスト参加：４０点）によって総合的に評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		◎	○		

関連科目	「発達心理学」、「教育心理学」、「臨床心理学」が学べる科目と関連する。
その他	通常の講義形式である。 理解や関心を高める資料を配布する。 資料の取り扱いについては授業時に指示する。 授業中は、私語を慎み、携帯電話の扱いに注意すること。 子どものこころの問題、臨床発達心理学、特に乳幼児の心理や親子関係、発達障害に関心がある者の受講を歓迎する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	心理臨床の実務経験あり。学校のスクールカウンセラー、カウンセリングオフィスのほか、保育園・幼稚園、小学校、中学校、児童養護施設の現場で発達臨床を実践してきた経験を活かし、発達臨床に求められる知識・技能についての講義をする。

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-221	科目分類（～2024 年入学者）	130-330-12	授業コード	FF0320
科目名称	対人関係論			単位数	2.0 単位
英文名称	Interpersonal Relations			授業区分	講義
科目責任者	永房　典之			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	永房　典之			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	対人関係の研究の日常生活への応用、特に大学生など「若者の対人関係」について社会心理学的研究の成果と知見を学ぶ。本講義では、若者である大学生にとって身近な恋愛、友人関係、特に気になる就職活動、ダイエット、占い、ネットから犯罪・非行まで、豊富なトピックを題材に社会心理学の奥深さを知る。 心理メカニズムを明らかにするだけでなく、うまくいく恋愛、友人関係、内定を獲得する就職活動への対処法も取り上げ、単なる専門知識の獲得にとどまらない対人関係や自分自身へのライフデザイン実現への応用も視野に入れている。				
到達目標	対人関係の研究が私たちの身近な日常生活の問題と密接な関わりがあることが理解できる。 社会心理学のなかでも対人感情や対人関係に関わる研究を学ぶことで、社会心理学的な問題への意識を高め、自分自身の問題として、自分の感情コントロールや対人関係への対処を考えることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	永房　典之	【第１回】 予習　：　テキストの目次、はじめに（ｉ－viii１頁）の通読 授業　：社会心理学と若者の対人関係　（テキストｉ－viii頁） 復習　：テキストの「目次」、「はじめに」の確認
2	永房　典之	【第２回】 予習　：第１章（テキスト２頁－１５頁）の通読 授業　：「羞恥心と世間」　（テキスト２頁－１５頁） 復習　：世間、羞恥心に関する研究の確認、トピックの通読
3	永房　典之	【第３回】 予習　：第２章（テキスト１６頁－３１頁）の通読 授業　：「心のブレーキと少年犯罪」　（テキスト１６頁－３１頁） 復習　：恥意識、犯罪・非行抑制に関する研究の確認、トピックの通読
4	永房　典之	【第４回】 予習　：　第３章（テキスト３２頁－４５頁）の通読 授業　：「罪悪感とモラルの心理」　（テキスト３２頁－４５頁） 復習　：罪悪感に関する研究の確認、トピックの通読
5	永房　典之	【第５回】 予習　：第４章（テキスト４６頁－５９頁）の通読 授業　：「気まずい場の心理とその対処法」（テキスト４６頁－５９頁） 復習　：困惑、社会的相互作用に関する研究の確認、トピックの通読
6	永房　典之	【第６回】 予習　：第５章（テキスト６０頁－７５頁）の通読 授業　：「他者からの嫌われ感とその対処法」　（テキスト６０頁－７５頁） 復習　：自我漏洩感、社交不安障害に関する確認、トピックの通読
7	永房　典之	【第７回】 予習　：第６章（テキスト７６頁－９１頁）の通読 授業　：「嫉妬・妬みと他者との比較」　（テキスト７６頁－９１頁） 復習　：嫉妬と嫉みの違い、シャーロンフロイデに関する研究の確認、トピックの通読
8	永房　典之	【第８回】 予習　：第７章　（テキスト９２頁－１０５頁）の通読 授業　：「うまくいかない友人関係とその対処法」　（テキスト９２頁－１０５頁） 復習　：衡平理論、自己開示、社会的スキルに関する研究の確認、トピックの通読
9	永房　典之	【第９回】 予習　：　第８章（テキスト１０６頁－１１９頁）の通読 授業　：「他者を傷つけるこころと怒りの対処法」　（テキスト１０６頁－１１９頁） 復習　：攻撃行動、怒り、自己愛に関する研究の確認、トピックの通読
10	永房　典之	【第 10 回】 予習　：　第９章（テキスト１２０頁－１３３頁）の通読 授業　：「恋に落ちる心理と彼氏・彼女のつくり方」　（テキスト１２０頁－１３３頁） 復習　：対人魅力、親密な関係、進化心理学に関する研究の確認、トピックの通読

11	永房　典之	【第 11 回】 予習　：第１０章（テキスト１３４頁－１４７頁）の通読 授業　：「ダイエットとファッション、占い」　（テキスト１３４頁－１４７頁） 復習　：痩身願望、ボディ・イメージに関する研究の確認、トピックの通読
12	永房　典之	【第 12 回】 予習　：第１１章（テキスト１４８頁－１６１頁）の通読 授業　：「インターネットとコニュニケーション」　（テキスト１４８頁－１６１頁） 復習　：ＣＭＣ研究、対人不安に関する研究の確認、トピックの通読
13	永房　典之	【第 13 回】 予習　：第１２章（テキスト１６２頁－１７５頁）の通読 授業　：「内定のもらえる自己呈示と就職面接」　（テキスト１６２頁－１７５頁） 復習　：自己呈示、セルフ・モニタリングに関する研究の確認、トピックの通読
14	永房　典之	【第 14 回】 予習：トピックス（テキストの各章）と心理尺度と文献（テキスト１８２頁－２２７頁）の通読 授業　：社会的適応と自己・他者の心理　（テキスト１８２頁－２２７頁） 復習　：各章のトピックスと心理尺度の確認、関連文献の通読
15	永房　典之	【第 15 回】 予習　：テキスト（１頁－２２７頁）およびキーワードの再確認 授業　：対人関係論（若者の対人関係）の総括（学習成果の確認・到達度アセスメント） 復習　：自分の身近な社会生活に置き換えて若者の対人関係を考察する

授業開始前学習	受講生は、自分自身の心理、周囲の人間関係への積極的な関心、社会における若者の対人関係の実態と身近な心理現象に対する問題意識をもって講義に臨んでほしい。
授業内課題のフィードバックの方法	リアクションペーパーについては次回の授業回、心理テストは実施後の当該または次回の授業回、学習成果の確認テストについては当該授業回または遠隔教育ツールのなかで解説を行う。
テキスト・教材	永房典之（編著）『なぜ人は他者が気になるのか？ー人間関係の心理』（金子書房）　２００８年発行　２，３００円＋税
参考書	授業時に適宜紹介する。
評価の基準と方法	学習成果の確認テスト（６０点）、平常点（授業態度・リアクションペーパー・心理テスト参加：４０点）によって総合的に評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○	△	◎	○		

関連科目	「社会・集団心理学（社会・集団・家族心理学Ⅰ）」で紹介される研究とは、基礎・理論的背景において密接な関連がある。
その他	通常の講義形式である。 理解や関心を高める資料を配布し、社会心理学の体験実習として心理テストや質問紙を実施することがある。 授業資料の取り扱いについては授業時に指示する。 授業中は、私語を慎み、携帯電話の扱いに注意すること。 大学四年間は、人生でも非常に貴重な人間関係や社会的資源である人脈を形成できるきわめて重要な時期である。ただ何となく過ごすのではなく、自身の「自己実現」や「就職」につながる視点をもってほしい。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-331 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	130-331-13 （Ｊ）	授業コード	FF0510
科目名称	心理的ｱｾｽﾒﾝﾄ Ⅰ			単位数	2.0 単位
英文名称	Psychological Assessment Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	石川 千春			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	石川 千春			開講時期	3･4 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	心理的支援を行うにあたり、臨床心理アセスメントは対象者が抱える問題の成り立ちや支援の方向性などを立案するために重要な情報収集のプロセスである。本講義では、心理的アセスメントの目的や基本的な理論について学ぶとともに、質問紙法を中心に心理検査について取り上げる。そのなかで臨床心理アセスメントにおける心理検査の位置づけや、心理検査を用いる際の留意点を学ぶ。私たちは様々な質問紙法によって、自分自身の性格、考え方、感情、行動傾向などを理解することができる。実際に質問紙に回答する機会を設け、心理的アセスメントを臨床実践の現場でどのように役立てられるかをより深く理解できるようにする。				
到達目標	① 心理的アセスメントに関する理解を深め、心理検査の目的や意義、実施方法を学ぶ。 ② 質問紙による心理検査を体験し、その有用性と限界について実践的に理解する。 ③ 心理的支援における臨床心理アセスメントの位置づけや役割について考察を深める。				

アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	石川 千春	【第 1 回】 予習：心理的アセスメントについて調べる 授業：心理的アセスメントとは何か 復習：第 1 回授業資料の見直し
2	石川 千春	【第 2 回】 予習：心理的アセスメントの方法について調べる 授業：心理的アセスメントの方法 復習：第 2 回授業資料の見直し
3	石川 千春	【第 3 回】 予習：ケース・フォーミュレーションの概要について調べる 授業：ケース・フォーミュレーションについて 復習：第 3 回授業資料の見直し
4	石川 千春	【第 4 回】 予習：パーソナリティについて調べる 授業：パーソナリティのアセスメント 復習：第 4 回授業資料の見直し
5	石川 千春	【第 5 回】 予習：ストレスについて調べる 授業：ストレスに関するアセスメント 復習：第 5 回授業資料の見直し
6	石川 千春	【第 6 回】 予習：抑うつについて調べる 授業：抑うつに関するアセスメント 復習：第 6 回授業資料の見直し
7	石川 千春	【第 7 回】 予習：抑うつに関する質問紙について調べる 授業：抑うつに関する質問紙 復習：第 7 回授業資料の見直し
8	石川 千春	【第 8 回】 予習：不安について調べる 授業：不安に関するアセスメント 復習：第 8 回授業資料の見直し
9	石川 千春	【第 9 回】 予習：不安に関する質問紙について調べる 授業：不安に関する質問紙 復習：第 9 回授業資料の見直し
10	石川 千春	【第 10 回】 予習：強迫症について調べる 授業：強迫症とそのアセスメント 復習：第 10 回授業資料の見直し

11	石川　千春	【第 11 回】 予習：発達障害について調べる 授業：発達障害について 復習：第 11 回授業資料の見直し
12	石川　千春	【第 12 回】 予習：発達障害に関するアセスメントについて調べる 授業：発達障害に関するアセスメント 復習：第 12 回授業資料の見直し
13	石川　千春	【第 13 回】 予習：トラウマや PTSD について調べる 授業：トラウマ体験や PTSD のアセスメント 復習：第 13 回授業資料の見直し
14	石川　千春	【第 14 回】 予習：子どものアセスメント（発達検査）について調べる 授業：子どものアセスメント（発達検査） 復習：第 14 回授業資料の見直し
15	石川　千春	【第 15 回】 予習：認知機能や認知症について調べる 授業：認知機能のアセスメント 復習：第 15 回授業資料の見直し

授業開始前学習	臨床心理アセスメント、心理検査（特に質問紙法）の概要について学習しておくと、授業を理解しやすくなる。
授業内課題のフィードバックの方法	リアクションペーパー等で寄せられた感想や疑問に対して、必要に応じて授業にてコメントや回答を行う。
テキスト・教材	スライドと授業資料
参考書	参考文献は授業内で適宜紹介する。
評価の基準と方法	リアクションペーペーの提出（40%）と期末レポート課題（60%）にて総合的に評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	△	

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	臨床心理士・公認心理師として、医療・教育領域において実務経験あり。臨床心理アセスメントの理論と実践について講義する。

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-331 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	130-331-13（Ｊ）	授業コード	FF0520
科目名称	心理的ｱｾｽﾒﾝﾄⅡ			単位数	2.0 単位
英文名称	Psychological Assessment Ⅱ			授業区分	講義
科目責任者	笠原　千秋			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	笠原　千秋			開講時期	3･4 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	臨床心理アセスメントとは人の心理を観察、面接、そして心理検査などの方法を用いて理解し、臨床心理支援に活かすものである。 この授業では心理検査の中からは特に投映法を取り上げる。 基礎的な理論、留意点、検査の特徴や意義、実施方法などを学習し、その上で授業内で実習を行い検査を実際に体験する。 臨床現場での検査の活用例を学習するため事例の紹介を行う。				
到達目標	①臨床心理アセスメントの基礎知識や留意点、特に投映法の目的や意義、実施方法を学ぶ。 ②心理検査を実施し所見レポートを作成することで心理アセスメントの実際を体験的に理解する。 ③投映法の有用性と限界を考察する。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	笠原　千秋	【第 1 回】 予習：臨床心理アセスメントについて調べる 授業：オリエンテーション・臨床心理アセスメントとは 復習：第 1 回配布資料の見直し
2	笠原　千秋	【第 2 回】 予習：観察法の概要について調べる 授業：観察法の概要 復習：第 2 回配布資料の見直し
3	笠原　千秋	【第 3 回】 予習：面接法の概要について調べる 授業：面接法の概要 復習：第 3 回配布資料の見直し
4	笠原　千秋	【第 4 回】 予習：心理検査・投映法について調べる 授業：心理検査・投映法の概要 復習：第 4 回配布資料の見直し
5	笠原　千秋	【第 5 回】 予習：TAT・ロールシャッハテストについて調べる 授業：TAT・ロールシャッハテストの概要 復習：第 5 回配布資料の見直し
6	笠原　千秋	【第 6 回】 予習：検査レポート作成とフィードバックについて調べる 授業：検査レポート作成とフィードバックの概要 復習：第 6 回配布資料の見直し
7	笠原　千秋	【第 7 回】 予習：描画法について調べる 授業：描画法（１）バウムテスト・風景構成法・雨中人物画の概要 復習：第 7 回配布資料の見直し
8	笠原　千秋	【第 8 回】 予習：雨中人物画について調べる 授業：描画法（２）雨中人物画の実施（実習） 復習：第 8 回配布資料の見直し
9	笠原　千秋	【第 9 回】 予習：雨中人物画について調べる 授業：描画法（３）雨中人物画の解釈 復習：雨中人物画の解釈をまとめる
10	笠原　千秋	【第 10 回】 予習：SCT について調べる 授業：SCT（１）SCT の実施（実習） 復習：第１０回配布資料の見直し

11	笠原　千秋	【第 11 回】 予習：SCT について調べる 授業：SCT（２）SCT の解釈 復習：SCT の解釈をまとめる
12	笠原　千秋	【第 12 回】 予習：P-F スタディについて調べる 授業：P-F スタディ（１）P-F スタディの実施（実習） 復習：第１２回配布資料の見直し
13	笠原　千秋	【第 13 回】 予習：P-F スタディについて調べる 授業：P-F スタディ（２）P-F スタディのスコアリング 復習：P-F スタディのスコアリングをまとめる
14	笠原　千秋	【第 14 回】 予習：P-F スタディについて調べる 授業：P-F スタディ（３）P-F スタディの解釈 復習：P-F スタディの解釈をまとめる
15	笠原　千秋	【第 15 回】 予習：実施した検査の振り返り 授業：実施した検査の振り返りと総括 復習：実施した検査をまとめる

授業開始前学習	心理アセスメントⅠの復習、心理検査（特に投映法検査）の概要について事前に学習しておくと授業が理解しやすくなる。
授業内課題のフィードバックの方法	授業後のリアクションペーパーの感想や疑問に対して授業内でコメントや回答を行う。
テキスト・教材	スライドと配布資料
参考書	津川律子・遠藤裕乃（編）（2019）『心理的アセスメント　公認心理師の基礎と実践１４』遠見書房
評価の基準と方法	リアクションペーパーの提出（40%）と期末レポート課題（60%）にて総合的に評価する。 授業内容に検査の実習を含むため出席を基本とする。 また心理検査の被験者になり自分の心理状態を把握する内容を含むため、強い不安のない者の履修を勧める。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	△	

関連科目	
その他	授業の進捗状況によって内容、順番は変更する場合がある。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	臨床心理アセスメントの実務経験あり。適宜事例など紹介する

科目分類（2025年～入学者）	PS-M-331 （J）	科目分類（～2024年入学者）	130-331-13 （J）	授業コード	FF0530
科目名称	心理学的支援法Ⅰ			単位数	2.0単位
英文名称	Methods of Psychological Support Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	森鳶 由紀子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	森鳶 由紀子			開講時期	3・4年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	心理学的支援法では、心理学やソーシャルワークの視点に立ち、対象者への援助・支援に関する知識や技術を学習します。Ⅰでは、心理学的支援やケースワークの歴史、定義、原則、過程や良好なコミュニケーション方法について押さえてから、心理学的支援やソーシャルワークで用いられる代表的な理論・アプローチを学びます。それぞれに短い事例を回答することを通して、アプローチの理解を深めていきます。援助的コミュニケーションについても触れます。				
到達目標	心理学的支援法では、援助・支援に関する知識と技術を習得し、カウンセリングや援助活動に活用できる能力と態度を育てることを目標とします。Ⅰでは、心理学的支援やソーシャルワークで用いられる代表的な理論・アプローチを習得し、問題を抱える人々の解決にどのように適用できるのか、事例への発表やディスカッションを通して、主体的に考察できるようにします。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	森鳶 由紀子	【第1回】 予習 ：授業シラバスの確認 授業 ：オリエンテーション 復習 ：授業内容、授業の進め方の確認
2	森鳶 由紀子	【第2回】 予習 ：資料1の講読ー人が人を支えることについて考える 授業 ：心理学的支援とは何か：歴史、定義、構造、原則 復習 ：心理学的支援・ケースワークの歴史、定義、構造、原則のキーワードの確認
3	森鳶 由紀子	【第3回】 予習：資料1の講読ー心理学的支援について考える 授業：心理学的支援とは何か：過程、良好なコミュニケーション方法 復習：心理学的支援・ケースワークの過程、良好なコミュニケーション方法の確認
4	森鳶 由紀子	【第4回】 予習 ：資料2講読ー受容と共感について調べてみよう 授業 ：クライエント中心アプローチ 復習 ：クライエント中心療法のキーワードの確認と事例2への回答
5	森鳶 由紀子	【第5回】 予習 ：資料3の講読ーエコマップについて調べてみよう 授業 ：事例2の発表・ディスカッション、エコロジカルアプローチ 復習 ：ライフモデルのキーワードの確認と事例3への回答
6	森鳶 由紀子	【第6回】 予習 ：資料4の講読ーオペラント条件づけについて調べてみよう 授業 ：事例3の発表・ディスカッション、行動アプローチ 復習 ：応用行動分析のキーワードの確認と事例4への回答
7	森鳶 由紀子	【第7回】 予習 ：資料5の講読ーエリスのABC理論について調べてみよう 授業 ：事例4の発表・ディスカッション、認知アプローチ 復習 ：認知療法のキーワードの確認と事例5への回答
8	森鳶 由紀子	【第8回】 予習 ：資料6の講読ーリンデマンの急性悲嘆反応について調べてみよう 授業 ：事例5の発表・ディスカッション、危機介入アプローチ 復習 ：危機介入理論のキーワードの確認と事例6への回答
9	森鳶 由紀子	【第9回】 予習 ：資料7の講読ーパールマンについて調べてみよう 授業 ：事例6の発表・ディスカッション、問題解決アプローチ 復習 ：問題解決アプローチのキーワードの確認と事例7への回答
10	森鳶 由紀子	【第10回】 予習：資料8の講読ー課題中心アプローチについて調べてみよう 授業：事例7の発表・ディスカッション、課題中心アプローチ 復習：課題中心アプローチのキーワードの確認と事例8への回答
11	森鳶 由紀子	【第11回】 予習 ：資料9の講読ー家族療法について調べてみよう 授業 ：事例8の発表・ディスカッション、システム（家族療法）アプローチ 復習 ：構造派家族療法のキーワードの確認と事例9への回答

12	森鳶　由紀子	【第 12 回】 予習　：資料 10 の講読ーセツルメント運動について調べてみよう 授業　：事例 9 の発表・ディスカッション、エンパワメントアプローチ 復習　：エンパワメントアプローチのキーワードの確認と事例 10 への回答
13	森鳶　由紀子	【第 13 回】 予習　：資料 11 の印刷と講読ー社会構築主義について調べてみよう 授業　：事例 10 の発表・ディスカッション、ナラティブアプローチ 復習　：ナラティブアプローチのキーワードの確認と事例 11 への回答
14	森鳶　由紀子	【第 14 回】 予習　：資料 12 の講読ー援助的コミュニケーションについて調べてみよう 授業　：事例 11 の発表・ディスカッション、援助的コミュニケーション 復習　：援助的コミュニケーションについてまとめる
15	森鳶　由紀子	【第 15 回】 予習　：これまでの資料の講読 授業　：心理学的支援のこれから 復習　：心理学的支援の課題についてまとめる ※資料番号と事例番号を統一させるため、事例 1 はなく、事例 2 ～11 です。

授業開始前学習	心理学的支援や対人援助に関する本を読んでおくと授業が理解しやすい。
授業内課題のフィードバックの方法	復習として事例を回答し、翌週の授業で発表、ディスカッションしてもらいますが、その回答内容に対してコメントします。
テキスト・教材	特に指定しません。授業時に資料を配付します。
参考書	
評価の基準と方法	定期試験（８０%）、事例課題（全 10 回）（２０%）
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎	○			△	

関連科目	
その他	授業資料は事前に配付しますので、予習に活用してください。授業の進捗状況などにより、部分的に内容を変更することがあります。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	介護サービス相談員の実務経験を活かして、実際の援助や相談業務について授業で触れます。また、社会福祉士の国家資格を有しているため、社会福祉分野に関心のある学生や資格取得を目指す学生の相談にのります。

科目分類（2025年～入学者）	PS-M-331 （J）	科目分類（～2024年入学者）	130-331-13 （J）	授業コード	FF0540
科目名称	心理学的支援法Ⅱ			単位数	2.0単位
英文名称	Methods of Psychological Support Ⅱ			授業区分	講義
科目責任者	森鳶 由紀子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	森鳶 由紀子			開講時期	3・4年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	心理学的支援法では、心理学やソーシャルワークの視点に立ち、対象者への援助・支援に関する知識や技術を学びます。Ⅱでは、Ⅰで学んだエコロジカルアプローチ、行動アプローチ、ナラティブアプローチの理解を深めるため、長い事例を用いて、個別及びグループワークによるディスカッションや発表により参加型の授業を図り、心理学的支援を実践的に学んでいきます。職業倫理やコミュニティ心理学と心の健康教育についても触れます。				
到達目標	心理学的支援法では、援助・支援に関する知識と技術を習得し、社会福祉援助活動やカウンセリングに活用できる能力と態度を育てることを目標とします。Ⅱでは、Ⅰで学んだアプローチの理解をさらに深めるため、長い事例に取り組み、個別及びグループワークによるディスカッションや発表を通して、心理学的支援について実践的、主体的に考えられるようにします。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	森鳶 由紀子	【第1回】 予習 ：授業シラバスの確認 授業 ：オリエンテーション 復習 ：授業計画の確認
2	森鳶 由紀子	【第2回】 予習 ：公認心理師協会の倫理綱領について調べてみよう 授業 ：職業倫理とケースワークの原則 復習 ：倫理綱領とバイステックの7原則の内容の確認
3	森鳶 由紀子	【第3回】 予習 ：エコロジカルアプローチについて確認する 授業 ：エコロジカルアプローチによる支援と事例1（不登校）の紹介 復習 ：ライフモデルのキーワードの確認
4	森鳶 由紀子	【第4回】 予習 ：事例1－1の質問に回答 授業 ：事例1：1.アセスメントを行う（発表とディスカッション） 復習 ：他の人の意見と比較しながら自分の考えをまとめる
5	森鳶 由紀子	【第5回】 予習 ：事例1－2、3の質問に回答 授業 ：事例1：2.人へ介入する、3.環境へ介入する（発表とディスカッション） 復習 ：他の人の意見と比較しながら自分の考えをまとめる
6	森鳶 由紀子	【第6回】 予習 ：事例1－4、5の質問に回答 授業 ：事例1：4.人と環境の接点へ介入する、5.終結し、評価する（発表とディスカッション） 復習 ：他の人の意見と比較しながら自分の考えをまとめる
7	森鳶 由紀子	【第7回】 予習 ：行動アプローチについて確認する 授業 ：行動アプローチによる支援と事例2（多動性障害）の紹介 復習 ：応用行動分析のキーワードの確認
8	森鳶 由紀子	【第8回】 予習 ：事例2－1の質問に回答 授業 ：事例2：1.問題の捉え方を調べる（発表とディスカッション） 復習 ：他のグループの意見と比較しながら自分の考えをまとめる
9	森鳶 由紀子	【第9回】 予習 ：事例2－2、3の質問に回答 授業 ：事例2：2.応用行動分析の理解、3.目標設定（発表とディスカッション） 復習 ：他のグループの意見と比較しながら自分の考えをまとめる
10	森鳶 由紀子	【第10回】 予習 ：事例2－4、5の質問に回答 授業 ：事例2：4.目標の実行、5.モニタリング・終結（発表とディスカッション） 復習 ：他のグループの意見と比較しながら自分の考えをまとめる
11	森鳶 由紀子	【第11回】 予習 ：ナラティブアプローチについて確認する 授業 ：ナラティブアプローチによる支援と事例3（児童虐待のトラウマ）の紹介 復習 ：ナラティブアプローチのキーワードの確認

12	森鳶　由紀子	【第 12 回】 予習　：事例３－1、2 の質問に回答 授業　：事例３：1.ドミナントストーリーの傾聴、2.問題の外在化（発表とディスカッション） 復習　：他の人の意見と比較しながら自分の考えをまとめる
13	森鳶　由紀子	【第 13 回】 予習　：事例３－３の質問に回答 授業　：事例３：3.ユニークな結果の発見（発表とディスカッション） 復習　：他の人の意見と比較しながら自分の考えをまとめる
14	森鳶　由紀子	【第 14 回】 予習　：事例３－4、5 の質問に回答 授業　：事例３：4.5.オルタナティブストーリーの作成と強化（発表とディスカッション） 復習　：他の人の意見と比較しながら自分の考えをまとめる
15	森鳶　由紀子	【第 15 回】 予習　：コミュニティ心理学や心の健康について調べてみよう 授業　：コミュニティ心理学と心の健康教育 復習　：コミュニティ心理学と心の健康教育のキーワードの確認

授業開始前学習	心理学的支援法や対人援助に関する本を読んでおくと授業が理解しやすい。心理学的支援法Ⅰの履修者は配付資料を復習してください。
授業内課題のフィードバックの方法	授業後半では各自が具体的な事例に取り組み、回答を板書してもらいますが、回答内容についてコメントします。
テキスト・教材	特に指定しません。授業時に資料を配付します。
参考書	
評価の基準と方法	レポート（８０%）、事例発表・ディスカッション（２０%）
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎	○			△	

関連科目	
その他	講義資料は事前に配付しますので、予習で購読（質問には回答）してください。受講者数によって事例の発表とディスカッションの方法を検討します。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	介護サービス相談員の実務経験を活かして、実際の援助や相談業務について授業で触れます。また、社会福祉士の国家資格を有しているため、社会福祉分野に関心のある学生や資格取得を目指す学生の相談にのります。

科目分類（2025年～入学者）	PS-M-331 （J）	科目分類（～2024年入学者）	130-330-13 （J）	授業コード	FF0550
科目名称	心理療法論Ⅰ			単位数	履修ガイド参照
英文名称	Psychotherapy Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	藤川 麗			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	藤川 麗			開講時期	履修ガイド参照
オフィスアワー	前期 木曜日 13:00～14:30 金曜日 12:30～14:00 後期 木曜日 10:40～12:10 金曜日 12:30～14:00			研究室	10-712
授業概要	本授業では、現在、世界的に広く用いられている心理療法のアプローチのひとつである、認知行動療法の基本的な理論と技法について学ぶことを目標とする。認知行動療法という学問の成り立ちと歴史について概観した後、認知行動アプローチによる心理的問題の理解の仕方、問題への介入のためのさまざまな技法について紹介する。事例や視覚教材を提示して実際のケースを検討したり、自分自身の体験を素材として認知行動療法の枠組みで分析したり、実際に日常生活の中で技法を使用してみたりすることにより、体験的に理解を深める。				
到達目標	認知行動療法の特徴を理解する。認知行動療法の主要な理論と技法（機能分析、応用行動分析、曝露技法、曝露反応妨害法、認知的概念化、認知再構成法、マインドフルネス等）について理解し、説明することができるようになる。自分の日常生活にあてはめて理論や方法を理解できるようになる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	藤川 麗	【第1回】 予習：臨床心理学概論を履修した者は、内容を復習しておく 授業：認知行動療法とは何か 復習：【第1回】配布資料の復習
2	藤川 麗	【第2回】 予習：「ケースフォーミュレーション」という用語について調べる 授業：認知行動療法の方法 復習：【第2回】配布資料の復習
3	藤川 麗	【第3回】 予習：「機能分析」という用語について調べる 授業：行動を理解し、介入する1 機能分析 復習：【第3回】配布資料の復習
4	藤川 麗	【第4回】 予習：「応用行動分析」という用語について調べる 授業：行動を理解し、介入する2 応用行動分析 復習：【第4回】配布資料の復習
5	藤川 麗	【第5回】 予習：自分の行動の機能を分析してみる 授業：行動を理解し、介入する3 事例検討 （グループディスカッション） 復習：課題1（レポート）の作成
6	藤川 麗	【第6回】 予習：「不安障害」について調べてみる 授業：感情を理解し、介入する1 曝露技法 復習：【第6回】配布資料の復習
7	藤川 麗	【第7回】 予習：「強迫性障害」について調べてみる 授業：感情を理解し、介入する2 曝露反応妨害法 （グループディスカッション） 復習：課題2（小レポート）の作成
8	藤川 麗	【第8回】 予習：自分の考え方の特徴について考えてみる 授業：認知を理解し、介入する1 認知的概念化 復習：【第8回】配布資料の復習
9	藤川 麗	【第9回】 予習：自分の考え方の特徴について考えてみる 授業：認知を理解し、介入する2 認知再構成法 復習：【第9回】配布資料の復習
10	藤川 麗	【第10回】 予習：自分の考えを観察してみる 授業：認知を理解し、介入する3 事例検討 （グループディスカッション） 復習・課題3（レポート）の作成

11	藤川　麗	【第 11 回】 予習：「マインドフルネス」という用語について調べる 授業：認知の機能を理解し、介入する 1 復習【第 11 回】配布資料の復習
12	藤川　麗	【第 12 回】 予習：「マインドフルネス」の練習法について調べる 授業：認知の機能を理解し、介入する 2 復習【第 12 回】配布資料の復習
13	藤川　麗	【第 13 回】 予習：最近自分がストレスを感じる程度、感じる状況について考えてみる 授業：さまざまな技法 1　ストレス・マネジメント・プログラム 復習：ストレスへの対処法について考える
14	藤川　麗	【第 14 回】 予習：自分が日ごろ行っているリラクセーション法について考えてみる 授業：さまざまな技法 2　リラクセーション（身体技法） 復習：リラクセーション法を実践してみる
15	藤川　麗	【第 15 回】 予習：自分が上達したいコミュニケーションの場面について考えてみる 授業：さまざまな技法 3　ソーシャル・スキル・トレーニング 復習：これまでの配布資料の復習

授業開始前学習	臨床心理学概論を履修した者は、内容を復習しておく。
授業内課題のフィードバックの方法	毎回、GoogleForms を活用しミニテスト等の課題を実施する。質問に対しては、随時授業時間内にフィードバックを行う。
テキスト・教材	特に指定しない（授業中に随時配布する）。
参考書	特に指定しない。
評価の基準と方法	毎回の課題（小テスト等：5 点×15 回＝75 点）、レポート課題 3 回（課題 1・課題 3 ＝10 点×2 回＝20 点、課題 2 ＝5 点×1 回＝5 点、合計 25 点）の総合点で評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		◎	○		

関連科目	臨床心理学概論、心理療法論Ⅱ
その他	特になし。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	心理臨床の実務経験を活かし、認知行動療法の基礎と実践について講義する。

科目分類（2025年～入学者）	PS-M-331 （J）	科目分類（～2024年入学者）	130-330-13 （J）	授業コード	FF0560
科目名称	心理療法論Ⅱ			単位数	2.0単位
英文名称	Psychotherapy Ⅱ			授業区分	講義
科目責任者	藤城 有美子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	藤城 有美子			開講時期	3・4年
オフィスアワー	前期 金曜日 14:30～17:30 後期 金曜日 14:30～17:30			研究室	10-710
授業概要	精神分析的心理療法の実践に必要な、人の心の力動論的理解、すなわち、無識的な心のダイナミクスという側面から人間の心や行動についての理解を深める。その上で、面接室でクライエントとセラピストの間にどのような意識的・無意識的交流が生じるか、それを「here and now」でどのように扱い、援助に繋げていくかを演習を通して学んでいく。				
到達目標	1. 精神分析的心理療法の基本的な概念・用語について、説明できる。 2. 精神分析的心理療法のアプローチについて、説明できる。 3. 生じている心理的行動的問題について、精神分析的心理療法観点から説明できる。 4. 心の仕組みと代表的な防衛機制について、説明できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	藤城 有美子	【第1回】 予習 「精神分析療法」について調べてみる 授業 1. サイコセラピー入門 サイコセラピーとは何か／ヘンゼルとグレーテルの物語（PBL） 復習 キーワードの理解：精神分析的心理療法（精神分析的精神療法）、意識、前意識、無意識
2	藤城 有美子	【第2回】 予習 「ヘンゼルとグレーテルの物語」再読 授業 2. サイコセラピー入門 グレーテルとの出会い（PBL） 復習 キーワードの理解：診断面接
3	藤城 有美子	【第3回】 予習 「治療契約」について調べてみる 授業 3. サイコセラピー入門 宝探しの条件（PBL） 復習 キーワードの理解：治療契約
4	藤城 有美子	【第4回】 予習 「治療同盟」について調べてみる 授業 4. サイコセラピー入門 協力体制の確立（PBL） 復習 キーワードの理解：治療同盟
5	藤城 有美子	【第5回】 予習 「転移」について調べてみる 授業 5. サイコセラピー入門 あたかも魔女のごとく（PBL） 復習 キーワードの理解：転移
6	藤城 有美子	【第6回】 予習 「逆転移」について調べてみる 授業 6. サイコセラピー入門 「落し穴」という名の道しるべ（PBL） 復習 キーワードの理解：逆転移
7	藤城 有美子	【第7回】 予習 精神分析における「夢」や「失錯行為」について調べてみる 授業 7. サイコセラピー入門 無意識への王道（PBL） 復習 キーワードの理解：夢
8	藤城 有美子	【第8回】 予習 「抵抗」について調べてみる 授業 8. サイコセラピー入門 行く手を阻むもの（PBL） 復習 キーワードの理解：抵抗
9	藤城 有美子	【第9回】 予習 「ワーキング・スルー」について調べてみる 授業 9. サイコセラピー入門 ワーキング・スルー1（PBL） 復習 キーワードの理解：徹底操作（ワーキング・スルー）
10	藤城 有美子	【第10回】 予習 「ワーキング・スルー」について調べてみる 授業 10. サイコセラピー入門 ワーキング・スルー2（PBL） 復習 キーワードの理解：徹底操作（ワーキング・スルー）
11	藤城 有美子	【第11回】 予習 「治療終結」について調べてみる 授業 11. サイコセラピー入門 さようならをもう一度（PBL） 復習 キーワードの理解：治療終結

12	藤城　有美子	【第 12 回】 予習　これまでの治療経過について振り返っておく 授業　12. 症例「グレーテル」再考 精神力動的「読み」について／導入期（PBL） 復習　治療経過の理解：心的内界（心的世界）、自己、対象、対象関係
13	藤城　有美子	【第 13 回】 予習　これまでの治療経過について振り返っておく 授業　13. 症例「グレーテル」再考 最盛期／ワーキング・スルーから終結へ 復習　治療経過の理解の理解：転移、抵抗 、ワーキング・スルー、内在化（PBL）
14	藤城　有美子	【第 14 回】 予習　「防衛機制」について調べてみる 授業　14. 自我の諸機制 1：抑圧、否認、取り入れ、同一化、隔離、知性化、合理づけ、反動形成、やり直し（PBL） 復習　防衛された感情・考え／使用した防衛機制
15	藤城　有美子	【第 15 回】 予習　「防衛機制」について調べてみる 授業　15. 自我の諸機制 2：置き換え、投影、投影性同一視、退行（防衛としての退行）、昇華、分裂、原始的理想化、脱価値化、攻撃化（PBL） 復習　防衛された感情・考え／使用した防衛機制

授業開始前学習	「臨床心理学概論」で使用したテキストの「精神分析療法」の節を復習しておくと良い。
授業内課題のフィードバックの方法	授業で課されたワークおよび復習問題については、授業終了後に毎回提出を求め、採点対象とする。また、そこで把握された全体的傾向については、次回の授業で解説を加える。
テキスト・教材	丸田俊彦 『サイコセラピー練習帳―グレーテルの宝探し』 岩崎学術出版社 ※テキストがワークブックになっているので、テキストなしでは課題に取り組めません。初回授業の前に購入を済ませるようにしてください。
参考書	馬場禮子 『改訂 精神分析的人格理論の基礎―心理療法を始める前に』 岩崎学術出版社
評価の基準と方法	所定の出席数を満たした者について、授業時間内に毎回課す課題（①ワーク：2 点×15 回=30 点＋②復習テスト 3 問：全問正解で 1 点×15 回分の計 45 点分）と、最終講義の後に課題提出する③確認テスト（55 点分）の合計 100 点で評価する。 授業時間内で①②の両方の提出を以て、「出席」とカウントする。なお、遅刻早退 3 回で欠席 1 回分として扱う。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		◎	○		

関連科目	臨床心理学概論
その他	テキストがワークブックとなっている。授業は演習形式で行う。 毎回の授業の最後に、その回のワーク（練習問題）及びその回の授業内容の復習テストを提出する。 スマートフォン、iPhone、タブレット等の携帯端末あるいはノート PC 等、教場で本科目の Classroom にアクセスできるデバイスを毎回持参することが望ましい。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	心理臨床の実務経験あり。心理臨床の課題、実践、歴史について講義する。

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-332 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	130-330-23 （Ｊ）	授業コード	FF0571
科目名称	☆心理学研究実践実習／臨床心理学実習			単位数	2.0 単位
英文名称	Psychology Research Practical Training／Practice of Clinical Psychology			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	廣田　愛海			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	廣田　愛海			開講時期	3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	本授業では、言語的・非言語的な表現を通じて自己理解を深め、他者の内面に寄り添う力を養うことを目的とする。イメージワークや描画、箱庭療法などの体験的なワークを中心に、自分の心と身体の反応に気づき、それが対人援助にどのように影響するのかを探求する。他者とともにワークを体験し、「話を聴く・聴いてもらう」体験を積み重ねることを通じて、心理療法のベースとなる「受容」や「共感」の姿勢を実践的に理解していく。また相手が安心して自己表現ができる関係性を築くために、言葉の内容だけでなく、沈黙や話し方、姿勢、表情などの非言語的メッセージにも目を向ける重要性を学ぶ。				
到達目標	・自分の多様な側面に気づき、対人関係における自身の在り方や他者への影響を理解する。 ・「受容」や「共感」の重要性を理解し、対人援助の基礎を学ぶ。 ・沈黙や姿勢、表情などの非言語的な要素を含めて、他者の体験を想像し、理解する力を養う。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	廣田　愛海	【第 1 回】 予習：体験学習について調べる 授業：オリエンテーション・体験学習とは 復習：体験学習について振り返る
2	廣田　愛海	【第 2 回】 予習：マインドフルネスやリラクゼーションについて調べる 授業：身体のワーク（マインドフルネスやリラクゼーション） 復習：マインドフルネスやリラクゼーションについて振り返る
3	廣田　愛海	【第 3 回】 予習：アクセプタンス＆コミットメント・セラピーについて調べる 授業：考え方・価値のワーク（アクセプタンス＆コミットメント・セラピー） 復習：アクセプタンス＆コミットメント・セラピーについて振り返る
4	廣田　愛海	【第 4 回】 予習：こころの働きについて調べる 授業：こころのワーク①（イメージを通した自己理解） 復習：こころの働きについて振り返る
5	廣田　愛海	【第 5 回】 予習：レジリエンスについて調べる 授業：こころのワーク②（レジリエンス） 復習：レジリエンスについて振り返る
6	廣田　愛海	【第 6 回】 予習：描画テストについて調べる 授業：描画のワーク①（風景構成法・雨中人物画） 復習：描画テストについて振り返る
7	廣田　愛海	【第 7 回】 予習：描画療法について調べる 授業：描画のワーク②（スクイグル） 復習：描画療法について振り返る
8	廣田　愛海	【第 8 回】 予習：描画テスト・療法における自由画と課題画について調べる 授業：描画のワーク③（課題画と自由画） 復習：描画テスト・療法における自由画と課題画について振り返る
9	廣田　愛海	【第 9 回】 予習：コラージュ療法について調べる 授業：コラージュ療法①（気づく・表現する・聴く） 復習：コラージュ療法について振り返る
10	廣田　愛海	【第 10 回】 予習：コラージュ療法について調べる 授業：コラージュ療法②（気づく・表現する） 復習：コラージュ療法について振り返る

11	廣田　愛海	【第 11 回】 予習：箱庭療法について調べる 授業：箱庭療法①（作る・見守る・聴く） 復習：箱庭療法について振り返る
12	廣田　愛海	【第 12 回】 予習：箱庭療法について調べる 授業：箱庭療法②（作る・見守る・聴く） 復習：箱庭療法について振り返る
13	廣田　愛海	【第 13 回】 予習：傾聴について調べる 授業：「話を聴く」ワーク（傾聴） 復習：傾聴について振り返る
14	廣田　愛海	【第 14 回】 予習：共感と質問について調べる 授業：「話を聴く」ワーク（共感と質問） 復習：共感と質問について振り返る
15	廣田　愛海	【第 15 回】 予習：対人関係における自己の在り方について考えておく 授業：「自己」と「他者」（グループワーク・ディスカッション） 復習：対人関係における自己の在り方について振り返る

授業開始前学習	
授業内課題のフィードバックの方法	リアクションペーパー等で寄せられた感想や疑問に対しては、必要に応じてコメントや回答を行う。
テキスト・教材	スライド・授業資料を用いる。
参考書	
評価の基準と方法	所定の出席数を満たしていることを前提とし、リアクションペーパーの提出（40%）と期末レポート課題（60%）で評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎	○				○

関連科目	
その他	・授業内容や授業の順序を一部変更する可能性があります。 ・本授業は体験学習が中心のため、積極的な参加が望まれます。 ※自分の特徴に気づき、人と関わるワークを行います。精神的に不安定で受講に不安などがある場合は、事前に相談してください。
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間＋予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	心理臨床現場（保健医療・福祉・地域コミュニティ）において、実務経験あり。各現場における活用例や臨床事例などを紹介する。

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-231 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	130-331-12（Ｊ）	授業コード	FF0710
科目名称	健康･医療心理学			単位数	2.0 単位
英文名称	Health and Medical Psychology			授業区分	講義
科目責任者	飯田 敏晴			必修･選択	履修ガイド参照
担当教員	飯田 敏晴			開講時期	2･3･4 年
オフィスアワー	前期 月曜日 10:40～12:10 水曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 10:40～12:10 水曜日 13:00～14:30			研究室	10-717
授業概要	本講義は、、次の４点について概説します。 １）ストレスと心身の疾病との関係について説明します。 ２）医療現場における心理社会的課題及び必要な支援について論じます。 ３）保健活動が行われている現場における心理社会的課題及び必要な支援について具体例を紹介しつつ、その理解を促します。 ４）災害時等に必要な心理に関する支援について論じます。				
到達目標	１）ストレスと心身の疾病との関係を説明できる。 ２）医療現場における心理社会的課題及び必要な支援を説明できる。 ３）保健活動が行われている現場における心理社会的課題及び必要な支援を説明できる。 ４）災害時等に必要な心理に関する支援を説明できる。				
アクティブ･ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	飯田 敏晴	【第１回】 予習：シラバスで授業のスケジュールを確認し、疑問点の抽出(教科書 p.1-11) 授業：授業の紹介、ストレスと心身の疾病との関係 復習：配布資料に基づいて、健康･医療心理学の概要をまとめる
2	飯田 敏晴	【第２回】 予習：ストレスの心理学について調べる(教科書 p.12-29) 授業：ストレスとは 復習：ストレスと保健医療領域についてまとめる
3	飯田 敏晴	【第３回】 予習：心身症について調べる(教科書 p.31-46) 授業：ストレスや心身の疾病 復習：心身症についての日本の特徴についてまとめる
4	飯田 敏晴	【第４回】 予習：キャプランの「予防」について調べる 授業：生活習慣と疾病の予防（p.47-65） 復習：予防の倫理的問題について、授業資料を振り返りながらまとめる
5	飯田 敏晴	【第５回】 予習：精神疾患について調べる 授業：医療現場における心理社会的課題と必要な支援（精神疾患） 復習：精神疾患について、その特徴をまとめる
6	飯田 敏晴	【第６回】 予習：がんについて調べる(教科書 p66-81) 授業：医療現場における心理社会的課題と必要な支援（がん） 復習：当日学んだことの気づき等をまとめる。
7	飯田 敏晴	【第７回】 予習：教員から指定された論文を読む 授業：医療現場における心理社会的課題と必要な支援（がん） 復習：授業内容に基づいて、その課題と支援についての概観を把握する
8	飯田 敏晴	【第８回】 予習：心臓血管系疾患について調べる（教科書 p.96-115） 授業：心臓疾患系疾患 復習：本人や家族や介護者のストレス等ついてまとめる。
9	飯田 敏晴	【第９回】 予習：脳血管疾患について調べる（教科書 p.116-132） 授業：脳血管疾患と高次脳機能障害について 復習：授業内容を自分なりにまとめる
10	飯田 敏晴	【第 10 回】後天性免疫不全症候群 予習：HIV 感染症や後天性免疫不全症候群について調べる（教科書 p82-p95） 授業：HIV/AIDS 医療における長期療養過程における心理支援の実際 復習：授業内容を自分なにりまとめる。

11	飯田　敏晴	【第 11 回】 予習：日本における自殺対策や、産業精神保健について調べる(教科書.p160-178) 授業：保健活動における心理的支援（うつ、自殺対策、職場復帰支援） 復習：自殺対策について自分なりに、その特徴や支援をまとめる
12	飯田　敏晴	【第 12 回】 予習：ギャンブル依存、アルコール依存などについて調べる(教科書 p179-197) 授業：保健活動における心理的支援（依存症） 復習：依存症に関わる地域での心理的支援について、まとめる
13	飯田　敏晴	【第 13 回】 予習：ひきこもりについて調べる（教科書 p212-229） 授業：保健活動としての引きこもりに関する心理的支援 復習：授業内容をまとめる
14	飯田　敏晴	【第 14 回】 予習：大規模災害の状況および、その後の状況を調べる(教科書 p230-243) 授業：災害時等の心理的支援（心理的応急処置）、災害時等の心理的支援（心のケアチーム、災害派遣精神医療チーム、支援者のケア） 復習：心理的応急処置についてその特徴をまとめる
15	飯田　敏晴	【第 15 回】 予習：これまでの授業の復習 授業：授業内試験と解説 復習：試験結果と解説を踏まえて、自身が得点が取れなかった箇所の見直しをすること

授業開始前学習	人間の行動変容に関する基本的知識（学習心理学など）や身体についての基本的知識を学習しておくと理解しやすいと思われる。
授業内課題のフィードバックの方法	授業時に作成する Reaction については次回授業までに、フィードバックする。 原則として、クラウドを活用する予定。
テキスト・教材	公認心理師ベーシック講座『健康・医療心理学』（講談社）
参考書	『心の健康教育』（金子書房）、『看護学テキスト NICE 病態・治療論 12 精神疾患』(南江堂）、『健康・医療心理学』（ナカニシヤ出版）、『健康心理学概論』（実務教育出版）、『健康心理学・入門』（有斐閣）、山蔦 圭輔（著）『ベーシック健康心理学ー臨床への招待』（ナカニシヤ出版）、『健康・医療心理学』（医歯薬出版）「ほか
評価の基準と方法	毎回の授業後に提出する Reaction （15%）、学期はじめに提示され学期末までに提出する Brief Report(25%)、試験（60%）のそれぞれの成績による。それらの成績をもとに 100 点満点換算で 60 点以上の者に単位を認定する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	◎	○		

関連科目	心理学の基礎 臨床心理学概論 感情・人格心理学 社会・集団心理学 教育・学校心理学
その他	第 1 回目の授業資料をよく確認してください。欠席した場合、classroom にある資料を確認の上で、Reaction を指定期日までに提出してください。授業内容は、履修生の要望や進度に応じて、修正することがあります。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	総合病院における実務経験あり。健康・医療心理学の理論や研究成果に、実践を交えながら、講義する。

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-231	科目分類（～2024 年入学者）	130-331-12	授業コード	FF0720
科目名称	福祉心理学			単位数	2.0 単位
英文名称	Psychology for Social Welfare			授業区分	講義
科目責任者	河合　美千代			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	河合　美千代			開講時期	2･3･4 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	私たちが生活している社会で福祉が必要とされていることの意味について考え、虐待などの事象を生む社会背景や人々の心理社会的課題から必要な支援、支援の実際などについて概説する。 ※グループワークで他者の考えを傾聴する態度を学ぶとともに、事案についてより深く考えることをめざします。				
到達目標	福祉現場や身近な実際の事案などを用いて、福祉について自分のこととして具体的に考えられるようになる。また、人を支援する仕事に就いた時に、適切な支援ができる基礎となる知識を身に着ける。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	河合　美千代	【第 1 回】 予習：福祉の領域について調べる 授業：福祉領域の概観（私たちの生活に福祉が必要とされる社会的背景）（グループワーク） 復習：福祉が身近に感じられる事柄についてまとめる
2	河合　美千代	【第 2 回】 予習：自分の生活の中でどのような権利があるかを調べる 授業：社会福祉の基本的理念（基本的人権、権利擁護、ノーマライゼーションなど）（グループワーク） 復習：社会福祉の基本的理念についてまとめる
3	河合　美千代	【第 3 回】 予習：子育て環境をめぐる現状について調べる 授業：子どもの福祉（子育て環境をめぐる現状と支援）（グループワーク） 復習：子育て支援についてまとめる
4	河合　美千代	【第 4 回】 予習：児童相談所の援助業務について調べる 授業：子どもの福祉（児童虐待の背景要因と支援）（グループワーク） 復習：児童虐待についてまとめる
5	河合　美千代	【第 5 回】 予習：障害者の範囲について調べる 授業：障害者の福祉（障害者の生活と支援･合理的配慮）（グループワーク） 復習：障害者の福祉についてまとめる
6	河合　美千代	【第 6 回】 予習：高齢者の定義について調べる 授業：高齢者の福祉（高齢者の生活と支援）(グループワーク) 復習：高齢者の福祉についてまとめる
7	河合　美千代	【第 7 回】 予習：高齢者虐待の背景について調べる 授業：高齢者の福祉（高齢者虐待の背景要因と支援）（グループワーク） 復習：高齢者虐待についてまとめる
8	河合　美千代	【第 8 回】 予習：DV とは何かについて調べる 授業：家庭の福祉（DV への理解と支援）（グループワーク） 復習：DV 被害者への支援についてまとめる
9	河合　美千代	【第 9 回】 予習：ひきこもりとはどういう状態なのかを調べる 授業：ひきこもりの人への支援（グループワーク） 復習：ひきこもりの人への支援についてまとめる
10	河合　美千代	【第 10 回】 予習：生活保護制度について調べる 授業：生活困窮者に対する支援（グループワーク） 復習：生活困窮者に対する支援についてまとめる
11	河合　美千代	【第 11 回】 予習：自分が人に相談する時に、相手に求めるものをまとめる 授業：相談援助に必要な技術（グループワーク） 復習：相談援助に必要な技術についてまとめる

12	河合　美千代	【第 12 回】 予習：高齢者を介護する家族の心情について調べる 授業：家族・職員への支援(グループワーク) 復習：家族・職員への支援についてまとめる
13	河合　美千代	【第 13 回】 予習：自分が何かを決定する時に妨げられた時の思いを書く 授業：相談援助における意思決定への支援（グループワーク） 復習：意思決定支援についてまとめる
14	河合　美千代	【第 14 回】 予習：事例を検討する目的を調べる 授業：相談援助事例の検討（事例）（グループワーク） 復習：相談援助事例の検討についてまとめる
15	河合　美千代	【第 15 回】 予習：なぜ連携が必要なのかについて調べる 授業：専門職の役割と連携（グループワーク） 復習：専門職の役割と連携についてまとめる

授業開始前学習	各回のテーマに関して情報収集をし、自分の生活にテーマを引き付けて考えておくことを勧める。
授業内課題のフィードバックの方法	提出する 2 回のレポート（A41 枚以内）については、2 週間後をめどに全体の講評を行い、個別の質問に回答する。
テキスト・教材	川畑直人・大島剛・郷式徹監修/川畑隆・笹川宏樹・宮井研治編著『公認心理師の基本を学ぶテキスト 17 福祉心理学　福祉分野での心理職の役割』（ミネルヴァ書房）
参考書	中島健一編『福祉心理学』（遠見書房） 菅野恵『福祉心理学を学ぶ　児童虐待防止と心の支援』（勁草書房） 中山哲志・稲谷ふみ枝・深谷昌志編集『福祉心理学の世界：人の成長を辿って』（ナカニシヤ出版）
評価の基準と方法	小テストまたはミニワーク４０パーセント、レポート 60%で評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	◎	○		

関連科目	特にありません
その他	特にありません
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-231 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	130-331-12（Ｊ）	授業コード	FF0730
科目名称	教育･学校心理学			単位数	2.0 単位
英文名称	Educational and School Psychology			授業区分	講義
科目責任者	太齋　慧			必修･選択	履修ガイド参照
担当教員	太齋　慧			開講時期	2･3･4 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	教育･学校心理学は，心理学の知見を学校教育の現場に活かし，心理教育的援助サービスの充実を図ろうとする学問です。本講義では臨床心理学，コミュニティ心理学等の知見を通して，スクールカウンセラーの役割や基本的な考え方を理解し，児童･生徒やその関係者，コミュニティへの支援について学ぶことを目的とします。				
到達目標	教育･学校心理学，スクールカウンセリングについての重要な概念や考え方を理解し，説明できるようになる。また実際に自分がスクールカウンセラーになったときに，どのように児童･生徒やその関係者，コミュニティを支援していくかを考えられるようになる。				

アクティブ･ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	太齋　慧	予習　シラバスを読み，質問や確認事項があればまとめておく 授業　ガイダンス　授業の概要，進め方について 復習　第 1 回で扱った用語や概念についてまとめておく
2	太齋　慧	予習　第 2 回の配布資料を読んでおく 授業　学校における心理支援の概観 復習　第 2 回で学んだこと，感じ考えたことをまとめておく
3	太齋　慧	予習　第 3 回の配布資料を読んでおく 授業　システム，コミュニティを捉える視点①　理論を中心に 復習　第 3 回で学んだこと，感じ考えたことをまとめておく
4	太齋　慧	予習　第 4 回の配布資料を読んでおく 授業　システム，コミュニティを捉える視点②　事例を中心に 復習　第 4 回で学んだこと，感じ考えたことをまとめておく
5	太齋　慧	予習　第 5 回の配布資料を読んでおく 授業　発達を捉える視点　基本的信頼感を中心に 復習　第 5 回で学んだこと，感じ考えたことをまとめておく
6	太齋　慧	予習　第 6 回の配布資料を読んでおく 授業　精神医学的な理解　発達障害を中心に 復習　第 6 回で学んだこと，感じ考えたことをまとめておく
7	太齋　慧	予習　第 7 回の配布資料を読んでおく 授業　支援のためのコミュニケーション（グループワーク） 復習　第 7 回で学んだこと，感じ考えたことをまとめておく
8	太齋　慧	予習　第 8 回の配布資料を読んでおく 授業　アセスメント 復習　第 8 回で学んだこと，感じ考えたことをまとめておく
9	太齋　慧	予習　第 9 回の配布資料を読んでおく 授業　不登校の理解と支援 復習　第 9 回で学んだこと，感じ考えたことをまとめておく
10	太齋　慧	予習　第 10 回の配布資料を読んでおく 授業　いじめの理解と支援 復習　第 10 回で学んだこと，感じ考えたことをまとめておく
11	太齋　慧	予習　第 11 回の配布資料を読んでおく 授業　「チーム学校」によるコミュニティとしての学校の支援 復習　第 11 回で学んだこと，感じ考えたことをまとめておく
12	太齋　慧	予習　第 12 回の配布資料を読んでおく 授業　非行の理解と支援 復習　第 12 回で学んだこと，感じ考えたことをまとめておく
13	太齋　慧	予習　第 13 回の配布資料を読んでおく 授業　多様性と学校　性的マイノリティを中心に 復習　第 13 回で学んだこと，感じ考えたことをまとめておく
14	太齋　慧	予習　第 14 回の配布資料を読んでおく 授業　個人の問題に囚われない支援 復習　第 14 回で学んだこと，感じ考えたことをまとめておく

15	太齋　慧	予習　第 15 回の配布資料を読んでおく 授業　学校における心理支援のまとめ 復習　第 15 回で学んだこと，感じ考えたことをまとめておく

授業開始前学習	心理学，臨床心理学，発達心理学の基本的知識を学習しておくと授業が理解しやすい。入門書や概論書を読んでおくことをお勧めします。
授業内課題のフィードバックの方法	リアクションペーパー等の内容については，次回の講義内でフィードバックします。
テキスト・教材	適宜，資料を配布します。
参考書	
評価の基準と方法	・定期試験　70% ・小レポート　30% ※単位取得には 3 分の 2 以上の出席が必要です。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	◎	○		

関連科目	
その他	受講者の人数，興味関心等により授業の内容，順番については変更することがあります。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	心理支援職としての実務経験を活かし，現場における問題の理解と支援について講義します。

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-231 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	130-331-12（Ｊ）	授業コード	FF0740
科目名称	司法･犯罪心理学			単位数	2.0 単位
英文名称	Forensic and Criminal Psychology			授業区分	講義
科目責任者	田中　教仁			必修･選択	履修ガイド参照
担当教員	田中　教仁			開講時期	2･3･4 年
オフィスアワー	前期　火曜日 10:40～12:10　木曜日 10:40～12:10 後期　火曜日 11:00～12:10　火曜日 14:40～16:40			研究室	10-719
授業概要	非行や犯罪の動向には、社会情勢の変化や社会の課題が反映されていることが多い。また、非行や犯罪の発生とそこからの立ち直りについては、発達やパーソナリティ、家族関係、学校や仕事、地域社会など様々な要因が影響を及ぼすものであり、司法･犯罪領域の基本的事項や理論等を多角的な視点から知っておくことには意義がある。本講では、①司法･犯罪領域の制度や理論、②主に心理学的見地からのアセスメントと支援の方法、③この領域における専門機関やそこで活躍する専門職の実践について、事例等を適宜紹介しながら、幅広く講義する。				
到達目標	司法･犯罪領域に関わる社会の出来事に関心を抱き，自分なりの意見を持つようになる。 司法･犯罪領域における制度や理論、専門機関等の概要について説明できる。 非行や犯罪を多角的に捉える必要性を理解し、アセスメントや支援における心理学の知見の活用の実際を学ぶ。				

アクティブ･ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	田中　教仁	予習　最近の非行、犯罪に関する報道や記事を調べる。 授業　イントロダクション（授業の進め方、司法･犯罪心理学の領域） 復習　配布資料を見返す。
2	田中　教仁	予習　犯罪白書や配布資料等を概観する。 授業　非行･犯罪の動向と少年非行の歴史的変遷 復習　課題①。配布資料を見返す。参考文献等を確認する。
3	田中　教仁	予習　配布資料や参考図書にあたる。 授業　非行･犯罪理論①（生物－心理－社会モデル、生物学的要因） 復習　配布資料を見返す。参考文献等を確認する。
4	田中　教仁	予習　配布資料や参考図書にあたる。 授業　非行･犯罪理論②（心理学理論を中心に） 復習　配布資料を見返す。参考文献等を確認する。
5	田中　教仁	予習　配布資料や参考図書にあたる。 授業　非行･犯罪理論③（社会学理論を中心に） 復習　配布資料を見返す。参考文献等を確認する。
6	田中　教仁	予習　配布資料や参考図書にあたる。 授業　非行･犯罪理論④（ライフコース理論） 復習　配布資料を見返す。参考文献等を確認する。
7	田中　教仁	予習　配布資料や参考図書にあたる。 授業　非行･犯罪理論⑤（リスクアセスメント、グッド･ライブズ･モデル） 復習　課題②。非行･犯罪理論について理解を深め、整理する。
8	田中　教仁	予習　配布資料や参考図書にあたる。 授業　犯罪に関する基礎知識と刑事司法手続 復習　刑事司法手続についてまとめる。
9	田中　教仁	予習　少年法を概観する。 授業　少年法と少年司法手続 復習　課題③。少年司法手続と刑事司法手続の違いをまとめる。
10	田中　教仁	予習　配布資料や参考図書にあたる。 授業　家庭裁判所の審判と家庭裁判所調査官 復習　家庭裁判所の審判と科学的調査機能についてまとめる。
11	田中　教仁	予習　少年院法や少年鑑別所法を概観する。 授業　少年に対する処遇と支援①（少年鑑別所、少年院） 復習　配布資料を見返す。
12	田中　教仁	予習　配布資料や参考図書にあたる。 授業　少年に対する処遇と支援②（児童自立支援施設、児童相談所） 復習　配布資料を見返す。
13	田中　教仁	予習　更生保護法を概観する。 授業　少年に対する処遇と支援③（保護観察所） 復習　配布資料を見返す。少年保護関係機関等の処遇について理解を深め、まとめる。

14	田中　教仁	予習　配布資料や参考図書にあたる。 授業　刑務所の処遇と医療観察制度 復習　課題④。配布資料を見返す。
15	田中　教仁	予習　犯罪被害者等支援施策の歴史を調べる。 授業　犯罪被害者等の支援 復習　犯罪被害者等の支援について理解し、まとめる。

授業開始前学習	非行や犯罪、少年法に関連するニュースに関心を持ち調べる。
授業内課題のフィードバックの方法	授業で指示した課題等については，全体の講評という形でフィードバックする。
テキスト・教材	テキストは使わない。授業で適宜，資料を配布し，文献を推薦，紹介する。
参考書	門本泉編著『司法・犯罪心理学』（ミネルヴァ書房） 須藤明著『少年犯罪はどのように裁かれるのかー成人犯罪への道をたどらせないためにー』（合同出版）
評価の基準と方法	所定の出席状況を踏まえたうえで、レポート課題により 60%、授業で指示する課題（小レポート、小テスト等）による 40%の配分で総合的に評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	◎	○		

関連科目	家族心理学（家事事件の領域は、家族心理学において解説する。）
その他	授業の冒頭に、最近の事件報道について数人から報告を求め、全体で共有する時間を設ける。また、ペアワークや小グループでのディスカッションを行い、学生に発表を求めることがある。積極的に発表等する姿勢が求められる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	家庭裁判所調査官としての実務経験をもとに，司法・犯罪領域の問題について，多角的な視点から理解する必要性や，特に心理学の知見を活用して理解し支援する方法について講義する。

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-231 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	130-331-12（Ｊ）	授業コード	FF0750
科目名称	産業･組織心理学			単位数	2.0 単位
英文名称	Industrial and Organizational Psychology			授業区分	講義
科目責任者	新井　素子			必修･選択	履修ガイド参照
担当教員	新井　素子			開講時期	2･3･4 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	皆さんの中で多くの人は，大学卒業後，生涯にわたって何らかの形で働くことになると思われる。より良い形で働くには，その人自身のキャリアやメンタルヘルスだけでなく，雇用先や取引先の会社，役所などの組織との関わりについても基礎的な知識を持ち，考えることが役に立つと考えられる。この授業は，個人の生き方について「キャリア形成」，「モチベーション」，「ストレスマネジメント」などのテーマを通じて学ぶだけでなく，コンフリクト･マネジメントやリーダーシップ論など組織に関する基本的な知識や理論を紹介し，組織との関わりの中で働き，自分の人生を創ることについて共に学ぶものである。					
到達目標	産業心理学の基本的知識を習得する。特にキャリア形成，動機づけ理論，および職場のコミュニケーションについての知識の習得や，社会の中で生きることについて考えながら，心理学からみた職場におけるメンタルヘルスの問題と臨床的活動の実際などについての理解を深める。				
アクティブ･ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	新井　素子	【第 1 回】 予習：産業･組織心理学とはどのようなものなのか，この授業でどのようなことが学びたいのかについて，自分なりに考えてみる（15 分）。 授業：イントロダクション（講義の目的･授業の進め方･注意点など），産業･組織心理学に対するイメージをつかむ。 復習：今後の授業の内容で情味を持ったテーマについて，自分自身のことや新聞･ニュースなどの情報に照らし関連しそうな事柄をチェックする（45 分）。
2	新井　素子	【第 2 回】 予習：自分がどのような組織に関わって来たのかについて考えてみる（15 分）。 授業：組織の特徴やそれに関する心理学の基礎を理解する。ヒューマン･エラーについて理解する。 復習：学んだことを元に，心理学の視点から，自分が今関わっている組織について振り返って考察する（45 分）。
3	新井　素子	【第 3 回】 予習：将来自分がどのようなキャリアを歩みたいのか考えてみる（15 分）。 授業：キャリア形成① 青年期におけるキャリア形成について知り，理解を深める。 復習：授業で得られた青年期の課題についての知識を自分の現在の課題に当てはめ，自分が望むキャリアを歩むには何ができるか見当してみる（45 分）。
4	新井　素子	【第 4 回】 予習：身近な人（親やきょうだい，先輩など）がどのようにキャリアを形成しているのかについて，本人に聞いてみる（15 分）。 授業：キャリア形成② スーパーの理論などキャリアにまつわる理論について知り，理解を深める。 復習：授業で学んだ理論を参照しながら，自分の現在･将来のキャリア形成について考える（45 分）。
5	新井　素子	【第 5 回】 予習：自分はどういうときにやる気が出るのか，なぜやる気が出るのかなどについて考えてみる（15 分）。 授業：ワーク･モチベーション① マズローの 5 段階欲求や科学的管理法などについて，基本的な知識を習得する。 復習：マズローのモデルに基づき，自分がやる気を出そうとしていることについて，現在どの段階にいるのかなどを考察する（45 分）。
6	新井　素子	【第 6 回】 予習：どのようにすれば，自分で自分のやる気を引き出すことができるのかについて考える（15 分）。 授業：ワーク･モチベーション② 期待理論や目標設定理論などについて，基本的な知識を習得する。 復習：自分自身に授業で学んだ知識をあてはめ，目標を達成するためにはどうしたらよいのかについて具体的に検討してみる（45 分）。
7	新井　素子	【第 7 回】 予習：周囲の人（友達や家族など）にどのようにやる気を引き出しているのか聞いたり，自分がどのようにやる気を出しているか振り返ってみる（15 分）。 授業：ワーク･モチベーション③ 自分のやる気について理解を深める。 復習：授業で学んだことを元に，自分がやる気を出すにはどのような方法を採ることができるかなど，自分のモチベーションのあり方について振り返る（45 分）。
8	新井　素子	【第 8 回】 予習：身の回りで就職活動を体験した人（親やきょうだい，先輩等）に就職活動の様子を聞いてみる（15 分）。 授業：心理学の視点から，採用活動や面接についての基礎的な知識を習得する。 復習：授業で学んだ知識などを自分や知り合いの就職活動に当てはめて検討してみる（45 分）。

9	新井　素子	【第 9 回】 予習：職場の人間関係についてのニュースや新聞の中から，気になる記事についてピックアップして読む（15 分）。 授業：職場のコミュニケーションと人間関係① 職場の人間関係，集団の発達などについて基本的な知識を習得する。 復習：授業で学んだ知識を，自分が所属するグループやニュースなどで知った具体例に当てはめて考察してみる（45 分）。
10	新井　素子	【第 10 回】 予習：インターネットや新聞などから，職場の人間関係を改善した実際の例について調べてみる（15 分）。 授業：職場のコミュニケーションと人間関係② コンフリクト・マネジメントについて基本的な知識を習得する。 復習：授業で得た知識や考え方から，職場の人間関係におけるコンフリクトがどのように解決されたか／解決できるかについて具体的に考える（45 分）。
11	新井　素子	【第 11 回】 予習：自分の身の周りにいるリーダーシップがある人の特徴について考える（15 分）。 授業：リーダーシップについての基本的な知識や考え方を習得する。 復習：授業で得た知識などを踏まえ，自分がリーダーシップがあると感じる人の要因を具体的に分析する（45 分）。
12	新井　素子	【第 12 回】 予習：自分がどのような消費活動を行っているか，特に購買行動について考える（15 分）。 授業：購買行動をめぐる売り手・買い手に関係する心理学的な知識を習得する。 復習：授業で得た知識や考え方を踏まえ，自分の購買行動を振り返り，どのような行動を採るとより良いかを検討してみる（45 分）。
13	新井　素子	【第 13 回】 予習：働く人のメンタルヘルスに関わるニュースについて，インターネットや新聞記事を調べる（15 分）。 授業：働く人のメンタルヘルス① 職場におけるストレスとその対応について基本的な知識を習得する。 復習：授業で学んだことを踏まえ，アルバイト先など実際の職場ではどのようなストレス対処策が実施されているのかについて調べる(45 分）。
14	新井　素子	【第 14 回】 予習：新聞や書籍などから働く人のメンタルヘルスに関わる問題について調べる（15 分）。 授業：働く人のメンタルヘルス② 様々なストレス理論について理解を深める 復習：ストレス理論を自分に当てはめて，自分自身のストレス対応を考える（45 分）。
15	新井　素子	【第 15 回】 予習：自分のストレス解消法について考えてみる（15 分）。 授業 ： 働く人のメンタルヘルス③ これまでのまとめ(セルフケアの勧め) 復習：自分で授業で学んだセルフケアを実践してみる（45 分）。

授業開始前学習	①新聞・ニュースで，授業に関連する気になるニュースをチェックしておく。 ②自分自身のアルバイトや今後の就職活動において気になる問題を考えておく。
授業内課題のフィードバックの方法	授業内でミニレポートあるいはミニテストを実施し，原則として翌週に授業内でフィードバックを行う。質問についても授業の前後において適宜対応する。
テキスト・教材	スライドと配布資料を用いる。その他の参考文献は講義内で随時紹介する。
参考書	田中堅一郎（編） 『産業・組織心理学エッセンシャルズ』 （ナカニシヤ出版）
評価の基準と方法	ミニテスト及びレポート　100%　（レポート含む） ※全講義回数のうち１／３以上欠席の場合は単位取得不可
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	◎	○		

関連科目	消費者心理学
その他	講義順序が一部変更となる可能性がある。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	約 10 年にわたる社会人経験や人事担当者として勤務した際の体験などを活かし，組織の中で働くことや就職活動について具体的にイメージしてもらう。女性の働き方の多様性や一生を通じて働くということの意味について主体的に考えるためのヒントを提供し，産業・組織心理学を学ぶことの楽しさを伝えるよう心掛ける。

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-231	科目分類（～2024 年入学者）	130-330-12	授業コード	FF0760
科目名称	消費者心理学			単位数	2.0 単位
英文名称	Consumer Psychology			授業区分	講義
科目責任者	永房　典之			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	永房　典之			開講時期	2･3･4 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	社会心理学における「消費者・消費行動の心理」について学ぶ。 生産者のマーケティング、ブランド選択、価格判断、消費者間コミュニケーション、購買意思決定、比較広告、ネット、地域性、日本・外国の文化といった消費者心理研究の基本的内容を概観する。				
到達目標	社会心理学には、購買行動を含めた消費行動、消費者に役立つ研究領域があることを理解できる。 社会心理学における消費者の態度や認知、消費行動についての研究を学ぶことで、消費者としての自分、就職活動や就職後の仕事に役立つ知見を自分なりに考えることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	永房　典之	【第１回】 予習　：　序章（１頁－１３頁）の通読 授業　：「消費行動の社会心理学」　（テキスト１頁－１３頁） 復習　：消費行動の社会心理学アプローチの確認および関連文献の通読
2	永房　典之	【第２回】 予習　：１章（テキスト１６頁－２５頁）の通読 授業　：「ブランド選択の心理」　（テキスト１６頁－２５頁） 復習　：商品選択とブランド選択に関する研究の確認および関連文献の通読
3	永房　典之	【第３回】 予習　：２章（テキスト２６頁－３８頁）の通読 授業　：「消費者の価値意識」　（テキスト２６頁－３８頁） 復習　：マクロとミクロの消費者の価値意識に関する研究の確認および関連文献の通読
4	永房　典之	【第４回】 予習　：　３章（テキスト４０頁－５１頁）の通読 授業　：「消費者の非計画購買過程」　（テキスト４０頁－５１頁） 復習　：消費者の非計画購買に関する研究の確認および関連文献の通読
5	永房　典之	【第５回】 予習　：４章（テキスト５２頁－６３頁）の通読 授業　：「消費者の価格判断の過程」　（テキスト４６頁－５９頁） 復習　：心的モノサシと価格判断に関する研究の確認および関連文献の通読
6	永房　典之	【第６回】 予習　：５章（テキスト６６頁－７９頁）の通読 授業　：「消費者間相互作用と購買意思決定」　（テキスト６０頁－７５頁） 復習　：口コミとマーケティングに関する研究の確認および関連文献の通読
7	永房　典之	【第７回】 予習　：６章（テキスト８０頁－９４頁）の通読 授業　：「インターネットを通じた消費者間コミュニケーション過程」　（テキスト８０頁－９４頁） 復習　：インターネットと消費行動に関する研究の確認および関連文献の通読
8	永房　典之	【第８回】 予習　：７章　（テキスト９６頁－１０７頁）の通読 授業　：「比較広告と消費行動」　（テキスト９６頁－１０７頁） 復習　：比較広告に関する研究の確認および関連文献の通読
9	永房　典之	【第９回】 予習　：　８章（テキスト１０８頁－１１７頁）の通読 授業　：「悪質商法におけるコミュニケーションと消費者行動」　（テキスト１０８頁－１１７頁） 復習　：悪質商法と資格商法に関する研究の確認および関連文献の通読
10	永房　典之	【第 10 回】 予習　：　９章（テキスト１１８頁－１２８頁）の通読 授業　：「企業のリスク・コミュニケーションと消費行動」　（テキスト１１８頁－１２８頁） 復習　：企業におけるリスク・コミュニケーションに関する研究の確認および関連文献の通読
11	永房　典之	【第 11 回】 予習　：１０章（テキスト１３０頁－１４１頁）の通読 授業　：「サービスの地域性と消費行動」　（テキスト１３０頁－１４１頁） 復習　：接客サービスの地域性に関する研究の確認および関連文献の通読

12	永房　典之	【第 12 回】 予習　：１１章（テキスト１４２頁－１５４頁）の通読 授業　：「地域性を考慮した広告の効果」（テキスト１４２頁－１５４頁） 復習　：地域限定と地域ステレオタイプの広告に関する研究の確認および関連文献の通読
13	永房　典之	【第 13 回】 予習　：１２章（テキスト１５６頁－１６３頁）の通読 授業　：「文化受容と消費行動」（テキスト１５６頁－１６３頁） 復習　：日本のポピュラー文化の受容に関する研究の確認および関連文献の通読
14	永房　典之	【第 14 回】 予習：１３章（テキスト１６４頁－１７５頁）の通読 授業　：「消費行動の文化的意味」（テキスト１６４頁－１７５頁） 復習　：消費行動の文化差に関する研究の確認および関連文献の通読
15	永房　典之	【第 15 回】 予習　：テキスト１章－１３章の再確認 授業　：消費行動の心理の総括（学習成果の確認・到達度アセスメント） 復習　：消費者心理学を通じて現代社会と身近な消費行動を考察する

授業開始前学習	社会心理学に関連する本、マーケティング調査、広告、購買行動、ビジネス心理に関連する本の購読。
授業内課題のフィードバックの方法	リアクションペーパーについては次回の授業回、調査票については実施後の当該授業回または次回の授業回、学習成果の確認テストは当該授業回または遠隔教育ツールにて解説を行う。
テキスト・教材	竹村和久（編）『消費行動の社会心理学ー消費する人間のこころと行動』（北大路書房） ２０００年発行　２，５００円＋税
参考書	社会行動研究会（翻訳）　ロバート・B・チャルディーニ（著）『影響力の武器（第三版）－ なぜ、人は動かされるのか』（誠信書房）　２０１４年発行　２，７００円＋税 社会行動研究会（監訳）　ロバート・B・チャルディーニ（著）『影響力の武器［新版］－人を動かす七つの原理』（誠信書房）　２０２３年発行　２，９００円＋税
評価の基準と方法	学習成果の確認テスト（６０点）、平常点（授業態度・リアクションペーパー・調査票参加：４０点）によって総合的に評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	◎	○		

関連科目	「社会・集団心理学」、「対人関係論」とは基盤となる心理学領域や研究方法で関連する。
その他	通常の講義形式である。 理解や関心を高める資料を配布し、社会心理学やマーケティング調査の体験学習として調査実施することがある。 授業資料の扱いについては授業時に指示する。 授業中は、私語を慎み、携帯電話の扱いに注意すること。 一般心理学に関心がある者、なかでもマーケティング方法や購買行動の知識を高めることで就職活動や将来の仕事に活用したい者を歓迎する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-111 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	130-330-12（Ｊ）	授業コード	FF0770
科目名称	☆ｺﾐｭﾆﾃｨ心理学			単位数	2.0 単位
英文名称	Community Psychology			授業区分	講義
科目責任者	藤川 麗			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	藤川 麗			開講時期	1･2･3･4 年
オフィスアワー	前期 木曜日 13:00～14:30 金曜日 12:30～14:00 後期 木曜日 10:40～12:10 金曜日 12:30～14:00			研究室	10-712
授業概要	人の心の問題を、個人とその個人を取り巻くコミュニティ（集団）との関係という視点から理解する、コミュニティ心理学の授業である。心の問題を理解するための理論と、理論に基づく予防策や対応法について、事例を通して学ぶ。また、学校現場における支援、精神障害者に対する支援、虐待問題への支援、被災者への支援など、現実に生じているさまざまな心理的問題への支援方法について学んでいく。				
到達目標	コミュニティ心理学の基本的理念である、「コミュニティ感覚」、「予防」、「エンパワメント」、「連携と協働」等の概念について理解し、説明できるようになる。コミュニティ心理学の実践方法である、「危機介入法」、「コンサルテーション」、「連携と組織作り」について、課題を通して理解を深め、自分なりに支援方法を考えることができるようになる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	○
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	藤川 麗	【第 1 回】 予習：「コミュニティ」という用語について国語辞典で調べておく 授業：ガイダンス、コミュニティ心理学の歴史（資料①） 復習：配布資料①の復習、課題①の提出
2	藤川 麗	【第 2 回】 予習：「生態学的視座」という用語について調べておく 授業：コミュニティ心理学の基本的発想と方法 1（資料②） 復習：資料②の復習、課題②の提出
3	藤川 麗	【第 3 回】 予習：「予防」という用語について調べておく 授業：コミュニティ心理学の基本的発想と方法 2（資料③） 復習：資料③の復習、課題③の提出
4	藤川 麗	【第 4 回】 予習：「危機」という用語について国語辞典で調べておく 授業：危機理論と危機介入法 1（資料④） 復習：資料④の復習、課題④の提出
5	藤川 麗	【第 5 回】 予習：危機理論を復習しておく 授業：危機理論と危機介入法 2（資料⑤） 復習：資料⑤の復習、課題⑤の提出、レポート課題 1 の作成
6	藤川 麗	【第 6 回】 予習：「コンサルテーション」という用語について調べておく 授業：コンサルテーション 1（資料⑥） 復習：資料⑥の復習、課題⑥の提出
7	藤川 麗	【第 7 回】 予習：レポート課題 2 の作成 授業：コンサルテーション 2（資料⑦） 復習：資料⑦の復習、課題⑦の提出、レポート課題 2 の作成
8	藤川 麗	【第 8 回】 予習：「ソーシャルサポート」という用語について調べておく 授業：社会的支援の組織作りとコラボレーション 1（資料⑧） 復習：資料⑧の復習、課題⑧の提出
9	藤川 麗	【第 9 回】 予習：「スクールカウンセラー」について調べておく 授業：社会的支援の組織作りとコラボレーション 2 児童・生徒への支援（資料⑨） 復習：資料⑨の復習、課題⑨の提出
10	藤川 麗	【第 10 回】 予習：「セルフヘルプ」という用語について調べておく 授業：社会的支援の組織作りとコラボレーション 3 精神障害者への支援（資料⑩） 復習：資料⑩の復習、課題⑩の提出
11	藤川 麗	【第 11 回】 予習：「児童虐待」について調べておく 授業：社会的支援の組織作りとコラボレーション 4 子育て支援（資料⑪） 復習：資料⑪の復習、課題⑪の提出

12	藤川 麗	【第 12 回】 予習：「社会的ひきこもり」について調べておく 授業：社会的支援の組織作りとコラボレーション 5 若者への支援 （資料⑫） 復習：資料⑫の復習、課題⑫の提出
13	藤川 麗	【第 13 回】 予習：「外国人労働者」について調べておく 授業：社会的支援の組織作りとコラボレーション 6 異文化を背景とする住民への支援 （資料⑬） 復習：資料⑬の復習、課題⑬の提出、レポート課題 3 の作成
14	藤川 麗	【第 14 回】 予習：「PTSD」について調べておく 授業：社会的支援の組織作りとコラボレーション 7 被災者・被害者の支援①（資料⑭） 復習：資料⑭の復習、課題⑭の提出、レポート課題 3 の作成
15	藤川 麗	【第 15 回】 予習：「サイコロジカル・ファーストエイド」について調べておく 授業：社会的支援の組織作りとコラボレーション 8 被災者・被害者の支援② 授業のまとめ（資料⑮） 復習：資料⑮の復習、課題⑮の提出

授業開始前学習	ニュースや新聞を通じてさまざまな社会問題に触れ、自分がどのようなコミュニティに興味を感じるか考えておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	毎回の授業で課題（小テストもしくはミニット・ペーパー等）の提出を求め、その次の回で全体に対して質問やコメントへの返答を行う。
テキスト・教材	特に指定しない（授業中に随時配布する）。
参考書	特に指定しない。
評価の基準と方法	毎回後の小テストもしくはミニット・ペーパーの提出（5 点×15 回＝75 点）、レポート課題 1（6 点）、レポート課題 2（7 点）、レポート課題 3（12 点）の総合点で評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	◎	○		

関連科目	なし。
その他	特になし。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	心理臨床の実務経験を活かしてコミュニティにおける心理支援の理念と実践について講義する。

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-231	科目分類（～2024 年入学者）	130-330-12	授業コード	FF0780
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ心理学			単位数	2.0 単位
英文名称	Sports Psychology			授業区分	講義
科目責任者	小松　陽香			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小松　陽香			開講時期	2･3･4 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	スポーツ心理学の観点から、多角的にスポーツを捉え、スポーツの現場に必要な基礎的な理論と知見について学ぶ。スポーツ現場の現状を理解し、講義を通して得た知識を用いることで、スポーツ競技者が主体となってパフォーマンスの向上や精神の安定を導くこと、スポーツ現場に対して効果的な介入を行うための基礎的な知識を身に着けることを目標とする。				
到達目標	スポーツ心理学に関する基礎的な理論と知見について理解する。スポーツが持つ心理的効果や動機づけなどのスポーツ現場の現状の把握や技法の習得を通して、パフォーマンスの向上や効果的なスポーツ活動を導く方法を具体的に検討できるようになる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	小松　陽香	【第 1 回】 予習　：シラバスを確認しておく 授業　：スポーツ心理学の概要、授業の目的・評価について 復習　：自分自身の興味、関心が高いテーマを確認する
2	小松　陽香	【第 2 回】 予習　：ストレス認知について調べておく 授業　：　スポーツとストレス認知について 復習　：授業資料を見直す
3	小松　陽香	【第 3 回】 予習　：ストレス対処について調べておく 授業　：スポーツとストレス対処について 復習　：授業資料を見直す
4	小松　陽香	【第 4 回】 予習　：　自尊感情について調べておく 授業　：　スポーツと関係の深い心理要素について①（自尊感情） 復習　：　授業資料を見直す
5	小松　陽香	【第 5 回】 予習　：　動機づけと自己効力感について調べておく 授業　：　スポーツと関係の深い心理要素について②（動機づけ、自己効力感） 復習　：　授業資料を見直す
6	小松　陽香	【第 6 回】 予習　：　自分の現在の目標について考えておく 授業　：　目標設定の理論について 復習　：　授業資料を見直す
7	小松　陽香	【第 7 回】 予習　：　スポーツ選手が抱える可能性の高い心理的問題について調べておく 授業　：　スポーツ選手が抱える可能性の高い心理的問題と対処法について 復習　：　授業資料を見直す
8	小松　陽香	【第 8 回】 予習　：　ソーシャルサポートについて調べておく 授業　：　スポーツ活動におけるソーシャルサポートについて（グループワーク） 復習　：　授業資料を見直す
9	小松　陽香	【第 9 回】 予習　：　行動変容について調べておく 授業　：　スポーツ活動の実施にかかわる行動変容ついて（問題解決型学習） 復習　：　授業資料を見直す
10	小松　陽香	【第 10 回】 予習　：　心理的競技能力について調べておく 授業　：　心理的競技能力について 復習　：　授業資料を見直す
11	小松　陽香	【第 11 回】 予習　：　メンタルコントロールについて調べておく 授業　：　心理状態とパフォーマンスの関係①（心と身体の関連） 復習　：　授業資料を見直す

12	小松　陽香	【第 12 回】 予習　：　リラクセーションについて調べておく 実習前に自分の心と身体の健康状態を確認しておく 授業　：　心理状態とパフォーマンスの関係②（リラクセーション法）（演習） 復習　：　授業資料を見直すこと
13	小松　陽香	【第 13 回】 予習　：　あがりについて調べておく 授業　：　心理状態とパフォーマンスの関係③（集中力のトレーニング）（演習） 復習　：　授業資料を見直すこと
14	小松　陽香	【第 14 回】 予習　：　イメージによる課題のトレーニングについて調べておく 授業　：　心理状態とパフォーマンスの関係④（イメージによる課題のトレーニング）（演習） 復習　：　授業資料を見直すこと
15	小松　陽香	【第 15 回】 予習　：　今までの授業資料および小レポート内容を振り返っておく 授業　：スポーツ心理学総括 復習　：　授業資料を見直すこと

授業開始前学習	スポーツ心理学がスポーツに与える影響や、競技場面においてスポーツ心理学が果たす役割について考えておく。
授業内課題のフィードバックの方法	授業毎回の小レポートについては、翌週に全体の講評と質問の回答をする。
テキスト・教材	授業時に資料を配布する。
参考書	
評価の基準と方法	レポート 40%、平常点（小レポート）60%による。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		◎	○		

関連科目	
その他	授業内容は学生の興味・関心、世相を踏まえ、内容を調整する可能性がある。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-231 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	130-331-12（Ｊ）	授業コード	FF0910
科目名称	人体の構造と機能及び疾病			単位数	2.0 単位
英文名称	Human Body Structure, Function and Diseases			授業区分	講義
科目責任者	太齋　慧			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	太齋　慧			開講時期	2･3･4 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	心理的支援の視座から医学・医療，健康，及び生涯発達に伴う疾患や障害について学んだうえで，心理的支援を要することの多い疾病等について基礎的な知識を習得し適切なそれらの疾病等と共に生きる人への心理的支援について考える。				
到達目標	①医学・医療，健康，生涯発達に伴う疾患や障害について心理的支援の立場から説明できる。 ②各種疾病等について基本的な内容を説明でき，適切な心理的支援について考えられる。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	太齋　慧	【第 1 回】 予習：授業スケジュールおよび Classroom を確認する 授業：オリエンテーション，医学・医療と心理 復習：第 1 回の内容を振り返る
2	太齋　慧	【第 2 回】 予習：EBM（エビデンス・ベイスト・メディスン）と NBM（ナラティヴ・ベイスト・メディスン）ついて調べる 授業：EBM（エビデンス・ベイスト・メディスン）と NBM（ナラティヴ・ベイスト・メディスン） 復習：第 2 回の内容を振り返る
3	太齋　慧	【第 3 回】 予習：健康と健康増進について調べる 授業：健康と健康増進 復習：第 3 回の内容を振り返る
4	太齋　慧	【第 4 回】 予習：小児の成長発達と疾患について調べる 授業：小児の成長発達と疾患 復習：第 4 回の内容を振り返る
5	太齋　慧	【第 5 回】 予習：加齢と疾患について調べる 授業：加齢と疾患 復習：第 5 回の内容を振り返る
6	太齋　慧	【第 6 回】 予習：周産期医療について調べる 授業：周産期医療 復習：第 6 回の内容を振り返る
7	太齋　慧	【第 7 回】 予習：遺伝性疾患・先天性疾患・遺伝カウンセリングについて調べる 授業：遺伝性疾患・先天性疾患・遺伝カウンセリング 復習：第 7 回の内容を振り返る
8	太齋　慧	【第 8 回】 予習：難病について調べる 授業：難病 復習：第 8 回の内容を振り返る
9	太齋　慧	【第 9 回】 予習：感染症について調べる 授業：感染症 復習：第 9 回の内容を振り返る
10	太齋　慧	【第 10 回】 予習：依存症について調べる 授業：依存症（アルコール・薬物を中心に） 復習：第 10 回の内容を振り返る
11	太齋　慧	【第 11 回】 予習：糖尿病について調べる 授業：糖尿病 復習：第 11 回の内容を振り返る

12	太齋　慧	【第 12 回】 予習：認知症・脳血管障害について調べる 授業：認知症・脳血管障害 復習：第 12 回の内容を振り返る
13	太齋　慧	【第 13 回】 予習：循環器疾患について調べる 授業：循環器疾患 復習：第 13 回の内容を振り返る
14	太齋　慧	【第 14 回】 予習：腫瘍臨床とがんサバイバーシップについて調べる 授業：腫瘍臨床とがんサバイバーシップ 復習：第 14 回の内容を振り返る
15	太齋　慧	【第 15 回】 予習：緩和ケア，エンドオブライフケア，グリーフケアについて調べる 授業：緩和ケア，エンドオブライフケア，グリーフケア 復習：第 15 回の内容を振り返る

授業開始前学習	
授業内課題のフィードバックの方法	Classroom を使い、授業の内容に関する質問を受け付けるフォームを設置する。質問や疑問は授業の中で回答していく。
テキスト・教材	適宜、Classroom での資料データのアップロードおよび講義内での資料配布を実施する。
参考書	斎藤清二　著『公認心理士の基礎と実践 21　人体の構造と機能及び疾病』（遠見書房） 武田克彦・岩田淳・小林靖　編『公認心理師カリキュラム準拠　人体の構造と機能及び疾病』(医歯薬出版株式会社)
評価の基準と方法	各回のリアクション（30 点）、期末レポート（70 点）にて総合的に評価する。 ※全講義回数のうち１／３以上欠席の場合は単位取得不可
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	△	

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	心理支援の実務経験を活かし，心理支援の考え方について講義する。

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-231	科目分類（～2024 年入学者）	130-331-12	授業コード	FF0920
科目名称	精神疾患とその治療			単位数	2.0 単位
英文名称	Psychiatric Disorders and Treatments			授業区分	講義
科目責任者	小口　芳世			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小口　芳世			開講時期	2・3・4 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	精神医学について概説し、精神疾患の診断・治療の総論事項をふまえながら、精神疾患各論について解説する。				
到達目標	精神医学のアウトライン、精神疾患の診断と治療双方ならびに各精神疾患に関する基礎的事項を説明できるようになる。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	小口　芳世	【第 1 回】精神医学総論 予習：精神医学総論について調べる 授業：精神医学総論について 復習：精神医学総論について復習する
2	小口　芳世	【第 2 回】精神疾患の診断と診断基準 予習：精神疾患の診断と診断基準について調べる 授業：精神疾患の診断と診断基準について 復習：精神疾患の診断と診断基準について復習する
3	小口　芳世	【第 3 回】精神疾患の治療 予習：精神疾患の治療について調べる 授業：精神疾患の治療について 復習：精神疾患の治療について包括的に復習する
4	小口　芳世	【第 4 回】神経発達症 予習：神経発達症について調べる 授業：神経発達症について 復習：神経発達症について復習する
5	小口　芳世	【第 5 回】統合失調症 予習：統合失調症について調べる 授業：統合失調症について 復習：統合失調症について復習する
6	小口　芳世	【第 6 回】気分症 予習：気分症について調べる 授業：気分症について 復習：気分症について復習する
7	小口　芳世	【第 7 回】不安症、強迫症 予習：社交不安症、パニック症、全般不安症、強迫症について調べる 授業：社交不安症、パニック症、全般不安症、強迫症について 復習：社交不安症、パニック症、全般不安症、強迫症について復習する
8	小口　芳世	【第 8 回】ストレス因関連症候群、解離症 予習：ストレス因関連症候群、解離症について調べる 授業：ストレス因関連症候群、解離症について 復習：ストレス因関連症候群、解離症について復習する
9	小口　芳世	【第 9 回】食行動症・摂食症群、排泄症群、睡眠-覚醒障害群 予習：食行動症・摂食症群、排泄症群、睡眠-覚醒障害群について調べる 授業：食行動症・摂食症群、排泄症群、睡眠-覚醒障害群について 復習：食行動症・摂食症群、排泄症群、睡眠-覚醒障害群について復習する
10	小口　芳世	【第 10 回】物質使用症または嗜癖行動症群 予習：物質使用症または嗜癖行動症群について調べる 授業：物質使用症または嗜癖行動症群について 復習：物質使用症または嗜癖行動症群について復習する
11	小口　芳世	【第 11 回】認知症、せん妄 予習：認知症、せん妄について調べる 授業：認知症、せん妄について 復習：認知症、せん妄について復習する

12	小口　芳世	【第 12 回】てんかん、器質性精神障害 予習：てんかん、器質性精神障害について調べる 授業：てんかん、器質性精神障害について 復習：てんかん、器質性精神障害について復習する
13	小口　芳世	【第 13 回】パーソナリティ症、性の健康に関連する状態群 予習：パーソナリティ症、性の健康に関連する状態群について調べる 授業：パーソナリティ症、性の健康に関連する状態群について 復習：パーソナリティ症、性の健康に関連する状態群について復習する
14	小口　芳世	【第 14 回】緩和医療 予習：緩和医療について調べる 授業：緩和医療について 復習：緩和医療について復習する
15	小口　芳世	【第 15 回】医療機関との連携、まとめ 予習：医療機関との連携について調べる 授業：医療機関との連携について 復習：医療機関との連携について復習する

授業開始前学習	
授業内課題のフィードバックの方法	授業内課題は原則、設けない（一部、成績には入らない演習として求める場合がある）。
テキスト・教材	
参考書	
評価の基準と方法	定期試験の成績（90%）と出席（10%）による。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	△	

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-231 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	130-331-12 （J）	授業コード	FF0940
科目名称	教育相談			単位数	2.0 単位
英文名称	Educational Counseling			授業区分	講義
科目責任者	綾城 初穂			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	綾城 初穂			開講時期	2・3・4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 14:40～17:40 後期 火曜日 14:40～17:40			研究室	10-714
授業概要	教育相談や生徒指導などにおいて、児童生徒の心理を理解することは非常に重要である。本授業では、カウンセリングをはじめとした臨床心理学の基礎知識をもとに児童生徒への理解を深め、カウンセリングマインドに基づく支援を学ぶことを目的とする。学校では、個人心理や発達だけでなく、関係性や集団・コミュニティ・社会・文化の検討も必要となるため、幅広い視野から児童生徒の心理理解ができるよう、様々な見方・考え方を扱う。ワークによるアクティブラーニングを通して自身の見解を省察する活動も積極的に取り入れる。				
到達目標	カウンセリングをはじめとした臨床心理学の知見をもとに、児童生徒への理解を深め、実践に活用できるようになる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	綾城 初穂	【第 1 回】 予習 ：特に必要はない 授業 ：イントロダクション 復習 ：配布資料の見返し
2	綾城 初穂	【第 2 回】 予習 ：事前配布資料の熟読 授業 ：児童生徒理解①発達心理学の観点から 復習 ：配布資料の見返し
3	綾城 初穂	【第 3 回】 予習 ：事前配布資料の熟読 授業 ：児童生徒理解②教育心理学の観点から 復習 ：配布資料の見返し
4	綾城 初穂	【第 4 回】 予習 ：事前配布資料の熟読 授業 ：児童生徒理解③社会心理学の観点から 復習 ：配布資料の見返し
5	綾城 初穂	【第 5 回】 予習 ：事前配布資料の熟読 授業 ：児童生徒理解④自殺・自傷行為 復習 ：配布資料の見返し
6	綾城 初穂	【第 6 回】 予習 ：事前配布資料の熟読 授業 ：児童生徒理解⑤発達障害・学習障害・知的障害 復習 ：配布資料の見返し
7	綾城 初穂	【第 7 回】 予習 ：事前配布資料の熟読 授業 ：児童生徒理解⑥アートを使った自己理解・ワークを用いたアクティブラーニング 復習 ：配布資料の見返し
8	綾城 初穂	【第 8 回】 予習 ：事前配布資料の熟読 授業 ：児童生徒を支援する方法①認知行動療法・ワークを用いたアクティブラーニング 復習 ：配布資料の見返し
9	綾城 初穂	【第 9 回】 予習 ：事前配布資料の熟読 授業 ：児童生徒を支援する方法②動機付け面接法・ワークを用いたアクティブラーニング 復習 ：配布資料の見返し
10	綾城 初穂	【第 10 回】 予習 ：事前配布資料の熟読 授業 ：児童生徒を支援する方法③ナラティヴセラピー入門 復習 ：配布資料の見返し
11	綾城 初穂	【第 11 回】 予習 ：事前配布資料の熟読 授業 ：児童生徒への具体的支援①修復的実践 復習 ：配布資料の見返し

12	綾城　初穂	【第 12 回】 予習　：事前配布資料の熟読 授業　：児童生徒への具体的支援②コンサルテーション 復習　：配布資料の見返し
13	綾城　初穂	【第 13 回】 予習　：事前配布資料の熟読 授業　：児童生徒への具体的支援③関係者会議・ワークを用いたアクティブラーニング 復習　：配布資料の見返し
14	綾城　初穂	【第 14 回】 予習　：事前配布資料の熟読 授業　：児童生徒への具体的支援④いじめ対策 復習　：配布資料の見返し
15	綾城　初穂	【第 15 回】 予習　：事前配布資料の熟読 授業　：児童生徒の心理を包括的に理解し支援する 復習　：これまでの資料の見返し

授業開始前学習	特に必要ない。
授業内課題のフィードバックの方法	授業内の小レポートについては，次の授業時に全体に向けてフィードバックを行う。授業で課するレポート課題については，修正点やアドバイス等コメントを記載した上で返却する。
テキスト・教材	初回までにそろえるべきものはない。授業内で別途指示する。
参考書	文部科学省 (2022).「生徒指導提要（改訂版）」https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1404008_00001.htm ウィンズレイド，J. ウィリアムズ，M. (2016).『いじめ・暴力に向き合う学校づくり：対立を修復し、学びに変えるナラティヴ・アプローチ』新曜社.
評価の基準と方法	最終レポートによる評価 30%と、各回のミニレポートによる評価 70%の合算で評価する
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○		△

関連科目	
その他	１．実習室、実習備品の都合により内容もしくは講義順序を一部変更する可能性がある。 ２．本授業は体験学習も行うため、積極的な出席が望まれる。また、各種心理アセスメントや臨床心理技法の体験が含まれるため、精神的に不安定で受講に不安がある場合は、必ず事前に相談すること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	教育相談を現場とした心理臨床の実務経験あり。教育相談で求められる知識と対応について講義する。

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-131 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	130-330-12 （Ｊ）	授業コード	FF0950
科目名称	文芸と心理			単位数	2.0 単位
英文名称	Literature and Psychology			授業区分	講義
科目責任者	倉石　聡子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	倉石　聡子			開講時期	1･2･3･4 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	本授業では、臨床アートセラピーの基本的な理論に触れ、臨床場面においてアートを用いる際の援助者のあり方を学ぶ。一方的な分析や解釈ではなく、作品や創作プロセスから何を読み取り、それをどのように心理臨床場面に生かすかを考える。 演習では、素材に触れることで感情や無意識が動き、作品として可視化されるプロセスを体験する。また、完成した作品を見返し言語化することで、自己探索を深めるプロセスも重視する。講義で得た理論的知識について演習を通じて体験的に理解し、さらにグループ・ディスカッションで振り返ることで、言語と非言語、理論と体験の両側面から心理的ケアにおけるアートの役割を学ぶ。				
到達目標	①芸術とケアのつながりを理解する。 ②アートを心理支援に生かすための基本態度や理論を理解する。 ②アート演習を通して自己理解を深める。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	倉石　聡子	【第 1 回】 予習：シラバスを熟読し授業スケジュールを確認する 授業：アートセラピーの概要と歴史　講義 復習：授業内容の振り返り
2	倉石　聡子	【第 2 回】 予習：対象者の心を開くための援助者のあり方について考える 授業：心を開くことをサポートするアート　講義と演習 復習：「理論と体験から学んだこと」リフレクションペーパー作成
3	倉石　聡子	【第 3 回】 予習：身の回りの画材をリサーチする 授業：画材の特徴と心理的影響 1　講義と演習 復習：授業内容の振り返り
4	倉石　聡子	【第 4 回】 予習：各画材の特徴と心理的にもたらす影響について仮説を立てる 授業：画材の特徴と心理的影響 2　講義と演習 復習：「理論と体験から学んだこと」リフレクションペーパー作成
5	倉石　聡子	【第 5 回】 予習：ウォーミングアップの目的について考える 授業：ウォーミングアップのアート　講義と演習 復習：授業内容の振り返り
6	倉石　聡子	【第 6 回】 予習：アートから何を見立てるのか考える 授業：アセスメントのアート　講義と演習 復習：「理論と体験から学んだこと」リフレクションペーパー作成
7	倉石　聡子	【第 7 回】 予習：描画発達について事前リサーチを行う 授業：子どものアート 1　講義と演習 復習：授業内容の振り返り
8	倉石　聡子	【第 8 回】 予習：幼い頃に描いた絵（現物や写真）があれば持参する 授業：子どものアート 2　講義と演習 復習：「理論と体験から学んだこと」リフレクションペーパー作成
9	倉石　聡子	【第 9 回】 予習：アートが活用されている支援現場に関する事前リサーチ 授業：多様な現場におけるアートの事例 1　講義 復習：授業内容の振り返り
10	倉石　聡子	【第 10 回】 予習：アートが活用されている支援現場に関する事前リサーチ 授業：多様な現場におけるアートの事例 2　講義 復習：「理論と体験から学んだこと」リフレクションペーパー作成

11	倉石　聡子	【第 11 回】 予習：グループセラピーに関する事前リサーチ 授業：グループアートのプランニング 1　講義と演習 復習：授業内容の振り返り
12	倉石　聡子	【第 12 回】 予習：グループを実践してみたい対象者と現場を考える 授業：グループアートのプランニング 2　発表 復習：「理論と体験から学んだこと」リフレクションペーパー作成
13	倉石　聡子	【第 13 回】 予習：芸術療法について事前リサーチ 授業：さまざまな芸術療法と ABR（アートベース・リサーチ）　講義と演習 復習：授業内容の振り返り
14	倉石　聡子	【第 14 回】 予習：ABR について事前リサーチ 授業：さまざまな芸術療法と ABR（アートベース・リサーチ）2　講義と演習 復習：「理論と体験から学んだこと」リフレクションペーパー作成
15	倉石　聡子	【第 15 回】 予習：これまでの授業について配布資料などから確認する 授業：授業まとめ 復習：授業レポートの作成

授業開始前学習	シラバスを熟読し、予習として書かれていることについて、書籍やウェブから事前リサーチを行う。また、そのテーマについて自分の考えを整理する。
授業内課題のフィードバックの方法	講義資料と演習の振り返りとしてリフレクションペーパーを個別に作成し、これを基に全体でディスカッションを行ったのち、各テーマ毎に講評を行う。
テキスト・教材	資料、プリント等は適宜配布する。
参考書	参考資料は適宜紹介する。
評価の基準と方法	授業内の発表（30%）、レポート（40%）、リフレクションペーパー（10%）、授業態度・授業への貢献（20%）
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎		○			○		

関連科目	心理学関連の授業、芸術に関わる授業など
その他	・演習では、絵具等を使用するため、汚れても気にならない服装での参加を推奨する。 ・アート演習について、基本的には画材等の準備は不要であるが、場合によっては授業内でアナウンスすることもある。 ・演習で制作した作品は各自で持ち帰るため、必要に応じてビニール袋やエコバッグ等を持参すること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	対象者に適したアート活動をいかに導入するのか、心理、教育、医療、福祉等の幅広い現場における心理臨床経験から、実践や事例を紹介する。

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-131	科目分類（～2024 年入学者）	130-330-12	授業コード	FF0960
科目名称	☆言葉と心理			単位数	2.0 単位
英文名称	Language and Psychology			授業区分	講義
科目責任者	保坂　律子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	保坂・米金			開講時期	1・2・3・4 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	ある一つの文を発話するには、必ず心理が作用する。本授業では、「社会言語学」「ディスクール分析」「語用論」「相互作用の分析」「言語心理学」などを手がかりに、「言葉と心理」について考察する。特に、話し手(発話者)と聞き手（受信者）の間にある一定の儀礼的なディスクールや、発話者の使用する語彙（あなた、君、お前）・表現（謙譲語、尊敬語、俗語）、声の調子、抑揚や表情など、心的作用に多大な影響を及ぼす「言語運用」に焦点を絞り、「言葉と心理」のメカニズムについて考察する。また、私たちが意思疎通を行う上で、言葉は大切な手段であるが、言葉で思いを表現する際、自分の意図が上手く相手に伝わらない場合がある。なぜなら、同じ内容の発言であっても、言葉の受け止め方は聞き手の心理に左右されるからである。そこで感謝と謝罪の言葉に焦点を当て、様々な実例から「言葉と心理」についても考察する。				
到達目標	第 1 回～第 8 回：「言葉と心理」に関わる研究を通して、言葉のメカニズムを学び、「言語の運用」が、心理面・感情面にどのように影響するのかを理解できる（前半米金担当）。 第 9 回～15 回　「感謝と謝罪」を表す表現について、日本語にみられる特徴と他の言語における表現との違いを心理的側面から考察し、具体例をあげてそれぞれ説明できる(後半保坂担当)。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	オムニバス

授業回数	担当者	授業の内容
1	米金　孝雄	【第 1 回】 予習：「言葉と心理」とが、自分自身にとってどのように関わってくるのかを考えておくこと。 授業：自己紹介、講義の進め方・授業内容・課題・レポート・評価等についての説明。 復習：　次回までに、与えられた内容について考察すること。
2	米金　孝雄	【第 2 回】 予習：前回の授業の復習。 授業：主要な「言葉と心理」に関わる研究分野の紹介。 復習：紹介した研究や研究者について調べておくこと。
3	米金　孝雄	【第 3 回】 予習：言語的（言葉による）コミュニケーションとは何かを考えておくこと。 授業：言語的コミュニケーションによる伝達手段の考察。 復習：どのような言語的自己表現をすれば、対話者との会話が成り立つのかを考えること。
4	米金　孝雄	【第 4 回】 予習：非言語的コミュニケーションとは何かを考えておくこと。 授業：非言語的コミュニケーションによる伝達手段の考察。 復習：非言語的コミュニケーションの伝達手段の復習。
5	米金　孝雄	【第 5 回】 予習：語用論・発話行為について調べておくこと。 授業：語用論・発話行為とは何か。 復習：語用論・発話行為と心理の関係を再考すること。
6	米金　孝雄	【第 6 回】 予習：談話分析・インターラクション分析について調べておくこと。 授業：談話分析・インターラクション分析についての考察。 復習：談話分析・インターラクション分析を再考すること。
7	米金　孝雄	【第 7 回】 予習：ポリフォニー理論、社会言語学、言語心理学について調べておくこと。 授業：ポリフォニー理論と社会言語学・言語心理学についての考察 復習：ポリフォニー理論、社会言語学、言語心理学を再考すること。
8	米金　孝雄	【第 8 回】 予習：修辞学と文体論・記号学について調べておくこと。 授業：修辞学と文体論・記号学についての考察。 復習：修辞学と文体論・記号学を再考すること。
9	保坂　律子	【第 9 回】 予習：これまで自分の気持ちをうまく伝えられなかった場面を思い出す。 授業：「言葉をつかむ」ことについて考える。 復習：授業の振り返りをまとめる。

10	保坂　律子	【第 10 回】 予習：最近人にお礼を言ったこと、謝ったことの例を考えておく。 授業：感謝と謝罪の相違点 復習：授業の振り返りをまとめる。
11	保坂　律子	【第 11 回】 予習：大事な約束に遅刻した場面を想定し、自分の言葉で遅れた理由を考えておく。 授業：謝罪の言葉と心理１（グループディスカッション） 復習：授業の振り返りをまとめる。
12	保坂　律子	【第 12 回】 予習：誘いを断る場面を想定し、自分の言葉で断る理由を考えておく。 授業：謝罪の言葉と心理２（グループディスカッション） 復習：授業の振り返りをまとめる。
13	保坂　律子	【第 13 回】 予習：「お腹空きませんか？」と聞かれた場面を想定し、その返答を考えておく。 授業：意図の伝え方と心理（グループディスカッション） 復習：授業の振り返りをまとめる。
14	保坂　律子	【第 14 回】 予習：プレゼントを渡す場面を想定し、その時添える言葉を考えておく。 授業：感謝の伝え方と心理（グループディスカッション） 復習：授業の振り返りをまとめる。
15	保坂　律子	【第 15 回】 予習：お世話になった人にお礼をする場面を想定し、気持ちを伝える言葉を考えておく。 授業：感謝の言葉と心理 復習：「感謝のエピソード」を書く。

授業開始前学習	第 1 回～第 8 回：「心理と言葉」についての書物や研究など、事前に目を通しておくこと。（米金担当） 第 9 回～第 15 回：日本語と外国語に関するエッセイや評論等に触れるように心がけると理解が深まる。（保坂担当）
授業内課題のフィードバックの方法	第 1 回～第 8 回：毎回授業内容を自分なりに検討し、次週の講義までに理解を深めておくこと。(米金担当) 第 9 回～第 14 回：毎回課す授業内課題（フォーム）は翌週の授業内で講評する。（保坂担当）
テキスト・教材	講義内、Classroom 内にて担当教員より適宜資料を配布する。
参考書	
評価の基準と方法	教員より課された課題の発表、提出状況により各教員 50%（合計 100%）で評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎		○			○		

関連科目	フランス語 中国語
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-312	科目分類（～2024 年入学者）	130-310-23	授業コード	FF1111
科目名称	心理学ｾﾞﾐⅠ			単位数	1.0 単位
英文名称	Psychology Seminar Ⅰ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	綾城 初穂			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	綾城 初穂			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 14:40～17:40 後期 火曜日 14:40～17:40			研究室	10-714
授業概要	心理学の実践・研究分野では，言葉（言語・非言語）を通して心理を理解することが多い。近年では，数値などに置き換えず，言葉をそのまま分析しようとする質的研究法への関心が高まっている。本ゼミでは，質的研究法の哲学的基礎といくつかの方法を学んだ上で，関心に応じて実際の素材を分析・考察していく。やや伝統的な心理学とは異なる認識論の学習や，実際に手を動かすこと，議論を通して批判的に考察することが求められるため，積極的な参加を期待したい。				
到達目標	質的研究法によって，自らの関心を心理学研究の枠組みから体系化し，分析することができる。また，こうした方法論の習得を通して，物事を批判的・多角的に考察することができるようになる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	−
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	綾城 初穂	【第 1 回】 予習 ：事前に配布した課題論文を読む 授業 ：イントロダクション 復習 ：出題された課題に取り組む
2	綾城 初穂	【第 2 回】 予習 ：出題された課題に取り組む 授業 ：質的研究入門（グループワーク） 復習 ：発表内容についての配布プリントの復習
3	綾城 初穂	【第 3 回】 予習 ：出題された課題に取り組む 授業 ：観察法（データ収集）（グループワーク） 復習 ：発表内容についての配布プリントの復習
4	綾城 初穂	【第 4 回】 予習 ：出題された課題に取り組む 授業 ：観察法（データ分析） 復習 ：講義内容についての配布プリントの復習
5	綾城 初穂	【第 5 回】 予習 ：出題された課題に取り組む 授業 ：KJ 法（データ収集）（グループワーク） 復習 ：講義内容についての配布プリントの復習
6	綾城 初穂	【第 6 回】 予習 ：出題された課題に取り組む 授業 ：KJ 法（データ分析）（グループワーク） 復習 ：授業を踏まえて実際にデータを取得
7	綾城 初穂	【第 7 回】 予習 ：出題された課題に取り組む 授業 ：ディスコース分析入門 復習 ：授業を踏まえてデータを整理する
8	綾城 初穂	【第 8 回】 予習 ：出題された課題に取り組む 授業 ：ディスコース分析の体験（グループワーク） 復習 ：内容についての配布プリントの復習
9	綾城 初穂	【第 9 回】 予習 ：出題された課題に取り組む 授業 ：会話分析入門 復習 ：授業を踏まえてラベルづくりをする
10	綾城 初穂	【第 10 回】 予習 ：発表課題に取り組む 授業 ：会話分析（データ収集）（グループワーク） 復習 ：授業を踏まえてグループ編成をする
11	綾城 初穂	【第 11 回】 予習 ：発表課題に取り組む 授業 ：会話分析（データ分析）（グループワーク） 復習 ：授業を踏まえて図解化をする

12	綾城　初穂	【第 12 回】 予習　：出題された課題に取り組む 授業　：テキストマイニング入門 復習　：授業を踏まえて叙述化をする
13	綾城　初穂	【第 13 回】 予習　：出題された課題に取り組む 授業　：テキストマイニング（データ収集） 復習　：発表へのフィードバックを読む
14	綾城　初穂	【第 14 回】 予習　：出題された課題に取り組む 授業　：テキストマイニング（データ分析） 復習　：発表へのフィードバックを読む
15	綾城　初穂	【第 15 回】 予習　：出題された課題に取り組む 授業　：前期のまとめ 復習　：講義内容についての配布プリントの復習

授業開始前学習	関心のあるテーマについて、自分なりに関連書籍・論文にあたってみる。
授業内課題のフィードバックの方法	特に分析過程や発表方法については授業内でコメントする。レポートは添削して，返却する。
テキスト・教材	授業中にプリントを配布する
参考書	川喜田二郎（2017）『発想法 改版ー創造性開発のために』中公新書 能智正博　(2011)『臨床心理学をまなぶ６　質的研究法』東京大学出版会
評価の基準と方法	発表６０%・授業への貢献４０%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△

関連科目	心理学実験Ⅰ・Ⅱ 心理学研究法Ⅰ・Ⅱ
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-312 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	130-310-23 （Ｊ）	授業コード	FF1112
科目名称	心理学ｾﾞﾐⅠ			単位数	1.0 単位
英文名称	Psychology Seminar Ⅰ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	依田 尚也			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	依田 尚也			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 14:40～16:10 火曜日 16:20～17:50 後期 火曜日 14:40～16:10 火曜日 16:20～17:50			研究室	10-715
授業概要	ゼミの全体的なテーマは、『心を観察し、問いかける』ことである。これは、「目の前にいるこの人はどんな人なのか？」、「いかに生きてきたのか？」、「どうしてそうせざるを得なかったのか？」といった問いに対して、«もしかしたら、～～～なのかもしれない»といった仮説を立てることを指している。『心を観察し、問いかける』ことは心理専門職による心理アセスメントの本質である。しかし、心理専門職でなくとも、心理アセスメントの基本的なやり方、考え方を学ぶことで、私たちは日常生活において相手のことをさらに深く、的確に理解し、よりよく関わることができるようになるかもしれない。そして、『観察』や『面接』といった手法を用いる『研究』においても、学びが活きる可能性がある。 3 年次の前期は、ペアワークやグループワークを通して、心理アセスメントの基本的なスキルを身につけていく。そして、インタビュー調査を用いた研究の基礎を学び、夏休み中に試行インタビューを実施するための準備を進める。				
到達目標	心理学的研究の基礎について学び、各自がゼミ論文／卒業論文を書くことについて具体的にイメージできるようになる。 ペアワークやグループワークを通して、心理アセスメントの基本的なスキルを身につける。 教員のサポートを得つつ、ゼミ生同士で協働的な関係を構築することができる。 自らが研究者となってインタビュー調査を実施するイメージをつかむ。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	依田 尚也	【第 1 回】 予習：シラバスを読んでおく 授業：ガイダンス 自己紹介／ゼミの内容と進め方について 復習：配布資料を読み返す
2	依田 尚也	【第 2 回】 予習：他の授業で習った『心理アセスメント』について復習しておく 授業：心理アセスメントのワーク① 限られた情報から仮説を立てる 復習：配付資料を読み返す
3	依田 尚也	【第 3 回】 予習：前回のワークの復習をしておく 授業：心理アセスメントのワーク② 観察を通して仮説を立てる 復習：配付資料を読み返す
4	依田 尚也	【第 4 回】 予習：前回のワークの復習をしておく 授業：心理アセスメントのワーク③ 面接を通して仮説を立てる 復習：配付資料を読み返す
5	依田 尚也	【第 5 回】 予習：前回のワークの復習をしておく 授業：心理アセスメントのワーク④ ロールプレイ／仮説をまとめる 復習：配付資料を読み返す
6	依田 尚也	【第 6 回】 予習：前回のワークの復習をしておく 授業：心理アセスメントのワーク⑤ 仮説について発表・検討する 復習：配付資料を読み返す
7	依田 尚也	【第 7 回】 予習：これまでのゼミの内容について疑問点を整理しておく 授業：ゼミ面談① 復習：面談の内容をもとに各自で前期ゼミの目標を再設定する
8	依田 尚也	【第 8 回】 予習：これまでのゼミの内容について疑問点を整理しておく 授業：ゼミ面談② 復習：面談の内容をもとに各自で前期ゼミの目標を再設定する
9	依田 尚也	【第 9 回】 予習：インタビューを用いた心理学的研究を検索する 授業：インタビュー調査① リサーチクエスチョン 復習：配付資料を読み返す

10	依田　尚也	【第 10 回】 予習：インタビューを用いた心理学的研究を読み込む 授業：インタビュー調査②　インタビューガイド 復習：配付資料を読み返す
11	依田　尚也	【第 11 回】 予習：試行インタビューのテーマや対象について検討を重ねる 授業：インタビュー調査③　インタビューのポイント 復習：配付資料を読み返す
12	依田　尚也	【第 12 回】 予習：試行インタビューのテーマや対象について検討を重ねる 授業：インタビュー調査④　調査の実際 復習：配付資料を読み返す
13	依田　尚也	【第 13 回】 予習：試行インタビューの実施に向けて作業を進める 授業：インタビュー調査⑤　調査結果を文章化する 復習：配付資料を読み返す
14	依田　尚也	【第 14 回】 予習：試行インタビューの計画を資料にまとめる 授業：試行インタビュー計画発表会① 復習：計画発表会の内容とコメントを振り返る
15	依田　尚也	【第 15 回】 予習：試行インタビューの計画を資料にまとめる 授業：試行インタビュー計画発表会② 復習：計画発表会の内容とコメントを振り返る

授業開始前学習	日常生活において自分なりの"問い"（なぜ？／どうして？）を見つけておくこと。 文献の検索方法や読み方、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法などについて、2 年次までの授業で身につけたことを復習しておくこと。 不明点や疑問点については、個別に教員に質問しておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	ワークや発表の内容について、授業内で個別にフィードバックを行う。 試行インタビューの計画発表会においては、全体での質疑応答を行った上で、最終的なフィードバックを行う。
テキスト・教材	特に指定しない。
参考書	適宜紹介する。
評価の基準と方法	ワークや試行インタビュー計画発表会における内容（60%）、および授業への取り組み姿勢（40%）をもとに、総合的に評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△

関連科目	心理学ゼミⅡ・Ⅲ・Ⅳ
その他	後期の心理学ゼミⅡに向けて、夏休み中に各自で試行インタビューを行い、その逐語録を作成してもらう。 3 年次に身につけたスキルをもとに、4 年次にゼミ論文もしくは卒業論文として学術的論文を完成させ、提出することが必須である。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	心理臨床の実務経験あり。

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-312 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	130-310-23（Ｊ）	授業コード	FF1113
科目名称	心理学ｾﾞﾐⅠ			単位数	1.0 単位
英文名称	Psychology Seminar Ⅰ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	田中 教仁			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田中 教仁			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 10:40～12:10 木曜日 10:40～12:10 後期 火曜日 11:00～12:10 火曜日 14:40～16:40			研究室	10-719
授業概要	司法・犯罪領域における個人、家族の問題を扱うゼミである。臨床心理学を中心にすえつつ人間行動科学の知見を参考にしながら、非行・犯罪の基礎理論、心理社会アセスメントと支援、犯罪被害者の支援、家事事件についての知識と理解を深める。また、この領域における専門機関の概要及び専門職の実践についても取り上げる。３年生は、これら司法・犯罪領域の理論と支援について理解を深め、研究方法の基礎を身に付けていくことを目標とする。３年生前期は、基礎文献の講読とディスカッション、家庭裁判所の見学（予定）を行う。				
到達目標	司法・犯罪領域の専門書を読みこなし，まとめ、発表する能力を身に付けながら、基礎的理論の習得を目指す。 家庭裁判所の役割とそこで活躍する専門職の実践について理解する。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	田中 教仁	予習 ：春季に講読した文献の要約の整理等を行う。 授業 ：ガイダンス（ゼミの進め方、全体計画の説明等） 復習 ：ガイダンスの振り返り
2	田中 教仁	予習 ：春季に講読した文献の要約の整理等を行う。 授業 ：春季に講読した文献の要約の発表① 復習 ：各自の発表の振り返りを行う。
3	田中 教仁	予習 ：春季に講読した文献の要約の整理等を行う。 授業 ：春季に講読した文献の要約の発表② 復習 ：各自の発表の振り返りを行う。
4	田中 教仁	予習 ：【第 4 回】で扱う文献の講読 授業 ：文献（主にアセスメント）の講読①、ディスカッション 復習 ：授業を踏まえての整理
5	田中 教仁	予習 ：【第 5 回】で扱う文献の講読 授業 ：文献（主にアセスメント）の講読②、ディスカッション 復習 ：授業を踏まえての整理
6	田中 教仁	予習 ：【第 6 回】で扱う文献の講読 授業 ：文献（主にアセスメント）の講読③、ディスカッション 復習 ：授業を踏まえての整理
7	田中 教仁	予習 ：【第 7 回】で扱う文献の講読 授業 ：文献（主にアセスメント）の講読④、ディスカッション 復習 ：授業を踏まえての整理
8	田中 教仁	予習 ：【第 8 回】で扱う文献の講読 授業 ：文献（主にアセスメント）の講読⑤、ディスカッション 復習 ：授業を踏まえての整理
9	田中 教仁	予習 ：【第 9 回】で扱う文献の講読 授業 ：文献（主に支援や処遇）の講読①、ディスカッション 復習 ：授業を踏まえての整理
10	田中 教仁	予習 ：【第 10 回】で扱う文献の講読 授業 ：文献（主に支援や処遇）の講読②、ディスカッション 復習 ：授業を踏まえての整理
11	田中 教仁	予習 ：【第 11 回】で扱う文献の講読 授業 ：文献（主に支援や処遇）の講読③、ディスカッション 復習 ：授業を踏まえての整理
12	田中 教仁	予習 ：家庭裁判所の見学に向けてのグループ研究の発表の準備 授業 ：家庭裁判所の見学に向けてのグループ研究の発表 復習 ：見学に向けての質問項目の検討
13	田中 教仁	予習 ：家庭裁判所の見学に際しての質問事項を考える。 授業 ：家庭裁判所の見学（予定） 復習 ：レポート作成

14	田中　教仁	予習：【第 14 回】で扱う文献の講読 授業　：文献（主に制度）の講読①、ディスカッション 復習　：授業を踏まえての整理
15	田中　教仁	予習：【第 15 回】で扱う文献の講読 授業　：文献（主に制度）の講読②、ディスカッション 復習　：授業を踏まえての整理、後期に向けての準備

授業開始前学習	この領域において、自分が関心のある文献や小説、漫画、新聞等を読み，どのような社会問題が起こっているのかを把握しておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	発表やディスカッションを踏まえて、適宜、コメントをする。
テキスト・教材	特に指定しない。授業の中で適宜紹介する。
参考書	門本泉編著『司法・犯罪心理学』（ミネルヴァ書房） 須藤明著『少年犯罪はどのように裁かれるのか』（合同出版）
評価の基準と方法	所定の出席回数を踏まえたうえで、授業での発表５０％、授業の取組状況３０％，レポート課題２０％の配分で総合評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△

関連科目	司法・犯罪心理学，家族心理学を受講しておくことが望ましい。
その他	・文献や論文の講読は分担を決め、担当者が内容、疑問点、討議したい事項などをレジュメとしてまとめ発表する。まとめ方、発表の仕方を学ぶ機会なので、巧拙は心配いらない。発表、ディスカッションには積極的な参加が望まれる。 ・正課学外活動として、３年生前期には家庭裁判所の見学、後期には少年保護関係機関の見学を行い、施設の見学及び実務家からの講義を受けることを予定している。その際には節度ある服装、参加姿勢を求める。見学先は都内近郊を予定しているが、交通費は各自負担となる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	家庭裁判所調査官として少年事件，家事事件の多くの事例を担当してきた。そうした実務経験を踏まえた講義を行う。

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-312 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	130-310-23 （Ｊ）	授業コード	FF1114
科目名称	心理学ｾﾞﾐⅠ			単位数	1.0 単位
英文名称	Psychology Seminar Ⅰ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	藤川 麗			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	藤川 麗			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 木曜日 13:00～14:30 金曜日 12:30～14:00 後期 木曜日 10:40～12:10 金曜日 12:30～14:00			研究室	10-712
授業概要	人の心の問題の理解と援助の方法を扱う、臨床心理学の専門ゼミである。臨床心理学研究の構造と研究法について知識を深め、自ら研究を実施できるようになることを目標とする。３年前期は、各自が関心を抱いたテーマに関する研究論文を批判的に講読し、ディスカッションによって理解を深めることと、グループワークによって文献研究を行う。				
到達目標	心理学の研究論文の構造を理解し、批判的に読むための視点を身につける。研究テーマの設定の仕方と文献研究の方法を理解し、グループ研究を通して身につける。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	藤川 麗	【第 1 回】 予習 ：ゼミで学びたいテーマについて考え、メモを作成しておく 授業 ：ガイダンス スピーチ（ゼミで学びたいこと） 資料① （グループワーク） 復習 ：資料①の復習
2	藤川 麗	【第 2 回】 予習 ：2 年次に受講した「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」のレポート作成方法を見直しておく 授業 ：心理学研究の構造と手順 （資料②） 復習 ：資料②の復習
3	藤川 麗	【第 3 回】 予習 ：2 年次に受講した「心理学の基礎」で学んだ文献検索方法を見直しておく 授業 ：文献研究の方法 （資料③） 復習 ：資料③の復習、文献検索を行い発表する研究論文を検討する
4	藤川 麗	【第 4 回】 予習 ：資料④の講読および疑問点の抽出 授業 ：文献研究の批判的講読とは （資料④） 復習 ：資料④の復習、文献検索を行い発表する研究論文を決定する
5	藤川 麗	【第 5 回】 予習 ：第 5 回で発表される研究論文（資料⑤）の講読と疑問点の抽出 授業 ：心理学研究論文の講読 1 （資料⑤） （プレゼンテーションとグループディスカッション） 復習 ：授業でのコメントを参考にして資料⑤を読み直す
6	藤川 麗	【第 6 回】 予習 ：第 6 回で発表される研究論文（資料⑥）の講読と疑問点の抽出 授業 ：心理学研究論文の講読 2 （資料⑥） （プレゼンテーションとグループディスカッション） 復習 ：授業でのコメントを参考にして資料⑥を読み直す
7	藤川 麗	【第 7 回】 予習 ：第 7 回で発表される研究論文（資料⑦）の講読と疑問点の抽出 授業 ：心理学研究論文の講読 3 （資料⑦） （プレゼンテーションとグループディスカッション） 復習 ：授業でのコメントを参考にして資料⑦を読み直す
8	藤川 麗	【第 8 回】 予習 ：第 8 回で発表される研究論文（資料⑧）の講読と疑問点の抽出 授業 ：心理学研究論文の講読 4 （資料⑧） （プレゼンテーションとグループディスカッション） 復習 ：授業でのコメントを参考にして資料⑧を読み直す
9	藤川 麗	【第 9 回】 予習 ：第 9 回で発表される研究論文（資料⑨）の講読と疑問点の抽出 授業 ：心理学研究論文の講読 5 （資料⑨） （プレゼンテーションとグループディスカッション） 復習 ：授業でのコメントを参考にして資料⑨を読み直す
10	藤川 麗	【第 10 回】 予習 ：第 10 回で発表される研究論文（資料⑩）の講読と疑問点の抽出 授業 ：心理学研究論文の講読 6 （資料⑩） （プレゼンテーションとグループディスカッション） 復習 ：授業でのコメントを参考にして資料⑩を読み直す
11	藤川 麗	【第 11 回】 予習 ：第 11 回で発表される研究論文（資料⑪）の講読と疑問点の抽出 授業 ：心理学研究論文の講読 7 （資料⑪） （プレゼンテーションとグループディスカッション） 復習 ：授業でのコメントを参考にして資料⑪を読み直す

12	藤川 麗	【第 12 回】 予習：グループ研究のテーマに関する文献を検索しておく 授業 ：グループ研究 1 テーマの検討・文献検索 （グループワーク） 復習 ：収集した文献を講読し、内容をまとめる
13	藤川 麗	【第 13 回】 予習 ：グループ研究のテーマに関する文献を検索する、研究計画を考える 授業 ：グループ研究 2 テーマの検討・文献検索 （グループワーク） 復習 ：収集した文献を読み、研究計画を検討する
14	藤川 麗	【第 14 回】 予習 ：グループ研究のテーマに関する文献を検索する、研究計画を考える 授業 ：グループ研究 3 テーマの検討・発表の準備 （グループワーク） 復習 ：研究計画の検討と発表の準備を行う
15	藤川 麗	【第 15 回】 予習 ：研究テーマの発表準備を行う 授業 ：グループ研究 4 グループ研究のテーマ報告（プレゼンテーション） 復習 ：授業全体の振り返りとレポート作成

授業開始前学習	心理学研究法の基礎的な知識が必要である。「心理学の基礎」や「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」で学んだ心理学研究法やレポート作成法について復習しておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	文献講読の発表については、授業内でディスカッションとフィードバックを行う。グループ研究のプレゼンテーションについても、授業内でディスカッションとコメントを行う。
テキスト・教材	特に指定しない。講読する文献は、適宜配布する。
参考書	特に指定しない。
評価の基準と方法	出席 3 分の 2 以上が単位取得の前提条件。授業での発表（60 点）、授業態度（30 点）、課題（10 点）による。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△

関連科目	「心理学の基礎」や「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」で学んだ心理学研究の論文作成方法について、各自の文献講読と発表、グループ研究でのテーマ設定を通してより深く理解する。 心理学ゼミⅡ・Ⅲ・Ⅳの基礎となる内容である。
その他	講義と発表・討論を行う。発表の回は、発表者の報告の後、全員でディスカッションを行ったり、グループに分かれて課題を行ったりする。積極的に授業に参加することが求められる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	心理臨床の実務経験を活かし、臨床心理学の実践と研究の関連について講義する。

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-312 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	130-310-23（Ｊ）	授業コード	FF1115
科目名称	心理学ｾﾞﾐⅠ			単位数	1.0 単位
英文名称	Psychology Seminar Ⅰ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	藤城 有美子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	藤城 有美子			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 金曜日 14:30～17:30 後期 金曜日 14:30～17:30			研究室	10-710
授業概要	3 年生前期では、臨床心理学的テーマについて、小グループでの PBL（problem based learning）を行う。関心を持った新聞記事等を 1 つ取り上げて他グループに紹介し、その事例について、臨床心理学的な観点から問題抽出を行う。抽出された問題について、グループで手分けして調べ、成果をまとめ、抄録集（Google ドキュメント）とスライド（Google スライド）を用いてグループ発表を行う。				
到達目標	1. 文献検索を適切に行えるようになる。 2. 事象における臨床心理学的問題点を抽出できる。 3. 抽出された問題を理解、解決するために必要な知識を、先行研究から得ることができる。 4. 具体的な個別の事象を、臨床心理学の一般概念に還元して説明できる。 5. グループ・ワークで、自分の意見を分かり易く説明し、かつ、他者の意見を受けとめることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	藤城 有美子	【第 1 回】 予習 ：アドバイザークラスでの成果を踏まえ、関心テーマを検討 授業 ：イントロダクション／関心テーマの確認／グループ分け 復習 ：効率よく取り組めるよう、シラバスにて半期の流れを確認
2	藤城 有美子	【第 2 回】 予習 ：図書館や文献データベース等を利用して文献検索 授業 ：小グループ PBL 1：新聞記事等の選択・提示 復習 ：発表内容を確認し、自分のテーマと照合
3	藤城 有美子	【第 3 回】 予習 ：図書館や文献データベース等を利用して文献検索 授業 ：小グループ PBL 2：用語調べ 1 復習 ：発表内容を確認し、自分のテーマと照合
4	藤城 有美子	【第 4 回】 予習 ：図書館や文献データベース等を利用して文献検索 授業 ：小グループ PBL 3：用語調べ 2 復習 ：発表内容を確認し、自分のテーマと照合
5	藤城 有美子	【第 5 回】 予習 ：図書館や文献データベース等を利用して文献検索 授業 ：小グループ PBL 4：問題抽出 3 復習 ：発表内容を確認し、自分のテーマと照合
6	藤城 有美子	【第 6 回】 予習 ：図書館や文献データベース等を利用して文献検索 授業 ：小グループ PBL 5：問題の理解と対応 1 復習 ：発表内容を確認し、自分のテーマと照合
7	藤城 有美子	【第 7 回】 予習 ：図書館や文献データベース等を利用して文献検索 授業 ：小グループ PBL 6：問題の理解と対応 2
8	藤城 有美子	【第 8 回】 予習 ：図書館や文献データベース等を利用して文献検索 授業 ：小グループ PBL 7：さらなる理解に必要な知識・概念 1 復習 ：発表内容を確認し、自分のテーマと照合
9	藤城 有美子	【第 9 回】 予習 ：図書館や文献データベース等を利用して文献検索 授業 ：小グループ PBL 8：さらなる理解に必要な知識・概念 2 復習 ：発表内容を確認し、自分のテーマと照合
10	藤城 有美子	【第 10 回】 予習 ：図書館や文献データベース等を利用して文献検索 授業 ：小グループ PBL 9：さらなる理解に必要な知識・概念 3 復習 ：発表内容を確認し、自分のテーマと照合

11	藤城　有美子	【第 11 回】 予習　：図書館や文献データベース等を利用して文献検索 授業　：小グループ PBL 10：発表準備 1（Google ドキュメント抄録作成） 復習　：発表内容を確認し、自分のテーマと照合
12	藤城　有美子	【第 12 回】 予習　：図書館や文献データベース等を利用して文献検索 授業　：小グループ PBL 11：発表準備 2（Google ドキュメント抄録作成・提出） 復習　：発表内容を確認し、自分のテーマと照合
13	藤城　有美子	【第 13 回】 予習　：図書館や文献データベース等を利用して文献検索 授業　：小グループ PBL 12：発表準備 3（Google スライド作成） 復習　：発表内容を確認し、自分のテーマと照合
14	藤城　有美子	【第 14 回】 予習　：図書館や文献データベース等を利用して文献検索 授業　：小グループ PBL 13：発表準備 4（Google スライド作成・提出） 復習　：発表内容を確認し、自分のテーマと照合
15	藤城　有美子	【第 15 回】 予習　：図書館や文献データベース等を利用して文献検索 授業　：小グループ PBL 14：発表会 復習　：発表内容を確認し、自分のテーマと照合

授業開始前学習	文献の調べ方やレポートの書き方、発表の仕方について、基礎ゼミで身につけたことを復習しておくと良い。
授業内課題のフィードバックの方法	当日の作業および発表・ディスカッション内容については、その場で解説・フィードバックする。
テキスト・教材	
参考書	
評価の基準と方法	所定出席数を満たした者について、グループ得点（30 点）、個人得点（70 点）の計 100 点で評価する。なお、グループ得点は、発表会の抄録 10 点、スライド 10 点、発表 10 点（質疑応答を含む）からなる。個人得点は、毎回のグループワークへの取り組み 3 点×15 回＝45 点、発表会の司会・指定討論等 15 点、指定討論以外のディスカッション 10 点からなる。単位の取得のためには、発表会での発表、抄録およびスライドの提出が必須である。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△

関連科目	心理学関連の科目を広く履修していることが役立つ。
その他	図書館の積極的利用が望まれる。また、CiNii、NDL search などの文献データベースを活用できるようになることが望まれる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	心理臨床の実務経験あり。

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-312	科目分類（～2024 年入学者）	130-310-23	授業コード	FF1116
科目名称	心理学ｾﾞﾐⅠ			単位数	1.0 単位
英文名称	Psychology Seminar Ⅰ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	冨士原 光洋			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	冨士原 光洋			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 水曜日 13:00～16:10 後期 水曜日 13:00～16:10			研究室	10-704
授業概要	心理学ｾﾞﾐⅠ-f は、認知心理学とその応用研究について学ぶ。 とくに、以下２つのテーマについて、文献講読、研究例の発表・グループ討論を行い、人間の認知機能について科学的解明をめざす認知心理学の視点から、科学的理解を深める。 心理学ｾﾞﾐⅠ-f の演習テーマ １．「環境の認知と環境がもたらす行動への影響」（認知心理学の応用研究） ２．「言葉の使用とその認知機能について」				
到達目標	認知心理学について概要を理解し、代表的認知機能（感覚、知覚、記憶）研究成果を説明できるようになる。 個々の研究を詳しく調べる方法と技術、調べた内容を発表する技能を身につける（パワーポイントの使用法など）。さらに、1 つのテーマ研究について発表ができるようになる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	冨士原 光洋	【第 1 回】 予習：心理学辞典等で認知心理学について調べる 授業：ゼミガイダンス 内容確認 認知心理学について 復習：認知心理学の研究範囲についてまとめる
2	冨士原 光洋	【第 2 回】 予習：資料 1（英文） 7 P の講読 授業：心理学の範囲について 講読演習 資料 1（英文） 7 P から 8 P 復習：身の回りの心理学的問題を考察する
3	冨士原 光洋	【第 3 回】 予習：資料 1（英文） 8 P から 9 P の講読 授業：心理学の広範囲な研究例について 講読演習 資料 1（英文） 8 P から 9 P （発表） 復習：5 つのトピックスから調味ある 1 点を取り上げレポートを作成する
4	冨士原 光洋	【第 4 回】 予習：資料 1（英文）10P から 12P の講読 授業：心理学の歴史について 講読演習 資料 1（英文）10P から 12P （発表） 復習：実験心理学の起源を整理する
5	冨士原 光洋	【第 5 回】 予習：資料 1（英文）13P から 14P の講読 授業：心理学の研究枠組みについて 講読演習 資料 1（英文）13P から 14P （発表） 復習：心理学の認知的枠組みを日本語でまとめる
6	冨士原 光洋	【第 6 回】 予習：資料 1（英文）15P から 16P の講読 授業：心理学と生物学について 講読演習 資料 1（英文））15P から 16P （発表） 復習：生物学的指標について整理する 英文講読レポートの資料調べと作成
7	冨士原 光洋	【第 7 回】 予習：資料 1（英文）17P から 20P の講読 授業：心理学の研究方法について 講読演習 資料 1（英文）17P から 20P 英文講読ﾚﾎﾟｰﾄ提出 復習：相関的方法（相関研究）を日本語でまとめる
8	冨士原 光洋	【第 8 回】 予習：資料 2（認知心理学 日本語） 120P から 125P の講読 授業：認知機能と脳について 復習：脳の仕組みに関するキーワードを整理する
9	冨士原 光洋	【第 9 回】 予習：資料 2 126P から 129P の講読 授業：認知機能 1 認知を支える脳について 発表とグループ討論 （プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：脳に関するキーワードを整理する
10	冨士原 光洋	【第 10 回】 予習：資料 2 130P から 134P の講読 授業：認知機能 2 視覚について 発表とグループ討論 （プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：視覚に関するキーワードを整理する

11	冨士原　光洋	【第 11 回】 予習：資料 2　 136P から 140P の講読 授業：認知機能 3　 学習について　発表とグループ討論　(プレゼンテーション、ディスカッション) 復習：条件づけについて確認する
12	冨士原　光洋	【第 12 回】 予習：資料 2　 142P から 144P の講読 授業：認知機能 4　知覚・認知について　発表とグループ討論　 (プレゼンテーション、ディスカッション) 復習：認知に関するキーワードを整理する　 認知機能講読レポートの資料調べと作成
13	冨士原　光洋	【第 13 回】 予習：資料 2　 146P から 148P の講読 授業：認知機能 5　 認知機能の理論について　発表とグループ討論　 認知機能講読ﾚﾎﾟｰﾄ提出　(プレゼンテーション、ディスカッション) 復習：認知の状況論についてまとめる
14	冨士原　光洋	【第 14 回】 予習：資料 2　 150P から 153P の講読 授業：認知機能 6　 記憶について　発表とグループ討論　(プレゼンテーション、ディスカッション) 復習：記憶に関するキーワードを整理する
15	冨士原　光洋	【第 15 回】 予習：資料 2　 154P から 156P の講読 授業：認知機能 7　 記憶のモデルについて　発表とグループ討論　(プレゼンテーション、ディスカッション) 復習：短期記憶と長期記憶についてまとめる　学期末のレポートの作成提出

授業開始前学習	授業開始前学習　認知心理学の入門書を読み、認知心理学の概要を理解しておくと授業が理解しやすい。
授業内課題のフィードバックの方法	課題発表回に発表者へ個別フィードバックを行う。また、授業 7 回目、13 回目に提出するレポートについては、2 週後（授業 9、15 回目）に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。
テキスト・教材	授業開始時にテキスト・教材を指示する。このほかに適宜資料を配付する。
参考書	中島・子安等（編）、1999、『心理学辞典』（有斐閣）
評価の基準と方法	発表内容（2 回）とレポート（学期内のレポート（2 回）学期末のレポート(1 回)）により評価を行う。 （全体を 100 点としたとき）配点は、発表内容評価 50 点とレポート評価 50 点とする。 発表内容評価には、授業内での討論状況を加味する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△

関連科目	「認知心理学」を履修しておくと内容が良くわかる
その他	認知心理学の視点から、「環境」や「言語」の問題をながめ、人が生活している環境とそこでの行動について、または、人が日常使用している言葉（言語使用）について、科学的理解を深める。 資料等を保管するファイル・クリアーブックとコンピュータファイル保管用の USB メモリを用意すること。 授業を 3 分の 1 を超えて欠席した場合は、単位を修得できない。 単位修得には、課題発表（2 回）と学期末のレポート提出（1 回）を行うことが必要である。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-312 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	130-310-23 （Ｊ）	授業コード	FF1117
科目名称	心理学ｾﾞﾐⅠ			単位数	1.0 単位
英文名称	Psychology Seminar Ⅰ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	飯田 敏晴			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	飯田 敏晴			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 月曜日 10:40～12:10 水曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 10:40～12:10 水曜日 13:00～14:30			研究室	10-717
授業概要	3 年前期では、主に、心理学用語の一つである「援助要請（助けを求める、SOS）」に関わる臨床心理学の各テーマについて、輪読形式で学習する。自分が関心を持ったテキストの章の担当として、その内容を話題提供者としてゼミで提示する。その際、他履修生は、その提示内容に関して保健・医療・福祉の観点から考え、ゼミナール時に全体でのディスカッションを行う。				
到達目標	1. 心理学に関する文献検索や研究方法を説明できる。 2. 様々な文献にある知見から、何らかの臨床心理学的課題を説明できる。 3. 何らかの臨床心理学的課題に対して、それを多角的に説明できる。 4. 多様性への関心を抱き、自他を尊重するコミュニケーション獲得への意欲を持つことができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	飯田 敏晴	【第 1 回】 予習：テキストを自分なりに読み込む 授業：イントロダクション／キーワードの確認／自己・他己紹介 復習：シラバスにて半期の流れを確認する
2	飯田 敏晴	【第 2 回】 予習：コミュニティ心理学と「援助要請」をキーワードに、関心を高める 授業：個人と環境との適合：コミュニティ心理学の理念、歴史、課題（教員） 復習：テキストにある援助要請のテーマの選択と提示
3	飯田 敏晴	【第 3 回】 予習：選択したテキストの該当章を一読し、関心を深める 授業：グループワークによる輪読担当章の振り分け、導入（教員） 復習：発表内容を確認し、自分のテーマとの整合性を確認
4	飯田 敏晴	【第 4 回】 予習：「援助要請」、「助けを求める」、「SOS」等をキーワードに文献検索 授業：援助要請研究の概観（第 1 部 第 1 章）（教員） 復習：テキストを読む（第 1 章）
5	飯田 敏晴	【第 5 回】 予習：第 5 回講義のテーマの該当章を読み、疑問を提示 授業：援助ニーズを持つ人の理解 1 （担当者発表）とディスカッション 復習：当該回のテーマについて、記事等を調べ理解を深める
6	飯田 敏晴	【第 6 回】 予習：第 6 回講義のテーマの該当章を読み、疑問を提示 授業：援助ニーズを持つ人の理解 2 （担当者発表）とディスカッション 復習：当該回のテーマについて、記事等を調べ理解を深める
7	飯田 敏晴	【第 7 回】 予習：第 7 回講義のテーマの該当章を読み、疑問を提示 授業：援助ニーズを持つ人の理解 3（担当者発表）とディスカッション 復習：当該回のテーマについて、記事等を調べ理解を深める
8	飯田 敏晴	【第 8 回】 予習：第 8 回講義のテーマの該当章を読み、疑問を提示 授業：援助ニーズを持つ人の理解 3 （担当者発表）とディスカッション 復習：当該回のテーマについて、記事等を調べ理解を深める
9	飯田 敏晴	【第 9 回】 予習： 第 9 回講義のテーマの該当章を読み、疑問を提示 授業：援助実践の現場から 1 （担当者発表）とディスカッション 復習：当該回のテーマについて、記事等を調べ理解を深める
10	飯田 敏晴	【第 10 回】 予習： 第 10 回講義のテーマの該当章を読み、疑問を提示 授業：援助実践の現場から 2（担当者発表）とディスカッション 復習：当該回のテーマについて、記事等を調べ理解を深める
11	飯田 敏晴	【第 11 回】 予習： 第 11 回講義のテーマの該当章を読み、疑問を提示 授業：援助実践の現場から 3（担当者発表）とディスカッション 復習：当該回のテーマについて、記事等を調べ理解を深める

12	飯田　敏晴	【第 12 回】 予習：　第 12 回講義のテーマの該当章を読み、疑問を提示 授業：援助実践の現場から 4（担当者発表）とディスカッション 復習：当該回のテーマについて、記事等を調べ理解を深める
13	飯田　敏晴	【第 13 回】 予習：　第 13 回講義のテーマの該当章を読み、疑問を提示 授業：援助実践の現場から 5（担当者発表）とディスカッション 復習：当該回のテーマについて、記事等を調べ理解を深める
14	飯田　敏晴	【第 14 回】 予習：　第 14 回講義のテーマの該当章を読み、疑問を提示 授業：今後の援助要請研究における理論的課題と実践的課題（教員） 復習：当該回のテーマについて、記事等を調べ理解を深める
15	飯田　敏晴	【第 15 回】 予習：　長期休暇期間及び秋以降学習を進めたいテーマを考え、提示 授業：今後の学習計画の作成、テーマの提示（各自） 復習：テーマに関連した文献の検索と振り返り

授業開始前学習	文献の調べ方やレポートの書き方、発表の仕方について、基礎ゼミで身につけたことを復習しておくと良い。
授業内課題のフィードバックの方法	当日の発表・ディスカッションや疑問点について、当該回または次の回の冒頭でフィードバックする。
テキスト・教材	水野治久（監修）永井智他編『援助要請と被援助志向性の心理学：困っていても助けを求められない人の理解と援助』金子書房　2017
参考書	植村勝彦編『よくわかるコミュニティ心理学（第三版）』2017 年
評価の基準と方法	所定出席数を満たすことが評価の前提条件である。その上で、①グループ得点（30 点）、②個人得点（70 点）の計 100 点で評価する。なお、①のグループ得点は、輪読の担当箇所の回に用いる説明用資料 15 点、説明 15 点からなる（グループではなく、個人で取り組んだ場合にも同様の基準）。つぎに、②の個人得点は、A~D の 4 つの指標によって構成される。A は、各回（第 5～14 回）への「疑問の事前提示」3 点×10 回＝30 点である。B はディスカッションの参加態度 1 点×10 回＝10 点(欠席時には、代替課題提出により補う）、C は担当
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△

関連科目	心理学関連の科目を広く履修していることが役立つ。
その他	1．長期休暇期間中に施設見学を含めたゼミ合宿（任意参加）を予定している。 2．学期期間中に施設見学（保健・医療・福祉施設 1 カ所。原則参加）にいく可能性がある。 3．図書館等の積極的利用が望まれる。また、CiNii などの文献データベースを活用できるようになることが望まれる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	心理臨床及び当該研究テーマの研究に従事経験あり。

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-312	科目分類（～2024 年入学者）	130-310-23	授業コード	FF1118
科目名称	心理学ｾﾞﾐⅠ			単位数	1.0 単位
英文名称	Psychology Seminar Ⅰ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	丸山 慎			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	丸山 慎			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 水曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10 後期 水曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10			研究室	10-718
授業概要	「心理学ゼミⅠ-h」は、発達心理学および認知心理学といった領域を中心に取り上げつつ、心理学の近年の動向や実践の場にも目を配りながら学びを深め、心理学的なものの見方（科学的探求のロジック）を身に付けることを目標とする。				
到達目標	卒業論文・ゼミ論文のテーマを検討するための基礎的な知識を習得し、そのテーマに関連する先行研究の文献や資料の要点を把握できるようになること。グループ・ディスカッションの基本を知ること。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	丸山 慎	【第 1 回】 予習 ：授業スケジュールを確認しておくこと 授業 ：ゼミのガイダンス 学外での観察とゼミの内容確認（生涯発達心理学について） 復習 ：発達心理学および認知心理学の研究範囲について振り返る
2	丸山 慎	【第 2 回】 予習 ：資料①の講読および疑問点の抽出（参考書 p.1-22） 授業 ：発達心理学の研究領域について（１：乳児期その１）講読演習（資料①） （発表） 復習 ：資料①の内容を振り返る
3	丸山 慎	【第 3 回】 予習 ：資料②の講読および疑問点の抽出（参考書 p.23-46） 授業 ：発達心理学の研究領域について（２：乳児期その２）講読演習（資料②） （発表） 復習 ：資料②の内容を振り返る
4	丸山 慎	【第 4 回】 予習 ：資料③の講読および疑問点の抽出（参考書 p.47-68） 授業 ：発達心理学の研究領域について（３：幼児期）講読演習（資料③） （発表） 復習 ：資料③の内容を振り返る
5	丸山 慎	【第 5 回】 予習 ：資料④の講読および疑問点の抽出（参考書 p.69-86） 授業 ：発達心理学の研究領域について（４：児童期）講読演習（資料④） （発表） 復習 ：資料④の内容を振り返る
6	丸山 慎	【第 6 回】 予習 ：資料⑤の講読および疑問点の抽出（参考書 p.87-112） 授業 ：発達心理学の研究領域について（５：思春期）講読演習（資料⑤） （発表） 復習 ：資料⑤の内容を振り返る
7	丸山 慎	【第 7 回】 予習 ：資料⑥の講読および疑問点の抽出（参考書 p.113-130） 授業 ：発達心理学の研究領域について（６：青年期）講読演習（資料⑥） （発表） 復習 ：資料⑥の内容を振り返る
8	丸山 慎	【第 8 回】 予習 ：資料⑦の講読および疑問点の抽出（参考書 p.131-152）および学外での観察に関する準備 授業 ：発達心理学の研究領域について（７：成人初期）講読演習（資料⑦）および学外での観察に備えての議論 （グループワーク） 復習 ：資料⑦の内容および観察に関する議論を振り返る
9	丸山 慎	【第 9 回】 予習 ：資料⑧の講読および疑問点の抽出（参考書 p.153-174）および学外での観察に関する準備 授業 ：発達心理学の研究領域について（７：中年期）講読演習（資料⑧）および学外での観察に備えての議論 （グループワーク） 復習 ：資料⑧の内容および観察に関する議論を振り返る
10	丸山 慎	【第 10 回】 予習 ：資料⑨の講読および疑問点の抽出（参考書 p.175-204）および学外での観察に関する準備 授業 ：発達心理学の研究領域について（７：老年期）講読演習（資料⑨）および学外での観察に備えての議論 （グループワーク） 復習 ：資料⑨の内容および観察に関する議論を振り返る

11	丸山 慎	【第 11 回】 予習 ：学外での観察に関する準備 授業 ：発達心理学のまとめとしての実践の観察 （グループワーク） 復習 ：実際の観察と発達心理学のなかで関心を持ったキーワードとの関連を振り返る
12	丸山 慎	【第 12 回】 予習 ：学外での観察のまとめおよび資料⑩の購読 授業 ：学外での観察の振り返り （プレゼンテーション・ディスカッション） 復習 ：資料⑩の内容を振り返る
13	丸山 慎	【第 13 回】 予習 ：資料⑪の講読および疑問点の抽出 授業 ：発達心理学の課題と方法（発表） 復習 ：資料⑪の内容を振り返る
14	丸山 慎	【第 14 回】 予習： 資料⑫の講読および疑問点の抽出 授業 ：発達心理学の課題と方法（発表） 復習 ：資料⑫の内容を振り返る
15	丸山 慎	【第 15 回】 予習 ：これまでの購読した資料および観察の内容を振り返っておく 授業 ：前期授業のまとめ 復習 ：これまで使用した資料や観察の内容を振り返り、キーワードを整理する

授業開始前学習	発達心理学の入門書を読み、その概要を理解しておくことが望ましい。
授業内課題のフィードバックの方法	講読した文献資料およびディスカッションの内容を振り返る。特にディスカッションの際に作成したメモやノートの内容にもとづき、反省点も踏まえて授業内で講評の機会を設ける。
テキスト・教材	テキスト・教材は適宜指示し、資料を配布する。
参考書	岡本祐子・深瀬裕子（編著）『エピソードでつかむ 生涯発達心理学』 ミネルヴァ書房，2013 年刊
評価の基準と方法	授業内での発表（40%）と学期末のレポート（1 回：40%）、授業態度・授業への貢献（20%）をもとに総合的に評価を決定する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△

関連科目	心理学関連の授業は全て関連があると考えてほしい。
その他	発達心理学、認知心理学などの概要を把握することはもちろんだが、本授業では、それらの領域の知見をできるだけ身近に感じてもらうために予備的な実験や調査を計画するような実践的な内容も実施していく予定である。また受講者の興味や関心などに応じて柔軟にテーマを設定していく場合もある。資料等を保管するファイル・クリアーブックとコンピュータファイル保管用の USB メモリを用意すること。 東京近郊にて正課学外活動を予定している。実費等、実施については授業内で説明する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-312	科目分類（～2024 年入学者）	130-310-23	授業コード	FF1119
科目名称	心理学ｾﾞﾐⅠ			単位数	1.0 単位
英文名称	Psychology Seminar Ⅰ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	奥野 真之			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	奥野 真之			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10 後期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10			研究室	10-713
授業概要	このゼミでは、心理学の中でも特に知覚や認知に関連する領域を主に取り扱う。3 年前期のゼミでは、選定した文献を講読し、担当者ごとの発表と全体のディスカッションを通して研究の基礎となる知識を実践的に学習する。また、グループごとに研究テーマを設定した上で、関連する先行研究を整理して仮の研究計画を作成する。				
到達目標	文献・資料を検索し、情報を適切に整理して説明することができるようになる。 文献を批判的に購読した上で問題点を指摘し、解決方法を考えることができるようになる。 発表やディスカッションの中で、自身の考えを他者に伝えることができるようになる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	奥野 真之	予習 ：自分が関心のある事柄についてメモを作成する 授業 ：ゼミの進め方に関するイントロダクション、関心のある事柄の紹介 復習 ：配布資料を読み返し、今後のゼミの進行や、自身の関心について振り返る
2	奥野 真之	予習 ：図書館やデータベースで文献を検索する 授業 ：講読する文献の選定、担当の振り分け 復習 ：配布資料を読み返し、自身の担当を再確認する
3	奥野 真之	予習 ：第 3 回で扱う文献を講読し、疑問点を抽出する 授業 ：文献講読 1 （発表とディスカッション） 復習 ：発表資料を読み返し、ディスカッションを振り返る
4	奥野 真之	予習 ：第 4 回で扱う文献を講読し、疑問点を抽出する 授業 ：文献講読 2 （発表とディスカッション） 復習 ：発表資料を読み返し、ディスカッションを振り返る
5	奥野 真之	予習 ：第 5 回で扱う文献を講読し、疑問点を抽出する 授業 ：文献講読 3 （発表とディスカッション） 復習 ：発表資料を読み返し、ディスカッションを振り返る
6	奥野 真之	予習 ：第 6 回で扱う文献を講読し、疑問点を抽出する 授業 ：文献講読 4 （発表とディスカッション） 復習 ：発表資料を読み返し、ディスカッションを振り返る
7	奥野 真之	予習 ：第 7 回で扱う文献を講読し、疑問点を抽出する 授業 ：文献講読 5 （発表とディスカッション） 復習 ：発表資料を読み返し、ディスカッションを振り返る
8	奥野 真之	予習 ：第 8 回で扱う文献を講読し、疑問点を抽出する 授業 ：文献講読 6 （発表とディスカッション） 復習 ：発表資料を読み返し、ディスカッションを振り返る
9	奥野 真之	予習 ：第 9 回で扱う文献を講読し、疑問点を抽出する 授業 ：文献講読 7 （発表とディスカッション） 復習 ：発表資料を読み返し、ディスカッションを振り返る
10	奥野 真之	予習 ：第 10 回で扱う文献を講読し、疑問点を抽出する 授業 ：文献講読 8 （発表とディスカッション） 復習 ：発表資料を読み返し、ディスカッションを振り返る
11	奥野 真之	予習 ：グループ研究のテーマを考え、関連する文献を検索する 授業 ：グループ研究 1 研究テーマに関する検討 復習 ：研究テーマに関連する文献を検索し、講読する
12	奥野 真之	予習 ：研究テーマに関連する文献を講読し、内容を整理する 授業 ：グループ研究 2 先行研究に関する検討 復習 ：先行研究の流れをまとめて、批判点を抽出する
13	奥野 真之	予習 ：先行研究の流れをまとめて、研究計画を考える 授業 ：グループ研究 3 研究計画に関する検討 復習 ：研究計画をまとめて、発表の準備を行う

14	奥野　真之	予習　：研究計画の発表準備を行う 授業　：グループ研究４　研究計画の発表とディスカッション 復習　：発表資料を読み返し、ディスカッションを振り返る
15	奥野　真之	予習　：後期のゼミで扱いたい研究テーマについて考える 授業　：研究テーマ紹介、学習計画の作成 復習　：自身の研究テーマを振り返り、関連する文献を検索する

授業開始前学習	心理学研究法や心理学実験の授業で学んだ内容について復習しておく。また、公刊されている心理学の研究論文を何か１つだけでも読んでおくと良い。
授業内課題のフィードバックの方法	各回の発表やディスカッションの内容について、授業内で解説やコメントを行う。
テキスト・教材	特に指定しない。授業の中で適宜、紹介する。
参考書	村上香奈・山崎浩一（編著）『よくわかる心理学実験実習』（ミネルヴァ書房）
評価の基準と方法	個人の発表 40%、グループ研究の取組状況 40%、各回のディスカッションに対する貢献 20%の配分で総合評価する。 単位取得には、全体の３分の２以上の出席が必要となる。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△

関連科目	心理学実験、心理学研究法、心理学統計法の授業と特に関連性が高い。
その他	発表、ディスカッション、グループワークが主な作業となるため、積極的な授業への参加が望まれる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-312	科目分類（～2024 年入学者）	130-310-23	授業コード	FF1121
科目名称	心理学ｾﾞﾐⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	Psychology Seminar Ⅱ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	綾城　初穂			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	綾城　初穂			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期　火曜日 14:40～17:40 後期　火曜日 14:40～17:40			研究室	10-714
授業概要	３年後期では，前期で取り組んだ質的研究法についてより深く学ぶ。また，質的研究法として世界的に主流となっているテーマ分析も扱う。批判的思考を養うとともに，問題設定からデータ収集，分析，結果の考察までの心理学における実証的な流れを体験して卒業論文の執筆に役立つ能力を身につけることが目標である。				
到達目標	質的研究法によって，自らの関心を心理学研究の枠組みから体系化し，分析することができる。また，こうした方法論の習得を通して，物事を批判的・多角的に考察することができるようになる。さらに，卒業論文作成の基礎となる手続きに習熟する。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	綾城　初穂	【第 1 回】 予習　：事前に配布した課題論文を読む 授業　：イントロダクション 復習　：出題された課題に取り組む
2	綾城　初穂	【第 2 回】 予習　：出題された課題に取り組む 授業　：会話分析　（データ収集）（グループワーク） 復習　：内容についての配布プリントの復習
3	綾城　初穂	【第 3 回】 予習　：出題された課題に取り組む 授業　：会話分析　（データ整理）（グループワーク） 復習　：授業を踏まえてデータを整理する
4	綾城　初穂	【第 4 回】 予習　：出題された課題に取り組む 授業　：会話分析　（分析と発表） 復習　：内容についての配布プリントの復習
5	綾城　初穂	【第 5 回】 予習　：出題された課題に取り組む 授業　：ディスコース分析（グループワーク） 復習　：内容についての配布プリントの復習
6	綾城　初穂	【第 6 回】 予習　：出題された課題に取り組む 授業　：テキストマイニング（データ収集） 復習　：内容についての配布プリントの復習
7	綾城　初穂	【第 7 回】 予習　：出題された課題に取り組む 授業　：テキストマイニング（データ分析）（グループワーク） 復習　：内容についての配布プリントの復習
8	綾城　初穂	【第 8 回】 予習　：出題された課題に取り組む 授業　：テーマ分析入門 復習　：内容についての配布プリントの復習
9	綾城　初穂	【第 9 回】 予習　：出題された課題に取り組む 授業　：テーマ分析（データ収集）（グループワーク） 復習　：内容についての配布プリントの復習
10	綾城　初穂	【第 10 回】 予習　：出題された課題に取り組む 授業　：テーマ分析（データ整理） 復習　：データ整理の課題に取り組む
11	綾城　初穂	【第 11 回】 予習　：出題された課題に取り組む 授業　：テーマ分析（分析） 復習　：内容についての配布プリントの復習

12	綾城　初穂	【第 12 回】 予習　：出題された課題に取り組む 授業　：テーマ分析（発表） 復習　：発表内容についての配布プリントの復習
13	綾城　初穂	【第 13 回】 予習　：出題された課題に取り組む 授業　：卒業論文に向けて 復習　：内容についての配布プリントの復習
14	綾城　初穂	【第 14 回】 予習　：出題された課題に取り組む 授業　：卒業論文・ゼミ論文のリサーチクエスチョンの立て方と先行研究の調べ方 復習　：内容についての配布プリントの復習
15	綾城　初穂	【第 15 回】 予習　：出題された課題に取り組む 授業　：３年次を振り返って 復習　：授業を踏まえてリサーチクエスチョンと先行研究をまとめる

授業開始前学習	関心のあるテーマについて、自分なりに関連書籍・論文にあたってみる。
授業内課題のフィードバックの方法	各分析過程および結果発表において適宜コメントを行う。レポートは添削して返却する。
テキスト・教材	プリントを配布する。
参考書	鈴木聡志（2007）『会話分析・ディスコース分析ーことばの織りなす世界を読み解く（ワードマップ）』新曜社 樋口耕一（2014）『社会調査のための計量テキスト分析ー内容分析の継承と発展を目指してー』ナカニシヤ出版
評価の基準と方法	授業での発表・調べ学習の成果　60%，授業への貢献　４０%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△

関連科目	心理学実験Ⅰ・Ⅱ 心理学研究法Ⅰ・Ⅱ
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-312 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	130-310-23 （Ｊ）	授業コード	FF1122
科目名称	心理学ｾﾞﾐⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	Psychology Seminar Ⅱ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	依田 尚也			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	依田 尚也			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 14:40～16:10 火曜日 16:20～17:50 後期 火曜日 14:40～16:10 火曜日 16:20～17:50			研究室	10-715
授業概要	ゼミの全体的なテーマは、『心を観察し、問いかける』ことである。これは、「目の前にいるこの人はどんな人なのか？」、「いかに生きてきたのか？」、「どうしてそうせざるを得なかったのか？」といった問いに対して、«もしかしたら、～～～なのかもしれない»といった仮説を立てることを指している。『心を観察し、問いかける』ことは心理専門職による心理アセスメントの本質である。しかし、心理専門職でなくとも、心理アセスメントの基本的なやり方、考え方を学ぶことで、私たちは日常生活において相手のことをさらに深く、的確に理解し、よりよく関わることができるようになるかもしれない。そして、『観察』や『面接』といった手法を用いる『研究』においても、学びが活きる可能性がある。 3 年次の後期は、夏休み中に各自で行った試行インタビューについて報告し、調査研究におけるインタビューという手法について理解を深める。そして、興味・関心を持った先行研究の内容について資料にまとめて発表し、ゼミ生同士で議論を重ねながら、各自が研究テーマ ＝ ″問い″ を見つけることを目指す。最終的に、研究テーマ発表会にてプレゼンテーションを行う。				
到達目標	3 年次の前期に引き続き、心理学的研究の基礎について学び、各自がゼミ論文／卒業論文を書くことについて具体的にイメージできるようになる。 調査研究におけるインタビューという手法について理解を深める。 ゼミ生同士の協働を通して、自分の研究テーマを見つけることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	依田 尚也	【第 1 回】 予習：夏休み中に各自で試行インタビューを行う 授業：ガイダンス 今後のスケジュールの確認 復習：各自で後期ゼミの目標を設定する
2	依田 尚也	【第 2 回】 予習：試行インタビューの逐語録を読み込んでおく 授業：試行インタビューの振り返り① 復習：よりよいインタビュー調査を実施するために必要なことについて再考する
3	依田 尚也	【第 3 回】 予習：試行インタビューの逐語録を読み込んでおく 授業：試行インタビューの振り返り② 復習：よりよいインタビュー調査を実施するために必要なことについて再考する
4	依田 尚也	【第 4 回】 予習：試行インタビューの逐語録を読み込んでおく 授業：質的データの分析 KJ 法① 復習：配布資料を読み返す
5	依田 尚也	【第 5 回】 予習：KJ 法を用いた心理学的研究を検索する 授業：質的データの分析 KJ 法② 復習：配付資料を読み返す
6	依田 尚也	【第 6 回】 予習：KJ 法を用いた心理学的研究を読み込む 授業：質的データの分析 KJ 法③ 復習：配付資料を読み返す
7	依田 尚也	【第 7 回】 予習：KJ 法を用いた心理学的研究を読み込む 授業：質的データの分析 KJ 法④ 復習：試行インタビュー報告会の準備を進める
8	依田 尚也	【第 8 回】 予習：試行インタビュー報告会の練習をする 授業：試行インタビュー報告会 復習：報告会の内容とコメントを振り返る
9	依田 尚也	【第 9 回】 予習：自分の研究テーマに関連した先行研究を検索する 授業：自分の研究テーマを固める① 復習：配布資料を読み返す

10	依田　尚也	【第 10 回】 予習：自分の研究テーマに関連した先行研究を読み込む 授業：自分の研究テーマを固める② 復習：配布資料を読み返す
11	依田　尚也	【第 11 回】 予習：研究テーマ発表会の準備をする 授業：ゼミ面談① 復習：面談をふまえ発表会資料を作成する
12	依田　尚也	【第 12 回】 予習：研究テーマ発表会の準備をする 授業：ゼミ面談② 復習：面談をふまえ発表会資料を作成する
13	依田　尚也	【第 13 回】 予習：研究テーマ発表会の練習をする 授業：研究テーマ発表会① 復習：発表会の内容とコメントを振り返る
14	依田　尚也	【第 14 回】 予習：研究テーマ発表会の練習をする 授業：研究テーマ発表会② 復習：発表会の内容とコメントを振り返る
15	依田　尚也	【第 15 回】 予習：研究テーマ発表会の練習をする 授業：研究テーマ発表会③ 復習：発表会の内容とコメントを振り返る

授業開始前学習	前期の心理学ゼミⅠでの学びをもとに、夏休み中に各自で試行インタビューを行い、その逐語録を作成しておくこと。 不明点や疑問点については、個別に教員に質問しておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	ワークや発表の内容について、授業内で個別にフィードバックを行う。 試行インタビュー報告会および研究テーマ発表会では、全体での質疑応答を行った上で、最終的なフィードバックを行う。
テキスト・教材	特に指定しない。
参考書	適宜紹介する。
評価の基準と方法	試行インタビュー報告会および研究テーマ発表会の内容（60%）、および授業への取り組み姿勢（40%）をもとに、総合的に評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△

関連科目	心理学ゼミⅠ・Ⅲ・Ⅳ
その他	3 年次に身につけたスキルをもとに、4 年次にゼミ論文もしくは卒業論文として学術的論文を完成させ、提出することが必須である。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	心理臨床の実務経験あり。

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-312 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	130-310-23（Ｊ）	授業コード	FF1123
科目名称	心理学ｾﾞﾐⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	Psychology Seminar Ⅱ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	田中　教仁			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田中　教仁			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期　火曜日 10:40～12:10　木曜日 10:40～12:10 後期　火曜日 11:00～12:10　火曜日 14:40～16:40			研究室	10-719
授業概要	司法・犯罪領域における個人、家族の問題を扱うゼミである。臨床心理学を中心にすえつつ人間行動科学の知見を参考にしながら、非行・犯罪の基礎理論、心理社会アセスメントと支援、犯罪被害者の支援、家事事件についての知識と理解を深める。また、この領域における専門機関の概要及び専門職の実践についても取り上げる。3 年生は、これら司法・犯罪領域の理論と支援について理解を深め、研究方法の基礎を身に付けていくことを目標とする。3 年生後期は、グループ研究を通して、そのテーマが抱える問題の分析と考察を行うとともに、研究法の基本を学ぶ。保護関係機関の見学も行う（予定）。				
到達目標	グループ研究を通して、研究方法の基本を身に付ける。司法・犯罪領域の社会問題についての分析と考察を行う姿勢を身に付ける。 保護関係機関の機能と専門職の役割について理解する。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	田中　教仁	予習　：保護関係機関の見学に向けたグループ研究 授業　：ガイダンス（全体計画の説明等）、保護関係機関の機能と専門職の役割を調べる。 復習　：保護関係機関の見学に向けての発表の準備
2	田中　教仁	予習　：保護関係機関の見学に向けての発表の準備 授業　：保護関係機関の見学に向けての発表、ディスカッション 復習　：保護関係機関の見学に向けての質問項目の検討
3	田中　教仁	予習　：保護関係機関の見学に向けての質問事項の検討 授業　：保護関係機関の見学（予定） 復習　：レポート作成
4	田中　教仁	予習　：【第 4 回】で扱う文献の検討 授業　：文献（被害者支援）の講読、ディスカッション 復習　：授業を踏まえての整理
5	田中　教仁	予習　：【第 5 回】で扱う文献の検討 授業　：文献（児童虐待、DV 等）の講読、ディスカッション 復習　：授業を踏まえての整理
6	田中　教仁	予習　：【第 6 回】で扱う文献の検討 授業　：文献（家事事件①）の講読、ディスカッション 復習　：授業を踏まえての整理
7	田中　教仁	予習　：【第 7 回】で扱う文献の検討 授業　：文献（家事事件②）の講読、ディスカッション 復習　：授業を踏まえての整理
8	田中　教仁	予習　：グループ研究のテーマを検討する。 授業　：グループ研究① 復習　：研究結果の整理を行う。
9	田中　教仁	予習　：グループ研究の作業内容を検討する。 授業　：グループ研究②、 復習　：研究結果の整理を行う。
10	田中　教仁	予習　：研究結果の発表内容の構成等を考える。 授業　：グループ研究③、ゼミ面談 復習　：研究結果の整理を行う。
11	田中　教仁	予習　：研究結果の発表内容の構成等を考える。 授業　：グループ研究④、ゼミ面談 復習　：研究結果の整理を行う。
12	田中　教仁	予習　：研究結果の整理を行う 授業　：グループ研究⑤、ゼミ面談 復習　：発表資料の作成
13	田中　教仁	予習　：発表資料の作成 授業　：グループ研究⑥ 復習　：発表資料の作成

14	田中　教仁	予習　：発表資料の作成 授業　：グループ研究の発表、ディスカッション 復習　：ディスカッションの振り返りを行う。
15	田中　教仁	予習　：卒業研究の構想を考える。 授業　：卒業研究に向けての準備 復習　：卒業研究のテーマを検討する。

授業開始前学習	関心のあるテーマの文献を読み、グループ研究のテーマを考えておくこと
授業内課題のフィードバックの方法	発表やディスカッションを踏まえて、適宜、コメントをする。
テキスト・教材	特に指定しない。
参考書	門本泉編著『司法・犯罪心理学』（ミネルヴァ書房） 須藤明著『少年犯罪はどのように裁かれるのか』（合同出版）
評価の基準と方法	所定の出席回数を踏まえたうえで、グループ研究の取組状況５０％、グループ研究の発表成果３０％，レポート課題２０％の配分で総合評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△

関連科目	司法・犯罪心理学，家族心理学を受講しておくことが望ましい。
その他	・グループ学習を行うので、互いに協力し、自主的な姿勢で臨む必要がある。 ・正課学外活動として、３年生前期には家庭裁判所の見学、後期には少年保護関係機関の見学を行い、施設の見学及び実務家からの講義を受けることを予定している。その際には節度ある服装、参加姿勢を求める。見学先は都内近郊を予定しているが、交通費は各自負担となる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	家庭裁判所調査官として少年事件，家事事件の多くの事例を担当してきた。そうした実務経験を踏まえた講義を行う。

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-312 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	130-310-23 （Ｊ）	授業コード	FF1124
科目名称	心理学ｾﾞﾐⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	Psychology Seminar Ⅱ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	藤川 麗			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	藤川 麗			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 木曜日 13:00～14:30 金曜日 12:30～14:00 後期 木曜日 10:40～12:10 金曜日 12:30～14:00			研究室	10-712
授業概要	人の心の問題の理解と援助の方法を扱う、臨床心理学の専門ゼミである。臨床心理学研究の構造と研究法について知識を深め、自ら研究を実施できるようになることを目標とする。３年後期のゼミでは、受講生が定めたテーマに従ってグループで文献研究を実施し、関心を抱いた問題への理解を深めるとともに、臨床心理学の研究法を学ぶ。				
到達目標	グループで文献研究を実施することを通して、研究テーマの設定の仕方、批判的な文献講読の力、発表の仕方などを身につける。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	藤川 麗	【第 1 回】 予習 ：グループ研究の実施計画を考えておく。 授業 ：ガイダンス グループ研究の実施計画の検討（グループワーク） 復習 ：グループ研究のテーマに関する文献を収集する。
2	藤川 麗	【第 2 回】 予習 ：グループ研究のテーマに関する文献を収集する。 授業 ：文献の整理と論点の検討 1 (グループワーク) 復習 ：収集した文献を講読し、要点をまとめる。
3	藤川 麗	【第 3 回】 予習 ：グループ研究のテーマに関する文献を収集する。 授業 ：文献の整理と論点の検討 2 (グループワーク) 復習 ：収集した文献を講読し、要点をまとめる。
4	藤川 麗	【第 4 回】 予習 ：収集した文献を講読し、内容を整理する。 授業 ：文献の整理と論点の検討 3 (グループワーク) 復習 ：収集した文献を講読し、内容を整理する。
5	藤川 麗	【第 5 回】 予習 ：収集した文献を講読し、内容を整理する。 授業 ：文献の整理と論点の検討 4 (グループワーク) 復習 ：収集した文献を講読し、内容を整理する。
6	藤川 麗	【第 6 回】 予習 ：文献を整理し、発表の準備をする。 授業 ：発表の準備 1 発表資料の作成(グループワーク) 復習 ：発表資料を作成する。
7	藤川 麗	【第 7 回】 予習 ：文献を整理し、発表の準備をする。 授業 ：発表の準備 2 発表資料の作成(グループワーク) 復習 ：発表資料を作成する。
8	藤川 麗	【第 8 回】 予習 ：発表の準備をする。 授業 ：グループ研究 成果発表会(プレゼンテーション) 復習 ：発表に対するフィードバックを確認する。
9	藤川 麗	【第 9 回】 予習 ：卒業論文もしくはゼミ論文の研究テーマを検討する。 授業 ：卒業論文／ゼミ論文のテーマの検討と文献講読 1 復習 ：研究テーマに関する文献を収集する。
10	藤川 麗	【第 10 回】 予習 ：卒業論文もしくはゼミ論文の研究テーマを検討する。 授業 ：卒業論文／ゼミ論文のテーマの検討と文献講読 2 復習 ：研究テーマに関する文献を収集する。
11	藤川 麗	【第 11 回】 予習 ：研究テーマに関する文献を収集し、講読する。 授業 ：卒業論文／ゼミ論文のテーマの検討と文献講読 3 復習 ：研究テーマに関する文献を収集し、講読する。

12	藤川 麗	【第 12 回】 予習 ：研究テーマに関する文献を収集し、講読する。 授業 ：卒業論文／ゼミ論文のテーマ決定、発表準備 1 復習 ：研究テーマ発表会の準備を行う。
13	藤川 麗	【第 13 回】 予習 ：研究テーマ発表会の準備を行う。 授業 ：卒業論文／ゼミ論文のテーマ決定、発表準備 2 復習 ：研究テーマ発表会の準備を行う。
14	藤川 麗	【第 14 回】 予習 ：研究テーマ発表会の準備を行う。 授業 ：卒業論文／ゼミ論文の研究テーマ発表会 1（プレゼンテーション） 復習 ：発表に対するフィードバックを確認する。
15	藤川 麗	【第 15 回】 予習 ：卒業論文／ゼミ論文のテーマについてレポートを作成する。 授業 ：卒業論文／ゼミ論文の研究テーマ発表会 2(プレゼンテーション) 復習 ：発表に対するフィードバックを確認する。授業全体の振り返りを行う。

授業開始前学習	心理学ゼミⅠでのグループワークを振り返り、文献を収集してグループ研究の内容について考えておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	研究の遂行に関しては、授業内で随時個別にフィードバックを行う。最終的な研究発表に対しては、全体でのディスカッションとコメントシートを用いてフィードバックを行う。
テキスト・教材	特に指定しない。
参考書	随時紹介する。
評価の基準と方法	出席 3 分の 2 以上が単位取得の前提条件。授業への積極的貢献（45 点）、グループ研究の発表成果（35 点）、卒論もしくはゼミ論文のテーマに関する発表（20 点）による。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△

関連科目	心理学ゼミⅠの内容を発展させ、心理学ゼミⅢ・Ⅳの基礎となる内容である。
その他	グループワークを行うため、受講生同士で協力し、自主的に学ぶ積極的な姿勢が必要である。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	心理臨床の実務経験を活かし、臨床心理学の研究と実践の関連という視点を踏まえて指導を行う。

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-312 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	130-310-23 （Ｊ）	授業コード	FF1125
科目名称	心理学ｾﾞﾐⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	Psychology Seminar Ⅱ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	藤城　有美子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	藤城　有美子			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期　金曜日 14:30～17:30 後期　金曜日 14:30～17:30			研究室	10-710
授業概要	3 年生後期では、前期に身につけた知識や関心をもとに、4 年生で取り組む研究テーマを決定し、研究計画書を作成、発表する。				
到達目標	1. 文献検索を適切に行えるようになる。 2. 事象における臨床心理学的問題点を抽出できる。 3. 抽出された問題を理解、解決するために必要な知識を、先行研究から得ることができる。 4. 具体的な個別の事象を、臨床心理学の一般概念に還元して説明できる。 5. 他者に自分の意見を分かり易く説明し、かつ、他者からの意見を受けとめて生産的なディスカッションを行うことができる。 6. 心理学研究の研究計画を立てられる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	藤城　有美子	【第 1 回】 予習　：文献検索 授業　：ゼミ論・卒論に向けた研究計画作成 1（含．グループ・ディスカッション） 復習　：文献検索
2	藤城　有美子	【第 2 回】 予習　：文献検索 授業　：ゼミ論・卒論に向けた研究計画作成 2（含．グループ・ディスカッション） 復習　：文献検索
3	藤城　有美子	【第 3 回】 予習　：文献検索 授業　：ゼミ論・卒論に向けた研究計画作成 3（含．グループ・ディスカッション） 復習　：文献検索
4	藤城　有美子	【第 4 回】 予習　：文献検索 授業　：ゼミ論・卒論に向けた研究計画作成 4（含．グループ・ディスカッション） 復習　：文献検索
5	藤城　有美子	【第 5 回】 予習　：文献検索 授業　：ゼミ論・卒論に向けた研究計画作成 5（含．グループ・ディスカッション） 復習　：文献検索
6	藤城　有美子	【第 6 回】 予習　：文献検索 授業　：ゼミ論・卒論に向けた研究計画作成 6（含．グループ・ディスカッション） 復習　：文献検索
7	藤城　有美子	【第 7 回】 予習　：文献検索 授業　：ゼミ論・卒論に向けた研究計画作成 7（含．グループ・ディスカッション） 復習　：文献検索
8	藤城　有美子	【第 8 回】 予習　：文献検索 授業　：ゼミ論・卒論に向けた研究計画作成 8（含．グループ・ディスカッション） 復習　：文献検索
9	藤城　有美子	【第 9 回】 予習　：文献検索 授業　：研究計画発表会準備：研究計画書（Google ドキュメント）作成 復習　：文献検索
10	藤城　有美子	【第 10 回】 予習　：文献検索 授業　：研究計画発表会準備：研究計画書（Google ドキュメント）作成・提出 復習　：文献検索

11	藤城　有美子	【第 11 回】 予習　：文献検索 授業　：研究計画発表会準備：プレゼン資料（Google スライド）作成 復習　：文献検索
12	藤城　有美子	【第 12 回】 予習　：文献検索 授業　：研究計画発表会準備：プレゼン資料（Google スライド）作成・提出 復習　：文献検索
13	藤城　有美子	【第 13 回】 予習　：文献検索 授業　：研究計画発表会（発表、司会、指定討論など） 復習　：文献検索
14	藤城　有美子	【第 14 回】 予習　：文献検索 授業　：研究計画発表会（発表、司会、指定討論など） 復習　：文献検索
15	藤城　有美子	【第 15 回】 予習　：文献検索 授業　：研究計画修正・提出 復習　：文献検索

授業開始前学習	3 年前期に集めた資料から、自分の研究論文の核となりそうな文献をピックアップしておくとよい。
授業内課題のフィードバックの方法	当日の作業および発表・ディスカッション内容については、その場で解説・フィードバックする。
テキスト・教材	
参考書	Web 検索だけでなく、臨床心理学関連の学会が発行している学術雑誌などの目次や研究内容などを図書館で直に確認すること。
評価の基準と方法	所定出席数を満たした者について、毎回のワークへの取り組み 3 点×15 回＝45 点、発表会の抄録 10 点、スライド 10 点、発表 10 点、司会・指定討論など 15 点、修正された研究計画書 10 点の、計 100 点で評価する。単位の取得のためには、発表会での発表、抄録およびスライドの提出が必須である。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△

関連科目	心理学ゼミⅠ
その他	研究への取り組みにおいては、図書館や各種文献データベースの積極的利用が望まれる（オンラインで入手できない文献を図書館で、あるいは、図書館を通して入手する場合は、利用申請の仕方についてポータルサイトの情報を確認すること）。 研究計画作成ではその日の成果を発表し、互いにコメントし合うことを「ワークへの取り組み」の評価点に含める。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	心理臨床の実務経験あり。

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-312	科目分類（～2024 年入学者）	130-310-23	授業コード	FF1126
科目名称	心理学ｾﾞﾐⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	Psychology Seminar Ⅱ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	冨士原　光洋			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	冨士原　光洋			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期　水曜日 13:00～16:10 後期　水曜日 13:00～16:10			研究室	10-704
授業概要	心理学ｾﾞﾐⅠ-f に引き続き、心理学ｾﾞﾐⅡ-f は、認知心理学とその応用研究について学ぶ。 とくに以下 2 つのテーマについて、文献講読、研究例の発表・討論を行い、人間の認知機能について科学的解明をめざす認知心理学の視点から、科学的理解を深める。 心理学ｾﾞﾐⅡ-f の演習テーマ 1．「環境の認知と環境がもたらす行動への影響」（認知心理学の応用研究） 2．「言葉の使用とその認知機能について」				
到達目標	認知心理学の代表的認知機能（記憶、言語、思考）に関する研究成果、実社会への応用研究を説明できるようになる。個々の研究を詳しく調べる方法と技術、調べた内容を発表する技能を身につける（パワーポイントの使用法など）。さらに、1 つのテーマ研究について発表ができるようになる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	冨士原　光洋	【第 1 回】 予習：前期内容復習 授業：認知心理学について　授業説明 復習：基本事項確認
2	冨士原　光洋	【第 2 回】 予習：ウェブ利用を確認しておく 授業：心理学研究資料の利用　1 復習：興味ある研究論文を検索する
3	冨士原　光洋	【第 3 回】 予習：研究論文を収集しておく 授業：心理学研究資料の利用　2 復習：興味ある研究論文をまとめる（資料化する）
4	冨士原　光洋	【第 4 回】 予習：心理学研究の選定 授業：心理学研究発表資料の作成　1 復習：自分の発表資料の作成
5	冨士原　光洋	【第 5 回】 予習：心理学研究の選定 授業：心理学研究発表資料の作成　2 復習：自分の発表資料の作成
6	冨士原　光洋	【第 6 回】《第 6 回から第 15 回の内容は、個別研究テーマにより変更されることがある》 予習：資料 2　　157P から 159P の講読 授業：記憶のモデルについて　発表とグループ討論（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：意味記憶とエピソード記憶についてまとめる
7	冨士原　光洋	【第 7 回】 予習：資料 4　　1P から 5P の講読 授業：言葉の認知心理学研究について　発表とグループ討論（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：言葉の認知心理学研究に関するキーワード確認
8	冨士原　光洋	【第 8 回】 予習：資料 4　　6P から 10P の講読 授業：音韻理解の認知心理学研究について　発表とグループ討論　（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：音韻理解に関するキーワード確認
9	冨士原　光洋	【第 9 回】 予習：資料 4　　27P から 30P の講読 授業：単語理解の認知心理学研究について　発表とグループ討論（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：単語理解に関するキーワード確認　　認知心理学の応用レポート 2 の資料調べと作成
10	冨士原　光洋	【第 10 回】 予習：資料 4　　53P から 59P の講読 授業：視覚的単語理解の認知心理学研究について　発表とグループ討論　認知心理学の応用レポート 2 提出（プレゼンテーション） 復習：視覚的単語理解に関するキーワード確認

11	冨士原　光洋	【第 11 回】 予習：資料 4　 103P から 112P の講読 授業：文理解の認知心理学研究について　発表とグループ討論　（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：文理解に関するキーワード確認
12	冨士原　光洋	【第 12 回】 予習：資料 3　 167P から 169P の講読 授業：住環境と認知心理学について　発表とグループ討論（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：最近の住環境騒音に関する研究の検索
13	冨士原　光洋	【第 13 回】 予習：資料 3　 170P から 171P の講読 授業：騒音と認知心理学について　発表とグループ討論（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：最近の騒音に関する研究の検索
14	冨士原　光洋	【第 14 回】 予習：資料 3　 172P から 173P の講読 授業：自然環境と認知心理学について　発表とグループ討論（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：最近の自然環境に関する研究の検索
15	冨士原　光洋	【第 15 回】 予習：資料 3　 174P から 175P の講読 授業：特殊環境と認知心理学について　発表とグループ討論（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：特殊環境に関する研究の検索

授業開始前学習	認知心理学の入門書を読み、認知心理学の概要を理解しておくと授業が理解しやすい。
授業内課題のフィードバックの方法	課題発表時に発表者へ個別フィードバックを行う。また、発表資料について、発表の翌週に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。
テキスト・教材	授業開始時にテキスト・教材を指示する。このほかに適宜資料を配付する。
参考書	中島・子安等（編）、1999、『心理学辞典』（有斐閣）
評価の基準と方法	授業時提出課題と授業での発表内容（2 回）と学期末レポート（1 回）により評価を行う。 配点は、授業時提出課題が 40%、授業での発表内容（2 回）が 30%、学期末レポート（1 回）が 30%とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△

関連科目	「認知心理学」を履修しておくと内容が良くわかる。
その他	認知心理学の視点から、「環境」や「言語」の問題をながめ、人が生活している環境とそこでの行動について、または、人が日常使用している言葉（言語使用）について、科学的理解を深める。 資料等を保管するファイル・クリアーブックとコンピュータファイル保管用の USB メモリを用意すること。 授業の 3 分の 1 を超えて欠席した場合は、単位を取得できない。 単位修得には、課題発表（2 回）と学期末のレポート提出（1 回）を行うことが必要である。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-312 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	130-310-23 （Ｊ）	授業コード	FF1127
科目名称	心理学ｾﾞﾐⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	Psychology Seminar Ⅱ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	飯田 敏晴			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	飯田 敏晴			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 月曜日 10:40～12:10 水曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 10:40～12:10 水曜日 13:00～14:30			研究室	10-717
授業概要	3 年次後期では、卒業・ゼミ論文を執筆するための具体的手続きについて、テキストを参考にしつつ学ぶ。それと平行して、フリーディスカッションで、論文執筆テーマへの関心や素養を深めていく。学期末には、4 年次の研究計画の概要を提出する。				
到達目標	・心理学の研究論文を執筆するための基礎について説明することができる。 ・自身が理解を深めていきたい研究テーマについて説明することができる。 ・卒業・ゼミ論文執筆のための研究計画書（案）を作成することができる。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	−	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	飯田 敏晴	【第 1 回】 予習：卒業・ゼミ論文で取り組みたいテーマを改めて確認する 授業：卒論とはなにか（Ⅰ章） 復習：進め方の概要についてまとめる
2	飯田 敏晴	【第 2 回】 予習：自分が興味がある論文、書籍等を読む 授業：文献購読や批判的に読むこと、レポート、議論の仕方等について（Ⅱ章） 復習：テキストⅡ章を読む
3	飯田 敏晴	【第 3 回】 予習：自身の研究テーマに関する論文を探す 授業：論文や抄録の作り方について（Ⅲ章） 復習：自身が探し入手した論文を読む
4	飯田 敏晴	【第 4 回】 予習：自身が収集した論文の本文や図表について確認する 授業：論文執筆時の文章や図表の作り方（Ⅳ章）と実際 復習：模擬データを元に、図表や、分析結果の文章を作成する
5	飯田 敏晴	【第 5 回】 予習：図書館等に行き、研究テーマに関係する論文を一編見つける 授業：文献の集め方（Ⅴ章） 復習：テキストⅤ章を読む
6	飯田 敏晴	【第 6 回】 予習：興味がある研究テーマが直接に関係する実践現場を調べる 授業：研究の進め方（Ⅵ章）、現場との往復 1（グループ or フィールドワーク含） 復習：疑問を研究ノートに書き留める
7	飯田 敏晴	【第 7 回】 予習：興味がある研究テーマが直接に関係する実践現場を調べる 授業：研究の進め方（Ⅵ章）②、現場との往復 2（グループ or フィールドワーク含） 復習：疑問を研究ノートに書き留める
8	飯田 敏晴	【第 8 回】 予習：興味がある研究テーマが直接に関係する実践現場を調べる 授業：研究の進め方（Ⅵ章）②、現場との往復 3（グループ or フィールドワーク含） 復習：疑問を研究ノートに書き留める
9	飯田 敏晴	【第 9 回】 予習： 教員から提供された卒業論文のサンプルを読む 授業：卒論の書き進め方（1）（グループワーク含）（Ⅶ章） 復習：サンプルを読んでの感想を提出する
10	飯田 敏晴	【第 10 回】 予習： 教員から提供された卒業論文のサンプルを読む 授業：卒論の書き進め方（2）（グループワーク含）（Ⅶ章） 復習：サンプルを読んでの感想を提出する
11	飯田 敏晴	【第 11 回】 予習：研究方法（質問紙、実験等）について関心があるものを調べる 授業：研究方法（Ⅷ章）（グループワーク含） 復習：テキストを読む（Ⅷ章）

12	飯田　敏晴	【第 12 回】 予習：自身の関心のある研究領域の論文を調べる 授業：これまで読んだ論文のうち、1 つを紹介し、ディスカッションする① 復習：自身の研究テーマに関係しそうな知見をまとめる
13	飯田　敏晴	【第 13 回】 予習：自身の関心のある研究領域の論文を調べる 授業：これまで読んだ論文のうち、1 つを紹介し、ディスカッションする② 復習：自身の研究テーマに関係しそうな知見をまとめる
14	飯田　敏晴	【第 14 回】 予習：自身の関心のある研究領域の論文を調べる 授業：「研究計画について考え、文章に起こす」ということ（講義）、個人ワーク含 復習：自身の研究テーマに関係しそうな知見をまとめる
15	飯田　敏晴	【第 15 回】 予習：自身の研究計画についてまとめる 授業：自身の研究計画を発表しディスカッションする（5 分～10 分）。 復習：研究計画書を見直し、提出する

授業開始前学習	3 年前期に集めた資料から、リストにしておく。
授業内課題のフィードバックの方法	当日の作業および発表・ディスカッション内容については、その場で解説・フィードバックする。
テキスト・教材	白井・高橋『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房　2013 年
参考書	
評価の基準と方法	所定出席を満たすことが評価の前提である。単位取得の前提条件は、学期末の研究計画書（仮）の提出である（60 点）。 学期中、適宜、グループ or フィールドワークがあるため、そのワーク後のリアクションの提出を求める（40 点）
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△

関連科目	心理学関連の科目を広く履修すること。
その他	特記すべき事項なし
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	第 6 回～第 8 回では、筆者の実務経験を活かして、現場との何らかのコンタクトを予定している。詳細は決まり次第、後期ゼミ開始時までに周知します。

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-312	科目分類（～2024 年入学者）	130-310-23	授業コード	FF1128
科目名称	心理学ｾﾞﾐⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	Psychology Seminar Ⅱ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	丸山　慎			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	丸山　慎			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期　水曜日 13:00～14:30　木曜日 10:40～12:10 後期　水曜日 13:00～14:30　木曜日 10:40～12:10			研究室	10-718
授業概要	「心理学ゼミⅡ-h」は、「心理学ゼミⅠ-h」に引き続いて、発達心理学および認知心理学といった領域の理解を深めつつ、実験や調査を実施するための具体的方法を身に付けることを目標とする。				
到達目標	卒業論文・ゼミ論文の研究計画書を作成すること。そのために前期の「心理学ゼミⅠ-h」に引き続き、テーマを検討するための基礎的な知識を習得し、そのテーマに関連する先行研究の文献や資料の要点を把握できるようになること。グループ・ディスカッションに慣れること。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	丸山　慎	【第 1 回】 予習　：授業スケジュールを確認しておくこと 授業　：ゼミのガイダンス　内容確認　認知心理学と発達心理学の交差部分について 復習　：発達心理学および認知心理学の研究範囲について振り返る
2	丸山　慎	【第 2 回】 予習　：資料の講読①および疑問点の抽出 授業　：認知心理学と発達心理学の研究領域について：講読演習　（グループワーク） 復習　：資料の内容を振り返る
3	丸山　慎	【第 3 回】 予習　：資料の講読②および疑問点の抽出 授業　：認知心理学と発達心理学の研究領域について：購読演習　（グループワーク） 復習　：資料の内容を振り返る
4	丸山　慎	【第 4 回】 予習　：資料の講読③および疑問点の抽出 授業　：認知心理学と発達心理学の研究領域について：講読演習　（グループワーク） 復習　：資料の内容を振り返る
5	丸山　慎	【第 5 回】 予習　：資料の講読④および疑問点の抽出 授業　：認知心理学と発達心理学の研究領域について：講読演習　（グループワーク） 復習　：資料の内容を振り返る
6	丸山　慎	【第 6 回】 予習　：資料の講読⑤および疑問点の抽出 授業　：認知心理学と発達心理学の研究領域について：講読演習　（グループワーク） 復習　：資料の内容を振り返る
7	丸山　慎	【第 7 回】 予習　：資料の講読⑥および疑問点の抽出 授業　：認知心理学と発達心理学の研究領域について：講読演習　（グループワーク） 復習　：資料の内容を振り返る
8	丸山　慎	【第 8 回】 予習　：資料の講読⑦・疑問点の抽出および卒業研究の構想準備 授業　：認知心理学と発達心理学の研究領域について：講読演習および卒業研究の構想準備（グループワーク）（ディスカッション） 復習　：資料の内容および卒業研究の構想準備の議論を振り返る
9	丸山　慎	【第 9 回】 予習　：資料の講読⑧・疑問点の抽出および卒業研究の構想準備 授業　：認知心理学と発達心理学の研究領域について：講読演習および卒業研究の構想準備（グループワーク）（ディスカッション） 復習　：資料⑧の内容および観察に備えての議論を振り返る
10	丸山　慎	【第 10 回】 予習　：資料の講読⑨・疑問点の抽出および卒業研究の構想準備 授業　：認知心理学と発達心理学の研究領域について：講読演習および卒業研究の構想準備（グループワーク）（ディスカッション） 復習　：資料の内容および学外での観察に備えての議論を振り返る

11	丸山 慎	【第 11 回】 予習 ：卒業研究に向けた資料検索 授業 ：検索した資料の内容を精査し、まとめる（グループワーク） （ディスカッション） 復習 ：観察の内容を振り返る
12	丸山 慎	【第 12 回】 予習 ：資料の講読⑩・疑問点の抽出および卒業研究の構想準備 授業 ：精査した資料の内容を発表する （プレゼンテーション） 復習 ：発表の内容を振り返る
13	丸山 慎	【第 13 回】 予習 ：資料の講読⑪・疑問点の抽出および卒業研究の構想準備 授業 ：精査した資料の内容を発表する （プレゼンテーション） 復習 ：発表の内容を振り返る
14	丸山 慎	【第 14 回】 予習 ：資料の講読⑫・疑問点の抽出および卒業研究の構想準備 授業 精査した資料の内容を発表する （プレゼンテーション） 復習 ：発表の内容を振り返る
15	丸山 慎	【第 15 回】 予習 ：購読した資料（①から⑫まで）の内容を振り返る 授業 ：検索・発表した資料の内容のまとめ 復習 ：これまで使用した資料および観察内容を振り返り、キーワードを整理する

授業開始前学習	発達心理学の入門書を読み、その概要を理解しておくことを勧めたい。
授業内課題のフィードバックの方法	講読した文献資料およびディスカッションの内容を振り返る。特にディスカッションの際に作成したメモやノートにもとづき、反省点も踏まえて授業内で講評の機会を設ける。
テキスト・教材	授業開始時にテキスト・教材を指示する。このほかに適宜資料を配布する。
参考書	
評価の基準と方法	授業内での発表（40%）と学期末のレポート（1 回：40%）、授業態度・授業への貢献（20%）をもとに総合的に評価を決定する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△

関連科目	心理学関連の授業は全て関連があると考えてほしい。
その他	発達心理学、認知心理学などの概要を把握することはもちろんだが、本授業では、それらの領域の知見をできるだけ身近に感じてもらうために予備的な実験や調査を計画するような実践的な内容も実施していく予定である。また受講者の興味や関心などに応じて柔軟にテーマを設定していく場合もある。資料等を保管するファイル・クリアーブックとコンピュータファイル保管用の USB メモリを用意すること。 東京近郊にて正課学外活動を予定している。実費等、実施については授業内で説明する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-312	科目分類（～2024 年入学者）	130-310-23	授業コード	FF1129
科目名称	心理学ｾﾞﾐⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	Psychology Seminar Ⅱ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	奥野 真之			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	奥野 真之			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10 後期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10			研究室	10-713
授業概要	このゼミでは、心理学の中でも特に知覚や認知に関連する領域を主に取り扱う。3 年後期のゼミでは、各自が興味のある研究テーマに関連する文献を探して購読し、必要な知識を学ぶ。また、文献購読と発表・ディスカッションを通して研究テーマに対する理解を高めながら、より具体的な問題を見つけ出していく。学期末には、4 年次に取り組む卒業論文／ゼミ論文の研究計画書を作成、発表する。				
到達目標	文献・資料を検索し、情報を適切に整理して説明することができるようになる。 文献を批判的に購読した上で問題点を指摘し、解決方法を考えることができるようになる。 発表やディスカッションの中で、自身の考えを他者に伝えることができるようになる。 卒業論文／ゼミ論文の研究計画書を作成することができるようになる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	奥野 真之	予習 ：興味のある研究テーマについて考え、メモを作成する 授業 ：ゼミの進め方に関するイントロダクション、研究テーマの紹介 復習 ：配布資料を読み返し、今後のゼミの進行や、自身の研究テーマについて振り返る
2	奥野 真之	予習 ：興味のある研究テーマと関連した文献を探す 授業 ：文献の探し方、集め方について 復習 ：文献を検索・収集してリストアップする
3	奥野 真之	予習 ：収集した文献を講読し、発表準備を行う 授業 ：文献講読 1 （発表とディスカッション） 復習 ：発表資料を読み返し、ディスカッションを振り返る
4	奥野 真之	予習 ：収集した文献を講読し、発表準備を行う 授業 ：文献講読 2 （発表とディスカッション） 復習 ：発表資料を読み返し、ディスカッションを振り返る
5	奥野 真之	予習 ：収集した文献を講読し、発表準備を行う 授業 ：文献講読 3 （発表とディスカッション） 復習 ：発表資料を読み返し、ディスカッションを振り返る
6	奥野 真之	予習 ：収集した文献を講読し、発表準備を行う 授業 ：文献講読 4 （発表とディスカッション） 復習 ：発表資料を読み返し、ディスカッションを振り返る
7	奥野 真之	予習 ：収集した文献を講読し、発表準備を行う 授業 ：文献講読 5 （発表とディスカッション） 復習 ：発表資料を読み返し、ディスカッションを振り返る
8	奥野 真之	予習 ：収集した文献を講読し、発表準備を行う 授業 ：文献講読 6 （発表とディスカッション） 復習 ：発表資料を読み返し、ディスカッションを振り返る
9	奥野 真之	予習 ：収集した文献を講読し、発表準備を行う 授業 ：文献講読 7 （発表とディスカッション） 復習 ：発表資料を読み返し、ディスカッションを振り返る
10	奥野 真之	予習 ：卒業論文／ゼミ論文のテーマについてアイディアを整理する 授業 ：卒業論文／ゼミ論文のテーマに関する検討 1 （発表とディスカッション） 復習 ：研究テーマに関連する文献を検索し、講読する
11	奥野 真之	予習 ：卒業論文／ゼミ論文のテーマについてアイディアを整理する 授業 ：卒業論文／ゼミ論文のテーマに関する検討 2 （発表とディスカッション） 復習 ：研究テーマに関連する文献を検索し、講読する
12	奥野 真之	予習 ：卒業論文／ゼミ論文のテーマについて、今後の計画を考える 授業 ：研究計画書（案）について 復習 ：配布資料を読み返し、研究計画書（案）を作成する
13	奥野 真之	予習 ：研究計画書（案）を作成し、発表準備を行う 授業 ：研究計画書（案）の発表、ディスカッション 復習 ：ディカッションを振り返り、研究計画書（案）の問題点を整理する

14	奥野　真之	予習　：研究計画書（案）の問題点を整理し、文献調査を行う 授業　：研究計画書（案）の修正 復習　：研究計画書（修正案）を作成する
15	奥野　真之	予習　：研究計画書（修正案）を作成し、発表準備を行う 授業　：研究計画書（修正案）の発表とディスカッション 復習　：ディカッションを振り返り、さらに修正を加えた研究計画書を提出する

授業開始前学習	３年前期に作成した学習計画に沿って、文献を集めておくと良い。
授業内課題のフィードバックの方法	各回の発表やディスカッションの内容について、授業内で解説やコメントを行う。
テキスト・教材	特に指定しない。授業の中で適宜、紹介する。
参考書	小川嗣夫『卒論・修論のための心理学実験こうすればおもしろい』（ブレーン出版） 小塩真司・ 宅香菜子『心理学の卒業研究ワークブック ： 発想から論文完成までの 10 ステージ』（金子書房） 松井豊『心理学論文の書き方 ： 卒業論文や修士論文を書くために』（河出書房新社）
評価の基準と方法	文献購読の発表 40%、研究計画書の発表 40%、各回のディスカッションに対する貢献 20%の配分で総合評価する。 単位取得には、全体の３分の２以上の出席が必要となる。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△

関連科目	心理学ゼミⅠから継続した内容となる。心理学実験、心理学研究法、心理学統計法の授業とも関連性が高い。
その他	発表、ディスカッション、グループワークが主な作業となるため、積極的な授業への参加が望まれる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-412	科目分類（～2024 年入学者）	130-310-24	授業コード	FF1131
科目名称	心理学ｾﾞﾐⅢ			単位数	1.0 単位
英文名称	Psychology Seminar Ⅲ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	綾城　初穂			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	綾城　初穂			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　火曜日 14:40～17:40 後期　火曜日 14:40～17:40			研究室	10-714
授業概要	各自が自分の関心に沿った質的心理学研究を行い、それを卒業論文をはじめとした研究論文としてまとめることを目指す。特に前期では，自らの関心を心理学の問いに落とし込みリサーチクエスチョンを立て，先行研究の調査とデータの取得を行うことが目標となる。				
到達目標	自らの関心を心理学の方法論に沿って位置付け直し，リサーチクエスチョンに沿って先行研究の整理やデータの取得を行うことができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	綾城　初穂	【第 1 回】 予習　：自身の研究テーマを絞る 授業　：イントロダクション 復習　：出題された課題に取り組む
2	綾城　初穂	【第 2 回】 予習　：自身の研究テーマをまとめる 授業　：リサーチクエスチョンおよび研究テーマの発表①（プレゼンテーション） 復習　：指摘された点について再考する
3	綾城　初穂	【第 3 回】 予習　：自身の研究テーマをまとめる 授業　：リサーチクエスチョンおよび研究テーマの発表②（プレゼンテーション） 復習　：指摘された点について再考する
4	綾城　初穂	【第 4 回】 予習　：自身の研究テーマをまとめる 授業　：リサーチクエスチョンおよび研究テーマの発表③（プレゼンテーション） 復習　：指摘された点について再考する
5	綾城　初穂	【第 5 回】 予習　：自身の調査方法を考えておく 授業　：調査における倫理的配慮について 復習　：講義内容についての配布プリントの復習
6	綾城　初穂	【第 6 回】 予習　：自身の調査方法を考えておく 授業　：質的研究におけるインタビュー調査 復習　：講義内容についての配布プリントの復習
7	綾城　初穂	【第 7 回】 予習　：自身の調査方法をまとめる 授業　：質的研究における観察調査 復習　：講義内容についての配布プリントの復習
8	綾城　初穂	【第 8 回】 予習　：実際に調査をはじめる 授業　：調査の途中経過の確認と整理① 復習　：指摘された点について再考する
9	綾城　初穂	【第 9 回】 予習　：実際に調査をはじめる 授業　：調査の途中経過の確認と整理② 復習　：指摘された点について再考する
10	綾城　初穂	【第 10 回】 予習　：調査の途中経過をまとめる 授業　：調査の途中経過についての発表①（プレゼンテーション） 復習　：指摘された点について再考する
11	綾城　初穂	【第 11 回】 予習　：調査の途中経過をまとめる 授業　：調査の途中経過についての発表②（プレゼンテーション） 復習　：指摘された点について再考する

12	綾城　初穂	【第 12 回】 予習　：調査の途中経過をまとめる 授業　：調査の途中経過についての発表③（プレゼンテーション） 復習　：指摘された点について再考する
13	綾城　初穂	【第 13 回】 予習　：分析に取り組む 授業　：質的研究法の具体的分析手順（データの整理）（実習） 復習　：配布プリントの復習
14	綾城　初穂	【第 14 回】 予習　：分析に取り組む 授業　：質的研究法の具体的分析手順②（コード化）（実習） 復習　：配布プリントの復習
15	綾城　初穂	【第 15 回】 予習　：出題された課題に取り組む 授業　：質的研究法の具体的分析手順③（カテゴリー化）（実習） 復習　：配布プリントの復習

授業開始前学習	関心のあるテーマについて、自分なりに先行研究を調べておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	分析過程や発表方法については、授業内でコメントする。レポートは添削して、返却する。
テキスト・教材	各自の用いる方法によって異なるため、授業内で適宜指示する。
参考書	樋口耕一（2014）『社会調査のための計量テキスト分析ー内容分析の継承と発展を目指してー』ナカニシヤ出版 川喜田二郎（2017）『発想法 改版ー創造性開発のために』中公新書 能智正博　（2011）『臨床心理学をまなぶ６　質的研究法』東京大学出版会 鈴木聡志（2007）『会話分析・ディスコース分析ーことばの織りなす世界を読み解く（ワードマップ）』新曜社
評価の基準と方法	発表６０%・授業への貢献４０%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-412 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	130-310-24 （Ｊ）	授業コード	FF1132
科目名称	心理学ｾﾞﾐⅢ			単位数	1.0 単位
英文名称	Psychology Seminar Ⅲ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	依田 尚也			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	依田 尚也			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 14:40～16:10 火曜日 16:20～17:50 後期 火曜日 14:40～16:10 火曜日 16:20～17:50			研究室	10-715
授業概要	3 年次のゼミを通して見つけた各自の研究テーマ ＝ ”問い” に対する仮説を探索するために調査研究を行い、最終的にその成果を卒業論文もしくはゼミ論文という形にまとめることを目指す。4 年次の前期は、関連する先行研究をさらに読み進めることで、各自の抱いている”問い”をより明確化する。また、インタビュー等の調査を行う者については、その計画を立て、実行し、データを収集する。中間報告会では、各自の調査研究の途中経過についてプレゼンテーションを行う。				
到達目標	各自の”問い”に対する仮説を探索するための研究計画を確定させる。 先行研究を読み進め、その内容や課題点について適切に理解し、自らの調査研究に活かすことができる。 調査研究をスタートし、必要なデータを収集することができる。 中間報告会において、調査研究の途中経過についてプレゼンテーションを行い、教員およびゼミ生と積極的に意見交換することができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	−
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	依田 尚也	【第 1 回】 予習：3 年次ゼミで習得した内容について振り返っておく 授業：ガイダンス 今後の調査研究スケジュールの確認 復習：今後のスケジュールを立てる
2	依田 尚也	【第 2 回】 予習：第 1 回授業にて配布された資料を再読する 授業：研究計画の立案① 復習：配付資料を読み返す
3	依田 尚也	【第 3 回】 予習：第 2 回授業にて配布された資料を再読する 授業：研究計画の立案② 復習：配付資料を読み返す
4	依田 尚也	【第 4 回】 予習：第 3 回授業にて配布された資料を再読する 授業：調査研究における倫理的配慮 復習：倫理的な側面から研究計画を再考する
5	依田 尚也	【第 5 回】 予習：実際に調査研究を開始する 授業：調査研究の経過確認① 復習：授業中にコメントを受けた点について再考する
6	依田 尚也	【第 6 回】 予習：実際に調査研究を開始する 授業：調査研究の経過確認② 復習：授業中にコメントを受けた点について再考する
7	依田 尚也	【第 7 回】 予習：実際に調査研究を開始する 授業：調査研究の経過確認③ 復習：授業中にコメントを受けた点について再考する
8	依田 尚也	【第 8 回】 予習：実際に調査研究を開始する 授業：調査研究の経過確認④ 復習：授業中にコメントを受けた点について再考する
9	依田 尚也	【第 9 回】 予習：中間報告会の準備をする 授業：ゼミ面談① 復習：面談をふまえ報告会資料を作成する
10	依田 尚也	【第 10 回】 予習：中間報告会の準備をする 授業：ゼミ面談② 復習：面談をふまえ報告会資料を作成する

11	依田　尚也	【第 11 回】 予習：中間報告会の準備をする 授業：ゼミ面談③ 復習：面談をふまえ報告会資料を作成する
12	依田　尚也	【第 12 回】 予習：中間報告会の準備をする 授業：中間報告会① 復習：中間報告会の内容とコメントを振り返る
13	依田　尚也	【第 13 回】 予習：中間報告会の準備をする 授業：中間報告会② 復習：中間報告会の内容とコメントを振り返る
14	依田　尚也	【第 14 回】 予習：中間報告会の準備をする 授業：中間報告会③ 復習：中間報告会の内容とコメントを振り返る
15	依田　尚也	【第 15 回】 予習：調査研究の進捗状況について整理しておく 授業：後期スケジュールの立案 復習：スケジュールを必要に応じて修正する

授業開始前学習	3 年次ゼミで習得した内容について振り返っておくこと。 不明点や疑問点については、個別に教員に質問しておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	調査研究の進行状況に合わせて、授業内で個別にフィードバックを行う。
テキスト・教材	特に指定しない。
参考書	適宜紹介する。
評価の基準と方法	中間報告会の発表内容（60%）、および授業への取り組み姿勢（40%）をもとに、総合的に評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△

関連科目	心理学ゼミⅠ・Ⅱ・Ⅳ
その他	進度の都合により授業内容・順序を一部変更する可能性がある。 最終的に、4 年次後期にゼミ論文もしくは卒業論文として学術的論文を完成させ、提出することが必須である。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	心理臨床の実務経験あり。

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-412 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	130-310-24 （Ｊ）	授業コード	FF1133
科目名称	心理学ｾﾞﾐⅢ			単位数	1.0 単位
英文名称	Psychology Seminar Ⅲ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	田中 教仁			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田中 教仁			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 10:40～12:10 木曜日 10:40～12:10 後期 火曜日 11:00～12:10 火曜日 14:40～16:40			研究室	10-719
授業概要	司法・犯罪領域における個人、家族の問題を扱うゼミである。臨床心理学を中心にすえつつ人間行動科学の知見を参考にしながら、非行・犯罪の基礎理論、心理社会アセスメントと支援、犯罪被害者の支援、家事事件についての知識と理解を深める。また、この領域における専門機関の概要及び専門職の実践についても取り上げる。4 年生は、これら司法・犯罪領域の理論と支援について考察を深めつつ、各自が関心を持ったテーマで研究を進め、論文としてその成果をまとめることが目標である。4 年生前期は、各自が研究テーマを選定し、研究計画を立案し、実際の研究に着手する。				
到達目標	個人研究のテーマを定め、研究計画を立案する。文献や先行研究の調査と講読を進め、研究計画をブラッシュアップするとともに、研究方法の準備を行う。 これら研究計画とその方法論を検討していく中で、討議する力や計画的に作業を進めていく力も併せて身に付けていく。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	田中 教仁	予習 ：研究テーマを検討しておく。 授業 ：ガイダンス（全体計画の説明等）、研究テーマの確認 復習 ：研究テーマの再検討を行う。
2	田中 教仁	予習 ：研究計画の検討、ゼミ面談の準備 授業 ：研究の留意点について、研究計画の立案①、ゼミ面談 復習 ：研究計画の立案、先行研究等の講読
3	田中 教仁	予習 ：研究計画の検討、ゼミ面談の準備 授業 ：研究計画の立案②、ゼミ面談 復習 ：研究計画の立案、先行研究等の講読
4	田中 教仁	予習 ：プレゼンテーションの準備 授業 ：研究計画のプレゼンテーション①、ディスカッション 復習 ：研究計画の修正、先行研究の講読
5	田中 教仁	予習 ：プレゼンテーションの準備 授業 ：研究計画のプレゼンテーション②、ディスカッション 復習 ：研究計画の修正、先行研究の講読
6	田中 教仁	予習 ：先行研究の調査と講読を進める。 授業 ：先行研究の講読とまとめ① 復習 ：先行研究のまとめを行う。
7	田中 教仁	予習 ：先行研究等の調査と講読を進める。 授業 ：先行研究の講読とまとめ② 復習 ：先行研究のまとめを行う。
8	田中 教仁	予習 ：先行研究等の調査と講読を進める。 授業 ：先行研究等の講読とまとめ③ 復習 ：先行研究等のまとめを行う。
9	田中 教仁	予習 ：先行研究等の調査と講読を進める。 授業 ：先行研究のまとめの発表①、ディスカッション 復習 ：先行研究のまとめの修正
10	田中 教仁	予習 ：先行研究等の調査と講読を進める。 授業 ：先行研究等のまとめの発表②、ディスカッション 復習 ：先行研究のまとめの修正
11	田中 教仁	予習 ：配布資料の講読 授業 ：論文の構成、執筆の基本的事項 復習 ：文献の整理を行う。
12	田中 教仁	予習 ：調査・研究法の検討 授業 ：研究結果の分析、整理について。調査・研究法の準備 復習 ：授業内容を整理する。
13	田中 教仁	予習 ：調査・研究法の準備と実施を進める。 授業 ：調査・研究法の準備と実施① 復習 ：調査・研究法の準備と実施を進める。

14	田中　教仁	予習　：調査・研究法の準備と実施を進める。 授業　：調査・研究法の準備と実施② 復習　：調査・研究法の準備と実施を進める。
15	田中　教仁	予習　：研究の進ちょく状況を説明できるようにしておく。 授業　：研究の進ちょくの確認、夏季及び後期の課題の確認 復習　：レポート課題の作成、提出

授業開始前学習	関連する文献や先行研究を収集し、講読を始め、研究テーマを検討しておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	研究計画等の発表に対して、授業内でディスカッションを行い、これを踏まえてコメントする。研究の実施や論文作成に向けて、随時フィードバックを行う。
テキスト・教材	特に指定しない。授業内で適宜紹介する。
参考書	松井豊著『三訂版　心理学論文の書き方』（河出書房新社） 小熊英二『基礎からわかる論文の書き方』（講談社） 門本泉編著『司法・犯罪心理学』（ミネルヴァ書房）
評価の基準と方法	研究計画の発表４０%、先行研究のまとめの発表４０%、ディスカッションの貢献２０%の配分で総合評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△

関連科目	
その他	・卒業論文もしくはゼミ論文という形で個人研究の成果をまとめることが必須である。自主的、積極的、計画的に研究を進める姿勢が求められる。 ・正課学外活動として、前期には関係機関見学を行い、施設の見学及び実務家からの講義を受けることを予定している。その際には節度ある服装、参加姿勢を求める。見学先は都内近郊を予定しているが、交通費は各自負担となる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	家庭裁判所調査官として少年事件，家事事件の多くの事例を担当してきた。そうした実務経験を踏まえたフィードバック等を行う。

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-412 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	130-310-24 （Ｊ）	授業コード	FF1134
科目名称	心理学ｾﾞﾐⅢ			単位数	1.0 単位
英文名称	Psychology Seminar Ⅲ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	藤川 麗			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	藤川 麗			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 木曜日 13:00～14:30 金曜日 12:30～14:00 後期 木曜日 10:40～12:10 金曜日 12:30～14:00			研究室	10-712
授業概要	人の心の問題の理解と援助の方法を扱う、臨床心理学の専門ゼミである。臨床心理学の研究方法について知識と理解を深め、自ら研究を実施できるようになることを目標とする。４年前期のゼミでは、受講生が各自関心のあるコミュニティを選択し、そのコミュニティにおける心理的問題について調査を計画し、発表・実施する。				
到達目標	４年生の一年間を通して実施する個人研究のテーマと研究計画を確定する。可能であれば、調査や実験を実施することを目標とする。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	藤川 麗	【第 1 回】 予習 ：卒業論文あるいはゼミ論文のテーマに関する文献の講読を行う 授業 ：ガイダンス 研究テーマの確認（資料①） 復習 ：授業でのコメントを受けて、研究テーマをさらに検討する
2	藤川 麗	【第 2 回】 予習 ：卒業論文あるいはゼミ論文のテーマに関する文献の講読を行う 授業 ：研究計画の立案 1 復習 ：研究計画を検討する
3	藤川 麗	【第 3 回】 予習 ：卒業論文あるいはゼミ論文のテーマに関する文献の講読を行う 授業 ：研究計画の立案 2 復習 ：研究計画を立案する
4	藤川 麗	【第 4 回】 予習 ：研究テーマに関する先行研究の講読、研究計画を立案し発表の準備を行う 授業 ：研究計画の発表 1 （プレゼンテーション） 復習 ：発表へのフィードバックを踏まえて研究計画をさらに検討する
5	藤川 麗	【第 5 回】 予習 ：研究テーマに関する先行研究の講読、研究計画を立案し発表の準備を行う 授業 ：研究計画の発表 2 （プレゼンテーション） 復習 ：発表へのフィードバックを踏まえて研究計画をさらに検討する
6	藤川 麗	【第 6 回】 予習 ：研究テーマに関する先行研究の講読、研究計画を立案し発表の準備を行う 授業 ：研究計画の発表 3 （プレゼンテーション） 復習 ：発表へのフィードバックを踏まえて研究計画をさらに検討する
7	藤川 麗	【第 7 回】 予習 ：研究テーマに関する先行研究の講読、研究計画を立案し発表の準備を行う 授業 ：研究計画の発表 4 （プレゼンテーション） 復習 ：発表へのフィードバックを踏まえて研究計画をさらに検討する
8	藤川 麗	【第 8 回】 予習 ：研究テーマに関する先行研究の講読、研究計画を立案し発表の準備を行う 授業：研究計画の発表 5 （プレゼンテーション） 復習：フィードバックを踏まえて研究計画をさらに検討する
9	藤川 麗	【第 9 回】 予習：研究計画の再検討を行う 授業 ：研究計画の再検討 1 復習 ：フィードバックを踏まえて研究計画を具体化する
10	藤川 麗	【第 10 回】 予習：研究計画の再検討を行う 授業 ：研究計画の再検討 2 復習 ：フィードバックを踏まえて研究計画を具体化する
11	藤川 麗	【第 11 回】 予習：調査実施に向けて準備を行う 授業：調査の準備と実施 1 復習：調査実施に向けて質問紙等を作成する

12	藤川　麗	【第 12 回】 予習：調査実施に向けて準備を行う 授業：調査の準備と実施 2 復習：調査実施に向けて質問紙等を作成する
13	藤川　麗	【第 13 回】 予習：調査実施に向けて準備を行う 授業：調査の準備と実施 3 復習：調査実施に向けて準備を行う、可能であれば調査を実施する
14	藤川　麗	【第 14 回】 予習：調査実施に向けて準備を行う 授業：調査の準備と実施 4 復習：調査実施に向けて準備を行う、可能であれば調査を実施する
15	藤川　麗	【第 15 回】 予習：調査実施に向けて準備を行う 授業：調査の準備と実施 5 復習　：レポート課題の作成

授業開始前学習	自分が希望する研究テーマに関する先行研究を収集し、講読しておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	研究計画の発表に対しては、授業内でディスカッションとコメントを行う。卒業論文／ゼミ論文の作成に向けて随時個別に指導やフィードバックを行う。
テキスト・教材	特に指定しない。
参考書	特に指定しない。
評価の基準と方法	出席 3 分の 2 以上が単位取得の前提条件。授業での発表（60 点）、授業への積極的貢献（30 点）、期末レポート（10 点）による。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△

関連科目	「卒業論文」において心理学の実証的研究を行うために必要である。 心理学ゼミⅠ・Ⅱの内容を発展させた内容であり、心理学ゼミⅣの学びの基礎となる科目である。
その他	特になし。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	心理臨床の実務経験を活かし、臨床心理学の研究と実践との関連という視点を踏まえて指導を行う。

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-412 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	130-310-24 （Ｊ）	授業コード	FF1135
科目名称	心理学ｾﾞﾐⅢ			単位数	1.0 単位
英文名称	Psychology Seminar Ⅲ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	藤城　有美子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	藤城　有美子			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　金曜日 14:30～17:30 後期　金曜日 14:30～17:30			研究室	10-710
授業概要	心理学ゼミⅠ・Ⅱで身につけた知識、スキルを活かし、ゼミ論・卒論で取り組むテーマを決定する。3 年後期に作成した研究計画書に従い、計画を実行し、結果を分析し、考察を深めていく。ゼミの時間を使って研究を進めるとともに、各自の進捗状況に応じてレジュメを用意し、中間発表会にて発表する。最終的には、ゼミ論・卒論をまとめていく。				
到達目標	1．心理学研究を計画・実行できる。 2．得られたデータについて、先行研究で得られた知見なども活用しながら、自分なりの考察ができる。 3．自分が行った心理学研究の成果について、プレゼンテーションできる。 4．心理学研究に必要な倫理的事項について、自分の研究に適用できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	藤城　有美子	【第 1 回】 予習　：シラバスを読み、通年の流れを理解／研究計画書の検討 授業　：1．研究実施 1（含．グループ・ディスカッション） 復習　：研究作業の振り返り、次回までの課題点の整理
2	藤城　有美子	【第 2 回】 予習　：文献収集、調査票作成、調査・実験の実施、データ入力、分析等 授業　：2．研究実施 2（含．グループ・ディスカッション） 復習　：研究作業の振り返り、次回までの課題点の整理
3	藤城　有美子	【第 3 回】 予習　：文献収集、調査票作成、調査・実験の実施、データ入力、分析等 授業　：3．研究実施 3（含．グループ・ディスカッション） 復習　：研究作業の振り返り、次回までの課題点の整理
4	藤城　有美子	【第 4 回】 予習　：文献収集、調査票作成、調査・実験の実施、データ入力、分析等 授業　：4．研究実施 4（含．グループ・ディスカッション） 復習　：研究作業の振り返り、次回までの課題点の整理
5	藤城　有美子	【第 5 回】 予習　：文献収集、調査票作成、調査・実験の実施、データ入力、分析等 授業　：5．研究実施 5（含．グループ・ディスカッション） 復習　：研究作業の振り返り、次回までの課題点の整理
6	藤城　有美子	【第 6 回】 予習　：文献収集、調査票作成、調査・実験の実施、データ入力、分析等 授業　：6．研究実施 6（含．グループ・ディスカッション） 復習　：研究作業の振り返り、次回までの課題点の整理
7	藤城　有美子	【第 7 回】 予習　：文献収集、調査票作成、調査・実験の実施、データ入力、分析等 授業　：7．研究実施 7（含．グループ・ディスカッション） 復習　：研究作業の振り返り、次回までの課題点の整理
8	藤城　有美子	【第 8 回】 予習　：文献収集、調査票作成、調査・実験の実施、データ入力、分析等 授業　：8．研究実施 8（含．グループ・ディスカッション） 復習　：研究作業の振り返り、次回までの課題点の整理
9	藤城　有美子	【第 9 回】 予習　：文献収集、調査票作成、調査・実験の実施、データ入力、分析等 授業　：9．研究実施 9（含．グループ・ディスカッション） 復習　：研究作業の振り返り、次回までの課題点の整理
10	藤城　有美子	【第 10 回】 予習　：文献収集、調査票作成、調査・実験の実施、データ入力、分析等 授業　：10．研究実施 10（含．グループ・ディスカッション） 復習　：研究作業の振り返り、次回までの課題点の整理

11	藤城　有美子	【第 11 回】 予習　：発表準備 授業　：11. 中間発表会準備 1：抄録（Google ドキュメント）作成・提出 復習　：中間発表会用抄録の作成
12	藤城　有美子	【第 12 回】 予習　：発表準備 授業　：12. 中間発表会準備 2：プレゼンテーション（Google スライド）作成・提出 復習　：中間発表会用抄録の完成、提出
13	藤城　有美子	【第 13 回】 予習　：発表準備 授業　：13. 中間発表会 1（発表、司会、指定討論） 復習　：中間発表会用プレゼンテーションの完成、提出
14	藤城　有美子	【第 14 回】 予習　：発表準備 授業　：14. 中間発表会 2（発表、司会、指定討論） 復習　：紹介された心理学用語、文献の整理
15	藤城　有美子	【第 15 回】 予習　：発表準備 授業　：15. 中間発表会 3（発表、司会、指定討論） 復習　：紹介された心理学用語、文献の整理

授業開始前学習	論文の書き方（形式）について、身につけておくとよい。
授業内課題のフィードバックの方法	当日の作業および発表・ディスカッション内容については、その場で解説・フィードバックする。
テキスト・教材	特になし。
参考書	臨床心理学関連の各学会が発行している学術雑誌を参考にするとよい。 日本心理学会「執筆・投稿の手びき」https://psych.or.jp/manual/
評価の基準と方法	所定出席数を満たした者について、毎回のワークへの取り組み 2 点×15 回＝30 点、発表会の抄録 10 点、スライド 10 点、発表 10 点（質疑応答を含む）、司会・指定討論など 15 点、論文の途中稿 25 点の、計 100 点で評価する。単位の取得のためには、発表会での発表、抄録およびスライドの提出が必須である。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△

関連科目	心理学ゼミⅠ・Ⅱ
その他	特になし。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	心理臨床の実務経験あり。

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-412	科目分類（～2024 年入学者）	130-310-24	授業コード	FF1136
科目名称	心理学ｾﾞﾐⅢ			単位数	1.0 単位
英文名称	Psychology Seminar Ⅲ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	冨士原　光洋			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	冨士原　光洋			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　水曜日 13:00～16:10 後期　水曜日 13:00～16:10			研究室	10-704
授業概要	心理学ｾﾞﾐⅡに引き続き、２つのテーマ（１．「環境の認知と環境がもたらす行動への影響」（認知心理学の応用研究）と２．「言葉の使用とその認知機能について」）について、文献講読、研究例の発表・討論を行い、人間の認知機能について科学的解明をめざす認知心理学の視点から、科学的理解を深める。 とくにⅢでは、興味ある研究論文を精読し、各自が追試または発展研究の研究計画を立てる。各自の研究計画の発表・グループ討論を行うと共に、少数サンプルの試行研究を実施し、データを整理・分析し、結果をレポートにまとめる。				
到達目標	認知、記憶に関するより専門的研究について理解を深め、個別の研究について理解するとともに、評価できる点、改善点などの意見を述べることが出来るようになる。 先行研究を参考にして、追試を行うことができる技術力（研究の計画と立案、刺激の作成、措置の操作、コンピュータを用いたデータ分析等）を身につける。自分のテーマ研究について発表できるようになる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	冨士原　光洋	【第 1 回】 予習：資料 1　83P から 85P の講読 授業：記憶のモデルについて 復習：記憶のモデルに関するキーワードを整理する
2	冨士原　光洋	【第 2 回】 予習：資料 1　86P から 87P の講読 授業：2 貯蔵庫モデルの根拠について　発表とグループ討論　（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：2 貯蔵庫モデルに関するキーワードを整理する
3	冨士原　光洋	【第 3 回】 予習：資料 1　88P から 90P の講読 授業：2 貯蔵庫モデルへの反論について　発表とグループ討論（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：処理水準モデルについてまとめる
4	冨士原　光洋	【第 4 回】 予習：資料 1　90P から 94P の講読 授業：記憶情報の変換について　発表とグループ討論（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：符号化についてまとめる
5	冨士原　光洋	【第 5 回】 予習：資料 1　94P から 99P の講読 授業：リハーサルについて　発表とグループ討論（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：リハーサルに関するキーワードを整理する
6	冨士原　光洋	【第 6 回】 予習：資料 1　101P から 102P の講読 授業：エピソード記憶について　発表とグループ討論（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：自分自身のエピソード記憶の事例をまとめる　認知心理学レポートの資料調べと作成
7	冨士原　光洋	【第 7 回】 予習：資料 1　102P から 105P の講読 授業：意味記憶について　発表とグループ討論　認知心理学のレポート提出　①（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：意味記憶に関するキーワードを整理する
8	冨士原　光洋	【第 8 回】 予習：資料 1　106P から 107P の講読 授業：記憶の変容について　発表とグループ討論（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：目撃情報の変容について，自分の事例を考察する
9	冨士原　光洋	【第 9 回】 予習：　資料 1　108P から 110P の講読 授業：記憶内容の忘却について　発表とグループ討論　レポート講評①（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：忘却による失敗について，自分の事例を考察する
10	冨士原　光洋	【第 10 回】 予習：各自の研究事例追実験(目的と方法)を作成する 授業：追実験の発表(パワーポイントを使って) 復習：発表コメントへの回答をまとめる

11	冨士原　光洋	【第 11 回】 予習：実験計画表を作成 授業：実験計画表のチェック（刺激、器具、装置、教示について） 復習：実験計画表の修正
12	冨士原　光洋	【第 12 回】 予習：実験刺激の材料確認 授業：実験刺激の作成 復習：実験教示の作成　認知心理学レポートの資料調べと作成
13	冨士原　光洋	【第 13 回】 予習：実験環境の設定、チェック 授業：実験の実施　認知心理学のレポート提出 ② 復習：実験実施、データ収集
14	冨士原　光洋	【第 14 回】 予習：データ収集 授業：データ収集と結果の整理（データ入力） 復習：実験データの入力・分析
15	冨士原　光洋	【第 15 回】 予習：実験データの入力・分析、整理 授業：データ分析と仮説の検討　レポート講評② 復習：レポートの作成

授業開始前学習	認知心理学の入門書を読み、認知心理学の概要を理解しておくと授業が理解しやすい。
授業内課題のフィードバックの方法	課題発表回に発表者へ個別フィードバックを行う。また、授業 7 回目、13 回目に提出するレポートについては、2 週後（授業 9、15 回目）に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。
テキスト・教材	授業開始時にテキスト・教材を指示する。このほかに適宜資料を配付する。
参考書	中島・子安等（編）、1999、『心理学辞典』（有斐閣）
評価の基準と方法	発表内容（2 回）とレポート（学期内のレポート（2 回）学期末のレポート(1 回)）により評価を行う。 （全体を 100 点としたとき）配点は、発表内容評価 50 点とレポート評価 50 点とする。 発表内容評価には、授業内での討論状況を加味する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△

関連科目	「知覚・認知心理学」を履修しておくと内容が良くわかる。
その他	認知心理学の視点から、「環境」や「言語」の問題をながめ、人が生活している環境とそこでの行動について、または、人が日常使用している言葉（言語使用）について、科学的理解を深める。 資料等を保管するファイル・クリアーブックとコンピュータファイル保管用の USB メモリを用意すること。 授業の 3 分の 1 を超えて欠席した場合は、単位を取得できない。 単位修得には、課題発表（2 回）と学期末のレポート提出（1 回）を行うことが必要である。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-412 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	130-310-24 （Ｊ）	授業コード	FF1137
科目名称	心理学ｾﾞﾐⅢ			単位数	1.0 単位
英文名称	Psychology Seminar Ⅲ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	飯田敏晴			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	飯田　敏晴			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　月曜日 10:40～12:10　水曜日 13:00～14:30 後期　月曜日 10:40～12:10　水曜日 13:00～14:30			研究室	10-717
授業概要	人の心の問題の理解と援助の方法を扱う、臨床心理学の専門ゼミである。臨床心理学の研究方法について知識と理解を深め、自ら研究を実施できるようになることを目標とする。４年前期のゼミでは、１）３年次に行ったグループ課題の成果を基にレポートにまとめる作業に平行して、２）受講生各自が、関心のある健康・医療にかかわる課題、あるいはある特定のコミュニティに関わる課題を一つ選択してください。そして、それらの課題に関わる心理学的研究のこれまでの研究成果を基に、自らの視点で、その課題に関わる調査を計画し、発表・実施する。				
到達目標	４年生の一年間を通して実施する個人研究のテーマと研究計画を確定する。そして心理学の論文の書き方を習得する。可能であれば、調査や実験を実施することを目標とする。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	飯田　敏晴	【第 1 回】 予習　：卒業論文あるいはゼミ論文のテーマに関する文献の講読を行う 授業　：ガイダンス　研究テーマの確認 復習　：授業でのコメントを受けて、研究テーマをさらに検討する
2	飯田　敏晴	【第 2 回】 予習　：関連論文の収集 授業　：研究計画の立案 1 復習　：授業の復習、研究計画を再検討する
3	飯田　敏晴	【第 3 回】 予習　：関連論文の収集 授業　：研究計画の立案 2 復習　：復習、研究計画を立案する
4	飯田　敏晴	【第 4 回】 予習　：研究テーマに関する先行研究の講読、研究計画を立案し発表の準備を行う 授業　：研究計画の発表 1　(プレゼンテーション) 復習　：発表へのフィードバックを踏まえて研究計画をさらに検討する
5	飯田　敏晴	【第 5 回】 予習　：研究テーマに関する先行研究の講読、研究計画を立案し発表の準備を行う 授業　：研究計画の発表 2　(プレゼンテーション) 復習　：発表へのフィードバックを踏まえて研究計画をさらに検討する
6	飯田　敏晴	【第 6 回】 予習　：研究テーマに関する先行研究の講読、研究計画を立案し発表の準備を行う 授業　：研究計画の発表 3　(プレゼンテーション) 復習　：発表へのフィードバックを踏まえて研究計画をさらに検討する
7	飯田　敏晴	【第 7 回】 予習　：研究テーマに関する先行研究の講読、研究計画を立案し発表の準備を行う 授業　：研究計画の発表 4　(プレゼンテーション) 復習　：発表へのフィードバックを踏まえて研究計画をさらに検討する
8	飯田　敏晴	【第 8 回】 予習　：研究テーマに関する先行研究の講読、研究計画を立案し発表の準備を行う 授業：研究計画の発表 5　(プレゼンテーション) 復習：フィードバックを踏まえて研究計画をさらに検討する
9	飯田　敏晴	【第 9 回】 予習：研究計画の再検討を行う 授業　：研究計画の再検討 復習　：フィードバックを踏まえて研究計画を具体化する
10	飯田　敏晴	【第 10 回】 予習：調査実施に向けて準備を行う 授業：調査の準備と実施 1 復習：調査実施に向けて質問紙等を作成する
11	飯田　敏晴	【第 11 回】 予習：調査実施に向けて準備を行う 授業：調査の準備と実施 2 復習：調査実施に向けて質問紙等を作成する

12	飯田　敏晴	【第 12 回】 予習：調査実施に向けて準備を行う 授業：調査の準備と実施３ 復習：調査実施に向けて準備を行う、可能であれば調査を実施する
13	飯田　敏晴	【第 13 回】 予習：調査実施に向けて準備を行う 授業：調査の準備と実施４ 復習：調査実施に向けて準備を行う、可能であれば調査を実施する
14	飯田　敏晴	【第 14 回】 予習：データ分析の手順を復習しておく 授業：データ分析１ 復習：データを入力する
15	飯田　敏晴	【第 15 回】 予習：データ分析の手順を復習しておく 授業：データ分析２ 復習　：レポート課題の作成

授業開始前学習	自身の興味関心のある研究テーマに関する論文を収集し、読み込んでください。
授業内課題のフィードバックの方法	研究計画の発表に対しては、授業内でディスカッションとコメントを行う。卒業論文の作成に向けて随時個別に指導やフィードバックを行う。
テキスト・教材	特に指定しない（心理学ゼミⅡで購入した書籍を用いる）。
参考書	特に指定しない。
評価の基準と方法	出席３分の２以上が単位取得の前提条件。授業での発表（40 点）、授業への積極的貢献（30 点）、グループ課題のレポート（30 点）による。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△

関連科目	「卒業論文」において心理学の実証的研究を行うために必要である。
その他	・ゼミ活動として、正課外での活動（見学、インタビュー等）（原則全員参加）や、ゼミ合宿（任意参加）があります。参加費（現地までの交通費・昼食代・その他）として個人負担が必要。原則全員参加の正課外での活動では、5000 円以下程度の負担が必要になります。ゼミ合宿は、行先はゼミ内で検討して決めていきます。 ・これまでに学んだ健康・医療心理学、コミュニティ心理学に関する知見を参照しながら自らの研究テーマを定めていきます。 ・
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	心理臨床及び、これまでの地域支援に関わる経験を基に指導する。

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-412	科目分類（～2024 年入学者）	130-310-24	授業コード	FF1138
科目名称	心理学ｾﾞﾐⅢ			単位数	1.0 単位
英文名称	Psychology Seminar Ⅲ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	丸山　慎			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	丸山　慎			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　水曜日 13:00～14:30　木曜日 10:40～12:10 後期　水曜日 13:00～14:30　木曜日 10:40～12:10			研究室	10-718
授業概要	「心理学ゼミⅢ-h」では、卒業論文あるいはゼミ論文の執筆にかかる具体的な作業を進め、論文の完成を目指す。各自で発達心理学、認知心理学などの領域に関するテーマを選択し、その内容に沿った調査を実施し、その結果をまとめるための総合的なスキルを身につけることを目的とする。				
到達目標	卒業論文・ゼミ論文の作成に必要な調査や実験を実施し、データの収集ができること。そのための準備やコミュニケーションを適切に行うことができること。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	丸山　慎	【第 1 回】 予習　：授業スケジュールの確認 授業　：卒業論文・ゼミ論文の執筆スケジュールを立てる 復習　：授業の振り返り
2	丸山　慎	【第 2 回】 予習　：卒業論文・ゼミ論文の執筆スケジュールをまとめたメモを作成しておく 授業　：卒業論文・ゼミ論文の執筆スケジュールの確認と準備作業　（課題解決型学習） 復習　：教員から指摘されたポイントについて整理する
3	丸山　慎	【第 3 回】 予習　：　卒業論文・ゼミ論文の執筆スケジュールの最終確認 授業　：研究実施準備および実施①　　（課題解決型学習）（発表） 復習　：作業内容の進捗状況を整理する
4	丸山　慎	【第 4 回】 予習　：作業内容の進捗状況を整理する 授業　：研究実施準備および実施②　　（課題解決型学習）（発表） 復習　：作業内容の進捗状況を整理する
5	丸山　慎	【第 5 回】 予習　：作業内容の進捗状況を整理する 授業　：研究実施準備および実施③　　（課題解決型学習）（発表） 復習　：作業内容の進捗状況を整理する
6	丸山　慎	【第 6 回】 予習　：作業内容の進捗状況を整理する 授業　：研究実施①　（課題解決型学習）（発表） 復習　：作業内容の進捗状況を整理する
7	丸山　慎	【第 7 回】 予習　：作業内容の進捗状況を整理する 授業　：研究実施②　（課題解決型学習）（発表） 復習　：作業内容の進捗状況を整理する
8	丸山　慎	【第 8 回】 予習　：作業内容の進捗状況の整理および学外での観察に備えての準備 授業　：研究実施③および観察に備えての議論　（課題解決型学習）（ディスカッション） 復習　：作業内容の進捗状況を整理する
9	丸山　慎	【第 9 回】 予習　：作業内容の進捗状況の整理および学外での観察に備えての準備 授業　：研究実施④および観察に備えての議論　（課題解決型学習）（ディスカッション） 復習　：作業内容の進捗状況を整理する
10	丸山　慎	【第 10 回】 予習　：作業内容の進捗状況の整理および学外での観察に備えての準備 授業　：研究実施⑤および観察に備えての議論　（課題解決型学習）（ディスカッション） 復習　：作業内容の進捗状況を整理する
11	丸山　慎	【第 11 回】 予習　：作業内容の進捗状況の整理および学外での観察に備えての準備 授業　：学外での観察結果をまとめる（グループワーク） 復習　：観察内容について振り返る

12	丸山 慎	【第 12 回】 予習 ：作業内容の進捗状況の整理および観察内容を整理する 授業 ：研究の進捗状況に関する中間報告① （プレゼンテーション） （ディスカッション） 復習 ：中間報告の内容とコメントを振り返る
13	丸山 慎	【第 13 回】 予習 ：作業内容の進捗状況を整理する 授業 ：研究の進捗状況に関する中間報告② （プレゼンテーション） （ディスカッション） 復習 ：中間報告の内容とコメントを振り返る
14	丸山 慎	【第 14 回】 予習 ：作業内容の進捗状況を整理する 授業 ：研究の進捗状況に関する中間報告③ （プレゼンテーション） （ディスカッション） 復習 ：中間報告の内容とコメントを振り返る
15	丸山 慎	【第 15 回】 予習 ：作業内容の進捗状況を整理し後期授業のスケジュールを立てておく 授業 ：後期の研究実施スケジュールを立てる （課題解決型学習） 復習 ：授業内容の振り返り

授業開始前学習	認知心理学の入門書を読み、認知心理学の概要を理解しておくと授業が理解しやすい。
授業内課題のフィードバックの方法	作成資料や発表内容について授業内でフィードバックを与える。
テキスト・教材	授業時に適宜指示する。
参考書	
評価の基準と方法	授業内での発表（40%）と学期末のレポート（1 回：40%）、授業態度・授業への貢献（20%）をもとに総合的に評価を決定する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△

関連科目	「認知心理学」を履修しておくと内容が良く分かる。
その他	認知心理学の視点から、「環境」や「言語」の問題をながめ、人が生活している環境とそこでの行動について、または、人が日常使用している言葉（言語使用）について、科学的理解を深める。 資料等を保管するファイル・クリアーブックとコンピュータファイル保管用の USB メモリを用意すること。 東京近郊にて正課学外活動を予定している。実費等、実施については授業内で説明する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-412	科目分類（～2024 年入学者）	130-310-24	授業コード	FF1141
科目名称	心理学ｾﾞﾐⅣ			単位数	1.0 単位
英文名称	Psychology Seminar Ⅳ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	綾城　初穂			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	綾城　初穂			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　火曜日 14:40～17:40 後期　火曜日 14:40～17:40			研究室	10-714
授業概要	各自が自分の関心に沿った質的心理学研究を行い、それを卒業論文をはじめとした研究論文としてまとめることを目指す。後期では、習得したデータの分析と考察を行い、それを卒業論文をはじめとする研究論文にまとめることが目標となる。				
到達目標	自らの関心に基づいて取得したデータを、心理学の方法論に沿って分析・考察して、それを心理学論文の形でまとめることができる。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	−	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	綾城　初穂	【第 1 回】 予習　：進捗状況をまとめる 授業　：イントロダクション 復習　：出題された課題に取り組む
2	綾城　初穂	【第 2 回】 予習　：進捗状況をまとめる 授業　：分析結果（途中経過）の発表①（プレゼンテーション） 復習　：指摘された点について再考する
3	綾城　初穂	【第 3 回】 予習　：進捗状況をまとめる 授業　：分析結果（途中経過）の発表②（プレゼンテーション） 復習　：指摘された点について再考する
4	綾城　初穂	【第 4 回】 予習　：進捗状況をまとめる 授業　：分析結果（途中経過）の発表③（プレゼンテーション） 復習　：指摘された点について再考する
5	綾城　初穂	【第 5 回】 予習　：分析を進める 授業　：執筆における注意点について①（全体の構成） 復習　：配布プリントの復習
6	綾城　初穂	【第 6 回】 予習　：分析を進める 授業　：執筆における注意点について②（方法の記述） 復習　：配布プリントの復習
7	綾城　初穂	【第 7 回】 予習　：分析を進める 授業　：執筆における注意点について③（結果の記述） 復習　：配布プリントの復習
8	綾城　初穂	【第 8 回】 予習　：分析を進める 授業　：執筆における注意点について④（考察の記述） 復習　：配布プリントの復習
9	綾城　初穂	【第 9 回】 予習　：分析を進める 授業　：執筆における注意点について⑤（目的の再記述） 復習　：配布プリントの復習
10	綾城　初穂	【第 10 回】 予習　：分析を進める 授業　：研究結果のプレゼンテーションに関する講義 復習　：配布プリントの復習
11	綾城　初穂	【第 11 回】 予習　：研究結果をまとめる 授業　：研究結果発表①（プレゼンテーション） 復習　：指摘された点について再考する

12	綾城　初穂	【第 12 回】 予習　：研究結果をまとめる 授業　：研究結果発表②（プレゼンテーション） 復習　：指摘された点について再考する
13	綾城　初穂	【第 13 回】 予習　：研究結果をまとめる 授業　：研究結果発表③（プレゼンテーション） 復習　：指摘された点について再考する
14	綾城　初穂	【第 14 回】 予習　：研究結果をまとめる 授業　：研究結果発表④（プレゼンテーション） 復習　：指摘された点について再考する
15	綾城　初穂	【第 15 回】 予習　：研究過程を振り返る 授業　：まとめ 復習　：配布プリントの復習

授業開始前学習	先行研究と調査の途中経過についてまとめておくこと
授業内課題のフィードバックの方法	分析過程や発表方法については、授業内でコメントする。レポートは添削して、返却する。
テキスト・教材	各自の用いる方法によって異なるため、授業内で適宜指示する。
参考書	松井豊（2010)『改定新版心理学論文の書き方――卒業論文や修士論文を書くために』河出書房新社.
評価の基準と方法	発表７０%・授業への貢献３０%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-412 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	130-310-24 （Ｊ）	授業コード	FF1142
科目名称	心理学ｾﾞﾐⅣ			単位数	1.0 単位
英文名称	Psychology Seminar Ⅳ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	依田 尚也			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	依田 尚也			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 14:40～16:10 火曜日 16:20～17:50 後期 火曜日 14:40～16:10 火曜日 16:20～17:50			研究室	10-715
授業概要	3 年次のゼミを通して見つけた各自の研究テーマ ＝ ”問い” に対する仮説を探索するために調査研究を行い、最終的にその成果を卒業論文もしくはゼミ論文という形にまとめることを目指す。4 年次の後期は、各自の調査研究の結果を分析し、学術的論文の形式に従って文章化していく。最終報告会では、各自の論文内容についてプレゼンテーションを行う。				
到達目標	各自の”問い”に対する仮説を探索し、その経過と成果を学術的論文としてまとめ、完成させることができる。 完成させた論文の内容についてプレゼンテーションを行い、教員およびゼミ生と積極的に意見交換することができる。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	依田 尚也	【第 1 回】 予習：夏休み中に研究を進めておく 授業：ガイダンス 今後の論文執筆スケジュールの確認 復習：今後のスケジュールを立てる
2	依田 尚也	【第 2 回】 予習：研究の進行状況についてまとめておく 授業：夏休み中の経過報告会① 復習：経過報告会で得られたコメントを振り返る
3	依田 尚也	【第 3 回】 予習：論文執筆の進行状況についてまとめておく 授業：夏休み中の経過報告会② 復習：経過報告会で得られたコメントを振り返る
4	依田 尚也	【第 4 回】 予習：論文の『問題と目的』部分について研究指導用資料を作成する 授業：論文執筆①『問題と目的』 復習：論文の『問題と目的』部分を完成させる
5	依田 尚也	【第 5 回】 予習：論文の『方法』『結果』部分について研究指導用資料を作成する 授業：論文執筆②『方法』『結果』 復習：論文の『方法』『結果』部分を完成させる
6	依田 尚也	【第 6 回】 予習：論文の『考察』部分について研究指導用資料を作成する 授業：論文執筆③『考察』 復習：論文の『考察』部分を完成させる
7	依田 尚也	【第 7 回】 予習：論文の『結論』『引用文献』部分について研究指導用資料を作成する 授業：論文執筆④『結論』『引用文献』 復習：論文の『結論』『引用文献』部分を完成させる
8	依田 尚也	【第 8 回】 予習：論文執筆と最終報告会用スライドの作成を進める 授業：論文執筆と最終報告会の準備① 復習：論文執筆と最終報告会用スライドの作成をさらに進める
9	依田 尚也	【第 9 回】 予習：論文執筆と最終報告会用スライドの作成を進める 授業：論文執筆と最終報告会の準備② 復習：論文執筆と最終報告会用スライドの作成をさらに進める
10	依田 尚也	【第 10 回】 予習：論文執筆と最終報告会用スライドの作成を進める 授業：論文執筆と最終報告会の準備③ 復習：論文執筆と最終報告会用スライドの作成をさらに進める
11	依田 尚也	【第 11 回】 予習：論文執筆と最終報告会用スライドの作成を進める 授業：論文執筆と最終報告会の準備④ 復習：論文執筆と最終報告会用スライドの作成をさらに進める

12	依田　尚也	【第 12 回】 予習：最終報告会の準備をする 授業：卒業論文・ゼミ論文　最終報告会① 復習：最終報告会において得られたコメントを振り返る
13	依田　尚也	【第 13 回】 予習：最終報告会の準備をする 授業：卒業論文・ゼミ論文　最終報告会② 復習：最終報告会において得られたコメントを振り返る
14	依田　尚也	【第 14 回】 予習：最終報告会の準備をする 授業：卒業論文・ゼミ論文　最終報告会③ 復習：最終報告会において得られたコメントを振り返る
15	依田　尚也	【第 15 回】 予習：最終報告会の準備をする 授業：卒業論文・ゼミ論文　最終報告会④ 復習：最終報告会において得られたコメントを振り返る

授業開始前学習	夏休み中に各自で調査研究を進めておくこと。 不明点や疑問点については、個別に教員に質問しておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	論文執筆の進行状況に合わせて、授業内で個別にフィードバックを行う。 最終報告会においては、全体での質疑応答を行った上で、最終的なフィードバックを行う。
テキスト・教材	特に指定しない。
参考書	適宜紹介する。
評価の基準と方法	論文の完成（70%）、および授業への取り組み姿勢（30%）をもとに、総合的に評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△

関連科目	心理学ゼミⅠ・Ⅱ・Ⅲ
その他	進度の都合により授業内容・順序を一部変更する可能性がある。 ゼミ論文もしくは卒業論文として学術的論文を完成させ、提出することが必須である。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	心理臨床の実務経験あり。

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-412 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	130-310-24 （Ｊ）	授業コード	FF1143
科目名称	心理学ｾﾞﾐⅣ			単位数	1.0 単位
英文名称	Psychology Seminar Ⅳ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	田中　教仁			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田中　教仁			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　火曜日 10:40～12:10　木曜日 10:40～12:10 後期　火曜日 11:00～12:10　火曜日 14:40～16:40			研究室	10-719
授業概要	司法・犯罪領域における個人、家族の問題を扱うゼミである。臨床心理学を中心にすえつつ人間行動科学の知見を参考にしながら、非行・犯罪の基礎理論、心理社会アセスメントと支援、犯罪被害者の支援、家事事件についての知識と理解を深める。また、この領域における専門機関の概要及び専門職の実践についても取り上げる。4 年生は、これら司法・犯罪領域の理論と支援について考察を深めつつ、各自が関心を持ったテーマで研究を進め、論文としてその成果をまとめることが目標である。4 年生後期は、各自が進めてきた研究の成果を論文にまとめ、発表し、4 年間の集大成とする。				
到達目標	各自が定めた研究テーマについて、計画的に研究を進め、その成果を卒業論文あるいはゼミ論文としてまとめる。 研究結果を効果的にプレゼンテーションするスキルを身に付ける。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	田中　教仁	予習　：研究の進ちょくを発表できるように準備する。 授業　：ガイダンス（全体計画の説明等）、研究の進ちょくの確認 復習　：授業内のフィードバックの内容を整理する。
2	田中　教仁	予習　：配布資料の講読 授業　：結果のまとめ方と論文執筆の留意点 復習　：配布資料の見返し
3	田中　教仁	予習　：研究計画に基づき、研究を進める。 授業　：調査・研究法の実施① 復習　：授業内のフィードバックの内容を整理する。
4	田中　教仁	予習　：研究計画に基づき、研究を進める。 授業　：調査・研究法の実施② 復習　：授業内のフィードバックの内容を整理する。
5	田中　教仁	予習　：中間報告会の準備を行う。資料の提出 授業　：中間報告会①、ディスカッション 復習　：授業内のフィードバックの内容を整理する。
6	田中　教仁	予習　：中間報告会の準備を行う。 授業　：中間報告会②、ディスカッション 復習　：授業内のフィードバックの内容を整理する。
7	田中　教仁	予習　：結果の整理を行う。 授業　：結果の整理① 復習　：結果の分析を行う。論文執筆を進める。
8	田中　教仁	予習　：結果の整理を行う。 授業　：結果の整理② 復習　：結果の分析を行う。論文執筆を進める。
9	田中　教仁	予習　：結果の分析と考察の検討を行う。 授業　：結果の分析と考察① 復習　：論文執筆を進める。
10	田中　教仁	予習　：結果の分析と考察の検討を行う。 授業　：結果の分析と考察② 復習　：論文執筆を進める。
11	田中　教仁	予習　：結果の分析と考察の検討を行う。 授業　：結果の分析と考察③ 復習　：論文執筆を進める。
12	田中　教仁	予習　：論文執筆を行う。 授業　：論文を仮提出し、修正等を行う。 復習　：論文執筆を進める。
13	田中　教仁	予習　：論文執筆を進める。 授業　：論文の完成 復習　：論文を完成させる。

14	田中　教仁	予習　：発表の準備を行う。 授業　：発表会① 復習　：発表会の振り返りを行う。
15	田中　教仁	予習　：発表の準備を行う。 授業　：発表会② 復習　：発表会の振り返りを行う。

授業開始前学習	心理学ゼミⅢの結果を踏まえ、適宜、研究を進めておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	研究の実施や論文作成に向けて、随時フィードバックを行う。
テキスト・教材	特に指定しない。授業内で適宜紹介する。
参考書	松井豊著『三訂版　心理学論文の書き方』（河出書房新社） 小熊英二『基礎からわかる論文の書き方』（講談社）
評価の基準と方法	研究論文（卒業論文、ゼミ論文）６０%、授業への取組姿勢及び発表４０%の配分で総合評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△

関連科目	
その他	・卒業論文もしくはゼミ論文という形で個人研究の成果をまとめることが必須である。自主的、積極的、計画的に研究を進める姿勢が求められる。 ・提出や報告等の期限、ルールを丁寧に確認し、遵守する姿勢を身に付けることが必要である。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	家庭裁判所調査官として少年事件，家事事件の多くの事例を担当してきた。そうした実務経験を踏まえたフィードバック等を行う。

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-412 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	130-310-24 （Ｊ）	授業コード	FF1144
科目名称	心理学ｾﾞﾐⅣ			単位数	1.0 単位
英文名称	Psychology Seminar Ⅳ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	藤川 麗			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	藤川 麗			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 木曜日 13:00～14:30 金曜日 12:30～14:00 後期 木曜日 10:40～12:10 金曜日 12:30～14:00			研究室	10-712
授業概要	人の心の問題の理解と援助の方法を扱う、臨床心理学の専門ゼミである。臨床心理学の研究方法について知識と理解を深め、自ら研究を実施できるようになることを目標とする。４年後期のゼミでは、各自が関心を持つコミュニティの心理的問題について調査結果を分析し、論文にまとめる。また、発表会で研究内容についてプレゼンテーションを行う。				
到達目標	心理学の実証的研究方法について理解を深め、自分の実施した研究方法、データ分析の方法を習得する。研究の成果を卒業論文あるいはゼミ論文としてまとめる。効果的なプレゼンテーションの方法について習得する。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	藤川 麗	【第 1 回】 予習 ：研究の進行状況をまとめ、発表用にメモを作成する。 授業 ：ガイダンス 研究の進行状況の報告 （プレゼンテーション） 復習 ：研究計画に沿って作業を進める。
2	藤川 麗	【第 2 回】 予習 ：参考文献ｐ134-139 の講読 授業 ：結果のまとめ方と論文執筆の方法 1 復習 ：授業内容を参考にデータの分析を進める。
3	藤川 麗	【第 3 回】 予習 ：参考文献ｐ140-143 の講読 授業 ：結果のまとめ方と論文執筆の方法 2 復習 ：授業内容を参考にデータの分析を進める。
4	藤川 麗	【第 4 回】 予習 ：データを分析し、結果をまとめる。 授業 ：データの分析と考察 1 復習 ：授業でのコメントを踏まえてさらにデータの分析を進める。
5	藤川 麗	【第 5 回】 予習 ：データを分析し、結果をまとめる。 授業 ：データの分析と考察 2 復習 ：授業でのコメントを踏まえてさらにデータの分析を進める。
6	藤川 麗	【第 6 回】 予習 ：データを分析し、結果をまとめる。 授業 ：データの分析と考察 3 復習 ：授業でのコメントを踏まえてさらにデータの分析を進める。
7	藤川 麗	【第 7 回】 予習 ：参考文献ｐ144-149 の講読 授業 ：考察のまとめ 復習 ：授業の内容を参考に結果のまとめと考察の作業を進める。
8	藤川 麗	【第 8 回】 予習 ：論文執筆と発表準備を行う。 授業 ：論文執筆と発表資料の準備 1 復習 ：論文執筆と発表準備を行う。
9	藤川 麗	【第 9 回】 予習 ：論文執筆と発表準備を行う。 授業 ：論文執筆と発表資料の準備 2 復習 ：論文執筆と発表準備を行う。
10	藤川 麗	【第 10 回】 予習 ：参考文献ｐ182-185 の講読 授業 ：論文執筆と発表資料の準備 3 復習 ：発表会に向けてパワーポイントを作成する。
11	藤川 麗	【第 11 回】 予習 ：発表の準備（発表原稿の作成、プレゼンテーション資料の作成）を行う。 授業 ：発表会 1（プレゼンテーション） 復習 ：発表の振り返りを行う。

12	藤川 麗	【第 12 回】 予習 ：発表の準備（発表原稿の作成、プレゼンテーション資料の作成）を行う。 授業 ：発表会 2（プレゼンテーション） 復習 ：発表の振り返りを行う。
13	藤川 麗	【第 13 回】 予習 ：発表の準備（発表原稿の作成、プレゼンテーション資料の作成）を行う。 授業 ：発表会 3（プレゼンテーション） 復習 ：発表の振り返りを行う。
14	藤川 麗	【第 14 回】 予習 ：発表の準備（発表原稿の作成、プレゼンテーション資料の作成）を行う。 授業 ：発表会 4（プレゼンテーション） 復習 ： 発表の振り返りを行う。
15	藤川 麗	【第 15 回】 予習 ：ゼミ論文を完成させる。 授業 ：発表会 5（プレゼンテーション）ゼミ論文の提出 復習 ：１年間のゼミの振り返りを行う。

授業開始前学習	心理学ゼミⅢで作成した研究計画に沿って、調査を進めておくことが必要である。
授業内課題のフィードバックの方法	卒業論文／ゼミ論文の進行状況に合わせて、個別に授業内でフィードバックを行う。最終的な発表会においては、全体での質疑応答とコメントシートを用いたフィードバックを行う。
テキスト・教材	特に指定しない。
参考書	白井利明・高橋一郎（2008）『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房
評価の基準と方法	出席 3 分の 2 以上が単位取得の前提条件。授業での発表（40 点）、授業への積極的貢献（30 点）、レポート（卒業論文／ゼミ論文）（30 点）による。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△

関連科目	「卒業論文」において心理学の実証的研究を行うために必要である。 心理学ゼミⅠ・Ⅱ・Ⅲの学びを発展させた内容である。
その他	特になし。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	心理臨床の実務経験を活かし、臨床心理学の研究と実践の関連という視点を踏まえて指導を行う。

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-412 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	130-310-24 （Ｊ）	授業コード	FF1145
科目名称	心理学ｾﾞﾐⅣ			単位数	1.0 単位
英文名称	Psychology Seminar Ⅳ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	藤城　有美子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	藤城　有美子			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　金曜日 14:30～17:30 後期　金曜日 14:30～17:30			研究室	10-710
授業概要	心理学ゼミⅢに引き続き、ゼミ論・卒論で取り組む研究計画を実行し、結果を分析し、考察を深めていく。ゼミの時間を使って研究を進めるとともに、各自の進捗状況に応じてレジュメを用意し、研究成果を全体発表会にて発表する。最終的には、ゼミ論・卒論を執筆する。				
到達目標	1．心理学研究を計画・実行できる。 2．得られたデータについて、先行研究で得られた知見なども活用しながら、自分なりの考察ができる。 3．自分が行った心理学研究の成果について、プレゼンテーションできる。 4．自分が行った心理学研究を、論文としてまとめられる。 5．心理学研究に必要な倫理的事項について、自分の研究に適用できる。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	藤城　有美子	【第 1 回】 予習　：先行研究からの問題提起と自分の研究目的の振り返り 授業　：1．論文の書き方：説明（含．グループ・ディスカッション） 復習　：構成、文体、引用文献等、執筆ルールの振り返り
2	藤城　有美子	【第 2 回】 予習　：論文の書き方に関する配布プリントの確認 授業　：2．論文作成 2-1（含．グループ・ディスカッション） 復習　：「序論」の完成
3	藤城　有美子	【第 3 回】 予習　：論文の書き方に関する配布プリントの確認 授業　：2．論文作成 2-2（含．グループ・ディスカッション） 復習　：「方法」の完成
4	藤城　有美子	【第 4 回】 予習　：論文の書き方に関する配布プリントの確認 授業　：2．論文作成 2-3（含．グループ・ディスカッション） 復習　：「結果」の完成
5	藤城　有美子	【第 5 回】 予習　：論文の書き方に関する配布プリントの確認 授業　：2．論文作成 2-4（含．グループ・ディスカッション） 復習　：「考察」の完成
6	藤城　有美子	【第 6 回】 予習　：論文の書き方に関する配布プリントの確認 授業　：2．論文作成 2-5（含．グループ・ディスカッション） 復習　：「結論」、「要約」の完成
7	藤城　有美子	【第 7 回】 予習　：「引用文献」リストの整理 授業　：2．論文作成 2-6（含．グループ・ディスカッション） 復習　：「引用文献」リストの完成、卒論・ゼミ論の中間提出
8	藤城　有美子	【第 8 回】 予習　：全体確認 授業　：2．論文作成 2-7（含．グループ・ディスカッション） 復習　：卒論・ゼミ論の中間提出
9	藤城　有美子	【第 9 回】 予習　：発表準備・予演 授業　：3．全体発表会準備 3-1（中間発表会用抄録（Google ドキュメント）の作成・提出 復習　：中間発表会用プレゼンテーションの準備
10	藤城　有美子	【第 10 回】 予習　：発表準備・予演 授業　：3．全体発表会準備 3-2（中間発表会用プレゼンテーション（Google スライド）の作成・提出 復習　：中間発表会用プレゼンテーションの準備

11	藤城　有美子	【第 11 回】 予習　：発表準備・予演 授業　：4．全体発表会 4-1（発表、司会、指定討論） 復習　：質疑応答、ディスカッションの振り返り
12	藤城　有美子	【第 12 回】 予習　：文献収集、再分析、考察の見直し等 授業　：4．全体発表会 4-2（発表、司会、指定討論） 復習　：研究作業の振り返り、次回までの課題点の整理
13	藤城　有美子	【第 13 回】 予習　：文献収集、再分析、考察の見直し等 授業　：全体発表会 4-3（発表、司会、指定討論） 復習　：研究作業の振り返り、次回までの課題点の整理
14	藤城　有美子	【第 14 回】 予習　：文献収集、再分析、考察の見直し等 授業　：5．論文の加筆修正 5-1（含．グループ・ディスカッション） 復習　：研究作業の振り返り、次回までの課題点の整理、卒論・ゼミ論の最終提出
15	藤城　有美子	【第 15 回】 予習　：文献収集、再分析、考察の見直し等 授業　：5．論文の加筆修正 5-2（含．グループ・ディスカッション） 復習　：研究作業の振り返り、次回までの課題点の整理

授業開始前学習	研究倫理、および、論文の書き方について身につけておくとよい。
授業内課題のフィードバックの方法	当日の作業および発表・ディスカッション内容については、その場で解説・フィードバックする。 また、研究論文については、途中稿 1、途中稿 2、途中稿 3、仮提出、本提出（Classroom からの課題提出）の段階を踏んで作成していく。
テキスト・教材	特になし。
参考書	日本心理学会「2022 年改訂版 執筆・投稿の手びき」https://psych.or.jp/manual/ その他、臨床心理学関連の各学会が発行している学術雑誌を参考にするとよい。
評価の基準と方法	所定出席数を満たした者について、毎回のワークへの取り組み 2 点×15 回＝30 点、発表会の抄録 10 点、スライド 10 点、発表 10 点（質疑応答を含む）、司会・指定討論など 15 点、論文の完成稿 25 点の、計 100 点で評価する。単位の取得のためには、発表会での発表、抄録およびスライド、論文の提出が必須である。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△

関連科目	心理学ゼミⅠ・Ⅱ・Ⅲ
その他	研究への取り組みにおいては、図書館および各種文献データベースの積極的利用が望まれる（オンラインで入手できない文献を図書館で、あるいは、図書館を通して入手する場合は、利用申請の仕方についてポータルサイトの情報を確認すること）。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	心理臨床の実務経験あり。

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-412	科目分類（～2024 年入学者）	130-310-24	授業コード	FF1146
科目名称	心理学ｾﾞﾐⅣ			単位数	1.0 単位
英文名称	Psychology Seminar Ⅳ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	冨士原　光洋			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	冨士原　光洋			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　水曜日 13:00～16:10 後期　水曜日 13:00～16:10			研究室	10-704
授業概要	心理学ｾﾞﾐⅢに引き続き、２つのテーマ（１．「環境の認知と環境がもたらす行動への影響」（認知心理学の応用研究）と２．「言葉の使用とその認知機能について」）について、文献講読、研究例の発表・討論を行い、人間の認知機能について科学的解明をめざす認知心理学の視点から、科学的理解を深める。 Ⅳでは、Ⅲで行った各自の追試・発展研究を発表し、次の検討事項を考察する。この考察をもとに、さらなるオリジナル研究について計画を立てる。				
到達目標	認知、記憶に関するより専門的研究について理解を深め、個別の研究について理解するとともに、評価できる点、改善点などの意見を述べることが出来るようになる。 先行研究を参考にして、追試を行うことができる技術力（研究の計画と立案、刺激の作成、措置の操作、コンピュータを用いたデータ分析等）を身につける。自分のテーマ研究について発表できるようになる。 さらに、各自が実施した研究について、分かりやすく発表するための技術を身につける。また、レポート作成・添削を通して、心理学の論文形式をしっかり身につける。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	冨士原　光洋	【第 1 回】 予習：前期ゼミでの追実験の発表資料の作成 授業：前期ゼミでの追実験の発表準備（プレゼンテーション）1（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：発表コメントを整理する
2	冨士原　光洋	【第 2 回】 予習：前期ゼミでの追実験の発表資料の作成 授業：前期ゼミでの追実験の発表（プレゼンテーション）2（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：発表コメントを整理する
3	冨士原　光洋	【第 3 回】 予習：前期ゼミでの追実験の発表資料の作成 授業：前期ゼミでの追実験の発表（プレゼンテーション）3（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：発表コメントを整理する
4	冨士原　光洋	【第 4 回】 予習：実験実施の準備 授業：実験実施　1 復習：データ整理
5	冨士原　光洋	【第 5 回】 予習：実験実施の準備 授業：実験実施　2 復習：データ整理
6	冨士原　光洋	【第 6 回】 予習：実験実施の準備 授業：実験実施　3 復習：データ整理
7	冨士原　光洋	【第 7 回】 予習：発表資料の作成 授業：実験結果の発表資料作成 復習：発表資料の提出
8	冨士原　光洋	【第 8 回】 ◎第 8 回から第 13 回は実験結果の発表・討論と並行して以下の作業（報告書作成）を進める 予習：発表準備 授業：実験結果の発表 復習：発表の整理
9	冨士原　光洋	【第 9 回】 予習：実験計画表をパワーポイントでまとめる 授業：実験環境のチェック 復習：実験の試行（データを増やす。実験の実施・データ収集を行う）

10	冨士原　光洋	【第 10 回】 予習：結果の整理　データ入力　を確認する 授業：結果の整理のチェック 復習：実験データの入力
11	冨士原　光洋	【第 11 回】 予習：結果の整理　集計作業　を確認する 授業：結果の整理のチェック　集計作業　について 復習：実験データの入力・分析
12	冨士原　光洋	【第 12 回】 予習：結果の整理　　データ分析と仮説の検討　を確認する 授業：結果の整理　　データ分析と仮説の検討　のチェック 復習：実験データの分析を確認する
13	冨士原　光洋	【第 13 回】 予習：結果の整理　　図表の作成　を確認する 授業：結果の整理　　図表の作成　のチェック 復習：実験データの分析・図表作成を確認する
14	冨士原　光洋	【第 14 回】 予習：考察　既存研究結果との比較検討　確認する 授業：考察　既存研究結果との比較検討　について 復習：主要な結果について、結果と考察を作成し，図表をつける。
15	冨士原　光洋	【第 15 回】 予習：実験報告の準備（主要な結果のみ） 授業：実験の報告会（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：実験の反省点をまとめる

授業開始前学習	認知心理学の入門書を読み、認知心理学の概要を理解しておくと授業が理解しやすい。
授業内課題のフィードバックの方法	課題発表回に発表者へ個別フィードバックを行う。また、授業 3 回目に提出する追実験計画については、翌週に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。
テキスト・教材	授業開始時にテキスト・教材を指示する。このほかに適宜資料を配付する。
参考書	中島・子安等（編）、1999、『心理学辞典』（有斐閣）
評価の基準と方法	発表内容（2 回）と学期末のレポート（1 回）により評価を行う。 （全体を 100 点としたとき）配点は、発表内容評価 50 点と学期末レポート評価 50 点とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△

関連科目	「知覚・認知心理学」を履修しておくと内容が良くわかる。
その他	認知心理学の視点から、「環境」や「言語」の問題をながめ、人が生活している環境とそこでの行動について、または、人が日常使用している言葉（言語使用）について、科学的理解を深める。 資料等を保管するファイル・クリアーブックとコンピュータファイル保管用の USB メモリを用意すること。 授業の 3 分の 1 を超えて欠席した場合は、単位を取得できない。 単位修得には、課題発表（2 回）と学期末のレポート提出（1 回）を行うことが必要である。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-412 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	130-310-24 （Ｊ）	授業コード	FF1147
科目名称	心理学ｾﾞﾐⅣ			単位数	1.0 単位
英文名称	Psychology Seminar Ⅳ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	飯田敏晴			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	飯田　敏晴			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　月曜日 10:40～12:10　水曜日 13:00～14:30 後期　月曜日 10:40～12:10　水曜日 13:00～14:30			研究室	10-717
授業概要	人の心の問題の理解と援助の方法を扱う、臨床心理学の専門ゼミである。臨床心理学の研究方法について知識と理解を深め、自ら研究を実施できるようになることを目標とする。４年後期のゼミでは、受講生各自が、関心のある健康・医療にかかわる課題、あるいはある特定のコミュニティに関わる課題を一つ選択してください。そして、それらの課題に関わる心理学的研究のこれまでの研究成果を基に、自らの視点で、その課題に関わる調査を計画し、発表・実施する。				
到達目標	心理学の研究方法について理解を深め、自分の実施した研究方法、データ分析の方法を習得する。研究の成果を卒業論文あるいはゼミ論文としてまとめる。効果的なプレゼンテーションの方法について習得する。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	飯田　敏晴	【第 1 回】 予習　：研究の進行状況をまとめ、発表用にメモを作成する。 授業　：ガイダンス　研究の進行状況の報告　（プレゼンテーション） 復習　：研究計画に沿って作業を進める。
2	飯田　敏晴	【第 2 回】 予習　：参考文献の講読（よくわかる卒論の書き方） 授業　：結果のまとめ方と論文執筆の方法 1 復習　：授業内容を参考にデータの分析を進める。
3	飯田　敏晴	【第 3 回】 予習　：参考文献の講読（よくわかる卒論の書き方） 授業　：結果のまとめ方と論文執筆の方法 2 復習　：授業内容を参考にデータの分析を進める。
4	飯田　敏晴	【第 4 回】 予習　：データを分析し、結果をまとめる。 授業　：データの分析と考察 1 復習　：授業でのコメントを踏まえてさらにデータの分析を進める。
5	飯田　敏晴	【第 5 回】 予習　：データを分析し、結果をまとめる。 授業　：データの分析と考察 2 復習　：授業でのコメントを踏まえてさらにデータの分析を進める。
6	飯田　敏晴	【第 6 回】 予習　：データを分析し、結果をまとめる。 授業　：データの分析と考察 3 復習　：授業でのコメントを踏まえてさらにデータの分析を進める。
7	飯田　敏晴	【第 7 回】 予習　：論文の構成を考え、原案を作成する。 授業　：考察のまとめ 復習　：授業の内容を参考に結果のまとめと考察の作業を進める。
8	飯田　敏晴	【第 8 回】 予習　：論文執筆と発表準備を行う。 授業　：論文執筆と発表資料の準備 1 復習　：論文執筆と発表準備を行う。
9	飯田　敏晴	【第 9 回】 予習　：論文執筆と発表準備を行う。 授業　：論文執筆と発表資料の準備 2 復習　：論文執筆と発表準備を行う。
10	飯田　敏晴	【第 10 回】 予習　：論文執筆と発表準備を行う。 授業　：論文執筆と発表資料の準備 3 復習　：発表会に向けてパワーポイントを作成する。
11	飯田　敏晴	【第 11 回】 予習　：発表の準備（発表原稿の作成、プレゼンテーション資料の作成）を行う。 授業　：発表会 1（プレゼンテーション） 復習　：発表の振り返りを行う。

12	飯田　敏晴	【第 12 回】 予習　：発表の準備（発表原稿の作成、プレゼンテーション資料の作成）を行う。 授業　：発表会 2（プレゼンテーション） 復習　：発表の振り返りを行う。
13	飯田　敏晴	【第 13 回】 予習　：発表の準備（発表原稿の作成、プレゼンテーション資料の作成）を行う。 授業　：発表会 3（プレゼンテーション） 復習　：発表の振り返りを行う。
14	飯田　敏晴	【第 14 回】 予習　：発表の準備（発表原稿の作成、プレゼンテーション資料の作成）を行う。 授業　：発表会 4（プレゼンテーション） 復習　：　発表の振り返りを行う。
15	飯田　敏晴	【第 15 回】 予習　：ゼミ論文を完成させる。 授業　：発表会 5（プレゼンテーション）ゼミ論文の提出 復習　：１年間のゼミの振り返りを行う。

授業開始前学習	心理学ゼミⅢで作成した研究計画に沿って、調査を進めておくことが必要である
授業内課題のフィードバックの方法	ゼミ論文・卒業論文の進行状況に合わせて、適宜に授業内でフィードバックを行う。最終的な発表会においては、全体での質疑応答とコメントシートを用いたフィードバックを行う。
テキスト・教材	白井利明・高橋一郎（2008）『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房
参考書	特に指定しない。
評価の基準と方法	出席 3 分の 2 以上が単位取得の前提条件。授業での発表（40 点）、授業への積極的貢献（30 点）、レポート（卒業論文／ゼミ論文）（30 点）による。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△

関連科目	「卒業論文」において心理学の研究を行うために必要な科目
その他	特になし。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	心理臨床及び、地域支援のこれまでの経験を活かして、指導する。

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-412	科目分類（～2024 年入学者）	130-310-24	授業コード	FF1148
科目名称	心理学ｾﾞﾐⅣ			単位数	1.0 単位
英文名称	Psychology Seminar Ⅳ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	丸山　慎			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	丸山　慎			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　水曜日 13:00～14:30　木曜日 10:40～12:10 後期　水曜日 13:00～14:30　木曜日 10:40～12:10			研究室	10-718
授業概要	「心理学ゼミⅣ-h」では、「心理学ゼミⅢ-h」に引き続き、卒業論文あるいはゼミ論文の執筆にかかる具体的な作業を進め、論文の完成を目指す。各自で発達心理学、認知心理学などの領域に関するテーマを選択し、その内容に沿った調査を実施し、その結果をまとめるための総合的なスキルを身につけることを目的とする。				
到達目標	「心理学ゼミⅢ-h」に引き続き、卒業論文・ゼミ論文の作成に必要な調査や実験を実施すること。取得データを分析し、論文を完成させること。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	丸山　慎	【第 1 回】 予習　：授業スケジュールを確認しておく 授業　：「心理学ゼミⅢ-h」での進捗を整理し、卒業論文・ゼミ論文にかかる作業を確認する 復習　：授業の振り返り
2	丸山　慎	【第 2 回】 予習　：研究内容を論文としてまとめる方法を調べておく 授業　：研究実施、文献資料の検索、原稿執筆にかかる作業①　（課題解決型学習）（発表） 復習　：教員から指摘されたポイントおよび各自で進捗状況について整理する
3	丸山　慎	【第 3 回】 予習　：研究内容を論文としてまとめる方法を調べておく 授業　：研究実施、文献資料の検索、原稿執筆にかかる作業②　（課題解決型学習）（発表） 復習　：教員から指摘されたポイントおよび各自で進捗状況について整理する
4	丸山　慎	【第 4 回】 予習　：研究内容と進捗を整理しておく 授業　：研究実施、文献資料の検索、原稿執筆にかかる作業③　（課題解決型学習）（発表） 復習　：教員から指摘されたポイントおよび各自で進捗状況について整理する
5	丸山　慎	【第 5 回】 予習　：研究内容と進捗を整理しておく 授業　：研究実施、文献資料の検索、原稿執筆にかかる作業④　（課題解決型学習）（発表） 復習　：教員から指摘されたポイントおよび各自で進捗状況について整理する
6	丸山　慎	【第 6 回】 予習　：研究内容と進捗を整理しておく 授業　：研究実施、文献資料の検索、原稿執筆にかかる作業⑤　（課題解決型学習）（発表） 復習　：教員から指摘されたポイントおよび各自で進捗状況について整理する
7	丸山　慎	【第 7 回】 予習　：研究内容と進捗を整理しておく 授業　：研究実施、文献資料の検索、原稿執筆にかかる作業⑥　（課題解決型学習）（発表） 復習　：教員から指摘されたポイントおよび各自で進捗状況について整理する
8	丸山　慎	【第 8 回】 予習　：研究内容と進捗を整理しておく 授業　：研究実施、文献資料の検索、原稿執筆にかかる作業⑦　（課題解決型学習）（発表） 復習　：教員から指摘されたポイントおよび各自で進捗状況について整理する
9	丸山　慎	【第 9 回】 予習　：研究内容と進捗を整理しておく 授業　：研究実施、文献資料の検索、原稿執筆にかかる作業⑧　（課題解決型学習）（発表） 復習　：教員から指摘されたポイントおよび各自で進捗状況について整理する
10	丸山　慎	【第 10 回】 予習　：研究内容と進捗を整理しておく 授業　：研究実施、文献資料の検索、原稿執筆にかかる作業⑨　（課題解決型学習）（発表） 復習　：教員から指摘されたポイントおよび各自で進捗状況について整理する
11	丸山　慎	【第 11 回】 予習　：研究内容と進捗を整理しておく 授業　：研究実施、文献資料の検索、原稿執筆にかかる作業⑩　（課題解決型学習）（発表） 復習　：教員から指摘されたポイントおよび各自で進捗状況について整理する

12	丸山 慎	【第 12 回】 予習 ：研究内容と進捗を整理しておく 授業 ：研究実施、文献資料の検索、原稿執筆にかかる作業⑪ （課題解決型学習）（発表） 復習 ：教員から指摘されたポイントおよび各自で進捗状況について整理する
13	丸山 慎	【第 13 回】 予習 ：研究内容と進捗を整理しておく 授業 ：研究実施、文献資料の検索、原稿執筆にかかる作業⑫ （課題解決型学習）（発表） 復習 ：教員から指摘されたポイントおよび各自で進捗状況について整理する
14	丸山 慎	【第 14 回】 予習 ：最終報告会の準備を完了させる 授業 ：最終報告会① （プレゼンテーション）（ディスカッション） 復習 ：最終報告会の内容とコメントを振り返り
15	丸山 慎	【第 15 回】 予習 ：最終報告会の準備を完了させる 授業 ：最終報告会② （プレゼンテーション）（ディスカッション） 復習 ：最終報告会の内容とコメントの振り返り

授業開始前学習	認知心理学・発達心理学の入門書を読み、認知心理学の概要を理解しておくと授業が理解しやすい。
授業内課題のフィードバックの方法	作成した資料・原稿およびプレゼンテーション資料等は適宜添削を行う。授業内でもフィードバックの機会を設ける。
テキスト・教材	授業時に適宜指示する。
参考書	
評価の基準と方法	論文の完成（70%）、論文への取り組み姿勢（30%）をもとに総合的に評価を決定する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△

関連科目	「発達心理学」を履修しておくと内容が良くわかる。
その他	認知心理学の視点から、「環境」や「言語」の問題をながめ、人が生活している環境とそこでの行動について、または、人が日常使用している言葉（言語使用）について、科学的理解を深める。 資料等を保管するファイル・クリアーブックとコンピュータファイル保管用の USB メモリを用意すること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-432	科目分類（～2024 年入学者）	130-331-24	授業コード	FF9903
科目名称	卒業論文			単位数	4.0 単位
英文名称	Graduation Thesis			授業区分	演習
科目責任者	田中　教仁			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田中　教仁			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　火曜日 10:40～12:10　木曜日 10:40～12:10 後期　火曜日 11:00～12:10　火曜日 14:40～16:40			研究室	10-719
授業概要	大学で学んだこと、そのなかで特に自分が興味をいだいた事柄を研究対象として選び、深く追求していく。その結果を、体系的、論理的に文章化してまとめたものが卒業論文である。そこでは、専門的な知識の修得をふまえたうえでの、自らの分析の視点と明確な問題意識をもつことが要求される。まさに、大学生活の集大成となりうるものであろう。 具体的な内容に関しては、担当教員と相談のうえ決めること。特に、論文の書き方や論文の構成などは、学問分野によってかなり違いがあるので、十分に留意してほしい。				
到達目標	各専門分野における、体系的・論理的な思考方法を身につける。 各専門分野における、論文の書き方（論文構成など）を正確に身につける。 専門的な知識をまとめ、独創的発想を表現するための文章力を高める。 各専門分野の研究論文として妥当な「卒業論文」を提出できること				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	1 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	田中　教仁	卒業論文は、担当教員が指示する時間帯で随時指導を受ける。 授業の内容　全般にわたる諸注意 １．資料の収集、読解、分析は執筆の第一歩である ２．研究対象の先行研究状況は必ず調べておくこと ３．研究の対象を適切な範囲に絞り込むこと ４．論文全体の構成を常に意識すること ５．なるべくはやい段階で書き始めること ６．書いた部分は必ず読み直し修正すること ７．脚註の付け方などは分野により異なるので注意すること

授業開始前学習	担当教員と相談すること。
授業内課題のフィードバックの方法	卒業論文では、履修生は担当教員に進行状況を報告し、その都度必要な指導・フィードバックを受けること。
テキスト・教材	担当教員と相談すること。
参考書	担当教員と相談すること。
評価の基準と方法	主査（担当教員）と副査が評価し採点する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△

関連科目	各専門教育科目など
その他	履修ガイドに記載された「卒業論文の履修について」を参照し、手続きを遵守すること。 卒業論文は、年間を通した地道な研究作業の積み重ねが大切なので、担当教員と相談のうえ、日時を決めて、随時指導を受ける必要がある。 担当教員のなかには、卒業論文執筆者を集めて途中経過報告をさせたり、最後に発表会を行なう場合もある。
予習・復習の所要時間	
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-432	科目分類（～2024 年入学者）	130-331-24	授業コード	FF9904
科目名称	卒業論文			単位数	4.0 単位
英文名称	Graduation Thesis			授業区分	演習
科目責任者	藤川　麗			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	藤川　麗			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　木曜日 13:00～14:30　金曜日 12:30～14:00 後期　木曜日 10:40～12:10　金曜日 12:30～14:00			研究室	10-712
授業概要	大学で学んだこと、そのなかで特に自分が興味をいだいた事柄を研究対象として選び、深く追求していく。その結果を、体系的、論理的に文章化してまとめたものが卒業論文である。そこでは、専門的な知識の修得をふまえたうえでの、自らの分析の視点と明確な問題意識をもつことが要求される。まさに、大学生活の集大成となりうるものであろう。 具体的な内容に関しては、担当教員と相談のうえ決めること。特に、論文の書き方や論文の構成などは、学問分野によってかなり違いがあるので、十分に留意してほしい。				
到達目標	各専門分野における、体系的・論理的な思考方法を身につける。 各専門分野における、論文の書き方（論文構成など）を正確に身につける。 専門的な知識をまとめ、独創的発想を表現するための文章力を高める。 各専門分野の研究論文として妥当な「卒業論文」を提出できること				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	1 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	藤川　麗	卒業論文は、担当教員が指示する時間帯で随時指導を受ける。 授業の内容　全般にわたる諸注意 １．資料の収集、読解、分析は執筆の第一歩である ２．研究対象の先行研究状況は必ず調べておくこと ３．研究の対象を適切な範囲に絞り込むこと ４．論文全体の構成を常に意識すること ５．なるべくはやい段階で書き始めること ６．書いた部分は必ず読み直し修正すること ７．脚註の付け方などは分野により異なるので注意すること

授業開始前学習	担当教員と相談すること。
授業内課題のフィードバックの方法	卒業論文では、履修生は担当教員に進行状況を報告し、その都度必要な指導・フィードバックを受けること。
テキスト・教材	担当教員と相談すること。
参考書	担当教員と相談すること。
評価の基準と方法	主査（担当教員）と副査が評価し採点する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△

関連科目	各専門教育科目など
その他	履修ガイドに記載された「卒業論文の履修について」を参照し、手続きを遵守すること。 卒業論文は、年間を通した地道な研究作業の積み重ねが大切なので、担当教員と相談のうえ、日時を決めて、随時指導を受ける必要がある。 担当教員のなかには、卒業論文執筆者を集めて途中経過報告をさせたり、最後に発表会を行なう場合もある。
予習・復習の	

所要時間	
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-432	科目分類（～2024 年入学者）	130-331-24	授業コード	FF9905
科目名称	卒業論文			単位数	4.0 単位
英文名称	Graduation Thesis			授業区分	演習
科目責任者	藤城　有美子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	藤城　有美子			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　金曜日 14:30～17:30 後期　金曜日 14:30～17:30			研究室	10-710
授業概要	大学で学んだこと、そのなかで特に自分が興味をいだいた事柄を研究対象として選び、深く追求していく。その結果を、体系的、論理的に文章化してまとめたものが卒業論文である。そこでは、専門的な知識の修得をふまえたうえでの、自らの分析の視点と明確な問題意識をもつことが要求される。まさに、大学生活の集大成となりうるものであろう。 具体的な内容に関しては、担当教員と相談のうえ決めること。特に、論文の書き方や論文の構成などは、学問分野によってかなり違いがあるので、十分に留意してほしい。				
到達目標	各専門分野における、体系的・論理的な思考方法を身につける。 各専門分野における、論文の書き方（論文構成など）を正確に身につける。 専門的な知識をまとめ、独創的発想を表現するための文章力を高める。 各専門分野の研究論文として妥当な「卒業論文」を提出できること				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	1 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	藤城　有美子	卒業論文は、担当教員が指示する時間帯で随時指導を受ける。 授業の内容　全般にわたる諸注意 １．資料の収集、読解、分析は執筆の第一歩である ２．研究対象の先行研究状況は必ず調べておくこと ３．研究の対象を適切な範囲に絞り込むこと ４．論文全体の構成を常に意識すること ５．なるべくはやい段階で書き始めること ６．書いた部分は必ず読み直し修正すること ７．脚註の付け方などは分野により異なるので注意すること

授業開始前学習	担当教員と相談すること。
授業内課題のフィードバックの方法	卒業論文では、履修生は担当教員に進行状況を報告し、その都度必要な指導・フィードバックを受けること。
テキスト・教材	担当教員と相談すること。
参考書	担当教員と相談すること。
評価の基準と方法	主査（担当教員）と副査が評価し採点する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△

関連科目	各専門教育科目など
その他	履修ガイドに記載された「卒業論文の履修について」を参照し、手続きを遵守すること。 卒業論文は、年間を通した地道な研究作業の積み重ねが大切なので、担当教員と相談のうえ、日時を決めて、随時指導を受ける必要がある。 担当教員のなかには、卒業論文執筆者を集めて途中経過報告をさせたり、最後に発表会を行なう場合もある。
予習・復習の	

所要時間	
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-432	科目分類（～2024 年入学者）	130-331-24	授業コード	FF9906
科目名称	卒業論文			単位数	4.0 単位
英文名称	Graduation Thesis			授業区分	演習
科目責任者	冨士原　光洋			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	冨士原　光洋			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　水曜日 13:00～16:10 後期　水曜日 13:00～16:10			研究室	10-704
授業概要	大学で学んだこと、そのなかで特に自分が興味をいだいた事柄を研究対象として選び、深く追求していく。その結果を、体系的、論理的に文章化してまとめたものが卒業論文である。そこでは、専門的な知識の修得をふまえたうえでの、自らの分析の視点と明確な問題意識をもつことが要求される。まさに、大学生活の集大成となりうるものであろう。 具体的な内容に関しては、担当教員と相談のうえ決めること。特に、論文の書き方や論文の構成などは、学問分野によってかなり違いがあるので、十分に留意してほしい。				
到達目標	各専門分野における、体系的・論理的な思考方法を身につける。 各専門分野における、論文の書き方（論文構成など）を正確に身につける。 専門的な知識をまとめ、独創的発想を表現するための文章力を高める。 各専門分野の研究論文として妥当な「卒業論文」を提出できること				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	1 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	冨士原　光洋	卒業論文は、担当教員が指示する時間帯で随時指導を受ける。 授業の内容　全般にわたる諸注意 １．資料の収集、読解、分析は執筆の第一歩である ２．研究対象の先行研究状況は必ず調べておくこと ３．研究の対象を適切な範囲に絞り込むこと ４．論文全体の構成を常に意識すること ５．なるべくはやい段階で書き始めること ６．書いた部分は必ず読み直し修正すること ７．脚註の付け方などは分野により異なるので注意すること

授業開始前学習	担当教員と相談すること。
授業内課題のフィードバックの方法	卒業論文では、履修生は担当教員に進行状況を報告し、その都度必要な指導・フィードバックを受けること。
テキスト・教材	担当教員と相談すること。
参考書	担当教員と相談すること。
評価の基準と方法	主査（担当教員）と副査が評価し採点する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△

関連科目	各専門教育科目など
その他	履修ガイドに記載された「卒業論文の履修について」を参照し、手続きを遵守すること。 卒業論文は、年間を通した地道な研究作業の積み重ねが大切なので、担当教員と相談のうえ、日時を決めて、随時指導を受ける必要がある。 担当教員のなかには、卒業論文執筆者を集めて途中経過報告をさせたり、最後に発表会を行なう場合もある。
予習・復習の	

所要時間	
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-432	科目分類（～2024 年入学者）	130-331-24	授業コード	FF9907
科目名称	卒業論文			単位数	4.0 単位
英文名称	Graduation Thesis			授業区分	演習
科目責任者	依田　尚也			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	依田　尚也			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　火曜日 14:40～16:10　火曜日 16:20～17:50 後期　火曜日 14:40～16:10　火曜日 16:20～17:50			研究室	10-715
授業概要	大学で学んだこと、そのなかで特に自分が興味をいだいた事柄を研究対象として選び、深く追求していく。その結果を、体系的、論理的に文章化してまとめたものが卒業論文である。そこでは、専門的な知識の修得をふまえたうえでの、自らの分析の視点と明確な問題意識をもつことが要求される。まさに、大学生活の集大成となりうるものであろう。 具体的な内容に関しては、担当教員と相談のうえ決めること。特に、論文の書き方や論文の構成などは、学問分野によってかなり違いがあるので、十分に留意してほしい。				
到達目標	各専門分野における、体系的・論理的な思考方法を身につける。 各専門分野における、論文の書き方（論文構成など）を正確に身につける。 専門的な知識をまとめ、独創的発想を表現するための文章力を高める。 各専門分野の研究論文として妥当な「卒業論文」を提出できること				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	1 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	依田　尚也	卒業論文は、担当教員が指示する時間帯で随時指導を受ける。 授業の内容　全般にわたる諸注意 １．資料の収集、読解、分析は執筆の第一歩である ２．研究対象の先行研究状況は必ず調べておくこと ３．研究の対象を適切な範囲に絞り込むこと ４．論文全体の構成を常に意識すること ５．なるべくはやい段階で書き始めること ６．書いた部分は必ず読み直し修正すること ７．脚註の付け方などは分野により異なるので注意すること

授業開始前学習	担当教員と相談すること。
授業内課題のフィードバックの方法	卒業論文では、履修生は担当教員に進行状況を報告し、その都度必要な指導・フィードバックを受けること。
テキスト・教材	担当教員と相談すること。
参考書	担当教員と相談すること。
評価の基準と方法	主査（担当教員）と副査が評価し採点する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△

関連科目	各専門教育科目など
その他	履修ガイドに記載された「卒業論文の履修について」を参照し、手続きを遵守すること。 卒業論文は、年間を通した地道な研究作業の積み重ねが大切なので、担当教員と相談のうえ、日時を決めて、随時指導を受ける必要がある。 担当教員のなかには、卒業論文執筆者を集めて途中経過報告をさせたり、最後に発表会を行なう場合もある。
予習・復習の	

所要時間	
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-432	科目分類（～2024 年入学者）	130-331-24	授業コード	FF9908
科目名称	卒業論文			単位数	4.0 単位
英文名称	Graduation Thesis			授業区分	演習
科目責任者	丸山　慎			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	丸山　慎			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　水曜日 13:00～14:30　木曜日 10:40～12:10 後期　水曜日 13:00～14:30　木曜日 10:40～12:10			研究室	10-718
授業概要	大学で学んだこと、そのなかで特に自分が興味をいだいた事柄を研究対象として選び、深く追求していく。その結果を、体系的、論理的に文章化してまとめたものが卒業論文である。そこでは、専門的な知識の修得をふまえたうえでの、自らの分析の視点と明確な問題意識をもつことが要求される。まさに、大学生活の集大成となりうるものであろう。 具体的な内容に関しては、担当教員と相談のうえ決めること。特に、論文の書き方や論文の構成などは、学問分野によってかなり違いがあるので、十分に留意してほしい。				
到達目標	各専門分野における、体系的・論理的な思考方法を身につける。 各専門分野における、論文の書き方（論文構成など）を正確に身につける。 専門的な知識をまとめ、独創的発想を表現するための文章力を高める。 各専門分野の研究論文として妥当な「卒業論文」を提出できること				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	1 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	丸山　慎	卒業論文は、担当教員が指示する時間帯で随時指導を受ける。 授業の内容　全般にわたる諸注意 １．資料の収集、読解、分析は執筆の第一歩である ２．研究対象の先行研究状況は必ず調べておくこと ３．研究の対象を適切な範囲に絞り込むこと ４．論文全体の構成を常に意識すること ５．なるべくはやい段階で書き始めること ６．書いた部分は必ず読み直し修正すること ７．脚註の付け方などは分野により異なるので注意すること

授業開始前学習	担当教員と相談すること。
授業内課題のフィードバックの方法	卒業論文では、履修生は担当教員に進行状況を報告し、その都度必要な指導・フィードバックを受けること。
テキスト・教材	担当教員と相談すること。
参考書	担当教員と相談すること。
評価の基準と方法	主査（担当教員）と副査が評価し採点する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△

関連科目	各専門教育科目など
その他	履修ガイドに記載された「卒業論文の履修について」を参照し、手続きを遵守すること。 卒業論文は、年間を通した地道な研究作業の積み重ねが大切なので、担当教員と相談のうえ、日時を決めて、随時指導を受ける必要がある。 担当教員のなかには、卒業論文執筆者を集めて途中経過報告をさせたり、最後に発表会を行なう場合もある。
予習・復習の	

所要時間	
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-331 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	130-331-13（Ｊ）	授業コード	FF1310
科目名称	公認心理師の職責			単位数	2.0 単位
英文名称	Professionalism of Licensed Psychologists			授業区分	講義
科目責任者	綾城　初穂			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	綾城・飯田・齊藤・田中・藤川・藤城・依田			開講時期	3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	国民の心の健康の保持増進に寄与することを目的とする公認心理師について、その基本的態度を身につけられるよう、役割、意義、倫理、法的義務及び主要領域の業務について学ぶ。講義はすべて公認心理師資格を持つ教員によって行われる。公認心理師試験（国試）の受験資格取得を検討している学生は必ず履修すること。公認心理師の職務と責任（職責）で求められる連携・協働の姿勢を身につけるために、アクティブラーニングによって学びを深められるよう、グループ・ディスカッションを積極的に活用する。主体的な参加と協働的な取り組みが必須となる授業である点には十分に留意すること。				
到達目標	国民の心の健康の保持増進に寄与することを目的とする公認心理師の職責について学び、その基本的知識と態度を身につける。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	オムニバス

授業回数	担当者	授業の内容
1	綾城　初穂	【第 1 回】 予習　：教科書の授業該当頁を読む 授業　：公認心理師の役割（教科書 2-25 頁）の講義及びグループディスカッション 復習　：配布プリントを読み、講義内容について振り返る
2	藤城　有美子	【第 2 回】 予習　：教科書の授業該当頁を読む 授業　：公認心理師の法的義務及び倫理（教科書 58-69 頁）の講義及びグループディスカッション 復習　：配布プリントを読み、講義内容について振り返る
3	綾城　初穂	【第 3 回】 予習　：教科書の授業該当頁を読む 授業　：公認心理師のトレーニングの実際（教科書 40-57 頁）の講義及びグループディスカッション 復習　：配布プリントを読み、講義内容について振り返る
4	飯田　敏晴	【第 4 回】 予習　：教科書の授業該当頁を読む 授業　：公認心理師の業務①：保健医療 a（教科書 108-119 頁）の講義及びグループディスカッション 復習　：配布プリントを読み、講義内容について振り返る
5	藤城　有美子	【第 5 回】 予習　：教科書の授業該当頁を読む 授業　：公認心理師の業務②：保健医療 b（教科書 108-119 頁）の講義及びグループディスカッション 復習　：配布プリントを読み、講義内容について振り返る
6	綾城　初穂	【第 6 回】 予習　：教科書の授業該当頁を読む 授業　：公認心理師の業務③：教育（教科書 136-147 頁）の講義及びグループディスカッション 復習　：配布プリントを読み、講義内容について振り返る
7	田中　教仁	【第 7 回】 予習　：教科書の授業該当頁を読む 授業　：公認心理師の業務④：司法・犯罪 a（教科書 148-159 頁）の講義及びグループディスカッション 復習　：配布プリントを読み、講義内容について振り返る
8	田中　教仁	【第 8 回】 予習　：教科書の授業該当頁を読む 授業　：公認心理師の業務⑤：司法・犯罪 b（教科書 148-159 頁）の講義及びグループディスカッション 復習　：配布プリントを読み、講義内容について振り返る
9	藤城　有美子	【第 9 回】 予習　：教科書の授業該当頁を読む 授業　：公認心理師の業務⑥：福祉（教科書 120-135 頁）の講義及びグループディスカッション 復習　：配布プリントを読み、講義内容について振り返る
10	依田　尚也	【第 10 回】 予習　：教科書の授業該当頁を読む 授業　：公認心理師とスーパービジョン（教科書 40-57 頁）の講義及びグループディスカッション 復習　：配布プリントを読み、講義内容について振り返る
11	藤川　麗	【第 11 回】 予習　：教科書の授業該当頁を読む 授業　：公認心理師と多職種連携（教科書 90-107 頁）の講義及びグループディスカッション 復習　：配布プリントを読み、講義内容について振り返る

12	飯田　敏晴	【第 12 回】 予習　：教科書の授業該当頁を読む 授業　：公認心理師とコンサルテーション（教科書 90-107 頁）の講義及びグループディスカッション 復習　：配布プリントを読み、講義内容について振り返る
13	藤川　麗	【第 13 回】 予習　：教科書の授業該当頁を読む 授業　：情報の取り扱いおよびクライエントの安全の確保（教科書 70-89 頁）の講義及びグループディスカッション 復習　：配布プリントを読み、講義内容について振り返る
14	藤川　麗	【第 14 回】 予習　：教科書の授業該当頁を読む 授業　：公認心理師とアウトリーチ・地域連携（教科書 90-107 頁）の講義及びグループディスカッション 復習　：配布プリントを読み、講義内容について振り返る
15	依田　尚也	【第 15 回】 予習　：教科書の授業該当頁を読む 授業　：公認心理師における支援者の在り方（教科書 26-39 頁）の講義及びグループディスカッション 復習　：配布プリントを読み、講義内容について振り返る

授業開始前学習	テキストに目を通しておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	発表・レポートや課題に対して、受講者同士によるディスカッションと教員によるコメントによってフィードバックを行う。
テキスト・教材	下山晴彦（監修・編著）　佐藤隆夫・本郷一夫（監修）　慶野遥香（編著）（2020）公認心理師スタンダードテキストシリーズ『公認心理師の職責』ミネルヴァ書房.
参考書	授業内で別途指示するが、授業内で疑問などが生じた場合は参考図書として以下のテキストも有用である。 野島一彦（編）（2018）『公認心理師の職責』野島一彦・繁桝算男監修「公認心師の基礎と実践」シリーズ　遠見書房.
評価の基準と方法	少なくとも 3 分の 2 以上の出席を前提に、各回ミニレポートあるいは小テスト 75 点（5 点×15 回）とグループ・ディスカッションを含む授業参加態度 25 点。ミニレポートや小テストを提出しない場合、また、グループ・ディスカッションに参加しない場合は出席とはみなされない。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	◎	○		

関連科目	公認心理師試験（国試）の受験資格取得のためには 4 年生で「心理演習」と「心理実習」を履修する必要がある。
その他	講義順序が一部変更となる可能性がある。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	本科目は複数の担当者が共同で指導する科目であり、担当教員全員が資格を持ち、かつ心理臨床の実務経験を有している。各回ではそれぞれの経験を活かして公認心理師に求められる在り方について講義・演習を行う。

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-331 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	130-331-13 （Ｊ）	授業コード	FF1320
科目名称	関係行政論			単位数	2.0 単位
英文名称	Legal and Administrative Systems			授業区分	講義
科目責任者	依田 尚也			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	綾城・飯田・齊藤・田中・藤川・藤城・依田			開講時期	3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	心理援助を行う際には、関連する「法」や「制度」があることを理解し、その枠組みの中で適切に行う必要がある。この授業では、心理援助に関連する様々な法や制度についての知識や理念を学修する。さらに、心理援助の各領域（保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業）ごとに、具体的な事例をもちいて少人数のグループ・ディスカッションを行い、実際のケースや対応についての理解を深める。講義はすべて公認心理師資格を持つ教員によって行われる。公認心理師試験（国試）の受験資格取得を検討している学生は必ず履修すること。				
到達目標	心理援助には、多くの関連する法や条例、制度があることを理解し、法律や制度に照らして適切な心理援助のあり方を検討できるようになることを目標とする。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	オムニバス

授業回数	担当者	授業の内容
1	依田 尚也	【第 1 回】 予習：教科書第 1 章講読 授業：法・制度の基本と公認心理師（グループ・ディスカッション） 復習：教科書第 1 章の学習チェック
2	藤川 麗	【第 2 回】 予習：教科書第 2 章講読 授業：公認心理師の法的立場と多職種連携（グループ・ディスカッション） 復習：教科書第 2 章の学習チェック
3	藤川 麗	【第 3 回】 予習：教科書第 3 章講読 授業：公認心理師の各分野への展開（グループ・ディスカッション） 復習：教科書第 3 章の学習チェック
4	依田 尚也	【第 4 回】 予習：教科書第 4 章講読 授業：保健医療分野に関係する法律・制度(1) 医療全般（グループ・ディスカッション） 復習：教科書第 4 章の学習チェック
5	飯田 敏晴	【第 5 回】 予習：教科書第 5 章講読 授業：保健医療分野に関係する法律・制度(2) 精神科医療（グループ・ディスカッション） 復習：教科書第 5 章の学習チェック
6	飯田 敏晴	【第 6 回】 予習：教科書第 6 章講読 授業：保健医療分野に関係する法律・制度(3) 地域保健・医療（グループ・ディスカッション） 復習：教科書第 6 章の学習チェック
7	綾城 初穂	【第 7 回】 予習：教科書第 10 章講読 授業：教育分野に関係する法律・制度（グループ・ディスカッション） 復習：教科書第 10 章の学習チェック
8	依田 尚也	【第 8 回】 予習：教科書第 7 章講読 授業：福祉分野に関係する法律・制度(1) 児童福祉（グループ・ディスカッション） 復習：教科書第 7 章の学習チェック
9	藤城 有美子	【第 9 回】 予習：教科書第 8 章講読 授業：福祉分野に関係する法律・制度(2) 障害者・障害児福祉（グループ・ディスカッション） 復習：教科書第 8 章の学習チェック
10	藤城 有美子	【第 10 回】 予習：教科書第 9 章講読 授業：福祉分野に関係する法律・制度(3) 高齢者福祉（グループ・ディスカッション） 復習：教科書第 9 章の学習チェック
11	田中 教仁	【第 11 回】 予習：教科書第 11 章講読 授業：司法・犯罪分野に関係する法律・制度(1) 刑事（グループ・ディスカッション） 復習：教科書第 11 章の学習チェック

12	田中　教仁	【第 12 回】 予習：教科書第 13 章講読 授業：司法・犯罪分野に関係する法律・制度(3) 少年（グループ・ディスカッション） 復習：教科書第 13 章の学習チェック
13	田中　教仁	【第 13 回】 予習：教科書第 12 章講読 授業：司法・犯罪分野に関係する法律・制度(2) 家事（グループ・ディスカッション） 復習：教科書第 12 章の学習チェック
14	飯田　敏晴	【第 14 回】 予習：教科書第 14 章講読 授業：産業・労働分野に関係する法律・制度（グループ・ディスカッション） 復習：教科書第 14 章の学習チェック
15	綾城　初穂	【第 15 回】 予習：教科書第 15 章講読 授業：いのちを守る法律――生殖医療・自殺・貧困・事故・災害（グループ・ディスカッション） 復習：教科書第 15 章の学習チェック

授業開始前学習	テキストに目を通しておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	発表・レポートや課題に対して、受講者同士によるディスカッションと教員によるコメントによってフィードバックを行う。
テキスト・教材	『公認心理師の基礎と実践　第 23 巻　関係行政論（第 3 版）』（遠見書房）
参考書	『現任者講習会テキスト改訂版』（金剛出版） その他、授業を通じて適宜紹介する。
評価の基準と方法	少なくとも 3 分の 2 以上の出席を前提に、各回ミニレポートあるいは小テスト 75 点（5 点×15 回）とグループ・ディスカッションを含む授業参加態度　25　点で評価する。ミニレポートや小テストを提出しない場合、また、グループ・ディスカッションに参加しない場合は出席とはみなされない。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	◎	○		

関連科目	公認心理師試験（国試）の受験資格を得るためには 4 年生で「心理演習」と「心理実習」を履修する必要がある。
その他	講義順序が一部変更となる可能性がある。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	本科目は複数の担当者が指導する科目であり、担当教員全員が心理臨床の実務経験を有している。各回では、それぞれの経験を活かして、公認心理師に求められる法的な知識や関係機関について講義・演習を行う。

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-432 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	130-331-24（Ｊ）	授業コード	FF1330
科目名称	心理演習			単位数	2.0 単位
英文名称	Seminar on Psychology			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	齊藤　和貴			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	綾城・飯田・齊藤・田中・藤川・藤城・依田			開講時期	4 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	公認心理師として支援に携わる際に、支援についての知識に加えて、ニーズに応じた様々な技能や現場で求められる態度を身につけなければならない。 そして、こうした知識、技能、態度を習熟させるためには実践が不可欠である。 そのため、本授業では以下の事項について役割演技（ロールプレイング）や事例検討、グループワークなどのアクティブラーニングを通じて、基本的な水準の知識及び技能を習得する。 （ア）心理に関する支援を必要とする者等に関する知識及び技能の習得（①コミュニケーション、②心理検査、③心理面接、④地域支援　等） （イ）心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成 （ウ）心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ （エ）多職種連携及び地域連携 （オ）公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解				
到達目標	①心理的支援の 4 業務について、説明できるようになる。 ②援助の基礎となる基本的なコミュニケーションの技術を身につけ、場に応じた社会性のある態度で人と関われるようになる。 ③クライエントのニーズを心理・社会・生物的な多様な視点からとらえ、複数の支援計画を検討できるようになる。 ④事例に即して、チームアプローチや多職種連携及び地域連携の必要性について、説明できるようになる。 ⑤事例に即して、公認心理師としての職業倫理や法的義務を説明できるようになる。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	オムニバス

授業回数	担当者	授業の内容
1	依田　尚也・齊藤　和貴	【第 1 回】 予習：　あらかじめ授業のシラバスを読んでおくこと 授業：　ガイダンス、自己紹介（インタビューによる他己紹介） 復習：　授業ノートの整理
2	依田　尚也	【第 2 回】 予習：　配布資料を読んでおくこと 授業：　基本的なコミュニケーション技法（グループワーク） 復習：　授業ノートの整理
3	齊藤　和貴	【第 3 回】 予習：　配布資料を読んでおくこと 授業：　心理面接：傾聴の基本姿勢（グループワーク） 復習：　授業ノートの整理、録音データの文字おこし
4	依田　尚也	【第 4 回】 予習：　前回の授業の録音データの文字おこし 授業：　共感的傾聴の振り返り（グループワーク） 復習：　授業ノートの整理、レポート課題①の作成
5	田中　教仁	【第 5 回】 予習：　配布資料を読んでおくこと 授業：　職業倫理・法的義務①：司法・犯罪場面における秘密保持義務とその例外状況（グループワーク） 復習：　授業ノートの整理
6	綾城　初穂	【第 6 回】 予習：　配布資料を読んでおくこと 授業：　実践的演習①：教育/福祉場面におけるクライエントの理解と心理査定（WISC を中心に・グループワーク） 復習：　授業ノートの整理
7	綾城　初穂	【第 7 回】 予習：　配布資料を読んでおくこと 授業：　実践的演習②：教育/福祉場面における支援計画（WISC を中心に・グループワーク） 復習：　授業ノートの整理
8	綾城　初穂	【第 8 回】 予習：　配布資料を読んでおくこと 授業：　職業倫理・法的義務②：教育場面における秘密保持義務とその例外状況（いじめなど・グループワーク） 復習：　授業ノートの整理、レポート課題②の作成

9	藤城　有美子	【第 9 回】 予習：　配布資料を読んでおくこと 授業：　実践的演習③：医療場面におけるクライエントの理解とニーズの把握（グループワーク） 復習：　授業ノートの整理
10	藤城　有美子	【第 10 回】 予習：　配布資料を読んでおくこと 授業：　実践的演習④：医療場面における心理査定（テスト・バッテリーについて）と支援計画（グループワーク） 復習：　授業ノートの整理
11	藤川　麗	【第 11 回】 予習：　配布資料を読んでおくこと 授業：　実践的演習⑤：医療/産業・労働場面におけるチームアプローチ、多職種連携（グループワーク） 復習：　授業ノートの整理
12	飯田　敏晴	【第 12 回】 予習：　配布資料を読んでおくこと 授業：　職業倫理・法的義務③：医療場面における秘密保持義務とその例外状況（自傷他害など・グループワーク） 復習：　授業ノートの整理、レポート課題③の作成
13	藤川　麗	【第 13 回】 予習：　配布資料を読んでおくこと 授業：　実践的演習⑥：さまざまな場面でのチームアプローチ、多職種連携（レクチャー） 復習：　授業ノートの整理
14	飯田　敏晴	【第 14 回】 予習：　配布資料を読んでおくこと 授業：　実践的演習⑦：こんなときどうする？?困難事例への対応（グループワーク） 復習：　授業ノートの整理、レポート課題④の作成
15	依田　尚也・齊藤　和貴	【第 15 回】 予習：　授業ノートの整理 授業：　まとめ、心理実習にむけて 復習：　授業ノートを用いて、授業で学んだことを振り返っておくこと

授業開始前学習	「心理的アセスメントⅠ・Ⅱ」「心理学的支援法Ⅰ・Ⅱ」「公認心理師の職責」「関係行政論」など、これまで履修してきた関連の公認心理師科目の内容を復習しておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	授業内で実施するロールプレイや事例検討、グループワークなどにおいて、随時フィードバックをおこなう。
テキスト・教材	授業内で資料を配布する。
参考書	授業内で紹介する。
評価の基準と方法	・5 分の 4 以上の出席を満たしていることが、成績評価の前提受験である（遅刻早退 3 回で欠席 1 回分とカウント、30 分以上の遅刻早退・離席は欠席扱いとする）。 ・ただし、授業内で実施されるグループワークなどのアクティブラーニングに適切に参加できていない場合は、出席（授業に参加している）とみなされない。 ・出席条件を満たしたものについて、4 回のレポート課題（各 20 点 x 4 回、計 80 点）、授業ノート 20 点、合計 100 点満点で評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△		○	◎	○

関連科目	・本科目の履修には、定められた 30 科目（公認心理師の職責、心理学概論など）を含めた 93 単位を履修済みであり、卒業論文を履修していることが求められる。 ・「心理実習」を履修するためには、本科目の単位取得（見込み）が求められる。 ・本科目の単位を取得できなかった場合、次年度等に再履修することはできない。
その他	・新年度オリエンテーション期間中に行われる公認心理師ガイダンスに出席すること。 ・第 1 回授業で行われるガイダンスに公欠以外の理由で欠席した場合は、単位取得を認められない。なお、2 回目以降も履修登録を変更せず、そのまま「心理演習」を履修することを以て、ガイダンスで説明された内容に同意したとみなされる。 ・遅刻や欠席については、「心理演習」のクラスルームの個別連絡欄から必ず事前に連絡すること。 ・早退や離席についても、教員の許可を得ること。 ・講義順序が一部変更となる可能性がある。
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間＋予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	実務経験のある公認心理師の資格を有する教員が担当する。

科目分類（2025 年～入学者）	PS-M-433 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	130-331-24 （Ｊ）	授業コード	FF1340
科目名称	心理実習			単位数	2.0 単位
英文名称	Psychological Practice			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	齊藤　和貴			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	綾城・飯田・齊藤・田中・藤川・藤城・依田			開講時期	4 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	公認心理師が働く臨床現場について理解を深め、これまで学んできた知識や技能、態度などがどのように実践されているかを学ぶ。 そのため、公認心理師に必要な知識・技能の基礎的な理解にもとづき、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の５つの分野の施設において、見学等による実習を行いながら、当該施設の実習指導者または教員による指導を受けて、以下の（ア）から（ウ）に掲げる事項について修得する。 （ア）　心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ （イ）　多職種連携及び地域連携 （ウ）　公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解 また、学修を深めるために、グループワークなどによる事前学習や実習を通した学びについて事後学習も併せて実施する。				
到達目標	保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の５つの分野の施設において、見学等による臨地実習、および事前事後学修を通じて、以下にあげる項目を目標とする。 ①それぞれの分野に応じて、心理に関する支援を要する者へのチームアプローチの特徴を説明することができるようになる。 ②それぞれの分野に応じて、多職種連携及び地域連携の特徴を説明することができるようになる。 ③それぞれの分野に応じて、公認心理師としての職業倫理及び法的義務について説明することができるようになる。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	オムニバス

授業回数	担当者	授業の内容
1	藤城　有美子・齊藤　和貴	【第 1 回】 予習：　配布資料に従って事前の下調べを行う 授業：　事前学習：保健医療分野　（グループワーク） 復習：　授業ノートの整理
2	藤城　有美子・齊藤　和貴	【第 2 回】 予習：　実習に関する配布資料を読んでおくこと 授業：　実習：保健医療分野　（夏期休暇中に実習予定） 復習：　実習日誌の作成
3	藤城　有美子・齊藤　和貴	【第 3 回】 予習：　実習の体験をまとめておくこと 授業：　事後学習：保健医療分野　（プレゼンテーション） 復習：　授業ノートの整理
4	依田　尚也・齊藤　和貴	【第 4 回】 予習：　配布資料に従って事前の下調べを行う 授業：　事前学習：福祉分野　（グループワーク） 復習：　授業ノートの整理
5	依田　尚也・齊藤　和貴	【第 5 回】 予習：　実習に関する配布資料を読んでおくこと 授業：　実習：福祉分野　（夏期休暇中に実習予定） 復習：　実習日誌の作成
6	依田　尚也・齊藤　和貴	【第 6 回】 予習：　実習の体験をまとめておくこと 授業：　事後学習：福祉分野　（プレゼンテーション） 復習：　授業ノートの整理
7	綾城　初穂・齊藤　和貴	【第 7 回】 予習：　配布資料に従って事前の下調べを行う 授業：　事前学習：教育分野　（グループワーク） 復習：　授業ノートの整理
8	綾城　初穂・齊藤　和貴	【第 8 回】 予習：　実習に関する配布資料を読んでおくこと 授業：　実習：教育分野　（夏期休暇中に実習予定） 復習：　実習日誌の作成

9	綾城　初穂・齊藤　和貴	【第 9 回】 予習：　実習の体験をまとめておくこと 授業：　事後学習：教育分野　（プレゼンテーション） 復習：　授業ノートの整理
10	田中　教仁・齊藤　和貴	【第 10 回】 予習：　配布資料に従って事前の下調べを行う 授業：　事前学習：司法・犯罪分野　（グループワーク） 復習：　授業ノートの整理
11	藤城　有美子・田中　教仁	【第 11 回】 予習：　実習に関する配布資料を読んでおくこと 授業：　実習：司法・犯罪分野　（夏期休暇中に実習予定） 復習：　実習日誌の作成
12	田中　教仁・齊藤　和貴	【第 12 回】 予習：　実習の体験をまとめておくこと 授業：　事後学習：司法・犯罪分野　（プレゼンテーション） 復習：　授業ノートの整理
13	飯田　敏晴・齊藤　和貴	【第 13 回】 予習：　配布資料に従って事前の下調べを行う 授業：　事前学習：産業・労働分野　（グループワーク） 復習：　授業ノートの整理
14	飯田　敏晴・齊藤　和貴	【第 14 回】 予習：　実習に関する配布資料を読んでおくこと 授業：　実習：産業・労働分野　（夏期休暇中に実習予定） 復習：　実習日誌の作成
15	飯田　敏晴・齊藤　和貴	【第 15 回】 予習：　実習の体験をまとめておくこと 授業：　事後学習：産業・労働分野　（プレゼンテーション） 復習：　授業ノートの整理

授業開始前学習	「心理的アセスメントⅠ・Ⅱ」「心理学的支援法Ⅰ・Ⅱ」「公認心理師の職責」「関係行政論」「心理演習」など、これまで履修してきた関連の公認心理師科目の内容を復習しておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	事前学習、臨地実習、事後学習のそれぞれにおいて、随時フィードバックを行う。
テキスト・教材	授業内で資料を配布する。
参考書	授業内で紹介する。
評価の基準と方法	・原則として、学外施設で実施される実習（正課外活動）を欠席することは認められない。やむを得ない理由で欠席する必要がある場合には、必ず事前に担当教員へ連絡して判断を仰ぐこと。 ・遅刻早退 3 回で欠席 1 回分とカウント、30 分以上の遅刻早退・離席は欠席扱いとする。 ・授業内で実施されるグループワークなどのアクティブラーニングに適切に参加できていない場合は、出席（授業に参加している）とみなされない。 ・事前学習課題（グループワーク）（各分野 5 点 x 5 ＝25 点）、実習ノート（ 5 ヶ所（福祉は 4 日分）； 5 点 x 8 ＝40
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△		○	○	◎

関連科目	・本科目の履修には、定められた 30 科目（公認心理師の職責、心理学概論など）を含めた 93 単位を履修済みであり、卒業論文を履修していることが求められる。 ・本科目を履修するためには、「心理演習」の単位取得（見込み）が求められる。
その他	・新年度オリエンテーション期間中に行われる公認心理師ガイダンスに出席すること。 ・履修に際して、実習に向けた心構えや必要事項について確認する面談が実施される。 ・夏季休暇中を中心に正課外活動を行う。実費等、実施については授業内で説明する。 ・実習の際の交通費は、自己負担となる。 ・身なり（服装や髪色など）については、実習に臨むにあたって適切かどうかを事前に確認する。不適切と思われる場合には、変更を求める場合がある。また、その際に必要な費用は自己負担となる。 ・心理実習の継続が適切な状態・状況では
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間＋予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	実務経験のある公認心理師の資格を有する教員が担当する。

住空間ﾃﾞｻﾞｲﾝの基礎Ⅰ

科目分類（2025年～入学者）	SD-M-211	科目分類（～2024年入学者）	140-310-12	授業コード	FG0011
科目名称	住空間ﾃﾞｻﾞｲﾝの基礎Ⅰ			単位数	2.0単位
英文名称	Basics of Living space design Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	鈴木　利彦			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鈴木　利彦			開講時期	2年
オフィスアワー	前期　火曜日 09:00～12:10 後期　火曜日 09:00～12:10			研究室	10-509
授業概要	地域協力としてのポスターデザインなどデザインの基礎に触れること。 りんどう祭参加など共同作業をとおして、デザインの基礎を実践すること。 デザインの現場見学において、社会の中でのデザインの在り方を知ること。 この授業では、「大学と地域に関わり、大学生活をより豊かに」をテーマに、課題演習、フィールドワーク、グループワーク、課題プレゼンテーションを行い、主体的に学ぶ方法を体得する。				
到達目標	デザインを題材に、自分の考えを表現すること、伝達すること、批評することなどができるようになること。 共同作業を潤滑に行えること。 またそれらを通じて自己の能力を発見し・高めること。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	鈴木　利彦	【第1回】 予習　：シラバスを確認しておく 授業　：ガイダンス、「現場見学」課題説明 復習　：事例研究
2	鈴木　利彦	【第2回】 予習　：デザイン構想 授業　：「イルミネーションポスター」課題説明 復習　：「イルミネーションポスター」課題作業
3	鈴木　利彦	【第3回】 予習　：作業継続 授業　：「イルミネーションポスター」課題作業 復習　：作業継続
4	鈴木　利彦	【第4回】 予習　：作業継続 授業　：「イルミネーションポスター」課題作業 復習　：作業継続
5	鈴木　利彦	【第5回】 予習　：作業継続 授業　：「イルミネーションポスター」課題作業 復習　：作業継続
6	鈴木　利彦	【第6回】 予習　：事例研究 授業　：「現場見学」事前課題作業（グループワーク） 復習　：作業継続
7	鈴木　利彦	【第7回】 予習　：作業継続 授業　：「現場見学」事前課題作業（グループワーク） 復習　：作業継続
8	鈴木　利彦	【第8回】 予習　：作業継続 授業　：「現場見学」事前課題グループ発表（グループワーク・発表） 復習　：事例研究
9	鈴木　利彦	【第9回】 予習　：展示作品確認 授業　：「りんどう祭展示案」課題説明・作業、「イルミネーションポスター」投票 復習　：作業継続

10	鈴木　利彦	【第 10 回】 予習　：作業継続 授業　：「りんどう祭展示案」作業 復習　：作業継続
11	鈴木　利彦	【第 11 回】 予習　：「現場見学」事前課題確認 授業　：「現場見学」実施（フィールドワーク） 復習　：「現場見学」事後課題作成
12	鈴木　利彦	【第 12 回】 予習　：作業継続 授業　：「りんどう祭展示案」作業（グループワーク） 復習　：作業継続
13	鈴木　利彦	【第 13 回】 予習　：作業継続 授業　：「りんどう祭展示案」作業（グループワーク） 復習　：作業継続
14	鈴木　利彦	【第 14 回】 予習　：発表準備 授業　：「りんどう祭展示案」講評会（グループワーク・発表） 復習　：実施に向けた計画を練る
15	鈴木　利彦	【第 15 回】 予習　：前期課題の見直し 授業　：「イルミネーションポスター」課題講評会・前期のまとめ・夏期課題説明 復習　：夏期課題作業

授業開始前学習	住空間デザイン入門 II で設定された春休みの宿題
授業内課題のフィードバックの方法	「イルミネーションポスター」： 進捗状況を提出し、内容についてアドバイスを行う。（第 3- 5 回） 学生による評価をもとに、主催者による審査結果を知らせる。（第 9 回） 「現場見学」： 進捗状況を提出し、内容についてアドバイスを行う。（第 6,7 回） グループ内発表について質疑や講評を行う。（第 8 回） 「りんどう祭展示案」： 進捗状況を提出し、内容についてアドバイスを行う。（第 12,13 回） 学生による評価によって代表案を選定し、作品の選定理由や意見などをフィードバックする。（第 14 回）
テキスト・教材	資料・プリント等を適宜配布する。
参考書	
評価の基準と方法	平常点（授業態度・提出期限厳守）、課題内容により評価する。 平常点３０点、課題内容７０点とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○	○	◎	○			

関連科目	住空間デザイン入門 II、住空間デザインの基礎 II
その他	・現場見学の予定により、課題内容の変更、スケジュールの入れ替えがある。 ・正課学外授業にてショールーム、展示空間などの現場見学を授業日以外（土曜日など）に予定しているが、実施できない場合もある。実施する際は、現地までの交通費等がかかる場合がある。 ・道具（色鉛筆、ペン、糊、はさみ、カッター、定規）、データ保存用 USB 等は各自で準備すること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）	SD-M-211	科目分類（～2024年入学者）	140-310-12	授業コード	FG0012
科目名称	住空間ﾃﾞｻﾞｲﾝの基礎Ⅰ			単位数	2.0単位
英文名称	Basics of Living space design Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	神村 真由美			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	神村 真由美			開講時期	2年
オフィスアワー	前期 木曜日 14:30～17:30 後期 木曜日 14:30～17:30			研究室	1-201
授業概要	地域協力としてのポスターデザインなどデザインの基礎に触れること。 りんどう祭参加など共同作業をとおして、デザインの基礎を実践すること。 デザインの現場見学において、社会の中でのデザインの在り方を知ること。 この授業では、「大学と地域に関わり、大学生活をより豊かに」をテーマに、課題演習、フィールドワーク、グループワーク、課題プレゼンテーションを行い、主体的に学ぶ方法を体得する。				
到達目標	デザインを題材に、自分の考えを表現すること、伝達すること、批評することなどができるようになること。 共同作業を潤滑に行えること。 またそれらを通じて自己の能力を発見し・高めること。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	神村 真由美	【第1回】 予習 ：シラバスを確認しておく 授業 ：ガイダンス、「現場見学」課題説明 復習 ：事例研究
2	神村 真由美	【第2回】 予習 ：デザイン構想 授業 ：「イルミネーションポスター」課題説明 復習 ：「イルミネーションポスター」課題作業
3	神村 真由美	【第3回】 予習 ：作業継続 授業 ：「イルミネーションポスター」課題作業 復習 ：作業継続
4	神村 真由美	【第4回】 予習 ：作業継続 授業 ：「イルミネーションポスター」課題作業 復習 ：作業継続
5	神村 真由美	【第5回】 予習 ：作業継続 授業 ：「イルミネーションポスター」課題作業 復習 ：作業継続
6	神村 真由美	【第6回】 予習 ：事例研究 授業 ：「現場見学」事前課題作業（グループワーク） 復習 ：作業継続
7	神村 真由美	【第7回】 予習 ：作業継続 授業 ：「現場見学」事前課題作業（グループワーク） 復習 ：作業継続
8	神村 真由美	【第8回】 予習 ：作業継続 授業 ：「現場見学」事前課題グループ発表（グループワーク・発表） 復習 ：事例研究
9	神村 真由美	【第9回】 予習 ：展示作品確認 授業 ：「りんどう祭展示案」課題説明・作業、「イルミネーションポスター」投票 復習 ：作業継続
10	神村 真由美	【第10回】 予習 ：作業継続 授業 ：「りんどう祭展示案」作業 復習 ：作業継続

11	神村　真由美	【第 11 回】 予習　：「現場見学」事前課題確認 授業　：「現場見学」実施（フィールドワーク） 復習　：「現場見学」事後課題作成
12	神村　真由美	【第 12 回】 予習　：作業継続 授業　：「りんどう祭展示案」作業（グループワーク） 復習　：作業継続
13	神村　真由美	【第 13 回】 予習　：作業継続 授業　：「りんどう祭展示案」作業（グループワーク） 復習　：作業継続
14	神村　真由美	【第 14 回】 予習　：発表準備 授業　：「りんどう祭展示案」講評会（グループワーク・発表） 復習　：実施に向けた計画を練る
15	神村　真由美	【第 15 回】 予習　：前期課題の見直し 授業　：「イルミネーションポスター」課題講評会・前期のまとめ・夏期課題説明 復習　：夏期課題作業

授業開始前学習	住空間デザイン入門 II で設定された春休みの宿題
授業内課題のフィードバックの方法	「イルミネーションポスター」： 進捗状況を提出し、内容についてアドバイスを行う。（第 3- 5 回） 学生による評価をもとに、主催者による審査結果を知らせる。（第 9 回） 「現場見学」： 進捗状況を提出し、内容についてアドバイスを行う。（第 6,7 回） グループ内発表について質疑や講評を行う。（第 8 回） 「りんどう祭展示案」： 進捗状況を提出し、内容についてアドバイスを行う。（第 12,13 回） 学生による評価によって代表案を選定し、作品の選定理由や意見などをフィードバックする。（第 14 回）
テキスト・教材	資料・プリント等を適宜配布する。
参考書	
評価の基準と方法	平常点（授業態度・提出期限厳守）、課題内容により評価する。 平常点３０点、課題内容７０点とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○	○	◎	○			

関連科目	住空間デザイン入門 II、住空間デザインの基礎 II
その他	・現場見学の予定により、課題内容の変更、スケジュールの入れ替えがある。 ・正課学外授業にてショールーム、展示空間などの現場見学を授業日以外（土曜日など）に予定しているが、実施できない場合もある。実施する際は、現地までの交通費等がかかる場合がある。 ・道具（色鉛筆、ペン、糊、はさみ、カッター、定規）、データ保存用 USB 等は各自で準備すること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）	SD-M-211	科目分類（～2024年入学者）	140-310-12	授業コード	FG0013
科目名称	住空間ﾃﾞｻﾞｲﾝの基礎Ⅰ			単位数	2.0単位
英文名称	Basics of Living space design Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	三戸 美代子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三戸 美代子			開講時期	2年
オフィスアワー	前期 水曜日 09:00～12:10 後期 水曜日 09:00～12:10			研究室	1-211
授業概要	地域協力としてのポスターデザインなどデザインの基礎に触れること。 りんどう祭参加など共同作業をとおして、デザインの基礎を実践すること。 デザインの現場見学において、社会の中でのデザインの在り方を知ること。 この授業では、「大学と地域に関わり、大学生活をより豊かに」をテーマに、課題演習、フィールドワーク、グループワーク、課題プレゼンテーションを行い、主体的に学ぶ方法を体得する。				
到達目標	デザインを題材に、自分の考えを表現すること、伝達すること、批評することなどができるようになること。 共同作業を潤滑に行えること。 またそれらを通じて自己の能力を発見し・高めること。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	三戸 美代子	【第1回】 予習 ：シラバスを確認しておく 授業 ：ガイダンス、「現場見学」課題説明 復習 ：事例研究
2	三戸 美代子	【第2回】 予習 ：デザイン構想 授業 ：「イルミネーションポスター」課題説明 復習 ：「イルミネーションポスター」課題作業
3	三戸 美代子	【第3回】 予習 ：作業継続 授業 ：「イルミネーションポスター」課題作業 復習 ：作業継続
4	三戸 美代子	【第4回】 予習 ：作業継続 授業 ：「イルミネーションポスター」課題作業 復習 ：作業継続
5	三戸 美代子	【第5回】 予習 ：作業継続 授業 ：「イルミネーションポスター」課題作業 復習 ：作業継続
6	三戸 美代子	【第6回】 予習 ：事例研究 授業 ：「現場見学」事前課題作業（グループワーク） 復習 ：作業継続
7	三戸 美代子	【第7回】 予習 ：作業継続 授業 ：「現場見学」事前課題作業（グループワーク） 復習 ：作業継続
8	三戸 美代子	【第8回】 予習 ：作業継続 授業 ：「現場見学」事前課題グループ発表（グループワーク・発表） 復習 ：事例研究
9	三戸 美代子	【第9回】 予習 ：展示作品確認 授業 ：「りんどう祭展示案」課題説明・作業、「イルミネーションポスター」投票 復習 ：作業継続
10	三戸 美代子	【第10回】 予習 ：作業継続 授業 ：「りんどう祭展示案」作業 復習 ：作業継続

11	三戸　美代子	【第 11 回】 予習　：「現場見学」事前課題確認 授業　：「現場見学」実施（フィールドワーク） 復習　：「現場見学」事後課題作成
12	三戸　美代子	【第 12 回】 予習　：作業継続 授業　：「りんどう祭展示案」作業（グループワーク） 復習　：作業継続
13	三戸　美代子	【第 13 回】 予習　：作業継続 授業　：「りんどう祭展示案」作業（グループワーク） 復習　：作業継続
14	三戸　美代子	【第 14 回】 予習　：発表準備 授業　：「りんどう祭展示案」講評会（グループワーク・発表） 復習　：実施に向けた計画を練る
15	三戸　美代子	【第 15 回】 予習　：前期課題の見直し 授業　：「イルミネーションポスター」課題講評会・前期のまとめ・夏期課題説明 復習　：夏期課題作業

授業開始前学習	住空間デザイン入門 II で設定された春休みの宿題
授業内課題のフィードバックの方法	「イルミネーションポスター」： 進捗状況を提出し、内容についてアドバイスを行う。（第 3- 5 回） 学生による評価をもとに、主催者による審査結果を知らせる。（第 9 回） 「現場見学」： 進捗状況を提出し、内容についてアドバイスを行う。（第 6,7 回） グループ内発表について質疑や講評を行う。（第 8 回） 「りんどう祭展示案」： 進捗状況を提出し、内容についてアドバイスを行う。（第 12,13 回） 学生による評価によって代表案を選定し、作品の選定理由や意見などをフィードバックする。（第 14 回）
テキスト・教材	資料・プリント等を適宜配布する。
参考書	
評価の基準と方法	平常点（授業態度・提出期限厳守）、課題内容により評価する。 平常点３０点、課題内容７０点とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○	○	◎	○			

関連科目	住空間デザイン入門 II、住空間デザインの基礎 II
その他	・現場見学の予定により、課題内容の変更、スケジュールの入れ替えがある。 ・正課学外授業にてショールーム、展示空間などの現場見学を授業日以外（土曜日など）に予定しているが、実施できない場合もある。実施する際は、現地までの交通費等がかかる場合がある。 ・道具（色鉛筆、ペン、糊、はさみ、カッター、定規）、データ保存用 USB 等は各自で準備すること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）	SD-M-211	科目分類（～2024年入学者）	140-310-12	授業コード	FG0014
科目名称	住空間ﾃﾞｻﾞｲﾝの基礎Ⅰ			単位数	2.0単位
英文名称	Basics of Living space design Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	橘田 洋子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	橘田 洋子			開講時期	2年
オフィスアワー	前期 火曜日 16:20～17:50 木曜日 14:40～16:10 後期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 14:40～16:10			研究室	1-206
授業概要	地域協力としてのポスターデザインなどデザインの基礎に触れること。 りんどう祭参加など共同作業をとおして、デザインの基礎を実践すること。 デザインの現場見学において、社会の中でのデザインの在り方を知ること。 この授業では、「大学と地域に関わり、大学生活をより豊かに」をテーマに、課題演習、フィールドワーク、グループワーク、課題プレゼンテーションを行い、主体的に学ぶ方法を体得する。				
到達目標	デザインを題材に、自分の考えを表現すること、伝達すること、批評することなどができるようになること。 共同作業を潤滑に行えること。 またそれらを通じて自己の能力を発見し・高めること。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	−	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	橘田 洋子	【第1回】 予習 ：シラバスを確認しておく 授業 ：ガイダンス、「現場見学」課題説明 復習 ：事例研究
2	橘田 洋子	【第2回】 予習 ：デザイン構想 授業 ：「イルミネーションポスター」課題説明 復習 ：「イルミネーションポスター」課題作業
3	橘田 洋子	【第3回】 予習 ：作業継続 授業 ：「イルミネーションポスター」課題作業 復習 ：作業継続
4	橘田 洋子	【第4回】 予習 ：作業継続 授業 ：「イルミネーションポスター」課題作業 復習 ：作業継続
5	橘田 洋子	【第5回】 予習 ：作業継続 授業 ：「イルミネーションポスター」課題作業 復習 ：作業継続
6	橘田 洋子	【第6回】 予習 ：事例研究 授業 ：「現場見学」事前課題作業（グループワーク） 復習 ：作業継続
7	橘田 洋子	【第7回】 予習 ：作業継続 授業 ：「現場見学」事前課題作業（グループワーク） 復習 ：作業継続
8	橘田 洋子	【第8回】 予習 ：作業継続 授業 ：「現場見学」事前課題グループ発表（グループワーク・発表） 復習 ：事例研究
9	橘田 洋子	【第9回】 予習 ：展示作品確認 授業 ：「りんどう祭展示案」課題説明・作業、「イルミネーションポスター」投票 復習 ：作業継続
10	橘田 洋子	【第10回】 予習 ：作業継続 授業 ：「りんどう祭展示案」作業 復習 ：作業継続

11	橘田　洋子	【第 11 回】 予習　：「現場見学」事前課題確認 授業　：「現場見学」実施（フィールドワーク） 復習　：「現場見学」事後課題作成
12	橘田　洋子	【第 12 回】 予習　：作業継続 授業　：「りんどう祭展示案」作業（グループワーク） 復習　：作業継続
13	橘田　洋子	【第 13 回】 予習　：作業継続 授業　：「りんどう祭展示案」作業（グループワーク） 復習　：作業継続
14	橘田　洋子	【第 14 回】 予習　：発表準備 授業　：「りんどう祭展示案」講評会（グループワーク・発表） 復習　：実施に向けた計画を練る
15	橘田　洋子	【第 15 回】 予習　：前期課題の見直し 授業　：「イルミネーションポスター」課題講評会・前期のまとめ・夏期課題説明 復習　：夏期課題作業

授業開始前学習	住空間デザイン入門 II で設定された春休みの宿題
授業内課題のフィードバックの方法	「イルミネーションポスター」： 進捗状況を提出し、内容についてアドバイスを行う。（第 3- 5 回） 学生による評価をもとに、主催者による審査結果を知らせる。（第 9 回） 「現場見学」： 進捗状況を提出し、内容についてアドバイスを行う。（第 6,7 回） グループ内発表について質疑や講評を行う。（第 8 回） 「りんどう祭展示案」： 進捗状況を提出し、内容についてアドバイスを行う。（第 12,13 回） 学生による評価によって代表案を選定し、作品の選定理由や意見などをフィードバックする。（第 14 回）
テキスト・教材	資料・プリント等を適宜配布する。
参考書	
評価の基準と方法	平常点（授業態度・提出期限厳守）、課題内容により評価する。 平常点３０点、課題内容７０点とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○	○	◎	○			

関連科目	住空間デザイン入門 II、住空間デザインの基礎 II
その他	・現場見学の予定により、課題内容の変更、スケジュールの入れ替えがある。 ・正課学外授業にてショールーム、展示空間などの現場見学を授業日以外（土曜日など）に予定しているが、実施できない場合もある。実施する際は、現地までの交通費等がかかる場合がある。 ・道具（色鉛筆、ペン、糊、はさみ、カッター、定規）、データ保存用 USB 等は各自で準備すること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-211	科目分類（～2024 年入学者）	140-310-12	授業コード	FG0021
科目名称	住空間ﾃﾞｻﾞｲﾝの基礎Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	Basics of Space Design Ⅱ／Basics of Living space design Ⅱ			授業区分	講義
科目責任者	鈴木 利彦			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鈴木 利彦			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～12:10 後期 火曜日 09:00～12:10			研究室	10-509
授業概要	デザインの現場見学について、事前の調査と情報の共有を行うことで、より深い理解を得ること。 りんどう祭の展示において、共同作業の中で個人の役割を見いだし実践すること。 ポートフォリオ制作などさまざまなデザインのツールやアウトプットを実践すること。 この授業では、「大学と地域に関わり、大学生活をより豊かに」をテーマに、課題演習、フィールドワーク、グループワーク、課題プレゼンテーションを行い、主体的に学ぶ方法を体得する				
到達目標	デザインを題材に、自分の考えを表現すること、伝達すること、批評することなどができるようになること。 共同作業を潤滑に行えること。 パワーポイント、WEB、紙媒体などのプレゼンテーションにおける基礎的な技術を身につける。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	鈴木 利彦	【第 1 回】 予習 ：シラバスを確認しておく 授業 ：ガイダンス、「現場見学」事前課題、りんどう祭 学類作品展示準備 復習 ：前期課題の計画案を修正、課題作業継続
2	鈴木 利彦	【第 2 回】 予習 ：作業継続 授業 ：りんどう祭 学類作品展示準備 復習 ：作業継続
3	鈴木 利彦	【第 3 回】 予習 ：作業継続 授業 ：りんどう祭 学類作品展示準備 復習 ：りんどう祭 学類作品展示作業、課題作業継続
4	鈴木 利彦	【第 4 回】 予習 ：りんどう祭 学類作品展示材料準備 授業 ：りんどう祭 学類作品展示（グループワーク） 復習 ：展示撤去
5	鈴木 利彦	【第 5 回】 予習 ：事例研究 授業 ：「インテリアパースの作成」課題説明 復習 ：「インテリアパースの作成」課題作業
6	鈴木 利彦	【第 6 回】 予習 ：作業継続 授業 ：「インテリアパースの作成」課題作業 復習 ：作業継続
7	鈴木 利彦	【第 7 回】 予習 ：作業継続 授業 ：「インテリアパースの作成」課題作業 復習 ：作業継続
8	鈴木 利彦	【第 8 回】 予習 ：作業継続 授業 ：「インテリアパースの作成」課題作業 復習 ：作業継続
9	鈴木 利彦	【第 9 回】 予習 ：「現場見学」事前課題確認 授業 ：「現場見学」実施（フィールドワーク） 復習 ：「現場見学」事後課題作成
10	鈴木 利彦	【第 10 回】 予習 ：過去の課題を整理して持参準備 授業 ：「作品ポートフォリオ」課題説明・作業 復習 ：「作品ポートフォリオ」作業

11	鈴木　利彦	【第 11 回】 予習　：作業継続 授業　：「作品ポートフォリオ」作業 復習　：作業継続
12	鈴木　利彦	【第 12 回】 予習　：作業継続 授業　：「作品ポートフォリオ」作業 復習　：作業継続
13	鈴木　利彦	【第 13 回】 予習　：作業継続 授業　：「作品ポートフォリオ」作業 復習　：作業継続
14	鈴木　利彦	【第 14 回】 予習　：便覧の所定箇所を読んでおく 授業　：次年度コースおよびゼミ説明 復習　：コース選択調査票記入
15	鈴木　利彦	【第 15 回】 予習　：後期課題の見直し 授業　：「作品ポートフォリオ」「インテリアパースの作成」課題講評会・後期のまとめ・春期課題説明 復習　：春期課題作業

授業開始前学習	住空間デザインの基礎Ⅰで設定した夏期課題
授業内課題のフィードバックの方法	「りんどう祭　学類作品展示準備」： 進捗状況を提出し、分担したデザイン制作内容についてアドバイスを行う。（第 2,3 回） 展示空間企画・実施において、共同作業の中で主体的に行動する際の適宜アドバイスを行う（第 4 回） 「インテリアパースの作成」： 進捗状況を提出し、内容についてアドバイスを行う。（第 6-8 回） 優秀作品の紹介と選定理由など講評をフィードバックする。（第 15 回） 「作品ポートフォリオ」： 進捗状況を提出し、内容についてアドバイスを行う。（第 11-13 回） 優秀作品の紹介と
テキスト・教材	資料・プリント等を適宜配布する。
参考書	
評価の基準と方法	平常点（授業態度・提出期限厳守）、課題内容により評価する。 平常点３０点、課題内容７０点とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○	○	◎	○			

関連科目	住空間デザインの基礎Ⅰ
その他	・現場見学の予定により、課題内容の変更、スケジュールの入れ替えがある。 ・正課学外授業にてショールーム、展示空間などの現場見学を授業日以外（土曜日など）に予定しているが、実施できない場合もある。実施する際は、現地までの交通費等がかかる場合がある。 ・道具（色鉛筆、ペン、糊、はさみ、カッター、定規）、データ保存用 USB 等は各自で準備すること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-211	科目分類（～2024 年入学者）	140-310-12	授業コード	FG0022
科目名称	住空間ﾃﾞｻﾞｲﾝの基礎Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	Basics of Living space designⅡ			授業区分	講義
科目責任者	神村 真由美			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	神村 真由美			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 木曜日 14:30～17:30 後期 木曜日 14:30～17:30			研究室	1-201
授業概要	デザインの現場見学について、事前の調査と情報の共有を行うことで、より深い理解を得ること。 りんどう祭の展示において、共同作業の中で個人の役割を見いだし実践すること。 ポートフォリオ制作などさまざまなデザインのツールやアウトプットを実践すること。 この授業では、「大学と地域に関わり、大学生活をより豊かに」をテーマに、課題演習、フィールドワーク、グループワーク、課題プレゼンテーションを行い、主体的に学ぶ方法を体得する				
到達目標	デザインを題材に、自分の考えを表現すること、伝達すること、批評することなどができるようになること。 共同作業を潤滑に行えること。 パワーポイント、WEB、紙媒体などのプレゼンテーションにおける基礎的な技術を身につける。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	神村 真由美	【第 1 回】 予習 ：シラバスを確認しておく 授業 ：ガイダンス、「現場見学」事前課題、りんどう祭 学類作品展示準備 復習 ：前期課題の計画案を修正、課題作業継続
2	神村 真由美	【第 2 回】 予習 ：作業継続 授業 ：りんどう祭 学類作品展示準備 復習 ：作業継続
3	神村 真由美	【第 3 回】 予習 ：作業継続 授業 ：りんどう祭 学類作品展示準備 復習 ：りんどう祭 学類作品展示作業、課題作業継続
4	神村 真由美	【第 4 回】 予習 ：りんどう祭 学類作品展示材料準備 授業 ：りんどう祭 学類作品展示（グループワーク） 復習 ：展示撤去
5	神村 真由美	【第 5 回】 予習 ：事例研究 授業 ：「インテリアパースの作成」課題説明 復習 ：「インテリアパースの作成」課題作業
6	神村 真由美	【第 6 回】 予習 ：作業継続 授業 ：「インテリアパースの作成」課題作業 復習 ：作業継続
7	神村 真由美	【第 7 回】 予習 ：作業継続 授業 ：「インテリアパースの作成」課題作業 復習 ：作業継続
8	神村 真由美	【第 8 回】 予習 ：作業継続 授業 ：「インテリアパースの作成」課題作業 復習 ：作業継続
9	神村 真由美	【第 9 回】 予習 ：「現場見学」事前課題確認 授業 ：「現場見学」実施（フィールドワーク） 復習 ：「現場見学」事後課題作成
10	神村 真由美	【第 10 回】 予習 ：過去の課題を整理して持参準備 授業 ：「作品ポートフォリオ」課題説明・作業 復習 ：「作品ポートフォリオ」作業

11	神村　真由美	【第 11 回】 予習　：作業継続 授業　：「作品ポートフォリオ」作業 復習　：作業継続
12	神村　真由美	【第 12 回】 予習　：作業継続 授業　：「作品ポートフォリオ」作業 復習　：作業継続
13	神村　真由美	【第 13 回】 予習　：作業継続 授業　：「作品ポートフォリオ」作業 復習　：作業継続
14	神村　真由美	【第 14 回】 予習　：便覧の所定箇所を読んでおく 授業　：次年度コースおよびゼミ説明 復習　：コース選択調査票記入
15	神村　真由美	【第 15 回】 予習　：後期課題の見直し 授業　：「作品ポートフォリオ」「インテリアパースの作成」課題講評会・後期のまとめ・春期課題説明 復習　：春期課題作業

授業開始前学習	住空間デザインの基礎Ⅰで設定した夏期課題
授業内課題のフィードバックの方法	「りんどう祭　学類作品展示準備」： 進捗状況を提出し、分担したデザイン制作内容についてアドバイスを行う。（第 2,3 回） 展示空間企画・実施において、共同作業の中で主体的に行動する際の適宜アドバイスを行う（第 4 回） 「インテリアパースの作成」： 進捗状況を提出し、内容についてアドバイスを行う。（第 6-8 回） 優秀作品の紹介と選定理由など講評をフィードバックする。（第 15 回） 「作品ポートフォリオ」： 進捗状況を提出し、内容についてアドバイスを行う。（第 11-13 回） 優秀作品の紹介と
テキスト・教材	資料・プリント等を適宜配布する。
参考書	
評価の基準と方法	平常点（授業態度・提出期限厳守）、課題内容により評価する。 平常点３０点、課題内容７０点とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○	○	◎	○			

関連科目	住空間デザインの基礎Ⅰ
その他	・現場見学の予定により、課題内容の変更、スケジュールの入れ替えがある。 ・正課学外授業にてショールーム、展示空間などの現場見学を授業日以外（土曜日など）に予定しているが、実施できない場合もある。実施する際は、現地までの交通費等がかかる場合がある。 ・道具（色鉛筆、ペン、糊、はさみ、カッター、定規）、データ保存用 USB 等は各自で準備すること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-211	科目分類（～2024 年入学者）	140-310-12	授業コード	FG0023
科目名称	住空間ﾃﾞｻﾞｲﾝの基礎Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	Basics of Living space designⅡ			授業区分	講義
科目責任者	三戸 美代子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三戸 美代子			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 水曜日 09:00～12:10 後期 水曜日 09:00～12:10			研究室	1-211
授業概要	デザインの現場見学について、事前の調査と情報の共有を行うことで、より深い理解を得ること。 りんどう祭の展示において、共同作業の中で個人の役割を見いだし実践すること。 ポートフォリオ制作などさまざまなデザインのツールやアウトプットを実践すること。 この授業では、「大学と地域に関わり、大学生活をより豊かに」をテーマに、課題演習、フィールドワーク、グループワーク、課題プレゼンテーションを行い、主体的に学ぶ方法を体得する				
到達目標	デザインを題材に、自分の考えを表現すること、伝達すること、批評することなどができるようになること。 共同作業を潤滑に行えること。 パワーポイント、WEB、紙媒体などのプレゼンテーションにおける基礎的な技術を身につける。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	三戸 美代子	【第 1 回】 予習 ：シラバスを確認しておく 授業 ：ガイダンス、「現場見学」事前課題、りんどう祭 学類作品展示準備 復習 ：前期課題の計画案を修正、課題作業継続
2	三戸 美代子	【第 2 回】 予習 ：作業継続 授業 ：りんどう祭 学類作品展示準備 復習 ：作業継続
3	三戸 美代子	【第 3 回】 予習 ：作業継続 授業 ：りんどう祭 学類作品展示準備 復習 ：りんどう祭 学類作品展示作業、課題作業継続
4	三戸 美代子	【第 4 回】 予習 ：りんどう祭 学類作品展示材料準備 授業 ：りんどう祭 学類作品展示（グループワーク） 復習 ：展示撤去
5	三戸 美代子	【第 5 回】 予習 ：事例研究 授業 ：「インテリアパースの作成」課題説明 復習 ：「インテリアパースの作成」課題作業
6	三戸 美代子	【第 6 回】 予習 ：作業継続 授業 ：「インテリアパースの作成」課題作業 復習 ：作業継続
7	三戸 美代子	【第 7 回】 予習 ：作業継続 授業 ：「インテリアパースの作成」課題作業 復習 ：作業継続
8	三戸 美代子	【第 8 回】 予習 ：作業継続 授業 ：「インテリアパースの作成」課題作業 復習 ：作業継続
9	三戸 美代子	【第 9 回】 予習 ：「現場見学」事前課題確認 授業 ：「現場見学」実施（フィールドワーク） 復習 ：「現場見学」事後課題作成
10	三戸 美代子	【第 10 回】 予習 ：過去の課題を整理して持参準備 授業 ：「作品ポートフォリオ」課題説明・作業 復習 ：「作品ポートフォリオ」作業

11	三戸　美代子	【第 11 回】 予習　：作業継続 授業　：「作品ポートフォリオ」作業 復習　：作業継続
12	三戸　美代子	【第 12 回】 予習　：作業継続 授業　：「作品ポートフォリオ」作業 復習　：作業継続
13	三戸　美代子	【第 13 回】 予習　：作業継続 授業　：「作品ポートフォリオ」作業 復習　：作業継続
14	三戸　美代子	【第 14 回】 予習　：便覧の所定箇所を読んでおく 授業　：次年度コースおよびゼミ説明 復習　：コース選択調査票記入
15	三戸　美代子	【第 15 回】 予習　：後期課題の見直し 授業　：「作品ポートフォリオ」「インテリアパースの作成」課題講評会・後期のまとめ・春期課題説明 復習　：春期課題作業

授業開始前学習	住空間デザインの基礎Ⅰで設定した夏期課題
授業内課題のフィードバックの方法	「りんどう祭　学類作品展示準備」： 進捗状況を提出し、分担したデザイン制作内容についてアドバイスを行う。（第 2,3 回） 展示空間企画・実施において、共同作業の中で主体的に行動する際の適宜アドバイスを行う（第 4 回） 「インテリアパースの作成」： 進捗状況を提出し、内容についてアドバイスを行う。（第 6-8 回） 優秀作品の紹介と選定理由など講評をフィードバックする。（第 15 回） 「作品ポートフォリオ」： 進捗状況を提出し、内容についてアドバイスを行う。（第 11-13 回） 優秀作品の紹介と
テキスト・教材	資料・プリント等を適宜配布する。
参考書	
評価の基準と方法	平常点（授業態度・提出期限厳守）、課題内容により評価する。 平常点３０点、課題内容７０点とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○	○	◎	○			

関連科目	住空間デザインの基礎Ⅰ
その他	・現場見学の予定により、課題内容の変更、スケジュールの入れ替えがある。 ・正課学外授業にてショールーム、展示空間などの現場見学を授業日以外（土曜日など）に予定しているが、実施できない場合もある。実施する際は、現地までの交通費等がかかる場合がある。 ・道具（色鉛筆、ペン、糊、はさみ、カッター、定規）、データ保存用 USB 等は各自で準備すること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-211	科目分類（～2024 年入学者）	140-310-12	授業コード	FG0024
科目名称	住空間ﾃﾞｻﾞｲﾝの基礎Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	Basics of Living space designⅡ			授業区分	講義
科目責任者	橘田 洋子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	橘田 洋子			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 火曜日 16:20～17:50 木曜日 14:40～16:10 後期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 14:40～16:10			研究室	1-206
授業概要	デザインの現場見学について、事前の調査と情報の共有を行うことで、より深い理解を得ること。 りんどう祭の展示において、共同作業の中で個人の役割を見いだし実践すること。 ポートフォリオ制作などさまざまなデザインのツールやアウトプットを実践すること。 この授業では、「大学と地域に関わり、大学生活をより豊かに」をテーマに、課題演習、フィールドワーク、グループワーク、課題プレゼンテーションを行い、主体的に学ぶ方法を体得する				
到達目標	デザインを題材に、自分の考えを表現すること、伝達すること、批評することなどができるようになること。 共同作業を潤滑に行えること。 パワーポイント、WEB、紙媒体などのプレゼンテーションにおける基礎的な技術を身につける。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	橘田 洋子	【第 1 回】 予習 ：シラバスを確認しておく 授業 ：ガイダンス、「現場見学」事前課題、りんどう祭 学類作品展示準備 復習 ：前期課題の計画案を修正、課題作業継続
2	橘田 洋子	【第 2 回】 予習 ：作業継続 授業 ：りんどう祭 学類作品展示準備 復習 ：作業継続
3	橘田 洋子	【第 3 回】 予習 ：作業継続 授業 ：りんどう祭 学類作品展示準備 復習 ：りんどう祭 学類作品展示作業、課題作業継続
4	橘田 洋子	【第 4 回】 予習 ：りんどう祭 学類作品展示材料準備 授業 ：りんどう祭 学類作品展示（グループワーク） 復習 ：展示撤去
5	橘田 洋子	【第 5 回】 予習 ：事例研究 授業 ：「インテリアパースの作成」課題説明 復習 ：「インテリアパースの作成」課題作業
6	橘田 洋子	【第 6 回】 予習 ：作業継続 授業 ：「インテリアパースの作成」課題作業 復習 ：作業継続
7	橘田 洋子	【第 7 回】 予習 ：作業継続 授業 ：「インテリアパースの作成」課題作業 復習 ：作業継続
8	橘田 洋子	【第 8 回】 予習 ：作業継続 授業 ：「インテリアパースの作成」課題作業 復習 ：作業継続
9	橘田 洋子	【第 9 回】 予習 ：「現場見学」事前課題確認 授業 ：「現場見学」実施（フィールドワーク） 復習 ：「現場見学」事後課題作成
10	橘田 洋子	【第 10 回】 予習 ：過去の課題を整理して持参準備 授業 ：「作品ポートフォリオ」課題説明・作業 復習 ：「作品ポートフォリオ」作業

11	橘田　洋子	【第 11 回】 予習　：作業継続 授業　：「作品ポートフォリオ」作業 復習　：作業継続
12	橘田　洋子	【第 12 回】 予習　：作業継続 授業　：「作品ポートフォリオ」作業 復習　：作業継続
13	橘田　洋子	【第 13 回】 予習　：作業継続 授業　：「作品ポートフォリオ」作業 復習　：作業継続
14	橘田　洋子	【第 14 回】 予習　：便覧の所定箇所を読んでおく 授業　：次年度コースおよびゼミ説明 復習　：コース選択調査票記入
15	橘田　洋子	【第 15 回】 予習　：後期課題の見直し 授業　：「作品ポートフォリオ」「インテリアパースの作成」課題講評会・後期のまとめ・春期課題説明 復習　：春期課題作業

授業開始前学習	住空間デザインの基礎Ⅰで設定した夏期課題
授業内課題のフィードバックの方法	「りんどう祭　学類作品展示準備」： 進捗状況を提出し、分担したデザイン制作内容についてアドバイスを行う。（第 2,3 回） 展示空間企画・実施において、共同作業の中で主体的に行動する際の適宜アドバイスを行う（第 4 回） 「インテリアパースの作成」： 進捗状況を提出し、内容についてアドバイスを行う。（第 6-8 回） 優秀作品の紹介と選定理由など講評をフィードバックする。（第 15 回） 「作品ポートフォリオ」： 進捗状況を提出し、内容についてアドバイスを行う。（第 11-13 回） 優秀作品の紹介と
テキスト・教材	資料・プリント等を適宜配布する。
参考書	
評価の基準と方法	平常点（授業態度・提出期限厳守）、課題内容により評価する。 平常点３０点、課題内容７０点とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○	○	◎	○			

関連科目	住空間デザインの基礎Ⅰ
その他	・現場見学の予定により、課題内容の変更、スケジュールの入れ替えがある。 ・正課学外授業にてショールーム、展示空間などの現場見学を授業日以外（土曜日など）に予定しているが、実施できない場合もある。実施する際は、現地までの交通費等がかかる場合がある。 ・道具（色鉛筆、ペン、糊、はさみ、カッター、定規）、データ保存用 USB 等は各自で準備すること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-111	科目分類（～2024 年入学者）	140-311-11	授業コード	FG0031
科目名称	平面と立体表現の基礎			単位数	2.0 単位
英文名称	Plane and 3-Dimensional Expression Basics			授業区分	講義
科目責任者	堀邉　阿伊子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鈴木(利)・高橋(怜)			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	基本的な立体の構成を通して三次元としての建築空間の基礎を学び、同時にそれを二次元に表現する技法を学ぶ。課題を通じて空間構成や三次元的空間認識力を高め三次元的思考を養う。				
到達目標	三次元としての建築空間の基礎を理解し、同時にそれを二次元に表現する技法を習得する。 空間構成や三次元的空間認識力を高め三次元的思考を身につける。 材料や道具の基本的な使用方法を習得する。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態	共同				

授業回数	担当者	授業の内容
1	鈴木　利彦 高橋　怜奈	【第 1 回】 予習　：シラバス参照 授業　：ガイダンス及びカッターその他道具の使い方の説明 復習　：道具の使い方練習
2	鈴木　利彦 高橋　怜奈	【第 2 回】 予習　：立方体の作成 授業　：　スチレンボードによる立方体の製作の指導 復習　：提出課題の自習
3	鈴木　利彦 高橋　怜奈	【第 3 回】 予習　：事例検索 授業　：　課題Ⅰ（大小複数の立方体による連続する建築空間の構成 復習　：提出課題の自習
4	鈴木　利彦 高橋　怜奈	【第 4 回】 予習　：提出課題の自習 授業　：課題Ⅰ　エスキース 復習　：提出課題の自習
5	鈴木　利彦 高橋　怜奈	【第 5 回】 予習　：提出課題の自習 授業　：課題Ⅰ　エスキース 復習　：提出課題の自習
6	鈴木　利彦 高橋　怜奈	【第 6 回】 予習　：発表準備 授業　：　課題Ⅰ講評及び課題Ⅱ説明(基本ユニットによる三次元構造体の作成)（プレゼンテーション） 復習　：課題内容の確認
7	鈴木　利彦 高橋　怜奈	【第 7 回】 予習　：提出課題の自習 授業　：課題Ⅱ　エスキース 復習　：提出課題の自習
8	鈴木　利彦 高橋　怜奈	【第 8 回】 予習　：提出課題の自習 授業　：課題Ⅱ　エスキース 復習　：提出課題の自習
9	鈴木　利彦 高橋　怜奈	【第 9 回】 予習　：提出課題の自習 授業　：課題Ⅱ　エスキース 復習　：提出課題の自習
10	鈴木　利彦 高橋　怜奈	【第 10 回】 予習　：発表準備 授業　：課題Ⅱ講評及び課題Ⅲ説明（上記 2 課題の平面表現）（プレゼンテーション） 復習　：課題内容の確認
11	鈴木　利彦 高橋　怜奈	【第 11 回】 予習　：提出課題の自習 授業　：課題Ⅲエスキース 復習　：提出課題の自習

12	鈴木　利彦 高橋　怜奈	【第 12 回】 予習　：提出課題の自習 授業　：課題Ⅲエスキース 復習　：提出課題の自習
13	鈴木　利彦 高橋　怜奈	【第 13 回】 予習　：提出課題の自習 授業　：課題Ⅲエスキース 復習　：提出課題の自習
14	鈴木　利彦 高橋　怜奈	【第 14 回】 予習　：提出課題の自習 授業　：課題Ⅲエスキース 復習　：提出課題の自習
15	鈴木　利彦 高橋　怜奈	【第 15 回】 予習　：発表準備 授業　：講評会及びまとめ（プレゼンテーション） 復習　：授業プロセスの振り返り

授業開始前学習	出来るだけ多くの建築雑誌、展覧会、建築等を見る事
授業内課題のフィードバックの方法	各課題終了時に講評会を行い、個別の質問に対応する。
テキスト・教材	特になし
参考書	適宜紹介する
評価の基準と方法	課題、授業に対する取り組み（エスキース）等を総合して評価する。配点（100 点満点に於ける）は、課題評価 40 点・エスキース 20 点・授業に対する取り組み 40 点とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		◎		△	

関連科目	建築・インテリアデザイン入門、プロダクトデザイン入門
その他	模型材料費若干必要な場合もある（費用は個人の材料選択による）
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-111	科目分類（～2024 年入学者）	140-311-11	授業コード	FG0032
科目名称	平面と立体表現の基礎			単位数	2.0 単位
英文名称	Plane and 3-Dimensional Expression Basics			授業区分	講義
科目責任者	堀邉　阿伊子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	手塚・堀邉			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	基本的な立体の構成を通して三次元としての建築空間の基礎を学び、同時にそれを二次元に表現する技法を学ぶ。課題を通じて空間構成や三次元的空間認識力を高め三次元的思考を養う。				
到達目標	三次元としての建築空間の基礎を理解し、同時にそれを二次元に表現する技法を習得する。 空間構成や三次元的空間認識力を高め三次元的思考を身につける。 材料や道具の基本的な使用方法を習得する。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	共同

授業回数	担当者	授業の内容
1	堀邉　阿伊子 手塚　貴史	【第 1 回】 予習　：シラバス参照 授業　：ガイダンス及びカッターその他道具の使い方の説明 復習　：道具の使い方練習
2	堀邉　阿伊子 手塚　貴史	【第 2 回】 予習　：立方体の作成 授業　：　スチレンボードによる立方体の製作の指導 復習　：提出課題の自習
3	堀邉　阿伊子 手塚　貴史	【第 3 回】 予習　：事例検索 授業　：　課題Ⅰ（大小複数の立方体による連続する建築空間の構成 復習　：提出課題の自習
4	堀邉　阿伊子 手塚　貴史	【第 4 回】 予習　：提出課題の自習 授業　：課題Ⅰ　エスキース 復習　：提出課題の自習
5	堀邉　阿伊子 手塚　貴史	【第 5 回】 予習　：提出課題の自習 授業　：課題Ⅰ　エスキース 復習　：提出課題の自習
6	堀邉　阿伊子 手塚　貴史	【第 6 回】 予習　：発表準備 授業　：　課題Ⅰ講評及び課題Ⅱ説明(基本ユニットによる三次元構造体の作成)（プレゼンテーション） 復習　：課題内容の確認
7	堀邉　阿伊子 手塚　貴史	【第 7 回】 予習　：提出課題の自習 授業　：課題Ⅱ　エスキース 復習　：提出課題の自習
8	堀邉　阿伊子 手塚　貴史	【第 8 回】 予習　：提出課題の自習 授業　：課題Ⅱ　エスキース 復習　：提出課題の自習
9	堀邉　阿伊子 手塚　貴史	【第 9 回】 予習　：提出課題の自習 授業　：課題Ⅱ　エスキース 復習　：提出課題の自習
10	堀邉　阿伊子 手塚　貴史	【第 10 回】 予習　：発表準備 授業　：課題Ⅱ講評及び課題Ⅲ説明（上記 2 課題の平面表現）（プレゼンテーション） 復習　：課題内容の確認
11	堀邉　阿伊子 手塚　貴史	【第 11 回】 予習　：提出課題の自習 授業　：課題Ⅲエスキース 復習　：提出課題の自習

12	堀邉　阿伊子 手塚　貴史	【第 12 回】 予習　：提出課題の自習 授業　：課題Ⅲエスキース 復習　：提出課題の自習
13	堀邉　阿伊子 手塚　貴史	【第 13 回】 予習　：提出課題の自習 授業　：課題Ⅲエスキース 復習　：提出課題の自習
14	堀邉　阿伊子 手塚　貴史	【第 14 回】 予習　：提出課題の自習 授業　：課題Ⅲエスキース 復習　：提出課題の自習
15	堀邉　阿伊子 手塚　貴史	【第 15 回】 予習　：発表準備 授業　：講評会及びまとめ（プレゼンテーション） 復習　：授業プロセスの振り返り

授業開始前学習	出来るだけ多くの建築雑誌、展覧会、建築等を見る事
授業内課題のフィードバックの方法	各課題終了時に講評会を行い、個別の質問に対応する。
テキスト・教材	特になし
参考書	適宜紹介する
評価の基準と方法	課題、授業に対する取り組み（エスキース）等を総合して評価する。配点（100 点満点に於ける）は、課題評価 40 点・エスキース 20 点・授業に対する取り組み 40 点とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		◎		△	

関連科目	建築・インテリアデザイン入門、プロダクトデザイン入門
その他	模型材料費若干必要な場合もある（費用は個人の材料選択による）
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-111	科目分類（～2024 年入学者）	140-311-11	授業コード	FG0041
科目名称	製図の基礎			単位数	2.0 単位
英文名称	Drafting Basics			授業区分	講義
科目責任者	李　志炯			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	李・立川			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	図面による建築空間の理解と図面表現の基礎的技術を学ぶ。企画・計画・設計・施工の一連の設計活動において、図面は最も重要な表現手段の 1 つであり、伝達手段である。建築図面の読み方を学び、図面から空間を正確に把握できるようにする。また、建築図面のトレース作業を通して、正確な図面表現技術の基礎を習得する。また、授業では個人演習やディスカッションを通して学びを深める。				
到達目標	設計やデザイン課題で必要となる図面表現の基礎的技術を習得すること。図面が示す空間を正しく理解し、また図面の種類に応じて空間を正確に図面化する手法を身に付けること。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	共同

授業回数	担当者	授業の内容
1	李　志炯 立川　静香	【第 1 回】 予習　：テキスト p.04-05、p.15 の精読 授業　：ガイダンス 復習　：製図の基本、製図用具の基本の復習
2	李　志炯 立川　静香	【第 2 回】 予習　：テキスト p.06-13 の精読 授業　：製図の用具、線の練習　p.06-13（個人演習・ディスカッション） 復習　：製図の用具、線の練習の復習
3	李　志炯 立川　静香	【第 3 回】 予習　：テキスト p.18-23 の精読 授業　：木造　平面図　通り芯・柱　p.18-23（個人演習・ディスカッション） 復習　：木造　平面図　通り芯・柱　までの製図仕上
4	李　志炯 立川　静香	【第 4 回】 予習　：テキスト p.18-23 の精読 授業　：木造　平面図　柱・壁　p.18-23（個人演習・ディスカッション） 復習　：木造　平面図　柱・壁までの製図仕上
5	李　志炯 立川　静香	【第 5 回】 予習　：テキスト p.18-23 の精読 授業　：木造　平面図　建具・家具　p.18-23（個人演習・ディスカッション） 復習　：木造　平面図　建具・家具までの製図仕上
6	李　志炯 立川　静香	【第 6 回】 予習　：テキスト p.18-23 の精読 授業　：木造　平面図　家具・設備機器　p.18-23（個人演習・ディスカッション） 復習　：木造　平面図　家具・設備機器までの製図仕上
7	李　志炯 立川　静香	【第 7 回】 予習　：テキスト p.18-23 の精読 授業　：木造　平面図　寸法・仕上げ　p.18-23（個人演習・ディスカッション） 復習　：木造　平面図　寸法・仕上げまでの製図仕上
8	李　志炯 立川　静香	【第 8 回】 予習　：テキスト p.24-27 の精読 授業　：木造　断面図　p.24-27（個人演習・ディスカッション） 復習　：木造　断面図の仕上げ
9	李　志炯 立川　静香	【第 9 回】 予習　：テキスト p.24-27 の精読 授業　：木造　断面図　p.24-27（個人演習・ディスカッション） 復習　：木造　断面図の完成
10	李　志炯 立川　静香	【第 10 回】 予習　：テキスト p.28-31 の精読 授業　：木造　立面図　p.28-31（個人演習・ディスカッション） 復習　：木造　立面図の完成
11	李　志炯 立川　静香	【第 11 回】 予習　：テキスト p.68-73 の精読 授業　：RC 造　平面図　p.68-73（個人演習・ディスカッション） 復習　：RC 造　平面図

12	李　志炯 立川　静香	【第 12 回】 予習　：テキスト p.68-73 の精読 授業　：RC 造　平面図 p.68-73（個人演習・ディスカッション） 復習　：RC 造　平面図
13	李　志炯 立川　静香	【第 13 回】 予習　：テキスト p.68-73 の精読 授業　：RC 造　平面図 p.68-73（個人演習・ディスカッション） 復習　：　RC 造　平面図の完成
14	李　志炯 立川　静香	【第 14 回】 予習　：テキスト p.74-77 の精読 授業　：RC 造　断面図 p.74-77（個人演習・ディスカッション） 復習　：RC 造　断面図の完成
15	李　志炯 立川　静香	【第 15 回】 予習　：テキスト p.74-77 の精読 授業　：RC 造　立面図 p.74-77（個人演習・ディスカッション） 復習　：RC 造　立面図の完成

授業開始前学習	
授業内課題のフィードバックの方法	授業前後および授業中に毎回個別エスキスを実施する。
テキスト・教材	「新しい建築の製図」 学芸出版社
参考書	
評価の基準と方法	授業態度と課題の総合点で評価する。 授業態度 20%　課題合計点 80%の配分とする。 出席回数が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は単位取得できない。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎		△	

関連科目	
その他	シャープペンシル・定規等の製図用具一式を毎回持参すること。 原則、製図用紙は課題ごとに配布する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-111	科目分類（～2024 年入学者）	140-311-11	授業コード	FG0042
科目名称	製図の基礎			単位数	2.0 単位
英文名称	Drafting Basics			授業区分	講義
科目責任者	李　志炯			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松元・小鹿			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	図面による建築空間の理解と図面表現の基礎的技術を学ぶ。企画・計画・設計・施工の一連の設計活動において、図面は最も重要な表現手段の 1 つであり、伝達手段である。建築図面の読み方を学び、図面から空間を正確に把握できるようにする。また、建築図面のトレース作業を通して、正確な図面表現技術の基礎を習得する。また、授業では個人演習やディスカッションを通して学びを深める。				
到達目標	設計やデザイン課題で必要となる図面表現の基礎的技術を習得すること。図面が示す空間を正しく理解し、また図面の種類に応じて空間を正確に図面化する手法を身に付けること。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	共同

授業回数	担当者	授業の内容
1	松元　良枝 小鹿　智代	【第 1 回】 予習　：テキスト p.04-05、p.15 の精読 授業　：ガイダンス 復習　：製図の基本、製図用具の基本の復習
2	松元　良枝 小鹿　智代	【第 2 回】 予習　：　テキスト p.06-13 の精読 授業　：製図の用具、線の練習　p.06-13（個人演習・ディスカッション） 復習　：　製図の用具、線の練習の復習
3	松元　良枝 小鹿　智代	【第 3 回】 予習　：　テキスト p.18-23 の精読 授業　：木造　　平面図　通り芯・柱　p.18-23（個人演習・ディスカッション） 復習　：　木造　　平面図　通り芯・柱　までの製図仕上
4	松元　良枝 小鹿　智代	【第 4 回】 予習　：　テキスト p.18-23 の精読 授業　：木造　　平面図　柱・壁　p.18-23（個人演習・ディスカッション） 復習　：木造　　平面図　柱・壁までの製図仕上
5	松元　良枝 小鹿　智代	【第 5 回】 予習　：　テキスト p.18-23 の精読 授業　：　木造　　平面図　建具・家具　p.18-23（個人演習・ディスカッション） 復習　：　木造　　平面図　建具・家具までの製図仕上
6	松元　良枝 小鹿　智代	【第 6 回】 予習　：　テキスト p.18-23 の精読 授業　：　木造　　平面図　家具・設備機器　p.18-23（個人演習・ディスカッション） 復習　：　木造　　平面図　家具・設備機器までの製図仕上
7	松元　良枝 小鹿　智代	【第 7 回】 予習　：テキスト p.18-23 の精読 授業　：木造　　平面図　寸法・仕上げ　p.18-23（個人演習・ディスカッション） 復習　：木造　　平面図　寸法・仕上げまでの製図仕上
8	松元　良枝 小鹿　智代	【第 8 回】 予習　：　テキスト p.24-27 の精読 授業　：木造　　断面図　p.24-27（個人演習・ディスカッション） 復習　：木造　　断面図の仕上げ
9	松元　良枝 小鹿　智代	【第 9 回】 予習　：　テキスト p.24-27 の精読 授業　：木造　　断面図　p.24-27（個人演習・ディスカッション） 復習　：木造　　断面図の完成
10	松元　良枝 小鹿　智代	【第 10 回】 予習　：　テキスト p.28-31 の精読 授業　：木造　　立面図　p.28-31（個人演習・ディスカッション） 復習　：木造　　立面図の完成
11	松元　良枝 小鹿　智代	【第 11 回】 予習　：　テキスト p.68-73 の精読 授業　：RC 造　　平面図　p.68-73（個人演習・ディスカッション） 復習　：RC 造　　平面図

12	松元　良枝 小鹿　智代	【第 12 回】 予習　：テキスト p.68-73 の精読 授業　：RC 造　平面図 p.68-73（個人演習・ディスカッション） 復習　：RC 造　平面図
13	松元　良枝 小鹿　智代	【第 13 回】 予習　：テキスト p.68-73 の精読 授業　：RC 造　平面図 p.68-73（個人演習・ディスカッション） 復習　：　RC 造　平面図の完成
14	松元　良枝 小鹿　智代	【第 14 回】 予習　：テキスト p.74-77 の精読 授業　：RC 造　断面図 p.74-77（個人演習・ディスカッション） 復習　：RC 造　断面図の完成
15	松元　良枝 小鹿　智代	【第 15 回】 予習　：テキスト p.74-77 の精読 授業　：RC 造　立面図 p.74-77（個人演習・ディスカッション） 復習　：RC 造　立面図の完成

授業開始前学習	
授業内課題のフィードバックの方法	授業前後および授業中に毎回個別エスキスを実施する。
テキスト・教材	「新しい建築の製図」 学芸出版社
参考書	
評価の基準と方法	授業態度と課題の総合点で評価する。 授業態度 20%　課題合計点 80%の配分とする。 出席回数が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は単位取得できない。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎		△	

関連科目	
その他	シャープペンシル・定規等の製図用具一式を毎回持参すること。 原則、製図用紙は課題ごとに配布する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-111 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	140-311-11 （J）	授業コード	FG0051
科目名称	図学と透視画の基礎			単位数	2.0 単位
英文名称	Descriptive Geometry and Perspective Drawing Basics			授業区分	講義
科目責任者	堀邉 阿伊子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	李・小鹿			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	空間や立体を正しく図面に表現する方法を、図法幾何学に沿って学ぶ。特に、建築・インテリア・造形に必要な透視図法(パース図法)による内観・外観の空間表現を中心に進める。またデザインの検証やプレゼンテーションに使用する、パース図の着色表現技術を習得する。授業では演習課題による実習と講評を行う。				
到達目標	設計やデザイン課題で必要となる立体表現の基礎的技術を習得すること。図面が示す空間や立体を正しく理解し、また空間や立体を正確に図面化する手法を身に付け、相応しい表現方法を選択できること。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態	共同				

授業回数	担当者	授業の内容
1	李 志炯 小鹿 智代	【第 1 回】 予習 ：「パース」「透視画」という言葉を調べておく 授業 ：ガイダンス p002-009 復習 ：必要製図用具を確認し、用意する
2	李 志炯 小鹿 智代	【第 2 回】 予習 ：製図用具の確認と持参 授業 ：基礎平面図形(1)（演習課題） 復習 ：3 次元を表す 2 次元図面名を覚える
3	李 志炯 小鹿 智代	【第 3 回】 予習 ：先回に書いた図面を確認、持参 授業 ：基礎平面図形(2)（演習課題） 復習 ：基礎平面図形配布資料と作成した図を確認
4	李 志炯 小鹿 智代	【第 4 回】 予習 ：正投影図(1) 事前配布資料を予習 授業 ：正投影図(1) （演習課題） p024-025, p052-053 復習 ：正投影図(1) 配布資料と作成した図を確認
5	李 志炯 小鹿 智代	【第 5 回】 予習 ：正投影図(2) 事前配布資料を予習 授業 ：正投影図(2) （演習課題） p024-025, p052-053 復習 ：正投影図(2) 配布資料と作成した図を確認
6	李 志炯 小鹿 智代	【第 6 回】 予習 ：内観パース(1) 事前配布資料を予習 授業 ：内観パース(1) 住宅（グリッド法 a） （演習課題） p052-069 復習 ：内観パース(1)配布資料と作成した図を確認
7	李 志炯 小鹿 智代	【第 7 回】 予習 ：内観パース(1)配布資料と作成した図の状況を確認 授業 ：内観パース(2) 住宅（グリッド法 a）着彩（演習課題） p052-069 復習 ：内観パース(2)配布資料と作成した図を確認
8	李 志炯 小鹿 智代	【第 8 回】 予習 ：内観パース （3） 用の事前配布資料を確認、予習 授業 ：内観パース(3) 住宅（グリッド法 b） （演習課題） p052-069 復習 ：内観パース(3)配布資料と作成した図を確認
9	李 志炯 小鹿 智代	【第 9 回】 予習 ：内観パース(3)で作成した図の進行状況を確認 し着彩用具準備 授業 ：内観パース(4) 住宅（グリッド法 b）着彩（演習課題） p052-069 復習 ：内観パース(4)配布資料と作成した図を確認
10	李 志炯 小鹿 智代	【第 10 回】 予習 ：内観パース （5） 用の事前配布資料を確認、予習 授業 ：内観パース(5) 住宅 （足線法） （演習課題） p052-069 復習 ：内観パース(5)配布資料と作成した図を確認
11	李 志炯 小鹿 智代	【第 11 回】 予習 ：内観パース(5)で作成した図の進行状況を確認 授業 ：内観パース(6) 住宅 （足線法） （演習課題） p052-069 復習 ：内観パース(6)配布資料と作成した図を確認

12	李　志炯 小鹿　智代	【第 12 回】 予習　：事前配布資料を確認、予習 授業　：外観パース(1) 商業施設（D 点法）（演習課題） 復習　：外観パース(1)配布資料と作成した図を確認
13	李　志炯 小鹿　智代	【第 13 回】 予習　：外観パース(1)で作成した図の状況を確認 し着彩用具準備 授業　：外観パース(2) 商業施設（D 点法）（演習課題） 復習　：外観パース(2)配布資料と作成した図を確認
14	李　志炯 小鹿　智代	【第 14 回】 予習　：外観パース(2)で作成した図の状況を確認 授業　：外観パース(3) 商業施設（D 点法）着彩（演習課題） 復習　：外観パース(3)配布資料と作成した図を確認
15	李　志炯 小鹿　智代	【第 15 回】 予習　：ここまでの各自の提出物状況を確認 授業　：講評 復習　：作成してきた図をすべて確認

授業開始前学習	製図の基礎　の学習内容を確認しておくと理解しやすい
授業内課題のフィードバックの方法	各課題の実施後に講評を行う。
テキスト・教材	村口峡子他著『新しいインテリアデザインの実技』（市ヶ谷出版社） その他、適宜必要資料を配布
参考書	
評価の基準と方法	積極的な取り組み等の受講態度 4 割、提出作品 6 割の総合的な判断に基づき評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎		△	

関連科目	製図の基礎
その他	製図用具一式、着色画材等を持参すること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	本科目は建築士として設計業務の実務経験を有する担当教員が指導する。

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-111 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	140-311-11 （Ｊ）	授業コード	FG0052
科目名称	図学と透視画の基礎			単位数	2.0 単位
英文名称	Descriptive Geometry and Perspective Drawing Basics			授業区分	講義
科目責任者	堀邉 阿伊子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	堀邉・立川			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	空間や立体を正しく図面に表現する方法を、図法幾何学に沿って学ぶ。特に、建築・インテリア・造形に必要な透視図法(パース図法)による内観・外観の空間表現を中心に進める。またデザインの検証やプレゼンテーションに使用する、パース図の着色表現技術を習得する。授業では演習課題による実習と講評を行う。				
到達目標	設計やデザイン課題で必要となる立体表現の基礎的技術を習得すること。図面が示す空間や立体を正しく理解し、また空間や立体を正確に図面化する手法を身に付け、相応しい表現方法を選択できること。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	共同

授業回数	担当者	授業の内容
1	堀邉 阿伊子 立川 静香	【第 1 回】 予習 ：「パース」「透視画」という言葉を調べておく 授業 ：ガイダンス p002-009 復習 ：必要製図用具を確認し、用意する
2	堀邉 阿伊子 立川 静香	【第 2 回】 予習 ：製図用具の確認と持参 授業 ：基礎平面図形(1)（演習課題） 復習 ：3 次元を表す 2 次元図面名を覚える
3	堀邉 阿伊子 立川 静香	【第 3 回】 予習 ：先回に書いた図面を確認、持参 授業 ：基礎平面図形(2)（演習課題） 復習 ：基礎平面図形配布資料と作成した図を確認
4	堀邉 阿伊子 立川 静香	【第 4 回】 予習 ：正投影図(1) 事前配布資料を予習 授業 ：正投影図(1) （演習課題） p024-025, p052-053 復習 ：正投影図(1) 配布資料と作成した図を確認
5	堀邉 阿伊子 立川 静香	【第 5 回】 予習 ：正投影図(2) 事前配布資料を予習 授業 ：正投影図(2) （演習課題） p024-025, p052-053 復習 ：正投影図(2) 配布資料と作成した図を確認
6	堀邉 阿伊子 立川 静香	【第 6 回】 予習 ：内観パース(1) 事前配布資料を予習 授業 ：内観パース(1) 住宅（グリッド法 a）（演習課題） p052-069 復習 ：内観パース(1)配布資料と作成した図を確認
7	堀邉 阿伊子 立川 静香	【第 7 回】 予習 ：内観パース(1)配布資料と作成した図の状況を確認 授業 ：内観パース(2) 住宅（グリッド法 a）着彩（演習課題） p052-069 復習 ：内観パース(2)配布資料と作成した図を確認
8	堀邉 阿伊子 立川 静香	【第 8 回】 予習 ：内観パース（3）用の事前配布資料を確認、予習 授業 ：内観パース(3) 住宅（グリッド法 b）（演習課題） p052-069 復習 ：内観パース(3)配布資料と作成した図を確認
9	堀邉 阿伊子 立川 静香	【第 9 回】 予習 ：内観パース(3)で作成した図の進行状況を確認 し着彩用具準備 授業 ：内観パース(4) 住宅（グリッド法 b）着彩（演習課題） p052-069 復習 ：内観パース(4)配布資料と作成した図を確認
10	堀邉 阿伊子 立川 静香	【第 10 回】 予習 ：内観パース（5）用の事前配布資料を確認、予習 授業 ：内観パース(5) 住宅 （足線法）（演習課題） p052-069 復習 ：内観パース(5)配布資料と作成した図を確認
11	堀邉 阿伊子 立川 静香	【第 11 回】 予習 ：内観パース(5)で作成した図の進行状況を確認 授業 ：内観パース(6) 住宅 （足線法）（演習課題） p052-069 復習 ：内観パース(6)配布資料と作成した図を確認

12	堀邉　阿伊子 立川　静香	【第 12 回】 予習　：事前配布資料を確認、予習 授業　：外観パース(1) 商業施設（D 点法）（演習課題） 復習　：外観パース(1)配布資料と作成した図を確認
13	堀邉　阿伊子 立川　静香	【第 13 回】 予習　：外観パース(1)で作成した図の状況を確認 し着彩用具準備 授業　：外観パース(2) 商業施設（D 点法）（演習課題） 復習　：外観パース(2)配布資料と作成した図を確認
14	堀邉　阿伊子 立川　静香	【第 14 回】 予習　：外観パース(2)で作成した図の状況を確認 授業　：外観パース(3) 商業施設（D 点法）着彩（演習課題） 復習　：外観パース(3)配布資料と作成した図を確認
15	堀邉　阿伊子 立川　静香	【第 15 回】 予習　：ここまでの各自の提出物状況を確認 授業　：講評 復習　：作成してきた図をすべて確認

授業開始前学習	製図の基礎　の学習内容を確認しておくと理解しやすい
授業内課題のフィードバックの方法	各課題の実施後に講評を行う。
テキスト・教材	村口峡子他著『新しいインテリアデザインの実技』（市ヶ谷出版社） その他、適宜必要資料を配布
参考書	
評価の基準と方法	積極的な取り組み等の受講態度 4 割、提出作品 6 割の総合的な判断に基づき評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎		△	

関連科目	製図の基礎
その他	製図用具一式、着色画材等を持参すること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	本科目は建築士として設計業務の実務経験を有する担当教員が指導する。

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-122 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	140-331-11 （Ｊ）	授業コード	FG0060
科目名称	建築・ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ入門			単位数	2.0 単位
英文名称	Introduction to Architecture and Interior Design			授業区分	講義
科目責任者	佐藤 勉			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	佐藤・茂木・山崎			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	建築・インテリア計画の基礎的なプロセスと考え方について学ぶ。日本の近代・現代における住宅作品を題材に、住宅の計画手法を習得する。また、身近な空間のスケール感を身につけ、インテリアの計画手法についても習得する。				
到達目標	建築やインテリアデザインの基本的な考え方を習得すること。図面の読み方、寸法計画、環境計画、内装計画などの空間デザインプロセスの基礎を理解し、建築・インテリアデザインを多面的な視点から捉えられること。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	共同

授業回数	担当者	授業の内容
1	佐藤 勉 茂木 弥生子 山崎 陽菜	【第 1 回】 予習 ：授業準備 授業 ：ガイダンス 復習 ：授業計画の確認
2	佐藤 勉 茂木 弥生子 山崎 陽菜	【第 2 回】 予習 ：住宅の建築計画 事前学習 授業 ：住宅の建築計画とは？ 復習 ：住宅の建築計画 資料確認
3	佐藤 勉 茂木 弥生子 山崎 陽菜	【第 3 回】 予習 ：寸法計画(1) 事前学習 授業 ：寸法計画(1) （演習課題） 復習 ：寸法計画(1) 資料確認
4	佐藤 勉 茂木 弥生子 山崎 陽菜	【第 4 回】 予習 ：敷地の読み方と分析 事前学習 授業 ：敷地の読み方と分析 （演習課題） 復習 ：敷地の読み方と分析 資料確認
5	佐藤 勉 茂木 弥生子 山崎 陽菜	【第 5 回】 予習 ：住宅の機能を考える 事前学習 授業 ：住宅の機能を考える （演習課題） 復習 ：住宅の機能を考える 資料確認
6	佐藤 勉 茂木 弥生子 山崎 陽菜	【第 6 回】 予習 ：住宅の動線計画を考える 事前学習 授業 ：住宅の動線計画を考える （演習課題） 復習 ：住宅の動線計画を考える 資料確認
7	佐藤 勉 茂木 弥生子 山崎 陽菜	【第 7 回】 予習 ：実際の住宅を分析・考察する 課題準備 授業 ：実際の住宅を分析・考察する【課題①】(1)（演習課題） 復習 ：実際の住宅を分析・考察する 課題作業
8	佐藤 勉 茂木 弥生子 山崎 陽菜	【第 8 回】 予習 ：実際の住宅を分析・考察する 課題作業 授業 ：実際の住宅を分析・考察する【課題①】(2)（演習課題） 復習 ：実際の住宅を分析・考察する 課題作業、まとめ
9	佐藤 勉 茂木 弥生子 山崎 陽菜	【第 9 回】 予習 ：住宅のインテリア計画 事前学習 授業 ：住宅のインテリア計画とは？ 復習 ：住宅のインテリア計画 資料確認
10	佐藤 勉 茂木 弥生子 山崎 陽菜	【第 10 回】 予習 ：寸法計画(2) 事前学習 授業 ：寸法計画(2) （演習課題） 復習 ：寸法計画(2) 資料確認
11	佐藤 勉 茂木 弥生子 山崎 陽菜	【第 11 回】 予習 ：図面の読み方 事前学習 授業 ：図面の読み方 （演習課題） 復習 ：図面の読み方 資料確認

12	佐藤　勉 茂木　弥生子 山崎　陽菜	【第 12 回】 予習　：室内環境の考え方　事前学習 授業　：室内環境の考え方　（演習課題） 復習　：室内環境の考え方　資料確認
13	佐藤　勉 茂木　弥生子 山崎　陽菜	【第 13 回】 予習　：内装計画の考え方　事前学習 授業　：内装計画の考え方　（演習課題） 復習　：内装計画の考え方　資料確認
14	佐藤　勉 茂木　弥生子 山崎　陽菜	【第 14 回】 予習　：実際の住宅インテリアを分析・考察する　課題準備 授業　：実際の住宅インテリアを分析・考察する【課題②】(1)（演習課題） 復習　：実際の住宅インテリアを分析・考察する　課題作業
15	佐藤　勉 茂木　弥生子 山崎　陽菜	【第 15 回】 予習　：実際の住宅インテリアを分析・考察する　課題作業 授業　：実際の住宅インテリアを分析・考察する【課題②】(2)（プレゼンテーション） 復習　：実際の住宅インテリアを分析・考察する　課題まとめ

授業開始前学習	前期「製図の基礎」科目の内容を見直してしておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	課題提出後の授業で講評を行う。
テキスト・教材	特になし
参考書	
評価の基準と方法	課題と授業態度等を総合して評価する。 配点（100 点満点）は、課題①30 点、課題②30 点、授業態度等 40 点とする。 出席回数が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は単位取得できない。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		○		◎		△	

関連科目	
その他	必要な道具等は授業中に適宜説明する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	本科目は複数の担当者が協同で指導する科目であり、担当教員全員が建築・インテリアデザイン分野の実務経験を有している。本科目ではその経験を活かし、受講生が建築・インテリアデザインの実務に役立つ講義と実習を行う。

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-121 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	140-330-11 （Ｊ）	授業コード	FG0070
科目名称	ﾌﾟﾛﾀﾞｸﾄﾃﾞｻﾞｲﾝ入門			単位数	2.0 単位
英文名称	Introduction to Product Design			授業区分	講義
科目責任者	李 志炯			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	李 志炯			開講時期	1 年
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～10:30 水曜日 14:40～16:10 後期 火曜日 09:00～10:30 水曜日 16:20～17:50			研究室	1-207
授業概要	この授業ではプロダクトデザインの背景、社会との関連性、デザインプロセス、ユーザ調査のための手法とデータの分析、コンセプト作成のための手法などプロダクトをデザインする際に必要な基礎を学びます。				
到達目標	・デザインプロセスを理解し、基礎を身に付けることを目標とします。 ・プロダクト、建築、インテリア等さまざまなデザイン分野の事例を通してデザイン発想法を学びます。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	李 志炯	【第 1 回】 予習：シラバスを読む。シラバスに記載されている参考書の第 1 章を読む。 授業：プロダクトデザインとは。 復習：書籍、インターネット等でプロダクトデザインについて調べる。
2	李 志炯	【第 2 回】 予習：プロダクトデザインの範囲について調査する。 授業：テキスタイルデザイン・陶芸デザイン・家具デザインとは。 復習：テキスタイルデザイン・陶芸デザイン・家具デザインの種類と手法について調べる。
3	李 志炯	【第 3 回】 予習：シラバスに記載されている参考書の第 2、3 章を読む。 授業：プロダクトデザインと社会、プロダクトデザインとビジネス 復習：書籍、インターネット等でプロダクトデザインと社会の関係について調べる。
4	李 志炯	【第 4 回】 予習：シラバスに記載されている参考書の第 4 章を読む。 授業：デザインプロセスについて。ユーザ調査のための手法。 復習：書籍、インターネット等でデザインプロセスについて調べる。
5	李 志炯	【第 5 回】 予習：シラバスに記載されている参考書の第 5 章を読む。 授業：ユーザ調査の事例を紹介。統計学を用いた調査データの分析方法について。 復習：書籍、インターネット等で統計学について調べる。
6	李 志炯	【第 6 回】 予習： デザイン分野におけるユーザ調査の意義について調べる。 授業：インテリアデザインにおけるユーザ調査と分析データの活用について。 復習：各デザイン分野におけるユーザ調査と分析データの活用について調べる。
7	李 志炯	【第 7 回】 予習：ユーザ調査の分析データの活用性について調べる。 授業：ユーザ調査と分析データの活用について。関連の課題を実施（課題①）。 復習：書籍、インターネット等でユーザ調査の分析データの活用性について調べる。
8	李 志炯	【第 8 回】 予習：ユーザ調査の分析データの活用性について調べる。 授業：課題①のデータを用いたユーザ調査と分析データの活用について。 復習：課題①のデータの分析方法について調べる。
9	李 志炯	【第 9 回】 予習：シラバスに記載されている参考書の第 6、7 章を読む。 授業：コンセプト作成のための手法。視覚化のための手法。 復習：書籍、インターネット等でコンセプトの意義と手法について調べる。
10	李 志炯	【第 10 回】 予習 ：コンセプト作成について調べる。 授業 ：コンセプト作成と視覚化について。関連の課題を実施（課題②）。 復習 ：第 10 回目の資料をもう一度確認する。
11	李 志炯	【第 11 回】 予習 ：デザイン分野における発想力の重要性について調べる。 授業 ：コンセプトと発想について。 復習 ：第 11 回目の資料をもう一度確認する。

12	李 志炯	【第 12 回】 予習 ：書籍、インターネット等で舞台デザインについて調べる。 授業 ：舞台デザインと発想について。関連の課題を実施（課題③）。 復習 ：第 12 回目の資料をもう一度確認する。
13	李 志炯	【第 13 回】 予習：デザイン発想法について調べる。 授業：課題②のデータを用いたデザイン発想法について。 復習：課題②のデータをもう一度確認する。
14	李 志炯	【第 14 回】 予習 ：書籍、インターネット等で文化と住まいについて調べる。 授業 ：文化と発想について。関連の課題を実施（課題④）。 復習 ：第 14 回目の資料をもう一度確認する。
15	李 志炯	【第 15 回】 予習 ：身近にあるくらしの環境とデザインについて調べる。 授業 ：くらしの環境とデザインについて。 復習 ：第 1 ～14 回目の資料をもう一度確認する。

授業開始前学習	プロダクトデザインに関する書籍を読むこと。
授業内課題のフィードバックの方法	この授業では課題を 4 回行います。各課題の回答案を授業で共有し、自分と他者の考えの差異を確認します。また、その差異を理解し、それを基に多様な発想ができるように授業中に討論します。
テキスト・教材	配付資料
参考書	プロダクトデザインの基礎・スマートな生活を実現する 71 の知識（株式会社ワークスコーポレーション）
評価の基準と方法	授業への取り組み 30%、課題、レポートなど提出物 7 0%で評価。 出席が 3 分 2 以下、または提出物が不足している場合は単位取得できない。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		○		◎		△	

関連科目	「建築・インテリアデザイン入門」 "リビングデザイン"はくらしの場である空間のデザインとくらしの道具であるもののデザインを同時に学ぶことで身につきます。
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	この授業では、プロダクトデザインの実務経験がある教員が担当し実際の制作に関する知識を生かした現実的な指導が受けられます。

科目分類（2025年～入学者）	SD-M-222 （J）	科目分類（～2024年入学者）	140-331-22 （J）	授業コード	FG0080
科目名称	設計製図Ⅰ			単位数	2.0単位
英文名称	Design and Drafting Ⅰ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	三戸 美代子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	佐藤(勉)・三戸・秋山・徳田・真泉			開講時期	2年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	小店舗を併用した住宅の計画及び設計を行う。敷地に対して最適な住宅の計画、設計、小店舗部分についてはインテリアの計画を行い、建築設計とインテリアデザインを総合的に学ぶ。図面作成方法やプレゼンテーション手法なども指導する。授業では、与えられた課題に対しての実習、ディスカッション、プレゼンテーションなどを行う。				
到達目標	住宅の計画および設計、建築図面の作成の基礎を修得する。 インテリアデザインの計画および設計、インテリア図面の作成の基礎を修得する。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	共同

授業回数	担当者	授業の内容
1	秋山 照夫 佐藤 勉 徳田 慎一 真泉 洋介 三戸 美代子	【第1回】 予習 ：シラバスを確認しておく 授業 ： ガイダンスと課題「小店舗併用住宅」の説明 復習 ：材料、道具の確認
2	秋山 照夫 佐藤 勉 徳田 慎一 真泉 洋介 三戸 美代子	【第2回】 予習 ：敷地分析と規模確認 授業 ：敷地分析と事例研究（実習）（プレゼンテーション） 復習 ：事例収集
3	秋山 照夫 佐藤 勉 徳田 慎一 真泉 洋介 三戸 美代子	【第3回】 予習 ：店舗のプログラム構想 授業 ： エスキース（実習）（ディスカッション） 復習 ：チェックされた部分の確認・修正
4	秋山 照夫 佐藤 勉 徳田 慎一 真泉 洋介 三戸 美代子	【第4回】 予習 ：中間発表用図面作成 授業 ：中間発表（プレゼンテーション） 復習 ：中間発表の講評確認
5	秋山 照夫 佐藤 勉 徳田 慎一 真泉 洋介 三戸 美代子	【第5回】 予習 ：修正・検討 授業 ：エスキース（実習）（ディスカッション） 復習 ：チェックされた部分の確認・修正
6	秋山 照夫 佐藤 勉 徳田 慎一 真泉 洋介 三戸 美代子	【第6回】 予習 ：修正・検討 授業 ：建築図面の作成（実習） 復習 ：チェックされた部分の確認・修正
7	秋山 照夫 佐藤 勉 徳田 慎一 真泉 洋介 三戸 美代子	【第7回】 予習 ：修正・検討 授業 ：建築図面の作成、模型制作（実習） 復習 ：チェックされた部分の確認・修正
8	秋山 照夫 佐藤 勉 徳田 慎一 真泉 洋介 三戸 美代子	【第8回】 予習 ：模型材料購入 授業 ：模型制作（実習） 復習 ：模型作業続き
9	秋山 照夫 佐藤 勉 徳田 慎一 真泉 洋介 三戸 美代子	【第9回】 予習 ：事例収集 授業 ：小店舗のインテリア計画（実習） 復習 ：修正・検討

10	秋山　照夫 佐藤　勉 徳田　慎一 真泉　洋介 三戸　美代子	【第 10 回】 予習　：修正・検討 授業　：エスキース（実習）（ディスカッション） 復習　：チェックされた部分の確認・修正
11	秋山　照夫 佐藤　勉 徳田　慎一 真泉　洋介 三戸　美代子	【第 11 回】 予習　：図面の作図方法確認 授業　：インテリア図面の作成（実習） 復習　：修正・検討
12	秋山　照夫 佐藤　勉 徳田　慎一 真泉　洋介 三戸　美代子	【第 12 回】 予習　：修正図面作図 授業　：インテリア図面の作成（実習） 復習　：修正・検討
13	秋山　照夫 佐藤　勉 徳田　慎一 真泉　洋介 三戸　美代子	【第 13 回】 予習　：模型制作準備 授業　：インテリア模型の作成（実習） 復習　：修正・検討
14	秋山　照夫 佐藤　勉 徳田　慎一 真泉　洋介 三戸　美代子	【第 14 回】 予習　：模型制作準備 授業　：インテリア模型の作成（実習） 復習　：修正・検討
15	秋山　照夫 佐藤　勉 徳田　慎一 真泉　洋介 三戸　美代子	【第 15 回】 予習　：提出準備 授業　：プレゼンテーション・講評（プレゼンテーション） 復習　：　講評確認・作品記録

授業開始前学習	「製図の基礎」で学んだ製図方法、「建築・インテリアデザイン入門」で修得した模型表現について復習しておく。
授業内課題のフィードバックの方法	毎回の授業で教員のチェックを受け、内容についてアドバイスを行う。 第 4 回、第 1 5 回のプレゼンテーションについては講評を行う。
テキスト・教材	
参考書	「建築計画設計シリーズ 41　新・住宅Ｉ」（市ヶ谷出版社） 「新しいインテリアデザインの実技」（市ヶ谷出版社） 「第 3 版コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編（丸善出版）
評価の基準と方法	課題作品点と平常点（授業態度など・提出期限厳守）を総合して評価する。 配点（100 点満点）は、課題作品点 70 点、平常点３０点とする。 出席回数が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は単位取得できない。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		◎	△	○	

関連科目	関連科目　建築・インテリアデザイン入門、建築計画 A、インテリアデザイン計画 A
その他	建築・インテリアデザイン入門を修得しないと履修できない。（段階科目） 建築計画 A およびインテリアデザイン計画 A と同時に履修する事を勧める。 製図道具（製図用ペン、面取り三角定規等）、模型制作に必要な道具（カッター、カッターマット、スチレンのり、金じゃく、ピンセット等）と材料は個人で購入になるが、授業中に適宜説明する。 授業開始後すぐに作業の説明等があるため、遅刻は厳禁。遅刻 3 回で欠席 1 回分とする。 履修者を 6 グループに分け、それぞれ担当の教員が受け持つ。担当や教場については初回授業でアナウンスする
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間＋予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	本科目は建築士として設計業務の実務経験を有する複数の担当教員が指導する。

科目分類（2025年～入学者）	SD-M-222 （J）	科目分類（～2024年入学者）	140-331-22 （J）	授業コード	FG0091
科目名称	設計製図Ⅱ			単位数	2.0単位
英文名称	Design and Drafting II			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	茂木 弥生子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	茂木・川村・岸井			開講時期	2年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	シェアハウスの計画及び設計を行う。敷地分析からコンセプトの立案、平面・断面・動線計画、インテリア計画、ランドスケープ計画などを踏まえた総合的な建築・インテリアデザインの計画・設計スキルを学ぶ。計画内容を図面や模型等で表現し、プレゼンテーションを行う。				
到達目標	建築・インテリアデザインの総合的な計画・設計スキルを習得する。建築・インテリアデザインの図面や模型等の作成方法やプレゼンテーション力を習得する。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態	共同				

授業回数	担当者	授業の内容
1	川村 翔 茂木 弥生子 岸井 智子	【第1回】 予習 ：シラバスの内容を確認する 授業 ：ガイダンスと課題「シェアハウス」の説明 復習 ：配布資料を再読し、理解を深める
2	川村 翔 茂木 弥生子 岸井 智子	【第2回】 予習 ：シェアハウスの資料収集を行う 授業 ：敷地分析・コンセプト立案・事例研究（実習） 復習 ：事例研究を行う
3	川村 翔 茂木 弥生子 岸井 智子	【第3回】 予習 ：雑誌や書籍、ネット等を活用してシェアハウスの資料収集を行う 授業 ：エスキース（実習） 復習 ：エスキースで指摘された箇所について改善する
4	川村 翔 茂木 弥生子 岸井 智子	【第4回】 予習 ：エスキースのための準備をする 授業 ：エスキース（実習） 復習 ：エスキースで指摘された箇所について改善する
5	川村 翔 茂木 弥生子 岸井 智子	【第5回】 予習 ：エスキースのための準備をする 授業 ：エスキース（実習） 復習 ：エスキースで指摘された箇所について改善する
6	川村 翔 茂木 弥生子 岸井 智子	【第6回】 予習 ：中間発表の準備をする 授業 ：中間発表1（基本計画について）（プレゼンテーション） 復習 ：講評で指摘された箇所について改善する
7	川村 翔 茂木 弥生子 岸井 智子	【第7回】 予習 ：エスキースのための準備をする 授業 ：エスキース（実習） 復習 ：エスキースで指摘された箇所について改善する
8	川村 翔 茂木 弥生子 岸井 智子	【第8回】 予習 ：製図作業を進める 授業 ：建築図面の作成（実習） 復習 ：製図作業を進めた図面に間違え等ないかチェックする
9	川村 翔 茂木 弥生子 岸井 智子	【第9回】 予習 ：製図作業を進める 授業 ：建築図面の作成（実習） 復習 ：製図作業を進めた図面に間違え等ないかチェックする
10	川村 翔 茂木 弥生子 岸井 智子	【第10回】 予習 ：製図作業を進める 授業 ：建築図面の作成（実習） 復習 ：製図作業を進めた図面に間違え等ないかチェックする
11	川村 翔 茂木 弥生子 岸井 智子	【第11回】 予習 ：中間発表の準備をする 授業 ：中間発表2（図面レイアウトについて）（プレゼンテーション） 復習 ：講評で指摘された箇所について改善する

12	川村　翔 茂木　弥生子 岸井　智子	【第 12 回】 予習　：インテリア図面作業を進める 授業　：インテリア図面の作成（実習） 復習　：作業を進めた図面に間違え等ないかチェックする
13	川村　翔 茂木　弥生子 岸井　智子	【第 13 回】 予習　：インテリア図面作業を進める 授業　：インテリア図面の作成（実習） 復習　：作業を進めた図面に間違え等ないかチェックする
14	川村　翔 茂木　弥生子 岸井　智子	【第 14 回】 予習　：模型材料を準備する 授業　：プレゼンテーションシート・模型の作成（実習） 復習　：プレゼンテーションシート・模型を完成させる
15	川村　翔 茂木　弥生子 岸井　智子	【第 15 回】 予習　：プレゼンテーションの準備をする 授業　：発表・講評（プレゼンテーション） 復習　：講評内容をもとに、自己評価を行う

授業開始前学習	「設計製図Ⅰ」の課題を見直し、自己評価をまとめておく。
授業内課題のフィードバックの方法	エスキース中の個別質問にはその都度回答する。また中間発表を重ねることで、学生間の学び合いを促進する。各講評では全員へ抑えるべきポイントを伝達する。
テキスト・教材	適宜資料を配布する。
参考書	「建築計画設計シリーズ 41　新・住宅Ⅰ」（市ヶ谷出版社）　「新しいインテリアデザインの実技」（市ヶ谷出版社） 「第 4 版コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編（丸善出版）
評価の基準と方法	課題とプレゼンテーション、授業態度を総合して評価する。 配点（100 点満点)は、課題 50 点、プレゼンテーション 20 点、授業態度 30 点とする。 出席回数が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は単位取得できない。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		◎	△	○	

関連科目	設計製図Ⅰ、建築計画 A、インテリアデザイン計画 A
その他	製図道具（製図用ペン、面取り三角定規等）、模型制作に必要な道具（カッター、カッターマット、スチレンのり、金じゃく、ピンセット等）と材料は個人で購入になるが、授業中に適宜説明する。
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間＋予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	本科目の担当者は建築・インテリアの実務経験を有しており、その経験を活かして建築・インテリアデザインの実習を行う。

科目分類（2025年～入学者）	SD-M-222 （J）	科目分類（～2024年入学者）	140-331-22 （J）	授業コード	FG0092
科目名称	設計製図Ⅱ			単位数	2.0単位
英文名称	Design and Drafting II			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	茂木 弥生子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	神村・松元・内海			開講時期	2年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	シェアハウスの計画及び設計を行う。敷地分析からコンセプトの立案、平面・断面・動線計画、インテリア計画、ランドスケープ計画などを踏まえた総合的な建築・インテリアデザインの計画・設計スキルを学ぶ。計画内容を図面や模型等で表現し、プレゼンテーションを行う。				
到達目標	建築・インテリアデザインの総合的な計画・設計スキルを習得する。建築・インテリアデザインの図面や模型等の作成方法やプレゼンテーション力を習得する。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態	共同				

授業回数	担当者	授業の内容
1	神村 真由美 松元 良枝 内海 繁	【第1回】 予習 ：シラバスの内容を確認する 授業 ：ガイダンスと課題「シェアハウス」の説明 復習 ：配布資料を再読し、理解を深める
2	神村 真由美 松元 良枝 内海 繁	【第2回】 予習 ：シェアハウスの資料収集を行う 授業 ：敷地分析・コンセプト立案・事例研究（実習） 復習 ：事例研究を行う
3	神村 真由美 松元 良枝 内海 繁	【第3回】 予習 ：雑誌や書籍、ネット等を活用してシェアハウスの資料収集を行う 授業 ：エスキース（実習） 復習 ：エスキースで指摘された箇所について改善する
4	神村 真由美 松元 良枝 内海 繁	【第4回】 予習 ：エスキースのための準備をする 授業 ：エスキース（実習） 復習 ：エスキースで指摘された箇所について改善する
5	神村 真由美 松元 良枝 内海 繁	【第5回】 予習 ：エスキースのための準備をする 授業 ：エスキース（実習） 復習 ：エスキースで指摘された箇所について改善する
6	神村 真由美 松元 良枝 内海 繁	【第6回】 予習 ：中間発表の準備をする 授業 ：中間発表1（基本計画について）（プレゼンテーション） 復習 ：講評で指摘された箇所について改善する
7	神村 真由美 松元 良枝 内海 繁	【第7回】 予習 ：エスキースのための準備をする 授業 ：エスキース（実習） 復習 ：エスキースで指摘された箇所について改善する
8	神村 真由美 松元 良枝 内海 繁	【第8回】 予習 ：製図作業を進める 授業 ：建築図面の作成（実習） 復習 ：製図作業を進めた図面に間違え等ないかチェックする
9	神村 真由美 松元 良枝 内海 繁	【第9回】 予習 ：製図作業を進める 授業 ：建築図面の作成（実習） 復習 ：製図作業を進めた図面に間違え等ないかチェックする
10	神村 真由美 松元 良枝 内海 繁	【第10回】 予習 ：製図作業を進める 授業 ：建築図面の作成（実習） 復習 ：製図作業を進めた図面に間違え等ないかチェックする
11	神村 真由美 松元 良枝 内海 繁	【第11回】 予習 ：中間発表の準備をする 授業 ：中間発表2（図面レイアウトについて）（プレゼンテーション） 復習 ：講評で指摘された箇所について改善する

12	神村　真由美 松元　良枝 内海　繁	【第 12 回】 予習　：インテリア図面作業を進める 授業　：インテリア図面の作成（実習） 復習　：作業を進めた図面に間違え等ないかチェックする
13	神村　真由美 松元　良枝 内海　繁	【第 13 回】 予習　：インテリア図面作業を進める 授業　：インテリア図面の作成（実習） 復習　：作業を進めた図面に間違え等ないかチェックする
14	神村　真由美 松元　良枝 内海　繁	【第 14 回】 予習　：模型材料を準備する 授業　：プレゼンテーションシート・模型の作成（実習） 復習　：プレゼンテーションシート・模型を完成させる
15	神村　真由美 松元　良枝 内海　繁	【第 15 回】 予習　：プレゼンテーションの準備をする 授業　：発表・講評（プレゼンテーション） 復習　：講評内容をもとに、自己評価を行う

授業開始前学習	「設計製図Ⅰ」の課題を見直し、自己評価をまとめておく。
授業内課題のフィードバックの方法	エスキース中の個別質問にはその都度回答する。また中間発表を重ねることで、学生間の学び合いを促進する。各講評では全員へ抑えるべきポイントを伝達する。
テキスト・教材	適宜資料を配布する。
参考書	「建築計画設計シリーズ 41　新・住宅Ⅰ」（市ヶ谷出版社）　「新しいインテリアデザインの実技」（市ヶ谷出版社） 「第 4 版コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編（丸善出版）
評価の基準と方法	課題とプレゼンテーション、授業態度を総合して評価する。 配点（100 点満点)は、課題 50 点、プレゼンテーション 20 点、授業態度 30 点とする。 出席回数が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は単位取得できない。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		◎	△	○	

関連科目	設計製図Ⅰ、建築計画 A、インテリアデザイン計画 A
その他	製図道具（製図用ペン、面取り三角定規等）、模型制作に必要な道具（カッター、カッターマット、スチレンのり、金じゃく、ピンセット等）と材料は個人で購入になるが、授業中に適宜説明する。
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間＋予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	本科目の担当者は建築・インテリアの実務経験を有しており、その経験を活かして建築・インテリアデザインの実習を行う。

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-221	科目分類（～2024 年入学者）	140-330-12	授業コード	FG0111
科目名称	ｸﾞﾗﾌｨｯｸﾃﾞｻﾞｲﾝ			単位数	2.0 単位
英文名称	Graphic Design			授業区分	講義
科目責任者	鈴木　利彦			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鈴木　利彦			開講時期	2･3･4 年
オフィスアワー	前期　火曜日 09:00～12:10 後期　火曜日 09:00～12:10			研究室	10-509
授業概要	グラフィックデザインは、画像・文字・記号といった要素どうしが平面上にレイアウトされることで関わり合い、さまざまな情報を伝達するというコミュニケーション手段です。授業では具体的な作品事例を挙げて解説し、グラフィック要素のそれぞれ固有の特徴や、伝える／伝わる内容の違いを理解していきます。また、小型グラフィックを実作する課題をとおして、平面表現と空間表現に広く応用できる知識と技術を養います。				
到達目標	・グラフィックデザインの基礎的技法を修得し、平面表現に独創性を持って用いることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	鈴木　利彦	【第 1 回】 予習：身の回りにある「グラフィックデザイン」に注目し、写真撮影やスクリーンショットなどで採集してみる。 授業：グラフィックデザインの概説 復習：引き続き、グラフィックデザイン作品や事例を自分なりに採集する。
2	鈴木　利彦	【第 2 回】 予習：好きな絵画／イラストレーション／写真に注目し、写真撮影やスクリーンショットなどで採集してみる。 授業：グラフィックエレメントの概説① 絵画・写真 復習：引き続き、写真や絵画などのグラフィック作品や事例を自分なりに採集する。
3	鈴木　利彦	【第 3 回】 予習：好きなデザインフォントに注目し、写真撮影やスクリーンショットなどで採集してみる。 授業：グラフィックエレメントの概説② 文字 復習：引き続き、文字（フォント）が特徴的なグラフィック作品や事例を自分なりに採集する。
4	鈴木　利彦	【第 4 回】 予習：身の回りにある記号やピクトグラムに注目し、写真撮影やスクリーンショットなどで採集してみる。 授業：グラフィックエレメントの概説③ 記号・ピクトグラム 復習：引き続き、記号やピクトグラムが特徴的なグラフィック作品や事例を自分なりに採集する。
5	鈴木　利彦	【第 5 回】 予習：好きな色使いの写真・イラストレーション・絵画・ポスターなどに注目し、写真撮影やスクリーンショットなどで採集してみる。 授業：グラフィックエレメントの概説④ 色彩 復習：引き続き、色彩や色使いが特徴的なグラフィック作品や事例を自分なりに採集する。
6	鈴木　利彦	【第 6 回】 予習：今まで採集したグラフィック作品や事例を整理しておく。 授業：デザインエレメントの概説① 点・線・面・色 復習：授業を受けて、採集したグラフィック作品や事例を分けてみたり、追加したりする。
7	鈴木　利彦	【第 7 回】 予習：今まで採集したグラフィック作品や事例を整理しておく。 授業：デザインエレメントの概説② 立体・空間・時間・音 復習：授業を受けて、採集したグラフィック作品や事例を分けてみたり、追加したりする。
8	鈴木　利彦	【第 8 回】 予習：授業クラスルーム掲出資料の確認をして、一読しておく。 授業：視覚の原理と心理　感覚・認知・意識・錯覚 復習：授業クラスルーム掲出資料の確認をして、次回授業の準備をしておく。
9	鈴木　利彦	【第 9 回】 予習：授業クラスルーム掲出資料の確認をして、授業の準備をしておく。 授業：形と中身の関係① ピクトグラムの作成（１）課題説明 復習：課題説明を受けて、授業内制作のためのエスキースをしておく。
10	鈴木　利彦	【第 10 回】 予習：授業クラスルーム掲出資料の確認をして、一読しておく。 授業：形と中身の関係② ピクトグラムの作成（２）授業内制作 復習：授業クラスルーム掲出資料の確認をして、次回授業の準備をしておく。
11	鈴木　利彦	【第 11 回】 予習：授業クラスルーム掲出資料の確認をして、授業準備をしておく。 授業：形と中身の関係③ ピクトグラムの作成（３）進捗状況の共有 復習：授業内での全体エスキースを受けて、課題提出の準備をしておく。

12	鈴木　利彦	【第 12 回】 予習：制作した課題作品の提出と作品講評の準備をしておく。 授業：形と中身の関係④ ピクトグラムの作成（４）作品講評と解説 復習：講評コメントを提出する。
13	鈴木　利彦	【第 13 回】 予習：授業クラスルーム掲出資料の確認をして、授業の準備をしておく。 授業：レイアウトの手法 復習：レイアウト手法についての授業コメントを提出する。
14	鈴木　利彦	【第 14 回】 予習：授業クラスルーム掲出資料の確認をして、授業の準備をしておく。 授業：デザインの手法 復習：デザイン手法についての授業コメントを提出する。
15	鈴木　利彦	【第 15 回】 予習：授業クラスルーム掲出資料の確認をして、授業の準備をしておく。 授業：グラフィックデザインの総論 復習：グラフィックデザインについての授業コメントを提出する。

授業開始前学習	身の回りにある「グラフィックデザイン」と思われるものを、自分なりに見つけて、写真に撮って記録をしておく。
授業内課題のフィードバックの方法	授業に関する質問などについては、授業クラスルームをとおして適宜講評および説明を行います。 また、提出課題についてはエスキースや講評を行います。
テキスト・教材	授業やクラスルームで適宜紹介します。
参考書	授業やクラスルームで適宜紹介します。
評価の基準と方法	平常点（授業態度・提出期限厳守）、課題内容により評価します。 平常点 30 点、課題内容 70 点とします。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		○		◎			

関連科目	ｲﾝﾃﾘｱ･ｸﾞﾗﾌｨｯｸｽ／ｸﾞﾗﾌｨｯｸ･ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-221	科目分類（～2024 年入学者）	140-331-12	授業コード	FG0120
科目名称	福祉住環境ﾃﾞｻﾞｲﾝ			単位数	2.0 単位
英文名称	Housing Environment for Elderly and Disabled			授業区分	講義
科目責任者	茂木　弥生子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	茂木　弥生子			開講時期	2･3･4 年
オフィスアワー	前期　火曜日 13:00～14:30　木曜日 13:00～14:30 後期　水曜日 10:40～12:10　木曜日 13:00～14:30			研究室	1-203
授業概要	高齢者や障がい者を取り巻く社会状況を把握し、福祉住環境に関連する分野についての基礎的な知識を身につける。また、高齢者や障がい者が安全・安心して生活するための具体的な住環境整備の手法を学ぶ。				
到達目標	福祉の視点から住環境について考え、高齢者や障がい者が安全・安心して生活できる環境を整備するための手法や、その背景にある社会制度などについての基礎的な知識を習得する。高齢者や障がい者の身体的・精神的特性を理解したうえで、住環境を整備するための具体的な手法を習得する。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	茂木　弥生子	【第 1 回】 予習　：シラバスの内容を確認する 授業　：ガイダンス 復習　：配布資料を再読し、理解を深める
2	茂木　弥生子	【第 2 回】 予習　：テキスト（指定されたページ）を読む 授業　：少子高齢社会の現状と福祉住環境整備の重要性（演習課題 1） 復習　：テキストを再読し、「少子高齢社会の現状と福祉住環境整備の重要性」について復習する
3	茂木　弥生子	【第 3 回】 予習　：テキスト（指定されたページ）を読む 授業　：福祉に関する制度としくみ（演習課題 2） 復習　：テキストを再読し、「福祉に関する制度としくみ」について復習する
4	茂木　弥生子	【第 4 回】 予習　：テキスト（指定されたページ）を読む 授業　：高齢者や障害者の日常生活（演習課題 3） 復習　：テキストを再読し、「高齢者や障害者の日常生活について」復習する
5	茂木　弥生子	【第 5 回】 予習　：テキスト（指定されたページ）を読む 授業　：住まいの整備のための基本技術　①移動　（演習課題 4） 復習　：テキストを再読し、「移動ための基本技術」について復習する
6	茂木　弥生子	【第 6 回】 予習　：テキスト（指定されたページ）を読む 授業　：住まいの整備のための基本技術　②水廻り　（演習課題 5） 復習　：テキストを再読し、「水廻りの基本技術」について復習する
7	茂木　弥生子	【第 7 回】 予習　：テキスト（指定されたページ）を読む 授業　：住まいの整備のための基本技術　③温熱環境　（演習課題 6） 復習　：テキストを再読し、「温熱環境の基本技術」について復習する
8	茂木　弥生子	【第 8 回】 予習　：テキスト（指定されたページ）を読む 授業　：住まいの整備のための基本技術　④インテリアデザイン　（演習課題 7） 復習　：テキストを再読し、「インテリアデザインの基本技術」について復習する
9	茂木　弥生子	【第 9 回】 予習　：テキスト（指定されたページ）を読む 授業　：住まいの整備のための基本技術　⑤屋外空間（演習課題 8） 復習　：テキストを再読し、「屋外空間の基本技術」について復習する
10	茂木　弥生子	【第 10 回】 予習　：体験場所について調べる 授業　：身近なバリアフリーを考える①（フィールドワーク） 復習　：演習課題をまとめる
11	茂木　弥生子	【第 11 回】 予習　：テキスト（指定されたページ）を読む 授業　：高齢期の住まい方①　（演習課題 9） 復習　：テキストを再読し、「高齢期の住まい方」について復習する

12	茂木　弥生子	【第 12 回】 予習　：テキスト（指定されたページ）を読む 授業　：福祉のまちづくり①（演習課題 10） 復習　：テキストを再読し、「福祉のまちづくり」について復習する
13	茂木　弥生子	【第 13 回】 予習　：テキスト（指定されたページ）を読む 授業　：福祉のまちづくり②　（演習課題 11） 復習　：テキストを再読し、「福祉のまちづくり」について復習する
14	茂木　弥生子	【第 14 回】 予習　：テキスト（指定されたページ）を読む 授業　：身近なバリアフリーを考える②（フィールドワーク） 復習　：演習課題をまとめる
15	茂木　弥生子	【第 15 回】 予習　：前回までの演習課題を復習する 授業　：まとめ（演習課題 12） 復習　：すべての演習課題を復習する

授業開始前学習	バリアフリーについてインターネットや書籍等で調べる。
授業内課題のフィードバックの方法	毎回演習課題を実施し、講義の中で解説を行いながらフィードバックする。
テキスト・教材	適宜プリントを配布する
参考書	「心地よいバリアフリー住宅をデザインする方法」（エクスナレッジ）
評価の基準と方法	ミニテストと演習課題、授業態度を総合して評価する。 配点（100 点満点）は、ミニテストと演習課題 70 点、授業態度 30 点とする。 出席回数が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は単位取得できない。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○			◎			

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-221 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	140-331-12 （Ｊ）	授業コード	FG0130
科目名称	環境ﾃﾞｻﾞｲﾝ			単位数	2.0 単位
英文名称	Environmental Design			授業区分	講義
科目責任者	松元 良枝			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松元 良枝			開講時期	2･3･4 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 月曜日 14:40～16:10 後期 木曜日 10:30～12:10 木曜日 13:00～14:30			研究室	10-601
授業概要	持続可能な発展（サステナブル・ディベロップメント）を理解するため、地球の生態系保全（エコロジー）について考える「地球環境」の基礎知識を踏まえ、住宅や建築物における人間の快適性を追求する「生活環境」に重点を置いた「環境デザイン」を学ぶ。				
到達目標	建築をとりまく環境を様々な側面から捉えて理解し、これからの循環型社会・持続可能な社会づくりに主体的に参画できるよう、応用力をつける。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	松元 良枝	【第 1 回】 予習：「環境」「デザイン」の意味を考える 授業：環境デザインの基本的な考え方 復習：理解したこと、自分の考えを小レポートにまとめる
2	松元 良枝	【第 2 回】 予習：「地球温暖化」と国際情勢について調べる 授業：地球環境 ～エネルギーの消費と地球温暖化 復習：理解したこと、自分の考えを小レポートにまとめる
3	松元 良枝	【第 3 回】 予習：「再生可能エネルギー」と国際情勢について調べる 授業：地球環境 ～再生可能エネルギーと創エネ 復習：理解したこと、自分の考えを小レポートにまとめる
4	松元 良枝	【第 4 回】 予習：「持続可能な社会」について調べる 授業： 地球環境 ～身近なエコと環境ラベリング制度 復習：理解したこと、自分の考えを小レポートにまとめる
5	松元 良枝	【第 5 回】 予習：「世界の気候区分」について調べる 授業：生活環境 ～地域の気候と住まい方① 復習：理解したこと、自分の考えを小レポートにまとめる
6	松元 良枝	【第 6 回】 予習：「日本の気候区分」について調べる 授業：生活環境 ～地域の気候と住まい方② 復習：理解したこと、自分の考えを小レポートにまとめる
7	松元 良枝	【第 7 回】 予習：身近な「光環境」を見つける 授業：生活環境 ～光環境のデザイン 復習：理解したこと、自分の考えを小レポートにまとめる
8	松元 良枝	【第 8 回】 予習：身近な「温熱環境」を見つける 授業：生活環境 ～温熱環境のデザイン 復習：理解したこと、自分の考えを小レポートにまとめる
9	松元 良枝	【第 9 回】 予習：身近な「空気環境」を見つける 授業：生活環境 ～空気環境のデザイン 復習：理解したこと、自分の考えを小レポートにまとめる
10	松元 良枝	【第 10 回】 予習：身近な「音環境」を見つける 授業：生活環境 ～音環境のデザイン 復習：理解したこと、自分の考えを小レポートにまとめる
11	松元 良枝	【第 11 回】 予習：「緑化」の効用について調べる 授業：生活環境 ～室内環境と緑化① 復習：理解したこと、自分の考えを小レポートにまとめる

12	松元　良枝	【第 12 回】 予習：身近な「緑化」空間を見つける 授業：生活環境　～室内環境と緑化② 復習：理解したこと、自分の考えを小レポートにまとめる
13	松元　良枝	【第 13 回】 予習：これまでの授業内容を再確認する 授業：生活環境デザイン演習① 復習：理解したこと、自分の考えを小レポートにまとめる
14	松元　良枝	【第 14 回】 予習：これまでの授業内容を再確認する 授業：生活環境デザイン演習② 復習：理解したこと、自分の考えを小レポートにまとめる
15	松元　良枝	【第 15 回】 予習：これまでの授業内容で不明点を確認する 授業：生活環境デザインのまとめ 復習：理解したこと、自分の考えを小レポートにまとめる

授業開始前学習	
授業内課題のフィードバックの方法	小レポートの内容に関して授業内で解説（または講評、補足）を適宜行う。
テキスト・教材	授業開始時にテキスト・教材を指示する。
参考書	
評価の基準と方法	レポート、授業態度、課題提出で評価を行う。 詳細については学生の理解度を勘案し調整するものとする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○			◎			

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	建築設計の実務経験を活かし、 環境諸問題に対し、建築分野を出発点とした際の接点や問題解決へのアプローチ（環境デザイン）について講義。

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-221 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	140-330-12（Ｊ）	授業コード	FG0140
科目名称	色彩ﾃﾞｻﾞｲﾝ			単位数	2.0 単位
英文名称	Color Design			授業区分	講義
科目責任者	滝沢 真美			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	滝沢 真美			開講時期	2･3･4 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	幅広い複合領域にまたがる色彩学を広く浅く全般的に学ぶのではなく、建築やインテリアの分野で必要な基礎知識に絞り理解を深める。さらに、その知識を実践的に応用できるように、講義だけではなくワークや配色実習を通して体験的に学ぶ。カラーコーディネーター検定受験に関しても、基礎的な知識を習得できるようにカリキュラムに組み込んでいる。				
到達目標	建築インテリア分野で必要なマンセルカラーシステムを理解する。さらにマンセルシステムに基づく HUE&TONE システムを学び、建築インテリア空間で使われる色の特徴と配色テクニックを理解する。色彩心理学的な視点からカラーイメージについて学び、好きな色を使いこなす方法を理解する。さらに、現在の主要なインテリアテイストについて学び、好きか嫌いかという感覚で捉えられがちな色やデザインを、ターゲットやコンセプトに合わせて建築インテリアの分野で、実践的に使えるようになることを目標とする。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	滝沢 真美	【第 1 回】 予習：この授業の中で知りたい色彩の知識は何かを考えてくる 授業：色の果たす役割、建築インテリア分野における色の重要性 復習：これから学ぶ授業の全体像を把握しておく。自分がこの授業で学びたいことを明確にしておく
2	滝沢 真美	【第 2 回】 予習：色が見える状況はどんな時か考えておく 授業：色が見える仕組み 1 色と光の関係（プリント使用・参考書併用） 復習：照明と色の関係について自分の家のインテリアを観察する。課題レポート作成
3	滝沢 真美	【第 3 回】 予習：読みやすいサイン、読みにくいサインを探しておく 授業：色が見える仕組み 2 視覚のメカニズムとカラーユニバーサルデザイン（プリント使用・参考書併用・教科書 p58～59） 復習：カラーユニバーサルデザインについて復習をしておく。課題レポート作成
4	滝沢 真美	【第 4 回】 予習：テレビの画面とカラー印刷物について、ルーペを使って観察してくる 授業：色を作る仕組み 加法混色と減法混色（プリント使用・参考書併用）/ デザイントーン一覧表の作成(実習) 復習：点描画の絵画を観察し中間混色について理解する。課題レポート作成/ デザイントーンの一覧表の完成
5	滝沢 真美	【第 5 回】 予習：自分の知っている色名をチェックする 授業：色を伝える方法 1 色名（プリント使用・参考書併用・教科書 p63）（発表） 復習：色名の分類について復習し、知らない色名についてチェックしておく。課題レポート作成
6	滝沢 真美	【第 6 回】 予習：教科書 1 章を通読しておく 授業：色を伝える方法 2 色の三属性とマンセルカラーシステム （教科書 1 章 p9～13）（色相環作成実習） 復習：マンセルの色相、明度、彩度を理解できているか確認しておく。課題レポート作成
7	滝沢 真美	【第 7 回】 予習：教科書 1 章を通読しておく 授業：色を伝える方法 3 HUE&TONE システム（教科書 1 章 p14～23）（トーン判別実習） 復習：トーンの成り立ち、2 分類、4 分類について理解ができているか確認する。課題レポート作成
8	滝沢 真美	【第 8 回】 予習：教科書 2 章を通読しておく 授業：HUE&TONE システムの応用＆インテリア空間で使われる色の特徴（教科書 2 章 p26～38）（嗜好色調査） 復習：自分の好きな色とインテリアで使っている色の関連をチェックする。課題レポート作成
9	滝沢 真美	【第 9 回】 予習：スーパーマーケットでミカンのネット、オクラのネットの色を確認しておく 授業：対比と同化、色の心理的効果（プリント使用・参考書併用）（実習） 復習：色は周りの状況で違って見えることを確認しておく。課題レポート作成
10	滝沢 真美	【第 10 回】 予習：自分の好きな配色について調べておく 授業：6 つの基本配色テクニックの紹介と配色実習 1（教科書 3 章 p40～47）（実習） 復習：教科書 3 章 1 節を通読し基本 6 配色テクニックの全体像を理解する。練習用シートの完成

11	滝沢　真美	【第 11 回】 予習：基本 6 配色テクニックについて復習をしておく 授業：6 つの基本配色テクニックの配色実習 2（教科書 3 章 p40～47）（実習） 復習：教科書 3 章を通読しておく。提出用シートの完成
12	滝沢　真美	【第 12 回】 予習：教科書 3 章 2 節を通読しておく 授業：配色センスアップの方法とインテリア分野への応用（教科書 3 章 p48～58） 復習：配色テクニックをインテリア空間で応用する際のポイントを確認しておく。課題レポート作成
13	滝沢　真美	【第 13 回】 予習：教科書 4 章を通読しておく 授業：インテリア空間で好きな色を使う方法＆イメージスケールの紹介（教科書 4 章 p62～87＆6 章 1 節 p116～121） 復習：第 6 章 1 節を読みイメージスケールについて理解を深めておく
14	滝沢　真美	【第 14 回】 予習：教科書 5 章を通読しておく 授業：主要なインテリアテイストの配色実習（教科書 5 章 p90～113）（実習） 復習：主要なインテリアテイストの色やデザインの表現方法を復習しておく
15	滝沢　真美	【第 15 回】 予習：レポート試験に備えて授業全体の復習をしておく 授業：日本の色（講義）＆レポート試験 復習：授業全体を振り返る

授業開始前学習	各回ごとに、指定の予習項目を記載しているので、それをよく読み実施すること。 特に、最終回はレポート試験を実施するので、全体の復習して授業にのぞむこと。
授業内課題のフィードバックの方法	ほぼ毎回レポート課題を出す。提出状況をチェックし日常点として配点する。ただし、個々のレポートの添削は行わないので、次回の授業の冒頭に口頭で発表する模範解答を確認しておくこと。 最終回のレポート試験は、この中から出題するので、理解が不足している場合は、授業中に質問をし、理解をしておくこと。
テキスト・教材	テキスト：『住宅インテリアのための実践カラーテクニック　改訂版』ISBN978-4-904403-26-6 滝沢真美著（トーソー出版）定価 3300 円 教材：新デザイントーン 130 シリーズ色紙 B8　発売元/（株）日本カラーデザイン研究所　定価 1430 円 テキストと教材は必ず教科書販売期間中にセットで丸善キャンパスショップ駒沢学園店を通して購入しておくこと。 特に実習で使用する教材は市販していないので注意すること。テキストと教材を購入しないものの受講は認めない。
参考書	『カラーコーディネーター検定試験　スタンダードクラス公式テキスト』東京商工会議所編（中央経済社） 特に、検定試験受験予定者は参考書として購入しておくことが望ましい。
評価の基準と方法	毎回のレポート＆課題の提出状況　20 点 最終回のレポート試験　60 点 6 つの基本配色テクニック実習シート　20 点 合計 100 点で 60 点以上を合格とする
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎			

関連科目	
その他	座学だけでなく、実際の生活の中から美しい色彩を見つける姿勢を持ちながら、授業に臨んで欲しい
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	カラーマーケティングおよび色彩計画の専門家として、ハウスメーカー、建材メーカーなどの商品開発のための委託研究やコンサルティング、インテリアコーディネーター向けのセミナーを行っているので、その実践的な知識をインテリアを学ぶ学生に講義する。

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-112	科目分類（～2024 年入学者）	140-311-21	授業コード	FG0151
科目名称	CAD Ⅰ			単位数	1.0 単位
英文名称	CAD Ⅰ			授業区分	演習
科目責任者	鈴木　利彦			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	山崎・秋山			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	建築設計やプロダクトデザインなどの分野で一般的となっているコンピュータによる作図（CAD：キャド、 Computer Aided Design）技術の基礎を学ぶ。CAD ソフトは VectorWorks（エーアンドエー株式会社）を使用する。				
到達目標	VectorWorks の基本操作を習得し、テキストの指示通りのモデリングができる。また、与えられた課題について操作方法の解説が無くても独力でモデリングができる。				

アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	共同

授業回数	担当者	授業の内容
1	山崎　陽菜 秋山　照夫	【第 1 回】 予習　：シラバスを読んでおく。テキスト購入。 授業　：ガイダンス 復習　：教場、機材、ログイン方法再確認。
2	山崎　陽菜 秋山　照夫	【第 2 回】 予習　：教科書 p.010-021 下読み 授業　：作業環境と基本操作 p.010-021 復習　：教科書 p.010-021 の例題自習
3	山崎　陽菜 秋山　照夫	【第 3 回】 予習　：教科書 p.022-026 下読み 授業　：作図操作に慣れる p.022-026 復習　：教科書 p.022-026 の例題。p.026 画面表示の検討
4	山崎　陽菜 秋山　照夫	【第 4 回】 予習　：教科書 p.027-036 下読み 授業　：基本図形(1) p.027-036 復習　：教科書 p.027-036 の例題。p.021 の属性パレット確認。
5	山崎　陽菜 秋山　照夫	【第 5 回】 予習　：教科書 p.037-042 下読み 授業　：基本図形(2) p.037-042 復習　：教科書 p.037-042 の例題。
6	山崎　陽菜 秋山　照夫	【第 6 回】 予習　：教科書 p.043-044 下読み 授業　：名刺と表札を作る p.043-044 復習　：名刺課題の提出
7	山崎　陽菜 秋山　照夫	【第 7 回】 予習　：取り込みたい画像（写真等）の準備 授業　：スキャナを使って画像を取り込む 復習　：スキャナ課題の提出
8	山崎　陽菜 秋山　照夫	【第 8 回】 予習　：一般図（前期「製図の基礎」）の種類を復習しておく。 授業　：住宅の平面図兼配置図を描く(1) p.045-068 復習　：開口部の表現は前期「製図の基礎」より復習しておく。
9	山崎　陽菜 秋山　照夫	【第 9 回】 予習　：教科書 p.069-087 下読み 授業　：住宅の平面図兼配置図を描く(2) p.069-087 復習　：教科書 p.087 までの作業完了
10	山崎　陽菜 秋山　照夫	【第 10 回】 予習　：教科書 p.088-099 下読み 授業　：住宅の平面図兼配置図を描く(3) p.088-099 復習　：教科書 p.099 までの作業完了
11	山崎　陽菜 秋山　照夫	【第 11 回】 予習　：教科書 p.100-101 下読み 授業　：住宅の断面図を描く(1) p.100-101 復習　：教科書 p.101 までの作業完了

12	山崎　陽菜 秋山　照夫	【第 12 回】 予習　：教科書 p.102-107 下読み 授業　：住宅の断面図を描く(2) p.102-107 復習　：教科書 p.107 までの作業完了
13	山崎　陽菜 秋山　照夫	【第 13 回】 予習　：教科書 p.108-112 下読み 授業　：住宅の立面図を描く p.108-112 復習　：教科書 p.112 までの作業完了
14	山崎　陽菜 秋山　照夫	【第 14 回】 予習　：教科書 p.113-115 下読み 授業　：ビューポート、シートレイヤ p.113-115 復習　：教科書 p.115 までの作業完了
15	山崎　陽菜 秋山　照夫	【第 15 回】 予習　：提出済み課題の確認。 授業　：到達度チェック 復習　：到達度チェック問題でできなかった部分の確認

授業開始前学習	「製図の基礎」で学んだ手描きの製図方法について復習しておく。 テキストを購入しておく。
授業内課題のフィードバックの方法	毎回の課題は翌週の講義の最初にポイントを解説し、課題の上書きができる。 学習用教材ついては、示された手順に従って各自が繰り返し練習・復習ができる。 各自の提出内容について、評価の基準を明示して採点し返却を行う。
テキスト・教材	最短で学ぶ Vectorworks 建築製図とプレゼンテーション（学芸出版社）
参考書	「はじめての設計製図」＜建築のテキスト＞編集委員会（学芸出版社）
評価の基準と方法	授業中の演習課題の提出内容および授業態度を 5 割、期末に行う到達度チェックを 5 割の目安で総合して評価する。 出席回数が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は単位取得できない。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎		△	

関連科目	CAD Ⅱ
その他	・CAD の操作は順を追って学ぶものであるので、出席を重視する。 ・テキストは基本操作の解説書であり、他の授業でも CAD の操作は必要であるため必ず購入すること。 ・テキストはバージョンアップする可能性があるため、初回受講時に指導する。 ・再履修者は CADI-a、CADI-b、CADI-c、CADI-d のどれを履修してもよいが、初回授業で履修したいコマを申しでること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-112	科目分類（～2024 年入学者）	140-311-21	授業コード	FG0152
科目名称	CAD I			単位数	1.0 単位
英文名称	CAD I			授業区分	演習
科目責任者	鈴木　利彦			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鈴木(利)・高橋(怜)			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	建築設計やプロダクトデザインなどの分野で一般的となっているコンピュータによる作図（CAD：キャド、 Computer Aided Design）技術の基礎を学ぶ。CAD ソフトは VectorWorks（エーアンドエー株式会社）を使用する。				
到達目標	VectorWorks の基本操作を習得し、テキストの指示通りのモデリングができる。また、与えられた課題について操作方法の解説が無くても独力でモデリングができる。				

アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	共同

授業回数	担当者	授業の内容
1	鈴木　利彦 高橋　怜奈	【第 1 回】 予習　：シラバスを読んでおく。テキスト購入。 授業　：ガイダンス 復習　：教場、機材、ログイン方法再確認。
2	鈴木　利彦 高橋　怜奈	【第 2 回】 予習　：教科書 p.010-021 下読み 授業　：作業環境と基本操作 p.010-021 復習　：教科書 p.010-021 の例題自習
3	鈴木　利彦 高橋　怜奈	【第 3 回】 予習　：教科書 p.022-026 下読み 授業　：作図操作に慣れる p.022-026 復習　：教科書 p.022-026 の例題。p.026 画面表示の検討
4	鈴木　利彦 高橋　怜奈	【第 4 回】 予習　：教科書 p.027-036 下読み 授業　：基本図形(1) p.027-036 復習　：教科書 p.027-036 の例題。p.021 の属性パレット確認。
5	鈴木　利彦 高橋　怜奈	【第 5 回】 予習　：教科書 p.037-042 下読み 授業　：基本図形(2) p.037-042 復習　：教科書 p.037-042 の例題。
6	鈴木　利彦 高橋　怜奈	【第 6 回】 予習　：教科書 p.043-044 下読み 授業　：名刺と表札を作る p.043-044 復習　：名刺課題の提出
7	鈴木　利彦 高橋　怜奈	【第 7 回】 予習　：取り込みたい画像（写真等）の準備 授業　：スキャナを使って画像を取り込む 復習　：スキャナ課題の提出
8	鈴木　利彦 高橋　怜奈	【第 8 回】 予習　：一般図（前期「製図の基礎」）の種類を復習しておく。 授業　：住宅の平面図兼配置図を描く(1) p.045-068 復習　：開口部の表現は前期「製図の基礎」より復習しておく。
9	鈴木　利彦 高橋　怜奈	【第 9 回】 予習　：教科書 p.069-087 下読み 授業　：住宅の平面図兼配置図を描く(2) p.069-087 復習　：教科書 p.087 までの作業完了
10	鈴木　利彦 高橋　怜奈	【第 10 回】 予習　：教科書 p.088-099 下読み 授業　：住宅の平面図兼配置図を描く(3) p.088-099 復習　：教科書 p.099 までの作業完了
11	鈴木　利彦 高橋　怜奈	【第 11 回】 予習　：教科書 p.100-101 下読み 授業　：住宅の断面図を描く(1) p.100-101 復習　：教科書 p.101 までの作業完了

12	鈴木　利彦 高橋　怜奈	【第 12 回】 予習　：教科書 p.102-107 下読み 授業　：住宅の断面図を描く(2) p.102-107 復習　：教科書 p.107 までの作業完了
13	鈴木　利彦 高橋　怜奈	【第 13 回】 予習　：教科書 p.108-112 下読み 授業　：住宅の立面図を描く p.108-112 復習　：教科書 p.112 までの作業完了
14	鈴木　利彦 高橋　怜奈	【第 14 回】 予習　：教科書 p.113-115 下読み 授業　：ビューポート、シートレイヤ p.113-115 復習　：教科書 p.115 までの作業完了
15	鈴木　利彦 高橋　怜奈	【第 15 回】 予習　：提出済み課題の確認。 授業　：到達度チェック 復習　：到達度チェック問題でできなかった部分の確認

授業開始前学習	「製図の基礎」で学んだ手描きの製図方法について復習しておく。 テキストを購入しておく。
授業内課題のフィードバックの方法	毎回の課題は翌週の講義の最初にポイントを解説し、課題の上書きができる。 学習用教材ついては、示された手順に従って各自が繰り返し練習・復習ができる。 各自の提出内容について、評価の基準を明示して採点し返却を行う。
テキスト・教材	最短で学ぶ Vectorworks 建築製図とプレゼンテーション（学芸出版社）
参考書	「はじめての設計製図」＜建築のテキスト＞編集委員会（学芸出版社）
評価の基準と方法	授業中の演習課題の提出内容および授業態度を 5 割、期末に行う到達度チェックを 5 割の目安で総合して評価する。 出席回数が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は単位取得できない。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎		△	

関連科目	CAD Ⅱ
その他	・CAD の操作は順を追って学ぶものであるので、出席を重視する。 ・テキストは基本操作の解説書であり、他の授業でも CAD の操作は必要であるため必ず購入すること。 ・テキストはバージョンアップする可能性があるため、初回受講時に指導する。 ・再履修者は CADI-a、CADI-b、CADI-c、CADI-d のどれを履修してもよいが、初回授業で履修したいコマを申しでること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-212 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	140-311-22（Ｊ）	授業コード	FG0161
科目名称	CAD Ⅱ			単位数	1.0 単位
英文名称	CAD Ⅱ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	小川 弾			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小川(弾)・松元			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	建築設計やプロダクトデザインなどの分野で一般的となっている CAD ソフト VectorWorks を用いて、3D の基本を学び、住宅や商業施設などの建築物のモデリングやプレゼンテーション技術を習得する。				
到達目標	VectorWorks の基本操作を習得し、テキストの指示通りのモデリングができる。また、与えられた課題について操作方法の解説が無くても自力でモデリングができる。				

アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	共同

授業回数	担当者	授業の内容
1	小川 弾 松元 良枝	【第 1 回】 予習 ：授業テキストの見直し 授業 ：ガイダンス 復習 ：授業計画の再確認
2	小川 弾 松元 良枝	【第 2 回】 予習 ：該当ページの通読 授業 ：モデリングの基礎 復習 ：設定を変えて操作を試行する
3	小川 弾 松元 良枝	【第 3 回】 予習 ：該当ページの通読 授業 ：三面図(1) 復習 ：設定を変えて操作を試行する
4	小川 弾 松元 良枝	【第 4 回】 予習 ：該当ページの通読 授業 ：三面図(2) 復習 ：設定を変えて操作を試行する
5	小川 弾 松元 良枝	【第 5 回】 予習 ：該当ページの通読 授業 ：三面図とモデリング 復習 ：課題以外の形状のモデリングを試行する
6	小川 弾 松元 良枝	【第 6 回】 予習 ：該当ページの通読 授業 ：住宅（木造）のモデリング(1) 復習 ：設定を変えて操作を試行する
7	小川 弾 松元 良枝	【第 7 回】 予習 ：該当ページの通読 授業 ：住宅（木造）のモデリング(2) 復習 ：設定を変えて操作を試行する
8	小川 弾 松元 良枝	【第 8 回】 予習 ：該当ページの通読 授業 ：住宅（木造）のモデリング(3) 復習 ：自由な要素を追加してモデリングを試行する
9	小川 弾 松元 良枝	【第 9 回】 予習 ：該当ページの通読 授業 ：商業施設（RC 造）のレンダリングとライティング(1) 復習 ：設定を変えて操作を試行する
10	小川 弾 松元 良枝	【第 10 回】 予習 ：該当ページの通読 授業 ：商業施設（RC 造）のレンダリングとライティング(2) 復習 ：自由な要素を追加してモデリングを試行する
11	小川 弾 松元 良枝	【第 11 回】 予習 ：該当ページの通読 授業 ：商業施設（RC 造）のテクスチャマッピング 復習 ：自由なテクスチャを追加してモデリングを試行する

12	小川　弾 松元　良枝	【第 12 回】 予習　：該当ページの通読 授業　：建築物のプレゼンテーション 復習　：設定を変えて操作を試行する
13	小川　弾 松元　良枝	【第 13 回】 予習　：該当ページの通読 授業　：応用課題 1　住宅（木造）のプレゼンテーション 復習　：設定を変えて操作を試行する
14	小川　弾 松元　良枝	【第 14 回】 予習　：該当ページの通読 授業　：応用課題 2　住宅（RC 造）のプレゼンテーション 復習　：設定を変えて操作を試行する
15	小川　弾 松元　良枝	【第 15 回】 予習　：　過去課題を見直す 授業　：到達度チェック 復習　：　到達度チェック　内容の見直し

授業開始前学習	「CAD Ⅰ」で学んだ 2 次元の操作方法について、復習しておく。
授業内課題のフィードバックの方法	提出された課題について、学生の中からとくに代表的なものを複数選び、スクリーンに表示しながら解説してフィードバックする。
テキスト・教材	「最短で学ぶ Vectorworks 建築製図とプレゼンテーション」（学芸出版社）
参考書	
評価の基準と方法	授業中の演習課題の提出内容および授業態度を 5 割、期末に行う到達度チェックを 5 割の目安で総合して評価する。 出席回数が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は単位取得できない。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎		○	

関連科目	CAD Ⅰ
その他	・CAD の操作は順を追って学ぶものであるので、出席を重視する。 ・テキストは基本操作の解説書であり、他の授業でも CAD の操作は必要であるため必ず購入すること。 ・テキストはバージョンアップする可能性があるため、初回受講時に指導する。 ・この授業を履修するには、「CAD Ⅰ」を修得済であること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	本科目は複数の担当者が共同で指導する科目であり、担当教員のうち、小川は建築設計事務所において CAD を用いた住宅設計を実践してきた実務経験を有している。本科目では、その経験を活かし受講生が CAD の基本操作から 3D の作図方法などができるよう演習を行う。

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-222	科目分類（～2024 年入学者）	140-331-22	授業コード	FG0171
科目名称	CADⅢ			単位数	1.0 単位
英文名称	CADⅢ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	西尾　尚子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	西尾　尚子			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期　水曜日 13:00～14:30　水曜日 14:40～16:10 後期　水曜日 13:00～14:30　水曜日 14:40～16:10			研究室	2-214
授業概要	VecterWorks(CAD ソフト)を用いて、三次元データを CG にするための技能を習得する。 また、他のアプリケーションを用いて、効果的なプレゼンテーション表現についても学ぶ。				
到達目標	CAD ソフト、画像処理ソフト等を用いて、図面、3D パースなどを含むプレゼンテーション資料が作成できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	西尾　尚子	【第 1 回】 予習　：授業準備 授業　：概要、3D ボリューム作成レビュー 復習　：授業計画の確認
2	西尾　尚子	【第 2 回】 予習　：3D フィレットと NURBS 曲線等　事前学習 授業　：3D フィレットと NURBS 曲線等 復習　：3D フィレットと NURBS 曲線等　見直し
3	西尾　尚子	【第 3 回】 予習　：課題演習 a　ボリューム作成補足　事前学習 授業　：課題演習 a　ボリューム作成補足 復習　：課題演習 a　ボリューム作成補足　見直し
4	西尾　尚子	【第 4 回】 予習　：課題演習 b　テクスチャについて　事前学習 授業　：課題演習 b　テクスチャについて 復習　：課題演習 b　テクスチャについて　見直し
5	西尾　尚子	【第 5 回】 予習　：課題演習 c　マッピングについて　事前学習 授業　：課題演習 c　マッピングについて 復習　：　課題演習 c　マッピングについて　見直し
6	西尾　尚子	【第 6 回】 予習　：課題演習 d　テクスチャの編集と作成　事前学習 授業　：課題演習 d　テクスチャの編集と作成 復習　：課題演習 d　テクスチャの編集と作成　見直し
7	西尾　尚子	【第 7 回】 予習　：課題演習 e　ライティング 1　事前学習 授業　：課題演習 e　ライティング 1 復習　：課題演習 e　ライティング 1　見直し
8	西尾　尚子	【第 8 回】 予習　：課題演習 f　ライティング 2　事前学習 授業　：課題演習 f　ライティング 2 復習　：課題演習 f　ライティング 2　見直し
9	西尾　尚子	【第 9 回】 予習　：課題演習 g　アングルの作成、登録画面の作成　事前学習 授業　：課題演習 g　アングルの作成、登録画面の作成 復習　：課題演習 g　アングルの作成、登録画面の作成　見直し
10	西尾　尚子	【第 10 回】 予習　：課題演習 h　画像ファイルの保存と活用　事前学習 授業　：課題演習 h　画像ファイルの保存と活用 復習　：課題演習 h　画像ファイルの保存と活用　見直し
11	西尾　尚子	【第 11 回】 予習　：課題演習 i　3D データの補足　事前学習 授業　：課題演習 i　3D データの補足 復習　：課題演習 i　3D データの補足　見直し

12	西尾　尚子	【第 12 回】 予習　：課題演習ｊ　Photoshop で添景を加工する　事前学習 授業　：課題演習ｊ　Photoshop で添景を加工する 復習　：課題演習ｊ　Photoshop で添景を加工する　見直し
13	西尾　尚子	【第 13 回】 予習　：課題演習ｋ　添景を合成する　事前学習 授業　：課題演習ｋ　添景を合成する 復習　：課題演習ｋ　添景を合成する　見直し
14	西尾　尚子	【第 14 回】 予習　：課題演習ｌ　CG 完成作業　事前学習 授業　：課題演習ｌ　CG 完成作業 復習　：課題演習ｌ　CG 完成作業　見直し
15	西尾　尚子	【第 15 回】 予習　：全授業内容の再確認 授業　：まとめ 復習　：見直し

授業開始前学習	「CAD Ⅰ」「CAD Ⅱ」で学習した Vectorworks の 2 次元、3 次元の基本的操作を復習しておく。
授業内課題のフィードバックの方法	毎回の課題は翌週の講義の最初にポイントを解説し、課題の上書きができる。
テキスト・教材	必要資料を適宜配布する。
参考書	「10 日間でマスター！Vectorworks」（エクスナレッジムック）
評価の基準と方法	出席状況、授業中の演習課題の提出内容および受講態度 3 割、提出作品 7 割の総合的な判断に基づき評価する。 出席回数が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は単位取得できない。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		◎		○	

関連科目	CAD Ⅰ、CAD Ⅱ
その他	・「CAD Ⅱ」までの単位を取得していること。 ・CAD の操作は順を追って学ぶものであるので、出席を重視する。 ・履修者がパソコン台数を超えた場合、初回の講義への出席、学年等に配慮してクラスを調整する。 ・履修制限を行う場合は、初回の講義への出席が基本条件となる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-322 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	140-331-23（Ｊ）	授業コード	FG0181
科目名称	ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ技法			単位数	1.0 単位
英文名称	Presentation Techniques			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	神村　真由美			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	神村・鈴木(利)			開講時期	3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	CAD にて取得してきた VecterWorks(CAD ソフト)の技能に加え、手書きスケッチ、グラフィックソフト等を融合して、よりレベルの高い建築、インテリア等のプレゼンテーションを学ぶ。				
到達目標	VecterWorks(CAD ソフト)の 2D,3D の上級技能を習得し、手書きスケッチやグラフィックソフト等と融合して建築、インテリア等のプレゼンテーション能力向上を目標とする。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	共同

授業回数	担当者	授業の内容
1	神村　真由美 鈴木　利彦	【第 1 回】 予習　：CADII の内容を復習しておく 授業　：概要 復習　：基本 3D ボリューム作成技法を確認
2	神村　真由美 鈴木　利彦	【第 2 回】 予習　：習得済みの CAD 技能を復習しておく 授業　：CAD 技能レビュー（実習） 復習　：CAD 技能全般を見直す
3	神村　真由美 鈴木　利彦	【第 3 回】 予習　：cad の 3D 表現の活用、レンダリングを確認しておく 授業　：課題演習 a cad の 3D 表現の活用、陰線消去（実習） 復習　：3D 表現の活用、陰線消去を復習
4	神村　真由美 鈴木　利彦	【第 4 回】 予習　：陰線消去を 活用したパース例を調べる 授業　：課題演習 b 陰線消去活用によるパースの作成（実習） 復習　：陰線消去に向けた 3D ボリュームを作る
5	神村　真由美 鈴木　利彦	【第 5 回】 予習　：陰線消去に向けた 3D ボリュームを作る 授業　：課題演習 c 陰線消去活用によるパースの作成（実習） 復習　：陰線消去活用によるパースの作成を進める
6	神村　真由美 鈴木　利彦	【第 6 回】 予習　：　Illustrator、Photoshop の機能を確認 授業　：課題演習 d Illustrator、Photoshop による着色（実習） 復習　：　Illustrator、Photoshop による着色を復習する
7	神村　真由美 鈴木　利彦	【第 7 回】 予習　：　Illustrator、Photoshop による着色を進める 授業　：課題演習 e Illustrator、Photoshop による着色（実習） 復習　：Illustrator、Photoshop による着色を完成
8	神村　真由美 鈴木　利彦	【第 8 回】 予習　：添景を 使用したパースの例を調べる 授業　：課題演習 f 添景の合成（実習） 復習　：添景の合成機能を復習する
9	神村　真由美 鈴木　利彦	【第 9 回】 予習　：プレゼンテーションレイアウト例を調べる 授業　：課題演習 g レイアウト演習 1（実習） 復習　：レイアウトを進める
10	神村　真由美 鈴木　利彦	【第 10 回】 予習　：理解し易いプレゼンテーションを研究する 授業　：課題演習 h プレゼンテーション演習 1（実習） 復習　：プレゼンテーション資料作成を進める
11	神村　真由美 鈴木　利彦	【第 11 回】 予習　：グラフィックソフトによるスケッチ補完例を調べる 授業　：課題演習 i グラフィックソフトによるスケッチ補完（実習） 復習　：グラフィックソフトによるスケッチ補完技術を復習

12	神村　真由美 鈴木　利彦	【第 12 回】 予習　：グラフィックソフトによるスケッチ補完を進める 授業　：課題演習 j グラフィックソフトによるスケッチ補完（実習） 復習　：グラフィックソフトによるスケッチ補完の完成
13	神村　真由美 鈴木　利彦	【第 13 回】 予習　：レイアウトエスキース案をつくる 授業　：課題演習 k レイアウト演習 2（実習） 復習　：レイアウトを進める
14	神村　真由美 鈴木　利彦	【第 14 回】 予習　：プレゼンテーションに向けての作業を進める 授業　：課題演習 l プレゼンテーション演習 2（プレゼンテーション・講評・ディスカッション） 復習　：プレゼンテーションをレビューし次なる課題の発見を行う
15	神村　真由美 鈴木　利彦	【第 15 回】 予習　：提出課題をレビューしておく 授業　：まとめ（講評） 復習　：提出課題への講評をレビューする

授業開始前学習	CAD Ⅱ　の内容を復習しておく
授業内課題のフィードバックの方法	制作時の質問には可能な限り都度回答する。また各自の制作状況を公開することで、学生間の学び合い促進する。各講評では全員へ抑えるべきポイントを伝達する。
テキスト・教材	必要資料を適宜配布する
参考書	「10 日間でマスター！Vectorworks」（エクスナレッジムック）
評価の基準と方法	課題への計画的な取り組み等の受講態度 4 割、提出作品内容 5 割、プレゼンテーション 1 割を基準とし、総合的な判断に基づき評価する。 授業を 3 分の 1 以上欠席した学生は単位を取得できない。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		◎		○	

関連科目	CAD Ⅱ
その他	その他 ・CAD の操作は順を追って学ぶものであるので、出席を重視する。 ・履修者がパソコン台数を超えた場合、初回の講義への出席、学年等に配慮してクラスを調整する。 ・履修制限を行う場合は、初回の講義への出席が基本条件となる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	デザイン分野における実務経験を生かし、CAD やグラフィックソフトを用いたプレゼンテーションができるよう演習をおこなう。

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-322 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	140-331-23（Ｊ）	授業コード	FG0181
科目名称	ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ技法			単位数	1.0 単位
英文名称	Presentation Techniques			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	神村　真由美			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	神村・鈴木(利)			開講時期	3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	CAD にて取得してきた VecterWorks(CAD ソフト)の技能に加え、手書きスケッチ、グラフィックソフト等を融合して、よりレベルの高い建築、インテリア等のプレゼンテーションを学ぶ。				
到達目標	VecterWorks(CAD ソフト)の 2D,3D の上級技能を習得し、手書きスケッチやグラフィックソフト等と融合して建築、インテリア等のプレゼンテーション能力向上を目標とする。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	共同

授業回数	担当者	授業の内容
1	神村　真由美 鈴木　利彦	【第 1 回】 予習　：CADII の内容を復習しておく 授業　：概要 復習　：基本 3D ボリューム作成技法を確認
2	神村　真由美 鈴木　利彦	【第 2 回】 予習　：習得済みの CAD 技能を復習しておく 授業　：CAD 技能レビュー（実習） 復習　：CAD 技能全般を見直す
3	神村　真由美 鈴木　利彦	【第 3 回】 予習　：cad の 3D 表現の活用、レンダリングを確認しておく 授業　：課題演習 a cad の 3D 表現の活用、陰線消去（実習） 復習　：3D 表現の活用、陰線消去を復習
4	神村　真由美 鈴木　利彦	【第 4 回】 予習　：陰線消去を 活用したパース例を調べる 授業　：課題演習 b 陰線消去活用によるパースの作成（実習） 復習　：陰線消去に向けた 3D ボリュームを作る
5	神村　真由美 鈴木　利彦	【第 5 回】 予習　：陰線消去に向けた 3D ボリュームを作る 授業　：課題演習 c 陰線消去活用によるパースの作成（実習） 復習　：陰線消去活用によるパースの作成を進める
6	神村　真由美 鈴木　利彦	【第 6 回】 予習　：　Illustrator、Photoshop の機能を確認 授業　：課題演習 d Illustrator、Photoshop による着色（実習） 復習　：　Illustrator、Photoshop による着色を復習する
7	神村　真由美 鈴木　利彦	【第 7 回】 予習　：　Illustrator、Photoshop による着色を進める 授業　：課題演習 e Illustrator、Photoshop による着色（実習） 復習　：Illustrator、Photoshop による着色を完成
8	神村　真由美 鈴木　利彦	【第 8 回】 予習　：添景を 使用したパースの例を調べる 授業　：課題演習 f 添景の合成（実習） 復習　：添景の合成機能を復習する
9	神村　真由美 鈴木　利彦	【第 9 回】 予習　：プレゼンテーションレイアウト例を調べる 授業　：課題演習 g レイアウト演習 1（実習） 復習　：レイアウトを進める
10	神村　真由美 鈴木　利彦	【第 10 回】 予習　：理解し易いプレゼンテーションを研究する 授業　：課題演習 h プレゼンテーション演習 1（実習） 復習　：プレゼンテーション資料作成を進める
11	神村　真由美 鈴木　利彦	【第 11 回】 予習　：グラフィックソフトによるスケッチ補完例を調べる 授業　：課題演習 i グラフィックソフトによるスケッチ補完（実習） 復習　：グラフィックソフトによるスケッチ補完技術を復習

12	神村　真由美 鈴木　利彦	【第 12 回】 予習　：グラフィックソフトによるスケッチ補完を進める 授業　：課題演習 j グラフィックソフトによるスケッチ補完（実習） 復習　：グラフィックソフトによるスケッチ補完の完成
13	神村　真由美 鈴木　利彦	【第 13 回】 予習　：レイアウトエスキース案をつくる 授業　：課題演習 k レイアウト演習 2（実習） 復習　：レイアウトを進める
14	神村　真由美 鈴木　利彦	【第 14 回】 予習　：プレゼンテーションに向けての作業を進める 授業　：課題演習 l プレゼンテーション演習 2（プレゼンテーション・講評・ディスカッション） 復習　：プレゼンテーションをレビューし次なる課題の発見を行う
15	神村　真由美 鈴木　利彦	【第 15 回】 予習　：提出課題をレビューしておく 授業　：まとめ（講評） 復習　：提出課題への講評をレビューする

授業開始前学習	CAD Ⅱ　の内容を復習しておく
授業内課題のフィードバックの方法	制作時の質問には可能な限り都度回答する。また各自の制作状況を公開することで、学生間の学び合い促進する。各講評では全員へ抑えるべきポイントを伝達する。
テキスト・教材	必要資料を適宜配布する
参考書	「10 日間でマスター！Vectorworks」（エクスナレッジムック）
評価の基準と方法	課題への計画的な取り組み等の受講態度 4 割、提出作品内容 5 割、プレゼンテーション 1 割を基準とし、総合的な判断に基づき評価する。 授業を 3 分の 1 以上欠席した学生は単位を取得できない。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		◎		○	

関連科目	CAD Ⅱ
その他	その他 ・CAD の操作は順を追って学ぶものであるので、出席を重視する。 ・履修者がパソコン台数を超えた場合、初回の講義への出席、学年等に配慮してクラスを調整する。 ・履修制限を行う場合は、初回の講義への出席が基本条件となる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	デザイン分野における実務経験を生かし、CAD やグラフィックソフトを用いたプレゼンテーションができるよう演習をおこなう。

科目分類（2025年～入学者）	SD-M-322	科目分類（～2024年入学者）	140-330-23	授業コード	FG0185
科目名称	ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ入門			単位数	1.0単位
英文名称	Introduction to Internship			授業区分	演習
科目責任者	李志炯			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	李・西尾			開講時期	3年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	この授業では自己分析の方法、履歴書の書き方、面接の方法、企業研究などを通してインターンシップをする際に必要な基礎を学びます。				
到達目標	自己分析を通して自分を客観的に理解することを目標とします。 履歴書の書き方、面接の方法を身に付けることを目標とします。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	共同

授業回数	担当者	授業の内容
1	李志炯 西尾尚子	予習：シラバスを読む。 授業：ガイダンス、インターンシップについて。 復習：インターンシップに関する事例調査。
2	李志炯 西尾尚子	予習：自己分析の方法を調べる。 授業：主観的な自己と客観的な自己について。 復習：授業内容を確認する。
3	李志炯 西尾尚子	予習：企業側が求める力について調べる。 授業：企業側が求める力　8つについて。課題①（自己目標シート作成）を実施する。 復習：授業内容を確認し、課題①（自己目標シート作成）をブラッシュアップする。
4	李志炯 西尾尚子	予習：課題①（自己目標シート作成）の発表に向けて練習する。 授業：課題①（自己目標シート作成）を発表する。 復習：課題①（自己目標シート作成）を基に自己分析の結果を確認する。
5	李志炯 西尾尚子	予習：履歴書について調べる。 授業：履歴書について。課題②（履歴書作成）の実施。 復習：履歴書について調べながら課題②（履歴書作成）を行う。
6	李志炯 西尾尚子	予習：課題②（履歴書作成）の発表に向けて練習する。 授業：課題②（履歴書作成）を発表する。課題③（履歴書のブラッシュアップ）を実施する。 復習：課題②（履歴書作成）を参考に課題③（履歴書のブラッシュアップ）を行う。
7	李志炯 西尾尚子	予習：課題③（履歴書のブラッシュアップ）の発表に向けて練習する。 授業：課題③（履歴書のブラッシュアップ）を発表する。 復習：課題③（履歴書のブラッシュアップ）を基に履歴書の書き方を確認する。
8	李志炯 西尾尚子	予習：建築・インテリア分野の職業について調べる。 授業：建築・インテリア分野の職業について。課題④（企業研究）を実施する。 復習：授業内容を参考に課題④（企業研究）を行う。
9	李志炯 西尾尚子	予習：課題④（企業研究）の発表に向けて練習する。 授業：課題④（企業研究）を発表する。課題⑤（企業研究）を行う。 復習：授業内容を参考に課題⑤（企業研究）を行う。
10	李志炯 西尾尚子	予習：課題⑤（企業研究）の発表に向けて練習する。 授業：課題⑤（企業研究）を発表する。 復習：建築・インテリア分野の職業について調べる。
11	李志炯 西尾尚子	予習：企業面接について調べる。 授業：企業面接について。面接を実施する。 復習：面接の練習を行う。
12	李志炯 西尾尚子	予習：面接の練習を行う。 授業：面接を実施する。 復習：企業面接について調べる。
13	李志炯 西尾尚子	予習：インターンシップについて調べる。 授業：インターンシップにおける注意、心構えについて。 復習：課題①（自己目標シート作成）の達成度を確認する。
14	李志炯 西尾尚子	予習：多摩地域の建築・インテリア分野の企業について調べる。 授業：多摩地域の建築・インテリア分野の企業について。 復習：授業内容を確認する。

15	李志炯 西尾尚子	予習：課題①（自己目標シート作成）の達成度を確認する。 授業：企業側が求める力の中で目標した力のレベルについて。 復習：授業内容を確認する。

授業開始前学習	大学で学ぶための基本的な姿勢や心構えやについて、履修ガイドの該当する項目を熟読すること。
授業内課題のフィードバックの方法	各課題の実施後に講評を行う。
テキスト・教材	資料・プリント等を適宜配布する。
参考書	資料等を適宜配布・紹介する。
評価の基準と方法	提出物、受講態度などにより評価する。 評価は提出物 60%、受講態度など 40%。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○	○	◎		○		

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-323 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	140-330-23 （Ｊ）	授業コード	FG0190
科目名称	☆ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ実習／学外実習			単位数	1.0 単位
英文名称	Internship Practice／Off-Campus Practice			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	堀邉　阿伊子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	西尾・堀邉			開講時期	3・4 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	学外実習は、学生が、企業・公共組織などでの社会活動の体験をとおして、その社会性を養います。 学生は、企業におもむき、学校での学習・研究の成果や「自身の生き方」が社会でどのように評価されるかを体験し、「自己を高める」意味を見つめます。実習終了後、実習内容をまとめ発表を行います。				
到達目標	学外実習の主旨を正しく理解し、事前に周到な準備を行えること。実習中は適切な判断の下に行動し、必要な知識を習得できること。実習後はその成果を就職活動等に向けて活用できること。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	共同

授業回数	担当者	授業の内容
1	西尾　尚子 堀邉　阿伊子	【第 1 回】 予習　：シラバスを読む 授業　：事前授業 1　大学と社会 復習　：事前授業の復習を毎週ノートにまとめる
2	西尾　尚子 堀邉　阿伊子	【第 2 回】 予習　：自分の履歴を書き出す 授業　：事前授業 2　自己をみつめる 1 復習　：自分の履歴を読みやすく見やすくまとめる
3	西尾　尚子 堀邉　阿伊子	【第 3 回】 予習　：履歴書の下書き 授業　：事前授業 3　自己をみつめる 2 復習　：問題点を抽出し履歴書の完成
4	西尾　尚子 堀邉　阿伊子	【第 4 回】 予習　：新聞を読む 授業　：事前授業 4　社会人の教養 1 復習　：キーワードをまとめる
5	西尾　尚子 堀邉　阿伊子	【第 5 回】 予習　：新聞を読む 授業　：事前授業 5　社会人の教養 2 復習　：キーワードを抽出し学友とディスカッション
6	西尾　尚子 堀邉　阿伊子	【第 6 回】 予習　：キャリアハンドブックを読む 授業　：事前授業 6　社会人としてのマナー 復習　：学友とマナーチェック
7	西尾　尚子 堀邉　阿伊子	【第 7 回】 予習　：学友、教職員と会話の実践訓練をする 授業　：事前授業 7　会社の人間関係 復習　：問題点を抽出し記録する
8	西尾　尚子 堀邉　阿伊子	【第 8 回】 予習　：研修企業調査 授業　：事前授業 8　企業研究　（発表） 復習　：企業調査のまとめ
9	西尾　尚子 堀邉　阿伊子	【第 9 回】 予習　：学外実習準備 授業　：学外実習（夏季集中）（実習） 復習　：実習日誌作成
10	西尾　尚子 堀邉　阿伊子	【第 10 回】 予習　：実習日誌確認 授業　：学外実習（夏季集中）（実習） 復習　：実習日誌作成
11	西尾　尚子 堀邉　阿伊子	【第 11 回】 予習　：実習日誌確認 授業　：学外実習（夏季集中）（実習） 復習　：実習日誌作成

12	西尾　尚子 堀邉　阿伊子	【第 12 回】 予習　：実習日誌確認 授業　：学外実習（夏季集中）（実習） 復習　：実習日誌作成
13	西尾　尚子 堀邉　阿伊子	【第 13 回】 予習　：実習日誌確認 授業　：学外実習（夏季集中）（実習） 復習　：実習日誌作成
14	西尾　尚子 堀邉　阿伊子	【第 14 回】 予習　：実習日誌確認 授業　：学外実習（夏季集中）（実習） 復習　：実習日誌作成
15	西尾　尚子 堀邉　阿伊子	【第 15 回】 予習　：実習報告プレゼンテーション準備 授業　：成果発表会および総括　（発表） 復習　：学外実習ふりかえり

授業開始前学習	これまでの作品の整理、ブラッシュアップなどを含め、実習先に持参するポートフォリオを作成しておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	事前授業のレポート等の提出後、および実習終了後の発表会にて講評を行う。
テキスト・教材	適宜配布する。
参考書	
評価の基準と方法	レポート（プレゼンテーション）、実習ノート、実習態度などによる総合評価。配点(100　点満点における)は、授業態度等　30 点、提出物 30 点、実習受講態度 40 点の配分とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○	○	◎		○		

関連科目	
その他	原則として 2 週間の実習を行うが、受講には条件がある。（詳細は、履修ガイド及び学外実習関連掲示を参照）　実習に先立って行われる学外実習オリエンテーションは必ず出席する。実習先へのお礼、手みやげ代として実習費がかり、原則として返却しない。実習先への交通費、かかる経費等実費はすべて自己負担。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	建築インテリア関連企業での実務経験を活かし、建築・インテリア分野での仕事に求められる資質・能力について講義する。

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-223	科目分類（～2024 年入学者）	140-330-22	授業コード	FG0200
科目名称	ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ			単位数	1.0 単位
英文名称	Fieldwork			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	三戸　美代子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	西尾・三戸			開講時期	2・3・4 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	地域に育まれた伝統的な文化や建物・街並みを調査・体験し、伝統工芸や食文化などに触れることにより、その土地の生活文化を調査研究する。 授業では、ディスカッションやグループ発表などのグループワークやプレゼンテーションを実施する。さらに、現地を訪れてフィールドワーク実習を行う。				
到達目標	現地を訪れ学ぶために必要となる的確な計画立案力・情報収集力を身につける。特色あるその土地の文化や工芸、インテリアや建築などの知識を深める。グループワークや団体行動を通して、社会で必要となる力を身につける。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	共同

授業回数	担当者	授業の内容
1	三戸　美代子 西尾　尚子	【第 1 回】 予習：シラバスをよく読む 授業：事前授業 1（4 月）：ガイダンス 復習：配布資料をよく読む
2	三戸　美代子 西尾　尚子	【第 2 回】 予習：実習エリアの資料収集 授業：事前授業 2（5 月）：課題説明・フィールドワーク行動計画（グループワーク） 復習：訪問先の検討
3	三戸　美代子 西尾　尚子	【第 3 回】 予習：訪問先資料の収集 授業：事前授業 3（6 月）：フィールドワーク訪問先調査研究 1（グループワーク） 復習：訪問先資料の整理
4	三戸　美代子 西尾　尚子	【第 4 回】 予習：訪問先資料の収集 授業：事前授業 4（7 月）：フィールドワーク訪問先調査研究 2（グループワーク） 復習：訪問先資料のまとめ
5	三戸　美代子 西尾　尚子	【第 5 回】 予習：訪問先資料の収集 授業：事前授業 5（8 月）：フィールドワーク訪問先研究発表（グループワーク・プレゼンテーション） 復習：資料の完成
6	三戸　美代子 西尾　尚子	【第 6 回】 予習：訪問先資料の確認 授業：フィールドワーク実習-1 日目①（夏季集中）（フィールドワーク） 復習：実習成果の記録
7	三戸　美代子 西尾　尚子	【第 7 回】 予習：訪問先資料の確認 授業：フィールドワーク実習-1 日目②（夏季集中）（フィールドワーク） 復習：実習成果の記録
8	三戸　美代子 西尾　尚子	【第 8 回】 予習：訪問先資料の確認 授業：フィールドワーク実習-1 日目③（夏季集中）（フィールドワーク） 復習：実習成果の記録
9	三戸　美代子 西尾　尚子	【第 9 回】 予習：訪問先資料の確認 授業：フィールドワーク実習-2 日目①（夏季集中）（フィールドワーク） 復習：実習成果の記録
10	三戸　美代子 西尾　尚子	【第 10 回】 予習：訪問先資料の確認 授業：フィールドワーク実習-2 日目②（夏季集中）（フィールドワーク） 復習：実習成果の記録

11	三戸　美代子 西尾　尚子	【第 11 回】 予習：訪問先資料の確認 授業：フィールドワーク実習-2 日目③（夏季集中）（フィールドワーク） 復習：実習成果の記録
12	三戸　美代子 西尾　尚子	【第 12 回】 予習：訪問先資料の確認 授業：フィールドワーク実習-3 日目①（夏季集中）（フィールドワーク） 復習：実習成果の記録
13	三戸　美代子 西尾　尚子	【第 13 回】 予習：訪問先資料の確認 授業：フィールドワーク実習-3 日目②（夏季集中）（フィールドワーク） 復習：実習成果の記録
14	三戸　美代子 西尾　尚子	【第 14 回】 予習：訪問先資料の確認 授業：フィールドワーク実習-3 日目③（夏季集中）（フィールドワーク） 復習：実習成果の記録
15	三戸　美代子 西尾　尚子	【第 15 回】 予習：発表準備 授業：実習成果の発表・まとめ（グループワーク・プレゼンテーション） 復習：報告書の完成

授業開始前学習	
授業内課題のフィードバックの方法	計画立案から調査研究・実習の間、ディスカッションを通してフィードバックする。
テキスト・教材	
参考書	
評価の基準と方法	この科目は団体行動となるため授業態度と協調性を重視する。 事前授業及び報告会などへの出席・提出物・授業態度 50%、フィールドワーク実習 50%で評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		○	◎				

関連科目	
その他	・この授業は国内（主に地方）での集中講義を実施するため、費用が 1 人 3 ～ 5 万円程度かかる予定。 ・履修者は初回授業に必ず出席すること。 ・2024 年度は実施形態を 1 泊 2 日としているが、社会事情（新型コロナ感染拡大など）により短縮実施もあり得る。 ・履修人数が 60 名を超えた場合は抽選を行う。最少および最大催行人数を設定する。大学側との協議の結果、実施できない可能性もある 。 ・団体行動のため、指示に従わない等の場合は履修を取り消していただきます。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）	SD-M-322 （Ｊ）	科目分類（～2024年入学者）	141-331-23 （Ｊ）	授業コード	FG0410
科目名称	ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ			単位数	2.0 単位
英文名称	Interior Design Ⅰ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	山崎 陽菜			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	橘田・山崎・山田			開講時期	3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	前半は、大学構内に、市民と学生のための新たな施設計画と空間演出をおこなう（グループ課題）。その場所の特徴や空間を分析し、必要だと思われる新たな施設を計画する。また、新たな施設を計画するだけでは、そこが利用する人々にとって魅力的な場所とはなり得ない。何度も訪れたくなるような計画・演出方法・プログラム等について考える。後半は、用途や条件をふまえた飲食店舗のインテリアデザインの設計プロセスを習得する（個人課題）。設計条件の把握、飲食店舗の機能や要素の理解、飲食店におけるインテリア設計の基本知識などを総合的に習得する。授業では実習および中間・最終プレゼンテーションを行う。				
到達目標	企画・設計・提案を含むデザイン能力の向上を目指す。具体的には、対象空間の与条件の整理・分析をする能力、企画アイデアを具体的なインテリア空間としてデザイン表現するスキル、プレゼンテーション能力の習得を目的とする。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態	共同				

授業回数	担当者	授業の内容
1	橘田 洋子 山崎 陽菜 山田 尚弘	【第 1 回】 予習 ：シラバスを読み込む・大学構内の把握 授業 ：課題①説明・大学構内の調査 復習 ：授業計画の確認・調査継続作業
2	橘田 洋子 山崎 陽菜 山田 尚弘	【第 2 回】 予習 ：新たな施設計画に関する事前調査・具体的な実例研究予備調査 授業 ：計画する施設の発表（プレゼンテーション）・具体的な実例研究（個人演習） 復習 ：新たな施設計画のまとめ・具体的な実例研究事例まとめ
3	橘田 洋子 山崎 陽菜 山田 尚弘	【第 3 回】 予習 ：調査継続作業 授業 ：現況図面化作業・企画内容検討（ディスカッション） 復習 ：企画内容検討継続
4	橘田 洋子 山崎 陽菜 山田 尚弘	【第 4 回】 予習 ：平面・断面・パース等事前検討 授業 ：平面・断面・パース等作業＆エスキス（ディスカッション） 復習 ：エスキス内容整理
5	橘田 洋子 山崎 陽菜 山田 尚弘	【第 5 回】 予習 ：講評会準備 授業 ：課題①講評会（プレゼンテーション）・課題②出題 復習 ：課題② 参考事例調査
6	橘田 洋子 山崎 陽菜 山田 尚弘	【第 6 回】 予習 ：参考事例調査、コンセプトの検討 授業 ：エスキス・作業②-１（ディスカッション） 復習 ：条件の整理
7	橘田 洋子 山崎 陽菜 山田 尚弘	【第 7 回】 予習 ：平面計画の検討 授業 ：エスキス・作業②-２（ディスカッション） 復習 ：平面計画作業
8	橘田 洋子 山崎 陽菜 山田 尚弘	【第 8 回】 予習 ：断面計画の検討 授業 ：エスキス・作業②-３（ディスカッション） 復習 ：断面計画作業
9	橘田 洋子 山崎 陽菜 山田 尚弘	【第 9 回】 予習 ：平面・断面計画の検討 授業 ：エスキス・作業②-４（ディスカッション） 復習 ：平面・断面計画作業
10	橘田 洋子 山崎 陽菜 山田 尚弘	【第 10 回】 予習 ：中間講評会準備 授業 ：課題②中間講評会 （プレゼンテーション） 復習 ：講評内容まとめ
11	橘田 洋子 山崎 陽菜 山田 尚弘	【第 11 回】 予習 ：模型表現の検討 授業 ：エスキス・作業②-５（ディスカッション） 復習 ：模型制作作業

12	橘田　洋子 山崎　陽菜 山田　尚弘	【第 12 回】 予習　：模型制作作業 授業　：エスキス・作業②- 6 （ディスカッション） 復習　：模型制作ブラッシュアップ
13	橘田　洋子 山崎　陽菜 山田　尚弘	【第 13 回】 予習　：テキスト 091 頁~106 頁、プレゼンテーションの検討 授業　：エスキス・作業②- 7 （ディスカッション） 復習　：プレゼンテーション制作作業
14	橘田　洋子 山崎　陽菜 山田　尚弘	【第 14 回】 予習　：プレゼンテーション制作作業 授業　：エスキス・作業②- 8 （ディスカッション） 復習　：プレゼンテーション制作作業
15	橘田　洋子 山崎　陽菜 山田　尚弘	【第 15 回】 予習　：最終講評会準備 授業　：課題②最終講評会（プレゼンテーション） 復習　：プレゼンテーションの整理

授業開始前学習	できるだけ多くのデザインに触れるように。様々な展示会等もできるだけ見るように。 デザインには経験のストックが重要。
授業内課題のフィードバックの方法	授業前後および授業中に毎回個別またはグループごとにエスキスを繰り返し実施。また、講評会にて作品のプレゼンテーションと講評を行う。
テキスト・教材	必要に応じ指示
参考書	
評価の基準と方法	授業は演習と講義などで進める。よって評価は受講態度、提出内容、提出期限を重視する。配点（100 点満点における）は受講態度等 50 点、提出物 50 点の配分とする。出席が 10 回未満の場合は、単位修得不可。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		○		◎	○

関連科目	設計製図Ⅰ・インテリアデザイン計画 A
その他	エスキース作業や提出・発表などのスケジュールを各自管理すること。 社会の動きや身の回りの生活環境などを日頃から意識的に観察・情報収集して考察し、理解を深めること。 CAD を中心としたパソコンによるプレゼンテーション技法の修得に努めること。 正課学外活動で展示会などの見学を予定している。交通費などは自己負担とする。 履修希望者は必ず初回授業に出席すること。
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間＋予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	本科目は複数の担当者が協同で指導する科目であり、担当教員は建築・インテリアデザインの実務経験を有している。本科目ではその経験を活かし、受講生がインテリアデザインの実務に役立つ実習を行う。

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-322 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	141-331-23 （Ｊ）	授業コード	FG0420
科目名称	ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ			単位数	2.0 単位
英文名称	Interior Design Ⅱ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	神村　真由美			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	神村・駒井			開講時期	3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	ホテルは単に宿泊する機能だけでなく、ロビー、レストラン、バー、物販、式典、会合など、さまざまな用途施設の複合空間である。課題を通して、ホテルの立地条件や客層をふまえた具体的なインテリアデザインの設計プロセスを学ぶ。設計条件の把握、宿泊室などの機能や要素の理解、ホテルにおけるインテリア設計の基礎知識などを総合的に学習する。				
到達目標	課題の立地条件や客層をふまえた実践的なインテリアデザインの設計プロセスを課題演習の中で理解する。設計条件の把握、宿泊室などの機能や要素の理解、ホテルにおけるインテリア設計の基礎知識などを総合的に習得しながら、各自の計画内容をわかりやすく表現することを目標とする				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	共同

授業回数	担当者	授業の内容
1	神村　真由美 駒井　美穂子	【第 1 回】 予習　：シラバスを読み確認する 授業　：ガイダンス、課題①出題 復習　：ガイダンスを受けて準備物の確認を行う
2	神村　真由美 駒井　美穂子	【第 2 回】 予習　：エスキース準備 授業　：エスキース・作業①?１（実習） 復習　：エスキース・作業①?１復習　各自の詳細スケジュール作成
3	神村　真由美 駒井　美穂子	【第 3 回】 予習　：エスキース準備 授業　：エスキース・作業①?２（実習） 復習　：エスキース・作業①?２、各自内容再確認　資料整理
4	神村　真由美 駒井　美穂子	【第 4 回】 予習　：エスキース準備 授業　：エスキース・作業①?３（実習） 復習　：発表準備を進める
5	神村　真由美 駒井　美穂子	【第 5 回】 予習　：発表準備 授業　：課題①講評、課題②出題（プレゼンテーション・講評・ディスカッション） 復習　：課題①講評復習、課題②準備確認
6	神村　真由美 駒井　美穂子	【第 6 回】 予習　：エスキース準備 授業　：エスキース・作業②?１（実習） 復習　：エスキース・作業②?１復習　スケジュール作成
7	神村　真由美 駒井　美穂子	【第 7 回】 予習　：エスキース準備 授業　：エスキース・作業②?２（実習） 復習　：エスキース・作業②?２、各自内容再確認　資料整理
8	神村　真由美 駒井　美穂子	【第 8 回】 予習　：エスキース準備 授業　：エスキース・作業②?3（実習） 復習　：エスキース・作業②?3、エスキース展開
9	神村　真由美 駒井　美穂子	【第 9 回】 予習　：エスキース準備 授業　：エスキース・作業②?４（実習） 復習　：エスキース・作業②?4、エスキース進展、発表準備
10	神村　真由美 駒井　美穂子	【第 10 回】 予習　：発表準備 授業　：課題②中間講評（発表・講評・ディスカッション） 復習　：中間講評内容レビュー、　詳細スケジュール確認
11	神村　真由美 駒井　美穂子	【第 11 回】 予習　：エスキース準備 授業　：エスキース・作業②?５（実習） 復習　：エスキース・作業②?５、エスキース展開

12	神村　真由美 駒井　美穂子	【第 12 回】 予習　：エスキース準備 授業　：エスキース・作業②?6（実習） 復習　：エスキース・作業②?6、エスキース進展
13	神村　真由美 駒井　美穂子	【第 13 回】 予習　：エスキース準備 授業　：エスキース・作業②?7（実習） 復習　：エスキース・作業②?7、エスキース制作作業
14	神村　真由美 駒井　美穂子	【第 14 回】 予習　：エスキース準備　提出準備 授業　：エスキース・作業②?8（実習） 復習　：エスキース・作業②?8　　提出準備
15	神村　真由美 駒井　美穂子	【第 15 回】 予習　：発表準備 授業　：課題②最終講評（プレゼンテーション・講評・ディスカッション） 復習　：講評レビュー

授業開始前学習	宿泊施設の様々な事例を調べておくことを推奨する。
授業内課題のフィードバックの方法	エスキース中の個別質問にはその都度回答する。また中間発表を重ねることで、学生間の学び合い促進する。各講評では全員へ抑えるべきポイントを伝達する。
テキスト・教材	教科書：「新しいインテリアデザインの実技」市ヶ谷出版社 このほかに必要な資料は指示またはプリントを配布する。
参考書	授業にあわせ推薦図書、参考図書を紹介する。
評価の基準と方法	授業は演習と講義などで進める。よって評価は出席、受講態度、提出内容、提出期限を重視する..。配点（100 点満点における）は出席・受講態度 50 点、提出物 50 点の配分とする。出席が 10 回未満（授業回数 3 分の 2 未満）の場合は、単位修得できない。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		○		◎	○

関連科目	インテリアデザイン計画 C
その他	エスキース作業や提出・発表などのスケジュールを各自管理すること。 社会の動きや身の回りの生活環境などを日頃から意識的に観察・情報収集して考察し、理解を深めること。 CAD を中心としたパソコンによるプレゼンテーション技法の修得に努めること。 正課学外活動で展示会などの見学を予定している。交通費などは自己負担とする。 設計製図Ⅰ、インテリアデザインⅠを履修済みであること。
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間＋予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	複数の担当教員は共にホテルインテリアデザイナーとしての実務経験を生かし、宿泊施設のインテリアデザイン提案ができるよう演習をおこなう

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-221 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	141-331-12 （Ｊ）	授業コード	FG0430
科目名称	ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ論			単位数	2.0 単位
英文名称	Theory of Interior Design			授業区分	講義
科目責任者	佐藤 勉			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	佐藤 勉			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 火曜日 10:40～12:10 火曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 10:40～12:10 火曜日 13:00～14:30			研究室	1-202
授業概要	インテリア空間を理解し、空間のデザインを促すための論である。 インテリア空間をデザインするためには、さまざまなインテリアの要素、要因などの知識が必要である。 要素、要因の観点は多種多様であるが、この論では、空間の考え方と有り様を中心に論ずる。 その内容を各自が問題意識を持ち、研究・習得する。授業では小課題のグループ発表などを行う。				
到達目標	インテリアデザインを考える上で必要な知識を幅広く身につけること。それらの知識をふまえ、小課題やレポートを通して、インテリア空間を自分の視点で正確に読み取り、的確に表現できること。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	佐藤 勉	【第 1 回】 予習 ：シラバスを読み込んでおく 授業 ：ガイダンス 復習 ：授業のテーマと目的を良く理解しておく（小課題 1）
2	佐藤 勉	【第 2 回】 予習 ：インテリアデザインと聞いてイメージするキーワードの考察 授業 ：インテリアデザインとは （小課題 1 グループ発表） 復習 ：インテリアデザインの領域の再確認
3	佐藤 勉	【第 3 回】 予習 ：住まい以外の好きな空間 授業 ：何も無かった空間 復習 ：インテリアデザインの用途別分類（小課題 2）
4	佐藤 勉	【第 4 回】 予習 ：日本と海外の住まいの違い 授業 ：様々な空間 （小課題 2 グループ発表） 復習 ：日本と海外の空間の歴史とその違いと特徴を認識
5	佐藤 勉	【第 5 回】 予習 ：自分の家の玄関のリサーチ 授業 ：靴を脱ぐ住まい 復習 ：玄関、畳の名称や寸法
6	佐藤 勉	【第 6 回】 予習 ：季節の行事 授業 ：人の動作、行動と寸法 復習 ：モジュールについて（小課題 3）
7	佐藤 勉	【第 7 回】 予習 ：自分の部屋にある家具の確認 授業 ：家具の役割（小課題 3 グループ発表） 復習 ：家具の種類、用途の再確認
8	佐藤 勉	【第 8 回】 予習 ：自分の部屋の収納量をリサーチ 授業 ：収納 復習 ：部屋別の収納家具やその寸法、デザインの再確認
9	佐藤 勉	【第 9 回】 予習 ：自分の部屋の照明のリサーチ 授業 ：自然のあかりと人工のあかり 復習 ：あかりの種類の確認（小課題 4）
10	佐藤 勉	【第 10 回】 予習 ：自分のキッチンのリサーチ 授業 ：台所、風呂、便所（小課題 4 グループ発表） 復習 ：キッチン、風呂、トイレに使われている素材の確認
11	佐藤 勉	【第 11 回】 予習 ：自分の寝室のリサーチ 授業 ：寝室、玄関 復習 ：寝室、玄関に使われている素材の確認

12	佐藤　勉	【第 12 回】 予習　：自分の家の中に使われている素材の整理 授業　：素材 1 復習　：自分の家の床・壁・天井など素材を確認
13	佐藤　勉	【第 13 回】 予習　：自分の好きな素材・色を探す 授業　：素材 2 復習　：素材の種類、トレンドの確認
14	佐藤　勉	【第 14 回】 予習　：自分の好きな家具のデザイン 授業　：まとめ 1 復習　：室内環境の再認識
15	佐藤　勉	【第 15 回】 予習　：自分の好きなインテリアスタイル 授業　：まとめ 2 復習　：15 回の授業内容を良く理解しておく

授業開始前学習	「図学と透視画の基礎」授業で使用した教科書「新しいインテリアデザインの実技」第 1 章 1 － 1 と 1 － 2 をよく読んでおくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	小課題ワークシート提出後の授業でグループ発表と講評を行う。
テキスト・教材	授業に必要な資料は指示、又は配布する。 作業に必要な用具、教材は指示に応じて各自用意する。
参考書	授業にあわせて、推選図書、参考書は紹介をする。
評価の基準と方法	小課題と最終レポート、受講態度等を総合して評価する。 配点（100 点満点における）は、小課題等 20 点、受講態度等 30 点、最終レポート 50 点の配分とする。 出席が 10 回未満の場合は、単位修得不可。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○		

関連科目	インテリアデザイン Ⅰ、インテリアデザイン Ⅱ
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	建築、インテリアデザインの実務経験あり。建築・インテリアデザイン分野の実務に役立つ内容について講義する。

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-221 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	141-331-12 （Ｊ）	授業コード	FG0440
科目名称	ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ計画 A			単位数	2.0 単位
英文名称	Interior Design A (Housing and Shop)／Interior Design A			授業区分	講義
科目責任者	橋田 洋子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	橋田 洋子			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 火曜日 16:20～17:50 木曜日 14:40～16:10 後期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 14:40～16:10			研究室	1-206
授業概要	住居・店舗のインテリア空間を形（造形）や機能としてとらえるだけでなく、 光・音・香り・映像・会話そして朝昼晩といった時間の経過を含む「情景／シーン」として考察し、学んでいく。 実測や空間体験を通して、材質感やスケール感覚などを理解するとともに、 住居・店舗におけるインテリアデザイン計画の基本的知識を身につけることを目的とする。				
到達目標	実測や空間体験を通して、材質感やスケール感覚などを理解するとともに、 住居・店舗空間におけるインテリアデザイン計画の基本的知識を身につけることを目標とする。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	橋田 洋子	【第 1 回】 予習 ：シラバスを読み込んでおく 授業 ：ガイダンス・住居空間インテリアデザイン概論 復習 ：授業のテーマと目的を良く理解しておく
2	橋田 洋子	【第 2 回】 予習 ：自分の家のエントランス空間をリサーチ 授業 ：エントランス空間 復習 ：自分の家のエントランス空間の部材・素材の確認
3	橋田 洋子	【第 3 回】 予習 ：自分の家のリビング・ダイニング空間のリサーチ 授業 ：リビング・ダイニング空間 復習 ：自分の家のリビング・ダイニング空間の部材・素材の確認
4	橋田 洋子	【第 4 回】 予習 ：様々な人が集う空間のリサーチ 授業 ：実測①人が集う空間のスケール把握 復習 ：実測①の分析資料を作成
5	橋田 洋子	【第 5 回】 予習 ：自分の家のキッチン空間のリサーチ 授業 ：キッチン空間 復習 ：自分の家のキッチン空間の部材・素材の確認
6	橋田 洋子	【第 6 回】 予習 ：自分の家のサニタリー空間のリサーチ 授業 ：サニタリー空間 復習 ：自分の家のサニタリー空間の部材・素材の確認
7	橋田 洋子	【第 7 回】 予習 ：様々な機能的な空間をリサーチ 授業 ：実測② 機能的空間のスケール把握 復習 ：実測②の分析資料を作成
8	橋田 洋子	【第 8 回】 予習 ：自分の家の働く・寝る・子ども・和の空間のリサーチ 授業 ：働く・寝る・子ども・和の空間 復習 ：自分の家の働く・寝る・子ども・和の空間の部材・素材の確認
9	橋田 洋子	【第 9 回】 予習 ：自分の家の個人的な空間をリサーチ 授業 ：実測③ 個人的空間のスケール把握 復習 ：実測③の分析資料を作成
10	橋田 洋子	【第 10 回】 予習 ：身近な店舗のインテリアデザインを確認しておく 授業 ：店舗空間インテリアデザイン概論 復習 ：住居と店舗のインテリアデザインの違いを自分なりに整理しておく
11	橋田 洋子	【第 11 回】 予習 ：身近な Café 店舗 1 件を選定・体験しておく 授業 ：飲食空間① 復習 ：選定した Café 店舗の空間の部材・素材の確認

12	橘田　洋子	【第 12 回】 予習　：身近なレストラン店舗 1 件を選定・体験しておく 授業　：飲食空間② 復習　：選定したレストラン店舗の空間の部材・素材の確認
13	橘田　洋子	【第 13 回】 予習　：身近なギフトショップ 1 件を選定・体験しておく 授業　：物販空間① 復習　：選定したギフトショップの空間の部材・素材の確認
14	橘田　洋子	【第 14 回】 予習　：身近なセレクトショップ 1 件を選定・体験しておく 授業　：物販空間② 復習　：選定したセレクトショップの空間の部材・素材の確認
15	橘田　洋子	【第 15 回】 予習　：自分の好きなインテリアデザイン空間のある住居・店舗をリサーチ 授業　：講評 復習　：15 回の授業内容をよく理解しておく

授業開始前学習	出来るだけ多くの空間デザインに触れ、観察するように。 デザインには経験のストックが重要。
授業内課題のフィードバックの方法	演習を実施した際には、講義内での解説を行う。課題発表やグループ発表では、講評を行う。
テキスト・教材	授業中に配布する。必要に応じて指示する。
参考書	講義中に指示する。
評価の基準と方法	評価は出席状況、課題提出内容、提出期限を重視し評価を行う。 配点(100 点満点における）は、ミニテスト 20 点・演習課題内容・提出期限 70 点、授業態度 10 点の配分とする。 出席が 10 回未満（講義回数の 3 分の 2 回未満）、及び課題未提出のいずれの場合も単位取得できない。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○		

関連科目	設計製図Ⅰ、設計製図Ⅱ、インテリアデザインⅠ
その他	学外で見学会を行うことがあります。その際に必要な交通費・入場料などの経費は自己負担となります。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	建築・インテリアデザイン分野における実務経験あり。建築・インテリアデザイン等の実務に役立つ実習等を行う。

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-321 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	141-331-13 （Ｊ）	授業コード	FG0450
科目名称	ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ計画 B			単位数	2.0 単位
英文名称	Interior Design B			授業区分	講義
科目責任者	神村 真由美			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	神村 真由美			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 木曜日 14:30～17:30 後期 木曜日 14:30～17:30			研究室	1-201
授業概要	インテリア空間を形（造形）や機能としてとらえるだけでなく、光・音・香り・映像・会話、そして朝昼晩といった時間経過を含む「情景／シーン」として考察してゆく。同時にインテリアデザインの前提となる「コンセプト」や「ターゲット設定」などの重要性とそれらの構築方法を「シーンメイクスペースデザイン」を通して理解してゆくことを目的とする。				
到達目標	自身が対峙する空間の「課題」が明確にでき、「コンセプト」「ターゲット設定」「提供価値」と必然となる具体解決提案に結びつけることができるようになること。				

アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	神村 真由美	【第 1 回】 予習 ：シラバスを一読俯瞰し、授業進行概要を把握しておく。 授業 ：ガイダンス 復習 ：ガイダンス内容と自身の学習目的を確認する。
2	神村 真由美	【第 2 回】 予習 ：空間において目に見える形以外にどんな要素があるかを考えておく。 授業 ：シーンメイクスペースデザイン概論 復習 ：自身の興味ある対象空間における情緒的要素を抽出考察してみる。
3	神村 真由美	【第 3 回】 予習 ：空間の情緒的要素を伝達する方法を考えておく。 授業 ：空間計画にける脚本づくり 復習 ：身近な空間の情報を文章化してみる。
4	神村 真由美	【第 4 回】 予習 ：「価値」という言葉の意味を調べておく。 授業 ：空間価値 復習 ：自身の興味ある商業店舗の空間価値を考えてみる。
5	神村 真由美	【第 5 回】 予習 ：「らしさ」と「共通イメージ」という言葉の意味を調べておく。 授業 ：「らしさ」と「共通イメージ」 復習 ：頭の中に浮かぶイメージをキーワードとして記述してみる。
6	神村 真由美	【第 6 回】 予習 ：自身が行うデザインはいつもどこから出てくるのかを考えておく。 授業 ：デザインのプロセス 復習 ：イメージとデザインの関係を再確認する。
7	神村 真由美	【第 7 回】 予習 ：デザインと企画の差異について考えておく。 授業 ：空間構築のコンセプト（１） 復習 ：デザイン行為において文字をあつかうことを実践してみる。
8	神村 真由美	【第 8 回】 予習 ：紙面やＷＥＢで頻繁に目にするキーワードを調べておく。 授業 ：空間構築のコンセプト（２） 復習 ：時代のキーワードについて考えてみる。
9	神村 真由美	【第 9 回】 予習 ：デザインや制作の目的について考えておく。 授業 ：空間構築の目標設定 復習 ：５ｗ１ｈについて再確認する。
10	神村 真由美	【第 10 回】 予習 ：自身の商品・サービスの購入基準は何か考えておく。 授業 ：空間の「機能価値」と「意味的価値」（１） 復習 ：良いコミュニケーションとはなにかを再確認する。
11	神村 真由美	【第 11 回】 予習 ：健康志向について調べておく。 授業 ：環境と衛生 復習 ：配布資料を再読し、環境と衛生について理解を深める。

12	神村　真由美	【第 12 回】 予習　：「属性」の意味を調べておく。 授業　：「イメージ」と「デザイン」（１） 復習　：配布資料を再読し、「イメージ」について理解を深める。
13	神村　真由美	【第 13 回】 予習　：配布資料に記載の「イメージ」と「デザイン」のキーワードを理解しておく。 授業　：「イメージ」と「デザイン」（２） 復習　：配布資料を再読し、「イメージ」と「デザイン」の関係ついて理解を深める。
14	神村　真由美	【第 14 回】 予習　：３Ｒについて調べておく 授業　：環境配慮設計 復習　：集客施設における環境配慮事例を調べてみる。
15	神村　真由美	【第 15 回】 予習　：講義内容を振り返り、疑問点があれば抽出しておく。 授業　：講評 復習　：本講義で得た知識や思考方法を自身の目標と照らし合わせ、自身の問題点や課題を明確にする。

授業開始前学習	
授業内課題のフィードバックの方法	提出された課題回答を全体分析し、講義中にフィードバックする。
テキスト・教材	講義中に配布する。必要に応じて指示する。
参考書	
評価の基準と方法	配点(100 点満点における）は、ミニテスト・演習課題内容・提出期限 80 点、受講態度 20 点の配分とする。出席が 10 回未満 （講義回数の 3 分の 2 回未満）、及び課題未提出のいずれの場合も単位取得できない。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○		

関連科目	インテリアデザインⅠ、インテリアデザインⅡ、インテリアデザイン計画 A
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	担当教員は 商業施設及びホテルインテリアデザイナーとしての実務経験を生かし、その企画・計画・デザイン方法、社会背景や課題解決方法について講義する。

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-321 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	141-331-13（Ｊ）	授業コード	FG0460
科目名称	ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ計画 C			単位数	2.0 単位
英文名称	Interior Design C			授業区分	講義
科目責任者	出原 秀仁			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	出原 秀仁			開講時期	3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	インテリア空間を形（造形）や機能としてとらえるだけでなく、光・音・香り・映像・会話そして朝昼晩といった時間の経過を含む「情景／シーン」として考察してゆく。同時に多様なインテリアデザインのフィールドとその事例を通して、「シーンメイクスペースデザイン」におけるコミュニケーションとプレゼンテーションの重要性も理解してゆく。				
到達目標	常に世の中の最新動向と問題点に目を向ける意識向上。自身のコミュニケーションスキルとプレゼンテーションスキルにおける課題の自覚とその克服を目指した向上指針を明確にする。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	出原 秀仁	【第 1 回】 予習 ：シラバスを俯瞰し、授業進行を把握しておく。 授業 ：ガイダンス 復習 ：ガイダンス内容と自身の目的を確認する。
2	出原 秀仁	【第 2 回】 予習 ：空間において目に見える形以外にどんな要素があるかを考えておく。 授業 ：シーンメイクスペースデザイン概論 復習 ：自身の興味ある対象空間における情緒的要素を抽出考察してみる。
3	出原 秀仁	【第 3 回】 予習 ：情景という観点で、自身の興味ある対象空間の良さを考えておく。 授業 ：シーンの構成要素 復習 ：講義で得た思考、理論、概念を元に身近な実空間で考察してみる。
4	出原 秀仁	【第 4 回】 予習 ：空間にかかわるデザインの領域をおよび分野を調べておく。 授業 ：デザインのフィールド 復習 ：配布資料を再読し、デザインのフィールドを再確認する。
5	出原 秀仁	【第 5 回】 予習 ：近年話題の商業施設を調べておく。 授業 ：商業施設 復習 ：配布資料を再読し、特に開発コンセプトについての理解を深める。
6	出原 秀仁	【第 6 回】 予習 ：ディスプレイデザインについて調べておく。 授業 ：ディスプレイデザイン（１） 復習 ：講義で紹介された、実デザインを net や文献で再確認する。
7	出原 秀仁	【第 7 回】 予習 ：空間におけるＩＣＴツール（映像や装置など）について調べておく。 授業 ：ディスプレイデザイン（２） 復習 ：講義で得た知識の基づきデザインのメッセージ性についての理解を深める。
8	出原 秀仁	【第 8 回】 予習 ：ホテル＆リゾートにおける集客のキャッチコピーを数点調べておく。 授業 ：ホテル＆リゾート（１） 復習 ：配布資料を再読し、多様なホテルブランドの成り立ちについての理解を深める。
9	出原 秀仁	【第 9 回】 予習 ：近年話題のホテル＆リゾート施設を調べておく。 授業 ：ホテル＆リゾート（２） 復習 ：ホテル＆リゾートに対する多様なニーズとコンセプトを再確認する。
10	出原 秀仁	【第 10 回】 予習 ：舞台やステージ演出に必要と思われる要素を調べておく。 授業 ：ステージセット（舞台美術） 復習 ：舞台美術の演出構成要素を再確認する。
11	出原 秀仁	【第 11 回】 予習 ：テーマパークの非日常性について考えておく。 授業 ：テーマパーク 復習 ：ストーリーの重要性を認識し、大学の課題や自身のポートフォリオ制作に活用する。

12	出原　秀仁	【第 12 回】 予習　：「コンセプト」と「イメージ」の違いについて調べておく。 授業　：コンセプチュアルアーキテクチャー 復習　：配布資料を再読し、建築計画におけるコンセプトの必要性を再認識する。
13	出原　秀仁	【第 13 回】 予習　：自身のポートフォリオなどプレゼンテーションツールの強み弱みを認識しておく。 授業　：プレゼンテーション 復習　：講義内容を自身の目標と照らし合わせ、プレゼンにおける自身の問題点と課題を明確にする。
14	出原　秀仁	【第 14 回】 予習　：知財とはなにか？を調べておく。 授業　：著作権と意匠法 復習　：特許庁ＨＰなどを参考に知財について理解を深める。
15	出原　秀仁	【第 15 回】 予習　：授業内容を振り返り、疑問点質問があれば抽出しておく。 授業　：講評 復習　：授業で得た知識や思考方法を自身の目標と照らし合わせ、自身の問題点や課題を明確にする。

授業開始前学習	
授業内課題のフィードバックの方法	提出された課題回答を全体分析し、講義内に全員へフィードバックする。
テキスト・教材	講義中に配布する。必要に応じて指示する。
参考書	
評価の基準と方法	評価の配点は、出席状況を７０点満点、２回の課題内容・提出期限を３０点満点の配分とする。 出席が１０回以下（講義回数の３分の２回）、または２題の課題未提出のいずれの場合も単位取得できない。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○		

関連科目	インテリアデザインⅡ、インテリアデザイン計画 B
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	空間デザインと空間事業企画及び計画の実務経験あり。 商業空間、宿泊空間、博物館、医療治療空間などを実践してきた経験を活かし、その企画・計画・デザイン方法、社会背景や課題解決方法について講義する。

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-222 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	141-330-22 （Ｊ）	授業コード	FG0471
科目名称	家具ﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ			単位数	2.0 単位
英文名称	Furniture Design Ⅰ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	榎本 文夫			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	榎本・野田			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	リビングデザインの重要な要素である家具の主要な材料となる木材について「加工・材料学」と連携しながら素材の特性や加工方法、道具の使い方と家具図の描き方などを学びます。 具体的には、前半は木工房で手工具の使い方と木の加工方法、後半は CAD を使って家具図の描き方を学びます。また最後は家具の模型制作を学びます。				
到達目標	基本的な木材の特徴を学びながら木工用手工具を安全に使えるようになる。 また建築やインテリアとは異なる家具図の描き方を学ぶことを目標とする。				

アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	共同

授業回数	担当者	授業の内容
1	榎本 文夫 野田 昇一郎	【第 1 回】 予習 ：・教科書 1 頁～ 3 頁を読んでおくこと。 授業 ：・家具デザインとは。 復習 ：・「家具デザイン」について再確認しておく。
2	榎本 文夫 野田 昇一郎	【第 2 回】 予習 ：・教科書 4 頁～11 頁を読んでおくこと。 授業 ：・はかる、たたく 復習 ：・「はかる、たたく」について復習しておくこと。
3	榎本 文夫 野田 昇一郎	【第 3 回】 予習 ：・教科書 13 頁～19 頁を読んでおくこと。 授業 ：・切る、削る 復習 ：・「切る、削る」について復習しておくこと。
4	榎本 文夫 野田 昇一郎	【第 4 回】 予習 ：・教科書 21 頁～26 頁を読んでおくこと。 授業 ：・彫る、あける 復習 ：・「彫る、あける」について復習しておくこと。
5	榎本 文夫 野田 昇一郎	【第 5 回】 予習 ：・教科書 27 頁～28 頁を読んでおくこと。 授業 ：・抜く、締める 復習 ：・「抜く、締める」について復習しておくこと。
6	榎本 文夫 野田 昇一郎	【第 6 回】 予習 ：・教科書 29 頁～32 頁を読んでおくこと。 授業 ：・仮固定する、磨く 復習 ：・仮固定する、磨く」について復習しておくこと。
7	榎本 文夫 野田 昇一郎	【第 7 回】 予習 ：・教科書 34 頁、56～77 頁を読んでおくこと。 授業 ：・接着する、仕上 復習 ：・「接着する、仕上」について復習しておくこと。
8	榎本 文夫 野田 昇一郎	【第 8 回】 予習 ：・配付資料をよく見ておくこと。 授業 ：・CAD による板取図の描き方 その 1 復習 ：・板取図の描き方の復習しておくこと。
9	榎本 文夫 野田 昇一郎	【第 9 回】 予習 ：・配付資料をよく見ておくこと。 授業 ：・CAD による板取図の描き方 その 2 復習 ：・板取図の描き方を復習しておくこと。
10	榎本 文夫 野田 昇一郎	【第 10 回】 予習 ：・配付資料をよく見ておくこと。 授業 ：・CAD による 3D モデリング その 1 復習 ：・3D モデリングの方法を復習しておくこと。

11	榎本　文夫 野田　昇一郎	【第 11 回】 予習　：・配付資料をよく見ておくこと。 授業　：・CAD による 3D モデリング　その 2 復習　：・3D パースの描き方を復習しておくこと。
12	榎本　文夫 野田　昇一郎	【第 12 回】 予習　：・配付資料をよく見ておくこと。 授業　：・CAD による三面図の描き方　その 1 復習　：・三面図の描き方を復習しておくこと。
13	榎本　文夫 野田　昇一郎	【第 13 回】 予習　：・配付資料をよく見ておくこと。 授業　：・CAD による三面図の描き方　その 2 復習　：・三面図の描き方を復習しておくこと。
14	榎本　文夫 野田　昇一郎	【第 14 回】 予習　：・今までに学んだ CAD による家具図の描き方を確認しておく。 授業　：・理解度の確認ミニテスト 復習　：・テスト結果に基づき、自分の学びを再確認する。
15	榎本　文夫 野田　昇一郎	【第 15 回】 予習　：・家具模型の材料について調べておくこと。 授業　：・家具模型の作り方 復習　：・作り方を再確認しておくこと。

授業開始前学習	家具の主要材料である木について、また制作に使用する手工具についてネットや文献を通じて基本的な知識を身に付けておく。
授業内課題のフィードバックの方法	授業内で行うミニテストなどを通じ自分の理解度を把握し、個別の指導により問題点の改善を図る。
テキスト・教材	自前教科書「家具デザイン」及び配付資料
参考書	
評価の基準と方法	・授業への取り組み３0%、課題成果物及びレポートなどの提出物７0%で総合的に評価。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	

関連科目	「加工・材料学」で木材や木質材料について詳しく学ぶ為、同時履修を強く推奨。
その他	・教場設備の関係で【定員 16 名】の 2 クラス開講（合計 32 名）とする。 ・履修希望者が定員を超えた場合、抽選を行う。その際、上位学年と初回授業出席者を優先する。 ・抽選は初回授業で行うため、履修希望者は初回授業に必ず出席すること。 ・学外での見学レポート課題がある。その際の交通費、入場料等の費用は自己負担とする。
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間＋予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	家具デザインの実務経験のある教員が担当しており、実務に即した図面の描き方や木の加工方法などを学ぶことが出来る。

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-222 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	141-330-22（Ｊ）	授業コード	FG0480
科目名称	家具ﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ			単位数	2.0 単位
英文名称	Furniture Design Ⅱ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	榎本　文夫			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	榎本・野田			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	わたしたちの生活に欠かせない一番身近な家具である「すわるかかち」（イス）について考えます。 生活の道具として、本当に座りやすく美しい「すわるかかち」（イス）とはどのようなものなのか？ 合板という木質材料の特性を理解しながら、人が「すわる」という行為のために必要なかたちについて考察しデザインし制作することで検証します。 前期に身に付けた道具の使い方や木の加工技術を生かしながら実際に製作を行い、頭の中だけではなく素材に触れ自分の手で考え制作します。 そして、制作した「すわるかたち」に実際に座ってみることで「身体で発見し学ぶ」を目指します。				
到達目標	前半は、前期に学んだ CAD のスキルを使いながら合板という木質系材料の特性を生かした「すわるかたち」のデザインを行う。 後半は、実際に木工房で制作を行い、完成した「すわるかたち」に座ってみることでデザインの検証を行う。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	共同

授業回数	担当者	授業の内容
1	榎本 文夫 野田 昇一郎	【第 1 回】 予習 ：身の回りの座るための道具について調査すること。 授業 ：「すわるかかち」とは 復習 ：「すわるかたち」について再確認しておく。
2	榎本 文夫 野田 昇一郎	【第 2 回】 予習 ：「すわる」行為について研究しておくこと。 授業 ：「すわる」行為についての問題点の発見 復習 ：問題点の整理
3	榎本 文夫 野田 昇一郎	【第 3 回】 予習 ：かたちのスタディー、スケッチなど 授業 ：「すわる」行為における問題点に対する解決方法の検討 復習 ：スケッチ、スタディモデルのブラッシュアップ
4	榎本 文夫 野田 昇一郎	【第 4 回】 予習 ：スケッチ、スタディモデルの更なるブラッシュアップ 授業 ：解決方法のかたちによる展開 復習 ：スケッチのブラッシュアップ
5	榎本 文夫 野田 昇一郎	【第 5 回】 予習 ：有名デザイナーによる名作イスを研究すること。 授業 ：解決方法のかたちによる展開その 2 復習 ：スケッチやスタディモデルの更なるブラッシュアップ
6	榎本 文夫 野田 昇一郎	【第 6 回】 予習 ：前期の授業で配布された CAD 図面の資料を再確認しておく。 授業 ：CAD による三面図や 3D パースの制作 復習 ：プレゼンテーション用図面の出力
7	榎本 文夫 野田 昇一郎	【第 7 回】 予習 ：模型制作の準備 授業 ：プレゼン用模型の制作 復習 ：プレゼンテーションの準備
8	榎本 文夫 野田 昇一郎	【第 8 回】 予習 ：プレゼンテーションの準備 授業 ：中間発表会（デザインプレゼンテーション） 復習 ：講評での指摘事項の再確認、修正
9	榎本 文夫 野田 昇一郎	【第 9 回】 予習 ：プレゼンテーションで指摘された内容で図面を修正しておくこと。 授業 ：板取作業(実習) 復習 ：背面の修正
10	榎本 文夫 野田 昇一郎	【第 10 回】 予習 ：制作の準備 授業 ：部品の切り出し(実習) 復習 ：図面の修正

11	榎本　文夫 野田　昇一郎	【第 11 回】 予習　：自前教科書の該当部分を読んでおくこと 授業　：部品の加工作業、その他(実習) 復習　：特になし
12	榎本　文夫 野田　昇一郎	【第 12 回】 予習　：自前教科書の該当部分を読んでおくこと 授業　：組み立て作業、その他(実習) 復習　：制作上で明らかになったデザインの変更点による図面の修正
13	榎本　文夫 野田　昇一郎	【第 13 回】 予習　：自前教科書の該当部分を読んでおくこと 授業　：組み立て、仕上げ作業、その他(実習) 復習　：制作上の変更点による図面の修正
14	榎本　文夫 野田　昇一郎	【第 14 回】 予習　：自前教科書の該当部分を読んでおくこと 授業　：組み立て、仕上げ作業(実習) 復習　：デザインの変更点による図面の修正
15	榎本　文夫 野田　昇一郎	【第 15 回】 予習　：講評会用の図面、模型の準備 授業　：講評会、実証体験（発表） 復習　：講評会での検証結果をレポートにまとめる。

授業開始前学習	前期に学んだ家具図の描き方、３Ｄモデリングの作り方などを復習しておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	毎回の授業内で、個々のデザインに対してチェックを行い、ブラッシュアップしていく。 授業期間中にデザインプレゼンテーションを行い、講評によるデザイン改善を行う。 最終授業で実際の制作物による講評会を行い、個々のデザインへの評価を伝え質問等に回答する。 自分のデザインに対する客観的な視点からの意見を取り込み、今後のデザイン改善に繋げていく。
テキスト・教材	自前教科書「家具デザイン」及び配付資料
参考書	
評価の基準と方法	授業への取り組み 30%、課題提出物や完成作品及びレポートなど 70%で総合的に評価。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	

関連科目	前期科目「加工・材料学」 実際に加工する木質系材料についての知識を身に付けておく。
その他	・工房設備の関係で【定員 8 名】の１クラス開講とする。 ・履修希望者が定員を超えた場合は上位学年を優先する。 ・学外での見学レポート課題がある。その際にかかる経費は自己負担とする。
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間＋予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	家具デザインの実務経験がある教員が担当。実務と同じデザインプロセスの体験や木材の加工技術などを経験することができる。

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-321 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	141-330-23 （Ｊ）	授業コード	FG0490
科目名称	家具ﾃﾞｻﾞｲﾝⅢ			単位数	2.0 単位
英文名称	Furniture Design Ⅲ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	榎本 文夫			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	榎本 文夫			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～12:00 後期 水曜日 09:00～12:00			研究室	1-204
授業概要	地域貢献としてのものづくりを考える。 大学の地元である稲城市民が利用するための家具をデザインし、制作する。 地域社会との関わりを意識し、市民のつどう場を生み出すデザインを考える。 稲城市と連携して具体的な設置する場所を設定し、その場所の条件を踏まえ市民が安全で快適に使用できるデザインを考える課題解決型学修。 実際に制作したものは、稲城市に寄贈し市民に利用してもらう予定。				
到達目標	学生が提案したデザインのプレゼンテーションを行い、市の関係者による投票で実際に制作するデザインを選定する。 制作はグループワークで行う。 それらの経験によってプレゼンテーション能力やグループワークにおける協調性、またコミュニケーション能力を身に付ける。 また二年次に身に付けた木の加工技術のスキルアップを目標とする。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	榎本 文夫	【第 1 回】 予習 ：シラバスを読んでおくこと 授業 ：「つどうかたち」の意味 復習 ：「つどうかたち」の意味を各自考え、まとめておくこと。
2	榎本 文夫	【第 2 回】 予習 ：身近な「つどうかたち」の実例を集める 授業 ：「つどうかかち」の実例検証、スケッチによるスタディ 復習 ：「つどうかたち」のデザインを考えスケッチにまとめておく。
3	榎本 文夫	【第 3 回】 予習 ：「つどうかたち」のスケッチを描く 授業 ：「つどうかたち」のデザインスタディー、スケッチやモデルによる検証作業 復習 ：「つどうかたち」のスタディモデルを複数作成してみる
4	榎本 文夫	【第 4 回】 予習 ：「つどうかたち」のスタディモデルをブラッシュアップ 授業 ：「つどうかたち」のデザインスタディーモデルによるデザイン検証 復習 ：3D モデリングによるデザインスタディ作業
5	榎本 文夫	【第 5 回】 予習 ：3D モデリングから三面図を作成 授業 ：「つどうかかち」の三面図とスタディモデルによる検証作業 復習 ：絞り込んだデザインをさらにブラッシュアップする
6	榎本 文夫	【第 6 回】 予習 ：CAD による三面図や 3D パース制作 授業 ：CAD による三面図や 3D パースによるデザイン検証 復習 ：検証結果をプレゼンテーション用の三面図やパースに反映させる
7	榎本 文夫	【第 7 回】 予習 ：プレゼンテーションに向けてデザインの再確認 授業 ：プレゼンテーション用モデルの作成及びデザイン検証 復習 ：プレゼンテーション用図面とモデルの準備
8	榎本 文夫	【第 8 回】 予習 ：プレゼンテーションに向けて発表の準備 授業 ：稲城市へのプレゼンテーション 復習 ：講評を受けてデザインの修正とブラッシュアップ
9	榎本 文夫	【第 9 回】 予習 ：今週の制作作業の確認と準備 授業 ：制作その 1・グループ編成、作業分担など（グループワーク） 復習 ：翌週作業の段取り確認
10	榎本 文夫	【第 10 回】 予習 ：今週の制作作業の確認と準備 授業 ：制作その 2・木取り作業、部品製作(グループワーク) 復習 ：翌週作業の段取り確認

11	榎本　文夫	【第 11 回】 予習　：今週の制作作業の確認と準備 授業　：制作その 3・部品製作及び組み立て作業(グループワーク) 復習　：翌週作業の段取り確認
12	榎本　文夫	【第 12 回】 予習　：今週の制作作業の確認と準備 授業　：制作その 4・組み立て及び研磨作業(グループワーク) 復習　：翌週作業の段取り確認
13	榎本　文夫	【第 13 回】 予習　：今週の制作作業の確認と準備 授業　：制作その 5・研磨作業及び塗装作業(グループワーク) 復習　：翌週作業の段取り確認
14	榎本　文夫	【第 14 回】 予習　：今週の制作作業の確認と準備 授業　：制作その 6・仕上げ(グループワーク) 復習　：講評会の準備（提出物の制作や修正）
15	榎本　文夫	【第 15 回】 予習　：講評会の準備 授業　：講評会（プレゼンテーション） 復習　：全体作業を通してのレポート作成

授業開始前学習	地域貢献としてのものづくりや「地域貢献活動」、「プロボノ」について調べておく。
授業内課題のフィードバックの方法	毎回の授業でデザインエスキスを行い、問題点や修正点を指摘する。 稲城市関係者に対するデザインプレゼンテーションを行い、参加者からの客観的な視点による感想や意見を取り込み、デザイン改善に繋げていく。 また実際に市内に設置し、市民に使用してもらうことで問題点を検証し今後のデザインにフィードバックさせる。
テキスト・教材	
参考書	
評価の基準と方法	授業への取り組み 50%、提出物及びレポート 50%。 特に後半の制作におけるグループワークでの協調性を重視して評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		○	○	◎	

関連科目	履修希望者は前期科目「加工・材料学」　履修済であるか、同時履修すること。 「家具デザイン II」を履修済であることを強く推奨。
その他	・工房設備と制作物の大きさの関係で【定員 6 名】とする。（※制作する台数は 2 台とし、1 グループ 3 名とする。） ・履修希望者が定員を超えた場合は抽選による調整を行う。その際、「家具デザイン II」と「加工・材料学」を履修済であることを優先する。 ・定員を超えた場合の調整は、初回の授業で行うので希望者は必ず出席すること。 ・学外での見学レポート課題がある。それにかかる費用は自己負担とする。 ・設置場所のリサーチのため現地へ正課学外活動を行うが、それにかかる交通費等の費用は自己負担とする。
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間＋予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	実務経験のある教員が担当。実務と同じデザインプロセスの体験や加工技術などを身に付けることができる。

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	141-330-12（Ｊ）	授業コード	FG0500
科目名称	家具ﾃﾞｻﾞｲﾝ研究			単位数	2.0 単位
英文名称	Studies of Furniture Design			授業区分	講義
科目責任者	野田　昇一郎			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	野田　昇一郎			開講時期	2･3･4 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	前半は、自分の空間のための収納のデザインを考える。 収納という家具は、それが置かれる「空間」と収納される「もの」によって外側と内側から様々な制約を受ける、いわばダブルバインド状態にある。 そのような収納について考察し、新しい収納のあり方をデザインする。 後半は、名作イスについて近代デザイン史などの歴史的背景も含め研究する。学類が所有する名作イスの素材やデザイナーについて各自の視点で調査し発表を行う。 初回授業は 2-403 教室で行う。				
到達目標	自分の部屋におく自分が所有するモノのための収納、というリアルな設定を通して考えることで、新しい収納家具のあり方をデザインできる力を身に付ける。 また後半の課題では、名作イスの名作といわれるその理由をデザインの歴史的背景も併せて考え、独自の視点による名作の基準を発見する。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	野田　昇一郎	【第 1 回】 予習　：シラバスを読んでおく 授業　：授業説明とオリエンテーション 復習　：自分の部屋の収納とモノの状態について調べる
2	野田　昇一郎	【第 2 回】 予習　：自分の部屋の収納についてまとめておく 授業　：収納家具のデザインについて 復習　：問題点、課題の整理
3	野田　昇一郎	【第 3 回】 予習　：自分の部屋の「もの」の理想な収納状態を考える 授業　：デザインスタディその 1 (スケッチ・ラフモデル制作) 復習　：スケッチなどの整理
4	野田　昇一郎	【第 4 回】 予習　：収納する「もの」の調査結果をまとめる 授業　：デザインスタディその 2 (スケッチ・ラフモデル制作) 復習　：今日のスタディ結果を整理しておく
5	野田　昇一郎	【第 5 回】 予習　：製図の準備 授業　：デザイン検証・図面化その 1 (第 4 回までのスケッチをベースに CAD による 3D モデリング) 復習　：今日の授業内容の整理、振り返り
6	野田　昇一郎	【第 6 回】 予習　：CAD の準備 授業　：デザイン検証・図面化その 2 復習　：今日の授業内容の整理、振り返り、翌週の作業内容確認
7	野田　昇一郎	【第 7 回】 予習　：CAD の準備 授業　：CAD のよる図面化その 3 (レンダリング・三面図等の作成) 復習　：今日の授業内容の整理、振り返り、翌週の作業内容確認
8	野田　昇一郎	【第 8 回】 予習　：CAD の準備 授業　：CAD のよる図面化その 4 (レンダリング・三面図等の作成) 復習　：今日の授業内容の整理、振り返り、翌週の作業内容確認
9	野田　昇一郎	【第 9 回】 予習　：模型の準備 授業　：模型制作 復習　：模型制作修正等、翌週の作業内容確認

10	野田　昇一郎	【第 10 回】 予習　：プレゼン資料項目の整理 授業　：プレゼン資料の制作 復習　：プレゼンの準備
11	野田　昇一郎	【第 11 回】 予習　：プレゼンの準備 授業　：「講評会」プレゼンテーション 復習　：講評の感想をまとめる
12	野田　昇一郎	【第 12 回】 予習　：近代デザイン史について調べる 授業　：近代デザイン史解説・名作椅子の解説 復習　：その日の授業の振り返り、ノートの整理
13	野田　昇一郎	【第 13 回】 予習　：図書館収蔵の椅子の中からレポート用に名作だと思う一脚を選択する 授業　：一部名作椅子の分解・構造解説　レポート用の椅子の実測・スケッチ作成 復習　：発表レポートの作成
14	野田　昇一郎	【第 14 回】 予習　：各自の発表の準備 授業　：各自の名作イス研究プレゼンテーションその 1 復習　：感想レポートの作成
15	野田　昇一郎	【第 15 回】 予習　：各自の発表準備 授業　：各自の名作イス研究プレゼンテーションその 2 復習　：感想レポートの作成

授業開始前学習	既存の収納家具について調査しておくこと。 名作イスについて調べておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	プレゼンテーションや毎回のエスキスに対する講評を通して、自身のデザインに対する問題点を確認する。
テキスト・教材	配布資料
参考書	適宜指示
評価の基準と方法	授業への取り組み(出席率含む）30%、課題提出物及びレポートの評価 70%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎			

関連科目	家具デザイン I、家具デザイン II、家具デザイン III、加工・材料学
その他	・家具デザイン I、家具デザイン II、家具デザイン III、加工・材料学を履修したうえで履修することを強く推奨。 ・学外での見学レポート課題があるが、見学にかかる費用は自己負担とする。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	実務経験のある教員が担当。

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-222 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	141-330-22 （Ｊ）	授業コード	FG0510
科目名称	陶芸ﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ			単位数	2.0 単位
英文名称	Ceramic Design Ⅰ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	渡辺 信史			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田中(真)・渡辺(信)			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	陶器の「ロクロ成形」の基本を経験する事により、普段の生活の中にある「器」がどの様に「制作」・「製造」されているのかをより具体的に考察、研究する。 また、制作する際には、「自ら」もしくは「誰かが」が使用する事を考えデザインする。食生活に欠かせない器をデザインする時の要素である形、大きさ、重さ、色、柄、収納性、食べ物との関係、いい雰囲気、魅力等をバランスよく考える。また各人、陶磁器にはどんなものがあるか？その歴史は？資料を集め、研究する。 実習・資料制作の２課題を行う。				
到達目標	ロクロ成形の基本を理解し、既存の陶磁器への理解を深める。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態	共同				

授業回数	担当者	授業の内容
1	田中 真琴 渡辺 信史	【第１回】 予習 ：シラバスを読む 授業 ：オリエンテーション（課題解決型学習） 復習 ：配布資料を読み問題抽出
2	田中 真琴 渡辺 信史	【第２回】 予習 ：参考資料を見る 授業 ：ロクロ成形 ワークショップ（発表） 復習 ：アイデア研究 問題点の整理
3	田中 真琴 渡辺 信史	【第３回】 予習 ：参考資料収集 アイデアスケッチ 授業 ：ロクロ成形（実習） 復習 ：参考資料まとめ 問題点の整理
4	田中 真琴 渡辺 信史	【第４回】 予習 ：アイデアスケッチ 授業 ：ロクロ成形（実習） 復習 ：アイデア研究 問題点の整理
5	田中 真琴 渡辺 信史	【第５回】 予習 ：アイデアスケッチ 授業 ：ロクロ成形（実習） 復習 ：手捻りによる取っ手付きの器のまとめ 問題点の整理
6	田中 真琴 渡辺 信史	【第６回】 予習 ：参考資料収集 アイデアスケッチ 授業 ：ロクロ成形 （実習） 復習 ：アイデア研究 問題点の整理
7	田中 真琴 渡辺 信史	【第７回】 予習 ：陶磁器研究 授業 ：課題説明・質疑応答 復習 ：課題の理解
8	田中 真琴 渡辺 信史	【第８回】 予習 ：陶磁器研究 授業 ：資料制作 復習 ：資料検討・問題点の整理
9	田中 真琴 渡辺 信史	【第９回】 予習 ：陶磁器研究 授業 ：資料制作 復習 ：資料検討・問題点の整理
10	田中 真琴 渡辺 信史	【第 10 回】 予習 ：陶磁器研究 授業 ：資料制作 復習 ：資料検討・問題点の整理

11	田中　真琴 渡辺　信史	【第 11 回】 予習　：資料を検討 授業　：資料発表（プレゼンテーション） 復習　：問題点の整理
12	田中　真琴 渡辺　信史	【第 12 回】 予習　：絵付けアイデア検討 授業　：「ろくろ制作」見本に沿って制作する（実習） 復習　：「ろくろ制作」のまとめ　問題点の整理
13	田中　真琴 渡辺　信史	【第 13 回】 予習　：絵付けアイデア検討 授業　：絵付け　釉がけ（課題解決型学習）　窯詰め（実習）（グループワーク） 復習　：絵付け・釉がけのまとめ
14	田中　真琴 渡辺　信史	【第 14 回】 予習　：配布資料を読む 授業　：窯だし（実習）　作品の写真撮影　プレゼンテーション制作説明（グループワーク） 復習　：プレゼンテーション研究
15	田中　真琴 渡辺　信史	【第 15 回】 予習　：プレゼンテーション研究 授業　：講評（発表）（プレゼンテーション）（ディスカッション） 復習　：ふりかえり　制作作品を使う

授業開始前学習	・料理雑誌や図書館、インターネットを活用し、自分が作りたい器・絵付けのイメージを固める。 ・普段使用している器の「サイズ」や「使い心地」を考察しておく。 ・自分が好きな陶磁器を探す。
授業内課題のフィードバックの方法	制作する前には、各人アイデアチェックを行い、ディスカッションを通して幅広い考察を行う。授業 11 回・15 回目の講評では、制作した器及び資料について発表を行い、個別に講評、質問に回答する。
テキスト・教材	必要な資料は指示、または配布する
参考書	
評価の基準と方法	出席状況、提出作品、積極的な授業態度で評価を行う。配点は、実習 50%・資料制作 50%とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	

関連科目	2022 年度以前に入学の学生はプロダクトデザイン入門を習得済みであること。
その他	工房設備の関係で、希望者が多い場合履修制限、もしくは一部授業内容を変更する場合があります。
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間＋予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	現在、陶芸作家として陶器のデザイン、制作、販売を行っております。株式会社 九つ井（ここのついど）にて、蕎麦屋店舗にて実際に使用する器のデザイン、制作の実務経験がある。本学にて長年にわたる非常勤講師の実務経験があり、これらを活かし現在の教育に従事する。

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-222 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	141-330-22 （Ｊ）	授業コード	FG0520
科目名称	陶芸ﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ			単位数	2.0 単位
英文名称	Ceramic Design Ⅱ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	渡邉 真理子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	土橋・渡辺(真)			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	陶磁器における代表的な成形法、タタラ技法（板作り）による花器の制作を行う。 ① 2～10mm の板状の粘土は、柔らかいうちは丸めるなどで形作ることが出来、型などに押しつけることで変形させることも出来る。また板状の粘土を少し乾かし、板同士を張り合わせることによって形を作ることもで出来る。このように一つの技法でも粘土の状態により適する形やデザインがあることを理解し制作を進める。 ② 花器の制作をするにあたり、1 つ花（草花や苔、ドライフラワーなど）を各自選定し、その花のための花器をデザイン制作する。 ③ 設置空間に調和する器物の研究をする。				
到達目標	タタラ技法の制作工程を理解すること と 選定した花の研究 と 花器と花と設置空間の調和 といった 複合的要素を組み合わせデザインすることで、より高いデザイン力を身につけることを目標とする。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態	共同				

授業回数	担当者	授業の内容
共同	渡邉 真理子 土橋 美緒	【第 1 回】 予習：シラバスを読む 授業：オリエンテーション（課題解決型学習） 復習：配布資料をよく読み授業計画を確認するあれ
2	渡邉 真理子 土橋 美緒	【第 2 回】 予習：身近にある花器を調査する 授業：粘土板（タタラ）のワークショップ（発表）（プレゼンテーション）（課題解決型学習） 復習：粘土板（タタラ）のワークショップのまとめ
3	渡邉 真理子 土橋 美緒	【第 3 回】 予習：固いタタラ箱の展開を研究する 授業：花器資料の資料の発表。課題①-固いタタラと柔らかいタタラの成形の研究 アイデアスケッチ マケット制作（課題解決型学習） 復習：タタラ箱のマケット制作
4	渡邉 真理子 土橋 美緒	【第 4 回】 予習：参考資料を見る 箱制作準備 授業：課題①-固いタタラと柔らかいタタラのアイデアチェック 制作発表（発表）（プレゼンテーション）（グループディスカッション） 復習：アイデアスケッチ マケット制作の展開
5	渡邉 真理子 土橋 美緒	【第 5 回】 予習：固いタタラのアイデアスケッチ マケット制作まとめ 授業：課題①-固いタタラと柔らかいタタラの研究制作（実習） 復習：固いタタラ マケット問題点抽出
6	渡邉 真理子 土橋 美緒	【第 6 回】 予習：固いたタラのアイデアスケッチ 授業：課題①-固いタタラの研究制作（実習） 復習：固いタタラ マケット問題点抽出
7	渡邉 真理子 土橋 美緒	【第 7 回】 予習：器物に花を生ける 授業：課題①-講評（発表）（プレゼンテーション） 復習：器物の空間設定の検討
8	渡邉 真理子 土橋 美緒	【第 8 回】 予習：暮らしの中の器物を調査 授業：課題②造形花器 アイデア研究（課題解決型学習）（実習） 復習：柔らかい造形のアイデア検討
9	渡邉 真理子 土橋 美緒	【第 9 回】 予習：アイデアスケッチ マケット制作 授業：課題②造形花器 アイデアチェック（発表）（プレゼンテーション）（グループディスカッション）（実習） 復習：アイデアスケッチ マケット制作の展開

10	渡邉　真理子 土橋　美緒	【第 10 回】 予習：アイデアスケッチ 授業：課題②造形花器　制作　マケットから実作へ（実習） 復習：バランス検討
11	渡邉　真理子 土橋　美緒	【第 11 回】 予習：アイデア検討 授業：課題②造形花器　制作（実習） 復習：空間と器物のバランス研究
12	渡邉　真理子 土橋　美緒	【第 12 回】 予習：柔らかい造形花器に花を活ける 授業：課題②造形花器　講評（発表）（プレゼンテーション） 復習：課題②振り返り
13	渡邉　真理子 土橋　美緒	【第 13 回】 予習：花器、空間、植物のバランス検討 授業：プレゼンテーション研究（課題解決型学習）（実習）（ディスカッション） 復習：プレゼンテーション研究
14	渡邉　真理子 土橋　美緒	【第 14 回】 予習：花器の設定空間を検討 授業：上絵基礎　プレゼンテーション研究（課題解決型学習）（ディスカッション） 復習：器物と植物のまとめ
15	渡邉　真理子 土橋　美緒	【第 15 回】 予習：プレゼンテーション研究 授業：講評（発表）（プレゼンテーション）（ディスカッション） 復習：振り返り　設定空間に花を活けてみる

授業開始前学習	自分の作りたい形、雰囲気などを検索し、資料等まとめておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	授業 4、9 回目はチェックを全体で行い、アイデアを煮詰める。授業 7、13 回目は実作を個別にチェックし問題点を整理する。授業 15 回目の全体講評では、実作、プレゼン資料で発表を行い、個別に講評、質問に答える。
テキスト・教材	必要な資料は指示、または配布する。
参考書	
評価の基準と方法	タタラ技法の工程理解度 30%、提出作品 50%、プレゼンテーション 20%の配分とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	

関連科目	この授業を履修するには、2023 年度入学の学生は陶芸デザイン入門を習得済みであること、 2022 年度以前に入学の学生はプロダクトデザイン入門を習得済みであること。
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間＋予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	自身の陶作品制作活動の経験を活かし、焼き物を通じて自己を表現することの楽しさを伝えていきたい。 美術大学での陶芸実習指導を長年行っている。 器物からオブジェまで幅広く制作をしている。土橋も同様に制作活動を行っており、また指導の経験がある。

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	141-330-23（Ｊ）	授業コード	FG0530
科目名称	陶芸ﾃﾞｻﾞｲﾝⅢ			単位数	2.0 単位
英文名称	Ceramic Design Ⅲ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	池田　大介			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	池田・土橋			開講時期	3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	陶磁器の代表的な制作方法のひとつである、電動ロクロによるカップ＆ソーサーの制作を行う。 成形、施釉、焼成といった陶磁器制作に関する一連の工程、技術を経験することにより、日常生活で使われる器がどのようにして制作されているかを学ぶ。 日常生活でも使用頻度の高いコーヒーや紅茶を飲む器・カップ＆ソーサーの歴史や飲み方、茶葉の種類、サイズ、素材，また付属として使う器物を調査研究する。形状の研究ではカップと把手、カップとソーサーのバランスを考えると同時に、飲み易さ、洗いやすさ、収納といった使い心地（機能性）も研究する。空間や飲みたいものを限定し、魅力的な作品を制作する。制作を通して土という素材の特徴を理解し、総合的なデザイン力を養い、高い技術力を養うことを目的とする。 プレゼンテーションでは自分の制作意図や目的、実際の使用感を提示した上で、他者の意見や感想を聞きより良い器とは何なのかを考察、研究する。				
到達目標	カップ&ソーサーの歴史を学び、限定した飲み物に応じたカップ&ソーサーが制作できるようになる。総合的なデザイン力を身に付けることを目標とする。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態	共同				

授業回数	担当者	授業の内容
1	池田　大介 土橋　美緒	【第 1 回】 予習：シラバスを読む 授業：オリエンテーション（課題解決型学習） 復習：授業のテーマを理解し授業日程を把握。茶器の資料収集
2	池田　大介 土橋　美緒	【第 2 回】 予習：世界のカップ&ソーサーを調査　お茶と茶器を調査 授業：カップ&ソーサーに関する資料提出。 アイデアチェック　ワークショップ（発表）（プレゼンテーション）土練り 復習：アイデアの検討　問題点の抽出
3	池田　大介 土橋　美緒	【第 3 回】 予習：お茶の飲み方を調査　アイデアスケッチ 授業：カップ&ソーサーセットの制作　土練り　カップ本体（実習） 復習：問題点の抽出
4	池田　大介 土橋　美緒	【第 4 回】 予習：各自選択したお茶の研究　アイデアスケッチ 授業：カップ&ソーサーセットの制作　カップと把手（実習） 復習：器物のバランス検討
5	池田　大介 土橋　美緒	【第 5 回】 予習：器物の部品と全体のバランスを検討　アイデアスケッチ 授業：カップ&ソーサーセットの制作　ソーサー　中間チェック（発表）（プレゼンテーション）（ディスカッション） 復習：問題点の抽出
6	池田　大介 土橋　美緒	【第 6 回】 予習：アイデアスケッチ 授業：カップ&ソーサーセットの制作　カップとソーサー（課題解決型学習） 復習：問題点の抽出
7	池田　大介 土橋　美緒	【第 7 回】 予習：全体のバランスを検討の上微調整　アイデアスケッチ 授業：カップ&ソーサーセットの制作　中間チェック（発表）（プレゼンテーション）（ディスカッション） 復習：全体のバランスを検討
8	池田　大介 土橋　美緒	【第 8 回】 予習：お茶と器、空間についての資料収集　アイデアスケッチ 授業：削り、把手の制作、ソーサー制作（課題解決型学習）（実習） 復習：問題点の抽出
9	池田　大介 土橋　美緒	【第 9 回】 予習：アイデアスケッチ　試作研究 授業：ソーサーの制作（課題解決型学習）（実習） 復習：全体のバランスを検討、カップとソーサーと付属物まとめ

10	池田　大介 土橋　美緒	【第 10 回】 予習：空間の中の茶器を検討　カフェ訪問 授業：ソーサーの削り→乾燥へ（課題解決型学習）（実習） 復習：器物のかたち、色彩、大きさ等の問題抽出
11	池田　大介 土橋　美緒	【第 11 回】 予習：絵付け、釉薬の検討 授業：素焼きの窯詰め、絵の具、釉薬の使い方（実習）（グループワーク） 復習：全体のバランスを再確認
12	池田　大介 土橋　美緒	【第 12 回】 予習：絵付け、釉薬の検討 授業：絵付け、釉掛け（課題解決型学習）（実習）（グループワーク） 復習：全体のバランスを再確認
13	池田　大介 土橋　美緒	【第 13 回】 予習：絵付け、釉薬の検討 授業：窯詰め　本焼成　プレゼン研究説明（課題解決型学習）（実習）（グループワーク） 復習：
14	池田　大介 土橋　美緒	【第 14 回】 予習：プレゼンテーション研究 授業：窯出し　写真撮影　プレゼンテーション研究（課題解決型学習）（実習）（グループワーク）（ディスカッション） 復習：
15	池田　大介 土橋　美緒	【第 15 回】 予習：プレゼンテーション研究 授業：講評　（発表）（プレゼンテーション）（ディスカッション） 復習：ふりかえり　茶器を使う

授業開始前学習	カフェに行きコーヒーや紅茶を飲んでみる。自分が飲みたいものは何か。器物の雰囲気はどんな感じがいいか考える。 雑誌等を参考に作りたい形のイメージを固め、たくさんスケッチする。
授業内課題のフィードバックの方法	授業 2 回目はチェックを全体で行い、アイデアを煮詰める。授業 7 回目は実作を全体でチェックし問題点を整理する。授業 15 回目の全体講評では、実作、プレゼンボードで発表を行い、個別に講評、質問に回答する。
テキスト・教材	必要な資料は指示、または配布する。
参考書	
評価の基準と方法	授業態度、課題への取り組み方、積極性 50 点　提出作品とプレゼンテーションを 50 点とする。 ※実技授業のため基本的な技術の習得度、授業への積極的な取り組みを評価します。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					○	○	◎	

関連科目	
その他	・この授業を履修するには、プロダクトデザイン入門を修得済みであること。 ・汚れてもいい服装を着用し、爪を切り、髪は後ろでまとめておくこと。 ・ショップ、カフェ等の見学の実費は各自負担とする。
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間＋予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	本科目は複数の担当者が協同で指導する科目です。担当教員のうち、池田大介は陶芸家として器の制作、販売をしております。信楽にある株式会社羅工房にて陶磁器のデザイン、制作、販売の実務経験がある。また、他大学の一般の方に向けた講座や陶芸教室での実務経験もある。土橋美緒も同様に制作活動を行っており、また指導の経験がある。

科目分類（2025年～入学者）	SD-M-222 （Ｊ）	科目分類（～2024年入学者）	141-330-22 （Ｊ）	授業コード	FG0550
科目名称	ﾃｷｽﾀｲﾙﾃﾞｻﾞｲﾝ入門／立体織ﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ			単位数	2.0単位
英文名称	Textile Design Ⅰ／Introduction to Textile Design／2-Dimensional Textile Design Ⅰ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	加藤　富喜			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	加藤　富喜			開講時期	２年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	・ハンスJ.ウェグナーのＹチェア座面布をデザインし、住居空間におけるテキスタイルの効果を考察する。作品は、織の基本となる数種類の織組織を学習した上で、ウール糸やアクリル糸を用いて、木枠型の織機または卓上織機で制作し、実物大に仕上げる。 ・２０２２年度以前に入学の学生でこの授業を履修するには、プロダクトデザイン入門を習得済みであること。				
到達目標	・織の技法による、色彩や柄、質感の効果を理解し、デザインや制作を行うことで、どのようなテキスタイルによって、住居空間の雰囲気が変化するのか、イメージできるようになること。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	加藤　富喜	【第１回】 予習　：　シラバスを読んでくる 授業　：　オリエンテーション・テキスタイルについてと織布の特徴 復習　：　身近にあるテキスタイルを意識して見るようにする
2	加藤　富喜	【第２回】 予習　：　教室にある織機を見ておく 授業　：　木枠型織機の説明・サンプル用経糸の準備（実習／木枠に経糸を張る、綜絖作り） 復習　：　経糸の準備の続きをする（木枠に経糸を張る、綜絖作りまで）
3	加藤　富喜	【第３回】 予習　：　経糸の準備の続きをする（木枠に経糸を張る、綜絖作りまで） 授業　：　織り組織の説明・織る作業（実習／試し織り） 復習　：　織る作業の続きをする（試し織りまで）
4	加藤　富喜	【第４回】 予習　：　織る作業の続きをする（試し織りまで） 授業　：　織る作業（実習）・課題の説明 復習　：　織る作業の続きをする
5	加藤　富喜	【第５回】 予習　：　織る作業の続きをする 授業　：　仕上げ方の説明・サンプルの完成、提出（実習） 復習　：　テキスタイルに関する資料を調べる
6	加藤　富喜	【第６回】 予習　：　デザイン考察の参考になる資料を見ておく 授業　：　課題の説明・コンセプト、デザインの考察・コンセプト、経糸の色の決定 復習　：　デザインの考察
7	加藤　富喜	【第７回】 予習　：　デザインの考察 授業　：　デザインの決定、デザイン画の提出 復習　：　サンプルを制作した時の経糸の準備工程を確認しておく
8	加藤　富喜	【第８回】 予習　：　サンプルを制作した時の経糸の準備工程を確認しておく 授業　：　経糸の準備（実習／木枠に経糸を張る） 復習　：　経糸準備の続きをする（木枠に経糸を張る作業まで）
9	加藤　富喜	【第９回】 予習　：　経糸の準備の続きをする（木枠に経糸を張る作業まで） 授業　：　経糸の準備（実習／綜絖作り、織り付け） 復習　：　経糸の準備の続きをする（綜絖作り、織り付けまで）
10	加藤　富喜	【第10回】 予習　：　経糸の準備の続きをする（綜絖作り、織り付けまで） 授業　：　織る作業（実習／緯糸の見え方を確認する） 復習　：　織る作業の続きをする

11	加藤　富喜	【第 11 回】 予習　：　織る作業の続きをする 授業　：　織る作業（実習） 復習　：　織る作業の続きをする
12	加藤　富喜	【第 12 回】 予習　：　織る作業の続きをする 授業　：　織る作業（実習／仕上げ方の説明） 復習　：　織る作業の続きをする
13	加藤　富喜	【第 13 回】 予習　：　織る作業の続きをする 授業　：　織る作業（実習／仕上げ） 復習　：　仕上げの作業の続きをする
14	加藤　富喜	【第 14 回】 予習　：　仕上げの作業の続きをする 授業　：　仕上げ、作品の撮影（実習） 復習　：　作品撮影・画像を印刷する・レポートの作成をする
15	加藤　富喜	【第 15 回】 予習　：　作品、作品の写真、レポートを提出出来るようにする・講評会で作品を紹介できるようにコメントを準備しておく 授業　：　講評会・課題の提出 復習　：　講評会での講師や他学生からのコメントを振り返り、今後の学習に活かす

授業開始前学習	・シラバスを読んでおく ・ハンス J.ウェグナーの Y チェアを実際に見ておくと課題がイメージしやすい （本学図書館にあります）
授業内課題のフィードバックの方法	第 6 回、第 7 回のコンセプト、デザインの考察の授業では、個別に相談に乗りながら、アドバイスを行う。 第 15 回の授業では一人ずつコメントを聞き、質問や講評を行う。
テキスト・教材	特定のテキストは無い。参考資料として、プリントを配布する。 道具類は授業内で限定して貸し出す。糸などの材料を、必要に応じ各自で購入してもらう場合がある（教室内にも使用可能な糸や材料はある）
参考書	
評価の基準と方法	課題の提出状況、課題の内容（60%）と制作意欲・出欠回数（40%）による。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	

関連科目	2022 年度以前に入学の学生はプロダクトデザイン入門を習得済みであること。
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間＋予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	非常勤講師としての織物の組織・色彩構成・素材に特化した授業経験を活かし、組織を学習する授業を行うとともに、制作活動の経験を活かし、住空間における織物についての制作工程の説明や実習を行う。

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-222	科目分類（～2024 年入学者）	141-330-22	授業コード	FG0560
科目名称	ﾃｷｽﾀｲﾙﾃﾞｻﾞｲﾝ A／立体織ﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ			単位数	2.0 単位
英文名称	Textile Design Ⅱ／Textile Design A／2-Dimensional Textile Design Ⅱ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	野田 吟			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	野田 吟			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	糸素材が持つ質感や色彩を考察し、デザイン計画を行い、木枠で小さなタペストリーを織る。具体的には、まず平織りのつづれ織りでの模様織り、ノッティング（結び織り、シャギー）、及びルーピング等の技法の修得（サンプル作り）を行う。その後それらを駆使して、公的空間のインテリアとして機能するタペストリー制作を行い、簡単なプレゼンシートも作成する。				
到達目標	テキスタイルの基本的な構造、技術の基礎知識を身に付ける事を目標とする。また、デザインコンセプトを自身で立ち上げ、それに沿って制作の完成度を高める事も目指す。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	野田 吟	【第 1 回】 予習 ：身の回りのテキスタイルに注視する（ラグや服地など、その組織やデザイン） 授業 ：オリエンテーション ・世界各地の織り物の紹介スライドを鑑賞し、感想記入 ・課題説明 ・整経（木枠にたて糸を張る） 復習 ：日常の中で織物を探し、良く観察してみる（糸の成り立ちを観察したり、素材感を確かめてみる）
2	野田 吟	【第 2 回】 予習 ：配布プリントと、配信（Classroom 内）資料に目を通しておく 授業 ：サンプル作り① ・木枠に経糸（たていと）を張る（整経） 復習 ：・枠織り機の仕組みを理解する
3	野田 吟	【第 3 回】 予習 ：配布の技法資料に目を通しておく 授業 ：サンプル織り②（つづれの模様織り技法） 復習 ：その日学んだ技法を覚える
4	野田 吟	【第 4 回】 予習 ：引き続き、配布の技法資料に目を通しておく 授業 ：サンプル織り③（つづれの模様織り技法） 復習 ：その日学んだ技法を覚える
5	野田 吟	【第 5 回】 予習 ：引き続き、配布の技法資料に目を通しておく 授業 ：サンプル織り④（つづれの模様織の技法、ノッティング、ルーピング、他） 復習 ：その日学んだ技法を覚える
6	野田 吟	【第 6 回】 予習 ：引き続き、配布の技法資料に目を通しておく 授業 ：サンプル織り⑤（つづれの模様織の技法、ノッティング、ルーピング、他） 復習 ：その日学んだ技法を覚える
7	野田 吟	【第 7 回】 予習 ：自分が制作する課題 1 作品のイメージをする 授業 ：・コンセプト考案（シート記入、デザイン画作成） ・試し織り 復習 ：・コンセプトシート完成
8	野田 吟	【第 8 回】 予習 ：素材の準備 授業 ：課題作品制作① （試し織りの後、本番制作） 復習 ：・織り具合チェック ・修正点等、その日の記録①（作業を通しての気づき等を記す）
9	野田 吟	【第 9 回】 予習 ：引き続き、素材の準備 授業 ：課題作品制作② 復習 ：・織り具合チェック ・修正点等、その日の記録②（作業を通しての気づき等を記す）
10	野田 吟	【第 10 回】 予習 ：引き続き、素材の準備 授業 ：課題作品制作③ 復習 ：・織り具合チェック ・修正点等、その日の記録③（作業を通しての気づき等を記す）

11	野田 吟	【第 11 回】 予習 ：引き続き、素材の準備 授業 ：課題作品制作④ 復習 ：・織り具合チェック ・修正点等、その日の記録④（作業を通しての気づき等を記す）
12	野田 吟	【第 12 回】 予習 ：引き続き、素材の準備 授業 ：課題作品制作⑤ 復習 ：・織り具合チェック ・修正点等、その日の記録⑤（作業を通しての気づき等を記す）
13	野田 吟	【第 13 回】 予習 ：引き続き、素材の準備 授業 ：課題作品制作⑥（織り上げた後、経糸の処理、展示形態への仕上げを行う）、作品の写真撮影、プレゼンシート作成の為の資料の準備 復習 ：・織り具合チェック ・その日の記録⑥（作業を通しての気づき等を記す）
14	野田 吟	【第 14 回】 予習 ：課題プレゼンシート作成の為の資料の準備 授業 ：・作品写真撮影 ・課題プレゼンシート作成 （PC ルームにて） 復習 ：・課題プレゼンシートの完成
15	野田 吟	【第 15 回】 予習 ：発表に向けて、自作発表コメント内容考案 授業 ：発表（・一人ずつ作品発表 ・他の人の作品への感想等、考察アンケート記入） 復習 ：・アンケート提出 ・その後、各自、自作へのコメントを読む

授業開始前学習	絨毯やタペストリー等が、インテリアまたは空間デザインに於いてどのように設置され、また扱われているか、興味を持って色々見ておく。
授業内課題のフィードバックの方法	課題作品制作時は、各学生のその日の記録（Google Classroom 内予定）に、それぞれへのアドバイス等を記入する。また、授業中にも個別に都度話し合いながら制作を進めていき、各学生とのやり取りを綿密に行う。授業第１５回には、履修者全体の発表を行う。自身の作品の、コンセプトや織りのデザイン、作業内容について、良かった点、課題点等を確認する。また他人のデザインや考えに対して比較考察する。
テキスト・教材	授業の中にプリント配布と、Classroom 内で資料（技法動画等）配信。教材（木枠と素材）は、基本的に学校の備品を使用。随時、必要に応じて個別で準備するものを追加指示する。
参考書	
評価の基準と方法	課題作品 85%、授業内レポート 5%、練習課題 10%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	

関連科目	この授業を履修するには、2023 年度入学の学生はテキスタイルデザイン入門を習得済みであること、 2022 年度以前に入学の学生はプロダクトデザイン入門を習得済みであること
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間＋予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	141-330-23（Ｊ）	授業コード	FG0570
科目名称	立体織ﾃﾞｻﾞｲﾝⅢ			単位数	2.0 単位
英文名称	3-Dimensional Textile Design Ⅲ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	加藤　富喜			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	加藤　富喜			開講時期	3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	・住空間に飾るファブリックパネルの布をデザインし、シチュエーションに合わせたインテリアデザインの効果を考察する。 作品は、織の基本となる数種類の織組織を学び、アクリル糸やウール糸を用い、卓上織り機・木枠・高機などで制作をする。 ・数種類の素材に触れ、素材による質感の違いを学習する。 ・この授業を履修するには、プロダクトデザイン入門を習得済みであること。				
到達目標	・織の技法による色彩や柄、質感の効果を理解し、デザインや制作を行うことで、どのようなテキスタイルによって住空間の雰囲気が変化するのかイメージできるようになること。 ・素材による質感の違いや特徴を知り、インテリアの中で、どのような理由で活用されているのかを理解すること。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	加藤　富喜	【第 1 回】 予習　：　シラバスを読んでくる 授業　：　オリエンテーション・テキスタイルについてと織布の特徴 復習　：　身近にあるテキスタイルを意識して見るようにする
2	加藤　富喜	【第 2 回】 予習　：　教室にある織機を見ておく 授業　：　織機の説明・サンプル用経糸の準備（実習／整経） 復習　：　経糸の準備の続きをする（整経まで）
3	加藤　富喜	【第 3 回】 予習　：　経糸の準備の続きをする（整経まで） 授業　：　経糸の準備（実習／整経、荒筬通し、千巻き、綜絖通し、筬通し） 復習　：　経糸の準備の続きをする（筬通しまで）
4	加藤　富喜	【第 4 回】 予習　：　経糸の準備の続きをする（筬通しまで） 授業　：　織る作業（実習／織り付け、織り）・課題説明 復習　：　織る作業の続きをする
5	加藤　富喜	【第 5 回】 予習　：　織る作業の続きをする 授業　：　織る作業、仕上げ、サンプルの完成、提出（実習） 復習　：　テキスタイルに関する資料を調べる
6	加藤　富喜	【第 6 回】 予習　：　デザイン考察の参考になる資料を見ておく 授業　：　課題の説明・コンセプト、デザインの考察・コンセプト、経糸の色の決定 復習　：　デザインの考察
7	加藤　富喜	【第 7 回】 予習　：　デザインの考察 授業　：　デザインの決定、デザイン画の提出 復習　：　サンプルを制作した時の経糸の準備工程を確認しておく
8	加藤　富喜	【第 8 回】 予習　：　サンプルを制作した時の経糸の準備工程を確認しておく 授業　：　経糸の準備（実習／整経） 復習　：　経糸準備の続きをする（整経まで）
9	加藤　富喜	【第 9 回】 予習　：　経糸の準備の続きをする（整経まで） 授業　：　経糸の準備（実習／荒筬通し、千巻き、綜絖通し、筬通し、織り付け） 復習　：　経糸の準備の続きをする（織り付けまで）
10	加藤　富喜	【第 10 回】 予習　：　経糸の準備の続きをする（織り付けまで） 授業　：　織る作業（実習／緯糸の見え方の確認） 復習　：　織る作業の続きをする

11	加藤　富喜	【第 11 回】 予習　：　織る作業の続きをする 授業　：　織る作業（実習） 復習　：　織る作業の続きをする
12	加藤　富喜	【第 12 回】 予習　：　織る作業の続きをする 授業　：　織る作業、仕上げ方の説明（実習） 復習　：　織る作業の続きをする
13	加藤　富喜	【第 13 回】 予習　：　織る作業の続きをする 授業　：　織る作業、仕上げ（実習） 復習　：　仕上げの作業の続きをする
14	加藤　富喜	【第 14 回】 予習　：　仕上げの作業の続きをする 授業　：　仕上げ、作品の撮影（実習） 復習　：　作品撮影・画像を印刷する・レポートの作成をする
15	加藤　富喜	【第 15 回】 予習　：　作品、作品の写真、レポートを提出出来るようにする・講評会で作品を紹介できるようにコメントを準備しておく 授業　：　講評会・課題の提出 復習　：　講評会での講師や他学生からのコメントを振り返り、今後の学習に活かす

授業開始前学習	
授業内課題のフィードバックの方法	第 6 回、第 7 回のコンセプト、デザインの考察の授業では、個別に相談に乗りながら、アドバイスを行う。 第 15 回の授業では一人ずつコメントを聞き、質問や講評を行う。
テキスト・教材	特定のテキストはない。参考資料として、プリントを配布する。 道具類は授業内で限定して貸し出す。糸などの材料を、必要に応じ各自購入してもらう場合がある（教室内にも使用可能な糸や材料はある）
参考書	
評価の基準と方法	課題の提出状況、課題の内容（６０%）と制作態度・出欠回数（４０%）による。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					○	○	◎	

関連科目	この授業を履修するには、プロダクトデザイン入門を習得済みであること
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間＋予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	非常勤講師としての織物の組織・色彩構成・素材に特化した授業経験を活かし、組織を学習する授業を行うとともに、制作活動の経験を活かし、住空間における織物についての制作工程の説明や実習を行う。

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-322 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	141-330-23（2023 年～入学者） 141-330-13（～2022 年入学者）（Ｊ）	授業コード	FG0620
科目名称	☆ｲﾝﾃﾘｱ･ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ／空間演出 B			単位数	2.0 単位
英文名称	Interior Presentation／Space Production B			授業区分	講義
科目責任者	佐藤 勉			必修･選択	履修ガイド参照
担当教員	佐藤(勉)･佐藤(陽)			開講時期	3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	インテリアデザインを行う上で欠かせないプレゼンテーションの手法と技術の基本を修得する。ショップデザインを課題とした学外コンペティションにチャレンジする。立地も各自で設定し、周囲の環境との関係を考察する。業種により異なる要求機能について研究し理解した上で、デザイン的にも美しく、機能的なショップをデザインする事とする。また、授業ではディスカッションやグループ発表などを実施する。				
到達目標	設定条件が少ない課題での柔軟な発想能力、自身の考えるインテリアデザインを限られたパネルの中で表現するスキル、短時間で理解してもらえる表現手法のスキル、プレゼンテーション能力の向上を目標とする。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態	共同				

授業回数	担当者	授業の内容
1	佐藤 勉 佐藤 陽	【第 1 回】 予習 ：シラバスを読み込む 授業 ：授業計画、デザイン課題説明 復習 ：授業計画の確認、事例研究･調査
2	佐藤 勉 佐藤 陽	【第 2 回】 予習 ：事例研究･調査 授業 ：事例研究･発表（プレゼンテーション） 復習 ：過去の事例研究継続
3	佐藤 勉 佐藤 陽	【第 3 回】 予習 ：デザインスタディ 1 コンセプトワーク事前作業 授業 ：デザインスタディ 1 コンセプトワーク 復習 ：デザインスタディ 1 コンセプトワーク作業継続
4	佐藤 勉 佐藤 陽	【第 4 回】 予習 ：デザインスタディ 2 コンセプトまとめ事前作業 授業 ：デザインスタディ 2 コンセプトまとめ＆エスキス（ディスカッション） 復習 ：デザインスタディ 2 エスキス内容整理
5	佐藤 勉 佐藤 陽	【第 5 回】 予習 ：デザインスタディ 3 事前作業 授業 ：デザインスタディ 3 デザイン作業＆エスキス（ディスカッション） 復習 ：デザインスタディ 3 エスキス内容整理
6	佐藤 勉 佐藤 陽	【第 6 回】 予習 ：中間発表準備 授業 ：中間発表、講評（プレゼンテーション） 復習 ：講評内容整理
7	佐藤 勉 佐藤 陽	【第 7 回】 予習 ：デザインスタディ 4 事前作業 授業 ：デザインスタディ 4 デザイン作業＆エスキス（ディスカッション） 復習 ：デザインスタディ 4 エスキス内容整理
8	佐藤 勉 佐藤 陽	【第 8 回】 予習 ：デザインスタディ 5 事前作業 授業 ：デザインスタディ 5 デザイン作業＆エスキス（ディスカッション） 復習 ：デザインスタディ 5 エスキス内容整理
9	佐藤 勉 佐藤 陽	【第 9 回】 予習 ：デザインスタディ 6 パネルレイアウト構想 授業 ：デザインスタディ 6 パネルレイアウト作業＆エスキス（ディスカッション） 復習 ：デザインスタディ 6 エスキス内容整理
10	佐藤 勉 佐藤 陽	【第 10 回】 予習 ：提出準備 授業 ：最終提出･講評会（プレゼンテーション） 復習 ：講評内容のまとめ

11	佐藤　勉 佐藤　陽	【第 11 回】 予習　：ポートフォリオ準備 授業　：ポートフォリオ課題説明 復習　：ポートフォリオ・デザインの情報収集
12	佐藤　勉 佐藤　陽	【第 12 回】 予習　：ポートフォリオ準備 授業　：ポートフォリオ・エスキス 1（ディスカッション） 復習　：ポートフォリオ制作
13	佐藤　勉 佐藤　陽	【第 13 回】 予習　：ポートフォリオ準備 授業　：ポートフォリオ・エスキス 2（ディスカッション） 復習　：ポートフォリオ制作
14	佐藤　勉 佐藤　陽	【第 14 回】 予習　：ポートフォリオ準備 授業　：ポートフォリオ・エスキス 3（ディスカッション） 復習　：ポートフォリオ制作
15	佐藤　勉 佐藤　陽	【第 15 回】 予習　：ポートフォリオ準備 授業　：ポートフォリオ・プレゼンテーション 復習　：授業のふりかえり

授業開始前学習	出来るだけ多くの空間デザインを実際に体験すること。また多くのインテリア・プレゼンテーション事例を見てそのデザインや表現手法から学ぶこと。
授業内課題のフィードバックの方法	授業中に個別またはグループのエスキスを実施する。また次回授業までに作品やポートフォリオの制作を進めておく。
テキスト・教材	授業中にプリント等を配布する他、必要に応じて指示する。
参考書	
評価の基準と方法	積極的な取り組み等の受講態度 4 割、提出物 6 割の総合的な判断に基づき評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		○		◎	△

関連科目	インテリアデザインⅠ・インテリアデザインⅡ
その他	履修者は必ず初回授業を受講すること。 学外調査等の交通費等はすべて自己負担とする。 課題制作においては CAD、3D の技能が必要となる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	佐藤　勉および佐藤　陽は建築・インテリアデザインの実務経験を有している。

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-221	科目分類（～2024 年入学者）	141-330-12	授業コード	FG0580
科目名称	加工･材料学			単位数	2.0 単位
英文名称	Processing and Materials			授業区分	講義
科目責任者	榎本　文夫			必修･選択	履修ガイド参照
担当教員	榎本　文夫			開講時期	2･3･4 年
オフィスアワー	前期　火曜日 09:00～12:00 後期　水曜日 09:00～12:00			研究室	1-204
授業概要	材料と加工方法の知識は、建築／インテリア／プロダクトの全てのデザイン領域にまたがる重要な知識である。 また、現代における全てのデザインやものづくりは環境へ負荷なしにはできない状況にあって、環境問題への知識や配慮無しには考えられなくなっている。 この授業では学生自身が加工できる材料として木を中心に、その他の材料の特性や加工方法など環境問題を絡めながら学ぶ。				
到達目標	それぞれの材料の特性とその加工方法を理解し、説明できるようになる。 また、「持続可能な社会を実現するため」のデザインを考える際に必要な素材や加工の基本的な知識を身に付けることを目標とする。				
アクティブ･ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	榎本　文夫	【第 1 回】 予習　：シラバスを読んでおくこと 授業　：かたちの意味(1 頁～17 頁) 復習　：講義内容の確認、自筆ノートの整理
2	榎本　文夫	【第 2 回】 予習　：教科書「森と木について」を読んでおく(19 頁～40 頁) 授業　：森と木について 復習　：講義内容の確認、自筆ノートの整理
3	榎本　文夫	【第 3 回】 予習　：地球温暖化に付いて調べる(教科書 42 頁～60 頁) 授業　：環境問題について 復習　：講義内容の確認、自筆ノートの整理
4	榎本　文夫	【第 4 回】 予習　：日本の環境問題の取り組みに付いて調べる 授業　：動画視聴 復習　：感想レポート提出
5	榎本　文夫	【第 5 回】 予習　：教科書「木材について」を読んでおく。(教科書 62 頁～74 頁) 授業　：木の構造、性質、木材とは 復習　：講義内容の確認、自筆ノートの整理
6	榎本　文夫	【第 6 回】 予習　：「針葉樹･広葉樹」を読んでおく(教科書 74 頁～97 頁) 授業　：針葉樹･広葉樹について 復習　：講義内容の確認、自筆ノートの整理
7	榎本　文夫	【第 7 回】 予習　：「竹」を読んでおく(教科書 99 頁～107 頁) 授業　：竹について 復習　：講義内容の確認、自筆ノートの整理
8	榎本　文夫	【第 8 回】 予習　：「木の加工」を読んでおく（教科書 109 頁～117 頁) 授業　：木の加工について 復習　：講義内容の確認、自筆ノートの整理
9	榎本　文夫	【第 9 回】 予習　：「木質材料」を読んでおく（教科書 119 頁～133 頁) 授業　：木質材料（エンジニアードウッド）について 復習　：講義内容の確認、自筆ノートの整理
10	榎本　文夫	【第 10 回】 予習　：「紙について」読んでおく(教（教科書 134 頁～144 頁) 授業　：紙について 1 （和紙、洋紙) 復習　：講義内容の確認と自筆ノートの整理
11	榎本　文夫	【第 11 回】 予習　：「紙について　その 2」読んでおく(教科書 146 頁～155 頁) 授業　：紙について　その 2（板紙) 復習　：講義内容の確認と自筆ノートの整理

12	榎本　文夫	【第 12 回】 予習　：「樹脂」読んでおく(教科書 157 頁～175 頁) 授業　：樹脂その 1　(天然樹脂、合成樹脂) 復習　：講義の確認、マイクロプラスティックについて調べる
13	榎本　文夫	【第 13 回】 予習　：「樹脂について 2 」読んでおく(教科書 176 頁～189 頁) 授業　：プラスティックの環境問題 復習　：講義の確認、マイクロプラスティックについてレポート
14	榎本　文夫	【第 14 回】 予習　：日本の伝統工芸とクラフトについて調べる(教科書 191 頁～205 頁) 授業　：日本の伝統的なものづくり「工芸」 復習　：講義内容の確認と自筆ノートの整理
15	榎本　文夫	【第 15 回】 予習：配付資料「これからのデザインを考えるためのキーワード」を読んでおく。 授業　：これからのデザインのためのキーワードについて 復習　：講義内容の確認と自筆ノートの整理

授業開始前学習	現在の地球環境について関心を持ち、身近な環境問題について調べておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	授業内で掲出された課題のミニレポートを提出し、次回講評を行う。また、毎回の授業に対する感想や質問を提出し、それに対しても講評を行う。
テキスト・教材	自前教科書『加工・材料学』と配付資料
参考書	
評価の基準と方法	定期試験 50%、レポート 30%、授業への取り組み 20%で評価。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○			○	◎			

関連科目	家具デザイン Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
その他	・学外での見学会を行う予定。その際にかかる経費は自己負担とする。 ・授業の進捗状況により、内容を変更する場合がある。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-321	科目分類（～2024 年入学者）	141-330-12	授業コード	FG0590
科目名称	☆芸術論			単位数	2.0 単位
英文名称	Art Theory			授業区分	講義
科目責任者	小野 淳			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小野 淳			開講時期	2・3・4 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	西欧の芸術史を鳥瞰的視線でジオラマ的に捉えていくことと、ひとつ芸術作品に眼差しを向けてそれに没入することの往復によって、芸術の事象を外側はもとより内部からも理解する。またその過程において人間と空間との関係性を再考していくことを試みる。				
到達目標	芸術作品がどのような歴史的・社会的文脈から生まれるのか把握することのみならず、自ら問いを立て作品と深い関係性を築くことにより、作品に対する新たな解釈を見つけ出すことができるようにする。				

アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	小野 淳	【第 1 回】 予習：西洋美術史と西洋建築史の概略を見直しておく 授業：オリエンテーション 復習： オリエンテーションで使われた図版・専門用語の意味・作品名を確認する
2	小野 淳	【第 2 回】 予習：絵画と空間の関係性を踏まえてラスコーやアルタミラ洞窟などの洞窟絵画を調べておく 授業：原始美術と古代オリエント美術と都市・建築：授業のまとめを作成・提出 復習：古代オリエント時代の都市・建築・美術の図版・専門用語の意味・作品名を確認する
3	小野 淳	【第 3 回】 予習：彫刻と空間との関係性を踏まえて大英博物館のエルギン・マーブルズについて調べておく 授業：ギリシャ美術と都市・建築：授業のまとめを作成・提出 復習：ギリシャの都市・建築・美術について図版・専門用語の意味・作品名を確認する
4	小野 淳	【第 4 回】 予習：人間と広場空間との関係性を踏まえて古代ローマ時代のフォルムについて調べておく 授業：ローマ美術と都市・建築：授業のまとめを作成・提出 復習：ローマの都市・建築・美術について図版・専門用語の意味・作品名を確認する
5	小野 淳	【第 5 回】 予習：人間と地下空間との関係性を踏まえてサン・カッリスト、ドミティッラ、プリシッラなどのカタコンベについて調べておく 授業：中世美術と都市・建築：授業のまとめを作成・提出 復習： 中世の都市・建築・美術について図版・専門用語の意味・作品名を確認する
6	小野 淳	【第 6 回】 予習：人間と壁との関係性を踏まえてロマネスク教会堂のフレスコ画（壁画）について調べておく 授業：ロマネスク美術と都市・建築：授業のまとめを作成・提出 復習：ロマネスクの都市・建築・美術について図版・専門用語の意味・作品名を確認する
7	小野 淳	【第 7 回】 予習：人間と天井との関係性を踏まえてゴシック教会堂のヴォールトについて調べておく 授業：ゴシック美術と都市・建築：授業のまとめを作成・提出 復習：ゴシックの都市・建築・美術について図版・専門用語の意味・作品名を確認する
8	小野 淳	【第 8 回】 予習：人間とファサードとの関係性を踏まえて建築家フィリッポ・ブルネッレスキとレオン・バッティスタ・アルベルティの作品について調べておく 授業：ルネッサンス美術と都市・建築：授業のまとめを作成・提出 復習： ルネッサンスの都市・建築・美術について図版・専門用語の意味・作品名を確認する
9	小野 淳	【第 9 回】 予習：人間と絵画空間との関係性を踏まえて画家シャルル・ル・ブランとアントワーヌ・ワトーおよびフランソワ・ブージェの絵画について調べておく 授業：バロック・ロココ美術と都市・建築：授業のまとめ、考察の作成・提出 復習：バロック・ロココの都市・建築・美術について図版・専門用語の意味・作品名を確認する
10	小野 淳	【第 10 回】 予習：人間と祝祭空間（スペクタクル）との関係性を踏まえて印象主義の画家とくにマネとモネの絵画について調べておく 授業：19 世紀の美術と都市・建築 1：授業のまとめ、考察の作成・提出 復習：19 世紀の都市・建築・美術について図版・専門用語の意味・作品名を確認する

11	小野　淳	【第 11 回】 予習：人間と装飾との関係性を踏まえて画家グスタフ・クリムトと建築家オットー・ヴァーグナーの作品およびウィーン分離派について調べておく 授業：19 世紀の美術と都市・建築 2：授業のまとめ、考察の作成・提出 復習：19 世紀の都市・建築・美術について図版・専門用語の意味・作品名を確認する
12	小野　淳	【第 12 回】 予習：人間と都市との関係性を踏まえてイタリア未来とロシア構成主義について調べておく 授業：20 世紀の美術と都市・建築 1：授業のまとめ、考察の作成・提出 復習：20 世紀の都市・建築・美術について図版・専門用語の意味・作品名を確認する
13	小野　淳	【第 13 回】 予習：人間と街路空間との関係性を踏まえてインターナショナル・スタイルの建築について調べておく 授業：20 世紀の美術と都市・建築 2：授業のまとめ、考察の作成・提出 復習：20 世紀の都市・建築・美術について図版・専門用語の意味・作品名を確認する
14	小野　淳	【第 14 回】 予習：人間と空間の関係性を踏まえて自分が興味を持てる芸術を見つけ出して調べておく 授業：　現代の美術と都市・建築 1：授業のまとめ、考察の作成・提出 復習：現代の都市・建築・美術について図版・専門用語の意味・作品名を確認する
15	小野　淳	【第 15 回】 予習：人間と空間の関係性を踏まえて自分が興味を持てる芸術を見つけ出して調べておく 授業：現代の美術と都市・建築 2：授業のまとめ、考察の作成・提出 復習：現代の都市・建築・美術について図版・専門用語の意味・作品名を確認する

授業開始前学習	授業で扱う内容の時代背景や具体的作品について、美術史、建築史の概説書をもとに調べておくと理解しやすい。
授業内課題のフィードバックの方法	授業では毎回、授業の内容について、自分たちの意見・感想を、内容を整理しながら設定時間内に小レポートとしてまとめ、提出する。次週で復習をする際に、全体的な傾向、記述内容や整理法、着眼点などに対して講評する。
テキスト・教材	関連資料は PDF 等にして提供する。
参考書	「西洋建築史図集」（彰国社）、「近代建築史図集」（彰国社）、「西洋美術史」（美術出版社）、 この他に授業中に参考図書を紹介する。
評価の基準と方法	各回の小レポートと、総まとめのレポートから評価する。点数配分は 100 点満点のうち、小レポートにおける授業への積極的な取り組みが 60 点、総まとめのレポートが 40 点である。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○		

関連科目	「西洋建築史」を含む西欧の美術、デザインに関するすべての科目。
その他	授業においてはノートを取るという行為は推奨されることではあるが、それだけに偏ってしまうことはなるべく避け、パワーポイントなどにより提示される文章・画像・動画を見ることに集中すること。「見る」ことによって自分なりの考えに思いを巡らせ、授業と対話することが望まれる。 予習と復習の間に位置する授業によって、その前後では自分の中で何が変わったのかを知ること。単なる知識の蓄積のみならず、知りえた内容どうしが関係し合うダイナミズムを意識して復習をすること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-221 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	141-330-12 （Ｊ）	授業コード	FG0600
科目名称	工芸ﾃﾞｻﾞｲﾝ論			単位数	2.0 単位
英文名称	Theory of Craft Design			授業区分	講義
科目責任者	石河　美和子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	石河　美和子			開講時期	2･3･4 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	近代以降、道具類の生産が手工芸から工業生産中心に移り変わる際の理念と実践、日本の伝統的な手工芸の源泉と現代工芸デザインの展開を重ね合わせて、その関係性を理解する。今後の持続的な環境、地域、社会形成にむけての課題や展望、自分ができる一歩について考察する。				
到達目標	近代以前から現代まで、各地区のものづくりの歴史、技術の発達と時代の価値観の変遷を捉え、自分たちが暮らす現代社会におけるものづくり、工芸・デザインの課題や可能性について見通して自ら考え、行動できるようにする。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	石河　美和子	【第 1 回】 予習　：　授業資料講読および「グッドデザイン賞」サイトを閲覧[グッドデザイン賞, https://www.g-mark.org/] 授業　：　くらしとデザイン：グッドデザイン賞にみる「デザイン」概念のひろがり：授業のまとめ・考察を作成提出。 復習　：　グッドデザイン賞の中から自分の気に入った、気になった作例を紹介、小レポートとして提出。
2	石河　美和子	【第 2 回】 予習　：授業資料と『世界デザイン史』該当箇所を講読。 授業　：世界の近代デザイン(1) 産業革命と近代デザインのはじまり：授業のまとめ、考察を作成・提出。 復習　：工業生産社会が環境にもたらした課題をあげ、今後の行動で改善できることを考える。
3	石河　美和子	【第 3 回】 予習　：授業資料と『世界デザイン史』該当箇所を講読。 授業　：世界の近代デザイン(2) ウイリアム・モリスとアーツ＆クラフツ運動：授業のまとめ、考察を作成・提出。 復習　：モリスとその周辺の作家、作品名を確認し、その理想とした考え方を確認する。
4	石河　美和子	【第 4 回】 予習　：授業資料と『世界デザイン史』該当箇所を講読。 授業　：世界の近代デザイン(3) アール・ヌーヴォー、分離派とジャポニズム：授業のまとめ、考察を作成・提出。 復習　：各地のアール・ヌーヴォーについて傾向を知り、専門用語や、作家と作品名を一致できるよう確認する。
5	石河　美和子	【第 5 回】 予習　：授業資料と『世界デザイン史』該当箇所を講読。 授業　：世界の近代デザイン(4)表現主義、構成主義、機能主義：授業のまとめ、考察を作成・提出。 復習　：20 世紀初頭の各地のデザインの主義と動向を知り、現代の様々なデザイン思想のルーツとして確認する。
6	石河　美和子	【第 6 回】 予習　：授業資料と『世界デザイン史』該当箇所を講読。 自分の気になる、好きな近現代デザイン事例を選び、写真を用意し、そのルーツを調べて、授業で紹介できるようにする。 授業　：世界の近代デザイン(5)バウハウスと工業デザインの発展：授業のまとめ、考察を作成・提出。 復習　：ドイツ工作連盟やバウハウスの思想と作例、その後のアメリカや日本のデザインへの影響を把握する。
7	石河　美和子	【第 7 回】 予習　：自分の好きな絵画・工芸・建築等を一つ選び、時代背景や産地、作者を紹介できるようにしておく。 自分の影響を受けた家やまち、場所について、思い出しておく。 授業　：日本のデザインの源泉と発展(1) 日本の風土と家・町並み：日本と外国の風土とまちづくりへの取り組みを知る。 復習　：自分が影響を受けた作品、工芸品やいえ、まちとその造りとその暮らしの文化を小レポートで紹介する。
8	石河　美和子	【第 8 回】 予習　：授業資料を講読し、琳派の作家や作例を概観する。できれば国立博物館や根津美術館などで作例を見学 授業　：日本のデザインの源泉と発展(2) 琳派のデザイン：授業のまとめ、考察を作成・提出。 復習　：琳派の作家・作例を一つ選んで詳述。現代の道具やメディアで琳派と思うものを探し、小レポートにする。
9	石河　美和子	【第 9 回】 予習　：自分の気になるテキスタイルや柄をリサーチ 授業　：柄とパターンについて実践体験。展開：授業のまとめ、考察を作成・提出。 復習　：授業内で行ったことを振り返りリアクションペーパー提出
10	石河　美和子	【第 10 回】 予習　：身近な陶器を見つけ、特徴を調べる。 授業　：　陶芸の種類と技法、陶芸の発達史、各産地の特徴：授業のまとめ、考察を作成・提出。 復習　：授業内で行ったことを振り返りリアクションペーパー提出

11	石河　美和子	【第 11 回】 予習　：授業資料を講読、閲覧し、文様の構成や、日本と世界の文様の関係性を学んでおく。 授業　：文様：日本と東洋、中東、西洋の文様リサーチ：まとめ、考察を作成・提出。 復習　：授業内で行ったことを振り返りリアクションペーパー提出
12	石河　美和子	【第 12 回】 予習　：日常にある素材についてリサーチ 授業　：金工、陶芸他工芸の素材について考え触れる体験。考察を作成・提出。 復習　：授業内で行ったことを振り返りリアクションペーパー提出
13	石河　美和子	【第 13 回】 予習　：授業資料を講読し日本の民藝運動と世界、現代への展開を調べる。日本民藝館等を見学（日本民藝館は最終課題としても出題見学必須）。 授業　：日本の民藝運動：柳宗悦と日本民芸館、日本の民藝作家とバーナードリーチらとの交流：授業のまとめ、考察を作成提出。 復習　：授業内で行ったことを振り返りリアクションペーパー提出
14	石河　美和子	【第 14 回】 予習　：資料を講読し、北欧デザインの思想や展開、素材や空間の生かし方について知っておく。 授業　：北欧のデザイン＆クラフト：食器、家具、服飾など総合的なデザインを知る：授業の感想・考察を提出。 復習　：授業内で行ったことを振り返りリアクションペーパー提出
15	石河　美和子	【第 15 回】 予習　：地域の素材や技術を活かしたものづくりがどう現代社会に活かされようとしているか、事例を調べレポートをまとめる。 授業　：風土、素材、伝統技法を生かしたものづくりを調べ、今後の展望について考察する。 復習　：授業内で行ったことを振り返りリアクションペーパー提出

授業開始前学習	授業で扱う内容について、近代デザイン史、近代建築史、日本工芸史、日本建築史の概説書、「グッドデザイン賞」サイト https://www.g-mark.org/を調べておくと理解しやすい。
授業内課題のフィードバックの方法	授業では毎回、授業の内容について、学生は自分の意見・感想を、内容を整理しながら小レポートとしてまとめ、提出する。それに対して、後日の授業で、復習を兼ねて、全体的な傾向、記述内容や整理法、着眼点などに対して紹介する。
テキスト・教材	授業に必須の部分や他の関連資料は PDF 等にして提供する。
参考書	日本工芸会編『日本伝統工芸鑑賞の手引き』、竹原あきこ＋森山明子『日本デザイン史』（美術出版社）等
評価の基準と方法	各授業のまとめ・感想 30%、課題・小レポート 30%　最終レポート 40%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○		

関連科目	芸術論、西欧および日本の美術・意匠・デザイン、建築に関するすべての授業
その他	・日頃から、日常の生活道具、生活空間にあるものの意図、効果を意識して確認する。 ・気になるデザインやものづくりの記事などをスクラップやダウンロードし、感想をメモしていく。 ・工芸・デザインに関連する博物館・美術館の展示、家具や工芸のギャラリーやショールーム、売り場などを見に行き、できるだけ実物に触れるようにする。 ・授業と並行して「地域性と伝統、持続性を踏まえた現代のものづくり」について、自分でテーマを探し、最終レポートにつなげていく。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	木工、陶芸、漆芸、染織など、伝統的な技術を現代社会に生かす現代作家や現代デザイナーのとりくみを紹介する。また、これらを総合的に生かした空間デザイン、環境デザイン、事業の例を紹介する。

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	141-330-13	授業コード	FG0610
科目名称	空間演出 A			単位数	2.0 単位
英文名称	Space Production A			授業区分	講義
科目責任者	堀邉　阿伊子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	堀邉　阿伊子			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期　火曜日 13:00～16:00 後期　金曜日 13:00～16:00			研究室	10-619
授業概要	大学構内に、市民と学生のための新たな施設計画と空間演出をおこなう。 その場所の特徴や空間を分析し、必要だと思われる新たな施設を計画する。また、新たな施設を計画するだけでは、そこが利用する人々にとって魅力的な場所とはなり得ない。何度も訪れたくなるような計画・演出方法・プログラム等について考える。それらの空間は、その空間のデザインや演出自体が表現であり、また設置されるもの等をより良く見せるための背景や装置でもある。 なお、授業ではディスカッションを実施する。				
到達目標	企画・設計・提案を含む空間演出デザイン能力の向上を目指す。 具体的には、対象空間の与条件の整理・分析をする能力、企画アイデアを具体的なインテリア空間としてデザイン表現するスキル、プレゼンテーション能力の習得を目的とする。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	堀邉　阿伊子	【第 1 回】 予習　：シラバスを読み込む 授業　：課題の説明 復習　：授業計画の確認
2	堀邉　阿伊子	【第 2 回】 予習　：新たな施設計画に関する事前調査 授業　：計画する施設の発表（プレゼンテーション） 復習　：新たな施設計画のまとめ
3	堀邉　阿伊子	【第 3 回】 予習　：具体的な実例研究　予備調査 授業　：具体的な実例研究（個人演習） 復習　：具体的な実例研究　事例まとめ
4	堀邉　阿伊子	【第 4 回】 予習　：大学構内の把握 授業　：大学構内調査（ディスカッション） 復習　：調査継続作業
5	堀邉　阿伊子	【第 5 回】 予習　：調査継続作業 授業　：現況図面化作業（ディスカッション） 復習　：現況図面化作業継続
6	堀邉　阿伊子	【第 6 回】 予習　：現況図面化作業継続 授業　：企画内容検討（ディスカッション） 復習　：企画内容検討継続
7	堀邉　阿伊子	【第 7 回】 予習　：現況図面化作業継続 授業　：企画内容検討（ディスカッション） 復習　：企画内容検討継続
8	堀邉　阿伊子	【第 8 回】 予習　：企画提案資料作成 授業　：企画提案発表（プレゼンテーション） 復習　：企画提案内容精査
9	堀邉　阿伊子	【第 9 回】 予習　：デザインスタディ 1　平面計画事前検討 授業　：デザインスタディ 1　平面計画作業＆エスキス（ディスカッション） 復習　：デザインスタディ 1　エスキス内容整理
10	堀邉　阿伊子	【第 10 回】 予習　：デザインスタディ 2　平面・断面計画事前検討 授業　：デザインスタディ 2　平面・断面計画作業＆エスキス（ディスカッション） 復習　：デザインスタディ 2　エスキス内容整理

11	堀邉　阿伊子	【第 11 回】 予習　：デザインスタディ３　3D＆パース事前検討 授業　：デザインスタディ３　3D＆パース作業＆エスキス（ディスカッション） 復習　：デザインスタディ３　エスキス整理
12	堀邉　阿伊子	【第 12 回】 予習　：デザインスタディ４　模型＆提案資料事前検討 授業　：デザインスタディ４　模型＆提案資料作業＆エスキス（ディスカッション） 復習　：デザインスタディ４　エスキス整理
13	堀邉　阿伊子	【第 13 回】 予習　：デザインスタディ５　模型＆提案資料事前検討 授業　：デザインスタディ５　模型＆提案資料作業＆エスキス（ディスカッション） 復習　：デザインスタディ５　エスキス整理
14	堀邉　阿伊子	【第 14 回】 予習　：講評会準備 授業　：講評会（プレゼンテーション） 復習　：講評内容のまとめ
15	堀邉　阿伊子	【第 15 回】 予習　：ポートフォリオの準備 授業　：全体のまとめ・ポートフォリオの作成作業（ディスカッション） 復習　：ポートフォリオの作成作業の継続

授業開始前学習	出来るだけ多くのデザインに触れるように。様々な展示会等も出来るだけ見るように。 デザインには経験のストックが重要。
授業内課題のフィードバックの方法	授業前後および授業中に毎回個別またはグループごとにエスキスを繰り返し実施。
テキスト・教材	必要に応じ指示
参考書	
評価の基準と方法	授業態度 40%、提出物及びレポート 60%で評価。 提出物の不足や出席が 3 分の 2 未満の場合は単位取得できない。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		◎	△

関連科目	インテリアデザインⅠ・インテリアデザインⅡ・空間演出 B
その他	・学外において見学会を行う場合、その際の費用は自己負担とする。 ・履修希望者は、必ず初回授業に出席すること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-221 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	141-331-12（2023 年～入学者） （Ｊ） 140-331-12（～2022 年入学者）（Ｊ）	授業コード	FG0110
科目名称	ｲﾝﾃﾘｱﾌﾟﾛﾀﾞｸﾄ論／住空間とｲﾝﾃﾘｱﾌﾟﾛﾀﾞｸﾄ			単位数	2.0 単位
英文名称	Theory of Interior Products／Living Space and Interior Products			授業区分	講義
科目責任者	橘田 洋子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	橘田 洋子			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 火曜日 16:20～17:50 木曜日 14:40～16:10 後期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 14:40～16:10			研究室	1-206
授業概要	現代の住空間は、様々なインテリアプロダクトによって構成され、機能している。 この授業では、それら様々なインテリアプロダクトについての知識とともに住空間との関係を考え学んでいく。				
到達目標	インテリアプロダクトの様々を通して、造形・素材・機能・サスティナブル＆ユニバーサルデザイン等の知識を得る こと。 住空間デザインスキル・コーディネートスキルを高めることを目標とする。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	橘田 洋子	【第 1 回】 予習 ：シラバスを参照 授業 ：ガイダンス（インテリアプロダクトとは何か） 復習 ：授業計画の確認
2	橘田 洋子	【第 2 回】 予習 ：住まいとユニバーサルデザイン①事前調査 授業 ：住まいとユニバーサルデザイン① 復習 ：住まいとユニバーサルデザイン①キーワードの確認
3	橘田 洋子	【第 3 回】 予習 ： 住まいとユニバーサルデザイン②事前調査 授業 ： 住まいとユニバーサルデザイン② 復習 ： 住まいとユニバーサルデザイン②キーワードの確認
4	橘田 洋子	【第 4 回】 予習 ：住まいとサスティナブルデザイン①事前調査 授業 ：住まいとサスティナブルデザイン① 復習 ：住まいとサスティナブルデザイン①キーワードの確認
5	橘田 洋子	【第 5 回】 予習 ：住まいとサスティナブルデザイン②事前調査 授業 ：住まいとサスティナブルデザイン② 復習 ：住まいとサスティナブルデザイン②キーワードの確認
6	橘田 洋子	【第 6 回】 予習 ：住まいとユニバーサル＆サスティナブルデザインリサーチ 授業 ：住まいとユニバーサル＆サスティナブルデザイン発表・講評・まとめ 復習 ：住まいとユニバーサル＆サスティナブルデザイン分析まとめ
7	橘田 洋子	【第 7 回】 予習 ：住まいと日本の工芸デザイン①事前調査 授業 ：住まいと日本の工芸デザイン① 復習 ：住まいと日本の工芸デザイン①キーワードの確認
8	橘田 洋子	【第 8 回】 予習 ：住まいと日本の工芸デザイン②事前調査 授業 ：住まいと日本の工芸デザイン② 復習 ：住まいと日本の工芸デザイン②キーワードの確認
9	橘田 洋子	【第 9 回】 予習 ：住まいと日本の工芸デザイン③事前調査 授業 ：住まいと日本の工芸デザイン③ 復習 ：住まいと日本の工芸デザイン③キーワードの確認
10	橘田 洋子	【第 10 回】 予習 ：住まいと海外の工芸デザイン①事前調査 授業 ：住まいと海外の工芸デザイン① 復習 ：住まいと海外の工芸デザイン①キーワードの確認

11	橘田　洋子	【第 11 回】 予習　：住まいと海外の工芸デザイン②事前調査 授業　：住まいと海外の工芸デザイン② 復習　：住まいと海外の工芸デザイン②①キーワードの確認
12	橘田　洋子	【第 12 回】 予習　：住まいと海外の工芸デザイン③事前調査 授業　：住まいと海外の工芸デザイン③ 復習　：住まいと海外の工芸デザイン③キーワードの確認
13	橘田　洋子	【第 13 回】 予習　：住まいと日本＆海外の工芸デザインリサーチ 授業　：住まいと日本＆海外の工芸デザイン発表・講評・まとめ 復習　：住まいと日本＆海外の工芸デザイン分析まとめ
14	橘田　洋子	【第 14 回】 予習　：配布資料の講読 授業　：世界を変えるインテリアプロダクト 復習　：気になるキーワードをまとめておく
15	橘田　洋子	【第 15 回】 予習　：授業内配布資料の講読 授業　：インテリアプロダクトまとめ 復習　：全回の住空間とインテリアプロダクトのキーワードの確認

授業開始前学習	レポート課題完成のために事前に入念に資料、情報を収集、分析すること。
授業内課題のフィードバックの方法	演習を実施した際には、講義内での解説を行う。
テキスト・教材	授業中に配布する。必要に応じて指示する。
参考書	住宅インテリア・インテリアプロダクト関係雑誌等、適宜指示をする。
評価の基準と方法	評価は出席状況、課題提出内容、提出期限を重視し評価を行う。 配点(100 点満点における）は、ミニテスト 20 点・レポート課題内容・提出期限 70 点、授業態度 10 点の配分とする。 出席が 10 回未満（講義回数の 3 分の 2 回未満）、及び課題未提出のいずれの場合も単位取得できない。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○			○			

関連科目	
その他	授業の順番等は適宜変更する事もある。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	インテリア・プロダクトデザイン分野における実務経験あり。インテリア・プロダクトデザイン等の実務に役立つ実習等を行う。

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-321 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	141-330-12（Ｊ）	授業コード	FG0710
科目名称	☆ﾃﾞｻﾞｲﾝと心理			単位数	2.0 単位
英文名称	Design and psychology			授業区分	講義
科目責任者	李 志炯			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	李 志炯			開講時期	2･3･4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～10:30 水曜日 14:40～16:10 後期 火曜日 09:00～10:30 水曜日 16:20～17:50			研究室	1-207
授業概要	この授業では実験心理学の観点から環境（人間、空間、プロダクト等）が人間の心理に与える影響、それによる行動の変化について学びます。 また、環境が人間の心理と行動特性に与える影響を分析し、それに基づいたデザイン手法について事例紹介、体験授業（課題等）を通して学びます。				
到達目標	・人間の心理と行動を理解することを目標とします。 ・デザインと心理学の関係性を理解することを目標とします。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	李 志炯	【第 1 回】 予習：シラバスを読む。デザイン心理学に関する参考書を読む。 授業：モノと人間の関係について。 復習：書籍、インターネット等で事例を調べる。
2	李 志炯	【第 2 回】 予習：実験心理学について調べる。 授業：実験心理学の定義、調査方法について。 復習：第 2 回目の資料をもう一度確認する。
3	李 志炯	【第 3 回】 予習：実験データの分析方法を調べる。 授業：実験データの分析方法と考察について。 復習：書籍、インターネット等で論文を調べる。
4	李 志炯	【第 4 回】 予習：デザイン心理学に関する参考書を読む。 授業：空間と人間の関係について。関連の課題を実施（課題①）。 復習：書籍、インターネット等で事例を調べる。
5	李 志炯	【第 5 回】 予習：書籍、インターネット等でモノの形について調べる。 授業：課題①の解説。人間の心理とモノの形の関係について。 復習：第 5 回目の資料をもう一度確認する。
6	李 志炯	【第 6 回】 予習：書籍、インターネット等でモノの形について調べる。 授業：人間の心理とモノの形の関係について。関連の課題を実施（課題②）。 復習：第 6 回目の資料をもう一度確認する。
7	李 志炯	【第 7 回】 予習：書籍、インターネット等で錯覚について調べる。 授業：課題②の解説。モノの形と錯覚の関係について。 復習：第 7 回目の資料をもう一度確認する。
8	李 志炯	【第 8 回】 予習：書籍、インターネット等で錯覚について調べる。 授業：環境と錯覚の関係について。 復習：第 8 回目の資料をもう一度確認する。
9	李 志炯	【第 9 回】 予習：書籍、インターネット等で錯覚の種類について調べる。 授業：ポジティブ錯覚と人間の行動の関係について。 復習：書籍、インターネット等で事例を調べる。
10	李 志炯	【第 10 回】 予習：書籍、インターネット等でマーケティングについて調べる。 授業：人間の心理とマーケティングの関係について。 復習：第 10 回目の資料をもう一度確認する。

11	李 志炯	【第 11 回】 予習：書籍、インターネット等でストーリーテリングについて調べる。 授業：マーケティングにおけるストーリーテリングについて。 復習：第 11 回目の資料をもう一度確認する。
12	李 志炯	【第 12 回】 予習：書籍、インターネット等でストーリーテリングについて調べる。 授業：ストーリーテリングによる錯覚について。関連の課題を実施（課題③）。 復習：第 12 回目の資料をもう一度確認する。
13	李 志炯	【第 13 回】 予習：錯視に関する参考書を読む。 授業：課題③の解説。錯視とは?錯視を活用したデザインについて。関連の課題を実施（課題④）。 復習：書籍、インターネット等で事例を調べる。
14	李 志炯	【第 14 回】 予習：錯視に関する参考書を読む。 授業：課題④の解説。ゲシュタルト心理学について。 復習：書籍、インターネット等で事例を調べる。
15	李 志炯	【第 15 回】 予習：色彩に関する参考書を読む。 授業：人間の心理と色彩の関係について。 復習：書籍、インターネット等で事例を調べる。

授業開始前学習	基礎心理学、実験心理学、デザイン心理学に関する書籍を読むこと。
授業内課題のフィードバックの方法	この授業では４回の課題を行います。各課題の回答案を授業で共有し、自分と他者の考えの差異を確認します。また、その差異を理解し、それを基に多様な発想ができるように授業中に討論します。
テキスト・教材	配付資料
参考書	よくわかるデザイン心理学：人間の行動・心理を考慮した一歩進んだデザインへのヒント（日刊工業新聞社） 脳がだまされる奇妙な世界を楽しむ・解き明かす・つくりだす新錯視図鑑（誠文堂新光社） 色のパワーで心も体も元気になる!人生が豊かになる色彩心理（ナツメ社）
評価の基準と方法	授業への取り組み 50%、課題、レポートなど提出物 50%で評価。 出席が 3 分 2 以下、または提出物が不足している場合は単位取得できない。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○	○		◎			

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	この授業では、デザイン心理学に基づいたものづくり（インテリア、プロダクト、グラフィック等）実務経験がある教員が担当し実際の制作に関する知識を生かした現実的な指導が受けられます。

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-321	科目分類（～2024 年入学者）	141-330-12	授業コード	FG0720
科目名称	ｸﾞﾗﾌｨｯｸ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学			単位数	2.0 単位
英文名称	Graphic Communication Studies			授業区分	講義
科目責任者	鈴木　利彦			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鈴木　利彦			開講時期	2・3・4 年
オフィスアワー	前期　火曜日 09:00～12:10 後期　火曜日 09:00～12:10			研究室	10-509
授業概要	身の回りにある生活用品や家具の装飾、看板など、平面表現であるグラフィックデザインは空間表現のなかに展開しています。授業では、ピクトサインやパッケージデザインといった具体的な作品事例を挙げて解説し、デザインの発想から企画起案、制作の流れ（ワークフロー）を理解することで、空間デザインに、より具体的に応用できる知識と技術を養います。				
到達目標	・グラフィックデザインの表現手法を応用し、インテリアデザインや建築デザインなど空間表現に展開できるようになる。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	鈴木　利彦	【第 1 回】 予習：インテリアや建築にあしらわれている「グラフィック表現」に注目し、写真撮影やスクリーンショットなどで採集してみる。 授業：グラフィックデザインの総論と具体的な展開 復習：引き続き、グラフィックデザイン事例を自分なりに採集する。
2	鈴木　利彦	【第 2 回】 予習：インテリアや建築にあしらわれている「グラフィック表現」に注目し、写真撮影やスクリーンショットなどで採集してみる。 授業：グラフィック・コミュニケーション①「ピクトサイン」事例 復習：引き続き、グラフィックデザイン事例を自分なりに採集する。
3	鈴木　利彦	【第 3 回】 予習：インテリアや建築にあしらわれている「グラフィック表現」に注目し、写真撮影やスクリーンショットなどで採集してみる。 授業：グラフィック・コミュニケーション②「インフォグラフィックス」事例 復習：引き続き、グラフィックデザイン事例を自分なりに採集する。
4	鈴木　利彦	【第 4 回】 予習：インテリアや建築にあしらわれている「グラフィック表現」に注目し、写真撮影やスクリーンショットなどで採集してみる。 授業：グラフィック・コミュニケーション③「パッケージデザイン」事例 復習：引き続き、グラフィックデザイン事例を自分なりに採集する。
5	鈴木　利彦	【第 5 回】 予習：インテリアや建築にあしらわれている「グラフィック表現」に注目し、写真撮影やスクリーンショットなどで採集してみる。 授業：グラフィック計画① ブランディング戦略とグラフィックデザイン（CI 計画） 復習：引き続き、グラフィックデザイン事例を自分なりに採集する。
6	鈴木　利彦	【第 6 回】 予習：インテリアや建築にあしらわれている「グラフィック表現」に注目し、写真撮影やスクリーンショットなどで採集してみる。 授業：グラフィック計画② ブランディング戦略とインテリアプロダクト 復習：引き続き、グラフィックデザイン事例を自分なりに採集する。
7	鈴木　利彦	【第 7 回】 予習：インテリアや建築にあしらわれている「グラフィック表現」に注目し、写真撮影やスクリーンショットなどで採集してみる。 授業：グラフィック計画③ ブランディング戦略と建築 復習：授業クラスルーム掲出資料の確認をして、次回授業の準備をしておく。
8	鈴木　利彦	【第 8 回】 予習：授業クラスルーム掲出資料の確認をして、一読しておく。 授業：グラフィック表現の展開①「私のお店」課題説明とデザイン展開 復習：課題説明を受けて、授業内制作のためのエスキースをしておく。
9	鈴木　利彦	【第 9 回】 予習：授業クラスルーム掲出資料の確認をして、授業の準備をしておく。 授業：グラフィック表現の展開②「私のお店」ロゴマーク 復習：課題説明を受けて、授業内制作のためのエスキースをしておく。

10	鈴木　利彦	【第 10 回】 予習：授業クラスルーム掲出資料の確認をして、授業の準備をしておく。 授業：グラフィック表現の展開③ 「私のお店」ロゴマーク／パッケージデザイン 復習：課題説明を受けて、授業内制作のためのエスキースをしておく。
11	鈴木　利彦	【第 11 回】 予習：授業クラスルーム掲出資料の確認をして、授業の準備をしておく。 授業：グラフィック表現の展開④ 「私のお店」パッケージデザイン／ピクトサイン 復習：授業内での全体エスキースを受けて、課題提出の準備をしておく。
12	鈴木　利彦	【第 12 回】 予習：授業クラスルーム掲出資料の確認をして、授業の準備をしておく。 授業：グラフィック表現の展開⑤ 「私のお店」中間講評と解説 復習：課題説明を受けて、授業内制作のためのエスキースをしておく。
13	鈴木　利彦	【第 13 回】 予習：授業クラスルーム掲出資料の確認をして、授業の準備をしておく。 授業：グラフィック表現の展開⑤ 「私のお店」ロゴマーク／パッケージデザイン／ピクトサイン 復習：授業内での全体エスキースを受けて、課題提出の準備をしておく。
14	鈴木　利彦	【第 14 回】 予習：授業クラスルーム掲出資料の確認をして、授業の準備をしておく。 授業：グラフィック表現の展開⑥ 「私のお店」作品講評と解説（１） 復習：講評コメントを提出する。
15	鈴木　利彦	【第 15 回】 予習：授業クラスルーム掲出資料の確認をして、授業の準備をしておく。 授業：グラフィック表現の展開⑦ 「私のお店」作品講評と解説（２）／グラフィック・コミュニケーションの総論 復習：授業コメントを提出する。

授業開始前学習	インテリアや建築にあしらわれている「グラフィック表現」を自分なりに見つけて、写真に撮って記録をしておく。
授業内課題のフィードバックの方法	授業に関する質問などについては、授業クラスルームをとおして適宜講評および説明を行います。 また、提出課題についてはエスキースや講評を行います。
テキスト・教材	授業やクラスルームで適宜紹介します。
参考書	授業やクラスルームで適宜紹介します。
評価の基準と方法	平常点（授業態度・提出期限厳守）、課題内容により評価します。 平常点 30 点、課題内容 70 点とします。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○	○	◎			

関連科目	グラフィックデザイン
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）	SD-M-221	科目分類（～2024年入学者）	141-331-12	授業コード	FG0630
科目名称	インテリアの知識と技術Ⅰ			単位数	2.0単位
英文名称	Knowledge and Skill of Interior Design Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	山崎　陽菜			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	山崎　陽菜			開講時期	2・3・4年
オフィスアワー	前期　火曜日 11:00～12:30　金曜日 09:00～10:30 後期　水曜日 14:30～16:00　金曜日 09:00～10:30			研究室	2-201
授業概要	科目で学んだ内容を生かし、建築士やインテリアプランナー、インテリアコーディネーター等を目指す際に必要となるインテリア空間に関わる基本知識と技術への総合的理解を深める。				
到達目標	建築、インテリア関連資格を目指す際に必要となるインテリア空間に関わる基本知識と技術を総合的に理解することを目標にする。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	山崎　陽菜	【第1回】 予習　：テキストの準備 授業　：オリエンテーション 復習　：テキストの確認
2	山崎　陽菜	【第2回】 予習　：インテリアの歴史予習 授業　：インテリアの歴史 復習　：インテリアの歴史の復習
3	山崎　陽菜	【第3回】 予習　：インテリア計画予習 授業　：インテリア計画 復習　：インテリア計画の復習
4	山崎　陽菜	【第4回】 予習　：環境工学予習 授業　：環境工学 復習　：環境工学の復習
5	山崎　陽菜	【第5回】 予習　：構造と施工予習 授業　：構造と施工 復習　：構造と施工の復習
6	山崎　陽菜	【第6回】 予習　：表現技法1予習 授業　：表現技法1 復習　：表現技法1の復習
7	山崎　陽菜	【第7回】 予習　：表現技法2予習 授業　：表現技法2 復習　：表現技法2の復習
8	山崎　陽菜	【第8回】 予習　：演習1予習 授業　：演習1 復習　：演習1の復習
9	山崎　陽菜	【第9回】 予習　：　色彩と造形予習 授業　：　色彩と造形 復習　：　色彩と造形の復習
10	山崎　陽菜	【第10回】 予習　：建築関係法規予習 授業　：建築関係法規 復習　：建築関係法規の復習
11	山崎　陽菜	【第11回】 予習　：住宅設備1予習 授業　：住宅設備1 復習　：住宅設備1復習

12	山崎　陽菜	【第 12 回】 予習　：　住宅設備 2 予習 授業　：　住宅設備 2 復習　：　住宅設備 2 の復習
13	山崎　陽菜	【第 13 回】 予習　：材料予習 授業　：材料 復習　：材料の復習
14	山崎　陽菜	【第 14 回】 予習　：住宅と社会予習 授業　：住宅と社会 復習　：住宅と社会の復習
15	山崎　陽菜	【第 15 回】 予習　：演習 2 予習 授業　：演習 2 復習　：演習 2 の復習

授業開始前学習	
授業内課題のフィードバックの方法	授業内で行う問題演習や小テストは講義の中で解説を行う。
テキスト・教材	「インテリアコーディネーターハンドブック（上・下）」（インテリア産業協会）
参考書	授業中に適宜紹介する
評価の基準と方法	授業態度と授業内の各種テスト、小テスト、演習テストの成績の総合点で評価する。 授業態度 10%、授業内の小テストの評価等 30%、演習テスト 60%の配分とする。 出席回数が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は単位取得できない。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎		○	

関連科目	インテリアの知識と技術Ⅱ
その他	履修条件の詳細説明を 1 回目のオリエンテーションにて行う。履修者は必ずこれを受講すること。 自己のスケジュール管理を行い計画的に自主的に学習する意欲を持つこと。建築士やインテリアコーディネーター等の資格を目指す意識があることが望ましい。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-321	科目分類（～2024 年入学者）	141-331-13	授業コード	FG0640
科目名称	インテリアの知識と技術Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	Knowledge and Skill of Interior Design Ⅱ			授業区分	講義
科目責任者	山崎　陽菜			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	山崎　陽菜			開講時期	3・4 年
オフィスアワー	前期　火曜日 11:00～12:30　金曜日 09:00～10:30 後期　水曜日 14:30～16:00　金曜日 09:00～10:30			研究室	2-201
授業概要	学科の他の科目や、インテリアの知識と技術Ⅰで学んだ内容を生かし、建築士やインテリアプランナー、インテリアコーディネーター等を目指す際に必要となるインテリア空間に関わる基本知識と技術への総合的理解を深め、資格取得のためのさらなる実践力を養う。				
到達目標	建築士やインテリアプランナー、インテリアコーディネーター等の各資格を目指す際に必要となるインテリア空間に関わる基本知識と技術の理解をさらに高め、実際的な演習問題の正答率向上を目指す。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	山崎　陽菜	【第 1 回】 予習　：テキストの準備 授業　：オリエンテーション 復習　：テキストの確認
2	山崎　陽菜	【第 2 回】 予習　：インテリアの歴史予習 授業　：インテリアの歴史 復習　：インテリアの歴史の復習
3	山崎　陽菜	【第 3 回】 予習　：インテリア計画予習 授業　：インテリア計画 復習　：インテリア計画の復習
4	山崎　陽菜	【第 4 回】 予習　：環境工学予習 授業　：環境工学 復習　：環境工学の復習
5	山崎　陽菜	【第 5 回】 予習　：構造と施工予習 授業　：構造と施工 復習　：構造と施工の復習
6	山崎　陽菜	【第 6 回】 予習　：表現技法 1 予習 授業　：表現技法 1 復習　：表現技法 1 の復習
7	山崎　陽菜	【第 7 回】 予習　：表現技法 2 予習 授業　：表現技法 2 復習　：表現技法 2 の復習
8	山崎　陽菜	【第 8 回】 予習　：演習 1 予習 授業　：演習 1 復習　：演習 1 の復習
9	山崎　陽菜	【第 9 回】 予習　：　色彩と造形予習 授業　：　色彩と造形 復習　：　色彩と造形の復習
10	山崎　陽菜	【第 10 回】 予習　：建築関係法規予習 授業　：建築関係法規 復習　：建築関係法規の復習
11	山崎　陽菜	【第 11 回】 予習　：住宅設備 1 予習 授業　：住宅設備 1 復習　：住宅設備 1 復習

12	山崎　陽菜	【第 12 回】 予習　：　住宅設備 2 予習 授業　：　住宅設備 2 復習　：　住宅設備 2 の復習
13	山崎　陽菜	【第 13 回】 予習　：材料予習 授業　：材料 復習　：材料の復習
14	山崎　陽菜	【第 14 回】 予習　：住宅と社会予習 授業　：住宅と社会 復習　：住宅と社会の復習
15	山崎　陽菜	【第 15 回】 予習　：演習 2 予習 授業　：演習 2 復習　：演習 2 の復習

授業開始前学習	
授業内課題のフィードバックの方法	授業内で行う問題演習や小テストは講義の中で解説を行う。
テキスト・教材	「インテリアコーディネーターハンドブック（上・下）」（インテリア産業協会）
参考書	授業中に適宜紹介する
評価の基準と方法	授業態度と授業内の各種テスト、小テスト、演習テストの成績の総合点で評価する。 授業態度 10%、授業内の小テストの評価等 30%、演習テスト 60%の配分とする。 出席回数が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は単位取得できない。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎		○	

関連科目	インテリアの知識と技術 I
その他	履修条件の詳細説明を 1 回目のオリエンテーションにて行う。履修者は必ずこれを受講すること。 インテリアの知識と技術 I を履修していることが望ましい。 自己のスケジュール管理を行い計画的に自主的に学習する意欲を持つこと。建築士やインテリアコーディネーター等の資格を目指す意識があることが望ましい。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）	SD-M-322 （Ｊ）	科目分類（～2024年入学者）	142-331-23 （Ｊ）	授業コード	FG0910
科目名称	建築ﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ			単位数	2.0 単位
英文名称	Architectural Design Ⅰ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	茂木 弥生子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	茂木・田中(昭)・三木			開講時期	3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	設計製図Ⅰ、Ⅱで学んだ個人住宅・シェアハウスの設計を基に、集合住宅の計画及び設計を行う。 住宅の内部空間だけではなく、住戸と住戸の関係、及び住戸と外部空間の関係を考える。また、建物と外部空間の関係を考えるトレーニングとして短期課題を行う。				
到達目標	短期課題を通して、計画からプレゼンテーションまでのプロセスを具体的に把握し、デザインプロセスと作業プロセスをコントロールすることを習得する。集合住宅の課題を通して建築単体のあり方だけではなく外部空間や環境とのつながりを考える事の重要性を習得する。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	共同

授業回数	担当者	授業の内容
1	田中 昭成 茂木 弥生子 三木 達郎	【第 1 回】 予習 ：シラバスの内容を確認する 授業 ：ガイダンスと「短期課題」の説明 復習 ：配布資料を再読し、理解を深める
2	田中 昭成 茂木 弥生子 三木 達郎	【第 2 回】 予習 ：敷地分析と事例研究を行い、コンセプトを検討する 授業 ：エスキース（実習） 復習 ：エスキースで指摘された箇所について改善する
3	田中 昭成 茂木 弥生子 三木 達郎	【第 3 回】 予習 ：エスキースのための準備をする 授業 ：エスキース（実習） 復習 ：エスキースで指摘された箇所について改善する
4	田中 昭成 茂木 弥生子 三木 達郎	【第 4 回】 予習 ：エスキースのための準備をする 授業 ：エスキース（実習） 復習 ：エスキースで指摘された箇所について改善する
5	田中 昭成 茂木 弥生子 三木 達郎	【第 5 回】 予習 ：プレゼンテーションシートと模型を制作する 授業 ：「短期課題」の発表・講評（プレゼンテーション） 復習 ：講評内容をもとに、自己評価を行う
6	田中 昭成 茂木 弥生子 三木 達郎	【第 6 回】 予習 ：集合住宅の資料収集を行う 授業 ：「集合住宅課題」の説明 復習 ：配布資料を再読し、理解を深める
7	田中 昭成 茂木 弥生子 三木 達郎	【第 7 回】 予習 ：敷地分析と事例研究を行い、コンセプトを検討する 授業 ：敷地分析・事例研究・エスキース（実習） 復習 ：エスキースで指摘された箇所について改善する
8	田中 昭成 茂木 弥生子 三木 達郎	【第 8 回】 予習 ：エスキースのための準備をする 授業 ：エスキース（実習） 復習 ：エスキースで指摘された箇所について改善する
9	田中 昭成 茂木 弥生子 三木 達郎	【第 9 回】 予習 ：エスキースのための準備をする 授業 ：エスキース（実習） 復習 ：エスキースで指摘された箇所について改善する
10	田中 昭成 茂木 弥生子 三木 達郎	【第 10 回】 予習 ：中間発表の準備をする 授業 ：「集合住宅課題」の中間発表（プレゼンテーション） 復習 ：講評で指摘された箇所について改善する
11	田中 昭成 茂木 弥生子 三木 達郎	【第 11 回】 予習 ：エスキースのための準備をする 授業 ：エスキース（実習） 復習 ：エスキースで指摘された箇所について改善する

12	田中　昭成 茂木　弥生子 三木　達郎	【第 12 回】 予習　：エスキースのための準備をする 授業　：エスキース（実習） 復習　：エスキースで指摘された箇所について改善する
13	田中　昭成 茂木　弥生子 三木　達郎	【第 13 回】 予習　：プレゼンテーションの事例研究 授業　：プレゼンテーションの表現・技法の説明（実習） 復習　：プレゼンテーションの検討
14	田中　昭成 茂木　弥生子 三木　達郎	【第 14 回】 予習　：エスキースのための準備をする 授業　：エスキース（実習） 復習　：エスキースで指摘された箇所について改善する
15	田中　昭成 茂木　弥生子 三木　達郎	【第 15 回】 予習　：プレゼンテーションシートと模型を制作する 授業　：「集合住宅課題」の発表・講評（プレゼンテーション） 復習　：講評内容をもとに、自己評価を行う

授業開始前学習	類似事例の研究
授業内課題のフィードバックの方法	毎回のエスキースでは、個別に相談をしながら、今後の進め方や課題、問題点についてコメントする。 課題提出時に講評会を行い、個別に課題への講評や今後の課題についてコメントする。
テキスト・教材	特になし。適宜資料を配布する。
参考書	「第 4 版コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編（丸善出版） 各自、必要と思われる資料を集めること。
評価の基準と方法	提出物・講評会のプレゼンテーション内容・エスキース・授業態度により評価する。配点は（100　点満点における）提出物　50 点・プレゼンテーション 30 点・授業態度 20 点の配分とする。 出席回数が授業回数の　3　分の　2　未満の場合は単位取得できない。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		○		◎	○

関連科目	建築計画 B（集合住宅）
その他	構造・設備・法規など関連する科目は必ず受講すること。 課題説明は必ず出席すること。遅刻・欠席は評価の際、大幅な減点対象となる。課題提出は特別な事情がある場合以外は、期限後には受け付けないので注意すること。模型材料費必要。
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間＋予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	本科目の担当者は建築設計の実務経験を有しており、本科目ではその経験を活かし建築設計の実習を行う。

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-322 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	142-331-23 （Ｊ）	授業コード	FG0920
科目名称	建築ﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ			単位数	2.0 単位
英文名称	Architectural Design Ⅱ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	三戸　美代子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三戸・井原・手塚			開講時期	3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	建築デザインⅠで設計した集合住宅および公共建築を発展させ、都市的な環境の中で、複合的な機能をもった公共施設の計画、設計、作図、プレゼンテーションを行う。 前半にパブリックスペースの在り方、周辺環境との関わりをを考えるトレーニングとして小規模な公共施設、後半には都市的な規模の公共施設に取り組む。				
到達目標	公共施設の計画を通じて、敷地環境の分析から、都市における問題点、良い点などを読み取り、より高度な提案と作図表現、プレゼンテーション能力を身につける。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	共同

授業回数	担当者	授業の内容
1	井原　正揮 手塚貴史 三戸　美代子	【第 1 回】 予習　：シラバス参照 授業　：授業ガイダンス、短期　課題の説明 復習　：課題キーワードの確認
2	井原　正揮 手塚貴史 三戸　美代子	【第 2 回】 予習　：コンセプト作成 授業　：エスキース（実習）（ディスカッション） 復習　：課題の自習
3	井原　正揮 手塚貴史 三戸　美代子	【第 3 回】 予習　：事例研究 授業　：エスキース（実習）（ディスカッション） 復習　：エスキース模型作成
4	井原　正揮 手塚貴史 三戸　美代子	【第 4 回】 予習　：エスキース模型検討 授業　：短期課題の発表・講評（プレゼンテーション） 復習　：作成プロセスの確認
5	井原　正揮 手塚貴史 三戸　美代子	【第 5 回】 予習　：公共施設の事例検索 授業　：　課題　説明・「公共施設の提案」 復習　：課題内容キーワード確認
6	井原　正揮 手塚貴史 三戸　美代子	【第 6 回】 予習　：敷地事前分析 授業　：　敷地分析・事例調査・エスキース（実習）（ディスカッション） 復習　：ヴォリュームスタディ
7	井原　正揮 手塚貴史 三戸　美代子	【第 7 回】 予習　：ヴォリューム模型作成 授業　：エスキース（実習）（ディスカッション） 復習　：エスキース模型作成
8	井原　正揮 手塚貴史 三戸　美代子	【第 8 回】 予習　：図面検討 授業　：エスキース（実習）（ディスカッション） 復習　：断面計画検討
9	井原　正揮 手塚貴史 三戸　美代子	【第 9 回】 予習　：断面、平面計画検討 授業　：エスキース（実習）（ディスカッション） 復習　：エスキース模型による再検討
10	井原　正揮 手塚貴史 三戸　美代子	【第 10 回】 予習　：中間発表にむけてプレゼ検討 授業　：中間発表（プレゼンテーション） 復習　：コンセプトの確認

11	井原　正揮 手塚貴史 三戸　美代子	【第 11 回】 予習　：図面、模型検討 授業　：エスキース（実習）（ディスカッション） 復習　：図面、模型検討
12	井原　正揮 手塚貴史 三戸　美代子	【第 12 回】 予習　：断面計画再検討 授業　：エスキース（実習）（ディスカッション） 復習　：平面計画再検討
13	井原　正揮 手塚貴史 三戸　美代子	【第 13 回】 予習　：パネルレイアウト検討 授業　：プレゼンテーション指導（実習） 復習　：パネルレイアウト検討
14	井原　正揮 手塚貴史 三戸　美代子	【第 14 回】 予習　：平立断再検討 授業　：　作図、プレゼンテーション作業（実習） 復習　：プレゼンテーショ ン準備
15	井原　正揮 手塚貴史 三戸　美代子	【第 15 回】 予習　：プレゼンテーショ ン準備 授業　：課題　発表（前日に図面・模型提出）・講評（プレゼンテーション） 復習　：作成プロセス確認

授業開始前学習	類似事例の研究
授業内課題のフィードバックの方法	毎回の進捗状況を個別に確認しアドバイスを行う。 課題提出時に講評会を行う。講評時に個別に今後の学修の課題や問題点について指摘する。
テキスト・教材	特になし
参考書	「建築計画設計シリーズ 41　新・住宅Ｉ」（市ヶ谷出版社） 「第３版コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編（丸善出版）
評価の基準と方法	提出物・講評会のプレゼンテーション内容・エスキース・平常点（授業態度）により評価する。配点は（100　点満点における）課題点 70 点・平常点（授業態度等）30 点の配分とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		○		◎	○

関連科目	設計製図Ｉ、建築デザインＩ、建築計画Ｃ
その他	設計製図Ｉ、建築デザインＩを履修済みであること。 構造・設備・法規など関連する科目は必ず受講すること。 課題説明は必ず出席すること。遅刻・欠席は評価の際、大幅な減点対象となる。課題提出は特別な事情がある場合以外は、期限後には受け付けないので注意すること。模型材料費必要。
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間＋予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	本科目は建築士として設計業務の実務経験を有する複数の担当教員が指導する。

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-221	科目分類（～2024 年入学者）	142-331-12	授業コード	FG0930
科目名称	建築ﾃﾞｻﾞｲﾝ論			単位数	2.0 単位
英文名称	Theory of Architectural Design			授業区分	講義
科目責任者	西尾　尚子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	西尾　尚子			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期　水曜日 13:00～14:30　水曜日 14:40～16:10 後期　水曜日 13:00～14:30　水曜日 14:40～16:10			研究室	2-214
授業概要	近代建築以降の日本及び海外の住宅や建築の事例紹介を通じて「建築デザイン」とは何かを考えて行く。具体的には平面計画と様々な外的・内的与条件の関係や、住空間及び建築空間に対する考え方を学ぶ。また、授業では提出されたレポート課題に関するディスカッションを行う。				
到達目標	20 世紀モダニズム建築作品とその歴史的意義を学ぶ。 日本の現代建築作品に対する基礎的な知識を習得する。 現在の建築を切り開いている建築家の作品の建築的意味を理解することを目標とする。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	西尾　尚子	【第 1 回】 予習　：シラバスを読むこと 授業　：　ガイダンス（授業の目的と進め方の説明） 復習　：配布資料のキーワードの確認
2	西尾　尚子	【第 2 回】 予習　：配布資料の事前参照 授業　：19 世紀末及び 20 世紀初頭のヨーロッパの状況（小レポート） 復習　：配布資料のキーワードの確認
3	西尾　尚子	【第 3 回】 予習　：サヴォア邸について検索 授業　：ル・コルビジェの住宅と建築（小レポート・ディスカッション） 復習　：近代建築の五原則確認
4	西尾　尚子	【第 4 回】 予習　：　落水荘について検索 授業　：　フランク・ロイド・ライトの住宅と建築（小レポート・ディスカッション） 復習　：有機的建築についてキーワード確認
5	西尾　尚子	【第 5 回】 予習　：ファンズワース邸について検索 授業　：　ミース・ファン・デル・ローエの住宅と建築（小レポート・ディスカッション） 復習　：ミース・ファン・デル・ローエのキーワードの確認
6	西尾　尚子	【第 6 回】 予習　：国立西洋美術館について検索 授業　：三巨匠の日本建築家への影響とその遺産（小レポート・ディスカッション） 復習　：戦後公共建築の復讐
7	西尾　尚子	【第 7 回】 予習　：吉村順三「軽井沢の家」について検索 授業　：吉村順三の住宅建築とその系譜（小レポート・ディスカッション） 復習　：吉村順三の住宅のキーワード確認
8	西尾　尚子	【第 8 回】 予習　：清家清の自邸について検索 授業　：清家清の住宅建築とその系譜（小レポート・ディスカッション） 復習　：清家清の住宅のキーワード確認
9	西尾　尚子	【第 9 回】 予習　：配布資料の事前参照 授業　：団地の誕生と集合住宅　（小レポート・ディスカッション） 復習　：配布資料のキーワードの確認
10	西尾　尚子	【第 10 回】 予習　：丹下健三について検索 授業　：丹下健三の建築とその弟子たち（国家と建築）　（小レポート・ディスカッション） 復習　：戦後第一世代の建築家の作品検索
11	西尾　尚子	【第 11 回】 予習　：「住吉の長屋」図面参照 授業　：安藤忠雄の住宅と建築（ミニマリズムとコンクリート）　（小レポート・ディスカッション） 復習　：安藤建築のキーワード確認

12	西尾　尚子	【第 12 回】 予習　：伊東豊雄について検索 授業　：伊東豊雄の住宅と建築（時代への対応）（小レポート・ディスカッション） 復習　：伊東豊雄の建築のキーワード確認
13	西尾　尚子	【第 13 回】 予習　：金沢２１世紀美術館の検索 授業　：SANAA の住宅と建築（小レポート・ディスカッション） 復習　：SANNA 建築のキーワード確認
14	西尾　尚子	【第 14 回】 予習　：藤本壮介について検索 授業　：若手世代の住宅と建築（小レポート・ディスカッション） 復習　：藤本荘介の建築キーワードの確認
15	西尾　尚子	【第 15 回】 予習　：配布資料の事前参照 授業　：建築の可能性へ向けて（小レポート・ディスカッション） 復習　：配布資料のキーワードの確認

授業開始前学習	各建築家について調べる。
授業内課題のフィードバックの方法	毎回提出する小レポートに対して、次の週にフィードバックする。
テキスト・教材	特になし。適宜プリントを配布する。
参考書	建築雑誌等、作品集等。
評価の基準と方法	小レポート及びレポート 70 点、平常点（授業態度、課題提出）30 点とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○		

関連科目	設計製図Ⅱ、建築デザインⅠ、建築デザインⅡ
その他	授業の順番等は適宜変更する事もある。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-221 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	142-331-12 （Ｊ）	授業コード	FG0940
科目名称	建築計画 A			単位数	2.0 単位
英文名称	Architectural Planning A			授業区分	講義
科目責任者	三戸 美代子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三戸 美代子			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 水曜日 09:00～12:10 後期 水曜日 09:00～12:10			研究室	1-211
授業概要	建築物の中で最も歴史が古く、また、人間が一生の中で多くの時間を過ごす「住宅」。建築設計の基本でありながら、一方で深く難しいともいわれる「住宅設計」を題材に、建築計画に必要な知識や方法を修得する。授業では講義にともなって演習課題を行う。				
到達目標	「住宅設計」を題材に、建築計画、建築設計の基礎を修得する。 名作といわれる住宅建築についての知識を広げる。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	三戸 美代子	【第 1 回】 予習 ：教科書の購入 授業 ：ガイダンス（テキスト p.18?27） 復習 ：教科書の見直し（p.18-27）
2	三戸 美代子	【第 2 回】 予習 ：製図の基礎で学んだ図面の種類をみておく 授業 ：図面の作法 復習 ：配布資料見直し
3	三戸 美代子	【第 3 回】 予習 ： 教科書を読んでおく(p.10-17) 授業 ：住宅設計とは何か（テキスト p.10?17）（演習課題 1 ） 復習 ：授業中に出題された課題調査
4	三戸 美代子	【第 4 回】 予習 ：教科書を読んでおく(p.28-29) 授業 ：こんな家に住みたい（テキスト p.28?29） 復習 ：事例研究
5	三戸 美代子	【第 5 回】 予習 ：教科書を読んでおく(p.32-37) 授業 ：住宅計画 1 （敷地環境の分析） （テキスト p.32?37）（演習課題 2 ） 復習 ：授業中に出題された課題調査
6	三戸 美代子	【第 6 回】 予習 ：教科書を読んでおく(p.38-41) 授業 ：住宅計画 2 （動線計画） （テキスト p.38?41） 復習 ：事例研究
7	三戸 美代子	【第 7 回】 予習 ：教科書を読んでおく(p.42-45) 授業 ：住宅計画 3 （食空間の計画） （テキスト p.42?45）（演習課題 3 ） 復習 ：授業中に出題された課題調査
8	三戸 美代子	【第 8 回】 予習 ：教科書を読んでおく(p.46-49) 授業 ：住宅計画 4 （パブリック空間の計画） （テキスト p.46?49） 復習 ：事例研究
9	三戸 美代子	【第 9 回】 予習 ：教科書を読んでおく(p.50-53) 授業 ： 住宅計画 5 （プライベート空間の計画） （テキスト p.50?53）（演習課題 4 ） 復習 ：授業中に出題された課題調査
10	三戸 美代子	【第 10 回】 予習 ：教科書を読んでおく(p.54-56) 授業 ：住宅計画 6 （収納計画） （テキスト p.54?56） 復習 ：事例研究
11	三戸 美代子	【第 11 回】 予習 ：教科書を読んでおく(p.58-59) 授業 ：住宅計画 7 （ユニバーサルデザイン） （テキスト p.58?59）（演習課題 5 ） 復習 ：授業中に出題された課題調査

12	三戸　美代子	【第 12 回】 予習　：教科書を読んでおく(p.60-61) 授業　：平面計画の考え方 1（テキスト p.60?61) 復習　：事例研究
13	三戸　美代子	【第 13 回】 予習　：教科書を読んでおく(p.62-63) 授業　：平面計画の考え方 2（テキスト p.62?63)（演習課題 6 ） 復習　：授業中に出題された課題調査
14	三戸　美代子	【第 14 回】 予習　：教科書を読んでおく(p.64-65) 授業　：断面計画の考え方（テキスト p.64?65) 復習　：事例研究
15	三戸　美代子	【第 15 回】 予習　：過去の課題を整理して持参準備 授業　：前期のまとめ・アンケート実施 復習　：授業中に出題された課題調査

授業開始前学習	教科書を購入し目を通しておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	出題された課題は、内容に応じて学生の提出物を共有したり、模範回答を解説するなどでフィードバックを行う。
テキスト・教材	「建築計画設計シリーズ 41　新・住宅 I」市ヶ谷出版
参考書	「建築計画設計シリーズ 40　新・設計基礎（構造・環境設備・法規）」（市ヶ谷出版社） 「第 3 版コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編（丸善出版）
評価の基準と方法	演習課題提出状況：30 点、演習課題の内容による：70 点
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○		

関連科目	設計製図Ⅰ、設計製図Ⅱ
その他	・設計製図Ⅰの課題の進度に合わせて必要な知識を学ぶため、同時に履修することを強く推奨する。 ・コロナ感染状況により対面で実施できない場合、課題内容の変更、スケジュールの入れ替えがある。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	本科目は一級建築士有資格者が担当する。

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-321 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	142-331-13 （J）	授業コード	FG0950
科目名称	建築計画 B			単位数	2.0 単位
英文名称	Architectural Planning B			授業区分	講義
科目責任者	茂木 弥生子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	茂木 弥生子			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 10:40～12:10 木曜日 13:00～14:30			研究室	1-203
授業概要	主に集合住宅の建築計画に視点をあて、その計画・設計に関する基礎的な知識を学ぶ。また、住空間を幅広い視点で捉え、子どもの居場所としての学校や、患者・高齢者など居場所としての医療・高齢者福祉施設の計画・設計についても考察する。				
到達目標	集合住宅や学校、医療・高齢者福祉施設の計画・設計に必要な基礎的な知識を理解し、建築計画について習得する。また、国内外の事例について建築計画の視点から考察できるようになる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	茂木 弥生子	【第 1 回】 予習 ：シラバスの内容を確認する 授業 ：ガイダンス 復習 ：配布資料を再読し、理解を深める
2	茂木 弥生子	【第 2 回】 予習 ：身の回りのものの寸法を測ってみる 授業 ：基本寸法とスケール感（演習課題 1） 復習 ：自宅の家具や小物の寸法を測ってみる
3	茂木 弥生子	【第 3 回】 予習 ：参考書等を使って建物の計画手順について予習する 授業 ：建物を建てるための計画手順（演習課題 2） 復習 ：配布資料を再読し、建物の計画手順について理解を深める
4	茂木 弥生子	【第 4 回】 予習 ：参考書等を使って集合住宅の形式について予習する 授業 ：集合住宅の住戸・住棟計画（演習課題 3） 復習 ：住戸・住棟計画の演習資料を再読し、復習する
5	茂木 弥生子	【第 5 回】 予習 ：参考書等を使って建物の動線計画について予習する 授業 ：集合住宅の動線計画（演習課題 4） 復習 ：動線計画の演習資料を再読し、復習する
6	茂木 弥生子	【第 6 回】 予習 ：雑誌等で集合住宅の事例を調べる 授業 ：集合住宅の事例紹介と分析（演習課題 5） 復習 ：配布資料を再読し、集合住宅の事例研究方法について理解を深める
7	茂木 弥生子	【第 7 回】 予習 ：興味を持った集合住宅の事例について学習する 授業 ：集合住宅の事例紹介と分析（演習課題 6） 復習 ：集合住宅の事例研究資料を作成する
8	茂木 弥生子	【第 8 回】 予習 ：環境に配慮した集合住宅の事例を調べる 授業 ：環境と建築の関わり（演習課題 7） 復習 ：配布資料を再読し、集合住宅と環境について理解を深める
9	茂木 弥生子	【第 9 回】 予習 ：集合住宅の外構事例を調べる 授業 ：外構計画の考え方（演習課題 8） 復習 ：配布資料を再読し、外構計画について理解を深める
10	茂木 弥生子	【第 10 回】 予習 ：集合住宅事例研究の発表準備をする 授業 ：集合住宅事例研究の発表（グループ発表） 復習 ：発表で指摘された点について復習する
11	茂木 弥生子	【第 11 回】 予習 ：雑誌等で学校建築の事例を調べる 授業 ：学校の建築計画①（演習課題 9） 復習 ：配布資料を再読し、学校建築について理解を深める

12	茂木　弥生子	【第 12 回】 予習　：興味を持った学校建築の事例について学習する 授業　：学校の建築計画②（演習課題 10） 復習　：学校建築について自分の視点で考察する
13	茂木　弥生子	【第 13 回】 予習　：雑誌等で医療・高齢者福祉施設の事例を調べる 授業　：医療・高齢者福祉施設の建築計画①（演習課題 11） 復習　：配布資料を再読し、医療・高齢者福祉施設について理解を深める
14	茂木　弥生子	【第 14 回】 予習　：興味を持った医療・高齢者福祉施設の事例について学習する 授業　：医療・高齢者福祉施設の建築計画②（演習課題 12） 復習　：医療・高齢者福祉施設について自分の視点で考察する
15	茂木　弥生子	【第 15 回】 予習　：レポートを進める 授業　：まとめ（演習課題 13） 復習　：レポートを仕上げ、提出する

授業開始前学習	集合住宅の事例を建築雑誌で閲覧しておくことを推奨する。
授業内課題のフィードバックの方法	演習課題を実施した際には、個別添削と講義内での解説を行う。事例研究課題については、発表と講評を行う。
テキスト・教材	適宜資料を配布する
参考書	「テキスト　建築計画」（学芸出版社） 「第 4 版コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編（丸善出版）
評価の基準と方法	演習・事例研究・レポート・授業態度を総合して評価する。 配点（100 点満点）は、演習・事例研究 20 点、レポート 50 点、授業態度 30 点とする。 出席回数が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は単位取得できない。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○		

関連科目	建築デザイン I
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	建築設計等の実務経験を活かし、集合住宅等の建築計画学について講義する。

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-321 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	142-331-13 （J）	授業コード	FG0960
科目名称	建築計画 C			単位数	2.0 単位
英文名称	Architectural Planning C			授業区分	講義
科目責任者	三戸 美代子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三戸 美代子			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 水曜日 09:00～12:10 後期 水曜日 09:00～12:10			研究室	1-211
授業概要	この授業では建築計画 A、B のテーマであった住空間についての建築計画的知識の習得をふまえて、より公共的、複合的な機能を持った施設の建築計画の分析を事例研究とともに行い、都市の中での公共的建築の建築計画の意味、内容を考察していく。 具体的には美術館、図書館、博物館、コミュニティー施設等を対象とする。				
到達目標	美術館、図書館、博物館、コミュニティ施設の建築計画学としての基礎知識の習得を目標とする。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	三戸 美代子	【第 1 回】 予習：シラバス参照 授業：ガイダンス 復習：配布資料確認
2	三戸 美代子	【第 2 回】 予習：美術館の定義検索 授業：美術館の建築計画 復習：配布資料キーワード確認
3	三戸 美代子	【第 3 回】 予習：ルイスカーンの美術館検索 授業：美術館の事例紹介① 復習：配布資料のキーワード確認
4	三戸 美代子	【第 4 回】 予習：ポンピドー美術館検索 授業：美術館の事例紹介② 復習：配布資料のキーワード確認
5	三戸 美代子	【第 5 回】 予習：エクセター図書館検索 授業：図書館の建築計画 復習：配布資料のキーワード確認
6	三戸 美代子	【第 6 回】 予習：上野、法隆寺博物館参照 授業：博物館の建築計画 復習：配布資料のキーワード確認
7	三戸 美代子	【第 7 回】 予習：発表準備 授業：課題Ⅰ事例分析の発表（プレゼンテーション） 復習：指摘事項の再検証
8	三戸 美代子	【第 8 回】 予習：発表準備 授業：課題Ⅱ事例分析の発表（プレゼンテーション） 復習：指摘事項の再検証
9	三戸 美代子	【第 9 回】 予習：メディアテーク参照（伊東豊雄） 授業：複合施設の建築計画 復習：配布資料のキーワード確認
10	三戸 美代子	【第 10 回】 予習：敷地分析 授業：複合施設事例紹介と分析① 復習：敷地と建築の関係確認
11	三戸 美代子	【第 11 回】 予習：機能分析 授業：複合施設事例紹介と分析② 復習：機能ダイアグラムの検証

12	三戸　美代子	【第 12 回】 予習：断面計画の分析 授業：複合施設事例紹介と分析③ 復習：断面計画と機能ダイアグラムの関係を検証
13	三戸　美代子	【第 13 回】 予習：発表準備 授業：課題Ⅲ事例分析の発表（プレゼンテーション） 復習：指摘点の再検証
14	三戸　美代子	【第 14 回】 予習：発表準備 授業：課題Ⅳ事例分析の発表（プレゼンテーション） 復習：指摘点の再検証
15	三戸　美代子	【第 15 回】 予習：分析プロセスの再検証 授業：まとめ 復習：建築計画の意味の確認

授業開始前学習	建築計画 A、建築計画 B で学んだ、建築計画の基礎について復習しておく。
授業内課題のフィードバックの方法	毎回提出する小レポートに対して、次の週にフィードバックする。
テキスト・教材	特になし。適宜プリントを配布する。
参考書	「第 3 版コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編（丸善出版）
評価の基準と方法	毎回の小課題と期末レポート、授業態度で評価を行う。配点は（100 点満点に於ける）は、小課題とレポート 70 点、授業態度 30 点とする。 出席回数が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は単位取得できない。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○		

関連科目	建築計画 A、建築計画 B、建築デザインⅡ
その他	授業の順番等は、適宜変更する場合がある。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	本講義は一級建築士有資格者が担当する。

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-421	科目分類（～2024 年入学者）	142-331-14	授業コード	FG0970
科目名称	建築計画 D			単位数	2.0 単位
英文名称	Architectural Planning D (Comprehensive Planning)			授業区分	講義
科目責任者	鹿倉　祐一			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鹿倉　祐一			開講時期	4 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	「一級建築士」および「二級建築士」の試験に出題される「建築計画」の分野についての基礎的な内容を重点的に学ぶ。さらに実践的な演習問題に取り組み、応用問題を学ぶ。建築計画の出題内容を把握し出題傾向を考察する。また、計画演習問題の内容からインテリアプランナーやインテリアコーディネーターなどの資格試験対策にもつながる。				
到達目標	建築士を目指す際に必要となる「建築計画」分野の基礎的な知識を習得する。実践的な、演習問題をとおして基礎的な知識を定着させ、応用力を身につける。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	鹿倉　祐一	【第 1 回】 予習　：　建築士試験の内容を調べる 授業　：　ガイダンス　建築士制度、建築士事務所について 復習　：　建築士の役割を理解する
2	鹿倉　祐一	【第 2 回】 予習　：　1 年生から 3 年生までの建築計画の内容をまとめる 授業　：　建築計画原論　住宅原論 復習　：　建築士試験での計画の内容を理解する　住宅の構成要素を再確認する
3	鹿倉　祐一	【第 3 回】 予習　：　住宅・集合住宅に必要なものを調べる 授業　：　住宅　集合住宅 復習　：　住宅・集合住宅の構成を理解する
4	鹿倉　祐一	【第 4 回】 予習　：　都市とはなにかをを調べる 授業　：　地域計画　近隣住区理論 復習　：　都市の構成、まちづくりについて理解する
5	鹿倉　祐一	【第 5 回】 予習　：　商業建築の役割について調べる 授業　：　商業建築 1 （事務所・劇場） 復習　：　事務所の構成・劇場の内容を理解する
6	鹿倉　祐一	【第 6 回】 予習　：　店舗・ホテル・駐車場の役割について調べる 授業　：　商業建築 2 （店舗・宿泊施設・駐車場） 復習　：　店舗・ホテル・駐車場の内容を理解する
7	鹿倉　祐一	【第 7 回】 予習　：　公共建築の役割を調べる 授業　：　公共建築 1 （保育所・幼稚園・学校） 復習　：　保育所・幼稚園・学校の内容を理解する
8	鹿倉　祐一	【第 8 回】 予習　：　高齢者社会と医療についての調べる 授業　：　公共建築 2 （医療施設・社会福祉施設） 復習　：　医療施設（病院・診療所の構成）・社会福祉施設（種別）の内容を理解する
9	鹿倉　祐一	【第 9 回】 予習　：　公共建築と周辺環境のつながりや建築目的を調べる 授業　：　公共建築 3 （図書館・博物館・美術館の目的、構成要素） 復習　：　図書館・美術館・博物館の建築目的や内容を理解する
10	鹿倉　祐一	【第 10 回】 予習　：　建築計画における人体寸法を調べる 授業　：　各部計画 1 （各部寸法、面積等、人間単位） 復習　：　建築計画で利用される細部寸法、大きさを理解する
11	鹿倉　祐一	【第 11 回】 予習　：　バリアフリーに関する法律を調べる。 授業　：　各部計画 2 （バリアフリー・高齢者・身障者に対する建築計画） 復習　：　健常者以外のための建築計画、設置目的を理解する

12	鹿倉 祐一	【第 12 回】 予習 ： 建築の施工方法を調べる 授業 ： 建築計画・防火と建築生産 復習 ： 建築の施工方法について理解する
13	鹿倉 祐一	【第 13 回】 予習 ： 日本建築、西洋建築の有名な建築物を調べる 授業 ： 建築計画と建築史 1 （日本建築史・西洋建築史） 復習 ： 日本建築、西洋建築の特徴、年代、設計者などを理解する
14	鹿倉 祐一	【第 14 回】 予習 ： 近代建築・現代建築の有名な建築物を調べる 授業 ： 建築計画と建築史 2 （近代建築史・現代建築史） 復習 ： 近代建築、現代建築の特徴、年代、設計者などを理解する
15	鹿倉 祐一	【第 15 回】 予習 ： 不得意な分野を洗い出し、まとめておくこと 授業 ： 建築士試験の内容を分析と対策 復習 ： 建築計画の内容を整理し、建築士試験の出題傾向について理解する

授業開始前学習	建築計画に関連する過去に出題された「一級建築士」および「二級建築士」の問題を閲覧しておくことを勧めます。
授業内課題のフィードバックの方法	各回の授業の内容と演習問題の関連性についての疑問について、個別の質問に回答する。
テキスト・教材	各回講義内にて資料を配布する。 （各回講義に配布する為、配布資料を閉じる A4 サイズのファイルを用意してください。）
参考書	建築計画 A 教科書『建築計画設計シリーズ 41 新・住宅 I』（市ヶ谷出版）を参考書として利用する。住宅、集合住宅、各部計画の講義時に利用する。
評価の基準と方法	小テストと演習問題で評価する。 配点（100 点満点）は、各回講義小テスト合計 30 点と評価テスト 40 点、平常点（授業態度・課題提出）30 点とする。 出席回数が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は単位取得できない。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○		

関連科目	建築計画 A、建築計画 B、建築計画 C
その他	各回授業時間内の最後に小テスト（14 回）を行います。また、最終回に評価テストを行います。 公欠等の場合は、クラスルームより講義資料を参考に欠席回の小テストを行い、次回出席時に回答を提出してください。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）	SD-M-221 （J）	科目分類（～2024年入学者）	142-331-12 （J）	授業コード	FG0980
科目名称	構造力学Ⅰ			単位数	2.0単位
英文名称	Structural Theory Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	小川 弾			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小川 弾			開講時期	2年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 13:00～14:30 金曜日 10:40～12:10			研究室	1-210
授業概要	基本的な建築構造力学の講義により、建築物を計画・設計・施工するために必要となる知識を習得する。静定構造物を中心に荷重・外力のモデル化、応力や変形の性質を学ぶ。				
到達目標	設定された構造モデルにおける、部材の断面算定が数値的にできることを目指す。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	小川 弾	【第1回】 予習 ：方程式の解き方、三角関数、平面幾何及びベクトルについて理解しておくこと。 授業 ：ガイダンス、力のつり合い 復習 ：力のつり合いを理解するよう努める
2	小川 弾	【第2回】 予習 ：モーメントの概念について理解しておくこと 授業 ：モーメントの概念 復習 ：モーメントの概念を理解するよう演習問題で理解すること
3	小川 弾	【第3回】 予習 ：部材の伸縮、応力度、ひずみを理解しておくこと 授業 ：部材の伸縮、応力度、ひずみ 復習 ：部材の伸縮、応力度、ひずみを理解するよう演習問題で理解すること
4	小川 弾	【第4回】 予習 ：トラスの原理を理解しておくこと 授業 ： トラスの原理 復習 ：トラスの原理を理解するよう演習問題で理解すること
5	小川 弾	【第5回】 予習 ：トラスの解法を理解しておくこと 授業 ：トラスの解法 復習 ：トラスの解法を理解するよう演習問題で理解すること
6	小川 弾	【第6回】 予習 ：片持ち梁・単純梁を理解しておくこと 授業 ：片持梁にかかる応力 復習 ：片持梁にかかる応力を理解するよう演習問題で理解すること
7	小川 弾	【第7回】 予習 ：荷重を理解しておくこと 授業 ：分布荷重 復習 ：分布荷重を理解するよう演習問題で理解すること
8	小川 弾	【第8回】 予習 ：応力度を理解しておくこと 授業 ：曲げ応力度 復習 ：曲げ応力度を理解するよう演習問題で理解すること
9	小川 弾	【第9回】 予習 ：たわみを理解しておくこと 授業 ：たわみ 復習 ：たわみを理解するよう演習問題で理解すること
10	小川 弾	【第10回】 予習 ：座屈を理解しておくこと 授業 ：座屈 復習 ：座屈を理解するよう演習問題で理解すること
11	小川 弾	【第11回】 予習 ：許容応力度を理解しておくこと 授業 ：梁の断面設計?1 復習 ：梁の断面設計法を理解するよう演習問題で理解すること

12	小川　弾	【第 12 回】 予習　：梁の断面設計を理解しておくこと 授業　：梁の断面設計？2 復習　：梁の断面設計法を理解するよう演習問題で理解すること
13	小川　弾	【第 13 回】 予習　：反力を理解しておくこと 授業　：静定ラーメンの反力－1 復習　：反力の求め方を理解するよう演習問題で理解すること
14	小川　弾	【第 14 回】 予習　：反力の求め方を理解しておくこと 授業　：静定ラーメンの反力－2 復習　：反力の求め方を理解するよう演習問題で理解すること
15	小川　弾	【第 15 回】 予習　：演習問題の内容を理解しておくこと 授業　：評価 復習　：授業内容を理解するよう演習問題で理解すること

授業開始前学習	授業に必要な力学や数学の知識は授業内で解説を行うが、高等学校数学（数学Ⅰ、数学 A 及び数学 B）で扱う方程式の解き方、三角関数、平面幾何及びベクトルについて復習すると理解がしやすい。
授業内課題のフィードバックの方法	小テストを行った際は、採点と講義内での解説を行う。
テキスト・教材	改訂版図説やさしい構造力学（学芸出版） やさしい構造力学演習問題集（学芸出版）
参考書	図説やさしい建築数学（学芸出版）
評価の基準と方法	定期試験および、授業内で行う小テストで評価を行う。配点は、定期試験 60%、小テスト 40%の配分とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎			

関連科目	「構造力学Ⅰ、Ⅱ」は建築物及び建築物を構成する部材を数値化して技術的に取り扱う手法を学び、「建築構造Ⅰ、Ⅱ」は建築物の成り立ちや概観を通して建築構造全体を俯瞰する知識を身につけていく。
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	建築設計事務所における設計・監理の実務経験あり。構造力学の基礎について講義する。

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-221 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	142-331-12 （Ｊ）	授業コード	FG0990
科目名称	構造力学Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	Structural TheoryⅡ			授業区分	講義
科目責任者	小川 弾			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小川 弾			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 13:00～14:30 金曜日 10:40～12:10			研究室	1-210
授業概要	建築物を計画・設計・施工するために必要となる知識すなわち、力の流れや構造のしくみ、構造材料の特質などの力学的な知識と理解力を習得する。				
到達目標	設定された構造モデルにおける、部材の断面算定が数値的にできること。同時に部材内の応力度について理解を深めることを目指す。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	小川 弾	【第 1 回】 予習 ：トラスの種類について理解しておくこと。 授業 ：トラス トラスの種類及びトラスの解法 復習 ：トラスの種類及び解法について理解するよう演習すること
2	小川 弾	【第 2 回】 予習 ：節点法を理解しておくこと 授業 ：トラス 節点法によるトラスの解法 復習 ：節点法について理解するよう演習すること
3	小川 弾	【第 3 回】 予習 ：切断法を理解しておくこと 授業 ：トラス 切断法によるトラスの解法 復習 ：切断法について理解するよう演習すること
4	小川 弾	【第 4 回】 予習 ：断面積・断面 1 次モーメントを理解しておくこと 授業 ：断面に関する数量-1 復習 ：断面に関する数量について理解するよう演習すること
5	小川 弾	【第 5 回】 予習 ：断面 2 次モーメント・断面係数・断面 2 次半径を理解しておくこと 授業 ：断面に関する数量-2 復習 ：断面に関する数量について理解するよう演習すること
6	小川 弾	【第 6 回】 予習 ：これまで扱った断面に関する数量を理解しておくこと 授業 ：断面に関する数量-3 復習 ：断面に関する数量について理解するよう演習すること
7	小川 弾	【第 7 回】 予習 ：応力度の概念を理解しておくこと 授業 ：応力度-1 復習 ：応力度について理解するよう演習すること
8	小川 弾	【第 8 回】 予習 ：曲げ・せん断応力度を理解しておくこと 授業 ：応力度-2 復習 ：応力度について理解するよう演習すること
9	小川 弾	【第 9 回】 予習 ：引張・圧縮応力度を理解しておくこと 授業 ：応力度-3 復習 ：応力度について理解するよう演習すること
10	小川 弾	【第 10 回】 予習 ：不静定構造物を理解しておくこと 授業 ：不静定構造物の基礎-不静定構造物の原理と基礎的解法 復習 ：不静定構造物の基礎について理解するよう演習すること
11	小川 弾	【第 11 回】 予習 ：不静定応力について理解しておくこと 授業 ：不静定構造物の基礎-固定法 復習 ：固定法について理解するよう演習すること

12	小川 弾	【第 12 回】 予習 ：不静定応力について理解しておくこと 授業 ：不静定構造物の基礎-たわみ角法 復習 ：たわみ角法について理解するよう演習すること
13	小川 弾	【第 13 回】 予習 ：不静定応力について理解しておくこと 授業 ：不静定構造物の基礎-ラーメン構造と D 値法 復習 ：D 値法について理解するよう演習すること
14	小川 弾	【第 14 回】 予習 ：塑性解析について理解しておくこと 授業 ：塑性解析の基礎?全塑性モーメントと不静定梁の崩壊 復習 ：全塑性モーメントについて理解するよう演習すること
15	小川 弾	【第 15 回】 予習 ：保有水平耐力について理解しておくこと 授業 ：塑性解析の基礎?不静定ラーメンの崩壊と保有水平耐力 復習 ：保有水平耐力について理解するよう演習すること

授業開始前学習	授業に必要な力学や数学の知識は授業内で解説を行うが、高等学校数学（数学Ⅰ、数学 A 及び数学 B）で扱う方程式の解き方、三角関数、平面幾何及びベクトルについて復習すると理解がしやすい。
授業内課題のフィードバックの方法	小テストを行った際は、採点と講義内での解説を行う。
テキスト・教材	図説やさしい構造力学（学芸出版） やさしい構造力学演習問題（学芸出版）
参考書	図説やさしい建築数学（学生出版）
評価の基準と方法	定期試験および、授業内で行う小テストで評価を行う。配点は、定期試験 60%、小テスト 40%の配分とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎			

関連科目	「構造力学Ⅰ、Ⅱ」は建築物及び建築物を構成する部材を数値化して技術的に取り扱う手法を学び、「建築構造Ⅰ、Ⅱ」は建築物の成り立ちや概観を通して建築構造全体を俯瞰する知識を身につけていく。
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	建築設計事務所における設計・監理の実務経験あり。構造力学の基礎について講義する。

科目分類（2025年～入学者）	SD-M-221 （J）	科目分類（～2024年入学者）	142-331-12 （J）	授業コード	FG1000
科目名称	建築構造Ⅰ			単位数	2.0単位
英文名称	Architectural Structure Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	小川 弾			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小川 弾			開講時期	2年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 13:00～14:30 金曜日 10:40～12:10			研究室	1-210
授業概要	建築の空間は構造体や設備が一体となって実現できる。空間を形作る種々の構造体の概念と成り立ちを理解する。				
到達目標	木造建物を中心に、建築物の成り立ちについて理解を深めることを目標とする。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	小川 弾	【第1回】 予習 ： 身の回りの建物について注意を持って観察しておくこと 授業 ：ガイダンス、概論 復習 ：概論について理解するよう努める
2	小川 弾	【第2回】 予習 ：前回授業の内容を理解しておくこと 授業 ：歴史的建造物の構造 復習 ：歴史的建造物の構造について理解するよう努める
3	小川 弾	【第3回】 予習 ：歴史的建造物の構造を理解しておくこと 授業 ：近代建築の構造とデザインの発展 復習 ：近代建築の構造について理解するよう努める
4	小川 弾	【第4回】 予習 ：近代建築の構造とデザインの発展を理解しておくこと 授業 ：民家および在来工法 復習 ：民家および在来工法について理解するよう努める
5	小川 弾	【第5回】 予習 ：民家および在来工法を理解しておくこと 授業 ：木材の性質と構造原理 復習 ：木材の性質と構造原理について理解するよう努める
6	小川 弾	【第6回】 予習 ：木材の性質と構造原理を理解しておくこと 授業 ：木造の小屋組 復習 ：木造の小屋組について理解するよう努める
7	小川 弾	【第7回】 予習 ：木造の小屋組を理解しておくこと 授業 ：木造の軸組 復習 ：木造の軸組について理解するよう努める
8	小川 弾	【第8回】 予習 ：木造の軸組を理解しておくこと 授業 ：地盤・基礎 復習 ：地盤・基礎について理解するよう努める
9	小川 弾	【第9回】 予習 ：地盤・基礎を理解しておくこと 授業 ：屋根の形状 復習 ：屋根の形状について理解するよう努める
10	小川 弾	【第10回】 予習 ：屋根の形状を理解しておくこと 授業 ：壁の構造と構法 復習 ：壁の構造と構法について理解するよう努める
11	小川 弾	【第11回】 予習 ：壁の構造と構法を理解しておくこと 授業 ：集成材の構造 復習 ：集成材の構造について理解するよう努める

12	小川　弾	【第 12 回】 予習　：集成材の構造を理解しておくこと 授業　：工業化住宅の構造-1 復習　：工業化住宅の構造について理解するよう努める
13	小川　弾	【第 13 回】 予習　：工業化住宅の構造を理解しておくこと 授業　：工業化住宅の構造-2 復習　：工業化住宅の構造について理解するよう努める
14	小川　弾	【第 14 回】 予習　：工業化住宅の構造を理解しておくこと 授業　：地震と構造 復習　：地震と構造について理解するよう努める
15	小川　弾	【第 15 回】 予習　：地震と構造を理解しておくこと 授業　：評価 復習　：今学期の配布資料を熟読し、内容を把握するよう努める

授業開始前学習	雑誌・書籍や TV 等にみられる建築物、現実に見られる構造物の全体や細部の成り立ちや形態についてよく観察をしておくと、講義中の説明を理解しやすい。
授業内課題のフィードバックの方法	レポートは個別に採点し返却を行う。
テキスト・教材	建築構法（市ヶ谷出版社）
参考書	
評価の基準と方法	レポートと授業内で行う小テストおよびミニットペーパーで評価する。配点は、レポート 40%、小テスト 20%、ミニットパーパー 40%の配分とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○		

関連科目	「構造力学Ⅰ、Ⅱ」は建築物及び建築物を構成する部材を数値化して技術的に取り扱う手法を学び、「建築構造Ⅰ、Ⅱ」は建築物の成り立ちや概観を通して建築構造全体を俯瞰する知識を身につけていく。
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	建築設計事務所における設計・監理の実務経験あり。建築物の構造体の概念と成り立ちについて講義する。

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-221 （J）	科目分類（～2024 年入学者）	142-331-12 （J）	授業コード	FG1010
科目名称	建築構造Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	Architectural StructureⅡ			授業区分	講義
科目責任者	小川 弾			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小川 弾			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 13:00～14:30 金曜日 10:40～12:10			研究室	1-210
授業概要	建物は材料と構法の組み合わせによって成立する。建物の設計において、建物に要求される断面・材料の基本を身につける。				
到達目標	鋼構造及び鉄筋コンクリート構造建物を中心に、建物の成り立ちと特徴を理解することを目指す。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	小川 弾	【第 1 回】 予習 ：身の回りの建物について注意を持って観察しておくこと 授業 ：ガイダンス 復習 ：配布資料を熟読し、授業内容を理解するよう努める
2	小川 弾	【第 2 回】 予習 ：ガイダンスを理解しておくこと 授業 ：鋼材の性質と構造原理 復習 ：鋼材の性質と構造原理について理解するよう努める
3	小川 弾	【第 3 回】 予習 ：鋼材の性質と構造原理を理解しておくこと 授業 ：鉄骨構造の骨組 復習 ：鉄骨構造の骨組について理解するよう努める
4	小川 弾	【第 4 回】 予習 ：鉄骨構造の骨組を理解しておくこと 授業 ：鉄骨構造の継手・筋かい 復習 ：鉄骨構造の継手・筋かいについて理解するよう努める
5	小川 弾	【第 5 回】 予習 ：鉄骨構造の継手・筋かいを理解しておくこと 授業 ：鉄骨構造の溶接 復習 ：鉄骨構造の溶接について理解するよう努める
6	小川 弾	【第 6 回】 予習 ：鉄骨構造の溶接を理解しておくこと 授業 ：鉄筋コンクリートの原理 復習 ：鉄筋コンクリートの原理について理解するよう努める
7	小川 弾	【第 7 回】 予習 ：鉄筋コンクリートの原理を理解しておくこと 授業 ：鉄筋コンクリートの構造形式 復習 ：鉄筋コンクリートの構造形式について理解するよう努める
8	小川 弾	【第 8 回】 予習 ：鉄筋コンクリートの構造形式を理解しておくこと 授業 ：鉄筋コンクリートの配筋-柱 復習 ：鉄筋コンクリートの柱配筋について理解するよう努める
9	小川 弾	【第 9 回】 予習 ：鉄筋コンクリートの柱配筋を理解しておくこと 授業 ：鉄筋コンクリートの配筋-梁 復習 ：鉄筋コンクリートの梁配筋について理解するよう努める
10	小川 弾	【第 10 回】 予習 ：鉄筋コンクリートの梁配筋を理解しておくこと 授業 ：鉄骨鉄筋コンクリート構造の原理 復習 ：鉄骨鉄筋コンクリート構造の原理について理解するよう努める
11	小川 弾	【第 11 回】 予習 ：鉄骨鉄筋コンクリート構造の原理を理解しておくこと 授業 ：PC 構造の原理と力学的性状 復習 ：PC 構造の原理と力学的性状について理解するよう努める

12	小川　弾	【第 12 回】 予習　：PC 構造の原理と力学的性状を理解しておくこと 授業　：ブロック造の原理と力学的性状 復習　：ブロック造の原理と力学的性状について理解するよう努める
13	小川　弾	【第 13 回】 予習　：ブロック造の原理と力学的性状を理解しておくこと 授業　：壁構造の種類と構造原理 復習　：壁構造の種類と構造原理について理解するよう努める
14	小川　弾	【第 14 回】 予習　：壁構造の種類と構造原理を理解しておくこと 授業　：風や積雪と構造 復習　：風や積雪と構造について理解するよう努める
15	小川　弾	【第 15 回】 予習　：風や積雪と構造を理解しておくこと 授業　：評価 復習　：今学期の配布資料を熟読し、全ての内容を理解するよう努める

授業開始前学習	雑誌・書籍や TV 等にみられる建築物、現実に見られる構造物の全体や細部の成り立ちや形態についてよく観察をしておくと、講義中の説明を理解しやすい。
授業内課題のフィードバックの方法	レポートは個別に採点し返却を行う。
テキスト・教材	建築構法（市ヶ谷出版社）
参考書	
評価の基準と方法	レポートと授業内で行う小テストおよびミニットペーパーで評価する。配点は、レポート 40%、小テスト 20%、ミニットパーパー 40%の配分とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○		

関連科目	「構造力学Ⅰ、Ⅱ」は建築物及び建築物を構成する部材を数値化して技術的に取り扱う手法を学び、「建築構造Ⅰ、Ⅱ」は建築物の成り立ちや概観を通して建築構造全体を俯瞰する知識を身につけていく。
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	建築設計事務所における設計・監理の実務経験あり。建築物の構造体の概念と成り立ちについて講義する。

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-221	科目分類（～2024 年入学者）	142-331-12	授業コード	FG1020
科目名称	日本建築史			単位数	2.0 単位
英文名称	History of Japanese Architecture			授業区分	講義
科目責任者	堀邉　阿伊子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	堀邉　阿伊子			開講時期	2・3・4 年
オフィスアワー	前期　火曜日 13:00～16:00 後期　金曜日 13:00～16:00			研究室	10-619
授業概要	自然・社会・文化との密接な関わりのなかで、日本建築がいかに発展してきたかを概観し、その技術や意匠、様式上の特質について理解する。身近に接し鑑賞できる近代・現代の日本建築・都市などにも視野を拡げて考察する。				
到達目標	日本建築についての様式上の特質・意匠・技術について理解を深め、専門用語の説明ができるようになる。日本建築に対して、関心をもち、自分自身の考えを広げられるようになる。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	堀邉　阿伊子	【第 1 回】 予習　：「参考図書」日本建築の特徴についてを講読 授業　：日本建築の特徴・日本の住様式 復習　：日本の住式様式について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する
2	堀邉　阿伊子	【第 2 回】 予習　：「参考図書」飛鳥・奈良時代の神社建築についてを講読 授業　：古代（1）飛鳥・奈良時代の神社建築 復習　：伊勢神宮、出雲大社他について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する
3	堀邉　阿伊子	【第 3 回】 予習　：「参考図書」飛鳥・奈良時代の寺院建築についてを講読 授業　：古代（2）飛鳥・奈良時代の寺院建築 復習　：法隆寺、東大寺、薬師寺他について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する
4	堀邉　阿伊子	【第 4 回】 予習　：「参考図書」平安時代の神社・寺院建築についてを講読 授業　：古代（3）平安時代の神社・寺院建築 復習　：密教建築、浄土教建築、春日大社他について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する
5	堀邉　阿伊子	【第 5 回】 予習　：「参考図書」都城の制と宮殿、邸宅についてを講読 授業　：古代（4）都城の制と宮殿、邸宅 復習　：平城京、平安京、寝殿造について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する
6	堀邉　阿伊子	【第 6 回】 予習　：「参考図書」鎌倉・室町時代の神社建築についてを講読 授業　：中世（1）鎌倉・室町時代の神社建築 復習　：中世の寺社建築、技術条の特徴について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する
7	堀邉　阿伊子	【第 7 回】 予習　：「参考図書」鎌倉・室町時代の寺院・庭園建築についてを講読 授業　：中世（2）鎌倉・室町時代の寺院・庭園建築 復習　：大仏様・禅宗様について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する
8	堀邉　阿伊子	【第 8 回】 予習　：「参考図書」中世都市と住宅についてを講読 授業　：中世（3）中世都市と住宅 復習　：寺内町、書院造について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する
9	堀邉　阿伊子	【第 9 回】 予習　：「参考図書」安土桃山・江戸時代の神社・寺院建築についてを講読 授業　：近世（1）安土桃山・江戸時代の神社・寺院・霊廟建築 復習　：黄檗宗の建築、東照宮他について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する
10	堀邉　阿伊子	【第 10 回】 予習　：「参考図書」城郭建築、近世武家住宅についてを講読 授業　：近世（2）城郭建築と城下町、近世武家住宅 復習　：城郭建築、書院造について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する
11	堀邉　阿伊子	【第 11 回】 予習　：「参考図書」茶室・数寄屋建築についてを講読 授業　：茶室・数寄屋建築（1） 復習　：茶室建築について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する

12	堀邉　阿伊子	【第 12 回】 予習　：「参考図書」茶室・数寄屋建築についてを講読 授業　：茶室・数寄屋建築（2） 復習　：茶室建築の展開・数寄屋建築について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する
13	堀邉　阿伊子	【第 13 回】 予習　：「参考図書」近代洋風建築についてを講読 授業　：近代洋風建築 復習　：明治の開国からコンドル、辰野金吾他について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する
14	堀邉　阿伊子	【第 14 回】 予習　：「参考図書」日本のモダニズムについてを講読 授業　：日本のモダニズム 復習　：分離派建築会、近代和風、近代合理主義について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する
15	堀邉　阿伊子	【第 15 回】 予習　：「参考図書」これまでの関連ページを講読 授業　：全体のまとめ 復習　：モダニズム、ポスト・モダンの建築について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する

授業開始前学習	授業で対象となる建築の時代について、政治・文化的な日本史の要旨を理解しておくことがのぞましい。
授業内課題のフィードバックの方法	授業では毎回、授業の内容について、自分たちの意見・感想を、内容を整理しながら設定時間内に小レポートとしてまとめ、提出する。復習としてまとめる際に、全体的な傾向、記述内容や整理法、着眼点などに対して講評する。
テキスト・教材	関連資料は、適宜 PDF（またはプリント）として配布する。
参考書	①太田博太郎監修「カラー版　日本建築様式史」（美術出版社、1999 年） ②日本建築学会編「日本建築史図集」（彰国社、2009 年） ③光井渉、太記祐一「カラー版　建築と都市の歴史」（井上書院、2013 年）
評価の基準と方法	レポートによる成績、平常点などから総体的に評価する。 点数配分は 100 点満点のうち、平常点（毎回の授業の小レポートと受講態度）が 60 点、40 点は中間・期末の 2 回のレポートの成果から判断する。出席数が 10 回未満の場合は、原則としては単位取得できない。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○		

関連科目	日本の建築意匠・デザインを扱うすべての授業、日本史、日本文化史
その他	授業中に配布した関連資料は各自で整理し、また解説した内容についてはノートをとり、映像資料については必要であれば簡単なスケッチをしながら聴講すると、復習がしやすい。 日本建築の歴史をしっかりと把握し、さらに未来に向けて創造的に還元できることがのぞましい。日本建築の特徴を生かした近代・現代の建築についても資料を調べ、見学することを勧める。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-221	科目分類（～2024 年入学者）	142-331-12	授業コード	FG1030
科目名称	西洋建築史			単位数	2.0 単位
英文名称	History of Western Architecture			授業区分	講義
科目責任者	堀邉　阿伊子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	堀邉　阿伊子			開講時期	2・3・4 年
オフィスアワー	前期　火曜日 13:00～16:00 後期　金曜日 13:00～16:00			研究室	10-619
授業概要	西欧の建築・都市を古代から時代ごとに考察し、広い視野をもって世界の建築に対する関心を高める。建築や都市をその基底となる社会・文化と合わせて歴史的に理解すると同時に、専門的な理解を深めていく。				
到達目標	西欧の建築について、様式・意匠・技術などの特徴や専門用語を理解し、広い視野をもつと同時に、自分自身との関わりを考え、関心が持てるようになる。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	堀邉　阿伊子	【第 1 回】 予習　：「参考図書」にある時代区分を確認 授業　：西洋建築史ガイダンス 復習　：古代以来の西欧建築の時代区分とその特徴について、図版・資料をもとに確認する
2	堀邉　阿伊子	【第 2 回】 予習　：「参考図書」の p.18−p.27 を講読 授業　：古代ギリシア建築 復習　：ギリシア神殿とオーダーについて、図版・専門用語の意味・建築名を確認する
3	堀邉　阿伊子	【第 3 回】 予習　：「参考図書」の p.27−p.32 を講読 授業　：古代ギリシア建築と都市 復習　：古代ギリシアの都市、住宅建築について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する
4	堀邉　阿伊子	【第 4 回】 予習　：「参考図書」の p.34−p.42 を講読 授業　：古代ローマ建築 復習　：古代ローマ建築の特徴について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する
5	堀邉　阿伊子	【第 5 回】 予習　：「参考図書」の p.43−p.46 を講読 授業　：古代ローマ建築と都市 復習　：西欧各地のローマによる建築・都市について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する
6	堀邉　阿伊子	【第 6 回】 予習　：「参考図書」の p.48−p.56 を講読 授業　：ビザンティン建築 復習　：ビザンティン建築、初期キリスト教建築について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する
7	堀邉　阿伊子	【第 7 回】 予習　：「参考図書」の p.12−p.16 を講読 授業　：オリエントの建築、イスラム建築 復習　：エジプト建築やイスラム教の建築について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する
8	堀邉　阿伊子	【第 8 回】 予習　：「参考図書」の p.56、p.58−p.70 を講読 授業　：プレ・ロマネスク建築、ロマネスク建築 復習　：プレ・ロマネスク、ロマネスク建築について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する
9	堀邉　阿伊子	【第 9 回】 予習　：「参考図書」の p.72−p.80 を講読 授業　：ゴシック建築 復習　：フランスを中心に各国のゴシック建築について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する
10	堀邉　阿伊子	【第 10 回】 予習　：「参考図書」の p.80−p.84 を講読 授業　：中世の建築と都市 復習　：西欧中世の都市と建築について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する
11	堀邉　阿伊子	【第 11 回】 予習　：「参考図書」の p.86?p.92 、p.102−p.112 を講読 授業　：ルネサンス建築と都市 復習　：各国のルネサンス建築、ルネサンス都市について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する

12	堀邉　阿伊子	【第 12 回】 予習　：「参考図書」の p.93−p.100 を講読 授業　：マニエリスム建築 復習　：イタリアを中心とするマニエリスム建築について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する
13	堀邉　阿伊子	【第 13 回】 予習　：「参考図書」の p.114−p.126 を講読 授業　：バロック建築 復習　：各国のバロック建築について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する
14	堀邉　阿伊子	【第 14 回】 予習　：「参考図書」の p.128−p.135 を講読 授業　：バロック建築と都市 復習　：バロック建築と都市の特徴について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する
15	堀邉　阿伊子	【第 15 回】 予習　：「参考図書」の p.135−p.140、p.142−p.152 を講読 授業　：新古典主義建築 復習　：イギリス、フランスの新古典主義建築について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する

授業開始前学習	配布資料に目を通し確認する。また、授業の内容に関連する時代の政治・文化について、世界史の要旨を把握しておくと理解しやすい。
授業内課題のフィードバックの方法	毎回、授業の内容について整理し、自分たちの意見・感想を合わせ小レポートとして提出する。レポートの記述内容や整理法、着眼点などに対して講評する。
テキスト・教材	関連資料は、PDF（またはコピー）により配布する。
参考書	①熊倉洋介、末永航　他「カラー版　西洋建築様式史」（美術出版社、2010 年） ②光井渉、太記祐一「カラー版　建築と都市の歴史」（井上書院、2013 年）
評価の基準と方法	100 点満点のうち、平常点（毎回の授業のと小レポートと受講態度）が 60 点、中間・期末の 2 回のレポートが 40 点である。出席が 10 回未満の場合は、原則として単位取得できない。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○		

関連科目	西欧の歴史・意匠に関する全ての授業、文化史・歴史
その他	授業中に配布した関連資料は各自で整理し、また解説した内容についてはノートをとり、映像資料については必要であれば簡単なスケッチをしながら聴講すると、復習がしやすい。 授業のなかで説明した建築・都市に関連する内容について、具体的に世界遺産などを調べてさらに関心を深めていくことを勧める。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-321	科目分類（～2024 年入学者）	142-331-12	授業コード	FG1040
科目名称	☆ﾗﾝﾄﾞｽｹｰﾌﾟ論			単位数	2.0 単位
英文名称	Theory of Landscape Architecture			授業区分	講義
科目責任者	大林　万里江			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	大林　万里江			開講時期	2･3･4 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	環境に対する関心の高まりにともない、建物の積極的な緑化計画も進められ、街の風景が少しずつ変化してきている。ランドスケープの基礎知識や具体的なデザイン手法を習得し、住宅や街並みのランドスケープを通して、今後どのように環境に対してアプローチしていくべきかを考察する。また、授業では演習課題やグループ発表などのグループワークを行う。				
到達目標	ランドスケープの歴史や主要作品のデザイン手法の学習を通じて、建築、街並みといった私たちを取り巻く環境を多面的に考察できる能力を身につける。また、ランドスケープの作図の基礎を学習し、周囲の環境との関係を読み解きながら、ランドスケープ空間を創造する技術を習得することを目標とする。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	大林　万里江	【第 1 回】 予習　：シラバスの内容を確認する 授業　：ガイダンス（ランドスケープとはなにか） 復習　：配布資料を再読し、理解を深める
2	大林　万里江	【第 2 回】 予習　：ランドスケープの歴史に関する資料を調べる 授業　：ランドスケープデザインの歴史① 復習　：配布資料を再読し、ランドスケープの歴史について復習する
3	大林　万里江	【第 3 回】 予習　：ランドスケープの歴史に関する資料を調べる 授業　：ランドスケープデザインの歴史② 復習　：配布資料を再読し、ランドスケープの歴史について復習する
4	大林　万里江	【第 4 回】 予習　：庭に関する資料を調べる 授業　：庭とはなにか 復習　：配布資料を再読し、庭について復習する
5	大林　万里江	【第 5 回】 予習　：住空間のランドスケープに関する資料を調べる 授業　：住空間のランドスケープ 復習　：配布資料を再読し、住空間のランドスケープについて復習する
6	大林　万里江	【第 6 回】 予習　：都市空間のランドスケープに関する資料を調べる 授業　：都市空間のランドスケープ 復習　：配布資料を再読し、都市空間のランドスケープについて復習する
7	大林　万里江	【第 7 回】 予習　：緑化された建物の事例を調べる 授業　：建物の緑化計画 復習　：配布資料を再読し、建物の緑化について復習する
8	大林　万里江	【第 8 回】 予習　：ランドスケープ事例の資料を収集する 授業　：ランドスケープの事例研究①　（演習課題 1） 復習　：事例研究資料をまとめる
9	大林　万里江	【第 9 回】 予習　：ランドスケープ事例の資料を収集する 授業　：ランドスケープの事例研究②　（演習課題 2） 復習　：事例研究資料をまとめる
10	大林　万里江	【第 10 回】 予習　：ランドスケープ事例研究の発表準備をする 授業　：ランドスケープの事例研究の発表　（グループ発表） 復習　：講評内容を記録し、自己評価も行う
11	大林　万里江	【第 11 回】 予習　：最近のランドスケープに関する資料を調べる 授業　：これからのランドスケープ 復習　：配布資料を再読し、最近のランドスケープの事例について復習する

12	大林　万里江	【第 12 回】 予習　：住宅のランドスケープ事例を調べる 授業　：住宅のランドスケープを考える　（演習課題 3） 復習　：課題内容を整理・検討する
13	大林　万里江	【第 13 回】 予習　：エスキスのための準備をする 授業　：エスキース　（演習課題 4） 復習　：エスキスで指摘された箇所について改善する
14	大林　万里江	【第 14 回】 予習　：エスキスのための準備をする 授業　：エスキース　（演習課題 5） 復習　：エスキスで指摘された箇所について改善する
15	大林　万里江	【第 15 回】 予習　：課題を完成させ、発表準備をする 授業　：課題の提出・講評　　（グループ発表） 復習　：講評内容をもとに自己評価を行う

授業開始前学習	
授業内課題のフィードバックの方法	事例研究は、９回目の授業終了時に提出。１０回目で全体の発表を行い、質疑回答などを行う。設計課題は、１４回目の授業終了後に提出。15 回目で全体の発表を行い、質疑回答を行う。
テキスト・教材	適宜資料を配布する。
参考書	適宜、推薦図書・参考図書を紹介する。
評価の基準と方法	事例研究、課題等の提出物と授業参加度を総合して評価する。 配点（１００点満点）は、提出物６０点、授業参加度４０点とする。 出席回数が授業回数の３分の２未満の場合は、単位取得できない。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○		

関連科目	
その他	課題制作には、色鉛筆などの道具が必要になる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-321	科目分類（～2024 年入学者）	142-331-13	授業コード	FG1050
科目名称	建築環境設備			単位数	2.0 単位
英文名称	Architectural Environmental Equipment			授業区分	講義
科目責任者	松元　良枝			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松元　良枝			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期　月曜日 13:00～14:30　月曜日 14:40～16:10 後期　木曜日 10:30～12:10　木曜日 13:00～14:30			研究室	10-601
授業概要	「健康」で「快適な」室内環境を形成するために必要な「建築設備」について理論やシステムの基礎知識を修得する。前半では空気調和設備・換気設備を、後半では給排水・衛生設備・その他の設備について解説する。特に、省エネルギー・省資源、建築デザインとの関連を理解することを目標とし、建築設備全般に関する基礎的な知識の修得を目指す。				
到達目標	建築環境設備の基礎的な知識を修得し、快適な生活の実現の為に建築環境がどのように寄与しているのか理解する。また、発展を続ける建築設備の今後の方向性と課題について考えていく姿勢を身につける。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	松元　良枝	【第 1 回】 予習：当該分野の書籍等を読み、専門用語に慣れておく。 授業：ガイダンス（建築環境設備について） 復習：授業内容について、疑問や理解不足が無いようにする。
2	松元　良枝	【第 2 回】 予習：どのような地域冷暖房計画が実際に運用されているか情報を収集しておく。 授業：建築設備の総合計画・地域設備計画 復習：授業内容について、疑問や理解不足が無いようにする。
3	松元　良枝	【第 3 回】 予習：空気調和設備について、身近な建築物における設備を確認しておく。 授業：空気調和設備(1)　空調計画・ゾーニング 復習：授業内容について、疑問や理解不足が無いようにする。
4	松元　良枝	【第 4 回】 予習：空気調和設備について、身近な建築物における設備を確認しておく。 授業：空気調和設備(2)　冷却原理とヒートポンプ 復習：授業内容について、疑問や理解不足が無いようにする。
5	松元　良枝	【第 5 回】 予習：空気調和設備について、身近な建築物における設備を確認しておく。 授業：空気調和設備(3)　空調機とファンコイル 復習：授業内容について、疑問や理解不足が無いようにする。
6	松元　良枝	【第 6 回】 予習：空気調和設備について、身近な建築物における設備を確認しておく。 授業：空気調和設備(4)　ファン、ダクト、吹き出し口 復習：授業内容について、疑問や理解不足が無いようにする。
7	松元　良枝	【第 7 回】 予習：空気調和設備について、身近な建築物における設備を確認しておく。 授業：空気調和設備(5)　湿り空気と空気線図 復習：授業内容について、疑問や理解不足が無いようにする。
8	松元　良枝	【第 8 回】 予習：空気調和設備について、身近な建築物における設備を確認しておく。 授業：空気調和設備(6)　自然エネルギーの利用と省エネ 復習：授業内容について、疑問や理解不足が無いようにする。
9	松元　良枝	【第 9 回】 予習：換気調和設備について、身近な建築物における設備を確認しておく。 授業：換気設備　換気設備、フィルター、クリーンルーム 復習：授業内容について、疑問や理解不足が無いようにする。
10	松元　良枝	【第 10 回】 予習：給排水・衛生設備について、身近な建築物における設備を確認しておく。 授業：給排水・衛生設備(1)　給水設備 復習：授業内容について、疑問や理解不足が無いようにする。
11	松元　良枝	【第 11 回】 予習：給排水・衛生設備について、身近な建築物における設備を確認しておく。 授業：給排水・衛生設備(2)　給湯設備 復習：授業内容について、疑問や理解不足が無いようにする。

12	松元　良枝	【第 12 回】 予習：給排水・衛生設備について、身近な建築物における設備を確認しておく。 授業：給排水・衛生設備(3)　衛生設備と水まわり 復習：授業内容について、疑問や理解不足が無いようにする。
13	松元　良枝	【第 13 回】 予習：給排水・衛生設備について、身近な建築物における設備を確認しておく。 授業：給排水・衛生設備(4)　排水通気設備 復習：授業内容について、疑問や理解不足が無いようにする。
14	松元　良枝	【第 14 回】 予習：ガス設備や浄化槽等について、基礎知識をつけておく。 授業：その他の設備 復習：授業内容について、疑問や理解不足が無いようにする。
15	松元　良枝	【第 15 回】 予習：第 1 回～14 回の授業内容について確認する。 授業：建築環境設備のまとめ 復習：授業内容について、疑問や理解不足が無いようにする。

授業開始前学習	当該分野の書籍等には目を通しておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	授業内での解説を実施する。
テキスト・教材	『基礎講座　建築設備』（学芸出版社） また講義時に適宜資料を配布する。
参考書	『「建築の設備」入門』 新訂第二版　（彰国社）。
評価の基準と方法	小テスト 20%、レポート 50%、平常点（授業態度・課題提出）30%。ただし、学生の理解度を勘案し調整する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○		

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-321	科目分類（～2024 年入学者）	142-331-13	授業コード	FG1060
科目名称	環境工学			単位数	2.0 単位
英文名称	Environmental Engineering			授業区分	講義
科目責任者	松元　良枝			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松元　良枝			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期　月曜日 13:00～14:30　月曜日 14:40～16:10 後期　木曜日 10:30～12:10　木曜日 13:00～14:30			研究室	10-601
授業概要	人体周辺環境から室内環境、都市環境に至るまで一口に「建築環境」といっても広い定義を持っている。 その中で、建築の環境を作り出している諸要因について基礎的な知識と理解を深める。 気候・温熱・空気・音環境などの物理環境要素を建築物へ取り込む技術手法を交えながら講義する。				
到達目標	建築の気候・光・温熱・空気・音環境などに関する基礎的な事項を修得する。				

アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	松元　良枝	【第 1 回】 予習：シラバス参照 授業：ガイダンス（建築環境工学について） 復習：ガイダンス配布資料の再読と課題提出の自習
2	松元　良枝	【第 2 回】 予習：気候と建築の関連用語の確認 授業：建築環境計画（1）　気候と建築 復習：気候と建築に関する配布資料の再読と課題提出の自習
3	松元　良枝	【第 3 回】 予習：都市・地球環境とヒートアイランド現象関連用語の確認 授業：建築環境計画（2）　都市・地球環境とヒートアイランド現象 復習：都市・地球環境とヒートアイランド現象に関する配布資料の再読と課題提出の自習
4	松元　良枝	【第 4 回】 予習：温熱環境の関連用語の確認 授業：温熱環境（1）　温度と熱移動の基礎 復習：温度と熱移動の基礎に関する配布資料の再読と課題提出の自習
5	松元　良枝	【第 5 回】 予習：温熱環境の関連用語の確認 授業：温熱環境（2）　建築部位の伝熱特性 復習：建築部位の伝熱特性に関する配布資料の再読と課題提出の自習
6	松元　良枝	【第 6 回】 予習：温熱環境の関連用語の確認 授業：温熱環境（3）　人体の熱的快適性 復習：人体の熱的快適性に関する配布資料の再読と課題提出の自習
7	松元　良枝	【第 7 回】 予習：湿気環境の関連用語の確認 授業：湿気環境　湿度・結露 復習：湿気環境に関する配布資料の再読と課題提出の自習
8	松元　良枝	【第 8 回】 予習：空気環境の関連用語の確認 授業：空気環境（1）　室内空気環境と換気計画 復習：室内空気環境と換気計画に関する配布資料の再読と課題提出の自習
9	松元　良枝	【第 9 回】 予習：空気環境の関連用語の確認 授業：空気環境（2）　自然通風・自然換気 復習：自然通風・自然換気に関する配布資料の再読と課題提出の自習
10	松元　良枝	【第 10 回】 予習：日射　太陽エネルギーの関連用語の確認 授業：日射　太陽エネルギーと大気放射 復習：日射　太陽エネルギーと大気放射に関する配布資料の再読と課題提出の自習
11	松元　良枝	【第 11 回】 予習：日影・日照に関する関連用語の確認 授業：日影・日照　太陽位置と日影曲線 復習：日影曲線の作成に関する配布資料の再読と課題提出の自習

12	松元　良枝	【第 12 回】 予習：光環境の関連用語の確認 授業：光環境　昼光利用、照明 復習：昼光利用、照明に関する配布資料の再読と課題提出の自習
13	松元　良枝	【第 13 回】 予習：色彩の関連用語の確認 授業：色彩 復習：色彩に関する配布資料の再読と課題提出の自習
14	松元　良枝	【第 14 回】 予習：音環境の関連用語の確認 授業：音環境　音の性質と遮音・吸音 復習：音環境に関する配布資料の再読と課題提出の自習
15	松元　良枝	【第 15 回】 予習：全 15 回の関連用語の確認 授業：建築環境工学のまとめ 復習：まとめに関する配布資料の再読と課題提出の自習

授業開始前学習	
授業内課題のフィードバックの方法	小テスト・レポートについては、授業にて全体の講評を行い、コメントや質問に対する回答を行う。
テキスト・教材	『初学者の建築講座　建築環境工学(第 4 版)』（市ヶ谷出版社）。 また講義時に適宜資料を配布する。
参考書	『環境工学教科書』（彰国社） 『最新・建築環境工学』（井上書院）
評価の基準と方法	確認テスト・小テスト・レポート 70%、授業態度・課題提出 30%で評価するが、学生の理解度を勘案し調整する。出席が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は、単位取得できない。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○		

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-321 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	142-331-13（Ｊ）	授業コード	FG1070
科目名称	建築材料			単位数	2.0 単位
英文名称	Architectural Materials			授業区分	講義
科目責任者	小川 弾			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小川 弾			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 13:00～14:30 金曜日 10:40～12:10			研究室	1-210
授業概要	建築物は、材料の組み合わせによって構成されており、材料に関する知識は建築を学ぶ者にとって重要である。ただし、単に個々の材料の性質を知るだけでは不十分であり、なぜそこにその材料が使用されているのかを理解する必要がある。 構造材料においては、主に材料の力学的性質について講義する。一方、屋根、壁、床といった部位構成材では、各部位に求められる機能・性能を知るとともに、そこに使用される材料の構成や基本的性質についても講義する。				
到達目標	建築物を構成する各材料を知識として習得し、設計時の適材適所を考えられるようになる。また、材料を選択するときに安全性・居住性・生産性・耐久性・環境性を考慮できるようになる。				

アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	小川 弾	【第 1 回】 予習 ：テキストを読む 授業 ：ガイダンス、鉄筋コンクリート構造に用いる材料 I 復習 ：テキストの中で太字となっている語句について、疑問や理解不足が無いようにする。
2	小川 弾	【第 2 回】 予習 ：テキストを読む 授業 ：鉄筋コンクリート構造に用いる材料 II 復習 ：テキストの中で太字となっている語句について、疑問や理解不足が無いようにする。
3	小川 弾	【第 3 回】 予習 ：テキストを読む 授業 ：鉄筋コンクリート構造に用いる材料 III 復習 ：テキストの中で太字となっている語句について、疑問や理解不足が無いようにする。
4	小川 弾	【第 4 回】 予習 ：テキストを読む 授業 ：木構造に用いる材料 I 復習 ：テキストの中で太字となっている語句について、疑問や理解不足が無いようにする。
5	小川 弾	【第 5 回】 予習 ：テキストを読む 授業 ：木構造に用いる材料 II 復習 ：テキストの中で太字となっている語句について、疑問や理解不足が無いようにする。
6	小川 弾	【第 6 回】 予習 ：テキストを読む 授業 ：鋼構造に用いる材料 復習 ：テキストの中で太字となっている語句について、疑問や理解不足が無いようにする。
7	小川 弾	【第 7 回】 予習 ：テキストを読む 授業 ：組積造に用いる材料、膜構造に用いる材料 復習 ：テキストの中で太字となっている語句について、疑問や理解不足が無いようにする。
8	小川 弾	【第 8 回】 予習 ：テキストを読む 授業 ：屋根の機能と屋根材、防水材料 復習 ：テキストの中で太字となっている語句について、疑問や理解不足が無いようにする。
9	小川 弾	【第 9 回】 予習 ：テキストを読む 授業 ：外壁の機能と各種外壁材 復習 ：テキストの中で太字となっている語句について、疑問や理解不足が無いようにする。
10	小川 弾	【第 10 回】 予習 ：テキストを読む 授業 ：開口部の機能と建具、ガラス 復習 ：テキストの中で太字となっている語句について、疑問や理解不足が無いようにする。

11	小川　弾	【第 11 回】 予習　：テキストを読む 授業　：床の機能と床材 復習　：テキストの中で太字となっている語句について、疑問や理解不足が無いようにする。
12	小川　弾	【第 12 回】 予習　：テキストを読む 授業　：間仕切部位の機能と用いる材料 復習　：テキストの中で太字となっている語句について、疑問や理解不足が無いようにする。
13	小川　弾	【第 13 回】 予習　：テキストを読む 授業　：塗料、接着剤、シーリング材 復習　：テキストの中で太字となっている語句について、疑問や理解不足が無いようにする。
14	小川　弾	【第 14 回】 予習　：テキストを読む 授業　：耐火・防火材料、断熱材料、吸音・遮音材料 復習　：テキストの中で太字となっている語句について、疑問や理解不足が無いようにする。
15	小川　弾	【第 15 回】 予習　：テキスト全体を通読しておく。また講義にも持参すること。 授業　：建築材料と環境 復習　：講義全体を通して、疑問や理解不足が無いようにする。

授業開始前学習	事前に教科書を一読しておくことを勧める。
授業内課題のフィードバックの方法	小テストを実施した際は、採点と講義内での解説を行う。 レポートは、後日返却し解説する。
テキスト・教材	建築材料新テキスト（彰国社）
参考書	構造用教材（日本建築学会）
評価の基準と方法	定期試験および、授業内で行う小テストとミニットペーパー、レポートで評価を行う。配点は、定期試験 30%、小テスト 20%、ミニットパーパー30%、レポート 20%の配分とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○		

関連科目	建築構造Ⅰ、建築構造Ⅱ、建築生産
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	建築設計事務所において住宅の設計・監理を実践してきた実務経験を活かし、建築物を構成する材料の基本的性質や特徴などを講義する。

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-321 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	142-331-13 （Ｊ）	授業コード	FG1080
科目名称	建築生産			単位数	2.0 単位
英文名称	Production of Architecture			授業区分	講義
科目責任者	小川 弾			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小川 弾			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 13:00～14:30 金曜日 10:40～12:10			研究室	1-210
授業概要	経済的、社会的、技術的な観点から建築物の企画・設計・施工・運用管理・最終処分を包括した建築生産及びそのプロセスについて講述する。建築生産のしくみと発注者と受注者との係りを学び、一連の施工技術と施工管理マネジメント技術を取得する。				
到達目標	1.建築生産プロセスと施工の流れについて理解する。 2.一般的な建築物の躯体および各部の構法原理を理解する。 3.建築現場における施工方法とその管理方法について理解する。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	小川 弾	【第 1 回】 予習 ：シラバス確認 授業 ：建築生産の概要 復習 ：建築生産の内容および流れ
2	小川 弾	【第 2 回】 予習 ：テキストを読む 授業 ：我が国の建築生産の現状 経済活動と建築生産 復習 ：建築生産における施工の位置づけ
3	小川 弾	【第 3 回】 予習 ：テキストを読む 授業 ：建築プロジェクトに関わる産業構造 復習 ：住宅の生産方式
4	小川 弾	【第 4 回】 予習 ：テキストを読む 授業 ：建築プロジェクトの経済評価と企画 復習 ：一般建設業の分業体制
5	小川 弾	【第 5 回】 予習 ：テキストを読む 授業 ：発注と契約 復習 ：請負方式の特徴 工事契約の方法
6	小川 弾	【第 6 回】 予習 ：テキストを読む 授業 ：建築設計業務と設計監理業務の内容 復習 ：基本設計、実施設計、工事監理業務の内容
7	小川 弾	【第 7 回】 予習 ：テキストを読む 授業 ：建築工事のコスト管理手法（配布資料） 復習 ：建築工事原価と実行予算
8	小川 弾	【第 8 回】 予習 ：テキストを読む 授業 ：建築施工管理 1 基礎工事 復習 ：基礎の種類と特徴、施工法
9	小川 弾	【第 9 回】 予習 ：テキストを読む 授業 ：建築施工管理 2 躯体工事（木造） 復習 ：在来軸組構法及び枠組壁工法の特徴と施工法
10	小川 弾	【第 10 回】 予習 ：テキストを読む 授業 ：建築施工管理 3 躯体工事（RC 造） 復習 ：鉄筋、型枠、コンクリート工事の品質管理方法
11	小川 弾	【第 11 回】 予習 ：テキストを読む 授業 ：建築施工管理 4 躯体工事（S 造） 復習 ：鋼材の種類 建方方法 接合方法

12	小川 弾	【第 12 回】 予習 ：テキストを読む 授業 ：建築施工管理 5 仕上げ工事（外装工事） 復習 ：外装工事の構・工法と必要性能
13	小川 弾	【第 13 回】 予習 ：テキストを読む 授業 ：建築施工管理 6 仕上げ工事（内装工事・木工事） 復習 ：壁、床、天井の下地及び仕上げの特徴
14	小川 弾	【第 14 回】 予習 ：テキストを読む 授業 ：建築施工管理 7 設備工事 復習 ：電気、衛生、空調、エレベーター工事の特徴
15	小川 弾	【第 15 回】 予習 ：テキストを読む 授業 ：建築のライフサイクルと維持保全 復習 ：コンバージョン、リノベーションの内容　所有価値から利用価値へ

授業開始前学習	街中の建築工事現場で見られる建物の骨組や自宅や学校など身近な建物の内外装仕上げを、日頃から意識して見るようにし、その機能や施工方法について考えるようにすると、授業に興味を持って取り組むことができる。
授業内課題のフィードバックの方法	小テストを実施した際は、採点と講義内での解説を行う。
テキスト・教材	改訂版図説やさしい建築施工（学芸出版社）
参考書	構造用教材（日本建築学会）
評価の基準と方法	定期試験および、授業内で行う小テストとミニットペーパーで評価を行う。配点は、定期試験 40%、小テスト 30%、ミニットペーパー30%の配分とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○		

関連科目	建築の意匠、構造、設備、法規といった、建築に関する多くの要素が関連することから、日頃より建築に関する基礎的な内容について、広く理解していることが必要である。
その他	住宅を含めた建築を生産するしくみを、各産業と生活を結びつけるデザインという観点から概説することで、建築と社会との関わりを多角的かつ詳細に解説する講義であるため、新聞、関連雑誌等の up-to-date な話題にも積極的に興味を示してもらいたい。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	建築設計事務所において住宅の設計・監理を実践してきた実務経験を活かし、建築生産のしくみと施工方法などを講義する。

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-321	科目分類（～2024 年入学者）	142-331-13	授業コード	FG1085
科目名称	都市ﾃﾞｻﾞｲﾝ論			単位数	2.0 単位
英文名称	Theory of Urban Design			授業区分	講義
科目責任者	西尾　尚子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	西尾　尚子			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期　水曜日 13:00～14:30　水曜日 14:40～16:10 後期　水曜日 13:00～14:30　水曜日 14:40～16:10			研究室	2-214
授業概要	都市デザインには都市空間を成立させる基本的なルールである都市計画への理解が必要である。都市計画は私たちの生活を支える技術のひとつであり、暮らしやすい都市や住環境整備には欠かせないものである。本講義では建築する際に必要となる都市計画に関する基礎的な考え方や手法について学ぶ。				
到達目標	都市計画に関連する用語や社会制度についての基礎的な知識を習得する。 建築を設計する際に周辺環境をさまざまな視点から読み解けるようになる。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	西尾　尚子	【第 1 回】 予習　：シラバスに目を通す 授業　：都市計画とは 復習　：授業時間内に明示
2	西尾　尚子	【第 2 回】 予習　：配布資料の事前参照 授業　：日本の都市計画史 復習　：授業時間内に明示
3	西尾　尚子	【第 3 回】 予習　：配布資料の事前参照 授業　：世界の都市計画史 復習　：授業時間内に明示
4	西尾　尚子	【第 4 回】 予習　：配布資料の事前参照 授業　：都市計画の体系と制度 復習　：授業時間内に明示
5	西尾　尚子	【第 5 回】 予習　：配布資料の事前参照 授業　：土地利用の計画 復習　：授業時間内に明示
6	西尾　尚子	【第 6 回】 予習　：配布資料の事前参照 授業　：都市施設と市街地開発事業 復習　：授業時間内に明示
7	西尾　尚子	【第 7 回】 予習　：配布資料の事前参照 授業　：都市開発と更新計画 復習　：授業時間内に明示
8	西尾　尚子	【第 8 回】 予習　：配布資料の事前参照 授業　：住環境 復習　：授業時間内に明示
9	西尾　尚子	【第 9 回】 予習　：配布資料の事前参照 授業　：交通計画とまちづくり 復習　：授業時間内に明示
10	西尾　尚子	【第 10 回】 予習　：配布資料の事前参照 授業　：都市のオープンスペースと公園 復習　：授業時間内に明示
11	西尾　尚子	【第 11 回】 予習　：配布資料の事前参照 授業　：景観計画と都市デザイン 復習　：授業時間内に明示

12	西尾　尚子	【第 12 回】 予習　：配布資料の事前参照 授業　：都市防災 復習　：授業時間内に明示
13	西尾　尚子	【第 13 回】 予習　：配布資料の事前参照 授業　：地区計画 復習　：授業時間内に明示
14	西尾　尚子	【第 14 回】 予習　：配布資料の事前参照 授業　：市民参加のまちづくり 復習　：授業時間内に明示
15	西尾　尚子	【第 15 回】 予習　：配布資料の事前参照 授業　：持続可能な都市構造 復習　：授業時間内に明示

授業開始前学習	
授業内課題のフィードバックの方法	毎回提出する小レポートに対して、次の週にフィードバックする。
テキスト・教材	適宜プリントを配布する。
参考書	
評価の基準と方法	小レポート及びレポート 70 点、平常点（授業態度、課題提出）30 点とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○		

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-321 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	142-331-13 （Ｊ）	授業コード	FG1090
科目名称	建築法規Ⅰ			単位数	2.0 単位
英文名称	Building Regulation Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	加藤　陽介			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	加藤　陽介			開講時期	3･4 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	住宅やビルを建築するには建築基準法等の各種の法規に適合しなければならない、そして、これらの法規制に適合していることを確認することが建築確認制度である。建築法規Ⅰでは、この建築確認制度を含む「制度および手続き」から勉強を始め、次に、個々の建築物に係る規定（単体規定）について講義と演習で学ぶ。				
到達目標	建築基準法で用いる用語を覚え、単体規定の概要を理解する。建築物が、単体規定に適合しているかどうかの確認ができるようにする。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	加藤　陽介	【第 1 回】 予習　：建築基準法の必要性について考察する 授業　：講義概要 復習　：地域における建築基準法の意義について考察する
2	加藤　陽介	【第 2 回】 予習　：今回講義個所のテキスト該当部分を読む 授業　：建築基準法の概要 復習　：建築基準法設立の過程を確認する
3	加藤　陽介	【第 3 回】 予習　：今回講義個所のテキスト該当部分を読む 授業　：建築確認制度 復習　：確認申請等の法手続きを確認をする
4	加藤　陽介	【第 4 回】 予習　：今回講義個所のテキスト該当部分を読む 授業　：用語の定義　その 1 復習　：建築基準法の用語を確認する
5	加藤　陽介	【第 5 回】 予習　：今回講義個所のテキスト該当部分を読む 授業　：用語の定義　その 2 復習　：建築基準法の用語を確認する
6	加藤　陽介	【第 6 回】 予習　：今回講義個所のテキスト該当部分を読む 授業　：面積･高さ･階数の算定 復習　：容積率等の計算方法を確認する
7	加藤　陽介	【第 7 回】 予習　：今回講義個所のテキスト該当部分を読む 授業　：一般構造：採光、換気 復習　：採光計算を確認する
8	加藤　陽介	【第 8 回】 予習　：今回講義個所のテキスト該当部分を読む 授業　：一般構造：階段、廊下等 復習　：廊下幅等の最低条件を確認する
9	加藤　陽介	【第 9 回】 予習　：今回講義個所のテキスト該当部分を読む 授業　：構造強度　1 復習　：構造計算のプロセスの確認をする
10	加藤　陽介	【第 10 回】 予習　：今回講義個所のテキスト該当部分を読む 授業　：構造強度　2 復習　：構造計算手法を確認する
11	加藤　陽介	【第 11 回】 予習　：今回講義個所のテキスト該当部分を読む 授業　：構造強度　演習 復習　：演習における疑問点を整理する

12	加藤　陽介	【第 12 回】 予習　：今回講義個所のテキスト該当部分を読む 授業　：防火と避難　1 復習　：建物の災害時の安全性ついて考察する
13	加藤　陽介	【第 13 回】 予習　：今回講義個所のテキスト該当部分を読む 授業　：防火と避難　2 復習　：防火・避難既定のあらましを確認する
14	加藤　陽介	【第 14 回】 予習　：今回講義個所のテキスト該当部分を読む 授業　：建築設備についての規定 復習　：建築設備の概要を確認する
15	加藤　陽介	【第 15 回】 予習　：演習等で理解できなかった点を整理する 授業　：前期のまとめ 復習　：単体既定の概要の確認をする

授業開始前学習	前回の講義の復習を行い、問題点の整理をするとともに、講義予定個所のテキストを熟読する。
授業内課題のフィードバックの方法	疑問点の整理を行い、何が分からないのかを明確にし、質疑などを行い問題の解決を図る。
テキスト・教材	初回授業で指示する。
参考書	
評価の基準と方法	ミニテスト 50%、レポート・演習問題等 40%、授業態度 10%で評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○		

関連科目	
その他	演習に電卓を必要とする。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	住宅、店舗、施設、リノベーション、コンバージョン、インテリアデザイン、耐震診断等の設計デザイン実務経験、 確認申請等における各種許認可実務経験、1 級建築士／インテリアプランナー養成講座の指導経験を活かし、 建築設計及びインテリア実務、資格試験で必要となる建築法規について講義する。

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-321 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	142-331-13 （Ｊ）	授業コード	FG1100
科目名称	建築法規Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	Building RegulationⅡ			授業区分	講義
科目責任者	加藤　陽介			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	加藤　陽介			開講時期	3･4 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	建築基準法の第３章「都市計画区域等における建築物の敷地、構造、建築設備及び用途」は、一般に集団規定と呼ばれ、道路と建築物、道路と敷地、用途地域制、形態制限、建ぺい率、容積率、各種高さ制限、防火地域制、優良な市街地環境の整備のための各種制度などが規定されている。建築法規Ⅱでは、この集団規定を講義と演習で学び、最後に建築確認申請書の作成を通じて、建築法規を使うことを学ぶ。関連の法規として、この頃重要視されている品確法を主に学ぶ。				
到達目標	建築基準法集団規定の概要を理解し、都市における集団規定の果たす役割を把握する。また、単体規定、集団規定の双方を理解し、建築基準法に適合した建築物の確認ができるようにする。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	加藤　陽介	【第１回】 予習　：単体規定の復習を行う 授業　：講義概要、集団規定の概要 復習　：集団規定と、単体既定の違いを認識する
2	加藤　陽介	【第２回】 予習　：今回講義個所のテキスト該当部分を読む 授業　：都市計画法と集団規定 復習　：都市計画法の概要を確認し、建築基準法における位置づけを考察する
3	加藤　陽介	【第３回】 予習　：今回講義個所のテキスト該当部分を読む 授業　：道路と敷地・建築物 復習　：道路と、建築物の関係を整理する
4	加藤　陽介	【第４回】 予習　：今回講義個所のテキスト該当部分を読む 授業　：用途地域制の目的と種類 復習　：用途地域と建物の関係を整理する
5	加藤　陽介	【第５回】 予習　：今回講義個所のテキスト該当部分を読む 授業　：建ぺい率制限 復習　：建ぺい率制度の目的を確認する
6	加藤　陽介	【第６回】 予習　：今回講義個所のテキスト該当部分を読む 授業　：容積率制限 復習　：容積率と、街並みの確認をする
7	加藤　陽介	【第７回】 予習　：今回講義個所のテキスト該当部分を読む 授業　：建ぺい率、容積率の演習 復習　：演習時の疑問点を整理する
8	加藤　陽介	【第８回】 予習　：今回講義個所のテキスト該当部分を読む 授業　：道路斜線制限と絶対高さ制限、隣地斜線制限 復習　：斜線制限と街並みの確認をする
9	加藤　陽介	【第９回】 予習　：今回講義個所のテキスト該当部分を読む 授業　：北側斜線制限 ， 日影による高さ制限 復習　：日影規制等の目的を確認する
10	加藤　陽介	【第 10 回】 予習　：今回講義個所のテキスト該当部分を読む 授業　：確認申請書作成演習 復習　：演習時の疑問点を整理する
11	加藤　陽介	【第 11 回】 予習　：今回講義個所のテキスト該当部分を読む 授業　：工事中の手続き等・その他の法規：建築士法他 復習　：建築基準法関連規定のあらましを確認する

12	加藤　陽介	【第 12 回】 予習　：品確法の目的について考察する 授業　：その他の法規：品確法　1　（配布プリント） 復習　：品確法の目的を確認する
13	加藤　陽介	【第 13 回】 予習　：品確法の役割について考察する 授業　：その他の法規：品確法　2　（配布プリント） 復習　：品確法の概要を確認する
14	加藤　陽介	【第 14 回】 予習　：ストック社会における品確法の果たすべき目標を考察する 授業　：その他の法規：住宅瑕疵担保履行法他　（配布プリント） 復習　：瑕疵担保責任の必要性について確認する
15	加藤　陽介	【第 15 回】 予習　：集団規定とは何かを確認する 授業　：後期のまとめ 復習　：集団規定、単体規定の果たす役割を確認する

授業開始前学習	前回の講義の復習を行い、問題点の整理をするとともに、講義予定個所のテキストを熟読する。
授業内課題のフィードバックの方法	疑問点の整理を行い、何が分からないのかを明確にし、質疑などを行い問題の解決を図る。
テキスト・教材	初回授業で指示する。
参考書	
評価の基準と方法	ミニテスト 50% 、レポート・演習問題等 40% 、授業態度 10% で評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○		

関連科目	
その他	演習に電卓を必要とする。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	住宅、店舗、施設、リノベーション、コンバージョン、インテリアデザイン、耐震診断等の設計デザイン実務経験、 確認申請等における各種許認可実務経験、1 級建築士／インテリアプランナー養成講座の指導経験を活かし、 建築設計及びインテリア実務、資格試験で必要となる建築法規について講義する。

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-322 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	141-320-23 （Ｊ）	授業コード	FG1311
科目名称	ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅠ			単位数	1.0 単位
英文名称	Interior Design　Seminar Ⅰ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	李　志炯			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	李　志炯			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期　火曜日 09:00～10:30　水曜日 14:40～16:10 後期　火曜日 09:00～10:30　水曜日 16:20～17:50			研究室	1-207
授業概要	これまでの学科における学びを踏まえ、選択する専門分野におけるテーマを研究・考察する。実習やプレゼンテーション、グループワーク等を通して、4 年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、専門分野の知識を深め、技術力や実践力を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。				
到達目標	与えられた課題の要点を正しく理解し、的確な計画を立てて実行できること。それらを適切な手段で表現し、明快に人に伝えられること。またこれらを通して社会人としての基本的な心構えを身に付けること。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	李　志炯	【第 1 回】 予習　：授業準備 授業　：ガイダンス　課題 1　課題説明 復習　：授業計画内容の確認
2	李　志炯	【第 2 回】 予習　：社会人基礎力を学ぶ　準備 授業　：社会人基礎力を学ぶ 復習　：社会人基礎力を学ぶ　内容の見直し
3	李　志炯	【第 3 回】 予習　：課題 1　参考事例調査・収集 授業　：課題 1　エスキス①　参考事例報告（発表） 復習　：課題 1　参考事例報告を受けた資料整理
4	李　志炯	【第 4 回】 予習　：課題 1　エスキス準備 授業　：課題 1　エスキス②　計画（実習） 復習　：課題 1　エスキス内容の整理
5	李　志炯	【第 5 回】 予習　：課題 1　中間発表準備 授業　：課題 1　中間発表・講評（プレゼンテーション） 復習　：課題 1　中間講評内容の整理
6	李　志炯	【第 6 回】 予習　：課題 1　エスキス準備 授業　：課題 1　エスキス③　展開（実習） 復習　：課題 1　エスキス内容の展開
7	李　志炯	【第 7 回】 予習　：課題 1　エスキス準備 授業　：課題 1　エスキス④　制作（実習） 復習　：課題 1　エスキス内容を受けた制作作業
8	李　志炯	【第 8 回】 予習　：課題 1　最終発表準備 授業　：課題 1　最終発表・講評（プレゼンテーション） 復習　：課題 1　最終講評内容の整理
9	李　志炯	【第 9 回】 予習　：課題 2　参考事例調査・収集 授業　：課題 2　課題説明　参考事例報告（発表） 復習　：課題 2　参考事例報告を受けた資料整理
10	李　志炯	【第 10 回】 予習　：課題 2　エスキス準備 授業　：課題 2　エスキス①　計画（実習） 復習　：課題 2　エスキス内容の整理・計画
11	李　志炯	【第 11 回】 予習　：課題 2　エスキス準備 授業　：課題 2　エスキス②　展開（実習） 復習　：課題 2　エスキス内容の展開

12	李 志炯	【第 12 回】 予習 ：課題２ エスキス準備 授業 ：課題２ エスキス③ 制作（実習） 復習 ：課題２ エスキス内容を受けた制作
13	李 志炯	【第 13 回】 予習 ：課題２ 最終発表準備 授業 ：課題２ 最終発表・講評（プレゼンテーション） 復習 ：課題２ 最終講評内容の整理
14	李 志炯	【第 14 回】 予習 ：課題３ 学科作品展 計画準備 授業 ：課題３ 学科作品展 計画説明、作業（グループワーク） 復習 ：課題３ 学科作品展 準備作業
15	李 志炯	【第 15 回】 予習 ：課題３ 学科作品展 準備作業 授業 ：課題３ 学科作品展 実施（プレゼンテーション） 復習 ：課題３ 学科作品展 内容整理

授業開始前学習	これまでの授業を振り返り、実習授業の作品をポートフォリオにまとめること。
授業内課題のフィードバックの方法	各課題の提出・発表後に講評を行う。
テキスト・教材	資料・プリント等を適宜配布する。
参考書	
評価の基準と方法	提出物、受講態度などにより評価する。 配点は提出物 50%、発表内容・受講態度等 50%。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		◎	○

関連科目	
その他	8 月上旬に行われる学類作品展の設営・実施・撤去等に参加すること。 正課学外活動として見学会等が実施される場合、交通費は自己負担となる。 その他、課題において見学等が必要な場合、交通費は自己負担となる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	建築・インテリアデザイン分野における実務経験あり。インテリアデザイン等の実務に役立つ実習等を行う。

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-322	科目分類（～2024 年入学者）	141-320-23（Ｊ）	授業コード	FG1312
科目名称	ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅠ			単位数	1.0 単位
英文名称	Interior Design　Seminar Ⅰ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	榎本　文夫			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	榎本　文夫			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期　火曜日 09:00～12:00 後期　水曜日 09:00～12:00			研究室	1-204
授業概要	木を使った小物の企画、デザイン、制作、展示、販売までを経験する課題解決型学修。 環境問題を意識しながら木の未利用材や廃材の利活用について研究し、アップサイクルによる小物の制作を行い、りんどう祭で展示・販売を行う。 その際の展示やサインまでデザインする。 また、夏休みに毎週 2 回の制作ワークショップを行う。参加は必須とする。 学外で学びの専門性を生かしたボランティアや地域貢献活動も行うことがある。 就職活動に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。				
到達目標	三年スタジオの活動を通して、4 年次のスタジオ研究または卒業研究へ向けて専門性を身に付け、 制作技術のスキルアップとプレゼンテーション能力等を高めることを目的とする。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	榎本　文夫	【第 1 回】 予習　：授業準備 授業　：ガイダンス　課題 1　課題説明 復習　：授業計画内容の確認
2	榎本　文夫	【第 2 回】 予習　：社会人基礎力を学ぶ　準備 授業　：社会人基礎力を学ぶ(※他スタジオと合同授業) 復習　：社会人基礎力を学ぶ　授業内容の見直し
3	榎本　文夫	【第 3 回】 予習　：材料スギ、ヒノキ、マツについての予習 授業　：材料研究ー針葉樹（スギ、ヒノキ、マツ） 復習　：授業内容の確認
4	榎本　文夫	【第 4 回】 予習　：デザインスケッチをしておく 授業　：制作のためのデザインスケッチ 復習　：デザインの整理
5	榎本　文夫	【第 5 回】 予習　：デザインプレゼンテーションの準備 授業　：　デザインプレゼンテーション 復習　：発表における反省点の整理、制作の準備
6	榎本　文夫	【第 6 回】 予習　：制作の準備 授業　：制作 1 復習　：その日の作業の反省と問題点の整理
7	榎本　文夫	【第 7 回】 予習　：問題点に対する解決のための準備 授業　：制作 2 復習　：その日の作業の反省と問題点の整理
8	榎本　文夫	【第 8 回】 予習　：問題点に対する解決のための準備 授業　：制作 3 復習　：課題 1　最終講評内容の整理
9	榎本　文夫	【第 9 回】 予習　：問題点に対する解決のための準備 授業　：制作 4 復習　：その日の作業の反省と問題点の整理
10	榎本　文夫	【第 10 回】 予習　：問題点に対する解決のための準備 授業　：制作 5 復習　：その日の作業の反省と問題点の整理

11	榎本　文夫	【第 11 回】 予習　：問題点の整理と解決のための準備 授業　：制作 6 復習　：その日の作業の反省と問題点の整理
12	榎本　文夫	【第 12 回】 予習　：問題点の整理と解決のための準備 授業　：制作 7 復習　：その日の作業の反省と問題点の整理
13	榎本　文夫	【第 13 回】 予習　：問題点の整理と解決のための準備 授業　：制作 8 復習　：その日の作業の反省と問題点の整理
14	榎本　文夫	【第 14 回】 予習　：問題点の整理と解決のための準備 授業　：制作 9 復習　：その日の作業の反省と問題点の整理、プレゼンテーションの準備
15	榎本　文夫	【第 15 回】 予習　：プレゼンテーションの準備 授業　：プレゼンテーション 復習　：その日の作業の反省と問題点の整理、夏のワークショップに向けての準備

授業開始前学習	制作する小物についてのアイデア提案や、使う樹種について調べておく。 アップサイクルについて調べる。
授業内課題のフィードバックの方法	デザインスケッチや試作の段階で行う講評や指導、また最終日のプレゼンテーションやレポートにより問題点の振り返りを行う。
テキスト・教材	
参考書	
評価の基準と方法	提出物、授業への積極性などにより総合的に評価。 評価は成果物 50%、レポート 30%、受講態度 20%。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		◎	○

関連科目	「加工・材料学」「家具デザイン I」「家具デザイン II」「家具デザイン III」 特に、「家具デザイン I」は履修済であること（※必須）、「加工・材料学」は履修済又は同時履修（※必須）であること。
その他	学外でボランティアや地域貢献活動を行う予定。その際に掛かる費用は自己負担とする。 その他、学外での見学レポート課題がある。その際の交通費等の経費は自己負担となる。 「家具デザイン I」の履修済であること、及び「加工・材料学」を履修済、又は同時履修のこと。 「家具デザイン II」を履修中であることを強く推奨。 夏休みに週 2 で制作ワークショップを行うので参加(※必修)すること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	実務経験のある教員が担当。実際に木を使ったものづくりや加工技術の学びを経験することができる。

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-322 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	141-320-23 （Ｊ）	授業コード	FG1313
科目名称	ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅠ			単位数	1.0 単位
英文名称	Interior Design　Seminar Ⅰ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	神村　真由美			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	神村　真由美			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期　木曜日 14:30～17:30 後期　木曜日 14:30～17:30			研究室	1-201
授業概要	これまでの学科における学びを踏まえ、選択する専門分野におけるテーマを研究・考察する。実習やプレゼンテーション、グループワーク等を通して、4 年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、専門分野の知識を深め、技術力や実践力を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。				
到達目標	与えられた課題の要点を正しく理解し、的確な計画を立てて実行できること。それらを適切な手段で表現し、明快に人に伝えられること。またこれらを通して社会人としての基本的な心構えを身に付けること。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	神村　真由美	【第 1 回】 予習　：授業準備 授業　：ガイダンス　課題 1　課題説明 復習　：授業計画内容の確認
2	神村　真由美	【第 2 回】 予習　：社会人基礎力を学ぶ　準備 授業　：社会人基礎力を学ぶ 復習　：社会人基礎力を学ぶ　内容の見直し
3	神村　真由美	【第 3 回】 予習　：課題 1　参考事例調査・収集 授業　：課題 1　エスキス①　参考事例報告（発表） 復習　：課題 1　参考事例報告を受けた資料整理
4	神村　真由美	【第 4 回】 予習　：課題 1　エスキス準備 授業　：課題 1　エスキス②　計画（実習） 復習　：課題 1　エスキス内容の整理
5	神村　真由美	【第 5 回】 予習　：課題 1　中間発表準備 授業　：課題 1　中間発表・講評（プレゼンテーション） 復習　：課題 1　中間講評内容の整理
6	神村　真由美	【第 6 回】 予習　：課題 1　エスキス準備 授業　：課題 1　エスキス③　展開（実習） 復習　：課題 1　エスキス内容の展開
7	神村　真由美	【第 7 回】 予習　：課題 1　エスキス準備 授業　：課題 1　エスキス④　制作（実習） 復習　：課題 1　エスキス内容を受けた制作作業
8	神村　真由美	【第 8 回】 予習　：課題 1　最終発表準備 授業　：課題 1　最終発表・講評（プレゼンテーション） 復習　：課題 1　最終講評内容の整理
9	神村　真由美	【第 9 回】 予習　：課題 2　参考事例調査・収集 授業　：課題 2　課題説明　参考事例報告（発表） 復習　：課題 2　参考事例報告を受けた資料整理
10	神村　真由美	【第 10 回】 予習　：課題 2　エスキス準備 授業　：課題 2　エスキス①　計画（実習） 復習　：課題 2　エスキス内容の整理・計画
11	神村　真由美	【第 11 回】 予習　：課題 2　エスキス準備 授業　：課題 2　エスキス②　展開（実習） 復習　：課題 2　エスキス内容の展開

12	神村　真由美	【第 12 回】 予習　：課題２　エスキス準備 授業　：課題２　エスキス③　制作（実習） 復習　：課題２　エスキス内容を受けた制作
13	神村　真由美	【第 13 回】 予習　：課題２　最終発表準備 授業　：課題２　最終発表・講評（プレゼンテーション） 復習　：課題２　最終講評内容の整理
14	神村　真由美	【第 14 回】 予習　：課題３　学科作品展　計画準備 授業　：課題３　学科作品展　計画説明、作業（グループワーク） 復習　：課題３　学科作品展　準備作業
15	神村　真由美	【第 15 回】 予習　：課題３　学科作品展　準備作業 授業　：課題３　学科作品展　実施（プレゼンテーション） 復習　：課題３　学科作品展　内容整理

授業開始前学習	これまでの授業を振り返り、実習授業の作品をポートフォリオにまとめること。
授業内課題のフィードバックの方法	各課題の提出・発表後に講評を行う。
テキスト・教材	資料・プリント等を適宜配布する。
参考書	
評価の基準と方法	提出物、受講態度などにより評価する。 配点は提出物 50%、発表内容・受講態度等 50%。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		◎	○

関連科目	
その他	8 月上旬に行われる学類作品展の設営・実施・撤去等に参加すること。 正課学外活動として見学会等が実施される場合、交通費は自己負担となる。 その他、課題において見学等が必要な場合、交通費は自己負担となる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	建築・インテリアデザイン分野における実務経験あり。インテリアデザイン等の実務に役立つ実習等を行う。

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-322 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	141-320-23 （Ｊ）	授業コード	FG1314
科目名称	ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅠ			単位数	1.0 単位
英文名称	Interior Design　Seminar Ⅰ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	橘田　洋子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	橘田　洋子			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期　火曜日 16:20～17:50　木曜日 14:40～16:10 後期　火曜日 13:00～14:30　木曜日 14:40～16:10			研究室	1-206
授業概要	これまでの学科における学びを踏まえ、選択する専門分野におけるテーマを研究・考察する。実習やプレゼンテーション、グループワーク等を通して、4 年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、専門分野の知識を深め、技術力や実践力を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。				
到達目標	与えられた課題の要点を正しく理解し、的確な計画を立てて実行できること。それらを適切な手段で表現し、明快に人に伝えられること。またこれらを通して社会人としての基本的な心構えを身に付けること。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	橘田　洋子	【第 1 回】 予習　：授業準備 授業　：ガイダンス　課題 1　課題説明 復習　：授業計画内容の確認
2	橘田　洋子	【第 2 回】 予習　：社会人基礎力を学ぶ　準備 授業　：社会人基礎力を学ぶ 復習　：社会人基礎力を学ぶ　内容の見直し
3	橘田　洋子	【第 3 回】 予習　：課題 1　参考事例調査・収集 授業　：課題 1　エスキス①　参考事例報告（発表） 復習　：課題 1　参考事例報告を受けた資料整理
4	橘田　洋子	【第 4 回】 予習　：課題 1　エスキス準備 授業　：課題 1　エスキス②　計画（実習） 復習　：課題 1　エスキス内容の整理
5	橘田　洋子	【第 5 回】 予習　：課題 1　中間発表準備 授業　：課題 1　中間発表・講評（プレゼンテーション） 復習　：課題 1　中間講評内容の整理
6	橘田　洋子	【第 6 回】 予習　：課題 1　エスキス準備 授業　：課題 1　エスキス③　展開（実習） 復習　：課題 1　エスキス内容の展開
7	橘田　洋子	【第 7 回】 予習　：課題 1　エスキス準備 授業　：課題 1　エスキス④　制作（実習） 復習　：課題 1　エスキス内容を受けた制作作業
8	橘田　洋子	【第 8 回】 予習　：課題 1　最終発表準備 授業　：課題 1　最終発表・講評（プレゼンテーション） 復習　：課題 1　最終講評内容の整理
9	橘田　洋子	【第 9 回】 予習　：課題 2　参考事例調査・収集 授業　：課題 2　課題説明　参考事例報告（発表） 復習　：課題 2　参考事例報告を受けた資料整理
10	橘田　洋子	【第 10 回】 予習　：課題 2　エスキス準備 授業　：課題 2　エスキス①　計画（実習） 復習　：課題 2　エスキス内容の整理・計画
11	橘田　洋子	【第 11 回】 予習　：課題 2　エスキス準備 授業　：課題 2　エスキス②　展開（実習） 復習　：課題 2　エスキス内容の展開

12	橘田　洋子	【第 12 回】 予習　：課題２　エスキス準備 授業　：課題２　エスキス③　制作（実習） 復習　：課題２　エスキス内容を受けた制作
13	橘田　洋子	【第 13 回】 予習　：課題２　最終発表準備 授業　：課題２　最終発表・講評（プレゼンテーション） 復習　：課題２　最終講評内容の整理
14	橘田　洋子	【第 14 回】 予習　：課題３　学科作品展　計画準備 授業　：課題３　学科作品展　計画説明、作業（グループワーク） 復習　：課題３　学科作品展　準備作業
15	橘田　洋子	【第 15 回】 予習　：課題３　学科作品展　準備作業 授業　：課題３　学科作品展　実施（プレゼンテーション） 復習　：課題３　学科作品展　内容整理

授業開始前学習	これまでの授業を振り返り、実習授業の作品をポートフォリオにまとめること。
授業内課題のフィードバックの方法	各課題の提出・発表後に講評を行う。
テキスト・教材	資料・プリント等を適宜配布する。
参考書	
評価の基準と方法	提出物、受講態度などにより評価する。 配点は提出物 50%、発表内容・受講態度等 50%。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		◎	○

関連科目	
その他	8 月上旬に行われる学類作品展の設営・実施・撤去等に参加すること。 正課学外活動として見学会等が実施される場合、交通費は自己負担となる。 その他、課題において見学等が必要な場合、交通費は自己負担となる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	建築・インテリアデザイン分野における実務経験あり。インテリアデザイン等の実務に役立つ実習等を行う。

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-322 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	141-320-23 （Ｊ）	授業コード	FG1315
科目名称	ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅠ			単位数	1.0 単位
英文名称	Interior Design　Seminar Ⅰ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	佐藤　勉			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	佐藤　勉			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期　火曜日 10:40～12:10　火曜日 13:00～14:30 後期　火曜日 10:40～12:10　火曜日 13:00～14:30			研究室	1-202
授業概要	これまでの学科における学びを踏まえ、選択する専門分野におけるテーマを研究・考察する。実習やプレゼンテーション、グループワーク等を通して、4 年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、専門分野の知識を深め、技術力や実践力を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。				
到達目標	与えられた課題の要点を正しく理解し、的確な計画を立てて実行できること。それらを適切な手段で表現し、明快に人に伝えられること。またこれらを通して社会人としての基本的な心構えを身に付けること。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	佐藤　勉	【第 1 回】 予習　：授業準備 授業　：ガイダンス　課題 1　課題説明 復習　：授業計画内容の確認
2	佐藤　勉	【第 2 回】 予習　：社会人基礎力を学ぶ　準備 授業　：社会人基礎力を学ぶ 復習　：社会人基礎力を学ぶ　内容の見直し
3	佐藤　勉	【第 3 回】 予習　：課題 1　参考事例調査・収集 授業　：課題 1　エスキス①　参考事例報告（発表） 復習　：課題 1　参考事例報告を受けた資料整理
4	佐藤　勉	【第 4 回】 予習　：課題 1　エスキス準備 授業　：課題 1　エスキス②　計画（実習） 復習　：課題 1　エスキス内容の整理
5	佐藤　勉	【第 5 回】 予習　：課題 1　中間発表準備 授業　：課題 1　中間発表・講評（プレゼンテーション） 復習　：課題 1　中間講評内容の整理
6	佐藤　勉	【第 6 回】 予習　：課題 1　エスキス準備 授業　：課題 1　エスキス③　展開（実習） 復習　：課題 1　エスキス内容の展開
7	佐藤　勉	【第 7 回】 予習　：課題 1　エスキス準備 授業　：課題 1　エスキス④　制作（実習） 復習　：課題 1　エスキス内容を受けた制作作業
8	佐藤　勉	【第 8 回】 予習　：課題 1　最終発表準備 授業　：課題 1　最終発表・講評（プレゼンテーション） 復習　：課題 1　最終講評内容の整理
9	佐藤　勉	【第 9 回】 予習　：課題 2　参考事例調査・収集 授業　：課題 2　課題説明　参考事例報告（発表） 復習　：課題 2　参考事例報告を受けた資料整理
10	佐藤　勉	【第 10 回】 予習　：課題 2　エスキス準備 授業　：課題 2　エスキス①　計画（実習） 復習　：課題 2　エスキス内容の整理・計画
11	佐藤　勉	【第 11 回】 予習　：課題 2　エスキス準備 授業　：課題 2　エスキス②　展開（実習） 復習　：課題 2　エスキス内容の展開

12	佐藤　勉	【第 12 回】 予習　：課題２　エスキス準備 授業　：課題２　エスキス③　制作（実習） 復習　：課題２　エスキス内容を受けた制作
13	佐藤　勉	【第 13 回】 予習　：課題２　最終発表準備 授業　：課題２　最終発表・講評（プレゼンテーション） 復習　：課題２　最終講評内容の整理
14	佐藤　勉	【第 14 回】 予習　：課題３　学科作品展　計画準備 授業　：課題３　学科作品展　計画説明、作業（グループワーク） 復習　：課題３　学科作品展　準備作業
15	佐藤　勉	【第 15 回】 予習　：課題３　学科作品展　準備作業 授業　：課題３　学科作品展　実施（プレゼンテーション） 復習　：課題３　学科作品展　内容整理

授業開始前学習	これまでの授業を振り返り、実習授業の作品をポートフォリオにまとめること。
授業内課題のフィードバックの方法	各課題の提出・発表後に講評を行う。
テキスト・教材	資料・プリント等を適宜配布する。
参考書	
評価の基準と方法	提出物、受講態度などにより評価する。 配点は提出物 50%、発表内容・受講態度等 50%。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		◎	○

関連科目	
その他	8 月上旬に行われる学類作品展の設営・実施・撤去等に参加すること。 正課学外活動として見学会等が実施される場合、交通費は自己負担となる。 その他、課題において見学等が必要な場合、交通費は自己負担となる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	建築・インテリアデザイン分野における実務経験あり。インテリアデザイン等の実務に役立つ実習等を行う。

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-322 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	141-320-23 （Ｊ）	授業コード	FG1316
科目名称	ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅠ			単位数	1.0 単位
英文名称	Interior Design　Seminar Ⅰ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	山崎　陽菜			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	山崎　陽菜			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期　火曜日 11:00～12:30　金曜日 09:00～10:30 後期　水曜日 14:30～16:00　金曜日 09:00～10:30			研究室	2-201
授業概要	これまでの学科における学びを踏まえ、選択する専門分野におけるテーマを研究・考察する。実習やプレゼンテーション、グループワーク等を通して、4 年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、専門分野の知識を深め、技術力や実践力を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。				
到達目標	与えられた課題の要点を正しく理解し、的確な計画を立てて実行できること。それらを適切な手段で表現し、明快に人に伝えられること。またこれらを通して社会人としての基本的な心構えを身に付けること。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	山崎　陽菜	【第 1 回】 予習　：授業準備 授業　：ガイダンス　課題 1　課題説明 復習　：授業計画内容の確認
2	山崎　陽菜	【第 2 回】 予習　：社会人基礎力を学ぶ　準備 授業　：社会人基礎力を学ぶ 復習　：社会人基礎力を学ぶ　内容の見直し
3	山崎　陽菜	【第 3 回】 予習　：課題 1　参考事例調査・収集 授業　：課題 1　エスキス①　参考事例報告（発表） 復習　：課題 1　参考事例報告を受けた資料整理
4	山崎　陽菜	【第 4 回】 予習　：課題 1　エスキス準備 授業　：課題 1　エスキス②　計画（実習） 復習　：課題 1　エスキス内容の整理
5	山崎　陽菜	【第 5 回】 予習　：課題 1　中間発表準備 授業　：課題 1　中間発表・講評（プレゼンテーション） 復習　：課題 1　中間講評内容の整理
6	山崎　陽菜	【第 6 回】 予習　：課題 1　エスキス準備 授業　：課題 1　エスキス③　展開（実習） 復習　：課題 1　エスキス内容の展開
7	山崎　陽菜	【第 7 回】 予習　：課題 1　エスキス準備 授業　：課題 1　エスキス④　制作（実習） 復習　：課題 1　エスキス内容を受けた制作作業
8	山崎　陽菜	【第 8 回】 予習　：課題 1　最終発表準備 授業　：課題 1　最終発表・講評（プレゼンテーション） 復習　：課題 1　最終講評内容の整理
9	山崎　陽菜	【第 9 回】 予習　：課題 2　参考事例調査・収集 授業　：課題 2　課題説明　参考事例報告（発表） 復習　：課題 2　参考事例報告を受けた資料整理
10	山崎　陽菜	【第 10 回】 予習　：課題 2　エスキス準備 授業　：課題 2　エスキス①　計画（実習） 復習　：課題 2　エスキス内容の整理・計画
11	山崎　陽菜	【第 11 回】 予習　：課題 2　エスキス準備 授業　：課題 2　エスキス②　展開（実習） 復習　：課題 2　エスキス内容の展開

12	山崎　陽菜	【第 12 回】 予習　：課題２　エスキス準備 授業　：課題２　エスキス③　制作（実習） 復習　：課題２　エスキス内容を受けた制作
13	山崎　陽菜	【第 13 回】 予習　：課題２　最終発表準備 授業　：課題２　最終発表・講評（プレゼンテーション） 復習　：課題２　最終講評内容の整理
14	山崎　陽菜	【第 14 回】 予習　：課題３　学科作品展　計画準備 授業　：課題３　学科作品展　計画説明、作業（グループワーク） 復習　：課題３　学科作品展　準備作業
15	山崎　陽菜	【第 15 回】 予習　：課題３　学科作品展　準備作業 授業　：課題３　学科作品展　実施（プレゼンテーション） 復習　：課題３　学科作品展　内容整理

授業開始前学習	これまでの授業を振り返り、実習授業の作品をポートフォリオにまとめること。
授業内課題のフィードバックの方法	各課題の提出・発表後に講評を行う。
テキスト・教材	資料・プリント等を適宜配布する。
参考書	
評価の基準と方法	提出物、受講態度などにより評価する。 配点は提出物 50%、発表内容・受講態度等 50%。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		◎	○

関連科目	
その他	8 月上旬に行われる学類作品展の設営・実施・撤去等に参加すること。 正課学外活動として見学会等が実施される場合、交通費は自己負担となる。 その他、課題において見学等が必要な場合、交通費は自己負担となる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	建築・インテリアデザイン分野における実務経験あり。インテリアデザイン等の実務に役立つ実習等を行う。

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-322 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	141-320-23 （Ｊ）	授業コード	FG1321
科目名称	ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	Interior Design　Seminar Ⅱ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	李　志炯			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	李　志炯			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期　火曜日 09:00～10:30　水曜日 14:40～16:10 後期　火曜日 09:00～10:30　水曜日 16:20～17:50			研究室	1-207
授業概要	前期のスタジオⅠに引き続き、選択する専門分野におけるテーマを研究・考察する。実習やプレゼンテーション、グループワーク等を通して、4 年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、選択する専門分野の知識を深め、技術力や実践力を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。				
到達目標	与えられた課題の要点を正しく理解し、的確な計画を立てて実行できること。それらを適切な手段で表現し、明快に人に伝えられること。またこれらを通して社会人としての基本的な心構えを身に付けること。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	李　志炯	【第 1 回】 予習　：学外実習報告会　事前準備 授業　：学外実習報告会 復習　：学外実習報告会　内容の整理
2	李　志炯	【第 2 回】 予習　：社会人基礎力を学ぶ　準備 授業　：社会人基礎力を学ぶ 復習　：社会人基礎力を学ぶ　内容の整理
3	李　志炯	【第 3 回】 予習　：課題 1　課題準備 授業　：課題 1　課題説明、作業内容の検討 復習　：課題 1　事例調査・収集作業
4	李　志炯	【第 4 回】 予習　：課題 1　事例調査・収集作業 授業　：課題 1　エスキス①　事例調査報告（発表） 復習　：課題 1　事例調査報告を受けた内容の整理
5	李　志炯	【第 5 回】 予習　：課題 1　エスキス準備 授業　：課題 1　エスキス②　計画（実習） 復習　：課題 1　エスキス内容の整理・計画
6	李　志炯	【第 6 回】 予習　：社会人応用力を学ぶ　準備 授業　：社会人応用力を学ぶ 復習　：社会人応用力を学ぶ　内容の整理
7	李　志炯	【第 7 回】 予習　：課題 1　エスキス準備 授業　：課題 1　エスキス③　計画（実習） 復習　：課題 1　エスキス内容の整理・計画
8	李　志炯	【第 8 回】 予習　：課題 1　エスキス準備 授業　：課題 1　エスキス④　展開（実習） 復習　：課題 1　エスキス内容の整理・展開
9	李　志炯	【第 9 回】 予習　：課題 1　中間発表　準備 授業　：課題 1　中間発表・講評（プレゼンテーション） 復習　：課題 1　中間講評　内容の整理
10	李　志炯	【第 10 回】 予習　：課題 1　エスキス準備 授業　：課題 1　エスキス⑤　展開（実習） 復習　：課題 1　エスキス内容の展開
11	李　志炯	【第 11 回】 予習　：課題 1　エスキス準備 授業　：課題 1　エスキス⑥　制作（実習） 復習　：課題 1　エスキス内容を受けた制作

12	李 志炯	【第 12 回】 予習 ：社会人実践力を学ぶ 準備 授業 ：社会人実践力を学ぶ 復習 ：社会人実践力を学ぶ 内容の整理
13	李 志炯	【第 13 回】 予習 ：課題１ エスキス準備 授業 ：課題１ エスキス⑦ 制作（実習） 復習 ：課題１ エスキス内容を受けた制作
14	李 志炯	【第 14 回】 予習 ：卒業研究から学ぶ 事前準備 授業 ：卒業研究から学ぶ 復習 ：卒業研究から学ぶ 内容の整理
15	李 志炯	【第 15 回】 予習 ：課題１ 最終発表 準備 授業 ：課題１ 最終発表・講評（プレゼンテーション） 復習 ：課題１ 最終講評 内容の整理

授業開始前学習	これまでの授業を振り返り、実習授業の作品をポートフォリオにまとめること。
授業内課題のフィードバックの方法	各課題の提出・発表後に講評を行う。
テキスト・教材	資料・プリント等を適宜配布する。
参考書	
評価の基準と方法	提出物、受講態度などにより評価する。 評価は提出物 50%、発表内容・受講態度等 50%。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		◎	○

関連科目	
その他	「卒業研究から学ぶ」授業では卒業制作合評会に参加すること。 正課学外活動として見学会等が実施される場合、交通費は自己負担となる。 その他、課題において見学等が必要な場合、交通費は自己負担となる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	建築・インテリアデザイン分野における実務経験あり。インテリアデザイン等の実務に役立つ実習等を行う。

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-322 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	141-320-23（Ｊ）	授業コード	FG1322
科目名称	ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	Interior Design　Seminar Ⅱ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	榎本　文夫			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	榎本　文夫			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期　火曜日 09:00～12:00 後期　水曜日 09:00～12:00			研究室	1-204
授業概要	前期インテリアデザインスタジオ I-b に引き続き、自分自身の研究テーマについての学びを深めていく。				
到達目標	インテリアデザインスタジオ I-b に引き続き、各自選択したテーマの研究・考察を進める。 また、プレゼンテーション、グループワーク等を通して、4 年次のスタジオ研究または卒業研究へ向けて、 選択したテーマへの知識を深め、制作する技術力や実践力を高めることを目的とする。 さらに就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	榎本　文夫	【第 1 回】 予習　：学外実習報告会のための事前準備 授業　：学外実習報告会（※他スタジオと合同授業） 復習　：学外実習報告会　内容の整理
2	榎本　文夫	【第 2 回】 予習　：社会人基礎力を学ぶための準備 授業　：社会人基礎力を学ぶ（※他スタジオと合同授業） 復習　：社会人基礎力を学ぶ　内容の整理
3	榎本　文夫	【第 3 回】 予習　：りんどう祭の展示方法を考える 授業　：りんどう祭の展示方法の検討 復習　：展示方法を整理しておくこと
4	榎本　文夫	【第 4 回】 予習　：りんどう祭の展示の準備の内容確認 授業　：りんどう祭の展示の準備 復習　：展示の問題点の整理、確認
5	榎本　文夫	【第 5 回】 予習　：りんどう祭での問題点を考える 授業　：りんどう祭の展示の振り返り 復習　：問題点の整理と反省をレポートする
6	榎本　文夫	【第 6 回】 予習　：社会人応用力を学ぶための準備 授業　：社会人応用力を学ぶ（※他スタジオと合同授業） 復習　：社会人応用力を学ぶ　内容の整理
7	榎本　文夫	【第 7 回】 予習　：4 年次に向けての研究テーマの検討 授業　：スタジオ研究テーマを考える 1 復習　：問題点の整理
8	榎本　文夫	【第 8 回】 予習　：4 年次に向けての研究テーマの検討 授業　：スタジオ研究テーマを考える 2 復習　：問題点の整理
9	榎本　文夫	【第 9 回】 予習　：4 年次に向けての研究テーマの検討 授業　：スタジオ研究テーマを考える 3 復習　：問題点の整理
10	榎本　文夫	【第 10 回】 予習　：4 年次に向けての研究テーマのための制作準備 授業　：研究テーマに沿った制作 1 復習　：問題点の整理

11	榎本　文夫	【第 11 回】 予習　：4 年次に向けての研究テーマのための制作準備 授業　：研究テーマに沿った制作 2 復習　：問題点の整理
12	榎本　文夫	【第 12 回】 予習　：社会人実践力を学ぶ　準備 授業　：社会人実践力を学ぶ（※他スタジオと合同授業） 復習　：社会人実践力を学ぶ　内容の整理 復習　：問題点の整理
13	榎本　文夫	【第 13 回】 予習　：4 年次に向けての研究テーマのための制作準備 授業　：研究テーマに沿った制作 4 復習　：問題点の整理
14	榎本　文夫	【第 14 回】 予習　：卒業研究から学ぶ　事前準備 授業　：卒業研究発表会見学（※他スタジオと合同授業） 復習　：卒業研究発表会見学レポート作成
15	榎本　文夫	【第 15 回】 予習　：後期ゼミのまとめ、講評会の準備 授業　：講評会 復習　：講評会の講評を受けて次年度の研究テーマに反映させる

授業開始前学習	自分が研究したいテーマの検討や事前調査。
授業内課題のフィードバックの方法	毎回の授業内においてスケッチや制作に対して行う講評、また最終講評会や提出レポートにより問題点の振り返りを行う。
テキスト・教材	各自の研究テーマに合わせて資料・プリント等を適宜配布。
参考書	各自の研究テーマに合わせ必要に応じて提案や情報の提供。
評価の基準と方法	提出物、受講態度などにより総合的に評価する。 評価は課題の提出物 70%、研究に対する積極性や受講態度など 30%。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		◎	○

関連科目	「加工・材料学」「家具デザイン I」「家具デザイン II」「家具デザイン III」「インテリアデザインスタジオ I-b」 特に、「加工・材料学」と「家具デザイン I」は履修済であること。
その他	学外でボランティアや地域貢献活動を行う予定。その際に掛かる費用は自己負担とする。 その他、課題において学外での見学会レポート課題があるが、交通費等のかかる経費は自己負担となる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	実務経験のある教員が担当。実際の木を使ったものづくりや加工技術の学びなどを経験することができる。

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-322 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	141-320-23（Ｊ）	授業コード	FG1323
科目名称	ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	Interior Design　Seminar Ⅱ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	神村　真由美			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	神村　真由美			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期　木曜日 14:30～17:30 後期　木曜日 14:30～17:30			研究室	1-201
授業概要	前期のスタジオⅠに引き続き、選択する専門分野におけるテーマを研究・考察する。実習やプレゼンテーション、グループワーク等を通して、4 年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、選択する専門分野の知識を深め、技術力や実践力を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。				
到達目標	与えられた課題の要点を正しく理解し、的確な計画を立てて実行できること。それらを適切な手段で表現し、明快に人に伝えられること。またこれらを通して社会人としての基本的な心構えを身に付けること。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	神村　真由美	【第 1 回】 予習　：学外実習報告会　事前準備 授業　：学外実習報告会 復習　：学外実習報告会　内容の整理
2	神村　真由美	【第 2 回】 予習　：社会人基礎力を学ぶ　準備 授業　：社会人基礎力を学ぶ 復習　：社会人基礎力を学ぶ　内容の整理
3	神村　真由美	【第 3 回】 予習　：課題 1　課題準備 授業　：課題 1　課題説明、作業内容の検討 復習　：課題 1　事例調査・収集作業
4	神村　真由美	【第 4 回】 予習　：課題 1　事例調査・収集作業 授業　：課題 1　エスキス①　事例調査報告（発表） 復習　：課題 1　事例調査報告を受けた内容の整理
5	神村　真由美	【第 5 回】 予習　：課題 1　エスキス準備 授業　：課題 1　エスキス②　計画（実習） 復習　：課題 1　エスキス内容の整理・計画
6	神村　真由美	【第 6 回】 予習　：社会人応用力を学ぶ　準備 授業　：社会人応用力を学ぶ 復習　：社会人応用力を学ぶ　内容の整理
7	神村　真由美	【第 7 回】 予習　：課題 1　エスキス準備 授業　：課題 1　エスキス③　計画（実習） 復習　：課題 1　エスキス内容の整理・計画
8	神村　真由美	【第 8 回】 予習　：課題 1　エスキス準備 授業　：課題 1　エスキス④　展開（実習） 復習　：課題 1　エスキス内容の整理・展開
9	神村　真由美	【第 9 回】 予習　：課題 1　中間発表　準備 授業　：課題 1　中間発表・講評（プレゼンテーション） 復習　：課題 1　中間講評　内容の整理
10	神村　真由美	【第 10 回】 予習　：課題 1　エスキス準備 授業　：課題 1　エスキス⑤　展開（実習） 復習　：課題 1　エスキス内容の展開
11	神村　真由美	【第 11 回】 予習　：課題 1　エスキス準備 授業　：課題 1　エスキス⑥　制作（実習） 復習　：課題 1　エスキス内容を受けた制作

12	神村　真由美	【第 12 回】 予習　：社会人実践力を学ぶ　準備 授業　：社会人実践力を学ぶ 復習　：社会人実践力を学ぶ　内容の整理
13	神村　真由美	【第 13 回】 予習　：課題１　エスキス準備 授業　：課題１　エスキス⑦　制作（実習） 復習　：課題１　エスキス内容を受けた制作
14	神村　真由美	【第 14 回】 予習　：卒業研究から学ぶ　事前準備 授業　：卒業研究から学ぶ 復習　：卒業研究から学ぶ　内容の整理
15	神村　真由美	【第 15 回】 予習　：課題１　最終発表　準備 授業　：課題１　最終発表・講評（プレゼンテーション） 復習　：課題１　最終講評　内容の整理

授業開始前学習	これまでの授業を振り返り、実習授業の作品をポートフォリオにまとめること。
授業内課題のフィードバックの方法	各課題の提出・発表後に講評を行う。
テキスト・教材	資料・プリント等を適宜配布する。
参考書	
評価の基準と方法	提出物、受講態度などにより評価する。 評価は提出物 50%、発表内容・受講態度等 50%。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		◎	○

関連科目	
その他	「卒業研究から学ぶ」授業では卒業制作合評会に参加すること。 正課学外活動として見学会等が実施される場合、交通費は自己負担となる。 その他、課題において見学等が必要な場合、交通費は自己負担となる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	建築・インテリアデザイン分野における実務経験あり。インテリアデザイン等の実務に役立つ実習等を行う。

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-322 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	141-320-23 （Ｊ）	授業コード	FG1324
科目名称	ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	Interior Design　Seminar Ⅱ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	橘田　洋子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	橘田　洋子			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期　火曜日 16:20～17:50　木曜日 14:40～16:10 後期　火曜日 13:00～14:30　木曜日 14:40～16:10			研究室	1-206
授業概要	前期のスタジオⅠに引き続き、選択する専門分野におけるテーマを研究・考察する。実習やプレゼンテーション、グループワーク等を通して、4 年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、選択する専門分野の知識を深め、技術力や実践力を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。				
到達目標	与えられた課題の要点を正しく理解し、的確な計画を立てて実行できること。それらを適切な手段で表現し、明快に人に伝えられること。またこれらを通して社会人としての基本的な心構えを身に付けること。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	橘田　洋子	【第 1 回】 予習　：学外実習報告会　事前準備 授業　：学外実習報告会 復習　：学外実習報告会　内容の整理
2	橘田　洋子	【第 2 回】 予習　：社会人基礎力を学ぶ　準備 授業　：社会人基礎力を学ぶ 復習　：社会人基礎力を学ぶ　内容の整理
3	橘田　洋子	【第 3 回】 予習　：課題 1　課題準備 授業　：課題 1　課題説明、作業内容の検討 復習　：課題 1　事例調査・収集作業
4	橘田　洋子	【第 4 回】 予習　：課題 1　事例調査・収集作業 授業　：課題 1　エスキス①　事例調査報告（発表） 復習　：課題 1　事例調査報告を受けた内容の整理
5	橘田　洋子	【第 5 回】 予習　：課題 1　エスキス準備 授業　：課題 1　エスキス②　計画（実習） 復習　：課題 1　エスキス内容の整理・計画
6	橘田　洋子	【第 6 回】 予習　：社会人応用力を学ぶ　準備 授業　：社会人応用力を学ぶ 復習　：社会人応用力を学ぶ　内容の整理
7	橘田　洋子	【第 7 回】 予習　：課題 1　エスキス準備 授業　：課題 1　エスキス③　計画（実習） 復習　：課題 1　エスキス内容の整理・計画
8	橘田　洋子	【第 8 回】 予習　：課題 1　エスキス準備 授業　：課題 1　エスキス④　展開（実習） 復習　：課題 1　エスキス内容の整理・展開
9	橘田　洋子	【第 9 回】 予習　：課題 1　中間発表　準備 授業　：課題 1　中間発表・講評（プレゼンテーション） 復習　：課題 1　中間講評　内容の整理
10	橘田　洋子	【第 10 回】 予習　：課題 1　エスキス準備 授業　：課題 1　エスキス⑤　展開（実習） 復習　：課題 1　エスキス内容の展開
11	橘田　洋子	【第 11 回】 予習　：課題 1　エスキス準備 授業　：課題 1　エスキス⑥　制作（実習） 復習　：課題 1　エスキス内容を受けた制作

12	橘田　洋子	【第 12 回】 予習　：社会人実践力を学ぶ　準備 授業　：社会人実践力を学ぶ 復習　：社会人実践力を学ぶ　内容の整理
13	橘田　洋子	【第 13 回】 予習　：課題１　エスキス準備 授業　：課題１　エスキス⑦　制作（実習） 復習　：課題１　エスキス内容を受けた制作
14	橘田　洋子	【第 14 回】 予習　：卒業研究から学ぶ　事前準備 授業　：卒業研究から学ぶ 復習　：卒業研究から学ぶ　内容の整理
15	橘田　洋子	【第 15 回】 予習　：課題１　最終発表　準備 授業　：課題１　最終発表・講評（プレゼンテーション） 復習　：課題１　最終講評　内容の整理

授業開始前学習	これまでの授業を振り返り、実習授業の作品をポートフォリオにまとめること。
授業内課題のフィードバックの方法	各課題の提出・発表後に講評を行う。
テキスト・教材	資料・プリント等を適宜配布する。
参考書	
評価の基準と方法	提出物、受講態度などにより評価する。 評価は提出物 50%、発表内容・受講態度等 50%。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		◎	○

関連科目	
その他	「卒業研究から学ぶ」授業では卒業制作合評会に参加すること。 正課学外活動として見学会等が実施される場合、交通費は自己負担となる。 その他、課題において見学等が必要な場合、交通費は自己負担となる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	建築・インテリアデザイン分野における実務経験あり。インテリアデザイン等の実務に役立つ実習等を行う。

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-322 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	141-320-23 （Ｊ）	授業コード	FG1325
科目名称	ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	Interior Design　Seminar Ⅱ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	佐藤　勉			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	佐藤　勉			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期　火曜日 10:40～12:10　火曜日 13:00～14:30 後期　火曜日 10:40～12:10　火曜日 13:00～14:30			研究室	1-202
授業概要	前期のスタジオⅠに引き続き、選択する専門分野におけるテーマを研究・考察する。実習やプレゼンテーション、グループワーク等を通して、4 年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、選択する専門分野の知識を深め、技術力や実践力を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。				
到達目標	与えられた課題の要点を正しく理解し、的確な計画を立てて実行できること。それらを適切な手段で表現し、明快に人に伝えられること。またこれらを通して社会人としての基本的な心構えを身に付けること。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	佐藤　勉	【第 1 回】 予習　：学外実習報告会　事前準備 授業　：学外実習報告会 復習　：学外実習報告会　内容の整理
2	佐藤　勉	【第 2 回】 予習　：社会人基礎力を学ぶ　準備 授業　：社会人基礎力を学ぶ 復習　：社会人基礎力を学ぶ　内容の整理
3	佐藤　勉	【第 3 回】 予習　：課題 1　課題準備 授業　：課題 1　課題説明、作業内容の検討 復習　：課題 1　事例調査・収集作業
4	佐藤　勉	【第 4 回】 予習　：課題 1　事例調査・収集作業 授業　：課題 1　エスキス①　事例調査報告（発表） 復習　：課題 1　事例調査報告を受けた内容の整理
5	佐藤　勉	【第 5 回】 予習　：課題 1　エスキス準備 授業　：課題 1　エスキス②　計画（実習） 復習　：課題 1　エスキス内容の整理・計画
6	佐藤　勉	【第 6 回】 予習　：社会人応用力を学ぶ　準備 授業　：社会人応用力を学ぶ 復習　：社会人応用力を学ぶ　内容の整理
7	佐藤　勉	【第 7 回】 予習　：課題 1　エスキス準備 授業　：課題 1　エスキス③　計画（実習） 復習　：課題 1　エスキス内容の整理・計画
8	佐藤　勉	【第 8 回】 予習　：課題 1　エスキス準備 授業　：課題 1　エスキス④　展開（実習） 復習　：課題 1　エスキス内容の整理・展開
9	佐藤　勉	【第 9 回】 予習　：課題 1　中間発表　準備 授業　：課題 1　中間発表・講評（プレゼンテーション） 復習　：課題 1　中間講評　内容の整理
10	佐藤　勉	【第 10 回】 予習　：課題 1　エスキス準備 授業　：課題 1　エスキス⑤　展開（実習） 復習　：課題 1　エスキス内容の展開
11	佐藤　勉	【第 11 回】 予習　：課題 1　エスキス準備 授業　：課題 1　エスキス⑥　制作（実習） 復習　：課題 1　エスキス内容を受けた制作

12	佐藤　勉	【第 12 回】 予習　：社会人実践力を学ぶ　準備 授業　：社会人実践力を学ぶ 復習　：社会人実践力を学ぶ　内容の整理
13	佐藤　勉	【第 13 回】 予習　：課題１　エスキス準備 授業　：課題１　エスキス⑦　制作（実習） 復習　：課題１　エスキス内容を受けた制作
14	佐藤　勉	【第 14 回】 予習　：卒業研究から学ぶ　事前準備 授業　：卒業研究から学ぶ 復習　：卒業研究から学ぶ　内容の整理
15	佐藤　勉	【第 15 回】 予習　：課題１　最終発表　準備 授業　：課題１　最終発表・講評（プレゼンテーション） 復習　：課題１　最終講評　内容の整理

授業開始前学習	これまでの授業を振り返り、実習授業の作品をポートフォリオにまとめること。
授業内課題のフィードバックの方法	各課題の提出・発表後に講評を行う。
テキスト・教材	資料・プリント等を適宜配布する。
参考書	
評価の基準と方法	提出物、受講態度などにより評価する。 評価は提出物 50%、発表内容・受講態度等 50%。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		◎	○

関連科目	
その他	「卒業研究から学ぶ」授業では卒業制作合評会に参加すること。 正課学外活動として見学会等が実施される場合、交通費は自己負担となる。 その他、課題において見学等が必要な場合、交通費は自己負担となる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	建築・インテリアデザイン分野における実務経験あり。インテリアデザイン等の実務に役立つ実習等を行う。

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-322 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	141-320-23 （Ｊ）	授業コード	FG1326
科目名称	ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	Interior Design　Seminar Ⅱ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	山崎　陽菜			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	山崎　陽菜			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期　火曜日 11:00～12:30　金曜日 09:00～10:30 後期　水曜日 14:30～16:00　金曜日 09:00～10:30			研究室	2-201
授業概要	前期のスタジオⅠに引き続き、選択する専門分野におけるテーマを研究・考察する。実習やプレゼンテーション、グループワーク等を通して、4 年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、選択する専門分野の知識を深め、技術力や実践力を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。				
到達目標	与えられた課題の要点を正しく理解し、的確な計画を立てて実行できること。それらを適切な手段で表現し、明快に人に伝えられること。またこれらを通して社会人としての基本的な心構えを身に付けること。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	山崎　陽菜	【第 1 回】 予習　：学外実習報告会　事前準備 授業　：学外実習報告会 復習　：学外実習報告会　内容の整理
2	山崎　陽菜	【第 2 回】 予習　：社会人基礎力を学ぶ　準備 授業　：社会人基礎力を学ぶ 復習　：社会人基礎力を学ぶ　内容の整理
3	山崎　陽菜	【第 3 回】 予習　：課題 1　課題準備 授業　：課題 1　課題説明、作業内容の検討 復習　：課題 1　事例調査・収集作業
4	山崎　陽菜	【第 4 回】 予習　：課題 1　事例調査・収集作業 授業　：課題 1　エスキス①　事例調査報告（発表） 復習　：課題 1　事例調査報告を受けた内容の整理
5	山崎　陽菜	【第 5 回】 予習　：課題 1　エスキス準備 授業　：課題 1　エスキス②　計画（実習） 復習　：課題 1　エスキス内容の整理・計画
6	山崎　陽菜	【第 6 回】 予習　：社会人応用力を学ぶ　準備 授業　：社会人応用力を学ぶ 復習　：社会人応用力を学ぶ　内容の整理
7	山崎　陽菜	【第 7 回】 予習　：課題 1　エスキス準備 授業　：課題 1　エスキス③　計画（実習） 復習　：課題 1　エスキス内容の整理・計画
8	山崎　陽菜	【第 8 回】 予習　：課題 1　エスキス準備 授業　：課題 1　エスキス④　展開（実習） 復習　：課題 1　エスキス内容の整理・展開
9	山崎　陽菜	【第 9 回】 予習　：課題 1　中間発表　準備 授業　：課題 1　中間発表・講評（プレゼンテーション） 復習　：課題 1　中間講評　内容の整理
10	山崎　陽菜	【第 10 回】 予習　：課題 1　エスキス準備 授業　：課題 1　エスキス⑤　展開（実習） 復習　：課題 1　エスキス内容の展開
11	山崎　陽菜	【第 11 回】 予習　：課題 1　エスキス準備 授業　：課題 1　エスキス⑥　制作（実習） 復習　：課題 1　エスキス内容を受けた制作

12	山崎　陽菜	【第 12 回】 予習　：社会人実践力を学ぶ　準備 授業　：社会人実践力を学ぶ 復習　：社会人実践力を学ぶ　内容の整理
13	山崎　陽菜	【第 13 回】 予習　：課題１　エスキス準備 授業　：課題１　エスキス⑦　制作（実習） 復習　：課題１　エスキス内容を受けた制作
14	山崎　陽菜	【第 14 回】 予習　：卒業研究から学ぶ　事前準備 授業　：卒業研究から学ぶ 復習　：卒業研究から学ぶ　内容の整理
15	山崎　陽菜	【第 15 回】 予習　：課題１　最終発表　準備 授業　：課題１　最終発表・講評（プレゼンテーション） 復習　：課題１　最終講評　内容の整理

授業開始前学習	これまでの授業を振り返り、実習授業の作品をポートフォリオにまとめること。
授業内課題のフィードバックの方法	各課題の提出・発表後に講評を行う。
テキスト・教材	資料・プリント等を適宜配布する。
参考書	
評価の基準と方法	提出物、受講態度などにより評価する。 評価は提出物 50%、発表内容・受講態度等 50%。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		◎	○

関連科目	
その他	「卒業研究から学ぶ」授業では卒業制作合評会に参加すること。 正課学外活動として見学会等が実施される場合、交通費は自己負担となる。 その他、課題において見学等が必要な場合、交通費は自己負担となる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	建築・インテリアデザイン分野における実務経験あり。インテリアデザイン等の実務に役立つ実習等を行う。

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-422	科目分類（～2024 年入学者）	141-320-24	授業コード	FG1331
科目名称	ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅢ			単位数	1.0 単位
英文名称	Interior Design　Seminar Ⅲ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	李　志炯			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	李　志炯			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　火曜日 09:00～10:30　水曜日 14:40～16:10 後期　火曜日 09:00～10:30　水曜日 16:20～17:50			研究室	1-207
授業概要	住空間は個人や家族の生活の拠点であり、人間生活の最も基本的な場である。人間にとって快適な住空間や環境とは何かを考えていく。そのためには、生活者の視点に立ち、人の動きや使われ方を多角的な視点で考察することが大切である。各自がテーマを探し、調査研究に基づいて、相手に伝わる表現方法を検討する。各段階では、ディスカッションやプレゼンテーションを行う。				
到達目標	各自のテーマを自ら設定し、社会的背景や成り立ちについて考察する。同時に調査や視察を通して具体的な研究テーマを決定する。また、お互いに発表する中から相手に伝わる表現方法を模索していく。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	李　志炯	【第 1 回】 予習　：シラバスを読み込む 授業　：オリエンテーション 復習　：授業計画の確認
2	李　志炯	【第 2 回】 予習　：研究テーマの検討 授業　：テーマを検討する（ディスカッション） 復習　：研究テーマの再検討
3	李　志炯	【第 3 回】 予習　：研究テーマに関する資料を収集 授業　：資料に基づいてテーマを検討する（ディスカッション） 復習　：不足する資料を収集する
4	李　志炯	【第 4 回】 予習　：研究テーマ発表準備 授業　：研究テーマ発表（プレゼンテーション） 復習　：研究テーマを決定する
5	李　志炯	【第 5 回】 予習　：文献検索を行い資料を収集する 授業　：事例研究①（ディスカッション） 復習　：不足する文献を収集する
6	李　志炯	【第 6 回】 予習　：事例を収集する 授業　：事例研究②（ディスカッション） 復習　：事例研究をまとめる
7	李　志炯	【第 7 回】 予習　：不足する事例を収集する 授業　：事例研究③（ディスカッション） 復習　：事例研究をまとめる
8	李　志炯	【第 8 回】 予習　：事例研究の発表準備 授業　：事例研究の発表（プレゼンテーション） 復習　：事例研究の確認と修正を行う
9	李　志炯	【第 9 回】 予習　：調査方法の検討 授業　：調査および研究①（ディスカッション） 復習　：調査方法を再検討する
10	李　志炯	【第 10 回】 予習　：関連資料の収集 授業　：調査および研究②（ディスカッション） 復習　：研究を進める
11	李　志炯	【第 11 回】 予習　：関連資料の収集 授業　：調査および研究③（ディスカッション） 復習　：研究を進める

12	李 志炯	【第 12 回】 予習 ：関連資料の収集 授業 ：調査および研究④（ディスカッション） 復習 ：研究を進める
13	李 志炯	【第 13 回】 予習 ：研究発表の準備 授業 ：研究発表（プレゼンテーション） 復習 ：研究の確認と修正を行う
14	李 志炯	【第 14 回】 予習 ：プレゼンテーション資料の準備 授業 ：表現方法を検討する（ディスカッション） 復習 ：プレゼンテーション資料を作成する
15	李 志炯	【第 15 回】 予習 ：発表準備 授業 ：発表とディスカッション（プレゼンテーション・ディスカッション） 復習 ：自己評価を行う

授業開始前学習	各自興味のあるテーマを模索し、関連する情報を収集しておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	授業前後および授業中に毎回個別にエスキースを繰り返し実施。
テキスト・教材	授業中にプリントを配布する他、必要に応じて指示する。
参考書	
評価の基準と方法	授業態度等 20%、課題提出 30%、研究成果 50%とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		○	◎

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-422 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	141-320-24 （Ｊ）	授業コード	FG1332
科目名称	ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅢ			単位数	1.0 単位
英文名称	Interior Design　Seminar Ⅲ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	榎本　文夫			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	榎本　文夫			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　火曜日 09:00～12:00 後期　水曜日 09:00～12:00			研究室	1-204
授業概要	木を使った小物の企画、デザイン、制作、展示、販売までを経験する課題解決型学修。 環境問題を意識しながら木の未利用材や廃材の利活用について研究し、アップサイクルによる小物の制作を行い、りんどう祭で展示・販売を行う。 その際の展示やサインまでデザインする。 また、夏休みに毎週ワークショップを行う。参加は必須。 学外で学びの専門性を生かしたボランティアや地域貢献活動も予定。 就職活動に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。				
到達目標	三年スタジオの活動を通して、4 年次のスタジオ研究または卒業研究へ向けて専門性を身に付け、 制作技術のスキルアップとプレゼンテーション能力等を高めることを目的とする。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	榎本　文夫	【第 1 回】 予習　：授業準備 授業　：ガイダンス　課題 1　課題説明 復習　：授業計画内容の確認
2	榎本　文夫	【第 2 回】 予習　：社会人基礎力を学ぶ　準備 授業　：社会人基礎力を学ぶ(※他スタジオと合同授業) 復習　：社会人基礎力を学ぶ　授業内容の見直し
3	榎本　文夫	【第 3 回】 予習　：材料スギ、ヒノキ、マツについての予習 授業　：材料研究ー針葉樹（スギ、ヒノキ、マツ） 復習　：授業内容の確認
4	榎本　文夫	【第 4 回】 予習　：デザインスケッチをしておく 授業　：制作のためのデザインスケッチ 復習　：デザインの整理
5	榎本　文夫	【第 5 回】 予習　：デザインプレゼンテーションの準備 授業　：　デザインプレゼンテーション 復習　：発表における反省点の整理、制作の準備
6	榎本　文夫	【第 6 回】 予習　：制作の準備 授業　：制作 1 復習　：その日の作業の反省と問題点の整理
7	榎本　文夫	【第 7 回】 予習　：問題点に対する解決のための準備 授業　：制作 2 復習　：その日の作業の反省と問題点の整理
8	榎本　文夫	【第 8 回】 予習　：問題点に対する解決のための準備 授業　：制作 3 復習　：課題 1　最終講評内容の整理
9	榎本　文夫	【第 9 回】 予習　：問題点に対する解決のための準備 授業　：制作 4 復習　：その日の作業の反省と問題点の整理
10	榎本　文夫	【第 10 回】 予習　：問題点に対する解決のための準備 授業　：制作 5 復習　：その日の作業の反省と問題点の整理

11	榎本　文夫	【第 11 回】 予習　：問題点の整理と解決のための準備 授業　：制作 6 復習　：その日の作業の反省と問題点の整理
12	榎本　文夫	【第 12 回】 予習　：問題点の整理と解決のための準備 授業　：制作 7 復習　：その日の作業の反省と問題点の整理
13	榎本　文夫	【第 13 回】 予習　：問題点の整理と解決のための準備 授業　：制作 8 復習　：その日の作業の反省と問題点の整理
14	榎本　文夫	【第 14 回】 予習　：問題点の整理と解決のための準備 授業　：制作 9 復習　：その日の作業の反省と問題点の整理、プレゼンテーションの準備
15	榎本　文夫	【第 15 回】 予習　：プレゼンテーションの準備 授業　：プレゼンテーション 復習　：その日の作業の反省と問題点の整理、夏のワークショップに向けての準備

授業開始前学習	制作する小物についてのアイデア提案や、使う樹種について調べておく。 アップサイクルについて調べる。
授業内課題のフィードバックの方法	デザインスケッチや試作の段階で行う講評や指導、また最終日のプレゼンテーションやレポートにより問題点の振り返りを行う。
テキスト・教材	
参考書	
評価の基準と方法	提出物、授業への積極性などにより総合的に評価。 評価は成果物 50%、レポート 30%、受講態度 20%。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		○	◎

関連科目	「加工・材料学」「家具デザイン I」「家具デザイン II」「家具デザイン III」 特に、「家具デザイン I」は履修済であること（※必須）、「加工・材料学」は履修済又は同時履修（※必須）であること。
その他	学外でボランティアや地域貢献活動を行う予定。その際に掛かる費用は自己負担とする。 その他、学外での見学レポート課題がある。その際の交通費等の経費は自己負担となる。 「家具デザイン I」の履修済であること、及び「加工・材料学」を履修済、又は同時履修のこと。 「家具デザイン II」を履修中であることを強く推奨。 夏休みに週 2 で制作ワークショップを行うので参加(※必修)すること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	実務経験のある教員が担当。実際に木を使ったものづくりや加工技術の学びを経験することができる。

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-422 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	141-320-24 （Ｊ）	授業コード	FG1333
科目名称	ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅢ			単位数	1.0 単位
英文名称	Interior Design　Seminar Ⅲ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	神村　真由美			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	神村　真由美			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　木曜日 14:30～17:30 後期　木曜日 14:30～17:30			研究室	1-201
授業概要	各自の関心や興味あるテーマを調査、考察し、提案や成果物を作成し発表する。 卒業研究に結びつくテーマを探す。これまでの学科における学びを踏まえ、自分に関心や興味のあるテーマを研究・考察する。授業ではディスカッションを含むエスキスやプレゼンテーションを行う。				
到達目標	研究・考察等の成果のまとめ・発表等を通して、4 年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、選択する専門分野の知識を深め、プレゼンテーション能力等を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	神村　真由美	【第 1 回】 予習　：テーマ考慮 授業　：ガイダンス 復習　：ガイダンスを受け、各自のスケジュールを作成する
2	神村　真由美	【第 2 回】 予習　：研究テーマを探求するための資料を探す 授業　：研究テーマ討論 1（ディスカッション） 復習　：討論 1 を受け、さらに資料を探求する
3	神村　真由美	【第 3 回】 予習　：研究テーマを探求するための資料を探す 授業　：研究テーマ討論（ディスカッション） 復習　：研究テーマ討論レビュー
4	神村　真由美	【第 4 回】 予習　：研究テーマを探求するための資料を探す 授業　：研究テーマを探求 1（実習） 復習　：研究テーマを探求するための資料を探す
5	神村　真由美	【第 5 回】 予習　：研究テーマを探求するための資料を探す 授業　：研究テーマを探求 2（実習） 復習　：ここまでの内容をまとめる
6	神村　真由美	【第 6 回】 予習　：中間発表準備 授業　：中間発表（発表・講評・ディスカッション） 復習　：中間発表レビュー
7	神村　真由美	【第 7 回】 予習　：詳細な調査研究の為の準備、及びスケジュール確認 授業　：調査研究 1（実習） 復習　：調査研究 1 復習
8	神村　真由美	【第 8 回】 予習　：調査研究 2 予習 授業　：調査研究 2（実習） 復習　：調査研究 2 復習
9	神村　真由美	【第 9 回】 予習　：調査研究 3 予習 授業　：調査研究 3（実習） 復習　：調査研究 3 復習
10	神村　真由美	【第 10 回】 予習　：プレゼンテーション準備 授業　：プレゼンテーション（プレゼンテーション） 復習　：プレゼンテーション復習
11	神村　真由美	【第 11 回】 予習　：スタジオエスキス 1 予習 授業　：スタジオエスキス 1（実習・ディスカッション） 復習　：スタジオエスキス 1 復習

12	神村　真由美	【第 12 回】 予習　：スタジオエスキス 2 予習 授業　：スタジオエスキス 2（実習・ディスカッション） 復習　：スタジオエスキス 2 復習
13	神村　真由美	【第 13 回】 予習　：スタジオエスキス 3 予習 授業　：スタジオエスキス 3（実習・ディスカッション） 復習　：スタジオエスキス 3 復習
14	神村　真由美	【第 14 回】 予習　：パネル制作準備 授業　：パネル制作（実習） 復習　：発表準備
15	神村　真由美	【第 15 回】 予習　：発表準備 授業　：発表（発表・講評・ディスカッション） 復習　：発表レビュー

授業開始前学習	CAD 技術の復習。 興味のある分野の参考事例を調べておく。
授業内課題のフィードバックの方法	質問には可能な限り都度回答する。また中間発表を重ねることで、学生間の学び合い促進する。各講評では全員へ抑えるべきポイントを伝達する。
テキスト・教材	必要に応じて、配布または指示する
参考書	必要に応じて、紹介する
評価の基準と方法	研究課題への計画的な取り組み等の受講態度 4 割、提出作品内容 5 割、プレゼンテーション 1 割を基準とし、総合的な判断に基づき評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		○	◎

関連科目	インテリアデザインスタジオ CIV
その他	調査、見学会参加などの交通費、入場料、制作物の材料費などは自己負担となる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	建築・インテリアデザイン分野における実務経験あり。インテリアデザイン等の実務に役立つ実習等を行う。

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-422 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	141-320-24（Ｊ）	授業コード	FG1334
科目名称	ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅢ			単位数	1.0 単位
英文名称	Interior Design　Seminar Ⅲ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	橘田　洋子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	橘田　洋子			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　火曜日 16:20～17:50　木曜日 14:40～16:10 後期　火曜日 13:00～14:30　木曜日 14:40～16:10			研究室	1-206
授業概要	インテリア空間ゼミの集大成として、住空間・商業空間のインテリア空間の研究をおこなう。 テーマ・研究手法・計画・表現手法～最終成果まで、ゼミ内でリサーチ・検討をして進める。 授業では、演習課題や課題発表などのワークを行う。				
到達目標	前期では、テーマ・研究手法・計画・表現手法を決定し、リサーチや研究の基礎作りを 終えることを目標とする。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	橘田　洋子	【第 1 回】 予習　：授業準備 授業　：ガイダンス 復習　：授業計画の確認
2	橘田　洋子	【第 2 回】 予習　：　研究テーマ　事前調査 授業　：研究テーマを探す（演習課題 1 ） 復習　：研究テーマ　資料収集
3	橘田　洋子	【第 3 回】 予習　：研究テーマ　資料収集 授業　：研究テーマの議論 復習　：研究テーマ議論内容整理
4	橘田　洋子	【第 4 回】 予習　：研究テーマ　資料分析 授業　：研究テーマの決定に向けての資料作り 復習　：研究テーマ　報告資料作成
5	橘田　洋子	【第 5 回】 予習　：中間発表準備 授業　：中間発表（課題発表 1 ） 復習　：中間発表のまとめ、資料整理
6	橘田　洋子	【第 6 回】 予習　：調査研究＆手法　事前調査 授業　：調査研究＆手法の検討＆エスキス（演習課題 2 ） 復習　：調査研究＆手法の検討＆エスキスのまとめ
7	橘田　洋子	【第 7 回】 予習　：調査研究＆手法　資料収集 授業　：調査研究＆手法　資料内容発表＆エスキス（課題発表 2 ） 復習　：調査研究＆手法　発表内容＆エスキスの整理
8	橘田　洋子	【第 8 回】 予習　：現場調査の事前準備 授業　：現場調査作業①~撮影・動向調査（演習課題 3 ） 復習　：現場調査作業①のまとめ
9	橘田　洋子	【第 9 回】 予習　：現場調査作業②の事前準備 授業　：現場調査作業②~測量（演習課題 4 ） 復習　：現場調査作業②のまとめ
10	橘田　洋子	【第 10 回】 予習　：現場調査作業③の事前準備 授業　：現場調査作業③~ヒヤリング(演習課題 5 ） 復習　：現場調査作業③のまとめ
11	橘田　洋子	【第 11 回】 予習　：現場調査作業④の事前準備 授業　：現場調査作業④~図面化（演習課題 6 ） 復習　：現場調査作業④のまとめ

12	橘田　洋子	【第 12 回】 予習　：現場調査作業⑤の事前準備 授業　：現場調査作業⑤~図面化２（演習課題７） 復習　：現場調査作業⑤のまとめ
13	橘田　洋子	【第 13 回】 予習　：現場調査作業ゼミ内報告準備 授業　：現場調査作業ゼミ内報告＆講評（課題発表３） 復習　：講評けての現場調査作業報告資料再整理
14	橘田　洋子	【第 14 回】 予習　：ダイアグラムの事前検討 授業　：ダイアグラムの検討作業&エスキス 復習　：ダイアグラムのまとめ作業
15	橘田　洋子	【第 15 回】 予習　：授業全体の振り返り、整理 授業　：後期計画検討 復習　：資料整理、まとめ

授業開始前学習	出来るだけ多くのデザインに触れるように。様々なインテリア空間を出来るだけ見るように。 デザインには経験のストックが重要。
授業内課題のフィードバックの方法	授業内および前後で、個別エスキースを繰り返し実施。
テキスト・教材	授業内で、適宜推薦・紹介をする。
参考書	授業内で、適宜推薦・紹介をする。
評価の基準と方法	出席回数が授業の３分の２未満は単位取得できない。 配点は、演習課題 70 点、平常点（授業態度・課題提出・課題発表）30 点とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		○	◎

関連科目	
その他	・見学や各自のテーマに基づく関係各所への見学・ヒヤリング・現場調査が別途時間に発生する。 ・またその際の交通費ほか必要経費は各自負担となる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	建築・インテリアデザイン分野における実務経験あり。インテリアデザイン等の実務に役立つ実習等を行う。

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-422	科目分類（～2024 年入学者）	141-320-24	授業コード	FG1335
科目名称	ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅢ			単位数	1.0 単位
英文名称	Interior Design　Seminar Ⅲ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	佐藤　勉			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	佐藤　勉			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　火曜日 10:40～12:10　火曜日 13:00～14:30 後期　火曜日 10:40～12:10　火曜日 13:00～14:30			研究室	1-202
授業概要	住空間は個人や家族の生活の拠点であり、人間生活の最も基本的な場である。人間にとって快適な住空間や環境とは何かを考えていく。そのためには、生活者の視点に立ち、人の動きや使われ方を多角的な視点で考察することが大切である。各自がテーマを探し、調査研究に基づいて、相手に伝わる表現方法を検討する。各段階では、ディスカッションやプレゼンテーションを行う。				
到達目標	各自のテーマを自ら設定し、社会的背景や成り立ちについて考察する。同時に調査や視察を通して具体的な研究テーマを決定する。また、お互いに発表する中から相手に伝わる表現方法を模索していく。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	佐藤　勉	【第 1 回】 予習　：シラバスを読み込む 授業　：オリエンテーション 復習　：授業計画の確認
2	佐藤　勉	【第 2 回】 予習　：研究テーマの検討 授業　：テーマを検討する（ディスカッション） 復習　：研究テーマの再検討
3	佐藤　勉	【第 3 回】 予習　：研究テーマに関する資料を収集 授業　：資料に基づいてテーマを検討する（ディスカッション） 復習　：不足する資料を収集する
4	佐藤　勉	【第 4 回】 予習　：研究テーマ発表準備 授業　：研究テーマ発表（プレゼンテーション） 復習　：研究テーマを決定する
5	佐藤　勉	【第 5 回】 予習　：文献検索を行い資料を収集する 授業　：事例研究①（ディスカッション） 復習　：不足する文献を収集する
6	佐藤　勉	【第 6 回】 予習　：事例を収集する 授業　：事例研究②（ディスカッション） 復習　：事例研究をまとめる
7	佐藤　勉	【第 7 回】 予習　：不足する事例を収集する 授業　：事例研究③（ディスカッション） 復習　：事例研究をまとめる
8	佐藤　勉	【第 8 回】 予習　：事例研究の発表準備 授業　：事例研究の発表（プレゼンテーション） 復習　：事例研究の確認と修正を行う
9	佐藤　勉	【第 9 回】 予習　：調査方法の検討 授業　：調査および研究①（ディスカッション） 復習　：調査方法を再検討する
10	佐藤　勉	【第 10 回】 予習　：関連資料の収集 授業　：調査および研究②（ディスカッション） 復習　：研究を進める
11	佐藤　勉	【第 11 回】 予習　：関連資料の収集 授業　：調査および研究③（ディスカッション） 復習　：研究を進める

12	佐藤　勉	【第 12 回】 予習　：関連資料の収集 授業　：調査および研究④（ディスカッション） 復習　：研究を進める
13	佐藤　勉	【第 13 回】 予習　：研究発表の準備 授業　：研究発表（プレゼンテーション） 復習　：研究の確認と修正を行う
14	佐藤　勉	【第 14 回】 予習　：プレゼンテーション資料の準備 授業　：表現方法を検討する（ディスカッション） 復習　：プレゼンテーション資料を作成する
15	佐藤　勉	【第 15 回】 予習　：発表準備 授業　：発表とディスカッション（プレゼンテーション・ディスカッション） 復習　：自己評価を行う

授業開始前学習	各自興味のあるテーマを模索し、関連する情報を収集しておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	授業前後および授業中に毎回個別にエスキースを繰り返し実施。
テキスト・教材	授業中にプリントを配布する他、必要に応じて指示する。
参考書	
評価の基準と方法	授業態度等 20%、課題提出 30%、研究成果 50%とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		○	◎

関連科目	
その他	調査・研究・制作等に関わる費用は自己負担とする。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-422	科目分類（～2024 年入学者）	141-320-24	授業コード	FG1336
科目名称	ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅢ			単位数	1.0 単位
英文名称	Interior Design　Seminar Ⅲ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	山崎　陽菜			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	山崎　陽菜			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　火曜日 11:00～12:30　金曜日 09:00～10:30 後期　水曜日 14:30～16:00　金曜日 09:00～10:30			研究室	2-201
授業概要	住空間は個人や家族の生活の拠点であり、人間生活の最も基本的な場である。人間にとって快適な住空間や環境とは何かを考えていく。そのためには、生活者の視点に立ち、人の動きや使われ方を多角的な視点で考察することが大切である。各自がテーマを探し、調査研究に基づいて、相手に伝わる表現方法を検討する。各段階では、ディスカッションやプレゼンテーションを行う。				
到達目標	各自のテーマを自ら設定し、社会的背景や成り立ちについて考察する。同時に調査や視察を通して具体的な研究テーマを決定する。また、お互いに発表する中から相手に伝わる表現方法を模索していく。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	山崎　陽菜	【第 1 回】 予習　：シラバスを読み込む 授業　：オリエンテーション 復習　：授業計画の確認
2	山崎　陽菜	【第 2 回】 予習　：研究テーマの検討 授業　：テーマを検討する（ディスカッション） 復習　：研究テーマの再検討
3	山崎　陽菜	【第 3 回】 予習　：研究テーマに関する資料を収集 授業　：資料に基づいてテーマを検討する（ディスカッション） 復習　：不足する資料を収集する
4	山崎　陽菜	【第 4 回】 予習　：研究テーマ発表準備 授業　：研究テーマ発表（プレゼンテーション） 復習　：研究テーマを決定する
5	山崎　陽菜	【第 5 回】 予習　：文献検索を行い資料を収集する 授業　：事例研究①（ディスカッション） 復習　：不足する文献を収集する
6	山崎　陽菜	【第 6 回】 予習　：事例を収集する 授業　：事例研究②（ディスカッション） 復習　：事例研究をまとめる
7	山崎　陽菜	【第 7 回】 予習　：不足する事例を収集する 授業　：事例研究③（ディスカッション） 復習　：事例研究をまとめる
8	山崎　陽菜	【第 8 回】 予習　：事例研究の発表準備 授業　：事例研究の発表（プレゼンテーション） 復習　：事例研究の確認と修正を行う
9	山崎　陽菜	【第 9 回】 予習　：調査方法の検討 授業　：調査および研究①（ディスカッション） 復習　：調査方法を再検討する
10	山崎　陽菜	【第 10 回】 予習　：関連資料の収集 授業　：調査および研究②（ディスカッション） 復習　：研究を進める
11	山崎　陽菜	【第 11 回】 予習　：関連資料の収集 授業　：調査および研究③（ディスカッション） 復習　：研究を進める

12	山崎　陽菜	【第 12 回】 予習　：関連資料の収集 授業　：調査および研究④（ディスカッション） 復習　：研究を進める
13	山崎　陽菜	【第 13 回】 予習　：研究発表の準備 授業　：研究発表（プレゼンテーション） 復習　：研究の確認と修正を行う
14	山崎　陽菜	【第 14 回】 予習　：プレゼンテーション資料の準備 授業　：表現方法を検討する（ディスカッション） 復習　：プレゼンテーション資料を作成する
15	山崎　陽菜	【第 15 回】 予習　：発表準備 授業　：発表とディスカッション（プレゼンテーション・ディスカッション） 復習　：自己評価を行う

授業開始前学習	各自興味のあるテーマを模索し、関連する情報を収集しておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	授業前後および授業中に毎回個別にエスキスを繰り返し実施。
テキスト・教材	必要に応じて指示する。
参考書	
評価の基準と方法	授業態度等 20%、課題提出 30%、研究成果 50%とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		○	◎

関連科目	
その他	調査・研究・制作等に関わる費用は自己負担とする。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-422	科目分類（～2024 年入学者）	141-320-24	授業コード	FG1341
科目名称	ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅣ			単位数	1.0 単位
英文名称	Interior Design　Seminar Ⅳ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	李　志炯			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	李　志炯			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　火曜日 09:00～10:30　水曜日 14:40～16:10 後期　火曜日 09:00～10:30　水曜日 16:20～17:50			研究室	1-207
授業概要	住空間は個人や家族の生活の拠点であり、人間生活の最も基本的な場である。人間にとって快適な住空間や環境とは何かを考えていく。そのためには、生活者の視点に立ち、人の動きや使われ方を多角的な視点で考察することが大切である。前期に決定したテーマと表現方法を踏まえて、調査研究を進めプレゼンテーションを実施する。各段階では、ディスカッションやプレゼンテーションを行う。				
到達目標	各自のテーマを自ら設定し、社会的背景や成り立ちについて考察する。同時に調査や視察を通して具体的な研究テーマを決定する。また、お互いに発表する中から相手に伝わる表現方法を模索していく。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	李　志炯	【第 1 回】 予習　：シラバスを読み込む 授業　：オリエンテーション 復習　：授業計画の確認
2	李　志炯	【第 2 回】 予習　：研究テーマの文献を調べる 授業　：テーマを再検討する（ディスカッション） 復習　：研究テーマの最終決定
3	李　志炯	【第 3 回】 予習　：研究テーマに関する文献資料を収集 授業　：調査および研究①（ディスカッション） 復習　：調査方法を再検討する
4	李　志炯	【第 4 回】 予習　：関連資料の収集 授業　：調査および研究②（ディスカッション） 復習　：研究を進める
5	李　志炯	【第 5 回】 予習　：関連資料の収集 授業　：調査および研究③（ディスカッション） 復習　：研究を進める
6	李　志炯	【第 6 回】 予習　：関連資料の収集 授業　：調査および研究④（ディスカッション） 復習　：研究を進める
7	李　志炯	【第 7 回】 予習　：研究発表の準備 授業　：研究発表①（プレゼンテーション） 復習　：研究の確認と修正を行う
8	李　志炯	【第 8 回】 予習　：研究発表の準備 授業　：研究発表②（プレゼンテーション） 復習　：研究の確認と修正を行う
9	李　志炯	【第 9 回】 予習　：関連資料の収集 授業　：調査および研究⑤（ディスカッション） 復習　：研究を進める
10	李　志炯	【第 10 回】 予習　：関連資料の収集 授業　：調査および研究⑥（ディスカッション） 復習　：研究を進める
11	李　志炯	【第 11 回】 予習　：プレゼンテーション資料の準備 授業　：表現方法を検討する（ディスカッション） 復習　：プレゼンテーション資料を作成する

12	李 志炯	【第 12 回】 予習 ：プレゼンテーション資料の準備 授業 ：プレゼンテーションの準備①（ディスカッション） 復習 ：プレゼンテーション資料を作成する
13	李 志炯	【第 13 回】 予習 ：プレゼンテーション資料の準備 授業 ：プレゼンテーションの準備②（ディスカッション） 復習 ：プレゼンテーション資料を作成する
14	李 志炯	【第 14 回】 予習 ：発表準備 授業 ：発表とディスカッション①（プレゼンテーション・ディスカッション） 復習 ：発表内容の確認
15	李 志炯	【第 15 回】 予習 ：発表準備 授業 ：発表とディスカッション②（プレゼンテーション・ディスカッション） 復習 ：自己評価を行う

授業開始前学習	各自興味のあるテーマを模索し、関連する情報を収集しておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	授業前後および授業中に毎回個別にエスキースを繰り返し実施。
テキスト・教材	授業中にプリントを配布する他、必要に応じて指示する。
参考書	
評価の基準と方法	授業態度等 20%、課題提出 30%、研究成果 50%とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		○	◎

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-422 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	141-320-24 （Ｊ）	授業コード	FG1342
科目名称	ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅣ			単位数	1.0 単位
英文名称	Interior Design　Seminar Ⅳ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	榎本　文夫			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	榎本　文夫			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　火曜日 09:00～12:00 後期　水曜日 09:00～12:00			研究室	1-204
授業概要	前期科目「インテリアデザインスタジオ III-b」での研究成果をさらに深め最終的な成果へ向けてまとめを行う。 特に制作の場合は、使用する素材についての特性や加工方法について研究を深めていく。課題解決型学修。				
到達目標	各自の研究テーマをさらに深め、最終成果にまとめることを目標とする。 制作を前提とした技術の習得や加工方法に対する知識を身に付け、自身の制作スキルを高めることも目標の一つである。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	榎本　文夫	【第 1 回】 予習　：前期までの研究内容を確認しておく 授業　：オリエンテーション、個別に研究内容への個別指導 1 復習　：指導に沿って研究方法や内容の見直しや修正確認
2	榎本　文夫	【第 2 回】 予習　：テーマに沿って調査研究を進める 授業　：各自の研究進捗状況報告及びそれに対する個別指導 2 復習　：指導に沿って研究方法や内容の見直しや修正確認
3	榎本　文夫	【第 3 回】 予習　：テーマに沿って調査研究を進める 授業　：各自の研究進捗状況報告及びそれに対する個別指導 3 復習　：指導に沿って研究方法や内容の見直しや修正確認
4	榎本　文夫	【第 4 回】 予習　：前回の指導内容に沿って調査研究を進める 授業　：各自の研究進捗状況報告及びそれに対する個別指導 4 復習　：指導に沿って研究方法や内容の見直しや修正確認
5	榎本　文夫	【第 5 回】 予習　：中間発表の準備 授業　：中間発表その 1 (プレゼンテーション) 復習　：講評結果を受け、研究内容や方法などに反映させる。
6	榎本　文夫	【第 6 回】 予習　：前回の指導内容に沿って調査研究を進める 授業　：各自の研究進捗状況報告及びそれに対する個別指導 5 復習　：指導に沿って研究方法や内容の見直しや修正確認
7	榎本　文夫	【第 7 回】 予習　：前回の指導内容に沿って調査研究を進める 授業　：各自の研究進捗状況報告及びそれに対する個別指導 6 復習　：指導に沿って研究方法や内容の見直しや修正確認
8	榎本　文夫	【第 8 回】 予習　：前回の指導内容に沿って調査研究を進める 授業　：各自の研究進捗状況報告及びそれに対する個別指導 7 復習　：指導に沿って研究方法や内容の見直しや修正確認
9	榎本　文夫	【第 9 回】 予習　：中間発表のための準備 授業　：中間発表その 2 (プレゼンテーション) 復習　：講評や指導に従い、研究内容と方向性の再確認や修正
10	榎本　文夫	【第 10 回】 予習　：前回の指導内容に沿って調査研究を進める 授業　：各自の研究進捗状況報告及びそれに対する個別指導 8 復習　：指導に沿って研究方法や内容の見直しや修正確認
11	榎本　文夫	【第 11 回】 予習　：前回の指導内容に沿って調査研究を進める 授業　：各自の研究進捗状況報告及びそれに対する個別指導 9 復習　：指導に沿って研究方法や内容の見直しや修正確認

12	榎本　文夫	【第 12 回】 予習　：前回の指導内容に沿って調査研究を進める 　　授業　：各自の研究進捗状況報告及びそれに対する個別指導 10 　　復習　：指導に沿って研究方法や内容の見直しや修正確認
13	榎本　文夫	【第 13 回】 予習　：前回の指導内容に沿って調査研究を進める 授業　：各自の研究進捗状況報告及びそれに対する個別指導 11 復習　：指導に沿って研究方法や内容の見直しや修正確認
14	榎本　文夫	【第 14 回】 予習　：成果発表の準備 1 　　授業　：スタジオ内研究成果発表 1 　　復習　：発表内容の振り返り、問題点の修正。
15	榎本　文夫	【第 15 回】 予習　：成果発表の準備 2 　授業　：学類合同の研究成果発表 2 　復習　：自分の研究成果の振り返りレポート提出

授業開始前学習	自分の研究テーマに沿った関連図書や資料、データを収集する。
授業内課題のフィードバックの方法	毎回の各自の研究テーマに沿ったレポートへの評価と指導、及びゼミ内での発表における問題点や改善点の指摘や指導。
テキスト・教材	各自のテーマに合わせ適宜指示。
参考書	各自のテーマに合わせ適宜推薦、情報提供
評価の基準と方法	研究への取り組み態度 30%、研究成果 70%で評価。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		○	◎

関連科目	インテリアデザインスタジオ III-b 、加工材料学、家具デザイン I、II、III、家具デザイン研究
その他	・学外での見学会やワークショップを行う場合、それにかかる経費は自己負担とする。 ・各自のテーマに沿った研究に必要な経費は、自己負担とする。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	実務経験のある教員が担当。実際に木を使ったものづくりや加工技術を学ぶことができる。

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-422 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	141-320-24 （Ｊ）	授業コード	FG1343
科目名称	ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅣ			単位数	1.0 単位
英文名称	Interior Design　Seminar Ⅳ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	神村　真由美			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	神村　真由美			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　木曜日 14:30～17:30 後期　木曜日 14:30～17:30			研究室	1-201
授業概要	各自の関心や興味あるテーマを調査、考察し、提案や成果物を作成し発表する。 インテリアデザイン CIII で行った卒業研究テーマ考察に基づきこれまでの学科における学びを踏まえ、さらなる研究・考察をディスカッションを含むエスキス実習で進め、プレゼンテーションを行う。				
到達目標	研究・考察等の成果のまとめ・発表等を通して、4 年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、選択する専門分野の知識を深め、プレゼンテーション能力等を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	神村　真由美	【第 1 回】 予習　：各自テーマの確認 授業　：ガイダンス 復習　：各自の概略スケジュール作成
2	神村　真由美	【第 2 回】 予習　：テーマ研究 1 予習　必要物の確認 授業　：テーマ研究 1　討論（ディスカッション） 復習　：テーマ研究 1 復習　討論を受けて、各自内容再確認
3	神村　真由美	【第 3 回】 予習　：テーマ研究 2 討論用資料準備 授業　：テーマ研究 2　討論（ディスカッション） 復習　：テーマ研究 1 復習　討論を受けて、各自内容再確認
4	神村　真由美	【第 4 回】 予習　：テーマ研究 3 予習　実習準備 授業　：テーマ研究 3　実習準備（実習） 復習　：テーマ研究 3 復習　実習準備　資料整理
5	神村　真由美	【第 5 回】 予習　：テーマ研究 4 予習　実習準備 授業　：テーマ研究 4　実習準備（実習） 復習　：テーマ研究 4 復習　実習準備
6	神村　真由美	【第 6 回】 予習　：中間発表準備 授業　：中間発表（発表・講評・ディスカッション） 復習　：中間発表レビュー
7	神村　真由美	【第 7 回】 予習　：スタジオエスキス 1 準備 授業　：スタジオエスキス 1（実習） 復習　：スタジオエスキス 1 復習　制作スケジュール詳細作成
8	神村　真由美	【第 8 回】 予習　：スタジオエスキス 2 予習 授業　：スタジオエスキス 2（実習） 復習　：スタジオエスキス 2 復習　制作進展
9	神村　真由美	【第 9 回】 予習　：スタジオエスキス 3 予習 授業　：スタジオエスキス 3（実習） 復習　：スタジオエスキス 3 復習　制作進展
10	神村　真由美	【第 10 回】 予習　：スタジオエスキス 4 予習 授業　：スタジオエスキス 4（実習） 復習　：スタジオエスキス 4 復習　制作進展
11	神村　真由美	【第 11 回】 予習　：スタジオエスキス 5 予習 授業　：スタジオエスキス 5（実習） 復習　：スタジオエスキス 5 復習　制作進展

12	神村　真由美	【第 12 回】 予習　：スタジオエスキス 6 予習 授業　：スタジオエスキス 6（実習） 復習　：スタジオエスキス 6 復習　　制作進展
13	神村　真由美	【第 13 回】 予習　：スタジオエスキス 7 予習　まとめの準備 授業　：スタジオエスキス 7　まとめ（実習） 復習　：スタジオエスキス 7 復習　まとめ作業確認
14	神村　真由美	【第 14 回】 予習　：スタジオエスキス 8 予習　提出準備 授業　：スタジオエスキス 8　提出準備（実習） 復習　：スタジオエスキス 8 復習　　提出準備
15	神村　真由美	【第 15 回】 予習　：発表準備 授業　：発表（プレゼンテーション・講評） 復習　：発表レビュー

授業開始前学習	研究テーマはﾘﾋﾞﾝｸﾞﾃﾞｻﾞｲﾝｾﾞﾐＣＩより継続的に、各自調査や考察をしておく事
授業内課題のフィードバックの方法	質問には可能な限り都度回答する。また中間発表を重ねることで、学生間の学び合い促進する。各講評では全員へ抑えるべきポイントを伝達する。
テキスト・教材	必要に応じて、配布または指示する
参考書	
評価の基準と方法	研究課題への計画的な取り組み等の受講態度 4 割、提出作品内容 5 割、プレゼンテーション 1 割を基準とし、総合的な判断に基づき評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		○	◎

関連科目	インテリアデザインスタジオ CIII
その他	調査、見学会参加などの交通費、入場料、制作物の材料費などは自己負担となる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	建築・インテリアデザイン分野における実務経験あり。インテリアデザイン等の実務に役立つ実習等を行う。

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-422 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	141-320-24 （Ｊ）	授業コード	FG1344
科目名称	ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅣ			単位数	1.0 単位
英文名称	Interior Design　Seminar Ⅳ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	橘田　洋子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	橘田　洋子			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　火曜日 16:20～17:50　木曜日 14:40～16:10 後期　火曜日 13:00～14:30　木曜日 14:40～16:10			研究室	1-206
授業概要	インテリア空間ゼミの集大成として、住空間・商業空間のインテリア空間の研究をおこなう。 テーマ・研究手法・計画・表現手法～最終成果まで、ゼミ内でリサーチ・検討をして進める。 授業では、演習課題や課題発表などのワークを行う。				
到達目標	後期では、リサーチや研究を進め、最終成果物を完成させることを目標とする。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	橘田　洋子	【第 1 回】 予習　：授業準備 授業　：ガイダンス 復習　：授業計画の確認
2	橘田　洋子	【第 2 回】 予習　：ダイアグラム＆コンセプト　事前資料収集 授業　：ダイアグラム＆コンセプト　検討作業＆エスキス（演習課題 1） 復習　：エスキスに基づいたダイアグラム＆コンセプト　の整理
3	橘田　洋子	【第 3 回】 予習　：ゾーニングの　事前検討 授業　：ゾーニング　検討作業&エスキス（演習課題 2） 復習　：エスキスに基づいたゾーニングの整理検討
4	橘田　洋子	【第 4 回】 予習　：平面計画①の　　事前検討 授業　：平面計画①　検討作業＆エスキス（演習課題 3） 復習　：エスキスに基づいた平面計画①の整理検討
5	橘田　洋子	【第 5 回】 予習　：平面計画②の　　事前検討 授業　：平面計画②　検討作業＆エスキス 復習　：エスキスに基づいた平面計画②の整理検討
6	橘田　洋子	【第 6 回】 予習　：中間発表　　事前準備 授業　：ゼミ内中間発表（課題発表 1） 復習　：発表内容の整理
7	橘田　洋子	【第 7 回】 予習　：立・断面計画の事前検討 授業　：立・断面計画　検討作業＆エスキス（演習課題 4） 復習　：エスキスに基づいた立・断面計画の整理検討
8	橘田　洋子	【第 8 回】 予習　：立・断面計画の事前検討 授業　：立・断面計画　検討作業＆エスキス 復習　：エスキスに基づいた立・断面計画の整理検討
9	橘田　洋子	【第 9 回】 予習　：3D 計画の事前検討 授業　：3D 計画　検討作業＆エスキス（演習課題 5） 復習　：エスキスに基づいた 3D 計画の整理検討
10	橘田　洋子	【第 9 回】 予習　：素材計画の事前検討 授業　：素材計画　検討作業＆エスキス（演習課題 6） 復習　：エスキスに基づいた素材計画の整理検討
11	橘田　洋子	【第 11 回】 予習　：模型①の事前検討 授業　：模型①　検討作業＆エスキス（演習課題 7） 復習　：エスキスに基づいた模型①の整理検討

12	橘田　洋子	【第 12 回】 予習　：模型②の事前検討 授業　：模型②　検討作業＆エスキス 復習　：エスキスに基づいた模型②の整理検討
13	橘田　洋子	【第 13 回】 予習　：研究・図面・模型の整理 授業　：研究・図面・模型の資料化作業＆エスキス 復習　：エスキスに基づいた研究・図面・模型の資料化作業再検討
14	橘田　洋子	【第 14 回】 予習　：プレゼンテーション準備 授業　：プレゼンテーションゼミ内予習（課題発表２） 復習　：プレゼンテーション内容の修正
15	橘田　洋子	【第 15 回】 予習　：最終プレゼンテーション準備 授業　：最終プレゼンテーション内容のエスキス・再修正 復習　：最終プレゼンテーション　まとめ

授業開始前学習	出来るだけ多くのデザインに触れるように。様々なインテリア空間を出来るだけ見るように。 デザインには経験のストックが重要。
授業内課題のフィードバックの方法	授業内および前後で、個別エスキースを繰り返し実施。
テキスト・教材	授業内にて、適宜推薦・紹介をする。
参考書	授業内にて、適宜推薦・紹介をする。
評価の基準と方法	出席回数が授業の 3 分の 2 未満は単位取得できない。 配点は、演習課題 70 点、平常点（授業態度・課題提出・課題発表）30 点とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		○	◎

関連科目	
その他	・見学や各自のテーマに基づく関係各所への見学・ヒヤリング・現場調査が別途時間に発生する。 ・またその際の交通費ほか必要経費は各自負担となる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	建築・インテリアデザイン分野における実務経験あり。インテリアデザイン等の実務に役立つ実習等を行う。

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-422	科目分類（～2024 年入学者）	141-320-24	授業コード	FG1345
科目名称	ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅣ			単位数	1.0 単位
英文名称	Interior Design　Seminar Ⅳ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	佐藤　勉			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	佐藤　勉			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　火曜日 10:40～12:10　火曜日 13:00～14:30 後期　火曜日 10:40～12:10　火曜日 13:00～14:30			研究室	1-202
授業概要	住空間は個人や家族の生活の拠点であり、人間生活の最も基本的な場である。人間にとって快適な住空間や環境とは何かを考えていく。そのためには、生活者の視点に立ち、人の動きや使われ方を多角的な視点で考察することが大切である。前期に決定したテーマと表現方法を踏まえて、調査研究を進めプレゼンテーションを実施する。各段階では、ディスカッションやプレゼンテーションを行う。				
到達目標	各自のテーマを自ら設定し、社会的背景や成り立ちについて考察する。同時に調査や視察を通して具体的な研究テーマを決定する。また、お互いに発表する中から相手に伝わる表現方法を模索していく。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	佐藤　勉	【第 1 回】 予習　：シラバスを読み込む 授業　：オリエンテーション 復習　：授業計画の確認
2	佐藤　勉	【第 2 回】 予習　：研究テーマの文献を調べる 授業　：テーマを再検討する（ディスカッション） 復習　：研究テーマの最終決定
3	佐藤　勉	【第 3 回】 予習　：研究テーマに関する文献資料を収集 授業　：調査および研究①（ディスカッション） 復習　：調査方法を再検討する
4	佐藤　勉	【第 4 回】 予習　：関連資料の収集 授業　：調査および研究②（ディスカッション） 復習　：研究を進める
5	佐藤　勉	【第 5 回】 予習　：関連資料の収集 授業　：調査および研究③（ディスカッション） 復習　：研究を進める
6	佐藤　勉	【第 6 回】 予習　：関連資料の収集 授業　：調査および研究④（ディスカッション） 復習　：研究を進める
7	佐藤　勉	【第 7 回】 予習　：研究発表の準備 授業　：研究発表①（プレゼンテーション） 復習　：研究の確認と修正を行う
8	佐藤　勉	【第 8 回】 予習　：研究発表の準備 授業　：研究発表②（プレゼンテーション） 復習　：研究の確認と修正を行う
9	佐藤　勉	【第 9 回】 予習　：関連資料の収集 授業　：調査および研究⑤（ディスカッション） 復習　：研究を進める
10	佐藤　勉	【第 10 回】 予習　：関連資料の収集 授業　：調査および研究⑥（ディスカッション） 復習　：研究を進める
11	佐藤　勉	【第 11 回】 予習　：プレゼンテーション資料の準備 授業　：表現方法を検討する（ディスカッション） 復習　：プレゼンテーション資料を作成する

12	佐藤　勉	【第 12 回】 予習　：プレゼンテーション資料の準備 授業　：プレゼンテーションの準備①（ディスカッション） 復習　：プレゼンテーション資料を作成する
13	佐藤　勉	【第 13 回】 予習　：プレゼンテーション資料の準備 授業　：プレゼンテーションの準備②（ディスカッション） 復習　：プレゼンテーション資料を作成する
14	佐藤　勉	【第 14 回】 予習　：発表準備 授業　：発表とディスカッション①（プレゼンテーション・ディスカッション） 復習　：発表内容の確認
15	佐藤　勉	【第 15 回】 予習　：発表準備 授業　：発表とディスカッション②（プレゼンテーション・ディスカッション） 復習　：自己評価を行う

授業開始前学習	各自興味のあるテーマを模索し、関連する情報を収集しておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	授業前後および授業中に毎回個別にエスキースを繰り返し実施。
テキスト・教材	授業中にプリントを配布する他、必要に応じて指示する。
参考書	
評価の基準と方法	授業態度等 20%、課題提出 30%、研究成果 50%とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		○	◎

関連科目	
その他	調査・研究・制作等に関わる費用は自己負担とする。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-422	科目分類（～2024 年入学者）	141-320-24	授業コード	FG1346
科目名称	ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅣ			単位数	1.0 単位
英文名称	Interior Design　Seminar Ⅳ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	山崎　陽菜			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	山崎　陽菜			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　火曜日 11:00～12:30　金曜日 09:00～10:30 後期　水曜日 14:30～16:00　金曜日 09:00～10:30			研究室	2-201
授業概要	住空間は個人や家族の生活の拠点であり、人間生活の最も基本的な場である。人間にとって快適な住空間や環境とは何かを考えていく。そのためには、生活者の視点に立ち、人の動きや使われ方を多角的な視点で考察することが大切である。前期に決定したテーマと表現方法を踏まえて、調査研究を進めプレゼンテーションを実施する。各段階では、ディスカッションやプレゼンテーションを行う。				
到達目標	各自のテーマを自ら設定し、社会的背景や成り立ちについて考察する。同時に調査や視察を通して具体的な研究テーマを決定する。また、お互いに発表する中から相手に伝わる表現方法を模索していく。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	山崎　陽菜	【第 1 回】 予習　：シラバスを読み込む 授業　：オリエンテーション 復習　：授業計画の確認
2	山崎　陽菜	【第 2 回】 予習　：研究テーマの文献を調べる 授業　：テーマを再検討する（ディスカッション） 復習　：研究テーマの最終決定
3	山崎　陽菜	【第 3 回】 予習　：研究テーマに関する文献資料を収集 授業　：調査および研究①（ディスカッション） 復習　：調査方法を再検討する
4	山崎　陽菜	【第 4 回】 予習　：関連資料の収集 授業　：調査および研究②（ディスカッション） 復習　：研究を進める
5	山崎　陽菜	【第 5 回】 予習　：関連資料の収集 授業　：調査および研究③（ディスカッション） 復習　：研究を進める
6	山崎　陽菜	【第 6 回】 予習　：関連資料の収集 授業　：調査および研究④（ディスカッション） 復習　：研究を進める
7	山崎　陽菜	【第 7 回】 予習　：研究発表の準備 授業　：研究発表①（プレゼンテーション） 復習　：研究の確認と修正を行う
8	山崎　陽菜	【第 8 回】 予習　：研究発表の準備 授業　：研究発表②（プレゼンテーション） 復習　：研究の確認と修正を行う
9	山崎　陽菜	【第 9 回】 予習　：関連資料の収集 授業　：調査および研究⑤（ディスカッション） 復習　：研究を進める
10	山崎　陽菜	【第 10 回】 予習　：関連資料の収集 授業　：調査および研究⑥（ディスカッション） 復習　：研究を進める
11	山崎　陽菜	【第 11 回】 予習　：プレゼンテーション資料の準備 授業　：表現方法を検討する（ディスカッション） 復習　：プレゼンテーション資料を作成する

12	山崎　陽菜	【第 12 回】 予習　：プレゼンテーション資料の準備 授業　：プレゼンテーションの準備①（ディスカッション） 復習　：プレゼンテーション資料を作成する
13	山崎　陽菜	【第 13 回】 予習　：プレゼンテーション資料の準備 授業　：プレゼンテーションの準備②（ディスカッション） 復習　：プレゼンテーション資料を作成する
14	山崎　陽菜	【第 14 回】 予習　：発表準備 授業　：発表とディスカッション①（プレゼンテーション・ディスカッション） 復習　：発表内容の確認
15	山崎　陽菜	【第 15 回】 予習　：発表準備 授業　：発表とディスカッション②（プレゼンテーション・ディスカッション） 復習　：自己評価を行う

授業開始前学習	各自興味のあるテーマを模索し、関連する情報を収集しておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	授業前後および授業中に毎回個別にエスキースを繰り返し実施。
テキスト・教材	必要に応じて指示する。
参考書	
評価の基準と方法	授業態度等 20%、課題提出 30%、研究成果 50%とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		○	◎

関連科目	
その他	調査・研究・制作等に関わる費用は自己負担とする。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-322	科目分類（～2024 年入学者）	142-320-23	授業コード	FG1351
科目名称	建築ﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅠ			単位数	1.0 単位
英文名称	Architectural Design studio Ⅰ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	小川 弾			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小川 弾			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 13:00～14:30 金曜日 10:40～12:10			研究室	1-210
授業概要	これまでの学類における学びを踏まえ、選択する専門分野におけるテーマを研究・考察する。実習やプレゼンテーション、グループワーク等を通して、4 年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、専門分野の知識を深め、技術力や実践力を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。				
到達目標	与えられた課題の要点を正しく理解し、的確な計画を立てて実行できること。それらを適切な手段で表現し、明快に人に伝えられること。またこれらを通して社会人としての基本的な心構えを身に付けること。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	小川 弾	【第 1 回】 予習 ：授業準備 授業 ：ガイダンス 課題 1 課題説明 復習 ：授業計画内容の確認
2	小川 弾	【第 2 回】 予習 ：社会人基礎力を学ぶ 準備 授業 ：社会人基礎力を学ぶ 復習 ：社会人基礎力を学ぶ 内容の見直し
3	小川 弾	【第 3 回】 予習 ：課題 1 参考事例調査・収集 授業 ：課題 1 エスキス① 参考事例報告（発表） 復習 ：課題 1 参考事例報告を受けた資料整理
4	小川 弾	【第 4 回】 予習 ：課題 1 エスキス準備 授業 ：課題 1 エスキス② 計画（実習） 復習 ：課題 1 エスキス内容の整理
5	小川 弾	【第 5 回】 予習 ：課題 1 中間発表準備 授業 ：課題 1 中間発表・講評（プレゼンテーション） 復習 ：課題 1 中間講評内容の整理
6	小川 弾	【第 6 回】 予習 ：課題 1 エスキス準備 授業 ：課題 1 エスキス③ 展開（実習） 復習 ：課題 1 エスキス内容の展開
7	小川 弾	【第 7 回】 予習 ：課題 1 エスキス準備 授業 ：課題 1 エスキス④ 制作（実習） 復習 ：課題 1 エスキス内容を受けた制作作業
8	小川 弾	【第 8 回】 予習 ：課題 1 最終発表準備 授業 ：課題 1 最終発表・講評（プレゼンテーション） 復習 ：課題 1 最終講評内容の整理
9	小川 弾	【第 9 回】 予習 ：課題 2 参考事例調査・収集 授業 ：課題 2 課題説明 参考事例報告（発表） 復習 ：課題 2 参考事例報告を受けた資料整理
10	小川 弾	【第 10 回】 予習 ：課題 2 エスキス準備 授業 ：課題 2 エスキス① 計画（実習） 復習 ：課題 2 エスキス内容の整理・計画
11	小川 弾	【第 11 回】 予習 ：課題 2 エスキス準備 授業 ：課題 2 エスキス② 展開（実習） 復習 ：課題 2 エスキス内容の展開

12	小川 弾	【第 12 回】 予習 ：課題２ エスキス準備 授業 ：課題２ エスキス③ 制作（実習） 復習 ：課題２ エスキス内容を受けた制作
13	小川 弾	【第 13 回】 予習 ：課題２ 最終発表準備 授業 ：課題２ 最終発表・講評（プレゼンテーション） 復習 ：課題２ 最終講評内容の整理
14	小川 弾	【第 14 回】 予習 ：課題３ 学類作品展 計画準備 授業 ：課題３ 学類作品展 計画説明、作業（グループワーク） 復習 ：課題３ 学類作品展 準備作業
15	小川 弾	【第 15 回】 予習 ：課題３ 学類作品展 準備作業 授業 ：課題３ 学類作品展 実施（プレゼンテーション） 復習 ：課題３ 学類作品展 内容整理

授業開始前学習	２年次までの課題、作品を整理し、ポートフォリオにまとめる作業を進めておく。
授業内課題のフィードバックの方法	課題は講評会において、教員と学生全体でディスカッションを行う。
テキスト・教材	資料・プリント等を適宜配布する。
参考書	
評価の基準と方法	出物、受講態度などにより評価する。 配点は提出物 60%、受講態度（期限内提出・発表等）40%。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		◎	○

関連科目	
その他	初回授業で授業計画のガイダンスを行う。 ８月上旬に行われる学類作品展の設営・実施等に参加すること。 正課学外活動として見学会等が実施される場合、交通費は自己負担となる。 その他、課題において見学等が必要な場合、交通費は自己負担となる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-322	科目分類（～2024 年入学者）	142-320-23	授業コード	FG1352
科目名称	建築ﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅠ			単位数	1.0 単位
英文名称	Architectural Design studio Ⅰ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	三戸 美代子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三戸 美代子			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 水曜日 09:00～12:10 後期 水曜日 09:00～12:10			研究室	1-211
授業概要	これまでの学類における学びを踏まえ、選択する専門分野におけるテーマを研究・考察する。実習やプレゼンテーション、グループワーク等を通して、4 年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、専門分野の知識を深め、技術力や実践力を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。				
到達目標	与えられた課題の要点を正しく理解し、的確な計画を立てて実行できること。それらを適切な手段で表現し、明快に人に伝えられること。またこれらを通して社会人としての基本的な心構えを身に付けること。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	三戸 美代子	【第 1 回】 予習 ：授業準備 授業 ：ガイダンス 課題 1 課題説明 復習 ：授業計画内容の確認
2	三戸 美代子	【第 2 回】 予習 ：社会人基礎力を学ぶ 準備 授業 ：社会人基礎力を学ぶ 復習 ：社会人基礎力を学ぶ 内容の見直し
3	三戸 美代子	【第 3 回】 予習 ：課題 1 参考事例調査・収集 授業 ：課題 1 エスキス① 参考事例報告（発表） 復習 ：課題 1 参考事例報告を受けた資料整理
4	三戸 美代子	【第 4 回】 予習 ：課題 1 エスキス準備 授業 ：課題 1 エスキス② 計画（実習） 復習 ：課題 1 エスキス内容の整理
5	三戸 美代子	【第 5 回】 予習 ：課題 1 中間発表準備 授業 ：課題 1 中間発表・講評（プレゼンテーション） 復習 ：課題 1 中間講評内容の整理
6	三戸 美代子	【第 6 回】 予習 ：課題 1 エスキス準備 授業 ：課題 1 エスキス③ 展開（実習） 復習 ：課題 1 エスキス内容の展開
7	三戸 美代子	【第 7 回】 予習 ：課題 1 エスキス準備 授業 ：課題 1 エスキス④ 制作（実習） 復習 ：課題 1 エスキス内容を受けた制作作業
8	三戸 美代子	【第 8 回】 予習 ：課題 1 最終発表準備 授業 ：課題 1 最終発表・講評（プレゼンテーション） 復習 ：課題 1 最終講評内容の整理
9	三戸 美代子	【第 9 回】 予習 ：課題 2 参考事例調査・収集 授業 ：課題 2 課題説明 参考事例報告（発表） 復習 ：課題 2 参考事例報告を受けた資料整理
10	三戸 美代子	【第 10 回】 予習 ：課題 2 エスキス準備 授業 ：課題 2 エスキス① 計画（実習） 復習 ：課題 2 エスキス内容の整理・計画
11	三戸 美代子	【第 11 回】 予習 ：課題 2 エスキス準備 授業 ：課題 2 エスキス② 展開（実習） 復習 ：課題 2 エスキス内容の展開

12	三戸　美代子	【第 12 回】 予習　：課題２　エスキス準備 授業　：課題２　エスキス③　制作（実習） 復習　：課題２　エスキス内容を受けた制作
13	三戸　美代子	【第 13 回】 予習　：課題２　最終発表準備 授業　：課題２　最終発表・講評（プレゼンテーション） 復習　：課題２　最終講評内容の整理
14	三戸　美代子	【第 14 回】 予習　：課題３　学類作品展　計画準備 授業　：課題３　学類作品展　計画説明、作業（グループワーク） 復習　：課題３　学類作品展　準備作業
15	三戸　美代子	【第 15 回】 予習　：課題３　学類作品展　準備作業 授業　：課題３　学類作品展　実施（プレゼンテーション） 復習　：課題３　学類作品展　内容整理

授業開始前学習	２年次までの課題、作品を整理し、ポートフォリオにまとめる作業を進めておく。
授業内課題のフィードバックの方法	課題は講評会において、教員と学生全体でディスカッションを行う。
テキスト・教材	資料・プリント等を適宜配布する。
参考書	
評価の基準と方法	出物、受講態度などにより評価する。 配点は提出物 60%、受講態度（期限内提出・発表等）40%。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		◎	○

関連科目	
その他	初回授業で授業計画のガイダンスを行う。 ８月上旬に行われる学類作品展の設営・実施等に参加すること。 正課学外活動として見学会等が実施される場合、交通費は自己負担となる。 その他、課題において見学等が必要な場合、交通費は自己負担となる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-322	科目分類（～2024 年入学者）	142-320-23	授業コード	FG1353
科目名称	建築ﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅠ			単位数	1.0 単位
英文名称	Architectural Design studio Ⅰ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	堀邉 阿伊子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	堀邉 阿伊子			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～16:00 後期 金曜日 13:00～16:00			研究室	10-619
授業概要	これまでの学類における学びを踏まえ、選択する専門分野におけるテーマを研究・考察する。実習やプレゼンテーション、グループワーク等を通して、4 年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、専門分野の知識を深め、技術力や実践力を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。				
到達目標	与えられた課題の要点を正しく理解し、的確な計画を立てて実行できること。それらを適切な手段で表現し、明快に人に伝えられること。またこれらを通して社会人としての基本的な心構えを身に付けること。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	堀邉 阿伊子	【第 1 回】 予習 ：授業準備 授業 ：ガイダンス 課題 1 課題説明 復習 ：授業計画内容の確認
2	堀邉 阿伊子	【第 2 回】 予習 ：社会人基礎力を学ぶ 準備 授業 ：社会人基礎力を学ぶ 復習 ：社会人基礎力を学ぶ 内容の見直し
3	堀邉 阿伊子	【第 3 回】 予習 ：課題 1 参考事例調査・収集 授業 ：課題 1 エスキス① 参考事例報告（発表） 復習 ：課題 1 参考事例報告を受けた資料整理
4	堀邉 阿伊子	【第 4 回】 予習 ：課題 1 エスキス準備 授業 ：課題 1 エスキス② 計画（実習） 復習 ：課題 1 エスキス内容の整理
5	堀邉 阿伊子	【第 5 回】 予習 ：課題 1 中間発表準備 授業 ：課題 1 中間発表・講評（プレゼンテーション） 復習 ：課題 1 中間講評内容の整理
6	堀邉 阿伊子	【第 6 回】 予習 ：課題 1 エスキス準備 授業 ：課題 1 エスキス③ 展開（実習） 復習 ：課題 1 エスキス内容の展開
7	堀邉 阿伊子	【第 7 回】 予習 ：課題 1 エスキス準備 授業 ：課題 1 エスキス④ 制作（実習） 復習 ：課題 1 エスキス内容を受けた制作作業
8	堀邉 阿伊子	【第 8 回】 予習 ：課題 1 最終発表準備 授業 ：課題 1 最終発表・講評（プレゼンテーション） 復習 ：課題 1 最終講評内容の整理
9	堀邉 阿伊子	【第 9 回】 予習 ：課題 2 参考事例調査・収集 授業 ：課題 2 課題説明 参考事例報告（発表） 復習 ：課題 2 参考事例報告を受けた資料整理
10	堀邉 阿伊子	【第 10 回】 予習 ：課題 2 エスキス準備 授業 ：課題 2 エスキス① 計画（実習） 復習 ：課題 2 エスキス内容の整理・計画
11	堀邉 阿伊子	【第 11 回】 予習 ：課題 2 エスキス準備 授業 ：課題 2 エスキス② 展開（実習） 復習 ：課題 2 エスキス内容の展開

12	堀邉　阿伊子	【第 12 回】 予習　：課題２　エスキス準備 授業　：課題２　エスキス③　制作（実習） 復習　：課題２　エスキス内容を受けた制作
13	堀邉　阿伊子	【第 13 回】 予習　：課題２　最終発表準備 授業　：課題２　最終発表・講評（プレゼンテーション） 復習　：課題２　最終講評内容の整理
14	堀邉　阿伊子	【第 14 回】 予習　：課題３　学類作品展　計画準備 授業　：課題３　学類作品展　計画説明、作業（グループワーク） 復習　：課題３　学類作品展　準備作業
15	堀邉　阿伊子	【第 15 回】 予習　：課題３　学類作品展　準備作業 授業　：課題３　学類作品展　実施（プレゼンテーション） 復習　：課題３　学類作品展　内容整理

授業開始前学習	２年次までの課題、作品を整理し、ポートフォリオにまとめる作業を進めておく。
授業内課題のフィードバックの方法	課題は講評会において、教員と学生全体でディスカッションを行う。
テキスト・教材	資料・プリント等を適宜配布する。
参考書	
評価の基準と方法	出物、受講態度などにより評価する。 配点は提出物 60%、受講態度（期限内提出・発表等）40%。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		◎	○

関連科目	
その他	初回授業で授業計画のガイダンスを行う。 ８月上旬に行われる学類作品展の設営・実施等に参加すること。 正課学外活動として見学会等が実施される場合、交通費は自己負担となる。 その他、課題において見学等が必要な場合、交通費は自己負担となる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-322	科目分類（～2024 年入学者）	142-320-23	授業コード	FG1354
科目名称	建築ﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅠ			単位数	1.0 単位
英文名称	Architectural Design studio Ⅰ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	茂木 弥生子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	茂木 弥生子			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 10:40～12:10 木曜日 13:00～14:30			研究室	1-203
授業概要	これまでの学類における学びを踏まえ、選択する専門分野におけるテーマを研究・考察する。実習やプレゼンテーション、グループワーク等を通して、4 年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、専門分野の知識を深め、技術力や実践力を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。				
到達目標	与えられた課題の要点を正しく理解し、的確な計画を立てて実行できること。それらを適切な手段で表現し、明快に人に伝えられること。またこれらを通して社会人としての基本的な心構えを身に付けること。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	茂木 弥生子	【第 1 回】 予習 ：授業準備 授業 ：ガイダンス 課題 1 課題説明 復習 ：授業計画内容の確認
2	茂木 弥生子	【第 2 回】 予習 ：社会人基礎力を学ぶ 準備 授業 ：社会人基礎力を学ぶ 復習 ：社会人基礎力を学ぶ 内容の見直し
3	茂木 弥生子	【第 3 回】 予習 ：課題 1 参考事例調査・収集 授業 ：課題 1 エスキス① 参考事例報告（発表） 復習 ：課題 1 参考事例報告を受けた資料整理
4	茂木 弥生子	【第 4 回】 予習 ：課題 1 エスキス準備 授業 ：課題 1 エスキス② 計画（実習） 復習 ：課題 1 エスキス内容の整理
5	茂木 弥生子	【第 5 回】 予習 ：課題 1 中間発表準備 授業 ：課題 1 中間発表・講評（プレゼンテーション） 復習 ：課題 1 中間講評内容の整理
6	茂木 弥生子	【第 6 回】 予習 ：課題 1 エスキス準備 授業 ：課題 1 エスキス③ 展開（実習） 復習 ：課題 1 エスキス内容の展開
7	茂木 弥生子	【第 7 回】 予習 ：課題 1 エスキス準備 授業 ：課題 1 エスキス④ 制作（実習） 復習 ：課題 1 エスキス内容を受けた制作作業
8	茂木 弥生子	【第 8 回】 予習 ：課題 1 最終発表準備 授業 ：課題 1 最終発表・講評（プレゼンテーション） 復習 ：課題 1 最終講評内容の整理
9	茂木 弥生子	【第 9 回】 予習 ：課題 2 参考事例調査・収集 授業 ：課題 2 課題説明 参考事例報告（発表） 復習 ：課題 2 参考事例報告を受けた資料整理
10	茂木 弥生子	【第 10 回】 予習 ：課題 2 エスキス準備 授業 ：課題 2 エスキス① 計画（実習） 復習 ：課題 2 エスキス内容の整理・計画
11	茂木 弥生子	【第 11 回】 予習 ：課題 2 エスキス準備 授業 ：課題 2 エスキス② 展開（実習） 復習 ：課題 2 エスキス内容の展開

12	茂木　弥生子	【第 12 回】 予習　：課題２　エスキス準備 授業　：課題２　エスキス③　制作（実習） 復習　：課題２　エスキス内容を受けた制作
13	茂木　弥生子	【第 13 回】 予習　：課題２　最終発表準備 授業　：課題２　最終発表・講評（プレゼンテーション） 復習　：課題２　最終講評内容の整理
14	茂木　弥生子	【第 14 回】 予習　：課題３　学類作品展　計画準備 授業　：課題３　学類作品展　計画説明、作業（グループワーク） 復習　：課題３　学類作品展　準備作業
15	茂木　弥生子	【第 15 回】 予習　：課題３　学類作品展　準備作業 授業　：課題３　学類作品展　実施（プレゼンテーション） 復習　：課題３　学類作品展　内容整理

授業開始前学習	２年次までの課題、作品を整理し、ポートフォリオにまとめる作業を進めておく。
授業内課題のフィードバックの方法	課題は講評会において、教員と学生全体でディスカッションを行う。
テキスト・教材	資料・プリント等を適宜配布する。
参考書	
評価の基準と方法	出物、受講態度などにより評価する。 配点は提出物 60%、受講態度（期限内提出・発表等）40%。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		◎	○

関連科目	
その他	初回授業で授業計画のガイダンスを行う。 ８月上旬に行われる学類作品展の設営・実施等に参加すること。 正課学外活動として見学会等が実施される場合、交通費は自己負担となる。 その他、課題において見学等が必要な場合、交通費は自己負担となる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-322	科目分類（～2024 年入学者）	142-320-23	授業コード	FG1355
科目名称	建築ﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅠ			単位数	1.0 単位
英文名称	Architectural Design studio Ⅰ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	西尾 尚子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	西尾 尚子			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 水曜日 13:00～14:30 水曜日 14:40～16:10 後期 水曜日 13:00～14:30 水曜日 14:40～16:10			研究室	2-214
授業概要	これまでの学類における学びを踏まえ、選択する専門分野におけるテーマを研究・考察する。実習やプレゼンテーション、グループワーク等を通して、4 年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、専門分野の知識を深め、技術力や実践力を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。				
到達目標	与えられた課題の要点を正しく理解し、的確な計画を立てて実行できること。それらを適切な手段で表現し、明快に人に伝えられること。またこれらを通して社会人としての基本的な心構えを身に付けること。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	西尾 尚子	【第 1 回】 予習 ：授業準備 授業 ：ガイダンス 課題 1 課題説明 復習 ：授業計画内容の確認
2	西尾 尚子	【第 2 回】 予習 ：社会人基礎力を学ぶ 準備 授業 ：社会人基礎力を学ぶ 復習 ：社会人基礎力を学ぶ 内容の見直し
3	西尾 尚子	【第 3 回】 予習 ：課題 1 参考事例調査・収集 授業 ：課題 1 エスキス① 参考事例報告（発表） 復習 ：課題 1 参考事例報告を受けた資料整理
4	西尾 尚子	【第 4 回】 予習 ：課題 1 エスキス準備 授業 ：課題 1 エスキス② 計画（実習） 復習 ：課題 1 エスキス内容の整理
5	西尾 尚子	【第 5 回】 予習 ：課題 1 中間発表準備 授業 ：課題 1 中間発表・講評（プレゼンテーション） 復習 ：課題 1 中間講評内容の整理
6	西尾 尚子	【第 6 回】 予習 ：課題 1 エスキス準備 授業 ：課題 1 エスキス③ 展開（実習） 復習 ：課題 1 エスキス内容の展開
7	西尾 尚子	【第 7 回】 予習 ：課題 1 エスキス準備 授業 ：課題 1 エスキス④ 制作（実習） 復習 ：課題 1 エスキス内容を受けた制作作業
8	西尾 尚子	【第 8 回】 予習 ：課題 1 最終発表準備 授業 ：課題 1 最終発表・講評（プレゼンテーション） 復習 ：課題 1 最終講評内容の整理
9	西尾 尚子	【第 9 回】 予習 ：課題 2 参考事例調査・収集 授業 ：課題 2 課題説明 参考事例報告（発表） 復習 ：課題 2 参考事例報告を受けた資料整理
10	西尾 尚子	【第 10 回】 予習 ：課題 2 エスキス準備 授業 ：課題 2 エスキス① 計画（実習） 復習 ：課題 2 エスキス内容の整理・計画
11	西尾 尚子	【第 11 回】 予習 ：課題 2 エスキス準備 授業 ：課題 2 エスキス② 展開（実習） 復習 ：課題 2 エスキス内容の展開

12	西尾　尚子	【第 12 回】 予習　：課題２　エスキス準備 授業　：課題２　エスキス③　制作（実習） 復習　：課題２　エスキス内容を受けた制作
13	西尾　尚子	【第 13 回】 予習　：課題２　最終発表準備 授業　：課題２　最終発表・講評（プレゼンテーション） 復習　：課題２　最終講評内容の整理
14	西尾　尚子	【第 14 回】 予習　：課題３　学類作品展　計画準備 授業　：課題３　学類作品展　計画説明、作業（グループワーク） 復習　：課題３　学類作品展　準備作業
15	西尾　尚子	【第 15 回】 予習　：課題３　学類作品展　準備作業 授業　：課題３　学類作品展　実施（プレゼンテーション） 復習　：課題３　学類作品展　内容整理

授業開始前学習	２年次までの課題、作品を整理し、ポートフォリオにまとめる作業を進めておく。
授業内課題のフィードバックの方法	課題は講評会において、教員と学生全体でディスカッションを行う。
テキスト・教材	資料・プリント等を適宜配布する。
参考書	
評価の基準と方法	出物、受講態度などにより評価する。 配点は提出物 60%、受講態度（期限内提出・発表等）40%。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		◎	○

関連科目	
その他	初回授業で授業計画のガイダンスを行う。 ８月上旬に行われる学類作品展の設営・実施等に参加すること。 正課学外活動として見学会等が実施される場合、交通費は自己負担となる。 その他、課題において見学等が必要な場合、交通費は自己負担となる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-322	科目分類（～2024 年入学者）	142-320-23	授業コード	FG1356
科目名称	建築ﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅠ			単位数	1.0 単位
英文名称	Architectural Design studio Ⅰ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	松元 良枝			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松元 良枝			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 月曜日 14:40～16:10 後期 木曜日 10:30～12:10 木曜日 13:00～14:30			研究室	10-601
授業概要	これまでの学類における学びを踏まえ、選択する専門分野におけるテーマを研究・考察する。実習やプレゼンテーション、グループワーク等を通して、4 年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、専門分野の知識を深め、技術力や実践力を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。				
到達目標	与えられた課題の要点を正しく理解し、的確な計画を立てて実行できること。それらを適切な手段で表現し、明快に人に伝えられること。またこれらを通して社会人としての基本的な心構えを身に付けること。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	松元 良枝	【第 1 回】 予習 ：授業準備 授業 ：ガイダンス 課題 1 課題説明 復習 ：授業計画内容の確認
2	松元 良枝	【第 2 回】 予習 ：社会人基礎力を学ぶ 準備 授業 ：社会人基礎力を学ぶ 復習 ：社会人基礎力を学ぶ 内容の見直し
3	松元 良枝	【第 3 回】 予習 ：課題 1 参考事例調査・収集 授業 ：課題 1 エスキス① 参考事例報告（発表） 復習 ：課題 1 参考事例報告を受けた資料整理
4	松元 良枝	【第 4 回】 予習 ：課題 1 エスキス準備 授業 ：課題 1 エスキス② 計画（実習） 復習 ：課題 1 エスキス内容の整理
5	松元 良枝	【第 5 回】 予習 ：課題 1 中間発表準備 授業 ：課題 1 中間発表・講評（プレゼンテーション） 復習 ：課題 1 中間講評内容の整理
6	松元 良枝	【第 6 回】 予習 ：課題 1 エスキス準備 授業 ：課題 1 エスキス③ 展開（実習） 復習 ：課題 1 エスキス内容の展開
7	松元 良枝	【第 7 回】 予習 ：課題 1 エスキス準備 授業 ：課題 1 エスキス④ 制作（実習） 復習 ：課題 1 エスキス内容を受けた制作作業
8	松元 良枝	【第 8 回】 予習 ：課題 1 最終発表準備 授業 ：課題 1 最終発表・講評（プレゼンテーション） 復習 ：課題 1 最終講評内容の整理
9	松元 良枝	【第 9 回】 予習 ：課題 2 参考事例調査・収集 授業 ：課題 2 課題説明 参考事例報告（発表） 復習 ：課題 2 参考事例報告を受けた資料整理
10	松元 良枝	【第 10 回】 予習 ：課題 2 エスキス準備 授業 ：課題 2 エスキス① 計画（実習） 復習 ：課題 2 エスキス内容の整理・計画
11	松元 良枝	【第 11 回】 予習 ：課題 2 エスキス準備 授業 ：課題 2 エスキス② 展開（実習） 復習 ：課題 2 エスキス内容の展開

12	松元　良枝	【第 12 回】 予習　：課題２　エスキス準備 授業　：課題２　エスキス③　制作（実習） 復習　：課題２　エスキス内容を受けた制作
13	松元　良枝	【第 13 回】 予習　：課題２　最終発表準備 授業　：課題２　最終発表・講評（プレゼンテーション） 復習　：課題２　最終講評内容の整理
14	松元　良枝	【第 14 回】 予習　：課題３　学類作品展　計画準備 授業　：課題３　学類作品展　計画説明、作業（グループワーク） 復習　：課題３　学類作品展　準備作業
15	松元　良枝	【第 15 回】 予習　：課題３　学類作品展　準備作業 授業　：課題３　学類作品展　実施（プレゼンテーション） 復習　：課題３　学類作品展　内容整理

授業開始前学習	２年次までの課題、作品を整理し、ポートフォリオにまとめる作業を進めておく。
授業内課題のフィードバックの方法	課題は講評会において、教員と学生全体でディスカッションを行う。
テキスト・教材	資料・プリント等を適宜配布する。
参考書	
評価の基準と方法	出物、受講態度などにより評価する。 配点は提出物 60%、受講態度（期限内提出・発表等）40%。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		◎	○

関連科目	
その他	初回授業で授業計画のガイダンスを行う。 ８月上旬に行われる学類作品展の設営・実施等に参加すること。 正課学外活動として見学会等が実施される場合、交通費は自己負担となる。 その他、課題において見学等が必要な場合、交通費は自己負担となる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-322	科目分類（～2024 年入学者）	142-320-23	授業コード	FG1361
科目名称	建築ﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	Architectural Design studio Ⅱ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	小川 弾			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小川 弾			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 13:00～14:30 金曜日 10:40～12:10			研究室	1-210
授業概要	前期のスタジオⅠに引き続き、選択する専門分野におけるテーマを研究・考察する。実習やプレゼンテーション、グループワーク等を通して、4 年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、選択する専門分野の知識を深め、技術力や実践力を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。				
到達目標	4 年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、選択する専門分野の知識を深め、プレゼンテーション能力等を高めることを目的とする。 また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	小川 弾	【第 1 回】 予習 ：学外実習報告会 事前準備 授業 ：学外実習報告会 復習 ：学外実習報告会 内容の整理
2	小川 弾	【第 2 回】 予習 ：社会人基礎力を学ぶ 準備 授業 ：社会人基礎力を学ぶ 復習 ：社会人基礎力を学ぶ 内容の整理
3	小川 弾	【第 3 回】 予習 ：課題 1 課題準備 授業 ：課題 1 課題説明、作業内容の検討 復習 ：課題 1 事例調査・収集作業
4	小川 弾	【第 4 回】 予習 ：課題 1 事例調査・収集作業 授業 ：課題 1 エスキス① 事例調査報告（発表） 復習 ：課題 1 事例調査報告を受けた内容の整理
5	小川 弾	【第 5 回】 予習 ：課題 1 エスキス準備 授業 ：課題 1 エスキス② 計画（実習） 復習 ：課題 1 エスキス内容の整理・計画
6	小川 弾	【第 6 回】 予習 ：社会人応用力を学ぶ 準備 授業 ：社会人応用力を学ぶ 復習 ：社会人応用力を学ぶ 内容の整理
7	小川 弾	【第 7 回】 予習 ：課題 1 エスキス準備 授業 ：課題 1 エスキス③ 計画（実習） 復習 ：課題 1 エスキス内容の整理・計画
8	小川 弾	【第 8 回】 予習 ：課題 1 エスキス準備 授業 ：課題 1 エスキス④ 展開（実習） 復習 ：課題 1 エスキス内容の整理・展開
9	小川 弾	【第 9 回】 予習 ：課題 1 中間発表 準備 授業 ：課題 1 中間発表・講評（プレゼンテーション） 復習 ：課題 1 中間講評 内容の整理
10	小川 弾	【第 10 回】 予習 ：課題 1 エスキス準備 授業 ：課題 1 エスキス⑤ 展開（実習） 復習 ：課題 1 エスキス内容の展開
11	小川 弾	【第 11 回】 予習 ：課題 1 エスキス準備 授業 ：課題 1 エスキス⑥ 制作（実習） 復習 ：課題 1 エスキス内容を受けた制作

12	小川 弾	【第 12 回】 予習 ：社会人実践力を学ぶ 準備 授業 ：社会人実践力を学ぶ 復習 ：社会人実践力を学ぶ 内容の整理
13	小川 弾	【第 13 回】 予習 ：課題１ エスキス準備 授業 ：課題１ エスキス⑦ 制作（実習） 復習 ：課題１ エスキス内容を受けた制作
14	小川 弾	【第 14 回】 予習 ：卒業研究から学ぶ 事前準備 授業 ：卒業研究から学ぶ 復習 ：卒業研究から学ぶ 内容の整理
15	小川 弾	【第 15 回】 予習 ：課題１ 最終発表 準備 授業 ：課題１ 最終発表・講評（プレゼンテーション） 復習 ：課題１ 最終講評 内容の整理

授業開始前学習	前期スタジオで制作した作品をブラッシュアップし、ポートフォリオに加えておく。
授業内課題のフィードバックの方法	課題は講評会において、教員と学生全体でディスカッションを行う。
テキスト・教材	資料・プリント等を適宜配布する。
参考書	
評価の基準と方法	提出物、受講態度などにより評価する。 配点は提出物 60%、受講態度（期限内提出・発表等）40%。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		◎	○

関連科目	
その他	・コロナ感染状況により対面で実施できない場合、課題内容の変更、スケジュールの入れ替えがある。 ・「卒業研究から学ぶ」授業では卒業制作合評会に参加すること。 ・正課学外活動として見学会等が実施される場合、交通費は自己負担となる。 ・その他、課題において見学等が必要な場合、交通費は自己負担となる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-322	科目分類（～2024 年入学者）	142-320-23	授業コード	FG1362
科目名称	建築ﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	Architectural Design studio Ⅱ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	三戸 美代子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三戸 美代子			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 水曜日 09:00～12:10 後期 水曜日 09:00～12:10			研究室	1-211
授業概要	前期のスタジオⅠに引き続き、選択する専門分野におけるテーマを研究・考察する。実習やプレゼンテーション、グループワーク等を通して、4 年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、選択する専門分野の知識を深め、技術力や実践力を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。				
到達目標	4 年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、選択する専門分野の知識を深め、プレゼンテーション能力等を高めることを目的とする。 また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	三戸 美代子	【第 1 回】 予習 ：学外実習報告会 事前準備 授業 ：学外実習報告会 復習 ：学外実習報告会 内容の整理
2	三戸 美代子	【第 2 回】 予習 ：社会人基礎力を学ぶ 準備 授業 ：社会人基礎力を学ぶ 復習 ：社会人基礎力を学ぶ 内容の整理
3	三戸 美代子	【第 3 回】 予習 ：課題 1 課題準備 授業 ：課題 1 課題説明、作業内容の検討 復習 ：課題 1 事例調査・収集作業
4	三戸 美代子	【第 4 回】 予習 ：課題 1 事例調査・収集作業 授業 ：課題 1 エスキス① 事例調査報告（発表） 復習 ：課題 1 事例調査報告を受けた内容の整理
5	三戸 美代子	【第 5 回】 予習 ：課題 1 エスキス準備 授業 ：課題 1 エスキス② 計画（実習） 復習 ：課題 1 エスキス内容の整理・計画
6	三戸 美代子	【第 6 回】 予習 ：社会人応用力を学ぶ 準備 授業 ：社会人応用力を学ぶ 復習 ：社会人応用力を学ぶ 内容の整理
7	三戸 美代子	【第 7 回】 予習 ：課題 1 エスキス準備 授業 ：課題 1 エスキス③ 計画（実習） 復習 ：課題 1 エスキス内容の整理・計画
8	三戸 美代子	【第 8 回】 予習 ：課題 1 エスキス準備 授業 ：課題 1 エスキス④ 展開（実習） 復習 ：課題 1 エスキス内容の整理・展開
9	三戸 美代子	【第 9 回】 予習 ：課題 1 中間発表 準備 授業 ：課題 1 中間発表・講評（プレゼンテーション） 復習 ：課題 1 中間講評 内容の整理
10	三戸 美代子	【第 10 回】 予習 ：課題 1 エスキス準備 授業 ：課題 1 エスキス⑤ 展開（実習） 復習 ：課題 1 エスキス内容の展開
11	三戸 美代子	【第 11 回】 予習 ：課題 1 エスキス準備 授業 ：課題 1 エスキス⑥ 制作（実習） 復習 ：課題 1 エスキス内容を受けた制作

12	三戸　美代子	【第 12 回】 予習　：社会人実践力を学ぶ　準備 授業　：社会人実践力を学ぶ 復習　：社会人実践力を学ぶ　内容の整理
13	三戸　美代子	【第 13 回】 予習　：課題１　エスキス準備 授業　：課題１　エスキス⑦　制作（実習） 復習　：課題１　エスキス内容を受けた制作
14	三戸　美代子	【第 14 回】 予習　：卒業研究から学ぶ　事前準備 授業　：卒業研究から学ぶ 復習　：卒業研究から学ぶ　内容の整理
15	三戸　美代子	【第 15 回】 予習　：課題１　最終発表　準備 授業　：課題１　最終発表・講評（プレゼンテーション） 復習　：課題１　最終講評　内容の整理

授業開始前学習	前期スタジオで制作した作品をブラッシュアップし、ポートフォリオに加えておく。
授業内課題のフィードバックの方法	課題は講評会において、教員と学生全体でディスカッションを行う。
テキスト・教材	資料・プリント等を適宜配布する。
参考書	
評価の基準と方法	提出物、受講態度などにより評価する。 配点は提出物 60%、受講態度（期限内提出・発表等）40%。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		◎	○

関連科目	
その他	・コロナ感染状況により対面で実施できない場合、課題内容の変更、スケジュールの入れ替えがある。 ・「卒業研究から学ぶ」授業では卒業制作合評会に参加すること。 ・正課学外活動として見学会等が実施される場合、交通費は自己負担となる。 ・その他、課題において見学等が必要な場合、交通費は自己負担となる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-322	科目分類（～2024 年入学者）	142-320-23	授業コード	FG1363
科目名称	建築ﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	Architectural Design studio Ⅱ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	堀邉 阿伊子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	堀邉 阿伊子			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～16:00 後期 金曜日 13:00～16:00			研究室	10-619
授業概要	前期のスタジオⅠに引き続き、選択する専門分野におけるテーマを研究・考察する。実習やプレゼンテーション、グループワーク等を通して、4 年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、選択する専門分野の知識を深め、技術力や実践力を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。				
到達目標	4 年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、選択する専門分野の知識を深め、プレゼンテーション能力等を高めることを目的とする。 また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	堀邉 阿伊子	【第 1 回】 予習 ：学外実習報告会 事前準備 授業 ：学外実習報告会 復習 ：学外実習報告会 内容の整理
2	堀邉 阿伊子	【第 2 回】 予習 ：社会人基礎力を学ぶ 準備 授業 ：社会人基礎力を学ぶ 復習 ：社会人基礎力を学ぶ 内容の整理
3	堀邉 阿伊子	【第 3 回】 予習 ：課題 1 課題準備 授業 ：課題 1 課題説明、作業内容の検討 復習 ：課題 1 事例調査・収集作業
4	堀邉 阿伊子	【第 4 回】 予習 ：課題 1 事例調査・収集作業 授業 ：課題 1 エスキス① 事例調査報告（発表） 復習 ：課題 1 事例調査報告を受けた内容の整理
5	堀邉 阿伊子	【第 5 回】 予習 ：課題 1 エスキス準備 授業 ：課題 1 エスキス② 計画（実習） 復習 ：課題 1 エスキス内容の整理・計画
6	堀邉 阿伊子	【第 6 回】 予習 ：社会人応用力を学ぶ 準備 授業 ：社会人応用力を学ぶ 復習 ：社会人応用力を学ぶ 内容の整理
7	堀邉 阿伊子	【第 7 回】 予習 ：課題 1 エスキス準備 授業 ：課題 1 エスキス③ 計画（実習） 復習 ：課題 1 エスキス内容の整理・計画
8	堀邉 阿伊子	【第 8 回】 予習 ：課題 1 エスキス準備 授業 ：課題 1 エスキス④ 展開（実習） 復習 ：課題 1 エスキス内容の整理・展開
9	堀邉 阿伊子	【第 9 回】 予習 ：課題 1 中間発表 準備 授業 ：課題 1 中間発表・講評（プレゼンテーション） 復習 ：課題 1 中間講評 内容の整理
10	堀邉 阿伊子	【第 10 回】 予習 ：課題 1 エスキス準備 授業 ：課題 1 エスキス⑤ 展開（実習） 復習 ：課題 1 エスキス内容の展開
11	堀邉 阿伊子	【第 11 回】 予習 ：課題 1 エスキス準備 授業 ：課題 1 エスキス⑥ 制作（実習） 復習 ：課題 1 エスキス内容を受けた制作

12	堀邉　阿伊子	【第 12 回】 予習　：社会人実践力を学ぶ　準備 授業　：社会人実践力を学ぶ 復習　：社会人実践力を学ぶ　内容の整理
13	堀邉　阿伊子	【第 13 回】 予習　：課題１　エスキス準備 授業　：課題１　エスキス⑦　制作（実習） 復習　：課題１　エスキス内容を受けた制作
14	堀邉　阿伊子	【第 14 回】 予習　：卒業研究から学ぶ　事前準備 授業　：卒業研究から学ぶ 復習　：卒業研究から学ぶ　内容の整理
15	堀邉　阿伊子	【第 15 回】 予習　：課題１　最終発表　準備 授業　：課題１　最終発表・講評（プレゼンテーション） 復習　：課題１　最終講評　内容の整理

授業開始前学習	前期スタジオで制作した作品をブラッシュアップし、ポートフォリオに加えておく。
授業内課題のフィードバックの方法	課題は講評会において、教員と学生全体でディスカッションを行う。
テキスト・教材	資料・プリント等を適宜配布する。
参考書	
評価の基準と方法	提出物、受講態度などにより評価する。 配点は提出物 60%、受講態度（期限内提出・発表等）40%。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		◎	○

関連科目	
その他	・コロナ感染状況により対面で実施できない場合、課題内容の変更、スケジュールの入れ替えがある。 ・「卒業研究から学ぶ」授業では卒業制作合評会に参加すること。 ・正課学外活動として見学会等が実施される場合、交通費は自己負担となる。 ・その他、課題において見学等が必要な場合、交通費は自己負担となる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-322	科目分類（～2024 年入学者）	142-320-23	授業コード	FG1364
科目名称	建築ﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	Architectural Design studio Ⅱ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	茂木 弥生子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	茂木 弥生子			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 10:40～12:10 木曜日 13:00～14:30			研究室	1-203
授業概要	前期のスタジオⅠに引き続き、選択する専門分野におけるテーマを研究・考察する。実習やプレゼンテーション、グループワーク等を通して、4 年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、選択する専門分野の知識を深め、技術力や実践力を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。				
到達目標	4 年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、選択する専門分野の知識を深め、プレゼンテーション能力等を高めることを目的とする。 また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	茂木 弥生子	【第 1 回】 予習 ：学外実習報告会 事前準備 授業 ：学外実習報告会 復習 ：学外実習報告会 内容の整理
2	茂木 弥生子	【第 2 回】 予習 ：社会人基礎力を学ぶ 準備 授業 ：社会人基礎力を学ぶ 復習 ：社会人基礎力を学ぶ 内容の整理
3	茂木 弥生子	【第 3 回】 予習 ：課題 1 課題準備 授業 ：課題 1 課題説明、作業内容の検討 復習 ：課題 1 事例調査・収集作業
4	茂木 弥生子	【第 4 回】 予習 ：課題 1 事例調査・収集作業 授業 ：課題 1 エスキス① 事例調査報告（発表） 復習 ：課題 1 事例調査報告を受けた内容の整理
5	茂木 弥生子	【第 5 回】 予習 ：課題 1 エスキス準備 授業 ：課題 1 エスキス② 計画（実習） 復習 ：課題 1 エスキス内容の整理・計画
6	茂木 弥生子	【第 6 回】 予習 ：社会人応用力を学ぶ 準備 授業 ：社会人応用力を学ぶ 復習 ：社会人応用力を学ぶ 内容の整理
7	茂木 弥生子	【第 7 回】 予習 ：課題 1 エスキス準備 授業 ：課題 1 エスキス③ 計画（実習） 復習 ：課題 1 エスキス内容の整理・計画
8	茂木 弥生子	【第 8 回】 予習 ：課題 1 エスキス準備 授業 ：課題 1 エスキス④ 展開（実習） 復習 ：課題 1 エスキス内容の整理・展開
9	茂木 弥生子	【第 9 回】 予習 ：課題 1 中間発表 準備 授業 ：課題 1 中間発表・講評（プレゼンテーション） 復習 ：課題 1 中間講評 内容の整理
10	茂木 弥生子	【第 10 回】 予習 ：課題 1 エスキス準備 授業 ：課題 1 エスキス⑤ 展開（実習） 復習 ：課題 1 エスキス内容の展開
11	茂木 弥生子	【第 11 回】 予習 ：課題 1 エスキス準備 授業 ：課題 1 エスキス⑥ 制作（実習） 復習 ：課題 1 エスキス内容を受けた制作

12	茂木　弥生子	【第 12 回】 予習　：社会人実践力を学ぶ　準備 授業　：社会人実践力を学ぶ 復習　：社会人実践力を学ぶ　内容の整理
13	茂木　弥生子	【第 13 回】 予習　：課題１　エスキス準備 授業　：課題１　エスキス⑦　制作（実習） 復習　：課題１　エスキス内容を受けた制作
14	茂木　弥生子	【第 14 回】 予習　：卒業研究から学ぶ　事前準備 授業　：卒業研究から学ぶ 復習　：卒業研究から学ぶ　内容の整理
15	茂木　弥生子	【第 15 回】 予習　：課題１　最終発表　準備 授業　：課題１　最終発表・講評（プレゼンテーション） 復習　：課題１　最終講評　内容の整理

授業開始前学習	前期スタジオで制作した作品をブラッシュアップし、ポートフォリオに加えておく。
授業内課題のフィードバックの方法	課題は講評会において、教員と学生全体でディスカッションを行う。
テキスト・教材	資料・プリント等を適宜配布する。
参考書	
評価の基準と方法	提出物、受講態度などにより評価する。 配点は提出物 60%、受講態度（期限内提出・発表等）40%。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		◎	○

関連科目	
その他	・コロナ感染状況により対面で実施できない場合、課題内容の変更、スケジュールの入れ替えがある。 ・「卒業研究から学ぶ」授業では卒業制作合評会に参加すること。 ・正課学外活動として見学会等が実施される場合、交通費は自己負担となる。 ・その他、課題において見学等が必要な場合、交通費は自己負担となる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-322	科目分類（～2024 年入学者）	142-320-23	授業コード	FG1365
科目名称	建築ﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	Architectural Design studio Ⅱ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	西尾 尚子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	西尾 尚子			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 水曜日 13:00～14:30 水曜日 14:40～16:10 後期 水曜日 13:00～14:30 水曜日 14:40～16:10			研究室	2-214
授業概要	前期のスタジオⅠに引き続き、選択する専門分野におけるテーマを研究・考察する。実習やプレゼンテーション、グループワーク等を通して、4 年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、選択する専門分野の知識を深め、技術力や実践力を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。				
到達目標	4 年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、選択する専門分野の知識を深め、プレゼンテーション能力等を高めることを目的とする。 また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	西尾 尚子	【第 1 回】 予習 ：学外実習報告会 事前準備 授業 ：学外実習報告会 復習 ：学外実習報告会 内容の整理
2	西尾 尚子	【第 2 回】 予習 ：社会人基礎力を学ぶ 準備 授業 ：社会人基礎力を学ぶ 復習 ：社会人基礎力を学ぶ 内容の整理
3	西尾 尚子	【第 3 回】 予習 ：課題 1 課題準備 授業 ：課題 1 課題説明、作業内容の検討 復習 ：課題 1 事例調査・収集作業
4	西尾 尚子	【第 4 回】 予習 ：課題 1 事例調査・収集作業 授業 ：課題 1 エスキス① 事例調査報告（発表） 復習 ：課題 1 事例調査報告を受けた内容の整理
5	西尾 尚子	【第 5 回】 予習 ：課題 1 エスキス準備 授業 ：課題 1 エスキス② 計画（実習） 復習 ：課題 1 エスキス内容の整理・計画
6	西尾 尚子	【第 6 回】 予習 ：社会人応用力を学ぶ 準備 授業 ：社会人応用力を学ぶ 復習 ：社会人応用力を学ぶ 内容の整理
7	西尾 尚子	【第 7 回】 予習 ：課題 1 エスキス準備 授業 ：課題 1 エスキス③ 計画（実習） 復習 ：課題 1 エスキス内容の整理・計画
8	西尾 尚子	【第 8 回】 予習 ：課題 1 エスキス準備 授業 ：課題 1 エスキス④ 展開（実習） 復習 ：課題 1 エスキス内容の整理・展開
9	西尾 尚子	【第 9 回】 予習 ：課題 1 中間発表 準備 授業 ：課題 1 中間発表・講評（プレゼンテーション） 復習 ：課題 1 中間講評 内容の整理
10	西尾 尚子	【第 10 回】 予習 ：課題 1 エスキス準備 授業 ：課題 1 エスキス⑤ 展開（実習） 復習 ：課題 1 エスキス内容の展開
11	西尾 尚子	【第 11 回】 予習 ：課題 1 エスキス準備 授業 ：課題 1 エスキス⑥ 制作（実習） 復習 ：課題 1 エスキス内容を受けた制作

12	西尾　尚子	【第 12 回】 予習　：社会人実践力を学ぶ　準備 授業　：社会人実践力を学ぶ 復習　：社会人実践力を学ぶ　内容の整理
13	西尾　尚子	【第 13 回】 予習　：課題１　エスキス準備 授業　：課題１　エスキス⑦　制作（実習） 復習　：課題１　エスキス内容を受けた制作
14	西尾　尚子	【第 14 回】 予習　：卒業研究から学ぶ　事前準備 授業　：卒業研究から学ぶ 復習　：卒業研究から学ぶ　内容の整理
15	西尾　尚子	【第 15 回】 予習　：課題１　最終発表　準備 授業　：課題１　最終発表・講評（プレゼンテーション） 復習　：課題１　最終講評　内容の整理

授業開始前学習	前期スタジオで制作した作品をブラッシュアップし、ポートフォリオに加えておく。
授業内課題のフィードバックの方法	課題は講評会において、教員と学生全体でディスカッションを行う。
テキスト・教材	資料・プリント等を適宜配布する。
参考書	
評価の基準と方法	提出物、受講態度などにより評価する。 配点は提出物 60%、受講態度（期限内提出・発表等）40%。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		◎	○

関連科目	
その他	・コロナ感染状況により対面で実施できない場合、課題内容の変更、スケジュールの入れ替えがある。 ・「卒業研究から学ぶ」授業では卒業制作合評会に参加すること。 ・正課学外活動として見学会等が実施される場合、交通費は自己負担となる。 ・その他、課題において見学等が必要な場合、交通費は自己負担となる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-322	科目分類（～2024 年入学者）	142-320-23	授業コード	FG1366
科目名称	建築ﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	Architectural Design studio Ⅱ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	松元 良枝			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松元 良枝			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 月曜日 14:40～16:10 後期 木曜日 10:30～12:10 木曜日 13:00～14:30			研究室	10-601
授業概要	前期のスタジオⅠに引き続き、選択する専門分野におけるテーマを研究・考察する。実習やプレゼンテーション、グループワーク等を通して、4 年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、選択する専門分野の知識を深め、技術力や実践力を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。				
到達目標	4 年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、選択する専門分野の知識を深め、プレゼンテーション能力等を高めることを目的とする。 また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	松元 良枝	【第 1 回】 予習 ：学外実習報告会 事前準備 授業 ：学外実習報告会 復習 ：学外実習報告会 内容の整理
2	松元 良枝	【第 2 回】 予習 ：社会人基礎力を学ぶ 準備 授業 ：社会人基礎力を学ぶ 復習 ：社会人基礎力を学ぶ 内容の整理
3	松元 良枝	【第 3 回】 予習 ：課題 1 課題準備 授業 ：課題 1 課題説明、作業内容の検討 復習 ：課題 1 事例調査・収集作業
4	松元 良枝	【第 4 回】 予習 ：課題 1 事例調査・収集作業 授業 ：課題 1 エスキス① 事例調査報告（発表） 復習 ：課題 1 事例調査報告を受けた内容の整理
5	松元 良枝	【第 5 回】 予習 ：課題 1 エスキス準備 授業 ：課題 1 エスキス② 計画（実習） 復習 ：課題 1 エスキス内容の整理・計画
6	松元 良枝	【第 6 回】 予習 ：社会人応用力を学ぶ 準備 授業 ：社会人応用力を学ぶ 復習 ：社会人応用力を学ぶ 内容の整理
7	松元 良枝	【第 7 回】 予習 ：課題 1 エスキス準備 授業 ：課題 1 エスキス③ 計画（実習） 復習 ：課題 1 エスキス内容の整理・計画
8	松元 良枝	【第 8 回】 予習 ：課題 1 エスキス準備 授業 ：課題 1 エスキス④ 展開（実習） 復習 ：課題 1 エスキス内容の整理・展開
9	松元 良枝	【第 9 回】 予習 ：課題 1 中間発表 準備 授業 ：課題 1 中間発表・講評（プレゼンテーション） 復習 ：課題 1 中間講評 内容の整理
10	松元 良枝	【第 10 回】 予習 ：課題 1 エスキス準備 授業 ：課題 1 エスキス⑤ 展開（実習） 復習 ：課題 1 エスキス内容の展開
11	松元 良枝	【第 11 回】 予習 ：課題 1 エスキス準備 授業 ：課題 1 エスキス⑥ 制作（実習） 復習 ：課題 1 エスキス内容を受けた制作

12	松元　良枝	【第 12 回】 予習　：社会人実践力を学ぶ　準備 授業　：社会人実践力を学ぶ 復習　：社会人実践力を学ぶ　内容の整理
13	松元　良枝	【第 13 回】 予習　：課題１　エスキス準備 授業　：課題１　エスキス⑦　制作（実習） 復習　：課題１　エスキス内容を受けた制作
14	松元　良枝	【第 14 回】 予習　：卒業研究から学ぶ　事前準備 授業　：卒業研究から学ぶ 復習　：卒業研究から学ぶ　内容の整理
15	松元　良枝	【第 15 回】 予習　：課題１　最終発表　準備 授業　：課題１　最終発表・講評（プレゼンテーション） 復習　：課題１　最終講評　内容の整理

授業開始前学習	前期スタジオで制作した作品をブラッシュアップし、ポートフォリオに加えておく。
授業内課題のフィードバックの方法	課題は講評会において、教員と学生全体でディスカッションを行う。
テキスト・教材	資料・プリント等を適宜配布する。
参考書	
評価の基準と方法	提出物、受講態度などにより評価する。 配点は提出物 60%、受講態度（期限内提出・発表等）40%。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		◎	○

関連科目	
その他	・コロナ感染状況により対面で実施できない場合、課題内容の変更、スケジュールの入れ替えがある。 ・「卒業研究から学ぶ」授業では卒業制作合評会に参加すること。 ・正課学外活動として見学会等が実施される場合、交通費は自己負担となる。 ・その他、課題において見学等が必要な場合、交通費は自己負担となる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-422 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	142-320-24 （Ｊ）	授業コード	FG1371
科目名称	建築ﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅢ			単位数	1.0 単位
英文名称	Architectural Design studio Ⅲ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	小川 弾			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小川 弾			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 13:00～14:30 金曜日 10:40～12:10			研究室	1-210
授業概要	建築の設計や地域デザインをするプロセスについて調査・研究を行うゼミである。 各自が研究テーマを持って社会や地域をとらえ、そこに潜む建築的課題を探し、それを解決する設計手法やプログラムの提案を実習する。 この授業ではディスカッションや発表を行う。				
到達目標	社会や地域などを自ら調査・研究し建築的課題を見出すことができるようになる。 自ら設定した計画敷地において、その建築的課題を解決するための設計手法やプログラムを提案できるようになる。 上記内容を他者にわかりやすく伝える技術を身に付ける。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	小川 弾	【第 1 回】 予習：シラバスの内容を確認する 授業：はじめにスタジオの運営方針について 復習：研究スケジュールの作成
2	小川 弾	【第 2 回】 予習：身近な問題意識や興味のある地域をリストアップ 授業：テーマを見つける①（ディスカッション） 復習：身近な問題意識や興味のある地域について整理する
3	小川 弾	【第 3 回】 予習：身近な問題意識や興味のある地域の資料を収集する 授業：テーマを見つける②（ディスカッション） 復習：身近な問題意識や興味のある地域について整理する
4	小川 弾	【第 4 回】 予習：テーマについて発表資料を準備する 授業：テーマを見つける③（発表プレゼンテーション） 復習：テーマを決定する
5	小川 弾	【第 5 回】 予習：事例の資料を収集する 授業：事例の調査・研究①（ディスカッション） 復習：事例について整理する
6	小川 弾	【第 6 回】 予習：事例の資料を収集する 授業：事例の調査・研究②（ディスカッション） 復習：事例について整理し、まとめる
7	小川 弾	【第 7 回】 予習：テーマについて文献や現地にて調査する 授業：各自のテーマに合わせた調査・研究①（ディスカッション） 復習：調査内容の整理
8	小川 弾	【第 8 回】 予習：テーマについて文献や現地にて調査する 授業：各自のテーマに合わせた調査・研究②（ディスカッション） 復習：調査内容の整理
9	小川 弾	【第 9 回】 予習：テーマについて文献や現地にて調査する 授業：各自のテーマに合わせた調査・研究③（ディスカッション） 復習：調査内容の整理
10	小川 弾	【第 10 回】 予習：調査した内容の考察とまとめ 授業：各自のテーマに合わせた調査・研究④（ディスカッション） 復習：調査内容の整理

11	小川 弾	【第 11 回】 予習：調査した内容の考察とまとめ 授業：各自のテーマに合わせた調査・研究⑤（発表プレゼンテーション） 復習：調査内容の整理と建築的課題のリストアップ
12	小川 弾	【第 12 回】 予習：課題解決のための提案を検討する 授業：各自の建築的課題の解決に向けて①（ディスカッション） 復習：課題解決のための提案を検討する
13	小川 弾	【第 13 回】 予習：課題解決のための提案を検討する 授業：各自の建築的課題の解決に向けて②（ディスカッション） 復習：課題解決のための提案を検討する
14	小川 弾	【第 14 回】 予習：課題解決のための提案を検討する 授業：各自の建築的課題の解決に向けて③（発表プレゼンテーション） 復習：課題解決のための提案をまとめる
15	小川 弾	【第 15 回】 予習：成果発表の準備をする 授業：成果発表（発表プレゼンテーション） 復習：成果をもとに自己評価を行う

授業開始前学習	建築やまちをたくさん訪れ観て体験して欲しい。展覧会などを観に行くのも良いでしょう。 多くの空間体験を積むことは、自分の中の評価軸を作ることにつながります。それは設計を進める上での重要な要素になります。
授業内課題のフィードバックの方法	各回の作業報告や提出課題に対して意見交換やディスカッションを行う。発表などの際には講評する。
テキスト・教材	適宜必要な資料等を配布する。
参考書	
評価の基準と方法	研究成果（レポート、プレゼンテーション）、平常点（課題提出、授業態度）で評価する。 研究成果 60 点、平常点 40 点とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		○	◎

関連科目	建築関連科目、卒業研究
その他	調査・研究・制作などにかかる費用は自己負担とする。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	建築設計事務所における建築の設計・監理を実践してきた実務経験を活かし、建築の企画や計画・設計などを講義・実習する。

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-422	科目分類（～2024 年入学者）	142-320-24	授業コード	FG1372
科目名称	建築ﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅢ			単位数	1.0 単位
英文名称	Architectural Design studio Ⅲ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	三戸 美代子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三戸 美代子			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 水曜日 09:00～12:10 後期 水曜日 09:00～12:10			研究室	1-211
授業概要	実際の社会では、その場所で、その機能で、一体何が課題であるかを見つけ出すことが、デザインに求められている。 そこで、建築計画や都市計画が果たす役割を考えるために、実際に都市や街をサーベイすることにより、各自が今まで以上に具体的に身近な問題を見出し、研究し、プログラムを提案する。 この授業では、実習、ディスカッション、発表を行う。				
到達目標	社会や敷地に固有の具体的に身近な問題を見出し、研究し、プログラムを提案できる。 さまざまなプレゼンテーションツールを駆使して、考えを伝えられる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	三戸 美代子	【第 1 回】 予習 ：３年スタジオでの課題の見直し、目標設定 授業 ：はじめに スタジオの運営方針について 復習 ：各自のスケジュール作成
2	三戸 美代子	【第 2 回】 予習 ：テーマ案に沿った調査 授業 ：テーマ検討（ディスカッション） 復習 ：資料準備
3	三戸 美代子	【第 3 回】 予習 ：テーマ案に沿った調査 授業 ：テーマ検討（ディスカッション） 復習 ：テーマ提出
4	三戸 美代子	【第 4 回】 予習 ：敷地等の現況調査 授業 ：現況調査報告（ディスカッション） 復習 ：調査不足項目確認
5	三戸 美代子	【第 5 回】 予習 ：敷地等の現況再調査 授業 ：現況調査報告と課題設定指導（ディスカッション） 復習 ：指導後の修正
6	三戸 美代子	【第 6 回】 予習 ：プレゼンテーションツール準備 授業 ：スタジオ内プレゼンテーションとディスカッション（発表・ディスカッション） 復習 ：客観的な視点での見直し
7	三戸 美代子	【第 7 回】 予習 ：プレゼンテーションツール準備 授業 ：スタジオ内プレゼンテーションとディスカッション（発表・ディスカッション） 復習 ：客観的な視点での見直し
8	三戸 美代子	【第 8 回】 予習 ：エスキスチェック資料準備 授業 ：制作指導（実習） 復習 ：指導後の修正
9	三戸 美代子	【第 9 回】 予習 ：エスキスチェック資料準備 授業 ：制作指導（実習） 復習 ：指導後の修正
10	三戸 美代子	【第 10 回】 予習 ：エスキスチェック資料準備 授業 ：制作指導（実習） 復習 ：指導後の修正
11	三戸 美代子	【第 11 回】 予習 ：エスキスチェック資料準備 授業 ：制作指導 （実習） 復習 ：指導後の修正

12	三戸　美代子	【第 12 回】 予習　：前期発表ツール案 授業　：前期発表会指導 復習　：指導後の修正
13	三戸　美代子	【第 13 回】 予習　：合評会発表ツール 授業　：前期発表会（発表） 復習　：自己評価と他者の評価
14	三戸　美代子	【第 14 回】 予習　：ディスカッション準備 授業　：発表会についてスタジオ内でディスカッション（ディスカッション） 復習　：ディスカッション後の修正
15	三戸　美代子	【第 15 回】 予習　：前期のふりかえりを整理 授業　：前期のまとめと後期への課題 復習　：夏期休暇中の作業

授業開始前学習	３年次のスタジオでの課題を整理するとともに、社会環境や自分の生活の中から、つねに興味のある対象をさがしておく。
授業内課題のフィードバックの方法	スタジオ内では、毎回の作業報告や課題について、ディスカッションを行いながら更新していく。
テキスト・教材	
参考書	
評価の基準と方法	平常点（授業態度・提出期限厳守）、研究成果により評価する。 平常点３０点、研究成果７０点とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		○	◎

関連科目	建築デザインスタジオ BIV、卒業研究
その他	・卒業研究を選択する学生は、一定の課題に対して制作を行うこととする。 ・各自の設定したテーマに沿って、個別エスキスのほか、スタジオ内でプレゼンテーションすることで、意見交換をし、より客観的に考えていくための場とする。 ・調査、研究、制作などに掛かる費用は原則として自己負担である。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-422	科目分類（～2024 年入学者）	142-320-24	授業コード	FG1373
科目名称	建築ﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅢ			単位数	1.0 単位
英文名称	Architectural Design studio Ⅲ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	堀邉 阿伊子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	堀邉 阿伊子			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～16:00 後期 金曜日 13:00～16:00			研究室	10-619
授業概要	空間に関連する自身の興味に基づく研究テーマを見出し、独自の調査・分析に基づいた制作や研究論文としてまとめる。				
到達目標	自分が興味のある研究テーマに対して、問題を設定し、独自の解決策を導くことができる。目的の設定、調査・分析の実施、プレゼンテーションまでの一連のプロセスを自ら主宰して実行できる。専門知識を身に付け、ディスカッションを通して専門的なコミュニケーション力を習得する。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	堀邉 阿伊子	【第 1 回】 予習 ：シラバスを読むこと 授業 ：ガイダンス 復習 ：授業計画の確認
2	堀邉 阿伊子	【第 2 回】 予習 ：既往研究の調査 授業 ：研究テーマの検討 1 （ディスカッション） 復習 ：興味・関心の整理
3	堀邉 阿伊子	【第 3 回】 予習 ：既往研究の調査 授業 ：研究テーマの検討 2 （ディスカッション） 復習 ：興味・関心の整理
4	堀邉 阿伊子	【第 4 回】 予習 ：既往研究の調査 授業 ：研究テーマの検討 3 （ディスカッション） 復習 ：興味・関心の整理
5	堀邉 阿伊子	【第 5 回】 予習 ：プレゼンテーション資料の作成 授業 ：研究テーマ発表（プレゼンテーション・ディスカッション） 復習 ：テーマの決定
6	堀邉 阿伊子	【第 6 回】 予習 ：事例調査・文献調査 授業 ：事例調査・調査手法・制作手法の検討 1 （ディスカッション） 復習 ：事例調査・文献調査を進める
7	堀邉 阿伊子	【第 7 回】 予習 ：事例調査・文献調査 授業 ：事例調査・調査手法・制作手法の検討 2 （ディスカッション） 復習 ：調査手法の決定
8	堀邉 阿伊子	【第 8 回】 予習 ：資料収集・分析考察 授業 ：調査・分析・制作 1 （ディスカッション・実習） 復習 ：調査・分析を進める
9	堀邉 阿伊子	【第 9 回】 予習 ：資料収集・分析考察 授業 ：調査・分析・制作 2 （ディスカッション・実習） 復習 ：調査・分析を進める
10	堀邉 阿伊子	【第 10 回】 予習 ：資料収集・分析考察 授業 ：調査・分析・制作 3 （ディスカッション・実習） 復習 ：調査・分析を進める
11	堀邉 阿伊子	【第 11 回】 予習 ：資料収集・分析考察 授業 ：調査・分析・制作 4 （ディスカッション・実習） 復習 ：調査・分析を進める

12	堀邉　阿伊子	【第 12 回】 予習　：プレゼンテーション資料の作成 授業　：研究成果のまとめ 1 （プレゼンテーション・実習） 復習　：プレゼンテーション資料の修正
13	堀邉　阿伊子	【第 13 回】 予習　：プレゼンテーション資料の作成 授業　：研究成果のまとめ 2 （プレゼンテーション・実習） 復習　：プレゼンテーション資料の修正
14	堀邉　阿伊子	【第 14 回】 予習　：プレゼンテーション資料の作成 授業　：成果発表（プレゼンテーション・ディスカッション） 復習　：指摘事項の確認
15	堀邉　阿伊子	【第 15 回】 予習　：授業のふりかえり 授業　：まとめ 復習　：今後の課題の検討

授業開始前学習	空間に関連する疑問・興味・関心事を探しておく。
授業内課題のフィードバックの方法	提出されたレポートやプレゼンテーションに対して、講評及び個別の質問に対応する。
テキスト・教材	特になし。適宜プリント等を配布する。
参考書	
評価の基準と方法	研究成果（レポート・プレゼンテーション）と授業態度で評価する。配点（100 点満点として）は、研究成果 70 点、授業態度 30 点とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		○	◎

関連科目	
その他	授業の順番等は適宜変更する事もある。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-422	科目分類（～2024 年入学者）	142-320-24	授業コード	FG1374
科目名称	建築ﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅢ			単位数	1.0 単位
英文名称	Architectural Design studio Ⅲ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	茂木 弥生子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	茂木 弥生子			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 10:40～12:10 木曜日 13:00～14:30			研究室	1-203
授業概要	建築や都市のデザインを考えるうえで、常に生活者の視点に立つことを忘れてはならない。各自が問題意識を持ってテーマを探し、生活者の視点に基づいた調査・研究を行い、その成果の表現手法を検討する。また、各段階でディスカッションや発表の機会を設け、コミュニケーション力やプレゼンテーション力を磨く。				
到達目標	自分の研究テーマに基づき、その社会的背景について考察し、見学や調査などをとおして研究の方向性を確定する。各段階でディスカッションを繰り返すことにより、人に伝わるプレゼンテーション能力を身につける。また、社会人として必要な知識を習得し、実践力を向上させる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	茂木 弥生子	【第 1 回】 予習 ：シラバスの内容を確認する 授業 ：オリエンテーション 復習 ：配布資料を再読し、理解を深める
2	茂木 弥生子	【第 2 回】 予習 ：興味のあるテーマを検討する 授業 ：テーマを探す①（ディスカッション） 復習 ：興味のあるテーマのキーワードを整理する
3	茂木 弥生子	【第 3 回】 予習 ：興味のあるテーマの資料を収集する 授業 ：テーマを探す②（ディスカッション） 復習 ：興味のあるテーマのキーワードを整理する
4	茂木 弥生子	【第 4 回】 予習 ：テーマ発表資料を準備する 授業 ：テーマの発表（プレゼンテーション） 復習 ：テーマを決定する
5	茂木 弥生子	【第 5 回】 予習 ：テーマに基づく文献を調べる 授業 ：事例調査・研究①（ディスカッション・実習） 復習 ：調査方法を検討する
6	茂木 弥生子	【第 6 回】 予習 ：事例資料を収集する 授業 ：事例調査・研究②（ディスカッション・実習） 復習 ：事例調査・研究を進める
7	茂木 弥生子	【第 7 回】 予習 ：事例資料を収集する 授業 ：事例調査・研究③（ディスカッション・実習） 復習 ：事例調査・研究を進める
8	茂木 弥生子	【第 8 回】 予習 ：事例の調査・研究発表の準備をする 授業 ：事例調査・研究の発表（プレゼンテーション） 復習 ：指摘を受けた箇所について検討する
9	茂木 弥生子	【第 9 回】 予習 ：テーマに基づく調査・研究文献を調べる 授業 ：各自の手法による調査・研究①（ディスカッション・実習） 復習 ：調査手法を検討する
10	茂木 弥生子	【第 10 回】 予習 ：調査・研究資料を収集する 授業 ：各自の手法による調査・研究②（ディスカッション・実習） 復習 ：調査・研究を進める
11	茂木 弥生子	【第 11 回】 予習 ：調査・研究資料を収集する 授業 ：各自の手法による調査・研究③（ディスカッション・実習） 復習 ：調査・研究を進める

12	茂木　弥生子	【第 12 回】 予習　：調査・研究発表の準備をする 授業　：各自の手法による調査・研究の発表（プレゼンテーション） 復習　：指摘を受けた箇所について検討する
13	茂木　弥生子	【第 13 回】 予習　：プレゼンテーションの参考文献を調べる 授業　：プレゼンテーション手法の検討①（ディスカッション・実習） 復習　：プレゼンテーション手法を決定する
14	茂木　弥生子	【第 14 回】 予習　：プレゼンテーション資料の作成準備をする 授業　：プレゼンテーション手法の検討②（ディスカッション・実習） 復習　：プレゼンテーション資料を作成する
15	茂木　弥生子	【第 15 回】 予習　：成果発表の準備をする 授業　：成果発表（プレゼンテーション） 復習　：成果をもとに自己評価を行う

授業開始前学習	興味のある建築デザインについて、インターネットや雑誌、書籍などで幅広く情報収集する。
授業内課題のフィードバックの方法	個別のエスキースや講評を行う。また、プレゼンテーションやディスカッションをとおして履修者同士の理解を深め、改善点などを共有する。
テキスト・教材	適宜必要な資料等を配布する。
参考書	
評価の基準と方法	研究成果（70 点）、授業態度（30 点）を総合して評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		○	◎

関連科目	
その他	調査・研究・制作などにかかる費用は自己負担となる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-422 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	142-320-24 （Ｊ）	授業コード	FG1381
科目名称	建築ﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅣ			単位数	1.0 単位
英文名称	Architectural Design studio Ⅳ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	小川 弾			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小川 弾			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 13:00～14:30 金曜日 10:40～12:10			研究室	1-210
授業概要	前期スタジオの調査・研究をもとに、建築の設計や地域デザインを具体的に実習するゼミである。 各自が提案した設計手法やプログラムを用い、具体的な地域や敷地を設定して、その建築的課題を解決するための設計を行う。 この授業ではディスカッションや発表を行う。				
到達目標	自ら設定した計画敷地において、その建築的課題を解決するための設計手法やプログラムを提案できるようになる。 提案した設計手法やプログラムをもとに、具体的な建築物を設計することができるようになる。 上記内容を他者にわかりやすく伝える技術を身に付ける。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	小川 弾	【第 1 回】 予習：シラバスの内容を確認する 授業：計画敷地について①（ディスカッション） 復習：作業スケジュールの作成、計画敷地の検討
2	小川 弾	【第 2 回】 予習：計画敷地の検討 授業：計画敷地について②（ディスカッション） 復習：計画敷地の決定
3	小川 弾	【第 3 回】 予習：設計のスタディ 授業：建築物の設計①（ディスカッション） 復習：設計内容を再検討
4	小川 弾	【第 4 回】 予習：設計のスタディ 授業：建築物の設計②（ディスカッション） 復習：設計内容を再検討
5	小川 弾	【第 5 回】 予習：設計のスタディ 授業：建築物の設計③（ディスカッション） 復習：設計内容を再検討
6	小川 弾	【第 6 回】 予習：設計のスタディ 授業：建築物の設計④（ディスカッション） 復習：設計内容を再検討
7	小川 弾	【第 7 回】 予習：設計のスタディ 授業：建築物の設計⑤（ディスカッション） 復習：設計内容を再検討
8	小川 弾	【第 8 回】 予習：設計内容をまとめる 授業：建築物の設計⑥（発表プレゼンテーション） 復習：設計内容を再検討
9	小川 弾	【第 9 回】 予習：制作に必要な資料の準備 授業：制作作業①（ディスカッション） 復習：制作作業を進める
10	小川 弾	【第 10 回】 予習：制作に必要な資料の準備 授業：制作作業②（ディスカッション） 復習：制作作業を進める

11	小川 弾	【第 11 回】 予習：制作に必要な資料の準備 授業：制作作業③（ディスカッション） 復習：制作作業を進める
12	小川 弾	【第 12 回】 予習：これまでの成果をまとめる 授業：プレゼンテーション準備①（ディスカッション） 復習：発表方法の検討
13	小川 弾	【第 13 回】 予習：これまでの成果をまとめる 授業：プレゼンテーション準備②（ディスカッション） 復習：発表方法の検討
14	小川 弾	【第 14 回】 予習：成果発表の準備をする 授業：成果発表①（発表プレゼンテーション） 復習：成果をもとに自己評価を行う
15	小川 弾	【第 15 回】 予習：成果発表の準備をする 授業：成果発表②（発表プレゼンテーション） 復習：成果をもとに自己評価を行う

授業開始前学習	建築やまちをたくさん訪れ観て体験して欲しい。展覧会などを観に行くのも良いでしょう。 多くの空間体験を積むことは、自分の中の評価軸を作ることにつながります。それは設計を進める上での重要な要素になります。
授業内課題のフィードバックの方法	各回の作業報告や提出課題に対して意見交換やディスカッションを行う。発表などの際には講評する。
テキスト・教材	適宜必要な資料等を配布する。
参考書	
評価の基準と方法	研究成果（レポート、プレゼンテーション）、平常点（課題提出、授業態度）で評価する。 研究成果 60 点、平常点 40 点とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		○	◎

関連科目	建築関連科目、卒業研究
その他	調査・研究・制作などにかかる費用は自己負担とする。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	建築設計事務所における建築の設計・監理を実践してきた実務経験を活かし、建築の企画や計画・設計などを講義・実習する。

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-422	科目分類（～2024 年入学者）	142-320-24	授業コード	FG1382
科目名称	建築ﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅣ			単位数	1.0 単位
英文名称	Architectural Design studio Ⅳ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	三戸 美代子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三戸 美代子			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 水曜日 09:00～12:10 後期 水曜日 09:00～12:10			研究室	1-211
授業概要	前期のスタジオで見出した問題に対して、各自が提案したプログラムを建築として実現するためには、主観的なアイディアの創造をしつつも、客観的な批判をし続けることが必要である。 後期はその創造と批判の繰り返しをしながら、制作を進めていく。 この授業では、実習、ディスカッション、発表を行う。				
到達目標	主観的なアイディアの創造をしつつも、客観的な評価ができる。 長期間の制作の中でのスケジュール管理についても実際の作業を通して学ぶ。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	三戸 美代子	【第 1 回】 予習 ：前期スタジオでの指導により作業を進める 授業 ：後期予定ガイダンス 復習 ：各自のスケジュール作成
2	三戸 美代子	【第 2 回】 予習 ：進行状況をまとめる 授業 ：作業報告会準備 復習 ：チェックされた資料、原稿修正
3	三戸 美代子	【第 3 回】 予習 ：作業報告会に使用するツールの準備 授業 ：作業報告会（発表） 復習 ：自己評価と他者の評価
4	三戸 美代子	【第 4 回】 予習 ：発表を受けてスケジュール調整 授業 ：研究と指導（実習・ディスカッション） 復習 ：指導後の修正
5	三戸 美代子	【第 5 回】 予習 ：エスキスチェック資料準備 授業 ：研究と指導（実習・ディスカッション） 復習 ：指導後の修正
6	三戸 美代子	【第 6 回】 予習 ：プレゼンテーションツール準備 授業 ：スタジオ内プレゼンテーションとディスカッション（発表・ディスカッション） 復習 ：客観的な視点での見直し
7	三戸 美代子	【第 7 回】 予習 ：プレゼンテーションツール準備 授業 ：スタジオ内プレゼンテーションとディスカッション（発表・ディスカッション） 復習 ：客観的な視点での見直し
8	三戸 美代子	【第 8 回】 予習 ：エスキスチェック資料準備 授業 ：制作指導（実習） 復習 ：指導後の修正
9	三戸 美代子	【第 9 回】 予習 ：エスキスチェック資料準備 授業 ：制作指導（実習） 復習 ：指導後の修正
10	三戸 美代子	【第 10 回】 予習 ：エスキスチェック資料準備 授業 ：制作指導（実習） 復習 ：指導後の修正
11	三戸 美代子	【第 11 回】 予習 ：パネルレイアウト案 授業 ：提出チェック（実習） 復習 ：指導後の修正

12	三戸　美代子	【第 12 回】 予習　：合評会発表ツール案 授業　：合評会指導（発表・ディスカッション） 復習　：指導後の修正
13	三戸　美代子	【第 13 回】 予習　：合評会発表ツール 授業　：合評会（発表） 復習　：自己評価と他者の評価
14	三戸　美代子	【第 14 回】 予習　：模型等修正 授業　：講評、写真撮影（実習） 復習　：作品の保管
15	三戸　美代子	【第 15 回】 予習　：学外展示用レイアウト案 授業　：学外展示準備、プレゼン指導（実習） 復習　：作品ブラッシュアップ

授業開始前学習	前期で見つけた興味のある対象について、資料収集、調査などをすすめておく。
授業内課題のフィードバックの方法	スタジオ内では、毎回の作業報告や課題について、ディスカッションを行いながら更新していく。
テキスト・教材	
参考書	
評価の基準と方法	平常点（授業態度・提出期限厳守）、研究成果により評価する。 平常点３０点、研究成果７０点とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		○	◎

関連科目	建築デザインスタジオ BIII、卒業研究
その他	・卒業研究を選択する学生は、一定の課題に対して制作を行うこととする。 ・各自の設定したテーマに沿って、個別エスキスのほか、スタジオ内でプレゼンテーションすることで、意見交換をし、より客観的に考えていくための場とする。 ・調査、研究、制作などに掛かる費用は原則として自己負担である。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-422	科目分類（～2024 年入学者）	142-320-24	授業コード	FG1383
科目名称	建築ﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅣ			単位数	1.0 単位
英文名称	Architectural Design studio Ⅳ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	堀邉 阿伊子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	堀邉 阿伊子			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～16:00 後期 金曜日 13:00～16:00			研究室	10-619
授業概要	空間に関連する自身の興味に基づく研究テーマを見出し、独自の調査・分析に基づいた制作や研究論文としてまとめる。				
到達目標	自分が興味のある研究テーマに対して、問題を設定し、独自の解決策を導くことができる。目的の設定、調査・分析の実施、プレゼンテーションまでの一連のプロセスを自ら主宰して実行できる。専門知識を身に付け、ディスカッションを通して専門的なコミュニケーション力を習得する。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	堀邉 阿伊子	【第 1 回】 予習 ：シラバスを読むこと 授業 ：ガイダンス 復習 ：授業計画の確認
2	堀邉 阿伊子	【第 2 回】 予習 ：既往研究の調査 授業 ：研究テーマの検討 1 （ディスカッション） 復習 ：興味・関心の整理
3	堀邉 阿伊子	【第 3 回】 予習 ：既往研究の調査 授業 ：研究テーマの検討 2 （ディスカッション） 復習 ：興味・関心の整理
4	堀邉 阿伊子	【第 4 回】 予習 ：既往研究の調査 授業 ：研究テーマの検討 3 （ディスカッション） 復習 ：興味・関心の整理
5	堀邉 阿伊子	【第 5 回】 予習 ：プレゼンテーション資料の作成 授業 ：研究テーマ発表（プレゼンテーション・ディスカッション） 復習 ：テーマの決定
6	堀邉 阿伊子	【第 6 回】 予習 ：事例調査・文献調査 授業 ：事例調査・調査手法・制作手法の検討 1 （ディスカッション） 復習 ：事例調査・文献調査を進める
7	堀邉 阿伊子	【第 7 回】 予習 ：事例調査・文献調査 授業 ：事例調査・調査手法・制作手法の検討 2 （ディスカッション） 復習 ：調査手法の決定
8	堀邉 阿伊子	【第 8 回】 予習 ：資料収集・分析考察 授業 ：調査・分析・制作 1 （ディスカッション・実習） 復習 ：調査・分析を進める
9	堀邉 阿伊子	【第 9 回】 予習 ：資料収集・分析考察 授業 ：調査・分析・制作 2 （ディスカッション・実習） 復習 ：調査・分析を進める
10	堀邉 阿伊子	【第 10 回】 予習 ：資料収集・分析考察 授業 ：調査・分析・制作 3 （ディスカッション・実習） 復習 ：調査・分析を進める
11	堀邉 阿伊子	【第 11 回】 予習 ：資料収集・分析考察 授業 ：調査・分析・制作 4 （ディスカッション・実習） 復習 ：調査・分析を進める

12	堀邉　阿伊子	【第 12 回】 予習　：プレゼンテーション資料の作成 授業　：研究成果のまとめ 1 （プレゼンテーション・実習） 復習　：プレゼンテーション資料の修正
13	堀邉　阿伊子	【第 13 回】 予習　：プレゼンテーション資料の作成 授業　：研究成果のまとめ 2 （プレゼンテーション・実習） 復習　：プレゼンテーション資料の修正
14	堀邉　阿伊子	【第 14 回】 予習　：プレゼンテーション資料の作成 授業　：成果発表（プレゼンテーション・ディスカッション） 復習　：指摘事項の確認
15	堀邉　阿伊子	【第 15 回】 予習　：授業のふりかえり 授業　：まとめ 復習　：今後の課題の検討

授業開始前学習	空間に関連する疑問・興味・関心事を探しておく。
授業内課題のフィードバックの方法	提出されたレポートやプレゼンテーションに対して、講評及び個別の質問に対応する。
テキスト・教材	特になし。適宜プリント等を配布する。
参考書	
評価の基準と方法	研究成果（レポート・プレゼンテーション）と授業態度で評価する。配点（100 点満点として）は、研究成果 70 点、授業態度 30 点とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		○	◎

関連科目	
その他	授業の順番等は適宜変更する事もある。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-422	科目分類（～2024 年入学者）	142-320-24	授業コード	FG1384
科目名称	建築ﾃﾞｻﾞｲﾝｽﾀｼﾞｵⅣ			単位数	1.0 単位
英文名称	Architectural Design studio Ⅳ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	茂木 弥生子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	茂木 弥生子			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 10:40～12:10 木曜日 13:00～14:30			研究室	1-203
授業概要	建築や都市のデザインを考えるうえで、常に生活者の視点に立つことを忘れてはならない。前期に決めたテーマとその表現手法を踏まえ、さらに生活者の視点に基づいた調査・研究を深め、その表現手法を具体化させ、プレゼンテーションを行う。また、各段階でディスカッションや発表の機会を設け、コミュニケーション力やプレゼンテーション力を磨く。				
到達目標	自分の研究テーマに基づいた研究成果を完成させる。各段階でディスカッションを繰り返すことにより、人に伝わるプレゼンテーション能力を身につけ、研究成果のプレゼンテーションを実施する。また、社会人として必要な知識を習得し、実践力を向上させる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	茂木 弥生子	【第 1 回】 予習 ：シラバスの内容を確認する 授業 ：テーマを決める 復習 ：テーマのキーワードを整理する
2	茂木 弥生子	【第 2 回】 予習 ：テーマに基づく文献を調べる 授業 ：テーマの精査（ディスカッション） 復習 ：テーマを決定する
3	茂木 弥生子	【第 3 回】 予習 ：テーマに基づく調査・研究文献を調べる 授業 ：各自の手法による調査・研究①（ディスカッション・実習） 復習 ：調査手法を検討する
4	茂木 弥生子	【第 4 回】 予習 ：調査・研究資料を収集する 授業 ：各自の手法による調査・研究②（ディスカッション・実習） 復習 ：調査・研究を進める
5	茂木 弥生子	【第 5 回】 予習 ：調査・研究資料を収集する 授業 ：各自の手法による調査・研究③（ディスカッション・実習） 復習 ：調査・研究を進める
6	茂木 弥生子	【第 6 回】 予習 ：調査・研究発表の準備をする 授業 ：各自の手法による調査・研究の発表①（プレゼンテーション） 復習 ：指摘を受けた箇所について検討する
7	茂木 弥生子	【第 7 回】 予習 ：調査・研究発表の準備をする 授業 ：各自の手法による調査・研究の発表②（プレゼンテーション） 復習 ：指摘を受けた箇所について検討する
8	茂木 弥生子	【第 8 回】 予習 ：制作物を検討する 授業 ：制作作業①（ディスカッション・実習） 復習 ：制作作業を進める
9	茂木 弥生子	【第 9 回】 予習 ：制作に必要な資料・材料を準備する 授業 ：制作作業②（ディスカッション・実習） 復習 ：制作作業を進める
10	茂木 弥生子	【第 10 回】 予習 ：制作に必要な資料・材料を準備する 授業 ：制作作業③（ディスカッション・実習） 復習 ：制作物を完成させる
11	茂木 弥生子	【第 11 回】 予習 ：プレゼンテーションの参考文献を調べる 授業 ：プレゼンテーション手法の検討（ディスカッション・実習） 復習 ：プレゼンテーション手法を決定する

12	茂木　弥生子	【第 12 回】 予習　：プレゼンテーション資料の作成準備をする 授業　：プレゼンテーション準備作業①（ディスカッション・実習） 復習　：プレゼンテーション資料を作成する
13	茂木　弥生子	【第 13 回】 予習　：プレゼンテーション資料の作成準備をする 授業　：プレゼンテーション準備作業②（ディスカッション・実習） 復習　：プレゼンテーション資料を完成させる
14	茂木　弥生子	【第 14 回】 予習　：成果発表の準備をする 授業　：成果発表①（プレゼンテーション） 復習　：成果をもとに自己評価を行う
15	茂木　弥生子	【第 15 回】 予習　：成果発表の準備をする 授業　：成果発表②（プレゼンテーション） 復習　：成果をもとに自己評価を行う

授業開始前学習	興味のある建築デザインについて、インターネットや雑誌、書籍などで幅広く情報収集する。
授業内課題のフィードバックの方法	個別のエスキースや講評を行う。また、プレゼンテーションやディスカッションをとおして履修者同士の理解を深め、改善点などを共有する。
テキスト・教材	適宜必要な資料等を配布する。
参考書	
評価の基準と方法	研究成果（70 点）、授業態度（30 点）を総合して評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		○	◎

関連科目	
その他	調査・研究・制作などにかかる費用は自己負担となる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-432 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	140-330-24 （Ｊ）	授業コード	FG9900
科目名称	卒業研究			単位数	4.0 単位
英文名称	Graduation Projects			授業区分	演習
科目責任者	李 志炯			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	李 志炯			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～10:30 水曜日 14:40～16:10 後期 火曜日 09:00～10:30 水曜日 16:20～17:50			研究室	1-207
授業概要	デザインに関する研究テーマについて学生の特性に合わせて作品制作や論文作成を含めて指導する。特に制作については、各デザイン分野にまつわる問題を調査分析し、プログラムも含めて提案しプレゼンテーションできるようにする。				
到達目標	自ら課題とするデザインの問題設定が出来る事。問題解決の為のコンセプトとデザインプロセスを構築できる事。自ら作った作品を理解してもらえるコミュニケーション能力を持つ事。 以上を到達目標とする。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	共同

授業回数	担当者	授業の内容
1	李 志炯	【第 1 回】 予習 ：シラバス参照 授業 ：ガイダンス 復習 ：授業目標のキーワード確認
2	李 志炯	【第 2 回】 予習 ：卒業研究課題の検索 授業 ：作業報告会準備① 復習 ：課題の自習
3	李 志炯	【第 3 回】 予習 ：研究課題の決定 授業 ：作業報告会準備② 復習 ：研究課題の問題点確認
4	李 志炯	【第 4 回】 予習 ：事例研究 授業 ：エスキース① 復習 ：事例の再検討
5	李 志炯	【第 5 回】 予習 ：事例検索 授業 ：エスキース② 復習 ：事例の分析
6	李 志炯	【第 6 回】 予習 ：課題の自習 授業 ：グループディスカッション 復習 ：課題の自習
7	李 志炯	【第 7 回】 予習 ：課題の自習 授業 ：エスキース③ 復習 ：課題の自習
8	李 志炯	【第 8 回】 予習 ：課題進行ダイヤグラム作成 授業 ：エスキース④ 復習 ：課題の自習
9	李 志炯	【第 9 回】 予習 ：発表準備 授業 ：中間発表（プレゼンテーション） 復習 ：発表内容の反省点抽出
10	李 志炯	【第 10 回】 予習 ：課題の自習 授業 ：エスキース⑤ 復習 ：課題の自習
11	李 志炯	【第 11 回】 予習 ：課題の自習 授業 ：エスキース⑥ 復習 ：課題の自習

12	李　志炯	【第 12 回】 予習　：課題の自習 授業　：エスキース⑦ 復習　：課題の自習
13	李　志炯	【第 13 回】 予習　：プレゼンテーション計画作成 授業　：プレゼンテーション指導① 復習　：プレゼンテーション計画の確認
14	李　志炯	【第 14 回】 予習　：課題の自習 授業　：プレゼンテーション指導② 復習　：課題の自習
15	李　志炯	【第 15 回】 予習　：課題の自習 授業　：講評会指導 復習　：発表内容について確認

授業開始前学習	出来るだけ多くのデザインに触れるように。様々な展覧会も出来るだけ見るように。 デザインには経験のストックが重要です。
授業内課題のフィードバックの方法	提出された事例研究及びレポートに対し発表時に講評及び個別の質問に回答する。
テキスト・教材	特になし。適宜プリント等を配布する。
参考書	デザイン関係書籍等。
評価の基準と方法	受講態度と研究成果の総合的な判断による。配点は（１００点満点として）提出物８０点、取組度２０点とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	◎	○	○	○	○	◎

関連科目	建築、インテリア、プロダクト関連科目
その他	基本的に卒業研究にかかる費用は自己負担とする。 正課学外活動で卒業制作展の設営・受付・撤去を行う。交通費などは自己負担とする。
予習・復習の所要時間	
実務経験を活かした教育内容	本科目は複数の担当者が指導する科目であり、李・榎本はプロダクトデザイン分野における、小川・神村・橘田・佐藤・三戸・茂木・山崎は建築・インテリアデザイン分野における実務経験を有している。本科目ではその経験を活かし、受講生が該当する分野の実務に役立つ実習等を行う。

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-432	科目分類（～2024 年入学者）	140-330-24（Ｊ）	授業コード	FG9901
科目名称	卒業研究			単位数	4.0 単位
英文名称	Graduation Projects			授業区分	演習
科目責任者	榎本　文夫			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	榎本　文夫			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　火曜日 09:00～12:00 後期　水曜日 09:00～12:00			研究室	1-204
授業概要	デザインに関する研究テーマについて学生の特性に合わせて作品制作や論文作成を含めて指導する。特に制作については、各デザイン分野にまつわる問題を調査分析し、プログラムも含めて提案しプレゼンテーションできるようにする。				
到達目標	自ら課題とするデザインの問題設定が出来る事。問題解決の為のコンセプトとデザインプロセスを構築できる事。自ら作った作品を理解してもらえるコミュニケーション能力を持つ事。 以上を到達目標とする。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態	共同				

授業回数	担当者	授業の内容
1	榎本　文夫	【第 1 回】 予習　：シラバス参照 授業　：ガイダンス 復習　：授業目標のキーワード確認
2	榎本　文夫	【第 2 回】 予習　：卒業研究課題の検索 授業　：作業報告会準備① 復習　：課題の自習
3	榎本　文夫	【第 3 回】 予習　：研究課題の決定 授業　：作業報告会準備② 復習　：研究課題の問題点確認
4	榎本　文夫	【第 4 回】 予習　：事例研究 授業　：エスキース① 復習　：事例の再検討
5	榎本　文夫	【第 5 回】 予習　：事例検索 授業　：エスキース② 復習　：事例の分析
6	榎本　文夫	【第 6 回】 予習　：課題の自習 授業　：グループディスカッション 復習　：課題の自習
7	榎本　文夫	【第 7 回】 予習　：課題の自習 授業　：エスキース③ 復習　：課題の自習
8	榎本　文夫	【第 8 回】 予習　：課題進行ダイヤグラム作成 授業　：エスキース④ 復習　：課題の自習
9	榎本　文夫	【第 9 回】 予習　：発表準備 授業　：中間発表（プレゼンテーション） 復習　：発表内容の反省点抽出
10	榎本　文夫	【第 10 回】 予習　：課題の自習 授業　：エスキース⑤ 復習　：課題の自習
11	榎本　文夫	【第 11 回】 予習　：課題の自習 授業　：エスキース⑥ 復習　：課題の自習

12	榎本　文夫	【第 12 回】 予習　：課題の自習 授業　：エスキース⑦ 復習　：課題の自習
13	榎本　文夫	【第 13 回】 予習　：プレゼンテーション計画作成 授業　：プレゼンテーション指導① 復習　：プレゼンテーション計画の確認
14	榎本　文夫	【第 14 回】 予習　：課題の自習 授業　：プレゼンテーション指導② 復習　：課題の自習
15	榎本　文夫	【第 15 回】 予習　：課題の自習 授業　：講評会指導 復習　：発表内容について確認

授業開始前学習	出来るだけ多くのデザインに触れるように。様々な展覧会も出来るだけ見るように。 デザインには経験のストックが重要です。
授業内課題のフィードバックの方法	提出された事例研究及びレポートに対し発表時に講評及び個別の質問に回答する。
テキスト・教材	特になし。適宜プリント等を配布する。
参考書	デザイン関係書籍等。
評価の基準と方法	受講態度と研究成果の総合的な判断による。配点は（１００点満点として）提出物８０点、取組度２０点とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	◎	○	○	○	○	◎

関連科目	建築、インテリア、プロダクト関連科目
その他	基本的に卒業研究にかかる費用は自己負担とする。 正課学外活動で卒業制作展の設営・受付・撤去を行う。交通費などは自己負担とする。
予習・復習の所要時間	
実務経験を活かした教育内容	本科目は複数の担当者が指導する科目であり、李・榎本はプロダクトデザイン分野における、小川・神村・橘田・佐藤・三戸・茂木・山崎は建築・インテリアデザイン分野における実務経験を有している。本科目ではその経験を活かし、受講生が該当する分野の実務に役立つ実習等を行う。

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-432 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	140-330-24 （Ｊ）	授業コード	FG9902
科目名称	卒業研究			単位数	4.0 単位
英文名称	Graduation Projects			授業区分	演習
科目責任者	神村　真由美			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	神村　真由美			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　木曜日 14:30～17:30 後期　木曜日 14:30～17:30			研究室	1-201
授業概要	デザインに関する研究テーマについて学生の特性に合わせて作品制作や論文作成を含めて指導する。特に制作については、各デザイン分野にまつわる問題を調査分析し、プログラムも含めて提案しプレゼンテーションできるようにする。				
到達目標	自ら課題とするデザインの問題設定が出来る事。問題解決の為のコンセプトとデザインプロセスを構築できる事。自ら作った作品を理解してもらえるコミュニケーション能力を持つ事。 以上を到達目標とする。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態	共同				

授業回数	担当者	授業の内容
1	神村　真由美	【第 1 回】 予習　：シラバス参照 授業　：ガイダンス 復習　：授業目標のキーワード確認
2	神村　真由美	【第 2 回】 予習　：卒業研究課題の検索 授業　：作業報告会準備① 復習　：課題の自習
3	神村　真由美	【第 3 回】 予習　：研究課題の決定 授業　：作業報告会準備② 復習　：研究課題の問題点確認
4	神村　真由美	【第 4 回】 予習　：事例研究 授業　：エスキース① 復習　：事例の再検討
5	神村　真由美	【第 5 回】 予習　：事例検索 授業　：エスキース② 復習　：事例の分析
6	神村　真由美	【第 6 回】 予習　：課題の自習 授業　：グループディスカッション 復習　：課題の自習
7	神村　真由美	【第 7 回】 予習　：課題の自習 授業　：エスキース③ 復習　：課題の自習
8	神村　真由美	【第 8 回】 予習　：課題進行ダイヤグラム作成 授業　：エスキース④ 復習　：課題の自習
9	神村　真由美	【第 9 回】 予習　：発表準備 授業　：中間発表（プレゼンテーション） 復習　：発表内容の反省点抽出
10	神村　真由美	【第 10 回】 予習　：課題の自習 授業　：エスキース⑤ 復習　：課題の自習
11	神村　真由美	【第 11 回】 予習　：課題の自習 授業　：エスキース⑥ 復習　：課題の自習

12	神村　真由美	【第 12 回】 予習　：課題の自習 授業　：エスキース⑦ 復習　：課題の自習
13	神村　真由美	【第 13 回】 予習　：プレゼンテーション計画作成 授業　：プレゼンテーション指導① 復習　：プレゼンテーション計画の確認
14	神村　真由美	【第 14 回】 予習　：課題の自習 授業　：プレゼンテーション指導② 復習　：課題の自習
15	神村　真由美	【第 15 回】 予習　：課題の自習 授業　：講評会指導 復習　：発表内容について確認

授業開始前学習	出来るだけ多くのデザインに触れるように。様々な展覧会も出来るだけ見るように。 デザインには経験のストックが重要です。
授業内課題のフィードバックの方法	提出された事例研究及びレポートに対し発表時に講評及び個別の質問に回答する。
テキスト・教材	特になし。適宜プリント等を配布する。
参考書	デザイン関係書籍等。
評価の基準と方法	受講態度と研究成果の総合的な判断による。配点は（１００点満点として）提出物８０点、取組度２０点とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	◎	○	○	○	○	◎

関連科目	建築、インテリア、プロダクト関連科目
その他	基本的に卒業研究にかかる費用は自己負担とする。 正課学外活動で卒業制作展の設営・受付・撤去を行う。交通費などは自己負担とする。
予習・復習の所要時間	
実務経験を活かした教育内容	本科目は複数の担当者が指導する科目であり、李・榎本はプロダクトデザイン分野における、小川・神村・橘田・佐藤・三戸・茂木・山崎は建築・インテリアデザイン分野における実務経験を有している。本科目ではその経験を活かし、受講生が該当する分野の実務に役立つ実習等を行う。

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-432 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	140-330-24 （Ｊ）	授業コード	FG9903
科目名称	卒業研究			単位数	4.0 単位
英文名称	Graduation Projects			授業区分	演習
科目責任者	橘田 洋子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	橘田 洋子			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 16:20～17:50 木曜日 14:40～16:10 後期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 14:40～16:10			研究室	1-206
授業概要	デザインに関する研究テーマについて学生の特性に合わせて作品制作や論文作成を含めて指導する。特に制作については、各デザイン分野にまつわる問題を調査分析し、プログラムも含めて提案しプレゼンテーションできるようにする。				
到達目標	自ら課題とするデザインの問題設定が出来る事。問題解決の為のコンセプトとデザインプロセスを構築できる事。自ら作った作品を理解してもらえるコミュニケーション能力を持つ事。 以上を到達目標とする。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態	共同				

授業回数	担当者	授業の内容
1	橘田 洋子	【第 1 回】 予習 ：シラバス参照 授業 ：ガイダンス 復習 ：授業目標のキーワード確認
2	橘田 洋子	【第 2 回】 予習 ：卒業研究課題の検索 授業 ：作業報告会準備① 復習 ：課題の自習
3	橘田 洋子	【第 3 回】 予習 ：研究課題の決定 授業 ：作業報告会準備② 復習 ：研究課題の問題点確認
4	橘田 洋子	【第 4 回】 予習 ：事例研究 授業 ：エスキース① 復習 ：事例の再検討
5	橘田 洋子	【第 5 回】 予習 ：事例検索 授業 ：エスキース② 復習 ：事例の分析
6	橘田 洋子	【第 6 回】 予習 ：課題の自習 授業 ：グループディスカッション 復習 ：課題の自習
7	橘田 洋子	【第 7 回】 予習 ：課題の自習 授業 ：エスキース③ 復習 ：課題の自習
8	橘田 洋子	【第 8 回】 予習 ：課題進行ダイヤグラム作成 授業 ：エスキース④ 復習 ：課題の自習
9	橘田 洋子	【第 9 回】 予習 ：発表準備 授業 ：中間発表（プレゼンテーション） 復習 ：発表内容の反省点抽出
10	橘田 洋子	【第 10 回】 予習 ：課題の自習 授業 ：エスキース⑤ 復習 ：課題の自習
11	橘田 洋子	【第 11 回】 予習 ：課題の自習 授業 ：エスキース⑥ 復習 ：課題の自習

12	橘田　洋子	【第 12 回】 予習　：課題の自習 授業　：エスキース⑦ 復習　：課題の自習
13	橘田　洋子	【第 13 回】 予習　：プレゼンテーション計画作成 授業　：プレゼンテーション指導① 復習　：プレゼンテーション計画の確認
14	橘田　洋子	【第 14 回】 予習　：課題の自習 授業　：プレゼンテーション指導② 復習　：課題の自習
15	橘田　洋子	【第 15 回】 予習　：課題の自習 授業　：講評会指導 復習　：発表内容について確認

授業開始前学習	出来るだけ多くのデザインに触れるように。様々な展覧会も出来るだけ見るように。 デザインには経験のストックが重要です。
授業内課題のフィードバックの方法	提出された事例研究及びレポートに対し発表時に講評及び個別の質問に回答する。
テキスト・教材	特になし。適宜プリント等を配布する。
参考書	デザイン関係書籍等。
評価の基準と方法	受講態度と研究成果の総合的な判断による。配点は（１００点満点として）提出物８０点、取組度２０点とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	◎	○	○	○	○	◎

関連科目	建築、インテリア、プロダクト関連科目
その他	基本的に卒業研究にかかる費用は自己負担とする。 正課学外活動で卒業制作展の設営・受付・撤去を行う。交通費などは自己負担とする。
予習・復習の所要時間	
実務経験を活かした教育内容	本科目は複数の担当者が指導する科目であり、李・榎本はプロダクトデザイン分野における、小川・神村・橘田・佐藤・三戸・茂木・山崎は建築・インテリアデザイン分野における実務経験を有している。本科目ではその経験を活かし、受講生が該当する分野の実務に役立つ実習等を行う。

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-432 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	140-330-24 （Ｊ）	授業コード	FG9904
科目名称	卒業研究			単位数	4.0 単位
英文名称	Graduation Projects			授業区分	演習
科目責任者	佐藤 勉			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	佐藤 勉			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 10:40～12:10 火曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 10:40～12:10 火曜日 13:00～14:30			研究室	1-202
授業概要	デザインに関する研究テーマについて学生の特性に合わせて作品制作や論文作成を含めて指導する。特に制作については、各デザイン分野にまつわる問題を調査分析し、プログラムも含めて提案しプレゼンテーションできるようにする。				
到達目標	自ら課題とするデザインの問題設定が出来る事。問題解決の為のコンセプトとデザインプロセスを構築できる事。自ら作った作品を理解してもらえるコミュニケーション能力を持つ事。 以上を到達目標とする。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態	共同				

授業回数	担当者	授業の内容
1	佐藤 勉	【第 1 回】 予習 ：シラバス参照 授業 ：ガイダンス 復習 ：授業目標のキーワード確認
2	佐藤 勉	【第 2 回】 予習 ：卒業研究課題の検索 授業 ：作業報告会準備① 復習 ：課題の自習
3	佐藤 勉	【第 3 回】 予習 ：研究課題の決定 授業 ：作業報告会準備② 復習 ：研究課題の問題点確認
4	佐藤 勉	【第 4 回】 予習 ：事例研究 授業 ：エスキース① 復習 ：事例の再検討
5	佐藤 勉	【第 5 回】 予習 ：事例検索 授業 ：エスキース② 復習 ：事例の分析
6	佐藤 勉	【第 6 回】 予習 ：課題の自習 授業 ：グループディスカッション 復習 ：課題の自習
7	佐藤 勉	【第 7 回】 予習 ：課題の自習 授業 ：エスキース③ 復習 ：課題の自習
8	佐藤 勉	【第 8 回】 予習 ：課題進行ダイヤグラム作成 授業 ：エスキース④ 復習 ：課題の自習
9	佐藤 勉	【第 9 回】 予習 ：発表準備 授業 ：中間発表（プレゼンテーション） 復習 ：発表内容の反省点抽出
10	佐藤 勉	【第 10 回】 予習 ：課題の自習 授業 ：エスキース⑤ 復習 ：課題の自習
11	佐藤 勉	【第 11 回】 予習 ：課題の自習 授業 ：エスキース⑥ 復習 ：課題の自習

12	佐藤　勉	【第 12 回】 予習　：課題の自習 授業　：エスキース⑦ 復習　：課題の自習
13	佐藤　勉	【第 13 回】 予習　：プレゼンテーション計画作成 授業　：プレゼンテーション指導① 復習　：プレゼンテーション計画の確認
14	佐藤　勉	【第 14 回】 予習　：課題の自習 授業　：プレゼンテーション指導② 復習　：課題の自習
15	佐藤　勉	【第 15 回】 予習　：課題の自習 授業　：講評会指導 復習　：発表内容について確認

授業開始前学習	出来るだけ多くのデザインに触れるように。様々な展覧会も出来るだけ見るように。 デザインには経験のストックが重要です。
授業内課題のフィードバックの方法	提出された事例研究及びレポートに対し発表時に講評及び個別の質問に回答する。
テキスト・教材	特になし。適宜プリント等を配布する。
参考書	デザイン関係書籍等。
評価の基準と方法	受講態度と研究成果の総合的な判断による。配点は（１００点満点として）提出物８０点、取組度２０点とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	◎	○	○	○	○	◎

関連科目	建築、インテリア、プロダクト関連科目
その他	基本的に卒業研究にかかる費用は自己負担とする。 正課学外活動で卒業制作展の設営・受付・撤去を行う。交通費などは自己負担とする。
予習・復習の所要時間	
実務経験を活かした教育内容	本科目は複数の担当者が指導する科目であり、李・榎本はプロダクトデザイン分野における、小川・神村・橘田・佐藤・三戸・茂木・山崎は建築・インテリアデザイン分野における実務経験を有している。本科目ではその経験を活かし、受講生が該当する分野の実務に役立つ実習等を行う。

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-432	科目分類（～2024 年入学者）	140-330-24（Ｊ）	授業コード	FG9905
科目名称	卒業研究			単位数	4.0 単位
英文名称	Graduation Projects			授業区分	演習
科目責任者	山崎　陽菜			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	山崎　陽菜			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　火曜日 11:00～12:30　金曜日 09:00～10:30 後期　水曜日 14:30～16:00　金曜日 09:00～10:30			研究室	2-201
授業概要	デザインに関する研究テーマについて学生の特性に合わせて作品制作や論文作成を含めて指導する。特に制作については、各デザイン分野にまつわる問題を調査分析し、プログラムも含めて提案しプレゼンテーションできるようにする。				
到達目標	自ら課題とするデザインの問題設定が出来る事。問題解決の為のコンセプトとデザインプロセスを構築できる事。自ら作った作品を理解してもらえるコミュニケーション能力を持つ事。 以上を到達目標とする。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態	共同				

授業回数	担当者	授業の内容
1	山崎　陽菜	【第 1 回】 予習　：シラバス参照 授業　：ガイダンス 復習　：授業目標のキーワード確認
2	山崎　陽菜	【第 2 回】 予習　：卒業研究課題の検索 授業　：作業報告会準備① 復習　：課題の自習
3	山崎　陽菜	【第 3 回】 予習　：研究課題の決定 授業　：作業報告会準備② 復習　：研究課題の問題点確認
4	山崎　陽菜	【第 4 回】 予習　：事例研究 授業　：エスキース① 復習　：事例の再検討
5	山崎　陽菜	【第 5 回】 予習　：事例検索 授業　：エスキース② 復習　：事例の分析
6	山崎　陽菜	【第 6 回】 予習　：課題の自習 授業　：グループディスカッション 復習　：課題の自習
7	山崎　陽菜	【第 7 回】 予習　：課題の自習 授業　：エスキース③ 復習　：課題の自習
8	山崎　陽菜	【第 8 回】 予習　：課題進行ダイヤグラム作成 授業　：エスキース④ 復習　：課題の自習
9	山崎　陽菜	【第 9 回】 予習　：発表準備 授業　：中間発表（プレゼンテーション） 復習　：発表内容の反省点抽出
10	山崎　陽菜	【第 10 回】 予習　：課題の自習 授業　：エスキース⑤ 復習　：課題の自習
11	山崎　陽菜	【第 11 回】 予習　：課題の自習 授業　：エスキース⑥ 復習　：課題の自習

12	山崎　陽菜	【第 12 回】 予習　：課題の自習 授業　：エスキース⑦ 復習　：課題の自習
13	山崎　陽菜	【第 13 回】 予習　：プレゼンテーション計画作成 授業　：プレゼンテーション指導① 復習　：プレゼンテーション計画の確認
14	山崎　陽菜	【第 14 回】 予習　：課題の自習 授業　：プレゼンテーション指導② 復習　：課題の自習
15	山崎　陽菜	【第 15 回】 予習　：課題の自習 授業　：講評会指導 復習　：発表内容について確認

授業開始前学習	出来るだけ多くのデザインに触れるように。様々な展覧会も出来るだけ見るように。 デザインには経験のストックが重要です。
授業内課題のフィードバックの方法	提出された事例研究及びレポートに対し発表時に講評及び個別の質問に回答する。
テキスト・教材	特になし。適宜プリント等を配布する。
参考書	デザイン関係書籍等。
評価の基準と方法	受講態度と研究成果の総合的な判断による。配点は（１００点満点として）提出物８０点、取組度２０点とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	◎	○	○	○	○	◎

関連科目	建築、インテリア、プロダクト関連科目
その他	基本的に卒業研究にかかる費用は自己負担とする。 正課学外活動で卒業制作展の設営・受付・撤去を行う。交通費などは自己負担とする。
予習・復習の所要時間	
実務経験を活かした教育内容	本科目は複数の担当者が指導する科目であり、李・榎本はプロダクトデザイン分野における、小川・神村・橘田・佐藤・三戸・茂木・山崎は建築・インテリアデザイン分野における実務経験を有している。本科目ではその経験を活かし、受講生が該当する分野の実務に役立つ実習等を行う。

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-432 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	140-330-24 （Ｊ）	授業コード	FG9906
科目名称	卒業研究			単位数	4.0 単位
英文名称	Graduation Projects			授業区分	演習
科目責任者	小川 弾			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小川 弾			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 13:00～14:30 金曜日 10:40～12:10			研究室	1-210
授業概要	デザインに関する研究テーマについて学生の特性に合わせて作品制作や論文作成を含めて指導する。特に制作については、各デザイン分野にまつわる問題を調査分析し、プログラムも含めて提案しプレゼンテーションできるようにする。				
到達目標	自ら課題とするデザインの問題設定が出来る事。問題解決の為のコンセプトとデザインプロセスを構築できる事。自ら作った作品を理解してもらえるコミュニケーション能力を持つ事。 以上を到達目標とする。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態	共同				

授業回数	担当者	授業の内容
1	小川 弾	【第 1 回】 予習 ：シラバス参照 授業 ：ガイダンス 復習 ：授業目標のキーワード確認
2	小川 弾	【第 2 回】 予習 ：卒業研究課題の検索 授業 ：作業報告会準備① 復習 ：課題の自習
3	小川 弾	【第 3 回】 予習 ：研究課題の決定 授業 ：作業報告会準備② 復習 ：研究課題の問題点確認
4	小川 弾	【第 4 回】 予習 ：事例研究 授業 ：エスキース① 復習 ：事例の再検討
5	小川 弾	【第 5 回】 予習 ：事例検索 授業 ：エスキース② 復習 ：事例の分析
6	小川 弾	【第 6 回】 予習 ：課題の自習 授業 ：グループディスカッション 復習 ：課題の自習
7	小川 弾	【第 7 回】 予習 ：課題の自習 授業 ：エスキース③ 復習 ：課題の自習
8	小川 弾	【第 8 回】 予習 ：課題進行ダイヤグラム作成 授業 ：エスキース④ 復習 ：課題の自習
9	小川 弾	【第 9 回】 予習 ：発表準備 授業 ：中間発表（プレゼンテーション） 復習 ：発表内容の反省点抽出
10	小川 弾	【第 10 回】 予習 ：課題の自習 授業 ：エスキース⑤ 復習 ：課題の自習
11	小川 弾	【第 11 回】 予習 ：課題の自習 授業 ：エスキース⑥ 復習 ：課題の自習

12	小川　弾	【第 12 回】 予習　：課題の自習 授業　：エスキース⑦ 復習　：課題の自習
13	小川　弾	【第 13 回】 予習　：プレゼンテーション計画作成 授業　：プレゼンテーション指導① 復習　：プレゼンテーション計画の確認
14	小川　弾	【第 14 回】 予習　：課題の自習 授業　：プレゼンテーション指導② 復習　：課題の自習
15	小川　弾	【第 15 回】 予習　：課題の自習 授業　：講評会指導 復習　：発表内容について確認

授業開始前学習	出来るだけ多くのデザインに触れるように。様々な展覧会も出来るだけ見るように。 デザインには経験のストックが重要です。
授業内課題のフィードバックの方法	提出された事例研究及びレポートに対し発表時に講評及び個別の質問に回答する。
テキスト・教材	特になし。適宜プリント等を配布する。
参考書	デザイン関係書籍等。
評価の基準と方法	受講態度と研究成果の総合的な判断による。配点は（１００点満点として）提出物８０点、取組度２０点とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	◎	○	○	○	○	◎

関連科目	建築、インテリア、プロダクト関連科目
その他	基本的に卒業研究にかかる費用は自己負担とする。 正課学外活動で卒業制作展の設営・受付・撤去を行う。交通費などは自己負担とする。
予習・復習の所要時間	
実務経験を活かした教育内容	本科目は複数の担当者が指導する科目であり、李・榎本はプロダクトデザイン分野における、小川・神村・橘田・佐藤・三戸・茂木・山崎は建築・インテリアデザイン分野における実務経験を有している。本科目ではその経験を活かし、受講生が該当する分野の実務に役立つ実習等を行う。

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-432 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	140-330-24 （Ｊ）	授業コード	FG9907
科目名称	卒業研究			単位数	4.0 単位
英文名称	Graduation Projects			授業区分	演習
科目責任者	三戸　美代子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三戸　美代子			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期　水曜日 09:00～12:10 後期　水曜日 09:00～12:10			研究室	1-211
授業概要	デザインに関する研究テーマについて学生の特性に合わせて作品制作や論文作成を含めて指導する。特に制作については、各デザイン分野にまつわる問題を調査分析し、プログラムも含めて提案しプレゼンテーションできるようにする。				
到達目標	自ら課題とするデザインの問題設定が出来る事。問題解決の為のコンセプトとデザインプロセスを構築できる事。自ら作った作品を理解してもらえるコミュニケーション能力を持つ事。 以上を到達目標とする。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	共同

授業回数	担当者	授業の内容
1	三戸　美代子	【第 1 回】 予習　：シラバス参照 授業　：ガイダンス 復習　：授業目標のキーワード確認
2	三戸　美代子	【第 2 回】 予習　：卒業研究課題の検索 授業　：作業報告会準備① 復習　：課題の自習
3	三戸　美代子	【第 3 回】 予習　：研究課題の決定 授業　：作業報告会準備② 復習　：研究課題の問題点確認
4	三戸　美代子	【第 4 回】 予習　：事例研究 授業　：エスキース① 復習　：事例の再検討
5	三戸　美代子	【第 5 回】 予習　：事例検索 授業　：エスキース② 復習　：事例の分析
6	三戸　美代子	【第 6 回】 予習　：課題の自習 授業　：グループディスカッション 復習　：課題の自習
7	三戸　美代子	【第 7 回】 予習　：課題の自習 授業　：エスキース③ 復習　：課題の自習
8	三戸　美代子	【第 8 回】 予習　：課題進行ダイヤグラム作成 授業　：エスキース④ 復習　：課題の自習
9	三戸　美代子	【第 9 回】 予習　：発表準備 授業　：中間発表（プレゼンテーション） 復習　：発表内容の反省点抽出
10	三戸　美代子	【第 10 回】 予習　：課題の自習 授業　：エスキース⑤ 復習　：課題の自習
11	三戸　美代子	【第 11 回】 予習　：課題の自習 授業　：エスキース⑥ 復習　：課題の自習

12	三戸　美代子	【第 12 回】 予習　：課題の自習 授業　：エスキース⑦ 復習　：課題の自習
13	三戸　美代子	【第 13 回】 予習　：プレゼンテーション計画作成 授業　：プレゼンテーション指導① 復習　：プレゼンテーション計画の確認
14	三戸　美代子	【第 14 回】 予習　：課題の自習 授業　：プレゼンテーション指導② 復習　：課題の自習
15	三戸　美代子	【第 15 回】 予習　：課題の自習 授業　：講評会指導 復習　：発表内容について確認

授業開始前学習	出来るだけ多くのデザインに触れるように。様々な展覧会も出来るだけ見るように。 デザインには経験のストックが重要です。
授業内課題のフィードバックの方法	提出された事例研究及びレポートに対し発表時に講評及び個別の質問に回答する。
テキスト・教材	特になし。適宜プリント等を配布する。
参考書	デザイン関係書籍等。
評価の基準と方法	受講態度と研究成果の総合的な判断による。配点は（１００点満点として）提出物８０点、取組度２０点とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	◎	○	○	○	○	◎

関連科目	建築、インテリア、プロダクト関連科目
その他	基本的に卒業研究にかかる費用は自己負担とする。 正課学外活動で卒業制作展の設営・受付・撤去を行う。交通費などは自己負担とする。
予習・復習の所要時間	
実務経験を活かした教育内容	本科目は複数の担当者が指導する科目であり、李・榎本はプロダクトデザイン分野における、小川・神村・橘田・佐藤・三戸・茂木・山崎は建築・インテリアデザイン分野における実務経験を有している。本科目ではその経験を活かし、受講生が該当する分野の実務に役立つ実習等を行う。

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-432 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	140-330-24 （Ｊ）	授業コード	FG9908
科目名称	卒業研究			単位数	4.0 単位
英文名称	Graduation Projects			授業区分	演習
科目責任者	堀邉 阿伊子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	堀邉 阿伊子			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～16:00 後期 金曜日 13:00～16:00			研究室	10-619
授業概要	デザインに関する研究テーマについて学生の特性に合わせて作品制作や論文作成を含めて指導する。特に制作については、各デザイン分野にまつわる問題を調査分析し、プログラムも含めて提案しプレゼンテーションできるようにする。				
到達目標	自ら課題とするデザインの問題設定が出来る事。問題解決の為のコンセプトとデザインプロセスを構築できる事。自ら作った作品を理解してもらえるコミュニケーション能力を持つ事。 以上を到達目標とする。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	共同

授業回数	担当者	授業の内容
1	堀邉 阿伊子	【第 1 回】 予習 ：シラバス参照 授業 ：ガイダンス 復習 ：授業目標のキーワード確認
2	堀邉 阿伊子	【第 2 回】 予習 ：卒業研究課題の検索 授業 ：作業報告会準備① 復習 ：課題の自習
3	堀邉 阿伊子	【第 3 回】 予習 ：研究課題の決定 授業 ：作業報告会準備② 復習 ：研究課題の問題点確認
4	堀邉 阿伊子	【第 4 回】 予習 ：事例研究 授業 ：エスキース① 復習 ：事例の再検討
5	堀邉 阿伊子	【第 5 回】 予習 ：事例検索 授業 ：エスキース② 復習 ：事例の分析
6	堀邉 阿伊子	【第 6 回】 予習 ：課題の自習 授業 ：グループディスカッション 復習 ：課題の自習
7	堀邉 阿伊子	【第 7 回】 予習 ：課題の自習 授業 ：エスキース③ 復習 ：課題の自習
8	堀邉 阿伊子	【第 8 回】 予習 ：課題進行ダイヤグラム作成 授業 ：エスキース④ 復習 ：課題の自習
9	堀邉 阿伊子	【第 9 回】 予習 ：発表準備 授業 ：中間発表（プレゼンテーション） 復習 ：発表内容の反省点抽出
10	堀邉 阿伊子	【第 10 回】 予習 ：課題の自習 授業 ：エスキース⑤ 復習 ：課題の自習
11	堀邉 阿伊子	【第 11 回】 予習 ：課題の自習 授業 ：エスキース⑥ 復習 ：課題の自習

12	堀邉　阿伊子	【第 12 回】 予習　：課題の自習 授業　：エスキース⑦ 復習　：課題の自習
13	堀邉　阿伊子	【第 13 回】 予習　：プレゼンテーション計画作成 授業　：プレゼンテーション指導① 復習　：プレゼンテーション計画の確認
14	堀邉　阿伊子	【第 14 回】 予習　：課題の自習 授業　：プレゼンテーション指導② 復習　：課題の自習
15	堀邉　阿伊子	【第 15 回】 予習　：課題の自習 授業　：講評会指導 復習　：発表内容について確認

授業開始前学習	出来るだけ多くのデザインに触れるように。様々な展覧会も出来るだけ見るように。 デザインには経験のストックが重要です。
授業内課題のフィードバックの方法	提出された事例研究及びレポートに対し発表時に講評及び個別の質問に回答する。
テキスト・教材	特になし。適宜プリント等を配布する。
参考書	デザイン関係書籍等。
評価の基準と方法	受講態度と研究成果の総合的な判断による。配点は（１００点満点として）提出物８０点、取組度２０点とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	◎	○	○	○	○	◎

関連科目	建築、インテリア、プロダクト関連科目
その他	基本的に卒業研究にかかる費用は自己負担とする。 正課学外活動で卒業制作展の設営・受付・撤去を行う。交通費などは自己負担とする。
予習・復習の所要時間	
実務経験を活かした教育内容	本科目は複数の担当者が指導する科目であり、李・榎本はプロダクトデザイン分野における、小川・神村・橘田・佐藤・三戸・茂木・山崎は建築・インテリアデザイン分野における実務経験を有している。本科目ではその経験を活かし、受講生が該当する分野の実務に役立つ実習等を行う。

科目分類（2025 年～入学者）	SD-M-432 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	140-330-24 （Ｊ）	授業コード	FG9909
科目名称	卒業研究			単位数	4.0 単位
英文名称	Graduation Projects			授業区分	演習
科目責任者	茂木 弥生子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	茂木 弥生子			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 10:40～12:10 木曜日 13:00～14:30			研究室	1-203
授業概要	デザインに関する研究テーマについて学生の特性に合わせて作品制作や論文作成を含めて指導する。特に制作については、各デザイン分野にまつわる問題を調査分析し、プログラムも含めて提案しプレゼンテーションできるようにする。				
到達目標	自ら課題とするデザインの問題設定が出来る事。問題解決の為のコンセプトとデザインプロセスを構築できる事。自ら作った作品を理解してもらえるコミュニケーション能力を持つ事。 以上を到達目標とする。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態	共同				

授業回数	担当者	授業の内容
1	茂木 弥生子	【第 1 回】 予習 ：シラバス参照 授業 ：ガイダンス 復習 ：授業目標のキーワード確認
2	茂木 弥生子	【第 2 回】 予習 ：卒業研究課題の検索 授業 ：作業報告会準備① 復習 ：課題の自習
3	茂木 弥生子	【第 3 回】 予習 ：研究課題の決定 授業 ：作業報告会準備② 復習 ：研究課題の問題点確認
4	茂木 弥生子	【第 4 回】 予習 ：事例研究 授業 ：エスキース① 復習 ：事例の再検討
5	茂木 弥生子	【第 5 回】 予習 ：事例検索 授業 ：エスキース② 復習 ：事例の分析
6	茂木 弥生子	【第 6 回】 予習 ：課題の自習 授業 ：グループディスカッション 復習 ：課題の自習
7	茂木 弥生子	【第 7 回】 予習 ：課題の自習 授業 ：エスキース③ 復習 ：課題の自習
8	茂木 弥生子	【第 8 回】 予習 ：課題進行ダイヤグラム作成 授業 ：エスキース④ 復習 ：課題の自習
9	茂木 弥生子	【第 9 回】 予習 ：発表準備 授業 ：中間発表（プレゼンテーション） 復習 ：発表内容の反省点抽出
10	茂木 弥生子	【第 10 回】 予習 ：課題の自習 授業 ：エスキース⑤ 復習 ：課題の自習
11	茂木 弥生子	【第 11 回】 予習 ：課題の自習 授業 ：エスキース⑥ 復習 ：課題の自習

12	茂木　弥生子	【第 12 回】 予習　：課題の自習 授業　：エスキース⑦ 復習　：課題の自習
13	茂木　弥生子	【第 13 回】 予習　：プレゼンテーション計画作成 授業　：プレゼンテーション指導① 復習　：プレゼンテーション計画の確認
14	茂木　弥生子	【第 14 回】 予習　：課題の自習 授業　：プレゼンテーション指導② 復習　：課題の自習
15	茂木　弥生子	【第 15 回】 予習　：課題の自習 授業　：講評会指導 復習　：発表内容について確認

授業開始前学習	出来るだけ多くのデザインに触れるように。様々な展覧会も出来るだけ見るように。 デザインには経験のストックが重要です。
授業内課題のフィードバックの方法	提出された事例研究及びレポートに対し発表時に講評及び個別の質問に回答する。
テキスト・教材	特になし。適宜プリント等を配布する。
参考書	デザイン関係書籍等。
評価の基準と方法	受講態度と研究成果の総合的な判断による。配点は（１００点満点として）提出物８０点、取組度２０点とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	◎	○	○	○	○	◎

関連科目	建築、インテリア、プロダクト関連科目
その他	基本的に卒業研究にかかる費用は自己負担とする。 正課学外活動で卒業制作展の設営・受付・撤去を行う。交通費などは自己負担とする。
予習・復習の所要時間	
実務経験を活かした教育内容	本科目は複数の担当者が指導する科目であり、李・榎本はプロダクトデザイン分野における、小川・神村・橘田・佐藤・三戸・茂木・山崎は建築・インテリアデザイン分野における実務経験を有している。本科目ではその経験を活かし、受講生が該当する分野の実務に役立つ実習等を行う。

☆国語科教育法Ⅰ

科目分類（2025年～入学者）		科目分類（～2024年入学者）	111-411-13（J）	授業コード	O80220
科目名称	☆国語科教育法Ⅰ			単位数	2.0単位
英文名称	Japanese Teaching Methods Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	野中　潤			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	野中　潤			開講時期	3年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	高等学校における国語科教育の目標や内容や方法などについて、最新の教育実践を視野に入れながら、講義や体験授業、ワークショップなどを通して学び、新しい時代に即した国語科の授業を作るための基礎的・基本的な知識や技能を習得する。				
到達目標	これからの時代に求められる資質・能力を踏まえて、必要な知識や技能を習得するとともに、それらを活用して高等学校において新しい国語科の授業を実践するための基本的な方向性やそのための具体的な手立てを理解することを目標とする。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	野中　潤	【第1回】 予習　：新しい学習指導要領に基づく各社の教科書（現代の国語、言語文化、論理国語、古典探究など）の概要を調べる 授業　：これからの時代に向けて国語科教育に求められているもの 復習　：講義ノートに学習内容をまとめる
2	野中　潤	【第2回】 予習　：「現代の国語」における「話すこと・聞くこと」の内容の構成や授業時数について確認する 授業　：話すこと・聞くことの授業1（対話・グループワーク） 復習　：講義ノートに学習内容をまとめる
3	野中　潤	【第3回】 予習　：高等学校の各科目の「内容の取扱い」に示された各領域における授業時数について確認する 授業　：文学的な文章を読むことの授業（クラウド共有ファイルによる協働的な学び） 復習　：講義ノートに学習内容をまとめる
4	野中　潤	【第4回】 予習　：クラウド共有ファイルに書き込まれた他の受講生の「問い立て」を確認する 授業　：文学的な文章を読むことの授業（問いと答えのワークショップ）
5	野中　潤	【第5回】 予習　：場面ごとの主たる発問に対する答えを考える 授業　：問いを立てて考える学び（グループワーク） 復習　：講義ノートに学習内容をまとめる
6	野中　潤	【第6回】 予習　：漢字テストの採点基準についての動画を視聴する 授業　：AIを活用した学習活動のデザイン（グループワーク） 復習　：講義ノートに学習内容をまとめる
7	野中　潤	【第7回】 予習　：事前課題アンケートに回答する 授業　：話すこと・聞くことの授業2（対話・グループワーク） 復習　：講義ノートに学習内容をまとめる
8	野中　潤	【第8回】 予習　：哲学対話で得られた考えを文章にまとめる 授業　：対話で得られた考えを発表する 復習　：講義ノートに学習内容をまとめる
9	野中　潤	【第9回】 予習　：文部科学省のサイトで資料を探す 授業　：文部科学省の資料を読む・見る（ABD・ワークショップ） 復習　：講義ノートに学習内容をまとめる
10	野中　潤	【第10回】 予習　：板書についての動画を視聴する 授業　：板書・発問・プリント作成の方法（ジグソー法・グループワーク） 復習　：講義ノートに学習内容をまとめる

11	野中　潤	【第 11 回】 予習　：担当テーマのスライドを作成する 授業　：板書・発問・プリント作成の方法を動画にまとめる（エキスパート活動・グループワーク） 復習　：講義ノートに学習内容をまとめる
12	野中　潤	【第 12 回】 予習　：他の受講生の動画を視聴する 授業　：板書・発問・プリント作成の実験・実践 復習　：講義ノートに学習内容をまとめる
13	野中　潤	【第 13 回】 予習　：新しい学習指導要領に基づく高等学校の教科書を図書館で閲覧する 授業　：任意の科目の教科書を観点を決めて精読し、ポイントをまとめる（グループワーク） 復習　：講義ノートに学習内容をまとめる
14	野中　潤	【第 14 回】 予習　：他のグループがまとめた内容を参照しながら、図書館で教科書の内容を再確認する 授業　：模擬授業で取り上げたいものを選び、教材研究する（個人ワーク） 復習　：講義ノートに学習内容をまとめる
15	野中　潤	【第 15 回】 予習　：これまでの授業を振り返り、講義ノートを整理する 授業　：これからの時代に求められる授業を実践するために必要なこと 復習　：講義ノートに学習内容をまとめ、半期の授業をふりかえる

授業開始前学習	１人１台端末の整備や生成 AI の利活用に関する取り組みなど、国語科教育をめぐる状況の変化について、文部科学省の HP などで公開されている情報を学習しておくことが望ましい。
授業内課題のフィードバックの方法	Google Classroom を活用し、随時フィードバックを行う。
テキスト・教材	適宜資料を配信する。
参考書	
評価の基準と方法	平常点（授業参画度・課題提出）７０%、講義ノート３０%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	◎

関連科目	
その他	授業中に情報端末を使います。インターネットにアクセスできる情報機器を持参して下さい。持参できない場合は授業時間内に限り、Chromebook 端末を貸し出すことも出来るので、相談してください。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	中学校および高等学校教諭として教科指導や生徒指導・進路指導など各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、国語科教育の実践方法に関する授業を行う。

科目分類（2025年～入学者）		科目分類（～2024年入学者）	111-411-13（J）	授業コード	O80240
科目名称	国語科教育法Ⅱ			単位数	2.0単位
英文名称	Japanese Teaching MethodsⅡ			授業区分	講義
科目責任者	野中　潤			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	野中　潤			開講時期	3年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	高等学校における国語科教育の目標や内容や方法などについて、模擬授業の準備および模擬授業を通して確認し、国語科の授業を作るための知識や技能をいかに活用するのかを実践的に学ぶ。				
到達目標	これからの時代に求められる資質・能力を踏まえ、高等学校において国語科教育を実践するために習得した知識や技能をいかに活用するのかを、主体的に探求することができるようになることを目標とする。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	野中　潤	【第1回】 予習　：高等学校国語の学習指導案の実例を参照し、書き方について確認する 授業　：指導案の基本的な書き方（課題解決型学習） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
2	野中　潤	【第2回】 予習　：高等学校国語科の教材を読む 授業　：教材の読み合わせと教材価値の確認（グループワーク） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
3	野中　潤	【第3回】 予習　：授業プランを書く 授業　：単元指導計画の検討（グループワーク） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
4	野中　潤	【第4回】 予習　：本時案の草案を作る 授業　：シナリオ型指導案の作成（発表） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
5	野中　潤	【第5回】 予習　：補助教材を作る 授業　：補助教材の検討（ディスカッション） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
6	野中　潤	【第6回】 予習　：加筆修正された本時案に基づき、単元指導計画を修正する 授業　：模擬授業のシミュレーション（発表） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
7	野中　潤	【第7回】 予習　：古文の模擬授業の準備 授業　：古文の模擬授業（実習） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
8	野中　潤	【第8回】 予習　：漢文の模擬授業の準備 授業　：漢文の模擬授業（実習） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
9	野中　潤	【第9回】 予習　：評論文の模擬授業の準備 授業　：評論文の模擬授業（実習） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
10	野中　潤	【第10回】 予習　：物語文の模擬授業の準備 授業　：物語文の模擬授業（実習） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
11	野中　潤	【第11回】 予習　：随筆の模擬授業の準備 授業　：随筆の模擬授業（実習） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる

12	野中　潤	【第 12 回】 予習　：模擬授業の問題点を見直す 授業　：模擬授業のふりかえり（対話） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
13	野中　潤	【第 13 回】 予習　：自分が担当した教材の導入を再検討する 授業　：導入の語り（ミニ模擬授業） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
14	野中　潤	【第 14 回】 予習　：自分が担当した教材のまとめを再検討する 授業　：まとめの語り（ミニ模擬授業） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
15	野中　潤	【第 15 回】 予習　：これまでの模擬授業を振り返り、学んだことを整理する 授業　：これからの国語科教育を考える 復習　：学習内容を講義ノートにまとめ、授業全体をふりかえる

授業開始前学習	学習指導要領の改訂など、国語科教育をめぐる状況の変化について、文部科学省の HP などで公開されている情報を学習しておくことが望ましい。
授業内課題のフィードバックの方法	Google Classroom を活用し、随時フィードバックを行う。
テキスト・教材	適宜資料を配信する。
参考書	
評価の基準と方法	平常点（授業参画度・課題提出）７０%、講義ノート３０%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	◎

関連科目	
その他	授業中に情報端末を使います。インターネットにアクセスできる情報機器を持参して下さい。持参できない場合は授業時間内に限り、Chromebook 端末を貸し出すことも出来るので、相談してください。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	中学校および高等学校教諭として教科指導や生徒指導・進路指導など各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、国語科教育の実践方法に関する授業を行う。

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	111-411-13（J）	授業コード	O80260
科目名称	国語科教育法Ⅲ			単位数	2.0 単位
英文名称	Japanese Teaching MethodsⅢ			授業区分	講義
科目責任者	野中　潤			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	野中　潤			開講時期	3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	中学校における国語科教育の目標や内容や方法などについて、最新の教育実践を視野に入れながら、講義や体験授業、ワークショップなどを通して学び、新しい時代に即した国語科の授業を作るための基礎的・基本的な知識や技能を習得する。				
到達目標	これからの時代に求められる資質・能力を踏まえて、必要な知識や技能を習得するとともに、それらを活用して中学校において新しい国語科の授業を実践するための基本的な方向性やそのための具体的な手立てを理解することを目標とする。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	野中　潤	【第 1 回】 予習　：中学校学習指導要領の国語科の改訂のポイントを調べる 授業　：国語科の特徴・特質をカードに書き出し、思考ツールを使って比較・分析してまとめる（発散→収束） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
2	野中　潤	【第 2 回】 予習　：国語科の特徴・特質について、他の受講生の考えをクラウド共有された資料で確認する 授業　：国語科の特徴・特質の小論文作成（協働作業によるパラグラフライティング・グループワーク） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
3	野中　潤	【第 3 回】 予習　：小論文で担当したパラグラフをナレーションの録音用カードを作成する 授業　：小論文の音読カードを作成し、互いに視聴してフィードバックし合う（リレー形式のプレゼンスライド作成・グループワーク） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
4	野中　潤	【第 4 回】 予習　：「言語技術教育」について、概要を調べる 授業　：読み手が図形を再現できるような説明文を、読み手の立場に立って表現を整えながら作成する 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
5	野中　潤	【第 5 回】 予習　：「やさしい日本語」について調べる 授業　：「やさしい日本語」の学習（グループワーク） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
6	野中　潤	【第 6 回】 予習　：メディアリテラシーについて調べる 授業　：メディアリテラシーに関する探究（ジグソー法・グループワーク） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
7	野中　潤	【第 7 回】 予習　：エキスパート課題について調べる 授業　：メディアリテラシーに関する課題をまとめる（ジグソー法・発表） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
8	野中　潤	【第 8 回】 予習　：メディアリテラシーのポイントをスライドにまとめる 授業　：メディアリテラシーについて学ぶ絵本の構成を考える（協働作業・グループワーク） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
9	野中　潤	【第 9 回】 予習　：絵本の担当ページのテキスト部分を作成する 授業　：メディアリテラシーについて学ぶ絵本を完成させる（協働作業・グループワーク） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
10	野中　潤	【第 10 回】 予習　：百人一首について調べる 授業　：ICT を活用した百人一首の授業デザイン 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
11	野中　潤	【第 11 回】 予習　：担当する歌について調べる 授業　：百人一首カルタの取り札と読み札をつくる（個人ワーク） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる

12	野中　潤	【第 12 回】 予習　：取り札と読み札を確認する 授業　：ロイロノート・スクールによる百人一首カルタ大会 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
13	野中　潤	【第 13 回】 予習　：公開されている文学的な文章の授業案を調べる 授業　：文学的な文章の授業案を検討する（ワークショップ） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
14	野中　潤	【第 14 回】 予習　：公開されている説明的な文章の授業案を調べる 授業　：説明的な文章の授業案を検討する（ワークショップ） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
15	野中　潤	【第 15 回】 予習　：中学校学習指導要領の国語科の改定のポイントを再確認する 授業　：講義ノートの相互閲覧によるふりかえり 復習　：学習内容を講義ノートにまとめ、半期の授業全体をふりかえる

授業開始前学習	学習指導要領の改訂など、国語科教育をめぐる状況の変化について、文部科学省の HP などで公開されている情報を学習しておくことが望ましい。
授業内課題のフィードバックの方法	主としてロイロノート・スクールを活用しながら、必要に応じて Google Classroom も利用し、随時フィードバックを行う。
テキスト・教材	適宜資料を配信する。
参考書	
評価の基準と方法	平常点（授業参画度・課題提出）７０%、講義ノート３０%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	◎

関連科目	
その他	授業中に情報端末を使います。インターネットにアクセスできる情報機器を持参して下さい。持参できない場合は授業時間内に限り、Chromebook 端末を貸し出すことも出来るので、相談してください。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	中学校および高等学校教諭として教科指導や生徒指導・進路指導など各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、教科の枠組みにとらわれず、生徒の実態に合わせて、課題発見・解決能力、論理的思考力、コミュニケーション能力等の向上をはかるための教育実践に関する授業を行う。

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	111-411-13（Ｊ）	授業コード	O80280
科目名称	国語科教育法Ⅳ			単位数	2.0 単位
英文名称	Japanese Teaching MethodsⅣ			授業区分	講義
科目責任者	野中　潤			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	野中　潤			開講時期	3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	中学校における国語科教育の目標や内容や方法などについて、模擬授業の準備および模擬授業を通して確認し、国語科の授業を作るための知識や技能をいかに活用するのかを実践的に学ぶ。				
到達目標	これからの時代に求められる資質・能力を踏まえ、中学校において国語科教育を実践するために習得した知識や技能をいかに活用するのかを、主体的に探求することができるようになることを目標とする。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	野中　潤	【第 1 回】 予習　：中学校国語の学習指導案の実例を参照し、書き方について確認する 授業　：指導案の基本的な書き方 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
2	野中　潤	【第 2 回】 予習　：「中学国語」の教材を読む 授業　：教材の読み合わせと教材価値の確認（グループワーク） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
3	野中　潤	【第 3 回】 予習　：授業プランを書く 授業　：単元指導計画の検討（ディスカッション） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
4	野中　潤	【第 4 回】 予習　：本時案の草案を作る 授業　：シナリオ型指導案の作成 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
5	野中　潤	【第 5 回】 予習　：補助教材を作る 授業　：補助教材の検討（ディスカッション） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
6	野中　潤	【第 6 回】 予習　：加筆修正された本時案に基づき、単元指導計画を修正する 授業　：模擬授業のシミュレーション（グループワーク） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
7	野中　潤	【第 7 回】 予習　：古文の模擬授業の準備 授業　：古文の模擬授業（実習） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
8	野中　潤	【第 8 回】 予習　：漢文の模擬授業の準備 授業　：漢文の模擬授業（実習） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
9	野中　潤	【第 9 回】 予習　：評論文の模擬授業の準備 授業　：評論文の模擬授業（実習） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
10	野中　潤	【第 10 回】 予習　：物語文の模擬授業の準備 授業　：物語文の模擬授業（実習） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
11	野中　潤	【第 11 回】 予習　：随筆の模擬授業の準備 授業　：随筆の模擬授業（実習） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる

12	野中　潤	【第 12 回】 予習　：模擬授業の問題点を見直す 授業　：模擬授業のふりかえり（ワールドカフェ方式） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
13	野中　潤	【第 13 回】 予習　：自分が担当した教材の導入を再検討する 授業　：導入の語り（ミニ模擬授業） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
14	野中　潤	【第 14 回】 予習　：自分が担当した教材のまとめを再検討する 授業　：まとめの語り（ミニ模擬授業） 復習　：学習内容を講義ノートにまとめる
15	野中　潤	【第 15 回】 予習　：これまでの模擬授業を振り返り、学んだことを整理する 授業　：これからの国語科教育を考える 復習　：学習内容を講義ノートにまとめ、授業全体をふりかえる

授業開始前学習	学習指導要領の改訂など、国語科教育をめぐる状況の変化について、文部科学省の HP などで公開されている情報を学習しておくことが望ましい。
授業内課題のフィードバックの方法	主としてロイロノート・スクールを活用しながら、必要に応じて Google Classroom も利用し、随時フィードバックを行う。
テキスト・教材	適宜資料を配信する。
参考書	
評価の基準と方法	平常点（授業参画度・課題提出）７０%、講義ノート３０%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	◎

関連科目	
その他	授業中に情報端末を使います。インターネットにアクセスできる情報機器を持参して下さい。持参できない場合は授業時間内に限り、Chromebook 端末を貸し出すことも出来るので、相談してください。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	中学校および高等学校教諭として教科指導や生徒指導・進路指導など各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、教科の枠組みにとらわれず、生徒の実態に合わせて、課題発見・解決能力、論理的思考力、コミュニケーション能力等の向上をはかるための教育実践に関する授業を行う。

科目分類（2025年～入学者）		科目分類（～2024年入学者）	113-411-13（J）	授業コード	O80300
科目名称	☆英語科教育法Ⅰ			単位数	2.0単位
英文名称	English Teaching Methods Ⅰ			授業区分	講義
科目責任者	中野 達也			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	中野 達也			開講時期	3年
オフィスアワー	前期 火曜日 10:40～12:10 木曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 10:40～12:10 木曜日 13:00～14:30			研究室	10-508
授業概要	授業のテーマ・内容：英語科教育法の基本事項に関する文献等を読み、理論と実践面から理解を深めていく。 内容に応じて、ペア・ワーク、グループ・ワークを通して、ディスカッションおよびプレゼンテーションを行う。				
到達目標	1. 英語科教育の目的について理解し、説明できる。 2. 高等学校学習指導要領（英語）の内容を理解し、説明できる。 3. 高等学校の英語の指導法について理解し、説明できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	中野 達也	【第1回】 予習 ：1年間の学びについて目標を立てる。 授業 ：オリエンテーション（グループワーク） （ディスカッション） （プレゼンテーション） 復習 ：授業で学んだことをノートにまとめる。
2	中野 達也	【第2回】 予習 ：高校の英語の授業で行った活動を書き出す。 授業 ：自分の受けてきた高等学校の英語の授業の振り返り（グループワーク） （ディスカッション） （プレゼンテーション） 復習 ：自分の受けてきた高等学校の英語の授業の振り返りから学んだことをノートにまとめる。
3	中野 達也	【第3回】 予習 ：自分が使った高校の教科書を読む。 授業 ：教科書分析（グループワーク） （ディスカッション） （プレゼンテーション） 復習 ：教科書分析を通して学んだことをノートにまとめる。
4	中野 達也	【第4回】 予習 ：学習指導要領をインターネットで調べる。 授業 ：学習指導要領の内容確認（変遷・目的） （グループワーク） （ディスカッション） （プレゼンテーション） 復習 ：学習指導要領について学んだことをノートにまとめる。
5	中野 達也	【第5回】 予習 ：自分が受けた「コミュニケーション英語」の授業を振り返る。 授業 ：「コミュニケーション英語基礎・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」の授業について（グループワーク） （ディスカッション） （プレゼンテーション） 復習 ：「コミュニケーション英語基礎・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」の授業について学んだことをノートにまとめる。
6	中野 達也	【第6回】 予習 ：自分が受けた「英語表現Ⅰ・Ⅱ」の授業について振り返る。 授業 ：「英語表現Ⅰ・Ⅱ」の授業について（グループワーク） （ディスカッション） （プレゼンテーション） 復習 ：「英語表現Ⅰ・Ⅱ」の授業について学んだことをノートにまとめる。
7	中野 達也	【第7回】 予習 ：自分が受けた語彙指導・文法指導について振り返る。 授業 ：語彙指導・文法指導について（グループワーク） （ディスカッション） （プレゼンテーション） 復習 ：語彙指導・文法指導について学んだことをノートにまとめる。
8	中野 達也	【第8回】 予習 ：授業中にどのような英語でのやりとりがあったか振り返る。 授業 ：英語によるインタラクション方法について（グループワーク） （ディスカッション） （プレゼンテーション） 復習 ：英語によるインタラクション方法について学んだことをノートにまとめる。
9	中野 達也	【第9回】 予習 ：自分が受けたＡＬＴとのティーム・ティーチングについて振り返る。 授業 ：ＡＬＴとのティーム・ティーチングについて（グループワーク） （ディスカッション） （プレゼンテーション） 復習 ：ＡＬＴとのティーム・ティーチングについて学んだことをノートにまとめる。
10	中野 達也	【第10回】 予習 ：自分が受けてきた授業形態について振り返る。 授業 ：生徒の特性や習熟度への対応方法について（グループワーク） （ディスカッション） （プレゼンテーション） 復習 ：生徒の特性や習熟度への対応方法について学んだことをノートにまとめる。

11	中野　達也	【第 11 回】 予習　：自分が使用した教材について振り返る。 授業　：教材研究方法について（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：教材研究方法について学んだことをノートにまとめる。
12	中野　達也	【第 12 回】 予習　：指導案の形式について調べ学習をする。 授業　：指導案の作成指導および指導案の作成と教材研究（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：指導案の作成指導および指導案の作成と教材研究ついて学んだことをノートにまとめる。
13	中野　達也	【第 13 回】 予習　：担当教員の指導案を予習する。 授業　：担当教員による模擬授業（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：担当教員による模擬授業から学んだことをノートにまとめる。
14	中野　達也	【第 14 回】 予習　：模擬授業の準備をする。 授業　：学生による模擬授業（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：模擬授業のふりかえりをノートにまとめる。
15	中野　達也	【第 15 回】 予習　：前期に習ったことをノートで振り返る。 授業　：高等学校の授業についての学びの総括（前期のまとめ）（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：後期にどのように生かすかを考える。

授業開始前学習	自分が中学高校時代に使用した英語の教科書を、「自分が教えるときにどのように生かすか」という視点で読んでくること。
授業内課題のフィードバックの方法	各回提出のレポートは個別に指導する。 共通した質問・課題については授業内で全体講評を行う。
テキスト・教材	初回の授業で指示する。
参考書	適宜指示する。
評価の基準と方法	ディスカッションなど授業への取り組み 40 パーセント、レポート等の提出物 30 パーセント、定期試験 30 パーセントを総合して評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	◎

関連科目	
その他	各自が教職につく身であることを自覚し、学んだ知識を実践で生かせるように授業中のディスカッション、発表、模擬授業に積極的に参加すること。また、教職であることから、遅刻や無断欠席などは認められないので注意のこと。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	中学校・高等学校教員とし教科指導や生徒指導・進路指導など各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、教員に求められる資質・能力についての講義・演習を行う。

科目分類（2025年～入学者）		科目分類（～2024年入学者）	113-411-13（J）	授業コード	O80320
科目名称	英語科教育法Ⅱ			単位数	2.0単位
英文名称	English Teaching MethodsⅡ			授業区分	講義
科目責任者	中野 達也			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	中野 達也			開講時期	3年
オフィスアワー	前期 火曜日 10:40～12:10 木曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 10:40～12:10 木曜日 13:00～14:30			研究室	10-508
授業概要	授業のテーマ・内容：英語科教育法の基本事項に関する文献等を読み、理論と実践面から理解を深めていく。 内容に応じて、ペア・ワーク、グループ・ワークを通して、ディスカッションおよびプレゼンテーションを行う。				
到達目標	1. 高等学校で英語の授業を行うための知識を身につけ、模擬授業を実施することができる 2. 高等学校で求められる実践的な英語の教授法を身につけ、実習等で行う授業で実施することができる				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	中野 達也	【第1回】 予習 ：「英語科教育法Ⅰ」の授業を振り返る。 授業 ：前期の「英語科教育法Ⅰ」の復習（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習 ：授業で学んだことをノートにまとめる。
2	中野 達也	【第2回】 予習 ：高校の英語の授業を振り返る。 授業 ： 復習・導入活動の工夫（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習 ：復習・導入活動の工夫について学んだことをノートにまとめる。
3	中野 達也	【第3回】 予習 ：自分が使った高校の教科書を読む。 授業 ：文法・教科書本文導入活動の工夫（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習 ：文法・教科書本文導入活動の工夫について学んだことをノートにまとめる。
4	中野 達也	【第4回】 予習 ：自分が受けた語彙指導を振り返る。 授業 ：語彙指導の工夫（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習 ：語彙指導の工夫について学んだことをノートにまとめる。
5	中野 達也	【第5回】 予習 ：自分が受けた英語の進め方を振り返る。 授業 ：授業展開の工夫、教材研究（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習 ：授業展開の工夫、教材研究について学んだことをノートにまとめる。
6	中野 達也	【第6回】 予習 ：教科書の内容を定着させるために工夫したことを整理する。 授業 ：定着活動の工夫（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習 ：定着活動の工夫について学んだことをノートにまとめる。
7	中野 達也	【第7回】 予習 ：自分が受けたICT機器を活用した英語の授業について振り返る。 授業 ：ICT機器を活用した授業の工夫（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習 ：ICT機器を活用した授業の工夫について学んだことをノートにまとめる。
8	中野 達也	【第8回】 予習 ：模擬授業に向けた準備をする。 授業 ：模擬授業に向けた指導案作成の準備（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習 ：模擬授業に向けた指導案作成の準備から学んだことをノートにまとめる。
9	中野 達也	【第9回】 予習 ：指導案作成の準備をする。 授業 ：模擬授業に向けた指導案作成 （グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習 ：模擬授業に向けた指導案作成から学んだことをノートにまとめる。
10	中野 達也	【第10回】 予習 ：模擬授業（コミュニケーション英語Ⅰ）の準備をする。 授業 ：学生による模擬授業①（コミュニケーション英語Ⅰ）（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習 ：学生による模擬授業①（コミュニケーション英語Ⅰ）から学んだことをノートにまとめる。
11	中野 達也	【第11回】 予習 ：模擬授業（コミュニケーション英語Ⅱ）の準備をする。 授業 ：学生による模擬授業②（コミュニケーション英語Ⅱ）（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習 ：学生による模擬授業②（コミュニケーション英語Ⅱ）から学んだことをノートにまとめる。

12	中野　達也	【第 12 回】 予習　：模擬授業（英語表現Ⅰ）の準備をする。 授業　：学生による模擬授業③（英語表現Ⅰ）（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：学生による模擬授業③（英語表現Ⅰ）から学んだことをノートにまとめる。
13	中野　達也	【第 13 回】 予習　：模擬授業（英語表現Ⅱ）の準備をする。 授業　：学生による模擬授業④（英語表現Ⅱ）（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：学生による模擬授業④（英語表現Ⅱ）から学んだことをノートにまとめる。
14	中野　達也	【第 14 回】 予習　：模擬授業（ALT とのティーム・ティーチング）の準備をする。 授業　：学生による模擬授業⑤（ALT とのティーム・ティーチング）（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：学生による模擬授業⑤（ALT とのティーム・ティーチング）から学んだことをノートにまとめる。
15	中野　達也	【第 15 回】 予習　：前期に習ってきたことをノートで振り返る。 授業　：学生による模擬授業⑤（ALT とのティーム・ティーチング）（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：後期の授業のまとめをする。

授業開始前学習	高等学校の英語の教科書と準拠 CD を使い、音読練習をすることが望ましい。
授業内課題のフィードバックの方法	各回提出のレポートは個別に指導する。 共通した質問・課題については授業内で全体講評を行う。
テキスト・教材	初回の授業で指示する。
参考書	適宜指示する。
評価の基準と方法	模擬授業など授業への取り組み 40 パーセント、レポート等の提出物 30 パーセント、定期試験 30 パーセントを総合して評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	◎

関連科目	
その他	各自が教職につく身であることを自覚し、学んだ知識を実践で生かせるように授業中のディスカッション、発表、模擬授業に積極的に参加すること。また、教職課程であることから、遅刻や無断欠席などは認められないので注意のこと。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	中学校・高等学校教員とし教科指導や生徒指導・進路指導など各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、教員に求められる資質・能力についての講義・演習を行う。

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-411-13（Ｊ）	授業コード	O80340
科目名称	英語科教育法Ⅲ			単位数	2.0 単位
英文名称	English Teaching MethodsⅢ			授業区分	講義
科目責任者	中野　達也			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	中野　達也			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期　火曜日 10:40～12:10　木曜日 13:00～14:30 後期　火曜日 10:40～12:10　木曜日 13:00～14:30			研究室	10-508
授業概要	授業のテーマ・内容：英語科教育法の基本事項に関する文献等を読み、理論と実践面から理解を深めていく。 内容に応じて、ペア・ワーク、グループ・ワークを通して、ディスカッションおよびプレゼンテーションを行う。				
到達目標	1. 英語科教育の目的について理解し、説明できる 2. 中学校学習指導要領（英語）の内容を理解し、説明できる 3. 中学校の英語の指導法について理解し、説明できる				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	中野　達也	【第 1 回】 予習　：自分が受けた中学の授業を振り返り、記憶に残っている活動をノートにまとめる。 授業　：自分の受けてきた中学校の英語の授業の振り返り（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：授業で学んだことをノートにまとめる。
2	中野　達也	【第 2 回】 予習　：中学の英語の授業を振り返る。 授業　：新旧学習指導要領の違いについて（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：新旧学習指導要領の違いについて学んだことをノートにまとめる。
3	中野　達也	【第 3 回】 予習　：自分が使った教科書を読む。 授業　：教科書分析と教材研究（登場人物・文法配列・Classroom English）（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：教科書分析と教材研究（登場人物・文法配列・Classroom English）で学んだことをノートにまとめる。
4	中野　達也	【第 4 回】 予習　：Classroom English を書き出す。 授業　：Classroom English を使った学生による模擬授業（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：Classroom English を使った学生による模擬授業から学んだことをノートにまとめる。
5	中野　達也	【第 5 回】 予習　：自分が受けた中学 1 年の英語の授業を振り返る①。 授業　：　中学 1 年の授業（導入）について（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：中学 1 年の授業（導入）について学んだことをノートにまとめる。
6	中野　達也	【第 6 回】 予習　：自分が受けた中学 1 年の英語の授業を振り返る②。 授業　：中学 1 年の授業（展開）について（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：中学 1 年の授業（展開）について学んだことをノートにまとめる。
7	中野　達也	【第 7 回】 予習　：自分が受けた中学 2 年の英語の授業を振り返る①。 授業　：中学 2 年の授業（導入）について、自身が受けてきた授業についてのレポートの提出（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：中学 2 年の授業（導入）について学んだことをノートにまとめる。
8	中野　達也	【第 8 回】 予習　：自分が受けた中学 2 年の英語の授業を振り返る②。 授業　：中学 2 年の授業（展開）について（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：中学 2 年の授業（展開）について学んだことをノートにまとめる。
9	中野　達也	【第 9 回】 予習　：自分が受けた中学 3 年の英語の授業を振り返る①。 授業　：中学 3 年の授業（導入）について、自身が受けてきた授業についてのレポートの講評　（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：中学 3 年の授業（導入）について学んだことをノートにまとめる。

10	中野　達也	【第 10 回】 予習　：自分が受けた中学 2 年の英語の授業を振り返る②。 授業　：中学 3 年の授業（展開）について（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：中学 3 年の授業（展開）について学んだことをノートにまとめる。
11	中野　達也	【第 11 回】 予習　：自分が受けた語彙指導・文法指導について振り返る。 授業　：語彙指導・文法指導について（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：語彙指導・文法指導について学んだことをノートにまとめる。
12	中野　達也	【第 12 回】 予習　：自分が受けた音声指導・音読指導について振り返る。 授業　：音声指導・音読指導について（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：音声指導・音読指導について学んだことをノートにまとめる。
13	中野　達也	【第 13 回】 予習　：指導案の形式について調べ学習をする。 授業　：指導案の作成指導および指導案の作成、教材研究（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：指導案の作成指導および指導案の作成、教材研究について学んだことをノートにまとめる。
14	中野　達也	【第 14 回】 予習　：教師が作成した指導案を予習する。 授業　：教師による模擬授業（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：教師による模擬授業から学んだことをノートにまとめる。
15	中野　達也	【第 15 回】 予習　：前期に習ってきたことをノートで振り返る。 授業　：教師による模擬授業（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：後期にどのように生かすかを考える。

授業開始前学習	自分が中学高校時代に使用した英語の教科書を、「自分が教えるときにどのように生かすか」という視点で読んでくること。
授業内課題のフィードバックの方法	各回提出のレポートは個別に指導する。 共通した質問・課題については授業内で全体講評を行う。
テキスト・教材	初回の授業で指示する
参考書	適宜指示する。
評価の基準と方法	ディスカッションなど授業への取り組み 40 パーセント、レポート等の提出物 30 パーセント、定期試験 30 パーセントを総合して評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	◎

関連科目	
その他	各自が教職につく身であることを自覚し、学んだ知識を実践で生かせるように授業中のディスカッション、発表、模擬授業に積極的に参加すること。また、教職課程であることから、遅刻や無断欠席などは認められないので注意のこと。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	中学校・高等学校教員とし教科指導や生徒指導・進路指導など各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、教員に求められる資質・能力についての講義・演習を行う。

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	113-411-13（Ｊ）	授業コード	O80360
科目名称	英語科教育法Ⅳ			単位数	2.0 単位
英文名称	English Teaching MethodsⅣ			授業区分	講義
科目責任者	中野　達也			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	中野　達也			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期　火曜日 10:40～12:10　木曜日 13:00～14:30 後期　火曜日 10:40～12:10　木曜日 13:00～14:30			研究室	10-508
授業概要	授業のテーマ・内容：英語科教育法の基本事項に関する文献等を読み、理論と実践面から理解を深めていく。 内容に応じて、ペア・ワーク、グループ・ワークを通して、ディスカッションおよびプレゼンテーションを行う。				
到達目標	1．中学校で英語の授業を行うための知識を身につけ、模擬授業を実施することができる 2．中学校で求められる実践的な英語の教授法を身につけ、実習等で行う授業で実施することができる				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	中野　達也	【第 1 回】 予習　：観点別評価について調べ学習する。 授業　：学習到達目標・観点別評価について考える（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：学習到達目標・観点別評価について授業で学んだことをノートにまとめる。
2	中野　達也	【第 2 回】 予習　：　アクティブ・ラーニングについて調べ学習する。 授業　：　アクティブ・ラーニングの取り入れ方について（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：アクティブ・ラーニングの取り入れ方について学んだことをノートにまとめる。
3	中野　達也	【第 3 回】 予習　：４技能５領域について調べ学習する。 授業　：「聞くこと」「話すこと（発表・やり取り）」「読むこと」「書くこと」の５領域を統合した授業について（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：「聞くこと」「話すこと（発表・やり取り）」「読むこと」「書くこと」の５領域を統合した授業について学んだことをノートにまとめる。
4	中野　達也	【第 4 回】 予習　：自分が受けた授業ではどれくらい英語が使用されていたか振り返る。 授業　：英語で行う授業方法について（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：英語で行う授業方法について学んだことをノートにまとめる。
5	中野　達也	【第 5 回】 予習　：自分が受けた ALT との team teaching の授業を振り返る。 授業　：ALT との team teaching の方法について（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：ALT との team teaching の方法について学んだことをノートにまとめる。
6	中野　達也	【第 6 回】 予習　：自分が受けた ICT を使った授業について振り返る。 授業　：ICT を使った授業方法について（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：ICT を使った授業方法について学んだことをノートにまとめる。
7	中野　達也	【第 7 回】 予習　：年間指導計画の立て方について調べ学習する。 授業　：年間指導計画の作成（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：年間指導計画の作成について学んだことをノートにまとめる。
8	中野　達也	【第 8 回】 予習　：自分が受けてきた英語の授業について振り返る 授業　：評価方法について（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：評価方法について学んだことをノートにまとめる
9	中野　達也	【第 9 回】 予習　：指導案作成の準備をする。 授業　：模擬授業に向けた指導案作成の準備、教材研究（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：模擬授業に向けた指導案作成の準備、教材研究について学んだことをノートにまとめる。
10	中野　達也	【第 10 回】 予習　：指導案作成の準備をする。 授業　：学生による模擬授業に向けた指導案作成（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：学生による模擬授業に向けた指導案作成から学んだことをノートにまとめる。

11	中野　達也	【第 11 回】 予習　：中学 1 年生対象の模擬授業の準備をする。 授業　：学生による模擬授業①（中学 1 年生対象）（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：学生による模擬授業①（中学 1 年生対象）から学んだことをノートにまとめる。
12	中野　達也	【第 12 回】 予習　：中学 2 年生対象の模擬授業の準備をする。 授業　：学生による模擬授業②（中学 2 年生対象）（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：学生による模擬授業②（中学 2 年生対象）ついて学んだことをノートにまとめる。
13	中野　達也	【第 13 回】 予習　：中学 3 年生対象の模擬授業の準備をする。 授業　：学生による模擬授業③（中学 3 年生対象）（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：学生による模擬授業③（中学 3 年生対象）から学んだことについてノートにまとめる。
14	中野　達也	【第 14 回】 予習　：ティーム・ティーチングによる模擬授業の準備をする。 授業　：学生による模擬授業④（ティーム・ティーチング）（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：学生による模擬授業④（ティーム・ティーチング）から学んだことをノートにまとめる。
15	中野　達也	【第 15 回】 予習　：後期に学んだことをノートで振り返る。 第 15 回　中学校の授業についての学びの総括（後期のまとめ）（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 授業　：中学校の授業についての学びの総括（後期のまとめ）（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：後期のまとめをする。

授業開始前学習	中学校、高等学校の英語教科書を CD を使いながら音読練習等をする。
授業内課題のフィードバックの方法	各回提出のレポートは個別に指導する。 共通した質問・課題については授業内で全体講評を行う。
テキスト・教材	初回の授業で指示する。
参考書	適宜指示する。
評価の基準と方法	ディスカッション・模擬授業など授業への取り組み 40 パーセント、レポート等の提出物 30 パーセント、定期試験 30 パーセントを総合して評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	◎

関連科目	
その他	各自が教職につく身であることを自覚し、学んだ知識を実践で生かせるように授業中のディスカッション、発表、模擬授業に積極的に参加すること。また、教職であることから、遅刻や無断欠席などは認められないので注意のこと。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	中学校・高等学校教員とし教科指導や生徒指導・進路指導など各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、教員に求められる資質・能力についての講義・演習を行う。

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	110-411-13	授業コード	O80640
科目名称	介護等の体験			単位数	2.0 単位
英文名称	Care Work Experience			授業区分	講義
科目責任者	小柳　菜穂			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小柳　菜穂			開講時期	3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	中学校教諭の免許状取得希望者は「介護等の体験」を受講する必要があります。本授業では、「介護等の体験」の意義を理解するとともに、必要な知識と行動規範を身につけることを目的とします。 具体的には、なぜ本体験が必要なのか（意義）、社会福祉施設や特別支援学校はどのような場所なのか（知識）、体験ではどのような振る舞いが必要なのか（行動規範）などを取り上げます。また、本授業や体験を通して、介護等体験の目的の１つである、個人や集団間に存在する様々な違い（多様性）について理解し、考えを深めていただきたいと思います。				
到達目標	・中学校教諭の免許状取得に必要な”介護等体験”の位置づけを理解し、説明できるようになる。 ・ダイバーシティとインクルージョンの定義を理解し、説明できるようになる。 ・「介護等の体験」を行う施設の種類と施設利用者の特徴を理解し、他者に概説できるようになる。 ・「介護等の体験」を行う上での行動規範について理解し、他者に概説できるようになる。 ・「介護等の体験」に必要な書類等の種類と提出期限を把握し、準備する。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	小柳　菜穂	【第１回】 予習　：　介護等体験特例法について調べる 授業　：　介護等の体験の位置づけと意義、心得 復習　：　介護等の体験の位置づけと意義、心得について整理する
2	小柳　菜穂	【第２回】 予習　：　ダイバーシティとインクルージョンについて調べる 授業　：　ダイバーシティ、インクルージョン及び共生社会について考える（ディスカッション） 復習　：　ダイバーシティ、インクルージョン及び共生社会について整理する
3	小柳　菜穂	【第３回】 予習　：　日本の社会保障制度について調べる 授業　：　社会保障について考える（ディスカッション） 復習　：　社会保障の良い点と課題について整理する
4	小柳　菜穂	【第４回】 予習　：　社会福祉施設の種類について調べる 授業　：　社会福祉施設について（１）～高齢期のエイジング～ 復習　：　高齢社会の現状と課題について整理する
5	小柳　菜穂	【第５回】 予習　：　社会福祉施設利用者のケアについて調べる 授業　：　社会福祉施設について（２）～施設利用者のケア～ 復習　：　社会福祉施設利用者のケアのポイントについて整理する
6	小柳　菜穂	【第６回】 予習　：　障害の定義や種類について調べる 授業　：　障害ついて考える（ディスカッション） 復習　：　障害にまつわる知識について整理する
7	小柳　菜穂	【第７回】 予習　：　知的障害について調べる 授業　：　特別支援学校について（１）～知的障害教育～ 復習　：　知的障害教育の要点について整理する
8	小柳　菜穂	【第８回】 予習　：　聴覚障害について調べる 授業　：　特別支援学校について（２）～聴覚障害教育～ 復習　：　聴覚障害教育の要点について整理する
9	小柳　菜穂	【第９回】 予習　：　視覚障害について調べる 授業　：　特別支援学校について（３）～視覚障害教育～ 復習　：　視覚障害教育の要点について整理する

10	小柳　菜穂	【第 10 回】 予習　：　肢体不自由・病弱について調べる 授業　：　特別支援学校について（４）～肢体不自由・病弱教育～ 復習　：　肢体不自由・病弱教育の要点について整理する
11	小柳　菜穂	【第 11 回】 予習　：　発達障害について調べる 授業　：　発達障害について考える～ASD・ADHD・LD～ 復習　：　発達障害支援の要点について整理する
12	小柳　菜穂	【第 12 回】 予習　：　社会福祉施設について調べ、プレゼン資料を作成する 授業　：　調べ学習（１）～社会福祉施設～（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習　：　社会福祉施設での体験に向けて、心構えについて整理する
13	小柳　菜穂	【第 13 回】 予習　：　特別支援学校について調べ、プレゼン資料を作成する 授業　：　調べ学習（２）～特別支援学校～（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習　：　社会福祉施設での体験に向けて、心構えについて整理する
14	小柳　菜穂	【第 14 回】 予習　：　その他関連学級について調べ、プレゼン資料を作成する 授業　：　調べ学習（３）～その他関連学級～（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習　：　特別支援学校での体験に向けて、心構えについて整理する
15	小柳　菜穂	【第 15 回】 予習　：　体験先へ提出する書類を確認する、実際の体験施設について基本情報を調べる 授業　：　実際の体験に向けて～提出書類と体験日程の確認、体験にあたっての注意事項～ 復習　：　今後の流れ、手続き、及びスケジュールを確認し、実行する

授業開始前学習	オリエンテーションでの内容を踏まえ、本授業で何を学びたいか自分なりに整理してください。また、「介護等体験特例法」について調べ、「介護等の体験」の成り立ちや対象について知りましょう。
授業内課題のフィードバックの方法	授業内で課すショートレポート等は、次回以降の授業内で取り上げます。
テキスト・教材	授業資料はパワーポイントで作成し、適宜配布します。
参考書	全国特別支援学校長会他（編著）『介護等体験ガイドブック　新フィリア』（ジアース教育新社） 橋本創一他（編著）『教職課程コアカリキュラム対応版　特別支援教育・障害児保育＆教育相談・生徒指導・キャリア教育』（福村出版）
評価の基準と方法	プレゼンテーション<30%>、期末レポート<30%>、授業への取り組み姿勢（リアクションペーパーの提出状況・グループワークへの参加度など）<40%>を総合的に判断し、評価します。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		△	○				○	◎

関連科目	
その他	授業の進め方や内容については、受講学生の興味関心等に応じて適宜変更する可能性があります。その場合は、授業内にて別途指示を出します。また本授業では、プレゼンテーションやディスカッション等を予定しています。履修者はそのつもりで参加してください。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025年～入学者）		科目分類（～2024年入学者）	110-411-12	授業コード	O80660
科目名称	☆視聴覚教育ﾒﾃﾞｨｱ論			単位数	2.0単位
英文名称	Audiovisual Media Education			授業区分	講義
科目責任者	明田川　紀彦			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	明田川　紀彦			開講時期	2年
オフィスアワー	前期　火曜日 09:00～12:10　水曜日 13:00～14:30 後期　火曜日 09:00～12:10　水曜日 13:00～14:30			研究室	10-707
授業概要	この授業は、視聴覚教育の歴史や教育方法について考え、その意義や教材およびメディアの関係性や重要性を知り、日本における視聴覚教育の始まりや定義、視聴覚教材の長所短所を検討します。教育現場での活用方法のみならず、博物館の学芸員として必要な事柄も学んでいきます。授業は、下記に記したテキストを中心に据え、受講生が模擬授業形式を通して問題解決型学習で進めていきます。この授業では、発表及びグループ・ディスカッションを行います。				
到達目標	教育の場で活用する視聴覚機器（テレビ、ＤＶＤ、スライド、映画等）、情報機器（ＰＣ、Ｗｅｂ等）などの教育メディアについて、その機能や種類、利用方法を身につけます。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	明田川　紀彦	【第１回】 予習　：テキストに目をとおして概要を見ておく。 授業　：オリエンテーション（この授業の目的と授業に対する姿勢、授業の進め方）、「１．視聴覚教育の意味」（テキストｐ1-4） 復習　：本日の内容をノートにまとめ、視聴覚教育に関連した事項を調べて追加記入する。
2	明田川　紀彦	【第２回】 予習　：テキスト（ｐ4-20）に目をとおして、関連した人物や事柄に関して考えておく。 授業　：「２．視聴覚教育の源流」～「５．視聴覚教育の定義」（テキストｐ4-20）（発表及びグループ・ディスカッション） 復習　：本日の内容をノートにまとめ、関連した人物や事柄に関して調べて追加記入する。
3	明田川　紀彦	【第３回】 予習　：テキスト（ｐ20-33）に目をとおして、歴史的流れに関して考えておく。 授業　：「６．視聴覚教育の動向」～「１．教育メディアの種類と選択」（テキストｐ20-33）（発表及びグループ・ディスカッション） 復習　：本日の内容をノートにまとめ、歴史的流れに関して調べて追加記入する。
4	明田川　紀彦	【第４回】 予習　：テキスト（ｐ33-50）に目をとおして、視聴覚機器に関して考えておく。 授業　：「２．非投映系視覚メディア」～「６．放送メディア」（テキストｐ33-50）（発表及びグループ・ディスカッション） 復習　：本日の内容をノートにまとめ、視聴覚機器に関して調べて追加記入する。
5	明田川　紀彦	【第５回】 予習　：テキスト（ｐ50-64）に目をとおして、視聴覚機器の変遷に関して考えておく。 授業　：「７．コンピュータと通信メディア」～「１．メディア概説」（テキストｐ50-64）（発表及びグループ・ディスカッション） 復習　：本日の内容をノートにまとめ、視聴覚機器の変遷に関して調べて追加記入する。
6	明田川　紀彦	【第６回】 予習　：テキスト（ｐ65-79）に目をとおして、各自のこれまでのメディアを使っての教育内容に関して考えておく。 授業　：「２．メディアについての教育」（テキストｐ65-79）（発表及びグループ・ディスカッション） 復習　：本日の内容をノートにまとめ、各自のこれまでのメディアを使っての教育内容に関して調べて追加記入する。
7	明田川　紀彦	【第７回】 予習　：これまでの内容をノートにまとめておく。 授業　：わかりやすいノートの取り方とまとめ方-1（個人作業） 復習　：本日の内容を踏まえ、ノート提出の準備をする。
8	明田川　紀彦	【第８回】 予習　：テキスト（ｐ79-96）に目をとおして、メディア教育と博物館展示に関して考えておく。 授業　：「３．メディア教育の内容と今後」～「１．博物館と展示・教育事業」（テキストｐ79-96）（発表及びグループ・ディスカッション） 復習　：本日の内容をノートにまとめ、メディア教育と博物館展示に関して追加記入する。
9	明田川　紀彦	【第９回】 予習　：テキスト（ｐ96-111）に目をとおして、展示方法の違いに関して考えておく。 授業　：「２．博物館の資料」～「４．視聴覚メディアの展望」（テキストｐ96-111）（発表及びグループ・ディスカッション） 復習　：本日の内容をノートにまとめ、展示方法の違いに関して調べて追加記入する。

10	明田川　紀彦	【第 10 回】 予習　：テキスト（ｐ112-125）に目をとおして、映像情報の認知方法に関して考えておく。 授業　：「１．映像・イメージ」～「２．映像情報の認知」（テキストｐ112-125）（発表及びグループ・ディスカッション） 復習　：本日の内容をノートにまとめ、映像情報の認知方法に関して調べて追加記入する。
11	明田川　紀彦	【第 11 回】 予習　：テキスト（ｐ125-140）に目をとおして、映像メディアによる教育的効果に関して考えておく。 授業　：「３．教育における映像の効果-実証的諸研究を通して」～「４．映像・イメージと教育」（テキストｐ125-140）（発表及びグループ・ディスカッション） 復習　：本日の内容をノートにまとめ、映像メディアによる教育的効果に関して調べて追加記入する。
12	明田川　紀彦	【第 12 回】 予習　：テキスト（ｐ141-148）に目をとおして、コンピュータの変遷に関して考えておく。 授業　：「１．コンピュータの発展とデジタル処理」（テキストｐ141-148）（発表及びグループ・ディスカッション） 復習　：本日の内容をノートにまとめ、コンピュータの変遷に関して調べて追加記入する。
13	明田川　紀彦	【第 13 回】 予習　：テキスト（ｐ148-161）に目をとおして、教育の情報化に関して考えておく。 授業　：「２．マルチメディア対応のコンピュータ」～「４．生涯学習と情報通信ネットワーク」（テキストｐ148-161）（発表及びグループ・ディスカッション） 復習　：本日の内容をノートにまとめ、教育の情報化に関して追加記入する。
14	明田川　紀彦	【第 14 回】 予習　：これまでの内容をノートにまとめたものを確認する。 授業　：わかりやすいノートの取り方とまとめ方-2（グループ・ワーク） 復習　：これまでの内容をノートにまとめ、必要事項を調べさらに追加記入し、次回の提出に備える。
15	明田川　紀彦	【第 15 回】 予習　：本日の提出に備え、これまでの内容のまとめを再検討する。 授業　：ふりかえりとまとめ（グループ・ワーク及びグループ・ディスカッション） 復習　：これまで学んできた事項で、気になったことに関して再度調べ、より理解を深める。

授業開始前学習	教職を取る学生が考えるべき問題などを新聞やインターネットから調べておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	発表（プレゼン）は、その時点で個別の講評を行う。またレポート課題は、個々の内容を充実させる目的で、学生の相互評価と全体の講評を行います。
テキスト・教材	・「改訂　視聴覚メディアと教育」（佐賀啓男著、樹村房）。 ・プリントと関連資料は、適宜配付（（Google-classroom 上にアップ）します。
参考書	
評価の基準と方法	発表（30%）、定期試験（30%）、質疑応答等への積極性（10%）、授業態度（10%）ノート提出（10%）、毎回のリアクションペーパーへのコメント（10%）により総合的に評価します。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	

関連科目	
その他	遅刻、欠席を極力避けること。なお、遅刻、欠席した場合には原則として事前に連絡を行うこと。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	110-411-11	授業コード	O80060
科目名称	☆教育原理			単位数	2.0 単位
英文名称	Principles of Education			授業区分	講義
科目責任者	田中　正浩			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田中　正浩			開講時期	1・2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	教育という文化的事象は、教育を規定する時代や社会、文化の要請に応えなければならない。しかし、教育はそれらに即応すべきものではなく、それらを批判し、改善する、教育固有の理論を備えなくてはならない。この教育の理論の解明と構築が、今日の教育状況を打開し、これからの教育にとって不可欠になってくる。本授業では、このような問題意識に基づき、教育の基本的概念、理念、歴史について考察し、理解を深める。				
到達目標	本授業では、教育の基本的概念、理念、歴史、そして思想について、加えて、これまでの教育や学校の営みについて、理解、習得する。これらの学びにおいて、今日の教育課題や教育現場での学校病理現象等を客観的に捉え、読み解けるような「教育を見る目」を養うこともめざす。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	田中　正浩	【第 1 回】 予習　：シラバス（本教科授業テーマ・内容、到達目標等）及びテキスト 1 頁から 8 頁まで読んでおく 授業　：教育の基本的概念 復習　：授業のポイントである教育の基本的概念について整理する
2	田中　正浩	【第 2 回】 予習　：テキスト 1 頁から 8 頁まで読んでおく 授業　：教育の意義と目的 復習　：授業のポイントである教育の意義について整理する
3	田中　正浩	【第 3 回】 予習　：テキスト 23 頁から 30 頁まで読んでおく 授業　：西欧の子ども観の形成と諸相 復習　：授業のポイントである西欧の子ども観について整理する
4	田中　正浩	【第 4 回】 予習　：テキスト 31 頁から 38 頁まで読んでおく 授業　：日本の子ども観の形成と諸相 復習　：授業のポイントである日本の子ども観について整理する
5	田中　正浩	【第 5 回】 予習　：テキスト 23 頁から 30 頁まで読んでおく 授業　：西欧における教育の歴史的展開 復習　：授業のポイントである西欧における教育の歴史的展開について整理する
6	田中　正浩	【第 6 回】 予習　：テキスト 31 頁から 38 頁まで読んでおく 授業　：日本における教育の歴史的展開 復習　授業のポイントである日本における教育の歴史的展開について整理する
7	田中　正浩	【第 7 回】 予習　：テキスト 9 頁から 12 頁まで読んでおく 授業　：西欧における教育思想ーコメニウス、ロック、ルソー(プレゼンテーション) 復習　：授業のポイントであるコメニウス、ロック、ルソーについて整理する
8	田中　正浩	【第 8 回】 予習　：テキスト 13 頁から 17 頁まで読んでおく 授業　：西欧における教育思想ーペスタロッチ、フレーベル、ヘルバルトー（プレゼンテーション） 復習　：授業のポイントであるペスタロッチ、フレーベル、ヘルバルトについて整理する
9	田中　正浩	【第 9 回】 予習　：テキスト 18 頁から 22 頁まで読んでおく 授業　：西欧における教育思想ーエレン・ケイ、モンテッソーリ、デューイー（プレゼンテーション） 復習　：授業のポイントであるエレン・ケイ、モンテッソーリ、デューイについて整理する
10	田中　正浩	【第 10 回】 予習　：テキスト 53 頁から 70 頁まで読んでおく 授業：教育内容と教育課程 復習　：授業のポイントである教育課程の意味と類型について整理する
11	田中　正浩	【第 11 回】 予習　：テキスト 39 頁から 52 頁まで読んでおく 授業　：教育と社会 復習　：授業のポイントである教育の社会的機能と社会の教育的機能について整理する

12	田中　正浩	【第 12 回】 予習　：テキスト 85 頁から 106 頁まで読んでおく 授業　：近代教育制度の成立と展開 復習　：授業のポイントである近代学校制度、学校体系の類型について整理する
13	田中　正浩	【第 13 回】 予習　：テキスト 123 頁から 138 頁まで読んでおく 授業　：教師の力量とアイデンティティ（グループ・ディスカッション） 復習　：授業のポイントである教師の力量形成、教師教育の課題について整理する
14	田中　正浩	【第 14 回】 予習　：テキスト 139 頁から 145 頁まで読んでおく 授業　：現代の教育問題ー不登校・いじめ・学級崩壊ー 復習　：授業のポイントである不登校・いじめ・学級崩壊について整理する
15	田中　正浩	【第 15 回】 予習　：テキスト 145 頁から 150 頁まで読んでおく 授業　：現代の教育問題ー教師と親ー（グループ・ディスカッション） 復習　：授業のポイントである指導力不足の教師、学級崩壊、モンスターペアレントについて整理する

授業開始前学習	今日の教育問題である、いじめ、不登校、学級崩壊等について、書物などを通して情報を得ておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	小テスト及び課題については、次回授業においてフィードバックを行う。
テキスト・教材	平野智美監修、中山幸夫・田中正浩編著『新・教育学のグランドデザイン』(八千代出版) このほか適宜、資料プリントを配付する。
参考書	授業にて、適宜、紹介する。
評価の基準と方法	小テスト（20%）、試験（60%）、平常点［授業への取組・課題提出］（20%）により総合的に評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	△			◎	○		

関連科目	教職科目である本教科は他の教職教養系科目と有機的に関連しており、特に「教育制度論」「教育課程論」「生徒指導論」等において本教科の知見は学びを深めてくれる。
その他	予習、復習の内容については授業時に具体的に指示するが、テキストや資料プリントを読んで授業に臨むことを常とする。授業には、問題意識をもって主体的かつ積極的な態度で臨んでほしい。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	110-411-11（Ｊ）	授業コード	O80040
科目名称	教職入門			単位数	2.0 単位
英文名称	Introduction to Teaching Careers			授業区分	講義
科目責任者	中野　達也			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	中野　達也			開講時期	1 年
オフィスアワー	前期　火曜日 10:40～12:10　木曜日 13:00～14:30 後期　火曜日 10:40～12:10　木曜日 13:00～14:30			研究室	10-508
授業概要	多角的アプローチにより、教師および教育について学ぶ。 調べ学習に基づき、グループ・ワークやグループ・ディスカッション、さらにはディベートなどを通して学習内容を深める。				
到達目標	教育全般および教師の仕事についての理解をもとに、自分なりの考えを説明することができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	中野　達也	【第 1 回】 予習　：今まで受けてきた中学・高校教育について考えてくる。 授業　：オリエンテーション（教職課程履修の意味・教職の意義） 復習　：オリエンテーション（教職課程履修の意味・教職の意義）から学んだことをレポートにまとめる。
2	中野　達也	【第 2 回】 予習　：自分の中学校について調べてくる。 授業　：自分の受けてきた教育から学ぶ（発表）①（私の中学校・中学校の先生）（プレゼンテーション） 復習　：自分の受けてきた教育から学んだことをレポートにまとめる。
3	中野　達也	【第 3 回】 予習　：自分の高等学校について調べてくる。 授業　：自分の受けてきた教育から学ぶ（発表）②（私の高等学校・高等学校の先生）（プレゼンテーション） 復習　：自分の受けてきた教育から学んだことをレポートにまとめる。
4	中野　達也	【第 4 回】 予習　：教員の役割・進路選択について考えてくる。 授業　：教師の 1 日（教員の役割）（グループワーク） 復習　：教師の 1 日（教員の役割）から学んだことをレポートにまとめる。
5	中野　達也	【第 5 回】 予習　：自分が習った中学校の先生の仕事について調べてくる。 授業　：教師という仕事（教員の役割・教職の意義）（グループワーク） 復習　：教師という仕事（教員の役割・教職の意義）から学んだことをレポートにまとめる。
6	中野　達也	【第 6 回】 予習　：自分が習った高等学校の先生の仕事について調べてくる。 授業　：教師に求められるもの（教師の服務・身分保障）（グループワーク） 復習　：教師に求められるもの（教師の服務・身分保障）から学んだことをレポートにまとめる。
7	中野　達也	【第 7 回】 予習　：　先生の 1 年間の仕事について考えてくる。 授業　：学級経営・学年経営（教師の服務・教師の役割）（グループワーク） 復習　：学級経営・学年経営（教師の服務・教師の役割）から学んだことをレポートにまとめる。
8	中野　達也	【第 8 回】 予習　：先生の 1 日の仕事について考えてくる。 授業　：教師の連携（教師の服務・教師の役割）（グループワーク） 復習　：教師の連携（教師の服務・教師の役割）について学んだことをレポートにまとめる。
9	中野　達也	【第 9 回】 予習　：教師の仕事について調べ、まとめる。 授業　：校務分掌（教師の役割）、（グループワーク）（ディスカッション） 復習　：校務分掌（教師の役割）から学んだことをレポートにまとめる。
10	中野　達也	【第 10 回】 予習　：学習指導要領について調べ、まとめる。 授業　：学習指導要領の変遷・内容（教科指導）（グループワーク）（ディスカッション） 復習　：学習指導要領の変遷・内容（教科指導）から学んだことをレポートにまとめる。
11	中野　達也	【第 11 回】 予習　：教育で話題になっていることについて調べ、まとめる。 授業　：中学・高校の先生方から学校の現状について話を聞く（進路選択に資する機会の提供）（プレゼンテーション） 復習　：中学・高校の先生方から学校の現状について話を聞く（進路選択に資する機会の提供）から学んだことをレポートにまとめる。

12	中野　達也	【第 12 回】 予習　：教育で話題になっていること（教科指導）について調べ、まとめる。 授業　：教科指導法（教師の役割） 復習　：教科指導法（教師の役割）から学んだことをレポートにまとめる。
13	中野　達也	【第 13 回】 予習　：教育で話題になっていること（教員研修）について調べ、まとめる。 授業　：教員研修の必要性（研修）（ディベート） 復習　：教員研修の必要性（研修）から学んだことをレポートにまとめる。
14	中野　達也	【第 14 回】 予習　：教育で話題になっていること（入試改革）について調べ、まとめる。 授業　：教育問題についての討論（ディベート） 復習　：教育問題についての討論から学んだことをレポートにまとめる。
15	中野　達也	【第 15 回】 予習　：これまでの授業をふりかえる。 授業　：学校教育全体に関する事項の総括 復習　：今後にどう生かすかをレポートにまとめる。

授業開始前学習	自分が受けてきた教育を振り返る。
授業内課題のフィードバックの方法	各回提出のレポートは個別に指導する。 共通した質問・課題については授業内で全体講評を行う。
テキスト・教材	初回の授業で指示する。
参考書	適宜指示する。
評価の基準と方法	授業への参加度（発表を含む）３０%、レポート３０%、定期試験４０%を総合して評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	△	◎		◎			

関連科目	
その他	各自が教職につく身であることを自覚し、学んだ知識を実践で生かせるように授業中のディスカッション、発表に積極的に参加すること。また、教職課程であることから、遅刻や無断欠席は認められないので注意のこと。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	中学校・高等学校教員とし教科指導や生徒指導・進路指導など各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、教員に求められる資質・能力についての講義・演習を行う。

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	110-411-12	授業コード	O80200
科目名称	教育制度論			単位数	2.0 単位
英文名称	Education Systems Studies			授業区分	講義
科目責任者	田中　正浩			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田中　正浩			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	我国の教育制度及び教育行政に関連する歴史的・社会的出来事を概観しながら、現代の公教育制度の意義・原理・構造について、その法的及び制度的仕組みに関する基礎的知識を身に付け、今日的課題を読み解いていく。さらに、具体的な取り組み事例を基に、学校と地域との連携、学校安全への対応について理解を深める。				
到達目標	本授業では、今日の教育制度及び教育行政について説明ができるように、これらに関する基本的事項を理解、習得することをめざす。加えて、学校と地域との連携、安全教育に対する理解を深める。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	田中　正浩	【第 1 回】 予習　：シラバス（本教科の授業テーマ・内容、到達目標等）を読んでおく 授業　：公教育の原理と理念 復習　：公教育の原理について整理する
2	田中　正浩	【第 2 回】 予習　：我国にどのような教育関係法規があるか調べる 授業　：公教育制度に係わる教育関係法規 復習　：教育関係法規について整理する
3	田中　正浩	【第 3 回】 予習　：教科書検定制度について調べる 授業　：教育内容に関する制度－学習指導要領－ 復習　：学習指導要領の意味と意義について整理する
4	田中　正浩	【第 4 回】 予習　：日本国憲法のなかで教育に関する条文を探す 授業　：日本国憲法と教育制度 復習　：日本国憲法と「教育を受ける権利」の関係を整理する
5	田中　正浩	【第 5 回】 予習　：教育基本法を読んでみる 授業　：教育の目的と目標－教育基本法－ 復習　：教育基本法と「教育を受ける権利」の関係を整理する
6	田中　正浩	【第 6 回】 予習　：日本国憲法・教育基本法のなかで義務教育に関する条文を探す 授業　：義務教育制度－誰の何に対する義務か－ 復習　：義務教育の意味と意義を整理する
7	田中　正浩	【第 7 回】 予習　：義務教育の三原則について調べる 授業　：義務教育の三原則 復習　：義務教育の三原則について整理する
8	田中　正浩	【第 8 回】 予習　：教育機会の保障とはどうことか調べる 授業　：教育の機会均等 復習　：教育の機会均等の意味と課題について整理する
9	田中　正浩	【第 9 回】 予習　：戦後教育行政の基本原則について調べる 授業　：教育行政の変遷と理念 復習　：教育行政の制度について整理する
10	田中　正浩	【第 10 回】 予習　：法律に定める学校について調べる 授業：学校教育制度－原理・構造・課題－ 復習　：学校教育制度の原理と構造について整理する
11	田中　正浩	【第 11 回】 予習　：社会教育の意味について調べる 授業　：社会教育制度－原理・構造・課題－ 復習　：社会教育制度の原理と構造ついて整理する

12	田中　正浩	【第 12 回】 予習　：地域の学校教育活動について調べる 授業　：地域における学校教育活動の意義及び方法（グループ・ディスカッション） 復習　：地域における学校教育活動について整理する
13	田中　正浩	【第 13 回】 予習　：地域に開かれた学校についての事例を探す 授業　：地域に開かれた学校づくり(グループ・ディスカッション) 復習　：地域に開かれた学校の意味と意義について整理する
14	田中　正浩	【第 14 回】 予習　：学校における危機管理や事故対応の具体例を調べる 授業　：学校安全（危機管理・事故対応）の意義 復習　：危機管理や事故対応について整理する
15	田中　正浩	【第 15 回】 予習　：安全管理と安全教育の実践例について調べる 授業　：安全管理と安全教育 復習　：安全管理と安全教育の意味と意義について整理する

授業開始前学習	今日の教育問題である、いじめ、不登校、学級崩壊等で何かしら関心のあることについての情報を書物などを通して得ておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	小テスト及び課題については、次回授業においてフィードバックを行う。
テキスト・教材	田中正浩編著『学びを深める　教育制度論』（大学図書出版） このほか適宜、資料プリントを配付する。
参考書	授業にて、適宜、紹介する。
評価の基準と方法	小テスト（20%）、試験（60%）、平常点［授業への取組・課題提出］（20%）により総合的に評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	△		○	◎			

関連科目	教職科目である本教科は他の教職教養系科目と有機的に関連しており、特に「教育原理」での知見は本教科の理解を深めてくれる。
その他	予習、復習の内容については授業時に具体的に指示するが、資料プリントを読んで授業に臨むことを常とする。授業には、問題意識をもって主体的かつ積極的な態度で臨んでほしい。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	110-411-12	授業コード	O80080
科目名称	発達心理学			単位数	2.0 単位
英文名称	Developmental Psychology			授業区分	講義
科目責任者	丸山　慎			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	丸山　慎			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	前期　水曜日 13:00～14:30　木曜日 10:40～12:10 後期　水曜日 13:00～14:30　木曜日 10:40～12:10			研究室	10-718
授業概要	本講義では、「生涯発達心理学」という視点から人間の発達を広く連続的に捉えつつ、特にその基盤となる乳児期から青年期にかけての人間の発達に関する基本的な知見を学ぶ。また幼児、児童および生徒の発達に関しては、集団への適応と学習への適応と学習の課程及び現代の教育現場が抱える問題について心理学的な観点から考察を行う。				
到達目標	発達心理学のロジックを理解し、それをもとにして乳幼児期から青年期にかけての人間の身体的、精神的そして社会的な発達および学習の過程に関する知識を正確に習得することを目標とする。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	丸山　慎	【第 1 回】 予習　：特に課さない 授業：教科への導入「人間の発達とは何か：発達心理学という研究領域について」 復習　：特に課さないが履修のモチベーションを各自確認すること
2	丸山　慎	【第 2 回】 予習　：教科書の該当箇所（p.1-7）の講読と疑問点の抽出 授業：発達初期の能力を測る方法：選考注視法、馴化・脱馴化法を中心に 復習　：講義のレジュメを読み直しておくこと
3	丸山　慎	【第 3 回】 予習　：教科書の該当箇所（p.7-14、p.104）の講読と疑問点の抽出 授業：発達心理学の主要な理論①「認知発達」：ピアジェ、ヴィゴツキー等 復習　：講義のレジュメを読み直しておくこと
4	丸山　慎	【第 4 回】 予習　：教科書の該当箇所（p.14-19, p.116-122, p.130-136）の講読と疑問点の抽出 授業：発達心理学の主要な理論②「社会性の発達」：エリクソン、コールバーグ、アイゼンバーグ等 復習　：講義のレジュメを読み直しておくこと
5	丸山　慎	【第 5 回】 予習　：教科書の該当箇所（p.23-33）の講読と疑問点の抽出 授業：人間の知覚・運動・認知の発達 復習　：講義のレジュメを読み直しておくこと
6	丸山　慎	【第 6 回】 予習　：教科書の該当箇所（p.33-43）の講読と疑問点の抽出 授業：愛着の形成及び三項関係の発達 復習　：講義のレジュメを読み直しておくこと
7	丸山　慎	【第 7 回】 予習　：教科書の該当箇所（p.46-54）の講読と疑問点の抽出 授業：表象とことばの獲得 復習　：講義のレジュメを読み直しておくこと
8	丸山　慎	【第 8 回】 予習　：教科書の該当箇所（p.54-63）の講読と疑問点の抽出 授業：他者のこころを推量する：「こころの理論」とは何か 復習　：講義のレジュメを読み直しておくこと
9	丸山　慎	【第 9 回】 予習　：教科書の該当箇所（p.64-65、p.68-84）の講読と疑問点の抽出 授業：自己意識の発達と自己抑制 復習　：講義のレジュメを読み直しておくこと
10	丸山　慎	【第 10 回】 予習　：教科書の該当箇所（p.87-99）の講読と疑問点の抽出 授業：思考の深まりと社会性の発達（集団づくり・友人とのかかわり） 復習　：講義のレジュメを読み直しておくこと
11	丸山　慎	【第 11 回】 予習　：教科書の該当箇所（p.99-105、p.108-116）の講読と疑問点の抽出 授業：学校における児童・生徒の学習①：学習への動機づけと学力の問題 復習　：講義のレジュメを読み直しておくこと

12	丸山 慎	【第 12 回】 予習 ：教科書の該当箇所（p.116-122、p.125-135、p.146-162）の講読と疑問点の抽出 授業：学校における児童・生徒の学習②：教師と生徒の関係における変化及び評価 復習 ：講義のレジュメを読み直しておくこと
13	丸山 慎	【第 13 回】 予習 ：参考資料の確認と疑問点の抽出 授業：障害のある児童・生徒の発達と支援①：障害の理解と教育的な働きかけについて 復習 ：講義のレジュメを読み直しておくこと
14	丸山 慎	【第 14 回】 予習 ：参考資料の確認と疑問点の抽出 授業：障害のある児童・生徒の発達と支援②：支援組織についての理解〈家族・地域・専門機関〉 復習 ：講義のレジュメを読み直しておくこと
15	丸山 慎	【第 15 回】 予習 ：これまでに参照した教科書の該当箇所および参考資料を読み返しておくこと 授業：講義の総括 ：児童・生徒の身体的、精神的、社会的発達を見守り、導き、支えるために 復習 ：講義のレジュメを読み直しておくこと

授業開始前学習	発達心理学や保育に関する入門書に目を通しておくことを勧めたい。
授業内課題のフィードバックの方法	授業内課題を実施した次の授業の冒頭に課題に対して概評を与え、前回の授業内容を振り返る。
テキスト・教材	藤村宣之（編著）『発達心理学：周りの世界と関わりあいながら人はいかに育つか』ミネルヴァ書房，2009 年刊
参考書	・無藤 隆・中坪史典・西山 修（編著）『発達心理学』ミネルヴァ書房，2010 年刊 ・岡本祐子・深瀬裕子（編著）『エピソードでつかむ生涯発達心理学』ミネルヴァ書房，2013 年刊 ・三浦香苗・村瀬嘉代子・西林克彦・近藤邦夫（編著）『発達と学習の支援』新曜社，2000 年刊
評価の基準と方法	平常点 30%（授業参加点 20%・小レポート 10%）と期末試験 70%を総合して最終的な評価とする。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	△			◎	○		

関連科目	
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	110-411-12	授業コード	O80370
科目名称	特別支援教育概論			単位数	1.0 単位
英文名称	Introduction to Special Education			授業区分	講義
科目責任者	金森　克浩			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	金森　克浩			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	障害のある子ども、特別な支援を必要とする子どもの教育について、理念、制度及び障害種別の現状を講述する。その上で、共生社会の実現に向けたインクルーシブ教育システム構築について概説する。テーマについてディスカッションを行なう。				
到達目標	1.特別支援教育に関する動向のポイントを説明できる。 2.特別支援教育に関する理念を理解し実際の支援について自分の考えとともに説明できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	8 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	金森　克浩	【第 1 回】 予習：特別支援教育とはどういうものか調べる 授業：特別支援教育の理念と制度 復習：特別支援教育の理念について整理する
2	金森　克浩	【第 2 回】 予習：通常の学級の中で児童生徒がどのような困り感があるかを考える 授業：インクルーシブな学校と特別な支援が必要な障害のない児童生徒 復習：インクルーシブ教育システムについて整理する
3	金森　克浩	【第 3 回】 予習：通常の学級以外でどのような教育課程があるかを調べる 授業：特別支援教育の教育課程 復習：特別支援教育における教育課程の内容を整理する
4	金森　克浩	【第 4 回】 予習：個別の指導計画とは何かを調べる 授業：個別の教育支援計画と個別の指導計画 復習：学習指導要領において個別の教育支援計画と個別の指導計画がどのように扱われているか整理する
5	金森　克浩	【第 5 回】 予習：どのような特別支援学校があるかを調べる 授業：障害児の理解と教育（1）視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱 復習：特別支援学校の教育内容を整理する
6	金森　克浩	【第 6 回】 予習：学習障害とは何かを調べる 授業：障害児の理解と教育（2）学習障害 復習：学習障害のある子どもの指導について整理する
7	金森　克浩	【第 7 回】 予習：ADHD や ASD とは何か調べる 授業：障害児の理解と教育（3）注意欠陥・多動性障害、言語障害、自閉症・情緒障害 復習：発達障害のある子どもの指導について整理する
8	金森　克浩	【第 8 回】 予習：障害のある子どもの困難さは何かを考える 授業：共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築 復習：共生社会の形成のためにどのような事が大切かを整理する

授業開始前学習	
授業内課題のフィードバックの方法	毎回の授業終了後に提出するコメントシートには次週の講義に回答する。
テキスト・教材	特になし。授業時に関係資料を配付する。
参考書	廣瀬由美子、石塚謙二　編著『特別支援教育』（ミネルヴァ書房） 文部科学省『特別支援学校幼稚部教育要領、小学部・中学部学習指導要領、高等部学習指導要領』（海文堂出版） 文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説総則編』（教育出版） 文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説自立活動編』（教育出版）

評価の基準と方法	授業内課題(コメントシート)35 点、最終講義テスト 65 点							
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照							
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			◎	○	○	
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間（2 時間×7.5 週）＋予習・復習時間 30 時間（4 時間×7.5 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	110-411-12	授業コード	O80210
科目名称	教育課程論			単位数	2.0 単位
英文名称	Curriculum Studies			授業区分	講義
科目責任者	田中　正浩			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田中　正浩			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	教育課程の意義や編成の方法を「カリキュラム」という語源から、そして学習指導要領を基準に編成される教育課程という視点から理解する。さらに、教育課程編成の基本原理と方法、実際に編成されてきた教育課程の類型等について、教育課程の編成及び指導計画（授業）案の作成手順等を学びながら理解を深める。これらを学ぶ中で、カリキュラム・マネジメントの今日的意義とその重要性について理解する。				
到達目標	本授業では、「優れた教師の条件の一つとして教育課程（カリキュラム）編成能力がある」と言われることの意味を理解できるよう、教育課程の意義及び編成の方法を理解し、編成能力を身に付ける。併せて、カリキュラム・マネジメントの意義についても理解する。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	田中　正浩	【第 1 回】 予習　：シラバス（本教科の授業テーマ・内容及び到達目標等）読んでおく 授業　：教育課程の意味と意義 復習　：教育課程の意義について整理する
2	田中　正浩	【第 2 回】 予習　：配付資料の指示した箇所を読んでおく 授業　：教育課程編成の基準としての学習指導要領 復習　：学習指導要領の意義について整理する
3	田中　正浩	【第 3 回】 予習　：配付資料の指示した箇所を読んでおく 授業　：学習指導要領の変遷と性格（グループ・ワーク） 復習　：学習指導要領の変遷について整理する
4	田中　正浩	【第 4 回】 予習　：配付資料の指示した箇所を読んでおく 授業　：教育課程編成の基本原理 復習　：教育課程編成の基本原理について整理する
5	田中　正浩	【第 5 回】 予習　：配付資料の指示した箇所を読んでおく 授業　：教育課程の類型ー教科カリキュラム、相関カリキュラム、融合カリキュラムー 復習　：教育課程の類型について整理する
6	田中　正浩	【第 6 回】 予習　：配付資料の指示した箇所を読んでおく 授業　：教育課程の類型ーコア・カリキュラム、経験カリキュラムー 復習　：教育課程の類型について整理する
7	田中　正浩	【第 7 回】 予習　：配付資料の指示した箇所を読んでおく 授業　：教育課程編成の方法と教育内容 復習　：教育課程編成の方法と教育内容との関連について整理する
8	田中　正浩	【第 8 回】 予習　：配付資料の指示した箇所を読んでおく 授業　：教育課程と教材 復習　：教育課程と教材との関連について整理する
9	田中　正浩	【第 9 回】 予習　：配付資料の指示した箇所を読んでおく 授業　：教育課程編成の実際ー教育課程編成の手順ー 復習　：教育課程編成の手順について整理する
10	田中　正浩	【第 10 回】 予習　：配付資料の指示した箇所を読んでおく 授業　：教育課程編成の実際ー教育課程を読み解くー 復習　：教育課程から読みとれることは何か整理する
11	田中　正浩	【第 11 回】 予習　：配付資料の指示した箇所を読んでおく 授業　：指導計画作成の実際ー指導計画（授業）案作成の手順ー 復習　：指導計画案作成の手順について整理する

12	田中　正浩	【第 12 回】 予習　：配付資料の指示した箇所を読んでおく 授業　：指導計画作成の実際ー指導計画（授業）案を読み解くー 復習　：指導計画案から読みとれることは何か整理する
13	田中　正浩	【第 13 回】 予習　：配付資料の指示した箇所を読んでおく 授業　：カリキュラム・マネジメントの意義 復習　：カリキュラム・マネジメントの意義について整理する
14	田中　正浩	【第 14 回】 予習　：配付資料の指示した箇所を読んでおく 授業　：教育課程評価の基本原理 復習　：教育課程評価の基本原理について整理する
15	田中　正浩	【第 15 回】 予習　：配付資料の指示した箇所を読んでおく 授業　：教育課程開発の今日的意義と課題(グループ・ディスカッション) 復習　：教育課程開発の今日的意義と課題について整理する

授業開始前学習	各回の授業においては、事前に配付した資料プリントを読み、専門用語等を調べた上で臨んでほしい。
授業内課題のフィードバックの方法	小テスト及び課題については、次回授業においてフィードバックを行う。
テキスト・教材	文部科学省『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　総則編』（東山書房） 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説　総則編』（東洋館出版社） このほか適宜、資料プリントを配付する。
参考書	授業にて、適宜、紹介する。
評価の基準と方法	小テスト（20%）、試験（60%）、平常点［授業への取組・課題提出］（20%）により総合的に評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	△		○	◎			

関連科目	教職科目である本教科は他の教職教養系科目と有機的に関連しており、特に「教育原理」での知見は本教科の理解を深めてくれる。
その他	予習、復習の内容については授業時に具体的に指示するが、資料プリントを読んで授業に臨むことを常とにする。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	110-411-12	授業コード	O80460
科目名称	☆道徳教育の指導法／道徳教育の研究			単位数	2.0 単位
英文名称	Teaching Methods (Moral Education)			授業区分	講義
科目責任者	田中　正浩			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田中　正浩			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	学生が、単に知識の提示に終わるのではなく、自分自身が道徳指導について持つ課題に引きつけて多様な道徳指導上の視点から考えて実践できる可能性を見出す姿勢 を身につける。道徳教育の意義や歴史、学習指導要領における位置づけ、実践の基盤となる諸理論について概説する。指導案の作成や模擬授業の実践を行い、道徳教育実践についての教材を開発することを通じて、よりよい道徳指導の可能性について考えていく。				
到達目標	本授業は、教免法「教職に関する科目」内の「道徳指導法」に該当する科目である。学生が道徳指導に関わる基本的な知識を身につけること、またそれらをヒントとしながら道徳指導の可能性について深く考えることができること、さらに道徳指導の実践についてのアイデアを多様に展開できること、指導案の作成や模擬授業を通して実践的な指導力を身につけることが到達目標である。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	田中　正浩	【第 1 回】 予習　：「道徳教育」「道徳指導」の概要について調べる 授業　：オリエンテーション：「道徳教育」「道徳指導」とは何か 復習　：「道徳教育」「道徳指導」の基本的な知識をまとめる
2	田中　正浩	【第 2 回】 予習　：日本の道徳教育に歴史について調べる 授業　：日本の道徳教育の歴史：明治期から現代まで 復習　：日本の道徳教育の変遷を整理する
3	田中　正浩	【第 3 回】 予習　：学習指導要領の役割について調べる 授業　：学習指導要領の変遷：小学校・中学校・高等学校 復習　：学習指導要領の変遷と道徳教育の在り方を確認する
4	田中　正浩	【第 4 回】 予習　：指導案の作成について調べる 授業　：中間課題①：読み物資料を使用した指導案作成とその検討（発表） 復習　：作成した指導案を見直す
5	田中　正浩	【第 5 回】 予習　：「基本型」や内容項目について調べる 授業　：道徳授業の検討（1）：「基本型」と内容項目理解（発表） 復習　：「基本型」の特徴を整理し、内容項目についてまとめる
6	田中　正浩	【第 6 回】 予習　：道徳性の発達理論や「モラルジレンマ」授業について調べる 授業　：道徳授業の検討（2）：道徳性の発達理論と「モラルジレンマ」授業（発表） 復習　：道徳性発達理論の展開と「モラルジレンマ」授業の特徴を整理する
7	田中　正浩	【第 7 回】 予習　：道徳授業の教材開発について調べる 授業　：中間課題②：道徳授業の教材開発：実践編（発表） 復習　：開発した教材を見直す
8	田中　正浩	【第 8 回】 予習　：道徳授業の教材開発について調べる 授業　：道徳授業の教材開発の実践：検討編（発表） 復習　：他学生の開発した教材と比較し、問題点を検討する
9	田中　正浩	【第 9 回】 予習　：「価値明確化」授業について調べる 授業　：道徳授業の検討（3）：「価値明確化」授業（発表） 復習　：「価値明確化」授業の特徴を整理する
10	田中　正浩	【第 10 回】 予習　：「モラルスキルトレーニング」授業について調べる 授業　：道徳授業の検討（4）：「モラルスキルトレーニング」授業（発表） 復習　：「モラルスキルトレーニング」授業の特徴を整理する

11	田中　正浩	【第 11 回】 予習　：海外の道徳教育について調べる 授業　：現代社会が抱える問題点と海外の道徳教育（ディスカッション） 復習　：日本と海外の道徳教育を比較する
12	田中　正浩	【第 12 回】 予習　：「道徳の社会化」について調べる 授業　：「道徳の社会化」と道徳教育の在り方 復習　：「道徳の社会化」と道徳教育の在り方について整理する
13	田中　正浩	【第 13 回】 予習　：模擬授業の準備をする 授業　：模擬授業の実践と検討（1）：開発した教材及び指導案の実践・検討（発表） 復習　：実践内容を振り返る
14	田中　正浩	【第 14 回】 予習　：模擬授業の準備をする 授業　：模擬授業の実践と検討（２）：道徳指導の実践に関する評価（発表） 復習　：道徳授業を実践する際の課題についてまとめる
15	田中　正浩	【第 15 回】 予習　：これまでの授業内容を見直す 授業　：まとめ：今後の道徳指導における問題と展望 復習　：この授業で学んだことを整理する

授業開始前学習	学習指導要領における道徳教育の目標や道徳科の内容を確認しておく。
授業内課題のフィードバックの方法	授業内で課題を２回実施し、解説も同授業内または翌授業内で行なう。
テキスト・教材	文部科学省『中学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編』（2018） 適宜、資料プリントを配付する。 このほか適宜、資料プリントを配付する。
参考書	授業にて、適宜、介する。
評価の基準と方法	以下の４項目の評価をもとに最終的な評価を決定する。 ・授業への参加度：20%　・中間課題①：10%　・中間課題②：20%　・試験：50%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			◎	○	○	

関連科目	
その他	授業内で質問する時間も設け、自由な質問・討議を促す。 授業は講義形式と発表形式の両方をとり、どちらでも学生の主体的な参加を期待する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	110-411-12（Ｊ）	授業コード	O80380
科目名称	総合的な学習の時間の指導法			単位数	1.0 単位
英文名称	Teaching Methods (Integrated Studies)			授業区分	講義
科目責任者	野中　潤			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	野中　潤			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	総合的な学習の時間の目標や内容や方法などについて、最新の教育実践を視野に入れながら学ぶ。また、社会に開かれた教育課程を実現するための教育のあり方を考え、総合的な学習の時間のための基礎的・基本的な知識や技能を習得する。				
到達目標	自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するための学習がどのように実践されうるかを理解することができる。 生徒が学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を身につけ、自己の生き方を考える学習をデザインできる。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	8 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	野中　潤	【第 1 回】 予習：「総合的な学習の時間」についての基本事項をインターネットなどを活用して調べる 授業：「総合的な学習の時間」とは何か（質問づくり・グループワーク） 復習：他のグループの質問づくりのファイルを閲覧し、講義ノートにまとめる
2	野中　潤	【第 2 回】 予習：質問づくりに基づく探究課題についてインターネットなどを活用して調べる 授業：「総合的な学習の時間」の実践事例調査（個人ワーク） 復習：実践事例調査の結果を講義ノートにまとめる
3	野中　潤	【第 3 回】 予習：他のグループが調査した実践事例の詳細を確認する 授業：「総合的な学習の時間」の実践事例調査（協働的な学び・グループワーク） 復習：実践事例調査結果を講義ノートにまとめる
4	野中　潤	【第 4 回】 予習：『「指導と評価の一体化」のための習評価に関する参考資料』の事例 1？3 の内容を確認する 授業：「総合的な学習の時間」の指導にあたって留意すべきことや ICT を活用した授業プランについて、事例別に考察する（ジグソー法・エキスパート活動） 復習：エキスパート活動で明らかにしたことを講義ノートにまとめる
5	野中　潤	【第 5 回】 予習：エキスパート活動で担当しているスライドにポイントをまとめる 授業：「総合的な学習の時間」の指導にあたって留意すべきことや ICT を活用した授業プランについて事例別に発表する（ジグソー法・発表） 復習：ジグソー方を通じて学んだことを講義ノートにまとめる
6	野中　潤	【第 6 回】 予習：質問づくりで掲げた探究課題について、具体的な事例を踏まえて検証する 授業：探究課題についての発表資料を作成する（個人ワーク） 復習：他の受講生が作成中の発表資料を閲覧し、付箋でコメントする
7	野中　潤	【第 7 回】 予習：発表資料の付箋を確認し、他の受講生のコメントに返信する 授業：探究課題についての発表資料を完成させ、発表動画を作成する（個人ワーク） 復習：共有された他の受講生の発表動画を視聴して、Google フォームなどでフィードバックする
8	野中　潤	【第 8 回】 予習：スプレッドシートで他の受講生のフィードバックの内容を確認する 授業：「総合的な学習の時間」をめぐる対話（ワールドカフェ）とまとめ 復習：探究課題についての学びを講義ノートにまとめ、授業全体をふりかえる ※注、予習復習を含めた授業内容は、原則として電子的なドキュメントに随時入力していく。また、まとめレポートも同様にドキュメントに執筆する。

授業開始前学習	Google Workspace for Education での課題提出
授業内課題のフィードバックの方法	Google Classroom によるコメントやルーブリックなどを活用した評価

テキスト・教材	適宜資料を配信する							
参考書	中学校・高等学校学習指導要領、「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（中学校編）							
評価の基準と方法	毎回の課題提出を積算した平常点 60%、講義ノート 40%							
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照							
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			◎	○	○	
関連科目								
その他	授業中に情報端末を使います。インターネットにアクセスできる情報機器を持参して下さい。持参できない場合は授業時間内に限り、Chromebook 端末を貸し出すことも出来るので、相談してください。							
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間（2 時間×7.5 週）＋予習・復習時間 30 時間（4 時間×7.5 週）							
実務経験を活かした教育内容	中学校および高等学校教諭として教科指導や生徒指導・進路指導など各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、教科の枠組みにとらわれず、生徒の実態に合わせて、課題発見・解決能力、論理的思考力、コミュニケーション能力等の向上をはかるための教育実践に関する授業を行う。							

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	110-411-12（J）	授業コード	O80480
科目名称	☆特別活動の指導法			単位数	2.0 単位
英文名称	Teaching Methods (Special Activities)			授業区分	講義
科目責任者	橋本　衆宝			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	橋本　衆宝			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	前期　月曜日 13:00～16:00 後期　火曜日 13:00～16:00			研究室	10-616
授業概要	本授業は、特別活動の目的に基づき、「主体的・対話的で深い学び」を 21 世紀型のリーダーシップ教育の視点に立って学修する。実践的な集団活動による学び合いを通して、指導に資する理論とスキルの修得を図る。毎時のテーマごとに、教育現場における実際問題と事例を取り上げながら、実際の学級(ホームルーム)活動、生徒会活動、学校行事を想定したグループワークと「話し合い活動」、「リフレクション(省察)」を通して、指導方法を学修する。特に、学級担任の視点で学級(ホームルーム)活動の事例研究、実践演習を行い、中学校、高等学校の教育および生徒の現状と課題を理解し、特別活動の教育的意義と特徴を踏まえ、望ましい集団づくりと適切な指導のあり方を深めていく。				
到達目標	中学校、高等学校における特別活動の教育的意義と特徴を理解し、活動内容の目標に即して、実際場面で適切に指導できる資質と能力を身につける。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	−
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	橋本　衆宝	【第 1 回】 予習：学校教育の中でどのようなものが特別活動なのか、自身の中学校・高校時代を振り返り、考えてくる。 授業：オリエンテーション、特別活動の特質と教育的意義 復習：テキスト P8～P19 を読み、授業で学修した特別活動の特質と教育的意義についてのポイントを整理する。
2	橋本　衆宝	【第 2 回】 予習：テキスト P20～P25 を通読してくる。 授業：特別活動の教育課程上の位置付け・特別活動の変遷 復習：授業で学修した特別活動の教育課程上の位置付け・特別活動の変遷についてのポイントを整理する。
3	橋本　衆宝	【第 3 回】 予習：テキスト P26～P33 を通読してくる。 授業：特別活動の目標と内容 復習：授業で学修した特別活動の目標と内容についてのポイントを整理する。
4	橋本　衆宝	【第 4 回】 予習：テキスト P34～P39 を通読してくる。 授業：特別活動における人間関係形成 復習：授業で学修した特別活動における人間関係形成についてのポイントを整理する。
5	橋本　衆宝	【第 5 回】 予習：テキスト P40～P45 を通読してくる。 授業：特別活動における話し合い活動 復習：授業で学修した特別活動における話し合い活動についてのポイントを整理する。
6	橋本　衆宝	【第 6 回】 予習：テキスト P46～P59 を通読してくる。 授業：特別活動の指導計画の作成と指導・評価 復習：授業で学修した特別活動の指導計画の作成と指導・評価についてのポイントを整理する。
7	橋本　衆宝	【第 7 回】 予習：テキスト P60～P65 を通読してくる。 授業：特別活動と組織的取組 復習：授業で学修した特別活動と組織的取組についてのポイントを整理する。
8	橋本　衆宝	【第 8 回】 予習：テキスト P66～P69 を通読してくる。 授業：特別活動と道徳教育 復習：授業で学修した特別活動と道徳教育についてのポイントを整理する。
9	橋本　衆宝	【第 9 回】 予習：テキスト P70～P75 を通読してくる。 授業：特別活動とキャリア教育 復習：授業で学修した特別活動とキャリア教育についてのポイントを整理する。
10	橋本　衆宝	【第 10 回】 予習：テキスト P76～P81 を通読してくる。 授業：特別活動と生徒指導 復習：授業で学修した特別活動と生徒指導についてのポイントを整理する。

11	橋本　衆宝	【第 11 回】 予習：テキスト P82～P87 を通読してくる。 授業：特別活動と学級経営 復習：授業で学修した特別活動と学級経営についてのポイントを整理する。
12	橋本　衆宝	【第 12 回】 予習：テキスト P96～P109 を通読してくる。 授業：学級(ホームルーム)活動の実践 復習：授業で学修した学級(ホームルーム)活動の実践についてのポイントを整理する。
13	橋本　衆宝	【第 13 回】 予習：テキスト P110～P121 を通読してくる。 授業：生徒会活動の実践 復習：授業で学修した生徒会活動の実践についてのポイントを整理する。
14	橋本　衆宝	【第 14 回】 予習：テキスト P128～P139 を通読してくる。 授業：学校行事の実践? 復習：授業で学修した学校行事の実践についてのポイントを整理する。
15	橋本　衆宝	【第 15 回】 予習：テキスト P128～P139 を通読してくる。 授業：学校行事の実践②・特別活動の実践的課題と可能性 復習：授業で学修した学校行事の実践及び特別活動の実践的課題と可能性についてのポイントを整理する。

授業開始前学習	特別活動は学級・ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事から成り立っている。自身の今までの経験を振り返ってほしい。
授業内課題のフィードバックの方法	授業時に講評及びコメントを付してフィードバックする。授業テーマを深め、学修を省察する教材として、適宜、授業内でも活用する。
テキスト・教材	『特別活動指導法　改訂 2 版(日本文教出版)』 上記テキストを中心に使用し、適宜、授業のテーマに該当する内容のプリントを配付する。
参考書	中学校・学習指導要領解説「特別活動編」(文部科学省)、生徒指導提要(文部科学省)、その他授業時に指定する。
評価の基準と方法	授業内の演習および課題を 40 パーセント、定期試験またはそれに準ずる課題を 60 パーセントとして総合的に評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			◎		○	△

関連科目	教職課程の本科目は、他の教職教養系科目と有機的に関連するが、特に「生徒指導の研究」での知見は、本教科の理解を深めてくれる。
その他	予習、復習の内容については授業時に具体的に指示するが、学習指導要領と参考書等を読んで授業に臨むことを心がけてほしい。授業では、受講生自身の体験等をもとに意見発表や討論を行う。また、「ワークシート」や「学級・ホームルーム通信」などを作成したり、皆の前で発表（プレゼンテーション）したりする機会を複数回設ける。常に問題意識をもって主体的かつ積極的な態度で臨んでほしい。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	公・私立中学校・高等学校教員および学校心理士としての心理・教育的知見と実務経験を活かし、特別活動の指導において教員に求められる資質・能力を育成する授業を展開する。

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	110-411-12	授業コード	O80500
科目名称	☆教育方法・技術／教育ﾒﾃﾞｨｱの研究			単位数	2.0 単位
英文名称	Education Techniques and Technology			授業区分	講義
科目責任者	八木　浩雄			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	八木　浩雄			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	「教育」という観点から、学校教育の意味を理解し、その上で「教育の方法」についての在り方を学んでいく。また、今日の社会は「知識基盤社会」と称されることから、私たちの生活上欠かせない情報メディアと教育現場の在り方等についても注目していく。特に授業内での情報メディア機器の活用を通して、教員としての情報メディアの活用の事例を考える機会に生かしていきたいと思う。				
到達目標	今日の社会がどのようなものであるのかを各自で分析（課題発見）し、その上で適切な学校教育上の方法を理解し模索する姿勢（問題解決）・方法・技術を身に付けて行く。 特に、子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（主体的・対話的で深い学びの実現＝アクティブ・ラーニング）を理解していく。 また、情報メディア機器の特性を理解し、ICT を学校教育上で活用していく方法を自身の担当科目の特性を踏まえて模索していく。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	八木　浩雄	【第 1 回】 予習　：簡単な自己紹介、教育上の関心・テーマについて 授業　：オリエンテーション（授業時の情報メディア活用の説明を含む）、「教育」とは？　（問題意識の確認） 復習　：「教育」とは何であるか（「教育」とその「方法」の問題意識の確認）
2	八木　浩雄	【第 2 回】 予習　：前回授業の内容の確認（小レポート内容の把握） 授業　：「教育」とは（「教育」と「学校教育」） 復習　：「教育」の意味を踏まえた上での、日頃の取り組みについての振り返り
3	八木　浩雄	【第 3 回】 予習　：前回授業の内容の確認（「教育」の意味するところの理解と「学校」の意義） 授業「教育」という営みについて（教育方法の基礎的理論と実践の変遷）?教育史概観①：歴史を学ぶ意義? 復習　：世界史の把握
4	八木　浩雄	【第 4 回】 予習　：前回授業の内容の確認（世界史特に西洋の歴史の把握（高校での世界史程度）） 授業　：「教育」という営みについて（教育方法の基礎的理論と実践の変遷）?教育史概観②：教育についての変遷（西洋史より）？ 復習　：世界史の把握（時代・社会の変化と「教育」の関係について）
5	八木　浩雄	【第 5 回】 予習　：前回授業の内容の確認（古代?中世?近世・近代?現代までの特色） 授業　：「教育」という営みについて（教育方法の基礎的理論と実践の変遷）?教育史概観③：教育思想の視点から? 復習　：教育思想家のポイント等の整理（「教育史」から今日的問題へ）
6	八木　浩雄	【第 6 回】 予習　：前回授業の内容の確認（今日までに形成された「教育」的視点と方法の把握） 授業　：教育方法と学習（授業を構成する基礎的要件、教授＝学習の関係） 復習　：「教授」・「学習」・「陶冶」等の整理
7	八木　浩雄	【第 7 回】 予習　：前回授業の内容の確認（「教育」≠「伝達」ではないことの理解） 授業　：今日の社会状況と教育課題（教育方法の在り方（アクティブ・ラーニング）について） 復習　：学校教育における「生きる力」について
8	八木　浩雄	【第 8 回】 予習　：前回授業の内容の確認（基本的な PC 操作の理解） 授業　：情報メディアと教育方法・学習について①?ICT 教育と学習環境（情報機器の基礎的活用）？ 復習　：「生きる力」と「知識基盤社会」について
9	八木　浩雄	【第 9 回】 予習　：前回授業の内容の確認 授業　：情報メディアと教育方法・学習について②?情報メディアの活用と教育方法（授業を視野に入れた適切な活用）？ 復習　：情報メディアと子どもに関するニュース等の確認

10	八木　浩雄	【第 10 回】 予習　：前回授業の内容の確認 授業　：情報メディアと教育方法・学習について③?教材研究と「知識基盤社会」（情報モラルを含む教育方法な在り方について）？ 復習　：情報メディアは「子ども」たちにとっての教材であるかどうかの考察
11	八木　浩雄	【第 11 回】 予習　：前回授業の内容の確認 授業　：教育方法の考案と実践①（学習評価の基礎的な考え方とアクティブ・ラーニング）（グループワーク・プレゼンテーション・発表） 復習　：教育課程の構造の復習
12	八木　浩雄	【第 12 回】 予習　：前回授業の内容の確認 授業　：教育方法の考案と実践②（自己研鑽と協同、学習評価の基礎的な考え方））（グループワーク・プレゼンテーション・発表） 復習　：学習指導要領等に記載されている内容との確認
13	八木　浩雄	【第 13 回】 予習　：前回授業の内容の確認 授業　：教育方法の考案と実践③（教育実践の情報の蓄積と活用上の留意点））（グループワーク・プレゼンテーション・発表） 復習　：記録化の重要性（PDCA サイクルを踏まえて）とその際の留意点の再整理
14	八木　浩雄	【第 14 回】 予習　：前回授業の内容の確認 授業　：今後の教育の在り方について（これまでの内容の補足を含む））（グループワーク・プレゼンテーション・発表） 復習　：様々な視点から物事を捉える姿勢の確認
15	八木　浩雄	【第 15 回】 予習　：前回授業の内容の確認 授業　：授業のまとめ（11 回目?14 回目までの活動の予備日としても使用する） 復習　：今後の自身の課題について

授業開始前学習	「教育」という営みについての自分なりのイメージを持って授業に臨んでほしい。 また、授業後半で情報メディア機器を使用することから、自身の PC やスマートフォン操作についても慣れておいて欲しい。
授業内課題のフィードバックの方法	授業内で小レポートを用いて、自分の意見を述べてもらうことを行いたいと考えている。 その意見に応じて、次の授業のスライド（板書）等でコメントを返し、双方向性のある内容を構築したいと考えている。また、授業後半で予定している発表では、他の発表者の発表の仕方を通して、自身の発表の仕方を振り返る機会に生かしてもらいたいと考えている。
テキスト・教材	1 回目の授業以降、テキストに応じたプリント資料を配布する。
参考書	参考書・参考資料等 中学校学習指導要領・高等学校学習指導要領 またその他については授業内容に応じて適宜紹介する。
評価の基準と方法	評価に当たっては、授業内課題（発表を含む、50%）と提出課題（レポート、50%）を総合して、60%以上の評価を受けた者が単位認定となる。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△

関連科目	「教育」に関する科目並びに教職系科目と大いに関連する。また、教育方法の歴史を扱う際に、世界史の知識を必要とする。
その他	毎回の授業が、前回の内容の積み重ねで進めていくため、授業後の内容把握としての復習は是非お願いしたい。 「情報メディア機器の活用」を取り扱う際に、コンピュータ並びにスマートフォン等の各自の理解の程度を確認することがある為、用意してもらう場合がある。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	110-411-21	授業コード	O80222
科目名称	ICT 活用の理論と方法			単位数	1.0 単位
英文名称	ICT Utilization, Theory and Method			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	八木　浩雄			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	八木　浩雄			開講時期	1 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	学校教育での ICT 活用の実際を理解し、授業や校務等での ICT 活用の方法を学んでいく。 尚、学校教育での ICT 活用は、現在進行形で取り組まれている部分もある為、学生自身が身近に使用しているスマートフォン・アプリを例にタブレット活用の可能性も考えていく。				
到達目標	・コンピュータやタブレット（スマートフォンを含む）をはじめとした情報メディア機器を教育活動の中で活用することができる。 ・学校教育での ICT 活用の実際が理解できる。 ・生徒に対して情報メディア機器を活用する上での留意点を指導することができる。（情報モラルを含む。）				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	八木　浩雄	【第 1 回】 予習　：簡単な自己紹介、教育上の関心・テーマについて 授業　：オリエンテーション（授業時の情報メディア活用の説明を含む）、コンピュータ（以下 PC）操作の確認 復習　：本授業で説明した操作等の復習確認
2	八木　浩雄	【第 2 回】 予習　：PC・スマホでの検索練習 授業　：web 検索操作①（基本的な検索操作） 復習　：操作等の復習確認（PC・スマホでの検索操作）
3	八木　浩雄	【第 3 回】 予習　：授業準備に応じた情報収集の練習 授業　：web 検索操作②（応用的な検索操作、ポータルサイトの活用） 復習　：操作等の復習確認（PC・スマホでの検索操作）
4	八木　浩雄	【第 4 回】 予習　：Word、Excel、PowerPoint の操作の把握 授業　：web サービスの活用①（Google サービス、スマホアプリ等） 復習　：操作等の復習確認（スマホの場合はアプリの確認）
5	八木　浩雄	【第 5 回】 予習　：Word、Excel、PowerPoint の操作の把握 授業　：文書作成、表計算、プレゼンテーション等の活用①（例：Google サービスの活用、登録等について） 復習　：操作等の復習確認（Google ID での操作確認、PC・スマホでの連携準備）
6	八木　浩雄	【第 6 回】 予習　：Word、Excel、PowerPoint の操作の把握 授業　：文書作成、表計算、プレゼンテーション等の活用②（操作とオンライン・ドライブ） 復習　：操作等の復習確認（Google ID での操作確認、PC・スマホでの連携準備）
7	八木　浩雄	【第 7 回】 予習　：Word、Excel、PowerPoint の操作の把握 授業　：文書作成、表計算、プレゼンテーション等の活用③（資料作成…入力） 復習　：操作等の復習確認（Google ID での操作確認、PC・スマホでの連携準備）
8	八木　浩雄	【第 8 回】 予習　：Word、Excel、PowerPoint の操作の把握 授業　：文書作成、表計算、プレゼンテーション等の活用④（資料作成…編集） 復習　：操作等の復習確認（Google ID での操作確認、PC・スマホでの連携準備）
9	八木　浩雄	【第 9 回】 予習　：Word、Excel、PowerPoint の操作の把握 授業　：文書作成、表計算、プレゼンテーション等の活用⑤（課題作成） 復習　：操作等の復習確認（Google ID での操作確認、PC・スマホでの連携準備）
10	八木　浩雄	【第 10 回】 予習　：Google ドライブ（作成ファイル）の確認 授業　：web サービスの活用②（その他のサービス） 復習　：本授業で説明した操作等の復習確認
11	八木　浩雄	【第 11 回】 予習　：PC・スマホの接続端子等についての把握 授業　：文情報メディア機器と周辺機器①（情報発信として） 復習　：本授業で説明した操作等の復習確認

12	八木　浩雄	【第 12 回】 予習　：PC・スマホの接続端子等についての把握 授業　：情報メディア機器と周辺機器②（周辺機器とアプリの連携した活用） 復習　：本授業で説明した操作等の復習確認
13	八木　浩雄	【第 13 回】 予習　：Google ID 等の把握（ドライブへのアクセス確認など） 授業　：PC とタブレット（スマートフォンを含む）の連携 復習　：本授業で説明した操作等の復習確認
14	八木　浩雄	【第 14 回】 予習　：　作成課題のテーマ準備 授業　：総合課題作成（質疑応答を含む） 復習　：本授業で説明した操作等の復習確認
15	八木　浩雄	【第 15 回】 予習　：　作成課題の内容検討（提出に向けて作成） 授業　：総合課題作成（提出までを含む）、まとめ 復習　：本授業で説明した操作等の復習確認

授業開始前学習	自身の目指す教員免許状に応じた科目に対しての、情報メディア機器の活用について、自分なりに考えておいて欲しい。 情報メディア機器を使用することから、自身の PC やスマートフォン操作についても慣れておいて欲しい。 昨年度は、Google ID を作成して操作する内容を行ったので、作成した ID 管理やパスワードの自己管理を行うようにしてほしい。
授業内課題のフィードバックの方法	授業内で課題作成や小レポートを用いて、自分の意見を述べてもらうことを行いたいと考えている。 その意見に応じて、次の授業のスライド（板書）等でコメントを返し、双方向性のある内容を構築したいと考えている。 また、課題作成を通して発表を行ってもらうため、他の発表者の発表の仕方を通して、自身の発表の仕方を振り返る機会に生かしてもらいたいと考えている。 昨年度は、Google サイトを用いて自分の HP を作成する操作を通じて ICT 活用の理解を深めていった。
テキスト・教材	テキストに応じたプリント資料を配布する。
参考書	中学校学習指導要領・高等学校学習指導要領 またその他については授業内容に応じて適宜紹介する。
評価の基準と方法	評価に当たっては、授業内課題（発表を含む、50%）と提出課題（レポート、50%）を総合して、60%以上の評価を受けた者が単位認定となる。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	△	◎	○

関連科目	情報メディア機器を操作することから、PC 等の操作を扱った授業内容の復習を行っておいて欲しい。
その他	毎回の授業が、前回の内容の積み重ねで進めていくため、授業後の内容把握としての復習は是非お願いしたい。 「情報メディア機器の活用」を取り扱う際に、コンピュータ並びにスマートフォン等の各自の理解の程度を確認することがある為、用意してもらう場合がある。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	110-411-12	授業コード	O80520
科目名称	☆生徒指導論（進路指導を含む）／生徒指導の研究			単位数	2.0 単位
英文名称	Methods for Student Guidance and Career Guidance			授業区分	講義
科目責任者	田中　正浩			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田中　正浩			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	授業で得た知識や理論が教職を目指す受講生の力量形成の一助となることを主眼に置き、生徒指導（進路指導も含む）の意義と役割、さらには指導機能が働く実際的な場面と諸問題について実践例を取り上げながらできる限り詳細かつ具体的に解説し、理解を深めていく。				
到達目標	本授業では、生徒指導（進路指導も含む）の理論を理解し、実際的場面（教育相談、進路指導場面も含む）で用いられる児童理解の方法、集団・個別指導の方法等といった実践的能力を身につける。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	田中　正浩	【第 1 回】 予習　：シラバス（本教科の授業テーマ・内容及び到達目標等）読んでおく 授業　：生徒指導の意義と原理 復習　：生徒指導の原理について整理する
2	田中　正浩	【第 2 回】 予習　：配付資料を読んでおく 授業　：教育課程における生徒指導 復習　：教育課程と生徒指導の関連性について整理する
3	田中　正浩	【第 3 回】 予習　：配付資料を読んでおく 授業　：児童生徒理解の意義と方法 復習　：児童生徒理解の方法について整理する
4	田中　正浩	【第 4 回】 予習　：配付資料を読んでおく 授業　：学校における生徒指導体制 復習　：生徒指導体制について整理する
5	田中　正浩	【第 5 回】 予習　：配付資料を読んでおく 授業　：生徒指導の在り方と方法原理 復習　：生徒指導の方法原理について整理する
6	田中　正浩	【第 6 回】 予習　：配付資料を読んでおく 授業　：生徒指導に生かす教育相談 復習　：教育相談について整理する
7	田中　正浩	【第 7 回】 予習　：配付資料について読んでおく 授業　：学級担任が行う生徒指導 復習　：学級担任による生徒指導について整理する
8	田中　正浩	【第 8 回】 予習　：配付資料を読んでおく 授業　：進路指導の意義と原理 復習　：進路指導の原理について整理する
9	田中　正浩	【第 9 回】 予習　：配付資料を読んでおく 授業　：教育課程における進路指導 復習　：教育課程と進路指導の関連性について整理する
10	田中　正浩	【第 10 回】 予習　：配付資料を読んでおく 授業　：進路指導の在り方と方法原理 復習　：進路指導の方法原理について整理する
11	田中　正浩	【第 11 回】 予習　：配付資料を読んでおく 授業　：生徒指導に関する法令等の理解 復習　：生徒指導に関する法令について整理する

12	田中　正浩	【第 12 回】 予習　：配付資料を読んでおく 授業　：暴力行為、いじめ、不登校等の理解と対応(プレゼンテーション) 復習　：暴力行為、いじめ、不登校への対応について整理する
13	田中　正浩	【第 13 回】 予習　：配付資料を読んでおく 授業　：飲酒、喫煙、薬物乱用、自殺予防等の理解と対応（プレゼンテーション） 復習　：飲酒、喫煙、薬物乱用、自殺予防等への対応について整理する
14	田中　正浩	【第 14 回】 予習　：配付資料を読んでおく 授業　：生徒指導と他機関連携 復習　：生徒指導における他機関との連携及び実務の実際について整理する
15	田中　正浩	【第 15 回】 予習：配付資料を読んでおく 授業：生徒指導の動向と課題（グループ・ディスカッション） 復習：生徒指導の課題について整理する

授業開始前学習	今日の教育問題である、いじめ、不登校、学級崩壊等について、書物などを通して情報を得ておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	小テスト及び課題については、次回授業においてフィードバックを行う。
テキスト・教材	文部科学省『生徒指導提要』（教育図書）最新版 このほか適宜、資料プリントを配付する。
参考書	授業にて、適宜、紹介する。
評価の基準と方法	小テスト（20%）、試験（60%）、平常点［授業への取組・課題提出］（20%）により総合的に評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		◎	○	○	

関連科目	本教科は他の教職教養系科目と有機的に関連しており、特に「教育原理」での知見は本教科の理解を深めてくれる。
その他	予習、復習の内容については授業時に具体的に指示するが、資料プリントを読んで授業に臨むことを常とする。授業では、受講生自身の体験等をもとに意見発表や討論を行ってもらう。問題意識をもって主体的かつ積極的な態度で臨んでほしい。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	110-411-23（Ｊ）	授業コード	O80540
科目名称	教育実習指導			単位数	1.0 単位
英文名称	Teaching Practice Guidance			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	中野　達也			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	中野　達也			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期　火曜日 10:40～12:10　木曜日 13:00～14:30 後期　火曜日 10:40～12:10　木曜日 13:00～14:30			研究室	10-508
授業概要	次年度教育実習に行く前段階として、教員に必要な識見、態度、技能を得るための学習を行う。				
到達目標	教育実習の意義を認識し、実習時の実践的指導に必要となる基礎的な指導力を身につける。 教育実習における注意点を自分のことばで説明することができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	中野　達也	【第 1 回】 予習　：01/02/03 を読み、ポイントをまとめる。 授業　：01/02/03 「教育実習って、何だろう？」「教育実習の服装や持ち物は？」「　教育実習までの流れは？」（グループワーク）（ディスカッション）（発表） 復習　：自分の教育実習の目的と意義をまとめる
2	中野　達也	【第 2 回】 予習　：04/05/06 を読み、ポイントをまとめる。 授業　：04/05/06「実習校はどう選ぶ？」どのように決まる？」「事前打ち合わせでは、どんなことをする？」「礼儀・マナーに自信がないのですが？」（グループワーク）（ディスカッション）（発表） 復習　：自分の教育実習の心得をまとめる
3	中野　達也	【第 3 回】 予習　：07/08/09 を読み、ポイントをまとめる 授業　：07/08/09 「クラスの子どもたちに、どう接したらいい？」「先生方とのコミュニケーションはどうとる？」「初日をどう迎える？」（グループワーク）（ディスカッション）（発表） 復習　：生徒、教員とのコミュニケーションの取り方についてまとめる
4	中野　達也	【第 4 回】 予習　：10/12/13/14 を読み、ポイントをまとめる 授業　：10/12/13/14 「朝の会・帰りの会はどうしたらいい？」「学級経営のポイントは？」「給食指導って、どうするの？」「部活動や学校行事への参加は？」（グループワーク）（ディスカッション）（発表） 復習　：授業外の指導についてまとめる
5	中野　達也	【第 5 回】 予習　：15 を読み、ポイントをまとめる 授業　：15 「教育実習、こんなときはどうする？」事例に基づいた討論（グループワーク）（ディスカッション）（発表） 復習　：具体的事例についてまとめる
6	中野　達也	【第 6 回】 予習　：16 を読み、ポイントをまとめる 授業　：16「教育実習はどこを、どう評価される？」（グループワーク）（ディスカッション）（発表） 復習　：教育自習の評価についてまとめる
7	中野　達也	【第 7 回】 予習　：25/29 を読み、ポイントをまとめる 授業　：25/29「国語科の指導案はどう書くの？」「英語科の指導案はどう書くの？」駒沢学園女子中学・高等学校見学の準備　（教科指導）」（グループワーク）（ディスカッション）（発表） 復習　：教科指導の注意点をまとめる
8	中野　達也	【第 8 回】 予習　：学校見学時の自分の課題を見つける 授業　：駒沢学園女子中学・高等学校見学　※状況を見て変更もあり得る、その場合は中高の実践事例を紹介する 復習　：学校見学時に発見した自分の課題をまとめる
9	中野　達也	【第 9 回】 予習　：30/31 を読み、ポイントをまとめる 授業　：30/31 「「総合的な学習の時間」の指導法は？」「教育実習にはどんなプロセスがある？」 学校見学についてのレポート提出（グループワーク）（ディスカッション）（発表） 復習　：専門教科以外の科目についてまとめる

10	中野　達也	【第 10 回】 予習　：32/33/34 を読み、ポイントをまとめる 授業　：32/33/34　「板書を上手に書くには？」「授業での発問と指名のポイントは？「ノート指導・机間指導のポイントは？」　（グループワーク）　（ディスカッション）　（発表） 復習　：具体的指導方法についてまとめる
11	中野　達也	【第 11 回】 予習　：35/36 を読み、ポイントをまとめる 授業　：35/36 「情報機器を使いこなすには？」「授業で配布するプリントはどう作ればいい？」（グループワーク）　（ディスカッション）　（発表） 復習　：ICT の活用法・教材研究の意義をまとめる
12	中野　達也	【第 12 回】 予習　：37/38 を読み、ポイントをまとめる 授業　：37/38「これで安心！研究授業の準備と心得」「研究授業の反省会、気をつけるべきことは？」（グループワーク）　（ディスカッション）　（発表） 復習　：研究授業についてまとめる
13	中野　達也	【第 13 回】 予習　：39/41/42/43 を読み、ポイントをまとめる 授業　：39/41/42/43「実習日誌には、何をどう書けばいい？」「実習日誌がなかなか書けない！」「よりよい実習日誌を書くためのポイントは？」「実習日誌のまとめはどう書けばいいの？」（グループワーク）　（ディスカッション）　（発表） 復習　：実習の振り返り方についてまとめる
14	中野　達也	【第 14 回】 予習　：45/46/47/48/49/50 を読み、ポイントをまとめる 授業　：45/46/47/48/49/50「教員採用試験って、どんな試験？」「教員の待遇は？」「教員採用試験の攻略法は？」「一般教養の勉強法方法は？」「教職教養の勉強方法は？」「私学適性検査とは？」（グループワーク）　（ディスカッション）　（発表） 復習　：教員採用試験に向けた取り組みについてまとめる
15	中野　達也	【第 15 回】 予習　：後期の学びを振り返る 授業　：「教育実習に臨むにあたり、どのような実習にしたいか決意を述べる」 討論（グループワーク）　（ディスカッション）　（発表）・後期のまとめ 復習　：4 年次の実習に向け、自己研鑽課題をまとめ、教育実習に備える

授業開始前学習	既修得の教育職員養成課程科目の教科書及び実際の中学校・高等学校の現場を理解できるような本を読んでおくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	各回提出のレポートは個別にフィードバックを行い、指導する。 共通した質問・課題については授業内で全体講評を行う。
テキスト・教材	「教育実習完璧ガイド」 宮崎猛・小泉博明編著　小学館
参考書	授業内で適宜紹介する。
評価の基準と方法	授業への参加度（発表を含む）３０%、レポート３０%、定期試験４０%を総合して評価する
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		○		◎	△

関連科目	
その他	遅刻、無断欠席は認めない。 中学校・高等学校見学について、詳細な実施日程は講義開始後に決定する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	中学校・高等学校教員として教科指導や生徒指導・進路指導など各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、教員に求められる資質・能力についての講義・演習を行う。

科目分類（2025年～入学者）		科目分類（～2024年入学者）	110-411-24（J）	授業コード	O80600
科目名称	教育実習Ⅰ(中学校)			単位数	2.0単位
英文名称	Teaching Practice I			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	中野　達也			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	中野　達也			開講時期	4年
オフィスアワー	前期　火曜日 10:40～12:10　木曜日 13:00～14:30 後期　火曜日 10:40～12:10　木曜日 13:00～14:30			研究室	10-508
授業概要	国語科・英語科の教員に必要な識見、態度、技能を得るために実際に中学校あるいは高等学校で教員生活を実習体験する。				
到達目標	・教科指導に関する知識を活かして授業を担当することができる。 ・実習校の校務全般に関わり、学校経営、学年経営、学級経営等のあり方を正しく説明することができる。 ・指導教官の指示にしたがい、最後まで充実した実習期間を過ごすことができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	中野　達也	【第1回】 大学でオリエンテーションを行う。 オリエンテーション中に模擬授業を行い、その後改善のためのグループワークを行う。
2	中野　達也	【第2回】 実習校を訪問する。 ・事前打ち合わせをする（担当学年・授業数等）。 ・教科書を準備する。 ・服装を準備する（体操着・上履・運動靴等）。 ・印鑑を準備する。
3	中野　達也	【第3回】 実習開始 ・実習日誌に実習校の概略を記載する。 ・挨拶を準備する。 ・観察実習を行う。 職員朝会（学校運営・連絡事項確認等） 学級朝会（学級運営・連絡事項・生徒観察等） 授業観察参加（教材研究・時間配分・生徒観察等）、事前学習で学んだことについてのレポートの提出 学級終会（学級運営・連絡事項・生徒観察等） 清掃活動（学級運営・生徒観察） 部活動（生徒観察）、事前学習で学んだことについてのレポートの講評 委員会活動（学校運営・生徒観察等） ・教壇実習を行う。 　教
4	中野　達也	【第4回】 実習終了 ・実習反省会に参加する。 ・実習日誌を受け取る。
5	中野　達也	【第5回】 大学に戻る。 ・大学に実習日誌・諸記録・レポートを提出する。 ・大学での実習反省会・報告会に参加する。実習日誌・諸記録・レポートの講評。 ・実習校にお礼状を書く。

授業開始前学習	教科教育法で学んだことを生かし、教材研究をして、指導案を事前に書いておくことが望ましい。
授業内課題のフィードバックの方法	オリエンテーション期間中、指導案や授業運営について学生ごとに指導する。
テキスト・教材	初回の授業で指示する。
参考書	
評価の基準と方法	実習校の指導教諭と協議して評価する。

ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照							
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		○		○	◎
関連科目								
その他	大学に対する評価を下げたり、後輩の実習条件を悪くしたりしないよう、注意深く考えて行動すること。また実習校の指示に従い、上靴や運動着などを用意すること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間＋予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	中学校・高等学校教員として教科指導や生徒指導・進路指導など各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、教員に求められる資質・能力についての講義・演習を行う。							

科目分類（2025年～入学者）		科目分類（～2024年入学者）	110-411-24（J）	授業コード	O80620
科目名称	☆教育実習Ⅱ(高等学校)／教育実習(高等学校)			単位数	2.0単位
英文名称	Teaching PracticeⅡ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	中野　達也			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	中野　達也			開講時期	4年
オフィスアワー	前期　火曜日 10:40～12:10　木曜日 13:00～14:30 後期　火曜日 10:40～12:10　木曜日 13:00～14:30			研究室	10-508
授業概要	国語科・英語科の教員に必要な識見、態度、技能を得るために実際に中学校あるいは高等学校で教員生活を実習体験する。				
到達目標	・教科指導に関する知識を活かして授業を担当することができる。 ・実習校の校務全般に関わり、学校経営、学年経営、学級経営等のあり方を正しく説明することができる。 ・指導教官の指示にしたがい、最後まで充実した実習期間を過ごすことができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	中野　達也	【第1回】 大学でオリエンテーションを行う。 オリエンテーション中に模擬授業を行い、その後改善のためのグループワークを行う。
2	中野　達也	【第2回】 実習校を訪問する。 ・事前打ち合わせをする（担当学年・授業数等）。 ・教科書を準備する。 ・服装を準備する（体操着・上履・運動靴等）。 ・印鑑を準備する。
3	中野　達也	【第3回】 実習開始 ・実習日誌に実習校の概略を記載する。 ・挨拶を準備する。 ・観察実習を行う。 職員朝会（学校運営・連絡事項確認等） 学級朝会（学級運営・連絡事項・生徒観察等） 授業観察参加（教材研究・時間配分・生徒観察等）、事前学習で学んだことについてのレポートの提出 学級終会（学級運営・連絡事項・生徒観察等） 清掃活動（学級運営・生徒観察） 部活動（生徒観察）、事前学習で学んだことについてのレポートの報告 委員会活動（学校運営・生徒観察等） ・教壇実習を行う。 　教
4	中野　達也	【第4回】 実習終了 ・実習日誌・諸記録・レポートを提出する。 ・実習反省会に参加する。 ・実習日誌を受け取る。
5	中野　達也	【第5回】 大学に戻る。 ・大学に実習日誌・諸記録・レポートを提出する。 ・大学での実習反省会・報告会に参加する。実習日誌・諸記録・レポートの講評。
6	中野　達也	【第6回】 実習校にお礼状を書く。

授業開始前学習	教科教育法で学んだことを生かし、教材研究をして、指導案を事前に書いておくことが望ましい。
授業内課題のフィードバックの方法	オリエンテーション期間中、指導案や授業運営について学生ごとに指導する。
テキスト・教材	初回の授業で指示する。

参考書								
評価の基準と方法	実習校の指導教諭と協議して評価する。							
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照							
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		○		○	◎
関連科目								
その他	大学に対する評価を下げたり、後輩の実習条件を悪くしたりしないよう注意深く考えて行動すること。実習校謝礼等　18,000円。また実習校の指示に従い、上靴や運動着などを用意すること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間＋予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	中学校・高等学校教員とし教科指導や生徒指導・進路指導など各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、教員に求められる資質・能力についての講義・演習を行う。							

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	110-411-24（Ｊ）	授業コード	O80750
科目名称	教職実践演習（中・高）			単位数	2.0 単位
英文名称	Teacher Training Practice Seminar (Junior High School and High School)			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	中野 達也			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	中野 達也			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 10:40～12:10 木曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 10:40～12:10 木曜日 13:00～14:30			研究室	10-508
授業概要	これまでの教職課程で身につけたこと、課題であることを明らかにして、不足している知識や技能等を演習等により補い、定着を図ることにより、教員としての最低限必要な資質能力を身につける。				
到達目標	・教育実習や 3 年時までの活動を通じて身に付けた能力を自覚することができる。 ・教職に就いた際の自らの課題を探求し、不足している知識や技能を学ぶ計画を立てることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	中野 達也	【第 1 回】 予習 ：第 1 章・第 2 章を読み、ポイントをまとめる。 授業 ：第 1 章「教職実践演習とは」、第 2 章「教科等の指導：教育実習のふり返り」（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習 ：「教職実践演習」という授業の意義についてまとめる
2	中野 達也	【第 2 回】 予習 ：第 3 章を読み、ポイントをまとめる。 授業 ：第 3 章「教科等の指導：学習指導要領内容」（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習 ：「教科指導：学習指導要領」についてまとめる
3	中野 達也	【第 3 回】 予習 ：第 4 章・第 5 章・第 6 章を読み、ポイントをまとめる 授業 ：第 4 章「教科等の指導：学習指導案作成の重要性とその意義」、第 5 章「教科等の指導：学習指導案の作成と授業の展開・工夫」、 第 6 章「教科等の指導：模擬授業」（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習 ：「学習指導案の作成」についてまとめる
4	中野 達也	【第 4 回】 予習 ：第 7 章を読み、ポイントをまとめる 授業 ：第 7 章「教科等の指導：道徳教育と特別活動」（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習 ：「道徳教育及び特別活動」についてまとめる
5	中野 達也	【第 5 回】 予習 ：第 8 章を読み、ポイントをまとめる 授業 ：第 8 章「生徒理解：子どもの発達の理解」（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習 ：「子どもの発達」についてまとめる
6	中野 達也	【第 6 回】 予習 ：第 9 章を読み、ポイントをまとめる 授業 ：第 9 章「9．生徒理解：生徒指導と教育相談」（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習 ：「生徒指導と教育相談」についてまとめる
7	中野 達也	【第 7 回】第 1 0 章を読み、ポイントをまとめる 授業 ：第 10 章「生徒理解：特別支援教育」（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習 ：「特別支援教育」についてまとめる
8	中野 達也	【第 8 回】 予習 ：第 1 1 章を読み、ポイントをまとめる 授業 ：第 11 章「学級経営：学級経営のあり方について」（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習 ：「学級経営」についてまとめる
9	中野 達也	【第 9 回】 予習 ：自分の教育実習を振り返り、見学時のポイントをまとめる 授業 ：中学校授業見学 ※後期の状況を見て変更もあり得る、その場合は中高の実践事例を紹介する 復習 ：授業見学について振り返るレポートをまとめる
10	中野 達也	【第 10 回】 予習 ：第 1 2 章を読み、ポイントをまとめる 授業 ：第 12 章「社会性や対人関係力：教師のコミュニケーション力?組織の一員として・児童生徒に対して」（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習 ：「教師のコミュニケーション力」についてまとめる。お礼状を書く

11	中野　達也	【第 11 回】 予習　：第１３章を読み、ポイントをまとめる 授業　：第 13 章「社会性や対人関係力：保護者・地域社会への対応について」（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：「保護者・地域社会への対応」についてまとめる
12	中野　達也	【第 12 回】 予習　：外部講師の講演に備えて、質問事項を考える 授業　：外部講師講演（ディスカッション）　※後期の状況を見て変更もあり得る、その場合は別課題を用意する 復習　：外部講師講演内容・討論内容をまとめる
13	中野　達也	【第 13 回】 予習　：第１４章を読み、ポイントをまとめる 授業　：第 14 章「教師としての使命感・責任感、倫理観、教育的愛情」（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション） 復習　：「教師としての使命感・責任感」についてまとめる
14	中野　達也	【第 14 回】 予習　：国際化推進における教師の役目について調べる 授業　：外部講師講演「外国語教育と国際化」（ディスカッション） 復習　：外部講師講演内容・討論内容をまとめる
15	中野　達也	【第 15 回】 予習　：第１５章を読み、ポイントをまとめる 授業　：第 15 章「まとめ：教師の力量とキャリア形成?自己成長の重要性」（グループワーク）（ディスカッション）（プレゼンテーション）、後期のまとめ 復習　：教職課程で学んだことを活かし、教師になったときに一番伝えたいことをまとめる

授業開始前学習	今までの教職課程で学んだことを整理しておくこと
授業内課題のフィードバックの方法	各回提出のレポートは、GWSE を活用して個別に指導する。 共通した質問・課題については授業内で全体講評を行う。
テキスト・教材	「自己成長を目指す教職実践演習に」 原田 恵理子、 森山 賢一著 北樹出版
参考書	その都度紹介する
評価の基準と方法	授業への参加度（発表を含む）３０%、レポート３０%、定期試験４０%を総合して評価する　。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		△	○				◎	○

関連科目	
その他	遅刻、無断欠席は認めない。教育現場を訪問する（交通費各自負担）。 見学校、外部講師の都合により実施日を変更する可能性がある。
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間＋予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	中学校・高等学校教員として教科指導や生徒指導・進路指導など各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、教員に求められる資質・能力についての講義・演習を行う。

学校経営と学校図書館

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	110-411-13（Ｊ）	授業コード	O80680
科目名称	学校経営と学校図書館			単位数	2.0 単位
英文名称	School Management and School Library			授業区分	講義
科目責任者	平井　孝明			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	平井　孝明			開講時期	3･4 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	司書教諭課程の総論的な内容である。学校図書館の理念と課題、法制度、司書教諭の役割についての概要を理解する。				
到達目標	1　学校図書館の教育的な意義と役割について説明ができる。 2　学校図書館に関する法律および政策について説明できる。 3　司書教諭の役割について説明できる。 4　学校図書館運営の方法についての実践的なスキルを身につける。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	平井　孝明	【第１回】 予習　：各自がこれまでに経験してきた学校図書館を振り返り、学校図書館に関するイメージを持つ。 授業　：学校図書館の“いま”と司書教諭の役割、理想の学校図書館とは。（発表） 復習　：「学校図書館」を取り扱った新聞記事を探し、次回発表できるよう要約しておく。
2	平井　孝明	【第２回】 予習　：テキスト２５頁から２８頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業　：学校教育の変遷と学校図書館 復習　：学校図書館の意義と役割の変化について考察する。
3	平井　孝明	【第３回】 予習　：テキスト２８頁から３３頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業　：学校図書館の歴史 復習　：学校図書館の歴史的変遷を整理する。
4	平井　孝明	【第４回】 予習　：テキスト４２頁から５３頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業　：学校図書館法をめぐる法体系 復習　：学校図書館法について、関係する法規を参照して考察する。
5	平井　孝明	【第５回】 予習　：最新の「学校図書館調査報告」（全国学校図書館協議会）を事前に読み、要点や疑問点をメモしてくる。 授業　：教育行政と学校図書館 復習　：「図書館の自由」について取り扱った新聞記事を探しまとめる。
6	平井　孝明	【第６回】 予習　：テキスト８０頁から８６頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業　：学校の教育課程と学校図書館 復習　：「カリキュラム・マネジメント」について説明できるよう整理する。
7	平井　孝明	【第７回】 予習　：テキスト９０頁から１０３頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業　：学校図書館の経営 復習　：学校図書館の「間接的支援」「直接的支援」および「教育指導への支援」について整理する。
8	平井　孝明	【第８回】 予習　：テキスト１０４頁から１１１頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業　：学校図書館担当者の役割と任務 復習　：司書教諭、学校図書館担当者が果たすべき役割について、多角的な視点から考察する。
9	平井　孝明	【第９回】 予習　：テキスト１１１頁から１３０頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業　：学校図書館の評価と改善、学校図書館経営の実際　１　施設・設備 復習　：「学校図書館評価基準」「学校図書館施設基準」について内容を確認する。
10	平井　孝明	【第 10 回】 予習　：テキスト１３０頁から１４４頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業　：学校図書館経営の実際　２　学校図書館メディアの種類と活用、３　学校図書館の広報活動 復習　：どのようなメディアが学校図書館にあるべきか、どのような広報活動ができるか考察を行う。

11	平井　孝明	【第 11 回】 予習　：テキスト１４７頁から１５９頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業　：学校図書館の教科・授業への支援 復習　：「授業に役立つ学校図書館活用データベース」を参照し、学校図書館の授業支援について実践事例を学ぶ。
12	平井　孝明	【第 12 回】 予習　：テキスト１６０頁から１７５頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業　：学校図書館の探究的な学習、情報教育への支援 復習　：木下通子著『知りたい気持ちに火をつけろ！』（岩波ジュニア新書）等を読み、学校図書館のおける探究学習支援の実際を学ぶ。
13	平井　孝明	【第 13 回】 予習　：テキスト１７５頁から１８４頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業　：学校図書館の特別活動への支援 復習　：特別活動における図書委員会活動の教育的意義を整理する。
14	平井　孝明	【第 14 回】 予習　：テキスト１８５頁から１９９頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業　：学校図書館の連携・相互協力 復習　：学校図書館のネットワークを運用する上での課題を考える。
15	平井　孝明	【第 15 回】 予習　：これまで学んだ内容を元に、学校図書館の課題にはどのようなものがあるか考えておく。 授業　：学校図書館の展望と課題 復習　：学校図書館を取り巻く課題をもとに、解決に向けた取り組みについて考察を深める。

授業開始前学習	ふだんから大学図書館や公共図書館を使いなれておくことが望ましい。 また、図書館、出版界、教育関連のニュースはチェックすること。
授業内課題のフィードバックの方法	毎回、授業の内容の要約および質問、感想を記して提出する。 次回授業時に、教員のコメントを付して返却する。
テキスト・教材	全国学校図書館協議会「探究　学校図書館学」編集委員会編著 『探究　学校図書館学　第１巻　学校経営と学校図書館』 （全国学校図書館協議会）
参考書	適宜、講義内にて指示する。
評価の基準と方法	授業内課題（40%）と、授業内での試験（60%）で評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	

関連科目	司書教諭資格取得に必要な５科目のうちの１つである。 他の４科目は「読書と豊かな人間性」、「学校図書館メディアの構成」、「学習指導と学校図書館」、「情報メディアの活用」である。
その他	学校図書館業務は少人数（あるいは単独）で行うことが多く、一人が担う責任は重いが、その分やりがいも大きい。 また、「学習センター」「情報センター」「読書センター」としての役割を果たすため、図書館メディアの選定・受入れから教育的支援まで職務の範囲は広い。 児童・生徒、教職員に信頼され、にぎわいのある楽しい図書館を運営できるよう、実践重視の講義を行う。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	東京都の公立高校の学校司書として図書館運営に携わっている。他の国公私立学校や公共図書館との連携経験も活かし、実務から得た経験と知識を講義で提供していく。

科目分類（2025年～入学者）		科目分類（～2024年入学者）	110-411-13（Ｊ）	授業コード	O80700
科目名称	学校図書館ﾒﾃﾞｨｱの構成			単位数	2.0単位
英文名称	School Libraries and Media Resources			授業区分	講義
科目責任者	平井　孝明			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	平井　孝明			開講時期	3･4年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	学校図書館が取り扱うメディアについて、種類と特性、出版と流通、その構築に必要な収集方針、選択基準、その他の諸作業を解説する。 また、それらを効果的に提供する方法について実践的に学習する。				
到達目標	1　学校図書館に必要なメディアの特性を理解し、必要な資料を収集選択することができる。 2　学校図書館で資料をわかりやすく利用させるための組織化の基礎を理解できる。 3　資料の排架やレイアウトを知り、使いやすい学校図書館運用の必要性を理解できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	平井　孝明	【第１回】 予習　：自分が体験した学校図書館にはどんなメディアがあったか振り返っておく。 授業　：学校教育と学校図書館メディア 復習　：学校図書館の機能を整理するとともに、本講義で学ぶ内容について概略を押さえる。
2	平井　孝明	【第２回】 予習　：テキスト１９頁から２７頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業　：学校図書館メディアの種類と特性１（印刷メディア、視聴覚メディア、ファイル資料など） 復習　：　学校図書館にある基本的なメディアについて整理し、それぞれの特性を理解する。
3	平井　孝明	【第３回】 予習　：テキスト２７頁から３７頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業　：学校図書館メディアの種類と特性２（電子メディア、特別な教育的ニーズに応えるメディア） 復習　：　ＬＬブック等、特別な教育的ニーズに応える学校図書館メディアに実際に触れ、それぞれの特性を理解する。
4	平井　孝明	【第４回】 予習　：出版社、取次、大型書店について、どんな企業があるか調べておく。 授業　：学校図書館メディアの出版と流通（発表） 復習　：出版流通制度の仕組みについて整理する。
5	平井　孝明	【第５回】 予習　：テキスト３８頁から５１頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業　：学校図書館のコレクション構築１（メディアの選択と収集方針） 復習　：　学校図書館機能を発揮するためのコレクション構築とその収集プロセスについて考察する。
6	平井　孝明	【第６回】 予習　：テキスト５１頁から６９頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業　：学校図書館のコレクション構築２（学校図書館メディア選択のためのツール）（実習） 復習　：学校図書館メディア選択のためのツールを活用し、課題に出されたテーマについての選定リストを完成させる。
7	平井　孝明	【第７回】 予習　：テキスト６９頁から７７頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業　：学校図書館のコレクション構築３（コレクションの評価および更新、廃棄） 復習　：　蔵書の更新、廃棄について、「学校図書館協議会」のＨＰを参照し、内容を考察する。
8	平井　孝明	【第８回】 予習　：テキスト７９頁から８８頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業　：学校図書館メディア組織化の意義と展開 復習　：書店や各種図書館を訪問し、 配架や案内表示について「利便性」に着目し見学する。
9	平井　孝明	【第９回】 予習　：テキスト９０頁から１１３頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業　：学校図書館メディア組織化の実際１（目録法）（実習） 復習　：日本目録規則（ＮＣＲ）を参照し、目録作成についての演習問題を復習する。
10	平井　孝明	【第10回】 予習　：テキスト１１６頁から１２２頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業　：学校図書館メディア組織化の実際２（主題索引法　①分類法－日本十進分類法） 復習　：分類の意義、日本十進分類法（ＮＤＣ）、請求記号について理解する。

11	平井　孝明	【第 11 回】 予習　：テキスト１２２頁から１２９頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業　：学校図書館メディア組織化の実際３（主題索引法　①分類法－分類作業の実際）（実習） 復習　：　演習問題で取り扱った分類について、実際の大学図書館の書架を確認する。
12	平井　孝明	【第 12 回】 予習　：テキスト１２９頁から１４１頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業　：学校図書館メディア組織化の実際４（主題索引法　②件名表目法） 復習　：　件名の意義、件名標目法について理解する。
13	平井　孝明	【第 13 回】 予習　：学校・大学・公共図書館で各種メディアがどう装備され提供されているか確認しておく。 授業　：学校図書館メディアのＯＰＡＣへの登録と装備（実習） 復習　：　学校図書館メディアの受入れの手順を確認する。
14	平井　孝明	【第 14 回】 予習　：オンラインデータベースにはどんな種類のものがあるか調べておく。 授業　：学校図書館メディアのネットワーク情報資源（実習） 復習　：　新聞データベースや政府統計「e-Stat」等を使いこなせるよう復習する。
15	平井　孝明	【第 15 回】 予習　：学習全体を通し、学んだことを振り返る。 授業　：まとめと振り返り 復習　：　司書教諭としてどのように学校図書館メディアを組織していくか考察する。

授業開始前学習	ふだんから大学図書館や公共図書館を使いなれておくことが望ましい。 また、図書館、出版界、教育関連のニュースはチェックすること。
授業内課題のフィードバックの方法	毎回、授業の内容の要約および質問、感想を記して提出する。 次回授業時に、教員のコメントを付して返却する。
テキスト・教材	全国学校図書館協議会「探究　学校図書館学」編集委員会編著『探究　学校図書館学　第２巻　学校図書館メディアの構成』（全国学校図書館協議会）
参考書	適宜、講義内にて指示する
評価の基準と方法	授業内課題（40%）と、授業内での試験（60%）で評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	

関連科目	司書教諭資格取得に必要な５科目のうちの１つである。 他の４科目は「学校経営と学校図書館」、「読書と豊かな人間性」、「学習指導と学校図書館」、「情報メディアの活用」である。
その他	学校図書館業務は少人数（あるいは単独）で行うことが多く、一人が担う責任は重いが、その分やりがいも大きい。 また、「学習センター」「情報センター」「読書センター」としての役割を果たすため、図書館メディアの選定・受入れから教育的支援まで職務の範囲は広い。 児童・生徒、教職員に信頼され、にぎわいのある楽しい図書館を運営できるよう、実践重視の講義を行う。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	東京都の公立高校の学校司書として図書館運営に携わっている。 他の国公私立学校や公共図書館との連携経験も活かし、実務から得た経験と知識を講義で提供していく。

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	110-411-13（Ｊ）	授業コード	O80720
科目名称	読書と豊かな人間性			単位数	2.0 単位
英文名称	Theories of Reading and Personal Development in Schools			授業区分	講義
科目責任者	平井　孝明			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	平井　孝明			開講時期	3･4 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	読書の意義を理解するとともに、児童・生徒の豊かな人間性を育むための司書教諭の役割を考える。 児童・生徒、それぞれの発達段階に応じた適切な読書指導を学び、具体的な方法を身に付ける。				
到達目標	1　児童・生徒の発達段階に応じた実践的な読書指導の方法を身につける。 2　子どもの読書資料についての知識を深める。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	平井　孝明	【第１回】 予習　：シラバスを確認して授業の全体像を把握する。また自らの読書体験を振り返っておく。 授業　：読書の意義と目的 復習　：読書の意義について理解を深める。
2	平井　孝明	【第２回】 予習　：「読解力」について関連書を読み自分なりの考えをまとめておく。 授業　：今、求められる「読解力」、「リーディングスキルテスト」体験版（実習） 復習　：OECD の生徒の学習到達度調査（PISA）について新聞データベースで記事を探しまとめる。
3	平井　孝明	【第３回】 予習　：テキスト１３頁から２６頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業　：読書指導と学校図書館 復習　：国や地方自治体の取り組みについて整理する。
4	平井　孝明	【第４回】 予習　：テキスト２８頁から４１頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業　：読書教育の系譜 復習　：子どもの本の変遷について、国立国会図書館デジタルアーカイブ等を利用し代表作の内容を確認する。
5	平井　孝明	【第５回】 予習　：中学生、高校生にどんな本が読まれているか「学校読書調査」を調べておく。 授業　：子どもの読書の実態 復習　：「学校読書調査」の結果からわかる特徴を考察する。
6	平井　孝明	【第６回】 予習　：テキスト７２頁から７７頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業　：発達段階に応じた読書指導 復習　：テキストを読み返し、クリティカルシンキングの視点から読書指導について考察する。
7	平井　孝明	【第７回】 予習　：テキスト７８頁から８９頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業　：子どもの本の種類と提供、新書を使った「点検読書」（実習） 復習　：新書を使った「点検読書」を指導できるよう復習しておく。
8	平井　孝明	【第８回】 予習　：テキスト９０頁から９５頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業　：読書環境の整備 復習　：読書資料の種類と日本十進分類法に関する知識を整理する。
9	平井　孝明	【第９回】 予習　：絵本の「読み聞かせ」に関して下調べし、知識及び疑問点を整理しておく。 授業　：子どもと本を結ぶための方法　①読み聞かせ（発表） 復習　：絵本の「読み聞かせ」に関する知識・技能を整理し、実技の復習をする。
10	平井　孝明	【第 10 回】 予習　：テキスト１１０頁から１１９頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業　：各教科等での読書指導、子どもと本を結ぶための方法　②ブックトーク（発表） 復習　：テーマに沿って５冊から１０冊を紹介するブックトークのストーリーを考える。
11	平井　孝明	【第 11 回】 予習　：テキスト１１９頁から１２２頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業　：探究的な学習と読書指導、子どもと本を結ぶための方法　③ストーリーテリング、読書会、ＰＯＰの作成（実習） 復習　：経験と講義を踏まえて学校での読書指導のあるべき姿を考察する。

12	平井　孝明	【第 12 回】 予習　：ビブリオバトルのルールを確認し、発表できるよう準備しておく。 授業　：子どもと本を結ぶための方法　④ビブリオバトル（発表） 復習　：ビブリオバトルの実践を振り返り、知識・技能を整理する。
13	平井　孝明	【第 13 回】 予習　：テキスト１７３頁から１８３頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業　：個に応じた読書指導 復習　：障害のある児童生徒、外国にルーツのある児童生徒への読書指導について考察する。
14	平井　孝明	【第 14 回】 予習　：テキスト１８５頁から１９２頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業　：地域社会との連携 復習　：地域社会との連携を考える中で、生涯学習としての読書のあり方について考察する。
15	平井　孝明	【第 15 回】 予習　：これまでの学習内容を振り返り、疑問点や議論を深めたい点を抽出しておく。 授業　：学校図書館における読書の現状と今後の課題 復習　：学校図書館における読書活動および読書指導について、今後の課題について考察する。

授業開始前学習	公共図書館のヤングアダルトコーナー、児童コーナーを見学しておくことが望ましい。 また、図書館、出版界、教育関連のニュースはチェックすること。
授業内課題のフィードバックの方法	毎回、授業の内容の要約および質問、感想を記して提出する。 次回授業時に、教員のコメントを付して返却する。
テキスト・教材	全国学校図書館協議会「探究　学校図書館学」編集委員会編著『探究　学校図書館学　第４巻　読書と豊かな人間性』（全国学校図書館協議会）
参考書	適宜、講義内にて指示する。
評価の基準と方法	授業内課題（40%）と、授業内での試験（60%）で評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		△			◎	○	○	

関連科目	司書教諭資格取得に必要な５科目のうちの１つである。 他の４科目は「学校経営と学校図書館」、「学校図書館メディアの構成」、「学習指導と学校図書館」、「情報メディアの活用」である。
その他	実際の本に触れる機会を多く設け、本についての知識を深める。 また、実習中心の授業とし、実践に活かせるの指導法の習得を目指す。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	東京都の公立高校の学校司書として図書館運営に携わっている。 他の国公私立学校や公共図書館との連携経験も活かし、実務から得た経験と知識を講義で提供していく。

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	110-411-13（Ｊ）	授業コード	O80740
科目名称	学習指導と学校図書館			単位数	2.0 単位
英文名称	Teaching Methods (School Libraries)			授業区分	講義
科目責任者	平井　孝明			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	平井　孝明			開講時期	3･4 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	学校教育における学校図書館の機能と役割、情報活用能力の育成、学習指導での司書教諭の役割を学ぶ。				
到達目標	1　学習・情報センターとしての学校図書館の役割を説明できる。 2　情報活用能力の育成について考察できる。 3　学校図書館を効果的に活用した探究学習の展開方法を考えることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	平井　孝明	【第 1 回】 予習　：これまでに受けた学校図書館での授業についてふりかえりを行う。 授業　：現代の学校教育と学校図書館 復習　：学校図書館の役割について理解を深める。
2	平井　孝明	【第 2 回】 予習　：テキスト２４頁から３１頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業　：教育課程の編成と学校図書館 復習　：教育課程における学校図書館の位置づけを整理する。
3	平井　孝明	【第 3 回】 予習　：テキスト３２頁から４２頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業　：学習指導要領と学校図書館 復習　：新しい学習指導要領の下での学校図書館活用の可能性について考察する。
4	平井　孝明	【第 4 回】 予習　：テキスト４３頁から５０頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業　：学校図書館における情報活用能力の育成 復習　：学校図書館においてどのように情報活用能力を育成できるか考察する。
5	平井　孝明	【第 5 回】 予習　：テキスト５２頁から６５頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業　：情報活用能力の育成と評価　1　課題の設定（実習） 復習　：「探究学習企画書」の「分野・題材」を決める。
6	平井　孝明	【第 6 回】 予習　：テキスト６７頁から７５頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業　：情報活用能力の育成と評価　2　情報の収集　①資料の収集（実習） 復習　：情報を獲得するための読書法「あらまし読み」について復習する。
7	平井　孝明	【第 7 回】 予習　：テキスト７５頁から７８頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業　：情報活用能力の育成と評価　2　情報の収集　②情報の読み取りと記録（実習） 復習　：「探究学習企画書」で取り組む題材について図書館で情報収集する。
8	平井　孝明	【第 8 回】 予習　：事前に配布する資料を参考に、オリエンテーションのプランを考えておく。 授業　：学校図書館オリエンテーションの意義と方法（発表） 復習　：学校図書館オリエンテーションについて意義と方法を整理する。
9	平井　孝明	【第 9 回】 予習　：テキスト７９頁から８７頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業　：情報活用能力の育成と評価　3　情報の整理・分析（実習） 復習　：思考ツールについて、授業で取り上げたもの以外のものも調べ整理する。
10	平井　孝明	【第 10 回】 予習　：テキスト８８頁から９６頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業　：情報活用能力の育成と評価　4　情報のまとめの表現 復習　：「TEDx Talks」の中から興味のあるスピーチを視聴し、表現方法について考察する。
11	平井　孝明	【第 11 回】 予習　：テキスト９８頁から１０８頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業　：情報サービスと学校図書館 復習　：「レファレンス協同データベース」を参照し、興味のあるレファレンス事例と回答プレセスを学ぶ。

12	平井　孝明	【第 12 回】 予習　：レファレンス・コレクションについて整理しておく。 授業　：レファレンスサービスの実際（実習） 復習　：「レファレンス・インタビュー」の方法について復習する。
13	平井　孝明	【第 13 回】 予習　：テキスト１１１頁から１２５頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業　：発達・情報ニーズに応じた学校図書館メディアの選択 復習　：学校種別ごとに必要とされる発達段階に応じたメディアについて考察する。
14	平井　孝明	【第 14 回】 予習　：テキスト１２６頁から１４０頁まで読み、疑問点などをメモしてくる。 授業　：学習指導を支える学校図書館メディアと環境の整備 復習　：学校図書館が「学習・情報センター」として活用されるための環境整備について考察する。
15	平井　孝明	【第 15 回】 予習　：テキスト１４３頁から１６０頁まで読み、学校図書館を活用した授業案を考えておく。 授業　：学校図書館を活用した授業づくり（発表） 復習　：学校図書館を活用した授業案について改善点をまとめる。

授業開始前学習	ふだんから大学図書館や公共図書館を使いなれておくことが望ましい。 また、図書館、出版界、教育関連のニュースはチェックすること。
授業内課題のフィードバックの方法	毎回、授業の内容の要約および質問、感想を記して提出する。 次回授業時に、教員のコメントを付して返却する。
テキスト・教材	全国学校図書館協議会「探究　学校図書館学」編集委員会編著 『探究　学校図書館学　第３巻　学習指導と学校図書館』 （全国学校図書館協議会）
参考書	適宜、講義内にて指示する。
評価の基準と方法	授業内課題（40%）と、授業内での試験（60%）で評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	

関連科目	司書教諭資格取得に必要な５科目のうちの１つである。 他の４科目は「学校経営と学校図書館」、「読書と豊かな人間性」、「学校図書館メディアの構成」、「情報メディアの活用」である。
その他	学校図書館業務は少人数（あるいは単独）で行うことが多く、一人が担う責任は重いが、その分やりがいも大きい。 また、「学習センター」「情報センター」「読書センター」としての役割を果たすため、図書館メディアの選定・受入れから教育的支援まで職務の範囲は広い。 児童・生徒、教職員に信頼され、にぎわいのある楽しい図書館を運営できるよう、実践重視の講義を行う。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	東京都の公立高校の学校司書として図書館運営に携わっている。他の国公私立学校や公共図書館との連携経験も活かし、実務から得た経験と知識を講義で提供していく。

科目分類（2025 年～入学者）		科目分類（～2024 年入学者）	110-411-13	授業コード	O30240
科目名称	☆情報ﾒﾃﾞｨｱの活用			単位数	2.0 単位
英文名称	Application of Information Media			授業区分	講義
科目責任者	明田川　紀彦			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	明田川　紀彦			開講時期	3･4 年
オフィスアワー	前期　火曜日 09:00～12:10　水曜日 13:00～14:30 後期　火曜日 09:00～12:10　水曜日 13:00～14:30			研究室	10-707
授業概要	この授業は、インターネット、電子メール、SNS、スマートフォンなどを使うことが当たり前となっている今日、情報メディアを通して高度情報社会における人間とのかかわり、特に教育について考え、さらに教職を履修する学生としてどのようなことを身に着けるべきなのか。毎回、授業テーマに対してディスカッションやグループワークを行い理解を深めます。				
到達目標	学校図書館司書教諭過程取得に向けた情報メディアの特性と活用方法が理解できるようになります。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	明田川　紀彦	【第 1 回】 予習　：情報の定義を調べる。 授業　：オリエンテーション（情報の定義）　－ リアクションペーパーへのコメント提出 復習　：調べた内容と授業での内容をまとめて、自分で情報の定義が言えるようにする。
2	明田川　紀彦	【第 2 回】 予習　：私たちを取り巻く日常で，どんな情報があるのかを考える。 授業　：情報と日常生活（情報の具体性と抽象性）　（ディスカッション及びグループワーク）　－ リアクションペーパーへのコメント提出 復習　：メディアの定義について調べる。
3	明田川　紀彦	【第 3 回】 予習　：さまざまなメディアの種類を調べておく。 授業　：メディアの機能（得意と不得意なこと）（ディスカッション及びグループワーク）　－ リアクションペーパーへのコメント提出 復習　：それぞれのメディアの特徴をまとめる。
4	明田川　紀彦	【第 4 回】 予習　：メディアの役割について考える。 授業　：フォト・ドキュメンタリーとビデオ・ドキュメンタリー-1（過去の作品について）（ディスカッション及びグループワーク）　－ リアクションペーパーへのコメント提出 復習　：本日の内容をまとめる。
5	明田川　紀彦	【第 5 回】 予習　：メディアの伝えられることについて考える。 授業　：フォト・ドキュメンタリーとビデオ・ドキュメンタリー-2（現代の作品について）（ディスカッション及びグループワーク）　－ リアクションペーパーへのコメント提出 復習　：授業内容をもとに「自分」について考える。（プリント提出）
6	明田川　紀彦	【第 6 回】 予習　：プリント提出の準備を行う。 授業　：インターネット上の情報の信頼性と安全性-1（ＰＣのセキュリティ）（ディスカッション及びグループワーク））　－ リアクションペーパーへのコメント提出 復習　：インターネットの信頼性とは何かを調べる。
7	明田川　紀彦	【第 7 回】 予習　：知的所有権について調べる。 授業　：インターネット上の情報の信頼性と安全性-2（知的所有権）（ディスカッション及びグループワーク）　－ リアクションペーパーへのコメント提出 復習　：知的所有権についてまとめ、それぞれの特徴を確認する。
8	明田川　紀彦	【第 8 回】 予習　：ドキュメンタリーについて調べておく。 授業　：ドキュメンタリーから学ぶ-2（教育現場から 1）（ディスカッション及びグループワーク）　－ リアクションペーパーへのコメント提出 復習　：自分で調べたことと授業で知ったことを整理してまとめる。
9	明田川　紀彦	【第 9 回】 予習　：前回の内容の検討を行う。 授業　：ドキュメンタリーから学ぶ-3（教育現場から 2）（ディスカッション及びグループワーク）　－ リアクションペーパーへのコメント提出 復習　：レポートにまとめる。（プレゼンテーションに備える）

10	明田川　紀彦	【第 10 回】 予習　：ディスカッションを通して、レポートの追加・修正を行う。 授業　：メディアと自分-1（教職を取る学生が考えるべき問題）（ディスカッション及びグループワーク）　－ リアクションペーパーへのコメント提出 復習　：レポートにまとめる。（プレゼンテーションに備える）
11	明田川　紀彦	【第 11 回】 予習　：ディスカッションを通して、レポートの追加・修正を行う。 授業　：メディアと自分-2（前回の問題についての意見交換）（ディスカッション及びグループワーク）　－ リアクションペーパーへのコメント提出 復習　：レポートにまとめる。（プレゼンテーションに備える）
12	明田川　紀彦	【第 12 回】 予習　：ディスカッションを通して、レポートの追加・修正を行う。 授業　：ドキュメンタリーからメディアを考える-2 復習　：レポートにまとめる。（プレゼンテーションに備える）
13	明田川　紀彦	【第 13 回】 予習　：プレゼンテーションのポイントを絞っておく。 授業　：ドキュメンタリーから学ぶ-4（教育との付き合い方） 復習　：レポートにまとめる。（プレゼンテーションに備える）
14	明田川　紀彦	【第 14 回】 予習　：プレゼンテーションの準備を行う。 授業　：前期授業のふりかえり 1 -プレゼンテーション 復習　：プレゼンテーションの評価と自己評価をまとめる。
15	明田川　紀彦	【第 15 回】 予習　：プレゼンテーションの準備を行う。 授業　：前期授業のふりかえり 2 -プレゼンテーションと全体の講評 復習　：最終課題レポート

授業開始前学習	教職を履修する学生が考えるべき問題などを新聞やインターネットから調べておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	プレゼンテーションに関しては、全体の講評を行い、ディスカッション及びグループワークとリアクションペーパーは途中経過の進捗状況を確認しながら、個別に対応します。
テキスト・教材	プリントと関連資料は、Google-classroom 上にアップします。
参考書	授業を通じて適宜紹介します。
評価の基準と方法	プレゼンテーション（30%）、学修態度（20%）、レポート（30%）および毎回のリアクションペーパーへのコメント（20%）により総合的に評価します。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	

関連科目	
その他	遅刻、欠席を極力避けること。なお、遅刻、欠席した場合には原則として事前に連絡を行うこと。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	

☆博物館概論

科目分類（2025 年～入学者）	ZM-9-111 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	110-411-11 （Ｊ）	授業コード	B23270
科目名称	☆博物館概論			単位数	2.0 単位
英文名称	Introduction to Museology			授業区分	講義
科目責任者	下川 雅弘			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	下川 雅弘			開講時期	1 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30			研究室	10-706
授業概要	本講義では、博物館学とは何か、博物館の定義・種類・目的・機能についての概要を学習した後に、日本および諸外国の博物館の歴史、博物館を取り巻く現状と課題、学芸員の役割と実態について授業を行う。授業では課題解決型学習を行う。				
到達目標	１、博物館に関する基礎的な知識を修得する。 ２、博物館および学芸員に課せられた役割とは何かについて理解できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	下川 雅弘	【第 1 回】 予習 ：博物館の定義と目的について教科書の空欄を穴埋めする 授業 ：博物館の定義と目的（教科書 2 頁から 5 頁）（課題解決型学習） 復習 ：博物館の定義と目的について要点を整理する
2	下川 雅弘	【第 2 回】 予習 ：博物館学とは何かについて教科書の空欄を穴埋めする 授業 ：博物館学とは何か（教科書 6 頁から 7 頁） 復習 ：博物館学とは何かについて要点を整理する
3	下川 雅弘	【第 3 回】 予習 ：博物館の基本的機能と学芸員の役割について教科書の空欄を穴埋めする 授業 ：博物館の基本的機能と学芸員の役割（教科書 8 頁から 14 頁）（課題解決型学習） 復習 ：博物館の基本的機能と学芸員の役割について要点を整理する
4	下川 雅弘	【第 4 回】 予習 ：博物館の種類について教科書の空欄を穴埋めする 授業 ：博物館の種類（教科書 15 頁から 17 頁）（課題解決型学習） 復習 ：博物館の種類について要点を整理する
5	下川 雅弘	【第 5 回】 予習 ：博物館を支える仕組みについて教科書の空欄を穴埋めする 授業 ：博物館を支える仕組み（教科書 18 頁から 20 頁） 復習 ：博物館を支える仕組みについて要点を整理する
6	下川 雅弘	【第 6 回】 予習 ：博物館組織と博物館を支える人々について教科書の空欄を穴埋めする 授業 ：博物館組織と博物館を支える人々（教科書 21 頁から 22 頁） 復習 ：博物館組織と博物館を支える人々について要点を整理する
7	下川 雅弘	【第 7 回】 予習 ：博物館の起源と欧米の博物館の歴史について教科書の空欄を穴埋めする 授業 ：博物館の起源と欧米の博物館の歴史（教科書 23 頁から 25 頁） 復習 ：博博物館の起源と欧米の博物館の歴史について要点を整理する
8	下川 雅弘	【第 8 回】 予習 ：日本の博物館の歴史について教科書の空欄を穴埋めする 授業 ：日本の博物館の歴史（教科書 26 頁から 30 頁） 復習 ：日本の博物館の歴史について要点を整理する
9	下川 雅弘	【第 9 回】 予習 ：文化財保護制度の歴史について教科書の空欄を穴埋めする 授業 ：文化財保護制度の歴史（教科書 31 頁から 32 頁） 復習 ：文化財保護制度の歴史について要点を整理する
10	下川 雅弘	【第 10 回】 予習 ：文化財保護の体系について教科書の空欄を穴埋めする 授業 ：文化財保護の体系（教科書 33 頁から 39 頁） 復習 ：文化財保護の体系について要点を整理する

11	下川　雅弘	【第 11 回】 予習　：文化財保護と博物館について教科書の空欄を穴埋めする 授業　：文化財保護と博物館（教科書 40 頁から 43 頁）（課題解決型学習） 復習　：文化財保護と博物館について要点を整理する
12	下川　雅弘	【第 12 回】 予習　：学校教育と博物館について教科書の空欄を穴埋めする 授業　：学校教育と博物館（教科書 44 頁から 45 頁）（課題解決型学習） 復習　：学校教育と博物館について要点を整理する
13	下川　雅弘	【第 13 回】 予習　：生涯学習と博物館について教科書の空欄を穴埋めする 授業　：生涯学習と博物館（教科書 46 頁から 48 頁）（課題解決型学習） 復習　：生涯学習と博物館について要点を整理する
14	下川　雅弘	【第 14 回】 予習　：博物館の現状と行政改革について教科書の空欄を穴埋めする 授業　：博物館の現状と行政改革（教科書頁 49 から 51 頁）（課題解決型学習） 復習　：博物館の現状と行政改革について要点を整理する
15	下川　雅弘	【第 15 回】 予習　：期待される博物館について教科書の空欄を穴埋めする 授業　：期待される博物館（教科書 52 頁から 54 頁） 復習　：期待される博物館について要点を整理する

授業開始前学習	普段からできる限り多くの博物館を訪れることが望ましい。また、文部科学省令必修科目共通テキストをあらかじめ読んでおく。
授業内課題のフィードバックの方法	提出課題に対しては、翌週以降に全体の講評や必要なコメントを行うとともに、個別の質問にも回答する。
テキスト・教材	全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』（芙蓉書房出版） 駒沢女子大学教科書シリーズ『博物館概論』 駒沢女子大学講義ノートシリーズ『博物館実習』
参考書	
評価の基準と方法	提出課題７０%、授業内テスト３０%により評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	△				◎	○	◎	

関連科目	「博物館経営論」「博物館資料論」「博物館資料保存論」「博物館展示論」「博物館教育論」「博物館情報・メディア論」「博物館実習」が文部科学省令必修科目として相互に関連する。
その他	1 年次 4 月から学芸員養成課程に登録していることを履修の条件とする。条件に当てはまらない者がこの科目を履修登録した場合、本人の了解を得ずに登録が抹消されるので注意すること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	自治体史編纂の実務経験あり。博物館の概要や学芸員の役割などを講義する。

科目分類（2025 年～入学者）	ZM-9-211 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	110-411-12 （Ｊ）	授業コード	B23290
科目名称	☆博物館資料論			単位数	2.0 単位
英文名称	Museum Collection and Information Management			授業区分	講義
科目責任者	井本 悠紀			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	井本 悠紀			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	本講義では、博物館資料に対する基本的な考え方を学習した後に、歴史・考古・民俗・美術資料を中心として、人文系博物館資料の収集理念、分類・整理・取り扱い、情報公開等の方法論を学ぶとともに、人文系博物館における調査研究活動の実際について授業を行う。授業では課題解決型学習を行う。				
到達目標	１、博物館資料の収集、整理保存、情報管理の方法等を習得する。 ２、博物館資料に対する理論・知識・技術を含めた基礎的な能力を身に付ける。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	井本 悠紀	【第 1 回】 予習：博物館資料とは何かについて教科書で調べる 授業：博物館資料とは何か（教科書 94 頁から 96 頁） 復習：博物館資料とは何かについてノートに要点を整理する
2	井本 悠紀	【第 2 回】 予習：博物館資料収集の理念と方法について教科書で調べる 授業：博物館資料収集の理念と方法（教科書 97 頁から 100 頁） 復習：博物館資料収集の理念と方法についてノートに要点を整理する
3	井本 悠紀	【第 3 回】 予習：博物館資料の関連法規について教科書で調べる 授業：博物館資料の関連法規（教科書 102 頁から 103 頁） 復習：博物館資料の関連法規についてノートに要点を整理する
4	井本 悠紀	【第 4 回】 予習：博物館資料の分類と整理方法について教科書で調べる 授業：博物館資料の分類と整理方法（教科書 103 頁から 110 頁） 復習：博物館資料の分類と整理方法についてノートに要点を整理する
5	井本 悠紀	【第 5 回】 予習：興味ある博物館・美術館に足を運び、館の特徴を考えること 授業：博物館活動を考えるー展示企画にむけてー（教科書 94 頁から 110 頁）（課題解決型学習） 復習：講義内容についてノートに要点を整理する
6	井本 悠紀	【第 6 回】 予習：博物館における調査・研究について教科書で調べる 授業：博物館における調査・研究（教科書 113 頁から 115 頁）（課題解決型学習） 復習：博物館における調査・研究についてノートに要点を整理する
7	井本 悠紀	【第 7 回】 予習：博物館資料の調査・研究について教科書で調べる 授業：博物館資料の調査・研究（教科書 117 頁から 124 頁） 復習：博物館資料の調査・研究についてノートに要点を整理する
8	井本 悠紀	【第 8 回】 予習：興味ある博物館資料について、展覧会の観覧また図録等で調べる 授業：博物館活動を考えるー展示企画にむけてー（教科書 122 頁から 124 頁）（課題解決型学習） 復習：博物館資料の活用についてノートに要点を整理する
9	井本 悠紀	【第 9 回】 予習：資料の取り扱いについて教科書で調べる 授業：資料の取り扱い（教科書 127 頁から 131 頁） 復習：資料の取り扱いについてノートに要点を整理する
10	井本 悠紀	【第 10 回】 予習：資料取り扱いについて教科書で調べる 授業：美術工芸品の取り扱い（教科書 127 頁から 129 頁） 復習：美術工芸品の取り扱いについてノートに要点を整理する
11	井本 悠紀	【第 11 回】 予習：博物館資料の保存・修復について教科書で調べる 授業：博物館資料の保存・修復（教科書 137 頁から 138 頁） 復習：博物館資料の保存・修復についてノートに要点を整理する

12	井本　悠紀	【第 12 回】 予習：博物館資料とデジタル化について教科書で調べる 授業：博物館資料とデジタル化（教科書 139 頁から 140 頁） 復習：博物館資料とデジタル化についてノートに要点を整理する
13	井本　悠紀	【第 13 回】 予習：博物館資料の可能性について教科書で調べる 授業：博物館資料の可能性（教科書 141 頁から 143 頁） 復習：博物館資料の可能性についてノートに要点を整理する
14	井本　悠紀	【第 14 回】 予習：博物館資料収集の理念から調査・研究までを復習する 授業：博物館活動を考えるー展示企画発表ー（課題解決形授業） 復習：発表を振り返り、博物館活動と資料について考える
15	井本　悠紀	【第 15 回】 予習：博物館資料論で学習したすべての範囲を教科書で確認する 授業：博物館資料論で学習した内容の要点整理 復習：博物館資料論で学習した内容の要点をノートに整理する

授業開始前学習	日頃から博物館に出向き、展示や諸活動を体験するなどして博物館・学芸員の仕事に興味を持つようにする。また展示を観覧するだけではなく、各館が抱える問題点など課題をみつける視点をもつことも大事である。
授業内課題のフィードバックの方法	提出課題に対しては翌週以降に全体講評やコメントを行い、かつ必要に応じて個別の質問に回答する。
テキスト・教材	全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』（芙蓉書房出版）
参考書	
評価の基準と方法	平常点（授業態度・課題提出）10%、課題（小テスト・発表）60%、期末レポート 30%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	◎	△

関連科目	「博物館概論」「博物館経営論」「博物館資料保存論」「博物館展示論」「博物館教育論」「博物館情報・メディア論」「博物館実習」が文部科学省令必修科目として相互に関連する。
その他	1 年次 4 月から学芸員養成課程に登録していることを履修の条件とする。条件に当てはまらない者がこの科目を履修登録した場合、本人の了解を得ずに登録が抹消されるので注意すること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	博物館学芸員としての実務経験を活かし、博物館資料の特性や課題などについて講義をおこなう。

科目分類（2025 年～入学者）	ZM-9-211 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	110-411-12 （Ｊ）	授業コード	D20440
科目名称	博物館展示論			単位数	2.0 単位
英文名称	Museum Display Theory			授業区分	講義
科目責任者	亀川　泰照			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	亀川　泰照			開講時期	2 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	本講義では、博物館展示の歴史や社会的役割について学習した後に、展示資料の調査と選定、展示の設計、配置・導線計画、照明と音響、展示パネルや解説書の作成といった、展示に必要な技術や方法論について授業を行う。授業では感染症に対する安全性が確保できる場合に限り、ディスカッション、課題解決型学習を行う。				
到達目標	歴史的観点や教育論的観点から博物館の展示について学ぶとともに、人文系の博物館を想定しながら、展示の諸形態を理解し、展示の方法・技術を習得し、博物館展示に関する基礎的な能力を身に付ける。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	亀川　泰照	【第 1 回】 予習　：博物館展示論で学ぶことを教科書で調べる（教科書目次） 授業　：オリエンテーション　授業の及び展示に関わる人々の見取り図の解説と展示の歴史 復習　：自分の博物館経験について振り返りノートに要点を整理する
2	亀川　泰照	【第 2 回】 予習　：展示の歴史について教科書で調べる（教科書 188 頁から 191 頁） 授業　：展示の歴史　展示の歴史的変遷から現在の博物館展示を考える。 復習　：展示の歴史についてノートに要点を整理する
3	亀川　泰照	【第 3 回】 予習　：展示の中立性について教科書で調べる（教科書 227 頁から 229 頁） 授業　：展示の中立性　差別に関わる展示を紹介し、展示の歴史性や社会性・中立性をめぐる議論を学ぶ。また来館者と展示の関係も考える。 復習　：展示の中立性についてノートに要点を整理する
4	亀川　泰照	【第 4 回】 予習　：展示の諸形態について教科書で調べる（教科書 215 頁から 226 頁） 授業　：展示の目的と展示の諸形態、あるいは展示論について学ぶ。 復習　：特に人文系の展示についてノートに要点を整理する
5	亀川　泰照	【第 5 回】 予習　：展示資料の調査と収集について教科書で調べる（教科書 192 頁から 194 頁） 授業　：展示資料の調査と収集　具体例から、展示資料の収集や博物館における調査・研究について考える。 復習　：展示資料の調査と収集についてノートに要点を整理する。自分が展示を行うこと、何を展示するかを含めて考える。
6	亀川　泰照	【第 6 回】 予習　：自分が展示を行うこと、何を展示するかを含めて考える。 授業　：展示の実践　受講者一人一人発表する。 復習　：実践したことを振り返り反省点や考えたことをノートにまとめる
7	亀川　泰照	【第 7 回】 予習　：展示の構想と企画、設計と施行について教科書で調べる（教科書 194 頁から 200 頁） 授業　：展示の構想と企画、設計と施行　具体例から、展示の行程を紹介し、基本的な展示の構成方法やパターンを学ぶ。 復習　：展示の構想と企画、設計と施行についてノートに要点を整理する
8	亀川　泰照	【第 8 回】 予習　：展示資料の借用及び展示の広報について事前に配布ペーパーを読み、考える 授業　：資料の借用と展示の広報　　具体例を示しながら、広報の役割を学ぶ 復習　：広報についてノートに要点を整理する
9	亀川　泰照	【第 9 回】 予習：展示室の空間構成について調べ、考える。 授業：展示の空間構成　具体的な例から空間構成や動線設計に関する基本的な考え方を学ぶ 復習：展示の空間構成についてノートに要点を整理する。

10	亀川　泰照	【第 10 回】 予習　：展示と解説について教科書で調べる（教科書 210 頁から 212 頁） 授業　：展示と解説　博物館の様々な情報伝達手段を念頭に、文字情報による情報伝達手段の特徴や方法、基本的な考え方を学ぶ。 復習　：展示と解説についてノートに要点を整理する
11	亀川　泰照	【第 11 回】 予習　：展示と音響の関係について教科書で調べる（教科書 209 頁から 210 頁）また、展示の環境と整備・展示作業について教科書で調べる（教科書 202 頁から 206 頁） 授業　：展示の環境と整備・展示作業／展示と音響　具体例から、展示空間の構成にやケースの役割、資料借用などに関する基本的な在り方を学ぶ。また、音声(人・機材等)による情報伝達手段を紹介し、その方法等を学ぶ。また音響装置に関する考え方を知る。 復習　：展示の環境と整備・展示作業及び展示と音響についてノートに要点を整理する ¥
12	亀川　泰照	【第 12 回】 予習　：展示の照明について教科書で調べる（教科書 206 頁から 209 頁） 授業　：展示の照明　　具体例を示しながら、照明の役割を学ぶ 復習　：展示の照明と音響についてノートに要点を整理する
13	亀川　泰照	【第 13 回】 予習　：展示と法令について教科書で調べる（教科書 200 頁から 201 頁）また、展示解説書の作成について教科書で調べる（教科書 212 頁から 214 頁） 授業　：展示と法令　展示に関わる法令（博物館法・文化財保護法・著作権法等）について学ぶ。また展示解説図録の諸事例を知り、展示解説書の機能、役割について基本的な考え方を学ぶ。についても考える。 復習　：展示と法令及び展示解説書の作成についてノートに要点を整理する
14	亀川　泰照	【第 14 回】 予習　：展示の評価について教科書で調べる（教科書 229 頁から 231 頁） 授業　：展示の評価　展示評価の意義と展示や博物館活動の改善について学ぶ。 復習　：展示の評価についてノートに要点を整理する
15	亀川　泰照	【第 15 回】 予習　：博物館展示論で学習したすべての範囲を教科書で確認する（教科書 188 頁から 231 頁） 授業　：博物館展示論で学習した内容のまとめ。あわせて今後の展示・博物館について考える 復習　：博物館展示論で学習した内容の要点をノートに整理する

授業開始前学習	普段からできる限り多くの博物館を訪れることが望ましい。また、日ごろから博物館・美術館・動物園・文化財に関するニュースをチェックしておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	授業内課題は、リアクションペーパーで提出してもらう。翌週以降に質問の回答やコメントを行う。
テキスト・教材	全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』（芙蓉書房出版）
参考書	柴正博『博物館と学芸員のおしごと 【博物館概論】』（東海教育研究所、2023 年）。 その他については、授業の中で随時紹介する。
評価の基準と方法	授業内試験・レポート（70%）、課題等（30%）
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	◎	△

関連科目	「博物館概論」「博物館経営論」「博物館資料論」「博物館資料保存論」「博物館教育論」「博物館情報・メディア論」「博物館実習」が文部科学省令必修科目として相互に関連する。
その他	1 年次 4 月から学芸員養成課程に登録していることを履修の条件とする。条件に当てはまらない者がこの科目を履修登録した場合、本人の了解を得ずに登録が抹消されるので注意すること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	区立の博物館（地域博物館）での実務経験を交えて講義する。

科目分類（2025 年～入学者）	ZM-9-311 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	110-411-13 （Ｊ）	授業コード	D20410
科目名称	博物館資料保存論			単位数	2.0 単位
英文名称	Museum Resourse Conservation Theory			授業区分	講義
科目責任者	井本 悠紀			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	井本 悠紀			開講時期	3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	本講義では、博物館における資料保存の意義、資料の現状調査、資料の修理と修復、資料の梱包と輸送、資料の保存環境（劣化条件・災害対策・総合的有害生物管理等）、環境保護と博物館の役割等について、実際の博物館資料や施設を事例としながら授業を行う。授業では課題解決型学習を行う。				
到達目標	1、資料の保存に関する基礎的な能力を養う。 ２、博物館における資料保存の基本を学び、展示環境・収蔵環境を科学的にとらえ、資料を良好な状態でつぎの世代に引き継いでいくための知識を習得する。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	井本 悠紀	【第 1 回】 予習：博物館資料保存の基本的理念について教科書で調べる 授業：博物館資料保存の基本的理念（教科書 146 頁から 148 頁） 復習：博物館資料保存の基本的理念についてノートに要点を整理する
2	井本 悠紀	【第 2 回】 予習：博物館資料保存をめぐる法的・社会的環境について教科書で調べる 授業：博物館資料保存をめぐる法的・社会的環境（教科書 148 頁から 149 頁） 復習：博物館資料保存をめぐる法的・社会的環境についてノートに要点を整理する
3	井本 悠紀	【第 3 回】 予習：博物館資料の修理・修復について教科書で調べる 授業：博物館資料の修理・修復について（教科書 156 頁から 158 頁） 復習：博物館資料の修理・修復についてノートに要点を整理する
4	井本 悠紀	【第 4 回】 予習：博物館資料の二次資料について教科書で調べる 授業：博物館資料の二次資料（教科書 156 頁から 158 頁） 復習：博物館資料の二次資料についてノートに要点を整理する
5	井本 悠紀	【第 5 回】 予習：科学的調査と保存について教科書で調べる 授業：科学的調査と保存（教科書 161 頁から 163 頁） 復習：科学的調査と保存についてノートに要点を整理する
6	井本 悠紀	【第 6 回】 予習：資料保存の諸条件と劣化（温湿度）について教科書で調べる 授業：資料保存の諸条件と劣化（温湿度）（教科書 150 頁から 154 頁） 復習：資料保存の諸条件と劣化（温湿度）についてノートに要点を整理する
7	井本 悠紀	【第 7 回】 予習：資料保存の諸条件と劣化（光・空気環境）について教科書で調べる 授業：資料保存の諸条件と劣化（光・空気環境）（教科書 163 頁から 166 頁） 復習：資料保存の諸条件と劣化（光・空気環境）についてノートに要点を整理する
8	井本 悠紀	【第 8 回】 予習：資料保存の諸条件と劣化（生物被害）について教科書で調べる 授業：資料保存の諸条件と劣化（生物被害）（教科書 166 頁から 168 頁）（課題解決型学習） 復習：資料保存の諸条件と劣化（生物被害）についてノートに要点を整理する
9	井本 悠紀	【第 9 回】 予習：収蔵・展示施設と保存環境について教科書で調べる 授業：収蔵・展示施設と保存環境（教科書 159 頁から 161 頁）（課題解決型学習） 復習：収蔵・展示施設と保存環境についてノートに要点を整理する
10	井本 悠紀	【第 10 回】 予習：伝統的な保存方法について教科書で調べる 授業：伝統的な保存方法（教科書 35 頁から 37 頁） 復習：伝統的な保存方法についてノートに要点を整理する
11	井本 悠紀	【第 11 回】 予習：資料の梱包と運搬方法について教科書で調べる 授業：資料の梱包と運搬方法（教科書 169 頁から 171 頁） 復習：資料の梱包と運搬方法についてノートに要点を整理する

12	井本　悠紀	【第 12 回】 予習：地域資源としての博物館資料の保存と活用について教科書で調べる 授業：地域資源としての博物館資料の保存と活用（教科書 179 頁から 181 頁） 復習：地域資源としての博物館資料の保存と活用についてノートに要点を整理する
13	井本　悠紀	【第 13 回】 予習：災害と博物館資料について教科書で調べる 授業：災害と博物館資料（教科書 181 頁から 184 頁）（課題解決型学習） 復習：災害と博物館資料についてノートに要点を整理する
14	井本　悠紀	【第 14 回】 予習：社会的課題と向き合う博物館の役割について教科書で調べる 授業：社会的課題と向き合う博物館の役割（教科書 184 頁から 186 頁） 復習：社会的課題と向き合う博物館の役割についてノートに要点を整理する
15	井本　悠紀	【第 15 回】 予習：博物館資料保存論で学習したすべての範囲を教科書で確認する 授業：博物館資料保存論で学習した内容の要点整理 復習：博物館資料保存論で学習した内容についてノートに要点を整理する

授業開始前学習	日頃から博物館に出向き、展示や諸活動を体験するなどして博物館・学芸員の仕事に興味を持つようにする。また展示を観覧するだけではなく、各館が抱える問題点など課題をみつける視点をもつことも大事である。
授業内課題のフィードバックの方法	提出課題に対しては翌週以降に全体講評やコメントを行い、かつ必要に応じて個別の質問に回答する。
テキスト・教材	全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』（芙蓉書房出版）
参考書	
評価の基準と方法	平常点（授業態度・課題提出）10%、課題（小テスト・レポート）60%、期末レポート 30%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	◎	△

関連科目	「博物館概論」「博物館経営論」「博物館資料論」「博物館展示論」「博物館教育論」「博物館情報・メディア論」「博物館実習」が文部科学省令必修科目として相互に関連する。
その他	1 年次 4 月から学芸員養成課程に登録していることを履修の条件とする。条件に当てはまらない者がこの科目を履修登録した場合、本人の了解を得ずに登録が抹消されるので注意すること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	博物館学芸員としての実務経験を活かし、博物館資料の特性や課題などについて講義をおこなう。

科目分類（2025 年～入学者）	ZM-9-311 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	110-411-13 （Ｊ）	授業コード	D20400
科目名称	博物館経営論			単位数	2.0 単位
英文名称	Museum Management Theory			授業区分	講義
科目責任者	岸川 雅範			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	岸川 雅範			開講時期	3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	本講義では、博物館経営の基盤となる博物館行政制度、博物館の財務、施設・設備、組織と職員等について学ぶとともに、博物館経営の使命と計画・評価、博物館の倫理と危機管理、マーケティングとパブリシティ活動、地域社会と博物館、他機関との連携等、博物館経営の実際について授業を行う。授業では感染症に対する安全性が確保できる場合に限り、ディスカッションを行う。				
到達目標	博物館の組織形態と活動面における適切な管理・運営方法について、具体的な事例を通して学び、博物館経営（ミュージアム・マネージメント）に関する基礎的な能力を身に付ける。				

アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–	複数教員の場合の授業形態	

授業回数	担当者	授業の内容
1	岸川 雅範	【第 1 回】 予習 ：「博物館経営」という語句について調べ、イメージを獲得しておく。 授業 ：ガイダンス～博物館経営とは～ 復習 ：配信された資料を再読し、授業内容の確認を行う。
2	岸川 雅範	【第 2 回】 予習 ：博物館経営の意義について教科書で調べる。 授業 ：博物館経営の意義（教科書 56 頁から 58 頁） 復習 ：教科書を再読し、授業内容を確認する。
3	岸川 雅範	【第 3 回】 予習 ：博物館運営方法の制度的な変化について教科書で調べる。 授業 ：博物館運営方法の制度的な変化（教科書 58 頁から 61 頁） 復習 ：教科書を再読し、授業内容を確認する。
4	岸川 雅範	【第 4 回】 予習 ：ミュージアムマーケティングと博物館評価について教科書で調べる 授業 ：ミュージアムマーケティングと博物館評価（教科書 61 頁から 63 頁） 復習 ：教科書を再読し、授業内容を確認する。
5	岸川 雅範	【第 5 回】 予習 ：博物館の法と制度について教科書で調べる 授業 ：博物館の法と制度（教科書 64 頁から 66 頁） 復習 ：教科書を再読し、授業内容を確認する。
6	岸川 雅範	【第 6 回】 予習 ：国・地方自治体の博物館行政について教科書で調べる。 授業 ：国・地方自治体の博物館行政（教科書 66 頁から 69 頁） 復習 ：教科書を再読し、授業内容を確認する。
7	岸川 雅範	【第 7 回】 予習 ：博物館の運営組織について教科書で調べる。 授業 ：博物館の運営組織（教科書 69 頁から 71 頁） 復習 ：教科書を再読し、授業内容を確認する。
8	岸川 雅範	【第 8 回】 予習 ：博物館施設の運営と管理について教科書で調べる。 授業 ：博物館施設の運営と管理（教科書 72 頁から 75 頁） 復習 ：教科書を再読し、授業内容を確認する。
9	岸川 雅範	【第 9 回】 予習 ：今までの学習内容を振り返っておく。 授業 ：博物館経営に関する博物館調査① 事前準備（グループワーク） 復習 ：グループワークで出た意見を整理する。
10	岸川 雅範	【第 10 回】 予習 ：博物館の広報活動と学習支援について教科書で調べる。 授業 ：博物館と社会連携① 広報活動と学習支援（教科書 76 頁から 79 頁） 復習 ：教科書を再読し、授業内容を確認する。
11	岸川 雅範	【第 11 回】 予習 ：博物館のネットワーク活動とホスピタリティー・サービスについて教科書で調べる。 授業 ：博物館と社会連携② ネットワーク活動とホスピタリティー・サービス（教科書 80 頁から 83 頁） 復習 ：教科書を再読し、授業内容を確認する。

12	岸川　雅範	【第 12 回】 予習　：今までの学習内容を振り返っておく。 授業　：博物館経営に関する博物館調査②　まとめ（グループワーク） 復習　：グループワークで出た意見を整理する。
13	岸川　雅範	【第 13 回】 予習　：今までの学習内容を振り返っておく。 授業　：博物館経営に関する博物館調査③　発表（プレゼンテーション） 復習　：グループワークで出た意見を整理する。
14	岸川　雅範	【第 14 回】 予習　：博物館経営の実際と課題について教科書で確認する。 授業　：博物館経営の実際と課題（教科書 84 頁から 91 頁） 復習　：教科書を再読し、授業内容を確認する。
15	岸川　雅範	【第 15 回】 予習　：博物館経営論で学習したすべての範囲を教科書で確認する 授業　：博物館経営論で学んできたことの整理（レポートとグループ発表に対するフィードバック） 復習　：教科書を再読し、授業内容を確認する。

授業開始前学習	普段からできる限り多くの博物館を訪れることが望ましい。また、文部科学省令必修科目共通テキストをあらかじめ読んでおく。
授業内課題のフィードバックの方法	提出課題は、翌週以降に全体の講評や必要なコメントを行うとともに、個別の質問にも回答する。
テキスト・教材	全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』（芙蓉書房出版）
参考書	参考書は、授業の中で随時紹介する。
評価の基準と方法	授業内試験・レポート（70%）、課題等（30%）
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	◎	△

関連科目	「博物館概論」「博物館資料論」「博物館資料保存論」「博物館展示論」「博物館教育論」「博物館情報・メディア論」「博物館実習」が文部科学省令必修科目として相互に関連する。
その他	1 年次 4 月から学芸員養成課程に登録していることを履修の条件とする。条件に当てはまらない者がこの科目を履修登録した場合、本人の了解を得ずに登録が抹消されるので注意すること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	博物館（神社内の博物館）の実務経験あり。博物館経営の講義を行う。

科目分類（2025 年～入学者）	ZM-9-211 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	110-411-12（Ｊ）	授業コード	D20420
科目名称	博物館教育論			単位数	2.0 単位
英文名称	Museum Education Theory			授業区分	講義
科目責任者	黒滝　香奈			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	黒滝　香奈			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	本講義では、生涯教育の場、人材養成の場、地域教育の場、文化情報リテラシー教育の場としての博物館の意義・理念や、博物館教育の方針・評価について学ぶとともに、博物館の利用実態と学びの特性、博物館教育の実際について、具体的な事例をあげながら授業を行う。本授業は、グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワークを伴う。				
到達目標	博物館における教育活動の重要性を学び、博物館の教育活動の基盤となる理論や実践に関する知識と方法を習得し、博物館の教育機能に関する基礎的な能力を身に付ける。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	黒滝　香奈	【第 1 回】 予習　：博物館法における博物館教育の位置付けを確認しておく（教科書 314 頁）。 授業　：ガイダンス～規矩における博物館教育～ 復習　：配布資料を再読し、授業内容を整理する。
2	黒滝　香奈	【第 2 回】 予習　：世界の博物館における教育実践例を調べる。 授業　：世界水準の博物館教育（教科書 275 頁から 277 頁） 復習　：教科書を再読し、授業内容を確認する。
3	黒滝　香奈	【第 3 回】 予習　：学芸員の教育的役割について調べる。 授業　：近代教育史における博物館の教育的役割と学芸員の教育的役割①戦前（教科書 272～274 頁、277～278 頁） 復習　：教科書を再読し、授業内容を確認する。
4	黒滝　香奈	【第 4 回】 予習　：学芸員の教育的役割について調べる。 授業　：近代教育史における博物館の教育的役割と学芸員の教育的役割①戦後（教科書 272～274 頁、277～278 頁） 復習　：教科書を再読し、授業内容を確認する。
5	黒滝　香奈	【第 5 回】 予習　：博学連携の実践例を調べる。 授業　：博物館教育の目的①　博学連携（教科書 281 頁から 283 頁） 復習　：教科書を再読し、授業内容を確認する。
6	黒滝　香奈	【第 6 回】 予習　：生涯学習について教科書で調べる。 授業　：博物館教育の目的②　生涯学習（教科書 283 頁から 284 頁） 復習　：教科書を再読し、授業内容を確認する。
7	黒滝　香奈	【第 7 回】 予習　：博物館ボランティアについて調べる。 授業　：ボランティアの養成（教科書 279～280 頁） 復習　：教科書を再読し、授業内容を確認する。
8	黒滝　香奈	【第 8 回】 予習　：様々な展示方法について調べる。 授業　：教育の方法　（教科書 286～292 頁） 復習　：教科書を再読し、授業内容を確認する。
9	黒滝　香奈	【第 9 回】 予習　：子どものための博物館展示・展覧について教科書で調べる。 授業　：子どものための博物館（教科書 293～305 頁） 復習　：教科書を再読し、授業内容を確認する。
10	黒滝　香奈	【第 10 回】 予習　：今までの学習内容を振り返っておく。 授業　：博物館教育活動の企画①　事前準備（グループワーク） 復習　：グループワークで出た意見を整理する。

11	黒滝　香奈	【第 11 回】 予習　：今までの学習内容を振り返っておく。 授業　：博物館教育活動の企画②　事前調査（グループワーク） 復習　：グループワークで出た意見を整理する。
12	黒滝　香奈	【第 12 回】 予習　：教育目標と計画・評価について教科書で調べる 授業　：教育目標と計画・評価（教科書 306 頁から 308 頁） 復習　：教科書を再読し、授業内容を確認する。
13	黒滝　香奈	【第 13 回】 予習　：今までの学習内容を振り返っておく。 授業　：博物館教育活動の企画③　まとめ（グループワーク） 復習　：グループワークで出た意見を整理する。
14	黒滝　香奈	【第 14 回】 予習　：今までの学習内容を振り返っておく。 授業　：博物館教育活動の企画④　発表（プレゼンテーション） 復習　：グループワークで出た意見を整理する。
15	黒滝　香奈	【第 15 回】 予習　：これまで学習したすべての範囲を教科書で確認する。 授業　：博物館教育の課題と展望（教科書 309～311 頁）とレポート課題へのフィードバック 復習　：教科書を再読し、授業内容を確認する。

授業開始前学習	普段からできる限り多くの博物館を訪れることが望ましい。また、文部科学省令必修科目共通テキストをあらかじめ読んでおく。
授業内課題のフィードバックの方法	毎回リアクションペーパーを記入してもらい、適宜質問への回答や授業の補足を行う。
テキスト・教材	全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』（芙蓉書房出版）
参考書	
評価の基準と方法	平常点（授業への参画度・リアクションペーパー）45%、プレゼンテーション 25%、レポート 30%
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	◎	△

関連科目	「博物館概論」「博物館経営論」「博物館資料論」「博物館資料保存論」「博物館展示論」「博物館情報・メディア論」「博物館実習」が文部科学省令必修科目として相互に関連する。
その他	1 年次 4 月から学芸員養成課程に登録していることを履修の条件とする。条件に当てはまらない者がこの科目を履修登録した場合、本人の了解を得ずに登録が抹消されるので注意すること。 なお、本授業ではグループ発表に向けて大学近辺の博物館を各自で見学してもらう。その際には、交通費（大学からを想定）と入館料を合わせて 1000 円程度は受講者負担となる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	博物館の実務経験あり。博物館の教育活動などを講義する。

科目分類（2025 年～入学者）	ZM-9-211 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	110-411-12 （Ｊ）	授業コード	D20430
科目名称	博物館情報･ﾒﾃﾞｨｱ論			単位数	2.0 単位
英文名称	Museum Information and Media Theory			授業区分	講義
科目責任者	小山 貴子			必修･選択	履修ガイド参照
担当教員	小山 貴子			開講時期	2･3 年
オフィスアワー	-			研究室	-
授業概要	本講義では、博物館における情報･メディアの歴史と意義、博物館活動と情報ネット化の現状を踏まえ、博物館資料の情報化（データベースの作成、マルチメディアの活用等）やデジタル情報発信の基本を学ぶとともに、著作権や個人情報等、博物館における知的財産の扱いについて授業を行う。				
到達目標	博物館における情報の意義と活用方法、情報発信の課題等について学び、博物館における情報の提供と活用に関する基礎的な能力を身に付ける。				
アクティブ･ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	メディア科目	–
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	小山 貴子	【第 1 回】テキスト　P 234-235 予習 ：デジタルアーカイブの構築について教科書で調べる 授業 ：デジタルアーカイブの構築 復習 ：デジタルアーカイブの構築についてノートに要点を整理する
2	小山 貴子	【第 2 回】テキスト　P 235-237 予習 ：多様な博物館資料と情報について教科書で調べる 授業 ：多様な博物館資料と情報 復習 ：多様な博物館資料と情報についてノートに要点を整理する
3	小山 貴子	【第 3 回】テキスト　P 237-239 予習 ：整備された情報と活用手段について教科書で調べる 授業 ：整備された情報と活用手段 復習 ：整備された情報と活用手段についてノートに要点を整理する
4	小山 貴子	【第 4 回】テキスト　P 239-241 予習 ：マルチメディアと博物館について教科書で調べる 授業 ：マルチメディアと博物館 復習 ：マルチメディアと博物館についてノートに要点を整理する
5	小山 貴子	【第 5 回】テキスト　P 241-242 予習 ：管理情報と研究情報について教科書で調べる 授業 ：管理情報と研究情報 復習 ：管理情報と研究情報についてノートに要点を整理する
6	小山 貴子	【第 6 回】テキスト　P 243-248 予習 ：博物館資料のドキュメンテーションについて教科書で調べる 授業 ：博物館資料のドキュメンテーション 復習 ：博物館資料のドキュメンテーションについてノートに要点を整理する
7	小山 貴子	【第 7 回】テキスト　P 243-248 予習 ：博物館資料とデータベースについて教科書で調べる 授業 ：博物館資料とデータベース 復習 ：博物館資料とデータベースについてノートに要点を整理する
8	小山 貴子	【第 8 回】テキスト　P 249-254 予習 ：情報伝達手段としてのメディア媒体について教科書で調べる 授業 ：情報伝達手段としてのメディア媒体 復習 ：情報伝達手段としてのメディア媒体についてノートに要点を整理する
9	小山 貴子	【第 9 回】テキスト　P 249-254 予習 ：博物館における情報展示について教科書で調べる 授業 ：博物館における情報展示 復習 ：博物館における情報展示についてノートに要点を整理する
10	小山 貴子	【第 10 回】テキスト　P 254-256 予習 ：博物館外への情報サービスの実際について教科書で調べる 授業 ：博物館外への情報サービスの実際 復習 ：博物館外への情報サービスの実際についてノートに要点を整理する
11	小山 貴子	【第 11 回】テキスト　P 257-263 予習 ：博物館における情報公開と個人情報の保護について教科書で調べる 授業 ：博物館における情報公開と個人情報の保護 復習 ：博物館における情報公開と個人情報の保護についてノートに要点を整理する

12	小山　貴子	【第 12 回】テキスト　P 257-263 予習　：博物館の展示情報技術について教科書で調べる 授業　：博物館の展示情報技術 復習　：博物館の展示情報技術についてノートに要点を整理する
13	小山　貴子	【第 13 回】テキスト　P 263-268 予習　：博物館と知的財産権について教科書で調べる 授業　：博物館と知的財産権 復習　：博物館と知的財産権についてノートに要点を整理する
14	小山　貴子	【第 14 回】テキスト　P 269-270 予習　：博物館情報・メディアの今後の課題と展望について教科書で調べる 授業　：博物館情報・メディアの今後の課題と展望 復習　：博物館情報・メディアの今後の課題と展望についてノートに要点を整理する
15	小山　貴子	【第 15 回】テキスト　P 234-270 予習　：博物館情報・メディア論で学習したすべての範囲を教科書で確認する 授業　：博物館情報・メディア論で学習した内容の要点整理 復習　：博物館情報・メディア論で学習した内容の要点をノートに整理する

授業開始前学習	普段からできる限り多くの博物館を訪れることが望ましい。また、文部科学省令必修科目共通テキストをあらかじめ読んでおく。
授業内課題のフィードバックの方法	次回授業開始時にコメントに関する講評（主に質問への回答、フィードバック）を行う。
テキスト・教材	参考書として全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』（芙蓉書房出版）
参考書	
評価の基準と方法	授業内試験・レポート（60%）、平常点（授業態度・課題提出）（40%）
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	◎	△

関連科目	「博物館概論」「博物館経営論」「博物館資料論」「博物館資料保存論」「博物館展示論」「博物館教育論」「博物館実習」が文部科学省令必修科目として相互に関連する。
その他	1 年次 4 月から学芸員養成課程に登録していることを履修の条件とする。条件に当てはまらない者がこの科目を履修登録した場合、本人の了解を得ずに登録が抹消されるので注意すること。 また、参考書としてテキストを使用するが、授業の進捗によって内容を変更することもある。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	博物館の実務経験あり。博物館資料の情報化・デジタル情報発信などを講義する。

科目分類（2025 年～入学者）	ZM-9-212 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	110-411-22 （Ｊ）	授業コード	D20370
科目名称	☆博物館実習 A(見学実習)／博物館実習 A			単位数	1.0 単位
英文名称	Museum Training A (Tour training)			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	下川 雅弘			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	下川 雅弘			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30			研究室	10-706
授業概要	本実習（見学実習）には、教員が引率するものと、学生が単独で訪れるものがある。どちらの見学でも、博物館ごとに特定のテーマ（展示物の配置、照明と採光、展示資料の解説等）を設定したレポートを課す。見学に訪れた博物館の学芸員等から直接話を聞くことにより、学芸員の仕事とはどのようなものかについて考える。授業はグループワーク・発表・フィールドワークを中心に行う。				
到達目標	博物館の実態や展示の仕方を学ぶという観点から、さまざまな博物館を見学し、他の博物館に関する科目で修得した知識について、さらに理解を深めることができる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	12 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	下川 雅弘	【第 1 回】 予習 ：シラバスを読み、学修内容を確認する 授業 ：ガイダンス／自治体直営型博物館と公設民営型博物館の公立博物館について 復習 ：グループと前期担当の公立博物館を決定する
2	下川 雅弘	【第 2 回】 予習 ：前期担当となった公立博物館のホームページ分析課題と博物館見学課題を提出する 授業 ：公立博物館のグループ発表の準備（グループワーク） 復習 ：グループ発表のスライドを完成させる
3	下川 雅弘	【第 3 回】 予習 ：前期担当となった公立博物館のホームページ分析課題と博物館見学課題を提出する 授業 ：公立博物館のグループ発表の準備（＊予備日）（グループワーク） 復習 ：グループ発表のスライドを完成させる
4	下川 雅弘	【第 4 回】 予習 ：前期担当となった公立博物館のスライドを提出する 授業 ：公立博物館のグループ発表（グループワーク・発表） 復習 ：自分の考えを整理して提出する
5	下川 雅弘	【第 5 回】 予習 ：担当となった公立博物館のスライドを提出する 授業 ：公立博物館のグループ発表（＊予備日）（グループワーク・発表） 復習 ：自分の考えを整理して提出する／公立博物館の前期レポート課題を提出する
6	下川 雅弘	【第 6 回】 予習 ：正課学外活動の事前学習課題を提出する 授業 ：正課学外活動【博物館見学実習】「公立博物館またはテーマ型博物館を訪ねる」（フィールドワーク） 復習 ：正課学外活動で得た情報を「実習ノート」にメモする
7	下川 雅弘	【第 7 回】 予習 ：正課学外活動の成果を整理する 授業 ：正課学外活動の学びの総括（授業内レポート課題の執筆）／学校法人運営の大学博物館と宗教法人運営の寺社宝物館について 復習 ：「博物館実習日誌」（『博物館実習』テキスト）に必要事項を記入する／グループと後期担当の大学博物館・寺社宝物館を決定する
8	下川 雅弘	【第 8 回】 予習 ：後期担当となった大学博物館・寺社宝物館のホームページ分析課題と博物館見学課題を提出する 授業 ：大学博物館・寺社宝物館のグループ発表の準備（グループワーク） 復習 ：グループ発表のスライドを完成させる
9	下川 雅弘	【第 9 回】 予習 ：後期担当となった大学博物館・寺社宝物館のホームページ分析課題と博物館見学課題を提出する 授業 ：大学博物館・寺社宝物館のグループ発表の準備（＊予備日）（グループワーク） 復習 ：グループ発表のスライドを完成させる
10	下川 雅弘	【第 10 回】 予習 ：担当となった大学博物館・寺社宝物館のスライドを提出する 授業 ：大学博物館・寺社宝物館のグループ発表（グループワーク・発表） 復習 ：自分の考えを整理して提出する

11	下川　雅弘	【第 11 回】 予習　：担当となった大学博物館・寺社宝物館のスライドを提出する 授業　：大学博物館・寺社宝物館のグループ発表（＊予備日）（グループワーク・発表） 復習　：自分の考えを整理して提出する／大学博物館・寺社宝物館の後期レポート課題を提出する
12	下川　雅弘	【第 12 回】 予習　：「3 年生に向けたガイダンス」のプリントを読んでおく 授業　：3 年生に向けたガイダンス 復習　：「博物館実習日誌」（『博物館実習』テキスト）に必要事項を記入する

授業開始前学習	東京近郊や実家の近くにどのような博物館があるのか調べておくとともに、普段からできる限り多くの博物館を訪れ、理想的な博物館とはどのようなものか、自分なりの考えをまとめておくことが望ましい。
授業内課題のフィードバックの方法	課題・発表に対して、全体の講評や必要なコメントを行うとともに、個別の質問にも回答する。
テキスト・教材	駒沢女子大学講義ノートシリーズ『博物館実習』
参考書	
評価の基準と方法	事前学習課題４０%、レポート３０%、授業内テスト３０%により評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△			○	◎	◎

関連科目	「博物館概論」「博物館経営論」「博物館資料論」「博物館資料保存論」「博物館展示論」「博物館教育論」「博物館情報・メディア論」が文部科学省令必修科目として相互に関連する。
その他	見学実習のうち 1 回を、教員が引率する正課学外活動として夏期休暇期間中の土曜日（予定）に実施する（交通費は自己負担）。 1 年次 4 月から学芸員養成課程に登録していることを履修の条件とする。条件に当てはまらない者がこの科目を履修登録した場合、本人の了解を得ずに登録が抹消されるので注意すること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	自治体史編纂の実務経験あり。博物館の見学実習のための指導を行う。

科目分類（2025 年～入学者）	ZM-9-312 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	110-411-23 （Ｊ）	授業コード	D20380
科目名称	☆博物館実習 B(実務実習)／博物館実習 B			単位数	1.0 単位
英文名称	Museum Training B (Practical training)			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	皆川 義孝			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	皆川 義孝			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～16:00 後期 火曜日 13:00～16:00			研究室	10-507
授業概要	本実習（実務実習）では、まず館園実習に向けた心構えとして、資料の取り扱いに関する注意点を十分理解するとともに、学内における事前の訓練として、博物館の資料や展示物を実際に扱う際に必要な技術や方法論を学ぶ。授業は実習を中心に行う。				
到達目標	館園実習に向けて、博物館等の資料の取り扱い、収集・整理・保存・分類等の方法、調査研究の手法等を理解できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	11 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	皆川 義孝	【第 1 回】 予習 ：シラバスを読み、学修内容を確認する 授業 ：事前指導① 実習での注意点 復習 ：「博物館実習日誌」（『博物館実習』テキスト）に必要事項を記入する
2	皆川 義孝	【第 2 回】 予習 ：文献史料等の調査カード作成と保管について調べる 授業 ：資料の整理① 文献史料等の調査カード作成と保管（実習）×2 復習 ：「博物館実習日誌」（『博物館実習』テキスト）に必要事項を記入する
3	皆川 義孝	【第 3 回】 予習 ：文献史料等の調査カード作成と保管について調べる 授業 ：資料の整理② 文献史料等の調査カード作成と保管（実習）×2 復習 ：「博物館実習日誌」（『博物館実習』テキスト）に必要事項を記入する
4	皆川 義孝	【第 4 回】 予習 ：文献史料等の調査カード作成と保管について調べる 授業 ：資料の整理③ 文献史料等の調査カード作成と保管（実習）×2 復習 ：「博物館実習日誌」（『博物館実習』テキスト）に必要事項を記入する
5	皆川 義孝	【第 5 回】 予習 ：文献史料等の調査カード作成と保管について調べる 授業 ：資料の整理④ 文献史料等の調査カード作成と保管（実習）×2 復習 ：「博物館実習日誌」（『博物館実習』テキスト）に必要事項を記入する
6	皆川 義孝	【第 6 回】 予習 ：文献史料等の調査カード作成と保管について調べる 授業 ：資料の整理⑤ 文献史料等の調査カード作成と保管（実習）×2 復習 ：「博物館実習日誌」（『博物館実習』テキスト）に必要事項を記入する
7	皆川 義孝	【第 7 回】 予習 ：文献史料・美術資料（巻子装、折本装、冊子装・軸装等）の取り扱いについて調べる 授業 ：資料の取り扱い 文献史料・美術資料（巻子装、折本装、冊子装・軸装等）の取り扱い（実習）×2 復習 ：「博物館実習日誌」（『博物館実習』テキスト）に必要事項を記入する
8	皆川 義孝	【第 8 回】 予習 ：博物館資料の整理と清掃について調べる 授業 ：博物館実習館の資料整理と清掃（実習） 復習 ：「博物館実習日誌」（『博物館実習』テキスト）に必要事項を記入する
9	皆川 義孝	【第 9 回】 予習 ：カメラの使い方・ライティングと屋内撮影について調べる 授業 ：資料の記録化 カメラの使い方・ライティングと屋内撮影（実習）×2 復習 ：「博物館実習日誌」（『博物館実習』テキスト）に必要事項を記入する
10	皆川 義孝	【第 10 回】 予習 ：「4 年次館園実習に向けたガイダンス」のプリントを読んでおく 授業 ：4 年生との交流会／4 年次館園実習に向けたガイダンス 復習 ：館園実習先に関するアンケートに回答する
11	皆川 義孝	【第 11 回】 予習 ：実務実習の成果を整理する 授業 ：事後指導① 事後課題レポートの執筆 復習 ：「博物館実習日誌」（『博物館実習』テキスト）に必要事項を記入する

授業開始前学習	普段からできる限り多くの博物館を訪れることが望ましい。また、文部科学省令必修科目共通テキストを復習しておく。							
授業内課題のフィードバックの方法	実習に対して翌週以降に全体の講評や必要なコメントを行うとともに、個別の質問にも回答する。							
テキスト・教材	駒沢女子大学講義ノートシリーズ『博物館実習』							
参考書								
評価の基準と方法	平常点４０%、博物館実習日誌・実習ノート３０%、事後課題レポート３０%により評価する。							
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照							
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△			○	◎	◎
関連科目	「博物館概論」「博物館経営論」「博物館資料論」「博物館資料保存論」「博物館展示論」「博物館教育論」「博物館情報・メディア論」が文部科学省令必修科目として相互に関連する。							
その他	1 年次 4 月から学芸員養成課程に登録していることを履修の条件とする。条件に当てはまらない者がこの科目を履修登録した場合、本人の了解を得ずに登録が抹消されるので注意すること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	博物館の実務経験あり。博物館の実務等を講義する。							

科目分類（2025 年～入学者）	ZM-9-412 （Ｊ）	科目分類（～2024 年入学者）	110-411-24 （Ｊ）	授業コード	D20390
科目名称	☆博物館実習 C(館園実習)／博物館実習 C			単位数	1.0 単位
英文名称	Museum Training C (On-site training)			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	下川 雅弘			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	下川 雅弘			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30			研究室	10-706
授業概要	本実習（館園実習）では、実際の博物館において、各博物館が定めた期間、資料の収集・整理・保存・調査研究・展示普及等の実務を体験する。事前には実習に当たっての心構え等についての指導を、事後には実習の反省・自己評価等をもとに、課題を解決するための指導を、それぞれ実施する。授業は実習を中心に行う。				
到達目標	１．博物館の運営理念や業務の流れについて理解を深めることができる。 ２．学芸員としての責任感や心構えを身に付ける。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	9 回	メディア科目	－
複数教員の場合の授業形態					

授業回数	担当者	授業の内容
1	下川 雅弘	【第 1 回】 予習 ：シラバスを読み、学修内容を確認する 授業 ：事前指導② 館園実習の注意事項 復習 ：「博物館実習日誌」（『博物館実習』テキスト）に必要事項を記入する
2	下川 雅弘	【第 2 回】 予習 ：館園実習の申し込みに必要な書類を準備する 授業 ：館園実習の準備（個別対応） 復習 ：館園実習の申し込みに必要な書類を送付する
3	下川 雅弘	【第 3 回】 予習 ：館園実習の申し込みに必要な書類を準備する 授業 ：館園実習の準備（個別対応）（＊予備日） 復習 ：館園実習の申し込みに必要な書類を送付する
4	館園実習担当学芸員	【第 4 回】 ＊計 40 時間程度以上の館園実習を受ける（以下は実習の一例） 収集された博物館資料の整理保存・調査研究に関する実務 ・所蔵資料の観察、計測 ・所蔵資料の写真撮影 ・資料台帳の作成、データ入力 ・所蔵資料の保管 ・所蔵資料の調査研究の方法論 所蔵資料の展示普及に関する実務 ・提示された展示企画書の分析と考察 ・展示企画書に沿ったパネル・キャプション類作成等の実務 ・展示企画書に沿った列品・ライティング等の実務 ・展示シート作成等の実務 ・展示解説等の実務
5	下川 雅弘	【第 5 回】 予習 ：館園実習の終了をメールで報告し、「博物館実習日誌」（『博物館実習』テキスト）と「博物館実習修了報告書（評価表）」を提出する 授業 ：館園実習の報告（個別対応） 復習 ：実習成果報告書を提出する
6	下川 雅弘	【第 6 回】 予習 ：館園実習の終了をメールで報告し、「博物館実習日誌」（『博物館実習』テキスト）と「博物館実習修了報告書（評価表）」を提出する 授業 ：館園実習の報告（個別対応）（＊予備日） 復習 ：実習成果報告書を提出する
7	下川 雅弘	【第 7 回】 予習 ：館園実習の終了をメールで報告し、「博物館実習日誌」（『博物館実習』テキスト）と「博物館実習修了報告書（評価表）」を提出する 授業 ：館園実習の報告（個別対応）（＊予備日） 復習 ：実習成果報告書を提出する
8	下川 雅弘	【第 8 回】 予習 ：発表の準備をする 授業 ：実習成果報告会（発表）／3 年生との交流会 復習 ：自分の考えを整理して提出する

9	下川　雅弘	【第９回】 予習　：館園実習の成果を整理する 授業　：事後指導②　事後課題レポートの執筆 復習　：「博物館実習日誌」（『博物館実習』テキスト）に必要事項を記入する

授業開始前学習	普段からできる限り多くの博物館を訪れることが望ましい。また、文部科学省令必修科目共通テキストを復習しておく。
授業内課題のフィードバックの方法	実習に対して全体の講評や必要なコメントを行うとともに、個別の質問にも回答する。
テキスト・教材	駒沢女子大学講義ノートシリーズ『博物館実習』
参考書	
評価の基準と方法	博物館実習日誌・実習ノート・実習先からの博物館実習修了報告書（評価表）等５０%、実習成果報告２０%、事後課題レポート３０%により評価する。
ディプロマポリシー	「カリキュラムマップ」参照

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△			○	◎	◎

関連科目	「博物館概論」「博物館経営論」「博物館資料論」「博物館資料保存論」「博物館展示論」「博物館教育論」「博物館情報・メディア論」が文部科学省令必修科目として相互に関連する。
その他	①博物館実習 C（館園実習）を除く省令必修科目の単位がすべて修得済みであること、②博物館実習 C（館園実習）を除く省令必修科目の GPA の平均が 2.0 以上であること、③すべてのガイダンスに遅刻なく出席していること、④実習費がかかる博物館で実習を受ける場合、定められた期間内に受講料（おおむね 10,000 円前後）を納入すること、以上①～④のすべてを満たしていることを、履修要件とする。履修要件に当てはまらない者がこの科目を履修登録した場合、本人の了解を得ずに登録が抹消されるので注意すること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容	自治体史編纂の実務経験あり。博物館での館園実習のための指導、講義を行う。